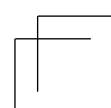
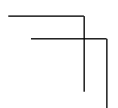


日本大学 法学部

【令和2年度以降入学者】



科目名索引

● : 教職課程科目

ア	
アジアの歴史Ⅰ	590
アジアの歴史Ⅱ	595
エ	
英検／IELTSⅠA	2252
英検／IELTSⅠB	2277
英検／IELTSⅡA	2302
英検／IELTSⅡB	2312
英検／IELTSⅢA	2322
英検／IELTSⅢB	2332
英検／IELTSⅣA	2342
英検／IELTSⅣB	2347
英語A【法曹コース1年生共通クラス】	1252
英語B【法曹コース1年生共通クラス】	1502
英語C【法曹コース1年生共通クラス（上級）】	1752
英語D【法曹コース1年生共通クラス（上級）】	1972
英語E	2192
英語F	2197
カ	
科学の歴史Ⅰ	600
科学の歴史Ⅱ	605
環境論Ⅰ	610
環境論Ⅱ	615
韓国語ⅠA	4364
韓国語ⅠB	4369
韓国語ⅡA	4374
韓国語ⅡB	4379
キ	
基礎経営法学	4687
キャリア入門	3
教育学Ⅰ	620
教育学Ⅱ	625
● 教育課程論	5665
● 教育原論	5670
● 教育制度論	5675
● 教育の方法・技術論	5680
行政学Ⅰ	4697
行政学Ⅱ	4712
共通科目特論	8
教養演習A【日本軍兵士の被害と加害】	630
教養演習B【戦争の記憶—その過去・現在・未来】	646
ケ	
経営学Ⅰ	4727
経営学Ⅱ	4742
経営戦略論Ⅰ	4757
経営戦略論Ⅱ	4762
経済学Ⅰ	4767
経済学Ⅱ	4792
芸術論Ⅰ	662
芸術論Ⅱ	677
刑法Ⅰ	4817
刑法基礎演習	4859
健康科学Ⅰ	692
健康科学Ⅱ	697
● 現代教職論	5685
現代行政論Ⅰ	4874
現代行政論Ⅱ	4879
憲法Ⅰ（人権）	4884
憲法A（人権）	4919
憲法B（統治機構）	4939
憲法基礎演習【法曹コース】	4959
コ	
公共政策基礎演習	4969
公共政策論	5004
コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	5009
コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	5019
国際経済法Ⅰ	5029
国際経済法Ⅱ	5034
国際研修（英）ⅠA	2452
国際研修（英）ⅠB	2457
国際研修（中）ⅠA	4172
国際研修（中）ⅠB	4177
国際研修（独）ⅠA	3512
国際研修（独）ⅠB	3517
国際研修（仏）ⅠA	3852
国際研修（仏）ⅠB	3857
国際政治学Ⅰ	5039
国際政治学Ⅱ	5054
国際取引法AⅠ	5069
国際取引法AⅡ	5075
CommunicationⅠA	2672
CommunicationⅠB	2707
CommunicationⅡA	2742
CommunicationⅡB	2782
CommunicationⅢA	2822
CommunicationⅢB	2852
CommunicationⅣA	2882
CommunicationⅣB	2887
コミュニケーション（中）ⅠA	4182
コミュニケーション（中）ⅠB	4222
コミュニケーション（中）ⅡA	4262
コミュニケーション（中）ⅡB	4277
コミュニケーション（中）ⅢA	4292
コミュニケーション（中）ⅢB	4297
コミュニケーションとインターネット	5081
コミュニケーション（独）ⅠA	3522
コミュニケーション（独）ⅠB	3547
コミュニケーション（独）ⅡA	3572
コミュニケーション（独）ⅡB	3582
コミュニケーション（独）ⅢA	3592
コミュニケーション（独）ⅢB	3597
コミュニケーション（仏）ⅠA	3862
コミュニケーション（仏）ⅠB	3882
コミュニケーション（仏）ⅡA	3902
コミュニケーション（仏）ⅡB	3917
コミュニケーション論	5091

コンピュータ・リテラシー	13
シ	
自主創造の基礎1【法律】	103
自主創造の基礎2【経営法】	323
自然人類学	702
思想文化論A【生きる方法の宗教的探究】	707
思想文化論B【人生の意味の宗教的探究】	717
社会学Ⅰ	727
社会学Ⅱ	752
社会系英語演習A	2222
社会系英語演習B	2237
社会系中国語演習A	4112
社会系中国語演習B	4122
社会系ドイツ語演習A	3412
社会系ドイツ語演習B	3422
社会系フランス語演習A	3762
社会系フランス語演習B	3772
社会思想の歴史Ⅰ	777
社会思想の歴史Ⅱ	782
社会情報システム研究	5101
社会情報システム論	5106
社会政策論Ⅰ	5111
社会政策論Ⅱ	5116
社会調査	5121
社会文化論A【東京の社会文化史】	787
社会文化論B【近代日本の戦争と社会】	803
社会保障論Ⅰ	5126
社会保障論Ⅱ	5131
宗教学Ⅰ	820
宗教学Ⅱ	825
新聞学基礎	5141
新聞学入門	5151
人文系英語演習A	2202
人文系英語演習B	2212
人文系中国語演習A	4102
人文系中国語演習B	4107
人文系ドイツ語演習A	3382
人文系ドイツ語演習B	3397
人文系フランス語演習A	3752
人文系フランス語演習B	3757
心理学Ⅰ	830
心理学Ⅱ	850
ス	
数学Ⅰ	870
数学Ⅱ	875
スペイン語ⅠA	4342
スペイン語ⅠB	4348
スペイン語ⅡA	4353
スペイン語ⅡB	4359
セ	
政治学Ⅰ	5161
政治学Ⅱ	5186
精神分析学	880
生命の科学Ⅰ	885
生命の科学Ⅱ	890
西洋政治史Ⅰ	5211
西洋政治史Ⅱ	5221
西洋の歴史Ⅰ	895
西洋の歴史Ⅱ	900
世界の文学Ⅰ	905

世界の文学Ⅱ	920
ソ	
総合講座A	935
総合講座B	940
タ	
体育スポーツ科学Ⅰ	945
体育スポーツ科学Ⅱ	950
体育スポーツ実習A	4406
体育スポーツ実習B	4481
体育スポーツ実習C（サッカー）	4556
チ	
地球科学Ⅰ	955
地球科学Ⅱ	960
知的財産法A（特許・実用新案）Ⅰ	5226
知的財産法A（特許・実用新案）Ⅱ	5241
地方自治論Ⅰ	5256
地方自治論Ⅱ	5271
中国語基礎文法A	4022
中国語基礎文法B	4062
中国語資格試験対策ⅠA	4142
中国語資格試験対策ⅠB	4147
中国語資格試験対策ⅡA	4152
中国語資格試験対策ⅡB	4157
中国語資格試験対策ⅢA	4162
中国語資格試験対策ⅢB	4167
中国語基礎表現A	3932
中国語基礎表現B	3977
地理学Ⅰ	965
地理学Ⅱ	970
テ	
哲学Ⅰ	975
哲学Ⅱ	1000
ト	
ドイツ語基礎表現A	3062
ドイツ語基礎表現B	3137
ドイツ語基礎文法A	3212
ドイツ語基礎文法B	3297
ドイツ語資格試験対策ⅠA	3452
ドイツ語資格試験対策ⅠB	3462
ドイツ語資格試験対策ⅡA	3472
ドイツ語資格試験対策ⅡB	3482
ドイツ語資格試験対策ⅢA	3492
ドイツ語資格試験対策ⅢB	3502
統計学Ⅰ	1005
統計学Ⅱ	1015
● 道德教育の理論と方法	5690
TOEICⅠA	2462
TOEICⅠB	2502
TOEICⅡA	2542
TOEICⅡB	2577
TOEICⅢA	2612
TOEICⅢB	2637
TOEICⅣA	2662
TOEICⅣB	2667
TOEFLⅠA	2352
TOEFLⅠB	2372
TOEFLⅡA	2392
TOEFLⅡB	2407
TOEFLⅢA	2422
TOEFLⅢB	2432

TOEFL IV A (iBT)	2442
TOEFL IV B (iBT)	2447
ニ	
日本語 I A	4312
日本語 I B	4322
日本語 II A	4332
日本語 II B	4337
日本国憲法	573
日本ジャーナリズム史 I	5286
日本ジャーナリズム史 II	5296
日本政治史 I	5301
日本政治史 II	5311
日本政治論 I	5316
日本政治論 II	5326
日本大学の歴史	578
日本の近現代 I	1025
日本の近現代 II	1030
日本の自然 A	1035
日本の自然 B	1040
日本の社会 A	1045
日本の社会 B	1050
日本の前近代 I	1055
日本の前近代 II	1060
日本の文化 A	1065
日本の文化 B	1070
日本文学 I	1075
日本文学 II	1095
フ	
ファイナンス論 I	5336
ファイナンス論 II	5341
フランス語基礎表現 A	3612
フランス語基礎表現 B	3647
フランス語基礎文法 A	3682
フランス語基礎文法 B	3717
フランス語資格試験対策 I A	3792
フランス語資格試験対策 I B	3812
フランス語資格試験対策 II A	3832
フランス語資格試験対策 II B	3837
フランス語資格試験対策 III A	3842
フランス語資格試験対策 III B	3847
文化人類学 I	1115
文化人類学 II	1120
文章表現演習 I	1125
文章表現演習 II	1165
ホ	
法医学 I	5346
法学 I	5351
法学 II	5412
法学演習 A I	5442
法学演習 A II	5457
法律外国語 A I 【法律学科】	5472
法律外国語 A II 【法律学科】	5483
簿記論 I	5495
簿記論 II	5510
マ	
マーケティング論 I	5525
マーケティング論 II	5530
ミ	
民法 I (民法総則)	5535
民法基礎演習	5593

メ	
メディア・テキストの基礎	5608
メディアと歴史	5653
メディアの世界	5658
ラ	
Writing I A	3042
Writing I B	3047
Writing III A	3052
Writing III B	3057
ライティング (中) I A	4132
ライティング (中) I B	4137
ライティング (中) II A	4302
ライティング (中) II B	4307
ライティング (独) I A	3432
ライティング (独) I B	3442
ライティング (独) II A	3602
ライティング (独) II B	3607
ライティング (仏) I A	3782
ライティング (仏) I B	3787
リ	
Reading I A	2892
Reading I B	2922
Reading II A	2952
Reading II B	2992
Reading III A	3032
Reading III B	3037
倫理学 I	1210
倫理学 II	1220
ロ	
ロシア語 I A	4384
ロシア語 I B	4389
ロシア語 II A	4394
ロシア語 II B	4399
論理学 I	1230
論理学 II	1240

I 群

共通科目

I 群

共通科目

科目名	キャリア入門	担当者	白川 欽也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
キャリアデザインの必要性、手法、支援施策とともに、キャリアデザインを考える際に必要となる労働をめぐる諸事情について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
長い職業生活において、自らのキャリア形成を考え、行動していくために、キャリアデザインの重要性を理解し、自らのキャリアデザインを描く能力を修得する。

【履修条件】
1年次生、2年次生を対象とする。（3年次生、4年次生は履修不可であり、キャリアデザインA、B等を受講すること）

【授業方法】		
担当教員の講義、演習、発表等を組み合わせて、授業を進める。必要に応じて、講義に関連する資料を紹介する。。 講義に使用するレジメは、COLNetを利用して、事前に配布する（COLNetの学生教員共有の私のフォルダにアップロード） また、小テスト（授業内試験）は、試験終了後に解説等を行う。レポートの講評も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	就職活動にも役立つように、グループ討議を行い、コミュニケーション力や協同力を養う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	キャリアデザインの必要性を認識し、それを描くことができる。				1	1			1		1	
②	自身のキャリアデザインを実現するために、具体的な行動をとることができる。				1	1			1		1	
③	労働環境にかかわる情報を収集し、それを活用することができる。				1	1			1			
④	自身のキャリアデザインと大学における学びを接続することができる。				1	1			1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テストにより、到達目標①②③④に関わる基礎知識や態度を評価する。	12	12	12	12							48
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわるリテラシー、知的姿勢および態度が身についているかを評価する。	8	8	8	8							32
討論・発表等	グループ討議における討議への参加等により、①②③④を評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	授業への参画は、成績評価の前提となる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト終了後に、その解説を行う。また、レポートの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
学生のためのキャリアデザイン入門	渡邊俊	中央経済社	2015	参考書	任意
ハーバードの人生を変える授業	タル・ベン・シャハー	大和書房	2015	参考書	任意
LIFE SHIFT(ライフ・シフト)	リンダ グラットン	東洋経済新報社	2016	参考書	任意
ライフデザイン	ビル・バーネット	早川書房	2017	参考書	任意
LEAN IN(リーン・イン) 女性、仕事、リーダーへの意欲	シェリル・サンドバーグ	日経ビジネス人文庫	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
土曜2限授業終了後に、授業講堂にて行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 土9/19	ガイダンス、ライフステージ	ガイダンス（授業計画等）を理解することにより、授業をスムーズに準備することができる、また、人生における役割、ライフステージについて学習する。	
		この回の到達目標	人生における役割とライフステージについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、授業概要、授業目的、授業方法、授業計画等について理解しておくとともにレジメを読み、ライフステージについて事前学習を行う。	90分
		事後学修	ガイダンスに基づき、今後の自分の受講計画を立てるとともに、ライフステージについて自分なりの考え方をまとめる。	150分
2	第1部 土9/26	働くことの意味と選択肢	働くことの意味、働きがい、モチベーションについて学習する。	
		この回の到達目標	働くことの意味、働きがい、モチベーションについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、働くことの意味、働きがい、モチベーションについて考えておく。	90分
		事後学修	働くことの意味やモチベーション等について、自分の考え方をまとめる。	150分
3	第1部 土10/3	大学での学びと成長に向けた資質・態度	大学での学びと成長に向けた資質・態度について学習する。	
		この回の到達目標	大学での学びと成長に向けた資質・態度について理解し、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、大学での学びと成長に向けた資質・態度について理解し、説明することができる。	90分
		事後学修	大学での学びと成長に向けた資質・態度について、自分の考え方をまとめ、大学生活に活かす。	150分
4	第1部 土10/10	働くことの意味と理解 産業と企業の概要	産業と企業についての基礎知識・動向を学習する。	
		この回の到達目標	業と企業についての基礎知識・動向を理解し、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、産業と企業についての基礎知識・動向を理解するとともに、その情報を収集しておく。	90分
		事後学修	産業と企業についての考え方を自分なりにまとめる。	150分
5	第1部 土10/17	働くことの意味と理解 製造業と建設業	働くくことの意味と理解 製造業・建設業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。	
		この回の到達目標	製造業・建設業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、製造業・建設業について理解するとともに、その情報を収集しておく。	90分
		事後学修	製造業・建設業の動向、仕事の内容等について整理しまとめる。	120分
6	第1部 土10/24	金融業、電力業等	働くくことの意味と理解 金融業、電力・通信産業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。	
		この回の到達目標	金融業、電力・通信産業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を理解するとともに、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、金融業、電力・通信産業について理解するとともに、その情報を収集しておく。	90分
		事後学修	金融業、電力・通信産業の動向、仕事の内容等について自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 土10/31	働くことの意味と理解 小売業、サービス業	働くことの意味と理解 小売業・サービス業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。	
		この回の到達目標	小売業・サービス業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を理解するとともに、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、小売業・サービス業について理解するとともに、その情報を整理しておく。	90分
		事後学修	小売業・サービス業の動向、仕事の内容等について自分なりの考え方をまとめる。	120分
8	第1部 土11/7	働くことの意味と理解 公務員	働くことの意味と理解 公務員についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。	
		この回の到達目標	公務員についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を理解するとともに、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、公務員について理解するとともに、その情報を収集し整理しておく	90分
		事後学修	公務員の状況、仕事の内容等について自分なりの考え方をまとめる。	120分
9	第1部 土11/14	職業人インタビュー	職業人インタビューの目的、内容、方法等を学習し、自分がインタビューを行う準備をする。	
		この回の到達目標	職業人インタビューの目的、内容、方法等を理解するとともに、職業人インタビューを行い、その結果をレポートにまとめる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、職業人インタビューの目的、内容、方法等について考察する。	90分
		事後学修	職業人インタビューに取り組み、その結果をレポートにまとめて、提出する。	300分
10	第1部 土11/21	自己分析	自己分析の目的、方法について学習する。	
		この回の到達目標	自己分析の目的、方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、自己分析について考察するとともに、その情報を収集する。	90分
		事後学修	自己分析について自分なりの考え方をまとめ、自己分析を行う。	150分
11	第1部 土11/28	社会人基礎力	社会人基礎力の意義、能力要素について学習する。	
		この回の到達目標	社会人基礎力の意義、能力要素等について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、社会人基礎力について考察するとともに、その情報を収集する。	90分
		事後学修	社会人基礎力の意義や能力要素について自分なりの考え方をまとめる。	150分
12	第1部 土12/5	キャリアデザイン基礎 職業選択の理論	職業選択の理論について学習する。	
		この回の到達目標	職業選択の理論について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、職業選択の理論について、考察するとともに、その情報を収集する。	90分
		事後学修	職業選択の理論について自分なりの考え方をまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 土12/12	キャリアデザイン演習	キャリアデザインについての演習を行い、自分のキャリアデザインを行う第一歩とする。	
		この回の到達目標	キャリアデザイン演習を行い、その結果を振り返り、自己のキャリアデザインに反映させる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、キャリアデザインの演習の準備を行う。	90分
		事後学修	キャリアデザイン演習の結果を振り返り、自己のキャリアデザインについての考え方をまとめる。	150分
14	第1部 土12/19	働くことと法律	働くことと法律について学習する。 授業内小試験を行う。	
		この回の到達目標	労働法の概要、相談・支援機関の状況等について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、働くことと法律について考察するとともに、その情報を収集する。	90分
		事後学修	働くことと法律について自分なりの考え方をまとめる。 授業内小試験の結果を振り返り、これまでの講義を復習する。	150分
15	第1部 土12/26	キャリアデザインとライフデザイン	キャリアデザインとライフデザインについて学習する。	
		この回の到達目標	キャリアデザインとライフデザインの意義、内容について理解し、説明することができる。 レポートの講評を行う。	
		事前学修	事前にレジメを読みキャリアデザインとライフデザインについて考察するとともに、その情報を収集する。	90分
		事後学修	キャリアデザインとライフデザインについての考え方をまとめ、自己のキャリアデザインとライフデザインについての考え方をまとめる。	150分

科目名	共通科目特論	担当者	大熊 圭子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などで判断力・思考力・分析力等の資質、いわゆる論理的思考力を有しているかを問われるが、他のどのような職業においても重要な資質であるといえよう。本講座では、前述のような試験で必要となる基本的な論理学の知識を学びながら、論理的な思考力を身につけていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における種々の問題を、論理的・科学的・合理的かつ批判的に考察し解決に導く力を養うのために、判断力・思考力・分析力等の論理的思考能力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
論理的思考法についての講義、さらに理解を深め知識を確実なものとするための課題を交互に行っていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題についてグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とは何かを説明できる。				4	4						
②	さまざまな論証のタイプがあること、それらの違いを説明できる。				4		4	4				
③	どのタイプの論証であるかを決定することができ、その理由を説明できる。				4		4	4				
④	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				4	4		4				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	20	30	30	5							85
小テスト等	到達目標①②③に関わる講義中に課す課題への取り組みの 成果を評価する。	5	5	5								15
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	35	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・授業内試験の講評を翌週に授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 論理トレーニング	野矢茂樹	野内良三	2006	参考書	推奨
実践ロジカル・シンキング入門	野内良三		2003	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	開講にあたって/論理的思考とは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では、論理的思考とは何か、また論理学の基本的用語などについて説明する。	
		この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。論理学の基本的な用語について説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	シラバスを確認する。公務員試験や法科大学院適性試験でどのような問題が出されているか調べる。	120分
		事後学修	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。	120分
2	第一部 水4/15	命題、演繹、推測	命題とは何か、命題から構成される論証とは何か、さらに論証の2つのタイプ、演繹と推測の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	論証とは何か、演繹と推測の違いとは何かを理解し、それについて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	授業内容をシラバスで再確認する。論理的思考とはどのようなものか、自分なりに考えておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に、命題とは何か、演繹と推測の違いについて説明できるようにする。	120分
3	第一部 水4/22	定言命題	真と偽、矛盾と反対の違い、定言命題とは何かを説明する。また定言命題をヴェン図で書く方法について説明する。	
		この回の到達目標	定言命題とは何か、また矛盾と反対の違いとは何かを理解し、それについて説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。矛盾とはなにか、自分なりに考えておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に、矛盾と反対の違いについて説明できるようにする。	120分
4	第一部 水4/29	ヴェン図による判断、仮言命題、選言命題	ヴェン図の説明、ヴェン図を用いての真偽の判断の方法、および仮言命題と選言命題について説明する。	
		この回の到達目標	ヴェン図の書き方を理解し、それを用いた真偽の判断方法について説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。特にヴェン図の書き方をしっかりと復習しておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。定言、仮言、選言命題の違いを確認する。	120分
5	第一部 水5/6	両刀論法	両刀論法とは何か説明する。またその論破の方法について考える。	
		この回の到達目標	両刀論法とはなにかを理解し、その論破の方法について説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ジレンマとは何か、ジレンマに陥るとはどのような状況か、友達と話しあってみよう。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。両刀論法論破に関するポイントを明確にしておこう。	120分
6	第一部 水5/13	条件連鎖、法則	条件連鎖とは何か、またド・モルガンの法則について説明する。	
		この回の到達目標	条件連鎖がどのようなもので何に使われるのかを理解し、それについて説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ド・モルガンの法則や対偶について高校で習った人は復習、習っていない人は調べておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。逆・裏・対偶の違い、ド・モルガンの法則について説明できるか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	消去法、背理法	消去法、背理法を用いた条件連鎖について説明する。	
		この回の到達目標	消去法、背理法とは何か、条件連鎖の中でそれらがどのように使われるのかを理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。背理法について高校で習った人は復習、習っていない人は調べておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。	120分
8	第一部 水5/27	存在文の条件連鎖	存在文と全称文の違い、存在文が入る場合の条件連鎖の方法について説明する。	
		この回の到達目標	存在文とは何か説明できる。また、それが含まれる条件連鎖の方法を説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。	120分
9	第一部 水6/3	条件連鎖とヴェン図	条件連鎖と同じように、ヴェン図でも演繹かどうか判別できる。そこでヴェン図を用いたその方法を説明する。	
		この回の到達目標	ヴェン図による演繹かどうかの判別方法を理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ヴェン図の書き方を復習しておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。ヴェン図の書き方が修得できているか確認する。	120分
10	第一部 水6/10	命題論理概説	命題論理とはどのようなものか、また命題論理で用いる記号について説明する。	
		この回の到達目標	命題論理とはどのようなものであるのか、また命題論理で用いられる記号について理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。これまで出てきた命題の特徴は何か考えておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。命題論理でにおける命題とこれまで出てきた命題との違いを明確にしておく。	120分
11	第一部 水6/17	真理値表	真理表とは何か、その見方、使い方について説明する。	
		この回の到達目標	真理表とはどのようなものでいかに使われるのか理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。命題論理で用いる記号について復習しておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に真理表の見方・使い方を理解できているか、しっかりと復習しておく。	120分
12	第一部 水6/24	真理値分析	真理値分析の方法と、推論が正しいかどうかの判別方法について説明する。	
		この回の到達目標	真理値分析の方法、それによる推論の正しさの判別方法について理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。真理表の見方・使い方について復習しておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に真理値分析のやり方を確実に理解できているか確認、しっかりと復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	命題論理応用問題	命題論理を用いた応用問題を行い、それぞれにおける真理値分析の特徴的な手法を説明する。	
		この回の到達目標	真理値分析のさまざまな応用の仕方について理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。真理値分析のやり方について復習しておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。各種問題集などを見て、命題論理に関する問題を解いてみる。	120分
14	第一部 水7/8	講義全体の復習と授業内試験	これまでの講義の復習と、理解度確認のための授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②③④を評価するための出題に対し、十分な解答をすることができる。	
		事前学修	“配布物やノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。”	150分
		事後学修	“配布物やノートをみながら、答案の自己評価をする。”	120分
15	第一部 水7/15	試験問題の解説、講義全体の振り返り	前回行った授業内試験の解説を行う。その後、講義全体の学びを振り返る。	
		この回の到達目標	SB0s①②③④を評価するための出題に対し、十分な解答を行えたか自ら評価できる。SB0s④にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	“配布物やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。”	120分
		事後学修	“配布物やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。本講義での学びを振り返る。”	120分

科目名	コンピュータ・リテラシー	担当者	今福 啓	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
キーボードを使った文字入力、ファイルのコピー、ファイル名の変更といった基本的なコンピュータの操作ができることを条件とします。

【授業方法】
コンピュータ教室で実習形式により授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義で学修した内容をもとに、課された課題を解決する方法を自ら考えて作成します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間内に作成する総合課題（成績の評価対象）の解説を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。授業計画にしたがって、講義中に実習で使用するコンピュータのファイルを配布します。				

【オフィスアワー】
keiimafuku@gmail.comまでメール、または木曜3. 4限の講義後にお願いします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 4/9	講義ガイダンス、コンピュータの利用方法	講義で学ぶWord、Excel、PowerPointがどのようなソフトであるか理解する。講義の進め方、講義の準備、授業評価について理解する。講義で作成するファイルの保存方法について理解する。電子メールを用いる際のマナーや、インターネットの正しい利用方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に対し、授業内で学修する内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Word, Excel, PowerPointがどのようなソフトであるが概要を調べる。メールを書く際のマナーやインターネットの利用方法を調べる。	120分
		事後学修	講義で学ぶ内容を確認する。講義で使用する資料の配布、使用方法を確認する。授業の進め方と評価方法を確認する。	120分
2	第一部 木 4/16	Wordを用いた文章作成とレイアウト調整	フォントの種類、大きさの変更、用紙の余白調整、1行の文字数、ページ内の行数を調整する機能を正しく使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Microsoft Wordとはどのようなソフトウェアであるか調べる。	120分
		事後学修	文章を入力して全体を整える機能を復習する。	120分
3	第一部 木 4/23	Wordを用いた図、表、グラフの作成	SmartArtによる図の作成、(Excelではなく) Wordによる表の作成、グラフ作成の機能を使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Wordで図、表、グラフを作成する機能を調べる。	120分
		事後学修	Wordで作成できる図の種類を調べる。表を作成して整形する方法を復習する。作成できるグラフの種類を調べる。	120分
4	第一部 木 4/30	Wordを用いた数式作成、章および節の番号設定、図表の番号設定	数式の入力、章や節の番号、図、表、数式の番号を連番で自動で設定し、本文中で参照できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	長い文章において、章、節をどのように設定すると望ましいか考えておく。	120分
		事後学修	章番号、節番号を正しく組み合わせて自動で設定する機能の使い方を復習する。	120分
5	第一部 木 5/7	Wordにおけるページ区切り、セクション区切り	ページを区切る機能と、1つのファイルを複数の異なるファイルで構成されているように作成する際に必要となるセクション区切りの機能を正しく理解し、使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	ページ区切り、セクション区切りの機能がどのようなものであるか調べる。	120分
		事後学修	ページ区切り、セクション区切りで何を行っているか、利用するとどのような利点があるか確認する。	120分
6	第一部 木 5/14	Wordにおける目次と参考文献一覧の作成	第4回目の講義で学んだ章、節の設定方法をもとに、自動で目次を作成する機能について理解する。参考文献一覧の作成方法について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	目次とはどのようなものか、参考文献一覧がどのようなもので、なぜ必要か調べる。	120分
		事後学修	目次の種類、参考文献一覧の種類を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 5/21	Wordの総合課題	第7回目までの講義で学んだWordの機能を利用し、指定された課題を作成する。解説をもとに、理解が不十分であった箇所を修正する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、これまでの授業で使った機能について理解し、与えられた課題を正しく作成することができる。	
		事前学修	第6回までの講義で学んだ内容を復習する。	120分
		事後学修	総合課題で作成した内容のうち、理解が不十分であった点を復習する。	120分
8	第一部 木 5/28	PowerPointによるスライド作成とプレゼンテーション	PowerPointでプレゼンテーション用の資料を作る際の注意点を理解し、実際にスライドを作成してプレゼンテーションが出来るようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	PowerPointとはどのようなソフトであるか調べる。見やすいスライド、見づらいスライドがどのようなものか調べる。	120分
		事後学修	PowerPointを使用したプレゼンテーションのファイル作成と、実際にプレゼンテーションを行う際の注意点について確認する。	120分
9	第一部 木 6/4	Excelの基礎	Excelにデータを入力し、計算し、グラフを作成するといった基本的なファイル作成の流れについて理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Microsoft Excelとはどのようなソフトであるか調べる。	120分
		事後学修	計算式でセルを参照する際に使う相対参照、絶対参照とはどのようなものであるか確認する。	120分
10	第一部 木 6/11	Excelによる関数を使った計算とグラフ作成	複雑な計算を容易に実現できる関数と、入力データを計算した結果を用いたグラフ作成は機能について理解する。作成したグラフの修正方法を理解する。異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフの作成方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Excelの関数とはどのようなものであるか調べる。Excelでのグラフ作成方法を調べる。	120分
		事後学修	関数の使い方を確認する。グラフの作成方法を確認する。グラフにはどのような種類があり、異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフをどのように作成するか確認する。	120分
11	第一部 木 6/18	Excelにおける並べ替えと抽出	データを並べ替える機能について理解する。指定した項目だけを抽出するフィルタの機能について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	データ処理において、並べ替えや抽出が必要となる理由を調べる。	120分
		事後学修	2つ以上のキーで並べ換える方法を確認する。フィルタで、必要なデータのみ表示する方法、元データはそのままに、必要なデータをシートに抽出する方法を確認する。	120分
12	第一部 木 6/25	Excelにおけるデータ集計	元データに含まれる項目からまとめたい項目を選んで集計するピボットテーブル、小計の機能を正しく使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	クロス集計とはどのような操作であるか調べる。	120分
		事後学修	同様の集計方法であるピボットテーブル、小計の異なる点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 7/2	Excelでの操作自動化：マクロ	何度も同じ操作をくり返す際に有用なマクロの機能について理解し、正しく使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	マクロ、VBAとはどのような機能であるか調べる。	120分
		事後学修	マクロを使い、どのように操作を記録して使うか確認する。マクロがVBAとして記録されていることを確認する。マクロを含んだファイルを保存する際の形式を確認する。	120分
14	第一部 木 7/9	Excelによる総合課題の作成	講義で使用したExcelの機能を使った総合課題を作成し、正しく学修できているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業中に指定された課題を正しく作成し、講義で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	第9回～第13回の講義で学んだ内容を復習する。	120分
		事後学修	総合課題で作成した内容のうち、理解が不十分であった点を復習する。	120分
15	第一部 木 7/16	総合課題の解説と修正	第14回に作成した総合課題の解説を理解し、課題に間違いの箇所があった場合には修正する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業中に指定された課題の解説をもとに理解が不十分であった点を補い、学んだ内容を正確に説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義で学んだすべての内容を復習する。	120分
		事後学修	レポート課題の作成で、理解が不十分となっていた点を復習する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシー	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
わかりやすい授業を心掛けており、コンピュータ初心者でも可。

【授業方法】
PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内実技試験の講評・解説を、次回授業時に実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。） 研究室（本館6階601） メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6 4/7	ガイダンス・導入講義	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法	
		この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインし、授業用フォルダを作成する。	
		事前学修	ID，パスワードを事前に確認しておく，事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。	120分
2	4/13 4/14	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウィルス、スパイウェア等）について説明する。	
		この回の到達目標	情報モラルやセキュリティについて学修し、安全に情報活用できる知識を身に付ける。	
		事前学修	最近のネットにおける問題点を調べておく。	120分
		事後学修	情報モラルやセキュリティ問題について復習する。	120分
3	4/20 4/21	インターネットによる情報検索とEメールの利用	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付の方法について説明する。	
		この回の到達目標	インターネットを用いた情報検索（収集、加工、分析、評価）の方法を身に付ける。また、Eメールを使えるようにし、メールにファイルを添付して送れるようにする。	
		事前学修	スマートフォンとPCの違いを調べておく。	120分
		事後学修	インターネットを使って興味のあるテーマを情報検索してみる。Eメールにファイル添付して自分宛てに送ってみる。	120分
4	4/27 4/28	Microsoft Word の使用法1	Microsoft Word の基本操作方法や、ファイルの管理方法、保存方法等について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Word の基本操作方法を理解し、また、ファイルの管理や保存等を適切に行うことができる。	
		事前学修	ビジネス文書の体裁を調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内で行った課題について、再度同じ作業を確認しておくこと。	120分
5	5/4 5/5	Microsoft Word の使用法2	Microsoft Word を使用し、モニタ画面のキャプチャー等の方法を用い、利用マニュアルを作成する。	
		この回の到達目標	モニター画面等のキャプチャーや、スクリーンショット機能等を利用できるようになる。	
		事前学修	前回保存したファイルを開き、基本操作を確認しておくこと。	120分
		事後学修	PC画面をキャプチャーし、簡単なマニュアルを作成してみる。	120分
6	5/11 5/12	Microsoft Word の使用法3	Microsoft Word の基本的機能である、表や図、図形や画像の挿入・利用方法について説明する。	
		この回の到達目標	文書内に、表や図、図形や画像を挿入し、効果的に活用できるようになる。	
		事前学修	前回保存したファイルを開き、課題内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	課題ファイルに表や画像等を挿入するなど、授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 5/19	Microsoft Word の使用法 4	Microsoft Word の機能である論文作成のための書式（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）について説明する。	
		この回の到達目標	Word の機能（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）を用い、論文やレポートを作成することができる。	
		事前学修	前回保存したファイルを開き、表や画像等の挿入について確認しておく。	120分
		事後学修	論文書式の機能について復習しておくこと。	120分
8	5/25 5/26	Microsoft Excel の使用法 1	Microsoft Excel の基本操作と表計算ソフトの利用方法について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Excel の基本操作を理解し、表計算ソフトの利用方法について説明できるようになる。	
		事前学修	表計算ソフトについて調べておくこと。	120分
		事後学修	Excelの基本操作について、再度確認しておくこと。	120分
9	6/1 6/2	Microsoft Excel の使用法 2	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）について説明する。	
		この回の到達目標	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）が利用できるようになる。	
		事前学修	Excel の関数について調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
10	6/8 6/9	Microsoft Excel の使用法 3	Excelの基本関数（IF等）の使い方やグラフ（棒グラフ）の作成方法について説明する。	
		この回の到達目標	Excelの基本関数（IF等）を利用でき、また、グラフを作成できるようになる。	
		事前学修	前回の作業の復習をしておくこと。	120分
		事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
11	6/15 6/16	Microsoft Excel の使用法 4	その他のグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）の作成方法や複合参照について説明する。	
		この回の到達目標	現したい内容によって、様々なグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）を使い分けることができるようになる。	
		事前学修	グラフの種類と役割についてしらべておくこと。	120分
		事後学修	各グラフについて、作成方法や機能について復習しておくこと。	120分
12	6/22 6/23	Microsoft Excel の使用法 5	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について説明する。	
		この回の到達目標	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について理解できるようになる。	
		事前学修	データベースとは何かについて調べておくこと。	120分
		事後学修	データベース機能について復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 6/30	Microsoft Power Point の 使用法 1	Microsoft Power Point の基本操作について説明する。	
		この回の 到達目標	Microsoft Power Point の基本操作について理解し、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。	
		事前学修	プレゼンテーション資料の作成テーマについて検討しておくこと。	120分
		事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
14	7/6 7/7	Microsoft Power Point の 使用法 2	Microsoft Power Point の効果的表現（アニメーション等）について説明する。	
		この回の 到達目標	プレゼンテーション資料について、効果的な表現（アニメーション等）がで	
		事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
		事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
15	7/13 7/14	総まとめ、解説	総まとめ、解説	
		この回の 到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
		事前学修	前回までの学修内容について再確認しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容についてわからないことがないか確認すること。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシー	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
わかりやすい授業を心掛けており、コンピュータ初心者でも可。

【授業方法】
PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内実技試験の講評・解説を、次回授業時に実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。） 研究室（本館6階601） メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 9/15	ガイダンス・導入講義	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法	
		この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインし、授業用フォルダを作成する。	
		事前学修	ID，パスワードを事前に確認しておく，事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。	120分
2	9/21 9/22	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウィルス、スパイウェア等）について説明する。	
		この回の到達目標	情報モラルやセキュリティについて学修し、安全に情報活用できる知識を身に付ける。	
		事前学修	最近のネットにおける問題点を調べておく。	120分
		事後学修	情報モラルやセキュリティ問題について復習する。	120分
3	9/28 9/29	インターネットによる情報検索とEメールの利用	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付の方法について説明する。	
		この回の到達目標	インターネットを用いた情報検索（収集、加工、分析、評価）の方法を身に付ける。また、Eメールを使えるようにし、メールにファイルを添付して送れるようにする。	
		事前学修	スマートフォンとPCの違いを調べておく。	120分
		事後学修	インターネットを使って興味のあるテーマを情報検索してみる。Eメールにファイル添付して自分宛てに送ってみる。	120分
4	10/5 10/6	Microsoft Word の使用法1	Microsoft Word の基本操作方法や、ファイルの管理方法、保存方法等について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Word の基本操作方法を理解し、また、ファイルの管理や保存等を適切に行うことができる。	
		事前学修	ビジネス文書の体裁を調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内で行った課題について、再度同じ作業を確認しておくこと。	120分
5	10/12 10/13	Microsoft Word の使用法2	Microsoft Word を使用し、モニタ画面のキャプチャー等の方法を用い、利用マニュアルを作成する。	
		この回の到達目標	モニター画面等のキャプチャーや、スクリーンショット機能等を利用できるようになる。	
		事前学修	前回保存したファイルを開き、基本操作を確認しておくこと。	120分
		事後学修	PC画面をキャプチャーし、簡単なマニュアルを作成してみる。	120分
6	10/19 10/20	Microsoft Word の使用法3	Microsoft Word の基本的機能である、表や図、図形や画像の挿入・利用方法について説明する。	
		この回の到達目標	文書内に、表や図、図形や画像を挿入し、効果的に活用できるようになる。	
		事前学修	前回保存したファイルを開き、課題内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	課題ファイルに表や画像等を挿入するなど、授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/27	Microsoft Word の使用法 4	Microsoft Word の機能である論文作成のための書式（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）について説明する。	
		この回の到達目標	Word の機能（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）を用い、論文やレポートを作成することができる。	
		事前学修	前回保存したファイルを開き、表や画像等の挿入について確認しておく。	120分
		事後学修	論文書式の機能について復習しておくこと。	120分
8	11/9 11/10	Microsoft Excel の使用法 1	Microsoft Excel の基本操作と表計算ソフトの利用方法について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Excel の基本操作を理解し、表計算ソフトの利用方法について説明できるようになる。	
		事前学修	表計算ソフトについて調べておくこと。	120分
		事後学修	Excelの基本操作について、再度確認しておくこと。	120分
9	11/16 11/17	Microsoft Excel の使用法 2	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）について説明する。	
		この回の到達目標	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）が利用できるようになる。	
		事前学修	Excel の関数について調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
10	11/23 11/24	Microsoft Excel の使用法 3	Excelの基本関数（IF等）の使い方やグラフ（棒グラフ）の作成方法について説明する。	
		この回の到達目標	Excelの基本関数（IF等）を利用でき、また、グラフを作成できるようになる。	
		事前学修	前回の作業の復習をしておくこと。	120分
		事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
11	11/30 12/1	Microsoft Excel の使用法 4	その他のグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）の作成方法や複合参照について説明する。	
		この回の到達目標	現したい内容によって、様々なグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）を使い分けることができるようになる。	
		事前学修	グラフの種類と役割についてしらべておくこと。	120分
		事後学修	各グラフについて、作成方法や機能について復習しておくこと。	120分
12	12/7 12/8	Microsoft Excel の使用法 5	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について説明する。	
		この回の到達目標	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について理解できるようになる。	
		事前学修	データベースとは何かについて調べておくこと。	120分
		事後学修	データベース機能について復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/15	Microsoft Power Point の 使用法 1	Microsoft Power Point の基本操作について説明する。	
		この回の 到達目標	Microsoft Power Point の基本操作について理解し、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。	
		事前学修	プレゼンテーション資料の作成テーマについて検討しておくこと。	120分
		事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
14	12/21 12/22	Microsoft Power Point の 使用法 2	Microsoft Power Point の効果的表現（アニメーション等）について説明する。	
		この回の 到達目標	プレゼンテーション資料について、効果的な表現（アニメーション等）がで	
		事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
		事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
15	1/18 1/12	総まとめ、解説	総まとめ、解説	
		この回の 到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
		事前学修	前回までの学修内容について再確認しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容についてわからないことがないか確認すること。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシー	担当者	谷川 由紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
実習による課題作成を中心として授業を進める。課題内容に応じて、必要な講義を行う。毎時間振り返りシート（リアクションペーパー）提出、次の授業時に必要なフォローアップを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループ討議（第3回、第10回） 受講者間での相互評価（第6回は作成資料について、第15回はプレゼンテーションについて）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成課題へのフィードバック(講評・解説)を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に定めない。講義時に課題、参照資料等のプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜 10:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	講座ガイダンス コンピュータの基礎的取り扱い	社会が求める能力とは、情報活用の実践力、授業計画と評価方法、コンピュータの起動とログイン	
		この回の到達目標	講座の到達目標と進め方を理解する。 ①に関連して、コンピュータの起動操作とColnetへのログイン操作を適切に実施することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講座全体を概観する。ColnetのユーザIDとパスワードを確認する。	120分
		事後学修	講座ガイダンスの内容（授業目的、計画、評価方法等）を再確認する。 「情報活用の実践力」について、Webサイト等を活用して調べてみる。	120分
2	第一部金 4/17	インターネットの仕組み 理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	インターネットとColnet、ファイルの管理方法 理解しやすい資料の作成（MS-Word）（1）：見本にそった2種類の資料作成、作成に必要なMS-WORDの基本操作の確認	
		この回の到達目標	①②に関連して、インターネットやコンピュータの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。 ③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
		事前学修	「理解しやすい資料の作成（MS-Word）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-WORDの起動方法、編集画面、文字入力方法を確認し、実際に操作してみる。	120分
		事後学修	1種類目の資料作成を完了する。2種類目の資料に未着手の場合は、1種類目の資料と比較しながら資料（見本）の全体像を把握する。	120分
3	第一部金 4/24	理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（2）： ワークシートを基にしたグループ討議、理解しやすい資料作成のための方法（講義） グループ討議と講義をもとに、理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法について考える。	
		この回の到達目標	③に関連して、資料作成において受け手にとっての理解しやすさを考える重要性を理解し、説明することができる。理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法を知る。	
		事前学修	1種類目の資料と2種類目の資料を比較検討して、ワークシート（異なる編集方法による資料の比較）に記入する。	120分
		事後学修	講義内容を復習する。	120分
4	第一部金 5/1	理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（3）： 見本にそった2種類の資料作成、テーマをもとにした資料作成 MS-WORDの基本操作を活用して資料を作成する。さらに、学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を応用して資料作成する。	
		この回の到達目標	③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。さらに、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用することができる。	
		事前学修	2種類目の資料の見本を確認すると共に、操作ガイドを参照して資料の凡その作成方法を掴む。	60分
		事後学修	見本にそった資料作成で課した2種類目の資料の作成が終わっていない場合は完了する。	150分
5	第一部金 5/8	理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（4）：テーマをもとにした資料作成 これまでに学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を応用して資料作成する。	
		この回の到達目標	③に関連して、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用することができる。	
		事前学修	課題：テーマをもとにした資料作成に必要な調査・情報収集を行う。また、「理解しやすい資料作成のための方法」をどのように資料作成に適用するかを構想を練る。	150分
		事後学修	テーマをもとにした資料作成の課題が終わっていない場合は作成完了する。	120分
6	第一部金 5/15	理解しやすい資料の作成 (MS-Word) 電子メールの利用	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（5）：受講者間での作成資料の相互評価（作成した資料に対する他者からのフィードバックを得る、また他者の資料を見てフィードバックする）と完成資料の提出 電子メールの利用：完成資料に対する自己評価シートの電子メールによる提出	
		この回の到達目標	③に関連して、「理解しやすい資料」に必要な要件とそのための方法を説明することができる。 ②に関連して、電子メールの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。	
		事前学修	作成資料に対する自己評価シートを記入する。評価観点に対して不十分と自己評価した場合には、資料を修正する。	120分
		事後学修	相互評価でのコメントを受けて、修正すべき点を検討し、資料をブラッシュアップして提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (1) : データ分析の基本的な考え方 (講義)、課題(分析テーマ)説明、表計算ソフトであるMS-Excelの 特徴と基本操作の説明、分析対象データのExcelへの入力	
		この回の 到達目標	③に関連して、データ分析の概要：何のためにどのようなことをするのか、を理解する。表計算ソフトである MS-Excelの特徴を理解し、基本的な操作を実行できる。	
		事前学修	「データの分析と解釈 (MS-Excel)」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-Excelの起動方法、基 本画面を確認し、実際に操作してみる。	120分
		事後学修	講義内容を復習すると共に、課題シートを再読して課題(分析テーマ)全体を概観する。MS-Excelの基本操作 を復習する。	120分
8	第一部金 5/29	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (2) : 測定項目毎の特徴の分析 (数式、関数の活用)	
		この回の 到達目標	③に関連して、Excelの数式や関数を用いて平均や分散などの値を算出する方法を知り、実際に操作して算出でき る。算出値をもとに、講義内容 (データ分析の基本的な考え方) を活用して、測定項目別の特徴を読み取るこ とができる。	
		事前学修	分析対象データのExcel入力を完了する。	120分
		事後学修	測定項目毎に、平均や分散など指示した値の算出を完了する。	120分
9	第一部金 6/5	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (3) : 測定項目毎の特徴の分析 (ヒストグラムの活用)	
		この回の 到達目標	③に関連して、Excelによる度数分布表およびグラフの作成方法を知り、実際に操作して作成できる。作成したグラ フ (ヒストグラム) をもとに、講義内容 (データ分析の基本的な考え方) を活用して、測定項目別の特徴を読み取 ることができる。	
		事前学修	講義内容を参考に、算出した値 (平均や分散など) からわかる測定項目毎の特徴をピックアップする。	120分
		事後学修	測定項目毎のヒストグラム作成が終わっていない場合は完了する。	180分
10	第一部金 6/12	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (4) : 測定項目毎の特徴に関するグループ討議、測定値の比較分 析 (偏差値の活用)	
		この回の 到達目標	③に関連して、読み取った測定項目別の特徴を説明できる。これまでに学んだExcel操作を応用して、各測定値の偏 差値が算出 (測定値の標準化) できる。偏差値をもとに、講義内容 (データ分析の基本的な考え方) を活用して、 各測定値の特徴を読み取ることができる。	
		事前学修	講義内容を参考に、ヒストグラムからわかる測定項目毎の特徴をピックアップする。	120分
		事後学修	各測定値に対する偏差値の算出および指示したグラフ作成を完了する。	120分
11	第一部金 6/19	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (5) : 分析レポートの作成	
		この回の 到達目標	③に関連して、課題 (分析テーマ) に対する考察を、読み取った測定項目別の特徴、各測定値の特徴をもとに、算 出値や作成したグラフも適宜用いながら、論理だてて説明することができる。	
		事前学修	講義内容を参考に、指示した測定値について、偏差値やグラフからわかる特徴をピックアップする。	120分
		事後学修	分析レポートの作成を完了し、提出する。	180分
12	第一部金 6/26	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (1) : 企画書をもとにしたプレゼンテーション資料 の作成 課題(目的と取り組み内容)説明、MS-PowerPointの特徴と基本操作の確認、プレゼンテーション資 料の基とする企画書の選択、プレゼンテーション資料の構想を練る	
		この回の 到達目標	②④に関連して、インターネットを活用して、プレゼンテーション資料作成に必要な情報を収集することができ る。MS-PowerPointの特徴と基本操作を知り、実際に操作できる。	
		事前学修	「効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。 MS-PowerPointの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。 (2時間)	120分
		事後学修	プレゼンテーション資料の構想がまとまっていない場合、企画書をもとに訴求点を決め掲載情報の絞込みを 行う。MS-PowerPointの基本操作を復習する。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (2) : 企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 構想にそって、プレゼンテーション資料を作成する。	
		この回の到達目標	④に関連して、MS-PowerPointの基本操作を活用して、構想にそったプレゼンテーション資料を作成することができる。	
		事前学修	プレゼンテーション資料作成に必要な写真やイラスト等の参考資料を集める。(2時間)	150分
		事後学修	プレゼンテーション資料の作成を完了する。(2時間)	150分
14	第一部金 7/10	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (3) : 口頭発表時の留意点(講義)、プレゼンテーション資料にそった発表シナリオ作成、シナリオをもとにページ毎の訴求点も考慮してプレゼンテーション資料をブラッシュアップ	
		この回の到達目標	④に関連して、効果的に伝えるための「口頭発表の際の留意点」を理解し、それらを踏まえて、発表シナリオを作成することができる。シナリオをもとにプレゼンテーション資料をブラッシュアップすることができる。	
		事前学修	課題シートを再読し、口頭発表の要件(時間他)を確認する。プレゼンテーション資料をもとに、ページ毎に伝えたい点(訴求点)をピックアップする。	120分
		事後学修	プレゼンテーション資料および発表シナリオの作成を完了し提出する。	120分
15	第一部金 7/17	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (4) : 企画プレゼンテーション実施と受講者間での相互評価(プレゼンテーションに対して他者からフィードバックを得る、また他者のプレゼンテーションに対してフィードバックする) 講座全体のまとめ	
		この回の到達目標	④に関連して、「効果的なプレゼンテーション」を行うために必要な要件を説明することができる。	
		事前学修	プレゼンテーション(口頭発表)の練習をする。	120分
		事後学修	講義資料、作成課題等を見直して、これまでの授業全体を振り返り、講座を通じて学んだことを確認する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシー	担当者	土屋 正寿	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初歩的な情報理論、コンピュータの基本操作を確認した後、講義、実習を進めるので特段の予備知識や経験は要しない。

【授業方法】
講義と実習を適宜組み合わせる。授業内で1、2回の確認小テストを行う。実習は原則としてマイクロソフトオフィスの主要アプリ (Word、Excel、PowerPoint) を利用する。論文 (骨子)、口頭発表、確認小テストに関する講評・解説は授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PowerPointを利用した口頭発表に対し質疑応答や相互評価を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験については次回授業にて解説・講評を行う。提出物や口頭発表に関する講評はその都度、授業内にて実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に指定する				

【オフィスアワー】
授業前後に質問を受け付ける。土曜日12：10～12：40、授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	統計ソフトウェアを活用し日本経済や産業の計量経済分析・予測の実務を経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		Excelの統計解析ツールを使って基礎的な統計分析の実習を行う	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	【ガイダンス】【PCの基本操作の確認】	【ガイダンス】講義の目的、講義計画・成績評価の方法、実習テキスト、参考書などの紹介を行い、受講生が事前・事後の学習を具体的に行えるようにする。 【PCの基本操作の確認】出欠管理票（Excelファイル）に必要事項を記入し共有ドライブに提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連しPCの基礎的な取り扱い、ファイルの管理方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各回の授業の最後に次回の授業項目について指定するので、自分の知識の確認と必要な項目の予習を行うこと。 初回はシラバスを確認し講義全体を概観する。	120分
		事後学修	前回授業内容を理解していることを前提に授業を進めるので、ポイントの復習を怠らないこと。 特に実習項目については自ら再度実行することで理解度が格段に上がる。ガイダンスを踏まえ自分のICTの知識、コンピュータのスキルとの関連から重点項目を認識する。	120分
2	第一部 土4/11	【情報通信技術の概要】情報処理関連用語の解説、コンピュータとは	情報通信技術（ICT）の概要：情報処理の基礎理論とコンピュータの歴史と動作原理の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、基礎的な情報処理技術やコンピュータの動作原理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	自らのICTに関する知識を確認し疑問点などを抽出する。	120分
		事後学修	コンピュータの歴史、ノイマン型、デジタル化（標本化と量子化）、情報量（ビットとバイト）、コンピュータの動作原理、OSとアプリなど基本概念・用語の確認をして自ら説明できるようにする。	120分
3	第一部 土4/18	【情報通信技術と社会】 【授業内小テスト】	情報通信技術（ICT）と社会：情報セキュリティ、個人情報保護、知的財産の保護、ネット利用の留意点などの解説。講義の後、授業内テスト（ICTと情報処理の基礎に係る確認テスト）を実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、情報セキュリティやネット利用に係る知的財産保護等について理解し実践できる。	
		事前学修	ICTと社会に係る最近の課題について事前に調査、情報収集する。	120分
		事後学修	健全なネット利用に不可欠な情報セキュリティや知的財産の保護などの基本知識を再確認する。	120分
4	第一部 土4/25	【実習基礎編1】Wordの基本操作、PowerPointの基本操作	コンピュータの基本操作の確認： Windowsの基本操作、基本的な文書作成（Word）、口頭発表用スライドの作成（PowerPoint）	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Windowsの基本を理解し、WordやPowerPointの基本機能を適切に利用することができる。	
		事前学修	自らのコンピュータに係る知識を確認する。	60分
		事後学修	実習の事後学習については実際にコンピュータを動かしながら確認することが重要。 Windowsの基本操作とWordやPowerPointの基本についてコンピュータを動かして再確認する。	180分
5	第一部 土5/2	【実習基礎編2】Excelによるデータ集計、グラフ作成	コンピュータの基本操作の確認： データ集計・整理・分析、グラフの作成、データベース機能の活用（Excel）	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの基本的機能を理解しデータ分析、グラフの作成などを適切に実施できる。	
		事前学修	自らのExcelに係る知識を整理確認し授業に臨む。	60分
		事後学修	Excelの三大機能（表計算、グラフ、データベース）の基本を再確認する。	180分
6	第一部 土5/9	【アカデミックスキル1（情報の収集）】インターネット上の情報の利用	インターネット上の情報利用の留意点、インターネット上のデータのインポート、図書館の活用について講義。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してインターネット上の情報利用の留意点を理解し、適切に実践できる。	
		事前学修	コンピュータやスマートフォンなどによるインターネットの利用について自らのイメージをまとめる。	120分
		事後学修	インターネットの仕組みと学問分野での利活用について確認し自分なりの説明を取りまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	【アカデミックスキル2（情報の評価・分析）】	統計学の基本的な概念の確認、コンピュータを活用した情報整理法の例の紹介。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し統計分析の基本的な概念を理解し、説明できる。	
		事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認。	120分
		事後学修	統計学のポイントについて復習する。	120分
8	第一部 土5/23	【アカデミックスキル3（情報の創造・発信）】論文とは	論文・レポートの書き方（テーマと問題設定、論理展開と全体構成、引用の仕方、注と文献表の役割と書き方）、口頭による研究発表の方法（テーマと問題設定、論理展開と発表用スライドの構成など）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文・レポートの要件や口頭発表の基本について理解し実践できる。	
		事前学修	これまでに学習した文章作成方法の確認。	120分
		事後学修	情緒的な文章と論理的な文章の書き方の違いを明確に意識する。	120分
9	第一部 土5/30	【実習応用編1】 Excelによる統計解析実習	Excelによる統計解析実習（正規分布、統計的推測と検定、偏差値、相関分析と回帰分析）、併せてRなど統計用フリーソフトの紹介。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの統計分析ツールを適切に利用することができる。	
		事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認するとともに、基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	授業で提示されたデータを使って、自らの手で再度、Excelによる統計解析を実行する。	180分
10	第一部 土6/6	【実習応用編2】 オブジェクトの挿入などWordの応用機能の利用実習	Wordの利用実習： 図表などオブジェクトの挿入、ヘッダーとフッター、ページ番号や脚注の挿入、セクション区切り、等	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、オブジェクトの挿入、セクション区切りなどWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。	
		事前学修	基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	論文やレポートに有用なこれらのツールの利用手順を確認。	180分
11	第一部 土6/13	【実習応用編3】 「見出し」スタイルなどWordの応用機能の利用実習	【実習応用編3】 Wordの利用実習：アウトライン設定、見出しスタイルの適用、目次・索引の作成、アウトライン表示の活用、Excel等との連携など	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、「見出し」スタイル、アウトライン設定などWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。	
		事前学修	基礎編で学んだWordの関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	これらのツールは論文やレポートに極めて有用であり、確実に身に着くよう復習する。	180分
12	第一部 土6/20	【実習応用編4】 Wordによる論文（または論文骨子）の作成	Wordによる論文の作成（他の授業等で作成した論文・レポートを基に再構成も可）：Wordの論文作成に有効なツール（アウトライン表示、見出しスタイル、目次、脚注、文献管理など）を活用し論文を作成。 参考としてLaTeXによる論文作成例の紹介。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、Wordのアウトライン、見出しスタイル、文献管理など論文・レポート作成に有用なツールを適切に利用することができる。	
		事前学修	論文のテーマと論点を整理し骨子案を検討する。	120分
		事後学修	Wordのこれらの機能は社会人になった後も極めて有用であり、繰り返し実行し自分のものにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	【実習応用編5】PowerPointの利用実習	PowerPointの利用実習：口頭発表用（読ませるのではなく見せる）スライドの要件を踏まえ実習（マスター表示の活用、図表の挿入、アニメーション・画面切り替えの設定、自動プレゼン、ノート・配布資料の作成等）	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、PowerPointのを利用し口頭発表用のスライドを効率的に作成することができる。	
		事前学修	基礎編のPowerPointに関する関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	フォントの種類やサイズ、1枚あたりの行数など口頭発表用スライド（見せるスライド）の要件を復習し、発表用のスライドの作成を行う。	180分
14	第一部 土7/4	【模擬発表会】PowerPointによるプレゼン	作成した論文のポイントについてPowerPointのスライドショーを実行しながら各自5～10分程度の口頭発表を行う（発表時間は履修人数により調整）。発表後、質疑応答、相互評価ならびに講評を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Wordで作成した論文（骨子）のポイントについてPowerPointを使い適切に口頭発表ができる。	
		事前学修	自らの問題意識、主張を明確に意識し発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	質疑応答や相互評価の指摘をふまえ発表資料を改訂する。	120分
15	第一部 土7/11	【総まとめ講義】	論文、口頭発表の技法などアカデミックスキルの再確認と実習のポイントの整理、ICT関連の最新動向の紹介を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、PCをはじめとするICTを適切かつ効率的に活用することができる。	
		事前学修	AIやIoTなど最新のトピックについて情報収集し課題を確認する。	60分
		事後学修	今後はアカデミックスキルとの関連を意識しつつコンピュータやネットワークなどの情報技術を活用することが重要であり、実習内容について繰り返し実行し自分のものにする。	180分

科目名	コンピュータ・リテラシー	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
演習科目であるから、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。

【授業方法】
配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、操作方法の解説に基づいて、各自が演習問題を処理してゆく方法で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の15回目に実技試験の内容について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
よくわかる Word 2016 ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2016年	教科書	必携
よくわかる Excel 2016 ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	ガイダンス及び導入講義	本講義の進め方、テキスト、参考書、成績評価方法などについて説明する。キーボードからの文字入力を試す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、PCの電源の入れ方をはじめ安全に操作する方法を理解し、キーボードからの文字入力を行う。	
		事前学修	タッチキーで文字入力ができるか確認すること。タッチキー入力を練習すること。	120分
		事後学修	ワードのテキストLesson3を利用し、400文字以上を10分で入力できるように練習すること。	120分
2	4月16日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作1(テキストLesson1～Lesson11)」	ネット上から配布する教材を各自に割り当てられているドライブにコピーする。次に、ワードのテキストレッスン1～レッスン11までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットワークドライブから各自のドライブに教材のコピー方法を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson1～Lesson11を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。	120分
3	4月23日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作2(テキストLesson11～Lesson17)」	ワードのテキストレッスン12～レッスン17までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson11～Lesson17を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。	120分
4	4月30日	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作1(テキストLesson20～Lesson25)」	ワードのテキストレッスン20～レッスン25までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson20～Lesson25を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。	120分
5	5月7日	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作2(テキストLesson26～Lesson32)」	ワードのテキストレッスン26～レッスン32までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson26～Lesson32を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。	120分
6	5月14日	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作1(テキストLesson1～Lesson5)」	エクセルのテキストレッスン1～レッスン5までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を復習すること。	120分
		事後学修	一次方程式の計算など、十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日	テキスト「マイクロソフト エクセルの基本操作 2 (Lesson6～Lesson8)」	エクセルのテキストレッスン6～レッスン8までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson6～Lesson8を予習すること。	120分
		事後学修	一次方程式、累計、割合計算など、自らができなかった部分の演習問題を完成させてみる。	120分
8	5月28日	テキスト「マイクロソフト エクセルの基本操作 3 (Lesson9～Lesson12)」	エクセルのテキストレッスン9～レッスン12までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson9～Lesson12を予習すること。特に関数について予習しておくこと。	120分
		事後学修	関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い確認すること。	120分
9	6月4日	テキスト「マイクロソフト エクセルの基本操作 4 (Lesson13～Lesson16)」	エクセルのテキストレッスン13～レッスン16までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson13～Lesson16を予習すること。	120分
		事後学修	グラフを作成するための要素がなんであるか理解すること。演習問題を再度行い理解すること。	120分
10	6月11日	テキスト「マイクロソフト エクセルの応用操作 1 (Lesson18～Lesson21)」	エクセルのテキストレッスン18～レッスン21までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson18～Lesson21を予習すること。	120分
		事後学修	一次方程式の計算や関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い理解すること。	120分
11	6月18日	テキスト「マイクロソフト エクセルの応用操作 2 (Lesson22～Lesson26)」	エクセルのテキストレッスン22～レッスン26までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson22～Lesson26を予習すること。	120分
		事後学修	グラフを作成する際の要素が何であるか、演習問題を再度行い理解すること。	120分
12	6月25日	テキスト「マイクロソフト エクセルの応用操作 3 (Lesson27～Lesson30)」	エクセルのテキストレッスン27～レッスン30までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson27～Lesson30を予習すること。	120分
		事後学修	必要なデータが抽出できるか、また、ピボットテーブルの作成方法と機能について再度演習問題を行い理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	パワーポイントの操作	配布したパワーポイントに関する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	配布したパワーポイントの教材に関して予習すること。	120分
		事後学修	パワーポイントの操作方法ばかりでなく、レジメを作成できるよう文書を要約できるようにする。	120分
14	7月9日	実技試験 授業のまとめ	今学期の演習講義の範囲において、80分の実技試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
		事前学修	講義で行ってきたそれぞれのソフトウェアに関する演習問題の総合的な復習を行うこと。	120分
		事後学修	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。	120分
15	7月16日	実技試験の解説	実技試験の解説を行う。あわせて各ソフトウェアの操作方法に関する質問に答える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成できること。	
		事前学修	実技試験でできなかったところを自ら学習しておくこと。	120分
		事後学修	誤っていた操作について正しく理解しワードとエクセルを利用できるよう実技試験の問題を再度行う。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシー	担当者	毛利 康秀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初心者も十分に履修可能。各自でスキル向上に努めること。

【授業方法】
PC教室にてコンピュータ (Windows) を利用した演習を行う。 課題に関する講評・解説等は、授業内で適宜個別に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
模範的な作成例を例示するほか、授業の最終回に解説を行う形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。毎週プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日 6 限、授業の前後の時間帯，授業講堂にて。まずメールで問い合わせること。mohri-y@chs.nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		出版社にてコンピュータの操作およびコンピュータの操作に関連する教材の制作に携わる。 ビジネスの現場で通用する実用的な資料を、教材作成のノウハウを活用して説明する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	ガイダンス及び導入講義	授業内容の説明、コンピュータの基本的な操作	
		この回の到達目標	法学部のコンピュータにログインができる、パスワード等の変更ができる、インターネットや電子メールを活用することができる	
		事前学修	高校時代にコンピュータ関係の授業で学習した内容を再確認する。	120分
		事後学修	Windowsパソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
2	4月13日	Wordの基本的な操作（1）	Wordの基本的な操作の確認	
		この回の到達目標	Wordの基本的な機能を活用して、実用的な文書を作成することができる。	
		事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Word」の使用方法について確認しておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
3	4月20日	Wordの基本的な操作（2）	ビジネス文書の作成	
		この回の到達目標	Wordのページ設定を使いこなし、ビジネス文書の基本的な構成を理解したうえで、実用的なビジネス文書を作成することができる。	
		事前学修	ビジネス文書とは何かについて、検索して調べて確認した上で、Wordのページ設定全般（行数・文字数の設定、余白の設定）について下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
4	4月27日	Wordの基本的な操作（3）	インターネットからの情報の収集・加工	
		この回の到達目標	インターネットで検索し、著作権の考え方を理解した上で、必要な情報を取り込んでWord上で活用することができる。	
		事前学修	インターネットの検索機能を使いこなせるようにしておく。Wordのメニュー欄をひととおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
5	5月4日	Wordの基本的な操作（4）	スクリーンショット機能の活用、図解の描画	
		この回の到達目標	著作権の考え方を理解した上で、スクリーンショット機能を活用してインターネットの情報を取り込み、図形の機能を活用して図解を描画することができる。	
		事前学修	スクリーンショットとは何か、検索してしらべておく。Wordの描画ツールの機能について下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
6	5月11日	タイピングの練習	タイピング技法の習得、タイピング結果の貼り付け	
		この回の到達目標	タイピングが練習できるサイトを利用してタイピングの練習を行い、より速く正確なタイピング技法を習得することができる。プリントスクリーンの機能を活用して、タイピングの練習結果を画像としてWordに取り込むことができる。	
		事前学修	タイピングとは何かについてインターネットで検索しておく。	120分
		事後学修	タイピングソフトを活用して習慣的に練習を行い、タッチタイピングが出来るようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5月18日	Excelの基本的な操作（１）	Excelの基本的な機能の確認、行と列の考え方の確認
		この回の到達目標	Excelの行と列の概念を理解できる。Excelを活用して、データ入力、書式設定、簡単な計算式の入力を行うことができる。
		事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Excel」の使用方法について確認しておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。
8	5月25日	Excelの基本的な操作（２）	算術演算子の活用、関数の活用、グラフの作成
		この回の到達目標	Excelを活用して、計算式を使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（棒グラフ）を作成し、調整することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、算術演算子とは何か、関数とは何かについて下調べしておく。グラフの作成方法についても下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
9	6月1日	Excelの基本的な操作（３）	算術演算子の活用、セルの絶対指定、グラフの作成
		この回の到達目標	セルの相対参照、絶対参照の考え方を理解し、使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（円グラフ、折れ線グラフ）を作成し、調整することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、セルの相対参照、絶対参照とは何かについて下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
10	6月8日	Excelの応用的な操作（１）	計算式の構成、I F 関数、絶対指定／相対指定の応用、条件付き書式、散布図の作成
		この回の到達目標	B M I 指数（肥満指数）を例に、必要な計算式の構成、計算式中の絶対指定／相対指定の応用的な使いこなし、条件付き書式を活用して見やすい表を作ることができる。作成したデータを活用してグループグラフ（散布図）を作成し、調整することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、B M I 指数、条件付き書式とは何かについて下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
11	6月15日	Excelの応用的な操作（２）	アンケートデータの集計とグラフの作成
		この回の到達目標	アンケート結果の入力データを例に、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数などを活用して、効率的なデータの集計を行うことができる。データの性質に応じて最適なグラフを選択し、表現することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数とは何かについて、下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
12	6月22日	WordとExcelの連携	Excelで作成したデータをWordに貼り付けてレポートを作成する
		この回の到達目標	Excelで作成した表やグラフのデータをコピーし、Wordに貼り付けて活用することができる。「形式を選択して貼り付け」の考え方を理解し、状況に応じて使い分けることができる。
		事前学修	WordとExcelを同時に使用方法について、インターネットで検索して調べておく。形式を選択して貼り付けとは何かについても下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	PowerPointの活用（１）	プレゼンテーションとは何かについての理解を深める。	
		この回の到達目標	プレゼンテーションとは何かについて理解することができる。PowerPointを活用したプレゼンテーションの概要をつかむことができる。	
		事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「PowerPoint」の使用方法について確認しておく。プレゼンテーションとは何かについても下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントを参照し、特にWordとExcelとも共通するPowerPointの操作方法について確認しておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
14	7月6日	PowerPointの活用（２）	自由課題でのプレゼンテーション資料の作成	
		この回の到達目標	発表するべきテーマについて、プレゼンテーションの構成について考えることができる。その構成をPowerPoint上で表現することができる。	
		事前学修	インターネットを活用し、PowerPointの主な機能について下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にアニメーション機能など、PowerPointならではの機能を効果的に使いこなすスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
15	7月13日	PowerPointの活用（３）	PowerPointの課題の完成、授業のまとめ・課題に関する講評・解説等のフィードバック	
		この回の到達目標	自由課題でのプレゼンテーション資料を完成させることができる。これまでの授業で学んだWord、Excel、PowerPointの機能を再確認し、必要に応じて使いこなすことができる。	
		事前学修	PowerPointの課題の内容を確認し、提出するまでの準備を整えておく。	120分
		事後学修	これまでの課題作成で使用してきた様々な機能を総復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシー	担当者	山田 正雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
情報処理の基本的な素養（コンピュータやネットワーク、経営情報、統計処理等々への理解）がほとんど無い学生を前提とする。

【授業方法】
PC教室で基本課題と復習課題の2系統の配付資料（基本的にはデジタルデータ）による講義と実習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第12回、第13回のプレゼンテーションの評価について相互に検討・批評する。 第14回のスモールデータ分析（啓江トレンド分析）について相互に検討し多角的な視点を獲得する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講生が提出した課題やレポートについては、次回の授業の冒頭かポータルサイトを通じてフィードバックを行う。 また期末試験も含めた総合的なフィードバックはポータルサイトより行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業の際に資料（デジタルデータ、必要に応じてアナログデータ）を配付・提示する。				

【オフィスアワー】
原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。 必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月曜日 4月6日 火曜日 4月7日	現代社会と情報システム	・授業ガイダンス 法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について	
		この回の到達目標	現代社会におけるICT関連課題、法学部情報システム（COLNet）の重要性、またPCの操作技術習得の重要性を理解する。	
		事前学修	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・日本大学法学部のHPより初期パスワードの変更作業を行う。 (2時間)	120分
2	月曜日 4月13日 火曜日 4月14日	情報システムと個人情報の保護 インターネットの光と陰	・各種デジタルデータの保存と管理・再利用、ネットワーク・コンピューティングと情報倫理 ・Microsoft WordやExcelの入門	
		この回の到達目標	個人情報の保護に留意して法学部情報システム（COLNet）の各種ツールを活用できる。	
		事前学修	・リモートアクセスにチャレンジして【課題01¥課題1.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 ・2回目の授業以降はポータルサイトから事前学習の内容について連絡を致します。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【課題1.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
3	月曜日 4月20日 火曜日 4月21日	Microsoft Wordによるレポート作成	・レポート作成法（コピペと言われないレポートの作成方法） ・フォント、インデント、脚注（参考文献・参考資料・参考URL）、ページ設定、ページ番号等々。	
		この回の到達目標	情報発信の基礎としてMicrosoft Wordによるレポート作成技法を習得する。	
		事前学修	・リモートアクセスで【復習01¥ご案内状.docx】を閲覧しWordの画面構成の理解に努める。 (2時間)	120分
		事後学修	・Microsoft Wordのページ設定（余白・字数・行数の調整）について理解しておく。 ・【ショートカット・キー一覧.pdf】を配布するので概観しておく。 (2時間)	120分
4	月曜日 4月27日 火曜日 4月28日	Microsoft Wordの各種編集技法の習得	Microsoft Wordの基本操作2 (Desk Top Publishing 1) ・各種技法を採り入れたフライヤーの作成 ・高度情報化社会；インターネットの仕組みとビジネスモデル	
		この回の到達目標	Microsoft Wordの各種編集技法（特に各種DTP技法）を習得する。	
		事前学修	・配付資料から指定した5つのショートカット・キーを学習しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・指定した5つ以外の利用度の高いショートカット・キーもマスターする。 ・リモートアクセスで【ご案内状.docx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
5	月曜日 5月4日 火曜日 5月5日	Microsoft Excel入門	Microsoft Excelの基本操作1 ・表計算と編集（データ入力と合計・平均関数）、PCの構造と機能、保存メディアの種類と機能	
		この回の到達目標	Microsoft Excelの入門として基本的な表計算技法を習得する。 またデータの各種保存方法を習得する。	
		事前学修	・リモートアクセスで【課題01¥受講者数統計.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【受講者数統計.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・復習課題でMicrosoft Excelの合計・平均関数とオートフィル機能を復習しておく。 (2時間)	120分
6	月曜日 5月11日 火曜日 5月12日	Microsoft Excelの各種グラフ作成	Microsoft Excelの基本操作2 ・（各種グラフ作成、基本的関数の利用） ・HP閲覧（検索エンジンの利用とデータ収集）	
		この回の到達目標	Microsoft Excelによる基本的なグラフ作成技法を習得する。 またWeb上のデータの検索とダウンロード、その後の編集技法を習得する。	
		事前学修	・リモートアクセスで【復習01¥ (5) グラフとオートシェイプ.xlsx】を閲覧し理解できる範囲で各種グラフを作成しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価A.xlsx】の予習結果を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月曜日 5月18日 火曜日 5月19日	各種組織の公開データの分析的利用	Microsoft Excelの応用操作1 ・（各種グラフ、DB関数） ・HP閲覧（EDINETや企業・自治体のデータ収集）	
		この回の到達目標	企業や官公庁の公開データの検索・閲覧・ダウンロードとMicrosoft Excelによるデータベース機能を習得する。	
		事前学修	・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価B. xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・経済・経営・会計・ICT関連の「調査課題」を配布するので概観しておく。 (2時間)	120分
8	月曜日 5月25日 火曜日 5月26日	電子メールの送受信と個人情報保護の基礎	Microsoft Excelの応用操作2（経営トレンド分析） ・電子メールの利用（Excelファイルに読み取りパスワード設定を付けて添付して送信する）	
		この回の到達目標	学生として公的なNUメールの利用技法とマナー、添付ファイルのパスワード設定等々のネットワーク・エチケットを習得する。	
		事前学修	・各企業のHPや金融庁EDINETから任意の企業の有価証券報告書を閲覧し必要なデータをExcelファイルに保存しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・指定課題で復習してリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 ・【復習14¥0. ABC分析. xlsx】に読み取りパスワードを付けて電子メールに添付して提出する。 (2時間)	120分
9	月曜日 6月1日 火曜日 6月2日	データ分析の基礎と学術論文作成技法	・ABC分析について ・レポート作成（ExcelデータのWordへの転用） ・社会科学系論文・レポートの作成方法について ・ファイルサーバの利用と管理	
		この回の到達目標	データ分析・評価の基礎と学術論文作成に際して基本的な技法を習得する。	
		事前学修	・日本社会学会等、任意の社会科学系の学会のHPより論文投稿規定を閲覧し、理解しておくこと。 ・リモートアクセスで【課題11Word & Excel】を閲覧し理解に努める。 (2時間)	120分
		事後学修	・論文・レポートの作成要件・形式について復習しておく。 ・プレゼンのテーマについて調査・決定しておく。 (2時間)	120分
10	月曜日 6月8日 火曜日 6月9日	情報発信の基礎	PowerPointによるプレゼン資料の作成1 （アウトライン重視の効果的なプレゼン資料の作成）	
		この回の到達目標	情報発信の基礎としてMicrosoft PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成技法を習得する。	
		事前学修	・プレゼン・テーマのアウトラインをWordに記述して指定フォルダにアップロードしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)	120分
11	月曜日 6月15日 火曜日 6月16日	プレゼンテーションの全体像	PowerPointによるプレゼン資料の作成2 （聴取者にマッチした訴求度の高いプレゼン資料の作成、評価の視点）	
		この回の到達目標	プレゼンテーションについて全体的な評価の視点を形成・獲得する。	
		事前学修	・新たなデータを加えて各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・各自のPowerPoint課題の作成作業を更に進めておく。 (2時間)	120分
12	月曜日 6月22日 火曜日 6月23日	PowerPointを利用したプレゼンテーション	PowerPointによるプレゼンテーション1 （学生によるプレゼンテーション1）	
		この回の到達目標	学生によるPowerPointを利用したプレゼンテーションに対して理解し、質疑応答への参加、その後の全体的な評価の視点を形成する。	
		事前学修	・プレゼンテーションについて解説した指定教材を読み込んでおくこと。 (2時間)	120分
		事後学修	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に記入しておく。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月曜日 6月29日 火曜日 6月30日	PowerPointと副次的資料を併用したプレゼンテーション	PowerPointによるプレゼンテーション2 (学生によるプレゼンテーション2)	
		この回の到達目標	PowerPointとその他資料を併用したプレゼンテーション技法を理解し、各自のプレゼンテーション能力を高める。	
		事前学修	・プレゼンテーションの評価基準をWordにまとめリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に纏めておく。 ・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 ・リモートアクセスで【復習11¥ 5 逆トーナメントデータ分析.xlsx】を閲覧し理解できる範囲で作業を進めておく。(2時間)	120分
14	月曜日 7月6日 火曜日 7月7日	ビッグデータの分析	Excelによるスモールデータの分析 (ピボットテーブルによるデータの分析と解釈)	
		この回の到達目標	個人や企業・官公庁等の行動から生成されるビッグデータの分析の基礎としてMicrosoft Excelの最新技法、ピボットテーブルの分析技法を習得する。	
		事前学修	・官公庁HPから『各種白書』や業界団体、任意の企業のHPから業績Excelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・分析結果を再検討して更に異なる視点で検討した結果をWordにまとめておく。 ・Web上で「HTMLタグ」について5個以上の基本的なものについて理解しておく。 (2時間)	120分
15	月曜日 7月13日 火曜日 7月14日	プログラミング入門 フローチャートとアルゴリズム	・スクリプティング入門 (HTML入門) ・講義全体の復習・スクリプティング入門 (HTML入門)	
		この回の到達目標	ホームページの構造とプログラミングへの理解の基礎としてHTMLによるホームページの基礎的な作成技法を習得する。	
		事前学修	・10行のHTMLを完成させておく。 (2時間)	120分
		事後学修	☆「期末課題」を完成後に指定期日までに当該フォルダへアップロードする。 (2時間)	120分

科目名	コンピュータ・リテラシー	担当者	鈴木 正章	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
毎時、出席できること。機器台数により、50名を限度とする。コンピュータ・ネットワーク初心者可。

【授業方法】
授業は教科書や配布資料を使って基礎的な事項のポイントについて解説し、教科書の中に設定されている課題にそって実習を行う。なお、採点の内容と講評は、後日ポータルサイトで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
評価の方法・配点・講評についてポータルサイトを使って受講者に全員に配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Windows10対応30時間でマスターWord&Excel2016	実教出版編集部	実教出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日および木曜日の１９：３０ー１９：５０の時間帯で授業講堂で受付ます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 火 (4/7) 第二部 木 (4/9)	【ガイダンス】【授業内容の説明】	Windows10の画面構成および起動・終了、アプリケーションソフト起動・終了、学内パソコンの使い方、情報とメディアの活用法について学修する	
		この回の到達目標	学内パソコンを使って1回目の授業内容について操作ができる。	
		事前学修	教科書の「Windows10の基礎」についてあらかじめ熟読しておくこと。	120分
		事後学修	学内パソコン使用について習熟すること。	120分
2	1第二部 火 (4/14) 第二部 木 (4/16)	【インターネット】【Eメール】【課題の提出方法】	学内ネットワークの活用 クラウドの活用	
		この回の到達目標	インターネットやEメールを利用できる。また、学内及び学外パソコンから課題が提出できる。	
		事前学修	Internet Explorerのについて熟読しておくこと	120分
		事後学修	様々なホームページを開き、学内メールも使ってみる。	120分
3	第二部 火 (4/21) 第二部 木 (4/23)	【wordの基本】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（1）文章の入力・文書の読み込み、保存および印刷	
		この回の到達目標	アプリword2016を使って起動・文字の入力・文書の保存・印刷・終了ができる。	
		事前学修	教科書の「Word2016の基礎的な使い方」について熟読しておくこと。	120分
		事後学修	Word2016の画面構成の理解と文字入力に習熟しておくこと。	120分
4	第二部 火 (4/28) 第二部 木 (4/30)	【文書作成】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（2）文書の書式設定	
		この回の到達目標	ページの書式設定した文書作成ができる。	
		事前学修	教科書の文書の作成について熟読しておくこと。	120分
		事後学修	文字入力と文書の書式設定に習熟しておくこと。	120分
5	第二部 火 (5/5) 第二部 木 (5/7)	【文書の編集(1)】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（3）Wordの編集機能	
		この回の到達目標	文字のサイズやフォントの変更・箇条書き・表の作成及び編集ができる。	
		事前学修	教科書の編集機能について熟読をしておくこと。	120分
		事後学修	編集機能を使った様々な文書を作成すること。	120分
6	第二部 火 (5/12) 第二部 木 (5/17)	【文書の編集(2)】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（4）Wordの編集機能	
		この回の到達目標	図・写真・テキストボックスを文書内に挿入できる。	
		事前学修	教科書の画像・テキストボックスの挿入を熟読しておくこと。	120分
		事後学修	画像やテキストボックスを挿入した文章の作成に慣れておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 火 (5/19) 第二部 木 (5/21)	【Excelの基本(1)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（1）表の作成	
		この回の到達目標	Excel2016の画面構成を理解した上で表を作成しデータの入力ができる。	
		事前学修	教科書のExcel2016の画面構成とそれらの機能について熟読し理解しておくこと。	120分
		事後学修	Excel2016を使って表を作成できるようにする。	120分
8	第二部 火 (5/26) 第二部 木 (5/28)	【Excelの基本(2)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（2）計算式の挿入	
		この回の到達目標	表の中に合計・平均などの数式を挿入し計算できる。	
		事前学修	教科書のExcel2016の様々な書式設定を理解しておくこと。	120分
		事後学修	数式の入力と様々な書式設定をして表を作成する。	120分
9	第二部 火 (6/2) 第二部 木 (6/4)	【Excelの基本(3)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（3）Excelのデータからグラフを作成	
		この回の到達目標	Excelのデータから様々なグラフ（棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ・複合グラフなど）を作成できる。	
		事前学修	教科書のグラフの挿入の仕方を熟読および理解しておくこと。	120分
		事後学修	表データから様々なグラフを作成する。	120分
10	第二部 火 (6/9) 第二部 木 (6/11)	【Excelの基本(4)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（4）グラフの編集	
		この回の到達目標	Excelで作成したグラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができる	
		事前学修	教科書のグラフの書式設定変更の仕方を熟読および理解しておくこと。	120分
		事後学修	表データからグラフを作成し、グラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができるようにしておく。	120分
11	第二部 火 (6/16) 第二部 木 (6/18)	【Excelの活用(1)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（5）Excelの活用（基本的な関数）	
		この回の到達目標	Excelで活用する関数を挿入することができる。	
		事前学修	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。	120分
		事後学修	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。	120分
12	第二部 火 (6/23) 第二部 木 (6/25)	【Excelの活用(2)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（6）Excelの活用（相対参照・絶対参照）	
		この回の到達目標	順位づけ・四捨五入・判定・条件による集計の関数が活用できる。	
		事前学修	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。	120分
		事後学修	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 火 (6/30) 第二部 木 (7/2)	【PowerPointの基本(1)】	PowerPointを活用したプレゼンテーション（1）PowerPointの基本的な使い方とプレゼンテーションの設計	
		この回の到達目標	PowerPointの画面構成を理解した上で、テーマに基づいたプレゼンテーションの設計ができる・	
		事前学修	プレゼンテーションの内容とその構成について計画を立てる。	120分
		事後学修	PowerPointの画面構成との役割について習得しておくこと。	120分
14	第二部 火 (7/7) 第二部 木 (7/9)	【PowerPointの基本(2)】	PowerPoint活用したプレゼンテーション（2）ワードアート・Smart Art・図の挿入・アニメーション効果・動画の挿入	
		この回の到達目標	PowerPointの様々な機能を理解し、活用できる。	
		事前学修	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。	120分
		事後学修	ワードアート、Smart Art、図の挿入やアニメーション効果を利用したプレゼンテーションの作成する。	120分
15	第二部 火 (7/14) 第二部 木 (7/16)	【PowerPointのまとめ】	PowerPoint活用したプレゼンテーション（3）プレゼンテーションの方法とまとめ	
		この回の到達目標	PowerPointの様々な機能を使って一つのまとまったプレゼンテーションが作成できる。	
		事前学修	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。	120分
		事後学修	「まとめ」として一つのオリジナルなプレゼンテーションの企画と作成。	120分

科目名	自主創造の基礎1【経営法】	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学F Dガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【政治経済】	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【公共政策】	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15～13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【公共政策】	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	出雲 孝	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（この時間帯が困難である場合は要相談）またはメールにて相談：izumo.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法曹】	担当者	大久保 拓也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜3時限。事前にメールでアポイントメントをとることオフィス 研究室（9号館2階9204） ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【新聞】	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	大山 盛義	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日3時限（メールでアポイントメントをとること）研究室にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の16時20分から17時30分の間本館9階1904研究室で実施する。なお、事前予約が望ましい、oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020		必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
					必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【公共政策】	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1	担当者	加藤 暁子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅰ」を未修得の者に限る。（再履修者向けクラス）

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜11時～12時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	9/21	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	9/28	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	10/5	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	10/12	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	10/19	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	11/9	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	11/16	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	11/23	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	11/30	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	12/7	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	12/21	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	1/18	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【新聞】	担当者	加藤 雅之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館2階423研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【新聞】	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日13時00分ー14時30分（事前にメールでアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【経営法】	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【政治経済】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館8階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【政治経済】	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス及び導入講義	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【新聞】	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムによるフィードバック、あるいは授業内でのコメントとする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	その他	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法曹】	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で質問を受け付けます。質問内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【経営法】	担当者	清水 恵介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
当該授業に関する質問を、授業期間中の火曜日12時～13時に研究室で受け付ける。ただし、オフィスアワーを利用した質問を希望する学生は、ガイダンスの際に教示するメールアドレス宛てに、質問の概要及び希望日を事前に通知し、希望者の競合等により対応不能である旨の回答がない場合であることを条件とする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【公共政策】	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【公共政策】	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室（本館7階1705研究室） suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【新聞】	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12時10分～13時 研究室（本館8階1812研究室） takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【公共政策】	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【政治経済】	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	西山 智之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16：20～17：50に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【政治経済】	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学F Dガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容	弁護士および家事調停委員の実務経験を活かし、理論と実務の架橋を目指した考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学F Dガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については、必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【政治経済】	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取ること） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
前学期に「自主創造の基礎1」を未修得の者に限る。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	9/26	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	10/3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	10/10	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	10/17	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	10/24	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	11/7	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	11/14	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	11/21	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	11/28	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	12/5	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	12/18	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	12/26	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎の学修事項を確認し、質問があれば準備しておく。	180分
		事後学修	後学期の内容をふりかえる。	60分

科目名	自主創造の基礎1【政治経済】	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の時間に質問や学習方法、あるいは進路などに関する相談も受け付ける。気楽に聞いてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【政治経済】	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学F Dガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【経営法】	担当者	馬淵 彰	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【新聞】	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	南 由介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日10：40～12：10 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【経営法】	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
未定（決定したら講義でアナウンする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【経営法】	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【公共政策】	担当者	山田 孝紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 3 時限 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業ガイダンス及び導入講義	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/17	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/24	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5/1	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/8	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/15	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/29	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/5	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/12	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/19	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/26	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/10	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/17	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【政治経済】	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。				1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。				1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。				1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。				1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。				1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。				1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。				1	1	1	1	1	1
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20-12:50 研究室(本館9階) 事前にアポイントメントを取ること

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【政治経済】	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13:00-14:30 研究室（9号館2階9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	臼井 哲也	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
				教科書	
備考					

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	大熊 圭子	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。okuma.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1	担当者	岡山 敬二	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
前学期に「自主創造の基礎1」を未修得の者に限る。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	9/26	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	10/3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	10/10	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	10/17	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	10/24	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	11/7	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	11/14	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	11/21	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	11/28	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	12/5	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	12/18	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	12/26	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎の学修事項を確認し、質問があれば準備しておく。	180分
		事後学修	後学期の内容をふりかえる。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	窪田 悠一	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	佐藤 明子	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
面談を希望される方は、前もって sato.akiko01@nihon-u.ac.jp にご連絡ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	中村 進	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16：10～17：50 研究室（9号館2階206号研究室） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎1【法律】	担当者	米倉 律	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室は本館7階（1719）できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。メールアドレスは、yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【経営法】	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【政治経済】	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【公共政策】	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15～13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【公共政策】	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/19 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/26 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	11/9 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/16 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/23 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/30 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	出雲 孝	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
				教科書	
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（この時間帯が困難である場合は要相談）またはメールにて相談：izumo.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/19 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/26 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/9 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/16 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/23 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/30 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法曹】	担当者	大久保 拓也	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】

参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。							2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。							2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。							2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜3時限。事前にメールでアポイントメントをとることオフィス 研究室（9号館2階9204） ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/22 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/29 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/6 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/13 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/20 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/27 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/10 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/17 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/24 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/1 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/8 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/15 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【新聞】	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	大山 盛義	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。				2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。				2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。				2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日3時限（メールでアポイントメントをとること）研究室にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/19 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/26 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/9 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/16 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/23 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/30 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の16時20分から17時30分の間本館9階1904研究室で実施する。なお、事前予約が望ましい、oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/19 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/26 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	11/9 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/16 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/23 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/30 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【公共政策】	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	10/19 日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	10/26 テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	11/9 テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	11/16 テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	11/23 テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	11/30 教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【新聞】	担当者	加藤 雅之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】

参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。							2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。							2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。							2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学F Dガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館2階4 2 3 研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【新聞】	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日13時00分ー14時30分（事前にメールでアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【経営法】	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【政治経済】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】

参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。				2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。				2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。				2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館8階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/19 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/26 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/9 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/16 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/23 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/30 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/19 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/26 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/9 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/16 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/23 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/30 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【政治経済】	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【新聞】	担当者	佐藤 英	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムによるフィードバック、あるいは授業内でのコメントとする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法曹】	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で質問を受け付けます。質問内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/22 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/29 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/6 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/13 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/20 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/27 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/10 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/17 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/24 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/1 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/8 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/15 ※ 12/22, 1/12を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【経営法】	担当者	清水 恵介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学F Dガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
当該授業に関する質問を、授業期間中の火曜日12時～13時に研究室で受け付ける。ただし、オフィスアワーを利用した質問を希望する学生は、ガイダンスの際に教示するメールアドレス宛てに、質問の概要及び希望日を事前に通知し、希望者の競合等により対応不能である旨の回答がない場合であることを条件とする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【公共政策】	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。								2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。								2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。								2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。								2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。								2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。								2	2	2	2	2	2
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【公共政策】	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室（本館7階1705研究室） suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【新聞】	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12時10分～13時 研究室（本館8階1812研究室） takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【公共政策】	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。				2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。				2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。				2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	立福 家徳	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16：20～17：50に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/19 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/26 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/9 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/16 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/23 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/30 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【政治経済】	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	西山 智之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。								2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。								2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。								2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。								2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。								2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。								2	2	2	2	2	2
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16：20～17：50に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	10/19 日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	10/26 テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	11/9 テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	11/16 テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	11/23 テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	11/30 教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【政治経済】	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】

参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。				2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。				2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。				2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】

参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。							2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。							2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。							2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容	弁護士および家事調停委員の実務経験を活かし、理論と実務の架橋を目指した考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/19 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/26 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/9 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/16 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/23 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/30 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/14 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/21 ※ 10/12, 1/18を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。				2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。				2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。				2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については、必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【政治経済】	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取ること） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【政治経済】	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の時間に質問や学習方法、あるいは進路などに関する相談も受け付ける。気楽に聞いてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【政治経済】	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【経営法】	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】

参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【新聞】	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容	中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	南 由介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日10：40～12：10 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【経営法】	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
未定（決定したら講義でアナウンする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【経営法】	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【公共政策】	担当者	山田 孝紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。				2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。				2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。				2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 3 時限 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/25 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/2 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/9 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/30 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	11/6 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/13 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/20 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/27 ※ 10/16, 12/25を 休講とす る場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4 ※ 10/16, 12/25を 休講とする場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/11 ※ 10/16, 12/25を 休講とする場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/18 ※ 10/16, 12/25を 休講とする場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【政治経済】	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】

参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20-12:50 研究室(本館9階) 事前にアポイントメントを取ること

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【政治経済】	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13:00-14:30 研究室（9号館2階9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	臼井 哲也	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	大熊 圭子	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。							2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。							2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。							2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。okuma.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	窪田 悠一	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】

参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	佐藤 明子	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。				2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。				2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。				2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
面談を希望される方は、前もって sato.akiko01@nihon-u.ac.jp にご連絡ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	中村 進	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。				2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。				2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。				2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループ ごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (1)	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ (2)	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて 検討を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎2【法律】	担当者	米倉 律	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月11日（日）〈予備日18日（日）〉には「日本大学ワールド・カフェ※」が開催される（編入等クラス及び再履修クラスを除く）。※日本大学ワールド・カフェは2週分の授業に相当するため、「自主創造の基礎2」（後学期）のうち、クラスごとに定めた2週分を休講とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。				2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。				2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。				2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				2	2	2	2	2	2
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。				2	2	2	2	2	2
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学式にて配付	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室は本館7階（1719）できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。メールアドレスは、yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（1）	日本大学ワールド・カフェ（1）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分
6	10/11 (予備日 10/18)	日本大学ワールド・カフェ（2）	日本大学ワールド・カフェ（2）において、他学部の学生とともに、与えられたテーマについて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認を行う。	120分
		事後学修	当日配布されたレポート課題の作成やアンケートへの回答などを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/14 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	日本大学ワールド・カフェ の振り返り	日本大学ワールド・カフェの振り返りを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、与えられたテーマについて説明することができる。	
		事前学修	当日配布されたレポート課題の見直しを行う。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
8	10/21 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
9	10/28 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
10	11/11 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
11	11/18 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBについてのグループ ごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
12	11/25 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/2 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマAで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマAについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
14	12/9 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマBで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、小論文でテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用、表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/16 ※ 12/23, 1/13を休 講とする 場合	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的、到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度の目標を設定する。	60分

科目名	日本国憲法	担当者	田上 雄大	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○							

【授業の概要】
憲法は、国の最高法規であり、国民主権・人権尊重・平和主義などの基本原則をベースとした「国家統治の基本法」であり、「人権保障のバイブル」である。本講義では、日本国憲法を素材とし、重要箇所の条文解釈を学修するが、同時に、最新の憲法問題を数多く知ること、憲法を身近なものとして学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、市民としての正しい政治的判断ができるようになるために、憲法（人権・統治機構）の基礎知識を身につけ、日本国憲法の将来を展望する能力を修得する。また、学説・判例の学修を通じて、法的・論理的思考力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式。配布したレジュメに沿って講義を行う。学生の興味関心などに応じて、シラバスの内容から多少変更される可能性がある。そのため、フレキシブルな姿勢で講義にのぞむことが求められる。なお、受講するうえで少なくとも日本国憲法や明治憲法の条文を必要に応じて講義中に確認できる状態にしておくこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	立憲主義をはじめとする憲法の基礎的な概念を説明できる。						2						
②	日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明できる。						2						
③	日本国憲法に定める統治機構の概要を説明できる。						2						
④	憲法問題を議論し、日本国憲法の将来を展望できる。						2						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	35	35								90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④に関連して、グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかどうかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	35	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要に応じてリアクションペーパー等を配布する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法（Next教科書シリーズ）第二版	齋藤康輝, 高畑英一郎 (編集)	弘文堂	平成29	参考書	任意
六法（デイリー六法、ポケット六法など）				参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後（水曜日 5 限、二部 2 限）に学内の開かれたスペースまたは講義する（した）講堂で行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	【ガイダンス】【憲法の役割】	1、ガイダンスを行い、今後の講義の進め方について説明する。 2、憲法を学ぶうえで基礎となる憲法の役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今後の講義進行を理解し、これに向けた学習体制を確立すること及び憲法の役割を理解し、説明することができる。	
		事前学修	1、シラバスを確認し、今後の学修計画を構想しておくこと。 2、憲法とはどのようなものか考えておくこと。	120分
		事後学修	1、ガイダンスを踏まえて学修計画を具体化すること。 2、憲法の役割について整理しておくこと。	120分
2	9/23	【主権】	国家体制と主権とのかかわりなどを理解するとともに、主権の持つさまざまな意味について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、主権の概念を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	主権のさまざまな意味を整理し、まとめておくこと。	120分
3	9/30	【天皇の地位と権能】	諸外国にはない日本国憲法の特徴である天皇の憲法上の地位や皇室制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、天皇や皇室制度の特徴を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	天皇や皇室制度の概要をまとめておくこと。	120分
4	10/7	【戦争放棄】	日本国憲法に関する議論の中心にあることが少なくない憲法9条の成り立ちや解釈について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、憲法9条の成立過程や解釈を理解し、そのうえで自衛権について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	憲法9条の成立過程や自衛権の解釈についてまとめておくこと。	120分
5	10/14	【基本的人権とその限界】	基本的人権の歴史を理解するとともに、その種類や限界について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、基本的人権の性質を理解し、その保障と限界について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	基本的人権の歴史や特徴をまとめておくこと。	120分
6	10/21	【法の下での平等】	差別と区別との違いを理解するとともに、憲法上の平等と平等の範囲外について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、さまざまな平等の種類を理解したうえで、平等の例外や弊害について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	平等のあり方とその例外についてまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	【思想・良心の自由】【信教の自由】【政教分離】	精神的な営みの役割を理解するとともに、内心の自由、信教の自由及び政教分離について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、人間の精神的な活動と憲法とのかかわりを理解したうえで、その限界や政教分離の意義について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	内心の自由や信教の自由の意義、政教分離の形態についてまとめること。	120分
8	11/11	【表現の自由】【学問の自由】	表現の自由がさまざまな活動の根幹にあることを理解するとともに、その保障と制約の態様や学問の自由について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、表現の自由や学問の自由の重要性を理解し、その制約のあり方について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	表現の自由にかかわる問題についてまとめること。	120分
9	11/18	【身体的自由権】【経済的自由権】	身体的自由権や経済的自由権の意義を理解するとともに、その特徴や事例について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、身体的自由権や経済的自由権の意義を理解し、さまざまな事例に照らして説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	これまで学習した各種自由権についてまとめること。	120分
10	11/25	【参政権】	参政権が国民固有の権利であることを理解するとともに、国民の主権の行使の一形態ともいえる参政権の重要性について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、参政権の重要性を理解し、参政権にかかわる諸問題について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	参政権の意義についてまとめること。	120分
11	12/2	【教育を受ける権利】	教育権の所在を理解するとともに、教育を受ける権利の意義について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、教育権の所在を理解し、教育権のあり方について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	教育権にかかわる問題についてまとめること。	120分
12	12/9	【労働者の権利】	労働者の権利の保障の重要性を理解するとともに、勤労権や労働基本権について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、勤労権や労働基本権を理解し、労働者が権利を持つことの重要性について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	労働者の権利についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	【立法】【行政】	国民の代表たる機関の役割を理解するとともに、立法権、行政権の性質について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、立法権や行政権の役割を理解し、その特徴や限界について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	国会や内閣の概要についてまとめておくこと。	120分
14	12/23	【司法】【憲法尊重擁護義務】【憲法改正】	裁判員や憲法改正国民投票といった国民がかかわりうる制度のシステムを理解するとともに、司法権や裁判員制度、憲法尊重擁護義務、憲法改正について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、 1、司法権の役割や裁判員制度の概要 2、憲法尊重擁護義務の意義、憲法改正の概要 を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	司法の役割や裁判員制度の概要、憲法尊重擁護義務の意義、憲法改正の概要についてまとめておくこと。	120分
15	1/13	【試験】【まとめ】	1、授業内試験を実施する。 2、これまでの講義のまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学習したことを理解し、自らの見解を踏まえて論理的に説明することができる。	
		事前学修	今までの講義を振り返り、自らの見解を整理しておくことが望ましい。	180分
		事後学修	今までの講義や試験を踏まえて改めて見解をまとめておくことが望ましい。	120分

科目名	日本大学の歴史	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
学祖山田顕義の生涯とその事績、日本法律学校の設立から、その後の日本大学の歴史を中心に、日本における高等教育の歴史・その役割について日本近現代史の流れをたどりながら講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本大学について深く知り、広く深い知識と多様な価値観、さらに精神の豊かさにもとづく、「帰属意識」・「愛校心」・「一体感」をもつために、学祖や日本大学の歴史に関する系統だった知識を修得し、学生が学ぶ大学の創設者・大学の歴史を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
初回授業で「日本近現代史の中の日本大学」、各種参考資料・「参考図」などを配布して、これらを活用して講義を中心に進めていく。そのほかに「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価を盛り込んで授業を展開する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学祖山田顕義に関する事績と日本大学の歴史についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					1						
②	日本大学の歴史を学び、学生が大学生としての学びに気づき、自立的に学ぶ姿勢を確立し生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。					1						
③	日本大学をはじめとする、日本の高等教育の歴史を知り、大学での学ぶ意義を説明できる。					1						
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③について達成ができていないかを，論述試験により評価する。授業内試験を予定しているが、履修者数により、定期試験とする場合がある。	40	30	10								80
小テスト等	授業内容に課されたレポートが，書式等の要件を満たし，課題に的確に答えたものかを基準に，到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
レポート等	到達目標①に関わり講義中に課す小レポートにより，（１）講義内容が把握できているか，（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
山田顕義と萩	松原太郎	萩ものがたり	2019	教科書	必携
日本近現代史の中の日本大学〔『研究紀要』日本大学文理学部〕	古川隆久	日本大学文理学部	2017	教科書	必携
「山田顕義に関するリーフレット」	日本大学広報部	日本大学広報部		参考書	推奨
大学の誕生 上・下	天野郁夫	中央公論新社（新書）	2009	参考書	推奨
高等教育の時代 上・下	天野郁夫	中央公論新社（叢書）	2013	参考書	推奨
新制大学の誕生 上・下	天野郁夫	名古屋大学出版会	2016	参考書	推奨
新制大学の時代	天野郁夫	名古屋大学出版会	2019	参考書	推奨
備考	「日本近現代史の中の日本大学」〔『研究紀要』日本大学文理学部〕は印刷して、「山田顕義に関するリーフレット」とともに配布します。				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	教育制度史からみた日本大学史	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、日本大学の歴史を教育制度史から概述する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度史からみた日本大学の歴史について説明できる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	教育制度史からみた日本大学の歴史について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	120分
2	4/13	山田顕義と幕末の倒幕運動	幕末の状況について概述しつつ、山田の誕生、藩校・松下村塾での学び、さらに倒幕運動での活躍を考える。松下村塾での教育が、今日でいうアクティブ・ラーニングとよべるものであったことを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と倒幕運動について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「山田顕義と幕末の倒幕運動」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と幕末の倒幕運動の展開について講義の内容を復習し、教科書を参照しながら、ノートに整理しておく。	150分
3	4/20	山田顕義と明治維新	明治初期の日本について、主に岩倉使節団の意義について概述し、山田顕義と明治維新、とくに岩倉使節団との関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と明治維新について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「山田顕義と明治維新」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と明治維新について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
4	4/27	山田顕義と法典編纂	条約改正と法典編纂の関係を概述し、山田顕義が法典編纂に如何に関わったのかを考える。また、「日本における法典編纂の必要性」について解答しピア評価を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と法典論争について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「法典編纂」「民法典論争」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と法典編纂について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
5	5/4	山田顕義と大津事件	大津事件の概述し、政府・司法界の対応と山田顕義の関わり合いを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と大津事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「大津事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と大津事件について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
6	5/11	山田「建白書」を読む	山田顕義の残した「建白書」を読み、彼の考えを知る。さらに山田顕義の「建白書」に関する「振り返りシート」を使った小レポートを作成し、別紙に「山田の建白書」の主張に関するピア評価を実施する。小レポートは解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田「建白書」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている山田「建白書」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田「建白書」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	日本における高等機関の誕生と発展	東京大学や官立専門学校の設立、帝国大学の誕生、司法制度の整備における人材の問題と私立法律学校の役割など、近代国家としてスタートした日本の高等教育機関・司法制度について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における高等教育機関の誕生・司法制度の整備について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「日本における高等機関の誕生」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	日本における高等教育機関の誕生について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
8	5/25	日本法律学校の創設	山田顕義は、日本大学の創設者ではなく、学祖とよばれる。東京府に提出した学校の設置認可書に、山田の名前はない。何故、学祖とよばれるのか、山田の日本法律学校の創設にはたした役割を考える。さらに山田顕義と法律学校との関係に関する「振り返りシート」を使った小レポートを作成し、別紙に「日本法律学校と山田顕義との関係」を解答しピア評価を実施する。小レポートについて解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学祖山田顕義と日本法律学校の創設について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	学祖山田顕義と日本法律学校の創設の関係について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
9	6/1	専門学校令と「日本大学」	日本大学は専門学校令によって法令上、学校となった。大学となつたものの、法令上は大学ではなかった。専門学校令前の高等教育機関のおかれた状況を把握し、専門学校令のもつ意味、専門学校令と日本大学の関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、専門学校令と「日本大学」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「専門学校」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	専門学校令と「日本大学」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
10	6/8	大学令と日本大学	大学令によって日本大学は名実ともに大学となった。大正時代を概観して原敬内閣の政策の意義をとらえ、大学令と日本大学、日本大学のさらなる発展を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学令と日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「大学令」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	大学令と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
11	6/15	日本大学の発展	大正時代から昭和初期における高等教育機関の発展と「学問の自由」について把握し、大学自治、日本大学の発展と社会的な要請を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の発展・拡充について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の日本大学の発展に関係するところを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	日本大学の発展について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
12	6/22	太平洋戦争と日本大学	戦時体制の下の大学のおかれた状況を把握し、戦時下の大学、太平洋戦争と日本大学について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、太平洋戦争の時代の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の太平洋戦争と日本大学に関係するところを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	太平洋戦争と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	新制日本大学から今日の日本大学	新制大学の誕生の意義を考える。新制日本大学から、高度成長期の日本大学の発展・拡充、日大紛争、さらに「自主創造」を掲げた日本大学の戦後の軌跡を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新制日本大学の誕生から、高度成長時代の日本大学、さらに「自主創造」を掲げた、現在の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の新制日本大学の誕生から今日の日本大学までを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	新制日本大学から「自主創造」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
14	7/6	講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	再度、試験問題を解く。参考書を読む。	150分
15	7/13	試験解説、講義総括	試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。参考書を読む。	150分

科目名	日本大学の歴史	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
学祖山田顕義の生涯とその事績、日本法律学校の設立から、その後の日本大学の歴史を中心に、日本における高等教育の歴史・その役割について日本近現代史の流れをたどりながら講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本大学について深く知り、広く深い知識と多様な価値観、さらに精神の豊かさにもとづく、「帰属意識」・「愛校心」・「一体感」をもつために、学祖や日本大学の歴史に関する系統だった知識を修得し、学生が学ぶ大学の創設者・大学の歴史を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
初回授業で「日本近現代史の中の日本大学」、各種参考資料・「参考図」などを配布して、これらを活用して講義を中心に進めていく。そのほかに「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価を盛り込んで授業を展開する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学祖山田顕義に関する事績と日本大学の歴史についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					1						
②	日本大学の歴史を学び、学生が大学生としての学びに気づき、自立的に学ぶ姿勢を確立し生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。					1						
③	日本大学をはじめとする、日本の高等教育の歴史を知り、大学での学ぶ意義を説明できる。					1						
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について達成ができていないかを，論述試験により評価する。授業内試験を予定しているが、履修者数により、定期試験とする場合がある。	40	30	10								80
小テスト等	授業内容に課されたレポートが，書式等の要件を満たし，課題に的確に答えたものかを基準に，到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
レポート等	到達目標①に関わり講義中に課す小レポートにより， （１）講義内容が把握できているか，（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
山田顕義と萩	松原太郎	萩ものがたり	2019	教科書	必携
日本近現代史の中の日本大学〔『研究紀要』日本大学文理学部〕	古川隆久	日本大学文理学部	2017	教科書	必携
「山田顕義に関するリーフレット」	日本大学広報部	日本大学広報部		参考書	推奨
大学の誕生 上・下	天野郁夫	中央公論新社（新書）	2009	参考書	推奨
高等教育の時代 上・下	天野郁夫	中央公論新社（叢書）	2013	参考書	推奨
新制大学の誕生 上・下	天野郁夫	名古屋大学出版会	2016	参考書	推奨
新制大学の時代	天野郁夫	名古屋大学出版会	2019	参考書	推奨
備考	「日本近現代史の中の日本大学」〔『研究紀要』日本大学文理学部〕は印刷して、「山田顕義に関するリーフレット」とともに配布します。				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	教育制度史からみた日本大 学史	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、日本大学の歴史を教育制度史から概述する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度史からみた日本大学の歴史について説明できる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	30分
		事後学修	教育制度史からみた日本大学の歴史について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	120分
2	9/21	山田顕義と幕末の倒幕運動	幕末の状況について概述しつつ、山田の誕生、藩校・松下村塾での学び、さらに倒幕運動での活躍を考える。松下村塾での教育が、今日でいうアクティブ・ラーニングとよべるものであったことを紹介する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と倒幕運動について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「山田顕義と幕末の倒幕運動」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と幕末の倒幕運動の展開について講義の内容を復習し、教科書を参照しながら、ノートに整理しておく。	150分
3	9/28	山田顕義と明治維新	明治初期の日本について、主に岩倉使節団の意義について概述し、山田顕義と明治維新、とくに岩倉使節団との関係について考える。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と明治維新について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「山田顕義と明治維新」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と明治維新について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
4	10/5	山田顕義と法典編纂	条約改正と法典編纂の関係を概述し、山田顕義が法典編纂に如何に関わったのかを考える。また、「日本における法典編纂の必要性」について解答しピア評価を実施する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と法典論争について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「法典編纂」「民法典論争」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と法典編纂について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
5	10/12	山田顕義と大津事件	大津事件の概述し、政府・司法界の対応と山田顕義の関わり合いを考える。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と大津事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「大津事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と大津事件について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
6	10/19	山田「建白書」を読む	山田顕義の残した「建白書」を読み、彼の考えを知る。さらに山田顕義の「建白書」に関する「振り返りシート」を使った小レポートを作成し、別紙に「山田の建白書」の主張に関するピア評価を実施する。小レポートは解説をおこなう。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、山田「建白書」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている山田「建白書」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田「建白書」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10/26	日本における高等機関の誕生と発展		東京大学や官立専門学校の設立、帝国大学の誕生、司法制度の整備における人材の問題と私立法律学校の役割など、近代国家としてスタートした日本の高等教育機関・司法制度について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における高等教育機関の誕生・司法制度の整備について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「日本における高等機関の誕生」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	日本における高等教育機関の誕生について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
8	11/9	日本法律学校の創設		山田顕義は、日本大学の創設者ではなく、学祖とよばれる。東京府に提出した学校の設置認可書に、山田の名前はない。何故、学祖とよばれるのか、山田の日本法律学校の創設にはたした役割を考える。さらに山田顕義と法律学校との関係に関する「振り返りシート」を使った小レポートを作成し、別紙に「日本法律学校と山田顕義との関係」を解答しピア評価を実施する。小レポートについて解説をおこなう。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学祖山田顕義と日本法律学校の創設について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	学祖山田顕義と日本法律学校の創設の関係について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
9	11/16	専門学校令と「日本大学」		日本大学は専門学校令によって法令上、学校となった。大学となつたものの、法令上は大学ではなかった。専門学校令前の高等教育機関のおかれた状況を把握し、専門学校令のもつ意味、専門学校令と日本大学の関係を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、専門学校令と「日本大学」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「専門学校」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	専門学校令と「日本大学」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
10	11/23	大学令と日本大学		大学令によって日本大学は名実ともに大学となった。大正時代を概観して原敬内閣の政策の意義をとらえ、大学令と日本大学、日本大学のさらなる発展を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学令と日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「大学令」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	大学令と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
11	11/30	日本大学の発展		大正時代から昭和初期における高等教育機関の発展と「学問の自由」について把握し、大学自治、日本大学の発展と社会的な要請を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の発展・拡充について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の日本大学の発展に関係するところを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	日本大学の発展について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
12	12/7	太平洋戦争と日本大学		戦時体制の下の大学のおかれた状況を把握し、戦時下の大学、太平洋戦争と日本大学について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、太平洋戦争の時代の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の太平洋戦争と日本大学に関係するところを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	太平洋戦争と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	新制日本大学から今日の日本大学	新制大学の誕生の意義を考える。新制日本大学から、高度成長期の日本大学の発展・拡充、日大紛争、さらに「自主創造」を掲げた日本大学の戦後の軌跡を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新制日本大学の誕生から、高度成長時代の日本大学、さらに「自主創造」を掲げた、現在の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の新制日本大学の誕生から今日の日本大学までを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	新制日本大学から「自主創造」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
14	12/21	講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	再度、試験問題を解く。参考書を読む。	150分
15	1/18	試験解説、講義総括	試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。参考書を読む。	150分

Ⅱ 群

総合科目

Ⅱ 群

総合科目

科目名	アジアの歴史Ⅰ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
中華民国の成立・清朝の滅亡から国民党による中国統一にいたるまでを概述しつつ、この期に展開された政治思想・政治体制をテーマと取り上げて講義を進める。20世紀はじめに共和国となった中国は、国内政治は混乱し、しかも日本をふくめた欧米列強に主権が奪われた状態にあった。1910年代から20年代の中国史の展開を、「袁世凱の政治思想」、「孫文の革命思想－三序や賢人政治」、中国ナショナリズムの高揚と諸列強、孫文の死と蔣介石の台頭、訓政と憲政、などを取り上げて詳述したい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国近代史についての知識・理解を発展・深化させるために、基礎的な事項を確認しつつ、この時代の基本的な認識を獲得し、出来事の歴史的な意義や、その出来事と歴史との関係づけられる能力を修得する。さらに学んだ認識を論理的に説明できる能力を修得する。

【履修条件】
履修条件はありません。歴史に興味がある学生、中国史に興味がある学生で、自立的に学ぶ学生なら大歓迎です。

【授業方法】
講義を主としますが、それぞれの授業の冒頭に「事前確認シート」を使って事前学習について確認をし、当日のテーマを講義します。テーマの終了時には「振り返りシート」を使い、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	清朝末期から民国初期までの、中国近代史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。		2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、19世紀末から20世紀初頭の中国における、列強の侵略とその抵抗を把握し、学んだことをもとに、自らの見解を明らかにできる。		2	2	2	2				
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。		2	2	2	2				
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験かは受講者数に応じて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
革命とナショナリズム 1925-1945 〈シリーズ中国近現代史③〉	石川禎浩	岩波書店（新書）	2010	教科書	必携
対立と共存の日中関係史 〈叢書 東アジアの近現代史 2〉	中村元哉	講談社	2017	参考書	推奨
東アジア国際政治史	川島真・服部龍二編	名古屋大学出版会	2007	参考書	任意
近代国家への模索 1894-1925 〈シリーズ中国近現代史②〉	川島真	岩波書店（岩波新書）	2010	その他	任意
世界大戦と国民形成 新編 原典中国近代思想史 第4巻	坂元ひろ子ほか編	岩波書店	2010	その他	任意
国家建設と民族自救 新編 原典中国近代思想史 第5巻	野村浩一ほか編	岩波書店	2010	その他	任意
世界史年表	歴史学研究会編	岩波書店	2017	その他	任意
備考	適宜、参考文献を紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（４号館１階412研究室） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6 4/7 4/8	中国史の近代とは一開講にあたって－／20世紀の中国史と憲政	本科目の趣旨や授業運営の方法を説明する。そのうえで、20世紀の中国史と憲政について講述する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、20世紀の中国史と憲政について説明できる。	
		事前学修	(1) シラバスを熟読して履修を検討する。(2) テキストを購入して読んでみる。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
2	4/13 4/14 4/15	辛亥革命から民国の成立へ	辛亥革命によって成立した共和国は、大総統の地位が、なぜ孫文から袁世凱へ権力の移譲が行われなければならないのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、辛亥革命から袁世凱の大総統就任の中国の状況について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
3	4/20 4/21 4/22	袁世凱政権	袁世凱の独裁への道、さらに帝制への政治の展開を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、袁世凱政権の展開について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
4	4/27 4/28 4/29	袁世凱の政治思想	「国を盗んだ大泥棒」という評価がある袁世凱であるが、独裁制をめざす袁世凱にも彼なりの考えがあったことを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、袁世凱の政治思想を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業内容を1500字程度にまとめる。	120分
5	5/4 5/5 5/6	孫文と陳独秀－賢人政治と大衆の啓蒙	孫文と陳独秀についてとりあげ、2人がどのような大衆認識のもとに、大衆に対応したかを考える。その後、孫文と陳独秀について的小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孫文と陳独秀－賢人政治と大衆の啓蒙－について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
6	5/11 5/12 5/13	袁世凱の死と中国－軍閥割拠－	袁世凱の死がもたらした中国の政治状況について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、袁世凱の死と中国－軍閥割拠－を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 5/19 5/20	北京政府と第一次世界大戦	第一次世界大戦後の中国についての国際的な地位・列強との関係を考える。その後、第一次世界大戦と中国の関係についての小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国と第一次世界大戦について説明できるとともに、自らの見解を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
8	5/25 5/26 5/27	国共合作の成立	軍閥割拠の混乱のなかにあつて、コミンテルンのはたらきかけによる新しい動き、すなわち共産党の誕生、国民党の改組、さらに国共合作について、その意義を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国共合作の成立の意義を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
9	6/1 6/2 6/3	孫文の死と国民党・共産党	孫文の死によって、その志を受け継いだ勢力がどのように展開したかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、孫文の死と国民党・共産党の展開を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
10	6/8 6/9 6/10	蒋介石の台頭と共産党	孫文の死後、どのようにして蒋介石が台頭し、また共産党との関係がどうなったかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、蒋介石の台頭と共産党について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
11	6/15 6/16 6/17	国民政府による中国の統一	国民政府による中国の統一は、どのように展開したか、その意義や特徴を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民政府による中国の統一について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
12	6/22 6/23 6/24	軍政から訓政へー中華民国訓政時期約法ー	国民党による中国統一期を憲政から考える。孫文の「三序」と関係の小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストの解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、軍政から訓政へー中華民国訓政時期約法ーの意味や特徴を説明できるとともに、自らの見解を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 6/30 7/01	国民党の内紛から蔣汪合作体制	国民党の内紛から蔣汪合作体制について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国民党の内紛から蔣汪合作体制について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
14	7/6 7/7 7/8	「アジアの歴史Ⅰ」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎的な知識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	180分
		事後学修	再度、試験問題をときながら、教科書・参考書を味読して知識・理解を深める。	150分
15	7/13 7/14 7/15	試験解説、「アジアの歴史Ⅰ」に関する講義総括	試験解説、講義総括をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、1920年代の中国について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	解説を踏まえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度試験を解く。	90分

科目名	アジアの歴史Ⅱ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
1920年代から1940年代までの中国近代史を学ぶ。第一次世界大戦後、中国の国際的な地位は向上し、列強は高揚する中国のナショナリズムに協調して対応していった。そのなかで、二十一条要求を契機に日中関係は悪化し、1930年代には満州事変、日中戦争へと、日本との戦争の時代をむかえた。これらがどのように推移し、両国間のその後の歴史を規定したかを講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
すでに知っている第一次世界大戦後の中国近代史の基礎的な事項を、さらに発展・深化させるために、歴史的な展開を論理的に説明でき、さらに出来事の歴史的な意義や、その出来事がのち歴史をいかに規定したかを関係づけられる能力を修得する。20世紀初めの日中関係はいかなる展開をしたを説明できる能力を修得する。

【履修条件】
履修条件はありません。歴史に興味がある学生、中国史に興味がある学生で、自立的に学ぶ学生なら大歓迎です。

【授業方法】		
講義を主としますが、それぞれの授業の冒頭に「事前確認シート」を使って事前学習を確認して、当日のテーマを講義します。そして最後には「振り返りシート」を使い、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	1910年代から30年代の、中国近代史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、1910年代から30年代までの中国における、国民党と共産党の協力と対立、日本の侵略を把握し、学んだことをもとに、自らの見解を明らかにできる。					2	2	2	2				
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験かは受講者数に応じて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
革命とナショナリズム 1925-1945 〈シリーズ中国近現代史③〉	石川禎浩	岩波書店（新書）	2010	教科書	必携
対立と共存の日中関係史 〈叢書 東アジアの近現代史 2〉	中村元哉	講談社	2017	参考書	推奨
東アジア国際政治史	川島真・服部龍二編	名古屋大学出版会	2007	参考書	任意
東アジア近現代通史（上）－19世紀から現代まで	和田春樹ほか	岩波書店	2014	参考書	推奨
世界大戦と国民形成 新編 原典中国近代思想史 第4巻	坂元ひろ子ほか編	岩波書店	2010	参考書	任意
国家建設と民族自救 新編 原典中国近代思想史 第5巻	野村浩一ほか編	岩波書店	2010	その他	任意
世界史年表	歴史学研究会編	岩波書店	2017	その他	任意
備考	適宜、参考文献を紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階412研究室） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 9/15 9/16	近代東アジアのなかの中国・朝鮮・日本	近代東アジアのなかの中国・朝鮮・日本を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代東アジアのなかの中国・朝鮮・日本の関係を説明できる。	
		事前学修	(1) シラバスを熟読して履修を検討する。(2) テキストを購入して読んでみる。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
2	9/21 9/22 9/23	19世紀初頭までの満洲	19世紀初頭までの満洲について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、19世紀初頭までの満洲について概観を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
3	9/28 9/29 9/30	ロシアの朝鮮進出と日清戦争	満洲と朝鮮半島をめぐるロシアと日本の進出・動向	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、満洲と朝鮮半島をめぐるロシアと日本の進出・動向を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業内容を1500字程度にまとめる。	120分
4	10/5 10/6 10/7	日露戦争と満鉄誕生	日露戦争と満鉄誕生、日本にとって満洲のもつ意味を考える。その後、19世紀初頭から日露戦争後までの満洲について的小テストをおこなう。同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、満洲に関して19世紀初頭から日露戦争と満鉄誕生までを説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
5	10/12 10/13 10/14	第一次世界大戦と二十一条要求	二十一条要求と列強の対応と、二十一条要求が日中両国の関係のターニングポイントであったことを考える。その後、二十一条要求に関する小テストをおこなう。同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の国際社会での地位向上について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
6	10/19 10/20 10/21	奉天軍閥－張作霖・張学良・郭松齢－	軍閥割拠のなかで奉天軍閥の動向と日本との関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、軍閥割拠のなかで奉天軍閥の動向と日本との関係を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/27 10/28	北京政府の「修正外交」から国民政府の「革命外交」へ	1920年代から30年代の中国の外交関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、1920年代から30年代の中国の外交関係を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
8	11/9 11/10 11/11	満洲事変の勃発と満洲国の建国	謀略ではじまった戦争について満洲事変について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、謀略ではじまった戦争について満洲事変について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
9	11/16 11/17 11/18	日本の華北侵略と西安事件	満洲国建国後の日本の華北侵略と西安事件のもつ意味を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、満洲国建国後の日本の華北侵略と西安事件までの展開とその歴史的意義を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
10	11/23 11/24 11/25	盧溝橋事件	なぜ日本軍が北京にいたかを検討し、日中戦争が偶発ではじまった戦争であることを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日中戦争が何故偶発ではじまった戦争であることを説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
11	11/30 12/1 12/2	日中戦争	日中戦争の展開について検討し、その後、満洲事変と日中戦争の勃発について的小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日中戦争の展開とその諸相、さらに国際関係について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
12	12/7 12/8 12/9	戦時下の中国と傀儡政権	戦時下の中国と傀儡政権の展開について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦時下の中国と傀儡政権について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/15 12/16	日中の戦争からより大きな戦争へ	日中戦争と太平洋戦争の関係を検討する。その後、日中戦争と太平洋戦争の関係についての小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日中戦争と太平洋戦争の関係を理解できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
14	12/21 12/22 12/23	「アジアの歴史Ⅱ」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎的な知識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	180分
		事後学修	再度、試験問題をときながら、教科書・参考書を味読して知識・理解を深める。	150分
15	1/12 1/13 1/18	試験解説、「アジアの歴史Ⅱ」に関する講義総括	試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第一次世界大戦から太平洋戦争までの中国の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	90分

科目名	科学の歴史Ⅰ	担当者	栗原 岳史	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代社会は科学技術に依存しているため、例えば法的対応やジャーナリズムにおいても、科学技術についての理解がますます求められるようになっていく。AI、Fintech、自動運転など新しい科学技術が社会に実装された場合はなおさらである。そこで本講義では、社会における科学技術の歴史を通じて、受講者がそれぞれの立場から科学技術に関連する諸問題に取り組むための、基礎的教養を提供する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
それぞれの専門の観点から現代における科学技術と社会の間に生じうる様々な課題について、歴史的背景を踏まえた考察ができる人材となるために、科学技術と社会の関係性の歴史的変遷について理解し説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
スライドと配布資料を用いた講義方式を中心にして授業を行う。授業では、毎回の授業ごとに、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見を、簡潔で明瞭にまとめたコメントとして提出することを出席者の義務とする。このコメントは成績評価方法の「討論・発表等」に含まれる。コメントについては次回以降の授業でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会における科学技術の役割について説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、社会における科学技術に関連した諸問題を見出し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、筆記試験により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③についての各能力が身についているか、授業内での質疑応答を基準として評価する。	20	20	10								50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業，もしくはポータルシステム等にてコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会の中の科学』	中島秀人	放送大学教育振興会	2008	参考書	任意
『<科学の発想>をたずねて自然哲学から現代科学まで』	橋本毅彦	左右社	2010	参考書	任意
『科学の社会史―ルネサンスから20世紀まで』	古川安	南窓社，1989年；増訂版，2001年；ちくま学芸文庫版，2018年		参考書	任意
『科学史技術史事典〔縮刷版〕』		弘文堂	1994年	参考書	任意
『日本語の作文技術』	本多勝一	朝日文庫，1982年(新版，2015年)	1982年	参考書	任意
『レポートの組み立て方』	木下是雄	ちくま学芸文庫	1990年	参考書	任意
備考	その他，高校生のときに使用した世界史の教科書があれば，それも参考書とする。				

【オフィスアワー】
授業時間の前後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4月8日 第二部 4月8日	ガイダンス，「科学」とは何か？	・授業の目的，進め方，評価方法を説明する． ・人類が遺した遺跡史料などを通じて，人類が自然についてどのように見ていたのかを考える．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，人類が自然についてどのような見方をしていたのかを説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分
2	第一部 4月15日 第二部 4月15日	「科学」の始まり	古代オリエント文明における「科学」（自然に関する体系的な見方のこと）の特徴について理解する．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，古代オリエント文明の「科学」の特徴について理解して，説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分
3	第一部 4月22日 第二部 4月22日	古代ギリシアの「科学」	古代ギリシア時代の代表的な「科学」者であるタレスからアリストテレスの自然観について，その特徴を理解する．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，古代ギリシア時代の代表的な「科学」，すなわち当時の自然観について，その特徴を理解して，説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分
4	第一部 4月29日 第二部 4月29日	ヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」	古代ギリシア文明を引き継いだヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」について，その特徴を理解する．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，古代ギリシア文明を引き継いだヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」について，その特徴を理解して，説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分
5	第一部 5月6日 第二部 5月6日	アラビアの「科学」	古代ギリシアの「科学」ひきつぎ，イスラム教を中心としたアラビア世界で発達した「科学」について，その特徴を理解する．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，アラビアの「科学」について，その特徴を理解し，説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分
6	第一部 5月13日 第二部 5月13日	12世紀ルネサンスと中世ヨーロッパの「科学」	中世欧州における「科学」の発達と，アラビアの「科学」を導入した欧州で起こった「12世紀ルネサンス」について，その特徴を理解する．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，12世紀ルネサンスと中世ヨーロッパの「科学」について，その特徴を理解し説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5月20日 第二部 5月20日	近代科学の誕生(1) コペルニクスの天文学と地動説	近代科学のはじまりとなったコペルニクスの天文学と地動説について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コペルニクスの天文学と地動説について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
8	第一部 5月27日 第二部 5月27日	近代科学の誕生(2) ティコとケプラーの天文学	コペルニクスの地動説を発展させたティコとケプラーの天文学について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ティコとケプラーの天文学について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
9	第一部 6月3日 第二部 6月3日	近代科学の誕生(3) ガリレオ・ガリレイの科学	近代科学の成立においてガリレオ・ガリレイの成し遂げた業績について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ガリレオ・ガリレイの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
10	第一部 6月10日 第二部 6月10日	近代科学の誕生(4) ニュートンと力学の成立	近代科学の誕生をもたらしたといえる力学におけるニュートンの業績について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ニュートンの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
11	第一部 6月17日 第二部 6月17日	近代科学の誕生(5) ラヴォワジエと近代化学の成立	近代的な化学の成立において重要な貢献をなしたラヴォワジエの業績について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ラヴォワジエの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
12	第一部 6月24日 第二部 6月24日	産業革命と科学・技術・社会 (1) 産業革命を支えた発明家たち	18世紀英国で起こり、世界を大きく変革させることになった産業革命について、それを支えた発明家たちの業績を中心に、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、産業革命を支えた発明家たちの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 7月1日 第二部 7月1日	産業革命と科学・技術・社会（2）産業革命と社会の変革	18世紀英国で起こり、世界を大きく変革させることになった産業革命について、どのような社会変革がもたらされたのか、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、産業革命における社会変革について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
14	第一部 7月8日 第二部 7月8日	進化論の成立ーダーウィンと進化論	ダーウィンの進化論がどのように成立したのかについて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ダーウィンの進化論について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
15	第一部 7月15日 第二部 7月15日	科学の制度化と職業的科学者の誕生	19世紀にすすんだ科学の制度化と職業的な科学者の誕生したことについて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学の制度化と職業的な科学者の誕生について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

科目名	科学の歴史Ⅱ	担当者	栗原 岳史	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代社会は科学技術に依存しているため、例えば法的対応やジャーナリズムにおいても、科学技術についての理解がますます求められるようになっていく。AI、Fintech、自動運転など新しい科学技術が社会に実装された場合はなおさらである。そこで本講義では、社会における科学技術の歴史（特に近現代）を通じて、受講者がそれぞれの立場から科学技術に関連する諸問題に取り組むための、基礎的教養を提供する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
それぞれの専門の観点から現代における科学技術と社会の間に生じうる様々な課題について、歴史的背景を踏まえた考察ができる人材となるために、科学技術と社会の関係性の歴史的変遷について理解し説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
スライドと配布資料を用いた講義方式を中心にして授業を行う。授業では、毎回の授業ごとに、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見を、簡潔で明瞭にまとめたコメントとして提出することを出席者の義務とする。このコメントは成績評価方法の「討論・発表等」に含まれる。コメントについては次回以降の授業でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会における科学技術の役割について説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、社会における科学技術に関連した諸問題を見出し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、筆記試験により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③についての各能力が身についているか、授業内での質疑応答を基準として評価する。	20	20	10								50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業，もしくはポータルシステム等にてコメントする．

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会の中の科学』	中島秀人	放送大学教育振興会	2008	参考書	任意
『<科学の発想>をたずねて自然哲学から現代科学まで』	橋本毅彦	左右社	2010	参考書	任意
『科学の社会史―ルネサンスから20世紀まで』	古川安	南窓社，1989年；増訂版，2001年；ちくま学芸文庫版，2018年		参考書	任意
『科学史技術史事典〔縮刷版〕』		弘文堂	1994年	参考書	任意
『日本語の作文技術』	本多勝一	朝日文庫，1982年(新版，2015年)	1982年	参考書	任意
『レポートの組み立て方』	木下是雄	ちくま学芸文庫	1990年	参考書	任意
『科学者ってなんだ?』	梶雅範編	丸善	2007年	参考書	任意
備考	その他，高校生のときに使用した世界史の教科書があれば，それも参考書とする．				

【オフィスアワー】
授業時間の前後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9月16日 第二部 9月16日	ガイダンス 現代の科学と社会	・授業の目的、進め方、評価方法を説明する。 ・19世紀以降の現代の科学は、それ以前の科学と比べて、その規模が拡大しただけでなく、社会と深く結びつくようになった。現代の科学の特徴について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学と社会の特徴について考え、説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
2	第一部 9月23日 第二部 9月23日	19世紀の化学産業と第一次世界大戦	19世紀の化学産業と20世紀初頭に起こった第一次世界大戦について、主に科学者のフリッツ・ハーバーの生涯を通じて、科学と国家の関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、19世紀の化学産業と第一次世界大戦について理解して、説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
3	第一部 9月30日 第二部 9月30日	20世紀の物理学	20世紀に物理学は大きな変革を遂げたが、放射能の発見に関する科学と社会の関係を通じて、物理学の変革について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、20世紀の物理学の変革について、その特徴を理解して、説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
4	第一部 10月7日 第二部 10月7日	20世紀の戦争と科学1	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。核エネルギーの発見から原子爆弾構想の起源までの科学と社会の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、核エネルギーの発見から原子爆弾構想の起源までの科学と社会の歴史について、その特徴を理解して、説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
5	第一部 10月14日 第二部 10月14日	20世紀の戦争と科学2	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。現代に通じる科学の研究体制が形成された第二次世界大戦と科学動員体制の歴史について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第二次世界大戦と科学動員体制の歴史について、その特徴を理解し、説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦に関する世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
6	第一部 10月21日 第二部 10月21日	20世紀の戦争と科学3	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。第二次世界大戦の終結後の冷戦の時代の科学について、インターネット構想の起源などを通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、冷戦の時代の科学について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦に関する世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10月28日 第二部 10月28日	日本における科学と政治(1)	日本における科学と政治について、原子力の平和利用をめぐる社会的背景の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における原子力の平和利用をめぐる社会的背景の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦とその直後にに関する日本史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
8	第一部 11月11日 第二部 11月11日	日本における科学と政治(2)	日本における科学と政治について、科学に関する日米関係の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学に関する日米関係の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦とその直後にに関する日本史のの該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
9	第一部 11月18日 第二部 11月18日	日本における科学と政治3	日本における科学と政治について、日本への技術導入の歴史を事例にして、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における科学と政治について、日本への技術導入の歴史を事例にして、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦とその直後にに関する日本史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
10	第一部 11月25日 第二部 11月25日	現代の科学研究の実際(1)	現代の科学研究の実際について、現代の生物学研究を事例にして、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学研究の実際について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
11	第一部 12月2日 第二部 12月2日	現代の科学研究の実際(2)	現代の科学研究の実際について、DNA二重らせん構造の発見における人間と社会の関係を事例にして、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学研究の実際について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
12	第一部 12月9日 第二部 12月9日	現代の科学研究の実際(3)	現代の科学研究の実際について、一つの学術論文が作成されるまでと、それに関する論文捏造問題の事例を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学術論文と論文捏造問題について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12月16日 第二部 12月16日	現代の科学・技術の諸問題 (1)	現代の科学・技術の諸問題について、代表的な公害問題である水俣病をめぐる科学・企業・行政の対応の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な公害問題である水俣病の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
14	第一部 12月23日 第二部 12月23日	現代の科学・技術の諸問題 (2)	現代の科学・技術の諸問題について、代表的な公害問題であるイタイイタイ病をめぐる科学・企業・行政の対応の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な公害問題であるイタイイタイ病の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
15	第一部 1月13日 第二部 1月13日	現代の科学・技術の諸問題 (3)	現代の科学・技術の諸問題について、代表的な環境問題であるフロンガスによるオゾン層破壊が「発見」され、その対策がなされる歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な環境問題であるフロンガスによるオゾン層破壊の発見と対策について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

科目名	環境論Ⅰ	担当者	佐々木 夏来	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
環境論とは、人間と自然環境との関係に関する理論であり、古くは古代ギリシアより近代的理論へ通じる議論がおこなわれてきた。近代日本においては、急激な産業発展にともなって公害問題が拡大し、近年の社会・経済のグローバル化で地球環境問題は世界の共通認識になった。本科目では、我々の身近な環境問題から地球環境問題についての具体的事例学習を通して、環境問題発生の仕組みを理解し、課題解決に向けた主体的な考察ができるようになることを目的とする。毎回、授業の最後（授業時間内）に小レポートを課し、授業で取り上げたテーマについて、自分なりの課題解決策を考えてもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
世の中で起きている現象とその主体である人間と自然環境の関係について、公平な立場に立って正しく理解し、課題解決に向けて主体的な考察ができるようになることを目的とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
スライド及び配布プリントを用いた講義形式。毎回、授業の最後に各回のテーマに関する小レポートを課す。定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また、前学期中の授業内において、プレゼン及びグループディスカッションを含む授業を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、主体性をもって環境および環境変化要因を理解し説明出来るようになる。				2	2				2		
②	学生が、主体性をもって環境問題の抽出をおこない、自分の意見を提示出来るようになる。					2	2	2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、確実な知識とこれを説明する能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、課題に対して適切に回答する内容になっているかを基準とし、到達目標①②にかかわるテーマの発見と説明能力が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	第10回の授業におけるプレゼン及びディスカッションにおいて説明および意見交換の内容を基準に、到達目標②にかかわる能力を評価する。		20									20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパー内の意見に関しては、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考					

【オフィスアワー】
授業後の講堂で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7 水4/8 第二部 火4/7	ガイダンスー環境とは何かー	前期授業内容の説明，評価方法の説明，「環境」という言葉の意味は？「環境」という概念の歴史の変遷	
		この回の到達目標	前期授業内容の把握，評価方法の理解，「環境」という単語の意味を理解し説明できる。（SB0 s ①）	
		事前学修	シラバス内容の理解	120分
		事後学修	前期授業計画と授業内容の理解	120分
2	第一部 火4/14 水4/15 第二部 火4/14	環境問題とは	環境問題の定義，環境論とは何を学ぶ学問分野か？	
		この回の到達目標	環境問題という言葉の理解，環境論にて学ぶ対象を理解し説明できる（SB0 s ①）	
		事前学修	過去から現在にかけて、どのような環境問題が発生してきたか関心をもつ	120分
		事後学修	個々人の持つ環境のイメージと実際の環境および環境問題の定義との関係性を理解する	120分
3	第一部 火4/21 水4/22 第二部 火4/21	環境問題と社会構造の歴史	近代以降の環境問題の歴史の変遷と社会構造の変化を読み解く	
		この回の到達目標	公害から地球環境問題へ，環境問題の歴史の変遷を学び，社会構造の変化とのかかわりを説明できる（SB0 s ①）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	環境問題の歴史の変遷を理解し，将来，新たにどのような問題が発生しうるか考える	120分
4	第一部 火4/28 水4/29 第二部 火4/28	自然環境と人間活動	自然環境と人間活動の相互作用と環境問題発生メカニズムを学ぶ	
		この回の到達目標	人間活動が自然環境に及ぼす影響と，環境問題発生要因について理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	第2回および第3回内容を踏まえ，現象としての環境問題に関する復習をおこなう	120分
5	第一部 火5/5 水5/6 第二部 火5/5	身近な環境問題①	大気環境・大気汚染	
		この回の到達目標	大気環境に関わる様々な環境問題を取り上げてこの原因や影響を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	大気環境に関わる様々な環境問題に興味を持ち，身の回りで起きている現象に気づき，理解する	120分
6	第一部 火5/12 水5/13 第二部 火5/12	身近な環境問題②	水質汚染	
		この回の到達目標	河川・湖沼・海洋・地下水の水質汚染を取り上げてこの原因や影響を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	水質環境に関わる様々な問題に興味を持ち，身の回りで起きている現象に気づき，理解する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19 水5/20 第二部 火5/19	身近な環境問題③	廃棄物問題	
		この回の到達目標	社会における物質循環と廃棄物が生じる過程を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	日常生活で、自分が物質循環のどこに位置しているかを認識し、廃棄物削減の行動を試みる	120分
8	第一部 火5/26 水5/27 第二部 火5/26	身近な自然と人間との関わり	里山の生態学	
		この回の到達目標	身近な自然と人間との関わりについて、その変遷と現在起きている現象を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	人間と自然との関わり合いのバランスが崩れた場合に起こる現象について理解を深める	120分
9	第一部 火6/2 水6/3 第二部 火6/2	自然災害と人間	自然災害を克服する方策と、人間活動が引き起こす災害	
		この回の到達目標	自然災害克服のために、いかに自然を理解し改変してきたかを理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	自然災害の多い日本において、いかに自然と共生すべきかについて深く考える	120分
10	第一部 火6/9 水6/10 第二部 火6/9	プレゼン及びディスカッション	個別のテーマ設定と資料作成及びプレゼン・ディスカッション	
		この回の到達目標	個々人の設定したテーマに関して、着想から資料収集、報告に至る研究過程を理解し実践できるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	様々な環境問題に関するプレゼン資料の作成	120分
		事後学修	当日の教室内で行われた議論に関して理解を深める	120分
11	第一部 火6/16 水6/17 第二部 火6/16	地球環境問題①	海洋汚染	
		この回の到達目標	海洋汚染の要因とその影響について理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	第6回で学習した水質汚染と関連させて、海洋汚染についての理解を深める	120分
12	第一部 火6/23 水6/24 第二部 火6/23	地球環境問題②	気候変動	
		この回の到達目標	これまで地球が辿ってきた気候変動について理解し、気候変動が起こる仕組みと影響について理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	気候変動が起こる仕組みについて復習し、世の中で気候変動の影響と捉えられている現象について科学的に理解を深める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30 水7/1 第二部 火6/30	地球環境問題③	水不足・食糧不足・砂漠化	
		この回の到達目標	環境問題には地域性があることを認識するとともに、水不足，食糧不足，砂漠化の要因について理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	世界各地で起きている地球環境問題に対して関心をもち，その環境下で生活している人々の状況について理解を深める	120分
14	第一部 火7/7 水7/8 第二部 火7/7	地球環境問題④	生態系破壊	
		この回の到達目標	第13回までに学習した内容が生態系に及ぼす影響について理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回までの授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	環境問題が及ぼす影響の大きさを実感し，世界で起きている現象について理解を深める	120分
15	第一部 火7/14 水7/15 第二部 火7/14	前学期授業の総括	前学期授業内容のまとめ	
		この回の到達目標	前学期を通して学んだ内容への理解を深め，個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	前学期の授業内で学んだ様々な自然現象とこれらの人間との関係を復習する	120分

科目名	環境論Ⅱ	担当者	佐々木 夏来	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
近年の日本においては里地里山に代表される生活環境と社会環境の変化が，固有の生態系に対して悪影響を与えていることが指摘されている。これは，地域の自然環境が人間との関係を持ちながら維持されてきたことによっている。本科目では，ローカルからグローバルまで様々な空間スケールで発生する環境問題に対し，自然科学がどのようなアプローチを取ってきたかを学習すると共に，人間と環境の関係を理解し，将来に向け持続可能な人間環境を考えていくことが出来るようになることを目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々な時空間スケールの環境問題に対し，その中で展開される自然科学的アプローチを理解し説明できるようになる。また、環境変化と人間社会との繋がりを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
スライド及び配布プリントを用いた講義形式。映像資料やプリントを適宜配布する。授業内において，学生主体のプレゼン及びディスカッションをおこなう。定期試験の解説は，後日ポータルシステムを通じておこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また，後学期中の授業内において，プレゼン及びグループディスカッションを含む授業を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、主体性をもって環境および環境変化要因を理解し説明出来るようになる。				2	2				2		
②	学生が、主体性をもって変化の中から問題の抽出をおこなうことが出来るようになる。					2	2	2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、確実な知識とこれを説明する能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、課題に適切に答える内容になっているかを基準とし、到達目標①②にかかわるテーマの発見と説明能力が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	第10回の授業におけるプレゼン及びディスカッションにおいて説明および意見交換の内容を基準に、到達目標②にかかわる主体性が身についているかを評価する。		20									20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパー内の意見に関しては、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日14:30～16：00/水曜日14:30～16：00 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15 水9/16 第二部 火9/15	ガイダンス及び導入講義	後学期の授業概要の説明，評価方法の説明	
		この回の到達目標	前期授業内容との関連性の理解，評価方法の理解を通し前期授業内容との繋がりを習得する（SB0 s ①）	
		事前学修	シラバス内容の理解	120分
		事後学修	後期授業計画と授業内容の理解	120分
2	第一部 火9/22 水9/23 第二部 火9/22	環境論とは	環境論の歴史，前期授業内容に復習（環境の定義，環境問題の定義など）	
		この回の到達目標	単語の理解，環境論にて学ぶ対象に関する理解，環境変化～問題解決までの流れを理解し説明できる（SB0 s ①）	
		事前学修	前学期授業内容の復習もしくは「環境」という単語を調べる	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
3	第一部 火9/29 水9/30 第二部 火9/29	環境の概念とその歴史の変遷	環境問題と社会，「環境」に対する意識の変遷（前期授業内容の復習を含む）	
		この回の到達目標	環境の概念の歴史の変遷を学び，環境に対する意識の変遷を理解し説明できる（SB0 s ①）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	個々人の持つ環境に対するイメージがどのような歴史的背景を基に構築されてきたのかを理解する	120分
4	第一部 火10/6 水10/7 第二部 火10/6	環境問題を捉える視点①	環境倫理とは？	
		この回の到達目標	環境倫理の三つの主張を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	学問分野としての環境倫理の主張に関する理解を深める	120分
5	第一部 火10/13 水10/14 第二部 火10/13	環境問題を捉える視点②	様々な自然の捉え方，自然と人間の関係性に関する考察	
		この回の到達目標	様々な分野における自然の捉え方を学び，現代の自然観に基づく自然の捉え方を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	様々な分野における自然観を理解し，これと人間との関係に関する理解を深める	120分
6	第一部 火10/20 水10/21 第二部 火10/20	環境問題を捉える視点③	環境問題における科学技術の役割	
		この回の到達目標	科学技術と社会とのかかわりを学び，環境問題と科学技術の関係性を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	「科学」「技術」「科学技術」の定義およびこれらと環境との関係に関しての理解を深める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27 水10/28 第二部 火10/27	環境問題を捉える視点④	環境問題に関わる社会政治的側面	
		この回の到達目標	環境問題とこの影響に関する社会的政治的側面を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	環境問題に内在する社会的政治的側面の理解を深める	120分
8	第一部 火11/10 水11/11 第二部 火11/10	環境学/環境科学の視点	問題設定と解決への道筋	
		この回の到達目標	問題設定および問題解決へ向けた視座を理解し説明できるようになる（SB0 s ①）	
		事前学修	各自の理解に基づく科学的不確実な点を整理する	120分
		事後学修	環境論・環境関連分野における学問的問題点と映像資料内の科学的不確実性の関連を復習する	120分
9	第一部 火11/17 水11/18 第二部 火11/17	環境問題の特性	科学的不確実性と予測	
		この回の到達目標	環境問題に内在する科学的不確実性を理解し、個々人で見つけることができるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	環境・環境問題の定義を復習	120分
		事後学修	各自の理解に基づく科学的不確実な点を整理する	120分
10	第一部 火11/24 水11/25 第二部 火11/24	プレゼン及びディスカッション	個別のテーマ設定と資料作成及びプレゼン・ディスカッション	
		この回の到達目標	個々人の設定したテーマに関して、着想から資料収集、報告に至る研究過程を実践できるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	様々な環境問題に関するプレゼン資料の作成	120分
		事後学修	ディスカッション内容のまとめ	120分
11	第一部 火12/1 水12/2 第二部 火12/1	環境保護の思想と現在の地球環境①	エコロジー思想の系譜	
		この回の到達目標	エコロジー思想の歴史と今日的な意味を理解し説明できるようになる（SB0 s ①）	
		事前学修	前回の授業内容の復習	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
12	第一部 火12/8 水12/9 第二部 火12/8	環境保護の思想と現在の地球環境②	ディープ・エコロジー	
		この回の到達目標	ディープ・エコロジーとこの考え方に基づく自然観を理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の復習	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15 水12/16 第二部 火12/15	持続可能な循環型社会への取り組み	循環型及び自然再生型社会へ・環境技術の現状	
		この回の到達目標	循環型・自然再生型社会のもたらす影響を理解し説明できるようになる（SB0 s ①）	
		事前学修	前回の授業内容の復習	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
14	第一部 火12/22 水12/23 第二部 火12/22	地球時代の環境論	現在における地球観を通して見た環境とは？	
		この回の到達目標	後学期中に習得した様々な環境変化とその要因，社会的意味などを通した現在の地球観(自然観)を理解し，個々人の知識として利用できるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の復習	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
15	第一部 火1/12 水1/13 第二部 火1/12	後学期授業の総括	後学期授業内容のまとめ	
		この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深めることで，様々な自然観を基にした環境を理解することが出来るようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の復習	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分

科目名	教育学Ⅰ	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
教育学は人間の教えと育ちプロセスを考察する学問です。一般的に、教育学は学校教育や教室での教育実践のみを分析対象にする学問と思われがちですが、実際はそうではありません。人類の歴史において、学校教育が登場し、機能していた期間は、わずかなものに過ぎません。この授業では、人類史のなかの教えと育ちを多様な側面から分析します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者が人間の教えと育ちをの関係を明瞭に理解できることを目的とします。教育学の諸課題について、受講者がみずからの考えをみずからの言葉で表現できるようになることを講義の到達目とします。

【履修条件】
特にありません。なお、予習復習の時間は、あくまでも目安でありますから、個々人の生活（奨学金利用にともなうアルバイト、家庭のご都合など）を踏まえ、各自で学習計画を立案してください。

【授業方法】
毎回レジュメと史資料を配布し、それに沿って講義をします。そのほかに、写真資料、音声資料、映像資料なども使用することがあります。なお、授業中における、私語、講堂外での受講、コメントペーパーの代筆（不正行為）などは、厳しくご対応いたします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育学の概要について説明できる。				2	2	2	2		2		
②	教育的事象と現代社会の関係について説明できる。				2	2	2	2		2		
③	社会科学の研究成果にもとづいた知見から現代社会を説明できる。				2	2	2	2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート(60%)。到達目標①②③⑥について、設題の内容を理解した記述ができる。	15	15	15			15					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペーパー)	コメントペーパー(40%)。到達目標①②③⑥授業内容を踏まえた議論が展開できる。	10	10	10			10					40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25			25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績に関する講評はポータルサイトで発表します。また、授業中にコメントペーパーについて応答します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
personal writing (第2号)	2019年度「教育学」 受講生	猫の手書房	2019	参考書	推奨
学ぶ、向きあう、生きる	楠原彰	太郎次郎社エディタ ス	2013	参考書	任意
差別の現在	好井裕明	平凡社	2015	参考書	任意
働くことと学ぶこと	里見実	太郎次郎社	1995	参考書	任意
日本人のしつけは衰退したか	広田照幸	講談社	1999	参考書	任意
〈民主〉と〈愛国〉	小熊英二	新曜社	2002	参考書	任意
貧困の戦後史	岩田正美	筑摩書房	2017	参考書	任意
高校紛争 1969-1970	小林哲夫	中央公論新社	2012	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時30分～16時。研究室にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9 4/10	ガイダンス・導入講義	現代日本の教育改革・入試／シラバス／カリキュラム	
		この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	シラバスを参照してください。ウェブ検索などかまいませんので、「教育学」について検討してください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
2	4/16 4/17	日本教育社会史①	近世の教育文化と明治以降の近代教育システム	
		この回の到達目標	近代以前の教育史とその位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
3	4/23 4/24	日本教育社会史②	戦後教育スタート・戦前と戦後の連続性と精神史	
		この回の到達目標	近代以前の教育史とその位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
4	4/30 5/1	日本教育社会史③	高校生がエリートだったころ・『コクリコ坂から』みる青少年文化と社会運動の萌芽	
		この回の到達目標	日本における近代教育の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
5	5/7 5/8	日本教育社会史④	紛擾から闘争へ 闘争から紛争へ・学生運動の毀したもの	
		この回の到達目標	教育史における戦争と学校教育の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
6	5/14 5/15	日本教育社会史⑤	管理教育と校内暴力・『金八先生』のリアリティ	
		この回の到達目標	戦後の教育改革と都鄙格差について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21 5/22	日本教育社会史⑥	『ハレンチ学園』から『ビリギャル』の欺瞞・現代日本教育課題	
		この回の到達目標	学生自治と「エリート教育」の関係と位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
8	5/28 5/29	近代教育のルーツ①	近代教育以前の子ども像・絵画／玩具／被服／童話／絵本の教育史	
		この回の到達目標	1970年～80年代の戦後教育史を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
9	6/4 6/5	近代教育のルーツ②	子どもの「価値」変遷・遺棄と保護の教育史	
		この回の到達目標	1990年代～2000年代の戦後教育史を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
10	6/11 6/12	近代教育のルーツ③	児童小説の変遷・修正される家族観と子ども観	
		この回の到達目標	近代教育の外側に存在した子ども観を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
11	6/18 6/19	近代教育のルーツ④	児童小説に描写された家族と子どもの幸福・だれが幸福の定義を定めるのか？	
		この回の到達目標	近代教育成立以前の教育文化について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
12	6/25 6/26	近代教育のルーツ⑤	個々人の「こだわり」と近代社会・トラウマ語り超えて	
		この回の到達目標	近代教育成立以前の教育文化について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2 7/3	近代教育のルーツ⑥	量から質の時代へ・多様な家族像と乱反射する価値観の多様性	
		この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
14	7/9 7/10	変容する価値観①	社会における男女の区分とLGBTQ・映像資料にみる男女の社会的役割の表象と差別問題	
		この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
15	7/16 7/17	変容する価値観②	男女の区分タブーの変遷・構築される価値観と差別問題 近代日本の女性観	
		この回の到達目標	教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

科目名	教育学Ⅱ	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
教育学は人間の教えと育ちプロセスを考察する学問です。一般的に、教育学は学校教育や教室での教育実践のみを分析対象にする学問と思われがちですが、実際はそうではありません。人類の歴史において、学校教育が登場し、機能していた期間は、わずかなものに過ぎません。この授業では、人類史のなかの教えと育ちを多様な側面から分析します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「教育」とは、なにかということを考えられることを目的としています。「教育」にできること、「教育」にできないこと、「教育」がしてよいこと、「教育」がしてはいけないことを身につけられることを目標としています。

【履修条件】
教育学分野、社会学分野、歴史研究（日本史、世界史、政治史）に関心のある学生。「息をしていれば単位が取得できる」と考える受講者は受けつけません。教室内の秩序を著しく乱す受講者に対しては、厳しい措置を取ります。ご承知おきください。

【授業方法】
講義形式。授業終了後に受講生からコメントペーパーを回収しますが、次週の授業にて、50～60件の代表的な意見をプリントにまとめて配布します。紙上討論というかたちで、受講生の意見に対して、そのつど応答をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育学の概要について説明できる。				2	2	2	2		2		
②	教育的事象と現代社会の関係について説明できる。				2	2	2	2		2		
③	社会科学の研究成果にもとづいた知見から現代社会を説明できる。				2	2	2	2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート(60%)。設題の内容を理解した記述ができる。 到達目標①②③⑥について、設題の内容を理解した記述ができる。	15	15	15			15					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペーパー)	コメントペーパー(40%)。授業内容を踏まえた議論が展開できる。到達目標①②③⑥について、設題の内容を理解した記述ができる。	10	10	10			10					40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25			25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績に関する講評はポータルサイトで発表します。また、授業中にコメントペーパーについて応答します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
悪と全体主義	仲正昌樹	NHK出版	2018	参考書	推奨
今こそアーレントを読み直す	仲正昌樹	講談社	2009	参考書	任意
日本とドイツ	仲正昌樹	光文社	2006	参考書	任意
全体主義の起源	ハンナ・アーレント	みすず書房	2017	参考書	任意
エルサレムのアイヒマン	ハンナ・アーレント	みすず書房	2017	参考書	任意
否定と肯定	デボラ・E・リップシュタット	ハーバーコリンズ・ジャパン	2017	参考書	任意
思い出のアンネ・フランク	ミープ・ヒース	文藝春秋	1994	参考書	推奨
雲は答えなかった	是枝裕和	PHP研究所	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業にて担当教員から明示します。基本的には、「教育学Ⅰ」と同様の時間です。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/14 9/18	ガイダンス・導入講義	社会問題と「教え」と「育ち」
		この回の到達目標	当該授業にて取り扱う社会問題の性格について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。
		事前学修	配布資料をもとに復習。120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。120分
2	9/21 9/25	貧困と公教育①	個々人のニーズと公教育・給食制度を手がかりに
		この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。
		事前学修	配布資料をもとに復習。120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。120分
3	9/28 10/2	貧困と公教育②	隔離されていく貧困層・『ちびまる子ちゃん』の世界観の喪失
		この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。
		事前学修	配布資料をもとに復習。120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。120分
4	10/5 10/9	貧困と公教育③	貧困のイメージと公教育の機会均等・福祉の切り捨てを超えて
		この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。
		事前学修	配布資料をもとに復習。120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。120分
5	10/12 10/16	貧困と公教育④	社会階層と教育格差の再生産・「幸せな貧困」でよいのか？
		この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。
		事前学修	配布資料をもとに復習。120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。120分
6	10/19 10/23	分断と公教育①	人種による社会階層の分断・アメリカにおける人種差別
		この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。
		事前学修	配布資料をもとに復習。120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/30	分断と公教育②	ユダヤ人の迫害史・『アンネの日記』とヨーロッパの差別問題	
		この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
8	11/9 11/6	分断と公教育③	『アンネの日記』その後史 ナチス・ドイツの台頭と市民	
		この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
9	11/16 11/13	分断と公教育④	ミーブ・ヒースとアドルフ・アイヒマン 市民的勇気と「凡庸な悪」	
		この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
10	11/23 11/20	分断と公教育⑤	ヨーロッパ各地の公教育・ドイツとオランダの教育実践	
		この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
11	11/30 1/27	公教育の使命①	オランダとフィンランドの公教育・理想と現実	
		この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
12	12/7 12/4	公教育の使命②	アメリカの公教育と教育改革・改革による公教育の崩壊	
		この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/11	公教育の使命③	国家と個人・アメリカの家庭教育	
		この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
14	12/21 12/18	多様性と差別問題①	「曖昧な生きづらさ」と差別問題 吃音／斜視／異形／脱毛／拒食／LGBTQ／在日コリアン／在日台湾人／アトピー性皮膚炎／性犯罪被害／情緒不安定……	
		この回の到達目標	現代の差別問題について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。なお、タイトルにつけた「生きづらさ」の事例は、すべて、これまで、この授業を履修していた学部生の事例です。講堂には、このような多様なアイデンティティ抱えた学部生が雑居しています。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
15	1/18 12/25	多様性と差別問題②	排除される障害者・「健常者に迷惑をかけない」というバイアスを超えて	
		この回の到達目標	現代の差別問題について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	レポート作成。	120分

科目名	教養演習A【日本軍兵士の被害と加害】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。大岡担当のこの演習では、「日本軍兵士の被害と加害」と題し、吉田裕『日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実』『日本の軍隊ー兵士の近代史』の輪読、および関連する歴史資料の分析を行う。戦争体験者の減少や国際関係の変動の中で、戦争の実態を踏まえない乱暴な言説が横行している。その一方で、下級兵士や庶民の目線に立って、戦争のリアリティを描き出そうとする新しい戦争史研究が生まれてきている。こうした学問的成果に学びながら、戦争や軍隊の本質について議論したい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
本演習のテーマに関心を持ち、知的な発見や学問的討論に飢えている者、大学時代に「学問でも頑張った」と言えるものが欲しいという者を歓迎する。単位だけが目的の人、主体的な学習の意欲・能力のない人はご遠慮ください。

【授業方法】
まずはテーマに関連する文献を読解する。取り上げる範囲を事前に読んでくることは全員必須である。教員や他の受講生の質問に答えられるように、内容をよく理解しておく。 発表者はテキストの論点を簡潔に整理したうえで、批判的に考察・論評を加え、討論したい問題を提起する。 それを踏まえ、全員で質疑応答と討論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション。プレゼンテーション。ただし、形だけの「アクティブ・ラーニング」、内容が伴わない小学生レベルのディスカッション・プレゼンテーションの真似事からは脱却して欲しい。その場に何事か刺激や気づき、新しい論点を付け加えていくために、頭をフル回転させ、自分の意見を保つ努力をし、下手でも良いから情熱を持って伝えようとする事が求められる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を 明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れ て客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60	
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調 査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイ ント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価 する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20	
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質 問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまと められるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20	
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		10	30	30	30							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の終わりに講評を行う。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実		吉田裕	中央公論新社	2018年	教科書	必携
日本の軍隊一兵士たちの近代史		吉田裕	岩波書店	2002年	教科書	必携
アジア・太平洋戦争		吉田裕	岩波書店	2007年	参考書	推奨
餓死した英霊たち		藤原彰	ちくま書店	2018年	参考書	推奨
中国戦線従軍記：歴史家の体験した戦場		藤原彰	岩波書店	2019年	参考書	推奨
兵たちの戦争 手紙・日記・体験記を読み解く		藤井忠俊	朝日新聞社	2019年	参考書	推奨
ものいわぬ農民		大牟羅 良	岩波書店	1958年	参考書	推奨
戦没農民兵士の手紙		岩手県農村文化懇談会	岩波書店	1961年	参考書	推奨
備考	書ききれないので、その他の参考文献は教室で指示する。					
【オフィスアワー】						
火曜13時～14時 金曜18時～18時30分						
【実務経験を活かした実践的教育について】						
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。			
実務経験に基づく実践的教育の内容		記憶の継承に関わる社会教育や学校教育における平和教育の方法について。 官庁や自治体、企業における文書の作成・保存・公開の重要性について。				

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス／イントロダクション 本演習の問題意識など導入講義	本演習の問題意識、演習の課題と方法、演習の進め方、テキストの紹介、単位取得要件などについて説明する。また参加者の自己紹介を行う。 スケジュールの決定。	
		この回の到達目標	演習の目的を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読する。テキストを入手する。	120分
		事後学修	ガイダンスを振り返り、履修を決める。	120分
2	4/17	『日本軍兵士』(1)	筆者のプロフィールと研究の位置づけ（レクチャー） 序章 アジア・太平洋戦争の長期化	
		この回の到達目標	著者の問題意識、本書の課題と方法の特色、研究史上の位置づけを理解する。 アジア・太平洋戦争の性格について理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
3	4/24	『日本軍兵士』(2)	第1章 死にゆく兵士たち―絶望的抗戦期の実態1 第2章 身体から見た戦争―絶望的抗戦期の実態2	
		この回の到達目標	絶望的抗戦下の日本軍の戦いと兵士たちの置かれた状況を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
4	5/1	『日本軍兵士』(3)	第3章 無残な死、その歴史的背景 終章 深く刻まれた「戦争の傷跡」	
		この回の到達目標	兵士の無残な死をもたらしした日本軍の組織的問題点、そうした軍隊や軍事指導者を生み出した日本社会の構造的な問題点を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
5	5/8	『日本軍兵士』(4)	『日本軍兵士』総括討論 ①日本軍とその戦いの実態から我々は何を学ぶことができるか？ ②本著作の現代的意義は何か？ ③次なる課題は何か？	
		この回の到達目標	これまでの討論を踏まえ、あらためて本書の現代的意義を確認する。	
		事前学修	これまでの演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。 討論において発言することを準備しておく。	120分
		事後学修	次の課題に向けての準備を確認する。	120分
6	5/15	『日本の軍隊』(1)	序章 分析の視角 第1章 近代社会の形成と軍隊	
		この回の到達目標	日本の近代化と軍隊との関係について理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	『日本の軍隊』(2)	第2章 軍隊の民衆的基盤	
		この回の到達目標	民衆が軍隊を受容する構造的な要因を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
8	5/29	『日本の軍隊』(3)	第3章 総力戦の時代へ 第4章 十五年戦争と兵士	
		この回の到達目標	軍隊改革の挫折と反近代的で精神主義的な軍隊への変貌の歴史的過程について理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
9	6/5	『日本の軍隊』(4)	『日本の軍隊』総括討論 ①軍隊と社会との関係はどのようなものなのか？そこから何を学べるか？ ②本書の現代的意義は何か？ ③次なる課題は何か？	
		この回の到達目標	これまでの討論を踏まえ、本書の現代的意義を確認する。	
		事前学修	これまでの演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。 討論において発言することを準備しておく。	120分
		事後学修	次の課題に向けての準備を確認する。	120分
10	6/12	演習後半の課題設定 「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」	後半ではメンバーが分担して、兵士の手紙・日記・体験記を読解し、そこから何を学び取れるかを報告する。どのような史料を取り上げるか、誰が何をテーマに報告するかを決める。	
		この回の到達目標	テーマを理解し、自分の課題や役割を決める。	
		事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
		事後学修	自分の分担した史料を読み進め、報告の準備をする。	120分
11	6/19	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(1)	分担した史料に関する研究発表	
		この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
		事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
12	6/26	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(2)	分担した史料に関する研究発表	
		この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
		事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(3)	分担した史料に関する研究発表	
		この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
		事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
14	7/10	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(4)	分担した史料に関する研究発表	
		この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
		事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
15	7/17	総括討論 加害と被害の重層性をめぐって	前期の演習の成果を確認するとともに、日本軍兵士における加害と被害の重層性について、討論を行う。	
		この回の到達目標	演習での学びを振り返り、自己にどのような認識の変化があり、何が達成されたかを確認する。	
		事前学修	これまでの演習のレジュメやノートを読み直し、総括討論の準備をする。	120分
		事後学修	前期の成果の振り返りと今回の討論のまとめを行う。 次なる自己の問題意識を確認する。	120分

科目名	教養演習A【不便益学】	担当者	大熊 圭子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。大熊担当の教養演習Aでは『不便益学』について学修する。世の中便利なモノにあふれ、いろいろラクになった。その結果、以前より暮らしは楽になったか。何か見失ったものはないか。これらについて考え、議論する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
特にないが、第一回目に人数調整の可能性があるので、必ず一回目には出席すること。

【授業方法】
テキストを用いながら、基本的にはグループディスカッション（または全員で議論）や発表を行いながら不便益学につて考える。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションや発表を行い、それらについての議論・評価を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。		3						
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。				3				
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。					3			
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。						3		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
その都度、ディスカッションの内容や発表についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ごめんなさい、もしあなたがちょっとでも行き詰まりを感じているなら、不便を取り入れてみてはどうですか？	川上浩司	インプレス	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	開講にあたって／不便益学とはなにか	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では、不便益学とは何か、なぜ不便益学という学問が世の中に登場したのかなどについて説明する。	
		この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。不便益学の概要について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを確認する。不便、便利、益について、それが何を意味しているか、良いことか悪いことか、例を挙げて考えておく。	120分
		事後学修	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。	120分
2	第一部 水4/15	「不便」の良い点	不便とはどのようなことか、不便とはよくないと一概にいえるか考えてみる。	
		この回の到達目標	不便とは何か、普段考えているのとは違う視点で考え、それについて議論し新しい視点で不便について説明できるようになる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの序章を読んでおく。その上で不便とは何か考えてみる。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に不便とは何か、授業前後でどのように考えが変わったか（または変わらなかったか）をまとめる。	120分
3	第一部 水4/22	「便利」とは？	どのようなことが便利と考えているか、不便と便利は反対語か、またラクと楽しい、益と害についても同様に考えていく。	
		この回の到達目標	便利と不便、ラクと楽しい、益と害について自分なりに考え、それを説明できるようになる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの1章を読んでおく。便利と不便、ラクと楽しい、益と害など、それぞれの違いについて考えておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に、便利とは何かなど、授業前後でどのように考えが変わったか（または変わらなかったか）をまとめる。	120分
4	第一部 水4/29	楽しい「不便」	不便なことの中にも楽しいことが存在する可能性があることについて、さまざまな例を挙げながら説明し、それらについて考える。	
		この回の到達目標	不便なことの中にも楽しいことが存在する可能性があることについて説明できるようになる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの2章を読んでおく。不便だけど楽しかった、と思ったことがないか考えておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。不便と楽しいことが常に対立するのではないことを理解する。	120分
5	第一部 水5/6	便利・不便についての考察	これまでの授業内容をふまえ、便利・不便、不便だが楽しいことなどについて、自らの体験から考察し発表する。	
		この回の到達目標	不便益学の基礎となる、不便が悪いイメージしかないわけではないことを理解し、それを自分の体験をもとに他者に説明できる（関連SB0s②③④）。	
		事前学修	テキストの2章まで、および授業ノートを見直して、不便についての自分なりの意見を発表できるようにまとめる。	150分
		事後学修	不便についての他者の意見を参考に、もう一度不便について考えてみる。	120分
6	第一部 水5/13	不便益とは	不便益とは何かについて考える。	
		この回の到達目標	不便益とは何か、さまざまな例を挙げて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの3章を読んでおく。	120分
		事後学修	テキストにある例のほかに、何か不便益なことがあるか考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	「便利」の害	便利なことが本当に100%良いことか考える。便利さゆえに悪くなったことはないのか考える。	
		この回の到達目標	かなりの部分で便利な世の中になっているが、それによって何らかの害（悪いこと）が起きていないか自ら考え、それについて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの4章を読んでおく。親の育った時代と比べて何が便利になったのか、その良いところ、悪いところについて、また今後より便利になると思われるもの（こと）についても考えておく。	120分
		事後学修	便利なこと（もの）によって失われたものがあることについて、授業内容を参考に考えてみる。	120分
8	第一部 水5/27	不便益についての考察	不便益に関して、自らの体験から考察し発表する。	
		この回の到達目標	不便益について理解し、それを自分の体験をもとに他者に説明できる（関連SB0s②③④）	
		事前学修	テキストの4章まで、および授業ノートを見直して、不便益についての自分なりの意見を発表できるようにまとめておく。	150分
		事後学修	不便益についての他者の意見を参考に、もう一度不便益について考えてみる。	120分
9	第一部 水6/3	安心とは	安心と不便の関係について考える。	
		この回の到達目標	安心と不便がどのように関連しているか例を挙げながら説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの5章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を参考に、安心と不便の関係について再度考える。また、楽しいことと不便なことの関連についても考える。	120分
10	第一部 水6/10	益をもたらす不便	不便益の6つの性質について学修し、それぞれについて例を挙げながら理解していく。	
		この回の到達目標	不便益の6つの性質について説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの6章を読んでおく。	120分
		事後学修	不便益の6つの性質を参考にしながら、益をもたらす不便なことについて考えておく。	120分
11	第一部 水6/17	不便益なシステムとは	不便なものと不便益なものとの違いについて考える。	
		この回の到達目標	不便なものと不便益なものとの違いを明確に理解し、それを説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの7章を読んでおく。	120分
		事後学修	ただ不便なものと、不便だが益のあるもの（不便益）についてそれぞれ例を考えてみる。	120分
12	第一部 水6/24	プレストバトル	ブレインストーミングを不便にしたプレストバトルについて学修し、実践してみる。	
		この回の到達目標	プレストバトルの方法、意義について説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	テキスト7章最後にあるプレストバトルについての説明をよく読んでおく。	120分
		事後学修	ブレインストーミングとプレストバトルの違いについて、授業内容を参考に自分なりに整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	不利益を形にするためのアイデア	不利益なことを「もの」にするための手法について、テキストの例を参考に考える。	
		この回の到達目標	不利益なことを実際に使える「もの」とするためにはどうすればよいか説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの8章を読んでおくこと。	120分
		事後学修	不利益な「もの」についてのアイデアを考えておく。	120分
14	第一部 水7/8	アイデアについて議論する	不利益な「もの」について考えてきたアイデアを出し合い、プレストバトルする。	
		この回の到達目標	プレストバトルの方法を用いて、不利益なものに関する自分の考えを他者に明確に説明することができる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	8章を参考に、不利益な「もの」についての具体的なアイデアを考え、発表できるようにしておく。	150分
		事後学修	プレストバトルの結果、およびこれまでの授業内容をもとに、不利益学についてまとめる。	90分
15	第一部 水7/15	講義全体のふり返り	不利益学についてのレポート内容を発表、その後回収。最後に講義全体のまとめを行う。	
		この回の到達目標	各自で学修・発表・検討した内容をレポート化し、自らの意見を客観的に提示できるようになる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	14回までの授業内容を振り返り、各自、不利益学に関するレポートを完成させ、授業内に発表・提出できる準備をする〔事後学習のために必ずレポートの複写を手元に残しておくこと〕。	150分
		事後学修	不利益学についての学修をもとに、各自、これを実生活にどのように活かせるかを考える。	90分

科目名	教養演習A【スポーツについて考える】	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。 佐藤担当のこの演習では、「スポーツを考える」と題し、我が国において文化としてスポーツが根付きつつある中、スポーツの魅力とは何か、現代スポーツの問題点は何か、スポーツと社会の関わりについて関係資料や調査結果を用いながら、スポーツの本質について議論を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
2年生以上の履修とし、できるだけ総合科目「体育スポーツ科学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
事前に配付する資料を用いて演習形式で行う。テーマ毎に個人及び共同報告（発表）をしてもらい、それについて質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	個人発表及び共同報告（発表）を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表（内容、方法等）、質疑応答、提出レポートに対しての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
月、火曜日 12:10～13:00 研究室 事前に連絡をすること（satou.hideaki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	スポーツを考える	ガイダンス ・講義計画、授業方法、成績評価等の説明 ・事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法についての説明 講義	
		この回の到達目標	SB0s③	
		事前学修	「スポーツ」に関する個人及び社会が関心を持っていることについて調べ、その概要をまとめる	60分
		事後学修	ガイダンス内容を振り返り、以降の計画を立てる。 当該授業回の内容をまとめる	60分
2	4/14	スポーツの魅力について（１）	・テーマについての説明 ・調査方法の確認	
		この回の到達目標	SB0s①、③	
		事前学修	スポーツの魅力について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	60分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。	180分
3	4/21	スポーツの魅力について（２）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
4	4/28	スポーツの魅力について（３）	・個人及び共同発表（２） ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
5	5/5	スポーツの魅力について（４）	・個人及び共同発表（３） ・質疑応答 ・テーマのまとめ	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。	120分
6	5/12	現代スポーツの問題点（１）	・テーマについての説明	
		この回の到達目標	SB0s①、③	
		事前学修	現代スポーツの問題点について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	60分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	現代スポーツの問題点 (2)	・個人及び共同発表 (1) ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料 (報告書) を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
8	5/26	現代スポーツの問題点 (3)	・個人及び共同発表 (2) ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料 (報告書) を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
9	6/2	現代スポーツの問題点 (4)	・個人及び共同発表 (3) ・質疑応答 ・テーマのまとめ	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料 (報告書) を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。	120分
10	6/9	スポーツと社会 (1)	・テーマについての説明	
		この回の到達目標	SB0s①、③	
		事前学修	スポーツと社会について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	60分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。	180分
11	6/16	スポーツと社会 (2)	・個人及び共同発表 (1) ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料 (報告書) を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
12	6/23	スポーツと社会 (3)	・個人及び共同発表 (1) ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料 (報告書) を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	スポーツと社会（4）	・個人及び共同発表（1） ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。	120分
14	7/7	スポーツとは何か	・オリンピック、パラリンピックについて	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	オリンピックムーブメントについて関連する資料を調べまとめる。	60分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。	180分
15	7/14	全体の振り返り	・レポートの作成 ・講評	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	各テーマ毎作成したレポートを振り返り、疑問点などを抽出する。	180分
		事後学修	各自の取り組みを振り返る。 授業で得た知見を基にスポーツを様々な視点で考える。	180分

科目名	教養演習B【戦争の記憶—その過去・現在・未来】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。大岡担当のこの演習では、「戦争の記憶—その過去・現在・未来」と題し、関連文献の輪読と個人研究を行う。戦争の歴史は「終戦」で終わるわけではない。痛み続ける戦争の傷痕や戦後処理の問題も、戦争の歴史の一部である。さらに、終わった戦争をどのように記憶し、その記憶はどのように変遷してきたか、という「戦争記憶」の歴史もまた、戦争史研究にとって重要な研究課題となっている。このことは「戦争の記憶」という切り口からの、戦後の政治・社会・国際関係の考察にもつながる。この演習は過去を扱いつつ、漂流し政治化する「戦争の記憶」の現在を議論し、未来を展望する視座を獲得することを目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
本演習のテーマに関心を持ち、知的な発見や学問的討論に飢えている者、大学時代に「学問でも頑張った」と言えるものが欲しいという者を歓迎する。単位だけが目的の人、主体的な学習の意欲・能力のない人はご遠慮ください。

【授業方法】
まずはテーマに関連する文献を読解する。取り上げる範囲を事前に読んでくることは全員必須である。教員や他の受講生の質問に答えられるように、内容をよく理解しておく。 発表者はテキストの論点を簡潔に整理したうえで、批判的に考察・論評を加え、討論したい問題を提起する。 それを踏まえ、全員で質疑応答と討論を行う。 条件が整えば戦争に関わる博物館・資料館の見学を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション。プレゼンテーション。ただし、形だけの「アクティブ・ラーニング」、内容が伴わない小学生レベルのディスカッション・プレゼンテーションの真似事からは脱却して欲しい。その場に何事か刺激や気づき、新しい論点を付け加えていくために、頭をフル回転させ、自分の意見を保つ努力をし、下手でも良いから情熱を持って伝えようとする事が求められる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。				3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。						3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。							3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。		10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。			10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。				10	10							20
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の講義における講評。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
戦争の記憶 コロンビア大学特別講義 学生との対話		キャロル・ブラック	講談社	2019	教科書	必携
戦争を記憶する 広島・ホロコーストと現在		藤原帰一	講談社	2001	教科書	必携
日本人の戦争観		吉田裕	岩波書店	2005	教科書	必携
記憶と認識の中のアジア・太平洋戦争		成田龍一・吉田裕	岩波書店	2015	参考書	推奨
備考	その他の参考文献は教室で指示する。					
【オフィスアワー】						
火曜13時～14時 金曜18時～18時30分						
【実務経験を活かした実践的教育について】						
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。			
実務経験に基づく実践的教育の内容		記憶の継承に関わる社会教育や学校教育における平和教育の方法について。官庁や自治体、企業における文書の作成・保存・公開の重要性について。				

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス 本演習の問題意識など導入 講義	本演習の問題意識、演習の課題と方法、演習の進め方、テキストの紹介、単位取得要件などについて説明する。また参加者の自己紹介を行う。 スケジュールの決定。	
		この回の 到達目標	演習の目的を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読する。テキストを入手する。	120分
		事後学修	ガイダンスを振り返り、履修を決める。	120分
2	9/25	『戦争の記憶』(1)	1 MEMORY AND HISTORY / 「歴史」とは何か、「記憶」とは何か 2 OPERATIONS OF MEMORY / 「戦争の記憶」はいかにして作られるのか	
		この回の 到達目標	「歴史」と『記憶』の違い、および現代において「記憶」が問題になるのはなぜかを理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
3	10/2	『戦争の記憶』(2)	3 THE COMFORT WOMEN IN PUBLIC MEMORY / 慰安婦の記憶 4 THE PAST IN THE PRESENT / 歴史への責任——記憶が現在に問い掛けること おわりに	
		この回の 到達目標	『戦争の記憶』をめぐる現代的問題と未来への課題を認識する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
4	10/9	『戦争を記憶する』(1)	第1章 2つの博物館——広島とホロコースト 第2章 歴史と記憶の間 第3章 正しい戦争——アメリカ社会と戦争	
		この回の 到達目標	日米の戦争記憶の比較から、問題の所在を理解する。またアメリカの戦争観を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
5	10/16	『戦争を記憶する』(2)	第4章 日本の反戦 第5章 国民の物語	
		この回の 到達目標	アメリカとの比較で日本の戦争記憶の特質を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
6	10/23	『日本人の戦争観』(1)	第1章 歴史意識と政治一九〇年代における政策転換 第2章 「太平洋戦争史観」の成立—占領期	
		この回の 到達目標	問題の所在を理解する。占領期の戦争観の形成とその歴史的背景を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	『日本人の戦争観』(2)	第3章 認識の発展を阻むもの―占領から講和へ 第4章 ダブル・スタンダードの成立―一九五〇年代	
		この回の到達目標	日本政府の戦争観におけるダブルスタンダードの構造と背景を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
8	11/6	『日本人の戦争観』(3)	第5章 戦争体験の「風化」―高度成長期 第6章 経済大国化のなかの変容―一九七〇年代	
		この回の到達目標	戦争体験の風化と高度経済成長を背景とした戦争観の変容を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
9	11/13	『日本人の戦争観』(4)	第7章 ダブル・スタンダードの動揺―一九八〇年代 第8章 歴史からの逃避―現在そして将来	
		この回の到達目標	冷戦体制の崩壊前後における国際環境の変容と戦争観の動揺との関係について理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
10	11/20	前半総括討論	前半期の総括討論を行う。	
		この回の到達目標	これまでの討論を踏まえ、あらためて「戦争の記憶」「戦争観」の現代的状況について理解を深め、将来への展望を考える。	
		事前学修	これまでの演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。 討論において発言することを準備しておく。	120分
		事後学修	次の課題に向けての準備を確認する。	120分
11	11/27	個人発表(1) 兵士たちの記憶	分担したテーマについての個人発表	
		この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
		事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
12	12/4	個人発表(2) サブカルチャーの中の戦争	分担したテーマについての個人発表	
		この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
		事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	個人発表(3) 戦時生活の記憶	分担したテーマについての個人発表	
		この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
		事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
14	12/18	個人発表(4) 記憶の衝突	分担したテーマについての個人発表	
		この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
		事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
15	12/25	総括討論	総括討論を通じて、演習の成果を確認するとともに、今後の課題を確認する。	
		この回の到達目標	演習での学びを振り返り、自己にどのような認識の変化があり、何が達成されたかを確認する。	
		事前学修	これまでの演習のレジュメやノートを読み直し、総括討論の準備をする。	120分
		事後学修	前期の成果の振り返りと今回の討論のまとめを行う。 次なる自己の問題意識を確認する。	120分

科目名	教養演習B【仕掛学】	担当者	大熊 圭子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。大熊担当の教養演習Bでは『仕掛学』について学修する。法律や条例は何のためにあるのか。それらに頼らず問題解決を目指す仕掛学は、法学部の学生だからこそぜひ学んでほしい内容である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
特にないが、第一回目に人数調整をする可能性があるため、必ず一回目は出席すること。

【授業方法】
テキストを用いながら、基本的にはグループディスカッション（または全員で議論）・発表を行い、「仕掛け学」について考えていく。それを踏まえて何らかの仕掛けについて考案し、発表する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションや発表を行い、またそれらについての議論・評価を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
その都度、ディスカッションの内容や発表についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
仕掛学	松村真宏	東洋経済新報社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス／仕掛学とは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では、仕掛学とは何かについて、仕掛けの例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	貼紙や罰則が役に立っていないと思われる事例が世の中にはあるが、その時に仕掛学が役に立ちそうであることを理解し、例を挙げてその理由を簡単に説明できる（関連SB0s①③）。	
		事前学修	シラバスを確認する。テキストの目次や写真を見ておく。	120分
		事後学修	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。	120分
2	第一部 水9/23	さまざまな仕掛け	問題解決のために、人を動かす仕掛けを作ること、良い仕掛けと悪い仕掛けの違い、仕掛けの定義を理解する。	
		この回の到達目標	仕掛がなぜ必要か、また良い仕掛けと悪い仕掛けの違いは何かを理解し、明確に説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの序章を読んでおく。	120分
		事後学修	身の回りにある仕掛けを探す。	120分
3	第一部 水9/30	仕掛けたい世の中の問題点	貼紙や罰則が役に立っていないような問題点（もの、こと）を各自発表（できるだけ具体的に）し、なぜその状態になっているかについて議論する。	
		この回の到達目標	貼紙や罰則が役に立っていない場合があるのはなぜかを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	仕掛けが役立ちそうな問題（もの、こと）を探して、発表できるようにまとめておく。	120分
		事後学修	授業内で議論した内容を参考に、各自発表した内容について再度考えてみる。	120分
4	第一部 水10/7	仕掛けの基本	強い仕掛けと弱い仕掛けの違いについて考える。また仕掛けが行動中心のアプローチであることを理解する。	
		この回の到達目標	強い仕掛けと弱い仕掛けの違いを説明することができ、また仕掛けで行動を変えることにより問題解決につなげていることについて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの1章を読んでおく。	120分
		事後学修	さまざまな仕掛けについて、それがどのように人の行動を変えているのか考えてみる。	120分
5	第一部 水10/14	仕掛けの原理と構成要素	仕掛けの仕組みがどのようなになっているか、その原理を考え、またその構成要素について分類する。	
		この回の到達目標	仕掛けの原理を説明でき、また仕掛けの構成要素について例を挙げて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの2章をよく読んで、特に構成要素についてノートに整理してまとめておくこと。	120分
		事後学修	ある仕掛けを取り上げ、その原理を構成要素に分けて説明してみる。	120分
6	第一部 水10/21	構成要素による仕掛けたい問題点の考察	第3回で考えた、仕掛けが必要そうな問題について、仕掛けの原理・構成要素を考慮しながらその問題を解決できそうな仕掛けについて議論する。	
		この回の到達目標	仕掛けの原理・構成要素の知識を的確に説明でき、さらに仕掛けの実践問題として活用することができる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	第3回で議論した内容について、仕掛けの原理や構成要素と関連付けて考え、発表できるようにまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での議論内容を再考し、より良い仕掛けの可能性について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	仕掛けの発想法	仕掛けを見つける方法、仕掛けを考案するための方法について考える。	
		この回の到達目標	仕掛けを考案するための様々な方法について、例を挙げて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの3章を読んでノートに整理しておく。	120分
		事後学修	授業内容をもとに、いろいろな仕掛けを考えてみる。	120分
8	第一部 水11/11	仕掛けにつながる行動の観察	第7回で学修した仕掛けを見つける方法を実践し、その結果を発表する。	
		この回の到達目標	仕掛けを見つける観察力を養い、その方法・成果を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	第7回で学修した仕掛けを見つける方法を参考に、世の中にある仕掛けを探し、それを発表するための準備を行う。	150分
		事後学修	授業内での他の人の発表を参考に、さらにさまざまな仕掛けを見つけてみる。	90分
9	第一部 水11/18	オズボーンのチェックリストとSCAMPER法	仕掛を考える際に有効なオズボーンのチェックリストとSCAMPER法について考える。	
		この回の到達目標	オズボーンのチェックリストとSCAMPER法について説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキスト3章のオズボーンのチェックリストとSCAMPER法について読んでおく。	120分
		事後学修	オズボーンのチェックリストとSCAMPER法を用いて、仕掛けを考えてみる。	120分
10	第一部 水11/25	仕掛けるべき問題と、仕掛けの提案	世の中にある種々の問題に、実際に仕掛けるための案を考える。 まず各自持ち寄った問題と仕掛け案について、何が問題かを明確にし、仕掛け案が可能か、また有効かについて議論する。	
		この回の到達目標	問題点の整理をし、仕掛学の対象として有効なものを選択したその理由を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	仕掛を応用できそうな問題を探し、何が問題か、またその仕掛けの案についてまとめておく。	150分
		事後学修	仕掛対象となった各問題の問題点を整理し、仕掛けが有効なものを考えてみる。	120分
11	第一部 水12/2	仕掛けのアイデアを考える	第10回で議論した問題の中から、仕掛けを作るものを選択する。 さらに、仕掛けのアイデアを出し合う。	
		この回の到達目標	仕掛けが必要とされる問題がどのような特徴があるか、また仕掛けが可能な理由、仕掛けが難しい理由について説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	第10回で議論した問題の中から、仕掛けを作れそうなものと考えておく。	120分
		事後学修	提出された仕掛けのアイデアの中から具体的に実現可能なものはどれか考えておく。	120分
12	第一部 水12/9	仕掛けを具体化する	仕掛のアイデアについてのブレインストーミングをおこない、仕掛けを具体化していく。	
		この回の到達目標	机上の空論的な仕掛けではなく、自分たちで実践できる範囲の仕掛けとは何かを考え説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	自分たちでできる仕掛けの限界（時間的、技術的）を考えておく。	120分
		事後学修	具体化された仕掛けについて再考しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	仕掛学としての整理	具体化された仕掛けについて、仕掛けの原理・構成要素の点から整理して、ブラッシュアップできないか考える。	
		この回の到達目標	自分たちで考案した仕掛けについて、原理・構成要素の観点から説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	考案された仕掛けについて、原理・構成要素の点から調べておく。	120分
		事後学修	仕掛けるまでのプロセスについて整理しておく。	120分
14	第一部 水12/23	仕掛けについての発表と考察	考案した仕掛けについて発表を行い、講評を行う。	
		この回の到達目標	考案した仕掛けについて、なぜそれが良いのかを論理的に説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	なぜその仕掛けが良いのか、また仕掛けるまでのプロセスなどを発表するための準備を行う。	150分
		事後学修	お互いの発表を聞いて、自分の考えた仕掛けについて再考する。	120分
15	第一部 水1/13	授業のふり振り返り／仕掛学に関する理解と実践について	第14回目で発表した内容を中心にまとめた仕掛学に関するレポートの回収。その後、その内容を踏まえて仕掛学についてのまとめを行う。	
		この回の到達目標	仕掛学に関して理解し説明ができるようになり、さらに、各自またはグループで調査・発表・検討した内容をレポート化し、自らの意見を客観的に提示できるようになる（関連SB0s②③④）	
		事前学修	仕掛け学に関して、また考案した仕掛けについてのレポートを作成する。	150分
		事後学修	テキストの内容や授業内に行われた議論をもとに、仕掛学の必要性を理解し、今後仕掛学をどのように活かしていけるか考える。	90分

科目名	教養演習B【スポーツのパフォーマンスについて】	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。 佐藤担当のこの演習では、「スポーツのパフォーマンスについて考える」と題し、主にスポーツ心理学、体力科学の領域の研究成果や調査結果を用いて、「パフォーマンス」について議論したい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
2年生以上の履修とし、できるだけ総合科目「体育スポーツ科学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
事前に配付する資料を用いて演習形式で行う。授業時及び事前・事後学修時に実習や調査等を課し、個人報告（発表）をしてもらい、それについて議論、質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	議論、質疑応答、個人報告（発表）を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
議論、質疑応答、提出レポートに対しての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
これから学ぶスポーツ心理学	荒木雅信	大修館書店	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月、火曜日 12:10～13:00 研究室 事前に連絡をすること（satou.hideaki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	スポーツパフォーマンスとは	ガイダンス ・講義計画、授業方法、成績評価等の説明 ・事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法についての説明 講義 ・スポーツパフォーマンスについて	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	「スポーツパフォーマンス」について関心を持っていることについて調べ、その概要をまとめる	120分
		事後学修	ガイダンス内容を振り返り、以降の計画を立てる。 当該授業回の内容をまとめる	120分
2	9/22	スポーツ心理学的アプローチ（１）	・スポーツ心理学の研究について ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	運動のメカニズムについて、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
3	9/29	スポーツ心理学的アプローチ（２）	・運動のメカニズムについて ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	運動のメカニズムについて、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
4	10/6	スポーツ心理学的アプローチ（３）	・運動学習の原理とは ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	運動学習について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
5	10/13	スポーツ心理学的アプローチ（４）	・運動、スポーツ指導とスポーツ心理学 ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	運動・スポーツ指導について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
6	10/20	スポーツ心理学的アプローチ（５）	・運動制御（反応とは何か） ・目標設定とパフォーマンス ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	運動制御について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	スポーツ心理学的アプローチ（6）	- 運動、スポーツの動機付け - 議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	動機付け（内的、外的）について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
8	11/10	スポーツ心理学的アプローチ（7）	心理検査紙を用いたパフォーマンス評価	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	授業時に配付した心理検査紙を事前に実施し、回答をまとめてくる。	120分
		事後学修	スポーツ心理学におけるパフォーマンスについて自分の考えをまとめ報告書を作成する。	120分
9	11/17	スポーツ心理学的アプローチ（8）	- まとめ - 個人発表 - 質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
10	11/24	体力科学的アプローチ（1）	- 体力科学の研究について - 質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	体力科学について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
11	12/1	体力科学的アプローチ（2）	- トレーニングとパフォーマンス（1） - 議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
12	12/8	体力科学的アプローチ（3）	- トレーニングとパフォーマンス（2） - 議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	体力科学的アプローチ (4)	・トレーニングとパフォーマンス (3) ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
14	12/22	体力科学的アプローチ (5)	・トレーニングとパフォーマンス (4) ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
15	1/12	全体の振り返り	・レポートの作成 ・講評	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	全体を振り返り授業で取り上げたスポーツのパフォーマンスについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	各自の取り組みを振り返る。 授業で得た知見を基にスポーツのパフォーマンスを様々な視点で考える。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	河原 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。パワーポイント、視聴覚機器などを用いて映像などで紹介しながら講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などでフィードバック（講評）する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の講義中でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『長寿と画家 巨匠たちが晩年に描いたものとは?』	河原 啓子	フィルムアート社	2019年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業前後、授業講堂にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アートジャーナリスト、アートドキュメンタリー作家としての、取材、インタビューなど。
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場取材によるタイムリーな情報などを授業で反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 4月6日 4月7日	授業の方法と目的の概説	芸術の価値 クリエイティブ・クラス AIは何をもたらすか	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
2	第1部 4月13日 4月14日	既成価値観の見直し（1）	岡本太郎の対極主義 芸術とは何か 「なんだ、これは！」	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
3	第1部 4月20日 4月21日	既成価値観の見直し（2）	身のまわりを見つめ直す 赤瀬川原平『老人力』にみる新しい立脚点	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
4	第1部 4月27日 4月28日	既成価値観の見直し（3）	荒川修作 反芸術 弱者に向けた芸術	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
5	第1部 5月4日 5月5日	既成価値観の見直し（4）	おたく クール？ 村上隆 コンテンポラリー・アートの意味	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
6	第1部 5月11日 5月12日	既成価値観の見直し（5）	ポップ・アート 日常的イメージの引用 アンディ・ウォーホル 他	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 5月18日 5月19日	既成価値観の見直し（6）	芸術を思索すること オノ・ヨーコとジョン・レノン	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
8	第1部 5月25日 5月26日	複製技術時代の芸術（1） 写真の発明	写真は人々の認識をどのように変えたか 情報授受の変容	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
9	第1部 6月1日 6月2日	複製技術時代の芸術（2） 写真の発展	記録か芸術か？ 報道写真 表現としての写真	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
10	第1部 6月8日 6月9日	複製技術時代の芸術（3） 映画の発明	映画前史からたどる 世界初の映画の登場と影響	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
11	第1部 6月15日 6月16日	複製技術時代の芸術（4） 映画、映像の発展	娯楽か芸術か？ 多様な映像 進展する映像技術	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
12	第1部 6月22日 6月23日	複製技術時代の芸術（5） 音楽の複製	生演奏か？ 録音か？ グレン・グールドの問題提起	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 6月29日 6月30日	ミュージアムの存在意義	各国のミュージアムをめぐって メディアとしての文化装置	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
14	第1部 7月6日 7月7日	文化政策	日本 アメリカ フランスを比較する 国家の文化や芸術に対する価値観 世界文化遺産	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
15	第1部 7月13日 7月14日	まとめ	芸術とは何か 文化とは何か	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	木名瀬 紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。取り扱うジャンルによっては、パワー・ポイント、視聴覚機器などを用いて映像などで紹介しながら講義を進める。リアクションペーパーなどを利用して各自の意見を提出してもらうこともある。それらは事後にフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などで講評する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の講義中にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に指示する。				

【オフィスアワー】
授業の前後に受け付ける。 メールアドレス：nrkinase@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	授業内容と関連。
実務経験に基づく実践的教育の内容		都留文科大学、明治大学ほかで美術史、芸術学、絵画論などを担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	授業の方法と目的の概説	序論Ⅰ：芸術論Ⅰについて 授業の紹介、オリエンテーション。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、この授業の概要と目的を考察し、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	最初ですから、シラバス全体をよく読み、西洋と日本の美術作品には、どのような違いがあるかを、自分ながらに考えてみることを。	120分
		事後学修	今日の授業内容や学習方法を、授業時のノートを見ながら再び復習すること。この授業では、毎回この復習を必ずすることを希望します。	120分
2	第一部 木4/16	西洋美術史から見た日本美術史 各論1-① 仏教伝来と飛鳥時代	仏教伝来と飛鳥時代について、鑑賞と解釈の方法や、建築、絵画、彫刻、工芸の定義について説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
3	第一部 木4/23	各論1-② パルテノン神殿と奈良の法隆寺	パルテノン神殿と奈良の法隆寺について、伽藍造営経緯、作品様式とアルカイックスマイル等諸技法を解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	第一部 木4/30	各論1-③ 薬師寺と唐招提寺	薬師寺と唐招提寺について、歴史記念建造物や世俗建築の概略を説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
5	第一部 木5/7	各論1-④ 天平時代、奈良盛期	天平時代、奈良盛期におけるクラシック様式について、国家事業としての東大寺造営との関連で解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	第一部 木5/14	西洋美術史から見た日本美術史 各論2-① 平安時代の美術と西洋への影響	浄瑠璃寺、平等院及びサグラダファミリアやモネの絵画を鑑賞し、平安時代の美術と西洋への影響について説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	各論2-② 曼荼羅と密教尊像	大陸より伝承した図像形式である曼荼羅と密教尊像を解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	第一部 木5/28	各論2-③ 絵巻物とやまと絵	絵巻物とやまと絵における、画面構成法、説話表現について説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
9	第一部 木6/4	西洋美術史から見た日本美術史 各論3-① 鎌倉時代における寺院建築	鎌倉時代における寺院建築再興や、大仏様と禅宗様について解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	第一部 木6/11	各論3-② 絵画、彫刻、工芸における鎌倉様式	絵画、彫刻、工芸における鎌倉様式について、精緻な肖像に見る写実や、日本とヨーロッパの写実表現の概略を説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
11	第一部 木6/18	各論3-③ 室町時代 楼閣建築と庭園造営	室町時代における楼閣建築と庭園造営について、パラッツォ、ヴィッラの歴史と並行して解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	第一部 木6/25	各論3-④ 水墨画、詩画軸山水 雪舟	水墨画、詩画軸山水、雪舟について、書斎と風景描写、同時代のルネサンス風景画とともに説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	授業まとめ	前学期の授業を俯瞰して、授業のまとめを致します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	これまで学んだ内容について、時代順に、それぞれの時代の芸術の特色について、もう一度全体をよく復習してください。	120分
		事後学修	初回からの講義ノートを見直し、知識の整理をしてください。	120分
14	第一部 木7/9	理解度の確認 1 授業内試験	理解度の確認として、授業内試験を実施する予定です。 解説や振り返りも行います。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	授業内試験の準備。前期内容の振り返り。	120分
		事後学修	授業内試験の整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分
15	第一部 木7/16	理解度の確認 2 フィードバック	理解度の確認として、フィードバックを実施致します。 解説や振り返りを行います。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	フィードバックの準備。前期内容の振り返り。	120分
		事後学修	フィードバックの整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	石井 香絵	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特に無し。

【授業方法】
講義形式。レジュメ、スライド、視聴覚機器を使用し作例を具体的に紹介しながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて実施

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に無し。授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
木曜 1 限、授業前後に受け付ける。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月9日	イントロダクション及び導入講義	「芸術」「美術」とは何か 図像・様式と写実の歴史
		この回の到達目標	「芸術」「美術」の基本的概念の把握。
		事前学修	「芸術」「美術」について自身の知識、見解を整理しておく。120分
		事後学修	美術史学の基本事項について復習。120分
2	4月16日	近代の西洋と日本	20世紀前後の西洋と日本① 写実主義の展開 日本江戸と近代化
		この回の到達目標	近代における西洋と日本の影響関係の把握。
		事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。120分
		事後学修	19世紀東西文化の復習。120分
3	4月23日	近代の西洋と日本	20世紀前後の西洋と日本② 印象派とジャポニスム 日本近代化
		この回の到達目標	印象派を中心とする東西の影響関係の理解。
		事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。120分
		事後学修	ジャポニスムについて復習。120分
4	4月30日	世紀末芸術	世紀末芸術 象徴主義、アール・ヌーヴォーの展開
		この回の到達目標	19世紀末の表現形式の理解。
		事前学修	世紀末芸術について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。120分
		事後学修	世紀末芸術の思想・視覚表現について復習。120分
5	5月7日	表現主義とキュビズム	表現主義とキュビズム マティス、ピカソの時代 色とかたちの追求
		この回の到達目標	20世紀初頭のムーブメントの理解。
		事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。120分
		事後学修	表現主義とキュビズムについて復習。120分
6	5月14日	ダダイズム、シュルレアリスム	ダダイズム、シュルレアリスム ツァラ、デュシャン、ブルトンの時代
		この回の到達目標	第一次世界大戦後の美術状況の理解。
		事前学修	20世紀前半の美術、文学活動について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。120分
		事後学修	ダダ、シュルレアリスムについて復習。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日	戦前・戦後の日本美術	前衛と戦争の影 占領下とその後の日本美術	
		この回の到達目標	占領下とその後の日本美術について理解。	
		事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	戦前、戦後美術の復習。	120分
8	5月28日	戦後の西洋美術	アンフォルメル、アクションの時代① 抽象表現主義 未定形の表現	
		この回の到達目標	戦後の抽象芸術について理解。	
		事前学修	戦後西洋美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	アンフォルメル、抽象表現主義の復習。	120分
9	6月4日	日本の前衛美術	アンフォルメル、アクションの時代② アンフォルメル旋風と日本 具体美術協会	
		この回の到達目標	50年代日本の表現展開について理解。	
		事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	50年代日本美術の復習。	120分
10	6月11日	戦後アメリカ美術	ネオダダ、反芸術① カラー・フィールド・ペインティングからネオ・ダダへ	
		この回の到達目標	50年代アメリカの美術状況について理解。	
		事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	50年代日本とアメリカ美術の復習。	120分
11	6月18日	日本の前衛美術	ネオダダ、反芸術② 読売アンデパンダン展の時代とその後	
		この回の到達目標	60年代日本の表現展開について理解。	
		事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	60年代日本美術の復習。	120分
12	6月25日	ミニマル、コンセプチュアル・アート	ミニマル・アート、もの派、コンセプチュアル・アート 要素の抽出 ミニマルへの普遍的美意識	
		この回の到達目標	日本と西洋におけるミニマル・アート、コンセプチュアル・アートの理解。	
		事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	ミニマル・アート、コンセプチュアル・アートの復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	ポップ・アート	ポップ・アート 日用品、マス・メディアへの視点 イメージの提示	
		この回の到達目標	アメリカを中心とするポップ・アートの展開について理解。	
		事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	ポップ・アートについて復習。	120分
14	7月9日	新表現主義	シミュレーショニズム、ニュー・ペインティング 未視感から既視感へ 新表現主義の台頭	
		この回の到達目標	80年代の表現展開について理解。	
		事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	シミュレーショニズム、ニューペインティングについて復習。	120分
15	7月16日	まとめ	まとめ、現代の動向	
		この回の到達目標	授業全体のまとめおよび00年代以降の展開について理解。	
		事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	授業全体の復習。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	河原 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式。パワー・ポイント、視聴覚機器を用いて、数多くの作品を映像などで紹介しながら進める。随時リアクションペーパーを行い、事後にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などでフィードバック（講評）する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。						2						
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。							2					
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。								2				
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業中でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『長寿と画家 巨匠たちが晩年に描いたものとは?』	河原 啓子	フィルムアート社	2019年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業前後、授業講堂にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アートジャーナリスト、アートドキュメンタリー作家としての、取材、インタビューなど。
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場取材によるタイムリーな情報などを授業で反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 9月14日 9月15日	授業の方法と目的の概説	芸術とは何か 私たちの視野を広げてくれる芸術 アートの存在意義	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
2	第1部 9月21日 9月22日	芸術家の創造・思想・人生 (1) フランシスコ・デ・ゴヤ	近代の先駆者 さまざまな試み	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
3	第1部 9月28日 9月29日	芸術家の創造・思想・人生 (2) ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	風景画の意義 自然と人間	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
4	第1部 10月5日 10月6日	芸術家の創造・思想・人生 (3) エドガー・ドガ	社会を見つめるまなざし 写真の影響	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
5	第1部 10月12日 10月13日	芸術家の創造・思想・人生 (4) クロード・モネ	《印象・日の出》当時のジャーナリズムをふり返る 印象派とは	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
6	第1部 10月19日 10月20日	芸術家の創造・思想・人生 (5) オーギュスト・ルノワール	酷評された作品 世論とは何か 女性表現の開拓	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 10月26日 10月27日	芸術家の創造・思想・人生 (6) エドヴァルド・ムンク	《叫び》はなぜ人々を魅了するのか 病、死をどうとらえるか	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
8	第1部 11月9日 11月10日	芸術家の創造・思想・人生 (7) アンリ・マティス	フォーヴィスム（野獣派）とは 《ジャズ》最晩年の作品	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
9	第1部 11月16日 11月17日	芸術家の創造・思想・人生 (8) ジョルジュ・ルオー	キリスト教絵画 ヨーロッパの精神文化 独自の世界を構築	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
10	第1部 11月23日 11月24日	芸術家の創造・思想・人生 (9) パブロ・ピカソ	キュビスム（立体派）とは ピカソの革新とは何か	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
11	第1部 11月30日 12月1日	芸術家の創造・思想・人生 (10) マルク・シャガール	夢や愛を描く 世界的活躍の軌跡	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
12	第1部 12月7日 12月8日	芸術家の創造・思想・人生 (11) 葛飾北斎	江戸後期の浮世絵師の挑戦 ジャポニスムへの影響	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 12月14日 12月15日	芸術家の創造・思想・人生 (12) 横山大観	明治、大正、昭和をふり返る 富士の描写にみられるもの芸術家の創造・思想・人生	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
14	第1部 12月21日 12月22日	芸術家の創造・思想・人生 (13) 伊藤若冲 熊谷守一	わが道を行く画家たち 自分らしい生き方とは	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
15	第1部 1月18日 1月12日	まとめ	人生と芸術 芸術鑑賞の意義	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	木名瀬 紀子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。取り扱うジャンルによっては、パワー・ポイント、視聴覚機器などを用いて映像などで紹介しながら講義を進める。リアクションペーパーなどを利用して各自の意見を提出してもらうこともある。それらは事後にフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などで講評する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。					2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。						2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。							2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の講義中にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に指示する。				

【オフィスアワー】
授業の前後に受け付ける。 メールアドレス：nrkinase@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	授業内容と関連。
実務経験に基づく実践的教育の内容		都留文科大学、明治大学ほかで美術史、芸術学、絵画論などを担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	授業の方法と目的の概説	序論Ⅱ：芸術論Ⅱについて 授業の紹介、オリエンテーション。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、この授業の概要と目的を考察し、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	最初ですから、シラバス全体をよく読み、西洋と日本の美術には、どのような違いがあるかを、自分ながらに考えてみることに。	120分
		事後学修	今日の授業内容や学習方法を、授業時のノートを見ながら再び復習すること。この授業では、毎回この復習を必ずすることを希望します。	120分
2	第一部 木9/24	西洋美術史から見た日本美術史 各論4-① 安土桃山、織豊時代	安土桃山、織豊時代について、 国宝姫路城を例として説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
3	第一部 木10/1	各論4-② 西洋美術の伝播と導入 暮らしを彩る工芸意匠、狩野派	西洋美術の伝播と導入、暮らしを彩る工芸意匠について、 狩野派、茶の湯と茶室、数寄屋造から和式家屋への展開を解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	第一部 木10/8	各論4-③ 宗達光琳派	宗達光琳派について、 季節の推移を味わい、ルネサンスの風神（ゼフュロス）画も説明します。。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
5	第一部 木10/15	西洋美術史から見た日本美術史 各論5-① ロココの雅宴画 寛文美人画と浮世絵	ロココの雅宴画、寛文美人画と浮世絵について、 師宣肉筆、木版製作工程を解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	第一部 木10/22	各論5-② 春信、歌麿、広重、北斎などの錦絵	春信、歌麿、広重、北斎などの錦絵について 色彩や輪郭、パリの日本美術流行とともに説明します。。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	各論5-③ 舶来機器と洋風絵画 源内	舶来機器と洋風絵画について 源内、蘭学と油彩、オランダ絵画の影響を解説します。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	第一部 木11/5	各論5-④ 文人画、銅版、動植物絵	文人画、銅版、動植物絵について、 空気と線などによる遠近法、モナ・リザの空気遠近法、イタリアの美人画を説明します。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
9	第一部 木11/12	西洋美術史から見た日本美術史 各論6-① 学制発布と美術教育の始まり	学制発布と美術教育の始まり、印象派とパリ留学について、 明治以後の建築様式を解説します。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	第一部 木11/19	各論6-② 日本美術を鑑賞致します	日本美術を鑑賞致します。 伝統保持や復古再生について説明します。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
11	第一部 木12/3	各論6-③ アールヌーヴォー アールデコ 万国博覧会	アールヌーヴォー、アールデコについて、 建築装飾、工芸作品を多様に楽しみ、鑑賞する眼を養う。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	第一部 木12/10	各論6-④ 近現代における芸術 20世紀初め西洋美術の影響	近現代における芸術、20世紀初め西洋美術の影響について、 洋画や彫刻における充実の様相を説明します。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	授業まとめ	後学期の授業を俯瞰して、授業のまとめを致します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	これまで学んだ内容について、時代順に、それぞれの時代の芸術の特色について、もう一度全体をよく復習してください。	120分
		事後学修	初回からの講義ノートを見直し、知識の整理をしてください。	120分
14	第一部 木12/24	理解度の確認 1 授業内試験	理解度の確認として、授業内試験を実施する予定です。 解説や振り返りも行います。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	授業内試験の準備。後期内容の振り返り。	120分
		事後学修	授業内試験の整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分
15	第一部 木1/14	理解度の確認 2 フィードバック	理解度の確認として、フィードバックを実施致します。 解説や振り返りを行います。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	フィードバックの準備。後期内容の振り返り。	120分
		事後学修	フィードバックの整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	石井 香絵	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特に無し。

【授業方法】
講義形式。レジュメ、スライド、視聴覚機器を用いて具体的な作例を紹介しつつ授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。					2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。						2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。							2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて実施

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に無し。授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
授業前後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	複製技術とメディア	美術、視覚メディアと素材 画材の歴史 複製技術とマチエール メディア・アート考察	
		この回の到達目標	視覚メディアの歴史について把握	
		事前学修	日常的に使っている視覚メディア、今は使われなくなった視覚メディアについて自身の経験、見解を整理しておく。	120分
		事後学修	美術、視覚メディア史の基本事項について復習。	120分
2	9月24日	写真と絵画	写真と油絵① 写真の登場と美術、社会への影響	
		この回の到達目標	写真と絵画それぞれの役割と歴史について理解	
		事前学修	油絵、写真の歴史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	写真と油絵の歴史について復習。	120分
3	10月1日	写真と絵画	写真と油絵② 錦絵と写真鏡 “Photography”と「写真」	
		この回の到達目標	明治期の浮世絵と写真の役割について理解	
		事前学修	絵、写真の歴史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	写真と油絵の歴史について復習。	120分
4	10月8日	近代の複製技術	複製技術の展開① 出版文化と複製イメージ 製版の多様性	
		この回の到達目標	近代の様々な複製技術について理解	
		事前学修	版画、印刷史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	複製技術史の復習。	120分
5	10月15日	近代の複製技術	複製技術の展開② 銅版、石版、木口木版の隆盛	
		この回の到達目標	近代の様々な複製技術について理解	
		事前学修	版画、印刷史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	複製技術史の復習。	120分
6	10月22日	万国博覧会	博覧会の時代① 博覧会ブームの時代 万国博覧会	
		この回の到達目標	万博を中心とする博覧会の歴史について理解	
		事前学修	欧米、日本の近代化政策について予習。	120分
		事後学修	博覧会と近代化政策について復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	博覧会と作品観賞	博覧会の時代② 作品をみる「場所」考察	
		この回の到達目標	博覧会の流行と展開について理解	
		事前学修	欧米、日本の近代化政策について予習。	120分
		事後学修	博覧会と近代化政策について復習。	120分
8	11月5日	美術作品の「素材」	コラージュの登場と展開① 素材の拡張 キュビズム以後	
		この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
		事前学修	20世紀美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	コラージュのはじまりと展開について復習。	120分
9	11月12日	美術作品の「素材」	コラージュの登場と展開② 現代のコラージュとその文脈	
		この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
		事前学修	20世紀美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	コラージュの展開について復習。	120分
10	11月19日	美術作品の「素材」	ミニマリズムと素材① ミニマル・アート、もの派と素材	
		この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
		事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	ミニマル・アートについて復習。	120分
11	12月3日	美術作品の「素材」	ミニマリズムと素材② コンセプチュアル・アートと素材	
		この回の到達目標	美術作品における素材について理解	
		事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	コンセプチュアル・アートについて復習。	120分
12	12月10日	彫刻の定義と歴史	「彫刻」と「立体」 彫刻作品の定義と役割・歴史	
		この回の到達目標	彫刻作品の定義と役割・歴史について理解	
		事前学修	彫刻作品について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	彫刻史について復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	メディア・アート	メディア・アート史① 実験映像の時代とCG黎明期	
		この回の到達目標	メディア・アートの定義・歴史について理解	
		事前学修	メディア・アートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	メディア・アート史の復習。	120分
14	12月24日	メディア・アート	メディア・アート史② CGの発展、「マルチメディア」とは何か	
		この回の到達目標	メディア・アートの定義・歴史について理解	
		事前学修	メディア・アートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	メディア・アート史の復習。	120分
15	1月14日	まとめ	まとめ 美術と画材の拡張②	
		この回の到達目標	授業全体のまとめ。美術作品の「素材」についての再考。	
		事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	授業全体の復習。	120分

科目名	健康科学 I	担当者	佐藤 秀明	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
WHO憲章では健康について「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」と定義している。このことから健康を理解するには様々な視点から考える必要があるといえる。本講義では健康に関連するテーマ（諸問題や健康被害等）を取り上げ、健康を取り巻く環境について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯を通じて生活において重要な構成要素である「健康」について理解するために、健康問題や健康に関連する知識を学修する。また、それらを踏まえて、健康を保持増進するための環境について健康を自主的・総合的に考え、的確に判断する能力を修得する。

【履修条件】
健康についての関心を持ち、シラバスやガイダンスを通じて講義内容や授業方法を理解して履修すること。

【授業方法】
授業形態は、講義である。授業時にレジメおよび関連する資料を配布する。パワーポイントや視聴覚資料を用いて進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ピアレビュー（第4回、12回目）、ミニッツペーパー（適宜）、課題レポート（第15回目）を活用する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「健康とは何か」を説明できる。				2	2	2	2				
②	健康被害について、具体例を示し説明できる。				2	2	2	2				
③	健康を取り巻く環境について具体例を示し説明できる。				2	2	2	2				
④	社会的な健康問題について、関連する情報を用いて説明できる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	到達目標①②についての知識が身についているかを確認する。	5	5									10
レポート等	到達目標④についての知識が身についているかを、レポートにより評価する。				20							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解答及び解説、レポート課題の講評をする。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会を変える健康のサイエンス 健康総合科学への21の扉		東京大学医学部健康総合科学科 編	東京大学出版会	2016	参考書	任意
健康格差		マイケル・マーモット	日本評論社	2017	参考書	任意
シンプル衛生学公衆衛生学2019		鈴木 庄亮（監修）	南江堂	2019	参考書	任意
備考	なし					

【オフィスアワー】
月、火曜日 12：10～13：00 研究室 ※事前に連絡をしてください。e-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	健康とは何か	1. ガイダンス（講義計画、授業内試験、小テスト・レポート課題等の説明）の内容を説明する 2. 事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法について説明する 3. WHOの健康の定義について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康の定義をから「健康とは何か」を説明できる。	
		事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する。 2. WHOの健康の定義（日本語及び英語）を読み、そこに示されている視点を調べてくる。	45分
		事後学修	ガイダンス内容と取り組み方などを振り返り、以降の学習計画を立てる。	30分
2	4/13	健康とウェルビーイング	1. 健康を理解する上で重要な「考え方」について説明する。 2. 予防医学について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ウェルビーイングとは何かを具体例を挙げて、また予防医学について説明することができる。	
		事前学修	健康におけるウェルビーイングとは何か調べ、価値判断と事実判断に基づく考え方を	45分
		事後学修	講義内容をまとめ、価値判断と事実判断に基づく考え方の具体例と予防医学について理解を深める。	60分
3	4/20	ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケア	1. 健康にかかわるサービスの提供について、先進国と発展途上国の関係の変遷について説明する。 2. 従来の健康づくりとヘルスプロモーションの目的、戦略、活動方法の違いを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアの理念について具体例を示し説明することができる。	
		事前学修	オタワ憲章とアルマ・アタ宣言を読み、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアについて調べてくる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアについて理解を深める。	60分
4	4/27	健康診断の活用	1. 健康管理の手段として健康診断はどのように活用されるか、また検診と健診の違いを説明する。 2. ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康診断の意義とその活用方法について説明することができる。	
		事前学修	定期健康診断の情報（個人のもの）を準備する。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康診断の意義とその活用方法について理解を深める。	60分
5	5/4	環境と健康（気候変動による健康被害）	1. 人間の内部環境と外部環境の関係を説明する。 2. 気候変動による健康被害を知り、「緩和策」及び「適応策」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取り巻く環境による健康被害について説明することができる。	
		事前学修	物理的環境とホメオスタシス（恒常性）について調べてくる。	45分
		事後学修	講義内容をまとめ、人間の内部環境と外部環境の関係について理解を深める。	60分
6	5/11	環境と健康（公害による健康被害）	1. 化学的環境について説明する。 2. 公害によってもたらされる健康被害について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取り巻く環境による健康被害について説明することができる。	
		事前学修	身近な環境汚染問題について調べてくる。	45分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康被害を引き起こす環境汚染問題についての理解を深める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	環境と健康 (暑熱・寒冷環境と健康)	暑熱環境及び寒冷環境下での健康被害とその予防策及び対応策について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、暑熱環境及び寒冷環境によって引き起こされる健康被害、その対処法について説明できる。	
		事前学修	暑熱環境の健康被害である熱中症、寒冷環境の健康被害である低体温症について調べてくる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、暑熱環境及び寒冷環境下での健康被害とその予防策及び対応策について理解を深める。	90分
8	5/25	危機管理と健康（感染症）	1. 人類と感染症の関わりについて説明する。 2. 三大感染（エイズ、結核、マラリア）と顧みられない熱帯病を知り、グローバルヘルスの重要性を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、感染症とは何か具体例を示し説明することができる。	
		事前学修	新興感染症及び再興感染症について調べてくる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、感染症についての理解を深める。	60分
9	6/1	危機管理と健康（性感染症）	1. ウイルスと細菌による感染症の違いについて説明する。 2. 自然免疫と獲得免疫について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自然免疫と獲得免疫について説明することができる。	
		事前学修	人間の免疫機能について関連資料を調べてくる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、自然免疫と獲得免疫についての理解を深める。	60分
10	6/8	危機管理と健康（インフルエンザ）	1. 季節性と新型の違いを知り、適切な予防策と対応策を説明する。 2. インフルエンザの世界流行の歴史を概観し、流行がもたらした被害について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、季節性と新型インフルエンザの違いを知り、適切な予防策と対応策を説明することができる。	
		事前学修	インフルエンザの世界流行について関連資料を調べ、各国の取り組みについてまとめる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、季節性と新型インフルエンザの違いを知り、適切な予防策と対応策の理解を深める。	60分
11	6/15	現代人の病気	現代社会において罹患する特徴的な病気について、その原因と予防策を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日本人が罹患する病気とその原因について説明することができる。	
		事前学修	日本人に多い病気について関連資料を調べ、まとめる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、日本人が罹患する病気とその原因について理解を深める。	60分
12	6/22	統計と健康	保健統計から健康測定と健康指標について示し、どのような取り組みがなされているかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、統計データの見方とそこから社会が抱える健康問題を示すことができる。	
		事前学修	「健康日本21」について調べ、その目的と具体的な取り組みについてまとめる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、統計データの見方とそこから社会が抱える健康問題を示すことができるように理解を深める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	健康の社会的決定要因	健康格差を生み出す社会的要因について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康の社会決定要因とは何かを説明することができる。また、その原因を示し解決策を述べることができる。	
		事前学修	配付資料及び関連する資料を読み、健康格差とそれを生み出す社会的な要因についてまとめてくる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康格差の現状を踏まえ、その原因と解決策について理解を深める。	60分
14	7/6	授業内試験と解説	授業内試験（60分）及び、解説（30分）を行う	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康を取り巻く環境、健康被害、健康に関する諸問題について具体例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	試験に向けて、講義内容をまとめる。	120分
		事後学修	試験の解答及び解説内容をまとめ、自己評価を行う。疑問点や不明点を挙げ、質問を準備する。	30分
15	7/13	健康を取り巻く環境について考える	健康に関連する諸問題や健康被害についてまとめる	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康とは何か健康問題と関連付けて説明することができる。	
		事前学修	全ての講義内容をまとめて課題レポートを作成する。	180分
		事後学修	授業の振り返りを行い、健康を取り巻く環境について理解を深める。	90分

科目名	健康科学Ⅱ	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人生100年時代といわれるが、寿命と健康が同じものとして考えることは難しい。健康の保持増進に関連する「ストレス」や「生活習慣」に関する知識を学修し、主体的に健康行動を実践できる態度を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯を通じて生活において重要な構成要素である「健康」について理解するために、健康課題や健康の保持増進に関連する知識を学修する。また、それらを踏まえて、健康課題を探究し、その課題に対して総合的に判断する能力を修得する。

【履修条件】
健康についての関心を持ち、シラバスやガイダンスを通じて講義内容や授業方法を理解して履修すること。

【授業方法】
授業形態は、講義である。授業時にレジメおよび関連する資料を配布する。パワーポイントや視聴覚資料を用いて進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ピアレビュー（第3回、7回、13回目）、ミニッツペーパー（適宜）、課題レポート（第15回目）を活用する

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「健康とは何か」を説明できる。				2	2	2	2				
②	数多くの健康情報を体系的にまとめ、主体的に正しく判断できる				2	2	2	2				
③	健康の保持増進の方法について科学的な根拠を示し説明できる。				2	2	2	2				
④	健康課題について、問題提起し関連する知識を用いてその解決策を示すことができる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	到達目標①②についての知識が身についているかを確認する。	5	5									10
レポート等	到達目標④についての知識が身についているかを、レポートにより評価する。				20							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解答及び解説、レポート課題の講評をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教養の健康科学	高井 茂、中井 定	創成社	2017	参考書	任意
現代人のからだと心の健康―運動の意義と応用	平木場 浩二	杏林書院	2006	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月、火曜日 12：10～13：00 研究室 ※事前に連絡をしてください。e-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	健康寿命と平均寿命	1. ガイダンス（講義計画、授業内試験、小テスト・レポート課題等の説明）の内容を説明する 2. 事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法について説明する 3. 健康寿命について説明する。また健康日本21の目標についても触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康寿命から「健康とは何か」を説明できる。	
		事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する。 2. 健康寿命について調べてくる。	45分
		事後学修	ガイダンス内容と取り組み方などを振り返り、以後の学習計画を立てる。	30分
2	9/21	健康を損なう要因	健康を損なう要因の一つである喫煙、アルコールのリスクを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、喫煙、アルコールのリスクを説明することができる。また、それらの対策として講じられている取り組みについて説明することができる。	
		事前学修	受動喫煙、サードハンド・スモークの被害について関連資料を調べてくる。	45分
		事後学修	講義内容をまとめ、喫煙、アルコールのリスクについての理解を深める。	60分
3	9/28	心の健康	1. メンタルヘルスについて説明するとともに、心理検査の用いて自己のメンタルヘルスについて理解する。 2. ストレスのメカニズムについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、心理検査の使用と評価方法について説明することができる。	
		事前学修	メンタルヘルスについて調べる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、ストレスのメカニズムとメンタルヘルスについて理解を深める。	90分
4	10/5	ストレスマネジメント	1. 認知的評価とストレスへの対処について説明する。 2. ストレスコーピングについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ストレスのメカニズムと対処方法について説明することができる。	
		事前学修	ストレスのメカニズムについて復習する。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、ストレスのメカニズムと対処方法について理解を深める。	60分
5	10/12	生活習慣と健康	肥満を栄養・運動・休養の視点から概観し、健康に大きな影響を及ぼす生活習慣の重要性を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生活習慣と肥満の関係について説明することができる。	
		事前学修	自らの生活習慣（栄養・運動・休養）を、配布シートに記入してくる。	90分
		事後学修	講義内容をまとめ、生活習慣と肥満の関係について理解を深め、自身の生活習慣の振り返りを行う。	30分
6	10/19	栄養と健康	1. 身体を作る基本ともいえる三大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂肪）の吸収メカニズムとその働きについて説明する。 2. その他の栄養素（ビタミンとミネラル）の働きについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、栄養素の消化吸収について説明することができる。	
		事前学修	五大栄養素について調べてくる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、栄養素の消化吸収について理解を深める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	健康的な食生活	健康の保持増進・質を向上させるための「食生活」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康にかかわる食行動について説明することができる。	
		事前学修	食品の表示制度について調べる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康にかかわる食行動について理解を深める。	90分
8	11/9	運動と健康 体力とその必要性	1. 健康に関連する体力要素を知り、授業では、簡単な自己診断を行い健康体力への理解を深める。 2. 活性酸素の功罪	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康に影響を及ぼす運動の功罪について説明することができる。	
		事前学修	運動が健康に与える良い影響と悪い影響について調べる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康に影響を及ぼす運動の功罪について理解を深める。	60分
9	11/16	健康的な運動	「運動不足」による健康への悪影響とともに、「運動のやりすぎ」による健康被害について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康に影響を及ぼす運動の功罪について説明することができる。	
		事前学修	運動が健康に与える良い影響と悪い影響について調べる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康に影響を及ぼす運動の功罪について理解を深める。	60分
10	1/23	運動処方について	健康の維持増進を目的とした運動プログラムの考え方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、健康の維持増進を目的とした運動プログラムの作成手順および考え方を説明することができる。	
		事前学修	ストレングストレーニング（主に自重トレーニング）、エアロビクストレーニングについて調べる。	90分
		事後学修	講義内容をまとめ、運動処方について理解を深める。	30分
11	11/30	疲労と休養	疲労のメカニズムと休養の適切な選択について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、疲労の種類・メカニズムと休養の種類の示し、適切な休養を選択することができる。	
		事前学修	身体的な疲労と精神的な疲労について調べる。 積極的休養と消極的休養について調べる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、疲労のメカニズムと休養の選択についての理解を深める。	60分
12	12/7	睡眠と健康	睡眠のメカニズムについて示し、睡眠の質及び量について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、睡眠のメカニズムを示し、質の高い睡眠とは何か説明することができる。	
		事前学修	適切な睡眠の有無が健康に及ぼす影響について調べる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、睡眠のメカニズムと睡眠の質について理解を深める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	コミュニケーションと健康	人との関わりが健康に与える影響に示し、コミュニケーションの必要性について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、コミュニケーションの有無が健康に及ぼす影響について説明することができる。	
		事前学修	孤独死の原因について調べる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康と関係するコミュニケーションについての理解を深める。	30分
14	12/21	授業内試験と解説	授業内試験（60分）及び、解説（30分）を行う	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康を取り巻く環境、健康被害、健康に関する諸問題について具体例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	試験に向けて、講義内容をまとめる。	120分
		事後学修	試験の解答及び解説内容をまとめ、自己評価を行う。疑問点や不明点を挙げ、質問を準備する。	30分
15	1/18	健康行動について考える	健康に影響を及ぼす、ストレス及び生活習慣についてまとめる	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康とは何かをストレス及び生活習慣に関する知識を用いて説明することができる。	
		事前学修	全ての講義内容をまとめて課題レポートを作成する。	120分
		事後学修	授業の振り返りを行い、健康を獲得するための健康行動について理解を深める。	30分

科目名	自然人類学	担当者	松浦 秀治	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人類の特質を理解するには、まず哺乳類・霊長類の特徴を捉え直しておく必要がある。このため、授業では「霊長類とはどういう哺乳類か」を概観した上で、現在のヒトの身体的特徴を説明する。そうしたヒトの身体形質の特徴が、ヒトの持つ特殊な生活様式と環境とに強く関係していること、更には「直立姿勢と二足歩行」という特性が、大きな脳と小さな顔面、音声言語の獲得、身体の有毛性、家族の形成などのヒトの諸特徴と深く関連している点なども解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「生物としてのヒト」という視点を持ち、ヒトの身体特徴を学習することで、ヒトの身体形質と文化環境は不可分の関係にあることを理解する。また、ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を培い、「人類の真の特徴」とは何かを正しく捉える基礎力を養成することを目的とする。この講義によって、「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を学ぶ。また、それに基づいて、「ヒトが文化を創ったというよりは、文化がヒトを創り上げた」という観点を説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
シラバスやオリエンテーションを通じて授業の概要や評価方法などを理解した上で履修すること。教科書は用いないので、まずは出席し、講義をしっかりと聴くことが大切と考える。私語は厳禁とする。

【授業方法】
プリントを配り、スライドを写しながら講義・解説する（スライドの撮影は厳禁）。質問があれば、いつでも挙手すること（質疑応答は出席者全員の前で行うため、授業中に質問すること）。小テストの翌週はテストの内容解説も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜質問と議論を授業中にて繰り返しながら講義内容の浸透を図る。また、全授業を通して行う計6回の小テストとこの解説により、双方向型のコミュニケーションを取る時間を確保する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を理解し説明できるようになる				2		2	2				
②	「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を学び、これに基づき「文化がヒトを創り上げた」という観点を説明できるようになる					2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	到達目標①，②に関して，小テストを資料参照不可で6回行うことで評価する（事務が認める公的理由によるテスト欠席は証明書類の提出で考慮）。受験回数が規定（4回）に達しない場合は採点拒否（E評価）とする。	50	50									100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパー内の意見に関しては、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。プリントを配布し、スライドを写す（スライドの撮影は厳禁）。				

【オフィスアワー】
第一部：火曜14:40～16:10（授業時間内に随時質問を受け付ける） 授業講堂にて。第二部：火曜16:20～17:50（授業時間内に随時質問を受け付ける） 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7 第二部 火4/7	オリエンテーションおよび イントロダクション 導入講義	授業の目的・方法、評価方法、授業スケジュール、受講時の注意等および自然人類学に関するイ ントロダクション	
		この回の 到達目標	授業の概要や評価方法などを理解し、授業に取り組む準備をすることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、内容を確認するとともに、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	第1回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（質問は第2 回の授業時に受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
2	第一部 火4/14 第二部 火4/14	ヒトに至る生物の系譜（1）	ヒトの分類上の位置、各分類群の特徴（動物、脊椎動物）	
		この回の 到達目標	ヒトの分類上の位置および動物と脊椎動物の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	第1回で配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（特に、プリントに記 された「授業計画（授業全体としての「目次」）」を参照）。また、第1回で理解できなかった箇所があれば、 質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること）。	120分
		事後学修	第2回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、 前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
3	第一部 火4/21 第二部 火4/21	ヒトに至る生物の系譜（2）	各分類群の特徴（脊椎動物の中の哺乳類）	
		この回の 到達目標	脊椎動物の中の哺乳類の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参 照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴 いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、 前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習を する。	120分
4	第一部 火4/28 第二部 火4/28	ヒトに至る生物の系譜（3）	霊長類とはどういう哺乳類か 小テスト（出題範囲は第2回・第3回の授業内容）	
		この回の 到達目標	霊長類とはどういう哺乳類かを理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画 を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴い てもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テスト への準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、 前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
5	第一部 火5/5 第二部 火5/5	ヒトの定義	ヒトの定義の解説	
		この回の 到達目標	ヒトの定義を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参 照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴 いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、 前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習を する。	120分
6	第一部 火5/12 第二部 火5/12	ヒトの特徴（1）	直立姿勢と二足歩行 小テスト（出題範囲は第4回・第5回の授業内容）	
		この回の 到達目標	直立姿勢と二足歩行に関する基礎知識を学び、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画 を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴い てもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テスト への準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、 前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19 第二部 火5/19	ヒトの特徴 (2)	直立姿勢と二足歩行 (続)	
		この回の到達目標	直立姿勢と二足歩行に関する基礎知識を学び、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
8	第一部 火5/26 第二部 火5/26	ヒトの特徴 (3)	直立姿勢と二足歩行 (続) (参考：ヒトは早く立ち上がりすぎた?) 小テスト (出題範囲は第6回・第7回の授業内容)	
		この回の到達目標	直立姿勢と二足歩行というヒトの特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
9	第一部 火6/2 第二部 火6/2	ヒトの特徴 (4)	文化（文化と身体形質）	
		この回の到達目標	文化とは何かを学び、また「文化がヒトを創り上げた」という観点を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
10	第一部 火6/9 第二部 火6/9	ヒトの特徴 (5)	咀嚼器官（咬器、歯と顎）の退化 小テスト（出題範囲は第8回・第9回の授業内容）	
		この回の到達目標	ヒトの歯と顎の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
11	第一部 火6/16 第二部 火6/16	ヒトの特徴 (6)	脳の発達（左右差、一側優位性）	
		この回の到達目標	ヒトの脳の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	第一部 火6/23 第二部 火6/23	ヒトの特徴（7）	生理的早産（習慣的早産）、成長遅滞 小テスト（出題範囲は第10回・第11回の授業内容）	
		この回の到達目標	ヒトにおける生理的早産と成長遅滞について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
13	第一部 火6/30 第二部 火6/30	ヒトの特徴（8）	無毛性、音声言語	
		この回の到達目標	ヒトにおける無毛性および音声言語について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
14	第一部 火7/7 第二部 火7/7	ヒトの特徴（9）	繁殖期の季節性欠如(周年化)と発情期の非顕現化(長期化) 小テスト（出題範囲は第12回・第13回・第14回の授業内容）	
		この回の到達目標	ヒトにおける繁殖期の季節性欠如と発情期の非顕現化について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
15	第一部 火7/14 第二部 火7/14	ヒトの特徴（10）	性差 まとめ	
		この回の到達目標	性差に関する基礎的知識を学ぶ。また、授業全体を通して、ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を理解し説明できるようになり、「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を身につけることによって、「文化がヒトを創り上げた」という観点について具体例を挙げつつ説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	半期の授業を振り返り、これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	思想文化論A【生きる方法の宗教的探究】	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 舘野担当の発展教養Aでは、多くの思想・宗教の基礎にある「いかに生きるか」に着目し、様々な課題を検討し思考を高めることによって、生きる基礎を創ることを行なっていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
題材に対して自分の成長に結び付けたレポートを書き、それを発表し、授業者からの講評を聞き、さらにレポートを書くということを繰り返し、より思考を深め、自らを成長させてゆく形態で行う。レポートは次回授業開始時に講評する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート、小テスト答案などを提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2				
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で発表に対し講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。 ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tatenom.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業の内容を的確に理解する。	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について詳細に説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、この授業の内容、形式などを的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	授業者の話をよく聞き、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスとメモ、ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	4/14	宗教の定義とその根本義について	「宗教」の定義に関して考察し、その基本となる意義を説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、宗教とその根本義について理解し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	「宗教」という言葉の定義について、詳しく調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	4/21	人工知能について	前回のレポート紹介と講評。人工知能の発展によって人間の環境が大きく変わることに、それに対応するためにどのようにすればいいか、生きればいいのかについて扱う。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、人工知能について考察し、どのように生きればいいのかを考察し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	人工知能について、現状について調査し、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	4/28	人工知能を超えるもの	前回のレポート紹介と講評。人工知能を超えるものについて扱う。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、人工知能を超えることについて考察し、そのためにどのように生きればいいのかを考察し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	人工知能を超えるものについて調査し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	5/5	何を求めて生きているか	前回のレポート紹介と講評。自分が何を求めて生きているかに関する受講者の話を聞き、さらに授業者からの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、何を求めて生きているかを明確にし、その基本に立って生き、それを明確に説明できること。	
		事前学修	自分が何を求めて生きているかに対し考察しノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	5/12	自分の主人公について	前回のレポート紹介と講評。自分の主人公とは何かを考察し、さらに授業者からの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、自分の主人公を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	自分の主人公について調査、考察し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	ここまでの振り返りと講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に紹介し、それについてさらにレポートを書く。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、ここまでの授業を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
		事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	5/26	執われを超えること	前回のレポート紹介と講評。執われを超えることについて授業者の話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、自分の執われと、それを超えることを明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	自分が執われていることについて、現状を検討してノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	6/2	精神的次元の展開	前回のレポート紹介と講評。精神的次元の展開について話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、精神的次元の展開の内容を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	精神的次元の展開について考察し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	6/9	欲求階層説における自己超越	前回のレポート紹介と講評。欲求階層説における自己超越などの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、欲求階層説における自己超越の内容を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	欲求階層説について調査し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	6/16	近代科学の特徴と欠点	前回のレポート紹介と講評。近代科学の特徴と欠点を考察し、そこからどのように展開していけばいいかについて検討し、受講者は授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、近代科学の特徴と欠点についての内容を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	近代科学と宗教について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	6/23	精神的な弱さとその超克について	前回のレポート紹介と講評。精神的な弱さとその超克についての話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、精神的な弱さとその超克についての内容を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	精神的弱さについて調査し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/30	精神集中		前回のレポート紹介と講評。精神集中について、受講者は調べてきたことを発表し、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
		この回の到達目標	到達目標に関して、精神集中の内容、効果についての内容を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	精神集中、その効果について調査し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	7/7	振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
		この回の到達目標	到達目標に関して、第8回から第13回までの授業内容を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	7/14	全体の振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
		この回の到達目標	到達目標に関して、全体の授業を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
		事前学修	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	思想文化論A【法学部のためのイスラーム概説】	担当者	長谷部 圭彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 長谷部担当の思想文化論Aでは、「法学部のためのイスラーム概説」を講義する。法学部で学習する法学、政治学、経済学、経営学、新文学、外国語等を、多様な視点から再考するための素材を提供する。具体的には、イスラームの教義、世界秩序観、法、奴隸制、税制、神秘主義等を概観したうえで、現代の事象を検討する。対象とする時期は、7～12世紀および20～21世紀である。13～19世紀は「思想文化論B」で扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式で行う。毎回質問用紙を配布するので、授業に関する質問等を記入すること。翌週、可能な限り回答したい。14回目の講義で試験を実施し、15回目の講義で返却・解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問用紙を用いた双方向的な講義。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。								2	2			
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問用紙に記された質問には、翌週回答する。14回目の講義で実施する試験は、15回目の講義で返却・解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『岩波イスラーム辞典』	大塚和夫他編	岩波書店	2002	参考書	推奨
『イスラームのとらえ方』	東長靖	山川出版社	1996	参考書	任意
『西アジア』上巻	屋形禎亮・佐藤次高	朝日新聞社	1993	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日2限（10:40-12:10）の前後、授業講堂において受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	現代の中東・イスラーム地域	2000年以降の「中東・イスラーム地域」について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、2000年以降の「中東・イスラーム地域」について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
2	第一部火 4/14	イスラーム生誕	イスラーム、ムハンマド、コーランについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、イスラーム、ムハンマド、コーランについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
3	第一部火 4/21	スンナ派とシーア派	正統カリフ、スンナ派、シーア派、ウマイヤ朝、アッバース朝について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、正統カリフ、スンナ派、シーア派、ウマイヤ朝、アッバース朝について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
4	第一部火 4/28	イスラーム的世界秩序と法	イスラーム的世界秩序、シャリーア、フィクフ、法源について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、イスラーム的世界秩序、シャリーア、フィクフ、法源について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
5	第一部火 5/5	法の担い手とその養成	スンナ派四法学派、シーア派一法学派、ウラマー、マドラサ、ワクフについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、スンナ派四法学派、シーア派一法学派、ウラマー、マドラサ、ワクフについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
6	第一部火 5/12	マムルークとイクター制	マムルーク、カリフの鼎立、イクター制について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、マムルーク、カリフの鼎立、イクター制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	スーフィーと聖者	スーフィズム、聖者、タリーカについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、スーフィズム、聖者、タリーカについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
8	第一部火 5/26	歴史的前提としてのオスマン帝国	オスマン帝国について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
9	第一部火 6/2	オスマン帝国の崩壊	オスマン帝国における秩序原理の再編、専制、立憲制、第一次世界大戦について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国における秩序原理の再編、専制、立憲制、第一次世界大戦について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習すること。その際、適宜参考文献を参照すること。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
10	第一部火 6/9	オスマン崩壊後の中東	アラブ諸国体制、トルコ共和国について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、アラブ諸国体制、トルコ共和国について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
11	第一部火 6/16	パレスチナ問題の行方	パレスチナ問題について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、パレスチナ問題について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
12	第一部火 6/23	イスラーム復興運動の展開	イスラーム復興運動について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、イスラーム復興運動について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	アラブの春とイスラーム国	アラブの春とイスラーム国について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、アラブの春とイスラーム国について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
14	第一部火 7/7	混乱のシリア、授業内試験	シリア情勢について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、シリア情勢について理解し、説明することができる。	
		事前学修	本講義全体の復習。	120分
		事後学修	再度、試験問題を解く。	120分
15	第一部火 7/14	試験解説、講義総括	試験問題を解説し、本講義を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、試験問題を解説することができる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習。	120分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	120分

科目名	思想文化論B【人生の意味の宗教的探究】	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 舘野担当の発展教養Bでは、多くの思想・宗教の基礎にある「いかに生きるか」に着目し、様々な課題を検討し思考を高めることによって、生きる基礎を創ることを行なっていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
2年次より履修可能。

【授業方法】
題材に対して自分の成長に結び付けたレポートを書き、それを発表し、授業者からの講評を聞き、さらにレポートを書くということを繰り返し、より思考を深め、自らを成長させてゆく形態で行う。レポートは次回授業開始時に講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	主に発表、発言と授業内レポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2				
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について詳細に説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、この授業の内容、形式などを的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	授業者の話をよく聞き、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスとメモ、ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	9/22	自分・自我・自己について	自分・自我・自己に関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、自分・自我・自己について理解し、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	自分ということについて考え、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	9/29	自分を超越えるということについて	前回のレポート紹介と講評。自分を超越えるということに関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、自分を超越えるということについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	前回のノート、レポート、それに対する自分の見解を読み直し、さらに思考して授業に備えておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	10/6	人間の次の段階について	前回のレポート紹介と講評。人間の次の段階に関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、人間の次の段階について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	人間の次の段階について広く調べ、思考し、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	10/13	仏教の仏・菩薩・神などについて	前回のレポート紹介と講評。仏教の仏・菩薩・神などに関しての話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、仏教の仏・菩薩・神などについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	仏教の仏・菩薩・神、ユダヤ教、キリスト教の神について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	10/20	仏教のダルマなどについて	前回のレポート紹介と講評。仏教のダルマ、ユダヤ教のルアッハ、キリスト教の pneuma に関する先人の見解、授業者による話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、仏教のダルマなどについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	仏教のダルマ、ユダヤ教のルアッハ、キリスト教の pneuma について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	第6回までの振り返りと講評	第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き、提出し、授業者はそれを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、ここまでの授業によって分かったことを理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	第6回までのノート、レポートを確認し、自分にとっての意味を明らかにし、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	11/10	人間が生きるための犠牲について	前回のレポート紹介と講評。人間が生きるための犠牲に関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、人間が生きるための犠牲について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	人間が生きるための犠牲について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	11/17	仏教に於ける戒と律	前回のレポート紹介と講評。仏教に於ける戒と律に関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、仏教に於ける戒と律について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	仏教に於ける戒と律について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	11/24	仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理	前回のレポート紹介と講評。仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理などに関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートを振り返り、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	12/1	唯識思想	前回のレポート紹介と講評。仏教の唯識思想の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、唯識思想について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	対象は自分の思考が現れたものであるという見解について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	12/8	華嚴思想に於ける唯心	前回のレポート紹介と講評。仏教の華嚴思想に於ける唯心思想の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、華嚴思想に於ける唯心について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートを振り返り、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	自分の主体について	前回のレポート紹介と講評。受講者は自分の主体に関する授業者の話聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、自分の主体について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	自分の主体とは何かについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	12/22	第8回から13回までの振り返りと講評	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、ここまでの授業によって分かったことを理解し、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのノート、レポートを確認し、自分にとっての意味を明らかにし、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	1/12	講義全体のまとめ	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出し、授業者はそれを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、について理解し、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	初回からのノート、レポートすべてを振り返り、自分にとっての意味を明らかにし、自分の見解を書いておく。	120分
		事後学修	初回からのノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	思想文化論B【法学部のためのオスマン史概説】	担当者	長谷部 圭彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 長谷部担当の思想文化論Bでは、「法学部のためのオスマン史概説」を講義する。法学部で学習する法学、政治学、経済学、経営学、新文学、外国語等を、多様な視点から再考するための素材を提供する。具体的には、支配体制、国際体系、ナショナリズム、自由と平等、法の継受、立憲制、議会制、外国投資などにつき、オスマン帝国を事例に検討する。対象とする時期は13～19世紀である。7～12世紀および20～21世紀は「思想文化論A」で扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式で行う。毎回質問用紙を配布するので、授業に関する質問等を記入すること。翌週、可能な限り回答したい。14回目の講義で試験を実施し、15回目の講義で返却・解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問用紙を用いた双方向的な講義。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。								2	2			
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問用紙に記された質問には、翌週回答する。14回目の講義で実施する試験は、15回目の講義で返却・解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オスマン帝国	小笠原弘幸	中央公論新社	2018	参考書	任意
オスマン帝国	鈴木董	講談社	1992	参考書	任意
オスマン帝国 500年の平和	林佳世子	講談社	2008	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日2限（10:40-12:10）の前後、授業講堂において受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	13世紀までの中東・イスラーム地域	13世紀までの「中東・イスラーム地域」について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、13世紀までの「中東・イスラーム地域」について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
2	第一部火 9/22	オスマン史1―君侯国から帝国へ	オスマン帝国の歴史のうち、1300年から1453年までについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1300年から1453年までについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
3	第一部火 9/29	オスマン史2―古典的支配体制の成立	オスマン帝国の古典的な支配体制について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の古典的な支配体制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
4	第一部火 10/6	オスマン史3―後期支配体制の形成	オスマン帝国の歴史のうち、1453年から1789年までについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1453年から1789年までについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
5	第一部火 10/13	オスマン史4―近代西洋国際体系への参入	オスマン帝国の歴史のうち、1789年から1876年までについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1789年から1876年までについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
6	第一部火 10/20	オスマン史5―二つのナショナリズム	オスマン帝国の二つのナショナリズムについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の二つのナショナリズムについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	オスマン史6―自由と平等	オスマン帝国の歴史のうち、1876年から1922年までについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1876年から1922年までについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
8	第一部火 11/10	法の継受1―オスマンと日本	オスマン帝国と日本における法の継受について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国と日本における法の継受について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
9	第一部火 11/17	法の継受2―オスマンの民法典論争	オスマン帝国の民法典論争について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の民法典論争について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習すること。その際、適宜参考文献を参照すること。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
10	第一部火 11/24	憲法と議会制1―オスマン憲法の制定	オスマン帝国の憲法について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の憲法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
11	第一部火 12/1	憲法と議会制2―二つの立憲制	オスマン帝国の第一次立憲制と第二次立憲制について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の第一次立憲制と第二次立憲制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
12	第一部火 12/8	外国投資と商法1―日本資本のトルコ投資	トルコ共和国における日本資本の導入について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、トルコ共和国における日本資本の導入について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	外国投資と商法2—政体の変容と法の連続性	オスマン帝国とトルコ共和国における法の連続性について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国とトルコ共和国における法の連続性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
14	第一部火 12/22	国制と法、授業内試験	オスマン帝国の国制と法について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の国制と法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	本講義全体の復習。	120分
		事後学修	再度、試験問題を解く。	120分
15	第一部火 1/12	試験解説、講義総括	試験問題を解説し、本講義を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、試験問題を解説することができる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習。	120分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後、経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ、社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し、社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
講義を中心に社会学の世界を探っていく。教科書中心の授業、教科書の具体的事例などに関し、資料や映像なども使用しながら進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。						2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し、その意義と限界について論じることができる。							2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、レポートに関する講評・解説などを振り返りながら実施します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もう一つの地域社会論―酒田大火30年、「メディア文化の街」ふたたび	仲川秀樹	学文社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜1限、授業前後、授業講堂にて。授業中に詳細を指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月 4 / 6	社会学の世界を知る	授業の内容、授業の進め方、試験・成績評価などの説明をします。教科書や参考文献の紹介など、授業の準備について説明します。社会学の授業の流れを知り、授業の準備となります。	
		この回の到達目標	社会学的考えることは何か、社会学の対象は何か、社会学の世界を理解し、説明することができます。	
		事前学修	授業内容の確認として、シラバスを読んでおいてください。社会学という学問と、地域社会を知るために、教科書の序文を読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業の進め方とシラバスを再点検し、教科書の序文を再読してください。	120分
2	第一部 月 4 / 13	社会学とメディアの関係	社会学の概念、社会学とメディアとの関係を説明します。社会学とメディアの密接な関係を知り、社会学の関心が広がります。	
		この回の到達目標	社会学とメディア文化の関係を考えます。メディア文化の視点が社会学で必要かを理解し、説明することができます。	
		事前学修	社会学という学問の理解と、メディア文化の関係を教科書、第1章の序文からよみとってください。	120分
		事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
3	第一部 月 4 / 20	社会学の対象とは	メディア文化が根ざしたフィールドワークを考えます。実証的方法の重要性を知り、社会学の学修スタイルがわかります。	
		この回の到達目標	社会学の対象領域を考えます。都市と地域を理解し、説明することができます。	
		事前学修	地域社会の特徴を、教科書第1章の1からよみとってください。	120分
		事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
4	第一部 月 4 / 27	地域社会に根差したメディア文化とは	洋画専門館「グリーン・ハウス」の存在がもたらした地域性を考えます。なぜ、メディア文化の街といわれたのかを学修します。	
		この回の到達目標	地域社会にある、地域性を考えます。地域の文化を知り、地域を理解し、その地域を説眼することができます。	
		事前学修	地域社会に根差した洋画専門館について、教科書第1章の2から内容をよみとってください。	120分
		事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
5	第一部 月 5 / 4	都市とメディア環境充足度とは	大都市と地方都市のメディア環境を比較し、都市の活性化のための計画を考えます。	
		この回の到達目標	その都市の活性度を知り、都市に何が必要かを理解し、説明することができます。	
		事前学修	メディア環境の意味を、教科書第1章の3からよみとってください。	120分
		事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
6	第一部 月 5 / 11	地域社会を時代から考える	1970年代のメディア文化を映像や資料をもとに学修します。	
		この回の到達目標	地域の歴史的背景を知るのは時代性の理解が必要です。時代と地域を理解し、説明することができます。	
		事前学修	1970年代の時代背景の特質を教科書第1章の4からよみとってください。	120分
		事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5／18	地域社会の事例	山形県酒田市中心市街地を対象に、地方都市のメディア文化の関係を学修します。	
		この回の到達目標	酒田市中心市街地の衰退要因である、酒田大火と中心市街との関係を理解し、中心市街地の詳細を説明することができます。	
		事前学修	酒田大火の歴史を教科書第2章の1と2からよみとってください。	120分
		事後学修	酒田大火によって街はどのように変貌したのかを自分なりに考えてください。	120分
8	第一部月 5／25	地域社会の衰退	中心市街地から郊外型社会へと流れが変わり、地域社会の衰退がもたらしたものは、郊外型社会です。その過程を学修します。	
		この回の到達目標	地域社会の変化を理解し、説明することができます。	
		事前学修	地方都市のモータリゼーションがもたらした状況を、教科書第2章の3からよみとってください。	120分
		事後学修	中心市街地の衰退の意味を、郊外型店舗登場との関係からまとめてください。	120分
9	第一部月 6／1	地域社会の活性化へ向けて	地域活性化へ向けた取り組みとしてのメディア文化的プロジェクトを学修します。	
		この回の到達目標	地域社会活性化の方法について理解し、説明することができます。	
		事前学修	地方都市活性化の取り組みを、教科書第3書の1から事前に学習してください。	120分
		事後学修	メディア文化的プロジェクトが若者に浸透した事例を講義ノートから振り返ってください。	120分
10	第一部月 6／8	地域社会の活性化へ向けて	地方アイドルによるまちおこしプロジェクトを学修します。	
		この回の到達目標	地方都市から発信したアイドルプロジェクトを考えます。アイドルでのまちおこしを理解し、説明することができます。	
		事前学修	地方アイドル登場の社会的背景を教科書第3書の2からよみとってください。	120分
		事後学修	地方アイドル登場によって街がどのように変化するのか、教科書講義ノートから予測してください。	120分
11	第一部月 6／15	アイドルによる地域活性化とは	アイドル誕生と商店街との関係、住民、まちの活性化を学修します。	
		この回の到達目標	商店街発アイドル誕生の過程を知り、中心市街地活性化の必要策を理解し、説明することができます。	
		事前学修	地方アイドルが商店街活性化に与えて影響を教科書第3章の3からよみとってください。	120分
		事後学修	商店街はどのように発展するのか、商店街アイドルの実態を振り返ってください。	120分
12	第一部月 6／22	地域社会の中心市街地活性化とは	地域社会の動向を握る中心市街地商店街の進化を学修します。	
		この回の到達目標	商店街の進化の背景にあるメディア文化プロジェクトを検証します。プロジェクトを理解し、商店街の進化の背景を説明することができます。	
		事前学修	商店街の活性化から、商店街の進化の過程を、教科書第4章の1から探ってください。	120分
		事後学修	郊外に比較し、衰退続ける商店街に、進化の可能性とは何か、講義ノートから振り返ってください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6／29	地方都市のメディア文化再考	洋画専門館「グリーン・ハウス」と「世界一と言われた映画館」ロードショー公開がもたらしたメディア文化の街を学修します。	
		この回の到達目標	メディア文化の街を知り、それが中心市街地に与えた影響を考えます。メディア文化の街を理解し、説明することができます。	
		事前学修	メディア文化の街の象徴として君臨していた洋画専門館を教科書第1章の2から再考してください。	120分
		事後学修	ドキュメンタリー映画になった地方都市の洋画専門館が果たした役割を講義から振り返ってください。	120分
14	第一部月 7／6	地域社会のこれから	メディア文化の街のゆくえを総括します。	
		この回の到達目標	メディア文化の街のこれからを考えます。地域社会はいかにあるべきかを理解し、説明することができます。	
		事前学修	地域社会のメディア文化的プロジェクト、「地方アイドル」「洋画専門館」の事実を再考してください。	120分
		事後学修	社会学的思考による地域社会の分析をこれまでの講義、実践的な取り組みから総括してください。	120分
15	第一部が 7／13	社会学と地域社会の総括	「社会学1」講義の総括、振り返ります。	
		この回の到達目標	社会学の世界における都市と地域、地域社会の存在を再考しながら、地方都市の現状を考えます。地方都市を理解し、地方都市の課題を説明することができます。	
		事前学修	本講義のノートと教科書で履修した部分を振り返ってください。	120分
		事後学修	教科書と講義用ノートから、社会学における地域社会の意義をまとめてください。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	中村 英代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後、経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ、社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し、社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
他の受講生が静かに、集中して講義を受けることを妨げない方。ガイダンスでは、本講義で何が学べるのか、学ぶことで何が得られるのか、受講生は半期で何をどの程度習得できるかについて説明します。

【授業方法】
指定テキストを用い、板書による説明を中心とした講義形式で行います。講義内容への理解を深めるために、視聴覚作品（DVD）も鑑賞します。レスポンスカードでの質問等には、次週の講義の冒頭でフィードバックを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。					2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し、その意義と限界について論じることができる。						2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。							2			2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎週の講義で提出するレスポンスカードの内容について、次の回の講義の冒頭で教員からコメントをフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学ドリルーこの理不尽な世界の片隅で』（¥1,900＋税）	中村 英代	新曜社	2017年	教科書	必携
備考	初回ガイダンスではテキスト（教科書）は使いません。テキストはガイダンスを開いて受講を決めた後に購入して下さい。本講義では毎週必ず指定テキストを使います。第2回目から毎週必ずテキストを持参して下さい。				

【オフィスアワー】
質問等は講義の前後の時間に授業講堂にて受けつけます。履修の際には、担当教員のウェブサイトも参考にして下さい。 http://www.hideyonakamura.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス&イントロダクション 導入講義	社会学とはどのような学問なのか、本講義で何が学べるのかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会学とはどのような学問かについて理解できる	
		事前学修	シラバスをしっかりと読んでおく。テキストを持っている場合は第1章を予習する。	120分
		事後学修	テキスト第1章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。	120分
2	4/15	現代の就労（1）：非正規雇用とワーキングプア	現代社会の「格差と貧困」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代社会の「格差と貧困」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第2章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第2章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
3	4/22	現代の就労（2）：格差の何が問題なのか	現代社会の「格差と貧困」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「格差と貧困」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第2章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第2章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
4	4/29	貧困と格差（1）：資本主義社会を理解する	「資本主義社会」の仕組みと成立条件について学修する。特に産業資本についてしっかり理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「資本主義社会」の仕組みと成立条件について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第2章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第2章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
5	5/6	貧困と格差（2）：現代の貧困	「貧困」が生じる背景と貧困をめぐる現状について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「資本主義社会」の仕組みと成立条件について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第2章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第2章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
6	5/13	恋愛と結婚（1）：恋愛と結婚はどのような関係にあるのか	「恋愛と結婚」は歴史的にどのような関係にあったかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「恋愛と結婚」の関係について3つのパターンがあることを理解し、私たちのよく知る恋愛・結婚はその中の一つのスタイルなのだということを理解できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第3章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第3章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	恋愛と結婚（２）：データからみる現代の結婚	「現代の結婚」の特徴である未婚率の現状についてデータに基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「現代の結婚」の特徴である未婚率の現状についてデータに基づいて理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第3章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第3章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
8	5/27	ジェンダー論（１）：「男らしさ／女らしさ」と生きづらさ	ジェンダー論の基礎を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「男らしさ／女らしさ」がもたらす生きづらさについて理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第4章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第4章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
9	6/3	ジェンダー論（２）：「とり乱し」の思想を理解する	「とり乱しの思想」について学修する。このことによって、学んだことと自分自身の生活の結びつけ方を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ジェンダーについて理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第4章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第4章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
10	6/10	関係性と暴力（１）：ドメスティックバイオレンスを理解する	「ドメスティックバイオレンス」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「ドメスティックバイオレンス」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（２時間）	120分
		事後学修	テキスト第5章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第5章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
11	6/17	関係性と暴力（２）：ドメスティックバイオレンスに対処する	「ドメスティックバイオレンス」への対処方法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「ドメスティックバイオレンス」への対処方法について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第5章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第5章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
12	6/24	依存症の社会学（１）：生き延びるための依存	「依存症」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「依存症」とそこからの回復について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第7章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第7章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	依存症の社会学（2）：セルフヘルプグループとは何か	「セルフヘルプグループ」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「セルフヘルプグループ」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第7章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第7章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
14	7/8	依存症の社会学（3）：「もっと、もっと」という欲望と社会環境	「依存症」を生む社会環境について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「依存症」を生みだす社会環境について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第7章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第7章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
15	7/15	レポートの書き方：面白いレポートはなぜ、どのように面白いのか	「レポート」の書き方の基本を習得するとともに、自分自身のレポートの傾向性と改善法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して「レポート」の書き方の基本を習得するとともに、自分自身のレポートの傾向性と改善法について理解する。	
		事前学修	テキスト第13章を読んでおく。自分はどのようなレポートを書いているのかを振り返り、まとめておく。	120分
		事後学修	テキスト第13章を復習する。第13章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	服部 慶亘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、「社会学Ⅱ」も継続履修することが望ましい。

【授業方法】
受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、講義中に学生との対話を通して、講義内容の多様性を体感する。そこでの発見を、事後学修に活かせるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。				2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。					2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
追って指示する					
備考	初回授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu11@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月4/9	ガイダンス及び導入講義	講義の方針、展開方法、目標などを確認する。	
		この回の到達目標	社会学の性格（性質）について理解できる。	
		事前学修	シラバスを読んで、講義の目的・目標を理解する。	120分
		事後学修	テキストを入手し、「プロローグ」に目を通しておく。	120分
2	第1部 月4/16	状況（情況）判断①	疑似環境、状況（情況）的影響について。	
		この回の到達目標	目の前の現実をとらえる「客観的」な視点を身につけられる。	
		事前学修	前回の講義内容を確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
3	第1部 月4/23	状況（情況）判断②	レディネス（readiness）の重要性について。	
		この回の到達目標	目の前の現実をとらえる「客観的」な視点を身につけられる。	
		事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
4	第1部 月4/30	社会（学）とは何か？	社会学の研究対象である「社会」について、その構造と機能を理解する。	
		この回の到達目標	「社会」の成り立ちを理解し、自身の行いを振り返ることができる。	
		事前学修	これまでの講義内容をふまえて、「日常生活」について説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
5	第1部 月5/7	社会的動物としての人間①	現代人にとって欠如傾向にある福祉の観点（Double Happiness）を理解する。	
		この回の到達目標	世の中の諸問題に対応する視点を養える。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
6	第1部 月5/14	社会的動物としての人間②	人間が他の哺乳動物と異なる点について考察する。	
		この回の到達目標	我々について、動物学的な知識もふまえて理解できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 月5/21	人間関係の諸相と構造①	人間とヒトの違いについて理解する。	
		この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
8	第1部 月5/28	人間関係の諸相と構造②	人間（Human Being）の本質について考える。	
		この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
		事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
9	第1部 月6/4	人間関係の諸相と構造③	人間関係における地位（status）について理解する。	
		この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
		事前学修	7～8回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
10	第1部 月6/11	人間関係の諸相と構造④	人間関係における役割（role）について理解する。	
		この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
		事前学修	7～9回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
11	第1部 月6/18	人間関係の諸相と構造⑤	「地位－役割」の関係性について理解する。	
		この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
		事前学修	7～10回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
12	第1部 月6/25	人間関係の諸相と構造⑥	地位を性質的に分類する。	
		この回の到達目標	自分自身の「存在」する意味について理解できる。	
		事前学修	7～11回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月7/2	人間関係の諸相と構造⑦	構造的地位としての「アイドル」（idol）について考える。	
		この回の到達目標	「地位－役割」の関係性とイメージについて理解できる。	
		事前学修	区分7～12の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
14	第1部 月7/9	人間関係の諸相と構造⑧	構造的役割と対人的役割および生得的役割としての「性差」について考える。	
		この回の到達目標	「ジェンダー」について、その社会的・文化的性質を理解できる。	
		事前学修	7～13回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
15	第1部 月7/16	「社会学Ⅰ」まとめ	ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。	
		この回の到達目標	社会学的な発想が身についたか、現実を客観的に受け入れる視点が身についたか、自分自身で確認できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	馬渡 玲欧	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会学的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特に無し。ただし、授業上の諸注意を遵守すること。

【授業方法】
授業方法は基本的に講義形式で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	履修人数にもよりますが、グループ・ディスカッションの時間やレポート報告の時間をとることができればと考えています。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。						2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。							2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業冒頭で課題や質問にコメントをすることもあります。適宜、メールやポータルサイトを使用します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・社会調査へのアプローチ	大谷信介（他）	ミネルヴァ書房	2013	参考書	任意
質的社会調査の方法	岸政彦（他）	有斐閣	2016	参考書	任意
社会学入門	筒井淳也（他）	有斐閣	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
非常勤のため、何か相談があれば適宜メールにて連絡をください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8 第一部 木4/9	ガイダンス：社会学で何を学ぶのか	初回授業のガイダンスとして、社会学で何を学ぶことができるのか、確認する。授業全体の流れ、成績評価の方法、履修上の諸注意などをあわせて告知する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴をまずは理解する。	
		事前学修	シラバスを事前に確認し、授業全体の流れを頭に入れたうえで、自分の関心を整理しておく。興味のある各回のトピックについて、予備知識を調べておく。	60分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
2	第一部 水4/15 第一部 木4/16	社会調査でなにをするのか	社会調査（量的・質的）の実施に関する制度や組織、法などについてまずは学習する。調査の種類、データの集め方についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴をまずは理解する。到達目標②に関して社会調査の意義と限界を理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
3	第一部 水4/22 第一部 木4/23	社会調査の歴史	社会調査の歴史について概観する。ブースの社会踏査、シカゴ学派、アメリカの量的調査の成り立ちなどを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の意義と限界を理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
4	第一部 水4/29 第一部 木4/30	社会調査の基本的な考えかた	社会調査で頻繁に使用する用語や概念について学習する。仮説の作り方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の意義と限界を理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
5	第一部 水5/6 第一部 木5/7	質問紙調査の基本：調査票のつくりかた	質問紙調査の流れを確認する。そのうえで質問文作成の注意点を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
6	第一部 水5/13 第一部 木5/14	サンプリング	サンプリングの歴史、サンプリングの原理や方法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20 第一部 木5/21	質問紙調査の実際	単純集計、クロス表、基礎統計量について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
8	第一部 水5/27 第一部 木5/28	質問紙調査の実際	前回の復習後、推定や検定などを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
9	第一部 水6/3 第一部 木6/4	質的調査の基本	質的調査で何が行われているか学ぶ。また、調査における注意点を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
10	第一部 水6/10 第一部 木6/11	フィールドワーク	質的調査のなかでも「フィールドワーク」で何を行なうのか、概観する。できる限り、古典的著作の紹介も行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
11	第一部 水6/17 第一部 木6/18	参与観察	質的調査のなかでも「参与観察」で何を行なうのか、概観する。できる限り、古典的著作の紹介も行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
12	第一部 水6/24 第一部 木6/25	生活史	質的調査のなかでも「生活史」で何を行なうのか、概観する。できる限り、古典的著作の紹介も行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1 第一部 木7/2	質的調査の実際	これまでの質的調査に関する授業内容を踏まえ、受講者間のグループワークやプレゼンテーションを予定している。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。到達目標③に関して、自分の関心に応じて論を立てることができる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
14	第一部 水7/8 第一部 木7/9	近年の社会調査の新しい動向	近年の社会調査の新しい動向について、デジタル社会調査のごく基本的な考え方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
15	第一部 水7/15 第一部 木7/6	試験	授業内試験と解説・これまでの振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、これまでの授業を踏まえながら、社会学的観点と社会学的説明を試験問題に即して総合的に展開できるようになる。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り、試験準備をする。	220分
		事後学修	授業全体を振り返り、配布資料、メモ記録、ノート、文献リストをまとめる。	80分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	渡邊 隼	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後、経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ、社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し、社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回の配布資料にもとづく講義形式をとる。ただし、受講者数や受講者の問題関心によって、授業の方法、成績評価の方法を多少変更する可能性がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。						2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し、その意義と限界について論じることができる。							2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
(1) 毎回の授業時間内に提出するレポート課題について、次回の授業時にフィードバックする。(2) 授業時間外に作成し、提出するレポート課題（学期中に少なくとも1回）について、学期末にフィードバックする。(3) 授業内試験について、学期末にフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学 新版』	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志	有斐閣	2019	参考書	推奨
備考	このほかに授業内で関連文献を紹介する。受講者からの参考文献・資料についての質問も歓迎する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、原則として授業の前後の時間に受けつける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9 第二部 火4/7	- 授業のガイダンス - 社会学はいかなる学問か - 社会学の研究視点	- 授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。 - 社会学の成立と展開について説明する。 - 社会学の研究や社会調査を行なうにあたって必要とされる視点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学がどのような学問であるのかを説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読んで授業の概要について理解しておく。現代社会の諸問題のなかで、興味関心があるものをいくつか考えておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
2	第一部 木4/16 第二部 火4/14	現代社会の理解（1）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会システム、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
3	第一部 木4/23 第二部 火4/21	現代社会の理解（2）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、法と社会システム、経済と社会システムをあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
4	第一部 木4/30 第二部 火4/28	現代社会の理解（3）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会変動の概念、近代化、産業化、情報化をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
5	第一部 木5/7 第二部 火5/12	現代社会の理解（4）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
6	第一部 木5/14 第二部 火5/19	現代社会の理解（5）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会、過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21 第二部 火5/26	現代社会の理解（6）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会集団の概念、第一次集団、第二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション、組織の概念、官僚制をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
8	第一部 木5/28 第二部 火6/2	家族と生活の理解（1）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
9	第一部 木6/4 第二部 火6/9	家族と生活の理解（2）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族の変容、家族の機能、生活のとらえ方、生活の変容をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
10	第一部 木6/11 第二部 火6/16	人と社会の関係（1）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
11	第一部 木6/18 第二部 火6/23	人と社会の関係（2）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会的ジレンマ、社会関係資本論をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
12	第一部 木6/25 第二部 火6/30	社会問題の理解（1）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会問題のとらえ方、具体的な社会問題（貧困、失業、差別、社会的排除、自殺、犯罪、非行など）をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2 第二部 火7/7	社会問題の理解（2）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会問題のとらえ方、具体的な社会問題（児童虐待、いじめ、DV、ハラスメント、公害、環境破壊など）をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。授業内試験にそなえて授業全体の内容を勉強しておく。	120分
14	第一部 木7/9 第二部 火7/14	・授業全体のまとめ ・授業内試験	・授業全体のまとめを行なう。 ・授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。授業内試験にそなえて授業全体の内容を勉強しておく。	120分
		事後学修	授業内試験のふり返りをしておく。授業全体の内容を復習しておく。	120分
15	第一部 木7/16 第二部 火7/21	・授業内試験の解説と講評 ・レポートの解説と講評	・授業内試験の解説と講評を行なう。 ・レポートの解説と講評を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	授業内試験のふり返りをしておく。授業全体の内容を復習しておく。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
教科書の内容に沿いながら、講義中心に進める。講義では、基礎的な思考から、実証研究の成果を分析し、地方都市のまちおこしや、地域活性化、地方再生の道をメディア文化とポピュラーカルチャーの取り組みから探ってみる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、レポートの講評・解説などを振り返りとして実施します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンパクトシティと百貨店の社会学	仲川秀樹	学文社	2012		
備考					

【オフィスアワー】
月曜1限、授業前後、授業講堂にて。授業中に詳細を指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月 9 / 1 4	社会学を实践するとは	社会学Ⅱの進め方。授業内容の確認、シラバスの要点、成績評価などについて説明し、確認します。	
		この回の到達目標	社会学Ⅱでは、シラバスに沿いながら、社会学の実践的な方法を考えます。社会学が理論と検証によって理解し、説明することができます。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読んでください。教科書の序文を読み、授業の導入に役立ててください。	120分
		事後学修	教科書の序文から、目次全体を把握し、次回の講義の要点を確認してください。	120分
2	第一部 月 9 / 2 1	中心市街地研究とは	地域社会の内容から、中心市街地の研究をすすめていきます。中心市街地再生のために必要な方法論を考えます。	
		この回の到達目標	地域社会の問題を解決するための実践的な方法を考えていきます。その前提として、地域社会と中心市街地の活性化に必要な基礎理解につとめ、中心市街地を理解し、説明することができます。	
		事前学修	教科書の序文にある、中心市街地の研究過程をよみとってください。	120分
		事後学修	社会学における中心市街地研究の特徴を、講義ノートから理解を深めてください。	120分
3	第一部 月 9 / 2 8	コンパクトシティとは	中心市街地を再生するために、コンパクトシティの必要性について説明します。コンパクトシティとは何かを考えます。	
		この回の到達目標	大都市と比べ地方都市の衰退が叫ばれて久しいなか、コンパクトシティによる新たな地方都市を考えます。コンパクトシティを社会的に理解し、説明することができます。	
		事前学修	教科書第1章の、社会学から考えるコンパクトシティを事前によんでください。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分
4	第一部 月 10 / 5	コンパクトシティの必要性とは	コンパクトシティにおけるまちづくりを考えた場合の問題と課題を考えます。コンパクトシティの問題を解決するために方法論を説明します。	
		この回の到達目標	コンパクトシティを社会的に構築するために必要な方法を考えます。方法論を理解することで、コンパクトシティの重要性を説明できます。	
		事前学修	教科書第1章の、コンパクトシティのシステム問題を事前に読んでください。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分
5	第一部 月 10 / 1 2	中心市街地のメディア環境とは	中心市街地に人が集まるには、中心市街地のシンボルに注目することです。そのシンボルを理解し、人が集まり理由を説明することができます。	
		この回の到達目標	メディア環境とは、メディア文化を背景としています。メディアから発した娯楽性の高いエリアを理解し、メディア環境を説明することができます。	
		事前学修	教科書第2章の、中心市街地のシンボルを事前に読んでください。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分
6	第一部 月 10 / 1 9	中心市街地のシンボル、ローカル百貨店とは	ローカル百貨店の存在から中心市街地のシンボルの意味を考えます。	
		この回の到達目標	メディア環境を象徴するのがローカル百貨店の存在であることを考えます。ローカル百貨店の存在を理解し、中心市街地に必要な理由を説明できます。	
		事前学修	教科書第2章の、中心市街地と百貨店を事前に読んでください。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 月 1 0 / 2 6	メディア文化の発信とは	ローカル百貨店によるメディア環境構築を考えます。
		この回の到達目標	地方都市にメディア環境を構築するには、ローカル百貨店の役割が必要なことを理解し、説明することができます。
		事前学修	ローカル百貨店の必要性を、教科書第2章からよみとってください。
		事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。
8	第一部 月 1 1 / 9	学生が考える百貨店のあり方とは	百貨店のあり方—大学生調査1—について検証し、学生の考え方を探ります。
		この回の到達目標	大学生の意識調査を探ります。そこからローカル百貨店は何をすべきかを理解し、説明することができます。
		事前学修	教科書第3章の、調査結果を読んでください。
		事後学修	調査内容をカテゴリーごとに理解するようつとめてください。
9	第一部 月 1 1 / 1 6	学生が考える百貨店のあり方とは	百貨店のあり方—大学生調査2—について検証し、学生の考え方を活かします。
		この回の到達目標	大学生の意識調査から検証した内容を地方都市の若者の関心を結びつけてみます。ローカル百貨店の役割が明確になり、理解し、説明できます。
		事前学修	教科書第3章の、調査結果を読んでください。
		事後学修	調査内容をカテゴリーごとに理解するようつとめてください。
10	第一部 月 1 1 / 2 3	ポピュラーカルチャー的空間とは	地方都市の中心市街地再生のための実践的な取り組みとして、ポピュラーカルチャー的空間の構築をめざします。
		この回の到達目標	ポピュラーカルチャー的空間構築のために必要なものを考えます。エンタテインメントの重要性を理解し、ポピュラーカルチャーの必要性が理解でき、説明することができます。
		事前学修	教科書第3章の、実践例を読んでください。
		事後学修	ポピュラーカルチャーとエンタテインメントの関係を振り返ってください。
11	第一部 月 1 1 / 3 0	百貨店とエンタテインメントを考える	ポピュラーカルチャー的イベントの取り組みから発信できるものを考えます。
		この回の到達目標	人が集まる中心市街地に必要な環境を理解し、説明することができます。
		事前学修	教科書第3章の、実践例を読んでください。
		事後学修	ポピュラーカルチャーとエンタテインメントの関係を振り返ってください。
12	第一部 月 1 2 / 7	地方都市の若者の居場所と百貨店空間とは	中心市街地再生にかかわるローカル百貨店と若者の居場所を考えます。
		この回の到達目標	若者が集まることは中心市街地再生のために重要なことです。そのために若者の居場所をローカル百貨店空間に求めることの必要性を理解し、説明することができます。
		事前学修	教科書第4章の百貨店の、重要性とメディア環境の構築を読んでください。
		事後学修	自分たちが考えるメディア環境を講義ノートから整理してください。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月 1 2 / 1 4	コンパクトシティに必要な空間とは	中心市街地シンボルと人が集まる空間とは、ローカル百貨店のメディア環境構築であることを再考します。	
		この回の到達目標	メディア環境には、人が集まり、地方都市再生の鍵になることを考えます。あらためてメディア環境とローカル百貨店の関係を理解し、必要なスタイルを説明することができます。	
		事前学修	教科書第6章の、学生たちのレポートを読んでください。	120分
		事後学修	自分たちが考える人が集まる空間を講義ノートから整理してください。	120分
14	第一部 月 1 2 / 2 1	地方都市再生の方法とは	コンパクトシティとローカル百貨店にみる地方再生をまとめます。	
		この回の到達目標	地方都市の活性化は、中心市街地再生にあることを理解し、その理由を説明することができます。	
		事前学修	地域社会を再考するために必要なコンパクトシティ構想と百貨店の役割を教科書から再考してください。（2時間）	120分
		事後学修	社会学の実証研究としてのフィールドワークの意味を理解するようつとめてください。	120分
15	第一部 月 1 1 / 8	社会学ができること	社会学Ⅱの総括、振り返ります。	
		この回の到達目標	社会学を学修し、理解し、社会に実践する方法を説明することができます。	
		事前学修	社会学Ⅱでは、実証研究の重要性をあつかいました。その対象をあらためて整理してください。（2時間）	120分
		事後学修	基礎研究から実証研究、そして実践的な取り組みにある、社会学的方法論の理解につとめてください。（2時間）	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	中村 英代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
担当教員による「社会学Ⅰ」を受講していると望ましいですが、「社会学Ⅰ」を受講していなくても問題のないように、講義を進めます。

【授業方法】
指定テキストを用い、板書による説明を中心とした講義形式で行います。講義内容への理解を深めるために、視聴覚作品（DVD）も鑑賞します。レスポンスカードでの質問等には、次週の講義の冒頭でフィードバックを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎週の講義で提出するレスポンスカードの内容について、次の回の講義の冒頭で教員からコメントをフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学ドリルーこの理不尽な世界の片隅で』（¥1,900＋税）	中村 英代	新曜社	2017年	教科書	必携
				参考書	
備考	初回ガイダンスではテキスト（教科書）は使いません。テキストはガイダンスを開いて受講を決めた後に購入して下さい。本講義では毎週必ず指定テキストを使います。第2回目からは毎週必ずテキストを持参して下さい。				

【オフィスアワー】
質問等は講義の前後の時間に授業講堂にて受けつけます。履修の際には、担当教員のウェブサイトも参考にして下さい。 http://www.hideyonakamura.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス&イントロダクション：社会学Ⅱで何を学ぶか	社会学とはどのような学問であり、日常生活にどのように活かせるかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会学とはどのような学問であり、日常生活にどのように活かせるかについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスをしっかりと読んでおく。テキストを持っている場合は第1章を予習する。	120分
		事後学修	テキスト第1章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第1章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
2	9/23	権力論（1）：犯罪と逸脱	「犯罪と逸脱」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「犯罪と逸脱」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第8章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第8章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第8章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
3	9/30	権力論（2）：権力はいたるところに	「権力論」の歴史と、生活の中に遍在する権力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「権力」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第8章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第8章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第8章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
4	10/7	儀礼と自己（1）：礼儀作法は身を守る？	「儀礼論」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「儀礼論」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第9章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第9章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第9章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
5	10/14	儀礼と自己（2）：変えられる自己と変えられない自己	「自己論」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「自己論」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第9章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第9章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第9章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
6	10/21	過食症と拒食症（1）：ダイエットをするとどうなるのか？	「摂食障害」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「摂食障害」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第8章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第6章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第6章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	過食症と拒食症（２）：回復・承認・自己受容	「摂食障害」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「摂食障害」とそこからの回復について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第6章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第6章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第6章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
8	11/11	自殺論（１）：データから理解する現代の自殺	統計データに基づいて現代の「自殺」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「自殺」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第10章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第10章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第10章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
9	11/18	自殺論（２）：自殺希少地帯での人々に人間関係とは？	「自殺が生じにくい人間関係・社会環境」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「自殺が生じにくい人間関係・社会環境」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第10章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第10章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第10章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
10	11/25	医療の社会学（１）：私たちはどのような医療を受けているのか	現代の「医療」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の「医療」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第11章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第11章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第11章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
11	12/2	医療の社会学（２）：医療化する社会	「医療化」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「医療化」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第11章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第11章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第11章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
12	12/9	犯罪と逸脱（１）：逸脱行動の理論の歴史	「犯罪と逸脱」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「逸脱行動の理論の歴史」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	配布資料を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	犯罪と逸脱（２）：犯罪をとりまく社会環境	「犯罪と逸脱」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「犯罪をとりまく社会環境」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	配布資料を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。	120分
14	12/23	構築主義と心理療法（１）：「問題志向」・「解決志向」・「解消志向」	「構築主義と心理療法」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「構築主義と心理療法」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第12章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第12章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第12章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
15	1/13	構築主義と心理療法（２）：ナラティブ・アプローチを理解する振り返り、解説	「ナラティブ・アプローチ」について学修する。「問題の外在化」をマスターする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「ナラティブ・アプローチ」「問題の外在化」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第12章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第12章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第12章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	服部 慶亘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特にないが、同一担当者による「社会学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、講義中に学生との対話を通して、講義内容の多様性を体感する。そこでの発見を、事後学修に活かせるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
追って指示する					
備考	初回授業内で指示する。なお、「社会学Ⅰ」履修者は、同一教科書を使用する。				

【オフィスアワー】
木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu11@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月9/17	ガイダンス及び導入講義	講義の方針、展開方法、目標などを確認する。	
		この回の到達目標	【後期からの履修者】社会学の性格（性質）について理解できる。 【前期からの継続履修者】前期の解説内容を実践に移すレディネスを養える。	
		事前学修	後期から履修を開始する学生は、シラバスを読んで講義の目的・目標を理解する。 前期からの継続履修学生は、これまでの講義内容をテキストやノート、資料を読んで復習しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。なお、後期から履修を開始する学生は、テキストを入手して「プロローグ」に目を通しておく。	120分
2	第1部 月9/24	問題行動の根源①	「問題行動」をとらえる際の留意点について考える。	
		この回の到達目標	「問題」という状況を理解する視点を養える。	
		事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
3	第1部 月10/1	視聴覚機器による問題行動の理解①	韓国で放送された日本のアニメーションがどのように編集されるのか、映像を通して確認する。	
		この回の到達目標	日本では問題とされていないシーンが韓国でどう理解されているか、実感できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
4	第1部 月10/8	視聴覚機器による問題行動の理解②	韓国で放送された日本のアニメ主題曲がどのように編集されるのか、映像を通して確認する。	
		この回の到達目標	日本と韓国の、子どもたちへのメッセージの違いから歌詞（内容）に変化が生じることを理解する。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
5	第1部 月10/15	問題行動の根源②	「罪」の定義および構造について理解する。	
		この回の到達目標	人間の動作が「罪」に至るまでの流れを理解できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
6	第1部 月10/22	問題行動の根源③	「自我」と「超自我」の関係性について理解する。	
		この回の到達目標	「罪」と「自我」「超自我」の関係性について理解できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第1部 月10/29	問題行動の根源④	「行為」と「行動」の性質の違いについて理解する。
		この回の到達目標	一般に混同されがちな「行為」「行動」の概念について、リーガルマインドにも照らし合わせつつ理解できる。
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。120分
8	第1部 月11/5	問題行動の根源⑤	社会的自我について理解する。
		この回の到達目標	自分自身の行為・行動が他者からどのように映っているのか、それを確認する方法を理解できる。
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。120分
9	第1部 月11/12	問題行動の根源⑥	「主我」と「客我」の関係性を理解する。
		この回の到達目標	『Let It Go』をもとに、社会的自我について理解を深めることができる。 アノミー（anomie）現象について、実例を上げて説明する。 現代社会における「人生縮小化」傾向について考える。
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。120分
10	第1部 月11/19	問題行動の誤対処①	「人生縮小化」について。
		この回の到達目標	「問題」に直面した時に起こり得る「リセット願望」と「リロード願望」について理解する。
		事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。120分
11	第1部 月12/3	問題行動の誤対処②	人間の本能的反応としての「防衛機制」について理解する。
		この回の到達目標	人間の本能と問題行動との関係性を理解できる。
		事前学修	9～10回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。120分
12	第1部 月12/10	「正義」の含意①	日本人の発想（一元論、二元論、多元論）と「正義」の関係性を考える。
		この回の到達目標	日本人の行動・思考パターンが諸外国から理解されにくい現実を、実例を上げて説明できる。
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中できちんと確認（実践）する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月12/17	「正義」の含意②	「正義」の定義および性質について理解する。	
		この回の到達目標	「正義」の絶対性と相対性について理解できる。	
		事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
14	第1部 月12/24	「正義」の含意③	「正義」と献身について。	
		この回の到達目標	「正義」の絶対的な側面について、自分自身の行いを振り返って考えられる。	
		事前学修	1 2～1 3 回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
15	第1部 月1/14	「社会学Ⅱ」まとめ	ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。	
		この回の到達目標	社会学的な発想が身についたか、現実を客観的に受け入れる視点が身についたか、自分自身で確認できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	馬渡 玲欧	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特に無し。ただし、授業上の諸注意を遵守すること。

【授業方法】
授業は基本的に講義形式で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修人数にもよりますが、グループ・ディスカッションの時間やレポート報告の時間をとることができればと考えています。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業冒頭で課題や質問にコメントをすることもあります。適宜、メールやポータルサイトを使用します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会学 新版	長谷川公一（他）	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
非常勤のため、何か相談があれば適宜メールにて連絡をください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16 第一部 木9/17	ガイダンス：社会学で何を学ぶのか	初回授業のガイダンスとして、社会学で何を学ぶことができるのか、確認する。授業全体の流れ、成績評価の方法、履修上の諸注意などをあわせて告知する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴をまずは理解する。	
		事前学修	シラバスを事前に確認し、授業全体の流れを頭に入れたうえで、自分の関心を整理しておく。興味のある各回のトピックについて、予備知識を調べておく。	60分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
2	第一部 水9/23 第一部 木9/24	公共空間	身近な「公共空間」における人々の相互行為や振る舞いを考察することを通して、社会学の考え方に触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して日本社会の「公共空間」の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考書籍に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
3	第一部 水9/30 第一部 木10/1	メディア	身近な「メディア」（マス・メディア、コミュニケーション・メディアなど）と人々の付き合い方を考察することを通して、社会学の考え方に触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して日本社会の「メディア」の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
4	第一部 水10/7 第一部 木10/8	家族	身近な「家族」をめぐる諸問題と諸理論について、具体的な事例に基づき検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して日本社会の「家族」の特徴を説明できるようになる。到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
5	第一部 水10/14 第一部 木10/15	福祉国家	近現代の福祉国家の展開について概観する。近年の社会政策の動向、医療・福祉のあり方についても可能な限り触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「福祉国家」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「福祉国家」の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
6	第一部 水10/21 第一部 木10/22	福祉国家	近年の社会政策の動向について、より具体的な事例に基づき検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28 第一部 木10/29	グローバリゼーション	グローバリゼーションの展開について、諸概念・諸理論の特徴をまず概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「グローバリゼーション」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会と「グローバリゼーション」の関連を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
8	第一部 水11/11 第一部 木11/5	グローバリゼーション	グローバリゼーションの展開について、より具体的な事例に基づき検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
9	第一部 水11/18 第一部 木11/12	都市空間	近現代の都市空間をめぐる諸問題と諸理論について、学説史的展開を踏まえながら概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「都市空間」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「都市空間」の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
10	第一部 水11/25 第一部 木11/19	都市空間	近現代の都市空間をめぐる諸問題と諸理論について、より具体的な事例に基づき検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
11	第一部 水12/2 第一部 木12/3	環境	近現代の公害問題・環境問題と諸理論について、学説史的展開を踏まえながら概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「公害・環境問題」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「公害・環境問題」の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
12	第一部 水12/9 第一部 木12/10	環境	近現代の公害問題・環境問題と諸理論について、より具体的な事例に基づき検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16 第一部 木12/17	社会運動	これまでの講義内容を踏まえつつ、近現代の様々な社会運動と社会運動論の展開について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「社会運動」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「社会運動」の特徴を説明できるようになる。到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
14	第一部 水12/23 第一部 木12/24	批判的社会理論	前回講義の延長線上で1950年代以降の批判的社会理論の動向について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「批判的社会理論」の社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して「批判的社会理論」の特徴を説明できるようになる。到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
15	第一部 水1/13 第一部 水1/14	試験	授業内試験と解説・これまでの振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、これまでの授業を踏まえながら、社会学的観点と社会学的説明を試験問題に即して総合的に展開できるようになる。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り、試験準備をする。	220分
		事後学修	授業全体を振り返り、配布資料、メモ記録、ノート、文献リストをまとめる。	80分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	渡邊 隼	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
・毎回の配布資料にもとづく講義形式をとる。ただし、受講者数や受講者の問題関心によって、授業の方法、成績評価の方法を多少変更する可能性がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
(1) 毎回の授業時間内に提出するレポート課題について、次回の授業時にフィードバックする。(2) 授業時間外に作成し、提出するレポート課題（学期中に少なくとも1回）について、学期末にフィードバックする。(3) 授業内試験について、学期末にフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学 新版』	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志	有斐閣	2019	参考書	推奨
備考	このほかに授業内で関連文献を紹介する。受講者からの参考文献・資料についての質問も歓迎する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、原則として授業の前後の時間に受けつける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17 第二部 火9/15	・ガイダンス ・日本社会の諸問題	・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。 ・社会学の研究を行なうにあたって必要とされる視点を説明する。 ・社会学的視点から日本社会の諸問題へアプローチする方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学がどのような学問であるのかを説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読んで授業の概要について理解しておく。現代の日本社会でみられる諸問題のなかで、興味関心があるものをいくつか考えておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
2	第一部 木9/24 第二部 火9/22	現代日本社会の理解 (1)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
3	第一部 木10/1 第二部 火9/29	現代日本社会の理解 (2)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
4	第一部 木10/8 第二部 火10/6	現代日本社会の理解 (3)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
5	第一部 木10/15 第二部 火10/13	現代日本社会の理解 (4)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、都市・地域をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
6	第一部 木10/22 第二部 火10/20	現代日本社会の理解 (5)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、都市・地域をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29 第二部 火10/27	現代日本社会の理解（6）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、都市・地域をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
8	第一部 木11/5 第二部 火11/10	現代日本社会の理解（7）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、労働をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
9	第一部 木11/12 第二部 火11/17	現代日本社会の理解（8）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、労働をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
10	第一部 木11/19 第二部 火11/24	現代日本社会の理解（9）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、労働をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
11	第一部 木12/3 第二部 火12/1	現代日本社会の理解（10）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、グローバル化をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
12	第一部 木12/10 第二部 火12/8	現代日本社会の理解（11）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、グローバル化をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17 第二部 火12/15	現代日本社会の理解（12）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、グローバル化をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
14	第一部 木12/24 第二部 火12/22	・授業全体のまとめ ・授業内試験	・授業全体のまとめを行なう。 ・授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。授業内試験にそなえて授業全体の内容を勉強しておく。	120分
		事後学修	授業内試験のふり返りをしておく。授業全体の内容を復習しておく。	120分
15	第一部 木1/14 第二部 火1/12	・授業内試験の解説と講評 ・レポートの解説と講評	・授業内試験の解説と講評を行なう。 ・レポートの解説と講評を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	授業内試験のふり返りをしておく。授業全体の内容を復習しておく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

科目名	社会思想の歴史Ⅰ	担当者	川本 隆	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代は、ヒト、モノ、カネ、情報が、相互に大量に行き交うグローバル化時代といわれる。また、なにかと便利だが、環境破壊や経済不況など深刻な矛盾も露呈している。この講座では古の社会思想の歴史的推移を学びつつ、現代の問題解決の糸口を探ってゆきたい。社会思想に関する一般的な基礎理解の上に、多角的な見方を柔軟な姿勢で身につける授業といえる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ルターからモンテスキューに至る社会思想を学ぶことを通じて、各時代の社会意識や時代精神を読みとり、多角的な批判力を養うために、時代と国の相違も単にご時世やお国柄で片づけるのではなく、どう異なるか、なぜ異っているのか、その背景と根拠を吟味・検討し、現代のわれわれを相対化したうえで、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて、独力で熟考できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
配布プリントによる講義形式授業。毎回リアクションペーパーで意見を求め、翌授業でフィードバックし、理解を深める。中間チェックテスト（2択20題）を1回行う。最終的な学期末レポートは1回提出する必要があるが、期末の試験は行わない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ルターからモンテスキューに至る社会思想を取り上げ、各時代の社会意識や時代精神を踏まえて多角的な批判をしつつ、それらの社会思想の変遷を説明できる。					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて論述することができる。					2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課す中間チェックテストの 成果で評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、学期末レ ポートにより評価する。Colnetまたはポータルシステムに アップロード提出すること。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内小レ ポート等)	到達目標①②に関わって講義中に課すリアクションペー パーの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間チェックテストについては答案回収直後に、学期末レポートについては最終授業時に、それぞれ講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
指定教科書なし。					
備考	Colnet「教材提示」フォルダにアップするPDF資料と授業時に配布するプリントで授業を進める。				

【オフィスアワー】
金曜日、19：30～20：30（アポイントを取ること）。授業講堂にて。kawamoto.takashi11@nihon-u.ac.jp（川本）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10 第二部 金4/10	総論：社会思想史とは何か	社会思想の成り立ちと性格、および歴史とのかかわりについて学修する。また、年間講義計画・成績評価の方法、参考文献紹介などの確認を行う。それによって受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	本講座「社会思想の歴史」で学ぶことの内容を理解できる。また、受講するに際して固定観念に縛られない柔軟な姿勢の重要性を知り、これからの学修に生かすことができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、気になる何人かの思想家について一般的な理解がどのようなものか、インターネットサイトを通して概観し、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業時に配布された「履修上の注意」および資料を精読し、重要と思われる項目をマーカー塗布またはアンダーラインして把握する。	120分
2	第一部 金4/17 第二部 金4/17	ルネサンス期の社会思想：宗教改革者ルター①人と思 想	当時のキリスト教世界においてなぜ贖宥状が必要だったか、社会において教会がどのような役割を果たしていたかを把握する。	
		この回の到達目標	当時のカトリック教会の腐敗状況をふまえ、ルター『95箇条の論題』の放つ時代的意義を理解できる。	
		事前学修	「Colnet>学生教員共有>川本隆>教材提示」フォルダにアクセスし、「ルター」のPDF資料を読み、理解しがたい箇所・重要だと思われる箇所をそれぞれノートに書きだし、受講に備える。	120分
		事後学修	Colnetの「教材提示」フォルダにあるルター関連のPDFで授業内容を復習し、授業で取り上げられなかった資料に目を通して理解を深め、内容整理する。	120分
3	第一部 金4/24 第二部 金4/24	ルネサンス期の社会思想：宗教改革者ルター②思想と影 響	「95か条の論題」の成立背景を確認しつつ、ルターの信仰義認説の概要と意義を理解する。また、ルターの放った主教改革の狼煙がどのように同時代人に受け止められていくかを学修する。	
		この回の到達目標	ルターが最初から宗教改革者になろうとして「95箇条の論題」を公表したわけではない事情を理解し、思想と反響のズレを把握できる。	
		事前学修	前回配布の資料をよみ、問題点・疑問点をピックアップしておく。	120分
		事後学修	Colnetの「教材提示」フォルダに提示された新しいルター関連のPDFを参考に授業内容を復習し、キリスト教的信仰の意味を理解しようと努める。	120分
4	第一部 金5/1 第二部 金5/1	ルネサンス期の社会思想：エラスムス	「宗教改革」がカトリック内部から生じてくる背景を理解し、エラスムスの時代批判の意義を確認する。	
		この回の到達目標	『痴愚神礼讃』の成立背景およびルターとの関連性・相違点を把握する。	
		事前学修	配布されたプリントやColnetのPDF資料をもとに、ルターのプロテスタンティズムとエラスムスやモアのカトリック的改革との違いを予想する。	120分
		事後学修	時代のキリスト教を改革しようとする精神は共通しているにもかかわらず、ルターとエラスムスの両者が対立していくのはなぜかについて、自分の考えをノートにまとめる。	120分
5	第一部 金5/8 第二部 金5/8	ルネサンス期の社会思想：モア	主著『ユートピア』の成立事情とその影響を学修する。	
		この回の到達目標	「どこにもないところ」としてのモアの『ユートピア』を、時代状況に照らしつつ、人文主義的技巧を駆使した作品として理解する。	
		事前学修	キリスト教教会の時代的な腐敗と国王の覇権主義との関係に注意しながら、モアの複雑な立ち位置を想像してみる。	120分
		事後学修	主著『ユートピア』が対話篇で綴られている理由は、プラトンの影響が考えられる。作中人物としてのモアと書き手としてのモアの使い分けに留意しながら彼の思想をまとめる。	120分
6	第一部 金5/15 第二部 金5/15	ルネサンス期の社会思想：マキアヴェリとその時代	エラスムスと同時代でありながらキリスト教的な枠を突き抜ける、マキアヴェリ思想の時代的意義について学修する。	
		この回の到達目標	ルネサンス期のイタリアの傭兵の成立事情とマキアヴェリの傭兵評価を等身大で理解する。	
		事前学修	マキアヴェリの時代背景を知るには、イタリア・ルネサンスの時期の傭兵の役割を知る必要がある。PDF資料の「傭兵の二千年史」（抜粋）を一読しておく。	120分
		事後学修	エラスムス、モア、ルターの3者と全く異なる発想がマキアヴェリにあることを確認し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22 第二部 金5/22	ルネサンス期の社会思想：マキアヴェリ『君主論』	都市国家フィレンツェにおけるマキアヴェリの政治的位置に配慮しながら、『君主論』をはじめとするマキアヴェリ思想の意義を学修する。	
		この回の到達目標	一見、冷徹な皮肉屋にみえて単純な権謀術に還元できない思想家マキアヴェリの多様な側面を理解し、説明できる。	
		事前学修	Colnetに提示されたマキアヴェリ関連の資料PDFを読み、「フォルトゥーナ」「ヴィルトゥ」「スタト」というキーワードを抑えながら、マキアヴェリ思想の輪郭をまとめる。	120分
		事後学修	授業時に触れられない『リウィウス論』について調べ、『君主論』との異同をノートにまとめる。	120分
8	第一部 金5/29 第二部 金5/29	近代の社会契約思想：ホッブズ『リヴァイアサン』の成立	ホッブズの時代背景（2つの市民革命）を踏まえて、ホッブズのリヴァイアサン思想の成立事情を学修する。	
		この回の到達目標	王党派にも革命派にも属さないホッブズ特有の位置を踏まえながら、ホッブズ思想の時代に与えた影響を等身大で把握できる。	
		事前学修	ピューリタン革命の時代にホッブズがどのような立場で思想を形成していたかを考えながら、事前資料PDFを読んでおく。	120分
		事後学修	ホッブズに「絶対王政擁護者」というレッテルを貼ることが不適切である。その根拠を問いただし、王党派、長老派、独立派、平等派との関係に配慮しながら、ホッブズ思想の特徴を列記する。	120分
9	第一部 金6/5 第二部 金6/5	近代の社会契約思想：ホッブズ『リヴァイアサン』の思想	自然権を譲渡する必要からコモンウェルスが生成する事情を理解し、ホッブズ思想が近代人権思想の源流であることを理解し説明できる。	
		この回の到達目標	コモンウェルスの成立要件と相対主義的倫理の回避に必要なポイントを的確に説明できる。	
		事前学修	マキアヴェリの君主論とホッブズのリヴァイアサン思想を比較する際、決定的に異なる特徴は何か？ 予想される項目をノートに列記する。	120分
		事後学修	「自然権」と「自然法」の相違に注意しながら、コモンウェルスの必要性を箇条書きにまとめる。また「リヴァイアサン」の挿絵の意味を考え、ホッブズ思想の時代的意義をノートにまとめる。	120分
10	第一部 金6/12 第二部 金6/12	近代の社会契約思想：ロック『統治論』の背景	机上の理論家でなく、名誉革命の立役者でもあったロックの『統治論』の成立背景を学修する。	
		この回の到達目標	ピューリタン革命から名誉革命の時代的推移において、国王と議会の対立がどのように変容していったか、また、この変容にロックの思想に深くかかわっている事情を理解し説明できる。	
		事前学修	ピューリタン革命から名誉革命に至るロックの時代背景を、PDF資料の年譜を見ながら、おおまかに把握しておく。	120分
		事後学修	時代の嵐に翻弄されながらもロックはどのような政治体制を待望していたのか？ 授業内容を踏まえつつ、その概要をノートに整理する。	120分
11	第一部 金6/19 第二部 金6/19	近代の社会契約思想：ロック『統治論』の思想	ロックの思想が議会制民主主義の基礎づけを果たしたとされる根拠を学修する。	
		この回の到達目標	「プロパティ」という用語の背後に「神」があることに気をつけながら、人間固有の権利がロックにおいてどのように規定されているかを理解し、説明できる。	
		事前学修	ホッブズで明確に区別されていた「自然権」と「自然法」との区別がロックではなくなる。その理由を考えながら、『統治論』の抜粋PDF資料を精読する。	120分
		事後学修	イギリスの議会政治の歴史的発達とロックの『統治論』は密接な関係に留意しつつ、ロック思想の基本的特徴をノートにまとめる。	120分
12	第一部 金6/26 第二部 金6/26	近代の社会契約思想：ルソー『人間不平等起源論』	ルソーのパーソナリティの特異性と『不平等論』の成立事情を学修する。	
		この回の到達目標	ルソーのステレオタイプな「自然に帰れ」論を括弧にくくり、彼の個人史から読み取れるパーソナリティを踏まえて、『不平等論』の成立事情を理解し、説明できる。	
		事前学修	ルソーの思想を等身大で見するための予備作業として、ColnetにアップされたPDF資料で彼の人生遍歴を概観し、重要と思われるエピソードにマーキングをしておく。	120分
		事後学修	アムール・ド・ソワ とアムール・ド・プロプルは同じ愛でありながら、極端な差異としてとらえられる点に気をつけながら、『不平等論』の骨子をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3 第二部 金7/3	近代の社会契約思想：ルソー『社会契約論』	『不平等論』と『社会契約論』との「自然状態」概念の相違に着目しつつ、後者の論のパラドックス（全面譲渡の謎）を読み解く。	
		この回の到達目標	『不平等論』と『社会契約論』とで「自然状態」が異なる根拠を理解し、『社会系契約論』におけるルソーの狙いを客観的視点で説明できる。	
		事前学修	『不平等論』と『社会契約論』とでは「自然状態」のとらえ方の相違点をColnetにアップされたPDF資料から読み取り、箇条書きでノートに書きだす。	120分
		事後学修	「全面譲渡」という極端な形で描かれるルソーの社会契約論を時代背景と照らし合わせて考え、ノートにまとめる。	120分
14	第一部 金7/10 第二部 金7/10	仏リベラリズム：モンテスキュー『法の精神』	法服貴族という立場からフランスの王政の暴走に法的な歯止めをかけようとしたモンテスキュー思想の意義を学修する。	
		この回の到達目標	モンテスキューの権力分立論の根拠を、当時のフランスの時代状況と照らし合わせて理解し説明できる。	
		事前学修	法服貴族というモンテスキューの身分（立ち位置）が彼の思想とどのような関係にあるか？ PDF資料を読んで予想される内容をノートに書きだす。	120分
		事後学修	「穏和な整体」というときの「穏和」の意味に注意しながら、モンテスキューの権力分立論の独自性（特徴）についてノートにまとめる。	120分
15	第一部 金7/17 第二部 金7/17	前学期のまとめ	時代状況に即して思想家たちの行った改革の総まとめを行う。	
		この回の到達目標	ルネサンス・宗教改革の時代から近代にいたる社会思想の潮流をトータルかつ客観的に把握し、説明できる。	
		事前学修	年代順に並べなおすと、マキアヴェリ、エラスムス、モア、ルター、ホッブズ、ロック、モンテスキュー、ルソーの順になるにもかかわらず、なぜ上記のような順で概説したか考え、その根拠をノートにまとめる。	120分
		事後学修	「カトリシズム的改革とプロテスタンティズム」、「アダム的人間とプロメテウスの人間」、「社会契約思想と権力分立論」、「自然法概念」の推移、という4項目について、これまで学んできたことをトータルに整理し、ノートにまとめる。	120分

科目名	社会思想の歴史Ⅱ	担当者	川本 隆	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代は、ヒト、モノ、カネ、情報が、相互に大量に行き交うグローバル化時代といわれる。また、なにかと便利だが、環境破壊や経済不況など深刻な矛盾も露呈している。この講座では古の社会思想の歴史的推移を学びつつ、現代の問題解決の糸口を探ってゆきたい。社会思想に関する一般的な基礎理解の上に、多角的な見方を柔軟な姿勢で身につける授業といえる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アダム・スミスからマレイ・ブクチンに至る社会思想を学ぶことを通じて、各時代の社会意識や時代精神を読みとり、多角的な批判力を養うために、時代と国の相違も単にご時世やお国柄で片づけるのではなく、どう異なるか、なぜ異っているのか、その背景と根拠を吟味・検討し、現代のわれわれを相対化したうえで、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて、独力で熟考できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
配布プリントによる講義形式授業。毎回リアクションペーパーで意見を求め、翌授業でフィードバックし、理解を深める。中間チェックテスト（2択20題）を1回行う。最終的な学期末レポートは1回提出する必要があるが、期末の試験は行わない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アダム・スミスからマレイ・ブクチンに至る社会思想を取り上げ、各時代の社会意識や時代精神を踏まえて多角的な批判をしつつ、それらの社会思想の変遷を説明できる。					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて論述することができる。					2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課す中間チェックテスト の成果で評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、学期末レ ポートにより評価する。Colnetまたはポータルシステムに アップロード提出すること。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内小レ ポート等)	到達目標①②に関わって講義中に課すリアクションペー パーの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間チェックテストについては答案回収直後に、学期末レポートについては最終授業時に、それぞれ講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
指定教科書なし。					
備考	Colnet「教材提示」フォルダにアップするPDF資料と授業時に配布するプリントで授業を進める。				

【オフィスアワー】
金曜日、19：30～20：30（アポイントを取ること）。授業講堂にて。kawamoto.takashi11@nihon-u.ac.jp（川本）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18 第二部 金9/18	市民社会の思想：アダム・スミスの道徳哲学	時代背景を踏まえつつ、『道徳感情論』を中心に性善説・性悪説をのりこえるスミスの道徳論の形成について学修する。	
		この回の到達目標	スミスの時代の道徳学説の諸説を対照し、スミスが独自の道徳感情論を形成する経緯を理解し、説明できる。	
		事前学修	ColnetのPDF資料「アダム・スミス」の年譜と概要を読み、気になる点（飲み込めない箇所）をマーキングして受講に備える。	120分
		事後学修	道徳感覚学派の利他的人間像と、マンデヴィル、ヒュームらの利己的人間像の特徴をまとめ、スミスがどのようにそれらの道徳論を超克していったかをノートに整理する。	120分
2	第一部 金9/25 第二部 金9/25	市民社会の思想：アダム・スミス『国富論』	『国富論』の「見えざる手」の理論と分業の功罪について学修する。	
		この回の到達目標	スミスの重商主義批判を踏まえつつ、『国富論』を単純な市場開放論といえない面があることを的確に指摘し、説明できる。	
		事前学修	スミスの道徳論が「共感」や「公平な観察者」というテクニカルタームにどうつながっていくか、予想をたて、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	スミスの自由主義的経済思想の特徴を列記し、その発展系が現代のグローバル社会の新自由主義思想といえるかどうか、自分の考えをノートにまとめる。	120分
3	第一部 金10/2 第二部 金10/2	市民社会の思想：カントの道徳哲学と法論	カントの義務倫理の成立背景をたどり、キリスト教倫理との関係を含め、カントの理想が今日どのような意味をもつかを考察する。	
		この回の到達目標	厳格なカントの義務倫理が何を根拠にして生じるのか、道徳法則にしたがう自由のパラドックスをどのように解くか、という問いについての的確に応答し説明できる。	
		事前学修	Colnetに挙げられた資料を読み、カントの道徳論は厳格な義務倫理といわれる理由について、予想を立て、それをノートに書きだす。	120分
		事後学修	不幸な介護殺人や鷗外の『高瀬舟』などの事例で、カントの「生きる義務」という価値観が適用できる可能性についてノートにまとめる。	120分
4	第一部 金10/9 第二部 金10/9	市民社会の思想：スピノザの市民社会論	日常意識を超える神の視点では「必然性」と「自由」が一つであること、そのような「永遠の相のもと」で生きることに真の幸福があることを、スピノザの主著『エティカ』から学修する。	
		この回の到達目標	超越神論と汎神論の相違を踏まえ、スピノザの哲学において自由と必然が合致すること、また、この視点は、政治哲学的な意味も含意していることを理解できる。	
		事前学修	スピノザの汎神論のが、人間中心的な道徳観（個）を超える普遍の立場でありながら、民主主義的でありうるというパラドックスをどう解いたら良いか？ Colnetに挙げられた資料を一読し予想してみる。	120分
		事後学修	スピノザ哲学では、自我の主権意識にこだわるほうが真理から遠のくことになるのはなぜか、その理由を考えながら、スピノザの倫理思想をノートにまとめる。	120分
5	第一部 金10/16 第二部 金10/16	市民社会の思想：ヘーゲルの弁証法	ドイツ観念論の完成者といわれるヘーゲル哲学の体系構築に不可欠の弁証法について学修する。	
		この回の到達目標	ヘーゲル哲学体系における「弁証法」という方法の役割およびその内実についての的確に理解し、説明できる。	
		事前学修	「正→反→合」という図式的理解を「カツ→カレー→カツカレー」という喩えに変えることには問題がある。Colnetに挙げられた資料を読み、その問題点を予想し、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	ヘーゲルにとって弁証法はわき役であったにもかかわらず、体系構成の重要な方法と位置づけられる根拠を考えながら、ヘーゲル弁証法のポイントをノートにまとめる。	120分
6	第一部 金10/23 第二部 金10/23	市民社会の思想：ヘーゲル『法の哲学』家族論	ヘーゲル『法の哲学』における人倫の第一段階「家族」について学修する。	
		この回の到達目標	ヘーゲル『法の哲学』の「人倫」と「道徳性」との違いを踏まえ、人倫における「家族」の役割について理解し、説明できる。	
		事前学修	カントの道徳性を超えるヘーゲルの人倫（倫理）とは何か？ Colnetに挙げられた資料を読んでその内実を予想し、ノートにまとめ、受講に備える。	120分
		事後学修	家族の一体性・普遍性が「解体」されるとはどういうことか？ 家族の空中分解を意味するわけではないことに注意しながら、『法の哲学』における家族から市民社会への移行の論理を、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30 第二部 金10/30	市民社会の思想：ヘーゲル『法哲学』市民社会論	ヘーゲル『法の哲学』における人倫の第二段階「市民社会」と第三段階「国家」について学修する。	
		この回の到達目標	ヘーゲル『法の哲学』における市民社会の問題点とその克服の方法に関するヘーゲルの見解を理解し、説明できる。	
		事前学修	ヘーゲルのとらえる市民社会が「欲求の体系としての強制国家」といわれる根拠は何か。Colnetに挙げられた資料を参考に予想を立て、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	人倫の弁証法的発展としての「家族→市民社会→国家」の歩みの必然性を職業団体の「誇り」の意識に注意しながら、ノートにまとめる。	120分
8	第一部 金11/6 第二部 金11/6	経済社会の思想：マルクス『経済学・哲学草稿』	初期の『経済学・哲学草稿』を中心にマルクスが「労働の疎外」を当時どのように考えていたかについて学修する。	
		この回の到達目標	本来、喜びと充足をもたらすはずの労働においてなぜ人間は疎外されてしまうのか？ この問題に関する初期のマルクスの分析を理解し、説明できる。	
		事前学修	労働における人間の「自己疎外」、すなわち「働けば働くほど人間が貧しくなる」という逆説がなぜ生じるか？ その回答を予想し、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	チャップリンの『モダン・タイムス』の20世紀と19世紀ドイツの状況と対比しながら、マルクスの労働疎外論のもつ意味について、ノートにまとめる。	120分
9	第一部 金11/13 第二部 金11/13	経済社会の思想：マルクス『資本論』の物象化論	マルクス『資本論』における商品の分析と物象化論的錯視の意味について学修する。	
		この回の到達目標	アソシアシオンという協同社会がいまだ実現されていないことを踏まえ、マルクスの資本主義社会に対する批判的分析のもつ意義について理解し、説明できる。	
		事前学修	マルクスの思想とマルクス主義は異なる。その意味について、Colnetに挙げられた資料を参考に予想を立て、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	「アソシアシオン」「物象化論的錯視」というキーワードを抑えながら、労働者を解放しようとしたマルクスの意図と構想のポイントをノートにまとめる。	120分
10	第一部 金11/20 第二部 金11/20	現代の環境思想：レイチェル・カーソン『沈黙の春』と日本の公害	カーソンの『沈黙の春』の成立事情と1970年代の日本の公害問題と現代の環境問題とを関連づけて学修する。	
		この回の到達目標	文学者ではなく海洋生物学者としてカーソンが『沈黙の春』で警告した内容を的確に把握し、説明できる。	
		事前学修	Colnetに挙げられたカーソンの『沈黙の春』冒頭の「明日の寓話」を読み、「白い粉」は何の寓意かを予想し、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	生態系が「目に見えないネットワーク」であることを見定めつつ、授業で触れられなかった彼女の思想をまColnetに挙げられた資料にあるカーソンの思想をノートにまとめる。	120分
11	第一部 金11/27 第二部 金11/27	現代の環境思想：ディーブ・エコロジー①自己実現	「エゴ」と「セルフ」区別を踏まえつつ、アルネ・ネス「拡大自己実現」の思想を学修する。	
		この回の到達目標	「自己同一化」というキーワードを抑えつつ、「自我ego」から区別されるネスの「自己Self」概念を的確に理解し、ネスのホーリズムの立場を説明できる。	
		事前学修	起点を共有しながらも、本質的に異なる概念とされる「自我」と「自己」。その異同の内実は何かについて、Colnetに挙げられた資料を読みながら予想を立て、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	実体としての「自我」、関係としての「自己」という両概念の特性に注意しながら、ネスの思想をノートにまとめる。	120分
12	第一部 金12/4 第二部 金12/4	現代の環境思想：ディーブ・エコロジー②エプロン・ダイアグラム	ディーブエコロジーの思想と運動の違いに留意しながら、エプロン・ダイアグラムとプラットフォーム原則について学修する。	
		この回の到達目標	ディーブエコロジー運動にあつては、エプロン・ダイアグラムにおいて、レベル1の宗教・哲学よりも、レベル2のプラットフォーム原則のほうが重視されることの根拠について、的確に理解し、説明できる。	
		事前学修	ディーブエコロジー運動において、思想や信条などの哲学的理念を共有事項とすると、なぜ問題なのかについて、Colnetに挙げられた資料から予想を立て、受講に備える。	120分
		事後学修	プラットフォーム原則の第4原則「不可欠の必要」があえて「曖昧な」書き方になっている点に注意ながら、プラットフォーム原則全体の要点をノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11 第二部 金12/11	現代の環境思想：ディー プ・エコロジー③食の思想	ディープ・エコロジストとは微妙に異なる「生命中心主義」の論客ピーター・シンガーと対比し つつ、アルネ・ネスが食に関してどのような立場にあったかについて学修する。	
		この回の 到達目標	食の哲学・自然観をめぐってアルネ・ネスとピーター・シンガーの見解が微妙に異なる事情にあることを理解し、 両者の異同を的確に説明できる。	
		事前学修	生きるためには食べなければならず、食べるためには殺さなければならない。この矛盾に対するネスの「生 命圏平等主義」の主張の意味は何か？ 自分なりの考えをノートにまとめ、受講に備える。	120分
		事後学修	生きものの「いのちを解く」現場から離れた現代人の食生活の問題は何かを考えながら、人間が「生きる」 ことの意味をネスがどのようにとらえていたかについて、ノートにまとめる。	120分
14	第一部 金12/18 第二部 金12/18	現代の環境思想：アルネ・ ネスのセルフ論	エーリヒ・フロムとスピノザを引き合いに出しながら、アルネ・ネスの「セルフ」論をより深く 学修する。	
		この回の 到達目標	フロムとスピノザに関するネスの見解を手がかりにしつつ、第11回で学んだネスの「自己実現」論をより深いレベ ルで理解し、フロムとスピノザからネスが何を学んだかについて説明できる。	
		事前学修	Colnetに挙げられた資料を読み、なぜ「自己愛」と「他者愛」が両立可能なのかについて、自分なりにノー トにまとめ、受講に備える。	120分
		事後学修	フロムから共感論のほかに、“preserve in his being”というスピノザの主張がなぜ必要となるのか、「エ ゴの脱色（解放）」という視点から、ネスの自己実現論をノートにまとめる。	120分
15	第一部 金12/25 第二部 金12/25	現代の環境思想：ソーシャ ル・エコロジー	ディープ・エコロジーの発想で見落とされがちな、社会関係（人間対人間の関係）の問題をマレ イ・ブクチンのソーシャル・エコロジー思想から学修する。	
		この回の 到達目標	エコロジー問題を考える際に、対自然関係よりも対人間関係が優先課題となる理由について、現代社会の事例を挙 げて理解し、説明できる。	
		事前学修	ブクチンの『エコロジーと社会』第1章に登場する、カリフォルニア出身のエコロジストの言説のおかしな 点とは何か？ Colnetに挙げられた資料を読み、自分なりの考えをノートにまとめる。	120分
		事後学修	生物資源を略奪するドイツの製菓会社の事例を参考に。社会的な人間相互の関係を改善せずには、地球環境 問題の真の解決には至らない、というブクチンの主張をノートにまとめる。	120分

科目名	社会文化論A【東京の社会文化史】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 大岡担当のこの講義では、「東京の社会文化史」と題して、都市論のさまざまなアプローチを織り込みながら、明治・大正・昭和の東京に関するトピックスを掘り下げ、この巨大都市の変化とその特質を考察する。その際、特に地域社会構造（コミュニティ）や生活文化などに重点を置きながら検討する（具体的なトピックスは、講義計画を参照のこと）。同時に、受講生とともにこれからの都市への向き合い方を考える場としたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」（Bコース）の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
東京の過去・現在・未来に関心を持つ者、街歩きが好きな者を歓迎する。単位だけが欲しいという者、参加意欲のない者の履修はお断りします。

【授業方法】
レジュメとパワーポイント・画像・映像を使用し、時折ディスカッションや小レポートなどを通じて参加型の形式を取り入れる。宿題を課すこともある。課外でフィールドワークを行うこともある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントカード。ピア・レビュー。フィールドワーク。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。		2	2	2	2							
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。		2	2	2	2							
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。		2	2	2	2							
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													
【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。		30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。		10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。		10										10
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			50	30	20								100
【課題に対するフィードバックの方法】													
講評をポータルサイトで発表													

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。講義中に読書リストを配布する。				
【オフィスアワー】					
火曜13:00～14:00 金曜18:00～18:30 なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。		
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史資料や公文書の保存・公開の重要性。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	「東京の社会文化史」とは どういう講義か	さまざまな都市へのアプローチを踏まえ、本講義の狙いと視点、講義概要を説明する。 評価方法、単位取得条件、注意事項、文献紹介についても言及する。	
		この回の 到達目標	本講義の狙いを理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読して、頭に入れておく。特に講義の趣旨や全体像を概観しておく。	120分
		事後学修	ガイダンス資料を熟読しながら、履修を検討する。	120分
2	4/14	東京遷都	江戸幕府を崩壊させた明治新政府は、なぜ江戸への遷都を選んだのだろうか。	
		この回の 到達目標	東京遷都の歴史過程と遷都戦略の意味を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
3	4/21	明治の東京改造	江戸幕府の崩壊によって荒廃した街をどのように復興させていくのか。 明治の東京改造の試みや構想を分析し、封建都市から近代都市へ脱却の意味を考える。	
		この回の 到達目標	明治のまちづくりの歴史的意義を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 なぜ東京を改造しなくてはならなかったかを考えてみる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
4	4/28	下町の社会構造と暮らし	江戸との連続性の強い下町の住民像と生活様式を分析し、明治の下町の地域社会のあり方から考 える。	
		この回の 到達目標	「下町」的なものの原型を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「下町」についての自分のイメージをまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
5	5/5	山の手の主婦の日記を読む	明治30年代の山の手の主婦が書いた日記を分析し、下町とは相対的に異なった「山の手」の生活 様式や地域社会のあり方について考える。	
		この回の 到達目標	「山の手」的なものの原型を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「小林信子日記」を読んで、レポートをまとめる（宿題）。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
6	5/12	最暗黒の東京 ——都市下層社会論	都市スラム（都市下層社会）がどのようなものであり、なぜ形成されたのか、そこを「最暗黒」 と名指しするような視線（眼差し）が市民の間に生まれたのはなぜか。	
		この回の 到達目標	都市空間の格差や差別についての視点を獲得する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「スラム」についての自分のイメージをまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	工業化と地域社会 ——新下町論	東京の工業化に伴って生まれた地域社会＝「新下町」の社会構造や生活様式の特質について分析する。	
		この回の到達目標	「下町」的なものの変容について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。月島は「下町」か？、自分の答えをまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
8	5/26	郊外の思想と住宅地形成	東京の人口が飽和し都市問題が発生する中で、「郊外」の価値が発見される。そのなかでイギリスの「田園都市」思想が日本に紹介されるが、日本的な変容を遂げ定着していく。	
		この回の到達目標	日本における郊外住宅地形成の過程を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。「郊外」についての自分のイメージをまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
9	6/2	百貨店と商業空間の変容	百貨店の誕生を取り上げ、都市空間の消費化について考える。	
		この回の到達目標	都市の発展と消費社会化との関係について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。「百貨店」に関わる自分の体験をまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
10	6/9	関東大震災と朝鮮人虐殺	関東大震災の被害を概観したうえで、その直後に起こった朝鮮人虐殺事件の実態とその背景について考える。	
		この回の到達目標	都市空間における差別と不平等への視点を獲得し、「共生の作法」の重要性を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。関東大震災について知っていることを書き出す。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
11	6/16	震災復興と都市構造の変容	関東大震災後の復興事業の実施過程や内容を検討する。	
		この回の到達目標	土地区画整理事業をはじめとする復興事業の意義や問題点を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。震災復興で出来た施設を挙げる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
12	6/23	東京の盛り場論(1)―浅草	江戸時代から続く宗教的盛り場である浅草を取り上げ、変容し続ける娯楽空間のダイナミズムを考える。	
		この回の到達目標	「盛り場」とは何か、その活力の源泉についての考え方を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。盛り場とは何か、自分なりの考えをまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	東京の盛り場論(2)―銀座・新宿	震災後の「モダン東京」を象徴する盛り場である銀座・新宿を取り上げ、都市構造の変容と盛り場の変容との関係を考える。	
		この回の到達目標	都市構造の変容と盛り場の変容との関係について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。銀座と新宿のイメージを自分なりにまとめる	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
14	7/7	戦争と東京――地域の組織化と空襲による破壊	戦時下における都市住民の組織化と地域社会の変容、および戦争末期の東京大空襲の実態を踏まえ、「都市は戦争できない」というテーゼについて考える。	
		この回の到達目標	戦争という「非日常」の経験を媒介にして、都市の「日常」への視点を得る。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。自分の地域の町内会や空襲について調べておく。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
15	7/14	まとめ 都市への向き合い方（ディスカッション）	近代都市東京の歴史を素材として、都市の諸相について検討してきた本講義を振り返り、「都市への向き合い方」を考えるディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	自分なりの「都市への向き合い方」を思考し、伝達することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を振り返る。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

科目名	社会文化論A【中国の社会文化】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。齋藤担当のの社会文化論Aでは【中国の社会文化】について講義をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。適宜、資料・史料・地図・各種の「参考図」などを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。					2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
天下と天朝の中国史	檀上寛	岩波書店（新書）	2016	参考書	推奨
故事成句でたどる楽しい中国史	井波律子	岩波書店（ジュニア新書	2004	参考書	推奨
中国の論理	岡本隆司	中央公論新社（新書）	2016	参考書	推奨
漢字の文化史	阿辻哲次	筑摩書房（学芸文庫）	2007	参考書	任意
三国志演義	井波律子	岩波書店（新書）	1994	参考書	任意
二十世紀中国の革命と農村	田原史起	山川出版社	2008	参考書	任意
中国近代史	岡本隆司	筑摩書房（新書）	2013	参考書	任意
備考	教科書は使用しない。上記以外の参考書については授業のなかで、適宜、紹介してゆく。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（４号館１階412研究室） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4/8	中国の帝王像		本科目の趣旨・授業内容・授業運営の方法を説明する。その上で、中国において理想とする帝王像を考える。中華たる中国人が周辺諸民族にとった差異の論理について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の帝王像について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国の帝王像について、神話・伝説との関係を把握し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	120分
2	4/15	帝王の呼び名と社会文化の規範		中国では、本名のほかにいくつもの「名前」が付けられ、呼び方などについて社会のルールができてきた。名前と社会ルールの関係を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、帝王の名・名前の社会的な関係について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、帝王の呼び名について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、帝王の呼び名について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
3	4/22	中国における文書行政の成立		中国における文書行政について検討したい。文字と記録紙の使用・普及があって各種の行政が可能となり、また円滑に処理できるようになった。文字と記録紙の発明・普及と文書行政の関係を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文字・記録紙の普及と文書行政の関係について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、文字（漢字）や文書行政について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、漢字の起源・発展と文書行政について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
4	4/29	天命思想の成立と展開		中国の歴代王朝の正統性、為政者や政権の担い手、文化人が共有した天命思想は、王朝の政治・支配にとって必須のものであった。天命思想と政治・支配の関係を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天命思想と政治・支配との関係について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、天命思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、天命思想と政治・支配との関係について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
5	5/6	革命思想・讖緯思想		革命思想と讖緯思想が、王朝の政治・支配の正当性・儀式形成に大きな影響をあたえ、また支配者が援用したことを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、革命思想・讖緯思想が王朝の政治や支配体制に大きな影響を与えたことについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、革命思想・讖緯思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、革命思想・讖緯思想が王朝の政治や支配体制に大きな影響を与えたことについて、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
6	5/13	正当性からみた支配と支配秩序 皇帝と王朝		帝王・皇帝たる人物は有徳者であることが絶対条件であった。有徳者は文化的な価値の体現者で、その「徳」は儒教から由来するものであること考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正当性からみた皇帝支配とその秩序について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、皇帝と王朝について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、正当性からみた皇帝支配とその秩序について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	中国の歴史書にみられる「皇帝誕生」と「求められた理想像」の共通性	中国では新王朝成立後、その王朝は支配の正当性の1つとして前王朝の歴史を編纂した（正史）。正史の編纂は国家事業として取り組まれ、その歴史書には体裁などに原則がみられた。歴史書の体裁を守り受け継ぐことが新王朝に求められた。文化と国家事業の関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の歴史書にみられる「皇帝誕生」と「求められた理想像」の共通性について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の歴史書にみられる「皇帝誕生」と「求められた理想像」の共通性について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国の歴史書にみられる「皇帝誕生」と「求められた理想像」の共通性について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
8	5/27	民衆世界の英雄（ヒーロー）	中国の通俗小説にみられる人物に着目して、民衆の英雄像をとらえて、民衆の意識を考える。また正史『三国志』と『三国志演義』を比較して考える。その後、『三国志』と『三国志演義』について的小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民衆世界の英雄像、『三国志』と『三国志演義』について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、『三国志』と『三国志演義』について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、『三国志』と『三国志演義』を比較し、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
9	6/3	民間信仰と地域社会とその秩序	中国では、支配者・知識人が価値をおいた思想や信仰のほかに、民間信仰があった。農民や漁民、商人の精神的な拠りどころになった信仰したと、彼らによる地域・集団の「規範」について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民間信仰と地域・集団の「規範」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、民間信仰と地域社会とその秩序について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、民間信仰と地域社会とその秩序について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
10	6/10	中国の王朝による全国統一と東西交流	中国の歴史は、王朝による統一と分裂の時代であった。全国統一がもつ意味と交流によって中国にもたらされた文物が社会に浸透し、やがて規範や秩序に影響を与えたことを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の王朝による全国統一と東西交流について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国の王朝による全国統一と東西交流について、文化と規範秩序の関係について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
11	6/17	前近代中国における法と政治―法・権力・権勢の関係	法家思想と政治 前近代中国における政治において、法と統治、さらに法律がもつ意味を法家思想との関わりで考える。その後、法家思想と政治について的小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前近代中国における法・法と統治について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、前近代中国における法・法と統治について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、前近代中国における法・法と統治について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	6/24	前近代中国における法と刑罰 身分と法	前近代中国における刑罰について、良民・賤民という身分や男尊女卑という意識がどのように刑罰等に反映されたかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、身分と法について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、前近代中国における法と刑罰について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
13	7/1	前近代中国における家族 - 婚姻・「同居共財」	前近代における家を取りあげ、家族・宗族にみられる意識がどのように社会の規範を成り立たせていたかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前近代中国の家についての意識と社会の規範との関係をについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、前近代中国の家について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、前近代中国の家についての意識と社会の規範との関係をについて、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
14	7/8	中国に関する「社会文化論A」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎的な知識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	180分
		事後学修	再度、試験問題を解く。	150分
15	7/15	試験解説、中国に関する「社会文化論A」に関する講義総括	試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国に関する社会文化論について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	90分

科目名	社会文化論A【沖縄表象文化論】	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 前嵩西担当のこの講義では、「沖縄表象文化論」と題して、人類学を中心とした人文科学の方法論を主に用い、近現代の沖縄に関する具体的なできごとやイメージを扱う。特異な文化と歴史を有する沖縄を取り巻く現代社会の政治的状況を鑑みつつ、構造的差別、国民国家、平和主義といった沖縄とともに問うべき普遍的問題群について考察する。何かを平易な形で他者に伝えることよりも、自分に伝えられるかどうかに力を集めるような諸相において、表象そのものが傾く意味について丁寧に考えていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】 文化人類学を履修済みの者、初回に参加し講義の趣旨をよく理解した者を対象とする。
--

【授業方法】 毎回の討議、グループワーク、レビューシートの提出、場合によってはレポートの提出を求める。ゲスト・スピーカーを囲んでの討論や小規模なフィールドワークを実施することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レビューシート、小レポート、フィールドワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。		2	2	2	2			
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。		2	2	2	2			
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。		2	2	2	2			
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	前富西一馬、勝方＝稲福恵子	昭和堂	2010年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14:30～15:00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文化イベントや市民講座などにおける企画運営。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実社会における文化の役割やその政治性についての議論を通して教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		イントロダクション 沖縄と学ぶことの意味について考える	沖縄学についての歴史、現状および沖縄を対象とする様々な人文・社会科学の諸領域についての概略を述べる	
		この回の到達目標	本講義の趣旨を理解すると同時に自分なりの問題設定を確認する。	
		事前学修	シラバスを熟読し、沖縄を学ぶことの自分なりの意義について言語化し整理しておく。	120分
		事後学修	配付資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
2		琉球・沖縄の歴史と言語 1	沖縄における言語的世界の概観とそのリアリティについて考える。	
		この回の到達目標	沖縄という具体的な場所で、ことばを通してことばを考えることの不可能性と可能性を議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、ことば（特に標準語や方言）について自分なりの経験や定義をまとめておく	120分
		事後学修	沖縄における言語的世界についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
3		琉球・沖縄の歴史と言語 2	沖縄における言語的世界のリアリティをめぐる諸問題について考える。	
		この回の到達目標	沖縄の歴史という具体的な時間でのなかで、ことばを通してことばを考えることの不可能性と可能性を議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、ことば（特に標準語や方言）について自分なりの困難な経験や印象的なできごとをまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄における言語的世界についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
4		文化の翻訳 1	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品や論考を通して考える。	
		この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自らの沖縄のイメージについてまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄を扱う具体的な作品についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
5		文化の翻訳 2	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品や論考を通して考える。	
		この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自らの沖縄のイメージがどのように作られてきたのかまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄を扱う具体的な作品についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
6		文化の翻訳 3	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品やできごとを扱った批評や論考を通して考える。	
		この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを扱った批評や論考を通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、社会における沖縄のイメージがどのように作られてきたのかまとめておく	120分
		事後学修	沖縄を扱う具体的な批評や論考についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や論争などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		芸術・芸能を味わう 1	沖縄の伝統芸能におけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。 ゲストスピーカーを囲んで討議を予定する。	
		この回の到達目標	伝統芸能の世界における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分が触れたことのある沖縄の伝統文化のイメージをまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄の伝統文化についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。	120分
8		芸術・芸能を味わう 2	現代美術におけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。	
		この回の到達目標	現代美術の舞台における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分が触れたことのある沖縄のアートのイメージをまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄を中心とする日本における現代美術についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。	120分
9		芸術・芸能を味わう 3	観光やショービジネスを中心とするメディアにおけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。	
		この回の到達目標	観光やショービジネスを中心とする沖縄の文化産物における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、沖縄のイメージがどのように形成されてきたかを自分なりにまとめておく	120分
		事後学修	沖縄を中心とする日本における文化産物についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。	120分
10		宗教と信仰の世界 1	王権論と世界観について考える。	
		この回の到達目標	沖縄と日本における人類学・民俗学で扱われてきた王権論について考える。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分なりの宗教や信仰のイメージについてまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄と日本における王権論や宗教的世界観についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。	120分
11		宗教と信仰の世界 2	シャーマニズムについて考える。	
		この回の到達目標	沖縄と日本における人類学・民俗学で扱われてきたシャーマニズム論について考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分自身が持っている宗教的世界観や信仰に対するリアリティについてまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄と日本におけるシャーマニズム論や宗教的世界観についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。	120分
12		戦争の記憶と基地問題 1	具体的な戦争の記憶と基地問題を巡る問題群を通して、共同体について考える。	
		この回の到達目標	戦争の記憶を語り継ぐ代代的な意義と基地問題を通して共同体のあり方を議論する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分自身が接してきた戦争関連のニュースや基地問題に関する言説についてまとめておく。	120分
		事後学修	戦争の記憶と基地問題についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		戦争の記憶と基地問題 2	具体的な戦争の記憶と基地問題を巡る問題群を通して、国民国家について考える。	
		この回の到達目標	戦争の記憶を語り継ぐ世代的な意義と基地問題を通して国民国家のあり方を議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、戦争の記憶と基地問題をめぐる議論についてまとめておく。	120分
		事後学修	戦争の記憶と基地問題についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。	120分
14		復帰と反復帰について	同化と異化の問題を文学と政治の領域で考える。	
		この回の到達目標	アイデンティティやエスニシティといった分析概念を整理しつつ、そこからこぼれ落ちるリアルな民族誌的風景を考える。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、日本と沖縄の関係性をめぐる議論についてまとめておく。	120分
		事後学修	復帰と反復帰についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された論考などに触れる。	120分
15		まとめ	これまでのトピックをもとに、沖縄と学ぶアリーナの内と外で討議を行う。	
		この回の到達目標	講義内容とレビューシートへのフィードバックを振り返り、沖縄の文化や社会に対するイメージの変化について議論する。同時に自分自身の言葉が生まれることによって、世界が活気を帯びる様子を共有する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、沖縄の文化や歴史について自分なりの言葉で整理をする。	120分
		事後学修	これまでの資料やノートを見直して講義内容を復習する。期末レポートを作成する。	120分

科目名	社会文化論B【近代日本の戦争と社会】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 大岡担当のこの講義では、「近代日本の戦争と社会」と題して、戦争や軍隊と社会との関係を歴史的に考察する。戦史や兵器にフォーカスする授業ではない。なぜ人びとは兵士となることを受け入れたのか？、庶民はどのように戦争と関わりを持ったのか？、兵隊はどのように戦い、どのように死んでいったのか？　このような素朴な疑問に導かれながら、戦時下の兵士や市民のリアルに迫るとともに、彼らの意識や行動を社会構造の問題としても捉えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
本講義は軍事史や戦史を扱うものではない。初回に出席して、講義の趣旨を良く理解してから履修すること。勉学意欲のない者や単位だけが欲しいという者は履修しないほしい。

【授業方法】
レジュメとパワーポイント、映像を使用する。ディスカッションを随時行う。コメントカードや振り返りシートの提出などを求める。こちらの問題提起に対し、自分なりに思考し、あるいは発言をするなど、授業に積極的に参加して欲しい。展示施設への見学会も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントカード。小レポート。フィールドワーク。ピア・レビュー。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。		2	2	2	2							
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。		2	2	2	2							
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。		2	2	2	2							
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													
【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。		30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。		10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。		10										10
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			50	30	20								100
【課題に対するフィードバックの方法】													
講評はポータルサイトで発表する。													

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。読書リストは授業中に配布する。				
【オフィスアワー】					
火曜13:00～14:00 金曜18:00～18:30 なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。		
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的資料や公文書の保存・公開の重要性について教育する。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	イントロダクション——戦場を想像することの意味	現代日本人の戦争観の一端を紹介し、それを踏まえながら本講義の問題意識や狙い、視角を説明する。 あわせて、講義計画や履修上の注意について述べる。	
		この回の到達目標	本講義の趣旨を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読する。講義の趣旨を良く理解する。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
2	9/22	国民国家と軍隊	近代における戦死者の数の増大や戦争形態の変化をもたらした国民国家について比較史的に考える。	
		この回の到達目標	国民国家概念の理解の上に立って、国民国家と戦争・軍隊との関係について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。国民国家についての知識を確認しておく。	120分
		事後学修	国民国家と軍隊との関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
3	9/29	戦争とナショナリズム——日清戦争を中心に	日清戦争を事例に戦争とナショナリズムとの関係について考える。	
		この回の到達目標	ナショナリズムが戦争や軍隊に与える影響と、戦争や軍隊がナショナリズム形成に与える影響について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。ナショナリズムについて知っていることをまとめる。	120分
		事後学修	戦争とナショナリズムとの関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
4	10/6	総力戦体験と戦争違法化——第一次世界大戦の意義	総力戦という形態をと、それが生み出した惨禍が戦争の違法化という新しい理念を生み出したことを中心に、第一次世界大戦の歴史的意義を考察する。	
		この回の到達目標	戦争社会史のうえでの第一次世界大戦の歴史的意義について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。第一次世界大戦について知っていることをまとめる。	120分
		事後学修	戦争の歴史にとつての第一次世界大戦の意義を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
5	10/13	「良兵」を作り出す社会——軍隊と社会構造	なぜ徴兵制が受容されたのかを社会構造の問題として考える。	
		この回の到達目標	軍隊を支える社会的な基盤を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の軍隊についてのイメージをまとめておく。	120分
		事後学修	軍隊と社会構造との関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
6	10/20	戦場の兵士——軍事郵便や兵士の日記を読む	兵士が家族などに当てた手紙や兵士の日記を素材に、戦場での兵士の体験や意識を探る。	
		この回の到達目標	戦場の実態や兵士の置かれた状況をリアルに認識するとともに、日本軍兵士の蛮行の構造的要因を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。戦場では何が起こっていたか、知っていることをまとめる。	120分
		事後学修	日本軍兵士の蛮行の構造的要因を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	マス・メディアと「大衆の国民化」——満州事変を例として	満州事変期の排外主義的ナショナリズムの高揚についてのマス・メディアの役割を考える。	
		この回の到達目標	「大衆の国民化」に果たしたマス・メディアの役割を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。満州事変についての知識を確認しておく。	120分
		事後学修	「大衆の国民化」に果たしたマス・メディアの役割を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
8	11/10	総力戦体制と国民(1) ——国民の精神・身体の動員	総力戦体制下の国民動員政策について考察する。	
		この回の到達目標	思想・身体の動員システムについて理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。「総力戦」に関する知識を確認しておく。	120分
		事後学修	国民の精神・身体の動員メカニズムを中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
9	11/17	総力戦体制と国民(2) ——強制と同意	総力戦体制下の国民動員がなぜ可能であったのかを、システムの強制性と同意の契機の両側面から考察する。	
		この回の到達目標	総力戦体制と国民との関係を構造的・重層的に捉える視点を獲得する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。国民は戦争の被害者であるか？、考えをまとめておく。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
10	11/24	しょうけい館（戦傷病者資料館）見学会	九段下にあるしょうけい館（戦傷病者資料館）を見学し、等身大の兵士の姿や軍隊のシステム、戦場の実態と過酷な従軍体験、戦後の傷痍軍人が置かれた状況等について学ぶ。	
		この回の到達目標	展示物から戦争や軍隊のリアリティを学び取る。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。しょうけい館のWEBサイトをみて、施設の概要を確認しておく。	120分
		事後学修	見学で感じたこと、学んだことをレポートにまとめる。	120分
11	12/1	ピア・レビューとディスカッション	しょうけい館の見学レポートについてのピア・レビューを実施、そこで出た論点について全体でディスカッションする。	
		この回の到達目標	多様な意見に触れることで、戦争や軍隊のリアリティに関する理解や戦争と社会との関係についての学びを深める。	
		事前学修	しょうけい館の見学レポートを執筆する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容やピア・レビューでの指摘を振り返る。関連する文献を読む。	120分
12	12/8	兵士たちの無残な死 ——餓死・玉砕死・特攻死	映像や手記、証言などを通じて、戦場における悲惨な状況を明らかにし、その構造的要因について考える。	
		この回の到達目標	戦場の実態や兵士たちの死に方の特異性や構造的要因を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。戦死に意味があるのか？、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	無残な死の構造的要因を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	チョウ・ムンサンの遺書 ——極限下の人間から何を学べるか？	B C 級戦犯として処刑された朝鮮人軍属の遺書を読み、戦争における生と死、罪と罰について考える。	
		この回の到達目標	戦争における加害と被害の重層性という問題への理解を深める。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。戦犯や戦争裁判についての知識を確認する。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
14	12/22	戦争の「傷痕」 ——忘れられた戦争犠牲	「忘れられた皇軍」などの映像を視聴し、戦争の記憶と忘却に関わる諸問題を考える。	
		この回の到達目標	「戦争の記憶」をめぐる問題の所在を理解し、それについて考えることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。戦争はいつ終わるのか、戦後はいつ終わるのか？、自分なりの答えをまとめる。	120分
		事後学修	日本の戦後処理の特質を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
15	1/12	おわりに	まとめのディスカッション	
		この回の到達目標	講義内容を振り返り、あるいはディスカッションにおける他の受講生の発言に触れることを通じ、自らの達成や認識の変化を確認し、今後の課題を考えることができる。	
		事前学修	講義内容を復習する。講義を通じて、自分の戦争観、さらには人間観や社会観どのような変化があったのか、ディスカッションでの発言を考えておく。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して講義内容・ディスカッションでの議論を復習する。 関連する文献を読む。期末レポートを執筆する。	120分

科目名	社会文化論B【中華世界の諸相】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。齋藤担当の社会文化論Bでは【中華世界の諸相】について講義をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。適宜、資料・史料・地図・各種の「参考図」などを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
天下と天朝の中国史	檀上寛	岩波書店（新書）	2016	教科書	推奨
故事成句でたどる楽しい中国史	井波律子	岩波書店（ジュニア新書）	2004	参考書	推奨
中国の論理	岡本隆司	中央公論新社（新書）	2016	参考書	推奨
はじめて学ぶ中国思想：思想たちとの対話	渡邊義浩ほか編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
科学と官僚制	平田茂樹	山川出版社	2017	参考書	任意
儒教の歴史〔宗教の世界史 5〕	小島 毅	山川出版社	2017	参考書	任意
仏教の歴史2〔宗教の世界史 4〕	末木文美士編	山川出版社	2018	参考書	任意
道教の歴史〔宗教の世界史6〕	横手 裕	山川出版社	2015	参考書	任意
備考	教科書は使用しない。上記以外の参考書については授業のなかで、適宜、紹介してゆく。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階412研究室） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9/16	華夷思想と中華世界		本科目の趣旨・授業内容・授業運営の方法を説明する。その上で、華夷思想の成立と展開を考える。中華たる中国人が周辺諸民族にとった差異の論理について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、華夷思想と中華世界について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	120分
2	9/23	中華思想と中華世界の国際秩序－東アジアの国際秩序		中華思想にもとづいた国際秩序が成立した東アジアについて、中華思想と東アジア国際関係について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中華世界の国際秩序について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中華世界の世界秩序について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中華世界の国際秩序について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
3	9/30	朝貢・冊封体制 朝貢と交易のネットワーク		朝貢冊封関係を求める中国王朝には、「皇帝の徳の広がり」と周辺諸地域の皇帝への敬慕」という意識があった。中国王朝の意識と「朝貢冊封体制」という対外関係について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、朝貢・冊封体制と中国王朝の対外意識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、朝貢冊封体制について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、朝貢・冊封と中国王朝の対外意識との関係について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
4	10/7	中華世界の崩壊と万国公法（国際法）		アヘン戦争の敗北によって、中国は国際法の社会に参入した。しかしスムーズに新たな国際秩序に加わったわけではなかった。外国との戦争をへて、はじめてなされたもので、前近代中国人の意識と戦争との関係を考える。その後、中華世界についての小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また、小テストの解説をする。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中華世界の崩壊と万国公法（国際法）について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中華世界の崩壊と万国公法（国際法）について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中華世界の崩壊と万国公法（国際法）について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
5	10/14	科举以前の官吏登用法と地域社会		秦代に官僚制度が整った中国では、多くの行政官が必要となった。科举以前にも官吏登用法が実施され人材が確保された。官僚とし求められた文物や基準は、実務を遂行していくにあたっての知識・技能ではなかった。そこで求められたものは何かを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科举以前の官吏登用法と地域社会について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、科举以前の官吏登用法と地域社会について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、科举以前の官吏登用法と地域社会について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
6	10/21	科举の成立－導入・展開・発展と皇帝権力の関係－		科举は唐代で成立し、20世紀初頭までつづいた。試験による選抜であるが、そこに求められたのは実務を遂行するための基礎的な知識ではなかった。文人としての文化的な素養（漢詩・書道など）であった。社会的指導者に求められたものと、実際の政治との関係について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科举と、その試験に求められた教養について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、科举について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、官僚・行政官の採用・任用にあたって求められたものについて、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	中国の農村	農民たちの暮らしと地域との関係をふまえて農村統治のあり方と王朝の教化との関係を、また近代にみられた農村における統治と土地革命について検討して、そこにみられる施策と文化の関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の農村について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の農村について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国の農村について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
8	11/11	中国の都市	前近代中国の都市の特徴と、都市の唐代から宋代の変容を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の都市について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の都市について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国の都市について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
9	11/18	中国思想	中国の古典思想を概略し、思想と王朝や社会との関係にふれて考える。思想と社会との関係について、9回～13回の授業において具体的に考えていく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国思想について要点をノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国思想について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	120分
10	11/25	儒教と王朝	儒教思想の形成・発展をとらえるとともに、王朝との関係においていかに政治や施策に反映したかを考える。その後、儒教と王朝についての小テストをおこなう。同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、儒教と王朝との関係において儒教がいかに政治・施策に反映したか説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、儒教と王朝について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、儒教と王朝について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
11	12/2	儒教思想と朝鮮半島・日本	儒教思想の朝鮮半島・日本における広がりとともに、儒教を受容した朝鮮半島・日本での政治や施策、社会通念との関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教を受容した朝鮮半島・日本での政治や施策、社会通念との関係について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、儒教思想と朝鮮半島・日本について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、教を受容した朝鮮半島・日本での政治や施策、社会通念との関係について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
12	12/9	仏教思想と王朝	インドから伝来した仏教が、東アジアで広がり変容し、さらに政治をはじめ諸政策に如何に影響をあたえたか、その関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仏教思想が政治をはじめ諸政策に如何に影響を与えたかを説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、仏教思想と王朝について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、仏教思想が政治をはじめ諸政策に如何に影響を与えたか、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	道教思想と王朝	道教の源流となる思想はいくつもあるが、それが道教として成立した。この道教が政治をはじめ諸政策に影響をあたえ、また日常生活における「規範」「信仰」となった。政治や生活において如何に影響をあたえたか、両者の関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、道教思想と王朝の諸政策、生活における「規範」「信仰」との関係について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、道教思想と王朝について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
14	12/23	中国に関する「社会文化論B」に関する講義総括、授業内試験	中国に関する「社会文化論B」に関する講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国に関する「社会文化論」に関する基礎的な知識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	180分
		事後学修	再度、試験問題を解く	150分
15	1/13	試験解説、中国に関する「社会文化論B」に関する講義総括	中国に関する「社会文化論B」に関する試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国に関する社会文化論について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	90分

科目名	社会文化論B【マイノリティ・スタディーズ】	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 前嵩西担当のこの講義では、「マイノリティ・スタディーズ」と題して、現代社会における様々なマイノリティを取り巻く諸問題と可能性を取り上げる。最新の文化理論や具体的な時事的問題を紹介しつつ、当事者性、エスニシティ、セクシュアリティなどの領域を、言語・文化・権力を軸に考察する。誰かのことばと世界や社会が天秤にかけられゆらめく均衡に、自分の考えや経験を小さな錘（おもり）として丁寧に載せ置く作業が求められます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
文化人類学を履修済みの者、初回に参加し講義の趣旨をよく理解した者を対象とする。特に当事者性を有する、もしくは強い関心のある者の参加を望む。

【授業方法】
毎回の討議、グループワーク、レビューシートの提出、場合によってはレポートの提出を求める。ゲスト・スピーカーを囲んでの討論や小規模なフィールドワークを実施することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レビューシート、小レポート、フィールドワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。		30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。		10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。		10										10
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)	50	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					
【オフィスアワー】					
金曜日14:30～15:00					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文化イベントや市民講座などにおける企画運営。		
実務経験に基づく実践的教育の内容		実社会におけるエンパワーメントの重要性やアイデンティティ・ポリティクス の課題などの議論を通して教育する。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		イントロダクション マイノリティと学ぶことの意味について考える	マイノリティ・スタディーズという領域の可能性と問題について考える。	
		この回の到達目標	本講義の趣旨を理解すると同時にマイノリティという言葉が指し示す可能性と問題点について確認する。	
		事前学修	シラバスを熟読し、マイノリティという言葉が指し示す可能性と問題点について自分なりにまとめておく。	120分
		事後学修	配付資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
2		マイノリティとは誰か。	本講義で扱う様々なマイノリティの問題群をどのように学んでいくか、その形式を自ら選択するために議論する。	
		この回の到達目標	マイノリティの問題と可能性を学ぶことの意義とその方法について議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分なりにマイノリティを学ぶ意義とその方法についてまとめておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
3		少数的意見を聴く 1	ホームレスから移民、就職活動や婚活まで、様々な社会的問題と個人的活動を、マイノリティの視点を通して見つめたときに浮かび上がるシステムについて整理する。特に資本主義の問題について扱う。	
		この回の到達目標	資本主義社会における諸条件を考察することで見えてくるマイノリティの姿を考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「経済」についてマイノリティと学ぶ意義についてまとめておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
4		少数的意見を聴く 2	ジェンダー、LGBTについて具体的な作品やニュースを通して議論する。	
		この回の到達目標	「性」という最も個人的であるがゆえに社会的な条件を考察することで見えてくるマイノリティの意味を考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「性」についてマイノリティと学ぶ意義についてまとめておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
5		少数的意見を聴く 3	ジェンダー、JGBTについて具体的な作品やニュースを通して議論する。	
		この回の到達目標	「性」という最も個人的であるがゆえに社会的な条件を、具体的な作品を通して考察することで見えてくるマイノリティの可能性を考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「性」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
6		少数的立場に立つ 1	集団における個のあり方を、エスニシティ、人種問題という条件を通して議論する。	
		この回の到達目標	国家や共同体の中に存在する個人のリアリティを、エスニシティ・人種という条件を通して歴史的に考える。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された事件や作品などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		少数的立場に立つ2	エスニシティ、人種問題について具体的な作品や事件を通して議論する。	
		この回の到達目標	国家や共同体の中に存在する個人の可能性を、エスニシティ・人種という条件を通して民族誌的に考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめる。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品や論考などに触れる。	120分
8		少数的立場に立つ3	マイノリティの立場について、同化と異化の視点から議論する。ゲスト・スピーカーを囲む予定。	
		この回の到達目標	マイノリティの立場について、具体的な声を通して同化と異化の視点から議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめる。	120分
		事後学修	ゲスト・スピーカーの語りを中心に、配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。	120分
9		当事者とは誰か	当事者性をめぐる問題について議論する。	
		この回の到達目標	マイノリティの語りに接するときに不可避に生じる当事者性の問題について考える。	
		事前学修	前回のゲスト・スピーカーの語りに応答するレポートを作成する。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品や論考などに触れる。	120分
10		研究者とは誰か	マイノリティを代弁するもしくは代表する立場を取る「研究者」という立場の功罪について議論する。	
		この回の到達目標	マイノリティを研究する行為のメタレベルを問う議論の倫理的意味について考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、マイノリティと学ぶ可能性における研究者の役割についてまとめる。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考などに触れる。	120分
11		病と老いについて	「マイノリティになる」最も身近な事例のひとつとして、疾病と老化をとりあげ議論する。	
		この回の到達目標	制度や文化におけるマイノリティの役割について考える。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティという概念を自らの実人生の文脈に位置づける作業を行う。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品などに触れる。	120分
12		多文化主義について	マイノリティの声に対して社会がどのように応答してきたか、その具体的政策のひとつとして、多文化主義の歴史と課題を紹介する。	
		この回の到達目標	アメリカ社会における多文化主義の功罪について具体的な資料をもとに議論する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、多文化主義について自分のことばでまとめる。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		学校文化について	いじめ問題やスクール・カーストなど我々の社会の重要な装置としての教育に潜む課題について、マイノリティの視点から議論する。	
		この回の到達目標	誰もが共有する学校空間における「マイノリティ」の経験について言語化する作業を行う。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自らの学校生活について自分のことばで振り返っておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考や作品などに触れる。	120分
14		社会運動について	日本における典型的なマイノリティの社会問題とされてきた基地問題を取り上げ、「現地との温度差」を軸に議論する。	
		この回の到達目標	具体的なドキュメンタリー作品を通して、基地問題について議論する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティの諸問題と自分自身の社会性を切り結ぶ作業を共有する。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考や作品などに触れる。	120分
15		まとめ	これまで扱ってきた様々なマイノリティの問題群をもとに、その可能性を中心にまとめの討議を行う。	
		この回の到達目標	これまで学んできたことを振り返り、自分の言葉で整理する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティの諸問題と可能性をめぐって自分自身との繋がりをあらためて考える。	120分
		事後学修	これまでの資料やノートを見直して、講義内容を復習する。期末レポート作成の準備をする。	120分

科目名	宗教学 I	担当者	舘野 正生	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 宗教とは定義では「人間と超越的存在との関わり」とされるが、この超越的存在とは人間が成長・進化した次の段階の存在のことである。本授業では、人間が進化・成長して次の段階に向かって行くことを宗教の本義とみて、次の段階に進んだ先人たちから、どのように生きればいいのかを教わり、成長・進化するための方法を身に付ける実践を行っていきたい。このことから、特定の宗教の歴史や教義などを話すことは行わない。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 現代の世の中を生きる基礎を創るために、どのように生きればいいかに関する知識、技法を学修する。それによって生きやすくなることを到達目標とする。
--

【履修条件】 真剣に取り組める人。遅刻しないこと。隣の席は必ず空席にして着席すること。

【授業方法】		
様々な題材を自分が成長していくことに結び付けたレポートを書くということを繰り返すことと、成長・進化していくための実践を行うことで、自分で自分を成長させてゆくという形態で行っていく。レポートは次の回に紹介、講評する。レポートは中間・期末のレポートなどで使用するので、携帯端末などで必ず記録しバックアップも取ること。レポートは試験と同じ扱いなので相談したり他者のを見るなどするとカンニングとみなし無効とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業者の話を聞きそれに対してレポートを書くということを、毎回の授業で複数回、行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	宗教の定義・本義を十分に理解し、それを説明できる。				2	2		2				
②	自分の現状を明確にでき、それを基にさらに成長したことを説明できる。						2					
③	宗教の本義に基づき、いかなる時もそれに基づいて行動することができる。				2			2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	【授業内】到達目標①、②に関する知識が取得でき、それを説明できているかを授業内レポートにより評価する。(40%) 【中間】第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを提出してもらい、到達目標①、②に関わる、自分と他者のどちらにも執われない立場が身に付きつつあり、それを説明できるかを確認する。(20%) 【期末】第14回に、全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを提出してもらい、到達目標③に関わる、自分と他者のどちらにも執われない立場が身に付き、それを説明できるかを確認する。(20%)	40	20	20								80
討論・発表等												
授業への参画度	満点の100点から、遅刻は3点、欠席は5点を減点する。											
その他(宿題)	到達目標③に関し、宗教の根本義に基づいた行動ができるようになりつつあるか評価する。			20								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それについて説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	4/11	宗教の定義	宗教の定義に関して、語源、歴史、研究者による定義などについて概説し、本授業で行うことを説明する。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①に関して、宗教とはどのようなものか、その定義を理解し、根本義は何かを明確にし、それについて説明できる。	
		事前学修	宗教という言葉の定義を広く調べた上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	4/18	人生の目標・目的	前回のレポート紹介と講評。人間が生きている環境、そこをどのように生きればいいのか、その目標・目的について扱う。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、生きることの意味、人生の目標・目的を明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	人生の中間目標、最終目的について考え、ノートにまとめておく	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	4/25	人間はどのように生きればいいのか。	前回のレポート紹介と講評。日常でどのように生きているか、どのように生きることがいい方向となるのかについて扱う。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、人間はどのように生きればいいのかを明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	自分が日常をどのように生きているかを確認し、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	5/2	主人公とは何か。	前回のレポート紹介と講評。日常の自分は一体何によって動かされているのかなどに関する話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分の人生を自分で生きることを明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	自分が何を求めて生きているか、ノートに書き出し、まとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	5/9	主人公は誰か	前回のレポート紹介と講評。他人を相手にするのみでは人生が進んでいかないことなどについての授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分の主人公を明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	承認欲求について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	向上・進化できたこと	参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、ここまでの授業を利用して自分が進化向上できたことを確認し、さらなる進化を目指すことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	5/23	執われとは	前回のレポート紹介と講評。人間の苦しみはどこから生ずるのかについて授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分が執われていることを自覚し、そこから離れることができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	仏教に於ける「執(しゅう)着(じゃく)(執著)」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	5/30	執われからの展開（初段階）	前回のレポート紹介と講評。精神的次元の展開に関する初段階の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標②に関して、精神的な次元を明確にし、その次元を高めていくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	自分の精神的立場が一点に執われ続けていることを、自分の日常を記録することで調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	6/6	執われからの展開（高段階）	前回のレポート紹介と講評。精神的次元をさらに高める話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、精神的な次元を明確にし、その次元を高めていくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	自分の日常のふるまいを精神的次元にあてはめて、それを記録しノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	6/13	自分の短所・欠点	前回のレポート紹介と講評。短所・欠点を元に、そこから展開していく話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標②に関して、自分の短所・欠点を明確にし、それをどうすればよいかを考えられるようになり、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	自分の短所・欠点を調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	6/20	精神的な弱さについて	前回のレポート紹介と講評。精神的な弱さについての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標②に関して、自分の精神的な弱さについて理解し、それを乗り越えていく行動ができるようになり、それについて説明できる。	
		事前学修	精神的弱さについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	精神集中について	前回のレポート紹介と講評。精神集中についての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標②に関して、精神集中の意義について理解し、自分に合ったものを行うことができ、それについて説明できる。	
		事前学修	精神集中について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	7/4	後半のまとめ	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標③に関して、授業後半の内容を有効に使うことができているかを確認し、さらに修正していくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	7/11	生きやすくなることについて	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標③に関して、これまでの授業を振り返り、どのように生きればいいのかを確認し、より生きやすくなることができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題、すべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
		事後学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題、すべてを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	宗教学Ⅱ	担当者	舘野 正生	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 宗教とは定義では「人間と超越的存在との関わり」とされるが、この超越的存在とは人間が成長・進化した次の段階の存在のことである。本授業では、人間が進化・成長して次の段階に向かって行くことを宗教の本筋とみて、次の段階に進んだ先人たちから、どのように生きればいいのかを教わり、成長・進化するための方法を身に付ける実践を行っていきたい。このことから、特定の宗教の歴史や教義などを話すことは行わない。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 現代の世の中を生きる基礎を創るために、どのように生きればいいかに関する知識、技法を学修する。それによって生きやすくなることを到達目標とする。
--

【履修条件】 真剣に取り組める人。遅刻しないこと。隣の席は必ず空席にして着席すること。

【授業方法】		
様々な題材を自分が成長していくことに結び付けたレポートを書くということを繰り返すことと、成長・進化していくための実践を行うことで、自分で自分を成長させてゆくという形態で行っていく。レポートは次の回に紹介、講評する。レポートは中間・期末のレポートなどで使用するので、携帯端末などで必ず記録しバックアップも取ること。レポートは試験と同じ扱いなので相談したり他者のを見るなどするとカンニングとみなし無効とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業者の話を聞きそれに対してレポートを書くということを、毎回の授業で複数回、行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	自分と他者を充分に知り理解し、それを説明することができる。				2	2						
②	達成目標①に基づき、自他に執われず、いかなる時も客観的に冷静に判断することができるようになり、それを説明できる。						2	2				
③	自分の行動を観察し、意識的にすることができ、自他に執われず、いかなる時も客観的に冷静に行動することができるようになり、それを説明できる。							2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	【授業内】到達目標①、②に関して、十分に自分を理解でき、客観的に冷静に判断することができて、それを説明できるかを授業内レポートにより評価する。(40%) 【中間】第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを提出してもらい、到達目標②に関わる、自分と他者のどちらにも執われない判断が身に付きつつあり、それを説明できるかを確認する。(20%) 【期末】第14回に、全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを提出してもらい、到達目標③に関わる、自分と他者のどちらにも執われない行動が身に付き、それを説明できるかを確認する。(20%)	20	40	20								80
討論・発表等												
授業への参画度	満点の100点から、遅刻は3点、欠席は5点を減点する。											
その他(宿題)	到達目標②、③に関し、客観的に冷静に判断・行動することができ、それを説明できるかを評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それについて説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	9/26	自分を知ること	授業者による「自分を知る」ことに関する先人たちの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知ることの重要性を歴史的に理解し、その意義を明確にし、それについて説明できる。	
		事前学修	自分はどのような人かについて探究することの意義を調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	10/3	自分を知る方法	前回のレポート紹介と講評。参加者は「自分を知る」ためのテストを行い、自分について分かったことをレポートに書き、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知ることによって自分に対する理解を深め、外側から自分の軸を創ることができ、それについて説明できる。	
		事前学修	前回のノート、レポート、それに対する自分の見解を読み直し、さらに思考して授業に備えておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、さらに理解を深める。	120分
4	10/10	変えられること、変えられないこと	前回のレポート紹介と講評。「変えられること、変えられないこと」、それをどうすればいいか、などについての話に対し、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、自分を含め観察し、調和の取れた生き方ができるようになり、それについて説明できる。	
		事前学修	自分が「どうにもできないこと、どうにかできること」について広く調べ、思考し、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	10/17	無常、無我について	前回のレポート紹介と講評。仏教の「無常」、「無我」についての話などを聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、「無常」、「無我」が自分を含め観察するということであることを理解し、それについて説明できる。	
		事前学修	仏教の「無常」、「無我」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	10/24	人間の暗い面	前回のレポート紹介と講評。「人間の暗い面」についての先人の見解、授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、人間の暗い面を十分に理解し、自分に当てはめて納得し、またそれについて説明できる。	
		事前学修	「人間の暗い面」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	向上・進化できたこと	参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、ここまでの授業を利用して自分が進化向上できたことを確認し、さらなる進化を目指すことができ、それについて説明できる。	
		事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	11/7	人間の邪悪さ	前回のレポート紹介と講評。「人間の邪悪さ」に関する授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、人間の邪悪さを十分に理解し、自分に当てはめて納得でき、それについて説明できる。	
		事前学修	人間の邪悪さについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	11/14	失敗に対する捉え方	前回のレポート紹介と講評。失敗に対する先人たちの見解、授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、失敗に対する先人たちの捉え方を理解し、自分に活用でき、それについて説明できる。	
		事前学修	失敗について自分の経験から考え、見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	11/21	失敗に対処すること	前回のレポート紹介と講評。失敗に対する先人たちの対処の仕方、授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、失敗に対する先人たちの対処の仕方を理解し、自分に活用でき、それについて説明できる。	
		事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノーとを振り返り、失敗にどのように対応すればよいかを思考し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	11/28	対象に対する思い込み	前回のレポート紹介と講評。対象に対する思い込みに関する授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、対象に執われていることから、客観的に観察し、執われることから離れることができ、それについて説明できる。	
		事前学修	対象を捉えるとき、自分の思いをかぶせることについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	12/5	自分の進化を停滞させるもの	前回のレポート紹介と講評。自分の進化を停滞させるものに関する授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の進化を停滞させるものを明確に知り、それを修正して生きていくことができ、それについて説明できる。	
		事前学修	自分の進化を停滞させるものについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	自分の行動は自分が選んで行っているか	前回のレポート紹介と講評。自分の行動は自分が選んで行っているかに関する授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の行動を意識的に自分で選んで生きることができ、それについて説明できる。	
		事前学修	自分の行動は自分が選んで行っているかについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	12/19	後半のまとめ	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②、③に関して、授業後半の内容を有効に使うことができているかを確認し、さらに修正していくことができ、それについて説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	12/26	自分が生きやすくなり、それが人類の進展に繋がっていること	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、これまでの授業を振り返り、自分が生きやすくなり、それを人類の進展に繋げることができ、それについて説明できる。	
		事前学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題のすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
		事後学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題のすべてを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	心理学 I	担当者	木村 敦	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験およびレポート作成、授業内試験等も適宜実施する。 授業内試験・レポートについては、それぞれ週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
すべての成績評価指標について、授業中に解説や評価基準の開示を行う。定期試験を実施する場合は、後日ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第3版	和田万紀 編	弘文堂	2014	教科書	推奨
備考	当クラスでは、教科書は主として前期に使用し、後期は毎回配布する授業資料に基づいて進行する。				

【オフィスアワー】
一部金曜 4 限、二部金曜 1 限、授業内で個別質問を受け付ける。授業講堂にて。E-mail: kimura.atsushi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10 第二部 金4/10	【ガイダンス】 【法学部で心理学を学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学を学ぶことが自他の心理や行動を把握する上でどのように役立つかを説明できる。また、到達目標①～⑥に関連して、授業期間中に心理学を学修する範囲や計画、到達度の判断基準について自身で述べることができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部 金4/17 第二部 金4/17	【心理学とは】	心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学の実験法について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。	
		事前学修	教科書1章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
3	第一部 金4/24 第二部 金4/24	【心理学の歴史と研究法】	心の探究に関する研究の歴史的変遷と心理学のアプローチについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、実験と調査の差異について具体例や基礎用語、それぞれの長所短所を挙げながら説明できる。	
		事前学修	教科書序章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
4	第一部 金5/1 第二部 金5/1	【感覚・知覚(1)感覚】	感覚の一般的特性の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、錯視量の測定に関する実験体験に基づいて「知覚は物理的環境の再現ではない」ことを論じられるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、心理物理学方法を用いた錯視量の測定を自ら実施し、データを分析して物理量と知覚量の差異の有無とその要因について説明できる。	
		事前学修	教科書2章pp. 53-63を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。	120分
5	第一部 金5/8 第二部 金5/8	【感覚・知覚(2)知覚】	知覚の成立条件、運動知覚・錯覚等の知覚の諸相の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、感覚・知覚の基礎的特性やその個人差について説明できる。	
		事前学修	教科書2章pp. 63-72を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
6	第一部 金5/15 第二部 金5/15	【感覚・知覚(3)認知と感性】	知覚・認知と感性との関わりに関する諸理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、感性評価の体験を通じて知覚特性と感性的印象との関連について考察できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑥に関連して、SD法を用いた感性印象の測定を自ら実施し、感性評価における「全体と部分の総和との関連」についてデータに基づいて考察できる。	
		事前学修	教科書2章pp. 74-76を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22 第二部 金5/22	【記憶】	記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、記憶プロセスの基礎的特性や関連理論、目撃証言の信憑性について説明できる。	
		事前学修	教科書3章pp. 81-91を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
8	第一部 金5/29 第二部 金5/29	【学習】	条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、レスポナデント条件付けとオペラント条件づけについて、具体例を挙げて比較説明できる。	
		事前学修	教科書3章pp. 91-99を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
9	第一部 金6/5 第二部 金6/5	【感情(1)感情の機能と働き】	感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的な情動理論や基本表情モデルについて説明できる。	
		事前学修	教科書4章pp. 105-117を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
10	第一部 金6/12 第二部 金6/12	【感情(2)感情のコントロールと心の健康】	感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ネガティブ感情の役割やアンガーマネジメント、アサーションといった感情のコントロールに関する基礎理論について説明できる。	
		事前学修	教科書4章pp. 117-120を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
11	第一部 金6/19第 二部 金6/19	【感情(3)動機づけと行動】	欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動機づけのモデルや欲求階層に関する基礎理論について説明できる。	
		事前学修	教科書4章pp. 121-124を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
12	第一部 金6/26 第二部 金6/26	【性格(1)性格の捉え方】	心理テスト、個人差についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連して、ビッグファイブ理論に基づいて自己のパーソナリティを説明するとともに、既存の検査法では説明できないパーソナリティ特性について考察できる。	
		事前学修	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3 第二部 金7/3	【性格(2) 性格と精神疾患】	パーソナリティに関する精神疾患の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、投影法心理検査法の手続きや精神疾患の解釈例、限界について説明できる。	
		事前学修	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
14	第一部 金7/10 第二部 金7/10	【授業内理解度確認テストと解説】	授業内理解度確認テストとその解説を実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、授業内理解度確認テストへの参加を通じて心理学の基礎用語や概念に関する自己の到達度を述べる。	
		事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。	120分
		事後学修	理解度確認テストの解説をもとに、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。	120分
15	第一部 金7/17 第二部 金7/17	【総括と到達度自己チェック】	授業総括や到達度チェックシートに基づく到達度の自己チェック課題を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達度①～⑥に関連して、科目各到達目標に対する自己の到達度を述べるとともに、到達していない部分についての補習課題を通じて、当該の用語・理論について説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。	120分
		事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。	120分

科目名	心理学 I	担当者	田中 堅一郎	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
心理学に興味があること。こころの働きを科学的アプローチから考えることに関心があること。

【授業方法】
講義形式。設備環境が許すかぎり、毎回PowerPointを使いながら講義を行う（殆ど板書はしない）。時間が許せば、講義内容について討論の時間を設ける。期末試験の解説を、後日「法学部ポータルサイト」に配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。				2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。					2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。						2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。							2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。											2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。									2		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
法学部総合ポータルサイトに試験の正解と配点を掲示します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学〔第3版〕（Next教科書シリーズ）	和田万紀	弘文堂	2017	教科書	必携
誠信心理学辞典 新版	下山晴彦	誠信書房	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問等は、e-mailでアポイントをとること。（tanaka.kennichirou@nihon-u.ac.jp）。金曜1限授業前、授業講堂にて、その間に質問を受けます。授業後はすぐ帰ります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	心理学Ⅰのガイダンス・導入講義	心理学Ⅰの講義概要、成績評価についての留意点、心理学の領域について	
		この回の到達目標	講義概要、成績評価についての留意点について理解し、心理学がどのような領域に広がっているか理解することができる。	
		事前学修	教科書の「序章」「第1章」を中心に全体を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
2	4/17	心理学の研究法	実験法、調査法、観察法、面接法	
		この回の到達目標	心理学を研究する様々な手法（実験法、調査法、観察法、面接法）について理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第1章」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
3	4/24	科学としての心理学の歴史	科学としての心理学が始まる前と後	
		この回の到達目標	科学としての心理学が始まった19世紀後半を中心とした歴史的経緯を理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「序章」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
4	5/1	感覚・知覚 1	視覚の仕組み	
		この回の到達目標	視覚の基本的な機能について、心理学の視点から考えることができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章」を通読する。	120分
		事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
5	5/8	感覚・知覚 2	視覚のしくみ（その2）、聴覚・味覚・触覚・嗅覚について	
		この回の到達目標	視覚のみならず、それ以外の五感の機能について理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
6	5/15	学習 1	心理学での「学習」とはなにか（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習）	
		この回の到達目標	学習の中でもっとも基本的な、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習について理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第3章・2」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/22	学習 2	洞察学習、観察学習、条件づけの応用
		この回の到達目標	6で学んだ条件づけ以外の学習について理解し、それらをどのように応用できるかについて理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第3章・2 学習」を通読する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
8	5/29	感情 1	感情とは何か、感情の生起メカニズム
		この回の到達目標	感情はどのように生ずるのかについて生理学的・心理学的な視点から理解できる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第4章・1，2」を通読する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
9	6/5	感情 2	動機づけ、欲求不満
		この回の到達目標	動機づけ（モチベーション）と欲求不満（フラストレーション）の基本的なメカニズムについて理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第4章・4」を通読する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
10	6/12	記憶	記憶の種類とそれらの性質
		この回の到達目標	記憶はどのように研究され、記憶の種類とそれらの性質について理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章・1」を通読する。120分
		事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。120分
11	6/19	パーソナリティ 1	性格に関する理論
		この回の到達目標	古来から今日まで人の性格はどのように捉えられてきたかについて理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第5章」を通読する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
12	6/26	パーソナリティ 2	パーソナリティ検査の種類
		この回の到達目標	パーソナリティはどのようにして測るかについて理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第8章・4」を通読する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	発達 1	生まれてから成人し、そして高齢期を迎えるまで	
		この回の到達目標	人間の発達について、心理学的な視点から理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・1，2」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
14	7/10	発達 2	エリクソンの心理・社会的発達理論	
		この回の到達目標	「アイデンティティ」という概念を広めたE. エリクソンによる生涯発達について理解し、自分自身のこれからの発達について考察することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・3」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
15	7/17	総括	講義の総括と期末試験についての留意点	
		この回の到達目標	これまで学習した内容を復習し、期末試験についての留意点を確認することができる。	
		事前学修	今まで講義で使用されたPPT（あるいはその出力用紙）に目を通す。	60分
		事後学修	講義ノートを確認して、留意点で述べられたことを参考書に示された辞書などで調べる。	180分

科目名	心理学 I	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験およびレポート作成、授業内試験等も適宜実施する。 授業内試験・レポートについては、それぞれ週週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第3版	和田万紀 編	弘文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー、日本オリンピック委員会医・科学スタッフ（スポーツカウンセラー）等を経験してきました。 担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、心理学的理論・立場を日常生活（キャリア形成含）や健康・スポーツの現場で実践できるよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	【ガイダンス/法学部で心理学Ⅰを学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4月13日	【心理学とは】	心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書1章を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
3	4月20日	【心理学の歴史と研究法】	心の探究に関する研究の歴史の変遷と心理学のアプローチについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	心の探究に関する研究の歴史の変遷と心理学のアプローチについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書序章を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
4	4月27日	【感覚・知覚(1)感覚の特徴と知覚】	感覚の一般的特性の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、錯視量の測定に関する実験体験に基づいて「知覚は物理的環境の再現ではない」ことを論じられるようになる。	
		この回の到達目標	感覚の一般的特性の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、錯視量の測定に関する実験体験に基づいて「知覚は物理的環境の再現ではない」ことを論じられるようになる。	
		事前学修	教科書2章pp. 53-63を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分
5	5月4日	【感覚・知覚(2)視覚】	知覚の成立条件、運動知覚・錯覚等の知覚の諸相の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	知覚の成立条件、運動知覚・錯覚等の知覚の諸相の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書2章pp. 63-72を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
6	5月11日	【感覚・知覚(3)認知と感性】	知覚・認知と感性との関わりに関する諸理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、感性評価の体験を通じて知覚特性と感性的印象との関連について考察できるようになる。	
		この回の到達目標	知覚・認知と感性との関わりに関する諸理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、感性評価の体験を通じて知覚特性と感性的印象との関連について考察できるようになる。	
		事前学修	教科書2章pp. 74-76を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	【記憶】	記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書3章pp. 81-91を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
8	5月25日	【学習】	条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書3章pp. 91-99を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
9	6月1日	【感情(1)感情の機能と働き】	感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書4章pp. 105-117を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
10	6月8日	【感情(2)感情のコントロールと心の健康】	感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書4章pp. 117-120を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
11	6月15日	【感情(3)動機づけと行動】	欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書4章pp. 121-124を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
12	6月22日	【性格(1)性格の捉え方】	心理テスト、個人差についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。	
		この回の到達目標	心理テスト、個人差についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。	
		事前学修	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	【性格(2) 性格と精神疾患】	パーソナリティに関する精神疾患の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	パーソナリティに関する精神疾患の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
14	7月6日	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度と修得内容を確認する。	
		この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
		事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。（2時間）	120分
15	7月13日	【総括/心理学Ⅰ】	授業内テストの解説や心理学Ⅰ総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）	120分
		事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）	120分

科目名	心理学 I	担当者	和田 万紀	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
「心理学」に対する思い込みなどをもたずに受講することを条件とします。受講希望者が多い時には上級学年の学生から受講を認めます。最初の授業に必ず出席してください。

【授業方法】
講義を中心に、エクササイズ（検査実習や実験など）を行い、レポートを提出します。試験の講評等はポータルサイトを通じて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーの提出、及びエクササイズ（検査実習や実験など）を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中、またはポータルサイトでお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学第3版	和田万記	弘文堂	2017	教科書	必携
「ミュラーリヤーの錯視」実習キット		ナカニシヤ出版		その他	必携
備考	ミュラーリヤーの錯視実習キットは、授業中実験実習で使用し、レポート提出になります。購入方法は授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分より13時まで9号館 9 5 0 1 研究室にて行う。なお事前予約を必要とする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	心は「みえる化」できるのか？	授業計画、評価方法、参考文献とその購入方法を説明する。心を「見える化」するとはどのようなことなのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「心理学」と「現代心理学」の相違を、基本用語と概念を用いて説明して比較できる。。	
		事前学修	「こころをみえる化」することはできるのか、について自分の考えをまとめて記述する。。	120分
		事後学修	試験の日程、課題提出方法、課題購入方法を確認する。心理学のイメージ、こころを「みえる化」することについて、自分の考えと学修内容との相違をまとめて記述する。	120分
2	/	心理学の歴史	なぜ「現代心理学」なのか。現代心理学はいかに誕生したのか。実験心理学の誕生について心理学の歴史から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代心理学の誕生と、心理学における実験という方法の誕生の歴史的過程について、理解して説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料を読み、現代心理学の誕生前後について記述する。	120分
		事後学修	「心理学の過去は長いが歴史は短い」の意味を学修内容をまとめて記述する。	120分
3	/	心理学の方法（１）	心理学の代表的な方法と特徴を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、心理学の代表的な方法と特徴を説明できる。	
		事前学修	教科書、資料等から、心理学の方法について、実験法、心理検査法、調査法についてまとめて記述する。	120分
		事後学修	心理学の代表的な方法について、具体例を挙げながら長所、短所を学修内容をまとめて記述する。	120分
4	/	心理学の方法（２）	心は実験できるのか。心理学における実験という方法について具体例を通してその短所、長所を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実験という方法を用いた具体的研究例から、心理学における実験という方法のその長所、短所について理解して説明することができる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、実験法を用いた研究例を記述する。	120分
		事後学修	心理学で実験という方法を用いる長所と短所を学修内容をまとめて記述する。	120分
5	/	感覚と知覚（１）	見ることと見えること。人間の感覚の特徴について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤につ関連して、人間の感覚の特徴を基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料を読み、人間の感覚の特徴について具体例を記述する。	120分
		事後学修	閾という概念、感覚の特徴、感覚と知覚の差、について学修内容をまとめて記述する。	120分
6	/	感覚と知覚（２）	知覚の特徴、注意の機能について検討する。実験実習を行い、結果について他者との討議を通して発展的に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、感覚と知覚の差、知覚の特徴、注意の機能について理解して説明できる。到達目標③④⑥に関連して、実験実習を実施して、データの整理、仮説の検討、考察を記述して、他者との討議から結論づけることができる。	
		事前学修	教科書配布資料を読み、感覚と知覚の差、知覚の特徴、注意の機能についてまとめて記述する。	120分
		事後学修	実験実習とその後の他者との討議で得られた自他のデータの比較検討行い、仮説を検証、発展させてレポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	記憶の仕組み	記憶の仕組みについて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、記憶の種類や記憶の仕組み、忘却、知識等を基本用語と概念を用いて理解して、説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料を読み、記憶の仕組みをまとめて記述する	120分
		事後学修	記憶の仕組みについて、学修内容をまとめて記述する。	120分
8	/	感情の働き	感情は非合理的なのか。感情のコントロールとストレスについて検討する。検査実習を行い、自分の感情のコントロールとストレス対処法の特徴について検討して、他者の結果との差を討議する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、情報としての感情、という視点から感情が心の働きに与える影響を理解する。到達目標③④⑥に関連して検査実習を行い、自分の感情のコントロールの特徴、ストレス対処の特徴を説明して、他者との討議を通じて結論づけることができる。	
		事前学修	教科書資料や経験から、判断や行動などが感情に強く影響された具体例を記述する。	120分
		事後学修	自分の感情のコントロールの特徴とストレス対処の特徴について、検査実習の結果を検討して、他者との討議の結果から、レポートを作成する。	120分
9	/	動機と行動	動機と行動について、動機の種類、強さ、構造、欲求不満と耐性及び対処法について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、行動の原因を動機の種類、特徴から理解して説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料を読み、動機と行動について、基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
		事後学修	動機と行動について、動機が存在しても行動が生じなかった例、発達の過程で特に強く感じた動機の例を述べて、その過程を学修内容をまとめて記述する。	120分
10	/	認知と行動	行動の原因として、帰属過程を含む認知的側面から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、認知と行動の関係と過程について、基本用語と概念を理解して説明できる。	
		事前学修	教科書資料を読み、認知と行動についての基本用語と概念についてまとめて記述する。	120分
		事後学修	行動変容に与える認知過程の影響を、学修内容をまとめて記述する。	120分
11	/	性格のとらえ方	性格の特徴について、特性論と類型論等の説明、性格検査の種類とその特徴を検討する。検査実習を行い、その結果から自分の性格特徴について基礎用語と概念を用いて記述して、討議を通じて他者と比較検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、性格のとらえ方について基本用語と概念を用いて説明し、検査方法の種類と長所短所を説明できる。到達目標③④⑥に関連して、検査実習の結果から自分の性格特徴を説明し、他者との討議を通じて自他の性格特徴の差を説明できる。	
		事前学修	教科書資料を読み、性格のとらえ方について基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
		事後学修	検査実習の結果と討議から、自分の性格の特徴と他者の性格の特徴との差について比較検討してレポートを作成する。	120分
12	/	心の発達（1）	乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達の特徴を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達について理解して基本用語と概念を用いて説明できる。	
		事前学修	教科書、資料を読み、心の発達における乳幼児期の特徴についての基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
		事後学修	乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達の特徴について、学修内容をまとめて記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	心の発達（2）	青年期とそれ以降について、認知的、社会的発達の特徴を検討する。検査実習を実施して、自分の自我発達の特徴を記述して、他者との討議を通して比較検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、青年期の発達の特徴を基本用語と概念を用いて理解して説明できる。到達目標③④⑥に関連して、検査実習の結果から自分の自我発達の特徴を記述して、他者との討議を通じて他者との差異を説明して、結論づけることができる。	
		事前学修	教科書資料を読み、青年期とそれ以降の発達の特徴を基本用語と概念を用いてまとめて記述する。	120分
		事後学修	青年期の認知的、社会的発達の特徴を学修内容をまとめて記述する。検査実習と他者との討議の結果からレポートを作成する。	120分
14	/	意識と行動	意識と行動について、心理学の歴史と心の働きから理解して、現代心理学での位置づけを検討する。また無意識の研究例を示して、意識と無意識、無意識と行動等について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、意識と行動、意識と無意識に関する研究例を、基本用語と概念を用いて説明することができる。	
		事前学修	教科書と資料を読み、意識と行動の説明を基本用語と概念を用いてまとめて記述する。	120分
		事後学修	意識と行動、意識と無意識に関する学修内容をまとめて記述する。	120分
15	/	「現代心理学」から「心の働き」を考える	授業のまとめを行い、各授業で示されたキーワードの説明を補足する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学の基本用語と概念を用いて、授業で示された各キーワードを説明することができる。	
		事前学修	授業の教科書、ノート、資料等を全て整理してまとめて、試験の準備をする。	120分
		事後学修	到達目標①②⑤に関連して、自分の到達度を評価して、不足を補う。	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	木村 敦	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学Iを履修していること（担当教員は問わない）。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験およびレポート作成、授業内試験等も適宜実施する。 授業内試験・レポートについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う(レポート講評はポータルシステム配信)。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
すべての成績評価指標について、授業中に解説や評価基準の開示を行う。定期試験を実施する場合は、後日ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず				

【オフィスアワー】
一部金曜 4 限、二部金曜 1 限、授業内で質問を受け付ける。授業講堂にて。E-mail: kimura.atsushi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18 第二部 金9/18	【ガイダンス】 【法学部で心理学を学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会心理学を学ぶことが自他の心理や行動を把握する上でどのように役立つかを説明できる。また、到達目標①～⑥に関連して、授業期間中に心理学を学修する範囲や計画、到達度の判断基準について自身で述べることができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部 金9/25 第二部 金9/25	【社会心理学の研究法】	社会の中の人間行動を科学的作法をもって研究するために社会心理学ではどのような実験技法が用いられるかを実験例を通じて学び、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会心理学実験における専門的技法や結果を解釈する上での留意点について、具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。また、到達目標⑤⑥に関連して、質問紙による自尊心の測定、ならびに得点分布における位置づけの妥当性について、日常例を挙げて述べることができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
3	第一部 金10/2 第二部 金10/2	【心理学の研究倫理】	人間を対象とした研究を遂行する上で留意すべき倫理的配慮について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤⑥に関連して、社会心理学実験における「状況の再現」と「研究倫理」のバランスについて、社会心理学史に触れながら意見を述べるができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
4	第一部 金10/9 第二部 金10/9	【印象形成】	人間が他者や状況をどのように認知するかに関して、印象形成のメカニズムや諸要因について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、印象形成に影響を及ぼす要因について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
5	第一部 金10/16 第二部 金10/16	【社会的推論】	人間が他者や状況をどのように認知するかに関して、原因帰属のメカニズムや特性、ヒューリスティックについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、原因帰属に影響を及ぼす要因について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。また、到達目標⑤⑥に関連して、授業内で実施する社会的認知を題材として調査と分析を通じて、社会的認知の平均的傾向と個人差について、データに基づいて述べるができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
6	第一部 金10/23 第二部 金10/23	【態度の形成と変容】	人間が他者や状況をどのように認知するかに関して、態度形成のメカニズムや態度変容・説得に影響を及ぼす要因について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、態度の形成や変容に影響を及ぼす要因について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30 第二部 金10/30	【授業内理解度確認テストと解説】	前半範囲の復習および、理解度確認テストとその解説を実施し、ここまでの学習についての理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業内理解度確認テストへの参加を通じて心理学の基礎用語や概念に関する自己の到達度を述べる。	
		事前学修	これまでの授業ノートを読み直し、各回のテーマや専門用語について論じられるよう準備する。	120分
		事後学修	授業内テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。	120分
8	第一部 金11/6 第二部 金11/6	【環境と行動】	物理的環境と人間行動の相互作用に関して学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、物理的環境と対人環境がそれぞれ人間の心理・行動に及ぼす影響について比較しながら説明することができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
9	第一部 金11/13 第二部 金11/13	【他者存在】	人間が集合・集団の中でどのように振る舞うかに関して、他者存在が個人のパフォーマンスに及ぼす影響の現象とメカニズムについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、他者存在が人間の心理・行動に影響を及ぼす要因について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
10	第一部 金11/20 第二部 金11/20	【対人関係・集団行動】	人間が集団の中でどのように振る舞うかに関して、対人関係や集団行動の基礎的理論について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、集団の形成・維持・崩壊のプロセスや、集団行動の特性について、具体例や代表的モデル、基礎用語を挙げながら説明できる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
11	第一部 金11/27 第二部 金11/27	【集合行動】	集合行動の範囲、集合行動と集団行動の差異、集合行動のメカニズムについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、集合行動と集団行動の差異、ならびに集合行動のメカニズムに関する見解の変遷について、具体例や代表的理論、基礎用語を挙げながら説明することができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
12	第一部 金12/4 第二部 金12/4	【法と心理学】	子どもを対象とした司法面接を行う際の心理学的側面からの留意点について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、司法面接において面接官と被面接者の間でディスコミュニケーションが生じないようにどのような言語的表現や面談プロセスが必要かについて、具体例を挙げながら説明することができる。また、到達目標⑤⑥に関連して、社会性尺度を用いた自己の社会性スキルの把握および他者との比較を通じて、自己の社会性スキル向上のための課題について述べることができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11 第二部 金12/11	【授業内理解度確認テストと解説】	後半範囲の復習および、理解度確認テストとその解説を実施し、ここまでの学習についての理解度を把握する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内理解度確認テストへの参加を通じて心理学の基礎用語や概念に関する自己の到達度を述べる。	
		事前学修	これまでの授業ノートを読み直し、各回のテーマや専門用語について論じられるよう準備する。	120分
		事後学修	授業内テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。	120分
14	第一部 金12/18 第二部 金12/18	【日常生活の心理学】	食事といった身近な場面における心理・行動に関する最新の知見を学習し、これまで学習した心理学の知見を整理し直すとともに、日常生活への応用について自分の意見を述べられるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常生活の中で社会心理学の理論や技法がどのように役立てられているかについて、具体例や基礎用語を挙げながら説明することができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
15	第一部 金12/25 第二部 金12/25	【総括と到達度自己チェック】	授業総括や到達度チェックシートに基づく到達度の自己チェック課題を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達度①～⑥に関連して、科目各到達目標に対する自己の到達度を述べるとともに、到達していない部分についての補習課題を通じて、当該の用語・理論について説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識や技能を論じられるように準備する。	120分
		事後学修	授業総括および授業内レポートの内容を振り返り、自分の考えを再検証するとともに、今後の学修方針を考える。	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	田中 堅一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学に興味があること。こころの働きを科学的アプローチから考えることに関心があること。「心理学Ⅰ」を履修することが望ましい。

【授業方法】
講義形式。設備環境が許すかぎり、毎回PowerPointを使いながら講義を行う（殆ど板書はしない）。時間が許せば、講義内容について討論の時間を設ける。「法学部総合ポータルサイト」を毎週必ずチェックする。期末試験の解説を、後日「法学部ポータルサイト」に配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
法学部総合ポータルサイトに試験の正解と配点を掲示します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学〔第3版〕（Next教科書シリーズ）	和田万紀	弘文堂	2017	教科書	推奨
産業・組織心理学エッセンシャルズ（第4版）	外島裕・田中堅一郎	ナカニシヤ出版	2019	参考書	任意
備考	教科書よりも、参考書の使用頻度が多いです。				

【オフィスアワー】
質問等は、e-mailでアポイントをとること。（tanaka.kennichirou@nihon-u.ac.jp）。金曜1限授業前、授業講堂にて、その間に質問を受けます。授業後はすぐ帰ります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/18	心理学Ⅱのガイダンス・導入講義	心理学の応用領域について
		この回の到達目標	講義概要、成績評価についての留意点、心理学の応用領域について理解できる。
		事前学修	講義ノートとテキストを確認して、「心理学Ⅰ」で学んだことを振り返る。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
2	9/25	応用心理学の歴史的経緯	心理学応用はいつから始まったか
		この回の到達目標	応用心理学がどのように始まり発展してきたかについて理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料に目を通す。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
3	10/2	ワーク・モチベーション1	科学的管理法、ホーソン研究、達成動機理論
		この回の到達目標	仕事におけるモチベーションの歴史的経緯と基本的な用語を理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「1 仕事への動機づけ」）に目を通す。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
4	10/9	ワーク・モチベーション2	期待-価値モデル、目標設定理論と目標による管理
		この回の到達目標	ワーク・モチベーションをどうすれば高めることができるかについて、その手立てを理解できる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「1 仕事への動機づけ」）に目を通す。120分
		事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。120分
5	10/16	同調と服従	同調行動と権威への服従を実験で再現したら
		この回の到達目標	同調行動と権威への服従を心理学の視点から理解し、ナショナリズムやホロコーストの原因について考察できる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書（第7章・3）に目を通す。参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所にも目を通す。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
6	10/23	説得を科学する	人を説得するのに効果的な手立てはあるか
		この回の到達目標	効果的な説得と要請の仕方について理解し、効果的に説得するにはどうすればよいか考えることができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書（第7章・2）に目を通す。参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所にも目を通す。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	リーダーシップを心理学の視点から考える 1	特性アプローチ、行動アプローチ	
		この回の到達目標	リーダーシップをリーダーの特性面と行動面から理解できる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「5 職場集団におけるリーダーシップ」）に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
8	11/6	リーダーシップを心理学の視点から考える 2	状況適合的アプローチ	
		この回の到達目標	効果的なリーダーシップが、リーダーを取り巻く状況へ適合できるか否かで決まることを理解できる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「5 職場集団におけるリーダーシップ」）に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
9	11/13	職業適性	「自分に合う仕事は何か」を科学する	
		この回の到達目標	職業の適性について理解し、自分自身の職業適性を考えることができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「3 人事測定の方法」）に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
10	11/20	組織における意思決定の落とし穴 1	プロスペクト理論	
		この回の到達目標	日常生活における一見すると「不合理な」判断を、心理学的視点から理論的に考えることができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、参考書の該当箇所に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
11	11/27	組織における意思決定の落とし穴 2	コミットメントのエスカレーション	
		この回の到達目標	経営者・運営管理者が陥る「非合理的」な意思決定について理解し、その対処法について考えることができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、参考書の該当箇所に目を通す。	120分
		事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
12	12/4	職場におけるストレス 1	ストレスとは何か	
		この回の到達目標	ストレスに関する基本用語（例えば、ストレッサーとストレイン）を理解することができる。	
		事前学修	教科書「第4章・5」、事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	職場におけるストレス 2	ストレスへの対処	
		この回の到達目標	ストレスによる障害を理解し、ストレスに対処することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、参考書の該当箇所に目を通す。	120分
		事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
14	12/18	法と心理学	法学における心理学の役割とは	
		この回の到達目標	心理学は法学にどのような貢献ができるかを理解できる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書の該当箇所に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
15	12/25	総括	講義の総括と期末試験についての留意点	
		この回の到達目標	これまで学習した内容を復習し、期末試験についての留意点を確認する。	
		事前学修	今まで講義で使用されたPPT（あるいはその出力用紙）に目を通す。	60分
		事後学修	講義ノートと参考書を確認して、講義の総括と期末試験についての留意点を確認し、試験準備を行う。	180分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験、授業内テスト等も適宜実施する。 授業内テストについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	特になし

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第3版	和田万紀 編	弘文堂	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー、日本オリンピック委員会医・科学スタッフ（スポーツカウンセラー）等を経験してきました。 担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、心理学的理論・立場を日常生活（キャリア形成含）や健康・スポーツの現場で実践できるよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	【ガイダンス/心理学Ⅱを学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）	120分
2	9月21日	【発達の心理学①】	発達と成熟、ピアジェの認知発達理論について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	発達と成熟、ピアジェの認知発達理論について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
3	9月28日	【発達の心理学②】	身体・心理の発育発達について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	身体・心理の発育発達について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
4	10月5日	【発達の心理学③】	エリクソンの心理社会的発達理論を中心にした発達課題を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	エリクソンの心理社会的発達理論を中心にした発達課題を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（1時間）	120分
5	10月12日	【社会の心理学①】	対人認知、態度と態度変容の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	対人認知、態度と態度変容の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
6	10月19日	【社会の心理学②】	対人魅力、恋愛、援助行動の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	対人魅力、恋愛、援助行動の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	【社会の心理学③】	集団心理的諸特徴(社会的促進・抑制、社会的手抜き等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	集団心理的諸特徴(社会的促進・抑制、社会的手抜き等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
8	11月9日	【社会の心理学④】	集団心理的諸特徴(集団規範、凝集性、同調、服従)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	集団心理的諸特徴(集団規範、凝集性、同調、服従)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
9	11月16日	【言語・思考・知能の心理学】	思考の特徴、推論等についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	思考の特徴、推論等についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
10	11月23日	【健康の心理学①】	ストレスについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	ストレスについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
11	11月30日	【健康の心理学②】	ストレスとメンタルヘルスの関係と予防について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	ストレスとメンタルヘルスの関係と予防について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
12	12月7日	【臨床・異常の心理学①】	精神疾患の基礎知識を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	精神疾患の基礎知識を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	【臨床・異常の心理学②】	精神疾患(うつ病、統合失調症、神経症、解離性障害、アディクション等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	精神疾患(うつ病、統合失調症、神経症、解離性障害、アディクション等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
14	12月21日	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。	
		この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
		事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。(2時間)	120分
15	1月18日	【総括/心理学Ⅱを総括する】	授業内テストの解説や心理学Ⅱ総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	授業内テストの解説や心理学Ⅱ総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。(2時間)	120分
		事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。(2時間)	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	和田 万紀	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学Ⅰを履修中、または履修済みであることが望ましい。受講者が多いと上級学年から受講を許可します。最初の授業に必ず出席してください。

【授業方法】
講義を中心とする。授業中に実験実習、検査実習を行い、集団討議を通じて結果の検討、考察を行います。試験の講評等はポータルサイトを通じて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーの提出、及び実験実習、検査実習を授業中に行い、集団討議を通じてレポートを提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中、またはポータルサイトでお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学第3版	和田万記	弘文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分より13時まで9号館 9 5 0 1 研究室にて行う。なお事前予約を必要とする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	社会的動物としての人間とはどのような存在か。	授業計画、評価方法、参考文献とその購入方法を説明する。社会的動物としての人間存在について、社会心理学からの考え方を説明する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連して、社会心理学の視点を理解して説明することができる。	
		事前学修	評価方法などを確認する。社会的動物とは何かについて、自分の考えを記述する。	120分
		事後学修	社会的動物としての人間存在に関して、学修内容から社会心理学の視点と自分の考えの相違をまとめて記述する。	120分
2	/	自己認知	自己概念と自己認知、現実自己と理想自己、他人の目に映る自分の姿、という視点から、自己の姿の特徴を検討する。実験実習の結果を他者との討議を通じて検討して、自己認知の特徴を記述する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己認知と他者認知の特徴について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。到達目標⑤⑥に関連して、実験実習の結果を他者との討議を通じて一般化して結論づけることができる	
		事前学修	自分を意識化する、自己認知には複数の視点があることを具体例から確認して記述する。	120分
		事後学修	自己認知の特徴について、学修内容をまとめて記述する。実験実習の結果と討議からレポートを作成する。	120分
3	/	社会的認知	対人認知、社会的推論の形成と特徴を説明して検討する。実験実習を行い、結果について他者との討議を通じて検討して社会的認知の特徴を一般化する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対人認知、社会的推論の特徴を社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。到達目標⑤⑥に関連して、実験実習の結果を他者との討議を通じて一般化して結論付けることができる。	
		事前学修	教科書、資料から、対人認知と社会的推論の特徴について社会心理学の基本用語と概念からまとめて記述する。	120分
		事後学修	対人認知、社会的推論の特徴について、学修内容をまとめて記述する。実験実習と討議を通じて結果を検討して、レポートを作成する。	120分
4	/	上手な自己表現（１）自己呈示	上手な自己表現とは何か、自己呈示の種類と自分の自己呈示の特徴及び対人関係への影響を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己呈示について社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料等から、自己呈示にはどのような種類があるのか、上手な自己表現、下手な自己表現とは何かについて記述する。	120分
		事後学修	誰に、自分のどのような側面を、どのような提示方法で、見せるのか。その結果対人関係はどのように変化するのかについて、学修内容をまとめて記述する。	120分
5	/	上手な自己表現（２）自己開示	自己開示の定義、機能、対人関係への影響、自己開示と適応及び社会的スキル等について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己開示について社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料等から、自己開示について社会心理学の基本用語と概念を用いて記述する。	120分
		事後学修	自分にとって「上手な自己表現」とは何か、自己開示はどのように上手な自己表現に寄与するのか、について学修内容をまとめて記述する。	120分
6	/	援助行動・援助要請行動	援助行動と援助要請行動について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、援助行動と援助要請行動の生起過程について、社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。	
		事前学修	なぜ援助行動ができないのか、なぜ援助要請行動ができないのか、について具体例を記述する。	120分
		事後学修	援助行動が起きるまでと援助要請行動が起きるまでの心理的過程について学修内容をまとめて、援助行動、援助要請行動を起こすことができない要因を記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	攻撃行動	攻撃行動の生起要因、及び抑制要因、攻撃行動の対人機能などを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、攻撃行動の生起過程と抑制要因について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料等から攻撃行動の原因、生起過程、抑制要因について記述する。	120分
		事後学修	攻撃行動について学修内容をまとめて記述する。	120分
8	/	態度と行動	態度と行動の一貫性について、態度の定義、態度形成、態度の強度と持続性、態度変容、説得的コミュニケーション等から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、態度と行動について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料等から態度の形成 集団認知と集団間関係、態度変容、説得的コミュニケーションについて記述する。	120分
		事後学修	態度と行動の一貫性について、学修内容をまとめて記述する。	120分
9	/	他者の存在の影響	空気を読む、とは何か。規範の形成と種類、同調行動等について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、規範の形成と個人の行動について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
		事前学修	他者の存在により自分の判断や行動が影響を受けた例から、その原因と心理的過程、結果を記述する。	120分
		事後学修	裸の王子様の寓話について、規範の形成、同調行動から学修内容をまとめて記述する。	120分
10	/	集団と個人	集団と個人に関して、集団の形成過程と特徴、集団による意思決定、集団作業、問題解決等から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集団と個人に関して社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
		事前学修	教科書、資料から、集団の形成過程と特徴、集団による意思決定、集団作業、問題解決等について記述する。	120分
		事後学修	集団と個人について、学修内容をまとめて記述する。	120分
11	/	組織の特徴	組織の特徴について、リーダーシップとフォロワー、ストレスとサポート、組織における協力と葛藤、日本型組織の特徴、組織の発達と終焉等について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、組織の特徴について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
		事前学修	教科書、資料から、組織と個人、ストレスとサポート、組織における協力と葛藤等に関してまとめて記述する。	120分
		事後学修	組織の特徴について、学修内容をまとめて記述する。	120分
12	/	集団認知と集団間関係	集団認知と集団間関係について、社会的ジレンマ、集団間差別等からその特徴を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集団認知の特徴、集団間関係について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
		事前学修	教科書、資料等から集団認知と集団間関係について、社会的ジレンマ、集団間差別等をまとめて記述する。	120分
		事後学修	集団認知の特徴と集団間関係について、学修内容をまとめて記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	集合行動	集合行動の特徴と没個性化について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集合行動の特徴と没個性化等について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
		事前学修	教科書、資料等から、集合行動について具体例や研究例をまとめて記述する。	120分
		事後学修	集合行動の特徴と没個性化について学修内容をまとめて記述する。	120分
14	/	流行、流言	流行、流言についてその発生、普及、終息過程から、なぜ私たちはそれを信じるのか、を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、流行や流言の発生、普及、終息過程について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。、	
		事前学修	流行や流言に自分が影響を受けた例、受けなかった例を考えて、その理由と心理的過程を記述する。	120分
		事後学修	流行、流言について、学修内容をまとめて記述する。	120分
15	/	他者の存在と個人	授業全体を振り返り、社会心理学の基本用語と概念の確認をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他者の存在が個人に与える影響について、社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
		事前学修	授業の教科書、ノート、資料等を全て整理してまとめて、質問等を記述する。未提出物がないかを確認する。	120分
		事後学修	到達目標について、自分の達成度をそれぞれ評価して、試験の準備をする。	120分

科目名	数学 I	担当者	木村 孝	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
社会現象を数学で表現して、処理できる基本的な力を獲得するために、数と式の計算及び方程式、不等式を学修する。特に素因数分解、記数法、数列、方程式の整数解、不等式など基礎知識の定着と応用をする。そして文章化された問題を定式化して、操作する能力を獲得する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会現象を数学で表現して操作することができる力を得るために、基本的な数学の知識の定着とその発展と応用を目的として、数と式の計算及び方程式、不等式の基本的知識の確認し、そこから応用展開へ進む力を修得する。

【履修条件】
中学校程度の数学および高等学校の数学 I 程度の数式処理に関する知識・技術は、身につけていることを仮定して講義する。

【授業方法】
講義の最初に提出されたレポートの解説を行い、次にその回に必要な基本的な知識を説明し、問題を解いてもらう。その後、問題解決のための思考方法を説明し解法を与える。授業内試験終了後には、その解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	数と式の計算、方程式と不等式、について理解し、課題を解く方法を指摘することができる。						2					
②	数と式の計算、方程式と不等式、について理解し、応用問題に答えることができる。						2					
③	文章化された問題を、数学的に定式化できる。							2				
④	学修者は、文章化された問題を、数学的に定式化し、操作できる。					2						
⑤	社会における具体的な課題に対して、数学における表現で定式化して、操作できる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、達成度を授業内試験で確認して評価する。	20	20	4	4	2						50
小テスト等	到達目標①②③④⑤に関連して、各授業ごとに知識の獲得の程度を小テストで確認して評価する。	20	20	4	4	2						50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	8	8	4						100

【課題に対するフィードバックの方法】
前週に実施した小テストの解説・講評し、また15回目には授業内試験の解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜日4時限の授業前後に授業講堂において質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9 第二部木 4/9	ガイダンス，導入授業	講義を履修する上で必要な知識、講義の進め方、評価方法を説明する。それによって受講生は授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	講義を履修する上での必要な知識を身につけているかを確認し、必要とされた知識を用いて、計算等ができるようになる。	
		事前学修	中高における数学内容を一通りおさらいしておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスを振り返り，次の授業に備えること。	120分
2	第一部木 4/16 第二部木 4/16	数と式の計算について（その1）	数と計算について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、数と計算に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における数と計算に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
3	第一部木 4/23 第二部木 4/23	数と式の計算について（その2）	素因数分解について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、素因数分解に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における素因数分解に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
4	第一部木 4/30 第二部木 4/30	数と式の計算について（その3）	約数・倍数について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、約数・倍数に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における約数・倍数に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
5	第一部木 5/7 第二部木 5/7	数と式の計算について（その4）	商と余りについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、商と余りに関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における商と余りに関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
6	第一部木 5/14 第二部木 5/14	数と式の計算について（その5）	記数法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、記数法に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における記数法に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21 第二部木 5/21	数と式の計算について（その6）	数量問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、数量問題に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における数量問題に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
8	第一部木 5/28 第二部木 5/28	数と式の計算について（その7）	数列について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、数列に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における数列に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
9	第一部木 6/4 第二部木 6/4	方程式と不等式について（その1）	方程式の整数解について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、方程式の整数解に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における方程式の整数解に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
10	第一部木 6/11 第二部木 6/11	方程式と不等式について（その2）	不等式について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、不等式に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における不等式に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること	180分
11	第一部木 6/18 第二部木 6/18	方程式と不等式について（その3）	時計算等について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、時計算等に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における時計算等に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること	180分
12	第一部木 6/25 第二部木 6/25	方程式と不等式について（その4）	集合について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、集合に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における集合に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2 第二部木 7/2	方程式と不等式について (その5)	速さ・距離・時間について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、速さ・距離・時間に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における速さ・距離・時間に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
14	第一部木 7/9 第二部木 7/9	方程式と不等式について (その6)	旅人算等について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、旅人算等に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における旅人算等に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
15	第一部木 7/16 第二部木 7/16	試験とまとめ	授業内試験及び解説	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、半期にわたる講義内容をその程度理解できたかを確認する。	
		事前学修	初回からの講義ノートを見直し試験の準備をする。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	60分

科目名	数学Ⅱ	担当者	木村 孝	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
社会事象を数学で表現して処理できる基本的力を獲得するために、方程式と不等式、図形、場合の数と確率を修得する。主に、ダイアグラム、仕事算、ニュートン残、三角形・円の面積、順列・組み合わせ・確率について、基礎知識を確認し、そこから発展、応用展開へ進む力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会事象を数学で表現して処理するために、基本的な知識の定着と発展、応用を目的として、方程式と不等式、図形、場合の数と確率の基本的知識の確認とその応用展開を行う力を修得する。

【履修条件】
中学校程度の数学および高等学校の数学Ⅰ程度の数式処理に関する知識・技術は、身につけていることを仮定して講義する。

【授業方法】
講義の最初に提出されたレポートの解説を行い、次にその回に必要な基本的な知識を説明し、問題を解いてもらう。その後、問題解決のための思考方法を説明し解法を与える。授業内試験終了後には、その解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	方程式と不等式、図形、場合の数と確率について理解し、課題を解く方法を指摘できる。								2				
②	方程式と不等式、図形、場合の数と確率について理解し、課題を解く方法を理解して、発展問題に応用できる								2				
③	文章化された問題を、数学的に定式化できる。									2			
④	文章化された問題を、数学的に定式化し、操作できる。							2					
⑤	社会の具体的な課題に対して、数学における表現で定式化して、操作できる。						2						
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤について、授業内試験で確認して評価する。	20	20	4	4	2						50
小テスト等	各授業ごとに、達成目標①②③④⑤について、小テストで確認して評価する。	20	20	4	4	2						50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	8	8	4						100

【課題に対するフィードバックの方法】
前週に実施した小テストの解説・講評し、また15回目には授業内試験の解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜日4時限の授業前後に授業講堂において質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17 第二部木 9/17	方程式と不等式について (その7)	ダイヤグラムについて学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ダイヤグラムに関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高におけるダイヤグラムに関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
2	第一部木 9/24 第二部木 9/24	方程式と不等式について (その8)	比と割合について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、比と割合に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における比と割合に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
3	第一部木 10/1 第二部木 10/1	方程式と不等式について (その9)	濃度について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、濃度に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における濃度に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
4	第一部木 10/8 第二部木 10/8	方程式と不等式について (その11)	仕事算について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、仕事算に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における仕事算に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
5	第一部木 10/15 第二部木 10/15	方程式と不等式について (その12)	ニュートン算について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ニュートン算に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高におけるニュートン算に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
6	第一部木 10/22 第二部木 10/22	図形について（その1）	三角形について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、三角形に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における三角形に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29 第二部木 10/29	図形について（その2）	三角形の面積について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、三角形の面積に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における三角形の面積に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
8	第一部木 11/5 第二部木 11/5	図形について（その3）	円に関する問題－2つの円に外接する直線－について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、円に関する問題－2つの円に外接する直線－を解答できる。	
		事前学修	中高における円に関する問題に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
9	第一部木 11/12 第二部木 11/12	図形について（その4）	円に関する問題－軌跡の長さ－について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、円に関する問題－軌跡の長さ－を解答できる。	
		事前学修	中高における円に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
10	第一部木 11/19 第二部木 11/19	図形について（その5）	円の面積に関する問題－円の面積比－について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、円の面積に関する問題－円の面積比－を解答できる。	
		事前学修	中高における円の面積に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
11	第一部木 12/3 第二部木 12/3	図形について（その6）	円の面積に関する問題－2つの円が重なった部分の面積－について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、円の面積に関する問題－2つの円が重なった部分の面積－を解答できる。	
		事前学修	中高における円の面積に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
12	第一部木 12/10 第二部木 12/10	場合の数と確率について（その1）	場合の数について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、場合の数に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における場合の数に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17 第二部木 12/17	場合の数と確率について (その2)	順列について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、順列に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における順列に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
14	第一部木 12/24 第二部木 12/24	場合の数と確率について (その3)	組合せについて学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、組合せに関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における組合せに関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
15	第一部木 1/14 第二部木 1/14	試験とまとめ	授業内試験及び解説	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、半期にわたる講義内容をその程度理解できたかを確認する。	
		事前学修	初回からの講義ノートを見直し試験の準備をする。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	60分

科目名	精神分析学	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
フロイトの精神分析学を学び、精神分析学の人間理解とその方法を学ぶ。精神分析学の基礎を概観し、精神病理的現象を客観的に解釈して、判断する力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
精神病理学的現象を客観的に判断して解釈し、論理的な人間理解の省察に応用展開するために、精神分析学の基本用語と概念及び方法の知識とその適用を行う力を修得する。また講義内で検査実習を実施して、新たな視点の発見や提示ができる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査やリアクションシート、授業内テスト等も適宜実施する。 授業内テストについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、自分の心理的反応を説明できる。					2							
②	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、他者の心理反応を説明できる。								2				
③	フロイトの思想、当時の文化、社会などを理解して説明できる。						2						
④	フロイトが行った芸術や文学作品の分析を、理解して説明できる。							2					
⑤	精神分析学と分析心理学等の他の理論との相違から、精神病理的現象を理解することができる。							2					
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、基本概念と用語が獲得できたか否かを授業内試験で評価する。	8	8	8	8	8						40
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内での課題提示や検査実習等について、レポートとして提出して評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④⑤に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを提出して、基本用語と概念が獲得できたか否かを確認して評価する。	4	4	4	4	4						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー等を経験してきました。
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、精神分析理論・立場からメンタルヘルスの向上や文化的価値創造に繋げることが出来るよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	【ガイダンス/精神分析学を学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で精神分析を学ぶことが自身にどのように役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）	120分
2	4月13日	【無意識・夢とは】	意識の3つのレベル、夢について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	意識の3つのレベル、夢について説明できるようになる。	
		事前学修	無意識・夢について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
3	4月20日	【錯誤行為、心の構造とは】	心的装置、エス、自我、超自我について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	心的装置、エス、自我、超自我について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	錯誤行為、心の構造について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
4	5月4日	【防衛機制とは】	抑圧、合理化、同一化、反動形成等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	抑圧、合理化、同一化、反動形成等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	防衛機制について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分
5	5月11日	【心の発達】	フロイト発達理論（口唇期、肛門期、男根期、潜伏期、性器期）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	フロイト発達理論（口唇期、肛門期、男根期、潜伏期、性器期）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	フロイト発達理論について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
6	5月18日	【心の発達と性格形成】	各発達段階における固着した場合の性格タイプについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	各発達段階における固着した場合の性格タイプについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	フロイトの性格形成について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月25日	【精神分析と心の病①】	ヒステリーの症例について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	ヒステリーの症例について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	フロイトにおけるヒステリーについて調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
8	6月1日	【精神分析と心の病②】	転換性障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	転換性障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	転換性障害の心理面について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
9	6月8日	【精神分析と心の病③】	パラノイア・境界性人格障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	パラノイア・境界性人格障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	人格障害について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
10	6月15日	【精神分析と心の病の治療①】	転移・逆転移等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	転移・逆転移等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	転移・逆転移について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
11	6月22日	【精神分析と心の病の治療②】	精神分析学における解釈と終結について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	精神分析学における解釈と終結について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	自由連想法における解釈と終結について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
12	6月29日	【フロイト以降の精神分析①】	分析心理学、自我心理学・対象関係論の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	分析心理学、自我心理学・対象関係論の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	分析心理学、自我心理学・対象関係論について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月6日	【フロイト以降の精神分析②】	独立学派、自己心理学の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	独立学派、自己心理学の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	独立学派、自己心理学について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
14	7月13日	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。	
		この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
		事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。（2時間）	120分
15	7月20日	【総括/精神分析学を総括する】	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）	120分
		事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）	120分

科目名	生命の科学 I	担当者	濱崎 雄太	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
生命現象の基本的な仕組みを分子レベルで理解することが本講義の狙いである。まず、生命体がどのようなものであるかその基本概念を解説したのち、生物の基本構造である細胞を構成する分子について説明する。そして、DNAという分子に記録されている遺伝情報がどのように伝達し、発現するのか解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の様々な生物学的問題を解決するために、生命現象の基本的な仕組みを知り、社会人としての基本的生命科学のさらなる知識を身につけ、これを客観的に分析し問題解決につなげることのできる能力を修得する。

【履修条件】
前期と後期を継続して聴講することが望ましい。

【授業方法】
液晶プロジェクターを用いたスライド映写と板書を併用した講義形式で行う。毎回参考プリントを配布する。複数回小テストを行い受講者の理解度の確認を行うとともに、翌週の講義で解説を行うことで理解を深める助けとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	生命がどのようなものであるのかを理解し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、生命体や分子について理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	40									70
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③についての各能力が身についているか、授業内での質疑応答を基準により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの翌週に解説を行う。また、第１５回には小テスト後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
時間 月曜日 １５：３０～１６：１０受付場所 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 月4/6	ガイダンス 生命とは？	生物学、生命科学の学問領域について学修する。また、本講義で取り扱う授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考書について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物学、生命科学の学問領域について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、生物学、生命科学の学問領域について調べ、ノートに整理し、講義内容と比較検討できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部 第二部 月4/12	生物の基本構造	生物に共通する基本的な事柄について述べ、生物の基本単位が細胞であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して生物の基本単位である細胞について、大きさ、原核生物の細胞と真核生物の細胞の違いについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第2回目の授業内容を確認するとともに、「細胞」、「原核生物」、「真核生物」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
3	第一部 第二部 月4/20	細胞を構成する物質	細胞を構成している物質の種類とその特徴について知り、さらに細胞内で働く力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生体を構成する主要な物質と生体物質において重要な分子内/分子間の結合について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第3回目の授業内容を確認するとともに、「原子」、「分子」、「電子」、「水分子」、について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
4	第一部 第二部 月4/27	核酸(DNA・RNA)	遺伝子、ゲノム、DNA、RNAの関係について学び、DNAという物質の中に遺伝情報がどのように保存されているかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、遺伝子、ゲノム、DNA、RNAの関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第4回目の授業内容を確認するとともに、「遺伝子」、「ゲノム」、「DNA」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
5	第一部 第二部 月5/4	タンパク質の構造	タンパク質は生体内における重要な有機化合物である。タンパク質の基本単位がアミノ酸であることを知り、タンパク質の多様な立体構造がアミノ酸の特性に依存することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アミノ酸、タンパク質の構造について理解し説明できる。	
		事前学修	シラバスの第5回目の授業内容を確認するとともに、「アミノ酸」、「ペプチド結合」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
6	第一部 第二部 月5/11	タンパク質の働き	タンパク質は生体内における重要な有機化合物である。タンパク質が生体内でどのように働いているかを学修する。また、タンパク質の働きがその立体構造に依存することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してタンパク質が生体内でどのように働いているか、また、タンパク質の働きがその立体構造に依存することを理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第6回目の授業内容を確認するとともに、「酵素」、「細胞骨格」、「筋肉」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 月5/18	細胞周期	細胞は決まった細胞周期に従って成長し複製される。細胞周期の概要とその仕組みについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、細胞周期の概要とその仕組みについて理解し、説明できる	
		事前学修	シラバスの第7回目の授業内容を確認するとともに、「細胞周期」、「細胞分裂」、「DNAの複製」、「染色体」について調べておく	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
8	第一部 第二部 月5/25	DNAの複製	DNAは細胞の増殖に伴って複製される。DNA複製の概要とその仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、DNA複製の概要とその仕組みについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第8回目の授業内容を確認するとともに、第4回の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
9	第一部 第二部 月6/1	DNAの損傷と修復	DNAはたびたび損傷を受けるが、それを修復する機能も備わっている。DNAに損傷が起きる要因とその修復機構について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、DNAに損傷が起きる要因とその修復機構について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第9回目の授業内容を確認するとともに、第4回、第8回の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
10	第一部 第二部 月6/8	DNAの塩基配列の調べ方	第4回、第8回、第9回の講義で個体の遺伝情報がDNAの塩基配列として保存されていることを学習した。DNAの塩基配列情報を調べる手法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、DNAの塩基配列情報を調べる手法について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第10回目の授業内容を確認するとともに、第4回、第8回、第9回の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
11	第一部 第二部 月6/15	遺伝子発現：転写	遺伝子が持つタンパク質の情報とはタンパク質のアミノ酸の並び順の情報である。DNAに記された遺伝情報は転写、翻訳という過程を経てタンパク質の合成が行われる。本講義では転写の分子メカニズムについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、転写の概要とその仕組みについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第11回目の授業内容を確認するとともに、「DNA」、「RNA」、「アミノ酸」について調べておく	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
12	第一部 第二部 月6/22	遺伝子発現：翻訳	遺伝子が持つタンパク質の情報とはタンパク質のアミノ酸の並び順の情報である。DNAに記された遺伝情報は転写、翻訳という過程を経てタンパク質の合成が行われる。本講義では翻訳の概要とその仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、翻訳の概要とその仕組みについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第12回目の授業内容を確認するとともに、「mRNA」、「リボソーム」、「コドン」、「アミノ酸」について調べてくる。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 月6/29	遺伝子発現：遺伝子発現調節	同一個体内の細胞は同じ遺伝情報を持っている。しかしながら同一個体内には様々な細胞が存在している。同じ遺伝情報から様々な細胞を生み出す仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、同じ遺伝情報から様々な細胞を生み出す仕組みについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第13回目の授業内容を確認するとともに、「転写」、「複製」の過程について再度復習しておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
14	第一部 第二部 月7/6	細胞の分化	同一個体内の細胞は同じ遺伝情報を持っている。しかしながら同一個体内には様々な細胞が存在している。同じ遺伝情報から様々な細胞を生み出す仕組みについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、同じ遺伝情報から様々な細胞を生み出す仕組みについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第14回目の授業内容を確認するとともに、「幹細胞」と「iPS細胞」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
15	第一部 第二部 月7/13	講義のまとめ	各回で学んだ内容について説明できるか試験を通じて確認するとともに試験終了後に内容を解説する。講義内容について質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生命の特徴、そして生命を構成する高分子について理解し、説明することができる。到達目標③に関連して、質疑応答により講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	本科目全体の内容、そして試験の内容と自身の回答を振り返り、改めて学んだ内容を説明できるようにする	120分

科目名	生命の科学Ⅱ	担当者	濱崎 雄太	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
生命現象の基本的な仕組みを分子レベルで理解することが本講義の狙いである。まず、分子や遺伝子がどのように細胞を機能させているのか、その原理を学ぶ。さらに、相棒集団がどのように組織化され、個体を形成していくのかについて動物の現象を例に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の様々な生物学的問題を解決するために、生命現象の基本的な仕組みを知り、社会人としての基本的生命科学のさらなる知識を身につけ、学修した内容の本質を的確にとらえて平易に説明できる能力を修得する。

【履修条件】
前期と後期を継続して聴講することが望ましい。

【授業方法】
液晶プロジェクターを用いたスライド映写と板書を併用した講義形式で行う。毎回参考プリントを配布する。毎回の講義で小テストを行い受講者の理解度の確認を行うとともに、翌週の講義で解説を行うことで理解を深める助けとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	生命がどのようなものであるのかを理解し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、生命体や分子について理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	40									70
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③についての各能力が身についているか、授業内での質疑応答を基準により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの翌週に解説を行う。また、第１５回には小テスト後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
時間 水曜日 １５：３０～１６：１０受付場所 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 月9/14	生命とは	生物学、生命科学の学問領域について学修する。また、本講義で取り扱う授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考書について説明する。それによって受講生は、授業の準備を具体的に行えるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物学、生命科学の学問領域について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、生物学、生命科学の学問領域について調べ、ノートに整理し、講義内容と比較検討できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部 第二部 月9/21	細胞の構造	細胞を構成している物質の種類とその特徴について知り、特にDNAとタンパク質の特徴について改めて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して物質の種類とその特徴について理解し、特にDNAとタンパク質の特徴について説明できる。	
		事前学修	シラバスの第3回目の授業内容を確認するとともに、「細胞膜」、「DNA」、「タンパク質」、「細胞小器官」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
3	第一部 第二部 月9/28	種概念と生物の系統	DNAの塩基配列によって生物種を分類することができる。本講義では生物が大きく3種類のドメインに分かれていることを学習し、さらに新たな遺伝子が生まれる仕組みについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して生物の3ドメイン説について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第2回目の授業内容を確認するとともに、「細胞」、「原核生物」、「真核生物」、「生物界三大ドメイン」について調べておく	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
4	第一部 第二部 月10/5	細胞とエネルギー	生命活動を維持するためには外部からエネルギーを取り入れる必要がる。本講義では生命活動とエネルギーの関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して生命活動には外部からのエネルギーが必要なことを理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第4回目の授業内容を確認するとともに、「アデノシン三リン酸 (ATP)」、「酵素」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
5	第一部 第二部 月10/12	呼吸	細胞内にミトコンドリアを取り込んだ生物は酸素を用いた酸化過程を通じて大きなエネルギーを取り出すことができる。本講義ではミトコンドリアにおいて糖からエネルギーを取り出す過程について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してミトコンドリアにおいて糖からエネルギーを取り出す過程について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第5回目の授業内容を確認するとともに、「ミトコンドリア」、「解糖系」、「クエン酸回路」について調べておく。(2時間)	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
6	第一部 第二部 月10/19	光合成	植物は光合成によって太陽エネルギーを化学エネルギーに変換している。本講義では光合成のメカニズムについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して光合成のメカニズムについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第6回目の授業内容を確認するとともに、「葉緑体」、「可視光」、「クロロフィル」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 月10/26	シグナル伝達	多細胞生物の細胞は、周囲の細胞と情報交換を行っている。本講義では、多細胞生物におけるシグナル伝達について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して細胞生物におけるシグナル伝達について理解し説明できる。	
		事前学修	シラバスの第7回目の授業内容を確認するとともに、「細胞膜」、「シグナル伝達物質」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
8	第一部 第二部 月11/9	神経系	我々の脳内では多数の神経細胞からなるネットワークによって情報処理が行われている。本講義では、神経細胞が活動するメカニズムと複数の神経細胞からの情報がどのように統合されるのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して神経細胞が活動するメカニズムと複数の神経細胞からの情報がどのように統合されるのかについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第8回目の授業内容を確認するとともに、「神経細胞」、「静止膜電位」、「活動電位」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
9	第一部 第二部 月11/16	外界からの情報を受容する仕組み	生物が外界の情報を取得する仕組みについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して生物が外界の情報を取得する仕組みについて理解し説明できる。	
		事前学修	シラバスの第9回目の授業内容を確認するとともに、「視覚」、「聴覚」、「嗅覚」、「味覚」、「触覚」について調べておく	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
10	第一部 第二部 月11/23	遺伝	有性生殖によって親から子へ遺伝情報が継承されていく。本講義では、遺伝の法則性とその染色体の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して遺伝の法則性と染色体の関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第10回目の授業内容を確認するとともに、「メンデルの法則」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
11	第一部 第二部 月11/30	減数分裂と配偶子形成	有性生殖をする生物は卵や精子といった配偶子を形成する。本講義では、配偶子形成の際に行われる減数分裂について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して配偶子形成の際に行われる減数分裂について、理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第11回目の授業内容を確認するとともに、「染色体」、「体細胞分裂」、「減数分裂」について調べておく	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
12	第一部 第二部 月12/7	多細胞生物の発生	多細胞生物の受精から発生の過程について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して多細胞生物の受精から発生の過程について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第12回目の授業内容を確認するとともに、「受精卵」、「細胞分化」について調べてくる。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 月12/14	自然免疫	細菌やウイルスといった病原体から身を守るために、我々の体は何重もの防御線が働いている。そのうち自然免疫は体内に侵入してきた病原体に対して最初に働く免疫システムである。本講義では、自然免疫について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して自然免疫について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第13回目の授業内容を確認するとともに、「ウイルス」、「細菌」、「白血球」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
14	第一部 第二部 月12/21	適応免疫	適応免疫は病原体の目印(抗原)に対して特異的に働く免疫システムである。本講義では、適応免疫について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して適応免疫について理解し説明できる。	
		事前学修	シラバスの第14回目の授業内容を確認するとともに、「抗体」と「キラーT細胞」について調べておく。(2時間)	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
15	第一部 第二部 月12/18	講義のまとめ	各回で学んだ内容について説明できるか試験を通じて確認するとともに試験終了後に内容を解説する。講義内容について質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生命の特徴、そして生命を構成する高分子について理解し、説明することができる。到達目標③に関連して、質疑応答により講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	本科目全体の内容、そして試験の内容と自身の回答を振り返り、改めて学んだ内容を説明できるようにする	120分

科目名	西洋の歴史Ⅰ	担当者	馬淵 彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ルネサンスの時代から啓蒙思想の時代に至るまでの人物や事件、思想、文化などを取り上げて、ヨーロッパにおける政治、経済、社会、宗教、文化などにわたる幅広い歴史像を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くするために、ルネサンスや宗教改革や自然科学革命に関連する人物や事件・思想・文化などを理解した上で、「三時代区分問題」を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・リアクションペーパー・ピア評価・ワールドカフェなど。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ルネサンスから啓蒙思想までの期間の人物や事件、思想、文化などを取り上げて、西洋での政治、経済、社会、宗教、文化などの歴史的変化を説明ができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、西洋史における時代三区分の問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業理解度を確認する作業（論述）の後、どのような点に気を付けて理解し論じるべきだったかなどについて授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『西洋の歴史：古代・中世編』	山本 茂ほか編集	ミネルヴァ書房	1988	参考書	任意
『西洋の歴史：近現代編』	木下 尚一ほか編集	ミネルヴァ書房	1998	参考書	任意
『教養のための西洋史入門』	中井 義明ほか著	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
『世界史とヨーロッパ』	岡崎 勝世	講談社現代新書	2003	参考書	推奨
『歴史学における方法的転回：現代歴史学の成果と課題』	歴史学研究会	青木書店	2002	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
研究室にて一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ゆがめられた西洋史	西洋史で用いられる三時代区分について、その特徴と問題点を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西洋史における時代区分法の問題を、どのような方法で検討できるか説明できる。	
		事前学修	シラバスに目を通し、講義の概要などを理解しておく。	120分
		事後学修	授業の視点がどのようなものかまとめる。	120分
2	/	西洋史とは何か	西洋史という歴史研究・教育領域での日本の特殊な歴史的背景と関係していること、また今日では西洋史という枠組みが揺らいでいることをまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「西洋史」という歴史研究・教育領域と日本の特殊な歴史背景と関係、および今日における西洋史という枠組みの動揺を説明できる。	
		事前学修	西洋とは何か、また西洋史が東洋史など他の歴史とどう区別されているのか考えておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	/	古代・中世・近代とは何か	古代・中世・近代とは何か	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパ世界に直線史観がどのような経緯で入ったのか、またどのような変容を遂げたのかを説明できる。	
		事前学修	循環史観と直線史観とは何か、また代表的なものにそれぞれどのようなものがあるか調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	/	古代ギリシアの世界	ルネサンスの基調となった人文主義と、また、人文主義者が憧れた古代ギリシアの世界を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「ルネサンス」期の人々が古代ギリシアの世界に憧れた理由を説明できる。	
		事前学修	古代ギリシアとはどのような世界であったか、政治・社会・文化などの特徴を調べる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	/	古代ローマの世界	人文主義者が憧れた古代ローマの世界を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「ルネサンス」期の人々が古代ローマの世界にあこがれた理由を説明できる。	
		事前学修	古代ローマとはどのような世界であったか、政治・社会・文化などの特徴を調べる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	/	ルネサンスと三時代区分法	「ルネサンス」による時代三区分法の特徴とその問題点を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「ルネサンス」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
		事前学修	「ルネサンス」とは何か、また「ルネサンス」との呼称がついている歴史用語にどのようなものがあるかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	宗教改革とルター	宗教改革とルターの福音解釈について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ルターの説く福音信仰による個人の救いとはどういうことかを説明できる。	
		事前学修	「宗教改革」とは、何をどのように改革しようと試みたものなのかを調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
8	/	宗教改革と三時代区分	「中世」的世界観の発展したものとしてルターの宗教改革を位置づけられるか考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「宗教改革」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
		事前学修	己（個人）の魂の革新をえるために格闘し続けてきた隠修士・修道士に、古代ローマ時代から宗教改革期までの時期にどのようなグループ（修道院・修道会）があり、どのように発展してきたかを調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	/	近代自然科学の誕生	近代自然科学の土台となっている方法と理論を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ある種のキリスト教的自然観が近代科学の誕生に影響を与えていたことを説明できる。	
		事前学修	なぜイギリスでは地動説がキリスト教からの反発を受けず、ニュートンたちによって近代自然科学が確立したのかを調べたり考えたりしておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	/	自然・社会科学と三時代区分	法・政治・経済・社会における科学ブームとその反動を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「科学革命」・「啓蒙思想」で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
		事前学修	近代自然科学の成果と啓蒙思想の発展がどのように関係しているか、また17世紀から19世紀において科学的・合理的世界とは異なる（あるいは反する）思想にどのようなものがあったかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	/	時代三区分法の問題点	西洋史に三時代区分法を用いた場合、歴史解釈上のどのような問題が生じるかをまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、なぜ三時代区分が歴史研究において深刻な問題を生じさせるのかを説明できる。	
		事前学修	「ルネサンス」「宗教改革」「科学革命」のどれによってでも、「中世」と「近代」を区分する際に、過去の実態を見誤らせられることを再確認しておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	/	近代歴史学の登場	西洋における歴史研究の手法や理念がどのように発展したかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学の手法が、これまで人類が持っていた歴史研究手法とは異なり、特殊であることを説明できる。	
		事前学修	近代歴史学がどのように誕生したのか、近代歴史学はそれまでの歴史研究とどのような点で異なるかを調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	歴史研究の方法	近代歴史学の手法では、どのように歴史研究がなされるのかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学の手法による歴史研究の長所・可能性と短所・限界を説明できる。	
		事前学修	今日の歴史研究者が、近代歴史学に基づいて実際にどのように研究作業を遂行しているかを調べる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	/	「西洋の歴史Ⅰ」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。	
		事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。	120分
		事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。	120分
15	/	全体のまとめ	アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
		事前学修	これまでの授業の中で理解しきれっていない箇所をまとめてくる。	120分
		事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	西洋の歴史Ⅱ	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
フランス革命からドイツ帝国成立に至るまでの人物や事件・思想・文化などを主に取り上げて、ヨーロッパにおける政治・経済・社会・宗教・文化などにわたる幅広い歴史像を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くするために、フランス革命からドイツ統一に至るまでの人物や事件・思想・文化などを理解した上で、19世紀に新たに登場した歴史観とその歴史学上の諸問題を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・ピア評価・ワールドカフェなど。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス革命からドイツ統一までの期間の人物や事件、思想、文化などを取り上げて、西洋での政治、経済、社会、宗教、文化などの歴史的変化を説明ができる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、西洋史における進歩史観の問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業理解度を確認する作業（論述）の後、どのような点に気を付けて理解し論じるべきだったかなどについて授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『西洋の歴史：古代・中世編』	山本 茂ほか編集	ミネルヴァ書房	1988	参考書	任意
『西洋の歴史：近現代編』	木下 尚一ほか編集	ミネルヴァ書房	1998	参考書	任意
『教養のための西洋史入門』	中井 義明ほか著	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
『世界史とヨーロッパ』	岡崎 勝世	講談社現代新書	2003	参考書	推奨
『歴史学における方法的転回：現代歴史学の成果と課題』	歴史学研究会	青木書店	2002	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
研究室にて一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	西洋史と歴史観	西洋史と種々の進歩史観の関係について、その特徴と問題点を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種の歴史観が西洋史の理解を誤らせる可能性があることを説明できる。	
		事前学修	シラバスに目を通し、講義の概要などを理解しておく。	120分
		事後学修	授業の視点がどのようなものかまとめる。	120分
2	/	近代歴史学の特殊性と課題	「近代歴史学」の特殊性と課題を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学に対して多くの批判があり、それらがどのようなものであるかを説明できる。	
		事前学修	歴史学も科学とだという主張が、どのようなことを根拠になされているかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	/	歴史学と他の学問との違い	近代歴史学でしか説明できない過去の世界はあるのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史学が過去を研究する手法において他の学問とは異なること点を説明できる。	
		事前学修	歴史学以外に過去を扱う学問にどのようなものがあるか、またそれらの学問と歴史学では過去の研究方法でどのように異なるかを調べたり考えたりしてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	/	歴史学の視点	自分の理想や価値観といった今日の世界観を通して、過去を物語っていいのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史学では、現在のためという外側からでなく、過去そのものの内側から理解することがなぜ大切であるかを説明できる。	
		事前学修	歴史研究において優れた研究とは何か、また劣った研究とは何かを考えてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	/	フランス革命	フランス革命と進歩史観について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス革命が啓蒙主義や進歩史観やナショナリズムとどのように関係しているかを説明できる。	
		事前学修	フランス革命の経緯とフランス革命の政治的・社会的・文化的影響を調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	/	ナポレオン	ナポレオンに対する二つの異なる歴史像と、フランス以外のナショナルな歴史観を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ナポレオンの登場によってなぜナショナルな歴史観がヨーロッパ各地に芽生えたのかを説明できる。	
		事前学修	ナポレオン1世について、彼の功績や失脚の経緯などを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	産業革命	「産業革命」の起源と社会的影響や、自由主義・急進主義・社会主義・階級意識に基づく歴史観を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「産業革命」を一つの契機として、なぜ自由主義や急進主義、社会主義、階級層的な歴史観が芽生えたのかを説明できる。	
		事前学修	「産業革命」はどのような歴史現象だったのか、また社会構造をどのように変容させる出来事だったのかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
8	/	ウィーン体制	ウィーン体制の起こりと、ウィーン体制に関連する超民族共同体的・漸進的保守主義の歴史観を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、メッテルニヒやウィーン体制によって、反ナショナリズム的、漸進的保守主義の歴史観が強められたことを説明できる。	
		事前学修	「ウィーン体制」とは何かについて調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	/	1848年の革命	1848年の革命の起こりと発展、そしてこの革命で種々の歴史観の衝突したことを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス革命、ナポレオン、産業革命、ウィーン体制などによって生じた理想的社会像が1848年に衝突し、暴動や革命へと発展したことを説明できる。	
		事前学修	ヨーロッパの革命とされる1848年に、どのような革命がどの地域で生じたのかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	/	東方問題	東方問題とヨーロッパ中心史観について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、イスラーム圏においてヨーロッパ列強間の対立が展開され、また帝国主義の時代の幕開けにつながることを説明できる。	
		事前学修	東方問題がなぜ生じたのか、またヨーロッパ列強間でどのような対立構図が生じていたのかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	/	イタリア統一・ドイツ統一	イタリア統一・ドイツ統一と、民族主義に根差す歴史観の発展について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、イタリア統一とドイツ統一での政府の政策と民衆の民族意識のそれぞれの役割について説明できる。	
		事前学修	イタリアの統一とドイツの統一が、それぞれどのように達成されたのかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	/	進歩史観の根源と問題点	歴史研究において、歴史の発展法則や理論を発見したいという誘惑についてその根源と問題点を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、西洋史の学びが西洋の過去の実態の理解のためではなく、無意識のうちに別の目的のための道具にすり替えられていくカラクリについて説明できる。	
		事前学修	西洋の歴史のこの講義の5回から11回まで学習したことを復習しておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	歴史学の真の目的と社会貢献	歴史の学びは今日の現代社会に役に立つのかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学問としての歴史研究（近代歴史学）が、今日の社会に重要な役割を果たしていることを説明できる。	
		事前学修	西洋の歴史解釈が、特定の理想や信念に基づいて歪められていた実態を、ここまでの講義内容を振り返ることとで再確認する。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	/	「西洋の歴史Ⅱ」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。	
		事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。	120分
		事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。	120分
15	/	全体のまとめ	アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
		事前学修	これまでの授業の中で理解しきれない箇所をまとめてくる。	120分
		事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	世界の文学Ⅰ	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
①毎回のテーマにそって、解説を行う ②毎回の授業で、受講者にリアクションペーパーの提出を課し、その内容について次回に説明を行う ③教員から与えられた課題に対して、グループでディスカッションしつつ、解答を捜す（1回の授業）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	①毎回の授業でリアクションペーパーを記入する ②教員から与えられた課題に対して、グループでディスカッションしつつ、解答を捜す	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小論文については、次週の授業にフィードバックを行う。期末試験については、ポータルにへ解説を配信する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジャンヌ・ダルク (改訂版)	ジュール・ミシュレ	中公文庫	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15：00～16：00 場所：研究室：授業に関する質問、フランス語学習に関する質問、留学相談（その他メールによる問い合わせ・相談も受け付けますeshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーション・導入講義	授業の説明	
		この回の到達目標	到達目標①②③④を達成するための基礎となる授業の概要について理解し、自分がどのように授業の事前学習および事後学習をしたらよいか把握したうえで、実行できる	
		事前学修	シラバスをよく読んでおく	120分
		事後学修	配布されたプリントを読んだうえで、疑問点を抽出して調べる	120分
2	4/14	19世紀フランスの歴史と文学(1)	19世紀フランスの歴史と社会(1) 19世紀フランス文学概観(1)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会および文学について概説できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
3	4/21	19世紀フランスの歴史と文学(2)	19世紀フランスの歴史と社会(2) 19世紀フランス文学概観(2)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀後半のフランスの歴史と社会および文学について概説できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
4	4/28	キリスト教概説(1)	キリスト教の教義、その他	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀を特徴づける反教権主義(反聖職者主義)について理解することを目標に、キリスト教の概要を学ぶ。そのうえで、反教権主義とは何かについて説明できる(1)	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
5	5/5	キリスト教概説(2)	キリスト教概説：フランス史におけるキリスト教について	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀を特徴づける反教権主義(反聖職者主義)について理解することを目標に、キリスト教の概要を学ぶ。そのうえで、反教権主義とは何かについて説明できる(2)	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
6	5/12	啓蒙思想と19世紀文学(1)	啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学(1)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、啓蒙思想およびフランス大革命とロマン主義文学の関連について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	啓蒙思想と19世紀文学 (2)	啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学 (2)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ヴォルテールの反教権主義とロマン主義文学の関連について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
8	5/26	啓蒙思想と19世紀文学 (3)	啓蒙思想家ヴォルテール『寛容論』とカラス事件 (1)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ヴォルテールの反教権主義とロマン主義文学の関連について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
9	6/2	啓蒙思想と19世紀文学 (4)	啓蒙思想家ヴォルテール『寛容論』とカラス事件 (2)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ヴォルテールの反教権主義とロマン主義文学の関連について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
10	6/9	ミシュレのフランス史 (1)	ミシュレ『フランス革命史』序説とヴォルテール	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、民衆史家としてのミシュレのフランス史の特徴について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
11	6/16	ミシュレのフランス史 (2)	ミシュレ『魔女』	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、民衆史家としてのミシュレのフランス史の特徴について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
12	6/23	ミシュレによるジャンヌ・ダルク (1)	ディスカッションおよび小論文	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、教科書『ジャンヌ・ダルク』に関して、批評的に意見を述べることができ、他者の意見を適切に理解して適切に応答できる。さらに授業で提示された質問について教科書を参考に適切に解答できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読みかえし、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ゾラとドレフュス事件 (1)	ドレフュス事件の背景と経緯およびゾラの小説『真実』 (1)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ドレフュス事件について理解し、ゾラがどのように事件に関わったかを説明することができる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	配布されたプリントをよく読んでおくこと	120分
14	7/7	ゾラとドレフュス事件 (2)	ドレフュス事件の背景と経緯およびゾラの小説『真実』 (2)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ドレフュス事件について理解し、ゾラがどのように事件に関わったかを説明することができる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	配布されたプリントをよく読んでおんで理解すること	120分
15	7/14	まとめ	前期試験とまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、その社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前期試験の準備をすること	120分
		事後学修	前期全体の復習をすること	120分

科目名	世界の文学Ⅰ	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造(想像)的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義・グループディスカッション・発表等を適宜取り入れながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度（頻度）／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト/レポートの講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材については授業中に文献リストを配布する。				

【オフィスアワー】
火曜昼休み （4号館424研究室） shindou.sugi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文学作品・映画字幕の翻訳、現役作家インタビュー
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本における外国語文学の受容、及びドイツ語圏文学作品成立の背景などを具体的な事例を用いて講義に反映させてゆきます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス ドイツ語圏文学概論	1 9 世紀から現代までのドイツ語圏文学概論	
		この回の到達目標	2 0 世紀から現代にかけて発展した様々なメディアの中で文学の持つ特徴を説明することができる。（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	シラバス確認	120分
		事後学修	ドイツ語圏における 2 0 世の歴史についてまとめる。	120分
2	4/15	テーマ 1－1 様々なメディアと文学 1	様々なメディアが発信するメッセージを具体例を見ながら概観し、その中の文学が持つ特徴を考察する。	
		この回の到達目標	様々なメディアと比較した中で文学がもつ特徴について自分の意見を言うことができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
3	4/22	テーマ 1－2 様々なメディアと文学 2	様々な形態のメディアの中から、物語という概念を考察する。	
		この回の到達目標	物語がどのようなところにあるのか、どのような役割を果たしているのか自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
4	4/29	テーマ 2－1 EUの礎 1	リヒャルド・クーデンホーフ・カレルギーの生い立ちと『パン・ヨーロッパ』	
		この回の到達目標	リヒャルド・クーデンホーフ・カレルギーの生い立ちと『パン・ヨーロッパ』について説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
5	5/6	テーマ 2－2 EUとドイツ語圏文学 2	リヒャルド・クーデンホーフ・カレルギーの『パン・ヨーロッパ』の中に描かれた世界について概観する。	
		この回の到達目標	『パン・ヨーロッパ』に描かれた世界とクーデンホーフ・カレルギーが生きた世界の特徴について自分の考えを述べる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
6	5/13	テーマ 3－1 オーストリア文学の特徴 多民族多文化国家の文学 1	シュティフターの『ウィーンとウィーン人』の中で描かれている人物像から現在のEUにつながるコスモポリタンな社会を概観する。	
		この回の到達目標	『ウィーンとウィーン人』に描かれる社会の特徴について意見を言うことができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	テーマ3-2 オーストリア文学の特徴 多民族多文化国家の文学2	シュティフターの『ウィーンとウィーン人』の中で描かれている人物や社会について話し合う	
		この回の到達目標	シュティフターの『ウィーンとウィーン人』の中で描かれている人物や社会について自分の推測や考えや述べ、グループの人たちの考えと比較して、学んだ内容をまとめることができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
8	5/27	テーマ4-1 ユダヤ人とドイツ文学1	ザッヘル・マゾッホの『ユダヤ人の生活』の中に描かれているユダヤ人の生活について概観し、グループワークの中で意見交換をする。	
		この回の到達目標	ザッヘル・マゾッホと『ユダヤ人の生活』について概略とその特徴を説明し、自分の考えをのべることができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
9	6/3	テーマ4-2 ユダヤ人とドイツ文学2	ヴェーザ・カネッティの『黄色い街』の中に描かれているユダヤ人の生活について概観し、マゾッホの描いたユダヤ人と比較して、グループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	マゾッホとカネッティの描くユダヤ人の生活からそこで描かれているユダヤ人の比較、作者の意図について自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
10	6/10	テーマ5-1 カフェ文化と文学1	ウィーンのカフェ文学を概観し、リヒャルト・ミクリーのカフェについての文章をもとにカフェの持つ役割について考察する。	
		この回の到達目標	ミクリーのテキストに描かれているカフェの特徴と社会における役割と効果について自分の考えを述べることができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
11	6/17	テーマ5-2 カフェ文化と文学2	ペーター・アルテンベルクとイルゼ・アイヒンガーの短編を題材に、カフェ文学の特徴について概観する。	
		この回の到達目標	カフェ文学の特徴について自分の考えを説明し、グループの人たちと意見交換ができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
12	6/24	テーマ6-1 ナチスとドイツ文学1	ナチスとドイツ文学について概観する。	
		この回の到達目標	ナチス時代とそこにおける文学について、当時の文学の特徴について意見が言える。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んでナチスと第二次世界大戦についてまとめ、作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	テーマ6-2 ナチスとドイツ文学2	ベルマン・ヘッセの『ガラス玉演戯』の冒頭部分を例に、ナチス時代が文学にどのように反映されているか概観する。	
		この回の到達目標	時代背景を踏まえて『ガラス玉演戯』についてグループの中で意見交換ができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
14	7/8	レポートのグループセッション	作成するレポートについてグループワークで発表・討論をする。	
		この回の到達目標	期末レポート案について説明をし、グループ内の人たちのレビューを反映させた上でレポートを作成する。	
		事前学修	自分で選んだ作品について、ワークシートの手順を基にレポートを作成し、説明できるようにしておく。（関連SB0s①②③）	120分
		事後学修	レビューの結果を反映させてレポートの最終版を作成する。	120分
15	7/15	レポートのグループ・プレゼンテーション	完成させたレポートをグループ内で発表	
		この回の到達目標	①②③の到達目標について十分な内容のレポートを作成し、それについて説明できる。	
		事前学修	レポートの作成	210分
		事後学修	自分の発表内容とグループ内の発表内容を比較考察し、改善点をまとめる。	30分

科目名	世界の文学Ⅰ	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造(想像)的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
文学・芸術への関心と発言(意見交換)の意志を持っていること。

【授業方法】		
カレル・チャペックの『ロボット』（1920）と平田オリザのロボット演劇『働く私』（2008）、アンドロイド演劇『さようなら』（2010）を輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。適宜CDやDVDを使う。なお、後期（Ⅱ）では、そのとき扱う H. G. ウェルズの短篇『世界最終戦争（ハルマゲドン）の夢』をオペラ化した舞台（世界初演）を劇場で観る予定。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度（頻度）／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ロボット	カレル・チャペック	岩波文庫	1989	教科書	必携
備考	平田オリザ「働く私」「さようなら」はプリントを使用する。				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部水 4/8	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる文学作品（戯曲）について概説し、「世界の文学」を読むことの意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、半期で取り上げる「世界の文学」作品を読むことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	第二部水 4/15	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて概説し、意見交換をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲（演劇）と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第二部水 4/22	カレル・チャペックについて	チェコの作家カレル・チャペック（1890-1938）について概説し、意見交換をおこない、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、カレル・チャペックについての概略を理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	チェコの作家カレル・チャペックについて調べ、メモを作成する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第二部水 4/29	『ロボット』序幕を読む	チャペック『ロボット』序幕を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第二部水 5/6	『ロボット』第1幕を読む	チャペック『ロボット』第1幕を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第二部水 5/13	『ロボット』第2幕を読む	チャペック『ロボット』第2幕を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部水 5/20	『ロボット』第3幕を読む	チャベック『ロボット』第3幕を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第二部水 5/27	『ロボット』まとめ	チャベック『ロボット』全体を振り返り、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品を読み返したうえで、内容を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第二部水 6/3	劇作家平田オリザについて	劇作家平田オリザについて概説し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、平田オリザについて理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	劇作家平田オリザについて調べ、メモを作成する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第二部水 6/10	ロボット演劇『働く私』を読む	平田オリザのロボット演劇『働く私』を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品を熟読・音読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第二部水 6/17	アンドロイド演劇『さようなら』を読む	平田オリザのアンドロイド演劇『さようなら』を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品を熟読・音読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第二部水 6/24	ロボット/アンドロイド演劇のまとめ	平田オリザのロボット/アンドロイド演劇を振り返り、読み合わせと意見交換をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当作品を読み返したうえで、内容を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部水 7/1	チャベックの『ロボット』と平田のロボット/アンドロイド演劇の比較	チャベックの『ロボット』と平田オリザのロボット/アンドロイド演劇作品を比較し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、チャベックと平田オリザの作品を比較したうえで、自分の考えを説明し応答（対話）することができる。	
		事前学修	チャベックの『ロボット』と平田オリザのロボット/アンドロイド演劇作品を比較し、両者の共通性と差異について考え、メモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第二部水 7/8	半期のまとめ	半期の学習内容を振り返り、試験の趣旨について説明し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で扱った世界文学（戯曲）作品の社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	半期の授業内容を振り返り、疑問点等を整理する。（2時間）	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）	60分
15	第二部水 7/15	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「世界の文学」（戯曲）についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	文学（戯曲）についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
		事後学修	半期で学んだことを整理する。	60分

科目名	世界の文学Ⅱ	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
①毎回のテーマにそって、解説を行う ②毎回の授業で、受講者にリアクションペーパーの提出を課し、その内容について次回に説明を行う ③教員から与えられた課題に対して、グループでディスカッションしつつ、解答を捜す（1回の授業）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	①毎回の授業でリアクションペーパーを記入する ②教員から与えられた課題に対して、グループでディスカッションしつつ、解答を捜す	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小論文については、次週の授業にフィードバックを行う。期末試験については、ポータルにへ解説を配信する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
死刑囚最後の日	ヴィクトル・ユゴー	光文社文庫	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15：00～16：00 場所：研究室：授業に関する質問、フランス語学習に関する質問、留学相談（その他メールによる問い合わせ・相談も受け付けますeshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	オリエンテーション・導入講義	授業の説明	
		この回の到達目標	到達目標①②③④を達成するための基礎となる授業の概要について理解し、自分がどのように授業の事前学習および事後学習をしたらよいか把握したうえで、実行できる	
		事前学修	シラバスをよく読んでおく	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
2	9/22	19世紀の歴史と社会（1）	19世紀の歴史とヴィクトル・ユゴーの政治的軌跡（1）	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会について概説できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
3	9/29	19世紀の歴史と社会（2）	19世紀の歴史とヴィクトル・ユゴーの政治的軌跡（2）	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会について概説できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
4	10/6	ユゴーのその他の作品について知る（1）	『レ・ミゼラブル』の概略（1）ジャンとナポレオン	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
5	10/13	ユゴーのその他の作品について知る（1）	『レ・ミゼラブル』の概略（2）国民公会への言及	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
6	10/20	ユゴーのその他の作品について知る（3）	『レ・ミゼラブル』の概略（3）1832年の民衆蜂起	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、その社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	ユゴーのその他の作品について知る（4）	『クロード・グー』：刑法、社会保障、死刑制度	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
8	11/10	ユゴーの哲学と思想（1）	『死囚囚最後の日』序文について（1）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死囚囚最後の日』の序文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
9	11/17	ユゴーの哲学と思想（2）	『死囚囚最後の日』序文について（2）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死囚囚最後の日』の序文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
10	11/24	ユゴーの哲学と思想（3）	『死囚囚最後の日』序文について（3）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死囚囚最後の日』の序文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
11	12/1	ユゴーの哲学と思想（4）	『死囚囚最後の日』序文について（4）ディスカッションと小論文	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、教科書『死囚囚最後の日』の序文を理解し、批評的に意見を述べることができ、他者の意見を適切に理解して適切に応答できる。さらに授業で提示された質問について教科書を参考に適切に解答できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
12	12/8	ユゴーの哲学と思想（5）	『死囚囚最後の日』本文について（1）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死囚囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	ユゴーの哲学と思想（6）	『死刑囚最後の日』本文について（2）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
14	12/22	ユゴーの哲学と思想（7）	『死刑囚最後の日』本文について（3）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
15	1/12	まとめ	後期末試験とまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、その社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	後期末試験の準備をする	120分
		事後学修	後期全体の復習をすること	120分

科目名	世界の文学Ⅱ	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義・グループディスカッション・発表等を適宜取り入れながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。					2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。						2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。						2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト/レポートの講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『精神分析学入門』	フロイト	中公文庫	2019	参考書	推奨
『シュニッツラー短編集』	シュニッツラー	三修社	1982	参考書	推奨
『きたれ、甘き死よ』	ヴォルフ・ハース	水声社	2001	参考書	推奨
『白バラは散らず』	インゲ・ショル	未来社	1964	参考書	推奨
『初版グリム童話集1-5』	グリム兄弟	白水社	2007	参考書	推奨
『太陽通り』	トーマス・ブルスイヒ	三修社	2002	参考書	推奨
備考	その他の教材については授業中に文献リストを配布する。				

【オフィスアワー】
火曜昼休み（4号館424研究室） shindou.sugi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文学作品・映画字幕の翻訳、現役作家インタビュー
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本における外国語文学の受容、及びドイツ語圏文学作品成立の背景などを具体的な事例を用いて講義に反映させてゆきます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス ドイツ語圏文学概論	20世紀ドイツ語圏文学の背景と文学の特徴を概観する。	
		この回の到達目標	20世紀から現代にかけて発展した様々なメディアの中で文学の持つ特徴を説明することができる。（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	シラバス確認	120分
		事後学修	ドイツ語圏における20世の歴史についてまとめる。	120分
2	9/23	テーマ1-1 精神分析学と文学1	フロイトの精神分析学と背景となった19世紀末から20世紀初頭のオーストリアの文化を概観し、そこから影響を受けた文学について考察する。	
		この回の到達目標	精神分析とフロイトとその時代のウィーンについて説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
3	9/30	テーマ1-2 精神分析学と文学2	フロイトと同時期に作家活動をしていたアルトゥール・シュニッツラーの短編を読んで考察する。	
		この回の到達目標	フロイトとシュニッツラーについて考察したことを説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
4	10/7	テーマ2-1 ドイツ語圏の推理小説1	推理小説の成立について概観し、ヴォルフ・ハースの探偵小説を例に推理小説を分析する手法について導入する。	
		この回の到達目標	推理小説の歴史について説明し、具体的に作品の中の分析のポイントについて意見をいうことができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
5	10/14	テーマ2-2 ドイツ語圏の推理小説2	ヴォルフ・ハースや他の推理小説を用いて、グループワークの中で自分の分析について説明し、他の人の話をレビューする。	
		この回の到達目標	推理小説について自分の読み方を説明し、他の人の意見についてレビューすることができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
6	10/21	テーマ3-1 ノンフィクション文学1	ナチスと白バラの運動について概観し、インゲ・ショルの『白バラは散らず』の成立について講義、ノンフィクション文学について考察する。	
		この回の到達目標	白バラと『白バラは散らず』について説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	テーマ3-2 ノンフィクション文学2	『白バラは散らず』を読んで、そこに書かれている内容について自分の考えを述べ、他の人の意見についてレビューをする。	
		この回の到達目標	『白バラは散らず』を読んで考察した内容を説明し、他の人の考えについてコメントすることができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
8	11/11	テーマ4-1 皆伐文学 ー言葉が皆伐された後1	ナチスのプロパガンダと言語について概観し、戦後ドイツ語に起こった言語と文学の危機についてギュンター・アイヒの詩を例に考察する。	
		この回の到達目標	ナチス時代とその後のドイツ語の状況について説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
9	11/18	テーマ4-2 皆伐文学 ー言葉が皆伐された後2	ギュンター・アイヒと同時代のブレヒト、ツェーランの詩を例に戦後のドイツ語文学について考察する。	
		この回の到達目標	第二次世界大戦後のドイツ語圏文学の特徴について、具体的な作品を通じて説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
10	11/25	テーマ5-1 グリム童話は どう読まれたか1	グリム童話の成立と作品の特徴とドイツ語圏の受容について考察する。	
		この回の到達目標	グリム童話について新しく得た知見について説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
11	12/2	テーマ5-2 グリム童話は どう読まれたか2	グリム童話の背景を踏まえてテキストを読む。	
		この回の到達目標	グリム童話について具体的にテキストに言及しながらグループの人たちと意見交換ができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
12	12/9	テーマ6-1 東西ドイツの文学1	東西ドイツの歴史を踏まえて当時の文学を読む。	
		この回の到達目標	東西ドイツの歴史について簡単な説明し、当時の文学の特徴について意見が言える。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んでナチスと第二次世界大戦についてまとめ、作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	テーマ6-2 東西ドイツの文学2	トーマス・ブルスィヒの『太陽通り』を読む。	
		この回の到達目標	時代背景を踏まえて、『太陽通り』についてグループの中で意見交換ができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
14	12/23	レポートのグループセッション	作成するレポートについてグループワークで発表・討論をする。	
		この回の到達目標	期末レポート案について説明をし、グループ内の人たちのレビューを反映させた上でレポートを作成する。	
		事前学修	自分で選んだ作品について、ワークシートの手順を基にレポートを作成し、説明できるようにしておく。（関連SB0s①②③）	120分
		事後学修	レビューの結果を反映させてレポートの最終版を作成する。	120分
15	1/13	レポートのグループ・プレゼンテーション	完成させたレポートをグループ内で発表	
		この回の到達目標	①②③の到達目標について十分な内容のレポートを作成し、それについて説明できる。	
		事前学修	レポートの作成	210分
		事後学修	自分の発表内容とグループ内の発表内容を比較考察し、改善点をまとめる。	30分

科目名	世界の文学Ⅱ	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
文学・芸術への関心と発言（意見交換）の意志を持っていること。

【授業方法】		
H. G. ウェルズの短篇小説『タイム・マシン』（1895）『世界最終戦争（ハルマゲドン）の夢』（1901）を輪読する。発表・意見交換を中心に演習形式で進める。なお、フィールドワークとして、作曲家の藤倉大が「世界最終戦争の夢」をオペラ化した舞台《アルマゲドンの夢》（世界初演）を劇場で観る予定。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。					2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。						2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。						2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
タイム・マシン	H. G. ウェルズ	岩波文庫	1991	教科書	必携
備考	H. G. ウェルズ「世界最終戦争の夢」『ウェルズSF傑作集2』（阿部知二訳）は絶版のため、プリントを使用する。				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部水 9/16	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる文学作品（戯曲）について概説し、「世界の文学」を読むことの意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、半期で取り上げる「世界の文学」を読むことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	第二部水 9/23	H. G. ウェルズについて	イギリスの作家 H. G. ウェルズ（1866-1946）について概説し、意見交換をおこない、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、H. G. ウェルズについての概略を理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	イギリスの作家 H. G. ウェルズについて調べ、メモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第二部水 9/30	『タイム・マシン』を読む（1）	『タイム・マシン』1～3を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第二部水 10/7	『タイム・マシン』を読む（2）	『タイム・マシン』4～8を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第二部水 10/14	『タイム・マシン』を読む（3）	『タイム・マシン』9～12を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第二部水 10/21	『タイム・マシン』を読む（4）	『タイム・マシン』13～16＋エピローグを読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部水 10/28	『世界最終戦争の夢』を読む（１）	『世界最終戦争の夢』の前半を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第二部水 11/11	『世界最終戦争の夢』を読む（２）	『世界最終戦争の夢』の後半を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第二部水 11/18	『世界最終戦争の夢』まとめ	『世界最終戦争の夢』全体を振り返り、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品を読み返したうえで、内容を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第二部水 11/25	文学のオペラ化（１）	作曲家の藤倉大が『世界最終戦争の夢』を舞台化したオペラ《アルマゲドンの夢》について、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、劇場で観たオペラについて、感じたこと/考えたことを説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	劇場で観たオペラについて、感じたこと/考えたことをメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第二部水 12/2	文学のオペラ化（２）	短篇小说『世界最終戦争の夢』とオペラ《アルマゲドンの夢》を比較し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、短篇小说とオペラを比較したうえで、自分の考えを説明し応答（対話）することができる。	
		事前学修	短篇小说『世界最終戦争の夢』とオペラ《アルマゲドンの夢》を比較し、両者の共通性と差異について考え、メモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第二部水 12/9	H. G. ウェルズ論（１）	H. G. ウェルズ論（１）を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該批評を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当批評を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部水 12/16	H. G. ウェルズ論（2）	H. G. ウェルズ論（2）を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当批評を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第二部水 12/23	H. G. ウェルズのまとめ	半期で扱った作品を振り返り、盛り込まれたテーマや問題点について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で扱った作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	半期で扱った作品を読み直し、盛り込まれたテーマや問題点を整理する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	第二部水 1/13	レポート試験と振り返り	レポート（小論文）試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「世界の文学」についてのレポート（小論文）試験に論述解答できる。	
		事前学修	「世界の文学」についての小論文作成作業を完了させる。	180分
		事後学修	授業で何を得たか整理する。	60分

科目名	総合講座A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文学/芸術と「危機」の関係をめぐって、様々なジャンル（詩・小説・評論・美術・音楽等）の作品分析により、考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
豊かな創造性を養うために、文学/芸術に親しむ習慣を身につけ、ものごとを複眼的視点から見ることができる能力を修得する。

【履修条件】
必ず初回に出席し、成績評価の方法・課題レポート作成の注意点を理解すること。

【授業方法】
ゲスト（彫刻家を予定）を含む複数の講師が共通テーマに基づき、様々なジャンルの作品分析を講義形式でおこなう。適宜、ビデオ・画像等を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回質疑応答の時間を設け、学期末には総括としてグループディスカッション及びピアレビューを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	授業で扱う作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。				2		2	2				
②	授業で扱う問題やテーマを理解し、その理解を説明することができる。				2	2	2					
③	授業で扱う問題やテーマへの理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	①②③に関する各能力が身についているかを、3回のレポートによって評価する。	30	30	30								90
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)/適切に行ったかを基準に、①③に関する各能力が身についているかを評価する	5		5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	30	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評を各区分の翌週以降にポータルで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回の授業時に各講師がプリントを配布する。全体の「参考文献表」は初回に配付する。				

【オフィスアワー】
授業の質問は授業終了後、または火曜昼休みに対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		各講師の実践的な経験に基づき、各授業ごとに反映	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	イントロダクション及び導入講義【真道 杉】	「芸術における危機とは何か」テーマに関する概論と、受講の仕方についての説明	
		この回の到達目標	テーマについての概要を理解し説明することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読しておく。	120分
		事後学修	授業の内容をノートにまとめる。	120分
2	4/17	ナチス・ドイツの音楽政策【佐藤 英】	ナチス・ドイツ時代の音楽政策について、おもにリヒャルト・ワーグナー(1813-1883)の受容の観点から考察する。ワーグナーのオペラ《ニュルンベルクのマイスタージンガー》についても解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、リヒャルト・ワーグナーの作品がナチス・ドイツにおいてどのように「利用」されたか、具体例を挙げながら説明することができる。	
		事前学修	高校の教科書やインターネットでナチス・ドイツについて情報を集めておくこと。作曲家リヒャルト・ワーグナーについても同様に調べてみること。	120分
		事後学修	授業のプリントやノートで、ナチス・ドイツ時代の文化政策について、要点を整理しておくこと。YouTubeなどでアクセス可能な映像/音源も、視聴すること。	120分
3	4/24	ナチスの記憶と戦後ドイツの音楽家たち【佐藤 英】	第二次世界大戦後のドイツ語圏のクラシック音楽界の動向について、ナチスとの対峙/克服という観点から説明する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、第二次世界大戦後、ドイツ語圏の音楽家が直面しなければならなかった「ナチス以後」の問題について、概要を説明できる。また、その情報に則して、自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	授業のプリントや書籍、映像/音声などを利用し、リヒャルト・ワーグナーについて調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内で得た知見を整理し、レポートを執筆すること。	120分
4	5/1	美学と政治のあいだ——『ユリシイズ』再考（1）【松山博樹】	ジェイムズ・ジョイスの小説『ユリシイズ』（1922）からうかがえる時代背景を考察し、そこに隠されている「美学と政治の結託」を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ジョイス、『ユリシイズ』、モダニズム芸術について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	法学部図書館所蔵の『ユリシイズ』を手に取り、たとえ読まずともページをめくって目を通しておくことよい。また、モダニズム芸術について調べておくことさらによい。	120分
		事後学修	次週の講座に備え、「美学と政治のあいだ——『ユリシイズ』再考（1）」の振り返りをおこなうこと。	120分
5	5/8	美学と政治のあいだ——『ユリシイズ』再考（2）【松山博樹】	前週の講座を批判的に振り返り、考察を逆説的に発展させ、『ユリシイズ』と「美学と政治の結託」のねじれた関係性に危機の時代におけるひとりの作家の在り方を見出す。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ジョイス、『ユリシイズ』、モダニズム芸術について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	前週の講座内容を踏まえ、再び法学部図書館所蔵の『ユリシイズ』を手に取り、たとえ読まずともページをめくって目を通しておくことよい。また、当時の国際政治および芸術のおかれた状況について調べておくことさらによい。	120分
		事後学修	「美学と政治のあいだ——『ユリシイズ』再考（2）」の振り返りをおこなうこと。	120分
6	5/15	人間主義の危機（1）：人間の尊厳から動物の尊厳へ——ピーター・シンガーの『動物の解放』——【吉澤保】	ピーター・シンガーの哲学と、ジル・ドゥルーズの哲学は、それぞれ、人間中心主義の危機、近代の危機への、一つの応答であるが、両者は全く異なる。まず主に、前者の『動物の解放』（1975年）を取り上げて考察する。感性的存在はすべて平等とされる。通常、差別は人間種に限定される（人種差別、性差別など）が、シンガーにおいては動物にまで拡張される（種差別）。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ピーター・シンガーと『動物の解放』について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	ピーター・シンガーとその著作について、またアニマル・ライツ、アニマル・ウエルフェア、ヴィーガニズム、種差別などについて調べる。	120分
		事後学修	授業の内容を振り返り、整理して、それに対する自分の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	人間主義の危機（2）：人間の尊厳から出来事の尊厳へ — ジル・ドゥルーズの『千のプラトール』 — 【吉澤保	シンガーが、人間から動物への尊厳の拡張を試みるのに対して、ドゥルーズは、尊厳そのものの無効化を試みる（正しくは、出来事の尊厳は、尊厳ではない）。重要なのは、保存すべき生命ではなく、生成（変化）そのものになる。後者の主に『千のプラトール』（1980年）を取り上げて考察する。すべては平等であるというドゥルーズの考えは、シンガー流の尊厳の拡張ではない。ドゥルーズにおいては、社会の危機、戦争は必ずしも否定的なものではない。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ジル・ドゥルーズと『千のプラトール』について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	ジル・ドゥルーズとその著作について、また国家装置、主体化、戦争機械、管理社会などについて、調べる。	120分
		事後学修	授業の内容を振り返り、整理して、それに対する自分の考えをまとめる。	120分
8	5/29	フランソワ・ラブレーとルネサンス—— 信仰の危機と人間性の回復（1）【石橋正孝】	フランス・ルネサンスの歴史的・社会的・宗教的背景にフランソワ・ラブレーとその著作について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ラブレーについて自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	フランス・ルネサンスの歴史的・社会的・宗教的背景について、高校までに習った世界史の知識を復習し、図書館の書籍などで事前に調査しておく。	120分
		事後学修	講義で扱った本文を再度読み直し、バフチンの参考書と照らし合わせながら、生命の喜びと生命の死を文化の創造と破壊のサイクルに当てはめて読み直す。	120分
9	6/5	フランソワ・ラブレーとルネサンス—— 信仰の危機と人間性の回復（2）【石橋正孝】	バフチンの理論を参照しながら、唯名論争、宗教革命をキーワードにフランソワ・ラブレーを読む。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ラブレーとルネサンスについて自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	唯名論争、宗教革命について、高校までに習った世界史の知識を復習し、図書館の書籍などで事前に調査しておく。	120分
		事後学修	講義で扱った本文を、講義で学んだ歴史的・文化的文脈の中で再度読み直し、中世から近代への移行をもたらしした要因について考察する。	120分
10	6/12	関東大震災と日本文学【宮澤隆義】	戦前の日本文学と危機との関係について、関東大震災を中心に紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問して知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、震災に対する文学者たちの反応について理解を深める。	
		事前学修	戦前の日本史と文学史について、おおまかな流れを調べておく。	120分
		事後学修	配布プリント掲載の作品・人物について調べ、考察を深める。	120分
11	6/19	アジア・太平洋戦争と日本文学【宮澤隆義】	戦前から戦中にかけての日本文学の動向を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問して知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、アジア・太平洋戦争への文学者たちの応答について理解を深める。	
		事前学修	戦前～戦中の日本史と文学史について、おおまかな流れを調べておく。	120分
		事後学修	配布プリント掲載の作品・人物について調べ、考察を深める。	120分
12	6/26	国際彫刻シンポジウム【八木ヨシオ+真道】	戦後の国際彫刻シンポジウムの活動について紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、扱った造形作品について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	国際彫刻シンポジウムについて調べ、画集やインターネットで作品を見ておく。	120分
		事後学修	講義の内容を振り返り、そこから得たものをメモしてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ホロコーストの文学 【真道 杉】	第二次世界大戦におけるドイツ語圏文学の一例としてイルゼ・アヒンガーの小説を取り上げ、強制収容所体験が文学にどのように影響したのかを探る。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、扱った作家について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	第二次世界大戦とナチスの強制収容所について、イルゼ・アイヒンガーについて図書館等で調べておく。	120分
		事後学修	授業内容をまとめ、授業内で紹介された文献を読む。該当者はレポートを作成する。	120分
14	7/10	ホロコーストの心理学 【真道 杉】	強制収容所の心理を描いたヴィクトール・フランクルの体験とその著作を扱い、フランクル体験が著作にどのように影響したのかを探る。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、フランクルとその著作について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	1回目の授業を踏まえて、ユダヤ人について、ヴィクトール・フランクルについて図書館等で調べておく。	120分
		事後学修	授業内容をまとめ、授業内で紹介された文献を読む。該当者はレポートを作成する。	120分
15	7/17	振り返り	授業全体を振り返り、授業内で発表し、他の人の発表についてコメント（レビュー）をする。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、授業内で扱ったテーマについて自分の意見を伝えることができるとともに、到達目標③に関連して、他の人の意見についてコメント（レビュー）ができる。	
		事前学修	半期の授業を振り返り、何を得たかメモしてみる。	120分
		事後学修	授業で学んだことを今後に活かすにはどうすればよいか考える。	120分

科目名	総合講座B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
テーマは「ジェンダーから見たワークとライフ」です。ワークに関してはサービス残業・過労死等の異常状態の解消、男女共同参画社会の実現に向けての対策が問題です。さらに家事、育児、介護を含むライフには、無償労働である家事労働をどのように解釈し、今後社会がどのような支援を行い、男女の間で公平に分担するのかという問題があります。オムニバス形式による講師陣からの問いかけを通して考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジェンダーの視点から現代社会の現状を分析し、それを説明するとともに今後の解決策を提案できるようになるために、ジェンダー問題の重要性を理解し、現代社会の動向を的確に把握できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
ゲストを含む10人の講師が、それぞれの専門分野から講義を行う。適宜、ビデオ・画像等を用いる。ゲストには、講座テーマに関連する分野で知見を持つ専門家を招く。講義の中での学生同士の話し合い、質問時間等を設ける。毎回、リアクションペーパーの記入を課題とする。2回の授業および最終回のまとめの時間（合計3回）は、ディスカッションを中心に進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生同士の話し合い、ディスカッション、コメントペーパー記入、質問タイムの設定	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジェンダー概念を理解し、概念形成の背景を論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	①に関連して、現代社会における諸問題を抽出し、それらについて分析できる。				2	2	2	2				
③	①と②を総合して、現代社会の諸問題の解決に向けて、自らの解決策を説明し、他者と共有できる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、レポートによって判断する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標③が達成できているかについて、ディスカッション後に授業内で作成する小論文で判断する。			20								20
授業への参画度												
その他(レアクション ペーパー)	到達目標①②が達成できているかについて、レアクションペーパーによって判断する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	原則として、各講師がプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
月曜 15:00～16:00(4号館445研究室) eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ゲストスピーカーにおける社会経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業における労働問題への対応の経験および男性の育児参加に関わる体験	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	オリエンテーション	各回の授業内容に関する説明。ジェンダー、ワーク・ライフ・バランスに関する問題提起【江島泰子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれの目標の具体的な内容を理解し、その達成に向けてどのように学修すればよいかを説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読んで、特に興味をもった内容に関して調べておくこと。	120分
		事後学修	配布された参考文献に関して、興味あるものを選んで読んでおくこと。	120分
2	9/25	哲学的視点から	人間と労働 ―― 生きることと働くこと【岡山敬二】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、哲学的視点から把握された労働の在り方を理解し、それについて説明できるとともに、自分が考えていた労働の概念と比較して、その差異を分析できる。	
		事前学修	賃金労働と家事労働、その他様々な人間的活動との違いや共通点について見解をまとめ、整理しておくこと。	120分
		事後学修	ヘーゲルのいう労働、マルクスのいう抽象的な人間労働、賃金労働と疎外についてその意味の違いを人間と社会という点からまとめておくこと。	120分
3	10/2	ジェンダーについて考える	言語を通して考えるジェンダー【黒滝真理子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ジェンダーと言語について説明できる。	
		事前学修	日仏英の「女性らしい表現・コミュニケーションスタイル」「男性らしい表現・コミュニケーションスタイル」を身近から探し挙げておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえて、言語性差を引き起こしてきた歴史・社会・文化の背景についてA4・2枚以内にまとめる。	120分
4	10/9	歴史的視点から（1）	近代家族の形成と家事労働―歴史で考える労働とジェンダー(1)【大岡聡】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、近代家族の形成と家事労働について説明できる。	
		事前学修	200年前・100年前・50年前の家族は、それぞれどのようなものであったとイメージしますか。自分が抱いているイメージを箇条書きで書いてください。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえて、近代家族の特質についてまとめてみましょう。	120分
5	10/16	歴史的視点から（2）	企業社会の形成とジェンダー―歴史で考える労働とジェンダー(2)【大岡聡】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業社会の形成とジェンダーの関わりについて説明できる。	
		事前学修	祖父母・父母・自分の生誕・教育歴・職歴・結婚・出産・育児・介護のライフヒストリー・ファミリーヒストリーを年表風にまとめてみましょう。	120分
		事後学修	落合恵美子『21世紀家族―家族の戦後体制の見かた・超えかた』（第4版、有斐閣、2019年）を読んだ上で、「家族と労働の過去・現在・未来」というテーマ2000～3000字の小論文を作成しなさい。	120分
6	10/23	日本の労働状況	日本の労働状況と働き方改革【ゲストスピーカー】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過労死問題を理解し、その解決に向けて必要な対策について説明できる。	
		事前学修	「労働」に関して、現在の日本が抱える諸問題を整理してノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義から何を学んだかを整理し、日本における今後の労働の在り方について自分なりの意見を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	海外の視点から（１）	韓国におけるジェンダーから見たワークとライフ【ゲストスピーカー】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、韓国におけるジェンダーから見たワークとライフについて説明できる。	
		事前学修	韓国の近代史について、調べておく。	120分
		事後学修	講義内容と配布された資料をもとに、韓国における労働の問題を整理し、日本の状況と比較する。	120分
8	11/6	ディスカッション（１）	「労働」に関して現在の日本が抱える諸問題を、ジェンダーの視点から考える。【江島泰子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ディスカッションを行うことで、日本における労働の諸問題の理解を深め、これらについて、ジェンダーの視点と関連させて自分なりの改善策を提案できる。	
		事前学修	「労働」に関して、現在の日本が抱える諸問題について、整理する。また、ジェンダーの視点から、これらの問題を どのように考えたらよいのか、検討しておく。	120分
		事後学修	グループで意見交換を行い、全体発表を聞いたのちに、自分の考えと他者の考えの相違について整理し、その差異の原因について自分なりに検討する。	120分
9	11/13	海外の視点から（２）	フランスのワーク・ライフ・バランス【神尾真知子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フランスにおけるワーク・ライフ・バランスについて説明できる。	
		事前学修	フランスはどのような国か、基本的な情報を収集して、整理しておく。	120分
		事後学修	フランスのワーク・ライフ・バランス政策を踏まえて、日本のワーク・ライフ・バランス政策が、女性に「自由な選択」を保障しているのか、批判的に検討する。	120分
10	11/20	ライフの問題点（１）	日本の子育て支援【橋爪幸代】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における子育て支援施策について説明できる。	
		事前学修	日本における子育て支援策について調べ、どのような課題があるかをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義から学んだことを整理し、日本における子育て支援施策における課題とそれに対する解決策を考える。	120分
11	11/27	ライフの問題点（２） 法的権利とケアから考える	「仕事と労働の法的評価」 無償労働について、法的な権利という側面と、ケアの倫理という別の側面から、その意味を考える。【松島雪江】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無償労働について、法的な権利という側面と、ケアの倫理という別の側面から、その意味を説明できる。	
		事前学修	「無償労働」に該当する労働について調べてくる。それがなぜ、無償なのかの正当性を考えておく。	120分
		事後学修	無償労働が無償で行われている理由、それによりどのような問題があるのか、無償労働が有償労働分野に及ぼす影響についてまとめておく。	120分
12	12/4	ライフの問題点（３） ケアを制度の視点から考える	多様化する家族と介護のありかたを考える【矢田尚子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、多様化する介護と家族のあり方についての実状を理解し、制度上の課題を説明できる。	
		事前学修	「地域包括ケアシステム」「介護保険制度」「成年後見制度」について調べ、まとめておく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートに沿って、講義内容を復習・整理し、講義の中で示した家族と介護の在り方について書かれた著作を読んでみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	男女の役割分業システムについて考える	男性とケア労働【ゲストスピーカー】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の日本における男女の役割分担システムについて理解し、それを変革する方法について、自分なりの見解を述べることができる。	
		事前学修	男性の育児休暇取得率、ケア労働参加率について日本の状況を調べ、それをヨーロッパまたはアジアの任意の国の状況と比較する。また、比較の対象である国が男女共同参画社会の実現のために行っている諸政策について確認する。	120分
		事後学修	講義から何を学んだかを整理し、男女共同参画社会の実現に必要な政策についての提案を考える。	120分
14	12/18	ディスカッション（2）	ケア労働の諸問題について、ジェンダーの視点から考える【江島泰子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、9, 10, 11, 12, 13回の講義内容を総合的に整理し、ケア労働の諸問題について、自分なりの見解を述べることができる。	
		事前学修	9, 10, 11, 12, 13回目の講義を参考に、ケア労働の諸問題について、自分なりの見解をまとめて他者に説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	ディスカッションで交わされたさまざまな意見について整理し、ディスカッションの前後で自分の見解に変化があったか検討してみる。	120分
15	12/25	ディスカッションとまとめ	到達目標①②③の確認、解説【江島泰子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれが達成できているかをディスカッションを通じて再検討し、自分なりの検証結果を述べることができる。	
		事前学修	到達目標を確認し、①②③について自分が達成できているか確認する。	120分
		事後学修	①②③について、自分が達成できていたか、ディスカッションを振り返って考え、今後の行動目標を定める。	120分

科目名	体育スポーツ科学Ⅰ	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、社会においてスポーツが関わる領域は、現代生活を送る上で欠くことのできない一領域を形成している。身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて学ぶことは、今後のあらゆる分野で一つの教養・知識として求められるようになるだろう。授業においては、体育スポーツの基礎的知識をテーマごとに展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマから学び、受講生があらゆる分野で一つの教養・知識として求められるスポーツを理解し、スポーツの価値を認め、健康な生活をおくるために、獲得した認識を論理的に説明できることを目的とする。スポーツに関する基礎的知識を身につけて、様々なスポーツをおこなうために、身体に関する科学的知識を修得するところを目標とする。

【履修条件】
関連書籍を事前に読んでおくこと。授業で示された論点を整理し、関係文献や資料を利用して理解を深めること。

【授業方法】		
授業はスライド(パワー・ポイント)を使用して行う。毎回小レポートを提出する。発問について考えたり、隣人と討論したりする時間も設けたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート、Think-Pair-Share	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スポーツに関わる基本的な概念を理解し、スポーツの価値を認め、論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	世界との関わりで日本のスポーツの特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。				2	2	2	2				
③	身体に関する科学的知識を理解し、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、実施到達目標①② にかかわるスポーツに関わる基本的な概念について理解し ているかを評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切 に答える内容になっているかを基準に達成目標③にかかわ る説明ができるようになっているかを評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験， レポートの講評・解答及び解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書はありません。必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室 メールにて事前に予約すること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	開講にあたって/ スポーツ科学とは何か	①スポーツ科学とは何か、②授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解し、スポーツ科学の理論体系について説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、関連書籍を調べまとめておく。講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、学習計画について検討する。	120分
2	4/17	スポーツとは何か	スポーツ科学の体系について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、スポーツ科学の理論体系について説明できる。	
		事前学修	スポーツを楽しめる能力(スポーツリテラシー)について調べる。	120分
		事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、スポーツとは何かについて自分なりの説明でまとめる。	120分
3	4/24	トレーニング論 (トレーニングの原理・原則)	トレーニングの原理・原則について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、体力の構成要素の防衛体力、行動体力について説明できる。	
		事前学修	トレーニングの原理・原則について調べる。	120分
		事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニングの原理・原則について理解を深める。	120分
4	5/1	トレーニング論 (トレーニングの種類)	トレーニングの種類について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、トレーニングの種類について説明できる。	
		事前学修	今までのスポーツ経験からトレーニングの種類について調べる。	120分
		事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニングの種類についてまとめる。	120分
5	5/8	トレーニング論(トレーニング計画とその実際)	トレーニング計画とその実際について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、トレーニング計画とその実際について説明できる。	
		事前学修	トレーニング目標の設定について調べる。	120分
		事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニング計画とその実際について理解を深める。	120分
6	5/15	スポーツコーチング (コーチに必要な資質と能力)	コーチに必要な資質と能力について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コーチに必要な資質と能力を説明できる。隣人と討論する。	
		事前学修	今までのスポーツ経験からコーチに必要な資質と能力について自分なりの考えをまとめる。	120分
		事後学修	コーチに必要な資質と能力について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	スポーツコーチング(スポーツコーチングの実践)	スポーツコーチングの実践を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツコーチングの実践を説明できる。隣人と討論する。	
		事前学修	スポーツ競技を1つの選択し、その競技の国際競技力と強化方策を調べる。	120分
		事後学修	スポーツコーチングの実践について日本の国際競技力と強化策について理解を深める。	120分
8	5/29	フェアプレイ：アンチ・ドーピング（スポーツの価値）	スポーツの価値について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツの価値について説明できる。隣人と討論する。	
		事前学修	スポーツの価値について調べる。	120分
		事後学修	スポーツの価値について自分なりの説明でまとめる。	120分
9	6/5	フェアプレイ：アンチ・ドーピング（世界ドーピング防止規程および我が国の対応について）	世界ドーピング防止規程および我が国の対応について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界ドーピング防止規程および我が国の対応について説明できる。	
		事前学修	ドーピングが禁止されていることについて調べる。	120分
		事後学修	世界ドーピング防止規程および我が国の対応について理解を深める。	120分
10	6/12	スポーツとオリンピック（オリンピックの歴史）	オリンピックはどのようにして始まったのか？	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリンピックの歴史について説明できる。	
		事前学修	オリンピックの歴史について調べる。	120分
		事後学修	オリンピックの歴史について理解を深める。	120分
11	6/19	スポーツとオリンピック（オリンピックの理念）	オリンピックはどんな願いが込められている？	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリンピックの理念について説明できる。	
		事前学修	オリンピックの理念について調べる。	120分
		事後学修	オリンピックの理念について自分なりの説明でまとめる。	120分
12	6/26	スポーツと政策（グローバリゼーションと日本のスポーツ）	グローバリゼーションと日本のスポーツについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グローバリゼーションと日本のスポーツについて説明できる。隣人と討論する。	
		事前学修	グローバリゼーションと日本のスポーツについて調べる。	120分
		事後学修	グローバリゼーションと日本のスポーツについて理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	スポーツと政策(日本のスポーツプロモーション)	日本のスポーツプロモーションについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本のスポーツプロモーションについて説明できる。隣人と討論する。	
		事前学修	日本のスポーツプロモーションについて調べる。	120分
		事後学修	日本のスポーツプロモーションについて理解を深める。	120分
14	7/3	スポーツを「みる」「ささえる」： 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会	2020年東京オリンピック・パラリンピック大会を「みる」「ささえる」。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツを「みる」「ささえる」について説明できる。	
		事前学修	スポーツを「みる」「ささえる」について調べる。	120分
		事後学修	スポーツを「みる」「ささえる」について理解を深める。	120分
15	7/17	まとめ/ 振り返り	授業内試験及び解説、学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の振り返りを行い、自己の達成を説明することができる。	
		事前学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を見直し、復習する。	120分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	体育スポーツ科学Ⅱ	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、社会においてスポーツに関わる領域は、現代生活を送る上で欠くことのできない一領域を形成している。身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて学ぶことは、今後のあらゆる分野で一つの教養・知識として求められるようになるだろう。授業においては、体育スポーツの基礎的知識をテーマごとに展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマから学び、受講生があらゆる分野で一つの教養・知識として求められるスポーツを理解し、スポーツの価値を認め、健康な生活をおくるために、獲得した認識を論理的に説明できることを目的とする。スポーツに関する基礎的知識を身につけて、様々なスポーツをおこなうために、身体に関する科学的知識を修得するところを目標とする。

【履修条件】
関連書籍を事前に読んでおくこと。授業で示された論点を整理し、関係文献や資料を利用して理解を深めること。

【授業方法】
授業はスライド(パワー・ポイント)を使用して行う。毎回小レポートを提出する。発問について考えたり、隣人と討論したりする時間も設けたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート、Think-Pair-Share	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	多面にわたるスポーツの価値を認め、論理的に説明できる。					2	2	2	2				
②	世界との関わりで日本のスポーツの特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。					2	2	2	2				
③	身体に関する科学的知識を理解し、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、実施到達目標①② にかかわるスポーツに関わる基本的な概念について理解し ているかを評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切 に答える内容になっているかを基準に達成目標③にかかわ る説明ができるようになっているかを評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験， レポートの講評・解答及び解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書はありません。必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室 メールにて事前に予約すること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	開講にあたって/スポーツ科学とは何か	スポーツ科学で扱うテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解し、スポーツ科学の概観を説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、関連書籍を調べまとめておく。講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノート・資料を確認して、学習計画について検討する。	120分
2	9/22	体力とは	体力の構成要素（防衛体力、行動体力）について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、体力の構成要素について説明できる。	
		事前学修	体力の分類について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、体力の構成要素について理解を深める。	120分
3	9/29	体力と健康	健康の考え方、体力と健康との関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、健康とはどのような状態か考察する。健康と体力との関係について理解する。	
		事前学修	健康観について調べ、健康とはどのような状態か自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、健康と体力との関係について自分なりの説明でまとめる。	120分
4	10/6	身体運動を生み出す生体のしくみ（筋骨格系のしくみと働き）	身体運動を生み出す筋骨格系のしくみと働きについて理解し、その重要性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、筋骨格系器のしくみと働きについて説明できる。	
		事前学修	筋骨格系について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、運動器のしくみと働き、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
5	10/13	身体運動を生み出す生体のしくみ（呼吸・循環器系のしくみと働き）	身体運動を生み出す呼吸・循環器系のしくみと働きについて理解し、その重要性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、呼吸・循環器系のしくみと働きについて説明できる。	
		事前学修	呼吸・循環器系について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、呼吸・循環器系のしくみと働き、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
6	10/20	身体運動を生み出す生体のしくみ（運動と脳・神経系）	身体運動を生み出す脳・神経系のしくみと働きについて理解し、その重要性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、脳・神経系のしくみと働きについて説明できる。	
		事前学修	脳・神経系について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、脳・神経系のしくみと働き、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	身体運動と栄養	身体運動を支える5大栄養素の役割について理解し、その重要性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、5大栄養素の役割について説明できる。	
		事前学修	5大栄養素について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、5大栄養素とその重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
8	11/10	身体運動と発育発達（脳神経系）	脳神経系に着目し、基本的な発育発達過程を理解し、身体運動が発育発達に与える影響について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、脳神経系の発育発達における身体運動の重要性と、留意点について説明できる。	
		事前学修	脳神経系の発育発達について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、発育発達（脳神経系）における身体運動の重要性と、留意点について自分なりの説明でまとめる。	120分
9	11/17	身体運動と発育発達（筋骨格系・呼吸循環器系）	筋骨格系および呼吸循環器系に着目し、基本的な発育発達過程を理解し、身体運動が発育発達に与える影響について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、筋骨格系および呼吸循環器系の発育発達における身体運動の重要性と、留意点について説明できる。	
		事前学修	筋骨格系および呼吸循環器系の発育発達について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、発育発達（筋骨格系および呼吸循環器系）における身体運動の重要性と、留意点について自分なりの説明でまとめる。	120分
10	11/24	身体運動と発育発達（生物学的成熟）	生物学的成熟の概念や、個人差について理解し、身体運動やスポーツを行う上での留意点について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、生物学的成熟や発育発達の個人差を踏まえ、身体運動やスポーツを行う上での留意点について説明できる。	
		事前学修	生物学的成熟という概念について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、身体運動やスポーツを行う上での留意点について、生物学的成熟や発育発達の個人差を踏まえて考え、自分なりの説明でまとめる。	120分
11	12/1	身体運動と睡眠・メンタルヘルス	身体運動が睡眠やメンタルヘルスに及ぼす影響について理解し、その重要性と留意点について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、身体運動が睡眠・メンタルヘルスに及ぼす影響について理解し、その重要性と留意点について説明できる。	
		事前学修	今までのスポーツ経験から、身体運動と睡眠・メンタルヘルスとの関係についてまとめる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、身体運動が睡眠・メンタルヘルスに及ぼす影響について、自分なりの説明でまとめる。	120分
12	12/8	スポーツ外傷・障害	スポーツ活動中に多い外傷・障害について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ活動中に多い外傷・障害について説明できる。	
		事前学修	今までのスポーツ経験からスポーツ外傷・障害についてまとめる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、スポーツ外傷・障害について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	内科的スポーツ障害	スポーツ活動中に多い内科的障害について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ活動中に多い内科的障害について説明できる。	
		事前学修	今までのスポーツ経験から内科的スポーツ障害についてまとめる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、内科的スポーツ障害について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。。	120分
14	12/22	外傷・障害の救急処置	スポーツ現場で行う救急処置について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ現場で行う救急処置について説明できる。	
		事前学修	救急処置にはどのようなものがあるか調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、スポーツ現場で行う救急処置について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。	120分
15	1/12	まとめ/振り返り	授業内試験及び解説、学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の振り返りを行い、自己の達成を評価する。	
		事前学修	講義ノート・資料を見直し、復習する。	120分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	地球科学 I	担当者	永田 玲奈	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
地球科学とは、私たちが住んでいる「地球」で起こる自然現象を対象とする学問である。本講義では、その中でも身近な自然現象である「気象」を取り上げる。気象現象は学んだその足で外に出てみるとすぐに実感できることが多いため、理系の教科があまり得意でない学生さんにも容易に理解しやすい。普段当たり前のように感じている雨や風などの気象現象はどうやって発生しているのか？また、地域によって気候が異なるのはなぜなのか？近年問題になっている地球温暖化は何が問題なのか？このような日常のちょっとした疑問に対して理解を深め、学んだ気象現象を目の当たりにした際に思わず人に説明したくなるような知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近年増加している気象災害から身を守るために必要な知識は何か？それは気象現象のメカニズムと特徴を正しく理解することである。講義を通して実際に気象災害に直面した際に身を守る方法を自分なりに考える力を習得する。最近の暖冬や猛暑の原因は私たち人間の活動により引き起こされている地球温暖化にあると考えられている。地球温暖化に対して正しい知識を習得することで、自分に今何ができるのか具体的な意見を述べられる力を養うとともに地球環境について問題提起ができるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。パワーポイントを使用する（授業内容の理解を深めるために適宜映像を用いる）。試験はポータルを使用して3回の小テストを実施し、授業内に解説を行う。小テストの実施時期については適宜授業内で通知する。小テストは十分な期間を設けて受けてもらうため、受けそびれた場合の救済策はない点に注意。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	私たちの生活に気象がいかに影響を与えているかを知り、身近な気象現象について人に説明できるようになる。							2	2				
②	気象災害から身を守る知識を身につける。					2		2	2				
③	地球温暖化や気候変動に対する正しい知識を得ることで、今自分にできることを考える力がつく。					2	2	2	2				
④	地球の環境問題について他人に問題提起できる能力を養う。					2	2	2	2				
⑤	毎日当たり前に見ている天気予報が理解できるようになる。							2	2				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ポータルを使用して3回の小テストを実施する。到達目標①②③④⑤に関わる気象・気候の基礎知識が身についているかを確認する。	15	15	15	30	25						100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	30	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
講義（木曜3限）の後に授業講堂にて受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9(木)	講義ガイダンス～日々の生活に見られる気象現象を知ろう！～	全15回の授業で学ぶ気象現象の概要について説明を行う。このことにより、今後の授業の流れとこれから気象現象を深く学ぶための予備知識を身につけることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全15回の講義で学ぶ気象現象の名前と簡単なメカニズムについて把握することで、今後の事前学習に役立つ知識を身につける。	
		事前学修	日々の生活の中で気になっている気象現象を1つ選んで調べてくること。	120分
		事後学修	全講義の流れを頭に入れ、今後の講義に備えること。また、気になる気象用語があった場合は自分で調べてみること。	120分
2	4/16(木)	地球大気の組成と成り立ち～太陽系の中で特別な大気を持つ惑星「地球」～	地球は太陽系の他のどの惑星とも異なるユニークな大気を持つ。太陽系の惑星と大きさや重さなどを比較しながら、なぜ地球だけが特別な大気を持つ惑星となったのかその歴史について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、なぜ、地球大気だけが人間が生きるのに十分な酸素を持つのか？その鍵は海の誕生である。私たちにとっていつだって当たり前である「海」と「酸素」。それらがいかんして誕生したのかその謎について理解し、説明することができる。	
		事前学修	地球と火星・金星の大気組成の違いについて比較するとともに、地球大気に占める割合が一番多い気体は何かについて調べてくること。	120分
		事後学修	地球誕生から現在の大気への変遷についてノートにまとめること。	120分
3	4/23(木)	大気の鉛直構造と大気の運動～なぜ風は起きるのか？～	風はなぜ起こるのか？と考えたことがあるだろうか。その鍵は東京ドームを出る際に強風が発生するメカニズムにある。本講義では、身近な現象を通して大気の流れのメカニズムを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、「大気の流れ」というと難しく感じるかもしれないが、普段日々感じている風も「大気の流れ」である。飛行機に乗ると耳がキーンとするのはなぜか？その答えは大気の鉛直構造を知ることによって得られる。今回はこのような日頃疑問に感じている気象の豆知識について理解し、説明することができる。	
		事前学修	地球に大気があるおかげで私たちが生きることが可能となっている。私たちの生存に不可欠な地球大気が果たす役割について調べてくること。	120分
		事後学修	大気が地球に果たす役割となぜ風が発生するのかについてノートにまとめること。	120分
4	4/30(木)	地球のエネルギー収支～大気がなければ地球の温度は－18℃？～	地球の気温は私たち生物が生きるのに適した気温になっている。この「適した気温」はいかにして保たれているのかについて学ぶ。また、赤道に近い地域は年中暑く極に近い地域は年中寒い。同じ地球にもかかわらずこのような気温差が生じるのはどうしてなのだろうか？普段当たり前と思っているこれらの疑問を解き明かす。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、季節変化はなぜあるのか知っているだろうか？ちなみに、太陽からの距離が季節に応じて変わるからではない。日本は四季の移り変わりがはっきりしており季節に応じた美しい景観を愛でることができる。この四季が生じるメカニズムについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本・赤道に近い地域・極に近い地域の年平均気温について調べてくること。	120分
		事後学修	地球が現在の気温に保たれているメカニズムについてノートにまとめてしっかりと理解すること。	120分
5	5/7(木)	降水過程～雨はどうやって降るのか？～	私たちに恵みをもたらす雨はどうやって降ってくるのだろうか？雨が降る際には雲が存在するのだが、では雲から雨が降る仕組みはどうなっているのだろうか？この講義を聞いた後には、雨を眺めながらその発生メカニズムを思い出さずにはいられないような話題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、雨が降る仕組みは暑い夏の日にはペットボトルを室温に置いていた際にペットボトルの表面に水滴が生じるメカニズムと同じである。普段目にする身近な例をもとに雨が降る仕組みについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	空気中を落下する雨粒はどのような形をしているのかと、その理由について調べてくること。	120分
		事後学修	雲ができて雨が降る過程についてノートにまとめること。	120分
6	5/14(木)	大規模な大気の運動～地球をめぐる大気の流れと高気圧・低気圧～	外に出るたびに感じる風は実は地球の大きな流れの一部である。私たちが普段よく耳にする「低気圧」・「高気圧」・「前線」とは一体何なのか？そして、実は前線にはいくつか種類があることなど天気予報を見る際に役立つ知識を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、天気予報で頻繁に耳にする天気に関する用語を学ぶことで、第8回の日本の四季に応じた気圧配置を理解する基礎作りを行うことができる。	
		事前学修	大気大循環とは何かと低気圧と高気圧の違いについて調べてくること。	120分
		事後学修	地球大気の流れを把握し、低気圧・高気圧の仕組みについてノートにまとめしっかりと理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21(木)	中小規模の気象現象～台風・集中豪雨・竜巻～	中小規模現象は雷・台風・竜巻・集中豪雨などが挙げられるが、これらの現象は災害を引き起こすことがある。中小規模現象の発生メカニズムと特徴を正しく理解するとともに、実際に遭遇した際の対処法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、近年、台風や集中豪雨による災害が頻発している。これらの現象から身を守るためには正しい知識の修得が不可欠である。今後増えると思われる気象災害に対処するために、正しい知識に加えて気象情報の活用についても理解し、説明することができる。	
		事前学修	台風・突風・集中豪雨などの中小規模の気象現象による災害の事例について調べること。	120分
		事後学修	豪雨・突風に実際遭遇した際に今回学んだ知識を役立てられるように講義内容をノートにまとめること。	120分
8	5/28(木)	日本の気候と卓越する気圧配置～冬の日本海側はなぜ雪が多いのか？～	日本には冬は寒く雪が降り、夏は暑いという季節に応じた特徴的な天候が見られる。この天候をもたらす気圧配置について学ぶ。なぜ冬の東京には雪があまり降らないのか？なぜ春の天気は変わりやすいのかなど、日々感じている気象の素朴な疑問について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、日本の季節に応じた気圧配置を学ぶことで、天気予報を見る際に現在よりもその内容を深く理解することを目的とする。冬季に耳にする「西高東低の気圧配置」や夏季によく聞く「北太平洋高気圧」とは何かを理解し、天気図を見てその日のおおまかな天気を知ることができる。	
		事前学修	日本の四季の中で好きな季節を選び、その季節に見られる天候の特徴について調べてくること。	120分
		事後学修	四季それぞれに見られる天気の特徴を理解し、季節ごとに見られる気圧配置をノートにまとめてしっかりと頭に入れること。	120分
9	6/4(木)	気候変動とは？～今の気候は地球にとって「標準の気候」ではない？～	第4回で学んだように赤道付近は暖かく極付近は寒い。このような気候は地球の長い歴史の中では決して「標準の気候」ではない。地球は現在よりもかなり暖かく極付近にさえ海水などの氷が存在しなかった時代や、逆に赤道付近の気温がマイナスとなるほど寒い時代もあった。今では考えられないような地球の過去の気候について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現在地球温暖化に伴う異常気象が問題になっている。過去の地球の気候変動を知ること、次回から話題にする地球温暖化が過去と比較していかに異常であることを理解するための基礎知識を養うことができる。	
		事前学修	恐竜が生息していた頃の気候と現在の気候は何が違うのか調べてくること。	120分
		事後学修	地球が誕生してから現在までの地球の気候の変遷についてノートにまとめること。	120分
10	6/11(木)	近年の気候変動～地球温暖化とは？～	「最近天気がおかしい」と感じることはあるだろうか？猛烈な雨や強い台風など人類が経験したことのない異常気象が頻発している。この原因は人間活動が引き起こしている地球の気温上昇、つまり「地球温暖化」であると考えられている。第9回で学んだように、現在よりも気温が高い時代があったにも関わらず現在の地球温暖化が問題とされる理由について理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、地球温暖化の原因を理解することで問題点が何でありこれから私たち人類はこの問題についてどのように対処していけば良いのかについて考える力を養う。また、今後地球温暖化が進んだ場合にどのような未来が待っているのかその予測についても理解し、この地球規模の問題に対して真剣に取り組む精神を養うことができる。	
		事前学修	地球温暖化とはどのような現象であり、現在何が問題とされているのかについて調べてくること。	120分
		事後学修	地球温暖化は地球の過去の気候と比較して何が問題であるのかをノートにまとめ理解すること。	120分
11	6/18(木)	地球温暖化の影響～海面上昇や大雨の増加～	地球温暖化に伴い世界各地で様々な影響が出ている。例えば、大陸上の氷（氷河・氷床）の融解による海面上昇や、夏の高温日や大雨の増加など気象災害につながる現象の増加も見られる。地球温暖化の影響について具体例を挙げながら学ぶことで、いかにこの問題の解決が急を要するのかを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「今も寒い冬を経験することがあるのだから地球温暖化は起きていない」と主張する人もいるが、実はこの理論は正しくない。日本の冬は地球温暖化の影響で寒くなる年もあるのだ。地球温暖化にとって一番大事なことは人々が正しい知識を持つことである。地球温暖化の影響を正しく理解しその知識を周囲に広める力を養うことができる。	
		事前学修	地球温暖化の影響にはどのようなものがあるのか具体的な例を調べてくること。	120分
		事後学修	地球温暖化は私たちの生活にいかなる影響を及ぼしているのかをノートにまとめること。	120分
12	6/25(木)	地球温暖化に対する国際的な取り組み～身近にできる地球温暖化対策も学びましょう！～	毎年多くの国々が集まって地球温暖化対策について話し合っている。地球温暖化対策はイコール経済活動の停滞につながるため対策について消極的な国も少なくはないが、紆余曲折を経ながら「地球温暖化に真剣に取り組もう！」とする国々の意識は少しずつ高まってきている。地球温暖化対策に関して話し合う会議である「COP」とは何か？何が話し合われているのかについて学ぶとともに、今日から私たちができる地球温暖化対策についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、国際的な地球温暖化対策について深く知ること自分たちが今何をすべきなのかを考える力を養う。また、身近にできる地球温暖化対策を学ぶことで日々の暮らしで地球温暖化について考える習慣を身につけることができる。	
		事前学修	地球温暖化対策に関連して以下の用語を調べること：COP、京都議定書、パリ協定。	120分
		事後学修	地球温暖化対策の国際的な取り組みの歴史をノートにまとめるとともに、今日から自分が生活の中でできる地球温暖化対策について書き出し実際に実施すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2(木)	エルニーニョと世界の天候～引き起こされる異常気象～	エルニーニョ現象は熱帯太平洋の海洋で起こる現象であるが、遠い日本の天候にも影響している。エルニーニョ現象が発生すると日本は冷夏・暖冬になりやすい。エルニーニョ現象は世界の天候に大きな影響を与え、時には気象災害が発生するような極端な現象を引き起こす。海洋で発生するエルニーニョ現象が大气にもたらす影響について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、エルニーニョ現象とはどのような現象であるかとその世界の天候への影響についても理解する。現在までは大気の変動のみを扱ってきたが、この回では海洋と大気が密接に関係しているという概念を学ぶことができる。	
		事前学修	「エルニーニョ現象」・「ラニーニャ現象」とは何か事前に調べてくること。	120分
		事後学修	エルニーニョ現象とはどのような現象であり、日本を含めた世界の天候にどのような影響を与えるのかについてノートにまとめること。	120分
14	7/9(木)	ヒートアイランド現象～なぜ東京の夏は暑いのか？～	東京などの都心部では夏に郊外よりも気温が高くなる。これはアスファルトやコンクリートといった人工被覆と呼ばれるものが原因の1つである。ヒートアイランド現象は熱帯夜や局地的な大雨などを引き起こしている。都市が作り出すヒートアイランド（熱の島）はいかにして作り出されているのか、そのメカニズムについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「都市は暑い！」と感じたことはあっても「それはなぜ？」と聞かれると答えられる人は多くない。本学は東京都心部に位置しているため、ヒートアイランド現象のメカニズムについて理解した後に大学の外に出て周囲を見渡すことで、ヒートアイランド現象を引き起こす要因を実感することができる。	
		事前学修	都市の高温化であるヒートアイランド現象の発生要因について調べてくること。	120分
		事後学修	ヒートアイランドの要因についてノートにまとめ、大学の周辺でヒートアイランドの要因と考えられるものを探してみること。	120分
15	7/16(木)	講義のまとめ～講義の知識を気象災害から身を守るために生かそう！～	第2回～第14回の講義を振り返り、復習を行う。ここでは、復習を行いながら1回ごとの講義で少しずつ学んだ知識を結び付けることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、本講義の目標は1)天気予報を見る際に深く理解できる知識を身につける、2)気象災害に対処できる知識と情報活用能力を習得するである。講義を聴きながら自分が上記の1)・2)についてどこまで達成できたかを自己評価できる。	
		事前学修	第2回～第14回の講義について要点をまとめること。	120分
		事後学修	講義の中で一番興味をもったトピックについて書籍などを読み、さらに理解を深めること。	120分

科目名	地球科学Ⅱ	担当者	永田 玲奈	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本は地震大国であることに加えて、火山噴火もしばしば起きている。地震や火山噴火はどうして起こるのか？その疑問に答えるには地球内部の構造について知る必要がある。私たちの日々の生活では感じるができないが地球の内部はゆっくりと動いており、この動きが地震や火山活動を引き起こしているのである。本講義では、地球46億年の歴史の中で「現在の地球」はいかにして作り上げられたのかを紐解きながら、自然災害が起こるメカニズムとその対処方法について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
普段、地震や火山などの自然現象に興味があっても中々そのメカニズムを理解することは難しい。本講義では「理系の教科に興味のある学生さん」・「あまり得意でない学生さん」を問わず地球科学の知識を身につけるとともに、その知識を普段の生活に役立てる力を養うことを目的とする。身近な例をもとに知識の向上を図るため、授業を受けた後に関連する記事やドキュメンタリーを見た際に理解を深めることが可能となる。すべての講義を通して私たちが住んでいる「地球」という地域の特徴を学ぶことで、今までとは違った見方で日常の風景を見ることができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。パワーポイントを使用する（授業内容の理解を深めるために適宜映像を用いる）。試験はポータルを使用して3回の小テストを実施し、授業内に解説を行う。小テストの実施時期については適宜授業内で通知する。小テストは十分な期間を設けて受けてもらうため、受けそびれた場合の救済策はない点に注意。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	火山や地震などの自然災害に実際に直面した際の対処方法が身に付く。			2	2	2			
②	地球環境の成り立ちを知ることで環境問題に対する意見を述べられるようになる。		2		2	2			
③	普段何気なく見ている風景や地形の成り立ちを理解することができる。				2	2			
④	地球に対する日常の疑問を解き明かすことができる。		2	2	2	2			
⑤	地球の成り立ちや地震・火山・地形などの地球科学に関連するニュースを深く理解できるようになる。		2	2	2	2			
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ポータルを使用して3回の小テストを実施する。到達目標①②③④⑤に関わる地球科学の基礎知識が身についているかを確認する。	35	10	15	20	20						100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	10	15	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
講義（木曜3限）の後に授業講堂にて受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17(木)	講義ガイダンス～地球の内部と表面について知ろう！～	全15回の授業で学ぶ地球内部と表面の概要について説明を行う。このことにより、今後の授業の流れとこれから地震・火山などの現象を深く学ぶための予備知識を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全15回の講義で学ぶ現象の名前と簡単なメカニズムについて把握することで、今後の事前学習に役立つ知識を身につけることができる。	
		事前学修	シラバスの中で興味のあるテーマを1つ選び、自分なりに調べてくること。	120分
		事後学修	講義の流れをノートにまとめることで講義概要をしっかりと頭に入れ、今後の講義に備えること。	120分
2	9/24(木)	地球の誕生～火の玉地球から現在の地球になるまで～	46億年前に誕生したばかりの地球は「火の玉地球」と呼ばれる高温の状態だった。「火の玉地球」から大気が存在し美しい海をたたえる現在の地球になるまでの過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、最近「はやぶさ」による小惑星探査が話題に上がっているが、なぜ小惑星が重要なのか？地球はどうやって生物が住むことのできる環境になったのか？その歴史について理解し、説明することができる。	
		事前学修	誕生したばかりの地球である「原始地球」はどのような状態だったのか調べてくること。	120分
		事後学修	地球はいかにして「現在の地球」となったのか、その過程をノートにまとめること。	120分
3	10/1(木)	地球環境の変遷～地球環境の古文書「地層」とは？～	地球の長い歴史においてその環境は劇的に変化してきた。地球環境の変化を知る鍵が地層である。地層は「地球環境の古文書」と呼ばれるほど地球環境に関する多くの情報が集まっている。地層から過去の地球の情報を取り出す方法とそれによって明らかになった地球環境の歴史について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、オーロラはどうやって発生するのか？また、「チバニアン」や「地磁気逆転」など、現在話題になっているこれらの用語について理解し、説明することができる。	
		事前学修	地球の過去を知ることが出来る「地層」とは何か調べてくること。	120分
		事後学修	地層からどうやって地球環境の変遷を知ることができるのかについてノートにまとめること。	120分
4	10/8(木)	世界の大地形～地震が多いところと少ないところがあるのはなぜ？～	地図帳を開いてみると山や大きな平野など様々な地形が読み取れる。海水に覆われて普段は見ることにはできないが、実は海底の地形は複雑であり海底にも山脈が存在する。地形の形成過程を学ぶことで、地震が起りやすい地域とそうでない地域がある理由を学修する。	
		この回の到達目標	戦国武将・武田信玄の軍旗には「動かざること山の如し」と書いてあったといわれているが、実は山はゆっくりと動いている。到達目標②③④⑤に関連して、地球内部の動きによりどのような地形が形成されるのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	地殻変動とは何か、また地殻変動によりどのような地形が形成されるのか調べてくること。	120分
		事後学修	地域によって地形が異なる理由を理解するとともに、普段あまりなじみのない海底地形についてもノートにまとめること。	120分
5	10/15(木)	地球の内部構造～地球の構造は卵に似ている～	地球の内部はどうなっているのだろうか？と考えたことはあるだろうか。実は地球内部は卵の黄身・白身・殻のような層構造になっている。第4回に「地球は動く」という話をしたが、第5回では地球内部の動きについて詳しく学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、人々が魅了される美しい宝石は地球内部で作られている。地球内部の構造とその動きを知ることで宝石がどうやって生成されどこからやってくるのか理解し、説明することができる。	
		事前学修	地球の表面を覆うプレートとは何か、そしてプレートはなぜ動くのかについて調べてくること。	120分
		事後学修	地球の内部構造を分ける2種類の方法について違いを理解し、その特徴についてノートにまとめること。	120分
6	10/22(木)	プレートテクトニクスと大陸移動説～昔大陸は1つだった～	現在地球には6つの大陸が存在するが、昔々その昔大陸は1つだった。第5回で地球内部は動くという話をしたが、この大陸の移動を引き起こしているのは「プレート」である。プレートについて正しく理解することで、ハワイ諸島が北西方向に並んでいる理由やヨーロッパのアルプス山脈誕生のメカニズムについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、日本に険しい山脈が存在する理由もアイスランドで火山活動が活発な理由も全てプレートの運動によるものである。プレートについて理解することで、現在地球上で見られる地形の成り立ちについて説明できるようになる。	
		事前学修	第5回に学修した地球の内部構造をしっかりと理解し、プレートとは何かについて復習してくる。	120分
		事後学修	プレートの動きについて理解するとともに、プレートが動くメカニズムについてもノートにまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29 (木)	地震はなぜ起こる？～日本はどうして地震が多いのか～	日本は地震大国である。世界の地震のなんと10%は日本で発生している。地震が発生した際によく耳にする「震度」や「マグニチュード」などの用語について正しい知識を見につけるとともに、地震はなぜ起こるのかそのメカニズムについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、地震に慣れている私たち日本人だが、時折災害をもたらすような大きな地震を経験することがある。第8回に大地震発生時の対処法について学ぶが、今回は「大地震への対処法」をよりよく理解するためにまずは地震発生メカニズムについて学修する。	
		事前学修	海溝型地震と内陸型地震が起こるメカニズムについて調べてくること。	120分
		事後学修	地震が発生するメカニズムと日本に地震が多い理由についてノートにまとめること。	120分
8	11/5(木)	大規模地震のメカニズム～阪神・淡路大震災と東日本大震災の例から～	東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震と、阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震はともに甚大な被害をもたらした地震であるが、その発生メカニズムは異なる。この発生メカニズム違いが2つの地震における被害の違いを引き起こしており、東北地方太平洋沖地震では津波、兵庫県南部地震では建築物の倒壊が目立った。同じ地震でも被害の違いが生じる理由について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、過去に大きな被害をもたらした2つの地震についてその発生メカニズムと被害状況を学ぶことで、今後大きな地震が来た際に自分自身がどのような行動をとるべきなのかについて考えることができる。	
		事前学修	東日本大震災と阪神淡路大震災ではどのような被害が発生したのか事前に調べてくること。	120分
		事後学修	阪神・淡路大震災と東日本大震災における被害の違いについて地震発生メカニズムから説明できるようにノートにまとめること。	120分
9	11/12 (木)	火山活動～なぜ火山は噴火するのか？～	よく耳にする「活火山」とは何か？なぜ日本列島には火山が多いのか？なぜ火山は噴火するのか？火山列島である日本に住んでいる私たちが普段疑問に思っていることや火山噴火に遭遇した際に気を付ける点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、火山噴火のメカニズムや火山が噴火すると何が起きるのかを理解することで、明日起こるかもしれない火山噴火に備える知識を身につけることができる。	
		事前学修	なぜ日本列島に火山が多いのかその理由について調べてくること。	120分
		事後学修	火山国日本で火山と上手に付き合っていくために「火山はどこにでき、どうして噴火するのか」についてノートにまとめること。	120分
10	11/19 (木)	日本の火山活動と災害～雲仙岳を例に～	1990年代に噴火した長崎県島原半島に位置する雲仙岳では火砕流が発生し多くの人命が失われた。古代都市ポンペイを一瞬にして消し去ってしまったことで知られる「火砕流」の怖さについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、長崎県雲仙岳で発生した火砕流のメカニズムと被害状況を理解することで、今後火山噴火に直面した際に役立つ知識を身につけることができる。	
		事前学修	火山噴火時に発生する「火砕流」とはどのような現象であるのかについて調べてくること。	120分
		事後学修	雲仙岳の噴火に伴う被害とともに、火山が噴火した際に自分の身を守るために気を付けるべき点についてノートにまとめること。	120分
11	12/3(木)	氷河地形～現在の地形を見れば昔の氷河の分布がわかる？～	1万8000年前の日本の平均気温は今よりも5℃以上低かったと考えられており、そのころには日本の山岳にも「氷河」が存在した。その証拠が日本の山に「氷河地形」として残っている。氷河とは何か？そして氷河が作り出す地形の種類と形成過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、氷河地形は「今よりもだいぶ気温が低い時代があり、その当時そこに氷河が存在した」ことを示す。氷河と氷河が作り出す地形の形成過程を学修することで、山岳に見られる地形から過去の気候変動が読み取れるという概念を理解できるようになる。	
		事前学修	迷子石・U字谷・モレーンとは何か事前に調べてくること。	120分
		事後学修	氷河地形の種類とその形成過程についてノートにまとめること。	120分
12	12/10 (木)	海洋が地球環境に果たす役割～海洋の変動が気候を決める？～	海洋の深層には2000年で地球を一巡りするゆっくりとした循環が存在し「海洋のコンベアベルト」と呼ばれている。1万2000年前に海洋のコンベアベルトの変化が地球の気候を劇的に変化させたことがわかっている。ここでは、深層循環が気候に影響するメカニズムについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④⑤に関連して、よく耳にする「氷期」とはなにか？寒い氷期が終わると地球の平均気温が上昇するのだが、その際にどのような現象が生じるのかについて理解し説明できるようになる。	
		事前学修	ヤンガードライアス期とは何かを調べてくること。	120分
		事後学修	海洋のコンベアベルトが気候に影響するメカニズムについてノートにまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/17 (木)	世界の小地形～河川がもたらす恵みと地形～		河川と人間は深いかかわりがあり、河川は文明の発展に貢献してきた。日本の河川の特徴について理解し、河川が作り出す地形と私たちの生活への影響について学修する。
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、河川の水は飲料水や生活用水などに利用されるなど私たちの生活に欠かせないが、その一方で人々は洪水災害にも悩まされてきた。私たちが普段見慣れた地形の中には、実は河川の洪水により形成されたものもあるのだ。これらの知識を学修することで、河川がもたらす恩恵と河川が作り出す地形について深く理解できるようになる。	
		事前学修	日本と世界の河川の特徴を比較するとともに、河川が作る地形の中で自分が興味のあるものを選びその形成過程についても調べてくること。	120分
		事後学修	日本の河川の特徴と河川地形についてしっかりと理解するとともに、河川が私たちに与える影響についてもノートにまとめること。	120分
14	12/24 (木)	砂漠とは何か?～砂がなくても「砂漠」です!～		「砂漠」には「砂」という文字が含まれているが、実は砂漠の定義は「砂があること」ではない。砂漠の定義から、砂漠の気温の日変化や砂漠の空気から水分を取り出す方法など、砂漠に関する豆知識も含めて「砂漠とはなにか」を学修する。
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、砂漠の正しい定義となぜそこに砂漠が存在するのかその形成メカニズムを学修するとともに、日本でも見られる砂丘と砂漠の違いについて理解することができる。	
		事前学修	砂漠の定義と、砂漠と砂丘の違いについて調べてくること。	120分
		事後学修	砂漠が形成されるメカニズムについてノートにまとめること。	120分
15	1/14(木)	講義のまとめ～安全に地球に住むために私たちが気を付けること～		第2回～第14回の講義の復習を行う。全講義の中で学生さんから質問やコメントが多かった内容について重点を置いて復習を行うとともに、必要に応じて追加情報も織り込むことでさらなる知識の向上を図る。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全ての講義内容について通して復習することで各回で学んだ知識を体系化することが可能となり、地震や火山噴火などの自然災害に直面した際に自分の身を守る手段として活用できるようになる。	
		事前学修	第2回～第14回について通して復習し、一番興味があったことや疑問に思うことをまとめてから講義に臨むこと。	120分
		事後学修	現在の地球がどのようにして成り立ったのかをよく理解することで、地震や火山噴火などの災害時に自分がどのように対応したら良いのかについて考えること。	120分

科目名	地理学Ⅰ	担当者	小倉 眞	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
地理学の主要な分析視点である「空間」の概念と社会的展開の関係、また自然環境と社会との関係について学修する。具体的には空間認識としての地図（地形図等）の特徴と利用，世界の気候を中心とする自然環境と地域的特色や人口支持力、人口偏在と経済開発・経済発展の関係、工業資源の偏在と世界の工業立地、日本の自然的特徴と工業開発などについて具体的事例を踏まえながらその分析方法や理論的整理について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会は地域空間の中で成立・展開していることを理解し、その基本的構造について分析する過程において「地域的展開」の特徴や問題点などを発見し位置づけることができるようになることを目的としている。特に自然的条件と多様な社会の展開について整理すると共に、そのメカニズムについて理解し、それについての確に説明できるようになることを授業の目標としている。

【履修条件】
特になし。なお受講者数が多い場合は受講制限をすることがある。

【授業方法】
テキストを参照しつつ基本的には講義方式で進めるが、プリントの配布によりテキスト以外の内容についても採り上げる。レポートの提出、また講義中に小テストを実施することがある。発問について考えたり、議論したりする時間も設けたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポート提出と講評、課題に関する議論を行う。またピア・レビューを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	空間の概念と社会的展開の関係や、自然環境と社会との関係について論理的に説明できる。						2	2	2	2				
②	①に関連して地形図読図の基礎を修得することによって、地域空間の展開論理について理解し、その特質について説明することができる。						2	2						
③	①に関連して人口と食料支持力の関係や資源偏在と工業立地との関係などについて理解し、それらに関する自らの見解を説明することができる。							2	2	2				
④	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④が到達できているかについて、論述式試験（参照不可）により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもある。	30	20	10	10							70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、第3回は到達目標①にかかわる地理的表現方法が理解できているか、第13回は到達目標②にかかわる地理的理解ができているかについて評価する。	5	5									10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③及び④に関して地理学的分析に基づく論理展開ができているかについて評価する。			10	10							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	25	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内でのレポート内容についての講評、また試験についてはポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
世界を読む	青木・北村 著	原書房	2010	教科書	必携
人文地理学	竹中・大城等 編著	ミネルヴァ書房	2013	参考書	推奨
備考	地図帳を用意する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 水曜日12:10-13:00 事前にメールにてアポイントメントをとること。 研究室（4号館4階441研究室） ogura.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6 水4/8 木4/9 第二部 水4/8	地理学の歴史と学問的特徴	地理学の発展過程を整理すると共に、学問的特徴としての「自然と社会との関係」について探究することを目的としていることを理解する。	
		この回の到達目標	社会科学としての地理学について理解し、その概要について説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	地理学とくに人文地理学の研究分野にどのような内容のものが含まれているか調べ、その項目を列記してみる。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義時に取ったノートを整理する。	120分
2	第一部 月4/13 水4/15 木4/16 第二部 水4/15	地域の把握方法（等質地域・機能地域）	地域の単位の把握方法として、行政区ではなく景観や機能に基づいて区分する意義について考察する。	
		この回の到達目標	地域区分方法の相違や特質について理解し、説明できる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	テキストの対象ページを熟読し、地域区分方法の相違・特徴について考えてみる。	120分
		事後学修	地域区分について具体的インデックスをたて区分してみる。	120分
3	第一部 月4/20 水5/22 木4/23 第二部 水4/23	世界全図の特徴と種類	球体の地球を平面図に描くには様々な方法があり、それぞれの目的をもって表現されている。その種類と特色について考察する。内容の理解に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	メルカトル図など具体的な世界全図の作成と目的を理解し、世界の広がりや位置関係についての確に説明できる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	世界全図の種類や特徴についてテキスト及び配布プリントを利用して検討する。	120分
		事後学修	世界全図の使用目的を設定し、それに合った図法を整理する。	120分
4	第一部 月4/27 水4/29 木4/30 第二部 水4/29	地域空間の展開を具体的表現する地形図の読図方法	地域空間の諸相を表現する手法の一つとして地形図があるが、その読図方法について修得する。	
		この回の到達目標	地形図の読図と利用について理解し、具体的には扇状地地域の地形や土地利用について判読できる。（関連SB0s③）	
		事前学修	地形図からどのようなことに読み取れるか、等高線の特徴や地図記号について調べる。	40分
		事後学修	与えられた地形図を作業し、そこから何が読み取れるか整理する（レポートを作成する）	210分
5	第一部 月5/4 水5/6 木5/7 第二部 水5/6	地形図判読の結果について発表・議論する	各自が作業し、レポートを作成した内容についてピア・レビュー方式により議論する。	
		この回の到達目標	地形図の読図と利用について理解し、読図結果についての確に説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	地形図を作業し、読図内容についてまとめる。	180分
		事後学修	他者の発表に比してどの視点が良かったか、また不足していたかを検証する。	60分
6	第一部 月5/11 水5/13 木5/14 第二部 水5/13	気候区形成のメカニズム	世界の各地域に展開する気候形成について整理し、その原理を考察する。	
		この回の到達目標	気象現象のメカニズムと世界に展開する地域的特徴の概要を説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	世界における気候区にはどのような種類があるのか調べ、その特徴と相違についてまとめる。	120分
		事後学修	気象現象のメカニズムについて検証し、「地域と気候」についてのマトリックスを作成してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18 水5/20 木5/21 第二部 水5/20	サバンナ気候区の特徴と環境問題、及び地中海式気候区と農業	サバンナ気候地域の分布と自然的・社会的特徴や環境問題、また地中海式気候の特徴について考察する。	
		この回の到達目標	2つの気候区を事例として、そこで展開する生産構造や社会的特徴について整理し、的確に説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	サバンナ気候地域の分布や地中海式気候区地域における土壌・植生等について調べる。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
8	第一部 月5/25 水5/27 木5/28 第二部 水4/17	世界の人口分布の偏在性とその要因	世界人口の偏在について、その状況や要因を考える。	
		この回の到達目標	世界人口の現状を把握し、発展途上国と先進国のそれぞれについての展開特性を的確に説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	プリントを利用して大陸別の人口数や、人口増加率、人口ピラミッドの特徴について整理する。	100分
		事後学修	ノートを整理し、人口偏在の状況やその特質について要約（文章化）してみる。	140分
9	第一部 月6/1 水6/3 木6/4 第二部 水6/3	人口の偏在と食料供給力	人口の偏在性がなぜ生起するかについて食料供給力の観点から考察する。	
		この回の到達目標	食料供給力の分析指標を整理し、その形成要因についての的確に説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	ヨーロッパの農法とアジア式農法の相違・特徴について調べる。	60分
		事後学修	食料需用の相違や土地利用効率の特徴等について、農法や生産作物が持つ特質の観点から整理する。（「ヨーロッパとアジアの農法と生産力の関係」についてレポートを作成する）	200分
10	第一部 月6/8 水6/10 木6/11 第二部 水6/11	日本の農業生産システムと農村社会	水田農業を中心とする農村について、水利システムと社会的紐帯について考察する。	
		この回の到達目標	日本農村の生産システムの特徴を水利システムの特徴から理解し、説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	水田農業と水利との関係についての概要を調べてみる。	60分
		事後学修	ノートを整理し、農村社会の特徴について整理しその概要を文章化してみる。（作成は必須）	180分
11	第一部 月6/15 水6/17 木6/18 第二部 水6/17	日本農村の特質と現代工業社会との関係について議論する	各自が要約し文章化した内容、及び現代工業社会との関係についてピア・レビュー方式により議論する。	
		この回の到達目標	日本農村の特質について整理し、説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	日本農村の特質等についてまとめた内容を再度確認し、これと日本社会の特徴についての考えを整理する。	150分
		事後学修	他者の発表に比してどの視点が良かったか、また不足していたかを検証する。	90分
12	第一部 月6/22 水6/24 木6/25 第二部 水6/24	工業資源の偏在と工業立地	世界のける工業資源の偏在状況を整理し、工業立地と立地移動について考察する。	
		この回の到達目標	世界における工業資源の偏在と工業立地（事例：鉄鋼工業、石油関連工業）について客観的に分析し、説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	プリントを参照して、主な工業資源の分布状況について、国別の産出量（特に主要工業原料）を中心に整理する。	120分
		事後学修	各工業部門の特質と立地との関係について、講義内容をまとめ復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29 水7/1 木7/2 第二部 水7/1	イギリス産業革命期の繊維工業の立地と自然的条件	工業化草創期の工業立地の特色について分析し、工業立地と自然条件との関係について考察する。理解に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	イギリスの綿織物工業を事例として、工業立地と技術革新の基本的原理について理解し、説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	イギリスの工業分布と綿花の調達先、地形・降水の特徴などについて調べる。	90分
		事後学修	工業の発達と技術・資本・需要との関係について整理し、その要点を文章化してみる。	150分
14	第一部 月7/6 水7/8 木7/9 第二部 水7/8	日本の工業の発達と立地移動	日本の工業が高度経済成長期を通じて大きく発展した要因・特徴について考察する。	
		この回の到達目標	日本の工業発達過程を理解し、日本の工業立地の特色などについて、論理的に説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	戦前・戦後の工業内容について整理し、また今日における工業立地の特徴について調べる。	120分
		事後学修	臨海立地型と工業構造、また今日における内陸工業立地の状況について整理し、工業立地の特徴・変容について整理する。	120分
15	第一部 月7/13 水7/15 木7/16 第二部 水7/15	試験と振り返り	前期の講義内容の理解を問う授業内試験を行う。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②③を評価するための出題に対し、十分解答することができる。SB0s④にあるような振り返りを行い、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	テキストやプリントに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	210分
		事後学修	テキストやプリントを見ながら、答案の自己評価をする。本講義での学びを振り返る。	40分

科目名	地理学Ⅱ	担当者	小倉 眞	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
地理学の主要な分析視点である「空間」の概念と社会的展開の関係、また自然環境と社会との関係について学修する。特に地域構造の視点から世界および日本の地域的特色、歴史的発展過程などを中心として都市と農村、中央と地方の関係を整理し、地域の構造問題について具体的事例を挙げながら生活・生産の場としての地域の社会的意義について、受講生とともに考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会は地域空間の中で成立・展開していることを理解し、その基本的構造について分析する過程において「地域的展開」の特徴や問題点などを発見し位置づけることができるようになることを目的としている。特に多様な社会の展開について整理すると共に、そのメカニズムについて理解し、それについての確に説明できるようになることを授業の目標としている。

【履修条件】
特になし。なお受講者数が多い場合は受講制限をすることがある。

【授業方法】
テキストを参照しつつ基本的には講義方式で進めるが、プリントの配布によりテキスト以外の内容についても採り上げる。レポートの提出、また講義中に小テストを実施することがある。発問について考えたり、議論したりする時間も設けたい。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 レポート提出と講評、課題に関する議論を行う。またピア・レビューを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	空間の概念と社会的展開の関係や、自然環境と社会との関係について論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	①に関連して日本の自然的特色、農村の立地過程、都市の基本構造、日本の地域構造などについて理解し、それらに関する自らの見解を論述することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が到達できているかについて、論述式試験(参照不可)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもある。	30	20	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、第3回は到達目標①にかかわる地理的理解ができているか、第8回は到達目標②にかかわる地域構造について理解・説明ができているかについて評価する。	5	5									10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に関して地理学的分析に基づく論理展開ができているかについて評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内でのレポート内容についての講評、また試験についてはポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
世界を読む	青木・北村 著	原書房	2010	教科書	必携
人文地理学	竹中・大城等 編著	ミネルヴァ書房	2013	参考書	推奨
備考	地図帳を用意する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 水曜日12:10-13:00 事前にメールにてアポイントメントをとること。 研究室（4号館4階441研究室） ogura.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14 水9/16 木9/17	日本の自然的特色	日本の自然的特色について地帯構造・地形の特徴・河川形態・気圧配置などを整理し、「災害大国日本」の意味を考察する。	
		この回の到達目標	列島国家の国土構造、特に地形的特色などを整理し、大陸国との相違などについての的確に説明することができる。（関連SB0s①②）	
	第二部 水9/16	事前学修	日本の自然的特徴について、北海道・本州・九州など各地域に分けて調べてみる。	120分
		事後学修	配布プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	第一部 月9/21 水9/23 木9/24	日本の空間的広がり（海洋面積）の特徴	国連海洋法条約に基づく海域の設定方法と特色について地理学視点から整理する。	
		この回の到達目標	基線の設定方法、湾・入り江・河川などの規定、排他的経済水域と大陸棚の認定方法などについて理解し、説明できる。（関連SB0s①②）	
	第二部 水9/23	事前学修	プリントを見て日本の海域・国土の配置などの状況について整理する。	120分
		事後学修	通常基線・直線基線設置の概要や、大陸棚の持つ意味（特に水産資源・海底資源（油田）等との関係）について復習する。	120分
3	第一部 月9/28 水9/30 木10/1	日本の村落立地と農村の発展過程	日本の村落・農村に関して、条里制村落や近世農村の空間的配置や集落の機能について考察する。内容の理解に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	律令国家の基盤をなす条里制村落の構造、また近世農村の特質などについて客観的に整理し、その特徴を説明できる。（関連SB0s①②）	
	第二部 水9/30	事前学修	条里地割と地域的展開地域、および近世農村の構造（ムラ・ノラ・ヤマ）について調べてみる。	120分
		事後学修	条里区割りと村落の単位、また近世農村における採草地や入会地の機能や役割について、講義内容をまとめ、農村の基本構造について検証する。	120分
4	第一部 月10/5 水10/7 木10/8	日本の都市化の特徴と問題	都市化の定義および急速な都市化過程と行政施策の対応について考察する。	
		この回の到達目標	日本の都市過程と都市計画法（市街化区域設定）、農地法との関連について理解し、端的に説明できる。（関連SB0s①②）	
	第二部 水10/7	事前学修	日本の都市化と都市計画法との関連について調べる。	90分
		事後学修	「都市化とスプロールの乱開発」について整理し、その問題点についてまとめる。	150分
5	第一部 月10/12 水10/14 木10/15	田園都市構想とニュータウン建設	急速な都市化とその対応として、イギリスで展開した大ロンドン計画や田園都市構想などの意義、及びそれらに基づいて建設されたニュータウン計画について考察する。	
		この回の到達目標	イギリスで構想された都市計画の視点、これを受けて実施されたニュータウン計画について、日本の都市化と対比して、相違や特徴、都市社会の在り方などについての的確に説明できる。（関連SB0s②③）	
	第二部 水10/14	事前学修	ハワードの「田園都市構想」の内容について事前に調べ、その特徴について整理してみる。	40分
		事後学修	「イギリスの都市計画とスプロールの乱開発が展開した日本の都市計画」について整理しレポートを作成する。	210分
6	第一部 月10/19 水10/21 木10/22	発展途上国の都市問題と先進国の都市問題に関する議論	都市化の状況についてプッシュ要因とプル要因に分けて整理し、スラムスコッターの形成や都市構造の特徴についての整理に基づいて、ピア・レビュー方式により議論する。	
		この回の到達目標	経済発展の差異と都市構造の特徴について整理し、その特質について説明・議論ができる。（関連SB0s②③）	
	第二部 水10/21	事前学修	発展途上国と先進国の都市形態などについて調べ、その概要について要約文章つくる。（文章作成は必須）	200分
		事後学修	作成した文章の内容が適切であったか、他者の発表に比してどの視点が良かったか、また不足していたかを検証する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26 水10/28 木10/29 第二部 水10/28	都市の内部構造と都市機能配置	都市機能の発達とともに、都市内部に諸機能がどのように配置されていくのかについての学説を整理し、その問題点などについて考察する。	
		この回の到達目標	都市内部の発展過程と都市の性格・特徴との関係について位置づけ、都市構造の概要について説明できる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	テキスト・プリントに基づいて、現代都市にはどのような機能が備わっているか、その項目・内容を整理する。	100分
		事後学修	講義内容を整理し、バージェスの同心円論と多核心モデルなどについて都市の機能配置の視点から検証する。また、都市で生起している「住み分け現象」の意味・内容について復習する。	140分
8	第一部 月11/9 水11/11 木11/5 第二部 水11/11	東京の発達史と都市構造	江戸・東京の都市構造（坂の町）を大坂（橋の町）と対比し、その特徴について考察する。内容の理解に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	江戸の都市構造の変容を整理し、都市の立地場所の特徴や現在の都市構造の特徴を理解し、説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	東京の立地場所（洪積台地と沖積低地）と機能の配置、また大阪の立地場所（淀川三角州）について地図で確認し、都市の特徴について調べる。	120分
		事後学修	講義内容を整理し都市機能の配置についてまとめるとともに、とくに玉川上水建設と江戸の配水機能などについて検証する。	120分
9	第一部 月11/16 水11/18 木11/12 第二部 水11/18	現代東京の都市構造と首都機能	世界都市としての東京の機能配置や都市構造の特徴について考察する。	
		この回の到達目標	一極集中化する東京の諸機能（行政・オフィス・小売業）の配置、拡大・高度化などの実態について客観的に整理し、都市構造の特色についての的確に説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	東京の都心域と副都心の分布、機能の相違について調べる。	120分
		事後学修	東京の都市機能の高度化・拡大と分散化について整理し、とくに湾岸地域の発展過程について検証する。	120分
10	第一部 月11/23 水11/25 木11/19 第二部 水11/25	複核構造（大阪・京都・神戸）の近畿圏	3都市がそれぞれの機能を高度化し、大きな都市圏を形成する近畿圏について、その結びつきの構造を考察する。	
		この回の到達目標	極めて特徴的な機能分布をする近畿圏の「都市間連携」について、地理学的視点から整理し、説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	大坂・京都・神戸の3都市について、都市の位置と鉄道などの交通網、それぞれの都市機能の特徴などを調べる。	120分
		事後学修	3都市の独立性と依存性に関して整理し、都市間交流と機能拡大について検証する。	120分
11	第一部 月11/30 水12/2 木12/3 第二部 水12/2	多角的産業都市としての名古屋圏	機械組立工業を中心として工業・商業などの分散立地と都市機能の高度化について考察する。	
		この回の到達目標	経済機能の拡大を通して都市間の機能分化が進展する名古屋圏について分析し、経済機能と都市機能との関係について理解し、説明することができる。（関連SB0s②③）	
		事前学修	名古屋・四日市・豊田・一宮・春日井などの諸都市について位置、経済機能の特色などを調べる。	50分
		事後学修	名古屋経済圏の特徴を整理するとともに、「東京・大阪・名古屋の都市構造・経済構造の特色」についてまとめる。（レポートを作成する）	210分
12	第一部 月12/7 水12/9 木12/10 第二部 水12/9	3大都市と都市圏の特徴に関するレポートの発表と議論	3大都市の特徴について作成したレポートの内容についてピア・レビュー方式により議論する。	
		この回の到達目標	大都市（圏）のそれぞれの特徴を整理・理解し、都市の展開メカニズムの基礎について説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	「東京・大阪・名古屋の都市構造・経済構造の特色」について作成したレポートを確認し、発表・討論の準備をする。	200分
		事後学修	他者の発表に比してどの視点が良かったか、また不足していたかを検証する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14 水12/16 木12/17 第二部 水4/16	北陸地方の経済（地方経済圏）と地域構造	大都市圏の周辺地域に位置する北陸地方の経済機能と地域構造について考察する。	
		この回の到達目標	地方経済圏の北陸地方における工業立地（薬・アルミ・メカネ・伝統産業等）の内容、また地方都市のコンパクトシティー化など特徴ある地域展開を示す北陸地方に関して地域構造の視点から整理し、説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	北陸地方の自然的特徴と、福井県・石川県・富山県の主な工業内容について調べる。	120分
		事後学修	講義内容をまとめ、北陸の地域性と経済に関して、要約文としてまとめてみる。	120分
14	第一部 月12/21 水12/23 木12/24 第二部 水12/23	東北経済圏の地位と地方中核都市への機能集中化	東北6県の農業・工業（特に福島県・宮城県）などの経済展開、及び地方中核都市としての仙台の地位に関して考察する。	
		この回の到達目標	地方経済の衰退と地方中核都市への経済的・人的集中のメカニズムについて理解し、説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	東北地方と仙台の結びつき（交通・商業・人的移動等）と、仙台経済圏形成について調べる。	120分
		事後学修	東北地方の地域的特徴を整理し、地域活性化には何が有効か、考えをまとめてみる。	120分
15	第一部 月1/18 水1/13 木1/14 第二部 水1/13	試験と振り返り	前期の講義内容の理解を問う授業内試験を行う。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分解答することができる。SB0s③にあるような振り返りを行い、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	テキストやプリントに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	210分
		事後学修	テキストやプリントを見ながら、答案の自己評価をする。本講義での学びを振り返る。	40分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験実施後、解説・講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『人間が人間でなくなるとき』	岡山敬二	亜紀書房	2014	教科書	推奨
備考	上記教科書のみ筆記試験で持ち込み可とするが、教科書の内容だけでは合格点に達する答案を準備できない点に十分注意すること。				

【オフィスアワー】
原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7 木4/9 土4/4	ガイダンス/「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
2	第一部火 4/14木 4/16土 4/11	「人間らしさ」とは——心と身体をめぐって	前回ガイダンスの内容を確認したあと、「人間とは何か」という問いと哲学の問いの関係について、その意味を心と身体という点から考える。	
		この回の到達目標	「人間とは何か」という問いと哲学の問いとの関係性について、その意味を心と身体という点から理解し、説明することができる。：関連SB0s①②	
		事前学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。人間とは何か、哲学とは何かについて、心と身体という点から思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	人間とは何かという問いがどうして哲学のテーマになるのかについて、その意味を心と身体という点から確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
3	第一部火 4/21木 4/23土 4/18	哲学的人間観の諸相	デカルトとニーチェ、この二人の哲学者を通して、哲学的人間観の代表的な諸相を比較、検討する。	
		この回の到達目標	デカルトとニーチェの人間観の違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	デカルトやニーチェとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	デカルトとニーチェの人間観の違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
4	第一部火 4/28木 4/30土 4/25	「私」という存在	デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり（je pense donc je suis）」という命題について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	デカルトのいう、私の存在の確実性、「われ思う、ゆえにわれあり」という真理について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	デカルトの哲学、とくに「われ思う、ゆえにわれあり」という命題の意味を調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	デカルトのいう、私の存在の確実性、「われ思う、ゆえにわれあり」という真理について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
5	第一部火 5/5木5/7 土5/2	人間はどこまで動物か	動物における心や利害、言語能力のありようについて、その意味を考える。	
		この回の到達目標	動物における心や利害、言語能力のありようについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	人間と動物との違い、心や利害意識、言語能力とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	動物における心や利害、言語能力の有無について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
6	第一部火 5/12木 5/14土 5/9	人間らしさの基準とは	人間存在に固有の言語と認識能力について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	言語と認識がどうして人間らしさの基準になるのか、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	言語とは、認識とは何かについて思い、考えることを整理しておくこと	90分
		事後学修	言語と認識がどうして人間らしさの基準になるのか、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19木 5/21土 5/16	人類（ホモ・サピエンス）の「心」の歴史	人類の心の歴史をたどりながら、動物の行動と人間の行動を比較し、その違いについて考える。	
		この回の到達目標	霊長類学の知見から考察される、動物と人間との違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ヒト（ホモ・サピエンス）の誕生について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	霊長類学の知見から考察される、動物と人間との違いについて、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
8	第一部火 5/26木 5/28土 5/23	授業の前半部の総括	授業の前半部の内容を振り返り、人間と機械や動物との違いについて考える。	
		この回の到達目標	人間と機械や動物との違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ここまでの講義内容を振り返り、人間と機械や動物との違いについて、その意味をノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	人間と機械や動物との違いについて、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	120分
9	第一部火 6/2木6/4 土5/30	心と身体の違いについて――デカルトをめぐる	デカルトに始まる身心問題の歴史的背景を確認し、その意味について考える。	
		この回の到達目標	デカルトに始まる身心問題について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	心（精神）と身体（肉体）と物質の違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	デカルトに始まる身心問題について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
10	第一部火 6/9木 6/11土 6/6	心と身体との接点について――デカルトを超えて	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	心（精神）と身体（肉体）や物質とはどうつながるのかについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
11	第一部火 6/16木 6/18土 6/13	「生きられる身体」としての自己の身体へ	物体存在ではない、内面としての「私」によって裏打ちされた身体のあり方について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	内面としての「私」に裏打ちされた身体について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	物質と身体（肉体）との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	内面としての「私」に裏打ちされた身体について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
12	第一部火 6/23木 6/25土 6/20	「世界内存在」としての身体――表現、表情をめぐる	身体の実現や表情という点から自己と他者との関係性について考える。	
		この回の到達目標	表現における心と身体との一体性、自己と他者との絆としての表現について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	表情や表現とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	表現における心と身体との一体性、自己と他者との絆としての表現について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30木 7/2土 6/27	「身体図式」とは一身体行動のなりたちをめぐって	感覚連合説の難点とゲシュタルトとしての「身体図式」について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	ゲシュタルトとしての身体図式について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	幻影肢という現象、ゲシュタルトという概念とはどういうものを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ゲシュタルトとしての身体図式について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
14	第一部火 7/7木7/9 土7/4	生きられた世界―日常生活へと巻き戻して	日常生活で経験される世界のありように照らし合わせ、フッサールの「生活世界」の意味と役割について考える。	
		この回の到達目標	生活世界と科学的、客観的な世界観との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	フッサールとはどういう哲学者であったのかを調べておくこと。日常生活の世界と科学的世界観との違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	生活世界と科学的、客観的な世界との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
15	第一部火 7/14木 7/16土 7/11	授業の全体の総括	授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。定期試験の出題範囲や傾向、対策などの説明。	
		この回の到達目標	人間と機械や動物との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	講義内容の全体を振り返り、人間と機械や動物との違いや関係について、その意味をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	筆記試験への準備も含め、人間と機械や動物との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	180分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	金子 佳司	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思います。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
西洋思想の要諦周覧	嘉吉純夫・斎藤隆	北樹出版	1994	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日午後 希望者は授業教室にて申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 木4/9	ガイダンス 哲学について	授業計画や評価方法などの説明。 「哲学とは何か」「哲学はいつ始まったのか」という問題を考える。	
		この回の 到達目標	哲学という学問について理解する。	
		事前学修	このシラバス全体を読み、教科書を使って授業の概要を理解する。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
2	第一部 第二部 木4/16	哲学史観について	アリストテレスの哲学史観を学ぶ。	
		この回の 到達目標	哲学の歴史について理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
3	第一部 第二部 木4/23	哲学の始まり (1)	ミレトス派の自然観を学ぶ。	
		この回の 到達目標	最初の哲学と言われているミレトス派の人々の哲学を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
4	第一部 第二部 木4/30	哲学の始まり (2)	ピュタゴラスとヘラクレイトスの自然観を学ぶ。	
		この回の 到達目標	ミレトス派に続いて登場したピュタゴラスとヘラクレイトスの哲学を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
5	第一部 第二部 木5/7	哲学の新たな展開	エレア派の考え方を学ぶ。	
		この回の 到達目標	エレア派の哲学がそれまでの哲学とどのように異なるかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
6	第一部 第二部 木5/14	エレア派の影響	エンペドクレスとアナクサゴラスの自然観を学ぶ。	
		この回の 到達目標	エレア派の哲学がその後の哲学にどのように影響したかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 木5/21	原子論の成立	レウキッポスとデモクリトスの原子論を学ぶ。	
		この回の到達目標	エレア派の哲学と原子論の関係を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
8	第一部 第二部 木5/28	自覚的な哲学者の登場	ソフィストとソクラテスの思想を学び、哲学者とは何かを考える。	
		この回の到達目標	ソフィストとソクラテスの考え方や生き方の違いを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
9	第一部 第二部 木6/4	イデア論	プラトンがなぜイデア論を唱えるようになったかを考える。	
		この回の到達目標	プラトンのイデア論を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
10	第一部 第二部 木6/11	プラトン哲学	プラトンのイデア論に基づく世界観を学ぶ。	
		この回の到達目標	イデア論の基づくプラトンの哲学を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
11	第一部 第二部 木6/18	アリストテレス哲学（1）	アリストテレスの世界観を学ぶ。	
		この回の到達目標	アリストテレス哲学における世界観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
12	第一部 第二部 木6/25	アリストテレス哲学（2）	アリストテレスの人生観を学ぶ。	
		この回の到達目標	アリストテレス哲学における人生観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 木7/2	ヘレニズム時代の哲学(1)	エピクロスの快楽主義を学ぶ。	
		この回の到達目標	エピクロスの快楽主義とその背後にある世界観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
14	第一部 第二部 木7/9	ヘレニズム時代の哲学(2)	ストア派の禁欲主義を学ぶ。	
		この回の到達目標	ストア派の禁欲主義とその背後にある世界観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
15	第一部 第二部 木7/16	総まとめ	授業の総まとめと理解の確認	
		この回の到達目標	この授業全体を振り返って、古代ギリシア哲学の概要と主要な学説を理解する。	
		事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
		事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	江川 晃	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
教科書とプリントによる講義。感想・意見・質問ペーパーを講義の最後に提出のこと。次回、それをもとに対話をしながら授業を進めていきたい。哲学レポートの書き方も指導します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、出席票の裏に質問・意見・感想等を記入すること。 翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。								2	2			
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題は翌週の授業にてコメントします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文書プリント、パワポプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日1限、授業終了後の教室にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	予備校の経営、講師、生徒指導、家庭訪問、進路指導。
実務経験に基づく実践的教育の内容		予備校にて、高校の現代国語、倫理社会の授業担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	「哲学」という語が、日常使われる場合と学問として使われる場合の相違に関して考えてみる。 なぜ人類にとって、哲学が必要なのかを考えてみる。 前期・後期の内容を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①についてスケッチを描けるようになる。	
		事前学修	シラバスを読んでこよう。	120分
		事後学修	配布プリントの復習。	120分
2	4/17	「哲学」とは何か	日本において「哲学」という語がいつできたか。 それは何を意味したのか。	
		この回の到達目標	「哲学」という語の語源と意味を理解する。	
		事前学修	プリントを読んでくること。	120分
		事後学修	「哲学」という語の語源と意味を復習する。	120分
3	4/24	ギリシアの自然哲学1	ミレトス学派とピュタゴラス学派、ヘラクレイトスとパルメニデス学派の相違。	
		この回の到達目標	自然哲学とは何かについて理解する。	
		事前学修	プリントを読んで、ギリシアの自然哲学の流れを把握してくること。	120分
		事後学修	哲学発生の意義の理解。	120分
4	5/1	ギリシアの自然哲学2	エンペドクレスの生きる自然とデモクリトスの死せる自然	
		この回の到達目標	到達目標③各思想の対比。	
		事前学修	プリントを読んでく、エンペドクレスの意義について把握してくること。	120分
		事後学修	タレスからデモクリトスまでの流れを理解する。	120分
5	5/8	ソクラテス	ソクラテスの対話の真意とは何か。	
		この回の到達目標	到達目標②ソクラテス哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	ソクラテスについてのプリントを読んでくること。	120分
		事後学修	ソフィスト、徳の定義について把握。	120分
6	5/15	プラトン	プラトンの想起説と魂の不死。	
		この回の到達目標	到達目標②プラトン哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	プラトンについての配布プリントを読んでくること。	120分
		事後学修	「イデア」を具体的に説明できるように復習しよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	アリストテレス	アリストテレスの自然学と形而上学	
		この回の到達目標	アリストテレス哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	アリストテレスとは誰だ。	120分
		事後学修	「存在論」とは何か。	120分
8	5/29	科学革命	コペルニクス・ケプラー・ガリレオ・ニュートンの反アリストテレス主義。	
		この回の到達目標	科学革命における宗教・哲学・科学について関連させ説明できる。 到達目標③科学革命における自然哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
		事前学修	天動説と地動説を調べる。	120分
		事後学修	科学革命の構造の理解。	120分
9	6/5	デカルトの哲学	デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり」	
		この回の到達目標	到達目標②デカルト哲学の立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	プリントを読んでもくこと。	120分
		事後学修	デカルトの「精神と物質の二元論」を説明できるようにしておこう。	120分
10	6/12	F. ベーコン	種族イドラ・洞窟のイドラ・市場のイドラ・劇場のイドラ	
		この回の到達目標	到達目標②ベーコンの経験論の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	プリントを読んでもくこと。	120分
		事後学修	「イドラ」とは何かを説明できるように復習しよう。	120分
11	6/19	カント	カントの哲学	
		この回の到達目標	到達目標②カント哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	「コペルニクスの転回」とは何か。	120分
		事後学修	「純粋理性」とは。	120分
12	6/26	キルケゴール 1	キルケゴールの実存主義	
		この回の到達目標	到達目標②キルケゴールの実存主義の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	レギーネとの恋物語について調べていこう。	120分
		事後学修	「血の騒ぐもの」と「実存」	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	キルケゴール 2	実存の三段階(美的実存・倫理的実存・宗教的実存)	
		この回の到達目標	キルケゴールの実存主義の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	実存の進化。	120分
		事後学修	人生にとっての「挫折」の意義を考えた。	120分
14	7/10	哲学のレポート	哲学レポートの書き方(まとめ)	
		この回の到達目標	哲学のレポートを書き方を理解する。	
		事前学修	どのレポート課題を選択するか考えてこよう。	120分
		事後学修	書き始める。	120分
15	7/17	レポート提出 まとめ	授業補足と前期レポート提出	
		この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
		事前学修	完成させる。	120分
		事後学修	反省。	120分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評・解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。							2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。								2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2					
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験実施後、解説・講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『人間が人間でなくなるとき』	岡山敬二	亜紀書房	2014	教科書	推奨
備考	上記教科書のみ筆記試験で持ち込み可とするが、教科書の内容だけでは合格点に達する答案を準備できない点に十分注意すること。				

【オフィスアワー】
原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15木 9/17土 9/19	ガイダンス/「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め、履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
2	第一部火 9/22木 9/24土 9/26	「人間らしさ」とは一時間と死をめぐって	前回ガイダンスの内容を確認したあと、「人間とは何か」という問いと哲学の問いの関係について、その意味を時間と死という点から考える。	
		この回の到達目標	「人間とは何か」という問いと哲学の問いとの関係性について、その意味を時間と死という点から理解し、説明することができる。：関連SB0s①②	
		事前学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。人間とは何か、哲学とは何かについて、時間や死という点から思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	人間とは何かという問いがどうして哲学のテーマになるのかという意味について、時間と死という点から確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
3	第一部火 9/29木 10/1土 10/3	時間とは何か	時間（現在・過去・未来）の存在の不思議さとその意味について考える。	
		この回の到達目標	時間の存在の矛盾や不思議さについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	時間の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	時間の存在の矛盾や不思議さについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
4	第一部火 10/6木 10/8土 10/10	時間の見方——アリストテレスとアウグスティヌスをめぐって	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論を比較し、その違いの意味について考える。	
		この回の到達目標	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論の違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	アリストテレスやアウグスティヌスとはどういう哲学者であったかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論の違いについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
5	第一部火 10/13木 10/15土 10/17	現象学の視点——フッサールをめぐって	フッサールをはじめとする現象学の時間論を考察する準備として、「現象学的還元」という方法の意味について考える。	
		この回の到達目標	「現象学的還元」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	フッサールとはどういう哲学者であったかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	「現象学的還元」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
6	第一部火 10/20木 10/22土 10/24	「内的時間意識」の諸相——フッサールの時間論をめぐって	フッサールの時間論の「把持」と「予持」について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	フッサールのいう「把持」と「予持」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	フッサールの時間論について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	フッサールのいう「把持」と「予持」について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27木 10/29土 10/31	積み重なる時間——メルロ＝ ポンティをめぐって	メルロ＝ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を考える。	
		この回の 到達目標	メルロ＝ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	メルロ＝ポンティとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	メルロ＝ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
8	第一部火 11/10木 11/5土 11/7	授業の前半部の総括	授業の前半部の内容を振り返り、流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について考える。	
		この回の 到達目標	流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ここまでの講義内容を振り返り、流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
9	第一部火 11/17木 11/12土 11/14	死とは——人間と死	人間存在と死の問題の関係について、その意味を考える。	
		この回の 到達目標	人間存在と死の問題の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	生と死について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	人間存在と死の問題の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
10	第一部火 11/24木 11/19土 11/21	魂は不死なのか	形而上学的不死思想（プラトンなど）について、その意味を考える。	
		この回の 到達目標	形而上学的な死生観について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	死後の世界、魂の不死について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	形而上学的な死生観について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
11	第一部火 12/1木 12/3土 11/28	死は悪なのか	非形而上学的死生観（エンペドクレス、ソクラテスなど）について、その意味を考える。	
		この回の 到達目標	死の善と悪について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	死の悪について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	死の善と悪について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
12	第一部火 12/8木 12/10土 12/5	死と時間——エピクロスを めぐって	エピクロスの死生観を確認し、死と時間意識の関係について、その意味を考える。	
		この回の 到達目標	死と時間意識の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	死と時間の関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	死と時間意識の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15木 12/17土 12/12	死と存在——ハイデガーをめぐって	ハイデガーの存在論にとっての死の問題の意味と役割について考える。	
		この回の到達目標	存在論と死の問題の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ハイデガーとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	存在論と死の問題の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
14	第一部火 12/22木 12/24土 12/19	時間と運命——ハイデガーの時間論をめぐって	ハイデガーの時間論における「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	ハイデガーのいう「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	運命や縁の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ハイデガーのいう「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
15	第一部火 1/12木 1/14土 12/26	授業の全体の総括	授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。定期試験の出題範囲や傾向、対策などの説明。	
		この回の到達目標	人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	講義内容の全体を振り返り、人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	筆記試験への準備も含め、人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	金子 佳司	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思います。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
西洋思想の要諦周覧	嘉吉純夫・斎藤隆	北樹出版	1994	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日午後 希望者は授業教室にて申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 木9/17	ガイダンス 近代哲学について	授業計画や評価方法などの説明。 哲学は近代になって西ヨーロッパで大きく変化した、その変化とその影響について考える。	
		この回の到達目標	近代哲学は新たなものとして西ヨーロッパで生まれ、その後「近代化」の名のもとに全世界に大きな影響を与えたことを理解する。	
		事前学修	このシラバス全体を読み、教科書を使って授業の概要を理解する。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
2	第一部 第二部 木9/24	近代哲学成立の歴史的背景	中世の崩壊と宗教改革、およびルネサンスについて学ぶ。	
		この回の到達目標	どのような歴史的経緯を経て、西ヨーロッパで近代哲学が生まれたかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
3	第一部 第二部 木10/1	「科学革命」の時代	17世紀の西ヨーロッパで世界観が大きく変化したことを学ぶ。	
		この回の到達目標	17世紀の西ヨーロッパで生まれた近代哲学が「新しいもの」であることを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
4	第一部 第二部 木10/8	デカルト哲学の原点	デカルトの「我思うゆえに我あり（＝私は思考する、だから私は存在する）」という言葉が何を意味するかを考える。	
		この回の到達目標	デカルトの「我思うゆえに我あり（＝私は思考する、だから私は存在する）」の哲学的な意味を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
5	第一部 第二部 木10/15	デカルトの世界観	デカルトの物心二元論の世界観とその問題点を考える。	
		この回の到達目標	デカルトの物心二元論の世界観の内容を理解し、そこに心身問題があることを理解する。また、その心身問題をスピノザが心身並行論で解決しようとしたことも理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
6	第一部 第二部 木10/22	ホッブズ哲学	ホッブズの唯物論的な世界観と社会契約説を学ぶ。	
		この回の到達目標	ホッブズの世界観と国家観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 木10/29	ロックの認識論	ロックの経験主義に基づく認識論を学ぶ。	
		この回の到達目標	経験主義に基づくどのような認識論が成立するかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
8	第一部 第二部 木11/5	バークリーとヒュームの認識論	経験主義に基づく認識論を徹底させたバークリーとヒュームの認識論を学ぶ。	
		この回の到達目標	経験主義に基づいて認識論を徹底するとどうなるかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
9	第一部 第二部 木11/12	フランス啓蒙主義と産業革命	フランス啓蒙主義について学び、それと産業革命との関係を考える。	
		この回の到達目標	フランスに始まる啓蒙主義の思想とはどのようなものであり、それが産業革命とどのような関係にあるかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
10	第一部 第二部 木11/19	カントの認識論	ロックらのイギリス経験主義の認識論の問題を踏まえながらも、デカルトらの理性主義（合理主義）も継承したカントの認識論を学ぶ。	
		この回の到達目標	人間の認識の成立には、経験だけではなく、経験に基づかないもの（アプリアリなもの）をも必要とすることを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
11	第一部 第二部 木12/3	カントの道徳論	カントの幸福主義批判と彼の「義務」に基づく道徳論を学ぶ。	
		この回の到達目標	カントが幸福主義を批判した理由と「義務」を尊重した理由を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
12	第一部 第二部 木12/10	ヘーゲル哲学	ヘーゲルの観念論的世界観と弁証法的な歴史観を学ぶ。	
		この回の到達目標	ヘーゲルの「絶対者」と弁証法を理解し、それらに基づく歴史観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 木12/17	マルクス哲学	マルクスの唯物論的世界観と弁証法的な歴史観を学ぶ。	
		この回の到達目標	ヘーゲルから弁証法を継承しながらも、ヘーゲルとは異なり唯物論を唱えたマルクスの歴史観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
14	第一部 第二部 木12/24	サルトルの実存主義	サルトルの「実存は本質に先立つ」「人間は自由の刑に処せられている」という言葉の意味を考え、実存主義に基づく人生観を学ぶ。	
		この回の到達目標	サルトルの実存主義に基づく人生観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
15	第一部 第二部 木1/14	総まとめ	授業の総まとめと理解の確認	
		この回の到達目標	この授業全体を振り返って、古代ギリシア哲学の概要と主要な学説を理解する。	
		事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
		事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	江川 晃	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
教科書とプリントによる講義。感想・意見・質問ペーパーを講義の最後に提出のこと。次回、それをもとに対話をしながら授業を進めていきたい。哲学レポートの書き方も指導します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、出席票の裏に質問・意見・感想等を記入すること。 翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題は翌週の授業にてコメントします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文書プリント、パワポプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日1限、授業終了後の教室にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	予備校の経営、講師、生徒指導、家庭訪問、進路指導。
実務経験に基づく実践的教育の内容		予備校にて、高校の現代国語、倫理社会の授業担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/18	プラグマティズム 1	「信念は行動の規則」である。
		この回の到達目標	到達目標②パースの哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。
		事前学修	C. S. パースとはだれか。120分
		事後学修	疑念、信念、習慣、行動を関連付ける。120分
2	9/25	プラグマティズム 2	信念の固め方は4つある。固執の方法・権威の方法・先天的方法・科学的方法。
		この回の到達目標	到達目標②パースのプラグマティズムの主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。
		事前学修	探究とは何か。プリントを読んでおこう。120分
		事後学修	4つの信念の固め方。120分
3	10/2	情報は記号である	情報記号論：シネマ“MATRIX”の哲学
		この回の到達目標	到達目標②パースの記号論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。
		事前学修	シネマ“MATRIX”を見よう。120分
		事後学修	VRと“MATRIX”の関係。現実とは何か。120分
4	10/9	構造主義 1	メディアはその下位に神話作用を持っており、われわれはそれにより支配される。
		この回の到達目標	到達目標②バルト哲学の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。
		事前学修	ロラン・バルトとはだれか。120分
		事後学修	メディアの裏に隠された意図を知る。120分
5	10/16	構造主義 2	モードは服であるが、言語として説明ができるのだ！
		この回の到達目標	到達目標②バルトのモード論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。
		事前学修	流行とは何か。120分
		事後学修	言語として流行を見る。120分
6	10/23	分析哲学 1	ウィトゲンシュタインの「事実の像が命題だ！」
		この回の到達目標	到達目標②ウィトゲンシュタインの写像理論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。
		事前学修	ウィトゲンシュタインとは誰だ。（2時間）120分
		事後学修	「写像理論」と「語りえぬもの」（2時間）120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	分析哲学 2	「なぜ占いは非科学なのか」 ポパーの反証理論を考える。	
		この回の到達目標	到達目標②ポパーの反証理論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	カール・ポパーとは誰だ。	120分
		事後学修	「反証可能なものこそ科学だ！」	120分
8	11/6	言語行為論	日常言語学派「話すことは同時に3つの行為をしている」について考える。	
		この回の到達目標	到達目標②オースティンの言語行為論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	A. J. オースティンとは誰だ。	120分
		事後学修	発語行為、発語内行為、発語媒介行為の理解。	120分
9	11/13	心の哲学 1	心は脳にあるのか	
		この回の到達目標	到達目標②「心脳同一説」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	心はどこにあるか。	120分
		事後学修	「心脳同一説」の批判。	120分
10	11/20	心の哲学 2	ロボットに心はあるのか	
		この回の到達目標	到達目標②心の哲学における「機能主義」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	AIは心を持つか。	120分
		事後学修	「機能主義」の理解。	120分
11	11/27	脳神経科学を哲学する	「脳倫理」の試み	
		この回の到達目標	到達目標②道徳的判断を脳の中の機能の求める「脳倫理」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	プリントを読んでくこと。	120分
		事後学修	「脳」に責任はあるか。	120分
12	12/4	われわれに「自由意思」はあるのか	われわれが決定する前に、脳が行動をすでに決定している。	
		この回の到達目標	到達目標②「脳倫理」の自由意志論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	B. リベットの実験とは。	120分
		事後学修	「脳倫理」とは。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	iPS細胞の哲学	生命科学と哲学：iPS細胞は人類に幸福をもたらすか？	
		この回の到達目標	到達目標②iPS細胞の哲学の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	iPS細胞とは何か。	120分
		事後学修	再生医療の哲学	120分
14	12/18	レポート指導 2	哲学レポートの書き方 2（まとめ）	
		この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
		事前学修	課題を決めること。	120分
		事後学修	書き始めよう。	120分
15	12/25	試験と解説	授業補足と期末レポート提出	
		この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
		事前学修	完成させよう。	120分
		事後学修	反省。	120分

科目名	統計学 I	担当者	荒関 仁志	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では、データの統計分析が必須となる。この授業では、データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として、データを整理・要約するための記述統計を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため、統計学の目的と役割を踏まえ、記述統計の諸概念を正確に理解し、データから適切な仕方て情報を引き出す能力を修得する。

【履修条件】
各自が自由に使えるパソコンがご自宅にあること。また、利用可能なパソコンにはエクセルがインストールされていることを履修の条件とします。

【授業方法】
事前に指定教科書の関連箇所を熟読してから授業に臨んでください。授業では講義ノートパワーポイントを使って授業を行い、各授業の最後に確認のための簡単なレポートを提出と、不定期で課題レポートの提出を課します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回のレポート課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。						2	2					
②	記述統計の基礎を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。						2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。							2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①について、関連する知識が身についているかどうかを小テスト等によって評価する。	50										50
レポート等	到達目標②③について、授業内外での課題遂行等によって、記述統計による適切な分析を通して社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		25	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題は、翌週の授業内で議論および回答を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ファーストブックシリーズ統計学がわかる	向後千春, 富永敦子	技術評論社	2007年		
備考					

【オフィスアワー】
授業内容に関する不明な点や課題レポートに関する質問は、授業内（一部金曜4限、二部金曜1限）で行うか、以下のメールでご質問ください。なお、メールでの質問には、学部名、学科名、学生番号と氏名を必ず明記してください。araseki.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部第二部金 4/10	【ガイダンス】【統計の基礎】	統計と確率の関係について講義を行います。 特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を講義で明らかにします。また、指定教科書についての説明も行います。さらに、各自のパソコンのエクセルで「データ分析」が使えるようにするための設定手順も合わせて講義します。	
		この回の到達目標	法学部における統計理解の重要性を理解する。 また、確率・統計には不確実性が含まれており、その解釈が重要になることを理解する。	
		事前学修	統計に関する各自の考えをまとめてください。 これに関しいては、授業内で確認レポートとして皆さんに解答してもらいます。	120分
		事後学修	今日の授業ノートを再度読み返し、統計に関する各自の考えをまとめてください。	120分
2	第一部第二部金 4/17	【データの平均と分散】	平均と分散、特に分散についての重要性について講義します。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について講義を行います。	
		この回の到達目標	統計にいける平均神話の不確実性と、分散の重要性を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第1章を熟読してください。特に、「1-1 平均を調べる」と「1-2 度数分布」については、各自理解をして授業に臨んでください。（2時間）	120分
		事後学修	確認レポートで提出した「統計処理手順」を、再度自宅のパソコンで計算できるようにしてください。（2時間）	120分
3	第一部第二部金 4/24	【統計分布】	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理	
		この回の到達目標	統計における統計分布の重要性を理解する。 また、統計における「大数の定理」と「中心極限定理」を理解する。	
		事前学修	今日の授業で講義を行い、下記の単語を予めインターネットなどで調べてください。 ・正規分布 ・大数の定理 ・中心極限定理	120分
		事後学修	統計処理における「データの正規性」が重要な役割を果たします。 データの正規分布と中心極限定理が密接な関係にあることを理解し、身の回りの正規分布を示すデータを探してみてください。	120分
4	第一部第二部金 5/1	【仮説検定】	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができます。この信頼区間に考えが、有意差検定の基本であることを講義します。	
		この回の到達目標	仮説検定の基本的考えである、統計分布の信頼区間と棄却域を理解する。	
		事前学修	指定教科書第2章を熟読して下さい。	120分
		事後学修	この区間推定と信頼区間（と棄却域）は、有意差検定の根幹を成す考えですので、再度講義ノートを確認してください。	120分
5	第一部第二部金 5/8	【仮説検定の実際】	有意差検定の考え方の基本を講義します。 第4回に講義した「信頼区間」との関係を講義します。 また、有意差検定の考え「帰無仮説」や「対立仮説」についても講義します。	
		この回の到達目標	仮説検定における「帰無仮説」を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第3章の「3-1」を熟読してください。 また、先週講義した「信頼区間」についても再度確認しておいてください。	120分
		事後学修	今日の授業が、統計Ⅰの要となります。 「統計分布」と「信頼区間」の考えが重要なつながりがあることを再確認してください。	120分
6	第一部第二部金 5/15	【カイ2乗検定の数理】	カイ2乗検定の考え方を講義します。 有意差検定の最も基本になる考えを、このカイ2乗検定を使って具体的に説明します。	
		この回の到達目標	カイ2乗検定の基本となった数学を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第3章「3-2」と「3-3」を熟読してください。	120分
		事後学修	カイ2乗検定を理解してください。特に、授業内レポートについて再度確認をしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部第二部金 5/22	【カイ2乗検定の計算】	カイ2乗検定の計算の実際を講義します。 特に、実際のデータを使って、カイ2乗検定の具体的な計算方法の手順を講義します。	
		この回の到達目標	実際のデータを利用して、カイ2乗検定処理を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第3章「3－4」を熟読してください。特に計算について理解をしてください。	120分
		事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分
8	第一部第二部金 5/29	【対応のないt検定の数理】	有意差検定で、最も利用されている「t検定（対応なし）」の考え方を講義します。 特に、正規分布とt分布、その信頼区間の関係について詳しく講義します。	
		この回の到達目標	対応のないt検定の数学的理解を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第4章を熟読してください。 特に、計算方法について理解をしてください。	120分
		事後学修	次回の課題レポート課題に関係しますので、必ず「t検定」の仕組みを理解してください。	120分
9	第一部第二部金 6/5	【対応のないt検定の計算】	実際のデータを使った「t検定（対応なし）」の計算方法について講義します。計算の手順と、エクセルにおける「データ分析」を使った計算方法も講義します。その上で、計算結果の解釈方法も講義します。また、「t検定（対応なし）」の前提条件である「等分散性」についても説明します。	
		この回の到達目標	「対応のないt検定」の計算と、その前提となる「等分散検定」を理解する。	
		事前学修	第8回の講義内容と指定教科書第4章を再度読み返してください。	120分
		事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。）	120分
10	第一部第二部金 6/12	【対応のあるt検定の数理と計算】	実際のデータを使った「t検定（対応あり）」を使った計算方法も講義します。その上で、計算結果の解釈方法も講義します。さらに、第9回講義に「t検定（対応なし）」との違いについても講義します。	
		この回の到達目標	対応のあるt検定の数学的な理解と計算ができる。	
		事前学修	指定教科書第5章を再度読み返してください。	120分
		事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分
11	第一部第二部金 6/19	【分散分析の数理】	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を講義します。 特に「t検定」との違いと、「分散分析」の考え方を講義します。 特にF分布とF値の考えを理解することを目的とします。 また、分散分析の前提条件である等分散性についても講義します。	
		この回の到達目標	分散分析の数学的構造を理解する。	
		事前学修	指定教科書第6章を熟読してください。	120分
		事後学修	F分布の成り立ちと信頼区間との関係を確認してください。 この理解は、第12回以降の講義に必須です。	120分
12	第一部第二部金 6/26	【1要因分散分析の数理と計算】	実際のデータを使った「分散分析（1要因）」についての計算方法を講義します。 特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順についても解説します。	
		この回の到達目標	1要因の分散分析の数学的仕組みを理解する。	
		事前学修	指定教科書第6章を再度読み返してください。	120分
		事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部第 二部金 7/3	【2要因分散分析の数理と計算】	「分散分析(2要因)」について「分散分析(1要因)」との違いについて講義を行います。特に「分散分析(多要因)」で現れる「交互作用」について詳しく説明します。	
		この回の到達目標	2要因分散分析の計算方法と交互作用について理解する。	
		事前学修	指定教科書第7章を熟読してください。 特に「交互作用」について理解してください。	120分
		事後学修	「分散分析(2要因)」の仕組みと「交互作用」について理解してください。 この理解は、第12回以降の講義に必須です。	120分
14	第一部第 二部金 7/11	【2要因分散分析の数理と計算と交互作用の計算】	実際のデータを使った「分散分析(2要因)」についての計算方法を講義します。 特に「交互作用」について詳しく説明します。	
		この回の到達目標	2要因分散分析の計算方法と交互作用についての実際の計算方法を理解する。	
		事前学修	指定教科書第7章を再度読み返してください。	120分
		事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して 指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分
15	第一部第 二部金 7/17	【仮説検定のまとめ】	総復習として、半年間行った講義内容を、データ分析の立場から講義します。 この講義によって、統計分析の適用範囲を正しく理解することを目指します。 まとめ及び振り返り。	
		この回の到達目標	本講座で理解した統計処理が、どのようなフィールドで利用可能かを理解する。	
		事前学修	今まで講義について、どのような統計処理が、どのようなデータ分析に利用可能かを整理しておいてください。	120分
		事後学修	講義内レポートと課題レポートをまとめてください。	120分

科目名	統計学Ⅰ	担当者	木村 孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では，データの統計分析が必須となる。この授業では，データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として，データを整理・要約するための記述統計を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため，統計学の目的と役割を踏まえ，記述統計の諸概念を正確に理解し，データから適切な仕方で情報を引き出す能力を修得する。

【履修条件】
高校の数学Aの「場合の数と確率」の内容をある程度理解していることが望ましい。電卓（ルート・キーのあるもの）を持参すること。

【授業方法】
講義形式で説明をしながら、例題を実際に分析することで統計手法を身につける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。						2	2					
②	記述統計の基礎を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。						2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。							2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等	到達目標①について、関連する知識が身についているかどうかを小テスト等によって評価する。	50										50	
レポート等	到達目標②③について、授業内外での課題遂行等によって、記述統計による適切な分析を通して社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		25	25								50	
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		50	25	25								100	

【課題に対するフィードバックの方法】
前週の問題の解説・講評し、また15回目には授業内試験の解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
例題で学ぶ初歩からの統計学 [第2版]	白砂堤津耶	日本評論社	2015	教科書	必携
基本統計学	宮川公男	有斐閣	1977	参考書	任意
備考	前週に実施した小テストの解説・講評し、また15回目には授業内試験の解説・講評を行う。				

【オフィスアワー】
木曜日3時限の授業後に授業講堂において質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	ガイダンス，導入授業	講義計画等のガイダンスと記述統計学の考え方の基礎について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、記述統計学とはどのようなものであるかを説明できる。	
		事前学修	統計学がどのようなものであるか、ネット上のwebサイトなどで調べてみる。	120分
		事後学修	統計学が社会においてどのようなことに用いられているか、ネット上のwebサイトなどで調べてみる。	120分
2	第一部木 4/16	度数分布とヒストグラム	度数分布とヒストグラムについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、度数分布表とヒストグラムはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを作成することができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
3	第一部木 4/23	データの代表値（その1）	算術平均、メジアン、モードについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、算術平均、メジアン、モードはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
4	第一部木 4/30	データの代表値（その2）	加重算術平均、幾何平均、トリム平均、移動平均について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、加重算術平均、幾何平均、トリム平均、移動平均はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
5	第一部木 5/7	データの散らばり（その1）	範囲、四分位範囲、箱ひげ図について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、範囲、四分位範囲、箱ひげ図はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
6	第一部木 5/14	データの散らばり（その2）	平均偏差、分散と標準偏差について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平均偏差、分散と標準偏差はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	データの散らばり（その3）	変動係数、標準化変量、偏差値、歪度について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、変動係数、標準化変量、偏差値、歪度はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
8	第一部木 5/28	順列と組合せ（その1）	順列、円順列と数珠順列、重複順列について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、順列、円順列と数珠順列、重複順列はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
9	第一部木 6/4	順列と組合せ（その2）	組合せ、重複組合せについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、組合せ、重複組合せはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
10	第一部木 6/11	確率（その1）	確率の定義、加法定理、乗法定理について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、確率、加法定理、乗法定理はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを用いて計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
11	第一部木 6/18	確率（その2）	ベイズの定理について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ベイズの定理はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを用いて計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
12	第一部木 6/25	確率変数と確率分布（その1）	二項分布、ポアソン分布について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二項分布、ポアソン分布はどのようなものであるかを説明でき、またそれらに関連する値を計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	確率変数と確率分布（その2）	正規分布、標準正規分布について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正規分布、標準正規分布はどのようなものであるかを説明でき、またそれら関連する値を計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
14	第一部木 7/9	確率変数と確率分布（その3）	正規分布による二項分布の近似について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正規分布による二項分布の近似とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを用いて計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
15	第一部木 7/16	試験とまとめ	授業内試験及びまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期にわたる講義内容をその程度理解できたかを確認する。	
		事前学修	教科書及び初回からの講義ノートを見直し試験の準備をする。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	60分

科目名	統計学Ⅱ	担当者	荒関 仁志	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では、データの統計分析が必須となる。この授業では、データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として、データからその背後にある構造について推論する統計的推測の方法を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため、統計学の目的と役割を踏まえ、統計的推測の原理を正確に理解し、データをもとに適切な仕方 で統計的推測を行う能力を修得する。

【履修条件】
統計Ⅰを受講していること。また、各自が自由に使えるパソコンがご自宅にあること。なお、利用可能なパソコンにはエクセルがインストールされていることを履修の条件とします。

【授業方法】
事前に指定教科書の関連箇所を熟読してから授業に臨んでください。授業では講義ノートパワーポイントを使って授業を行い、各授業の最後に確認のための簡単なレポートを提出と、不定期で課題レポートの提出を課します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、レポート課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。						2	2					
②	統計的推測の方法を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。						2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。							2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①について、関連する知識が身についているかどうかを小テスト等によって評価する。	50										50
レポート等	到達目標②③について、授業内外での課題遂行等によって、適切な統計的推測に基づいて社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		25	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題は、翌週の授業内で議論および回答を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ファーストブックシリーズ統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】	向後千春, 富永敦子	技術評論社	2008年		
備考					

【オフィスアワー】
授業内容に関する不明な点や課題レポートに関する質問は、授業内（一部金曜4限、二部金曜1限）で行うか、以下のメールでご質問ください。なお、メールでの質問には、学部名、学科名、学生番号と氏名を必ず明記してください。araseki.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部第二部金 9/18	【ガイダンス】【多変量解析の基礎】	本講義で行う「多変量解析」について講義を行います。 指定教科書について解説します。 また、各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても説明します。	
		この回の到達目標	法学における「多変量解析」の重要性を理解する。	
		事前学修	多変量解析について、各自インターネットで調べておいてください。	120分
		事後学修	第2回の講義までに各自のパソコンの設定を確認してください。	120分
2	第一部第二部金 9/25	【散布図と相関】	教科書の例題を参考に、データに構造を表す「散布図と相関」について講義します。 特に、データ間に相関関係がデータ解析に重要な要素であることを理解します。	
		この回の到達目標	散布図の作り方と相関の重要性を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第1章を熟読してください。	120分
		事後学修	様々なデータに関する散布図を作成し、その背景にある相関関係を調べてください。	120分
3	第一部第二部金 10/2	【相関係数の計算】	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について解説し、その計算方法を説明します。また、偏差積についても講義します。	
		この回の到達目標	相関係数の数理と計算方法を理解する。	
		事前学修	指定教科書に第3章を熟読してください。	120分
		事後学修	相関係数の計算方法を確認してください。その場合、指定教科書の確認テストを計算することをお勧めします。	120分
4	第一部第二部金 10/9	【無相関検定の数理】	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について講義します。 この「無相関検定」を行う場合には、前期で学習した「有意差検定」を利用することを解説します。	
		この回の到達目標	無相関検定の数理を理解し、かつ、無相関検定の問題点を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第3章を熟読してください。 また、統計Ⅰで講義した「有意差検定」について確認してください。	120分
		事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分
5	第一部第二部金 10/16	【回帰分析の数理】	講義では「回帰分析」の考え方を講義します。特に計算の要となる「最小二乗法」について詳しく説明します。	
		この回の到達目標	回帰分析の数理を理解し、その適用範囲を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第4章を熟読してください。	120分
		事後学修	回帰分析は何を計算できるのかを理解してください。特に、データからの推測が可能な統計処理であることを理解してください。	120分
6	第一部第二部金 10/23	【単回帰分析の数理】	本講義では、実際のデータを使った「単回帰分析」についての具体的な計算方法について講義します。また、この単回帰分析と相関係数との関係についても解説します。	
		この回の到達目標	単回帰分析の数理を理解し、実際の計算方法を習得する。 その上で、回帰分析の結果の妥当性を検証するための「決定係数」について理解する。	
		事前学修	指定教科書の第4章を再度読んでください。	120分
		事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部第二部金 10/30	【偏相関係数の数理と計算】	ここでは「偏相関」についての考え方と、その数学的意味を講義します。また、「偏相関」の計算方法についても解説します。	
		この回の到達目標	偏相関係数の仕組みを理解し、偏相関係数の計算方法を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第5章を熟読してください。（2時間）	120分
		事後学修	偏相関の考えは少々複雑で理解し難いので、必ず「確認テスト」を計算して、偏相関の理解を確実にしておいてください。（2時間）	120分
8	第一部第二部金 11/6	【重回帰係数の数理】	ここでは「重回帰分析」の考え方と計算方法を講義します。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について詳しく講義します。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても解説します。	
		この回の到達目標	重回帰分析の数理を理解する。その上で「多重共線性」などの問題点について理解する。	
		事前学修	指定教科書の第6章を熟読してください。	120分
		事後学修	「重回帰分析」の考え方を理解してください。必要なら「確認テスト」で各自確認をしてください。	120分
9	第一部第二部金 11/13	【重回帰分析の計算】	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を講義します。ここでは1ステップずつの計算方法を説明し、その後でエクセルの「データ分析」を使った計算方法も説明します。	
		この回の到達目標	重回帰分析の実際の計算方法を理解する。また、その計算結果の妥当性を検証する方法を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第6章を再度読んでおいてください。	120分
		事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分
10	第一部第二部金 11/20	【相関行列の意味】	多変量解析における「相関行列」について講義します。第3回の講義で説明した「相関」との関係性を解説し、「相関行列」の利用方法を解説します。	
		この回の到達目標	相関行列と偏相関行列の計算方法を理解し、それらの意味について理解する。	
		事前学修	指定教科書の第7章を熟読してください。	120分
		事後学修	第7章の「確認テスト」を各自解答し、「相関行列」を理解してください。	120分
11	第一部第二部金 11/27	【主成分分析の数理】	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを説明します。また、主成分分析では何が分るのかも説明します。	
		この回の到達目標	主成分分析の理解を行い、かつ、本分析の適用範囲を理解する。	
		事前学修	「主成分分析」は、指定教科書にはありません。事前に「資料」を配布しますので、それを熟読してください。	120分
		事後学修	配布資料を使って、実際の計算方法を理解してください。	120分
12	第一部第二部金 12/4	【主成分分析の計算】	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を解説します。授業内で課題を出しますので、それを回答することで各自主成分分析の計算方法を確認します。	
		この回の到達目標	主成分分析を実際のデータに適応して計算することを理解する。また、計算結果の解釈ができることを目的とする。	
		事前学修	配布資料と指定教科書の第8章を再度読んでください。	120分
		事後学修	どのような時に、主成分分析を使うかを各自理解してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部第 二部金 12/11	【因子分析の数理】	「因子分析」の考え方を講義します。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法も解説します。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても解説します。また、「主成分分析」との違いも解説します。	
		この回の到達目標	因子分析と主成分分析との違いを理解する。 かつ、因子分析の応用範囲を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第8章を熟読してください。	120分
		事後学修	因子分析の理解自体は難しくありませんが、その計算方法が非常に面倒ですので、不明な点などがありましたら、再度教科書を読んで確認してください。	120分
14	第一部第 二部金 12/18	【因子分析の計算】	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に、手順を追って計算方法を講義します。また、因子分析の解釈の方法も合わせて解説します。	
		この回の到達目標	因子分析を具体的なデータに適用して、計算方法を理解する。 また、計算結果の解釈をが正しくできることを目的とする。	
		事前学修	指定教科書の第8章を再度読んでください。	120分
		事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分
15	第一部第 二部金 12/25	【まとめ】	総復習として、半年間行った講義内容を、多変量解析の立場から講義します。この講義によって、多変量解析の適用範囲を正しく理解することを目指します。 まとめ及び振り返り。	
		この回の到達目標	本授業で理解した統計処理がどのような分野に適応されるかを正しく理解できることを目的とする。	
		事前学修	今まで講義について、多変量解析において、どのような統計処理が、どのようなデータ分析に利用可能かを整理しておいてください。	120分
		事後学修	講義内レポートと課題レポートをまとめてください。	120分

科目名	統計学Ⅱ	担当者	木村 孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では，データの統計分析が必須となる。この授業では，データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として，データからその背後にある構造について推論する統計的推測の方法を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため，統計学の目的と役割を踏まえ，統計的推測の原理を正確に理解し，データをもとに適切な仕方 で統計的推測を行う能力を修得する。

【履修条件】
統計学Ⅰの内容（記述統計）を学習済みであることを前提に講義を行う。電卓（ルート・キーのあるもの）を持参すること。

【授業方法】
講義形式で説明をしながら、例題を実際に分析することで統計手法を身につける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。					2	2					
②	統計的推測の方法を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。					2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。						2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等	到達目標①について、関連する知識が身についているかどうかを小テスト等によって評価する。	50											50
レポート等	到達目標②③について、授業内外での課題遂行等によって、適切な統計的推測に基づいて社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		25	25									50
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)	50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
前週の問題の解説・講評し、また15回目には授業内試験の解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
例題で学ぶ初歩からの統計学 [第2版]	白砂堤津耶	日本評論社	2015	教科書	必携
基本統計学	宮川公男	有斐閣	1977	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日3時限の授業後に授業講堂において質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	区間推定（その１）	母平均の区間推定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母平均の区間推定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所(118頁から137頁)を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
2	第一部木 9/24	区間推定（その２）	母比率の区間推定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母比率の区間推定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
3	第一部木 10/1	仮説検定（その１）	母平均の検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母平均の検定とはどのようなものであるかを説明でき、まそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
4	第一部木 10/8	仮説検定（その２）	母比率の検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母比率の検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
5	第一部木 10/15	仮説検定（その３）	母平均の差の検定、母比率の差の検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母平均の差の検定、母比率の差の検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
6	第一部木 10/22	区間推定（その３）	母標準偏差の区間推定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母標準偏差の区間推定はどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部木 10/29	仮説検定（その４）	母標準偏差の検定について学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母標準偏差の区間推定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。
8	第一部木 11/5	仮説検定（その５）	適合度の検定について学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、適合度の検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。
9	第一部木 11/12	相関分析（その１）	相関係数について学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相関係数とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。
10	第一部木 11/19	相関分析（その２）	相関係数の検定について学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相関係数の検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。
11	第一部木 12/3	相関分析（その３）	順位相関係数について学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、順位相関係数とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。
12	第一部木 12/10	回帰分析（その１）	回帰係数について学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、回帰係数とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	回帰分析（その2）	決定係数、重回帰分析について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、決定係数、重回帰分析とはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
14	第一部木 12/24	回帰分析（その3）	回帰係数の区間推定と検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、回帰係数の区間推定と検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
15	第一部木 1/14	試験とまとめ	授業内試験及びまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期にわたる講義内容をその程度理解できたかを確認する。	
		事前学修	教科書及び初回からの講義ノートを見直し試験の準備をする。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	60分

科目名	日本の近現代Ⅰ	担当者	大岡 聡	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
19世紀後半における日本の国民国家形成過程とその問題点を学習する。①日本は欧米諸国との関係でどのような道を選び取ったのか、それはアジアとの関係にどのような影響を与えたか、②日本が選び取った道筋は、その後の日本の歩みにどのような刻印を与えたのか、③近代社会の形成は、ふつうの人びとの生き方や価値観にどのような変化を与えたか、そのことの持つ意味は何か。これらの問いを受講生とともに考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の近代社会の形成過程やその特質を学び、「近代」の意味を考えることは、日本で社会科学を学ぶ者にとって、必須の事柄である。本講義はそれらについて基本的な認識を獲得するために行われる。基礎的な歴史的事項の習得の上に、出来事の推移や因果関係を構造的に分析する力をつけ、その歴史的意義や問題点を発見したり、国際比較の中で日本の近代の特質を理解すること、そして獲得した認識を論理的に説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】
到達目標と無関係なので、課外活動やオリンピックを理由とする不勉強や欠席に特別な配慮はしない。履修者過多の場合は履修制限する。

【授業方法】
毎回レジュメと史料を配布し、それに沿って講義する。配布の史料の他、パワーポイントを用いて、写真、音声、映像などの教材も使用する。講義中に小レポートの執筆を課すことがある。発問について考えたり、隣人と討論したりする時間も設けたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポートとピア・レビュー、Think Pair Share	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の国民国家形成過程に関わる基本的な事象や概念について論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、19世紀の世界との関わりで日本の近代の特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述できる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等	講義内容を補完する書物、または博物館見学に関わるレポートにより、到達目標①②に関わる学習内容の深化の度合いを評価する。 到達目標①③に関わって講義中に課す小レポートとピアレビューの成果を評価する。	15	5									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。読書リストは講義中に配布する。なお中学校歴史教科書又は高校日本史教科書を予習用教材とする。出版社は問わない。				

【オフィスアワー】
火曜 13:00～14:00 金曜 18:00～19:00 なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立歴史民俗博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史の編さん・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的史料の保存・公開はもちろん、公文書の作成・保存・公開がいかに重要であるかについて示唆を与える。特に史料・公文書の汚損・隠蔽・改ざんがいかに犯罪的であるかについての理解を促す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7 4/10	開講にあたって／日本の「近代」とは	前半では、①教養とは何か、歴史を学ぶとはどういうことか ②講義概要と視点、目標 ③評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では教科書記述の比較などを踏まえながら、日本史上の「近代」という時代区分について考える。	
		この回の到達目標	本講義の内容を理解する。「近代」という時期区分についての基本的理解を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	120分
		事後学修	ガイダンス資料をよく読んで、履修を検討する。プリントや講義中のメモに沿って。講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	4/14 4/17	幕末の社会情勢と幕藩体制の危機	19世紀前半の社会情勢について、正統性の危機という観点から考察する。	
		この回の到達目標	19世紀前半の社会変動の基本的性格について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回配布資料とシラバスを熟読する。 江戸時代の支配のしくみについて、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
3	4/21 4/24	「開国」の歴史的意義	近世の対外関係の特質と「外患」の世界史的な背景を踏まえながら、「開国」の歴史的意義について考える。	
		この回の到達目標	「開国」の歴史的意義について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「鎖国」や「開国」について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
4	4/28 5/1	公論・尊王・世直し	「開国」後の幕藩体制の危機と、それを克服しようとする諸政治構想について考察する。	
		この回の到達目標	「開国」後の政治社会情勢と、当該期の危機を克服しようとする諸政治構想について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「開国」後の社会情勢について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
5	5/5 5/8	「国民」になるということ	明治の日本が直面した国民国家形成という課題について考える。	
		この回の到達目標	国民国家概念の習得の上に、明治の諸改革を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。「国民」とは何か？ 自分なりの答えを考えておく。 明治初期の諸政策について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
6	5/12 5/15	文明開化論——対外的自立と＜文明化＞	対外的自立という課題との関係で＜文明化＞に関わる明治政府の政策について考える。	
		この回の到達目標	＜文明化＞の歴史的意義を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「文明開化」について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19 5/22	<国民化>と<文明化>—前半期の振り返り	<国民化>と<文明化>概念を軸に、前半期の講義を小括し、その後前半期の振り返りのための小レポートとピア・レビューを実施する。	
		この回の到達目標	小レポートを通じて前半の学習成果について、論理的に説明できる。他者の評価を踏まえながら自己の達成を評価する（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。	180分
		事後学修	ピア・レビューの成果を振り返り、その内容の定着を図る。問題点を真摯に受け止め、今後の学習態度・方法を考え直す。	60分
8	5/26 5/29	「文明」への懐疑——明治前期の民衆運動と「近代」	明治前期の民衆運動を通して、「近代」の意味について考える。	
		この回の到達目標	明治前期の民衆運動の歴史的意義を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。 明治前期の民衆運動について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
9	6/2 6/5	「国民」の誕生？——自由民権と明治憲法	自由民権運動や明治憲法の制定、明治憲法体制について、<国民化>と<文明化>との関係で考察する。	
		この回の到達目標	自由民権運動や明治憲法の制定、明治憲法体制について、<国民化>と<文明化>との関係で説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 自由民権運動と明治憲法について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
10	6/9 6/12	日本外交の「2つの顔」——<文明化>と東アジア国際関係の再編	明治前期の日本外交の2側面と、そのことが東アジア国際関係に持った意味を考える。	
		この回の到達目標	明治前期の日本外交の特質と東アジア国際関係との関わりについて説明する（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 明治政府の外交について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
11	6/16 6/19	<文明化>と対アジア外交論の諸潮流——征韓論・興亜論・脱亜論・小国主義	幕末から明治前期にかけての対アジア外交論の諸潮流とその歴史的な意味について考察する。	
		この回の到達目標	幕末から明治前期にかけての対アジア外交論の諸潮流を<文明化>との関わりで説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 征韓論や脱亜論について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
12	6/23 6/26	日清戦争論——「文明戦争論」とその実態	日清戦争に至る東アジア情勢、および日清戦争の歴史的意義を<文明化>や<国民化>との関係で考える。	
		この回の到達目標	日清戦争に至る東アジア情勢、および日清戦争の歴史的意義について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 日清戦争について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30 7/3	東アジア国際情勢の変化と日露戦争	日清戦争後の東アジア情勢の変化を踏まえながら、日露戦争への道を考える。	
		この回の到達目標	日清戦争後の東アジア情勢の変化を踏まえながら、日露戦争の開戦までの経緯を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 日露戦争について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
14	7/7 7/10	日露戦争と日比谷焼打事件——20世紀の開幕	日露戦争後の日本の帝国主義外交や日比谷焼打事件を取り上げ、日露戦争の歴史的意義を考える。	
		この回の到達目標	①日露戦後の帝国主義外交と韓国併合の過程について、説明することができる。②日比谷焼打事件を通じて、戦争とナショナリズムとの関係や、ナショナリズムの両義性について理解し、説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 日露戦後の内政・外交について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
15	7/14 7/17	試験と振り返り	講義内容の理解を問う授業内試験を行う。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。また、レポートを回収する。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③を達成するため、今期の学びの振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。SB0s①②に関わる適切なレポートを作成できる。	
		事前学修	プリントやノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。レポートを完成させる。	210分
		事後学修	プリントやノートをみながら、答案の自己評価をする。 本講義での学びを振り返る。	30分

科目名	日本の近現代Ⅱ	担当者	大岡 聡	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
20世紀初頭、世界の諸帝国の仲間入りをした日本は、それゆえ国内外にさまざまなジレンマを抱え込むことになり、これに規定されて内政・外交にわたる針路の変更を繰り返した。「帝国日本」は結局破局への道を歩むことになるが、その過程では現代日本社会につながるような社会変容も起きている。20世紀前半の日本の歩みと、それを規定した基本的な要因を受講生とともに考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の近代の帰結としてアジア・太平洋戦争における破滅・破壊を迎えたこと、および日本の現代社会への転換過程やその特質を修得することは、日本で社会科学を学ぶ者にとって、必須の事柄であるので、本講義はそのために行われる。基礎的な歴史的事項の修得の上に、出来事の推移や因果関係を構造的・客観的に分析する技能と態度、出来事の歴史的意義や問題点の発見力を身につけ、獲得した認識を論理的に説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】
到達目標と無関係なので、課外活動を理由にした不勉強について、特別な配慮はしない。履修者過多の場合は履修制限することもある。

【授業方法】
毎回レジュメと史料を配布し、それに沿って講義する。配布の史料の他、パワーポイントを用いて、写真、音声、映像などの教材も使用する。講義中に小レポートの執筆を課すことがある。発問について考えたり、隣人と討論したりする時間も設けたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポートとピア・レビュー、Think Pair Share	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「帝国」日本の展開と崩壊に関わる基本的な事象や概念について論理的に説明できる。		2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、20世紀前半の世界との関わりで、当該期の日本のあゆみの特質と問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述できる。		2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2	2	2	2				
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等	講義内容を補完する書物、または博物館見学に関するレポートにより、到達目標①②に関わる学習の深化の度合いを評価する。 到達目標①③に関わって講義中に課す小レポートとピアレビューの成果を評価する。	10	5	5								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	45	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。読書リストは講義中に配布する。なお中学校歴史教科書又は高校日本史教科書を予習用教材とする。出版社は問わない。				

【オフィスアワー】
火曜 13:00～14:00 金曜18:00～18:30 なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立歴史民俗博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史の編さん・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的史料の保存・公開はもちろん、公文書の作成・保存・公開がいかに重要であるかについて示唆する。特に歴史的史料・公文書の汚損・隠蔽・改ざんがいかに犯罪的であるかについての理解を促す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15 9/18	開講にあたって／「帝国」になるということ	前半では、①講義概要と視点、目標、授業計画、②評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介、日本の近現代Ⅰで講義したした19世紀後半の日本の特質について説明する。後半では「帝国」日本の版図や民族構成を確認し、20世紀前半の日本が「帝国」であり、多民族国家であったことを確認する。	
		この回の到達目標	講義概要や履修上の注意事項を理解する。「帝国」日本の版図の拡大過程や民族構成を年表や統計表から読み取り、日本が「帝国」であること理解して、説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを熟読する。日本の領土拡大過程を中学・高校の教科書で確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	9/22 9/25	日本の植民地主義と植民地支配	植民地支配を正当化する言説の特質を比較史的に考察した上で、植民地支配の内実を検討する。	
		この回の到達目標	日本の植民地主義と植民地支配の特質を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の植民地支配に関する記述をを中学・高校の教科書で確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
3	9/29 10/2	「裏日本」とは何か―地域間の不均等発展	統計表を分析しながら、産業革命前後における日本の地域間の不均等発展を確認し、その要因を考察する。	
		この回の到達目標	「上から」の近代化との関係で、地域間の不均等発展を説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の産業革命に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
4	10/6 10/9	帝国主義世界の変容と日本の針路―第一次世界大戦のインパクト	帝国主義世界の変容と日本の抱えたジレンマゆえ、「帝国」拡大路線の修正を余儀なくさせたことについて、考察する。	
		この回の到達目標	第一次世界大戦後の日本の針路修正の構造的要因を説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。第一次世界大戦と日本との関わりについての中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
5	10/13 10/16	工場労働者の「誕生」とその意識の変容	産業革命期の工場労働者が抱えた矛盾とそれを乗り越えようとする労働者意識の特質について考察する。	
		この回の到達目標	産業革命期の工場労働者労働者意識の変容やその特質について説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。産業革命期～第1次世界大戦期の工場労働者に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
6	10/20 10/23	サラリーマン家族の肖像	都市新中間層の増加と彼らが営む家族のあり方について考察する。	
		この回の到達目標	都市新中間層の増加の背景と彼らが営む家族のあり方の特徴を説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	大正期の都市社会の変化や大衆文化に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27 10/30	帝国のデモクラシー——普選体制論	デモクラシー状況・大衆社会状況に対応した政治体制の変容を考察する。	
		この回の到達目標	「帝国」であること大衆民主制への変容との関係について説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	大正デモクラシーや「憲政の常道」に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
8	11/10 11/6	「帝国」と「大衆」の時代／前半期の振り返り	前半期に講義した1900～1920年代を「帝国」と「大衆」の時代という観点で小括する。そのうえで前半期の振り返りのための小レポートとピア・レビューを実施する。	
		この回の到達目標	「帝国」と「大衆」の時代の時代というまとめを踏まえ、1900～1920年代の日本の歴史像について、自分なりに説明することができる。その説明に対する他者の評価を踏まえ、自己の達成を評価することができる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。	180分
		事後学修	ピア・レビューの成果を振り返り、その内容の定着を図る。問題点を真摯に受け止め、今後の学習態度・方法を考え直す。	60分
9	11/17 11/13	岐路に立つ帝国日本——満州事変の歴史的意義	満州事変に始まる日本の対外針路の転換の構造的要因と、同時代の世界における位置づけを考える。	
		この回の到達目標	満州事変の歴史的意義について考察し、それを論理的に説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。満州事変に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
10	11/24 11/20	戦争拡大の構図——日中全面戦争	日中戦争開戦および開戦後の日本軍の蛮行がその後の歴史過程に与えた影響について考える。	
		この回の到達目標	日本軍の蛮行の構造的要因を理解し、それを論理的説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。日中戦争前後の日本に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
11	12/1 11/27	アジア・太平洋戦争論	アジア・太平洋戦争の開戦過程と、この戦争の特質について検討する。	
		この回の到達目標	アジア・太平洋戦争の開戦の経緯を踏まえながら、この戦争の特質を論理的に説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。アジア・に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
12	12/8 12/4	総力戦体制と国民生活	総力戦体制下の国民生活の諸相について理解した上で、国民が戦争に同調していくメカニズムを検討する。	
		この回の到達目標	総力戦概念、および戦時国民生活や国民の意識の特徴について説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。戦時下の国民生活に関する中学・高校の教科書の記述を確認する。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15 12/11	「大日本帝国」の崩壊	戦線の崩壊と国民生活や国土の破壊を経て、敗戦にいたる過程について検討する。	
		この回の到達目標	日本の敗戦過程について理解することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	日本の敗戦過程に関する中学・高校の教科書の記述を確認する。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
14	12/22 12/18	戦争体験と戦後デモクラシー	戦後改革の歴史的意義を踏まえつつ、日本の戦後処理の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	戦後改革と日本の戦後処理の意義と問題点について、説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	戦後改革に関する中学・高校の教科書の記述を書くにしておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
15	1/12 12/25	試験と振り返り	講義内容の理解を問う授業内試験を行う。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。また、レポートを回収する。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③を達成するため、今期の学びの振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。SB0s①②に関わる適切なレポートを作成できる。	
		事前学修	プリントやノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。レポートを完成させる。	210分
		事後学修	プリントやノートをみながら、答案の自己評価をする。本講義での学びを振り返る。	30分

科目名	日本の自然A	担当者	瀬戸口 信一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本各地の自然環境（地形・気候・自然災害・景観等）を、そこに住む人々の生活・文化・産業など人間の営みとのかかわりで考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本各地の自然環境についての知識を獲得するために、人間活動との関係とそこでの課題を学び、その特質を記述することができる。以下4つの到達目標を具体的に達成する。①日本の自然環境の成り立ちや自然環境の特色に関する基本的事項を理解・習得し、それを説明できるようになる。②日本の自然環境を学ぶ上で必要な地図や図表の読み取りの技術を身につける。③日本の自然環境の中で生きる人々の活動から課題を見出し、それについて考え自分の意見を発信できるようになる。④日本の自然環境について関心を持ち、自ら課題意識をもって学んでいこうとする態度を身につける。

【履修条件】
外国人留学生のみ

【授業方法】
講義形式・問題解決型学習・グループワーク・映像や写真を元にした学習などいろいろな授業方法を試みます。小テストの講評・解説をフィードバックとして授業内で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク・グループディスカッションなど	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境の特質について説明できる。					2	2	2	2				
②	海外からの視点（留学生の視点）から日本の自然環境について説明できる。					2	2	2	2				
③	日本の自然環境と海外の自然環境の差異を比較を説明できる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	(1) 自然環境に関する基礎知識に関する小テストの得点。	17	10	7								34
レポート等	(2) 課題の提出状況。	17	10	7								34
討論・発表等												
授業への参画度	(3) 授業への平常評価参加度。	17	10	5								32
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		51	30	19								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎時間の「小テスト」・前期後期の最後の時間に行われる「まとめの小テスト」において、テストの解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「中学校社会科地図」	帝国書院編集部編	帝国書院	2019年 度		
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、事前にメールでアポイントメントを取ってください。（メールアドレス s-setoguchi@nifty.com)金曜日17：50～18：20 受付場所（授業講堂）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4 /10	前期のガイダンス、導入授業	シラバスの説明・学びたいことの要望調査	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、日本の自然について問題意識を持ち、これから1年間日本の自然について積極的に学ぶ姿勢を持つことができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読みまた関連書籍を読んで概観しておくこと。	120分
2	第一部 金4/17	日本の地理入門	日本の地域区分・都道府県・地図帳の使い方など	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の地域区分・都道府県・県庁所在地などの基礎的知識を身に着ける。 到達目標②に関連して、地図帳の使い方を身に着ける。 到達目標③④に関連して、これから学ぶ「日本の自然」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の自然入門に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
3	第一部 金4/24	日本の地形（1）	日本の山地と海岸（世界との比較で）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の山地と海岸の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の山地と海岸」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の地形（日本の山地と海岸）に関する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
4	第一部 金5/1	日本の地形（2）	日本の川と平野（世界との比較で）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の川と平野の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の川と平野」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる	
		事前学修	日本の地形（日本の川と平野）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
5	第一部 金5/8	日本の気候（1）	世界から見た日本の気候の特色	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界から見た日本の気候の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「世界から見た日本の気候の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の気候（世界から見た日本の気候）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
6	第一部 金5/15	日本の気候（2）	日本の気候区分（日本各地の気候の特色）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の気候区分を理解し、各地の気候の特色を説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の気候区分」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の気候（日本の気候区分）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	日本の自然災害（１）	日本の地震・風水害の歴史と実態	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の地震や風水害の歴史と実態を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の地震・風数がいの歴史と実態」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の自然災害（地震・風水害）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
8	第一部 金5/29	日本の自然災害（２）	防災の現実と課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の防災の現実と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の防災の現実」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる	
		事前学修	日本の自然災害（防災）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
9	第一部 金6/5	日本の自然環境と産業（１）	世界と比べた日本の農業の特色と課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の農業の特色と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の農業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる	
		事前学修	日本の自然環境と産業（農業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
10	第一部 金6/12	日本の自然環境と産業（２）	世界と比べた日本の漁業の特色と課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の漁業の特色と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の漁業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の自然環境と産業（漁業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
11	第一部 金6/19	日本の自然環境と産業（３）	世界と比べた日本の林業の特色と課題	
		この回の到達目標	目標①②に関連して、日本の林業の特色と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の林業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の自然環境と産業（林業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
12	第一部 金6/26	日本の環境問題	日本の公害問題の歴史と課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の公害問題の歴史と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の公害問題の歴史」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の環境問題（公害問題）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/4	日本の環境問題	日本の資源・エネルギー問題と環境問題の課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の資源エネルギー問題や環境問題の課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本の環境問題（日本の資源・エネルギーと環境問題）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
14	第一部 金7/10	日本の景観	世界自然遺産と世界文化遺産の実態と課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の世界自然遺産と世界文化遺産の実態と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の世界自然遺産と世界文化遺産の実態」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の景観（世界自然遺産と世界文化遺産）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
15	第一部 金7/17	前期の授業の総まとめ	前期の授業を振り返り、学んだことを再確認する。 その後、前期の授業の「総まとめの小テスト」を実施し解説・振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだ日本の「自然地理」の内容を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、前期に学んだ日本の「自然地理」の内容について課題意識をもって考えまとめることができる。	
		事前学修	前期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	これまでの復習を行い、後期の授業の準備を行う。	120分

科目名	日本の自然B	担当者	瀬戸口 信一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本各地の自然環境（地形・気候・自然災害・景観等）を、そこに住む人々の生活・文化・産業など人間の営みとのかかわりで考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本各地の自然環境についての知識を獲得するために、人間活動との関係とそこでの課題を学び、その特質を記述することができる。①日本の自然環境の成り立ちや自然環境の特色に関する基本的事項を理解・習得し、それを説明できるようになる。②日本の自然環境を学ぶ上で必要な地図や図表の読み取りの技術を身につける。③日本の自然環境の中で生きる人々の活動から課題を見出し、それについて考え自分の意見を発信できるようになる。④日本の自然環境について関心を持ち、自ら課題意識をもって学んでいこうとする態度を身につける。

【履修条件】
外国人留学生のみ

【授業方法】
講義形式・問題解決型学習・グループワーク・映像や写真を元にした学習などいろいろな授業方法を試みます。小テストの講評・解説をフィードバックとして授業内で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク・グループディスカッションなど	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境の特質について説明できる。				2	2	2	2				
②	海外からの視点（留学生の視点）から日本の自然環境について説明できる。				2	2	2	2				
③	日本の自然環境と海外の自然環境の差異を比較を説明できる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	(1) 自然環境に関する基礎知識に関する小テストの得点。	17	10	7								34
レポート等	(2) 課題の提出状況。	17	10	7								34
討論・発表等												
授業への参画度	(3) 授業への平常評価参加度。	17	10	5								32
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		51	30	19								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎時間の「小テスト」・前期後期の最後の時間に行われる「まとめの小テスト」において、テストの解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「中学校社会科地図」	帝国書院編集部編	帝国書院	2019年 度		
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、事前にメールでアポイントメントを取ってください。（メールアドレス s-setoguchi@nifty.com)金曜日17：50～18：20 受付場所（授業講堂）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	後期のガイダンス 北海道地方（１）	シラバスの説明・学びたいことの要望調査 北海道地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北海道の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「北海道の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。 北海道地方の自然環境と人々の暮らしに関する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
2	第一部 金9/25	北海道地方（２）	北海道地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北海道地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「北海道地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	北海道地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
3	第一部 金10/2	東北地方（１）	東北地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、東北地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「東北地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	東北地方の自然環境と人々の暮らしに関する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
4	第一部 金10/9	東北地方（２）	東北地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、東北地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「東北地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	東北地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
5	第一部 金10/16	関東地方（１）	関東地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関東地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「関東地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	関東地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
6	第一部 金10/23	関東地方（２）	関東地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関東地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「関東地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	関東地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	中部地方（１）	中部地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中部地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中部地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	中部地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
8	第一部 金11/6	中部地方（２）	中部地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中部地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中部地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	中部地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
9	第一部 金11/13	近畿地方（１）	近畿地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近畿地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「近畿地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	近畿地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
10	第一部 金11/20	近畿地方（２）	近畿地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近畿地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中部地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	近畿地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
11	第一部 金11/27	中国四国地方（１）	中国・四国地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国・四国地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中国四国地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	中国・四国地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
12	第一部 金12/4	中国四国地方（２）	中国・四国地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国・四国地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中国四国地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	中国・四国地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	九州地方（１）	九州地方の自然環境と人々の暮らし 九州地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、九州地方の自然環境と人々の暮らし、自然環境と産業の特色を理解し説明することができる。到達目標③④に関連して、「九州地方の自然環境と人々の暮らし」「九州地方の自然環境と産業」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	九州地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。九州地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
14	第一部 金12/18	九州地方（２）	南西諸島の自然環境と人々の暮らし・産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、南西諸島の自然環境と人々の営み・産業の特色を理解し、説明することができる。到達目標③④に関連して、「南西諸島の自然環境と人々の暮らし・産業」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	南西諸島の自然環境と人々の営み・産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。前期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
15	第一部 金12/25	後期の授業の総まとめ	前期の授業を振り返り、学んだことを再確認する。その後、前期の授業の「総まとめの小テスト」を実施し、解説・振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだ「日本の各地方の自然環境と人々の暮らしと産業」の内容を理解し、説明することができる。到達目標③④に関連して、前期に学んだ「日本の各地方の自然環境と人々の暮らしと産業」について課題意識を持ったことを考えまとめることができる。	
		事前学修	後期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	1年間の自然地理の授業で学んだことをこれからの日本での生活に実践的に生かす。	120分

科目名	日本の社会A	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「日本の社会」として日本人は中学校でどのように教えられているかをテキストを使って学び、参加者の自国と比較してその相違を明らかにして、参加者がグローバルな人材となるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
参加者が国際間で活躍できるグローバルな人材となるために、参加者の自国で教えられている自国についてと日本でのものとを比較し、知識を身に付け、自分、自国といった狭い見解のみに執られない、人間として成熟することを修得する。

【履修条件】
外国人留学生のみ単位となるが、それ以外の参加者も望みたい。

【授業方法】
演習形式。発表者はテキストの担当箇所を音読し解説し、自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はレポートを書き発表し、全員で話し合い、より高次の見解を求めていく。レポートは次回授業で講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ、個人の各種発表、およびレポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の社会についての十分な知識を得て、日本と自国の社会を比較し、公正に説明することができる。				2	2						
②	日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることに取り組むことができる。						2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第7回と第14回に、それまでの回から理解したことなどに関するレポートを公表、提出してもらい、到達目標②にかかわる、日本と自国のどちらにも偏重せず、他国を尊重する態度が身に付いてるかを確認する。		60									60
討論・発表等	毎回の授業でのグループ、個人の各発表において、分担箇所の理解が十分にできているか、発表資料が十全に作られているか、自分の見解を述べることができているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、公正な説明が十分に身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度												
その他(授業内レポート)	毎回の授業内レポートについて、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、日本の社会の十分な知識をもちつつ偏らない、公正な説明ができる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	80									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中学校の公民が1冊でしっかりわかる本』	蔭山克秀	かんき出版	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	日本の社会Aの学習	日本の社会Aの授業内容、修得しうる能力などについて説明する。参加者は授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自国と日本を偏らない視点で観ることの意義を説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスとメモ、レポートを確認し、その内容を十分に理解する。	120分
2	4/16	グローバル化と情報化	テキストの01「格差社会を拡散させるグローバル化の猛威」、02「情報化のキーワードはつながる」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、グローバル化と情報化について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	4/23	少子高齢化と安全な社会づくり	前回のレポート紹介と講評。テキストの03「世界一のスピード！日本は少子高齢化超特急だ」、04「環境問題だけじゃない！安全で幸せな社会づくり」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、少子高齢化と安全な社会づくりについて、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	4/30	文化と現代文化	前回のレポート紹介と講評。テキストの05「国や地域によって千差万別！生活に密着している文化」、06「マンガ・アニメは日本の誇る現代文化だ」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、文化と現代文化について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	5/7	自由と責任、正義について	前回のレポート紹介と講評。テキストの07「責任を伴わない自由なんてありえない！」、08「多数決こそが正義は危険！」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と責任、正義について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	5/14	基本的人権と主権者について	前回のレポート紹介と講評。テキストの09「あたり前だけどあたり前じゃない基本的人権」、10「天皇は神から人に、国民は家臣から主権者に!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、基本的人権と主権者について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	中間レポート試験と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの内容をまとめた中間レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、さらにそれを説明できる。	
		事前学修	これまでの授業内レポート、発表資料を振り返り、自分の見解を中間レポートとしてまとめておく。	120分
		事後学修	他者の見解を元に、授業内レポートを確認し、学んだことをまとめる。	120分
8	5/28	国民主権と自衛隊について	前回のレポート紹介と講評。テキストの11「国民こそが国家の支配者だ!」、12「自衛隊は戦力ではなく実力!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、国民主権と自衛隊について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	6/4	人権と差別問題について	前回のレポート紹介と講評。テキストの13「犯罪者にだって人権はある!？」、14「日本に存在する差別問題」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、人権と差別問題について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	6/11	自由と最低限度の生活について	前回のレポート紹介と講評。テキストの15「おれは自由だ〜って誰から、何から?」、16「健康で文化的な最低限度の生活って何?」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と最低限度の生活について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	6/18	参政権と人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの17「参政権なんていらねーよとかいっちゃダメ!」、18「人権は無制限には尊重できない!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、参政権と人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	6/25	憲法と人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの19「憲法に載っていない人権がある?」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、憲法と人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	新しい人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの20「社会の変化が生み出した新しい人権」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、新しい人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	7/9	後半のまとめと講評	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、後半の授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、それを説明することができる。	
		事前学修	第8回から第13回までのレジュメ、レポートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	7/16	総括と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は講義全体を振り返ってまとめた期末レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、これまでの授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、それを説明できる。	
		事前学修	初回から授業内レポート、発表資料のすべてを振り返り、自分の見解を期末レポートとしてまとめておく。	120分
		事後学修	他者の見解を元に、授業ノート確認し、学んだことをまとめる。	120分

科目名	日本の社会B	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「日本の社会」として日本人は中学校でどのように教えられているかをテキストを使って学び、参加者の自国と比較してその相違を明らかにして、参加者がグローバルな人材となるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
参加者が国際間で活躍できるグローバルな人材となるために、参加者の自国で教えられている自国についてと日本でのものとを比較し、知識を身に付け、自分、自国といった狭い見解のみに執られない、人間として成熟することを修得する。

【履修条件】
外国人留学生のみ単位となるが、それ以外の参加者も望みたい。

【授業方法】
演習形式。発表者はテキストの担当箇所を音読し解説し、自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はレポートを書き発表し、全員で話し合い、より高次の見解を求めていく。レポートは次回授業で講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ、個人の各種発表、およびレポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の社会についての十分な知識を得て、日本と自国の社会を比較し、公正に説明することができる。				2	2						
②	日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることに取り組むことができる。						2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、②に関わる日本の社会の十分な知識をもちつつ偏らない、公正な説明ができる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	毎回の授業でのグループ、個人の各発表において、分担箇所の理解が十分にできているか、発表資料が十全に作られているか、自分の見解を述べることができているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、公正な説明が十分に身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度												
その他(中間レポート)	第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを発表、提出してもらい、到達目標②にかかわる、日本と自国のどちらにも偏重しない態度が身に付いているかを確認する。		25									25
その他(期末レポート)	第14回に、これまでの全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを発表、提出してもらい、到達目標2②についての両国を尊重し、より良い関係を創造する力が身に付いているかを確認する。		35									35
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	80									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中学校の公民が1冊でしっかりわかる本』	蔭山 克秀	かんき出版	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	日本の社会Bの学習	日本の社会Bの授業内容、修得しうる能力などについて説明する。参加者は授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自国と日本を偏らない視点で観ることの意義を説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスと授業ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	9/24	主権と選挙権	前回のレポート紹介と講評。テキストの21「少数意見の持ち主もみんなが主権者」、22「お金がなくても選挙権を持っている」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、主権と選挙権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	10/1	選挙違反、政治と金	前回のレポート紹介と講評。テキストの23「連呼に電話に戸別訪問。いったいどれが選挙違反！？」、24「政治にカネがかかるは事実」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、選挙違反、政治と金について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	10/8	主張の偏り、国会議員	前回のレポート紹介と講評。テキストの25「あなたの主張、偏っていない？」、26「国会議員が何をする人かわかりますか？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、主張の偏り、国会議員について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	120分
5	10/15	国会、内閣	前回のレポート紹介と講評。テキストの27「ヤジ、バンザイ、審議拒否…国会の仕事って？」、28「国会と内閣ってどう違うんだっけ？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、国会、内閣について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	10/22	官僚、黙秘権	前回のレポート紹介と講評。テキストの29「官僚って何をする人？」、30「令状がないなら帰れ黙秘します！は憲法上の権利」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、官僚、黙秘権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	中間レポート試験と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの内容をまとめた中間レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、それを説明できる。	
		事前学修	これまでの授業内レポート、発表資料を振り返り、自分の見解を中間レポートとしてまとめておく。	120分
		事後学修	他者の見解を元に、授業内レポートを確認し、学んだことをまとめる。	120分
8	11/5	裁判員制度、国会・内閣・裁判所	前回のレポート紹介と講評。テキストの31「えっ！私が裁判員になるの？」、32「国会・内閣・裁判所はグー・チョキ・パーの関係」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、裁判員制度、国会・内閣・裁判所について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	11/12	地方、住民投票	前回のレポート紹介と講評。テキストの33「地方らしさの発揮って何をするの？」、34「外国人でも中学生でも政治に参加できる！？住民投票」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、地方、住民投票について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	11/19	経済、悪徳商法	前回のレポート紹介と講評。テキストの35「ごはんを食べ、服を買い、映画を観るのが経済」、36「悪徳商法には引っ掛かりたくない」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、経済、悪徳商法について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	12/3	自由と平等、会社組織	前回のレポート紹介と講評。テキストの37「自由を取るか、平等を取るか。それが分かれ目だ」、38「会社で一番偉いのは社長じゃない！？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と平等、会社組織について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	12/10	働く意味、働き方	前回のレポート紹介と講評。テキストの39「働くことの意味ってなんだろう？」、40「これからの働き方はどうなっていくんだろう？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、働く意味、働き方について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	需要と供給、紙幣の価値	前回のレポート紹介と講評。テキストの41「需要と供給ってどういうこと？」、42「ただの紙なのに、1万円札に価値があるのはなぜ？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、需要と供給、紙幣の価値について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	12/24	後半のまとめと講評	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、後半の授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、それを説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのレジュメ、レポートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	1/14	総括と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は講義全体を振り返ってまとめた期末レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、これまでの授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができるようになり、それを説明できる。	
		事前学修	初回から授業内レポート、発表資料のすべてを振り返り、自分の見解を期末レポートとしてまとめておく。	120分
		事後学修	他者の見解を元に、授業ノートを確認し、学んだことをまとめる。	120分

科目名	日本の前近代Ⅰ	担当者	清水 光明	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 古文書や図像などのさまざまな史料（歴史研究の材料）を使ってどのように歴史研究を進めていくのか、ということの切り口にして、歴史学の特質について学修する。特に、前近代の日本の史料（漢文や古文のようなもの）を中心素材として学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 自ら学び、自ら考えるための、知識獲得・相対的考察の基礎として、さまざまな資料から情報を抽出し、活用することへの初歩的な理解や、歴史に関するさまざまな情報を取捨選択するための初歩的な能力を修得する。
--

【履修条件】 恒常的に出席することができない者、授業に積極的に取り組むことができない者は、履修するべきではない。
--

【授業方法】 講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に配布した文献の一部を音読してもらったり、簡単な質問に答えてもらう機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人間の営為のなかで、どのように情報が残されていくのか、ということについて一定度の説明ができる。				2	2	2	2				
②	残された過去の情報をもとに、どのようにして「歴史」が明らかにされるのか、ということについて一定度の説明ができる。				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験。到達目標①②についての基本的な知識を身につけ、適切な理解ができているかを、筆記試験により評価する。	40	60									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験に対する全体の講評を、後日ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、授業の各回に関連する参考文献について紹介する。				

【オフィスアワー】
授業後の質問等に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・方法を紹介し、意義と取り組むべき課題を提示する	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、その到達目標の意義を理解する（関連SB0s①②）	
		事前学修	シラバスに目を通す。今までに触れてきた「歴史」について、振り返っておく	120分
		事後学修	授業の内容を復習し、参考文献のうち興味を持った文献を手にとってみる	120分
2	4/17	主題1 基礎 か？（1）—その目的と境界—	歴史学の目的とその境界について概観する	
		この回の到達目標	歴史学の目的と境界についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
3	4/24	主題1 展開 か？（2）—隣接諸分野との関係—	歴史学と隣接諸分野（政治学・法学・経済学等）との関係について概観する	
		この回の到達目標	歴史学と隣接諸分野との関係についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
4	5/1	主題2 基礎 時代区分とは何か？（1）—戦前の歴史学から戦後歴史学まで—	日本史の時代区分論について、戦前の歴史学から戦後歴史学までの主要な議論を概観する	
		この回の到達目標	日本史の時代区分論（戦前の歴史学～戦後歴史学）についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
5	5/8	主題2 展開 時代区分とは何か？（2）—現代歴史学の諸動向—	日本史の時代区分論について、現在歴史学の諸動向を概観する	
		この回の到達目標	日本史の時代区分論（現代歴史学）についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
6	5/15	主題3 基礎 史料とは何か？（1）—一次史料と二次史料—	史料についての基礎的な知識や留意点を概観する	
		この回の到達目標	史料についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	主題3 展開 史料とは何か？（2）—口承文芸とオーラル・ヒストリー—	無文字社会（アイヌ等）の歴史を辿るための「史料」の性格とその留意点を概観する	
		この回の到達目標	無文字社会の歴史を辿るための「史料」の性格と留意点について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
8	5/29	中間まとめ	前半の授業内容を振り返り、後半の授業の導入を述べる。授業内試験の説明も行う	
		この回の到達目標	前半の授業内容について振り返ることで、さらに一步深い理解に基づいた説明ができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
9	6/5	主題4 基礎 史料批判とは何か？（1）—その目的と方法—	史料批判の目的と方法について概観する	
		この回の到達目標	史料批判の目的と方法について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
10	6/12	主題4 展開 史料批判とは何か？（2）—言語論的転回との関係—	史料批判と言語論的転回の関係について、主要な議論を概観する	
		この回の到達目標	史料批判と言語論的転回の関係について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
11	6/19	主題5 基礎 拡大する史料（1）—書物研究の進展—	研究の進展にともなって新たな史料が開拓された事例（書物研究等）について概観する	
		この回の到達目標	書物研究の事例について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
12	6/26	主題5 展開 拡大する史料（2）—偽文書と由緒—	偽文書を活用した研究の方法や事例について概観する	
		この回の到達目標	偽文書を活用した研究の方法や事例について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	主題6 基礎 史料と現在 (1) 一 整理・保存・活用	史料の整理・保存・活用について概観する	
		この回の到達目標	史料の整理・保存・活用について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
14	7/10	主題6 展開 史料と現在 (2) 一 歴史実践とパブリック・ヒストリー	歴史実践とパブリック・ヒストリーについて概観する	
		この回の到達目標	歴史実践の諸相やパブリック・ヒストリーの動向について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
15	7/17	授業内試験及びまとめ	授業内試験を実施する	
		この回の到達目標	人間の営為のなかでどのように情報が残されるのかということ、及び残された過去の情報をもとにどのように「歴史」が明らかにされるのかということについて、一定程度説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	授業で説明した問題について、いかに解答するべきか考えておく	210分
		事後学修	今学期の授業内容を振り返り、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	30分

科目名	日本の前近代Ⅱ	担当者	清水 光明	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
江戸時代の社会について、史料を切り口に、いくつかの話題から掘り下げて考えていく。具体的には、漢文や古文のような江戸時代の史料を読み解きながら、日本の近世の村や、日本の近世の社会の特質について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら学び、自ら考えるための、知識獲得・相対的考察の基礎として、日本の近世の村や日本の近世の社会の特質について、基礎的な理解を持つ。それを踏まえて、現在の社会との類似点・相違点を考えることにより、現在の社会を捉え直す視点を獲得する。

【履修条件】
恒常的に出席することができない者、授業に積極的に取り組むことができない者は、履修するべきではない。

【授業方法】		
講義形式で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に配布した文献の一部を音読してもらったり、簡単な質問に答えてもらう機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	歴史的な視点に立ち、歴史的事象について説明できる。						2	2	2	2				
②	日本の近世の社会の特質について、基礎的な理解をもち、説明できる。						2	2	2	2				
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験。到達目標①②についての基本的な知識を身につけ、適切な理解ができているかを、筆記試験により評価する。	30	70									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	70									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験に対する全体の講評を、後日ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、授業の各回に関連する参考文献について紹介する。				

【オフィスアワー】
授業後の質問等に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/18	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・方法を紹介し、意義と取り組むべき課題を提示する
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、その到達目標の意義を理解する（関連SB0s①②）
		事前学修	シラバスに目を通す。今までに触れてきた「歴史」について、振り返っておく
		事後学修	授業の内容を復習し、参考文献のうち興味を持った文献を手にとってみる
2	9/25	主題1 基礎 近世日本の政治体制と東アジア（1）－統治組織の構造－	近世日本の政治体制の性格について、統治組織の構造を中心に概観する
		この回の到達目標	近世日本の政治体制の性格（統治組織の構造）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる
3	10/2	主題1 展開 近世日本の政治体制と東アジア（2）－中国・朝鮮との比較から－	近世日本の政治体制の性格について、中国・朝鮮との比較を中心に検討する
		この回の到達目標	近世日本の政治体制の性格（中国・朝鮮との比較）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる
4	10/9	主題2 基礎 近世日本の民間社会と庶民（1）－身分集団の様態－	近世日本の民間社会の特徴について、身分集団の様態を中心に概観する
		この回の到達目標	近世日本の民間社会の特徴（身分集団の様態）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる
5	10/16	主題2 展開 近世日本の民間社会と庶民（2）－出版文化の隆盛－	近世日本の民間社会の特徴について、出版文化の隆盛を中心に概観する
		この回の到達目標	近世日本の民間社会の特徴（出版文化の隆盛）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる
6	10/23	主題3 基礎 近世日本の対外関係と長崎（1）－出島・唐人屋敷・通詞－	近世日本の対外関係の実態について、出島・唐人屋敷・通詞といったキーワードを中心に概観する
		この回の到達目標	近世日本の対外関係の実態（出島・唐人屋敷・通詞）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	主題3 展開 近世日本の対外関係と長崎（2）—異国人・遊女・混血児—	近世日本の対外関係の実態について、異国人・遊女・混血児といったキーワードを中心に概観する	
		この回の到達目標	近世日本の対外関係の実態（異国人・遊女・混血児）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
8	11/6	中間まとめ	前半の授業を振り返り、後半の授業の導入を述べる。授業内試験の説明も行う	
		この回の到達目標	前半の授業内容について振り返ることで、さらに一步深い理解に基づいた説明ができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
9	11/13	主題4 基礎 近世琉球の政治・社会と東アジア（1）—中国・日本・薩摩との関係—	近世琉球の様態について、中国・日本・薩摩との関係を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世琉球の様態（中国・日本・薩摩との関係）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
10	11/20	主題4 展開 近世琉球の政治・社会と東アジア（2）—琉球文化の諸相—	近世琉球の様態について、その文化の諸相を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世琉球の様態（琉球文化の諸相）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
11	11/27	主題5 基礎 近世日本の政治・社会と知的ネットワーク（1）—私塾・会読・遊学—	近世日本に生起した知的ネットワークの様態について、私塾・会読・遊学を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世日本に生起した知的ネットワークの様態（私塾・会読・遊学）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
12	12/4	主題5 展開 近世日本の政治・社会と知的ネットワーク（2）—武士の上方在番と学問受容—	近世日本に生起した知的ネットワークの様態について、武士の上方在番の事例を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世日本に生起した知的ネットワークの様態（武士の上方在番の事例）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	主題6 基礎 幕末・維新时期へ（1）—天皇・朝廷の政治的浮上とその背景—	幕末・維新时期の諸相について、天皇・朝廷の政治的浮上を中心に概観する	
		この回の到達目標	幕末・維新时期の諸相（天皇・朝廷の政治的浮上）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
14	12/18	主題6 展開 幕末・維新时期へ（2）—ロシアの出現とその波紋—	幕末・維新时期の諸相について、ロシアの出現を中心に概観する	
		この回の到達目標	幕末・維新时期の諸相（ロシアの出現）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
15	12/25	授業内試験及びまとめ	授業内試験を実施する	
		この回の到達目標	歴史的な視点に立ち、日本の近世社会の特質について基礎的な知識を持ち、それを一定程度説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	授業で説明した問題について、いかに解答するべきか考えておく	210分
		事後学修	今学期の授業内容を振り返り、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	30分

科目名	日本の文化A	担当者	浅野 充	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本では1年の各時期に、また人の生涯を通じてさまざまな行事を行っている。それらは外国人留学生にとって、知っているもの、知らないもの、なじみやすいもの、なじみにくいものもあるだろう。そこで、この科目ではそれらの行事について学修していく。また、例えば、江戸や東京について、最新の出来事や日本独特の文化などに関しても考察し学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
留学生が日本において有意義な留学生生活を送るための基盤として、日本の年中行事について、その歴史と文化、自然条件を踏まえて、日本の文化を考える能力を獲得する。日本の年中行事、習慣の意味を知り、日本の文化、生活、社会に触れることで、自分の国の文化と比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できるようになる。

【履修条件】
外国人留学生のみ。

【授業方法】
テキスト購読を主とする。それ以外の内容についても、基本的に講義形式で行う。リアクションペーパー＝小テストと授業内試験のフィードバックはその都度、授業内にて行う（場合によってはポータルシステムも利用する）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の年中行事、習慣の意味を知り、説明できる				2	2	2	2				
②	日本の文化、生活、社会について、自分の国のそれと比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できる				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての理解が身についているかを、日本の文化と自分の国の文化を比べて、両者の違いの理解の確認と自分の意見を書く授業内試験により評価する。	20	50									70
小テスト等	到達目標①②について、毎回の授業終了時に実施する小テスト＝リアクションペーパーにより、各回の到達目標に即して達成されているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本人のしきたり』青春新書46	飯倉晴武	青春出版社	2003年		
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の3限と5限（授業の前後）に対応可能です。授業講堂にて。メールの場合はasano.mitsuru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木4/9	【ガイダンス】【干支と六曜】	授業計画などのガイダンスと導入。干支や六曜などを導入として取り上げ、日本の習慣やしきたりについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自国の文化、生活、社会と比較する素地をつくる。	
		事前学修	シラバス内容を確認するとともに、教科書の「はじめに」と「目次」を読み、興味を持った部分について、自国のものと比較し、まとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣との比較や、日本での生活とで思い浮かぶことをまとめておくこと。	120分
2	木4/16	【日本の花見】	花見と日本人（最新の出来事Ⅰ）。日本の花見の習慣の歴史や桜の種類などについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の桜の花見について、あらためて学修、整理をする。	
		事前学修	花見に行っておくことが望ましい。	120分
		事後学修	花見について、自分の国の習慣との比較や、日本での経験などをまとめておくこと。まだ行える花見があるかどうか調べる（行ってみても良いかもしれません）。	120分
3	木4/23	【日本の正月の行事、しきたり】	テキストを購読する：正月行事のしきたりⅠ。初日の出。初詣。門松。しめ飾り。年男。若水。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
4	木4/30	【日本の正月の行事、しきたり】	テキストを購読する：正月行事のしきたりⅡ。鏡餅。おとそ。おせち料理。雑煮。お年玉。書き初め。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。	120分
5	木5/7	【日本の正月の行事、しきたり】	テキストを購読する：正月行事のしきたりⅢ。初夢。七草がゆ。鏡開き。小正月。左義長。藪入り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
6	木5/14	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する：年中行事のしきたりⅠ。節分。初午。針供養。ひな祭り。お彼岸。花祭り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木5/21	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する：年中行事のしきたりⅡ。八十八夜。端午の節句。衣替え。七夕。土用の丑の日。お盆。盆踊り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。	120分
8	木5/28	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する：年中行事のしきたりⅢ。お月見。重陽の節句。恵比須講。酉の市。年の市。除夜の鐘。年越しそば。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。なお、3-8回までで取り上げたしきたりが、ちょうど時期的に合っているものについては、自分の住居の近所の行事を見学したりすることも良いかと思います。	120分
9	木6/4	【江戸と東京】	江戸と東京Ⅰ。近世都市江戸の成立について学修する。	
		この回の到達目標	現在、学びの場である日大法学部の所在する東京の歴史的な成り立ちを理解し、自国の人たちに概略を説明できるようになる。	
		事前学修	自分の住んでいる地域や日大法学部のある地域の地図をよく見ておくこと。歴史地図を見られればさらに良いです（2時間）。	120分
		事後学修	江戸について、知っていること、知りたいことを整理しておくこと。	120分
10	木6/11	【江戸と東京】	江戸と東京Ⅱ。大江戸の成立。水道橋の名称の由来と江戸の上水を学修し、江戸についてのビデオを見る。	
		この回の到達目標	日大法学部の所在する水道橋について興味を持ち、日本の江戸時代の文化、生活の一端を理解する。	
		事前学修	配布したプリントの江戸と東京の地図をよく見ておくこと。	120分
		事後学修	江戸について知ったこと、さらに知りたいことを整理してまとめておくこと（2時間）。	120分
11	木6/18	【日本の結婚のしきたり】	テキストを購読する：結婚のしきたりⅠ。婚姻。見合い。仲人。結納。神前結婚式。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の結婚の制度、しきたりについて、学修、整理をし、自国の結婚の制度、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
12	木6/25	【日本の結婚のしきたり】	テキストを購読する：結婚のしきたりⅡ。三三九度。披露宴。お色直し。引出物。里帰り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の結婚の制度、しきたりについて、学修、整理をし、自国の結婚の制度、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木7/2	【日本の懐妊・出産のしきたり】	テキストを購読する：懐妊・出産のしきたりⅠ。帯祝い。へその緒。お七夜。赤飯。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の懐妊・出産のしきたりについて、学修、整理をし、自国の懐妊・出産のしきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
14	木7/9	【日本の懐妊・出産のしきたり】	テキストを購読する：懐妊・出産のしきたりⅡ。お宮参り。お食い初め。初誕生祝い。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の懐妊・出産のしきたりについて、学修、整理をし、自国の懐妊・出産のしきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
15	木7/16	【授業内試験】【解説】	日本の文化Aの授業内試験とフィードバック、まとめ、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②が自分なりに達成できたかどうかを試験を通じて確認する。	
		事前学修	日本の文化Aの授業内容について、ノート・小テストを見直し、確認しておくこと	120分
		事後学修	授業内試験問題・正解の確認と、日本のしきたりなどで、テキスト以外で、さらに知りたいことを整理しておくこと。	120分

科目名	日本の文化B	担当者	浅野 充	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本では、お祝いや弔事（葬儀など）の時などにさまざまな行事を行っている。それらは外国人留学生にとって、知っているもの、知らないもの、なじみやすいもの、なじみにくいものもあるだろう。そこで、この科目ではそれらの行事について学修していく。また、例えば歴史都市、最新の出来事や日本独特の文化などに関しても考察し学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
留学生が日本において有意義な留学生生活を送るための基盤として、日本の慶事（お祝い）や弔事（葬儀など）の行事、手紙の作法について、その歴史と文化、自然条件を踏まえて、日本の文化を考える能力を獲得する。日本の慶事・弔事の行事、習慣の意味を知り、日本の文化、生活、社会に触れることで、自分の国の文化と比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できるようになる。

【履修条件】
外国人留学生のみ。

【授業方法】
テキスト購読を主とする。それ以外の内容についても、基本的に講義形式で行う。リアクションペーパー＝小テストと授業内試験のフィードバックはその都度、授業内にて行う（場合によってはポータルシステムを利用する）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の慶事や弔事の行事、手紙作法の意味を知り、説明できる				2	2	2	2				
②	日本の文化、生活、社会について、自分の国のそれと比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できる				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての理解が身についているかを、日本の文化と自分の国の文化を比べて、両者の違いの理解の確認と自分の意見を書く授業内試験により評価する。	20	50									70
小テスト等	到達目標①②について、毎回の授業終了時に実施する小テスト＝リアクションペーパーにより、各回の到達目標に即して達成されているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本人のしきたり』青春新書46	飯倉晴武	青春出版社	2003年		
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の3限と5限（授業の前後）に対応可能です。授業講堂にて。メールの場合はasano.mitsuru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木9/17	【ガイダンス】【日本の休日制度】	授業計画などのガイダンスと導入を行う。受講学生が重なるようであれば、日本の文化Aの定期試験の返却なども行う予定。導入については、日本の休日制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の休日制度と文化との関わりを理解し、その歴史や現状を理解し、学修する。	
		事前学修	シラバス内容を確認するとともに、教科書の「はじめに」と「目次」を読み、興味を持った部分について、自国のものと比較し、まとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱った休日などについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみること。	120分
2	木9/24	【日本の祝い事】	テキストを購読する：祝い事のしきたりⅠ。七五三。十三参り。成人式。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の祝い事の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
3	木10/1	【日本の祝い事】	テキストを購読する：祝い事のしきたりⅡ。還暦の祝い。長寿の祝い。地鎮祭。棟上式。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の祝い事の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。2・3回目に取り上げたしきたりが自分の周りで行われているようでしたら、見学させてもらおうと思います。	120分
4	木10/8	【日本の贈答の行い方】	テキストを購読する：贈答のしきたりⅠ。中元。歳暮。贈答品の包装。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の贈答の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
5	木10/15	【日本の贈答の行い方】	テキストを購読する：贈答のしきたりⅡ。水引。のし。贈答品の表書き。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の贈答の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。4・5回目に取り上げたしきたりを自分が実際に行う体験がある人は良く思いだしておくこと。	120分
6	木10/22	【歴史都市京都】	観光都市・歴史都市の京都について学修するⅠ。平安京を中心にして日本の古代の都の具体的実像を理解し、確認する。	
		この回の到達目標	日本の平安京と中国の唐の長安城とを比較し、両者の類似点、相違点を整理する。	
		事前学修	自分が旅行などで、京都のどこに行ったかを思いだし整理しておくこと。地図などを駆使することもお勧めです。	120分
		事後学修	自分が行ったことのある京都の観光地などは歴史的にみるとどの時代のものかを整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木10/29	【歴史都市京都】	観光都市・歴史都市の京都について学修するⅡ。その後の（中世・近世・近代・現代）の京都の変遷を理解し、確認する。京都の人気観光スポットを概観する。	
		この回の到達目標	中世以後の京都の歴史を学修し、理解する。京都の人気観光スポットを確認し、その歴史と注目点を学修し、理解する	
		事前学修	配布プリントをよく見ておくこと。授業では説明し切れていない部分もあるので、その部分はよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	今後、京都のどこに行きたいかをあらためて考えてみる。世界遺産、国宝などの該当寺社なども調べてみると興味がわくと思います。	120分
8	木11/5	【歴史都市京都】	観光都市・歴史都市の京都について学修するⅢ。京都御所のビデオを見る。	
		この回の到達目標	現在の京都御所の所在地、歴史、注目点を学修するために、京都御所の歴史を概観するビデオを視聴する。時間があれば、京都についての他のビデオも視聴する。	
		事前学修	京都御所について、歴史や所在地について調べてみる。	120分
		事後学修	京都御所のビデオを見た感想をまとめてみる。	120分
9	木11/12	【日本の手紙の書き方】	テキストを購読する：手紙のしきたりⅠ。手紙と葉書。表書き。裏書き。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、自国の手紙の書き方、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに、日本で自分にきた手紙を読み返してみる。	120分
		事後学修	授業で講義した内容を基に、表書きと裏書きを書く練習をしてみる。	120分
10	木11/19	【日本の手紙の書き方】	テキストを購読する：手紙のしきたりⅡ。頭語と結語。時候のあいさつ。実際に、手紙の凡例を書く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、日本式の手紙を書くことができるようになる。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに自分が日本で書いた手紙を思い起こしておく（2時間）。	120分
		事後学修	授業で学んだ手紙の書き方を復習し、これまでに自分にきた手紙の正しい部分、問題のある部分を確認して（2時間）。	120分
11	木12/3	【日本の手紙の書き方】	テキストを購読する：手紙のしきたりⅢ。年賀状。暑中見舞い。手紙の禁忌言葉。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、日本式の手紙の書き方の細部を理解する。季節柄、年賀状を書くことができるようになる。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の時候の手紙を確認して（現在だけでなく、古い習慣も調べてみる）。	120分
		事後学修	授業で取り扱った手紙や禁忌言葉について、自分の国の手紙などと具体的に比較し、まとめてみる。	120分
12	木12/10	【日本の葬儀】	テキストを購読する：葬式のしきたりⅠ。末期の水。死装束。北枕。通夜。葬式。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀に関わる準備、行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておく。	120分
		事後学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木12/17	【日本の葬儀】	テキストを購読する：葬式のしきたりⅡ。焼香。戒名。位牌。お布施。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀に関わる準備、行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。	120分
		事後学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみること（2時間）。	120分
14	木12/24	【日本の葬儀】	テキストを購読する：葬式のしきたりⅢ。出棺。香典。忌中と忌明け。精進落とし。年忌法要。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀に関わる準備、行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。特に香典の金額の相場を学修する。	
		事前学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみること。	120分
		事後学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみること。	120分
15	木1/14	【授業内試験】【解説】	日本の文化Bの授業内試験、フィードバック、まとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②が自分なりに達成できたかどうかを試験を通じて確認する。	
		事前学修	日本の文化Bの授業内容について、ノート・小テストを見直し、確認しておくこと。	120分
		事後学修	試験の正解の確認と自分の意見を振り返っておくこと。また、日本のしきたりなどで、さらに知りたいことを整理しておくこと。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし。ただし、4年生の優遇は、就職活動による欠席を含め、一切ないものとする。また、初回の講義には必ず出席すること。また、皆出席が前提であり、各期4回を超える欠席は原則として、単位を認定しない。

【授業方法】
板書や配布プリント、映像資料を中心として講義をするが、講義ノートは必需品である。授業内試験の解説は最終回に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特にないが、発言をもとめることはある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	最初の講義で指示する。				

【オフィスアワー】
水曜 5 限 授業終了後 授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 (4/8)	【ガイダンス】【言語遊戯とは】	年間講義計画・評価法などについてのガイダンスと、言語遊戯について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、言語遊戯の歴史について、説明できる。	
		事前学修	シラバスを熟読すること。	120分
		事後学修	江戸時代について概観する。	120分
2	第一部水 (4/15)	【江戸文学とはなにか】	江戸文学とは何かを理解し、前時代との差異を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、江戸文学史を説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえてノートをとめる。	120分
3	第一部水 (4/22)	【言語遊戯の発生】	言語遊戯の発生について理解し、その文学的背景を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して言語遊戯における和歌の位置について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえてノートをとめる。	120分
4	第一部水 (4/29)	【中世の連歌となぞ】	中世・近世の「なぞ」について理解し表現の方法を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して多様化する言語遊戯と連歌の関係について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	なぞについて調査し、レポートする。	240分
5	第一部水 (5/6)	【変容する文芸と言語遊戯】	川柳前夜について講義する。新たなジャンルの誕生過程と時代背景を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、川柳誕生の時代背景と読者層について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	都市としての「江戸」について調査する。	180分
6	第一部水 (5/13)	【新たな文芸都市、江戸】	川柳と文運東漸について理解し、新興都市における文化の発展について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、上方から江戸への文化移動について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえてレポートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 (5/20)	【通俗化された歴史と川柳】	歴史と川柳について講義する。詠史句について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、庶民の文芸への参画について説明し、自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	240分
8	第一部水 (5/27)	【川柳に描かれた習俗】	日常句と川柳について講義する。現在も変わらぬ人の心理について作品を通して理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当時の習俗と現代の習俗の違いを説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
9	第一部水 (6/3)	【パロディとは何か】【百人一首と言語遊戯】	パロディについて、百人一首を題材に講義する。古来より親しまれてきた古典をどのように変換し、笑いに換えるかを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パロディについて説明でき、その上で、百人一首を用いた言語遊戯について自分の考えをのべることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	百人一首について調査士、まとめる。	180分
10	第一部水 (6/10)	【文芸における見立て】	見立てについて講義する。共通理解のもと作られたさまざまな文芸について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、見立ての技法について説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	60分
		事後学修	見立てを用いた作品について調査する。	180分
11	第一部水 (6/17)	【現代の漫画と見立て絵本】	見立て絵本について講義する。その豊かな表現力を理解し、現在の漫画との差異を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して漫画と見立て絵本の関連性について説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
12	第一部水 (6/24)	【芸能と言語遊戯】	言語遊戯と他文芸について講義する。話芸や歌舞伎に用いられた言語遊戯を理解し、豊かな表現力を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、芸能に表現された言語遊戯について説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 (7/1)	【浮世絵に描かれた言語遊戯】	浮世絵と言語遊戯について講義する。実際に「判じ絵」を鑑賞し、その面白さを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、浮世絵に描かれた言語遊戯の意図を理解し、自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	浮世絵についてレポート作成。	180分
14	第一部水 (7/8)	【確認テストと解説】	授業内試験と解説	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講義の全体像を的確に説明できる。	
		事前学修	前期内容を踏まえ、ノートをまとめる。	120分
		事後学修	川柳についてのレポート作成。	180分
15	第一部水 (7/15)	【全体の概観】	前期のまとめ。全体を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④のすべてについて、自分の理解度を文章化できる。	
		事前学修	解説をもとに質問を考える。	120分
		事後学修	前期講義を復習する。今回のテーマについて予習する。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式。数回復習テストを実施し、次回授業時にフィードバックする。なお、詳細な古典文法を問うことはない。提出されたレポートについては、ポータルシステムで講評を公開する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回の復習テストの実施とそのフィードバック。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。				2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。					2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。						2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。取り上げる作品等の情報はポータルシステムで公開する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス『万葉集』とは？	前期の授業計画と内容、目標についての説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大まかな8世紀の日本で成立した『万葉集』の概略を理解することができる。	
		事前学修	高校の教科書などを使って、『万葉集』がどのように成立しかののか、まとめておく。	120分
		事後学修	授業ノートを整理し、学修の振り返りをするとともに、今後の学修計画を検討しておく。	120分
2	4/13	8世紀の日本とは？	「日本」と「天皇」の成立時期とその意義について学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「日本」・「天皇」の成立を通して、8世紀の日本が行った外交政策について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	『万葉集』が成立した時期と、「日本」「天皇」が成立した時期について確認する。	120分
3	4/20	田辺福麻呂とは？	田辺福麻呂に関する説明を受け、渡来人系歌人の一実態を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宮廷歌人的な存在でもあった田辺福麻呂の人物像を通して、古代の官人の地方赴任時の業務について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
4	4/27	田辺福麻呂の宴席歌とは？	田辺福麻呂が歌を披露した宴席歌群全体を通して、宴席でのルールを学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、田辺福麻呂の宴席歌からうかがえる、地方の地名が同音の別の語を連想させ、歌のレトリックとして用いられる表現の戯遊性について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における田辺福麻呂の役割について確認する。	120分
5	5/4	秦朝現とは？	秦朝元に関する説明を受け、宴席で歌を披露することができなかった歌人の事情を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、秦朝元からうかがえる渡来系氏族の一実態と、天皇臨席の宴席における人間関係（政敵を含む）の一端を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
6	5/11	宴席の座席は決まっているの？	秦朝元が歌を披露した宴席歌群全体を通して、天皇臨席の宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、身分によって「大殿」と「南の細殿」に席が分けられ、身分の高い人から順に歌を披露されていくこの時代の宴席の特徴について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における秦朝元の役割を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	大伴家持とは？	大伴家持に関する説明を受け、家持がいかに宴席に慣れていたかを学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当時21歳の大伴家持をはじめ若い貴族子弟が参集された宴席での、家持の立ち位置を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
8	5/25	宴席のルールとは？	大伴家持が参加した「黄葉」を主客にした宴席全体を通して文雅を愛する子弟たちの宴席歌の特徴について学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、身分秩序に基づいた席順、歌を披露する順番、歌で表現しなければならないルール等と理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における大伴家持の役割を確認する。	120分
9	6/1	大伴坂上郎女の伝記的情報とは？	大伴坂上郎女の伝記的情報とはどのようなものか学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『万葉集』が伝える坂上郎女の伝記的情報の特殊性を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
10	6/8	女性歌の「引き留め歌」とは？	大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、女性歌の宴席での役割を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、坂上郎女歌の宴席歌「引き留め歌」の特徴を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する①。	120分
11	6/15	禁酒令とは？	古代の禁酒令について学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日照りの害や疫病、災害に関する対策の一つで公布される禁酒令とそれらが目的ではなく公布された禁酒令との違いを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
12	6/22	酒と宴席歌の関係性とは？	大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、酒と歌との関係性について学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、酒と宴席歌との関連性を通して、宴席歌における表現の意図についても理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する②。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	藤原仲麻呂とは？	藤原仲麻呂の政治家としての活躍を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、藤原氏の頂点に立っていた時の藤原仲麻呂の人物像について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
14	7/6	宴席における君臣秩序とは？	藤原仲麻呂が歌を披露した宴席歌群を通して、歌による君臣秩序の作用を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、あえて歌の形で自分の力を誇示した藤原仲麻呂の宴席歌の特徴について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における藤原仲麻呂の役割を確認する。	120分
15	7/13	前期のまとめ	前期の授業内容を振り返り、理解の到達点を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修した宴席歌の特徴を整理し、宴席は社交の場であり、平城京時代の歌文化がいかに豊饒であったかを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	貴族は宴席で歌を披露するルールをどのように理解していたのかを確認する①。	180分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義時にプリントを配布する。毎回、前回提出のコメントシートを教場にて読み上げ講評する。なお、扱う文学者は講義の進行具合に応じて変化する可能性があることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントシートに対するレスポンスを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内での解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に配布するプリントを主に使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 4/8	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。近代と日本の文学について。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義の概要をつかむことができる。	
		事前学修	明治期の歴史について確認しておくこと。	120分
		事後学修	近代と日本の文学について、講義内容を復習しておくこと。	120分
2	第一部 水 4/15	明治期の「ユートピア」思想	政治小説とSF	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	明治期の歴史について確認しておくこと。	120分
		事後学修	政治小説とSFについて、講義内容を復習しておくこと。	120分
3	第一部 水 4/22	坪内逍遙	近代小説の理論と実践	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	坪内逍遙について確認しておくこと。	120分
		事後学修	坪内逍遙と二葉亭四迷について、講義内容を復習しておくこと。	120分
4	第一部 水 4/29	二葉亭四迷	言文一致について	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	二葉亭四迷について確認しておくこと。	120分
		事後学修	泉鏡花と柳田国男について、講義内容を復習しておくこと。	120分
5	第一部 水 5/6	森鷗外（1）	〈立身出世〉の問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	森鷗外について確認しておくこと。	120分
		事後学修	森鷗外について、講義内容を復習しておくこと。	120分
6	第一部 水 5/13	森鷗外（2）	ベルリンの空間	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	森鷗外について確認しておくこと。	120分
		事後学修	森鷗外について、講義内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 5/20	明治初期のジャーナリスト ／樋口一葉（1）	江戸から東京へ	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	松原岩五郎、横山源之助、樋口一葉について確認しておくこと。	120分
		事後学修	松原岩五郎、横山源之助、樋口一葉について、講義内容を復習しておくこと。	120分
8	第一部 水 5/27	樋口一葉（2）	近代における〈子ども〉	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	樋口一葉について確認しておくこと。	120分
		事後学修	樋口一葉について、講義内容を復習しておくこと。	120分
9	第一部 水 6/3	自然主義（1）	永井荷風と初期自然主義	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	永井荷風について確認しておくこと。	120分
		事後学修	永井荷風について、講義内容を復習しておくこと。	120分
10	第一部 水 6/10	自然主義（2）	島崎藤村と田山花袋	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	島崎藤村、田山花袋について確認しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	島崎藤村、田山花袋について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）	120分
11	第一部 水 6/17	泉鏡花、柳田國男	〈山〉とロマン主義的「文学」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	泉鏡花、柳田國男について確認しておくこと。	120分
		事後学修	泉鏡花、柳田國男について、講義内容を復習しておくこと。	120分
12	第一部 水 6/24	夏目漱石（1）	労働力の問題	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	夏目漱石について確認しておくこと。	120分
		事後学修	夏目漱石について、講義内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 7/1	夏目漱石（2）	鉱山の時空間	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	夏目漱石について確認しておくこと。	120分
		事後学修	夏目漱石について、講義内容を復習しておくこと。	120分
14	第一部 水 7/8	芥川龍之介、谷崎潤一郎	ロシア革命のインパクト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	芥川龍之介、谷崎潤一郎について確認しておくこと。	120分
		事後学修	芥川龍之介、谷崎潤一郎について、講義内容を復習しておくこと。	120分
15	第一部 水 7/15	振り返り	近代と日本の文学について。半期の講義を振り返り、理解の到達度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解し、最終課題を提出することができる。	
		事前学修	最終課題の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	近代と日本の文学について、前期講義内容の確認をしておくこと。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	山岸 郁子	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし。手に入りやすい作品を扱うので、必ずあらかじめ読んでおくこと。また資料を配付するのでスクラップし持参すること。

【授業方法】		
資料を使いながらの講義形式の授業。各自の意見をコメントシートに書いて提出する(その紹介)などし て、一方通行の授業にならないように注意する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により，毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と，到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で小テストやコメントシートについて講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（プリントを配布する）。				

【オフィスアワー】
火曜日18時～19時30分（休暇中を除く。事前にメールでアポイントを取ること）講師室。yamagishi.ikuko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	【ガイダンス】【文学と文学的なるものとは】	樋口一葉「たけくらべ」を取り上げ〈文学〉と〈文学的〉なるものの関係性について学修する。また授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価のポイントを説明し、事前、事後の学習方法について理解し、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文学を読むための基本的なリテラシーを修得し、身の回りにある〈文学的〉なるものについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、国語教育において読んできた具体的な作品と学んだ内容についてノートに整理し、講義内容と比較・検討することができるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、国語教育において学んできた作品の読み方と異なる多様な分析方法について理解する。	80分
2	4/14	【文学の背景を知るためには】	樋口一葉「たけくらべ」について、作品に映し出された時代背景や社会状況を知るための調査の仕方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、作品の時代背景や言語空間について、当時の地図や書簡を用いて理解し、説明することができる。	
		事前学修	「たけくらべ」と樋口一葉について調べ、作品を精読しておく。	80分
		事後学修	「たけくらべ」を再読し、時代背景や社会状況から読み解けるところをノートにまとめる。	80分
3	4/21	【文学の構造を理解するためには】	森鷗外「舞姫」について、作品を構造化して認識し、語りの機能について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「語り」の位置について確認し、作品の中でどのような役割をはたしているのか理解し、説明することができる。	
		事前学修	「舞姫」を読み、概要をつかんでおく。また森鷗外について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「舞姫」を再読し、エリスと出会う前後について、それぞれ内容をノートに簡潔にまとめる。	80分
4	4/28	【文学作品のプロットを正確に把握するためには】	森鷗外「舞姫」について、登場人物の関係性を整理し、物語においてどのような役割を果たしているのか学修する。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、文学を批評的に読むために必要なリテラシーを確認し、自分の言葉で表現することができる。	
		事前学修	「舞姫」における登場人物の役割についてノートに整理しておく。	80分
		事後学修	「舞姫」を再読し、理解を深める。太田豊太郎について自分の言葉で批評的に分析し、ノートにまとめる。	80分
5	5/5	【文学とメディアの関係について理解するためには】	夏目漱石「こころ」について、新聞メディア（「朝日新聞」）と小説の関係性について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「こころ」と掲載紙である「朝日新聞」との関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「こころ」を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。「こころ」の中で新聞がどのように扱われているのか、ノートにまとめる。夏目漱石について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「こころ」の中で新聞に関して記述された部分を再読し、その役割について理解する。	80分
6	5/12	【他者との関わりと物語のプロットとの関係を把握するためには】	夏目漱石「こころ」について、登場人物の関係性とその意味について分析・学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、「こころ」に登場する人間関係を押さえ、その意味と役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	夏目漱石について国語便覧などを用いて、その代表的な作品を押さえておく。	80分
		事後学修	「こころ」を再読し、「先生」と「K」、「先生」と「私」、そして「お嬢さん」「奥さん」の関係性に対する理解を深める。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	【文学における表現技法の効果について理解するためには】①	芥川龍之介「羅生門」について、作品世界を映し出すための技法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、表現技法の効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「羅生門」を読み、書かれている概要をつかんでおく。芥川龍之介について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「羅生門」を再読し、映像的な表現について再確認する。	80分
8	5/26	【文学における表現技法の効果について理解するためには】②	芥川龍之介「蜘蛛の糸」について、作品世界を映し出す「視点」に着目して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、作品が発表された時代状況（テクノロジーの発展）と作品との関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「蜘蛛の糸」を読み、なぜ糸が切れたのか自分なりに理由を考え、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「蜘蛛の糸」を再読し、移動する「視点」について、同時代の文脈において理解する。発展学習として「鼻」（プリント配布）を読む。	80分
9	6/2	【文学における区別と差別について理解するためには】	宮沢賢治「注文の多い料理店」において、象徴されている世界を正確にとらえる方法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「東京」と「山奥」の違いをとらえ、ダブルミーニングの効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「注文の多い料理店」を読み、「東京」と「山奥」を示す言葉についてノートに整理しておく。宮沢賢治について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「注文の多い料理店」を再読し、その特徴について理解を深める。	80分
10	6/9	【文学表現として地方言語やオノマトペの効果について理解するためには】	宮沢賢治「永訣の朝」「やまなし」について、地方言語やオノマトペ（擬音語・擬態語）の効果について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、宮沢賢治「永訣の朝」「やまなし」をとおして豊かな表現方法の可能性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「永訣の朝」「やまなし」を読み、描かれている内容について把握しておく。宮沢賢治について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「永訣の朝」「やまなし」を再読し、宮沢賢治作品が持つ特徴について理解を深める。（80分）	80分
11	6/16	【文学の中に表れる批評的言説について理解するためには】	川端康成「バッタと鈴虫」における語りの転移について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「バッタと鈴虫」について、その構造を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「バッタと鈴虫」を読み、作品の入れ子構造について図式化しノートにまとめておく。川端康成について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「バッタと鈴虫」を再読し、その特徴について理解を深める。発展学習として「雨傘」（プリント配布）を読む。	80分
12	6/23	【文学に表現される「生」と「死」について理解するためには】	志賀直哉「城の崎にて」における時間の流れと思考の変化について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、表現を追いながら、「私」の思考を変化させるポイントについて正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	「城の崎にて」を読み、心境が変化する出来事をノートにまとめる。志賀直哉について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「城の崎にて」を再読し、その特徴について理解を深める。発展学習として、「生」と「死」について書かれた文学作品をノートに書き出す。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	【文学における作家とはどのような存在であるか理解するためには】	太宰治「富嶽百景」について分析し、作家イメージの生成と流通について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「富嶽百景」に登場する「私」と太宰治という署名との関係を整理し、作家イメージの流通について学修する。	
		事前学修	「富嶽百景」を読み、書かれている概要をつかんでおく。太宰治について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	小説内での言葉と太宰治の伝記的イメージとの関係性について整理し、作家と表現の関係について理解を深める。	80分
14	7/7	【文学を読解する力、自分の考えを説明する表現力を身につけるためには】	文学の基本・読解・分析・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を学修できたかどうか試験によって確認する。また自分の解答を通して、振り返り学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「文学」作品を方法論別に読み、それを批評的な文章で記述できるか試験によって確認する。試験のポイントについて振り返り、自分の解答の問題点を探る。	
		事前学修	これまでの講義内容をまとめ、文学を読むための複数の方法について整理し、理解する。また授業内試験の準備と対策をしておく。	120分
		事後学修	授業内試験の問題を確認し、授業での解説に備える。	80分
15	7/14	【国語教育における文学の役割を確認するためには】	これまでの講義内容をまとめ、文学を読み解くための方法について振り返り学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、問題意識を深化・発展させるための概要を説明する。近代日本文学について半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。	
		事前学修	授業内試験の問題について改めて作成した解答をノートに記述し、授業での解説に備える。	80分
		事後学修	授業内に行った試験の解説・講評・紹介を参考にして、これまでの授業をまとめるとともに、紹介した参考文献を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。	80分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	小野 美典	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし(古典の文章を扱うが口語訳等は適宜配付する。口語訳するのが目的ではなく、文学を理解するのが目的なので、高校初級程度の古典の力があれば理解できるように講義を進める)。古語辞典(電子辞書可)を持参すること。

【授業方法】
【注意】この授業では、日本の古典文学を扱う。平安時代の歌物語『伊勢物語』『大和物語』を読む。授業方法は、プリント資料を使いながらの講義形式の授業。各自の意見をリアクションペーパーに書いて提出する(その紹介)などして、一方通行の授業にならないように注意する。14回目に授業内試験、15回目にその解説と講評を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーによる双方向授業。また、受講者数にもよるがグループワークなどを取り入れた授業も行う予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出の次の週の授業内に対応。また、15週目の講義でも総合的なフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（担当者がプリントを用意する）。				

【オフィスアワー】
水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第 1 回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月曜日 9/14 第2部 火曜日 9/15	ガイドランスと歌物語の基礎知識	〔1〕授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。〔2〕歌物語の概要。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、歌物語についての基本的な事項を説明できることを目標とする。	
		事前学修	高校時代に学習した便覧・文学史のテキストなどで歌物語にどのようなものがあるのか調べて講義に臨む。	120分
		事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、歌物語の概要に関して整理しておく。	120分
2	第1部 月曜日 9/21 第2部 火曜日 9/22	『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の概要	『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の概要とその特質	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』についての基本的な事項を説明できることを目標とする。	
		事前学修	高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧などで、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』に関して書かれている部分を読み直す。また、そこに書かれている内容に関して、図書館・ネットなどで深く調査しておく。	120分
		事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の特質をまとめる。	120分
3	第1部 月曜日 9/28 第2部 火曜日 9/29	『伊勢物語』の序段を読む	『伊勢物語』を読む〔その1〕——初段「初冠」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「初冠」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの初段「初冠」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕有職故実としての語句「初冠」について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、初段「初冠」に対する理解を深める。〔2〕「いちはやきみやび」とは何なのかをまとめる。	120分
4	第1部 月曜日 10/5 第2部 火曜日 10/6	『伊勢物語』の芥川伝説	『伊勢物語』を読む〔その2〕——六段「芥川」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「芥川」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの六段「芥川」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕当該本文の構成の面白さについて考えておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、六段「芥川」に対する理解を深める。	120分
5	第1部 月曜日 10/12 第2部 火曜日 10/13	『伊勢物語』が描く男女のすれ違い	『伊勢物語』を読む〔その3〕——二十四段「梓弓」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「梓弓」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの二十四段「梓弓」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕古典世界における「弓」「矢」の呪術的な意味合いについて調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、二十四段「梓弓」に対する理解を深める。〔2〕女の心情の変化を整理する。（2時間）	120分
6	第1部 月曜日 10/19 第2部 火曜日 10/20	『伊勢物語』が描く男の理想像	『伊勢物語』を読む〔その4〕——四十五段「ゆく蜆」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「ゆく蜆」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの四十五段「ゆく蜆」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕蜆の見られる季節やその特色について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、四十五段「ゆく蜆」に対する理解を深める。〔2〕和歌に込められた男の思いをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 月曜日 10/26 第2部 火曜日 10/27	『伊勢物語』の和歌を楽しむ	『伊勢物語』を読む〔その5〕——百二十三段「鶉」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「鶉」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百二十三段「鶉」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「深草」の地について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百二十三段「鶉」に対する理解を深める。〔2〕男の心情の変化について整理する。	120分
8	第1部 月曜日 11/9 第2部 火曜日 11/10	『伊勢物語』の結末	『伊勢物語』を読む〔その6〕——百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、在原業平の辞世の歌に込められた思いが説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「辞世の歌」について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」に対する理解を深める。〔2〕業平の恋愛について整理しておく。	120分
9	第1部 月曜日 11/16 第2部 火曜日 11/17	『大和物語』の芦刈伝説	『大和物語』を読む〔その1〕——百四十八段「芦刈」 （1）	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、『大和物語』の芦刈説話の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百四十八段「芦刈」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕男の心情の変化について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百四十八段「芦刈」に対する理解を深める。	120分
10	第1部 月曜日 11/23 第2部 火曜日 11/24	『大和物語』の芦刈伝説と他の作品	『大和物語』を読む〔その2〕——百四十八段「芦刈」 （2）	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、登場人物の心情の変化が論理的に説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百四十八段「芦刈」の本文を読み、ストーリーを整理する。〔2〕「芦刈伝説」について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百四十八段「芦刈」に対する理解を深める。〔2〕物語中の和歌の役割について考えてみる。	120分
11	第1部 月曜日 11/30 第2部 火曜日 12/1	『大和物語』の伝説の描き方	『大和物語』を読む〔その3〕——百五十段「猿沢の池」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「猿沢の池」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百五十段「猿沢の池」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百五十段「猿沢の池」に対する理解を深める。〔2〕猿沢の池に関して発展学習として調べてみる。	120分
12	第1部 月曜日 12/7 第2部 火曜日 12/8	『大和物語』の人物描写	『大和物語』を読む〔その4〕——百五十六段「姥捨」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「姥捨」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百五十六段「姥捨」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕男の心情の変化について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントの百五十六段「姥捨」の本文を再読し、登場人物三人の人物像を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月曜日 12/14 第2部 火曜日 12/15	『大和物語』と他の作品の比較研究	『大和物語』を読む〔その5〕——百五十八段「鹿鳴く声」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「鹿鳴く声」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百五十八段「鹿鳴く声」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕『今昔物語集』掲載本文との違いについて考えておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百五十八段「鹿鳴く声」に対する理解を深める。〔2〕男の恋心を取り戻された理由について整理する。	120分
14	第1部 月曜日 12/21 第2部 火曜日 12/22	半年間の学びの振り返り	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、歌物語の特質を説明できるとともに実際の章段の読解を通じて『伊勢物語』『大和物語』の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	これまでの講義内容をまとめ、「歌物語に見られる「生」「愛」「死」のかたち」について整理し理解する。授業内試験の準備と対策をしておく。	180分
		事後学修	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。	120分
15	第1部 月曜日 1/18 第2部 火曜日 1/12	まとめと到達度確認テスト	〔1〕14回目に実施した試験の解説・講評。質疑応答。〔2〕授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、歌物語や『伊勢物語』『大和物語』の特質を他者に向かって説明できることを目標とする。	
		事前学修	14回目の授業内試験の問題を再度確認し、授業での解説に備える。	180分
		事後学修	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。	60分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし。ただし、４年生の優遇は、就職活動による欠席を含め、一切ないものとする。また、初回の講義には必ず出席すること。また、皆出席が前提であり、各期４回を超える欠席は原則として、単位を認定しない。

【授業方法】
板書や配布プリント、映像資料を中心として講義をするが、講義ノートは必需品である。授業内試験の解説は最終回に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的には行わないが、発言を求めることはある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により，毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と，到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	最初の講義で指示する。				

【オフィスアワー】
水曜 5 限 授業終了後 授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 (9/16)	【ガイダンス】【日本の芸能】	後期講義のガイダンスと評価について理解する。また、日本の芸能の発生について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の芸能の発生について、説明できる。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	60分
		事後学修	歌舞伎以前の芸能について、調査する。	180分
2	第一部水 (9/23)	【かぶきの発生】	かぶきの発生について理解し、その時代背景について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歌舞伎の発生と前時代の芸能との関係を説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
3	第一部水 (9/30)	【劇場の誕生と三味線】 【台頭する若衆歌舞伎】	劇場の誕生から若衆歌舞伎まで理解し、その成り立ちを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、劇場について現代の劇場との比較ができる。また若衆歌舞伎について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	三味線について調査する。	240分
4	第一部水 (10/7)	【元禄歌舞伎とその時代】	元禄歌舞伎について、その経済成長などの時代背景とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、元禄歌舞伎のみならず、その時代背景についても説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
5	第一部水 (10/14)	【歌舞伎を鑑賞する】	狂言舞踊を鑑賞し、感想文を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、鑑賞した作品について、説明でき、その上で、批評できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
6	第一部水 (10/21)	【歌舞伎を飾る】	歌舞伎の舞台装置について、その成り立ちを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、さまざまな舞台装置について説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 (10/28)	【歌舞伎十八番と家の芸】	歌舞伎十八番について考え、現代まで続く「家の芸」について、理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、歌舞伎十八番について、説明でき、なおかつ、文章で表現できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	60分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。その上で、レポート作成する。	240分
8	第一部水 (11/11)	【歌舞伎を見る】	歌舞伎十八番の解説と鑑賞	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して作品を鑑賞し、感想文を書く。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	60分
		事後学修	感想文作成	180分
9	第一部水 (11/18)	【歌舞伎のジャンル】	時代物と世話物など、歌舞伎のジャンルについて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歌舞伎のジャンルを説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
10	第一部水 (11/25)	【歌舞伎のドラマツルギー】	「世界」と趣向について講義する。歌舞伎の作劇法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歌舞伎のドラマツルギーを説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
11	第一部水 (12/2)	【木阿弥とその時代】	河竹黙阿弥の作品について、その表現と魅力について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、黙阿弥が生きた幕末・明治の世相と芸能について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	黙阿弥の生涯について調査する。	180分
12	第一部水 (12/9)	【白浪ものを鑑賞する。】	作品鑑賞と解説をする。作品は講義の中で決める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、黙阿弥作品を鑑賞し、その魅力や時代性を説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 (12/16)	【歌舞伎における悪】	歌舞伎における「悪」の描かれ方について、南北と黙阿弥を通して、理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、黙阿弥と南北の作品の描き方を説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義をもとに、ノートをまとめる。	120分
14	第一部水 (12/23)	【授業内試験と解説】	後期試験と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各項目を理解した上で、文章化できる。	
		事前学修	試験の準備をする。	120分
		事後学修	解説をもとにレポート作成	240分
15	第一部水 (1/13)	【江戸歌舞伎の概観】	後期のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①2③④に関連して、講義全体を把握した上で、江戸の歌舞伎について批評できる。	
		事前学修	講義全体を把握する。	120分
		事後学修	最終的に全体をまとめる。	120分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式。数回復習テストを実施し、次回授業時にフィードバックする。なお、詳細な古典文法を問うことはない。提出されたレポートについては、ポータルシステムで講評を公開する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回の復習テストの実施とそのフィードバック。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。取り上げる作品等の情報はポータルシステムで公開する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス「梅花宴」とは？	後期の授業計画と内容、目標についての説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、元号の典拠となった『万葉集』梅花宴の概略を理解することができる。	
		事前学修	ポータルで配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	授業ノートを整理し、学修の振り返りをするとともに、今後の学修計画を検討しておく。	120分
2	9/21	石上宅嗣とは？	石上宅嗣に関する説明を受け、渡来系歌人の特徴を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある石上宅嗣の略歴を通して、古代の官人の実態について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
3	9/28	歌文化の形成について	石上宅嗣が歌を披露した宴席歌群全体を通して、『万葉集』に登場する歌人はごく一部の官人であることを学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大伴家持と交流がなく、漢文学に精通している石上宅嗣が、宴席でふさわしい歌を詠んでいることから、平城京の歌文化の背景には歌に限らない幅広い教養の官人の存在も理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における石上宅嗣の役割を確認する。	120分
4	10/5	葛井広成とは？	葛井広成に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある葛井広成を通して、8世紀の歌文化の形成にはこうした渡来系氏族を含めて成立したことを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
5	10/12	宴席歌の特徴とは？	葛井広成が歌を披露した宴席歌群全体を通して、親しい仲間同士が集まった宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「蟬」の声に着目しながら宴席にける同調を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における葛井広成の役割を確認する。	120分
6	10/19	文馬養とは？	文馬養に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある文馬養を通して、平城京の歌文化の成熟に貢献した氏族の存在を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	宴席の「終宴歌」とは？	文馬養が歌を披露した宴席歌群全体を通して、直属の上司が主催した宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上司も含む仕事仲間が参集した宴席での歌の披露方法とその特徴について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における文馬養の役割について確認する。	120分
8	11/9	秦八十島とは？	秦八十嶋に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある秦八十島を通して、無位から官途を歩み始めなければならない官人の存在を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
9	11/16	上司を和ませる宴席歌とは？	秦八十嶋が歌を披露した宴席歌群全体を通して、赴任先の地方で開催された宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宴席歌全体の流れを確認することで渡来系歌人の秦八十島の歌がいかに洒落ていて適切なものであったのかを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における秦八十嶋の役割を確認する。	120分
10	11/23	大伴坂上郎女とは？	大伴坂上郎女に関する説明を受け、女性歌の特徴と役割を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、女性歌としての坂上郎女歌の特徴を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
11	11/30	歌の表現から考えられる作者の意図とは？	大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、宴席歌と明記のない作品の読み方までも学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、坂上郎女歌を読む行為を通して、社交の具としての歌に長けた坂上郎女を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する。	120分
12	12/7	「梅花宴」とは？	「梅花宴」に関する研究史について学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「梅花宴」32首における類似性が同調と融和の証であり、宴席歌にとっては必須条件であったことを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	研究史における問題点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	「梅花宴」の参加者とは？	「梅花宴」の参加者の動向を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「梅花宴」の参加者は大伴旅人との個人的な交遊が認められる者以外は、たまたま大宰府に訪れていた官人たちであったことを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
14	12/21	「梅花宴」の舞台・大宰府とは？	「梅花宴」に参加した歌人の配置と披露された歌の順番を通して、大宰府という第二の政庁における宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、参加者が全員男性であったことから女性を侍らせるような性格の宴席ではなく、旅人は参加者たちを文人と見做し、蘭亭の雅会のごとき清遊を企図した宴席であったことを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	研究論文を読むことを通して、自分の考えはどのように述べるべきなのかを確認する。	120分
15	1/18	後期まとめ	後期の授業内容を振り返り、理解の到達点を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修した宴席歌の特徴を整理し、平城京と大宰府の歌文化がいかに豊饒であったかを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	貴族は宴席をどのような場所として捉えていたのかを確認する②。	180分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義時にプリントを配布する。毎回、前回提出のコメントシートを教場にて読み上げる。なお、扱う作家名は講義の進具合によって変更する可能性があることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントシートへのレスポンスを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。				2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。					2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。						2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内での解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に配布するプリントを主に使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取るこ

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 9/16	イントロダクション及び導入講義	「戦後」文学について。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義の概要をつかむことができる。	
		事前学修	「戦後」の歴史について確認しておくこと。	120分
		事後学修	「戦後」文学について復習をしておくこと。	120分
2	第一部 水 9/23	敗戦と文学者	太宰治・坂口安吾	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	太宰治・坂口安吾について確認しておくこと。	120分
		事後学修	太宰治・坂口安吾について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
3	第一部 水 9/30	大岡昇平の戦争（1）	捕虜の問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	大岡昇平について確認しておくこと。	120分
		事後学修	大岡昇平について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
4	第一部 水 10/7	大岡昇平の戦争（2）	戦争と人肉食	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	大岡昇平について確認しておくこと。	120分
		事後学修	大岡昇平について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
5	第一部 水 10/14	武田泰淳と中国（1）	泰淳のエッセイ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	武田泰淳について確認しておくこと。	120分
		事後学修	武田泰淳について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
6	第一部 水 10/21	武田泰淳と中国（2）	泰淳の小説	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	武田泰淳について確認しておくこと。	120分
		事後学修	武田泰淳について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 10/28	三島由紀夫	パフォーマンスと思想	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	三島由紀夫について確認しておくこと。	120分
		事後学修	三島由紀夫について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
8	第一部 水 11/11	「第三の新人」について（1）	庄野潤三・安岡章太郎	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	「第三の新人」について確認しておくこと。	120分
		事後学修	「第三の新人」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
9	第一部 水 11/18	「第三の新人」について（2）	小島信夫	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	「第三の新人」について確認しておくこと。	120分
		事後学修	「第三の新人」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
10	第一部 水 11/25	安部公房（1）	『壁』ほか	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	安部公房について確認しておくこと。	120分
		事後学修	安部公房について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
11	第一部 水 12/2	安部公房（2）	『砂の女』ほか	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	安部公房について確認しておくこと。	120分
		事後学修	安部公房について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
12	第一部 水 12/9	大江健三郎（1）	初期を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	大江健三郎について確認しておくこと。	120分
		事後学修	大江健三郎について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 12/16	大江健三郎（2）	中期を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	大江健三郎について確認しておくこと。	120分
		事後学修	大江健三郎について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
14	第一部 水 12/23	中上健次と津島佑子	物語と小説	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	「戦後」の歴史について確認しておくこと。最終課題の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	中上健次と津島佑子について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
15	第一部 水 1/13	現代と「戦後文学」について	半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解し、最終課題を提出することができる。	
		事前学修	最終課題の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	「戦後」と文学の関係について、講義内容の復習をしておくこと。一年間の講義内容の確認をしておくこと。	120分

科目名	文化人類学Ⅰ	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文化人類学の世界へようこそ。本講座では、共同体、記憶、ことば、マイノリティといった現代社会を読み解くキーワードを軸に、私達を取り巻く様々な「文化」の諸相を具体的に考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、古今東西における様々な具体的事例を通して、他者の痛みを知ることや自己への内省的な姿勢を培うことで、人文科学における批判精神と想像力を養成することを目的とする。それぞれの社会における文化に潜む倫理的規範を、異文化理解を通して相対的に見つめる視点と、自文化を見つめ直すという俯瞰的な視点を、主体的に身につけることを目標とする。

【履修条件】
毎回遅刻せずに全ての講義に出席することを強く望む。初回の参加人数によっては登録者数の制限を行う。

【授業方法】
適宜視覚教材などを用い、講義に関する資料を配布し、基本的にはレクチャーとグループワークの併用で90分間のトレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念に基づいた上で、それらに伴う倫理観を身につけるようになる。						2						
②	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について理解した上で、その可能性について説明ができるようになる。							2					
③	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、日本におけるマイノリティの現状と可能性について論理的・批判的に考察し説明することができる。								2				
④	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例から、様々な問題を発見し、解決に向けた努力を考察できる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ほぼ毎回配布するレビューシートにより、第2～4回は到達目標①にかかわる理解が、第5～9回は到達目標②にかかわる説明力が、第10～14回は到達目標③と④にかかわる論理力と思考力が身についているかを確認する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	勝方＝稲福恵子・前 嵩西一馬	昭和堂	2011	教科書	必携
備考	参考文献などは講義において随時指示する。				

【オフィスアワー】
毎週木曜日の講義終了後、もしくは昼休みを含む休み時間に講義講堂にて質問を受け付ける。事前にメールにて予約を取ることを薦める。 メールアドレスは、講義内にて伝達する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		前期ガイダンス及び導入講義	授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介など。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介などについて説明できる。	
		事前学修	シラバスの確認と教科書の内容を確認することで、講義全体の概要を見通す。また、本講義を履修することの意義についてまとめておく。	120分
		事後学修	ガイダンス内容を確認し、講義ノートをもとに、今後の学習計画を立てるとともに、文化を学ぶ意義をあらためて自身に引き付けて捉え直す作業を行う。	120分
2		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な概念について(1)	文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、「文化理解」について自分なりの経験を探し出し、ノートにまとめる。	120分
3		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な概念について(2)	社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、自らが所属する社会の固有の問題についてひとつ選び、自分なりの意見をノートにまとめる。	120分
4		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な概念について(3)	民族あるいはエスニシティに関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民族あるいはエスニシティに関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、民族やエスニシティといった概念に関連する具体的作品（小説、映画、漫画、美術作品など）を選び、鑑賞し、ノートにまとめる。	120分
5		近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について(1)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱ったトピックやテーマをひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分
6		近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について(2)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの問題点について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの問題点について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った問題点をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について(3)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの可能性を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの可能性について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分
8		近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程と現状について(1)	日本におけるマイノリティの諸相を踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの現状を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本におけるマイノリティの諸相を踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの現状を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分
9		近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程と現状について(2)	日本におけるマイノリティの諸相を踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの問題を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本におけるマイノリティの諸相を踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの問題を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分
10		日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(1)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
11		日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(2)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
12		日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(3)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		日本を中心としたマイノリティの現状と課題について (4)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
14		日本を中心としたマイノリティの現状と課題について (5)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
15		前学期まとめ	これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理し、説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いたこれまでの復習を行う。	120分

科目名	文化人類学Ⅱ	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文化人類学の世界へようこそ。本講座では、共同体、記憶、ことば、マイノリティといった現代社会を読み解くキーワードを軸に、私達を取り巻く様々な「文化」の諸相を具体的に考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、古今東西における様々な具体的事例を通して、他者の痛みを知ることや自己への内省的な姿勢を培うことで、人文科学における批判精神と想像力を養成することを目的とする。それぞれの社会における文化に潜む倫理的規範を、異文化理解を通して相対的に見つめる視点と、自文化を見つめ直すという俯瞰的な視点を、主体的に身につけることを目標とする。

【履修条件】
毎回遅刻せずに全ての講義に出席することを強く望む。初回の参加人数によっては登録者数の制限を行う。

【授業方法】
適宜視覚教材などを用い、講義に関する資料を配布し、基本的にはレクチャーとグループワークの併用で90分間のトレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念に基づいた上で、それらに伴う倫理観を身につけるようになる。				2						
②	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について理解した上で、その可能性について説明ができるようになる。					2					
③	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、日本におけるマイノリティの現状と可能性について論理的・批判的に考察し説明することができる。						2				
④	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例から、様々な問題を発見し、解決に向けた努力を考察できる。							2			
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ほぼ毎回配布するレビューシートにより、第2～4回は到達目標①にかかわる理解が、第5～9回は到達目標②にかかわる説明力が、第10～14回は到達目標③と④にかかわる論理力と思考力が身についているかを確認する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	勝方＝稲福恵子・前 嵩西一馬	昭和堂	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週木曜日の講義終了後、もしくは昼休みを含む休み時間に講義講堂にて質問を受け付ける。事前にメールにて予約を取ることを薦める。 メールアドレスは、講義内にて伝達する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		後期ガイダンス（授業計画、参考文献紹介など）	授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介など。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介などについて説明できる。	
		事前学修	シラバスの確認。	120分
		事後学修	ガイダンスの内容確認。	120分
2		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(1)	文化人類学にとって文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
3		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(2)	社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
4		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(3)	人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
5		近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(1)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
6		近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(2)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(3)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
8		近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(4)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
9		近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(5)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
10		マイノリティの可能性について(1)	具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
11		マイノリティの可能性について(2)	具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
12		マイノリティの可能性について(3)	具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		ポストモダン以降の人類学と文化理論について(1)	具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
14		ポストモダン以降の人類学と文化理論について(2)	具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
15		後学期まとめ	これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理し、説明できる。	
		事前学修	配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いたこれまでの復習を行う。	120分

科目名	文章表現演習Ⅰ	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目】に人数調整を実施するので、必ず出席してください】積極的に授業に参加できる学生向けの授業です。

【授業方法】
課題作文の執筆やその発表など、学生による演習型（アクティブラーニング）の授業です。課題を提出・添削・返却／解説（フィードバック）を行うことにより、よりわかりやすい文章を書く力を身につけましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題作文やその発表など、学生によるアクティブラーニングの授業です。ほぼ毎回、課題を提出してもらい、添削をしたものをフィードバックし、全員で課題について討論、検討します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後に添削をし、翌週の授業時に返却・解説（フィードバック）をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法 新訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典他	翰林書房	2019年	教科書	必携
備考	参考書は適宜、授業中に示します。				

【オフィスアワー】
授業終了後、場所は授業講堂にて質問を受け付けます。その他、講義中に指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	授業ガイダンス、導入授業	人数調整を行います。 授業の進め方、受講に当たってのルール、持参するものについて説明します。	
		この回の到達目標	講義の内容を理解し、真摯に受講できるか見極めることができる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、課題を作成してきてください。	90分
		事後学修	テキストを準備し、一通り読んでおきましょう。	80分
2	4月17日	自己紹介文 1	効果的な自己紹介の方法を考えます。また、エントリーシートの書き方を学びます。	
		この回の到達目標	文章の書き方の基本を確認、理解し、実践することができる。	
		事前学修	テキスト7ページの課題 1 をやっておきましょう。 テキスト53・54ページを読んでおきましょう。	80分
		事後学修	授業で示した課題をやってきてください。	90分
3	4月24日	自己紹介文 2	前回の授業を確認し、これを踏まえて自己紹介文を書きます。	
		この回の到達目標	効果的な自己紹介文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト8～9頁を読んでおきましょう。 400字で自己紹介文を考えてきてください。	120分
		事後学修	授業で示した課題をやってきてください。	60分
4	5月1日	自己紹介文 3	自己紹介をグループ発表し、その後、全員の前で口頭発表を行います。	
		この回の到達目標	効果的な方法でプレゼンテーションができる。	
		事前学修	自己紹介文を口頭発表できるように準備しておいてください。	80分
		事後学修	他の受講者の発表を聞いた感想を書いてきてください。	80分
5	5月8日	履歴書の書き方	テキスト57ページに従って実際に履歴書を書いてみましょう。	
		この回の到達目標	正確に履歴書の記入ができる。	
		事前学修	テキスト57ページを読み、履歴書が書けるように確認しておきましょう。	80分
		事後学修	記入するべきところに空欄があるときは、埋めてきてください。	80分
6	5月15日	手紙を書く 1	時候の挨拶など、手紙の基本的な書き方について学びます。	
		この回の到達目標	手紙の基本的な書き方を理解することができる。	
		事前学修	テキスト39～46ページをよく読み、手紙の構成はどのようなものか、みておいてください。	80分
		事後学修	テキスト40ページをよく読み、手紙の書き方を再度確認しておいてください。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	手紙を書く 2	実際に手紙を書いてみましょう。	
		この回の到達目標	内容に応じて適切な手紙を書くことができる。	
		事前学修	前回出題される課題に添って、手紙を書けるように準備しておいてください。	80分
		事後学修	時候の挨拶など、実践で記したもの以外の表現も確認しておきましょう。	80分
8	5月29日	手紙を書く 3	書いた手紙を添削、清書します。敬語表現などにも注意しながら書いてみましょう。	
		この回の到達目標	適切な敬語表現ができる。	
		事前学修	テキスト37ページを読んでおきましょう。どのような敬語表現があるか、見ておきましょう。	80分
		事後学修	適切な敬語表現書かれているか、確認しておきましょう。	80分
9	6月9日	デジタル機器を用いた文章作成	インターネットやデジタル機器を用いた文章作成を理解し、電子メールを使って自分の考えを的確に相手に伝える方法を学びます。	
		この回の到達目標	デジタル機器を用いた文章作成が適切にできるようにできる。 電子メールで自分の考えを的確に伝えることができる。	
		事前学修	テキスト23～28ページ、およびテキスト47～51ページを読んでおきましょう。	80分
		事後学修	テキスト52ページを読んでおきましょう。	80分
10	6月12日	課題作文 1	読書体験を書こう。今まで読んだ本の中で印象深かったものについて、感想や自分に与えた影響についてまとめます。	
		この回の到達目標	読書体験を適切に表現し、伝わりやすい文章を作成することができる。	
		事前学修	自分が読んだ本の中からみんなに紹介したい作品を1冊、準備しておきましょう。その際に、図書館を利用しましょう。	90分
		事後学修	感想文の書き方を復習しておいてください。	80分
11	6月19日	課題作文2	自分の読書体験を発表しよう。前回の課題について、自分の書いた文章を口頭発表してもらい、合評します。	
		この回の到達目標	効果的なプレゼンテーションで自身の文章を発表することができる。	
		事前学修	自分が紹介した本を、どのように表現したらみんなが読みたくなるか、プレゼンテーションの方法を考えておいてください。	80分
		事後学修	添削で示された部分を復習しておきましょう。	80分
12	6月26日	文章表現の基本 1	わかりやすい文章とはどのようなものを考えます。	
		この回の到達目標	良い文章を書くための方法を理解することができる。	
		事前学修	テキスト11～18ページをよく読んでおきましょう。	80分
		事後学修	テキスト11ページの課題をやっておきましょう。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	文章表現の基本 2	論理的な文章の書き方を学び、実際に書いてみよう。	
		この回の到達目標	論理的な文章とはどのようなものか理解し、書くことができる。	
		事前学修	テキスト19～22ページをよく読んでおきましょう。	80分
		事後学修	テキスト19ページの課題をやっておきましょう。	80分
14	7月10日	文章表現の基本 3	前回書いた文章を添削し、全員で討論します。	
		この回の到達目標	添削された部分を理解し、修正する、また、他の受講生の考えを理解し、評価をすることができる。	
		事前学修	テキスト25～28ページをよく読んでおきましょう。	80分
		事後学修	添削で示された部分をリライトしておきましょう。	80分
15	7月17日	前期のまとめ	前期に学んだことを振り返ります。	
		この回の到達目標	前期に学んだことを振り返り、学習したことが理解できる。	
		事前学修	テキストを再度よく読んでください。	80分
		事後学修	配付資料をよく読んで文章表現の基礎を確認しておきましょう。	80分

科目名	文章表現演習Ⅰ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第一回目の講義に人数調整を行うため、必ず出席すること。】その際に、「大学で学びたいこと」（600字程度）を手書きで書き、持参すること。4年生の優遇は、就職活動を含め、一切ないものとする。また、皆出席が前提であるため、4回以上の欠席は原則単位を認定しない。また、連続する講義のため、後期も受講することが望ましい。詳細は最初の講義で説明する。

【授業方法】
基本的には、時間内にレポート、小テストを行い、添削および解説を行う。また、学生間の相互添削なども予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的には文章作成が中心だが、学生間の相互添削なども予定している。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題について添削指導、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	毎回プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜 4 限 授業終了後授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 (4/8)	【ガイダンス】【受講理由の執筆】	前期のガイダンス。授業全体を把握してもらう。その上で、受講理由を400字程度で作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常的な文章作成ができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、自分の文章力を把握する。（2時間）	120分
		事後学修	次の課題について準備する。 { 2 時間 }	120分
2	第一部水 (4/15)	【小論文を書いてみる】	小論文作成（800字程度）。現在の自分の文章力の把握と書くスピードを認知する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理的な文章を書くことができる。	
		事前学修	自分の文章力を元に、800字程度の文章を作成する。（3時間）	180分
		事後学修	本課題について考え、改めて書いてみる。（3時間）	180分
3	第一部水 (4/22)	【文章の基礎】	文章の基礎を学ぶ。「読む人が読みやすく、わかりやすい文章」とは何かを講義を通して理解する。また、課題を通じて、文章記号への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本的な文章作法を体得できる。	
		事前学修	前回の文章をふまえて、改めて自身の文章力を見直す。（1時間）	60分
		事後学修	今回の講義を踏まえて文章を作る。（3時間）	180分
4	第一部 (4/29)	【わかりやすい文章とは】	文章の長さや文末表現。読み手が混乱しない文章作成を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他人に読みやすい文章が作成できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	自分の文章力を見直す。（2時間）	120分
5	第一部水 (5/6)	【他人紹介】	受講生がペアを組んで、それぞれインタビューした上で、相手のことを紹介する文章を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、耳で聞いた内容を正確に文章にできる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作成する。（2時間）	120分
6	第一部水 (5/13)	【相互添削】	前回作成した文章を相手に読んでもらい、添削しあう。その上で、清書して提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の文章を添削することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 (5/20)	【悪文訂正】	悪文について講義する。「絶対的悪文」ともいうべき、誰が読んでも読みづらい文章を読む。これを反面教師として、「読みやすい文章」の書き方を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の文章を読み、自己の文章に反映することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分
8	第一部水 (5/27)	【間違えやすい表現を学ぶ】	課題を通して、話し言葉と書き言葉について学び、加えて文語表現と文体の統一について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正しい文章表記を身につけることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分
9	第一部水 (6/3)	【引用表現】	課題を通して、引用について学び、引用と剽窃（いわゆる「パクリ」）の違いを理解し、正しい引用法を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正しく引用することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分
10	第一部水 (6/10)	【参考文献収集】	参考文献について、その表記の仕方や収拾の仕方をを身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しく参考文献一覧が表記できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	文献収集し、参考文献一覧を作成する。（4時間）	240分
11	第一部水 (6/17)	【警護を学ぶ】	課題を通して敬語について理解し、学生時代はもちろん、社会に出ても恥ずかしくない敬語の用法を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい敬語で話すことができる。また、敬語を用いた文章作成ができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義ノートをまとめ、練習問題に取り組む。（2時間）。	120分
12	第一部水 (6/24)	【手紙やメールの書き方】	手紙について 「はがき」「封書」の用途の違いや、年賀状などの略式あいさつなど、一般的な手紙の用途について身につける。また、「改まった手紙やメール」の書き方も身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、改まった手紙を書くことができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義ノートをまとめ、挨拶状を作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 (7/1)	【小論文の自己添削】	第2回の講義で作成した文章を講義ノートなどをもとに、自己添削する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基礎的な文章力を養うことができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義内で添削した文章を清書する。（3時間）	180分
14	第一部水 (7/8)	【エントリーシート作成】	課題を通して効果的なエントリーシートの書き方を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、効果的なエントリーシートが作成できる。	
		事前学修	前期の講義を振り返り、質問を考える。（2時間）	112分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）	120分
15	第一部水 (7/15)	【文章能力テストと解説】	手紙と敬語、悪文に関するテストと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の基本が理解できる。	
		事前学修	授業内試験の準備（2時間）	120分
		事後学修	全体の復習（2時間）	120分

科目名	文章表現演習Ⅰ	担当者	高橋 優美穂	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
毎回課題が課されるため、その課題に取り組むことができる学生向けの授業である。【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】		
教科書と参考資料を用いた講義と演習を組み合わせるで進めていく。また、授業内では漢字テストを実施する（詳細は初回授業で説明する）。なお、課題で作成してもらった文章は、ペア・ワークやディスカッションの際に受講者全員で共有することがあるので、その点を了承の上で履修してほしい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	作成された課題をもとにペア・ワークや、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則授業内で行う。ポータルシステムを用いる場合は、事前にアナウンスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法―21世紀を生きる社会人のたしなみ〔新訂版〕	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜2限、授業後に授業講堂で行う。メールでの質問については、初回授業で説明を行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス 文章を書く①：自己紹介文	授業内容や教科書の使用方法など、授業に関する事項の説明を行う。また、受講生の文章執筆能力を確認するため、自己紹介文を執筆し、課題作文として提出してもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、自己紹介文の執筆を通じて、文章執筆能力を見つめ直すことができるようになる。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	60分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	180分
2	第一部 水4/15	文章を書く②：文章執筆の基礎知識	文章を書く時の基本ルールについて、教科書を用いて講義を行い、1回目の課題作文のリライト（修正）をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、原稿用紙の使い方や句読点のルールなど、細かな点に気を配りながら、文章を書くことができるようになる。	
		事前学修	教科書の5～10ページを読んでくる。とくに原稿用紙の使い方については熟読しておくこと。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 教科書や講義資料を読み返し、1回目の課題作文のリライトをする。	120分
3	第一部 水4/22	文章を書く③：文章を書く時の注意点	文を書く上でのルールについて、教科書を用いて講義を行い、自己紹介文のリライトを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、主語と述語がねじれた文のように、文の構造に注目しながら、自己紹介文のリライトができるようになる。	
		事前学修	教科書11～14ページを読んでくる。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 教科書11ページの課題1・2を解き直し、復習をする。	120分
4	第一部 水4/29	文章を書く④：文章の構成	文章の構成について、教科書を用いて講義を行う。自己紹介文の清書を行い、課題作文として提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、文章の構成を踏まえて客観的な文章を書くことができるようになる。	
		事前学修	教科書19～22ページを読んでくる。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	120分
5	第一部 水5/6	自己紹介文のフィードバック 作文を書く	自己紹介文のフィードバックを行い、文章執筆の基本事項を再確認する。また、指定したテーマに沿って400字程度の作文を執筆し、課題作文として提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、文章執筆上の基礎事項を修得することができる。到達目標③について、自己の意見を客観的に述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書や講義資料を用いて、4回目までの授業内容をまとめておく。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	120分
6	第一部 水5/13	論作文を書く	課題作文のフィードバックを行う。また、指定したテーマに沿って600字程度の論作文を執筆し、課題作文として提出する。	
		この回の到達目標	到達目標③④について、自己の意見を客観的、論理的に述べるができるようになる。また課題作文のフィードバックを受けて、他者の意見を踏まえて、自己の文章をより適切なものにすることができる。	
		事前学修	教科書20ページを読んでくる。	60分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。とくに作文と論作文の違いを明確にすること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	漢字テストの実施 書評を書く①：資料を探す	6回目までの漢字のまとめとして、漢字テストを実施する。 書評を書くために、文献資料を探す方法を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、漢字テストを通じて正しい日本語に関する知識を修得することができる。到達目標③について、文献資料を用いて自己の意見を客観的・論理的に述べることができるようになる。	
		事前学修	漢字テストに備え、これまでのテストの復習を行う。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 法学部図書館OPACで資料を検索し、興味のある書籍を借りて読む。	120分
8	第一部 水5/27	書評を書く②：資料を引用する	資料の用い方と引用の仕方について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③について、文献資料を用いて自己の意見を客観的・論理的に述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書23～28ページを熟読する。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 書評に用いる書籍を読み進め、印象的な部分を引用する。	120分
9	第一部 水6/3	書評を書く③：参考文献一覧を書く	参考文献一覧の執筆ルールについて講義を行い、参考文献一覧を完成させる。	
		この回の到達目標	到達目標③について、文献資料を用いて自己の意見を客観的・論理的に述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書17～18ページを読んでくる。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 書評に用いる書籍を読み終え、どのように紹介すれば良いかを考えておく。	120分
10	第一部 水6/10	書評を書く④：書評を完成させる	書評の清書をし、授業内で提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容を踏まえて文章を執筆することで、適切な文章表現ができるようになる。	
		事前学修	書評の文章構成を考える。	180分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。	60分
11	第一部 水6/17	相互批評をする	10回目の課題について、学生同士で批評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④について、学生間で相互批評をすることで、自己の意見を客観的・論理的に述べられるようになる。また他者の意見に触れ、自己の文章作成に活かすことができるようになる。	
		事前学修	自分が書いた書評を読み返し、修正すべき点があるかどうか検討する。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 フィードバックされた課題の良い点、悪い点を整理し、自分の課題作文の良い点と悪い点を考える。	120分
12	第一部 水6/24	レポートを書く①：テーマと調査方法を決める	レポートのテーマ設定と調査方法について講義を行い、レポートのテーマを決定する。	
		この回の到達目標	到達目標②について、レポートテーマに関する文献を読むことで、諸問題の現状を把握することができる。	
		事前学修	興味関心のあるテーマを挙げ、資料リストを作成し、先行研究ではどのような調査手法が用いられているのか確認する。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 設定したテーマに関する文献資料を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	レポートを書く②：考察	考察の際に気をつける点を講義し、レポートの執筆を進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容を踏まえて文章を執筆することで、適切な文章表現ができるようになり、レポートテーマが有する問題を自分の文章で的確に説明することができるようになる。	
		事前学修	漢字テストに備えて、これまでのテストの総復習をする。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて、レポートの考察部分を執筆する。	120分
14	第一部 水7/8	漢字テストの実施 レポートを書く③：リライトする	13回目までの漢字のまとめとして、漢字テストを実施する。 レポートを提出する際の注意点について講義をし、自分が執筆したレポートのリライトを行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④について、自己の文章を客観的・批判的に読み直すことができるようになり、担当者からのコメントを踏まえて文章を修正することができるようになる。	
		事前学修	漢字テストに備え、これまでのテストの復習を行う。	120分
		事後学修	執筆したレポートのリライトをし、レポートを完成させる。	120分
15	第一部 水7/15	レポートの提出 前期のまとめと質疑・応答	レポートの提出をする。前期のまとめを行い、質疑・応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容を踏まえて文章を執筆することで、適切な文章表現ができるようになる。	
		事前学修	執筆したレポートを提出できるように、準備をする。	120分
		事後学修	授業内に行った解説・講評などを参考にして、これまでの授業内容をまとめる。	120分

科目名	文章表現演習Ⅰ	担当者	竹田 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】		
教員による講義と、受講者による課題の実践を組み合わせた授業を行う。講義では、いくつかの実例をもとに、文章表現のための基本的事項について解説する。その後、受講者は講義での解説を踏まえて、実際に文章を作成する。作成した文章は、教員による添削・指導を受けて修正し、完成を目指す。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回に課題を設け、文章の作成を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
火曜日2限、授業終了後に授業講堂にて受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	イントロダクション、文章表現について	この授業の進め方、成績評価の方法などについて説明する。また、文章表現を学ぶ意義について解説する。	
		この回の到達目標	授業の概要、文章表現を学ぶ意義について理解することができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく確認する。	120分
		事後学修	配布プリントを読み返し、授業の概要・意義を確認する。	120分
2	4/14	自己紹介文を書く	自己紹介文を作成する。	
		この回の到達目標	自分について書くことを通じて、自分の基本的な文章表現能力について把握することができる。	
		事前学修	自分について、どのような特徴、経歴があるか、整理しておく。	120分
		事後学修	自分の書いた文章を客観的に見直し、自己添削をする。	120分
3	4/21	自己PR文を書く	自己紹介文を見直し、自己PR文として書き直す。	
		この回の到達目標	自己PR文を書くことを通じて、客観的に自己について分析することができる。また、就職活動などで求められる文章作成において必要な文体、形式、説得力ある表現の仕方などを意識することができる。	
		事前学修	自分について、どのような長所があるか、またその根拠になるようなエピソードがあるか、自己分析しておく。	120分
		事後学修	自分の書いた文章を客観的に見直し、自己添削をする。	120分
4	4/28	履歴書を書く 1 履歴書のルール	実際の書式に沿って履歴書を作成する。	
		この回の到達目標	基本的な書式、ポイント、注意点を理解して、履歴書を作成することができる。	
		事前学修	履歴書にどのような項目があるか確認しておく。また、それに沿って自分が書く内容を準備しておく。	120分
		事後学修	自分の作成した履歴書を客観的に見直し、自己添削する。	120分
5	5/5	履歴書を書く 2 履歴書を書き直す	前回作成した履歴書について、添削を踏まえて修正する。また、他の受講者が作成した履歴書を相互に講評、添削することによって、自分の履歴書についても客観的に見直す。	
		この回の到達目標	自分の作成した履歴書の良かったところ、悪かったところを把握し、より良い履歴書を作成することができる。	
		事前学修	自分の作成した履歴書を客観的に見直し、自己添削する。	120分
		事後学修	自分の作成した履歴書、他の受講者の作成した履歴書を見直し、評価ポイントを確認する。	120分
6	5/12	手紙を書く	さまざまなケースに合わせた手紙の書き方について学修する。	
		この回の到達目標	手紙を書く際の基本的なルール、適切な言葉遣い、注意点などを理解して、実際に手紙を書くことができる。	
		事前学修	どのような場合に手紙を書く必要があるのか、その意味について考えておくこと。	120分
		事後学修	自分の書いた手紙を客観的に見直し、自己添削する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	メールを書く	手紙とメールの特性の違いを理解し、メールの書き方について学修する。	
		この回の到達目標	メールを書く際の基本的なルール、適切な言葉遣い、注意点を理解して、実際にメールを書くことができる。	
		事前学修	どのような場合にメールを書く必要があるのか、その意味について考えておくこと。	120分
		事後学修	自分の書いたメールを客観的に見直し、自己添削する。	120分
8	5/26	ビジネス文書を作る	さまざまなケースに合わせたビジネス文書の書き方について学修する。	
		この回の到達目標	ビジネス文書を書く際の基本的なルール、適切な言葉遣い、注意点を理解して、実際に作成することができる。	
		事前学修	どのような場合にビジネス文書を作る必要があるのか、その意味について考えておくこと。	120分
		事後学修	自分の書いたビジネス文書を客観的に見直し、自己添削する。	120分
9	6/2	文章を読む 1 パラグラフ	文章を書く前に、まずは正しく読み取ることを練習する。まずは「パラグラフ」について理解する。	
		この回の到達目標	文章における「パラグラフ」の機能について理解し、それを意識しながら文章の意味を正しく読み取ることができる。	
		事前学修	いつも自分がどのように文章を読んでいるか、改めて意識化しておくこと。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、パラグラフの機能を理解すること。	120分
10	6/9	文章を読む 2 要約する	文章の内容を正しく読み取り、その読み取った内容を要約することで理解を確かにする。	
		この回の到達目標	長い文章を正しく読み取り、自分の言葉で的確に要約することができる。	
		事前学修	パラグラフを意識しながら長い文章を読み、その内容を整理しておく。	120分
		事後学修	自分の書いた要約を客観的に見直し、自己添削する。	120分
11	6/16	文章を読む 3 組み合わせる	複数の文章の内容を正しく読み取り、それぞれの内容を適切に整理しつつ、その関係を文章化する。	
		この回の到達目標	複数の文章の内容をそれぞれ正しく読み取り、議論の整理をすることができる。	
		事前学修	複数の文章をそれぞれよく読み、その内容を整理しておく。	120分
		事後学修	自分の書いた文章を客観的に見直し、自己添削する。	120分
12	6/23	レポートを書く 1 調べて書く	小レポートを作成する。執筆に必要な情報報酬集の仕方を学修する。	
		この回の到達目標	正しい情報収集の仕方、情報の取扱い方を理解することができる。	
		事前学修	テーマについて簡単に情報収集をしておく。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、適切な方法によって情報収集をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	レポートを書く 2 引用と参考文献	小レポートを作成する。調べた情報をレポートに使用する際の注意点、引用の仕方、参考文献の示し方について学修する。	
		この回の到達目標	情報の取扱い方、引用、参考文献のルールを正しく理解して、レポートを書くことができる。	
		事前学修	自分で調べた情報について、書誌情報を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、引用の仕方、参考文献の示し方を理解する。	120分
14	7/7	レポートを書く 3 構成に沿って書く	小レポートを作成する。全体の構成を作って、論理的な文章を書く。	
		この回の到達目標	論理的な書き方について理解し、説得力ある文章を書くことができる。	
		事前学修	どのような展開で説明すればよいか、論証するために必要な根拠は何か、自分でも考えておくこと。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、自分のレポートの論理構成、文章について推敲しながら、レポートを書き進める。	120分
15	7/14	レポートの提出とふりかえり	小レポートを提出する。これまでの授業内容、添削の内容を踏まえて完成させる。	
		この回の到達目標	これまでの授業内容を正しく理解して、形式・内容の整ったレポートを書くことができる。	
		事前学修	ここまでに作成したレポートを見直し、最後まで書き進める。	120分
		事後学修	ここまでの授業内容について改めて確認しつつ、自分のレポートを自己添削する。	120分

科目名	文章表現演習Ⅰ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】 様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】 第1回目の授業に、必ず出席しなければならない。
--

【授業方法】 教科書に従って進める。授業時間内で書くこともしばしば求めため、国語辞典（電子手帳可）を必ず持参すること。補助教材としてプリントを配布することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内、もしくはポータルの通知で行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文章検文章読解・作成能力検定公式テキスト準２級	日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定協会	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（９号館９３０７研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（１２時２０分～１２時５０分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンスと受講者数の調整	授業計画とその内容の説明を理解し、授業の準備をどのように行うべきかを考えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③についての説明を理解することができる。	
		事前学修	これまでの文章作成に対しての自身の問題点は何だったかを考えておく。	120分
		事後学修	授業ノートを整理・確認し、文章を書く際の注意点とこの講義の目的を理解し、自分の学修計画を練る。	120分
2	4/15	第1章基礎力「語彙」	熟語や慣用句を正しく使用することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、与えられた意味内容や用法から、その熟語や慣用句を適切に選ぶことができる。	
		事前学修	教科書の「コラム」に掲載されている四字熟語の読み方と意味を理解しておく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
3	4/22	第1章基礎力「文法」	最近よく見かける言葉遣いで、適切とは言えないものは何か見極めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ら抜き言葉やレ足す言葉などを理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読み、適切とはいえない表現とはどのようなものかを考えておく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
4	4/29	第2章読解力「意味内容・文章構成」	段落の役割とその相互関係とは何かを考えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、段落の役割やその段落どうしの関係を理解、文章化することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読み、文章には何が書かれているのか、あるいは筆者の考えは何かを読み取るとはどのようなことかを考えておく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
5	5/6	第2章読解力「資料分析」	資料を読み取る方法を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、図表やグラフを読み取る際、注意をしなければならないことを理解し、文章化することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読み、正しい資料の読み取り方とはどのようなことかを考えておく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
6	5/13	第3章作成力（1）「書く力」	分かりやすい表現とはどのような表現なのかを学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読み手のことを想像しながら、文章を書くことができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読み、わかりやすさの原理とはどのようなことかを考えておく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/20	第3章作成力（1）「表現」	分かりやすい表現とはどのような表現なのかを学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どのような表現を用いれば、読み手にわかってもらえるのか深く理解することができる。
		事前学修	教科書の「解説」を読み、わかりやすい表現をする工夫を考えておく。150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。90分
8	5/27	第4章作成力（2）「伝える力」	相手に配慮することが求められる手紙の書き方を学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙を書く時相手にどのような配慮をすべきかを理解することができる。
		事前学修	教科書の「解説」を読み、手紙の文章で注意すべきことを考えておく。150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。90分
9	6/3	第4章作成力（2）「総合・通信文」	相手に配慮することが求められる手紙の書き方を学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙を書く時情報を正確に伝えるにはどうすればよいのか理解することができる。
		事前学修	教科書の「解説」を読み、手紙で自分の思いを正確に伝えるにはどうすればいいのかを考えておく。120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。120分
10	6/10	第5章作成力（3）「考える力」	論理的な文章展開の方法を学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の考えを主張するだけでなく、自分とは異なる考え方にも配慮した文章をどのように書けばいいのか理解することができる。
		事前学修	教科書の「解説」を読み、論説文の型はどのようなものが適切なのかを考えておく。150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。90分
11	6/17	第5章作成力（3）「総合・論説文」	論理的な文章展開の方法を学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説文を作成する手順を理解することができる。
		事前学修	教科書の「解説」を読み、適切な論説文の構成とはどのようなものか考えておく。150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。90分
12	6/24	まとめ問題 第1・2問	これまでの学修の中で、基礎力と読解力が適切に身についているのか確認することができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、四字熟語やグラフ付きの文章を正しく使用したり読んだりすることができる。
		事前学修	教科書を読んでおく。120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	まとめ問題 第3・4問	これまでの学修の中で、読解力と作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章構成に関する問題や手紙文を推敲する問題を正解することができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
14	7/8	まとめ問題 第5問	これまでの学修の中で、作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の意見を的確に伝えるだけでなく、自分の意見が他と異なる時はブレーン・ストーミングを行い、自分の立場や意見を支える材料集めたり、理由を考えたりすることができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
15	7/15	授業内復習テスト	復習テストの実施とその解説	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の読解・作成能力を的確に測定し、能力を向上させることができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	200分
		事後学修	ポータルで公表された解答例を基に、自身の学修の振り返りを行う。	90分

科目名	文章表現演習Ⅰ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目に人数調整をするので必ず出席すること。

【授業方法】
提出する課題を添削して返却する。欠席は原則として認めないので注意すること。なお、シラバスの授業進行はテーマが前後することもあることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文について、添削の上で返却する。相互批評も行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 木 4/9	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。文章表現について
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己紹介を行うことができる。
		事前学修	これまでの自分の文章表現に対する取り組みを振り返っておくこと。 120分
		事後学修	文章表現について、講義の要点の復習をしておくこと。 120分
2	第一部 木 4/16	自己紹介	自己紹介文を書く
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	文章表現について、前回内容の確認をしておくこと。 120分
		事後学修	自己紹介文について、講義の要点の復習をしておくこと。 120分
3	第一部 木 4/23	記憶	記憶を書く
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	自己紹介文について、前回内容の確認をしておくこと。 120分
		事後学修	記憶を書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。 120分
4	第一部 木 4/30	悪文	悪文に学ぶ
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	記憶を書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。 120分
		事後学修	悪文に学ぶことについて、講義の要点の復習をしておくこと。 120分
5	第一部 木 5/7	厳密さ	厳密に書く
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	悪文に学ぶことについて、前回内容の確認をしておくこと。 120分
		事後学修	厳密に書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。 120分
6	第一部 木 5/14	言い換え	言い換えに注意して書く
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	厳密に書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。 120分
		事後学修	言い換えに注意して書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。 120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 木 5/21	エピソード	エピソードを書く
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	言い換えに注意して書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	エピソードを書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。120分
8	第一部 木 5/28	報告 1	近親者に向けて書く
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	エピソードを書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	近親者に向けて書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。120分
9	第一部 木 6/4	長文記事	長文記事をまとめる
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	近親者に向けて書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	長文記事をまとめることについて、講義の要点の復習をしておくこと。120分
10	第一部 木 6/11	肯定・否定	肯定・否定の意見を書く
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	長文記事をまとめることについて、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	肯定・否定の意見を書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。120分
11	第一部 木 6/18	報告 2	学生生活について報告する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	肯定・否定の意見を書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	学生生活の報告について、講義の要点の復習をしておくこと。120分
12	第一部 木 6/25	レポートの書き方 1	レポートの目標を設定する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	学生生活の報告について、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	レポートの目標を設定することについて、講義の要点の復習をしておくこと。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 7/2	レポートの書き方2	引用・参考文献をまとめる	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	レポートの目標を設定することについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。	120分
		事後学修	引用・参考文献をまとめることについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
14	第一部 木 7/9	レポート執筆	レポートを執筆する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	引用・参考文献をまとめることについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。	120分
		事後学修	レポートを執筆することについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
15	第一部 木 7/16	振り返り	半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。最終課題の提出	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半期の最終課題文を作成することができる。	
		事前学修	レポートを執筆することについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。	120分
		事後学修	半期を振り返り、要点を復習すること。	120分

科目名	文章表現演習Ⅰ	担当者	渡辺 重人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回で人数調整をするので、履修希望者は必ず出席してください。

【授業方法】
個人作業、ピア・ワークを複合した演習形式で進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第3、4、6、10、12、13、15回にピア・ワークによるディスカッションを実施し、演習問題や文章作成に取り組みます。また、第6、7、8、11、12回にピア・ワークを通して、事前学修に取り組みます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等および討論・発表等に該当する、演習問題については作成例の提示と解説を、小テストについては添削と解説を行います。レポート等に該当する総合演習問題については解説と講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。プリントを配布します。				

【オフィスアワー】
木曜 5 限、授業終了後、授業講堂にて。watanabe.shigetoll★nihon-u.ac.jp ★印を@に変更してください。エラーなどでレスポンスが遅い場合は授業の前後に直接申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部木 4/9	学修活動に関するガイダンス 導入講義	学修活動と全体のスケジュールを確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術を踏まえて学修活動の見通しを持つことができる。
		事前学修	シラバスを熟読し、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術についてまとめておきます。120分
		事後学修	スケジュールを踏まえて、各自の学修計画を立てます。120分
2	第一部木 4/16	表記法の確認	表記の基準と読みやすさについて演習問題に取り組み、確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①に関して、表記の仕方を工夫することで読みやすい文章を書くための準備ができる。
		事前学修	メールや提出物などで日常的に用いている表記について確認し、各自の表記の特徴をまとめておきます。120分
		事後学修	図書館やPCで各自が用意した文章を表記の基準に注意しながら読み、必要に応じて修正します。120分
3	第一部木 4/23	説明文の作成	わかりやすい説明の仕方を踏まえて実践し、ピア・ワークで確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、わかりやすい説明の特徴を理解し、実践することができる。
		事前学修	わかりやすい説明文の特徴について想起し、まとめておきます。120分
		事後学修	作成例を基に説明文をリライトし、演習問題に取り組みます。120分
4	第一部木 4/30	要約文の作成	要点の捉え方と文章化の手順を踏まえて実践し、ピア・ワークで確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、課題文の要点を捉えた要約文を作成することができる。
		事前学修	要約文作成のポイントについて想起し、まとめておきます。120分
		事後学修	作成例を基に要約文をリライトし、演習問題に取り組みます。120分
5	第一部木 5/7	敬意表現：尊敬語	尊敬語の適切な使用について修得し、実践のための準備をします。 演習問題にピア・ワークで取り組みます。
		この回の 到達目標	到達目標①④に関して、尊敬語を適切に使用することができる。
		事前学修	尊敬語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。120分
		事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、尊敬語の使用が適切かどうかについて再確認します。120分
6	第一部木 5/14	敬意表現	謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱの適切な使用について修得し、実践のための準備をします。 演習問題にピア・ワークで取り組みます。
		この回の 到達目標	到達目標①④に関して、謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱを適切に使用することができる。
		事前学修	謙譲語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。120分
		事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、謙譲語の使用が適切かどうかについて再確認します。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部木 5/21	敬意表現：丁寧語・美化語	丁寧語・美化語の適切な使用ついて修得し、実践のための準備をします。
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、丁寧語・美化語を適切に使用することができる。
		事前学修	丁寧語・美化語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。
		事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、丁寧語・美化語の使用が適切かどうかについて再確認します。
8	第一部木 5/28	敬意表現：誤用例の解説と小テスト	誤用例について学び、小テストで到達度を確認します。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、誤用例を踏まえて、適切に敬語を使用することができる。
		事前学修	敬語使用全般について弱点がないかを整理し、ピア・ワークで確認しておきます。
		事後学修	小テストを踏まえて、敬語使用についての弱点を確認し、復習に取り組みます。
9	第一部木 6/4	実用文：手紙文の基本	手紙文の基本ルール（レイアウトを含む）を修得します。
		この回の到達目標	到達目標①に関して、手紙文の基本ルール（レイアウトを含む）を修得し、作成の準備ができる。
		事前学修	手紙文作成に関する、現段階での知識を整理し、曖昧な部分を確認しておきます。
		事後学修	作成例を基に手紙文の基本ルールについて整理し、確認しておきます。
10	第一部木 6/11	実用文：手紙文の作成とリライト	基本ルールを活用して手紙文を作成し、ピア・ワークを通してリライトします。
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、手紙文を作成し、ピア・ワークを通して完成度を高めることができる。
		事前学修	手紙文作成の準備をし、演習問題に取り組みます。
		事後学修	作成例を基に演習問題に取り組みます。
11	第一部木 6/18	実用文：メールの基本	教員とのメール、就職活動時のメールについての注意点を学びます。
		この回の到達目標	到達目標①に関して、メールによる円滑なコミュニケーションができるようになる。
		事前学修	日常的なメールの使用に問題点がないか、ピア・ワークで確認しておきます。
		事後学修	作成例を基にメールをリライトし、演習問題に取り組みます。
12	第一部木 6/25	実用文：エントリーシート作成の基本	基本的な知識と手順を踏まえて、自己分析シートの記述をピア・ワークによって見直します。
		この回の到達目標	到達目標①③④に関して、自己分析を通してエントリーシート作成の基本を修得することができる。
		事前学修	自己分析シートを作成し、ピア・ワークで読み合わせをします。
		事後学修	エントリーシートの効果的な作成の仕方について整理しておきます。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	実用文：自己PRの作成	基本的な知識と手順を踏まえて自己PRを作成し、ピア・ワークで読み合わせをします。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関して、アピールポイントを効果的に読み手に伝える自己PRを作成することができる。	
		事前学修	自己分析シートを踏まえてアピールポイントを確認します。	120分
		事後学修	作成例を基に自己PRをリライトします。	120分
14	第一部木 7/9	総合演習問題についての準備と実施	敬意表現と手紙について復習し、総合演習問題によって到達度を確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、学修内容を整理し、到達度を確認することができる。	
		事前学修	敬意表現と手紙文についての学修内容を整理します。	120分
		事後学修	敬意表現と手紙文について自己点検をします。	120分
15	第一部木 7/16	総合演習問題についての振り返りと自己点検報告の作成	総合演習問題について解説と講評によって振り返り、ピア・ワークで自己点検報告を作成します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、文章作成に関する自己点検をすることができる。	
		事前学修	敬意表現と手紙文について自己点検し、弱点について分析します。	120分
		事後学修	敬意表現と手紙文についての弱点を再確認し、克服のための手立てを講じ、実践します。	120分

科目名	文章表現演習Ⅰ	担当者	茅原 雅之	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
講義および実習によって進める。文章作成にあたっての留意点を講義したのち、学生各自が実際に文章を作成する。作成した文章については、必要であれば学生間で問題点を討論する。提出課題については教員が添削し、問題点と良かった点を指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生が作成した文章をもとに、その問題点と評価すべき点についてディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出の課題については教員が添削し、問題点を指摘し、改善を促す。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法〔新訂版〕21世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子・他	翰林書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に直接の相談を受け付ける。質問・相談については電子メールにでも対応。E-mail:locke@sea.plala.or.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 月4/6	オリエンテーション，導入講義	教科書の内容確認。授業計画に関する詳細な説明。到達目標の説明。	
		この回の到達目標	実社会に対応する上で必要となる文章力が、どの程度のものであるのかを理解する。	
		事前学修	辞書・教科書の準備。	120分
		事後学修	配布資料〈漢字〉の復習。	120分
2	第二部 月4/13	手紙の書き方。（1）	手紙文の基本構成・社会的慣習を学ぶ。	
		この回の到達目標	社会生活を営む上で必要になる手紙文の書き方を理解する。	
		事前学修	配布資料〈手紙の構成〉に関する予習。	120分
		事後学修	配布資料〈手紙の構成〉に関する復習。	120分
3	第二部 月4/20	手紙の書き方。（2）	各種の手紙文を作成する。	
		この回の到達目標	社会的慣例に則った手紙文の作成が可能となる。	
		事前学修	教科書〈手紙を書こう〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈手紙を書こう〉項目の復習。	120分
4	第二部 月4/27	「読みやすい文章」「誤った文章」とは。（1）	適切な文章と不適切な文章を比較する。	
		この回の到達目標	適切な文の長さ・主述の一致・句読点の用法について基本を理解する。	
		事前学修	配布資料〈読みやすい文章とは〉の予習。	120分
		事後学修	配布資料〈読みやすい文章とは〉の復習。	120分
5	第二部 月5/4	「読みやすい文章」「誤った文章」とは。（2）	文章表現の誤った用例を確かめていく。	
		この回の到達目標	形式名詞・形式形容詞・形式動詞、文体、括弧の用法について基本を理解する。	
		事前学修	教科書〈よい文章を書くために〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈よい文章を書くために〉項目の復習。	120分
6	第二部 月5/11	文章表現の基礎，敬語の確認。（1）	各種敬語を学ぶ。	
		この回の到達目標	尊敬語・謙譲語・丁寧語の基本的用法を理解する。	
		事前学修	配布資料〈敬語の理解〉に関する予習。	120分
		事後学修	配布資料〈敬語の理解〉に関する復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 月5/18	文章表現の基礎、敬語の確認。（2）	敬語表現への理解を深める。	
		この回の到達目標	敬語表現を正しくつかいこなす。	
		事前学修	教科書〈敬語を適切に使おう〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈敬語を適切に使おう〉項目の復習。	120分
8	第二部 月5/25	文章表現の基礎、原稿用紙の使い方。	原稿用紙を使用する際の基本を学ぶ。	
		この回の到達目標	禁足文字・括弧・英数字・引用文の記述など、原稿用紙を自在に使用できるようになる。	
		事前学修	教科書〈まずは書いてみよう〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈まずは書いてみよう〉項目の復習。	120分
9	第二部 月6/1	文章表現の基礎、段落・構成の組み方。	構成の組み方を学習する。	
		この回の到達目標	文章の構成が何かを理解する。構成と段落の関係を理解する。	
		事前学修	教科書〈さあ文書を書いてみよう〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈さあ文書を書いてみよう〉項目の復習。	120分
10	第二部 月6/8	紹介文（小説・映画・漫画，その他）を書いてみよう。（1）	自身の考えを他者に伝える。	
		この回の到達目標	自分と他者の考え方・価値基準の違いを理解する。	
		事前学修	自分が紹介したいと思う作品の選定。	120分
		事後学修	自分が紹介したいと思う作品の適否確認。	120分
11	第二部 月6/15	紹介文（小説・映画・漫画，その他）を書いてみよう。（2）	自身の考えを文章に置き換えていく。	
		この回の到達目標	自身の考えを他者に伝えることの重要性和難しさを理解する。	
		事前学修	紹介文の文章構成を考える。	120分
		事後学修	提出課題〈紹介文〉の作成。	120分
12	第二部 月6/22	エントリーシートの作成。	エントリーシートが何かを理解し、作成法を学ぶ。	
		この回の到達目標	エントリーシートの作成が可能になる。	
		事前学修	教科書〈効果的な文章作成〉項目の予習。	120分
		事後学修	提出課題〈エントリーシート〉の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 月6/29	文章表現の基礎、漢字の確認。（1）	各種の漢字について学ぶ。	
		この回の到達目標	文章表現の基礎として漢字を使いこなせるようになる。	
		事前学修	教科書〈練習問題〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈練習問題〉項目の復習。	120分
14	第二部 月7/6	授業のまとめ。	授業の学習内容を再確認していく。授業内容に関する質疑応答。	
		この回の到達目標	授業を統括する。文章表現の意義と重要性を理解する。	
		事前学修	授業にて理解不十分であった点を自己点検する。	120分
		事後学修	授業内容の自己総括。	120分
15	第二部 月7/13	到達度試験、および解答と解説。	文章表現に対する学習の達成度をはかる。	
		この回の到達目標	授業の理解について達成度を確認する。自身の文章表現力の水準を理解する。	
		事前学修	到達度試験に関する学習。	120分
		事後学修	到達度試験に関する自己反省。	120分

科目名	文章表現演習Ⅱ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目には人数調整をするので必ず出席すること】演習科目なので課題に真剣に取り組む学生の履修を望む。人数調整を実施した場合、第1回の欠席者には履修が認められない場合もある。

【授業方法】

受講生が文章表現に関する課題に演習形式で取り組み、担当者がそれにコメントなどを付す形式で授業を進める。毎回の授業の積み重ねが重要なため、欠席に対しては厳しい対応をおこなう。受講生の到達目標の達成状況によっては各回の授業内容を入れ替え・変更する場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題の提出とそれに対する担当者のコメント・添削など。場合によっては、受講生の間で課題の相互批評などを行い、学修の深化を図ることもある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それをを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の課題に対して担当者の側から添削などをおこなう。次回以降の授業で、講評を述べる形でのフィードバックもありうる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法』新訂版―21世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2019	教科書	必携
備考	教科書は2019年11月出版の「新訂版」を用意すること。それ以前の「改訂版」などとは大幅に内容が異なっているので注意。なお「古い「改訂版」などは既に書店に在庫はない。				

【オフィスアワー】
授業の前後に講堂にて。また、授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用して欲しい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第 1 部 水曜日 9/16	授業の方法と目的の概説	〔1〕 授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。 〔2〕 文章表現の概説	
		この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、この科目の授業の概要と目的を理解し、問題意識を持って授業に臨むことができるようになる。また、文章表現の基本的な事項を理解し、正しく使うことができるようになる。	
		事前学修	高等学校で使用した国語便覧などで、文章表現の基本的事項に関して書かれている部分を精読する。	60分
		事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。文章表現の基本的事項を整理し、確認する。	180分
2	第 1 部 水曜日 9/23	敬語法 1	敬語法の基本概念	
		この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、敬語法の基本的な事を理解し、正しく使うことができるようになる。	
		事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
		事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
3	第 1 部 水曜日 9/30	敬語法 2	社会の中に見られる敬語の誤用	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、敬語法を理解し、それを実際に生かすことができるようになる。	
		事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
		事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
4	第 1 部 水曜日 10/7	敬語法 3	注意すべき敬語の用法	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、敬語法を正しく理解し、自己の文章に適切に使うことができるようになる。	
		事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
		事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
5	第 1 部 水曜日 10/14	贈答にかかわる文章表現 1	祝儀・不祝儀袋のおもて書きの慣例と贈答にまつわる文化（一）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、季節ごとのふさわしい文章作成ができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。	120分
		事後学修	プリントを再読し、講義で指摘された事項を整理しておく。	120分
6	第 1 部 水曜日 10/21	贈答にかかわる文章表現 2	祝儀・不祝儀袋のおもて書きの慣例と贈答にまつわる文化（二）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、祝儀・不祝儀の場での適切な文章表現や各種の表書きができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。	120分
		事後学修	プリントを再読し、講義で指摘された事項を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 水曜日 10/28	小論文・論作文の実践演習1	要約の方法の理解	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、文章を要約することができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「要約の方法の理解」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「要約の方法の理解」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
8	第1部 水曜日 11/11	小論文・論作文の実践演習2	要約の実践とその応用	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、要約の実践とその応用を文章表現に活かすことができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「要約の実践とその応用」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「要約の実践とその応用」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
9	第1部 水曜日 11/18	小論文・論作文の実践演習3	意見論述の方法	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、意見論述の方法を文章作成に活かすことができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「意見論述の方法」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「意見論述の方法」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
10	第1部 水曜日 11/25	小論文・論作文の実践演習4	意見論述の実践	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、様々な課題作文・課題小論文をにおいて、適切な意見論述ができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「意見論述の実践」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「意見論述の実践」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
11	第1部 水曜日 12/2	小論文・論作文の実践演習5	引用のある小論文作成（一）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、引用のある課題作文・課題小論文を適切に書くことができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「引用のある小論文作成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「引用のある小論文作成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
12	第1部 水曜日 12/9	小論文・論作文の実践演習6	引用のある小論文作成（二）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、他の受講生の引用が適切であるかを判断することができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「引用のある小論文作成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「引用のある小論文」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 水曜日 12/16	小論文・論作文の実践演習7	小論文の構成（一）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、構成に配慮の行き届いた小論文を書くことができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「小論文の構成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「小論文の構成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
14	第1部 水曜日 12/23	小論文・論作文の実践演習8	小論文の構成（二）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、他の受講生の小論文を客観的に批判し、不適切な箇所を説明することができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「小論文の構成」について理解しておく。また、他の受講生の文章を事前に読んでおく。	120分
		事後学修	「小論文の構成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
15	第1部 水曜日 1/13	総合的理解と自らの理解の適切なレポート化	各自で用意したレポートの回収。その後、レポートの出題意図・採点基準について解説する。また、授業全体のまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、半年間の学びを踏まえた課題をレポート化し、自らの意見を客観的に提示することができる。	
		事前学修	14回までの授業内容を振り返り、各自のレポートを完成させ、授業内に提出できる準備をする〔事後学習のために必ずレポートの複写を手元に残しておくこと〕	180分
		事後学修	授業内に行われた「レポートの出題意図・採点基準・解説」をもとに、各自のレポートの良い点と悪い点を確認し、よりよいレポートにするためにはどうしたらよいかを考える。	120分

科目名	文章表現演習Ⅱ	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
積極的に授業に参加し、課題を必ず提出できる学生向けの授業です。受講希望者は、第1回目の授業に必ず出席して、ガイダンスを受けてください。なお、担当者の前期科目・文章表現演習Ⅰを受講していることが望ましい。

【授業方法】
課題作文やその発表など、学生による演習型（アクティブラーニング）の授業です。課題を提出・添削・返却／解説（フィードバック）を行うことにより、よりわかりやすい文章を書く力を身につけましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題作文やその発表など、学生によるアクティブラーニングの授業です。ほぼ毎回、課題作文を提出してもらいます。添削したものをフィードバックし、全員で課題について討論します。積極的な発言が求められます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削し、翌週の授業時に返却・解説（フィードバック）をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法 新訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典他	翰林書房	2019年	教科書	必携
備考	参考書は授業中に適宜紹介します。				

【オフィスアワー】
授業終了時に、場所は授業講堂にて質問を受け付けます。その他、講義中に指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	授業ガイダンス、導入授業	授業の進め方、受講に当たってのルール、持参するものについて説明します。	
		この回の到達目標	学習内容を理解し、積極的に文章で表現しようする意識を持つことができる。	
		事前学修	シラバスをよく読んでください。	80分
		事後学修	テキストのコラム欄をよく読んでおきましょう。	80分
2	9月25日	冠婚葬祭のマナー	冠婚葬祭のマナーを学びます。 祝儀・不祝儀袋の書き方、水引の意味など、伝統文化なども学びます。	
		この回の到達目標	祝儀袋などの書き方、日本の伝統文化について理解することができる。	
		事前学修	テキスト59～64ページを読んでおきましょう。	80分
		事後学修	付録6のbに祝儀袋の書き方にしたがってもう一度書き、確認しておきましょう。	80分
3	10月2日	論理的な文章を書く 1 課題作文1	論理的な文章の構成などを学びわかりやすい文章の書き方を学びます。 400字程度の課題1を書きます。	
		この回の到達目標	論理的な文章の書き方を理解することができる。	
		事前学修	テキスト19ページの課題 1 を考えておいてください。	80分
		事後学修	テキスト21ページを熟読し確認しておきましょう。	80分
4	10月9日	論理的な文章を書く 2 課題作文のフィードバック および討議	課題 1 について、添削された部分を理解し、リライトします。 その後、適宜発表し、受講生全員で討議します。	
		この回の到達目標	文章による表現と話し言葉による表現を理解し、適切に表現することができる。	
		事前学修	前回学習した論理的な文章の書き方を確認しておきましょう。	80分
		事後学修	授業内で示された参考図書を読んでおきましょう。	80分
5	10月16日	論理的な文章を書く 3 課題作文2	前回の授業で指示される課題2について、自分の意見を文章に書きます。	
		この回の到達目標	誤字・脱字なく文章を書き、文章の構成を考えて書くことができる。	
		事前学修	前回の授業で指示される課題2について、必要な参考文献を図書館で調べておきましょう。	80分
		事後学修	テキスト第3章を復習しておきましょう。	80分
6	10月23日	論理的な文章を書く 4 課題作文のフィードバック および討議	課題2について書いた文章を適宜発表し、受講者全員で討議します。	
		この回の到達目標	他の受講生の考えを理解した上で、自身の意見を明確に述べるができる。	
		事前学修	課題2について補足資料がないか、調べておきましょう。	80分
		事後学修	添削された点を確認しリライトしてみましょう。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	論理的な文章を書く 5 課題作文3	前回の授業で指示される課題3について、自分の意見を文章に書きます。	
		この回の到達目標	課題について適切な参考文献を調査・参照し、作文に適切に引用することができる。	
		事前学修	前回の授業で指示される課題3について、必要な参考文献を図書館で調べておきましょう。	80分
		事後学修	テキスト20～23ページを読み返しておきましょう。	80分
8	11月6日	論理的な文章を書く 6 課題作文のフィードバック および討議	課題3について書いた文章を適宜発表し、受講者全員で討議します。	
		この回の到達目標	適切に文章の推敲ができる。	
		事前学修	課題2について補足資料がないか、調べておきましょう。	80分
		事後学修	添削された点について、リライトしてみましょう。	80分
9	11月13日	論理的な文章を書く 7 課題作文4	前回の授業で指示される課題4について、自分の意見を文章に書きます。	
		この回の到達目標	課題について適切な先行研究を調査・参照し、それに対する自身の意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業で指示される課題4について、必要な参考文献を図書館で調べておきましょう。	80分
		事後学修	テキスト8～12ページを読んでおきましょう。	80分
10	11月20日	論理的な文章を書く 8 課題作文のフィードバック および討議	課題4について書いた文章を適宜発表し、受講者全員で討議します。	
		この回の到達目標	他の受講生の文章におけるよい点・修正すべき点が指摘できる。	
		事前学修	課題4について補足資料がないか、調べておきましょう。	80分
		事後学修	添削された点を確認し、リライトしてみましょう。	80分
11	11月27日	論理的な文章を書く 9 自由作文 1	各自が自由なテーマで文章を書きます。日ごろ受講者が考えていることを論理的な文章にまとめてみましょう。	
		この回の到達目標	時事問題に興味関心を持ち、それに関する自身の意見を文章として適切に表現することができる。	
		事前学修	自由作文1の題材について、図書館を利用して調べておきましょう。	80分
		事後学修	補足資料がないか、図書館を利用して調べておきましょう。	80分
12	12月4日	論理的な文章を書く 10 作文のフィードバックおよび討議	自由作文1について、適宜口頭で発表し、講評をします。	
		この回の到達目標	効果的なプレゼンテーションで自身の意見を発表できる。	
		事前学修	自由作文1について、問題点をまとめておきましょう。	80分
		事後学修	添削された点を確認しリライトしてみましょう。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	論理的な文章を書く11 自由作文2	各自が自由なテーマで文章を書きます。日ごろ考えていることを論理的な文章にまとめてみましょう。	
		この回の到達目標	自身が設定したテーマについて適切な参考文献を調査・参照し、文章に適切に引用することができる。	
		事前学修	自由作文2の題材について、図書館を利用して調べておきましょう。	80分
		事後学修	補足資料がないか、図書館を利用して調べておきましょう。	80分
14	12月18日	論理的な文章を書く12 作文のフィードバックおよび討議	自由作文2について、適宜口頭で発表し、講評をします。	
		この回の到達目標	これまでの発表で習得したことを踏まえて発表することができる。	
		事前学修	自由作文について、問題点をまとめておきましょう。	80分
		事後学修	添削で示された部分をリライトしておきましょう。	80分
15	12月25日	まとめ	半期で学んだことを振り返ります。	
		この回の到達目標	半期で習得した方法を活かし、適切な表現を用いて文章を作成し、プレゼンテーションできる。	
		事前学修	テキストを再度よく読んでください。	80分
		事後学修	授業目的、到達目標が達成できたかを確認してみましょう。	80分

科目名	文章表現演習Ⅱ	担当者	高橋 啓之	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第一回目の講義で人数調整を行うため、必ず出席すること】その際に、「私の弱点」というタイトルで、600字程度の文章を手書きで書き、持参すること。4年生の優遇は、就職活動を含め、一切ないものとする。また、皆出席が前提であるため、4回以上の欠席は原則単位を認定しない。詳細は最初の講義で説明する。

【授業方法】
基本的には文章作成と添削が中心だが、時間内に小テストを行う。また、学生間の相互添削やグループ討議、発表も取り入れていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生間の相互添削や発表、グループ討議など、説教的に取り入れていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題に対する添削と解説。また、最終レポートに関してはポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	毎回プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜 4 限 授業終了後 授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 (9/16)	【ガイダンスと受講理由】	後期のガイダンス。講義の全体像を把握する。また、400字程度で受講理由を文章化する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、読みやすい文章作成ができる。	
		事前学修	シラバスを熟読する。（1時間）	60分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（3時間）	180分
2	第一部水 (9/23)	【説明スキーマとは】	課題を通して、説明スキーマについて理解し、現時点での自分の説明力を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ただし文章が作成できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、自分の弱点をノートにまとめる。（2時間）	120分
3	第一部水 (9/30)	【相互添削】	前回の講義をもとに説明スキーマを理解し、学生間で相互添削し、説明力を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の文章を批判し、自分の文章に活かすことができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（3時間）	180分
4	第一部水 (10/7)	【グループ討議と意見書作成】	各グループに分かれて同一課題について討議し、意見書を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の意見を評価したうえで、全体の意見をまとめることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、自分の意見をまとめる。（4時間）	240分
5	第一部水 (4014)	【文章を構成する】	文章の構成について、序論・本論・結露など各論の意味を理解し、身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、構成表を作成することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	60分
		事後学修	講義を踏まえて、構成表を作成する。（3時間）	180分
6	第一部水 (10/21)	【パラグラフ・ライティング】	パラグラフ・ライティングについて学び、エントリー・シートの構成を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わかりやすい文章を作成することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	テーマにしたがって、エントリー・シートを作成する。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 (28)	【マッピングについて】	マッピングについて理解し、思考マップ・構想マップの方法を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分で選んだテーマについて、思考・構想マップが作成できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（1時間）	60分
		事後学修	マッピングをしてみる。（3時間）	180分
8	第一部水 (11/11)	【学生によるプレゼンテーション前半】	自分のお勧めの本をレジュメを用いてプレゼンする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の意見を主張でき、なおかつ他人のプレゼンを評価できる。	
		事前学修	今回のテーマについてレジュメを作成する。（4時間）	240分
		事後学修	講義を踏まえてノートを自分なりに整理する。（1時間）	60分
9	第一部水 (11/18)	【学生によるプレゼンテーション後半】	各自お勧めの本をレジュメをもとに発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の意見を主張でき、なおかつ他人のプレゼンを評価できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（1時間）	60分
		事後学修	講義を踏まえて文章を読み、レポートにまとめる。（3時間）	180分
10	第一部水 (11/25)	【客観的文章とは】	課題を通して、客観的文章について理解し、論文と感想文の差異を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、客観的文章が理解できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）	120分
11	第一部水 (12/2)	【文章を評価する】	同世代の書いたレポートを批評し、考え方のバリエーションを広げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、同世代のレポートを読むことにより、視野をひろげることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）	120分
12	第一部水 (12/9)	【テーマの決定】	最終レポートに関して、自分の興味のある課題を、特定条件のもとに選び表紙を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、これまでの講義をもとに、「論文」としてふさわしい課題を選択することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	次週行う作業のため、文献を収集する（4時間）	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 (12/16)	【構成表作成】	最終レポートの構成表を作成し、理解の深度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の選択した課題の構成表を作成できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（4時間）	240分
14	第一部水 (12/23)	【下書きの相互評価】	下書きを提出し、学生間で相互評価する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、他人の論文を評価できる。	
		事前学修	後期内容を復習し、質問を用意する。（2時間）	120分
		事後学修	レポート作成。（10時間）	600分
15	第一部水 (1/13)	【まとめ、小テスト】	レポート提出とレポートを提出する。また、まとめとして、講義全体に関する小テストとその解説により全体像を把握する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、正しく論理的な文章を作成できる。	
		事前学修	後期の講義ノートをもとめる。（2時間）	120分
		事後学修	講義をもとに改めてレポートを作成する。（2時間）	60分

科目名	文章表現演習Ⅱ	担当者	高橋 優美穂	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
毎回課題が課されるため、その課題に取り組むことができる学生向けの授業である。【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
教科書と参考資料を用いた講義と演習を組み合わせる進めていく。また、授業内では漢字テストを実施する（詳細は初回授業で説明する）。なお、課題で作成してもらった文章は、ペア・ワークやディスカッションの際に受講者全員で共有することがあるので、その点を了承の上で履修してほしい。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 作成された課題をもとにペア・ワークや、ディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則授業内で行う。ポータルシステムを用いる場合は、事前にアナウンスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法―21世紀を生きる社会人のたしなみ〔新訂版〕	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜2限、授業後に授業講堂で行う。メールでの質問については、初回授業で説明を行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス 文章を書く①：自己紹介文	授業内容や教科書の使用方法など、授業に関する事項の説明を行う。また、受講生の文章執筆能力を確認するため、自己紹介文を執筆し、課題作文として提出してもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、自己紹介文の執筆を通じて自己の文章作成能力の現状を理解することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	60分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	180分
2	第一部 水9/23	メールの書き方	電子メールの書き方について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、電子メールの文案作成を通じてビジネスシーンで求められる文章表現を身につけることができる。	
		事前学修	教科書47～52ページを読んでくる。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 指定した内容に関するメール文を作成する。完成したものは課題として提出する。	120分
3	第一部 水9/30	履歴書の書き方①：概説	履歴書の基本的な書き方について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、履歴書の作成だけでなく、それに付随する自己PRや志望動機で求められる文章表現を学ぶことで、就職活動で使用する日本語表現を身につけることができる。	
		事前学修	教科書57ページを読んでくること。	120分
		事後学修	漢字テストの復習をする。 授業内で配布する履歴書に記入してみる。	120分
4	第一部 水10/7	履歴書の書き方②：注意点	2回目の授業内容を踏まえて、履歴書の下書きを完成させる。授業内で清書も行い、完成したものは課題として提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、履歴書の作成を通じて就職活動をするにふさわしい日本語表現を身につけることができる。	
		事前学修	図書館の所蔵資料やウェブサイト等で、履歴書記入上の注意点を確認しておく。	120分
		事後学修	漢字テストの復習をする。 教科書や講義資料を読み返し、履歴書の書き方を復習する。	120分
5	第一部 水10/14	履歴書の書き方③：課題のフィードバック	3回目の課題を返却し、フィードバックを行う。また実際の履歴書を参照しながら、記入のポイントを復習する。	
		この回の到達目標	到達目標③④について、自己の意見を客観的、論理的に述べるようになる。また課題作文のフィードバックを受けて、他者の意見を踏まえて、自己の文章をより適切なものにすることができる。	
		事前学修	2回目の事後学修で記入した履歴書に不備がないか確認する。	120分
		事後学修	漢字テストの復習をする。 教科書や講義資料を読み返し、授業内容の理解の徹底に努める。	120分
6	第一部 水10/21	手紙の書き方①：形式・構成	手紙の書き方について、基本事項や形式について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、さまざまな文章形態があることを学び、手紙の基本的事項を身につけることができるようになる。	
		事前学修	教科書39～46ページを熟読する。	60分
		事後学修	漢字テストの復習をする。 教科書や講義資料を読み返し、授業内容の理解の徹底に努める。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 水10/28	手紙の書き方②：実例	手紙文の実例を示し、授業内で手紙文を作成する。完成したものは課題として提出する。
		この回の到達目標	到達目標①②について、手紙の作成を通じて、場に応じた日本語表現を身につけることができる。
		事前学修	教科書39～46ページを熟読してくる。
		事後学修	漢字テストの復習をする。 教科書や講義資料を読み返して、授業内容の理解の徹底に努める。
8	第一部 水11/11	手紙の書き方③：カバーレター（添え状）を書く	カバーレターや、返信のはがきの書き方について講義をする。
		この回の到達目標	到達目標①②について、カバーレターと返信はがきの書き方を通じて、場に応じた日本語表現を身につけることができる。
		事前学修	図書館の所蔵資料やウェブサイトでカバーレター（添え状）について調査をする。
		事後学修	漢字テストの復習をする。 講義資料を読み直して理解を深め、カバーレターを作成する。完成したものは課題として提出する。
9	第一部 水11/18	小テストの実施と解説	8回目までの到達度を確認するために、小テストを実施する。また授業内で解説も行う。
		この回の到達目標	到達目標①②④について、小テストを行うことで、正しい日本語表現を用いることができるかどうか、自己点検ができるようになる。
		事前学修	これまでの漢字テストを復習し、小テストに備える。
		事後学修	教科書や講義資料を用いて、これまでの授業内容の理解を深める。
10	第一部 水11/25	敬語法	敬語法の基本について講義を行い、敬語を適切に使えるようにする。
		この回の到達目標	到達目標①②について、敬語法の学修を通じて、正しい日本語表現を身につけ、的確に運用することができるようになる。
		事前学修	教科書33～36ページを読んでくる。
		事後学修	教科書33ページの課題を解き直し、敬語法への理解を深める。
11	第一部 水12/2	冠婚葬祭と文章表現	祝儀袋・不祝儀袋や水引といった、冠婚葬祭に関する文章表現を学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②について、冠婚葬祭のマナーについて学修し、その場に応じた言葉の運用ができるようになる。
		事前学修	教科書59～64ページを読んでくる。
		事後学修	教科書59ページの課題1・2を解き直し、授業内容への理解を深める。
12	第一部 水12/9	論作文①：執筆する	各自指示されたテーマで、400字程度の論作文を執筆する。完成したものは課題として提出する。
		この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容をふまえ、正しい日本語表現で文章を執筆することができる。
		事前学修	11回目に示されるテーマについて、文献資料がないか調べておく。
		事後学修	図書館でテーマに関する参考文献を探し、読んでおく。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	論作文②：相互批評	12回目に作成した課題をもとに、学生間での相互批評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④について、自己の意見を客観的、論理的に述べるようになる。また課題作文のフィードバックを受けて、他者の意見を踏まえて、自己の文章をより適切なものにすることができる。	
		事前学修	12回目の課題について、補足資料を調査し、目を通しておく。	120分
		事後学修	返却された課題と、相互批評の内容を踏まえて、自分の課題の修正点を考える。	120分
14	第一部 水12/23	小テストの実施 これまでの授業内容に関する質疑応答	13回目までの到達度を確認するために、小テストを実施する。解説は授業内で行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④について、小テストを行うことで、正しい日本語表現を用いることができるかどうか、自己点検ができるようになる。	
		事前学修	後期の授業内容を総復習し、小テストに備える。	120分
		事後学修	試験問題を再度解き直し、理解の至らなかった点を復習する。	120分
15	第一部 水1/13	小テストの解説と講評 後期の授業内容に関するまとめ	14回目に実施した小テストの解説を講評を行い、後期の授業のまとめとする。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容の振り返りを行うことで、正しい日本語表現を用い、さまざまな文章を執筆することができるようになる。また、到達目標③④について、小テストの解説の際に質疑応答も交えることで、自己の疑問点を論理的に伝えられるようになる。	
		事前学修	14回目の小テストの内容を再度確認し、質問事項をまとめておく。	120分
		事後学修	授業内に行った解説や質疑応答をもとに、これまでの授業をまとめ、理解を深める。	120分

科目名	文章表現演習Ⅱ	担当者	竹田 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】		
教員による講義と、受講者による課題の実践を組み合わせた授業を行う。講義では、いくつかの実例をもとに、文章表現のための基本的事項について解説する。その後、受講者は講義での解説を踏まえて、実際に文章を作成する。作成した文章は、教員による添削・指導を受けて修正し、完成を目指す。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回に課題を設け、文章の作成を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。				2						
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。					2					
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。						2				
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。									2	
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
火曜日2限、授業終了後に授業講堂にて受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	イントロダクション、文章表現について	この授業の進め方、成績評価の方法などについて説明する。また、文章表現を学ぶ意義について解説する。	
		この回の到達目標	授業の概要、文章表現を学ぶ意義について理解することができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく確認する。	120分
		事後学修	配布プリントを読み返し、授業の概要・意義を確認する。	120分
2	9/22	敬語とマナー 1 敬語の基本	場面に応じて適切な言葉遣いができるよう、さまざまなケースに即して練習する。まずは基本的な敬語の用法、誤用の例、注意点について学修する。	
		この回の到達目標	敬語について、基本的な用法、誤用、注意点について理解することができる。	
		事前学修	自分の日頃使用している敬語について、どのようなときに使っているか、どういうことを意識しているか、改めて確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み返し、自分の敬語の使い方について見直すこと。	120分
3	9/29	敬語とマナー 2 場面に応じた文章表現	場面に応じて適切な言葉遣いができるよう、さまざまなケースに即して練習する。冠婚葬祭などの具体的な場面における適切な文章表現の仕方について学修する。	
		この回の到達目標	冠婚葬祭などの具体的な場面における適切な文章表現の仕方について理解することができる。	
		事前学修	冠婚葬祭などの場面でどのような文章表現が必要になるか、考えておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み返し、場面に応じた文章表現について見直すこと。	120分
4	10/6	レビューを書く 1 対象の設定	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。まずは何について書くか、対象を検討し、その内容を分析する。	
		この回の到達目標	レビューを書く対象について、どのような特徴があるか、どこをレビューのポイントにしたいかを自分で考えることができる。	
		事前学修	レビューを書く対象の候補を考えて、よく内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	レビューを書く対象について、自分なりに要点を整理しておくこと。	120分
5	10/13	レビューを書く 2 構成を作る	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。対象についての内容整理に基づき、レビューの構成・展開を考える。	
		この回の到達目標	強調したいポイントを効果的に示すためにどのような情報が必要か、どのような構成・展開が必要か、自分で考えることができる。	
		事前学修	レビューを書く対象について、自分なりに要点を整理し、どのポイントを強調したいかを決めておく。	120分
		事後学修	自分で考えた構成に沿って、執筆を進める。	120分
6	10/20	レビューを書く 3 執筆する	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。構成に沿って執筆、推敲する。	
		この回の到達目標	レビューを書く対象について、要点を押さえて紹介しつつ、自分の評価・分析を示すことができる。	
		事前学修	自分で考えた構成に沿って、執筆を進める。	120分
		事後学修	自分の書いたレビューを客観的に見直し、自己添削する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	レビューを書く 3 相互批評	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。他の受講者が書いたレビューを相互批評することで、より優れた表現を目指す。	
		この回の到達目標	他の受講生の書いたレビューを読むことで、自分の書いたものについても客観的な視点を持って見直すことができる。	
		事前学修	他の受講生の書いたレビューを読む。	120分
		事後学修	相互批評で示されたポイントを意識して、改めて自分の書いたレビューを見直す。	120分
8	11/10	レポートを書く 1 テーマの設定	小レポートを作成する。レポート執筆時の注意点や、問題提起の仕方などについての解説を受けた後、どのようなテーマで書くかを検討する。	
		この回の到達目標	自分でレポートテーマを設定し、問題提起することができる。	
		事前学修	あらかじめいくつかテーマになりそうなものを考えておくこと。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、どのようなテーマ設定、問題提起をすべきか、改めて検討する。	120分
9	11/17	レポートを書く 2 ブレインストーミング	小レポートを作成する。レポートで扱うテーマ、トピックをより明確にするために、ブレインストーミングを行う。	
		この回の到達目標	自分が設定したレポートテーマについてより掘り下げて検討し、具体的な内容についての構想ができる。	
		事前学修	自分が設定したレポートテーマについて、情報収集をしておくこと。	120分
		事後学修	ブレインストーミングで出てきたアイデアを整理しておくこと。	120分
10	11/24	レポートを書く 3 構成を作る	小レポートを作成する。ブレインストーミングの結果を踏まえて、具体的なレポートの構成を考える。	
		この回の到達目標	レポートの論理的な構成・展開を自ら考えることができる。	
		事前学修	ブレインストーミングで出てきたアイデアを整理し、どのような内容をレポートに盛り込むか決めておくこと。	120分
		事後学修	作成した構成に基づいて、執筆に必要な情報を調査しておくこと。	120分
11	12/1	レポートを書く 4 序論を書く	小レポートを作成する。序論を執筆して添削を受ける。	
		この回の到達目標	序論として書くべき内容を理解した上で、的確に書くことができる。	
		事前学修	作成した構成に基づいて、執筆に必要な情報を調査・整理しておくこと。	120分
		事後学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。	120分
12	12/8	レポートを書く 5 本論を書く	小レポートを作成する。本論を書き進め、添削を受ける。	
		この回の到達目標	本論の展開の仕方、論証の仕方を理解した上で、的確に書くことができる。	
		事前学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。	120分
		事後学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	レポートを書く 6 結論を書く	小レポートを作成する。結論を書き進め。添削を受ける。	
		この回の到達目標	結論として書くべき内容を理解した上で、的確に書くことができる。	
		事前学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
		事後学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
14	12/22	レポートを書く 7 仮提出	小レポートを作成する。引用、注や参考文献一覧などの形式を整え、レポートを仮提出する。	
		この回の到達目標	引用、注、参考文献などの形式を正しく理解して、書くことができる。	
		事前学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、自分のレポートの論理構成、文章、形式について推敲しながら、レポートを書き進める。	120分
15	1/12	レポートの提出とふりかえり	小レポートを提出する。これまでの授業内容、添削の内容を踏まえて完成させる。	
		この回の到達目標	これまでの授業内容を正しく理解して、形式・内容の整ったレポートを書くことができる。	
		事前学修	ここまでに作成したレポートを見直し、添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
		事後学修	ここまでの授業内容について改めて確認しつつ、自分のレポートを自己添削する。	120分

科目名	文章表現演習Ⅱ	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目の授業に、必ず出席しなければならない。

【授業方法】
教科書に従って進める。授業時間内で書くこともしばしば求めため、国語辞典（電子手帳可）を必ず持参すること。補助教材としてプリントを配布することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内、もしくはポータルの通知で行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文章検文章読解・作成能力検定公式テキスト 2 級	日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定協会	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（9 号館 9 3 0 7 研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（1 2 時 2 0 分～1 2 時 5 0 分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンスと受講者数の調整	授業計画とその内容の説明を理解し、授業の準備をどのように行うべきかを考えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③についての説明を理解することができる。	
		事前学修	これまでの文章作成に対しての自身の問題点は何だったかを考えておく。	120分
		事後学修	授業ノートを整理・確認し、文章を書く際の注意点とこの講義の目的を理解し、自分の学修計画を練る。	120分
2	9/23	第1章基礎力「語彙・文法」	文章における基礎力である語彙と文法に関する能力を更に向上させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本語の語彙は4種類（和語・漢語・外来語・混種語）に分けられるが、実際に使用する際に適切な語彙を自ら選ぶことができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
3	9/30	第1章基礎力「語彙・文法」	文章における基礎力である語彙と文法に関する能力を更に向上させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的な観点からよく見られる間違いを理解し、適切な表現を用いることができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
4	10/7	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、要約するときの手順を理解し、適切な要約文を作成することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
5	10/14	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、要約文を使って自分の考えを述べる際に適切な文章構成を理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
6	10/21	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、図表やグラフからどのようにデータを分析すべきか、どのようなことは分析できないのかを識別する能力を向上させることができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	第3章作成力（1）書く力「表現」	読み手の立場に立つ推敲のコツを学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、誤字・脱字に注意するだけでなく、さらに分かりやすい表現にすることはできないかを考えることができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
8	11/11	第3章作成力（1）書く力「表現」	読み手の立場に立つ推敲のコツを学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推敲する際にチェックすべき表現上や表記上のポイントを理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
9	11/18	第4章作成力（2）伝える力「総合」	横書きの通信文等の基本形式とその目的を学び、実際の通信文を書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、横書きの通信文の基本形式を理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
10	11/25	第4章作成力（2）伝える力「通信文」	横書きの通信文等の基本形式とその目的を学び、実際の通信文を書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、横書きにおける敬意の表し方や基本形式の変形を理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
11	12/2	第5章作成力（3）考える力「総合」	論説文を書く際の注意点を理解し、実際に書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説文の型とそれを作る手順を理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
12	12/9	第5章作成力（3）考える力「総合」	論説文を書く際の注意点を理解し、実際に書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、良い論説文である条件を理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	まとめ問題 第1・2問	これまでの学修の中で、読解力が適切に身についているのか確認することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グラフからの確にデータを読み取り、自分の考えを論理的に述べることができる。また適切なレポートを書くことができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
14	12/23	まとめ問題 第3・4問	これまでの学修の中で、作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な手紙や論説文を書くことができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
15	1/13	授業内復習テスト	復習テストの実施とその解説	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の読解・作成能力を的確に測定し、能力を向上させることができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	200分
		事後学修	ポータルで公表された解答例を基に、自身の学修の振り返りを行う。	90分

科目名	文章表現演習Ⅱ	担当者	宮澤 隆義	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目に人数調整をするので必ず出席すること。なお、前期の「文章表現法」に関する講義を履修していることが望ましい。

【授業方法】
提出する課題を添削して返却する。欠席は原則として認めないので注意すること。なお、シラバスの進行はテーマを変更することもあることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文について、添削の上で返却する。相互批評も行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 9/17	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。文章表現について	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己紹介を行うことができる。	
		事前学修	これまでの自分の文章表現に対する取り組みを振り返っておくこと。	120分
		事後学修	文章表現について、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
2	第一部 木 9/24	夏期休暇中の出来事	夏期休暇中の出来事を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	文章表現について、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	夏期休暇中の出来事を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
3	第一部 木 10/1	引用	引用して書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	夏期休暇中の出来事を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	引用して書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
4	第一部 木 10/8	データの援用	データを援用して書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	引用して書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	データを援用して書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
5	第一部 木 10/15	手紙	手紙を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	データを援用して書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	手紙を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
6	第一部 木 10/22	メール	メールを書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	手紙を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	メールを書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 10/29	依頼文	依頼文を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	メールを書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	依頼文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
8	第一部 木 11/5	自己PR文	自己PR文を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	依頼文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	自己PR文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
9	第一部 木 11/12	エントリーシート	エントリーシート形式で書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	自己PR文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	エントリーシート形式で書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
10	第一部 木 11/19	書評	書評を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	エントリーシート形式で書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	書評を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
11	第一部 木 12/3	課題文	課題文を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	書評を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	課題文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
12	第一部 木 12/10	アウトライン	小論文のアウトラインを書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	課題文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	小論文のアウトラインを書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 12/17	参考文献	引用・参考文献のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	小論文のアウトラインを書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
		事後学修	引用・参考文献のまとめについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
14	第一部 木 12/24	小論文	小論文の仕上げ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半期の最終課題文を作成することができる。	
		事前学修	引用・参考文献のまとめについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
		事後学修	小論文の仕上げについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
15	第一部 木 1/14	振り返り	半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。最終課題の提出。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	小論文の仕上げについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
		事後学修	半期の講義について、要点の復習をしておくこと。	120分

科目名	文章表現演習Ⅱ	担当者	渡辺 重人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回に人数調整をするので、履修希望者は必ず出席してください。

【授業方法】
個人作業、ピア・ワークを複合した演習形式で進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4、5、8、12、13、15回にピア・ワークによるディスカッションを通して、演習問題、文章作成、振り返りに取り組みます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。				2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。					2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。						2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとしてすることができる。受 講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。									2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習問題の解説・作成例の提示、提出物の講評、小テスト・小論文の添削・返却・解説、課題小論文の解説と講評とします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。プリントを配布します。				

【オフィスアワー】
木曜 5 限、授業終了後、授業講堂にて。watanabe.shigetoll★nihon-u.ac.jp ★印を@に変更してください。エラーでレスポンスが遅い場合は授業の前後に直接申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部木 9/17	学修活動に関するガイダンス 導入講義	学修活動と全体のスケジュールを確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、学修活動の見通しを持つことができる。
		事前学修	シラバスを熟読し、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術についてまとめておきます。120分
		事後学修	スケジュールを踏まえて、各自の学修計画を立てます。120分
2	第一部木 9/24	論理的な文章の基本：パラグラフ・ライティングの概念	パラグラフ・ライティングの概念を捉え、活用の準備をします。
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、パラグラフ・ライティングの概念を理解し、活用の準備をすることができる。
		事前学修	図書館やP Cで論理的な文章を探し、その特徴をまとめておきます。120分
		事後学修	パラグラフ・ライティングの概念を踏まえて、図書館やP Cで各自が用意した文章を読みます。120分
3	第一部木 10/1	論理的な文章の基本：概念 の理解についての確認	パラグラフ・ライティングについての演習問題に取り組み、実践します。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関して、パラグラフ・ライティングの概念を理解し、実践することができる。
		事前学修	学修内容を踏まえて、パラグラフ・ライティングで書かれている文章を図書館やP Cで探します。120分
		事後学修	作成例を踏まえて、もう一度演習問題に取り組みます。事前配布された演習問題に取り組みます。120分
4	第一部木 10/8	論理的な文章の基本：パラ グラフの構造化	パラグラフの構造化について実践し、ピア・ワークで確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関して、論理的な文章の基本となる、パラグラフの構造化ができる。
		事前学修	各自の用意した文章が、パラグラフ・ライティングで書かれているかについて再確認します。120分
		事後学修	作成例を踏まえて、パラグラフの構造化に取り組みます。事前配布された演習問題に取り組みます。120分
5	第一部木 10/15	論理的な文章の基本：結束 性の高め方	センテンスやパラグラフの結束性の高め方について実践し、ピア・ワークで確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関して、接続詞やキーワードを効果的に配置し、センテンスやパラグラフの結束性を高めることができる。
		事前学修	キーワードの効果的な配置について想起し、注意点についてまとめておきます。120分
		事後学修	接続詞やキーワードの効果的な配置に注意し、センテンスやパラグラフの結束性の高め方についてもう一度実践します。120分
6	第一部木 10/22	情報収集の基本と発想法 表記と表現についての確認	情報収集の基本と活用法について確認し、実践します。発想法として、論理的思考と批判的思考の基本を修得します。 表記と表現についての確認：表記と表現について小テストで確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、論理的思考と批判的思考に基づいて情報を収集し、活用することができる。 到達目標①②③に関して、わかりやすい文章を書くために必要な表記と表現を身に付けることができる。
		事前学修	表記と表現についての確認に備え、文章作成に関する知識を整理しておきます。120分
		事後学修	図書館やP Cを利用し、情報収集を実践します。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	小論文攻略法：提案型小論文	提案型小論文の攻略法を修得し、小論文（721～800字）を作成します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、提案型小論文の攻略法を修得し、小論文を作成することができる。	
		事前学修	提案型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。	120分
		事後学修	授業時に作成した小論文をリライトします。	120分
8	第一部木 11/5	小論文の推敲と提出	リライトした小論文（721～800字）をピア・ワークでチェックし、提出します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、小論文を推敲し、完成度を高めることができる。	
		事前学修	リライトした小論文を推敲し、完成度を高めます。	120分
		事後学修	作成例を参照し、提案型小論文の作成手順を再確認します。	120分
9	第一部木 11/12	パラグラフ・ライティングの修得についての確認 論理的思考と批判的思考についての確認	パラグラフ・ライティングの修得について、演習問題で確認します。論理的思考と批判的思考の修得について、演習問題で確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、パラグラフ・ライティング、論理的思考と批判的思考を身に付けることができる。	
		事前学修	事前配布された演習問題に取り組み、これまでの学修を振り返ります。	120分
		事後学修	パラグラフ・ライティング、論理的思考と批判的思考が身に付いているか、自己点検します。	120分
10	第一部木 11/19	小論文攻略法：抽象題型小論文	抽象題型小論文の攻略法を修得します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、抽象題型小論文の攻略法を修得し、作成することができる。	
		事前学修	抽象題型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。	120分
		事後学修	作成例を参照し、抽象題型小論文の作成手順を再確認します。	120分
11	第一部木 12/3	小論文攻略法：自己PR型小論文	アピールポイントを効果的に読み手に伝える自己PR型小論文の攻略法を修得します。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関して、自己PR型小論文の攻略法を修得し、アピールポイントを効果的に読み手に伝えることができる。	
		事前学修	自己PR型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。	120分
		事後学修	作成例を参照し、自己PR型小論文の作成手順を再確認します。	120分
12	第一部木 12/10	小論文攻略法：情報活用法についての確認と実践	情報活用法について確認し、ピア・ワークで実践します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、情報活用法を身に付け、実践することができる。	
		事前学修	課題小論文の作成に必要な情報が何であるかについて検討し、図書館やPCで情報収集をします。	120分
		事後学修	情報収集で得たデータを小論文に活用できるよう整理します。）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	小論文攻略法：課題小論文作成の準備	ピア・ワークを通して、パラグラフ・ライティングによる課題小論文（721～800字）の作成の準備をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、パラグラフ・ライティングによる課題小論文を作成するための準備をすることができる。	
		事前学修	各論のパラグラフのトピックを決め、アウトラインを考えます。	120分
		事後学修	課題小論文の下書きを作成します。	120分
14	第一部木 12/24	課題小論文の作成	課題小論文（721～800字）を作成し、提出します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、パラグラフ・ライティングによる課題小論文を作成することができる。	
		事前学修	課題小論文の下書きを推敲します。	120分
		事後学修	課題小論文の下書きを熟読し、完成度を検証します。	120分
15	第一部木 1/14	課題小論文についての振り返り 自己点検報告の作成	課題小論文（721～800字）について解説と講評で振り返り、ピア・ワークを通して、文章作成に関する自己点検報告を作成します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題小論文の作成過程・完成度を検証し、自己点検をすることができる。	
		事前学修	完成した課題小論文をリライトします。	120分
		事後学修	課題小論文の振り返りを通して、文章作成上の注意事項を各自でまとめ、発展的な学習へつなげます。	120分

科目名	文章表現演習Ⅱ	担当者	茅原 雅之	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
講義および実習によって進める。文章作成にあたっての留意点を講義したのち、学生各自が実際に文章を作成する。作成した文章については、必要であれば学生間で問題点を討論する。提出課題については教員が添削し、問題点と良かった点を指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出の課題については教員が添削し、問題点を指摘し、改善を促す。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業の前後に直接の相談を受け付ける。質問・相談については電子メールにても対応。E-mail:locke@sea.plala.or.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部月 9/14	オリエンテーション。文章表現の基礎、漢字の確認。 (1)	授業計画の説明。各種の漢字について学ぶ。	
		この回の到達目標	授業内容の全体像を把握する。各種〈四字熟語〉の意味を理解する。	
		事前学修	一般的に使用されている四字熟語について調査しておく。	120分
		事後学修	配付資料〈四字熟語〉の復習。	120分
2	第二部月 9/21	文章表現の基礎、〈ことわざ・故事成語〉の確認。	各種の〈ことわざ・故事成語〉について学ぶ。	
		この回の到達目標	社会生活に必要とされる程度の〈ことわざ・故事成語〉について理解する。	
		事前学修	配布資料〈ことわざ・故事成語〉の予習。	120分
		事後学修	配布資料〈ことわざ・故事成語〉の復習。	120分
3	第二部月 9/28	小論文とは何か。	小論文とは何か、論理的な文章とは何かを学ぶ。	
		この回の到達目標	小論文が何かを理解する。	
		事前学修	配布資料〈小論文の書き方「車社会」〉の予習。	120分
		事後学修	配布資料〈小論文の書き方「車社会」〉の復習。	120分
4	第二部月 10/5	小論文を書く。(1)	与えられた課題をもとに文章構成を組み立てる。	
		この回の到達目標	三段構成の文章を書くことができる。	
		事前学修	配布資料〈小論文の書き方「思いやり」〉の予習。	120分
		事後学修	配布資料〈小論文の書き方「思いやり」〉の復習。	120分
5	第二部月 10/12	小論文を書く。(2)	小論文を記述する際の言葉遣いを学ぶ。	
		この回の到達目標	敬体と常体の文体を、使い分けることができる。	
		事前学修	小論文執筆のための資料準備。	120分
		事後学修	提出課題〈小論文「思いやり」〉の作成。	120分
6	第二部月 10/19	小論文を書く。(3)	小論文の各種応用問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	複合型課題の小論文に対応できる。	
		事前学修	配布資料〈小論文の書き方「デザイナーベビー」〉の予習。	120分
		事後学修	提出課題〈小論文「デザイナーベビー」〉の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部月 10/26	小論文を書く。（４）	公務員試験における小論文の傾向を学ぶ。	
		この回の到達目標	公務員試験の小論文に対応できる。	
		事前学修	配布資料〈公務員の出題傾向〉の予習。	120分
		事後学修	提出課題〈小論文「他者への気遣いとマナー」〉の作成。	120分
8	第二部月 11/9	小論文を書く。（５）	公務員試験対策の資料準備について学ぶ。	
		この回の到達目標	小論文執筆に必要となる各種資料を集めることができる。	
		事前学修	配布資料〈小論文の書き方「少子化対策」〉の予習。	120分
		事後学修	提出課題〈小論文「少子化対策」〉の作成。	120分
9	第二部月 11/16	小論文を書く。（６）	公務員試験の実例をもとに時間内に小論文を作成する。	
		この回の到達目標	公務員試験の既出問題を、制限時間以内に執筆することができる。	
		事前学修	小論文執筆のための資料準備。	120分
		事後学修	提出課題〈小論文「超高齢化社会」〉の作成。	120分
10	第二部月 11/23	エッセイとは何か。	エッセイの起源から現在に至るまでの展開を学ぶ。	
		この回の到達目標	エッセイが何かを説明することができる。	
		事前学修	エッセイについての事前調査。	120分
		事後学修	配布資料〈各種エッセイ〉の復習。	120分
11	第二部月 11/30	エッセイを書く。（１）	エッセイとは「自分」を表現すること。	
		この回の到達目標	エッセイにより、自分を表現することができる。	
		事前学修	エッセイでもって自分の何を表現したいのか考えておく。資料を集める。	120分
		事後学修	提出課題〈３分スピーチ〉の作成。	120分
12	第二部月 12/7	エッセイを書く。（２）	エッセイにおける「文筆力」を学ぶ。	
		この回の到達目標	短い文章の中に、文筆力を駆使して文を書くことが出来る。	
		事前学修	エッセイにて表現する〈文筆力〉について考えておく。構想を立てておく。	120分
		事後学修	提出課題〈仮称「エッセイ」〉の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部月 12/14	文章表現の基礎、漢字の確認。（2）	間違いやすい漢字について学ぶ。	
		この回の到達目標	社会一般で誤用が目立つ漢字について、間違いを指摘することができる。	
		事前学修	配布資料〈間違いやすい漢字〉の予習。	120分
		事後学修	配布資料〈間違いやすい漢字〉の復習。	120分
14	第二部月 12/21	授業全体のまとめ。	これまでの授業に関する総合的な質疑応答。	
		この回の到達目標	漢字・小論文・エッセイについて、知識と執筆方法を確かなものにする。	
		事前学修	これまでの授業で理解できなかった点について自己点検する。	120分
		事後学修	授業全体の自己総括をする。	120分
15	第二部月 1/18	到達度試験、および解答と解説。	文章表現に対する学習の達成度をはかる。	
		この回の到達目標	授業の達成度について自己確認する。自身の文章表現力の水準を理解する。	
		事前学修	到達度試験に関する学習。	120分
		事後学修	到達度試験に関する自己反省。	120分

科目名	倫理学 I	担当者	嘉吉 純夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】 金曜日の第3時限の講座は1年次生のみ履修可(例年受講者過多のため)とします。金曜日の第4時限と火曜日の第5時限の講座に関しては全学生履修可です。

【授業方法】 講義形式で進めるが、知識の供給に加えて、できるだけ問題提起を行って生き生きした講義になるよう心がけたい。なお、唯一の成績評価(単位認定)の基準となる授業内試験を第13回の講義時に行い、その講評を第14回目もしくは第15回目の講義時に行う。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。								2	2			
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
第14回または第15回の中で、試験結果の講評というかたちでフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日の第3時限・第4時限、火曜日の第5時限の各講義終了後、授業講堂にて講義内容に関する質問のみ受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金曜日 4/10 火曜日 4/7	倫理学とはどのような学問か	本講座の運営方針および「倫理学入門」（倫理学の考察対象についての概説、倫理学の歴史の概観等々）	
		この回の到達目標	到達度①に関連して、倫理学の探究課題が道德教育とは異なり、道德哲学的側面をもっていることを認識・説明することができる。	
		事前学修	日本の社会が直面している倫理的状況について、また自分自身の身の回りに生起している倫理にかかわる出来事について、そこにどんな問題があるかを自分なりに析出して考えておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻し、倫理学の学問的個性と特徴について理解を深めておく。	120分
2	金曜日 4/17 火曜日 4/14	倫理の起源/倫理と宗教の関係性	人類の歴史と倫理の成立・発展の意義および諸宗教における倫理的部分の考察	
		この回の到達目標	到達度①に関連して、人類の歴史と倫理の起源について理解するとともに、現代における宗教倫理について偏見なしに認識・説明することができる。	
		事前学修	人類学に関する知見を、図書館や市販文献を利用して入手しておく。また、世界宗教(キリスト教、イスラーム、仏教)の基本的教義と現状について理解しておく。	120分
		事後学修	講義内容を吟味して、自分自身の生き方における倫理性と宗教性(あるいは非倫理性と非宗教性)について考察を深める。	120分
3	金曜日 4/24 火曜日 4/21	倫理の普遍性と相対性/倫理と文化の関係性	いつでも、どこでも、誰にでも妥当する倫理はありうるかという倫理学上の根本問題をめぐる普遍主義と相対主義の対立および日本人の倫理観の特徴の考察	
		この回の到達目標	到達度①に関連して、倫理の普遍的な性格と、社会の変化に応じて変化する相対的な部分とを認識して、われわれ日本人の倫理観の特徴を自覚・説明することができる。	
		事前学修	われわれ日本人の倫理観の特質を、倫理の普遍性と相対性(いつでも、どこでも、誰にでも妥当する倫理はありうるか)という観点から自分なりに考えておく。できれば、各種のいわゆる日本人論に関連する文献に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、国際化が進行する現代において、われわれは今後どのような倫理的態度を身に着ける必要があるか、自分なりに省察する。	120分
4	金曜日 5/1 火曜日 4/28	正邪善悪をめぐる倫理的判断と法的判断のズレ/倫理と法の関係性/動機説対結果説	倫理的判断と法的判断の関係性と異同および行為の正邪善悪の判定基準をめぐる動機説と結果説(帰結主義)の対立に関する考察	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、倫理的判断と法的判断がずれる場合があることを知り、さらに倫理学においても、正邪善悪の判定基準を行為の動機に置くか結果に置くかの理論的対立があることを十分に認識して、このことが实际的に、われわれ自身の行為の判定と評価にも大きく影響することを具体的に説明することができる。	
		事前学修	動機説(motivism)と結果説(consequentialism)について、倫理学関連の文献を用いて下調べしておく。また、前者の支持者であるドイツの思想家カントと後者の支持者であるイギリスの思想家ベンサムについて、基本的な事項をリサーチしておく。	120分
		事後学修	講義内容を振り返り、自分が対立する両説のどちらの側により多く共感を覚えるか、そしてそれは何故か、論点を整理して省察する。	120分
5	金曜日 5/8 火曜日 5/5	われわれの倫理的行為の導き手として最も信頼に値するのは「知」か「情」か「意」か	ソクラテスの知性主義(主知主義)、近世イギリス感情主義倫理およびカントの「善意志」の思想に関する対比的考察	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、倫理的行為の選択や倫理的なスタンスが知・情・意のどれに重点を置くかで変わること理解し説明することができる。	
		事前学修	人間性を構成する要素のうち、自分自身にとって、知性、感情、意志(理性的意志)のいずれが実人生上最も重要か考えておく。	120分
		事後学修	ソクラテスの知性主義、イギリスの道德感觉学派および同情主義倫理、カント的主意主義のいずれが妥当か、講義内容を踏まえ、自分自身の立場を反省して再構築する。	120分
6	金曜日 5/15 火曜日 5/12	倫理の根底に据えるべきは「義務」か「幸福」か/義務説対幸福説	義務説と幸福説(倫理的な最高善を道德法則の履行とみなすかそれとも幸福の獲得・実現とみなすか)の対立に関する考察	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、倫理の根幹をなすのは道德的義務の実現か幸福の達成かという根本的な問題について、その重要性について説明することができ、かつまたこの問題について自分自身の立場を確立して説明することができる。	
		事前学修	道德的義務の履行と人間的幸福の獲得とが対立するような出来事や事象について、どういうものがあるか考えておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえて、論点を整理し、両説それぞれの功罪をよく吟味して、自分自身として義務説・幸福説どちらの側に軍配を上げるか決定する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金曜日 5/22 火曜日 5/19	カントの義務倫理学の総体および美点と欠点の詳説	本講座第4回～第6回の講義を踏まえた、近代倫理学の祖の一人としてのカントの倫理思想の総合的分析と批判的考究	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、「原則の人」と呼ばれるカントの堅牢な道徳哲学について理解し説明することができる。また、それによって自分自身の生き方の指針を再考して確立する。	
		事前学修	ドイツの思想家カントの人生と思想的業績について、図書館や書店を利用して関連文献を入手し、下調べをしておく。	120分
		事後学修	講義で指摘されたカントの倫理思想の美点と欠点について、講義内容を再考察して整理し、さらにそれによって自分自身の倫理観・人生観の練成の一助とする。	120分
8	金曜日 5/29 火曜日 5/26	ベンサムの総量功利主義の主眼と功罪の考究	本講座第4回～第6回の講義を踏まえた、近代的な幸福説(幸福主義)の確立者ベンサムの公衆的快樂主義的功利主義の分析と批判的考究	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、「最大多数の最大幸福」を標榜するベンサムの総量功利主義について、先入観を排してその本意とするところを認識・理解し、適切に説明することができる。また、それによって自分自身の人生観を再構築する。	
		事前学修	イギリスの思想家ベンサムの人生と思想的業績について、図書館や書店を利用して関連文献を入手し、下調べをしておく。	120分
		事後学修	講義で指摘されたベンサムの総量功利主義思想の美点と欠点について、講義内容を再考察して整理し、さらにそれによって自分自身の倫理観・人生観の練成の一助とする。	120分
9	金曜日 6/5 火曜日 6/2	J. S. ミルの質的功利主義とP. シンガーの選好功利主義	前回の講義を踏まえた、ベンサムの総量功利主義の修正バージョンとしてのミルの質的功利主義および最新のシンガーの選好功利主義の分析と批判的考究	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、幸福や快樂の質の差を認めるミルの思想的立場の是非および生命の質の差を肯定するシンガーの思想的立場の是非について批判的な考察ができる。また、それを通して自分自身の道徳感覚を研ぎ澄ます。	
		事前学修	イギリスの思想家j. s. ミルの人生と思想的業績について、図書館や書店を利用して関連文献を入手し、下調べをしておく。また、オーストラリア出身の倫理学者P. シンガーについて、インターネットを利用して情報を入手しておく。	120分
		事後学修	講義で指摘されたミルとシンガーの功利主義思想のそれぞれの美点と欠点について、講義内容を再考察して整理し、さらにそれによって自分自身の倫理観・人生観の練成の一助とする。	120分
10	金曜日 6/12 火曜日 6/9	「愛」について考える	現代における愛のかたちの多様化および愛をめぐる危機的状況の考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、愛と倫理の間に生じる葛藤について理解し、自分自身の恋愛観・結婚観を確立して人生の指針とすることができる。	
		事前学修	インターネットを利用して、いわゆるLGBTとSOGIについて、最新の情報を入手しておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、愛による幸福はいかにして得られ保たれるか、自分自身の問題として真摯に省察する。	120分
11	金曜日 6/19 火曜日 6/16	「自由と責任」について考える	倫理的責任の根底をなす「自由」の重要性和「他者危害の原則」に関する考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、自由と倫理的責任の関係を理解し、倫理現代社会において肝心要の人間の自由が縮小の危機にさらされていること(主体的倫理観の喪失)を自覚して説明することができる。	
		事前学修	J. S. ミルの『自由論』を援用するので、図書館や書店において入手し通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻し、自分自身の言わば「自由度」を測定して、自分の望む生き方がいかにして可能となるかその方策を具体的に考える。	120分
12	金曜日 6/26 火曜日 6/23	科学技術文明の功罪と管理社会において生きる現代人の在り方・生き方について考える	科学技術文明と管理社会にどっぷり浸かり、経済至上主義的価値観に縛られ翻弄される現代人の人生(人間の労働マシン化、消費マシン化、情報反応マシン化、社畜化等々の危機)に対する批判的考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、現代社会に生きるわれわれの倫理的主体性の喪失の危機について認識し、この状況に対する自己の生き方を模索して自分なりの倫理観、価値観、人生観を確立する。	
		事前学修	ニーチェの思想を援用するので、関連文献によって実存哲学およびその祖の一人ニーチェについて下調べをしておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえ、自分自身が直面している(さらには今後直面するであろう)諸問題について、自分なりの解決策を模索する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金曜日 7/3 火曜日 6/30	総括と補足説明および授業内試験	ここまでの講義の総括と補足説明(30分)、《授業内試験》の実施(60分)	
		この回の到達目標	ここまでの講義内容を総括・補足し、到達度①、②、③ のすべてを確認・評価するために《授業内試験》を実施するので、この考查において合格ラインを越えることで所定の単位を得ることができる。	
		事前学修	試験の基礎問題部分については、ここまでの講義内容を復習しておく。論述問題部分については、自分なりの見識を確立し、それを適切に表現できるようにシミュレーションしておく。	120分
		事後学修	試験で問われたことについて、あらためて省察し、自分なりの考えを再構築する。	120分
14	金曜日 7/10 火曜日 7/7	前回に実施された授業内試験の講評および質疑応答	授業内試験の講評と質疑応答および現代の倫理的問題、講義内容、現代の倫理的問題等々についての質問用紙を利用した質疑応答	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、みずからの習熟度や達成を質疑応答を通して確認し、不足する部分について上積みをする。	
		事前学修	これまでの講義内容と授業内試験の講評について、質問すべき事項・質問したい事柄を考えておく。	120分
		事後学修	質疑応答を思い返しながら、本講座から得た学識を自分なりにまとめ、自分自身の倫理観を確立する。	120分
15	金曜日 7/17 火曜日 7/14	「生と死」そして「不幸脱出法」について考える	ショーペンハウアー、キルケゴール、ラッセル等の思想家たちの思想を援用した人生論と幸福論の展開	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、自分自身の今後の、特に実社会に出てからの人生行路の指針を得て、社会の風潮に流されることがなく生きられるようになる。	
		事前学修	図書館や書店において岩波文庫所収『ラッセル 幸福論』を入手して読んでおく。	120分
		事後学修	講義内容を再考察するとともに、自分自身の人生の現状に照らして現代人の不幸の原因となるものを探索・考究し、その解消に向けて対策を講じる。	120分

科目名	倫理学 I	担当者	佐々木 聖使	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。
--

【履修条件】 日常的に、新聞記事を読むこと。授業中のスマホやパソコンの使用は認めない。

【授業方法】 講義形式で行なう。黒板を多用するので、専用のノートを用意すること。 試験の解説や講評は、後日ポータルシステムを使って行なう。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内に、適宜質問して理解度を確認する	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	新聞やネット情報などを使用				

【オフィスアワー】
授業後（二部水曜２限）授業講堂にて。メールでも可。メールアドレス：sezi.wokoze@gmail.com（メールの内容にかかわらず、「授業について」と表題をつけること。学生証番号、氏名を明記すること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	ガイダンス、導入授業	授業概要と倫理について
		この回の到達目標	どのように授業を進めていくのか理解する
		事前学修	高校時代の『倫理社会と現代』を復習してくること120分
		事後学修	道徳と倫理の違いについて確認すること120分
2	4/15	倫理とは何か	現代社会における倫理
		この回の到達目標	「倫理」の意味について理解する
		事前学修	南博『日本的自我』（岩波新書）を読んでくること120分
		事後学修	友人や後輩・先輩との人間関係に必要なことを考えること120分
3	4/22	日本社会の倫理	日本的社会と人間関係
		この回の到達目標	身の回りの人間関係がどのようなになっているのかを理解する
		事前学修	中根千枝『タテ社会の力学』（講談社学術文庫）を読んでくること120分
		事後学修	日本の人間関係の特色について確認すること120分
4	4/29	日本人の倫理と価値観	アメリカ人の正義・日本人の「和」
		この回の到達目標	国によって倫理的な考え方に違いがあることを理解する
		事前学修	池田謙一『日本人の考え方 世界の人の考え方』（勁草書房）を読んでくること120分
		事後学修	国や文化によって、人間関係の違いを確認しておくこと120分
5	5/6	僕はどこにいるのか	社会の中での自己位置の確認
		この回の到達目標	自己と集団との関係はどのようにあるのか理解する
		事前学修	南博『日本人の心理と生活』（勁草書房）を読んでくること120分
		事後学修	家族や友だちにとっての自分の立場を確認すること120分
6	5/13	社会と自己	弱気な私と強気な集団
		この回の到達目標	日本人特有の自我について理解する
		事前学修	増成隆士『現代の人間観と世界観』（放送大学教材）を読んでくること120分
		事後学修	集団的犯罪行為はなぜ起こるのか、新聞記事を調べること120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	「らしさ」と文化	日本人の同調性と倫理的行動	
		この回の到達目標	他者との同調行動をなぜ行なうのか理解する	
		事前学修	大平健『豊かさの精神病理』（岩波新書）を読んでくること	120分
		事後学修	なぜ人と同じ行動を取るのか考えてみること	120分
8	5/27	メディアと人間関係	メディアが変える人間関係	
		この回の到達目標	情報機器との関係がどのようなものかを理解する	
		事前学修	梅本吉彦『情報社会と情報倫理』（丸善）を読んでくること	120分
		事後学修	TVやゲーム機がどのように日常生活の中に入り込んでいるのか、確認すること	120分
9	6/3	情報と人間関係	TV・コンピューターが生み出すデジタル人間と倫理	
		この回の到達目標	スマホがどのように人間関係を変えようとしているのか理解する	
		事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること	120分
		事後学修	IT革命 がもたらす倫理的問題について考えること	120分
10	6/10	情報社会の人間関係	疑似現実世界の人間関係	
		この回の到達目標	仮想空間が現実空間の人間関係に与えている影響について理解する	
		事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること	120分
		事後学修	Virtual reality がもたらす倫理的問題について考えること	120分
11	6/17	情報社会の恋愛	愛情は「モノ」でしか表現できないのか	
		この回の到達目標	情報機器によって恋愛関係が変化していることを理解する	
		事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること	120分
		事後学修	Virtual な恋愛について、考えてみること	120分
12	6/24	青年期の人間関係	反抗 ― 自立 ― 恋愛	
		この回の到達目標	青年期に直面する人間関係の難しさを理解する	
		事前学修	福島章『青年期の心』（講談社現代新書）を読んでくること	120分
		事後学修	それぞれが直面している倫理的問題を箇条書きしてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	人間形成と自己実現	青年期の自己実現の意味と目的	
		この回の到達目標	私たちはどのように「自己実現」を目指すのかを理解する	
		事前学修	小林司『「生きがい」とは何か』（NHKブックス）を読んでくること	120分
		事後学修	何のために生きているのか、自己実現との関係で考えてみること	120分
14	7/8	まとめ	講義の重要事項についての解説と補足	
		この回の到達目標	これまでの授業をフィードバックしてまとめる	
		事前学修	これまでの講義ノート of 整理と重要な点についての確認をすること	120分
		事後学修	学年末試験の対策を講じること	120分
15	7/15	授業内試験、振り返り	学期末試験及び振り返り	
		この回の到達目標	授業内容を、どの程度理解しているのかを確認する	
		事前学修	授業内容の総復習	120分
		事後学修	自己採点をすること	120分

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	嘉吉 純夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
金曜日の第3時限の講座は1年次生のみ履修可(例年受講者過多のため)とします。金曜日の第4時限と火曜日の第5時限の講座に関しては全学生履修可です。

【授業方法】		
紋切型で総花的な講義になるのを避けるため、古代ギリシアに遡って限定的に詳説する。アニメやゲームのモチーフやキャラクターの原型・モデルが多数登場するギリシア神話から始め、一般の教科書に書かれていない知見を盛り込んで、聴講者にとって興味深く楽しい授業になるように心がける。なお、唯一の成績評価(単位認定)の基準となる授業内試験を第13回の講義時に行い、その講評を第14回目もしくは第15回目の講義時に行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2						
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2					
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2						
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
第14回または第15回の中で、試験結果の講評というかたちでフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日の第3時限・第4時限、火曜日の第5時限の各講義終了後、授業講堂にて講義内容に関する質問のみ受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金曜日 9/18 火曜日 9/15	古代ギリシア文明の成立・発展と倫理意識の萌芽	クレタ島をめぐる伝説と神話とそこに見られる道徳的教訓に関する考察、ポリス(都市国家)の成立・発展と倫理意識の発達	
		この回の到達目標	到達度①に関連して、クレタ島をめぐる伝説と神話に登場するテーセウスによるミーノータウロス(ミノタウロス)退治の逸話、およびイーカロス(イカロス)の翼にまつわる逸話の示唆するところの道徳的意義を看取して説明することができる。	
		事前学修	関連文献やインターネットを利用して、クレタ島を中心に花開いたミノア文明について調べておく。	120分
		事後学修	講義内容を確認し、そこに感知される古代ギリシア人の倫理観の萌芽の意義について、自分自身の関心にしたがつて再考察する。	120分
2	金曜日 9/25 火曜日 9/22	古代ギリシアの神々の生誕と系譜および人類の誕生にまつわる物語とヘシオドスの世界観・人間観・倫理観	「ティーターン神族の支配からゼウスを頂点とするオリュンポス十二神の支配へ」、「プロメーテウスによる人類の救い」、「パンドラーの壺(いわゆるパンドラの箱)にまつわる物語」、「掟の女神テミス、復讐の女神ネメシス、運命の女神たち(モイライ)の役割」等々の伝説についての考察	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、古代ギリシア神話の奥深さ・興味深さを認識し、そこから人間性と人間の生き方に対する古代ギリシア人の眼差し(人間観、人生観、倫理観)を看取・玩味して説明することができる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、ヘシオドスの『神統記』と『仕事と日々』を入手し通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻し、そこから現代に生きるわれわれへのメッセージを見出して、自分自身の生き方に対する示唆を導き出して省察する。	120分
3	金曜日 10/2 火曜日 9/29	ホメロスと三大悲劇詩人によるトロイ戦争にまつわる英雄伝説とそこに見られる運命観・死生観	最強の勇者アキレウス(アキレス)と悲劇の英雄ヘクトールの一騎打ち、知将オデュッセウスによる「トロイの木馬作戦」等々の有名な物語を含む一連の英雄伝説に見られるヒロイズムとその倫理性に対する考察	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、「古代ギリシア人のバイブル」と評され、ソクラテス、プラトン、アリストテレスにも(さらに言うと、二千数百年の時を隔てて有名な哲学者ニーチェにも)多大な影響を与えたホメロスの叙事詩およびその後のアイスキュロス、ソフォクレスらの悲劇詩人たちによる劇作に通底する死生観、運命観、倫理観を十分に理解して説明できる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、ホメロスの『イリアス』と『オデュッセイア』を入手し通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻し、古代ギリシアの英雄伝説を貫くアレテー(卓越性)に基づく英雄主義的人生観、運命観、価値観を抽出・把握し、その倫理的意義と現代的意義を考察する。	120分
4	金曜日 10/9 火曜日 10/6	英雄伝説、悲劇作品、ヘロドトスの歴史書、イソップ物語等々に見られる道徳的教訓	モイラ(分け前、分限、定め、運命)、ヒュプリス(傲慢、慢心)、アーテー(迷妄、破滅)等々の倫理的観念をめぐる考察、およびDVDによるエウリピデス『メーディア(王女メディア)』の鑑賞	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、古代ギリシアの倫理思想の根底に存在する道徳訓や人生訓を総合的に理解し説明することができる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、ソフォクレスの『オイディプース王(オイディプス王)』およびエウリピデスの『メーディア(王女メディア)』を入手し通読しておく。	120分
		事後学修	みずからの人生と他の人々の不幸・破滅を招く要因としての慢心と激情(怒り、憎しみ)について、われわれ現代人の状況と照らし合わせて考察する。	120分
5	金曜日 10/16 火曜日 10/13	ソクラテス以前の自然哲学者たちの倫理観	ミレトス学派による万物のアルケー(始原)の探究に始まり、原子論によって完成されるところの自然哲学の歴史、およびその中で輩出した賢者タレス、ピュタゴラス、デモクリトスそれぞれ固有の人生観と倫理観の考究	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、現代の倫理的諸問題の理解にもつながる自然哲学者たちの倫理意識や美意識を洞察して的確に説明することができる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』(加来彰俊訳、岩波文庫)を入手し、タレス、ピュタゴラス、デモクリトスの章を通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻し、一種の応用問題として、現代の環境破壊の問題、心身問題、快楽主義的人生観が引き起こす社会問題等を自分なりに推考する。	120分
6	金曜日 10/23 火曜日 10/20	ソフィストたちによる伝統的道徳に対する挑戦とソクラテスによる倫理の本源に迫る真摯な問題提起	ソフィストたちの相対主義思想による伝統的倫理観の動揺と彼ら(特にプロタゴラスとゴルギアス)に対するソクラテスの批判についての考究	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、現代の倫理学にも色濃く影を落とす倫理的相対主義をめぐる問題を洞察して、その適否について偏見を排して説明することができる。	
		事前学修	関連図書やインターネットを利用して、ソフィストについて下調べをしておく。また、図書館や書店を利用して、プラトンの著作『テアイテトス』と『ゴルギアス』を入手して通読しておく。	120分
		事後学修	現代においても散見されるソフィスト的な論理や主張について、自分なりにその問題点を抉り出して省察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	金曜日 10/30 火曜日 10/27	ソクラテスの人生と倫理思想	ソクラテスの対話の本質、アポリア(行き詰まり)に導く問答法(論駁法)と助産術、ソクラテス裁判の実態、考古学的に発掘されたソクラテスの牢獄、「悪法も法なり」という解釈の誤り、ソクラテスの宗教性等々、ソクラテスにまつわる多岐にわたる考察
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、ソクラテスの精神性と倫理思想の本質および死生観と彼の刑死について、俗流の解釈を排して、的確に理解し説明することができる。
		事前学修	図書館や書店を利用して、プラトンの著作『ソクラテスの弁明』、『クリトン』および『パイドン』を入手し通読しておく。
		事後学修	講義内容を玩味し、なぜソクラテスがなぜ、ゴータマ(釈迦)・孔子・イエスとともに世界の四聖人の一人として、いまだに人類の精神的指導者とみなされているのか推考・推察する。
8	金曜日 11/6 火曜日 11/10	プラトンの倫理思想におけるエロース(エロス論)の役割と美意識	「美のイデア」への到達を目指すプラトンの「エロース(憧憬、恋情)論」の倫理思想史的意義、および青少年の美しい肉体に対する成人男性の恋愛こそを純粋な真の恋愛とみなす当時の慣習に基づく(真実の)プラトニック・ラブに関する考察
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、プラトンの『饗宴』に展開されている有名なエロース論とその倫理的・倫理思想史的意義を、通俗的な解釈を排して的確に理解し説明することができる。
		事前学修	図書館や書店を利用して、プラトンの著作『饗宴』を入手し通読しておく。
		事後学修	講義内容を踏まえ、現在進むLGBT他と呼ばれる愛のかたちの多様化やSOGI(性指向と性自認)の偏見からの解放の流れにおいても、青少年(未成年者)保護の観点から、プラトンの依って立つ当時の少年愛の風俗・慣習が決して容認されないこと(イエローカードもしくはレッドカード)を確認しておく。
9	金曜日 11/13 火曜日 11/17	プラトンのイデア論と魂不死説および理想国家論	「善のイデア」を認識した哲学者たちによる哲人政治の理想が語られている『国家』は、プラトンの代表作としてあらゆる教科書で紹介されているが、無視されがちな驚くべき構想についても考察に加える。たとえば、統治者階層・守護者階層の人々に対する一切の「私有」の禁止(すなわち無給・無資産、妻子の私有も禁止)、職務における男女平等、専守防衛や文民統制など。
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、プラトンの『国家』において展開されている「魂三分割の教説」とそれと並行して語られる国家の三分割の構想について、また「太陽の比喩」や「洞窟の比喩」などの哲学的な教説について、著作全体を視野に入れて的確に説明できる。
		事前学修	図書館や書店を利用して、プラトンの著作『国家』を入手し通読しておく。
		事後学修	講義内容を反芻して、プラトンの倫理思想の美質だけではなく、彼の構想している理想国家における上部構造が雁字搦めの完全な管理社会であることを感知し、そこから現代社会において加速度的に進行する管理社会化の危険性と恐ろしさを十分に看取・感得し、批判的に考察しておく。
10	金曜日 11/20 火曜日 11/24	アリストテレスのアレテー論と幸福論	アリストテレスのアレテー(卓越性、徳)の観念に基づく活動説的・自己実現説的幸福論、およびその基礎を形成する知性的アレテー(知恵、思慮、技術)と性格的アレテー(勇気、節制、温和等々のいわゆる中庸の徳)の分析に関する通俗的な理解にとどまらない考察
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、知の巨人アリストテレスの倫理思想の神髄を理解し、西欧の倫理学史に対する彼の学問的貢献についての的確に理解し説明することができる。
		事前学修	図書館や書店を利用して、アリストテレスの著作『ニコマコス倫理学』を入手し通読しておく。
		事後学修	講義内容を踏まえ、アリストテレスの幸福論とアレテー論の現代における有効性について、自分自身のケースに照らして洞察するとともに、彼の思想に漂う「エリート臭」についても批判的に評価を行っておく。
11	金曜日 11/27 火曜日 12/1	小ソクラテス学派の人びとの個性的な価値観と倫理思想	小ソクラテス学派のうちのアリスティッポスを学祖とするキュレネ学派の快楽主義的倫理思想とアンティステネスとその弟子ディオゲネスによるキュニコス学派の反俗的倫理思想についての考察、およびそれらの思想の現代人にとっての有効性の考究
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、キュレネ学派の利己的快楽主義の思想とキュニコス学派の反俗的倫理思想について両者の倫理思想史的意義を理解し説明することができる。
		事前学修	図書館や書店を利用して、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』(岩波文庫)を入手し、該当箇所を通読しておく。
		事後学修	講義内容を踏まえ、時を経て近代の功利主義倫理につながってゆくアリスティッポスの快楽主義的人生観・価値観が、自分自身の生き方に資するところがあるかどうか省察する。また、キュニコス学派の反俗的人生観・価値観が、欲望の体系としての現代社会に対して鎮静剤的役割を果たすかどうか考察する。
12	金曜日 12/4 火曜日 12/8	ヘレニズム期の倫理思想の「心のあり方」に基づく倫理思想	エピクロスが最高の幸福の境地とみなす「アタラクシア(心の平安)」とゼノンを開祖とするストア学派が至高の境地とみなす「アパテイア(不動心、無情念)」の倫理的・倫理思想史的意義の考究
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、エピクロスの精神的快楽主義の美点と問題点およびゼノンに発する禁欲的ストイシズムの利点と欠点について、十分に認識して説明できる。
		事前学修	図書館や書店を利用して、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』(岩波文庫)を入手し、該当箇所を通読しておく。
		事後学修	講義内容を踏まえ、エピクロスの説く精神の安らぎと身体は無苦痛をもって人生の充足とする思想が、現代人にとって有効な癒しとなるかどうか、ゼノンの説くストイックな価値観・人生観が、競争社会の渦中にあって苦しみ喘ぐ現代人にとって一服の清涼剤で鎮静剤となるかどうか考察する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金曜日 12/11 火曜日 12/15	総括と補足説明および授業内試験	ここまでの講義の総括と補足説明(30分)、《授業内試験》の実施(60分)	
		この回の到達目標	ここまでの講義内容を総括・補足し、到達度①、②、③ のすべてを確認・評価するために《授業内試験》を実施するので、この考查において合格ラインを越えることで所定の単位を得ることができる。	
		事前学修	試験の基礎問題部分については、ここまでの講義内容を復習しておく。論述問題部分については、自分なりの見識を確立し、それを適切に表現できるようにシミュレーションしておく。	120分
		事後学修	試験で問われたことについて、あらためて省察し、自分なりの考えを再構築する。	120分
14	金曜日 12/18 火曜日 12/22	前回に実施された授業内試験の講評および質疑応答	授業内試験の講評と質疑応答および現代の倫理的問題、講義内容、現代の倫理的問題等々についての質問用紙を利用した質疑応答	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、みずからの習熟度や達成を質疑応答を通して確認し、不足する部分について上積みをする。	
		事前学修	これまでの講義内容と授業内試験の講評について、質問すべき事項・質問したい事柄を考えておく。	120分
		事後学修	質疑応答を思い返しながら、本講座から得た学識を自分なりにまとめ、自分自身の倫理観を確立する。	120分
15	金曜日 12/25 火曜日 1/12	キリスト教の伝播と浸透とそれに伴う倫理観の一大転換	ギリシア的四元徳(知恵、勇気、節制、正義)重視からキリスト教的三元徳(信仰、希望、愛)重視への倫理観の転換の倫理思想史的意義の考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、キリスト教が西欧倫理思想史に与えた決定的な影響について十分に認識して説明できる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、キリスト教の基本的教義とその歴史に関する概説書(できれば『新約聖書』)を手し下調べをしておく。	120分
		事後学修	キリスト教が説く「アガペー(愛)」を重視し人間の傲慢・強欲を戒める思想傾向が、現代の倫理的諸問題の解決に対して有効な働きをするかどうか、大局的な見地から省察する。	120分

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	佐々木 聖使	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。
--

【履修条件】 日常的に、新聞記事を読むこと。授業中のスマホやパソコンの使用は認めない。

【授業方法】 講義形式で行なう。黒板を多用するので、専用のノートを用意すること。 試験の解説や講評は、後日ポータルシステムを使って行なう。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2				
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2			
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中、適宜質問をして理解度を確認する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	新聞記事やネット記事を参照する				

【オフィスアワー】
二部水曜2限 授業終了後 授業講堂にて。メールアドレス：sezi.wokoze@gmail.com（メールの内容にかかわらず、「授業について」と表題をつけること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/16	ガイダンス、導入授業	環境倫理とはなにか
		この回の到達目標	現代起きている環境問題について確認する
		事前学修	夏期休業中の環境問題に関する新聞記事を確認すること120分
		事後学修	環境の何が問題となっているのか、復習しておくこと120分
2	9/23	自然とは何か	東洋では自然をどのように考えてきたのか
		この回の到達目標	中国を代表する東洋的自然観は、どのような特色があるのかを理解する
		事前学修	安田喜憲『森を守る文明・支配する文明』（PHP新書）を読んでくること120分
		事後学修	中国以外の自然観を調査すること120分
3	9/30	西洋人の自然観	キリスト教的自然観と私たちの自然観とどのように違うのか
		この回の到達目標	西洋文明のもとにあるキリスト教ではどのように自然を考えているのか、どのように私たちと違うのかを理解する
		事前学修	旧約聖書の「創世記」冒頭部分を読んでくること120分
		事後学修	現代日本に於けるキリスト教の影響を考えてみること120分
4	10/7	日本人の自然観	古代日本人の感じた神聖なる自然への眼差し
		この回の到達目標	古代日本人は、どのように自然を考えていたのかを理解する
		事前学修	土橋寛『日本語に探る古代信仰』（中公新書）を読んでくること120分
		事後学修	身近な神社のご神木に、どのような種類があるか、調べてみること120分
5	10/14	現代日本人の自然観	宮崎駿はもののけ姫で、何を主張しようとしたのか
		この回の到達目標	現代日本人の代表として、宮崎駿がどのような自然観を持っているのか、彼のアニメを通して理解する
		事前学修	「もののけ姫」のビデオを見てくること120分
		事後学修	宮崎駿の他のアニメで、どのように自然を描いているのか、調べてみること120分
6	10/21	文明と自然観	世界の各文明がもっている自然観の違いを比較しながら考える
		この回の到達目標	自然観は、民族や宗教、文化や歴史によってまったく違っていることを理解する
		事前学修	森本哲郎『そして文明は歩む』（新潮社）を読んでくること120分
		事後学修	授業内容の文明における自然観の違いを、表にしてみること120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	環境破壊の根源	破壊をもたらした近代社会の構造的原因は何か	
		この回の到達目標	現代社会が直面している環境破壊の原因がどこにあるのかを理解する	
		事前学修	A. トフラー『第三の波』のなかで、近代社会の特色を確認すること	120分
		事後学修	身近な環境問題にどのようなものがあるのか、確認すること	120分
8	11/11	環境倫理と新しい世界観・価値観	近代社会の終焉と新しい世界像	
		この回の到達目標	環境問題が、新しい社会制度を生み出そうとしていることを理解する	
		事前学修	A. トフラーの主張する、新しい社会について、調べてくること	120分
		事後学修	「近代主義」の先の「人間と自然」の関係はどのようなものか、レポートにまとめること	120分
9	11/18	生命倫理の基本的考え方	生命倫理とバイオテクノロジー	
		この回の到達目標	医療技術の進展が、いのちに対する考え方を変えようとしている現状を理解する	
		事前学修	日常の新聞記事の中で、医療問題や終末期医療の問題を確認すること	120分
		事後学修	環境倫理と生命倫理の区別を確認すること（2時間）	120分
10	11/25	生殖医療技術と人間関係 1	体外受精がもたらす問題	
		この回の到達目標	急激に変化している生殖医療技術が、どのような問題を生み出そうとしているのかを具体的に理解する	
		事前学修	体外受精における精子提供や卵子提供について確認してくること	120分
		事後学修	生殖医療を自らの問題として考えること	120分
11	12/2	生殖医療技術と人間関係 2	代理母問題を通して	
		この回の到達目標	産みの母と法的な母が分離しようとしている現状を理解する	
		事前学修	向井亜紀と高田延彦夫婦の代理出産の事例を確認してくること	120分
		事後学修	代理母以外に子供を持つ方法はあるのかを考えること	120分
12	12/9	生殖医療技術と人間関係 3	同性婚や性転換がもたらす影響	
		この回の到達目標	医療技術の進展によって、肉体的性別と社会的性別の区別を生み出し始めていることを理解する	
		事前学修	ジェンダーと性的役割の葛藤を確認してくること	120分
		事後学修	生殖医療技術が、どのような倫理的問題を起こすのかをまとめること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	脳死・臓器移植問題	人間の心はどこに宿るのか。生命倫理と心身論	
		この回の到達目標	脳死問題は、私たちの「自我」がどこにあるのか、根源的な問題を突きつけていることを理解する	
		事前学修	クレア・シルヴィア『記憶する心臓』（角川書店）を読んでくこと	120分
		事後学修	臓器移植ネットワークのデータで、移植者のみならず移植希望者の数を確認すること	120分
14	12/23	新しい「死」	安楽死と生命の尊厳、現代医療技術がもたらす新しい死のあり方と意味	
		この回の到達目標	現代の医療技術の進展によって、新しい「死」が生み出されていることを理解する	
		事前学修	奥野修司『魂でもいいから、そばにいて』（新潮社）を読んでくこと	120分
		事後学修	家族の死について、両親などより聞き取りをすること	120分
15	1/13	授業内試験、振り返り	学期末試験及び振り返り	
		この回の到達目標	授業内容をどの程度理解していたのかを確認する	
		事前学修	授業内容の総復習	120分
		事後学修	自己採点をすること	120分

科目名	論理学 I	担当者	江川 晃	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
間違っても恥ずかしくないという勇気を持つこと！演習問題はみんなで「ああだこうだ」議論していきましょう～。

【授業方法】
講義と演習を交互に行ないます。まず基本的な形式論理学の原理を説明します。次に、徹底的に演習し、具体的な応用問題を皆で納得のいくまで議論しながら楽しく、解いていきましょう！「考えるより慣れていきましょう」

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に演習問題配布しますので予習してください。 事後、質問を受けつけます。受講票の裏に質問と理解度を記入の事。 翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とはなにかについて説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、論証を読み取り、その構造がどのようなになっているか分析し反論することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週授業はじめに解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材に関しては、すべてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日 4 限、授業終了後の教室にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 3 0 年間、予備校教育経験（数学・物理）。教育相談・父兄面接・家庭訪問・事務も経験した。
実務経験に基づく実践的教育の内容		毎回、リアクションペーパーの質問に答えてから授業に入ります。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金4/10	ガイダンス及び導入講義	：論理学とは何か	
		この回の到達目標	論理学はトレーニングであることを理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読玩味すること。（2時間）	120分
		事後学修	ガイダンスプリントをよく復讐すること。（2時間）	120分
2	金4/17	1 直接推理	（1）対当推理	
		この回の到達目標	対当推理の理解。	
		事前学修	プリントで対当推理とは何かを読んでもおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	4つの対当推理を理解しておくこと。（2時間）	120分
3	金4/24	演習	（矛盾対当・反対対当・小反対対当・大小対当推理関する具体的な問題）	
		この回の到達目標	実生活での推理解。	
		事前学修	問題を考えてくること。（2時間）	120分
		事後学修	もう一度、問題を復習すること。（2時間）	120分
4	金5/1	変形推理	（2）変形推理（E判断、I判断、A判断）	
		この回の到達目標	変形推理解。	
		事前学修	「変形推理とは何か」をプリントで見てもおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	変形推理のタイプを区別できるように復習すること。（2時間）	120分
5	金5/8	演習	演習（E判断、I判断、A判断の変形推理）	
		この回の到達目標	実践能力開発。	
		事前学修	問題を考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	該当問題の復習（2時間）	120分
6	金5/15	2 間接推理	（1）定言三段論法（定言三段論法の構造と、格式）	
		この回の到達目標	三段論法の格・式の構造理解。	
		事前学修	三段論法に関するプリントの該当箇所をよく読んでもおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容（格式、妥当な推理）の復習、（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金5/22	演習	(ベン図による妥当性判定に関する練習問題)	
		この回の到達目標	妥当性判定トレーニング。	
		事前学修	妥当性に関する練習問題をやっておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	ベン図による練習問題の復習(2時間)	120分
8	金5/29	仮言三段論法	(2) 仮言三段論法	
		この回の到達目標	仮言三段論法の構造理解。	
		事前学修	仮言三段論法とは何かを把握しておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習(2時間)	120分
9	金6/5	演習	(仮言三段論法の問題)	
		この回の到達目標	仮言三段論法の実践トレーニング。	
		事前学修	具体的問題を見ておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	問題練習の復習。(2時間)	120分
10	金6/12	選言三段論法	(3) 選言三段論法	
		この回の到達目標	選言三段論法の構造理解。	
		事前学修	「選言三段論法とは何か」を調べておこう。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容復習(2時間)	120分
11	金6/19	演習	(選言三段論法に関する問題)	
		この回の到達目標	選言三段論法の実践トレーニング。	
		事前学修	配布プリントの選言三段論法に関する問題を考えておく(2時間)	120分
		事後学修	授業復習(2時間)	120分
12	金6/26	3 命題論理	(1) 論理語 (2) 命題計算	
		この回の到達目標	命題計算の意味。	
		事前学修	命題論理について把握しておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容復習(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金7/3	演習	(命題計算)	
		この回の到達目標	命題計算の実践。	
		事前学修	問題予習 (2時間)	120分
		事後学修	問題復習 (2時間)	120分
14	金7/10	模擬試験 振り返り	模擬試験及び振り返り	
		この回の到達目標	総復習。	
		事前学修	今までの授業をまとめておこう! (2時間)	120分
		事後学修	回答をよく理解しておこう。 (2時間)	120分
15	金7/17	試験本番 解説	授業内試験と解説	
		この回の到達目標	模擬試験によるトレーニング。	
		事前学修	模擬試験を完ぺきにする。 (2時間)	120分
		事後学修	もう一度やりなそう。 (2時間)	120分

科目名	論理学 I	担当者	大熊 圭子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書きしていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書や配布プリントに沿って講義する。パワーポイント等を用いて説明、あわせて理解度チェックのための課題を行う。課題のうち提出したものは翌週に解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題についてのグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とはなにかについて説明できる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、論証を読み取り、その構造がどのようなになっているか分析し反論することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評を翌週に授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 論理トレーニング	野矢茂樹	産業図書	2006	教科書	必携
実践ロジカル・シンキング入門	野内良三	大修館書店	2003	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。okuma.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7 木4/9 第二部火 4/7	開講にあたって／ロジカルシンキングとは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では論理的思考とはどのようなものか考える。	
		この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。論理的思考とはどのようなものか説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	120分
		事後学修	シラバス・ガイダンス時の説明をよく読み、履修を検討する。講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	第一部 火4/14 木4/16 第二部火 4/14	論証とはなにか	論証とは何か、それを構成するものが何か、さらに論理学における基本概念について学習する。	
		この回の到達目標	論証とは何かを論理学用語を用いて説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを熟読する。論証とは何か、ネットなどを使って調べてみる。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。新聞などを読んで、その中から論証の構造を持つ文を探し出してみる。	120分
3	第一部 火4/21 木4/23 第二部火 4/21	順接の接続関係	順接の接続関係において、特に注意しなければならないものについて考える。	
		この回の到達目標	順接の接続関係とその留意点について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第1章を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。順接の接続詞を積極的に用いて文章を書いてみる。	120分
4	第一部 火4/28 木4/30 第二部火 4/28	逆説の接続関係	逆説の接続関係において、特に注意しなければならないものについて考察する。	
		この回の到達目標	逆説の接続関係とその留意点について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第2章を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。逆説の接続詞を積極的に用いて文章を書いてみる。	120分
5	第一部 火5/5 木5/7 第二部火 5/5	議論の構造	論理的な文章を読み、それがどのような構造を持っているか読み取る方法について考える。	
		この回の到達目標	論理的な文章の構造を把握するための方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第3章を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。教科書の練習問題に取り組む。	120分
6	第一部 火5/12 木5/14 第二部火 5/12	議論の構造の問題	より複雑な論理的な文章を読み、その構造を評価する方法について考える。	
		この回の到達目標	複雑な文章の論理的構造を評価するための方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第3章を再度読んでノートを確認しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、どのような論理展開になっているか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 火5/19 木5/21 第二部火 5/19	論証の組み立て	論証とはどのような組み立てを持っているのか、また論証の3タイプについて考える。
		この回の到達目標	論証が導出に関して3つのタイプに分けられること、それぞれの違いを説明できる（関連SB0s①②）。
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第4章を再度よく読んでノートを作成しておく。120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、それが3つのタイプのどれか考える。120分
8	第一部 火5/26 木5/28 第二部火 5/26	論証の分析	論証の3つのタイプを用いて、議論の構造を分析する。
		この回の到達目標	3タイプの論証が、実際の議論の中でどのように使われているのかを説明できる（関連SB0s①②③）。
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書4.1をよく読んでノートを作成しておく。120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、それが3つのタイプのどれか考えたうえで論証図を作成してみる。120分
9	第一部 火6/2 木6/4 第二部火 6/2	論証の評価	論証の根拠について、その有効性の評価の方法を考える。
		この回の到達目標	論証で用いられるさまざまな根拠の評価の方法を説明できる（関連SB0s①②）。
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書4.2をよく読んでノートを作成しておく。120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、そこに含まれる根拠について評価してみる。120分
10	第一部 火6/9 木6/11 第二部火 6/9	導出の関連性	導出とは何か、導出の関連性の評価について考える。
		この回の到達目標	論証の結論がより正しくなるために重要な導出の意味、その評価の仕方を説明できる（関連SB0s①②）。
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書4.2を再度よく読んでノートを再作成、疑問点を明らかにしておく。120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、そこに含まれる導出について評価してみる。120分
11	第一部 火6/16 木6/18 第二部火 6/16	推測と演繹について	推測と演繹の違いについて考える。
		この回の到達目標	推測と演繹の違いを例を挙げて説明できる（関連SB0s①②）。
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書5.1をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。演繹と推測それぞれの論証をいろいろと作成してみる。120分
12	第一部 火6/23 木6/25 第二部火 6/23	仮説形成	仮説形成タイプの論証がどのようなものか、その評価の方法を考える。
		この回の到達目標	仮説形成タイプの論証とは何か、その評価方法を説明できる（関連SB0s①②）。
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書5.2をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞や広告などから仮説形成タイプの論証を見つけ、その導出について評価してみる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30 木7/2 第二部火 6/30	価値評価型論証	価値評価型論証とは何か、その評価の方法について考える。	
		この回の到達目標	価値評価型論証とは何か、その評価方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第6章をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞や広告などから価値評価型論証を見つけ、その導出について評価してみる。	120分
14	第一部 火7/7 木7/9 第二部火 7/7	前期の授業のふり返りと総合問題実施	前期の講義内容の理解を問う授業内試験を行う。試験に先立ち、講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答をすることができる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	120分
		事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価をする。	120分
15	第一部 火7/14 木7/16 第二部火 7/14	講義全体のふり返りと総合問題の解説	前回行った授業内試験の解説を行う。その後、もう一度前期講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答を行えたか自ら評価できる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	210分
		事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。 本講義での学びを振り返る。	120分

科目名	論理学Ⅱ	担当者	江川 晃	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
間違っても恥ずかしくないという勇気を持つこと！演習問題はみんなで「ああだこうだ」議論していきましょう～。

【授業方法】
講義と演習を交互に行ないます。まず基本的な形式論理学の原理を説明します。次に、徹底的に演習し、具体的な応用問題を皆で納得のいくまで議論しながら楽しく、解いていきましょう！「考えるより慣れていきましょう」

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に演習問題配布しますので予習してください。 事後、質問を受けつけます。受講票の裏に質問と理解度を記入の事。 翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	あいまいな文章と論理的に明確な文章との否定の違いを説明できる。				2	2	2	2				
②	論証を読み取り、それが論理的に正しいものかどうかの判断の方法を説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週授業はじめに解説。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材に関しては、すべてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日 4 限、授業終了後の教室にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		30年間、予備校教育経験（数学・物理）。教育相談・父兄面接・家庭訪問・事務も経験した。 毎回、リアクションペーパーの質問に答えてから授業に入ります。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金9/18	論証の構造	4 論証の構造・演習	
		この回の到達目標	後期授業の大きな把握。	
		事前学修	配布プリントの該当箇所をよく読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	論証図について授業中に取り上げた問題等を復習する。（2時間）	120分
2	金9/25	5 演繹と推測	(1) 演繹と推測の違い・演習	
		この回の到達目標	演繹と推測の違い把握。	
		事前学修	演繹と推測の違いについて把握しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容復習。（2時間）	120分
3	金10/2	仮説	(2) 仮説形成	
		この回の到達目標	仮説について把握。	
		事前学修	仮説とは何かを把握しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	授業の復習（2時間）	120分
4	金10/9	6 否定	(1) 否定と反対・演習	
		この回の到達目標	反論と否定の関係。	
		事前学修	否定・反対・両立不可能について把握しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	否定・反対・両立不可能について復習（2時間）	120分
5	金10/16	ド・モルガンの法則 1	(2) 「かつ」と「または」	
		この回の到達目標	ド・モルガン（1）の把握。	
		事前学修	「かつ」と「または」の論理的違いについて予習しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	具体的な問題をもう一度考え直そう。（2時間）	120分
6	金10/23	ド・モルガン（2）	(3) 「すべて」と「存在する」（ド・モルガンの法則 2）	
		この回の到達目標	ド・モルガン（2）の把握。	
		事前学修	「すべて」と「存在する」の論理的違いについて予習しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	具体的な問題をもう一度考え直そう。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金10/30	7 条件構造	(1) 逆・裏・対偶	
		この回の到達目標	逆・裏・対偶の把握。	
		事前学修	条件構造とは何か予習しておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	逆・裏・対偶を具体的な問題を通じてよく理解しておこう。(2時間)	120分
8	金11/6	条件連鎖	(2) 条件連鎖・演習	
		この回の到達目標	条件連鎖の構造把握。	
		事前学修	条件連鎖の構造を予習しておこう。(2時間)	120分
		事後学修	授業復習(2時間)	120分
9	金11/13	演習	第7章練習問題 問題1～4	
		この回の到達目標	条件連鎖のトレーニング。	
		事前学修	問題を事前に解いておこう。(2時間)	120分
		事後学修	問題1～4を復習しよう。(2時間)	120分
10	金11/20	8 推論の技術	(1) 存在文の扱い方・演習	
		この回の到達目標	存在文の理解。	
		事前学修	「存在文の扱い方」をよく読んでおこう。(2時間)	120分
		事後学修	具体例の復習。(2時間)	120分
11	金11/27	消去法	(2) 消去法・演習	
		この回の到達目標	消去法理解。	
		事前学修	消去法とは何かを把握しておこう。(2時間)	120分
		事後学修	具体例・演習の復習。(2時間)	120分
12	金12/4	背理法	(3) 背理法・演習	
		この回の到達目標	背理法の意味理解。	
		事前学修	「背理法とは何か」を把握しておこう。(2時間)	120分
		事後学修	具体的問題をもう一度独力で解答してみよう。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金12/11	試験の傾向と対策(模試)	試験の傾向と対策(1)	
		この回の到達目標	総復習。	
		事前学修	プリントの予習 (2時間)	120分
		事後学修	傾向と対策(1)復習 (2時間)	120分
14	金12/18	試験の傾向と対策 (解答)	試験の傾向と対策(2)	
		この回の到達目標	模擬問題理解。	
		事前学修	プリントの予習 (2時間)	120分
		事後学修	傾向と対策(2)復習 (2時間)	120分
15	金12/25	試験 解説	授業内試験と解説	
		この回の到達目標	後期理解度の最大発揮。	
		事前学修	試験の傾向と対策を徹底的に理解しておこう。(2時間)	120分
		事後学修	試験復習 (2時間)	120分

科目名	論理学Ⅱ	担当者	大熊 圭子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書きしていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書や配布プリントに沿って講義する。パワーポイント等を用いて説明、あわせて理解度チェックのための課題を行う。課題のうち提出したものは翌週に解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題についてのグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	あいまいな文章と論理的に明確な文章との否定の違いを説明できる。				2	2	2	2				
②	論証を読み取り、それが論理的に正しいものかどうかの判断の方法を説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評を翌週に授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 論理トレーニング	野矢茂樹	産業図書	2006	教科書	必携
実践ロジカル・シンキング入門	野内良三	大修館書店	2003	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。okuma.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15 木9/17 第二部火 9/15	開講にあたって／ロジカルシンキングとは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では、論理学の基本的用語などについて説明する。	
		この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。論理的思考とはどのようなものか説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	120分
		事後学修	シラバス・ガイダンス時の説明をよく読み、履修を検討する。講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	第一部 火9/22 木9/24 第二部火 9/22	否定の形	文の否定の形、および反対と否定の違いについて考える。	
		この回の到達目標	否定の形、および否定と反対の違いについて説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	教科書7.1を熟読し、ノートにまとめておく。否定や反対についてその違いを考えてみる。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。様々な文の否定の形を作ってみる。	120分
3	第一部 火9/29 木10/1 第二部火 9/29	連言文と選言文	連言文と選言文とは何か、その否定の形について考える。	
		この回の到達目標	連言文と選言文の否定の形について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書7.2を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。連言文と選言文を探し、その否定の文を書いてみる。	120分
4	第一部 火10/6 木10/8 第二部火 10/6	存在文と全称文	存在文と全称文とは何か、その否定の形について考える。	
		この回の到達目標	存在文と全称文の否定の形について、およびその違いを説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書7.3を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。存在文と全称文の否定の形についての練習問題を解いてみる。	120分
5	第一部 火10/13 木10/15 第二部火 10/13	逆・裏・対偶	逆・裏・対偶とは何か、対偶の特別性について考えてみる。	
		この回の到達目標	逆・裏・対偶とは何か、対偶がなぜ重要かについて説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書8.1を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。教科書の練習問題に取り組む。	120分
6	第一部 火10/20 木10/22 第二部火 10/20	条件連鎖	条件連鎖の方法、その目的について考える。	
		この回の到達目標	条件連鎖について、その目的・方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書8.2を読んでノートを確認しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。教科書の条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27 木10/29 第二部火 10/27	存在文の条件連鎖	存在文が含まれるときの条件連鎖の方法について考える。	
		この回の到達目標	存在文が含まれる条件連鎖について、その方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書9.1を再度よく読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の存在文が含まれる条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分
8	第一部 火11/10 木11/5 第二部火 11/10	消去法	消去法とは何か、消去法を用いた条件連鎖について考える。	
		この回の到達目標	消去法とは何か、また消去法を用いて条件連鎖を行う方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書9.2をよく読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の消去法が含まれる条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分
9	第一部 火11/17 木11/12 第二部火 11/17	背理法	背理法とは何か、背理法を用いた条件連鎖について考える。	
		この回の到達目標	背理法とは何か、また背理法を用いて条件連鎖を行う方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書9.3をよく読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の背理法が含まれる条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分
10	第一部 火11/24 木11/19 第二部火 11/24	条件連鎖のまとめ	条件連鎖の方法について復習する。	
		この回の到達目標	さまざまなタイプの論証を条件連鎖により演繹かどうかを確認する方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第8章、第9章を再度よく読んでノートを再作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書にある条件連鎖に関する練習問題・課題問題に取り組む。	120分
11	第一部 火12/1 木12/3 第二部火 12/1	批判のための視点	批判のためにどのような点に着目すべきかについて考える。	
		この回の到達目標	さまざまなタイプの論証を批判的に読み取るための方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書10.1をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞など様々な文章を読んで、批判できるポイントを探してみる。	120分
12	第一部 火12/8 木12/10 第二部火 12/8	異論と批判	異論、批判とはなにか、その違いについて考える。	
		この回の到達目標	異論とは何か、批判とは何か、その違いを明確に説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書10.2をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞の社説や投書欄を読んで、それについて批判をしたり異論を提出してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15 木12/17 第二部火 12/15	批判する	論証を読み取り、より強力な批判の方法を考える。	
		この回の到達目標	より強力な批判とするにはどうすればよいかを説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第11章をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞の社説や投書欄を読んで、それについてさまざまな観点から批判をしたり異論を提出してみる。	120分
14	第一部 火12/22 木12/24 第二部火 12/22	前期の授業のふり返りと総合問題実施	前期の講義内容の理解を問う授業内試験を行う。試験に先立ち、講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	120分
		事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価をする。	120分
15	第一部 火1/12 木1/14 第二部火 1/12	講義全体のふり返りと総合問題の解説	前回行った授業内試験の解説を行う。その後、後期講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答を行えたか自ら評価できる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	210分
		事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。 本講義での学びを振り返る。	120分

Ⅲ群

外国語科目

Ⅲ群

外国語科目

科目名	英語A【法曹コース1年生共通クラス】	担当者	原田 明子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法曹コース1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
2回の授業でひとつの単元を学ぶ。1回目はToday’s Readingの内容を中心に学習する。2回目はテキストの問題の答え合わせを行って、英語表現の理解を深め、ミニテストを通じて重要な単語を定着させる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2、4、6、8、10、12回の授業において、ポイントとなる語彙や英文の内容についての意見を述べ合い、辞書の活用法を身に着け、読解力を高める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
SIMPLY ENGLISH:An Introduction to Today's Key Concepts	Jim Knudsen	南雲堂	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談等は、授業終了後（月曜10：30～授業講堂にて）対応します。e-mailにてアポイントを取ること。e-mailには「日本大学法学部」「学籍番号」「名前」を明記してください。あて先はharada@sakushin-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月4/6	学習内容と学習計画	ガイダンス	
		この回の到達目標	テキストやシラバスに目を通してこの科目の学習内容について把握し、自分の学習計画を立てる。	
		事前学修	テキストを入手し、事前にシラバスの内容を十分に確認しておくこと。	30分
		事後学修	テキストを見て、事前学習、授業内容、事後学習について、具体的にイメージしてみる。	30分
2	月4/13	Lesson 1のToday's Readingの理解	Lesson 1のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 1のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 1のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分
3	月4/20	Lesson 1の語彙や文法の理解と定着	Unit 1 Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson 1の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 1のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
4	月4/27	Lesson 2のToday's Readingの理解	Lesson 2のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 2のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 2のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分
5	月5/4	Lesson 2の語彙や文法の理解と定着	Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson 2の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 2のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
6	月5/11	Lesson 3のToday's Readingの理解	Lesson 3のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 3のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 3のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月5/18	Lesson 3の語彙や文法の理解と定着	Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson3 の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 3のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
8	月5/25	Lesson 4のToday's Readingの理解	Lesson 4のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 4のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 4のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分
9	月6/1	Lesson 4の語彙や文法の理解と定着	Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson 4の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 4のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
10	月6/8	Lesson 5のToday's Readingの理解	Lesson 5のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 5のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 5のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分
11	月6/15	Lesson 5の語彙や文法の理解と定着	Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson 5の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 5のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
12	月6/22	Lesson 6のToday's Readingの理解	Lesson 6のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 6のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 6のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月6/29	Lesson 6の語彙や文法の理解と定着	Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson 6の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 6のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
14	月7/6	読解力を深める	現代社会を扱った英文を読み、問いに答える。	
		この回の到達目標	前期の学習を活かして新聞のニュース記事やエッセイを読み、現代社会への理解を深める。	
		事前学修	現代社会を扱った指定された英文を読んでくる。	30分
		事後学修	英文に再度目を通し、重要な単語を暗記し、内容をまとめる。	30分
15	月7/13	学習内容の振り返りとまとめ	授業内試験及び解説、前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	授業内試験を通じて前期の学習内容を振り返り、欠落部分や誤解を修正し、再度の定着を図る。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	英語A【法曹コース1年生共通クラス(上級)】	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法曹コース1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則，英語Bと通年で履修。

【授業方法】		
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストはReading Fusion 1（南雲堂）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。		
アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Fusion 1	Andrew E. Bennett	南雲堂	2011	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第3版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00　但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修企画引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	これまでの自分の英語学習歴を整理する。シラバスとテキストを熟読するとともに、講義全体を概観する。大学での英語学習に向けての目標を考える。	30分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	60分
2	4/13	Music and the Mind	The Arts	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。芸術について調べる。指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。芸術について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
3	4/20	Body Language across Cultures	Culture	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。文化について調べる。。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
4	4/27	Turning Waste into Wealth	The Environment	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。環境問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
5	5/4	The Search for Other Worlds	Space	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。宇宙開発について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
6	5/11	Crowdsourcing	The Internet	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。インターネットについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Urban Landmarks	Architecture and Identity	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。都市論、有名建築などについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
8	5/25	Food Safety	Health	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。健康について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
9	6/1	Spending a Fortune	Entertainment	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。エンターテインメント、芸能について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
10	6/8	Wonders of the Deep	Nature	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。自然について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
11	6/15	Product Placement	Business	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。ビジネスについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
12	6/22	White-collar Crime	Law and Crime	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。法律と犯罪について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Working Disabled	Social Issues	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。障害者問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
14	7/6	Pet Therapy	Healing	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。癒しについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
15	7/13	Quantum Computers	Science and Technology	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。科学技術問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
学生一人一人に訳してもらい。一時間に2ページのペースで読み進めていく。 小テストを2回行い返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に返却し、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジローのヨーロッパ旅行		金星堂			
備考					

【オフィスアワー】
金曜日9時～12時20分 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 金曜日2限 4月10日	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
		この回の到達目標	単位取得のプロセスを把握する。	
		事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	4月17日	授業方法に慣れる。	Unit1 Introductoryを読む 五文型	
		この回の到達目標	五文系を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
3	4月24日	辞書の引き方	Unit1 Cultureを読む	
		この回の到達目標	辞書の引き方を覚える。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
4	5月1日	文法を踏まえた和訳	Unit2 Introductoryを読む 不定詞	
		この回の到達目標	不定詞を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
5	5月8日	文脈を意識した和訳	Unit2 Cultureを読む	
		この回の到達目標	文脈を意識しながら訳せるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	39分
6	5月15日	文法の確認	Unit3 Introductoryを読む	
		この回の到達目標	文法に基づいた訳ができる。	
		事前学修	指示された個所の予習 関係代名詞	30分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月22日	語彙力アップ		Unit3 Cultureを読む 小テスト
		この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
8	5月29日	内容を理解しながら焼く s y。		Unit4 Introductoryを読む 仮定法
		この回の到達目標	仮定法を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
9	6月5日	自然な訳を目指す、		Unit4 Cultureを読む
		この回の到達目標	自然な日本語に訳せるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
10	6月12日	ここまで学んだことを実践 する。		Unit5 Introductoryを読む 動名詞
		この回の到達目標	動名詞を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
11	6月19日	文の構造の理解		Unit5 Cultureを読む 節と句
		この回の到達目標	節と句の違いを理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
12	6月26日	習った文法を駆使した和訳		Unit6 Introductoryを読む 現在分詞
		この回の到達目標	現在分詞を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	文法の復習	Unit6Cultureを読む	
		この回の到達目標	ここまで習った文法を自分のものにする。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
14	7月10日	間違いのない訳	Unit7 Introductoryを読む	
		この回の到達目標	正確に和訳できることを目指す。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
15	7月17日	今学期の成果	文法のまとめ 小テスト	
		この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
発音練習などはその場で簡単にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2017	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考	『ジーニアス英和辞典』と同程度の英和辞典を使用してください。文法事項など苦手なところがあれば、『ジーニアス総合英語』で自習することを勧めます。メールなどで質問してもらっても構いません。単語帳が必要な場合には、『公式ボキャブラリーブック』を勧めますが、公式問題集の解説に単語がまとめられているので、それだけで十分かと思います。ただし、『公式ボキャブラリーブック』はそれぞれの語の例文の音源をダウンロード				

【オフィスアワー】
質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。授業時間：月曜 4・5・6 限、水曜 1 限inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	TOEICとは	ガイダンス(問題構成など)、模擬問題の演習	
		この回の到達目標	問題構成を知る。TOEIC試験の特徴を知る。	
		事前学修	既習事項の確認	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
2	4/15	TOEICの全体的なアプローチ	Part2, Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 と Part5 の出題形式を知る。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	4/22	Part2, 5 の位置づけ	Part2, 5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 と Part5 の出題形式を細かく知る。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	4/29	Listening Section の概略	サンプル問題(listening)、Part5	
		この回の到達目標	Listening Section のそれぞれの取り組み方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	5/6	Reading Section の概略	サンプル問題(reading)、Part2	
		この回の到達目標	reading section のそれぞれの形式の取り組み方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習、サンプル問題(reading section)の問題を解き、解答を確認する。	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	5/13	Part1, 2 の実践演習	Test1 Part1(1-6), 2(7-31), Part5(101-110)	
		この回の到達目標	Part1, 2の形式、傾向を理解し、練習方法を把握する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Part1, 2 の実践演習	Test2 Part1(1-6), 2(7-31), Test1 Part5(111-120)	
		この回の到達目標	Part1, 2の形式、傾向を理解し、さらに、経験をつむ。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	5/27	Part2 (wh-疑問文)	Part2 (wh-疑問文)の練習、Test1 Part5(121-130)	
		この回の到達目標	Part2 (wh-疑問文)の問題の位置づけを理解し、習熟する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	6/3	Part2 (定型表現)	Part2 (定型表現)の練習、Test2 Part5 (101-110)	
		この回の到達目標	定型表現の整理をして、頻出表現を把握する。さらに、練習の仕方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	6/10	Part3 入門	Test2 Part5(111-120)、Test1 Part3(32-55)、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の形式を理解し、慣れる。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	6/17	Part3 の演習	Test2 Part5(121-130)、Test1 Part3(56-70)、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の形式と傾向をより理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	6/24	Part4 入門	Test1 Part6(131-138)、Part4(71-85)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の形式を理解し、慣れる。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Part4 の演習	Test1 Part6(139-146)、Part4(86-100)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の形式と傾向をより理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	7/8	授業内試験	授業内試験、問題の解説	
		この回の到達目標	時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	答えの確認	30分
15	7/15	まとめ	まとめ（受講生の人数によって個別に面接）	
		この回の到達目標	TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。到達目標を意識して意欲的に学習に取り組む者。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
英文を通じた知識の涵養を目標に精読(確認)を行います。文法事項は本文の文構造に関連づけ展開し、Chapter毎に指定範囲内の小テストを、最終授業日にて授業内試験(60分)及び解説/講評(30分)を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者各自による、授業にて取り扱うトピックに関連した資料・文献の調査・報告を行い、受講者相互による情報や意見交換を行う。(成績評価の一部とする。)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。							1				
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。							1			1	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験(授業内)の解説、調査報告の講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Made in Britain	Anthony SellikJohn Barton	成美堂	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業後20分間（水曜10：30～10：50）授業講堂にて対応する。（※初回授業にて指示する。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	ガイダンス(イギリス(英語圏文化)とは?) Keywordとは?	ガイダンス(授業の進め方を説明する。)＋第2回以降の展開方法のシミュレーションを行い、英文読解及び情報整理の方法を習得する。	
		この回の到達目標	テキストで取り扱う英語圏(イギリス)文化への受講者各自の認識を確認し、今後の学習への意識付けを行う。一定以上のレベル・語彙数の英文を読む際の留意点①②を修得を可能とするため)を確認する。	
		事前学修	テキスト全体及び下記展開トピック(Chapter)に目を通し、気になる点をメモして授業に臨むこと。加えて、テキスト以外に「イギリス」と聞いて思いつく事柄及びそれについての各自のコメントを併せてメモしておく。	30分
		事後学修	次回(第2回)以降展開範囲を中心に、辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→3か月後の学習成果を自己確認できるようにするため。)	30分
2	第一部水 4/15	(一定以上の量/長さの)英文をどうやって読めばいいか＋英文に慣れるには? (1)	Chapter 16 Football - The Beautiful Game(前半～中盤)章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(一定以上の量/長さの)英文を、限られた時間の範囲で、極力正確に読み取るにはどうすべきか考察する。(①)	
		事前学修	1. Chapter16全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
3	第一部水 4/22	(一定以上の量/長さの)英文をどうやって読めばいいか＋英文に慣れるには? (2)	Chapter 16 (Football - The Beautiful Game中盤～後半)章全体を通じて、'Football' の起源・歴史の変遷/(日本を含めた)国際的影響を理解・説明できる。※1つのChapter/ 2 回のペースで進む予定。	
		この回の到達目標	(前回第2回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter16前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想及び記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter16全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、Footballの起源・変遷(歴史)に関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test (翌週実施)の準備も行う。	30分
4	第一部水 4/29	「英語の歴史」を理解する。(1)	Chapter16 Mini Test(小テスト) Chapter 1 My English, Your English, Our English(前半～中盤)章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(②)章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter1全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
5	第一部水 5/6	「英語の歴史」を理解する。(2)	Chapter 1 My English, Your English, Our English (中盤～後半)章全体を通して、「国際語」'Lingua franca'となった「英語」'English'の誕生・歴史の変遷/(日本を含めた)国際的影響への理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	(前回第4回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter1前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter1全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、言語としてのEnglish「英語」の歴史を概観し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test (翌週実施)の準備も行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 5/13	「ファッションの歴史」を読む。(1)	Chapter 1 Mini Test Chapter 2 A Short History of the Miniskirt (前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter2全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
7	第一部水 5/20	「ファッションの歴史」を読む。(2)	Chapter 2 A Short History of the Miniskirt (中盤～後半) 章全体を通して、'Mini Skirt'というイギリス発祥の'Fashion'(風俗/流行)の変遷を概観し、「(流行の)発信地」としてのイギリス文化への理解及び「流行の誕生」とはどういうものか説明できる。	
		この回の到達目標	(前回第6回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/を記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、流行・ファッションの発信地としてのイギリスに関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
8	第一部水 5/27	'The ironic twist of history'とは？(1)	Chapter 2 Mini Test Chapter 3 The Cutest Car Ever Made - The Mini -(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter3全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
9	第一部水 6/3	'The ironic twist of history'とは？(2)	Chapter 3 The Cutest Car Ever Made - The Mini -(中盤～後半) 'Mini'というイギリス発祥の車の誕生/変遷を通じて、歴史と「ものづくり」との関係性についての理解を深め、説明できる。加えて、自国の「ものづくり」とも比較・対照し、コメントする。	
		この回の到達目標	(前回第8回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報(「Miniが何故イギリスを象徴する存在なのか」)を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
10	第一部水 6/10	'Always in Fashion'とは？(1)	Chapter3 Mini Test Chapter 4 Always in Fashion - The Suit-(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter4全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 6/17	'Always in Fashion'とは？ (2)	Chapter 4 Always in Fashion - The Suit- (中盤～後半) 章全体を通して、国際的な正装(フォーマル・ウェア)としてのスーツ'suits'の発祥/変遷を理解すると共に、「伝統」とは何か考え、説明できる。	
		この回の到達目標	(前回第10回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(特に最終段落の内容を具体的に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
12	第一部水 6/24	「(イングリッシュ)ジェントルマンとは？現存するの か？」(1)	Chapter4 Mini Test Chapter 5 The English Gengleman - Does He Really Exist Anymore? -(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter5全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
13	第一部水 7/1	「(イングリッシュ)ジェントルマンとは？現存するの か？」(1)	Chapter 5 The English Gengleman - Does He Really Exist Anymore? -(中盤～後半) 章全体を通して、日本語にもなっている「ジェントルマン」'gentleman'の定義とは何か、その誕生/変遷を理解/説明し、併せて、受講者各自による(ジェントルマンの)定義する。	
		この回の到達目標	(前回第12回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(タイトルにある質問への回答を中心に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
14	第一部水 7/8	(3か月の)学習成果(1) 語彙/文法/読解力の自己判定	Chapter 5 Mini Test及び学期内展開範囲の総復習 Chapter16及びChapter1～5全体の英文の中で、特に構文が複雑なものや、内容が抽象的な事柄の確認を行うことで、学習内容全般の情報の修正/補足を行い、正確に説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(に加え、英文の構造理解に関する今後の課題を明確にする。(②) 併せて、各自の英文読解力を自己評価する。(①)	
		事前学修	1. Mini Test(Chapter5)に向けての準備に併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に初回にて不正解だったものを中心に)を行う。2. テキスト読解箇所全般の構文・内容についても各自確認する。(不明なものは授業にて確認すること。)	30分
		事後学修	学習範囲全体を見直し、今一度各自で必要に応じて修正を行い、初回事前学習時からの成果を確認する。	30分
15	第一部水 7/15	(3か月の)学習成果(2) (試験による)一定の客観的 評価及び(英語圏文化を中心 とした)知識/情報の整理	前期授業のまとめ(授業内試験(60分) 解説/講評(30分):受講者各自が3か月の学習を通じて得た、異文化(欧米文化)への理解及び自国文化との比較・対照により国際社会への理解及び国際社会での自らの意見を発信できる。	
		この回の到達目標	実力で一定量及びレベルの英文の構造及び内容が理解できていることを試験を通じて確認・自己認識すると共に今後の課題を明確にする。(②①)	
		事前学修	3か月学習内容を整理・総括する。(①「英語能力」②「英語圏文化について得た知識」の2つに関して)加えて、「異文化」との比較・対照によって得た感想・意見を整理する。	30分
		事後学修	初回事前学習からの成果を自己分析・確認するとともに、今後の課題(英語学習及び「英語」を「手段」としての情報収集及びその活用(発信するための方法/展開)に関する具体的目標)を設定する。	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。到達目標を意識して意欲的に学習に取り組む者。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
英文を通じた知識の涵養を目標に精読(確認)を行います。文法事項は本文の文構造に関連づけ展開し、Chapter毎に指定範囲内の小テストを、最終授業日にて授業内試験(60分)及び解説/講評(30分)を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者各自による、授業にて取り扱うトピックに関連した資料・文献の調査・報告を行い、受講者相互による情報や意見交換を行う。(成績評価の一部とする。)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験(授業内)の解説、調査報告の講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Made in Britain	Anthony SellikJohn Barton	成美堂	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業後20分間（水曜10：30～10：50）授業講堂にて対応する。（※初回授業にて指示する。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	ガイダンス(イギリス(英語圏文化)とは?) Keywordとは?	ガイダンス(授業の進め方を説明する。)＋第2回以降の展開方法のシミュレーションを行い、英文読解及び情報整理の方法を習得する。	
		この回の到達目標	テキストで取り扱う英語圏(イギリス)文化への受講者各自の認識を確認し、今後の学習への意識付けを行う。一定以上のレベル・語彙数の英文を読む際の留意点①②を修得を可能とするため)を確認する。	
		事前学修	テキスト全体及び下記展開トピック(Chapter)に目を通し、気になる点をメモして授業に臨むこと。加えて、テキスト以外に「イギリス」と聞いて思いつく事柄及びそれについての各自のコメントを併せてメモしておく。	30分
		事後学修	次回(第2回)以降展開範囲を中心に、辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→3か月後の学習成果を自己確認できるようにするため。)	30分
2	第一部水 4/15	(一定以上の量/長さの)英文をどうやって読めばいいか＋英文に慣れるには? (1)	Chapter 16 Football - The Beautiful Game(前半～中盤)章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(一定以上の量/長さの)英文を、限られた時間の範囲で、極力正確に読み取るにはどうすべきか考察する。(①)	
		事前学修	1. Chapter16全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
3	第一部水 4/22	(一定以上の量/長さの)英文をどうやって読めばいいか＋英文に慣れるには? (2)	Chapter 16 (Football - The Beautiful Game中盤～後半)章全体を通じて、'Football' の起源・歴史の変遷/(日本を含めた)国際的影響を理解・説明できる。※1つのChapter/ 2 回のペースで進む予定。	
		この回の到達目標	(前回第2回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter16前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想及び記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter16全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、Footballの起源・変遷(歴史)に関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test (翌週実施)の準備も行う。	30分
4	第一部水 4/29	「英語の歴史」を理解する。(1)	Chapter16 Mini Test(小テスト) Chapter 1 My English, Your English, Our English(前半～中盤)章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(②)章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter1全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
5	第一部水 5/6	「英語の歴史」を理解する。(2)	Chapter 1 My English, Your English, Our English (中盤～後半)章全体を通して、「国際語」'Lingua franca'となった「英語」'English'の誕生・歴史の変遷/(日本を含めた)国際的影響への理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	(前回第4回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter1前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter1全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、言語としてのEnglish「英語」の歴史を概観し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test (翌週実施)の準備も行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 5/13	「ファッションの歴史」を読む。(1)	Chapter 1 Mini Test Chapter 2 A Short History of the Miniskirt (前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter2全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
7	第一部水 5/20	「ファッションの歴史」を読む。(2)	Chapter 2 A Short History of the Miniskirt (中盤～後半) 章全体を通して、'Mini Skirt'というイギリス発祥の'Fashion'(風俗/流行)の変遷を概観し、「(流行の)発信地」としてのイギリス文化への理解及び「流行の誕生」とはどういうものか説明できる。	
		この回の到達目標	(前回第6回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/を記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、流行・ファッションの発信地としてのイギリスに関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
8	第一部水 5/27	'The ironic twist of history'とは？(1)	Chapter 2 Mini Test Chapter 3 The Cutest Car Ever Made - The Mini -(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter3全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
9	第一部水 6/3	'The ironic twist of history'とは？(2)	Chapter 3 The Cutest Car Ever Made - The Mini -(中盤～後半) 'Mini'というイギリス発祥の車の誕生/変遷を通じて、歴史と「ものづくり」との関係性についての理解を深め、説明できる。加えて、自国の「ものづくり」とも比較・対照し、コメントする。	
		この回の到達目標	(前回第8回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報(「Miniが何故イギリスを象徴する存在なのか」)を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
10	第一部水 6/10	'Always in Fashion'とは？(1)	Chapter3 Mini Test Chapter 4 Always in Fashion - The Suit-(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter4全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 6/17	'Always in Fashion'とは？ (2)	Chapter 4 Always in Fashion - The Suit- (中盤～後半) 章全体を通して、国際的な正装(フォーマル・ウェア)としてのスーツ'suits'の発祥/変遷を理解すると共に、「伝統」とは何か考え、説明できる。	
		この回の到達目標	(前回第10回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(特に最終段落の内容を具体的に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
12	第一部水 6/24	「(イングリッシュ)ジェントルマンとは？現存するか？」(1)	Chapter4 Mini Test Chapter 5 The English Gengleman - Does He Really Exist Anymore? -(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter5全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
13	第一部水 7/1	「(イングリッシュ)ジェントルマンとは？現存するか？」(1)	Chapter 5 The English Gengleman - Does He Really Exist Anymore? -(中盤～後半) 章全体を通して、日本語にもなっている「ジェントルマン」'gentleman'の定義とは何か、その誕生/変遷を理解/説明し、併せて、受講者各自による(ジェントルマンの)定義する。	
		この回の到達目標	(前回第12回)で実践した読解方法で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(タイトルにある質問への回答を中心に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
14	第一部水 7/8	(3か月の)学習成果(1) 語彙/文法/読解力の自己判定	Chapter 5 Mini Test及び学期内展開範囲の総復習 Chapter16及びChapter1～5全体の英文の中で、特に構文が複雑なものや、内容が抽象的な事柄の確認を行うことで、学習内容全般の情報の修正/補足を行い、正確に説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルの把握(に加え、英文の構造理解に関する今後の課題を明確にする。(②) 併せて、各自の英文読解力を自己評価する。(①)	
		事前学修	1. Mini Test(Chapter5)に向けての準備に併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に初回にて不正解だったものを中心に)を行う。2. テキスト読解箇所全般の構文・内容についても各自確認する。(不明なものは授業にて確認すること。)	30分
		事後学修	学習範囲全体を見直し、今一度各自で必要に応じて修正を行い、初回事前学習時からの成果を確認する。	30分
15	第一部水 7/15	(3か月の)学習成果(2) (試験による)一定の客観的評価及び(英語圏文化を中心とした)知識/情報の整理	前期授業のまとめ(授業内試験(60分) 解説/講評(30分):受講者各自が3か月の学習を通じて得た、異文化(欧米文化)への理解及び自国文化との比較・対照により国際社会への理解及び国際社会での自らの意見を発信できる。	
		この回の到達目標	実力で一定量及びレベルの英文の構造及び内容が理解できていることを試験を通じて確認・自己認識すると共に今後の課題を明確にする。(②①)	
		事前学修	3か月学習内容を整理・総括する。(①「英語能力」②「英語圏文化について得た知識」の2つに関して)加えて、「異文化」との比較・対照によって得た感想・意見を整理する。	30分
		事後学修	初回事前学習からの成果を自己分析・確認するとともに、今後の課題(英語学習及び「英語」を「手段」としての情報収集及びその活用(発信するための方法/展開)に関する具体的目標)を設定する。	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	神山 高行	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
基本的に以下のプランに従って授業を行う。 1. 導入授業（20分程度）：英単語ドリル・英文法復習ドリル等 ※プリント配布 2. 教科書（50分程度）：英文記事の音読、リスニング、語彙・イディオム・文法確認、内容読解、練習問題等 3. 授業のまとめ及び課題（20分程度）：英文和訳の提出、ペアワークによるプレゼンテーション等		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で4回程度、ペアワークによる英会話のプレゼンを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。							1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。							1			1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのプレゼン・提出物については、評価して後日授業にて連絡または返却する。授業内試験についての講評は、後日ポータルシステムにて知らせる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Cool JAPAN』	ジョアン・ペロケティ 他	南雲堂	2017	教科書	必携
『英文法詳説 改訂三版』	江川 泰一郎	金子書房	1996	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日：10：30～40（授業の教室） e-mail: kamiyama.takayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス及び導入授業	授業の目的・到達目標、授業の進め方、教科書（前／後期共通で使用）・参考図書紹介、英語の勉強方法、ノートテイク、成績評価、次回授業の事前学習等について、及び導入授業（プリント配布）	
		この回の到達目標	授業の目的・到達目標（①②）を確認し、英語の勉強方法について、及び導入授業によるリーディングのコツを理解する。	
		事前学修	普段の英語自己学修	50分
		事後学修	ガイダンスの内容について確認し、ガイダンスで指示された次回の授業の事前学習をやっておく。	50分
2	第一部 水4/15	リーディングによる英文読解、及び文法事項（文型）の理解	（日本のスケート選手についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（文型）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「5文型」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 1）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べてノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（文型）についても事前に読んでおく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 1）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（受動態）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
3	第一部 水4/22	Reviewとペアワークによる英会話（自己紹介）	教科書の練習問題によるChapter 1の英文記事の復習と文法事項（5文型）の確認、及び自己紹介に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 1の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（5文型）について理解することができる。また、自己紹介に関する英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 1）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 1）の復習と次回授業（Chapter 2）の予習	50分
4	第一部 第一部 水4/29	リーディングによる英文読解、及び文法事項（時制）の理解	（日本のテニス選手の）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（時制）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「時制」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 2）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（時制）を確認しておく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 2）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（時制）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
5	第一部 水5/6	Reviewと手紙文のリーディング	教科書の練習問題によるChapter 2の英文記事の復習と文法事項（時制）の確認、及び手紙文のリーディング（プリント配布）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 2の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（時制）について理解することができる。また、手紙文を学習することにより、英語の表現力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 2）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 2）の復習と次回授業（Chapter 3）の予習	50分
6	第一部 水5/13	リーディングによる英文読解、及び文法事項（助動詞）の理解	（日本のニュースキャスターについての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（助動詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「助動詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 3）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（助動詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 3）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（助動詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	Reviewとペアワークによる英会話（空港での出入国審査）	教科書の練習問題によるChapter 3の英文記事の復習と文法事項（助動詞）の確認、及び空港での出入国審査に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter3の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（助動詞）について理解することができる。また、空港での出入国審査に関する英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 3）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 3）の復習と次回授業（Chapter 4）の予習	50分
8	第一部 水5/27	リーディングによる英文読解、及び文法事項（名詞・代名詞）の理解	（日本のアイドル文化についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（名詞・代名詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「名詞・代名詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 4）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（名詞・代名詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 4）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（名詞・代名詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
9	第一部 水6/3	Reviewとビジネスレターのリーディング	教科書の練習問題によるChapter 4の英文記事の復習と文法事項（名詞・代名詞）の確認、及びビジネスレターのリーディング（プリント配布）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 4の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（名詞・代名詞）について理解することができる。また、ビジネスレターを学習することにより、ビジネス英語の表現力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 4）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 4）の復習と次回授業（Chapter 5）の予習	50分
10	第一部 水6/10	リーディングによる英文読解、及び文法事項（形容詞）の理解	（日本の世界文化遺産についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（形容詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「形容詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 5）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（形容詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 5）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（形容詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
11	第一部 水6/17	Reviewとペアワークによる英会話（ショッピング）	教科書の練習問題によるChapter 5の英文記事の復習と文法事項（形容詞）の確認、及びショッピングに関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 5の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（形容詞）について理解することができる。また、ショッピングに関する英語表現について習得し、会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 5）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 5）の復習と次回授業（Chapter 6）の予習	50分
12	第一部 水6/24	リーディングによる英文読解、及び文法事項（副詞）の理解、授業内試験について	（日本の食文化についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（副詞）についての解説、授業内試験の形式・範囲について発表	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「副詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 6）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（副詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	授業の予習として、教科書（Chapter 6）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（副詞）を確認しておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	Reviewとペアワークによる英会話（レストランでの注文）	教科書の練習問題によるChapter 5の英文記事の復習と文法事項（副詞）の確認、及びレストランでの注文に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 6の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（副詞）について理解することができる。また、レストランでの英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 6）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 6）の復習と次回授業（Chapter 7）の予習	50分
14	第一部 水7/8	リーディングによる英文読解、及び文法事項（比較）の理解	（日本の先端技術についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（比較）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「比較」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 7）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（比較）を確認しておく。	50分
		事後学修	前期授業のノート整理、前期授業の総復習と授業内試験のための準備	100分
15	第一部 水7/15	授業内試験&解説※ 振り返り ノート提出	授業内試験の実施、※解説については後日、ポータルサイトにて行う。 ノート提出（チェック後、返却）	
		この回の到達目標	授業内試験における英文読解、語彙・イディオム・文法事項において合格レベルに達すること	
		事前学修	授業内試験のための準備	100分
		事後学修	後期授業に向けた準備と予習	60分

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	神山 高行	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
基本的に以下のプランに従って授業を行う。 1. 導入授業（20分程度）：英単語ドリル・英文法復習ドリル等 ※プリント配布 2. 教科書（50分程度）：英文記事の音読、リスニング、語彙・イディオム・文法確認、内容読解、練習問題等 3. 授業のまとめ及び課題（20分程度）：英文和訳の提出、ペアワークによるプレゼンテーション等		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で4回程度、ペアワークによる英会話のプレゼンを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。							1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。							1			1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのプレゼン・提出物については、評価して後日授業にて連絡または返却する。授業内試験についての講評は、後日ポータルシステムにて知らせる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『COOL JAPAN』	ジョアン・ペロケティ 他	南雲堂	2017	教科書	必携
『英文法詳説 改訂三版』	江川 泰一郎	金子書房	1996	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日：12：10～20（授業の教室） e-mail: kamiyama.takayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス及び導入授業	授業の目的・到達目標、授業の進め方、教科書（前／後期共通で使用）・参考図書紹介、英語の勉強方法、ノートテイク、成績評価、次回授業の事前学習等について、及び導入授業（プリント配布）	
		この回の到達目標	授業の目的・到達目標（①②）を確認し、英語の勉強方法について、及び導入授業によるリーディングのコツを理解する。	
		事前学修	普段の英語自己学修	50分
		事後学修	ガイダンスの内容について確認し、ガイダンスで指示された次回の授業の事前学習をやっておく。	50分
2	第一部 水4/15	リーディングによる英文読解、及び文法事項（文型）の理解	（日本のスケート選手についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（文型）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「5文型」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 1）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べてノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（文型）についても事前に読んでおく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 1）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（受動態）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
3	第一部 水4/22	Reviewとペアワークによる英会話（自己紹介）	教科書の練習問題によるChapter 1の英文記事の復習と文法事項（5文型）の確認、及び自己紹介に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 1の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（5文型）について理解することができる。また、自己紹介に関する英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 1）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 1）の復習と次回授業（Chapter 2）の予習	50分
4	第一部 水4/29	リーディングによる英文読解、及び文法事項（時制）の理解	（日本のテニス選手の）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（時制）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「時制」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 2）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（時制）を確認しておく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 2）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（時制）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
5	第一部 水5/6	Reviewと手紙文のリーディング	教科書の練習問題によるChapter 2の英文記事の復習と文法事項（時制）の確認、及び手紙文のリーディング（プリント配布）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 2の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（時制）について理解することができる。また、手紙文を学習することにより、英語の表現力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 2）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 2）の復習と次回授業（Chapter 3）の予習	50分
6	第一部 水5/13	リーディングによる英文読解、及び文法事項（助動詞）の理解	（日本のニュースキャスターについての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（助動詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「助動詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 3）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（助動詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 3）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（助動詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	Reviewとペアワークによる英会話（空港での出入国審査）	教科書の練習問題によるChapter 3の英文記事の復習と文法事項（助動詞）の確認、及び空港での出入国審査に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 3の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（助動詞）について理解することができる。また、空港での出入国審査に関する英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 3）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 3）の復習と次回授業（Chapter 4）の予習	50分
8	第一部 水5/27	リーディングによる英文読解、及び文法事項（名詞・代名詞）の理解	（日本のアイドル文化についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（名詞・代名詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「名詞・代名詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 4）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（名詞・代名詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 4）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（名詞・代名詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
9	第一部 水6/3	Reviewとビジネスレターのリーディング	教科書の練習問題によるChapter 4の英文記事の復習と文法事項（名詞・代名詞）の確認、及びビジネスレターのリーディング（プリント配布）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 4の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（名詞・代名詞）について理解することができる。また、ビジネスレターを学習することにより、ビジネス英語の表現力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 4）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 4）の復習と次回授業（Chapter 5）の予習	50分
10	第一部 水6/10	リーディングによる英文読解、及び文法事項（形容詞）の理解	（日本の世界文化遺産についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（形容詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「形容詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 5）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（形容詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 5）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（形容詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
11	第一部 水6/17	Reviewとペアワークによる英会話（ショッピング）	教科書の練習問題によるChapter 5の英文記事の復習と文法事項（形容詞）の確認、及びショッピングに関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 5の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（形容詞）について理解することができる。また、ショッピングに関する英語表現について習得し、会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 5）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 5）の復習と次回授業（Chapter 6）の予習	50分
12	第一部 水6/24	リーディングによる英文読解、及び文法事項（副詞）の理解、授業内試験について	（日本の食文化についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（副詞）についての解説、授業内試験の形式・範囲について発表	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「副詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 6）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（副詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	教科書（Chapter 6）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（副詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	Reviewとペアワークによる英会話（レストランでの注文）	教科書の練習問題によるChapter 5の英文記事の復習と文法事項（副詞）の確認、及びレストランでの注文に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 6の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（副詞）について理解することができる。また、レストランでの英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 6）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 6）の復習と次回授業（Chapter 7）の予習	50分
14	第一部 水7/8	リーディングによる英文読解、及び文法事項（比較）の理解	（日本の先端技術についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（比較）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項（「比較」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 7）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（比較）を確認しておく。	50分
		事後学修	前期授業のノート整理、前期授業の総復習と授業内試験のための準備	100分
15	第一部 水7/15	授業内試験&解説※ 振り返り ノート提出	授業内試験の実施、※解説については後日、ポータルサイトにて行う。 ノート提出（チェック後、返却）	
		この回の到達目標	授業内試験における英文読解、語彙・イディオム・文法事項において合格レベルに達すること	
		事前学修	授業内試験のための準備	100分
		事後学修	後期授業に向けた準備と予習	60分

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。小テストを毎回実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Keynote 3ISBN-13 978 1 305 96505 8	Paul Dummett	Cengage Learning	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎回の授業開始前後に授業が行われる講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	通訳者、グローバル企業において輸出入業務担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		英語による実務実践への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火4/6	ガイダンス、TED Talkについて	Introduction Overview of the course	
		この回の到達目標	TED Talkのアクセス方法、リーディングテキストの入手方法を知る。	
		事前学修	Preview Unit1 (30分)	30分
		事後学修	vocabulary noteを作成 教科書の使い方、学習の進め方について確認する。(30分)	30分
2	火4/13	Helping Others	Unit 1 – Part 1 Making a differenceのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Helping Othersの意味を話し合い、自分の意見を英語で発言する。	
		事前学修	Preview Unit 1 Part 1 volunteer firefighterについて調べる(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
3	火4/20	Food rescue mission	Unit 1 – Part 2 A life Lesson from a volunteer firefighterのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	テキストのFood Rescue Missionを読解し意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 1 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
4	火4/27	Trends	Unit 2 – Part 1 Trendsのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Trendsの作り方を知り、身の回りの例を英語で述べる。	
		事前学修	Preview Unit 2 Part 1世の中のtrendについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
5	火5/4	Identifying Trends	Unit 2 – Part 2 How to start a movementのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	テキストのIdentifying Trendsを読解した上で意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 2 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
6	火5/11	Improving Lives	Unit 3 – Part 1 Improving livesのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Healthcare is Going Mobileについてリスニングの上、意見を英語で述べる。	
		事前学修	Preview Unit 3 Part 1 health careについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	火5/18	The Challenge of Alzheimer	Unit 3 – Part 2 My simple invention, designed to keep my grandfather safeのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	テキストのThe Challenge of Alzheimerを読解した上で英語で議論する。Use	
		事前学修	Preview Unit 3 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
8	火5/25	User Experience	Unit 4 – Part 1 Designing the webのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	The power of User Reviewsについてリスニングの上、英語で意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 4 Part 1 web designについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
9	火6/1	Website Design on a Giant Scale	Unit 4 – Part 2 How giant websites design for youのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Website Design on a Giant Scaleを読解した上で英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 4 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
10	火6/8	Changing Places	Unit 5 – Part 1 Community buildersのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	The Transformation of Malacca Riverをリスニングした上で意見を英語で述べる。	
		事前学修	Preview Unit 5 Part 1 community artについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
11	火6/15	Barefoot College	Unit 5 – Part 2 How painting can transform communitiesのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Barefoot Collegeのテキストを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 5 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
12	火6/22	How do You Communicate?	Unit 6 – Part 1 Clear communicationのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	What Type of Communicator are You?をリスニングし英語で意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 6 Part 1 communication styleについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火6/29	Communication in the Digital Age	Unit 6 – Part 2 Talk nerdy to meのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Communication in the Digital Ageを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 6 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note ^{学習} 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
14	火7/6	Review Unit1-6	Review Unit1-6の内容、リスニングを理解する。 小テストを返却し答え合わせと確認をする。	
		この回の到達目標	Unit1-6の内容、vocabularyについて再確認する。	
		事前学修	Review Unit 1~6の問題とリーディングパートを確認する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note ^{学習} Review Unit 1~6を確認する。(30分)	30分
15	火7/13	授業内試験とフィードバック	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	授業内試験の実施と解答例を示し解説。	
		事前学修	Review Unit 1~6 (30分)	30分
		事後学修	Review Unit 1~6の確認。(30分)	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。小テストを毎回実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Keynote 3ISBN-13 978 1 305 96505 8	Paul Dummett	Cengage Learning	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎回の授業開始前後に授業が行われる講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	通訳者、グローバル企業において輸出入業務担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		英語による実務実践への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	ガイダンス、TED Talkについて	Introduction Overview of the course	
		この回の到達目標	TED Talkのアクセス方法、リーディングテキストの入手方法を知る。	
		事前学修	Preview Unit1 (30分)	30分
		事後学修	vocabulary noteを作成 教科書の使い方、学習の進め方について確認する。(30分)	30分
2	水4/15	Helping Others	Unit 1 - Part 1 Making a differenceのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Helping Othersの意味を話し合い、自分の意見を英語で発言する。	
		事前学修	Preview Unit 1 Part 1 volunteer firefighterについて調べる(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
3	水4/22	Food rescue mission	Unit 1 - Part 2 A life Lesson from a volunteer firefighterのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	テキストのFood Rescue Missionを読解し意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 1 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
4	水4/29	Trends	Unit 2 - Part 1 Trendsのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Trendsの作り方を知り、身の回りの例を英語で述べる。	
		事前学修	Preview Unit 2 Part 1世の中のtrendについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
5	水5/6	Identifying Trends	Unit 2 - Part 2 How to start a movementのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	テキストのIdentifying Trendsを読解した上で意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 2 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
6	水5/13	Improving Lives	Unit 3 - Part 1 Improving livesのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Healthcare is Going Mobileについてリスニングの上、意見を英語で述べる。	
		事前学修	Preview Unit 3 Part 1 health careについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水5/20	The Challenge of Alzheimer	Unit 3 – Part 2 My simple invention, designed to keep my grandfather safeのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	テキストのThe Challenge of Alzheimerを読解した上で英語で議論する。Use	
		事前学修	Preview Unit 3 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
8	水5/27	User Experience	Unit 4 – Part 1 Designing the webのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	The power of User Reviewsについてリスニングの上、英語で意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 4 Part 1 web designについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
9	水6/3	Website Design on a Giant Scale	Unit 4 – Part 2 How giant websites design for youのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Website Design on a Giant Scaleを読解した上で英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 4 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
10	水6/10	Changing Places	Unit 5 – Part 1 Community buildersのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	The Transformation of Malacca Riverをリスニングした上で意見を英語で述べる。	
		事前学修	Preview Unit 5 Part 1 community artについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
11	水6/17	Barefoot College	Unit 5 – Part 2 How painting can transform communitiesのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Barefoot Collegeのテキストを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 5 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
12	水6/24	How do You Communicate?	Unit 6 – Part 1 Clear communicationのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	What Type of Communicator are You?をリスニングし英語で意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 6 Part 1 communication styleについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水7/1	Communication in the Digital Age	Unit 6 – Part 2 Talk nerdy to meのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Communication in the Digital Ageを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 6 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note ^{学習} 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
14	水7/8	Review Unit1-6	Review Unit1-6の内容、リスニングを理解する。 小テストを返却し答え合わせと確認をする。	
		この回の到達目標	Unit1-6の内容、vocabularyについて再確認する。	
		事前学修	Review Unit 1~6の問題とリーディングパートを確認する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note ^{学習} Review Unit 1~6を確認する。(30分)	30分
15	水7/15	授業内試験とフィードバック	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	授業内試験の実施と解答例を示し解説。	
		事前学修	Review Unit 1~6 (30分)	30分
		事後学修	Review Unit 1~6の確認。(30分)	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修すること。

【授業方法】
演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストのConversationではペアを組み読む練習をする。また、Miscellanyではペアで協力して答えを出す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English Indicator 3 [Intermediate]	Joshua Cohen 他	南雲堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の休み時間（水曜日10：30～）に講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。メールアドレス： kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及びアメリカ文化について	授業の進め方、評価方法、受講上の注意事項等を説明する。授業ではアメリカ文化に関するエッセイを読むため、それについて知っていることをクラスで共有する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、授業で扱う内容及び文法事項を確認し、次週からの授業に備えることができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンス及び授業で扱う内容を確認する。	30分
2	4/15	Unit 1 Reading	College Sportsに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
3	4/22	Unit 1 Exercises	現在時制の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、現在時制、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
4	4/29	Unit 2 Reading	Hip Hop Musicに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
5	5/6	Unit 2 Exercises	過去時制の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、過去時制、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
6	5/13	Unit 3 Reading	Travelに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Unit 3 Exercises	進行形の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、進行形、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
8	5/27	Unit 4 Reading	Video Gamesに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
9	6/3	Unit 4 Exercises	完了時制の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、完了時制、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
10	6/10	Unit 5 Reading	Recyclingに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
11	6/17	Unit 5 Exercises	冠詞、代名詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、冠詞、代名詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
12	6/24	Unit 6 Reading	Fast Foodに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Unit 6 Exercises	名詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、名詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
14	7/8	授業内試験及び前期のまとめ	授業内試験を行い、前期を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、前期に学んだ事柄全般を理解し、それに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	試験範囲を復習する。	30分
		事後学修	試験で分からなかった部分の正解を考える。	30分
15	7/15	フィードバック	授業内試験の講評及び振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、前期で学んだ事柄で理解できていなかったところを確認し、理解することができる。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	前期の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修すること。

【授業方法】
演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストのConversationではペアを組み読む練習をする。また、Miscellanyではペアで協力して答えを出す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English Indicator 3 [Intermediate]	Joshua Cohen 他	南雲堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の休み時間（水曜日12：10～）に講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。メールアドレス： kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス、アメリカ文化について	授業の進め方、評価方法、受講上の注意事項等を説明する。授業ではアメリカ文化に関するエッセイを読むため、それについて知っていることをクラスで共有する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、授業で扱う内容及び文法事項を確認し、次週からの授業に備えることができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンス及び授業で扱う内容を確認する。	30分
2	4/15	Unit 1 Reading	College Sportsに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
3	4/22	Unit 1 Exercises	現在時制の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、現在時制、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
4	4/29	Unit 2 Reading	Hip Hop Musicに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
5	5/6	Unit 2 Exercises	過去時制の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、過去時制、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
6	5/13	Unit 3 Reading	Travelに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Unit 3 Exercises	進行形の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、進行形、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
8	5/27	Unit 4 Reading	Video Gamesに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
9	6/3	Unit 4 Exercises	完了時制の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、完了時制、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
10	6/10	Unit 5 Reading	Recyclingに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
11	6/17	Unit 5 Exercises	冠詞、代名詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、冠詞、代名詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
12	6/24	Unit 6 Reading	Fast Foodに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Unit 6 Exercises	名詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、名詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は listening を除いて全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
14	7/8	授業内試験及び前期のまとめ	授業内試験を行い、前期を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、前期に学んだ事柄全般を理解し、それに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	試験範囲を復習する。	30分
		事後学修	試験で分からなかった部分の正解を考える。	30分
15	7/15	フィードバック	授業内試験の講評及び振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、前期で学んだ事柄で理解できていなかったところを確認し、理解することができる。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	前期の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくること。ノート検査はいつ検査されても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。実力テストは次の週に解説、解答をする。映像教材をみせる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘	鳳書房	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日10：30～授業講堂にて）またはEメールで対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	【ガイダンス】【導入講義】	授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
2	第一部 水4/15	【英国の全体理解】【発音】	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国の歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、英国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
3	第一部 水4/22	【英国の文化】【動詞】	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。自動詞と他動詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国の歴史と文化を理解し、自動詞と他動詞の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、英国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
4	第一部 水4/29	【英国の文化】【補語と目的語】	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。補語と目的語の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国の歴史と文化を理解し、補語と目的語の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、英国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
5	第一部 水5/6	【ドイツの文化】【助動詞】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、助動詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
6	第一部 水5/13	【ドイツの文化】【現在進行形】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在進行形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、現在進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	【ドイツの文化】【過去進行形】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去進行形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、過去進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
8	第一部 水5/27	【ドイツの文化】【未来進行形】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来進行形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、未来進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
9	第一部 水6/3	【ドイツの文化】【現在完了形】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、現在完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
10	第一部 水6/10	【ドイツの文化】【過去完了形】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、過去完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
11	第一部 水6/17	【ドイツの文化】【未来完了形】	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、未来完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
12	第一部 水6/24	【ドイツの文化】【関係代名詞】	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係代名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、関係代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	【ドイツの文化】【関係副詞】	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係副詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、関係副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	第一部 水7/8	【ドイツの文化】【複合関係詞】	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。複合関係詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、複合関係詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	第一部 水7/15	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国とドイツの歴史と文化を理解し、各英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくること。ノート検査はいつ検査されても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。実力テストは次の週に解説、解答をする。映像教材をみせる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1		1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1		1		
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘	鳳書房	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日10：30～授業講堂にて）またはEメールで対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	【ガイダンス】【導入講義】	授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
2	第一部 水4/15	【英国の全体理解】【発音】	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国の歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、英国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
3	第一部 水4/22	【英国の文化】【動詞】	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。自動詞と他動詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国の歴史と文化を理解し、自動詞と他動詞の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、英国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
4	第一部 水4/29	【英国の文化】【補語と目的語】	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。補語と目的語の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国の歴史と文化を理解し、補語と目的語の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、英国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
5	第一部 水5/6	【ドイツの文化】【助動詞】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、助動詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
6	第一部 水5/13	【ドイツの文化】【現在進行形】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在進行形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、現在進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	【ドイツの文化】【過去進行形】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去進行形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、過去進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
8	第一部 水5/27	【ドイツの文化】【未来進行形】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来進行形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、未来進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
9	第一部 水6/3	【ドイツの文化】【現在完了形】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、現在完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
10	第一部 水6/10	【ドイツの文化】【過去完了形】	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、過去完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
11	第一部 水6/17	【ドイツの文化】【未来完了形】	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、未来完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
12	第一部 水6/24	【ドイツの文化】【関係代名詞】	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係代名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、関係代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	【ドイツの文化】【関係副詞】	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係副詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、関係副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	第一部 水7/8	【ドイツの文化】【複合関係詞】	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。複合関係詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ドイツの歴史と文化を理解し、複合関係詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ドイツの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	第一部 水7/15	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国とドイツの歴史と文化を理解し、各英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則，英語Bと通年で履修。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1		1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Polite Fictions in Collision	坂本ナンシー・坂本示洋	金星堂	2010	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	言語行動とは？	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	これまでの自分の英語学習歴を整理する。シラバスとテキストを熟読するとともに、講義全体を概観する。大学での 英語学習に向けての目標を考える。	30分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの検定試験について調べる。	30分
2	4/15	日英語の言語行動	英語のPolite Fiction／日本語の敬語行動について	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定された課題の予習をする。	30分
		事後学修	弱点ノートを作成する。（要点の整理・理解）	30分
3	4/22	日英語の言語行動	英語のPolite Fictionと日本語の敬語行動の比較	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定された課題の予習をする。	30分
		事後学修	弱点ノートを作成する。（要点の整理・理解）。	30分
4	4/29	言語と社会	Chapter 1(You and I are equals)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の構造を理解するために、基本的な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
5	5/6	言語と社会	Chapter 1(You and I are equals)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
6	5/13	言語と社会	Chapter 2(You and I are close friends)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の構造を理解するために、基本的な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	言語と文化	Chapter 2(You and I are close friends)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
8	5/27	言語と文化	Chapter 3(You and I are relaxed)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の構造を理解するために、応用レベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
9	6/3	言語と文化	Chapter 3(You and I are relaxed)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
10	6/10	異文化コミュニケーションの諸問題	Chapter 4(You and I are independent)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の構造を理解するために、応用レベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
11	6/17	異文化コミュニケーションの諸問題	Chapter 4(You and I are independent)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英文の内容を的確に把握するために、高度な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
12	6/24	異文化コミュニケーションの諸問題	Chapter 5(People as individuals)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の構造を理解するために、応用レベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	異文化コミュニケーションの諸問題	Chapter 5(People as individuals)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英文の内容を的確に把握するために、高度な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
14	7/8	日英語の言語行動	授業内試験及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	Chapter 5までに学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。	60分
		事後学修	間違えた箇所を復習する。	30分
15	7/15	日英語の言語行動	試験の講評と前期学習の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	講義全体を確認し、復習する。	30分
		事後学修	理解不十分な箇所をチェックし、後期の授業に臨めるようにする。	30分

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
授業は演習形式で行い、1回の授業でChapterを一つ終わらす。Readingを中心に、ExerciseはVoocabulary, Comprehension Questionsを行う。学生が1人かまたは2~3人のグループでReading, Voocabulary, Comprehension Questionsを発表する。その後で解答と解説を教師が行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1		1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Making Sense of the World	Francois de Soete	成美堂	2014年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 1250, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日 (火)	ガイダンス、導入授業	英語Aの履修についての説明と注意、他	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英語Aの概要を理解して今後の目標を立てることが出来る。	
		事前学修	シラバスとテキストをよく読み、授業全体で行うことを理解する。	30分
		事後学修	授業に関しての説明を再度チェックする。授業のガイダンスで聞いたことを参考に前期にどのように勉強して英語力を高めるのか計画を立てる。	30分
2	4月14日 (火)	Chapter 1	p. 1の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 1の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。	
		事前学修	p. 1の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめる。	30分
		事後学修	p. 1の英文とReadingの事前学修で分からなかったところを中心に直す。	30分
3	4月21日 (火)	Chapter 1	Readingの復習。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	Readingの英文の内容の理解を深め、語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
4	4月28日 (火)	Chapter 2	p. 6の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 2の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 6の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめる。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
5	5月5日 (火)	Chapter 3	p. 11の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 3の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 11の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめる。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
6	5月12日 (火)	Chapter 4	p. 16の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 4の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 16の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめる。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日 (火)	Chapter 5	p. 21の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 5の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 21の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
8	5月26日 (火)	Chapter 1 -Chapter 5の復習	Chapter 1 -Chapter 5の復習小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して小テストを受験することでChapter 1 -Chapter 5の英文の内容、語彙、文法事項をどれだけ理解しているのか確認できる。	
		事前学修	Chapter 1 -Chapter 5の英文を読み直し、授業で大切だと大切だと説明されたことを見直して質問に備える。	30分
		事後学修	試験に出たところで間違えたところを中心に復習。14回目の学期末試験に対応できるようにしておく。	30分
9	6月2日 (火)	Chapter 6	p. 26の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 6の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 26の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
10	6月9日 (火)	Chapter 7	p. 31の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 7の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 31の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
11	6月16日 (火)	Chapter 8	p. 36の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 8の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 36の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
12	6月23日 (火)	Chapter 9	p. 41の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 9の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 41の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日 (火)	Chapter 10	p. 46の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 10の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 46の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
14	7月7日 (火)	前期試験及び解答と解説。	Unit 1- 10の試験。その後解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してテストを受験することでChapter 1 -Chapter 10の英文の内容、語彙、文法事項をどれだけ理解しているのか確認できる。	
		事前学修	Unit 1- 10を復習して、語（句）を覚えたり、授業の時に分からなかった英文等を中心に見直して試験に備える。	120分
		事後学修	試験に出たところを中心に復習。	30分
15	7月14日 (火)	リーディングのプリント	リーディングのプリントを読んで内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して辞書を使わず、英文の内容を正確にとらえて説明することが出来る。	
		事前学修	テキストのReadingをいくつか選んで、英文の内容を辞書を使用せず日本語でまとめる。	30分
		事後学修	授業で読んだリーディングの英文を読み直す。	30分

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式で行う。テキストの英文のCDを聴いて発音等を確認する。その後で英文を正確に読むために語彙、熟語の意味の確認をしながら、英文の内容を確認する。英文の内容やExercisesの解答は学生が自主的に発表する。その後、Exercisesの解答と解説をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Pass 2 (Second Edition)	Andrew E. Bennett	南雲堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 /10:30 - 10:40 木曜日12:30 - 12:50/ 14:30 - 14:40/ 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日 (火)	ガイダンス、導入授業	・「英語3」「英語4」の内容に関して ・「英語3」の履修に関してと諸注意	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「英語A」と「英語B」の概要を理解して、今後の学習目標を立てることが出来る。	
		事前学修	英語のテキストを見て、どのような内容であるのか、各課の内容、Exercisesの内容を予め確認する。	15分
		事後学修	授業で説明されたことを基に再度テキストを見ながら「英語3」でどのように英語を勉強していくか計画を立てる。	30分
2	4月14日 (火)	Unit 1	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文を正しく理解して、テキストの質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Articleの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Articleの間違ったところを見直す。	30分
3	4月21日 (火)	Unit 1	Vocabulary Building, Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activity, の解答と解説。Discussion Questionsに対する自分の意見を英語で書く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して語彙を増やす。現在持っている文法的知識を固める。リスニングの問題を正確に解くことが出来る。	
		事前学修	Vocabulary Building, Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activityの問題を解く。	30分
		事後学修	Vocabulary Building, Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activityの復習をする。	30分
4	4月28日 (火)	Unit 2	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Phrase Building, Grammar Exercisesの解答と解説。Discussion Questionsに対する自分の意見を英語で書く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文を正しく理解して、テキストの質問に正確に答える。語彙、文法的知識を深めることと、テーマに沿って英文を書くことが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Articleの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Phrase Building, Grammar Exercisesを復習する。	30分
5	5月5日 (火)	Unit 3	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Vocabulary Building, Grammar Exerciseの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文を正しく理解して、語彙、文法的知識を深めてテキストの質問に正確に答える。ることが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Article, Vocabulary Building, Grammar Exerciseの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Vocabulary Building, Grammar Exercisesを復習する。	30分
6	5月12日 (火)	Unit 4	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Phrase Building, Grammar Exercise, Listening Exerciseの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して文法的知識を深めて、英文を正しく理解してテキストの質問に正確に答えることが出来る。また、英語を音声で聴いて内容を理解することが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Article, Phrase Building, Grammar Exerciseの問題を解く。（	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Phrase Building, Grammar Exerciseの間違ったところを見直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日 (火)	Unit 5	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Phrase Building, Grammar Exercise, Listening Activityの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して文法的知識を深めて、英文を正しく理解してテキストの質問に正確に答えることが出来る。また、英語を音声で聴いて内容を理解することが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Article, Phrase Building, Grammar Exerciseの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Phrase Building, Grammar Exerciseの間違ったところを見直す。	30分
8	5月26日 (火)	Unit 8	ペアになった相手にPre-Reading Questionsの3つの質問をして相手の答えを書きとる。Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して相手の質問に英語で答えることが出来る。英文を正しく理解して、テキストの質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	Pre-Reading Questionsの質問に対する答えを考える。Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Articleの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Articleの間違ったところを見直す	30分
9	6月2日 (火)	Unit 8	Vocabulary Building, Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activity, の解答と解説。Discussion Questionsに対する自分の意見を英語で書く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して語彙、文法的知識の強化とリスニング力を向上させる。テーマに沿って英文を書くことが出来る。	
		事前学修	Vocabulary Building,, Grammar Exerciseの問題を解く。	30分
		事後学修	Vocabulary Building, Grammar Exerciseの間違ったところを見直す。Listening Exercise, Listening Activityの内容を再確認する。	30分
10	6月9日 (火)	Unit 9	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activityの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して文法的知識を深めて、英文を正しく理解してテキストの質問に正確に答えることが出来る。また、英語を音声で聴いて内容を理解することが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Articleの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Grammar Exerciseの間違ったところを見直す。Listening Exercise, Listening Activityの内容を再確認する。	30分
11	6月16日 (火)	Unit 10	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Vocabulary Buildingの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して語彙力を高めて、英文を正しく理解してテキストの質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Article, Vocabulary Buildingの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Vocabulary Buildingを事前学習で間違えたところを見直す。	30分
12	6月23日 (火)	Unit 10	Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activity, の解答と解説。Discussion Questionsに対する自分の意見を英語で書く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して語彙を増やす。現在持っている文法的知識を深めることとリスニングの問題を正確に解くことが出来る。	
		事前学修	Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activityの問題を解く。Discussion Questionsに対する自分の意見を英語で書く。	30分
		事後学修	Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activityを事前学習で間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日 (火)	Unit 1 - 10	Unit 1 - 10のReading passageの復習。Unit 2/4/5: Vocabulary Buildingの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して語彙力を高めると同時に、テキストの英文を辞書を使わずに内容を正確に説明することが出来る。	
		事前学修	Unit 1 - 10のReading passageの授業で重要と説明されたところを中心に見直す。Unit 2/4/5: Vocabulary Buildingの問題を解く。	30分
		事後学修	Unit 2/4/5: Vocabulary Buildingを再度解いて見直しする。Reading passageを再度読み直して重要なところをまとめる。	30分
14	7月7日 (火)	前期試験、振り返り	前期試験及び解答と解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期試験を受験することで前期に学んだ英文解釈の方法や語彙を身につけることが出来る。	
		事前学修	前期に学んだ重要点を中心にUnit 1-Unit 10を復習して試験の準備をする。	120分
		事後学修	試験で出されたところを中心にテキストを復習する。	30分
15	7月14日 (火)	リーディングのプリント	授業内で速読用のリーディングのプリントを読み、内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して辞書を使わずに英文の全体の内容を正しく把握するして説明することが出来る。	
		事前学修	授業で読んだReadingの英文2～3をの中から2～3の英文を選んで英文全体をまとめる。	30分
		事後学修	授業で読んだリーディングのプリントを再度読み直す。	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト，試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Chicken Soup for the Soul	Jack Canfield他	金星堂	1997	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	い い ず な 書 店 編 集 部	い い ず な 書 店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 4/8	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	第一部 水 4/15	動詞と文型	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型（1））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，動詞と文型に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型（1））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	第一部 水 4/22	The Circus（1）	The Circusの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に分詞構文に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
4	第一部 水 4/29	The Circus（2）	The Circusの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に分詞構文に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
5	第一部 水 5/6	The Circus（3）	The Circusの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について，ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に分詞構文に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して，英文の内容について，他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
6	第一部 水 5/13	Puppies For Sale（1）	Puppies For Saleの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に関係代名詞（制限用法）に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 5/20	Puppies For Sale (2)	Puppies For Saleの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関係代名詞（制限用法）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
8	第一部 水 5/27	Puppies For Sale (3)	Puppies For Saleの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関係代名詞（制限用法）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
9	第一部 水 6/3	Follow Your Dream (1)	Follow Your Dreamの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関係代名詞（非制限用法）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
10	第一部 水6/10	Follow Your Dream (2)	Follow Your Dreamの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関係代名詞（非制限用法）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
11	第一部 水6/17	Follow Your Dream (3)	Follow Your Dreamの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関係代名詞（非制限用法）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
12	第一部 水6/24	Love And The Cabbie (1)	Love And The Cabbieの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、特に文型に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	Love And The Cabbie (2)	Love And The Cabbieの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に文型に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
14	第一部 水7/8	Love And The Cabbie (3)	Love And The Cabbieの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に文型に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
15	第一部 水7/15	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期の授業内容の総復習をしておく。	45分
		事後学修	前期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。	15分

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト，試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Chicken Soup for the Soul	Jack Canfield他	金星堂	1997	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	い い ず な 書店編集部	い い ず な 書店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	第一部 金4/17	動詞と文型	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型（1））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，動詞と文型に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型（1））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	第一部 金4/24	The Circus（1）	The Circusの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に分詞構文に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
4	第一部 金5/1	The Circus（2）	The Circusの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に分詞構文に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
5	第一部 金5/8	The Circus（3）	The Circusの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について，ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に分詞構文に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して，英文の内容について，他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
6	第一部 金5/15	Puppies For Sale（1）	Puppies For Saleの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に関係代名詞（制限用法）に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	Puppies For Sale (2)	Puppies For Saleの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関係代名詞（制限用法）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
8	第一部 金5/29	Puppies For Sale (3)	Puppies For Saleの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関係代名詞（制限用法）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
9	第一部 金6/5	Follow Your Dream (1)	Follow Your Dreamの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関係代名詞（非制限用法）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
10	第一部 金6/12	Follow Your Dream (2)	Follow Your Dreamの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関係代名詞（非制限用法）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
11	第一部 金6/19	Follow Your Dream (3)	Follow Your Dreamの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関係代名詞（非制限用法）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
12	第一部 金6/26	Love And The Cabbie (1)	Love And The Cabbieの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、特に文型に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	Love And The Cabbie (2)	Love And The Cabbieの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に文型に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
14	第一部 金7/10	Love And The Cabbie (3)	Love And The Cabbieの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に文型に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
15	第一部 金7/17	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期の授業内容の総復習をしておく。	45分
		事後学修	前期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。	15分

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
英語で書かれた教材をクラスで演習形式で読み、読んだことについての質問に答える。内容重視の授業。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワークなどの演習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Fusion 1	Andrew E. Bennett	Nan'un-Do	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜10:30～講堂にて。授業の前後で質問してください。アポイントメントを取る場合にも授業の前後で相談してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4／10	オリエンテーション及び導入講義	ガイダンス	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学で期待される英語の学習方法を理解できる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を注文する。自己紹介文のプレゼンに入れる内容を考える。	30分
		事後学修	自己紹介文のプレゼンで注意されたことを復習する。	30分
2	4／17	1. Music and the Mind	本文の内容理解	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音楽と心の関係について理解することができる。	
		事前学修	教科書8頁から11頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
3	4／24	1. Music and the Mind	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音楽と心の関係についての内容理解がきちんとでき、内容についての自分の意見が表明できる	
		事前学修	8頁から11頁に出ている単語のテストの勉強をする。 教科書12頁から15頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
4	5／1	2. Body Language across Cultures	単語テスト 本文の内容理解	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な文化に異なるボディ・ランゲージがあることを理解することができる。	
		事前学修	12頁から15頁に出ている単語のテストの勉強をする。 教科書16頁から19頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
5	5／8	2. Body Language across Cultures	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な文化にある異なるボディ・ランゲージについての内容がきちんと理解でき、自分の文化にもあるボディ・ランゲージについて意見が表明できる。	
		事前学修	16頁から19頁に出ている単語のテストの勉強をする。 教科書20頁から23頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
6	5／15	3. Turning Waste into Wealth	単語テスト 本文の内容理解	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのように捨てられたものを回収して貴重なものに変えるのかという内容が理解できる。	
		事前学修	20頁から23頁に出ている単語のテストの勉強をする。 24頁から27頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	3. Turning Waste into Wealth	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのように捨てられたものを回収して貴重なものに変えるのかという内容がきちんと理解でき、自分でも何ができるかについて意見が表明できる。	
		事前学修	24頁から27頁に出ている単語のテストの勉強をする。 28頁から31頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
8	5/29	4. The Search for Other Worlds	単語テスト 本文の内容理解	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、宇宙の他の星について理解できる。	
		事前学修	28頁から31頁に出ている単語のテストの勉強をする。 32頁から35頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
9	6/5	4. The Search for Other Worlds	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、宇宙の他の星についてきちんと理解でき、自分がそのような存在を信じるかどうかについての意見を表明できる。	
		事前学修	32頁から35頁に出ている単語のテストの勉強をする。 36頁から39頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
10	6/12	5. Crowdsourcing	単語テスト 本文の内容理解	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、クラウドソーシングについて理解できる。	
		事前学修	36頁から39頁に出ている単語のテストの勉強をする。 40頁から43頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
11	6/19	5. Crowdsourcing	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、クラウドソーシングについてきちんと理解でき、クラウドソーシングできそうな問題について意見が表明できる。	
		事前学修	40頁から43頁に出ている単語のテストの勉強をする。 44頁から47頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
12	6/26	6. Urban Landmarks	単語テスト 本文の内容理解	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有名な建物がどのように世界で注目を集めるのか理解できる。	
		事前学修	44頁から47頁に出ている単語のテストの勉強をする。 48頁から51頁までの未習の単語を調べ、本文の予習をする。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	6. Urban Landmarks	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有名な建物がどのように世界で注目を集めるのかきちんと理解でき、日本でどのような建物が好きかについて自分の意見を表明できる。	
		事前学修	48頁から51頁に出ている単語のテストの勉強をする。 52頁から55頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
14	7/10	前期試験と振り返り	テキストの前期試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだ単語や文章理解のテクニックを身につけることができる。	
		事前学修	試験の範囲を勉強する。	120分
		事後学修	試験の復習をし、分からなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	7/17	前期の振り返り	テスト返却 前期の授業を振り返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことを振り返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	前期にテキストで学んだところで分からなかったところを調べておく。	30分
		事後学修	夏休み以降の英語の勉強の計画を立てる。	30分

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	瀧野 みゆき	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
英語の素材を読み、内容を理解する練習を多様なテーマの素材を使って行います。 その後、関連した内容について書く練習をします。 授業の後半で読むテキストについては、授業の前に指定されたユニットを繰り返し読み、内容を理解してきてください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業でペアまたはグループで英語でコミュニケーションを行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの積算点数、レポートの得点を学期中にフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
究極の英語リーディング Vol.1 CD付	英語出版編集部（編集）	株式会社アルク	2014年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として授業終了後（火曜：昼休み）。授業講堂にて。詳細は授業で指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	英語を使った海外とのコミュニケーション業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実社会の英語の利用を反映した英語コミュニケーションの練習	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	ガイダンス Daily Life	ガイダンス：リーディング力を伸ばすには、英語の読みの練習方法、授業の進め方、事前・事後学習の説明 リーディングミニテストの練習 Daily Lifeに関するリーディングの練習をする。	
		この回の到達目標	授業の進め方を理解する。小テストの練習を通して、予習復習の内容を理解する。 到達目標①②に関連して、Daily Lifeに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの購入と内容の確認（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
2	第一部 火4/14	Places	Placesに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Placesに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
3	第一部 火4/21	People	Peopleに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Peopleに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
4	第一部 火4/28	Travel	Travelに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Travelに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
5	第一部 火5/5	Business	Businessに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Businessに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
6	第一部 火5/12	Office	Officeに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Officeに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	Technology	Technologyに関するリーディングの練習をする リーディングレポート提出 一回目（詳細は授業で指示します）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Technologyに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
8	第一部 火5/26	Personnel	Personnelに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Personnelに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
9	第一部 火6/2	Management	Managementに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Managementに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
10	第一部 火6/9	Purchasing	Purchasingに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Purchasingに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
11	第一部 火6/16	Finances	Financesに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Financesに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
12	第一部 火6/23	Media	Mediaに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Mediaに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	Entertainment	Entertainmentに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Entertainmentに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
14	第一部 火7/7	Restaurant	Restaurantに関するリーディングの練習をする リーディングレポート提出 二回目 （詳細は授業で指示します）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Restaurantに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
15	第一部 火7/14	まとめ・勉強法	まとめ 授業の学びのまとめ・夏休みの勉強法	
		この回の到達目標	授業の内容を復習し、理解を確認する。 夏休みに英語に触れ続ける方法を理解する。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読み取りの練習・内容の理解（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。毎回英単語を含む小テストを実施する。また、2回の課題レポート提出を課します。小テスト、課題とも次回の授業で返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	配布された資料を基に、英語圏の思考形式をグループで話し合い、その結果を纏めて提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
コメントし次週返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
読解力をみがく基本英文法	福井 慶一郎	朝日出版社	2015		
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、 小石裕子	アルク	2016		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12：10～13：00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、レポートの書き方の説明	
		この回の到達目標	英文法項目から、自ら苦手とする項目を選び出し、追及することができる。	
		事前学修	テキスト2冊の目次の確認をし、苦手とする項目を拾い上げ、参考書などを確認する。	30分
		事後学修	レポートの書き方、小テストの形式の確認を配布資料を見ながら確認する。	30分
2	4/15	名詞の学習	名詞についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	英語での名詞の概念を理解し、実際読解や表現に反映できる。	
		事前学修	Unit 1（名詞）の例文確認する。	30分
		事後学修	Unit 1.2の例文、演習問題復習をする。	30分
3	4/22	冠詞と前置詞の学習	小テスト1 冠詞、前置詞についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	日本語には存在しない冠詞の概念を理解し、また前置詞の限定用法という構造も理解できる。	
		事前学修	単語1-50を暗記し、Unit 2.22（冠詞・前置詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 2.22の復習をする。	30分
4	4/29	人称代名詞の学習	小テスト2 人称代名詞についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	人称代名詞に関して、格変化を理解し、適切に使用できる。	
		事前学修	単語51-100を暗記し、Unit 3（代名詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 3の復習をする。	30分
5	5/6	不定代名詞の学習	不定代名詞についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	不定代名詞の概念を、図を通して理解できる。	
		事前学修	単語101-150を暗記し、Unit 4（代名詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 4の復習をする。	30分
6	5/13	英文の時制の学習	小テスト4 時制についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	英語と日本語の時間に関する概念の相違を理解できる。	
		事前学修	単語151-200を暗記し、Unit 5（基本時制）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 5の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	進行形の学習	小テスト5 進行形についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	進行形の存在理由を理解し、適切に使用できる。	
		事前学修	単語201-250を暗記し、Unit 6（進行形）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 6の復習をする。	30分
8	5/27	現在完了形の学習	小テスト6 現在完了形についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	現在完了形の概念を理解するとともに、英語と日本語の時間に対する概念の相違を理解できる。	
		事前学修	単語251-300を暗記し、Unit 7（完了形）の中で、現在完了形の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 7の復習をする。	30分
9	6/3	過去完了形、未来完了形の学習	小テスト7 過去・未来完了形についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	過去と未来における完了形の概念を理解し、適切な時間表現ができる。	
		事前学修	単語301-350を暗記し、Unit 7（完了形）の中で、過去・未来完了形の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 8での現在完了形の復習をする。	30分
10	6/10	基本的な助動詞の学習	小テスト8 助動詞についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	助動詞を使用する意味を理解し、その存在理由を確認し、使用できる。	
		事前学修	単語351-400を暗記し、Unit 8（助動詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 8での過去完了形、未来完了形の復習をする。	30分
11	6/17	基本的な受動態の学習	小テスト9 受動態についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	受動態が必要となる状況を理解し、使用することができる。	
		事前学修	単語401-450を暗記し、Unit 10（受動態）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 10の復習をする。	30分
12	6/24	特殊形態の受動態の学習	特殊形態の受動態についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	Unit10での学習を踏まえ、より発展的な受動態の使用ができる。	
		事前学修	Unit 11（受動態）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 11の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	これまでの学習の確認	これまでの授業の確認により、自己達成度の向上	
		この回の到達目標	これまで扱ってきた学習内容の達成度を自ら確認し、自己修正できる。	
		事前学修	これまでの授業で扱った事項をチェックする。	60分
		事後学修	配布プリントの確認をする。	30分
14	7/8	英語圏の文化の学習	映像を通すことによる、英語圏の文化の理解と明示	
		この回の到達目標	英語圏の人々の思考形式と日本のそれとの相違を理解できる。	
		事前学修	英語圏の文化をWEB等を活用し、調査する。	30分
		事後学修	英語圏の文化の確認をする。	30分
15	7/15	英語圏の文化と文法項目の確認	小テスト10 英語圏の文化、これまでの授業の解説	
		この回の到達目標	英語圏との人々の思考形式と英文構造の関連性を理解できる。	
		事前学修	単語451-550を暗記する。	30分
		事後学修	英語圏の人々の思考形式をノートにより確認し、またこれまでの文法事項で、不確かであったものを復習をする。	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。毎回英単語を含む小テストを実施する。また、2回の課題レポート提出を課します。小テスト、課題とも次回の授業で返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	配布された資料を基に、英語圏の思考形式をグループで話し合い、その結果を纏めて提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
コメントし次週返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
読解力をみがく基本英文法	福井 慶一郎	朝日出版社	2015		
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、 小石裕子	アルク	2016		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12：10～13：00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、レポートの書き方の説明	
		この回の到達目標	英文法項目から、自ら苦手とする項目を選び出し、追及することができる。	
		事前学修	テキスト2冊の目次の確認をし、苦手とする項目を拾い上げ、参考書などを確認する。	30分
		事後学修	レポートの書き方、小テストの形式の確認を配布資料を見ながら確認する。	30分
2	4/15	名詞の学習	名詞についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	英語での名詞の概念を理解し、実際読解や表現に反映できる。	
		事前学修	Unit 1（名詞）の例文確認する。	30分
		事後学修	Unit 1.2の例文、演習問題復習をする。	30分
3	4/22	冠詞と前置詞の学習	小テスト1 冠詞、前置詞についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	日本語には存在しない冠詞の概念を理解し、また前置詞の限定用法という構造も理解できる。	
		事前学修	単語1-50を暗記し、Unit 2.22（冠詞・前置詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 2.22の復習をする。	30分
4	4/29	人称代名詞の学習	小テスト2 人称代名詞についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	人称代名詞に関して、格変化を理解し、適切に使用できる。	
		事前学修	単語51-100を暗記し、Unit 3（代名詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 3の復習をする。	30分
5	5/6	不定代名詞の学習	不定代名詞についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	不定代名詞の概念を、図を通して理解できる。	
		事前学修	単語101-150を暗記し、Unit 4（代名詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 4の復習をする。	30分
6	5/13	英文の時制の学習	小テスト4 時制についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	英語と日本語の時間に関する概念の相違を理解できる。	
		事前学修	単語151-200を暗記し、Unit 5（基本時制）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 5の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	進行形の学習	小テスト5 進行形についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	進行形の存在理由を理解し、適切に使用できる。	
		事前学修	単語201-250を暗記し、Unit 6（進行形）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 6の復習をする。	30分
8	5/27	現在完了形の学習	小テスト6 現在完了形についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	現在完了形の概念を理解するとともに、英語と日本語の時間に対する概念の相違を理解できる。	
		事前学修	単語251-300を暗記し、Unit 7（完了形）の中で、現在完了形の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 7の復習をする。	30分
9	6/3	過去完了形、未来完了形の学習	小テスト7 過去・未来完了形についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	過去と未来における完了形の概念を理解し、適切な時間表現ができる。	
		事前学修	単語301-350を暗記し、Unit 7（完了形）の中で、過去・未来完了形の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 8での現在完了形の復習をする。	30分
10	6/10	基本的な助動詞の学習	小テスト8 助動詞についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	助動詞を使用する意味を理解し、その存在理由を確認し、使用できる。	
		事前学修	単語351-400を暗記し、Unit 8（助動詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 8での過去完了形、未来完了形の復習をする。	30分
11	6/17	基本的な受動態の学習	小テスト9 受動態についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	受動態が必要となる状況を理解し、使用することができる。	
		事前学修	単語401-450を暗記し、Unit 10（受動態）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 10の復習をする。	30分
12	6/24	特殊形態の受動態の学習	特殊形態の受動態についての理解と問題の解答	
		この回の到達目標	Unit10での学習を踏まえ、より発展的な受動態の使用ができる。	
		事前学修	Unit 11（受動態）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 11の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	これまでの学習の確認	これまでの授業の確認により、自己達成度の向上	
		この回の到達目標	これまで扱ってきた学習内容の達成度を自ら確認し、自己修正できる。	
		事前学修	これまでの授業で扱った事項をチェックする。	60分
		事後学修	配布プリントの確認をする。	30分
14	7/8	英語圏の文化の学習	映像を通すことによる、英語圏の文化の理解と明示	
		この回の到達目標	英語圏の人々の思考形式と日本のそれとの相違を理解できる。	
		事前学修	英語圏の文化をWEB等を活用し、調査する。	30分
		事後学修	英語圏の文化の確認をする。	30分
15	7/15	英語圏の文化と文法項目の確認	小テスト10 英語圏の文化、これまでの授業の解説	
		この回の到達目標	英語圏との人々の思考形式と英文構造の関連性を理解できる。	
		事前学修	単語451-550を暗記する。	30分
		事後学修	英語圏の人々の思考形式をノートにより確認し、またこれまでの文法事項で、不確かであったものを復習をする。	30分

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。原則、英語Bと通年で履修してください。30分以上の遅刻は欠席とします。

【授業方法】
授業に積極的に参加することが求められます。 グループワークが中心です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを中心に進め、グループやペアによるディスカッション、プレゼンテーションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でテスト等の解説、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Identity	Shauls, Tsujioka, Iida	Oxford University Press	2004	教科書	必携
A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions		Nan’undo	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に講堂に来てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンスと学習方法	英語の効果的な学習方法	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語のリーディングを含む4スキルを向上させる学習方法につきディスカッションを行う。	
		事前学修	自分の英語の勉強方法、授業に対する取り組みをまとめる	30分
		事後学修	課題 about yourself	30分
2	第一部 水4/15	Get to know each other	グループワークを円滑にする方法を考える	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自主的な学習態度を考察する	
		事前学修	課題 how to manage group work	30分
		事後学修	ジャーナル 1 授業振り返り	30分
3	第一部 水4/22	culture shock 1	your personality and identity	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アイデンティティを考察する	
		事前学修	課題 your school life	30分
		事後学修	ジャーナル 2 授業振り返り	30分
4	第一部 水4/29	culture shock 2	advice to your friend, Janet Bennett	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アドバイスの表現を使用する	
		事前学修	課題 cultural differences	30分
		事後学修	ジャーナル 3 授業振り返り	30分
5	第一部 水5/6	culture in language 1	Language and culture, proverbs	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、言葉と文化の関係を考察する	
		事前学修	課題 language examples	30分
		事後学修	ジャーナル 4 授業振り返り	30分
6	第一部 水5/13	culture in language 2	idioms, proverbs, challenges of international careers	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ことわざの文化的考察、グローバルなキャリアについて理解、考察する	
		事前学修	課題 proverbs	30分
		事後学修	ジャーナル 5 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	values 1	Giving advice, lifestyle values	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価値観の相違を考察する	
		事前学修	課題 what you like	30分
		事後学修	ジャーナル 6 授業振り返り	30分
8	第一部 水5/27	values 2	values from family	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価値観がどこから由来するか考察する	
		事前学修	課題 your family	30分
		事後学修	ジャーナル 7 授業振り返り	30分
9	第一部 水6/3	presentations	group presentations	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループでテーマを決めて発表	
		事前学修	プレゼン準備 (30分)	30分
		事後学修	ジャーナル 8 授業振り返り (30分)	30分
10	第一部 水6/10	body language 1	customs related to language	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化による様々な慣習を考察する	
		事前学修	課題 Japanese body language	30分
		事後学修	ジャーナル 9 授業振り返り	30分
11	第一部 水6/17	body language 2	describing customs in your own country	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己の文化の慣習を考察する	
		事前学修	課題 hidden language	30分
		事後学修	ジャーナル 10 授業振り返り	30分
12	第一部 水6/24	vocabulary and TOEIC	learn daily expressions and TOEIC vocabulary and grammar	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常会話及びTOEICの文法、語彙を識別する	
		事前学修	課題 your value	30分
		事後学修	ジャーナル 11 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	identity 1	personal identity	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己のアイデンティティを考察、発表する	
		事前学修	課題 who you are	30分
		事後学修	ジャーナル 12 授業振り返り	30分
14	第一部 水7/8	identity 2	personality adjectives, Edward Hall	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、適切な形容詞と文法で自己を説明する。	
		事前学修	前期学習の復習	30分
		事後学修	到達度の振り返り	30分
15	第一部 水7/15	まとめ	final exam	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前学期の授業内容を理解できる	
		事前学修	vocabulary, grammar, intercultural communication	30分
		事後学修	ジャーナル 13 まとめ	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。授業中の、携帯やスマートフォンの使用は固く禁止します。

【授業方法】
本文や問題文の音読と、訳を求めます。毎回、全員が一度は発表しますので、事前に予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は必ず間違った箇所やあやふやなところはまとめて事後学習をしましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は授業内に行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』	西谷敦子 他	朝日出版社	19年度		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	Orientation とTOEICテストの傾向と対策	Orientation では授業の方法についてレクチャーをします。授業の進め方、辞書の使い方などについて説明します。授業に関する質問に答えます。教科書および英和・和英辞書を用意してください。TOEICテストの傾向と対策について紹介します。前期はリスニングを、後期はリーディングを中心に講義します。	
		この回の到達目標	授業の進め方、教科書と過去問の使い方について理解することで、学生が授業の準備をスムーズに行い、今後の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
2	水4/15	写真描写問題 人物が写っている写真	Unit 1『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section1	
		この回の到達目標	位置・動作・状態の違いを聞き取ることができる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
3	水4/22	写真描写問題 人物が写っていない写真	Unit 2 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section1 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 2	
		この回の到達目標	位置関係を表す表現に慣れる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit2のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (	30分
4	水4/29	位置関係を表す前置詞	Uni 2『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 3 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section1	
		この回の到達目標	位置関係を表す前置詞を聞き取ること、適切に写真説明を理解できる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit2のテーマ、単語、表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
5	水5/6	疑問詞疑問文	Uni 3『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 4 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section1	
		この回の到達目標	冒頭の1語のみで理解できるパターンを知る。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit3の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	水5/13	疑問詞疑問文	Uni 3 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』 問題 5 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』 Section 2	
		この回の到達目標	冒頭の1語のみでは理解できないパターンを知る。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit3のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみることに。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
7	水5/20	yes/no疑問文	Uni 4 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習して、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』 問題 6 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』 Section 2	
		この回の到達目標	yes/noで答える疑問文を理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit4のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみることに。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
8	水5/27	TOEIC TEST まとめ	TOEICのリスニングのテストを本番と同じ条件で行います。	
		この回の到達目標	TOEICの過去問を解き、問題の傾向を理解する。	
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで目をとおしておく、授業時の備えになります。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
9	水6/3	TOEIC TEST まとめ	TOEICのリーディングのテストを本番と同じ条件で行います。	
		この回の到達目標	TOEICの過去問を解き、問題の傾向を理解する。	
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで目をとおしておく、授業時の備えになります。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
10	水6/10	間接疑問文、否定疑問文、付加疑問文、選択疑問文など	Unit 4 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』 問題 7 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』 Section 2	
		この回の到達目標	テーマの疑問文について理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit4の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみることに。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
11	水6/17	平叙文と意外な返答（１）	Unit5『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題8 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section 2
		この回の到達目標	平叙文は応答パターンを理解する。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit 5のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみることに。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
12	水6/24	平叙文と意外な返答（２）	Unit5『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section 3 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題9
		この回の到達目標	間接的な応答や予想外の返答があることを理解する。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit 5の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみることに。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
13	水7/1	機能別疑問文（１）	unit 6 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題9 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section 3
		この回の到達目標	機能別疑問文のパターンと、応答の表現に慣れる。決まり文句も多いことを理解する。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit 6の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみることに。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
14	水7/8	試験とまとめ	前期授業のまとめのテストを行う
		この回の到達目標	前期の授業で学習したTOEICリスニングをとくことができる。
		事前学修	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。質問も遠慮なくしてください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと
15	水7/15	試験の解説と英語の動画の鑑賞	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。
		この回の到達目標	試験の解説を聞いて、不明な点を理解する。また英語による動画を鑑賞して聞き取ることができる。
		事前学修	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておくことより一層理解が深まるので準備しておくこと。
		事後学修	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。授業中の、携帯やスマートフォンの使用は固く禁止します。

【授業方法】
本文や問題文の音読と、訳を求めます。毎回、全員が一度は発表しますので、事前に予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は必ず間違った箇所やあやふやなところはまとめて事後学習をしましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説・講評を授業内にて後日行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』	穂 寛美 他	成美堂	19年度		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	水 4 / 8	Orientation Home Appliances	授業の方法についてレクチャーをします。（授業の説明、教科書の使いかたや進み方など）質問も受け付けます。オリエンテーション後、Textに入りますので、事前に教科書および英和・和英辞書を用意してください。An Amazing TOEIC TEST Unit 1 Part1, 2, 5を行います。文法の教科書はSection1の1～6を行います。 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』Section1の1～6
		この回の到達目標	写真の見方、疑問文のタイプ、代名詞について理解できる。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit1のPart1, 2, 5の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
2	水 4 / 1 5	Recreation	Unit 2 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Part3, 6、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』Section1の7～14
		この回の到達目標	TOEICテストPart3（会話文）の設問パターンを知る。Part6（長文穴埋め問題）の読み物のジャンルと流れを知る。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit2の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
3	水 4 / 2 2	Restaurants	Unit 3 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』part4、part7まず、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』Section1の15～30 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 2
		この回の到達目標	part4（説明文問題）の設問を先読みして予測することができる。part6（読解問題）の読み物の特徴と流れを知る。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit3のpart4、part7、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
4	水 4 / 2 9	Supermarket	Uni 4 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』part1, 2, 5 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 3 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』Section1 31～46
		この回の到達目標	part1(写真描写問題) 人物の行動を表す表現が理解できる, part2 (wh-, How疑問文の応答になれる), part5 (短文穴埋め問題) については対の接続詞を聞き取り、使いこなすことができる。either A or B, both A and Bなど。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit4のテーマ、単語、表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
5	水 5 / 6	Housing	Uni 5 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』part3, 6 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 4 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』Section1 47～62
		この回の到達目標	part3（会話問題）については森の問題を理解して、問題を解答することができる。part6（長文穴埋め問題）ストーリーの流れ、逆説の表現と文法上のルールを理解することができる。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit5の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
6	水 5 / 1 3	BUssiness	Unit6『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』part4,part7 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 5 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』Section 2 の1~14
		この回の到達目標	part4（説明文問題）電話メッセージのストーリーの特徴を理解できる。part7（読解問題）のストーリーの流れ、逆説、追加の表現を理解できる。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit3のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
7	水 5 / 2 0	Bank & Post Office	Uni 7『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』part1,part2,part5 前回箇所を復習して、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 6 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』Section 2 の 1 5 ～ 3 0
		この回の到達目標	part1（写真描写問題）については物と人の位置関係の表現を理解する,part2（応答問題）では疑問文と応答の時制に気を付ける。音の「塊」に気を付けて、特に「出だし」を聞き取ることができる。 ,part5（短文穴埋め問題）については不定詞と動名詞の使い分けができる。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit 7 のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
8	水 5 / 2 7	TOEICリーディング まとめ	TOEICのリーディングテストを本番と同じ条件で行います。
		この回の到達目標	TOEICテストの本試験と同じ条件で模擬試験を受けて、TOEICの傾向を理解する。
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に目をとおしておく、授業時の備えになります。
		事後学修	答え合わせをして、スコアを出します。事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
9	水 6 / 3	TOEICリスニング まとめ	TOEICのリスニングのテストを本番と同じ条件で行います。
		この回の到達目標	TOEICテストの本試験と同じ条件で模擬試験を受けて、TOEICの傾向を理解する。
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に目をとおしておく、授業時の備えになります。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
10	水 6 / 1 0	Job Hunting	Unit 8『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』part3,part6 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題7 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』Section 2 の31-46
		この回の到達目標	part3（会話問題）木の問題に強くなる。会話のポイントを見極める。part6（長文穴埋め問題）ストーリーの流れ、例示、追加情報の表現に強くなる。具体的に例示する内容のポイントを見極める。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit 8 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
11	水 6 / 1 7	Health	Unit 9 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』 part4, part7 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』 問題 8 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』 Section 2 の47~62
		この回の到達目標	part4(説明文問題) トーク冒頭部分の情報を聞き取る, part7 (読解問題) ストーリーの流れ : 例示、追加表現の使い方に強くなる。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』 Unit 9 のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
12	水 6 / 2 4	Tourism: Travel by	Unit 1 0 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』 part1, part2, part5 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』 Section 3 の 1 ~ 1 4 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』 問題 9
		この回の到達目標	part1 (写真描写問題) ものが主語になる受動態の表現に強くなる, part2 (応答問題) 許可、依頼、勧誘、提案の表現に慣れる, part5 (短文穴埋め問題) 比較の三つの型を理解する。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』 Unit 1 0 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
13	水 7 / 1	Tourism: Travel by Land	unit 10 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』 part3, part6 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』 問題10 『5分間 新TOEICテストサブリメント 文法語法』 Section 3 15~30
		この回の到達目標	part3 (会話問題) 意図問題 : 文の真の意味を知る。 , part6 (長文穴埋め問題) 結論を述べる表現に慣れる。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』 Unit 1 0 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
14	水 7 / 8	Mid-test	前期授業のまとめのテストと解説
		この回の到達目標	前期の授業内の内容をどの程度理解できているのか、到達度を確認する。
		事前学修	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。質問も遠慮なくしてください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
15	水 7 / 1 5	listening	今期のまとめをして、英語に関するDVDを鑑賞しましょう。
		この回の到達目標	前回のテストの解説を聞いて、不明点を明白にする。 英語に関するDVDを鑑賞して英語に親しむ。
		事前学修	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておくことより一層理解が深まるので準備をしておくこと。
		事後学修	事後学習として、今回のDVDの内容のポイントをノートにまとめること。

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
グループワークを取り入れ、発表形式で行います。 レポート課題返却時、詳細なコメントを入れてフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	特になし				

【オフィスアワー】
金曜2限終了後（１２：１０～１２：３０）、授業講堂で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	【ガイダンス】前期授業の概要の説明	中学、高校で学んだ英語表現、英単語。受動英語と能動英語の違いについて学ぶ。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解へとつながる英語リーディング法を学び、それを実践することができる。	
		事前学修	シラバスの確認	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
2	第一部金 4/17	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
3	第一部金 4/24	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。 グループワークでレポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
4	第一部金 5/1	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。 グループワークでレポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
5	第一部金 5/8	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
6	第一部金 5/15	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
8	第一部金 5/29	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
9	第一部金 6/5	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
10	第一部金 6/12	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
11	第一部金 6/19	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
12	第一部金 6/26	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
14	第一部金 7/10	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	既習事項の確認、復習	30分
15	第一部金 7/17	【定期テスト、前期授業のまとめ】	定期テスト後、解答、解説を行ない、前期授業の内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解を意識した英語リーディング法を実践できる。	
		事前学修	既習事項の確認、復習	30分
		事後学修	後期授業の範囲を読んでおくこと。	30分

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。原則、英語Bと通年で履修して下さい。

【授業方法】		
教科書に沿って、聴解、ディクテーション、読解を行います。文法事項や重要表現を学習した後、英作文や発話練習を行って、知識を定着させます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークで聴解、ディクテーション、会話練習をします。教科書と関連するニュースを選び、グループで調べたことを発表してもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験、採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
やさしく読める社会事情（Changing Times, Changing Worlds）	Joan McConnell, 山内 圭	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、授業終了後（火曜：講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	ガイダンス、英語の学習	ガイダンス、語彙・文法の振り返り、プリントを使用して英語ニュースの特徴の解説	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語ニュースの特徴を説明することができる。	
		事前学修	これまでの自分の英語学習を振り返って、使用した辞書や単語集、教材などをまとめておく。大学で英語をどのように学習したいかという目標を考えておく。簡単な自己紹介を英語で出来るように考えておく。	30分
		事後学修	教科書を購入して、音声のダウンロードの準備をする。前期分のテキストにざっと目を通す。	30分
2	第一部火 4/14	時間の流れに沿って書かれた英文の読解	教科書 Unit 1「マスコット・キャラクターに込められた意味」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、時間の流れに沿って書かれた英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書Unit 1の読み物の大まかな内容を把握しておく。わからない英単語を調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分
3	第一部火 4/21	接続詞の機能と活用、会話練習	接続詞の機能と活用の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、接続詞の文法項目を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
4	第一部火 4/28	言葉の定義の英文の読解	テキスト Unit 2「オーバーツーリズムとは」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、定義の英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分
5	第一部火 5/5	現在形の文法項目の定着	時制（現在形）の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、現在形の文法項目を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	教科書の文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
6	第一部火 5/12	Listingの構造で書かれた英文を読む。	テキスト Unit 3「職場での男女平等」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、Listingの英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	助動詞の機能と活用	助動詞の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞の機能を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	教科書の文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
8	第一部火 5/26	定義、タイム・オーダーの構成で書かれた英文の読解	テキスト Unit 4 「美の定義」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、定義・タイムオーダーの英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分
9	第一部火 6/2	進行形の機能と活用	進行形の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、進行形の文法項目を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	教科書の文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
10	第一部火 6/9	時間の流れに沿って書かれた英文の読解	テキスト Unit 5 「ロミオとジュリエットの悲劇」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、時間の流れに沿って書かれた英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分
11	第一部火 6/16	過去形の種類	過去形の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、過去形の文法項目を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	教科書の文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
12	第一部火 6/23	因果関係のパターンで書かれた英文の読解	テキスト Unit 6 「自然と健康」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、因果関係のパターンで書かれた英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	動名詞の機能と活用	動名詞の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、動名詞の文法項目を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	教科書の文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
14	第一部火 7/7	比較のパターンで書かれた英文の読解	テキスト Unit 7「老後と熟年離婚」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、比較のパターンで書かれた英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。基本文を何回か書いて、知識の定着を図る。会話文の音読練習をする。	30分
15	第一部火 7/14	前期学習内容の振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々なパターンで書かれた英文の意味を把握することができる。今期に学習した文法項目を整理し、活用することができる。	
		事前学修	今期の学習範囲の復習を行う。単語・熟語、文法項目を振り返る。	30分
		事後学修	理解があやふやな箇所を見直し、後期の学習に備える。	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
教科書のReading中心にtaskベースで、ペアやグループワークを採り入れ、直読直解するやり方で読み進めます。各段落の中心となる話題文を探すことで要旨を把握します。後半の文法問題は課題になり、授業の事前学修、事後学修は、各2時間を目安としています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアやグループワークで、ディスカッションをまず先に行い、全体で正解を導き出す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に採点後の返却、解説、講評をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Dear Learners 』Drop Everything And Read	永本義弘・町田純子・八木茂那子・Ian Ellsworth	南雲堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日授業内、前後の対応

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマ、方針、内容、評価基準等を確認し、授業準備に役立てることができる。	
		この回の到達目標	英語の言語運用能力として英文を速く、正確に理解できる読解力を身に付ける為に、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等に慣れ、同時にgrammarやlisteningの基礎を理解し運用できることが狙いであることを説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し、教科書を準備する。	60分
		事後学修	ガイダンスの内容を復習し、整理する。	60分
2	4/15	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit 1 Sowing Seeds of Peace, Education & Hope-Malala Malala (Sense Group Reading & Shadowing) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	p4 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit 1 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
3	4/22	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit2 Sowing Seeds of Food Savings-OzHarvest Market (Scanning) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit2 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit2 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
4	4/29	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit3 Sowing Seeds of Safety-An Eye on Crime (Topic Sentences & Main Ideas) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit3 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit3 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
5	5/6	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit4 Sowing Seeds of Work-Work Balance (Making a Summary) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit4 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit4 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
6	5/13	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit5 Sowing Seeds of Exercise-Sport BMX and Urban Fun? (Paragraph Development) Unit6 Sowing Seeds of Happiness-Happiness (Skimming & Content Words) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit5、Unit6 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit5、Unit6 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	小テストと解説	Unit 1 からUnit6の範囲問題を解答できる。	
		この回の到達目標	Unit 1 からUnit6の範囲問題を解答できる。	
		事前学修	Unit 1 からUnit6を小テストに備えて復習する。	60分
		事後学修	小テストの間違った箇所を解いてみる。	60分
8	5/27	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit7 Sowing Seeds of Entertainment-Sports and Gamesを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit7 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit7 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
9	6/3	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit8 Sowing Seeds of Health- Medical Scienceを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit8 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit8 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
10	6/10	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit9 Sowing Seeds of Psychology-Resilienceを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit9 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit9 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
11	6/17	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit10 Sowing Seeds of Facts: Efforts to Flag Fake-newsを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit10 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit10 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
12	6/24	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit11 Sowing Seeds of Intelligence- Brain Development を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit11 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit11 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit12 Sowing Seeds of Friendship-Yosegaki Hinomaru、Unit13 Sowing Seeds of Humanity-A Heroを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit12、13 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit12.13 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
14	7/8	前期授業内確認テスト 授業の振り返り	テスト内容を理解し、解答できる。	
		この回の到達目標	Unit7からUnit13までの範囲の問題に解答できる。	
		事前学修	Unit7~Unit13までの復習をして、テストに備える。	60分
		事後学修	テストの間違った箇所の復習をする。	60分
15	7/15	まとめ	前期授業内試験の解説、結果報告、学習内容のまとめ	
		この回の到達目標	前期授業の学習内容と、間違えたところを確認する。	
		事前学修	Unit1~Unit13までの復習をする。	60分
		事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	60分

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
教科書のReading中心にtaskベースで、ペアやグループワークを採り入れ、直読直解するやり方で読み進めます。各段落の中心となる話題文を探すことで要旨を把握します。後半の文法問題は課題になり、授業の事前学修、事後学修は、各2時間を目安としています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアやグループワークで、ディスカッションをまず先に行い、全体で正解を導き出す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に採点後の返却、解説、講評をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Dear Learners 』Drop Everything And Read	永本義弘・町田純子・八木茂那子・Ian Ellsworth	南雲堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日授業内、前後の対応

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマ、方針、内容、評価基準等を確認し、授業準備に役立てることができる。	
		この回の到達目標	英語の言語運用能力として英文を速く、正確に理解できる読解力を身に付ける為に、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等に慣れ、同時にgrammarやlisteningの基礎を理解し運用できることが狙いであることを説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し、教科書を準備する。	60分
		事後学修	ガイダンスの内容を復習し、整理する。	60分
2	4/15	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit 1 Sowing Seeds of Peace, Education & Hope-Malala Malala (Sense Group Reading & Shadowing) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	p4 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit 1 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
3	4/22	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit2 Sowing Seeds of Food Savings-OzHarvest Market (Scanning) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit2 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit2 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
4	4/29	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit3 Sowing Seeds of Safety-An Eye on Crime (Topic Sentences & Main Ideas) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit3 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit3 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
5	5/6	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit4 Sowing Seeds of Work-Work Balance (Making a Summary) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit4 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit4 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
6	5/13	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit5 Sowing Seeds of Exercise-Sport BMX and Urban Fun? (Paragraph Development) Unit6 Sowing Seeds of Happiness-Happiness (Skimming & Content Words) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit5、Unit6 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit5、Unit6 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	小テストと解説	Unit 1 からUnit6の範囲問題を解答できる。	
		この回の到達目標	Unit 1 からUnit6の範囲問題を解答できる。	
		事前学修	Unit 1 からUnit6を小テストに備えて復習する。	60分
		事後学修	小テストの間違った箇所を解いてみる。	60分
8	5/27	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit7 Sowing Seeds of Entertainment-Sports and Gamesを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit7 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit7 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
9	6/3	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit8 Sowing Seeds of Health- Medical Scienceを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit8 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit8 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
10	6/10	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit9 Sowing Seeds of Psychology-Resilienceを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit9 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit9 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
11	6/17	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit10 Sowing Seeds of Facts: Efforts to Flag Fake-newsを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit10 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit10 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
12	6/24	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit11 Sowing Seeds of Intelligence- Brain Development を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit11 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit11 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit12 Sowing Seeds of Friendship-Yosegaki Hinomaru、Unit13 Sowing Seeds of Humanity-A Heroを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit12、13 Warm Upの問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit12.13 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
14	7/8	前期授業内確認テスト 授業の振り返り	テスト内容を理解し、解答できる。	
		この回の到達目標	Unit7からUnit13までの範囲の問題に解答できる。	
		事前学修	Unit7~Unit13までの復習をして、テストに備える。	60分
		事後学修	テストの間違った箇所の復習をする。	60分
15	7/15	まとめ	前期授業内試験の解説、結果報告、学習内容のまとめ	
		この回の到達目標	前期授業の学習内容と、間違えたところを確認する。	
		事前学修	Unit1~Unit13までの復習をする。	60分
		事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	60分

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	間山 伸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
講義(板書、教材、配布資料、視聴覚メディア使用)、および演習形式(レポート作成、プレゼンテーションの実施)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや試験の解説、講評を授業内で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English with Pop Hits	角山照彦[ほか]	成美堂	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ガイダンス 基礎英語力の確認	授業の内容や進め方、成績評価の方法を説明し参考文献の紹介を行う。 また基礎的な英文法、英文読解力の確認を行う。	
		この回の到達目標	前期の授業の流れを確認し、学修の計画を立てることができる	
		事前学修	シラバスを確認し、教科書を購入して「はしがき」、「CONTENTS」に目を通してどのような学修をしていくか確認をする	30分
		事後学修	授業の説明を聞き、授業の流れを再確認し、どのような勉強をしていけばよいかを自分なりに計画を立て、受講・学修に向けての準備を整える	30分
2	4月14日	テキスト Unit1 Vocabulary Grammar 接続詞	英語の語(句) : complicated、chill out、frustrated、fake、yell、watch one's back、honesty等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 接続詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、complicated、chill out、frustrated、fake、yell、watch one's back、honesty等の英語表現を正しく使うことができる。また従位接続詞(while、because、though等)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp.1 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
3	4月21日	テキスト Unit1 Grammar 前置詞 Reading	前置詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp.6の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞(during、because of、in spite of等)を正しく使うことができる。また接続詞と前置詞の違いを理解して、正しく使い分けることができる。さらにEnglish names of monthsについての英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp.6の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
4	4月28日	テキスト Unit2 Vocabulary Grammar 仮定法(1)	英語の語(句) : alive、used to、carry on、make out、I fear、else、gone等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 直接法と仮定法の使い方を理解して、英文を正しく読む・書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、alive、used to、carry on、make out、I fear、else、gone等の英語表現を正しく使うことができる。また直接法と仮定法の違いを理解して、英文を和訳することができる、また英文を書くことができる。	
		事前学修	テキストp.9 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
5	5月5日	テキスト Unit2 Grammar 仮定法(2) Reading	仮定法過去、仮定法過去完了の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp.14の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、仮定法過去と仮定法過去完了の違いを理解して、正しく使い分けることができる。またS. O. Sについての英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp.14の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
6	5月12日	テキスト Unit3 Vocabulary Grammar 品詞(1)	英語の語(句) : prayer、bear、whisper、slip away、apart、burden、be here to stay等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 品詞(名詞・代名詞、動詞、形容詞等)を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、prayer、bear、whisper、slip away、apart、burden、be here to stay等の英語表現を正しく使うことができる。また品詞(名詞・代名詞、動詞、形容詞等)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp.17 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	テキスト Unit3 Grammar 品詞(2) Reading	品詞(冠詞、副詞 前置詞、接続詞、助動詞、間投詞等)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 22の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、品詞(冠詞、副詞 前置詞、接続詞、助動詞、間投詞等)を正しく使うことができる。またThe angel of The Gapの英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp. 22の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
8	5月26日	テキスト Unit4 Vocabulary Grammar 不定詞(1)	英語の語(句) : get through、courage、up to、stand one's ground、pride、face the truth、lose one's way等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 不定詞(名詞的用法)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、get through、courage、up to、stand one's ground、pride、face the truth、lose one's way等の英語表現を正しく使うことができる。また不定詞(名詞的用法)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 25 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
9	6月2日	テキスト Unit4 Grammar 不定詞(2) Reading	不定詞(形容詞的用法・副詞的用法)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 30の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞(形容詞的用法・副詞的用法)を正しく使うことができる。またDifferent cultures、different namesの英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp. 30の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
10	6月9日	テキスト Unit5 Vocabulary Grammar 分詞(1)	英語の語(句) : avenue、reach out for、view、reason、trust、while、crazy等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 分詞(限定用法)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、avenue、reach out for、view、reason、trust、while、crazy等の英語表現を正しく使うことができる。また分詞(限定用法)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 33 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
11	6月16日	テキスト Unit5 Grammar 分詞(2) Reading	分詞(叙述用法)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 38の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞(叙述用法)を正しく使うことができる。またcollocationsについての英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp. 38の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
12	6月23日	テキスト Unit6 Vocabulary Grammar 形容詞	英語の語(句) : branch、back and forth、unforgettable、sway、outline、gladly、lead等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 形容詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、branch、back and forth、unforgettable、sway、outline、gladly、lead等の英語表現を正しく使うことができる。また形容詞(glad、quick、sudden等)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 41 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	テキスト Unit6 Grammar 副詞 Reading	副詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 46の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、副詞(gladly、quickly、suddenly等)を正しく使うことができる。またMaroonについての英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp. 46の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
14	7月7日	テキスト Unit7 Vocabulary Grammar 知覚動詞	英語の語(句) : worlds apart、headache、desire、fall apart、distance、nothing but、that way等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 知覚動詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、worlds apart、headache、desire、fall apart、distance、nothing but、that way等の英語表現を正しく使うことができる。また知覚動詞(see、hear、feel等)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 49 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
15	7月14日	第1回～第14回の授業の確認・まとめ	第1回～第14回の授業で学習した内容がきちんと身に付いているか確認をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学修した語(句)の意味を日本語で答えられる。学修した語(句)を使って英文を書くことができる。学修した英文法を踏まえて、正しい英語を書くことができる、また英文を和訳できる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく解答できる。	
		事前学修	第1回～第14回の授業で学習した内容全体を振り返り、忘れていない内容がないか確認する。	30分
		事後学修	今回の確認・まとめ授業の内容で十分に身に付いていなかった学習内容をまとめて、後期の授業「英語B」に備える。	30分

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	間山 伸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
講義(板書、教材、配布資料、視聴覚メディア使用)、および演習形式(レポートの作成、プレゼンテーションの実施)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや試験の解説、講評を授業内で行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
名作映画でTOEIC(4) めざせ！470『オズの魔法使い』	中郷慶[ほか]	英宝社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ガイダンス 基礎英語力の確認	授業の内容や進め方、成績評価の方法を説明し参考文献の紹介を行う。 また基礎的な英文法、英文読解力の確認を行う。	
		この回の到達目標	前期の授業の流れを確認し、学修の計画を立てることができる	
		事前学修	シラバスを確認し、教科書を購入して「はしがき」、「CONTENTS」に目を通してどのような学修をしていくか確認をする	30分
		事後学修	授業の流れを再度確認し、どのような勉強をしていけばよいかを自分なりに計画を立て、受講・学修に向けての準備を整える	30分
2	4月14日	テキスト Act1 Vocabulary Grammar 品詞(1)	英語の語(句) : be occupied with、cellar、chase、cupboard、dedicate、incubator、innocent等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 品詞を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、be occupied with、cellar、chase、cupboard、dedicate、incubator、innocent等の英語表現を正しく使うことができる。また品詞(名詞、動詞、形容詞等)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp.3 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	30分
3	4月21日	テキスト Act1 Grammar 品詞(2) Reading	品詞を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp.10の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、品詞(形容詞、副詞、前置詞、接続詞等)を正しく使うことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく答えられる。	
		事前学修	テキストp.10の問題を解き、分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
4	4月28日	テキスト Act2 Vocabulary Grammar 品詞(3)	英語の語(句) : authentic、barn、carefree、careworn、chronic、cradle、creep等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 動詞を作る接尾辞・接頭辞を理解して品詞を判別し、英文を正しく読む・書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、authentic、barn、carefree、careworn、chronic、cradle、creep等の英語表現を正しく使うことができる。また動詞を作る接尾辞・接頭辞を理解して、英文を和訳することができる、また英文を書くことができる。	
		事前学修	テキストp.13 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	30分
5	5月5日	テキスト Act2 Grammar 品詞(4) Reading	形容詞、名詞を作る接尾辞・接頭辞を理解して品詞を判別し、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp.20の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞、名詞を作る接尾辞・接頭辞を理解して、英文を正しく読む・書くことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく答えられる。	
		事前学修	テキストp.20の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
6	5月12日	テキスト Act3 Vocabulary Grammar 動詞	英語の語(句) : breathe、brook、chuckle、demolish、evil、fertile、heroine等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 動詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、breathe、brook、chuckle、demolish、evil、fertile、heroine等の英語表現を正しく使うことができる。また動詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		事前学修	テキストp.23 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	テキスト Act3 Grammar 文型 Reading	文型を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 30の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文型を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく答えられる。	
		事前学修	テキストp. 30の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
8	5月26日	テキスト Act4 Vocabulary Grammar 時制(1)	英語の語(句) : absolutely、altogether、at the mercy of、border、broomstick、direction、drought等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 時制(現在形、過去形、未来形)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、absolutely、altogether、at the mercy of、border、broomstick、direction、drought等の英語表現を正しく使うことができる。また時制(現在形、過去形、未来形)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		事前学修	テキストp. 33 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	30分
9	6月2日	テキスト Act4 Grammar 時制(2) Reading	時制(進行形・完了形)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 40の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時制(進行形・完了形)を正し理解して、英文を書く・読むことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく答えられる。	
		事前学修	テキストp. 40の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
10	6月9日	テキスト Act5 Vocabulary Grammar 名詞(1)	英語の語(句) : bend、coworker、dozens of、except、feed、manage、plenty of等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 名詞(普通名詞、物質名詞)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、bend、coworker、dozens of、except、feed、manage、plenty of等の英語表現を正しく使うことができる。また名詞(普通名詞、物質名詞)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		事前学修	テキストp. 43 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	30分
11	6月16日	テキスト Act5 Grammar 名詞(2) Reading	名詞(集合名詞、抽象名詞)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 50の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞(集合名詞、抽象名詞)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく答えられる。	
		事前学修	テキストp. 50の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
12	6月23日	テキスト Act6 Vocabulary Grammar 形容詞	英語の語(句) : axe、chop、cruel、decade、destination、fix、hollow等の意味や使い方を確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 形容詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、axe、chop、cruel、decade、destination、fix、hollow等の英語表現を正しく使うことができる。また形容詞(限定用法、叙述用法)を正しく理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		事前学修	テキストp. 53 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	テキスト Act6 Grammar 副詞 Reading	副詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 60の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、副詞(頻度を表す、文全体を修飾、程度を表す等)を正しく使うことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく答えられる。	
		事前学修	テキストp. 60の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
14	7月7日	テキストAct1～Act6の語(句)、英文法の確認・まとめ	Act1-6で学修した語(句)の意味や使い方を再確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 Act1-6で学修した英文法を再確認し、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Act1-6で学修した語(句)を正しく使うことができる。またAct1-6で学修した英文法を正しく使うことができる。さらに各種英語資格試験に対応した語彙問題・文法問題に正しく解答できる。	
		事前学修	テキストAct1-6の語(句)の問題、および文法問題を振り返り、忘れていた箇所がないかを確認する。	30分
		事後学修	今回の確認・まとめ授業の内容で十分に身に付いていなかった語(句)、英文法をまとめて、後期の授業「英語B」に備える。	30分
15	7月14日	テキストAct1～Act6の英文読解の確認・まとめ	Act1-6で学修した英文読解のポイントを再確認し、英文を正しく読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Act1-6で学修した英文読解のポイントを日本語で説明できる。またAct1-6で学修した英文読解のポイントを踏まえて、各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく答えられる。	
		事前学修	テキストAct1-6の英文読解のポイントを振り返り、忘れていた内容がないかを確認する。	30分
		事後学修	今回の確認・まとめ授業の内容で十分に身に付いていなかった英文読解のポイントをまとめて、後期の授業「英語B」に備える。	30分

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業 内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等にて連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Gateway to Britain	Terry O’Brien、他	南雲堂	2011	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	4/17	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	4/24	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	5/1	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	5/8	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	5/15	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	5/29	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	6/5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	6/12	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	6/19	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	6/26	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	7/10	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	7/17	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業 内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等にて連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Gateway to Britain	Terry O’Brien、他	金星堂	2011	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	4/14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	4/21	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	4/28	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	5/5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	5/12	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	5/26	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	6/2	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	6/9	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	6/16	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	6/23	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	7/7	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	7/14	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	茂木 健幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科一年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
授業は教科書に沿って授業進みます。長文読解や文法問題などを行います。また、ユニットの終わりにあるライティングの課題は提出課題（レポート）となります。長文読解部分の予習や、レポート作成については予習が必要となります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	内容理解や問題の答えなどのディスカッション、レポートの読み合い(グループワーク)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削・返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーションのための総合英語	阿野幸一	朝日出版社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（金曜：昼休み）講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	ガイダンス 自己紹介	ガイダンス、授業の進め方、評価方法などの説明 自己紹介文の作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、自己紹介の文章を書くことができる、また書かれたものを読み理解できる。	
		事前学修	Unit 1 全体を読んでくること。	30分
		事後学修	授業内容の確認。	30分
2	第一部 金9/25	Unit 1 Communication	Unit 1 Communication の読解と読解問題	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができ る。	
		事前学修	Unit 1のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 1のリーディング部分の復習	30分
3	第一部 金10/2	Unit 1 Communication	Unit 1 Communication の読解、現在形	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができ る。現在形について理解し、正確に使用することができる。	
		事前学修	Unit 1のリーディング部分を再読し、意味を捉えておくこと。 Unit 1の文法解説部分を読んでおくこと。	30分
		事後学修	Unit 1のリーディング部分、文法問題の復習	30分
4	第一部 金10/9	Unit 1 Communication	Unit 1 Communication 現在形、レポート作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができ る。現在形について理解し、正確に使用することができる	
		事前学修	Unit 1の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。	30分
		事後学修	Unit 1の文法問題の復習	30分
5	第一部 金10/16	Unit 2 Friendship	Unit 2 Friendship の読解と読解問題	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができ る。	
		事前学修	Unit 2のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 2のリーディング部分の復習	30分
6	第一部 金10/23	Unit 2 Friendship	Unit 2 Friendship の読解、過去形、レポート作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、過去形について理解し、正確に使用することができる	
		事前学修	Unit 2の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。	30分
		事後学修	Unit 2の文法問題の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	Unit 3 Health	Unit 3 Health の読解と読解問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができる。	
		事前学修	Unit 3のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 3のリーディング部分の復習	30分
8	第一部 金11/6	Unit 3 Health	Unit 3 Health の読解、未来表現	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、未来表現について理解し、正確に使用することができる	
		事前学修	Unit 3の文法解説部分を読んでおくこと。	30分
		事後学修	Unit 3の文法問題の復習	30分
9	第一部 金11/13	Unit 4 Environment	Unit 4 Environment の読解と読解問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができる。	
		事前学修	Unit 4のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 4のリーディング部分の復習	30分
10	第一部 金11/20	Unit 4 Environment	Unit 4 Environment の読解、助動詞、レポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞について理解し、正確に使用することができる	
		事前学修	Unit 4の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。	30分
		事後学修	Unit 4の文法問題の復習	30分
11	第一部 金11/27	Unit 5 Fashion	Unit 5 Fashion の読解と読解問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができる。	
		事前学修	Unit 5のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 5のリーディング部分の復習	30分
12	第一部 金12/4	Unit 5 Fashion	Unit 5 Fashion の読解、名詞の修飾	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の修飾について理解し、正確に使用することができる	
		事前学修	Unit 5の文法解説部分を読んでおくこと。	30分
		事後学修	Unit 5の文法問題の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	Unit 6 Food	Unit 6 Food の読解と読解問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができる。	
		事前学修	Unit 6のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 6のリーディング部分の復習	30分
14	第一部 金12/18	Unit 6 Food	Unit 6 Food の読解、付加的な名詞の修飾、レポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、付加的な名詞の修飾について理解し、正確に使用することができる	
		事前学修	Unit 6の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。	30分
		事後学修	Unit 6の文法問題の復習	30分
15	第一部 金12/25	授業内試験とまとめ	前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、また前期授業内で修得した文法を使うことができる。	
		事前学修	前期授業範囲であるUnit1～6までの復習	30分
		事後学修	授業内容の復習。	30分

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則，英語Bと通年で履修。

【授業方法】		
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストはReading Fusion 1（南雲堂）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。		
アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Fusion 1	Andrew E. Bennett	南雲堂	2011	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第3版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00　但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修企画引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	これまでの自分の英語学習歴を整理する。シラバスとテキストを熟読するとともに、講義全体を概観する。大学での英語学習に向けての目標を考える。	30分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	60分
2	4/14	Music and the Mind	The Arts	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。芸術について調べる。指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。芸術について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
3	4/21	Body Language across Cultures	Culture	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。文化について調べる。。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
4	4/28	Turning Waste into Wealth	The Environment	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。環境問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
5	5/5	The Search for Other Worlds	Space	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。宇宙開発について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
6	5/12	Crowdsourcing	The Internet	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。インターネットについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Urban Landmarks	Architecture and Identity	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。都市論、有名建築などについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
8	5/26	Food Safety	Health	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。健康について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
9	6/2	Spending a Fortune	Entertainment	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。エンターテインメント、芸能について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
10	6/9	Wonders of the Deep	Nature	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。自然について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
11	6/16	Product Placement	Business	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。ビジネスについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
12	6/23	White-collar Crime	Law and Crime	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。法律と犯罪について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Working Disabled	Social Issues	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。障害者問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
14	7/7	Pet Therapy	Healing	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。癒しについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
15	7/14	Quantum Computers	Science and Technology	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。科学技術問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	山田 潤治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
前半は、英文法の総ざらいにより、高等学校までに学習した文法事項を再確認する。テキストをもとにした解説授業および演習。毎回の課題を予習してくることを前提に、授業では解説授業をおこなう。また、毎回、授業冒頭に、出題範囲を決めて、TOEIC頻出単語の単語テストを行う。後半は、CEFR A2以上レベルでのリーディングテキストを用い、履修者は、自身のリーディングスピードをあげる演習をおこなう。すべて授業は予習してくることを前提とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの内容をもとにしたグループディスカッションをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の小テストに対して、答案返却時に、正解率・平均点、まちがいが多かったポイントなどを解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
総合英語FACTBOOK English Grammar Advanced	桐原書店編集部	桐原書店	2018	教科書	必携
Essential Reading second edition Student Book 1	Jackie Mcavoy	macmillan education	2015	参考書	任意
TOEIC TEST 必ず☆でる単 スピードマスター	成重寿	Jリサーチ出版	2015	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにてうけつける junji.integrity@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 火4/7	授業ガイダンスと大学生の英語学習について	タームの進行計画についての概説を聞き、みずから実行を求められている課題を確認し、今後の学習計画をたてる。 また、大学生になって、なにを目標として英語学習するのか、履修者は各自の目標を確認する。 受講生は、授業計画を知り、授業準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生に求められている英語力がどの水準のものであるかを理解し、説明することができる。また、水準に達するための自身の学修計画を立案し、中期目標、短期目標を定める。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、授業前までに教科書を入手し、教科書の目次を確認し、教科書の構成がどのようになっているかを理解する。	120分
		事後学修	中期目標、短期目標をさだめ、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第1部 火4/14	基本文型について 動詞について	文法総復習：英語の5文型について、英語の文の基本的な骨組みについて学修する。とくに、SとVが文型の基本形であることを、例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、5つの文型のちがいを確実に理解できる。 語彙については、動詞60単語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、文型のちがいを理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、動詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。 到達目標③については、5文型のちがいを正確に説明できる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY1（1～60）動詞の語彙と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第1章 文型（1）、第2章 文型（2）、第3章 文型（3）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY1（1～60）動詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第1章 文型（1）、第2章 文型（2）、第3章 文型（3）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
3	第1部 火4/21	第5文型（知覚動詞と使役動詞） 英語の時制について 形容詞・副詞について	文法総復習：第5文型、とくに、知覚動詞と使役動詞の基本的な考え方について学修する。 文法総復習：英語の時制、過去形、現在形、未来形の差異についての基本的な考え方について学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、時制のちがいを確実に理解できる。 語彙については、形容詞・副詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、知覚動詞・使役動詞を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、形容詞・副詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。 到達目標③については、英語において時制のちがいを正確に説明できる。（とくに、完了形／進行形／過去形のちがい）	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY2（61～120）形容詞・副詞の語彙と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、Plus 文型、第4章 時を表す表現（1）、第5章 時を表す表現（2）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY2（61～120）形容詞・副詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、Plus 文型、第4章 時を表す表現（1）、第5章 時を表す表現（2）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
4	第1部 火4/28	完了形について 助動詞について 名詞について	文法総復習：完了形、現在完了形、現在完了進行形、過去完了形について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：助動詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、完了形と助動詞を確実に理解できる。 語彙については、名詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、完了形を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、名詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。 到達目標③については、助動詞の用法を正確に説明できる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY3（121～180）名詞の語彙と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第6章 完了形（1）、第7章 完了形（2）、第8章 助動詞（1）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY3（121～180）名詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第6章 完了形（1）、第7章 完了形（2）、第8章 助動詞（1）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
5	第1部 火5/5	助動詞について 受動態について ビジネス・生活の語彙	文法総復習：助動詞について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：受動態について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、助動詞と受動態を確実に理解できる。 語彙については、ビジネス・生活に頻出60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、助動詞を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、受動態を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標③については、ビジネス・生活に頻出の60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY4（181～240）ビジネス・生活の語彙と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第9章 助動詞（2）、第10章 助動詞（3）、第11章 受動態（1）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY4（181～240）ビジネス・生活の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第9章 助動詞（2）、第10章 助動詞（3）、第11章 受動態（1）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第1部 火5/12	受動態について 不定詞について イディオム	文法総復習：受動態について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：不定詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、不定詞と動名詞のちがいを確実に理解できる。 語彙については、イディオム60を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①については、受動態を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、不定詞と動名詞のちがいを理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、イディオム60を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY5（241～300）イディオムと例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第12章 受動態（2）、第13章 不定詞（1）、第14章 不定詞（2）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY5（241～300）イディオムと例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第12章 受動態（2）、第13章 不定詞（1）、第14章 不定詞（2）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
7	第1部 火5/19	不定詞について 動名詞について 動詞について	文法総復習：不定詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、不定詞と動名詞のちがいを確実に理解できる。 語彙については、動詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①については、不定詞と動名詞のちがいを理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、動詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY6（301～360）動詞60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第15章 不定詞（3）、Plus 不定詞、第16章 動名詞（1）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY6（301～360）動詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第15章 不定詞（3）、Plus 不定詞、第16章 動名詞（1）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
8	第1部 火5/26	動名詞について 分詞について 形容詞・副詞について	文法総復習：不定詞について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：分詞（現在分詞・過去分詞）について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、不定詞と動名詞のちがいを確実に理解できる。 語彙については、形容詞・副詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①については、不定詞と動名詞のちがいを理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、分詞（現在分詞／過去分詞）を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、形容詞・副詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY7（361～420）形容詞・副詞60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第17章 動名詞（2）、第18章 分詞（1）、第19章 分詞（2）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY7（361～420）形容詞・副詞60語の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第17章 動名詞（2）、第18章 分詞（1）、第19章 分詞（2）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
9	第1部 火6/2	分詞について 比較について 名詞について	文法総復習：分詞（現在分詞・過去分詞）について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：比較について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、英語における比較について確実に理解できる。 語彙については、名詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①については、分詞（現在分詞／過去分詞）を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、比較について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、名詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY8（421～480）名詞60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、Plus 分詞、第20章 比較（1）、第21章 比較（2）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY8（421～480）名詞60語の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、Plus 分詞、第20章 比較（1）、第21章 比較（2）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
10	第1部 火6/9	比較について 関係詞について ビジネス・生活の語彙	文法総復習：比較について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：関係詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、英語における比較／関係詞について確実に理解できる。 語彙については、ビジネス・生活に頻出の60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①については、比較について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、関係詞について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、ビジネス・生活に頻出の60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY9（481～540）ビジネス・生活に頻出の60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第22章 比較（3）、第23章 関係詞（1）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY9（481～540）ビジネス・生活に頻出の60語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第22章 比較（3）、第23章 関係詞（1）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第1部 火6/16	関係詞について 節について イディオム	文法総復習：関係詞について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：節について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、英語における関係詞／節について確実に理解できる。 語彙については、イディオム60を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①については、関係詞について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、節について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、イディオム60を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY10（541～600）イディオム60と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第24章 関係詞（2）、第25章 関係詞（3）、第26章 パッケージ表現としての節（1）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY10（541～600）イディオム60と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第24章 関係詞（2）、第25章 関係詞（3）、第26章 パッケージ表現としての節（1）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
12	第1部 火6/23	節について 仮定法について 動詞について	文法総復習：節について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：仮定法について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、英語における節／仮定法について確実に理解できる。 語彙については、動詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①については、節について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、仮定法について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、動詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY11（601～660）動詞①60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第27章 パッケージ表現としての節（2）、第28章 仮定法（1）、第29章 仮定法（2）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY11（601～660）動詞①60語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第27章 パッケージ表現としての節（2）、第28章 仮定法（1）、第29章 仮定法（2）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
13	第1部 火6/30	否定表現について 疑問詞・疑問文 動詞について	文法総復習：英語の否定表現について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：疑問詞・疑問文について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、英語における否定表現／疑問詞・疑問文について確実に理解できる。 語彙については、動詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①については、否定表現について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、疑問詞・疑問文について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、動詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY12（661～720）動詞②60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第30章 否定（1）、第31章 否定（2）、第32章 疑問詞・疑問文のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY12（661～720）動詞②60語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第30章 否定（1）、第31章 否定（2）、第32章 疑問詞・疑問文において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
14	第1部 火7/7	さまざまな表現 話法について 名詞について 形容詞・副詞について	文法総復習：さまざまな表現／話法について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：名詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進む。 語彙については、形容詞・副詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①については、さまざまな表現（無生物主語・強調など）について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、話法について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、名詞について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、形容詞・副詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY13（721～780）形容詞・副詞①60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、80ページから89ページまでのすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY13（721～780）形容詞・副詞①60語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、80ページから89ページまでの範囲で、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
15	第1部 火7/14	さまざまな品詞について 形容詞・副詞について	文法総復習：品詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進む。 語彙については、形容詞・副詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①については、品詞について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、形容詞・副詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY14（781～840）形容詞・副詞②60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、90ページから99ページまでのすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY14（781～840）形容詞・副詞②60語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、90ページから99ページまでの範囲で、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	山田 潤治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
前半は、英文法の総ざらいにより、高等学校までに学習した文法事項を再確認する。テキストをもとにした解説授業および演習。毎回の課題を予習してくることを前提に、授業では解説授業をおこなう。また、毎回、授業冒頭に、出題範囲を決めて、TOEIC頻出単語の単語テストを行う。後半は、CEFR A2以上レベルでのリーディングテキストを用い、履修者は、自身のリーディングスピードをあげる演習をおこなう。すべて授業は予習してくることを前提とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの内容をもとにしたグループディスカッションをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の小テストに対して、答案返却時に、正解率・平均点、まちがいが多かったポイントなどを解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
総合英語FACTBOOK English Grammar Advanced	桐原書店編集部	桐原書店	2018	教科書	必携
Essential Reading second edition Student Book 1	Jackie Mcavoy	macmillan education	2015	参考書	任意
TOEIC TEST 必ず☆でる単 スピードマスター	成重寿	Jリサーチ出版	2015	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにてうけつける junji.integrity@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 火4/7	授業ガイダンスと大学生の英語学習について	タームの進行計画についての概説を聞き、みずから実行を求められている課題を確認し、今後の学習計画をたてる。 また、大学生になって、なにを目標として英語学習するのか、履修者は各自の目標を確認する。 受講生は、授業計画を知り、授業準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生に求められている英語力がどの水準のものであるかを理解し、説明することができる。また、水準に達するための自身の学修計画を立案し、中期目標、短期目標を定める。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、授業前までに教科書を入手し、教科書の目次を確認し、教科書の構成がどのようになっているかを理解する。	120分
		事後学修	中期目標、短期目標をさだめ、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第1部 火4/14	基本文型について 動詞について	文法総復習：英語の5文型について、英語の文の基本的な骨組みについて学修する。とくに、SとVが文型の基本形であることを、例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、5つの文型のちがいを確実に理解できる。 語彙については、動詞60単語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、文型のちがいを理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、動詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。 到達目標③については、5文型のちがいを正確に説明できる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY1（1～60）動詞の語彙と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第1章 文型（1）、第2章 文型（2）、第3章 文型（3）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY1（1～60）動詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第1章 文型（1）、第2章 文型（2）、第3章 文型（3）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
3	第1部 火4/21	第5文型（知覚動詞と使役動詞） 英語の時制について 形容詞・副詞について	文法総復習：第5文型、とくに、知覚動詞と使役動詞の基本的な考え方について学修する。 文法総復習：英語の時制、過去形、現在形、未来形の差異についての基本的な考え方について学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、時制のちがいを確実に理解できる。 語彙については、形容詞・副詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、知覚動詞・使役動詞を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、形容詞・副詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。 到達目標③については、英語において時制のちがいを正確に説明できる。（とくに、完了形／進行形／過去形のちがい）	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY2（61～120）形容詞・副詞の語彙と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、Plus 文型、第4章 時を表す表現（1）、第5章 時を表す表現（2）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY2（61～120）形容詞・副詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、Plus 文型、第4章 時を表す表現（1）、第5章 時を表す表現（2）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
4	第1部 火4/28	完了形について 助動詞について 名詞について	文法総復習：完了形、現在完了形、現在完了進行形、過去完了形について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：助動詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、完了形と助動詞を確実に理解できる。 語彙については、名詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、完了形を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、名詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。 到達目標③については、助動詞の用法を正確に説明できる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY3（121～180）名詞の語彙と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第6章 完了形（1）、第7章 完了形（2）、第8章 助動詞（1）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY3（121～180）名詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第6章 完了形（1）、第7章 完了形（2）、第8章 助動詞（1）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
5	第1部 火5/5	助動詞について 受動態について ビジネス・生活の語彙	文法総復習：助動詞について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：受動態について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、助動詞と受動態を確実に理解できる。 語彙については、ビジネス・生活に頻出60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、助動詞を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、受動態を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標③については、ビジネス・生活に頻出の60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY4（181～240）ビジネス・生活の語彙と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第9章 助動詞（2）、第10章 助動詞（3）、第11章 受動態（1）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY4（181～240）ビジネス・生活の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第9章 助動詞（2）、第10章 助動詞（3）、第11章 受動態（1）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第1部 火5/12	受動態について 不定詞について イディオム	文法総復習：受動態について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：不定詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、不定詞と動名詞のちがいを確実に理解できる。 語彙については、イディオム60を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、受動態を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、不定詞と動名詞のちがいを理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、イディオム60を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY5（241～300）イディオムと例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第12章 受動態（2）、第13章 不定詞（1）、第14章 不定詞（2）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY5（241～300）イディオムと例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第12章 受動態（2）、第13章 不定詞（1）、第14章 不定詞（2）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
7	第1部 火5/19	不定詞について 動名詞について 動詞について	文法総復習：不定詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、不定詞と動名詞のちがいを確実に理解できる。 語彙については、動詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、不定詞と動名詞のちがいを理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、動詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY6（301～360）動詞60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第15章 不定詞（3）、Plus 不定詞、第16章 動名詞（1）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY6（301～360）動詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第15章 不定詞（3）、Plus 不定詞、第16章 動名詞（1）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
8	第1部 火5/26	動名詞について 分詞について 形容詞・副詞について	文法総復習：不定詞について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：分詞（現在分詞・過去分詞）について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、不定詞と動名詞のちがいを確実に理解できる。 語彙については、形容詞・副詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、不定詞と動名詞のちがいを理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、分詞（現在分詞／過去分詞）を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、形容詞・副詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY7（361～420）形容詞・副詞60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第17章 動名詞（2）、第18章 分詞（1）、第19章 分詞（2）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY7（361～420）形容詞・副詞60語の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第17章 動名詞（2）、第18章 分詞（1）、第19章 分詞（2）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
9	第1部 火6/2	分詞について 比較について 名詞について	文法総復習：分詞（現在分詞・過去分詞）について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：比較について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、英語における比較について確実に理解できる。 語彙については、名詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、分詞（現在分詞／過去分詞）を理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、比較について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、名詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY8（421～480）名詞60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、Plus 分詞、第20章 比較（1）、第21章 比較（2）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY8（421～480）名詞60語の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、Plus 分詞、第20章 比較（1）、第21章 比較（2）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
10	第1部 火6/9	比較について 関係詞について ビジネス・生活の語彙	文法総復習：比較について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：関係詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、英語における比較／関係詞について確実に理解できる。 語彙については、ビジネス・生活に頻出の60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、比較について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、関係詞について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、ビジネス・生活に頻出の60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY9（481～540）ビジネス・生活に頻出の60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第22章 比較（3）、第23章 関係詞（1）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY9（481～540）ビジネス・生活に頻出の60語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第22章 比較（3）、第23章 関係詞（1）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第1部 火6/16	関係詞について 節について イディオム	文法総復習：関係詞について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：節について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、英語における関係詞／節について確実に理解できる。 語彙については、イディオム60を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、関係詞について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、節について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、イディオム60を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY10（541～600）イディオム60と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第24章 関係詞（2）、第25章 関係詞（3）、第26章 パッケージ表現としての節（1）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY10（541～600）イディオム60と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第24章 関係詞（2）、第25章 関係詞（3）、第26章 パッケージ表現としての節（1）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
12	第1部 火6/23	節について 仮定法について 動詞について	文法総復習：節について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：仮定法について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、英語における節／仮定法について確実に理解できる。 語彙については、動詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、節について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、仮定法について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、動詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY11（601～660）動詞①60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第27章 パッケージ表現としての節（2）、第28章 仮定法（1）、第29章 仮定法（2）のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY11（601～660）動詞①60語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第27章 パッケージ表現としての節（2）、第28章 仮定法（1）、第29章 仮定法（2）において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
13	第1部 火6/30	否定表現について 疑問詞・疑問文 動詞について	文法総復習：英語の否定表現について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：疑問詞・疑問文について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進み、受講生は、英語における否定表現／疑問詞・疑問文について確実に理解できる。 語彙については、動詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、否定表現について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、疑問詞・疑問文について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、動詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY12（661～720）動詞②60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、第30章 否定（1）、第31章 否定（2）、第32章 疑問詞・疑問文のすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY12（661～720）動詞②60語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、第30章 否定（1）、第31章 否定（2）、第32章 疑問詞・疑問文において、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
14	第1部 火7/7	さまざまな表現 話法について 名詞について 形容詞・副詞について	文法総復習：さまざまな表現／話法について基本的な考え方を学修する。 文法総復習：名詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進む。 語彙については、形容詞・副詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、さまざまな表現（無生物主語・強調など）について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、話法について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標①については、名詞について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、形容詞・副詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY13（721～780）形容詞・副詞①60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、80ページから89ページまでのすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY13（721～780）形容詞・副詞①60語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、80ページから89ページまでの範囲で、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分
15	第1部 火7/14	さまざまな品詞について 形容詞・副詞について	文法総復習：品詞について基本的な考え方を学修する。例題を解きながら再確認する。予習をもとに答え合わせと解説を中心に時間は進む。 語彙については、形容詞・副詞60語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、品詞について理解した上で、短い英文を正確に理解できる。 到達目標②については、形容詞・副詞60語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY14（781～840）形容詞・副詞②60語と例文をすべて暗記する。 文法テキストの、90ページから99ページまでのすべての問題を解いて、ノートに記録する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY14（781～840）形容詞・副詞②60語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 文法テキストの、90ページから99ページまでの範囲で、まちがえた問題を解きなおし、自分の理解度をノートに記録する。	120分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	依田 悠介	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
Read about a 21st century topic Learn more about the topic by viewing an authentic TED talk Explore the topic further by completing a collaborative research project		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	This course will include discussion within the class and some group work.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be provided feedback within the class or on the web-site.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
21st century reading 1. Creative thinking and reading with TED talks	Robin Longshaw and Laurie Blass	Cengage Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
email me (yusuke.yoda@tyg.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第1部 4月8日	Guidance and self evaluation		explain schedule, evaluation, and other related things.
		この回の到達目標	To understand your own level	
		事前学修	Read this syllabus	10分
		事後学修	Preparation for next class	30分
2	第1部 4月15日	Unit 1: Life Changes		Reading a biographical article
		この回の到達目標	Understanding sequence words. Interpreting a person's statement.	
		事前学修	Vocabulary Building	30分
		事後学修	Watch the assigned TED talk	30分
3	第1部 4月22日	Unit 1: Try Something New for 30 days		Watch a TED talk on Change
		この回の到達目標	Understanding main ideas and key details.	
		事前学修	Watch the assigned TED talk	30分
		事後学修	Read the article in the unit 2A	30分
4	第1部 4月29日	Unit 2: Team Power		Read a Research article
		この回の到達目標	Identifying purpose Identifying supporting details	
		事前学修	Vocabulary Building	30分
		事後学修	Watch the assigned TED talk	30分
5	第1部 5月6日	Unit 2: Build a Tower Build a Team		Watch a TED talk on Team
		この回の到達目標	Understanding main ideas. Inferring reasons.	
		事前学修	Watch the assigned TED talk	30分
		事後学修	Read the assigned part in the next unit	30分
6	第1部 5月13日	Unit 3: Ocean Wonders		Read a Scientific Article
		この回の到達目標	Identifying purpose Identifying referents	
		事前学修	Vocabulary Building	30分
		事後学修	Watch the assigned TED talk	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 5月20日	Unit 3: Underwater Astonishments	Watch a TED talk on Underwater	
		この回の到達目標	Understanding main Ideas and key details Questioning a speaker	
		事前学修	Watch the assigned TED talk	30分
		事後学修	Read the assigned part in the next unit	30分
8	第1部 5月27日	Unit 4: What we wear	Read a Research Report	
		この回の到達目標	Making connections Understanding a process	
		事前学修	Vocabulary Building	30分
		事後学修	Watch the assigned TED talk	30分
9	第1部 6月3日	Unit 4: Wearing Nothing New	Watch a TED talk on Outfit	
		この回の到達目標	Understanding main ideas and key details Comparing messages	
		事前学修	Watch the assigned TED talk	30分
		事後学修	Read the assigned part in the next unit	30分
10	第1部 6月10日	Unit 5: Moments and Memories	Read a Biographical article	
		この回の到達目標	Identifying approximate numbers Understanding visuals	
		事前学修	Building Vocabulary	30分
		事後学修	Watch the assigned TED talk	30分
11	第1部 6月17日	Unit 5: One Second Every Day	Watch a TED talk on Memories	
		この回の到達目標	Understanding main ideas and key details	
		事前学修	Watch the assigned TED talk	30分
		事後学修	Preparation for the written EXAM	30分
12	第1部 6月24日	Written Exam	Exam on Unit 1-5	
		この回の到達目標	Evaluate your understanding	
		事前学修	Review of Unit 1-5	30分
		事後学修	Review of written exam	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部 7月1日	Project Guidance		Guidance of group poster presentatino
		この回の到達目標	Understanding how to make a poster	
		事前学修	Deciding Topic	30分
		事後学修	Making your poster	30分
14	第1部 7月8日	Project Work		Group Work
		この回の到達目標	Preparation for Group Poster Presentatin	
		事前学修	Preparation for Presentation	30分
		事後学修	Finalize your poster and preparation for group poster presentation	30分
15	第1部 7月15日	Poster Presentation		Poster Session
		この回の到達目標	Make a poster presentation , Listening to other students' idea	
		事前学修	Preparation for poster presentation	50分
		事後学修	Review of all you study this semester	10分

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
講義および演習形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
NONE You may contact me at paulkallender@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/14	Edo to Tokyo	Learn about the story of Tokyo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Ancient International Japan story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/21	Kimono	Learn about the story of Kimono	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Japan Towns story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/28	Kabuki	Learn about the story of Kabuki	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: the African samurai story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/12	Sumo	Learn about the story of Sumo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Tensho Embassy story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/19	Shinkansen	Learn about the story of Shinkansen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the William Adams story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/26	Manga	Learn about the story of Manga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Hosokawa Tama story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	6/2	Akihabara	Learn about the story of Akihabara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the International Nagasaki story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/9	Yamanote	Learn about the story of Yamanote	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/16	Imperial Palace	Learn about the story of the Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Tagawa Matsu story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/23	Asakusa	Learn about the story of Asakusa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Japanese families of European merchants story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/30	The Meiji Jingu	Learn about the story of Meiji Jingu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean embassies to Tokugawa Japan story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/7	Sushi and Tempura	Learn about the story of Tempura and Sushi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean embassies to Tokugawa Japan story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/14	Noodles	Learn about the story of Noodles	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Waegwan story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	7/21	Semester Exam Review	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semseter	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	Introduction、及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/15	Edo to Tokyo	Learn about the story of Edo to Tokyo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	4/22	Kimono	Learn about the story of Kimono	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	4/29	Kabuki	Learn about the story of Kabuki	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	5/6	Sumo	Learn about the story of Sumo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	5/13	Shinkansen	Learn about the story of Shinkansen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Manga	Learn about the story of Manga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
8	5/27	Akihabara	Learn about the story of Akihabara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
9	6/3	Yamanote	Learn about the story of Yamanote	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
10	6/10	Imperial Palace	Learn about the story of the Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
11	6/17	Asakusa	Learn about the story of Asakusa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
12	6/24	The Meiji Jingu	Learn about the story of Meiji Jingu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Sushi and Tempura	Learn about the story of Noodles	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
14	7/8	Noodles	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
15	7/15	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
Students will discuss, read, and listen to information about Japan and its culture. They will work on their language skills to share this knowledge with visitors to Japan.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英吾で読む 外国人がほんとうに知りたい日本の文化と歴史	Thomas Lockley	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部 金4/10	Introductory lecture	Introductory lecture Syllabus	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the structure of the course and what students are expected to do.	
		事前学修	Read syllabus	30分
		事後学修	Prepare 1-2 questions and send an email (optional)	30分
2	一部 金4/17	1. From Tokyo to Edo	1. The making of a Global City. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
3	一部 金4/24	2. Samurai	1. Legendary Warriors of Japan. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
4	一部 金5/1	3. Kimono	1. Elegant Symbols of Japan. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
5	一部 金5/8	4. Kabuki	1. Pop Culture of the Past. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
6	一部 金5/15	5. Sumo	1. A Weighty Sport. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部 金5/22	6. Shinkansen	1. The Bullet Train. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
8	一部 金5/29	7. Manga	1. Global Storytelling from Japan. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
9	一部 金6/5	8. Arts and Crafts	1. How the World Discovered Japan. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
10	一部 金6/12	9. Cinema	1. Moving Art. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
11	一部 金6/19	10. Akihabara	1. Cosplay Mecca. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
12	一部 金6/26	11. Yamanote	1. The Line to Nowhere and Everywhere. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	一部 金7/3	12. The Imperial Palace	1. Chrysanthemum Throne. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
14	一部 金7/10	13. Asakusa	1. Tourist Heaven. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
15	一部 金7/17	Review Class Test	Review Class Final Test	
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Evaluate how much we have learned	
		事前学修	Study	120分
		事後学修	Review	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修してください。This course is aimed at students who wish to improve their English communication skills.

【授業方法】
演習方式。Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can request feedback during the lesson and at the end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
前期 「An International History of Japan I」 (Thomas Lockley、DTP出版、1,700円＋税)	Thomas Lockley	DTP Publishing	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email gary@garyhayden.co.uk. Please ask questions after the class (Wednesday 1st period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	Introduction及び導入講義	Students will learn about the objectives of the course.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read and discuss the course objectives, so as to improve their comprehension of written and spoken English.	
		事前学修	Read the contents of the syllabus.	30分
		事後学修	Students must learn some new vocabulary each week. There will be a short vocabulary test at the beginning of each lesson.	30分
2	4/15	Ancient International Japan	Learn about Japan's international contacts in ancient times.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Ancient International Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
3	4/22	Japan Towns	Learn about the growth of Japan towns in the thirteenth to sixteenth centuries.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Japan Towns, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
4	4/29	Yasuke, the African samurai	Learn about the life of Yasuke, the African samurai.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Yasuke the African Samuarai, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
5	5/6	The Tensho Embassy	Learn about the Tensho embassy's visit to Europe from AD 1582 to 1590.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Tensho embassy, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
6	5/13	William Adams	Learn about the life and influence of William Adams, the first English person to arrive in Japan.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of William Adams, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	International Nagasaki	Learn about the international importance of Nagasaki during the sixteenth and seventeenth centuries.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of international Nagasaki, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
8	5/27	Yamada Nagamasa	Learn about the life Yamada Nagamasa, the seventeenth century Japanese merchant diplomat and military leader.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Yamada Nagamasa, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
9	6/3	Tagawa Matsu	Learn about the life of the seventeenth century Japanese female hero, Tagawa Matsu.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Tagawa Matsu, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
10	6/10	The Japanese families of European merchants	Learn about the Japanese families of European merchants in Tokugawa Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Japanese families of European merchants, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
11	6/17	Korean embassies to Tokugawa Japan	Learn about Korean embassies to Tokugawa Japan in the seventeenth and eighteenth centuries.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Korean Embassies to Tokugawa Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
12	6/24	Zhu Shun-sui	Learn about the life and influence of the Chinese scholar, Zhu Shun-sui.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Zhu Shun-sui, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	The Waegwan	Learn about life for Japanese people in the Waegwan, in Pusan, Korea, during the Edo period.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Waegwan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook.	30分
14	7/8	Semester Revision	Semester revision. Practice exam with feedback.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (practice exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Revise all of the course vocabulary.	30分
		事後学修	revise for the exam.	30分
15	7/15	Semester test	Semester test. Feedback on exam questions and answers.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for semester exam.	30分
		事後学修	Review exam questions and answers	30分

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修してください。This course is aimed at students who wish to improve their English communication skills.

【授業方法】
演習方式。Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can request feedback during the lesson and at the end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
前期 「An International History of Japan I」 (Thomas Lockley、DTP出版、1,700円＋税)	Thomas Lockley	DTP Publishing	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email gary@garyhayden.co.uk. Please ask questions after the class (Wednesday 1st period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	Introduction及び導入講義	Students will learn about the objectives of the course.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read and discuss the course objectives, so as to improve their comprehension of written and spoken English.	
		事前学修	Read the contents of the syllabus.	30分
		事後学修	Students must learn some new vocabulary each week. There will be a short vocabulary test at the beginning of each lesson.	30分
2	4/15	Ancient International Japan	Learn about Japan's international contacts in ancient times.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Ancient International Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
3	4/22	Japan Towns	Learn about the growth of Japan towns in the thirteenth to sixteenth centuries.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Japan Towns, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
4	4/29	Yasuke, the African samurai	Learn about the life of Yasuke, the African samurai.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Yasuke the African Samurai, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
5	5/6	The Tensho Embassy	Learn about the Tensho embassy's visit to Europe from AD 1582 to 1590.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Tensho embassy, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
6	5/13	William Adams	Learn about the life and influence of William Adams, the first English person to arrive in Japan.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of William Adams, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	International Nagasaki	Learn about the international importance of Nagasaki during the sixteenth and seventeenth centuries.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of international Nagasaki, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
8	5/27	Yamada Nagamasa	Learn about the life Yamada Nagamasa, the seventeenth century Japanese merchant diplomat and military leader.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Yamada Nagamasa, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
9	6/3	Tagawa Matsu	Learn about the life of the seventeenth century Japanese female hero, Tagawa Matsu.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Tagawa Matsu, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
10	6/10	The Japanese families of European merchants	Learn about the Japanese families of European merchants in Tokugawa Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Japanese families of European merchants, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
11	6/17	Korean embassies to Tokugawa Japan	Learn about Korean embassies to Tokugawa Japan in the seventeenth and eighteenth centuries.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Korean Embassies to Tokugawa Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
12	6/24	Zhu Shun-sui	Learn about the life and influence of the Chinese scholar, Zhu Shun-sui.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Zhu Shun-sui, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	The Waegwan	Learn about life for Japanese people in the Waegwan, in Pusan, Korea, during the Edo period.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Waegwan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook.	30分
14	7/8	Semester Revision	Semester revision. Practice exam with feedback.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (practice exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Revise all of the course vocabulary.	30分
		事後学修	revise for the exam.	30分
15	7/15	Semester test	Semester test. Feedback on exam questions and answers.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for semester exam.	30分
		事後学修	Review exam questions and answers	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
二部法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Bと通年で履修してください。毎回の授業に出席する事はもちろん、出席しても寝ていたり、授業に参加する態度が感じられない場合は出席とカウントしない場合があります。

【授業方法】
テキストの内容の文法理解に加えて、音読・シャドーイングが基本。テキストの内容に基づいた会話練習も行います。とにかく出席者が必ず英語を発音する場になります。毎回、前回の授業内容確認の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、ペア・ワークやグループ・ワークへの参加度等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Burning Issues: Intermediate Level	Cheryl Pavlik	Shohakusha / Cengage Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	導入講義	イントロダクション（小テスト実施予定）	
		この回の到達目標	これまでの英語学習の確認と今後の勉強方法の改善点を話し合う	
		事前学修	高校もしくは前年度の英語授業の復習	30分
		事後学修	復習	30分
2	4/13	リスニング&文法・読解	Unit 1(1)教科書を読みながらリスニング&リーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分
3	4/20	ライティング&スピーキング	Unit 1(2)教科書の内容について意見を述べ、英語で書く練習	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	復習	30分
4	4/27	リスニング&文法・読解	Unit 2(1)教科書を読みながらリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分
5	5/4	ライティング&スピーキング	Unit 2(2)Unit 2全体の内容をまとめて英語で説明して、英語で書いてみる	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を参考にシャドーイング（スピーキング力強化）	30分
6	5/11	リスニング&文法・読解	Unit 3(1)教科書を読みながらリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	ライティング&スピーキング	Unit 3(2)Unit 3全体を英語で要約して書く	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を参考にシャドーイング（スピーキング力強化）	30分
8	5/25	リスニング&文法・読解	Unit 4(1)教科書を読みながらリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分
9	6/1	ライティング&スピーキング	Unit 4(2)Unit 4の内容を英語で要約して書く	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を参考にシャドーイング（スピーキング力強化）	30分
10	6/8	リスニング&文法・読解	Unit 5(1)教科書を読みながらリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分
11	6/15	ライティング&スピーキング	Unit 5(2)Unit 5全体を英語で要約してペアワーク（英語で内容に関して質問を出し合って答える練習）	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を参考にシャドーイング（スピーキング力強化）	30分
12	6/22	リスニング&文法・読解	Unit 6(1)教科書を読みながらリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ライティング&スピーキング	Unit 6(2)Unit 6の内容全体を英語で要約してグループワーク（授業で扱った内容に関してディスカッションを行えるようにする練習）	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を参考にシャドーイング（スピーキング力強化）	30分
14	7/6	4技能全て	これまでのまとめ及び時間が足りなくて出来なかった箇所を扱う。	
		この回の到達目標	前期授業を通じて自分に不足している能力を確認して改善に努める	
		事前学修	復習	30分
		事後学修	教科書を使ってシャドーイング（リスニング力強化）	30分
15	7/13	4技能全て	前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	前期授業を通じて自分に不足している能力を確認して改善に努める	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	自己採点	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	井上 悦男	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1		1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
発音練習などはその場で簡単にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2017	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。授業時間：月曜４・５・６限、水曜１限inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	TOEICとは	ガイダンス(問題構成など)、模擬問題の演習	
		この回の到達目標	問題構成を知る。TOEIC試験の特徴を知る。	
		事前学修	既習事項の確認	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
2	4/15	TOEICの全体的なアプローチ	Part2, Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 と Part5 の出題形式を知る。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	4/22	Part2, 5 の位置づけ	Part2, 5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 と Part5 の出題形式を細かく知る。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	4/29	Listening Section の概略	サンプル問題(listening)、Part5	
		この回の到達目標	Listening Section のそれぞれの取り組み方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	5/6	Reading Section の概略	サンプル問題(reading)、Part2	
		この回の到達目標	reading section のそれぞれの形式の取り組み方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習、サンプル問題(reading section)の問題を解き、解答を確認する。	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	5/13	Part1, 2 の実践演習	Test1 Part1(1-6), 2(7-31), Part5(101-110)	
		この回の到達目標	Part1, 2の形式、傾向を理解し、練習方法を把握する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Part1, 2 の実践演習	Test2 Part1(1-6), 2(7-31), Test1 Part5(111-120)	
		この回の到達目標	Part1, 2の形式、傾向を理解し、さらに、経験をつむ。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	5/27	Part2 (wh-疑問文)	Part2 (wh-疑問文)の練習、Test1 Part5(121-130)	
		この回の到達目標	Part2 (wh-疑問文)の問題の位置づけを理解し、習熟する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	6/3	Part2 (定型表現)	Part2 (定型表現)の練習、Test2 Part5 (101-110)	
		この回の到達目標	定型表現の整理をして、頻出表現を把握する。さらに、練習の仕方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	6/10	Part3 入門	Test2 Part5(111-120)、Test1 Part3(32-55)、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の形式を理解し、慣れる。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	6/17	Part3 の演習	Test2 Part5(121-130)、Test1 Part3(56-70)、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の形式と傾向をより理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	6/24	Part4 入門	Test1 Part6(131-138)、Part4(71-85)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の形式を理解し、慣れる。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Part4 の演習	Test1 Part6(139-146)、Part4(86-100)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の形式と傾向をより理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	7/8	授業内試験	授業内試験、問題の解説	
		この回の到達目標	時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	答えの確認	30分
15	7/15	まとめ	まとめ（受講生の人数によって個別に面接）	
		この回の到達目標	TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	佐藤 明子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
再履修クラスです。1年生の英語A（固定クラス）の単位を取得している学生は履修できません。初回のガイダンス授業に必ず出席すること。

【授業方法】
演習方式。毎時間範囲を決めて小テストを実施する予定です。授業では予習復習がきちんとされているか皆さんにあてていきます。ペアワーク、グループワークもする予定です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークを実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Level-Up Trainer for the TOEIC TEST(Revised Edition)	A. Yokogawa他	National Geographic Learning	2019	教科書	必携
備考	辞書を持参すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス 授業の進め方。履修希望者は必ず出席すること。
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、TOEICを受験するための目的を理解し、自分の到達目標を設定することができる。
		事前学修	シラバスを読み、講義全体の概観をする。TOEICの形式を調べておく。ノートを用意する。30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICのHPで試験概要などを確認する。30分
2	4/15	Unit 1 テスト形式を知る その1	CaLaboの使い方 (Listening Activity, Pairwork, Groupwork) Unit 1 テスト形式を知る その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの学習方法を理解し、自分の到達目標を設定することができる。
		事前学修	Unit 1の予習。小テストの範囲を学習する。30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。30分
3	4/22	Unit 1 テスト形式を知る その2	Unit 1 テスト形式を知る その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テスト形式を理解し、今後のTOEICの学習に役立てることができる。
		事前学修	Unit 1の復習。小テストの範囲を学習する。30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。30分
4	4/29	Unit 2 基本戦略① その1	Unit 2 基本戦略① その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。
		事前学修	Unit 2の予習。小テストの範囲を学習する。30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。30分
5	5/6	Unit 2 基本戦略① その2	Unit 2 基本戦略① その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。
		事前学修	Unit 2の復習。小テストの範囲を学習する。30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。30分
6	5/13	Unit 3 基本戦略② その1	Unit 3 基本戦略② その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。
		事前学修	Unit 3の予習。小テストの範囲を学習する。30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Unit 3 基本戦略② その2	Unit 3 基本戦略② その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。	
		事前学修	Unit 3の復習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
8	5/27	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その1	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の基本構造を身に付けることができる。	
		事前学修	Unit 4の予習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
9	6/3	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その2	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の基本構造を身に付けることができる。	
		事前学修	Unit 4の復習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
10	6/10	Unit 5 解答の根拠の登場順 その1	Unit 5 解答の根拠の登場順 その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、解答の根拠の登場順のルールを理解することができる。	
		事前学修	Unit 5の予習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
11	6/17	Unit 5 解答の根拠の登場順 その2	Unit 5 解答の根拠の登場順 その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、解答の根拠の登場順のルールを理解することができる。	
		事前学修	Unit 5の復習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
12	6/24	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その1	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正解の言い換えパターンに慣れ、スコア・アップに結びつけることができる。	
		事前学修	Unit 6の予習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その2	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正解の言い換えパターンに慣れ、スコア・アップに結びつけることができる。	
		事前学修	Unit 6の復習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
14	7/8	前期試験とふり返り	前期授業内試験の実施および前期試験の振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験を通じて、前期に学んだことから正答を導き出すことができる。	
		事前学修	テキストの総復習	120分
		事後学修	テストの復習。わからなかったことを解き直す。	30分
15	7/15	前期の授業をふり返る	前期授業内試験の返却および前期授業の振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験やテキストの復習を通じて、前期に学んだテクニックを定着させることができる。	
		事前学修	前期授業でわからなかったことをまとめておく	30分
		事後学修	前期授業で学んだことを総復習する	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	関戸 冬彦	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】		
教員からの一方的な講義ではなく、受講者が積極的に、時にペアで、グループで、活動するような参加型（ワークショップ）方式にします。 適宜小テストを行い、返却します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークなど、聞いているだけの時間は少なく、活動的な時間が毎時間あります。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								1		1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で必要に応じて口頭で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CNN 10 -Student News- Vol.8	関戸冬彦ほか	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問、相談などは授業終了後（月曜19：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。fuyuhiko@df6.so-net.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部月 曜4/6	英語学習について	イントロダクション：授業の概要説明と英語の学習方法について	
		この回の到達目標	英語学習の自分なりの計画が立てられるようになる。	
		事前学修	高校までの英語学習のふりかえり	30分
		事後学修	今学期の英語学習の自分なりの計画をまとめる	30分
2	第二部月 曜4/13	Largest Model Train リスニング	Unit 1: Largest Model Train リスニング	
		この回の到達目標	Unit 1: Largest Model Train リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	自分で立てた今学期の学習計画のチェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第3回までの宿題	30分
3	第二部月 曜4/20	Largest Model Train リーディング	Unit 1: Largest Model Train リーディング	
		この回の到達目標	Unit 1: Largest Model Train リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第3回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第4回までの宿題	30分
4	第二部月 曜4/27	No Phones in French Schools リスニング	Unit 2: No Phones in French Schools リスニング	
		この回の到達目標	Unit 2: No Phones in French Schools リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第4回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第5回までの宿題	30分
5	第二部月 曜5/4	No Phones in French Schools リーディング	Unit 2: No Phones in French Schools リーディング	
		この回の到達目標	Unit 2: No Phones in French Schools リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第5回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第6回までの宿題	30分
6	第二部月 曜5/11	Food on Instagram リスニング	Unit 3: Food on Instagram リスニング	
		この回の到達目標	Unit 3: Food on Instagram リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第6回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第7回までの宿題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部月 曜5/18	Food on Instagram リーディング	Unit 3: Food on Instagram リーディング	
		この回の到達目標	Unit 3: Food on Instagram リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第7回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第8回までの宿題	30分
8	第二部月 曜5/25	Adventure Healing リスニング	Unit 4: Adventure Healing リスニング	
		この回の到達目標	Unit 4: Adventure Healing リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第8回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第9回までの宿題	30分
9	第二部月 曜6/1	Adventure Healing リーディング	Unit 4: Adventure Healing リーディング	
		この回の到達目標	Unit 4: Adventure Healing リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第9回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第10回までの宿題	30分
10	第二部月 曜6/8	Knocker-Uppers リスニング	Unit 5: Knocker-Uppers リスニング	
		この回の到達目標	Unit 5: Knocker-Uppers リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第10回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第11回までの宿題	30分
11	第二部月 曜6/15	Knocker-Uppers リーディング	Unit 5: Knocker-Uppers リーディング	
		この回の到達目標	Unit 5: Knocker-Uppers リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第11回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第12回までの宿題	30分
12	第二部月 曜6/22	Hungarian Cake リスニング	Unit 6: Hungarian Cake リスニング	
		この回の到達目標	Unit 6: Hungarian Cake リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第12回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第13回までの宿題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部月 曜6/29	Hungarian Cake リーディ ング	Unit 6: Hungarian Cake リーディング	
		この回の 到達目標	Unit 6: Hungarian Cake リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第13回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第14回までの宿題	30分
14	第二部月 曜7/6	New TVs リスニング	Unit 7: New TVs リスニング	
		この回の 到達目標	Unit 7: New TVs リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第14回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第15回までの宿題	30分
15	第二部月 曜7/13	New TVs リーディング	Unit 7: New TVs リーディング、今学期全体のふりかえり	
		この回の 到達目標	Unit 7: New TVs リーディングセクションが理解できるようになる。今学期の学習の振り返りができる。	
		事前学修	第15回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	夏休みの学習計画の確認	30分

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
グループワークを取り入れ、発表形式で行います。 レポート課題返却時、詳細なコメントを入れてフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	特になし				

【オフィスアワー】
金曜2限終了後（１２：１０～１２：３０）、授業講堂で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部月 4/6	【ガイダンス】前期授業の概要の説明	中学、高校で学んだ英語表現、英単語。受動英語と能動英語の違いについて学ぶ。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解へとつながる英語リーディング法を学び、それを実践することができる。	
		事前学修	シラバスの確認	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
2	第二部月 4/13	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
3	第二部月 4/20	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。 グループワークでレポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
4	第二部月 4/27	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。 グループワークでレポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
5	第二部月 5/4	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
6	第二部月 5/11	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第二部月 5/18	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
8	第二部月 5/25	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
9	第二部月 6/1	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
10	第二部月 6/8	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
11	第二部月 6/15	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
12	第二部月 6/22	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部月 6/29	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
14	第二部月 7/6	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	既習事項の確認、復習	30分
15	第二部月 4/6	【定期テスト、前期授業のまとめ】	定期テスト後、解答、解説を行ない、前期授業の内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解を意識した英語リーディング法を実践できる。	
		事前学修	既習事項の確認、復習	30分
		事後学修	後期授業の範囲を読んでおくこと。	30分

科目名	英語A	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
留学生のみの授業と成ります。 原則、英語B（留学生）と通年で履修。

【授業方法】		
講義および演習形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
East Asia in Japanese History	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	Introduction及び導入講義	Students will learn about the objectives of the course	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please read the contents of syllabus.	30分
		事後学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
2	/	Ancient Japan and East-Asia	Learn about relations between Japan, Korea and China in ancient times	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Ancient Japan and East-Asia so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
3	/	Foreign Settlements in Japan.	Learn about foreign towns and communities in Japan in the leate medeival and early modern period.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Foreign Settlements in Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
4	/	Kim Chung-son.	Learn about a renegade samurai in the Imjin War	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kim Chung-son so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
5	/	Korean Potters in Japan.	Learn about the history of Korean potters in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Korean Potters in Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
6	/	Yamada Nagamasa.	Learn about the Japanese man who nearly became a king in Thailand.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Yamada Nagamasa so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	Tagawa Matsu.	Learn about the life of Tagawa Matsu the mother of Zheng Chenggong.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Tagawa Matsu so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
8	/	Zhu Shun-sui.	Learn about the life of Zhu Shun-sui a refugee scholar in Edo Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Zhu Shun-sui so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
9	/	Maria Guyomar de Pina	Learn about Maria Guyomar de Pina, an important Japanese lady in Thai history.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Maria Guyomar de Pina so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
10	/	Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan.	Learn about the history of Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
11	/	Sun Yat-sen in Japan.	Learn about Sun Yat-sen in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Sun Yat-sen in Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
12	/	Prince Cuong De.	Learn about the Vietnamese prince, Cuong De, in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Prince Cuong De so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	The Takasago Volunteers	Learn about the history of the Takasago Volunteers	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Takasago Volunteers so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
14	/	Kyaw Din.	Learn about Kyaw Din and Japanese soccer history.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kyaw Din so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam.	30分
15	/	Semester exam	Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can complete the semester assessment.	
		事前学修	Prepare for the assessment	30分
		事後学修	Reflect on the semester.	30分

科目名	英語B【法曹コース1年生共通クラス】	担当者	原田 明子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法曹コース1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
2回の授業でひとつの単元を学ぶ。1回目はToday's Readingの内容を中心に学習する。2回目はテキストの問題の答え合わせを行って、英語表現の理解を深め、ミニテストを通じて重要な単語を定着させる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2、4、6、8、10、12回の授業において、ポイントとなる語彙や英文の内容についての意見を述べ合い、辞書の活用法を身に付け、読解力を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。							2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。							2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
SIMPLY ENGLISH:An Introduction to Today's Key Concepts	Jim Knudsen	南雲堂	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談等は、授業終了後（月曜10：30～授業講堂にて）対応します。e-mailにてアポイントを取ること。e-mailには「日本大学法学部」「学籍番号」「名前」を明記してください。あて先はharada@sakushin-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/14	学習内容と学習計画	ガイダンス	
		この回の到達目標	テキストやシラバスに目を通してこの科目の学習内容について把握し、前期の学習内容を振り返って、より良い学習計画を立てる。	
		事前学修	テキストに目を通し、後期の学習内容を把握する。	30分
		事後学修	前期の経験に基づいて、より良いができるよう計画を立てる。	30分
2	月9/21	Lesson 7のToday's Readingの理解	Lesson 7のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 7のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 7のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分
3	月9/28	Lesson 7の語彙や文法の理解と定着	Unit 7 Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson 7の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 7のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
4	月10/5	Lesson 8のToday's Readingの理解	Lesson 8のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 8のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 8のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分
5	月10/12	Lesson 8の語彙や文法の理解と定着	Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson 8の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 8のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
6	月10/19	Lesson 9のToday's Readingの理解	Lesson 9のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 9のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 9のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/26	Lesson 9の語彙や文法の理解と定着	Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson9 の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 9のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
8	月11/9	Lesson 10のToday's Readingの理解	Lesson 10のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 10のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 10のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分
9	月11/16	Lesson 10の語彙や文法の理解と定着	Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson 10の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 10のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
10	月11/23	Lesson 11のToday's Readingの理解	Lesson 11のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 11のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 11のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分
11	月11/30	Lesson 11の語彙や文法の理解と定着	Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson 11の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 11のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
12	月12/7	Lesson 12のToday's Readingの理解	Lesson 12のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。	
		この回の到達目標	Lesson 12のToday's Readingの内容を理解し音読できるようにする。	
		事前学修	Lesson 12のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。	30分
		事後学修	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月12/14	Lesson 12の語彙や文法の理解と定着	Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ ミニテスト	
		この回の到達目標	Lesson 12の語彙や文法を理解し定着させる。 Readingの内容について自分の考えを表現できるようにする。	
		事前学修	Lesson 12のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。	30分
14	月12/21	読解力を深める	現代社会を扱った英文を読み、問いに答える。	
		この回の到達目標	前期の学習を活かして新聞のニュース記事やエッセイを読み、現代社会への理解を深める。	
		事前学修	現代社会を扱った指定された英文を読んでくる。	30分
		事後学修	英文に再度目を通し、重要な単語を暗記し、内容をまとめる。	30分
15	月1/18	学習内容の振り返りとまとめ	授業内試験及び解説、前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	授業内試験を通じて前期の学習内容を振り返り、欠落部分や誤解を修正し、再度の定着を図る。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	英語B【法曹コース1年生共通クラス(上級)】	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法曹コース1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則英語Aと通年で履修。

【授業方法】		
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストはReading Fusion 1（南雲堂）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。		
アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Fusion 2	Andrew E. Bennett	南雲堂	2011	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第3版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00　但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修企画引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A, B, C, D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	これまでの自分の英語学習歴を整理する。シラバスとテキストを熟読するとともに、講義全体を概観する。大学での英語学習に向けての目標を考える。	30分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	60分
2	9/21	Art Therapy	The Arts	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。芸術について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
3	9/28	From Sci-Fi to Reality	Science and Technology	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。科学技術問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
4	10/5	Exporting Labor	Business	
		この回の到達目標	到達目標Exporting Labor①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。ビジネスについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
5	10/12	Celebrating the Earth	The Environment	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。環境問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
6	10/19	Virtual Lives	The Internet	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。インターネットについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Kidults	Growing and Aging	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。幼児化現象について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
8	11/9	Genetically Modified Foods	Agriculture	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。農業について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
9	11/16	Empires of the Stars	Entertainment	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。エンターテインメント、芸能について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
10	11/23	Destination: Mars	Space	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。宇宙論について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
11	11/30	Cross-cultural Friendships	Culture	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。文化について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
12	12/7	Muscle Memory	Health	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。健康について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Maritime Piracy	Law and Crime	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。法律と犯罪について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
14	12/21	The Science of Love	Identity	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。アイデンティティーについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
15	1/18	The Homeless	Social Issues	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。ホームレス問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
学生一人一人に訳してもらい。一時間に2ページのペースで読み進めていく。 小テストを2回行い返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に返却し、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジローのヨーロッパ旅行		金星堂			
備考					

【オフィスアワー】
金曜日9時～12時20分 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 金曜日2限 9月18日	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
		この回の到達目標	単位取得のプロセスを把握する。	
		事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	9月25日	授業方法に慣れる。	Unit8 Introductoryを読む 五文型	
		この回の到達目標	五文系を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
3	10月2日	辞書の引き方	Unit8 Cultureを読む	
		この回の到達目標	辞書の引き方を覚える。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
4	10月9日	文法を踏まえた和訳	Uni8 Introductoryを読む 関係代名詞	
		この回の到達目標	関係代名詞を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
5	10月16日	文脈を意識した和訳	Uni9 Cultureを読む	
		この回の到達目標	文脈を意識しながら訳せるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	39分
6	10月23日	文法の確認	Unit10 Introductoryを読む	
		この回の到達目標	文法に基づいた訳ができる。	
		事前学修	指示された個所の予習 関係代名詞	30分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月30日	語彙力アップ		Unit10 Cultureを読む 小テスト
		この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
8	11月6日	内容を理解しながら焼く s y。		Unit11 Introductoryを読む 仮定法と条件文
		この回の到達目標	仮定法と条件文の違いを理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
9	11月13日	自然な訳を目指す、		Unit11 Cultureを読む
		この回の到達目標	自然な日本語に訳せるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
10	11月20日	ここまで学んだことを実践する。		Unit12 Introductoryを読む ing
		この回の到達目標	ingを理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
11	11月27日	文の構造の理解		Unit12 Cultureを読む 節と句
		この回の到達目標	節と句の違いを理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
12	12月4日	習った文法を駆使した和訳		Unit13 Introductoryを読む 過去分詞
		この回の到達目標	過去分詞を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	文法の復習	Unit13 Cultureを読む	
		この回の到達目標	ここまで習った文法を自分のものにする。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
14	12月18日	間違いのない訳	Unit14 Introductoryを読む	
		この回の到達目標	正確に和訳できることを目指す。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
15	12月25日	今学期の成果	文法のまとめ 小テスト	
		この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
発音練習などはその場で簡単にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2017	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考	『ジーニアス英和辞典』と同程度の英和辞典を使用してください。文法事項など苦手なところがあれば、『ジーニアス総合英語』で自習することを勧めます。メールなどで質問してもらっても構いません。単語帳が必要な場合には、『公式ボキャブラリーブック』を勧めますが、公式問題集の解説に単語がまとめられているので、それだけで十分かと思います。ただし、『公式ボキャブラリーブック』はそれぞれの語の例文の音源をダウンロード				

【オフィスアワー】
質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。授業時間：月曜４・５・６限、水曜１限inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	形式と対策方法	ガイダンス(問題構成の確認)、模擬問題の演習	
		この回の到達目標	問題構成の再確認。	
		事前学修	既習事項の確認	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
2	9/23	Part2, 5の復習	Test1 Part2(7-31), Test2 Part6(131-138)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 (18/25問)と Part5 (7/10問)程度正解すること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	9/30	Part2, 5の習熟	Test2 Part2(7-31), Test2 Part6(139-146)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 (18/25問), Part6 (5/8問), Part5 (7/10問), 程度正解すること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	10/7	Part3の復習	Test2 Part3(32-55)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の正解率を高める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	10/14	Part3の習熟	Test2 Part3(56-70)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の正解率を高める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	10/21	Part4の復習、Part7の演習	Test2 Part4 (71-85)、Test1 Part7(147-160)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の正解率を高める。Part7で時間配分を把握する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Part4の習熟、Part7の演習	Test2 Part4(86-100)、Test1 Part7(161-175)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の正解率を高める。Part7の問題文を正確に読めること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	11/11	複数文書の読解問題	Test1 Part7(176-185)、Test2 Part3(43-70)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	11/18	複数文書の読解問題の発展	Test1 Part7(186-200)、Test2 Part4(71-100)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	11/25	読解問題の習熟	Test2 Part7(147-160)、音読練習	
		この回の到達目標	本番を意識して問題を解ける。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	12/2	読解問題の習熟	Test2 Part7(161-175)、音読練習	
		この回の到達目標	読解問題の本文を正確に読める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	12/9	複数文書の読解問題の発展	Test2 Part7(176-185)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	複数文書の読解問題の習熟	Test2 Part7(186-200)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	12/23	授業内試験	授業内試験、問題の解説	
		この回の到達目標	時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	答えの確認	30分
15	1/13	まとめ	まとめ（受講生の人数によって個別に面接）	
		この回の到達目標	TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。到達目標を意識して意欲的に学習に取り組む者。

【授業方法】		
英文を通じた知識の涵養を目標に精読(確認)を行います。文法事項は本文の文構造に関連づけ展開し、Chapter毎に指定範囲内の小テストを、最終授業日にて授業内試験(60分)及び解説/講評(30分)を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者各自による、授業にて取り扱うトピックに関連した資料・文献の調査・報告を行い、受講者相互による情報や意見交換を行う。(成績評価の一部とする。)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験(授業内)の解説、調査報告の講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Made in Britain	Anthony SellikJohn Barton	成美堂	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業後20分間（水曜10：30～10：50）授業講堂にて対応する。（※初回授業にて指示する。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	ガイダンス＋英語圏文化(イギリス)について知っていること知らないこと	ガイダンス(授業の進め方を説明する。)＋(下記展開範囲以外のChapterを用いて)展開方法のシミュレーション(前期「英語A」の復習と併せて)を行い、英文読解及び情報整理の方法を習得する。	
		この回の到達目標	(前期(英語A)での学習を踏まえて)正確かつ迅速な英文読解の方法を確認する。(①及び②)今期展開範囲で取り扱うトピックへの関心を高める。	
		事前学修	テキスト及び下記展開トピック(Chapter)に目を通し、気になる点をメモして授業に臨むこと。加えて、(前期学習予定の「英語A」と併せて)「イギリス」と聞いて思いつく事柄及びそれについての各自のコメントを併せてメモしておく。	30分
		事後学修	次回(第2回)以降展開範囲を中心に、辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→3か月後の学習成果を自己確認できるようにするため。)	30分
2	第一部水 9/23	「コンピューター」「インターネット」とは？(1)	Chapter 6 Thinking Machines ―The Story of the Computer(前半～中盤)章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(一定以上の量/レベルの)英文を、限られた時間の範囲で、極力正確に読み取る方法を修得する。	
		事前学修	1. Chapter6全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。)	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
3	第一部水 9/30	「コンピューター」「インターネット」とは？(2)	Chapter 6 Thinking Machines ―The Story of the Computer(中盤～後半)章全体を通じて、'Computer'の起源・歴史的変遷/国際的影響を理解・説明できる。 ※1つのChapter/2回のペースで進む予定。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter6前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想及び記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter6全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、Computerの起源・変遷(歴史)に関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test (翌週実施)の準備を行う。	30分
4	第一部水 10/7	「交通機関の歴史」を知る(1)	Chapter6 Mini Test(小テスト) Chapter 7 'I Get Around ― Transport'(前半～中盤)章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握する、(②)章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter7全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。)	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
5	第一部水 10/14	「交通機関の歴史」を知る(2)	Chapter 7 'I Get Around ― Transport'(中盤～後半)章全体を通して、交通・輸送機関に関する様々なイギリス人による発明・ものづくりの歴史的変遷/国際的影響への理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter7前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter7全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、イギリス人による発明・イノベーションの歴史を概観し、加えて日本の「ものづくり」の歴史と併せて考察し(必要に応じて調査し)それに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test (翌週実施)の準備を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 10/21	「コーヒーショップ」と「金融機関」の関係とは？ (1)	Chapter 7 Mini Test Chapter 8 London ― How the Centre of the Financial World Started in a Coffee Shop（前半～中盤） 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握する、(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter8全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
7	第一部水 10/28	「コーヒーショップ」と「金融機関」の関係とは？ (2)	Chapter 8 London ― How the Centre of the Financial World Started in a Coffee Shop（中盤～後半） 章（Chap.）のタイトルの意味を本文の内容を正確に把握し、説明できる。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/を記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報の確認に加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
8	第一部水 11/11	‘Tea’はいかにしてイギリスの代名詞となったか？ (1)	Chapter 8 Mini Test Chapter 12 A Nice Cup of Tea（前半～中盤） 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握する、(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter3全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
9	第一部水 11/18	‘Tea’はいかにしてイギリスの代名詞となったか？ (2)	Chapter 12 A Nice Cup of Tea（中盤～後半） 「何故(紅)茶がイギリスの国民的飲みものなのか」「どうやってそうなったか」を説明できる。 加えて、自国の「お茶文化」とも比較・対照し、コメントする。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報の確認に加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
10	第一部水 11/25	何故、イギリス人にとって‘pub’は特別か？(1)	Chapter12 Mini Test Chapter 13 The British Pub 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握する、(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter13全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
11	第一部水 12/2	何故、イギリス人にとって‘pub’は特別か？(2)	Chapter 13 The British Pub（中盤～後半） 章全体を通して、「‘Pub’の定義は何か」そして「何故そうなのか」を説明できる。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(特に最終段落の内容を具体的に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	第一部水 12/9	世界的なメディア'BBC'(1)	Chapter13 Mini Test Chapter 17 Leading the Way in News and Entertainment ー The BBC(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握する、(②)章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter17全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
13	第一部水 12/16	世界的なメディア'BBC'(2)	Chapter 17 Leading the Way in News and Entertainment ー The BBC (中盤～後半) 章全体を通して、国際的にも評価の高い報道機関とされるBBC誕生の歴史/変遷を理解/説明できる。併せて、「国際メディア」の現状について各自がコメントする。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(タイトルにある質問への回答を中心に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
14	第一部水 12/23	(3か月の)学習成果(1) 語彙/文法/読解力及び内容理解の自己判定	Chapter 17 Mini Test及び学期内展開範囲の総復習 Chapter6～8, 12, 13及び17全体の英文の中で、特に構文が複雑なものや、内容が抽象的な事柄の確認を行うことで、学習内容全般の情報の修正/補足を行い、正確に説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握に加え、英文の構造理解に関する今後の課題を明確にする。(②)併せて、各自の英文読解力を自己評価する。(①)	
		事前学修	1. Mini Testに向けての準備に併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に初回にて不正解だったものを中心に)を行う。2. テキスト読解箇所全般の構文・内容についても各自確認する。(不明なものは授業にて確認すること。)	30分
		事後学修	学習範囲全体を見直し、今一度各自で必要に応じて修正を行い、初回事前学習時からの成果を確認する。	30分
15	第一部水 1/13	(3か月の)学習成果(2) (試験による)一定の客観的評価及び(英語圏文化を中心とした)知識/情報の整理	授業全体のまとめ(授業内試験(60分) 解説/講評(30分):受講者各自が3か月の学習を通じて得た、異文化(欧米文化)への理解及び自国文化との比較・対照により国際社会への理解及び国際社会での自らの意見を発信できる。	
		この回の到達目標	一定量及びレベルの英文の構造及び内容理解できる実力を、試験を通じて確認・自己認識する(①②)と共に今後の課題(知識の涵養を含めた)を明確にする。	
		事前学修	3か月学習内容を整理・総括する。(①「英語能力」②「英語圏文化について得た知識」の2つに関して)加えて、「異文化」との比較・対照によって得た感想・意見を整理する。	30分
		事後学修	初回事前学習からの成果を自己分析・確認するとともに、今後の課題(英語学習及び「英語」を「手段」としての情報収集及びその活用(発信するための方法/展開)に関する具体的目標)を設定する。	30分

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。到達目標を意識して意欲的に学習に取り組む者。

【授業方法】		
英文を通じた知識の涵養を目標に精読(確認)を行います。文法事項は本文の文構造に関連づけ展開し、Chapter毎に指定範囲内の小テストを、最終授業日にて授業内試験(60分)及び解説/講評(30分)を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者各自による、授業にて取り扱うトピックに関連した資料・文献の調査・報告を行い、受講者相互による情報や意見交換を行う。(成績評価の一部とする。)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験(授業内)の解説、調査報告の講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Made in Britain	Anthony SellikJohn Barton	成美堂	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業後20分間（水曜10：30～10：50）授業講堂にて対応する。（※初回授業にて指示する。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	ガイダンス＋英語圏文化(イギリス)について知っていること知らないこと	ガイダンス(授業の進め方を説明する。)＋(下記展開範囲以外のChapterを用いて)展開方法のシミュレーション(前期「英語A」の復習と併せて)を行い、英文読解及び情報整理の方法を習得する。	
		この回の到達目標	(前期(英語A)での学習を踏まえて)正確かつ迅速な英文読解の方法を確認する。(①及び②)今期展開範囲で取り扱うトピックへの関心を高める。	
		事前学修	テキスト及び下記展開トピック(Chapter)に目を通し、気になる点をメモして授業に臨むこと。加えて、(前期学習予定の「英語A」と併せて)「イギリス」と聞いて思いつく事柄及びそれについての各自のコメントを併せてメモしておく。	30分
		事後学修	次回(第2回)以降展開範囲を中心に、辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→3か月後の学習成果を自己確認できるようにするため。)	30分
2	第一部水 9/23	「コンピューター」「インターネット」とは？(1)	Chapter 6 Thinking Machines ―The Story of the Computer(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(一定以上の量/レベルの)英文を、限られた時間の範囲で、極力正確に読み取る方法を修得する。	
		事前学修	1. Chapter6全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。)	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
3	第一部水 9/30	「コンピューター」「インターネット」とは？(2)	Chapter 6 Thinking Machines ―The Story of the Computer(中盤～後半) 章全体を通じて、'Computer'の起源・歴史的変遷/国際的影響を理解・説明できる。 ※1つのChapter/2回のペースで進む予定。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter6前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想及び記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter6全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、Computerの起源・変遷(歴史)に関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test (翌週実施)の準備を行う。	30分
4	第一部水 10/7	「交通機関の歴史」を知る(1)	Chapter6 Mini Test (小テスト) Chapter 7 'I Get Around ― Transport'(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握する、(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter7全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。)	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
5	第一部水 10/14	「交通機関の歴史」を知る(2)	Chapter 7 'I Get Around ― Transport'(中盤～後半) 章全体を通して、交通・輸送機関に関する様々なイギリス人による発明・ものづくりの歴史的変遷/国際的影響への理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter7前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter7全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、イギリス人による発明・イノベーションの歴史を概観し、加えて日本の「ものづくり」の歴史と併せて考察し(必要に応じて調査し)それに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test (翌週実施)の準備を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 10/21	「コーヒーショップ」と「金融機関」の関係とは？ (1)	Chapter 7 Mini Test Chapter 8 London ― How the Centre of the Financial World Started in a Coffee Shop（前半～中盤） 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握する、(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter8全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
7	第一部水 10/28	「コーヒーショップ」と「金融機関」の関係とは？ (2)	Chapter 8 London ― How the Centre of the Financial World Started in a Coffee Shop（中盤～後半） 章(Chap.)のタイトルの意味を本文の内容を正確に把握し、説明できる。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/を記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報の確認に加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
8	第一部水 11/11	‘Tea’はいかにしてイギリスの代名詞となったか？ (1)	Chapter 8 Mini Test Chapter 12 A Nice Cup of Tea（前半～中盤） 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握する、(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter3全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
9	第一部水 11/18	‘Tea’はいかにしてイギリスの代名詞となったか？ (2)	Chapter 12 A Nice Cup of Tea（中盤～後半） 「何故(紅)茶がイギリスの国民的飲みものなのか」「どうやってそうなったか」を説明できる。 加えて、自国の「お茶文化」とも比較・対照し、コメントする。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報の確認に加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
10	第一部水 11/25	何故、イギリス人にとって‘pub’は特別か？(1)	Chapter12 Mini Test Chapter 13 The British Pub 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握する、(②) 章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter13全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
11	第一部水 12/2	何故、イギリス人にとって‘pub’は特別か？(2)	Chapter 13 The British Pub（中盤～後半） 章全体を通して、「‘Pub’の定義は何か」そして「何故そうなのか」を説明できる。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(特に最終段落の内容を具体的に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	第一部水 12/9	世界的なメディア'BBC'(1)	Chapter13 Mini Test Chapter 17 Leading the Way in News and Entertainment ー The BBC(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握する、(②)章全体の概要(大意)を把握する。(①)	
		事前学修	1. Chapter17全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。	30分
		事後学修	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。	30分
13	第一部水 12/16	世界的なメディア'BBC'(2)	Chapter 17 Leading the Way in News and Entertainment ー The BBC (中盤～後半) 章全体を通して、国際的にも評価の高い報道機関とされるBBC誕生の歴史/変遷を理解/説明できる。併せて、「国際メディア」の現状について各自がコメントする。	
		この回の到達目標	前回実践した読解で得た知識の修正・補足を行うことで、正確に読むための課題を考察する。(①)	
		事前学修	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。	30分
		事後学修	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(タイトルにある質問への回答を中心に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。	30分
14	第一部水 12/23	(3か月の)学習成果(1) 語彙/文法/読解力及び内容理解の自己判定	Chapter 17 Mini Test及び学期内展開範囲の総復習 Chapter6～8, 12, 13及び17全体の英文の中で、特に構文が複雑なものや、内容が抽象的な事柄の確認を行うことで、学習内容全般の情報の修正/補足を行い、正確に説明できる。	
		この回の到達目標	(小テスト実施)受講者各自の語彙レベルを把握に加え、英文の構造理解に関する今後の課題を明確にする。(②)併せて、各自の英文読解力を自己評価する。(①)	
		事前学修	1. Mini Testに向けての準備に併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に初回にて不正解だったものを中心に)を行う。2. テキスト読解箇所全般の構文・内容についても各自確認する。(不明なものは授業にて確認すること。)	30分
		事後学修	学習範囲全体を見直し、今一度各自で必要に応じて修正を行い、初回事前学習時からの成果を確認する。	30分
15	第一部水 1/13	(3か月の)学習成果(2) (試験による)一定の客観的評価及び(英語圏文化を中心とした)知識/情報の整理	授業全体のまとめ(授業内試験(60分) 解説/講評(30分):受講者各自が3か月の学習を通じて得た、異文化(欧米文化)への理解及び自国文化との比較・対照により国際社会への理解及び国際社会での自らの意見を発信できる。	
		この回の到達目標	一定量及びレベルの英文の構造及び内容理解できる実力を、試験を通じて確認・自己認識する(①②)と共に今後の課題(知識の涵養を含めた)を明確にする。	
		事前学修	3か月学習内容を整理・総括する。(①「英語能力」②「英語圏文化について得た知識」の2つに関して)加えて、「異文化」との比較・対照によって得た感想・意見を整理する。	30分
		事後学修	初回事前学習からの成果を自己分析・確認するとともに、今後の課題(英語学習及び「英語」を「手段」としての情報収集及びその活用(発信するための方法/展開)に関する具体的目標)を設定する。	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	神山 高行	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
基本的に以下のプランに従って授業を行う。 1. 導入授業（20分程度）：英単語ドリル・英文法復習ドリル等 ※プリント配布 2. 教科書（50分程度）：英文記事の音読、リスニング、語彙・イディオム・文法確認、内容読解、練習問題等 3. 授業のまとめ及び課題（20分程度）：英文和訳の提出、ペアワークによるプレゼンテーション等		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で4回程度、ペアワークによる英会話のプレゼンを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのプレゼン・提出物については、評価して後日授業にて連絡または返却する。授業内試験についての講評は、後日ポータルシステムにて知らせる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『COOL JAPAN』	ジョアン・ペロケ ティ 他	南雲堂	2017	教科書	必携
『英文法詳説 改訂三版』	江川 泰一郎	金子書房	1996	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日10：30～40（授業の教室） e-mail: kamiyama.takayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス及び導入授業	授業の目的・到達目標、授業の進め方、教科書（前／後期共通で使用）・参考図書紹介、英語の勉強方法、ノートテイク、成績評価、次回授業の事前学習等について、及び導入授業（プリント配布）	
		この回の到達目標	授業の目的・到達目標①②を確認し、英語の勉強方法について、及び導入授業によるリーディングのコツを理解する。	
		事前学修	普段の英語自己学習	50分
		事後学修	ガイダンスの内容について確認し、ガイダンスで指示された次回の授業の事前学習をしておく。	50分
2	第一部 水9/23	リーディングによる英文読解、及び文法事項（受動態）の理解	（日本経済についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（受動態）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「受動態」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 8）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べてノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（受動態）についても事前に読んでおく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 8）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（受動態）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
3	第一部 水9/30	Reviewとペアワークによる英会話（近況報告について）	教科書の練習問題によるChapter 8の英文記事の復習と文法事項（受動態）の確認、及びに近況報告に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 8の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法事項（受動態）についても理解することができる。また、近況報告についての英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 8）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 8）の復習と次回授業（Chapter 9）の予習	50分
4	第一部 水10/7	リーディングによる英文読解、及び文法事項（不定詞）の理解	（日本のリニア新幹線についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（不定詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「不定詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 9）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（不定詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 9）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（不定詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
5	第一部 水10/14	Reviewとニュース記事（海外）のリーディング	教科書の練習問題によるChapter 9の英文記事の復習と文法事項（不定詞）の確認、及びニュース記事（海外）のリーディング（プリント配布）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 9の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（不定詞）について理解することができる。また、及びニュース記事を学習することにより、英語の読解力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 9）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 9）の復習と次回授業（Chapter 10）の予習	50分
6	第一部 水10/21	リーディングによる英文読解、及び文法事項（分詞）の理解	（日本のポケモンGOについての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（分詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「分詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 10）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（分詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 10）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（分詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	Reviewとペアワークによる英会話（ホテルフロント）	教科書の練習問題によるChapter 10の英文記事の復習と文法事項（分詞）の確認、及びホテルでの宿泊に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 10の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法事項（分詞）についても理解することができる。また、ホテルフロントでの英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 10）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 10）の復習と次回授業（Chapter 11）の予習	50分
8	第一部 水11/11	リーディングによる英文読解、及び文法事項（動名詞）の理解	（日本のマイナンバー法についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（動名詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「動名詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 11）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（動名詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 11）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（動名詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
9	第一部 水11/18	Reviewとニュース記事（日本）のリーディング	教科書の練習問題によるChapter 11の英文記事の復習と文法事項（動名詞）の確認、及びニュース記事（日本）のリーディング（プリント配布）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 11の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（動名詞）について理解することができる。また、及びニュース記事を学習することにより、英語の読解力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 11）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 11）の復習と次回授業（Chapter 12）の予習	50分
10	第一部 水11/25	リーディングによる英文読解、及び文法事項（関係代名詞）の理解	（日本のネットTVについての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（関係代名詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「関係代名詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 12）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（関係代名詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 12）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（関係代名詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
11	第一部 水12/2	Reviewとペアワークによる英会話（道順を尋ねる）	教科書の練習問題によるChapter 12の英文記事の復習と文法事項（関係代名詞）の確認、及び道順を尋ねる英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 12の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法事項（関係代名詞）についても理解することができる。また、道順を尋ねる英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 12）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 12）の復習と次回授業（Chapter 13）の予習	50分
12	第一部 水12/9	リーディングによる英文読解、及び文法事項（接続詞）の理解、授業内試験について	（日本のロケット開発についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（接続詞）についての解説、授業内試験の形式・範囲について発表	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「接続詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 13）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（接続詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 13）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（接続詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	Reviewとペアワークによる英会話（レストランでの注文）	教科書の練習問題によるChapter 13の英文記事の復習と文法事項（接続詞）の確認、及びレストランでの注文に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 13の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法事項（接続詞）についても理解することができる。また、レストランでの英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 13）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 13）の復習と次回授業（Chapter 14）の予習	50分
14	第一部 水12/23	リーディングによる英文読解、及び文法事項（前置詞）の理解	（日本の健康商品についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（前置詞）についての解説	
		この回の到達目標	英到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「前置詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 14）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（前置詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	前期授業のノート整理、前期授業の総復習と授業内試験のための準備	100分
15	第一部 水1/13	授業内試験&解説※ 振り返り ノート提出	授業内試験の実施、※解説については後日、ポータルサイトにて行う。 ノート提出（チェック後、返却）	
		この回の到達目標	授業内試験における英文読解、語彙・イディオム・文法事項において合格レベルに達すること	
		事前学修	授業内試験のための準備	100分
		事後学修	後期授業に向けた準備と予習	60分

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	神山 高行	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
基本的に以下のプランに従って授業を行う。 1. 導入授業（20分程度）：英単語ドリル・英文法復習ドリル等 ※プリント配布 2. 教科書（50分程度）：英文記事の音読、リスニング、語彙・イディオム・文法確認、内容読解、練習問題等 3. 授業のまとめ及び課題（20分程度）：英文和訳の提出、ペアワークによるプレゼンテーション等		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で4回程度、ペアワークによる英会話のプレゼンを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのプレゼン・提出物については、評価して後日授業にて連絡または返却する。授業内試験についての講評は、後日ポータルシステムにて知らせる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『COOL JAPAN』	ジョアン・ペロケティ 他	南雲堂	2017	教科書	必携
『英文法詳説 改訂三版』	江川 泰一郎	金子書房	1996	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水12：10～20（授業の教室） e-mail: kamiyama.takayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス及び導入授業	授業の目的・到達目標、授業の進め方、教科書（前／後期共通で使用）・参考図書紹介、英語の勉強方法、ノートテイク、成績評価、次回授業の事前学習等について、及び導入授業（プリント配布）	
		この回の到達目標	授業の目的・到達目標①②を確認し、英語の勉強方法について、及び導入授業によるリーディングのコツを理解する。	
		事前学修	普段の英語自己学習	50分
		事後学修	ガイダンスの内容について確認し、ガイダンスで指示された次回の授業の事前学習をしておく。	50分
2	第一部 水9/23	リーディングによる英文読解、及び文法事項（受動態）の理解	（日本経済についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（受動態）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「受動態」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 8）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べてノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（受動態）についても事前に読んでおく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 8）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（受動態）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
3	第一部 水9/30	Reviewとペアワークによる英会話（近況報告について）	教科書の練習問題によるChapter 8の英文記事の復習と文法事項（受動態）の確認、及びに近況報告に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 8の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法事項（受動態）についても理解することができる。また、近況報告についての英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 8）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 8）の復習と次回授業（Chapter 9）の予習	50分
4	第一部 水10/7	リーディングによる英文読解、及び文法事項（不定詞）の理解	（日本のリニア新幹線についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（不定詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「不定詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 9）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（不定詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 9）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（不定詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
5	第一部 水10/14	Reviewとニュース記事（海外）のリーディング	教科書の練習問題によるChapter 9の英文記事の復習と文法事項（不定詞）の確認、及びニュース記事（海外）のリーディング（プリント配布）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 9の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（不定詞）について理解することができる。また、及びニュース記事を学習することにより、英語の読解力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 9）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 9）の復習と次回授業（Chapter 10）の予習	50分
6	第一部 水10/21	リーディングによる英文読解、及び文法事項（分詞）の理解	（日本のポケモンGOについての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（分詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「分詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 10）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（分詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 10）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（分詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	Reviewとペアワークによる英会話（ホテルフロント）	教科書の練習問題によるChapter 10の英文記事の復習と文法事項（分詞）の確認、及びホテルでの宿泊に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 10の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法事項（分詞）についても理解することができる。また、ホテルフロントでの英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 10）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 10）の復習と次回授業（Chapter 11）の予習	50分
8	第一部 水11/11	リーディングによる英文読解、及び文法事項（動名詞）の理解	（日本のマイナンバー法についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（動名詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「動名詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 11）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（動名詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 11）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（動名詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
9	第一部 水11/18	Reviewとニュース記事（日本）のリーディング	教科書の練習問題によるChapter 11の英文記事の復習と文法事項（動名詞）の確認、及びニュース記事（日本）のリーディング（プリント配布）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 11の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法（動名詞）について理解することができる。また、及びニュース記事を学習することにより、英語の読解力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 11）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 11）の復習と次回授業（Chapter 12）の予習	50分
10	第一部 水11/25	リーディングによる英文読解、及び文法事項（関係代名詞）の理解	（日本のネットTVについての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（関係代名詞）についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「関係代名詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 12）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（関係代名詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 12）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（関係代名詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分
11	第一部 水12/2	Reviewとペアワークによる英会話（道順を尋ねる）	教科書の練習問題によるChapter 12の英文記事の復習と文法事項（関係代名詞）の確認、及び道順を尋ねる英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 12の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法事項（関係代名詞）についても理解することができる。また、道順を尋ねる英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 12）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 12）の復習と次回授業（Chapter 13）の予習	50分
12	第一部 水12/9	リーディングによる英文読解、及び文法事項（接続詞）の理解、授業内試験について	（日本のロケット開発についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（接続詞）についての解説、授業内試験の形式・範囲について発表	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「接続詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 13）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（接続詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	復習として教科書（Chapter 13）の英文記事を今一度読み、単語・イディオムの意味、文法事項（接続詞）を確認し、練習問題をやっておく（解答は次回授業で確認）。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	Reviewとペアワークによる英会話（レストランでの注文）	教科書の練習問題によるChapter 13の英文記事の復習と文法事項（接続詞）の確認、及びレストランでの注文に関する英語表現（プリント配布）のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、Chapter 13の復習を通じ、内容読解力・語彙力を高め、文法事項（接続詞）についても理解することができる。また、レストランでの英語表現について習得し、英語の会話力を高めることができる。	
		事前学修	教科書（Chapter 13）の練習問題をやっておく。	30分
		事後学修	教科書（Chapter 13）の復習と次回授業（Chapter 14）の予習	50分
14	第一部 水12/23	リーディングによる英文読解、及び文法事項（前置詞）の理解	（日本の健康商品についての）英文記事のリスニングと音読、リーディングによる内容読解、語彙・イディオムの確認、文法事項（前置詞）についての解説	
		この回の到達目標	英到達目標①②に関して、英文記事のリーディングを通じ、内容読解力と語彙力を高め、文法事項と（「前置詞」）について理解することができる。	
		事前学修	授業の予習として、教科書（Chapter 14）の英文記事を読み、単語・イディオムを辞書で調べて意味をノート（またはルーズリーフ）に記入し、文法事項（前置詞）を確認しておく。	50分
		事後学修	前期授業のノート整理、前期授業の総復習と授業内試験のための準備	100分
15	第一部 水1/13	授業内試験&解説※ 振り返り ノート提出	授業内試験の実施、※解説については後日、ポータルサイトにて行う。 ノート提出（チェック後、返却）	
		この回の到達目標	授業内試験における英文読解、語彙・イディオム・文法事項において合格レベルに達すること	
		事前学修	授業内試験のための準備	100分
		事後学修	後期授業に向けた準備と予習	60分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。小テストを毎回実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Keynote 3ISBN-13 978 1 305 96505 8	Paul Dummett	Cengage Learning	2017		
備考					

【オフィスアワー】
毎回の授業前後に授業が行われる講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	通訳者、グローバル企業において輸出入業務担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		英語による実務実践への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	ガイダンスとUnit1~6の振り返り	Introduction Overview of the course	
		この回の到達目標	Unit1~6について再度理解を確認し、後期授業予定について理解する。	
		事前学修	Preview Unit 7 後期講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	vocabulary note作成する。	30分
2	水9/23	Global Movement	Unit 7 – Part 1 Identityのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Global Movementをリスニングの上、英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 7 Part identityについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
3	水9/30	Global Migration	Unit 7 – Part 2 Where is home?のコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Global Migrationを読解の上、英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 7-Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note global migrationの読解を確認する。	30分
4	水10/7	Transportation in the Future	Unit 8 – Part 1 Transportation solutionsのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Transportation in the Futureをリスニングした上で英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 8 Part 1 commuteについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
5	水10/14	Unique Commutes	Unit 8 – Part 2 A skateboard, with a boostのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Unique Commutesを読解の上、英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 8 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note unique commutesの読解を確認する。	30分
6	水10/21	Changing Words	Unit 9 – Part 1 New wordsのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Changing Wordsをリスニングした上で英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 9 Part language changeについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	水10/28	Language Change		Unit 9 – Part 2 What makes a word “real”?のコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Language Changeを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 9 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Language changeの読解を確認する。	30分
8	水11/11	Emotional Intelligence		Unit 10 – Part 1 understanding emotionsのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Emotional Intelligenceをリスニングした上で英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 10 Part emotionとdigitalについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
9	水11/18	Emotion in Technology		Unit 10 – Part 2 This APP knows how you feelのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Emotion in Technologyを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 10 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Emotion in technologyの読解を確認する。	30分
10	水11/25	Being a Leader		Unit 11 – Part 1 Leaders and thinkersのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Being a Leaderをリスニングの上、英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 11 Part 1 entrepreneurについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
11	水12/2	Lessons in Business		Unit 11 – Part 2 Life at 30,000 feetのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Lessons in Businessを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 11 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note lessons in businessの読解を確認する。	30分
12	水12/9	The Importance of Sleep		Unit 12 – Part 1 Well-beingのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	The Importance of Sleepをリスニングの上、英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 12 Part 1 work-life balanceについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水12/16	Achieving Work-life Balance	Unit 6 – Part 2 How to succeed? Get more sleetのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Achieving Work-life Balanceを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 12 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Achieving work-life balanceの読解を確認をする。	30分
14	水12/23	Review Unit 7-12	Unit7~12の総復習。 小テストを返却し答え合わせと確認をする	
		この回の到達目標	Unit 7-12の内容とvocabularyの確認をする。	
		事前学修	Review Unit 7~12 各設問を確認する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Review Unit 7~12	30分
15	水1/13	授業内試験とフィードバック	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	授業内試験の実施と解答例を示し解説。	
		事前学修	Review Unit 7~12 設問の間違った箇所を見直す。	30分
		事後学修	Review Unit 7~12	30分

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。小テストを毎回実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Keynote 3ISBN-13 978 1 305 96505 8	Paul Dummett	Cengage Learning	2017		
備考					

【オフィスアワー】
毎回の授業前後に授業が行われる講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	通訳者、グローバル企業において輸出入業務担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		英語による実務実践への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火9/15	ガイダンスとUnit1~6の振り返り	Introduction Overview of the course	
		この回の到達目標	Unit1~6について再度理解を確認し、後期授業予定について理解する。	
		事前学修	Preview Unit 7 後期講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	vocabulary note作成する。	30分
2	火9/22	Global Movement	Unit 7 - Part 1 Identityのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Global Movementをリスニングの上、英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 7 Part identityについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
3	火9/29	Global Migration	Unit 7 - Part 2 Where is home?のコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Global Migrationを読解の上、英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 7-Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note global migrationの読解を確認する。	30分
4	火10/6	Transportation in the Future	Unit 8 - Part 1 Transportation solutionsのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Transportation in the Futureをリスニングした上で英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 8 Part 1 commuteについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
5	火10/13	Unique Commutes	Unit 8 - Part 2 A skateboard, with a boostのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Unique Commutesを読解の上、英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 8 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note unique commutesの読解を確認する。	30分
6	火10/20	Changing Words	Unit 9 - Part 1 New wordsのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Changing Wordsをリスニングした上で英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 9 Part language changeについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	火10/27	Language Change		Unit 9 – Part 2 What makes a word “real”?のコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Language Changeを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 9 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Language changeの読解を確認する。	30分
8	火11/10	Emotional Intelligence		Unit 10 – Part 1 understanding emotionsのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Emotional Intelligenceをリスニングした上で英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 10 Part emotionとdigitalについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
9	火11/17	Emotion in Technology		Unit 10 – Part 2 This APP knows how you feelのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Emotion in Technologyを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 10 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Emotion in technologyの読解を確認する。	30分
10	火11/24	Being a Leader		Unit 11 – Part 1 Leaders and thinkersのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Being a Leaderをリスニングの上、英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 11 Part 1 entrepreneurについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
11	火12/1	Lessons in Business		Unit 11 – Part 2 Life at 30,000 feetのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Lessons in Businessを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 11 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note lessons in businessの読解を確認する。	30分
12	火12/8	The Importance of Sleep		Unit 12 – Part 1 Well-beingのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	The Importance of Sleepをリスニングの上、英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 12 Part 1 work-life balanceについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火12/15	Achieving Work-life Balance	Unit 6 – Part 2 How to succeed? Get more sleetのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Achieving Work-life Balanceを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 12 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Achieving work-life balanceの読解を確認をする。	30分
14	火12/22	Review Unit 7-12	Unit7~12の総復習。 小テストを返却し答え合わせと確認をする	
		この回の到達目標	Unit 7-12の内容とvocabularyの確認をする。	
		事前学修	Review Unit 7~12 各設問を確認する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Review Unit 7~12	30分
15	火1/12	授業内試験とフィードバック	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	授業内試験の実施と解答例を示し解説。	
		事前学修	Review Unit 7~12 設問の間違った箇所を見直す。	30分
		事後学修	Review Unit 7~12	30分

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修すること。

【授業方法】
演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストのConversationではペアを組み読む練習をする。また、Miscellanyではペアで協力して答えを出す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English Indicator 3 [Intermediate]	Joshua Cohen 他	南雲堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の休み時間（水曜日12：10～）に講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。メールアドレス：kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Unit 7 Reading	Extreme Weatherに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
2	9/23	Unit 7 Exercises	形容詞、副詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、形容詞、副詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
3	9/30	Unit 8 Reading	Medical Tourismに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
4	10/7	Unit 8 Exercises	比較の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、比較、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
5	10/14	Unit 9 Reading	Advertisingに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
6	10/21	Unit 9 Exercises	前置詞、接続詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、前置詞、接続詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Unit 10 Reading	Business Travelに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
8	11/11	Unit 10 Exercises	to不定詞、動名詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、to不定詞、動名詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
9	11/18	Unit 11 Reading	E-commerceに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
10	11/25	Unit 11 Exercises	助動詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、助動詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
11	12/2	Unit 12 Reading	Coffee Shopに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
12	12/9	Unit 12 Exercises	受動態の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、受動態、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	TOEICの練習	TOEIC Reading Section の出題形式と練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、前・後期を通して鍛えてきた読解力及び文法・語彙力を使ってTOEIC Reading Sectionの問題に解答できる。	
		事前学修	配布されたプリントの練習問題を全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
14	12/23	授業内試験及び後期のまとめ	授業内試験を行い、後期を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、後期に学んだ事柄全般を理解し、それに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	試験範囲を復習する。	30分
		事後学修	試験で分からなかった部分の正解を考える。	30分
15	1/13	フィードバック	授業内試験の講評及び振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、後期に学んだ事柄で理解できていなかったところを確認し、理解することができる。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	後期の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修すること。

【授業方法】
演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストのConversationではペアを組み読む練習をする。また、Miscellanyではペアで協力して答えを出す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English Indicator 3 [Intermediate]	Joshua Cohen 他	南雲堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の休み時間（水曜日10：30～）に講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。メールアドレス： kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Unit 7 Reading	Extreme Weatherに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
2	9/23	Unit 7 Exercises	形容詞、副詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、形容詞、副詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
3	9/30	Unit 8 Reading	Medical Tourismに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
4	10/7	Unit 8 Exercises	比較の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、比較、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
5	10/14	Unit 9 Reading	Advertisingに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
6	10/21	Unit 9 Exercises	前置詞、接続詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、前置詞、接続詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Unit 10 Reading	Business Travelに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
8	11/11	Unit 10 Exercises	to不定詞、動名詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、to不定詞、動名詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
9	11/18	Unit 11 Reading	E-commerceに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
10	11/25	Unit 11 Exercises	助動詞の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、助動詞、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
11	12/2	Unit 12 Reading	Coffee Shopに関する本文を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、語彙、英文法の知識を用いて英文を正確に読み解くことができる。	
		事前学修	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。	30分
12	12/9	Unit 12 Exercises	受動態の文法のポイント及び練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、受動態、本文の内容及び本文に出てきた語彙の使い方について理解し、それらに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	TOEICの練習	TOEIC Reading Section の出題形式と練習問題の正解を確認し、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、前・後期を通して鍛えてきた読解力及び文法・語彙力を使ってTOEIC Reading Sectionの問題に解答できる。	
		事前学修	配布されたプリントの練習問題を全て解いておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
14	12/23	授業内試験及び後期のまとめ	授業内試験を行い、後期を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、後期に学んだ事柄全般を理解し、それに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	試験範囲を復習する。	30分
		事後学修	試験で分からなかった部分の正解を考える。	30分
15	1/13	フィードバック	授業内試験の講評及び振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、後期に学んだ事柄で理解できていなかったところを確認し、理解することができる。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	後期の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくること。ノート検査はいつ検査されても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。実力テストは次の週に解説、解答をする。映像教材をみせる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘	鳳書房	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日10：30～授業講堂にて）またはEメールで対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	【ガイダンス】【導入講義】	授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
2	第一部 水9/23	【フランスの全体理解】【発音】	第3章 フランス (1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
3	第一部 水9/30	【フランスの文化】【受動態】	第3章 フランス (1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。受動態の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、受動態を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
4	第一部 水10/7	【フランスの文化】【仮定法】	第3章 フランス (1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。仮定法の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、仮定法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
5	第一部 水10/14	【フランスの文化】【話法】	第3章 フランス (1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。話法の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、話法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
6	第一部 水10/21	【フランスの文化】【不定詞】	第3章 フランス (2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。不定詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、不定詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	【フランスの文化】【分詞】	第3章 フランス（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。分詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、分詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
8	第一部 水11/11	【フランスの文化】【動名詞】	第3章 フランス（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。動名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、動名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
9	第一部 水11/18	【フランスの文化】【名詞】	第3章 フランス（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
10	第一部 水11/25	【フランスの文化】【代名詞】	第3章 フランス（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。代名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
11	第一部 水12/2	【イタリアの文化】【冠詞】	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。冠詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、イタリアの歴史と文化を理解し、冠詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、イタリアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
12	第一部 水12/9	【イタリアの文化】【形容詞】	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。形容詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、イタリアの歴史と文化を理解し、形容詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、イタリアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	【イタリアの文化】【副詞】	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。副詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、イタリアの歴史と文化を理解し、副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、イタリアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	第一部 水12/23	【イタリアの文化】【比較】	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。比較の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、イタリアの歴史と文化を理解し、比較の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、イタリアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	第一部 水1/13	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスとイタリアの歴史と文化を理解し、各英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくること。ノート検査はいつ検査されても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。実力テストは次の週に解説、解答をする。映像教材をみせる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘	鳳書房	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日10：30～授業講堂にて）またはEメールで対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	【ガイダンス】【導入講義】	授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
2	第一部 水9/23	【フランスの全体理解】【発音】	第3章 フランス (1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
3	第一部 水9/30	【フランスの文化】【受動態】	第3章 フランス (1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。受動態の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、受動態を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
4	第一部 水10/7	【フランスの文化】【仮定法】	第3章 フランス (1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。仮定法の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、仮定法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
5	第一部 水10/14	【フランスの文化】【話法】	第3章 フランス (1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。話法の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、話法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
6	第一部 水10/21	【フランスの文化】【不定詞】	第3章 フランス (2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。不定詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、不定詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	【フランスの文化】【分詞】	第3章 フランス（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。分詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、分詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
8	第一部 水11/11	【フランスの文化】【動名詞】	第3章 フランス（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。動名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、動名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
9	第一部 水11/18	【フランスの文化】【名詞】	第3章 フランス（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
10	第一部 水11/25	【フランスの文化】【代名詞】	第3章 フランス（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。代名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスの歴史と文化を理解し、代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランスの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
11	第一部 水12/2	【イタリアの文化】【冠詞】	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。冠詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、イタリアの歴史と文化を理解し、冠詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、イタリアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
12	第一部 水12/9	【イタリアの文化】【形容詞】	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。形容詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、イタリアの歴史と文化を理解し、形容詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、イタリアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	【イタリアの文化】【副詞】	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。副詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、イタリアの歴史と文化を理解し、副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、イタリアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	第一部 水12/23	【イタリアの文化】【比較】	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。比較の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、イタリアの歴史と文化を理解し、比較の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、イタリアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	第一部 水1/13	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、フランスとイタリアの歴史と文化を理解し、各英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Polite Fictions in Collision	坂本ナンシー・坂本示洋	金星堂	2010	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	言語行動とは？	Chapter 6 (Being Original)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	前期を振り返り、後期の英語学習に向けての目標を考える。指定された課題の予習をする。	30分
		事後学修	弱点ノートを作成する。（要点の整理・理解）	30分
2	9/23	日英語の言語行動	Chapter 6 (Being Original)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定された課題の予習をする。	30分
		事後学修	弱点ノートを作成する。（要点の整理・理解）	30分
3	9/30	日英語の言語行動	Chapter 7 (Questions, Questions!)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定された課題の予習をする。	30分
		事後学修	弱点ノートを作成する。（要点の整理・理解）。	30分
4	10/7	言語と社会	Chapter 7 (Questions, Questions!)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の構造を理解するために、基本的な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
5	10/14	言語と社会	Chapter 8 (Answer to the Point!)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
6	10/21	言語と社会	Chapter 8 (Answer to the Point!)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の構造を理解するために、基本的な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	言語と文化	Chapter 9 (Conversational Ballgames)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
8	11/11	言語と文化	Chapter 9 (Conversational Ballgames)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の構造を理解するために、応用レベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
9	11/18	言語と文化	Chapter 10 (Don't Apologize!)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
10	11/25	異文化コミュニケーションの諸問題	Chapter 10 (Don't Apologize!)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の構造を理解するために、応用レベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
11	12/2	異文化コミュニケーションの諸問題	Chapter 11 (Nobody Told Me!)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英文の内容を的確に把握するために、高度な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
12	12/9	異文化コミュニケーションの諸問題	Chapter 11 (Nobody Told Me!)を読み、異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の構造を理解するために、応用レベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	異文化コミュニケーションの諸問題	日英語のPolitenessの比較と授業の総括	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英文の内容を的確に把握するために、高度な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。	30分
14	12/23	日英語の言語行動	授業内試験及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	Chapter 11までに学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。	60分
		事後学修	間違えた箇所を復習する。	30分
15	1/13	日英語の言語行動	試験の講評と1年間の授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	講義全体を確認し、復習する。	30分
		事後学修	1年を通して学習したことを踏まえ、さらに英語力をつける努力しつつ、次年度の英語の授業に備える。	30分

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
授業は演習形式で行い、1回の授業でChapterを一つ終わらす。Readingを中心に、ExerciseはVoocabulary, Comprehension Questionsを行う。学生が1人または2~3人のグループでReading, Voocabulary, Comprehension Questionsを発表する。その後で解答と解説を教師が行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、またはグループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Making Sense of the World	Francois de Soete	成美堂	2014年度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 1250, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日 (火)	ガイダンス、導入授業	英語Bの履修についての説明と注意、他	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英語Bの概要を理解して今後の目標を立てることが出来る。	
		事前学修	シラバスとテキストをよく読み、授業全体で行うことを理解する。	30分
		事後学修	授業に関しての説明を再度チェックする。授業のガイダンスで聞いたことを参考に前期にどのように勉強して英語力を高めるのか計画を立てる。	30分
2	4月14日 (火)	Chapter 11	p. 51の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 11の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。	
		事前学修	p. 51の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめる。	30分
		事後学修	p. 51の英文とReadingの事前学修で分からなかったところを中心に直す。	30分
3	4月21日 (火)	Chapter 11	Readingの復習。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	Readingの英文の内容の理解を深め、語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
4	4月28日 (火)	Chapter 12	p. 56の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 12の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 56の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめる。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
5	5月5日 (火)	Chapter 13	p. 61の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 13の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 61の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめる。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
6	5月12日 (火)	Chapter 14	p. 66の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 14の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 66の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめる。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日 (火)	Chapter 15	p. 71の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 15の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 71の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
8	5月26日 (火)	Chapter 11 -Chapter 15の復習	Chapter 11 -Chapter 15の復習小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して小テストを受験することでChapter 11 -Chapter 15の英文の内容、語彙、文法事項をどれだけ理解しているのか確認できる。	
		事前学修	Chapter 11 -Chapter 15の英文を読み直し、授業で大切だと大切だと説明されたことを見直して質問に備える。	30分
		事後学修	試験に出たところで間違えたところを中心に復習。14回目の学期末試験に対応できるようにしておく。	30分
9	6月2日 (火)	Chapter 16	p. 76の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 16の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 76の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
10	6月9日 (火)	Chapter 17	p.81の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 17の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 81の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
11	6月16日 (火)	Chapter 18	p. 86の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 18の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 86の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
12	6月23日 (火)	Chapter 19	p. 91の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 19の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 91の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日 (火)	Chapter 20	p. 96の英文の内容の確認とReadingの英文の内容、語彙、文法事項の確認。Vocabulary, Comprehension Questionsの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してChapter 20の英文をの内容を正確に把握して説明することが出来る。語彙や文法事項を確認して本文の内容に関する質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	p. 96の英文とReadingの英文を読んで分からない語を辞書で調べて、内容をまとめておく。Vocabulary, Comprehension Questionsの問題を解く	30分
		事後学修	Readingの英文の内容を再確認して事前学修でVocabulary, Comprehension Questionsの間違ったところを中心に復習。	30分
14	7月7日 (火)	前期試験及び解答と解説。	Unit 11- 20の試験。その後解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してテストを受験することでChapter 11 -Chapter 20の英文の内容、語彙、文法事項をどれだけ理解しているのか確認できる。	
		事前学修	Unit 11- 20を復習して、語（句）を覚えたり、授業の時に分からなかった英文等を中心に見直して試験に備える。	120分
		事後学修	試験に出たところを中心に復習。	30分
15	7月14日 (火)	リーディングのプリント	リーディングのプリントを読んで内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して辞書を使わず、英文の内容を正確にとらえて説明することが出来る。	
		事前学修	テキストのReadingをいくつか選んで、英文の内容を辞書を使用せず日本語でまとめる。	30分
		事後学修	授業で読んだリーディングの英文を読み直す。	30分

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
演習形式で行う。テキストの英文のCDを聴いて発音等を確認する。その後で英文を正確に読むために語彙、熟語の意味の確認をしながら、英文の内容を確認する。英文の内容やExercisesの解答は学生が一人、または2・3人のグループで自主的に発表する。その後Exercisesの解答と解説をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Pass 2 (Second Edition)	Andrew E. Bennett	南雲堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 10:30 - 40 木曜日12:30 - 12:50 / 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日 (火)	ガイダンス/リーディングのプリント	英語4に関する説明と注意 リーディングのプリントを読んで内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英語Bを概要を理解して、重要な点を踏まえながら今後の目標を立てることが出来る。。	
		事前学修	テキストを見て、英語Bで学習するところを確認する。	15分
		事後学修	授業で説明されたことを再度確認して、後期に英語Bをどのように学ぶか計画を立てる。	15分
2	9月22日 (火)	Unit 11	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文の内容を正しく理解して、英語の質問に英語で正確に答えることが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Articleの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Articleの間違ったところを見直す。	30分
3	9月29日 (火)	Unit 11	Vocabulary Building, Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activity, の解答と解説。Discussion Questionsに対する自分の意見を英語で書く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して語彙や文法的知識を高めて、リスニング力を向上させることが出来る。与えられたテーマに対して自分の意見を英語で表現することができる。	
		事前学修	Vocabulary Building, Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activityの問題を解く。	30分
		事後学修	Vocabulary Building, Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activityの復習をする。	30分
4	10月6日 (火)	Unit 13	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Phrase Building, Grammar Exercisesの解答と解説。Discussion Questionsに対する自分の意見を英語で書く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文を正しく理解して、英語の質問に正確に答える。与えられたテーマに対して自分の意見を英語で表現することが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Articleの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Phrase Building, Grammar Exercisesを復習する。	30分
5	10月13日 (火)	Unit 14	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Vocabulary Building, Grammar Exerciseの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文を正しく理解して、英語の質問に正確に答える。語彙や文法的知識を身につけることが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Article, Vocabulary Building, Grammar Exerciseの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Vocabulary Building, Grammar Exercisesを復習する。	30分
6	10月20日 (火)	Unit 15	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Phrase Building, Grammar Exercise, Listening Exerciseの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文を正しく理解して、英語の質問に正確に答える。語彙や文法的知識を高めて、英語の音声聴いて内容を理解することが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Article, Phrase Building, Grammar Exerciseの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Phrase Building, Grammar Exerciseの間違ったところを見直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日 (火)	Unit 16	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Phrase Building, Grammar Exercise, Listening Activityの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文を正しく理解して、英語の質問に正確に答える。語彙や文法的知識を高めて、英語の音声聴いて内容を理解することが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Article, Phrase Building, Grammar Exerciseの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Phrase Building, Grammar Exerciseの間違ったところを見直す。	30分
8	11月10日 (火)	Unit 17	ペアになった相手にPre-Reading Questionsの3つの質問をして相手の答えを書きとる。Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文を正しく理解して、英語の質問に正確に答えることが出来る。	
		事前学修	Pre-Reading Questionsの質問に対する答えを考える。Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Articleの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Articleの間違ったところを見直す。	30分
9	11月17日 (火)	Unit 17	Vocabulary Building, Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activity, の解答と解説。Discussion Questionsに対する自分の意見を英語で書く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して語彙や文法的知識を高めて、英語の音声聴いて内容を理解することが出来る。与えられたテーマに対して自分の意見を英語で表現することができる。	
		事前学修	Vocabulary Building,, Grammar Exerciseの問題を解く。	30分
		事後学修	Vocabulary Building, Grammar Exerciseの間違ったところを見直す。Listening Exercise, Listening Activityの内容を再確認する。	30分
10	11月24日 (火)	Unit 19	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activityの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文を正しく理解して、英語の質問に正確に答える。語彙や文法的知識を身につけ、英語の音声聴いて内容を理解することが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Articleの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Grammar Exerciseの間違ったところを見直す。Listening Exercise, Listening Activityの内容を再確認する。	30分
11	12月1日 (火)	Unit 20	Reading passageの英文の内容を確認して重要な語句と英文を和訳する。Reading passageの内容を確認しながらQuestions about the Reading, Writing about the Articleの解答と解説。Vocabulary Buildingの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して英文を正しく理解して、英語の質問に正確に答える。語彙や文法的知識を身につけることが出来る。	
		事前学修	Reading passageの英文の内容を確認して意味の分からない語（句）を辞書で調べて英文を和訳した後、Questions about the Reading, Writing about the Article, Vocabulary Buildingの問題を解く。	30分
		事後学修	Reading passage, Questions about the Reading, Writing about the Article, Vocabulary Buildingを事前学習で間違えたところを見直す。	30分
12	12月8日 (火)	Unit 20	Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activity, の解答と解説。Discussion Questionsに対する自分の意見を英語で書く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して語彙や文法的知識を高めて、英語の音声聴いて内容を理解することが出来る。	
		事前学修	Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activityの問題を解く。Discussion Questionsに対する自分の意見を英語で書く。	30分
		事後学修	Grammar Exercise, Listening Exercise, Listening Activityを事前学習で間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日 (火)	Unit 11 - 20	Unit 11 - 20のReading passageの復習。Unit 13/15/16: Vocabulary Buildingの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して後期に学んだテキストの英文を辞書を使わずに英文の内容を説明することが出来る。	
		事前学修	Unit 1 - 10のReading passageの授業で重要と説明されたところを中心に見直す。Unit 13/15/16: Vocabulary Buildingの問題を解く。	30分
		事後学修	Unit 13/15/16: Vocabulary Buildingを再度解いて見直しする。Reading passageを再度読み直して重要なところをまとめる。	30分
14	12月22日 (火)	後期試験、振り返り	後期試験及び解答と解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して後期試験を受験することで必要な語彙、文法的知識、英文読解の力を身につけることが出来る。	
		事前学修	後期に学んだ重要点を中心にUnit 11- 20を復習して試験の準備をする。	120分
		事後学修	試験に出題されたところを中心に復習する。	30分
15	1月12日 (火)	後期のまとめ	リーディングのプリント	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して辞書を使わず英文の内容を正確に把握して説明できる。	
		事前学修	後期に学んだ重要点を中心にテキストの英文を読み直す。。	30分
		事後学修	授業で読んだプリントの英文を読み直す。	30分

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス (上級)	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト，試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Chicken Soup for the Soul	Jack Canfield他	金星堂	1997	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	い い ず な 書 店 編 集 部	い い ず な 書 店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	第一部 金9/25	動詞と文型	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 3（動詞と文型（2））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，動詞と文型に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 3（動詞と文型（2））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	第一部 金10/2	The Smile（1）	The Smileの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に並列・倒置に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
4	第一部 金10/9	The Smile（2）	The Smileの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に並列・倒置に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
5	第一部 金10/16	The Smile（3）	The Smileの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について，ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に並列・倒置に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して，英文の内容について，他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
6	第一部 金10/23	A Simple Gesture（1）	A Simple Gestureの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に不定詞に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	第一部 金10/30	A Simple Gesture (2)		A Simple Gestureの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に不定詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。		
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。		
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。		
8	第一部 金11/6	A Simple Gesture (3)		A Simple Gestureの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に不定詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。		
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。		
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。		
9	第一部 金11/13	Nothing but Problems (1)		Nothing but Problemsの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に接続詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。		
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。		
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。		
10	第一部 金11/20	Nothing but Problems (2)		Nothing but Problemsの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に接続詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。		
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。		
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。		
11	第一部 金11/27	Nothing but Problems (3)		Nothing but Problemsの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に接続詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。		
		事前学修	到達目標①②に関連して、特に接続詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。		
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。		
12	第一部 金12/4	See You in the Morning (1)		See You in the Morningの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。		
		事前学修	到達目標①②に関連して、特に省略に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。		
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	See You in the Morning (2)	See You in the Morningの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に省略に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
14	第一部 水12/18	See You in the Morning (3)	See You in the Morningの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に省略に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
15	第一部 金12/25	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期の授業内容の総復習をしておく。	45分
		事後学修	前期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。	15分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト，試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Chicken Soup for the Soul	Jack Canfield他	金星堂	1997	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	い い ず な 書店編集部	い い ず な 書店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	第一部 水9/23	動詞と文型	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 3（動詞と文型（2））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，動詞と文型に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 3（動詞と文型（2））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	第一部 水9/30	The Smile（1）	The Smileの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に並列・倒置に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
4	第一部 水10/7	The Smile（2）	The Smileの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に並列・倒置に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
5	第一部 水10/14	The Smile（3）	The Smileの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について，ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に並列・倒置に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して，英文の内容について，他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
6	第一部 水10/21	A Simple Gesture（1）	A Simple Gestureの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に不定詞に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	A Simple Gesture (2)	A Simple Gestureの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に不定詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
8	第一部 水11/11	A Simple Gesture (3)	A Simple Gestureの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に不定詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
9	第一部 水11/18	Nothing but Problems (1)	Nothing but Problemsの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に接続詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
10	第一部 水11/25	Nothing but Problems (2)	Nothing but Problemsの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に接続詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
11	第一部 水12/2	Nothing but Problems (3)	Nothing but Problemsの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に接続詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、特に接続詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
12	第一部 水12/9	See You in the Morning (1)	See You in the Morningの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、特に省略に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	See You in the Morning (2)	See You in the Morningの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に省略に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
14	第一部 水12/23	See You in the Morning (3)	See You in the Morningの終盤を輪読形式で読み進める。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に省略に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	45分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	15分
15	第一部 水1/13	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期の授業内容の総復習をしておく。	45分
		事後学修	前期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。	15分

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
英語で書かれた教材をクラスで演習形式で読み、読んだことについての質問に答える。内容重視の授業。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワークなどで演習する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Fusion 1	Andrew E. Bennett	Nan'un-Do	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜10:30～講堂にて。授業の前後で質問してください。アポイントメントを取る場合にも授業の前後で相談してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ウォームアップ 導入講義	夏休みにやった特別なことのプレゼンテーション	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、夏休みにやったことを英語でプレゼンテーションできる。	
		事前学修	夏休みにやったことを考えてくる。	30分
		事後学修	プレゼンテーションで注意されたことを復習する。	30分
2	9/25	7. Food Safety	本文の内容理解	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、食の安全についての内容を理解できる。	
		事前学修	56頁から59頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
3	10/2	7. Food Safety	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、食の安全についての内容がきちんと理解でき、自分でどのようなことに気をつけているかについて意見を表明できる。	
		事前学修	56頁から59頁に出ている単語のテストの勉強をする。 60頁から63頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
4	10/9	8. Spending a Fortune	単語テスト 本文の内容理解	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、有名人がどのようにお金を使うようになるのか理解できる。	
		事前学修	60頁から63頁に出ている単語のテストの勉強をする。 64頁から67頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
5	10/16	8. Spending a Fortune	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、有名人がどのようにお金を使うようになるのかきちんと理解でき、自分のお金の使い方に関して意見を表明できる。	
		事前学修	64頁から67頁に出ている単語のテストの勉強をする。 68頁から71頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
6	10/23	9. Wonders of the Deep	単語テスト 本文の内容理解	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、海の中の世界がどのようになっているか理解できる。	
		事前学修	68頁から71頁に出ている単語のテストの勉強をする。 72頁から75頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10／30	9. Wonders of the Deep	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、海の中の世界がどのようなになっているかきちんと理解でき、海の中のどのような生き物に会いたいのかについて自分の意見を表明できる。	
		事前学修	72頁から75頁に出ている単語のテストの勉強をする。 76頁から79頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
8	11／6	1 0. Product Placement	単語テスト 本文の内容理解	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、映画などの中でどのように製品が使われているのかについて理解できる。	
		事前学修	76頁から79頁に出ている単語のテストの勉強をする。 80頁から83頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
9	11／13	1 0. Product Placement	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、映画などの中でどのように製品が使われているのかについてきちんと理解でき、気がついたことのある映画の中の製品について自分の意見が表明できる。	
		事前学修	80頁から83頁に出ている単語のテストの勉強をする。 84頁から87頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
10	11／20	1 1. White-collar Crime	単語テスト 本文の内容理解	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホワイトカラークライムについての理解ができる。	
		事前学修	84頁から87頁に出ている単語のテストの勉強をする。 88頁から91頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
11	11／27	1 1. White-collar Crime	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホワイトカラークライムについてきちんと理解でき、どのようなことに気をつけたらいいかについて自分の意見が表明できる。。	
		事前学修	88頁から91頁に出ている単語のテストの勉強をする。 92頁から95頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
12	12／4	1 2. Working Disabled	単語テスト 本文の内容理解	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、働く障がい者について理解できる。	
		事前学修	92頁から95頁に出ている単語のテストの勉強をする。 96頁から99頁までの未習の単語を調べ、本文を予習する。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12／11	1 2. Working Disabled	単語テスト 内容理解の確認と自分の意見の表明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、働く障がい者についてきちんと理解でき、どのようにすれば働く障がい者が働きやすくなるかについて意見を表明できる。	
		事前学修	96頁から99頁に出ている単語のテストの勉強をする。 100頁から103頁までの未習の単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	授業で学んだところを音読して、自分で訳してみる。	30分
14	12／18	後期試験と振り返り	テキストの後期試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだ単語や文章理解のテクニックを身につけることができる。	
		事前学修	試験の範囲を勉強する。	120分
		事後学修	試験の復習をし、分からなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	12／25	後期の振り返り	テスト返却 後期の授業を振り返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことを振り返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	後期にテキストで学んだところで分からなかったところを調べておく。	30分
		事後学修	来年度以降の英語の勉強の計画を立てる。	30分

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	瀧野 みゆき	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
英語の素材を読み、内容や表現を理解する練習を多様なテーマの素材を使って行います。 授業の後半で読むテキストについては、授業の前に指定されたユニットを繰り返し読み、内容を理解してきてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に英語を書き、ペア、またはグループで練習する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に小テストの結果、およびレポートについてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
究極の英語リーディングVol. 2	アルク 英語出版編集部	アルク	2014	教科書	必携
備考	ISBN-10：4757424663ISBN-13：978-4757424661				

【オフィスアワー】
原則として授業終了後（火曜：昼休み）。授業講堂にて。詳細は授業で指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 英語コミュニケーションを伴う業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実践現場を考えた英語コミュニケーションの練習

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火 9/15	ガイダンス Daily Life Level 2	ガイダンス：リーディング力を伸ばすには、英語の読みの練習方法、授業の進め方、事前・事後学習の説明 リーディングミニテストの練習・Daily Lifeに関するリーディングの練習をする。	
		この回の到達目標	授業の進め方を理解する。小テストの練習を通して、予習復習の内容を理解する。 到達目標①②に関連して、Daily Lifeに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの購入と内容の確認（30分）	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
2	Places第一部 火 9/22	Places Level 2	Placesに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Placesに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
3	第一部 火 9/29	People Level 2	Peopleに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Peopleに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
4	第一部 火 10/6	Travel Level 2	Travelに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Travelに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
5	第一部 火10/13	Business Level 2	Businessに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Businessに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
6	第一部 火10/20	Office Level 2	Officeに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Officeに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	Technology Level 2	Technologyに関するリーディングの練習をするリーディング レポート提出 一回目 （詳細は授業で指示します）	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、Technologyに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
8	第一部 火11/10	Personnel Level 2	Personnelに関するリーディングの練習をする	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、Personnelに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
9	第一部 火11/17	Management Level 2	Managementに関するリーディングの練習をする	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、Managementに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
10	第一部 火11/24	Purchasing Level 2	Purchasingに関するリーディングの練習をする	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、Purchasingに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
11	第一部 火12/1	Finances Level 2	Financesに関するリーディングの練習をする	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、Financesに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
12	第一部 火12/8	Media	Mediaに関するリーディングの練習をする	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、Mediaに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	Entertainment Level 2	Entertainmentに関するリーディングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Entertainmentに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
14	第一部 火12/22	Restaurant Level 2	Restaurantに関するリーディングの練習をする リーディングレポート提出 二回目（詳細は授業で指示します）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Restaurantに関する英語表現を読み、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分
15	第一部 火1/18	まとめ、今後の勉強	まとめ・フィードバック 今後の英語学習の方法	
		この回の到達目標	授業で学んだ内容を確認し、理解する。 今後の英語学習の方法を理解する。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習・授業内容の復習。	30分

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。毎回英単語を含む小テストを実施する。また、2回の課題レポート提出を課します。小テスト、課題とも次回の授業で返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	配布等した資料から、欧米の思考形式に関して、グループで話し合い、その結果をレポートする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次週にコメント入れ返却する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
読解力をみがく基本英文法	福井 慶一郎	朝日出版社	2015		
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、小石裕子	アルク	2016		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12：10～13：00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、レポートの書き方の確認	
		この回の到達目標	前期学習した文法項目を確認し、後期学習の下準備ができる。	
		事前学修	前期文法事項の確認をする。	30分
		事後学修	レポートの書き方、小テストの形式の再確認をする。	30分
2	9/23	不定詞の学習	不定詞について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	不定詞の基本的な用法を理解し、読解に利用することができる。	
		事前学修	Unit 12（不定詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 12の復習をする。	30分
3	9/30	不定詞の文圧縮の学習	小テスト1 不定詞（形式主語など）について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	文から名詞構文への圧縮機能を理解しに、読解に反映できる。	
		事前学修	単語551-600を暗記し、Unit 13（不定詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 13の復習をする。	30分
4	10/7	動名詞の学習	小テスト2 動名詞について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	動名詞と不定詞の相違から、英語での他認識の概念を取得できる。	
		事前学修	単語601-650を暗記し、Unit 16（動名詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 16の復習をする。	30分
5	10/14	動名詞構文の学習	小テスト3 動名詞（時制）について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	文から名詞構文への圧縮機能を理解しに、読解に反映できる。	
		事前学修	単語651-700を暗記し、Unit 17（動名詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 17の復習をする。	30分
6	10/21	分詞の学習	小テスト4 分詞について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	分詞の限定用法を理解し、動名詞との相違を把握できる。	
		事前学修	単語701-750、Unit 14（分詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 14の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	分詞構文の学習	小テスト5 分詞構文について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	分詞構文を活用して、情報の圧縮化を理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	単語751-800を暗記し、Unit 15（分詞構文）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 15の復習をする。	30分
8	11/11	比較構文の学習	小テスト6 比較について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	日本部との比較により、英語での比較の基本である、文情報の提示を理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	単語801-850を暗記し、Unit 20（比較）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 20の復習をする。	30分
9	11/18	関係代名詞の学習	小テスト7 関係代名詞について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	文による限定構文を理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	単語851-900を暗記し、Unit 23（関係詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 23の復習をする。	30分
10	11/25	関係副詞の学習	小テスト8 関係副詞について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	独立文での限定構文を理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	単語901-950を暗記し、Unit 24（関係詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 24の復習をする。	30分
11	12/2	仮想表現の学習	小テスト9 英語の仮想を理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	仮想表現の原理を理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	単語951-1000を暗記し、Unit 25（仮定法）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 25の復習をする。	30分
12	12/9	仮想提示の学習	仮想表現での前提条件部分の省略について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	仮想提示の前提条件の提示のバリエーションを理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	Unit 26（仮定法）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 26の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	これまでの学習の確認	これまでの授業の確認により、自己達成度の向上	
		この回の到達目標	これまで扱ってきた学習内容の達成度を自ら確認し、自己修正できる。	
		事前学修	これまでの授業で扱った事項のチェックする。	60分
		事後学修	配布プリントの確認をする。	30分
14	12/23	英語圏の思考形式の学習	英語圏の文化を分析し、その事項を明記する。	
		この回の到達目標	英語圏の思考形式の一つである、概念を押さえ、英語圏の人々の行動原理を解説できる。	
		事前学修	英語圏の文化を調査を、思考形式を念頭に置いて調べる。	30分
		事後学修	英語圏の文化の確認をする。	30分
15	1/13	英語圏の文化と文法項目の確認	小テスト10 英語圏の文化、これまでの授業の解説を行う。	
		この回の到達目標	英語圏との人々の思考形式と後期学習した英文構造の関連性を理解できる。	
		事前学修	単語990 - 1005/1-200を暗記する。	30分
		事後学修	後期の文法事項で理解が不十分であった箇所を確認する。（30分）	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。毎回英単語を含む小テストを実施する。また、2回の課題レポート提出を課します。小テスト、課題とも次回の授業で返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	配布等した資料から、欧米の思考形式に関して、グループで話し合い、その結果をレポートする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次週にコメント入れ返却する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
読解力をみがく基本英文法	福井 慶一郎	朝日出版社	2015		
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、小石裕子	アルク	2016		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12：10～13：00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス	授業の進め方、レポートの書き方の確認	
		この回の到達目標	前期学習した文法項目を確認し、後期学習の下準備ができる。	
		事前学修	前期文法事項の確認をする。	30分
		事後学修	レポートの書き方、小テストの形式の再確認をする。	30分
2	9/23	不定詞の学習	不定詞について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	不定詞の基本的な用法を理解し、読解に利用することができる。	
		事前学修	Unit 12（不定詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 12の復習をする。	30分
3	9/30	不定詞の文圧縮の学習	小テスト1 不定詞（形式主語など）について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	文から名詞構文への圧縮機能を理解しに、読解に反映できる。	
		事前学修	単語551-600を暗記し、Unit 13（不定詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 13の復習をする。	30分
4	10/7	動名詞の学習	小テスト2 動名詞について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	動名詞と不定詞の相違から、英語での他認識の概念を取得できる。	
		事前学修	単語601-650を暗記し、Unit 16（動名詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 16の復習をする。	30分
5	10/14	動名詞構文の学習	小テスト3 動名詞（時制）について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	文から名詞構文への圧縮機能を理解しに、読解に反映できる。	
		事前学修	単語651-700を暗記し、Unit 17（動名詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 17の復習をする。	30分
6	10/21	分詞の学習	小テスト4 分詞について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	分詞の限定用法を理解し、動名詞との相違を把握できる。	
		事前学修	単語701-750、Unit 14（分詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 14の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	分詞構文の学習	小テスト5 分詞構文について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	分詞構文を活用して、情報の圧縮化を理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	単語751-800を暗記し、Unit 15（分詞構文）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 15の復習をする。	30分
8	11/11	比較構文の学習	小テスト6 比較について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	日本部との比較により、英語での比較の基本である、文情報の提示を理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	単語801-850を暗記し、Unit 20（比較）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 20の復習をする。	30分
9	11/18	関係代名詞の学習	小テスト7 関係代名詞について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	文による限定構文を理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	単語851-900を暗記し、Unit 23（関係詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 23の復習をする。	30分
10	11/25	関係副詞の学習	小テスト8 関係副詞について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	独立文での限定構文を理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	単語901-950を暗記し、Unit 24（関係詞）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 24の復習をする。	30分
11	12/2	仮想表現の学習	小テスト9 英語の仮想を理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	仮想表現の原理を理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	単語951-1000を暗記し、Unit 25（仮定法）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 25の復習をする。	30分
12	12/9	仮想提示の学習	仮想表現での前提条件部分の省略について理解し、問題を解答できる。	
		この回の到達目標	仮想提示の前提条件の提示のバリエーションを理解し、読解に反映できる。	
		事前学修	Unit 26（仮定法）の例文を確認する。	30分
		事後学修	Unit 26の復習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	これまでの学習の確認	これまでの授業の確認により、自己達成度の向上	
		この回の到達目標	これまで扱ってきた学習内容の達成度を自ら確認し、自己修正できる。	
		事前学修	これまでの授業で扱った事項のチェックする。	60分
		事後学修	配布プリントの確認をする。	30分
14	12/23	英語圏の思考形式の学習	英語圏の文化を分析し、その事項を明記する。	
		この回の到達目標	英語圏の思考形式の一つである、概念を押さえ、英語圏の人々の行動原理を解説できる。	
		事前学修	英語圏の文化を調査を、思考形式を念頭に置いて調べる。	30分
		事後学修	英語圏の文化の確認をする。	30分
15	1/13	英語圏の文化と文法項目の確認	小テスト10 英語圏の文化、これまでの授業の解説を行う。	
		この回の到達目標	英語圏との人々の思考形式と後期学習した英文構造の関連性を理解できる。	
		事前学修	単語990 - 1005/1-200を暗記する。	30分
		事後学修	後期の文法事項で理解が不十分であった箇所を確認する。（30分）	30分

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。原則、英語Aと通年で履修してください。30分以上の遅刻は欠席とします。

【授業方法】
授業に積極的に参加することが求められます。 グループワーク中心です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを中心に進め、グループやペアによるディスカッション、プレゼンテーションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でテストの解説、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Identity	Shauls, Tsujioka, Iida	Oxford University Press	2004	教科書	必携
A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions		Nan’undo	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に講堂に来てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	communication styles 1	different ways of communication	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、文化によるコミュニケーションストラテジーの違いを考察する	
		事前学修	課題 discovery in summer	30分
		事後学修	ジャーナル 1 授業振り返り	30分
2	第一部 水9/23	communication styles 2	communication styles in business	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、職場におけるコミュニケーションストラテジーの違いを考察する	
		事前学修	課題 counseling	30分
		事後学修	ジャーナル 2 授業振り返り	30分
3	第一部 水9/30	gender and culture 1	differences between men and women	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、文化によるジェンダーのとらえ方を考察する	
		事前学修	課題 daily events	30分
		事後学修	ジャーナル 3授業振り返り	30分
4	第一部 水10/7	gender and culture 2	gender and profession	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、職業とジェンダーについて考察する	
		事前学修	課題 social issues	30分
		事後学修	ジャーナル 4 授業振り返り	30分
5	第一部 水10/14	diversity 1	different cultures in a country and a region	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、文化の多様性を理解する	
		事前学修	課題 news report	30分
		事後学修	ジャーナル 5 授業振り返り	30分
6	第一部 水10/21	diversity 2	prejudice and stereotypes	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、異なる文化における偏見について考察する	
		事前学修	課題 diversity in Japan	30分
		事後学修	ジャーナル 6 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	social change 1	traditions and changes	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、社会問題を考察する	
		事前学修	課題 news report	30分
		事後学修	ジャーナル 6 授業振り返り	30分
8	第一部 水11/11	social change 2	discrimination, Nelson Manderla	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、偏見と差別について考察する	
		事前学修	課題 your opinion	30分
		事後学修	ジャーナル 7 授業振り返り	30分
9	第一部 水11/18	projects 1	group presentations on social themes	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、グループで社会問題を紹介する	
		事前学修	課題 project preparation	30分
		事後学修	ジャーナル 8 授業振り返り	30分
10	第一部 水10/25	projects 2	group presentations on social themes	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、グループで社会問題を紹介する	
		事前学修	課題 project preparation, evaluation	30分
		事後学修	ジャーナル 9 授業振り返り	30分
11	第一部 水12/2	global community 1	global citizen	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、グローバル社会について考察する	
		事前学修	課題 current events	30分
		事後学修	ジャーナル 10 授業振り返り	30分
12	第一部 水12/9	global community 2	working in a global society	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、グローバル社会の問題について考察する	
		事前学修	課題 good leader	30分
		事後学修	ジャーナル 11 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水10/14	TOEIC test 1	practice TOEIC test	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEICの語彙、文法を識別する	
		事前学修	課題 grammar review	30分
		事後学修	ジャーナル 12授業振り返り	30分
14	第一部 水10/23	後期の振り返りとTOEIC test	Identity as a global citizen, TOEIC practice	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、自己のアイデンティティを考察する。TOEICの語彙、文法を識別する。	
		事前学修	後期学習の復習	30分
		事後学修	到達度の振り返り	30分
15	第一部 水1/13	まとめ	final exam	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、授業内容の理解を深める	
		事前学修	vocabulary, grammar review	30分
		事後学修	ジャーナル 13 まとめ	30分

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。スマートフォンや携帯などの端末の利用は厳禁です。

【授業方法】
本文、問題文の音読、解説および訳を学生が担当します。毎回、全員が一度は発表しますので、事前予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は間違った箇所をノートにまとめ、事後学習をしましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評・解説は授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』	穂 寛美 他	成美堂	19年		
『5分間 新TOEICテストリスニング 550』	片野田 浩子	南雲堂	14年度		
『5分間 新TOEICサプリメント 文法語法』	小池 直己	南雲堂	14年度		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	前期の項目の復習	Orientation 授業の方法についてレクチャーをします。授業に関する質問に答えます。オリエンテーションの後、授業をしますので、教科書および英和・和英辞書を用意してください。Unit 1～6 と文法section 1～3 について復習をします。	
		この回の到達目標	前期までの項目を復習し、後期の授業に備えて、不明な点を明白にする。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit 1～1 0 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1 度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)	30分
2	水9・23	Tourism: Travel and Air	Unit 1 1 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『TOEICテストサブリメント』Section 4 の1～1 4 から扱います。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 1	
		この回の到達目標	Part3 (会話問題) では文の真の意味、話者の意図を知る。真意を聞き取る為、ストーリーを把握しよう。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit 1 1 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1 度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)	30分
3	水9・30	Tourism: Travel and Air	Unit 1 1 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『TOEICテストサブリメント』Section 4 の1 5～3 0 を扱います。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 2	
		この回の到達目標	Part6 (長文穴埋め問題) ではストーリーの流れを理解できる。結論を述べる表現を知ろう。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit 1 1 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1 度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)	30分
4	水10・7	Tourism: Hotels	Uni 1 2 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『TOEICテストサブリメント』Section 4 3 1－4 6 を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 3	
		この回の到達目標	part4(説明文問題)) では図表・グラフィックの見方が理解できる。図表の中にある情報をヒントにして説明文を聞き取り理解することができる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit 1 2 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1 度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)	30分
5	水10/14	Tourism: Hotels	Uni 1 2 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『TOEICテストサブリメント』Section 5 の4 7－6 2 を扱います。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 4	
		この回の到達目標	part7 (読解問題) ストーリーの流れ：追加、結論の表現の使い方に強くなろう。文章のまとめ方を理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit 1 2 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1 度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
6	水10/21	Home AppliancesとRecreation	Uni 1～2『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section 6の1～14『TOEICテストサプリメント』を扱います。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題15
		この回の到達目標	授業内で扱った問題に関連する。TOEIC問題を解いて、60%以上正解する。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit1～2の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
7	水10/28	RestauoantsとBusiness	Uni 3～4『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』前回箇所を復習して、問題を解いていきます。 Section 6の15～30『TOEICテストサプリメント』を扱います。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題16
		この回の到達目標	授業内で扱った問題に関連する。TOEIC問題を解いて、60%以上正解する。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit3-4の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(30分)(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
8	水11/11	TOEIC Test まとめ	TOEICのリーディングのテストを本番と同じ条件で行います。
		この回の到達目標	リーディングのスコア200点以上を獲得する。
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで過去問題に目をとおしておく、授業時の備えになります。(30分)
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
9	水11/18	TOEIC Test まとめ	TOEICのリスニングのテストを本番と同じ条件で行います。
		この回の到達目標	リスニングのスコア200点以上を獲得する。
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで過去問題に目をとおしておく、授業時の備えになります。(30分)
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
10	水11/25	HousingとBusiness	Unit 5～6『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section 6の31～46『TOEICテストサプリメント』を扱います。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題17
		この回の到達目標	授業内で扱った問題に関連する。TOEIC問題を解いて、60%以上正解する。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit5-6の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
11	水12/2	Bank & Post Office とJob Hunting	Unit7-8『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『TOEICテストサプリメント』を復習します。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 8
		この回の 到達目標	授業内で扱った問題に関連する。TOEIC問題を解いて、70%以上正解する。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit7-8の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)
12	水12/9	Health とTourism: Travel & Land	Unit9-10『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『TOEICテストサプリメント』の質問受付 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 9
		この回の 到達目標	授業内で扱った問題に関連する。TOEIC問題を解いて、70%以上正解する。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit9-10の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)
13	水12/16	Tourism: Travel and Airと Torusilm: Hotels	unit 11-12『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 8
		この回の 到達目標	授業内で扱った問題に関連する。TOEIC問題を解いて、70%以上正解する。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit11-12の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)
14	水12/23	試験とまとめ	前期授業のまとめ
		この回の 到達目標	前期後期の授業内で扱ったTOEICの問題を解いて80%以上正解する。
		事前学修	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。 (30分)
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点など、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)
15	水1/13	試験の解説と時事英語	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。
		この回の 到達目標	テストの総括をして、不明な点を明らかにする。英語の動画を鑑賞する。
		事前学修	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておく (30分) より一層理解が深まるので準備しておくこと。
		事後学修	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。 (30分)

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。スマートフォンや携帯などの端末の利用は厳禁です。

【授業方法】
本文、問題文の音読、解説および訳を学生が担当します。毎回、全員が一度は発表しますので、事前予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は間違った箇所をノートにまとめ、事後学習をしましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評・解説は授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』	西谷敦子	朝日出版	19年度		
『5分間 新TOEICテストリスニング 550』	片野田 浩子	南雲堂	14年度		
『5分間 新TOEICサプリメント 文法語法』	小池 直己	南雲堂	14年度		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	オリエンテーションと後期の授業計画について	Orientation 授業の方法についてレクチャーをします。授業に関する質問に答えます。オリエンテーションの後、授業をしますので、教科書および英和・和英辞書を用意してください。後期の授業内容は、リーディングを中心にを行います。	
		この回の到達目標	前期の授業で理解したことを確認し、後期の授業内容を理解して今後の学習計画と目標を立てる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit 7の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
2	水9/23	品詞	Unit R-1『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section 4 『TOEICテストサブプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題10	
		この回の到達目標	品詞の問題傾向を理解して、正解を導きだす。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit R-1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
3	水9/30	能動態と受動態	Unit R-2『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section 4 『TOEICテストサブプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題11	
		この回の到達目標	空所の位置によって区別することができることを理解する。パターンに慣れる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit R-2の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
4	水10/7	動詞の形（時制）	『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit R-3前回箇所を復習し、問題を解いていきます。Section 4 『TOEICテストサブプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題12	
		この回の到達目標	選択肢に様々な動詞が並んでいるが、それに合う時制を選ぶヒントから判断することができる。狙われる動詞の形（動名詞、完了形など）を理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit R-3の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
5	水10/14	前置詞・接続詞	Unit R-4『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section 5 『TOEICテストサブプリメント』を扱います。	
		この回の到達目標	前置詞のみが並ぶ、前置詞・接続詞・接続副詞が混在する問題など出題パターンを理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit R-4の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
6	水10/21	代名詞・関係代名詞	Unit R-5『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section5 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 3
		この回の到達目標	空所の位置から格を判断することができるようになる。関係代名詞は、空所の後ろに何があるのかを確認すること、また空所の前の先行詞は何かを判断することができる。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit R-5の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
7	水10/28	長文穴埋め問題	Unit R-6『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習して、問題を解いていきます。 Section5 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 4
		この回の到達目標	出題される二つのパターンを理解することができる。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit R-6の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
8	水11/11	TOEIC TEST まとめ	TOEICのリスニングのテストを本番と同じ条件で行います。
		この回の到達目標	TOEIC TESTの過去問に慣れる。
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで過去問題に目をとおしておく、授業時の備えになります。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
9	水11/18	TOEIC TEST まとめ	TOEICのリーディングのテストを本番と同じ条件で行います。
		この回の到達目標	TOEIC TESTの過去問に慣れる。
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで過去問題に目をとおしておく、授業時の備えになります。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
10	水11/25	広告・チャット	Unit R-7『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section5 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 5
		この回の到達目標	人材募集広告・新商品発表など、広告のパターンを理解する。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit R-7の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	水12/2	Eメールと手紙	UnitR-8『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section5 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 6	
		この回の到達目標	文書の定型パターンを押さえて探し読みを活用することができる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』UnitR-8の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
12	水12/9	告知・社内回覧	Unit R-9『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section6 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 7	
		この回の到達目標	社外の人も読む告知と、社内の人のみが閲覧する回覧の違いについて、また各々の文書のパターンを理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit R-9の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
13	水12/16	記事	Unit R-10『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section6 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 8	
		この回の到達目標	町の催し物、新規オープンの店の告知、好調なビジネスの要因など、多岐にわたる記事に慣れる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit R-10の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
14	水12/23	試験とまとめ	後期の授業内容を、どの程度理解できたかをテストします。	
		この回の到達目標	後期の授業内容について、どの程度理解しているかを試験で明白にする。	
		事前学修	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点など、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
15	水1/13	試験の解説と英語の動画	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。	
		この回の到達目標	試験での不明点や疑問点を明白にする。今後のTOEIC TESTに向けて対策をたてる	
		事前学修	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておくことでより一層理解が深まるので準備しておくこと。	30分
		事後学修	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。	30分

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
グループワークを取り入れ、発表形式で行います。 レポート課題返却時、詳細なコメントを入れてフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	特になし				

【オフィスアワー】
金曜2限終了後（１２：１０～１２：３０）、授業講堂で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 9/18	【ガイダンス】後期授業の概要の説明	前期の授業を振り返り、能動、受動英語の違いを確認。速読、速解方について学ぶ。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解へとつながる英語リーディング法を学び、それを実践することができる。	
		事前学修	シラバスの確認	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
2	第一部金 9/25	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
3	第一部金 10/2	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。 グループワークでレポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
4	第一部金 10/9	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。 グループワークでレポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
5	第一部金 10/16	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
6	第一部金 10/23	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部金 10/30	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
8	第一部金 11/6	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
9	第一部金 11/13	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
10	第一部金 11/20	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
11	第一部金 11/27	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
12	第一部金 12/4	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12/11	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
14	第一部金 12/18	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	既習事項の確認、復習	30分
15	第一部金 12/25	【定期テスト、後期授業のまとめ】	定期テスト後、解答、解説を行ない、後期授業の内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解を意識した英語リーディング法を実践できる。	
		事前学修	既習事項の確認、復習	30分
		事後学修	後期授業の範囲を読んでおくこと。	30分

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。原則、英語Aと通年で履修して下さい。

【授業方法】
教科書に沿って、聴解、ディクテーション、読解を行っていきます。文法事項や重要表現を学習した後、英作文や発話練習を行って、知識を定着させます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークで聴解、ディクテーション、会話練習をします。教科書と関連するニュースを選び、グループで調べたことを発表してもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験、採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
やさしく読める社会事情（Changing Times, Changing Worlds）	Joan McConnell, 山内 圭	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、授業終了後（火曜：講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	夏期休暇中のニュース	語彙・文法の振り返り、夏期休暇中のニュースを読む	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語ニュースの特徴を説明することができる。	
		事前学修	前期の試験やレポートを振り返り、今期の目標を立てる。NHKの英語ニュースのHPを見て、どんなニュースがあったかざっと目を通す。	30分
		事後学修	音声のダウンロードの準備をする。後期分のテキストにざっと目を通す。	30分
2	第一部火 9/22	問題解決に沿って書かれた英文の読解	教科書 Unit 8「森林伐採の問題」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、問題解決のパターンで書かれた英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の読み物の大まかな内容を把握しておく。わからない英単語を調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分
3	第一部火 9/29	不定詞の機能と活用、会話練習	不定詞の機能と活用の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、不定詞の文法項目を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
4	第一部火 10/6	比較のパターンで書かれた英文の読解	テキスト Unit 9「入れ墨の是非」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、比較のパターンで書かれた英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分
5	第一部火 10/13	前置詞の文法項目の定着と活用	前置詞の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前置詞の文法項目を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	教科書の文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
6	第一部火 10/20	定義の構造で書かれた英文を読む。	テキスト Unit 10「性別と結婚の新たな定義」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、定義の英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	現在完了の機能と活用	現在完了の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、現在完了の機能を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	教科書の文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
8	第一部火 11/10	定義の構成で書かれた英文の読解	テキスト Unit 11「孤独なる人々」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、定義の英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分
9	第一部火 11/17	使役動詞の機能と活用	使役動詞の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、使役動詞の文法項目を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	教科書の文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
10	第一部火 11/24	リスティングの英文の読解	テキスト Unit 12「SNS上も急がば回れ」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、リスティングの構成で書かれた英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分
11	第一部火 12/1	受動態の機能と活用	受動態・能動態の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、受動態の文法項目を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	教科書の文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
12	第一部火 12/8	タイムオーダーのパターンで書かれた英文の読解	テキスト Unit 13「ジーンズのグローバリゼーション」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、タイムオーダーのパターンで書かれた英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	関係詞の機能と活用	関係詞の説明、文法問題、ディクテーション、会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、関係詞の文法項目を理解し、その知識を活用することができる。	
		事前学修	教科書の文法の解説を読み、問題を解く。	30分
		事後学修	文法の基本文を何回か書いて、知識の定着をはかる。会話文の音読練習を行う。	30分
14	第一部火 12/22	問題解決のパターンで書かれた英文の読解	テキスト Unit 14「障害を持つ人たちのための支援」内容把握、文法項目の説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、問題解決のパターンで書かれた英文の意味を把握することができる。	
		事前学修	Pre-reading Questionsをして、教科書の英文の大まかな内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	既習事項の内容を復習する。基本文を何回か書いて、知識の定着を図る。会話文の音読練習をする。	30分
15	第一部火 1/12	後期学習内容の振り返り	授業内試験及び後期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々なパターンで書かれた英文の意味を把握することができる。今期に学習した文法項目を整理し、活用することができる。	
		事前学修	今期の学習範囲の復習を行う。単語・熟語、文法項目を振り返る。	30分
		事後学修	理解があやふやな箇所を見直し、次年度の学習に備える。	30分

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
教科書のReading中心にtaskベースで、ペアやグループワークを採り入れ、直読直解するやり方で読み進めます。各段落の中心となる話題文を探すことで要旨を把握します。前半Part1文法問題は課題になり、授業の事前学修、事後学修は、各2時間を目安としています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアやグループワークで、ディスカッションをまず先に行い、全体で正解を導き出す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点後の返却、解説、講評をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Dear Class 』楽しい英語の世界へようこそ	永本義弘・町田純子・八木茂那子・Ian Ellsworth	南雲堂	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日授業内、前後の対応

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマ、方針、内容、評価基準等を確認し、授業準備に役立てることができる。	
		この回の到達目標	英語の言語運用能力として英文を速く、正確に理解できる読解力を身に付ける為に、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等に慣れ、同時にgrammarやlisteningの基礎を理解し運用できることが狙いであることを説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し、教科書を準備する。	60分
		事後学修	ガイダンスの内容を復習し、整理する。	60分
2	9/23	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit 1 Level 1&2 A Jewel Under the Seaを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit 1 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
3	9/30	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit2 Level 1&2 Working Robotsを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit2 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit2 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
4	10/7	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit3 Level 1&2 Moomin House Cafeを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit3 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit3 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
5	10/14	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit4 Level 1 Idols Level 2 The kindness of Strangersを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit4 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit4 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
6	10/21	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit5 Level 1 Durian Recipe Level 2 Poison Gas、Unit6 Level 1 Yuzuru Biography Level 2 From Tragedy to Triumphを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit5、6 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit5、6 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	小テストと解説	Unit1からUnit6の範囲の問題が解答できる。	
		この回の到達目標	テスト範囲の読解、文法、語彙問題に解答できる。	
		事前学修	Unit1からUnit6の範囲の復習をし、テストに備える。	60分
		事後学修	Unit1からUnit6の範囲の間違った箇所の復習をする。	60分
8	11/11	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit7 Level 1 A Short History of Harvard University Level 2 The Power of Ideas を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit7 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit7 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
9	11/18	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit8 Level 1 Humanity Level 2 Humanity を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit8 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit8 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
10	11/25	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit9 Level 1 Coffee Level 2 Caffeine: More than Just an Energy Booster を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit9 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit9 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
11	12/2	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit10 Level 1 Mike Rowe Biography Level 2 Mike Rowe of Dirty Jobs Interview を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit10 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit10 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
12	12/9	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit11 Level 1 New Measures to Reduce Cell Phone Use Level 2 Interviews are Stressful. (A Star is Born) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit11 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit11 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit12Level 1 The Great Wall of China Level 2 The Unintended Effects of Chinas One-Child Policy Unit13 Level 1 Antarctica Level 2 What Lies below the Ice?を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit12、13の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit12、13の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
14	12/23	前期授業内試験と解説	Unit7からUnit13の内容を理解できる。	
		この回の到達目標	Unit7からUnit13の内容を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit7~Unit13までの復習をし、テストに備える。	60分
		事後学修	テストの間違った箇所を確認する。	60分
15	1/13	まとめ	前期学習結果の分析と、前期授業内容のまとめができる。	
		この回の到達目標	自己の学習結果の分析と、学習内容のまとめができる。	
		事前学修	Unit1~Unit13までの復習をする。	60分
		事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	60分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
教科書のReading中心にtaskベースで、ペアやグループワークを採り入れ、直読直解するやり方で読み進めます。各段落の中心となる話題文を探すことで要旨を把握します。前半Part1文法問題は課題になり、授業の事前学修、事後学修は、各2時間を目安としています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアやグループワークで、ディスカッションをまず先に行い、全体で正解を導き出す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点後の返却、解説、講評をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Dear Class 』楽しい英語の世界へようこそ	永本義弘・町田純子・八木茂那子・Ian Ellsworth	南雲堂	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日授業内、前後の対応

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマ、方針、内容、評価基準等を確認し、授業準備に役立てることができる。	
		この回の到達目標	英語の言語運用能力として英文を速く、正確に理解できる読解力を身に付ける為に、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等に慣れ、同時にgrammarやlisteningの基礎を理解し運用できることが狙いであることを説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し、教科書を準備する。	60分
		事後学修	ガイダンスの内容を復習し、整理する。	60分
2	9/23	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit 1 Level 1&2 A Jewel Under the Seaを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit 1 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
3	9/30	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit2 Level 1&2 Working Robotsを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit2 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit2 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
4	10/7	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit3 Level 1&2 Moomin House Cafeを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit3 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit3 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
5	10/14	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit4 Level 1 Idols Level 2 The kindness of Strangersを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit4 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit4 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
6	10/21	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit5 Level 1 Durian Recipe Level 2 Poison Gas、Unit6 Level 1 Yuzuru Biography Level 2 From Tragedy to Triumphを理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit5、6 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit5、6 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	小テストと解説	Unit1からUnit6の範囲の問題が解答できる。	
		この回の到達目標	テスト範囲の読解、文法、語彙問題に解答できる。	
		事前学修	Unit1からUnit6の範囲の復習をし、テストに備える。	60分
		事後学修	Unit1からUnit6の範囲の間違った箇所の復習をする。	60分
8	11/11	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit7 Level 1 A Short History of Harvard University Level 2 The Power of Ideas を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit7 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit7 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
9	11/18	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit8 Level 1 Humanity Level 2 Humanity を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit8 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit8 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
10	11/25	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit9 Level 1 Coffee Level 2 Caffeine: More than Just an Energy Booster を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit9 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit9 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
11	12/2	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit10 Level 1 Mike Rowe Biography Level 2 Mike Rowe of Dirty Jobs Interview を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit10 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit10 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
12	12/9	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit11 Level 1 New Measures to Reduce Cell Phone Use Level 2 Interviews are Stressful. (A Star is Born) を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit11 の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit11 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	読解、文法、語彙、音読	英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。 基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。 ようになることを学習する。	
		この回の到達目標	Unit12Level 1 The Great Wall of China Level 2 The Unintended Effects of Chinas One-Child Policy Unit13 Level 1 Antarctica Level 2 What Lies below the Ice?を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit12、13の問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Unit12、13の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	60分
14	12/23	前期授業内試験と解説	Unit7からUnit13の内容を理解できる。	
		この回の到達目標	Unit7からUnit13の内容を理解し、問題を解答できる。	
		事前学修	Unit7~Unit13までの復習をし、テストに備える。	60分
		事後学修	テストの間違った箇所を確認する。	60分
15	1/13	まとめ	前期学習結果の分析と、前期授業内容のまとめができる。	
		この回の到達目標	自己の学習結果の分析と、学習内容のまとめができる。	
		事前学修	Unit1~Unit13までの復習をする。	60分
		事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	60分

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	間山 伸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
講義(板書、教材、配布資料、視聴覚メディア使用)、および演習形式(レポートの作成、プレゼンテーションの実施)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや試験の解説、講評を授業内で行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
名作映画でTOEIC(4) めざせ！470『オズの魔法使い』	中郷慶[ほか]	英宝社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	ガイダンス 「英語A」(前期)の振り返り	授業の内容や進め方、成績評価の方法を説明し参考文献の紹介を行う。 前期に履修した「英語A」で学修した内容(英文法、英文読解力)の確認を行う。	
		この回の到達目標	前期授業の振り返りを踏まえたうえで、後期の授業の流れを確認し、学修の計画を立てることができる	
		事前学修	前期に履修した「英語A」の学修内容を振り返り、忘れていない内容がないか確認をする。	30分
		事後学修	授業の流れを再度確認し、後期はどのように勉強を進めていくか自分なりに計画を立て、受講・学修に向けての準備を整える	30分
2	9月22日	テキスト Act7 Vocabulary Grammar 不定詞	英語の語(句): bring about、courage、coward、disease、encounter、fortunate、get along with等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 不定詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、bring about、courage、coward、disease、encounter、fortunate、get along with等の英語表現を正しく使うことができる。また動名詞を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp.63 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	30分
3	9月29日	テキスト Act7 Grammar 動名詞 Reading	動名詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp.70の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動名詞を正しく使うことができる。また動名詞と不定詞の違いを理解して、正しく使い分けることができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく解答できる。	
		事前学修	テキストp.70の英文を読み、分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
4	10月6日	テキスト Act8 Vocabulary Grammar 現在分詞	英語の語(句): a couple of、audience、bald、beard、business、company、fairly等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 現在分詞の使い方を理解して、英文を正しく読む・書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、a couple of、audience、bald、beard、business、company、fairly等の英語表現を正しく使うことができる。また現在分詞を理解して、英文を和訳することができる、また英文を書くことができる。	
		事前学修	テキストp.73 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	30分
5	10月13日	テキスト Act8 Grammar 過去分詞 Reading	過去分詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp.80の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過去分詞を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく解答できる。	
		事前学修	テキストp.80の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
6	10月20日	テキスト Act9 Vocabulary Grammar 比較(1)	英語の語(句): ascend the throne、graduate school、hippopotamus、rhinoceros、transparent、brochure、candidate等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 比較(原級による比較表現)を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ascend the throne、graduate school、hippopotamus、rhinoceros、transparent、brochure、candidate等の英語表現を正しく使うことができる。また比較(原級による比較表現)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp.83 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	テキスト Act9 Grammar 比較(2) Reading	比較(比較級・最上級による比較表現)を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 90の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較(比較級・最上級による比較表現)を正しく使うことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく解答できる。	
		事前学修	テキストp. 90の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
8	11月10日	テキスト Act10 Vocabulary Grammar 接続詞(1)	英語の語(句) : abandon、aid、brand-new、chest、companion、commentary、enthusiastic等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 接続詞(等位接続詞)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、abandon、aid、brand-new、chest、companion、commentary、enthusiastic等の英語表現を正しく使うことができる。また接続詞(等位接続詞)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 93 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	30分
9	11月17日	テキスト Act10 Grammar 接続詞(2) Reading	接続詞(従位接続詞)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 100の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞(従位接続詞)を正しく使うことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく解答できる。	
		事前学修	テキストp. 100の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
10	11月24日	テキスト Act11 Vocabulary Grammar 関係詞(1)	英語の語(句) : analogy、continuous、deceive、descend、diversity、hourglass、integrate等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 関係詞(関係代名詞)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、analogy、continuous、deceive、descend、diversity、hourglass、integrate等の英語表現を正しく使うことができる。また関係詞(関係代名詞)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 103 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	30分
11	12月1日	テキスト Act11 Grammar 関係詞(2) Reading	関係詞(関係副詞)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 110の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞(関係副詞)を正しく使うことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく解答できる。	
		事前学修	テキストp. 110の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
12	12月8日	テキスト Act12 Vocabulary Grammar 仮定法(1)	英語の語(句) : backyard、commodity、confuse、creature、curious、desire、diploma等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 仮定法(仮定法過去)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、backyard、commodity、confuse、creature、curious、desire、diploma等の英語表現を正しく使うことができる。また仮定法(仮定法過去)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 113 Words and Phrasesの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	テキスト Act12 Grammar 仮定法(2) Reading	仮定法(仮定法過去完了)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp.120の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、仮定法(仮定法過去完了)を正しく使うことができる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく解答できる。	
		事前学修	テキストp.120の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
14	12月22日	テキスト Act7-12の語(句)・英文法の確認・まとめ	Act7-12で学修した語(句)の意味や使い方を再確認し、英文を正しく書く・読むことができる。 Act7-12で学修した英文法を再確認し、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Act7-12で学修した語(句)を正しく使うことができる。またAct7-12で学修した英文法を正しく使うことができる。さらに各種英語資格試験に対応した語彙問題、文法問題に正しく解答できる。	
		事前学修	テキストAct7-12の語(句)問題、および文法問題を振り返り、忘れていない内容がないか確認する。	30分
		事後学修	今回の確認・まとめ授業の内容で十分に身に付いていなかった語(句)、英文法をまとめて、今後の英語学習に生かしていく。	30分
15	1月12日	テキスト Act7-12の英文読解の確認・まとめ	Act7-12で学修した英文読解のポイントを再確認し、英文を正しく読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Act7-12で学修した英文読解のポイントを日本語で説明できる。Act7-12で学修した英文読解のポイントを踏まえて、各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく解答できる。	
		事前学修	Act7-12で学修した英文読解のポイントを振り返り、忘れていない内容がないか確認する。	30分
		事後学修	今回の確認・まとめ授業の内容で十分に身に付いていなかった英文読解のポイントをまとめて、今後の英語学習に活かしていく。	30分

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	間山 伸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
講義(板書、教材、配布資料、視聴覚メディア使用)、および演習形式(レポートの作成、プレゼンテーションの実施)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや試験の解説、講評を授業内で行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English with Pop Hits	角山照彦[ほか]	成美堂	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	ガイダンス 「英語A」(前期)の振り返り	授業の内容や進め方、成績評価の方法を説明し参考文献の紹介を行う。 前期に履修した「英語A」で学修した内容(英文法、英文読解力)の確認を行う。	
		この回の到達目標	前期授業の振り返りを踏まえたうえで、後期の授業の流れを確認し、学修の計画を立てることができる	
		事前学修	前期に履修した「英語A」の学修内容を振り返り、忘れていない内容がないか確認をする。	30分
		事後学修	授業の流れを再度確認し、後期はどのように勉強を進めていくか自分なりに計画を立て、受講・学修に向けての準備を整える	30分
2	9月22日	テキスト Unit8 Vocabulary Grammar 動名詞	英語の語(句): surround、benefit、captivity、suddenly、palm、calm、feel like等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 動名詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、surround、benefit、captivity、suddenly、palm、calm、feel like等の英語表現を正しく使うことができる。また動名詞を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 57 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
3	9月29日	テキスト Unit8 Grammar 不定詞 Reading	動名詞と不定詞の違い理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 62の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動名詞と不定詞の違いを理解して、正しく使い分けることができる。またSuddenly I see!の英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp. 62の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
4	10月6日	テキスト Unit9 Vocabulary Grammar 能動態	英語の語(句): hardly、sweep away、be supposed to do、blame、now that、break down、price等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 能動態の使い方を理解して、英文を正しく読む・書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、hardly、sweep away、be supposed to do、blame、now that、break down、price等の英語表現を正しく使うことができる。また能動態を理解して、英文を和訳することができる。さらに英文を書くことができる。	
		事前学修	テキストp. 65 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
5	10月13日	テキスト Unit9 Grammar 受動態 Reading	受動態の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 70の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受動態を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。またMistake in lifeについての英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp. 70の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめておく。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分
6	10月20日	テキスト Unit10 Vocabulary Grammar 現在完了形	英語の語(句): passion、face to face、make it through、silly、set free、pass、look for等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 現在完了形を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、passion、face to face、make it through、silly、set free、pass、look for等の英語表現を正しく使うことができる。また現在完了形を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 73 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認をしておく。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	テキスト Unit10 Grammar 過去完了形 Reading	過去完了形の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 78の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過去完了形を正しく使うことができる。またDoes the snow come down in June?の英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp. 78の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
8	11月10日	テキスト Unit11 Vocabulary Grammar 文型(1)	英語の語(句) : recognize, rely on, guess, keep one's distance, mean, catch one's eye, in return等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 文型(第1文型、第2文型)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、recognize, rely on, guess, keep one's distance, mean, catch one's eye, in return等の英語表現を正しく使うことができる。また文型(第1文型、第2文型)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 81 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
9	11月17日	テキスト Unit11 Grammar 文型(2) Reading	文型(第3文型、第4文型、第5文型)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 86の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文型(第3文型、第4文型、第5文型)を正しく使うことができる。またWham! or Whaam!?の英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp. 86の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
10	11月24日	テキスト Unit12 Vocabulary Grammar 助動詞(1)	英語の語(句) : dignified, adore, come around, run dry, faith, inspiration, wide awake等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 助動詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、dignified, adore, come around, run dry, faith, inspiration, wide awake等の英語表現を正しく使うことができる。また助動詞を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 89 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
11	12月1日	テキスト Unit12 Grammar 助動詞(2) Reading	助動詞+have+過去分詞の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp. 94の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞+have+過去分詞を正しく使うことができる。またG'day mate. How ya goin'?の英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp. 94の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
12	12月8日	テキスト Unit13 Vocabulary Grammar 関係代名詞(1)	英語の語(句) : charm, lie, pass somebody by, line, mellow, whole, prove等の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 関係代名詞(who, which, whose, whom, that)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、charm, lie, pass somebody by, line, mellow, whole, prove等の英語表現を正しく使うことができる。また関係代名詞(who, which, whose, whom, that)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp. 97 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	テキスト Unit13 Grammar 関係代名詞(2) Reading	関係代名詞(what)の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。 テキストp.102の英文の意味を日本語で説明することができる。また全体の内容について、英語の質問に英語で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係代名詞(what)を正しく使うことができる。またMadchester and the Merseybeatの英文を読み、問題に答えられる。	
		事前学修	テキストp.102の英文を読み、日本語の要約文を作る。分からない箇所がある場合には授業で質問できるようにまとめる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
14	12月22日	テキスト Unit14 Vocabulary Grammar 否定語、準否定語	英語の語(句)の意味や使い方を正しく理解し、英文を正しく書く・読むことができる。 否定語、準否定語の使い方を理解して、英文を正しく書く・読むことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、one of a kind、swear、straight、deny、all or nothing、figure、care for等の英語表現を正しく使うことができる。また否定語、準否定語(not、never、no、none、hardly、rarely、few、little等)を正しく使うことができる。	
		事前学修	テキストp.105 Warm-upの問題を解いてくる。	40分
		事後学修	学修した内容を見直し、理解できていない点がないか再確認する。十分に理解できていない点がある場合は次の授業までに辞書や参考書を調べて確認しておく。	20分
15	1月12日	第1回～第14回の授業の確認・まとめ	第1回～第14回の授業で学習した内容がきちんと身に付いているか確認をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学修した語(句)の意味を日本語で答えられる。学修した語(句)を使って英文を書くことができる。また学修した英文法を踏まえて、正しい英語を書くことと英文を和訳できる。さらに各種英語資格試験に対応した英文読解問題に正しく解答できる。	
		事前学修	第1回～第14回の授業で学習した内容全体を振り返り、忘れていた箇所がないか確認する。	30分
		事後学修	今回の確認・まとめ授業の内容で十分に身に付いていなかった学習内容をまとめて、今後の英語学習に活かしていく。	30分

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス (上級)	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Gateway to Britain	Terry O’Brien、他	南雲堂	2011	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	9/25	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	10/2	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	10/9	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	10/16	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	10/23	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	11/6	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	11/13	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	11/20	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	11/27	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	12/4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	12/18	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	12/25	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Gateway to Britain	Terry O’Brien、他	南雲堂	2011	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	9/22	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	9/29	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	10/6	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	10/13	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	10/20	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	11/10	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	11/17	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	11/24	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	12/1	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	12/8	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	12/22	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	1/12	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	茂木 健幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科一年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
授業は教科書に沿って授業進みます。長文読解や文法問題などを行います。また、ユニットの終わりにあるライティングの課題は提出課題（レポート）となります。長文読解部分の予習や、レポート作成については予習が必要となります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	内容理解や問題の答えなどのディスカッション、レポートの読み合い(グループワーク)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削・返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーションのための総合英語	阿野幸一	朝日出版社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（金曜：昼休み）講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	ガイダンス Unit 7	ガイダンス、授業の進め方、評価方法などの説明 Unit 7 Science and Technologyの読解と読解問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己紹介の文章を書くことができる、また書かれたものを読み理解できる。	
		事前学修	Unit7全体を読んでくること。	30分
		事後学修	授業内容の確認。	30分
2	第一部 金9/25	Unit 7 Science and Technology	Unit 7 Science and Technology の読解と読解問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができる。	
		事前学修	Unit 7のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 7のリーディング部分の復習。	30分
3	第一部 金10/2	Unit 7 Science and Technology	Unit 7 Science and Technology の読解、比較の表現	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較の表現について理解し、正確に使用することができる。	
		事前学修	Unit 7の文法解説部分を読んでおくこと。	30分
		事後学修	Unit 7の文法問題の復習。	30分
4	第一部 金10/9	Unit 8 Study Abroad	Unit 8 Study Abroad の読解と読解問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができる。	
		事前学修	Unit 8のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 8のリーディング部分の復習	30分
5	第一部 金10/16	Unit 8 Study Abroad	Unit 8 Study Abroad の読解、比較級の慣用表現、レポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較級の慣用表現について理解し、正確に使用することができる。	
		事前学修	Unit 8の文法解説部分を読んでおくこと。レポート作成のための準備。	30分
		事後学修	Unit 8の文法問題の復習	30分
6	第一部 金10/23	Unit 9 College Life in the U.S.	Unit 9 College Life in the U.S. の読解と読解問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができる。	
		事前学修	Unit9のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 9のリーディング部分の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	Unit 9 College Life in the U.S.	Unit 9 College Life in the U.S. の読解、受け身・使役の表現	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、受け身・使役の表現について理解し、正確に使用することができる。	
		事前学修	Unit 9の文法解説部分を読んでおくこと。	30分
		事後学修	Unit 9の文法問題の復習	30分
8	第一部 金11/6	Unit 10 Steve Jobs	Unit 10 Steve Jobs の読解と読解問題	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができ	
		事前学修	Unit 10のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 10のリーディング部分の復習	30分
9	第一部 金11/13	Unit 10 Steve Jobs	Unit 10 Steve Jobs の読解、仮定法、レポート作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、仮定法について理解し、正確に使用することができる。	
		事前学修	Unit 10の文法解説部分を読んでおくこと。レポート作成のための準備。	30分
		事後学修	Unit 10の文法問題の復習	30分
10	第一部 金11/20	Unit 11 Volunteer Work	Unit 11 Volunteer Work の読解と読解問題	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができ	
		事前学修	Unit 11のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。。	30分
		事後学修	Unit 11のリーディング部分の復習	30分
11	第一部 金11/27	Unit 11 Volunteer Work	Unit 11 Volunteer Work の読解、直接話法、間接話法	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、直接話法、間接話法について理解し、正確に使用することができる。	
		事前学修	Unit 11の文法解説部分を読んでおくこと。	30分
		事後学修	Unit 11の文法問題の復習	30分
12	第一部 金12/4	Unit 14 Culture	Unit 14 Culture の読解と読解問題	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができ	
		事前学修	Unit 14のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 14のリーディング部分の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	Unit 14 Culture	Unit 14 Culture の読解、修飾語の位置、レポート作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、修飾語の位置について理解し、正確に使用することができる。	
		事前学修	Unit 14の文法解説部分を読んでおくこと。レポート作成のための準備	30分
		事後学修	Unit 14の文法問題の復習	30分
14	第一部 金12/18	Unit 15 An International World	Unit 15 An International World の読解と読解問題	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、またその内容について話し合うことができる。	
		事前学修	Unit 15のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。	30分
		事後学修	Unit 15のリーディング部分の復習	30分
15	第一部 金12/25	授業内試験とまとめ	後期授業のまとめ	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読み内容を理解することができる、また後期授業内で修得した文法を使うことができる。	
		事前学修	後期授業範囲であるUnit7～15までの復習	30分
		事後学修	授業内容の復習。	30分

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則，英語Aと通年で履修。

【授業方法】		
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストはReading Fusion 1（南雲堂）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。		
アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Fusion 2	Andrew E. Bennett	南雲堂	2011	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第3版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00　但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修企画引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A, B, C, D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	これまでの自分の英語学習歴を整理する。シラバスとテキストを熟読するとともに、講義全体を概観する。大学での英語学習に向けての目標を考える。	30分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	60分
2	9/22	Art Therapy	The Arts	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。芸術について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
3	9/29	From Sci-Fi to Reality	Science and Technology	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。科学技術問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
4	10/6	Exporting Labor	Business	
		この回の到達目標	到達目標Exporting Labor①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。ビジネスについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
5	10/13	Celebrating the Earth	The Environment	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。環境問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
6	10/20	Virtual Lives	The Internet	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。インターネットについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Kidults	Growing and Aging	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。幼児化現象について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
8	11/10	Genetically Modified Foods	Agriculture	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。農業について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
9	11/17	Empires of the Stars	Entertainment	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。エンターテインメント、芸能について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
10	11/24	Destination: Mars	Space	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。宇宙論について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
11	12/1	Cross-cultural Friendships	Culture	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。文化について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
12	12/8	Muscle Memory	Health	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。健康について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Maritime Piracy	Law and Crime	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。法律と犯罪について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
14	12/22	The Science of Love	Identity	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。アイデンティティーについて調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分
15	1/12	The Homeless	Social Issues	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を的確に把握することができる。	
		事前学修	指定されたチャプターの予習をし、単語を覚える。ホームレス問題について調べる。	30分
		事後学修	学んだチャプターの復習をし、単語の再確認をする。	30分

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	山田 潤治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
前半は、英文法の総ざらいにより、高等学校までに学習した文法事項を再確認する。テキストをもとにした解説授業および演習。毎回の課題を予習してくることを前提に、授業では解説授業をおこなう。また、毎回、授業冒頭に、出題範囲を決めて、TOEIC頻出単語の単語テストを行う。後半は、CEFR A2以上レベルでのリーディングテキストを用い、履修者は、自身のリーディングスピードをあげる演習をおこなう。すべて授業は予習してくることを前提とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの内容をもとにしたグループディスカッションをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の小テストに対して、答案返却時に、正解率・平均点、まちがいが多かったポイントなどを解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
総合英語FACTBOOK English Grammar Advanced	桐原書店編集部	桐原書店	2018	参考書	推奨
Essential Reading second edition Student Book 1	Jackie Mcavoy	macmillan education	2015	参考書	必携
TOEIC TEST 必ず☆でる単 スピードマスター	成重寿	Jリサーチ出版	2015	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにてうけつける junji.integrity@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 火9/15	授業ガイダンス及び導入講義	タームの進行計画についての概説を聞き、みずから実行を求められている課題を確認し、今後の学習計画をたてる。 2年生にむけて、なにを目標として英語学習するのか、履修者は各自の目標を確認する。受講生は、授業計画を知り、授業準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生に求められている英語力がどの水準のものであるかを理解し、説明することができる。また、水準に達するための自身の学修計画を立案し、中期目標、短期目標を定める。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、授業前までに教科書を入手し、教科書の目次を確認し、教科書の構成がどのようになっているかを理解する。	120分
		事後学修	中期目標、短期目標をさだめ、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第1部 火9/22	Reading: New Lives Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Reading for detail	Chapter 1 : New Lives を読む。 Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Reading for detail 語彙については、名詞40語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、名詞40語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY15（761～800）名詞の語彙と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 1の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY15（761～800）名詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 1の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
3	第1部 火9/29	Reading: Big City Life Reading Skills: Activating the topic Activating vocabulary	Chapter 2 : Big City Life を読む。 Reading Skills: Activating the topic / Activating vocabulary 語彙については、名詞40語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Activating the topic と Activating vocabularyができる。 到達目標②については、名詞40語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY16（801～840）名詞の語彙と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 2の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY16（801～840）名詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 2の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
4	第1部 火10/6	Reading: A Hotel with a Difference Reading Skills: Activating vocabulary Skimming and scanning Inferring	Chapter 3 : A Hotel with a Differenceを読む。 語彙については、ビジネス・生活に頻出の40語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、ビジネス・生活に頻出の40語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY17（841～900）ビジネス・生活に頻出の語彙と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 3の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY17（841～900）ビジネス・生活に頻出の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 3の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
5	第1部 火10/13	Reading: Movies Reading Skills: Activating the topic Skimming and scanning Reading for detail	Chapter 4 : Movies を読む。 Reading Skills: Activating the topic / Skimming and scanning / Reading for detail 語彙については、ビジネス・生活に頻出40語を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、ビジネス・生活に頻出の40語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY18（901～940）ビジネス・生活の語彙と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 4の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY18（941～980）ビジネス・生活の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 4の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
6	第1部 火10/20	Reading: Addicted Reading Skills: Activating the topic Activating vocabulary Skimming and scanning Reading for detail	Chapter 5 : Addicted Reading Skills: Activating the topic / Activating vocabulary / Skimming and scanning / Reading for detail 語彙については、イディオム40を範囲とした小テスト（15題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Activating the topicができる。 到達目標②については、イディオム40を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY19（941～980）イディオムと例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 5の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY19（941～980）イディオムと例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 5の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 火10/27	Reading: We love shopping Reading Skills: Activating the topic Activating vocabulary Skimming and scanning Reading for detail	Chapter 6 : We love shopping を読む。 Reading Skills: Activating the topic / Activating vocabulary / Skimming and scanning Reading for detail 語彙については、120語を範囲とした小テスト（20題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Activating the topicができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY1～2（1～120）120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 6の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY1～2（1～120）120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 6の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
8	第1部 火11/10	Reading: Love and romance Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Inferring Language in context Vocabulary in context	Chapter 7 : Love and Romance を読む。 Reading Skills: Predicting / Skimming and scanning / Inferring Language in context / Vocabulary in context 語彙については、120語を範囲とした小テスト（20題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY3～4（121～240）120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 7の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY3～4（121～240）120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 7の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
9	第1部 火11/17	Reading: Two cities Reading Skills: Activating vocabulary Skimming and scanning Reading for detail Vocabulary in context	Chapter 8 : Two Cities を読む。 Reading Skills: Activating vocabulary / Skimming and scanning / Reading for detail Vocabulary in context 語彙については、120語を範囲とした小テスト（20題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY5～6（241～360）120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 8の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY5～6（241～360）120語の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 8の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
10	第1部 火11/24	Reading: New faces Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Reading for detail Vocabulary in context	Chapter 9 : New Faces を読む。 Reading Skills: Predicting / Skimming and scanning / Reading for detail / Vocabulary in context 語彙については、120語を範囲とした小テスト（20題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY7～8（361～480）120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 9の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY7～8（361～480）120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 9の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
11	第1部 火12/1	Reading: International sport Reading Skills: Activating vocabulary Skimming and scanning Reading for detail Vocabulary in context Language in context	Chapter 10 : International sport を読む。 Reading Skills: Activating vocabulary / Skimming and scanning / Reading for detail Vocabulary in context / Language in context 語彙については、120語を範囲とした小テスト（20題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY9～10（481～600）120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 10の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY9～10（481～600）120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 10の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	第1部 火12/8	Reading: Changing pop music Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Inferring Understanding references Vocabulary in context	Chapter 11 : Changing Pop Music を読む。 Reading Skills: Predicting / Skimming and scanning / Inferring / Understanding references / Vocabulary in context 語彙については、120語を範囲とした小テスト（20題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY11～13（601～720）120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 11の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY11～13（601～720）120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 11の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
13	第1部 火12/15	Reading: A healthy diet? Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Inferring Understanding references Vocabulary in context	Chapter 12 : A Healthy Diet? を読む。 Reading Skills: Predicting / Skimming and scanning / Inferring / Understanding references / Vocabulary in context 語彙については、120語を範囲とした小テスト（20題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY14～16（721～840）120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 12の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY14～16（721～840）120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所覚え直す。 リーディングテキストのChapter 12の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
14	第1部 火12/22	Reading:総復習	語彙については、80語を範囲とした小テスト（20題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、800語程度の英文を5分で読むことができる。 到達目標②については、80語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY17～18（841～920）80語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストの英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY17～19（841～960）120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストの英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
15	第1部 火1/12	まとめ	語彙については、80語を範囲とした小テスト（20題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、800語程度の英文を5分で読むことができる。 到達目標②については、80語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY19～20（921～1000）80語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストの英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY19～20（961～1000）80語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストの英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	山田 潤治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
前半は、英文法の総ざらいにより、高等学校までに学習した文法事項を再確認する。テキストをもとにした解説授業および演習。毎回の課題を予習してくることを前提に、授業では解説授業をおこなう。また、毎回、授業冒頭に、出題範囲を決めて、TOEIC頻出単語の単語テストを行う。後半は、CEFR A2以上レベルでのリーディングテキストを用い、履修者は、自身のリーディングスピードをあげる演習をおこなう。すべて授業は予習してくることを前提とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの内容をもとにしたグループディスカッションをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。							2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。							2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の小テストに対して、答案返却時に、正解率・平均点、まちがいが多かったポイントなどを解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
総合英語FACTBOOK English Grammar Advanced	桐原書店編集部	桐原書店	2018	参考書	推奨
Essential Reading second edition Student Book 1	Jackie Mcavoy	macmillan education	2015	参考書	必携
TOEIC TEST 必ず☆でる単 スピードマスター	成重寿	Jリサーチ出版	2015	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにてうけつける junji.integrity@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第1部 火9/15	授業ガイダンス及び導入講義	タームの進行計画についての概説を聞き、みずから実行を求められている課題を確認し、今後の学習計画をたてる。 2年生にむけて、なにを目標として英語学習するのか、履修者は各自の目標を確認する。受講生は、授業計画を知り、授業準備をスムーズに行うことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生に求められている英語力がどの水準のものであるかを理解し、説明することができる。また、水準に達するための自身の学修計画を立案し、中期目標、短期目標を定める。
		事前学修	シラバスを確認するとともに、授業前までに教科書を入手し、教科書の目次を確認し、教科書の構成がどのようになっているかを理解する。120分
		事後学修	中期目標、短期目標をさだめ、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。120分
2	第1部 火9/22	Reading: New Lives Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Reading for detail	Chapter 1 : New Lives を読む。 Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Reading for detail 語彙については、名詞40語を範囲とした小テスト（15題）を行う。
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、名詞40語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY15（761～800）名詞の語彙と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 1の英文を読み、すべての設問に解答する。120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY15（761～800）名詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 1の英文を読みかえし、問題を解き直す。120分
3	第1部 火9/29	Reading: Big City Life Reading Skills: Activating the topic Activating vocabulary	Chapter 2 : Big City Life を読む。 Reading Skills: Activating the topic / Activating vocabulary 語彙については、名詞40語を範囲とした小テスト（15題）を行う。
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Activating the topic と Activating vocabularyができる。 到達目標②については、名詞40語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY16（801～840）名詞の語彙と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 2の英文を読み、すべての設問に解答する。120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY16（801～840）名詞の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 2の英文を読みかえし、問題を解き直す。120分
4	第1部 火10/6	Reading: A Hotel with a Difference Reading Skills: Activating vocabulary Skimming and scanning Inferring	Chapter 3 : A Hotel with a Differenceを読む。 語彙については、ビジネス・生活に頻出の40語を範囲とした小テスト（15題）を行う。
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、ビジネス・生活に頻出の40語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY17（841～900）ビジネス・生活に頻出の語彙と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 3の英文を読み、すべての設問に解答する。120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY17（841～900）ビジネス・生活に頻出の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 3の英文を読みかえし、問題を解き直す。120分
5	第1部 火10/13	Reading: Movies Reading Skills: Activating the topic Skimming and scanning Reading for detail	Chapter 4 : Movies を読む。 Reading Skills: Activating the topic / Skimming and scanning / Reading for detail 語彙については、ビジネス・生活に頻出40語を範囲とした小テスト（15題）を行う。
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、ビジネス・生活に頻出の40語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY18（901～940）ビジネス・生活の語彙と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 4の英文を読み、すべての設問に解答する。120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY18（941～980）ビジネス・生活の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 4の英文を読みかえし、問題を解き直す。120分
6	第1部 火10/20	Reading: Addicted Reading Skills: Activating the topic Activating vocabulary Skimming and scanning Reading for detail	Chapter 5 : Addicted Reading Skills: Activating the topic / Activating vocabulary / Skimming and scanning / Reading for detail 語彙については、イディオム40を範囲とした小テスト（15題）を行う。
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Activating the topicができる。 到達目標②については、イディオム40を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY19（941～980）イディオムと例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 5の英文を読み、すべての設問に解答する。120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY19（941～980）イディオムと例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 5の英文を読みかえし、問題を解き直す。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 火10/27	Reading: We love shopping Reading Skills: Activating the topic Activating vocabulary Skimming and scanning Reading for detail	Chapter 6 : We love shopping を読む。 Reading Skills: Activating the topic / Activating vocabulary / Skimming and scanning Reading for detail 語彙については、120語を範囲とした小テスト(20題)を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Activating the topicができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY1～2(1～120)120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 6の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY1～2(1～120)120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 6の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
8	第1部 火11/10	Reading: Love and romance Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Inferring Language in context Vocabulary in context	Chapter 7 : Love and Romance を読む。 Reading Skills: Predicting / Skimming and scanning / Inferring Language in context / Vocabulary in context 語彙については、120語を範囲とした小テスト(20題)を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY3～4(121～240)120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 7の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY3～4(121～240)120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 7の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
9	第1部 火11/17	Reading: Two cities Reading Skills: Activating vocabulary Skimming and scanning Reading for detail Vocabulary in context	Chapter 8 : Two Cities を読む。 Reading Skills: Activating vocabulary / Skimming and scanning / Reading for detail Vocabulary in context 語彙については、120語を範囲とした小テスト(20題)を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY5～6(241～360)120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 8の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY5～6(241～360)120語の語彙と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 8の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
10	第1部 火11/24	Reading: New faces Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Reading for detail Vocabulary in context	Chapter 9 : New Faces を読む。 Reading Skills: Predicting / Skimming and scanning / Reading for detail / Vocabulary in context 語彙については、120語を範囲とした小テスト(20題)を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY7～8(361～480)120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 9の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY7～8(361～480)120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 9の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
11	第1部 火12/1	Reading: International sport Reading Skills: Activating vocabulary Skimming and scanning Reading for detail Vocabulary in context Language in context	Chapter 10 : International sport を読む。 Reading Skills: Activating vocabulary / Skimming and scanning / Reading for detail Vocabulary in context / Language in context 語彙については、120語を範囲とした小テスト(20題)を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、120語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY9～10(481～600)120語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 10の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY9～10(481～600)120語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 10の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	第1部 火12/8	Reading: Changing pop music Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Inferring Understanding references Vocabulary in context	Chapter 11 : Changing Pop Music を読む。 Reading Skills: Predicting / Skimming and scanning / Inferring / Understanding references / Vocabulary in context 語彙については、1 2 0 語を範囲とした小テスト（2 0 題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、1 2 0 語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY 1 1 ～1 3 （601～720）1 2 0 語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 11の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY 1 1 ～1 3 （601～720）1 2 0 語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストのChapter 11の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
13	第1部 火12/15	Reading: A healthy diet? Reading Skills: Predicting Skimming and scanning Inferring Understanding references Vocabulary in context	Chapter 12 : A Healthy Diet? を読む。 Reading Skills: Predicting / Skimming and scanning / Inferring / Understanding references / Vocabulary in context 語彙については、1 2 0 語を範囲とした小テスト（2 0 題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、英文を読む上で、Predicting とSkimmingとScanningができる。 到達目標②については、1 2 0 語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY 1 4 ～1 6 （721～840）1 2 0 語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストのChapter 12の英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY 1 4 ～1 6 （721～840）1 2 0 語と例文で、正確に覚えていなかった箇所覚え直す。 リーディングテキストのChapter 12の英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
14	第1部 火12/22	Reading:総復習	語彙については、8 0 語を範囲とした小テスト（2 0 題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、8 0 0 語程度の英文を5分で読むことができる。 到達目標②については、8 0 語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY 1 7 ～1 8 （841～920）8 0 語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストの英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY 1 7 ～1 9 （841～960）1 2 0 語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストの英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分
15	第1部 火1/12	まとめ	語彙については、8 0 語を範囲とした小テスト（2 0 題）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①については、8 0 0 語程度の英文を5分で読むことができる。 到達目標②については、8 0 語を例文とともに覚え、自ら英文で表現するときに使いこなすことができる。	
		事前学修	単語テキストの、範囲DAY 1 9 ～2 0 （921～1000）8 0 語と例文をすべて暗記する。 リーディングテキストの英文を読み、すべての設問に解答する。	120分
		事後学修	単語テキストの、範囲DAY 1 9 ～2 0 （961～1000）8 0 語と例文で、正確に覚えていなかった箇所を覚え直す。 リーディングテキストの英文を読みかえし、問題を解き直す。	120分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	依田 悠介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
Read about a 21st century topic Learn more about the topic by viewing an authentic TED talk Explore the topic further by completing a collaborative research project		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	This course will include discussion within the class and some group work.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be provided feedback within the class or on the web-site.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
21st century reading 1. Creative thinking and reading with TED talks	Robin Longshaw and Laurie Blass	Cengage Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
email me (yusuke.yoda@tyg.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第1部 9月16日	Guidance and self evaluation		explain schedule, evaluation, and other related things.
		この回の到達目標	To understand your own level	
		事前学修	Read this syllabus	10分
		事後学修	Preparation for next class	30分
2	第1部 9月23日	Unit 6: Building solutions		Reading a magazine-style article
		この回の到達目標	Organizing supporting details Understanding reasons	
		事前学修	Vocabulary Building	30分
		事後学修	Watch the assigned TED talk	30分
3	第 1 部 9月30日	Unit6: Indigenous Homes in Unexpected Places		Watch a TED talk on Places
		この回の到達目標	Understanding main ideas and key details. Summarizing ideas using a concept map	
		事前学修	Watch the assigned TED talk	30分
		事後学修	Read an assigned part in the next unit.	30分
4	第1部 10月7日	Unit 7:Roads to Fame		Read a Magazine-style article
		この回の到達目標	Organizing Supporting details Understanding reasons	
		事前学修	Vocabulary Building	30分
		事後学修	Watch the assigned TED talk	30分
5	第1部 10月14日	Unit 7: Why Videos Go Viral		Watch a TED talk on entertainment
		この回の到達目標	Understanding main ideas. Recognizing a message	
		事前学修	Watch the assigned TED talk	30分
		事後学修	Read the assigned part in the next unit	30分
6	第1部 10月21日	Unit 8: Face Off		Read a News Report
		この回の到達目標	Identifying purpose Identifying referents	
		事前学修	Vocabulary Building	30分
		事後学修	Watch the assigned TED talk	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 10月28日	Unit 8: My Invention that Made Peace with Lions	Watch a TED talk on New Invention	
		この回の到達目標	Understanding main Ideas and key details Recognizing tone and message	
		事前学修	Watch the assigned TED talk	30分
		事後学修	Read the assigned part in the next unit	30分
8	第1部 11月11日	Unit 9: Community Voices	Read a Biographical article	
		この回の到達目標	Making connections Understanding a process	
		事前学修	Vocabulary Building	30分
		事後学修	Watch the assigned TED talk	30分
9	第1部 11月18日	Unit 9: Before I die, I want to	Watch a TED talk on hopes	
		この回の到達目標	Understanding main ideas and key details Making predictions	
		事前学修	Watch the assigned TED talk	30分
		事後学修	Read the assigned part in the next unit	30分
10	第1部 11月25日	Unit 10: Robots and us	Read a Scientific article	
		この回の到達目標	Identifying approximate numbers Understanding visuals	
		事前学修	Building Vocabulary	30分
		事後学修	Watch the assigned TED talk	30分
11	第1部 12月2日	Unit 10: Rise of Personal Robots	Watch a TED talk on Robots	
		この回の到達目標	Understanding main ideas and key details Understanding Sequence	
		事前学修	Watch the assigned TED talk	30分
		事後学修	Preparation for the written EXAM	30分
12	第1部 12月9日	Written Exam	Exam on Unit 6-10	
		この回の到達目標	Evaluate your understanding	
		事前学修	Review of Unit 1-5	30分
		事後学修	Review of written exam	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部 12月16日	Project Guidance		Guidance of group poster presentatino
		この回の到達目標	Understanding how to make a poster	
		事前学修	Deciding Topic	30分
		事後学修	Making your poster	30分
14	第1部 12月23日	Project Work		Group Work
		この回の到達目標	Preparation for Group Poster Presentatin	
		事前学修	Preparation for Presentation	30分
		事後学修	Finalize your poster and preparation for group poster presentation	30分
15	第1部 1月13日	Poster Presentation		Poster Session
		この回の到達目標	Make a poster presentation , Listening to other students' idea	
		事前学修	Preparation for poster presentation	50分
		事後学修	Review of all you study this semester	10分

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
1年生のみの授業と成ります。

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
An International History of Japan II	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
NONE. I can be contacted at paulkallender@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Ginza	Learn about the story of Ginza	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	9/22	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	9/29	Nara	Learn about the story of Nara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	10/6	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	10/13	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	10/20	Wako	Learn about the story of Wako	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Review lesson	Review lesson	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
8	11/10	TheTensho Embassy	Learn about the story of TheTensho Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
9	11/17	Hasekura Tsunenaga	Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
10	11/24	Yasuke	Learn about the story of Yasuke	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
11	12/1	Wiliam Adams	Learn about the story of Wiliam Adams	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
12	12/8	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Sun Yat-sen	Learn about the story of Learn about the story of Sun Yat-sen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
14	12/22	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	1/12	Semester Exam まとめ	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semseter	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】		
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework of Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Ginza	Learn about the story of Ginza	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Review material from last semester.	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
2	9/23	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	9/30	Nara	Learn about the story of Nara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	10/7	Mount Fuji	Learn about the story of Mount Fuji	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	10/14	Nagasawa Kanye	Learn about the story of Nagasawa Kanye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	10/21	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Wako	Learn about the story of Wako	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
8	11/11	The Tensho Embassy	Learn about the story of The Tensho Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
9	11/18	Hasekura Tsunenaga	Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
10	11/25	Yasuke	Learn about the story of Yasuke	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
11	12/2	William Adams	Learn about the story of William Adams	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
12	12/9	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
14	12/23	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
15	1/13	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
Students will discuss, read, and listen to information about Japan and its culture. They will work on their language skills to share this knowledge with visitors to Japan.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英吾で読む 外国人がほんとうに知りたい日本の文化と歴史	Thomas Lockley	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスパワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	二部 金9/18	Introductory lecture	Introductory lecture Syllabus	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the structure of the course and what students are expected to do.	
		事前学修	Read Syllabus	30分
		事後学修	Prepare 1-2 questions and send an email (optional)	30分
2	二部 金9/25	14. The Meiji Jingu Shrine	1. A Peaceful Escape in the Middle of Tokyo. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
3	二部 金10/2	15. Ginza	1. Where the Streets Glisten Silver. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
4	二部 金10/9	16. Roppongi and Shibuya	1. Districts of Diversity and Fun. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
5	二部 金10/16	17. Kyoto	1. The Beating Heart of Japan. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
6	二部 金10/23	18. Nara	1. A Deer Old Capital. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	二部 金10/30	19. Sushi and Tempura	1. Global Foods of Japan. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
8	二部 金11/6	20. Noodles	1. Happiness in a Bowl. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
9	二部 金11/13	21. Mount Fuji	1. A Glorious Goddess of Japan. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
10	二部 金11/20	22. Nagasawa Kanae	1. Samurai of California. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
11	二部 金11/27	23. Kim Chung-seon	1. Korean Samurai. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
12	二部 金12/4	24. Wako	1. Terrors and Darlings of the Seas. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	二部 金12/11	25. The Tensho Embassy	1. Knights of Japan and Rome. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
14	二部 金12/18	26. Hasekura Tsunenga	1. A Bittersweet Roman Journey. 2. Find out more. 3. Questions that people from overseas ask.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
15	二部 金12/25	Review Class Test	Review Class Final Test	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Evaluate how much we have learned.	
		事前学修	Study	120分
		事後学修	Review	30分

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修してください。This course is aimed at students who wish to improve their English communication skills.

【授業方法】
演習方式。Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can request feedback during the lesson and at the end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
後期「An International History of Japan II」(Thomas Lockley、DTP出版、1,750円＋税)	Thomas Lockley	DTP Publishing	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email gary@garyhayden.co.uk. Please ask questions after class (Wednesday 2nd period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Thomas Glover	Learn about the Scottish businessman Thomas Glover and his influence in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Thomas Glover, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
2	9/23	The Choshu Five	Learn about the travels of the Choshu Five and their influence in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Choshu Five, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
3	9/30	Nagasawa Kanaye	Learn about the life of the Japanese-American wine-grower Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Nagasawa Kanaye, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
4	10/7	The Iwakura Embassy	Learn about the journeys and influence of the Iwakura Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Iwakura Embassy, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
5	10/14	The Bonin Islands	Learn about the Japanese Bonin Islands	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Bonin Islands, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
6	10/21	Tsuda Umeko	learn about the life and influence of Tsuda Umeko	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Tsuda Umeko, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Karayukisan	Learn about lives of the Karayukisan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Karayukisan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
8	11/11	Sun Yat-sen and Japan	Learn about the first Chinese president Sun Yat-sen and his relationship with Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Sun Yat-sen and Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
9	11/18	Japanese emigration in the 20th century	Learn about Japanese emigration in the 20th century	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Japanese emigration in the 20th century, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
10	11/25	Immigration to Japan	Learn about immigration to Japan in the early part of the twentieth century	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of immigration to Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
11	12/2	Noguchi Hideo	Learn about the life and career of the medical researcher Noguchi Hideo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Noguchi Hideo, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
12	12/9	Sugihara Chiune	Learn about the life of Sugihara Chiune, who helped thousands of Jewish refugees in WWII	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Sugihara Chiune, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/16	The international spread of Japanese culture		Learn about the international spread of Japanese culture from the sixteenth century until now
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the international spread of Japanese culture, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
14	12/23	Semester Revision		Semester revision. Practice exam with feedback.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (practice exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Revise all of the course vocabulary.	30分
		事後学修	Revise for the exam.	30分
15	1/13	Semester test		Semester test. Feedback on exam questions and answers.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修してください。This course is aimed at students who wish to improve their English communication skills.

【授業方法】
演習方式。Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。								2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can request feedback during the lesson and at the end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
後期「An International History of Japan II」(Thomas Lockley、DTP出版、1,750円＋税)	Thomas Lockley	DTP Publishing	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email gary@garyhayden.co.uk. Please ask questions after class (Wednesday 1st period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Thomas Glover	Learn about the Scottish businessman Thomas Glover and his influence in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Thomas Glover, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
2	9/23	The Choshu Five	Learn about the travels of the Choshu Five and their influence in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Choshu Five, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
3	9/30	Nagasawa Kanaye	Learn about the life of the Japanese-American wine-grower Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Nagasawa Kanaye, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
4	10/7	The Iwakura Embassy	Learn about the journeys and influence of the Iwakura Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Iwakura Embassy, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
5	10/14	The Bonin Islands	Learn about the Japanese Bonin Islands	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Bonin Islands, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
6	10/21	Tsuda Umeko	learn about the life and influence of Tsuda Umeko	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Tsuda Umeko, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Karayukisan	Learn about lives of the Karayukisan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Karayukisan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
8	11/11	Sun Yat-sen and Japan	Learn about the first Chinese president Sun Yat-sen and his relationship with Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Sun Yat-sen and Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
9	11/18	Japanese emigration in the 20th century	Learn about Japanese emigration in the 20th century	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Japanese emigration in the 20th century, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
10	11/25	Immigration to Japan	Learn about immigration to Japan in the early part of the twentieth century	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of immigration to Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
11	12/2	Noguchi Hideo	Learn about the life and career of the medical researcher Noguchi Hideo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Noguchi Hideo, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
12	12/9	Sugihara Chiune	Learn about the life of Sugihara Chiune, who helped thousands of Jewish refugees in WWII	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Sugihara Chiune, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/16	The international spread of Japanese culture		Learn about the international spread of Japanese culture from the sixteenth century until now
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the international spread of Japanese culture, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
14	12/23	Semester Revision		Semester revision. Practice exam with feedback.
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text (practice exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Revise all of the course vocabulary.	30分
		事後学修	Revise for the exam.	30分
15	1/13	Semester test		Semester test. Feedback on exam questions and answers.
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text (exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
二部法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Aと通年で履修してください。毎回の授業に出席する事はもちろん、出席しても寝ていたり、授業に参加する態度が感じられない場合は出席とカウントしない場合があります。

【授業方法】
テキストの内容の文法理解に加えて、音読・シャドーイングが基本。テキストの内容に基づいた会話練習も行います。とにかく出席者が必ず英語を発音する場になります。毎回、前回の授業内容確認の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、ペア・ワークやグループ・ワークへの参加度等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Burning Issues: Intermediate Level	Cheryl Pavlik	Shohakusha / Cengage Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	導入講義	イントロダクション（小テスト実施予定）	
		この回の到達目標	前期授業の英語学習の確認と今後の勉強方法の改善点を話し合う	
		事前学修	前期英語授業の復習	30分
		事後学修	復習	30分
2	9/21	リスニング&文法・読解	Unit 7(1)教科書を読みながらリスニング&リーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分
3	9/28	ライティング&スピーキング	Unit 7(2)教科書の内容について意見を述べ、英語で書く練習	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	復習	30分
4	10/5	リスニング&文法・読解	Unit 8(1)教科書を読みながらリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分
5	10/12	ライティング&スピーキング	Unit 8(2)Unit 2全体の内容をまとめて英語で説明して、英語で書いてみる	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を参考にシャドーイング（スピーキング力強化）	30分
6	10/19	リスニング&文法・読解	Unit 9(1)教科書を読みながらリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	ライティング&スピーキング	Unit 9(2)Unit 3全体を英語で要約して書く	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を参考にシャドーイング（スピーキング力強化）	30分
8	11/9	リスニング&文法・読解	Unit 10(1)教科書を読みながらリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分
9	11/16	ライティング&スピーキング	Unit 10(2)Unit 4の内容を英語で要約して書く	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を参考にシャドーイング（スピーキング力強化）	30分
10	11/23	リスニング&文法・読解	Unit 11(1)教科書を読みながらリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分
11	11/30	ライティング&スピーキング	Unit 11(2)Unit 5全体を英語で要約してペアワーク（英語で内容に関して質問を出し合って答える練習）	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を参考にシャドーイング（スピーキング力強化）	30分
12	12/7	リスニング&文法・読解	Unit 12(1)教科書を読みながらリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング演習。必要に応じて文法解説	
		この回の到達目標	リスニング&文法・読解演習を通してこれらの能力の改善を行うことが出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を使ってにシャドーイング（リスニング力強化）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	ライティング&スピーキング	Unit 12(2)Unit 6の内容全体を英語で要約してグループワーク（授業で扱った内容に関してディスカッションを行えるようにする練習）	
		この回の到達目標	ライティング&スピーキング演習を通じてこれらの能力の改善を行う事が出来る	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	教科書を参考にシャドーイング（スピーキング力強化）	30分
14	12/21	4技能全て	これまでのまとめ及び時間が足りなくて出来なかった箇所を扱う。	
		この回の到達目標	後期授業を通じて自分に不足している能力を確認して改善に努める	
		事前学修	復習	30分
		事後学修	教科書を使ってシャドーイング（リスニング力強化）	30分
15	1/18	4技能全て	後期授業のまとめ	
		この回の到達目標	後期授業を通じて自分に不足している能力を確認して改善に努める	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	自己採点	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	井上 悦男	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
発音練習などはその場で簡単にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2017	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。授業時間：月曜４・５・６限、水曜１限inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	形式と対策方法	ガイダンス(問題構成の確認)、模擬問題の演習	
		この回の到達目標	問題構成の再確認。	
		事前学修	既習事項の確認	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
2	9/23	Part2, 5の復習	Test1 Part2(7-31), Test2 Part6(131-138)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 (18/25問)と Part5 (7/10問)程度正解すること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	9/30	Part2, 5の習熟	Test2 Part2(7-31), Test2 Part6(139-146)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 (18/25問), Part6 (5/8問), Part5 (7/10問), 程度正解すること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	10/7	Part3の復習	Test2 Part3(32-55)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の正解率を高める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	10/14	Part3の習熟	Test2 Part3(56-70)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の正解率を高める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	10/21	Part4の復習、Part7の演習	Test2 Part4 (71-85)、Test1 Part7(147-160)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の正解率を高める。Part7で時間配分を把握する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Part4の習熟、Part7の演習	Test2 Part4(86-100)、Test1 Part7(161-175)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の正解率を高める。Part7の問題文を正確に読めること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	11/11	複数文書の読解問題	Test1 Part7(176-185)、Test2 Part3(43-70)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	11/18	複数文書の読解問題の発展	Test1 Part7(186-200)、Test2 Part4(71-100)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	11/25	読解問題の習熟	Test2 Part7(147-160)、音読練習	
		この回の到達目標	本番を意識して問題を解ける。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	12/2	読解問題の習熟	Test2 Part7(161-175)、音読練習	
		この回の到達目標	読解問題の本文を正確に読める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	12/9	複数文書の読解問題の発展	Test2 Part7(176-185)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	複数文書の読解問題の習熟	Test2 Part7(186-200)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	12/23	授業内試験	授業内試験、問題の解説	
		この回の到達目標	時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	答えの確認	30分
15	1/13	まとめ	まとめ（受講生の人数によって個別に面接）	
		この回の到達目標	TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	佐藤 明子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
再履修クラスです。1年生の英語A（固定クラス）の単位を取得している学生は履修できません。初回のガイダンス授業に必ず出席すること。

【授業方法】
演習方式。毎時間範囲を決めて小テストを実施する予定です。授業では予習復習がきちんとされているか皆さんにあてていきます。ペアワーク、グループワークもする予定です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークを実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Level-Up Trainer for the TOEIC TEST(Revised Edition)	A. Yokogawa他	National Geographic Learning	2019	教科書	必携
備考	辞書を持参すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス 授業の進め方。履修希望者は必ず出席すること。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、TOEICを受験するための目的を理解し、自分の到達目標を設定することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義全体の概観をする。TOEICの形式を調べておく。ノートを用意する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICのHPで試験概要などを確認する。	30分
2	4/15	Unit 1 テスト形式を知る その1	CaLaboの使い方 (Listening Activity, Pairwork, Groupwork) Unit 1 テスト形式を知る その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの学習方法を理解し、自分の到達目標を設定することができる。	
		事前学修	Unit 1の予習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
3	4/22	Unit 1 テスト形式を知る その2	Unit 1 テスト形式を知る その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テスト形式を理解し、今後のTOEICの学習に役立てることができる。	
		事前学修	Unit 1の復習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
4	4/29	Unit 2 基本戦略① その1	Unit 2 基本戦略① その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。	
		事前学修	Unit 2の予習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
5	5/6	Unit 2 基本戦略① その2	Unit 2 基本戦略① その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。	
		事前学修	Unit 2の復習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
6	5/13	Unit 3 基本戦略② その1	Unit 3 基本戦略② その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。	
		事前学修	Unit 3の予習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Unit 3 基本戦略② その2	Unit 3 基本戦略② その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。	
		事前学修	Unit 3の復習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
8	5/27	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その1	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の基本構造を身に付けることができる。	
		事前学修	Unit 4の予習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
9	6/3	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その2	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の基本構造を身に付けることができる。	
		事前学修	Unit 4の復習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
10	6/10	Unit 5 解答の根拠の登場順 その1	Unit 5 解答の根拠の登場順 その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、解答の根拠の登場順のルールを理解することができる。	
		事前学修	Unit 5の予習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
11	6/17	Unit 5 解答の根拠の登場順 その2	Unit 5 解答の根拠の登場順 その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、解答の根拠の登場順のルールを理解することができる。	
		事前学修	Unit 5の復習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
12	6/24	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その1	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その1 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正解の言い換えパターンに慣れ、スコア・アップに結びつけることができる。	
		事前学修	Unit 6の予習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その2	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その2 小テスト ペア・ワーク、グループ・ワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正解の言い換えパターンに慣れ、スコア・アップに結びつけることができる。	
		事前学修	Unit 6の復習。小テストの範囲を学習する。	30分
		事後学修	リスニングの練習をする。新しく学んだ表現や文法事項を復習する。	30分
14	7/8	前期試験とふり返り	前期授業内試験の実施および前期試験の振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験を通じて、前期に学んだことから正答を導き出すことができる。	
		事前学修	テキストの総復習	120分
		事後学修	テストの復習。わからなかったことを解き直す。	30分
15	7/15	前期の授業をふり返る	前期授業内試験の返却および前期授業の振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験やテキストの復習を通じて、前期に学んだテクニックを定着させることができる。	
		事前学修	前期授業でわからなかったことをまとめておく	30分
		事後学修	前期授業で学んだことを総復習する	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	関戸 冬彦	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】		
教員からの一方的な講義ではなく、受講者が積極的に、時にペアで、グループで、活動するような参加型（ワークショップ）方式にします。 適宜小テストを行い、返却します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークなど、聞いているだけの時間は少なく、毎時間活動的な時間帯があります。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要に応じて授業内で口頭で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CNN 10 -Student News- Vol.8	関戸冬彦ほか	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問、相談などは授業終了後（月曜19：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。fuyuhiko@df6.so-net.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部月 曜9/14	夏休み英語学習のふりかえり	イントロダクション	
		この回の到達目標	今学期の英語学習の自分なりの計画が立てられるようになる。	
		事前学修	夏休みの英語学習のふりかえり	30分
		事後学修	今学期の英語学習の自分なりの計画をまとめる	30分
2	第二部月 曜9/21	Teaching English as a Second Language リスニング	Unit 8: Teaching English as a Second Language リスニング	
		この回の到達目標	Unit 8: Teaching English as a Second Language リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	自分で立てた今学期の学習計画のチェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第3回までの宿題	30分
3	第二部月 曜9/28	Teaching English as a Second Language リーディング	Unit 8: Teaching English as a Second Language リーディング	
		この回の到達目標	Unit 8: Teaching English as a Second Language リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第3回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第4回までの宿題	30分
4	第二部月 曜10/5	Burgers and Antibiotics リスニング	Unit 9: Burgers and Antibiotics リスニング	
		この回の到達目標	Unit 9: Burgers and Antibiotics リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第4回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第5回までの宿題	30分
5	第二部月 曜10/12	Burgers and Antibiotics リーディング	Unit 9: Burgers and Antibiotics リーディング	
		この回の到達目標	Unit 9: Burgers and Antibiotics リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第5回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第6回までの宿題	30分
6	第二部月 曜10/19	Ikigai リスニング	Unit 10: Ikigai リスニング	
		この回の到達目標	Unit 10: Ikigai リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第6回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第7回までの宿題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部月 曜10/26	Ikigai リーディング	Unit 10: Ikigai リーディング	
		この回の 到達目標	Unit 10: Ikigai リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第7回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第8回までの宿題	30分
8	第二部月 曜11/9	Workers in South Korea リスニング	Unit 11: Workers in South Korea リスニング	
		この回の 到達目標	Unit 11: Workers in South Korea リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第8回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第9回までの宿題	30分
9	第二部月 曜11/16	Workers in South Korea リーディング	Unit 11: Workers in South Korea リーディング	
		この回の 到達目標	Unit 11: Workers in South Korea リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第9回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第10回までの宿題	30分
10	第二部月 曜11/23	Smart Park in Dubai リス ニング	Unit 12: Smart Park in Dubai リスニング	
		この回の 到達目標	Unit 12: Smart Park in Dubai リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第10回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第11回までの宿題	30分
11	第二部月 曜11/30	Smart Park in Dubai リー ディング	Unit 12: Smart Park in Dubai リーディング	
		この回の 到達目標	Unit 12: Smart Park in Dubai リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第11回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第12回までの宿題	30分
12	第二部月 曜12/7	Ice Palaces リスニング	Unit 13: Ice Palaces リスニング	
		この回の 到達目標	Unit 13: Ice Palaces リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第12回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第13回までの宿題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部月 曜12/14	Ice Palaces リーディング	Unit 13: Ice Palaces リーディング	
		この回の到達目標	Unit 13: Ice Palaces リーディングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第13回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第14回までの宿題	30分
14	第二部月 曜12/21	A New Way of Farming リスニング	Unit 14: A New Way of Farming リスニング	
		この回の到達目標	Unit 14: A New Way of Farming リスニングセクションが理解できるようになる。	
		事前学修	第14回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第15回までの宿題	30分
15	第二部月 曜1/18	A New Way of Farming リーディング	Unit 14: A New Way of Farming リーディング、今学期全体のふりかえり	
		この回の到達目標	Unit 14: A New Way of Farming リーディングセクションが理解できるようになる。今学期の英語学習のふりかえりができる。	
		事前学修	第15回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック	30分
		事後学修	春休み、二年生以降の学習計画の確認	30分

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
グループワークを取り入れ、発表形式で行います。 レポート課題返却時、詳細なコメントを入れてフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	特になし				

【オフィスアワー】
金曜2限終了後（１２：１０～１２：３０）、授業講堂で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部月 9/14	【ガイダンス】後期授業の概要の説明	前期の授業を振り返り、能動、受動英語の違いを確認。速読、速解方について学ぶ。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解へとつながる英語リーディング法を学び、それを実践することができる。	
		事前学修	シラバスの確認	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
2	第二部月 9/21	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
3	第二部月 9/28	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。 グループワークでレポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
4	第二部月 10/5	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3）各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。 グループワークでレポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
5	第二部月 10/12	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
6	第二部月 10/19	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第二部月 10/26	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
8	第二部月 11/9	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
9	第二部月 11/16	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
10	第二部月 11/23	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
11	第二部月 11/30	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読
12	第二部月 12/7	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。
		事前学修	グループ内で英文を精読
		事後学修	グループ内で英文を精読

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部月 12/14	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	グループ内で英文を精読	30分
14	第二部月 12/21	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	比較的平易な内容に関する英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
		事前学修	グループ内で英文を精読	30分
		事後学修	既習事項の確認、復習	30分
15	第二部月 1/18	【定期テスト、後期授業のまとめ】	定期テスト後、解答、解説を行ない、後期授業の内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解を意識した英語リーディング法を実践できる。	
		事前学修	既習事項の確認、復習	30分
		事後学修	後期授業の範囲を読んでおくこと。	30分

科目名	英語B	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
留学生のみの授業と成ります。

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Multicultural Stories from Modern Japan	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	Tei Ei-Kei	Learn about Tei Ei-kei and coffee culture in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Tei Ei-Kei so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
2	/	Kairakutei Black	Learn about Kairakutei Black and rakugo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kairakutei Black so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
3	/	Victor Starrfin	Learn about Victor Starrfin a Russian baseball pioneer in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Victor Starrfin so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
4	/	Rash Behari Bose	Learn about Rash Behari Bose and curry in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Rash Behari Bose so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
5	/	Leo Sirota	Learn about Leo Sirota and classical music in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Leo Sirota so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
6	/	Beate Sirota Gordon	Learn about Beate Sirota Gordon and the Japanese constitution.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Beate Sirota Gordon so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	Chen Kenmin	Learn about Chen Kenmin and Chinese food history in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
8	/	Rikidozan	Learn about Rikidozan and wresting in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Chen Kenmin so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
9	/	Ando Momofuku	Learn about Ando Momofuku and ramen culture in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Ando Momofuku so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
10	/	Korean food in Japan	Learn about the history of Korean food in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Korean food in Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
11	/	Oh Sadaharu	Learn about Oh Sadaharu and baseball in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Oh Sadaharu so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
12	/	Konishiki Yasokichi	Learn about Konishiki Yasokichi and sumo in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Konishiki Yasokichi so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	Murata Renho	Learn about Murata Renho and Japanese politics	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Murata Renho so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
14	/	Son Masayoshi	Learn about Son Masayoshi and business in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Son Masayoshi so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare text for lesson.	30分
		事後学修	Finish reflection and revise for the semeseter exam.	30分
15	/	Semester Exam	Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
		この回の到達目標	Students will do the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semeseter exam.	30分
		事後学修	Reflect on the semester.	30分

科目名	英語C【法曹コース1年生共通クラス(上級)】	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法曹コース1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
授業前半はグループの演習方式で授業を進めます。リアクションペーパーをグループでシェアし、プレゼンをします。また、シャドーイング、ディクテーションの課題が課されます。授業内で実践するシャドーイングはその場で教員が個別に実施し評価をします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題としたリスニング材料の内容をグループ内で発表し、それについてディスカッションをする。担当のグループは全員の前でプレゼンをする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員がシャドーイングを個別に聞き、批評する。リスニング課題の提出物はコメントを入れて返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編	国際ビジネスコミュニケーション	IIBC	2016	参考書	推奨
初級者からのCNNニュースリスニング（2020春）	English Express編	朝日出版社	2020	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日3時以降

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	ガイダンス 授業の進め方について 席順を決める	①授業スケジュール、成績評価の方法の説明、課題の提出方法を伝える。 ②クラスのグループ分けをし、グループ内で英語の自己紹介をする。 ③英語のリスニングスキル養成には何が必要か。そのためにすることは何かについて解説する。	
		この回の 到達目標	①グループのクラスメイトを知ることができる。 ②前期授業の進め方について理解することができる。 ③リスニングスキル向上のために何が必要かを知ることができる。	
		事前学修	シラバスを確認する。 教科書を購入して授業に臨む。	30分
		事後学修	学んだ内容を復習し、課題に取り組む準備をする。	60分
2	第一部月 4/13	TED talksの観方	①英語の生の動画をどのように鑑賞したらリスニングスキルに役立つかを説明する。 →短いTED talksの例を見せながら、字幕の使い方を解説する。 ③次回課題の書き方、提出方法について説明する。	
		この回の 到達目標	①生の動画の字幕をどう使えば英語のリスニング力が向上がするかわ知ることができる。 ②次回以降の授業の課題について理解することができる。	
		事前学修	TED talksを事前に視聴してみる。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、TED talksの課題提出のための動画を選び鑑賞する。 課題プリントを作成する。	60分
3	第一部月 4/20	TED talks課題のグループ紹介 シャドーイングの方法	①課題のTED talksをグループ内で紹介し合う。 次回からグループ発表するので、その順番を決める。 ②シャドーイングの方法を詳しく説明する。	
		この回の 到達目標	シャドーイングの方法を理解することができる。	
		事前学修	TED talksの課題が説明できるように、プリントを復習する。	30分
		事後学修	次回のTED talksの課題プリントを完成する。 シャドーイングの練習をする。	60分
4	第一部月 4/27	TED talks グループ発表A	①Group Aの学生はTED talksの発表をする→動画の一部を教室内で見せながら、トークの内容、印象に残ったquotes、そして新しい単語の説明をする。 ②教員は動画の中の重要単語やフレーズを黒板に書き出し、補足説明をする。 ③シャドーイングのおさらい。	
		この回の 到達目標	①TED talksの内容について理解することができる。 ②英語の新しい様々な英語表現を学ぶことができる。 ③シャドーイング・スキルを深めることができる。	
		事前学修	前回学んだ新しい表現を復習する。	30分
		事後学修	①TED talksの課題プリントを完成する。 ②単語クイズの勉強をする。 ③シャドーイングの練習を続ける。	60分
5	第一部月 5/4	TED talks グループ発表B シャドーイングに慣れる	①前回TED talksの単語復習クイズを実施し、教員が解説をする。 ②教員はシャドーイングの課題が完成した学生から個々に聞いていく。 ③Group Bの学生はTED talksの発表をする→動画の一部を教室内で見せながら、トークの内容、印象に残ったquotes、そして新しい単語の説明をする。 ②教員は動画の中の重要単語やフレーズを黒板に書き出し、補足説明をする。	
		この回の 到達目標	①TED talksの内容について理解することができる。 ②英語の新しい様々な英語表現を学ぶことができる。 ③シャドーイング・スキルを深めることができる。	
		事前学修	前回学んだ新しい表現を復習する。 やり直しのシャドーイングが必要な学生は練習をする。	30分
		事後学修	①TED talksの課題プリントを完成する。 ②単語クイズの勉強をする。 ③シャドーイングの練習を続ける。	60分
6	第一部月 5/11	TED talks グループ発表C シャドーイングに慣れる	①前回TED talksの単語復習クイズを実施し、教員が解説をする。 ②教員はシャドーイングの課題が完成した学生から個々に聞いていく。 ③Group Cの学生はTED talksの発表をする→動画の一部を教室内で見せながら、トークの内容、印象に残ったquotes、そして新しい単語の説明をする。 ②教員は動画の中の重要単語やフレーズを黒板に書き出し、補足説明をする。	
		この回の 到達目標	①TED talksの内容について理解することができる。 ②英語の新しい様々な表現を学ぶことができる。 ③シャドーイング・スキルを深めることができる。	
		事前学修	前回学んだ新しい表現を復習する。 やり直しのシャドーイングが必要な学生は練習をする。	30分
		事後学修	①TED talksの課題プリントを完成する。 ②単語クイズの勉強をする。 ③シャドーイングの練習を続ける。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	ディクテーションの方法を学ぶ シャドーイングの点検	①前回TED talksの単語復習クイズを実施し、教員が解説をする。 ②リスニングスキル向上のためのディクテーションの方法を学ぶ ③各学生のシャドーイング学習を点検する。	
		この回の到達目標	①ディクテーションの方法を理解することができる。 ②シャドーイングの方法を理解することができる。	
		事前学修	ディクテーションの課題をする。 やり直しのシャドーイングが必要な学生は練習をする。	30分
		事後学修	①TED talksの課題プリントを完成する。 ②ディクテーションの課題を終わらせる。 ③シャドーイングの練習を続ける。	60分
8	第一部月 5/25	TED talks グループ発表D シャドーイングに慣れる	①教員はディクテーションの方法をおさらいし、課題を集める。 ②教員はシャドーイングの課題が完成した学生から個々に聞いていく。 ③Group Dの学生はTED talksの発表をする→動画の一部を教室内で見せながら、トークの内容、印象に残ったquotes、そして新しい単語の説明をする。 ④教員は動画の中の重要単語やフレーズを黒板に書き出し、補足説明をする。	
		この回の到達目標	①TED talksの内容について理解することができる。 ②英語の新しい様々な表現を学ぶことができる。 ③シャドーイング・スキルを深めることができる。	
		事前学修	前回学んだ新しい表現を復習する。 やり直しのシャドーイングが必要な学生は練習をする。	30分
		事後学修	①TED talksの課題プリントを完成する。 ②単語クイズの勉強をする。 ③シャドーイングの練習を続ける。	60分
9	第一部月 6/1	TED talks グループ発表E シャドーイングに慣れる	①前回TED talksの単語復習クイズを実施し、教員が解説をする。 ②教員はシャドーイングの課題が完成した学生から個々に聞いていく。 ③Group Eの学生はTED talksの発表をする→動画の一部を教室内で見せながら、トークの内容、印象に残ったquotes、そして新しい単語の説明をする。 ④教員は動画の中の重要単語やフレーズを黒板に書き出し、補足説明をする。	
		この回の到達目標	①TED talksの内容について理解することができる。 ②英語の新しい様々な表現を学ぶことができる。 ③シャドーイング・スキルを深めることができる。	
		事前学修	前回学んだ新しい表現を復習する。 やり直しのシャドーイングが必要な学生は練習をする。	30分
		事後学修	①TED talksの課題プリントを完成する。 ②単語クイズの勉強をする。 ③シャドーイングの練習を続ける。	60分
10	第一部月 6/8	TED talks グループ発表F シャドーイングに慣れる	①前回TED talksの単語復習クイズを実施し、教員が解説をする。 ②教員はシャドーイングの課題が完成した学生から個々に聞いていく。 ③Group Fの学生はTED talksの発表をする→動画の一部を教室内で見せながら、トークの内容、印象に残ったquotes、そして新しい単語の説明をする。 ④教員は動画の中の重要単語やフレーズを黒板に書き出し、補足説明をする。	
		この回の到達目標	①TED talksの内容について理解することができる。 ②英語の新しい様々な表現を学ぶことができる。 ③シャドーイング・スキルを深めることができる。	
		事前学修	前回学んだ新しい表現を復習する。 やり直しのシャドーイングが必要な学生は練習をする。	30分
		事後学修	①TED talksの課題プリントを完成する。 ②単語クイズの勉強をする。 ③シャドーイングの練習を続ける。	60分
11	第一部月 6/15	TED talks グループ発表G シャドーイングに慣れる	①前回TED talksの単語復習クイズを実施し、教員が解説をする。 ②教員はシャドーイングの課題が完成した学生から個々に聞いていく。 ③Group Gの学生はTED talksの発表をする→動画の一部を教室内で見せながら、トークの内容、印象に残ったquotes、そして新しい単語の説明をする。 ④教員は動画の中の重要単語やフレーズを黒板に書き出し、補足説明をする。	
		この回の到達目標	①TED talksの内容について理解することができる。 ②英語の新しい様々な表現を学ぶことができる。 ③シャドーイング・スキルを深めることができる。	
		事前学修	前回学んだ新しい表現を復習する。 やり直しのシャドーイングが必要な学生は練習をする。	30分
		事後学修	①TED talksの課題プリントを完成する。 ②単語クイズの勉強をする。 ③シャドーイングの練習を続ける。	60分
12	第一部月 6/22	シャドーイングを進める	①前回TED talksの単語復習クイズを実施し、教員が解説をする。 ②教員はシャドーイング課題未完成の学生を個々にテストを実施し、エキストラポイントでできる学生のシャドーイングも聞く。	
		この回の到達目標	シャドーイング・スキルを深めることができる。	
		事前学修	シャドーイングのおさらいをする。	30分
		事後学修	①TED talksの課題プリントを完成する。 ③シャドーイングの練習を続ける。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	TED talks グループ発表H シャドーイングに慣れる	①前回TED talksの単語復習クイズを実施し、教員が解説をする。 ②教員はシャドーイングの課題が完成した学生から個々に聞いていく。 ③Group Cの学生はTED talksの発表をする→動画の一部を教室内で見せながら、トークの内容、印象に残ったquotes、そして新しい単語の説明をする。 ④教員は動画の中の重要単語やフレーズを黒板に書き出し、補足説明をする。	
		この回の 到達目標	①TED talksの内容について理解することができる。 ②英語の新しい様々な表現を学ぶことができる。 ③シャドーイング・スキルを深めることができる。	
		事前学修	前回学んだ新しい表現を復習する。 やり直しのシャドーイングが必要な学生は練習をする。	30分
		事後学修	①TED talksの課題プリントを完成する。 ②単語クイズの勉強をする。 ③シャドーイングの練習を続ける。	60分
14	第一部月 7/6	前期のまとめテスト	前期で学んだTED talksの中の重要表現の復習テストを実施し、解説をする。	
		この回の 到達目標	前期に学んだ英語表現を理解することができる。	
		事前学修	前期のクイズをおさらいし、テストに備える。	30分
		事後学修	テストで間違った箇所をおさらいする。	60分
15	第一部月 7/13	シャドーイングテスト	クラス全員のシャドーイングテストを実施し、教員はそれぞれにフィードバックを行う。	
		この回の 到達目標	シャドーイング方法の理解を深めることができる。	
		事前学修	シャドーイング課題を練習する。	60分
		事後学修	前期で学んだリスニングスキルの方策についておさらいし、後期に備える。	30分

科目名	英語C【法曹コース1年生共通クラス】	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法曹コース1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
教科書に沿って演習形式で授業を行う。リスニングの理解度を高めるためとディスカッションの準備のために、ほぼ毎授業で小テストを実施する。授業では、音読、シャドウイング、ディクテーション、ノートテイキング、学生のペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。毎回リスニングに関する課題あり。辞書を必ず持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1		1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後に授業で解説を行う。課題は採点后、返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pathways 3 - Listening, Speaking, and Critical Thinking Second Edition	Becky Tarver Chase	ナショナルジオグラフィック	2018年出版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:30~13:00 （事前にメールでアポイントを取るこ）授業講堂 kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス、導入授業	この授業の目的である「リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得」のために必要な事を解説する。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法など説明する。オンライン資料へのアクセスを確認し、授業準備・復習に役立てるようにする。	
		この回の到達目標	目的達成にどういう学習が必要なのかを理解する。授業の準備・復習に必要な環境を整えることができる。これから共にディスカッションなどを行う学生同士が話しやすい環境を整える。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、テキスト全体に目を通し学修の準備をする。	30分
		事後学修	授業ガイダンスに従い実際に授業準備ができるか確認する。Unit 1 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp.1-5)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
2	4/13	The Science of Shopping	語彙小テスト。テキスト Unit 1-A “An Interview about Consumer Behavior”を聞く。イントネーションが話者の心的態度を表すことを理解し、表現できるようにする。リスニング内容に基づき、話者の主張点を分析し、是非の検討を行う。仮定法の表現を学修する。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “An Interview about Consumer Behavior” のリスニングを通して、話し手の心的態度を推論し、特定することができる。またその内容を客観的に、トピック毎に是非を識別することができる。仮定法を用いた表現を理解し、使用することができる。	
		事前学修	Unit 1 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp.1-5)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“An Interview about Consumer Behavior” のノートテイキングを行い、目標の定着を図る。	90分
3	4/20	Behavioral Science	語彙小テスト。テキスト Unit 1-B “A Lecture about Gender and Shopping”を聞く。統計データを正確に英語で引用し、表現できるようにする。リスニングのテーマから内容を予測し、内容に基づき分析する。疑問文のイントネーションのパターンの相違を学修する。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Lecture about Gender and Shopping” のリスニングを通して、統計データを正確に英語で引用し、表現することができる。疑問文のイントネーションのパターンの相違を理解し、使用することができる。	
		事前学修	Unit 1 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp.14-15)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Lecture about Gender and Shopping” のディクテーション。プレゼンテーション “elevator pitch” の概要を組み立てる。	90分
4	4/27	Persuasive Speech	聞き手を説得する短いスピーチを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して “A short persuasive speech” を構想し、的確に英語の運用能力を使用することができる。他の学生が行ったスピーチを聞いて、さらに良いスピーチにするために良い点を評価し、問題点を指摘し、互いに貢献することができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
5	5/4	Mother Nature	語彙小テスト。テキスト Unit 2-A “A Panel about a Film Contest”を聞く。リスニング内容に基づき、判断の評価基準が何かを特定し、それについて分析する。形容詞節の表現を学修する。「環境保護と絶滅危惧種」のトピックについてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Panel about a Film Contest” を聞く。リスニング内容に基づき、判断の評価基準が何かを特定し、それについて分析する。形容詞節を用いた表現を理解し、使用することができる。到達目標②に関連して適切な語彙を使用して「環境保護と絶滅危惧種」に関して自己の意見をコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 2 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp.21-25)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Panel about a Film Contest” のノートテイキングを行い、目標の定着を図る。	90分
6	5/11	Biology and Genetics	語彙小テスト。テキスト Unit 2-B “A Conversation on Campus”を聞く。ディスカッションの場で提案を的確な英語で表現できるようにする。少人数のグループでプレゼンテーションを行う準備をする。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Conversation on Campus” のリスニングを通して、ディスカッションの場で提案を的確な英語で表現することができる。強勢リズムを理解して内容語をしっかりとコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 2 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp.14-15)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Conversation on Campus” のディクテーション。グループプレゼンテーション “A short proposal for a 10-minute nature documentary” の概要を組み立てる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	5/18	Presenting a Proposal		少人数で提案型のプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して“A short proposal for a 10-minute nature documentary”を構想し、的確に英語の運用能力を使用することができる。他の学生と共に明確に伝わるプレゼンテーションを行うために議論し、協働することができる。		
		事前学修	プレゼンテーションの準備。		
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。		
8	5/25	On the Move		語彙小テスト。テキスト Unit 3-A “A Lecture about Migration”を聞く。リスニング内容に基づき、情報の分類と分析を行う。程度の副詞の表現を学修する。「ケーススタディ」についてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Lecture about Migration”を聞く。リスニング内容に基づき、個人の決定の判断に影響を与える要因を特定し、分類することができる。程度の副詞表現を理解し、使用することができる。到達目標②に関連して適切な語彙を使用して「都市の住みやすさランキングに関するケーススタディ」の情報を調べ、分類し、自分の分析結果を明確にコミュニケーションすることができる。		
		事前学修	Unit 3 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 41-45)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。		
		事後学修	課題：“A Lecture about Migration”のノートティキングを行い、目標の定着を図る。		
9	6/1	Sociology		語彙小テスト。テキスト Unit 3-B “A Study Group Discussion”を聞く。ディスカッションの内容に基づき、根拠の分類と分析を行い、それに付いて評価を行う。蓋然性の違いを示す表現を学修する。順序を明確にして話すことを学修する。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Study Group Discussion”のリスニングを通して、根拠の分類と分析を行い、それについて評価を行うことができる。順序を明確にする表現を用いて聞き手に理解されやすいスピーチをすることができる。蓋然性の違いを示す表現を用いてコミュニケーションすることができる。		
		事前学修	Unit 3 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 54-55)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。		
		事後学修	課題：“A Study Group Discussion”のディクテーション。“Colonization of Mars”についてのペアプレゼンテーションの概要を組み立てる。		
10	6/8	Colonizing Mars		“Colonization of Mars”についてのペアプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して“colonization of Mars”に関する意見を的確な英語表現を用いて明確に述べることができる。他の学生と共に、自分たちの意見の根拠となる事実、データ、専門家の考えなどを調べ、資料の評価を行い、整理し、議論し、協働して重要度に応じてわかりやすい形で提示することができる。		
		事前学修	プレゼンテーションの準備。		
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。		
11	6/15	Our Changing Planet		語彙小テスト。テキスト Unit 4-A “An Earth Sciences Lecture”を聞く。講義の中の本筋と余談の違いを理解する。スピーチの流れの中で受動態を使用することが自然な場合を理解し、表現を学修する。想像的スピーチをする。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“An Earth Sciences Lecture”のリスニングを通して、講義のキーポイントを特定し、指摘することができる。受動態を用いた表現を理解し、自然な展開になるよう使用することができる。		
		事前学修	Unit 4 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 61-65)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。		
		事後学修	課題：“An Earth Sciences Lecture”のノートティキングを行い、目標の定着を図る。		
12	6/22	Earth Science		語彙小テスト。テキスト Unit 4-B “A Conversation about Selecting a College”を聞く。会話の内容に基づき、選択の要因を特定、分析、評価を行った上で意見を表明する。特定の語に強勢を置くことで異なった内容を伝えることを学修する。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Conversation about Selecting a College”のリスニングを通して、選択の要因を特定、分析、評価を行った上で意見を表明することができる。特定の語に強勢を置く発音表現を用いて、意見を明確にコミュニケーションすることができる。		
		事前学修	Unit 4 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 74-75)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。		
		事後学修	課題：“A Conversation about Selecting a College”のディクテーション。“Business Report on ecotourism”についてのペアプレゼンテーションの概要を組み立てる。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Making a Business Report	"Business Report on ecotourism"についてのペアプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して "Business Report on ecotourism"に関する企画を的確な英語表現を用いて明確に述べる事ができる。他の学生と共に、自分たちの企画に必要な事実、データ、専門家の考え、映像資料などを調べ、資料の評価を行い、整理し、議論し、協働してわかりやすく魅力的な形で提示することができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
14	7/6	授業内試験、まとめ	授業内試験および今学期の授業のまとめ	
		この回の到達目標	授業で学修したことの確認することで各学生が自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	今学期の授業を振り返る。	120分
		事後学修	試験の見直しをする。	30分
15	7/13	授業フィードバック	授業内試験のフィードバック。	
		この回の到達目標	授業内試験をフィードバックすることで、各学生が正確に自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	授業内試験を振り返る。	30分
		事後学修	授業の見直しをする。	30分

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
アトランダムに指名し問題の答えを言ってもらいます。しっかりと予習をしてください。2時間で1 unitのペースで読み進めていきます。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に返却し、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Jiro Goes to Amerika		金星堂			
備考					

【オフィスアワー】
金曜日9時～12時20分 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金曜日1限 4月10日	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
		この回の到達目標	単位取得のプロセスを理解する。	
		事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）	30分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。（30分）	30分
2	4月17日	授業方法に慣れる。	Unit1 リスニング	
		この回の到達目標	リスニングのコツを覚える。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
3	4月24日	発音記号	Unit1 発音	
		この回の到達目標	発音記号の基礎を覚える。	
		事前学修	指示された個所の予習（30分）	30分
		事後学修	間違った箇所の理解（30分）	30分
4	5月1日	リスニングの基礎	Unit2 リスニング	
		この回の到達目標	聞き取れる単語を増やす。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
5	5月8日	単語の発音	Unit2 発音	
		この回の到達目標	単語の発音が正確にできるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
6	5月15日	単文の聞き取り	Unit3 リスニング	
		この回の到達目標	短文を聞き取れるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	語彙力アップ	Unit3 練習問題 小テスト	
		この回の到達目標	小テストでよい点を射おる。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	試験の復習	30分
8	5月29日	短文の聞き取り	Unit4 リスニング	
		この回の到達目標	短い文章が聞き取れるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
9	6月5日	会話の練習	Unit4 会話練習	
		この回の到達目標	簡単な会話に慣れる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の訂正	30分
10	6月12日	会話文の聞き取り	Unit5 リスニング	
		この回の到達目標	簡単な会話を聞き取れるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
11	6月19日	発音記号（母音）	Unit5 練習問題	
		この回の到達目標	母音の発音を把握する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
12	6月29日	簡単な会話の聞き取り（2）	Unit6 リスニング	
		この回の到達目標	簡単な会話を聞き取れるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月6日	発音記号（子音）	Unit6 練習問題	
		この回の到達目標	子音の初男院を覚える。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
14	7月13日	リスニングの復習	Unit 6 リスニング	
		この回の到達目標	リスニングに関してこれまで習ったことを覚えなおす。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
15	7月20日	発音の仕上げ	Unit 7 練習問題 小テスト	
		この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習)	30分
		事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	鬼塚 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。授業時には必ず辞書（ただしスマートフォンは使用不可）を持参してください。

【授業方法】
全員参加型の演習方式です。1回の授業でone unitの学習を目指します。語彙力チェックや暗記（ペアやグループによる発表）も実施します。授業内に実施したテストはすべてその翌週（または翌々週）に返却し、解説します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	後半に2回程度、語彙力強化のためのグループワークを行います。基本的な表現を身につけるため、ペアワークまたはグループワークを数回行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。							1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。							1			1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ペアワーク及びグループワーク終了後、学生同士でその成果を評価し合います。授業内で実施したテストはその翌週か翌々週に返却し、解説し、質問を受け付けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English Listening and Speaking Patterns 2 （『パターン』で学ぶ英語コミュニケーション2）	Andrew E. Bennett	南雲堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問や問い合わせはできるだけ授業前後（金曜8:00～9:00、10：30～10:40）に講堂でお願いします。メールについては最初の授業内で説明します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	【ガイダンス】【英語学習とは】	授業の進め方・評価について説明する。受講についての諸注意をする。	
		この回の到達目標	授業内で簡単な語彙力チェックを行い、自分の語彙力の程度を確認し、今後の学習の目標を考えることができる。	
		事前学修	テキストの「Introduction」を熟読し、その内容とテキストの構成を理解する。	60分
		事後学修	もう一度テキストの「Introduction」を読み、自分で半年間の学習計画をたてる。TOEICや英検などの各種検定試験についてWEBサイトや図書館を使って調べる。	30分
2	第一部金 4/17	自己紹介と家族紹介の仕方	Unit 1 Family 単語及び会話の聞き取りを学習し、カタカナと英語の違い（発音及びアクセントの位置や意味）を理解する。実例を聞き、ペアワークで実践する。	
		この回の到達目標	到達目標①②で、肯定的な返答の仕方と否定的な返答の仕方を習得し、実際に自己紹介と家族紹介で使うことができるようにする。	
		事前学修	テキスト11～14頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 1 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
3	第一部金 4/24	友人紹介の仕方	Unit 2 Friends 単語及び会話の聞き取りを学習し、つながる音の消失を理解する。友人の紹介、友人との再会の場面を想定しての会話表現を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、何かをする頻度について話すことができ、具体的に説明できる。友人の人柄を他の人に伝えることができる。	
		事前学修	テキスト15～18頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 2 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
4	第一部金 5/1	文化・習慣の違い	Unit 3 Culture 空所補充問題を通して慣用句を理解し、語末の-e(s)の発音を確実に覚える。文化や習慣の違い、あるいは世代間の違いを表す言い方を習得し、説明できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、必要性を表すために使われる表現と、相手に行動を思いとどまらせるときに使われる表現を使うことができる。	
		事前学修	テキスト19～22頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 3 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
5	第一部金 5/8	大学教育と専攻分野について	Unit 4 Education 主語と動詞の位置関係を理解し、その聞き取りができるようにする。自分の大学や学部、専攻分野を英語で説明することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意見を述べようとするときに使われる構文及び相手にとって意外なできごとを述べる構文を習得し、相手に自分の意見を伝えることができるようにする。	
		事前学修	テキスト23～26頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 4 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
6	第一部金 5/15	スポーツ関連用語を覚える	Unit 5 Sports 空所補充問題を通して慣用句を覚え、カタカナが多いスポーツ用語の正しい英語の発音ができるようにする。自分の気持ちを英語で伝えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、慣用句を適切に使って、自分の正直な気持ちを相手に伝えていることを強調することができる。さらに、これから起こることに対する期待を表すことができる。	
		事前学修	テキスト27～30頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 5 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	就職活動に役立つ表現	Unit 6 Work 将来の就職活動に役立つ英語表現を学び、自分の希望の仕事について説明できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、仕事に関連する語句を覚える。過去・現在・未来の出来事について話す場合の表現の使い分けができる。	
		事前学修	テキスト31～34頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 6 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
8	第一部金 5/29	健康な食生活を考える	Unit 7 Food 食べ物の好き嫌い、料理方法、食事制限など食生活について英語で説明できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、やりたくてもすぐにできないことがあるとき、「チャンスがあればやってみたい」という気持ちを英語で表すことができる。結果を左右する条件について述べることができる。	
		事前学修	テキスト35～38頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 7 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
9	第一部金 6/5	語彙力を高める	グループワークを通して、これまでと違った角度から、語彙力アップをはかる。辞書の効果的な使い方を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙力を増やし、コミュニケーションをスムーズにとることができるようにする。	
		事前学修	これまで学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	60分
		事後学修	グループワーク学習した語句や表現を復習し、繰り返し音読練習をする。	30分
10	第一部金 6/12	英語の学習方法	Unit 8 Studying English ショートトークで使われる表現を学習し、授業や学習方法について英語で説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、何か困ったときの状況を説明したり、目標を達成する方法について話す場合に使われる構文を学び、使えるようにする。	
		事前学修	テキスト39～42頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 8 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
11	第一部金 6/19	健康維持と病気について	Unit 9 Health 診察室の会話から、健康と病気に関する語句や表現を覚え、自分の健康状態を相手に伝えることができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分の病状説明、病気で休みをとる場合の表現、病気にかかった相手を思いやる気持ちを表す表現を習得し、実際の会話で使えるようにする。	
		事前学修	テキスト43～46頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 9 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
12	第一部金 6/26	服装と買い物について	Unit 10 Clothes ショートトークで使われる表現を学習し、服装や買い物に関連する会話ができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な接続詞や慣用句を使って、理由や条件を述べることができる。コミュニケーションが潤滑にいくために、相手の装いをほめることができるようにする。	
		事前学修	テキスト47～50頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 10 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	語彙力アップと発音記号の習得	語彙力チェックを行う。前期に学習した単語・熟語・発音記号についての振り返りをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙力（語句・慣用句）を増やし、発音記号を正しく読むことができる。	
		事前学修	前期に学習した語彙（単語、熟語、発音記号）を復習する。	60分
		事後学修	間違えた語彙の問題をやり直し、暗記する。	60分
14	第一部金 7/10	授業内試験と振り返り	授業内試験を行う。慣用句、会話表現、ショートトークの構成、英問英答についての振り返りをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学習した慣用語句・会話表現を確実に習得する。さまざまな状況を英語で表現できるようにする。	
		事前学修	前期に学習した慣用語句・会話表現を復習する。	60分
		事後学修	間違えた表現を確認し、自分の弱点を把握し、克服する。	30分
15	第一部金 7/17	前学期の振り返り	前期の学習内容を振り返る。答案の返却と解説により、質問や疑問点を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、答案を返却し、解説し、質問を受けるのでその準備をしておく。秋学期の授業に向けて、英語学習のアドバイスを受け、今後の学習方法や計画を考えることができる。	
		事前学修	前期に自分が学習した内容を総復習し、質問事項を整理する。	30分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。今後の学習方法や計画を考える。	60分

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	鬼塚 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。授業時には必ず辞書（ただしスマートフォンは使用不可）を持参してください。

【授業方法】
全員参加型の演習方式です。1回の授業でone unitの学習を目指します。語彙力チェックや暗記（ペアやグループによる発表）も実施します。授業内に実施したテストはすべてその翌週（または翌々週）に返却し、解説します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	後半に2～3回程度、語彙力強化のためのグループワークを行います。基本的な表現を身につけるため、ペアワークまたはグループワークを数回行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ペアワーク及びグループワーク終了後、学生同士でその成果を評価し合います。授業内で実施したテストはその翌週か翌々週に返却し、解説し、質問を受け付けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
World Interviews（インタビューで学ぶ世界の英語）	Miles Craven	成美堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問や問い合わせはできるだけ授業前後（金曜8:00～9:00、10：30～10:40）に講堂でお願いします。メールについては最初の授業内で説明します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	【ガイダンス】【英語学習とは】	授業の進め方・評価について説明する。受講についての諸注意をする。	
		この回の到達目標	授業内で簡単な語彙力チェックを行い、自分の語彙力の程度を確認し、今後の学習の目標を考えることができる。	
		事前学修	テキストの「はしがき」と「本書の構成と使い方」を熟読し、その内容を理解する。	60分
		事後学修	もう一度テキストの「はしがき」と「本書の構成と使い方」を読み、自分で半年間の学習計画をたてる。TOEICや英検などの各種検定試験についてWEBサイトや図書館を使って調べる。	30分
2	第一部金 4/17	アメリカ人の休暇と国立公園	Unit 1 Vacations 休暇を楽しむアメリカ人の日常会話を中心に、アメリカの観光地の地名や国立公園について学ぶ。英語表現だけでなく、英語の地名と地図も学習するので、視野が広がる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、旅行に関連する用語やアメリカの地名を覚え。単語及び会話の聞き取りを学習し、カタカナと英語の違い（発音及びアクセントの位置や意味）が理解できるようになる。文中の強弱のリズムを習得する。	
		事前学修	テキスト8～11頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 1 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
3	第一部金 4/24	ニュージーランドの学校教育	Unit 2 Growing Up ニュージーランド出身の学生の会話から、学校生活やマオリ文化を知る。音節とアクセントを学習し、コミュニケーションの向上をはかる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、成長にかかわる語句（年齢別の語句とその使い方）を覚える。音節を学習し、単語のアクセントの位置を発音しながら、確認する。子供のころの思い出を語ることができるようにする。	
		事前学修	テキスト12～15頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 2 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
4	第一部金 5/1	ブラジル人の生活と娯楽	Unit3 Entertainment 様々な娯楽を意味する英語を学ぶ。特にカタカナとして普段使われている英語や無声音に注意し、正しい意味と発音を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツ、テレビ番組、遊園地や博物館など娯楽に関する語句を学習し、使えるようにする。単語の中で発音されない文字があることを知る。自分の週末の活動を英語で説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト16～19頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 3 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
5	第一部金 5/8	英国人の食生活	Unit 4 FUdd and Drink 料理や食材、味を表す語句を学習する。スコットランド出身の学生の話から、典型的なスコットランド料理やクリスマスの食事について英語で学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、料理に関する英語を使う場合、品詞に注意し、間違った使い方をしないようにする。日本語にはない発音を学び、発音記号を覚える。日本料理を一つ、英語で説明できるようにする。	
		事前学修	テキスト20～23頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 4 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
6	第一部金 5/15	オーストラリア旅行と観光地	Unit 5 Travel and Tourism オーストラリア旅行のスタイル（バックパック、パッケージツアーなど）をシドニー出身の女性のインタビューから学ぶ。日本に来る外国人旅行者が行くところを考え、英語で説明できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語を簡単な英語で説明できるようにする。子音が重なると、消えてしまう音があることを学習する。間違いやすいよく似た語句の違いを理解し、相手に説明できるようにする。	
		事前学修	テキスト24～27頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 5 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	アイルランドの学校教育	Unit 6 Education 学校教育に関連する語句を覚える。日本とは違う学校教育制度について会話やパッセージから学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学校教育や教育制度について（得意科目や不得意科目、学校生活の一番の思い出、宿題、男女別学など）英語で説明できるようにする。be動詞の強弱とリズムを学習する。	
		事前学修	テキスト28～31頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 6 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
8	第一部金 5/29	イタリア人のファッション感覚	Unit 7 Fashion ファッション関連の語句を学習し、イタリア人少女のインタビューから10代の異国の若者のファッションセンスを聞き取る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接尾辞を学習し、派生語を覚え、単語を増やすコツをつかむ。また元の語と派生語のアクセントの違いを把握する。日本で人気のあるブランドを英語で説明できるようにする。	
		事前学修	テキスト32～35頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 7 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
9	第一部金 6/5	語彙力を高める	グループワークを通して、これまでと違った角度から、語彙力アップをはかる。辞書の効果的な使い方を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙力を増やし、コミュニケーションをスムーズにすることができるようにする。	
		事前学修	これまで学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	60分
		事後学修	グループワーク学習した語句や表現を復習し、繰り返し音読練習をする。	30分
10	第一部金 6/12	留学中の日本人からみた英国（イングランド）生活と教育	Unit 8 Living Abroad 英国に留学する日本人学生のインタビューから、日本と英国の教育の違いや国民性を学び、日本人の海外留学のプラスの面とマイナスの面を考え、英語で説明できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接頭辞を学習し、派生語を覚え、単語を増やすコツをつかむ。また元の語と派生語のアクセントの違いを把握する。国民や国籍を表す固有名詞を確認する。英国と英国人について自分が知っていることを説明できるようにする。	
		事前学修	テキスト36～40頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 8 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
11	第一部金 6/19	ウェールズの若者のアルバイト経験	Unit 9 Working Life ウェールズの若者のアルバイト状況やウェールズの経済状況を通して、仕事や労働に関連する語句や表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICにもつながる経済用語や仕事関連の語句を様々な形式の問題をやりながら、習得する。今、自分がやっているアルバイトや将来就きたい職業について英語で説明できるようにする。	
		事前学修	テキスト40～43頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 9 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
12	第一部金 6/26	アメリカ人の健康管理と保険制度	Unit 10 Health 身体の部分や症状を表す語句や表現を習得する。アメリカの保険制度について英語で学習する。また、会話のリズム（一番強調する語、二番目に強調する語の区別ができるようにする）を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、健康維持を表す、あるいは不調な場合の症状を表す語句を学習して、実際に使えるようにする。健康管理の際によく聞かれるいくつかの質問に的確に応えることができるようにする。	
		事前学修	テキスト44～47頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 10 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	語彙力アップと発音記号の習得	語彙力チェックを行う。前期に学習した単語・熟語・発音記号についての振り返りをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙力（語句・慣用句）を増やし、発音記号を正しく読むことができる。	
		事前学修	前期に学習した語彙（単語、熟語、発音記号）を復習する。	60分
		事後学修	間違えた語彙の問題をやり直し、暗記する。	60分
14	第一部金 7/10	授業内試験と振り返り	授業内試験を行う。慣用句、会話表現、ショートトークの構成、英問英答についての振り返りをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学習した慣用語句・会話表現を確実に習得する。さまざまな状況を英語で表現できるようにする。	
		事前学修	前期に学習した慣用語句・会話表現を復習する。	60分
		事後学修	間違えた表現を確認し、自分の弱点を把握し、克服する。	30分
15	第一部金 7/17	前学期の振り返り	前期の学習内容を振り返る。答案の返却と解説により、質問や疑問点を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、答案を返却し、解説し、質問を受けるので、学生は準備しておく。秋学期の授業に向けて、英語学習のアドバイスを受け、今後の学習方法や計画を考えることができる。	
		事前学修	前期に自分が学習した内容を総復習し、質問事項を整理する。	30分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。今後の学習方法や計画を考える。	60分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
十分な予習を前提として、演習形式の授業を行います。理解度・習得度を確認するための各種の小テストを行います。小テストは採点され、次の授業で返却されます。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点されて次の授業時に返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	市販の教科書は使用せず、授業用ハンドアウトを用意します。授業はすべて、このハンドアウトを使って行われます。				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～12:50、授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・進め方を理解し、授業目的に沿った初期演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、初期練習を通じて各自に合った学習法を考えることができる。	
		事前学修	シラバスで授業の全体を概観する。	30分
		事後学修	初期演習の復習をする。	30分
2	4/13	Main Points 1	ハンドアウト Unit 1-(1) パッセージのmain pointsを把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのmain pointsを把握することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Main Pointsに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
3	4/20	Main Points 2	ハンドアウト Unit 1-(2) パッセージのmain pointsを把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのmain pointsを把握することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Main Pointsに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
4	4/27	Detailed Information 1	ハンドアウト Unit 2-(1) パッセージのdetailed information を理解できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのdetailed informationを理解することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 2-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Detailed informationに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
5	5/4	Detailed Information 2	ハンドアウト Unit 2-(2) パッセージの細部の情報を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのdetailed informationを理解することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 2-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Detailed informationに関する追加問題を解き、追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
6	5/11	Positive/Negative 1	ハンドアウト Unit 3-(1) パッセージのpositive/negativeの意味合いを判別できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのpositive/negativeを判別することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 3-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	positive/negativeに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Positive/Negative 2	ハンドアウト Unit 3-(2) パッセージのpositive/negativeの意味合いを判別できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのpositive/negativeを判別することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 3-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	positive/negativeに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
8	5/25	Review 1	ハンドアウト Unit 1～3の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、総復習の小テストを通して、各自の課題点を認識することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1～3を総復習してくる。	60分
		事後学修	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
9	6/1	Contrast 1	ハンドアウト Unit 4-(1) 英文理解・英語表現におけるcontrast(対照性)を把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文理解・英語表現におけるcontrast(対照性)の把握ができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 4-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	contrastに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	60分
10	6/8	Contrast 2	ハンドアウト Unit 4-(2) 英文におけるcontrast(対照性)を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文理解・英語表現におけるcontrast(対照性)の把握ができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 4-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	contrastに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
11	6/15	Simplicity 1	ハンドアウト Unit 5-(1) 表現面（語彙・構文）ではsimpleなのに意外に難しい英文を理解・表現できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の英語表現のsimplicity を理解し表現することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 5-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Simplicityに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項を復習し、英文を覚える。	30分
12	6/22	Simplicity 2	ハンドアウト Unit 5-(2) 表現面（語彙・構文）ではsimpleなのに意外に難しい英文を理解・表現できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の英語表現のsimplicity を理解し表現することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 5-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Simplicityに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項を復習し、英文を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Cause & Effect 1	ハンドアウト Unit 6-(1) 英語で表現されたCause & Effect(因果関係)を把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパスセージのCause & Effectが把握できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 6-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Cause & Effectに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
14	7/6	Cause & Effect 2	ハンドアウト Unit 6-(2) 英語で表現されたCause & Effect(因果関係)を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパスセージのCause & Effectが把握できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 6-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Cause & Effectに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
15	7/13	Review 2	ハンドアウト Unit 4～6の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、総復習の小テストを通して、各自の課題点を認識することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 4～6までを総復習してくる。	60分
		事後学修	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。 今学期学んだことを踏まえ、今後の各自の英語学習の方向性を考える。	30分

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
十分な予習を前提として、演習形式の授業を行います。理解度・習得度を確認するための各種の小テストを行います。小テストは採点され、次の授業で返却されます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点されて次の授業時に返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	市販の教科書は使用せず、授業用ハンドアウトを用意します。授業はすべて、このハンドアウトを使って行われます。				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～12:50、授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・進め方を理解し、授業目的に沿った初期演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、初期練習を通じて各自に合った学習法を考えることができる。	
		事前学修	シラバスで授業の全体を概観する。	30分
		事後学修	初期演習の復習をする。	30分
2	4/13	Main Points 1	ハンドアウト Unit 1-(1) パッセージのmain pointsを把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのmain pointsを把握することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Main Pointsに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
3	4/20	Main Points 2	ハンドアウト Unit 1-(2) パッセージのmain pointsを把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのmain pointsを把握することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Main Pointsに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
4	4/27	Detailed Information 1	ハンドアウト Unit 2-(1) パッセージのdetailed information を理解できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのdetailed informationを理解することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 2-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Detailed informationに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
5	5/4	Detailed Information 2	ハンドアウト Unit 2-(2) パッセージの細部の情報を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのdetailed informationを理解することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 2-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Detailed informationに関する追加問題を解き、追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
6	5/11	Positive/Negative 1	ハンドアウト Unit 3-(1) パッセージのpositive/negativeの意味合いを判別できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのpositive/negativeを判別することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 3-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	positive/negativeに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18	Positive/Negative 2	ハンドアウト Unit 3-(2) パッセージのpositive/negativeの意味合いを判別できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、与えられたパッセージのpositive/negativeを判別することができる。
		事前学修	ハンドアウト Unit 3-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。 60分
		事後学修	positive/negativeに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。 30分
8	5/25	Review 1	ハンドアウト Unit 1～3の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、総復習の小テストを通して、各自の課題点を認識することができる。
		事前学修	ハンドアウト Unit 1～3を総復習してくる。 60分
		事後学修	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。 30分
9	6/1	Contrast 1	ハンドアウト Unit 4-(1) 英文理解・英語表現におけるcontrast(対照性)を把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文理解・英語表現におけるcontrast(対照性)の把握ができる。
		事前学修	ハンドアウト Unit 4-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。 60分
		事後学修	contrastに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。 30分
10	6/8	Contrast 2	ハンドアウト Unit 4-(2) 英文におけるcontrast(対照性)を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英文理解・英語表現におけるcontrast(対照性)の把握ができる。
		事前学修	ハンドアウト Unit 4-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。 60分
		事後学修	contrastに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。 30分
11	6/15	Simplicity 1	ハンドアウト Unit 5-(1) 表現面（語彙・構文）ではsimpleなのに意外に難しい英文を理解・表現できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の英語表現のsimplicity を理解し表現することができる。
		事前学修	ハンドアウト Unit 5-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。 60分
		事後学修	Simplicityに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項を復習し、英文を覚える。 30分
12	6/22	Simplicity 2	ハンドアウト Unit 5-(2) 表現面（語彙・構文）ではsimpleなのに意外に難しい英文を理解・表現できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の英語表現のsimplicity を理解し表現することができる。
		事前学修	ハンドアウト Unit 5-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。 60分
		事後学修	Simplicityに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項を復習し、英文を覚える。 30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Cause & Effect 1	ハンドアウト Unit 6-(1) 英語で表現されたCause & Effect(因果関係)を把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパスセージのCause & Effectが把握できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 6-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Cause & Effectに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
14	7/6	Cause & Effect 2	ハンドアウト Unit 6-(2) 英語で表現されたCause & Effect(因果関係)を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパスセージのCause & Effectが把握できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 6-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Cause & Effectに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
15	7/13	Review 2	ハンドアウト Unit 4～6の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、総復習の小テストを通して、各自の課題点を認識することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 4～6までを総復習してくる。	60分
		事後学修	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。 今学期学んだことを踏まえ、今後の各自の英語学習の方向性を考える。	30分

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。小テストを毎回実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Keynote 3ISBN-13 978 1 305 96505 8	Paul Dummett	Cengage Learning	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎回の授業開始前後に授業が行われる講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	通訳者、グローバル企業において輸出入業務、
実務経験に基づく実践的教育の内容		英語による実務実践への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火4/6	ガイダンス、TED Talkについて	Introduction Overview of the course	
		この回の到達目標	TED Talkのアクセス方法、リーディングテキストの入手方法を知る。	
		事前学修	Preview Unit1 (30分)	30分
		事後学修	vocabulary noteを作成 教科書の使い方、学習の進め方について確認する。(30分)	30分
2	火4/13	Helping Others	Unit 1 - Part 1 Making a differenceのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Helping Othersの意味を話し合い、自分の意見を英語で発言する。	
		事前学修	Preview Unit 1 Part 1 volunteer firefighterについて調べる(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
3	火4/20	Food rescue mission	Unit 1 - Part 2 A life Lesson from a volunteer firefighterのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	テキストのFood Rescue Missionを読解し意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 1 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
4	火4/27	Trends	Unit 2 - Part 1 Trendsのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Trendsの作り方を知り、身の回りの例を英語で述べる。	
		事前学修	Preview Unit 2 Part 1世の中のtrendについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
5	火5/4	Identifying Trends	Unit 2 - Part 2 How to start a movementのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	テキストのIdentifying Trendsを読解した上で意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 2 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
6	火5/11	Improving Lives	Unit 3 - Part 1 Improving livesのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Healthcare is Going Mobileについてリスニングの上、意見を英語で述べる。	
		事前学修	Preview Unit 3 Part 1 health careについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	火5/18	The Challenge of Alzheimer	Unit 3 – Part 2 My simple invention, designed to keep my grandfather safeのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	テキストのThe Challenge of Alzheimerを読解した上で英語で議論する。Use	
		事前学修	Preview Unit 3 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
8	火5/25	User Experience	Unit 4 – Part 1 Designing the webのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	The power of User Reviewsについてリスニングの上、英語で意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 4 Part 1 web designについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
9	火6/1	Website Design on a Giant Scale	Unit 4 – Part 2 How giant websites design for youのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Website Design on a Giant Scaleを読解した上で英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 4 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
10	火6/8	Changing Places	Unit 5 – Part 1 Community buildersのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	The Transformation of Malacca Riverをリスニングした上で意見を英語で述べる。	
		事前学修	Preview Unit 5 Part 1 community artについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分
11	火6/15	Barefoot College	Unit 5 – Part 2 How painting can transform communitiesのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Barefoot Collegeのテキストを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 5 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
12	火6/22	How do You Communicate?	Unit 6 – Part 1 Clear communicationのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	What Type of Communicator are You?をリスニングし英語で意見を述べる。	
		事前学修	Preview Unit 6 Part 1 communication styleについて調べる。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火6/29	Communication in the Digital Age	Unit 6 – Part 2 Talk nerdy to meのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Communication in the Digital Ageを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 6 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note ^{学習} 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)	30分
14	火7/6	Review Unit1-6	Review Unit1-6の内容、リスニングを理解する。 小テストを返却し答え合わせと確認をする。	
		この回の到達目標	Unit1-6の内容、vocabularyについて再確認する。	
		事前学修	Review Unit 1~6の問題とリーディングパートを確認する。(30分)	30分
		事後学修	Vocabulary note ^{学習} Review Unit 1~6を確認する。(30分)	30分
15	火7/13	授業内試験とフィードバック	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	授業内試験の実施と解答例を示し解説。	
		事前学修	Review Unit 1~6 (30分)	30分
		事後学修	Review Unit 1~6の確認。(30分)	30分

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	菊地 幸子	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修すること。

【授業方法】
演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストのSetting the Scene 及び Follow up でペアを組み、質問について英語で話し合う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
British News Update 2	Timothy knowles 他	金星堂	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスパワー】
授業後の休み時間（月曜日10：30～）に講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。メールアドレス：kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
1	4/6	ガイダンス及びイギリスの現状について		授業の進め方、評価方法、受講上の注意事項等を説明する。テキストではイギリスのニュースを扱うため、この国の現状についてクラスで情報を共有する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、授業で扱う内容を確認し、それらに関して自分が持っている情報や知識を整理しておき次週からの授業に備えることができる。		
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。イギリスの現状について知っていることをまとめる、あるいは調べる。		
		事後学修	ガイダンス及び授業で扱う内容を確認する。		
2	4/13	Unit 1 Previewing/Viewing Activities		A Coffee Shop in a Phone Box Exercises 1 to 4	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。		
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。		
		事後学修	Building Launguageで学習した語彙の意味、同義語を覚える。		
3	4/20	Unit 1 Viewing/Post-viewing Activities		A Coffee Shop in a Phone Box Exercises 5 to 7	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。		
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。		
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。		
4	4/27	Unit 2 Previewing/Viewing Activities		Breakdancing at the Olympics Exercises 1 to 4	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。		
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。		
		事後学修	Building Launguage で学習した語彙の意味を覚える。		
5	5/4	Unit 2 Viewing/Post-viewing Activities		Breakdancing at the Olympics Exercises 5 to 7	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。		
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。		
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。		
6	5/11	Unit 3 Previewing/Viewing Activities		Shopping without Plastic Exercises 1 to 4	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。		
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。		
		事後学修	Building Launguage で学習した語彙の意味を覚える。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Unit 3 Viewing/Post-viewing Activities	Shopping without Plastic Exercises 5 to 7	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。	
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
8	5/25	Unit 4 Previewing/Viewing Activities	Edinburgh to Tax Tourists Exercises 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	Building Launguage で学習した語彙の意味を覚える。	30分
9	6/1	Unit 4 Viewing/Post-viewing Activities	Edinburgh to Tax Tourists Exercises 5 to 7	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。	
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
10	6/8	Unit 5 Previewing/Viewing Activities	A Four-Day Week Exercises 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	Building Launguage で学習した語彙の意味、同義語を覚える。	30分
11	6/15	Unit 5 Viewing/Post-viewing Activities	A Four-Day Week Exercises 5 to 7	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。	
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
12	6/22	Unit 6 Previewing/Viewing Activities	The Fashion Industry and the Environment Exercises 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	Building Launguage で学習した語彙の意味を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Unit 6 Viewing/Post-viewing Activities	The Fashion Industry and the Environment Exercises 5 to 7	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。	
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
14	7/6	授業内試験及び前期のまとめ	授業内試験を行い、前期を総括する。	
		この回の 到達目標	前期に学んだ事柄全般を理解し、それに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	試験範囲を復習する。	30分
		事後学修	試験で分からなかった部分の正解を考える。	30分
15	7/13	フィードバック	授業内試験の講評及び振り返り。	
		この回の 到達目標	前期に学んだ事柄で理解できていなかったところを確認し、理解することができる。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	前期の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修すること。

【授業方法】
演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストのOpening Quizzes及びQuestionnaireでペアを組み、互いに英語で質問し、答えについて話し合う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
World Wide English on DVD Volume 2	森田彰 他	成美堂	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の休み時間（月曜日12：10～）に講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。メールアドレス： kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び授業で扱う国々について	授業の進め方、評価方法、受講上の注意事項等を説明する。授業ではさまざまな国の暮らしや文化についての映像を観るため、それらについて知っていることをクラスで共有する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、授業で扱う国々を確認し、それらに関して自分が持っている情報、知識を整理しておき次週からの授業に備えることができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。授業で扱う国々について知っている情報をまとめる、あるいは調べる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容、授業で扱う国々に関する情報を確認する。	30分
2	4/13	Unit 1 Previewing/Viewing Activities	New York Introduction Exercises 1 to 4	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分
3	4/20	Unit 1 Post-viewing Activities	New York Introduction Exercises 5 to 8	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
4	4/27	Unit 2 Previewing/Viewing Activities	New York Documentary Exercises 1 to 4	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分
5	5/4	Unit 2 Post-viewing Activities	New York Documentary Exercises 5 to 8	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
6	5/11	Unit 3 Previewing/Viewing Activities	Australia Introduction Exercises 1 to 4	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Unit 3 Post-viewing Activities	Australia Introduction Exercises 5 to 8	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summaryの答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
8	5/25	Unit 4 Previewing/Viewing Activities	Australia Documentary Exercises 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分
9	6/1	Unit 4 Post-viewing Activities	Australia Documentary Exercises 5 to 8	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
10	6/8	Unit 5 Previewing/Viewing Activities	Northern Ireland Introduction Exercises 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分
11	6/15	Unit 5 Post-viewing Activities	Northern Ireland Introduction Exercises 5 to 8	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
12	6/22	Unit 6 Previewing/Viewing Activities	Northern Ireland Documentary Exercises 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Unit 6 Post-viewing Activities	Northern Ireland Documentary Exercises 5 to 8	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
14	7/6	授業内試験及び前期のまとめ	授業内試験を行い、前期を総括する。	
		この回の到達目標	前期に学んだ事柄全般を理解し、それに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	試験範囲を復習する。	30分
		事後学修	試験で分からなかった部分の正解を考える。	30分
15	7/13	フィードバック	授業内試験の講評及び振り返り。	
		この回の到達目標	前期に学んだ事柄で理解できていなかったところを確認し、理解することができる。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	前期の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。英語資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
TOEFL的なアカデミックな話題、TOEIC的なビジネス関連の話題、法律や政治経済に関する基礎レベルの話題について英語の講義を聞き、簡単な要約をする。提出された課題の返却等のフィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、個々の学生が意見を述べる機会があり、第7回以降、個々の学生がスピーチを行う機会がある。発表前には準備が必要で、学生には主体的・能動的に下調べをし、発表原稿を作成してくる姿勢が求められる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Academic English, Business English: Beefing up the brain through...	ICC Committee	On Demand Publishing	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜10：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yutaka.kitamura1@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部月 4/6	General introduction to the course	授業の進め方、TOEFL、 TOEIC、英検等の概要を説明する。教室英語の基本的な表現と英英辞典の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	授業の進め方、TOEFL、 TOEIC、英検等の概要を理解する。教室英語の基本的な表現と英英辞典の使い方を習得する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種資格試験についてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	第1部月 4/13	歴史と世界経済	Unit 1: ABC of economics and world history (Part 1) 歴史的背景（1800年代のアメリカ史と世界史）を参考に、世界経済の成り立ちの基礎について学ぶ。	
		この回の到達目標	歴史的背景（1800年代の日本史と世界史）を参考に、世界経済の成り立ちの基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 1（4-7頁）の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	世界経済の成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分
3	第1部月 4/20	歴史と世界経済	Unit 1: ABC of economics and world history (Part 2) 世界経済の成り立ちの基礎を1900年代のアメリカ史と世界史と関連付けて学ぶ。	
		この回の到達目標	世界経済の成り立ちの基礎を1900年代のアメリカ史と世界史と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 1（8-9頁）の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	世界経済の成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分
4	第1部月 4/27	国連システムについて学ぶ	Unit 2: The United Nations and world history (Part 1) 国連システムの成り立ちの基礎について学ぶ。	
		この回の到達目標	国連システムの成り立ちの基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 2（10-12頁）の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	国連システムの成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分
5	第1部月 5/4	アメリカ史、世界史と国連	Unit 2: The United Nations and world history (Part 2) 国連システムの成り立ちの基礎を世界史と関連付けて学ぶ。	
		この回の到達目標	国連システムの成り立ちの基礎を世界史と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 2（13-15頁）の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	国連システムの成り立ちの基礎を世界史と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分
6	第1部月 5/11	世界経済と法律	Unit 3: Living in the W-I-W system 世界経済を法律の視点から学び、関連する問題について考察する。	
		この回の到達目標	世界経済を法律の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 3（16-17頁）の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	世界経済システムの基礎を法律と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部月 5/18	世界標準語としての英語	Unit 4: Japanese companies that employ English as a common language 日本企業の「社内英語公用語化」とビジネス英語の基礎について学ぶ。	
		この回の到達目標	日本企業の「社内英語公用語化」とビジネス英語の基礎について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 4 (20-21頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本企業の「社内英語公用語化」とビジネス英語の基礎について口頭で発言できるように準備する。	30分
8	第1部月 5/25	企業文化とビジネス英語	TOEIC 問題演習 (Part 1とPart 2)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学ぶ。	
		この回の到達目標	TOEIC 問題演習 (Part 1とPart 2)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (74-75頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
9	第1部月 6/1	企業文化とビジネス英語	TOEIC 問題演習 (Part 3とPart 4)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学ぶ。	
		この回の到達目標	TOEIC 問題演習 (Part 3とPart 4)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (72-73頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
10	第1部月 6/8	英語と教育	Unit 6: Why are there so many poor communicators of English in Japan? 日本の英語教育の現状と日本人の英語によるコミュニケーション能力について意見交換をする。	
		この回の到達目標	日本の英語教育の現状と日本人の英語によるコミュニケーション能力について意見交換をし、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 6 (24-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本の英語教育の現状と日本人の英語によるコミュニケーション能力について口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
11	第1部月 6/15	日本と世界の法律	Unit 7: Why is homeschooling illegal in Japan? 日本の法律を世界の同様の法律と比較した上で限定的に学ぶ。	
		この回の到達目標	日本の法律を世界の同様の法律と比較した上で限定的に理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 7 (26-27頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本の法律を世界の同様の法律と比較した上で限定的に理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
12	第1部月 6/22	文化と価値観	Unit 8: Why do Japanese employees stick together after office hours? 日本の企業文化を比較文化的視点から分析する。	
		この回の到達目標	日本の企業文化を比較文化的視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 8 (28-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本の企業文化を比較文化的視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部月 6/29	文化と人間行動との関係	Unit 9: Why do Japanese people exchange business cards at private parties? ビジネス文化を比較文化と心理学の視点から学ぶ。	
		この回の到達目標	ビジネス文化を比較文化と心理学の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 9 (30-31頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	ビジネス文化を比較文化と心理学の視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
14	第1部月 7/6	世界の国々の経済格差等について考える	テキストActivity X-1からActivity X-4を通して経済、法律、比較文化に関する様々な話題を取り上げ、考察する。	
		この回の到達目標	テキストActivity X-1からActivity X-4を通して経済、法律、比較文化に関する様々な話題を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストActivity X-1からActivity X-4 (44-49頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	次の最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。	30分
15	第1部月 7/13	前期授業の総まとめ	Overall summary 前期授業の総まとめとして授業内試験を行う。前期学習内容の振り返りと解説。	
		この回の到達目標	前期授業の総まとめとしての授業内試験、その後の解説を通して前期学習内容を振り返り、内容の理解を深める。	
		事前学修	最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。	60分
		事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
TOEFL的なアカデミックな話題、TOEIC的なビジネス関連の話題、法律や政治経済に関する基礎レベルの話題について英語の講義を聞き、簡単な要約をする。提出された課題の返却等のフィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、個々の学生が意見を述べる機会があり、第7回以降、個々の学生がスピーチを行う機会がある。発表前には準備が必要で、学生には主体的・能動的に下調べをし、発表原稿を作成してくる姿勢が求められる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Academic English, Business English: Beefing up the brain through...	ICC Committee	On Demand Publishing	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜10：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yutaka.kitamura1@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第1部月 4/6	General introduction to the course	授業の進め方、TOEFL、 TOEIC、英検等の概要を説明する。教室英語の基本的な表現と英英辞典の使い方を学ぶ。
		この回の到達目標	授業の進め方、TOEFL、 TOEIC、英検等の概要を理解する。教室英語の基本的な表現と英英辞典の使い方を習得する。
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種資格試験についてWEBサイト等で調べてみる。30分
2	第1部月 4/13	歴史と世界経済	Unit 1: ABC of economics and world history (Part 1) 歴史的背景（1800年代のアメリカ史と世界史）を参考に、世界経済の成り立ちの基礎について学ぶ。
		この回の到達目標	歴史的背景（1800年代の日本史と世界史）を参考に、世界経済の成り立ちの基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 1（4-7頁）の内容に関するリサーチをしてくる。30分
		事後学修	世界経済の成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。30分
3	第1部月 4/20	歴史と世界経済	Unit 1: ABC of economics and world history (Part 2) 世界経済の成り立ちの基礎を1900年代のアメリカ史と世界史と関連付けて学ぶ。
		この回の到達目標	世界経済の成り立ちの基礎を1900年代のアメリカ史と世界史と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 1（8-9頁）の内容に関するリサーチをしてくる。30分
		事後学修	世界経済の成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。30分
4	第1部月 4/27	国連システムについて学ぶ	Unit 2: The United Nations and world history (Part 1) 国連システムの成り立ちの基礎について学ぶ。
		この回の到達目標	国連システムの成り立ちの基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 2（10-12頁）の内容に関するリサーチをしてくる。30分
		事後学修	国連システムの成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。30分
5	第1部月 5/4	アメリカ史、世界史と国連	Unit 2: The United Nations and world history (Part 2) 国連システムの成り立ちの基礎を世界史と関連付けて学ぶ。
		この回の到達目標	国連システムの成り立ちの基礎を世界史と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 2（13-15頁）の内容に関するリサーチをしてくる。30分
		事後学修	国連システムの成り立ちの基礎を世界史と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。30分
6	第1部月 5/11	世界経済と法律	Unit 3: Living in the W-I-W system 世界経済を法律の視点から学び、関連する問題について考察する。
		この回の到達目標	世界経済を法律の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 3（16-17頁）の内容に関するリサーチをしてくる。30分
		事後学修	世界経済システムの基礎を法律と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部月 5/18	世界標準語としての英語	Unit 4: Japanese companies that employ English as a common language 日本企業の「社内英語公用語化」とビジネス英語の基礎について学ぶ。	
		この回の到達目標	日本企業の「社内英語公用語化」とビジネス英語の基礎について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 4 (20-21頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本企業の「社内英語公用語化」とビジネス英語の基礎について口頭で発言できるように準備する。	30分
8	第1部月 5/25	企業文化とビジネス英語	TOEIC 問題演習 (Part 1とPart 2)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学ぶ。	
		この回の到達目標	TOEIC 問題演習 (Part 1とPart 2)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (74-75頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
9	第1部月 6/1	企業文化とビジネス英語	TOEIC 問題演習 (Part 3とPart 4)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学ぶ。	
		この回の到達目標	TOEIC 問題演習 (Part 3とPart 4)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (72-73頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
10	第1部月 6/8	英語と教育	Unit 6: Why are there so many poor communicators of English in Japan? 日本の英語教育の現状と日本人の英語によるコミュニケーション能力について意見交換をする。	
		この回の到達目標	日本の英語教育の現状と日本人の英語によるコミュニケーション能力について意見交換をし、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 6 (24-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本の英語教育の現状と日本人の英語によるコミュニケーション能力について口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
11	第1部月 6/15	日本と世界の法律	Unit 7: Why is homeschooling illegal in Japan? 日本の法律を世界の同様の法律と比較した上で限定的に学ぶ。	
		この回の到達目標	日本の法律を世界の同様の法律と比較した上で限定的に理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 7 (26-27頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本の法律を世界の同様の法律と比較した上で限定的に理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
12	第1部月 6/22	文化と価値観	Unit 8: Why do Japanese employees stick together after office hours? 日本の企業文化を比較文化的視点から分析する。	
		この回の到達目標	日本の企業文化を比較文化的視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 8 (28-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本の企業文化を比較文化的視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部月 6/29	文化と人間行動との関係	Unit 9: Why do Japanese people exchange business cards at private parties? ビジネス文化を比較文化と心理学の視点から学ぶ。	
		この回の到達目標	ビジネス文化を比較文化と心理学の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 9 (30-31頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	ビジネス文化を比較文化と心理学の視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
14	第1部月 7/6	世界の国々の経済格差等について考える	テキストActivity X-1からActivity X-4を通して経済、法律、比較文化に関する様々な話題を取り上げ、考察する。	
		この回の到達目標	テキストActivity X-1からActivity X-4を通して経済、法律、比較文化に関する様々な話題を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストActivity X-1からActivity X-4 (44-49頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	次の最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。	30分
15	第1部月 7/13	前期授業の総まとめ	Overall summary 前期授業の総まとめとして授業内試験を行う。前期学習内容の振り返りと解説。	
		この回の到達目標	前期授業の総まとめとしての授業内試験、その後の解説を通して前期学習内容を振り返り、内容の理解を深める。	
		事前学修	最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。	60分
		事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	小林 晴子	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
教科書に沿って演習形式で授業を行う。リスニングの理解度を高めるためとディスカッションの準備のために、ほぼ毎授業で小テストを実施する。授業では、音読、シャドウイング、ディクテーション、ノートテイキング、学生のペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。毎回リスニングに関する課題あり。辞書を必ず持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後に授業で解説を行う。課題は採点后、返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pathways 3 - Listening, Speaking, and Critical Thinking Second Edition	Becky Tarver Chase	ナショナルジオグラフィック	2018年出版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:30~13:00 （事前にメールでアポイントを取るこ）授業講堂 kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス。導入授業	この授業の目的である「リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得」のために必要な事を解説する。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法など説明する。オンライン資料へのアクセスを確認し、授業準備・復習に役立てるようにする。	
		この回の到達目標	目的達成にどういう学習が必要なのかを理解する。授業の準備・復習に必要な環境を整えることができる。これから共にディスカッションなどを行う学生同士が話しやすい環境を整える。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、テキスト全体に目を通し学修の準備をする。	30分
		事後学修	授業ガイダンスに従い実際に授業準備ができるか確認する。Unit 1 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp.1-5)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
2	4/13	The Science of Shopping	語彙小テスト。テキスト Unit 1-A “An Interview about Consumer Behavior”を聞く。イントネーションが話者の心的態度を表すことを理解し、表現できるようにする。リスニング内容に基づき、話者の主張点を分析し、是非の検討を行う。仮定法の表現を学修する。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “An Interview about Consumer Behavior” のリスニングを通して、話し手の心的態度を推論し、特定することができる。またその内容を客観的に、トピック毎に是非を識別することができる。仮定法を用いた表現を理解し、使用することができる。	
		事前学修	Unit 1 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp.1-5)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“An Interview about Consumer Behavior” のノートテイキングを行い、目標の定着を図る。	90分
3	4/20	Behavioral Science	語彙小テスト。テキスト Unit 1-B “A Lecture about Gender and Shopping”を聞く。統計データを正確に英語で引用し、表現できるようにする。リスニングのテーマから内容を予測し、内容に基づき分析する。疑問文のイントネーションのパターンの相違を学修する。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Lecture about Gender and Shopping” のリスニングを通して、統計データを正確に英語で引用し、表現することができる。疑問文のイントネーションのパターンの相違を理解し、使用することができる。	
		事前学修	Unit 1 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp.14-15)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Lecture about Gender and Shopping” のディクテーション。プレゼンテーション “elevator pitch” の概要を組み立てる。	90分
4	4/27	Persuasive Speech	聞き手を説得する短いスピーチを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して “A short persuasive speech” を構想し、的確に英語の運用能力を使用することができる。他の学生が行ったスピーチを聞いて、さらに良いスピーチにするために良い点を評価し、問題点を指摘し、互いに貢献することができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
5	5/4	Mother Nature	語彙小テスト。テキスト Unit 2-A “A Panel about a Film Contest”を聞く。リスニング内容に基づき、判断の評価基準が何かを特定し、それについて分析する。形容詞節の表現を学修する。「環境保護と絶滅危惧種」のトピックについてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Panel about a Film Contest” を聞く。リスニング内容に基づき、判断の評価基準が何かを特定し、それについて分析する。形容詞節を用いた表現を理解し、使用することができる。到達目標②に関連して適切な語彙を使用して「環境保護と絶滅危惧種」に関して自己の意見をコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 2 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp.21-25)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Panel about a Film Contest” のノートテイキングを行い、目標の定着を図る。	90分
6	5/11	Biology and Genetics	語彙小テスト。テキスト Unit 2-B “A Conversation on Campus”を聞く。ディスカッションの場で提案を的確な英語で表現できるようにする。少人数のグループでプレゼンテーションを行う準備をする。	
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Conversation on Campus” のリスニングを通して、ディスカッションの場で提案を的確な英語で表現することができる。強勢リズムを理解して内容語をしっかりとコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 2 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp.14-15)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Conversation on Campus” のディクテーション。グループプレゼンテーション “A short proposal for a 10-minute nature documentary” の概要を組み立てる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5/18	Presenting a Proposal		少人数で提案型のプレゼンテーションを行う。
		この回の到達目標	到達目標②に関連して“A short proposal for a 10-minute nature documentary”を構想し、的確に英語の運用能力を使用することができる。他の学生と共に明確に伝わるプレゼンテーションを行うために議論し、協働することができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	
8	5/25	On the Move		語彙小テスト。テキスト Unit 3-A “A Lecture about Migration”を聞く。リスニング内容に基づき、情報の分類と分析を行う。程度の副詞の表現を学修する。「ケーススタディ」についてディスカッションを行う。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Lecture about Migration”を聞く。リスニング内容に基づき、個人の決定の判断に影響を与える要因を特定し、分類することができる。程度の副詞表現を理解し、使用することができる。到達目標②に関連して適切な語彙を使用して「都市の住みやすさランキングに関するケーススタディ」の情報を調べ、分類し、自分の分析結果を明確にコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 3 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 41-45)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	
		事後学修	課題：“A Lecture about Migration”のノートティキングを行い、目標の定着を図る。	
9	6/1	Sociology		語彙小テスト。テキスト Unit 3-B “A Study Group Discussion”を聞く。ディスカッションの内容に基づき、根拠の分類と分析を行い、それに付いて評価を行う。蓋然性の違いを示す表現を学修する。順序を明確にして話すことを学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Study Group Discussion”のリスニングを通して、根拠の分類と分析を行い、それについて評価を行うことができる。順序を明確にする表現を用いて聞き手に理解されやすいスピーチをすることができる。蓋然性の違いを示す表現を用いてコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 3 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 54-55)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	
		事後学修	課題：“A Study Group Discussion”のディクテーション。“Colonization of Mars”についてのペアプレゼンテーションの概要を組み立てる。	
10	6/8	Colonizing Mars		“Colonization of Mars”についてのペアプレゼンテーションを行う。
		この回の到達目標	到達目標②に関連して“colonization of Mars”に関する意見を的確な英語表現を用いて明確に述べるができる。他の学生と共に、自分たちの意見の根拠となる事実、データ、専門家の考えなどを調べ、資料の評価を行い、整理し、議論し、協働して重要度に応じてわかりやすい形で提示することができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	
11	6/15	Our Changing Planet		語彙小テスト。テキスト Unit 4-A “An Earth Sciences Lecture”を聞く。講義の中の本筋と余談の違いを理解する。スピーチの流れの中で受動態を使用することが自然な場合を理解し、表現を学修する。想像的スピーチをする。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“An Earth Sciences Lecture”のリスニングを通して、講義のキーポイントを特定し、指摘することができる。受動態を用いた表現を理解し、自然な展開になるよう使用することができる。	
		事前学修	Unit 4 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 61-65)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	
		事後学修	課題：“An Earth Sciences Lecture”のノートティキングを行い、目標の定着を図る。	
12	6/22	Earth Science		語彙小テスト。テキスト Unit 4-B “A Conversation about Selecting a College”を聞く。会話の内容に基づき、選択の要因を特定、分析、評価を行った上で意見を表明する。特定の語に強勢を置くことで異なった内容を伝えることを学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Conversation about Selecting a College”のリスニングを通して、選択の要因を特定、分析、評価を行った上で意見を表明することができる。特定の語に強勢を置く発音表現を用いて、意見を明確にコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 4 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 74-75)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	
		事後学修	課題：“A Conversation about Selecting a College”のディクテーション。“Business Report on ecotourism”についてのペアプレゼンテーションの概要を組み立てる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Making a Business Report	"Business Report on ecotourism"についてのペアプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して "Business Report on ecotourism"に関する企画を的確な英語表現を用いて明確に述べる事ができる。他の学生と共に、自分たちの企画に必要な事実、データ、専門家の考え、映像資料などを調べ、資料の評価を行い、整理し、議論し、協働してわかりやすく魅力的な形で提示することができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
14	7/6	授業内試験、まとめ	授業内試験および今学期の授業のまとめ	
		この回の到達目標	授業で学修したことの確認することで各学生が自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	今学期の授業を振り返る。	120分
		事後学修	試験の見直しをする。	30分
15	7/13	授業フィードバック	授業内試験のフィードバック。	
		この回の到達目標	授業内試験をフィードバックすることで、各学生が正確に自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	授業内試験を振り返る。	30分
		事後学修	授業の見直しをする。	30分

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 万里世	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1		1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Smart Choice 2nd Edition 3 Student Book with Online Practice	K. Wilson T. Healy	オックスフォード大学出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後教室にて。また、事前に知らせていただければ、授業後以外の対応も可能です。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	ガイダンス、導入授業	事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	シラバスを再度確認する。 英文法の参考書の基礎的な文法事項を復習する。	50分
2	第一部 月4/13	Unit1 I've been running.	Unit1 I've been running. (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 4のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p. 6のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
3	第一部 月4/20	Unit1 I've been running.	Unit1 I've been running. (activity)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、コミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	p. 5の会話文を日本語に直し、内容を把握する。	30分
		事後学修	授業時に使ったプリントの記入箇所に英作文を行う。	30分
4	第一部 月4/27	Unit1 I've been running.	Unit1 I've been running. (listening, reading)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 7のBefore You Listen の箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	現在完了進行形を再度見直し、理解を深める。 新出単語を書き出しておく。	30分
5	第一部 月5/4	Unit2 Do you know what it's about?	Unit2 Do you know what it's about? (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 10のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p. 12のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
6	第一部 月5/11	Unit2 Do you know what it's about?	Unit2 Do you know what it's about? (activity)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、コミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	前回学習した間接疑問文について教科書を見直す。	30分
		事後学修	授業内で扱った間接疑問文の穴埋めを再度確認する。 またその文章を日本語に直しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	Unit2 Do you know what it's about?	Unit2 Do you know what it's about? (listening, reading)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p.13のBefore You Listen の箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	p.14のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。	30分
8	第一部 月5/25	Unit3 It was painted by da Vinci.	Unit3 It was painted by da Vinci. (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p.16のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p.18のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
9	第一部 月6/1	Unit3 It was painted by da Vinci.	Unit3 It was painted by da Vinci. (speaking testの準備)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	前回学習した受動態を参考書等で再度確認し、正しい英文が書けるようにしておく。	30分
		事後学修	グループのメンバーで協力し、発表のスクリプトについて話し合う。	30分
10	第一部 月6/8	Unit3 It was painted by da Vinci.	Unit3 It was painted by da Vinci. (speaking test)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解し、使用することができる。	
		事前学修	講師が出した発表の条件を満たしているか再度スクリプトを確認する。 スクリプトを暗記する。	30分
		事後学修	各自、発表メンバーで発表の自己採点を行う。	30分
11	第一部 月6/15	Unit4 Who's your best friend?	Unit4 Who's your best friend? (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p.24のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p.26のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
12	第一部 月6/22	Unit4 Who's your best friend?	Unit4 Who's your best friend? (activity)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、コミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	関係代名詞を復習し、正しく英作文ができるように理解を深めておく。	30分
		事後学修	p.25の文章を日本語に訳す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	Unit4 Who's your best friend?	Unit4 Who's your best friend? (reading) 前期のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	Unit4の新出単語をまとめておく。	30分
		事後学修	教科書の問題を再度見直し、講師に質問できるようにしておく。	30分
14	第一部 月7/6	授業内試験、振り返り	前期に扱った文法の解説 授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期の文法事項、英単語を見直し試験に備える。	30分
		事後学修	試験問題を再度見直し、問題が解けなかった個所を確認する。	30分
15	第一部 月7/13	授業内試験の解説	授業内試験の解答と解説 英作文	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習した文法事項を正確に使い、さらに他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	前期に扱った箇所を再度見直す。 夏休みの予定を英語で言えるようにしておく。	30分
		事後学修	試験の解説をふまえて、間違えた箇所を解き直す。	30分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 万里世	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
講義および演習形式で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Smart Choice 2nd Edition 3 Student Book with Online Practice	K. Wilson T.Healy	オックスフォード大学出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後教室にて。また、事前に知らせていただければ、授業後以外の対応も可能です。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	ガイダンス、導入授業	事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	シラバスを再度確認する。 英文法の参考書の基礎的な文法事項を復習する。	50分
2	第一部 月4/13	Unit1 I've been running.	Unit1 I've been running. (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 4のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p. 6のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
3	第一部 月4/20	Unit1 I've been running.	Unit1 I've been running. (activity)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、コミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	p. 5の会話文を日本語に直し、内容を把握する。	30分
		事後学修	授業時に使ったプリントの記入箇所に英作文を行う。	30分
4	第一部 月4/27	Unit1 I've been running.	Unit1 I've been running. (listening, reading)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 7のBefore You Listen の箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	現在完了進行形を再度見直し、理解を深める。 新出単語を書き出しておく。	30分
5	第一部 月5/4	Unit2 Do you know what it's about?	Unit2 Do you know what it's about? (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 10のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p. 12のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
6	第一部 月5/11	Unit2 Do you know what it's about?	Unit2 Do you know what it's about? (activity)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、コミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	前回学習した間接疑問文について教科書を見直す。	30分
		事後学修	授業内で扱った間接疑問文の穴埋めを再度確認する。 またその文章を日本語に直しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	Unit2 Do you know what it's about?	Unit2 Do you know what it's about? (listening, reading)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 13のBefore You Listen の箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	p. 14のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。	30分
8	第一部 月5/25	Unit3 It was painted by da Vinci.	Unit3 It was painted by da Vinci. (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 16のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p. 18のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
9	第一部 月6/1	Unit3 It was painted by da Vinci.	Unit3 It was painted by da Vinci. (speaking testの準備)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	前回学習した受動態を参考書等で再度確認し、正しい英文が書けるようにしておく。	30分
		事後学修	グループのメンバーで協力し、発表のスクリプトについて話し合う。	30分
10	第一部 月6/8	Unit3 It was painted by da Vinci.	Unit3 It was painted by da Vinci. (speaking test)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解し、使用することができる。	
		事前学修	講師が出した発表の条件を満たしているか再度スクリプトを確認する。 スクリプトを暗記する。	30分
		事後学修	各自、発表メンバーで発表の自己採点を行う。	30分
11	第一部 月6/15	Unit4 Who's your best friend?	Unit4 Who's your best friend? (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 24のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p. 26のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
12	第一部 月6/22	Unit4 Who's your best friend?	Unit4 Who's your best friend? (activity)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、コミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	関係代名詞を復習し、正しく英作文ができるように理解を深めておく。	30分
		事後学修	p. 25の文章を日本語に訳す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	Unit4 Who's your best friend?	Unit4 Who's your best friend? (reading) 前期のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	Unit4の新出単語をまとめておく。	30分
		事後学修	教科書の問題を再度見直し、講師に質問できるようにしておく。	30分
14	第一部 月7/6	授業内試験、振り返り	前期に扱った文法の解説 授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期の文法事項、英単語を見直し試験に備える。	30分
		事後学修	試験問題を再度見直し、問題が解けなかった個所を確認する。	30分
15	第一部 月7/13	授業内試験の解説	授業内試験の解答と解説 英作文	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習した文法事項を正確に使い、さらに他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	前期に扱った箇所を再度見直す。 夏休みの予定を英語で言えるようにしておく。	30分
		事後学修	試験の解説をふまえて、間違えた箇所を解き直す。	30分

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い、次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各Unitにおけるトピックについてペアー並びグループで英会話をしたり内容を纏める作業をし、それを発表する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業でフイードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Listen to this(Basic)	James Bean	成美堂	2004		
ラジオ英会話5月号	担当者	NHK出版	2020		
備考 授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。					

【オフィスアワー】
火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて１２時１５分～１２時３５分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス、導入授業	TOEICリスニング実力テスト。テストの解説と音読練習。	
		この回の到達目標	各自、リスニング力を把握し、対応の仕方を確認出来る。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。英語の基礎学習。	60分
		事後学修	授業で配られた英文のスキットの音読練習。	60分
2	4/14	自己紹介の色々な表現を学ぶ。(1)	テキストUnit 1 It's nice to meet you (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト (5月号) Week 1-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な自己紹介の表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 1 It's nice to meet you (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト (5月号) Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスキットの音読練習をしておくこと。	60分
3	4/21	自己紹介の色々な表現を学ぶ。(2)	小テスト テキストUnit 1 It's nice to meet you (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらファッションについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 1 It's nice to meet you (後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。(30分)	60分
4	4/28	ファッションの表現を学ぶ。(2)	小テスト テキストUnit 2 That's a great hairsyyle (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらファッションについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストThat's a great hairstyle (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
5	5/5	ファッションの表現を学ぶ。(1)	小テスト テキストUnit 2 That's a great hairstyle (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらファッションについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストthat's a great hairsyyle (後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
6	5/12	ショッピングの表現を学ぶ。(1)	小テスト テキストUnit 3 Shopping trip (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-①音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらショッピングについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 3 Shopping trip (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	ショッピングの表現を学ぶ。(2)	小テスト テキストUnit 3 Shopping trip (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-②	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらショッピングについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 3 Shopping trip (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
8	5/26	週末の予定の表現を学ぶ。(1)	小テスト テキストUnit 4 What are you doing this weekend? (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら週末の予定について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 4 What are you doing this weekend? (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
9	6/2	週末の予定の表現を学ぶ。(2)	小テスト テキストUnit 4 What are you doing this weekend? (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら週末の予定について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 4 What are you doing this weekend? (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
10	6/9	旅行や地図、道案内の説明の表現を学ぶ。(1)	小テスト テキストUnit 5 Have you been to San Francisco? (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら旅行や地図、道案内について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 5 Have you been to San Francisco? (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
11	6/16	旅行や地図、道案内の説明の表現を学ぶ。(2)	小テスト テキストUnit 5 Have you been to San Francisco? (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら旅行や地図、道案内について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 5 Have you been to San Francisco? (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
12	6/23	色々な角度から友達についての説明の仕方を学ぶ。(1)	小テスト テキストUnit 6 My best friend (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら友達についての説明のための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 6 My best friend (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	色々な角度から友達についての説明の仕方を学ぶ。 (2)	小テスト テキストUnit 6 My best friend (後半) NHK テキスト Week 3-④ 音読練習	リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら友達についての説明のための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 6 My best frind (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習をしテスト準備をすること。	60分
14	7/7	"My favorite thing"のタイトルでプレゼンテーション。	壇上でプレゼンテーション (60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する)。各自配られたシートに発表者の講評を書き提出する。	
		この回の到達目標	人前で自分の英語の発表をし如何に理解してもらえるか工夫出来る様になる。	
		事前学修	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。	60分
		事後学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習をしテスト準備をすること。	60分
15	7/14	前期授業の反省並びに確認。	前期授業のまとめ。	
		この回の到達目標	前期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認出来る。	
		事前学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。	60分
		事後学修	前期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。	60分

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各Unitにおけるトピックについてペアー並びグループで英会話をしたり内容を纏める作業をし、それを発表する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Listen to this!(Basic)	James Bean	成美堂	2004		
ラジオ英会話 5月号	担当者	NHK出版	2020		
備考 授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。					

【オフィスアワー】
月曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス、導入授業	TOEICリスニングの実力テスト。テストの解説並びに音読練習。	
		この回の到達目標	各自、リスニング力を把握し、対応の仕方を確認する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。英語の基礎学習。	60分
		事後学修	授業で配られた英文のスキットの音読練習。	60分
2	4/13	自己紹介の色々な表現を学ぶ。(1)	テキストUnit 1 It's nice to meet you (前半) リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト (5月号) Week 1-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な自己紹介の表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 1 It's nice to meet you (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト (5月号) Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスキットの音読練習をしておくこと。	60分
3	4/20	自己紹介の色々な表現を学ぶ。(2)	小テスト テキストUnit 1 It's nice to meet you (後半) リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら自己紹介をするための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 1 It's nice to meet you (後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
4	4/27	ファッションの表現を学ぶ。(1)	小テスト テキストUnit 2 That's a great hairsyyle (前半) リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらファッションについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストThat's a great hairstyle (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
5	5/4	ファッションの表現を学ぶ。(2)	小テスト テキストUnit 2 That's a great hairstyle (後半) リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらファッションについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストthat's a great hairsyyle (後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
6	5/11	ショッピングの表現を学ぶ。(1)	小テスト テキストUnit 3 Shopping trip (前半) リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-①音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらショッピングについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 3 Shopping trip (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	ショッピングの表現を学ぶ。(2)	小テスト テキストUnit 3 Shopping trip (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-②	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらショッピングについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 3 Shopping trip (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
8	5/25	週末の予定の表現を学ぶ。(1)	小テスト テキストUnit 4 What are you doing this weekend? (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら週末の予定について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 4 What are you doing this weekend? (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
9	6/1	週末の予定の表現を学ぶ。(2)	小テスト テキストUnit 4 What are you doing this weekend? (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら週末の予定について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 4 What are you doing this weekend? (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
10	6/8	旅行や地図、道案内の説明の表現を学ぶ。(1)	小テスト テキストUnit 5 Have you been to San Francisco? (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら旅行や地図、道案内について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 5 Have you been to San Francisco? (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
11	6/15	旅行や地図、道案内の説明の表現を学ぶ。(2)	小テスト テキストUnit 5 Have you been to San Francisco? (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら旅行や地図、道案内について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 5 Have you been to San Francisco? (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分
12	6/22	色々な角度から友達についての説明の仕方を学ぶ。(1)	小テスト テキストUnit 6 My best friend (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら友達についての説明のための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキスト Unit 6 My best friend (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	色々な角度から友達についての説明の仕方を学ぶ。 (2)	小テスト テキストUnit 6 My best friend (後半) NHK テキスト Week 3-④ 音読練習	リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら友達についての説明のための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 6 My best frind (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習をしテスト準備をすること。	60分
14	7/6	"My favorite thing"のタイトルでプレゼンテーション。	壇上でプレゼンテーション(60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する)。各自配られたシートに発表者の講評を書き提出する。	
		この回の到達目標	人前で自分の英語の発表をし如何に理解してもらえるか工夫出来る様になる。	
		事前学修	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。	60分
		事後学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習をしテスト準備をすること。(30分)	60分
15	7/13	前期授業の反省並びに確認。	前期授業のまとめ。	
		この回の到達目標	前期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	
		事前学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。	60分
		事後学修	前期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。	60分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い、次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各Unitにおけるトピックについてペアー並びグループで英会話をしたり内容を纏める作業をし、それを発表する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Listen to this!(Basic)	James Bean	成美堂	2004		
ラジオ英会話 5月号	担当者	NHK出版	2020		
備考 授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。					

【オフィスアワー】
月曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス、導入授業	TOEICリスニング実力テスト。テストの解説と音読練習。	
		この回の到達目標	各自、リスニング力を把握し、対応の仕方を確認出来る。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。英語の基礎学習。	60分
		事後学修	授業で配られた英文のスキットの音読練習。	60分
2	4/13	自己紹介の色々な表現を学ぶ。(1)	Unit 1 It's nice to meet you(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト(5月号) Week 1-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な自己紹介の表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 1 It's nice to meet you(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト(5月号) Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスキットの音読練習をしておくこと。	60分
3	4/20	自己紹介の色々な表現を学ぶ。(2)	小テスト Unit 1 It's nice to meet you(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な自己紹介の表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 1 It's nice to meet you(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスキットの音読練習をしておくこと。	60分
4	4/27	ファッションの表現を学ぶ。(1)	小テスト Unit 2 That's a great hairstyle(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらファッションについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 2 That's a great hairstyle(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスキットの音読練習をしておくこと。	60分
5	5/4	ファッションの表現を学ぶ。(2)	小テスト Unit 2 That's a great hairstyle(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらファッションについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 2 That's a great hairstyle(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスキットの音読練習をしておくこと。	60分
6	5/11	ショッピングの表現を学ぶ。(1)	小テスト Unit 3 Shopping trip(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらショッピングについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 3 Shopping trip(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスキットの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	ショッピングの表現を学ぶ。(2)	小テスト Unit 3 Shopping trip(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながらショッピングについて語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 3 Shopping trip(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHK テキストWeek 2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
8	5/25	週末の予定の表現を学ぶ。(1)	小テスト Unit 4 What are you doing this weekend?(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら週末の予定について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 4 What are you doing this weekend?(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
9	6/1	週末の予定の表現を学ぶ。(2)	小テスト Unit 4 What are you doing this weekend?(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら週末の予定について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 4 What are you doing this weekend?(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
10	6/8	旅行や地図、道案内の説明の表現を学ぶ。(1)	小テスト Unit 5 Have you been to San Francisco?(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら旅行や地図、道案内について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 5 Have you been to San Francisco?(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
11	6/15	旅行や地図、道案内の説明の表現を学ぶ。(2)	小テスト Unit 5 Have you been to San Francisco?(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら旅行や地図、道案内について語るための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 5 Have you been to San Francisco?(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
12	6/22	色々な角度から友達についての説明の仕方を学ぶ。(1)	小テスト Unit 6 My best friend(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら友達についての説明のための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 6 My best friend(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	色々な角度から友達についての説明の仕方を学ぶ。 (2)	小テスト Unit 6 My best friend(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。様々な話題を提供しながら友達についての説明のための表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 6 My best friend(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	この回で学習したことを復習し、授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
14	7/6	“My favorite thing”のタイトルでプレゼンテーション	壇上でプレゼンテーション（60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する）。各自配られたシートに発表者の講評を書き提出する。	
		この回の到達目標	人前で自分の英語の発表をし、如何に理解してもらえるか工夫出来る様になる。	
		事前学修	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。	60分
		事後学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習をしテスト準備をすること。	60分
15	7/13	前期授業の反省並びに確認。	前期授業のまとめ。	
		この回の到達目標	前期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	
		事前学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。	60分
		事後学修	前期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。	60分

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	瀧野 みゆき	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
英語の素材を聴き、内容を理解する練習を多様なテーマの素材を使って行います。 また、画像等を見て説明するスピーキングの練習を取り入れます。 授業の後半で聴くテキストについては、授業の前に指定されたユニットを繰り返し聴き、内容を理解してきてください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業でペアまたはグループで英語でコミュニケーションを行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの積算点数、レポートの得点を学期中にフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
究極の英語リスニング Vo1.1 CD付	英語出版編集部（編 集）	株式会社アルク	2008年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として授業終了後（火曜：昼休み）。授業講堂にて。詳細は授業で指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	英語を使った海外とのコミュニケーション業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実社会の英語の利用を反映した英語コミュニケーションの練習	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	ガイダンス・Daily Life	ガイダンス：リスニング力を伸ばすには、英語聴き取りの練習方法、授業の進め方、事前・事後学習の説明 リスニングミニテストの練習 Daily Lifeに関する聴き取りの練習をする。 Daily Lifeに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	授業の進め方を理解する。小テストの練習を通して、予習復習の内容を理解する。 到達目標①②に関連して、Daily Lifeに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの購入と内容の確認	30分
		事後学修	授業の進め方の確認、ミニテストの復習。授業内容の復習。	30分
2	第一部 火4/14	Places	Placesに関する聴き取りの練習をする。 Placesに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Placesに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
3	第一部 火4/21	People	Peopleに関する聴き取りの練習をする。 Peopleに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Peopleに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解.	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
4	第一部 火4/28	Travel	Travelに関する聴き取りの練習をする。 Travelに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Travelに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解.	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
5	第一部 火5/5	Business	Businessに関する聴き取りの練習をする。 Businessに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Businessに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解.	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
6	第一部 火5/12	Office	Officeに関する聴き取りの練習をする。 Officeに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Officeに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解.	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	Technology	Technologyに関する聴き取りの練習をする。 Technologyに関するスピーキングの練習をする。 リスニングレポート提出 一回目 （詳細は授業で指示します）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Technologyに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解.	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
8	第一部 火5/26	Personnel	Personnelに関する聴き取りの練習をする。 Personnelに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Personnelに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解.	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
9	第一部 火6/2	Management	Managementに関する聴き取りの練習をする。 Managementに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Managementに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解.	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
10	第一部 火6/9	Purchasing	Purchasingに関する聴き取りの練習をする。 Purchasingに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Purchasingに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
11	第一部 火6/16	Finances	Financesに関する聴き取りの練習をする。 Financesに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Financesに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
12	第一部 火6/23	Media	Mediaに関する聴き取りの練習をする。 Mediaに関するスピーキングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Mediaに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	Entertainment	Entertainmentに関する聴き取りの練習をする。 Entertainmentに関するスピーキングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Entertainmentに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
14	第一部 火7/7	Restaurants	Restaurantsに関する聴き取りの練習をする。 Restaurantsに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Restaurantsに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習	30分
15	第一部 火7/14	まとめ・今後の勉強法	授業のまとめ、夏休みの勉強法	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、夏休みに勉強をつづけ、コミュニケーション力を向上する。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習	30分

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
講義および演習形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1				
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	Introduction及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
2	4/17	Edo to Tokyo	Learn about the story of Edo to Tokyo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
3	4/24	Kimono	Learn about the story of Kimono	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
4	5/1	Kabuki	Learn about the story of Kabuki	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
5	5/8	Sumo	Learn about the story of Sumo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
6	5/15	Shinkansen	Learn about the story of Shinkansen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	Manga	Learn about the story of Manga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
8	5/29	Akihabara	Learn about the story of Akihabara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
9	6/5	Yamanote	Learn about the story of Yamanote	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
10	6/12	Imperial Palace	Learn about the story of Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
11	6/19	Asakusa	Learn about the story of Asakusa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
12	6/26	The Meiji Jingu	Learn about the story of The Meiji Jingu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	Sushi and Tempura	Learn about the story of Sushi and Tempura	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
14	7/10	Noodles	Learn about the story of Noodles	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	7/17	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	Introduction及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
2	4/17	Edo to Tokyo	Learn about the story of Edo to Tokyo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
3	4/24	Kimono	Learn about the story of Kimono	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
4	5/1	Kabuki	Learn about the story of Kabuki	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
5	5/8	Sumo	Learn about the story of Sumo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
6	5/15	Shinkansen	Learn about the story of Shinkansen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	Manga	Learn about the story of Manga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
8	5/29	Akihabara	Learn about the story of Akihabara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
9	6/5	Yamanote	Learn about the story of Yamanote	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
10	6/12	Imperial Palace	Learn about the story of Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
11	6/19	Asakusa	Learn about the story of Asakusa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
12	6/26	The Meiji Jingu	Learn about the story of The Meiji Jingu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	Sushi and Tempura	Learn about the story of Sushi and Tempura	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
14	7/10	Noodles	Learn about the story of Noodles	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	7/17	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラスです。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
様々な場面の発話のディクテーションを行い、文法の確認、内容の理解を行い発話の練習をします。授業の初めに前回の授業で出てきた重要ボキャブラリーと内容理解確認の小テストを実施し、次の授業で返却と解説をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (Revised Edition)	Kayo Yoshida 他	誠美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 8：30～8：50、授業終了後、お昼休み、3限終了後に教室で対応します。メールアドレスは授業内でお知らせします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 金4/10	TOEIC、TOEFL、TOEFL英検などのリスニングセッションとは？	授業の進め方、自宅学習の進め方、評価に関する説明、TOEIC、TOEFL、英検など、資格試験のリスニングの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、資格試験のリスニングセッションの出題形式を説明することが出来る。	
		事前学修	シラバス、テキストを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	30分
2	第1部 金4/17	挨拶に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1（Ceremony）のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常生活で使われる挨拶の表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストにある指示に従い、テキストの音声ファイルをダウンロードする。 「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
3	第1部 金4/24	自己紹介に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 2（School Life）のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学校生活の自己紹介で使われる表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 2の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
4	第1部 金5/1	交通機関に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 3（Transportation）のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、交通機関で使われる表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 3の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
5	第1部 金5/8	時間に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 4（Outdoor Activities）のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時間に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 4の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
6	第1部 金5/15	天気に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 5（Weather）のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に対して天気に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 5の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 金 5/22	Unit1からUnit5までの復習 (Review 1)	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のReview 1のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 からUnit 5 までの表現を復習し確実に身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Review 1 の音声を読み、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
8	第1部 金 5/29	電話の会話に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 6 (Holiday Plans) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、時間に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 6 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
9	第1部 金 6/5	依頼に対する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 7 (Resort Area) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、依頼に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 7 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
10	第1部 金 6/12	場所案内に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 8 (Directions) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、場所案内に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 8 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
11	第1部 金 6/19	資格・職業経験に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 9 (Job Experience) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、資格・職業経験に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 9 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
12	第1部 金 6/26	買い物に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 0 (Summer sale) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、買い物に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 0 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 金 7/3	Unit 6 からUnit 10までの復習	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のReview 2 のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6 からUnit 10までの表現を復習し確実に身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Review 2 の音声聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
14	第1部 金 7/10	TOEIC実践リスニング対策（1）	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 からUnit 10までの授業内テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」TOEICのUnit 1 からUnit 10までのリスニングの重要点を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Unit 1 からUnit 10までのスクリプトを見ながら音声を聞き復習をする。フィードバックされたこれまでの小テストを見直す。	30分
		事後学修	授業で行った重要箇所の再確認をすること。	30分
15	第1部 金 7/17	TOEIC実践リスニング対策（2）	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」の授業内テストのフィードバックと解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際にTOEICリスニングの問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの授業内容の学習の振り返り。	30分
		事後学修	間違えた箇所を解き直し、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラスです。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
様々な場面の発話のディクテーションを行い、文法の確認、内容の理解を行い発話の練習をします。授業の初めに前回の授業で出てきた重要ボキャブラリーと内容理解確認の小テストを実施し、次の授業で返却と解説をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (Revised Edition)	Kayo Yoshida 他	誠美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 8：30～8：50、授業終了後、お昼休み、3限終了後に教室で対応します。メールアドレスは授業内でお知らせします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 金4/10	TOEIC、TOEFL、TOEFL英検などのリスニングセッションとは？	授業の進め方、自宅学習の進め方、評価に関する説明、TOEIC、TOEFL、英検など、資格試験のリスニングの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、資格試験のリスニングセッションの出題形式を説明することが出来る。	
		事前学修	シラバス、テキストを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	30分
2	第1部 金4/17	挨拶に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1（Ceremony）のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常生活で使われる挨拶の表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストにある指示に従い、テキストの音声ファイルをダウンロードする。 「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
3	第1部 金4/24	自己紹介に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 2（School Life）のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学校生活の自己紹介で使われる表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 2の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
4	第1部 金5/1	交通機関に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 3（Transportation）のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、交通機関で使われる表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 3の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
5	第1部 金5/8	時間に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 4（Outdoor Activities）のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時間に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 4の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
6	第1部 金5/15	天気に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 5（Weather）のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に対して天気に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 5の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 金 5/22	Unit1からUnit5までの復習 (Review 1)	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のReview 1のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 からUnit 5 までの表現を復習し確実に身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Review 1 の音声を読み、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
8	第1部 金 5/29	電話の会話に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 6 (Holiday Plans) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時間に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 6 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
9	第1部 金 6/5	依頼に対する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 7 (Resort Area) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、依頼に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 7 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
10	第1部 金 6/12	場所案内に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 8 (Directions) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、場所案内に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 8 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
11	第1部 金 6/19	資格・職業経験に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 9 (Job Experience) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、資格・職業経験に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 9 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
12	第1部 金 6/26	買い物に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 0 (Summer sale) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、買い物に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 0 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 金 7/3	Unit 6 からUnit 10までの復習	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のReview 2 のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6 からUnit 10までの表現を復習し確実に身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Review 2 の音声聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
14	第1部 金 7/10	TOEIC実践リスニング対策（1）	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 からUnit 10までの授業内テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」TOEICのUnit 1 からUnit 10までのリスニングの重要点を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Unit 1 からUnit 10までのスクリプトを見ながら音声を聞き復習をする。フィードバックされたこれまでの小テストを見直す。	30分
		事後学修	授業で行った重要箇所再確認をすること。	30分
15	第1部 金 7/17	TOEIC実践リスニング対策（2）	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」の授業内テストのフィードバックと解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際にTOEICリスニングの問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの授業内容の学習の振り返り。	30分
		事後学修	間違えた箇所を解き直し、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。授業中の、携帯やスマートフォンの使用は固く禁止します。

【授業方法】
本文や問題文の音読と、訳を求めます。毎回、全員が一度は発表しますので、事前に予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は必ず間違った箇所やあやふやなところはまとめて事後学習をしましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は授業内に行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』	西谷敦子 他	朝日出版社	19年度		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火4/8	Orientation とTOEICテストの傾向と対策	Orientation では授業の方法についてレクチャーをします。授業の進め方、辞書の使い方などについて説明します。授業に関する質問に答えます。教科書および英和・和英辞書を用意してください。TOEICテストの傾向と対策について紹介します。前期はリスニングを、後期はリーディングを中心に講義します。	
		この回の到達目標	授業の進め方、教科書と過去問の使い方について理解することで、学生が授業の準備をスムーズに行い、今後の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)	30分
2	火4/15	写真描写問題 人物が写っている写真	Unit 1『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section1	
		この回の到達目標	位置・動作・状態の違いを聞き取ることができる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 (30分) 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
3	火4/22	写真描写問題 人物が写っていない写真	Unit 2 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section1 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題2	
		この回の到達目標	位置関係を表す表現に慣れる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit2のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)	30分
4	火4/29	位置関係を表す前置詞	Uni 2『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題3 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section1	
		この回の到達目標	位置関係を表す前置詞を聞き取ること、適切に写真説明を理解できる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit2のテーマ、単語、表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと	30分
5	火5/6	疑問詞疑問文	Uni 3『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題4 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section1	
		この回の到達目標	冒頭の1語のみで理解できるパターンを知る。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit3の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	火5/13	疑問詞疑問文	Uni 3 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』 問題 5 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』 Section 2	
		この回の到達目標	冒頭の1語のみでは理解できないパターンを知る。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit3のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
7	火5/20	yes/no疑問文	Uni 4 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習して、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』 問題 6 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』 Section 2	
		この回の到達目標	yes/noで答える疑問文を理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit4のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
8	火5/27	TOEIC TEST まとめ	TOEICのリスニングのテストを本番と同じ条件で行います。	
		この回の到達目標	TOEICの過去問を解き、問題の傾向を理解する。	
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで目をとおしておく、授業時の備えになります。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
9	火6/3	TOEIC TEST まとめ	TOEICのリーディングのテストを本番と同じ条件で行います。	
		この回の到達目標	TOEICの過去問を解き、問題の傾向を理解する。	
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで目をとおしておく、授業時の備えになります。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
10	火6/10	間接疑問文、否定疑問文、付加疑問文、選択疑問文など	Unit 4 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』 問題 7 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』 Section 2	
		この回の到達目標	テーマの疑問文について理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit4の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
11	火6/17	平叙文と意外な返答（１）	Unit5『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題8 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section 2
		この回の到達目標	平叙文は応答パターンを理解する。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit 5のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみることに。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
12	火6/24	平叙文と意外な返答（２）	Unit5『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section 3 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題9
		この回の到達目標	間接的な応答や予想外の返答があることを理解する。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit 5の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみることに。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
13	火7/1	機能別疑問文（１）	unit 6 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題9 『5分間 新TOEICテストサブプリメント 文法語法』Section 3
		この回の到達目標	機能別疑問文のパターンと、応答の表現に慣れる。決まり文句も多いことを理解する。
		事前学修	（１）事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit 6の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと（２）リーディングは訳を１度で日本語で書いてみることに。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。（３）リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
14	火7/8	試験とまとめ	前期授業のまとめのテストを行う
		この回の到達目標	前期の授業で学習したTOEICリスニングをとくことができる。
		事前学修	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。質問も遠慮なくしてください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
15	火7/15	試験の解説と英語の動画の鑑賞	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。
		この回の到達目標	試験の解説を聞いて、不明な点を理解する。また英語による動画を鑑賞して聞き取ることができる。
		事前学修	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておくことより一層理解が深まるので準備しておくこと。
		事後学修	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
授業は基本的に演習形式で進めます。 課題、ロールプレイングに対するフィードバックを授業内で行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。							1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。							1			1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Speaking Of People	Peter Vincent, Naoko Nakazato, Alan Meadows	南雲堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜1限授業終了後（10：30～10：40）、授業講堂で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	【ガイダンス】英会話について	中学、高校英語の英会話への実践的な活用。能動英語と受動英語について。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行なうことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、まずは電子辞書などを活用し、自分の情報を英語でまとめる。音読練習を繰り返し、適切に相手に自分のことを伝えることができる。	
		事前学修	シラバスの確認（３０分）	30分
		事後学修	学んだ表現の音読練習（３０分）	30分
2	第一部 金4/17	【Unit 1】Speaking About Yourself	リスニング、スピーキング練習。名前、年齢、大学、専攻などに関する表現を学び、音読練習を行なう。グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分のこと（名前、出身地、年齢、大学、専門など）に関する表現を学び、それを台本を見ながらも、正確に相手に伝えることができる。	
		事前学修	P. 9、P. 11の問題を授業が始まるまでに解いておくこと。（３０分）	30分
		事後学修	音読練習（３０分）	30分
3	第一部 金4/24	【Unit 1】Speaking About Yourself	リスニング、スピーキング練習。名前、年齢、大学、専攻などに関する表現を学び、音読練習を行なう。グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分のこと（名前、出身地、年齢、大学、専門など）に関する表現を学び、それを台本を見ずに、正確に相手に伝えることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（３０分）	30分
		事後学修	音読練習（３０分）	30分
4	第一部 金5/1	【Unit 1】Speaking About Yourself	スクリプト作成。グループワーク、ペアワークを通して、英会話の実践をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自己紹介を英語ですることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（３０分）	30分
		事後学修	音読練習（３０分）	30分
5	第一部 金5/8	【Unit 2】What Do You Do?	リスニング、スピーキング練習。日々の日常的行動、習慣に関する表現を学び、グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、毎週、毎月、毎年の自分の習慣的行動をまとめ、それを台本を見ながらも、正確に相手に伝えることができる。	
		事前学修	P. 14、P. 15、P. 18の問題を授業が始まるまでに解いておくこと（３０分）	30分
		事後学修	音読練習（３０分）	30分
6	第一部 金5/15	【Unit 2】What Do You Do?	リスニング、スピーキング練習。日々の日常的行動、習慣に関する表現を学び、グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、毎週、毎月、毎年の自分の習慣的行動をまとめ、それを台本を見ずに正確に伝えることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（３０分）	30分
		事後学修	音読練習（３０分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	【Unit 2】What Do You Do?	スクリプト作成。グループワーク、ペアワークを通して、英会話の実践をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、より複雑な自己紹介を英語ですることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（30分）	30分
		事後学修	音読練習（30分）	30分
8	第一部 金5/29	【Unit 3】What Does He Look Like?	リスニング、スピーキング練習。名前、他人、相手について形容する表現、一般動詞have、be動詞の実用的な使い方を学び、音読練習を行なう。グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、台本を見ながらも、英語で自己、他己紹介をすることができる。	
		事前学修	P. 28、P. 29、P. 32、P. 33の問題を授業が始まるまでに解いておくこと（30分）	30分
		事後学修	音読練習（30分）	30分
9	第一部 金6/5	【Unit 3】What Does He Look Like?	リスニング、スピーキング練習。名前、他人、相手について形容する表現、一般動詞have、be動詞の実用的な使い方を学び、音読練習を行なう。グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、台本を見ずに、英語で自己、他己紹介をすることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（30分）	30分
		事後学修	音読練習（30分）	30分
10	第一部 金6/12	【Unit 3】What Does He Look Like?	スクリプト作成。グループワーク、ペアワークを通して、英会話の実践をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自己紹介、他己紹介を英語ですることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（30分）	30分
		事後学修	音読練習（30分）	30分
11	第一部 金6/19	【ロールプレイング準備】	これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語で自己紹介、他己紹介の実践練習を繰り返し、より自然に会話をすることができる。	
		事前学修	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）	30分
		事後学修	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）	30分
12	第一部 金6/26	【ロールプレイング準備】	これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語で自己紹介、他己紹介の実践練習を繰り返し、より自然に会話をすることができる。	
		事前学修	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）	30分
		事後学修	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	【ロールプレイング準備】	これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語で自己紹介、他己紹介の実践練習を繰り返し、より自然に会話することができる。	
		事前学修	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）	30分
		事後学修	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）	30分
14	第一部 金7/10	【ロールプレイング準備】	これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語で自己紹介、他己紹介の実践練習を繰り返し、より自然に会話することができる。	
		事前学修	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）	30分
		事後学修	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）	30分
15	第一部 金7/17	【前期テスト】 ロールプレイング、フィードバック	ロールプレイング総括、前期授業のまとめ（フィードバック）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、劇という形で自己を表現することの楽しさを知り、能動的に自分の考えを伝えることが出来る。	
		事前学修	ロールプレイングに向けた準備（30分）	30分
		事後学修	これまでの既習事項を復習すること。（30分）	30分

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。原則、英語Dと通年で履修して下さい。

【授業方法】		
教科書を使用して語彙や文法事項の確認をしながら、リスニング力と表現力を高めていきます。TOEICの問題や英語ニュースなど副教材も取り入れます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークで、会話の練習を行います。視覚資料を用いたプレゼンテーションを行い、クラスの人からのフィードバックをしてもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1		1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TARGET! Elementary（総合英語のターゲット演習：初級）	森田彰，飯尾牧子，橋本健広，佐竹幸信，角田麻里，Gordon Myskow	金星堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、授業終了後（火曜：講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	ガイダンス 英語のリスニング、プレゼンテーションとは	ガイダンス、プレゼンテーションの説明、リスニングを中心とした学習方法の紹介	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語のリスニングの学習方法と今期のプレゼンテーションの要領を理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの自分の英語学習の履歴をまとめておく。使用した英語辞書、単語集、教材などを振り返る。	30分
		事後学修	授業で配布されたプリントを復習する。	30分
2	第一部 火4/14	数字の聞き取り	テキスト Unit 1 In Your Free Time ケタ数の多い数字、分数などの基本的な数字の聞き取りを練習する。数字を使った会話の聞き取りを行う。ペアでの会話の練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して基本的な数字の聞き取りができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。	30分
3	第一部 火4/21	be動詞と一般動詞	テキスト Unit 1 後半 be動詞と一般動詞の違いの解説。余暇時間についての文章を読む。会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、動詞の種類を識別し、英文を作ることができる。	
		事前学修	文法の説明を読み、英文を読み、わからない単語・熟語を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。	30分
4	第一部 火4/27	時間・日付・年号の聞き取り	テキスト Unit 2 Communication Skills 時間・日付・年号の聞き取りを練習する。数字を使った会話の聞き取りを行う。ペアでの会話の練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、時間・日付・年号の聞き取りができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。	30分
5	第一部 火5/5	英語の代名詞とは	代名詞の機能と活用の解説。練習問題。リーディング「相手にNoという時」読解。会話の練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、代名詞の機能を説明することができる。それを活用した会話ができる。	
		事前学修	文法の説明を読み、英文を読み、わからない単語・熟語を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。	30分
6	第一部 火5/12	聞き分けにくい音の聞き取り、否定文	テキスト Unit 3 World Languages and Cultures 母音、子音で聞き分けにくい音の聞き取り。それを使った会話の聞き取りと練習。借用語に関する英文の読解。否定文の文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、聞き分けにくい音の聞き取りができる。否定文の仕組みを説明することができる。	
		事前学修	文法の説明を読み、英文を読み、わからない単語・熟語を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。会話の暗唱をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	プレゼンテーションの準備	自己紹介の準備。自己紹介によく使う表現の解説と原稿の作成。視覚資料の作成の説明。原稿のチェックをペアワークで行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、基本的な英文を使って自分のことをわかりやすく相手に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントを使用して、自己紹介の原稿を書く。	30分
		事後学修	ペアワークで指摘されたことをもとに、プレゼンテーションの原稿を修正する。	30分
8	第一部 火5/26	プレゼンテーション	視覚資料を使用して、2分間で自己紹介を行う。クラス内でフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本的な英文を使って、自己紹介をすることができる。クラスメートの自己紹介を聞いて、理解することができる。意見を言うことができる。	
		事前学修	これまで学んだ英語表現を使用し、プレゼンテーションができるように原稿と視聴覚資料を作成する。複数回、練習する。	30分
		事後学修	自分のプレゼンテーションを振り返り、改善点を挙げる。他の人の発表を振り返り、いい点を挙げる。	30分
9	第一部 火6/2	カタカナ語とのギャップの聞き取り、疑問文の構造。	テキスト Unit 4 Healthy Body, Healthy Mind カタカナ語とのギャップに注意しての聞き取り。会話の練習。疑問文の文法問題。自然の中での余暇に関する英文の読解。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、カタカナ語と英語の音を識別することができる。疑問文の構造を説明することができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。文法の説明を読み、リーディングで、わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。会話の暗唱をする。	30分
10	第一部 火6/9	短縮形の聞き取り、過去形	テキスト Unit 5 Careers Nowadays 短縮形の聞き取り、会話の練習、過去形の文法問題。現代のキャリアに関する英文の読解。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、短縮形の聞き取りができる。過去形を理解し、英文を作ることができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。文法の説明を読み、リーディングで、わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。会話の暗唱をする。	30分
11	第一部 火6/16	つながる音の聞き取り、進行形。	テキスト Unit 6 Fashion Trends つながる音の聞き取り、会話の練習、進行形の文法問題、ファストファッションに関する英文の読解。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、つながる音を聞き取ることができる。進行形を理解し、英文を作ることができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。文法の説明を読み、リーディングで、わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。会話の暗唱をする。	30分
12	第一部 火6/23	消える音が含まれた英文の聞き取り	テキスト Unit 7 Planning a Trip Abroad 消える音が含まれた英文の聞き取り、会話の練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、消える音を意識して英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。ペアワークで作成した会話の英文を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	未来を表す表現、文化的敏感さに関する英文の読解。	テキスト Unit 7 後半 未来を表す表現の文法の解説、文法問題をする。Cultural Sensitivityに関する英文の読解。ペアワークでの英作文と会話の練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、未来を表す表現を理解し、英文を作ることができる。ペアで会話をするができる。	
		事前学修	文法の説明を読み、リーディングで、わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。会話の暗唱をする。	30分
14	第一部 火7/7	聞き取りの振り返り	今期に学習したリスニングのポイントを振り返ってのディクテーション。応用問題として、英語ニュースの聞き取りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、これまでテキストで学習したリスニングのポイントを振り返って、基本的な英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	前期に学習した会話文のディクテーションができるようにしておく。単語・熟語を復習する。	30分
		事後学修	聞き取れなかった箇所を何度か聞き返して復習する。	30分
15	第一部 火7/14	授業内試験と解説、振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期で学んだ英文の聞き取りができる。文法項目を理解し、活用することができる。	
		事前学修	前期に学習した箇所の文法や語彙などを復習して期末試験に臨む。	30分
		事後学修	理解があやふやな箇所をチェックし、後期の授業に臨めるようにする。	30分

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修すること。また、勉学上 の大きな負荷に耐える強靱な忍耐力を期待する。グループ演習を行うため、積極性、協調性を強く求める。

【授業方法】
動画や音声を用いたCALLシステムによるアクティブ・ラーニング方式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	CALLシステム（Computer Assisted Language Learning）は、映像教材や音声教材を学生用PCにリアルタイムに配信しながら、ランダムに形成されたペアでスピーキング、リスニングの演習を実践することが可能であるのみならず、それを録画・録音して振り返りを行ったり、ペア演習に教員が参画し指導することができる優れたアクティブ・ラーニング用IT教材である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、プリント教材や動画、音声データを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日3時限に松山博樹研究室（本館8階1815研究室）にて対応する。授業内もしくはメール(matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp)にて事前予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	日本人が注意すべきprosody (rhythm, stress, intonation)を習得の重要性について説明し、リスニング、スピーキングの演習を行う意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、prosody (rhythm, stress, intonation)習得の意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、prosody (rhythm, stress, intonation)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	4/17	最新の英語ニュース ビジネス英語（就職面接） 音声変化現象（連結）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（就職面接）、音声変化現象（連結）などの動画および音声 を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（就職面接）、音声変化現象（連結）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（就職面接）、音声変化現象（連結）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
3	4/24	最新の英語ニュース ビジネス英語（仕事の説明） 音声変化現象（脱落）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（仕事の説明）、音声変化現象（脱落）などの動画および音声 を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（仕事の説明）、音声変化現象（脱落）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（仕事の説明）、音声変化現象（脱落）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
4	5/1	小テスト1 授業内容の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（就職面接、仕事の説明）、音声変化現象（連結、脱落）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（就職面接、仕事の説明）、音声変化現象（連結、脱落）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
5	5/8	最新の英語ニュース ビジネス英語（職場着任） 音声変化現象（弱化1）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場着任）、音声変化現象（弱化1）などの動画および音声 を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場着任）、音声変化現象（弱化）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場着任）、音声変化現象（弱化）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
6	5/15	最新の英語ニュース ビジネス英語（上司との会話） 音声変化現象（弱化2）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（上司との会話）、音声変化現象（弱化2）などの動画および音声 を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（上司との会話）、音声変化現象（弱化）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（上司との会話）、音声変化現象（弱化）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	小テスト2 授業内容の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場着任、上司との会話）、音声変化現象（弱化1,2）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場着任、上司との会話）、音声変化現象（弱化1,2）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
8	5/29	最新の英語ニュース ビジネス英語（職場案内） 音声変化現象（短縮形）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場案内）、音声変化現象（短縮形）などの動画および音声を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場案内）、音声変化現象（短縮形）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場案内）、音声変化現象（短縮形）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
9	6/5	最新の英語ニュース ビジネス英語（電話対応） 音声変化現象（同化、弾音化、リズム）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（電話対応）、音声変化現象（同化、弾音化、リズム）などの動画および音声を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（電話対応）、音声変化現象（同化、弾音化、リズム）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（電話対応）、音声変化現象（同化、弾音化、リズム）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
10	6/12	小テスト3 授業内容の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場案内、電話対応）、音声変化現象（短縮形、同化、弾音化、リズム）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場案内、電話対応）、音声変化現象（短縮形、同化、弾音化、リズム）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
11	6/19	英語プレゼンテーション（基本編）	英語プレゼンテーションの基本的構造、表現を解説し、動画および音声を扱ったリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語プレゼンテーションを実践することができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、英語プレゼンテーションに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
12	6/26	英語プレゼンテーション（応用編）	英語プレゼンテーションの基本的構造、表現を解説し、自ら書いた原稿に基づいた英語プレゼンテーションを実践し、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語プレゼンテーションを実践することができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、英語プレゼンテーションに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	TOEICとは何か	TOEICの形式、内容、傾向等を解説し、音声を扱ったTOEIC形式のリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのリスニングセッションに取り組むことができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
14	7/10	TOEIC模擬試験	TOEICの形式、内容、傾向等を解説し、音声を扱ったTOEIC形式のリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのリスニングセッションに取り組むことができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
15	7/17	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	120分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修すること。また、勉学上 の大きな負荷に耐える強靱な忍耐力を期待する。グループ演習を行うため、積極性、協調性を強く求める。

【授業方法】
動画や音声を用いたCALLシステムによるアクティブ・ラーニング方式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	CALLシステム（Computer Assisted Language Learning）は、映像教材や音声教材を学生用PCにリアルタイムに配信しながら、ランダムに形成されたペアでスピーキング、リスニングの演習を実践することが可能であるのみならず、それを録画・録音して振り返りを行ったり、ペア演習に教員が参画し指導することができる優れたアクティブ・ラーニング用IT教材である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1		1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、プリント教材や動画、音声データを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日3時限に松山博樹研究室（本館8階1815研究室）にて対応する。授業内もしくはメール(matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp)にて事前予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	日本人が注意すべきprosody (rhythm, stress, intonation) を習得の重要性について説明し、リスニング、スピーキングの演習を行う意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、prosody (rhythm, stress, intonation) 習得の意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、prosody (rhythm, stress, intonation) に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	4/13	最新の英語ニュース ビジネス英語（就職面接） 音声変化現象（連結）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（就職面接）、音声変化現象（連結）などの動画および音声 を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（就職面接）、音声変化現象（連結）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（就職面接）、音声変化現象（連結）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
3	4/20	最新の英語ニュース ビジネス英語（仕事の説明） 音声変化現象（脱落）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（仕事の説明）、音声変化現象（脱落）などの動画および音声 を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（仕事の説明）、音声変化現象（脱落）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（仕事の説明）、音声変化現象（脱落）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
4	4/27	小テスト1 授業の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（就職面接、仕事の説明）、音声変化現象（連結、脱落）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（就職面接、仕事の説明）、音声変化現象（連結、脱落）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
5	5/4	最新の英語ニュース ビジネス英語（職場着任） 音声変化現象（弱化1）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場着任）、音声変化現象（弱化1）などの動画および音声 を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場着任）、音声変化現象（弱化）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場着任）、音声変化現象（弱化）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
6	5/11	最新の英語ニュース ビジネス英語（上司との会話） 音声変化現象（弱化2）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（上司との会話）、音声変化現象（弱化2）などの動画および音声 を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（上司との会話）、音声変化現象（弱化）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（上司との会話）、音声変化現象（弱化）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	小テスト2 授業の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場着任、上司との会話）、音声変化現象（弱化1,2）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場着任、上司との会話）、音声変化現象（弱化1,2）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
8	5/25	最新の英語ニュース ビジネス英語（職場案内） 音声変化現象（短縮形）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場案内）、音声変化現象（短縮形）などの動画および音声を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場案内）、音声変化現象（短縮形）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場案内）、音声変化現象（短縮形）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
9	6/1	最新の英語ニュース ビジネス英語（電話対応） 音声変化現象（同化、弾音化、リズム）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（電話対応）、音声変化現象（同化、弾音化、リズム）などの動画および音声を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（電話対応）、音声変化現象（同化、弾音化、リズム）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（電話対応）、音声変化現象（同化、弾音化、リズム）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
10	6/8	小テスト3 授業の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場案内、電話対応）、音声変化現象（短縮形、同化、弾音化、リズム）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（職場案内、電話対応）、音声変化現象（短縮形、同化、弾音化、リズム）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
11	6/15	英語プレゼンテーション（基本編）	英語プレゼンテーションの基本的構造、表現を解説し、動画および音声を扱ったリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語プレゼンテーションを実践することができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、英語プレゼンテーションに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
12	6/22	英語プレゼンテーション（応用編）	英語プレゼンテーションの基本的構造、表現を解説し、自ら書いた原稿に基づいた英語プレゼンテーションを実践し、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語プレゼンテーションを実践することができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、英語プレゼンテーションに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	TOEICとは何か	TOEICの形式、内容、傾向等を解説し、音声を扱ったTOEIC形式のリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのリスニングセッションに取り組むことができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
14	7/6	TOEIC模擬試験	TOEICの形式、内容、傾向等を解説し、音声を扱ったTOEIC形式のリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのリスニングセッションに取り組むことができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
15	7/13	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	120分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	水野 隆之	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。予習をしてきていることを前提に授業を進める。毎時間単語テストを実施。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST REVISED EDITION	吉塚 弘	成美堂	2017	教科書	必携
TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	ガイダンス TOEICとは	授業の進め方、TOEICの概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、TOEICCの問題形式について理解し、今後の英語学習に結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種検定視点についてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	第一部 月4/13	Unit1 人称代名詞	Unit1 人称代名詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト1～30	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、人称代名詞の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト1頁、4～7頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
3	第一部 月4/20	Unit2 不定代名詞と再帰代名詞	Unit2 不定代名詞と再帰代名詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト31～60	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、不定代名詞と再帰代名詞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト8頁、11～14頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
4	第一部 月4/27	Unit3 現在・過去の時制	Unit3 現在・過去の時制について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト61～90	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時制についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト15頁、18～21頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
5	第一部 月5/4	Unit4 現在完了	Unit4 現在完了について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト91～120	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、現在完了についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト22頁、25～28頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
6	第一部 月5/11	Unit5 時・期間を表す前置詞	Unit5 時・期間を表す前置詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト121～150	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時・期間を表す前置詞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト29頁、32～35頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	Unit6 位置・場所を表す前置詞	Unit6 位置・場所を表す前置詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト151～180	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、位置・場所を表す前置詞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト36頁、39～42頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
8	第一部 月5/25	Unit7 数量形容詞	Unit7 数量形容詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト181～210	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、数量形容詞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト43頁、46～49頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
9	第一部 月6/1	Unit8 自動詞と他動詞	Unit8 自動詞と他動詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト210～240	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自動詞と他動詞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト50頁、53～56頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
10	第一部 月6/8	Unit9 形容詞を作る接尾辞	Unit9 形容詞を作る接尾辞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト241～270	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、形容詞を作る接尾辞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト57頁、60～63頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
11	第一部 月6/15	Unit10 副詞を作る接尾辞	Unit10 副詞を作る接尾辞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト271～300	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、副詞を作る接尾辞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト64頁、67～70頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
12	第一部 月6/22	Unit11 分詞構文	Unit11 分詞構文について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト301～330	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、分詞構文についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト71頁、74～78頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	Unit12 比較	Unit12 比較について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト331～360	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、比較についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト79頁、82～86頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
14	第一部 月7/6	Unit13 受動態	Unit13 受動態について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト361～390	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、受動態についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト87頁、90～94頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
15	第一部 月7/13	授業内試験及び前期学習内 容の振り返り	授業内試験を通して、前期学習内容を振り返り、TOEICの問題を解くことができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、前期の学習内容を確認し、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	水野 隆之	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。予習をしてきていることを前提に授業を進める。毎時間単語テストを実施。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST REVISED EDITION	吉塚 弘	成美堂	2017	教科書	必携
TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 月4/6	ガイダンス TOEICとは	授業の進め方、TOEICの概要を説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、TOEICCの問題形式について理解し、今後の英語学習に結び付けることができる。
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種検定視点についてWEBサイト等で調べてみる。30分
2	第一部 月4/13	Unit1 人称代名詞	Unit1 人称代名詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト1～30
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、人称代名詞の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。
		事前学修	テキスト1頁、4～7頁の問題を解いてくる。30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。30分
3	第一部 月4/20	Unit2 不定代名詞と再帰代名詞	Unit2 不定代名詞と再帰代名詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト31～60
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、不定代名詞と再帰代名詞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。
		事前学修	テキスト8頁、11～14頁の問題を解いてくる。30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。30分
4	第一部 月4/27	Unit3 現在・過去の時制	Unit3 現在・過去の時制について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト61～90
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時制についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。
		事前学修	テキスト15頁、18～21頁の問題を解いてくる。30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。30分
5	第一部 月5/4	Unit4 現在完了	Unit4 現在完了について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト91～120
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、現在完了についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。
		事前学修	テキスト22頁、25～28頁の問題を解いてくる。30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。30分
6	第一部 月5/11	Unit5 時・期間を表す前置詞	Unit5 時・期間を表す前置詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト121～150
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、時・期間を表す前置詞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。
		事前学修	テキスト29頁、32～35頁の問題を解いてくる。30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	Unit6 位置・場所を表す前置詞	Unit6 位置・場所を表す前置詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト151～180	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、位置・場所を表す前置詞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト36頁、39～42頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
8	第一部 月5/25	Unit7 数量形容詞	Unit7 数量形容詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト181～210	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、数量形容詞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト43頁、46～49頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
9	第一部 月6/1	Unit8 自動詞と他動詞	Unit8 自動詞と他動詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト210～240	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自動詞と他動詞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト50頁、53～56頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
10	第一部 月6/8	Unit9 形容詞を作る接尾辞	Unit9 形容詞を作る接尾辞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト241～270	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、形容詞を作る接尾辞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト57頁、60～63頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
11	第一部 月6/15	Unit10 副詞を作る接尾辞	Unit10 副詞を作る接尾辞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト271～300	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、副詞を作る接尾辞についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト64頁、67～70頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
12	第一部 月6/22	Unit11 分詞構文	Unit11 分詞構文について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト301～330	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、分詞構文についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト71頁、74～78頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	Unit12 比較	Unit12 比較について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト331～360	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、比較についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト79頁、82～86頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
14	第一部 月7/6	Unit13 受動態	Unit13 受動態について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト361～390	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、受動態についての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト87頁、90～94頁の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。	30分
15	第一部 月7/13	授業内試験及び前期学習内 容の振り返り	授業内試験を通して、前期学習内容を振り返り、TOEICの問題を解くことができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、前期の学習内容を確認し、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	村松 直子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。毎時間、小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業時に、授業テーマ、学習項目に関する英作文に取り組み、発表をしたり、読解問題の解法をクラスで発表したりするTask-based learningにも取り組む。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末試験の内容について、期末試験実施日の授業時間にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test.	K. Hayakawa et al.	KINSEIDO	2018		
備考					

【オフィスアワー】
金曜日の4時限後 事前（授業後等）に講堂にて対面でアポイントメントを入れてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4月10日	オリエンテーション、教科書の導入、練習問題および解説		コースの到達目標、授業の進め方、日常生活やビジネスにおいて必要とされる英語コミュニケーション能力、TOEIC等の各種英語資格試験の概要について学ぶ。 英語コミュニケーション能力、リスニング・ストラテジー、スピーキング・ストラテジーを習得する方法について理解する。
		この回の到達目標	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質と価値観を尊重しながら、積極的に英語でコミュニケーションをする基礎力を身につけるため、実際の日常生活やビジネスにおけるコミュニケーションに必要な語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルについて、理解を深め、授業に向けて、また授業時間外に自習により英語力を高める方法について学ぶ。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。(20分) 教科書12、13、17ページの問題を解き、17ページの英文の意味を把握する。(30分)	50分
		事後学修	TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの各種検定試験についてWebサイト等で調べてみる。(30分)	30分
2	4月17日	Travel		Unit1 Travelに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Who疑問文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト12ページの頻出語句を暗記する。14-16, 18-20ページの問題を解いてくる。(30分)	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
3	4月24日	dining out		Unit2 Dining Outに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Where疑問文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト21ページの頻出語句を暗記する。Unit2の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
4	5月1日	Media		Unit3 Mediaに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 When疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト30ページの頻出語句を暗記する。Unit3の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
5	5月8日	Entertainment		Unit4 Entertainmentに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Why疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト39ページの頻出語句を暗記する。Unit4の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
6	5月15日	Purchasing		Unit5 Purchasingに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 How疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト48ページの頻出語句を暗記する。Unit5の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月22日	Clients		Unit6 Clientsに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 How + α 疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト58ページの頻出語句を暗記する。Unit6の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
8	5月29日	Recruiting		Unit7 Recruitingに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Yes/No疑問文(YesかNoで答える)の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト67ページの頻出語句を暗記する。Unit7の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
9	6月5日	Personnel		Unit8 Personnelに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Yes/No疑問文(YesかNoで答えない)の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト77ページの頻出語句を暗記する。Unit8の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
10	6月12日	Advertising		Unit9 Advertisingに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 間接疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト86ページの頻出語句を暗記する。Unit9の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
11	6月19日	Meetings		Unit10 Meetingsに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 付加疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト95ページの頻出語句を暗記する。Unit10の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
12	6月26日	Finance		Unit11 Financeに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 否定疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト104ページの頻出語句を暗記する。Unit11の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7月3日	Offies		Unit12 Officesに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 依頼・許可表現の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト113ページの頻出語句を暗記する。Unit12の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
14	7月10日	期末試験および振り返り		授業内期末試験及び振り返り
		この回の到達目標	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質や価値観を尊重しながら、積極的に英語でコミュニケーションをする基礎力を身につけるため、第13回までの授業で学んだことを習得し、期末試験で実力を発揮する。	
		事前学修	Unit11-12の学習内容を確認、復習する。(60分)	60分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
15	7月17日	Daily Life		Unit13 Daily Lifeに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。提案・勧誘表現の意味を素早く理解し、応答できるようにする。 前期学習内容の振り返り
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキスト122ページの頻出語句を暗記する。Unit13の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。(30分)	30分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	茂木 健幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
授業は教科書に沿って行なわれます。毎回の授業で、ペアワーク、グループワークによる英会話を行い、それぞれのユニットのテーマについて何度か話し合います。また、文法問題や聞き取りの問題なども行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で、ペアワーク、グループワークによる英会話。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削・返却

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
New Time to Communicate	エリック・ブレイ	南雲堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	ガイダンス 自己紹介	授業のテーマ、評価の仕方などの説明。 自己紹介。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分自身について伝えることができる、また相手の話を理解することができる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	自己紹介で上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
2	第一部月 4/13	Unit 1 Meeting People	自己紹介をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分自身について英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
3	第一部月 4/20	Unit 1 Meeting People (2)	自己紹介をテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分自身について英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解できる。	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
4	第一部月 4/27	Unit 2 Getting to Know Your Classmate	自己紹介をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分自身について英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
5	第一部月 5/4	Unit 2 Getting to Know Your Classmate (2)	自己紹介をテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分自身について英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
6	第一部月 5/11	Unit 3 Talking About Classes	大学での授業をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の興味のある授業内容について英語で説明できる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	Unit 3 Talking About Classes(2)	大学での授業をテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分の興味のある授業内容について英語で説明できる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
8	第一部月 5/25	Unit 4 Talking About Your Daily Life	毎日の生活をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分の毎日の生活を英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
9	第一部月 6/1	Unit 4 Talking About Your Daily Life(2)	毎日の生活をテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分の毎日の生活を英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
10	第一部月 6/8	Unit 5 Talking About People-Personality	自分や家族の性格をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分や家族の性格を英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
11	第一部月 6/15	Unit 5 Talking About People-Personality(2)	自分や家族の性格をテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分や家族の性格を英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
12	第一部月 6/22	Unit 6 Talking About People-Appearance	自分や友人の外見をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分や友人の外見について英語で説明できる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	Unit 6 Talking About People-Appearance (2)	自分や友人の外見をテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分や友人の外見について英語で説明できる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
14	第一部月 7/6	Unit 7 Talking About Last Weekend	先週末の出来事をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分が週末したことを伝えることができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
15	第一部月 7/13	授業内試験と解説	前期授業内容の確認とまとめ	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、前期行った授業内容を問題に応じて使用できる。	
		事前学修	前期授業の内容の確認	30分
		事後学修	問題の復習	30分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年番号指定クラス、原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式、小テストを毎回実施し、返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	TOEICリスニング問題の英文を聞き取り、聞き取った内容を発表する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Practical Situations for The TOEIC Test Listening	吉田佳代 他	(株) 成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスパワー】
月曜日 12:30-12:50 本館二階講師室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス、TOEICとは	前期の授業の進め方、テキストについて、TOEICの概要、英語学習法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICがどのような試験かを知り、目標スコアを取るための学習方法を理解し、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	TOEIC、TOEFL、英検などの各種検定試験についてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	4/13	Unit 1 Ceremony	Ceremonyに関連する会話表現を学び、Ceremonyに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Ceremonyに関連する会話表現を覚え、Ceremonyに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 1のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
3	4/20	Unit 2 School Life	School Lifeに関連する会話表現を学び、School Lifeに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、School Lifeに関連する会話表現を覚え、School Lifeに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 2のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
4	4/27	Unit 3 Transportation	Transportationに関連する会話表現を学び、Transportationに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Transportationに関連する会話表現を覚え、Transportationに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 3のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
5	5/4	Unit 4 Outdoor Activities	Outdoor Activitiesに関連する会話表現を学び、Outdoor Activitiesに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Outdoor Activitiesに関連する会話表現を覚え、Outdoor Activitiesに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 4のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
6	5/11	Unit 5 Weather	Weatherに関連する会話表現を学び、Weatherに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Weatherに関連する会話表現を覚え、Weatherに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 5のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Review Test 1	Unit 1-5で学んだリスニング内容の問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1-5の会話表現を覚え、Unit 1-5のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 1-5で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Unit 1-5のScriptの音読練習をする。	30分
8	5/25	Unit 6 Holiday Plans	Holiday Plansに関連する会話表現を学び、Holiday Plansに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Holiday Plansに関連する会話表現を覚え、Holiday Plansに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 6のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
9	6/1	Unit 7 Resort Area	Resort Areaに関連する会話表現を学び、Resort Areaに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Resort Areaに関連する会話表現を覚え、Resort Areaに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 7のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
10	6/8	Unit 8 Directions	Directionsに関連する会話表現を学び、Directionsに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Directionsに関連する会話表現を覚え、Directionsに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 8のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
11	6/15	Unit 9 Job Experience	Job Experienceに関連する会話表現を学び、Job Experienceに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Job Experienceに関連する会話表現を覚え、Job Experienceに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 9のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
12	6/22	Unit 10 Summer Sale	Summer Saleに関連する会話表現を学び、Summer Saleに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Summer Saleに関連する会話表現を覚え、Summer Saleに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 10のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Review Test 2	Unit 6-10で学んだリスニング内容の問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6-10の会話表現を覚え、Unit 6-10のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 6-10で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Unit 6-10のScriptの音読練習をする。	30分
14	7/6	前期授業のまとめ①	前期の学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1-10の会話表現を覚え、Unit 1-10のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 1-10で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	7/13	前期授業のまとめ②	前期の学習内容を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1-10の会話表現を覚え、Unit 1-10のリスニング問題を理解することができる。	
		事前学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
		事後学修	前期で学習内容を再確認する。	30分

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年番号指定クラス、原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式、小テストを毎回実施し、返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	TOEICリスニング問題の英文を聞き取り、聞き取った内容を発表する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Practical Situations for The TOEIC Test Listening	吉田佳代 他	(株) 成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:30-12:50 二号館二階講師室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス、TOEICとは	前期の授業の進め方、テキストについて、TOEICの概要、英語学習法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICがどのような試験かを知り、目標スコアを取るための学習方法を理解し、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	TOEIC、TOEFL、英検などの各種検定試験についてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	4/14	Unit 1 Ceremony	Ceremonyに関連する会話表現を学び、Ceremonyに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Ceremonyに関連する会話表現を覚え、Ceremonyに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 1のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
3	4/21	Unit 2 School Life	School Lifeに関連する会話表現を学び、School Lifeに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、School Lifeに関連する会話表現を覚え、School Lifeに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 2のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
4	4/28	Unit 3 Transportation	Transportationに関連する会話表現を学び、Transportationに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Transportationに関連する会話表現を覚え、Transportationに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 3のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
5	5/5	Unit 4 Outdoor Activities	Outdoor Activitiesに関連する会話表現を学び、Outdoor Activitiesに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Outdoor Activitiesに関連する会話表現を覚え、Outdoor Activitiesに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 4のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
6	5/12	Unit 5 Weather	Weatherに関連する会話表現を学び、Weatherに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Weatherに関連する会話表現を覚え、Weatherに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 5のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Review Test 1	Unit 1-5で学んだリスニング内容の問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1-5の会話表現を覚え、Unit 1-5のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 1-5で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Unit 1-5のScriptの音読練習をする。	30分
8	5/26	Unit 6 Holiday Plans	Holiday Plansに関連する会話表現を学び、Holiday Plansに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Holiday Plansに関連する会話表現を覚え、Holiday Plansに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 6のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
9	6/2	Unit 7 Resort Area	Resort Areaに関連する会話表現を学び、Resort Areaに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Resort Areaに関連する会話表現を覚え、Resort Areaに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 7のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
10	6/9	Unit 8 Directions	Directionsに関連する会話表現を学び、Directionsに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Directionsに関連する会話表現を覚え、Directionsに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 8のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
11	6/16	Unit 9 Job Experience	Job Experienceに関連する会話表現を学び、Job Experienceに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Job Experienceに関連する会話表現を覚え、Job Experienceに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 9のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
12	6/23	Unit 10 Summer Sale	Summer Saleに関連する会話表現を学び、Summer Saleに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Summer Saleに関連する会話表現を覚え、Summer Saleに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 10のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Review Test 2	Unit 6-10で学んだリスニング内容の問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6-10の会話表現を覚え、Unit 6-10のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 6-10で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Unit 6-10のScriptの音読練習をする。	30分
14	7/7	前期授業のまとめ①	前期の学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1-10の会話表現を覚え、Unit 1-10のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 1-10で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	7/14	前期授業のまとめ②	前期の学習内容を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1-10の会話表現を覚え、Unit 1-10のリスニング問題を理解することができる。	
		事前学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
		事後学修	前期で学習内容を再確認する。	30分

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	森下 正昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークやペアワークによる演習を中心とする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
2つのプレゼンテーション課題のフィードバックを、口頭で実施するとともに、後日評価シート（ルーブリック）に記入し配布する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Dynamic Presentations	Mark Powell	Cambridge University Press	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10 - 13:00。詳細は初回授業にて連絡。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Orientation & Team Building Activity	シラバス内容を説明し、グループ形成とチームビルディングアクティビティを実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業の目標やその達成方法を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。目標・ふりかえりシートの「前期の目標」と「説明」の部分を記入する。	30分
2	4/13	Presentation Assignment Guidance and Brainstorming	授業内で実施される2つのプレゼンテーション課題の内容・手順・評価基準など詳細の説明と、プレゼンテーションのテーマを決めるうえで便利なブレインストーミングという手法の解説と実践。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2つのプレゼンテーション課題の内容と手順を理解し、準備を進めることができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「前期の目標」「説明」の部分を記入する。	30分
		事後学修	配布物を読み返し、2つのプレゼンテーション課題について復習する。疑問点がある場合は、次週に教員に質問できるように準備をする。	30分
3	4/20	1A Opening & closing	プレゼンテーションの最初と最後の大切さを自らの体験からグループで意見交換する。また、A, B, C and D of Openingsとその実例について説明。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、発表の冒頭で、A,B,C and D of Openingsがどのように使われているか聴きとり、適切に使用することができる。	
		事前学修	1Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
4	4/27	1B Opening & closing	Four techniques for closing presentationsとその実例について説明。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、発表の最後に、Four techniques for closing presentationsがどのように使われているか聴きとり、適切に使用することができる。	
		事前学修	1Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
5	5/4	2A Smooth structure	プレゼンテーションの基本的な構造を説明し、Signpost Languageの有効性と具体的な言い回しを紹介する。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Signpost Languageどのように使われているか聴きとり、適切な言い回しを適切な場面で使用することができる。	
		事前学修	2Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
6	5/11	2B Smooth structure Your Individual Presentation Theme & Basic Delivery Techniques	Link Phrasesの有効性と具体的な言い回しを紹介する。グループで問題を解く。また、グループの中で、Individual Presentationのテーマについて発表し、意見交換をする。さらに、発表を行うにあたっての基本的な注意事項（声の大きさ、明確な発音、姿勢）を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Link Phrasesがどのように使われているか聴きとり、適切な言い回しを適切な場面で使用することができる。Individual Presentationについては、到達目標①②に関連して、他のグループメンバーの発表や質問・意見を聴きとり理解することができ、自らの発表内容や質問・意見を平易な英語で明確に他のグループメンバーに伝えることができる。	
		事前学修	2Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。自らのIndividual Presentationのテーマを決定し、それに関する1分間の英語での発表を準備する。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。グループメンバーからの質問・意見を、Individual Presentationの内容に反映させる。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Individual Presentation (個人プレゼンテーション) 発表会	グループの中で、Individual Presentationを実施し、質疑応答をする。終了後、グループごとにふりかえりをして、その内容をクラス全体に発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループメンバーのIndividual Presentationを聴きとり、その内容を理解し、適切な質問・コメントをすることができる。	
		事前学修	Individual Presentationの原稿を仕上げ、繰り返し読んで発表の練習をする。	40分
		事後学修	発表をふりかえり、Individual Presentation Report（発表原稿・質疑応答・反省）を仕上げる。目標・ふりかえりシートの「中間ふりかえり」の部分を記入する。	20分
8	5/25	4A Visual aids	スライドを見直し改善するに際して着目すべきポイントを考察し、実際に幾つかのスライドについてグループで作業する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、スライドを批判的に見て、意見を述べたり、改善案を出すことができる。	
		事前学修	4Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
9	6/1	1 Minute Group Presentation 4B Visual aids	グループごとに、Group Presentationのテーマを1分間で発表し、教員・友人からの質問や意見を求める。また、スライドに関して、666 Ruleと10-20-30 Ruleについて説明する。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Group Presentationのテーマについて、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとることができる。また、666 Ruleと10-20-30 Ruleを理解し、スライド作りに活用することができる。	
		事前学修	Group Presentationのテーマについて1分間の発表を準備する。さらに、4Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	1分間の発表で受けた質問やコメントをどのようにGroup Presentationに反映できるか考察する。また、解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
10	6/8	5A Facts & figures	適切な事実・数値の取捨選択の仕方と、数値の読み方を説明し実践する。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Group Presentationに際して、適切な事実・数値を取捨選択し、正確に数値を読んだり聴きとることができる。	
		事前学修	5Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
11	6/15	3 Minute Presentation & Feedback	グループごとに、Group Presentationの概要を3分間で発表し、教員・友人から質問や意見を求める。また、Group Presentation発表日・発表順を決定する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Group Presentationの概要について、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとることができる。	
		事前学修	Group Presentationの概要について3分間の発表と3枚のスライドを準備する。	40分
		事後学修	3分間の発表で受けた質問やコメントをどのようにGroup Presentationに反映できるか考察する。	20分
12	6/22	5B Facts & figures	発表の中で正確な数値ではなくおよその数値を使う意義について意見交換し、およその数値と数値的な傾向の言い表し方を説明する。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、およその数値と数値的な傾向を、正確に聞き取り言い表すことができる。	
		事前学修	5Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Group Presentation Day 1 & Feedback	グループごとの発表（本番）、第1日目。その後、教員から口頭でコメント。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとり、適切な質疑応答やコメントをすることができる。	
		事前学修	Group Presentationの原稿・スライドを仕上げ、繰り返し読んで発表の練習をする。（全グループ）	50分
		事後学修	発表をふりかえり、Group Presentation Report（質疑応答・反省）の内容について意見交換する。（発表したグループのみ）	10分
14	7/6	Group Presentation Day 2 & Feedback	グループごとの発表（本番）、第2日目。その後、教員から口頭でコメント。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとり、適切な質疑応答やコメントをすることができる。	
		事前学修	Group Presentationの原稿・スライドを必要に応じて手直しし、繰り返し読んで発表の練習をする。（発表するグループのみ）	50分
		事後学修	発表をふりかえり、Group Presentation Report（質疑応答・反省）の内容について意見交換する。（発表したグループのみ）	10分
15	7/13	Group Presentation講評と前期のふりかえり	教員が記入したGroup Presentationの評価シート（グループごと）を配布し、評価基準の説明と講評を行う。また、グループごとに前期をふりかえって話し合い、その結果をクラスに発表してシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の個人ワークとグループワークをふりかえり、どの程度目標に到達できたか、到達するために後期にはどのように取り組めばいいかを述べることができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「期末ふりかえり」「夏休み・来学期の取り組み」記入する。（全個人）	30分
		事後学修	評価シートと教員からの講評の内容を省みて、Group Presentation Report（質疑応答・反省）を完成させる。	30分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	森下 正昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
講義および演習形式で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークやペアワークによる演習を中心とする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
2つのプレゼンテーション課題のフィードバックを、口頭で実施するとともに、後日評価シート（ルーブリック）に記入し配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Dynamic Presentations	Mark Powell	Cambridge University Press	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10 - 13:00。詳細は初回授業にて連絡。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Orientation & Team Building Activity	シラバス内容を説明し、グループ形成とチームビルディングアクティビティを実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業の目標やその達成方法を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。目標・ふりかえりシートの「前期の目標」と「説明」の部分を記入する。	30分
2	4/13	Presentation Assignment Guidance and Brainstorming	授業内で実施される2つのプレゼンテーション課題の内容・手順・評価基準など詳細の説明と、プレゼンテーションのテーマを決めるうえで便利なブレインストーミングという手法の解説と実践。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2つのプレゼンテーション課題の内容と手順を理解し、準備を進めることができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「前期の目標」「説明」の部分を記入する。	30分
		事後学修	配布物を読み返し、2つのプレゼンテーション課題について復習する。疑問点がある場合は、次週に教員に質問できるように準備をする。	30分
3	4/20	1A Opening & closing	プレゼンテーションの最初と最後の大切さを自らの体験からグループで意見交換する。また、A, B, C and D of Openingsとその実例について説明。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、発表の冒頭で、A,B,C and D of Openingsがどのように使われているか聴きとり、適切に使用することができる。	
		事前学修	1Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
4	4/27	1B Opening & closing	Four techniques for closing presentationsとその実例について説明。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、発表の最後に、Four techniques for closing presentationsがどのように使われているか聴きとり、適切に使用することができる。	
		事前学修	1Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
5	5/4	2A Smooth structure	プレゼンテーションの基本的な構造を説明し、Signpost Languageの有効性と具体的な言い回しを紹介する。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Signpost Languageどのように使われているか聴きとり、適切な言い回しを適切な場面で使用することができる。	
		事前学修	2Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
6	5/11	2B Smooth structure Your Individual Presentation Theme & Basic Delivery Techniques	Link Phrasesの有効性と具体的な言い回しを紹介する。グループで問題を解く。また、グループの中で、Individual Presentationのテーマについて発表し、意見交換をする。さらに、発表を行うにあたっての基本的な注意事項（声の大きさ、明確な発音、姿勢）を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Link Phrasesがどのように使われているか聴きとり、適切な言い回しを適切な場面で使用することができる。Individual Presentationについては、到達目標①②に関連して、他のグループメンバーの発表や質問・意見を聴きとり理解することができ、自らの発表内容や質問・意見を平易な英語で明確に他のグループメンバーに伝えることができる。	
		事前学修	2Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。自らのIndividual Presentationのテーマを決定し、それに関する1分間の英語での発表を準備する。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。グループメンバーからの質問・意見を、Individual Presentationの内容に反映させる。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Individual Presentation (個人プレゼンテーション) 発表会	グループの中で、Individual Presentationを実施し、質疑応答をする。終了後、グループごとにふりかえりをして、その内容をクラス全体に発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループメンバーのIndividual Presentationを聴きとり、その内容を理解し、適切な質問・コメントをすることができる。	
		事前学修	Individual Presentationの原稿を仕上げ、繰り返し読んで発表の練習をする。	40分
		事後学修	発表をふりかえり、Individual Presentation Report（発表原稿・質疑応答・反省）を仕上げる。目標・ふりかえりシートの「中間ふりかえり」の部分を記入する。	20分
8	5/25	4A Visual aids	スライドを見直し改善するに際して着目すべきポイントを考察し、実際に幾つかのスライドについてグループで作業する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、スライドを批判的に見て、意見を述べたり、改善案を出すことができる。	
		事前学修	4Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
9	6/1	1 Minute Group Presentation 4B Visual aids	グループごとに、Group Presentationのテーマを1分間で発表し、教員・友人からの質問や意見を求める。また、スライドに関して、666 Ruleと10-20-30 Ruleについて説明する。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Group Presentationのテーマについて、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとることができる。また、666 Ruleと10-20-30 Ruleを理解し、スライド作りに活用することができる。	
		事前学修	Group Presentationのテーマについて1分間の発表を準備する。さらに、4Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	1分間の発表で受けた質問やコメントをどのようにGroup Presentationに反映できるか考察する。また、解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
10	6/8	5A Facts & figures	適切な事実・数値の取捨選択の仕方と、数値の読み方を説明し実践する。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Group Presentationに際して、適切な事実・数値を取捨選択し、正確に数値を読んだり聴きとることができる。	
		事前学修	5Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
11	6/15	3 Minute Presentation & Feedback	グループごとに、Group Presentationの概要を3分間で発表し、教員・友人から質問や意見を求める。また、Group Presentation発表日・発表順を決定する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Group Presentationの概要について、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとることができる。	
		事前学修	Group Presentationの概要について3分間の発表と3枚のスライドを準備する。	40分
		事後学修	3分間の発表で受けた質問やコメントをどのようにGroup Presentationに反映できるか考察する。	20分
12	6/22	5B Facts & figures	発表の中で正確な数値ではなくおよその数値を使う意義について意見交換し、およその数値と数値的な傾向の言い表し方を説明する。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、およその数値と数値的な傾向を、正確に聞き取り言い表すことができる。	
		事前学修	5Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Group Presentation Day 1 & Feedback	グループごとの発表（本番）、第1日目。その後、教員から口頭でコメント。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとり、適切な質疑応答やコメントをすることができる。	
		事前学修	Group Presentationの原稿・スライドを仕上げ、繰り返し読んで発表の練習をする。（全グループ）	50分
		事後学修	発表をふりかえり、Group Presentation Report（質疑応答・反省）の内容について意見交換する。（発表したグループのみ）	10分
14	7/6	Group Presentation Day 2 & Feedback	グループごとの発表（本番）、第2日目。その後、教員から口頭でコメント。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとり、適切な質疑応答やコメントをすることができる。	
		事前学修	Group Presentationの原稿・スライドを必要に応じて手直しし、繰り返し読んで発表の練習をする。（発表するグループのみ）	50分
		事後学修	発表をふりかえり、Group Presentation Report（質疑応答・反省）の内容について意見交換する。（発表したグループのみ）	10分
15	7/13	Group Presentation講評と前期のふりかえり	教員が記入したGroup Presentationの評価シート（グループごと）を配布し、評価基準の説明と講評を行う。また、グループごとに前期をふりかえって話し合い、その結果をクラスに発表してシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の個人ワークとグループワークをふりかえり、どの程度目標に到達できたか、到達するために後期にはどのように取り組めばいいかを述べることができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「期末ふりかえり」「夏休み・来学期の取り組み」記入する。（全個人）	30分
		事後学修	評価シートと教員からの講評の内容を省みて、Group Presentation Report（質疑応答・反省）を完成させる。	30分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	山上 登美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則として英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。CDを聴き、練習問題を解くことによって発音の方法を習得します。予習を前提とし、個別タスクやペアワークによって授業を進めます。問題の解答に解説を加え、英文の内容理解度を確認します。本授業の事前・事後学習は合わせて1時間の学習を目安とします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、レポート、授業参加度などから総合的に評価します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CDパーフェクトリスニング改訂版ーTOEICテスト対応練習問題付ー	早坂高則・松井秀親	朝日出版社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 月4/6	ガイダンスと学習内容の説明	学習内容と方法を説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語を聴き取る力と話す力を養うのに必要な学習内容を知ることができる。
		事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておくこと。30分
		事後学修	今後の学習計画を立てること。30分
2	第一部 月4/13	第一章	発音記号と音声表記について、例をあげて説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、発音記号の種類と音声表記を理解できる。
		事前学修	教科書p. 1-4の単語を発音できるか確認しておくこと。30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。30分
3	第一部 月4/20	第一章	リズムに関する問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リズムの特徴を理解し、正しく発音できる。
		事前学修	教科書p. 5-8の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。30分
4	第一部 月4/27	第一章	アクセントに関する問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アクセントの特徴を理解し、正しく発音できる。
		事前学修	教科書p. 9-12の語アクセントの位置を考え、練習問題を解いておくこと。30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。30分
5	第一部 月5/4	第一章	機能語と人称代名詞の弱化に関する問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、機能語と人称代名詞の弱化の特徴を理解し、正しく発音できる。
		事前学修	教科書p. 13-16の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。30分
6	第一部 月5/11	第一章	接続詞や前置詞の弱化に関する問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞や前置詞の弱化の特徴を理解し、正しく発音できる。
		事前学修	教科書p. 17-20の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	第一章	助動詞の弱化に関する問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞の弱化の特徴を理解し、正しく発音できる。	
		事前学修	教科書p. 21-24の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
8	第一部 月5/25	第一章	be動詞の弱化に関する問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、be動詞の弱化の特徴を理解し、正しく発音できる。	
		事前学修	教科書p. 25-28の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
9	第一部 月6/1	第二章	聞こえなくなる音に関する問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、聞こえなくなる音の特徴を理解し、正しく発音できる。	
		事前学修	教科書p. 29-32の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
10	第一部 月6/8	第2章	似たような音が続いたときに関する問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、似たような音が続いたときの特徴を理解し、正しく発音できる。	
		事前学修	教科書p. 33-36の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
11	第一部 月6/15	課題の提示と説明	レポートの課題を示し、要点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、発音の要点を確認できる。	
		事前学修	学習内容を総復習し、要点を確認しておくこと。	30分
		事後学修	レポートを書いてみること。	30分
12	第一部 月6/22	小テストの実施と解説	会話文を発音し、英語のコミュニケーション力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用できる。	
		事前学修	学習範囲の会話文について、アクセントの位置やイントネーションを確認しておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	授業内試験と解説	筆記試験を実施し、発音の特徴に関する知識を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験で学習内容の要点を確認できる。	
		事前学修	既習事項を振り返ること。	45分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
14	第一部 月7/6	学習内容の確認	レポートを受け取り、課題の要点について解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、レポートを提出できる。	
		事前学修	レポートの内容が課題に対応しているかを確認しておくこと。	45分
		事後学修	レポートの中で説明不足だった項目について調べなおすこと。	30分
15	第一部 月7/13	学習到達度の確認	試験について講評をし、学習内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習到達度を確認することができる。	
		事前学修	学習内容に誤解がないか確認しておくこと。	30分
		事後学修	英文の聴き取りと発音のコツを整理すること。	30分

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回単語練習の課題を出し、授業内で単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が全体の1/3以上を超える場合は失格とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教材の音読・問題解答については、グループ内で話し合った上で答え合わせを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								1			1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業 内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施した翌週に、返却・答案訂正・解説・講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『English Quest PLUS (New Edition) アプリで演習 英語の 基礎 中級編』	酒井 志延ほか	桐原書店	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜昼休み）に、教室、教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	【ガイダンス】【目標の設定】	授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明し、簡単な自己紹介を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらい、学習範囲の確認をする。	30分
2	第一部 金4/17	【動作動詞・状態動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	第一部 金4/24	【単語テスト①】 【動作動詞・状態動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
4	第一部 金5/1	【単語テスト②】 【他動詞・自動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
5	第一部 金5/8	【単語テスト③】 【他動詞・自動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
6	第一部 金5/15	【単語テスト④】 【過去形・完了形について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 3について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	【単語テスト⑤】【単語ノート点検】 【受動態について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けなかった場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
8	第一部 金5/29	【単語テスト⑥】 【受動態について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
9	第一部 金6/5	【単語テスト⑦】 【準動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
10	第一部 金6/12	【単語テスト⑧】 【準動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
11	第一部 金6/19	【単語テスト⑨】 【前置修飾について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
12	第一部 金6/26	【単語テスト⑩】【単語ノート点検】 【前置修飾について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けなかった場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	【発音テスト】 【後置修飾について】	発音テストは、あらかじめ決めた担当箇所を音読する。 教科書Unit 7について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	発音テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
14	第一部 金7/10	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
		この回の 到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	学習範囲の総復習	60分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	第一部 金7/17	【フィードバック】	授業内試験の答案を返却し、解説、訂正、分からない点の確認を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②についての説明を聞き、理解した上で自己の目標を設定できる。	
		事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】		
グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回単語練習の課題を出し、授業内で単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が全体の1/3以上を超える場合は失格とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教材の音読・問題解答については、グループ内で話し合った上で答え合わせを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施した翌週に、返却・答案訂正・解説・講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『English Quest PLUS (New Edition) アプリで演習 英語の基礎 中級編』	酒井 志延ほか	桐原書店	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜昼休み）に、教室、教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	【ガイダンス】【目標の設定】	授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明し、簡単な自己紹介を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらい、学習範囲の確認ををする。	30分
2	第一部 金4/17	【動作動詞・状態動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	第一部 金4/24	【単語テスト①】 【動作動詞・状態動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
4	第一部 金5/1	【単語テスト②】 【他動詞・自動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
5	第一部 金5/8	【単語テスト③】 【他動詞・自動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
6	第一部 金5/15	【単語テスト④】 【過去形・完了形について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 3について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	【単語テスト⑤】【単語ノート点検】 【受動態について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けなかった場合は減点となります。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
8	第一部 金5/29	【単語テスト⑥】 【受動態について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
9	第一部 金6/5	【単語テスト⑦】 【準動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
10	第一部 金6/12	【単語テスト⑧】 【準動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
11	第一部 金6/19	【単語テスト⑨】 【前置修飾について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
12	第一部 金6/26	【単語テスト⑩】【単語ノート点検】 【前置修飾について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、⑥～⑩までの内容を点検する。遅れたり点検を受けなかった場合は減点となります。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	【発音テスト】 【後置修飾について】	発音テストは、あらかじめ決めた担当箇所を音読する。 教科書Unit 7について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	発音テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
14	第一部 金7/10	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
		この回の 到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	学習範囲の総復習	60分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	第一部 金7/17	【フィードバック】	授業内試験の答案を返却し、解説、訂正、分からない点の確認を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	アソニー トーベン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。In this course students will engage in group and whole class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can receive feedback during class and at end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Communication Strategies 1	David Paul	Cengage	2008	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class in classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	Monday, April 6	Introduction及び導入講義		Orientation
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to introduce themselves to the rest of the class.	
		事前学修	Prepare self-introduction	30分
		事後学修	Read materials	30分
2	Monday, April 13	Friends		Unit 1 Friends Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to friendship.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
3	Monday, April 20	Friends		Unit 1 Friends Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to friendship.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
4	Monday, April 27	Free time		Unit 2 Free Time Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to free time.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
5	Monday, May 4	Free time		Unit 2 Free Time Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to free time.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
6	Monday, May 11	The past		Unit 3 The Past Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the past.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Revision for forthcoming test	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	Monday, May 18	The past	Unit 3 The Past Skills: English listening and discussion skills Short Test	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the past.	
		事前学修	Read unit Revision for forthcoming test	30分
		事後学修	Review unit	30分
8	Monday, May 25	The family	Unit 4 The Family Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the family.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
9	Monday, June 1	The family	Unit 4 The Family Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the family.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
10	Monday, June 8	Work	Unit 5 Work Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to work.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
11	Monday, June 15	Work	Unit 5 Work Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to work.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
12	Monday, June 22	City life	Unit 6 City Life Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to city life.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	Monday, June 29	City life		Unit 6 City Life Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to city life.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Revision for forthcoming test	30分
14	Monday, July 6	Oral test Review		Oral test Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss all topics covered this semester.	
		事前学修	Revise all units	30分
		事後学修	Revise all units	30分
15	Monday, July 13	Vocabulary test Review		Vocabulary test Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss all topics covered this semester.	
		事前学修	Revise all units	30分
		事後学修	Revise all units	30分

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	アソニー トーベン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。In this course students will engage in group and whole class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can receive feedback during class and at end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Communication Strategies 1	David Paul	Cengage	2008	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class in classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	Monday, April 6	Introduction及び導入講義	Orientation	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to introduce themselves to the rest of the class.	
		事前学修	Prepare self-introduction	30分
		事後学修	Read materials	30分
2	Monday, April 13	Friends	Unit 1 Friends Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to friendship.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
3	Monday, April 20	Friends	Unit 1 Friends Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to friendship.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
4	Monday, April 27	Free time	Unit 2 Free Time Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to free time.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
5	Monday, May 4	Free time	Unit 2 Free Time Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to free time.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
6	Monday, May 11	The past	Unit 3 The Past Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the past.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Revision for forthcoming test	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	Monday, May 18	The past	Unit 3 The Past Skills: English listening and discussion skills Short Test	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the past.	
		事前学修	Read unit Revision for forthcoming test	30分
		事後学修	Review unit	30分
8	Monday, May 25	The family	Unit 4 The Family Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the family.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
9	Monday, June 1	The family	Unit 4 The Family Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the family.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
10	Monday, June 8	Work	Unit 5 Work Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to work.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
11	Monday, June 15	Work	Unit 5 Work Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to work.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
12	Monday, June 22	City life	Unit 6 City Life Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to city life.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	Monday, June 29	City life		Unit 6 City Life Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to city life.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Revision for forthcoming test	30分
14	Monday, July 6	Oral test Review		Oral test Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss all topics covered this semester.	
		事前学修	Revise all units	30分
		事後学修	Revise all units	30分
15	Monday, July 13	Vocabulary test Review		Vocabulary test Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss all topics covered this semester.	
		事前学修	Revise all units	30分
		事後学修	Revise all units	30分

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CLIL Global Issues	Sasajima, S et al	Sansusha	2014	教科書	必携
備考					

【オフィシアワー】
職員室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	April 6	Introduction及び導入講義	Introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above. Student and teacher will get to know one another.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy the textbook. Buy a notebook. Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.	60分
2	April 13	Stereotypes and Racism	Using different media, students will further investigate what stereotypes are and how they can be resisted in daily life.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will use media to look at stereotypes in action. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
3	April 20	Information and Communication	Students will talk about the importance of information technology in modern communication today.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will talk about issues in the world of information and communication using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
4	April 27	Information and Communication	Using different media, students will further investigate the topic of information and communication and explore the importance of using media intelligently in daily life.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will use different media to look at questions concerning information and communication in action. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
5	May 4	Culture and Fashion	Students will discuss how and why culture and fashion is important.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will discuss current issues in the world of culture and fashion using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
6	May 11	Culture and Fashion	Students will use different media to further investigate the topic of culture and fashion and explain how important it is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will use different media to look at questions concerning culture and fashion. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	May 18	Review Class	Making speeches about one of three themes: Stereotypes and Racism, Information and Communication, and Culture and Fashion	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will perform speeches.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of partners' speeches.	60分
8	May 25	Health	Students will learn how to discuss how people harm, hinder, and hopefully improve their health.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues in the world of health using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
9	June 1	Health	Students will use different media to investigate the topic of health and discuss habits that promote good health.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will consider questions on health matters. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
10	June 8	Capitalism & Materialism	Students will learn how to discuss issues concerning capitalism and materialism.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues about capitalism and materialism using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
11	June 15	Capitalism & Materialism	Students will further investigate the topic of capitalism and materialism and consider how important it is to use certain key words when doing so.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will look at questions concerning capitalism and materialism. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
12	June 22	Global Warming	Students will discuss the issue of global warming.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss issues related to global warming.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	June 29	Global Warming	Students will look at a question concerning global warming. They will move towards small discussions.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use look at questions concerning global warming. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分
14	July 6	Review Class 2	Making speeches about one of three themes: Health, Capitalism and Materialism, and Global Warming.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will perform speeches.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of partners speeches.	120分
15	July 13	Unseen Test.	The content will be from one of the six themes in this semester: Stereotypes and Racism, Information and Communication, Culture and Fashion, Health, Capitalism and Materialism, and Global Warming.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will respond to news articles and create group discussions. They will plan, perform, reflect, and add to notebooks, in class.	
		事前学修	Previous class notes	100分
		事後学修	Write a review of the class: your article, and what other students taught you!	200分

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CLIL Global Issues	Sasajima, S et al	Sansusha	2014	教科書	必携
備考					

【オフィシアワー】
職員室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	April 6	Introduction及び導入講義	Introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above. Students will get to know the teacher, the textbook, and activities to be used in class.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy the textbook. Buy a notebook. Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.	60分
2	April 13	Stereotypes and Racism	Using different media, students will further investigate what stereotypes are and how they can be resisted in daily life.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use media to look at stereotypes in action. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
3	April 20	Information and Communication	Students will talk about the importance of information technology in modern communication today.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about issues in the world of information and communication using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
4	April 27	Information and Communication	Using different media, students will further investigate the topic of information and communication and explore the importance of using media intelligently in daily life.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at questions concerning information and communication in action. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
5	May 4	Culture and Fashion	Students will discuss how and why culture and fashion is important.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues in the world of culture and fashion using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
6	May 11	Culture and Fashion	Students will use different media to further investigate the topic of culture and fashion and explain how important it is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at questions concerning culture and fashion. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	May 18	Review Class	Making speeches about one of three themes: Stereotypes and Racism, Information and Communication, and Culture and Fashion	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will perform speeches.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of partners' speeches.	60分
8	May 25	Health	Students will learn how to discuss how people harm, hinder, and hopefully improve their health.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues in the world of health using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
9	June 1	Health	Students will use different media to investigate the topic of health and discuss habits that promote good health.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will consider questions on health matters. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
10	June 8	Capitalism & Materialism	Students will learn how to discuss issues concerning capitalism and materialism.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues about capitalism and materialism using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
11	June 15	Capitalism & Materialism	Students will further investigate the topic of capitalism and materialism and consider how important it is to use certain key words when doing so.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will look at questions concerning capitalism and materialism. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
12	June 22	Global Warming	Students will discuss the issue of global warming.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss issues related to global warming.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	June 29	Global Warming	Students will look at a question concerning global warming. They will move towards small discussions.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use look at questions concerning global warming. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分
14	July 6	Review Class 2	Making speeches about one of three themes: Health, Capitalism and Materialism, and Global Warming.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will perform speeches.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of partners speeches.	120分
15	July 13	Unseen Test.	The content will be from one of the six themes in this semester: Stereotypes and Racism, Information and Communication, Culture and Fashion, Health, Capitalism and Materialism, and Global Warming.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will respond to news articles and create group discussions. They will plan, perform, reflect, and add to notebooks, in class.	
		事前学修	Previous class notes	100分
		事後学修	Write a review of the class: your article, and what other students taught you!	200分

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。

【授業方法】
Students will work on English language skills by reading, listening, and discussing information about Japan and its culture. This will help them to share and communicate their knowledge with visitors to Japan.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英吾で読む 外国人がほんとうに知りたい日本の文化と歴史	Thomas Lockley	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスパワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部 金4/10	Introduction	Introduction Syllabus	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above understand the structure of the course and what students are expected to do.	
		事前学修	Read Syllabus	30分
		事後学修	Prepare 1-2 questions and send an email (optional)	30分
2	一部 金4/17	1. From Tokyo to Edo	The making of a Global City.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
3	一部 金4/24	2. Samurai	Legendary Warriors of Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
4	一部 金5/1	3. Kimono	Elegant Symbols of Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
5	一部 金5/8	4. Kabuki	Pop Culture of the Past.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
6	一部 金5/15	5. Sumo	A Weighty Sport.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部 金5/22	6. Shinkansen	The Bullet Train.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
8	一部 金5/29	7. Manga	Global Storytelling from Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
9	一部 金6/5	8. Arts and Crafts	How the World Discovered Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
10	一部 金6/12	9. Cinema	Moving Art.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
11	一部 金6/19	10. Akihabara	Cosplay Mecca.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
12	一部 金6/26	11. Yamanote	The Line to Nowhere and Everywhere.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	一部 金7/3	12. The Imperial Palace	Chrysanthemum Throne.	
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
14	一部 金7/10	13. Asakusa	Tourist Heaven.	
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
15	一部 金7/17	Review Class Test	Review Class Final Test	
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Evaluate how much we have learned	
		事前学修	Study	120分
		事後学修	Review	30分

科目名	英語D【法曹コース1年生共通クラス(上級)】	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法曹コース1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
授業前半はグループの演習方式で授業を進めます。リアクションペーパーをグループでシェアし、プレゼンをします。また、シャドーイング、ディクテーションの課題が課されます。授業内で実践するシャドーイングはその場で教員が個別に実施し評価をします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題としたリスニング材料の内容をグループ内で発表し、それについてディスカッションをする。担当のグループは全員の前でプレゼンをする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。							2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。							2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員がシャドーイングを個別に聞き、批評する。リスニング課題の提出物はコメントを入れて返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編	国際ビジネスコミュニケーション	IIBC	2016	参考書	推奨
初級者からのCNNニュースリスニング（2020春）	English Express編	朝日出版社	2020	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日3時以降（アポイントメントをメールでとってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14	ガイダンス 授業の進め方について 席順を決める	①授業スケジュール、成績評価の方法の説明、課題の提出方法を伝える。 課題提出の説明→TED talks(extra point)、シャドーイング課題、宿題プリント ②クラスのグループ分けをし、グループ内で英語の自己紹介をする。 ③英語のリスニングスキルについてのおさらい。	
		この回の 到達目標	①新しいグループのクラスメイトと親しむ。 ②後期授業の進め方について理解することができる。 ③リスニングスキルについてさらに理解を深めることができる。	
		事前学修	シラバスを確認する。 教科書を持参し授業に臨む。	30分
		事後学修	学んだ内容を復習し、課題に取り組む準備をする。	60分
2	第一部月 9/21	TOEICテストに必要なこと特にリスニングパートの学修方法	①後期末に受験するTOEICテストについての概要を説明する。 ②リスニングパートの対策の解説	
		この回の 到達目標	①TOEICテスト全体とリスニング・パートの概要を理解することができる。 ②次回以降の授業の課題について理解することができる。	
		事前学修	前回授業のおさらいをし、TED talks を鑑賞し、常に英語のインプットを増やすことを心掛ける。	30分
		事後学修	課題文法プリントを提出できるように準備する。	60分
3	第一部月 9/28	TOEIC test Part 1の解説	①TOEIC test Part 1をどのように解くか。 ②ディクテーションの解説 ③Part 5 プリントの解き方と解説。	
		この回の 到達目標	①TOEIC test Part 1&5の解き方を理解することができる。 ②ディクテーションの方法を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業のおさらいをする。	30分
		事後学修	課題文法プリントのおさらいとクイズのための勉強をする。 文法プリントとディクテーションを提出できるように準備する。	60分
4	第一部月 10/5	TOEIC test Part 2の解説	①Part 5の新しいフレーズのクイズ。 ②Part 2の解き方・ディクテーション	
		この回の 到達目標	①Part 2 & Part 5 の解き方、対策を理解することができる。	
		事前学修	①クイズに備える ①Part 1対策のおさらいをする。	30分
		事後学修	①ディクテーション課題と文法プリントを完成させる ②新しい表現をおさらいする。	60分
5	第一部月 10/12	Part 3 & 4の解説 グループプロジェクトAについての説明と準備	①Part 5の単語クイズを実施する。 ②Part 3 & 4の対策について解説をする。 ②教員はTOEIC リスニング問題をグループで作成するプロジェクトについて説明をする。 学生は各グループ内で題材等に打ち合わせを開始する。	
		この回の 到達目標	①Part 3 & 4対策について理解することができる。 ②これからの課題について理解することができる。	
		事前学修	①クイズに備える。 ②Part 2についておさらいをする。	30分
		事後学修	①文法プリントを完成させ、クイズに備える。 ②グループプロジェクトの題材を考える。	60分
6	第一部月 10/19	グループプロジェクトAを進める	①Part 5の単語クイズを実施する。 ②グループプロジェクトの打ち合わせ ③教員は内容をそれぞれのグループの英文を添削をする。	
		この回の 到達目標	自分で問題を作成することで、Part 1 & 2について内容を深めることができる。	
		事前学修	①クイズに備える。 ②Part 2についてのおさらいをする。 ③Part 1 & 2 の質問にふさわしい題材を探す。	30分
		事後学修	①文法プリントを完成させ、クイズに備える。 ②グループプロジェクトの発表に備える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/26	グループプロジェクトAの練習をする	①Part 5の単語クイズを実施する。 ②グループプロジェクトの打ち合わせ ③教員はそれぞれの内容を添削をする。	
		この回の到達目標	自作の問題によりTOEICテストのリスニングパートの理解を深めることができる。	
		事前学修	①クイズに備える。 ②グループプロジェクトの内容を考える。	30分
		事後学修	①文法プリントを完成させ、クイズに備える。 ②グループプロジェクトの発表の準備をする	60分
8	第一部月 11/9	グループプロジェクトAの発表	①Part 5の単語クイズを実施する。 ②Part 1 & 2のグループ発表	
		この回の到達目標	発表をしながら音読の大切さを理解することができる。	
		事前学修	①クイズに備える。 ②グループプロジェクトの発表の練習をする。	30分
		事後学修	①文法プリントを完成させ、クイズに備える。 ②シャドーイングの練習をする。	60分
9	第一部月 11/16	シャドーイング課題Aの発表	①Part 5の単語クイズを実施する。 ②シャドーイング課題を教員の前で発表	
		この回の到達目標	シャドーイングをすることでリスニング力とスピーキング力が養成できることを理解することができる。	
		事前学修	①クイズに備える。 ②シャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	①文法プリントを完成させ、クイズに備える。 ②シャドーイング発表で指摘された部分があれば復習をする	60分
10	第一部月 11/23	グループプロジェクトBの準備と発表	①Part 5の単語クイズを実施する。 ②グループプロジェクトの打ち合わせ ③教員は内容をそれぞれのグループの英文を添削をする。	
		この回の到達目標	TOEICテストのリスニングパートの問題を自作することで内容の理解を深めることができる。	
		事前学修	①クイズに備える。 ②グループプロジェクトの内容を考える。	30分
		事後学修	①文法プリントを完成させ、クイズに備える。 ②グループプロジェクトの発表の準備をする	60分
11	第一部月 11/30	グループプロジェクトBの発表（その1）	①Part 5の単語クイズを実施する。 ②プロジェクト発表	
		この回の到達目標	TOEICテストのリスニングパートの問題を自作することで内容の理解を深めることができる	
		事前学修	①クイズに備える。 ②グループプロジェクトの発表に備える。	30分
		事後学修	①文法プリントを完成させ、クイズに備える。	60分
12	第一部月 12/7	グループプロジェクトBの発表（その2）	①Part 5の単語クイズを実施する。 ②プロジェクト発表	
		この回の到達目標	TOEICテストのリスニングパートの問題を自作することで内容の理解を深めることができる	
		事前学修	①クイズに備える。 ②グループプロジェクトの発表に備える。	30分
		事後学修	発表をふりかえる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 12/14	前期のまとめテスト	後期文法プリントの中の重要表現の復習テストを実施し、解説をする。	
		この回の到達目標	TOEICテストに備え、後期に学んだ英語表現を理解することができる。	
		事前学修	後期のプリントをおさらいする。	30分
		事後学修	間違った箇所をおさらいし、シャドーイングの練習をする。	60分
14	第一部月 12/21	TOEICテストに備えての注意点 シャドーイング課題Bの発表	①後期末TOEICテストに備えてテスト対策を解説 ②準備のできた学生からシャドーイングテストを実施し、教員はそれぞれにフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	TOEICテストについてその対策を理解することができる。	
		事前学修	シャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	やり直しの必要な学生は引き続きシャドーイングの練習をする。	60分
15	第一部月 1/18	シャドーイング課題Bの発表	クラス全員のシャドーイングテストを実施し、教員はそれぞれにフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	シャドーイングによって英語のアウトプットをさらに深めていくことができる。	
		事前学修	シャドーイング課題を練習する。	60分
		事後学修	前期で学んだリスニングスキルの方策についておさらいをし、後期TOEIC testに備える	30分

科目名	英語D【法曹コース1年生共通クラス】	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法曹コース1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
教科書に沿って演習形式で授業を行う。リスニングの理解度を高めるためとディスカッションの準備のために、ほぼ毎授業で小テストを実施する。授業では、音読、シャドウイング、ディクテーション、ノートテイキング、学生のペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。毎回リスニングに関する課題あり。辞書を必ず持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後に授業で解説を行う。課題は採点后、返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pathways 3 - Listening, Speaking, and Critical Thinking Second Edition	Becky Tarver Chase	ナショナルジオグラフィック	2018年出版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:30~13:00 （事前にメールでアポイントを取る） 授業講堂 kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9/14	Making a Living, Making a Difference		語彙小テスト。テキスト Unit 5-A “A Talk about a Cooperative Business”をスライドを資料を見ながら聞く。数字・統計データを用いながら話す。聞き取りやすい数字の発音を理解し、表現できるようにする。中小企業をトピックにディスカッションをする。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Talk about a Cooperative Business”のリスニングを通して、数字・統計データ用いたスピーチと効果的な発音を学修し、使用することができる。また提示された統計データを評価、分析、統合し、解釈することができる。	
		事前学修	Unit 5 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 81-85)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Talk about a Cooperative Business”のノートテイキングを行い、目標の定着を図る。	90分
2	9/21	Economics & Business		語彙小テスト。テキスト Unit 5-B “A Meeting about Social Responsibility”を聞く。類似点と相違点を識別する。間接話法の使われる場面を理解し、場面に応じた正しい表現を学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Meeting about Social Responsibility”のリスニングを通して、データ・資料の比較・対比をすることができる。適切な場面で間接話法を選択し、使用することができる。	
		事前学修	Unit 5 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 94-95)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Meeting about Social Responsibility”のディクテーション。プレゼンテーション“Socially Responsible Business”の概要を組み立てる。	90分
3	9/28	Presenting a Socially Responsible Business		社会的責任を負う企業について、社会的責任・任務・価値観などの定義・意見を明確にしつつプレゼンテーションを行う。
		この回の到達目標	到達目標②に関連して “A Socially Responsible Business”を調査し、説得力のあるデータ、統計資料を用いながら、他社などとの比較・対比をしながら、明瞭なスピーチをすることができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
4	10/5	Design with Purpose		語彙小テスト。テキスト Unit 6-A “A Guest Lecture about Design”を聞く。リスニングをしながら、明確に述べられている事柄とほのめかされている事柄・推論される事柄を識別する。事実と推論の表現を適切に使用することを学修する。比較表現を学修する。設計や構造を英語で表現する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Guest Lecture about Design”を聞く。リスニングをしながら、明確に述べられている事柄とほのめかされている事柄・推論される事柄を識別することができる。事実と推論の表現を適切に使用することができる。比較表現を正確に用いることができる。設計や構造を英語でコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 6 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 101-105)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Guest Lecture about Design”のノートテイキングを行い、目標の定着を図る。	90分
5	10/12	Design		語彙小テスト。テキスト Unit 6-B “A Conversation with a Teaching Assistant”を聞く。手順を追った説明を英語でする。コミュニケーションに有効な間の取り方を学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Conversation with a Teaching Assistant”のリスニングを通して、手順を追った説明を的確な英語で表現することができる。間の取り方で効果的なコミュニケーションができる。	
		事前学修	Unit 6 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 114-115)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Conversation with a Teaching Assistant”のディクテーション。プレゼンテーション“Presenting a Process”の概要を組み立てる。	90分
6	10/19	Presenting a Process		手順を踏む過程についてペアプレゼンテーションを行う。
		この回の到達目標	到達目標②に関連して 「手順を踏む過程について」手順を明確に示す語彙、イントネーションなどを用いて、的確に英語の運用能力を使用することができる。他の学生と共に明確に伝わるプレゼンテーションを行うために議論し、協働することができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10/26	Inspired to Protect		語彙小テスト。テキスト Unit 7-A “A Podcast about the Environment”を聞く。リスニング内容に基づき、話し手の目的・意図を理解する。比喻表現を学修する。付加疑問文表現の意図によるイントネーションの相違を学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Podcast about the Environment”を聞く。リスニング内容に基づき、話し手の目的・意図を理解することができる。比喻表現を理解し、使用することができる。到達目標②に関連して新しい概念を理解するとき、または伝えるとき、比喻表現で適当な関連付けを行うことができる。また適切なイントネーションを使用して付加疑問文表現を用いて明確にコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 7 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 121-125)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Podcast about the Environment”のノートティキングを行い、目標の定着を図る。	90分
8	11/9	Environmental Sciences		語彙小テスト。テキスト Unit 7-B “A Talk about the Environment”をスライドとともに聞く。ディスカッションの内容に基づき、根拠の分類と分析を行い、それに付いて評価を行う。蓋然性の違いを示す表現を学修する。順序を明確にして話すことを学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Talk about the Environment”のリスニングを通して、比喻表現を理解することができる。storyboardで図式化されたアイデアを開き手に理解されやすいスピーチに変換することができる。意見の違いを理解し、自分の意見を相違点を明確化してコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 7 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 134-135)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Talk about the Environment”のディクテーション。“Planning a Video”についてのペアプレゼンテーションの概要を組み立てる。	90分
9	11/16	Planning a Video		ビデオ“Three Seconds”を見て、それに基づき60秒間のビデオクリップの企画立案について少人数のグループでプレゼンテーションを行う。
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ビデオ“Three Seconds”を理解し、その続編“Four Seconds”を作成するときのきかう立案を的確な英語表現を用いて明確に述べるができる。他の学生と共に、自分たちの意見の根拠となる事実、データ、専門家の考えなどを調べ、資料の評価を行い、整理し、議論し、協働して発表ができる。企画の提示順序を明確にすることでわかりやすい形でプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
10	11/23	Traditional and Modern Medicine		語彙小テスト。テキスト Unit 8-A “A Lecture about Plant-based Medicines”を、スライドを見ながら聞く。講義の中の根拠や目的の陳述を重点的に聞き取る。理由・目的の副詞節表現を学修する。公衆衛生をトピックにディスカッションを行う。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Lecture about Plant-based Medicines”のリスニングを通して、講義のキーポイントを支える詳細を特定し、理論的に関係づけることができる。理由・目的の副詞節表現を理解し、スピーチで効果的に使用することができる。	
		事前学修	Unit 8 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 141-145)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Lecture about Plant-based Medicines”のノートティキングを行い、目標の定着を図る。	90分
11	11/30	Health & Medicine		語彙小テスト。テキスト Unit 8-B “A Podcast about Prosthetic Devices”を聞く。ポッドキャストのキーポイントを支える詳細（具体例、説明、数値データ、研究結果、専門家の考えなど）を識別し、理解し、客観的に評価する。ナチュラルスピードで用いられるリンキングされた発音を聞き取ことを学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Podcast about Prosthetic Devices”のリスニングを通して、話のキーポイントを支える詳細（具体例、説明、数値データ、研究結果、専門家の考えなど）を識別し、理解し、客観的に評価することができる。リンキングされた発音を聞き取ることができ、速い会話でコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 8 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 154-155)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Podcast about Prosthetic Devices”のディクテーション。“A Presentation on Medicine and Health”についてのプレゼンテーションの概要を組み立てる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12/7	Presenting about Medicine and Health	公衆衛生に関する新聞の記事をもとにtraditional medicine, alternative medicine, high-tech medicine, prosthetic deviceなどについてプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して“Medicine and Health”に関する考えを種々のサポート文で、signal wordsを用いて明確に述べることができる。自分のプレゼンテーションに必要な事実、データ、専門家の考えなどを調べ、資料の評価・検討を行い、整理してわかりやすく魅力的な形で提示することができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
13	12/14	Presenting Research	指示されたテーマの中から選択し、対話式のペアプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して聴衆に質問をする、意見を表明してもらう、質疑応答を行うなどの対話型のプレゼンテーションをすることができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
14	12/21	授業内試験、まとめ	授業内試験および今学期の授業のまとめ	
		この回の到達目標	授業で学修したことの確認することで各学生が自分の知識・技能の測定をし、評価を行うことができる。	
		事前学修	今学期の授業を振り返る。	120分
		事後学修	試験の見直しをする。	30分
15	1/18	授業フィードバック	授業内試験のフィードバック。	
		この回の到達目標	授業内試験をフィードバックすることで、各学生が正確に自分の知識・技能の測定をし、評価を行うことができる。	
		事前学修	授業内試験を振り返る。	30分
		事後学修	授業の見直しをする。	30分

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
アトランダムに指名し問題の答えを言ってもらいます。しっかりと予習をしてください。2時間で1 unitのペースで読み進めていきます。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に返却し、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Jiro Goes to Amerika		金星堂			
備考					

【オフィスアワー】
金曜日9時～12時20分 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金曜日1限 9月18日	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
		この回の到達目標	単位取得のプロセスを理解する。	
		事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）	30分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。（30分）	30分
2	9月25日	授業方法に慣れる。	Unit 7 リスニング	
		この回の到達目標	リスニングのコツを覚える。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
3	10月2日	発音記号の復習	Unit 7 発音	
		この回の到達目標	発音記号の基礎を覚える。	
		事前学修	指示された個所の予習（30分）	30分
		事後学修	間違った箇所の理解（30分）	30分
4	10月9日	リスニングの基礎	Unit 8 リスニング	
		この回の到達目標	聞き取れる単語を増やす。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
5	10月16日	単語の発音	Unit 8 発音	
		この回の到達目標	単語の発音が正確にできるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
6	10月23日	単文の聞き取り	Unit 9 リスニング	
		この回の到達目標	短文を聞き取れるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月30日	語彙力アップ		Unit 9 練習問題 小テスト
		この回の到達目標	小テストでよい点を射おる。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	試験の復習	30分
8	11月6日	短文の聞き取り		Unit 10 リスニング
		この回の到達目標	短い文章が聞き取れるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
9	11月13日	会話の練習		Unit 10 会話練習
		この回の到達目標	簡単な会話に慣れる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の訂正	30分
10	11月20日	会話文の聞き取り		Unit 11 リスニング
		この回の到達目標	簡単な会話を聞き取れるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
11	11月27日	発音記号（母音）		Unit 11 練習問題
		この回の到達目標	母音の発音を把握する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
12	12月4日	簡単な会話の聞き取り（2）		Unit 12 リスニング
		この回の到達目標	簡単な会話を聞き取れるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	発音記号（子音）	Unit 12 練習問題	
		この回の到達目標	子音の初男院を覚える。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
14	12月19日	リスニングの復習	Unit 13 リスニング	
		この回の到達目標	リスニングに関してこれまで習ったことを覚えなおす。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	間違った箇所の理解	30分
15	12月25日	発音の仕上げ	Unit 14 練習問題 小テスト	
		この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習)	30分
		事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	鬼塚 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。授業時には必ず辞書（ただしスマートフォンは使用不可）を持参してください。

【授業方法】
全員参加型の演習方式です。1回の授業でone unitの学習を目指します。語彙力チェックや暗記（ペアやグループによる発表）も実施します。授業内に実施したテストはすべてその翌週（または翌々週）に返却し、解説します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	後半に2～3回程度、語彙力強化のためのグループワークを行います。基本的な表現を身につけるため、ペアワークまたはグループワークを数回行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。							2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。							2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ペアワーク及びグループワーク終了後、学生同士でその成果を評価し合います。授業内で実施したテストはその翌週か翌々週に返却し、解説し、質問を受け付けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
World Interviews（インタビューで学ぶ世界の英語）	Miles Craven	成美堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問や問い合わせはできるだけ授業前後（金曜8:00～9:00、10：30～10:40）に講堂でお願いします。メールについては最初の授業内で説明します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 9/18	英語のリズムを身に着ける	前学期に学習した語彙力をチェックする。よく知られている短い英詩を全員で音読し、暗唱する。声に出して繰り返し、英詩を暗唱することで、英語のリズムを自然に身に着けることができる。	
		この回の到達目標	授業内で簡単な語彙力チェックを行い、自分の語彙力の程度を確認し、今後の学習の目標を考えることができる。	
		事前学修	テキストの「はしがき」と「本書の構成と使い方」を熟読し、その内容を理解する。	60分
		事後学修	もう一度テキストの「はしがき」と「本書の構成と使い方」を読み、自分で半年間の学習計画をたてる。TOEICや英検などの各種検定試験についてWEBサイトや図書館を使って調べる。	30分
2	第一部金 9/25	時代の流れと中国社会の変化	Unit 11 Changing Times 男子学生の中から見た中国社会の変化を英語で学ぶ。未来の社会状況を表す言い回しを学習する。品詞を意識して単語を学ぶ習慣をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、綴りが同じ名詞と動詞の場合、アクセントが移動することを学ぶ。自分のことを今の状態と5年後の予想を英語で説明できるようにする。最近の日本社会の変化を一つ、英語で説明できるようにする。	
		事前学修	テキスト48～51頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 11 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
3	第一部金 10/2	イングランドの大学教育と学生アルバイト	Unit 12 Student Life イングランドの女子大生のインタビューを参考に、大学生活を経済面から考える。生活費とアルバイトに関連する表現を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生活を送る学生の生活費の計算（家計簿）を英語で学習する。自分の一か月の生活費を英語で説明できるようにする。文中で、最も伝えたい単語であるストレス（強調部分）を見分けることができるようにする。	
		事前学修	テキスト52～55頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 12 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
4	第一部金 10/9	アメリカの芸術（演劇・音楽など）	Unit13 Arts ペンシルバニア州出身の大学生が語るアメリカの芸術活動から、演劇や音楽についてを学習する。平坦なリーディングにならない音読練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、単語の音節とアクセントの位置を学習し、平坦な読み方にならないようにする。自分の芸術に対する考えや自分がやっている芸術活動（音楽鑑賞、映画鑑賞、名所見学など）を英語で説明できるようにする。	
		事前学修	テキスト56～59頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 13 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
5	第一部金 10/16	サウジアラビアでの買い物と衣装	Unit 14 Shopping リヤド出身の大学生の語るサウジアラビアの習慣や伝統を学ぶ。買い物でよく使われる会話文を聞き取り、使えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、あいまい母音を学習し、弱く発音される場合を把握し、聞き取りにくい音を聞き逃さないようにする。買い物時によく使う表現（時間、回数、好み、場所など）を覚え、実際に使うことができるようにする。	
		事前学修	テキスト60～63頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 14 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
6	第一部金 10/23	多文化国家カナダ	Unit 15 Friends 多文化国家のカナダの学校生活や家族同士の付き合いを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、友情や友を表す諺や決まり文句を覚える。付加疑問のイントネーションを習得し、自分が話し手の場合に使い分けができるようにする。	
		事前学修	テキスト64～67頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 15 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 10/30	ウェールズのアウトドアスポーツ	Unit 16 Sport ウェールズの地理とスポーツを学びながら、スポーツ関連の英語を習得し、実況放送に慣れる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツ用語（スポーツ名、人、場所）を覚える。特に動詞の使い方を間違えないようにする。アクセントの位置に注意して、日本語のカタカナスports用語の発音に惑わされないように正確に発音できるようにする。	
		事前学修	テキスト68～71頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 16 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
8	第一部金 11/6	政治と選挙	Unit 17 Politics イングランド出身の学生の中からみた英国の選挙と政党、さらに国民健康保険、移民について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治に関する英語を学習し、日本の政党名をいくつか英語で言えるようにする、自分の選挙に対する姿勢や意見を英語で説明できるようにする。3音節の単語のアクセントの位置を習得する。	
		事前学修	テキスト72～75頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 17 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
9	第一部金 11/13	語彙力を高める	グループワークを通して、これまでと違った角度から、語彙力アップをはかる。辞書の効果的な使い方を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙力を増やし、コミュニケーションをスムーズにとることができるようにする。	
		事前学修	これまで学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	60分
		事後学修	グループワーク学習した語句や表現を復習し、繰り返し音読練習をする。	30分
10	第一部金 11/20	オーストラリアに生息する動物たち	Unit 18 Animals オーストラリアに多い動物やペットについて、ヴィクトリア州出身の学生が語る英語を理解する。動物を表す語彙を増やし、単数形・複数形に注意する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、普通名詞と集合名詞（単数形と複数形）を学習し、日本語の【ア】に近い英語の母音の違いをいくつか習得する。自分の好きな動物や飼っているペットについて英語で説明できるようにする。	
		事前学修	テキスト76～80頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 18 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
11	第一部金 11/27	スイスの生活水準とスイス人の金銭感覚	Unit 19 Money Matters スイス出身の学生の語るスイスの生活状況や物価を知る。金銭に関連する表現を学ぶ。公用語が4つあるスイスの国の様子も学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金銭にかかわる名詞、動詞、形容詞を習得する。金額を表す英語に慣れる。2音節の単語のアクセントを学習する。自分の金銭感覚を英語で説明できるようにする。	
		事前学修	テキスト80～83頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit1 9 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
12	第一部金 12/4	多民族・多文化国家のシンガポールと英語	Unit 20 Cultural Identity 多民族や多文化の共存する社会の状況を英語で学習する。民族、文化を表す英語表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、4音節の単語のアクセントを学習する。英語のidentityの持つ意味を考える。日本の他民族や他文化の受け入れについて、自分の意見を英語で表現できるようにする。英語を英語で説明できるようにする。	
		事前学修	テキスト84～87頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 20 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12/11	語彙力アップと発音記号の習得	語彙力チェックを行う。後期に学習した単語・熟語・発音記号についての振り返りをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙力（語句・慣用句）を増やし、発音記号を正しく読むことができる。	
		事前学修	後期に学習した語彙（単語、熟語、発音記号）を復習する。	60分
		事後学修	間違えた語彙の問題をやり直し、暗記する。	60分
14	第一部金 12/18	授業内試験と振り返り	授業内試験を行う。慣用句、会話表現、ショートトークの構成、英問英答についての振り返りをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学習した慣用語句・会話表現を確実に習得する。さまざまな状況を英語で表現できるようにする。	
		事前学修	後期に学習した慣用語句・会話表現を復習する。	60分
		事後学修	間違えた表現を確認し、自分の弱点を把握し、克服する。	30分
15	第一部金 12/25	後学期の振り返り	後期の学習内容を振り返る。答案の返却と解説により、質問や疑問点を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、答案を返却し、解説し、質問を受けるので、学生は準備しておく。来年度の授業に向けて、英語学習のアドバイスを受け、今後の学習方法や計画を考えることができる。	
		事前学修	後期に自分が学習した内容を総復習し、質問事項を整理する。	30分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。今後の学習方法や計画を考える。	60分

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	鬼塚 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。授業時には必ず辞書（ただしスマートフォンは使用不可）を持参してください。

【授業方法】
全員参加型の演習方式です。1回の授業でone unitの学習を目指します。語彙力チェックや暗記（ペアやグループによる発表）も実施します。授業内に実施したテストはすべてその翌週（または翌々週）に返却し、解説します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	後半に2～3回程度、語彙力強化のためのグループワークを行います。基本的な表現を身につけるため、ペアワークまたはグループワークを数回行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ペアワーク及びグループワーク終了後、学生同士でその成果を評価し合います。授業内で実施したテストはその翌週か翌々週に返却し、解説し、質問を受け付けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English Listening and Speaking Patterns 2 （『パターン』で学ぶ英語コミュニケーション2）	Andrew E. Bennett	南雲堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問や問い合わせはできるだけ授業前後（金曜8:00～9:00、10：30～10:40）に講堂でお願いします。メールについては最初の授業内で説明します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 9/18	英語のリズムを身に着ける	前学期に学習した語彙力をチェックする。よく知られている短い英詩を全員で音読し、暗唱する。声に出して繰り返し、英詩を暗唱することで、英語のリズムを自然に身に着けることができる。	
		この回の到達目標	授業内で簡単な語彙力チェックを行い、自分の語彙力の程度を確認し、今後の学習の目標を考えることができる。英語のリズムを自然な形で身に着ける。	
		事前学修	4月に読んだテキストの「Introduction」を再度熟読し、その内容とテキストの構成を理解する。	60分
		事後学修	自分で半年間の学習計画をたてる。TOEICや英検などの各種検定試験についてWEBサイトや図書館を使って調べる。	30分
2	第一部金 9/25	旅行を語ろう	Unit 11 Traveling どのような旅行をしたのか、宿泊や買い物も含めて自分の旅行体験を語ることができるようにする。また、旅行に行った人に経験を聞くときに使う表現を覚え、会話をスムーズに進めるテクニックを習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、好きな活動や、できれば避けたい活動について話すときに使える表現を習得し、ペアワークを通して、お互いの活動を語り合うことができるようにする。	
		事前学修	テキスト51～54頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 11 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
3	第一部金 10/2	音楽を語ろう	Unit 12 Music 音楽を中心とした話題の会話を通して、自分の気持ちをはっきりと表現することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コンサートや楽器演奏について語り合う会話の中で、自分の非常に好きなものや嫌いなものを強調する表現ができる。	
		事前学修	テキスト55～58頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 12 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
4	第一部金 10/9	映画を語ろう	Unit 13 Movies 映画鑑賞など、自分の趣味を説明したり、相手が話す内容にうまく合った質問ができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞の変化（比較級・最上級）の規則とそれを使った表現を会話の中で活用することができる。	
		事前学修	テキスト 59～62頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 13 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
5	第一部金 10/16	英語で買い物を楽しもう	Unit 14 Shopping 買い物についての会話（何かを買う買わないではなく、理由や説明を表現する会話）がスムーズに運ぶようにする。カタカナとして使われている本来の英語を確認し、正しい発音を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コメントを付け加える、または話題を変えるときに使うことができる語句や控え目の表現ができるようにする。	
		事前学修	テキスト63～66頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 14 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
6	第一部金 10/23	インターネット英語	Unit 15 Internet インターネットを話題とする会話を楽しみながら、カタカナが多いインターネット関連用語の正しい英語の発音ができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある傾向がますます強まっていく、あるいは弱っていくことを表現できるようにする。	
		事前学修	テキスト67～70頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 15 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 10/30	語彙力と推察力を高める	グループワークを通して、これまでと違った角度から、語彙力アップをはかる。辞書の効果的な使い方を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙力を増やし、コミュニケーションをスムーズにとることができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、語彙力を増やし、コミュニケーションをスムーズにとることができるようにする。	60分
		事後学修	これまで学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
8	第一部金 11/6	季節や気候、天候について	Unit 16 Weather 季節の好み、天気予報、災害など日常会話でよく使われる表現を覚え、会話をスムーズに運ぶテクニックを身に着ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、しばしば起こること、まれにしか起こらないことについて話すときに使われる副詞を覚え、ペアワークやグループワークの中で実際に使うことができるようにする。	
		事前学修	テキスト71～74頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 16 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
9	第一部金 11/13	気持ちや気分を伝えよう	Unit 17 Feelings 自分の性格や感情を表現するために使われる形容詞とその用法を学習する。さらになぜそういう気分になったのかを説明する表現も学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分の気分を伝える場合の構文、ある気分になった理由を述べる場合の構文を習得し、自分の気分を相手に理解してもらうことができるようにする。	
		事前学修	テキスト75～79頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	グループワーク学習した語句や表現を復習し、繰り返し音読練習をする。	30分
10	第一部金 11/20	政治と選挙を考える	Unit 18 Government 政治や選挙に関する英語表現を学習する。イエスでもノーでもない答え方を覚え、会話の中で使えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、質問に対する回答が二通りある場合の表現、答えにくい質問に対応する場合の表現を習得し、相手の気持ちを損ねることなく会話を進めることができるようにする。	
		事前学修	テキスト79～82頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 18 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
11	第一部金 11/27	芸術を語ろう	Unit 19 Art 絵画、美術館、画家、陶芸など芸術を話題にする会話で使われる表現を学習する。肯定的でない、言いにくい気持ちを伝えることができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、否定的なことを丁寧に述べるため、あるいは困惑していることを伝えるために使われる構文を学習し、会話の中で生かすことができるようにする。	
		事前学修	テキスト83～86頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 19 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分
12	第一部金 12/4	未来を語ろう	Unit 20 The Future 近い未来だけでなく、50年後、500年後の未来（ロボットや環境問題など）の世界を自分の気持ちを込めて語るができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、未来がどうなるかを話すときに、あるいは未来に起こりそうもないことを話すときに使われる構文を習得し、自分の未来や世の中の未来を語るができるようにする。	
		事前学修	テキスト87～90頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。	60分
		事後学修	Unit 20 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12/11	語彙力アップと発音記号の習得	語彙力チェックを行う。後期に学習した単語・熟語・発音記号についての振り返りをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語彙力（語句・慣用句）を増やし、発音記号を正しく読むことができる。	
		事前学修	後期に学習した語彙（単語、熟語、発音記号）を復習する。	60分
		事後学修	間違えた語彙の問題をやり直し、暗記する。	60分
14	第一部金 12/18	授業内試験と振り返り	授業内試験を行う。慣用句、会話表現、ショートトークの構成、英問英答についての振り返りをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学習した慣用語句・会話表現を確実に習得する。さまざまな状況を英語で表現できるようにする。	
		事前学修	後期に学習した慣用語句・会話表現を復習する。	60分
		事後学修	間違えた表現を確認し、自分の弱点を把握し、克服する。	30分
15	第一部金 12/25	後学期の振り返り	後期の学習内容を振り返る。答案の返却と解説により、質問や疑問点を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、答案を返却し、解説し、質問を受けるので、学生は準備をしておく。来年度の授業に向けて、英語学習のアドバイスを受け、今後の学習方法や計画を考えることができる。	
		事前学修	後期に自分が学習した内容を総復習し、質問事項を整理する。	30分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。今後の学習方法や計画を考える。	60分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
十分な予習を前提として、演習形式の授業を行います。理解度・習得度を確認するための各種の小テストを行います。小テストは採点され、次の授業で返却されます。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。							2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。							2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点されて次の授業時に返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	市販の教科書は使用せず、授業用ハンドアウトを用意します。授業はすべて、このハンドアウトを使って行われます。				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～12:50、授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・進め方を理解し、授業目的に沿った初期演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、初期練習を通じて各自に合った学習法を考えることができる。	
		事前学修	シラバスで授業の全体を概観する。	30分
		事後学修	初期演習の復習をする。	30分
2	9/21	Explanations 1	ハンドアウト Unit 1-(1) パッセージのexplanations（説明・解説）を正確に把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージのexplanationsを把握することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Explanationsに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
3	9/28	Explanations 2	ハンドアウト Unit 1-(2) パッセージのexplanationsを正確に把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージのexplanationsを把握することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Explanationsに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
4	10/5	Finding Points 1	ハンドアウト Unit 2-(1) パッセージにおいてfinding points（どこに要点があるかを判断できる、見抜ける）ようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージにおいてfinding pointsを実践することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 2-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Finding pointsに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
5	10/12	Finding Points 2	ハンドアウト Unit 2-(2) パッセージにおいてfinding points（どこに要点があるかを判断できる、見抜ける）ようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージにおいてfinding pointsを実践することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 2-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Finding pointsに関する追加問題を解き、追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
6	10/19	Argument 1	ハンドアウト Unit 3-(1) 英語で行われるargument（主張）が理解できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージのargumentを理解し表現することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 3-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Argumentに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Argument 2	ハンドアウト Unit 3-(2) 英語で行われるargument（主張）を理解できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージのargumentを理解し表現することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 3-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Argumentに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
8	11/9	Review 1	ハンドアウト Unit 1～3の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、総復習の小テストを通して、各自の課題点を認識することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1～3を総復習してくる。	60分
		事後学修	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
9	11/16	Paradox 1	ハンドアウト Unit 4-(1) 英語表現におけるparadox(逆説性) を把握・表現できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の英文におけるparadox(逆説性) を把握し表現できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 4-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Paradoxに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	60分
10	11/23	Paradox 2	ハンドアウト Unit 4-(2) 英語表現におけるparadox(逆説性) を把握・表現できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の英文におけるparadox(逆説性) を把握し表現できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 4-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Paradoxに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
11	11/30	Advice 1	ハンドアウト Unit 5-(1) 英語でなされるadvice（忠告・進言）を理解・表現できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の練習にて、英語でなされるadvice（忠告・進言）を理解し表現することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 5-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Adviceに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項を復習し、英文を覚える。	30分
12	12/7	Advice 2	ハンドアウト Unit 5-(2) 英語でなされるadvice（忠告・進言）を理解・表現できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の練習にて、英語でなされるadvice（忠告・進言）を理解し表現することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 5-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Adviceに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項を復習し、英文を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Academic Style 1	ハンドアウト Unit 6-(1) 英語におけるacademic styleを把握し表現できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパスセージにおけるacademic styleを把握し表現できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 6-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Academic Styleに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
14	12/21	Academic Style 2	ハンドアウト Unit 6-(2) 英語におけるacademic styleを把握し表現できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパスセージにおけるacademic styleを把握し表現できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 6-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Academic Styleに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
15	1/18	Review 2	ハンドアウト Unit 4～6の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、総復習の小テストを通して、各自の課題点を認識することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 4～6を総復習してくる。	60分
		事後学修	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。 今学期学んだことを踏まえ、今後の各自の英語学習の方向性を考える。	30分

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
十分な予習を前提として、演習形式の授業を行います。理解度・習得度を確認するための各種の小テストを行います。小テストは採点され、次の授業で返却されます。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点されて次の授業時に返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	市販の教科書は使用せず、授業用ハンドアウトを用意します。授業はすべて、このハンドアウトを使って行われます。				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～12:50、授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・進め方を理解し、授業目的に沿った初期演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、初期練習を通じて各自に合った学習法を考えることができる。	
		事前学修	シラバスで授業の全体を概観する。	30分
		事後学修	初期演習の復習をする。	30分
2	9/21	Explanations 1	ハンドアウト Unit 1-(1) パッセージのexplanations（説明・解説）を正確に把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージのexplanationsを把握することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Explanationsに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
3	9/28	Explanations 2	ハンドアウト Unit 1-(2) パッセージのexplanationsを正確に把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージのexplanationsを把握することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Explanationsに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
4	10/5	Finding Points 1	ハンドアウト Unit 2-(1) パッセージにおいてfinding points（どこに要点があるかを判断できる、見抜ける）ようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージにおいてfinding pointsを実践することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 2-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Finding pointsに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
5	10/12	Finding Points 2	ハンドアウト Unit 2-(2) パッセージにおいてfinding points（どこに要点があるかを判断できる、見抜ける）ようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージにおいてfinding pointsを実践することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 2-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Finding pointsに関する追加問題を解き、追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
6	10/19	Argument 1	ハンドアウト Unit 3-(1) 英語で行われるargument（主張）が理解できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージのargumentを理解し表現することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 3-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Argumentに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Argument 2	ハンドアウト Unit 3-(2) 英語で行われるargument（主張）を理解できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパッセージのargumentを理解し表現することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 3-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Argumentに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
8	11/9	Review 1	ハンドアウト Unit 1～3の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、総復習の小テストを通して、各自の課題点を認識することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 1～3を総復習してくる。	60分
		事後学修	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
9	11/16	Paradox 1	ハンドアウト Unit 4-(1) 英語表現におけるparadox(逆説性) を把握・表現できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の英文におけるparadox(逆説性) を把握し表現できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 4-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Paradoxに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	60分
10	11/23	Paradox 2	ハンドアウト Unit 4-(2) 英語表現におけるparadox(逆説性) を把握・表現できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の英文におけるparadox(逆説性) を把握し表現できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 4-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Paradoxに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
11	11/30	Advice 1	ハンドアウト Unit 5-(1) 英語でなされるadvice（忠告・進言）を理解・表現できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の練習にて、英語でなされるadvice（忠告・進言）を理解し表現することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 5-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Adviceに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項を復習し、英文を覚える。	30分
12	12/7	Advice 2	ハンドアウト Unit 5-(2) 英語でなされるadvice（忠告・進言）を理解・表現できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与の練習にて、英語でなされるadvice（忠告・進言）を理解し表現することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 5-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Adviceに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項を復習し、英文を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Academic Style 1	ハンドアウト Unit 6-(1) 英語におけるacademic styleを把握し表現できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパスセージにおけるacademic styleを把握し表現できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 6-(1) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Academic Styleに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
14	12/21	Academic Style 2	ハンドアウト Unit 6-(2) 英語におけるacademic styleを把握し表現できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、所与のパスセージにおけるacademic styleを把握し表現できる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 6-(2) の課題を行い、演習問題を解いてくる。	60分
		事後学修	Academic Styleに関する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。	30分
15	1/18	Review 2	ハンドアウト Unit 4～6の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、総復習の小テストを通して、各自の課題点を認識することができる。	
		事前学修	ハンドアウト Unit 4～6を総復習してくる。	60分
		事後学修	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。 今学期学んだことを踏まえ、今後の各自の英語学習の方向性を考える。	30分

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。小テストを毎回実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Keynote 3ISBN-13 978 1 305 96505 8	Paul Dummett	Cengage Learning	2017		
備考					

【オフィスアワー】
毎回の授業前後に授業が行われる講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	通訳者、企業において輸出入業務担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		英語による実務実践への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火9/15	ガイダンスとUnit1~6の振り返り	Introduction Overview of the course	
		この回の到達目標	Unit1~6について再度理解を確認し、後期授業予定について理解する。	
		事前学修	Preview Unit 7 後期講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	vocabulary note作成する。	30分
2	火9/22	Global Movement	Unit 7 - Part 1 Identityのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Global Movementをリスニングの上、英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 7 Part identityについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
3	火9/29	Global Migration	Unit 7 - Part 2 Where is home?のコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Global Migrationを読解の上、英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 7-Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note global migrationの読解を確認する。	30分
4	火10/6	Transportation in the Future	Unit 8 - Part 1 Transportation solutionsのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Transportation in the Futureをリスニングした上で英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 8 Part 1 commuteについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
5	火10/13	Unique Commutes	Unit 8 - Part 2 A skateboard, with a boostのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Unique Commutesを読解の上、英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 8 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note unique commutesの読解を確認する。	30分
6	火10/20	Changing Words	Unit 9 - Part 1 New wordsのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Changing Wordsをリスニングした上で英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 9 Part language changeについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	火10/27	Language Change		Unit 9 – Part 2 What makes a word “real”?のコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Language Changeを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 9 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Language changeの読解を確認する。	30分
8	火11/10	Emotional Intelligence		Unit 10 – Part 1 understanding emotionsのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Emotional Intelligenceをリスニングした上で英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 10 Part emotionとdigitalについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
9	火11/17	Emotion in Technology		Unit 10 – Part 2 This APP knows how you feelのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Emotion in Technologyを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 10 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Emotion in technologyの読解を確認する。	30分
10	火11/24	Being a Leader		Unit 11 – Part 1 Leaders and thinkersのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Being a Leaderをリスニングの上、英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 11 Part 1 entrepreneurについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分
11	火12/1	Lessons in Business		Unit 11 – Part 2 Life at 30,000 feetのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	Lessons in Businessを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 11 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note lessons in businessの読解を確認する。	30分
12	火12/8	The Importance of Sleep		Unit 12 – Part 1 Well-beingのコンテンツを理解する。
		この回の到達目標	The Importance of Sleepをリスニングの上、英語で意見交換する。	
		事前学修	Preview Unit 12 Part 1 work-life balanceについて調べる。	30分
		事後学修	Vocabulary note 文法事項の確認をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火12/15	Achieving Work-life Balance	Unit 6 – Part 2 How to succeed? Get more sleetのコンテンツを理解する。	
		この回の到達目標	Achieving Work-life Balanceを読解し英語で議論する。	
		事前学修	Preview Unit 12 Part 2 リーディングパートを読解する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Achieving work-life balanceの読解を確認をする。	30分
14	火12/22	Review Unit 7-12	Unit7~12の総復習。 小テストを返却し答え合わせと確認をする	
		この回の到達目標	Unit 7-12の内容とvocabularyの確認をする。	
		事前学修	Review Unit 7~12 各設問を確認する。	30分
		事後学修	Vocabulary note Review Unit 7~12	30分
15	火1/12	授業内試験とフィードバック	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	授業内試験の実施と解答例を示し解説。	
		事前学修	Review Unit 7~12 設問の間違った箇所を見直す。	30分
		事後学修	Review Unit 7~12	30分

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修すること。

【授業方法】
演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの Setting the Scene 及び Follow Up でペアを組み、質問について英語で話し合う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
British News Update 2	Timothy Knowles 他	金星堂	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスパワー】
授業後の休み時間（月曜日10：30～）に講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。メールアドレス： kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Unit 7 Previewing/Viewing Activities	Community Cycling Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguageの答えを用意しておく。	30分
		事後学修	Building Launguageで学習した語彙の意味を覚える。	30分
2	9/21	Unit 7 Viewing/Post-viewing Activities	Community Cycling Exercise 5 to 7	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。	
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
3	9/28	Unit 8 Previewing/Viewing Activities	A Smartphone Amnesty Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	Building Launguage で学習した語彙の意味を覚える。	30分
4	10/5	Unit 8 Viewing/Post-viewing Activities	A Smartphone Amnesty Exercise 5 to 7	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。	
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
5	10/12	Unit 9 Previewing/Viewing Activities	Guide Dog Discrimination Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	Building Launguage で学習した語彙の意味、同義語を覚える。	30分
6	10/19	Unit 9 Viewing/Post-viewing Activities	Guide Dog Discrimination Exercise 5 to 7	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。	
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Unit 10 Previewing/Viewing Activities	Financial Literacy at School Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	Building Launguage で学習した語彙の意味を覚える。	30分
8	11/9	Unit 10 Viewing/Post-viewing Activities	Financial Literacy at School Exercise 5 to 7	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。	
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
9	11/16	Unit 11 Previewing/Viewing Activities	A Da Vinci Dispute Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	Building Launguage で学習した語彙の意味を覚える。	30分
10	11/23	Unit 11 Viewing/Post-viewing Activities	A Da Vinci Dispute Exercise 5 to 7	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。	
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
11	11/30	Unit 12 Previewing/Viewing Activities	The Success of Hip and Knee Replacements Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Setting the Scene、Building Launguage の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	Building Launguage で学習した語彙の意味、同義語を覚える。	30分
12	12/7	Unit 13 Viewing/Post-viewing Activities	The Success of Hip and Knee Replacements Exercise 5 to 7	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の意見を英語で簡潔に発言することができる。	
		事前学修	Follow Up の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	TOEICの練習	TOEIC Listening Section の出題形式を説明した後、実際に練習問題を解き、正解を確認し解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、TOEICの出題形式に慣れ、前・後期を通して鍛えてきたリスニング力、コミュニケーション力を活用し、問題に解答できる。	
		事前学修	これまで授業で学んだTOEIC頻出表現を復習しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
14	12/21	授業内試験及び後期のまとめ	授業内試験を行い、後期を総括する。	
		この回の到達目標	後期で学んだ事柄全般を理解し、それに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	試験範囲を復習する。	30分
		事後学修	試験で分からなかった部分の正解を考える。	30分
15	1/18	フィードバック	授業内試験の講評及び振り返り。	
		この回の到達目標	後期で学んだ事柄で理解できていなかったところを確認し、理解することができる。	
		事前学修	テキストの総復習する。	30分
		事後学修	後期の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修すること。

【授業方法】
演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストのOpening Quizzes及びQuestionnaireでペアを組み、互いに英語で質問し、答えについて話し合う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
World Wide English on DVD Volume 2	森田彰 他	成美堂	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の休み時間（月曜日12：10～）に講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。メールアドレス： kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Unit 8 Previewing/Viewing Activities	South Africa Introduction Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分
2	9/21	Unit 8 Post-viewing Activities	South Africa Introduction Exercise 5 to 8	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
3	9/28	Unit 9 Previewing/Viewing Activities	South Africa Documentary Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分
4	10/5	Unit 9 Post-viewing Activities	South Africa Documentary Exercise 5 to 8	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
5	10/12	Unit 10 Previewing/Viewing Activities	Wales Introduction Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分
6	10/19	Unit 10 Post-viewing Activities	Wales Introduction Exercise 5 to 8	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Unit 11 Previewing/Viewing Activities	Wales Documentary Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分
8	11/9	Unit 11 Post-viewing Activities	Wales Documentary Exercise 5 to 8	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
9	11/16	Unit 12 Previewing/Viewing Activities	India Introduction Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分
10	11/23	Unit 12 Post-viewing Activities	India Introduction Exercise 5 to 8	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分
11	11/30	Unit 13 Previewing/Viewing Activities	India Documentary Exercise 1 to 4	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、まとまった英文を聞いて必要な情報を得ることができる。	
		事前学修	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	New Words で学習した語彙の意味を覚える。	30分
12	12/7	Unit 13 Post-viewing Activities	India Documentary Exercise 5 to 8	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、学んだ表現を用いて英語で適切に発言することができる。	
		事前学修	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。	30分
		事後学修	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	TOEICの練習	TOEIC Listening Section の出題形式を説明した後、実際に練習問題を解き、正解を確認し解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、TOEICの出題形式に慣れ、前・後期を通して鍛えてきたリスニング力、コミュニケーション力を活用し、問題に解答できる。	
		事前学修	これまで授業で学んだTOEIC頻出表現を復習しておく。	30分
		事後学修	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。	30分
14	12/21	授業内試験及び後期のまとめ	授業内試験を行い、後期を総括する。	
		この回の到達目標	後期で学んだ事柄全般を理解し、それに対応する問題に解答できる。	
		事前学修	試験範囲を復習する。	30分
		事後学修	試験で分からなかった部分の正解を考える。	30分
15	1/18	フィードバック	授業内試験の講評及び振り返り。	
		この回の到達目標	後期で学んだ事柄で理解できていなかったところを確認し、理解することができる。	
		事前学修	テキストの総復習する。	30分
		事後学修	後期の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。英語資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
TOEFL的なアカデミックな話題、TOEIC的なビジネス関連の話題、法律や政治経済に関する基礎レベルの話題について英語の講義を聞き、簡単な要約をする。提出された課題の返却等のフィードバックは授業内に行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、個々の学生が意見を述べる機会があり、第7回以降、個々の学生がスピーチを行う機会がある。発表前には準備が必要で、学生には主体的・能動的に下調べをし、発表原稿を作成してくる姿勢が求められる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。提出された課題の返却等のフィードバックは授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English as a communication and survival tool (2)	Yutaka	On Demand Publishing	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜10：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合はyutaka.kitamura@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部月 9/14	リスニングについて考える	General introduction to the course ガイダンスに続き、リスニングとは何かについて考察する。具体的には、2名の人物のプレゼンテーションを分析し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	リスニングとは何かについて考察し、具体例として取り上げた2名の人物のプレゼンテーションを分析し、意見交換を通してリスニング活動を深いレベルで理解する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。 テキストUnit 10 (2-4頁)のリスニングに関する題材について、リサーチをする。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 学んだことを自分のリスニング行動にどのように生かせるかを考える。	30分
2	第1部月 9/21	コミュニケーション能力を高めるために	Unit 10: On listening コミュニケーション能力を高めるために自分ができることを具体的に考え、リスト化する方法を学ぶ。	
		この回の到達目標	コミュニケーション能力を高めるために自分ができることを具体的に考え、リスト化することができる。その際に、他者との意見交換も行う。	
		事前学修	人間だけでなく、動物も含めたgood communicatorの例を自分で探し、紹介できるようにする。 テキストUnit 10 (5-7頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	リスニング活動についての自分の考えを説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように練習する。	30分
3	第1部月 9/28	ビジネスと法律	Unit 11: ABC of economics and Japanese business customs 日本のビジネス習慣の基礎を法律と関連付けて分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	日本のビジネス習慣の基礎を法律と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 11 (8-9頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本のビジネス習慣の基礎を法律と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分
4	第1部月 10/5	言語と非言語について	Unit 12: Human communication and non-verbal behavior 人間のコミュニケーション活動の基礎について学び、それに対応する問題を分析する。	
		この回の到達目標	人間のコミュニケーション活動の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 12 (10-11頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	人間のコミュニケーション活動の基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分
5	第1部月 10/12	宗教と文化の関係	Unit 13: Religions and cultures 文化の背景にある宗教の影響について分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	文化の背景にある宗教の影響を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 13 (12-13頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	文化の背景にある宗教の影響を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分
6	第1部月 10/19	男女平等について考える	Unit 14: On gender issues 男女平等に関する様々な問題を比較文化と法律の視点から分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	男女平等に関する様々な問題を比較文化と法律の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 14 (14-15頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	男女平等に関する様々な問題を比較文化と法律の視点から説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部月 10/26	心理学の基礎について学ぶ	Unit 15: ABC of psychology and cultural factors (Part 1) 心理学の基礎とその歴史について分析し、それに対応する問題を扱う。	
		この回の到達目標	心理学の基礎とその歴史について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 15 (16-17頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	心理学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。	30分
8	第1部月 11/9	人間心理と文化の関係	Unit 16: ABC of psychology and cultural factors (Part 2) 人間心理への文化の影響について考察し、それに対応する問題を扱う。	
		この回の到達目標	人間心理への文化の影響について考察し、それに対応する問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 16 (20-21頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	心理学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。	30分
9	第1部月 11/16	社会学と心理学	Unit 17: Why are there so many unhappy people who commit suicide? 心理学・社会学の基礎と人間心理への文化の影響について分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	心理学・社会学の基礎と人間心理への文化の影響について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 17 (23-24頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	心理学・社会学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。	30分
10	第1部月 11/23	教育と社会について考える	Unit 8: Why are there so many youngsters who have withdrawn from society? 不登校・ひきこもりの問題を比較文化的視点から分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	不登校・ひきこもりの問題を比較文化的視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 18 (24-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	不登校・ひきこもりの問題を比較文化的視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
11	第1部月 11/30	日本文化を紹介する	Unit 19: Introducing Japanese culture to the world 日本文化を比較文化の視点から分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	日本文化を比較文化の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 19 (26-27頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本文化を比較文化の視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)	30分
12	第1部月 12/7	世界が抱える諸問題について考える	テキストActivity X-1からActivity X-3を通して経済、法律、比較文化に関する様々な話題を分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	経済、法律、比較文化に関する様々な話題を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストActivity X-1からActivity X-3 (84-86頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	最終回の最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部月 12/14	ビジネス英語の基礎	TOEIC 問題演習 (Part 1-Part 2)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	TOEIC 問題演習 (Part 1-Part 2)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (73-76頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
14	第1部月 12/21	ビジネス英語の応用	TOEIC 問題演習 (Part 3-Part 4)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	TOEIC 問題演習 (Part 3-Part 4)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (77-79頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
15	第1部月 1/18	後期授業の総まとめと振り返り	Overall summary 後期授業の総まとめとして授業内試験を行う。そのあとに解説と後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	後期授業の総まとめとして行う授業内試験を通して後期学習内容を振り返り、理解を深める。	
		事前学修	最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。	30分
		事後学修	後期授業の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。英語資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
TOEFL的なアカデミックな話題、TOEIC的なビジネス関連の話題、法律や政治経済に関する基礎レベルの話題について英語の講義を聞き、簡単な要約をする。提出された課題の返却等のフィードバックは授業内に行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、個々の学生が意見を述べる機会があり、第7回以降、個々の学生がスピーチを行う機会がある。発表前には準備が必要で、学生には主体的・能動的に下調べをし、発表原稿を作成してくる姿勢が求められる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。提出された課題の返却等のフィードバックは授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English as a communication and survival tool (2)	Yutaka	On Demand Publishing	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜10：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合はyutaka.kitamura@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部月 9/14	リスニングについて考える	General introduction to the course ガイダンスに続き、リスニングとは何かについて考察する。具体的には、2名の人物のプレゼンテーションを分析し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	リスニングとは何かについて考察し、具体例として取り上げた2名の人物のプレゼンテーションを分析し、意見交換を通してリスニング活動を深いレベルで理解する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。 テキストUnit 10 (2-4頁)のリスニングに関する題材について、リサーチをする。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 学んだことを自分のリスニング行動にどのように生かせるかを考える。	30分
2	第1部月 9/21	コミュニケーション能力を高めるために	Unit 10: On listening コミュニケーション能力を高めるために自分ができることを具体的に考え、リスト化する方法を学ぶ。	
		この回の到達目標	コミュニケーション能力を高めるために自分ができることを具体的に考え、リスト化することができる。その際に、他者との意見交換も行う。	
		事前学修	人間だけでなく、動物も含めたgood communicatorの例を自分で探し、紹介できるようにする。 テキストUnit 10 (5-7頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	リスニング活動についての自分の考えを説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように練習する。	30分
3	第1部月 9/28	ビジネスと法律	Unit 11: ABC of economics and Japanese business customs 日本のビジネス習慣の基礎を法律と関連付けて分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	日本のビジネス習慣の基礎を法律と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 11 (8-9頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本のビジネス習慣の基礎を法律と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分
4	第1部月 10/5	言語と非言語について	Unit 12: Human communication and non-verbal behavior 人間のコミュニケーション活動の基礎について学び、それに対応する問題を分析する。	
		この回の到達目標	人間のコミュニケーション活動の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 12 (10-11頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	人間のコミュニケーション活動の基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分
5	第1部月 10/12	宗教と文化の関係	Unit 13: Religions and cultures 文化の背景にある宗教の影響について分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	文化の背景にある宗教の影響を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 13 (12-13頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	文化の背景にある宗教の影響を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分
6	第1部月 10/19	男女平等について考える	Unit 14: On gender issues 男女平等に関する様々な問題を比較文化と法律の視点から分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	男女平等に関する様々な問題を比較文化と法律の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 14 (14-15頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	男女平等に関する様々な問題を比較文化と法律の視点から説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部月 10/26	心理学の基礎について学ぶ	Unit 15: ABC of psychology and cultural factors (Part 1) 心理学の基礎とその歴史について分析し、それに対応する問題を扱う。	
		この回の到達目標	心理学の基礎とその歴史について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 15 (16-17頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	心理学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。	30分
8	第1部月 11/9	人間心理と文化の関係	Unit 16: ABC of psychology and cultural factors (Part 2) 人間心理への文化の影響について考察し、それに対応する問題を扱う。	
		この回の到達目標	人間心理への文化の影響について考察し、それに対応する問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 16 (20-21頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	心理学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。	30分
9	第1部月 11/16	社会学と心理学	Unit 17: Why are there so many unhappy people who commit suicide? 心理学・社会学の基礎と人間心理への文化の影響について分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	心理学・社会学の基礎と人間心理への文化の影響について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 17 (23-24頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	心理学・社会学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。	30分
10	第1部月 11/23	教育と社会について考える	Unit 8: Why are there so many youngsters who have withdrawn from society? 不登校・ひきこもりの問題を比較文化的視点から分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	不登校・ひきこもりの問題を比較文化的視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 18 (24-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	不登校・ひきこもりの問題を比較文化的視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
11	第1部月 11/30	日本文化を紹介する	Unit 19: Introducing Japanese culture to the world 日本文化を比較文化の視点から分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	日本文化を比較文化の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 19 (26-27頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	日本文化を比較文化の視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)	30分
12	第1部月 12/7	世界が抱える諸問題について考える	テキストActivity X-1からActivity X-3を通して経済、法律、比較文化に関する様々な話題を分析し、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	経済、法律、比較文化に関する様々な話題を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストActivity X-1からActivity X-3 (84-86頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	最終回の最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部月 12/14	ビジネス英語の基礎	TOEIC 問題演習 (Part 1-Part 2)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	TOEIC 問題演習 (Part 1-Part 2)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (73-76頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
14	第1部月 12/21	ビジネス英語の応用	TOEIC 問題演習 (Part 3-Part 4)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する問題について考察する。	
		この回の到達目標	TOEIC 問題演習 (Part 3-Part 4)を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。	
		事前学修	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (77-79頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。	30分
15	第1部月 1/18	後期授業の総まとめと振り返り	Overall summary 後期授業の総まとめとして授業内試験を行う。そのあとに後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	後期授業の総まとめとして行う授業内試験を通して後期学習内容を振り返り、理解を深める。	
		事前学修	最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。	30分
		事後学修	後期授業の学習内容を確認する。	30分

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	小林 晴子	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
教科書に沿って演習形式で授業を行う。リスニングの理解度を高めるためとディスカッションの準備のために、ほぼ毎授業で小テストを実施する。授業では、音読、シャドウイング、ディクテーション、ノートテイキング、学生のペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。毎回リスニングに関する課題あり。辞書を必ず持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後に授業で解説を行う。課題は採点后、返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pathways 3 - Listening, Speaking, and Critical Thinking Second Edition	Becky Tarver Chase	ナショナルジオグラフィック	2018年 出版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:30~13:00 （事前にメールでアポイントを取るこ）授業講堂 kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9/14	Making a Living, Making a Difference		語彙小テスト。テキスト Unit 5-A “A Talk about a Cooperative Business”をスライドを資料を見ながら聞く。数字・統計データを用いながら話す。聞き取りやすい数字の発音を理解し、表現できるようにする。中小企業をトピックにディスカッションをする。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Talk about a Cooperative Business”のリスニングを通して、数字・統計データ用いたスピーチと効果的な発音を学修し、使用することができる。また提示された統計データを評価、分析、統合し、解釈することができる。	
		事前学修	Unit 5 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 81-85)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Talk about a Cooperative Business”のノートテイキングを行い、目標の定着を図る。	90分
2	9/21	Economics & Business		語彙小テスト。テキスト Unit 5-B “A Meeting about Social Responsibility”を聞く。類似点と相違点を識別する。間接話法の使われる場面を理解し、場面に応じた正しい表現を学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Meeting about Social Responsibility”のリスニングを通して、データ・資料の比較・対比をすることができる。適切な場面で間接話法を選択し、使用することができる。	
		事前学修	Unit 5 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 94-95)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Meeting about Social Responsibility”のディクテーション。プレゼンテーション“Socially Responsible Business”の概要を組み立てる。	90分
3	9/28	Presenting a Socially Responsible Business		社会的責任を負う企業について、社会的責任・任務・価値観などの定義・意見を明確にしつつプレゼンテーションを行う。
		この回の到達目標	到達目標②に関連して “A Socially Responsible Business”を調査し、説得力のあるデータ、統計資料を用いながら、他社などとの比較・対比をしながら、明瞭なスピーチをすることができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
4	10/5	Design with Purpose		語彙小テスト。テキスト Unit 6-A “A Guest Lecture about Design”を聞く。リスニングをしながら、明確に述べられている事柄とほのめかされている事柄・推論される事柄を識別する。事実と推論の表現を適切に使用することを学修する。比較表現を学修する。設計や構造を英語で表現する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Guest Lecture about Design”を聞く。リスニングをしながら、明確に述べられている事柄とほのめかされている事柄・推論される事柄を識別することができる。事実と推論の表現を適切に使用することができる。比較表現を正確に用いることができる。設計や構造を英語でコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 6 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 101-105)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Guest Lecture about Design”のノートテイキングを行い、目標の定着を図る。	90分
5	10/12	Design		語彙小テスト。テキスト Unit 6-B “A Conversation with a Teaching Assistant”を聞く。手順を追った説明を英語でする。コミュニケーションに有効な間の取り方を学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Conversation with a Teaching Assistant”のリスニングを通して、手順を追った説明を的確な英語で表現することができる。間の取り方で効果的なコミュニケーションができる。	
		事前学修	Unit 6 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 114-115)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Conversation with a Teaching Assistant”のディクテーション。プレゼンテーション“Presenting a Process”の概要を組み立てる。	90分
6	10/19	Presenting a Process		手順を踏む過程についてペアプレゼンテーションを行う。
		この回の到達目標	到達目標②に関連して 「手順を踏む過程について」手順を明確に示す語彙、イントネーションなどを用いて、的確に英語の運用能力を使用することができる。他の学生と共に明確に伝わるプレゼンテーションを行うために議論し、協働することができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10/26	Inspired to Protect		語彙小テスト。テキスト Unit 7-A “A Podcast about the Environment”を聞く。リスニング内容に基づき、話し手の目的・意図を理解する。比喻表現を学修する。付加疑問文表現の意図によるイントネーションの相違を学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Podcast about the Environment”を聞く。リスニング内容に基づき、話し手の目的・意図を理解することができる。比喻表現を理解し、使用することができる。到達目標②に関連して新しい概念を理解するとき、または伝えるとき、比喻表現で適当な関連付けを行うことができる。また適切なイントネーションを使用して付加疑問文表現を用いて明確にコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 7 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 121-125)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Podcast about the Environment”のノートティキングを行い、目標の定着を図る。	90分
8	11/9	Environmental Sciences		語彙小テスト。テキスト Unit 7-B “A Talk about the Environment”をスライドとともに聞く。ディスカッションの内容に基づき、根拠の分類と分析を行い、それに付いて評価を行う。蓋然性の違いを示す表現を学修する。順序を明確にして話すことを学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Talk about the Environment”のリスニングを通して、比喻表現を理解することができる。storyboardで図式化されたアイデアを開き手に理解されやすいスピーチに変換することができる。意見の違いを理解し、自分の意見を相違点を明確化してコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 7 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 134-135)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Talk about the Environment”のディクテーション。“Planning a Video”についてのペアプレゼンテーションの概要を組み立てる。	90分
9	11/16	Planning a Video		ビデオ“Three Seconds”を見て、それに基づき60秒間のビデオクリップの企画立案について少人数のグループでプレゼンテーションを行う。
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ビデオ“Three Seconds”を理解し、その続編“Four Seconds”を作成するときのきかう立案を的確な英語表現を用いて明確に述べるができる。他の学生と共に、自分たちの意見の根拠となる事実、データ、専門家の考えなどを調べ、資料の評価を行い、整理し、議論し、協働して発表ができる。企画の提示順序を明確にすることでわかりやすい形でプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
10	11/23	Traditional and Modern Medicine		語彙小テスト。テキスト Unit 8-A “A Lecture about Plant-based Medicines”を、スライドを見ながら聞く。講義の中の根拠や目的の陳述を重点的に聞き取る。理由・目的の副詞節表現を学修する。公衆衛生をトピックにディスカッションを行う。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して“A Lecture about Plant-based Medicines”のリスニングを通して、講義のキーポイントを支える詳細を特定し、理論的に関係づけることができる。理由・目的の副詞節表現を理解し、スピーチで効果的に使用することができる。	
		事前学修	Unit 8 Lesson A のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 141-145)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Lecture about Plant-based Medicines”のノートティキングを行い、目標の定着を図る。	90分
11	11/30	Health & Medicine		語彙小テスト。テキスト Unit 8-B “A Podcast about Prosthetic Devices”を聞く。ポッドキャストのキーポイントを支える詳細（具体例、説明、数値データ、研究結果、専門家の考えなど）を識別し、理解し、客観的に評価する。ナチュラルスピードで用いられるリンキングされた発音を聞き取ことを学修する。
		この回の到達目標	このテーマに必要な語彙を使いこなすことができる。到達目標①に関連して “A Podcast about Prosthetic Devices”のリスニングを通して、話のキーポイントを支える詳細（具体例、説明、数値データ、研究結果、専門家の考えなど）を識別し、理解し、客観的に評価することができる。リンキングされた発音を聞き取ることができ、速い会話でコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	Unit 8 Lesson B のリスニングとスピーキングに必要なテーマを理解し (pp. 154-155)、必要な語彙の習得を行う。vocabulary quizの準備をする。	60分
		事後学修	課題：“A Podcast about Prosthetic Devices”のディクテーション。“A Presentation on Medicine and Health”についてのプレゼンテーションの概要を組み立てる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12/7	Presenting about Medicine and Health	公衆衛生に関する新聞の記事をもとにtraditional medicine, alternative medicine, high-tech medicine, prosthetic deviceなどについてプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して“Medicine and Health”に関する考えを種々のサポート文で、signal wordsを用いて明確に述べることができる。自分のプレゼンテーションに必要な事実、データ、専門家の考えなどを調べ、資料の評価・検討を行い、整理してわかりやすく魅力的な形で提示することができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
13	12/14	Presenting Research	指示されたテーマの中から選択し、対話式のペアプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して聴衆に質問をする、意見を表明してもらう、質疑応答を行うなどの対話型のプレゼンテーションをすることができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備。	90分
		事後学修	プレゼンテーションの反省と見直し。	30分
14	12/21	授業内試験、まとめ	授業内試験および今学期の授業のまとめ	
		この回の到達目標	授業で学修したことの確認することで各学生が自分の知識・技能の測定をし、評価を行うことができる。	
		事前学修	今学期の授業を振り返る。	120分
		事後学修	試験の見直しをする。	30分
15	1/18	授業フィードバック	授業内試験のフィードバック。	
		この回の到達目標	授業内試験をフィードバックすることで、各学生が正確に自分の知識・技能の測定をし、評価を行うことができる。	
		事前学修	授業内試験を振り返る。	30分
		事後学修	授業の見直しをする。	30分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 万里世	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
講義および演習形式で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。							2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。							2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Smart Choice 2nd Edition 3 Student Book with Online Practice	K. Wilson T. Healy	オックスフォード大学出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後教室にて。また、事前に知らせていただければ、授業後以外の対応も可能です。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 月9/14	ガイダンス、導入授業	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。10分
		事後学修	シラバスを再度確認する。 英文法の参考書の基礎的な文法事項を復習する。50分
2	第一部 月9/21	Unit6 He'd never been abroad.	Unit6 He'd never been abroad. (vocabulary, grammar)
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，新出単語の意味と文法を理解することができる。
		事前学修	p. 36のVocabularyの箇所の意味を調べておく。30分
		事後学修	p. 38のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。30分
3	第一部 月9/28	Unit6 He'd never been abroad.	Unit6 He'd never been abroad. (reading, listening)
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，前回学習した単語と文法を使用し，英文を聞き取ることができる。
		事前学修	p. 40を辞書を使って読んでおく。30分
		事後学修	参考書等を用いて，現在完了形と過去完了形の違いを確認する。30分
4	第一部 月10/5	Unit6 He'd never been abroad.	Unit6 He'd never been abroad. (speaking testの準備)
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，新出単語の意味と文法を理解することができる。
		事前学修	前回学習した受動態を参考書等で再度確認し，正しい英文が書けるようにしておく。30分
		事後学修	グループのメンバーで協力し，発表のスクリプトについて話し合う。30分
5	第一部 月10/12	Unit6 He'd never been abroad.	Unit6 He'd never been abroad. (speaking test)
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，学習した単語と文法を使用し，英文を聞き取ることができる。
		事前学修	講師が出した発表の条件を満たしているか再度スクリプトを確認する。 スクリプトを暗記する。30分
		事後学修	各自，発表メンバーで発表の自己採点を行う。30分
6	第一部 月10/19	Unit7 Time for a makeover!	Unit7 Time for a makeover! (vocabulary, grammar)
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，新出単語の意味と文法を理解することができる。
		事前学修	p. 44のVocabularyの箇所の意味を調べておく。30分
		事後学修	p. 46のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	Unit7 Time for a makeover!	Unit7 Time for a makeover! (activity)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	使役の文法構造を理解し、与えられた表題に従って実際に英作文をしておく。	30分
		事後学修	activityの内容を見直し、ほかの文章も暗記しておく。	30分
8	第一部 月11/9	Unit7 Time for a makeover!	Unit7 Time for a makeover! (listening, reading)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	p. 47のBefore You Listen の箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	p. 48のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。	30分
9	第一部 月11/16	Unit8 My life would be great!	Unit8 My life would be great! (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 50のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p. 52のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
10	第一部 月11/23	Unit8 My life would be great!	Unit8 My life would be great! (listening activity)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	仮定法と直説法の違いを確認しておく。	30分
		事後学修	授業時に配られたプリントを再度読み、辞書等を使って全体の内容を理解する。	30分
11	第一部 月11/30	Unit8 My life would be great!	Unit8 My life would be great! (reading, activityの準備)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	仮定法を理解し、activityに使う事柄についてアイデアを出しておく。	30分
		事後学修	p. 54のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。	30分
12	第一部 月12/7	Unit8 My life would be great!	Unit8 My life would be great! (activity)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、コミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	activityに使うペンネームを考えておく。 授業で使う文章を簡単に英語に直しておく。	30分
		事後学修	授業中にもらった「返信」を辞書等を使って日本語に直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	Unit6, 7, 8のまとめ	後期のまとめ 英文法の総復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	後期で学んだ文法事項を確認する。 覚えられていない英単語をまとめる。	30分
		事後学修	教科書の問題を再度見直し、講師に質問できるようにしておく。	30分
14	第一部 月12/21	授業内試験、振り返り	後期に扱った文法の解説 授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	後期の文法事項、英単語を見直し試験に備える。	30分
		事後学修	試験問題を再度見直し、問題が解けなかった個所を確認する。	30分
15	第一部 月1/18	授業内試験の解説	授業内試験の解答と解説 英作文	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習した文法事項を正確に使い、さらに他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	後期に扱った箇所を再度見直す。 冬休みの思い出を英語で言えるようにしておく。	30分
		事後学修	試験の解説をふまえて、間違えた箇所を解き直す。	30分

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 万里世	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Smart Choice 2nd Edition 3 Student Book with Online Practice	K. Wilson T. Healy	オックスフォード大学出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後教室にて。また、事前に知らせていただければ、授業後以外の対応も可能です。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	ガイダンス、導入授業	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	シラバスを再度確認する。 英文法の参考書の基礎的な文法事項を復習する。	50分
2	第一部 月9/21	Unit6 He'd never been abroad.	Unit6 He'd never been abroad. (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 36のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p. 38のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
3	第一部 月9/28	Unit6 He'd never been abroad.	Unit6 He'd never been abroad. (reading, listening)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，前回学習した単語と文法を使用し，英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	p. 40を辞書を使って読んでおく。	30分
		事後学修	参考書等を用いて，現在完了形と過去完了形の違いを確認する。	30分
4	第一部 月10/5	Unit6 He'd never been abroad.	Unit6 He'd never been abroad. (speaking testの準備)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	前回学習した受動態を参考書等で再度確認し，正しい英文が書けるようにしておく。	30分
		事後学修	グループのメンバーで協力し，発表のスクリプトについて話し合う。	30分
5	第一部 月10/12	Unit6 He'd never been abroad.	Unit6 He'd never been abroad. (speaking test)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，学習した単語と文法を使用し，英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	講師が出した発表の条件を満たしているか再度スクリプトを確認する。 スクリプトを暗記する。	30分
		事後学修	各自，発表メンバーで発表の自己採点を行う。	30分
6	第一部 月10/19	Unit7 Time for a makeover!	Unit7 Time for a makeover! (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 44のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p. 46のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	Unit7 Time for a makeover!	Unit7 Time for a makeover! (activity)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	使役の文法構造を理解し、与えられた表題に従って実際に英作文をしておく。	30分
		事後学修	activityの内容を見直し、ほかの文章も暗記しておく。	30分
8	第一部 月11/9	Unit7 Time for a makeover!	Unit7 Time for a makeover! (listening, reading)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	p. 47のBefore You Listen の箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	p. 48のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。	30分
9	第一部 月11/16	Unit8 My life would be great!	Unit8 My life would be great! (vocabulary, grammar)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	p. 50のVocabularyの箇所の意味を調べておく。	30分
		事後学修	p. 52のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。	30分
10	第一部 月11/23	Unit8 My life would be great!	Unit8 My life would be great! (listening activity)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	仮定法と直説法の違いを確認しておく。	30分
		事後学修	授業時に配られたプリントを再度読み、辞書等を使って全体の内容を理解する。	30分
11	第一部 月11/30	Unit8 My life would be great!	Unit8 My life would be great! (reading, activityの準備)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	仮定法を理解し、activityに使う事柄についてアイディアを出しておく。	30分
		事後学修	p. 54のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。	30分
12	第一部 月12/7	Unit8 My life would be great!	Unit8 My life would be great! (activity)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前回学習した単語と文法を使用し、コミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	activityに使うペンネームを考えておく。 授業で使う文章を簡単に英語に直しておく。	30分
		事後学修	授業中にもらった「返信」を辞書等を使って日本語に直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	Unit6, 7, 8のまとめ	後期のまとめ 英文法の総復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新出単語の意味と文法を理解することができる。	
		事前学修	後期で学んだ文法事項を確認する。 覚えられていない英単語をまとめる。	30分
		事後学修	教科書の問題を再度見直し、講師に質問できるようにしておく。	30分
14	第一部 月12/21	授業内試験、振り返り	後期に扱った文法の解説 授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	後期の文法事項、英単語を見直し試験に備える。	30分
		事後学修	試験問題を再度見直し、問題が解けなかった個所を確認する。	30分
15	第一部 月1/18	授業内試験の解説	授業内試験の解答と解説 英作文	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習した文法事項を正確に使い、さらに他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	後期に扱った箇所を再度見直す。 冬休みの思い出を英語で言えるようにしておく。	30分
		事後学修	試験の解説をふまえて、間違えた箇所を解き直す。	30分

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い、次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各Unitにおけるトピックについてペアー並びグループで英会話をしたり内容を纏める作業をし、それを発表する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業でフィードバックをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Listen to this(Basic)	James Bean	成美堂	2004	教科書	必携
ラジオ英会話10月号	担当者	NHK出版	2020	教科書	必携
備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				

【オフィスアワー】
火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて 1 2 時 1 5 分～ 1 2 時 3 5 分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	二つのものを比較する表現を学ぶ。(1)	Unit 7 I'm taller than you (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト(10月号) Week 1-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。二つのものを比較する表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 7 I'm taller than you 前半を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト(10月号)Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
2	9/22	二つのものを比較する表現を学ぶ。(2)	小テスト Unit 7 I'm taller than you (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。二つのものを比較する表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 7 I'm taller than you (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 1-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
3	9/29	ランチの説明並びレストランでの注文の仕方を学ぶ。(1)	小テスト Unit 8 Where shall we eat? (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ランチの説明の仕方とレストランでの注文の仕方を学び、自然に表現出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 8 Where shall we eat? (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
4	10/6	ランチの説明並びレストランでの注文の仕方を学ぶ。(2)	小テスト Unit 8 Where shall we eat? (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ランチの説明の仕方とレストランでの注文の仕方を学び、自然に表現出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 8 Where shall we eat? (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容 NHKテキスト Week 1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
5	10/13	映画を話題に会話を進める。(1)	小テスト Unit 9 Going to the movies (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。映画を話題にし、映画の種類やストーリーを説明出来る様になる。	
		事前学修	テキストUnit 9 Going to the movies (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
6	10/20	映画を話題に会話を進める。(2)	小テスト Unit 9 Going to the movies (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。映画を話題にし、映画の種類やストーリーを説明出来る様になる。	
		事前学修	テキストUnit 9 Going to the movies (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	ショッピングの表現を学ぶ。(1)	小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ショッピングの表現を学び、自然に自分のショッピング体験を語れるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
8	11/10	ショッピングの表現を学ぶ。(2)	小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ショッピングの表現を学び、自然に自分のショッピング体験を語れるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift (後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
9	11/17	好きなことを聞いたり、語ったりする。(1)	小テスト Unit 11 What's your favorite? (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。色々な話題に関して、理由を述べながら、関心の有無を語り合うことができるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 11 What's your favorite? (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
10	11/24	好きなことを聞いたり、語ったりする。(1)	小テスト Unit 11 What's your favorite? (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。色々な話題に関して、理由を述べながら、関心の有無を語り合うことができるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 11 What's your favorite? (後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
11	12/1	得意なことと仕事の関係を学ぶ。(1)	小テスト Unit 12 Hard work (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。自分の得意なことをもとに、仕事やアルバイトの選び方の表現を学び自然に使えるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 12 Hard work (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
12	12/8	得意なことと仕事の関係を学ぶ。(1)	小テスト Unit 12Unit 12Hard work (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。自分の得意なことをもとに、仕事やアルバイトの選び方の表現を学び自然に使えるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 12 Hard work (後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	戸惑った体験を話す。 (1)	小テスト Unit 13 I was so embarrassed (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 TOEIC リスニング練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。今までに戸惑ったり困った体験を自然な英語で話せるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 13 I was so embarrassed (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	この回で学習したことを復習し、スクリプトの音読練習を行うこと。	60分
14	12/22	プレゼンテーション” My home town”	壇上でプレゼンテーション（60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する）。各自配られたシートに発表者の講評を書き提出する。	
		この回の到達目標	人前で自分の英語の発表をし如何に理解してもらえるか工夫出来る様になる。	
		事前学修	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。	60分
		事後学修	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い力を磨いておくこと。	60分
15	1/12	後期授業の反省並びに確認。	後期授業のまとめ。	
		この回の到達目標	後期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認出来る。	
		事前学修	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。	60分
		事後学修	後期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。	60分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い、次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各Unitにおけるトピックについてペアー並びグループで英会話をしたり内容を纏める作業をし、それを発表する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業でフイードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Listen to this!(Basic)	James Bean	成美堂	2004		
ラジオ英会話 10月号	担当者	NHK出版	2020		
備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				

【オフィスアワー】
月曜日、授業の行われる校舎の講師室にて1 2 時1 5 分～1 2 時3 5 分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	二つのものを比較する表現を学ぶ。(1)	Unit 7 I'm taller than you(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト(10月号) Week 1-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。二つのものを比較する表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 7 I'm taller than you(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト(10月号)Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
2	9/21	二つのものを比較する表現を学ぶ。(2)	小テスト Unit 7 I'm taller than you(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。二つのものを比較する表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 7 I'm taller than you(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
3	9/28	ランチの説明並びレストランでの注文の仕方を学ぶ。(1)	小テスト Unit 8 Where shall we eat?(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ランチの説明の仕方とレストランでの注文の仕方を学び、自然に表現出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 8 Where shall we eat?(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
4	10/5	ランチの説明並びレストランでの注文の仕方を学ぶ。(2)	小テスト Unit 8 Where shall we eat?(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ランチの説明の仕方とレストランでの注文の仕方を学び、自然に表現出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit Where shall we eat?(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
5	10/12	映画を話題に会話を進める。(1)	小テスト Unit 9 Going to the movies(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。映画を話題にし、映画の種類やストーリーを説明出来る様になる。	
		事前学修	テキストUnit 9 Going to the movies(前半)) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
6	10/19	映画を話題に会話を進める。(2)	小テスト Unit 9 Going to the movies(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。映画を話題にし、映画の種類やストーリーを説明出来る様になる。	
		事前学修	テキストUnit 9 Going to the movies(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	ショッピングの表現を学ぶ。(1)	小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ショッピングの表現を学び、自然に自分のショッピング体験を語れるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift(前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
8	11/9	ショッピングの表現を学ぶ。(2)	小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ショッピングの表現を学び、自然に自分のショッピング体験を語れるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift(後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
9	11/16	好きなことを聞いたり、語ったりする。(1)	小テスト Unit 11 What's your favorite?(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。色々な話題に関して、理由を述べながら、関心の有無を語り合うことができるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 11 What's your favorite?(前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
10	11/23	好きなことを聞いたり、語ったりする。(1)	小テスト Unit 11 What's your favorite?(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。色々な話題に関して、理由を述べながら、関心の有無を語り合うことができるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 11 What's your favorite?(後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
11	11/30	得意なことと仕事の関係を学ぶ。(1)	小テスト Unit 12 Hard work(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。自分の得意なことをもとに、仕事やアルバイトの選び方の表現を学び自然に使えるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 12 Hard work(前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
12	12/7	得意なことと仕事の関係を学ぶ。(2)	小テスト Unit 12 Hard work(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。自分の得意なことをもとに、仕事やアルバイトの選び方の表現を学び自然に使えるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 12 Hard work(後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくる。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek3-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	戸惑った体験を話す。 (1)	小テスト Unit 13 I was so embarrassed (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 TOEIC リスニング練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。今までに戸惑ったり困った体験を自然な英語で話せるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 13 I was so embarrassed (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	この回で学習したことは最終テストに出題されるので復習しておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
14	12/21	プレゼンテーション” My home town”	壇上でプレゼンテーション（60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する）。各自配られたシートに発表者の講評を書き提出する。	
		この回の到達目標	人前で自分の英語の発表をし如何に理解してもらえるか工夫出来る様になる。	
		事前学修	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。	60分
		事後学修	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い実力をつけておくこと。	60分
15	1/18	後期授業の反省並びに確認。	後期授業のまとめ。	
		この回の到達目標	後期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認出来る。	
		事前学修	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。	60分
		事後学修	後期授業で学習したことを踏まえて、更に英語の実力をつける努力すること。	60分

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い、次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各Unitにおけるトピックについてペアー並びグループで英会話をしたり内容を纏める作業をし、それを発表する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で報告する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Listen to this!(Basic)	James Bean	成美堂	2004		
ラジオ英会話 10月号	担当者	NHK出版	2020		
備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				

【オフィスアワー】
月曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	二つのものを比較する表現を学ぶ。(1)	Unit 7 I'm taller than you (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト(10月号) Week 1-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。二つのものを比較する表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 7 I'm taller than you 前半を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト(10月号)Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
2	9/21	二つのものを比較する表現を学ぶ。(2)	小テスト Unit 7 I'm taller than you (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。二つのものを比較する表現を学ぶことが出来、自然に使用出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 7 I'm taller than you (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 1-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
3	9/28	ランチの説明並びレストランでの注文の仕方を学ぶ。(1)	小テスト Unit 8 Where shall we eat? (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ランチの説明の仕方とレストランでの注文の仕方を学び、自然に表現出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 8 Where shall we eat? (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
4	9/5	ランチの説明並びレストランでの注文の仕方を学ぶ。(2)	小テスト Unit 8 Where shall we eat? (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ランチの説明の仕方とレストランでの注文の仕方を学び、自然に表現出来るようになる。	
		事前学修	テキストUnit 8 Where shall we eat? (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容 NHKテキスト Week 1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
5	10/12	映画を話題に会話を進める。(1)	小テスト Unit 9 Going to the movies (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。映画を話題にし、映画の種類やストーリーを説明出来る様になる。	
		事前学修	テキストUnit 9 Going to the movies (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分
6	10/19	映画を話題に会話を進める。(2)	小テスト Unit 9 Going to the movies (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。映画を話題にし、映画の種類やストーリーを説明出来る様になる。	
		事前学修	テキストUnit 9 Going to the movies (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	10/26	ショッピングの表現を学ぶ。(1)		小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ショッピングの表現を学び、自然に自分のショッピング体験を語れるようになる。		
		事前学修	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。		
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。		
8	11/9	ショッピングの表現を学ぶ。(2)		小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。ショッピングの表現を学び、自然に自分のショッピング体験を語れるようになる。		
		事前学修	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。		
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。		
9	11/16	好きなことを聞いたり、語ったりする。(1)		小テスト Unit 11 What's your favorite? (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。色々な話題に関して、理由を述べながら、関心の有無を語り合うことができるようになる。		
		事前学修	テキストUnit 11 What's your favorite? (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。		
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。		
10	11/23	好きなことを聞いたり、語ったりする。(2)		小テスト Unit 11 What's your favorite? (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。色々な話題に関して、理由を述べながら、関心の有無を語り合うことができるようになる。		
		事前学修	テキストUnit 11 What's your favorite? (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。		
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。		
11	11/30	得意なことと仕事の関係を学ぶ。(1)		小テスト Unit 12 Hard work (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。自分の得意なことをもとに、仕事やアルバイトの選び方の表現を学び自然に使えるようになる。		
		事前学修	テキストUnit 12 Hard work (前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。		
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。		
12	12/7	得意なことと仕事の関係を学ぶ。(2)		小テスト Unit 12Unit 12Hard work (後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-④ 音読練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。自分の得意なことをもとに、仕事やアルバイトの選び方の表現を学び自然に使えるようになる。		
		事前学修	テキストUnit 12 Hard work (後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。		
		事後学修	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	戸惑った体験を話す。 (1)	小テスト Unit 13 I was so embarrassed (前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 TOEIC リスニング練習	
		この回の到達目標	テキストの英語が楽に聞けるようになる。今までに戸惑ったり困った体験を自然な英語で話せるようになる。	
		事前学修	テキストUnit 13 I was so embarrassed (前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。	60分
		事後学修	この回で学習したことを復習し、スクリプトの音読練習を行うこと。	60分
14	12/21	プレゼンテーション” My home town”	壇上でプレゼンテーション（60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する）。各自配られたシートに発表者の講評を書き提出する。	
		この回の到達目標	人前で自分の英語の発表をし如何に理解してもらえるか工夫出来る様になる。	
		事前学修	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。	60分
		事後学修	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い力を磨いておくこと。	60分
15	1/18	後期授業の反省並びに確認。	後期授業のまとめ。	
		この回の到達目標	後期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認出来る。	
		事前学修	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。	60分
		事後学修	後期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。	60分

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	瀧野 みゆき	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
英語の素材を聴き、内容を理解する練習を多様なテーマの素材を使って行います。 また、画像等を見て説明するスピーキングの練習を取り入れます。 授業の後半で聴くテキストについては、授業の前に指定されたユニットを繰り返し聴き、内容を理解してきてください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で話し、ペアやグループで練習する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に小テストの結果、およびレポートについてフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
究極の英語リスニング Vo1.2 CD付き	英語出版編集部（編集）	アルク出版社	2008年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として授業終了後（火曜：昼休み）。授業講堂にて。詳しくは授業で指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 英語のコミュニケーションをともなう実務
実務経験に基づく実践的教育の内容	実社会の英語利用を想定したコミュニケーションの練習	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火 9/15	ガイダンス・Daily Life Level 2	ガイダンス：リスニング力を伸ばすには、英語聴き取りの練習方法、授業の進め方、事前・事後学習の説明 リスニングミニテストの練習 Daily Lifeに関する聴き取りの練習をする。 Daily Lifeに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	授業の進め方を理解する。小テストの練習を通して、予習復習の内容を理解する。 到達目標①②に関連して、Daily Lifeに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	事前学習：テキストの購入と内容の確認	30分
		事後学修	授業の進め方の確認、ミニテストの復習。授業内容の復習。	30分
2	第一部 火 9/22	Places Level 2	Placesに関する聴き取りの練習をする。 Placesに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Placesに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
3	第一部 火 9/29	People Level 2	Peopleに関する聴き取りの練習をする。 Peopleに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Peopleに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
4	第一部 火 10/6	Travel Level 2	Travelに関する聴き取りの練習をする。 Travelに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Travelに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
5	第一部 火10/13	Business Level 2	Businessに関する聴き取りの練習をする。 Businessに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Businessに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
6	第一部 火10/20	Office Level 2	Officeに関する聴き取りの練習をする。 Officeに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Officeに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	Technology Level 2	Technologyに関する聴き取りの練習をする。 Technologyに関するスピーキングの練習をする。 リスニングレポート提出 一回目（詳細は授業で指示します）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Technologyに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
8	第一部 火11/10	Personnel Level 2	Personnelに関する聴き取りの練習をする。 Personnelに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して Personnelに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
9	第一部 火11/17	Management Level 2	Managementに関する聴き取りの練習をする。 Managementに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Managementに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
10	第一部 火11/24	Purchasing Level 2	Purchasingに関する聴き取りの練習をする。 Purchasingに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Purchasingに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
11	第一部 火12/1	Finances Level 2	Financesに関する聴き取りの練習をする。 Financesに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Financesに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
12	第一部 火12/8	Media Level 2	Mediaに関する聴き取りの練習をする。 Mediaに関するスピーキングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Mediaに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	Entertainment Level 2	Entertainmentに関する聴き取りの練習をする。 Entertainmentに関するスピーキングの練習をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Entertainmentに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習。	30分
14	第一部 火12/22	Restaurants Level 2	Restaurantsに関する聴き取りの練習をする。 Restaurantsに関するスピーキングの練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Restaurantsに関する英語表現を聴き取り、コミュニケーションできるようになる。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習	30分
15	第一部 火 1/18	まとめ、今後の勉強法	まとめ・フィードバック 今後の英語学習の方法	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、勉強をつづけ、コミュニケーション力を向上する。	
		事前学修	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解。	30分
		事後学修	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習・授業内容の復習	30分

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
講義および演習形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	Ginza	Learn about the story of Ginza	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
2	9/25	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
3	10/2	Nara	Learn about the story of Nara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
4	10/9	Mount Fuji	Learn about the story of Mount Fuji	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
5	10/16	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
6	10/23	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	Wako	Learn about the story of Wako	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
8	11/6	The Tensho Embassy	Learn about the story of The Tensho Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
9	11/13	Hasekura Tsunenaga	Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
10	11/20	Yasuke	Learn about the story of Yasuke	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
11	11/27	William Adams	Learn about the story of William Adams	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
12	12/4	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
14	12/18	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	12/25	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	Ginza	Learn about the story of Ginza	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
2	9/25	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
3	10/2	Nara	Learn about the story of Nara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
4	10/9	Mount Fuji	Learn about the story of Mount Fuji	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
5	10/16	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
6	10/23	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	Wako	Learn about the story of Wako	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
8	11/6	The Tensho Embassy	Learn about the story of The Tensho Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
9	11/13	Hasekura Tsunenaga	Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
10	11/20	Yasuke	Learn about the story of Yasuke	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
11	11/27	William Adams	Learn about the story of William Adams	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
12	12/4	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Prepare example sentences, learn new words and complete reflections.	30分
14	12/18	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	12/25	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラスです。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
様々な場面の発話のディクテーションを行い、文法の確認、内容の理解を行い発話の練習をします。授業の初めに前回の授業で出てきた重要ボキャブラリーと内容理解確認の小テストを実施し、次の授業で返却と解説をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (Revised Edition)	Kayo Yoshida 他	誠美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 8：30～8：50、授業終了後、お昼休み、3限終了後に教室で対応します。メールアドレスは授業内でお知らせします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 金 9/18	各英語資格試験の概要	それぞれの資格試験の概要、TOEICリスニングの学習の方法、成績評価についての説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのリスニングの問題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読んで授業の全体像を理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	30分
2	第1部 金 9/25	注文に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」の Unit 1 1 (Restaurant) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常生活で使用する注文の表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストにある指示に従い、テキストの音声ファイルをダウンロードする。 「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 1 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
3	第1部 金 10/2	感情に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 2 (Art & Entertainment) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、感情に関する表現で使用する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 2 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
4	第1部 金 10/9	スポーツに関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 3 (Sports Events) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、交通機関で使用する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 3 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
5	第1部 金 10/16	感謝の気持ちを表す表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 4 (Having s Party) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、感謝の気持ちを表す表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 4 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
6	第1部 金 10/23	病気に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 5 (Health) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に対して、病気に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 5 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 金 10/30	Unit11からUnit15までの復習（Review1）	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のReview 3 のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 1 からUnit 1 5 までの表現を復習し確実に身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Review 3 の音声を読み、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
8	第1部 金 11/6	提案に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 6 (Christmas) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、提案に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 6 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
9	第1部 金 11/13	助けを求める・与える表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 7 (Cleanup) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助けを求める・与える表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 7 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
10	第1部 金 11/20	人物描写や位置関係を説明する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 8 (Our Tradition & Customs) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人物描写や位置関係を説明する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 8 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
11	第1部 金 11/27	条件・日程に関する用語	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 9 (Examinations) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条件・日程に関する用語を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 9 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
12	第1部 金 12/4	数字と交渉表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 2 0 (Housing) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、数字と交渉表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 2 0 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 金 12/11	Unit 1 6 からUnit 2 0 までの復習	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のReview 4 のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 6 からUnit 2 0 までの表現を復習し確実に身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Review 4 の音声聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
14	第1部 金 12/18	TOEIC実践リスニング対策 (1)	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 1 からUnit 2 0 までの授業内テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」TOEICのUnit 1 1 からUnit 2 0 までのリスニングの重要点を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Unit 1 1 からUnit 2 0 までのスクリプトを見ながら音声を聞き復習をする。フィードバックされたこれまでの小テストを見直す。	30分
		事後学修	授業で行った重要箇所の再確認をすること。	30分
15	第1部 金 12/25	TOEIC実践リスニング対策 (2)	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」の授業内テストのフィードバックと解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際にTOEICリスニングの問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの授業内容の学習の振り返り。	30分
		事後学修	間違えた箇所を解き直し、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラスです。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
様々な場面の発話のディクテーションを行い、文法の確認、内容の理解を行い発話の練習をします。授業の初めに前回の授業で出てきた重要ボキャブラリーと内容理解確認の小テストを実施し、次の授業で返却と解説をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (Revised Edition)	Kayo Yoshida 他	誠美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 8：30～8：50、授業終了後、お昼休み、3限終了後に教室で対応します。メールアドレスは授業内でお知らせします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 金 9/18	各英語資格試験の概要	それぞれの資格試験の概要、TOEICリスニングの学習の方法、成績評価についての説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのリスニングの問題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読んで授業の全体像を理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	30分
2	第1部 金 9/25	注文に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」の Unit 1 1 (Restaurant) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常生活で使われる注文の表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストにある指示に従い、テキストの音声ファイルをダウンロードする。 「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 1 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
3	第1部 金 10/2	感情に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 2 (Art & Entertainment) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、感情に関する表現で使われる表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 2 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
4	第1部 金 10/9	スポーツに関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 3 (Sports Events) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、交通機関で使われる表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 3 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
5	第1部 金 10/16	感謝の気持ちを表す表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 4 (Having s Party) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、感謝の気持ちを表す表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 4 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
6	第1部 金 10/23	病気に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 5 (Health) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に対して、病気に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 5 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 金 10/30	Unit11からUnit15までの復習（Review1）	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のReview 3 のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 1 からUnit 1 5 までの表現を復習し確実に身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Review 3 の音声を読み、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
8	第1部 金 11/6	提案に関する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 6 (Christmas) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、提案に関する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 6 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
9	第1部 金 11/13	助けを求める・与える表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 7 (Cleanup) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助けを求める・与える表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 7 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
10	第1部 金 11/20	人物描写や位置関係を説明する表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 8 (Our Tradition & Customs) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人物描写や位置関係を説明する表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 8 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
11	第1部 金 11/27	条件・日程に関する用語	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 9 (Examinations) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条件・日程に関する用語を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 1 9 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
12	第1部 金 12/4	数字と交渉表現	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 2 0 (Housing) のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、数字と交渉表現を理解し身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Unit 2 0 の音声を聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 金 12/11	Unit 1 6 からUnit 2 0までの復習	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のReview 4 のディクテーションと解説と発話練習。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 6 からUnit 2 0 までの表現を復習し確実に身に付けるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」Review 4 の音声聞き、問題を解いておく。	30分
		事後学修	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、発話練習を行い、表現を覚える。	30分
14	第1部 金 12/18	TOEIC実践リスニング対策（1）	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」のUnit 1 1 からUnit 2 0 までの授業内テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」TOEICのUnit 1 1 からUnit 2 0 までのリスニングの重要点を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Unit 1 1 からUnit 2 0までのスクリプトを見ながら音声を聞き復習をする。フィードバックされたこれまでの小テストを見直す。	30分
		事後学修	授業で行った重要箇所の再確認をすること。	30分
15	第1部 金 12/25	TOEIC実践リスニング対策（2）	「Practical Situations for the TOEIC® Test Listening」の授業内テストのフィードバックと解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際にTOEICリスニングの問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの授業内容の学習の振り返り。	30分
		事後学修	間違えた箇所を解き直し、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。スマートフォンや携帯などの端末の利用は厳禁です。

【授業方法】
本文、問題文の音読、解説および訳を学生が担当します。毎回、全員が一度は発表しますので、事前予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は間違った箇所をノートにまとめ、事後学習をしましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。							2		2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。							2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評・解説は授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』	西谷敦子	朝日出版	19年度		
『5分間 新TOEICテストリスニング 550』	片野田 浩子	南雲堂	14年度		
『5分間 新TOEICサプリメント 文法語法』	小池 直己	南雲堂	14年度		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火9/16	オリエンテーションと後期の授業計画について	Orientation 授業の方法についてレクチャーをします。授業に関する質問に答えます。オリエンテーションの後、授業をしますので、教科書および英和・和英辞書を用意してください。後期の授業内容は、リーディングを中心にを行います。	
		この回の到達目標	前期の授業で理解したことを確認し、後期の授業内容を理解して今後の学習計画と目標を立てる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit 7の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
2	火9/23	品詞	Unit R-1『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section 4 『TOEICテストサブプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題10	
		この回の到達目標	品詞の問題傾向を理解して、正解を導きだす。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit R-1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
3	火9/30	能動態と受動態	Unit R-2『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section 4 『TOEICテストサブプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題11	
		この回の到達目標	空所の位置によって区別することができることを理解する。パターンに慣れる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit R-2の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
4	火10/7	動詞の形（時制）	『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit R-3前回箇所を復習し、問題を解いていきます。Section 4 『TOEICテストサブプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題12	
		この回の到達目標	選択肢に様々な動詞が並んでいるが、それに合う時制を選ぶヒントから判断することができる。狙われる動詞の形（動名詞、完了形など）を理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit R-3の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
5	火10/14	前置詞・接続詞	Unit R-4『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section 5 『TOEICテストサブプリメント』を扱います。	
		この回の到達目標	前置詞のみが並ぶ、前置詞・接続詞・接続副詞が混在する問題など出題パターンを理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit R-4の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみること。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
6	火10/21	代名詞・関係代名詞	Unit R-5『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section5 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 3
		この回の到達目標	空所の位置から格を判断することができるようになる。関係代名詞は、空所の後ろに何があるのかを確認すること、また空所の前の先行詞は何かを判断することができる。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit R-5の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
7	火10/28	長文穴埋め問題	Unit R-6『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習して、問題を解いていきます。 Section5 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 4
		この回の到達目標	出題される二つのパターンを理解することができる。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit R-6の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
8	火11/11	TOEIC TEST まとめ	TOEICのリスニングのテストを本番と同じ条件で行います。
		この回の到達目標	TOEIC TESTの過去問に慣れる。
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで過去問題に目をとおしておく、授業時の備えになります。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
9	火11/18	TOEIC TEST まとめ	TOEICのリーディングのテストを本番と同じ条件で行います。
		この回の到達目標	TOEIC TESTの過去問に慣れる。
		事前学修	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで過去問題に目をとおしておく、授業時の備えになります。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
10	火11/25	広告・チャット	Unit R-7『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section5 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 5
		この回の到達目標	人材募集広告・新商品発表など、広告のパターンを理解する。
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit R-7の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	火12/2	Eメールと手紙	UnitR-8『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section5 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 6	
		この回の到達目標	文書の定型パターンを押さえて探し読みを活用することができる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』UnitR-8の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
12	火12/9	告知・社内回覧	Unit R-9『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section6 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 7	
		この回の到達目標	社外の人も読む告知と、社内の人のみが閲覧する回覧の違いについて、また各々の文書のパターンを理解する。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit R-9の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
13	火12/16	記事	Unit R-10『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section6 『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 8	
		この回の到達目標	町の催し物、新規オープンの店の告知、好調なビジネスの要因など、多岐にわたる記事に慣れる。	
		事前学修	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit R-10の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
14	火12/23	試験とまとめ	後期の授業内容を、どの程度理解できたかをテストします。	
		この回の到達目標	後期の授業内容について、どの程度理解しているかを試験で明白にする。	
		事前学修	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。	30分
		事後学修	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点など、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。	30分
15	火1/13	試験の解説と英語の動画	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。	
		この回の到達目標	試験での不明点や疑問点を明白にする。今後のTOEIC TESTに向けて対策をたてる	
		事前学修	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておくこと (より一層理解が深まるので準備をしておくこと。	30分
		事後学修	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。	30分

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
授業は基本的に演習形式で進めます。 課題、ロールプレイングに対するフィードバックを授業内で行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Speaking Of People	Peter Vincent, Naoko Nakazato, Alan Meadows	南雲堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜1限授業終了後（10：30～10：40）、授業講堂で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	【ガイダンス】英会話について	前期授業の復習。自己紹介と他己紹介。 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、前期の授業を振り返りながら、改めて情報をまとめ、自分のこと、他人（友人など）のことについて話すことができる。	
		事前学修	シラバスの確認（３０分）	30分
		事後学修	学んだ表現の音読練習（３０分）	30分
2	第一部 金9/25	【Unit 4】Where Are You From?	リスニング、スピーキング練習。日本と出身地の都道府県のことについて紹介する表現（観光名所、アクセス情報、特産物など）を学び、音読練習を行なう。グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自国の伝統、文化に関する表現を学び、それを台本を見ながらも、正確に相手することができる。	
		事前学修	P. 37、P. 39の問題を授業が始まるまでに解いておくこと。（３０分）	30分
		事後学修	音読練習（３０分）	30分
3	第一部 金10/2	【Unit 4】Where Are You From?	リスニング、スピーキング練習。日本と出身地の都道府県のことについて紹介する表現（観光名所、アクセス情報、特産物など）を学び、音読練習を行なう。グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自国の伝統、文化に関する表現を学び、それを台本を見ずに、正確に相手することができる。	
		事前学修	スクリプト作成（３０分）	30分
		事後学修	音読練習（３０分）	30分
4	第一部 金10/9	【Unit 4】Where Are You From?	スクリプト作成。グループワーク、ペアワークを通して、英会話の実践をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自己紹介を英語ですることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（３０分）	30分
		事後学修	音読練習（３０分）	30分
5	第一部 金10/16	【Unit 5】Likes and Dislikes	リスニング、スピーキング練習。Unit 2の発展、応用として、趣味に関するより複雑な表現（食べ物、スポーツ、アクティビティ）を学び、グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、趣味に関する表現（食べ物、スポーツ、アクティビティ）を学び、それを台本を見ながらも、正確に相手に伝えることができる。	
		事前学修	P. 49、P. 50、P. 51の問題を授業が始まるまでに解いておくこと（３０分）	30分
		事後学修	音読練習（３０分）	30分
6	第一部 金10/23	【Unit 5】Likes and Dislikes	リスニング、スピーキング練習。Unit 2の発展、応用として、趣味に関するより複雑な表現（食べ物、スポーツ、アクティビティ）を学び、グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、趣味に関する表現（食べ物、スポーツ、アクティビティ）を学び、それを台本を見ずに、正確に相手に伝えることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（３０分）	30分
		事後学修	音読練習（３０分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	【Unit 5】 Likes and Dislikes	スクリプト作成。グループワーク、ペアワークを通して、英会話の実践をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、より複雑な自己紹介を英語ですることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（30分）	30分
		事後学修	音読練習（30分）	30分
8	第一部 金11/6	【Unit 6】 What's She Like?	リスニング、スピーキング練習。Unit 3の発展、応用として、他人について形容するより複雑な表現を学び、音読練習を行なう。グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、形容詞、比較、最上級について学び、台本を見ながらも、英語で自己、他己紹介をすることができる。	
		事前学修	P. 54、P. 55、P. 56、P. 57の問題を授業が始まるまでに解いておくこと（30分）	30分
		事後学修	音読練習（30分）	30分
9	第一部 金11/13	【Unit 3】 What Does He Look Like?	リスニング、スピーキング練習。Unit 3の発展、応用として、他人について形容するより複雑な表現を学び、音読練習を行なう。グループワークを通して、実践練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、形容詞、比較、最上級について学び、台本を見ずに、英語で自己、他己紹介をすることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（30分）	30分
		事後学修	音読練習（30分）	30分
10	第一部 金11/20	【Unit 3】 What Does He Look Like?	スクリプト作成。グループワーク、ペアワークを通して、英会話の実践をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自己紹介、他己紹介を英語ですることができる。	
		事前学修	スクリプト作成（30分）	30分
		事後学修	音読練習（30分）	30分
11	第一部 金11/27	【ロールプレイング準備】	これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語で自己紹介、他己紹介の実践練習を繰り返し、より自然に会話をすることができる。	
		事前学修	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）	30分
		事後学修	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）	30分
12	第一部 金12/4	【ロールプレイング準備】	これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語で自己紹介、他己紹介の実践練習を繰り返し、より自然に会話をすることができる。	
		事前学修	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）	30分
		事後学修	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	【ロールプレイング準備】	これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語で自己紹介、他己紹介の実践練習を繰り返し、より自然に会話することができる。	
		事前学修	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（３０分）	30分
		事後学修	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（３０分）	30分
14	第一部 金12/18	【ロールプレイング準備】	これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、英語で自己紹介、他己紹介の実践練習を繰り返し、より自然に会話することができる。	
		事前学修	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（３０分）	30分
		事後学修	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（３０分）	30分
15	第一部 金12/25	【後期テスト】 ロールプレイング、フィードバック	ロールプレイング総括、後期授業のまとめ（フィードバック）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、劇という形で自己を表現することの楽しさを知り、能動的に自分の考えを伝えることが出来る。	
		事前学修	ロールプレイングに向けた準備（３０分）	30分
		事後学修	これまでの既習事項を復習すること。（３０分）	30分

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科1年生番号指定クラス。原則、英語Cと通年で履修して下さい。

【授業方法】		
教科書を使用して語彙や文法事項の確認をしながら、リスニング力と表現力を高めていきます。TOEICの問題や英語ニュースなど副教材も取り入れます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークで、会話の練習を行います。視覚資料を用いたプレゼンテーションを行い、クラスの人からのフィードバックをしてもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TARGET! Elementary（総合英語のターゲット演習：初級）	森田彰，飯尾牧子，橋本健広，佐竹幸信，角田麻里，Gordon Myskow	金星堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、授業終了後（火曜：講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	後期プレゼンテーションについて、夏期休暇中のニュース	後期プレゼンテーションの説明、夏期休暇中の英語ニュース、英語ニュースの特徴についての解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今期のプレゼンテーションの要領を理解し、英語ニュースの特徴を説明することができる。	
		事前学修	前期の試験とレポートを見直して、今期の目標を立てる。	30分
		事後学修	授業で配布されたプリントを復習する。	30分
2	第一部 火9/22	イントネーションの識別	テキスト Unit 8 Are You into Sports? イントネーションの分類、会話の聞き取り、ペアワークでの練習	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、イントネーションを理解し、英文を聞き取ることができる	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話を聞いておく。わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。	30分
3	第一部 火9/29	現在完了の機能と活用	テキスト Unit 8 後半 現在完了の解説。サッカーの人気についての文章を読む。会話練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、現在完了の3つの働きを識別し、英文を作ることができる。	
		事前学修	文法の説明を読み、英文を読み、わからない単語・熟語を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。	30分
4	第一部 火10/6	写真や絵を見ながらの聞き取り	テキスト Unit 9 Parties are a Lot of Fun 写真や絵を見ながらの聞き取りを練習する。会話の聞き取りを行う。ペアでの会話の練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、写真や絵を見ながらの聞き取りができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話を聞いておく。わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。	30分
5	第一部 火10/13	助動詞の機能と活用	助動詞の機能と活用の解説。練習問題。リーディング「Potluck Dinnerの企画」読解。会話の練習。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞の機能を説明することができる。それを活用した会話ができる。	
		事前学修	文法の説明を読み、英文を読み、わからない単語・熟語を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。	30分
6	第一部 火10/20	挨拶文の聞き取りと動名詞の機能と活用	テキスト Unit 10 Art in Our Life 挨拶文の聞き取り。それを使った会話の聞き取りと練習。オノヨーコと芸術に関する英文の読解。動名詞の文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、挨拶文の聞き取りができる。動名詞の機能を理解し、英文を作ることができる。	
		事前学修	文法の説明を読み、英文を読み、わからない単語・熟語を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。会話の暗唱をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	プレゼンテーションの準備	ニュースの解説の準備。ニュースでよく使う表現の解説と原稿の作成。視覚資料の作成の説明。原稿のチェックをペアワークで行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、基本的な英文を使ってニュースをわかりやすく相手に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントを使用して、ニュースの解説の原稿を書く。	30分
		事後学修	ペアワークで指摘されたことをもとに、プレゼンテーションの原稿を修正する。	30分
8	第一部 火11/10	プレゼンテーション (ニュースの解説)	視覚資料を使用して、2分間でニュースの解説を行う。クラス内でフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本的な英文を使って、ニュースの解説をすることができる。クラスメートの発表を聞いて、理解することができる。意見を言うことができる。	
		事前学修	これまで学んだ英語表現を使用し、プレゼンテーションができるように原稿と視聴覚資料を作成する。複数回、練習する。	30分
		事後学修	自分のプレゼンテーションを振り返り、改善点を挙げる。他の人の発表を振り返り、長所を挙げる。	30分
9	第一部 火11/17	誘う時の表現の聞き取り、不定詞の名詞的用法	テキスト Unit 11 What Shall We Eat? 誘う時の表現の聞き取り。会話の練習。不定詞の名詞的用法の文法問題。イギリス料理に関する英文の読解。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、誘う時の表現を聞き取ることができる。不定詞の名詞的用法を理解し、英文を作ることができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。文法の説明を読み、リーディングで、わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。会話の暗唱をする。	30分
10	第一部 火11/24	依頼する時の表現の聞き取り、不定詞の形容詞的用法・副詞的用法	テキスト Unit 12 What Makes a Good Company? 依頼する時の表現の聞き取り、会話の練習、不定詞の形容詞的用法・副詞的用法の文法問題。企業の社会的責任に関する英文の読解。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、依頼する時の表現を聞き取ることができる。不定詞の形容詞的用法と副詞的用法を理解し、英文を作ることができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。文法の説明を読み、リーディングで、わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。会話の暗唱をする。	30分
11	第一部 火12/1	Yes/No疑問文と応答の聞き取り、受動態の機能と活用	テキスト Unit 13 Advances in Science Yes/No疑問文と応答の聞き取り、会話の練習、受動態の文法問題、科学的発見に関する英文の読解。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、疑問文と応答を聞き取ることができる。受動態の機能を理解し、英文を作ることができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。文法の説明を読み、リーディングで、わからない英単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。文法問題をもう一度解く。会話の暗唱をする。	30分
12	第一部 火12/8	Wh-疑問文と応答の聞き取り、前置詞の機能と活用	テキスト Unit 14 Life with Technology Wh-疑問文と応答の聞き取り、会話の練習、前置詞の文法問題、インターネット以前の生活に関する英文の読解。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Wh-疑問文と応答を聞き取ることができる。前置詞の機能を理解し、活用することができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。文法の説明を読み、リーディングでわからない単語は調べておく。	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。ペアワークで作成した会話の英文を練習する。文法問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	付加疑問文の聞き取り、接続詞の機能と活用	テキスト Unit 15 Eco-Friendly Life 付加疑問文の聞き取り、会話の練習、接続詞の文法問題、クリーン・エネルギーに関する英文の読解。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、付加疑問文を聞き取ることができる。接続詞の機能を理解し、英文を作ることができる。	
		事前学修	ダウンロードした聴覚教材で会話を聞いておく。文法の説明を読み、リーディングでわからない単語は調べておく	30分
		事後学修	授業で学習した英単語、表現を復習する。ペアワークで作成した会話の英文を練習する。文法問題をもう一度解く。	30分
14	第一部 火12/22	聞き取りの振り返り	今期に学習したリスニングのポイントを振り返ってのディクテーション。応用問題として、英語ニュースの聞き取りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、これまでテキストで学習したリスニングのポイントを振り返って、基本的な英文を聞き取ることができる。	
		事前学修	今期に学習した会話文のディクテーションができるようにしておく。単語・熟語を復習する。	30分
		事後学修	聞き取れなかった箇所を何度か聞き返して復習する。	30分
15	第一部 火1/12	授業内試験と解説、振り返り	授業内試験及び後期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期で学んだ英文の聞き取りができる。文法項目を理解し、活用することができる。	
		事前学修	今期に学習した箇所の文法や語彙などを復習して期末試験に臨む。	30分
		事後学修	理解があやふやな箇所をチェックし、次年度の授業に臨めるようにする。	30分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修すること。また、勉学上 の大きな負荷に耐える強靱な忍耐力を期待する。グループ演習を行うため、積極性、協調性を強く求める。

【授業方法】
動画や音声を用いたCALLシステムによるアクティブ・ラーニング方式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	CALLシステム（Computer Assisted Language Learning）は、映像教材や音声教材を学生用PCにリアルタイムに配信しながら、ランダムに形成されたペアでスピーキング、リスニングの演習を実践することが可能であるのみならず、それを録画・録音して振り返りを行ったり、ペア演習に教員が参画し指導することができる優れたアクティブ・ラーニング用IT教材である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。							2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。							2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、プリント教材や動画、音声データを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日3時限に松山博樹研究室（本館8階1815研究室）にて対応する。授業内もしくはメール(matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp)にて事前予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	日本人が注意すべきprosody (rhythm, stress, intonation) を習得の重要性について説明し、リスニング、スピーキングの演習を行う意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、prosody (rhythm, stress, intonation) 習得の意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、prosody (rhythm, stress, intonation) に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	9/21	最新の英語ニュース ビジネス英語（初対面の挨拶） 発音記号（母音～[I]）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（初対面の挨拶）、発音記号（母音～[I]）などの動画および音声を読み、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（初対面の挨拶）、発音記号（母音～[I]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（初対面の挨拶）、発音記号（母音～[I]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
3	9/28	最新の英語ニュース ビジネス英語（パーティでの会話） 発音記号（母音 [U]～[OU]）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（パーティでの会話）、発音記号（母音 [U]～[OU]）などの動画および音声を読み、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（パーティでの会話）、発音記号（母音 [U]～[OU]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（パーティでの会話）、発音記号（母音 [U]～[OU]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
4	10/5	小テスト1 授業の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（初対面の挨拶、パーティでの会話）、発音記号（母音～[I]、母音 [U]～[OU]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（初対面の挨拶、パーティでの会話）、音声変化現象（母音～[I]、母音 [U]～[OU]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
5	10/12	最新の英語ニュース ビジネス英語（自己紹介） 発音記号（母音 [OU]～）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（自己紹介）、発音記号（母音 [OU]～）などの動画および音声を読み、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（自己紹介）、発音記号（母音 [OU]～）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（自己紹介）、発音記号（母音 [OU]～）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
6	10/19	最新の英語ニュース ビジネス英語（会議1） 発音記号（子音[l]～[z]）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議1）、発音記号（子音[l]～[z]）などの動画および音声を読み、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議1）、発音記号（子音[l]～[z]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議1）、発音記号（子音[l]～[z]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	小テスト2 授業の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（自己紹介、会議1）、発音記号（母音 [OU]～、子音 [1]～[z]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（自己紹介、会議1）、発音記号（母音 [OU]～、子音 [1]～[z]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
8	11/9	最新の英語ニュース ビジネス英語（会議2） 発音記号（子音 [f]～[b]）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議2）、発音記号（子音 [f]～[b]）などの動画および音声を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議2）、発音記号（子音 [f]～[b]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議2）、発音記号（子音 [f]～[b]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
9	11/16	最新の英語ニュース ビジネス英語（会議3） 発音記号（子音 [t]～[h]）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議3）、発音記号（子音 [t]～[h]）などの動画および音声を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議3）、発音記号（子音 [t]～[h]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議3）、発音記号（子音 [t]～[h]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
10	11/23	小テスト3 授業の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議2,3）、発音記号（子音 [f]～[b]、子音 [t]～[h]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議2,3）、発音記号（子音 [f]～[b]、子音 [t]～[h]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
11	11/30	英語プレゼンテーション （基本編）	英語プレゼンテーションの基本的構造、表現を解説し、動画および音声を扱ったリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語プレゼンテーションを実践することができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、英語プレゼンテーションに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
12	12/7	英語プレゼンテーション （応用編）	英語プレゼンテーションの基本的構造、表現を解説し、自ら書いた原稿に基づいた英語プレゼンテーションを実践し、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語プレゼンテーションを実践することができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、英語プレゼンテーションに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	TOEICとは何か	TOEICの形式、内容、傾向等を解説し、音声を扱ったTOEIC形式のリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのリスニングセッションに取り組むことができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
14	12/21	TOEIC模擬試験	TOEICの形式、内容、傾向等を解説し、音声を扱ったTOEIC形式のリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのリスニングセッションに取り組むことができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
15	1/18	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	120分

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修すること。また、勉学上 の大きな負荷に耐える強靱な忍耐力を期待する。グループ演習を行うため、積極性、協調性を強く求める。

【授業方法】
動画や音声を用いたCALLシステムによるアクティブ・ラーニング方式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	CALLシステム（Computer Assisted Language Learning）は、映像教材や音声教材を学生用PCにリアルタイムに配信しながら、ランダムに形成されたペアでスピーキング、リスニングの演習を実践することが可能であるのみならず、それを録画・録音して振り返りを行ったり、ペア演習に教員が参画し指導することができる優れたアクティブ・ラーニング用IT教材である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。							2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。							2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、プリント教材や動画、音声データを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日3時限に松山博樹研究室（本館8階1815研究室）にて対応する。授業内もしくはメール(matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp)にて事前予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス及び導入講義	日本人が注意すべきprosody (rhythm, stress, intonation) を習得の重要性について説明し、リスニング、スピーキングの演習を行う意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、prosody (rhythm, stress, intonation) 習得の意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、prosody (rhythm, stress, intonation) に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	9/25	最新の英語ニュース ビジネス英語（初対面の挨拶） 発音記号（母音～[I]）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（初対面の挨拶）、発音記号（母音～[I]）などの動画および音声を読み、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（初対面の挨拶）、発音記号（母音～[I]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（初対面の挨拶）、発音記号（母音～[I]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
3	10/2	最新の英語ニュース ビジネス英語（パーティでの会話） 発音記号（母音 [U]～[OU]）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（パーティでの会話）、発音記号（母音 [U]～[OU]）などの動画および音声を読み、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（パーティでの会話）、発音記号（母音 [U]～[OU]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（パーティでの会話）、発音記号（母音 [U]～[OU]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
4	10/9	小テスト1 授業内容の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（初対面の挨拶、パーティでの会話）、発音記号（母音～[I]、母音 [U]～[OU]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（初対面の挨拶、パーティでの会話）、音声変化現象（母音～[I]、母音 [U]～[OU]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
5	10/16	最新の英語ニュース ビジネス英語（自己紹介） 発音記号（母音 [OU]～）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（自己紹介）、発音記号（母音 [OU]～）などの動画および音声を読み、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（自己紹介）、発音記号（母音 [OU]～）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（自己紹介）、発音記号（母音 [OU]～）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
6	10/23	最新の英語ニュース ビジネス英語（会議1） 発音記号（子音[l]～[z]）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議1）、発音記号（子音[l]～[z]）などの動画および音声を読み、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議1）、発音記号（子音[l]～[z]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議1）、発音記号（子音[l]～[z]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	小テスト2 授業内容の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（自己紹介、会議1）、発音記号（母音 [OU]～、子音 [1]～[z]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（自己紹介、会議1）、発音記号（母音 [OU]～、子音 [1]～[z]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
8	11/6	最新の英語ニュース ビジネス英語（会議2） 発音記号（子音 [f]～[b]）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議2）、発音記号（子音 [f]～[b]）などの動画および音声を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議2）、発音記号（子音 [f]～[b]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議2）、発音記号（子音 [f]～[b]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
9	11/13	最新の英語ニュース ビジネス英語（会議3） 発音記号（子音 [t]～[h]）	最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議3）、発音記号（子音 [t]～[h]）などの動画および音声を扱い、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議3）、発音記号（子音 [t]～[h]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議3）、発音記号（子音 [t]～[h]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
10	11/20	小テスト3 授業内容の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、小テストにより理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議2,3）、発音記号（子音 [f]～[b]、子音 [t]～[h]）を応用したコミュニケーションをとることができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、小テストに備えてこれまでの授業内容を振り返る。	60分
		事後学修	これまでの授業内容を復習し、最新の英語ニュース、ビジネス英語（会議2,3）、発音記号（子音 [f]～[b]、子音 [t]～[h]）に関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
11	11/27	英語プレゼンテーション （基本編）	英語プレゼンテーションの基本的構造、表現を解説し、動画および音声を扱ったリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語プレゼンテーションを実践することができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、英語プレゼンテーションに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
12	12/4	英語プレゼンテーション （応用編）	英語プレゼンテーションの基本的構造、表現を解説し、自ら書いた原稿に基づいた英語プレゼンテーションを実践し、リスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語プレゼンテーションを実践することができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、英語プレゼンテーションに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	TOEICとは何か	TOEICの形式、内容、傾向等を解説し、音声を扱ったTOEIC形式のリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのリスニングセクションに取り組むことができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
14	12/18	TOEIC模擬試験	TOEICの形式、内容、傾向等を解説し、音声を扱ったTOEIC形式のリスニングおよびスピーキングの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのリスニングセクションに取り組むことができる。	
		事前学修	あらかじめ配布される動画や音声を視聴し、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめ、実践的な演習を行う。	120分
15	12/25	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	120分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	水野 隆之	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。予習をしてきていることを前提に授業を進める。毎時間単語テストを実施。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で実施

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST:Level 2	北尾泰幸	朝日出版社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	ガイダンス TOEICとは	ガイダンス 授業の進め方を説明し、TOEICの概要を理解し、今後の英語学習につなげることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、TOEICについての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種資格試験についてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	第一部 月9/21	Unit1 食事に関する表現	Unit1 食事に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト391～420	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、食事に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト1頁、6～9頁の問題を解いてくる。 5頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
3	第一部 月9/28	Unit2 旅行に関する表現	Unit2 旅行に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト421～450	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、旅行に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト10頁、14～17頁の問題を解いてくる。 13頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
4	第一部 月10/5	Unit3 娯楽に関する表現	Unit3 娯楽に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト451～480	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、娯楽に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト18頁、22～25頁の問題を解いてくる。 21頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
5	第一部 月10/12	Unit4 会議に関する表現	Unit4 会議に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト481～510	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、会議に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト26頁、30～33頁の問題を解いてくる。 29頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
6	第一部 月10/19	Unit5 人事に関する表現	Unit5 人事に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト511～540	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、人事に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト34頁、38～41頁の問題を解いてくる。 37頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	Unit6 買い物に関する表現	Unit6 買い物に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト541～570	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、買い物に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト42頁、46～49頁の問題を解いてくる。 45頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
8	第一部 月11/9	Unit7 広告に関する表現	Unit7 広告に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト571～600	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、広告に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト50頁、54～57頁の問題を解いてくる。 53頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
9	第一部 月11/16	Unit8 日常生活に関する表現	Unit8 日常生活に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト601～630	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、日常生活に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト58頁、62～65頁の問題を解いてくる。 61頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
10	第一部 月11/23	Unit9 オフィスに関する表現	Unit9 オフィスに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト631～660	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、オフィスに関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト66頁、70～73頁の問題を解いてくる。 69頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
11	第一部 月11/30	Unit10 ビジネスに関する表現	Unit10 ビジネスに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト661～690	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、ビジネスに関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト74頁、78～81頁の問題を解いてくる。 77頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
12	第一部 月12/7	Unit11 交通に関する表現	Unit11 交通に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト691～720	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、交通に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト82頁、86～89頁の問題を解いてくる。 85頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	Unit12 会計に関する表現	Unit12 会計に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト721～750	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、会計に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト90頁、94～97頁の問題を解いてくる。 93頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
14	第一部 月12/21	Unit13 メディアに関する表現	Unit13 メディアに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト751～780	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、メディアに関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト98頁、102～106頁の問題を解いてくる。 101頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
15	第一部 月12/18	授業内試験及び後期学習内 容の振り返り	授業内試験を通して後期学習内容の振り返り、TOEICのスコアアップに結びつけることができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、食事に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	水野 隆之	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。予習をしてきていることを前提に授業を進める。毎時間単語テストを実施。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。							2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。							2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で実施

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST:Level 2	北尾泰幸	朝日出版社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	ガイダンス TOEICとは	ガイダンス 授業の進め方を説明し、TOEICの概要を理解し、今後の英語学習につなげることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、TOEICについての理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種資格試験についてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	第一部 月9/21	Unit1 食事に関する表現	Unit1 食事に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト391～420	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、食事に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト1頁、6～9頁の問題を解いてくる。 5頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
3	第一部 月9/28	Unit2 旅行に関する表現	Unit2 旅行に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト421～450	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、旅行に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト10頁、14～17頁の問題を解いてくる。 13頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
4	第一部 月10/5	Unit3 娯楽に関する表現	Unit3 娯楽に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト451～480	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、娯楽に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト18頁、22～25頁の問題を解いてくる。 21頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
5	第一部 月10/12	Unit4 会議に関する表現	Unit4 会議に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト481～510	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、会議に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト26頁、30～33頁の問題を解いてくる。 29頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
6	第一部 月10/19	Unit5 人事に関する表現	Unit5 人事に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト511～540	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、人事に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト34頁、38～41頁の問題を解いてくる。 37頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	Unit6 買い物に関する表現	Unit6 買い物に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト541～570	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、買い物に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト42頁、46～49頁の問題を解いてくる。 45頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
8	第一部 月11/9	Unit7 広告に関する表現	Unit7 広告に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト571～600	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、広告に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト50頁、54～57頁の問題を解いてくる。 53頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
9	第一部 月11/16	Unit8 日常生活に関する表現	Unit8 日常生活に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト601～630	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、日常生活に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト58頁、62～65頁の問題を解いてくる。 61頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
10	第一部 月11/23	Unit9 オフィスに関する表現	Unit9 オフィスに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト631～660	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、オフィスに関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト66頁、70～73頁の問題を解いてくる。 69頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
11	第一部 月11/30	Unit10 ビジネスに関する表現	Unit10 ビジネスに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト661～690	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、ビジネスに関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト74頁、78～81頁の問題を解いてくる。 77頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
12	第一部 月12/7	Unit11 交通に関する表現	Unit11 交通に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト691～720	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、交通に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト82頁、86～89頁の問題を解いてくる。 85頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	Unit12 会計に関する表現	Unit12 会計に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト721～750	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、会計に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト90頁、94～97頁の問題を解いてくる。 93頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
14	第一部 月12/21	Unit13 メディアに関する表現	Unit13 メディアに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。 単語テスト751～780	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、メディアに関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキスト98頁、102～106頁の問題を解いてくる。 101頁の解説を熟読する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。	30分
15	第一部 月12/18	授業内試験及び後期学習内 容の振り返り	授業内試験を通して後期学習内容の振り返り、TOEICのスコアアップに結びつけることができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、食事に関する表現の理解を深め、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの総復習。	30分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	村松 直子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。毎時間、小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業時に、授業テーマ、学習項目に関する英作文に取り組み、発表をしたり、読解問題の解法をクラスで発表したりするTask-based learningにも取り組む。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末試験の内容について、期末試験実施日の授業時間にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The TOEIC Test Trainer Target 650 Revised Edition.	M.Yamaguchi et al.	Cengage Learning	2016		
備考					

【オフィスアワー】
事前（授業後等）に対面でアポイントメントを入れてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
1	9月18日	オリエンテーション、教科書の導入、練習問題の答え合わせと解説		オリエンテーション コースの到達目標、授業の進め方、日常生活やビジネスにおいて必要とされる英語コミュニケーション能力、TOEIC等の各種英語資格試験の概要について学ぶ。 英語コミュニケーション能力、リスニング・ストラテジー、スピーキング・ストラテジーを習得する方法について理解する。	
		この回の到達目標	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質や価値観を尊重しながら、積極的に英語でコミュニケーションをする基礎力を身につけるため、実際の日常生活やビジネスにおけるコミュニケーションに必要な語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルについて、理解を深め、授業に向けて、また授業時間外に自習により英語力を高める方法について学ぶ。		
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）		
		事後学修	TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの各種検定試験についてWebサイト等で調べてみる。（30分）		
2	9月25日	提案		Unit1 「提案」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 様々な時制の文の意味を素早く理解し、使えるようにする。	
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。		
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit1の問題を解いてくる。（40分）		
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）		
3	10月2日	確認		Unit2 「確認」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 様々な時制の文の意味を素早く理解し、使えるようにする。	
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。		
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit2の問題を解いてくる。（40分）		
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）		
4	10月9日	会話を始める		Unit3 会話を始めるための頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 助動詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。	
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。		
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit3の問題を解いてくる。（40分）		
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）		
5	10月16日	ニュース報道		Unit4 ニュース報道に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 フレーズ・リーディングが素早く正確に行えるようにする。	
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。		
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit4の問題を解いてくる。（40分）		
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）		
6	10月23日	義務		Unit5 「義務」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 代名詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。	
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。		
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit5の問題を解いてくる。（40分）		
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月30日	理由		Unit6 「理由」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 前置詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit6の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
8	11月6日	復習テスト、振り返り		復習テストと振り返り リスニング・ストラテジーの確認
		この回の到達目標	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質や価値観を尊重しながら、積極的に英語でコミュニケーションをする基礎力を身につけるため、第13回までの授業で学んだことを習得し、期末試験で実力を発揮する。	
		事前学修	Unit1-6の学習内容について確認、復習し、期末試験で実力を発揮できるようにする。(60分)	60分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
9	11月13日	苦情		Unit7 「苦情」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 接続詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit7の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
10	11月20日	苦情		Unit8 交通情報に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 スキミングを素早く正確に行えるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit8の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
11	11月27日	Yes/Noで答える質問		Unit9 Yes/Noで答える質問に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 関係詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit9の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
12	12月4日	意見		Unit10 「意見」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 分詞構文を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit10の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12月11日	意見の一致・不一致		Unit11 「意見の一致・不一致」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。仮定法を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit11の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
14	12月18日	期末試験および振り返り		期末試験および振り返り
		この回の到達目標	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質や価値観を尊重しながら、積極的に英語でコミュニケーションをする基礎力を身につけるため、第13回までの授業で学んだことを習得し、期末試験で実力を発揮する。	
		事前学修	Unit7-11の学習内容について確認、復習し、期末試験で実力を発揮できるようにする。(60分)	60分
		事後学修	期末試験で間違えた箇所の内容を確認し、問題を解き直す。教科書の該当箇所を復習する。頻出単語、頻出フレーズを暗記する。(30分)	30分
15	12月25日	会議		Unit12 会議に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。スキミングを素早く正確に行えるようにする。
		この回の到達目標	実際の日常生活やビジネスにおいて授業テーマに関して用いられる語彙、英語表現、構文、ポライトネス等の知識とスキルを高める。	
		事前学修	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit12の問題を解いてくる。(40分)	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。頻出単語、頻出フレーズを暗記する。これまでの学習内容を確認する。(40分)	40分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	茂木 健幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
授業は教科書に沿って行なわれます。毎回の授業で、ペアワーク、グループワークによる英会話を行い、それぞれのユニットのテーマについて何度か話し合います。また、文法問題や聞き取りの問題なども行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で、ペアワーク、グループワークによる英会話。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削・返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
New Time to Communicate	エリック・ブレイ	南雲堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	ガイダンス 夏休みの紹介	授業のテーマ、評価の仕方などの説明。 夏休みを紹介する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の夏休みについて伝えることができる、また相手の話を理解することができる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	自己紹介で上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
2	第一部月 4/13	Unit 8 Talking About the Vacation	長期休暇をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、休みをどうすごしたかについて英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
3	第一部月 4/20	Unit 8 Talking About the Vacation (2)	長期休暇をテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、休みをどうすごしたかについて英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解できる。	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
4	第一部月 4/27	Unit 9 Talking About Going Out on the Town	予定の確認、待ち合わせをテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、予定の確認、待ち合わせを英語で行うことができる、また相手の言ったことを理解できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
5	第一部月 5/4	Unit 9 Talking About Going Out on the Town (2)	予定の確認、待ち合わせをテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、予定の確認、待ち合わせを英語で行うことができる、また相手の言ったことを理解できる	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
6	第一部月 5/11	Unit 10 Talking About Foods and Recipes	食べ物やレシピをテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の興味のある食べ物やレシピを英語で説明できる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	Unit 10 Talking About Foods and Recipes (2)	食べ物やレシピをテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分の興味のある食べ物やレシピを英語で説明できる、また相手の言ったことを理解し、質問できる	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
8	第一部月 5/25	Unit 11 Talking About Travel	旅行をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分のした旅行を英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
9	第一部月 6/1	Unit 11 Talking About Travel (2)	旅行をテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分のした旅行を英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
10	第一部月 6/8	Unit 12 Talking About Hometowns	自分の故郷をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分の故郷を英語で説明することができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
11	第一部月 6/15	Unit 12 Talking About Hometowns (2)	自分のホームタウンをテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、自分の故郷を英語で説明することができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
12	第一部月 6/22	Unit 13 Talking About Your Opinions	意見の主張をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、好き、嫌いなど自分の意見が英語で主張できる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	Unit 13 Talking About Your Opinions(2)	意見の主張をテーマとしたペアワーク、レポート作成	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、好き、嫌いなど自分の意見が英語で主張できる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、レポート作成の準備をしておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
14	第一部月 7/6	Unit 14 Talking About Future Plans	未来の予定をテーマとした問題の読解、ペアワーク	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、自分の予定を英語で伝えることができる、また相手の言ったことを理解し、質問できる。	
		事前学修	教科書を読み、Model Conversationなどで分からない単語、表現などを調べておく。	30分
		事後学修	ペアワークなどで上手く表現できなかったことを表現できるようにする。	30分
15	第一部月 7/13	授業内試験と解説	後期授業内容の確認とまとめ	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、後期行った授業内容を問題に応じて使用できる。	
		事前学修	後期授業内容の確認	30分
		事後学修	問題の復習	30分

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
公共政策学科一年生番号指定クラス、原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式、小テストを毎回実施し、返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	TOEICリスニング問題の英文を聞き取り、聞き取った内容を発表する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Practical Situations for The TOEIC Test Listening	吉田佳代 他	(株) 成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:30-50 二号館二階講師室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	後期の授業の進め方、前期学習内容の復習など。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期学習内容を理解し、後期の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期の学習内容を整理し、確認する。	30分
		事後学修	後期の学習内容を立てる。	30分
2	9/22	Unit 11 Restaurant	Restaurantに関連する会話表現を学び、Restaurantに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Restaurantに関連する会話表現を覚え、Restaurantに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 11のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
3	9/29	Unit 12 Art & Entertainment	Art & Entertainmentに関連する会話表現を学び、Art & Entertainmentに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Art & Entertainmentに関連する会話表現を覚え、Art & Entertainmentに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 12のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
4	10/6	Unit 13 Sports Events	Sports Eventsに関連する会話を学び、Sports Eventsに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Sports Eventsに関連する会話表現を覚え、Sports Eventsに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 13のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
5	10/13	Unit 14 Having a Party	Having Partyに関連する会話表現を学び、Having Partyに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Having Partyに関連する会話表現を覚え、Having Partyに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 14のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
6	10/20	Unit 15 Health	Healthに関連する会話表現を学び、Healthに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Healthに関連する会話表現を覚え、Healthに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 15のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Review Test 3	Unit 11-15で学んだリスニング内容の問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11-15で会話表現を覚え、Unit 11-15のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 11-15で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Unit 11-15のScriptの音読練習をする。	30分
8	11/10	Unit 16 Christmas	Christmasに関連する会話表現を学び、Christmasに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Christmasに関連する会話表現を覚え、Christmasに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 16のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
9	11/17	Unit 17 Cleanup	Cleanupに関連する会話を表現学び、Cleanupに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Cleanupに関連する会話表現を覚え、Cleanupに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 17のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
10	11/24	Unit 18 Our Traditions & Customs	Our Traditions & Customsに関連する会話表現を学び、Our Traditions & Customsに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Our Traditions & Customsに関連する会話表現を覚え、Our Traditions & Customsに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 18のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
11	12/1	Unit 19 Examinations	Examinationsに関連する会話表現を学び、Examinationsに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Examinationsに関連する会話表現を覚え、Examinationsに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 19のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
12	12/8	Unit 20 Housing	Housingに関連する会話表現を学び、Housingに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Housingに関連する会話表現を覚え、Housingに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 20のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Review Test 4	Unit 16-20で学んだリスニング内容の問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 16-20で学んだ会話表現を覚え、Unit 16-20のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 11-15で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Unit 11-15のScriptの音読練習をする。	30分
14	12/22	後期授業のまとめ①	後期の学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11-20の会話表現を覚え、Unit 11-20のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 11-20で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	1/12	後期授業のまとめ②	後期の学習内容を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11-20の会話表現を覚え、Unit 11-20のリスニング問題を理解することができる。	
		事前学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
		事後学修	後期の学習内容を再確認する。	30分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科一年生番号指定クラス、原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式、小テストを毎回実施し、返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	TOEICリスニング問題の英文を聞き取り、聞き取った内容を発表する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Practical Situations for The TOEIC Test Listening	吉田佳代 他	(株) 成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12:30-50 本館二階講師室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	後期の授業の進め方、前期学習内容の復習など。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期学習内容を理解し、後期の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期の学習内容を整理し、確認する。	30分
		事後学修	後期の学習内容を立てる。	30分
2	9/21	Unit 11 Restaurant	Restaurantに関連する会話表現を学び、Restaurantに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Restaurantに関連する会話表現を覚え、Restaurantに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 11のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
3	9/28	Unit 12 Art & Entertainment	Art & Entertainmentに関連する会話表現を学び、Art & Entertainmentに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Art & Entertainmentに関連する会話表現を覚え、Art & Entertainmentに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 12のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
4	10/5	Unit 13 Sports Events	Sports Eventsに関連する会話を学び、Sports Eventsに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Sports Eventsに関連する会話表現を覚え、Sports Eventsに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 13のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
5	10/12	Unit 14 Having a Party	Having Partyに関連する会話表現を学び、Having Partyに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Having Partyに関連する会話表現を覚え、Having Partyに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 14のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
6	10/19	Unit 15 Health	Healthに関連する会話表現を学び、Healthに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Healthに関連する会話表現を覚え、Healthに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 15のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Review Test 3	Unit 11-15で学んだリスニング内容の問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11-15で会話表現を覚え、Unit 11-15のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 11-15で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Unit 11-15のScriptの音読練習をする。	30分
8	11/9	Unit 16 Christmas	Christmasに関連する会話表現を学び、Christmasに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Christmasに関連する会話表現を覚え、Christmasに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 16のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
9	11/16	Unit 17 Cleanup	Cleanupに関連する会話を表現学び、Cleanupに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Cleanupに関連する会話表現を覚え、Cleanupに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 17のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
10	11/23	Unit 18 Our Traditions & Customs	Our Traditions & Customsに関連する会話表現を学び、Our Traditions & Customsに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Our Traditions & Customsに関連する会話表現を覚え、Our Traditions & Customsに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 18のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
11	11/30	Unit 19 Examinations	Examinationsに関連する会話表現を学び、Examinationsに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Examinationsに関連する会話表現を覚え、Examinationsに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 19のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分
12	12/7	Unit 20 Housing	Housingに関連する会話表現を学び、Housingに関するTOEICリスニング問題に解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Housingに関連する会話表現を覚え、Housingに関するTOEICリスニング問題の形式や傾向を把握することができる。	
		事前学修	Unit 20のPointの表現を音読し、Warm-up Exerciseに解答する。	15分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Scriptの英文の音読練習をする。頻出単語を覚える。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Review Test 4	Unit 16-20で学んだリスニング内容の問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 16-20で学んだ会話表現を覚え、Unit 16-20のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 11-15で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	間違えた問題に再度取り組み、Unit 11-15のScriptの音読練習をする。	30分
14	12/21	後期授業のまとめ①	後期の学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11-20の会話表現を覚え、Unit 11-20のリスニング問題に正しく解答することができる。	
		事前学修	Unit 11-20で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	1/18	後期授業のまとめ②	後期の学習内容を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11-20の会話表現を覚え、Unit 11-20のリスニング問題を理解することができる。	
		事前学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
		事後学修	後期の学習内容を再確認する。	30分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	森下 正昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークやペアワークによる演習を中心とする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
2つのプレゼンテーション課題のフィードバックを、口頭で実施するとともに、後日評価シート（ルーブリック）に記入し配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Dynamic Presentations	Mark Powell	Cambridge University Press	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10 - 13:00。詳細は初回授業にて連絡。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Orientation & Team Building Activity	シラバス内容を説明し、グループ形成とチームビルディングアクティビティを実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業の目標やその達成方法を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。目標・ふりかえりシートの「前期の目標」と「説明」の部分を記入する。	30分
2	9/21	Presentation Assignment Guidance and Brainstorming	授業内で実施される2つのプレゼンテーション課題の内容・評価基準など詳細の説明と、プレゼンテーションのテーマを決めるうえで便利なブレインストーミングという手法解説と実践。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2つのプレゼンテーション課題を理解し、準備を始めることができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「後期の目標」「説明」の部分を記入する。	30分
		事後学修	配布物を読み返し、2つのプレゼンテーション課題について復習する。疑問点がある場合は、次週に教員に質問できるように準備をする。	30分
3	9/28	3A Voice power	話し方の重要性についてグループで意見交換する。さらに、日常会話とプレゼンテーションの話し方の違いについて、教科書の実例を聴いて意見交換し、その特徴を整理する。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常会話とプレゼンテーションでの話し方の違いを聴き分け、特徴を意識して話すことができる。	
		事前学修	3Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
4	10/5	3B Voice power	プレゼンテーションにおける間の取り方、正しいイントネーション、語句の強調の仕方を、教科書の実例を聴いて考察し、整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プレゼンテーションにおいて、どのように間を取り、どのようなイントネーションで、どのような語句を強調すれば良いかを理解し、実践することができる。	
		事前学修	3Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
5	10/12	6A Body language	Body languageの重要性についてグループで意見交換する。さらに、文化・性別による違いがあることを教科書の実例により考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、Body languageの文化的な違いについて聴きとり、到達目標②に関連して、コミュニケーションにおけるBody languageの重要性を認識し、自らのプレゼンテーションで実践することができる。	
		事前学修	6Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
6	10/19	6B Body language Your Individual Presentation Theme & Basic Delivery Techniques	聴き手の集中力を散らしたり、聴き手に誤解を与えてしまう可能性があるBody languageについて、教科書の実例をもとに意見交換し考察する。また、グループの中で、Individual Presentationのテーマについて発表し、意見交換をする。また、発表を行うにあたっての基本的な注意事項（声の大きさ、明確な発音、姿勢）を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、聴き手の集中力を散らしたり、聞き手に誤解を与えてしまう可能性があるBody languageを認識し、それらを注意深く使う・避けることができる。Individual Presentationのテーマについては、到達目標①に関連して、他のグループメンバーの発表や質問・意見を聴きとり理解することができ、到達目標②に関連して、自らの発表内容や質問・意見を平易な英語で明確に他のグループメンバーに伝えることができる。	
		事前学修	6Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。自らのIndividual Presentationのテーマを決定し、それに関する1分間の英語での発表を準備する。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。グループメンバーからの質問・意見を、Individual Presentationの内容に反映させる。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Individual Presentation (個人プレゼンテーション) 大会	グループの中で、Individual Presentationを実施し、質疑応答をする。終了後、グループごとにふりかえりをして、その内容をクラス全体に発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループメンバーのIndividual Presentationを聴きとり、その内容を理解し、適切な質問・コメントをすることができる。	
		事前学修	Individual Presentationの原稿を仕上げ、繰り返し読んで発表の練習をする。	40分
		事後学修	発表をふりかえり、Individual Presentation Report (発表原稿・質疑応答・反省)を仕上げる。目標・ふりかえりシートの「中間ふりかえり」の部分を記入する。	20分
8	11/9	8A Impact techniques	Repetition (繰り返し)の手法の実例と効果を、教科書の問題をグループで解きながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Repetition (繰り返し)の手法を利用して文章を言い換えることができる。	
		事前学修	8Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
9	11/16	1 Minute Group Presentation 8B Impact techniques	グループごとに、Group Presentationのテーマを1分間で発表し、教員・友人からの質問や意見を求める。また、Rhetorical questions (修辞疑問)の手法の実例と効果を、教科書の問題をグループで解きながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Group Presentationのテーマについて、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとることができる。また、Rhetorical questions (修辞疑問)の手法を利用して文章を言い換えることができる。	
		事前学修	Group Presentationのテーマについて1分間の発表を準備する。さらに、8Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	1分間の発表で受けた質問やコメントをどのようにGroup Presentationに反映できるか考察する。また、解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
10	11/23	8C Impact techniques	Contrasts and opposites (対比と反意語)の手法の実例と効果を、教科書の問題をグループで解きながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Contrasts and opposites (対比と反意語)の手法を利用して文章を言い換えることができる。	
		事前学修	8Cを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
11	11/30	3 Minute Presentation & Feedback	グループごとに、Group Presentationの概要を3分間で発表し、教員・友人から質問や意見を求める。Group Presentation発表日・発表順を決定する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Group Presentationの概要について、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとることができる。	
		事前学修	Group Presentationの概要について3分間の発表と3枚のスライドを準備する。	40分
		事後学修	3分間の発表で受けた質問やコメントをどのようにGroup Presentationに反映できるか考察する。	20分
12	12/7	8D Impact techniques	Power language (パワーランゲージ)の手法の実例と効果を、教科書の問題をグループで解きながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Power language (パワーランゲージ)の手法を利用して文章を言い換えることができる。	
		事前学修	8Dを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Group Presentation Day 1 & Feedback	グループごとの発表（本番）、第1日目。その後、教員から口頭でコメント。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとり、適切な質疑応答やコメントをすることができる。	
		事前学修	Group Presentationの原稿・スライドを仕上げ、繰り返し読んで発表の練習をする。（全グループ）	50分
		事後学修	発表をふりかえり、Group Presentation Report（質疑応答・反省）の内容について意見交換する。（発表したグループのみ）	10分
14	12/21	Group Presentation Day 2 & Feedback	グループごとの発表（本番）、第2日目。その後、教員から口頭でコメント。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとり、適切な質疑応答やコメントをすることができる。	
		事前学修	Group Presentationの原稿・スライドを必要に応じて手直しし、繰り返し読んで発表の練習をする。（発表するグループのみ）	50分
		事後学修	発表をふりかえり、Group Presentation Report（質疑応答・反省）の内容について意見交換する。（発表したグループのみ）	10分
15	1/18	Group Presentation講評と後期のふりかえり	Group Presentationの評価シート（グループごと）を配布し、評価基準の説明と講評を行う。また、グループごとに後期をふりかえって話し合い、その結果をクラスに発表してシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の個人ワークとグループワークをふりかえり、どの程度目標に到達できたか、到達するために今後どのように取り組めばいいかを述べることができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「期末ふりかえり」「今後の取り組み」記入する。（全個人）	30分
		事後学修	評価シートと教員からの講評の内容を省みて、Group Presentation Report（質疑応答・反省）を完成させる。（全グループ）	30分

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	森下 正昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークやペアワークによる演習を中心とする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
2つのプレゼンテーション課題のフィードバックを、口頭で実施するとともに、後日評価シート（ルーブリック）に記入し配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Dynamic Presentations	Mark Powell	Cambridge University Press	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10 - 13:00。詳細は初回授業にて連絡。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Orientation & Team Building Activity	シラバス内容を説明し、グループ形成とチームビルディングアクティビティを実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業の目標やその達成方法を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。目標・ふりかえりシートの「前期の目標」と「説明」の部分を記入する。	30分
2	9/21	Presentation Assignment Guidance and Brainstorming	授業内で実施される2つのプレゼンテーション課題の内容・評価基準など詳細の説明と、プレゼンテーションのテーマを決めるうえで便利なブレインストーミングという手法解説と実践。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2つのプレゼンテーション課題を理解し、準備を始めることができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「後期の目標」「説明」の部分を記入する。	30分
		事後学修	配布物を読み返し、2つのプレゼンテーション課題について復習する。疑問点がある場合は、次週に教員に質問できるように準備をする。	30分
3	9/28	3A Voice power	話し方の重要性についてグループで意見交換する。さらに、日常会話とプレゼンテーションの話し方の違いについて、教科書の実例を聴いて意見交換し、その特徴を整理する。グループで問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常会話とプレゼンテーションでの話し方の違いを聴き分け、特徴を意識して話すことができる。	
		事前学修	3Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
4	10/5	3B Voice power	プレゼンテーションにおける間の取り方、正しいイントネーション、語句の強調の仕方を、教科書の実例を聴いて考察し、整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プレゼンテーションにおいて、どのように間を取り、どのようなイントネーションで、どのような語句を強調すれば良いかを理解し、実践することができる。	
		事前学修	3Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
5	10/12	6A Body language	Body languageの重要性についてグループで意見交換する。さらに、文化・性別による違いがあることを教科書の実例により考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、Body languageの文化的な違いについて聴きとり、到達目標②に関連して、コミュニケーションにおけるBody languageの重要性を認識し、自らのプレゼンテーションで実践することができる。	
		事前学修	6Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
6	10/19	6B Body language Your Individual Presentation Theme & Basic Delivery Techniques	聴き手の集中力を散らしたり、聴き手に誤解を与えてしまう可能性があるBody languageについて、教科書の実例をもとに意見交換し考察する。また、グループの中で、Individual Presentationのテーマについて発表し、意見交換をする。また、発表を行うにあたっての基本的な注意事項（声の大きさ、明確な発音、姿勢）を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、聴き手の集中力を散らしたり、聞き手に誤解を与えてしまう可能性があるBody languageを認識し、それらを注意深く使う・避けることができる。Individual Presentationのテーマについては、到達目標①に関連して、他のグループメンバーの発表や質問・意見を聴きとり理解することができ、到達目標②に関連して、自らの発表内容や質問・意見を平易な英語で明確に他のグループメンバーに伝えることができる。	
		事前学修	6Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。自らのIndividual Presentationのテーマを決定し、それに関する1分間の英語での発表を準備する。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。グループメンバーからの質問・意見を、Individual Presentationの内容に反映させる。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Individual Presentation (個人プレゼンテーション) 大会	グループの中で、Individual Presentationを実施し、質疑応答をする。終了後、グループごとにふりかえりをして、その内容をクラス全体に発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループメンバーのIndividual Presentationを聴きとり、その内容を理解し、適切な質問・コメントをすることができる。	
		事前学修	Individual Presentationの原稿を仕上げ、繰り返し読んで発表の練習をする。	40分
		事後学修	発表をふりかえり、Individual Presentation Report (発表原稿・質疑応答・反省)を仕上げる。目標・ふりかえりシートの「中間ふりかえり」の部分を記入する。	20分
8	11/9	8A Impact techniques	Repetition (繰り返し)の手法の実例と効果を、教科書の問題をグループで解きながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Repetition (繰り返し)の手法を利用して文章を言い換えることができる。	
		事前学修	8Aを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
9	11/16	1 Minute Group Presentation 8B Impact techniques	グループごとに、Group Presentationのテーマを1分間で発表し、教員・友人からの質問や意見を求める。また、Rhetorical questions (修辞疑問)の手法の実例と効果を、教科書の問題をグループで解きながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Group Presentationのテーマについて、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとることができる。また、Rhetorical questions (修辞疑問)の手法を利用して文章を言い換えることができる。	
		事前学修	Group Presentationのテーマについて1分間の発表を準備する。さらに、8Bを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	1分間の発表で受けた質問やコメントをどのようにGroup Presentationに反映できるか考察する。また、解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
10	11/23	8C Impact techniques	Contrasts and opposites (対比と反意語)の手法の実例と効果を、教科書の問題をグループで解きながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Contrasts and opposites (対比と反意語)の手法を利用して文章を言い換えることができる。	
		事前学修	8Cを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分
11	11/30	3 Minute Presentation & Feedback	グループごとに、Group Presentationの概要を3分間で発表し、教員・友人から質問や意見を求める。Group Presentation発表日・発表順を決定する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Group Presentationの概要について、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとることができる。	
		事前学修	Group Presentationの概要について3分間の発表と3枚のスライドを準備する。	40分
		事後学修	3分間の発表で受けた質問やコメントをどのようにGroup Presentationに反映できるか考察する。	20分
12	12/7	8D Impact techniques	Power language (パワーランゲージ)の手法の実例と効果を、教科書の問題をグループで解きながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Power language (パワーランゲージ)の手法を利用して文章を言い換えることができる。	
		事前学修	8Dを読み、わからない単語の意味を調べ、理解できない文章を把握する。問題を解く必要はない。	40分
		事後学修	解答を間違った問題や、理解できなかった・誤って理解した文章を復習する。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Group Presentation Day 1 & Feedback	グループごとの発表（本番）、第1日目。その後、教員から口頭でコメント。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとり、適切な質疑応答やコメントをすることができる。	
		事前学修	Group Presentationの原稿・スライドを仕上げ、繰り返し読んで発表の練習をする。（全グループ）	50分
		事後学修	発表をふりかえり、Group Presentation Report（質疑応答・反省）の内容について意見交換する。（発表したグループのみ）	10分
14	12/21	Group Presentation Day 2 & Feedback	グループごとの発表（本番）、第2日目。その後、教員から口頭でコメント。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、簡潔で明確な英語で発表することができ、他のグループの発表を正確に聴きとり、適切な質疑応答やコメントをすることができる。	
		事前学修	Group Presentationの原稿・スライドを必要に応じて手直しし、繰り返し読んで発表の練習をする。（発表するグループのみ）	50分
		事後学修	発表をふりかえり、Group Presentation Report（質疑応答・反省）の内容について意見交換する。（発表したグループのみ）	10分
15	1/18	Group Presentation講評と後期のふりかえり	Group Presentationの評価シート（グループごと）を配布し、評価基準の説明と講評を行う。また、グループごとに後期をふりかえって話し合い、その結果をクラスに発表してシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の個人ワークとグループワークをふりかえり、どの程度目標に到達できたか、到達するために今後どのように取り組めばいいかを述べることができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「期末ふりかえり」「今後の取り組み」記入する。（全個人）	30分
		事後学修	評価シートと教員からの講評の内容を省みて、Group Presentation Report（質疑応答・反省）を完成させる。（全グループ）	30分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	山上 登美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則として英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。CDを聴き、練習問題を解くことによって発音の方法を習得します。予習を前提とし、個別タスクやペアワークによって授業を進めます。問題の解答に解説を加え、英文の内容理解度を確認します。本授業の事前・事後学習は合わせて1時間の学習を目安とします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、レポート、授業参加度などから総合的に判断します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CDパーフェクトリスニング改訂版ーTOEICテスト対応練習問題付ー	早坂高則・松井秀親	朝日出版社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 月9/14	ガイダンスと学習内容の説明	学習内容と方法を説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語を聴き取る力と話す力を養うのに必要な学習内容を知ることができる。
		事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておくこと。30分
		事後学修	今後の学習計画を立てること。30分
2	第一部 月9/21	第2章	聞こえにくくなる音に関する問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、聞こえにくくなる音の特徴を理解し、正しく発音できる。
		事前学修	教科書p. 37-40の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。30分
3	第一部 月9/28	第2章	アクセントのない音節の母音に関する問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アクセントのない音節の母音の特徴を理解し、正しく発音できる。
		事前学修	教科書p. 41-44の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。30分
4	第一部 月10/5	第3章	動詞の現在形と過去形の発音に関する問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の現在形と過去形の発音の特徴を理解し、正しく発音できる。
		事前学修	教科書p. 45-48の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。30分
5	第一部 月10/12	第3章	つながる音に関する問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、つながる音の特徴を理解し、正しく発音できる。
		事前学修	教科書p. 49-52の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。30分
6	第一部 月10/19	第4章	変身する音に関する問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、変身する音の特徴を理解し、正しく発音できる。
		事前学修	教科書p. 53-57の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	第4章	明るい[1]と暗い[1]に関する問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明るい[1]と暗い[1]の違いを理解し、正しく発音できる。	
		事前学修	教科書p. 58-61の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
8	第一部 月11/9	第4章	たたき音に関する問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、たたき音の特徴を理解し、正しく発音できる。	
		事前学修	教科書p. 62-65の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
9	第一部 月11/16	第4章	添加音に関する問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、添加音の特徴を理解し、正しく発音できる。	
		事前学修	教科書p. 66-69の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
10	第一部 月11/23	第4章	その他の慣用的な音変化に関する問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、その他の慣用的な音変化の特徴を理解し、正しく発音できる。	
		事前学修	教科書p. 70-72の英文を理解し、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
11	第一部 月11/30	課題の提示と説明	レポートの課題を示し、要点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、発音の要点を確認できる。	
		事前学修	学習内容を総復習し、要点を確認しておくこと。	30分
		事後学修	レポートを書いてみること。	30分
12	第一部 月12/7	小テストの実施と解説	会話文を発音し、英語のコミュニケーション力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で意思疎通するために必要なコミュニケーション力を活用できる。	
		事前学修	学習範囲の会話文について、アクセントの位置やイントネーションを確認しておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	授業内試験と解説	筆記試験を実施し、発音の特徴に関する知識を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験で学習内容の要点を確認できる。	
		事前学修	既習事項を振り返ること。	45分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
14	第一部 月12/21	学習内容の確認	レポートを受け取り、課題の要点について解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、レポートを提出できる。	
		事前学修	レポートの内容が課題に対応しているかを確認しておくこと。	45分
		事後学修	レポートの中で説明不足だった項目について調べなおすこと。	30分
15	第一部 月1/18	学習到達度の確認	試験について講評し、学習内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習到達度を確認することができる。	
		事前学修	学習内容に誤解がないか確認しておくこと。	30分
		事後学修	英文の聴き取りと発音のコツを整理すること。	30分

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回単語練習の課題を出し、授業内で単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が全体の1/3以上を超える場合は失格とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教材の音読・問題解答については、グループ内で話し合った上で答え合わせを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施した翌週に、返却・答案訂正・解説・講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『English Quest PLUS (New Edition) アプリで演習 英語の基礎 中級編』	酒井 志延ほか	桐原書店	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜昼休み）に、教室、教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	【ガイダンス】【目標の設定】	グループ分け、授業の進め方、学習範囲、今後の予定、単語テストについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
2	第一部 金9/25	【単語テスト①】 【接触節について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	第一部 金10/2	【単語テスト②】 【接触節について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
4	第一部 金10/9	【単語テスト③】 【関係代名詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
5	第一部 金10/16	【単語テスト④】 【関係代名詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
6	第一部 金10/23	【単語テスト⑤】【単語ノート点検】 【関係副詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けなかった場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	【単語テスト⑥】 【関係副詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
8	第一部 金11/6	【単語テスト⑦】 【比較について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
9	第一部 金11/13	【単語テスト⑧】 【比較について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
10	第一部 金11/20	【単語テスト⑨】 【助動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 12について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
11	第一部 金11/27	【単語テスト⑩】 【単語ノート点検】 【条件節について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 13について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けなかった場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
12	第一部 金12/4	【条件節について】	教科書Unit 13について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	【発音テスト】 【仮定法について】	発音テストは、あらかじめ決めた担当箇所を音読する。 教科書Unit 14について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	発音テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
14	第一部 金12/18	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
		この回の 到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	学習範囲の総復習	60分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	第一部 金12/25	【フィードバック】	授業内試験の答案を返却し、解説、訂正、分からない点の確認を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】		
グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回単語練習の課題を出し、授業内で単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が全体の1/3以上を超える場合は失格とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教材の音読・問題解答については、グループ内で話し合った上で答え合わせを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施した翌週に、返却・答案訂正・解説・講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『English Quest PLUS (New Edition) アプリで演習 英語の基礎 中級編』	酒井 志延ほか	桐原書店	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜昼休み）に、教室、教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	【ガイダンス】【目標の設定】	グループ分け、授業の進め方、学習範囲、今後の予定、単語テストについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
2	第一部 金9/25	【単語テスト①】 【接触節について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	第一部 金10/2	【単語テスト②】 【接触節について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
4	第一部 金10/9	【単語テスト③】 【関係代名詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
5	第一部 金10/16	【単語テスト④】 【関係代名詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
6	第一部 金10/23	【単語テスト⑤】【単語ノート点検】 【関係副詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けなかった場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	【単語テスト⑥】 【関係副詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
8	第一部 金11/6	【単語テスト⑦】 【比較について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
9	第一部 金11/13	【単語テスト⑧】 【比較について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
10	第一部 金11/20	【単語テスト⑨】 【助動詞について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 12について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
11	第一部 金11/27	【単語テスト⑩】 【単語ノート点検】 【条件節について】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 13について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けなかった場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
12	第一部 金12/4	【条件節について】	教科書Unit 13について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	【発音テスト】 【仮定法について】	発音テストは、あらかじめ決めた担当箇所を音読する。 教科書Unit 14について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	発音テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
14	第一部 金12/18	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	学習範囲の総復習	60分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	第一部 金12/25	【フィードバック】	授業内試験の答案を返却し、解説、訂正、分からない点の確認を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわる能力について、教材を理解し応用することができる。	
		事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	アソニー トーベン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。In this course students will engage in group and whole class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students may receive feedback after class or at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Communication Strategies 1	David Paul	Cengage	2008	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 2nd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	Monday, September 14	Beliefs		Unit 7 Beliefs Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to beliefs.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
2	Monday, September 21	Beliefs		Unit 7 Beliefs Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to beliefs.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
3	Monday, September 28	The future		Unit 8 The Future Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the future.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
4	Monday, October 5	The future		Unit 8 The Future Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the future.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
5	Monday, October 12	Transportation		Unit 9 Transportation Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to transportation.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Revision for forthcoming test	30分
6	Monday, October 19	Transportation		Unit 9 Transportation Skills: English listening and discussion skills Short test
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to transportation.	
		事前学修	Read unit Revision for forthcoming test (30min)	30分
		事後学修	Review unit (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	Monday, October 26	Vices		Unit 10 Vices Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to vices.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
8	Monday, November 9	Vices		Unit 10 Vices Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to vices.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
9	Monday, November 16	Marriage		Unit 11 Marriage Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to marriage.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
10	Monday, November 23	Marriage		Unit 11 Marriage Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to marriage.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
11	Monday, November 30	Animals		Unit 12 Animals Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to animals.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Preparation for presentation	60分
12	Monday, December 7	Animals		Unit 12 Animals Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to animals.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Preparation for presentation	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	Monday, December 14	Computers		Unit 13 Computers Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to computers.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Revise all units Preparation for presentation	60分
14	Monday, December 21	Presentation		Presentation Review
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to all areas covered this semester.	
		事前学修	Revise all units	30分
		事後学修	Revise all units Preparation for vocabulary test	90分
15	Monday, January 18	Vocabulary test Review		Review Vocabulary test
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to all areas covered this semester.	
		事前学修	Revise all units	90分
		事後学修	Revise all units	30分

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	アソニー トーベン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。In this course students will engage in group and whole class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students may receive feedback after class or at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Communication Strategies 1	David Paul	Cengage	2008	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 2nd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	Monday, September 14	Beliefs		Unit 7 Beliefs Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to beliefs.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
2	Monday, September 21	Beliefs		Unit 7 Beliefs Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to beliefs.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
3	Monday, September 28	The future		Unit 8 The Future Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the future.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
4	Monday, October 5	The future		Unit 8 The Future Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to the future.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
5	Monday, October 12	Transportation		Unit 9 Transportation Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to transportation.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Revision for forthcoming test	30分
6	Monday, October 19	Transportation		Unit 9 Transportation Skills: English listening and discussion skills Short test
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to transportation.	
		事前学修	Read unit Revision for forthcoming test (30min)	30分
		事後学修	Review unit (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	Monday, October 26	Vices		Unit 10 Vices Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to vices.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
8	Monday, November 9	Vices		Unit 10 Vices Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to vices.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
9	Monday, November 16	Marriage		Unit 11 Marriage Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to marriage.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
10	Monday, November 23	Marriage		Unit 11 Marriage Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to marriage.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
11	Monday, November 30	Animals		Unit 12 Animals Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to animals.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Preparation for presentation	60分
12	Monday, December 7	Animals		Unit 12 Animals Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to animals.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Preparation for presentation	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	Monday, December 14	Computers		Unit 13 Computers Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to computers.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Revise all units Preparation for presentation	60分
14	Monday, December 21	Presentation		Presentation Review
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to all areas covered this semester.	
		事前学修	Revise all units	30分
		事後学修	Revise all units Preparation for vocabulary test	90分
15	Monday, January 18	Vocabulary test Review		Review Vocabulary test
		この回の到達目標	As per SBOS 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss topics related to all areas covered this semester.	
		事前学修	Revise all units	90分
		事後学修	Revise all units	30分

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
The teaching approach will be from an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。								2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。								2			2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CLIL Global Issues	Sasajuma, S. et al	Sanshusha	2014	教科書	必携
備考					

【オフィシアワー】
職員室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	September 14	Re-Introduction: Energy and Ecosystems	Re-introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about energy and ecosystems.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy a new notebook for notes? Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks	60分
2	September 21	Energy & Ecosystems	Using different media, students will further investigate how and why ecosystems are important on our lives.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about ecosystems. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
3	September 28	Endangered Species	Students will discuss why we should be concerned about the number of endangered species in our world.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about issues related to endangered species.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
4	October 5	Endangered Species	Using different media, students will further investigate the topic of endangered species and how important it is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about endangered species.	
		事前学修	They will study the topic and move towards small discussions.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
5	October 12	Human Rights	Students will discuss why we should all think about the topic of human rights.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about human rights.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
6	October 19	Human Rights	Using different media, students will further investigate the topic of human rights.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will consider more questions about human rights.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	October 26	Review Class 3	Making speeches about one of three themes: Energy and Ecosystems, Endangered Species, and Human Rights.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will perform speeches.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of a partners speech. Submit own speech.	120分
8	November 9	International Relationships	Students will discuss why we should all think about the topic of international relationships.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will discuss issues in the world of international relationships.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
9	November 16	International Relationships	Students will discuss the issue of international relationships.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will discuss more about issues in international relations.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
10	November 23	War and Peace	Students will discuss war and peace in our world.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will discuss issues concerning war and peace in the modern world.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
11	November 30	War and Peace	Using different media, students will further investigate the topic of war and peace and its importance in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will discuss more about war and peace in the modern world.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
12	December 7	Global Citizenship	Students will discuss what global citizenship is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will talk about global citizenship.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	December 14	Global Citizenship	Using different media, students will further investigate global citizenship and its importance in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will continue to talk about global citizenship.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Prepare for Review Class 4.	120分
14	December 21	Review Class 4	Making speeches about one of three themes: International Relationships, War & Peace, and Global Citizenship	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will perform speeches.	
		事前学修	Previous class notes.	120分
		事後学修	Write a review of partners speeches.	200分
15	January 15	Unseen Test	The contexts will be from one of the six themes from this semester: Energy and Ecosystems, Endangered Species, Human Rights, International Relations, War & Peace and Global Citizenship.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will respond to news articles and create group discussions. They will plan, perform, reflect, and add to notebooks, in class.	
		事前学修	Previous class notes.	100分
		事後学修	Write a review of the class: your article, and what other students taught you!	100分

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス (上級)】	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
The teaching approach will be from an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CLIL Global Issues	Sasajuma, S. et al	Sanshusha	2014	教科書	必携
備考					

【オフィシアワー】
教師室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	September 14	Re-Introduction: Energy and Ecosystems	Re-introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about energy and ecosystems.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy a new notebook for notes? Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks	60分
2	September 21	Energy & Ecosystems	Using different media, students will further investigate how and why ecosystems are important on our lives.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about ecosystems. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
3	September 28	Endangered Species	Students will discuss why we should be concerned about the number of endangered species in our world.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about issues related to endangered species.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
4	October 5	Endangered Species	Using different media, students will further investigate the topic of endangered species and how important it is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about endangered species.	
		事前学修	They will study the topic and move towards small discussions.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
5	October 12	Human Rights	Students will discuss why we should all think about the topic of human rights.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about human rights.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
6	October 19	Human Rights	Using different media, students will further investigate the topic of human rights.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will consider more questions about human rights.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	October 26	Review Class 3	Making speeches about one of three themes: Energy and Ecosystems, Endangered Species, and Human Rights.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will perform speeches.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of a partners speech. Submit own speech.	120分
8	November 9	International Relationships	Students will discuss why we should all think about the topic of international relationships.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will discuss issues in the world of international relationships.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
9	November 16	International Relationships	Students will discuss the issue of international relationships.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will discuss more about issues in international relations.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
10	November 23	War and Peace	Students will discuss war and peace in our world.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will discuss issues concerning war and peace in the modern world.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
11	November 30	War and Peace	Using different media, students will further investigate the topic of war and peace and its importance in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will discuss more about war and peace in the modern world.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
12	December 7	Global Citizenship	Students will discuss what global citizenship is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students will talk about global citizenship.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	December 14	Global Citizenship	Using different media, students will further investigate global citizenship and its importance in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will continue to talk about global citizenship.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Prepare for Review Class 4.	120分
14	December 21	Review Class 4	Making speeches about one of three themes: International Relationships, War & Peace, and Global Citizenship	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will perform speeches.	
		事前学修	Previous class notes.	120分
		事後学修	Write a review of partners speeches.	200分
15	January 15	Unseen Test	The contexts will be from one of the six themes from this semester: Energy and Ecosystems, Endangered Species, Human Rights, International Relations, War & Peace and Global Citizenship.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will respond to news articles and create group discussions. They will plan, perform, reflect, and add to notebooks, in class.	
		事前学修	Previous class notes.	100分
		事後学修	Write a review of the class: your article, and what other students taught you!	100分

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス(上級)】	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。

【授業方法】
Students will work on English language skills by reading, listening, and discussing information about Japan and its culture. This will help them to share and communicate their knowledge with visitors to Japan.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英吾で読む 外国人がほんとうに知りたい日本の文化と歴史	Thomas Lockley	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	二部 金9/18	Introduction	Introduction Syllabus	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the structure of the course and what students are expected to do.	
		事前学修	Read Syllabus	30分
		事後学修	Prepare 1-2 questions and send an email (optional)	30分
2	二部 金9/25	14. The Meiji Jingu Shrine	A Peaceful Escape in the Middle of Tokyo.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
3	二部 金10/2	15. Ginza	Where the Streets Glisten Silver.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
4	二部 金10/9	16. Roppongi and Shibuya	Districts of Diversity and Fun.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
5	二部 金10/16	17. Kyoto	The Beating Heart of Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
6	二部 金10/23	18. Nara	A Deer Old Capital.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	二部 金10/30	19. Sushi and Tempura	Global Foods of Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
8	二部 金11/6	20. Noodles	Happiness in a Bowl.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
9	二部 金11/13	21. Mount Fuji	A Glorious Goddess of Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
10	二部 金11/20	22. Nagasawa Kanae	Samurai of California.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
11	二部 金11/27	23. Kim Chung-seon	Korean Samurai.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
12	二部 金12/4	24. Wako	Terrors and Darlings of the Seas.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	二部 金12/11	25. The Tensho Embassy	Knights of Japan and Rome.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Oral reading recording	60分
14	二部 金12/18	26. Hasekura Tsunenga	A Bittersweet Roman Journey.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary / Discussion / Listening / Reading	
		事前学修	Pre-read	60分
		事後学修	Example sentences	60分
15	二部 金12/25	Review Class Test	Review Class Final Test	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Evaluate how much we have learned.	
		事前学修	Study	120分
		事後学修	Review	30分

科目名	英語E	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
You will learn about Japanese history and culture in English so than you can explain Japanese history in English to foreign visitors.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for students who have scored highly on the placement test and are invited to join. It will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning (内容言語統合型学習)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						3		3	3		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						3		3	3		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						3		3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表(授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)活発に参加したかを基準に評価する。		15	15								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英吾で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019年	教科書	必携
備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction及び導入講義	Learn about the aims and objectives of the course	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Please read the contents of syllabus.	60分
		事後学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
2	4/14	From Edo to Tokyo - The Making of a Global City	Learn about the history of Tokyo	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the From Edo to Tokyo - The Making of a Global City story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
3	4/21	Kimono: Elegant Symbols of Japan	Learn about the history of kimono	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Kimono: Elegant Symbols of Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
4	4/28	Kabuki - Pop Culture of the Past	Learn about the history of kabuki	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
5	5/5	Sumo - A Weighty Sport	Learn about the history of sumo	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Kabuki - Pop Culture of the Past story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
6	5/12	Shinkansen - The Bullet Train	Learn about the history of the bullet train	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Shinkansen - The Bullet Train story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Manga - Global storytelling from Japan	Learn about the history of manga	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Manga - Global storytelling from Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
8	5/26	Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan	Learn about the history of Japanese arts and crafts	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
9	6/2	Cinema - Moving Art	Learn about the history of Japanese cinema	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Cinema - Moving Art story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
10	6/9	How to do a presentation	Learn about making presentations in English	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about effective presentation making in English.	
		事前学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
		事後学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
11	6/16	Presentation Making	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
12	6/23	Presentation Making	Learn and practice presentations skills	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Presentation Making	Learn and practice presentations skills	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	7/7	Assessment Presentations	Assessment lesson	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can perform assessment presentations	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	7/14	Assessment Presentations	Assessment lesson	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can perform assessment presentations	
		事前学修	Revise	60分
		事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	英語F	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
You will learn about some powerful and inspirational women in Japanese history so than you can explain Japanese history in English to foreign visitors.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for students who have scored highly on the placement test and are invited to join. It will be in English only and aimed at improving speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						3		3	3		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						3		3	3		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						3		3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表(授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)活発に参加したかを基準に評価する。		15	15								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー・トーマス	東京書籍	2019年	教科書	必携
備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Samurai - Legendary Warriors of Japan	Learn about the history of samurai	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Samurai - Legendary Warriors of Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Please read the contents of syllabus.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
2	4/14	Korean Samurai: Fighting for Peace	Learn about the history of a renegade Japanese samurai in Korea	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean Samurai: Fighting for Peace story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
3	4/21	Samurai of California - Nagasawa Kanaye	Learn about Nagasawa Kanae, and wine in California	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Samurai of California - Nagasawa Kanaye story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
4	4/28	Wako - Terrors and Darlings of the Seas	Learn about the history of pirates in Japan and East Asia	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Wako - Terrors and Darlings of the Seas story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
5	5/5	Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy	Learn about the Tensho Embassy to Europe	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
6	5/12	A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga	Learn about Hasekura Tsunenaga's journey to Rome	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan	Learn about Yasuke	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
8	5/26	An English Japanese Lord - William Adams	Learn about William Adams	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about An English Japanese Lord - William Adams story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
9	6/2	Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand	Learn about Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
10	6/9	A Chinese Revolution Built in Japan	Learn about Sun Yat-sen and his time in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Chinese Revolution Built in Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
11	6/16	Presentation Making	Learn about presenting in English - using gestures.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
12	6/23	Presentation Making	Learn about presenting in English - structure and transitions.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Presentation Making	Learn about presenting in English.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	7/7	Assessment Presentations	Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	7/14	Assessment Presentations	Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	人文系英語演習A	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
一定の英語読解力（英詩読解に文法の基礎知識は必須）と発言する意志を持っていること。

【授業方法】
英国ロマン派の詩を輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				2					2		2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使用				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30 講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8金 4/10	英詩入門 1	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる詩作品について概説し、英詩を読むことの意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英詩を原語で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を確認する。	30分
2	第一部 水4/15金 4/17	英詩入門 2	英詩の構造について解説し、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、英詩の構造について理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	英詩について調べたうえで、「詩とは何か」自分なりに考えてみる。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。さらに、詩の解釈をメモするためのノートを用意する。	60分
3	第一部水 4/22金 4/24	愛について	Robert Burns, “O my love’ s like a red, red rose”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
4	第一部 水4/29金 5/1	象徴について	William Blake, “The Sick Rose”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
5	第一部水 5/6金5/8	ハエと人間	William Blake, “The Fly”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
6	第一部水 5/13金 5/15	生・死・自然（1）	William Wordsworth, “She dwelt among the untrodden ways”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水5/20金5/22	生・死・自然（2）	William Wordsworth, “A slumber did my spirit seal”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
8	第一部水5/27金5/29	生・死・自然（3）	William Wordsworth, “We are seven”を読む（1）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
9	第一部水6/3金6/5	生・死・自然（4）	William Wordsworth, “We are seven”を読む（2）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
10	第一部水6/10金6/12	夢と現実（1）	S. T. Coleridge, “Something Childish, But Very Natural”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
11	第一部水6/17金6/19	夢と現実（2）	P. B. Shelley, “To ---” (Song)を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
12	第一部水6/24金6/26	愛と休息	Lord Byron, “So, we’ ll go on no more a roving”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1金7/3	ヒバリのソネット	William Shakespeare, “When in disgrace with fortune and men’s eyes” (Sonnet 29)を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で読んだ英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの英詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第一部水 7/8金 7/10	半期のまとめ	半期の授業を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期で読んだ諸英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	第一部水 7/15金 7/17	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英詩についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	心に残った詩を暗唱し、前期で読んだ英詩についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
		事後学修	半期の授業で何が得られたか、あらためて確認する。	60分

科目名	人文系英語演習A	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言への意志

【授業方法】
「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				2					2		2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	イギリス文学作品の原著からの抜粋を配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日13:00～14:30 松山博樹研究室（本館8階1815研究室） matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	イギリス文学入門	イギリス文学の歴史、特徴、背景などについて概説を行い、イギリス文学を原著で学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、イギリス文学を原著で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、イギリス文学に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	4/17	「Pygmalion」(George Bernard Shaw)	「Pygmalion」(George Bernard Shaw)を題材に示されるモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、イギリス文学の歴史、特徴、背景などを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Pygmalion」(George Bernard Shaw)を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Pygmalion」(George Bernard Shaw)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Pygmalion」(George Bernard Shaw)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
3	4/24	イギリス文学の原著を読む	グループごとに割り振られるイギリス文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
4	5/1	イギリス文学の原著を読む	グループごとに割り振られるイギリス文学作品を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
5	5/8	「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)	「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
6	5/15	「Great Expectations」(Charles Dickens)	「Great Expectations」(Charles Dickens)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Great Expectations」(Charles Dickens)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Great Expectations」(Charles Dickens)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Great Expectations」(Charles Dickens)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	「Gulliver's Travels」 (Jonathan Swift)	「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	5/29	「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)	「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
9	6/5	イギリス文学の原著を読む	グループごとに割り振られるイギリス文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	6/12	イギリス文学の原著を読む	グループごとに割り振られるイギリス文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	6/19	「Romeo and Juliet」 (William Shakespeare)	「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	6/26	「Pride and Prejudice」 (Jane Austen)	「Pride and Prejudice」(Jane Austen)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Pride and Prejudice」(Jane Austen)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Pride and Prejudice」(Jane Austen)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Pride and Prejudice」(Jane Austen)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	「Jane Eyre」(Charlotte Brontë)	「Jane Eyre」(Charlotte Brontë)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Jane Eyre」(Charlotte Brontë)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Jane Eyre」(Charlotte Brontë)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Jane Eyre」(Charlotte Brontë)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	7/10	「Wuthering Heights」(Emily Jane Brontë)	「Wuthering Heights」(Emily Jane Brontë)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。 グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Wuthering Heights」(Emily Jane Brontë)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Wuthering Heights」(Emily Jane Brontë)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Wuthering Heights」(Emily Jane Brontë)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	7/17	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	人文系英語演習B	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
一定の英語読解力（英詩読解に文法の基礎は必須）と発言する意志を有すること。英語演習Cとセットでの履修が望ましい。

【授業方法】
英米の近現代詩を輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3					3		3
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						3					3		3
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3					3		3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使用				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16金 9/18	英詩入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明（再確認）する。また、取り上げる近現代のイギリス・アメリカ・アイルランドの詩作品について概説し、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英詩を原語で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。さらに、詩の解釈をメモするためのノートを用意する。	60分
2	第一部水 9/23金 9/25	ことばの音楽	E. A. Poe, “Annabel Lee”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
3	第一部水 9/30金 10/2	ことばと認識	E. Dickinson, “Success is counted sweetest” / “My life closed twice before its close”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
4	第一部水 10/7金 10/9	死別（1）	Thomas Hardy, “The Walk”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
5	第一部水 10/14金 10/16	死別（2）	Thomas Hardy, “The Voice”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
6	第一部水 10/21金 10/23	求愛と神話（1）	W. B. Yeats, “He Wishes for the Cloths of Heaven”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28金 10/30	求愛と神話（2）	W. B. Yeats, “Leda and the Swan”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
8	第一部水 11/11金 11/16	自然と人間	Robert Frost, “The Pasture” / “Stopping by Woods on a Snowy Evening”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
9	第一部水 11/18金 11/13	自由詩（1）	D. H. Lawrence, “Snake” を読む（1）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
10	第一部水 11/25金 11/20	自由詩（2）	D. H. Lawrence, “Snake” を読む（2）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
11	第一部水 12/2金 11/27	多元化された私	T. S. Eliot, “La Figlia Che Piange”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
12	第一部水 12/9金 12/4	信仰の問題	Edmund Blunden, “Report on Experience”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16金 12/11	半期のまとめ	半期の授業を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で読んだ英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの英詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
14	第一部水 12/23金 12/18	小論文とテーマ設定	小論文のテーマ設定・書き方について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、小論文の書き方を説明することができる。	
		事前学修	心に残った英詩のテーマについてメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容（小論文の書き方）について整理する。	60分
15	第一部水 1/13金 12/25	レポート試験と振り返り	レポート（小論文）試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英詩についてのレポート（小論文）試験に論述解答できる。	
		事前学修	任意に選んだ英詩についてテーマを設定し、小論文作成作業を完了させる。	180分
		事後学修	半期の授業で何が得られたか、あらためて確認する。	60分

科目名	人文系英語演習B	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言への意志。人文系英語演習Aを履修していることが強く望まれる。

【授業方法】
人文科学に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				3					3		3
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				3					3		3
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				3					3		3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	アメリカ文学作品の原著からの抜粋を配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日13:00～14:30 松山博樹研究室（本館8階1815研究室） matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	アメリカ文学入門	アメリカ文学の歴史、特徴、背景などについて概説を行い、アメリカ文学を原著で学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、アメリカ文学を原著で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、アメリカ文学に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	9/21	「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)	「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)を題材に示されるモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、イギリス文学の歴史、特徴、背景などを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
3	9/28	アメリカ文学の原著を読む	グループごとに割り振られるアメリカ文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
4	10/5	アメリカ文学の原著を読む	グループごとに割り振られるアメリカ文学作品を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
5	10/12	「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)	「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
6	10/19	「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)	「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)	「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)を読み、和訳、感想などをノートにまとめる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	11/9	「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)	「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)を読み、和訳、感想などをノートにまとめる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
9	11/16	アメリカ文学の原著を読む	グループごとに割り振られるアメリカ文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	11/23	アメリカ文学の原著を読む	グループごとに割り振られるアメリカ文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	11/30	「Moby-Dick; or, The Whale」(Herman Melville)	「Moby-Dick; or, The Whale」(Herman Melville)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Moby-Dick; or, The Whale」(Herman Melville)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Moby-Dick; or, The Whale」(Herman Melville)を読み、和訳、感想などをノートにまとめる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Moby-Dick; or, The Whale」(Herman Melville)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	12/7	「The Fall of the House of Usher」(Edgar Allan Poe)	「The Fall of the House of Usher」(Edgar Allan Poe)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Fall of the House of Usher」(Edgar Allan Poe)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Fall of the House of Usher」(Edgar Allan Poe)を読み、和訳、感想などをノートにまとめる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Fall of the House of Usher」(Edgar Allan Poe)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	「A Farewell to Arms」 (Ernest Hemingway)	「A Farewell to Arms」(Ernest Hemingway)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「A Farewell to Arms」(Ernest Hemingway)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「A Farewell to Arms」(Ernest Hemingway)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「A Farewell to Arms」(Ernest Hemingway)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	12/21	「The Grapes of Wrath」 (John Steinbeck)	「The Grapes of Wrath」(John Steinbeck)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。 グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Grapes of Wrath」(John Steinbeck)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Grapes of Wrath」(John Steinbeck)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Grapes of Wrath」(John Steinbeck)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	1/18	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	社会系英語演習A	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
中級以上の英語読解力と発言する意志を持っていること。一冊を一年で読み切るため、社会系英語演習Bと合わせて通年で履修するのが望ましい。

【授業方法】
法廷ドラマを輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。							2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。							2		2		2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Twelve Angry Men (Student Editions)	Reginald Rose	Bloomsbury Methuen Drama	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	法廷ドラマ入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる演劇作品（戯曲）について概説し、法廷（陪審）ドラマを読むことの意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法廷ドラマを原著で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	第一部木 4/16	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて説明し、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲（演劇）と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第一部木 4/23	第1幕を読む（1）	第1幕（1）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの導入部について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第一部木 4/30	第1幕を読む（2）	第1幕（2）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第一部木 5/7	第1幕を読む（3）	第1幕（3）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第一部木 5/14	第1幕を読む（4）	第1幕（4）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	第1幕を読む（5）	第1幕（5）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第一部木 5/28	第1幕を読む（6）	第1幕（6）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第一部木 6/4	第1幕を読む（7）	第1幕（7）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第一部木 6/11	第1幕を読む（8）	第1幕（8）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第一部木 6/18	第1幕を読む（9）	第1幕（9）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第一部木 6/25	第1幕を読む（10）	第1幕（10）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	前半部の読み合わせ	前半部の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第一部木 7/9	前半部のまとめ	前半部を振り返り、関連ビデオを視聴し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	前半部を読み返し、内容理解を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	第一部木 7/16	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して法廷ドラマについての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	法廷ドラマ（前半）についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
		事後学修	半期で学んだことを整理する。	60分

科目名	社会系英語演習A	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					2		2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー・トーマ ス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
10:30-11:00 Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	Introduction及び導入講義	Learn about the course contents and themes.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read the syllabus.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
2	4/17	Edo to Tokyo	Learn about Edo to Tokyo	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
3	4/24	Akihabara	Learn about Akihabara	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
4	5/1	Yamanote	Learn about Yamanote	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
5	5/8	The Imperial Palace	Learn about The Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
6	5/15	Asakusa	Learn about Asakusa	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	Roppongi and Shibuya	Learn about Roppongi and Shibuya	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
8	5/29	Kyoto	Learn about Kyoto	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
9	6/5	Mount Fuji	Learn about Mount Fuji	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
10	6/12	Presentation skills	Learn about Presentation skills	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Think about presentation skills.	60分
		事後学修	Think about topics for presentation.	60分
11	6/19	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Think about topics for presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分
12	6/26	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分
14	7/10	Assessment Presentations	Learn about Assessment Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Practice Presentation.	60分
15	7/17	Assessment Presentations	Learn about Assessment Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Reflect on semester.	60分

科目名	社会系英語演習A	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。社会系英語演習Bを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
BBC World Profile on DVD	Akira Morita	南雲堂	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生 に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	4/16	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	4/23	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	4/30	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	5/7	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	5/14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	5/28	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	6/4	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	6/11	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	6/18	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	6/25	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	7/9	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	7/16	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	社会系英語演習B	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
中級以上の英語読解力と、発言する意志をもっていること。一冊を一年で読み切るため、社会系英語演習Aと合わせて通年で履修するのが望ましい。

【授業方法】
法廷ドラマを輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3		3		3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Twelve Angry Men (Student Editions)	Reginald Rose	Bloomsbury Methuen Drama	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/19	作品前半の振り返り	本科目の趣旨や授業の進め方等についての説明（再確認）。法廷ドラマの前半を振り返り、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの前半について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、法廷ドラマ前半の内容を再確認しておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	30分
2	第一部木 9/24	第1幕を読む（11）	第1幕（11）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第一部木 10/1	第1幕を読む（12）	第1幕（12）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第一部木 10/8	第1幕を読む（13）	第1幕（13）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第一部木 10/15	第2幕を読む（1）	第2幕（1）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第一部木 10/22	第2幕を読む（2）	第2幕（2）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	第2幕を読む（3）	第2幕（3）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第一部木 11/5	第2幕を読む（4）	第2幕（4）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第一部木 11/12	第2幕を読む（5）	第2幕（5）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第一部木 11/19	第2幕を読む（6）	第2幕（6）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第一部木 12/3	第2幕を読む（7）	第2幕（7）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第一部木 12/10	第2幕を読む（8）	第2幕（8）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	第2幕を読む（9）	第2幕（9）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第一部木 12/24	作品全体のまとめ	作品全体を振り返り、盛り込まれた社会的テーマや問題点について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品全体を読み直し、盛り込まれたテーマや問題点を整理する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	第一部木 1/14	レポート試験と振り返り	レポート（小論文）試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して法廷ドラマについてのレポート（小論文）試験に論述解答できる。	
		事前学修	法廷ドラマについての小論文作成作業を完了させる。	180分
		事後学修	授業で何を得たか整理する。	30分

科目名	社会系英語演習B	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、社会科学に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、社会科学に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning (内容言語統合型学習)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科学に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3		3		3		
②	社会科学に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。						3		3		3		
③	社会科学に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3		3		3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The International History of Japan II	Thomas Lockley	DTP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
10:30-11:00 Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	Bakumatsu	Learn about Bakumatsu	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read the syllabus.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
2	9/25	Choshu Five	Learn about Choshu Five	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
3	10/2	Choshu Five	Learn about Choshu Five	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
4	10/9	19th Century Japanese Abroad	Learn about 19th Century Japanese Abroad	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
5	10/16	19th Century non-Japanese in Japan	Learn about 19th Century non-Japanese in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
6	10/23	Early 20th Century non-Japanese in Japan	Learn about Early 20th Century non-Japanese in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	Early 20th Century Japanese Abroad	Learn about Early 20th Century Japanese Abroad	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
8	11/6	Post War, Japan in the World and the World in Japan	Learn about Post War, Japan in the World and the World in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
9	11/13	How to Present	Learn about Presentation skills	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
10	11/20	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Think about presentation skills.	60分
		事後学修	Think about topics for presentation.	60分
11	11/27	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Think about topics for presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分
12	12/4	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分
14	12/18	Assessment Presentations	Learn about Assessment Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Practice Presentation.	60分
15	12/25	Assessment Presentations	Learn about Assessment Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Reflect on semester.	60分

科目名	社会系英語演習B	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。社会系英語演習Aを履修していること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					3		3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
BBC World Profile on DVD	Akira Morita	南雲堂	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生 に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	9/24	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	10/1	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	10/8	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	10/15	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	10/22	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	11/5	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	11/12	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	11/19	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	12/3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	12/10	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	12/24	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	1/14	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英検2級受験を目指す学生。

【授業方法】		
下記英検に特化したテキストとスピーキングに特化したNHKラジオテキストを使用し、音読を中心に、読み、書き、リスニング、スピーキングの力をつける。音読の場合はCDの後について全員でリピートをし各ダイアログを暗記し次回の授業でテストを行なう。テキストの文法事項を理解して、語彙を増やしてもらう。授業回数の後半では、こちらで用意したプリントを使用し英検面接の練習を行なう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループで英検2級面接で行われる内容に関して会話をし、意見を纏めて発表してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業でフイードバックを行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検2級マスターコース（リニューアル問題対応）	今村洋美 他	金星堂	2018	教科書	必携
NHKラジオ遠山頭の英会話楽習（5月号）	遠山頭	NHKラジオ出版	2020	教科書	必携
備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				

【オフィスアワー】
火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて１２時１５分～１２時３５分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス、導入授業	英検2級受験で求められる英語の実力についての説明をし、その実力をつけるために本授業で行われる内容を具体的に述べる。宿題の英文プリントを配る。	
		この回の到達目標	英検2級受験に必要な実力をどの様に付ければ良いのかを理解し、各学生は自分でなにをなすべきか分かり、行動するようになる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。英語の基礎学習。	40分
		事後学修	配られたスクリプトを読み、理解できないところを確認し次回の授業で質問するようにする。	80分
2	4/14	Lesson 1-(1)	前回配られたプリントの内容並びに文法確認。テキストLesson 1 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。	
		事前学修	テキストLesson 1 のリーディングの問題を解くこと。前回配られたプリントを読むこと。	60分
		事後学修	授業で学習したことを確認する。必要な英文並びに英単語を暗記すること。	60分
3	4/21	Lesson 1-(2) NHKテキスト ダイアログ (1)	小テスト。テキストLesson 1 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ (1)の音読練習。	
		この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの中の英単語と英文とを暗記し小テストの準備ををする。	50分
		事後学修	リスニングのスクリプトを音読し、NHKテキスト ダイアログ (1)を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	70分
4	4/28	Lesson 2-(1) NHKテキスト ダイアログ (2)	小テスト。テキストLesson 2 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ (2)の音読練習。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	テキストLesson 2 のリーディングの問題を解くこと。	60分
		事後学修	テキストLesson 2 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ (2) を暗記し、次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
5	5/5	Lesson 2-(2) NHKテキスト ダイアログ (3)	小テスト。テキストLesson 2 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ (3)の音読練習。	
		この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
		事後学修	リスニングのスクリプトを音読し、NHKテキスト ダイアログ (3)を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
6	5/12	Lesson 3-(1) NHKテキスト ダイアログ (4)	小テスト。テキストLesson 3 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ (4)の音読練習。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	テキストLesson 3 のリーディングの問題を解くこと。	60分
		事後学修	テキストLesson 3 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ (4) を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/19	Lesson 3-(2) NHKテキスト ダイアログ (5)	小テスト。テキストLesson 3 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイア ログ(5)の音読練習。
		この回の 到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくる事。 60分
		事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト ダイアログ(5)を暗記し次回の授業での小テストの準備 をすること。 60分
8	5/26	Lesson 4-(1) NHKテキスト ダイアログ (6)	小テスト。テキストLesson 4 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイ アログ(6)の音読練習。
		この回の 到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚 えそれが身につくようになる。
		事前学修	テキストLesson 4 のリーディングの問題を解くこと。 60分
		事後学修	テキストLesson 4 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(6) を暗記し次回の授 業での小テストの準備をすること。 60分
9	6/2	Lesson 4-(2) NHKテキスト ダイアログ (7)	小テスト。テキストLesson 4 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイア ログ(7)の音読練習。
		この回の 到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくる事。 60分
		事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト ダイアログ(7)を暗記し次回の授業での小テストの準備 をすること。 60分
10	6/9	Lesson 5-(1) NHKテキスト ダイアログ (8)	小テスト。テキストLesson 5 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイ アログ(8)の音読練習。
		この回の 到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚 えそれが身につくようになる。
		事前学修	テキストLesson 5 のリーディングの問題を解くこと。 60分
		事後学修	テキストLesson 5 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(8) を暗記し次回の授 業での小テストの準備をすること。 60分
11	6/16	Lesson 5-(2) 英検2級模擬テスト	小テスト。テキストLesson 5 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。 テキストについてい る英検2級模擬テストを解く練習。
		この回の 到達目標	英検2級受験に慣れるようになる。
		事前学修	テキストについている英検2級模擬テストを解いてくる。 60分
		事後学修	授業で学習したことを復習し、英検2級受験に慣れるようにする。 60分
12	6/23	英検2級受験面接練習 (1)	面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なっ てもらい、スピーキングの練習を行なう。。
		この回の 到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。
		事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオのダイアログ8回分を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読 練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくる事。 60分
		事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。 60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	英検2級受験面接練習（2）	面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なってもらい、スピーキングの練習を行なう。	
		この回の到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。	
		事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオのダイアログ8回分を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくること。	60分
		事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。	60分
14	7/7	英文読解の補強	社説を英文で読み、時事英語の知識を得る。	
		この回の到達目標	今後英文で書かれた社説を効率良く、正確に読めるようになる方法を学ぶ。時事英語の知識の付け方が分かるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配られた英文のプリントを読み、理解出来ない箇所を確認してくること。	60分
		事後学修	授業で学習したことを確認し、必要な文法事項の再確認をし、有用な表現、英単語を覚えること。	60分
15	7/14	前期授業の反省並びに確認。	前期授業の振り返り。	
		この回の到達目標	前期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	
		事前学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。NHKテキストのダイアログの暗記とリスニングで配られたスク립トの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。	60分
		事後学修	前期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。	60分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
ペアによる授業実践が多いので、履修者同士でのコミュニケーションを図れることが必要とされる。

【授業方法】

基本的に、IELTSの教科書のタスクベースで、翻訳訳読式で読みせず、直読直解するやり方で読み進める。各段落のTopic Sentence(中心となる話題文)を探すことで要旨を把握し、段落の展開方法を分析しながら練習問題にあたる。論理的な英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解(要約、スキミング、スキミング等を含む)スキルを実践的に習得できるように、ペア中心に進める。単熟語テストは、毎回行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアーワーク、ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説、返却、講評をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS: Subjects and Strategies	石谷由美子、クリストファー・ブルスミス	南雲堂	2018	教科書	必携
はじめてのアイエルツ 改訂3版	石谷由美子、クリストファー・ブルスミス他	南雲堂	2016	参考書	推奨
データベースDataBase 4500完成英単語熟語 5thEdition	荻野治雄	桐原書店	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂で、授業前又は終了後（水曜日）に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス（授業内容・方針・英検・IELTS等についての説明を聞く）
		この回の到達目標	IELTS受験の為にこの授業で何をどの様にしたらよいかを把握する。
		事前学修	シラバスをよく読み、確認の上授業に臨む。（30分）
		事後学修	ガイダンスのおさらいをし、IELTSの概要について、Webサイトで調べてみる。
2	4/15	Chapter 1 Reading	Reading (1) A: Multiple Choice Questions 選択肢問題B: Short Answer Questions 短文解答問題
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	テキストと単語帳を購入し、準備をする。
		事後学修	テキストのChapter 1のReading (1)A、Bの間違った箇所を確認し、解きなおす。
3	4/22	Chapter 1 Reading	Reading (1)練習問題1の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストLevel 1の解答ができる。
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	Chapter 1のReading (1)練習問題1を解いてくる。 英単熟語テストLevel 1の準備をする。
		事後学修	Chapter 1のReading (1)練習問題1、英単熟語テストLevel 1の間違った箇所を確認し、解きなおす。
4	4/29	Chapter 1 Reading	Reading (2)A: Multiple Choice Questions 選択肢問題B: Short Answer Questions 短文解答問題 英単熟語テストlevel 2を解答する。
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	Chapter 1のReading (2)問題ABを解いてくる。 英単熟語level 1の音読、暗記の準備をする。
		事後学修	Chapter 1のReading (2)問題AB、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。
5	5/6	Chapter 1 Reading	Reading (2)練習問題2の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストlevel 2を解答する。
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	Reading (2)練習問題2の問題を解いてくる。 英単熟語level 2の音読、暗記の準備をする。
		事後学修	Unit 3、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。
6	5/13	Chapter 1 Reading	Reading (3)A: Multiple Choice Questions 選択肢問題B: Short Answer Questions 短文解答問題 英単熟語テストlevel 3を解答する。
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	の問題を解いてくる。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。
		事後学修	英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Chapter 1 Reading	Reading (3)練習問題3の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストlevel 3を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Reading (3)ABの問題を解いてくる。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Reading (3)練習問題3、英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
8	5/27	Chapter 1 Reading	Reading (4)A: Multiple Choice Questions 選択肢問題B: Short Answer Questions 短文解答問題 英単熟語テストlevel 4を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Reading (4)ABの問題を解いてくる。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。 (30分)	60分
		事後学修	Reading (4)AB、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)	60分
9	6/3	Chapter 1 Reading	Reading (4)練習問題4の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストlevel 4を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Reading (4)練習問題4の問題を解いてくる。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Reading (4)練習問題4、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
10	6/10	Chapter 1 Reading	Reading Practice Test(1)の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストlevel 5を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Reading Practice Test(1)の問題を解いてくる。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Reading Practice Test(1)、英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
11	6/17	Chapter 1 Reading	Reading Practice Test(2)の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストlevel 5を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Reading Practice Test(2)の問題を解いてくる。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Reading Practice Test(2)、英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
12	6/24	Chapter 2 Writing	Writing(1)Describing Graphs &(2)Describing Processesの語彙、説明、エッセイのパラグラフ展開の仕方を理解する。 英単熟語テストlevel 6を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Writing(1)Describing Graphs &(2)Describing Processesを読んでくる。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Writing(1)Describing Graphs &(2)Describing Processesの復習をする。英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Chapter 2 Writing	Writing(3)For or Against &(4)What Questionsの語彙、賛成反対のエッセイやWhat型疑問文を理解する。 英単熟語テストlevel 6を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Writing(3)For or Against &(4)What Questionsを読んできろ。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Writing(3)For or Against &(4)What Questionsの復習をする。英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
14	7/8	授業内期末試験 授業の振り返り	Chapter 1、2の範囲の内容の問題を解答できる。	
		この回の到達目標	Chapter 1、2の範囲の内容を理解し、関連する問題を解答できる。	
		事前学修	期末試験に備え、Chapter 1、2の範囲の内容を復習する。	60分
		事後学修	英単熟語テストの全ての間違えた箇所をもう一度解いてみる。	60分
15	7/15	まとめ	前期授業内試験と解説、前期学習内容のまとめをする。	
		この回の到達目標	期末テスト解説を聞き、それを踏まえて、自己の学習の成果を分析する。	
		事前学修	前期授業学習内容を確認する。	60分
		事後学修	期末テストの間違った箇所をもう一度解いてみる。	60分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IBを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken Pre 2: Sure to Succeed	William Noel, et al.	南雲堂	2011	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	4/11	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	4/18	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	4/25	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	5/2	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	5/9	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	5/23	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	5/30	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	6/6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	6/13	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	6/20	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	7/4	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	7/11	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IBを履修すること

【授業方法】
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル＋模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第三版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00　但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修企画引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの17ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	4/15	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
3	4/22	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、図面問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	30分
4	4/29	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文章完成問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット3の単語の単語を覚えること。	30分
5	5/6	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	30分
6	5/13	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、表完成の問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	短く答える問題	テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、短く答える問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
8	5/27	フローチャートを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
9	6/3	メモを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分
10	6/10	リーディング多項選択式の問題	テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット1の単語を覚えること。	35分
11	6/17	見出しを選ぶ問題	テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット2の単語を覚えること。	35分
12	6/24	正誤問題	テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、正誤問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット3の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット4の単語を覚えること。	35分
14	7/8	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット5の単語を覚えること。	35分
15	7/15	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
1. 指定された範囲の予習・課題を行うこと 2. やる気があること 3. 英検2級を受験すること

【授業方法】
毎回指定範囲の小テスト、リスニング、ライティングの解説、授業内にテキストを使い、リスニングや文法を中心に勉強をする。英検の試験日程に合わせ、模擬試験、面接対策を行う。その他、映画や洋楽の聞き取りなども適宜行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第4回目以降、毎授業時に演習問題を解く際にペアワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。										1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
英検２級の受験、授業内試験、小テスト等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Let's Output in Basic English	佐藤臨太郎	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	その他、プリントを使用する。				

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜17：50～）に対応する。事前に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	オリエンテーション，導入授業	オリエンテーション 授業の進め方、英検2級の概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。英検2級がどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。	30分
		事後学修	英検2級についてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。オリエンテーションのおさらいをする。	30分
2	4月14日	模擬試験と解説	英検2級の概要と特徴を簡潔に説明する。 模擬試験（過去問）を受け、合格点に達するか現時点での実力を見極める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の模擬試験の受験を通して自分の実力を確認することができる。	
		事前学修	英検2級のテスト形式を把握し、それぞれのパートの問題を解いてみる。	30分
		事後学修	どこが自分の弱点かをチェックする。頻出単語の暗記をする。	30分
3	4月21日	英語の基礎力チェックと学習計画	今後の学習法、目標を考える。基本単語のチェック、基本文法のチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級合格のための基礎力がどれだけあるかを確認し、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	模擬試験の結果を踏まえて今後どのように学習するべきか計画を立てる。	30分
		事後学修	間違った箇所を解き直す。自分に合った参考書や問題集を選び、具体的な計画を立てる。基本単語チェックで間違えた単語を覚え、基本文法で間違えた文法事項を復習する。	30分
4	4月28日	自己紹介の英語を聞き取る・be動詞と一般動詞	Unit1の自己紹介に関する英語の聞き取りとbe動詞と一般動詞の相違と使い方を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、be動詞と一般動詞に関する文法問題が解けるようになり、自己紹介に関する英語を聞き取ることができる。	
		事前学修	小テストの該当箇所の予習をする。テキストのbe動詞と一般動詞についての解説を読む。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit1の音声を開き、be動詞と一般動詞の文法を復習する。	30分
5	5月12日	英語のEメールと自己紹介を英語で書く	小テスト、テキストUnit1のEメールの英文に関する問題を解き、自己紹介の英語を書く。ペアで自己紹介をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語のEメールを読むことができ、自己紹介の英文を書き、ペアで自己紹介をし合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit1のEメールに関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を読み、わからなかったところを復習する。小テストでできなかった単語の復習をする。	30分
6	5月19日	ネットの使用法についての英語の聞き取りと現在形・過去形・進行形	小テスト、Unit2のネットの使用法についての英語を聞き、内容を把握する。現在形・現在進行形・過去形・過去進行形について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ネットの使用法についての英文を聞き取ることができる。現在形・過去形・現在進行形・過去進行形について理解し、文法問題を解くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit2のネットの使用法に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit2の音声を開き、現在形・現在進行形・過去形・過去進行形の文法を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月26日	英文ブログの読解と過去形と進行形で英文を書く	小テスト、Unit2の英文で書かれたブログを読み、問題を解く。過去形・進行形を使用した英文を書く。Writingの書き方とポイントを解説する。ペアで過去形と進行形を使用して話す練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、英文で書かれたブログの内容を理解し、過去形・進行形を使った英文を書き、Writingのポイントを理解し、過去形や進行形を使った英文を書くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit2のネットの使用法に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。Writingの過去問をWEBサイトや対策本などで調べる。	30分
		事後学修	Unit2の英文で書かれたブログ読む。進行形の文章の書き方を復習する。論理的な英文の書き方(introduction/ Body(reasons&examples)/ Conclusion)を復習する。	30分
8	6月2日	休暇の過ごし方に関する英語の聞き取りと未来形	小テスト、Unit3の休暇の過ごし方についての英語を聞き、内容を把握する。未来形について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、休暇の過ごし方についての英文を聞き取ることができる。未来形について理解し、文法問題を解くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit3の休暇の過ごし方に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit3の音声を聞き、未来形の文法を復習する。	30分
9	6月9日	休暇の過ごし方に関する英語の読解と未来形を使用した英文を書く	小テスト、Unit3の英文で書かれたブログを読み、問題を解く。未来形を使用した英文を書く。ペアで予定について話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の休暇の過ごし方についての英文を読むことができ、未来形を使用した英文を書き、ペアで予定について話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit3の休暇の過ごし方に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit3の英文で書かれたブログを読む。未来形を用いた文章の書き方を復習する。	30分
10	6月16日	小旅行に関する英語の聞き取りと現在完了形と現在完了進行形	小テスト、Unit4の小旅行についての英語を聞き、内容を把握する。現在完了形・現在完了進行形について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小旅行についての英文を聞き取ることができる。現在完了形・現在完了進行形について理解し、文法問題を解くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit4の休暇の過ごし方に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit4の音声を聞き、現在完了形・現在完了進行形の文法を復習する。	30分
11	6月23日	小旅行に関する英語の読解と現在完了形と現在完了進行形を使用した英文を書く	小テスト、Unit4の小旅行についての英文を読み、問題を解く。現在完了・現在完了進行形を使用した英文を書く。ペアで小旅行について話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小旅行に関する英文を読むことができ、現在完了形・現在完了進行形を使用した英文を書き、ペアーでこれまでの経験や継続していることについて話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit4の小旅行に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit4の小旅行に関する英文を読む。現在完了形・現在完了進行形を用いた文章の書き方を復習する。	30分
12	6月30日	子どもの頃の思い出に関する英語の聞き取りと過去完了形と過去完了進行形	小テスト、Unit5の子どもの頃の思い出についての英語を聞き、内容を把握する。過去完了・過去完了進行形について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子どもの頃の思い出についての英文を聞き取ることができる。過去完了形・過去完了進行形について理解し、文法問題を解くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit5の子どもの頃の思い出に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit5の音声を聞き、過去完了形・過去完了進行形の文法を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月7日	子どもの頃の思い出に関する英語の読解と過去完了形・過去完了進行形を使用した英文を書く	小テスト、Unit5の子どもの頃の思い出に関する英文を読み、問題を解く。過去完了形・過去完了進行形を使用した英文を書く。ペアで子どもの頃の思い出について話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子どもの頃の思い出についての英文を読むことができ、過去完了形・過去完了進行形を使用した英文を書き、ペアで過去の経験や過去に継続していたことについて話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit5の子どもの頃の思い出に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit5の子どもの頃の思い出に関する英文を読む。過去完了形・過去完了進行形を用いた文章の書き方を復習する。	30分
14	7月14日	前期テストとふり回り	前期学習内前期の総復習のための授業内テストと解説、前期の内容のふり回り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで前期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。	
		事前学修	前期に学んだことをテキストを中心に総復習する。	120分
		事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手な部分と得意な部分を分析し、今後の対策を考える。	45分
15	7月21日	前期のふり回り	前期授業内テストの返却と解説。英検2級の問題の回答方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり回り、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期に学んだこと、テキストの総復習をする。	120分
		事後学修	前期に学んだところを総復習する。	60分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英検2級受験を目指す学生。

【授業方法】		
下記英検に特化したテキストとスピーキングに特化したNHKラジオテキストを使用し、音読を中心に、読み、書き、リスニング、スピーキングの力をつける。音読の場合はCDの後について全員でリピートをし各ダイアログを暗記し次回の授業でテストを行なう。テキストの文法事項を理解して、語彙を増やしてもらう。授業回数の後半では、こちらで用意したプリントを使用し英検面接の練習を行なう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループで英検2級面接で行われる内容に関して会話をし、意見を纏めて発表してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業でフイードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検2級マスターコース（リニューアル問題対応）	今村洋美 他	金星堂	2018	教科書	必携
NHKラジオテキスト 遠山顕の英会話楽習 10月号	遠山顕	NHK出版	2020	教科書	必携
備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				

【オフィスアワー】
火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて 1 2 時 1 5 分～ 1 2 時 3 5 分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/5	ガイダンス、導入授業	英検2級受験についての説明。英検2級レベルよりやや難解な英文のプリントを読み、文法事項の説明をする。	
		この回の到達目標	英検2級受験の際に必要な情報を得、勉強の仕方が分かる。これまでに得てきた英語の知識を確認し新たに英語の実力を深める。。	
		事前学修	本授業のシラバスを読み、手持ちの教材で英語の知識の確認をしてくること。	60分
		事後学修	配られた英文のプリントを読み、有用な表現と英単語を覚え小テストの準備をすること。	60分
2	9/22	Lesson 6(1) NHKテキスト ダイアログ (1)	小テスト。テキストLesson 6 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(1)の音読練習。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	テキストLesson 6 のリーディングの問題を解くこと。	60分
		事後学修	テキストLesson 6 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(1) を暗記し、次の授業での小テストの準備をすること。	60分
3	9/29	Lesson 6(2) NHKテキスト ダイアログ (2)	小テスト。テキストLesson 6 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(2)の音読練習。	
		この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
		事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト ダイアログ(2)を暗記し次の授業での小テストの準備をすること。	60分
4	10/6	Lesson 7(1) NHKテキスト ダイアログ (3)	小テスト。テキストLesson 7 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(3)の音読練習。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	テキストLesson 7 のリーディングの問題を解くこと。	60分
		事後学修	テキストLesson 7 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(3) を暗記し、次の授業での小テストの準備をすること。	60分
5	10/13	Lesson 7(2) NHKテキスト ダイアログ (4)	小テスト。テキストLesson 7 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(4)の音読練習。	
		この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
		事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト ダイアログ(4)を暗記し次の授業での小テストの準備をすること。	60分
6	10/20	Lesson 8(1) NHKテキスト ダイアログ (5)	小テスト。テキストLesson 8 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(5)の音読練習。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	テキストLesson 8 のリーディングの問題を解くこと。	60分
		事後学修	テキストLesson 8 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(5) を暗記し、次の授業での小テストの準備をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Lesson 8(2) NHKテキスト ダイアログ (6)	小テスト。テキストLesson 8 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(6)の音読練習。	
		この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
		事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト ダイアログ(6)を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
8	11/10	英検2級受験面接練習 (1)	面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なってもらい、スピーキングの練習を行なう。。	
		この回の到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。	
		事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオのダイアログ8回分を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくること。	60分
		事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。	60分
9	11/17	英検2級受験面接練習 (2)	面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なってもらい、スピーキングの練習を行なう。。	
		この回の到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。	
		事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオのダイアログ8回分を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくること。	60分
		事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。	60分
10	11/24	英文読解の補強 NHKテキスト ダイアログ (7)	小テスト。プリントでやや難解な英文を読み、説明、解説を行なう。NHKテキスト ダイアログ(7)の音読練習。	
		この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にする。	60分
		事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚えること。NHKテキスト ダイアログ(7)を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
11	12/1	英文読解の補強 NHKテキスト ダイアログ (8)	小テスト。プリントでやや難解な英文を読み、説明、解説を行なう。NHKテキスト ダイアログ(8)の音読練習。	
		この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にする。	60分
		事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚えること。NHKテキスト ダイアログ(7)を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
12	12/8	英文読解の補強	小テスト。プリントでやや難解な英文を読み、説明、解説を行なう。	
		この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にする。	60分
		事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	英文読解の補強	小テスト。プリントでやや難解な英文を読み、説明、解説を行なう。	
		この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にする。	60分
		事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚える。	60分
14	12/22	英文読解の補強	社説を英文で読み、時事英語の知識を得る。	
		この回の到達目標	今後英文で書かれた社説を効率良く、正確に読めるようになる方法を学ぶ。時事英語の知識の付け方が分かるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配られた英文のプリントを読み、理解出来ない箇所を確認してくる。	60分
		事後学修	授業で学習したことを確認し、必要な文法事項の再確認をし、有用な表現、英単語を覚える。	60分
15	1/12	後期授業の反省並びに確認。	後期授業の振り返り	
		この回の到達目標	後期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	
		事前学修	後期に学習したことを徹底的に確認すること。NHKテキストのダイアログの暗記とリスニングで配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておく。	60分
		事後学修	後期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	60分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
ペアーによる授業実践が多いので、履修者同士でのコミュニケーションを図れることが必要とされる。

【授業方法】		
1Aで既習の速読スキル（英文構造理解、語彙、読解、スキヤニング、スキミング等）を踏まえて、前半は、イギリスの生活やアカデミックな英語のリスニングやスピーキングを習得できるように、ELTSの教科書のタスクベースで、多項式選択問題や、英問英答、完成問題等の練習問題にあたる。シャドウイング、ディクテーションや、ロールプレイ等はペア中心に進める。又、後半はアメリカ英語の英検2級二次試験対策を行う。英単熟語テストは毎回実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアーワーク、ディスカッション、ロールプレイ	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。										1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説、返却、講評をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS: Subjects and Strategies	石谷由美子、クリストファー・ブルミス	南雲堂	2018	教科書	必携
はじめてのアイエルツ 改訂3版	石谷由美子、クリストファー・ブルミス他	南雲堂	2016	参考書	推奨
データベースDataBase 4500完成英単語熟語 5thEdition	荻野治雄	桐原書店	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂で、授業前又は終了後（水曜日）に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス（授業内容・方針・英検・IELTS等についての説明を聞く） リスニングの
		この回の到達目標	IELTS受験の為にこの授業で何をどの様にしたらよいかを把握する。
		事前学修	シラバスをよく読み、確認の上授業に臨む。（30分）60分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをし、IELTSの概要について、Webサイトで調べてみる。60分
2	9/23	Chapter 3 Listening	Listening (1) A: Multiple Choice Questions
		この回の到達目標	リスニングの為に速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。
		事前学修	テキストと単語帳を購入し、準備をする。60分
		事後学修	テキストのListening (1) A: Multiple Choice Questions Aの間違った箇所を確認し、解きなおす。60分
3	9/30	Chapter 3 Listening	Listening (2) Sentence Completion Questions練習問題 英単熟語テストLevel 1の解答ができる。
		この回の到達目標	リスニングの為に速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。
		事前学修	Listening (2) Sentence Completion Questions練習問題を解いてくる。 英単熟語テストLevel 1の準備をする。60分
		事後学修	Listening (2) Sentence Completion Questions練習問題、英単熟語テストLevel 1の間違った箇所を確認し、解きなおす。60分
4	10/7	Chapter 3 Listening	Listening (3) Short Answer Questions 英単熟語テストlevel 2を解答する。
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	Listening (3) Short Answer Questionsを解いてくる。 英単熟語level 1の音読、暗記の準備をする。60分
		事後学修	Listening (3) Short Answer Questions、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。60分
5	10/14	Chapter 3 Listening	Listening Practice Test 英単熟語テストlevel 2を解答する。
		この回の到達目標	リスニングの為に速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。
		事前学修	Listening Practice Testの問題を解いてくる。 英単熟語level 2の音読、暗記の準備をする。60分
		事後学修	Listening Practice Test、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。60分
6	10/21	Chapter 4 Speaking	Speaking (1)Speaking Test Outline & Speaking Test Part 1 英単熟語テストlevel 3を解答する。
		この回の到達目標	英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。
		事前学修	Speaking (1)Speaking Test Outline & Speaking Test Part 1のを予習をする。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。60分
		事後学修	Speaking (1)Speaking Test Outline & Speaking Test Part 1、英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Chapter 4 Speaking	Speaking (2) Speaking Test Part 2&3 英単熟語テストlevel 3を解答する。	
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。	
		事前学修	Speaking (2) Speaking Test Part 2&3の予習をする。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Speaking (2) Speaking Test Part 2&3Reading (3)練習問題3、英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
8	11/11	Chapter 4 Speaking	Speaking (3) Sample Test 英単熟語テストlevel 4を解答する。	
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。	
		事前学修	Speaking (3) Sample Testの予習をする。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Speaking (3) Sample Test、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
9	11/18	小テスト (Role Play)	Role Play をする。 英単熟語テストlevel 4を解答する。	
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。	
		事前学修	Role Play の準備をする。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Role Play の講評を確認し、分析する。練習問題4、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
10	11/25	英検二級二次試験対策	英検二級二次試験の概要と過去問練習1 英単熟語テストlevel 5を解答する。	
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授ができる。Sense Group Readingができる。	
		事前学修	英検二級二次試験の概要を確認し、過去問練習1の音読をする。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	英検二級二次試験の概要と過去問練習1の復習、英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
11	12/2	英検二級二次試験対策	英検二級二次試験の概要と過去問練習2 英単熟語テストlevel 5を解答する。	
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授ができる。Sense Group Readingができる。	
		事前学修	過去問練習2の音読をする。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	過去問練習2の復習、英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
12	12/9	英検二級二次試験対策	英検二級二次試験過去問練習3 英単熟語テストlevel 6を解答する。	
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授ができる。Sense Group Readingができる。	
		事前学修	過去問練習3の音読をする。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Writing(1)Describing Graphs &(2)Describing Processesの復習をする。英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	英検二級二次試験対策	英検二級二次試験過去問練習4 英単熟語テストlevel 6を解答する。	
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授ができる。伝授ができる。Sense Group Readingができる。	
		事前学修	過去問練習4の音読をする。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	過去問練習4の復習をする。英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
14	12/23	授業内期末試験 授業の振り返り	Chapter3、4の範囲の内容の問題を解答できる。	
		この回の到達目標	Chapter 3,4の範囲の内容を理解し、関連する問題を解答できる。	
		事前学修	期末試験に備え、Chapter3,4の範囲の内容を復習する。	60分
		事後学修	英単熟語テストの全ての間違えた箇所をもう一度解いてみる。	60分
15	1/13	まとめ	前期授業内試験と解説、前期学習内容のまとめをする。	
		この回の到達目標	期末テスト解説を聞き、それを踏まえて、自己の学習の成果を分析する。	
		事前学修	前期授業学習内容を確認する。	60分
		事後学修	期末テストの間違った箇所をもう一度解いてみる。	60分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検 I Aを履修していること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken Pre 2: Sure to Succeed	William Noel, et al.	南雲堂	2011	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容	中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	9/26	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	10/3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	10/10	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	10/17	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	10/24	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	11/7	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	11/14	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	11/21	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	11/28	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	12/5	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	12/19	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	12/26	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	諸坂 成利	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検 I Aを履修していること。

【授業方法】
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル＋模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第三版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00　但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	9/23	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、情報を一致させるマッチング問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	30分
3	9/30	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	30分
4	10/7	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、図表を完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	30分
5	10/14	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
6	10/21	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット3の単語を覚えること。	35分
8	11/11	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	35分
9	11/18	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分
10	11/25	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
11	12/2	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
12	12/9	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	パート別考え方のアイディア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、パート別考え方のアイディアに習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	35分
14	12/23	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、News Media 返答の作り方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分
15	1/13	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
1. 指定された範囲の予習・課題を行うこと 2. やる気があること 3. 英検2級を受験すること

【授業方法】
毎回指定範囲の小テスト、リスニング、ライティングの解説、授業内にテキストを使い、リスニングや文法を中心に勉強をする。英検の試験日程に合わせ、模擬試験、面接対策を行う。その他、映画や洋楽の聞き取りなども適宜行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4回目以降、毎授業時に演習問題を解く際にペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
英検２級の受験、授業内試験、小テスト等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Let's Output in Basic English	佐藤臨太郎	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	その他、プリントを使用する。				

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜17：50～）に対応する。事前に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	オリエンテーション，導入授業	オリエンテーション 授業の進め方、英検2級の概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。英検2級がどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。	30分
		事後学修	英検2級についてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。オリエンテーションのおさらいをする。	30分
2	9月22日	模擬試験と解説	英検2級の概要と特徴を簡潔に説明する。 模擬試験（過去問）を受け、合格点に達するか現時点での実力を見極める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の模擬試験の受験を通して自分の実力を確認することができる。	
		事前学修	英検2級のテスト形式を把握し、それぞれのパートの問題を解いてみる。	30分
		事後学修	どこが自分の弱点かをチェックする。頻出単語の暗記をする。	30分
3	9月29日	英語の基礎力チェックと学習計画	今後の学習法、目標を考える。基本単語のチェック、基本文法のチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級合格のための基礎力がどれだけあるかを確認し、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	模擬試験の結果を踏まえて今後どのように学習するべきか計画を立てる。	30分
		事後学修	間違った箇所を解き直す。自分に合った参考書や問題集を選び、具体的な計画を立てる。基本単語チェックで間違えた単語を覚え、基本文法で間違えた文法事項を復習する。	30分
4	10月6日	義務に関する英語の聞き取る・助動詞	Unit6の義務に関する英語の聞き取りと助動詞を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関する文法問題が解けるようになり、義務に関する英語の聞き取ることができる。	
		事前学修	小テストの該当箇所の予習をする。テキストの助動詞についての解説を読む。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit6の音声を聞き、助動詞を復習する。	30分
5	10月13日	義務に関する英文の読解と英作	小テスト、テキストUnit6の英文に関する問題を解き、助動詞を用いた英語を書く。ペアで助動詞を用いて話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、義務に関する英文を読み、英文を書き、ペアで話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit6の英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を読み、わからなかったところを復習する。小テストでできなかった単語の復習をする。	30分
6	10月20日	食べ物についての英語の聞き取りと現在形・過去形・進行形	小テスト、Unit7の食べ物についての英語を聞き、内容を把握する。受動態について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、食べ物についての英文を聞き取ることができる。受動態について理解し、文法問題が解くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit7の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit7の音声を聞き、受動態を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	読解と受動態を用いた英文を書く	小テスト、Unit7のトマトの起源に関する英文を読み、問題を解く。受動態を使用した英文を書く。ペアで受動態を用いて話す練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、受動態を用いた英文の内容を理解し、受動態を使った英文を書くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit7の英文を読み、わからない単語を調べる。Writingの過去問をWEBサイトや対策本などで調べる。	30分
		事後学修	Unit7の英文を読む。受動態を用いた英文の書き方を復習する。論理的な英文の書き方（introduction/Body (reasons&examples)/ Conclusion）を復習する。	30分
8	11月10日	to不定詞を用いた英語の聞き取りと文法	小テスト、Unit8のto不定詞を使用した英語を聞き、内容を把握する。不定詞について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞を使用した英文を聞き取ることができる。不定詞について理解し、文法問題が解けることができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit8の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit8の音声を聞き、不定詞の文法を復習する。	30分
9	11月17日	to不定詞を用いた英語の読解と不定詞を使用した英文を書く	小テスト、Unit8の不定詞を用いた英文を読み、問題を解く。不定詞を使用した英文を書く。ペアで将来の夢や希望について話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞を用いた英文を読むことができ、不定詞を使用した英文を書き、ペアで将来の夢や希望について不定詞を使って話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit8の英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit8の英文を読む。不定詞を用いた文章の書き方を復習する。	30分
10	11月24日	血液型に関する英語の聞き取りと動名詞	小テスト、Unit9の血液型についての英語を聞き、内容を把握する。動名詞について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、血液型についての英文を聞き取ることができる。動名詞について理解し、文法問題が解けるようになる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit9の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit9の音声を聞き、動名詞の文法を復習する。	30分
11	12月1日	血液型に関する英語の読解と動名詞を使用した英文を書く	小テスト、Unit9の血液型についての英文を読み、問題を解く。動名詞を使用した英文を書く。ペアで血液型について話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、血液型に関する英文を読むことができ、動名詞を使用した英文を書き、ペアーで動名詞を使用して話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit9の血液型に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit9の血液型に関する英文を読む。動名詞を用いた文章の書き方を復習する。	30分
12	12月8日	現在分詞・過去分詞を用いた英文の聞き取りと文法理解	小テスト、Unit10の分詞を用いた英語を聞き、内容を把握する。現在分詞・過去分詞について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞を用いた英文を聞き取ることができる。現在分詞・過去分詞について理解し、文法問題が解けるようになる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit10の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit10の音声を聞き、現在分詞・過去分詞の文法を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 月 1 5 日	現在分詞・過去分詞を用いた英文の読解と英作	小テスト、Unit10の分詞を用いた英文を読み、問題を解く。現在分詞・過去分詞を使用した英文を書く。ペアで書いた文章を読み合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞を用いた英文を読むことができ、現在分詞・過去分詞を使用した英文を書き、ペアで発表し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit10の英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit10の英文を読む。現在分詞・過去分詞を用いた文章の書き方を復習する。	30分
14	1 2 月 2 2 日	後期テストとふり回り	後期学習内前期の総復習のための授業内テストと解説、後期の内容のふり回り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで後期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。	
		事前学修	後期に学んだことをテキストを中心に総復習する。	120分
		事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手な部分と得意な部分を分析し、今後の対策を考える。	45分
15	1 月 1 2 日	後期のふり回り	後期授業内テストの返却と解説。英検2級の問題の回答方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり回り、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。	120分
		事後学修	後期に学んだところを総復習する。	60分

科目名	英検／IELTS II A	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習により、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅡBを履修すること

【授業方法】
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル＋模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。					50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。		20										20
レポート等													
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。			20	10								30
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)										
			20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第三版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00　但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修企画引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの17ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	4/15	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
3	4/22	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、図面問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	30分
4	4/29	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文章完成問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット3の単語の単語を覚えること。	30分
5	5/6	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	30分
6	5/13	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、表完成の問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	短く答える問題	テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、短く答える問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
8	5/27	フローチャートを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
9	6/3	メモを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分
10	6/10	リーディング多項選択式の問題	テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット1の単語を覚えること。	35分
11	6/17	見出しを選ぶ問題	テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット2の単語を覚えること。	35分
12	6/24	正誤問題	テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、正誤問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット3の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット4の単語を覚えること。	35分
14	7/8	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット5の単語を覚えること。	35分
15	7/15	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS II A	担当者	黒滝 真理子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習により、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
後期の英検/IELTS II Bと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークなどによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS:Subjects and Strategies	石谷他	南雲堂	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	IELTSとは	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める	50分
2	4/14	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(1)選択肢問題、Listening(1)選択肢問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	4/21	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(1)短文解答問題、Listening(1)選択肢問題（練習問題１）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	4/28	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(1)練習問題１、Listening(1)選択肢問題（練習問題２）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	5/5	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(2)英文完成問題、Listening(2)英文完成問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	5/12	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(2)表完成問題、Listening(2)英文完成問題（練習問題３）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(2)練習問題2、Listening(2)英文完成問題（練習問題4）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	5/26	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	6/2	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	6/9	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	6/16	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	6/23	IELTSのライティング	Writing(1)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、英文の内容をコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	IELTSのライティング	Writing(2)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、英文の内容をコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	7/7	IELTSの総括	授業内試験及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を正確に把握することができる。	
		事前学修	前期に学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。	30分
		事後学修	間違えた箇所を復習する。	30分
15	7/14	IELTSの総括	試験の講評と振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を正確に把握することができる。	
		事前学修	講義全体を確認し、復習する。	30分
		事後学修	理解不十分な箇所をチェックし、後期の授業に臨めるようにする。	30分

科目名	英検／IELTS II B	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅡAを履修していること。

【授業方法】
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル＋模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第三版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	9/23	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、情報を一致させるマッチング問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	30分
3	9/30	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	30分
4	10/7	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、図表を完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	30分
5	10/14	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
6	10/21	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット3の単語を覚えること。	35分
8	11/11	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	35分
9	11/18	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分
10	11/25	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
11	12/2	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
12	12/9	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	パート別考え方のアイディア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、パート別考え方のアイディアに習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	35分
14	12/23	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、News Media 返答の作り方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分
15	1/13	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS II B	担当者	黒滝 真理子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
後期の英検/IELTS II Aと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークなどによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS:Subjects and Strategies	石谷他	南雲堂	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	IELTSとは	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める	50分
2	9/22	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(3) 見出し選択問題、Listening(3) 短文解答問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	9/29	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(3) 正誤問題、Listening(3) 短文解答問題（練習問題5）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	10/6	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(3) 練習問題3、Listening(3) 短文解答問題（練習問題6）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	10/13	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(4) 英文完成問題、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	10/20	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(4) 英文完成問題、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(4)練習問題4、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	11/10	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	11/17	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	11/24	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	12/1	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	12/8	IELTSのライティング	Writing(3)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、英文の内容をコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	IELTSのライティング	Writing(4)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、英文の内容をコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	12/22	IELTSの総括	授業内試験及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を正確に把握することができる。	
		事前学修	前期に学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。	30分
		事後学修	間違えた箇所を復習する。	30分
15	1/12	IELTSの総括	試験の講評と振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を正確に把握することができる。	
		事前学修	講義全体を確認し、復習する。	30分
		事後学修	理解不十分な箇所をチェックし、IELTSの試験に臨めるようにする。	30分

科目名	英検／IELTS ⅢA	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅢBを履修すること

【授業方法】		
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル+模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また1100 Words You Need to Know、およびBasic Word List (Barron)を用いて、アカデミック・イングリッシュの語彙の基礎を強化する。ノート、カードの検査をする。		
アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 32のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
Basic Word List (Fifth edition)	Brownstein ほか	Barron	2017	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第三版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修企画引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの17ページまでを熟読してくる。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	4/14	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、1100 Words You Need to Know（以下1100と略す）のパートAの訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語、1100のパートAの単語を覚えること。	30分
3	4/21	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、1100のパートBの訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、図面問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット2の単語、1100のパートBの単語を覚えること。	30分
4	4/28	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、1100のパートCの訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文章完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット3の単語、1100のパートCの単語を覚えること。	30分
5	5/5	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、1100のパートDの訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット4の単語、1100のパートDの単語を覚えること。	30分
6	5/12	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.3-13の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、表完成の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語、Basic Word List, pp.3-13の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	短く答える問題	テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.14-23の訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、短く答える問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語、Basic Word List, pp.14-23の単語を覚えること。	35分
8	5/26	フローチャートを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.24-33の訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語、Basic Word List, pp.24-33の単語を覚えること。	35分
9	6/2	メモを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.34-43の訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語、Basic Word List, pp.34-43の単語を覚えること。	35分
10	6/9	リーディング多項選択式の問題	テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.44-53の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット1の単語、Basic Word List, pp.44-53の単語を覚えること。	35分
11	6/16	見出しを選ぶ問題	テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.54-63の訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット2の単語、Basic Word List, pp.54-63の単語を覚えること。	35分
12	6/23	正誤問題	テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.64-73の訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、正誤問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット3の単語、Basic Word List, pp.64-73の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.74-83の訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット4の単語、Basic Word List, pp.74-83の単語を覚えること。	35分
14	7/7	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.84-93の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット5の単語、Basic Word List, pp.84-93の単語を覚えること。	35分
15	7/14	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS ⅢA	担当者	山上 登美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
原則として英検／IELTSⅢBと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。CDを聴き、練習問題を解くことによって英語の運用力を養います。予習を前提とし、毎回小テストを実施します。問題の解答に解説を加え、英文の内容理解度を確認します。本授業の事前・事後学習は合わせて1時間の学習を目安とします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、毎回の小テスト、語彙や文法ノートなどにより総合的に評価します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アイエルツのための英語総合演習	石谷由美子/Christofer Bullsmith	南雲堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 月4/6	ガイダンスと学習内容の説明	学習内容と方法を説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語の運用能力を高める方法を学ぶことができる。
		事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておくこと。30分
		事後学修	今後の学習計画を立てること。30分
2	第一部 月4/13	Reading (1)	選択肢および短文解答問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。
		事前学修	教科書p. 8-11を読み、問題を解いておくこと。30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。30分
3	第一部 月4/20	Reading (1)	練習問題1 America's Aging Pipesの問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。
		事前学修	教科書p. 12-13を読み、問題を解いておくこと。30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。30分
4	第一部 月4/27	Reading (2)	英文および表完成問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。
		事前学修	教科書p. 14-17を読み、問題を解いておくこと。30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。30分
5	第一部 月5/4	Reading (2)	練習問題2 A Patient's Guide to Heart Transplant Surgeryの問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。
		事前学修	教科書p. 18-19を読み、問題を解いておくこと。30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。30分
6	第一部 月5/11	Reading (3)	見出し選択および正誤問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。
		事前学修	教科書p. 20-23を読み、問題を解いておくこと。30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	Reading (3)	練習問題3 Universities around the world offer degrees taught in Englishの問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 24-25を読み、問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
8	第一部 月5/25	Reading (4)	英文完成問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 26-27を読み、問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
9	第一部 月6/1	Reading (4)	練習問題4 Tobacco or terrorismの問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 28-29を読み、問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
10	第一部 月6/8	Reading Practice Test 1	A "Clean Green" Fuel?の問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 30-33を読み、問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
11	第一部 月6/15	Reading Practice Test 2	The Human Cost of Wilderness Tourismの問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書34-37を読み、問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
12	第一部 月6/22	学習習慣の確認	語彙および文法ノートによる継続的な学習努力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常的な学習努力を継続できる。	
		事前学修	自習で使っているノートなどに学習内容を整理しておくこと。	30分
		事後学修	学習内容の整理方法に不足する箇所があれば、補足しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	学習内容の総まとめ	学習内容に関する質問を受け、要点をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習内容を正しく理解できる。	
		事前学修	学習内容について質問事項をまとめておくこと。	30分
		事後学修	学習努力が不足していた箇所を特定し、補う努力をすること。	30分
14	第一部 月7/6	授業内試験と解説	筆記試験を実施し、英語の運用能力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、英文理解度を確認できる。	
		事前学修	既習事項を振り返ること。	45分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
15	第一部 月7/13	学習到達度の確認	試験の講評をし、学習内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習到達度を確認できる。	
		事前学修	学習内容に誤解がないか確認しておくこと。	30分
		事後学修	英文の読解力を高める方法について要点を整理すること。	30分

科目名	英検／IELTS ⅢB	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅢAを履修していること。

【授業方法】		
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル+模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また1100 Words You Need to Know、およびBasic Word List (Barron)を用いて、アカデミック・イングリッシュの語彙の基礎を強化する。ノート、カードの検査をする。		
アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 32のドリル+模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
Basic Word List (Fifth edition)	Brownstein ほか	Barron	2017	教科書	必携
リーダーズ英和辞典 (第三版)	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室 (9号館1階9017研究室) morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	9/22	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.94-103の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マッチング問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット6の単語、Basic Word List, pp.94-103の単語を覚えること。	30分
3	9/29	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.104-113の訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット7の単語、Basic Word List, pp.104-113の単語を覚えること。	30分
4	10/6	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.114-123の訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マッチング問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット8の単語、Basic Word List, pp.114-123の単語を覚えること。	30分
5	10/13	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.124-133の訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語、Basic Word List, pp.124-133の単語を覚えること。	30分
6	10/20	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.134-143の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語、Basic Word List, pp.134-143の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.144-153の訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット3の単語、Basic Word List, pp.144-153の単語を覚えること。	35分
8	11/10	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.154-163の訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット4の単語、Basic Word List, pp.154-163の単語を覚えること。	35分
9	11/17	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.164-173の訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語、Basic Word List, pp.164-173の単語を覚えること。	35分
10	11/24	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.174-183の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語、Basic Word List, pp.174-183の単語を覚えること。	35分
11	12/1	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.184-193の訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語、Basic Word List, pp.184-193の単語を覚えること。	35分
12	12/8	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.194-203の訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語、Basic Word List, pp.194-203の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	パート別考え方のアイディア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp. 204-213の訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、パート別考え方のアイディアに習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット1の単語、Basic Word List, pp. 204-213の単語を覚えること。	35分
14	12/22	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp. 214-223の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、News Media 返答の作り方に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語、Basic Word List, pp. 214-223の単語を覚えること。	35分
15	1/12	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS ⅢB	担当者	山上 登美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
原則として英検 / IELTS Ⅲ Aと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。CDを聴き、練習問題を解くことによって英語の運用力を養います。予習を前提とし、毎回小テストを実施します。問題の解答に解説を加え、英文の内容理解度を確認します。本授業の事前・事後学習は合わせて1時間の学習を目安とします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、毎回の小テスト、語彙や文法ノートなどにより総合的に評価します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アイエルツのための英語総合演習	石谷由美子/Christofer Bullsmith	南雲堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	ガイダンスと学習内容の説明	学習内容と方法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語の運用能力を高める方法を学ぶことができる。	
		事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	今後の学習計画を立てること。	30分
2	第一部 月9/21	Listening (1)	Sample 1 選択肢および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 58, 60を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
3	第一部 月9/28	Listening (1)	Sample 2 選択肢および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 59, 61を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
4	第一部 月10/5	Listening (2)	Sample 3 英文完成および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 62, 64を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
5	第一部 月10/12	Listening (2)	Sample 4 英文完成および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 63, 65を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
6	第一部 月10/19	Listening (3)	Sample 5 短文解答および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 66, 68を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	Listening 3	Sample 6 短文解答および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 67, 69を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
8	第一部 月11/9	Listening Practice Test	Section 1 図表問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 70-71を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
9	第一部 月11/16	Listening Practice Test	Section 2 空所補充問題および選択肢問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 71-72を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
10	第一部 月11/23	Listening Practice Test	Section 3 空所補充および選択肢問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 73-74を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
11	第一部 月11/30	Listening Practice Test	Section 4 空所補充および選択肢問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 74-75を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
12	第一部 月12/7	学習習慣の確認	語彙および文法ノートなどによる継続的な学習努力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常的な学習努力を継続できる。	
		事前学修	自習で使っているノートなどに学習内容を整理しておくこと。	30分
		事後学修	学習内容に不足する箇所があれば、補足しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	学習内容の総まとめ	学習内容に関する質問を受け、要点をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習内容を正しく理解できる。	
		事前学修	学習内容について質問事項をまとめておくこと。	30分
		事後学修	学習努力が不足していた箇所を特定し、補う努力をすること。	30分
14	第一部 月12/21	授業内試験と解説	筆記試験を実施し、英語の運用能力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、英文理解度を確認できる。	
		事前学修	既習事項を振り返ること。	45分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
15	第一部 月1/18	学習到達度の確認	試験の講評をし、学習内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習到達度を確認できる。	
		事前学修	学習内容に誤解がないか確認しておくこと。	30分
		事後学修	英文の読解力を高める方法を整理すること。	30分

科目名	英検／IELTS IVA	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、最上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IVBを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。										4	4		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。										4	4		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検 2 級対策実践演習講座	Mary Chikayama、他	金星堂	2006	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	4/11	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	4/18	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	4/25	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	5/2	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	5/9	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	5/23	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	5/30	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	6/6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	/	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	/	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	/	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	/	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS IVB	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、最上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IVAを履修していること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								4	4		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検 2 級対策実践演習講座	Mary Chikayama、他	金星堂	2006	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	9/26	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	10/3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	10/10	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	10/17	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	10/24	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	11/7	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	11/14	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	11/21	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	11/28	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	12/5	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	12/19	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	12/26	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	TOEFL I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									1	1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL® ITP	Mark D. Stafford他	センゲージ ラーニン グ	2010	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	いいずな書店編集部	いいずな書店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日・金曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7 金4/10	TOEFL-ITPとは？	TOEFL-ITPの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	第一部 火4/14 金4/17	動詞と文型 (1)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型 (1) ）のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、動詞と文型に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型 (1) ）のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	第一部 火4/21 金4/24	動詞と文型 (2)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 3（動詞と文型 (2) ）のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、動詞と文型に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 3（動詞と文型 (2) ）のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	第一部 火4/28 金5/1	接続詞 (1)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 46（接続詞 (1) ）のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、接続詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 46（接続詞 (1) ）のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	第一部 火5/5 金5/8	接続詞 (2)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 47（接続詞 (2) ）のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、接続詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 47（接続詞 (2) ）のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	第一部 火5/12 金5/15	TOEFL ITP対策 (1) 文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.19-21) の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.19-21) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19 金5/22	TOEFL ITP対策 (2) 語彙・読解	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) のTry the TOEFL Test!, Vocabulary Check! (p.16-18) の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) のTry the TOEFL Test!, Vocabulary Check! (p.16-18) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
8	第一部 火5/26 金5/29	名詞	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 38 (名詞) のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 38 (名詞) のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
9	第一部 火6/2 金6/5	TOEFL ITP対策 (3) 文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test! (p.26-27) の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test! (p.26-27) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
10	第一部 火6/9 金6/12	TOEFL ITP対策 (4) リスニング・スピーキング	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills!, Speaking, Vocabulary Check! (p.22-25) の演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のVocabulary Check! (p.25) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	第一部 火6/16 金6/19	仮定法 (1)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 28 (仮定法 (1)) のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 28 (仮定法 (1)) のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
12	第一部 火6/23 金6/26	仮定法 (2)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 29 (仮定法 (2)) のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 29 (仮定法 (2)) のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30 金7/3	仮定法（3）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 30（仮定法（3））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 30（仮定法（3））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
14	第一部 火7/7 金7/10	TOEFL ITP対策（5）文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03（The Discovery of a New medicine）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.31-33）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03（The Discovery of a New medicine）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.31-33）を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
15	第一部 火7/14 金7/17	TOEFL ITP対策（6）語彙・読解	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03（The Discovery of a New Medicine）のTry the TOEFL Test!, Vocabulary Check!（p.28-30）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03（The Discovery of a New Medicine）のTry the TOEFL Test!, Vocabulary Check!（p.28-30）を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I A	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
授業では教科書を使って語彙、リスニング、読解、英作文、発話練習を行い、英語の基礎力アップを目指します。TOEFLの演習も適宜行ってITP試験に備えます。適宜小テストを行い、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークで発話練習、会話練習を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験、採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
村尾純子，深山晶子，野ロジュディー	VOAで学ぶ最先端技術 とPBL基礎演習	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、授業終了後（火曜：14：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業 関連の連絡は大学ポータルを使用します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	TOEFL ITPの解説	ガイダンス、読解力のチェック、TOEFL ITPの解説	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	TOEFLを勉強する目標をたてておく。これまで使用した英語の単語集、文法解説書をまとめておく。	30分
		事後学修	教科書を準備して音声をダウンロードする。授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	30分
2	第一部火 4/14	顔認証システムに関する文章の読解、主語と動詞	教科書 Unit 1「顔認証システム」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：主語と動詞。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。主語と動詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
3	第一部火 4/21	教科書ユニット2、文法：不定詞	教科書 Unit 2「AI時代に生き残る方法」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：不定詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。不定詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
4	第一部火 4/28	教科書ユニット3、文法：動名詞	教科書 Unit 3「VRが変える医療」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：動名詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。動名詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
5	第一部火 5/5	教科書ユニット4、文法：助動詞	教科書 Unit 4「都市型農業の未来」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：助動詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。助動詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
6	第一部火 5/12	教科書ユニット5、文法：受動態	教科書 Unit 5「日本の伝統芸がNASAで大活躍」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：受動態	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。受動態の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	教科書ユニット6、文法：後置修飾語句	教科書 Unit 6「ロボットが高齢社会をアシスト」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：後置修飾語句	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。後置修飾語句の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
8	第一部火 5/26	教科書ユニット7、文法：現在完了	教科書 Unit 7「金属のリサイクル」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：現在完了	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。現在完了の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
9	第一部火 6/2	教科書ユニット8、文法：主語と動詞の呼応	教科書 Unit 8「進化するカメラ」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：主語と動詞の呼応	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。主語と動詞の呼応の関係を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
10	第一部火 6/9	教科書ユニット9、文法：代名詞	教科書 Unit 9「蚊との戦い」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：代名詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。代名詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
11	第一部火 6/16	教科書ユニット10、文法：比較	教科書 Unit 10「次世代VRの世界」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：比較	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。比較の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
12	第一部火 6/23	TOEFLリスニング問題の演習パートA	TOEFLリスニング問題の演習 パートA (Short Conversations)：言い換え、肯定文と否定文、受動態と能動態、場面を類推する、同意の表現、提案の表現を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出する日常会話を聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	TOEFLリスニング問題の演習 パートB	TOEFLリスニング問題の演習 パートB (Long Conversations)：疑問文の種類、トピック、答えの 順番を中心に	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出する日常会話を聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分
14	第一部火 7/7	TOEFLリスニング問題の演習 パートC	TOEFLリスニング問題の演習 パートC (Long Talks) 疑問文の種類、トピック、答えの順番を中 心に	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出するトークを聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分
15	第一部火 7/14	前期の振り返り	授業内試験及び前期の学習内容の振り返り。TOEFL ITPの模擬テスト	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	教科書を中心に、語彙や文法など今期に学習した内容を振り返る。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、模擬テストで間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I A	担当者	村松 直子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
上記資格試験の受験と結果を成績評価に含めます。原則TOEFL I Bと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。毎時間、小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業時に、授業テーマ、学習項目に関する英作文に取り組んで発表したり、読解問題の解法をクラスで発表したりするTask-based learningにも取り組む。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末試験の内容について、期末試験実施日の授業時間にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Topics and Tactics for the TOEFL Test	J, Knudsen and K. Namai	Nan’ un-do	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
事前（授業後等）に対面でアポイントメントを入れてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	オリエンテーション、教科書の導入、練習問題および解説	コースの到達目標、授業の進め方、英語圏の大学への留学に必要な4技能、特に、リーディング・スキルとリスニング・スキルについて理解する。コースの導入として、学術英語のテキストの読解に取り組み、内容と読解方法についての解説を聞く。	
		この回の到達目標	英語圏の大学への留学に必要な学術英語に関するスキルについて理解する。講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルについて理解する。練習問題に取り組み、このコースの学習方法を覚える。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（10分） Unit 1のリスニングを行い、英文テキストを読んでくる。（30分）	40分
		事後学修	TOEIC、TOEFL、IELTS、英検などの各種検定試験についてWebサイト等で調べてみる。（30分）	30分
2	4月17日	批判的思考と読書	Unit1 批判的思考と読書について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit 1 のリスニングを行い、英文テキストを読み、全ての問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
3	4月24日	エッセイのタイプとストラテジー	Unit2 エッセイのタイプとストラテジーについて、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit2の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
4	5月1日	フィクションと演劇の初歩	Unit3 フィクションと演劇の初歩について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit3の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
5	5月8日	社会学と宗教	Unit4 社会学と宗教について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit4の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
6	5月15日	P T S D	Unit5 P T S Dについて、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit5の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	ビジネスの転換	Unit6 ビジネスの転換について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit6の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
8	5月29日	動物園：賛成と反対	Unit7 動物園：賛成と反対について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit7の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
9	6月5日	エネルギーとエネルギー資源	Unit8 エネルギーとエネルギー資源について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit8の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
10	6月12日	コウモリ	Unit9 コウモリについて、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit9の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
11	6月19日	靴墨工場	Unit10 靴墨工場について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit10の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
12	6月26日	哲学と良い人生	Unit11 哲学と良い人生について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit11の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	パナマ運河	Unit12 パナマ運河について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit12の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
14	7月10日	期末試験および振り返り	授業内期末試験及び振り返り	
		この回の到達目標	第13回までの授業で学んだことを習得し、期末試験で実力を発揮する。	
		事前学修	Unit11-12の学習内容を確認、復習する。講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを試験で発揮できるように、復習する。（90分）	90分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
15	7月17日	アパルトヘイトの終焉	Unit13 アパルトヘイトの終焉について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit13の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。（30分）	30分

科目名	TOEFL I A	担当者	高田 宣子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
WordとPower Pointを使用できる学生は履修可能です。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
TOEFLタイプの問題を解きながら、各自の弱点をチェックします。また、英語スピーチあるいは異文化問題をテーマとする視覚教材を分析しながら、テーマや展開の工夫について実践的に学んでいきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。										1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。										1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則として添削返却

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	プリント使用				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜16：10～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス TOEFLの特徴について	はじめに一辞書と参考文献の紹介、評価基準について	
		この回の到達目標	TOEFLに必要な参考書やサイトを確認する。	
		事前学修	シラバスを読んでおく。	60分
		事後学修	英語1分間プレゼンテーションのテーマを考えておく。	60分
2	4/17	TOEFLの傾向と対策	ボキャブラリー・チェック 英語会話表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	大枠のTOEFL出題傾向を確認する。	
		事前学修	英語1分間プレゼンテーションの原稿下書きを作成する。	60分
		事後学修	プリントを確認する。	60分
3	4/24	授業で必要となるパワーポイントとワードの操作技術の確認	TOEFLリスニング対策、会話表現の習得。 パワーポイントとワードの操作テストを行う。	
		この回の到達目標	ワードとパワーポイントを使って英文を作成する技術を習得する。	
		事前学修	パワーポイントとワードの操作方法を確認しておく。	60分
		事後学修	プリントを確認する。	60分
4	5/1	TOEFL復習文法テスト	TOEFLリスニング対策、文法復習チェック、ボキャブラリー・チェック	
		この回の到達目標	リスニング対策、文法復習チェックを行う。 あるテーマについて英語で1分間話すための技術を習得する。	
		事前学修	文法ワークシートの確認 英文原稿の推敲を行う。	60分
		事後学修	英文原稿の修正を行う。 復習テストの確認	60分
5	5/8	TOEFL長文 傾向と対策	TOEFLの長文問題の傾向と対策 英語表現練習 英語1分間スピーチとコメント交換	
		この回の到達目標	TOEFLの長文の特徴を学び、テーマを読み取る技術を学ぶ。	
		事前学修	プリントを予習しておく。	60分
		事後学修	プリントを復習しておく。	60分
6	5/15	TOEFLリスニング 傾向と対策	TOEFLのリスニング演習 英語1分間スピーチとコメント交換	
		この回の到達目標	英語1分間スピーチとコメント交換 TOEFLのリスニングの特徴を学ぶ。	
		事前学修	プリントを予習しておく。	60分
		事後学修	プリントを復習しておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/22	TOEFLのライティングについて その1	TOEFLライティングの構成と特徴について（応用編）
		この回の到達目標	英文ライティングの際に必要な構成展開について学ぶ。
		事前学修	発表のパワーポイントを構成を考慮しておく。60分
		事後学修	発表のパワーポイントを修正する。60分
8	5/29	TOEFLのライティングについて その2	段落構成と展開の工夫について学ぶ（応用編） TOEFLイディオムチェック（応用編） 英語で意見を述べるための表現について
		この回の到達目標	説明を行うために役立つ英語の慣用表現を習得し、英語で意見を展開するための基礎的な方法を学ぶ。
		事前学修	原稿の下書きを作成する。60分
		事後学修	プリントを見直し、パワーポイントを修正する。60分
9	6/5	Listening対策聞き取りのコツについて その1	各パートの傾向と対策を行う。 TOEFLイディオムのチェック パワーポイントで用いる英語についての注意点
		この回の到達目標	視覚的な工夫と一つのテーマに沿って意見を展開するため工夫について学ぶ。
		事前学修	パワーポイントを修正する。60分
		事後学修	プリントを見直し、パワーポイントを修正する。60分
10	6/12	Listening対策聞き取りのコツについて その2	各パートの傾向と対策を行う。 英語スピーチの構成展開と表現の確認
		この回の到達目標	TOEFLの問題傾向と対策を確認し、英語スピーチのの段取りの最終確認を行う。
		事前学修	英語スピーチのテーマを修正する。 配布プリントを確認する。60分
		事後学修	ワークシートを修正する。 プリントを見直す。60分
11	6/19	復習テストと確認。	TOEFLの復習テスト（英文読解とリスニング） 英語スピーチの内容確認。質疑応答。
		この回の到達目標	文法と長文読解のレベルと今後の学習課題を確認する。 英語プレゼンテーションに向けての問題点を解決する。
		事前学修	これまでのプリントを見直す。60分
		事後学修	英語スピーチのワークシートを修正する。60分
12	6/26	TOEFL長文出題の傾向と対策（応用編）学生による英語プレゼンテーションとコメント交換	長文のテーマで中級程度の難易度のテキストを取りあげて、傾向を分析する。 学生による英語コメント交換
		この回の到達目標	ある程度の長さの英文を短い時間で読むためのコツを学ぶ。 英語スピーチを聞いて、発表の内容について意見を英語で伝えるための表現を習得する。
		事前学修	配布プリントを読んでおく。60分
		事後学修	パワーポイントを作成する。60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	TOEFLリスニング問題の傾向と対策（応用編） 学生による英語プレゼンテーションとコメント交換	中級程度の会話文あるいはある程度の長さの会話文の聞き取りの練習	
		この回の到達目標	英語会話文を聞いて、さらにコメントを英語で話すための表現を身に着ける。	
		事前学修	配布プリントの表現集を読んでおく。	60分
		事後学修	まとめの試験に備えて配布プリントの表現内容を確認しておく。	60分
14	7/10	TOEFLライティングの演習（応用編）	30分で200ワード以上を目標に英文を書いてみる。 その際の問題点について確認する。	
		この回の到達目標	短時間で英語で書くための表現を身に着ける。	
		事前学修	表現集を確認しておく。	60分
		事後学修	チェックを受けた英文を修正する。	60分
15	7/17	総評とテストならびに質疑応答	総まとめと復習テスト レポートの最終チェックと質疑応答	
		この回の到達目標	英文レポートの完成稿とプレゼンテーションの改訂版を仕上げる。	
		事前学修	英文レポートを作成する。	60分
		事後学修	テスト解答を確認する。	60分

科目名	TOEFL I B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL® ITP	Mark D. Stafford他	センゲージ ラーニン グ	2010	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	いいずな書店編集部	いいずな書店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日・金曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15 金9/18	TOEFL-iBTとは？	TOEFL-iBTの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	第一部 火9/22 金9/25	助動詞（1）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 8（助動詞（1））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 8（助動詞（1））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	第一部 火9/29 金10/2	助動詞（2）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 9（助動詞（2））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 9（助動詞（2））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	第一部 火10/6 金10/9	助動詞（3）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 10（助動詞（3））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 10（助動詞（3））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	第一部 火10/13 金10/16	TOEFL ITP対策（1）文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.38-39) の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.38-39) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	第一部 火10/20 金10/23	TOEFL ITP対策（2）リスニング・スピーキング	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills, Speaking, Vocabulary Check! (p.34-37) の演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のVocabulary Check! (p.34-37) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27 金10/30	比較（1）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 21（比較（1））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 21（比較（1））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
8	第一部 火11/10 金11/6	比較（2）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 22（比較（2））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 22（比較（2））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
9	第一部 火11/17 金11/13	比較（3）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 23（比較（3））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 23（比較（3））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
10	第一部 火11/24 金11/20	TOEFL ITP対策（3）文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.43-45）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.43-45）を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	第一部 火12/1 金11/27	TOEFL ITP対策（4）読解・語彙	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のTry the TOEFL Test!, Vocabulary（p.40-42）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のTry the TOEFL Test!, Vocabulary（p.40-42）を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
12	第一部 火12/8 金12/4	副詞	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 43（副詞）のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 43（副詞）のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15 金12/11	TOEFL ITP対策 (5) 文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.50-51) の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.50-51) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
14	第一部 火12/22 金12/18	TOEFL ITP対策 (6) リスニング・スピーキング	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills, Speaking, Vocabulary Check! (p.46-49) の演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のVocabulary Check! (p.49) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
15	第一部 火1/12 金12/25	TOEFL ITP対策 (7) 模擬試験	TOEFL-ITPの模擬試験とその解説 (1)。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの授業内容を復習し、模擬試験に備えておく。	30分
		事後学修	模擬試験の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I B	担当者	堀 千和子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
授業では教科書を使って語彙、リスニング、読解、英作文、発話練習を行い、英語の基礎力アップを目指します。TOEFLの演習も適宜行ってITP試験に備えます。適宜小テストを行い、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークで発話練習、会話練習を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験、採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
村尾純子，深山晶子，野ロジュディー	VOAで学ぶ最先端技術とPBL基礎演習	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、授業終了後（火曜：14：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	TOEFL ITPの解説	TOEFL-iBTの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	TOEFLを勉強する今期の目標をたてておく。シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	30分
2	第一部火 9/22	教科書ユニット11、文法：並列構造	教科書 Unit 11「昼寝の効果」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：並列構造	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。英文中の並列構造を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
3	第一部火 9/29	教科書ユニット12、文法：関係副詞	教科書 Unit 12「進化するスマートフォンアップ」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：関係副詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。関係副詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
4	第一部火 10/6	教科書ユニット13、文法：同格	教科書 Unit 13「がん細胞を光らせる」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：同格	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。同格を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
5	第一部火 10/13	教科書ユニット14、文法：品詞	教科書 Unit 14「宇宙にAIが行く時代」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：品詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。品詞を識別することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
6	第一部火 10/20	教科書ユニット15、文法：分詞構文	教科書 Unit 15「コウモリが教える老化の意味」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：分詞構文	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。分詞構文の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	教科書ユニット16、文法：同一句内の語順	教科書 Unit 16「電池のいらない携帯電話」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：同一句内の語順	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。同一句内の語順を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
8	第一部火 11/10	教科書ユニット17、文法：接続表現	教科書 Unit 17「星は死ぬのか」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：接続表現	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。接続表現を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
9	第一部火 11/17	教科書ユニット18、文法：冠詞・限定詞	教科書 Unit 18「コーヒーがロンドンを変える」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：冠詞・限定詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。冠詞と限定詞を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
10	第一部火 11/24	教科書ユニット19、文法：前置詞	教科書 Unit 19「驚異の天然材料」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：前置詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。前置詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
11	第一部火 12/1	教科書ユニット20、文法：否定	教科書 Unit 20「インターネットの未来は？」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：否定	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。英文の否定を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
12	第一部火 12/8	TOEFLリスニング問題の演習パートA	TOEFLリスニング問題の演習 パートA (Short Conversations)：言い換え、肯定文と否定文、受動態と能動態、場面を類推する、同意の表現、提案の表現を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出する日常会話を聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	TOEFLリスニング問題の演習 パートB	TOEFLリスニング問題の演習 パートB (Long Conversations)：疑問文の種類、トピック、答えの順番を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出する日常会話を聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分
14	第一部火 12/22	TOEFLリスニング問題の演習 パートC	TOEFLリスニング問題の演習 パートC (Long Talks) 疑問文の種類、トピック、答えの順番を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出するトークを聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分
15	第一部火 1/12	後期の振り返り	授業内試験及び後期の学習内容の振り返り。TOEFL ITPの模擬テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	教科書を中心に、語彙や文法など今期に学習した内容を振り返る。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、模擬テストで間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I B	担当者	村松 直子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
上記資格試験の受験と結果を成績評価に含めます。原則TOEFL I Aと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。毎時間、小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業時に、授業テーマ、学習項目に関する英作文に取り組んで発表したり、読解問題の解法をクラスで発表したりするTask-based learningにも取り組む。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末試験の内容について、期末試験実施日の授業時間にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Boost Your English 1 Practice for TOEFL ITP	M. Shishido et al.	Seibido	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
事前（授業後等）に対面でアポイントメントを入れてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	オリエンテーション、教科書の導入、練習問題および解説	コースの到達目標、授業の進め方、英語圏の大学への留学に必要な4技能、特に、リーディング・スキルとリスニング・スキルについて理解する。コースの導入として、学術英語のテキストの読解に取り組み、内容と読解方法についての解説を聞く。	
		この回の到達目標	英語圏の大学への留学に必要な学術英語に関するスキルについて理解する。講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルについて理解する。練習問題に取り組み、このコースの学習方法を覚える。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（10分） Unit 1のリスニングを行い、英文テキストを読んでくる。（30分）	40分
		事後学修	TOEIC、TOEFL、IELTS、英検などの各種検定試験についてWebサイト等で調べてみる。（30分）	30分
2	9月25日	Module 1 Lesson 1 & 3 Understanding agreement and disagreement	agreement and disagreementに関連する基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く正確に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 1 Lesson 1、3 の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
3	10月2日	Module 1 Lesson 2 & 4 Understanding gist	学術英語のリスニングやリーディングのgist questionsに対応するために語彙と英語表現の知識を増やし、リスニング力、読解力を高める。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 1 Lesson 2 & 4の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
4	10月9日	Module 1 Lesson 5 & 6 Understanding purposes	学術テキストの長文読解を行い、その目的を正確に把握するための語彙、表現とスキルを身につける。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 1 Lesson 5 & 6の問題を解いてくる。（40分）	60分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
5	10月16日	Module 2 Lesson 1 & 3 Understanding negatives	negativesの様々な使い方と関連する語彙、表現を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く正確に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 2 Lesson 1 & 3の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
6	10月23日	Module 2 Lesson 2 & 4 Understanding specific information	学術英語のリスニングやリーディングのspecific informationに対応するために語彙と英語表現の知識を増やし、リスニング力、読解力を高める。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 2 Lesson 2 & 4の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	Module 2 Lesson 5 & 6 Understanding pronoun reference	学術テキストの長文読解を行い、冠詞や代名詞が何を意味するのか的確に把握するために、名詞、代名詞の単数、複数形に注意する力をつける。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 2 Lesson 5 & 6の問題を解いてくる。（40分）	60分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
8	11月6日	Module 3 Lesson 1 & 3 Understanding idiomatic expressions	idiomatic expressions に関連する基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 3 Lesson 1 & 3の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
9	11月13日	Module 3 Lesson 2 & 4 Understanding implication	学術英語のリスニングやリーディングのimplicationに対応するために語彙と英語表現の知識を増やし、リスニング力、読解力を高める。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 3 Lesson 2 & 4の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
10	11月20日	Module 3 Lesson 5 & 6 Understanding unfamiliar words	学術テキストの長文読解を行い、冠詞や代名詞が何を意味するのか的確に把握するために、unfamiliar wordsの意味を前後の文脈から把握する力をつける。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 3 Lesson 5 & 6の問題を解いてくる。（40分）	60分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
11	11月27日	Module 4 Lesson 1 & 3 Understanding wishes and the conditional	wishes and the conditionalの様々な使い方と関連する語彙、表現を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く正確に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 4 Lesson 1 & 3の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
12	12月4日	Module 4 Lesson 2 & 4 Present modals	Present modalsの様々な使い方と関連する語彙、表現を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く正確に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 4 Lesson 2 & 4 問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	Module 4 Lesson 5 & 6 Understanding attitude	学術テキストの長文読解を行い、その意味を正確に把握するために、筆者がテキストの中でどのようなattitudeを示しているか把握する力をつける。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 4 Lesson 5 & 6の問題を解いてくる。（40分）	60分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
14	12月18日	期末試験 授業の振り返り	授業内期末試験	
		この回の到達目標	第13回までの授業で学んだことを習得し、期末試験で実力を発揮する。	
		事前学修	Module 1-4の学習内容を確認、復習する。講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを試験で発揮できるように、復習する。（90分）	120分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
15	12月25日	期末試験の解説、授業の総括	期末試験問題の解説を聞き、このコースで学習した重要項目の習得程度の確認を行うとともに、復習すべき箇所あるいは今後の学習課題を明白にする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	期末試験で解けなかった問題がある場合は、教科書や英語参考書で該当項目の復習をしてくる。（40分）	40分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。今後の学習課題を明白にする。（30分）	30分

科目名	TOEFL I B	担当者	高田 宣子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
WordとPower Pointを使用できる学生は履修可能です。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
TOEFLタイプの問題を解きながら、各自の弱点をチェックします。また、英語スピーチあるいは異文化問題をテーマとする視覚教材を分析しながら、テーマや展開の工夫について実践的に学んでいきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則として添削返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	プリント使用				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜16：10～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス TOEFLの特徴とスコア アップについて	はじめに一辞書と参考文献の紹介、評価基準について	
		この回の 到達目標	TOEFLに必要な参考書やサイトを確認する。	
		事前学修	シラバスを読んでおく。	60分
		事後学修	プリントを確認しておく。	60分
2	4/17	TOEFLの傾向と対策 応用編	ボキャブラリー・チェック（中級程度） やや応用的な英語会話表現を学ぶ。	
		この回の 到達目標	大枠のTOEFL出題傾向を確認する。	
		事前学修	英語1分間プレゼンテーションの原稿下書きを作成する。	60分
		事後学修	プリントを確認する。	60分
3	4/24	授業で必要となるパワーポ イントとワードの操作技術 の確認	TOEFLリスニング対策、会話表現の習得。 パワーポイントとワードの操作テストを行う。	
		この回の 到達目標	ワードとパワーポイントを使って英文を作成する技術を習得する。	
		事前学修	パワーポイントとワードの操作方法を確認しておく。	60分
		事後学修	プリントを確認する。	60分
4	5/1	TOEFL復習文法テスト （中級程度）	TOEFLリスニング対策、文法復習チェック、ボキャブラリー・チェックを行い、自分の弱点 を確認する。	
		この回の 到達目標	リスニング対策、文法復習チェックを行う。 あるテーマについて英語で1分間話すための技術を習得する。	
		事前学修	文法ワークシートの確認 英文原稿の推敲を行う。	60分
		事後学修	英文原稿の修正を行う。 復習テストの確認	60分
5	5/8	TOEFL長文 傾向と対策（中 級編）	TOEFLの長文問題の傾向と対策（ジャンル別に検証する） 英語表現練習 英語1分間スピーチとコメント交換	
		この回の 到達目標	TOEFLの長文の特徴を学び、テーマを読み取る技術を学ぶ。	
		事前学修	プリントを予習しておく。	60分
		事後学修	プリントを復習しておく。	60分
6	5/15	TOEFLのリスニング 傾向と 対策	TOEFLのリスニング演習（短い会話と長い会話） 英語1分間スピーチとコメント交換	
		この回の 到達目標	英語1分間スピーチとコメント交換 TOEFLのリスニングの特徴を学ぶ。	
		事前学修	プリントを予習しておく。	60分
		事後学修	プリントを復習しておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	TOEFLのライティングについて その1	TOEFLライティングの構成と特徴について（応用編）学ぶ。 テーマに必要な語彙を習得する	
		この回の到達目標	英文ライティングの際に必要な構成展開について学び、より適切な単語表現を習得する。	
		事前学修	表現集を確認しておく。	60分
		事後学修	表現集を確認しておく。	60分
8	5/29	TOEFLのライティングについて その2	段落構成と展開の工夫について学び、語彙を工夫する。（応用編） TOEFLイディオムチェック（応用編） 英語で意見を述べるための表現について	
		この回の到達目標	説明を行うために役立つ英語の慣用表現を習得し、英語で意見を展開するための応用的な方法を学ぶ。	
		事前学修	原稿の下書きを作成する。	60分
		事後学修	プリントを見直し、パワーポイントを修正する。	60分
9	6/5	Listening対策聞き取りのコツについて その1	聞き取りの苦手な部分をポイントごとに確認し、対策と演習を行う。	
		この回の到達目標	英文の速度に慣れ、流れをつかめるようにする。	
		事前学修	プリントを確認する。	60分
		事後学修	プリントを見直す。	60分
10	6/12	Listening対策聞き取りのコツについて その2	前回の授業で特に問題のあった（日本人にとって苦手な）部分を集中的に扱う。 会話の内容について英語でまとめられるようにする。	
		この回の到達目標	TOEFLの問題傾向と対策を確認し、英語スピーチの段取りの最終確認を行う。	
		事前学修	配布プリントを確認する。	60分
		事後学修	ワークシートを修正する。 プリントを見直す。	60分
11	6/19	復習テストと確認。	TOEFLの復習テスト（英文読解とリスニング） 英語スピーチの内容確認。質疑応答。	
		この回の到達目標	文法と長文読解のレベルと今後の学習課題を確認する。 英語プレゼンテーションに向けての問題点を解決する。	
		事前学修	これまでのプリントを見直す。	60分
		事後学修	英語スピーチのワークシートを修正する。	60分
12	6/26	TOEFL長文出題の傾向と対策（応用編）	長文のテーマで中級程度の難易度のテキストを取りあげて、傾向を分析する。 学生による英語コメント交換	
		この回の到達目標	ある程度の長さの英文を短い時間で読むためのコツを学ぶ。 内容について意見を英語で伝えるための表現を習得する。	
		事前学修	配布プリントを読んでおく。	60分
		事後学修	パワーポイントを作成する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	TOEFLリスニング問題の傾向と対策（応用編） 学生によるコメント交換	中級程度の会話文あるいはある程度の長さの会話文の聞き取りの練習	
		この回の到達目標	英語会話文を聞いて、さらにコメントを英語で話すための表現を身に着ける。	
		事前学修	配布プリントの表現集を読んでおく。	60分
		事後学修	まとめの試験に備えて配布プリントの表現内容を確認しておく。	60分
14	7/10	TOEFLライティングの演習（応用編）	30分で220ワード以上を目標に英文を書いてみる。 その際の問題点について確認する。	
		この回の到達目標	短時間で英語で書くための表現を身に着ける。	
		事前学修	表現集を確認しておく。	60分
		事後学修	チェックを受けた英文を修正する。	60分
15	7/17	総評と テストならびに質疑応答	総まとめと復習テスト レポートの最終チェックと質疑応答	
		この回の到達目標	英文レポートの完成稿とプレゼンテーションの改訂版を仕上げる。	
		事前学修	英文レポートを作成する。	60分
		事後学修	テスト解答を確認する。	60分

科目名	TOEFL II A	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に，リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には，TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOEFL IBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は受講者負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									2	2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点され次の回に返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	2013		
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～12:50、授業講堂にて受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	・授業の進め方、TOEFLについて、英語学習法について説明する。 ・TOEFLの初期演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLに向けた各自の英語学習法を考えることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を概観しておく。	10分
		事後学修	初期演習の復習を行う。	30分
2	4/13	・TOEFL実践的演習(1) ・多義語の演習	・テキストChapter 1: Seven Billion and Counting (前半)を精読し、それに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLリーディングの設問の諸々の傾向を把握し、何が問われているかを理解し、対応できる。	
		事前学修	Chapter 1: Seven Billion and Counting (前半)を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の意味を復習し、覚える。	30分
3	4/20	・TOEFL実践的演習(2) ・重要単語の用法の演習	・テキストChapter 1: Seven Billion and Counting (後半)に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法の理解を深める演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の用法が理解・判別できる。	
		事前学修	Chapter 1: Seven Billion and Counting (後半)を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「重要単語」の復習を行う。	30分
4	4/27	・TOEFL実践的演習(3) ・前置詞の用法の演習	・テキストChapter 2: Who Wants to be a Millionaire?(前半)に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する重要な「前置詞の用法」の知識を広げる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った前置詞の用法が重要単語の用法ができる。	
		事前学修	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire? (前半)を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「前置詞の用法」の復習を行う。	30分
5	5/4	・TOEFL実践的演習(4) ・接頭辞から語彙を増やす演習	・Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?(後半)に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・接頭辞から語彙を増やす演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。接頭辞から語彙を増やすことができる。	
		事前学修	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire? (後半)を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した接頭辞、および新しい語彙を復習し、覚える。	30分
6	5/11	既習内容の総復習(1)	Chapter 1～2の総復習のTOEFL形式の読解・語彙・文法の小テストを行う。その解答・解説を通じて、各自の学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストおよびその解答・解説を通じて、誤答箇所を理解し、各自の課題を見出すことができる。	
		事前学修	Chapter 1～2を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	・TOEFL実践的演習(5) ・word formの演習	・Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLにおける word formに関連した問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。word formに関連した問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（前半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。TOEFLの word formの問題をもう一度解いてみる。	30分
8	5/25	・TOEFL実践的演習(6) ・TOEFL頻出「重要単語」の意味・用法	・Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味・用法を理解する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の意味・用法が判別できる。	
		事前学修	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（後半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した単語の意味・用法を復習し、覚える。	30分
9	6/1	・TOEFL実践的演習(7) ・多義語の意味判別の演習	・テキストChapter 4: Of Terror and Tantrums（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。	
		事前学修	Chapter 4: Of Terror and Tantrums（前半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した多義語の意味を復習し、覚える。	30分
10	6/8	・TOEFL実践的演習(8) ・多義語の知識を増やす演習	・テキストChapter 4: Of Terror and Tantrums（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLの読解において重要な「多義語」の知識を増やす演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。	
		事前学修	Chapter 4: Of Terror and Tantrums（後半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した多義語を復習し、覚える。	30分
11	6/15	既習内容の総復習(2)	テキストChapter 3～4の総復習のTOEFL形式の読解・語彙・文法の小テストを行う。その解答・解説を通じて、各自の学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストおよびその解答・解説を通じて、誤答箇所を理解し、各自の課題を見出すことができる。	
		事前学修	Chapter 3～4を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。	30分
12	6/22	・TOEFL実践的演習(9) ・読解における多義語の意味判別の演習	・テキストChapter 5: Double Edged Net（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLの読解において重要な「多義語」の意味を理解・判別する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。	
		事前学修	Chapter 5: Double Edged Net（前半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した多義語の意味を復習し、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	・TOEFL実践的演習(10) ・TOEFL「重要単語」の意味・用法	・テキストChapter 5: Double Edged Net (後半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法の知識を広げる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の意味・用法が理解できる。	
		事前学修	Chapter 5: Double Edged Net (後半) を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した単語の意味・用法を復習し、覚える。	30分
14	7/6	・TOEFL実践的演習(11) ・重要な「前置詞」の意味・用法	・テキストChapter 6: The Issues of Oceansに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する重要な「前置詞の意味・用法」の知識を広げる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った前置詞の意味・用法が理解・判別できる。	
		事前学修	Chapter 6: The Issues of Oceansを予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「前置詞の用法」の復習を行う。	30分
15	7/13	既習内容の総復習(3)	テキストChapter 5～6の総復習のTOEFL形式の読解・語彙・文法の小テストを行う。その解答・解説を通じて、各自の学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストおよびその解答・解説を通じて、誤答箇所を理解し、各自の課題を見出すことができる。	
		事前学修	Chapter 5～6を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。 今学期の学習を踏まえて、各自の弱点等を認識し、今後の英語学習の方向性を考える。	30分

科目名	TOEFL II A	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
TOEFL-ITPを前期に一回以上受験すること、評価に反映します。英和和英辞書は必須です。電子辞書も可。携帯、スマートフォンの使用は固く禁じます。

【授業方法】
長文を速読して英語の速読力をつけていきましょう。TOEFL-ITPの過去問を本番と同じ条件で半期に一度行います。解いた過去問は返却し、解説を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評・解説は授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Read, Read, Read 英文速読と理解のための実践演習』	宮崎充保	成美堂	17		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金4/10	オリエンテーションと Placement Test	オリエンテーション 重要な説明をしますので、必ず出席してください。 Placement Test、est1、Test2、Test3。授業の予習について、TOEFLの特徴と種類について TOEICとの違いについて確認、成績に着け方についての説明。様々な留学の方法について紹介。	
		この回の到達目標	オリエンテーションと Placement Testを行います。1分間に何単語を読めるのかを計り、今後の目標と学習計画を立てていきます。また、ネットを通して復習する方法を伝えます。	
		事前学修	授業の予習の仕方について説明しますので、教科書を準備してください。シラバスに事前に目を通して、質問があれば準備しておいてください。	30分
		事後学修	今後のTOEFLITPテスト日を確認しておくこと。教科書を準備して、事前にシラバスと照らし合わせて確認してください。 TOEFLとTOEICの違いや、留学に必要な条件についても確認しましょう。	30分
2	金4/17	Register What It Looks Like	Unit 1 Register What It Looks Like Test1、Test2、Test3の重要表現の確認をします。 Unit1 Warm Upの復習。	
		この回の到達目標	単語は形で認識できる	
		事前学修	Placement Test、1、2、3の重要表現の確認 事前に単語を調べないで臨んでください。単語力に自信の無い方は事前に調べても大丈夫です。該当Unitの要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Unit 1 Register What It Looks Like の単語を復習してください。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
3	金4/24	Eye Movement (1)	Unit 1 Register What It Looks Like 単語は形で認識できるように練習しましょう Unit 2 Eye Movement (1)： “Move Your Eyes from Left to Right” 自分がどのくらいの速度で読めるのかを確認しましょう。	
		この回の到達目標	Eye Movement (1)： “Move Your Eyes from Left to Right” 目を動かす（1）：目は左→右へ動かす	
		事前学修	Unit 1 Register What It Looks Like の単語を復習してください。該当Unitの要点や目標を読んでおいてください。単語は事前に調べなくてもよいです。初見でどのくらい読めるか、速読できるかを調べます。	30分
		事後学修	Unit1 P16-P20の練習1-6を復習すること。授業内で習った単語を覚えてください。	30分
4	金5/1	Eye Movement (1)	Unit 2： “Move Your Eyes from Left to Right” 自分がどのくらいの速度で読めるのかを確認しましょう。	
		この回の到達目標	Expand Your Eye： “Eye Span” 視野を広げて：アイ・スパン、一目で見られる範囲を広げて読むことができる。ある程度の数の単語をまとめて読むことができる。	
		事前学修	Unit 2の要点をノートにまとめること。Unit 1の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	前回の復習、Today’s passageの重要表現の確認及び、Unit 2 重要表現をまとめること。授業内で習った単語を再度確認して覚えてください。	30分
5	金5/8	Eye Movement (2)： “by Skipping Words	Unit 2 Eye Movement (1)： “Move Your Eyes from Left to Right” Unit 3 Expand Your Eye： “Eye Span” 速度に着目して速読します。	
		この回の到達目標	視野を広げて：アイ・スパン 一目で見られる範囲を広げて、ある程度の数の単語をまとめて読むことができる。	
		事前学修	Unit 2 重要表現をまとめること。Unit 2の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Develop Your Vocabulary Unit3 Warm Up、授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
6	金5/15	Eye Movement (2)	Unit 3 Expand Your Eye： “Eye Span” Unit 4 Eye Movement 速度に注目して速読します。意味の小さい語は飛ばして読むことができる。	
		この回の到達目標	“by Skipping Words with Little Meaning” 目を動かす（2）：意味の小さい語は飛ばすして読むことで、速度を上げることができる。	
		事前学修	Unit2 P26-P28の練習1-6を復習すること。Unit 3の単語をあらかじめ調べておいてください。	30分
		事後学修	Today’s passage、Today’s passageの重要表現の確認。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金5/22	Eye Movement (2)	Unit 4 Eye Movement (2): “by Skipping Words with Little ” 速読するうえで、重要なテクニックを学びます。単語をかたまりとしてとらえる練習をしています。	
		この回の到達目標	速読の最も基礎的なテクニックである、単語を固まりとしてとらえ、そして小さい意味の単語を飛ばし読みできる。	
		事前学修	Today’s passage, Today’s passageの重要表現の確認。該当Unit 4の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Unit3 P34-P38の練習1-9を復習すること。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
8	金5/29	Find it Quickly (1)	Unit 4 の復習、そしてUnit 5 Find it Quickly: “Scanning” 速読するうえで、重要なテクニックを学びます。単語を固まりとしてとらえる練習をしています。	
		この回の到達目標	Find it Quickly: “Scanning” キーワードを速く見つけるため、スキヤニングテクニックを理解する。	
		事前学修	Today’s passage, Today’s passageの重要表現の確認。該当Unit 4の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Develop Your Vocabularyの確認。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
9	金6/5	Find it Quickly (2)	Unit 5 Find it Quickly: “Scanning” 速読するうえで、重要なテクニックを学びます。単語を固まりとしてとらえる練習をしています。	
		この回の到達目標	Find it Quickly: “Scanning” キーワードを速く見つけるため、スキヤニングテクニックを駆使して早く読むことができる。	
		事前学修	Develop Your Vocabularyの確認。該当Unit 5の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Unit4 P46-P51の練習1-6を復習すること。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
10	金6/12	Get It Chunk by Chunk (1)	Unit 6 Get It Chunk by Chunk Unit7 Warm Up 速度を落とさず、一定のスピードで読み進めることを練習していきます。	
		この回の到達目標	Unit 6 Get It Chunk by Chunk 英語のかたまりで意味を把握する。	
		事前学修	P68-77 理解度に応じて練習1-9のいくつかをpick upしておくので、練習してください。Develop Your Vocabularyを見て、単語を確認しておくこと。該当Unit 7の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Unit 5の重要単語の確認。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
11	金6/19	Get It Chunk by Chunk (2)	Unit 6 Get It Chunk by Chunk 速度を落とさず、一定のスピードで読み進めることを練習していきます。	
		この回の到達目標	前期の後半の目標＜頭で英語に慣れる：文法力・語彙力を生かす＞ ことができる。	
		事前学修	Unit 5 の重要表現の確認。該当Unit 6の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	練習問題1-6, Develop Your Vocabularyをまとめておくこと。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
12	金6/26	TOEFL TEST まとめ	TOEFLのリーディングの過去問を本番同様の時間を使って試験を行います。	
		この回の到達目標	TOEFL TESTの過去問をといて、実践になれる。	
		事前学修	事前にTOEFL ITPの過去問に目をおしておくといいです。ネットや図書館で事前に頻出単語を確認しておきましょう。	30分
		事後学修	わからなかった点などは、書きとめて置き、今後の対策をねること。学習した単語を覚えてください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金7/3	TOEFL TEST まとめ	TOEFLのリーディングの過去問を本番同様の時間を使って試験を行います。	
		この回の 到達目標	TOEFL TESTの過去問をとりて、実践になれる。	
		事前学修	事前にTOEFL ITPの過去問に目をおしておくと良いです。 ネットや図書館で事前に頻出単語を確認しておきましょう。	30分
		事後学修	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。頻出単語を覚えてください。	30分
14	金7/10	テストとまとめ	TESTおよびまとめ	
		この回の 到達目標	前期の授業で学習したことが身についているかをテストする。	
		事前学修	これまでの授業の復習をすること。 質問事項があればこの日までにまとめておきましょう。	30分
		事後学修	わからなかった点は、教科書を確認しましょう。間違えた箇所やあやふやな箇所はノートにまとめておきましょう。	30分
15	金7/17	試験の総括	時事英語に関するDVDを見聞きましょう。	
		この回の 到達目標	試験での不明な点を明らかにする。英語の動画をみて、英語に親しむ。	
		事前学修	これまでの授業の成果を見る為にネイティブの英語に触れてみましょう。あらかじめBBCやCNNなどのニュースを見ておきましょう。	30分
		事後学修	重要表現はまとめておきましょう。	30分

科目名	TOEFL II A	担当者	森下 正昭	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に，リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には，TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IIBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験・期末試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL ITP	Mark D. Stafford & Chizuko Tsumatori	CENAGE Learning	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10 - 13:00。詳細は第1回目の授業にて連絡。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション及び導入講義	授業の概要、成績評価方法、事前・事後学習の方法、TOEFL ITPの内容等について解説。グループ分けとチームビルディング・アクティビティを実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式と授業の概要を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、目標・ふりかえりシートに英語学習における今学期の目標を記入する。	50分
2	4/15	Reading - Unit 01: Racial Discrimination Problem	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
3	4/22	Reading - Unit 01: 接続詞	接続詞に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、接続詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
4	4/29	Listening - Unit 02: Short Conversations・名詞	会話の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。名詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会話の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。また、到達目標②に関連して、名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。さらに、One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
5	5/6	Reading - Unit 03: The Discovery of a New Medicine	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
6	5/13	Reading - Unit 03: 仮定法	仮定法に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	中間試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期前半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期前半の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	前期前半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
8	5/27	Listening - Unit 04: Looking for Reference Books in the Library	会話の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会話の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
9	6/3	Listening - Unit 04: 助動詞	助動詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
10	6/10	Reading - Unit 05: American Insurance System	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
11	6/17	Reading - Unit 05: 比較	比較に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
12	6/24	Listening - Unit 06: Instructions on Class by a Professor	スピーチの解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、スピーチの意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Listening - Unit 06: 副詞	副詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、副詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
14	7/8	期末試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期後半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期後半の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	前期後半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
15	7/15	講評とふりかえり	期末試験を返却し全体の傾向や間違いの多かった問題などを説明。グループで前期の目標・ふりかえりをシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どの程度身につけることができたか、自身をふりかえり適切に評価することができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「学期末のふりかえり」の部分を記入し、シートを完成させる。	30分
		事後学修	授業内でのふりかえりのシェアを参考に、今学期の英語学修の取り組みについて良かった点と悪かった点を改めて整理する。	30分

科目名	TOEFL II B	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストはすべて採点され次の回に返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	2013		
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～12:50、授業講堂にて受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	・授業の進め方、TOEFLについて、英語学習法について説明する。 ・TOEFLに向けた初期演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLに向けた各自の英語学習法を考えることができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、授業の全体を概観する。	10分
		事後学修	ガイダンス、および初期演習の復習を行う。	30分
2	9/21	・TOEFL実践的演習(1) ・TOEFL「重要構文」の演習	・テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要構文」を見抜き、理解できるようになる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「重要構文」を見抜き、理解することができる。	
		事前学修	テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（前半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「重要構文」の復習を行う。	30分
3	9/28	・TOEFL実践的演習(2) ・TOEFL頻出「多義語」の演習	・テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の知識を広げる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「多義語」を的確に判別できる。	
		事前学修	テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（後半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の復習を行う。	30分
4	10/5	・TOEFL実践的演習(3) ・英語の文体的特徴の演習	・テキストChapter 8: An Obsession with Possessionに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英語の文体的特徴（並列法、パラレリズム、対照法等）を理解する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した英語の文体的特徴を認識できる。	
		事前学修	テキストChapter 8: An Obsession with Possessionの予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した文体的特徴の復習を行う。	30分
5	10/12	既習内容の総復習1	テキストChapter 7～8のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習テストを行う。その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習テストを通じて、誤答箇所を認識・理解し、各自の課題点・改善点を見出すことができる。	
		事前学修	テキストChapter 7～8を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。	30分
6	10/19	・TOEFL実践的演習(4) ・TOEFL頻出「熟語の多義」の演習	・テキストChapter 9: Heading for a Crashに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「熟語の多義」を判別する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「熟語の多義」を識別できる。	
		事前学修	テキストChapter 9: Heading for a Crashの予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した熟語の多義を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	・TOEFL実践的演習(5) ・英語の「同綴異義語」の演習	・テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英語の「同綴異義語」の意味を判別する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した英語の「同綴異義語」を認識し、判別できる。	
		事前学修	テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（前半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の復習を行う。	30分
8	11/9	・TOEFL実践的演習(6) ・TOEFL頻出word formsの演習	・テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出するword formsの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した内容に基づいて、適切なword formを選ぶようになる。	
		事前学修	テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（後半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習したword formsの復習を行う。	30分
9	10/16	既習内容の総復習2		テキストChapter 9～10のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習テストを行う。その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習テストを通じて、誤答箇所を認識・理解し、各自の課題点・改善点を見出すことが出来る。	
		事前学修	テキストChapter 9～10を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。	30分
10	11/23	・TOEFL実践的演習(7) ・注意すべき「否定語」の演習	・テキストChapter 11: Teach Your Children Well（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する注意すべき「否定語」を習得する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「否定語」を認識できる。	
		事前学修	テキストChapter 11: Teach Your Children Well（前半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した注意すべき「否定語」の復習を行う。	30分
11	11/30	・TOEFL実践的演習(8) ・注意すべき「否定構文」の演習	・テキストChapter 11: Teach Your Children Well（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英文において注意すべき「否定構文」を理解できるようになる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「否定構文」を正確に理解できる。	
		事前学修	テキストChapter 11: Teach Your Children Well（後半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「否定構文」の復習を行う。	30分
12	12/7	・TOEFL実践的演習(9) ・注意すべき一見simpleな英語表現の演習	・テキストChapter 12: The Other Precious Liquid に関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 英文において解釈に注意すべき一見simpleな英語表現を理解する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき一見simpleな英語表現を的確に理解できる。	
		事前学修	テキストChapter 12: The Other Precious Liquidの予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「注意すべき一見simpleな英語表現」の復習を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	既習内容の総復習 3	テキストChapter 11～12のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習テストを行う。その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習テストを通じて、誤答箇所を認識・理解し、各自の課題点・改善点を見出すことが出来る。	
		事前学修	テキストChapter 11～12を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。	30分
14	12/21	・TOEFL実践的演習(10) ・注意すべき「熟語表現」の演習	・テキストChapter 12: The Other Precious Liquidに関するTOEFL形式の問題を解く ・TOEFLにおいて注意すべき「熟語表現」の理解を深める演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「熟語表現」を的確に理解できる。	
		事前学修	テキストChapter 14: Good Help, Bad Helpの予習を行う。 (*Chapter 13は飛ばします。)	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した注意すべき「熟語表現」の復習を行う。	30分
15	1/18	・TOEFL実践的演習(11) ・日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の演習	・テキストChapter 15: Are You Happy? に関するTOEFL形式の問題を解く ・日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」を適切に理解できる。	
		事前学修	テキストChapter 15: Are You Happy?の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の復習を行う。 今学期学習した内容を振り返り、今後の自分の学習の方向性を考える。	30分

科目名	TOEFL II B	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
TOEFL-ITPを後期に一回以上受験することが履修の条件です。評価に反映しますので必ず受験して下さい。英和和英辞書は必須です。電子辞書も可。携帯、スマートフォンの使用は固く禁じます。

【授業方法】
演習形式で長文を速読して英語の速読力をつけていきましょう。単語を敢えて調べず初見で英語を速読することになれましょう。単語力に自信のない人は、事前に単語を調べても構いません。TOEFL-ITPの過去問を本番と同じ条件で半期に一度行います。解いた過去問は返却し、解説を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。										2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。										2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。										2	2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評・解説は授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Read, Read, Read 英文速読と理解のための実践演習』	宮崎充保	成美堂	17		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	金9/18	ガイダンス及び前期の総復習	授業の予習について、TOEFLの特徴と種類について TOEICとの違いについて確認、成績に着け方についての説明。様々な留学の方法について紹介。
		この回の到達目標	これまでの授業を振り返り、速読のテクニックを復習し、後期の学習内容を確認して、学習計画と目標を設定する。
		事前学修	授業の予習の仕方について説明しますので、教科書を準備してください。シラバスを事前に目をとおして教科書の該当箇所を確認しておきましょう。
		事後学修	今後のTOEFLITPテスト日を確認しておくこと。授業内で指示した単語を覚えてください。 TOEFL、TOEICの違いを確認しておきましょう。
2	金9/25	Find What Will Come After: “Prediction”	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” 様々な文章を初見で読みましょう。
		この回の到達目標	“Prediction” 後に続く表現を予測することができる。
		事前学修	Placement Test、1, 2, 3の重要表現の確認 事前に単語を調べないで臨んでください。単語力に自信の無い方は事前に調べても大丈夫です。該当Unit 7の要点や目標を読んでおいてください
		事後学修	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” の重要単語の復習をしてください。授業内で指示した単語を覚えてください。
3	金10/2	Imagine What Will Come After:	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” 様々な文章を初見で読みましょう。
		この回の到達目標	Imagine What Will Come After 後に続く表現を予測することができる。内容の予測を立てる。
		事前学修	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” の重要単語の復習をしてください。該当Unit 8の要点や目標を読んでおいてください。
		事後学修	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” の復習をしてください。授業内で指示した単語を覚えてください。
4	金10/9	WPSの確認	Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” 速読に慣れてきたところで、WPSを確認しましょう。
		この回の到達目標	前期の初期からどの程度WPSがあがったのかを確認し、理解度をあげていく。
		事前学修	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” 該当Unit 8の要点や目標を読んでおいてください。 の復習をしてください。
		事後学修	前回の復習、Today’s passageの確認 Unit 8のまとめをすること、授業内で指示した単語を覚えてください。
5	金10/16	Read On and On without Turning Back (1)	Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” Unit 9 Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’re Lost” 長年の癖を直して、振り返りをしないようにする練習をしましょう。
		この回の到達目標	“Go Back Only When You’re Lost” Read On and On without Turning Back 振り返りをしないでよむことができる。
		事前学修	Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” のまとめをすること。該当Unit 9の要点や目標を読んでおいてください。
		事後学修	Develop you vocabularyの確認 Unit8の復習。授業内で指示した単語を覚えてください。
6	金10/23	Read On and On without Turning Back (2)	Unit 9: “Go Back Only When You’re Lost” 振り返りをなくして、英文を読む速度を速めていくようにしましょう。
		この回の到達目標	一旦読み進めたところから、振り返りをしないように、一定の速度を保って読み続けることができる。
		事前学修	Unit8の復習および。該当Unit 9の要点や目標を読んでおいてください。
		事後学修	前回の復習, Today’s passage, Today’s passageの重要表現の確認。授業内で指示した単語を覚えてください。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金10/30	Read On and On without Turning Back（3）	Unit 9 Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’ re Lost” 多読をすることで、英文を読む速度を上げていきます。	
		この回の到達目標	読む速度を上げるため、多読を繰り返し行い、速度を上げる。	
		事前学修	該当Unit 9の要点や目標を読んでおいてください。 前回の復習, Today’ s passage, Today’ s passageの重要表現の確認	30分
		事後学修	Unit 9 Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’ re Lost” を復習すること。 授業内で指示した単語を覚えてください。	30分
8	金11/6	Read at Speed and Get the General Idea（1）	Unit 10 Read at Speed and Get the General Idea: “Skimming” 意味を大まかにとらえ、スピードを速める練習をしましょう。	
		この回の到達目標	“Skimming” さっと大筋を掴む：意味を大まかに捉えて、英文のスキミングができるようになる。	
		事前学修	Today’ s passage, Today’ s passageの重要表現の確認。該当Unit 1 0の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Unit 10のDevelop Your Vocabularyの確認。授業内で指示した単語を覚えてください。	30分
9	金11/13	Read at Speed and Get the General Idea（2）	Unit 10 Read at Speed and Get the General Idea: “Skimming” p151－121練習問題1－11、Develop Your vocaburaly 読解スピードを速める練習をしましょう。	
		この回の到達目標	意味を大まかに捉えて、大筋をとらえる読み方で多読することで、読解スピードを大幅に上げることができる。	
		事前学修	該当Unit 1 0の要点や目標を読んでおいてください。Develop Your Vocabularyの確認	30分
		事後学修	Unit10を復習すること。授業内で指示した単語を覚えてください。	30分
10	金11/20	論理構成の把握と読みの実践	Unit11 意味を正確にとらえているか、演習形式で演習を通して確認しましょう。読む速度を確認し、これまでの達成度を確認しましょう。	
		この回の到達目標	How a Paragraph Is Made 段落構成法を理解する。これまでのテクニックを取り入れ、さらに最終的には段落の構成を理解して読むことができる。	
		事前学修	該当Unitの要点や目標を読んでおいてください。Develop Your Vocabularyの確認	30分
		事後学修	Unit 11のDevelop Your Vocabularyをまとめておくこと。授業内で指示した単語を覚えてください。	30分
11	金11/27	TOEFL TEST まとめ	TOEFLのリーディングの過去問を行います。	
		この回の到達目標	TOEFL TESTの過去問を実際のテストと同じ条件で行い、テストの傾向を理解する。	
		事前学修	事前にTOEFL ITPの過去問に目をとっておくと良いです。ネットや図書館などで頻出単語を確認しておきましょう。	30分
		事後学修	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。	30分
12	金12/4	TOEFL TEST まとめ	TOEFLのリスニングの過去問を行います。	
		この回の到達目標	TOEFL TESTの過去問を実際のテストと同じ条件で行い、テストの傾向を理解する。	
		事前学修	事前にTOEFL ITPの過去問に目をとっておくと良いです。ネットや図書館などで頻出単語を確認しておきましょう。	30分
		事後学修	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金12/11	テストとまとめ	問題演習。前期の授業を総復習するため、問題を解いていきます。達成度をみてきましょう。	
		この回の到達目標	後期の授業で学んだことが理解できているかをテストする。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして準備すること。	30分
		事後学修	わからなかった点は、教科書を確認しましょう。授業内で指示した単語を覚えてください	30分
14	金12/18	テストの総括	後期授業のまとめ。テストの解説および総括をします。	
		この回の到達目標	前期後期で学習した速読のテクニックをまとめる。テストの疑問点を明白にする。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして準備すること。	30分
		事後学修	不明な点を解説しますので、確認しましょう。授業内で指示した単語を覚えてください。	30分
15	金12/25	時事英語の動画	これまでの授業の成果をみるために、時事英語のDVDを見聞きしましょう。	
		この回の到達目標	時事英語の動画を鑑賞して、英語のリスニングに親しむ。	
		事前学修	これまでの授業の成果を見る為にネイティブの英語に触れてみましょう。事前にBBCやCNNニュースを見ておくといいでしょう。	30分
		事後学修	重要表現はまとめておきましょう。	30分

科目名	TOEFL II B	担当者	森下 正昭	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IIAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									2	2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験・期末試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL ITP	Mark D. Stafford & Chizuko Tsumatori	CENAGE Learning	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10 - 13:00。詳細は第1回目の授業にて連絡。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	オリエンテーション及び導入講義	授業の概要、成績評価方法、事前・事後学習の方法、TOEFL ITPの内容等について解説。グループ分けとチームビルディング・アクティビティを実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式と授業の概要を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、目標・ふりかえりシートに英語学習における今学期の目標を記入する。	50分
2	9/23	Reading - Unit 07: Financial Crisis	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
3	9/30	Reading - Unit 07: 関係詞	関係詞に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
4	10/7	Listening - Unit 08: Conversation between a Professor and a Student	会話の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会話の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
5	10/14	Listening - Unit 08: 準動詞	準動詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、準動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
6	10/21	Reading - Unit 09: Native American・受動態	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。受動態に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。さらに到達目標②に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。さらにBuilding Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	中間試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期前半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	後期前半の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	後期前半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
8	11/11	Listening - Unit 10: Civil War	講義の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、講義の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで講義を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
9	11/18	Listening - Unit 10: 前置詞	前置詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前置詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
10	11/25	Reading - Unit 11: Environmental Problem	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
11	12/2	Reading - Unit 11: 現在完了	現在完了に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、現在完了に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
12	12/9	Listening - Unit 12: Astronomy	講義の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、講義の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで講義を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Listening - Unit 12: 疑問詞	疑問詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、疑問詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
14	12/23	期末試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期後半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	後期後半の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	後期後半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
15	1/13	講評とふりかえり	期末試験を返却し全体の傾向や間違いの多かった問題などを説明。グループで後期をふりかえる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どの程度身につけることができたか、自身をふりかえり適切に評価することができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「学期末のふりかえり」の部分を記入する。	30分
		事後学修	授業内でのふりかえりのシェアを参考に、今学期の英語学修の取り組みについて良かった点と悪かった点を改めて整理する。	30分

科目名	TOEFL ⅢA	担当者	黒滝 真理子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL ⅢIBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Writing Frontiers	熊本/大井/上村/Sano/松本	金星堂	2010	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、クライテリアン受験料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	TOEFL-ITPとは？	TOEFL-ITPの概要，授業のテーマや内容，授業スケジュール，事前・事後学習の方法や成績評価方法等について理解し，授業の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し，授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習し理解を深める。	50分
2	4/15	パラグラフの書き方 TOEFL ITP対策(1)	Chapter 1(Introducing yourself)とパラグラフの書き方 TOEFL ITPのリスニング	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，リスニング力を身につけるとともに，英文の内容を正確に聴き取ることができる。	
		事前学修	Chapter 1(Introducing yourself)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	4/22	プロセス・ライティング TOEFL ITP対策(2)	Chapter 2(Writing a Story by Yourself)とプロセス・ライティング TOEFL ITPの文法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して，TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 2(Writing a Story by Yourself)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	4/29	パラグラフからエッセイへ TOEFL ITP対策(3)	Chapter 3 (Writing your ounwn recipe)とパラグラフライティング TOEFL ITPのリーディング	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 3 (Writing your ounwn recipe)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	5/6	パラグラフからエッセイへ TOEFL ITP対策(4)	Chapter 4 (Different Varieties of English)と「パラグラフからエッセイへ」 TOEFL ITPのリスニング	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，リスニング力を身につけるとともに，英文の内容を正確に聴き取ることができる。	
		事前学修	Chapter 4 (Different Varieties of English)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	5/13	エッセイ・パターン TOEFL ITP対策(5)	Chapter 5 (Describing interesting people and places)とエッセイ・パターン TOEFL ITPの文法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して，TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 5 (Describing interesting people and places)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	エッセイ・パターン TOEFL ITP対策 (6)	Chapter 6 (Expressing your feelings)とエッセイ・パターン TOEFL ITPのリーディング	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 6 (Expressing your feelings)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
8	5/27	アカデミック・ライティング TOEFL ITP対策 (7)	Chapter 7 (Introducing your hometown)とアカデミック・ライティング TOEFL ITPの文法	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 7 (Introducing your hometown)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
9	6/3	アカデミック・ライティング TOEFL ITP対策 (8)	アカデミック・ライティング TOEFL ITP (文法模試)	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	TOEFL ITPの文法問題から自分の弱点や問題点を洗い出す。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に探り出した問題をもう一度解く。	30分
10	6/10	TOEFL ITP対策 (9) クライテリオン (1)	クライテリオン (1) TOEFL ITP (リーディング模試)	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	TOEFL ITPのリーディングを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習で扱ったリーディングの本文を音読し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	6/17	TOEFL ITP対策 (10) クライテリオン (2)	クライテリオン (2) とrevise方法 TOEFL ITP (リーディング模試)	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	TOEFL ITPのリーディングを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習で扱ったリーディングの本文を音読し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
12	6/24	TOEFL ITP対策 (11) クライテリオン (3)	クライテリオン (3) TOEFL ITP (リスニング模試)	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、リスニング力を身につけるとともに、英文の内容を正確に聴き取ることができる。。	
		事前学修	TOEFL ITPのリスニング問題を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	クライテリオン（４）	クライテリオン（４）とrevise	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（３）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。	30分
14	7/8	クライテリオン（５）	クライテリオン（５）	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（４）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
		事後学修	クライテリオン（５）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
15	7/15	授業の振り返り	授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ライティングもスキルを身につけ、またTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEFL ITPでよく間違える問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL ⅢA	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOEFL－ITPⅢBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOEFL－ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを配布します。				

【オフィスアワー】
金曜日 8：30から8：50、授業終了後、お昼休み、3限終了後に、教室または教員室で対応。メールアドレスについては授業内で連絡します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	TOEFLとはどのような試験なのか。	他の資格試験と比較しながらTOEFL－ITPについて解説し、授業方法、評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL－ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、これまでの英語学習についてまとめておくこと。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し学習の計画を立てる。	30分
2	第一部金 4/17	TOEFLの解説①（§ 1 Listening）	リスニングの問題の傾向の演習と解説。リスニング演習の語彙・内容理解のテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、リスニングの問題の傾向を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	前回の授業で配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項を理解する。	30分
		事後学修	授業で使用されたプリントの語彙・文法事項を復習する。	30分
3	第一部金 4/24	TOEFL の解説②（§ 2 Structure and Written Expression）	TOEFL－ITPの文法問題の傾向の演習と解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法問題の傾向を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	配布されたプリント 1（心理学関連の英文）の語彙と文法の重要点を調べる。	30分
		事後学修	プリント1の語彙を覚え、内容の確認と文法事項の復習をする。	30分
4	第一部金 5/1	TOEFLの解説③（ § 3 Reading ）	TOEFLの解説③（ § 3 Reading ）、プリント 1（心理学）演習①：語彙・イディオム、専門分野の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、心理学分野の語彙・イディオム、専門用語を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント 1（心理学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
5	第一部金 5/8	リスニング：Part A、リーディング（心理学）演習②	リスニングPart A の傾向（話の核となるキーワード）、プリント 1（心理学）の演習②：文の構造の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングPart A の傾向と心理学関係の知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント 1（心理学）の文の構造を予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
6	第一部金 5/15	リスニング：Part B（設問の予想）、プリント 1（心理学）の演習③	リスニング：Part B の傾向（設問の予想）、プリント 1（心理学）の演習③：バックグラウンドの解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part B の傾向（設問の予想）、心理学に関連する文のバックグラウンドを理解でき、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント 1（心理学）の内容のバックグラウンドを調べる。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	リスニング：Part C の傾向（繰り返される情報）、文法問題①（品詞）	リスニング：Part C の傾向（繰り返される情報）、プリント2（文法問題①：品詞）の演習と解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part C の傾向（繰り返される情報）、プリント2（文法問題1）に関する知識を身につけ、それに関連する文法問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント2（文法問題1）の語彙・文法事項を予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
8	第一部金 5/29	リスニング Part A の傾向（会話内の出来事）、プリント3（経済学）の演習①	リスニング Part A の傾向（会話内の出来事）、プリント3（経済学）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part A の傾向（会話内の出来事）、プリント3（経済学）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント3（経済学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
9	第一部 6/5	リスニング：Part B の傾向（問題点と解決策）、プリント3（経済学）の演習②：文の構造	リスニング：Part B の傾向（問題点と解決策）、プリント3（経済学）の演習②：文の構造の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part B の傾向（問題点と解決策）、プリント3（経済学）の演習②：文の構造を身につけし、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント3（経済学）の文の構造を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
10	第一部金 6/12	リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）、プリント3（経済学）の演習③	リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）、プリント3（経済学）の演習③：バックグラウンドの解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）、プリント3（経済学）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント3（経済学）のバックグラウンドを調べる。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
11	第一部金 6/19	リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）、プリント4（文法問題2：動詞）の演習	リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）、プリント4（文法問題2：動詞）の演習と解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）、プリント4（文法問題2：動詞）を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント4（文法問題2）の語彙・文法事項を調べる。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
12	第一部金 6/26	リスニング：Part B の傾向（イントネーション）、プリント5（アメリカ史）演習①	リスニング：Part B の傾向（イントネーション）、プリント5（アメリカ史）演習①：語彙・イディオム、専門用語の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part B の傾向（イントネーション）、プリント5（アメリカ史）演習①：語彙・イディオム、専門用語を理解し身につけ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント5（アメリカ史関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	リスニング：Part C の傾向（問題の予測）、プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造	リスニング：Part C の傾向（問題の予測）、プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part C の傾向（問題の予測）、プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント5（アメリカ史）の文の構造について予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。	30分
14	第一部金 7/10	プリント5（アメリカ史）演習③バックグラウンドの理解	プリント5（アメリカ史）演習③：バックグラウンドの解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アメリカ史のバックグラウンドおよび重要表現を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント5（アメリカ史）の内容のバックグラウンドを調べる	30分
		事後学修	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
15	第一部金 7/17	TOEFL-ITP対策：速読	振り返りのための小テストとその解説。	
		この回の到達目標	到達目標の②③に関連して、TOEFL-ITP形式の問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの授業で理解できなかった事項の確認をする。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、授業中の演習問題に間違えた問題をもう一度解く。前期の授業の総括をする。	30分

科目名	TOEFL ⅢB	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL ⅢIBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Writing Frontiers	熊本/大井/上 村/Sano/松本	金星堂	2010	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、クライテリアン受験料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	TOEFL-ITPとは？	TOEFL-ITPの概要，授業のテーマや内容，授業スケジュール，事前・事後学習の方法や成績評価方法等について理解し，授業の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し，授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習し理解を深める。	50分
2	9/23	パラグラフの書き方 TOEFL ITP対策(1)	Chapter 8(Studying more about the world)とパラグラフの書き方 TOEFL ITPのリスニング	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，リスニング力を身につけるとともに，英文の内容を正確に聴き取ることができる。	
		事前学修	Chapter 8(Studying more about the world)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	9/30	プロセス・ライティング TOEFL ITP対策(2)	Chapter 9(Why are they so popular?)とプロセス・ライティング TOEFL ITPの文法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して，TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 9(Why are they so popular?)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	10/7	パラグラフからエッセイへ TOEFL ITP対策(3)	Chapter 10(Why have fast food shops become popular in Japan?)とパラグラフライティング TOEFL ITPのリーディング	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 10(Why have fast food shops become popular in Japan?)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	10/14	パラグラフからエッセイへ TOEFL ITP対策(4)	Chapter 11 (Comparing shogi and Chess)と「パラグラフからエッセイへ」 TOEFL ITPのリスニング	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，リスニング力を身につけるとともに，英文の内容を正確に聴き取ることができる。	
		事前学修	Chapter 11 (Comparing shogi and Chess)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	10/21	エッセイ・パターン TOEFL ITP対策(5)	Chapter 12(Things can be the same; things can be different)とエッセイ・パターン TOEFL ITPの文法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して，TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 12(Things can be the same; things can be different)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	エッセイ・パターン TOEFL ITP対策（6）	Chapter 13 (Expressing your opinion)とエッセイ・パターン TOEFL ITPのリーディング	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 13 (Expressing your opinion)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
8	11/11	TOEFL ITP対策（7）	Chapter 14 (International students at various universities) TOEFL ITP（リスニング模試）	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、リスニング力を身につけるとともに、英文の内容を正確に聴き取ることができる。	
		事前学修	Chapter 14 (International students at various universities)のExerciseを解いておく。TOEFL ITPのリスニング問題を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
9	11/18	TOEFL ITP対策（8）	Chapter 15 (presenting yourself) TOEFL ITP（文法模試）	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 15 (presenting yourself)のExerciseを解いておく。TOEFL ITPの文法問題から自分の弱点や問題を洗い出す。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に探り出した問題をもう一度解く。	30分
10	11/25	TOEFL ITP対策（9） クライテリオン（1）	クライテリオン（1） TOEFL ITP（リーディング模試）	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	TOEFL ITPのリーディングを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習で扱ったリーディングの本文を音読し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	12/2	アカデミック・ライティング クライテリオン（2）	アカデミック・ライティングの手法 クライテリオン（2）とrevise方法	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（1）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。	30分
12	12/9	アカデミック・ライティング クライテリオン（3）	アカデミック・ライティングの手法 クライテリオン（3）	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（2）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	クライテリオン（４）	クライテリオン（４）とrevise	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（３）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。	30分
14	12/23	クライテリオン（５）	クライテリオン（５）	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（４）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
		事後学修	クライテリオン（５）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
15	1/13	授業の振り返り	授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ライティングもスキルを身につけ、またTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEFL ITPでよく間違える問題をもう一度解き、TOEFLの試験に臨めるようにする。	30分

科目名	TOEFL ⅢB	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOEFLⅢAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOEFL－ITPの受験をすること。（受験料は自己負担）

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを配布します。				

【オフィスアワー】
金曜日 8：30 から 8：50、授業終了後、お昼休み、3 限終了後に、教室または教員室で対応します。メールアドレスは授業内で通知しま す。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 9/18	TOEFLとはどのような試験なのか	TOEFL－ITPの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、TOEFL－ITPの各セクションの問題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み授業の全体像を把握し、これまでの英語学習についてまとめておくこと。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、英語学習の計画を立てる。	30分
2	第一部金 9/25	TOEFLの解説①（§1 Listenin）	TOEFLのリスニングの問題の傾向の演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEFLのリスニングの問題の傾向を知りそれに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項を理解する。	30分
		事後学修	リスニングを復習し、プリントの語彙・文法事項を復習する。	30分
3	第一部金 10/2	TOEFL の解説②（§2 Structure and Written Expression）	TOEFL の解説②（§2 Structure and Written Expression）：TOEFL の文法問題の演習と解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標の①②に関連し、TOEFL の文法問題の傾向を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	配布されたプリント1（社会学関連の英文）の語彙を調べる。	30分
		事後学修	今回配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項の復習をする。	30分
4	第一部金 10/9	TOEFLの解説③（ §3 Reading ）、プリント1（社会学）演習①：	TOEFLの解説③（ §3 Reading ）：プリント1（社会学）演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語の解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、TOEFLのリーディングの社会学の内容の文の語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント1（社会学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	返却された小テストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
5	第一部金 10/16	リスニング Part A の傾向（キーワードの聞き取り）、プリント1（社会学）の演習②：文の構造の理解	リスニング Part A の傾向（キーワードの聞き取り、プリント1（社会学）の演習②：文の構造についての解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part A の傾向（キーワードの聞き取り）、プリント1（社会学）の演習②：文の構造を理解して、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント1（社会学）の文の構造を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却された小テストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
6	第一部金 10/23	リスニング Part B の傾向（疑問詞）、プリント1（社会学）の演習③：バックグラウンドの理解	リスニング Part B の傾向（疑問詞）、プリント1（社会学）の演習③：バックグラウンドの解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part B の傾向（疑問詞）、プリント1（社会学）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント1（社会学）の内容のバックグラウンドを調べる。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 10/30	TOEFLのリスニング Part C（数字の聞き取り）、プリント2（文法問題：接続詞）の演習	TOEFLのリスニング Part C（数字の聞き取り）、TOEFL－ITP の文法問題（接続詞）の演習と解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEFLのリスニング Part C（数字の聞き取り）、TOEFL－ITP の文法問題を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント2（文法問題）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
8	第一部金 11/6	リスニングPart A の傾向（否定の表現）、プリント3（医学・健康）の演習①	リスニングPart A の傾向（否定の表現）、プリント3（医学・健康）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語の解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングPart A の傾向（否定の表現）、プリント3（医学・健康）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント3（医学・健康問題関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
9	第一部金 11/13	リスニング Part B の傾向（時系列の聞き取り）、プリント3（医学・健康）の演習②	リスニング Part B の傾向（時系列の聞き取り）、プリント3（医学・健康）の演習②：バックグラウンドの解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、リスニング Part B の傾向（時系列の聞き取り）、プリント3（医学・健康）の文のバックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント3（医学・健康）の文の構造を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
10	第一部金 11/20	リスニング Part C の傾向（専門用語と説明）、プリント4（文法問題2：時制）の演習	リスニング Part C の傾向（専門用語と説明）、プリント4（文法問題2：時制）の演習と解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part C の傾向（専門用語と説明）、プリント4（文法問題2：時制）を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント4（文法問題2：時制）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
11	第一部金 11/27	TOEFLのリスニング Part A の傾向（同調の表現）、プリント5（環境問題）演習①	TOEFLのリスニング Part A の傾向（同調の表現）、プリント5（環境問題）演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語の解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLのリスニング Part A の傾向（同調の表現）、プリント5（環境問題）の中の語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント5（環境問題に関連する英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
12	第一部金 12/4	リスニング Part Bの傾向、プリント5（環境問題）演習②	リスニング Part B の傾向、プリント5（環境問題）演習②：バックグラウンドの解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、リスニング Part B の傾向、プリント5（環境問題）の文のバックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント5（環境問題）の文の構造を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12/11	リスニング Part C の傾向（まとまった意味の聴解）、プリント6（文法問題3：比較）	リスニング Part C の傾向（まとまった意味の聴解）、プリント6（文法問題3：比較）の演習と解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part C の傾向（まとまった意味の聴解）、プリント6（文法問題3）を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント6（文法問題3）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
14	第一部金 12/18	TOEFL-ITP対策（1）リスニング問題、文法問題	今までの演習の理解度確認テストと解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEFL-ITPのリスニング問題、文法問題を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでのプリントと小テストの総復習。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
15	第一部金 12/25	TOEFL-ITP対策（2）リスニング問題、リーディング問題	TOEFL-ITPのリスニング問題、リーディング問題の演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPのリスニング問題およびリーディング問題の形式を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの授業で理解できなかった事項の確認をする。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、返却されたテストの復習をして、間違えたところをもう一度見直す。	30分

科目名	TOEFL IVA (iBT)	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リーディング・ライティングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IVBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFEL-iBT (またはTOEFL-ITP) を受験すること (受験料は自己負担)。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。										4	4		
②	英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。										4	4		
③	パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。										4	4		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-iBT（またはTOEFL-ITP）により評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身について いるかを、授業の課題などを基準に評価する。	10	10	10								30
その他(criterion)	到達目標③が達成しているかを、criterionにより評価す る。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Academic Writing Strateries	中谷安男	金星堂	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、、クライテリオン受講料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	TOEFL-iBTとは？	TOEFL-iBTの概要、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	4/16	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング（Chapter 1 Flow of sentences）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	4/23	アカデミック・ライティング	パラグラフリーディング（Chapter 1 Flow of sentences）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	4/30	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング（Chapter 2 Basic paragraph）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	5/7	アカデミック・ライティング	パラグラフリーディング（Chapter 2 Basic paragraph）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	5/14	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング（Chapter 3 Developing coherence）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/21	アカデミック・ライティング手法	パラグラフリーディング（Chapter 3 Developing coherence）、アカデミック・ライティング手法
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
8	5/28	リスニングとTOEFL ITP対策	リスニング、ITP対策
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
9	6/4	リスニングとTOEFL ITP対策	リスニング、ITP対策
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
10	6/11	アカデミック・ライティング手法	パラグラフリーディング（Chapter 4 Guiding your readers）、アカデミック・ライティング手法
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
11	6/18	クライテリオン	パラグラフリーディング（Chapter 4 Guiding your readers）、クライテリオン1
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
12	6/25	クライテリオン	パラグラフリーディング（Chapter 5 Hedges and boosters）、クライテリオン2 (revise)
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1をより完成度の高いエッセイになるよう修正する。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	クライテリオン	パラグラフリーディング (Chapter 5 Hedges and boosters) 、クライテリオン 3	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	7/9	クライテリオン	パラグラフリーディング (Chapter 6 Generating ideas) 、クライテリオン 4 (revise)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン 3 をより完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
15	7/16	クライテリオン	パラグラフリーディング (Chapter 6 Generating ideas) とクライテリオン 5、授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	講義全体の復習をし、後期の授業に備える。	30分

科目名	TOEFL iBT (iBT)	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リーディング・ライティングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IVAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-iBT (またはTOEFL-ITP) を受験すること (受験料は自己負担)。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								4	4		
②	英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。								4	4		
③	パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，TOEFL-iBT（またはTOEFL-ITP）により評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを，授業の課題などを基準に評価する。	10	10	10								30
その他(criterion)	到達目標③が達成しているかを，criterionにより評価する。			10								10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Academic Writing Strateries	中谷安男	金星堂	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、クライテリオン受講料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	TOEFL-iBTとは？	TOEFL-iBTの概要、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	9/24	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング (Chapter 7 How to attract your readers) 、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	10/1	アカデミック・ライティング	パラグラフリーディング (Chapter 8 Supporting your ideas) 、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	10/8	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング (Chapter 9 Concluding paragraphs)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	10/15	アカデミック・ライティング	TOEFL-iBT(Integrated Task)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	10/22	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング (Chapter 10 Comparison and contrast paragraphs) 、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	エッセイ・ライティング	Chapetr 11(Essay structure)、エッセイ・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	11/5	エッセイ・ライティング	Chapter 12 (Problem-solving essay)、エッセイ・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	11/12	エッセイ・ライティング	Chapter 13 (The first step for academic papers)、エッセイ・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	11/19	エッセイ・ライティング	Chapter 14 (Creating a reserach Niche)& Chapter 15 (Review)、エッセイ・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	12/3	クライテリオン	クライテリオン1	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	12/10	クライテリオン	クライテリオン2 (revise)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1をより完成度の高いエッセイに なるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	クライテリオン	クライテリオン3、ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	12/24	クライテリオン	ライティング手法の総括、クライテリオン4 (revise)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン3をより完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
15	1/14	クライテリオン	ライティング手法の総括とクライテリオン5、授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、理解不十分な箇所をチェックし、TOEFLの試験に臨めるようにする。	30分

科目名	国際研修(英) I A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
This class is for study abroad. In this course you will develop skills in analytical thinking, reading, writing, and discussion. These skills will help you in a study abroad context and English learning environments.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
To help prepare students for study abroad, this class will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
英語のみの授業と成ります。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class will rely on critical discussions and participation from students so as to increase opportunities to use English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワーク、グループワークを含むアクティブラーニングをする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	海外の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								2	2	2	2
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて英語の文章が書ける								2	2	2	2
③	海外の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								2	2	2	2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③、が身についているかを、レポートにより評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内発表により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内またはセメスター後	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
				その他	必携
備考	教材は先生が配る物と成ります。				

【オフィスアワー】	
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	First Lesson.	Introduction to the course.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①②③ above, students can understand the learning objectives of the course	
		事前学修	Please read the contents of syllabus.	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
2	4/14	Rhetorical Triangle 1	Summarizing	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
3	4/21	Rhetorical Triangle 1	Summarizing	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
4	4/28	Rhetorical Triangle 1	Analysis of a text	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
5	5/5	Rhetorical Triangle 1	Analysis of a text (annotated)	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
6	5/12	Rhetorical Triangle 1	Tools for Analyzying Rhetorical Texts	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Rhetorical Triangle 1	Tools for Analyzing Rhetorical Texts	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
8	5/26	Rhetorical Triangle 1	Essay: Comparative Analysis	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	60分
9	6/2	Rhetorical Triangle 1	Essay: Comparative Analysis	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	60分
10	6/9	Rhetorical Triangle 1	Essay: Comparative Analysis (peer review)	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
11	6/16	Rhetorical Triangle 1	Finding an authentic text for rhetorical analysis	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
12	6/23	Rhetorical Triangle 1	Analyzing your text for rhetorical strategies	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Rhetorical Triangle 1	Preparing your presentation of the rhetorical strategies used in the text	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	60分
		事後学修	Complete assignment for next class	60分
14	7/7	Rhetorical Triangle 1	Presenting your rhetorical analysis of authentic writing to class	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	60分
		事後学修	Complete assignment for next class	60分
15	7/14	Rhetorical Triangle 1	Presenting your rhetorical analysis of authentic writing to class	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Revise for the semester presentations	60分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	国際研修(英) I B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
This class is for study abroad. In this course you will develop skills in analytical thinking, reading, writing, and discussion. These skills will help you in a study abroad context and English learning environments.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
To help prepare students for study abroad, this class will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
英語のみの授業と成ります。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class will rely on critical discussions and participation from students so as to increase opportunities to use English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワーク、グループワークを含むアクティブラーニングをする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								2	2	2	2
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて英語の文章が書ける								2	2	2	2
③	英語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								2	2	2	2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③、が身についているかを、レポートにより評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内発表により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内またはセメスター後	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材は先生が配る物と成ります。				

【オフィスアワー】	
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Review Rhetorical Triangle 1	Summarizing what we learned last semester	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can reflect on summer experiences and share with class. Prepare for presentation.	
		事前学修	Review material from last semester.	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
2	9/22	Rhetorical Triangle 2	Discussing analysis of texts and the role of authorship and audience	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about making presentations more effective through gestures - practice. This skill will be useful when taking part in study abroad classes	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
3	9/29	Rhetorical Triangle 2	Analyzing film	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about effective presentations with structure and transitions - practice. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
4	10/6	Rhetorical Triangle 2	Analysis of a short film	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can practice and make presentations. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
		事前学修	Prepare texts and readings	60分
		事後学修	Complete assignment for next class	60分
5	10/13	Rhetorical Triangle 2	Analysis of a short film (annotated)	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can undertake final presentation preparation and practice with teacher. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
		事前学修	Prepare texts and readings	60分
		事後学修	Complete assignment for next class	60分
6	10/20	Rhetorical Triangle 2	Analysis of a short film (annotated)	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can carry out assessments	
		事前学修	Prepare texts and readings	60分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Rhetorical Triangle 2	American and Japan: How audiences differ	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about writing polite and appropriate emails in English. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
8	11/10	Rhetorical Triangle 2	American and Japan: How audiences differ: Case studies	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about writing polite and appropriate emails in English. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
9	11/17	Rhetorical Triangle 2	Choosing a longer film for analysis	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to write about themselves in the context of job hunting abroad. This skill will be useful when living abroad.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
10	11/24	Rhetorical Triangle 2	Film: Comparative Analysis (Japanese perspective)	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to write about themselves in the context of job hunting abroad. This skill will be useful when living abroad.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
11	12/1	Rhetorical Triangle 2	Film: Comparative Analysis (Japanese perspective)	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about writing paragraphs which share opinions. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
12	12/8	Rhetorical Triangle 2	Film: Comparative Analysis (American perspective)	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about how to make paragraphs which compare different points of an argument. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Rhetorical Triangle 2	Film: Comparative Analysis (American perspective)	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can revise all the key points about writing essays in preparation for assessment. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
14	12/22	Rhetorical Triangle 2	Film discussions	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about unity and coherence in writing. This skill will be useful when taking part in study abroad classes.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	60分
15	1/12	Assessment Essay II	Course wrap-up and reflections	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can do assessments	
		事前学修	Preapre for assessment	60分
		事後学修	Reflect on semester	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	大住 有里子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】		
テキストに沿って毎授業 1 Unit 進める。 授業内で事前に解いてきた答えを読んでもらい、英語を発する機会を多くとる。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Seize the Keys of the TOEIC L&R Test	安丸雅子、渡邊晶子、砂川典子、高森暁子、十時康、Andrew Zitzmann	金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後で質問にお答えします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4 / 9	Introduction of this course	TOEICがどのような目的の試験か、またこの半期の授業の説明をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、資格試験TOEICの概要を理解し、毎日少なくとも30分は英語学習に取り組む自覚を持つ。	
		事前学修	この授業のシラバスを読み、自分の最新のTOEICスコアを確認する。	10分
		事後学修	テキストのIntroductionをCheckLinkを活用し、解答する。	30分
2	4/16	Unit 1 Daily Life 文型・品詞	Daily Lifeに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Daily Lifeに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を、文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 1の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 1を解く。	90分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 1 を毎日読み上げる。 Unit 1の音読を含めた復習。	60分
3	4/23	Unit 2 Shopping 代名詞・疑問詞	Shoppingに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Shoppingに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を、文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 2の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 2 を解く。	90分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 2 を毎日読み上げる。 Unit 2 の音読を含めた復習。	60分
4	4/30	Unit 3 Parties & Events 形容詞・副詞	Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 3 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 3を解く。	90分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 3 を毎日読み上げる。 Unit 3の音読を含めた復習。	60分
5	5/7	Unit 4 Traffic & Travel 前置詞	Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 4 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 4 を解く。	90分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 4 を毎日読み上げる。 Unit 4 の音読を含めた復習。	60分
6	5/14	Unit 5 Office Work 接続詞	Office Work に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Office Work に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 5 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 5 を解く。	90分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 5 を毎日読み上げる。 Unit 5 の音読を含めた復習。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	Unit 6 Marketing & ICT 名詞と動詞の一致	Marketing & ICT に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Marketing & ICT に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 6 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 6 を解く。	130分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 6 を毎日読み上げる。 Unit 6 の音読を含めた復習。	60分
8	5/28	Review Test 1	今までUnit 1-6 で学んできた英語力でTOEIC模擬テストに取り組む実力アップを実感する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Review Test 1 を解き、合っているところ、間違えたところ、共に理解する。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 1-6 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 Unit 1-6を音読を取り入れて復習。	150分
		事後学修	Review Testの音読を取り入れた復習。 Key VocabularyのUnit 1-6 の音読し、全単語を発音、意味と一致させる。	60分
9	6/4	Unit 7 Production & Logistics 助動詞	Production & Logistics に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Production & Logistics に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 7 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 7 を解く。	130分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 7 を毎日読み上げる。 Unit 7 の音読を含めた復習。	60分
10	6/11	Unit 8 Employment 時制	Employment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Employment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 8 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 8 を解く。	130分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 8 を毎日読み上げる。 Unit 8 の音読を含めた復習。	60分
11	6/18	Unit 9 Personnel 受動態	Personnel に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Personnel に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 9 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 9 を解く。	130分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 9 を毎日読み上げる。 Unit 9 の音読を含めた復習。	60分
12	6/25	Unit 10 Business 分詞・分詞構文	Business に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Business に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 10 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 10 を解く。	130分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 1-10 を毎日読み上げる。 Unit 10 の音読を含めた復習。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	Unit 11 Health & Environment 不定詞・動名詞	Health & Environment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Health & Environment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class MateのTOEIC模擬テストに取り組み、TOEIC IPに備える。 Key VocabularyのUnit 11 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 11 を解く。	130分
		事後学修	Class MateのTOEIC模擬テストに取り組み、TOEIC IPに備える。 Key Vocabulary Unit 1-11 を毎日読み上げる。 Unit 11 の音読を含めた復習。	120分
14	7/9	Unit 12 Finance 関係詞	Finance に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Finance に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Key VocabularyのUnit 12 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 12 を解く。	130分
		事後学修	Class MateのTOEIC模擬テストに取り組み、TOEIC IPに備える。 Key Vocabulary Unit 1-12 を毎日読み上げる。 Unit 12 の音読を含めた復習。	120分
15	7/16	Review Test 2	今までUnit 7-12 で学んできた英語力でTOEIC模擬テストに取り組み実力アップを実感する。 禁欲的な英語学習と共に、楽しみながら学ぶ方法を知る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Review Test 2 を解き、合っているところ、間違えたところ、共に理解する。 テキストを使う以外の英語の学習法を知り、自分で楽しみながら英語を学び続けられる方法を見つける。	
		事前学修	今まで学んできたUnit 7-12、できればUnit 1-12までを復習。	120分
		事後学修	Unit 1-12 を音読を取り入れて復習し、また楽しみながら学ぶ学習方法(NHK英語講座、映画、英語ドラマ、TED Talk、Democracy Nowなど) を夏季休暇も継続。	60分

科目名	TOEIC I A	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめてのTOEIC L&Rテスト：全パート総合対策	塚田幸光	アスク出版	2017	教科書	必携
備考	辞書を持参すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	オリエンテーション及び導入講義	・授業の進め方について ・教科書、オンライン教材、TOEIC受験についての説明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R TestのHPに目を通す。授業用のノートを用意する。	30分
		事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	30分
2	4/13	TOEICを知ろう	・TOEIC Listening & Reading Testとは？ ・練習問題にトライする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの形式を学び、実践に役立てることができる。	
		事前学修	テキストを入手する。インターネットやアプリで英語力がUPしそうな教材を見つける。	30分
		事後学修	Pre-testを復習し、わからなかった単語を調べる。	30分
3	4/20	②Pre-testの実施とふり回り①	・グループを決める ・Pre-testを実施する ・Pre-testのListeningを復習する ・Listeningのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testを受験して、自分の実力を確認することができる。到達目標①②に関連して、Pre-testのListeningの復習を通じて、TOEICのListeningの問題形式に慣れることができる。	
		事前学修	テキスト付属の音声ファイルを聴く。	30分
		事後学修	Pre-test Listeningの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	30分
4	4/27	Pre-testのふり回り	・Pre-testのListeningの小テスト ・Pre-testのReadingを復習する ・Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testのReadingの復習を通じて、TOEICのReadingの問題形式に慣れることができる。	
		事前学修	Pre-testのListening 小テストの勉強をする。Pre-testのReadingを復習しておく。	30分
		事後学修	Pre-testのReadingのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
5	5/4	Part 1の攻略法	・Pre-testのReadingの小テスト ・Part 1 写真描写問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してListening Part 1 の写真描写問題を解くことができる。	
		事前学修	・Pre-testのReadingの小テストの勉強をする ・Part 1の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 1を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
6	5/11	Part 2の攻略法	・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・ClassMATEの使い方を覚える（配信スタート予定） ・Part 2 応答問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part 2 の応答問題を解くことができる。	
		事前学修	・小テストの勉強をする。 ・Part 2の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 2を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Part 3の攻略法	・ClassMATE Mini test 1 ・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 3 会話問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part 3 の会話問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 1の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 3の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 3を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
8	5/25	Part 4の攻略法	・ClassMATE Mini test 2 ・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 4 説明文問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 4 説明文問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 2の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 4の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 4を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
9	6/1	Part 5の攻略法①	・ClassMATE Mini test 3 ・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 5 短文穴埋め問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 5 短文穴埋め問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 3の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 5の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 5を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
10	6/8	Part 5の攻略法②	・ClassMATE Mini test 4 ・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 5 短文穴埋め問題の攻略方法を学ぶ（つづき）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 5 短文穴埋め問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 4の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 5の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 5を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
11	6/15	Part 6の攻略法	・ClassMATE Mini test 5 ・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 6 長文穴埋め問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 6 長文穴埋め問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 5の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 6の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 6を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
12	6/22	Part 7の攻略法①	・ClassMATE Mini test 6 ・スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 7 読解問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 7 読解問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 6の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 7の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	・ClassMATE 模擬テスト(40問) の課題をやる。 ・Part 7を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Part 7の攻略法②	・Part 7 読解問題の攻略方法を学ぶ（つづき） ・ClassMATEの復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 7 読解問題を解くことができる。またClassMATEを復習することで、前期に学んだ解法のテクニックを定着させることができる。	
		事前学修	・ClassMATEの課題にもう一度トライする。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 7の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	・ClassMATEのわからなかった問題を復習する。 ・Part 7を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
14	7/6	前期試験とふり返り	・テキストの前期試験（テキスト全体を範囲とする） ・前期試験のふり返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身に付けることができる。	
		事前学修	試験の範囲を勉強する。	120分
		事後学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	7/13	前期のふり返り	・テスト返却 ・前期の授業をふり返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	前期にテキスト、ClassMATEで学んだところでわからなかったところを調べておく。	30分
		事後学修	夏休み中のTOEICの学習計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を義務付ける。(受験料及び教材費は自己負担)

【授業方法】
実践演習をして解説をします。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグルーブワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4回目以降、毎授業時に演習問題を解く際にペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMateの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Kick Off for the TOEIC TEST』	Noboru Matsuda	金星堂	2006年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜14：30～／16：10～）、前の週の授業終了時に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	オリエンテーション，導入授業	授業の進め方、TOEICの概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。TOEICがどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。	30分
		事後学修	TOEICテストについてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。ガイダンスのおさらいをする。	30分
2	4月14日	ミニ模擬テスト	TOEICテストの概要を簡潔に説明する。 ミニ模擬試験（公開試験の約半分の量）を受け、スコアレンジの算出をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ミニ模擬試験の受験を通して自分の実力を確認することができる。	
		事前学修	テキストのiv頁からx頁までに掲載されているTOEICの各パートの模擬問題を解いて、解説を読む。	30分
		事後学修	どこが自分の弱点かをチェックする。頻出単語の暗記をする。	30分
3	4月21日	英語の基礎力のチェックと学習目標作成	今後の学習法、目標を考える。基本単語のチェック、基本文法のチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分の英語力を確認し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	ミニ模擬試験の結果を踏まえて今後どのように学習するべきか計画を立てる。	30分
		事後学修	間違った箇所を解き直す。自分に合った参考書や問題集を選び、具体的な計画を立てる。基本単語チェックで間違えた単語を覚え、基本文法で間違えた文法事項を復習する。	30分
4	4月28日	空港に関連する英語と文型①	小テスト、Unit1のListeningのPart1，Part4の演習問題（3頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。文型について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文型に関連する文法問題と空港に関するListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit1の単語（2頁）、空港に関する単語を調べ、覚えてくる。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。知らなかった空港に関する単語の用例や表現を調べ、覚える。	30分
5	5月12日	空港に関連する英語と文型②	小テスト、文型について理解し、Unit1のReadingのWarm-Up、Part5，Part6の演習問題（4，5頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文型に関連する読解問題と空港に関する聞き取りの問題、読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit1の単語を覚えて、文型（2頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。	30分
		事後学修	文型について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
6	5月19日	ホテルに関連する英語と名詞の修飾①	小テスト、Unit2のListeningのPart2，Part4の演習問題（7頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞に関連する文法問題とホテルに関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit2の単語（6頁）、ホテルや宿泊に関する単語を調べ、覚えてくる。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。ホテルに関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月26日	ホテルに関連する英語と名詞の修飾②	小テスト、名詞の修飾について理解し、Unit2のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（8、9頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の修飾に関連する読解問題とホテルに関する聞き取りの問題、読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit2の単語を覚えて、名詞の修飾（6頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit2の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	名詞の修飾について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
8	6月2日	道の聞き方に関連する英語と接続詞①	小テスト、Unit3のListeningのPart3、Part4の演習問題（11頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞に関連する文法問題と道の聞き方に関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit3の単語（10頁）、道の聞き方や道路、自動車に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit3の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。道の聞き方や道路に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
9	6月9日	道の聞き方に関連する英語と接続詞②	小テスト、文と文の接続について理解し、Unit3のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（12、13頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞に関連する読解問題と道の聞き方に関する聞き取りの問題、読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit3の単語を覚えて、文と文の接続（10頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit3の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	文と文の接続について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
10	6月16日	レストランに関連する英語と使役動詞と知覚動詞①	小テスト、Unit4のListeningのPart1、Part4の演習問題（15、16頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、使役動詞と知覚動詞に関連する文法問題とレストランに関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit4の単語（14頁）、レストランに関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit4の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。レストランや食に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
11	6月23日	レストランに関連する英語と使役動詞と知覚動詞②	小テスト、知覚動詞と使役動詞について理解し、Unit4のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（15、16頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、使役動詞と知覚動詞に関連する読解問題とレストランに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit4の単語を覚えて、知覚動詞と使役動詞（14頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit4の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	知覚動詞と使役動詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
12	6月30日	ショッピングに関連する英語と助動詞①	小テスト、Unit5のListeningのPart2、Part4の演習問題（19、20頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関連する文法問題とショッピングに関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit5の単語（18頁）、ショッピングに関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit5の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。ショッピングに関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月7日	ショッピングに関連する英語と助動詞②	小テスト、助動詞について理解し、Unit5のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（20—22頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関連する読解問題とショッピングに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit5の単語を覚えて、助動詞（18頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit5の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	助動詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
14	7月14日	前期テストとふり返し	前期学習内前期の総復習のための授業内テストと解説、前期の内容のふり返し。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで前期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。	
		事前学修	前期で学習したことを復習し、各Partの注意点を頭に入れる。	30分
		事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手なPartと得意なPartを分析し、今後の対策を考える。	30分
15	7月21日	前期のふり返し	テストの返却と解説。前期学習内容のふり返し。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返し、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期に学んだこと、テキストの総復習をする。	30分
		事後学修	前期に学んだところを総復習する。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	藤本 淳史	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。									1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018		
備考					

【オフィスアワー】
水曜16：10／17：50～ 講堂にて質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション Unit 01 人物の動作と状態 (Part 1) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	4/15	Unit 01 表・用紙 (Part 7)	Unit 01 表・用紙 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの表・用紙 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	4/22	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2)	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの疑問詞を使った疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	4/29	Unit 02 広告 (Part 7)	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの広告 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	5/6	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3)	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの日常場面での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	5/13	Unit 03 品詞 (Part 5)	Unit 03 品詞 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの品詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4)	・ClassMATE Mini test 1 Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのアナウンス・ツアー (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	5/27	Unit 04 動詞 (Part 5)	・ClassMATE Mini test 2 Unit 04 動詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの動詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	6/3	Unit 05 物の状態と位置 (Part 1)	・ClassMATE Mini test 3 Unit 05 物の状態と位置 (Part 1) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの物の状態と位置 (Part 1) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	6/10	Unit 05 チャット (Part 7)	・ClassMATE Mini test 4 Unit 05 チャット (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのチャット (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	6/17	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2)	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	6/24	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7)	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの手紙・Eメール (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Unit 07 電話での会話 (Part 3)	Unit 07 電話での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの電話での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATEの課題にもう一度トライする。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	7/8	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5)	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5) 演習と解説をします。 前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・関係代名詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	7/15	前期試験とふり返り	・テキストの前期試験とテストの解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	これまでの内容を復習して前期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
		事後学修	前期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】		
TOEICL&R問題形式テキストに沿い、基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、又、音声の知識を整理しつつ速聴、話し言葉に慣れます。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。小テストとして、各ユニット毎のDictation TestやWord Testを行います。中間でペアによる会話（Role Play）、まとめは、TOEICの形式に沿った教科書の内容確認の筆記試験を行います。フィードバックは毎回の授業内に行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pair Work 、 Group Work、 Role Play	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ユニット毎に、語彙クイズはオンラインでチェックし、スコア記録と自己分析表を提出後に、テスト採点結果は授業中にお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Fast PASS FOR THE TOEIC L&R TEST』Revised Edition	上仲律子他	セーグラーニング	2019		
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問やご相談等は、授業講堂にて、授業前、終了後に対応させていただきます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 TOEIC一部上場企業内研修において、TOEIC L&R研修講座担当。
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業において求められるTOEIC L&Rの授業実践を生かします。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法、TOEIC概要説明をする。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点を目指す為にこの授業で何をどの様にしたらよいかを把握する。
		事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。60分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。60分
2	4/15	模擬テスト	Preliminary Lesson (Pre-test) の問題を理解し、問題を解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為のリーディングとリスニング英語運用能力を自己分析し、出題問題の傾向を探り、戦略的な勉強計画を構築する。
		事前学修	テキストを購入し、p12~23 Preliminary Lesson (Pre-test) の問題を解いてみる。 解からない意味の語彙を調べる。60分
		事後学修	Preliminary Lesson (Pre-test) の間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。60分
3	4/22	Unit 1 Food & Restaurant	Unit 1 Food & Restaurantを理解し、それに対応する問題を解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得する。
		事前学修	Unit 1 p24~33の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。60分
4	4/29	Unit 2 Entertainment	Unit 2 Entertainmentを理解し、それに対応する問題を解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得する。
		事前学修	Unit2 p34~43の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。60分
5	5/6	Unit 3 Travel	Unit 3 Travelを理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得する。
		事前学修	Unit3 p44~53の問題を解いてくる。 CM (ClassMATE) の手続きを完了し、準備をする。 オンラインクイズで語彙の確認をする。60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
6	5/13	Unit4 Sports &Health		Unit4 Sports &Healthを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト1、CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。		
		事前学修	Unit4 P54～63の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 語彙テスト1、CMを準備する。	60分	
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分	
7	5/20	Unit 5 Purchasing		Unit 5 Purchasingを理解し、それに対応する問題を解答できる。CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。		
		事前学修	Unit5 p64～73の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	60分	
		事後学修	Role Play の各自パートの練習をする。	60分	
8	5/27	Unit 6 Housing &Accommodations		Unit 6 Housing &Accommodationsを理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。		
		事前学修	Unit6 p74～83の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。	60分	
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分	
9	6/3	Unit 7 Office Work(1) Unit 8 Unit 8 Office Work(2)		Unit 7 Office Work(1)Unit 8 Office Work(2)を理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。		
		事前学修	Unit7 p84～93及びUnit8 p94～104の問題を解いてくる。 CMの準備をする。	60分	
		事後学修	間違えた問題を解き直す。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 Role Play の台本のパート練習をする。	60分	
10	6/10	Role Play 練習 中間テスト（Role Play） 実施		Role Play をペアで実践できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。		
		事前学修	Role Play の台本のパート練習をする。 CMの準備をする。	60分	
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	6/17	Unit9 Employment	Unit9 Employmentを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト2、CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit9 p104~113の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
12	6/24	Unit10 Lectures &Presentations	Unit10 Lectures &Presentationsを理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit10 p114~123の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
13	7/1	Unit11 Business Affairs(1) Unit12 Business Affairs(2)	Unit11 Business Affairs(1)Unit12 Business Affairs(2)を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト3を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit11 p124~133、Unit12 p134~144の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 語彙テスト3の準備をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。期末テストの準備をする。	60分
14	7/8	期末試験 授業の振り返り	授業内筆記試験実施	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit1~Unit12までの復習をする。	60分
		事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	60分
15	7/15	まとめと解説	期末試験解説、学習内容のまとめ	
		この回の到達目標	Unit1~Unit12までの学習修得の成果を確認する。	
		事前学修	前期授業の学習内容を確認する。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分

科目名	TOEIC I A	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）の受講を義務付ける（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEIC科目を2科目以上受講した場合には教材費がその分増えるので注意すること。

【授業方法】
CALLシステムを利用した演習形式。オンラインによるペア演習を含む実践演習および解説を行う。フィードバックは授業で行う。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	CALLシステム（Computer Assisted Language Learning）は、映像教材や音声教材を学生用PCにリアルタイムに配信しながら、ランダムに形成されたペアでスピーキング、リスニングの演習を実践することが可能であるのみならず、それを録画・録音して振り返りを行ったり、ペア演習に教員が参画し指導することができる優れたアクティブ・ラーニング用IT教材である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
LIGHTING UP THE TOEIC TEST	Brent Cotsworth他	金星堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	TOEIC入門	TOEICについて概説を行い、TOEICについて学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICについて学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	4/13	Traveling	Unit 1 Traveling：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのTravelingを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 1 Travelingの単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 1 Travelingの振り返り	60分
3	4/20	Daily Life & Shopping	Unit 2 Daily Life & Shopping：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのDaily Life & Shoppingを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 2 Daily Life & Shoppingの単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 2 Daily Life & Shoppingの振り返り	60分
4	4/27	Review 1	TOEIC形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのTravelingおよびDaily Life & Shoppingを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Reviewの振り返り	60分
5	5/4	At Restaurants	Unit 3 At Restaurants：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのAt Restaurantsを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 3 At Restaurantsの単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 3 At Restaurantsの振り返り	60分
6	5/11	Job Hunting	Unit 4 Job Hunting：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのJob Huntingを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 4 Job Huntingの単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 4 Job Huntingの振り返り	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Review 2	TOEIC形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのAt RestaurantsおよびJob Huntingを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Reviewの振り返り	60分
8	5/25	At the Office 1	Unit 5 At the Office 1：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのAt the Officeを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 5 At the Office 1の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 5 At the Office 1の振り返り	60分
9	6/1	At the Office 2	Unit 6 At the Office 2：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのAt the Officeを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 6 At the Office 2の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 6 At the Office 2の振り返り	60分
10	6/8	Review 3	TOEIC形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのAt the Officeを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Reviewの振り返り	60分
11	6/15	Review Test 1	Unit 7 Review Test 1：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのReview Testに適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 7 Review Test 1の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 7 Review Test 1の振り返り	60分
12	6/22	Doing Business Online	Unit 8 Doing Business Online：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのDoing Business Onlineを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 8 Doing Business Onlineの単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 8 Doing Business Onlineの振り返り	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	TOEIC模擬試験	TOEIC模擬試験の実施、解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC模擬試験に適切に対応することができる。	
		事前学修	TOEIC模擬試験の単語・熟語学習	60分
		事後学修	TOEIC模擬試験の振り返り	60分
14	7/6	前期期末試験	前期のまとめ 1：ペアやグループで実践的な演習を行う 前期期末試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期期末試験に適切に対応することができる。	
		事前学修	前期の単語・熟語学習	60分
		事後学修	前期のまとめ 1の振り返り	60分
15	7/13	前期期末試験返却・解説	前期のまとめ 2：ペアやグループで実践的な演習を行う 前期期末試験返却・解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期で学んだ内容を振り返ることができる。	
		事前学修	前期の単語・熟語学習	60分
		事後学修	前期のまとめ 2の振り返り	60分

科目名	TOEIC I A	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICテストを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) が義務付けられます。受験料とClassMATE教材費は自己負担です。(TOEICを2科目以上受講した場合は教材費がその分増えますのでご注意ください)

【授業方法】
グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回Online Training教材からの単語テストを行い、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が3分の1を超えると失格とする。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教材の音読・問題解答については、グループ内で話し合った上で答え合わせを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。										1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施した翌週に、返却・答案訂正・解説・講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Primary Trainer for the TOEIC L&R Test (ゼロから始めるTOEIC L&Rテスト対策)』	濱崎 潤之輔	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜昼休み）に、教室・教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	【ガイダンス】【目標の設定】	授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらい、学習範囲の確認をする。	30分
2	第一部 金4/17	【TOEIC L&Rテストの全体像を知る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	第一部 金4/24	【単語テスト】 【TOEIC L&Rテストの全体像を知る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
4	第一部 金5/1	【単語テスト】 【人物の動作に注目する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
5	第一部 金5/8	【単語テスト】 【人物の動作に注目する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
6	第一部 金5/15	【単語テスト】 【疑問詞を聞き取る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 3について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	【単語テスト】【単語ノート点検】 【疑問詞を聞き取る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 3について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
8	第一部 金5/29	【単語テスト】 【物の位置・状態を表す表現を身に付ける】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
9	第一部 金6/5	【単語テスト】 【物の位置・状態を表す表現を身に付ける】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
10	第一部 金6/12	【単語テスト】 【話がかみ合う応答を選ぶ】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
11	第一部 金6/19	【単語テスト】 【話がかみ合う応答を選ぶ】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
12	第一部 金6/26	【単語テスト】【単語ノート点検】 【設問を先読みする】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、⑥～⑩までの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	【ClassMATEの復習】 【設問を先読みする】	ClassMATE教材の復習。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	ClassMATE教材の復習をし、分からない単語や文法事項を確認しておく。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分
14	第一部 金7/10	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	学習範囲の総復習	60分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	第一部 金7/17	【フィードバック】	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
前期・後期それぞれ学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。(受験料及び教材費は自己負担)。 注:TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。						1		
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。							1	
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Primary Trainere for the TOEIC L&R test	Junnnosuke Hamasaki	National Geographic Learning	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	イントロダクション及び導入講義	ガイダンス（小テスト実施予定）	
		この回の到達目標	今後の授業の進め方の説明	
		事前学修	前年度の授業の復習	30分
		事後学修	小テストの復習	30分
2	4/11	TOEIC: pre-test実施	TOEICテストの概要（実際に問題を解いてもらう）	
		この回の到達目標	TOEIC試験形式に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
3	4/18	part 1～3	Unit 1: TOEIC L&R テストの全体像を知る 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前2回の授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	4/25	part4～7	Unit 1: TOEIC L&R テストの全体像を知る 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	5/2	part 1～3	Unit 2: 人物の動作に注目する 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	5/9	part4～7	Unit 2: 人物の動作に注目する 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	part 1~3	Unit 3: 疑問詞を聞き取る 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
8	5/23	part4~7	Unit 3: 疑問詞を聞き取る 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
9	5/30	part 1~3	Unit 4: 物の位置・状態を表す表現を身に付ける 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
10	6/6	part4~7	Unit 4: 物の位置・状態を表す表現を身に付ける 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
11	6/13	part 1~3	Unit 5: 話がかみ合う応答を選ぶ 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
12	6/20	part4~7	Unit 5: 話がかみ合う応答を選ぶ 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	part 1～3	Unit 6: 設問を先読みする 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
14	7/4	part 1～3 and part4～7	これまでの授業中で扱いきれなかった項目を扱う集中授業	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前回までの授業内容の復習	30分
		事後学修	全体の復習	30分
15	7/11	part 1～3 and part4～7	前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	大住 有里子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】		
毎授業 1 Unit を進める。音声に合わせてオーバーラッピング、シャドウイングを行う。予習してきた内容をもとに、テキストの問題を答え合わせをし、文法的解説も加え、総合的理解をする。事前学修、事後学修、授業中もTOEICと同じくらい集中力を要します。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標?が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標?が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標?が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標?が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で小テスト等お返しします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Top Tips for the TOEIC L&R Test 考えて解くTOEIC L&R TEST 実践演習	Shari J. Berman、小林裕子、早坂信	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に教室で質問にお答えします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。						
回数	日程	テーマ	内 容			
1	9/17	Introduction of this course and start learning		この授業半期の進め方を簡単に説明し、早速TOEIC実践演習に取り組む。		
		この回の到達目標	Unit 1 TOEIC PART 1&2 の解説を聞き、自分の間違えたところを理解し、実際のTOEIC Part 1&2 のスコアアップを図る。			
		事前学修	テキストを購入し、音声をダウンロードし、Unit 1 を解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。			60分
		事後学修	Unit 1 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。			100分
2	9/24	Unit 2 Part 3		TOEIC Part 3 会話問題対策をする。		
		この回の到達目標	TOEIC Part 3 に関して戸惑うことなく解けるようになる。会話が流れ始める前に質問に目を通せるようになる。そしてPart 3 に於いてのスコアアップを図る。			
		事前学修	音声を使ってUnit 2 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。			60分
		事後学修	Unit 2 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。			100分
3	10/1	Unit 3 Part 4		TOEIC Part 4 説明問題対策をする。		
		この回の到達目標	TOEIC Part 4 に関して戸惑うことなく解けるようになる。会話が流れ始める前に質問に目を通せるようになる。そしてPart 3 に於いてのスコアアップを図る。			
		事前学修	音声を使ってUnit 3 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。			60分
		事後学修	Unit 3 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。			100分
4	10/8	Unit 4 Part 5		TOEIC Part 5 短文穴埋め問題対策をする。		
		この回の到達目標	TOEIC Part 5 短文穴埋め問題を文法的に、又は文意から解けるようになる。			
		事前学修	Unit 4 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。			60分
		事後学修	Unit 4 を音読しながら復習する。			100分
5	10/15	Unit 5 Part 6		TOEIC Part 6 長文穴埋め問題対策をする。		
		この回の到達目標	TOEIC Part 6 長文穴埋め問題のコツを知り、Vocabularyも増やし、文法的に、また文意に合う答えを見つけられるようになる。			
		事前学修	Unit 5 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする（この地道な努力が大事、大事）。			80分
		事後学修	Unit 4 を音読しながら復習する。			110分
6	10/22	Unit 6 Part 7		TOEIC Part 7 読解問題（single passage, multiple passages）対策をする。		
		この回の到達目標	難易度の高いTOEIC Part 7 を自分の力を十分に発揮して解き、着実にスコアアップにつなげるようにする。			
		事前学修	Unit 6 の解説分も含めよく読み、すべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。徐々に同じ単語を辞書で調べていることに気づき、そのような単語から記憶に定着してゆくのを実感するでしょう。			80分
		事後学修	Unit 6 を音読をしながら、毎日復習をする。			120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	Unit 7 On the Move-Busses, Trains & Planes	交通に関してのTOEIC 問題をPart 1-7 すべてのパートの実践問題を解く。	
		この回の到達目標	交通に関してのvocabulary, idiomsをTOEIC 全てのパート演習で解き、交通に関して慣れる。	
		事前学修	オンライン教材ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 7 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 7 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
8	11/5	Unit 8 On the Menu / On the Itinerary-Sightseeing, Restrants & Hotels	Toeic で頻繁に出てくる、メニューや旅行日程の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、メニューや旅行日程の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 8 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 8 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
9	11/12	Unit 9 On Sale / ON Order-Shopping	Toeic で頻繁に出てくる、買い物の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、買い物の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れ、スコアアップにつなげる。	
		事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 9 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 9 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
10	11/19	Unit 10 Off the Clock	Toeic で頻繁に出てくる、レジャー、エンターテイメントの題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、レジャー、エンターテイメントの題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 10 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 10 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
11	12/3	Unit 11 On the Air	Toeic で頻繁に出てくる、メディア、広告の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、メディア、広告の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備え、またTOEIC模擬テストも解き、TOEIC IP に備える。 Unit 11 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	130分
		事後学修	Unit 11 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
12	12/10	Unit 12 On the Agenda	Toeic で頻繁に出てくる、会議、スケジュール変更の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、会議、スケジュール変更の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備え、またTOEIC模擬テストも解き、TOEIC IP に備える。 Unit 12 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	140分
		事後学修	Unit 12 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	Unit 13 At the Office	Toeic で頻繁に出てくる、オフィスでの交渉、販売の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、オフィスでの交渉、販売の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	Unit 13 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中の品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 13 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
14	12/24	Unit 14 During the Interviews	学生の皆さんが興味のあるの題材、就職活動、自己のPRをTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	学生の皆さんに現実味のある題材、就職活動、自己のPRをTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	Unit 14 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中の品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 14 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
15	1/14	多様な学習法の紹介	禁欲的に机に向かい取り組む学習方法と楽しみながら学ぶ方法を両立させることを提示。	
		この回の到達目標	禁欲的に机に向かい取り組む学習方法と楽しみながら学ぶ方法を両立させることを認識し、自分に合っている学習法を見つけ、毎日英語に触れ、自分で学ぶことを認識する。	
		事前学修	テキストの復習をし、分からないところがあれば質問できるようにする。NHK語学講座、TED Talk、英語ドラマ、英語の映画(英語字幕も試す)、Democracy Now!などをネットも使い、自分に合っている学習法を見つける。	200分
		事後学修	自分に合っている学習法を持続させる。	200分

科目名	TOEIC I B	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめてのTOEIC L&Rテスト：全パート総合対策	塚田幸光	アスク出版	2017	教科書	必携
備考	辞書を持参すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	オリエンテーション及び導入講義	・授業の進め方について ・教科書、オンライン教材、TOEIC受験についての説明 ・前期の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の復習することでこれまでに学んだテクニックを確認することができる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。授業用のノートを用意する。	30分
		事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、後期の学習スケジュールを立てる。	30分
2	9/21	CaLaboに慣れる	・「超直前単語集」から小テストを実施する ・CaLaboの使い方を学ぶ ・Listening/Readingのグループワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身に付けたテクニックを定着することができる。	
		事前学修	前期のテキストを復習する。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
3	9/28	Listening/Reading実践問題① 前期ClassMATE Week 1	・「超直前単語集」から小テストを実施する ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力を養う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・小テストの勉強をする。 ・課題を解く。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
4	10/5	Listening/Reading実践問題② 前期ClassMATE Week 2	・「超直前単語集」から小テストを実施する ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・小テストの勉強をする。 ・課題を解く。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
5	10/12	Listening/Reading実践問題③ 前期ClassMATE Week 3	・「超直前単語集」から小テストを実施する ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・小テストの勉強をする。 ・課題を解く。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
6	10/19	Listening/Reading実践問題④ 前期ClassMATE Week 4	・「超直前単語集」から小テストを実施する ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・小テストの勉強をする。 ・課題を解く。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Listening/Reading実践問題 ⑤ 前期ClassMATE Week 5	・ClassMATE 小テスト Week 1 ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 1の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
8	11/9	Listening/Reading実践問題 ⑥ 前期ClassMATE Week 6	・ClassMATE 小テスト Week 2 & Week 3 ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 2 & 3の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
9	11/16	Listening/Reading実践問題 ⑦	・ClassMATE 小テスト Week 4 ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 4の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 5の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
10	11/23	Listening/Reading実践問題 ⑧	・ClassMATE 小テストWeek 5 ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 5の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
11	11/30	ClassMATEのミニテストにトライする	・ClassMATE 小テスト Week 6 ・ClassMATE Mini Testの実施 ・Mini Testの復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ClassMATEのMini Testを受験することで、実践力を定着させることができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 6の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
12	12/7	TOEICの受験をふりかえる	・TOEIC IPテストの受験をふり返し、自分の足りない力を見極め、今後の学習計画を立てる。 ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在の実力を分析し、今後の学習計画に生かすことができる。	
		事前学修	・ClassMATEの課題にもう一度トライする（Week 1-3）。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	後期試験対策	・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・ClassMATEの課題にもう一度トライする(Week 4-6)。	120分
		事後学修	・ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	30分
14	12/21	前期試験とふり返り	・テキストの前期試験（テキスト全体を範囲とする） ・前期試験のふり返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身に付けることができる。	
		事前学修	試験の範囲を勉強する。	120分
		事後学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	1/18	前期のふり返り	・テスト返却 ・後期の授業をふり返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	後期にテキスト、プリント、ClassMATEで学んだところでわからなかったところを調べておく。	30分
		事後学修	就職に向けて、TOEICの学習計画を立て直す。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を義務付ける。(受験料及び教材費は自己負担)

【授業方法】
実践演習をして解説をします。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグルーブワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3回目以降、毎授業時に演習問題を解く際にペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。										1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標?が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標?が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標?が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標?が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMateの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Kick Off for the TOEIC TEST』	Noboru Matsuda	金星堂	2006年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜14：30～／16：10～）、前の週の授業終了時に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	オリエンテーション，導入授業	オリエンテーション 後期の授業の進め方とTOEICの概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	前期に学習したことを思い出し、テキストのUnit1から5までの各Partの問題を解く。間違えた所をもう一度解き、各Unitの場面に關する単語を覚える。	30分
		事後学修	ガイダンスを振り返り、後期の学習計画を立てる。	30分
2	9月22日	銀行に関連する英語と助動詞①	小テスト、Unit6のListeningのPart3， Part 4 の演習問題（25頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関連する文法問題と銀行に関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit6の単語（24頁）、銀行に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit6の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。銀行に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
3	9月29日	銀行に関連する英語と助動詞②	小テスト、その他の助動詞について理解し、Unit6のReadingのWarm-Up、Part5， Part6の演習問題（26—27頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関連する読解問題と銀行に関する聞き取りと読解の問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit6の単語を覚えて、その他の助動詞（24頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit6の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	その他の助動詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
4	10月6日	旅に関連する英語と時制①	小テスト、Unit7のListeningのPart1， Part 4 の演習問題（29-30頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時制に関連する文法問題と旅に関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit7の単語（28頁）、旅行に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit7の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。旅行に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
5	10月13日	旅に関連する英語と時制②	小テスト、時制について理解し、Unit7のReadingのWarm-Up、Part5， Part6の演習問題（30—31頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時制に関連する読解問題と旅に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit7の単語を覚えて、時制（28頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit7の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	時制について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
6	10月20日	健康に関連する英語と現在完了形①	小テスト、Unit8のListeningのPart2， Part 4 の演習問題（33頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在完了形に関連する文法問題と健康に関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit8の単語（32頁）、医療に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit8の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。医療に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	健康に関連する英語と現在完了形②	小テスト、現在完了について理解し、Unit8のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（34-35頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在完了形に関連する読解問題と健康に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUni8の単語を覚えて、現在完了（32頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit8の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	現在完了について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
8	11月10日	不動産に関連する英語と前置詞①	小テスト、Unit9のListeningのPart3、Part4の演習問題（37頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞に関連する文法問題と不動産に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit9の単語（36頁）、不動産と賃貸に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit9の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。不動産と賃貸に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
9	11月17日	不動産に関連する英語と前置詞②	小テスト、前置詞について理解し、Unit9のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（38-39頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞に関連する読解問題と不動産に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit9の単語を覚えて、前置詞（36頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit9の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）	30分
		事後学修	前置詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）	30分
10	11月24日	スポーツに関連する英語と不定詞①	小テスト、Unit10のListeningのPart1、Part4の演習問題（41頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関連する文法問題とスポーツに関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit10の単語（40頁）、スポーツに関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit10の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。スポーツに関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
11	12月1日	スポーツに関連する英語と不定詞②	小テスト、to不定詞について理解し、Unit10のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（42-44頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関連する読解問題とスポーツに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit10の単語を覚えて、to不定詞（40頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit10の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	to不定詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
12	12月8日	就職活動に関連する英語と仮定法	小テスト、Unit11のListeningのPart2、Part4の演習問題（47頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、仮定法に関連する文法問題と就職活動関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit11の単語（46頁）、就職、人事に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit11の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。就職・人事に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 月 1 5 日	実力テスト	実力テスト（各Partのミニテスト）の実施と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実力テストの受験を通して自分の実力を確認することができる。	
		事前学修	後期で学習したことを復習し、各Partの注意点を頭に入れる。	30分
		事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手なPartと得意なPartを分析し、今後の対策を考える。（30分）	30分
14	1 2 月 2 2 日	後期テストと解説	後期の総復習のための授業内テストと解説、後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで前期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。	
		事前学修	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。	30分
		事後学修	後期に学んだところを総復習する。	30分
15	1 月 1 2 日	後期の振り返り	テストの返却と解説。後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり返し、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。	30分
		事後学修	後期に学んだところを総復習する。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	藤本 淳史	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018		
備考					

【オフィスアワー】
水曜16：10／17：50～ 講堂にて質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4)	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのUnit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	9/23	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5)	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの接続詞・前置詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	9/30	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2)	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのYes/No疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	10/7	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7)	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	10/14	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3)	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ① (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	10/21	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5)	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 5の復習 (Part 5) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Unit 11 留守番電話 (Part 4)	Unit 11 留守番電話 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの留守番電話 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	11/11	Unit 11 トリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7)	Unit 11 トリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	11/18	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3)	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ② (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	11/25	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7)	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 7の復習 (Part 7) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	12/2	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2)	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	12/9	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6)	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの時制・代名詞・語い問題 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4)	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	12/23	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6)	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのつなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	1/13	テキストの後期試験とテスト解説	・テキストの後期試験とテスト解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	これまでの内容を復習して後期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
		事後学修	後期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICL&R問題形式テキストに沿い、基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、又、音声の知識を整理しつつ速聴、話し言葉に慣れます。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。小テストは1回、又、中間でペアによる会話 (Role Play) 、まとめは、TOEICの形式に沿った教科書の内容確認の筆記試験を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pair Work 、Group Work、Role Play	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。										1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標?が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標?が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標?が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標?が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト解説、講評、採点結果は授業中にお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『TOEIC L&R Test: On Target Book 1』Revised Edition	大賀 リエ 他	南雲堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問やご相談等は、授業講堂にて、授業前、終了後に対応させていただきます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	TOEIC一部上場企業内研修において、TOEIC L&R研修講座担当。
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業において求められるTOEIC L&Rの授業実践を生かします。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法、TOEIC概要説明をする。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点を目指す為にこの授業で何をどの様にしたらよいかを把握する。	
		事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。	60分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。	60分
2	9/23	Unit 1 GOING OVERSEAS	Unit 1 GOING OVERSEAS Sentence Patterns（文型）を理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit1の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
3	9/30	Unit 2 GOING SHOPPING	Unit 2 GOING SHOPPING Interrogative Words（疑問詞の種類）を理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 2の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
4	10/7	Unit 3 FOOD AND HEALTH	Unit 3 FOOD AND HEALTH Adjectives and Adverbs（形容詞と副詞）を理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 3の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
5	10/14	Unit 4 SPORTS AND GAMES	Unit 4 SPORTS AND GAMES Tricky Prepositions（まちがしやすい前置詞）を理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 4の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CM（ClassMATE）の手続きを完了し、準備をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	10/21	Unit 5 DIRECTIONS AND TRANSPORTATION	Unit 5 DIRECTIONS AND TRANSPORTATION Auxiliary Verbs（助動詞）を理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 5の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CMを準備する。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
7	10/28	中間テスト（Units 1-5） 授業の振り返り	Review Test 1（Units 1-5）を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Review Test 1（Units 1-5）準備の為の復習をする。 CMの準備をする。	60分
		事後学修	Role Play の各自パートの練習をする。	60分
8	11/11	Unit 6 SALES CAMPAIGN	Unit 6 SALES CAMPAIGN Causative Verbs and Verbs of Perception（使役動詞と知覚動詞）を理解し、対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 6の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CMを準備する。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
9	11/18	Unit 7 EMPLOYMENT	Unit 7 Relative Clauses（関係詞）を理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 7の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CMの準備をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。 Role Play の台本のパート練習をする。	60分
10	11/25	Role Play 練習 中間テスト（Role Play） 実施	Role Play をペアで実践できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Role Play の台本のパート練習をする。 CMの準備をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	12/2	Unit 8 COMMUNICATIONS	Unit 8 COMMUNICATIONS Tenses（時制）を理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 8の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CMを準備する。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
12	12/9	Unit 9 ECOLOGY	Unit 9 ECOLOGY Conditional Sentences（条件文／仮定法）を理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 9の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CMを準備する。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
13	12/16	Unit 10 TROUBLESHOOTING	Unit 10 TROUBLESHOOTING Verb+`ing, Verb+to+Stem Verb を理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 10 の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CMを準備する。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。期末テストの準備をする。	60分
14	12/23	期末試験 授業の振り返り	期末試験を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit6～Unit12までの復習をする。	60分
		事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	60分
15	1/13	まとめと解説	期末試験解説、学習内容のまとめ	
		この回の到達目標	Unit1～Unit12までの学習修得の成果を確認する。	
		事前学修	前期授業の学習内容を確認する。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分

科目名	TOEIC I B	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1 回以上受験し、ClassMATE (Online Training) の受講を義務付ける（受験料及びClassMATE 教材費は自己負担）。TOEIC 科目を2科目以上受講した場合には教材費がその分増えるので注意すること。

【授業方法】
CALL システムを利用した演習形式。オンラインによるペア演習を含む実践演習および解説を行う。フィードバックは授業で行う。TOEIC 受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	CALL システム (Computer Assisted Language Learning) は、映像教材や音声教材を学生用PC にリアル タイムに配信しながら、ランダムに形成されたペアでスピーキング、リスニングの演習を実践することが可能であるのみならず、それを録画・録音して振り返りを行ったり、ペア演習に教員が参画し指導することができる優れたアクティブ・ラーニング用 IT 教材である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
LIGHTING UP THE TOEIC TEST	Brent Cotsworth 他	金星堂	2015	教科書	必携
備考	西洋哲学に関するプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	TOEIC 入門 2	TOEIC について概説を行い、TOEICについて学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC について学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEIC に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	9/21	Housing	Unit 9 Housing：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のHousing を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 9 Housing の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 9 Housing の振り返り	60分
3	9/28	Making Deals & Contracts	Unit 10 Making Deals & Contracts：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のMaking Deals & Contracts を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 10 Making Deals & Contracts の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 10 Making Deals & Contracts の振り返り	60分
4	10/5	Review 1	TOEIC 形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のHousing およびMaking Deals & Contracts を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Review の振り返り	60分
5	10/12	Public Service	Unit 11 Public Service：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のPublic Service を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 11 Public Service の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 11 Public Service の振り返り	60分
6	10/19	Banking & Finance	Unit 12 Banking & Finance：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のBanking & Finance を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 12 Banking & Finance の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 12 Banking & Finance の振り返り	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Review 2	TOEIC 形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のPublic Service および Banking & Finance を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Review の振り返り	60分
8	11/9	At Seminars & Workshops	Unit 13 At Seminars & Workshops：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のAt Seminars & Workshops を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 13 At Seminars & Workshops の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 13 At Seminars & Workshops の振り返り	60分
9	11/16	News & Media	Unit 14 News & Media：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のNews & Media を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 14 News & Media の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 14 News & Media の振り返り	60分
10	11/23	Review 3	TOEIC 形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のAt Seminars & Workshop および News & Media を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Review の振り返り	60分
11	11/30	Review Test 2	Unit 15 Review Test 2：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のReview Test 2 を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 15 Review Test 2 の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 15 Review Test 2 の振り返り	60分
12	12/7	TOEIC 模擬試験 1	TOEIC TOEIC 模擬試験 1 の実施、解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC 模擬試験 1 に適切に対応することができる。	
		事前学修	TOEIC 模擬試験 1 の単語・熟語学習	60分
		事後学修	TOEIC 模擬試験 1 の振り返り	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	TOEIC 模擬試験 2	TOEIC 模擬試験 2 の実施、解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC 模擬試験 2 に適切に対応することができる。	
		事前学修	TOEIC 模擬試験 2 の単語・熟語学習	60分
		事後学修	TOEIC 模擬試験 2 の振り返り	60分
14	12/21	後期期末試験 まとめ	後期のまとめ 1：ペアやグループで実践的な演習を行う 後期期末試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期期末試験に適切に対応することができる。	
		事前学修	後期の単語・熟語学習	60分
		事後学修	後期のまとめ 1の振り返り	60分
15	1/18	後期期末試験返却・解説	後期のまとめ 2：ペアやグループで実践的な演習を行う 後期期末試験返却・解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期で学んだ内容を振り返ることができる。	
		事前学修	後期の単語・熟語学習	60分
		事後学修	後期のまとめ 2の振り返り	60分

科目名	TOEIC I B	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICテストを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）が義務付けられます。受験料とClassMATE教材費は自己負担です。(TOEICを2科目以上受講した場合は教材費がその分増えますのでご注意ください)

【授業方法】
グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回Online Training教材からの単語テストを行い、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が3分の1を超えると失格とする。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教材の音読・問題解答については、グループ内で話し合った上で答え合わせを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標?が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標?が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標?が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標?が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施した翌週に、返却・答案訂正・解説・講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Primary Trainer for the TOEIC L&R Test（ゼロから始めるTOEIC L&Rテスト対策）』	濱崎 潤之輔	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜昼休み）に、教室・教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	【ガイダンス】【目標の設定】	グループ分け、授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらい、単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
2	第一部 金9/25	【単語テスト】 【文脈を意識する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 7について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	第一部 金10/2	【単語テスト】 【文脈を意識する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 7について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
4	第一部 金10/9	【単語テスト】 【動名詞とto不定詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
5	第一部 金10/16	【単語テスト】 【動名詞とto不定詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
6	第一部 金10/23	【単語テスト】 【手紙の特徴を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	【単語テスト】【単語ノート点検】 【手紙の特徴を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
8	第一部 金11/6	【単語テスト】 【代名詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
9	第一部 金11/13	【単語テスト】 【代名詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
10	第一部 金11/20	【単語テスト】 【意図問題を攻略する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
11	第一部 金11/27	【単語テスト】 【意図問題を攻略する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
12	第一部 金12/4	【単語テスト】【単語ノート点検】 【複数パッセージを攻略する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 12について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、⑥～⑩までの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	【ClassMATEの復習】 【複数パッセージを攻略する】	ClassMATE教材の復習。教科書Unit 12について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	ClassMATE教材の復習をし、分からない単語や文法事項を確認しておく。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分
14	第一部 金12/18	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	学習範囲の総復習	60分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	第一部 金12/25	【フィードバック】	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Primary Trainere for the TOEIC L&R test	Junnnosuke Hamasaki	National Geographic Learning	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	part 1~3 and 4~7	前期授業の確認と復習	
		この回の到達目標	前期の授業中に感じたリスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前期授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
2	9/26	part 4~7	Unit 6: 設問を先読みする 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	Unit 6の予習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
3	10/3	part 1~3	Unit 7: 文脈を意識する 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	10/10	part 4~7	Unit 7: 文脈を意識する 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	10/17	part 1~3	Unit 8: 動名詞とto不定詞を理解する 1: リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	10/24	part 4~7	Unit 8: 動名詞とto不定詞を理解する 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	part 1~3	Unit 9: 手紙の特徴を理解する 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
8	11/7	part 4~7	Unit 9: 手紙の特徴を理解する 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
9	11/14	part 1~3	Unit 10: 代名詞を理解する 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
10	11/21	part 4~7	Unit 10: 代名詞を理解する 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
11	11/28	part 1~3	Test演習1（リスニングセッション中心）	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
12	12/5	part 4~7	Test演習2（リーディング中心）	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	part 4～7	Test演習3（文法項目中心）	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	文法事項の復習	30分
14	12/19	part 1～3 and 4～7	3回の演習及び授業で扱いきれなかった項目を扱う	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語、文法の復習	30分
15	12/26	part 1～3 and 4～7	後期授業のまとめ	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	石川 太郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
前期・後期それぞれ学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。 注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TOEIC L&R Test: On Target, Book 1 (Revised Edition)	大賀リエ その他	南雲堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	イントロダクション及び導入講義	ガイダンス（小テスト実施予定）	
		この回の到達目標	今後の授業の進め方の説明	
		事前学修	前年度の授業の復習	30分
		事後学修	小テストの復習	30分
2	4/11	TOEIC: pre-test実施	TOEICテストの概要（実際に問題を解いてもらう）	
		この回の到達目標	TOEIC試験形式に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
3	4/18	part 1~3	Unit 1: Going Overseas 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前2回の授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	4/25	part4~7	Unit 1: Going Overseas 2: リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	5/2	part 1~3	Unit 2: Going Shopping 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	5/9	part4~7	Unit 2: Going Shopping 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	part 1~3	Unit 3: Food and Health 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
8	5/23	part4~7	Unit 3: Food and Health 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
9	5/30	part 1~3	Unit 4: Sports and Games 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
10	6/6	part4~7	Unit 4: Sports and Games 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
11	6/13	part 1~3	Unit 5: Directions and Transportation 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
12	6/20	part4~7	Unit 5: Directions and Transportation 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	part 1~3	Unit 6: Sales Campaign 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
14	7/4	part 1~3 and part4~7	これまでの授業中で扱いきれなかった項目を扱う集中授業	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前回までの授業内容の復習	30分
		事後学修	全体の復習	30分
15	7/11	part 1~3 and part4~7	前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC 1回受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます) 原則、ⅡBとともに通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
発音練習などはその場で簡単にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2017	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考	『ジーニアス英和辞典』と同程度の英和辞典を使用してください。文法事項など苦手なところがあれば、『ジーニアス総合英語』で自習することを勧めます。メールなどで質問してもらっても構いません。単語帳が必要な場合には、『公式ボキャブラリーブック』を勧めますが、公式問題集の解説に単語がまとめられているので、それだけで十分かと思います。ただし、『公式ボキャブラリーブック』はそれぞれの語の例文の音源をダウンロード				

【オフィスアワー】
質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。授業時間：月曜 4・5・6 限、水曜 1 限inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	TOEICとは	ガイダンス(問題構成など)、模擬問題の演習	
		この回の到達目標	問題構成を知る。TOEIC試験の特徴を知る。	
		事前学修	既習事項の確認	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
2	4/13	TOEICの全体的なアプローチ	Part2, Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 と Part5 の出題形式を知る。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	4/20	Part2, 5 の位置づけ	Part2, 5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 と Part5 の出題形式を細かく知る。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	4/27	Listening Section の概略	サンプル問題(listening)、Part5	
		この回の到達目標	Listening Section のそれぞれの取り組み方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	5/4	Reading Section の概略	サンプル問題(reading)、Part2	
		この回の到達目標	reading section のそれぞれの形式の取り組み方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習、サンプル問題(reading section)の問題を解き、解答を確認する。	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	5/11	Part1, 2 の実践演習	Test1 Part1(1-6), 2(7-31), Part5(101-110)	
		この回の到達目標	Part1, 2の形式、傾向を理解し、練習方法を把握する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Part1, 2 の実践演習	ClassMATEの小テスト、Test2 Part1(1-6), 2(7-31), Test1 Part5(111-120)	
		この回の到達目標	Part1, 2の形式、傾向を理解し、さらに、経験をつむ。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	5/25	Part2 (wh-疑問文)	ClassMATEの小テスト、Part2 (wh-疑問文)の練習、Test1 Part5(121-130)	
		この回の到達目標	Part2 (wh-疑問文)の問題の位置づけを理解し、習熟する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	6/1	Part2 (定型表現)	ClassMATEの小テスト、Part2 (定型表現)の練習、Test2 Part5 (101-110)	
		この回の到達目標	定型表現の整理をして、頻出表現を把握する。さらに、練習の仕方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	6/8	Part3 入門	ClassMATEの小テスト、Test2 Part5(111-120)、Test1 Part3(32-55)、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の形式を理解し、慣れる。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	6/15	Part3 の演習	ClassMATEの小テスト、Test2 Part5(121-130)、Test1 Part3(56-70)、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の形式と傾向をより理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	6/22	Part4 入門	Test1 Part6(131-138)、Part4(71-85)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の形式を理解し、慣れる。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Part4 の演習	Test1 Part6(139-146)、Part4(86-100)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の形式と傾向をより理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	7/6	授業内試験	授業内試験、問題の解説	
		この回の到達目標	時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	答えの確認	30分
15	7/13	まとめ	まとめ（受講生の人数によって個別に面接）	
		この回の到達目標	TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを前期1回、後期1回以上受験し、ClassMATE (Online Training)をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
小テストを毎回実施します。内容はその前の授業で扱った単語や表現から出題するので必ずvocabulary noteを準備し毎回復習してください。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英語によるグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Tactics for the TOEIC TEST Listening and Reading Test Introductory Course	Grant Trew	Oxford	2017	教科書	必携
備考	ISBN978 0 19 452976 1				

【オフィスアワー】
毎回の授業前後に授業が行われる講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 通訳者、グローバル企業において輸出入業務
実務経験に基づく実践的教育の内容	英語による実践実務への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	ガイダンスと教科書の使い方、TOEIC試験について	Introduction to the course Becoming familiar with TOEIC	
		この回の到達目標	TOEIC試験の構成を知る。	
		事前学修	教科書の裏表紙にあるMP3ファイルにアクセスし、音声を聞き始める。	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
2	水4/15	Photo Questions	Unit 1 Nouns and Verbs	
		この回の到達目標	Part 1について回答の対策を知る。名詞、動詞について音声より理解する。	
		事前学修	Unit1の音声箇所をリスニングする。	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
3	水4/22	Question and Response	Unit 2 Tag questions	
		この回の到達目標	内容の意味を把握し間違いを避ける。付加疑問文を理解する。	
		事前学修	Unit 2の音声箇所をリスニングする。	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
4	水4/29	Conversations	Unit 3 Offers and Suggestions	
		この回の到達目標	設問にある単語や表現から内容を予測する。	
		事前学修	Unit 3の音声箇所をリスニングする。	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
5	水5/6	Announcements	Unit 4 Talks	
		この回の到達目標	Who, Whereで始まる問題に解答する。	
		事前学修	Unit 4の音声箇所をリスニングする。	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
6	水5/13	リスニングパート	Unit 1 - Unit 4 review	
		この回の到達目標	TOEICのリスニングパート全体について振り返り。苦手箇所を知り、対策を計る。	
		事前学修	Unit 1-4 review listening	30分
		事後学修	vocabulary note	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水5/20	Incomplete Sentences	Unit 5 Talking about the future	
		この回の到達目標	時間の使い方について実際に回答し体感した上で対策する。	
		事前学修	Unit 5 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
8	水5/27	Text Completion	Unit 6 Part of Speech	
		この回の到達目標	品詞を見極めることで時間を短縮する。	
		事前学修	Unit 6 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
9	水6/3	Blank questions	Unit 5 - Unit 6 review	
		この回の到達目標	空欄を充す問題について回答の時間短縮する対策。	
		事前学修	Unit 5 - Unit 6 review	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
10	水6/10	Reading Comprehension	Unit 7 Using context	
		この回の到達目標	読解問題について内容を読み解き語彙問題に回答する。	
		事前学修	Unit 7 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
11	水6/17	TOEIC Reading Parts	Reading part review	
		この回の到達目標	読解問題全般について対策を立てる。	
		事前学修	Reading part review	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
12	水6/24	TOEIC Listening Test	TOEIC Practice Test (1) Listening Part and review	
		この回の到達目標	Practice Testを実施し弱点を知る。	
		事前学修	TOEIC Practice Test 1 Listening Part	30分
		事後学修	vocabulary note	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水7/1	TOEIC reading Test	TOEIC Practice Test (1) Reading Test	
		この回の到達目標	Practice Testを実施し弱点を知る。	
		事前学修	TOEIC Practice Test 1 Reading Part	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
14	水7/8	Summary	Review Unit 1-7	
		この回の到達目標	TOEIC Part 1-7の全体的な対策を立てる。	
		事前学修	Review Practice Test (1) and all the units	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
15	水7/15	Examination and Feedback	Summary of Unit 1~7	
		この回の到達目標	期末試験の実施と解説。	
		事前学修	Review all the units	30分
		事後学修	Review all the units	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。(受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Seize the Keys of the TOEIC L&R TEST	Masako Yasumaru他	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	辞書を持ってくること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーション TOEICとは CaLaboの使い方を学ぶ	・授業の進め方について ・教科書、TOEICについての説明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。テキストを購入する。授業用のノートを用意する。	60分
		事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	60分
2	4/14	Unit 1 Daily Life その1	・Unit 1 Daily Life (文型・品詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文型・品詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 1を予習する。	60分
		事後学修	Unit 1のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
3	4/21	Unit 1 Daily Life その2	・Unit 1 Daily Life (文型・品詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文型・品詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 1を復習する。	60分
		事後学修	Unit 1のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
4	4/28	Unit 2 Shopping その1	・Unit 2 Shopping (代名詞・疑問詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・疑問詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 2を予習する。	60分
		事後学修	Unit 2のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
5	5/5	Unit 2 Shopping その2	・Unit 2 Shopping (代名詞・疑問詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・疑問詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 2を復習する。	60分
		事後学修	Unit 2のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
6	5/12	Unit 3 Parties & Events その1	・Unit 3 Parties & Events (形用詞・副詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形用詞・副詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 3を予習する。	60分
		事後学修	Unit 3のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Unit 3 Parties & Events その 2	・Unit 3 Parties & Events (形用詞・副詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、形用詞・副詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 3を復習する。	60分
		事後学修	Unit 3のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
8	5/26	Unit 4 Traffic & Travel その 1	・Unit 4 Traffic & Travel (前置詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 4を予習する。	60分
		事後学修	Unit 4のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
9	6/2	Unit 4 Traffic & Travel その 2	・Unit 4 Traffic & Travel (前置詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 4を復習する。	60分
		事後学修	Unit 4のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
10	6/9	Unit 5 Office Work その1	・Unit 5 Office Work (接続詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 5を予習する。	60分
		事後学修	Unit 5のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
11	6/16	Unit 5 Office Work その2	・Unit 5 Office Work (接続詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 5を復習する。	60分
		事後学修	Unit 5のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
12	6/23	Unit 6 Marketing & ICT その 1	・Unit 6 Marketing & ICT (名詞・主語と動詞の一致) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、名詞・主語と動詞の一致を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 6を予習する。	60分
		事後学修	Unit 6のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Unit 6 Marketing & ICT その 2	- Unit 6 Marketing & ICT (名詞・主語と動詞の一致) その 2 - Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞・主語と動詞の一致を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 6を復習する。	60分
		事後学修	Unit 6のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
14	7/7	前期試験と復習	前期試験 試験でわからなかったところをテキストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだテキストの解法のテクニックを理解できているか確認することができる。	
		事前学修	テスト勉強をする。	120分
		事後学修	テストをもう一度やってみる。	60分
15	7/14	前期のふり 返り	テストの返却と前期のふり 返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、前期に学んだことをふり 返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	前期に学んだことを復習する。	60分
		事後学修	夏休み中のTOEICの学習計画を立てる。	60分

科目名	TOEIC II A	担当者	高坂 映子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。 下記の授業計画は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。小テストは後日返却し、必要に応じて解説する。	TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ESSENTIAL APPROACH FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—	大須賀 直子 他	成美堂	2019	教科書	必携
Essential English Vocabulary 1400	語彙力向上研究会	朝日出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜 10:30～10:40 12:10～12:20 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、履修上の注意事項、TOEICの概要の説明等。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、前期の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	シラバス内容を確認する。	30分
		事後学修	ガイダンス内容とテキストの構成等を確認し、前期の学習計画を立てる。	30分
2	4/16	Arts & Museum (1)	Unit 1: Listening Section Part 1およびPart 2の問題演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Section Part 1とPart 2の形式理解と解答法を身につけることができる。	
		事前学修	テキストp. 6の問題を解く。	30分
		事後学修	Unit 1 Listening Section Part 1とPart 2の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
3	4/23	Arts & Museum (2)	Unit 1: Listening Section Part 3とPart 4の問題演習と解説。 VocabularyテキストSection A Unit 1～Unit 3小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Section Part 3とPart 4の形式理解と解答法を身につけることができる。	
		事前学修	VocabularyテキストSection A Unit 1～Unit 3小テスト準備	30分
		事後学修	Listening Section Part 3とPart 4の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
4	4/30	Arts & Museum (3)	Unit 1: Reading Section Part5, Part6, Part7の問題演習と解説。 VocabularyテキストSection A Unit 4～Unit 6小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Reading Section Part5, Part6, Part7の形式理解と解答法を身につけることができる。	
		事前学修	テキストp. 14の問題を解く。VocabularyテキストSection A Unit 4～Unit 6 小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 1 Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
5	5/7	Lunch & Parties (1)	Unit 2: Listening Section 子音と母音の連結を意識し、聞き取る。 VocabularyテキストSection A Unit 7～Unit 9小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子音と母音の連結を意識し、聞き取ることができる。	
		事前学修	テキストp. 15の問題を解く。VocabularyテキストSection A Unit 7～Unit 9小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 2 Listening Section の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
6	5/14	Lunch & Parties (2)	Unit 2: Reading Section 形容詞と冠詞について。 VocabularyテキストSection A Unit 10～Unit 12小テスト ClassMATEの使い方について	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞と冠詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 23の問題を解く。VocabularyテキストSection A Unit 10～Unit 12小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 2: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	Medicine &Health (1)	Unit 3: Listening Section [r][m][n]以外の子音と母音の連結。 ClassMATE Mini test 1	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、[r][m][n]以外の子音と母音の連結を意識し、聞き取ることができる。	
		事前学修	テキストp. 24の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 3: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
8	5/28	Medicine &Health (2)	Unit 3: Reading Section 副詞について。 ClassMATE Mini test 2	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、副詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 32の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 3: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。	30分
9	6/4	Traffic & Travel (1)	Unit 4: Listening Section 音の混合を意識し、聞き取れる。 ClassMATE Mini test 3	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音の混合を意識し、聞き取ることができる。	
		事前学修	テキストp. 34の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 4: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
10	6/11	Traffic & Travel (2)	Unit 4: Reading Section 比較について。 ClassMATE Mini test 4	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 41の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 4: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
11	6/18	Ordering & Shipping (1)	Unit 5: Listening Section t音の変化。 ClassMATE Mini test 5	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、t音の変化を意識し、聞き取ることができる。	
		事前学修	テキストp. 42の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 5: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
12	6/25	Ordering & Shipping (2)	Unit 5: Reading Section 動詞と時制について。 ClassMATE Mini test 6	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞と時制について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 50の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 5: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	Factories & Production (1)	Unit 6: Reading Section 未来表現など。 VocabularyテキストSection A Unit 13～Unit 15小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、未来表現数字について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 51の問題を解く。VocabularyテキストSection A Unit 13～Unit 15小テスト準備。	30分
		事後学修	Unit 6: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
14	7/9	授業内試験及び振り返り等	テキストの前期試験 前期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期復習テストを受験することで、TOEIC受験に必要な対応力を身に付けることができる。	
		事前学修	テキストUnit 1 ～Unit 6 及びVocabularyテキスト Section A Unit1～Unit30の復習	30分
		事後学修	試験を振り返り、わからなかった箇所を復習する。	30分
15	7/16	前期の総まとめ	前期学習内容の総まとめ及び講評	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の学習内容を総まとめし、講評を加えることで、後期に向けた学習計画が立てられる。	
		事前学修	前期の学習内容を復習し、わからなかった箇所をチェックする。	30分
		事後学修	総まとめをもとに、後期に向けての学習計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) を実施します。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、次回授業時に返却します。質問の回答時には、理由を尋ねながら巡回します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	配布資料等を基にして、英語圏の人々の思考形式をグループで話し合い、レポートに纏めて提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次週コメントを入れ、返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新訂版 TOEIC L&Rテストへようこそ	北原良夫	朝日出版社	2020		
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、 小石裕子	アルク	2016		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12：10～13：00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、TOEICの概要の説明	
		この回の到達目標	TOEICの概要を理解できる。	
		事前学修	テキストの目次の確認と音声ファイルのダウンロードを行う。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICに関する情報をWEBサイト等で調べる。	30分
2	4/15	Part1. 2のストラテジーの学習	写真問題、質疑応答問題についての理解	
		この回の到達目標	Part1. 2の一般的な解法を理解できる。	
		事前学修	テキストp. v. の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
3	4/22	Part3のストラテジーの学習	小テスト1(Part1. 2) 会話問題についての理解	
		この回の到達目標	Part3の一般的な解法を理解できる。	
		事前学修	単語1-50を暗記する。 テキストpp. 2-4. 5-6. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
4	4/29	Part4のストラテジーの学習	小テスト2(Part3. 4) トーク問題等についての理解	
		この回の到達目標	Part4の一般的な解法を理解できる。	
		事前学修	単語51-100を暗記する。 テキストpp. 4. 7-9. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
5	5/6	Part1. 2. と時制	小テスト3(Part1. 2) 時制に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、時制に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語101-150を暗記する。 テキストpp. 10-12. 13-14. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
6	5/13	Part3. 4とショート・リーディング	小テスト4(Part3. 4) アナウンス等に関する表現の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、ショート・リーディングに関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語151-200を暗記する。 テキストpp. 12. 15-17. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Part1.2と品詞	小テスト5(Part1.2) 品詞に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、品詞に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語201-250を暗記する。 テキストpp.18-20.21-22.を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
8	5/27	Part3.4とイベント	小テスト6(Part3.4) イベントに関する表現の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、イベントに関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語251-300を暗記する。 テキストpp.20.23-25.その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
9	6/3	Part1.2と仮定法	小テスト7(Part1.2) 仮定法に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、仮定法に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語301-350を暗記する。 テキストpp.26-28.29-30.を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
10	6/10	Part3.4と広告	小テスト8(Part3.4) 広告に関する表現についての理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、広告に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語351-400を暗記する。 テキストpp.28.31-34.その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
11	6/17	Part1.2と不定詞、動名詞	小テスト9(Part1.2) 不定詞と動名詞についての理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、不定詞、動名詞に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語401-450を暗記する。 テキストpp.36-37.39-40.を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
12	6/24	会議での表現	会議に関する表現の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、会議に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	テキストpp.38.41-43その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	これまでの学習の確認	これまでの戦略の確認による、自己達成度の向上確認	
		この回の到達目標	これまでの解法の戦略を駆使して、TOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	単語小テスト1-9とUnit1-5の確認をする。	60分
		事後学修	配布プリントの復習	30分
14	7/8	英語圏の文化の学習	英語圏の思考形式の理解と、ディクテーション	
		この回の到達目標	英語圏の思考形式を理解し、ディクテーションにより実際使用される英会話を理解できる。	
		事前学修	英語圏の思考形式に関する調査をWEBなどを活用し調べる。	30分
		事後学修	英語圏人々の思考形式を確認する。	30分
15	7/15	英語圏の文化とTOEIC	小テスト10 英語圏と日本での人々の思考形式の相違の理解	
		この回の到達目標	英語圏と日本での人々の思考形式の相違を理解し、その形式をTOEIC問題と関連付けられる。	
		事前学修	単語451-550を暗記する。	30分
		事後学修	TOEIC形式の確認をする。	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	藤本 淳史	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018		
備考					

【オフィスアワー】
水曜16：10／17：50～ 講堂にて質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション Unit 01 人物の動作と状態 (Part 1) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	4/15	Unit 01 表・用紙 (Part 7)	Unit 01 表・用紙 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの表・用紙 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	4/22	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2)	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの疑問詞を使った疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	4/29	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの広告 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	5/6	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3)	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの日常場面での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	5/13	Unit 03 品詞 (Part 5)	Unit 03 品詞 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの品詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4)	・ClassMATE Mini test 1 Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのアナウンス・ツアー (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	5/27	Unit 04 動詞 (Part 5)	・ClassMATE Mini test 2 Unit 04 動詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの動詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	6/3	Unit 05 物の状態と位置 (Part 1)	・ClassMATE Mini test 3 Unit 05 物の状態と位置 (Part 1) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの物の状態と位置 (Part 1) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	6/10	Unit 05 チャット (Part 7)	・ClassMATE Mini test 4 Unit 05 チャット (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのチャット (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	6/17	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2)	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	6/24	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7)	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの手紙・Eメール (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Unit 07 電話での会話 (Part 3)	Unit 07 電話での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの電話での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATEの課題にもう一度トライする。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	7/8	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5)	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5) 演習と解説をします。 前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・関係代名詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	7/15	前期試験とふり返り	・テキストの前期試験とテストの解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	これまでの内容を復習して前期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
		事後学修	前期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	石川 太郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。(受験料及び教材費は自己負担)。注:TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TOEIC L&R Test: On Target, Book 1 (Revised Edition)	大賀リエ その他	南雲堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	part 1~3 and 4~7	前期授業の確認と復習	
		この回の到達目標	前期の授業中に感じたリスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前期授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
2	9/26	part 4~7	Unit 6: Sales Campaign 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	Unit 6の予習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
3	10/3	part 1~3	Unit 7: Employment 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	10/10	part 4~7	Unit 7: Employment 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	10/17	part 1~3	Unit 8: Communications 1: リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	10/24	part 4~7	Unit 8: Communications 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	part 1~3	Unit 9: Ecology 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
8	11/7	part 4~7	Unit 9: Ecology 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
9	11/14	part 1~3	Unit 10: Troubleshooting 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
10	11/21	part 4~7	Unit 10: Troubleshooting 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
11	11/28	part 1~3	Test演習1（リスニングセクション中心）	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
12	12/5	part 4~7	Test演習2（リーディング中心）	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	part 4～7	Test演習3（文法項目中心）	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	文法事項の復習	30分
14	12/19	part 1～3 and 4～7	3回の演習及び授業で扱いきれなかった項目を扱う	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語、文法の復習	30分
15	12/26	part 1～3 and 4～7	後期授業のまとめ	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	井上 悦男	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC 1回受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます) 原則、II Bとともに通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
発音練習などはその場で簡単にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2017	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考	『ジーニアス英和辞典』と同程度の英和辞典を使用してください。文法事項など苦手なところがあれば、『ジーニアス総合英語』で自習することを勧めます。メールなどで質問してもらっても構いません。単語帳が必要な場合には、『公式ボキャブラリーブック』を勧めますが、公式問題集の解説に単語がまとめられているので、それだけで十分かと思います。ただし、『公式ボキャブラリーブック』はそれぞれの語の例文の音源をダウンロード				

【オフィスアワー】
質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。授業時間：月曜 4・5・6 限、水曜 1 限inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	形式と対策方法	ガイダンス(問題構成の確認)、模擬問題の演習	
		この回の到達目標	問題構成の再確認。	
		事前学修	既習事項の確認	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
2	9/21	Part2, 5の復習	Test1 Part2(7-31), Test2 Part6(131-138)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 (18/25問)と Part5 (7/10問)程度正解すること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	9/28	Part2, 5の習熟	Test2 Part2(7-31), Test2 Part6(139-146)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 (18/25問), Part6 (5/8問), Part5 (7/10問), 程度正解すること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	10/5	Part3の復習	Test2 Part3(32-55)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の正解率を高める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	10/12	Part3の習熟	Test2 Part3(56-70)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の正解率を高める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	10/19	Part4の復習、Part7の演習	Test2 Part4 (71-85)、Test1 Part7(147-160)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の正解率を高める。Part7で時間配分を把握する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Part4の習熟、Part7の演習	ClassMATEの小テスト、Test2 Part4(86-100)、Test1 Part7(161-175)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の正解率を高める。Part7の問題文を正確に読めること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	11/9	複数文書の読解問題	ClassMATEの小テスト、Test1 Part7(176-185)、Test2 Part3(43-70)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	11/16	複数文書の読解問題の発展	ClassMATEの小テスト、Test1 Part7(186-200)、Test2 Part4(71-100)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	11/23	読解問題の習熟	ClassMATEの小テスト、Test2 Part7(147-160)、音読練習	
		この回の到達目標	本番を意識して問題を解ける。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	11/30	読解問題の習熟	ClassMATEの小テスト、Test2 Part7(161-175)、音読練習	
		この回の到達目標	読解問題の本文を正確に読める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	12/7	複数文書の読解問題の発展	Test2 Part7(176-185)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	複数文書の読解問題の習熟	Test2 Part7(186-200)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	12/21	授業内試験	授業内試験、問題の解説	
		この回の到達目標	時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	答えの確認	30分
15	1/18	まとめ	まとめ（受講生の人数によって個別に面接）	
		この回の到達目標	TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを前期1回、後期1回以上受験し、ClassMATE (Online Training)をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。 TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
小テストを毎回実施します。内容はその前の授業で扱った単語や表現から出題するので必ずvocabulary noteを準備し毎回復習してください。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英語によるグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。										2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Tactics for the TOEIC TEST Listening and Reading Test Introductory Course	Grant Trew	Oxford	2017	教科書	必携
備考	ISBN978 0 19 452976 1				

【オフィスアワー】
毎回の授業前後に授業が行われる講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 通訳者、グローバル企業において輸出入業務
実務経験に基づく実践的教育の内容	英語による実践実務への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	水9/16	TOEIC試験全般について	Review Unit 1~7
		この回の到達目標	受験したTOEIC試験について振り返り今後の時間配分について対策を立てる。
		事前学修	教科書の裏表紙にあるMP3ファイルにアクセスし、音声を聞き始める。30分
		事後学修	vocabulary note30分
2	水9/23	Photo Questions	Unit 8 Present Tenses, Prepositions
		この回の到達目標	現在形についてリスニング練習。前置詞について理解する。
		事前学修	Unit 8 音声箇所をリスニングする。30分
		事後学修	vocabulary note30分
3	水9/30	Question and Response	Unit 9 Questions with Indirect answers
		この回の到達目標	リスニング問題での間接的な答え方について慣れる。
		事前学修	Unit 9 音声箇所をリスニングする。30分
		事後学修	vocabulary note30分
4	水10/7	Conversations	Unit 10 Opinions
		この回の到達目標	意見を述べている内容のリスニング問題を理解する。
		事前学修	Unit 10 音声箇所をリスニングする。30分
		事後学修	vocabulary note30分
5	水10/14	Talks	Unit 11 Voice mails and recorded messages
		この回の到達目標	録音されたメッセージを理解する。
		事前学修	Unit 11 音声箇所をリスニングする。30分
		事後学修	vocabulary note30分
6	水10/21	TOEIC listening parts	Unit 8 - Unit 11 review
		この回の到達目標	TOEICのリスニングパート全体について振り返り。苦手箇所を知り、対策を計る。
		事前学修	Unit 8 - Unit 11 音声箇所をリスニングする30分
		事後学修	vocabulary note30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水10/28	Incomplete Sentences	Unit 12 Using prefixes	
		この回の到達目標	接頭語を知り迅速に的確に答える。	
		事前学修	Unit 12 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
8	水11/11	Text Completion	Unit 13 Pronouns and possessive forms	
		この回の到達目標	代名詞と所有格を復習しTOEICの問題を解く。	
		事前学修	Unit 13 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
9	水11/18	Reading Comprehension	Unit 14 Answering NOT questions	
		この回の到達目標	難解な'NOT question'への対応を知る。	
		事前学修	Unit 14 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
10	水11/25	TOEIC Reading Parts	Reading parts review	
		この回の到達目標	読解問題全般について対策を立てる。	
		事前学修	Reading Part review	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
11	水12/2	TOEIC Listening Part	TOEIC Practice Test (2) Listening Part and review	
		この回の到達目標	Practise Testを実施し対策を立てる。	
		事前学修	TOEIC Practice Test (2) Listening Part	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
12	水12/9	TOEIC Reading Part	TOEIC Practice Test (2) Reading Part and review	
		この回の到達目標	Practice Testを実施し対策を立てる。	
		事前学修	TOEIC Practice Test (2) Reading Part and review	30分
		事後学修	vocabulary note	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水12/16	Part 2 and Part 5	Questions and responses, blank questions	
		この回の到達目標	高得点に繋がるPart 2, Part 5の力を磨き正答率を高める。	
		事前学修	Review Practice Test (2)	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
14	水12/23	Summary	Review all the units	
		この回の到達目標	TOEIC Part 1-7の全体的な対策を立てる。	
		事前学修	Review all the units	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
15	水1/13	Examination and Feedback	Summary of all the units	
		この回の到達目標	期末試験の実施と解説。	
		事前学修	Review all the units	30分
		事後学修	Review all the units	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Seize the Keys of the TOEIC L&R TEST	Masako Yasumaru他	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	辞書を持ってくること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーション TOEICとは CaLaboの使い方を学ぶ	・授業の進め方について ・教科書、TOEICについての説明	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。テキストを購入する。授業用のノートを用意する。	60分
		事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	60分
2	4/14	Unit 7 Production & Logistics その1	・Unit 7 Production & Logistics (助動詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 7を予習する。	60分
		事後学修	Unit 7のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
3	4/21	Unit 7 Production & Logistics その2	Unit 7 Production & Logistics (助動詞) その2	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 7を復習する。	60分
		事後学修	Unit 7のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
4	4/28	Unit 8 Employent その1	・Unit 7 Employment (時制) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、時制の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 8を予習する。	60分
		事後学修	Unit 8のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
5	5/5	Unit 8 Employent その2	・Unit 8 Employent (時制) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・疑問詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 8を復習する。	60分
		事後学修	Unit 8のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
6	5/12	Unit 9 Personnel その1	・Unit Unit 9 Personnel (受動態) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、受動態の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 9を予習する。	60分
		事後学修	Unit 9のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Unit 9 Personnel その2	・Unit Unit 9 Personnel（受動態）その2 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受動態の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit9を復習する。	60分
		事後学修	Unit 9のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
8	5/26	Unit 10 Business その1	・Unit 10 Business（分詞・分詞構文）その1 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞・分詞構文の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 10を予習する。	60分
		事後学修	Unit 10のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
9	6/2	Unit 10 Business その2	・Unit 10 Business（分詞・分詞構文）その2 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞・分詞構文の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 10を復習する。	60分
		事後学修	Unit 10のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
10	6/9	Unit 11 Health & Environment その1	・Unit 11 Health & Environment（不定詞・動名詞）その1 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞と動名詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 11を予習する。	60分
		事後学修	Unit 11のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
11	6/16	Unit 11 Health & Environment その2	・Unit 11 Health & Environment（不定詞・動名詞）その2 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞と動名詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 11を復習する。	60分
		事後学修	Unit 11のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
12	6/23	Unit 12 Finance その1	・Unit 12 Finance（関係詞）その1 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 12を予習する。	60分
		事後学修	Unit 12のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Unit 12 Finance その2	- Unit 12 Finance (関係詞) その2 - Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞・主語と動詞の一致を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 12を復習する。	60分
		事後学修	Unit 12のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
14	7/7	後期試験と復習	後期試験 試験でわからなかったところをテキストで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだテキストの解法のテクニックを理解できているか確認することができる。	
		事前学修	テスト勉強をする。	120分
		事後学修	テストをもう一度やってみる。	60分
15	7/14	後期のふり返し	テストの返却と後期のふり返し	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、後期に学んだことをふり返し、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	後期に学んだことを復習する。	60分
		事後学修	今後のTOEICの学習計画を立てる。	60分

科目名	TOEIC II B	担当者	高坂 映子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料と受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。 下記の授業計画は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。小テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ESSENTIAL APPROACH FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—	大須賀 直子 他	成美堂	2019	教科書	必携
Essential English Vocabulary 1400	語彙力向上研究会	朝日出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜 10:30～10:40 12:10～12:20 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンスおよび演習	後期の授業の進め方やスケジュール、履修上の注意事項の説明 Unit 6: Listening Section 数字表現	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、いろいろな数字表現に慣れることができる。	
		事前学修	シラバス内容を確認する。	30分
		事後学修	ガイダンス内容を確認し、後期の学習計画を立てる。 Unit 6の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
2	9/24	Research & Development	Unit 7: Reading Section 主語と動詞の呼応、時制の一致 VocabularyテキストSection B Unit 1～Unit 3小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主語と動詞の呼応、時制の一致について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 60の問題を解く。 VocabularyテキストSection B Unit 1～Unit 3小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 7: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
3	10/1	Computers & Technology (1)	Unit 8: Listening Section キーワードからトピックを把握する。 VocabularyテキストSection B Unit 4～Unit 6小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してキーワードからトピックを把握することができる。	
		事前学修	テキストp. 69の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit 4～Unit 6小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 8: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
4	10/8	Computers & Technology (2)	Unit 8: Reading Section 能動態と受動態 VocabularyテキストSection B Unit 7～Unit 9小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、能動態と受動態について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 77の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit 7～Unit 9小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 8: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
5	10/15	Employment & Promotions (1)	Unit 9: Listening Section キーワードから状況を把握する。 VocabularyテキストSection B Unit 10～Unit 12小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キーワードから状況を把握することができる。	
		事前学修	テキストp. 78の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit 10～Unit 12小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 9: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
6	10/22	Employment & Promotions (2)	Unit 9: Reading Section 不定詞と動名詞 VocabularyテキストSection B Unit 13～Unit 15小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞と動名詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 86の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit 13～Unit 15小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 9: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	Advertisements & Personnel (1)	Unit 10: Listening Section 英単語からイメージを描く ClassMATE Mini test 1	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英単語からイメージを描くことができる。	
		事前学修	テキストp. 87の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 10: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
8	11/5	Advertisements & Personnel (2)	Unit 10: Reading Section 分詞 ClassMATE Mini test 2	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 95の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 10: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
9	11/12	Telephone & Messages(1)	Unit 11: Listening Section 英語の話の展開の特徴を知る。 ClassMATE Mini test 3	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の話の展開の特徴を知ることができる。	
		事前学修	テキストp. 96の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 11: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
10	11/19	Telephone & Messages(2)	Unit 11: Reading Section 助動詞 ClassMATE Mini test 4	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 104の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 11: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
11	12/3	Banking & Finance (1)	Unit 12: Listening Section 必要な情報のみを聞き取る。 ClassMATE Mini test 5	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、必要な情報のみを聞き取ることができる。	
		事前学修	テキストp. 105の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 12: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
12	12/10	Banking & Finance (2)	Unit 12: Reading Section 接続詞 ClassMATE Mini test 6	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 114の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 12: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	Office Work & Equipment	Unit 13 関係代名詞&関係副詞 VocabularyテキストSection B Unit 16～Unit 18小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係代名詞&関係副詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	VocabularyテキストSection B Unit 16～Unit 18小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 13: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
14	12/24	授業内試験およびふり返り	テキストの後期試験 後期授業をふり返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期復習テストを受験することで、TOEICスコアアップに必要な力を身に付けることができる。	
		事前学修	テキストUnit 6 ～Unit 13およびvocabularyテキストSection B Unit1～Unit30 までの復習	30分
		事後学修	試験をふり返り、わからなかった箇所を確認する。	30分
15	1/14	後期の総まとめ	後期の学習内容の総まとめ及び講評	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の学習内容を総まとし、講評を加えることで、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	後期の学習内容の復習	30分
		事後学修	総まとめをもとに、今後のTOEIC対策または英語学習の計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) を実施します。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、次回授業時に返却します。質問の回答時には、理由を尋ねながら巡回します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	配布資料等を基にして、英語圏の人々の思考形式をグループで話し合い、レポートに纏めて提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次週コメントを入れ、返却

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新訂版 TOEIC L&Rテストへようこそ	北原良夫	朝日出版社	2020		
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、小石裕子	アルク	2016		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12：10～13：00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、TOEICの概要の説明	
		この回の到達目標	TOEICの概要を理解できる。	
		事前学修	テキストの目次の確認と音声ファイルのダウンロードを行う。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICに関する情報をWEBサイト等で調べる。	30分
2	9/23	Part5. 6. のストラテジーの学習	短文穴埋め問題、長文穴埋め問題についての理解	
		この回の到達目標	Part5. 6. の一般的な解法を理解できる。	
		事前学修	テキストp. viii-ixの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
3	9/30	Part7. のストラテジーの学習	小テスト1(Part1. 2) 読解問題についての理解	
		この回の到達目標	Part7. の一般的な解法を理解できる。	
		事前学修	単語501-550を暗記する。 テキストpp. 44-45. 47-48. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
4	10/7	Part3. 4. と準動詞	小テスト2(Part3. 4) 準動詞に関する問題の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、チャットに関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語551-600を暗記する。 テキストpp. 46. 49-52. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
5	10/14	Part1. 2. と分詞	小テスト3(Part1. 2) 分詞に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、分詞に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語601-650を暗記する。 テキストpp. 54-55. 57-58. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
6	10/21	Part3. 4と旅行	小テスト4(Part3. 4) 出張等に関する表現の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、旅行に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語651-700を暗記する。 テキストpp. 56. 59-62. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Part1.2と分詞構文、使役動詞	小テスト5(Part1.2) 分詞構文、使役動詞に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、分詞構文、使役構文に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語701-750を暗記する。 テキストpp. 64-65. 67-68. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
8	11/11	Part3.4と会議、天候	小テスト6(Part3.4) 会議、天候に関する表現の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、会議、天候に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語751-800を暗記する。 テキストpp. 66. 69-73. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
9	11/18	Part1.2と比較構文	小テスト7(Part1.2) 比較構文に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、比較構文に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語801-850を暗記する。 テキストpp. 74-75. 77-78. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
10	11/25	Part3.4と商品注文、ダブル・パッセージ	小テスト8(Part3.4) 商品注文に関する表現についての理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、ダブル・パッセージに関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語851-900を暗記する。 テキストpp. 28. 31-34. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
11	12/2	Part1.2と不定代名詞	小テスト9(Part1.2) 不定代名詞についての理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、不定代名詞に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語901-950を暗記する。 テキストpp. 84-85. 88-89. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
12	12/9	図表のリスニング・パート	図表問題の取り組み方の理解	
		この回の到達目標	図表の解法(Part3.4.7)の解法が理解できる。	
		事前学修	テキストpp. 86-87. 90-93. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	これまでの学習の確認	これまでの戦略の確認による、自己達成度の向上確認	
		この回の到達目標	これまでの解法の戦略を駆使して、TOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	単語小テスト1-9とUnit6-10の確認をする。	60分
		事後学修	配布プリントの復習	30分
14	12/23	英語圏の文化の学習	英語圏の思考形式の理解と、ディクテーション	
		この回の到達目標	英語圏における世界観を理解し、ディクテーションにより実際使用される英会話を理解できる。	
		事前学修	英語圏の人々の世界観に関する調査をWEBなどを活用し調べる。	30分
		事後学修	英語圏人々の世界観を確認する。	30分
15	1/13	英語圏の世界観とTOEIC	小テスト10 英語圏と日本での人々の世界観の相違の理解	
		この回の到達目標	英語圏と日本での人々の世界観の相違を理解し、その形式をTOEIC問題と関連付けられる。	
		事前学修	単語951-1005を暗記する。	30分
		事後学修	TOEIC形式の確認をする。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	藤本 淳史	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018		
備考					

【オフィスアワー】
水曜16：10／17：50～ 講堂にて質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4)	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのUnit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	9/23	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5)	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの接続詞・前置詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	9/30	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2)	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのYes/No疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	10/7	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7)	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	10/14	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3)	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ① (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	10/21	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5)	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 5の復習 (Part 5) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Unit 11 留守番電話 (Part 4)	Unit 11 留守番電話 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの留守番電話 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	11/11	Unit 11 トリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7)	Unit 11 トリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	11/18	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3)	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ② (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	11/25	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7)	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 7の復習 (Part 7) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	12/2	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2)	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	12/9	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6)	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの時制・代名詞・語い問題 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4)	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	12/23	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6)	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのつなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	1/13	テキストの後期試験とテスト解説	・テキストの後期試験とテスト解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	これまでの内容を復習して後期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
		事後学修	後期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	北村 豊	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
学期内にTOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を受講してもらいます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。定期的に単語テストや指定範囲の小テストを行います。 小テストは授業内で返却を行う。授業内試験後に、試験の解説を行い、内容を振り返る。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。									3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										3		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Ivan’s Adventure in the business world (1)	Yutaka Kitamura	On Demand Publishing	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜14：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yutaka.kitamura1@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月4/6	TOEICとは	General introduction to the course 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。英英辞典の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	授業の進め方、TOEICの概要を理解する。英英辞典の使い方を習得する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEICについてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	第1部 月4/13	TOEIC第1部について	リスニング第1部：演習と解説 TOEICリスニング第1部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第1部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第1部問題演習の準備、テキスト(10-17頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	リスニング第1部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。	30分
3	第1部 月4/20	TOEIC第2部について	リスニング第2部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第2部問題演習の準備、テキスト(18-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リスニング第2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
4	第1部 月4/27	TOEIC第3部について	リスニング第3部：演習と解説 TOEICリスニング第3部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第3部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第3部問題演習の準備、テキスト(18-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リスニング第3部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
5	第1部 月5/4	TOEIC第4部について	リスニング第4部：演習と解説 TOEICリスニング第4部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第4部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第4部問題演習の準備、テキスト(27-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リスニング第4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
6	第1部 月5/11	TOEIC第5部について	リーディング第5部：演習と解説 TOEICリーディング第5部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第5部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第5部問題演習の準備、テキスト(84-85頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第5部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 月5/18	TOEIC第6部について	リーディング第6部：演習と解説 TOEICリーディング第6部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第6部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第6部問題演習の準備、テキスト(86-87頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
8	第1部 月5/25	TOEIC第7部（前半部分、single passage）について	リーディング第7部（前半部分、single passage）：演習と解説 TOEICリーディング第7部前半（single passage）の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第7部前半（single passage）の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部前半（single passage）問題演習の準備、テキスト(88-94頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第7部前半（single passage）問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
9	第1部 月6/1	TOEIC第7部（後半部分、double passage）について	リーディング第7部（後半部分、double passage）：演習と解説 TOEICリーディング第7部後半（double passage）の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第7部後半（double passage）の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部後半（double passage）問題演習の準備、テキスト(94-97頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第7部後半部分（double passage）問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
10	第1部 第2部 月6/8	TOEIC第1部と第2部について	リスニング問題演習（第1部～第2部）と解説。 自宅トレーニング方法の紹介。 TOEICリスニング第1－2部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第1－2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第1－2部問題演習の準備、テキスト(10-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	リスニング第1－2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
11	第1部 月6/15	TOEIC第3部と第4部について	リスニング問題演習（第3部～第4部）と解説。 自宅トレーニング方法の紹介。 TOEICリスニング第3－4部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第3－4部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第3－4部問題演習の準備、テキスト(26-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	リスニング第3－4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
12	第1部 月6/22	TOEIC第5部と第6部について	リーディング問題演習（第5部～第6部）と解説 自宅トレーニング方法の紹介 TOEICリーディング第5－6部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第5－6部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第5－6部問題演習の準備、テキスト(30-41頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第5－6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月6/29	TOEIC第7部single passage問題について	リーディング問題演習（第7部前半single passage問題）と解説 自宅トレーニング方法の紹介	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第7部前半single passage問題の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部（前半）問題演習の準備、テキスト(51-59頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）	30分
		事後学修	リーディング第7部前半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
14	第1部 月7/6	TOEIC第7部double passage問題について	リーディング問題演習（第7部後半double passage）と解説 自宅トレーニング方法の紹介	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第7部後半double passage問題の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部（後半）問題演習の準備、テキスト(51-59頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）	30分
		事後学修	リーディング第7部後半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
15	第1部 月7/13	前期の振り返りと学習内容の定着	前期授業の総まとめとして授業内試験を行う。試験後解説と前期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	前期授業の総まとめとしての授業内試験を通して、前期の授業で扱った内容を確認し、ビジネス英語全般の理解を深める。	
		事前学修	「前期のまとめ」準備。授業内試験に向けて準備する。これまでの問題演習の復習をする。（30分）	30分
		事後学修	「前期のまとめ」の内容の復習。前期授業の学習内容を確認する。（30分）	30分

科目名	TOEIC ⅢA(木曜3限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを 副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト受験対策として単語等の小テスト、テキストを使用したTOEIC のミニテストを行ったうえで時間を見て他のTOEIC問題を解いたり、リスニングパートをペアワークをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト、TOEIC模擬試験、TOEIC のミニテスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認。テスト等に関しては当日もしくは後日解答と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FAST PASS FOR THE TOEIC® L&R TEST	上仲、是近共著	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12 : 50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日 (木)	ガイダンス	TOEIC III Aの概要について説明。第1回目の履修希望者数によっては人数調整のためミニテストを行う場合もある。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、前期の学習目標を立てることが出来る。	
		事前学修	テキストのpp. 6-12を読んでTOEICの構成等について確認をする。	30分
		事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、前期の学習計画を立てる。	30分
2	4月16日 (木)	TOEICについての説明、プレテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、プレテストと解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
		事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	4月23日 (木)	第1回英単語試験 ・Unit 1	単語試験 (No. 1 - 45)/ テキストMini TOEIC L&R Test (pp. 29 - 33) の小テスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。 ・テキストWarm-Up Listeningの音声を聴く	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
4	4月30日 (木)	第2回英単語試験 Unit 1	単語試験 (No. 46 - 90)/ テキストpp. 24 - 28までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「食」と「レストラン」関連のTOEICの問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 24 - 28の問題を解く。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 24 - 28の間違えたところを中心に復習する。	30分
5	5月7日 (木)	第3回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No. 91 - 143)/ テキスト Mini TOEIC L&R Test (pp. 39 - 43)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Entertainment」関連の問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
6	5月14日 (木)	第4回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No. 144 - 195)/ テキストpp. 34 - 38までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Entertainment」関連の語彙の修得、リスニング、リーディングの問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 34 - 38の問題を解く。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 34 - 38の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日 (木)	第5回英単語試験 Unit 3 ClassMATE Mini test 1	単語試験 (No.196 - 248)/ テキストMini TOEIC L&R Test(pp.49 - 53)/ClassMATE Mini test	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 3, Part 7の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
8	5月28日 (木)	第6回英単語試験 Unit 4 ClassMATE Mini test 2	単語試験 (No.249 - 300)/ テキストMini TOEIC L&R Test(pp.59 - 63)/ ClassMATE Mini test 2	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
9	6月4日 (木)	第7回英単語試験 ClassMATE Mini test 3 Unit 3&4	単語試験 (No.301 - 345) / ClassMATE Mini test / テキストpp. 24 - 28までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 4, Part 5の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 44 - 48 / pp. 54 - 58の問題を解く。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 44 - 48 / pp. 54 - 58の間違えたところを中心に復習する。	30分
10	6月11日 (木)	第8回英単語試験 ClassMATE Mini test 4 Unit 5	単語試験 (No.346 - 398)/ ClassMATE Mini test 4 / テキストMini TOEIC L&R Test(pp.69 - 73)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
11	6月18日 (木)	第9回英単語試験 ClassMATE Mini test 5 Unit 6	単語試験 (No.399 - 450)/ ClassMATE Mini test 5 Mini TOEIC L&R Test(pp.79 - 83)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
12	6月25日 (木)	第10回英単語試験 ClassMATE Mini test 6 Unit 5 & Unit 6	単語試験 (No.451 - 495)/ ClassMATE Mini test 6 テキストUnit 5&Unit 6 : pp. 64 - 68 / pp. 74 - 78までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 1, Part 6の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 64 - 68 / pp. 74 - 78の問題を解く。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 64 - 68 / pp. 74 - 78の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日 (木)	第11回英単語試験 TOEIC模擬試験（学期末試験）	単語試験（No. 496 - 548）/ TOEIC模擬問題50問（又は100問）を解く。その後解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC模擬試験（学期末試験）を通してTOEIC全体の解法のテクニックを身につけることが出来る。	
		事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。	30分
		事後学修	模擬試験のリーディングの問題を再度解く。分からない語を辞書で調べ英文を訳す。	30分
14	7月9日 (木)	第12回英単語試験 / TOEIC模擬試験の復習、その他の問題	単語試験（No. 549-600）/TOEIC模擬試験を復習する。リスニングパートのペアワーク、リーディングパートの練習等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して模擬試験を振り返ることでTOEICに必要な語彙、パート別の解答の仕方などを身につけることが出来る。	
		事前学修	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える。13回目の授業で行った模擬試験問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
		事後学修	テキストUnit 1- 6のリーディングの問題をもう一度解く。	30分
15	7月16日 (木)	前期の振り返り	前期の授業を振り返る。リスニングの練習、他	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期に学んだことを見直し、夏休み中、もしくは後期のTOEIC対策を立てることが出来る。	
		事前学修	前期にテキストの中で間違えた問題をピックアップして見直す。	30分
		事後学修	前期に学んだことを振り返り、今後の目標を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢA(木曜4限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを 副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト受験対策として単語等の小テスト、テキストを使用したTOEIC のミニテストを行ったうえで時間を見て他のTOEIC問題を解いたり、リスニングパートをペアワークをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト、TOEIC模擬試験、TOEIC のミニテスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認。テスト等に関しては当日もしくは後日解答と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	北尾、西田他2名共著	朝日出版社	2017	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12 : 50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日 (木)	ガイダンス、導入授業	TOEIC III Aの概要について説明。第1回目の履修希望者数によっては人数調整のためミニテストを行う場合もある。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、前期の学習目標を立てることが出来る。	
		事前学修	テキストの最初の4ページを読んでTOEICの構成等について確認をする。	30分
		事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、前期の学習計画を立てる。	30分
2	4月16日 (木)	TOEICについての説明、プレテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、プレテストと解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
		事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	4月23日 (木)	第1回英単語試験 ・Unit 1	単語試験 (No.1 - 45)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。 テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
4	4月30日 (木)	第2回英単語試験 Unit 1の復習 / TOEIC練習問題	単語試験 (No..46 - 90)/ テキストUnit 1の復習。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「食」と「レストラン」関連の語彙や表現、動詞の形を身につけることが出来る。	
		事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。Warm-upの単語を覚える。Unit 1のReadingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストとTOEIC練習問題を復習する。	30分
5	5月7日 (木)	第3回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No.91 - 143)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「旅行」関連の語彙や表現、動詞の形を身につけることが出来る。	
		事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
6	5月14日 (木)	第4回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No.144 - 195)/ Unit 2の復習 / TOEIC練習問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC練習問題を解くことでTOEICの形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。Unit 2のReadingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。Unit 2のReadingとTOEIC練習問題の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日 (木)	第5回英単語試験 Unit 3/ TOEIC練習問題 ClassMATE Mini test 1	単語試験 (No.196 - 248)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。/ClassMATE Mini test 1	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「エンターテインメント」関連の語彙や表現、品詞に関する知識を身につけることが出来る。	
		事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
8	5月28日 (木)	第6回英単語試験 Unit 4 / TOEIC練習問題 ClassMATE Mini test 2	単語試験 (No.249 - 300)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。/ ClassMATE Mini test 2	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「会議」関連の語彙や表現を身につけて、分詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
9	6月4日 (木)	第7回英単語試験 ClassMATE Mini test 3 Unit 5 / TOEIC練習問題	単語試験 (No.301 - 345) / ClassMATE Mini test / テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「人事」関連の語彙や表現を身につけて、不定詞と動名詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
10	6月11日 (木)	第8回英単語試験 ClassMATE Mini test 4 Unit 6 / TOEIC練習問題	単語試験 (No.346 - 398)/ ClassMATE Mini test 4 / テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してショッピング」関連の語彙や表現を身につけて、不定詞と動名詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストTOEIC Part1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
11	6月18日 (木)	第9回英単語試験 ClassMATE Mini test 5 Unit 7 / TOEIC練習問題	単語試験 (No.399 - 450)/ ClassMATE Mini test 5 テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「広告」関連の語彙や表現を身につけて仮定法を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
12	6月25日 (木)	第10回英単語試験 ClassMATE Mini test 6 Unit 3 - Unit 7の復習 / TOEIC練習問題	単語試験 (No.451 - 495)/ Unit 3 - Unit 7の復習をする。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。Unit 3 - Unit 7のReadingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストUnit 3 - Unit 7のReading Partの問題を中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日 (木)	第11回英単語試験 TOEIC模擬試験（学期末試験）	単語試験（No. 496 - 548）/ TOEIC模擬問題50問（又は100問）を解く。その後解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC模擬試験（学期末試験）を通してTOEIC全体の解法のテクニックを身につけることが出来る。	
		事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。	30分
		事後学修	模擬試験のリーディングの問題を再度解く。分からない語を辞書で調べ英文を訳す。	30分
14	7月9日 (木)	第12回英単語試験 / TOEIC模擬試験の復習、その他の問題	単語試験（No. 549-600）/TOEIC模擬試験を復習する。リスニングパートのペアワーク、リーディングパートの練習等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して模擬試験を振り返ることでTOEICに必要な語彙、パート別の解答の仕方などを身につけることが出来る。	
		事前学修	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える。13回目の授業で行った模擬試験問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
		事後学修	テキストUnit 1- 6のリーディングの問題をもう一度解く。	30分
15	7月16日 (木)	前期の振り返り	前期の授業を振り返る。リスニングの練習、他	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期に学んだことを見直し、夏休み中、もしくは後期のTOEIC対策を立てることが出来る。	
		事前学修	前期にテキストの中で間違えた問題をピックアップして見直す。	30分
		事後学修	前期に学んだことを振り返り、今後の目標を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験すること。オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務づける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペア・ワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The TOEIC TEST Trainer Target 650	Masahiko Yamaguchi 他3名	CENGAGE Learning	2016		
備考					

【オフィスアワー】
金曜14：30～講堂にて。授業の前後で質問してください。アポイントメントを取る場合にも授業の前後に相談してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	オリエンテーション及び導入講義	ガイダンス	
		この回の到達目標	到達目標①②も関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R Test のHPに目を通す。	30分
		事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	30分
2	4/17	提案-時制1	Unit 1 Listening Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 を学習して、提案の表現を使ったListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストを入手する。インターネットやアプリで英語力がUPしそうな教材を見つける。 Unit 1 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 1 Listening Sectionを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
3	4/24	提案-時制1	Unit 1 Listening Section の小テスト Unit 1 Reading Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 を学習して、時制の表現を使ったReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 1 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 1 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 1 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
4	5/1	確認-時制2	Unit 1 Reading Section の小テスト Unit 2 Listening Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 2を学習して、確認の表現を使ったListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 1 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 2 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 2 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
5	5/8	確認-時制2	Unit 2 Listening Sectionの小テスト Unit 2 Reading Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 2を学習して、時制の表現を使ったReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 2 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 2 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 2 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
6	5/15	会話を始める-助動詞	Unit 2 Reading Sectionの小テスト Unit 3 Listening Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 3を学習して、会話を始めるときの表現を使ったListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 2 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 3 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 3 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	会話を始める-助動詞	ClassMATE Mini Test 1 Unit 3 Listening Sectionの小テスト Unit 3 Reading Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 3を学習して、助動詞を使ったReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 1の課題をやる。 ・Unit 3 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 3 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 3 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
8	5/29	ニュース報道-フレーズリーディング	ClassMATE Mini Test 2 Unit 3 Reading Sectionの小テスト Unit 4 Listening Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit4を学習して、ニュース報道を使ったListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 2の課題をやる。 ・Unit 3 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 4 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 4 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
9	6/5	ニュース報道-フレーズリーディング	ClassMATE Mini Test 3 Unit 4 Listening Sectionの小テスト Unit 4 Reading Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 4を学習してフレーズリーディングを使ったReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 3の課題をやる。 ・Unit 4 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 4 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 4 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
10	6/12	義務-代名詞	ClassMATE Mini Test 4 Unit 4 Reading Sectionの小テスト Unit 5 Listening Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 5を学習して、義務の表現を使ったListening の問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 4の課題をやる。 ・Unit 4 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 5 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 5 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
11	6/19	義務-代名詞	ClassMATE Mini Test 5 Unit 5 Listening Sectionの小テスト Unit 5 Reading Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 5を学習して、代名詞を使ったReading の問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 5の課題をやる。 ・Unit 5 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 5 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 5 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
12	6/26	理由-前置詞	ClassMATE Mini Test 6 Unit 5 Reading Sectionの小テスト Unit 6 Listening Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6 を学習して理由の表現を使ったListening の問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 6の課題をやる。 ・Unit 5 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 6 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 6 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	理由-前置詞	ClassMATE 模試 Unit 6 Listening Sectionの小テスト Unit 6 Reading Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6を学習して前置詞を使ったReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE 模試をやる。 ・Unit 6 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 6 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 6 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
14	7/10	前期試験と振り返り	テキストの前期試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身につけることができる。	
		事前学修	試験の範囲を勉強する。	120分
		事後学修	試験の復習をし、分からなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	7/17	前期の振り返り	テスト返却 前期の授業を振り返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことを振り返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	前期にテキスト、ClassMATEで学んだところで分からなかったところを調べておく。	30分
		事後学修	夏休み以降の勉強の計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC を受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。(受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。 遅刻30分以上は欠席とみなす。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークでの問題解析、解説、出題を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で課題、試験の講評、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Best practice for the TOEIC listening and reading test revised edition	Yoshizuka	Seibido	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に講堂に来て下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンスと学習方法	Class mate, TOEIC test registration	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEICの内容と学習方法を考察する	
		事前学修	TOEIC目標の設定	30分
		事後学修	ジャーナルの書き方	30分
2	第一部 水4/15	TOEIC診断テスト	TOEIC Part1 to Part 7	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEIC Testの形式、内容を考察する。	
		事前学修	語彙復習	30分
		事後学修	ジャーナル 1 授業振り返り	30分
3	第一部 水4/22	Restaunt	人称代名詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法復習 1	30分
		事後学修	ジャーナル 2 授業振り返り	30分
4	第一部 水4/29	Entertainment	不定代名詞と再帰代名詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法復習 2	30分
		事後学修	ジャーナル 3 授業振り返り	30分
5	第一部 水5/6	Business	現在、過去時制	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 リーディング	30分
		事後学修	ジャーナル 4 授業振り返り	30分
6	第一部 水5/13	Office	現在完了	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 問題分析	30分
		事後学修	ジャーナル 5 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	Telephone	期間を表す前置詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 問題作成	30分
		事後学修	ジャーナル 6 授業振り返り	30分
8	第一部 水5/27	Letter & e-mail	場所を表す前置詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 発表準備	30分
		事後学修	ジャーナル 7 授業振り返り	30分
9	第一部 水6/3	Health	数量形容詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 グループワーク	30分
		事後学修	ジャーナル 8 授業振り返り	30分
10	第一部 水6/10	Bank & Post office	自動詞と他動詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 リフレクションシート	30分
		事後学修	ジャーナル 9 授業振り返り	30分
11	第一部 水6/17	New Products	形容詞を作る接尾辞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 語彙	30分
		事後学修	ジャーナル 10 授業振り返り	30分
12	第一部 水6/24	Travel 1	副詞を作る接尾辞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 表現	30分
		事後学修	ジャーナル 11 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	Travel 2	分詞構文	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法	30分
		事後学修	ジャーナル 1 2 授業振り返り	30分
14	第一部 水7/8	Job applications	比較	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 総復習	30分
		事後学修	ジャーナル 1 3 授業振り返り	30分
15	第一部 水7/15	Shopping	受動態	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 前期の学習内容のまとめ	30分
		事後学修	ジャーナル 1 4 授業振り返り	30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	北村 豊	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
学期内にTOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。定期的に単語テストや指定範囲の小テストを行います。 小テストは次の授業で返却を行う。授業内試験後解説と振り返りを行う。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。									3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										3		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Ivan’s Adventure in the business world (2)	Yutaka Kitamura	On Demand Publishing	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜14：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yutaka.kitamura1@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月9/14	General introduction	General introduction to the course 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。TOEICのスコア表の読み方を学ぶ。 英英辞典の応用的な使い方を習得する。	
		この回の到達目標	授業の進め方、TOEICの概要を理解する。TOEICのスコア表の読み方を学び、自分で学習戦略を立てられる。 英英辞典の応用的な使い方を習得する。	
		事前学修	授業の概要を大学のHPで確認する。（30分）	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEICについてWEBサイト等で調べてみる。（30分）	30分
2	第1部 月9/21	TOEICリスニング第1部について	リスニング第1部：演習と解説 TOEICリスニング第1部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第1部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第1部問題演習の準備、テキスト(1-5頁)に取り組む。	30分
		事後学修	リスニング第1部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。	30分
3	第1部 月9/28	TOEICリスニング第2部について	リスニング第2部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第2部問題演習の準備、テキスト(6-11頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リスニング第2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。	30分
4	第1部 月10/5	TOEICリスニング第3部について	リスニング第3部：演習と解説 TOEICリスニング第3部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第3部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第3部問題演習の準備、テキスト(12-19頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リスニング第3部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分
5	第1部 月10/12	TOEICリスニング第4部について	リスニング第4部：演習と解説 TOEICリスニング第4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第4部問題演習の準備、テキスト(20-28頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リスニング第4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分
6	第1部 月10/19	TOEICリーディング第5部について	リーディング第5部：演習と解説 リーディング第5部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第5部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第5部問題演習の準備、テキスト(29-38頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リーディング第5部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 月10/26	TOEICリーディング第6部について	リーディング第6部：演習と解説 リーディング第6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第6部問題演習の準備、テキスト(29-38頁)に取り組む。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
8	第1部 月11/9	TOEICリーディング第7部前半single passageについて	リーディング第7部（前半single passage）：演習と解説 リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の準備、テキスト(39-47頁)に取り組む。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
9	第1部 月11/16	TOEICリーディング第7部後半double passageについて	リーディング第7部（後半double passage）：演習と解説 リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部後半問題演習の復習、テキスト(47-58頁)に取り組む。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第7部後半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
10	第1部 月11/23	TOEICリスニング第1－2部について	リスニング問題演習（第1部～第2部）と解説 リスニング第1－2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リスニング第1－2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第1－2部問題演習の準備。テキスト(59-63頁)に取り組む。(30分)	30分
		事後学修	リスニング第1－2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
11	第1部 月11/30	TOEICリスニング第3－4部について	リスニング問題演習（第3部～第4部）と解説 リスニング第3－4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リスニング第3－4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第3－4部問題演習の準備。テキスト(64-67頁)に取り組む。(30分)	30分
		事後学修	リスニング第3－4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
12	第1部 月12/7	TOEICリーディング第5－6部について	リーディング問題演習（第5部～第6部）と解説 リーディング第5－6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リーディング第5－6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第5－6部問題演習の準備。テキスト(5-22頁)に取り組む。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第5－6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月12/14	TOEICリーディング第7部前半single passageについて	リーディング問題演習（第7部前半single passage）と解説 リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の準備。テキスト(68-72頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分
14	第1部 月12/21	TOEICリーディング第7部後半double passageについて	リーディング問題演習（第7部後半double passage）と解説 リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部後半double passage問題演習の準備。テキスト(78-89頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リーディング第7部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。授業内最終テストに備える。	30分
15	第1部 月1/18	後期授業の総まとめと振り返り	Overall summary 後期授業の総まとめとして授業内試験を行う。その後解説と後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	後期授業の総まとめとしての授業内試験（及びその後の解説）を通して、後期学習内容の理解を深める。	
		事前学修	「後期のまとめ」準備。授業内試験に向けて準備する。これまでの問題演習の復習をする。	30分
		事後学修	「後期のまとめ」の内容の復習。後期授業の学習内容を確認する。 今後の自分の学習計画を立て、将来の受験に備える。	30分

科目名	TOEIC ⅢB(木曜4限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを 副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト受験対策として単語等の小テスト、テキストを使用したTOEIC のミニテストを行ったうえで時間を見て他のTOEIC問題を解いたり、リスニングパートをペアワークをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト、TOEIC模擬試験、TOEIC のミニテスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認。テスト、速読用の小レポート等に関しては当日もしくは後日解答、解説、返却等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	北尾、西田他2名共著	朝日出版社	2017	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12 : 50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日 (木)	ガイダンス、導入授業	TOEIC III Bの概要について説明。（第1回目の履修希望者数によっては人数調整のためミニテストを行う場合もある。）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、後期の学習目標を立てることが出来る。	
		事前学修	テキストの最初の4ページを読んでTOEICの構成等について確認をする。	30分
		事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、後期の学習計画を立てる。	30分
2	9月24日 (木)	TOEICについての説明、プレテストまたはミニテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、プレテストもしくはミニテストと解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
		事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	10月1日 (木)	第13回英単語試験 Unit 8	単語試験 (No. 601 - 630/1~15)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。 テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
4	10月8日 (木)	第14回英単語試験 Unit 8の復習 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 16 - 60)/ テキストUnit 8の復習。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「日常生活」に関連した語彙や表現、受動態を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。Warm-upの単語を覚える。Readingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストとTOEIC練習問題を復習する。	30分
5	10月15日 (木)	第15回英単語試験 Unit 9	単語試験 (No. 61 - 113)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「オフィス・ワーク」に関連した語彙や表現、代名詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える。Warm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
6	10月22日 (木)	第16回英単語試験 Unit 9の復習 TOEIC練習問題	単語試験 (No. 114 - 165)/ Unit 9の復習。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC練習問題を解くことでTOEICの形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。Unit 2のReadingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。Unit 2のReadingとTOEIC練習問題の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日 (木)	第17回英単語試験 ClassMATE Mini test 1 Unit 10 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 166 - 218) / ClassMATE Mini test 1 / テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「ビジネス」に関連した語彙や表現、数量詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
8	11月5日 (木)	第18回英単語試験 ClassMATE Mini test 2 Unit 11 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 219 - 263) / ClassMATE Mini test 2/テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「旅行」に関連した語彙や表現、接続詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
9	11月12日 (木)	第19回英単語試験 ClassMATE Mini test 3 Unit 12 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 264 - 315) / テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。ClassMATE Mini test 3	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して金融と銀行業」に関連した語彙や表現、前置詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。 テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
10	11月19日 (木)	第20回英単語試験 ClassMATE Mini test 4 Unit 13 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 316-360) / ClassMATE Mini test 4 / テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「メディア」に関連した語彙や表現、コロケーションを使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストTOEIC Part1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
11	12月3日 (木)	第21回英単語試験 ClassMATE Mini test 5 Unit 14 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 361-413) / ClassMATE Mini test 5 / テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「健康と福祉」に関連した語彙や表現を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
12	12月10日 (木)	第22回英単語試験 ClassMATE Mini test 6 Unit 8 - Unit 14の復習 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 414-465) / ClassMATE Mini test 6 / Unit 8 - Unit 14の復習をする。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。Unit 8 - Unit 14のReadingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストUnit 8 - Unit 14のReading Partの問題を中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日 (木)	第23回英単語試験 TOEIC模擬試験（学期末試験）	単語試験（No.466-518）/ TOEIC模擬問題50問（又は100問）を解く。その後解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC模擬試験（学期末試験）を通してTOEIC全体の解法のテクニックを身につけることが出来る	
		事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。今までオンラインで学習したClassMATEの問題を選んで解く。	120分
		事後学修	模擬試験のリーディングの問題を再度解く。分からない語を辞書で調べ英文を訳す。	30分
14	12月24日 (木)	第24回英単語試験 TOEIC模擬試験の復習、 その他の問題	単語試験（No.519-570）/TOEIC模擬試験を復習する。リスニングパートのペアワーク、リーディングパートの練習等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して模擬試験を振り返ることでTOEICに必要な語彙、パート別の解答の仕方などを身につけることが出来る。	
		事前学修	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える。13回目の授業で行った模擬試験問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
		事後学修	テキストUnit 6- 12のリーディングの問題をもう一度解く。	30分
15	1月14日 (木)	後期の振り返り	後期の授業を振り返る。リスニングの練習、他	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期に学んだことを見直し、今後のTOEIC対策を立てることが出来る。	
		事前学修	後期にテキストの中で間違えた問題をピックアップして見直す。	30分
		事後学修	後期に学んだことを振り返り、今後の目標を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢB(木曜3限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを 副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト受験対策として単語等の小テスト、テキストを使用したTOEIC のミニテストを行ったうえで時間を見て他のTOEIC問題を解いたり、リスニングパートをペアワークをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト、TOEIC模擬試験、TOEIC のミニテスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認。テスト、速読用の小レポート等に関しては当日もしくは後日解答、解説、返却等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FAST PASS FOR THE TOEIC® L&R TEST	上仲、是近共著	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12 : 50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日 (木)	ガイダンス及び導入講義	TOEIC III Bの概要について説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、後期の学習目標を立てることが出来る。	
		事前学修	テキストのpp. 6-12を読んでTOEICの構成等についてもう一度確認をする。	30分
		事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、後期の学習計画を立てる。	30分
2	9月24日 (木)	TOEICについての説明、プレテストまたはミニテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、プレテストもしくはミニテストと解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
		事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	10月1日 (木)	第13回英単語試験 Unit 7	単語試験 (No. .601 - 630/1`15)/ テキストMini TOEIC L&R Test(pp. 89 - 93)の小テスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。 ・テキストWarm-Up Listeningの音声を聴く	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違ったところを中心に復習する。	30分
4	10月8日 (木)	第14回英単語試験 Unit 7	単語試験 (No. . 16 - 60)/ テキストpp. 84 - 88までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Office Work」関連のTOEICの問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 84 - 88の問題を解く。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 84 - 88の間違ったところを中心に復習する。	30分
5	10月15日 (木)	第15回英単語試験 Unit 8	単語試験 (No. .61 - 113)/ テキスト Mini TOEIC L&R Test(pp. 99 - 103)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Office Work」関連の問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違ったところを中心に復習する。	30分
6	10月22日 (木)	第16回英単語試験 Unit 8	単語試験 (No. .114 - 165)/ テキストpp. 94 - 98までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Office Work」関連の語彙の修得、リスニング、リーディングの問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 94 - 98の問題を解く。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 94 - 98の間違ったところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日 (木)	第17回英単語試験 Unit 9 ClassMATE Mini test 1	単語試験 (No. 166 - 218)/ ClassMATE Mini test 1 /テキストMini TOEIC L&R Test(pp.109 - 113)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
8	11月5日 (木)	第18回英単語試験 Unit 10 ClassMATE Mini test 2	単語試験 (No. 219 - 263)/ ClassMATE Mini test 2/テキストMini TOEIC L&R Test(pp.119 - 123)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
9	11月12日 (木)	第19回英単語試験 ClassMATE Mini test 3 Unit 9 & 10	単語試験 (No. 264 - 315) /テキストpp. 104 - 108 / pp. 114 - 118の解答と解説。ClassMATE Mini test 3	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 1, Part 7の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 104 - 108 / pp. 114 - 118の問題を解く。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 104 - 108 / pp. 114 - 118の間違えたところを中心に復習する。	30分
10	11月19日 (木)	第20回英単語試験 ClassMATE Mini test 4 Unit 11	単語試験 (No. 316-360)/ ClassMATE Mini test 4 /テキストMini TOEIC L&R Test(pp.129 - 133)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
11	12月3日 (木)	第21回英単語試験 ClassMATE Mini test 5 Unit 12	単語試験 (No. 361-413)/ ClassMATE Mini test 5 / Mini TOEIC L&R Test(pp.139 - 143)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
12	12月10日 (木)	第22回英単語試験 ClassMATE Mini test 6 Unit 5& Unit 6	単語試験 (No. 414-465)/ ClassMATE Mini test 6 / テキストUnit 11 & Unit 12 : pp. 124 - 128 / pp. 134 - 138までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 3, Part 7の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. pp. 124 - 128 / pp. 134 - 138の問題を解く。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. pp. 124 - 128 / pp. 134 - 138の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日 (木)	第23回英単語試験 TOEIC模擬試験（学期末試験）	単語試験（No.466-518）/ TOEIC模擬問題50問（又は100問）を解く。その後解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC模擬試験（学期末試験）を通してTOEIC全体の解法のテクニックを身につけることが出来る	
		事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。今までオンラインで学習したClassMATEの問題を選んで解く。	120分
		事後学修	模擬試験のリーディングの問題を再度解く。分からない語を辞書で調べ英文を訳す。	30分
14	12月24日 (木)	第24回英単語試験 TOEIC模擬試験の復習、 その他の問題	単語試験（No.519-570）/TOEIC模擬試験を復習する。リスニングパートのペアワーク、リーディングパートの練習等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して模擬試験を振り返ることでTOEICに必要な語彙、パート別の解答の仕方などを身につけることが出来る。	
		事前学修	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える。13回目の授業で行った模擬試験問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
		事後学修	テキストUnit 6- 12のリーディングの問題をもう一度解く。	30分
15	1月14日 (木)	後期の振り返り	後期の授業を振り返る。リスニングの練習、他	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期に学んだことを見直し、今後のTOEIC対策を立てることが出来る。	
		事前学修	後期にテキストの中で間違えた問題をピックアップして見直す。	30分
		事後学修	後期に学んだことを振り返り、今後の目標を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験すること、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務づける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペア・ワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The TOEIC TEST Trainer Target 650	Masahiko Yamaguchi 他3名	CENGAGE Learning	2016		
備考					

【オフィスアワー】
金曜14：30～講堂にて。授業の前後で質問してください。アポイントメントを取る場合にも授業の前後で相談してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	苦情-接続詞	Unit 7 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 7を学習して苦情の表現を使ったListening 問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 7 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 7 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
2	9/25	苦情-接続詞	Unit 7 Listening Sectionの小テスト Unit 7 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 7を学習して接続詞を用いたReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 7 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 7 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 7 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
3	10/2	交通情報-スキミング	Unit 7 Reading Sectionの小テスト Unit 8 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 8を学習して交通情報のListening の問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 7 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 8 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 8 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
4	10/9	交通情報-スキミング	Unit 8 Listening Sectionの小テスト Unit 8 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 8を学習してスキミングを用いてReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 8 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 8 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 8 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
5	10/16	Yes/Noで答える質問-関係詞	Unit 8 Reading Sectionの小テスト Unit 9 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 9を学習してYes/Noで答える質問のListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 8 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 9 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 9 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
6	10/23	Yes/Noで答える質問-関係詞	Unit 9 Listening Sectionの小テスト Unit 9 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 9を学習して関係詞を用いたReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 9 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 9 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 9 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10／30	意見-分詞構文	ClassMATE Mini Test 1 Unit 9 Reading Sectionの小テスト Unit 10 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 10を学習して意見の表現を使ったListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 1の課題をやる。 ・Unit 9 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 10 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 10 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
8	11／6	意見-分詞構文	ClassMATE Mini Test 2 Unit 10 Listening Sectionの小テスト Unit 10 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 10を学習して分詞構文を用いたReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 2の課題をやる。 ・Unit 10 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 10 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 10 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
9	11／13	意見の一致・不一致-仮定法	ClassMATE Mini Test 3 Unit 10 Reading Sectionの小テスト Unit 11 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11 を学習して意見の一致・不一致のListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 3の課題をやる。 ・Unit 10 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 11 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 11 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
10	11／20	意見の一致・不一致-仮定法	ClassMATE Mini Test 4 Unit 11 Listening Sectionの小テスト Unit 11 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11を学習して仮定法のReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	ClassMATE Mini Test 4 Unit 11 Listening Sectionの小テスト Unit 11 Reading Sectionの学習	30分
		事後学修	Unit 11 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
11	11／27	会議-スキミング	ClassMATE Mini Test 5 Unit 11 Reading Sectionの小テスト Unit 12 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 12を学習して会議に関するListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	ClassMATE Mini Test 5 Unit 11 Reading Sectionの小テスト Unit 12 Listening Sectionの学習	30分
		事後学修	Unit 12 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
12	12／4	会議-スキミング	ClassMATE Mini Test 6 Unit 12 Listening Sectionの小テスト Unit 12 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 12を学習してス棄民後を用いたReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	ClassMATE Mini Test 6 Unit 12 Listening Sectionの小テスト Unit 12 Reading Sectionの学習	30分
		事後学修	Unit 12 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12／11	総復習	ClassMATE 模試 Unit 12 Reading Sectionの小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期やったことを用いてListeningとReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE 模試の課題をやる。 ・Unit 12 Reading Sectionの小テストを勉強する。	30分
		事後学修	授業で学習したことの復習。	30分
14	12／18	後期試験と振り返り	テキストの後期試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身につけることができる。	
		事前学修	後期の範囲を勉強する。	30分
		事後学修	試験の復習をし、分からなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	12／25	後期の振り返り	テスト返却 後期の授業を振り返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことを振り返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	後期にテキスト、ClassMATEで学んだところで分からなかったところを調べておく。	30分
		事後学修	今学年が終わっても引き続きTOEICの勉強を続けていくための計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC を受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。 遅刻30分以上は欠席とみなす。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークでの問題解析、解説、出題を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で課題、試験の講評、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Perfect practice for the TOEIC L & R test Revised edition	Ishii	Seibido	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に講堂に来て下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンスと学習方法	Class mate, TOEIC test registration	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEICの内容と学習方法を考察する。	
		事前学修	TOEIC目標の設定	30分
		事後学修	ジャーナルの書き方	30分
2	第一部 水9/23	TOEIC診断テスト	TOEIC Part1 to Part 7	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEIC Testの形式、内容を考察する。	
		事前学修	語彙復習	30分
		事後学修	ジャーナル 1 授業振り返り	30分
3	第一部 水9/30	Studying Abroad	動詞の時制	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法復習 1	30分
		事後学修	ジャーナル 2 授業振り返り	30分
4	第一部 水10/7	International Conference	自動詞と他動詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法復習 2	30分
		事後学修	ジャーナル 3 授業振り返り	30分
5	第一部 水10/14	Holidays	主語と動詞の一致	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 リーディング	30分
		事後学修	ジャーナル 4 授業振り返り	30分
6	第一部 水10/21	Leisure	動名詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 問題分析	30分
		事後学修	ジャーナル 5 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	Restaurant	不定詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 問題作成	30分
		事後学修	ジャーナル 6 授業振り返り	30分
8	第一部 水11/11	Online Shopping	副詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 発表準備	30分
		事後学修	ジャーナル 7 授業振り返り	30分
9	第一部 水11/18	Global Warming	分詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 グループワーク	30分
		事後学修	ジャーナル 8 授業振り返り	30分
10	第一部 水11/25	Web Sites	名詞の可算、不可算	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 リフレクションシート	30分
		事後学修	ジャーナル 9 授業振り返り	30分
11	第一部 水12/2	Workplace	代名詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 語彙	30分
		事後学修	ジャーナル 10 授業振り返り	30分
12	第一部 水12/9	Nursing Care	接続詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 表現	30分
		事後学修	ジャーナル 11 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	Global Trading	受動態と使役	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法	30分
		事後学修	ジャーナル 1 2 授業振り返り	30分
14	第一部 水12/23	Eco-Friendly Economy	関係詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 総復習	30分
		事後学修	ジャーナル 1 3 授業振り返り	30分
15	第一部 水1/13	Business Trips	形容詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 後学期の学習内容のまとめ	30分
		事後学修	ジャーナル 1 4 授業振り返り	30分

科目名	TOEIC IVA	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC500点程度取得している上級レベルの学生を対象とするクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC730点を獲得するために上級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア730点を取得する。								4			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、上級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『初級者からのニュース・リスニング CNN Student News 2020春』	CNN English Express	朝日出版社	2020	教科書	必携
『TOEICテスト公式問題集新形式問題対応編』	IIBC	IIBC	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日15:00-16:00　電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/7	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス。授業の進め方 ・ TOEICを受験する目的を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICを受験するための目的を理解し、自分の到達目標を設定することができる。	
		事前学修	シラバスを読む。	30分
		事後学修	今日の振り返り。配布されたプリントを読む。	30分
2	第一部 4/14	TOEICの学習方法を知ろう	①TOEICテスト対策と学習法を学ぶ。 ②授業の進め方を知る（プリント配布）。 ③オンライン教材の実践方法を理解する。 ④グループ分けをして自己紹介をする。	
		この回の到達目標	①到達目標①②に関連して、TOEICを学習方法を理解し、自分の到達目標を設定することができる。 ②グループメンバーを知ることができる。	
		事前学修	教科書を購入し、配布されたプリントを読む。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
3	第一部 4/21	Reading Part の概要 Part 5を学ぶ・ 新聞記事で速読力をつける	①Reading Partの概要と対策を理解する。 ②Part 5 の解き方を学ぶ。 ③新聞記事を利用して速読力をつけ、Part 7の正解率を上げる方法を知る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Reading問題の解法のテクニックを使って、テストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	プリントを使い、指定された範囲の課題を準備する。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
4	第一部 4/28	音読とシャドーイングを学ぶ	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズの小テスト ②Listening Partの概要と解き方を学ぶ。 ③CALL教室の使い方を知る。 ④音読・シャドーイングの方法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、音読・シャドーイングの方法を身に付けることでListeningの正解率を上げることができ	
		事前学修	配布プリントを使い、小テストに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。オンライン教材を開始する。	30分
5	第一部 5/5	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズの小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングテストの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
6	第一部 5/12	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/19	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
8	第一部 5/26	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
9	第一部 6/2	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
10	第一部 6/9	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
11	第一部 6/16	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
12	第一部 6/23	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	復習テストに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週のテストに備える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/30	Reading Part 復習テスト	前期に学んだ英語表現等を含むTOEIC Reading Part のテスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力を使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	これまで学習した前期のプリントを復習する。	30分
		事後学修	最終シャドーイングテストに向けて練習をする。	30分
14	第一部 7/6	Readingテストのフィードバック	前回Readingテストのフィードバック 最終シャドーイングテストに向けて練習	
		この回の到達目標	TOEICテストを控え、復習の必要な部分を確認することができる。	
		事前学修	シャドーイングの練習を継続する。	30分
		事後学修	オンライン教材が完成しているかを確認する。 シャドーイングの練習を継続する。	30分
15	第一部 7/13	シャドーイングテスト	最終シャドーイング課題を实践する→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、最終シャドーイング課題のパフォーマンスを通して、英語のリスニング・スピーキング能力を示すことができる。	
		事前学修	最終シャドーイング課題を練習する。	30分
		事後学修	これまでの振り返り。音読・シャドーイングの練習を続け、夏休み後のTOEICテストに向けて計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC IVB	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC500点程度取得している上級レベルの学生を対象とするクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC730点を獲得するために上級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア730点を取得する。								4			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、上級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『初級者からのニュース・リスニング CNN Student News 2020 秋』	CNN English Express	朝日出版社	2020	教科書	必携
『TOEICテスト公式問題集新形式問題対応編』	IIBC	IIBC	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日15:00-16:00 電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/15	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス。授業の進め方 ・ TOEICを受験する目的を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICを受験するための目的を理解し、自分の到達目標を設定することができる。	
		事前学修	シラバスを読む。	30分
		事後学修	今日の振り返り。配布されたプリントを読む。	30分
2	第一部 9/22	TOEICの学習方法を知ろう	①TOEICテスト対策と学習法を学ぶ。 ②授業の進め方を知る（プリント配布）。 ③オンライン教材の実践方法を理解する。 ④グループ分けをして自己紹介をする。	
		この回の到達目標	①到達目標①②に関連して、TOEICを学習方法を理解し、自分の到達目標を設定することができる。 ②グループメンバーを知ることができる。	
		事前学修	教科書を購入し、配布されたプリントを読む。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
3	第一部 9/29	Reading Part の概要 Part 7を学ぶ 新聞記事で速読力をつける	①Reading Partの概要と対策を理解する。 ②Part 7 の解き方を学ぶ。 ③新聞記事を利用して速読力をつけ、Part 7の正解率を上げる方法を知る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Reading問題の解法のテクニックを使って、テストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	プリントを使い、指定された範囲の課題を準備する。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
4	第一部 10/6	音読とシャドーイングを学ぶ	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズの小テスト ②Listening Partの概要と解き方を学ぶ。 ③CALL教室の使い方を知る（後期からの履修者）。 ④音読・シャドーイングの方法について学ぶ（後期からの履修者）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、音読・シャドーイングの方法を身に付けることでListeningの正解率を上げることができる。	
		事前学修	配布プリントを使い、小テストに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。オンライン教材を開始する。	30分
5	第一部 10/13	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズの小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングテストの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
6	第一部 10/20	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/27	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
8	第一部 11/10	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
9	第一部 11/17	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
10	第一部 11/24	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
11	第一部 12/1	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
12	第一部 12/7	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	復習テストに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週のテストに備える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/14	Reading Part 復習テスト	前期に学んだ英語表現等を含むTOEIC Reading Part のテスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力を使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	これまで学習した前期のプリントを復習する。	30分
		事後学修	最終シャドーイングテストに向けて練習をする。	30分
14	第一部 12/21	Readingテストのフィードバック	前回Readingテストのフィードバック 最終シャドーイングテストに向けて練習	
		この回の到達目標	TOEICテストを控え、復習の必要な部分を確認することができる。	
		事前学修	シャドーイングの練習を継続する。	30分
		事後学修	オンライン教材が完成しているかを確認する。 シャドーイングの練習を継続する。	30分
15	第一部 1/12	シャドーイングテスト	最終シャドーイング課題を実践する→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、最終シャドーイング課題のパフォーマンスを通して、英語のリスニング・スピーキング能力を示すことができる。	
		事前学修	最終シャドーイング課題を練習する。	30分
		事後学修	これまでの振り返り。 音読・シャドーイングの練習を続け、今後のTOEICテストに向けて計画を立てる。	30分

科目名	Communication I A	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities

【授業方法】
This course aims to equip students with the communicative skills they need to feel comfortable speaking and listening English in a wide variety of situations. Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability to make themselves understood.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays in the teachers` lounge before class or after class in the classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Orientation及び導入講義	Introduction of the teacher and students, guidelines for the classes	
		この回の到達目標	Discussion of the syllabus	
		事前学修	Read the contents of the syllabus	35分
		事後学修	Prepare answers for the before you read questions in Unit 1, page 2	35分
2	4/13	Law in Daily Life	Students familiarize themselves on the practical use of law in daily life	
		この回の到達目標	Students learn to listen and understand the contents of the reading passage	
		事前学修	Learn new legal terms in English and Japanese	30分
		事後学修	Read the reading passage in Unit 1, page 3 and find the meaning of difficult words	40分
3	4/20	Law in Daily Life	Learn pronunciation and intonation of legal terms	
		この回の到達目標	Listen to the CD for the reading passage. Reading the passage in class. Answering the comprehension question in pairs	
		事前学修	Complete the vocabulary expansion exercise on page 4	30分
		事後学修	Review the reading passage and write the difficult legal terms in the word cards	45分
4	4/27	Law in Daily Life	Discussing the debate question	
		この回の到達目標	Discussing the debate question in class in small groups. Writing the answers	
		事前学修	Summmarize the reading passage in the textbook	45分
		事後学修	Prepare answers for the questions in before you read in Unit 2	30分
5	5/4	Legal Systems	Legal Systems around the World	
		この回の到達目標	Discussing about legal systems around the world	
		事前学修	Answer the legal terms section on page 8	30分
		事後学修	Read the passage on page 9 and check the meaning of unfamiliar words	45分
6	5/11	Legal Systems	Talk about legal systems around the world	
		この回の到達目標	Listen to the CD on legal systems around the world. Shadowing exercise in pairs	
		事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 10	50分
		事後学修	Find the meaning of the vocabulary and answer the vocabulary expansion questions on page 10	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Adversarial and Inquisitorial	Discussion on adversarial and inquisitorial systems	
		この回の到達目標	Discussing the debate question in groups - arguments for and against the two systems	
		事前学修	Summarize the contents in the reading passage on page 9	60分
		事後学修	Prepare answers to the question on kinds of courts in Japan	45分
8	5/25	Japanese Court System	The Japanese Court System	
		この回の到達目標	Discuss the court system in Japan and answer the before you read questions	
		事前学修	Answer the legal terms exercise on page 14	35分
		事後学修	Reading passage on page 15 and checking the meaning of unfamiliar words	60分
9	6/1	Lay Assessors	Should lay assessors also participate in civil cases?	
		この回の到達目標	Discussion in groups on should lay assessors participate in both criminal and civil cases	
		事前学修	Answer the debate question for homework	45分
		事後学修	Summarize the reading passage in the notebook. Highlight the difficult words	60分
10	6/8	Presentation	Introducing basic presentation techniques	
		この回の到達目標	Students practice the basic presentation techniques in pairs and groups	
		事前学修	Students think of two topics on current legal/social issue in Japan for the presentation and write a short outline	60分
		事後学修	Students prepare an outline for one of the topics on current legal/social issue in Japan	40分
11	6/15	Legal Professionals	Legal Profession in Japan	
		この回の到達目標	Discussion of the legal profession in Japan	
		事前学修	Students think of the legal profession in Japan and write a brief description of them	40分
		事後学修	Students answer the exercise on legal terms on page 20 and find the meaning of unfamiliar terms in the reading passage	35分
12	6/22	Legal Professionals	Discussion of the passage on legal professionals in Japan	
		この回の到達目標	Listening to the reading passage on CD and trying to understand the contents	
		事前学修	Answer the comprehension questions on page 22	30分
		事後学修	Preparing answer for the debate question on page 25	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Presentation	Preparation for presentation	
		この回の到達目標	Students bring the draft of power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
		事前学修	Students prepare the script for the power point slides	45分
		事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	7/6	Presentation	Final group presentation	
		この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience	
		事前学修	Prepare for the presentation at home	45分
		事後学修	Peer review and evaluating the presentations of classmates	60分
15	7/13	Wrap up	Wrap up, review and final test	
		この回の到達目標	To give feedback on their assignments to the students	
		事前学修	Review for the test	60分
		事後学修	Doing research as homework assignment during the summer vacation	60分

科目名	Communication I A	担当者	アソニー トーベン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Open to all students, except 1st year students.

【授業方法】
In this course students will engage in group and whole class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students may receive feedback in each class and at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English File Pre-Intermediate Student's Book 3rd Edition	Latham-KoenigOxenden	Oxford	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 3rd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	Monday, April 6	Introduction及び導入講義	Orientation	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to introduce themselves to the rest of the class.	
		事前学修	Prepare self-introduction	30分
		事後学修	Read materials	30分
2	Monday, April 13	Discussing your life	Unit 1A Where are you from? Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss their life.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
3	Monday, April 20	Describing people	Unit 1B Charlotte's Choice Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to describe people.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
4	Monday, April 27	Clothes, prepositions of place	Unit 1C Mr and Mrs Clark and Percy Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to talk about clothes and use prepositions of place.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
5	Monday, May 4	Holidays	Unit 2A Right place, wrong person Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to talk about holidays.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
6	Monday, May 11	Prepositions of time and place	Unit 2B The story behind the photo Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use prepositions of time and place.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Revision for forthcoming test	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	Monday, May 18	Time sequencers and connectors	Unit 2C One dark October evening Skills: English listening and discussion skills Short Test	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use time sequencers and connectors	
		事前学修	Read unit Revision for forthcoming test	60分
		事後学修	Review unit	30分
8	Monday, May 25	Plans and predictions	Unit 3A Plans and dreams Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss plans and predictions	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
9	Monday, June 1	Future arrangements	Unit 3B Let's meet again Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to make future arrangements.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
10	Monday, June 8	Expressions for paraphrasing	Unit 3C What's the word? Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use expressions for paraphrasing.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
11	Monday, June 15	Parents and teenagers	Unit 4A Parents and teenagers Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to talk about relationships between parents and teenagers.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
12	Monday, June 22	Fashion and shopping	Unit 4B Fashion and shopping Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss fashion and shopping.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	Monday, June 29	The weekend		Unit 4C Lost weekend Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to introduce themselves to talk about how people spend their weekend.	
		事前学修	Read unit Revision for forthcoming test	60分
		事後学修	Review unit	30分
14	Monday, July 6	Review		Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use the grammar and vocabulary studied so far.	
		事前学修	Revision for end of term test	60分
		事後学修	Revise all units	60分
15	Monday, July 13	End of term test Review		Review End of term test
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use the grammar and vocabulary studied so far.	
		事前学修	Revision for end of term test	60分
		事後学修	Revise all units	30分

科目名	Communication I A	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
1年生のみの授業と成ります。

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
NONE. You may contact me at paulkallender@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/14	Edo to Tokyo	Learn about the story of Tokyo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Ancient International Japan story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/21	Kimono	Learn about the story of Kimono	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Japan Towns story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/28	Kabuki	Learn about the story of Kabuki	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: the African samurai story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/5	Sumo	Learn about the story of Sumo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Tensho Embassy story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/12	Shinkansen	Learn about the story of Shinkansen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the William Adams story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Manga	Learn about the story of Manga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Hosokawa Tama story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	5/26	Akihabara	Learn about the story of Akihabara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the International Nagasaki story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/2	Yamanote	Learn about the story of Yamanote	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/9	Imperial Palace	Learn about the story of the Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Tagawa Matsu story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/16	Asakusa	Learn about the story of Asakusa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Japanese families of European merchants story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/23	The Meiji Jingu	Learn about the story of Meiji Jingu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean embassies to Tokugawa Japan story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Sushi and Tempura	Learn about the story of Tempura and Sushi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Zhu Shun-sui story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/7	Noodles	Learn about the story of Noodles	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Waegwan story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	7/14	Semester Exam まとめ	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Communication I A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
East Asia in Japanese History	Thomas Lockley	DTP出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction、及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare for course	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/14	Ancient Japan and East-Asia	Learn about the story of Ancient Japan and East-Asia	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/21	Foreign settlements in Japan	Learn about the story of Foreign settlements in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/28	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/5	Korean potters in Japan	Learn about the story of Korean potters in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/12	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Tagawa Matsu	Learn about the story of Tagawa Matsu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	5/26	Zhu Shun-sui	Learn about the story of Zhu Shun-sui	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/2	Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	Learn about the story of Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/9	Sun Yat-sen in Japan	Learn about the story of Sun Yat-sen in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/16	Prince Cuong De	Learn about the story of Prince Cuong De	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/23	The Takasago volunteers	Learn about the story of The Takasago volunteers	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Kyaw Din	Learn about the story of Kyaw Din	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/7	Semester Review	Review topics of the semester and prepare for final assessment.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	7/14	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Communication I A	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and discussions and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions during class time and must engage in various activities (especially note taking) which ensure they engage in active listening .	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can ask for individual feedback at the end of class. Longer conferences can be scheduled on Monday, Wednesday or Fridays 2:00-4:00.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	There is no assigned textbook for this class.				

【オフィスアワー】
Questions about the content of lectures and discussions should be asked during class. Questions regrading attendance, grades or other personal matters should be asked after 17:50 on (M, W, F)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	一部水曜 5時限 4/8 一部金5 時限4/10 二部月曜 1時限 4/6	Introduction、及び導入講義		Meet the instructor . Instructor explains the topic of the class, the method, syllabus, rules and grading Excerpts from How The West Was Won (1962)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short assessment/placement test (not used for grading). Students use the test to access their interest in the class and their ability to achieve their goals	
		事前学修	30 minutes minimum : Review the syllabus and course description.	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Boundaries of the American West. Buy A 40 page A4 size clear file notebook and put all handouts in it in a neat and organized fashion.	30分
2	一部水曜 5時限 4/15 一部金5 時限4/17 二部月曜 1時限 4/13	The West: A Time and A Place		Lecture on and excerpts from Cimarron . “Black Hats” vs “White hats” . Pre-screening activity on Stagecoach (1939) Screening Part One (00:00-21:00).
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take notes during lecture and perform the assigned tasks in the pre-screening activity	
		事前学修	30 minutes minimum : Organize your notebooks and be ready to show them to the instructor.	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Worksheet : match each character to the description by using your notes	30分
3	一部水曜 5時限 4/22 一部金5 時限4/24 二部月曜 1時限 4/20	East Vs West		The culture of the Eastern United States of the mid nineteenth century is compared to and contrasted with the culture of the West beyond the frontier . Lecture on Part One of Stagecoach. Screening Part two of Stagecoach (21:00 - 50:00)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review all notes to prepare for first quiz	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: John Ford Biography	30分
4	一部水曜 5時限 4/29 一部金5 時限5/1 二部月曜 1時限 4/27	Social Prejudice and Outcasts		Lecture On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts. Screening Part Three of Stagecoach (50:00-96:00)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading homework before class	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading; Redemption and Revenge Prepare for quiz # 2	30分
5	一部水曜 5時限 5/6 一部金5 時限5/8 二部月曜 1時限 5/4	Manifest Destiny		Quiz #2 followed by questions and correction Lecture on Part Three of Stagecoach :
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Get ready for Quiz by reviewing all notes	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Wagon Trains	30分
6	一部水曜 5時限 5/13 一部金5 時限5/15 二部月曜 1時限 5/11	The Journey West		Lecture : Wagons West! Excerpts from A Bend In The River (1952) and Wagon Master (1950)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Homework Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Cattle Culture and Cattle Drives	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部水曜 5時限 5/20 一部金5 時限5/22 二部月曜 1時限 5/18	Cattle Culture in the American West	Quiz #3 . Lecture: Introduction to Howard Hawk' s Red River (1947) Screening Part One of Red River (1:00-36:00).	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Students prepare for quiz #3	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Cattle Drives and Cowboys	30分
8	一部水曜 5時限 5/25 一部金5 時限5/27 二部月曜 1時限 5/29	Cowboys: Icons of the West	Lecture on Part One of Red River : Cowboys, Ranchers and the Brand . Screening Part Two of Red River (33:00-83:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Cowboy clothing, food and drink	30分
9	一部水曜 5時限 6/3 一部金5 時限6/5 二部月曜 1時限 6/1	The West and The Law	Lecture on Part Two of Red River: “I am the Law” Screening Part Three of Red River (81:00-133:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : John Wayne	30分
10	一部水曜 5時限 6/10 一部金5 時限6/12 二部月曜 1時限 6/8	Screening Between the Lines	Quiz #4 Lecture on part Three of Red River : Relationships	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : prepare fro Quiz #4	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Homo-eroticism in the West and Westerns.	30分
11	一部水曜 5時限 6/17 一部金5 時限6/19 二部月曜 1時限 6/15	The Culture of Violence	Lecture on Gunfighters: excerpts from The Left Handed Gun (1958) and The Gunfighter (1950).	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : The Legends of Billy the Kid and Johnny Ringo	30分
12	一部水曜 5時限 6/24 一部金5 時限6/26 二部月曜 1時限 6/22	The Range Wars	Quiz #5 . Lecture: Introduction to Shane (1953) and the range wars. Screening Part One Shane	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #5	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading ; The Range Wars	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	一部水曜 5時限 7/1 一部金5 時限6/29 二部月曜 1時限 7/3	Points of View		Lecture on Part One of Shane : through a Child' s Eyes Screening Part Two of Shane (1953).
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Shane' s Search for Redemption	30分
14	一部水曜 5時限 7/8 一部金5 時限7/10 二部月曜 1時限 7/6	The Search for Redemption		Lecture: Why does Shane Stay? Screening Part Three of Shane
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #6	30分
15	一部水曜 5時限 7/15 一部金5 時限7/17 二部月曜 1時限 7/13	The Passing of an Age		Quiz #6 . Lecture on Part Three of Shane : A Man and his Shadow.
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #6	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Organize notebooks in preparation for the Fall Semester.	30分

科目名	Communication I A	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
University streaming system dictates who is able to take this class

【授業方法】
Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pair work, group work, question creation	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
In class feedback given immediately or next week

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Topic Talk Second Edition	David Martin	EFL Press			
備考					

【オフィスアワー】
Wednesday 10:30 - 16:20 Classroom to be decided email: alexander.chirnside@nihon

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	Introductory communication Basic questions	Getting to know each other. Self-introductions. Interrogation of teacher. Explanation of yes/no questions	
		この回の到達目標	Feeling comfortable meeting non-Japanese people	
		事前学修	Prepare to introduce yourself in English. Prepare possible questions to ask teacher about himself (30min)	30分
		事後学修	Review grammar rules of yes/no questions (30min)	30分
2	4/15	Basic question reinforcement More complex questions	Yes/no question activity. Explanation of wh questions	
		この回の到達目標	Ability to elicit information from non-Japanese	
		事前学修	Prepare at least 20 yes/no questions to ask teacher (30min)	30分
		事後学修	Review grammar rules of wh questions. Read General Service List 1-970 (30min)	30分
3	4/22	Discussing family matters	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to describe own family and ask about others	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards (30min)	30分
		事後学修	Review Family vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
4	4/29	Discussing family matters	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to describe own family and ask about others	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
5	5/6	Discussing food	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to describe food likes and dislikes	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)	30分
		事後学修	Review Food vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
6	5/13	Discussing food	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to describe food likes and dislikes	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 1, GSL 1-500. Topics 1 and 2 test	
		この回の到達目標	Develop test-taking skills	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 1 and 2 test. (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	5/27	Discussing time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to discuss time and its effect on our lives	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
		事後学修	Review Time vocabulary and question structures. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	6/3	Discussing time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to discuss time and its effect on our lives	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
10	6/10	Discussing where we live	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4, House and Home. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to describe one's living environment	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 80 words. (30min)	30分
		事後学修	Review House and Home vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	6/17	Discussing where we live	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4 House and Home listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to describe one's living environment	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	6/24	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 2, GSL 501-970. Topics 3 and 4 test	
		この回の到達目標	Develop test-taking skills	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 3 and 4 test (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Discussing music	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 5 Music, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to discuss music likes and dislikes	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	7/8	Topic creation in groups	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
		この回の到達目標	Create original topic using format modeled on format in previous classes	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	7/15	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
		この回の到達目標	listening and speaking tests	
		事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
		事後学修	Review semesters work and prepare a summer break study plan. (30min)	30分

科目名	Communication I A	担当者	B. ダム	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum),active participation, textbook.

【授業方法】
Pair work, small group work, class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	role plays, pair work, small group work	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral comments in class to students on their performance and written feedback on homework.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 1, 2nd Edition	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019		
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com. If you have questions see me Saturday 3rd period or 4th period at the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		The content of this course will provide the student with a foundation for building human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/14	Course Introduction、及び導入講義	Instructor & course introduction; ice breaking activities; introducing yourself to others	
		この回の到達目標	The student will be able to understand the content and style of the class. Students will be able to introduce themselves to others.	
		事前学修	Come to class well rested and ready to participate. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	4/11	Personal introductions	Introducing yourself/ Personal information	
		この回の到達目標	The student will be able to introduce themselves and question others for basic personal information.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	4/18	Formal introductions	Formal language used in the workplace for introductions; job titles and duties	
		この回の到達目標	Students will be able to use more formal language to introduce themselves and others. They will also be able to initiate and sustain a short conversation about jobs and duties.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	4/25	What a life!	Daily life as a student	
		この回の到達目標	The student will be able to talk about their daily routine.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson.	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson.	30分
5	5/2	What a life!	Discussing typical daily life	
		この回の到達目標	The student will be able to use time expressions to talk about daily activities.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	5/9	Free-time	Hobbies	
		この回の到達目標	The student will be able to talk about things they can do and things they like to do.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	Free-time	Leisure activities; Listening Test 1	
		この回の到達目標	The student will be able to talk about free-time activities.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
8	5/23	Places	Talking about your hometown and what you can do there.	
		この回の到達目標	The student will be able to describe their hometown and its facilities.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
9	5/30	Places	Hometown facilities	
		この回の到達目標	The student will be able to talk about the available facilities in their hometown area.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
10	6/6	Getting around	Directions	
		この回の到達目標	The student will be able to talk about their commute to college.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
11	6/13	Getting around	Ask for and give directions	
		この回の到達目標	The student will be able to ask for for and give directions.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
12	6/20	Shopping	Describing shopping habits	
		この回の到達目標	The student will be able to describe their shopping style.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/27	Shopping		Shopping habits
		この回の到達目標	The student will be able to ask for assistance from shop clerks when shopping.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	7/4	Evaluation		Speaking Test Review Course questionnaire
		この回の到達目標	The student will gain an understanding of their speaking and listening skills by participating in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	7/11	Evaluation		Speaking Test Review Course questionnaire
		この回の到達目標	The student will gain an understanding of their speaking and listening skills by participating in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Communication I B	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities

【授業方法】
This course will continue to develop the communicative skills students need to feel comfortable speaking and listening to English in a wide variety of situations. Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability to make themselves understood.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays in the teachers` lounge before class or after class in the classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Feedback and Syllabus 導入講義	Feedback on the final test, students talk about the summer vacation	
		この回の到達目標	Students write about how they spent the summer vacation and present it to class	
		事前学修	Review the units studied in the spring semester	60分
		事後学修	Research on how modern Japanese law evolved	60分
2	9/22	Foreign Laws	Japan adopting foreign laws	
		この回の到達目標	Understand the reasons why Japan adopted some foreign laws into their legal system and listen to the reading passage on the CD	
		事前学修	Check the unfamiliar words in the reading passage and write their meanings in the word cards	60分
		事後学修	Answering the comprehension questions on page 28	45分
3	9/28	Role of lawyers in courts	Discuss the role of lawyers in courts	
		この回の到達目標	Learn to speak and write arguments for and against the topic of the role of lawyers in courts	
		事前学修	Summmarize the reading passage on page 27	60分
		事後学修	Prepare answers on the role of the Japanese Constitution	40分
4	10/5	Japanese Constitution	Role of the Japanese Constitution	
		この回の到達目標	Group discussion on the present Constitution and the necessity to amend it	
		事前学修	Answer the exercise on legal terms on page 32	30分
		事後学修	Read the passage and check the unfamiliar words and answer the comprehension questions	60分
5	10/12	Japanese Constitution	Articles of the Japanese Constitution	
		この回の到達目標	Discussing arguments for and against maintaining a self defense force	
		事前学修	Answer the debate question on page 36	45分
		事後学修	Research on the nature of crimes committed in Japan and the punishments imposed	35分
6	10/19	Criminal Law	Criminal Law in Japan	
		この回の到達目標	Discussion of criminal law n Japan and in other countries	
		事前学修	Listen to the class CD on criminal law in Japan and check the unfamiliar words	40分
		事後学修	Answer the comprehension questions on page 42	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 26	Movie	Watching a movie on a criminal trial	
		この回の到達目標	Students watch the movie without Japanese subtitles/captions	
		事前学修	Do a research on the movie to be watched	50分
		事後学修	Students write their opinion about the movie. Answer the debate question on page 42	60分
8	11/9	Civil Law	Criminal Law and Civil Law	
		この回の到達目標	Distinguish the differences between criminal and civil law	
		事前学修	Students write answers to the legal terms on page 44 and read the passage and check the meaning of unfamiliar words on page 45	60分
		事後学修	Answer the comprehension questions on page 46	35分
9	11/ 16	Litigation in Japanese Culture	Discuss about litigation in Japanese Culture	
		この回の到達目標	Students discuss in groups if litigation is acceptable or not in Japanese culture and make short presentation in class	
		事前学修	Summarize the reading passage and make note of the unfamiliar words	60分
		事後学修	Research on the differences between criminal and civil procedure	40分
10	11/ 23	Commercial Law	Importance of Commercial Law	
		この回の到達目標	Importance of commercial law and difficulties to take legal action against foreign companies	
		事前学修	Research on the type of legal action taken against foreign companies and refer to some recent cases in Japan	60分
		事後学修	Exercise on legal terms and listen to the reading passage on class CD	40分
11	11/ 30	Legislation	Legislation relating to commercial law in Japan	
		この回の到達目標	The extent to which legislation in Japan protects producers and consumers	
		事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 58	60分
		事後学修	Summarize the reading passage and write down the unfamiliar words	60分
12	12/7	Lay Judge System	Lay Judge System in Japan	
		この回の到達目標	The necessity to have the lay judge system in Japan	
		事前学修	Think of arguments for and against the lay judge system	60分
		事後学修	Listen to the reading passage on the CD and write down the unfamiliar words	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/ 14	Presentation	Preparation for presentation	
		この回の到達目標	Students bring the draft power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
		事前学修	Students prepare the explanation/description for the power point slides	45分
		事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	12/ 21	Presentation	Final group presentation	
		この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience, peer review and evaluation	
		事前学修	Prepare for the presentation at home	30分
		事後学修	Peer review and evaluating the presentations of the classmates	45分
15	1/11	Wrap up	Wrap up. review, feedback and final test	
		この回の到達目標	To complete the course successfully	
		事前学修	Review the lessons studied in the fall semester for the test	60分
		事後学修	Feedback on the assignments done in class, students express their opinion on the lessons and textbook	30分

科目名	Communication I B	担当者	アソニー トーベン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Open to all students, except 1st year students.

【授業方法】
In this course students will engage in group and whole class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students may receive feedback in each class and at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English File Pre-Intermediate Student's Book 3rd Edition	Latham-KoenigOxenden	Oxford	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 3rd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	Monday, September 14	Orientation Time expressions		Unit 5A No time for anything Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use time expressions.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
2	Monday, September 21	Describing a town or city		Unit 5B Superlative cities Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to describe towns and cities.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
3	Monday, September 28	Health and the body		Unit 5C How much is too much? Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss health and the body.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit 30	30分
4	Monday, October 5	Opposite verbs/predictions		Unit 6A Are you pessimist? Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use opposite verbs.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
5	Monday, October 12	Decisions, offers, promises		Unit 6B I'll never forget you Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use language associated with decisions, offers and promises.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Revision for forthcoming test	60分
6	Monday, October 19	Talking about dreams		Unit 6C The meaning of dreaming Skills: English listening and discussion skills Short test
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to talk about dreams.	
		事前学修	Read unit Revision for forthcoming test	60分
		事後学修	Review unit	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	Monday, October 26	Verb + infinitive		Unit 7A How to... Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use verbs with the infinitive.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
8	Monday, November 9	Verb + gerund		Unit 7B Being happy Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use verbs with the gerund.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
9	Monday, November 16	Modifiers: a bit, really, etc.		Unit 7C Learn a language in a month! Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use modifiers.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
10	Monday, November 23	Speaking about problems		Unit 7C Learn a language in a month! Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to speak about problems.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
11	Monday, November 30	First conditional		Unit 8B If something can go wrong... Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use the first conditional.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
12	Monday, December 7	Adverbs of manner		Unit 8C You must be mine Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use adverbs of manner.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	Monday, December 14	Review		Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use all grammar and vocabulary so far	
		事前学修	Revision for forthcoming test	60分
		事後学修	Revise all units	30分
14	Monday, December 21	Review End of term test		End of term test Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use all grammar and vocabulary so far.	
		事前学修	Revise all units (30min)	60分
		事後学修	Revise all units	30分
15	Monday, January 18	Review		Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use all grammar and vocabulary so far.	
		事前学修	Revise all units	30分
		事後学修	Revise all units	30分

科目名	Communication I B	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Open to all years

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
An International History of Japan II	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Prepare texts for lesson.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Ginza	Learn about the story of Ginza	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
2	9/22	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	9/29	Nara	Learn about the story of Nara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	10/6	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	10/13	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	10/20	Wako	Learn about the story of Wako	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Review Lesson	Review lesson	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
8	11/10	The Tensho Embassy	Learn about the story of The Tensho Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
9	11/17	Hasekura Tsunenaga	Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
10	11/24	Yasuke	Learn about the story of Yasuke	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
11	12/1	William Adams	Learn about the story of William Adams	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
12	12/8	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
14	12/22	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	1/12	Semester Exam まとめ	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Communication I B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。									1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Multicultural Stories from Modern Japan	Thomas Lockley	DTP出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Tei Ei-Kei	Learn about the story of Tei Ei-Kei	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
2	9/22	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	9/29	Victor Starrfin	Learn about the story of Victor Starrfin	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	10/6	Rash Behari Bose	Learn about the story of Rash Behari Bose	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	10/13	Leo Sirota	Learn about the story of Leo Sirota	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	10/20	Beate Sirota Gordon	Learn about the story of Beate Sirota Gordon	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Chen Kenmin	Learn about the story of Chen Kenmin	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
8	11/10	Rikidozan	Learn about the story of Rikidozan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
9	11/17	Ando Momofuku	Learn about the story of Ando Momofuku	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
10	11/24	Korean Food in Japan	Learn about the story of Korean Food in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
11	12/1	Oh Sadaharu	Learn about the story of Oh Sadaharu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
12	12/8	Konishiki Yasokichi	Learn about the story of Konishiki Yasokichi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Murata Renho	Learn about the story of Murata Renho	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
14	12/22	Son Masayoshi	Learn about the story of Son Masayoshi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
15	1/12	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Communication I B	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and discussions and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions during class time and must engage in various activities (especially note taking) which ensure they engage in active listening .	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can ask for individual feedback at the end of class. Longer conferences can be scheduled on Monday, Wednesday or Fridays 2:00-4:00.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	There is no assigned textbook for this class.				

【オフィスアワー】
Questions about the content of lectures and discussions should be asked during class. Questions regrading attendance, grades or other personal matters should be asked after 17:50 on (M, W, F)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部水曜 5時限 9/16 一部金5 時限9/18 二部月曜 1時限 9/14	The Lawless Lawman	Lecture：The Lawless Lawman: Little Bill Dagget in Unforgiven (1992), Judge Bean in The Westerner (1940) and Pop in One Eyed Jacks (1960)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 Minutes Minimum：Review the syllabus for the Fall semester.	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading：Lawmen of the Old West	30分
2	一部水曜 5時限 9/23 一部金5 時限9/25 二部月曜 1時限 9/21	“Western Law”	Quiz #1 Lecture：Introduction to and Screening Part 1 of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 Minutes Minimum：Prepare for Quiz #1	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading; Aging Icons of the West	30分
3	一部水曜 5時限 9/30 一部金5 時限10/2 二部月曜 1時限 9/28	Law Vs Lawlessness	Lecture on Part One of The Man Who Shot Liberty Valance：Law Vs Lawlessness Screening Part two of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum：Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading: Going to School With Ransom Stoddard	30分
4	一部水曜 5時限 10/7 一部金5 時限10/9 二部月曜 1時限 10/5	Teaching the People About Democracy	Lecture on Part two of The Man Who Shot Liberty Valance: Educating the People . Screening Part 3 of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum：Review reading homework before class	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading: Why Did the Western Change?	30分
5	一部水曜 5時限 10/14 一部金5 時限 10/16 二部月曜 1時限 10/12	Legends vs History	Quiz #2. Lecture on Part Three of The Man Who Shot Liberty Valance：Tell the legend	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum：Review reading homework before	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading; Introduction to High Noon	30分
6	一部水曜 5時限 10/21 一部金5 時限 10/23 二部月曜 1時限 10/19	The Code of Honor	Screening High Noon (1952)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during the screening and ask and answer questions afterwards .	
		事前学修	30 minutes minimum：Pre-screening worksheet	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading; Helen Ramirez: a study in Contrast	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部水曜 5時限 10/28 一部金5 時限 10/30 二部月曜 1時限 10/26	When People Fail	Lecture on High Noon : When Symbolism Becomes Empty	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading homework before class	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : The Hollywood Witch Hunts	30分
8	一部水曜 5時限 11/11 一部金5 時限11/6 二部月曜 1時限 11/9	Early Images of Native Americans	Quiz #3 Lecture; Early images of the American Indian: Excerpts from Stagecoach and Drums Along the Mohawk (1939).	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #3	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Early Images of the American Indian	30分
9	一部水曜 5時限 11/18 一部金5 時限 11/13 二部月曜 1時限 11/16	The Evolving Image of Native Americans	Lecture: From torturer and rapist to noble savage . Excerpts from She Wore A Yellow Ribbon (1949), Winchester ' 73 (1950), Broken Arrow (1950)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Weapons and Warriors	30分
10	一部水曜 5時限 11/25 一部金5 時限 11/20 二部月曜 1時限 11/23	Attempting to Right Historical Wrongs	Lecture: The Transformation of John Ford: excerpts from The Searchers (1956) and Cheyenne Autumn (1964).	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading; Watching the Unwatchable	30分
11	一部水曜 5時限 12/2 一部金5 時限 11/27 二部月曜 1時限 11/30	The Use of Comedy	Quiz #4 . Lecture: From Noble Savage to Elder Brother Screening Part One of Little Big Man (1970). (1:00-47:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading; Introduction to Little Big Man	30分
12	一部水曜 5時限 12/9 一部金5 時限12/4 二部月曜 1時限 12/7	The End of Censorship	White culture vs American Indian Culture: comparing and contrasting . Screening Part Two of Little Big Man (47:00-97:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading ; Adoption among the Indians	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	一部水曜 5時限 12/16 一部金5 時限 12/11 二部月曜 1時限 12/14	Another Case of Social Criticism	Lecture: Little Big Man as Social Criticism Screening Part Three Of Little Big Man (97:00-137:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : The Trickster in Native American Cultures	30分
14	一部水曜 5時限 12/23 一部金5 時限 12/18 二部月曜 1時限 12/21	The Trickster	Quiz #5 Lecture: Jack Crabbe/ Little Big Man as Trickster	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #5	30分
		事後学修	30 minutes minimum : HW Reading : Does the West have a future as well as a past?	30分
15	一部水曜 5時限 1/13 一部金5 時限 12/25 二部月曜 1時限 1/18	The Revisionist Western goes Berserk	Excerpts from Blazing Saddles. Lecture: A film for its times.	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Self evaluation and reflection of on the course contents as well as whether learning objectives were attained.	30分

科目名	Communication I B	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
University streaming system dictates who is able to take this class

【授業方法】
Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Working in groups, working in pairs, question and topic creation, peer evaluation of work done	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments will be given, if possible, in current class. If not, then the following week's class

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Topic Talk Second Edition	David Martin	EFL Press			
備考					

【オフィスアワー】
Wednesday 12:30 - 13:00 Classroom to be decided

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Introduction to communication	Getting to know each other, again. Talking about summer break in groups, then in front of class. Interrogation of teacher. Explanation of any grammar or vocabulary issues that arise.	
		この回の到達目標	Ability to feel comfortable conversing with non-Japanese speaker	
		事前学修	Prepare to talk about your summer break in English. Prepare possible questions to ask teacher about his break (30min)	30分
		事後学修	Reflect on speaking performance in today's class. Could it have been better? How? (30min)	30分
2	9/23	Basic question reinforcement. More complex questions	In groups compare questions. make a list of the ten best questions by group. Predict answers. Ask teacher questions, compare his answers to your predictions.	
		この回の到達目標	Ability to feel comfortable questioning non-Japanese speaker	
		事前学修	Prepare at least 20 yes/no and wh questions about summer break to ask teacher (30min)	30分
		事後学修	Review new questions learned today. Read General Service List 1000-2000 (30min)	30分
3	9/30	Discussing transportation and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation	
		事前学修	Select 10 words from 1000-1500, write on vocabulary cards (30min)	30分
		事後学修	Review Transportation vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
4	10/7	Discussing transportation and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
5	10/14	Discussing sport and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)	30分
		事後学修	Review Sports vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
6	10/21	Discussing sport and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 3, GSL 1000-1500. Topics 6 and 7 test	
		この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1000-1500. Prepare for Topics 6 and 7 test. (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	11/11	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
		事後学修	Review Numbers vocabulary and question structures. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	11/18	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Watch The Simpsons on YouTube (30min)	30分
10	11/25	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10, TV. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 80 words. Watch The Roadrunner on YouTube (30min)	30分
		事後学修	Review TV vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	12/2	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10 TV listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	12/9	Recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 4, GSL 1501-2000. Topics 8 and 10 test	
		この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1500-2000. Prepare for Topics 8 and 10 test (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Discussing school and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 13 School, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of school	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	12/23	New topic questions creation	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
		この回の到達目標	Ability to work in teams to crewe questions for team-negotiated topic	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	1/13	Revision of semester's work, listening and speaking tests	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
		この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in semester	
		事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
		事後学修	Review semester's work and prepare a winter break study plan. (30min)	30分

科目名	Communication I B	担当者	B. ダム	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
Pair work, small group work, class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	role plays, pair work, small group discussions	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral feedback on performance in classroom and written feedback for homework.

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 1, 2nd Edition.	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019		
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com. Please ask questions after the class (Saturday 3rd period, 4th period) at the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		The content of this course will provide the student with the foundation to build human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	Welcome back/ Summer break	Introduction of second half of the course; ice-breaking activities; talking about summer	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to understand the content and style of the course. They will also be able to converse about what they did during the summer.	
		事前学修	Come to class well rested and ready to participate. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	9/26	What's happening?	Talking about what's happening in your life	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to describe their current life.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	10/3	What's happening?	Talking about what's happening in your life	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to use the present continuous to talk about daily activities.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	10/10	People	Describing people's physical appearance	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to describe how people look.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
5	10/17	People	Describing people's character	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to describe people's personality.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	10/24	Having fun	Invitations	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to make and respond to invitations.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	Having fun	Making future arrangements	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to discuss plans for the future and make arrangements.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
8	11/7	Vacation	Memorable vacations	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to talk about some of their most memorable trips.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
9	11/14	Movies	English through movies	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to talk about their favorite movies.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
10	11/21	Life stories	Talking about early memories	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to speak about their childhood memories.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
11	11/28	Life stories	Life stories of famous people	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to talk about famous people's lives.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
12	12/5	Hopes and intentions	The future	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to talk about their hopes and dreams for the future.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/12	Hopes and intentions		After graduation
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to talk about their hopes and dreams after they graduate.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	12/19	Evaluation		Speaking Test Review Course questionnaire
		この回の到達目標	The student will exhibit and gain and understanding of his speaking and listening skills through participation in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	12/26	Evaluation		Speaking Test Review Course questionnaire
		この回の到達目標	The student will exhibit and gain and understanding of his speaking and listening skills through participation in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Communication II A	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
The class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities.

【授業方法】		
The course aims to equip students with the communication skills they need to feel comfortable speaking and listening English in a wide variety of situations. Students will participate in activities designed to improve thier listening comprehension and ability to make themselves understood.		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays in the teachers` lounge before class or after class in the classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Orientation及び導入講義	Introduction of the teacher and students, guidelines for the classes	
		この回の到達目標	Discussion of the syllabus	
		事前学修	Read the contents of the syllabus	35分
		事後学修	Prepare answers for the before you read questions in Unit 1, page 2	35分
2	4/13	Law in Daily Life	Students learn to familiarize themselves on the practical use of law in daily life	
		この回の到達目標	Practical use of law in daily life. Students learn to listen and understand the contents of the reading passage	
		事前学修	Learn new legal terms in English and Japanese	30分
		事後学修	Read the reading passage of Unit 1, page 3 and find the meaning of difficult words	40分
3	4/20	Law in Daily Life	Learn pronunciation and intonation of legal terms	
		この回の到達目標	Listen to the CD for the reading passage, learn pronunciation and intonation of legal terms. Reading the passage in class. Answering the comprehension questions in pairs	
		事前学修	Complete the vocabulary expression exercise on page 4	30分
		事後学修	Review the reading passage and write the difficult legal terms in the word cards	45分
4	4/27	Law in Daily Life	Discussing the debate question	
		この回の到達目標	Discussing the debate question in small groups. Writing the answers	
		事前学修	Summarize the reading passage in the text	45分
		事後学修	Prepare answers for the questions in before you read in Unit 2	30分
5	5/4	Legal Systems around the World	Legal Systems around the World	
		この回の到達目標	Discussing about legal systems around the world	
		事前学修	Answer the legal terms section on page 8	30分
		事後学修	Read the passage on page 9 and check the meaning of unfamiliar words	45分
6	5/11	Legal Systems around the World	Talk about legal systems around the world	
		この回の到達目標	Listen to the CD on legal systems around the world. Shadowing exercise in pairs	
		事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 10	50分
		事後学修	Find the meaning of the vocabulary and asnwer the vocabulary expansion questions on page 10	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Adversarial and Inquisitorial Systems	Discussion on adversarial and inquisitorial systems	
		この回の到達目標	Discussing the debate question in groups - arguments for and against the two systems	
		事前学修	Summarize the contents in the reading passage on page 9	60分
		事後学修	Prepare answers to the question on kind of courts in Japan	45分
8	5/25	Japanese Court System	The Japanese Court System	
		この回の到達目標	Discuss the court system in Japan and answer the before you read questions	
		事前学修	Answer the legal terms exercise on page 14	35分
		事後学修	Reaading passage on page 15 and checking the meaning of unfamiliar words	60分
9	6/1	Lay Assessors	Should lay assessors also participate in civil cases?	
		この回の到達目標	Discussion in groups on should lay assessors participate in both criminal and civil cases	
		事前学修	Answer the debate question for homework	45分
		事後学修	Summarize the reading passage in the notebook. Highlight the difficult words	60分
10	6/8	Presentation	Introducing basic presentation techniques	
		この回の到達目標	Students practice basic presentation techniques in pairs and groups	
		事前学修	Students think of two topics on current legal/social issue in Japan for the presentation and write a short outline	60分
		事後学修	Students prepare an outline for one of the topics on current legal/social issues in Japan	40分
11	6/15	Legal Professionals	Legal Profession in Japan	
		この回の到達目標	Discussion of the legal profession in Japan	
		事前学修	Students think of legal professions in Japan and write a brief description of them	40分
		事後学修	Students answer the exercise on legal terms on page 20 and find the meaning of unfamiliar terms in the reading passage	35分
12	6/22	Legal Professionals	Discussion of passage on legal professionals in Japan	
		この回の到達目標	Listening to the reading passage on CD and trying to understand the contents	
		事前学修	Answer the comprehension questions on page 22	30分
		事後学修	Preparing answer for the debate question on page 25	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Presentation	Preparing for presentation	
		この回の到達目標	Students bring the draft of power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
		事前学修	Students prepare the script for the power point slides	45分
		事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	7/6	Presentation	Final group presentation	
		この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience	
		事前学修	Prepare for the presentation at home	45分
		事後学修	Peer review and evaluating the presentations of classmates	60分
15	7/13	Wrap up	Wrap up, review and final test	
		この回の到達目標	To give feedback on their assignments to the students	
		事前学修	Review for the test	60分
		事後学修	Doing research as homework assignment during the summer vacation	60分

科目名	Communication II A	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and language integrated learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CLIL Global Issues	Sasajima, S et al	Sansusha	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	April 6	Introductory lecture	Introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will get to know the teacher, the textbook, and activities to be used in class.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy the textbook. Buy a notebook. Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.	60分
2	April 13	Stereotypes and Racism	Using different media, students will further investigate what stereotypes are and how they can be resisted in daily life.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will use media to look at stereotypes in action. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
3	April 20	Information and Communication	Students will talk about the importance of information technologies in modern communication today.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will explain current issues in the world of information and communication using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
4	April 27	Information and Communication	Using different media, students will further investigate the topic of information and communication and explore the importance of using media intelligently in daily life.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will use different media to look at questions concerning information and communication. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
5	May 4	Culture and Fashion	Students will discuss how and why culture and fashion is important.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will discuss current issues in the world of culture and fashion using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
6	May 11	Culture and Fashion	Students will use different media to further investigate the topic of culture and fashion and explain how important it is in the modern world.	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at a question concerning culture and fashion. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	May 18	Review Class	Making speeches about one of three themes: Stereotypes and Racism, Information and Communication, and Culture and Fashion	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above. To get students to create a speech.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of partners' speeches.	60分
8	May 25	Health	Students will discuss how people harm, hinder, and hopefully improve their health.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss current issues in the world of health using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	120分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
9	June 1	Health	Students will use different media to investigate the topic of health and on how important it is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will consider questions concerning health matters. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
10	June 8	Capitalism & Materialism	Students will learn how to discuss issues concerning capitalism and materialism.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss current issues about capitalism and materialism using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
11	June 15	Capitalism & Materialism	Students will further investigate the topic of capitalism and materialism and consider how important it is to explain social issues with specific vocabulary.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will look at questions concerning capitalism and materialism. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
12	June 22	Global Warming	Students will discuss the changes global warming brings to the world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss issues in global warming using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	June 29	Global Warming	Students continue to investigate global warming.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will look at questions concerning global warming. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分
14	July 6	Review Class 2	Making speeches about one of three themes: Health, Capitalism and Materialism, and Global Warming.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above. To get students to create a speech with logic and style!	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of partners speeches.	120分
15	July 13	Review Class Unseen test	The content will be from one of the six themes from this semester: Stereotypes and Racism, Information and Communication, Culture and Fashion, Health, Capitalism and Materialism, and Global Warming.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, to get students to respond to news articles and create a group discussion: plan it, do it, reflect on it, and add notes to their notebooks	
		事前学修	Previous class notes	100分
		事後学修	Write a review of the class: your article, and what other students taught you!	200分

科目名	Communication II A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
East Asia in Japanese History	Thomas Lockley	DTP出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	Introduction、及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/15	Ancient Japan and East-Asia	Learn about the story of Ancient Japan and East-Asia	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/22	Foreign settlements in Japan	Learn about the story of Foreign settlements in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/29	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/6	Korean potters in Japan	Learn about the story of Korean potters in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/13	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Tagawa Matsu	Learn about the story of Tagawa Matsu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	5/27	Zhu Shun-sui	Learn about the story of Zhu Shun-sui	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/3	Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	Learn about the story of Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/10	Sun Yat-sen in Japan	Learn about the story of Sun Yat-sen in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/17	Prince Cuong De	Learn about the story of Prince Cuong De	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/24	The Takasago volunteers	Learn about the story of The Takasago volunteers	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Kyaw Din	Learn about the story of Kyaw Din	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/8	Revision	Revise for the semester exam	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	7/15	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Communication II A	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Students will be encouraged to think critically and develop the language skills needed to find their own voice in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Intercultural Awareness	Shigeru Sasajima	Sanshusha	2020	教科書	必携
備考	None				

【オフィスアワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部 金4/10	Introductory lecture	Introductory lecture Syllabus	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the syllabus and the structure of the class	
		事前学修	Read Syllabus	30分
		事後学修	Think about any questions you want to ask about the syllabus.	60分
2	一部 金4/17	Unit 1: Awareness	Develop your intercultural awareness.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening 1. Oral reading 2-3. Vocabulary	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	60分
		事後学修	Review vocabulary	60分
3	一部 金4/24	Unit 1: Graphs and charts	4. Intercultural citizenship 5. Global awareness	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing notes	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Review vocabulary	30分
4	一部 金5/1	Unit 2: Diversity	Understand Intercultural Diversity in Peoples and Places.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
5	一部 金5/8	Unit 2: Graphs and charts	4. Refugee admission or recognition 5. Muslims in the US	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
6	一部 金5/15	Unit 3: Consumer	Be a good consumer.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	一部 金5/22	Unit 3: Graphs and charts		4. Mass production 5. Tradition vs industrialization
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
8	一部 金5/29	Unit 4: Society		Learn about food, culture, and society.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
9	一部 金6/5	Unit 4: Graphs and charts		4. Vegan 5. Food tax
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
10	一部 金6/12	Unit5: Lifestyle		Have better lifestyles in different cultures.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
11	一部 金6/19	Unit 5: Graphs and charts		4. Paternity leave 5. Homework
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
12	一部 金6/26	Unit 6: Travel		Be an intercultural traveler.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	一部 金7/3	Unit 6: Graphs and charts		4. Inbound and outbound tourists in Japan 5. Countries that attract tourists
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
14	一部 金7/10	Unit 7: Citizenship		Cultivate global citizenship.
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
15	一部 金7/17	Unit 7: Graphs and charts		7. Student' s view of global citizen 8. Global citizenship poll
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分

科目名	Communication II A	担当者	ダイアン・ナガトモ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Pair and group work, listening activities, watching short movie clips.

【授業方法】
Attendance (no more than 3 absences permitted), pair work, group discussion, homework, quizzes, exam.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning will be used in some instances if necessary.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be expected to redo and resubmit their assignments if their scores are not sufficient.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Chat and Share! Topic Starters for Today's Students	d	Kinseido	2020	教科書	必携
備考	Students MUST have textbook and MUST participate. Attendance is mandatory.				

【オフィスアワー】
hawley.diane.edla@ocha.ac.jp Wednesdays: 12:10-12:30 immediately after class

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	Introduction及び導入講義	Orientation: Communicating in English. Pair work, listening, and self introductions	
		この回の到達目標	Introduction to the class, pair work, self-introductions, campus life	
		事前学修	Introduction to the class	10分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
2	2	Weekends	Unit 2 Weekends	
		この回の到達目標	Who has the most days off?	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
3	3	Japanese culture	Unit 3 Japanese culture	
		この回の到達目標	Japanese words in English	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
4	4	Healthy living	Unit 4 Healthy living	
		この回の到達目標	Living a long and healthy life	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
5	5	Fashion	Unit 5 Fashion	
		この回の到達目標	A controversial fashion ad	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
6	6	Lifestyle	Unit 6 Lifestyle	
		この回の到達目標	Living with less: minimalism	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	Celebrations	Unit 7 Celebrations	
		この回の到達目標	The highest earning song	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
8	8	Travel	Unit 8 Travel	
		この回の到達目標	Alternative places to stay	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
9	9	Food	Unit 9 Food	
		この回の到達目標	Japanese food in the world	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
10	10	Environment	Unit 10 The Environment	
		この回の到達目標	Earth Day	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
11	11	Business	Unit 11 Business	
		この回の到達目標	SMS and Email	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
12	12	Internet and social media	Unit 12 The Internet and Social Media	
		この回の到達目標	The internet and Social Media	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	Sports	Unit 13 Sports	
		この回の到達目標	The first woman to run the Boston Marathon	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
14	14	Barrier-free society	Unit 14 A Barrier-free Society	
		この回の到達目標	No limitations!	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Study for test	90分
15	15	Examination まとめ	Semester Test Students will be given a test on Units 1-14	
		この回の到達目標	Final Exam	
		事前学修	Students will be tested on Units 1-14	90分
		事後学修	Students will study for exam	90分

科目名	Communication II A	担当者	B. ダム	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
Students will participate in pair work and small groups to improve their speaking skills. They will listen to various audio recordings to improve their listening comprehension.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	role plays, pair work, small group discussions	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will receive oral comments on performance during class and written comments on homework.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 2, 2nd Edition	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019		
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com If you have questions see me Saturday 2nd period at the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		This content of this course is a foundation to help build human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4/4	Introduction、及び導入講義		Instructor and course introduction, ice breaker activities, How to Introduce Yourself
		この回の到達目標	The students will gain an understanding of the style and content of the course. They will also learn how to introduce themselves and how to introduce a friend to others.	
		事前学修	Come to class well rested and prepared to participate. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	4/11	Lifestyles		Introducing yourself / Introducing a friend, daily life, routines
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to talk about their daily life and routine.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	4/18	Lifestyles		Lifestyles
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to use adverbs of frequency to talk about daily routines.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	4/25	Leisure		Leisure: hobbies & interests
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to use the simple present and present continuous when discussing sports and leisure.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
5	5/2	Leisure		Likes and dislikes
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to talk about their likes and dislikes.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	5/9	Getting along		Getting along: requests & permission
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to make and respond to requests.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	Getting along	Getting along: requests & permission; Listening Test 1	
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to make requests and ask for permission.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
8	5/23	Interests	Favorite hobbies and interests	
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to discuss their favorite hobbies and interests.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
9	5/30	Interests	Favorite hobbies and interests	
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to listen for specific information about people's hobbies and interests.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
10	6/6	Telling a story	Storytelling, adjectives of emotion	
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to tell a story about a personal experience	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
11	6/13	Telling a story	Talking about past events	
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to tell and retell stories	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
12	6/20	Celebrations	Celebrations around the world	
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to describe in detail how people celebrate various holidays around the world.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	Celebrations	Celebrations in Japan; Listening Test 2	
		この回の到達目標	At the end of this lesson students will be able to describe celebrations of Japanese holidays and festivals.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	7/4	Evaluation	Speaking Test Course questionnaire	
		この回の到達目標	Students will demonstrate their speaking and comprehension skills in English during a small group discussion on topics covered in this course.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	7/11	Evaluation	Speaking Test Course questionnaire	
		この回の到達目標	Students will demonstrate their speaking and comprehension skills in English during a small group discussion on topics covered in this course.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Communication II A	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。										2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										2	2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can request feedback during the lesson and at the end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
前期 「East Asia in Japanese history」 (Thomas Lockley、DTP出版、1,700円＋税)	Thomas Lockley	DTP Publishing	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email gary@garyhayden.co.uk. Please ask questions after class (Wednesday 3rd period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	Introduction及び導入講義	Students will learn about the objectives of the course.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read and discuss the course objectives, so as to improve their comprehension of written and spoken English.	
		事前学修	Read the contents of the syllabus.	30分
		事後学修	Students must learn some new vocabulary each week. There will be a short vocabulary test at the beginning of each lesson.	30分
2	4/15	Ancient Japan and East Asia	Learn about Japan's international contacts in ancient times	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Ancient Japan and East Asia, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
3	4/22	Foreign settlements in Japan	Learn about foreign settlements in Japan in the sixteenth and seventeenth centuries	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of foreign settlements in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
4	4/29	Kim Chung-son	Learn about the Japanese and Korean hero, Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Kim Chung-son, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
5	5/6	Korean potters in Japan	Learn about the Korean potters who worked in Japan following the Imjin War	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Korean potters in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
6	5/13	Yamada Nagamasa	Learn about the seventeenth century merchant and diplomat, Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Yamada Nagamasa, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Tagawa Matsu	Learn about the life of Tagawa Matsu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Tagawa Matsu, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
8	5/27	Zhu Shun-sui	Learn about the Chinese scholar and diplomat, Zhu Shun-sui, and his influence in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Zhu Shun-sui, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
9	6/3	Chinese merchants in Tokugawa Japan	Learn about Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
10	6/10	Sun Yat-sen in Japan	Learn about the life of Sun Yat-sen, the first Chinese President, and his relations with Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Sun Yat-sen in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
11	6/17	Prince Cuong De	Learn about the life of the Vietnamese revolutionary, Prince Cuong De, and his relations with Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Prince Cuong De, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
12	6/24	The Takasago volunteers	Learn the history of the Takasago volunteers	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Takasago volunteers, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7/1	Kyaw Din		Learn about the Burmese man, Kyaw Din, who popularized soccer in Japan
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Kyaw Din, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
14	7/8	Semester Revision		Semester revision. Practice exam with feedback.
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text (practice exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Revise all of the course vocabulary.	30分
		事後学修	Revise for the exam.	30分
15	7/15	Semester Test		Semester test. Feedback on exam questions and answers.
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text (exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for semester exam.	30分
		事後学修	Review exam questions and answers.	30分

科目名	Communication II A	担当者	J. ウッド	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIB. CEFR A2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Interchange Intro, 5thEdition ISBN 9781316620113	Jack Richards	Cambridge UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class or at jwoodjapan@hotmail.com.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	4/13	Unit 1 What's your name?	Meeting and greeting people.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can introduce selves, greet others, and ask for names and phone numbers.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	4/20	Unit 2. Where are my keys?	Objects and locations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can name objects and talk about their locations.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases. (	30分
4	4/27	Unit 3A. Where are you from?	Cities and countries	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about cities and countries and where people are from.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	5/4	Unit 3B. Where are you from?	Personality and appearance	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe how people look and also their personalities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	5/11	Unit 4A. Is this coat yours?	Clothing and colors	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can say different parts of clothing and colors.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Unit 4B. Is this coat yours?	Weather and seasons	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe weather and seasons.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	5/25	Unit 5A. What time is it?	Clock times, time of day	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk ask for and tell time.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	6/1	Unit 5B. What time is it?	Everyday activities	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe current activities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	6/8	Unit 6A. I ride my bike to school	Transportation	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give information about going to work or school.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	6/15	Unit 6B. I ride my bike to school	Family relationships, daily routines	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about family relationships and daily and weekly routines.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	6/22	Unit 7A. Does it have a view?	Houses and apartments	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask about and describe houses and apartments.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Unit 7B. Does it have a view?	Rooms and furniture	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about the furniture in a room.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	7/6	Unit 8. Where do you work?	Jobs and workplaces	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give information about jobs and workday routines.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Study for test.	60分
15	7/13	Test and review.	Test and review.	
		この回の到達目標	Test and review.	
		事前学修	Study for test.	60分
		事後学修	Review.	30分

科目名	Communication II B	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
The class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities.

【授業方法】		
This course will continue to develop the communicative skills students need to feel comfortable speaking and listening English in a wide variety of situations. Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability to make themselves understood.		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above students can read, write, listen and speak in English and engaged in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。									2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									2	2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays in the teachers` lounge before class or after class in the classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Feedback and Syllabus 導入講義	Feedback on the final test, talk about the summer vacation	
		この回の到達目標	Students write about how they spent the summer vacation and present it to class	
		事前学修	Review the units studied in the spring semester	60分
		事後学修	Research on how modern Japanese law evolved	60分
2	9/22	Foreign Laws	Japan adopting foreign laws	
		この回の到達目標	Understand the reasons why Japan adopted some foreign laws into their legal system and listen to the reading passage on the CD	
		事前学修	Check the unfamiliar words in the reading passage and write their meanings in the word cards	60分
		事後学修	Answering the comprehension questions on page 28	45分
3	9/28	Role of Lawyers	Discuss the role of lawyers in courts	
		この回の到達目標	Learn to speak and write arguments for and against the topic of the role of lawyers in courts	
		事前学修	Summarize the reading passage on page 27	60分
		事後学修	Prepare answers on the role of the Japanese Constitution	40分
4	10/5	Japanese Constitution	Role of the Japanese Constitution	
		この回の到達目標	Group discussion on the present constitution and the necessity to amend it	
		事前学修	Answer the exercise on legal terms on page 32	30分
		事後学修	Read the passage and check the unfamiliar words and answer the comprehension questions	60分
5	10/12	Japanese Constitution	Articles of the Japanese Constitution	
		この回の到達目標	Discussing arguments for and against maintaining a self defense force	
		事前学修	Answer the debate question on page 36	45分
		事後学修	Research on the nature of crimes committed in Japan and the punishment imposed	35分
6	10/19	Criminal Law	Criminal Law in Japan	
		この回の到達目標	Discussion of criminal law in Japan and in other countries	
		事前学修	Listen to the class CD on criminal law in Japan and check the unfamiliar words	40分
		事後学修	Answer the comprehension questions on page 42	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 26	Movie	Watching a movie on a criminal trial	
		この回の到達目標	Students watch the movie without Japanese subtitles/captions	
		事前学修	Do a research on the movie to be watched	50分
		事後学修	Students write their opinion about the movie. Answer the debate question on page 42	60分
8	11/9	Civil Law	Criminal Law and Civil Law	
		この回の到達目標	Distinguish the differences between criminal and civil law	
		事前学修	Students write answers to the legal terms on page 44 and read the passage and check the meaning of unfamiliar words on page 45	60分
		事後学修	Answer the comprehension questions on page 46	35分
9	11/ 16	Litigation in Japanese Culture	Discuss about litigation in Japanese culture	
		この回の到達目標	Students discuss in groups if litigation is acceptable or not in Japanese culture and make short presentations in class	
		事前学修	Summarize the reading passage and make note of the unfamiliar words	60分
		事後学修	Research on the differences between criminal and civil procedure	40分
10	11/ 23	Commercial Law	Importance of Commercial Law	
		この回の到達目標	Importance of commercial law and the difficulties to take legal action against foreign companies	
		事前学修	Research on the types of legal action taken against foreign companies and refer to some recent cases in Japan	60分
		事後学修	Exercise on legal terms and listen to the reading passage on class CD on page 57	40分
11	11/ 30	Legislation	Legislation relating to commercial law in Japan	
		この回の到達目標	The extent to which legislation in Japan protects producers and consumers	
		事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 58	60分
		事後学修	Summarize the reading passage and write down the unfamiliar words	60分
12	12/7	Lay Judge System	Lay Judge System in Japan	
		この回の到達目標	The necessity to have the Lay Judge System in Japan	
		事前学修	Think of arguments for and against the lay judge system	60分
		事後学修	Listen to the reading passage on the CD and write down the unfamiliar words	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/ 14	Presentation	Preparation for presentation	
		この回の到達目標	Students bring the draft of the power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
		事前学修	Students prepare the explanation/description for the power point slides	45分
		事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	12/ 21	Presentation	Final Group Presentation	
		この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience, peer review and evaluation	
		事前学修	Prepare for the presentation at home	30分
		事後学修	Peer review and evaluating the presentation of the classmates	45分
15	1/11	Wrap up	Wrap up, review, feedback and final test	
		この回の到達目標	To complete the course succssfully	
		事前学修	Review the lessons studied in the fall semester for the test	60分
		事後学修	Feedback on the assgnments done in class, students express their opinion on the lessons and textbook	30分

科目名	Communication II B	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching approach will be from an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CLIL Global Issues	Sasajuma, S. et al	Sanshusha	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	September 14	Re-Introduction: Energy and Ecosystems	Re-introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will get to know the course again.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy a new notebook? Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.	60分
2	September 21	Energy & Ecosystems	Using different media, students will further investigate how and why ecosystems are important.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will look at the issue of ecosystems. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
3	September 28	Endangered Species	Students will discuss why we should be concerned about the number of endangered species in our world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss current issues related to endangered species.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
4	October 5	Endangered Species	Using different media, students will further investigate the topic of endangered species and how important it is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will consider questions concerning endangered species.	
		事前学修	They will study the topic and move towards small discussions.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
5	October 12	Human Rights	Students will consider why we should be concerned about human rights.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss why human rights are important.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
6	October 19	Human Rights	Using different media, students will further investigate the topic of human rights.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will consider questions concerning the topic of human rights.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	October 26	Review Class 3	Making speeches about one of three themes: Energy and Ecosystems, Endangered Species, and Human Rights.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will create a speech.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of a partners speech. Submit own speech.	120分
8	November 9	International Relationships	Students will discuss why we should all think about the topic of international relationships.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss current issues in the world of international relationships.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
9	November 16	International Relationships	Students will discuss the issue of international relationships.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss current issues in international relations.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
10	November 23	War and Peace	Students will discuss war and peace in our world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss war and peace in the modern world using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
11	November 30	War and Peace	Using different media, students will further investigate the topic of war and peace and its importance in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will learn how to discuss current issues in the world of war and peace using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
12	December 7	Global Citizenship	Students will discuss what global citizenship is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss global citizenship.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	December 14	Global Citizenship	Using different media, students will further investigate global citizenship and discuss its relevance in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss what global citizenship means.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Prepare for Review Class 4.	120分
14	December 21	Review Class 4	Making speeches about one of three themes: International Relationships, War & Peace, and Global Citizenship	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will create a speech.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of partners speeches.	200分
15	January 15	Review Class Unseen Test	The contexts will be from one of the six themes from this semester: Energy and Ecosystems, Endangered Species, Human Rights, International Relations, War & Peace and Global Citizenship.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will respond to news articles and create a group discussion: plan it, do it, reflect on it, and add to their notebooks....	
		事前学修	Previous class notes.	100分
		事後学修	Write a review of the class: your article, and what other students taught you!	100分

科目名	Communication II B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Multicultural Stories from Modern Japan	Thomas Lockley	DTP出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Tei Ei-kei	Learn about the story of Tei Ei-kei	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	9/23	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	9/30	Victor Starrfin	Learn about the story of Victor Starrfin	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	10/7	Rash Behari Bose	Learn about the story of Rash Behari Bose	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	10/14	Leo Sirota	Learn about the story of Leo Sirota	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	10/21	Beate Sirota Gordon	Learn about the story of Beate Sirota Gordon	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Chen Kenmin	Learn about the story of Chen Kenmin	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	11/11	Rikidozan	Learn about the story of Rikidozan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	11/18	Ando Momofuku	Learn about the story of Ando Momofuku	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	11/25	Korean Food in Japan	Learn about the story of Korean Food in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	12/2	Oh Sadaharu	Learn about the story of Oh Sadaharu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	12/9	Konishiki Yasokichi	Learn about the story of Konishiki Yasokichi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Murata Renho	Learn about the story of Murata Renho	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	12/23	Son Masayoshi	Learn about the story of Son Masayoshi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	1/13	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Communication II B	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Students will be encouraged to think critically and develop the language skills needed to find their own voice in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Intercultural Awareness	Shigeru Sasajima	Sanshusha	2020	教科書	必携
備考	None				

【オフィスアワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	二部 金9/18	Introductory lecture	Introductory lecture Syllabus	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the syllabus and the structure of the class	
		事前学修	Read Syllabus	30分
		事後学修	Think about any questions you want to ask about the syllabus.	60分
2	二部 金9/25	Unit 8: Education	Study the education system.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening 1. Oral reading 2-3. Vocabulary	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	60分
		事後学修	Review vocabulary	60分
3	二部 金10/2	Unit 8: Graphs and charts	4. Expenditure on educational institutions 5. Enrollment and dropout rates	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing notes	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	None	0分
4	二部 金10/9	Unit 9: Art	Appreciate the arts.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
5	二部 金10/16	Unit 9: Graphs and charts	4. Creativity and life satisfaction 5. Exports of cultural goods	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
6	二部 金10/23	Unit 10: A.I.	See the potential of Artificial Intelligence (A.I.).	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	二部 金10/30	Unit 10: Graphs and charts		4. Robotic operating systems 5. The hot topics in AI research
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
8	二部 金11/6	Unit 11: Gender		Change your attitude toward gender roles.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
9	二部 金11/13	Unit 11: Graphs and charts		4. Husbands and household chores 5. Female representatives in national assemblies
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
10	二部 金11/20	Unit 12: Money		Live well in a cashless society.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
11	二部 金11/27	Unit 12: Graphs and charts		4. Cryptocurrency 5. Currency exchange
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
12	二部 金12/4	Unit 13: Peace		Pray for no more wars and just peace.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	二部 金12/11	Unit 13: Graphs and charts	4. Gun owning 5. Nuclear warheads	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
14	二部 金12/18	Unit 14: Immigration	Address immigration issues.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
15	二部 金12/25	Unit 14: Graphs and charts	4. Immigration in Germany 5. Global exports	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分

科目名	Communication II B	担当者	ダイアン・ナガトモ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Pair and group work, listening activities, watching short movie clips.

【授業方法】
Attendance (less than 3 absences allowed), textbook, pair work, group discussion, homework, quizzes, exam.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning activities will be employed if necessary	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be expected to redo and resubmit their assignments if their scores are not sufficient.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Simply Speaking: Conversations for Effective Communication	Diane Nagatomo	Kinseido	2000	教科書	必携
備考	Students MUST be on time, have textbook, and participate. Attendance is mandatory.				

【オフィスアワー】
hawley.diane.edla@ocha.ac.jp Wednesdays: 12:10-12:30 immediately after class

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	Orientation及び導入講義	Orientation to the class	
		この回の到達目標	Introduction to the class, talking about yourself	
		事前学修	Come with necessary materials	10分
		事後学修	Question and answer worksheet and vocabulary worksheet	45分
2	2	Small talk	Unit 1 Small talk	
			Unit 1 Hi! How are you?	
		この回の到達目標	Introductions and small talk	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
3	3	Majors	Unit 2 What's your major?	
		この回の到達目標	Discussing classes and education	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
4	4	Appearances	Unit 3 What did she look like?	
		この回の到達目標	Describing people	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
5	5	Travel	Unit 4 Let's take a trip!	
		この回の到達目標	Discussing travel	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
6	6	Restaurants	Unit 5 How about going out for dinner?	
		この回の到達目標	Discussing eating in restaurants	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	Shopping	Unit 6 Let's go shopping!	
		この回の到達目標	Discussing shopping	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
8	8	Illnesses	Unit 7 How are you feeling?	
		この回の到達目標	Discussing illnesses	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
9	9	Schedules	Unit 9 I'm so busy (*Unit 8 will be skipped)	
		この回の到達目標	Discussing schedules	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
10	10	Careers	Unit 10 What do you do?	
		この回の到達目標	Discussing careers	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
11	11	Sports	Unit 11 Let's watch sports!	
		この回の到達目標	Discussing sports	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
12	12	Celebrations	Unit 12 Let's celebrate	
		この回の到達目標	Discussing celebrations	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	Entertainment	Unit 13 That's entertainment!	
		この回の到達目標	Discussing entertainment	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
14	14	Health	Unit 14 Let's stay healthy!	
		この回の到達目標	Discussing health issues	
		事前学修	Study for final exam	90分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
15	15	Exam まとめ	Final Exam	
		この回の到達目標	Final Exam	
		事前学修	Study for final exam	90分
		事後学修	Students can show what they have learned from Units 7-12. (30分)	10分

科目名	Communication II B	担当者	B. ダム	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
Pair work, small group work, class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pairwork, group work, and role plays	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral comments on performance in class and written comments on homework assignments.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 2, 2nd Edition	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019		
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com Please ask questions after the class (Saturday 2nd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 Experience working at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		The content of this course will provide the student with the foundation to build human relationships in the workplace.

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	Introduction、及び導入講義	Course and instructor introduction, summer vacation activities	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to talk about what they did during the summer break.	
		事前学修	Come to every class well rested and ready to participate. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	9/26	Food and Drink	Food and Drink; countable and uncountable nouns	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to talk about their food and drink preferences.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	10/3	Food and Drink	Food and Drink; famous foods around the world and in Japan	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to talk about famous dishes.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	10/10	Rules	Rules in life, i.e. at school, at home, at work, and in public facilities.	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to discuss what is permitted or not allowed in various contexts.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
5	10/17	Rules	Talking about rules in your life	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to discuss what is permitted or not allowed in various contexts.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	10/24	Adventures	Adventure activities	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to talk about exciting things they have done.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	Adventures	Adjectives to describe experiences; Listening Test 1	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to talk about adventure activities and how they make you feel.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
8	11/7	Health	Suggestions and advice on how to keep healthy	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to talk give and receive advice on how to keep healthy	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
9	11/14	Health	Symptoms and treatment of various illnesses	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to talk about various illnesses and their symptoms.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
10	11/21	Comparisons	Making comparisons and expressing preferences	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to compare various consumer products and express their preferences.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
11	11/28	Comparisons	Adjectives to describe objects and people	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to compare various consumer products and express their preferences.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
12	12/5	Christmas	The Cultural and Spiritual meaning of Christmas	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to understand the true meaning of Christmas.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	The Modern World	Modern technology in our lives; Listening Test 2	
		この回の到達目標	Students at the end of this class will be able to talk about technology in their life	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	12/19	Evaluation	Speaking test Review Course questionnaire	
		この回の到達目標	Students will gain an understanding of their speaking and listening comprehension skills by participating in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	12/26	Evaluation	Speaking test Review Course questionnaire	
		この回の到達目標	Students will gain an understanding of their speaking and listening comprehension skills by participating in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Communication II B	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can request feedback during the lesson and at the end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
前期 「Multicultural Stories from Modern Japan」 (Thomas Lockley、DTP出版、1,700円＋税	Thomas Lockley	DTP Publishing	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email gary@garyhayden.co.uk. Please ask questions after class, (Wednesday 3rd period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Tei Ei-kei	Learn about the life Tei Ei-kei and his role in introducing coffee culture to Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Tei Ei-kei, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
2	9/23	Kairakutei Black	Learn about Kairakutei Black, Japan's first foreign-born Rakugoka	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Kairakutei Black, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
3	9/30	Victor Starrfin	Learn about the Russian refugee and Japanese baseball star, Victor Starrfin	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Victor Starrfin, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
4	10/7	Rash Behari Bose	Learn about Rash Behari Bose and his role in popularizing curry in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Rash Behari Bose, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
5	10/14	Leo Sirota	Learn about the Russian-born composer Leo Sirota, and his life in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Leo Sirota, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
6	10/21	Chen Kenmin	Learn about the life of Chen Kenmin who helped to popularize Chinese food in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Chen Kenmin, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Rikidozan	Learn about the Korean-Japanese wrestler, Rikidozan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Rikidozan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
8	11/11	Ando Momofuku	Learn about Ando Momofuku, Japanese inventor of the instant noodle	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Ando Momofuku, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
9	11/18	Korean food in Japan	Learn about the rising popularity of Korean food in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Korean food in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
10	11/25	Oh Sadaharu	Learn about the life of the Chinese-Japanese baseball player and manager, Oh Sadaharu.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Oh Sadaharu, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
11	12/2	Konishiki Yasokichi	Learn about the life of the Hawaiian born sumo-wrestler Konishiki Yasokichi.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Konishiki Yasokichi, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
12	12/9	Beate Sirota Gordon	Learn about the life of the women's rights advocate, Beate Sirota Gordon	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Beate Sirota Gordon, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Son Masayoshi	Learn about the life of the Japanese businessman, Son Masayoshi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Son Masayoshi, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Prepare for next week's practice exam.	30分
14	12/23	Semester Revision	Semester revision. Practice exam with feedback.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (practice exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Revise all of the course vocabulary.	30分
		事後学修	Revise for the exam.	30分
15	1/13	Semester Test	Semester test. Feedback on exam questions and answers.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for semester exam.	30分
		事後学修	Review exam questions and answers.	30分

科目名	Communication II B	担当者	J. ウッド	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIIA. CEFR A2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Interchange Intro, 5th Edition ISBN 9781316620113	Jack Richards	Cambridge UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	9/21	Unit 9A. I always eat breakfast.	Basic foods	
		この回の到達目標	Basic foods	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	9/28	Unit 9B. I always eat breakfast.	Meals	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss healthy and unhealthy food and eating habits.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	10/5	Unit 10A. What sports do you like?	Sports	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask and tell about free-time activities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	10/12	Unit 10B. What sports do you like?	Abilities and talents	
		この回の到達目標	.As per SB0s ①② above, students can ask for and give information about abilities and talents.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	10/19	Unit 11A. I'm going to have a party.	Months and dates	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can use months and dates and talk about birthdays.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Unit 11B. I'm going to have a party.	Doing things at different times of the year.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talke about planes for the evening, weekend and other occasions.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	11/9	Unit 12A. How do you feel?	Parts of the body, health	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe health problems, using parts of the body.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	11/16	Unit 12B. How do you feel?	Health problems and advice, medicine	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about common medications and give advice for health problems.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	11/23	Unit 13A. How do I get there?	Stores, things to buy	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about stores and other places.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	11/30	Unit 13B. How do I get there?	Tourist attractions	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give directions.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	12/7	Unit 14. I had a good time.	Weekends, vacations, fun activities	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give information about weekend and vacation activities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Unit 15A. Where were you born?	Date and place of birth	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can mention various feelings and emotions, including not feeling	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	12/21	Unit 15B. Where were you born?	School days	
		この回の到達目標	.As per SB0s ①② above, students can describe school experiences and memories.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Study for test.	60分
15	1/18	Testt and review.	Test and review.	
		この回の到達目標	Test and review.	
		事前学修	Study for test	60分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Communication III A	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIIB. CEFR B1

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Outcomes Elementary, 2nd Edition, ISBN9781305093461	Dellar, Walkley	National Geographic Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	4/16	Unit 1A People and Places	Who we are and where we are from	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe people and places and introduce themselves.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	4/23	Unit 1B People and Places	What we do and where we live	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their school/jobs and describe where they live.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	4/30	Unit 2A Daily Life	What we like doing in free time	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their hobbies and likes/dislikes.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	5/7	Unit 2B Daily Life	What we do in daily life, how often we do things.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their daily lives, including habits and customs.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	5/14	Unit 3A Home	Where we live	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe the area they live, including shops and where things are.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	Unit 3B Home	What we need to do and our homes	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can explain what they need to do and describe their homes.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	5/28	Unit 4A Holidays	Our past, what we hear	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they did in the past and what people tell them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	6/4	Unit 4B Holidays	Dates and months, holidays.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe time, including dates and months, as well as various holidays.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	6/11	Unit 5A Shops	What we want, shopping	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe what they want to buy and learn how to talk to shop assistants.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	6/18	Unit 5B Shops	Department stores, excuses, in a store	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about department stores, how to make excuses and follow directions in a store.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	6/25	Unit 6A Education	Classmates, teachers, school subjects	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their classmates and teachers and also about what subjects they are studying in university.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	Unit 6B Education	TCourses, languages and education, preferences	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about unexpected things that have happened to them,	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	7/9	Unit 7A Family	Family, family life	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe their families and family life, as well as people they know.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Study for test.	60分
15	7/16	Test and review.	Test and review.	
		この回の到達目標	Test and review.	
		事前学修	Study for test.	60分
		事後学修	Review.	30分

科目名	Communication III A	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and Language Integrated learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Keynote 3 (978-1-337-10412-8 Student Book with My Keynote Online ¥3,400)	Paul Dummet, Helen Stephenson, Lewis Lansford,	Cengage	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	April 6	Introductory lecture	Introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	Students will get to know the teacher, the textbook, and activities to be used in class. They will start to look at the topic of stereotypes and give examples from materials.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy the textbook. Buy a notebook. Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.	60分
2	April 13	Helping people	Making a difference to individuals. Textbook tasks	
		この回の到達目標	Students will consider how to help people in daily life. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
3	April 20	Helping people	Students will talk about charity, kindness and making a difference in people's lives	
		この回の到達目標	Students will talk about how to make a difference in society and in day-to-day life	
		事前学修	Watch the TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
4	April 27	Trends	We will consider trends in different fields.	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at questions concerning current trends. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
5	May 4	Trends	Students will discuss how and why trends are important.	
		この回の到達目標	Students will discuss current issues in the world of trends using a range of materials.	
		事前学修	Watch TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher,	60分
6	May 11	Improving Lives	We will consider ways to improve people's lives.	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at ways to improve lives. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	May 18	Improving Lives	Students will discuss how and why it is important to improve other people's lives.	
		この回の到達目標	Students will discuss current issues in the world of trends using a range of materials.	
		事前学修	Watch TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	120分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Prepare for discussion and presentation class through reviewing notes and past class work.	60分
8	May 25	Discussion and presentation class	Students will do presentations and discussions related to the past three topics.	
		この回の到達目標	Students will discuss issues related to the topics covered in the previous classes.	
		事前学修	Prepare for the discussion and presentation class by reviewing notes and past class work.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
9	June 1	Designing the Web	We will consider the importance of website design.	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at website design. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
10	June 8	Designing the Web	Students will discuss how and why web design is important.	
		この回の到達目標	Students will discuss screen-based designs using a range of materials.	
		事前学修	Watch the TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
11	June 15	Community Builders	We will consider the importance of improving communities.	
		この回の到達目標	Students will look at questions concerning community building. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Read and make notes of this and other articles.	60分
12	June 22	Community Builders	Students will discuss more about community building.	
		この回の到達目標	Students will discuss issues in global warming using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	June 29	Clear Communication	We will consider how people can communicate more clearly and effectively.	
		この回の到達目標	Students will look at questions concerning clear communication. They will discuss the topic and move towards small debates.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Read and make notes of this and other articles.	60分
14	July 6	Clear Communication	Making speeches on one of three themes from the second half of the course.	
		この回の到達目標	Students will discuss issues in clear communication with a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	120分
15	July 13	Discussion and presentation class	Students will do presentations and discussions.	
		この回の到達目標	Students will discuss issues related to the topics covered in the previous classes.	
		事前学修	Prepare for the discussion and presentation class through reviewing notes and past class work.	100分
		事後学修	Review and reflect on the course.	60分

科目名	Communication III A	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Open for 1st through to 4th years

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedanck can be conducted before, during or after the lessons as required. The instructor can also be contacted at paulkallender@gmail.com

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Please contact Dr. Kallender as necessary.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/14	Edo to Tokyo	Learn about the story of Edo to Tokyo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/21	Kimono	Learn about the story of Kimono	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/28	Kabuki	Learn about the story of Kabuki	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/5	Sumo	Learn about the story of Sumo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/12	Shinkansen	Learn about the story of Shinkansen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Manga	Learn about the story of Manga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	5/26	Akihabara	Learn about the story of Akihabara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/2	Yamanote	Learn about the story of Yamanote	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/9	Imperial Palace	Learn about the story of Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/16	Review Lesson	Review lesson	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/22	Asakusa	Learn about the story of Asakusa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	The Meiji Jingu	Learn about the story of The Meiji Jingu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/7	Sushi and Tempura	Learn about the story of Sushi and Tempura	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	7/14	Semester Exam まとめ	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semseter	30分

科目名	Communication III A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内またはセメスター後	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。				

【オフィスアワー】	
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction、及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/14	Edo to Tokyo	Learn about the story of Edo to Tokyo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/21	Kimono	Learn about the story of Kimono	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/28	Kabuki	Learn about the story of Kabuki	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/5	Sumo	Learn about the story of Sumo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/12	Shinkansen	Learn about the story of Shinkansen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Manga	Learn about the story of Manga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	5/26	Akihabara	Learn about the story of Akihabara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/2	Yamanote	Learn about the story of Yamanote	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/9	Imperial Palace	Learn about the story of the Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/16	Asakusa	Learn about the story of Asakusa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/23	The Meiji Jingu	Learn about the story of Meiji Jingu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Sushi and Tempura	Learn about the story of Tempura and Sushi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/7	Noodles	Learn about the story of Noodles	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	7/14	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester (60 minutes)	30分

科目名	Communication III A	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Students will be encouraged to think critically and develop the language skills needed to find their own voice in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Perspectives 1 [American English]	Lewis Lansford	National Geographic Learning	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	一部 金4/10	Introductory lecture	Introductory lecture Syllabus
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the structure of the course and what students are expected to do.
		事前学修	Read Syllabus 30分
		事後学修	Prepare 1-2 questions and send an email (optional) 30分
2	一部 金4/17	Unit 1: Who are you?	1A. He is really into music [Grammar: Simple present and present continuous] 1B. How are you feeling?: [Vocabulary: Collocations]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Grammar Reading
		事前学修	Look over vocabulary and grammar point in "A" section of the lesson 60分
		事後学修	Review vocabulary and grammar 60分
3	一部 金4/24	Unit 1: Who are you?	1C. I expect friends to understand [Grammar: Gerund and infinitive] 1E. What are you into? [Vocabulary: Likes and dislikes]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking
		事前学修	1B section practice reading 70分
		事後学修	Review grammar 60分
4	一部 金5/1	Unit 2: Where the heart is.	2A. Different places [Grammar: Simple past] 2B. My space [Vocabulary: Suffix -ion]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar
		事前学修	Record reading section 2B 70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar 60分
5	一部 金5/8	Unit 2: Where the heart is.	2C. A unique style [Grammar: Past continuous] 2E. Special things, special places [Vocabulary: Giving reasons]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Writing
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" writing section 90分
		事後学修	Review grammar 30分
6	一部 金5/15	Unit 3: Health and happiness	3A. Treating the whole person [Grammar: Quantifiers] 3B. Painless [Vocabulary: Synonyms]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar
		事前学修	Record reading section 2B 70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar 60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部 金5/22	Unit 3: Health and happiness	3D. TED Talk: The amazing story of the man who gave us pain relief	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
8	一部 金5/29	Unit 3: Health and happiness	3C. What makes us happy [Grammar: Phrasal verbs] 3E. Opinions about health and happiness [Vocabulary: Opinions]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" speaking section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
9	一部 金6/5	Unit 4: Learning	4A. How we learn [Grammar: comparative and superlative adjectives] 4B. Outdoor classroom [Vocabulary: Adjectives -ful / -less]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
10	一部 金6/12	Unit 4: Learning	4D. TED Talk: Dont eat the marshmallow!	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
11	一部 金6/19	Unit 4: Learning	4C. Skills for life [Grammar: Comparative forms] 4D. Its such a cool subject [Vocabulary: Making decisions]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Writing	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" writing section	90分
		事後学修	Review grammar	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	一部 金6/26	Unit 5: Family and friends	5A. The people in my life [Grammar: Present perfect and simple past] 5B. Coming of age [Vocabulary: Adjectives -al]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
13	一部 金7/3	Unit 5: Family and friends	5D. TED Talk: Why we laugh	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
14	一部 金7/10	Unit 5: Family and friends	5C. Stop me if you already heard this one [Grammar: for/since/already/just/yet] 5E. Invitations [Vocabulary: Availability]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" speaking section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
15	一部 金7/17	Oral presentation	Poster presentation	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Communication	
		事前学修	Practice	120分
		事後学修	Review	30分

科目名	Communication III A	担当者	ダイアン・ナガトモ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Pair and group work, listening activities, watching short movie clips, making presentations.

【授業方法】
Attendance (fewer than 3 absences), textbook, pair work, group discussion, homework, presentations.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning will be employed in some instances if necessary.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be expected to redo and resubmit their assignments if their scores are not sufficient.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
No textbooks: handouts will be provided					
備考	Student will keep all handouts in a file folder and submit at the end of the semester.				

【オフィスアワー】
Hawley.diane.edla@ocha.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	Introduction及び導入講義	TED Talk # 1	
		この回の到達目標	Einstein the parrot	
		事前学修	Come to class with necessary materials	10分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
2	2	Sleep	TED Talk # 2	
		この回の到達目標	Want to succeed? get more sleep	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
3	3	Success	TED Talk # 3	
		この回の到達目標	Eight secrets of success	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
4	4	Silence	TED Talk # 4	
		この回の到達目標	The Danger of Silence	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
5	5	Happiness at work	TED Talk # 5	
		この回の到達目標	This is what makes people happy at work	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
6	6	Goals	TED Talk # 6	
		この回の到達目標	Keep your goals to yourself	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	Community innovation	TED Talk # 7	
		この回の到達目標	How community innovation can save wildlife	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
8	8	Architecture	TED Talk # 8	
		この回の到達目標	Architectural innovations of the ancient world	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
9	9	Three things I learned	TED Talk # 9	
		この回の到達目標	Three things I learned	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
10	10	Working at home	TED Talk # 10	
		この回の到達目標	Why working at home is good for business	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
11	11	Oceans	TED Talk 11	
		この回の到達目標	Life in the deep ocean	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
12	12	Success	TED Talk # 12	
		この回の到達目標	Success is a continuous story	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	Remember to say thank you	TED Talk # 13	
		この回の到達目標	Remember to say thank you	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
14	14	Simple genius of a good graphic	TED Talk # 14	
		この回の到達目標	Simple genius of a good graphic	
		事前学修	Question and answer worksheet)	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
15	15	Exam まとめ	Exam	
		この回の到達目標	To test students' knowledge	
		事前学修	Study for exam	90分
		事後学修	Students review what was on the test	30分

科目名	Communication ⅢB	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IVA. CEFR B2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Outcomes Elementary, 2ndEdition, ISBN 9781305093461	Dellar, Walkley	National Geographic Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	9/24	Unit 9A Experiences	Places we've visited, recommendations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about places they have been to and also make recommendations.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	10/1	Unit 9B. Experiences.	Problems, experiences	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can explain and ask about problems and talk about experiences they have had.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	10/8	Unit 10A. Travel	Time, tickets, trains	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about time (schedules), buying train tickets and traveling on trains.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	10/15	Unit 10B. Travel	Local transportation, recommendations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss local transportation and recommend places to visit.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	10/22	Unit 11A. Food	Restaurants	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can understand menus and order and pay in restaurants.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	Unit 11B. Food	Kinds of food, agreement and disagreement	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe different kinds of food, talk about what they eat, and show agreement and disagreement.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	11/5	Unit 12A. Feelings	Health problems, advice	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about health problems and give advice and refuse advice.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	11/12	Unit 12B. Feelings	Our feelings, news stories	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can express how they feel and why and also understand some news stories.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	11/19	Unit 13A. Nature	Weather, future	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about the weather, along with future possibilities and ask for details.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	12/3	Unit 13B. Nature	Countryside/city, animals, duration	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can compare the countryside and the city, as well as talk about animals and duration.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	12/10	Unit 14. Opinions	Opinions, news	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give opinons about movies, news and social issues.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	Unit 15. Technology	Machines, Internet	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss machines and things they can do on the Internet	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	12/24	Unit 16A. Love	Relationships	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe events in relationships and give news about them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Study for test.	60分
15	1/14	Test and review.	Test and review.	
		この回の到達目標	Test and review.	
		事前学修	Study for test.	60分
		事後学修	Review.	30分

科目名	Communication III B	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Keynote 3 (978-1-337-10412-8 Student Book with My Keynote Online ¥3,400)	Paul Dummet, Helen Stephenson, Lewis Lansford,	Cengage	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	September 14	Introductory lecture	Introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	Students will get to know the teacher, the textbook, and activities to be used in class. They will start to look at the topic of stereotypes.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy the textbook. Buy a notebook. Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.	60分
2	September 21	Identity	Talking about identity and multicultural experiences. Textbook tasks.	
		この回の到達目標	Students will consider identity. They will discuss the topic and move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
3	September 28	Identity	Students will talk about the issue of identity and how identities shape our lives.	
		この回の到達目標	Students will talk about ways to appreciate a range of different identities.	
		事前学修	Watch the TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
4	October 5	Transportation Solutions	We will consider transport systems and the effects they have on our lives	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at transport. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
5	October 12	Transportation Solutions	Students will discuss how and why the issue of transport is important.	
		この回の到達目標	Students will discuss current issues in transport using a range of materials.	
		事前学修	Watch TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
6	October 19	New Words	We will consider why new words are important.	
		この回の到達目標	Students will look at the process by which new words are created. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	October 26	New Words	Students will discuss the importance of new words.	
		この回の到達目標	Students will discuss new words through a range of materials.	
		事前学修	Watch the TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	120分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Prepare for the discussion and presentation class through reviewing notes and past class work.	100分
8	November 9	Discussion and presentation class	Students will do presentations and discussions.	
		この回の到達目標	Students will discuss and present from one of the past three topics.	
		事前学修	Prepare for discussion and presentation class through reviewing notes and past class work.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
9	November 16	Understanding Emotions	We will consider the importance of understanding emotions.	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at emotions. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
10	November 23	Understanding Emotions	Students will discuss how and why it is important to understand emotions,	
		この回の到達目標	Students will discuss emotions using a range of materials.	
		事前学修	Watch the TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
11	November 30	Leaders and Thinkers	We will consider ways of leadership and how to think outside the box.	
		この回の到達目標	Students will look at leadership. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Read and make notes of this and of other articles.	60分
12	December 7	Leaders and Thinkers	Students will discuss how leaders think. They will discuss leaders and thinkers.	
		この回の到達目標	Students will discuss aspects of leadership and ways of thinking using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	December 14	Well-being	We will consider how people can improve their own well-being.	
		この回の到達目標	Students will look at questions concerning well-being. They will discuss the broad topic of health.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Read and make notes of this and of other articles.	60分
14	December 21	Well-being	Students will discuss well-being. They will discuss case studies in class.	
		この回の到達目標	Students will discuss issues in well-being using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	120分
15	January 15	Discussion and presentation class	Students will do presentations and discussions.	
		この回の到達目標	Students will discuss and present from one of the past three topics.	
		事前学修	Prepare for discussion and presentation class through reviewing notes and past work.	100分
		事後学修	Review and reflect on the course.	60分

科目名	Communication III B	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Open to all years

【授業方法】
1年生のみの授業と成ります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
An International History of Japan II	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Feedback will be conducted before, during and after the lessons as appropriate. The instructor may also be contacted at paulkallender@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Ginza	Learn about the story of Ginza	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
2	9/22	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	9/29	Nara	Learn about the story of Nara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	10/6	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	10/13	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	10/20	Wako	Learn about the story of Wako	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Review Lesson	Review Lesson	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
8	11/10	The Tensho Embassy	Learn about the story of The Tensho Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
9	11/17	Hasekura Tsunenaga	Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
10	11/24	Yasuke	Learn about the story of Yasuke	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
11	12/1	William Adams	Learn about the story of William Adams	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
12	12/8	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
14	12/22	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	1/12	Semester Exam まとめ	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester exam	30分

科目名	Communication ⅢB	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Ginza	Learn about the story of Ginza	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections	30分
2	9/22	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	9/29	Nara	Learn about the story of Nara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	10/6	Mount Fuji	Learn about the story of Mount Fuji	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	10/13	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	10/20	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Wako	Learn about the story of Wako	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
8	11/10	The Tensho Embassy	Learn about the story of The Tensho Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
9	11/17	Hasekura Tsunenaga	Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
10	11/24	Yasuke	Learn about the story of Yasuke	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
11	12/1	William Adams	Learn about the story of William Adams	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
12	12/8	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
14	12/22	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
15	1/12	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Communication III B	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Students will be encouraged to think critically and develop the language skills needed to find their own voice in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Perspectives 1 [American English]	Lewis Lansford	National Geographic Learning	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	二部 金9/18	Introductory lecture		Introductory lecture Syllabus
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the structure of the course and what students are expected to do.	
		事前学修	Read Syllabus	30分
		事後学修	Prepare 1-2 questions and send an email (optional)	30分
2	二部 金9/25	Unit 6: Do your best		6A. The best I can be [Grammar: Modals] 6B. Not so fast [Vocabulary: Negative prefixes]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Look over vocabulary and grammar point in "A" section of the lesson	60分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	90分
3	二部 金10/2	Unit 6: Do your best		6C. Unexpected art [Grammar: Zero conditional] 6E. Giving advice [Vocabulary: Giving advice]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" speaking section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
4	二部 金10/9	Unit 7: Tell me what you eat		7A. Food & flavors from around the world [Grammar: Predictions and arrangements] 7B. The greatest human success story [Vocabulary: Verb to noun]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
5	二部 金10/16	Unit 7: Tell me what you eat		7C. A taste of honey [Grammar: First conditional] 7E. Whats it like [Vocabulary: Planning a meal]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Writing	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" writing section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
6	二部 金10/23	Unit 8: Buyers choice		8A. Why we buy [Grammar: second conditional] 8B. Saving the surf [Vocabulary: Compound nouns]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	二部 金10/30	Unit 8: Buyers choice	8D. TED Talk: Our campaign to ban plastic bags in Bali	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
8	二部 金11/6	Unit 8: Buyers choice	8C. New things from old ones [Grammar: Relative clauses] 8E. Call to action [Vocabulary: How to persuade]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" speaking section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
9	二部 金11/13	Unit 9: All in a days work	9A. Work should be fun [Grammar: Past perfect] 9B. What do you want to be when you grow up? [Vocabulary: Dependent prepositions]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
10	二部 金11/20	Unit 9: All in a days work	9D. TED Talk: The surprising thing I learned sailing solo around the world	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
11	二部 金11/27	Unit 9: All in a days work	9C. She said it wasnt just about the money [Grammar: Reported speech] 9E. What does a UX designer do? [Talking about careers]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Writing	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" writing section	90分
		事後学修	Review grammar	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
12	二部 金12/4	Unit 10: Remote control		10A. Inventions: past, present, and future [Grammar: Passive Voice] 10B. Can tech teach us [Vocabulary: Word forms]
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
13	二部 金12/11	Unit 10: Remote control		10D. TED Talk: How to control someone else's arm with your brain
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
14	二部 金12/18	Unit 10: Remote control		10C. Using tech to take control [Grammar: Passive] 10E. Whos in control? [Vocabulary: Pros and cons]
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" speaking section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
15	二部 金12/25	Oral presentation		Final group presentation
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Communication	
		事前学修	Practice	120分
		事後学修	Review	30分

科目名	Communication III B	担当者	ダイアン・ナガトモ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Attendance (fewer than 3 absences), pair work, group discussion, homework, presentations. Students who are absent more than three times in one semester will be dropped from the course.

【授業方法】
Students will watch TED Talks, listen for specific information and for the gist. They will study vocabulary from the TED talks and engage in discussions that surround the topic of the TED Talks

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning may be used if necessary.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be expected to redo and resubmit their assignments if their scores are not sufficient.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
No textbooks: handouts will be provided					
備考	Attendance and class participation is mandatory.				

【オフィスアワー】
hawley.diane.edla@ocha.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	Wear nothing new	Introduction to first semester, TED Talk # 1	
		この回の到達目標	Wear nothing new	
		事前学修	Come to class with necessary materials	10分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
2	2	Want to be more creative?	TED Talk # 2	
		この回の到達目標	Want to be more creative?	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
3	3	Try something new for 30 days	TED Talk # 3	
		この回の到達目標	Try something new for 30 days	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
4	4	How we find life on other planets	TED Talk # 4	
		この回の到達目標	How we find life on other planets	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
5	4	Are you human	TED Talk # 5	
		この回の到達目標	Are you human?	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
6	6	The best gift I ever survived	TED Talk # 6	
		この回の到達目標	The best gift I ever survived	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	A rare galaxy changing	TED Talk # 7	
		この回の到達目標	A rare galaxy changing	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
8	8	How we can teach our bodies to heal faster	TED Talk # 8	
		この回の到達目標	How we can teach our bodies to heal faster	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
9	9	Less stuff more happiness	TED Talk # 9	
		この回の到達目標	Less stuff more happiness	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
10	10	Less stuff more happiness	TED Talk # 10	
		この回の到達目標	Less stuff more happiness	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
11	11	How to safe a language from extinction	TED Talk # 11	
		この回の到達目標	How to safe a language from extinction	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
12	12	How policewomen make communities safer	TED Talk # 12	
		この回の到達目標	How policewomen make communities safer	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	The brain	TED Talk # 13	
		この回の到達目標	The brain	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
14	14	This computer is learning to read your mind	TED Talk # 14	
		この回の到達目標	This computer is learning to read your mind	
		事前学修	Study for the exam	90分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
15	15	Exam まとめ	Exam	
		この回の到達目標	Final Exam	
		事前学修	Study for exam	90分
		事後学修	Students review after exam	30分

科目名	Communication IVA	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IVB. CEFR B1 and above.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Headway 3, 3rdEdition, ISBN 9780194726115	Liz & John Soars	Oxford UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at <jwoodjapan@hotmail.com>

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Introductory lecture	Learning what the class is about .	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	4/13	Unit 1.1 A World of Difference	Family and culture	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about the affect of culture on families living in different countries.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	4/20	Unit 1.2 A World of Difference	Lifestyles, everyday situations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their lifestyles and how it affects what they do evert day.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	4/27	Unit 2.1 The work week	Successful people	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what makes people successful or not	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	5/4	Unit 2.2 The work week	Payment for jobs, opinions	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about how much people make doing various jobs and give their opinions about this and other things.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	5/11	Unit 2.3 The work week	Free-time activities	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they do when they're not working or at school-their free-time activities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Unit 3.1 Good times, bad times.	Relationships	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about relationships, especially their early loves.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	5/25	Unit 3.2 Good times, bad times!	Getting along, good matches	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what makes people fall in love and what kinds of relationships are the best.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	6/1	Unit 4.1 Getting it right	Personal habits and philosophies	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they think is the most important in their lives and how they go about doing things every day.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	6/8	Unit 4.2 Getting it right	Laws, what's important in life	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss various laws and how they help establish what's important in our lives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	6/15	Unit 5.1 Our changing world	Predictions about the future	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can make predicitions about the future and what they think will happen to them and to the world.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	6/22	Unit 5.2 Our changing world	Weather, space	
		この回の到達目標	.As per SB0s ①② above, students can talk about the weather and make predictions about it and also talk about space.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Unit 5.3 Our changing world	Environment, making arrangements	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about the environment and what they think will happen to it in the future as well as how to make arrangements to meet someone or go somewhere.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	7/6	Unit 6.1 What matters to me	Close relatives, family	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about who they feel closest to in their family and how they feel about other relatives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
15	7/13	Unit 6.2 What matters to me	Possessions, descriptions	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their most important possessions and why they value them and also describe what they own.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Communication IVB	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This is the highest Listening and Speaking level. CEFR B2 and above.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Headway 3, 3rd Edition ISBN 9780194726115	Liz & John Soars	Oxford UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Introduction	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	9/21	Unit 7.1 Passions and fashions	Passions	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they are passionate about in their lives.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	9/28	Unit 7.2 Passions and fashions	Personal experiences	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their own life experiences and how they have affected them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	10/5	Unit 8.1 No fear!	Phobias-what we're afraid of	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what makes them afraid in their daily lives and how they deal with it.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	10/12	Unit 8.2 No fear!	Danger, true and false facts about our lives	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what kinds of things are dangerous and give true and false information about their own lives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	10/19	Unit 9.1 It depends how you look at it	Justice	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can go over various kinds of justice for crimes committed.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Unit 9.2 It depends how you look at it	Difficult situations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe difficult situations they've had in the past and how they dealt with them or will deal with them in the future.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	11/9	Unit 9.3 It depends how you look at it	Punishment, imprisonment	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss how criminals are punished for their crimes and how which ways are the most effective.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	11/16	Unit 10.1 All things high tech	Future cities	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe what cities of the future may look like and how they will change from now.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	11/23	Unit 10.2 All things high tech	Online	
		この回の到達目標	.As per SB0s ①② above, students can talk about what they like to do online and what their favorite websites are.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	11/30	Unit 10.3 All things high tech	Objects, advice	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe objects they own, idetifying them, and also can give advice to tourists.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	12/7	Unit 11.1 Seeing is believing	Understanding what happened or what we see	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe optical illusions and what happened in a detective story.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Unit 11.2 Seeing is believing	Crime detection, stories	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about modern crime detection and also tell stories about events that have happened to them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	12/21	Unit 12.1 Telling it like it is	Famous people, impacts	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about famous people and how they have affected the world and our lives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
15	1/18	Unit 12.2 Telling it like it is	News	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about where they get their news information and what the current news is.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Reading I A	担当者	板倉 亨	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則Reading I B と通年で履修してください。

【授業方法】		
演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。授業内容に関して適宜ディスカッションと発表を行います。また、レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基礎の構文・文法に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた発表やディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1			1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点後に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Our Society, Our Diversity, Our Movies	Joseph Tabolt	金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて。itakura.toru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	【ガイダンス】【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容及び英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、他者に説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
		事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。	30分
		事後学修	ガイダンスの説明をメモしたルーズリーフを読み直し、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	第一部 木4/16	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit1 United by Desperation の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
3	第一部 木4/23	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit1 United by Desperation の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
4	第一部 木4/30	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit1の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
5	第一部 木5/7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit2 Assigning a Label の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部 木5/14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit2 Assigning a Label の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
7	第一部 木5/21	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit2の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
8	第一部 木5/28	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit3 Prejudice and Egocentrism の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
9	第一部 木6/4	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit3 Prejudice and Egocentrism の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
10	第一部 木6/11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit3の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部 木6/18	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit4 Human vs. Property の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
12	第一部 木6/25	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit4 Human vs. Property の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
13	第一部 木7/2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit4の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
14	第一部 木7/9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
15	第一部 木7/16	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	前期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。	60分
		事後学修	前期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。	30分

科目名	Reading I A	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業外で毎週必ず定められた語数・冊数を読み、そしてリアクションペーパーを書くことができる学生のみ履修してください。リアクションを入力するIRCサイトは半期510円です。

【授業方法】
学生主体の授業です。グループで一週間で読んだものについてbook talkをします。毎回多読の進行状況やリアクションペーパーに関して教員がコメントをします。IRCサイトを利用して、感想を入力します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	自分のペースで読み進めていき、毎回グループで本についての発表をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員がリアクションをサイトでチェックし、口頭でフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
多聴多読マガジン2020年4月号	コスモピア	コスモピア	2020	その他	任意
備考	法学部図書館 6 階の洋書多読本を使用します				

【オフィスアワー】
火曜日 15：00～16：00電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	前期ガイダンス及び導入講義	授業の概要を説明 Reading Marathonとは？ Graded Readers他、多読本の種類について	
		この回の到達目標	①前期授業の進め方について理解することができる。 ②多読の進め方について理解することができる。	
		事前学修	シラバスを読んでくる。	30分
		事後学修	履修を決めた学生は配布資料を読む。	90分
2	第一部 月4/13	図書館の多読本について IRCの登録	①法学部図書館6階で各出版社多読本の特徴と種類の説明を受ける。 ②グループ分けをする。 ③グループのメンバーの自己紹介をする。	
		この回の到達目標	①多読本の種類と借り方について理解することができる。 ②Book talkをするメンバーを知ることができる。	
		事前学修	法学部図書館6階に足を運んでみる。	30分
		事後学修	図書館で本を借り、多読を始める。	90分
3	第一部 月4/20	IRCの使い方	②IRCの説明と登録。 ③多読本を読み進める。	
		この回の到達目標	IRCの投稿方法を理解することができる。	
		事前学修	図書館で本を借りる。 2，3冊授業に持参できるように準備をする。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
4	第一部 月4/27	Book talkを始める	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②自分の読むスピードを知る	
		この回の到達目標	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk&発表の流れを理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
5	第一部 月5/4	多読の効用	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②グループメンバーにコメントをつける。 ③多読によって推測力が養成できることを知る。	
		この回の到達目標	①メンバーの投稿にコメントする方法を知ることができる。 ②多読の効用としての読みの推測力について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
6	第一部 月5/11	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と推測力について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と予測力について理解を深めることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
8	第一部 月5/25	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と予測力について理解を深めることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
9	第一部 月6/1	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と予測力について理解を深めることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
10	第一部 月6/8	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と予測力について理解を深めることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
11	第一部 月6/15	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と予測力について理解を深めることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
12	第一部 月6/22	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語） ②最終課題の説明。 ③走行距離を確認する。	
		この回の到達目標	①自分の読み方について確認することができる。 ②最終課題について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	①自分の読み方について確認することができる。 ②最終課題について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	各自のこれまでのキロ数と冊数を確認して読み進める。	90分
14	第一部 月7/6	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②前期課題についてグループで話し合う。 ③各自の読むスピードを確認し、前期初めと比較してみる。	
		この回の到達目標	多読と速読力、推測力との関係性を理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	各自のキロ数と冊数を最終確認して読み進める。	90分
15	第一部 月7/13	ランキング発表	①最終課題プレゼンと目標到達キロ数について教員からフィードバックを受ける。 ②前期top runners 発表&表彰。	
		この回の到達目標	多読を継続することで養われた英語力について理解することができる。	
		事前学修	各自のキロ数と冊数を最終確認してIRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	前期各自が読んだ本のリアクション・ペーパーをIRCサイトで読み返す。 夏休み期間も多読を継続するように努める。	90分

科目名	Reading I A	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業概要及び到達目的・目標(授業内/外の「多読」活動=読書量に応じて成績評価)を意識し、興味を持って主体的・積極的かつ他の受講者と協力し合って授業に取り組む者。引き続きReading I Bを受講する予定の者。

【授業方法】
英文精読(訳読)及び関連資料及び映像を使って情報の確認を行う。更にChapter毎に小テスト(単語)を行う。(開始15分前後は別教材で「多読」実施。)最終授業日は授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者各自による、授業にて取り扱うトピックに関連した資料・文献の調査・報告を行い、受講者相互による情報や意見交換を行う。(成績評価の一部とする。)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					1		1			1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験(授業内)の解説、調査報告の講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Welcome to Britain【Revised Edition】英国の（いま）を知りたい[改訂新版]	Tim Knight	音羽書房鶴見書店	2018		
King Arthur and the Knights of the Round Table	Stephen Colbourn	MACMILLAN	2008		
備考	2冊とも授業にて使用するので必ず購入すること。				

【オフィスアワー】
授業後20分間（水曜14：30～14：50，16：10～16：30）授業講堂にて対応する。（※初回授業にて指示する。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	ガイドンス＋ 'King Arthur' とは？	ガイドンス＋初回reading("King Arthur and the Knights of the Round Table"について) 所謂「アーサー王伝説」に関する一般的な情報を把握し、説明できる。	
		この回の 到達目標	'King Arthur'を読むにあたり、その関連・背景情報を把握する。	
		事前学修	(事前にテキストが入手可能な場合)テキスト全体に目を通し、気になる点をメモして授業に臨む。 加えて、テキスト以外に「イギリス」関連で興味のあることも併せてメモする。	30分
		事後学修	テキスト全体を概観し、次回(第2回)展開範囲(Chapter 1)を中心に、まずは辞書を使わずにどの程度内容が 把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→学期末の学習成果を自己評価できるようにす るため。)	30分
2	第一部水 4/15	「イギリス」とは？(名称)	1. (毎回開始時に全体にて)「多読」("King Arthur"(1 5分程度))登場人物・ストーリー展開を 整理し、説明できる。2. Chapter 1 The United Kingdom? (前半)演習と解説 (※ 1chapter/2classesペースの予定。) 個々の英文の構造・内容を理解し、読解内容全体の情報整理・説明できる。	
		この回の 到達目標	英文を正確に読解し、「イギリス(英国)」等の正式名称・定義を理解する。	
		事前学修	1. "King Arthur"(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に 概観する。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞 書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照 合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不 十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
3	第一部水 4/22	「イギリス」とは？ (実情/現状)	1. 「多読」("King Arthur"(1 5分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 1 The United Kingdom? (後半) 演習と解説 「イギリス」の定義及び「連合王国」の実情を理解し、説明できる。	
		この回の 到達目標	英文を正確に読解し、「イギリス」の実情を把握する。	
		事前学修	1. "King Arthur"については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観す る。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味 (文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語 彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せ て記録する。	30分
4	第一部水 4/29	「多文化国家イギリス」 (1)	1. Mini Test(Chapter1) 2. 「多読」("King Arthur"(1 5分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 2 Multicultural Britain (前半) 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説 明できる。	
		この回の 到達目標	英文読解により、イギリスが多文化国家に至る、歴史背景を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. "King Arthur"(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずに keywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声 に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大 体の意味を予想/記録する。	30分
		事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照 合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不 十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
5	第一部水 5/6	「多文化国家イギリス」 (2)	1. 「多読」("King Arthur"(1 5分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 2 Multicultural Britain (後半) 演習と解説：「多民族/多文化国家」の実情及び その問題点を把握し、説明できる。	
		この回の 到達目標	英文読解により、多文化国家イギリスが抱える課題を読み解く。	
		事前学修	1. "King Arthur"については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観す る。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味 (文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語 彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せ て記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 5/13	「言語」で見るイギリス(1)	1. Mini Test(Chapter 2) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 14 Language (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	イギリス人にとって「言語」にまつわる事柄を、英文読解により理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
7	第一部水 5/20	「言語」で見るイギリス(2)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 14 Language (後半) 演習と解説：「英語」'English'を通して、イギリス人(的)価値観を理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	イギリス人の「言語」に対する価値観を、英文読解により理解する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
8	第一部水 5/27	「イギリスとEU」(1)	1. Mini Test(Chapter 14) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 3 The UK and the EU (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリスとEUの関係性を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
9	第一部水 6/3	「イギリスとEU」(2) 'Brexit'はいかに起きたか	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 3 The UK and the EU (後半) 演習と解説：'Brexit'をめぐる、イギリスとEUとの関係性の現状及び問題点を把握し、説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、'Brexit'がいかに起きたかを読み取る。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
10	第一部水 6/10	「階級」について(1)	1. Mini Test(Chapter3) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 5 Social class (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリス人の「階級」に対する考え方を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 6/17	「階級」について(2)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 6 Social class (後半) 演習と解説:「階級」'Social class'とはどういうものか、加えてその現状(イギリス社会の構造及びその歴史的変遷)について理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリスの「階級社会」の現状を理解する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
12	第一部水 6/24	(受講者の選択によるトピック(Chapter)) ※選択後に指定する。	1. Mini Test(Chapter 6) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter○(前半) ※受講者の要望/選択によるもの。但し、(Chapter1, 2, 3, 4-7, 10, 14以外) ※何れのChapterにおいても、第11回迄と同様に個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	(これまでの学習(イギリス基本編)を踏まえ、受講者間で各自の興味・関心を意見交換し、トピックを選択し、読解する。 (受講者の選択によるトピック(Chapter)) ※選択後に指定する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。 2. “King Arthur”(「多読」用教材):指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
13	第一部水 7/1	(受講者の選択によるトピック(Chapter)) ※選択後に指定する。	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter○(第12回の続き)(後半) 演習と解説:Chapterのテーマから問題点を摘出・解明し、説明できる。	
		この回の到達目標	(これまでの学習(イギリス基本編)を踏まえ、受講者間で各自の興味・関心を意見交換し、トピックを選択し、読解する。 (受講者の選択によるトピック(Chapter)) ※選択後に指定する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
14	第一部水 7/8	イギリスに関する基本情報の整理	1. Mini Test(Chapter ○(第12-13回展開範囲)) 2. 「多読」(“King Arthur”練習(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. 学期内展開範囲の総復習:学習内容全般を見直し、今一度必要に応じて修正/補足を行い、正確に把握し説明できる。 + ((受講者による) Book report 等を予定)	
		この回の到達目標	3か月の学習を通じて理解した、イギリスについての基本情報の整理・修正を行う。	
		事前学修	Mini Testに向けての準備と併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に不正解問題を中心に)する。テキスト展開箇所全般の構文・内容についても各自見直しを行う。(不明なものは授業にて確認すること。)	30分
		事後学修	学習内容全体を見直し、必要に応じて修正・確認を行うことで、正確に学習内容を記録する。	30分
15	第一部水 7/15	(3か月の学習成果(試験による)一定の客観的評価及びイギリス(英語圏文化)に関して得た知識・情報の整理	まとめ(試験を含む):授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。 3か月の学習を通じた、各自の「イギリス観」及び自国文化との比較・対照を行い、説明できる。	
		この回の到達目標	一定の量及びレベルの英文の構造及び内容が理解できていることを試験により確認・自己認識すると共に今後の課題を明確にする。	
		事前学修	3か月の学習内容を次の3点に関して整理・分析する。(1)習得された語彙や基本的文法事項理解の確認、(2)“King Arthur”のストーリー展開/(3)関連情報を含め「イギリス」について得た情報、(4)「英語圏」=「異文化」を通じて得た受講者各自の意見・感想を記録する。	30分
		事後学修	初回事前学習からの学習成果を自己分析・確認にもとづき、今後の課題(英語学習に関する具体的目標)を設定する。 (受講者各自の専門分野に関する英文(文献やニュース等最新のWeb情報など)どれくらい読めるようになったかを確認することで、学習効果及び今後の課題をより明確化させる。)	30分

科目名	Reading I A	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
とくに履修条件はない。

【授業方法】
学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくること。ノート検査をするのでいつ検査を受けても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。映像教材をみせる。実力テストは次の週に解説、解答をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘	鳳書房	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日17：50～授業講堂にて）またはEメールで対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	【ガイダンス】 導入講義	授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。。第5章の米国から始める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
2	第一部 水4/15	【米国の全体理解】【発音】	第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
3	第一部 水4/22	【米国の文化】【動詞】	第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。自動詞と他動詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、自動詞と他動詞の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
4	第一部 水4/29	【米国の文化】【補語と目的語】	第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。補語と目的語の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、補語と目的語の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
5	第一部 水5/6	【米国の文化】【助動詞】	第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、助動詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
6	第一部 水5/13	【米国の文化】【現在進行形】	第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在進行形の基本理解の確認。。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、現在進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	【米国の文化】【過去進行形】	第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去進行形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、過去進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
8	第一部 水5/27	【米国の文化】【未来進行形】	第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来進行形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、未来進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
9	第一部 水6/3	【米国の文化】【現在完了形】	第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、現在完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
10	第一部 水6/10	【米国の文化】【過去完了形】	第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、過去完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
11	第一部 水6/17	【カナダの文化】【未来完了形】	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、未来完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
12	第一部 水6/24	【カナダの文化】【関係代名詞】	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係代名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、関係代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	【カナダの文化】【関係副詞】	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係副詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、関係副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	第一部 水7/8	【カナダの文化】【複合関係詞】	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。複合関係詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、複合関係詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	第一部 水7/15	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国とカナダの歴史と文化を理解し、英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	Reading I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期のReading IBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Genius Basic English Grammar（大学生のためのジーニアス基礎英文法）	大修館書店編集部	大修館書店	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	第一部 火4/14	Pre-Lesson 文の種類・動詞と文型	『Genius Basic English Grammar』のPre-Lesson（文の種類・動詞と文型）の問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，分の種類・動詞と文型に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のPre-Lesson（文の種類・動詞と文型）の問題を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	第一部 火4/21	Lesson 1 時制-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，時制に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
4	第一部 火4/28	Lesson 1 時制-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の発展問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，時制に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。到達目標③に関連して，ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
5	第一部 火5/5	Lesson 2 完了形-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，完了形に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
6	第一部 火5/12	Lesson 2 完了形-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の発展問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，完了形に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。到達目標③に関連して，ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	Lesson 3 助動詞-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
8	第一部 火5/26	Lesson 3 助動詞-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の発展問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。 到達目標③に関連して、ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
9	第一部 火6/2	Lesson 4 受動態-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
10	第一部 火6/9	Lesson 4 受動態-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の発展問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。 到達目標③に関連して、ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
11	第一部 火6/16	Lesson 5 不定詞（１）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））の標準問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
12	第一部 火6/23	Lesson 5 不定詞（１）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））発展問題の解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。 到達目標③に関連して、ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	Lesson 6 不定詞（２）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞（２））の標準問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞（２））の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
14	第一部 火7/7	Lesson 6 不定詞（２）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞（２））の発展問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。 到達目標③に関連して、ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞）発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
15	第一部 火7/14	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	前期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。	20分

科目名	Reading I A	担当者	堤 裕美子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
次回の学習範囲の予習を怠らないこと。授業内ではグループ・ワークやペア・ワークに積極的に参加できること。

【授業方法】
受講者の予習を前提とし、英文精読(訳読)を行う。前回の授業で学習した英文を正しく理解しているか、和訳の小テストを数回実施し、次回以降返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で配布される英文精読用のワークシートを基に、グループワークで一番適切な訳を話し合いによって決めて、グループで訳文を完成させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
前の授業で与えた課題は授業内で詳しく説明を行う。説明後の質問の受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Legal Minds 15 Journeys in Law	鳥飼慎一郎、溜箭雅之	金星堂	2014		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日2時限～6時限 授業後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	Reading IIAとは：英文精読と授業方法の意義を理解する	ガイダンス。受講希望者は必ず出席して下さい。授業のルーティン、英文の読み方やノートの取り方、評価について説明します。	
		この回の到達目標	英文精読を行う意義・目的を理解し、その実践方法を体験する。	
		事前学修	テキストの「本書の使い方」「目次」に目を通し、テキストの目的を認識すること。	30分
		事後学修	音声ファイルをダウンロードし、予習復習に使えるか確認をすること。	30分
2	4月15日	英文精読の鉄則：ノリで訳さない	Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.9 "Overview of the Complaint"	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p. 9の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
3	4月22日	英文精読の鉄則：日本語と英語に橋を架ける	Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.11 "Plaintiff's Story"	
		この回の到達目標	Plaintiff's Storyの文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 11の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
4	4月29日	第1章のまとめ：原告支持か、被告支持か？	Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.13 "Let's Hear the Verdict"	
		この回の到達目標	Let's Hear the Verdictの文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 13の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。（30分）	30分
5	5月6日	英文精読のコツ：単語の意味調べは最低3つ	Case 2「知らなかったでは済まされない？！配達遅れで被った損害への支払い」 p.15 "Overview of the Complaint"	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p. 15の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
6	5月13日	英文精読のコツ：構文に親しむ	Case 2「知らなかったでは済まされない？！配達遅れで被った損害への支払い」 p.16 "Plaintiff's Story"	
		この回の到達目標	"Plaintiff's Story"の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 16の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	第2章のまとめ：原告支持か？被告支持か？	Case 2「知らなかったでは済まされない?!配達遅れで被った損害への支払い」p.19 “Let’s Hear the Verdict”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict”の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p.19の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。	30分
8	5月27日	数字の言い方に親しむ	Case 3「高すぎる勉強代?顧客がBMW社に求めた一罰百戒」p.21 “Overview”	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p.21の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
9	6月3日	日英の固有名詞を比較する	Case 3「高すぎる勉強代?顧客がBMW社に求めた一罰百戒」p.22 “Plaintiff’s Story”	
		この回の到達目標	“Plaintiff’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p.22の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
10	6月10日	第3章のまとめ：原告支持か？被告支持か？	Case 3「高すぎる勉強代?顧客がBMW社に求めた一罰百戒」p.25 “Let’s Hear the Verdict”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict”の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p.25の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
11	6月17日	英語の人名表記に親しむ	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」p.27 “Overview”	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p.27の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
12	6月24日	英文精読のコツ：英文の熟語、意味を掴むコツを理解する	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」p.28 “Prosecution’s Story”	
		この回の到達目標	“Prosecution’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p.28の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	第4章のまとめ：原告支持か？被告支持か？	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」p.31 “Let’s Hear the Verdict”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p.31の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
14	7月8日	語彙力の強化	知っておきたい司法の英単語（p.6. 7, 8）	
		この回の到達目標	英文を理解するために欠かせない司法の英単語を学習する	
		事前学修	小テスト箇所の復習。	30分
		事後学修	重要語彙を覚える。	30分
15	7月15日	授業のまとめと総括	今学期の授業のまとめ（試験を含む）	
		この回の到達目標	半期の学習成果を試験を行い確認する	
		事前学修	今学期の授業を振り返る（30分）	30分
		事後学修	授業の見直しをする（30分）	30分

科目名	Reading I B	担当者	板倉 亨	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則Reading I A と通年で履修してください。

【授業方法】		
演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。授業内容に関して適宜ディスカッションと発表を行います。また、レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基礎の構文・文法に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた発表やディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点後に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Our Society, Our Diversity, Our Movies	Joseph Tabolt	金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて。itakura.toru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	【ガイダンス】【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。また、前期Reading I Aで学修した語彙や構文・文法について、振り返りまとめ直します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容及び英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、他者に説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
		事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。前期のReading IAを受講していた場合には、前期に学修した構文・文法をしっかりと見直しておくこと。	30分
		事後学修	ガイダンスの説明をメモしたルーズリーフを読み直し、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	第一部 木9/24	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit5 Choosing a Home の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
3	第一部 木10/1	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit5 Choosing a Home の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
4	第一部 木10/8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit5の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
5	第一部 木10/15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit6 Be an Intercultural Interpreter の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部 木10/22	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit6 Be an Intercultural Interpreter の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
7	第一部 木10/29	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit6の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
8	第一部 木11/5	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit7 An Illegal Life の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
9	第一部 木11/12	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit7 An Illegal Life の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
10	第一部 木11/19	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit7の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部 木12/3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit8 Foreign Language and Self-confidence の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
12	第一部 木12/10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit8 Foreign Language and Self-confidence の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
13	第一部 木12/17	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit8の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
14	第一部 木12/24	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
15	第一部 木1/14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	後期の授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。	60分
		事後学修	後期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。	30分

科目名	Reading I B	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業外で毎週必ず定められた語数・冊数を読み、そしてリアクションペーパーを書くことができる学生のみ履修してください。リアクションを入力するIRCサイトは半期510円です。

【授業方法】
学生主体の授業です。グループで一週間で読んだものについてbook talkをします。毎回多読の進行状況やリアクションペーパーに関して教員がコメントをします。IRCサイトを利用して、感想を入力します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	自分のペースで読み進めていき、毎回グループで本についての発表をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1			1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員がリアクションをサイトでチェックし、口頭でフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
多聴多読マガジン2020年4月号	コスモピア	コスモピア	2020	その他	推奨
備考	法学部図書館 6 階の洋書多読本を使用します				

【オフィスアワー】
火曜日 15：00～16：00電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14	後期ガイダンス及び導入講義	授業の概要を説明 Reading Marathonとは？ Graded Readers他、多読本の種類について	
		この回の到達目標	①後期授業の進め方について理解することができる。 ②多読の進め方について理解することができる。	
		事前学修	シラバスを読んでくる。	30分
		事後学修	履修を決めた学生は配布資料を読む。	90分
2	第一部月 9/21	図書館の多読本について IRCの登録	①法学部図書館6階で各出版社多読本の特徴と種類の説明を受ける（後期からの履修者のみ）。 ②グループ分けをする。 ③グループのメンバーの自己紹介をする。	
		この回の到達目標	①多読本の種類と借り方について理解することができる。 ②Book talkをするメンバーを知ることができる。	
		事前学修	法学部図書館6階に足を運んでみる。	30分
		事後学修	図書館で本を借り、多読を始める。	90分
3	第一部月 9/28	IRCの使い方	②IRCの説明と登録。 ③多読本を読み進める。	
		この回の到達目標	IRCの投稿方法を理解することができる。	
		事前学修	図書館で本を借りる。 2，3冊授業に持参できるように準備をする。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
4	第一部月 10/5	Book talkを始める	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②自分の読むスピードを知る	
		この回の到達目標	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk&発表の流れを理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
5	第一部月 10/12	多読の効用	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②グループメンバーにコメントをつける。 ③多読によって推測力が養成できることを知る。	
		この回の到達目標	①メンバーの投稿にコメントする方法を知ることができる。 ②多読の効用としての読みの推測力について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
6	第一部月 10/19	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と推測力について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/26	多読を継続 英語でリアクションを入れる	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity ③英語でリアクションを書き、発表することを学ぶ。	
		この回の到達目標	英語で本の感想を述べたり書いたりすることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。 英語でリアクションを入れる。	90分
8	第一部月 11/9	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity ③英語でリアクションを書き、発表することを学ぶ。	
		この回の到達目標	英語で本の感想を述べたり書いたりすることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。（	90分
9	第一部月 11/16	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity ③英語のリアクションペーパーのフィードバックを受ける。	
		この回の到達目標	英語で本の感想を述べたり書いたりすることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
10	第一部月 11/23	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity ③英語のリアクションペーパーのフィードバックを受ける。	
		この回の到達目標	英語で本の感想を述べたり書いたりすることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
11	第一部月 11/30	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity ③英語のリアクションペーパーのフィードバックを受ける。	
		この回の到達目標	英語で本の感想を述べたり書いたりすることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
12	第一部月 12/7	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語） ②最終課題の説明。 ③到達距離を確認する。	
		この回の到達目標	①自分の読み方について確認することができる。 ②最終課題について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 12/14	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	①自分の読み方について確認することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	各自のこれまでのキロ数と冊数を確認して読み進める。	90分
14	第一部月 12/21	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②前期課題についてグループで話し合う。 ③各自の読むスピードを確認し、後期初めと比較してみる。	
		この回の到達目標	多読と速読力、推測力との関係性を理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	各自のキロ数と冊数を最終確認して読み進める。	90分
15	第一部月 1/18	ランキング発表	①最終課題と目標到達キロ数について教員からフィードバックを受ける。 ②後期top runners 発表&表彰。	
		この回の到達目標	多読を継続することで養われた英語力について理解することができる。	
		事前学修	各自のキロ数と冊数を最終確認してIRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	後期各自が読んだ本のリアクション・ペーパーをIRCサイトで読み返す。	90分

科目名	Reading I B	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業概要及び到達目的・目標(授業内/外の「多読」活動=読書量に応じて成績評価)を意識し、興味を持って主体的・積極的かつ他の受講者と協力し合って授業に取り組む者。

【授業方法】
英文精読(訳読)及び関連資料及び映像を使って情報の確認を行う。更にChapter毎に小テスト(単語)を行う。(開始15分前後は別教材で「多読」実施。)最終授業日は授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者各自による、授業にて取り扱うトピックに関連した資料・文献の調査・報告を行い、受講者相互による情報や意見交換を行う。(成績評価の一部とする。)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1			1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・調査報告等の講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Welcome to Britain【Revised Edition】英国の（いま）を知りたい[改訂新版]	Tim Knight	音羽書房鶴見書店	2018		
King Arthur and the Knights of the Round Table	Stephen Colbourn	MACMILLAN	2008		
備考	2冊とも授業にて使用するので必ず購入すること。				

【オフィスアワー】
授業後20分間（水曜14：30～14：50，16：10～16：30）授業講堂にて対応する。（※初回授業にて指示する。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	(3か月で展開する)(イギリス関連の)テーマはどんな展開か？	ガイダンス＋初回授業 (前期Reading I Aでの展開範囲)「アーサー王伝説」の登場人物及びストーリー展開を説明できる。 ＋本科目での展開範囲関連情報を把握し、説明できる。	
		この回の到達目標	(前期「イギリス基本編」を得た)イギリス基本情報の整理と、本科目での展開を予想する。	
		事前学修	(前期Reading I Aでの学習を踏まえて)テキスト全体に目を通し、気になる点をメモして授業に臨む。 加えて、テキスト以外に「イギリス」関連で興味のあることも併せてメモする。	30分
		事後学修	テキスト全体を概観し、次回(第2回)展開範囲(Chapter 6)を中心に、まずは辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→学期末の学習成果を自己評価できるようにするため。)	30分
2	第一部水 9/23	イギリスの学校制度とは？ (1)	1. (毎回開始時に全体にて)「多読」(“King Arthur”(1 5 分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。2. Chapter6 Schools and education (前半)演習と解説 (※1chapter/2classesペースの予定。) 個々の英文の構造・内容を理解し、読解内容全体の情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリスの教育システム・学校制度について概観する。	
		事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
3	第一部水 9/30	「(イギリスの)入試システム」とは？	1. 「多読」(“King Arthur”(1 5 分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter6 Schools and education (後半) 演習と解説 イギリスの教育システムを理解(大学入試(相当)のものを含めた)し、説明できるようにすると共に、日本との比較・対照を行う。	
		この回の到達目標	英文読解により、(例えばイギリスで教育を受ける場合)どのような教育課程・大学入学までのコースを経るかを理解する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
4	第一部水 10/7	「イギリスの大学」について知る	1. Mini Test(Chapter6) 2. 「多読」(“King Arthur”(1 5 分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter7 University students and higher education (前半) 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、(受講者と同じ立場の)イギリスの大学及び大学生について知る。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想/記録する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
5	第一部水 10/14	「イギリスの大学生」について知る。	1. 「多読」(“King Arthur”(1 5 分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter7 University students and higher education (後半) 演習と解説：イギリスの大学の実情及びその問題点を把握し、説明できる。併せて、日本人大学生との比較・対照を行う。	
		この回の到達目標	英文読解により、(受講者と同じ立場の)イギリスの大学生の学生生活について理解すると共に、日本との比較・対照を大なう。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 10/21	イギリス人にとっての「(紅)茶」とは？	1. Mini Test(Chapter 7) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 4 7Tea (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリスを代表する飲料である「(紅)茶」に対するイギリス人のとらえ方を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
7	第一部水 10/28	イギリスにおける「(紅)茶の歴史」とは？	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter4 Tea (後半) 演習と解説: ‘Tea’を通して、イギリス人(的)価値観を理解し、説明できる。併せて日本の「茶(の湯)」文化との比較・考察を行う。	
		この回の到達目標	英文読解により、「(紅)茶」に関する語彙・定義を理解すると共に日本との違いを理解する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
8	第一部水 11/11	イギリス人にとっての「食」とは？(1)	1. Mini Test(Chapter 4) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter11 Food (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリス人の、「食」に対する価値観を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
9	第一部水 11/18	イギリス人にとての「食」とは？(2)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter11 Food (後半) 演習と解説:イギリスの食文化及び食に対する価値観(宗教を含めて)を理解し、説明できるようにすると共に、日本との比較・対照を行う。 とEUとの関係性の現状及び問題点を把握し、説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリスの「食」にまつわる様々な語彙・定義を正確に理解する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
10	第一部水 11/25	イギリスの政治システムとは？(1)	1. Mini Test(Chapter11) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter10 Politics and government (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、の政治システムの基本を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 12/2	イギリスの政治システムとは？（2）	1. 「多読」（“King Arthur”（15分程度））登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter10 Politics and government（後半）演習と解説：「議会政治」の国イギリスの政治システム及び現状を理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、日本とイギリスの政治システムの比較・対照を行う。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
12	第一部水 12/9	(受講者による選択後の)トピックを読解する ※テーマは選択後に指示する。	1. Mini Test(Chapter 10) 2. 「多読」（“King Arthur”（15分程度））登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter○（前半）※受講者の要望/選択によるもの。(未習のもの) ※何れのChapterにおいても、第11回迄と同様に個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	(これまでの学習を踏まえ)受講者間による話し合いにて決定したトピックを)これまでの学習事項と関連付けて読解・情報整理する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体的意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
13	第一部水 12/16	(受講者による選択後の)トピックを読解する ※テーマは選択後に指示する。	1. 「多読」（“King Arthur”（15分程度））登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter○（第12回の続き）（後半）演習と解説：Chapterのテーマから問題点を摘出・解明し、説明できる。	
		この回の到達目標	(これまでの学習を踏まえ)受講者間による話し合いにて決定したトピックを)これまでの学習事項と関連付けて読解・情報整理する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
14	第一部水 12/23	(3か月の)学習成果(1)語彙/文法/読解力の自己評価	1. Mini Test(Chapter ○(第12-13回展開範囲)) 2. 「多読」（“King Arthur”練習(15分程度)）登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. 学期内展開範囲の総復習:学習内容全般を見直し、今一度必要に応じて修正/補足を行い、正確に把握し説明できる。+ ((受講者による) Book report 等を予定)	
		この回の到達目標	実践してきた読解により得た知識の修正・補足を行うことで、受講者各自による学習の自己評価を行う。	
		事前学修	Mini Testに向けての準備と併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に不正解問題を中心に)する。テキスト展開箇所全般の構文・内容についても各自見直しを行う。(不明なものは授業にて確認すること。)	30分
		事後学修	学習内容全体を見直し、必要に応じて修正・確認を行うことで、正確に学習内容を記録する。	30分
15	第一部水 1/13	(3か月の)学習成果(2)(試験による)一定の客観的評価及び(3か月の読解で得た)知識/情報の整理	まとめ(試験を含む):授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。 3か月の学習を通じた、各自の「イギリス観」及び自国文化との比較・対照を行い、説明できる。	
		この回の到達目標	(試験により)一定量及びレベルの英文をどれだけ正確に読めるようになったか、それに必要な語彙が修得できたかを確認し、学習内容と各自の今後の課題を把握する。	
		事前学修	3か月の学習内容を次の3点に関して整理・分析する。(1)習得された語彙や基本的文法事項理解の確認、(2)“King Arthur”のストーリー展開/(3)関連情報を含め「イギリス」について得た情報、(4)「英語圏」＝「異文化」を通じて得た受講者各自の意見・感想を記録する。	30分
		事後学修	初回事前学習からの学習成果を自己分析・確認にもとづき、今後の課題(英語学習に関する具体的目標)を設定する。 (受講者各自の専門分野に関する英文(文献やニュース等最新のWeb情報など)どれくらい読めるようになったかを確認することで、学習効果及び今後の課題をより明確化させる。)	30分

科目名	Reading I B	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
とくに履修条件はない。

【授業方法】
学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくること。ノート検査をするのでいつ検査を受けても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。映像教材をみせる。実力テストは次の週に解説、解答をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘	鳳書房	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日17：50～授業講堂にて）またはEメールで対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	【ガイダンス】 導入講義	授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。。第5章の米国から始める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
2	第一部 水9/23	【ロシアの全体理解】【発音】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
3	第一部 水9/30	【ロシアの文化】【受動態】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。受動態の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、受動態を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
4	第一部 水10/7	【ロシアの文化】【助動詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、助動詞を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
5	第一部 水10/14	【ロシアの文化】【仮定法】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。仮定法の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、仮定法の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
6	第一部 水10/21	【ロシアの文化】【話法】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。話法の基本理解の確認。。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、話法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	【ロシアの文化】【分詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。分詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、分詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
8	第一部 水11/11	【ロシアの文化】【動名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。動名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、動名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
9	第一部 水11/18	【ロシアの文化】【名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
10	第一部 水11/25	【ロシアの文化】【代名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。代名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
11	第一部 水12/2	【中国の文化】【冠詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。冠詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、冠詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
12	第一部 水12/9	【中国の文化】【形容詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。形容詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、形容詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	【中国の文化】【副詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。副詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	第一部 水12/23	【中国の文化】【比較】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。比較の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、比較の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	第一部 水1/13	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアと中国の歴史と文化を理解し、英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	Reading I B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
前期のReading IAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Genius Basic English Grammar（大学生のためのジーニアス基礎英文法）	大修館書店編集部	大修館書店	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 火9/15	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。50分
2	第一部 火9/22	Lesson 7 動名詞-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題の解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，動名詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題を解いておく。30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。30分
3	第一部 火9/29	Lesson 7 動名詞-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の発展問題の解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，動名詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の発展問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
4	第一部 火10/6	Lesson 8 分詞（1）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題の解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，分詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
5	第一部 火10/13	Lesson 8 分詞（1）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の発展問題の解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，分詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の発展問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
6	第一部 火10/20	Lesson 9 分詞（2）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の標準問題の解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，分詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の標準問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 火10/27	Lesson 9 分詞（2）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の発展問題の解説。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の発展問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
8	第一部 火11/10	Lesson 10 比較-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の標準問題の解説。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の標準問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
9	第一部 火11/17	Lesson 10 比較-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の発展問題の解説。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の発展問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
10	第一部 火11/24	Lesson 11 関係詞（1）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（1））の標準問題の解説。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（1））の標準問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
11	第一部 火12/1	Lesson 11 関係詞（1）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（1））の発展問題の解説。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（1））の発展問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
12	第一部 火12/8	Lesson 12 関係詞（2）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（2））標準問題の解説
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（2））の標準問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	Lesson 12 関係詞（２）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（２））の発展問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（２））の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
14	第一部 火12/22	Lesson 13 仮定法	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13（仮定法）の標準問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13（仮定法）の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
15	第一部 火/12	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、後期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	後期の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	後期の試験問題を今一度解き直す。	20分

科目名	Reading I B	担当者	堤 裕美子	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
次回の学習範囲の予習を怠らないこと。授業内ではグループ・ワークやペア・ワークに積極的に参加できること。

【授業方法】
受講者の予習を前提とし、英文精読(訳読)を行う。前回の授業で学習した英文を正しく理解しているか、和訳の小テストを毎回実施し、次回以降返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で配布される英文精読用のワークシートを基に、グループワークで一番適切な訳を話し合いによって決めて、グループで訳文を完成させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
前の授業で与えた課題は授業内で詳しく説明を行う。説明後の質問の受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Legal Minds 15 Journeys in Law	鳥飼慎一郎、溜箭雅之	金星堂	2014		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日2時限～6時限 授業後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	後期の授業内容を展望する	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.33 “Overview of the Complaint”(1)	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	テキストの「本書の使い方」「目次」に目を通し、テキストの目的を認識すること。	30分
		事後学修	音声ファイルの保存先を確認し、予習復習に使えるか確認をすること。	30分
2	9月23日	原告の訴えを正しく理解する	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.33 “Overview of the Complaint”(2)	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p.33の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
3	9月30日	英文に即した和訳の理解に慣れる	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.34 “Plaintiff’s Story”	
		この回の到達目標	“Plaintiff’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p.34の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
4	10月7日	第5章のまとめ：原稿支持か、被告支持か？	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.37 “Let’s Hear the Judgment”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Judgment”の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p.37の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
5	10月14日	法的文書を読む	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由」p.41 “Overview”	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p.41の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
6	10月21日	比較的に長い文章の流れを掴む	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由」p.42 “Petitioner’s Story”	
		この回の到達目標	“Petitioner’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p.42の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	第6章のまとめ：原告支持か、被告支持か？	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件―国家機密の漏えいと報道の自由」p. 45 “Let’s Hear the Judgment”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Judgment” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 45の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
8	11月11日	英文精読のコツ：名詞を説明する過去分詞	Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」p. 47 “Overview”	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p. 47の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
9	11月18日	英文精読のコツ：～ingの役割を見極める	Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」p. 48 “Defendant’s Story”	
		この回の到達目標	“Defendant’s Story” の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 48の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
10	11月25日	第7章のまとめ：原告支持か、被告支持か？	Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」p. 51 “Let’s Hear the Verdict”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 51の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
11	12月2日	英文精読のコツ：接続詞	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 53 “Overview”	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p. 53の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
12	12月9日	英文精読のコツ：略語を知る	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 54 “Petitioner’s Story”	
		この回の到達目標	“Petitioner’s Story” の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 54の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	第8章のまとめ：原告支持か、被告支持か？	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p.57 “Let’s Hear the Judgment”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Judgment” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p.57の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
14	12月23日	司法英語を学習する	知っておきたい司法の英単語 (p.6, 7, 8)	
		この回の到達目標	英文を理解するために欠かせない司法の英単語を学習する	
		事前学修	小テスト箇所の復習。	30分
		事後学修	重要語彙を覚える。	30分
15	1月13日	授業のまとめと総括	今学期の授業のまとめ（試験を含む）	
		この回の到達目標	半期の学習成果を試験を行い確認する	
		事前学修	今学期の授業を振り返る	30分
		事後学修	授業の見直しをする	30分

科目名	Reading II A	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
学生一人一人に訳してもらい、一時間に2ページのペースで読み進めていく。 フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記 試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に答案を返却し解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパの国と人々		金星堂			
備考					

【オフィスアワー】
木曜日13時～18時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木曜日3 限 4月9日	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
		この回の到達目標	単位を修得するための過程を理解する。	
		事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。	40分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	4月16日	授業方法に慣れる	Unit 1Europeを読む 五文型の説明	
		この回の到達目標	五文系を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
3	4月23日	文法を理解したうえでの和訳	Unit1 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	文法の知識を和約に反映できるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
4	4月30日	文脈を考慮に入れた訳	Unit1 前回の続きから和訳 不定詞の説明	
		この回の到達目標	不定詞が理解できる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
5	5月7日	テキストの内容の理解を深める。	Unit1 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	内容を理解しながら行くセル用になる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
6	5月14日	ingの理解	Unit2 Itaryを読む ingの説明	
		この回の到達目標	文法を理解したうえで訳せるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月21日	語彙力アップ		Unit2 前回の続きから和訳 小テスト
		この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
8	5月28日	If節の用法		Unit2 前回の続きから和訳 条件文と仮定法の違い
		この回の到達目標	条件文と仮定法の区別ができる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
9	6月4日	文法の復習		Unit2 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	今までに学んだ文法を確実に把握する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
10	6月11日	テキストの内容の理解を深める。		Unit3 Franceを読む that節の説明
		この回の到達目標	that節を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
11	6月18日	正確の和訳		Unit3 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	文法に照らして正確の和訳ができる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
12	6月25日	詳細な辞書の引き方		Unit3 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	辞書の引き方をただす。	
		事前学修	指示された個所の予習	39分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	文法のおさらい	Unit3 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	これまでに習った文法を確実に把握する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
14	7月9日	訳の確認	Unit3 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	テキストの訳を正確なものにする。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
15	7月16日	前期の授業のまとめ	Unit 3 前回の続きから和訳 小テスト	
		この回の到達目標	小テストでよい点数を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	Reading II A	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期のReading IIBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。。					2		2			2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Funny Laws in the World	石井/岩田/梶山他	南雲堂	2015	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。） 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション及び導入講義	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	これまでの自分の英語学習歴を整理する。シラバスとテキストを熟読するとともに、講義全体を概観する。大学での英語学習に向けての目標を考える。	10分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	50分
2	4/15	Reading	Chapter 1 (What's so free about freeways?)を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。	
		事前学修	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	4/22	Vocabulary/Comprehension/Grammar	Chapter 1 (What's so free about freeways?)の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
4	4/29	Reading	Chapter 2 (Riding a horse while drunk is illegal?)を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
5	5/6	Vocabulary/Comprehension/Grammar	Chapter 2 (Riding a horse while drunk is illegal?)の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。/小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
6	5/13	Reading	Chapter 3(Walk your dog three times a day!)を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Vocabulary/Comprehension/ Grammar	Chapter 3(Walk your dog three times a day!)の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。/小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
8	5/27	Reading	Chapter 4 (Hungary introduces a tax on chips)を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
9	6/3	Vocabulary/Comprehension/ Grammar	Chapter 4 (Hungary introduces a tax on chips)の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。/小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
10	6/10	Reading	Chapter 5(Don't tie alligators to fire hydrants!) を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
11	6/17	Vocabulary/Comprehension/ Grammar	Chapter 5(Don't tie alligators to fire hydrants!)の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。/小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
12	6/24	Reading	Chapter 6 (Marriage and divorce in different cultures) を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Vocabulary/Comprehension/ Grammar	Chapter 6 (Marriage and divorce in different cultures)の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。/小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
14	7/8	授業内試験 まとめ	授業内試験及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	Chapter 6 までに学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。	40分
		事後学修	間違えた箇所を復習する。	20分
15	7/15	振り返り	試験の講評と前期学習の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に把握することができる。	
		事前学修	前期の授業内容を確認し、総復習する。	40分
		事後学修	前期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。理解不十分な個所をチェックし、後期の授業に臨めるようにする。	20分

科目名	Reading II A	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期のReading IIBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Short Short Stories II	高橋潔編	郁文堂	1997	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	い い ず な 書店編集部	い い ず な 書店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/ 8	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	4/15	動詞と文型	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型（1））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，動詞と文型に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型（1））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	4/22	The Flower（1）	The Flowerの序盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に使役に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
4	4/29	The Flower（2）	The Flowerの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に使役に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
5	5/6	The Flower（3）	The Flowerの終盤を輪読形式で読み進める。EXERCISESの解説。英文の内容について，ペアまたはグループで意見交換をする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に使役に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して，英文の内容について，他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
6	5/13	Bopsy（1）	Bopsyの序盤を輪読形式で読み進める。第1回小テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，特に動名詞に関する知識を身につけるとともに，その知識を活用して，英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Bopsy (2)	Bopsyの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に動名詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
8	5/27	Bopsy (3)	Bopsyの終盤を輪読形式で読み進める。EXERCISESの解説。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に動名詞に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
9	6/3	The Power Of Determination (1)	The Power Of Determinationの序盤を輪読形式で読み進める。第2回小テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に知覚動詞構文に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
10	6/10	The Power Of Determination (2)	The Power Of Determinationの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に知覚動詞構文に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
11	6/17	The Power Of Determination (3)	The Power Of Determinationの終盤を輪読形式で読み進める。EXERCISESの解説。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に知覚動詞構文に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
12	6/24	The Ultimate Sacrifice (1)	The Ultimate Sacrificeの序盤を輪読形式で読み進める。第3回小テスト。	
		この回の到達目標	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	The Ultimate Sacrifice (2)	The Ultimate Sacrificeの中盤を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に接続詞（so...that S V）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
14	7/8	The Ultimate Sacrifice (3)	The Ultimate Sacrificeの終盤を輪読形式で読み進める。EXERCISESの解説。英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に接続詞（so...that S V）に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に和訳・発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
15	7/15	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	前期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。	20分

科目名	Reading II A	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
中学・高校で学んだ基本的文法知識があることを前提に授業を行います。

【授業方法】
演習方式。小テストを毎回実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英字新聞の記事を読み、その内容について自分の意見を述べる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Insights 2020『世界を読むメディア英語入門2020』	村尾純子 他	(株) 金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:30-12:50 二号館一階講師室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	前期の授業の進め方、テキスト（英字新聞）について、英語学習法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英字新聞について知り、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検などの各種検定試験についてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	4/14	Chapter 1 Books! Bringing a Bright Future to Children	Chapter 1 Books! Bringing a Bright Future to Childrenの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 1のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
3	4/21	Chapter 2 Brew Sake with Fresh Idea	Chapter 2 Brew Sake with Fresh Ideaの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本文化・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 2のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
4	4/28	Chapter 3 A Unique Tour Guide	Chapter 3 A Unique Tour Guideの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、観光に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 3のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
5	5/5	Chapter 4 A Banana with an Edible Peel	Chapter 4 A Banana with an Edible Peelの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、農業に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 4のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
6	5/12	Chapter 5 Too Crowded to Carry it on our Backs!	Chapter 5 Too Crowded to Carry it on our Backs!の本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 5のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Review Chapter 1-5	Chapter 1-5の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 1-5で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 1-5の本文を再読する。	30分
		事後学修	Chapter 1-5の本文の内容を再確認する。	30分
8	5/26	Chapter 6 Monitoring Kid's Phone Use	Chapter 6 Monitoring Kid's Phone Useの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教育・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 6のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
9	6/2	Chapter 7 Learn about your Pet Dog at the Museum	Chapter 7 Learn about your Pet Dog at the Museumの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 7のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
10	6/9	Chapter 8 Dream of Space Tourism Comes True	Chapter 8 Dream of Space Tourism Comes Trueの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、宇宙に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 8のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
11	6/16	Chapter 9 Save the World from Garbage!	Chapter 9 Save the World from Garbage!の本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、環境に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 9のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
12	6/23	Chapter 10 Manga Featuring the Elderly	Chapter 10 Manga Featuring the Elderlyの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 10のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Review Chapter 6-10	Chapter 6-10の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 6-10で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 6-10の本文を再読する。	30分
		事後学修	Chapter 6-10の本文の内容を再確認する。	30分
14	7/7	前期授業のまとめ①	前期の学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 1-10で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 1-10で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	7/14	前期授業のまとめ②	前期の学習内容を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 1-10で学習した重要単語を活用して英字新聞の記事を読むことができる。	
		事前学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
		事後学修	前期の学習内容を再確認する。	30分

科目名	Reading II A	担当者	森下 正昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期のRevading IIBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④										4		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Legal Matters: Dramatic Stories behind the Legal Scenes	岡雅子, Michael Howard Maesaka	SENGAGE Learning	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10-13:00。詳細は第1回授業にて連絡。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション及び導入講義	事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。また、グループ分けとチームビルディング・アクティビティを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②③に関連して、本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	20分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	40分
2	4/15	Unit 1: Child Abuse (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of a Japanese Exchange Studentを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
3	4/22	Unit 1: Child Abuse (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、児童保護に関する法律について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、児童保護に関する法律について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
4	4/29	Unit 2: Divorce (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of a Famous Hollywood Actorを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
5	5/6	Unit 2: Divorce (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、離婚に関する法律について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。第1回小テスト実施。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、離婚に関する法律について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
6	5/13	Unit 3: Wills (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of the Late, World-Famous Popstarを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Unit 3: Wills (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、遺産相続に関する法律について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、遺産相続に関する法律について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
8	5/27	Unit 4: Bankruptcy (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of a Retired Woman Troubled with Chronic Symptomsを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
9	6/3	Unit 4: Bankruptcy (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、医療訴訟・破産申告に関する法律について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。第2回小テスト実施。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、医療訴訟・破産申請に関する法律について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
10	6/10	Unit 5: Breach of Contract (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of a a Man Worked for an Advertisement Agencyを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
11	6/17	Unit 5: Breach of Contract (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、雇用に関する法律について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、雇用に関する法律について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
12	6/24	Unit 6: Traffic Violations (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of a Japanese Driver who Violated Traffic Lawsaを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Unit 6: Traffic Violations (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、交通違反に関する法律について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。第3回小テスト実施。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、交通違反に関する法律について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
14	7/8	期末試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	前期の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
15	7/15	講評とふりかえり	期末試験を返却し全体の傾向や間違いの多かった問題などを説明。また、グループで前期の目標・ふりかえりをシェアーする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どの程度身に付けることができたか、地震を振り返り適切に評価することができる。	
		事前学修	目標・振り返りシートの「学期末のふりかえり」の部分を記入し、シートを完成させる。	30分
		事後学修	授業内でのふりかえりのシェアーを参考に、今学期の英語学習の取り組みについて良かった点と悪かった点を改めて整理する。	30分

科目名	Reading II A	担当者	山上 登美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則として後学期のReadingⅡBと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。CDを聴き、英文の和訳や要約により内容を理解する。練習問題を解くことにより英語の文法知識を強化する。各テーマについてグループで意見交換する。音読の小テストにより正確に読む力を確認する。授業内試験により文法や語法知識および英文理解力を評価する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記 試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、授業参画度などから総合的に評価します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
What Do You Mean?—Exploring Communication Gaps—	Kyoko Yashiro/Cecilia Ikeguchi/Robin Sakamoto	金星堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	ガイダンスと学習内容の説明	学習内容と方法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文を論理的、批判的に読む方法を知ることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	今後の学習計画を立てること。	30分
2	第一部 月4/13	Unit 1	The Japanese Bowに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 1-3の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
3	第一部 月4/20	Unit 1	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確認める。The Japanese Bowについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	教科書p. 4-6を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
4	第一部 月4/27	Unit 2	Smilesに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 7-9の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
5	第一部 月5/4	Unit 2	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確認める。Smilesについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	教科書p. 10-12を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
6	第一部 月5/11	Unit 3	Eye Contactに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 13-15の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	Unit 3	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Eye Contactについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	教科書p. 16-18を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
8	第一部 月5/25	Unit 4	Touching Behaviorに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 19-21の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
9	第一部 月6/1	Unit 4	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Touching Behaviorについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	教科書p. 22-24を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
10	第一部 月6/8	Unit 5	Hand Gesturesに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 25-27の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
11	第一部 月6/15	Unit 5	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Hand Gesturesについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	教科書p. 28-30を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
12	第一部 月6/22	小テストの説明	Unit 1-5の英文の音読方法について要点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文内容を伝える方法を知ることができる。	
		事前学修	Unit 1-5の英文内容を総復習し、アクセントの位置やイントネーションを確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音しにくい箇所を特定し、音読の練習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	小テストの実施と講評	Unit 1-5の英文を音読し、正確に読む力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音読による学習到達度を確認できる。	
		事前学修	Unit 1-5の英文内容を十分に確認し、音読の練習をしておくこと。	30分
		事後学修	正しく発音できなかった部分を振り返り、声に出して読むこと。	30分
14	第一部 月7/6	授業内試験の実施と解説	筆記試験を実施し、読解力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法知識の活用による内容理解度を確認できる。	
		事前学修	既習事項を振り返ること。	45分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
15	第一部 月7/13	学習到達度の確認	筆記試験について講評し、学習内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習到達度を確認することができる。	
		事前学修	学習内容に誤解がないか確認をしておくこと。	30分
		事後学修	英文を論理的・批判的に読むのに必要な読解方法について要点を整理すること。	30分

科目名	Reading II A	担当者	依田 悠介	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
教科書とノートを「2回目の授業」以降必ず持ってくること。

【授業方法】
本授業では、読むための英文法を用いて、学生自身が能動的に学習する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生による発表、議論を通して、自身の理解を確認する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を最終授業にて実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学英語セミナー＜文の仕組み編＞	竹前文夫（他）	南雲堂	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
yusuke.yoda@tyg.jpにメールをし、事前にアポイントをとり調整してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1部 4月 7日	授業の進め方と現状の把握	授業の進め方について説明したのち、現在の英語力を測るためのテストを行う。	
		この回の到達目標	自分の現状を理解する	
		事前学修	シラバスを熟読する	10分
		事後学修	次回の授業の準備	50分
2	1部 4月 14日	文型と文の要素を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の5つの文型について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 1の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
3	1部 4月 21日	動詞の特性を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	動詞の種類と文型の関係について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 2の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
4	1部 4月 28日	単文と複文を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	句と節について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 3の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
5	1部 5月 5日	文の種類を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の疑問文の特徴について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 4の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
6	1部 5月 12日	時制（1）を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の現在・過去・未来について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 6の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	1部 5月 19日	時制（2）を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の進行と完了について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 7 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
8	1部 5月 26日	能動態と受動態を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の能動態と受動態の使い方について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 8 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
9	1部 6月 2日	条件と仮定を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	単なる条件と現実ではないことの違いを理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 9 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
10	1部 6月 9日	準動詞：不定詞を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	名詞・形容詞・副詞の働きをする動詞を理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 11 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
11	1部 6月 16日	準動詞：分詞を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	形容詞の働きを分け合う動詞を理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 12 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
12	1部 6月 23日	準動詞：動名詞を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	動詞が名詞のように使う方法を理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 13 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1部 6月 30日	話法を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の2種類の語り口を理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 14 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
14	1部 7月 7日	期末テストと解説	テストを実施し、その内容を解説する。	
		この回の到達目標	前期の授業で身につけた力を確認し、長文の読解に活かす	
		事前学修	これまでに学習した内容に関する振り返りを行い、期末テストに備える	50分
		事後学修	期末テストを振り返り	10分
15	1部 7月 14日	今後の学習方法を考える	英語の学習方法について意見交換を行う	
		この回の到達目標	効率的な英語学習ができるようになる	
		事前学修	Unit 5を読む。	50分
		事後学修	自分の英語学習について振り返る	10分

科目名	Reading II A	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
Reading IIBと合わせて履修することが望ましい。積極的な授業参加が望まれます。居眠りやスマホに夢中な学生は欠席扱いになる事もあります。

【授業方法】
予習は必ずして来て下さい。授業中はペアワークやグループワーク、音読などずっと座っているよりは常に口や体を動かす機会の方が多くなる予定です。フィードバックは授業内に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワーク、音読などの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、ペア・ワークやグループ・ワークへの参加度等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading in Action	Tetsuhito Shizuka	kinseido	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	これまでとこれからの英語学習について	イントロダクション：授業の進め方や予習、復習の仕方	
		この回の到達目標	今後の授業の進め方や予習、復習の仕方	
		事前学修	高校までの英語の総復習	30分
		事後学修	Unit 1の予習	30分
2	4/11	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 1 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 1の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
3	4/18	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 1 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
4	4/25	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 2 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 2の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
5	5/2	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 2 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
6	5/9	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 3 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 3の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 3 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
8	5/23	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 4 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 4の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
9	5/30	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 4 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
10	6/6	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 5 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 5の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
11	6/13	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 5 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
12	6/20	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 6 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 6の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 6 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
14	7/4	読解、音読、シャドーイング、文法解説及び読んだ内容の要約	これまでの授業で扱えなかった箇所を集中して扱う。質疑応答	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化に加え読解及びライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
15	7/11	読解、音読、シャドーイング、文法解説及び読んだ内容の要約	試験&解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化に加え読解及びライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	試験で出題された箇所の確認	30分

科目名	Reading II B	担当者	石川 勝	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
学生一人一人に訳してもらう。一時間に2ページのペースで読み進めていく。 フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に答案を返却し解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパの国と人々		金星堂			
備考					

【オフィスアワー】
木曜日13時～18時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木曜日 9月17日	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
		この回の到達目標	単位を修得するための過程を理解する。	
		事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。	40分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	9月24日	授業方法に慣れる	Unit 4 Spainを読む 五文型の説明	
		この回の到達目標	五文系を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
3	10月1日	文法を理解したうえでの和訳	Unit4 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	文法の知識を和約に反映できるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
4	10月8日	文脈を考慮に入れた訳	Unit4 前回の続きから和訳 不定詞の説明	
		この回の到達目標	不定詞が理解できる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
5	10月15日	テキストの内容の理解を深める。	Unit4 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	内容を理解しながら行くセル用になる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
6	10月22日	ingの理解	Unit5 Britainを読む ingの説明	
		この回の到達目標	文法を理解したうえで訳せるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月29日	語彙力アップ		Unit2 前回の続きから和訳 小テスト
		この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
8	11月5日	If節の用法		Unit5 前回の続きから和訳 条件文と仮定法の違い
		この回の到達目標	条件文と仮定法の区別ができる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
9	11月12日	文法の復習		Unit6 Benelux前回の続きから和訳
		この回の到達目標	今までに学んだ文法を確実に把握する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
10	11月19日	テキストの内容の理解を深める。		Unit6 Bを読む that節の説明
		この回の到達目標	that節を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
11	12月3日	正確の和訳		Unit6 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	文法に照らして正確の和訳ができる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
12	12月10日	詳細な辞書の引き方		Unit6 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	辞書の引き方をただす。	
		事前学修	指示された個所の予習	39分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	文法のおさらい	Unit6 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	これまでに習った文法を確実に把握する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
14	12月24日	訳の確認	Unit6 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	テキストの訳を正確なものにする。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
15	1月14日	前期の授業のまとめ	Unit 6 前回の続きから和訳 小テスト	
		この回の到達目標	小テストでよい点数を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	Reading II B	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
前期のReading IIAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Funny Laws in the World	石井/岩田/梶山他	南雲堂	2015	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。） 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	オリエンテーション/ Reading	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。/ Chapter 7 (Smiles!)を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	9/23	Vocabulary/Comprehension/ Grammar	Chapter 7 (Smiles!)の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	9/30	Reading	Chapter 8 (Silent Sunday?) を輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
4	10/7	Vocabulary/Comprehension/ Grammar	Chapter 8 (Silent Sunday?)の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
5	10/14	Reading/Vocabulary/Compre hension/Grammar	Chapter 9 (Want to be a pilot?) を輪読形式で読み、英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
6	10/21	Reading/Vocabulary/Compre hension/Grammar	Chapter 10 (Napoleon, the pig?) を輪読形式で読み、英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。到達目標に③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Reading/Vocabulary/Comprehension/Grammar	Chapter 11 (Don't drop dead here!) を輪読形式で読み、英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
8	11/11	Reading/Vocabulary/Comprehension/Grammar	Chapter 12 (Cheating does not pay) を輪読形式で読み、英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
9	11/18	Reading/Vocabulary/Comprehension/Grammar	Chapter 13 (Putting a stop to traffic jams) を輪読形式で読み、英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
10	11/25	Reading/Vocabulary/Comprehension/Grammar	Chapter 14 (The laws of the jungle) を輪読形式で読み、英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
11	12/2	Reading/Vocabulary/Comprehension/Grammar	Chapter 14 (The laws of the jungle) を輪読形式で読み、英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
12	12/9	Reading/Vocabulary/Comprehension/Grammar	Chapter 15 (Law! What is it good for?) を輪読形式で読み、英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Reading/Vocabulary/Comprehension/Grammar	Chapter 15 (Law! What is it good for?) を輪読形式で読み、英文の内容について、ペアまたはグループで意見交換をする。 / 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、英文の内容を正確に解釈または要約し発表することができる。到達目標③に関連して、英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。	
		事前学修	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。	20分
14	12/23	授業内試験まとめ	授業内試験及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	Chapter 7~15までに学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。	40分
		事後学修	間違えた箇所を復習する。	20分
15	1/13	試験と解説	試験の講評と後期学習の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法に関する知識を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に把握することができる。	
		事前学修	後期の授業内容を確認し、総復習する。	40分
		事後学修	1年を通して学習したことを踏まえ、さらに英語力を身につける努力をしつつ、次年度の英語の授業に備える。	20分

科目名	Reading II B	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。Reading IIAを履修していること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを筆記試験（授業内試験）により評価する。		30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。		10	10									20
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発にさんかしたかを基準評価する。				20								20
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等にて連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Pass Intro	Bennet, Andrew E.	南雲堂	2013	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	1999	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生 に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	/	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	/	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	/	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	/	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	/	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	/	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	/	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	/	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	/	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	/	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	/	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	/	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	Reading II B	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
中学・高校で学んだ基本的文法知識があることを前提に授業を行います。

【授業方法】
演習方式。小テストを毎回実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英字新聞の記事を読み、その内容について自分の意見を述べる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Insights 2020 『世界を読むメディア英語入門2020』	村尾純子 他	(株) 金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12:30-12:50 本館二階講師

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	後期の授業の進め方、前期学習内容の復習など。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の学習内容を理解し、後期の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期の学習内容を整理、確認する。	30分
		事後学修	後期の英語学習計画を立てる。	30分
2	9/21	Chapter 11 Why Not Go to Kyoto?	Chapter 11 Why Not Go to Kyoto?の本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 11のKey Expressions 1,2,3,Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
3	9/28	Chapter 12 To Be More Eco-friendly	Chapter 12 To Be More Eco-friendlyの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ファッション・環境に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 12のKey Expressions 1,2,3,Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
4	10/5	Chapter 13 A Pleasant Night's Sleep at a Capsule Hotel	Chapter 13 A Pleasant Night's Sleep at a Capsuleの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 13のKey Expressions 1,2,3,Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
5	10/12	Chapter 14 Healthy Lifestyles Discount Premium	Chapter 14 Healthy Lifestyles Discount Premiumの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、健康に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 14のKey Expressions 1,2,3,Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
6	10/19	Chapter 15 Stylish Sweden vs. Traditional India	Chapter 15 Stylish Sweden vs. Traditional Indiaの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際・経済に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 15のKey Expressions 1,2,3,Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Review Chapter 11-15	Chapter 11-15の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 11-15で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 11-15の本文を再読する。	30分
		事後学修	Chapter 11-16の本文の内容を再確認する。	30分
8	11/9	Chapter 16 Silent Speech Recognition App to Help People	Chapter 16 Silent Speech Recognition App to Help Peopleの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テクノロジーに関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 16のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
9	11/16	Chapter 17 Real vs. Artificial Chrestmas Trees	Chapter 17 Real vs. Artificial Chrestmas Treesの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 17のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
10	11/23	Chapter 18 Take them to the Ski Resort	Chapter 18 Take them to the Ski Resortの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、観光に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 18のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
11	11/30	Chapter 19 Impossible Made Possible	Chapter 19 Impossible Made Possibleの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 19のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
12	12/7	Chapter 20 Yet Another Step of the Giant	Chapter 20 Yet Another Step of the Giantの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、医療・技術に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 20のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Review Chapter 16-20	Chapter 16-20の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 16-20で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 16-20の本文を再読する。	30分
		事後学修	Chapter 16-20の本文の内容を再確認する。	30分
14	12/21	後期授業のまとめ①	後期の学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 11-20で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 11-20で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	1/18	後期授業のまとめ②	後期の学習内容を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 11-20で学習した単語を活用して英字新聞の記事を読むことができる。	
		事前学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
		事後学修	後期の学習内容を再確認する。	30分

科目名	Reading II B	担当者	森下 正昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
前期のReading IIAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Legal Matters: Dramatic Stories behind the Legal Scenes	岡雅子, Michael Howard Maesaka	SENGAGE Learning	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10-13:00。詳細は第1回授業にて連絡。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	オリエンテーション及び導入講義	事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。また、グループ分けとチームビルディング・アクティビティを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	20分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	40分
2	9/23	UNIT 7: Products Liability (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of the Young Fast Food Loversを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
3	9/30	UNIT 7: Products Liability (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、製造物責任に関する法律と陪審員制度について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、製造物責任に関する法律と陪審員制度について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
4	10/7	UNIT 8: Harassment in the Workplace (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of the Male Worker and His Female Supervisorを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
5	10/14	UNIT 8: Harassment in the Workplace (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、セクハラに関する法律について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。第1回小テスト実施。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、セクハラに関する法律について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
6	10/21	UNIT 9: Copyright Infringement on the Internet (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of a Man who Sold Game Software Illegallyを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	UNIT 9: Copyright Infringement on the Internet (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、著作権法について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、著作権法について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
8	11/11	UNIT 10: Anti-Stalking Law (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of a Co-Worker in the Restaurantを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
9	11/18	UNIT 10: Anti-Stalking Law (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、ストーカーに関する法律について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。第2回小テスト実施。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、ストーカーに関する法律について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
10	11/25	UNIT 11: Rehabilitation of Juvenile Criminals (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of a Young Repeat Offenderを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
11	12/2	UNIT 11: Rehabilitation of Juvenile Criminals (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、少年犯罪に関する法律について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、少年犯罪に関する法律について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
12	12/9	UNIT 12: Miscarriage of Justice (1)	Warm-upの語彙を確認し、READING: The Case of a Former Kindergarten Bus Driverを輪読形式で読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に関連する語彙を身につけるとともに、その知識を活用して、英文の内容を正確に解釈・発表することができる。	
		事前学修	英文を音読・精読し、解釈する。その際、どこが理解できなかったのかを明確にしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	UNIT 12: Miscarriage of Justice (2)	Exercisesの問題についてペアまたはグループで話し合い解答を導き出す。また、誤審に関する法律について、ペアまたはグループで意見交換し、その内容をクラス全体でシェアする。第3回小テスト実施。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英文の内容と、誤審に関する法律について、他者と意見交換をし、その内容を簡潔にまとめて発表することができる。	
		事前学修	Exercisesの問題を解き、その根拠が説明できるようにしておく。	40分
		事後学修	事前学習の際に理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
14	12/23	期末試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	後期の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	後期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。	20分
15	1/13	講評とふりかえり	期末試験を返却し全体の傾向や間違いの多かった問題などを説明。また、グループで後期の目標・ふりかえりをシェアーする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どの程度身に付けることができたか、地震を振り返り適切に評価することができる。	
		事前学修	目標・振り返りシートの「学期末のふりかえり」の部分を記入し、シートを完成させる。	30分
		事後学修	授業内でのふりかえりのシェアーを参考に、今学期の英語学習の取り組みについて良かった点と悪かった点を改めて整理する。	30分

科目名	Reading II B	担当者	山上 登美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則として前学期のReading IIAと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。CDを聴き、英文の和訳や要約により内容を理解する。練習問題を解くことにより英語の文法知識を強化する。各テーマについてグループで意見交換する。音読の小テストにより正確に読む力を確認する。授業内試験により文法や語法知識および英文理解力を評価する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記 試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、授業参画度などから総合的に評価します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
What Do You Mean?—Exploring Communication Gaps—	Kyoko Yashiro/Cecilia Ikeguchi/Robin Sakamoto	金星堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	ガイダンスと学習内容の説明	学習内容と方法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文を論理的・批判的に読む方法を知ることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	今後の学習計画を立てること。	30分
2	第一部 月9/21	Unit 6	Body Movementsに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 31-33の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を整理し、要点を整理すること。	30分
3	第一部 月9/28	Unit 6	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確認める。Body Movementsについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の意見を発表できる。	
		事前学修	教科書p. 34-36を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
4	第一部 月10/5	Unit 7	Spaceに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 37-39の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
5	第一部 月10/12	Unit 7	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確認める。Spaceについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の意見を発表できる。	
		事前学修	教科書p. 40-42を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
6	第一部 月10/19	Unit 8	Same Words Different Meaningに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 43-45の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	Unit 8	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Same Words Different Meaningについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の意見を発表できる。	
		事前学修	教科書p. 46-48を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
8	第一部 月11/9	Unit 9	Intonationに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 49-51の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
9	第一部 月11/16	Unit 9	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Intonationについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の意見を発表できる。	
		事前学修	教科書52-54を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
10	第一部 月11/23	Unit 10	Succinct or Elaborateに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 55-57の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
11	第一部 月11/30	Unit 10	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Succinct or Elaborateについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の意見を発表できる。	
		事前学修	教科書p. 58-60を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
12	第一部 月12/7	小テストの説明	Unit 6-10の英文の音読方法について要点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文内容を正しく伝える方法を知ることができる。	
		事前学修	Unit 6-10の英文内容を復習し、アクセントの位置やイントネーションを確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音しにくい箇所を特定し、音読の練習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	小テストの実施と講評	Unit 6-10の英文を音読し、正確に読む力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音読による学習到達度を確認できる。	
		事前学修	Unit 6-10の英文内容を十分に確認し、音読の練習をしておくこと。	30分
		事後学修	正しく発音できなかった部分を振り返り、声に出して読むこと。	30分
14	第一部 月12/21	授業内試験の実施と解説	筆記試験を実施し、読解力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法知識の活用による内容理解度を確認できる。	
		事前学修	既習事項を振り返ること。	45分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
15	第一部 月1/18	学習到達度の確認	試験について講評し、学習内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習到達度を確認できる。	
		事前学修	学習内容に誤解がないか確認しておくこと。	30分
		事後学修	英文を論理的、批判的に読むのに必要な方法を整理すること。	30分

科目名	Reading II B	担当者	依田 悠介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
同教員の前期の授業を履修していることが望ましい。

【授業方法】
本授業では、ある程度の長さのある古典的哲学的な問題に関する本の部分を読み進めながら、英文解釈・読解の練習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生同士で読解した内容を比較したり、発表し、お互いの理解を共有する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内を通して、逐次フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
言語哲学：入門から中級まで	W. ライカン	勁草書房	2005	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
yusuke.yoda@tyg.jpにメールし、予約を取ってください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 9月15日	ガイダンスと現状把握	ガイダンスを行い、スケジュール、成績の付け方、授業震度などを確認すると同時に、自分の英語力の現在を知る。	
		この回の到達目標	授業内容・目的を理解する	
		事前学修	シラバスをよく読む	10分
		事後学修	与えられたリーディングを読む	50分
2	第1部 9月22日	パラグラフの理解	パラグラフの構成について理解する	
		この回の到達目標	Topic/Supporting/Concluding Sentencesについて理解する	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
3	第1部 9月29日	パラグラフ構成の理解	パラグラフ構成の構成	
		この回の到達目標	パラグラフがどのように構成されるか理解する	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
4	第1部 10月6日	読解演習	単語は何を表しているのかについての長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
5	第1部 10月13日	読解演習	古典的な哲学についての長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
6	第1部 10月20日	読解演習	名付けについての長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第1部 10月27日	読解演習		J. S. Millの考え方についての長文を読む
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
8	第1部 11月10日	読解演習		Fregeの考え方についての長文を読む
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
9	第1部 11月17日	読解演習		Russellの考え方についての長文を読む
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
10	第1部 11月24日	読解演習		Kripkeの考え方についての長文を読む
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
11	第1部 12月1日	読解演習		単語とその指し示すものについて異なる考え方の長文を読む
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
12	第1部 12月8日	読解演習		命題についての説明文を読む
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 12月15日	読解演習	論理についての説明文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
14	第1部 12月22日	読解演習	数理についての説明文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	最終試験のための準備	40分
		事後学修	最終試験の振り返り	20分
15	第1部 1月12日	期末試験と振り返り	これまでの学習した内容に関してテストを行う。	
		この回の到達目標	今後の英語学習について考える	
		事前学修	後期に学んだことを振り返る	40分
		事後学修	今後の英語の学習のしかた、目標について決める	20分

科目名	Reading II B	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
ReadingⅡAと合わせて履修することが望ましい。積極的な授業参加が望まれます。居眠りやスマホに夢中な学生は欠席扱いになる事もあります。

【授業方法】
予習は必ずして来て下さい。授業中はペアワークやグループワーク、音読などずっと座っているよりは常に口や体を動かす機会の方が多くなる予定です。フィードバックは授業内に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	前期に引き続きペアワークやグループワーク、音読などの演習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、ペア・ワークやグループ・ワークへの参加度等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading in Action	Tetsuhito Shizuka	kinseido	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション：前期の授業のまとめと後期の授業進め方や予習、復習の仕方	
		この回の到達目標	前期の授業のまとめと後期の授業進め方や予習、復習の仕方	
		事前学修	前期の授業内容の総復習	30分
		事後学修	Unit 7の予習	30分
2	9/26	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 7 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 7の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
3	10/3	要約及びライティング&スピーキング	Unit 7 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
4	10/10	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 8 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 8の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
5	10/17	要約及びライティング&スピーキング	Unit 8 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
6	10/24	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 9 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 9の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	要約及びライティング&スピーキング	Unit 9 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
8	11/7	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 10 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 10の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
9	11/14	要約及びライティング&スピーキング	Unit 10 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
10	11/21	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 11 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 11の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
11	11/28	要約及びライティング&スピーキング	Unit 11 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
12	12/5	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 12 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 12の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	要約及びライティング&スピーキング	Unit 12 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
14	12/19	読解、音読、シャドーイング、文法解説及びライティング&スピーキング	これまでの授業で扱えなかった箇所を集中して扱う。質疑応答	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
15	12/26	読解、音読、シャドーイング、文法解説及びライティング&スピーキング	試験&解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	試験で出題された箇所の確認	30分

科目名	Reading III A	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
上級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
(1)日常的にニュースに興味をもっている学生であること。(2)英字新聞を読む基礎英語力があること。(3)インターネットにアクセスして課題のニュースを視聴できること。(4)学習意欲があること。

【授業方法】
演習形式。(1)テキストの内容確認。(2)テキストの内容に関連し、授業を行っている時点で報道されているニュースを読んで、インターネット上のニュースの視聴も行う。(他)授業資料配布や連絡を大学のネットを通して行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ニュース記事・資料・ニュースクリップなどの学生によるレポートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					3		3					
②	上級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					3		3					
③	上級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					3		3			3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後、授業の中で解答例など示しながらフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English for Mass Communication (2020 Edition)時事英語の総合演習-2019年度版-	堀江洋文、加藤香織、ほか	朝日出版社	2020年出版	教科書	必携
備考	テキストに関連するThe New York Times, The Washington Postなどの記事のコピーを配布します。				

【オフィスアワー】
月曜日 12:30~13:00（事前にメールでアポイントを取ること）授業講堂kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス、導入授業	この授業の目的である「時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。」のために行う必要のあることを解説する。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法など説明する。オンライン資料へのアクセスを確認し、授業準備・復習に役立てるようにする。授業資料の確認の方法。ネットでニュースを視聴する。	
		この回の到達目標	目的達成にどういった学習が必要なのかを理解する。授業の準備・復習に必要な環境を整えることができる。これから共にディスカッションなどを行う学生同士が話しやすい環境を整える。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、テキスト全体に目を通し学修の準備をする。	30分
		事後学修	授業ガイダンスに従い実際に授業準備ができるか確認する。テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
2	4/13	国内政治	Chapter 1 国内政治 Japan's pro-constitution reform forces fall short of 2/3 upper house majorityを読む。日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、日本の政治ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
3	4/20	latest domestic news	第2回授業で配布された日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第2回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第2回授業で配布された日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分
4	4/27	news clip on the latest domestic news	第3回授業で配布された日本の政治に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
5	5/4	経済・ビジネス	Chapter 2 経済・ビジネス(1) Japan is wasting its last chance to avoid a major economic blunderを読む。経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、経済・ビジネスニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 2 経済・ビジネス(1)を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
6	5/11	latest economy / business news	第5回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第5回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第5回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	news clip on the latest economy / business news	第6回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
8	5/25	スポーツ	Chapter 14 スポーツ(1) FC Tokyo's Takefusa Kubo seals move to Real Madridを読む。スポーツに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、スポーツニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 14 スポーツ(1)を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
9	6/1	latest sport news	第8回授業で配布されたスポーツに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第8回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第8回授業で配布されたスポーツに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分
10	6/8	news clip on the latest sport news	第9回授業で配布されたスポーツに関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
11	6/15	外交・国際会議	Chapter 4 外交・国際会議 Trump begins state visit to Japanを読む。外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、外交・国際会議を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 4 外交・国際会議を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
12	6/22	latest foreign affair / international conference news	第11回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第11回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第11回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	news clip on the latest foreign affair / international conference news	第12回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のnews clipの SCRIPTを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題SCRIPTと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
14	7/6	授業内試験、まとめ	授業内試験および今学期の授業のまとめ。	
		この回の到達目標	授業で学修したことの確認することで各学生が自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	今学期の授業を振り返る。テキスト、新聞記事のプリント、TVニュースのSCRIPTなど総復習。	120分
		事後学修	授業内試験を振り返る。	60分
15	7/13	授業フィードバック	授業内試験のフィードバック。	
		この回の到達目標	授業内試験をフィードバックすることで、各学生が正確に自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	授業内試験を振り返る。	60分
		事後学修	試験の見直しをする。	60分

科目名	Reading III B	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
上級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
(1)日常的にニュースに興味をもっている学生であること。(2)英字新聞を読む基礎英語力があること。(3)インターネットにアクセスして課題のニュースを視聴できること。(4)学習意欲があること。

【授業方法】
演習形式。(1)テキストの内容確認。(2)テキストの内容に関連し、授業を行っている時点で報道されているニュースを読んで、インターネット上のニュースの視聴も行う。(他)授業資料配布や連絡を大学のネットを通して行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ニュース記事・資料・ニュースクリップなどの学生によるレポートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					3		3					
②	上級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					3		3					
③	上級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					3		3			3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後、授業の中で解答例など示しながらフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English for Mass Communication (2020 Edition)時事英語の総合演習-2019年度版-	堀江洋文、加藤香織、ほか	朝日出版社	2020年出版	教科書	必携
備考	テキストに関連するThe New York Times, The Washington Postなどの記事のコピーを配布します。				

【オフィスアワー】
月曜日 12:30~13:00（事前にメールでアポイントを取る）授業講堂kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス、導入授業	この授業の目的である「時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。」のために行う必要のあることを解説する。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法など説明する。オンライン資料へのアクセスを確認し、授業準備・復習に役立てるようにする。授業資料の確認の方法。ネットでニュースを視聴する。	
		この回の到達目標	目的達成にどういった学習が必要なのかを理解する。授業の準備・復習に必要な環境を整えることができる。これから共にディスカッションなどを行う学生同士が話しやすい環境を整える。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、テキスト全体に目を通し学修の準備をする。	30分
		事後学修	授業ガイダンスに従い実際に授業準備ができるか確認する。テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
2	9/21	気象・災害	Chapter 11 気象・災害 By 2050, London's climate will be as warm as Barcelona's, days new studyを読む。気象・災害に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、日本の政治ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 11 気象・災害を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
3	9/28	latest climate / disaster news	第2回授業で配布された気象・災害に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第2回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第2回授業で配布された気象・災害に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分
4	10/5	news clip on the latest climate / disaster news	第3回授業で配布された気象・災害に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
5	10/12	海外政治情勢	Chapter 6 海外政治情勢 Stepping into power, Johnson seeks more diverse Cabinetを読む。海外政治情勢に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、海外政治情勢ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 6 海外政治情勢を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
6	10/19	latest foreign affairs news	第5回授業で配布された海外政治情勢に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第5回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第5回授業で配布された海外政治情勢に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	news clip on the latest foreign affairs news	第6回授業で配布された海外政治情勢に関する最新のnews clipの SCRIPTを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題SCRIPTと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
8	11/9	軍事	Chapter 5 軍事 Japan to have first aircraft carriers since World War IIを読む。軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、軍事ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 5 軍事を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
9	11/16	latest military policy news	第8回授業で配布された5 軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第8回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第8回授業で配布された5 軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分
10	11/23	news clip on the latest military policy news	第9回授業で配布された5 軍事に関する最新のnews clipのSCRIPTを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題SCRIPTと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
11	11/30	裁判・法令	Chapter 9 裁判・法令 Court: Forced sterilization unconstitutional, but no payoutを読む。裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、裁判・法令を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 9 裁判・法令を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
12	12/7	latest judicial news	第11回授業で配布された裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第11回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第11回授業で配布された裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	news clip on the latest judicial news	第12回授業で配布された裁判・法令に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
14	12/21	授業内試験、まとめ	授業内試験および今学期の授業のまとめ。	
		この回の到達目標	授業で学修したことの確認することで各学生が自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	今学期の授業を振り返る。テキスト、新聞記事のプリント、TVニュースのスク립トなど総復習。	120分
		事後学修	授業内試験を振り返る。	60分
15	1/18	授業フィードバック	授業内試験のフィードバック。	
		この回の到達目標	授業内試験をフィードバックすることで、各学生が正確に自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	授業内試験を振り返る。	60分
		事後学修	試験の見直しをする。	60分

科目名	Writing I A	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
初級レベルの英文作成に必要とされる英語の表現力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の意見を明確に平易な英文で表現するために、基本的な文法や表現力を身につける。

【履修条件】
Power Point および Wordを使用できる学生のみ履修可能です。

【授業方法】
履修人数および履修学生の英語運用力によって調整いたします。基本的には、表現実例を使用しながら、毎週実際に文章を書きます。また、作成した英文を皆の前で発表してもらいます。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	英語でプレゼンテーションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文を書くために必要な基本的な文法の知識や表現力を活用することができる。								1	1		1
②	自分の意見を明確に平易な英文で表現することができる。								1	1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身につしてい るかを，授業の課題などを基準に評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則として添削返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント配布				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜14：30～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス・導入講義	英文ライティングの注意事項についての授業で使用するPowerPointとWordの使用方法についての確認	
		この回の到達目標	ライティングに役立つ辞書について確認する。	
		事前学修	シラバスを熟読しておく。	60分
		事後学修	ガイダンスの確認を行う。	60分
2	4/17	英文ライティングの実例検証 Word使用方法についての確認	文法確認 英文実例（自己紹介）の表現分析 英文作成演習と発表	
		この回の到達目標	英文ライティングに必要なWordの使用方法の習得 英文コメントの原稿作成	
		事前学修	プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	作成した英文の確認を行う。	60分
3	4/24	英文ライティングの実例検証Power Point使用方法についての確認	文法確認 英文実例（場面説明）の表現分析 英文作成演習 グループ発表（3～5分間程度）の編成	
		この回の到達目標	Power Pointの英文フレーズ 初級技術の確認と習得	
		事前学修	プリントの予習を行う	60分
		事後学修	英文の確認と修正を行う	60分
4	5/1	読む英文と見せる英文について	文法確認 英文実例（状況説明）の表現分析 英文作成演習 グループ内での英文チェック	
		この回の到達目標	Power Pointの英文ライティング中級技術の確認習得	
		事前学修	英文の確認を行う	60分
		事後学修	テーマ確認を行う	60分
5	5/8	英文ライティングに必要な文法チェック その1	まとめと文法確認テスト ライティングのテーマ発表およびテーマについての確認 グループ内での英文チェック	
		この回の到達目標	文法の確認と発表のテーマ設定	
		事前学修	テーマ検討を行う	60分
		事後学修	テーマ検討と再確認を行う	60分
6	5/15	英文ライティングに必要な表現チェック その2	文法確認 英文実例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その1 グループのワークシート打ち合わせ その1	
		この回の到達目標	英文表現の習得と発表の段取り決定	
		事前学修	文法見直しを行う	60分
		事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	パワーポイントの英文作成の基礎について	文法確認 英文事例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その2 グループのワークシート打ち合わせ その2	
		この回の到達目標	パワーポイントのシートにふさわしい英文習得	
		事前学修	プリントの確認を行う。	60分
		事後学修	ワークシートについて検討する。	60分
8	5/29	短い英文フレーズの組み合わせ方法について	文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 グループのワークシート打ち合わせ その3	
		この回の到達目標	英文の構成展開を再確認し 細かな間違いについて修正する。	
		事前学修	プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分
9	6/5	より明確な英文について	文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 パワー・ポイントの英文作成演習 その1	
		この回の到達目標	英文の文法ミスとレイアウトのコツを学ぶ。	
		事前学修	プリントを確認しておく。	60分
		事後学修	ワークシートの修正を行う。	60分
10	6/12	口頭発表の英文原稿作成について	文法確認 パワー・ポイントの英文作成演習 その2	
		この回の到達目標	発表に必要な英文を学ぶ。	
		事前学修	表現集を確認しておく。	60分
		事後学修	ワークシートの修正を行う。	60分
11	6/19	文法の総復習 表現の一貫性と英文内容 についての最終確認	まとめと文法確認テスト	
		この回の到達目標	発表原稿のチェックを経て精度の高い英文を書く。	
		事前学修	文法プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	文法プリントの確認を行う。	60分
12	6/26	英文ライティングの相互チェック	グループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その1	
		この回の到達目標	クラスメートの英語の発表についての的確なコメントを行う。	
		事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	英文手紙の書き方 その1 感謝の手紙の書き方について	グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その1	
		この回の到達目標	英語プレゼンテーションを聞き、その内容や伝達方法について英語でコメントを行えるようにする。	
		事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
14	7/10	英文手紙の書き方 その2 謝罪の手紙についての書き方	グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2	
		この回の到達目標	英文での確かなコメントを書けるようにする。	
		事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
15	7/17	全体のまとめと講評	まとめと復習テスト	
		この回の到達目標	レポートの最終確認と推敲を行う。	
		事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

科目名	Writing I B	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
初級レベルの英文作成に必要とされる英語の表現力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の意見を明確に平易な英文で表現するために、基本的な文法や表現力を身につける。

【履修条件】
Power Point および Wordを使用できる学生のみ履修可能です。

【授業方法】
履修人数および履修学生の英語運用力によって調整いたします。基本的には、表現実例を使用しながら、毎週実際に文章を書きます。また、作成した英文を皆の前で発表してもらいます。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	英語でプレゼンテーションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文を書くために必要な基本的な文法の知識や表現力を活用することができる。								1	1		1
②	自分の意見を明確に平易な英文で表現することができる。								1	1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身につしてい るかを，授業の課題などを基準に評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則として添削返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント配布				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜14：30～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス・導入講義 前期の復習	英文ライティングの注意事項についての授業で使用するPowerPointとWordの使用方法についての再確認	
		この回の到達目標	ライティングに役立つ辞書について確認する。	
		事前学修	シラバスを熟読しておく。	60分
		事後学修	ガイダンスの確認を行う。	60分
2	4/17	英文ライティングの実例検証 Word使用方法についての確認	文法確認 英文実例（自己紹介）の表現分析 英文作成演習と発表	
		この回の到達目標	英文ライティングに必要なWordの使用方法の習得 英文コメントの原稿作成	
		事前学修	プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	作成した英文の確認を行う。	60分
3	4/24	英文ライティングの実例検証Power Point使用方法についての確認	文法確認 英文実例（場面説明）の表現分析 英文作成演習 グループ発表（3～5分間程度）の編成	
		この回の到達目標	Power Pointの英文フレーズ 初級技術の確認と習得	
		事前学修	プリントの予習を行う	60分
		事後学修	英文の確認と修正を行う	60分
4	5/1	読む英文と見せる英文について	文法確認 英文実例（状況説明）の表現分析 英文作成演習 グループ内での英文チェック	
		この回の到達目標	Power Pointの英文ライティング中級技術の確認習得	
		事前学修	英文の確認を行う	60分
		事後学修	テーマ確認を行う	60分
5	5/8	英文ライティングに必要な文法チェック その1	まとめと文法確認テスト ライティングのテーマ発表およびテーマについての確認 グループ内での英文チェック	
		この回の到達目標	文法の確認と発表のテーマ設定	
		事前学修	テーマ検討を行う	60分
		事後学修	テーマ検討と再確認を行う	60分
6	5/15	英文ライティングに必要な表現チェック その2	文法確認 英文実例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その1 グループのワークシート打ち合わせ その1	
		この回の到達目標	英文表現の習得と発表の段取り決定	
		事前学修	文法見直しを行う	60分
		事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	パワーポイントの英文作成の基礎について	文法確認 英文事例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その2 グループのワークシート打ち合わせ その2	
		この回の到達目標	パワーポイントのシートにふさわしい英文習得	
		事前学修	プリントの確認を行う。	60分
		事後学修	ワークシートについて検討する。	60分
8	5/29	短い英文フレーズの組み合わせ方法について	文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 グループのワークシート打ち合わせ その3	
		この回の到達目標	英文の構成展開を再確認し 細かな間違いについて修正する。	
		事前学修	プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分
9	6/5	より明確な英文について 主観から客観へ	文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 パワー・ポイントの英文作成演習 その1	
		この回の到達目標	英文の文法ミスとレイアウトのコツを学ぶ。	
		事前学修	パワーポイント作成のための資料収集を行う。	60分
		事後学修	パワーポイントの修正を行う。	60分
10	6/12	英文原稿作成について テーマ設定の注意点について	文法確認 パワー・ポイントの英文作成演習 その2	
		この回の到達目標	発表に必要な英文を学ぶ。	
		事前学修	パワーポイントの英文修正を行う。	60分
		事後学修	パワーポイントの修正を行う。	60分
11	6/19	文法の総復習 表現の一貫性と英文内容 についての最終確認	まとめと文法確認テスト	
		この回の到達目標	発表原稿のチェックを経て精度の高い英文を書く。	
		事前学修	文法プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	文法プリントの確認を行う。	60分
12	6/26	英文ライティングの相互 チェック	グループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その1 語彙力と表現力をさらに深める。	
		この回の到達目標	クラスメートの英語の発表についての的確なコメントを行う。	
		事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	英文手紙の書き方 その1 感謝の手紙の書き方について	例文紹介と検証 語彙力と表現力の再確認 グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2	
		この回の到達目標	英語プレゼンテーションを聞き、その内容や伝達方法について英語でコメントを行えるようにする。	
		事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
14	7/10	英文手紙の書き方 その2 謝罪の手紙についての書き方	例文紹介と実習 語彙力と表現力の最終確認 グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2	
		この回の到達目標	英文での確かなコメントを書けるようにする。	
		事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
15	7/17	全体のまとめと講評	まとめと復習テスト	
		この回の到達目標	レポートの最終確認と推敲を行う。	
		事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

科目名	Writing ⅢA	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
授業レポートや論文などの学術文書を作成するためのアカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の見解を客観的かつ的確に論じるために、論理的に書く能力を身につける。

【履修条件】
後期のWriting ⅢBと併せて履修することが望ましい。Criterionを副教材として受講すること（受講料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークなどによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。									3	3		3
②	論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。									3	3		3
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを，授業の課題などを基準に評価する。	10	10									20
その他(criterion)	到達目標②が達成しているかを，criterionにより評価する。		20									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
3-Points Academic Writing:Organization, Content, Language	深山/幸重/尾鍋/村尾	金星堂	2019	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	アカデミック・ライティング	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める	50分
2	4/14	エッセイとは	Unit 1（エッセイの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	4/21	エッセイとは	Unit 1（エッセイの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	4/28	エッセイのタイトル	Unit 2（タイトルの決定法）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	5/5	エッセイのタイトル	Unit 2（タイトルの決定法）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	5/12	Introductionとは	Unit 3（Introductionの役割）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/19	Introductionの書き方	Unit 3（Introductionの役割）、アカデミック・ライティング手法
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
8	5/26	Bodyの構造	Unit 4（Bodyの構造）、アカデミック・ライティング手法
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
9	6/2	Bodyの構造	Unit 4（Bodyの構造）、アカデミック・ライティング手法
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
10	6/9	conclusionのまとめ方	Unit 5（conclusionのまとめ方）、クライテリオン
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
11	6/16	conclusionとクライテリオン	Unit 5（conclusionのまとめ方）、クライテリオン1
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
12	6/23	クライテリオン	クライテリオン2 (revise)
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	クライテリオン	Unit 6（フィードバックに挑戦）、クライテリオン3	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	7/7	クライテリオン	クライテリオン4 (revise)、授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
15	7/14	クライテリオン	クライテリオン5、試験の講評と振り返り	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。アカデミック・ライティングの手法を復習する。	30分
		事後学修	理解不十分な箇所をチェックし、後期の授業に臨めるようにする。	30分

科目名	Writing ⅢB	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
授業レポートや論文などの学術文書を作成するためのアカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の見解を客観的かつ的確に論じるために、論理的に書く能力を身につける。

【履修条件】
前期のWriting ⅢAと併せて履修することが望ましい。Criterionを副教材として受講すること（受講料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークなどによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。								4	4		4
②	論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。								4	4		4
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを，授業の課題などを基準に評価する。	10	10									20
その他(criterion)	到達目標②が達成しているかを，criterionにより評価する。		20									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
3-Points Academic Writing:Organization, Content, Language	深山/幸重/尾鍋/村尾	金星堂	2019	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	アカデミック・ライティングとは	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める、	50分
2	9/22	エッセイとは	Unit 7（エッセイの最終原稿提出）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	9/29	リサーチ・ペーパー	Unit 8（リサーチ・ペーパーの構造とIntroduction）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	10/6	abstract	Unit 9（abstractの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	10/13	abstract	Unit 10（abstractの草稿）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	10/20	abstract	Unit 11（abstractの最終原稿）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/27	プレゼンテーション	Unit 12（プレゼンテーションの基本的特徴）、アカデミック・ライティング手法
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
8	11/10	視覚資料と発表原稿	Unit 13（視覚資料の作成）、Unit 14（発表原稿の完成）
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
9	11/17	プレゼンテーション	Unit 15（プレゼンテーションの評価）、アカデミック・ライティング手法
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
10	11/24	クライテリオン	クライテリオン1
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
11	12/1	クライテリオン	クライテリオン2 (revise)
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう推敲する。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
12	12/8	クライテリオン	クライテリオン3
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	クライテリオン	クライテリオン4 (revise)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン3を完成度の高いエッセイになるよう推敲する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	12/22	クライテリオン	クライテリオン5、授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。アカデミック・ライティングの手法を復習する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
15	1/12	ライティングの総括	試験の講評と振り返り	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。アカデミック・ライティングの手法を復習する。	30分
		事後学修	講義全体の確認をし、復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語学習に熱意があること。

【授業方法】
各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題や会話練習を順次当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文法の習得に応じて適宜行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子 他	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問は、授業中いつでも受け付ける。授業後も教室等にて対応する。授業時間：火曜 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	単語の発音	ガイダンス、独和辞書の紹介 アルファベットの発音練習 簡単なあいさつの発音練習	
		この回の到達目標	発音の習得。	
		事前学修	教科書を購入し『はじめに』を読んでおく。 教科書添付のCDでアルファベットの発音を聞いておく。	30分
		事後学修	CDで発音練習を復習する。	30分
2	4/14	単語の発音	アルファベットの発音の復習 ドイツ語の単語の発音の仕方を、母音・子音と順を追って説明しながら、発音練習をする。	
		この回の到達目標	発音の習得。	
		事前学修	CDでアルファベット、単語の発音を聞いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて復習する。	30分
3	4/21	規則動詞	動詞の現在人称変化（1）（規則動詞）	
		この回の到達目標	規則動詞の人称変化の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 1（第1課）の解説箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
4	4/28	sein・haben	動詞sein・haben現在人称変化（不規則動詞） 語順 Lektion 1 Dialog	
		この回の到達目標	sein・habenの理解と習得。	
		事前学修	前回の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
5	5/5	名詞	名詞の性と格変化 定冠詞と不定冠詞の格変化	
		この回の到達目標	名詞の性と格の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 2の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
6	5/12	不規則動詞	疑問代名詞 並列の接続詞 Lektion 2のDialog Lektion 3 動詞の人称変化（2）（不規則動詞）	
		この回の到達目標	不規則動詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 2の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	不規則動詞の人称変化と命令形	動詞の人称変化（２）（不規則動詞） 命令形	
		この回の到達目標	不規則動詞の人称変化と命令形の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 3 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
8	5/26	人称代名詞と複数形	人称代名詞3格と4格 非人称のes Lektion 3 のDialog 名詞の複数形	
		この回の到達目標	人称代名詞と複数形の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 3 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
9	6/2	定冠詞と不定冠詞	定冠詞類・不定冠詞類の格変化 keinとnichtの使い方 Lektion 4 のDialog	
		この回の到達目標	定冠詞と不定冠詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 4 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
10	6/9	前置詞	前置詞の格支配	
		この回の到達目標	前置詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 5 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
11	6/16	前置詞	前置詞と定冠詞の融合形 Lektion 5 のDialog	
		この回の到達目標	前置詞と定冠詞の融合形の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 5 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
12	6/23	話法の助動詞	話法の助動詞の現在人称変化 未来形	
		この回の到達目標	話法の助動詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 6 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	従属の接続詞	話法の助動詞の復習 従属の接続詞と副文	
		この回の到達目標	従属の接続詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 6 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
14	7/7	前期内容の復習	時刻の表現 Lektion 6 のDialog 前期の内容についての復習	
		この回の到達目標	前期範囲の習得	
		事前学修	Lektion 6 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、試験に備え十分勉強する。	120分
15	7/14	試験と反省	授業内試験 試験終了後試験内容について解説する	
		この回の到達目標	試験と反省。	
		事前学修	前学期学習した内容を十分復習する。	120分
		事後学修	試験の出来、不出来をチェックし、反省点を出す。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	安藤 勉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
ごくやさしく煩雑ではない教科書を用い、辞書の引き方も学びながら、授業を進めます。授業の冒頭で必ず前回の復習をします。第14回目に試験と解説をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第1回目から演習の形式で授業をすすめます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業でフィードバックをします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ご存じですかドイツ？ [情報からドイツ]		朝日出版社	2003		
備考	間違いがないように、最初の授業時間の中で、教科書・辞書について詳しく説明します。				

【オフィスアワー】
水曜16:10～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	教材の作成など。
実務経験に基づく実践的教育の内容		教材の作成などに基づく授業。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	ガイダンス。	ガイダンス。授業の進め方・成績評価などの説明。	
		この回の到達目標	授業の進め方。	
		事前学修	シラバスと教科書を読み、講義の全体を概観してください。(30分)	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをしてください。(30分)	30分
2	4月15日	はじめてのドイツ語。	ドイツ語という言葉。	
		この回の到達目標	ドイツ語に接する。	
		事前学修	教科書の目次とアルファベットを見てきてください。(30分)	30分
		事後学修	教科書とノートに沿って復習してください。(30分)	30分
3	4月22日	アルファベット。	文字と発音（1）	
		この回の到達目標	アルファベットを学ぶ。	
		事前学修	ドイツ語の文字について教科書で予習してください。	30分
		事後学修	文字と発音を復習してください。とくに英語にはない4文字について。	30分
4	4月29日	アルファベット。	文字と発音（2）。	
		この回の到達目標	アルファベットを学ぶ。	
		事前学修	前回の文字と発音を確認してください。	30分
		事後学修	文字と発音を復習してください。	30分
5	5月6日	動詞の変化。	Lektion1 動詞の変化（1）。	
		この回の到達目標	動詞の人称変化を学ぶ。	
		事前学修	動詞の人称変化について4ページを予習してください。	30分
		事後学修	ドイツ語の動詞は英語とは異なり語尾などが変化します。その変化を復習してください。動詞はとくに重要です。	30分
6	5月13日	動詞の変化。	Lektion1 動詞の変化（2）。	
		この回の到達目標	動詞の人称変化を学ぶ。	
		事前学修	前回の動詞の変化について確認してください。	30分
		事後学修	動詞の変化を復習してください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	名詞と冠詞の性と格。	Lektion2 名詞と冠詞。	
		この回の到達目標	名詞と冠詞の性と格を学ぶ。	
		事前学修	名詞の性と冠詞について、8ページを予習してください。	30分
		事後学修	名詞と冠詞の変化について復習してください。名詞も冠詞も語尾などが変化します。	30分
8	5月27日	冠詞類の変化。	Lektion3 冠詞類。	
		この回の到達目標	冠詞類の変化を学ぶ。	
		事前学修	冠詞類について、12ページを予習してください。	30分
		事後学修	冠詞類の変化について復習してください。	30分
9	6月3日	前置詞の格支配。	Lektion4 前置詞の格支配。	
		この回の到達目標	前置詞の格支配について学ぶ。	
		事前学修	前置詞について、16ページを予習してください。	30分
		事後学修	前置詞について復習してください。	30分
10	6月10日	形容詞の語尾変化。	Lektion5 形容詞。	
		この回の到達目標	形容詞の語尾変化を学ぶ。	
		事前学修	形容詞の語尾変化について、20ページを予習してください。	30分
		事後学修	形容詞の語尾変化について復習してください。	30分
11	6月17日	形容詞の比較級と最高級。	Lektion6 形容詞の比較。	
		この回の到達目標	形容詞の比較級と最高級を学ぶ。	
		事前学修	形容詞の比較について、24ページを予習してください。	30分
		事後学修	形容詞の比較について復習してください。	30分
12	6月24日	動詞の3基本形。	Lektion7 動詞の3基本形と過去。	
		この回の到達目標	動詞の過去形と過去分詞を学ぶ。	
		事前学修	動詞の3基本形について、28ページを予習してください。(30分)	30分
		事後学修	動詞の3基本形と完了について復習をしてください。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	総復習とまとめ。	期末試験に備えての総復習。	
		この回の到達目標	前期の総復習とまとめ。	
		事前学修	期末試験に備えて疑問点を洗い出してください。	60分
		事後学修	第1回目からの授業の総復習をして、試験に備えてください。	60分
14	7月8日	試験、総復習。	試験、解説	
		この回の到達目標	試験、総復習。	
		事前学修	試験のための復習をしてください。	60分
		事後学修	試験を振り返り、理解が十分ではなかった点について、教科書で確認してください。	60分
15	7月15日	試験、総復習。	試験、前期の学習範囲の総復習。	
		この回の到達目標	試験、総復習。	
		事前学修	もう一度、前期の問題点を確認してください。	60分
		事後学修	前期のまとめをしてください。	60分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、文章講読、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
身につくドイツ語・初級（改訂新版）	前田良三・高木葉子	郁文堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口に申し出て、声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	年間講義計画・成績評価方法・文字と発音のしくみ	授業方針を説明する。 すぐに文字、発音の訓練に入る。	
		この回の到達目標	授業と教科書の趣旨を理解する。 ドイツ語の文字と響きを体験する。	
		事前学修	ドイツやドイツ語について、図書館や電子媒体等を利用してまとめる。	30分
		事後学修	ドイツ語学習を、この半年の学生生活に位置付けてみる。	30分
2	水4/15	発音訓練	教科書の例に従い、発音と綴りを確認する。	
		この回の到達目標	ドイツ語特有の発音と綴り字規則を知る。	
		事前学修	教科書添付のCDを聴き、ドイツ語の音声に親しむ。	30分
		事後学修	発音の要点を確認する。重要項目を声に出し、綴り字を書いてみる。	30分
3	水4/22	動詞の現在人称変化	人称変化の仕組みと規則を知り、いくつかの動詞で練習する。	
		この回の到達目標	規則変化の代表例を覚えてしまうことが望ましい。	
		事前学修	教科書の説明を読み、英語との違いを知る。	30分
		事後学修	ドイツ語の人称変化の基本であるからよく練習をする。	30分
4	水4/29	定動詞の位置と枠構造	いくつかの例文を見て、その構造を理解する。 自分でもドイツ文を作ってみる。	
		この回の到達目標	基本的なドイツ文の仕組みを理解できる。	
		事前学修	英語の文の種類、それぞれの文における動詞の位置をまとめる。 そこで使われている文法用語も確認する。	30分
		事後学修	練習問題で、ドイツ語の語順になじむ。	30分
5	水5/6	名詞の性と格変化	最初は表で変化を知る。 文の中で冠詞や名詞がどう変わるかを学ぶ。	
		この回の到達目標	練習を通じてまずは定冠詞の変化が頭の中に残るようにする。	
		事前学修	教科書の説明を読み、英語と比較してみる。	30分
		事後学修	名詞、冠詞の性、数、格について復習する。 教科書の例をCDで聴く。	30分
6	水5/13	名詞の複数形・定冠詞類と不定冠詞類	冠詞の変化の復習をする。 その応用、発展として複数形、冠詞類を学ぶ。	
		この回の到達目標	冠詞、冠詞類の変化を定着させる。	
		事前学修	英語の複数形をまとめる。	30分
		事後学修	冠詞、冠詞類の変化を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水5/20	動詞の不規則変化	規則変化の復習をする。 その応用、発展として不規則変化の代表例を学ぶ。	
		この回の到達目標	動詞の人称変化により親しむ。	
		事前学修	第3回動詞の現在人称変化を復習する。	30分
		事後学修	代表例の人称変化を復習する。	30分
8	水5/27	人称代名詞の格変化	人称代名詞の主格を確認する。 格変化、指示関係に注目しながら文章練習をする。	
		この回の到達目標	練習を通じて人称代名詞の変化を定着する。	
		事前学修	英語の人称代名詞の使い方をまとめる。	30分
		事後学修	人称代名詞の格変化を覚える。英語の用法との違いを確認する。	30分
9	水6/3	前置詞	主な前置詞の用例を読む。 格支配について学ぶ。	
		この回の到達目標	代表的な用例を文章で理解する。	
		事前学修	冠詞、名詞、代名詞の格変化を復習する。	30分
		事後学修	具体的な用例の復習をし、ドイツ語の前置詞を理解する。	30分
10	水6/10	話法の助動詞	助動詞構文を知る。 それぞれの助動詞の用法を例文で理解する。	
		この回の到達目標	枠構造を理解する。 助動詞の人称変化ができる。	
		事前学修	ドイツ語と英語の助動詞を対応させてみる。	30分
		事後学修	助動詞の人称変化を復習する。 例文で、助動詞、本動詞の語順を理解する。	30分
11	水6/17	形容詞の格変化	冠詞の変化を復習する。 形容詞の格変化を練習する。	
		この回の到達目標	形容詞の格変化の仕組みを理解する。	
		事前学修	第5回の定冠詞、不定冠詞と名詞の格変化を復習する。	30分
		事後学修	変化についての基本的考え方を理解した上で徐々に覚えていく。	30分
12	水6/24	動詞の三基本形	動詞の三基本形の種類を知る。 辞書や不規則動詞変化表の見方を確認する。	
		この回の到達目標	主な動詞の三基本形を作ることができる。	
		事前学修	英語の動詞の三基本形を振り返ってみる。	30分
		事後学修	先ず規則変化を確実に身につける。不規則変化は重要動詞から徐々に覚えていく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水7/1	過去人称変化	現在人称変化の復習をする。 過去形を使っている文を読み取る。	
		この回の到達目標	文の現在と過去の時称動詞から読み取ることができる。	
		事前学修	第3回の現在人称変化を復習する。	30分
		事後学修	例文、練習問題を読み直し、過去時制の判断が可能になっているか確認する。	30分
14	水7/8	前期まとめ	文法事項を中心に前期の勉強を整理する。 質問を受けて補足説明する。	
		この回の到達目標	前期の復習をし、理解が不足している部分を確認する。	
		事前学修	前期の学習をまとめてみる。	30分
		事後学修	重要項目を再度確認する。	30分
15	水7/15	試験	試験をして解説、講評を行う。	
		この回の到達目標	前期の成果を明らかにし、後期の学習で留意すべき点を考える。	
		事前学修	重要項目をまとめ、理解を確認する。	30分
		事後学修	試験を点検し、後期の学習を展望する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法A・B（ドイツ語Ⅱ）も併せて履修すること。独和辞書必携。予習は必須。12月にドイツ語検定4級を受験すること。

【授業方法】
発音練習、基本文法の確認、辞書を使いながらのテキスト講読、簡単な表現練習を総合的に修得する。確認小テスト・単語テストを適宜実施する。小テストで出来なかった箇所はしっかり復習すること。独和辞書を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題は返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子	朝日出版社	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
授業（火曜5限もしくは木曜2限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。h.kawakami18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	ガイダンス：ドイツ語圏の国々について	ドイツ語とドイツ語圏の国々、授業の進め方・成績評価の方法・検定試験・辞書について説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語を話す国や地域についてを理解し、説明することができる。授業の全体的な方針を理解することができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読んでおくこと。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。教科書、辞書の準備をする。	30分
2	第一部 木4/16	ドイツ語のつづり字と母音の発音	ドイツ語の母音のつづり字と発音の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、アルファベート、発音の規則、母音の読み方を理解し、教科書の単語を発音することができる。	
		事前学修	ドイツ語のアルファベートと英語のアルファベットの違いを確認してくる。	30分
		事後学修	アルファベート、単語のアクセント位置、母音のつづり字の発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
3	第一部 木4/23	ドイツ語のつづり字と子音の発音	ドイツ語の子音つづり字と発音の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、子音の読み方を理解し、教科書の単語と挨拶表現を発音することができる。	
		事前学修	ローマ字読みで読める単語を読む練習をしてくる。	30分
		事後学修	子音のつづり字の発音、挨拶表現、単語をの発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
4	第一部 木4/30	動詞〔規則動詞〕の変化	Lektion 1 動詞〔規則動詞〕の変化について学習する。動詞の辞書の引き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主語になる代名詞、動詞の変化、動詞の辞書の引き方について理解し、簡単な文を作ることができる。	
		事前学修	教科書の単語を読む練習をしてくる。	30分
		事後学修	主語になる代名詞と動詞の変化と位置を復習し、確実に覚えること。	30分
5	第一部 木5/7	動詞の位置	平叙文・疑問文の動詞の位置、重要動詞の現在人称変化、疑問詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平叙文・疑問文の動詞の位置について理解し、簡単な文を作ることができる。	
		事前学修	seinとhabenの変化と疑問詞を発音練習をしてくる。	30分
		事後学修	seinとhabenの変化と疑問詞を復習し、確実に覚えること。	30分
6	第一部 木5/14	自己紹介―はじめまして―：講読	会話文を音読し、訳を行う。自己紹介の表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の変化について理解し、学習した単語を用いて自分について表現することができる。	
		事前学修	会話文を音読練習をしておく。	30分
		事後学修	重要表現練習を復習し、需要動詞を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	名詞の性・数・格	Lektion 2 名詞の〔性・数・格〕、定冠詞、不定冠詞、疑問代名詞について学習する。格の用法、名詞の辞書の引き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、格の用法、名詞の辞書の引き方、疑問代名詞について理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話文の名詞を辞書で調べてくること。ドイツ語の名詞と英語の名詞の違いを確認してくる。	30分
		事後学修	定冠詞、不定冠詞の格変化を確実に覚えること。格の用法について復習してくる。	30分
8	第一部 木5/28	職業は何ですか：講読	会話文を音読し、訳を行う。職業と専攻名を表現する練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問詞を使った疑問文について理解し、学習した単語を用いて自分について表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくる。	30分
		事後学修	テキストの重要表現と単語を復習すること。	30分
9	第一部 木6/4	不規則動詞の変化、命令形	Lektion 3 動詞〔不規則動詞〕の変化、命令形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不規則動詞の変化、命令形について理解し、学習した単語を用いて自分の好きなことと表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくる。	30分
		事後学修	不規則動詞の変化を確実に覚えること。命令形を復習すること。	30分
10	第一部 木6/11	趣味は何？：講読	会話文の発音練習と訳を行う。重要表現練習を行う。代名詞の変化、非人称のesについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人称代名詞の変化、非人称表現について理解し、学習した単語を用いて自分の趣味について表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくる。	30分
		事後学修	代名詞の変化を確実に覚えること。非人称のesを使った表現を復習すること。	30分
11	第一部 木6/18	様々な冠詞類について	Lektion 4 定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞の使い方、否定文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞類、所有冠詞、否定冠詞の使い方を理解し、冠詞類を用いた文を作ることができる。	
		事前学修	名詞を辞書で調べて、複数形を調べてくる。	30分
		事後学修	所有冠詞を確実に覚えること。	30分
12	第一部 木6/25	パン屋で買い物：講読	会話文の発音練習と訳を行う。買い物の時の表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、否定文の作り方と疑問文の答え方について理解し、買い物で使う基本表現を使いこなせることができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくる。	30分
		事後学修	重要表現を復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	Deutsches Brot:講読	テキストP81 の発音練習と訳を行う。重要表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、冠詞の種類と格変化を確認しながら、テキストを訳することができる。	
		事前学修	テキストの発音練習をしてくること。冠詞の種類と格変化を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。	30分
		事後学修	テキストの重要表現と単語を復習すること。	30分
14	第一部 木7/9	重要表現の復習	練習プリントで、前期学習した文法事項の問題を練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期学習した文法事項の問題を解答できる。	
		事前学修	前期学習した文法と重要表現を復習してくる。	40分
		事後学修	出来なかった箇所を復習する。重要表現と単語を覚える。	40分
15	第一部 木7/16	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 前期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の変化、名詞と冠詞類と代名詞の変化について説明し、自分や身近な人について学習した単語を用いて表現することができる。	
		事前学修	今までの重要表現練習と重要単語を総復習する。	50分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜３・４・５限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス、導入授業	年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	ドイツと言えは何を連想するか考えておくこと。	30分
		事後学修	授業で触れた事柄をまとめておくこと。	30分
2	4/17	発音	ドイツ語のアルファベットと単語の発音	
		この回の到達目標	アルファベットを覚え、単語の発音の仕方を理解する。	
		事前学修	テキストのvi頁からx頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。	30分
3	4/24	規則動詞	規則動詞の現在人称変化の構造	
		この回の到達目標	規則動詞の現在人称変化の仕方を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキストのxi頁から6頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	5/1	冠詞と名詞	冠詞と名詞の構造と用法	
		この回の到達目標	冠詞と名詞の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキストの7頁の設問に回答し、8頁を訳出しておくこと。また9頁から13頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	5/8	不規則動詞と命令形	不規則動詞と命令形の形態と用法	
		この回の到達目標	不規則動詞の形態と命令形の形態と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト14頁の設問に回答し、15頁を訳出しておくこと。またテキスト16頁から19頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	5/15	冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の用法	
		この回の到達目標	定冠詞類と不定冠詞類の用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト20頁の設問に回答し、21頁を訳出しておくこと。またテキスト22頁から25頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	前置詞	前置詞の用法と格支配	
		この回の到達目標	前置詞の用法と格支配を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト26頁の設問に回答し、27頁を訳出しておくこと。またテキスト28頁から32頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	5/29	副文	副文の構造と用法	
		この回の到達目標	副文の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト32頁から34頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	6/5	話法の助動詞	話法の助動詞の形態と用法	
		この回の到達目標	話法の助動詞の形態と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト35頁の設問に回答し、36頁を訳出しておくこと。またテキスト37頁から39頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	6/12	複合動詞	複合動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	複合動詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト40頁の設問に回答し、41頁を訳出しておくこと。またテキスト42頁から44頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	6/19	再帰動詞と非人称動詞	再帰動詞と非人称動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	再帰動詞と非人称動詞の用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト44頁から46頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	6/26	形容詞	形容詞の構造と用法	
		この回の到達目標	形容詞の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト47頁の設問に回答し、48頁を訳出しておくこと。またテキスト49頁から53頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	動詞の 3 基本形	動詞の 3 基本形の構造	
		この回の到達目標	動詞の 3 基本形の構造を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト57頁から60頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
14	7/10	映像教材によるドイツの文化	ドイツの文化を扱った映像教材の視聴	
		この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想を書くためのメモをとる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、十分に理解できていない点があれば質問できるように準備すること。	30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	7/17	振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだったりした点を再確認すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
秋期ドイツ語技能検定試験4級を受験すること。

【授業方法】
2時間に1課のペースで進んでいきますが、最初の1時間を文法の説明に、次の1時間を読章と練習問題に当てます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『希望のドイツ語』	小塩 節	朝日出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日8:50～10:40 月曜日2:30～4:10

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月4/6土 4/4	ガイダンス アルファベート	授業の進め方、辞書の選び方について説明する。ドイツ語やドイツ語圏についておおまかなアウトラインを理解する。アルファベートの発音を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、アルファベートを正しく発音できる。	
		事前学修	添付CDのアルファベートをよく聞いておくこと。	30分
		事後学修	アルファベートを暗記して発音できるようにすること。	30分
2	月4/13土 4/11	ドイツ語の発音	特に英語と発音が異なる子音に注意して単語の発音を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、簡単な挨拶を発音できる。	
		事前学修	教科書2, 3ページの単語をCDを聞きながら発音してみること。	30分
		事後学修	ローマ字読みできない複母音を特に練習すること。	30分
3	月4/20土 4/18	第1課 動詞の人称変化および語順について	平叙文では主語がつねに文頭に来るわけではないことを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、決定疑問文・疑問詞疑問文を作ることができる。	
		事前学修	教科書4ページのテキストを音読しておくこと。	30分
		事後学修	教科書6ページの練習問題で動詞の人称変化に習熟すること。	30分
4	月4/27土 4/25	第1課 読章 「私たちはドイツ語を学ぶ」	定動詞の位置に注意しつつテキストを読み、ドイツ語の語順に習熟する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、簡単な自己紹介ができる。また、相手に尋ねることができる。	
		事前学修	教科書4ページを定動詞の位置に注意しながら予習してくること。	30分
		事後学修	【事後学習】不定代名詞manの用法を復習すること。	30分
5	月5/4土 5/2	第2課 名詞の姓・格、冠詞の変化、複数形	名詞には男性・女性・中性と3つの性があり、役割に応じて格変化することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、「Was (Wer) ist ～ ? Das ist ～ .」の構文を使い、人や物を紹介できる。	
		事前学修	教科書8ページのテキストを音読しておくこと。	30分
		事後学修	【事後学習】教科書10ページの練習問題で動詞の人称変化を復習しておくこと。	30分
6	月5/11土 5/9	第2課 読章 「朝食」	不規則動詞の辞書での調べ方を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の格の意味を理解し、格変化できる。	
		事前学修	教科書8ページを予習してくること。名詞は意味だけでなく性別も調べておくこと。	30分
		事後学修	定冠詞・不定冠詞の使い分けを整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月5/18土 5/16	第3課 冠詞類、人称代名詞の格変化	定冠詞類・不定冠詞類の意味および語尾変化を学修する。welcherの用法に習熟する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、任意の名詞を受ける際に正しい人称代名詞を選ぶことができる。	
		事前学修	格の概念について整理しておくこと。	30分
		事後学修	教科書10ページの練習問題で冠詞類の変化に慣れておくこと。	30分
8	月5/25土 5/23	第3課 読章 「労働時間」	変則的な語尾変化の動詞を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、否定詞 nicht と kein を使い分けることができる。	
		事前学修	教科書12ページを予習してくる。名詞は性・数・格も調べておくこと。	30分
		事後学修	動詞が特定の格の目的語をとることを理解する。	30分
9	月6/1土 5/30	第4課 前置詞、命令法	前置詞は4種類あり、それぞれ特定の格を支配することを学修する。命令形は相手に応じて3種類の使い分けがあることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを理解し、適切に使うことができる。	
		事前学修	2、3課の冠詞類の格変化を今一度確認しておくこと。	30分
		事後学修	教科書19ページの練習問題で命令法に慣れること。	30分
10	月6/8土 6/6	第4課 読章 「ドイツー森の国」	前置詞の多様な意味を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の不定詞句から3種類の命令文を作ることができる。	
		事前学修	教科書16ページを予習してくる。3・4格支配の前置詞の場合は、名詞が何格なのかを意識すること。	30分
		事後学修	3・4格支配の前置詞の3、4格の使い分けを復習しておくこと。	30分
11	月6/15土 6/13	第5課 形容詞の用法、付加語 語形容詞の語尾変化 小テスト（1）	名詞を修飾する場合、形容詞には述語的、付加語的という2つの用法があることを学修する。また、形容詞は副詞としても使われることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、述語的用法と付加語的用法の違いを理解する。よく使われる形容詞を用いて、人や事物の性質・状態を説明できる。	
		事前学修	形容詞の語尾変化表と2、3課の格変化表を見比べておくこと。	30分
		事後学修	教科書22ページの練習問題を解いておくこと。	30分
12	月6/22土 6/20	第5課 読章 「菩提樹」	名詞の複数形や付加語形容詞等の辞書の引き方に習熟する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、付加語形容詞に適切な語尾を付けることができる。	
		事前学修	教科書20ページを予習してくる。付加語形容詞や名詞の複数形はそのままでは辞書に載っていないので、語尾をとって調べる。	30分
		事後学修	名詞の複数形から単数形を導き出すことに慣れておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月6/29土 6/27	第6課 形容詞の名詞化、形容詞の比較変化	形容詞を名詞化する方法とその用法、特に多用される中性名詞化について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、比較の構文を使い簡単な作文ができる。	
		事前学修	付加語形容詞の語尾変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	教科書26ページの練習問題を解いておくこと。比較の種々の用法を整理しておくこと。	30分
14	月7/6土 7/4	第6課 読章「整頓好き」	比較の様々な用法について学修する。基数詞を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基数詞を使い簡単な計算ができる。	
		事前学修	教科書24ページを予習してくる。形容詞の比較級・最上級が付加語で使われるときは語尾が2種類付くので注意すること。	30分
		事後学修	基数詞の発音、つづりを練習しておくこと。	30分
15	月7/13土 7/11	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、基本的な表現を聞き取ったり、こちらから発信したり、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。	
		事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと	30分
		事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A(水曜5時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
月曜5限の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎文法」(旧「ドイツ語Ⅱ」)と同時に履修すること。受講の際には、私の授業に登録すること(渡辺先生の授業にも自動登録される)。授業の進度が早いため、その覚悟で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワーク等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゲナウ！レーゼン	新倉真矢子ほか	第三書房	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義、 アルファペート	今後の学習についての概要を説明する。アルファペートを練習する。	
		この回の 到達目標	達成目標①に関連して、アルファペートを身につけることができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書を購入した人はひととおりの目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第2回の授業までに教科書を準備しておくこと。教科書にひととおりの目を通しておくこと。	30分
2	4/15	挨拶表現、発音、数詞	簡単な挨拶表現を説明する。数字についても、きちんと読めて覚えることを目指す。	
		この回の 到達目標	達成目標①④に関連して、基本的に挨拶と数字を言うことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	教科書を持参して授業に参加すること。学習事項を前もって少し予習しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
3	4/22	動詞の現在人称変化・語 順、自己紹介①	動詞の現在人称変化・語順について解説する。自己紹介の基本的な表現を説明する。	
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の現在人称変化や語順を説明することができる。関連する問題を解くことができる。自己紹介をすることができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
4	4/29	自己紹介②、動詞の現在人 称変化・並列の接続詞	自己紹介の基本的な表現を使って練習する。動詞の現在人称変化・並列の接続詞について解説する。	
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の現在人称変化や並列の接続詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。自己紹介をすることができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
5	5/6	数詞・ドイツの国々	数詞を改めて練習する。ドイツの国々に関するテキストを読む。	
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、数詞を言うことができる。関連する問題を解くことができる。ドイツの国々に関するドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
6	5/13	定冠詞・不定冠詞・否定冠 詞、広告①	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞について解説する。ドイツの広告に関する表現を説明する。	
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞を説明することができる。ドイツの広告に関するドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	広告②、名詞の複数形、人称代名詞	ドイツの広告に関するテキストを読む。名詞の複数形、人称代名詞について解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、名詞の複数形と人称代名詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。ドイツの広告に関するドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
8	5/27	ドイツ語圏の食べ物・飲み物	ドイツ語圏の食べ物・飲み物に関する表現を練習する。関連するテキストを読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語圏の食べ物や飲み物に関する表現を学び、それをテーマにしたドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
9	6/3	不定冠詞類・定冠詞類、家族と職業①	不定冠詞類・定冠詞類について解説する。家族と職業に関する表現を練習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、定冠詞類と不定冠詞類を説明することができる。関連する問題を解くことができる。家族と職業に関する表現を言うことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
10	6/10	家族と職業②	家族と職業に関するテキストを読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、家族と職業に関する表現を学び、それをテーマにしたドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
11	6/17	動詞の人称変化・命令形、余暇活動①	動詞の人称変化・命令形について解説する。余暇活動に関する表現を覚える。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の人称変化と命令形を説明することができる。関連する問題を解くことができる。家族と職業に関する表現を言うことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
12	6/24	独検模試(5級)の実施と解説	独検5級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	余暇活動②	余暇活動に関するテキストを読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、余暇活動に関する表現を学び、それをテーマにしたドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
14	7/8	理解度の確認、前期の学習内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、筆記試験を解くことができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	7/15	前期の復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検4級受験のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項についてあらためて全体像を見直し、弱点を把握しその対策を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A(水曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
・1年生は、今年度のうちに、「ドイツ語基礎文法」も履修すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則として、この授業はドイツ語基礎表現Bと通年で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
イン・ドイチュラントドイツ語インフォメーション 映像付-	秋田静雄ほか	朝日出版社	2016年	教科書	必携
新・独検合格単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010年	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義、アルファベート	今後の学習についての概要を説明する。アルファベートを練習する。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、アルファベートを身につけることができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書を購入した人はひととおりを通しておくこと。	30分
		事後学修	第2回の授業までに教科書を準備し、教科書の全体に目を通しておくこと。	30分
2	4/15	つづりと発音、第0課 ドイツ語のあいさつ、数詞①	簡単な挨拶表現を説明する。数字についても、きちんと読めて覚えることを目指す。	
		この回の到達目標	達成目標①④に関連して、基本的に挨拶と数字を言うことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	教科書を準備して授業に参加すること。アルファベートが言えるように、音声教材を活用して練習してくること。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
3	4/22	第1課 導入の会話、人称代名詞、動詞の現在人称変化、数詞②	導入の会話を通して、人称代名詞、さらに動詞の人称変化について学習する。数字も引き続き言えるものを増やしてゆく。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、人称代名詞、動詞の人称変化を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
4	4/29	第1課 sein、疑問詞、数詞③	英語のbe動詞に相当する動詞seinの人称変化を解説し、関連する練習問題を解く。引き続き、数字も練習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞seinの人称変化を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
5	5/6	第2課 導入の会話、haben、名詞の性、数詞④⑤⑥⑦	動詞habenの人称変化を解説し、関連する練習問題を解く。引き続き、数字も練習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞habenの人称変化を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
6	5/13	第2課 語順、決定疑問文と答え方、数詞の復習	ドイツ語の語順に関する法則と疑問文の作り方について解説し、関連する練習問題を解く。数字も、100まで言えるようにする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語の語順に関する法則と疑問文の作り方を説明することができる。数字を100まで言うことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	第3課 導入の会話、定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形	定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
8	5/27	第3課 数詞、並列の接続詞、第4課 導入の会話	数詞、並列の接続詞について解説し、関連する練習問題を解く。4課の導入の会話を通じて、次の授業のポイントを説明する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、数詞、並列の接続詞を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
9	6/3	第4課 不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞	不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
10	6/10	第5課 導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(1)、名詞の3格、人を表す疑問代名詞	不規則変化動詞、3格の用例、疑問代名詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞、3格の用例、疑問代名詞を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
11	6/17	独検(5級) 説 模試の実施と解	独検5級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
12	6/24	第6課 導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(2)、人称代名詞、非人称のes	導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(2)、人称代名詞、非人称のesについて解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在人称変化の不規則な動詞、人称代名詞、非人称のesについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	これまでの復習	次回の試験に向けて、前期の学習内容を一通り復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点を把握してその対策を説明することができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
14	7/8	理解度の確認、前期の学習内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、筆記試験を解くことができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	7/15	前期の内容の総復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検4級受験のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項についてあらためて全体像を見直し、弱点を把握しその対策を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習を復習すること。	30分
		事後学修	理解が十分でなかったところを中心に、復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
月曜4時限目ドイツ語基礎文法A(真道)を同時に受講すること。授業に積極的に参加すること。月曜4時限目ドイツ語基礎文法A(真道)に登録すると、自動的に本授業に登録されます。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ペア・ワーク、グループワーク形式で実践的なトレーニングをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で課題ごとに随時フィードバックを行います。試験については後日ポータルで講評します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書については、初回授業で説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定試験の国際ライセンスの知識と技能を生かして、実践的かつ効果的にA1からA2のドイツ語能力を養成します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能について、検定試験についての説明 教材についての説明	
		この回の到達目標	学修目標について説明することができる。	
		事前学修	シラバス確認	30分
		事後学修	教材準備	30分
2	4/16	Start auf Deutsch	ドイツ語と英語の類似点から類推する コンテキストで意味を類推する	
		この回の到達目標	ドイツ語と英語の類似点からドイツ語の単語の意味を類推することができる。 コンテキストで意味を類推することができる。(SB0s①②)	
		事前学修	CD確認 アルファベート予習	30分
		事後学修	アルファベート・発音復習 -語彙習得	30分
3	4/23	Lektion 1 Café d1	カフェでの会話	
		この回の到達目標	カフェでの会話を聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	文法事項・表現確認	30分
		事後学修	Lektion 1練習問題・語彙習得	30分
4	4/30	Lektion 2 Sprachkurs 1	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現 1	
		この回の到達目標	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備	30分
		事後学修	Lektion 2 練習問題・語彙習得	30分
5	5/7	Lektion 2 Im Sprachkurs 2	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現2	
		この回の到達目標	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	会話練習	30分
		事後学修	Lektion 2 練習問題・語彙習得	30分
6	5/14	Lektion 3 Städte - Länder - Sprachen 1	街・国・言語についての表現 1	
		この回の到達目標	街・国・言語についての表現理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 3 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	Lektion 3 Städte- Länder- Sprachen 2	街・国・言語についての表現 2	
		この回の到達目標	街・国・言語についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 3 練習問題・語彙習得	30分
8	5/28	Lektion 4 Menschen und Häuser 1	人と住まいについての表現 1	
		この回の到達目標	人と住まいについての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 4 練習問題・語彙習得	30分
9	6/4	Lektion 4 Menschen und Häuser 2	人と住まいについての表現 2	
		この回の到達目標	人と住まいについての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 4 練習問題・語彙習得	30分
10	6/11	Lektion 5 Termine 1	アポイントメントについての表現 1	
		この回の到達目標	アポイントメントについての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 5 練習問題・語彙習得	30分
11	6/18	Lektion 5 Termine 2	アポイントメントについての表現 2	
		この回の到達目標	アポイントメントについての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 5 練習問題・語彙習得	30分
12	6/25	6 Orientierung 1	道案内についての表現 1	
		この回の到達目標	道案内についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	6 Orientierung 2	道案内についての表現 2	
		この回の到達目標	道案内についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題・語彙習得	30分
14	7/9	筆記試験	A1レベルの試験	
		この回の到達目標	これまで学んだ3技能を場面に合わせて運用できる。	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分
15	7/16	口述試験	A1レベルの試験	
		この回の到達目標	これまで学んできた会話の技能を場面に合わせて運用できる。	
		事前学修	試験準備	60分
		事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習(練習問題)をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験終了後に解説、あるいは教科書の該当ページを指示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
やさしいドイツ語入門	増本浩子	白水社	2014	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業時間（木曜１・２・４・５限）後の休み時間、講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	【ガイダンス】【ドイツ語の全体像】	前期ガイダンス 文字と発音	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の準備段階であり、文字（綴り）と発音（発音記号）との関係性を理解する。	
		事前学修	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、ドイツ語圏への関心を高める。（30分）	30分
		事後学修	文字と発音の復習（30分）	30分
2	第一部 木4/16	【現在人称変化】	人称代名詞 動詞の現在人称変化（規則変化） 前回授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、まず動詞の現在人称変化を学ぶが、その前提として1格の人称代名詞も使えるようになる。	
		事前学修	CD・ネット等でドイツ語の発音を聞いてみる。（10分）	10分
		事後学修	前回の授業で学習した単語・例文の暗記（50分）	50分
3	第一部 木4/23	【疑問文】	ja / nein で答える疑問文 疑問詞を使った疑問文 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、文の基本構造と語順を理解する。	
		事前学修	授業1回目～2回目の復習（15分）	15分
		事後学修	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
4	第一部 木4/30	【否定文】【不規則変化動詞】	nicht を使った否定文 動詞の現在人称変化（不規則変化） 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、nicht の基本的な使い方を理解する。また、不規則変化動詞の現在人称変化を調べることができるようになる。	
		事前学修	授業1回目～3回目の復習（15分）	15分
		事後学修	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
5	第一部 木5/7	【名詞の性と格】【不定冠詞類】	名詞の性と格 不定冠詞・否定冠詞・所有冠詞の格変化 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、名詞にグループ分けがあることを理解し、不定冠詞（類）の変化を表にすることができる。	
		事前学修	授業1回目～4回目の復習（15分）	15分
		事後学修	5回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
6	第一部 木5/14	【名詞の複数形】【sein と haben】	名詞の複数形 sein と haben の現在人称変化 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、sein と habenの変化を覚え、名詞の複数形の変化を表にすることができる。	
		事前学修	授業1回目～5回目の復習（15分）	15分
		事後学修	6回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	【定冠詞（類）】【所有冠詞】	定冠詞（類）の格変化 mein 以外の所有冠詞 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、定冠詞（類）・不定冠詞（類）の変化を表にすることができる。	
		事前学修	授業 1 回目～6 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	7 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
8	第一部 木5/28	【2 格と 3 格】	「gehören + 3 格」の文型 所有を表す 2 格 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、格の用法（特に、2 格と 3 格）についての基礎知識を得る。	
		事前学修	授業 1 回目～7 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	8 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
9	第一部 木6/4	【前置詞】	前置詞と格 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、前置詞の使い方・格支配を覚える。	
		事前学修	授業 1 回目～8 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	9 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
10	第一部 木6/11	【命令】	命令文 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、いくつかの命令文があることを理解し、代表的な動詞について命令文を作ることができる。	
		事前学修	授業 1 回目～9 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 0 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
11	第一部 木6/18	【人称代名詞の変化】	人称代名詞の 3 格と 4 格 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、人称代名詞の変化を調べることができるようになる。	
		事前学修	授業 1 回目～1 0 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 1 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
12	第一部 木6/25	【非人称】	非人称の es 「es gibt + 4 格」の文型 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、形式上の主語・形式上の目的語などをつかった代表的な文を覚える。	
		事前学修	授業 1 回目～1 1 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 2 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	【話法の助動詞】【3基本形】	話法の助動詞 3基本形入門 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、話法の助動詞を使った文の構造を理解し、いくつかの話法の助動詞を使用することができる。	
		事前学修	授業1回目～12回目の復習（15分）	15分
		事後学修	13回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
14	第一部 木7/9	【試験】【振り返り】	授業内試験。試験の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、授業1回目～13回目の学習事項の達成度を確認する。	
		事前学修	授業1回目～13回目の復習（45分）	45分
		事後学修	自分の苦手な事項の復習（15分）	15分
15	第一部 木7/16	【前回までの学習事項の補足】【試験についての解説】	接続詞と副文 前回までの授業の要点の復習 場合によっては追試験を実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、重要事項の再確認等を行う。到達目標③④に関連し、副文を作ることができるようになる。	
		事前学修	授業1回目～14回目の復習（15分）	15分
		事後学修	確認テストで学習不足の点を重点的に復習（45分）	45分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	富山 典彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語未履修者

【授業方法】
ドイツ語の基本的な文法事項に沿って、必要な語彙や表現を覚えていくことで、「到達目標」に達することを目指す。授業中に、聞き取り練習や発話練習を行うとともに、適宜小テストを実施して、到達度を測定する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループに分かれて、ドイツ語の会話の練習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループに分かれて、ドイツ語の会話の練習をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Bravo! Deutsche Grammatik	富山典彦	郁文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
連絡することがあればメールでしてください。tomiyama@seijo.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	ドイツ語のアルファベット	ドイツ語のアルファベットの発音をします。	
		この回の到達目標	ドイツ語のアルファベットの読み方を覚える。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	発音練習をする。	30分
2	4月17日	ドイツ語の母音と子音	ドイツ語の母音と子音の発音をマスターする。	
		この回の到達目標	ドイツ語の母音子音を正しく発音できるようになる。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	発音練習をする。	30分
3	4月24日	かんたんな挨拶表現	ドイツ語で挨拶ができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	かんたんな挨拶表現を書く練習をする。	30分
4	5月1日	名詞の性と複数形	身近な名詞の性と複数形を覚える。	
		この回の到達目標	身近な名詞の性と複数形を覚える。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	身近な名詞の性と複数形を書く練習をする。	30分
5	5月8日	身近な動詞を覚える(1)	身近な動詞を使った表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	身近な動詞を使った表現を書く練習をする。	30分
6	5月15日	身近な動詞を覚える(2)	身近な動詞を使った表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	身近な動詞を使った表現を書く練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	身近な動詞を覚える(3)	身近な動詞を使った表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	身近な動詞を使った表現を書く練習をする。	30分
8	5月29日	名詞と冠詞の格変化(1)	格変化した名詞と動詞の表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	格変化した名詞と動詞の表現を書く練習をする。	30分
9	6月5日	名詞と冠詞の格変化(2)	格変化した名詞と動詞の表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	格変化した名詞と動詞の表現を書く練習をする。	30分
10	6月12日	命令文	命令したり依頼したりすることができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	命令表現を書く練習をする。	30分
11	6月19日	否定文	相手の問いに否定で答えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	否定文を書く練習をする。	30分
12	6月26日	話法の助動詞	話法の助動詞を用いた表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	話法の助動詞を用いた表現を書く練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	前置詞	前置詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	前置詞を用いた文を書く練習をする。	30分
14	7月10日	再帰表現	再帰表現を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	再帰表現を用いた文を書く練習をする。	30分
15	7月17日	時刻の言い方	時刻の言い方を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	時刻の言い方を書く練習をする。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
CDを用いた演習方式。前もって予習用プリントを配布。常時、教科書と独和辞典を使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して返却、授業内試験については、後日、フィードバックの解説・講評をポータルサイトにより配信。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フィール・シュパース！（4訂版）	橋本政義、ハイク・ピナウ、他	郁文堂	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12時20分～12時50分、授業講堂（前もってアポイントメントを取る）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	【ガイダンス】【発音の基礎】【挨拶の表現】	ガイダンス（授業の進め方、独和辞典等についての説明）、それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。アルファベットと発音の基礎、挨拶表現を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、発音の基礎を理解して、教科書5頁の文章を正しい発音で読み、文を理解することができる。	
		事前学修	シラバスと教科書1頁のアルファベット、第1課「こんにちは」の5頁を読んで準備する。	30分
		事後学修	1頁と5頁の文を音読して、正しい発音を身につける練習をする。	30分
2	第一部 月4/13	【動詞の現在人称変化】	動詞の現在人称変化とその位置の決まりについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、動詞の現在人称変化について理解し、日常生活を表す簡単な文を作ることができる。	
		事前学修	6頁と7頁の問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、教科書にあるwohnen、sein、habenの変化表を暗記する。	30分
3	第一部 月4/20	【自己紹介】	お互いに自己紹介するシーンを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、コミュニケーションの第1歩である挨拶表現を身につけ、相手の言っていることを理解し、自己紹介をすることができる。	
		事前学修	8頁のシーンを読んで準備する。	30分
		事後学修	8ページの挨拶表現を暗記し、自己紹介する文を5文作る。	30分
4	第一部 月4/27	【名詞の性と格】【定冠詞と不定冠詞の違い】	名詞には男性・女性・中性の性別があり、文中での働きによって1・2・3・4格の区別があること、定冠詞と不定冠詞縫について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、格について理解し、文中の名詞の性別と格を指摘し、辞書で引いた名詞にはその性別と格に応じて、正しい冠詞をつけることができる。	
		事前学修	第2課「サッカー・ワールドカップ」の10～11頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
5	第一部 月5/4	【サッカー・ワールドカップ】	まとまった文章中で、動詞と名詞に注目して、文の構造を理解することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、冠詞の用法と名詞の複数形について理解し、それらが用いられている文の解釈をすることができる	
		事前学修	予習プリントを参考に、独和辞典を引いて、9頁の文章を読んで準備する。	35分
		事後学修	9頁の文中で使われている冠詞を指摘し、その格を確認する。10頁と11頁にある定冠詞と不定冠詞の格変化表を暗記する。	25分
6	第一部 月5/11	【郵便局で】	数詞、国名、料金のききかたについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、数字を使って、郵便料金と郵便物を出す宛先の国名を言い、料金を聞き取ることができる。	
		事前学修	12～13頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	数詞を音読し、パートナーを見つけて13頁の会話文を練習する。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	【不規則変化の動詞】【分離動詞】	現在形で不規則に変化する動詞と実際の文章で別れる「分離動詞」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、現在形で不規則に変化する動詞と分離動詞について理解し、それらを辞書で調べることができ、それらを用いた文を作ることができる。	
		事前学修	第3課「ケーキ」の15～16頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。15頁にある不規則動詞の変化を暗記する。	25分
8	第一部 月5/25	【ケーキ】【レストランで注文】	ドイツのカフェやレストラン事情と注文の仕方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツの食文化を理解して説明することができ、カフェやレストランで注文することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、14頁と17頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	パートナーと17頁の会話を練習する。	20分
9	第一部 月6/1	【前置詞】【人称代名詞】	前置詞の意味と「格支配」、人称代名詞の格変化を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、前置詞と人称代名詞について理解し、それらを使って文を作ることができる。	
		事前学修	第4課「パン」の19～20頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。20頁にある人称代名詞の変化表を暗記する。	25分
10	第一部 月6/8	【パンの文化】	ドイツ人の食生活について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツのパンと人々の食生活の関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、18頁と21頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	日本とドイツの食習慣の違いについてまとめる。	20分
11	第一部 月6/15	【さまざまな冠詞】【名詞に付ける形容詞】	定冠詞・不定冠詞以外の冠詞と、名詞に付ける形容詞の語尾について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、いろいろある冠詞類の意味を区別して、使い方を理解し、正しく発音することができる。	
		事前学修	第5課「メーアヒェン」の23頁と24頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。23頁にあるdieserとmeinの変化表を暗記する。	25分
12	第一部 月6/22	【有名なメーアヒェン】【プレゼントへのコメント】	1文が長い場合の文章理解の仕方について、および、自分の意見を表現する方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、相手に意見を求めるコミュニケーションのパターンを身につけて、使うことができる。グリムや童話について理解し、説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、22頁と25頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	グリム兄弟はどういう仕事をしたのかをまとめ、「ホレおばさん」や「ラップンツェル」などの童話のあらすじを調べてみる。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	【話法の助動詞】【形容詞の比較変化】	話法の助動詞の意味と変化と構文について、おろび、形容詞原級・比較級・最上級について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、話法の助動詞構文と形容詞の比較変化について理解し、これらを用いた文を作ることができる。	
		事前学修	第6課「運転に気をつけて！」の27～28頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。27頁の変化表を暗記し、27頁と28頁の例文を音読して、正しい発音を身に付ける。	25分
14	第一部 月7/6	【アオトバーンと教習所】	複合名詞の辞書での調べ方とその発音を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、複合語を正しく発音して意味をつかむことを理解し、アオトバーン事情とドイツでの運転免許証の取り方について説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、26頁と29～30頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	26頁と30頁を音読する。この回のテーマについて、ドイツと日本で違う点をまとめる。	20分
15	第一部 月7/13	【振り返り】【授業内試験】	前学期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の全般に関し、どの程度身についたかを授業内試験によって判断する。	
		事前学修	前学期での学習内容を総復習して、理解してないところはないかどうか確認する。。	120分
		事後学修	授業内試験で正答を出せなかった箇所に関し、教科書やノートを調べて再検討する。	20分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	渡邊 善和	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
学習に当たっては、謙虚に、しかし好奇心旺盛に、しかも自発的にこつこつと学んでいく姿勢を期待する。途中で放棄するような意志薄弱な人は受講を遠慮して欲しい。

【授業方法】
テキストに沿って講義、演習をする。毎回復習を繰り返し、既習内容の定着を図る。DVD、CDなど視聴覚教材を適宜活用する。授業はやみくもに急ぐことなく、解説、指導は丁寧なことを心がける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	前回の授業を振り返り、疑問点を積極的に出させ、まずはそれに他の学生に答えさせる。その後教師のほうで解説する。またドイツに関する興味深い体験があればみんなの前で披露させ、他の受講生の意見を求める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で発表させ解説する。小テストは採点の上、訂正返却する。映画の感想は学生のものにコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベルリンに夢中』	石井学他	同学社	平成31 年度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日（８：３０～８：５０分）また特に要望のある学生にはメールでの質問に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金4/10	ドイツ、ドイツ語とは	授業ガイダンス。また「ドイツ」、「ドイツ語」を概観しておく。	
		この回の到達目標	教員の授業に関する考え方を理解する	
		事前学修	シラバスおよび指定テキストを読み、講義の全体を概観しておく。	30分
		事後学修	この授業の内容を踏まえて、再度上記のテキストを読み直す。	30分
2	金4/17	アルファベット	ドイツ語のアルファベットの学習 ドイツ紹介DVD視聴 1	
		この回の到達目標	学習内容の暗記	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	アルファベットの復習をする。（文字、発音を正確に覚える。また発音は声に出して体にしみこませる。）	30分
3	金4/24	単語のつづりと発音	ドイツ語の単語のつづりと発音 1 ドイツ紹介DVD視聴 2	
		この回の到達目標	綴りと発音の法則性を理解・暗記する	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容を復習する。（発音は綴りと関係づけて覚える。またしっかり声に出して練習する。）	30分
4	金5/1	動詞の現在人称変化	前回の復習とやり残したドイツ語の単語のつづりと発音 2 を解説の上練習する。 第 1 課 動詞の現在人称変化、語順などの解説および関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第 1 課	
		この回の到達目標	現在人称変化法の習得	
		事前学修	再度単語の発音練習をする。テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題ページの予習をする。	30分
5	金5/9	挨拶表現、名詞・冠詞類	第 1 課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。 第 2 課 名詞、冠詞類の解説と関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第 2 課	
		この回の到達目標	挨拶表現とドイツ語の名詞・冠詞の理解と暗記	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題の自習をする。	30分
6	金5/8	名詞の複数形	第 2 課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。 第 3 課 複数形の解説と関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第 3 課	
		この回の到達目標	複数形の作り方の習得	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題の自習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金5/15	不規則変化動詞、人称代名詞	第3課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。 第4課 不規則変化動詞、人称代名詞などの解説と関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第4課	
		この回の到達目標	不規則動詞、人称代名詞23の変化の暗記	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。（30分）	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題の自習をする。（30分）	30分
8	金5/22	前置詞	第4課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。 復習プリントの配布 第5課 前置詞の格支配の解説と関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第5課	
		この回の到達目標	前置詞の格支配の理解	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題のページおよび配布プリントの自習をする。	30分
9	金5/29	会話練習	第5課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。配布プリントの答え合わせをする。 これまでの総復習 1	
		この回の到達目標	今までに習得した文法事項・表現を応用して簡単な会話練習をする。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習をする。	30分
10	金6/5	オーストリア・スイス紹介	これまでの総復習 2 オーストリア・スイス文化の解説 オーストリア・スイス紹介DVD視聴	
		この回の到達目標	しっかりオーストリア及びスイスを理解する	
		事前学修	オーストリア・スイスについて調べる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および両国についてもっと深く調べる。	30分
11	金6/12	ドイツ映画の鑑賞	ドイツの映画を鑑賞する。	
		この回の到達目標	映像を通して「ドイツ」を深く知る	
		事前学修	ドイツにかかわるテレビ番組や映画を見てくる。	30分
		事後学修	今回の映画の感想をメモしておく。	30分
12	金6/19	ドイツ映画鑑賞の続き	前回のドイツの映画の鑑賞をする。（前回の続き）	
		この回の到達目標	この映画の訴えたかったところを考察しレポートに書く	
		事前学修	前回のメモを、映画に関連して調べたことなどを加えて整理しておく。	30分
		事後学修	この映画の感想をもとに、新たに調べたことなどを加えてレポートの形にまとめる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金6/26	冠詞類及びその格変化、否定表現	第6課 冠詞類、冠詞類の格変化、nichtとkeinの解説と関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第6課	
		この回の到達目標	冠詞類の理解、及ぼその変化の暗記、否定表現の理解	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題のページの自習をする。	30分
14	金7/3	分離動詞、接続詞	第6課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。 第7課 分離動詞、非分離動詞、接続詞の解説と関連の練習問題をする。 復習プリントの配布（解答付） ベルリン紹介DVD第7課	
		この回の到達目標	分離動詞及び接続法の用法の理解、練習問題によるその定着	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。（30分）	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題のページと復習プリントの自習をする。（30分）	30分
15	金7/10	総括・学力考查	学力考查（授業内試験）及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	授業内試験の実施と解説	
		事前学修	試験範囲を徹底的に復習する。	30分
		事後学修	今回の試験に関し反省し後のステップにつなげる。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。

【授業方法】
講義による。視聴覚教材も適宜利用して、耳と目からもドイツ語にしたしんでもらうつもりである。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間内に対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ』	ヘルマン・トロール 他	第三書房	2016		
備考					

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ドイツとドイツ語入門	ドイツ語の世界に入門。かんたんなあいさつからABCの発音。講義のすすめかた案内。教材について。	
		この回の到達目標	ドイツ語の発音。かんたんな相違表現により発音になれる。	
		事前学修	教材の下見。ひと通り目を通しておく。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題(30分)	30分
2	4/17	ドイツ語の基本1	テキストLektion1 人称代名詞・動詞sein, haben, trinken テーマ「ドイツへの到着」	
		この回の到達目標	基本動詞を使ったかんたんな表現をまなぶ。読み方の練習。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題(30分)	30分
3	4/24	ドイツ語の名詞には性がある	テキストLektion2/名詞の性 動詞の位置 テーマ「ライン河」	
		この回の到達目標	名詞の性の理解。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題(30分)	30分
4	5/1予定	疑問文の作り方	テキストLektion2 疑問文 ja と nein	
		この回の到達目標	疑問文のしくみと応用。道をたずねる。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題(30分)	30分
5	5/8	名詞には性がある	テキストLektion3 不規則な動詞 名詞の格 1/4格 テーマ Es gibt Wein. ドイツ・ワイン!	
		この回の到達目標	男性・女性・中性名詞の代表的なものを覚えよ!	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題(30分)	30分
6	5/15	否定文になれよう。	テキストLektion3 否定冠詞 kein 否定をふくむ疑問文のこたえ	
		この回の到達目標	nein, nichtという否定表現になれる。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	名詞の格変化	テキストLektion4 名詞の1/3/4格の使い方 テーマ「エネルギー問題」	
		この回の到達目標	名詞の格変化と複数形をマスターする。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
8	5/29	所有表現 2格 ザクセン2格とは？	テキストLektion4 名詞の2格の使い方	
		この回の到達目標	所有表現になれる。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
9	6/5	前置詞のしくみ	テキストLektion5 前置詞の使い方 例文 作文 テーマ「ドイツの地理」	
		この回の到達目標	前置詞にも格支配があつて、ややこしいが、一連の流れで考えよう。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
10	6/12	人称代名詞	テキストLektion5 人称代名詞 1/3/4格の使い方	
		この回の到達目標	人称代名詞が出で来る短い文章を読んで、ひの代名詞はだれをさしているか判断します。そう難しくはありませんが、教室で覚えましょう。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
11	6/19	前置詞とその用法です。	テキストLektion6 3・4格支配の前置詞 テーマ「ドイツの環境政策・廃棄物処理など」	
		この回の到達目標	ここでも、格支配がつきものです。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
12	6/26	11課のつづき	テキストLektion6 3・4格支配の前置詞 テーマ「ドイツの環境政策・廃棄物処理など」	
		この回の到達目標	前置詞の用法全般を習います。前置詞のある文の訳読をしているうちに、こつがわかります。場数が大事なドイツ語学習なのです。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	これまでの単元でまだ消化不良な項目の復習です。	前期の復習 和訳練習 語彙力アップ指導	
		この回の到達目標	苦手、未理解、まだ覚えきれないという学習の事実に向きあつての復習です。試験対策でもあります。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
14	7/10	読解練習	辞書を使ってかんたんな読解練習。	
		この回の到達目標	簡単な応用練習です。辞書をつかって、かんたんな初見のドイツ文にとりくみましょう。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	試験準備学習 (30分)	30分
15	7/17	前期試験まとめ	前期筆記試験(予定) 内容・範囲は授業内で指示する。	
		この回の到達目標	前期の学習内容の理解。	
		事前学修	試験範囲学習。範囲は事前に伝えておきます。	30分
		事後学修	試験結果の反省。(30分)	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4（読む・聞く・話す・書く）技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aを同時履修すること。

【授業方法】
ドイツ語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「ドイツ語ルネサンス」	本郷建治・佐藤彰	三修社	2017	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜2限、授業後の教室, もしくは、9号館1階共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ドイツ語のアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを、実際に発音しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
		事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
		事後学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音し、ノートに書いてみる。	30分
2	4/15	発音の3大原則	アルファベットの発音を復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ドイツ語の発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を読むことができる。	
		事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音し、スペルをノートに書いてみる。主語となる代名詞を覚えておく。	30分
3	4/22	現在人称変化	基本動詞、sein、habenの変化を説明してから、会話文に進む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、居住地、出身、身分、専攻を聞かれて、正確に聞き取り、その質問にドイツ語で答えることができる。	
		事前学修	CDを聞きながら、質問のフレーズを暗唱し、自分のことを言う練習をしておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
4	4/29	自己紹介と他己紹介	基本動詞、sein、habenの変化を復習し、その後、自己紹介と他己紹介の文を扱う。動詞の意味を辞書で調べる方法も説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分のこと、身近の人をドイツ語で紹介することができる。	
		事前学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、質問と答えのパターンに習熟しておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
5	5/6	名詞と冠詞	基本的な重要動詞の変化をまとめ、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞、不定冠詞の違い及び格の違いが分かったうえで、会話文の中で格を見分けることができる。	
		事前学修	基本会話に頻繁に使われる、主格と直接目的語の形を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
6	5/13	定冠詞と不定冠詞	定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞、不定冠詞の用法及び格の役割が分かったうえで、会話文の中で適切な冠詞を使うことができる。	
		事前学修	基本会話に頻繁に使われる、主格と直接目的語の形だけではなく、間接目的語の形も確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	現在人称変化（2）	ここでは2人称、3人称単数で母音交替が起こる動詞の人称変化を取り上げる。	
		この回の到達目標	fahren, sprechen, sehen, essen ,geben などに日常会話に頻繁に出てくる動詞を、主語を自由に変えて活用できる。	
		事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。辞書で不規則変化動詞を引いて、意味と活用を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
8	5/27	人称代名詞の3格、4格	人称代名詞の1格（主語）はすでに学んだが、ここでは3格（間接目的語）と4格（直接目的語）を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
		この回の到達目標	人称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて使うことができる。	
		事前学修	定冠詞、不定冠詞の3格、4格の形を抜き出し、人称代名詞の3格とスベル上の共通項を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
9	6/3	定冠詞類と不定冠詞類（所有冠詞・否定冠詞）	定冠詞類と不定冠詞類（所有冠詞）の格変化を定冠詞、不定冠詞の格変化と関連付けて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、定冠詞類、特に、不定冠詞類（所有冠詞）を使って、「この・・・」「私の・・・」「あなたの・・・」「彼の・・・」「彼女の・・・」などを表現できるようになる。	
		事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
10	6/10	疑問代名詞と疑問副詞	疑問代名詞wer, was、疑問副詞を説明する。定形の位置についても指摘する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、疑問詞を駆使し、いろいろな質問をすることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。疑問代名詞の格変化と定冠詞の格変化を比較し、共通項を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
11	6/17	数詞、時刻	数字20～100の言い方、および、時刻の言い方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特に21以上の数字の言い方、また、時刻に関して「…半」「…時15分前」「…時15分過ぎ」の表現を難なく聞き取り、言うことができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。数字を暗唱しておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
12	6/24	自分の好み、趣味、計画を伝える。 身近な人の好み、趣味、計画を聞き取る	自分の好み、趣味、計画の伝え方を文法的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の好み、趣味、計画を文法的に正しく伝えることができる。また、身近な人の好み、趣味、計画を正確に聞き取ることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	前置詞（１）と格支配	前置詞の種類は4種類あるが、前期では2格、3格、4格と結びつく前置詞の使い方について説明する。	
		この回の到達目標	「が・の・に・を」以外の関係、例えば、「・・・と」「・・・へ」「・・・から」を意味する前置詞によって、会話の幅を広げることができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	授業で扱った日常表現を振り返り、難なく訳し、表現できるよう、発音し、ノートに書いておく。試験に備えて、基本単語、基本的な語形変化、基本フレーズを難なく言えるように、かつ、書けるようにしておく。	150分
14	7/8	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。問題の意図を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平易な文を訳し、自己紹介、他己紹介等、難なく表現できる。	
		事前学修	試験に備えて、CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。	150分
		事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	7/15	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
		この回の到達目標	自分の誤り、欠点を認識することができる。それによって、到達目標①②③④に関連して、簡単な挨拶、自己紹介、他己紹介、日常生活関する会話ができるようになる。	
		事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の授業に備えて、教科書もしくはノートに反省点を書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語学習に熱意があること。

【授業方法】
各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題や会話練習を順次当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文法の習得に応じて適宜行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子 他	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問は、授業中いつでも受け付ける。授業後も教室等にて対応する。授業時間：火曜 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	形容詞の格変化	夏休み課題の答え合わせ 形容詞の格変化	
		この回の到達目標	形容詞の格変化の理解と習得。	
		事前学修	夏休みの課題をしておく。 Lektion 7 の解説を読んでおく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
2	9/22	形容詞の比較表現	形容詞・副詞の比較 Lektion 7 Dialog	
		この回の到達目標	形容詞の比較表現の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 7 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
3	9/29	分離動詞	分離動詞・非分離動詞	
		この回の到達目標	分離動詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 8 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
4	10/6	非分離動詞とzu不定詞	分離動詞を復習する zu不定詞	
		この回の到達目標	非分離動詞とzu不定詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 8 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
5	10/13	zu不定詞句	zu不定詞・zu不定詞句 Lektion 8 Dialog	
		この回の到達目標	zu不定詞句の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 8 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
6	10/20	動詞の三基本形	動詞の三基本形 現在完了形（1）	
		この回の到達目標	動詞の三基本形の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 9 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	現在完了形	現在完了形（2）	
		この回の到達目標	現在完了形の理解と習得。	
		事前学修	現在完了形の箇所を再度読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
8	11/10	現在完了形の復習	現在完了形（3） Lektion 9 Dialog	
		この回の到達目標	現在完了形の習得。	
		事前学修	Lektion 9の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
9	11/17	過去形	過去形	
		この回の到達目標	過去形の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 10の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
10	11/24	人称代名詞と再帰代名詞	再帰代名詞・再帰動詞	
		この回の到達目標	人称代名詞と再帰代名詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 10 再帰代名詞の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
11	12/1	再帰動詞	再帰動詞 Lektion 10 Dialog	
		この回の到達目標	再帰動詞の理解と習得。	
		事前学修	再帰動詞の箇所を再度読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
12	12/8	関係代名詞	文法補足 1 関係代名詞 2 不定関係代名詞	
		この回の到達目標	関係代名詞の理解と習得。	
		事前学修	文法補足 1 関係代名詞の解説を読んでく。	30分
		事後学修	授業内容を復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	受動態	文法補足 4 受動形	
		この回の到達目標	受動態の理解と習得。	
		事前学修	文法補足 4 受動形の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習する。	60分
14	12/22	接続法	文法補足 5 接続法 後学期文法内容の復習	
		この回の到達目標	接続法の理解と習得。	
		事前学修	文法補足 5 接続法の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	後学期学習した文法事項を総復習する。	120分
15	1/12	試験と反省	後学期授業内試験 試験後、テスト内容について解説する。	
		この回の到達目標	試験と反省。	
		事前学修	後学期試験の為十分復習し勉強する。	120分
		事後学修	自己の出来、不出来をチェックして1年間のドイツ語学習を総括する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	安藤 勉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aを履修した学生が望ましい。

【授業方法】
ごくやさしく、目でも楽しめる教科書を用い、授業を進めます。 授業の冒頭で必ず前回の復習をします。第14回目に試験・解説をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第1回目から演習の形式で授業をおこないます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業でフィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ご存じですかドイツ？ [情報からドイツ]		朝日出版社	2003		
備考	間違いがないように、最初の授業時間の中で、教科書・辞書について詳しく説明します。				

【オフィスアワー】
水曜16:10～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	教材の作成など
実務経験に基づく実践的教育の内容		教材作成などに基づいた授業。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	総復習。	前期の学習範囲の総復習	
		この回の到達目標	前期の学習範囲の総復習。	
		事前学修	前期の総復習をしてきてください。	30分
		事後学修	前期の学習範囲の総復習をしてください。	30分
2	9月23日	完了形。	Lektion8 完了形と分離動詞。	
		この回の到達目標	完了形の助動詞とを学ぶ。	
		事前学修	完了形と分離動詞について、32ページを予習してください。	30分
		事後学修	完了形と分離動詞について復習してください。	30分
3	9月30日	分離動詞。	Lektion8 完了形と分離動詞。	
		この回の到達目標	分離動詞と枠構造を学ぶ。	
		事前学修	分離動詞について、32ページを予習してください。	30分
		事後学修	分離動詞について復習してください。	30分
4	10月1日	受動態と能動態。	Lektion9 受動態。	
		この回の到達目標	受動文と能動文の変換を学ぶ。	
		事前学修	受動態について、36ページを予習してください。	30分
		事後学修	受動態について復習してください。	30分
5	10月7日	話法の助動詞。	Lektion10 話法の助動詞と再帰動詞。	
		この回の到達目標	話法の助動詞の変化を学ぶ。	
		事前学修	話法の助動詞について、40ページを予習してください。	30分
		事後学修	話法の助動詞について復習してください。	30分
6	10月14日	再帰動詞と再帰代名詞。	Lektion10 話法の助動詞と再帰動詞。	
		この回の到達目標	なぜ再帰という現象が起こるかを学ぶ。	
		事前学修	再帰動詞について、40ページを予習してください。	30分
		事後学修	再帰動詞について復習してください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月21日	関係代名詞。	Lektion11 関係代名詞と不定関係代名詞。。	
		この回の到達目標	関係代名詞の変化と位置を学ぶ。	
		事前学修	関係代名詞について、44ページを予習してください。	30分
		事後学修	関係代名詞の変化を復習してください。	30分
8	10月28日	不定関係代名詞。	Lektion11 関係代名詞と不定関係代名詞。	
		この回の到達目標	不定関係代名詞の変化を学ぶ。	
		事前学修	不定関係代名詞について、44ページを予習してください。	30分
		事後学修	不定関係代名詞について復習してください。	30分
9	11月11日	直説法。	Lektion12 接続法	
		この回の到達目標	まず直説法について、その用法を学ぶ。	
		事前学修	接続法について、48ページを予習してください。	30分
		事後学修	直説法について復習してください。	30分
10	11月18日	接続法第1式。	Lektion12 接続法。	
		この回の到達目標	接続法には第1式と第2式があることを理解する。	
		事前学修	接続法について、48ページを予習してください。(30分)	30分
		事後学修	接続法の意味について復習してください。	30分
11	11月25日	接続法第2式。	Lektion12 接続法。	
		この回の到達目標	接続法第2式の用法を学ぶ。	
		事前学修	接続法の用法について、48ページを予習してください。	30分
		事後学修	接続法の意味について復習してください。	30分
12	12月2日	接続法第1式と第2式。	Lektion12 接続法。	
		この回の到達目標	接続法第1式と第2式の例文を読む。	
		事前学修	接続法について、48ページを予習してください。	30分
		事後学修	間接話法について復習してください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月9日	総復習。	総復習、および落ち穂ひろい	
		この回の到達目標	総復習。とくに再帰動詞と分離動詞。	
		事前学修	試験に備えて疑問点などを洗い出してください。	60分
		事後学修	後期の授業の総復習して、試験に備えてください。	60分
14	12月16日	試験、総復習。	試験、総復習。	
		この回の到達目標	試験、総復習。	
		事前学修	試験のための総復習をしてください。	60分
		事後学修	理解が十分ではなかった点について、教科書で確認してください。	60分
15	12月23日	試験、総復習	試験、解説	
		この回の到達目標	試験、総復習。	
		事前学修	試験のための復習をしてください。	60分
		事後学修	試験を振り返り、理解が十分ではなかった点について、教科書で確認してください。	60分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、文章講読、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
身につくドイツ語・初級（改訂新版）	前田良三・高木葉子	郁文堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口に申し出て、声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	水9/16	完了形		助動詞構文、seinとhabenの人称変化を確認する。 完了文の読解と作文。
		この回の到達目標	完了の助動詞の使い分けができる。 完了形の文を作ることができる。	
		事前学修	英語の完了時制をまとめてみる。 habenとseinの人称変化を復習する。	30分
		事後学修	語順、用法について英語との違いなどを確認する。	30分
2	水9/23	分離動詞		分離動詞を辞書で引いてみる。 分離する場合としない場合を例文で確認する。
		この回の到達目標	基礎動詞と前綴りの関係に留意して例文を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の熟語動詞表現をまとめてみる。	30分
		事後学修	分離動詞の使い方を、基礎動詞、前綴りの配語法から確認する。	30分
3	水9/30	命令形		二人称の使い分け、規則動詞、不規則動詞の人称変化を確認する。 会話文を読みながら命令文を理解する。
		この回の到達目標	三つの形式の命令文を作ることができる。	
		事前学修	規則動詞、不規則動詞の人称変化を復習する。	30分
		事後学修	命令する相手に応じた三つの形式を例文によって復習する。	30分
4	水10/7	再帰動詞		人称代名詞を復習する。 ドイツ語の再帰代名詞を練習する。 再帰動詞を例文で理解する。
		この回の到達目標	再帰表現を読み取り、辞書でも調べることができるようにする。	
		事前学修	英語、日本語の再帰表現を思い起こしてみる。	30分
		事後学修	再帰代名詞を覚えた上で、具体的な使い方を熟語表現として練習する。	30分
5	水10/14	接続詞と副文		接続詞の種類を学ぶ。 動詞の位置などに注目して読解訓練をする。
		この回の到達目標	接続詞による語順の違いを理解する。 従属接続詞を伴った副文を読み取ることができる。	
		事前学修	動詞の位置に関して、今まで学んだことを復習する。	30分
		事後学修	例文、練習問題を、接続詞を中心に読み直してみる。	30分
6	水10/21	zu不定詞		zu不定詞の用法を例文で学ぶ。 分離動詞のzu不定詞を作る。 他の文成分が入って句になった場合の語順に着目する。
		この回の到達目標	zu不定詞の入った文を読み解くことができる。	
		事前学修	英語のto不定詞の用法をまとめる。	30分
		事後学修	句になった場合の語順、分離動詞のzu不定詞など確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水10/28	非人称動詞	日常でもよく使う様々な非人称表現を練習をする。	
		この回の到達目標	主な非人称表現を使えるようにする。	
		事前学修	英語の非人称表現をまとめてみる。	30分
		事後学修	es gibt + 4格などの用例を確認する。	30分
8	水11/11	形容詞・副詞の比較変化	形容詞・副詞の比較変化形を練習する。 例文によって主な比較表現をまとめる。	
		この回の到達目標	よく使われる比較表現を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の形容詞の比較表現を振り返ってみる。	30分
		事後学修	例文、練習問題の具体例で復習する。	30分
9	水11/18	指示代名詞・関係代名詞 (1)	定冠詞の格変化を確認する。 指示代名詞を使った例文を読む。 関係文の作り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	英語とは違う指示代名詞・関係代名詞の使い方を理解する。	
		事前学修	定冠詞の格変化の復習。 英語の関係代名詞の使い方をまとめる。	30分
		事後学修	性、数、格や動詞の位置からドイツ語の関係代名詞を復習する。	30分
10	水11/25	関係代名詞 (2)	定関係代名詞、不定関係代名詞を用いた用例を読み解く。 関係代名詞の格変化、動詞の位置などに着目する。	
		この回の到達目標	関係文を含んだ長い文になじむ。	
		事前学修	英語の関係代名詞の使い方をまとめてみる。	30分
		事後学修	代表的例文を確認する。	30分
11	水12/2	受動文	助動詞構文、werdenとseinの人称変化、過去分詞の作り方を確認する。 werdenの三つの用法をまとめる。 受動文の作り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	状態受動を含めて受動文を作ることができる。	
		事前学修	werdenとseinの人称変化を復習する。	30分
		事後学修	状態受動、時制による表現形式の違いなど例文で確かめる。	30分
12	水12/9	接続法の形態	接続法の人称変化の練習をする。 接続法の主な用法を知る。 接続法第一式の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	間接話法、要求話法を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の間接話法、仮定法を確認する。	30分
		事後学修	先ず接続法の人称変化を復習する。 代表的な用例を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水12/16	非現実話法	接続法の人称変化を確認する。 接続法第二式の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	非現実話法、外交的接続法などを読み取ることができる。	
		事前学修	接続法の人称変化の復習。	30分
		事後学修	代表的な用例を理解する。	30分
14	水12/23	後期のまとめ	後期の学習を文法事項を中心に整理する。 質問を受けて補足説明をする。	
		この回の到達目標	これまでの勉強で不十分な所がないか確認する。	
		事前学修	後期全体の復習をする。 疑問点をまとめる。	30分
		事後学修	理解が不十分な点を再度復習。	30分
15	水1/13	試験	試験をした後、解説と講評を行う。	
		この回の到達目標	後期の勉強の成果を明らかにし、これからの勉強の発展につなげる。	
		事前学修	重要項目を復習する。	30分
		事後学修	試験結果を点検し、今後の学習の展望を得る。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法B（ドイツ語Ⅱ）も併せて履修すること。独和辞書必携。ドイツ語検定4級を受験すること。

【授業方法】
ドイツ語基礎表現Aの続き行う。発音練習、基本文法の確認、辞書を使いながらのテキスト講読、簡単な表現練習を総合的に行う。確認小テストを適宜行う。小テストで出来なかった箇所はしっかり復習すること。独和辞書を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題は返却、添削する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子	朝日出版社	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
授業（火曜5限もしくは木曜2限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。h.kawakami18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	前期の復習	前期に学習した動詞と名詞の変化の確認、単語の発音について復習し、練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期学習した重要動詞を確認し、文を作ることができる。	
		事前学修	前期に練習した単語の発音を復習すること。	30分
		事後学修	動詞の人称変化を復習し、確実に覚えること。	30分
2	第一部木 9/17	前置詞	5課 前置詞の使い方について説明する。重要表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の格支配、意味を理解し、説明することができる。	
		事前学修	名詞、冠詞類の変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
		事後学修	前置詞の格支配と使い方を復習すること。	30分
3	第一部木 10/1	どう行けばいいですか？	前置詞と代名詞の融合形、前置詞格をとる動詞について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。行き方を尋ねる表現練習と行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞を使った文を確認し、行き方を尋ねる表現や道順について表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現練習と前置詞の問題を復習する。	30分
4	第一部木 10/8	話法の助動詞	6課 話法の助動詞の変化とその文型、未来形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、話法の助動詞の変化と意味を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の例文を発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	話法の助動詞の変化と意味を確実に覚える。重要表現練習を復習する。	30分
5	第一部木 10/15	お城をを見てみたい	接続詞と副文について説明する。時刻の表現について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。「～したい」の表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、従属の接続詞と副文について理解し、説明することができる。時刻の表現と自分のしたいことについて表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現練習と接続詞の問題を復習する。	30分
6	第一部木 10/22	形容詞	7課 形容詞の付加語的用法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の変化について理解し、説明することができる。	
		事前学修	冠詞の変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
		事後学修	形容詞の変化について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	料理の注文	形容詞の比較表現について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。注文する時の表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の比較表現について理解し、説明することができる。レストランで注文する時の表現を使いこなせることができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現練習と形容詞の比較表現について復習する。	30分
8	第一部木 11/5	分離動詞と非分離動詞	8課 分離動詞とその構文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分離動詞とその構文について理解し、説明することができる。	
		事前学修	重要動詞の人称変化を復習してくること。	30分
		事後学修	分離動詞とその構文について復習する。	30分
9	第一部木 11/12	週末の予定は？	zu不定詞について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。予定を尋ねる表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、zu不定詞句の用法について理解し、説明することができる。自分の予定について表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現練習とzu不定詞句についてを復習する。	30分
10	第一部木 11/19	テキスト講読	テキストP83の発音練習と訳を行う。重要表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、テキスト中の比較表現、分離動詞や副文について理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキストP83の発音練習と辞書を使用し訳をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現と重要動詞の文を復習する。	30分
11	第一部木 12/3	現在完了形	9課 動詞の三基本形と現在完了形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の三基本形と現在完了形の文について理解し、説明することができる。	
		事前学修	sein , habenの人称変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	動詞の三基本形を確実に覚える。現在完了形について復習する。	30分
12	第一部木 12/10	週末に何したの？	会話文の発音練習と訳を行う。過去の出来事を尋ねる表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の過去の出来事について表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現と現在完了形の文を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	過去形と再帰表現	10課 過去形、再帰代名詞と再帰動詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去形の人称変化、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、説明することができる。	
		事前学修	動詞の三基本形と人称代名詞を復習してくる。	30分
		事後学修	過去形の人称変化、再帰動詞について復習する。	30分
14	第一部木 12/24	重要表現の復習	練習プリントで後期学習した文法事項の問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の使い方と分離動詞、現在完了形、過去形の文を確認し、それに対応する問題を解答することができる。	
		事前学修	後期学習した文法と重要表現を復習してくる。	40分
		事後学修	出来なかった箇所を復習する。重要表現と重要単語を覚える。	40分
15	第一部木 1/15	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 後期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の使い方と分離動詞、現在完了形、過去形の文を確認し、説明することができる。	
		事前学修	今までの重要表現練習と重要単語を復習してくる。	50分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜３・４・５限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス、導入授業	授業計画、成績評価の方法などの説明と前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	前期の成果の確認が十分に行われたか確認する。	
		事前学修	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。	30分
		事後学修	授業によってあぶりだされたドイツ語の文法・語彙に対するあやふやな点を再確認してしっかり記憶すること。	30分
2	9/20	比較級と最上級	形容詞の比較用法の構造と用法	
		この回の到達目標	形容詞の比較級・最上級の構造について理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト55頁の設問に回答し、56頁を訳出しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
3	10/2	過去形	過去形の構造と用法	
		この回の到達目標	過去形の構造と用法について理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト57頁から60頁に再び目を通し、61頁にも目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	10/9	複合時制	複合時制(未来時制・完了時制)の構造と用法	
		この回の到達目標	複合時制の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト62頁の設問に回答し、63頁を訳出しておくこと。またテキスト64頁から66頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	10/13	関係代名詞	関係代名詞の構造と用法	
		この回の到達目標	関係代名詞の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト67頁の設問に回答し、68頁を訳出しておくこと。またテキスト69頁から71頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	10/20	受動態	受動態の構造と用法	
		この回の到達目標	受動態の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト71頁から73頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	接続法第1式	接続法第1式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続法第1式の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト74頁の設問に回答し、75頁を訳出しておくこと。またテキスト76頁から77頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	11/6	接続法第2式	接続法第2式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続法第2式の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト77頁から79頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	11/13	ドイツの平和と国際連合	国際連合とドイツの平和について	
		この回の到達目標	ドイツの平和について書かれた長文(1)をこれまでに獲得した知識に基づいて読解する。	
		事前学修	テキスト80頁の設問に回答し、81頁本文13行目まで訳出しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	11/20	ドイツの平和と墨子	中国の思想家墨子とドイツの平和について	
		この回の到達目標	ドイツの平和について書かれた長文(2)をこれまでに獲得した知識に基づいて読解する。	
		事前学修	テキスト81頁の最後までを訳出しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	11/27	文法の再確認	テキスト全体について重要な事項の再確認	
		この回の到達目標	テキスト全体がこれまで獲得した知識により理解できていることを確認する。	
		事前学修	テキスト全体を振り返り、よく理解出来ていない箇所があれば、質問できるように準備する。	30分
		事後学修	授業で扱った重点をまとめておく。	30分
12	12/4	国際連合とハーグ平和会議	国際連合とハーグ平和会議について	
		この回の到達目標	国際連合について書かれた付録の長文(1)をがこれまで獲得した知識に基づいて読解する。	
		事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文21行目まで訳出しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	国際連合とクーデンホーフ・カレルギー	国際連合とクーデンホーフ・カレルギーについて	
		この回の到達目標	国際連合について書かれた付録の長文(2)をがこれまで獲得した知識に基づいて読解する。	
		事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文22行目から最後まで訳出しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
14	12/18	映像教材によるドイツの社会	ドイツの社会を扱った映像教材の視聴	
		この回の到達目標	映像教材を理解し、感想を書くためのメモをとる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	12/25	振り返り	授業内試験及び後期の授業の振り返り	
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだったりした点を再確認すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
秋期ドイツ語技能検定試験4級を受験すること。

【授業方法】
2時間に1課のペースで進んでいきますが、最初の1時間を文法の説明に、次の1時間を読章と練習問題に当てます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『希望のドイツ語』	小塩 節	朝日出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日10:30～12:20 月曜日17:50～19:40

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/14土 9/19	ガイダンス 前期の復習	前期に学修した重要文法事項について復習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の人称変化、名詞の格変化について理解し、変化できる。	
		事前学修	前期範囲のテキストを音読しておくこと。	30分
		事後学修	特に定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと。	30分
2	月9/21土 9/26	第7課 再帰動詞、非人称のes、zu 不定詞	「再帰」とは何かを学修する。英語のいわゆる「訳さない it」である非人称のesの多岐にわたる用法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、zu不定詞句を用いて自分の趣味を紹介することができる。	
		事前学修	動詞の人称変化および人称代名詞の格変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	zu不定詞の様々な用法を整理しておくこと。	30分
3	月9/28土 10/3	第7課 読章 「ろうそくの灯りのもとで」	重要な熟語「es gibt 4格」の用法について学修する。序数のいい方を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、序数を使い自分の誕生日を言うことができる。	
		事前学修	【準備学習】教科書28ページを予習してくる。前置詞が特定の動詞と結びついているときは、前置詞から引かずに、動詞の使い方を調べる。	30分
		事後学修	【事後学習】序数の使い方を復習しておくこと。	30分
4	月10/5土 10/10	第8課 動詞の3基本形および過去人称変化	過去形の作り方および用法を学修する。また、過去分詞の様々な用法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、分詞は形容詞であることを理解し、付加語形容詞や名詞化として用いることができる。	
		事前学修	不規則動詞変化表の読み方をもう一度確認しておくこと。	30分
		事後学修	課題に出された動詞の3基本形、過去人称変化を練習しておくこと。	30分
5	月10/12土 10/17	第8課 読章 「トーマス・マン」	不規則動詞の過去形から不定詞を見つけ出すことに習熟する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、過去形の文章を作ることができる。	
		事前学修	教科書32ページを予習してくる。動詞は必ず3基本形を調べておくこと。	30分
		事後学修	規則動詞の3基本形のパターンを覚えておくこと。	30分
6	月10/19土 10/24	第9課 分離動詞・非分離動詞、副文（従属文）の小テスト（2）	複合動詞について学修する。副文（従属文）は主文に含まれた文であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、分離動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
		事前学修	平叙文、疑問文の定動詞の位置を今一度確認しておくこと。	30分
		事後学修	分離動詞・非分離動詞の3基本形の作り方を練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/26 土10/31	第9課 読章 「自分の意見」	長文の構造を把握すること（どれが主文でどれが従属文かを理解すること）を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、従属接続詞を用いて、2つの文章を的確に接続することができる。	
		事前学修	教科書36ページを定動詞の位置に注意して（主文なのか従属文なのかを意識して）予習してくること。	30分
		事後学修	主文と従属文からなる複文の構造に慣れておくこと。	30分
8	月11/9土 11/7	第10課 話法の助動詞	助動詞構文では本動詞が後置されることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、本動詞に様々なニュアンスを付ける話法の助動詞について理解し、的確に使い分けることができる。	
		事前学修	不定詞と定動詞の違いについて確認しておくこと。	30分
		事後学修	課題に出された文章を話法の助動詞を使って書き換えてくること。	30分
9	月11/16 土11/14	第10課 読章 「ドイツの手工業—マイスター制度」	分離動詞は話法の助動詞とともに使われると分離しないことを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、任意の文章を話法の助動詞を用いた文章に書き換えることができる。	
		事前学修	教科書40ページを枠構造に注意しながら予習してくること。	30分
		事後学修	語順の点で英語と最も違う枠構造に慣れておくこと。	30分
10	月11/23 土11/21	第11課 完了形	完了形の作り方とその用法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特に日常多用され、英語と異なる現在完了の用法に習熟し、それを運用できる。	
		事前学修	haben と sein の現在人称変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	完了形、話法の助動詞、分離動詞はすべて枠構造であることを理解すること。	30分
11	月11/30 土11/28	第11課 読章 「クリスマスツリー」	過去形と現在完了形の違いについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞・非分離動詞の過去分詞から、容易に不定詞を導き出すことができる。	
		事前学修	教科書44ページを予習してくること。過去分詞はすべて不定詞・過去基本形の形を出しておくこと。	30分
		事後学修	過去分詞から不定詞を導き出すことに慣れておくこと。	30分
12	月12/7土 12/5	第12課 関係代名詞	関係文も従属文であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、適切な関係代名詞を選ぶことができる。	
		事前学修	従属文の定動詞の位置について確認しておくこと。	30分
		事後学修	教科書50ページの練習問題で関係文に慣れておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月12/14 土12/12	第12課 読章「ウィーンのカフェ」	不定関係文章について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、任意の先行詞に対して関係文章を作ることができる。。	
		事前学修	教科書48ページを関係代名詞の格に注意しながら予習してくる。	30分
		事後学修	関係代名詞のえらび方を復習しておくこと。	30分
14	12/21 土12/19	接続法	接続法の作り方と用法について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、日常よく使われる接続法の言い回しを理解し、使うことができる。	
		事前学修	動詞の人称変化、過去基本形の作り方を特に整理しておくこと。	30分
		事後学修	直説法との違いを整理しておくこと。	30分
15	月1/18土 12/26	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、基本的な表現を聞き取ったり、こちらから発信したり、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。	
		事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと	30分
		事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B(水曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
・1年生は、今年度のうちに、「ドイツ語基礎文法」も履修すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則として、この授業はドイツ語基礎表現Aと通年で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
イン・ドイチュラントドイツ語インフォメーション 映像付-	秋田静雄ほか	朝日出版社	2016年	教科書	必携
新・独検合格単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010年	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	前期の復習	独検5級の問題を解きながら、前期に学習した文法事項や表現を復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	9/23	第7課 導入の会話、前置詞	導入の会話を通じて、前置詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前置詞の概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
3	9/30	第7課 前置詞、前置詞と定冠詞の融合形	前置詞について、新しい用例を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前置詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
4	10/7	第8課 導入の会話、話法の助動詞、話法の助動詞の現在人称変化、話法の助動詞の主な意味	導入の会話を通じ、話法の助動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
5	10/14	第9課 導入の会話、分離動詞、数詞の復習	導入の会話を通じて、分離動詞について解説し、関連する練習問題を解く。数詞もあらためて復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、分離動詞について説明することができる。数字もいうことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
6	10/21	第9課 命令形、時刻表現	命令形の法則と、時刻表現について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、命令表現と時刻表現について説明できる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	第10課 導入の会話、形容詞の格変化	導入の会話を通じ、形容詞の格変化について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、形容詞の格変化について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
8	11/11	第10課 再帰代名詞と再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、再帰代名詞と再帰動詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
9	11/18	第11課 導入の会話、動詞の三基本形、過去人称変化	導入の会話を通じ、動詞の三基本形と過去形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形と過去形について説明できる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
10	11/25	独検4級 模試の実施(筆記試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
11	12/2	独検4級 模試の解説(リスニング試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
12	12/9	第11課 従属接続詞	従属接続詞と語順について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、従属接続詞と副文について説明できる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	後期の復習	後期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検3級受験のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、文法問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点の把握とその克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
14	12/23	理解度の確認、後期の学習内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	1/13	この一年で学習したことの復習、これからのドイツ語の学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習内容を復習すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B(水曜5時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
月曜5限の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎文法」(旧「ドイツ語Ⅱ」)と同時に履修すること。受講の際には、私の授業に登録すること(渡辺先生の授業にも自動登録される)。授業の進度が早いため、その覚悟で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワーク等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る						1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する						1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする						1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゲナウ！ レーゼン	新倉真矢子ほか	第三書房	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義、前期の復習	独検5級の問題を解きながら、前期に学習した文法事項や表現を復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	9/23	話法の助動詞・未来形、日記・メール①	話法の助動詞・未来形について解説する。日記・メールの基本的な表現を練習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞や未来形を説明することができる。関連する問題を解くことができる。日記やメールに関する基本的な表現を言うことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
3	9/30	日記・メール②、前置詞	ドイツ語で書かれた日記やメールを読む。前置詞について解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前置詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。ドイツ語で書かれた日記やメールを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
4	10/7	再帰動詞、祝祭	再帰動詞について解説する。ドイツの祝祭に関するテキストを読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、再帰動詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。ドイツの祝祭に関するテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
5	10/14	分離動詞・非分離動詞・zu不定詞、時刻表現	分離動詞・非分離動詞・zu不定詞について解説する。時刻表現を習得する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、分離動詞・非分離動詞・zu不定詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。時刻表現を言うことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
6	10/21	従属接続詞、インタビュー	従属接続詞について解説する、インタビューを読み、正確に内容を把握する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、従属接続詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。インタビューのテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	動詞の三基本形・過去形・現在完了形、童話を読む①	動詞の三基本形・過去形・現在完了形について解説する。ドイツ語で書かれた童話を読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形・過去形・現在完了形を説明することができる。関連する問題を解くことができる。簡単な童話を訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
8	11/11	童話を読む②	引き続き、ドイツ語で書かれた童話を、文法に留意しながら読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまで学習した文法事項を用いて、簡単な童話を読み、訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
9	11/18	動詞の三基本形・受動態、説明文を読む①	動詞の三基本形・受動態について解説する。ドイツ語で書かれた説明文を読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形・受動態を説明することができる。関連する問題を解くことができる。説明文を訳読することができる。	
		事前学修	指示された独検の過去問題を自宅で解いてくること。	30分
		事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出ても正解となるよう、繰り返し解いてみること。	30分
10	11/25	説明文を読む②、これまでの復習	ドイツ語で書かれた説明文を、文法に留意しながら精読する。これまでに学習した文法を総復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまで学習した文法事項を用いて、簡単な説明文を読み、訳読することができる。	
		事前学修	指示された独検の過去問題を自宅で解いてくること。	30分
		事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出ても正解となるよう、繰り返し解いてみること。	30分
11	12/2	独検模試の実施	独検の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	独検当日に使用した問題冊子を持参すること。	30分
		事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、知識が確実なものとなるよう、あらためて正解となる理由をよく考えること。	30分
12	12/9	形容詞の格変化・比較・関係代名詞	形容詞の格変化・比較・関係代名詞について解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、形容詞の格変化・比較・関係代名詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	指示されたテキストを自宅で読んでくること。訳文を必ず書いてくること。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を重点的に復習する。よく理解できた部分についても、繰り返し読み、ドイツ語の文章の正しい解釈の仕方について、きちんと習得するよう努めること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	童話を読む	ドイツ語で書かれた童話を、文法に留意しながら読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまで学習した文法事項を用いて、簡単な童話を読み、訳読することができる。	
		事前学修	指示されたテキストを自宅で読んでくること。訳文を必ず書いてくること。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を重点的に復習する。よく理解できた部分についても、繰り返し読み、ドイツ語の文章の正しい解釈の仕方について、きちんと習得するよう努めること。	30分
14	12/23	理解度の確認、後期の学習内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習を振り返り、理解が十分でないところがどこか、確認しておくこと。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	1/13	後期の復習、今後のドイツ語の学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
月曜4時限目ドイツ語基礎文法A(真道)を同時に受講すること。授業に積極的に参加すること。月曜4時限目ドイツ語基礎文法A(真道)に登録すると、自動的に本授業に登録されます。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ペア・ワーク、グループワーク形式で実践的なトレーニングをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で課題ごとに随時フィードバックを行います。試験については後日ポータルで講評します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書については、初回授業で説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定試験の国際ライセンスの知識と技能を生かして、実践的かつ効果的にA1からA2のドイツ語能力を養成します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能について、検定試験についての説明 教材についての説明	
		この回の到達目標	学修目標について説明することができる。	
		事前学修	シラバス確認	30分
		事後学修	教材準備	30分
2	9/24	Lektion 7 Berufe 1	職業についての表現 1	
		この回の到達目標	職業についての表現を聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 7 練習問題・語彙習得	30分
3	10/1	Lektion 7 Berufe 2	職業についての表現2	
		この回の到達目標	職業についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 7 練習問題・語彙習得	30分
4	10/8	Lektion 8 Berlin sehen1	ベルリン観光をするために必要な表現 1	
		この回の到達目標	ベルリン観光をするのに必要な表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 8 練習問題・語彙習得	30分
5	10/15	Lektion 8 Berlin sehen 2	ベルリン観光をするために必要な表現 2	
		この回の到達目標	ベルリン観光をするために必要な表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 8 練習問題・語彙習得	30分
6	10/22	Lektion 9 Ferien und Urlaub 1	長期休暇と旅行についての表現 1	
		この回の到達目標	長期休暇と旅行についての表現理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 9 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	Lektion 9 Ferien und Urlaub 2	長期休暇と旅行についての表現 2	
		この回の到達目標	長期休暇と旅行についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 9 練習問題・語彙習得	30分
8	11/5	Lektion 10 Essen und trinken 1	食事についての表現 1	
		この回の到達目標	食事についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 10 練習問題・語彙習得	30分
9	11/12	Lektion 10 Essen und trinken 2	食事についての表現 2	
		この回の到達目標	食事についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 10 練習問題・語彙習得	30分
10	11/19	Lektion 11 Kleidung und Wetter 1	服装と天気についての表現 1	
		この回の到達目標	服装と天気についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 11 練習問題・語彙習得	30分
11	12/3	Lektion 11 Kleidung und Wetter 2	服装と天気についての表現 2	
		この回の到達目標	服装と天気についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 11 練習問題・語彙習得	30分
12	12/10	Lektion 12 Körper und Gesundheit 1	体と健康についての表現 1	
		この回の到達目標	体と健康についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 12 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	Lektion 12 Körper und Gesundheit 2	体と健康についての表現 2	
		この回の到達目標	体と健康についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 12 練習問題・語彙習得	30分
14	12/24	筆記試験	A2レベルの試験	
		この回の到達目標	これまで学んだ3技能を場面に合わせて運用できる。	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分
15	1/14	口述試験	A2レベルの試験	
		この回の到達目標	これまで学んできた会話の技能を場面に合わせて運用できる。	
		事前学修	試験準備	60分
		事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習(練習問題)をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験終了後に解説、あるいは教科書の該当ページを指示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
やさしいドイツ語入門	増本浩子	白水社	2014	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業時間（木曜１・２・４・５限）後の休み時間、講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	【ガイダンス】【前期学習事項の復習】	ガイダンス 前期学習事項の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、前期学習事項における弱点をみつけ、克服する。	
		事前学修	夏休み前の学習事項を見直しておく（４５分）	45分
		事後学修	発音（単語の読み方）、定冠詞・不定冠詞、sein / haben の変化などを覚えなおす（１５分）	15分
2	第一部 木9/24	【分離動詞】	分離動詞 前期学習事項と前回授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、分離動詞の使用例を覚える。	
		事前学修	前回の学習事項の復習（１５分）	15分
		事後学修	１７回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
3	第一部 木10/1	【形容詞】	形容詞の比較級・最高級 形容詞の語尾変化 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、形容詞の変化等を理解する。	
		事前学修	授業１７回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	１８回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
4	第一部 木10/8	【３基本形】	動詞の３基本形（夏休み前の学習の続き） 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、分離動詞の３基本形が作れるようになる。	
		事前学修	授業１７回目～１８回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	１９回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
5	第一部 木10/15	【過去】	sein / haben の過去形、話法の助動詞の過去形 否定疑問文、非分離動詞 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、非分離動詞の３基本形が作れるようになる。	
		事前学修	授業１７回目～１９回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	２０回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
6	第一部 木10/22	【現在完了】	現在完了形 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、現在完了形の構文を理解し、単純な現在完了形の文を作ることができる。	
		事前学修	授業１７回目～２０回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	２１回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	【未来推量の助動詞】	werden の現在人称変化、未来形 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、話法の助動詞と未来推量の助動詞を使った文の相違を理解する。未来推量の助動詞の 人称変化を覚える。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 1 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 2 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
8	第一部 木11/5	【zu 不定詞】	zu 不定詞 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、英語の to 不定詞との類似と相違を理解する。いくつかの例を暗記する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 2 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
9	第一部 木11/12	【再帰表現】【man の用 法】【形容詞の名詞化】	再帰表現、man の用法 形容詞の名詞化 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、基礎的な再帰表現を理解し、いくつかの例文を暗記する。到達目標①②③④に関連 し、man を使った文を作ることができる。到達目標③④⑤に関連し、形容詞の名詞化を理解する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 3 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 4 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
10	第一部 木11/19	【受動】	受動態の現在と過去 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、受動文・受動態の構造を知り、単純な受動文を作ることができる。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 4 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
11	第一部 木12/3	【関係代名詞】【男性弱変 化名詞】	定関係代名詞 男性弱変化名詞 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、関係代名詞を使って文を作ることができる。到達目標③④⑤に関連し、男性弱変化名 詞の変化を調べることができる。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 5 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 6 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
12	第一部 木12/10	【接続法の概略】	接続法第II式 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、接続法の概略を理解する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 6 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 7 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木10/17	【よく使われる接続法】	würde を使った仮定の表現 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、実際に使われる接続法を覚える。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 7 回目の復習（ 1 5 分）	15分
		事後学修	2 8 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）	45分
14	第一部 木12/24	【試験】【振り返り】	授業内試験。試験の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、授業 1 6 回目～ 2 8 回目の学習事項の達成度を確認する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 8 回目の復習（ 4 5 分）	45分
		事後学修	自分の苦手な事項の復習（ 1 5 分）	15分
15	第一部 木1/14	【授業の補足】	これまでの授業での重要事項・注意事項の再確認。 場合によっては追試験を実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、これまでの授業での重要事項・注意事項の再確認。	
		事前学修	これまでの学習事項の総復習（ 3 0 分）	30分
		事後学修	興味のわいた参考事項等についての自主学習（ 3 0 分）	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	富山 典彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語を半期履修したもの

【授業方法】
ドイツ語の基本的な文法事項に沿って、必要な語彙や表現を覚えていくことで、「到達目標」に達することを目指す。授業中に、聞き取り練習や発話練習を行うとともに、適宜小テストを実施して、到達度を測定する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループに分かれて、ドイツ語の会話の練習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点後に返却し、講評します。適宜ポータルシステムにより配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Bravo! Deutsche Grammatik	深山典彦	郁文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
連絡することがあればメールでしてください。tomiyama@seijo.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	過去の表現(1)	過去の表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	過去の表現を書く練習をする。	30分
2	9月25日	過去の表現(2)	過去の表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	過去の表現を書く練習をする。	30分
3	10月2日	形容詞の用法	形容詞の用法を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	形容詞の用法の文を書く練習をする。	30分
4	10月9日	日付の言い方	日付の言い方を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	日付の言い方を書く練習をする。	30分
5	10月16日	受動表現	受動表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	受動表現を書く練習をする。	30分
6	10月23日	接続詞(1)	接続詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	接続詞を用いた文を書く練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	接続詞(2)	接続詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	接続詞を用いた文を書く練習をする。	30分
8	11月6日	関係詞(1)	関係詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	関係詞を用いた文を書く練習をする。	30分
9	11月13日	関係詞(2)	関係詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	関係詞を用いた文を書く練習をする。	30分
10	11月20日	比較変化	比較変化を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	比較変化を用いた文を書く練習をする。	30分
11	11月27日	zu不定詞と分詞	zu不定詞と分詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	zu不定詞と分詞を用いた文を書く練習をする。	30分
12	12月4日	接続法(1)	接続法を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	接続法を用いた文を書く練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	接続法(2)	接続法を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	接続法を用いた文を書く練習をする。	30分
14	12月18日	接続法(3)	接続法を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	接続法を用いた文を書く練習をする。	30分
15	12月25日	まとめ	これまでに学んだことを総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	これまでに学んだ例文を覚える。	60分
		事後学修	これまでに学んだことを整理する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
CDを用いた演習方式。提出物は次の授業で返却し、講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して返却。授業内試験は、後日、ポータルシステムによりフィードバックの解説・講評を配信。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フィール・シュパース！（4訂版）	橋本政義、ハイク・ピナウ、他	郁文堂	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12時20分～12時50分、木曜日17時50分～18時20分、授業講堂（前もってアポイントメントを取る）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14木 9/17	【ガイダンス】【従属の接続詞】【zu不定詞】	ガイダンス（授業の進め方等について説明）。従属の接続詞とzu不定詞について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、従属の接続詞を用いた副文構文とzu不定詞について理解し、さらに詳しい表現をするためにこれらを使うことができる。	
		事前学修	シラバスを読み、第7課「環境問題」の32～33頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直して、文の書き換えに慣れる。	25分
2	第一部 月9/21木 9/24	【地球温暖化と教育】	ドイツの日常生活における環境意識とドイツを取り巻く温暖化に対する姿勢について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、文章を読んでアルプスにおける地球温暖化の影響とドイツの環境保護教育について理解し、説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、31頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	31頁を読み返し、日本との違いをまとめる。32頁にある5個の従属の接続詞を暗記する。	20分
3	第一部 月9/28木 10/1	【時刻の表現】	時刻の言い方とそれが出てくるシーンを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時刻を自分で言ったり、聞き取ったりすることができる。人にものを尋ねるときの丁寧な言い方を理解する。	
		事前学修	3頁と12頁の数詞を復習し、34頁を読んで準備する。	35分
		事後学修	パートナーを見つけて、34頁の会話を練習する。	25分
4	第一部 月10/5木 10/8	【過去形】【現在完了形】	三基本形のうち、過去基本形を使う過去形の人称変化と、過去分詞を使う現在完了形を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、過去形と現在完了形の作り方を理解し、それらを使った基礎的な文を作ることができる。	
		事前学修	第8課「週末の過ごし方」の36～37頁の問題を解いて準備する。（35分）	40分
		事後学修	間違った箇所の問題を解き直す。36頁の三基本形の表を音読する。	20分
5	第一部 月10/12木 10/15	【ドイツの週末】	過去形と過去分詞から不定詞を特定し、辞書で確認し、文章を読み進めてドイツ人の生活の一旦に触れる学修をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文章中の過去形と現在完了形を指摘し、ドイツで週末を過ごした日本人の体験から、ドイツ人の生活の基本にあるものを説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、35頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	35頁を音読し、ドイツの「閉店法」について調べる。	20分
6	第一部 月10/19木 10/22	【自由な時間】	自分がどのようなことをして時間を過ごしたか、現在完了形と過去形を使って表現する学修をする	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、ある日をどう過ごしたか、ドイツ人がよく話題とすることに答える表現ができる。	
		事前学修	38頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、38頁の文を音読する。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 月10/26 木10/29	【受動態】 【再帰動詞】	受動態との作り方と、再帰動詞とは何かを学修する。
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、受動態と再帰動詞について理解し、それらを用いて文を作ることができる。
		事前学修	第9課「ベルリンの壁」の40~41頁の問題を解いて準備する。35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、41頁にあるsich freuenの変化を暗記する。25分
8	第一部 月11/9 木11/5	【第2次大戦後のドイツ史】	ベルリンの壁を中心に、ドイツ現代史の一端を学修する。
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、第2次大戦後にドイツがたどった歴史について理解し、ベルリンの壁と東ドイツについて説明することができる。
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、39頁を読んで準備する。40分
		事後学修	39頁を復習し、1945年から現在に至るドイツの歴史を簡単な年表風にまとめる。20分
9	第一部 月11/16 木11/12	【おすすめの表現】	音楽・美術・演劇等の文化活動の内容と行われる場所を関連付けて、より詳しい表現を学修する。
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、従属の接続詞を用いて、「〜かどうか」と質問したり、「もし〜ならば」と人に勧めめる表現の文を作ることができる。
		事前学修	42頁の問題を解いて準備する。35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。42頁を音読し、キーセンテンスを暗記する。25分
10	第一部 月11/23 木11/19	【関係代名詞】	関係代名詞の形と格変化、および、関係代名詞を使って作る副文を学修する。
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、関係代名詞について理解し、それらを用いた文を作ることができる。
		事前学修	第10課「政党」の44頁の問題を解いて準備する。30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。44頁にある定関係代名詞の表を暗記し、文を音読する。30分
11	第一部 月11/30 木12/3	【政党のイメージカラー】	ドイツの主だった政党とそのイメージカラーの由来を学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツの主な政党について理解し、説明することができる。
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、43頁を読んで準備する。40分
		事後学修	43頁の文で使われている関係代名詞を指摘し、その性別と格を把握する。20分
12	第一部 月12/7 木12/10	【その後について尋ねる】	現在完了形や前置詞を伴った関係文で、より詳しく表現することを学修する。
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、関係代名詞を用いて、「あれはどうなりましたか？」と質問ができる。
		事前学修	45~46頁の問題を解いて準備する。35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。45頁の会話を、パートナーと練習する。25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14 木12/17	【接続法】	接続法の作り方と用法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法の用法について理解して説明し、適切に訳すことができる。	
		事前学修	第11課「クリスマス」の49～50頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
14	第一部 月12/21 木12/24	【クリスマス】	主人公の日本人学生によるドイツ体験の総まとめを、手紙文で学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、クリスマスから新年にかけてドイツの習慣について理解し、説明ができる。手紙の書式を理解する。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、47頁を読んで準備する。	35分
		事後学修	さまざまな文法事項を確認しながら、47頁を音読する。	25分
15	第一部 月1/18 木1/14	【振り返り】【授業内試験】	後学期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後学期の学習内容がどの程度身についたかを判断する。	
		事前学修	後学期の学習内容を振り返り、理解していない箇所がないかどうか、確認する。	120分
		事後学修	試験で正答できなかった箇所について、教科書やノートで確認する。	20分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	渡邊 善和	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
学修に当たっては、謙虚に、しかし好奇心は旺盛に、しかも自発的にコツコツと学んでいく姿勢を期待する。途中で放棄するような意志薄弱な人は受講を遠慮知ってほしい。

【授業方法】
テキストに沿って講義、演習をする。毎回復習を繰り返し、既習内容の定着を図る。DVD、CDなどの視聴覚教材を適宜活用する。授業はやみくもに急ぐことなく、解説、指導は丁寧なことを心掛ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	前回の授業を振り返り、疑問点を積極的に出させ、まずはそれに対して他の学生に答えさせる。そのうち教師が解説する。またドイツに関する興味深い体験があれば、みんなの前で披露させ、他の受講生の意見を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題をこまめに出し、それを翌週回収し、授業内で講評する。一人一人の学力向上を常に意識する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベルリンに夢中』	石井学ほか	同学社	2020年	教科書	必携
『ヨーロッパ学入門』	武蔵大学人文学部	朝日出版社	2020年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日（8:30～8:50）2階教員室または特に要望のある学生にはメールでも対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金9/18	前期の総復習	前期の総復習をする。 前期範囲の総復習用プリントを配布する。	
		この回の到達目標	前期に学修したところを完全に定着させる。	
		事前学修	テキストの前期で習った範囲を精読してくる。	30分
		事後学修	復習プリントの自習をする。	30分
2	金9/25	会話練習	第7課 練習問題のページと会話文の訳と簡単な会話練習をする。 第7課の復習用プリントの配布	
		この回の到達目標	簡単な会話力の定着を図る。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回授業で習った内容の復習、および第7課の復習用プリントの自習をする。	30分
3	金10/2	話法の助動詞	第8課 話法の助動詞、未来時制の解説及び関連する練習問題をする。 第8課の復習用プリントの配布 ベルリン紹介のDVDの第8課を視聴する。	
		この回の到達目標	英語と対比しつつ話法の助動詞の運用力の定着を図る。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題のページ会話文の訳を自習する。 第8課の復習用プリントの自習をする。	30分
4	金10/9	動詞の3基本形	第8課 練習問題のページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。 第9課 動詞の3基本形、過去時制の解説及び関連する練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第9課の視聴 、	
		この回の到達目標	3基本形の使用法の違い及び変化を覚える。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題ページと会話文の訳を自習する。	30分
5	金10/16	現在完了時制	第9課 練習問題のページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。 第10課 現在完了時制の解説及び関連する練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第10課の視聴	
		この回の到達目標	現在完了の使用法を理解する。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題ページと会話文の訳を自習する。	30分
6	金10/23	形容詞	第10課 練習問題のページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。 第11課 形容詞の解説及び関連する練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第11課の視聴	
		この回の到達目標	形容詞の活用と使用法の理解	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題ページと会話文の訳を自習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金10/30	受動態、再帰表現	第11課 練習問題のページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。 第12課 受動態、再帰動詞の解説及び関連する練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第12課の視聴	
		この回の到達目標	2種の受動態の違いと再起表現の理解	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題ページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。	30分
8	金11/6	会話表現	第12課 練習問題のページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。	
		この回の到達目標	より複雑な表現に習熟する。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題ページと会話文の訳を自習する。	30分
9	金11/13	ドイツ映画鑑賞	ドイツの映画を鑑賞する（次週にわたる）	
		この回の到達目標	じっくり鑑賞して「ドイツ」「ドイツ人」「人間」を知る。	
		事前学修	ドイツに関するテレビ番組や映画を見る。	30分
		事後学修	この映画を見ての感想をメモする。	30分
10	金11/20	前回のドイツ映画の鑑賞の続き	前回到引き続き同映画を鑑賞する。	
		この回の到達目標	「ドイツ」「ドイツ人」「人間」について深く考察する。	
		事前学修	前回のメモを整理し、関連して可能な限りドイツについて調べる。	30分
		事後学修	前回のメモを整理し、きちんとレポートの形にまとめる。	30分
11	金11/27	後期に学修した内容の総復習	後期の範囲の総復習（前半部分）	
		この回の到達目標	後期に学修した内容（前半部分）の定着を図る。	
		事前学修	後期の範囲（前半部分）の総復習をする。	30分
		事後学修	授業でした総復習（前半部分）の内容を確認し、しっかり頭に入れる。	30分
12	金12/4	後期に学修した内容の総復習の続き	後期に学修した内容（後半部分）の総復習をする。	
		この回の到達目標	総復習をしてみて自分の弱点に気づきそれを克服する。	
		事前学修	後期の範囲（後半部分）の総復習をする。	30分
		事後学修	後期の範囲の総復習（後半部分）の内容を確認し、しっかり理解、記憶する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金12/11	テキストの補足の解説 その1	文法の補足部分の前半部分の解説、及び関連する練習問題をする。 DVD「オクトーバーフェスト」の視聴	
		この回の到達目標	ドイツ人の意外な面を発見する。	
		事前学修	文法の補足部分のページの前半部分を読んでくる。	30分
		事後学修	今回の授業内容の復習をする。	30分
14	金12/18	テキストの解説 その2	文法の補足部分の後半部分の解説及び関連する練習問題をする。 DVD「ヨーロッパのクリスマス」の視聴 学年末考査の受験の手引きをする。	
		この回の到達目標	「クリスマス」の本質を理解する。学年末試験に向けてしっかり自分の弱点を把握する。	
		事前学修	文法の補足部分の後半部分を読んでくる。	30分
		事後学修	今回の授業の内容を復習する。	30分
15	金12/25	総括・学年末学力考査	学年末学力考査及び講評	
		この回の到達目標	さらなる上のレベルへの橋渡しをする。	
		事前学修	試験範囲の総復習を徹底的にしておく。	30分
		事後学修	学年末考査後のステップアップへ向けて自分の学習姿勢を反省する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。やむをえぬ事由で欠席が複数回におぶときは、事前か事後に申し出て、指導をうけてください。

【授業方法】
前期教材、ドイツ語基礎表現Aの後半を使用して指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に処理。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ』	ヘルマン・トロール 他	第三書房	2016		
備考	現代のドイツの環境意識をテーマに、やさしくドイツ語を学べます。				

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/11	前期復習	前期の復習授業。	
		この回の到達目標	前期に学習したドイツ語文法と表現の内容を復習する。教材のドイツ語は平易ですが、学習の進度にあわせて、プリントでのリーダーも追加する予定です。	
		事前学修	前期の復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
2	9/18	テキストLektion7	ドイツのお城に泊まる 話法の助動詞	
		この回の到達目標	ドイツ語の助動詞の運用法を学ぶ。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
3	9/25	テキストLektion7	ドイツのお城に泊まる 名詞の複数形	
		この回の到達目標	名詞の単数・複数のあつかいかた。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
4	10/2	テキストLektion8	待ち合わせはどうやって？ 時刻表現・再帰動詞	
		この回の到達目標	日常生活表現の基礎知識。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
5	10/9	テキストLektion8	待ち合わせはどうやって？ 地図の読み方。地理的な知識。鉄道など。	
		この回の到達目標	旅行に関する表現一般を学びます。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
6	10/16	テキストLektion9	旅行案内所にて(1) 分離／非分離動詞の使い方基本編	
		この回の到達目標	すこし変わった動詞の扱い方です。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23	テキストLektion9	旅行案内所にて(2) 分離／非分離動詞の使い方応用編	
		この回の到達目標	分離・非分離動詞の運用法を学びます。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
8	10/30	テキストLektion10	誰と会ったのですか？ 完了表現	
		この回の到達目標	英語とはちょっとちがった完了表現の基本を学びます。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
9	11/6	テキストLektion10	誰と会ったのですか？ 完了表現	
		この回の到達目標	日常よく使う官僚表現の文例をあげてテキストを補完します。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
10	11/13	テキストLektion11	過去と完了表現のちがい(1) 過去形の基本 記録表現としての過去形について説明します。	
		この回の到達目標	会話は現在完了。文書は過去形。そのちがい。(1)	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
11	11/20	テキストLektion11	過去と完了表現のちがい(2) 過去形の応用	
		この回の到達目標	プリントにて、ややむずかしい和訳練習をします。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
12	11/27	テキストLektion12	冬時間と夏時間 形容詞の比較 付加語的用法	
		この回の到達目標	形容詞の運用法を丁寧に教えます。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/4	接続法		接続法というもうひとつの動詞の変化（１）
		この回の到達目標	いっけん難そうですが、なれてしまえばそんなでもありません。いろいろな場面で、接続法はつかわれるのです。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
14	12/11	接続法の読解		接続法というもうひとつの動詞の変化（２） 非現実な表現(仮定法)
		この回の到達目標	形がへんなら接続法かも。これさえ知っておけばなんのことはないのです。	
		事前学修	前回までのまとめ学習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
15	12/18	学年末試験 まとめ		学期末の教場筆記試験 読解中心
		この回の到達目標	総合的読解力を判定します。簡単な文から、やや難しい初見のドイツ文まで。	
		事前学修	試験準備（60分）	60分
		事後学修	試験の反省。（30分）	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4（読む・聞く・話す・書く）技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aを同時履修すること。

【授業方法】
ドイツ語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「ドイツ語ルネサンス」	本郷建治・佐藤彰	三修社	2017	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜 2 限授業後の教室, もしくは、9号館1階共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ドイツ語のアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを、実際に発音しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
		事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
		事後学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音し、ノートに書いてみる。	30分
2	4/15	発音の3大原則	アルファベットの発音を復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ドイツ語の発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を読むことができる。	
		事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音し、スペルをノートに書いてみる。主語となる代名詞を覚えておく。	30分
3	4/22	現在人称変化	基本動詞、sein、habenの変化を説明してから、会話文に進む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、居住地、出身、身分、専攻を聞かれて、正確に聞き取り、その質問にドイツ語で答えることができる。	
		事前学修	CDを聞きながら、質問のフレーズを暗唱し、自分のことを言う練習をしておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
4	4/29	自己紹介と他己紹介	基本動詞、sein、habenの変化を復習し、その後、自己紹介と他己紹介の文を扱う。動詞の意味を辞書で調べる方法も説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分のこと、身近の人をドイツ語で紹介することができる。	
		事前学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、質問と答えのパターンに習熟しておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
5	5/6	名詞と冠詞	基本的な重要動詞の変化をまとめ、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞、不定冠詞の違い及び格の違いが分かったうえで、会話文の中で格を見分けることができる。	
		事前学修	基本会話に頻繁に使われる、主格と直接目的語の形を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
6	5/13	定冠詞と不定冠詞	定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞、不定冠詞の用法及び格の役割が分かったうえで、会話文の中で適切な冠詞を使うことができる。	
		事前学修	基本会話に頻繁に使われる、主格と直接目的語の形だけではなく、間接目的語の形も確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	現在人称変化（2）	ここでは2人称、3人称単数で母音交替が起こる動詞の人称変化を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、fahren, sprechen, sehen, essen ,geben などに日常会話に頻繁に出てくる動詞を、主語を自由に変えて活用できる。	
		事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。辞書で不規則変化動詞を引いて、意味と活用を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
8	5/27	人称代名詞の3格、4格	人称代名詞の1格（主語）はすでに学んだが、ここでは3格（間接目的語）と4格（直接目的語）を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
		この回の到達目標	人到達目標①②③④に関連して、称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて使うことができる。	
		事前学修	定冠詞、不定冠詞の3格、4格の形を抜き出し、人称代名詞の3格とスベル上の共通項を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
9	6/3	定冠詞類と不定冠詞類（所有冠詞・否定冠詞）	定冠詞類と不定冠詞類（所有冠詞）の格変化を定冠詞、不定冠詞の格変化と関連付けて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、定冠詞類、特に、不定冠詞類（所有冠詞）を使って、「この・・・」「私の・・・」「あなたの・・・」「彼の・・・」「彼女の・・・」などを表現できるようになる。	
		事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
10	6/10	疑問代名詞と疑問副詞	疑問代名詞wer, was、疑問副詞を説明する。定形の位置についても指摘する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、疑問詞を駆使し、いろいろな質問をすることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。疑問代名詞の格変化と定冠詞の格変化を比較し、共通項を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
11	6/17	数詞、時刻	数字20～100の言い方、および、時刻の言い方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特に21以上の数字の言い方、また、時刻に関して「…半」「…時15分前」「…時15分過ぎ」の表現を難なく聞き取り、言うことができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。数字を暗唱しておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
12	6/24	自分の好み、趣味、計画を伝える。 身近な人の好み、趣味、計画を聞き取る	自分の好み、趣味、計画の伝え方を文法的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の好み、趣味、計画を文法的に正しく伝えることができる。また、身近な人の好み、趣味、計画を正確に聞き取ることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	前置詞（１）と格支配	前置詞の種類は4種類あるが、前期では2格、3格、4格と結びつく前置詞の使い方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「が・の・に・を」以外の関係、例えば、「・・・と」「・・・へ」「・・・から」を意味する前置詞によって、会話の幅を広げることができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	授業で扱った日常表現を振り返り、難なく訳し、表現できるよう、発音し、ノートに書いておく。試験に備えて、基本単語、基本的な語形変化、基本フレーズを難なく言えるように、かつ、書けるようにしておく。	150分
14	7/8	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。問題の意図を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平易な文を訳し、自己紹介、他己紹介等、難なく表現できる。	
		事前学修	試験に備えて、CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。	150分
		事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	7/15	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
		この回の到達目標	自分の誤り、欠点を認識することができる。それによって、到達目標①②③④に関連して、簡単な挨拶、自己紹介、他己紹介、日常生活関する会話ができるようになる。	
		事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の授業に備えて、教科書もしくはノートに反省点を書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語学習に熱意があること。

【授業方法】
各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題当順次当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文法の習得状況に応じて適宜行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）	森公成他	同学社	2017	教科書	必携
独和辞書（ガイドンスにて紹介）	特に指定はしない	特に指定はしない		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問は、授業中いつでも活発に質問してほしい。授業後も教室等で対応する。授業時間：火曜 1 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	発音	ガイダンス 独和辞書の紹介 アルファベットおよび単語の発音練習	
		この回の到達目標	単語の発音のルールを習得する。	
		事前学修	教科書を必ず購入し持参すること。 教科書の『はじめに』の箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	CDで発音練習をする。	30分
2	4/14	動詞の現在人称変化	発音の復習 Lektion1 動詞の現在人称変化	
		この回の到達目標	規則動詞の人称変化のルールを習得する。	
		事前学修	単語の発音の箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	CDを聞き発音の復習をする。	30分
3	4/21	重要な不規則動詞の現在人称変化	Lektion1 sein、haben、werdenの現在人称変化	
		この回の到達目標	sein、haben、werdenの現在人称変化を覚える。	
		事前学修	独和辞書を必ず持参する。 Lektion1を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
4	4/28	名詞と冠詞	Lektion2 名詞と冠詞 名詞の性と格と定冠詞の格変化	
		この回の到達目標	定冠詞の格変化の理解と習得。	
		事前学修	Lektion2を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
5	5/5	名詞と冠詞	Lektion2 名詞と冠詞 名詞の性と格 不定冠詞	
		この回の到達目標	不定冠詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion2を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
6	5/12	名詞の複数形	Lektion3 複数形 名詞の複数形	
		この回の到達目標	単数形から複数形の作り方の習得。	
		事前学修	Lektion3を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	不規則動詞の現在人称変化	Lektion4 動詞の現在人称変化（２）、命令形 幹母音が変わる動詞の人称変化	
		この回の到達目標	不規則動詞の変化の仕方を習得する。	
		事前学修	Lektion4を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
8	5/26	冠詞類	Lektion5 冠詞類 定冠詞類の種類と格変化	
		この回の到達目標	定冠詞類の格変化の習得。	
		事前学修	Lektion5を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
9	6/2	冠詞類	Lektion5 不定冠詞類、人称代名詞 不定冠詞類の格変化	
		この回の到達目標	不定冠詞類の格変化の習得。	
		事前学修	Lektion5を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
10	6/9	前置詞	Lektion6 前置詞 前置詞の格支配	
		この回の到達目標	前置詞の種類と格支配の習得。	
		事前学修	Lektion6を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
11	6/16	従属の接続詞	Lektion6 従属の接続詞 従属の接続詞と複文	
		この回の到達目標	従属の接続詞の種類と複文の習得。	
		事前学修	Lektion6を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
12	6/23	話法の助動詞	Lektion7 話法の助動詞と未来形 話法の助動詞と未来形の助動詞	
		この回の到達目標	話法の助動詞の意味と使い方の習得。	
		事前学修	Lektion7を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	前期前半の復習	前期前半の文法内容のチェック	
		この回の到達目標	前期前半の練習問題の総復習。	
		事前学修	前期学習した文法内容を総復習して疑問点を出しておく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
14	7/7	前期後半の復習	前期後半の文法内容のチェック	
		この回の到達目標	前期前半の練習問題の総復習。	
		事前学修	前期学習した文法内容を総復習して疑問点を出しておく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	120分
15	7/14	試験および反省	期末テスト及びテスト内容の解説	
		この回の到達目標	試験および反省。	
		事前学修	期末テスト範囲を総復習する。	120分
		事後学修	テストの出来をチェックして反省点を出す。 夏期休みの課題をしておく。	60分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aと併せて、ドイツ語基礎表現Aを履修すること（または履修済み）が望ましい。後期のドイツ語基礎文法Bは、独検を受験することが履修条件となりますので注意して下さい。

【授業方法】
教科書に沿って解説し、その後、練習問題を通じて、学習した内容の定着を深めていきます。練習問題は、受講生に積極的に発表してもらいます。毎回、予習をしっかりとやることが前提となります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後、授業内にて。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ブーメラン・エルエー』（※姉妹版『ブーメラン』もあるため注意。必ず『ブーメラン・エルエー』を購入してください。	小野寿美子他	朝日出版社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:10～ 授業終了後の講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	【ガイダンス】 この授業を受けるにあたって	授業の進め方、評価方法、独和辞典の説明などを行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	この授業を受けるために必要な教材、独和辞典などの情報を確認し、次週からの授業準備をすることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。授業で紹介された独和辞典をWEBサイトなどで調べてみる。	30分
2	第一部 火4/14	【つづり字と発音】	ドイツ語のアルファベートと発音について	
		この回の到達目標	ドイツ語のアルファベートと基礎的な発音を理解し、適用することができる。	
		事前学修	教科書の2～5頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で確認したアルファベートの発音を復習する。	30分
3	第一部 火4/21	【Lektion1】動詞	人称代名詞と動詞の現在人称変化(規則動詞)、重要動詞seinとhaben	
		この回の到達目標	ドイツ語の人称代名詞と動詞の現在人称変化を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の10頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ動詞の現在人称変化を復習する。	30分
4	第一部 火4/28	【Lektion1】語順	平叙文、疑問文での語順	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ドイツ語の文章構造を理解し、適用することができる。	
		事前学修	教科書の11頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ語順のパターンを復習する。	30分
5	第一部 火5/5	【Lektion2】名詞の性と冠詞	名詞の性、冠詞の格変化	
		この回の到達目標	名詞の性別と冠詞の格変化を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の18頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ名詞の性別と冠詞の格変化を復習する。	30分
6	第一部 火5/12	【Lektion2】名詞の複数形	名詞の複数形の5つの型	
		この回の到達目標	名詞の複数形の5つの型を理解し、独和辞典で確認することができる。	
		事前学修	教科書の19頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ複数形の5つの型について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	【Lektion3】不規則動詞	不規則動詞の現在人称変化	
		この回の到達目標	規則動詞との違いを理解し、不規則動詞の現在人称変化を適用することができる。	
		事前学修	教科書の26頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ不規則動詞の現在人称変化を復習する。	30分
8	第一部 火5/26	【Lektion3】非人称のes	非人称のesの表現と時刻の言い方	
		この回の到達目標	非人称のesの表現と時刻の表現を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の27頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ非人称のesと時刻の表現を復習する。	30分
9	第一部 火6/2	【Lektion4】冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類	
		この回の到達目標	定冠詞類、不定冠詞類の種類と格変化を確認し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の34頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ定冠詞類、不定冠詞類の使い方を復習する。	30分
10	第一部 火6/9	【Lektion4】 人称代名詞の3格と4格	人称代名詞の3格と4格、3格と4格の語順	
		この回の到達目標	人称代名詞の3格と4格を確認し、注意すべき3格、4格の語順を説明することができる。	
		事前学修	教科書の35頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ人称代名詞の3格と4格を復習する。	30分
11	第一部 火6/16	【Lektion5】前置詞	前置詞の種類と格支配	
		この回の到達目標	前置詞の種類と格支配を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の42頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ前置詞の格支配を復習する。	30分
12	第一部 火6/23	【Lektion5】疑問代名詞	疑問代名詞のwerとwasの格変化	
		この回の到達目標	疑問代名詞の種類と格変化を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の43頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ疑問代名詞を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	【Lektion6】 話法の助動詞	助動詞の種類と語順	
		この回の到達目標	話法の助動詞の種類、現在人称変化、語順を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の50頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ話法の助動詞の現在人称変化と語順を復習する。	30分
14	第一部 火7/7	【前期の確認】	授業内試験及び重要箇所の振り返り	
		この回の到達目標	試験を通じて前期で学んだ文法事項の習得状況を確認する。またその後の振り返りで、習得できていなかった部分を補い、適用することができる。	
		事前学修	第2回～第13回の学習内容を復習しておく。	45分
		事後学修	授業内試験でできなかった箇所を復習する。	15分
15	第一部 火7/14	【前期の総括】	前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	前期で学んだ文法事項を整理し、的確に使用することができる。	
		事前学修	第2回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。	30分
		事後学修	授業内で質疑応答したことを復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。初習者も歓迎します。

【授業方法】
文法事項を説明し、理解できたかどうかを練習問題で確認します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業時に答え合わせし、解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法へのやさしい離陸	石井寿子	朝日出版社	2001年		
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ドイツについて	導入	
		この回の到達目標	ドイツの歴史について知る	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
2	4/17	発音規則	第1課 発音	
		この回の到達目標	発音規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
3	4/24	基数	第2課 数詞	
		この回の到達目標	ドイツ語で0～100まで言えるようにする	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
4	5/1	動詞の変化	第3課 動詞の現在人称変化	
		この回の到達目標	主語と動詞の関係を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
5	5/8	不規則動詞	第4課 強変化動詞	
		この回の到達目標	強変化動詞のパターンに慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
6	5/15	名詞の性・数・格	第5課 名詞の格変化	
		この回の到達目標	名詞の性・数・格のシステムを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	格変化の発展 1	第 6 課 冠詞類	
		この回の到達目標	冠詞類の使い方に慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
8	5/29	格変化の発展 2	第 7 課 人称代名詞	
		この回の到達目標	代名詞の性・数・格を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
9	6/5	人称変化の発展	第 8 課 話法の助動詞	
		この回の到達目標	助動詞の使い方に慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
10	6/12	前置詞の用法	第 9 課 前置詞	
		この回の到達目標	前置詞の格支配に慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
11	6/19	動詞の発展	第 1 0 課 複合動詞	
		この回の到達目標	分離・非分離動詞を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
12	6/26	2 人称の違い	第 1 0 課 命令形	
		この回の到達目標	命令形の作り方に慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	1～10課	前期のまとめ	
		この回の到達目標	前期に勉強したことを復習する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
14	7/10	筆記試験及びまとめ	前期の力だめし	
		この回の到達目標	前期の学習事項を理解できたかどうかを確認する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
15	7/17	解説	前期の総括	
		この回の到達目標	試験の答え合わせと解説	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂・ドイツ文法の森（CD付）	ローデリヒ・ガート ゲ	第三書房	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口に申し出て、声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	年間講義計画・成績評価方法・文字と発音のしくみ	授業方針を説明する。 すぐに文字、発音の訓練に入る。	
		この回の到達目標	授業と教科書の趣旨を理解する。 ドイツ語の文字と響きを体験する。	
		事前学修	ドイツやドイツ語について、図書館や電子媒体等を利用してまとめてみる。	30分
		事後学修	ドイツ語学習を、この半年の学生生活に位置付けてみる。	30分
2	水4/15	発音訓練	教科書の例に従い、発音と綴りを確認する。	
		この回の到達目標	ドイツ語特有の発音と綴り字規則を知る。	
		事前学修	教科書添付のCDを聴き、ドイツ語の音声に親しむ。	30分
		事後学修	発音の要点を確認する。重要項目を声に出し、綴り字を書いてみる。	30分
3	水4/22	動詞の現在人称変化	人称変化の仕組みと規則を知り、いくつかの動詞で練習する。	
		この回の到達目標	規則変化の代表例を覚えてしまうことが望ましい。	
		事前学修	教科書の説明を読み、英語との違いを知る。	30分
		事後学修	ドイツ語の人称変化の基本であるからよく練習をする。	30分
4	水4/29	定動詞の位置と枠構造	いくつかの例文を見て、その構造を理解する。 自分でもドイツ文を作ってみる。	
		この回の到達目標	基本的なドイツ文の仕組みを理解できる。	
		事前学修	英語の文の種類、それぞれの文における動詞の位置をまとめてみる。 そこで使われている文法用語も確認する。	30分
		事後学修	練習問題で、ドイツ語の語順になじむ。	30分
5	水5/6	名詞の性と格変化	最初は表で変化を知る。 文の中で冠詞や名詞がどう変わるかを学ぶ。	
		この回の到達目標	練習を通じてまずは定冠詞の変化が頭の中に残るようにする。	
		事前学修	教科書の説明を読み、英語と比較してみる。	30分
		事後学修	名詞、冠詞の性、数、格について復習する。 教科書の例をCDで聴く。	30分
6	水5/13	名詞の複数形・定冠詞類と不定冠詞類	冠詞の変化の復習をする。 その応用、発展として複数形、冠詞類を学ぶ。	
		この回の到達目標	冠詞、冠詞類の変化を定着させる。	
		事前学修	英語の複数形をまとめてみる。	30分
		事後学修	冠詞、冠詞類の変化を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水5/20	動詞の不規則変化	規則変化の復習をする。 その応用、発展として不規則変化の代表例を学ぶ。	
		この回の到達目標	動詞の人称変化により親しむ。	
		事前学修	第3回動詞の現在人称変化を復習する。	30分
		事後学修	代表例の人称変化を復習する。	30分
8	水5/27	人称代名詞の格変化	人称代名詞の主格を確認する。 格変化、指示関係に注目しながら文章練習をする。	
		この回の到達目標	練習を通じて人称代名詞の変化を定着する。	
		事前学修	英語の人称代名詞の使い方をまとめる。	30分
		事後学修	人称代名詞の格変化を覚える。英語の用法との違いを確認する。	30分
9	水6/3	前置詞	主な前置詞の用例を読む。 格支配について学ぶ。	
		この回の到達目標	代表的な用例を文章で理解する。	
		事前学修	冠詞、名詞、代名詞の格変化を復習する。	30分
		事後学修	具体的な用例の復習をし、ドイツ語の前置詞を理解する。	30分
10	水6/10	話法の助動詞	助動詞構文を知る。 それぞれの助動詞の用法を例文で理解する。	
		この回の到達目標	枠構造を理解する。 助動詞の人称変化ができる。	
		事前学修	ドイツ語と英語の助動詞を対応させてみる。	30分
		事後学修	助動詞の人称変化を復習する。 例文で、助動詞、本動詞の語順を理解する。	30分
11	水6/17	形容詞の格変化	冠詞の変化を復習する。 形容詞の格変化を練習する。	
		この回の到達目標	形容詞の格変化の仕組みを理解する。	
		事前学修	第5回の定冠詞、不定冠詞と名詞の格変化を復習する。	30分
		事後学修	変化についての基本的考え方を理解した上で徐々に覚えていく。	30分
12	水6/24	動詞の三基本形	動詞の三基本形の種類を知る。 辞書や不規則動詞変化表の見方を確認する。	
		この回の到達目標	主な動詞の三基本形を作ることができる。	
		事前学修	英語の動詞の三基本形を振り返ってみる。	30分
		事後学修	先ず規則変化を確実に身につける。不規則変化は重要動詞から徐々に覚えていく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水7/1	過去人称変化	現在人称変化の復習をする。 過去形を使っている文を読み取る。	
		この回の到達目標	文の現在と過去の時称動詞から読み取ることができる。	
		事前学修	第3回の現在人称変化を復習する。	30分
		事後学修	例文、練習問題を読み直し、過去時制の判断が可能になっているか確認する。	30分
14	水7/8	前期まとめ	文法事項を中心に前期の勉強を整理する。 質問を受けて補足説明する。	
		この回の到達目標	前期の復習をし、理解が不足している部分を確認する。	
		事前学修	前期の学習をまとめてみる。	30分
		事後学修	重要項目を再度確認する。	30分
15	水7/15	試験	試験をして解説、講評を行う。	
		この回の到達目標	前期の成果を明らかにし、後期の学習で留意すべき点を考える。	
		事前学修	重要項目をまとめ、理解を確認する。	30分
		事後学修	試験を点検し、後期の学習を展望する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現A・Bも併せて履修すること。独和辞書必携。12月にドイツ語検定4級を受験すること。

【授業方法】
身近な基本的表現を多く使って、反復練習を積み重ねながら着実に文法を身につける。特に確実に習得すべき事項に関しては習得できるまで確認の小テストを実施する。独和辞書を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
初テストと課題は添削し返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
たいむりい	森田悟	朝日出版社	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業（木曜3限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。h.kawakami18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木4/9	ガイダンス：ドイツ語について	ドイツ語について、授業の進め方・成績評価の方法・検定試験・辞書について説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の歴史について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読んでおくこと。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。教科書、辞書の準備をする。	30分
2	木4/16	母音字の発音	1課 発音規則を説明し、ドイツ語のつづり字と発音の関係を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の発音規則を理解し、アルファベットと教科書の単語が発音することができる。	
		事前学修	ドイツ語のアルファベットと英語のアルファベットの違いを確認しておくこと。	30分
		事後学修	アルファベット、単語のアクセントの位置、母音のつづり字の発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
3	木4/23	子音字の発音	子音字の読み方、簡単な挨拶表現、数字の読み方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、子音字の読み方を理解し、教科書の単語が発音することができる。	
		事前学修	ローマ字読みで読める単語を発音練習してくる。	30分
		事後学修	子音つづり字の発音、挨拶表現、数字を繰り返し発音練習し、確実に覚えること。 数字の小テストを実施する。	30分
4	木4/30	主語と動詞〔規則動詞〕の変化	2課 主語と動詞〔規則動詞〕の変化について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の形は主語の種類で決まることを理解し、動詞を辞書で引くことができる。	
		事前学修	教科書の単語を発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	主語になる代名詞と規則変化動詞の人称変化を確実に覚えること。	30分
5	木5/7	語順について	語順について説明し、平叙文、疑問文の動詞の位置を学習する。重要動詞〔sein, haben〕の変化を練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の位置で文のタイプが決まることを理解し、平叙文、疑問文を作ることができる。 練習問題P8	
		事前学修	練習問題P8 Iを予習してくる。	30分
		事後学修	動詞の位置を復習する。小テストを実施するので、重要動詞〔sein, haben〕の変化は確実に覚えること。	30分
6	木5/14	名詞の性と数	3課 名詞の性と数について説明し、名詞の種類と複数形、定冠詞、不定冠詞、所有冠詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の三つの種類と複数形について理解し、名詞を辞書で引くことができる。 練習問題P8	
		事前学修	ドイツ語の名詞と英語の名詞の違いを確認しておくこと。	30分
		事後学修	名詞の複数形、定冠詞、不定冠詞について復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木5/21	名詞の種類と代名詞の関係	名詞の種類と代名詞の使い方、否定文の作り方について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の種類と代名詞の使い方を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P12	
		事前学修	練習問題P12 I を辞書引きながら予習してくる。	30分
		事後学修	三人称の代名詞の使い方について復習すること。 間違えた個所の問題を解き直す。	30分
8	木5/28	名詞の格変化	4課 文中での名詞の役割を表す[1・2・3・4格]の格について説明する。冠詞類の変化、否定冠詞を使った否定文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どの名詞が主語か目的語か名詞の役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	名詞の性、複数形、定冠詞、不定冠詞についてもう一度復習しておくこと。	30分
		事後学修	名詞の格変化についてを復習すること。小テストを実施するので、定冠詞、不定冠詞の変化は確実に覚えること。	30分
9	木6/4	名詞の格変化の練習	名詞の格変化を理解し、冠詞の種類と使い方について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞と冠詞の格変化を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P16	
		事前学修	練習問題P16を辞書引きながら予習してくる。	30分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
10	木6/11	動詞〔不規則動詞〕の変化	5課 動詞の語幹も変化する動詞〔不規則動詞〕の変化について説明し、命令表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則動詞の変化と称代名詞の格変化について理解し、説明することができる。	
		事前学修	動詞の規則変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
		事後学修	不規則動詞の変化、命令表現について復習すること。小テストを実施するので、人称代名詞の変化は確実に覚えること。	30分
11	木6/18	代名詞の格変化	人称代名詞の格変化、非人称表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代名詞の格変化と不規則動詞の変化を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P20	
		事前学修	練習問題P20を辞書引きながら予習してくる。	30分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
12	木6/25	前置詞と格支配	6課 前置詞と格支配について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞によって結び付く名詞の格が決まる格支配について理解し、説明することができる。	
		事前学修	名詞、定冠詞、不定冠詞の変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
		事後学修	前置詞の格変化と意味について復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木7/2	3・4格支配の前置詞	3・4格支配の前置詞について説明し、練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞の格変化と使い方を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P24 I	
		事前学修	練習問題P24 I を辞書引きながら予習してくる。	30分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。 前置詞の使い方を確実に覚える。	30分
14	木7/9	重要文法の復習	練習プリントで、動詞と名詞と前置詞の練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習プリントで、前期学習した文法事項の問題を理解し、解答できる。	
		事前学修	前期学習した文法事項を復習してくる。	40分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。 重要単語を覚える。	40分
15	木7/16	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の変化、名詞と冠詞の格変化、前置詞の使い方を説明することができる。	
		事前学修	前期の文法と重要単語を総復習する。	50分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
冬期ドイツ語技能検定試験を受験すること

【授業方法】
2時間に1課のペースで進み、最初の1時間を文法説明、次の1時間を練習問題に当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ語なんて怖くない』	西村祐子・Rudolf Petrik	同学社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日10:30～12:20 月曜日17:50～19:40

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4第 二部 月 4/6	ガイダンス アルファベート	授業の進め方、辞書の選び方について説明する。 アルファベートの発音を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、アルファベートを正しく発音できる。	
		事前学修	添付CDのアルファベートをよく聞いておくこと。	30分
		事後学修	アルファベートを暗記して発音できるようにすること	30分
2	第一部 土4/11第 二部 月 4/13	第1課 ドイツ語の発音	特に英語と発音が異なる子音に注意して単語の発音を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、簡単な挨拶を発音できる。	
		事前学修	添付CDで9、10ページの単語の発音をよく聞いておくこと。	30分
		事後学修	教科書11ページの単語を発音して意味を調べること。	30分
3	第一部 土4/18第 二部 月 4/20	第2課 動詞の現在人称変化、sein動詞、語順について	動詞は人称と数に応じて語尾変化することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、語尾変化した動詞から不定詞を導き出すことができる。	
		事前学修	教科書15ページの人称代名詞に目を通しておくこと	30分
		事後学修	教科書12ページの不定詞句を使って文章を作ってみること。	30分
4	第一部 土4/25第 二部 月 4/27	第2課 練習問題	定動詞の位置に注意しながら問題を解いていく	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、決定疑問文・疑問詞疑問文を作ることができる。	
		事前学修	教科書17ページを予習しておくこと。動詞はすべて現在人称変化してみること。	30分
		事後学修	自己紹介の仕方を練習しておくこと。	30分
5	第一部 土5/2 第 二部 月 5/4	第3課 名詞の姓と格変化（単数）について	名詞には男性・女性・中性と3つの性があり、役割に応じて格変化することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の格の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書19～21ページに目を通し、定冠詞・不定冠詞の使い分けを頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	課題に出された単語を定冠詞を付けて格変化させること。	30分
6	第一部 土5/9 第 二部 月 5/11	第3課 練習問題	格の用法に注意しながら問題を解いていく。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、定冠詞と不定冠詞の基本的意味を理解し、使い分けることができる。	
		事前学修	教科書23ページを予習しておくこと。名詞はすべて定冠詞をつけて格変化しておくこと	30分
		事後学修	課題に出された単語を不定冠詞を付けて格変化させること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16第 二部 月 5/18	第4課 名詞の複数形、人 称代名詞の格変化、定冠詞 類について	名詞の複数形には様々なタイプがあることを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、任意の名詞を受ける際に正しい人称代名詞を選ぶことができる。	
		事前学修	定冠詞の格変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	第6回授業で課題に出した単語の複数格を格変化させること。	30分
8	第一部 土5/23第 二部 月 5/25	第4課 練習問題	英語とは使い方が違う単数3人称の人称代名詞に注意して問題を解いていく	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問形容詞welcherの用法を理解し、使うことができる。	
		事前学修	教科書29ページを予習しておくこと。年代聞き取りの問題は、ドイツ語でつづりを書いておくこと。	30分
		事後学修	基数詞を発音し、書けるようにしておくこと。	30分
9	第一部 土5/30第 二部 月 6/1	第5課 不定冠詞類 小テ スト（1）	所有冠詞、否定冠詞keinの用法について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、nichtとkeinの違いを理解し、使い分けることができる。	
		事前学修	不定冠詞の格変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	与えられた文章を否定文にしてみること。	30分
10	第一部 土6/6第 二部 月 6/8	第5課 練習問題	nicht の位置について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、否定疑問に対して的確に答えることができる。	
		事前学修	教科書35ページを予習しておくこと。Aの問題は自分でも質問を作ってみること。	30分
		事後学修	nichtとkeinの使い分けについて整理しておくこと。	30分
11	第一部 土6/13第 二部 月 6/15	第6課 不規則動詞、従属 文について	不規則動詞の現在人称変化を学修する。従属文では定動詞が後置されることを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、よく使われる不規則動詞を用いて簡単な文章を作ることができる。	
		事前学修	平叙文と疑問文の定動詞の位置を復習しておくこと。	30分
		事後学修	不規則動詞変化表の見方を復習しておくこと。	30分
12	第一部 土6/20第 二部 月 6/22	第6課 練習問題	不規則動詞の辞書での調べ方を復習しつつ問題を解いていく	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、従属接続詞を用いて、2つの文章を的確に接続することができる。	
		事前学修	教科書41ページを予習しておくこと。Bの問題は従属文も使って作文してみること。	30分
		事後学修	教科書36ページの不規則動詞の変化を覚えること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27第 二部 月 6/29	第7課 前置詞、非人称のesについて	前置詞は特定の格を支配することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、的確な前置詞を選ぶことができる。	
		事前学修	定冠詞・不定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと	30分
		事後学修	3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを整理しておくこと。	30分
14	第一部 土7/4第 二部 月 7/6	第7課 練習問題	3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いに注意して問題を解いていく	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書47ページを予習しておくこと。3・4格支配の前置詞では、3格の場合は4格に、逆に4格の場合は3格になるような文章を作ってみること。	30分
		事後学修	時刻の言い方を練習しておくこと。	30分
15	第一部 土7/11第 二部 月 7/13	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。	
		事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと	30分
		事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
授業ではドイツ文法以外に、訳に立つドイツ関連情報を多数紹介する。リラックスした学習環境を整えるため、クラシック音楽をBGMに使用し、解説を行う。ドイツをより身近に感じてもらうために話題のDVDを見る時間を設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語ルネサンス（第3版）	本郷、佐藤他	三修社	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜14:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	[ガイダンス，導入授業]	授業の進め方、授業内で見えるDVDについて紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語文法の学習方法を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認しておくこと。	80分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認し、次回からの授業に必要なものを用意すること。	80分
2	第一部 土4/11	[ドイツ語の発音について]	発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の発音がどのようなものかについて理解し、実際に発音ができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	第一部 土4/18	[ドイツ語の動詞について]	動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の動詞がどのように変化するのかについて理解し、さまざまな動詞を変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	第一部 土4/25	[不規則変化動詞について]	不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の不規則な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	第一部 土5/2	[seinとhabenについて]	seinとhabenについて学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語のseinとhabenについて理解し、人称変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	第一部 土5/9	[名詞と冠詞について]	名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の名詞と冠詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	[名詞の複数形について]	ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の名詞の複数形について理解し、3格の変化について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	第一部 土5/23	[特殊な動詞の変化について]	特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の特殊な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	第一部 土5/30	[冠詞類について]	ドイツ語の冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の冠詞類の変化について理解し、定冠詞類と不定冠詞類の違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	第一部 土6/6	[人称代名詞について]	ドイツ語の人称代名詞の特徴を学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の人称代名詞について理解し、名詞を代名詞に置き換えることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	第一部 土6/13	[前置詞について]	ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の前置詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	第一部 土6/20	[3・4格支配の前置詞について]	3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3・4格支配の前置詞について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。(30分)	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	[接続詞について]	ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続詞について理解し、違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	第一部 土7/4	[ヒアリング練習]	ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	第一部 土7/11	[授業内試験、振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期で学んだことを復習する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、後期に備えること。	80分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を宿題とし、次の授業で確認します。発音練習も適宜行います。また、基本的な語形変化を覚えるための小テストも実施し、次の授業で返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アトラス ドイツ文法の友	工藤康弘	白水社	2020年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜14：30～ 授業終了後の講堂にて。初回授業でメールアドレスを公開する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	【ガイダンス】 【ドイツ語のアルファベッ ト】	授業の進め方と注意事項、ドイツ語の概要を説明する。 ドイツ語のアルファベットの読み方を学習し、発音練習を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットの発音ができる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	10分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 ドイツ語のアルファベットの発音練習を行う。	20分
2	第一部月 4/13	【ドイツ語の発音】	ドイツ語の発音の原則とドイツ語特有の注意すべきつづりと発音について学習し、発音練習を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のつづりの読み方を理解し、発音ができる。	
		事前学修	教科書 8 ～ 9 ページを見ながら、音声を聞いてくる。	30分
		事後学修	教科書 8 ～ 9 ページの発音練習を行う。	30分
3	第一部月 4/20	【動詞の現在形】	主語になる人称代名詞、規則動詞の現在形について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在形について理解し、動詞を変化させることができる。	
		事前学修	教科書 1 0 ページを読んでくる。	15分
		事後学修	主語になる人称代名詞、現在形の変化を暗記する。 教科書 1 2 ページの練習問題Ⅰおよび 1 3 ページのⅢ1. ～4. を行う。	45分
4	第一部月 4/27	【sein, haben】 【文の組み立て】	重要動詞sein, habenの現在形、定動詞の位置と否定文について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、sein, habenの現在形、文の組み立てについて理解し、sein, habenを変化させることができ、語を並べ替えてドイツ語文を作ることができる。	
		事前学修	教科書 1 1 ページを読んでくる。	15分
		事後学修	sein, habenの現在形の変化を暗記する。 教科書 1 2 ページの練習問題Ⅱおよび 1 3 ページのⅢ5. を行う。	30分
5	第一部月 5/4	【名詞の性と格、定冠詞】	名詞の性、定冠詞の形と格の働きについて学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の性と格、定冠詞について理解し、定冠詞を変化させることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 1 4 ～ 1 5 ページを読んでくる。	15分
		事後学修	定冠詞の変化を暗記する。 教科書 1 6 ～ 1 7 ページの練習問題を行う。	60分
6	第一部月 5/11	【不定冠詞、人称代名詞の 格変化】	不定冠詞の形、人称代名詞の格変化について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、不定冠詞と人称代名詞の格変化について理解し、変化させることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 1 8 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	不定冠詞と人称代名詞の格変化を暗記する。 教科書 2 0 ページの練習問題ⅠとⅡを行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	【冠詞類】	定冠詞類と不定冠詞類の意味と形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞類と不定冠詞類について理解し、変化させることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 19 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	定冠詞類と不定冠詞類の変化を暗記する。 教科書 21 ページの練習問題ⅢとⅣを行う。	60分
8	第一部月 5/25	【前置詞の格支配】	前置詞の意味と格支配について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞の格支配について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 22 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	前置詞の発音と意味を復習し、暗記する。 教科書 25 ページの練習問題Ⅱ 1, 4, 5を行う。	30分
9	第一部月 6/1	【前置詞と定冠詞の融合形、前置詞と熟語】	前置詞と定冠詞の融合形について、前置詞が特定の動詞や形容詞と結びつく熟語について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞と定冠詞の融合形と熟語について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 23 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	教科書 24 ページの練習問題Ⅰおよび 25 ページⅡ 2, 3を行う。	45分
10	第一部月 6/8	【母音が変わる現在形】 【数詞 0 ～ 20】	語幹の母音が変わる動詞の変化について学習する。 数詞 0 から 20 までの読み方を学習し、発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母音が変わる動詞の現在形について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。数詞 0 から 20 までを発音できる。	
		事前学修	教科書 15 ページの数詞の音声を聞いてくる。 教科書 26 ページを読んでくる。	20分
		事後学修	教科書 28 ページの練習問題Ⅰ 1, 2および 29 ページⅡ 1, 2, 3, 5を行う。 数詞 0 から 20 までを暗記する。	60分
11	第一部月 6/15	【命令形】	命令形の形式について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 27 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	教科書 28 ページの練習問題Ⅰ 3, 4および 29 ページⅡ 4を行う。	30分
12	第一部月 6/22	【数詞 0 ～ 20】 【esを使った表現】	数詞 21 以上の読み方を学習し、発音練習を行う。 esを使った表現（天候、熟語、時刻）について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、esを使った表現について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。数詞 21 以上を発音できる。	
		事前学修	教科書 31 ページの数詞の音声を聞いてくる。 教科書 26・31 ページ「esを使った表現」を読んでくる。	20分
		事後学修	教科書 28 ページの練習問題Ⅰ 5を行う。 数詞と時刻を表す表現を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	【名詞の複数形、男性弱変化名詞】	名詞の複数形のタイプと格変化、男性弱変化名詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の複数形、男性弱変化名詞について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 30～31 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	複数形の格変化を暗記する。 教科書 32～33 ページの練習問題ⅠとⅡを行う。	60分
14	第一部月 7/6	【語順、副文】	定動詞のあとの語順、文頭に置くもの、従属接続詞と副文、間接疑問文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、語順、副文について理解し、ドイツ語文中でも認識でき、ドイツ語文を作ることができる。	
		事前学修	教科書 34～35 ページを読んでくる。	30分
		事後学修	教科書 34～35 ページの例文の発音練習を行う。従属接続詞を暗記する。	30分
15	第一部月 7/13	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および前期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第1回～第14回の学習内容を理解し、運用できる。	
		事前学修	教科書 7～35 ページの総復習を行う。	90分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(第一部金曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則、ドイツ語基礎文法Bと通年でこの授業を履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施した試験については、授業内で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワークなどを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語の時間<話すための文法>(web練習問題付)	清野智昭	朝日出版社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義、文字と発音(前半)	今後の学習についての概要を説明する。アルファベートを練習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットの発音ができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。(30分)	30分
		事後学修	第2回の授業までにテキストを準備すること。授業で習った発音練習をすること。(30分)	30分
2	4/17	文字と発音(後半)	アルファベートを復習したのち、単語やあいさつ文を使って実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
		事前学修	テキストを準備して授業に来ること。前回の授業で習った発音をすること。	30分
		事後学修	音声教材を利用し、発音練習を行うこと。	30分
3	4/24	第1課 動詞の現在人称変化と語順	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回の授業の復習を十分にしておくこと。第1課の内容について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第1課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
4	5/1	第1課 動詞の現在人称変化と語順、第2課(前半) 名詞の性と格変化(あわせて15ページの3番と23ページの4番も扱う)	前回の復習の後、関連した練習問題を解く。名詞の性と格変化について、概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	発音練習と、第1課の文法事項をあらためて復習しておくこと。予習する場合には、授業内容を参照し、学習する場所を間違えないこと。	30分
		事後学修	定冠詞・不定冠詞の格変化の表を覚えてくること。指示された宿題をしておくこと。	30分
5	5/8	第2課(前半) 名詞の性と格変化(あわせて15ページの2番と3番、23ページの4番も扱う)、第2課後半 重要な動詞	前回の復習の後、重要な動詞の現在人称変化について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。重要な動詞の現在人称変化を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	名詞の格変化について、十分に復習しておくこと。予習する場合には、授業内容を参照し、学習する場所を間違えないこと。	30分
		事後学修	重要な動詞の人称変化を覚えてくること。指示された宿題をしておくこと。	30分
6	5/15	第3課 不規則動詞の現在人称変化	現在人称変化の不規則な動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則動詞について特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第1課の学習内容をあらためて復習しておくこと。新たに学習する不規則動詞の人称変化についても、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第1課、第2課でも動詞に関することを学習しているので、第3課の内容とごちゃごちゃにならないよう、注意深く復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	5/22	第10課(後半) 命令形		前回の復習の後、命令形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形の法則と注意すべき点を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。		
		事前学修	前回の学習内容を復習しておくこと。今回の授業の学習内容も、あらかじめ少し目を通しておくことが望ましい(今回はテキストの後半部分の第10課の一部を扱うため、予習する場合には気をつけること)。		
		事後学修	命令形について、よく復習すること。指示された宿題をしておくこと。		
8	5/29	第4課(前半) 前置詞		2格、3格、4格と結びつく前置詞について解説する。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要な前置詞の意味と機能を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。		
		事前学修	定冠詞・不定冠詞の格変化について、復習しておくこと。前置詞について、あらかじめ、少し目を通しておくこと。		
		事後学修	前置詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。		
9	6/5	第4課(後半) 副文		副文について解説する。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副文の特徴を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。		
		事前学修	第1課で学習したドイツ語の語順について、復習しておくこと。		
		事後学修	副文は、英語とは語順が異なるため、十分に時間をかけて復習すること。指示された宿題をしておくこと。		
10	6/12	第5課(前半) 人称代名詞		人称代名詞について解説を行う。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の一覧表を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。		
		事前学修	新たに学習する人称代名詞について、少し目を通しておくことが望ましい。		
		事後学修	人称代名詞について、十分に復習すること(表を覚えること)。指示された宿題をしておくこと。		
11	6/19	独検(5級) 説	模試の実施と解	独検5級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。		
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。		
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。		
12	6/26	第5課(後半) 再帰動詞		再帰代名詞と再帰動詞について解説を行う。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰代名詞や再帰動詞の特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。		
		事前学修	第5課前半の学習事項が基礎となるので、復習してから授業にのぞむこと。		
		事後学修	再帰動詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	第6課 定冠詞類・不定冠詞類	定冠詞類・不定冠詞類について解説を行う。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞類と不定冠詞類の表の特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	すでに学習した定冠詞・不定冠詞の知識が基礎となるので、よく復習して授業に来ること。第6課の内容も、前もって少し目を通しておくのが望ましい。	30分
		事後学修	定冠詞類・不定冠詞類について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
14	7/10	理解度の確認と前期のまとめ	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	7/17	前期の復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、ドイツ語の基本的な文を読むことができる。学習が十分ではない点を把握し、今後の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
木曜日 1 限真道担当のドイツ語基礎表現ABを同時に受講すること。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ドイツ語の発音、語形変化、ドイツ語文の作成、会話も交えたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で小テストの成果を中心にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法・１００語の世界	清水 薫	同学社	2008		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験をもとに、実践で必要とされる文法の応用形式を授業で扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7 4/10	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、学期末の到達目標についての説明、検定試験の説明、単位認定についての説明。	
		この回の到達目標	今学期の到達目標と授業の進め方、単位認定について説明ができる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。	30分
		事後学修	教材準備	30分
2	4/14 4/17	アルファベット ドイツ語の発音	アルファベット及び基本的なドイツ語の発音の仕組みについての説明・実践	
		この回の到達目標	アルファベット及び基本的なドイツ語の発音の仕組みについての説明・実践ができる。	
		事前学修	アルファベット ドイツ語の発音予習	30分
		事後学修	アルファベット ドイツ語の発音復習	30分
3	4/21 4/24	Lektion 1 規則的に変化する動詞	小テスト1 規則的に変化する動詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	規則的に変化する動詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト1試験準備	30分
		事後学修	Lektion 1 練習問題	30分
4	4/28 5/1	Lektion 2 文を作る	小テスト2 基本的な平叙文・疑問文それに対する返答についての説明・応用	
		この回の到達目標	基本的な平叙文・疑問文それに対する返答についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト2試験準備	30分
		事後学修	Lektion 2 練習問題	30分
5	5/5 5/8	Lektion 3 名詞の性と格（1格/4格） seinとhaben	小テスト3 名詞の性と格（1格/4格） seinとhabenについての説明・応用	
		この回の到達目標	名詞の性と格（1格/4格） seinとhabenについての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト3試験準備	30分
		事後学修	Lektion 3 練習問題	30分
6	5/12 5/15	Lektion 4 不規則変化する動詞1 名詞の格(2格/3格)	小テスト4 不規則変化する動詞1 名詞の格(2格/3格)についての説明・応用	
		この回の到達目標	不規則変化する動詞1 名詞の格(2格/3格)についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト4試験準備	30分
		事後学修	Lektion 4 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19 5/22	Lektion 5 冠詞類	小テスト5 冠詞類についての説明・応用	
		この回の到達目標	冠詞類についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト5試験準備	30分
		事後学修	Lektion 5 練習問題	30分
8	5/26 5/29	Lektion 5 不規則に人称変化する動詞 2 命令形	小テスト6 不規則に人称変化する動詞 2 命令形について説明・応用	
		この回の到達目標	不規則に人称変化する動詞 2 命令形について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト6試験準備	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題	30分
9	6/2 6/5	Lektion 6 複数形	小テスト7 複数形について説明・応用	
		この回の到達目標	複数形について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト7試験準備	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題	30分
10	6/9 6/12	Lektion 6 人称代名詞	小テスト8 人称代名詞の説明・応用	
		この回の到達目標	人称代名詞の説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト8試験準備	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題	30分
11	6/16 6/19	Lektion 7 前置詞	小テスト9 前置詞の説明・応用	
		この回の到達目標	前置詞の説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト9試験準備	30分
		事後学修	Lektion 7 練習問題	30分
12	6/23 6/26	Lektion 8 話法の助動詞	小テスト10 話法の助動詞の説明・応用	
		この回の到達目標	話法の助動詞の説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト10試験準備	30分
		事後学修	Lektion 8 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/30 7/3	Lektion 8 未来形		小テスト11 未来形について説明・応用
		この回の到達目標	未来形について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト11試験準備	30分
		事後学修	Lektion 8 練習問題	30分
14	7/7 7/10	期末試験		期末試験及び解説
		この回の到達目標	今学期学修した内容全般について理解・応用できている。	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	理解不足だった課の復習	60分
15	7/14 7/17	まとめ、振り返り		今学期の学修内容を振り返り、今後の学修計画を立てる。
		この回の到達目標	今学期を振り返り、今後に必要な学修計画について説明できる。	
		事前学修	今までの学修内容を概観、教科書の後半に目を通して今後の学修計画を練る。	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験終了後に解説、あるいは教科書の該当ページを指示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法 【改訂版】	荻原耕平山崎泰孝	白水社	2019	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業時間（木曜１・２・４・５限）後の休み時間、講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第 1 部 木4/9	【ガイダンス】【ドイツ語の全体像】	前期ガイダンス 文字（および発音）	
		この回の到達目標	到達目標①②③の準備段階であり、文字（綴り）と発音（発音記号）との関係性を理解する。	
		事前学修	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、ドイツ語圏への関心を高める。（30分）	30分
		事後学修	文字と発音の復習（30分）	30分
2	第 1 部 木4/16	【文字と発音】	ドイツ語の発音 前回授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、解説・練習をする。単語だけでなく、短い文も読んでみる。	
		事前学修	CD・ネット等でドイツ語の発音を聞いてみる。（10分）	10分
		事後学修	2回目の授業で学習した単語・例文の暗記（50分）	50分
3	第 1 部 木4/23	【動詞の現在人称変化】	1 格の人称代名詞 動詞の人称変化 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、まず動詞の現在人称変化を学ぶが、その前提として 1 格の人称代名詞も使えるようになる。	
		事前学修	授業 1 回目～2 回目の復習（15分）	15分
		事後学修	3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
4	第 1 部 木4/30	【重要な不規則変化動詞と語順】	sein と haben ドイツ語の語順 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③関連し、sein と habenの変化を覚え、動詞の位置を理解する。	
		事前学修	授業 1 回目～3 回目の復習（15分）	15分
		事後学修	4 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
5	第 1 部 木5/7	【名詞の変化概要】	名詞の性と格 定冠詞と不定冠詞の変化 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、名詞にグループ分けがあることを理解し、定冠詞・不定冠詞の変化を表にすることができる。	
		事前学修	授業 1 回目～4 回目の復習（15分）	15分
		事後学修	5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
6	第 1 部 木5/14	【名詞の複数形】	複数形 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前回学習した名詞変化を発展させて、複数形についても変化を表にすることができる。	
		事前学修	授業 1 回目～5 回目の復習（15分）	15分
		事後学修	6 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第 1 部 木8/21	【定冠詞類】	定冠詞類 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞類の変化ができるようになる。	
		事前学修	授業 1 回目～6 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	7 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
8	第 1 部 木5/28	【不定冠詞類】	不定冠詞類 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、不定冠詞類の変化ができるようになる。	
		事前学修	授業 1 回目～7 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	8 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
9	第 1 部 木6/4	【格変化】	人称代名詞の格変化 3 人称の人称代名詞 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、人称代名詞の変化を表から読み取ることができる。	
		事前学修	授業 1 回目～8 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	9 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
10	第 1 部 木6/11	【3 格と 4 格】	3 格と 4 格 非人称の es 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、格変化の基礎的な意味を理解する。	
		事前学修	授業 1 回目～9 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 0 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
11	第 1 部 木6/18	【不規則変化動詞の調べ方】	動詞の現在人称変化（不規則変化） 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、不規則変化動詞の現在人称変化を調べることができるようになる。	
		事前学修	授業 1 回目～1 0 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 1 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
12	第 1 部 木6/25	【不規則変化動詞を覚える】	重要な不規則変化動詞 命令形 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、いくつかの不規則変化動詞の現在人称変化を覚える。命令形・命令法について概略を理解する。	
		事前学修	授業 1 回目～1 1 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 2 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 木7/2	【前置詞】【3基本形】	前置詞 3基本形入門 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前置詞と格変化について理解する。単純な3基本形を作ることができる。	
		事前学修	授業1回目～12回目の復習（15分）	15分
		事後学修	13回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
14	第1部 木7/9	【試験】【振り返り】	授業内試験。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、授業1回目～13回目の学習事項の達成度を確認する。	
		事前学修	授業1回目～13回目の復習（45分）	45分
		事後学修	自分の苦手な事項の復習（15分）	15分
15	第1部 木7/16	【前回までの学習事項の補足】	前回までの授業の補足など。 試験の解説。 場合によっては追試験を実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、重要事項の再確認等を行う。	
		事前学修	授業1回目～14回目の復習（15分）	15分
		事後学修	授業内試験で学習不足の点を重点的に復習 授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
C Dを用いた演習形式。教科書と独和辞典を常時使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して、返却。授業内試験の解説・講評は、後日、ポータルシステムにて配信。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
C D付き 気分はドイツ	本郷建治、佐藤彰、他	三修社	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：20～12：50、授業講堂（事前にアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	【ガイダンス】【動詞の変化とは】	ガイダンス（授業の進め方、独和辞典、発音の概要について説明を行う）。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行いことができる。 主語と動詞の現在人称変化を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、動詞の現在人称変化について理解し、変化表を作ることができ、アルファベットを発音することができる。	
		事前学修	シラバスを確認して、講義の全体を概観し、教科書第1課「動詞の現在人称変化（1）」の10ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容とアルファベットの発音、現在人称変化についておさらいする。	30分
2	第一部 月4/13	【動詞の位置】	平叙文と疑問文における動詞の定位置について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の位置について理解し、説明することができ、規則に則って文を作り、正しく発音することができる。	
		事前学修	11ページを読み、12ページの問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた問題を解き直し、10ページの表を音読して正しい発音を身につけ、書いて暗記する。	30分
3	第一部 月4/20	【名詞の性と格とは】【定冠詞と不定冠詞】	名詞には男・女・中性の区別があり、文中での働きによって1・2・3・4格があり、定冠詞と不定冠詞を意味によって使い分けることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の性と格、定冠詞と不定冠詞の意味の違いを理解し、それらを用いた文の構造を説明して翻訳することができる。	
		事前学修	第2課「冠詞と名詞」の13～15ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	13頁の「定冠詞と名詞の格変化」を音読して、正しい発音を身につけ、書いて暗記する。	30分
4	第一部 月4/27	【複数形⑨【男性弱変化名詞とは】	名詞には複数形と格変化があることと、特殊な変化をする男性名詞があることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の複数形と男性弱変化名詞について理解し、文の中でそれらを指摘し、辞書を引くことができる。	
		事前学修	16ページの問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ノートを確認して間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
5	第一部 月5/4	【不規則変化動詞】	現在形で不規則に変化する動詞の人称変化を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、現在形で不規則に変化する動詞の人称変化を理解する。	
		事前学修	第3課「動詞の現在人称変化（2）」の17～18ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	作成した変化表と17～18ページの例文を音読して、正しい発音を身につける。	30分
6	第一部 月5/11	【数詞とは】	数詞を使った時刻の表現、自己紹介や基本的な疑問文について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、数詞を使って時間を言うことができ、コミュニケーションの基礎を形成する、自己紹介や相手を知るための質問の受け答えができる。	
		事前学修	19ページの問題を解き、20ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。20ページの文を参考にして、自己紹介する文を5文作る。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	【人称代名詞】【さまざまな冠詞】	定冠詞・不定冠詞以外の冠詞の意味と格変化を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、さまざまな冠詞類の意味と格変化について理解し、変化表を作ることができる。	
		事前学修	第4課「人称代名詞、冠詞類」の21～23ページを読んで準備する。	35分
		事後学修	人称代名詞の変化表を音読して正しい発音を身につけ、書いて暗記する。	25分
8	第一部 月5/25	【名詞の2格とは】	さまざまな冠詞を名詞につけて、2格を作ることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2格の冠詞と名詞を用いた文を作ることができる。	
		事前学修	24ページの問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
9	第一部 月6/1	【副文とは】	動詞の位置で分かる副文について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平叙文・疑問文に加えて、副文における動詞の位置について理解し、説明することができる。	
		事前学修	第5課「定形の位置」の26～27ページを読み、29ページの問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直し、副文を作る「従属の接続詞」を書いて暗記する。	30分
10	第一部 月6/8	【前置詞とは】	前置詞の意味と、その後ろに来る格について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前置詞の意味と格支配について理解し、人称代名詞や冠詞を伴った名詞をその格にすることができる。	
		事前学修	第6課「前置詞」の31～33ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	31～32頁の前置詞を音読して正しい発音を身につけ、前置詞を暗記する。	30分
11	第一部 月6/15	【前置詞と定冠詞の融合形とは】	前置詞と定冠詞が融合して一語になった形について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、前置詞と定冠詞との融合形について理解し、正しく発音し、文中で指摘して翻訳することができる。	
		事前学修	34ページの問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ノートを確認し、間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
12	第一部 月6/22	【話法の助動詞とは】	話法の助動詞のニュアンスと変化について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞の意味と現在人称変化について理解する。	
		事前学修	第7課「話法の助動詞」の35～36ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	35ページの変化表を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月 6/29	【助動詞構文とは】	話法の助動詞を使った構文について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞構文を理解し、翻訳することができる。	
		事前学修	37ページの問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ノートを確認し、間違った箇所の問題を解き直す。	25分
14	第一部 月 6/29	【三基本形とは】【過去形】	三基本形の形と発音、過去人称変化を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、三基本形について理解し、正しい発音を身につけ、過去形の文を翻訳することができる。	
		事前学修	第8課「動詞の三基本形」の39～40ページを読み、41ページの問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ノートを確認して、間違った箇所の問題を解き直す。過去人称変化表を暗記する。	25分
15	第一部 月 7/13	【振り返り】【授業内試験】	前学期で学んだことを振り返り、身についたかどうかを試験で確認する。その後、講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、筆記試験により、全般的な到達度を判断する。	
		事前学修	教科書、ノート、配布資料を使って、全範囲にわたって復習し、不明な個所は理解する。	120分
		事後学修	試験で正解が出せなかったところを、教科書とノートで検討し、確認する。	20分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	森田 悟	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
学部の規定による

【授業方法】
講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナードやさしいドイツ語文法	萩原耕平、山崎泰孝	白水社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時、ただし、できる限り事前に申し出ること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ガイダンスとドイツ語	ガイダンス、ドイツ語学習の意味と広がりを考える	
		この回の到達目標	①②③に関連して到達目標への学習計画を立てることができる。	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
2	4月14日	綴り字と発音	発音、綴り字等	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の綴り字と発音を説明することができる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
3	4月21日	名詞の性と格	名詞の性と格	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の名詞と格について説明することができる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
4	4月28日	名詞の性と格	名詞の性と格	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の名詞と格について説明できる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
5	5月5日	定冠詞、不定冠詞	定冠詞、不定冠詞	
		この回の到達目標	①②③に関連して定冠詞、不定冠詞について説明することができる。	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
6	5月12日	定冠詞、不定冠詞	定冠詞、不定冠詞	
		この回の到達目標	①②③に関連して定冠詞、不定冠詞について説明することができる。	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	人称代名詞	人称代名詞	
		この回の到達目標	①②③に関連して人称代名詞について説明することができる。	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
8	5月26日	人称代名詞	人称代名詞	
		この回の到達目標	①②③に関連して人称代名詞について説明することができる。	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
9	6月2日	前置詞、命令形	前置詞、命令形	
		この回の到達目標	①②③に関連して前置詞、命令形について説明することができる。	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
10	6月9日	前置詞、命令形	前置詞、命令形	
		この回の到達目標	①②③に関連して前置詞、命令形について説明することができる。	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
11	6月16日	不規則動詞	不規則動詞	
		この回の到達目標	①②③に関連して不規則動詞について説明することができる。	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
12	6月23日	不規則動詞	不規則動詞	
		この回の到達目標	①②③に関連して不規則動詞について説明することができる。	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	応用練習	応用練習	
		この回の到達目標	①②③に関連して応用練習について説明することができる。	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
14	7月7日	授業内試験及びまとめ、振り返り	授業内試験及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	①②③に関連してこれまでの学修事項を確認し評価することができる。	
		事前学修	試験準備をすること	30分
		事後学修	授業内試験の内容について再度学修し検討すること	30分
15	7月14日	これまでの学習の内容の確認と補充	これまでの学習の内容の確認と補充	
		この回の到達目標	①②③に関連してこれまで学修してドイツ語の理解を補足し学修事項を説明することができる。	
		事前学修	前期で学んだ事柄を振り返り基礎知識を整理する	30分
		事後学修	前期で学んだ事項をより確実なものにすること	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(月曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Bを同時履修すること

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「気分はドイツ」	本郷建治・佐藤彰	三修社	2017	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜2限、授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/	ドイツ語のアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
		事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
		事後学修	教科書についているCDを聞いて、何度も発音し、完全に覚える。	30分
2	4/	発音の3原則	アルファベットを復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
		事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら発音の規則を確認し、何度も発音し、ノートに書き留め、覚える。主語となる人称代名詞を見ておく。	30分
3	4/	注意すべき母音と子音の発音 主語となる人称代名詞	基本的な母音の発音と注意すべき母音、および注意すべき子音の発音を取り上げ、解説する。主語となる代名詞を英語と比較しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、母音の長短の原則とローマ字式に読める母音と読めない母音、さらに子音の発音規則を覚えて、正しく発音することができる。主語となる代名詞を間違いなく言い、書くことができる。	
		事前学修	CDを聞きながら母音の発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら母音と子音の発音の規則を確認し、さらに主語となる代名詞を何度も発音し、ノートに書き留め、完全に覚える。数字を覚えて、その際、発音の規則を振り返ってみる。	30分
4	4/	動詞の基本的な変化	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、lernen, trinken等の動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
		事前学修	主語と動詞の変化の関係を調べておく。辞書で動詞を引いてみる。	30分
		事後学修	lernen, trinken等の動詞の変化をテキストを見ずに言い、書けるようにしておく。練習問題の答えを教科書、あるいはノートに書いておく。辞書を引いて文の意味を調べておく。	30分
5	5/	sein habenの変化 形2位の原則	重要不規則動詞sein habenの変化と意味を述べ、助動詞としてもつかわれることを先取りして説明する。定形が2位に置かれるドイツ文法の大原則について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要不規則動詞sein habenを難なく使うことができる。1課の動詞の変化の練習問題を難なく解くことができる。	
		事前学修	重要不規則動詞sein habenを英語のbeやhaveと比較してみる。	30分
		事後学修	規則的な変化をする動詞や重要不規則動詞sein habenの変化を発音し、ノートに書き、覚える。基本例文を暗記しておく。	30分
6	5/	動詞の変化（1）のまとめ 名詞の性と数と格	基本的な重要動詞の変化をまとめ、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、重要基本動詞の変化を説明できるとともに、難なく発音し、書くことができる。ドイツ語の名詞の大きな特徴を挙げることができる。	
		事前学修	教科書を読み、ドイツ語名詞の特徴を英語と比較して考えておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら、練習問題の文を覚えるまで何度も発音し、書いておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/	定冠詞、不定冠詞と格表示機能	定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
		事前学修	小テストに備えて、定冠詞と不定冠詞の格変化を何度も口で言って、何度もノートに書いておく。	30分
		事後学修	格の用法に注意しながら、CDを開き文を口に出して発音し、ノートに書いて、暗記する。	30分
8	5/	2格の位置	小テストを実施する。 学者が間違いやすい、2格を取り上げ、文構造を説明する。	初
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、2格名詞を含んだ平易な文章を作ることができる。	
		事前学修	2格名詞に注意して、文章を訳し、実際書いてみる。疑問代名詞の格変化は、男性名詞の定冠詞の格変化のヴァリエーションであることを確認しておく。	30分
		事後学修	2格の用法に注意しながら、CDを開き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造を暗記する。	30分
9	6/1	母音交替動詞の変化	まず、ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを解説し、ここでは母音交替が起こる動詞の「人称変化」を取り上げる。 ドイツ語における他動詞と自動詞の区別を辞書を使って説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、どの主語のところで、動詞のどの部分が、どのように換わるかが分かったうえで、人称変化できる。	
		事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら、交替する部分を目で確認するだけでなく、聞いて、発音してみ、語形変化を覚えるまでノートに書く。	30分
10	6/8	人称代名詞3格と4格 3人称の人称代名詞の用法	人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、人称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて説明できる。	
		事前学修	練習問題の答えを、教科書、もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	人称代名詞の1格、3格、4格を覚えるまで発音し、ノートに書く。	30分
11	6/15	定冠詞類と不定冠詞類	ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを改めて説明し、ここでは定冠詞と不定冠詞の「格変化」のヴァリエーションであることを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、定冠詞類と不定冠詞類の格変化を定冠詞と不定冠詞の格変化に関連付けて活用できる。	
		事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	定冠詞類、不定冠詞類（所有冠詞）を性に応じて、難なく格変化できるように発音し、ノートに書く。	30分
12	6/22	疑問代名詞、疑問副詞	疑問代名詞wer, was、疑問副詞を説明する。定形の位置についても指摘する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類と不定冠詞類、そして疑問詞を含んだ平易な文章を訳し、作成することができる。	
		事前学修	疑問代名詞の格変化と男性、中性の定冠詞の格変化とを比較し、共通する部分を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、練習問題を何度も発音し、覚えるまでノートに書く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	前置詞（１）と格支配	前置詞の種類は4種類あるが、前期では2格、3格、4格と結びつく前置詞について取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、「が・の・に・を」の4つの格を補うための品詞、前置詞を用いることで、表現の幅を広げることができる。	
		事前学修	前置詞の意味だけでなく、どの前置詞が何格と結びつくかをしっかりと覚えておく。	30分
		事後学修	試験に備えて、今までの授業内容を総復習し、前期文法を整理しておく。	150分
14	7/6	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本文法問題を解き、平易な文章を訳し、作文することができる。	
		事前学修	基本文法、基本語彙を覚え、基本例文の音読、暗唱し、試験に備える。	150分
		事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	7/13	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、後期文法へ進むことができる。	
		事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の文法授業のために反省点を教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(月曜5時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
水曜5時限目の佐藤英先生の「ドイツ語基礎表現」を同時履修すること。受講の際には、佐藤先生の水・5の授業にウェブ登録すること。

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「ゲナウ！レーゼン」	新倉真矢子他	第三書房	2016	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2016	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜5限授業後の教室、もしくは、9号館1階共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス ドイツ語のアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
		事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
		事後学修	教科書についているCDを聞いて、何度も発音し、完全に覚える。	30分
2	4/13	発音の3原則	アルファベットを復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
		事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら発音の規則を確認し、何度も発音し、ノートに書き留め、覚える。主語となる人称代名詞を見ておく。	30分
3	4/20	注意すべき母音と子音の発音 主語となる人称代名詞	基本的な母音の発音と注意すべき母音、および注意すべき子音の発音を取り上げ、解説する。主語となる代名詞を英語と比較しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、母音の長短の原則とローマ字式に読める母音と読めない母音、さらに子音の発音規則を覚えて、正しく発音することができる。主語となる代名詞を間違いなく言い、書くことができる。	
		事前学修	CDを聞きながら母音の発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら母音と子音の発音の規則を確認し、さらに主語となる代名詞を何度も発音し、ノートに書き留め、完全に覚える。数字を覚えて、その際、発音の規則を振り返ってみる。	30分
4	4/27	動詞の基本的な変化 定形2位の法則	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称、定形といった文法用語について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、wohnen, lernen, trinken等の動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。定形の位置を把握できる。	
		事前学修	主語と動詞の変化の関係を調べておく。辞書で動詞を引いてみる。	30分
		事後学修	wohnen, lernen, trinken等の動詞の変化をテキストを見ずに言い、書けるようにしておく。練習問題の答えを教科書、あるいはノートに書いておく。辞書を引いて文の意味を調べておく。	30分
5	5/4	sein haben, werdenの変化 並列の接続詞	重要不規則動詞sein habenの変化と意味を述べ、助動詞としてもつかわれることを先取りして説明する。定形が2位に置かれるドイツ文法の大原則と並列の接続詞との関係について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要不規則動詞sein haben, werdenを難なく使うことができる。1課の動詞の変化の練習問題を難なく解くことができる。	
		事前学修	重要不規則動詞sein habenを英語のbeやhaveと比較してみる。	30分
		事後学修	規則的な変化をする動詞や重要不規則動詞sein habenの変化を発音し、ノートに書き、覚える。基本例文を暗記しておく。	30分
6	5/11	動詞の変化（1）のまとめ 名詞の性と数と格 定冠詞・不定冠詞	基本的な重要動詞の変化を復習し、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、重要基本動詞の変化を説明できるとともに、難なく発音し、書くことができる。ドイツ語の名詞の大きな特徴を挙げるができる。定冠詞と不定冠詞の違いを把握できる。	
		事前学修	教科書を読み、ドイツ語名詞と冠詞の特徴を英語と比較して考えておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら、練習問題の文を覚えるまで何度も発音し、書いておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	定冠詞、不定冠詞と格表示機能	定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
		事前学修	小テストに備えて、定冠詞と不定冠詞の格変化を何度も口で言って、何度もノートに書いておく。	30分
		事後学修	格の用法に注意しながら、CDを開き文を口に出して発音し、ノートに書いて、暗記する。	30分
8	5/25	複数形の5タイプ 人称代名詞3格と4格 3人称の人称代名詞の用法	小テストを実施する。 ドイツ語の名詞の複数形5タイプの作り方を説明する。 人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、複数形を作ることができる。3人称の人称代名詞の用法について英語との違いを把握できる。	
		事前学修	英語の人称代名詞との違いを調べておく。疑問代名詞の格変化は、男性名詞の定冠詞の格変化のヴァリエーションであることを確認しておく。	30分
		事後学修	2格の用法に注意しながら、CDを開き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造を暗記する。	30分
9	6/1	定冠詞類	ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを改めて説明し、ここでは定冠詞と不定冠詞の「格変化」のヴァリエーションであることを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、定冠詞類と不定冠詞類の格変化を定冠詞と不定冠詞の格変化に関連付けて活用できる。	
		事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	定冠詞類、不定冠詞類（所有冠詞）を性に応じて、難なく格変化できるように発音し、ノートに書く。	30分
10	6/8	不定冠詞類 否定冠詞	定冠詞類との語尾の違いを説明する。改めて、否定冠詞も説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、所有冠詞を難なく変化させることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを、教科書、もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	人称代名詞の1格、3格、4格を覚えるまで発音し、ノートに書く。	30分
11	6/15	母音交替動詞の変化 命令形	まず、ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを解説し、ここでは母音交替が起こる動詞の「人称変化」を取り上げる。 ドイツ語における他動詞と自動詞の区別を辞書を使って説明する。 命令形の作り方について説明する。定形の位置についても指摘する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、どの主語のところで、動詞のどの部分が、どのように換わるかが分かったうえで、人称変化できる。また、命令文を作ることができる。	
		事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。 命令形は3タイプあることを調べておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら、交替する部分を目で確認するだけでなく、聞いて、発音してみて、語形変化を覚えるまでノートに書く。	30分
12	6/22	ドイツ語検定試験（独検）対策	独検5級（入門レベル）の過去問題を解きながら、問題の意図を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、いままで習ってきたドイツ語の文法、表現を再確認、覚えることができる。	
		事前学修	教科書を復習しておく。検定対策の参考書を2度読んでみる。	30分
		事後学修	CDを聞いて、過去問を覚えるまで何度もやり直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	前期の総復習	基本単語、基本文法、基本表現を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本文法を手掛かりにして、平易な文章を訳し、作文することができる。	
		事前学修	基本単語、人称変化、格変化をしっかりと覚えておく。	30分
		事後学修	試験に備えて、今までの授業内容を総復習し、前期文法を整理しておく。	150分
14	7/7	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本文法問題を解き、平易な文章を訳し、作文することができる。	
		事前学修	基本文法、基本語彙を覚え、基本例文の音読、暗唱し、試験に備える。	150分
		事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	7/14	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、後期文法へ進むことができる。	
		事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の文法授業のために反省点を教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。

【授業方法】
テキスト『プロムナード やさしいドイツ語文法』(白水社)を主教材に、そのほか視聴覚教材もまじえてわかりやすく指導していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出レポートを評価して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ブロムナード やさしいドイツ語文法』	荻原耕平 他	白水社	2016		
備考	「はじめに」などの前書きに目をとおしておいてください。				

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ドイツとドイツ語入門	ドイツ語が話されている国ぐにアルファベット/基本的あいさつ。以後の進捗は学習成果によって多少ズレこむ可能性もある。	
		この回の到達目標	ドイツ文化。ドイツ語の基本イメージの理解。	
		事前学修	教科書の下見。ひと通り目を通しておく。	30分
		事後学修	ノート整理。復習。以下同様に心がけてください。	30分
2	4/17	ドイツ語の名詞	Lektion1 ドイツ語の発音・名詞のいろいろ。	
		この回の到達目標	まず、単語を正確に発音する。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。復習。（30分）	30分
3	4/24	動詞入門	Lektion2 人称代名詞と動詞の現在人称変化 その①	
		この回の到達目標	人称代名詞を使つての簡単な表現になれる。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。復習。（30分）	30分
4	5/1 予定	動詞と平易な文章	Lektion2 動詞の現在人称変化 その②	
		この回の到達目標	日常表現から親しむ構文理解。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。復習。（30分）	30分
5	5/8	名詞の性①	Lektion3 名詞の性と格の意味とその運用。	
		この回の到達目標	いっけんメンドクさそうな定冠詞・不定冠詞の格変化は、実は文意を理解するたるにいかにもドイツ的論理性があることに納得してもらう。そのうえでの反復練習である。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	復習・ノート整理。（30分）	30分
6	5/15	名詞の性と格②	変化表を覚えるのが主たる仕事ではない。それがどのように文意を表すかを正しく理解することが大事。	
		この回の到達目標	ドイツ語現在形の文章にたくさんふれ、反復練習によって理解度を深める。	
		事前学修	前回の復習。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	定冠詞類と不定冠詞類①	英語のaとanにあたる不定冠詞の学習。例文によって慣れてもらう。	
		この回の到達目標	定冠詞・不定冠詞の暗記	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
8	5/29	定冠詞類と不定冠詞類②	いずれも定冠詞・不定冠詞に準ずるもの。表現の幅をひろげよう。	
		この回の到達目標	定冠詞類と不定冠詞類の文章に慣れる。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
9	6/5	人称代名詞	意味あいとは英語とおなじだが、おぼえることに一苦労するかもしれない。あくまでも授業中に反復練習して覚えてもらう。	
		この回の到達目標	人称代名詞の使い方。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
10	6/12	不規則動詞・命令形	動詞のパリエーションである不規則動詞。これが意外に頻繁に使用されるものである。規則性はないが、構文でマスターしよう。	
		この回の到達目標	主要不規則動詞のマスター。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
11	6/19	前置詞	前置詞を使った構文の学習。	
		この回の到達目標	前置詞をふくむ文章にたくさんふれて慣れていく。習うより慣れよ!!	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
12	6/26	分離動詞・接続詞	分離動詞といったいっけん難しそうな用語だが、運用はごく簡単。動詞のひとつ。接続詞は英語のイメージとおなじ。ただし、ドイツ語ならではの約束もあり。	
		この回の到達目標	分離動詞・接続詞を使った例文に親しむ。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7/3	話法の助動詞		英語のcanやmustのこと。意味はほぼ似ている。例文をたくさん読もう。
		この回の到達目標	助動詞の運用と読解。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
14	7/10	前期の総復習		前期試験をひかえて、とくに重要な部分を復習します。模擬問題も用意します。
		この回の到達目標	前期の学習内容を復習し、曖昧なところをなくす。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
15	7/17	前期試験。まとめ		試験内容は、事前の授業内で説明します。
		この回の到達目標	前期の復習と自分の理解度の反省と補填。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	自己診断のうえ後期にそなえてください。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(第二部火曜1時限)	担当者	佐藤 英	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること。・この授業は原則としてドイツ語基礎文法Bと通年で履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業中に実施する試験については、授業内で講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	例文の音読やグループでの練習など。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法(改訂版)	荻野耕平ほか	白水社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義とアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書についているCDを開いて、実際に発音してみる。	30分
		事後学修	第2回の授業までに教科書を準備し、今後、どのような学習をすることになるか、ひととおり、目を通すこと。	30分
2	4/14	第1課 ドイツ語の発音	アルファベットを復習したのち、単語やあいさつ文を使って実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
		事前学修	教科書を準備して授業に参加すること。教科書を読んでくること。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習する。	30分
3	4/21	第2課 代名詞と動詞の現在人称変化	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
		事前学修	第2課の内容について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第2課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。	30分
4	4/28	第2課 代名詞と動詞の現在人称変化	前回到引き続き、ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。関連した練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
		事前学修	前回の授業の復習を十分に行っておくこと。	30分
		事後学修	第2課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。	30分
5	5/5	第3課 名詞の性と格	ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
		事前学修	第3課の学習事項について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第3課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。	30分
6	5/12	第3課 名詞の性と格/第4課 定冠詞類と不定冠詞類	引き続き、定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。あわせて、定冠詞類と不定冠詞類について、概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を十分に復習し、第4課の内容について少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第4課の内容は第3課の延長上にある。第3課と第4課の復習を十分にすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	第4課 定冠詞類と不定冠詞類/第5課 人称代名詞	引き続き、定冠詞類と不定冠詞類について説明する。人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて説明できる。	
		事前学修	前回の学習事項を十分に復習し、第5課の内容について少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第3課と第4課の内容について、きちんと覚えること。第5課の内容についても、概要を理解できるようにしておくこと。	30分
8	5/26	第5課 人称代名詞	人称代名詞の一覧表を復習し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の一覧表を書くことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第5課の学習内容について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第5課の人称代名詞の一覧表をすべて覚えること。期末テストに備えて、第1課から第4課の学習内容についても、復習すること。	30分
9	6/2	第6課 不規則動詞、命令形	現在人称変化の不規則な動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則動詞について特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第6課の不規則動詞について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	不規則動詞について、練習問題等も活用しながら、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第5課の学習内容についても、復習すること。	30分
10	6/9	第6課 不規則動詞、命令形	前回の復習の後、命令形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形の法則と注意すべき点を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回の学習事項について、十分に復習しておくこと。	30分
		事後学修	命令形について、練習問題等を活用し、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第5課の学習内容についても、復習すること。	30分
11	6/16	第7課 前置詞	2格、3格、4格と結びつく前置詞について解説する。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要な前置詞の意味と機能を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第7課の学習事項について、少し目を通しておくこと。第3～5課の内容も関係してくるので、よく復習しておくこと。	30分
		事後学修	期末テストに備えて、第1課から第6課の学習内容についても、復習すること。	30分
12	6/23	第7課 前置詞/第8課 分離動詞、接続詞	前回の復習の後、3・4格支配の前置詞について解説する。関連する練習問題を解くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要な前置詞の意味と機能を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を十分に復習しておくこと。第8課の分離動詞について、少し目を通しておくこと。動詞の人称変化の知識が求められるので、あらためて復習しておくこと。	30分
		事後学修	期末テストに備えて、第1課から第6課の学習内容についても、復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	第8課 分離動詞、接続詞	分離動詞と接続詞について解説する。関連する練習問題を解くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞と接続詞に関する要点を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第8課の分離動詞について、十分に復習しておくこと。接続詞について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第8課の学習内容について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第7課の学習内容についても、復習すること。	30分
14	7/7	理解度の確認と前期の学習内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、ドイツ語の基本的な文を読むことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	7/14	前期の復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、ドイツ語の基本的な文を読むことができる。学習が十分でない点を把握し、今後の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語学習に熱意があること。

【授業方法】
各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題当順次当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	文法の習得状況に応じて適宜行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）	森公成他	同学社	2017	教科書	必携
独和辞書（ガイドンスにて紹介）	特に指定はしない	特に指定はしない		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問は、授業中いつでも活発に質問してほしい。授業後も教室等で対応する。授業時間：火曜 1 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	複合動詞	Lektion8 複合動詞 分離動詞と非分離動詞	
		この回の到達目標	分離動詞の使い方を習得する。	
		事前学修	夏期課題を持参する。 Lektion8を読んでおく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
2	9/22	再帰動詞・非人称の主語es	Lektion8 再帰動詞・非人称の主語es 再帰代名詞と再帰動詞	
		この回の到達目標	再帰動詞表現を習得する。	
		事前学修	Lektion8を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
3	9/29	形容詞	Lektion9 形容詞の語尾と形容詞の比較変化 形容詞の比較級、最上級	
		この回の到達目標	形容詞の非格変化の習得。	
		事前学修	Lektion9を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
4	10/6	動詞の三基本形	Lektion10 規則動詞・不規則動詞の三基本形 動詞の三基本形の作り方	
		この回の到達目標	規則動詞・不規則動詞の三基本形のルールを習得する。	
		事前学修	Lektion10を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
5	10/13	過去形	Lektion10 動詞の過去人称変化 動詞の過去形の作り方	
		この回の到達目標	過去時制の表現を習得する。	
		事前学修	Lektion10を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
6	10/20	現在完了形	Lektion11 現在完了形の作り方 haben、seinの使い分け	
		この回の到達目標	現在完了形と過去形の使い分けを習得する。	
		事前学修	Lektion11を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	受動態	Lektion12 受動態の作り方 能動表現と受動表現	
		この回の到達目標	受動表現を習得する。	
		事前学修	Lektion12を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
8	11/10	zu不定詞	Lektion12 zu不定詞とzu不定詞句 zu不定詞の作り方	
		この回の到達目標	zu不定詞句表現を習得する。	
		事前学修	Lektion12を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
9	11/17	分詞	Lektion12 現在分詞 過去分詞と現在分詞	
		この回の到達目標	現在分詞表現を習得する。	
		事前学修	Lektion12の未学習箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
10	11/24	指示代名詞	Lektion13 指示代名詞と関係代名詞 指示代名詞の使い方	
		この回の到達目標	指示代名詞表現の習得。	
		事前学修	Lektion13を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
11	12/1	関係代名詞	Lektion13 関係代名詞と不定関係代名詞 関係代名詞の使い方	
		この回の到達目標	関係代名詞の使い方を習得する。	
		事前学修	Lektion13を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
12	12/8	接続法	Lektion14 接続法第Ⅰ式と第Ⅱ式の用法 接続法第Ⅰ式と第Ⅱ式の作り方と表現	
		この回の到達目標	接続法第Ⅰ式・第Ⅱ式の表現を習得する。	
		事前学修	Lektion14を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	後期前半の文法復習	後期前半の文法内容のチェック	
		この回の到達目標	後期前半の練習問題の総復習。	
		事前学修	後期学習した文法内容を総復習して疑問点を出しておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
14	12/22	後期後半の総復習	後期後半の文法内容のチェック	
		この回の到達目標	後期後半の練習問題の総復習。	
		事前学修	後期学習した文法内容を総復習して疑問点を出しておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	120分
15	1/12	試験および反省	期末テスト及びテスト内容の解説	
		この回の到達目標	試験および反省。	
		事前学修	期末テストに向け準備する。	120分
		事後学修	テストの出来をチェックし、1年間のドイツ語学習を総括する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Bと併せて、ドイツ語基礎表現Bを履修すること（または履修済み）が望ましい。独検を受験することが履修条件となりますので注意して下さい。

【授業方法】
教科書に沿って解説し、その後、練習問題を通じて、学習した内容の定着を深めていきます。練習問題は、受講生に積極的に発表してもらいます。毎回、予習をしっかりとやることが前提となります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後、授業内にて。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ブーメラン・エルエー』（※姉妹版『ブーメラン』もあるため注意。必ず『ブーメラン・エルエー』を購入してください。	小野寿美子他	朝日出版社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:10～ 授業終了後の講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	【ガイダンス】 この授業を受けるにあたって	授業の進め方、評価方法、独検の説明などを行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	この授業を受けるために必要な教材、独検などの情報を確認し、次週からの授業準備をすることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。授業で紹介された独検関連の参考書についてWEBサイトなどで調べてみる。	30分
2	第一部 火9/22	【前期の復習】	Lektion1～Lektion6の語法の助動詞までの復習	
		この回の到達目標	前期で学習した文法事項を再確認し、使用することができる。	
		事前学修	Lektion1～Lektion6の語法の助動詞までを読んでおく。	30分
		事後学修	理解が不十分であると思われる前期の文法事項を復習する。	30分
3	第一部 火9/29	【Lektion6】 接続詞と分離動詞	従属の接続詞と副文、分離動詞と非分離動詞	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ドイツ語の文章構造(主文、副文)を理解し、適用することができる。また分離動詞の使い方を理解し、適用することができる。	
		事前学修	教科書の51頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ従属接続詞と分離動詞を復習する。	30分
4	第一部 火10/6	【Lektion7】 形容詞の格語尾変化	形容詞の使い方と形容詞の格語尾変化	
		この回の到達目標	ドイツ語における形容詞の使い方と形容詞の格語尾変化を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の58頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ形容詞の格語尾変化を復習する。	30分
5	第一部 火10/13	【Lektion7】 形容詞・副詞の比較	形容詞・副詞の比較級、最上級の作り方と比較の用法	
		この回の到達目標	形容詞・副詞の比較の文章を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の59頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ比較の文章を復習する。	30分
6	第一部 火10/20	【Lektion8】動詞の3基本形	動詞の3基本形（不定詞、過去基本形、過去分詞）	
		この回の到達目標	動詞の3基本形を理解し、不規則なものに関しては独和辞典を使って3基本形を確認し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の66頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ3基本形について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	【Lektion8】現在完了形	現在完了形の文章の作り方（完了の助動詞と過去分詞、語順）	
		この回の到達目標	現在完了形の文章構造を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の67頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ現在完了形の文章を復習する。	30分
8	第一部 火11/10	【Lektion9】過去形	過去形の文章の作り方（過去人称変化と語順）	
		この回の到達目標	過去形の文章構造を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の74頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ過去形の文章を復習する。	30分
9	第一部 火11/17	【Lektion9】再帰代名詞と再帰動詞	再帰代名詞の種類と再帰動詞	
		この回の到達目標	再帰代名詞・再帰動詞の使い方や辞書での調べ方を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の75頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ再帰動詞の熟語的表現を復習する。	30分
10	第一部 火11/24	【Lektion10】zu不定詞	zu不定詞の用法	
		この回の到達目標	zu不定詞の基本的な使い方や熟語表現を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の82頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだzu不定詞の様々な用法を復習する。	30分
11	第一部 火12/1	【Lektion10】関係代名詞	関係代名詞の格と文章構造	
		この回の到達目標	関係代名詞を使った文章の構造を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の83頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ関係代名詞の文章を復習する。	30分
12	第一部 火12/8	【受動形】	動作受動と状態受動	
		この回の到達目標	受動の文章の種類、構造を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の100頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ受動形を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	【接続法】	接続法第1式、接続法第2式	
		この回の到達目標	接続法の用法を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の101～103頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ接続法の用法を復習する。	30分
14	第一部 火12/22	【後期の確認】	授業内試験及び重要箇所の振り返り	
		この回の到達目標	試験を通じて後期で学んだ文法事項の習得状況を確認する。またその後の振り返りで、習得できていなかった部分を補い、適用することができる。	
		事前学修	第2回～第13回の学習内容を復習しておく。	45分
		事後学修	授業内試験でできなかった箇所を復習する。	15分
15	第一部 火1/12	【後期の総括】	後期授業のまとめ	
		この回の到達目標	後期で学んだ文法事項を整理し、的確に使用することができる。	
		事前学修	第2回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。	30分
		事後学修	授業内で質疑応答したことを復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。初習者も歓迎します。

【授業方法】
文法事項を説明し、理解できたかどうか練習問題で確認する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業で答え合わせし、解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法へのやさしい離陸	石井寿子	朝日出版社	2001年		
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立ち入り禁止のため、本館1階教務課窓土まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜4・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	1～10課	前期の復習	
		この回の到達目標	動詞の人称変化と名詞の格変化を再度確認する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
2	9/25	形容詞の用法	第11課 形容詞の格変化	
		この回の到達目標	形容詞の格変化のシステムを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
3	10/2	3要形	第12課 動詞の3要形	
		この回の到達目標	3要形の作り方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
4	10/9	過去時制	第12課 動詞の過去人称変化	
		この回の到達目標	動詞の過去人称変化を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
5	10/16	完了時制	第13課 現在完了	
		この回の到達目標	haben支配とsein支配の動詞	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
6	10/23	3種類の接続詞	第14課 接続詞	
		この回の到達目標	接続詞の違いを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	関係文	第 1 5 課 関係代名詞	
		この回の到達目標	関係代名詞の規定の仕方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
8	11/6	zu不定詞の用法	第 1 6 課 zu不定詞	
		この回の到達目標	zu不定詞の使い方を知る	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
9	11/13	再帰動詞	第 1 7 課 再帰代名詞	
		この回の到達目標	熟語表現を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
10	11/20	受動態	第 1 8 課 受動	
		この回の到達目標	受動態の作り方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
11	11/27	比較級・最上級	第 1 9 課 形容詞の比較表現	
		この回の到達目標	比較級・最上級の使い方を知る	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
12	12/4	非現実話法	第 2 0 課 接続法第 2 式	
		この回の到達目標	接続法の時制を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	間接話法	第2 1 課 接続法第1式	
		この回の到達目標	直接話法から間接話法への書き換えを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
14	12/18	筆記試験及びまとめ	後期のまとめ	
		この回の到達目標	後期の学習事項を理解できたかどうかを確認する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
15	12/25	解説	後期の総括	
		この回の到達目標	筆記試験を振り返り、答え合わせと解説をする	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂・ドイツ文法の森（CD付）	ローデリヒ・ガート ゲ	第三書房	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口にし出て，声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	完了形	助動詞構文、seinとhabenの人称変化を確認する。 完了文の読解と作文。	
		この回の到達目標	完了の助動詞の使い分けができる。 完了形の文を作ることができる。	
		事前学修	英語の完了時制をまとめてみる。 habenとseinの人称変化を復習する。	30分
		事後学修	語順、用法について英語との違いなどを確認する。	30分
2	水9/23	分離動詞	分離動詞を辞書で引いてみる。 分離する場合としない場合を例文で確認する。	
		この回の到達目標	基礎動詞と前綴りの関係に留意して例文を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の熟語動詞表現をまとめてみる。	30分
		事後学修	分離動詞の使い方を、基礎動詞、前綴りの配語法から確認する。	30分
3	水9/30	命令形	二人称の使い分け、規則動詞、不規則動詞の人称変化を確認する。 会話文を読みながら命令文を理解する。	
		この回の到達目標	三つの形式の命令文を作ることができる。	
		事前学修	規則動詞、不規則動詞の人称変化を復習する。	30分
		事後学修	命令する相手に応じた三つの形式を例文によって復習する。	30分
4	水10/7	再帰動詞	人称代名詞を復習する。 ドイツ語の再帰代名詞を練習する。 再帰動詞を例文で理解する。	
		この回の到達目標	再帰表現を読み取り、辞書でも調べることができるようにする。	
		事前学修	英語、日本語の再帰表現を思い起こしてみる。	30分
		事後学修	再帰代名詞を覚えた上で、具体的な使い方を熟語表現として練習する。	30分
5	水10/14	接続詞と副文	接続詞の種類を学ぶ。 動詞の位置などに注目して読解訓練をする。	
		この回の到達目標	接続詞による語順の違いを理解する。 従属接続詞を伴った副文を読み取ることができる。	
		事前学修	動詞の位置に関して、今まで学んだことを復習する。	30分
		事後学修	例文、練習問題を、接続詞を中心に読み直してみる。	30分
6	水10/21	zu不定詞	zu不定詞の用法を例文で学ぶ。 分離動詞のzu不定詞を作る。 他の文成分が入って句になった場合の語順に着目する。	
		この回の到達目標	zu不定詞の入った文を読み解くことができる。	
		事前学修	英語のto不定詞の用法をまとめる。	30分
		事後学修	句になった場合の語順、分離動詞のzu不定詞など確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水10/28	非人称動詞	日常でもよく使う様々な非人称表現を練習をする。	
		この回の到達目標	主な非人称表現を使えるようにする。	
		事前学修	英語の非人称表現をまとめてみる。	30分
		事後学修	es gibt + 4格などの用例を確認する。	30分
8	水11/11	形容詞・副詞の比較変化	形容詞・副詞の比較変化形を練習する。 例文によって主な比較表現をまとめる。	
		この回の到達目標	よく使われる比較表現を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の形容詞の比較表現を振り返ってみる。	30分
		事後学修	例文、練習問題の具体例で復習する。	30分
9	水11/18	指示代名詞・関係代名詞 (1)	定冠詞の格変化を確認する。 指示代名詞を使った例文を読む。 関係文の作り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	英語とは違う指示代名詞・関係代名詞の使い方を理解する。	
		事前学修	定冠詞の格変化の復習。 英語の関係代名詞の使い方をまとめる。	30分
		事後学修	性、数、格や動詞の位置からドイツ語の関係代名詞を復習する。	30分
10	水11/25	関係代名詞 (2)	定関係代名詞、不定関係代名詞を用いた用例を読み解く。 関係代名詞の格変化、動詞の位置などに着目する。	
		この回の到達目標	関係文を含んだ長い文になじむ。	
		事前学修	英語の関係代名詞の使い方をまとめてみる。	30分
		事後学修	代表的例文を確認する。	30分
11	水12/2	受動文	助動詞構文、werdenとseinの人称変化、過去分詞の作り方を確認する。 werdenの三つの用法をまとめる。 受動文の作り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	状態受動を含めて受動文を作ることができる。	
		事前学修	werdenとseinの人称変化を復習する。	30分
		事後学修	状態受動、時制による表現形式の違いなど例文で確かめる。	30分
12	水12/9	接続法の形態	接続法の人称変化の練習をする。 接続法の主な用法を知る。 接続法第一式の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	間接話法、要求話法を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の間接話法、仮定法を確認する。	30分
		事後学修	先ず接続法の人称変化を復習する。 代表的な用例を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水12/16	非現実話法	接続法の人称変化を確認する。 接続法第二式の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	非現実話法、外交的接続法などを読み取ることができる。	
		事前学修	接続法の人称変化の復習。	30分
		事後学修	代表的な用例を理解する。	30分
14	水12/23	後期のまとめ	後期の学習を文法事項を中心に整理する。 質問を受けて補足説明をする。	
		この回の到達目標	これまでの勉強で不十分な所がないか確認する。	
		事前学修	後期全体の復習をする。 疑問点をまとめる。	30分
		事後学修	理解が不十分な点を再度復習。	30分
15	水1/13	試験	試験をした後、解説と講評を行う。	
		この回の到達目標	後期の勉強の成果を明らかにし、これからの勉強の発展につなげる。	
		事前学修	重要項目を復習する。	30分
		事後学修	試験結果を点検し、今後の学習の展望を得る。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Bも併せて履修すること。独和辞書必携。予習復習を怠ることなく授業への積極的な参加が求められる。ドイツ語検定4級を受験すること。

【授業方法】
ドイツ語基礎文法Aの続きの文法を学習する。身近な基本的表現を多く使って、反復練習を積み重ねながら着実に文法を身につける。特に確実に習得すべき事項に 関しては習得できるまで確認の小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題は返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
たいむりい	森田 悟	朝日出版社	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業（木曜3限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。h.kawakami18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	数字	20以上の数字、時刻の表現について学習，練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、数字と時間を表現できる。	
		事前学修	単語と数字の発音を復習しておくこと。	30分
		事後学修	数字、時刻の表現を繰り返し発音練習し、確実に覚えること。	30分
2	第一部 木9/24	6課 接続詞について	接続詞について学習する。接続詞の種類と文の構造について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続詞の種類と文の構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P24 I / II	
		事前学修	前置詞を復習しておくこと。	30分
		事後学修	接続詞を覚えること。副文の作り方を復習する。	30分
3	第一部 木10/1	話法の助動詞、未来形	7課 話法の助動詞、未来形について学習する。助動詞構文について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞の変化、助動詞構文の文型について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P28 II	
		事前学修	練習問題P28 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
		事後学修	助動詞の人称変化と意味と助動詞構文の構造を確実に覚える。	30分
4	第一部 木10/8	複合動詞について	分離する動詞と分離しない動詞について学習する。ドイツ語の枠構造について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の枠構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P28 I	
		事前学修	練習問題 P28 I 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
		事後学修	分離動詞を使った文の構造（助動詞構文と同じ）を確実に覚える。	30分
5	第一部 木10/15	再帰表現	9課 再帰表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主語と目的語が同じものを表わす再帰代名詞と再帰動詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P36 I	
		事前学修	人称代名詞の変化を確認しておくこと。	30分
		事後学修	再帰表現を復習し、重要再帰動詞を確実に覚える。zu不定詞の用法について復習する。	30分
6	第一部 木10/22	1回から6回目までの練習	疑問詞、前置詞、語順、話法の助動詞、分離動詞の練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞、前置詞、語順、話法の助動詞、分離動詞について復習し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	練習プリントを予習してくる。	30分
		事後学修	問題を解き直す。重要単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	中間試験・語順について	中間テスト・語順の復習 ドイツ語の枠構造を確認し、練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定動詞の位置、枠構造、否定文におけるnichtの位置を確認し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの練習問題を総復習する。	30分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
8	第一部 木11/5	zu 不定詞	8課 zu 不定詞の作り方と用法と形容詞の比較表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu 不定詞句と形容詞の比較表現について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題P32 I、P36 II	
		事前学修	練習問題P32 I、P36 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
		事後学修	zu不定詞の用法、形容詞の比較表現について復習する。	30分
9	第一部 木11/12	形容詞	8課 形容詞の付加語的用法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P32 II	
		事前学修	定冠詞の変化を復習しておくこと。練習問題 P32 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
		事後学修	形容詞の変化を復習する。	30分
10	第一部 木11/19	過去形	10課 動詞の三基本形と過去形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の三基本形と過去形の人称変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	動詞の現在人称変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	動詞の三基本形と過去形の人称変化を確実に覚える。動詞の三基本形の小テストを実施する。	30分
11	第一部 木12/3	現在完了形	11課 現在完了形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	動詞の過去分詞を復習しておくこと。	30分
		事後学修	現在完了形の文を復習する。	30分
12	第一部 木12/10	受動態	受動態について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、能動態と受動態の関係を理解し、受動態の文を作ることができる。	
		事前学修	動詞の三基本形を復習しておくこと。	30分
		事後学修	受動態の文を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	関係代名詞	12課 関係代名詞と関係文について学習する。接続法の作り方、使い方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞を修飾する関係文について理解し、受動態の文を作ることができる。	
		事前学修	定冠詞の変化を確認しておくこと。	30分
		事後学修	関係代名詞と関係文のつくり方を復習する。	30分
14	第一部 木12/24	重要表現の復習	練習プリントで、受動態、関係文について復習し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文について確認し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	後期学習した文法事項を復習してくること。	40分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。重要単語と重要表現を覚える。	40分
15	第一部 木1/14	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 後期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文について確認し、説明することができる。	
		事前学修	過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文の総復習をすること。	50分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
冬期ドイツ語技能検定試験を受験すること

【授業方法】
2時間に1課のペースで進み、最初の1時間を文法説明、次の1時間を練習問題に当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ語なんて怖くない』	西村祐子・Rudolf Petrik	同学社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日10:30～12:20 月曜日17:50～19:40

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19第 二部 月 9/14	ガイダンス 前期の復習	前期に学修した重要文法事項について復習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の人称変化、名詞の格変化について理解し、説明できる。	
		事前学修	前期範囲の文法事項を整理しておくこと	30分
		事後学修	特に定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと。	30分
2	第一部 土9/26第 二部 月 9/21	第8課 話法の助動詞、命令法について	話法の助動詞の人称変化と様々な意味について学修する。命令形は相手に応じて3種類の使い分けがあることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主語に応じて話法の助動詞を適切に人称変化させることができる。	
		事前学修	不定詞と定動詞の違いをもう一度確認すること。	30分
		事後学修	課題に出された文章を話法の助動詞を使って書き換えてくること。	30分
3	第一部 土10/3第 二部 月 9/28	第8課 練習問題	助動詞構文は枠構造になることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の不定詞句から3種類の命令文を作ることができる。	
		事前学修	教科書53ページを予習しておくこと。Aの問題は完全な文章で答えること。	30分
		事後学修	課題に出された文章を命令法に書き換えてくること。	30分
4	第一部 土10/10第 二部 月 10/5	第9課 形容詞の用法 小テスト (2)	名詞を修飾する場合、形容詞には述語的、付加語的という2つの用法があることを学修する。形	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、付加語形容詞に適切な語尾を付けることができる。	
		事前学修	教科書55～56ページの表と定冠詞類の表を比べてみること。	30分
		事後学修	よく使われる形容詞を反対語とペアで覚えること。	30分
5	第一部 土10/17第 二部 月 10/12	第9課 複合動詞について 練習問題	分離動詞は一種の枠構造を形作ることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、分離動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
		事前学修	教科書59ページを予習しておくこと。Bの問題は出来ればドイツ語で答えてみること。	30分
		事後学修	よく出てくる分離動詞前つづりの意味に習熟すること。	30分
6	第一部 土10/24第 二部 月 10/19	第10課 再帰動詞・再帰代名詞、zu不定詞 (句) について	「再帰」とは何かを学修する。zu不定詞 (句) の作り方と用法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「再帰」の意味を理解し、適切な再帰代名詞を選ぶことができる。	
		事前学修	人称代名詞を復習しておくこと	30分
		事後学修	zu不定詞の様々な用法を整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 土10/31 第二部 月10/26	第10課 練習問題	3人称だけは再帰代名詞がsichになることに注意して問題を解いていく
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。
		事前学修	教科書65ページを予習しておくこと。再帰動詞の問題は主語の人称をいろいろ変えてみること。
		事後学修	教科書60ページの再帰動詞を使って文章を作ってみること。
8	第一部 土11/7第 二部 月 11/9	第11課 形容詞と副詞の比較級、序数について	比較の様々な用法について学修する。
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、身近なことに关して比較の文章を作ることができる。
		事前学修	教科書55～56ページの形容詞の用法について復習しておくこと
		事後学修	よく出てくる形容詞の比較級と最上級を覚えること。
9	第一部 土11/14 第二部 月11/16	第11課 練習問題	比較級・最上級が付加語的に使われた場合の語尾変化に注意して問題を解いていく
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、序数を用いて日付を言うことができる。
		事前学修	教科書69ページを予習しておくこと。序数を用いて自分の生年月日を言えるようにしておくこと。
		事後学修	比較の種々の用法を整理しておくこと。
10	第一部 土11/21 第二部 月11/23	第12課 動詞の3基本形および過去人称変化	3基本形とは何かについて学修する。過去人称変化と過去形の用法について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞も含め、あらゆる動詞の3基本形を作ることができる。
		事前学修	現在人称変化を復習しておくこと
		事後学修	課題に出された動詞の3基本形、過去人称変化を練習しておくこと。
11	第一部 土11/28 第二部 月11/30	第12課 練習問題	3基本形の作り方を復習しつつ問題を解いていく
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形の文章を読み、かつ作ることができる。
		事前学修	教科書73ページを予習しておくこと。過去形の動詞はすべて不定詞と過去分詞を出しておくこと。
		事後学修	規則動詞の3基本形のパターンを完全に覚えておくこと。
12	第一部 土12/5第 二部 月 12/7	第13課 完了形の作り方とその用法 分詞について	完了形も枠構造になることを学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2種類の助動詞を適切に選ぶことができる。
		事前学修	habenおよびseinの現在人称変化を復習しておくこと
		事後学修	課題に出された文章を現在完了形に書き換えてくること。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	第一部 土12/12 第二部 月12/14	第13課 練習問題	過去形との違いを確認しつつ問題を解いていく
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常多用され、英語と異なる現在完了の用法に習熟し、それを運用できる。
		事前学修	教科書79ページを予習しておくこと。過去分詞はすべて不定詞・過去基本形も出しておくこと。30分
		事後学修	完了形、話法の助動詞、分離動詞はすべて枠構造であることを理解すること。30分
14	第一部 土12/19 第二部 月12/21	接続法	接続法の作り方と用法について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、日常よく使われる接続法の言い回しを理解し、使うことができる。
		事前学修	動詞の人称変化、過去基本形の作り方を特に整理しておくこと。30分
		事後学修	直説法との違いを整理しておくこと。30分
15	第一部 土12/26 第二部 月1/18	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。
		事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと30分
		事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
授業ではドイツ文法以外に、訳に立つドイツ関連情報を多数紹介する。リラックスした学習環境を整えるため、クラシック音楽をBGMに使用し、解説を行う。ドイツをより身近に感じてもらうために話題のDVDを見る時間を設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語ルネサンス（第3版）	本郷、佐藤ほか	三修社	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜14:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	[話法の助動詞について]	話法の助動詞について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前期の内容を確認しておくこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
2	第一部 土9/26	[話法の助動詞の用法について]	話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副文における助動詞の位置を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	第一部 土10/3	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	第一部 土10/10	[形容詞について]	ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の変化表の見方を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	第一部 土10/17	[形容詞の比較・副詞的用法について]	比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の比較・副詞的用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	第一部 土10/24	[分離動詞について]	分離動詞について学ぶ、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	[動詞の3基本形について]	動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3基本形について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	第一部 土11/7	[過去形の変化について]	過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、規則・不規則変化動詞の3基本形を作ることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	第一部 土11/14	[完了形について]	ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形の作り方について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	第一部 土11/21	[完了形の用法について]	完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の完了形について、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	第一部 土11/28	[関係代名詞について]	関係代名詞について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係代名詞について理解し、用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	第一部 土12/5	[受動態について]	受動態について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態について理解し、構成を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	[zu不定詞について]	不定詞について学び、和訳することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞について理解し、用法を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	第一部 土12/19	[接続法について]	接続法について学び、用法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法について理解し、用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	第一部 土12/26	[授業内試験，振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期・後期で学んだことを復習する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	心静かに、一年の学習を振り返ること。	80分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を宿題とし、次の授業で確認します。発音練習も適宜行います。また、基本的な語形変化を覚えるための小テストも実施し、次の授業で返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アトラス ドイツ文法の友	工藤康弘	白水社	2020年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜14：30～ 授業終了後の講堂にて。初回授業でメールアドレスを公開する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14	【ガイダンス】 【形容詞の変化】	授業の進め方と注意事項、ドイツ語の概要を説明する。 形容詞の変化を学習し、発音練習を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の変化を理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 ドイツ語基礎文法Aの学習内容を復習しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 教科書38～39ページの練習問題を行う。	60分
2	第一部月 9/21	【話法の助動詞（現在人称 変化と文構造）】	話法の助動詞の現在人称変化と文構造について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞の現在人称変化と文構造について理解し、話法の助動詞を使ったドイツ語文を作ることができる。	
		事前学修	教科書40ページを読んでくる。	10分
		事後学修	話法の助動詞の現在人称変化を暗記する。 教科書42ページの練習問題Ⅰを行う。	40分
3	第一部月 9/28	【話法の助動詞（意味）】	話法の助動詞の意味について、また未来形に使われるwerdenについて学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞の意味について理解し、話法の助動詞を使ったドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書40～41ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書43ページの練習問題Ⅱを行う。	45分
4	第一部月 10/5	【分離動詞】	分離動詞のしくみ、非分離動詞について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞、非分離動詞について理解し、分離動詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書44～45ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書46～47ページの練習問題を行う。	60分
5	第一部月 10/12	【動詞の3基本形】	動詞の3基本形の作り方、過去形の用法について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の3基本形の作り方、過去形の用法について理解し、過去形のドイツ語文を作ることができ、過去形のドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書48～49ページを読んでくる。	15分
		事後学修	動詞の3基本形の作り方を復習する。 教科書50～51ページの練習問題を行う。	60分
6	第一部月 10/19	【完了形】	現在完了形、過去完了形について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形について理解し、完了形のドイツ語文を作ることができ、完了形のドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書52ページを読んでくる。	10分
		事後学修	教科書54ページの練習問題ⅠとⅡを行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/26	【zu不定詞】	zu不定詞の形式と用法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu不定詞の形式と用法について理解し、zu不定詞を使ったドイツ語文を作ることができ、zu不定詞を使ったドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書53ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書55ページの練習問題ⅢとⅣを行う。	60分
8	第一部月 11/9	【再帰表現】	再帰代名詞と再帰動詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、再帰表現を使ったドイツ語文を作ることができ、再帰表現を使ったドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書56ページを読んでくる。	10分
		事後学修	再帰代名詞を暗記する。 教科書58ページの練習問題ⅠとⅡを行う。	60分
9	第一部月 11/16	【受動態】	受動態について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態について理解し、受動態のドイツ語文を作ることができ、受動態のドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書57ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書59ページの練習問題ⅢとⅣを行う。	60分
10	第一部月 11/23	【比較表現】	比較表限の形式、用法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較表限の形式、用法について理解し、比較表現を使ったドイツ語文を作ることができ、比較表現を使ったドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書60～61ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書62～63ページの練習問題を行う。	60分
11	第一部月 11/30	【定関係代名詞、関係副詞】	定関係代名詞、関係副詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定関係代名詞、関係副詞について理解し、定関係代名詞、関係副詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書64ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書66ページの練習問題ⅠとⅡを行う。	60分
12	第一部月 12/7	【不定関係代名詞、指示代名詞】	不定関係代名詞、指示代名詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定関係代名詞、指示代名詞について理解し、不定関係代名詞、指示代名詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書65ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書67ページの練習問題ⅢとⅣを行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 12/14	【接続法第2式】	接続法第2式の形、非現実話法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法第2式の形、非現実話法について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書68～69ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書70～71ページの練習問題を行う。	60分
14	第一部月 12/21	【接続法第1式】	接続法第1式の形、間接話法、要求話法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法第1式の形、間接話法、要求話法について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書73ページを読んでくる。	15分
		事後学修	接続法第1式について復習する。	30分
15	第一部月 1/18	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および後期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第1回～第14回の学習内容を理解し、運用できる。	
		事前学修	教科書36～73ページの総復習を行う。	90分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(第一部金曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則、ドイツ語基礎文法Aと通年でこの授業を履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施した試験については、授業内で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワークなどを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語の時間<話すための文法>(web練習問題付)	清野智昭	朝日出版社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を復習する。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	9/25	第7課①② 動詞	zu不定詞や分離動詞について解説する。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、zu不定詞や分離動詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前期に学習した動詞の人称変化の知識が必要になるため、よく復習しておくこと。	30分
		事後学修	分離動詞は英語に無い発想なので、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
3	10/2	第7課③ 話法の助動詞	話法の助動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、話法の助動詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前期に学習した動詞の現在人称変化について、もう一度確かめてから授業にのぞむこと。英語の助動詞がどうだったか、思い出しておくこと。	30分
		事後学修	助動詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
4	10/9	独検4級問題に挑戦	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
		事前学修	配布する筆記試験の問題を自宅で解いてから授業に来ること。授業では筆記の解説とリスニングの問題を扱う予定である。	30分
		事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出て正解となるよう、繰り返し解いてみること。	30分
5	10/16	第8課① 三基本形、過去形	三基本形と過去形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、動詞の三基本形と過去形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	新たに学ぶ第8課の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。	30分
		事後学修	三基本形と過去形について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
6	10/23	第8課② 現在完了形	現在完了形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、現在完了形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	三基本形について、よく復習してから授業にのぞむこと。また、第2課で学習したhabenとseinの現在人称変化も、この授業が始まる前までに、絶対に覚えておくこと。	30分
		事後学修	現在完了形について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/30	第8課③ 受動態	受動態について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、受動態の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。
		事前学修	第2課で学習したwerdenの現在人称変化を、この授業が始まる前までに、絶対に覚えておくこと。過去分詞についての知識を整理しておくこと。
		事後学修	受動態について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。
8	11/6	第9課(前半) 形容詞の格変化	形容詞の格変化について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、形容詞の格変化の要点を説明することができる。関連する練習問題やドイツ語の文章を分析することができる。
		事前学修	定冠詞(類)・不定冠詞(類)の格変化について、十分に復習してから授業に来ること。新たな学習事項について、少し目を通しておくことが望ましい。
		事後学修	形容詞の表を見て格変化ができるように、ルールをよく復習しておくこと。
9	11/13	第9課(後半) 比較級と最上級	比較級と最上級について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、比較級と最上級の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。
		事前学修	前回学習した形容詞の格変化語尾について、復習しておくこと。新たな学習事項について、少し目を通しておくことが望ましい。
		事後学修	比較級と最上級について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。
10	11/20	第10課(前半) 関係代名詞	関係代名詞について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、関係代名詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。
		事前学修	定冠詞の格変化を十分に復習してから授業にのぞむこと。新たに学ぶ関係代名詞について、少し目を通しておくことが望ましい。
		事後学修	関係代名詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。
11	11/27	第11課 接続法	接続法について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、接続法の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。
		事前学修	過去形の作り方、過去形の人称変化について、復習しておくこと。新たに学ぶ接続法について、少し目を通しておくこと。
		事後学修	接続法について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。
12	12/4	独検の問題に挑戦	独検の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。
		事前学修	配布する筆記試験の問題を自宅で解いてから授業に来ること。授業では筆記の解説とリスニングの問題を扱う予定である。
		事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出ても正解となるよう、繰り返し解いてみること。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	これまでの学習内容の復習	後期の学習事項について、あらためて要点を説明する。	
		この回の到達目標	後期の学習事項について、理解が十分ではない箇所を認識し、その解決法を見つけることができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。(20分)	20分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(40分)	40分
14	12/18	理解度の確認と後期のまとめ	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	12/25	前期・後期の復習、今後の学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。今後のドイツ語の学習について、よく考え、計画を立てること。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
木曜1限真道担当のドイツ語基礎表現ABを同時に受講すること。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ドイツ語の発音・文法トレーニングをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、小テストのコメントを中心にフィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法・１００語の世界	清水 薫	同学社	2008		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容	実務経験をもとに、実践に直結した文法の学修を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15 9/18	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、学期末の到達目標についての説明、検定試験の説明、単位認定についての説明	
		この回の到達目標	今学期の到達目標と授業の進め方、単位認定について説明ができる。 事前学修	
		事前学修	シラバス確認 文法・語彙復習	30分
		事後学修	教材準備 文法・語彙復習	30分
2	9/22 9/25	独検4級過去問解説 Lektion 9 形容詞の格語尾 序数	独検4級過去問解説 形容詞の格語尾 序数についての説明・応用	
		この回の到達目標	形容詞の格語尾 序数についての説明・応用ができる。	
		事前学修	独検4級過去問	60分
		事後学修	Lektion 9 練習問題	30分
3	9/29 10/2	Lektion 10 比較変化	小テスト13 比較変化についての説明・応用	
		この回の到達目標	比較変化についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト13試験準備	30分
		事後学修	Lektion 10 練習問題	30分
4	10/6 10/9	Lektion 10 非人称表現 不定代名詞	小テスト14 非人称表現 不定代名詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	非人称表現 不定代名詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト14試験準備	30分
		事後学修	Lektion 10 練習問題	30分
5	10/13 10/16	Lektion 11 時刻 分離 動詞	小テスト15 時刻 分離動詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	時刻 分離動詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト15試験準備	30分
		事後学修	Lektion 11 練習問題	30分
6	10/20 10/23	Lektion 11 非分離動詞	小テスト16 非分離動詞について説明・応用	
		この回の到達目標	非分離動詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト16試験準備	30分
		事後学修	Lektion 11 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27 10/30	Lektion 12 再帰動詞	小テスト17 再帰動詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	再帰動詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト17試験準備	30分
		事後学修	Lektion 12 練習問題	30分
8	11/10 11/6	Lektion 12 接続詞	小テスト18 接続詞について説明・応用	
		この回の到達目標	接続詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト18試験準備	30分
		事後学修	Lektion 12 練習問題	30分
9	11/17 11/13	Lektion 13 動詞の3基本形 過去人称変化	小テスト19 動詞の3基本形 過去人称変化について説明・応用	
		この回の到達目標	動詞の3基本形 過去人称変化について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト19試験準備	30分
		事後学修	Lektion 13 練習問題	30分
10	11/24 11/20	Lektion 14 完了形 zu不定詞	小テスト20 完了形 zu不定詞について説明・応用	
		この回の到達目標	完了形 zu不定詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト20試験準備	30分
		事後学修	Lektion 14 練習問題	30分
11	12/1 11/27	Lektion 15 受動 分詞	小テスト21 受動 分詞について説明・応用	
		この回の到達目標	受動 分詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト21試験準備	30分
		事後学修	Lektion 15 練習問題	30分
12	12/8 12/4	Lektion 16 関係代名詞 指示代名詞	小テスト22 関係代名詞 指示代名詞について説明・応用	
		この回の到達目標	関係代名詞 指示代名詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト22試験準備	30分
		事後学修	Lektion 16 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15 12/11	Lektion 17 接続法	小テスト23 接続法について説明・応用	
		この回の到達目標	接続法について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト23試験準備	30分
		事後学修	Lektion 17 練習問題 (30分)	30分
14	12/22 12/18	期末試験	初級文法全般から出題する期末試験	
		この回の到達目標	初級文法が理解でき、試験のフォーマットに合わせて応用できる	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	試験を振り返り、文法復習	60分
15	1/12 12/25	試験解説及び振り返り	試験解説をする 今後のドイツ語学修の計画を立てる。	
		この回の到達目標	試験で間違ったところを改めて理解し、今後の目標設定を立てることができる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、今後のドイツ語学修について計画をたてる。	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験終了後に解説、あるいは教科書の該当ページを指示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法 【改訂版】	荻原耕平山崎泰孝	白水社	2019	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
					任意
備考					

【オフィスアワー】
授業時間（木曜１・２・４・５限）後の休み時間、講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 木9/17	【ガイダンス】【前期学習事項の確認】	ガイダンス 前期学習事項の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前期学習事項における弱点をみつけ、克服する。	
		事前学修	夏休み前の学習事項を見直しておく（４５分）	45分
		事後学修	発音（単語の読み方）、定冠詞・不定冠詞、sein / haben の変化などを覚えなおす（１５分）	15分
2	第1部 木9/24	【分離動詞・非分離動詞】 【副文】	従属接続詞 分離動詞・非分離動詞 前期学習事項と前回授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、副文の構造・分離動詞の使用例を覚える。	
		事前学修	前回の学習事項の復習（１５分）	15分
		事後学修	１７回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
3	第1部 木10/1	【話法の助動詞】	話法の助動詞 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、話法の助動詞を使った文の構造を理解するとともに、いくつかの話法の助動詞の変化を覚える。	
		事前学修	授業１７回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	１８回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
4	第1部 木10/8	【未来推量の助動詞】	未来推量の助動詞 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、話法の助動詞と未来推量の助動詞を使った文の相違を理解する。未来推量の助動詞の人称変化を覚える。	
		事前学修	授業１７回目～１８回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	１９回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
5	第1部 木10/15	【３基本形】	３基本形（夏休み前の続き） 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、３基本形が作れるようになる。	
		事前学修	授業１７回目～１９回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	２０回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
6	第1部 木10/22	【過去形】	過去形 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、過去形の用例を理解する。	
		事前学修	授業１７回目～２０回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	２１回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第 1 部 木10/29	【現在完了形】	現在完了形 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現在完了形の構文を理解し、単純な現在完了形の文を作ることができる。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 1 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 2 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
8	第 1 部 木11/5	【受動】	受動文 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、受動文・受動態の構造を知り、単純な受動文を作ることができる。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 2 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
9	第 1 部 木11/24	【形容詞】	形容詞の変化 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、形容詞の変化等を理解する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 3 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 4 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
10	第 1 部 木11/29	【比較表現】	比較表現 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、基礎的な比較表現が理解できるようになる。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 4 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
11	第 1 部 木12/3	【再帰】	再帰表現 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、基礎的な再帰表現を理解し、いくつかの例文を暗記する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 5 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 6 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
12	第 1 部 木12/10	【zu 不定詞】	zu 不定詞 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、英語の to 不定詞との類似と相違を理解する。いくつかの例を暗記する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 6 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 7 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 木12/28	【関係代名詞】	関係代名詞 前回までの授業の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、関係代名詞を使って文を作ることができる。	
		事前学修	授業17回目～27回目の復習（15分）	15分
		事後学修	28回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
14	第1部 木12/24	【試験】【振り返り】	授業内試験。試験の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、授業16回目～28回目の学習事項の達成度を確認する。	
		事前学修	授業17回目～28回目の復習（45分）	45分
		事後学修	自分の苦手な事項の復習（15分）	15分
15	第1部 木1/14	【接続法】	接続法 場合によっては追試験を実施。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、接続法の概略を理解する。	
		事前学修	これまでの学習事項の総復習（30分）	30分
		事後学修	興味のわいた参考事項についての自主学習（30分）	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
CDを用いた演習方式。教科書と独和辞典を常時使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して返却。授業内実施試験の解説・講評は、後日ポータルサイトシステムにて配信。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CD付き 気分はドイツ	本郷建治、佐藤彰、 他	三修社	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12時20分～12時50分、授業講堂（前もってアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	【habenを使った現在完了形】	ガイダンス（授業の進め方等について）により、受講生は、授業の準備をスムーズに行うことができる。 habenを使った現在完了形について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、habenの現在人称変化と過去分詞を用いて作られる現在完了形について理解する。	
		事前学修	シラバスと第9課「現在完了形」の42ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	教科書にあるキーセンテンスの会話を正しい発音で音読し、過去形と現在完了形を文法的に区別する。	30分
2	第一部 月9/21	【seinを使った現在完了形】	seinを使った現在完了形について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、seinの現在人称変化と過去分詞とを用いて作られる現在完了形について理解する。どう いう過去分詞の時にこの構文になるか、説明することができる。	
		事前学修	43ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	学習した例文をおさらいし、過去分詞を正しい発音で音読し、暗記する。	30分
3	第一部 月9/28	【過去形と現在完了形の違い】	過去形と現在完了形の両方が用いられる会話について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、コミュニケーションに必要な現在完了形と過去形を使い分けることを理解する。	
		事前学修	44ページの問題を解いてくる。	35分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
4	第一部 月10/5	【分離動詞とは】	分離動詞を用いた構文について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、分離動詞を用いた文を理解し、分離動詞を辞書で引いて調べることができる。	
		事前学修	第10課「分離動詞」の48ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	学習した例文を音読して、正しい発音を身につける。	30分
5	第一部 月10/12	【分離動詞を使った会話】	分離動詞を使ってする会話を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し、分離動詞を使って、目的地まで行くコミュニケーションを成立させることができる。	
		事前学修	49ページの練習問題を解いてくる。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
6	第一部 月10/19	【形容詞の使い方】	名詞の前におかれる、形容詞の付加語的用法と比較変化について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、形容詞の付加語的用法と比較変化について理解する。比較変化を正しく発音することが できる。	
		事前学修	第11課「形容詞」の50～52ページを読んで、53ページの問題を解いてくる。	35分
		事後学修	ノートを確認し、間違えた箇所の問題を解き直す。50～51の表を使って冠詞の復習をする。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	【再帰動詞とは】	再帰代名詞を伴った再帰動詞について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再帰動詞の意味と構造を理解し、辞書を引いて調べ、文を翻訳することができる。	
		事前学修	第12課「再帰動詞、非人称構文」の54～55ページを読んでくる。	30分
		事後学修	再帰動詞の意味を確認し、再帰代名詞の格変化を暗記する。	30分
8	第一部 月11/9	【esを使った熟語表現】	esを用いた非人称表現について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、esを用いた熟語の意味と辞書での調べ方を理解して、翻訳することができる。	
		事前学修	56ページの練習問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
9	第一部 月11/16	【定関係代名詞とは】	定関係代名詞とそれを使った関係文を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、先行詞と関係代名詞の関係を理解し、関係文中の関係代名詞が何格であるかを適切に説明できる。	
		事前学修	第13課「関係代名詞」の57ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	関係代名詞の格について復習し、57ページの表を暗記する。	30分
10	第一部 月11/23	【不定関係代名詞とは】	不定関係代名詞について学修する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、不定冠詞を使った文を理解し、適切に翻訳することができる。	
		事前学修	58ページの練習問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
11	第一部 月11/30	【受動】	受動の構文について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、受動の助動詞と過去分詞で作られる受動態の現在形と過去形について理解し、そのほかの受動態についても説明できる。	
		事前学修	第14課「受動」の59～60ページを読んでくる。	30分
		事後学修	配布プリントで、受動の助動詞の時制を復習する。	30分
12	第一部 月12/7	【受動構文を使った会話】	まとまった会話文を聞いて、内容を把握する学修をする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、窓口でチケットを購入する時の会話を聞いて、その内容を理解することができる。	
		事前学修	61ページの練習問題を解いてくる。62～63ページの写真を見て、ウィーンのカフェ文化を理解する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、練習問題のうち、特に過去分詞の作り方を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	【接続法とは】	接続法第1式と第2式の作り方と用法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法の作り方と用法を理解し、その用法に応じて適切な翻訳をすることができる。	
		事前学修	第15課「接続法」の64～66ページを読み、67ページの問題を解いてくる。	35分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。接続法第2式の動詞を正しく発音する練習をする。	25分
14	第一部 月12/21	現在分詞と過去分詞】【zu不定詞】	現在分詞と完了形と受動構文以外での過去分詞の用法、およびzu不定詞について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在分詞と過去分詞の形容詞的、副詞的用法を理解し、適切な翻訳ができる。zu不定詞の用法について説明することができる。	
		事前学修	第16課「分詞、zu不定詞」の68頁を読み、69ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
15	第一部 月1/18	【振り返り】【授業内試験】	後学期学習内容の振り返り、授業内試験と講評。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後学期に学習したことがどの程度身についたかを判断することができる。	
		事前学修	教科書、ノート、配布資料に目を通し、後学期で学修したこと全般について、理解していないことがないかどうか検討する。	120分
		事後学修	試験で正解できなかった箇所について、教科書等を参考にして、再検討する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	森田 悟	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
学部の規定による

【授業方法】
講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナードやさしいドイツ語文法	萩原耕平、山崎泰孝	白水社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、ただし事前に申し出ることが望ましい

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	前期学修事項の確認とガイダンス	後半の学習のためのガイダンス、前半の確認	
		この回の到達目標	①②③に関連して前期に学んだ中からは是非とも復習したい事項について再度確認できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
2	9月22日	前期学修事項の中から特に重要な事項を復習	前半の学習の確認	
		この回の到達目標	①②③に関連して前期の学習事項の中で特に重要なことを説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
3	9月29日	分離動詞、接続詞	分離動詞、接続詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して分離動詞・接続詞について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
4	10月6日	動詞の三基本形	動詞の三基本形・過去について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して動詞の三基本形を説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
5	10月13日	過去	動詞の三基本形。過去形について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して動詞の過去形について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
6	10月20日	現在完了・受動	現在完了・受動について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して現在完了・受動について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	現在完了・受動	現在完了・受動について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して現在完了・受動について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
8	11月10日	形容詞・比較	形容詞・比較について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して形容詞・比較について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
9	11月17日	形容詞・比較	形容詞・比較について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して形容詞・比較について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
10	11月24日	再帰代名詞・zu不定詞	再帰代名詞・zu不定詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して再帰代名詞・zu不定詞について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
11	12月1日	再帰代名詞・zu不定詞	再帰代名詞・zu不定詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して再帰代名詞・zu不定詞について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
12	12月8日	関係代名詞	関係代名詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して関係代名詞について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	接続法	接続法について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して接続法について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
14	12月22日	これまでの学修の振り返り	授業内試験及び、振り返り	
		この回の到達目標	①②③に関連してこれまで学習したことを説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
15	1月12日	これまでの学修の検証	これまで学んだことの確認と補充	
		この回の到達目標	①②③に関連してこれまでの学修事項を説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(月曜5時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
水曜5時限目の佐藤英先生の「ドイツ語基礎表現」を同時履修すること。受講の際には、佐藤先生の水・5の授業にウェブ登録すること。

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「ゲナウ！レーゼン」	新倉真矢子他	第三書房	2016	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2016	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜5限、授業後の教室、もしくは、9号館1階共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	前期文法の総復習 話法の助動詞	前期文法の総復習をしながら、後期文法では前期文法が少し装い替えて繰り返し出てくるにすぎないことを説明し、少し先取りして後期文法の解説を簡単に行う。 話法とは何か説明し、人称変化は単数で特殊な変化をすることを述べ、話法の助動詞構文を観察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、さらに、到達目標②に関連して、この助動詞の持つ意味のニュアンスを十分に把握したうえで、表現や理解の幅を広げることができる。	
		事前学修	wissen型の人称変化を復習し、英語との文構造を比較する。1人称単数と3人称単数の人称変化形を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
2	9/21	前置詞と格支配	「～が・の・に・を」以外の関係、例えば、「～と」「～で」「～から」「～のために」等を表すときに使うドイツ語の前置詞を取り上げ、格支配について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツ語の前置詞を知ること、より詳しい、複雑なドイツ文を作ることができ、表現の幅を広げることができる。	
		事前学修	英語の前置詞は何格を支配しているか考えてみる。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
3	9/28	3・4格支配の前置詞 前置詞を伴う熟語 前置詞の融合形	前置詞と冠詞とが融合して、縮合形をつくることを取り上げ、どういう場合に融合し、どういふばあい融合しないかを解説する。また、前置詞を伴う熟語を学ぶ。あわせて、熟語の辞書の表記も説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語のにはない3・4格支配の前置詞9個を覚え、たうえで、3格支配か4格支配かの使い分けができる。それによって、ドイツ語の熟語を使ったり、少し詳しい文献の解釈、やや複雑なドイツ文の作成の下地を作ることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。参考書を調べて、どのような動詞がどのような前置詞と結びついて熟語になるか拾い出して、教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
4	10/5	再帰動詞 再帰代名詞	主語の動作が、主語以外のものに加えられる場合ではなく、主語の動作が、自分自身に加えられる場合に使われる再帰動詞について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、例えば、setzen「～を座らせる」という他動詞を、再帰代名詞を使って、「座る」という自動詞的な意味にすることができる。	
		事前学修	人称代名詞の3格と4格を確認しておく。 練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。 辞書を引いて、再帰動詞の意味を調べておく。	30分
5	10/12	分離動詞	前つづりと基礎動詞から成り立っている動詞を複合動詞というが、ここでは分離動詞を取り上げて、英語の配列と比べながら解説を行う。また、分離動詞の文構造は、ドイツ語の特徴を成す枠構造を知るうえで重要であることにも言及する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞には、分離動詞と非分離動詞があるが、混同しないで見分けることができる。到達目標①に関連して、複合動詞を発音する際、正しくアクセントを置くことができる。ドイツ語の構文の特徴である枠構造と結びつけて考えることができる。	
		事前学修	分離動詞の文章を見て、辞書を調べて、その意味を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
6	10/19	動詞の三基本形 過去人称変化	動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。また、過去の人称変化についても述べる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、過去形を使うことができる。	
		事前学修	現在人称変化と過去人称変化とを比較し、共通する部分と異なる部分を教科書、もしくはノートに書き留めておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10 /26	完了形	完了の助動詞は、多くはhabenを使うが、どういう場合にseinを使うかを解説を行う。そして、文構造を観察する。過去形が「物語」「報告」の文体であるのに対し、現在完了形は、日常の口語表現であることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、現在完了形と過去形を使うことができる。	
		事前学修	habenと seinの人称変化、過去分詞の作り方を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。話法の助動詞の構文と完了形の構文と類似するところを確認しておく。	30分
8	11/9	形容詞の用法 付加語的用法	ドイツ語の名詞には、常に性、数、格を明示しようとする言語的本能があり、形容詞が変化するのはそのためであることを説明し、ここでは主に付加語用法を取り上げ、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文の中での名詞の役目を意識し、語尾を間違わないでつけることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。強変化の語尾、弱変化の語尾、混合変化の語尾は何に由来するか考えてみる。辞書を引く練習をしておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
9	11 /16	副文 関係文	まず副文の定義と種類を述べ、その後、関係文の文構造を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、関係文中の格の役割を理解し、関係代名詞を入れることができる。	
		事前学修	関係代名詞の格変化と定冠詞の格変化を比較し、異なるところをチェックしておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。ドイツ語の定形の位置が3種類あることを改めて確認しておく。	30分
10	11 /23	受動態	今までの文章は主語が他のものに動作を加えることを述べたものであるが、ここでは主語が動作を受ける関係の文章を取り上げ、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、受動態は「何が行われる」という出来事に重点を置いて表現する言い方で、能動態の性質と区別して表現することができる。	
		事前学修	werdenの変化と過去分詞の作り方を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
11	11 /30	分詞 zu不定詞 esの用法	分詞の定義と種類を説明し、その後zu不定詞句を英語および日本語の配列と比較して述べる。非人称のesの用法を英語と比較して、説明する。天候・自然現象、人間の感情、感覚、生理現象を表す非人称動詞について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、現在分詞、過去分詞の用法、zu不定詞の名詞的用法、付加語的用法、副詞的用法を区別して訳すことができる。到達目標②に関連して、天候の用法、es gibtの表現を使って、会話の幅を広げることができる。	
		事前学修	現在分詞、過去分詞の作り方、付加語の語尾変化を復習し、zu不定詞の構文を観察しておく。英語のitの用法を調べておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。zu不定詞の構文が日本語の配列と似ていることを確認する。	30分
12	12/7	ドイツ語検定試験（独検）対策	独検4級（初級レベル）の過去問題を解きながら、問題の意図を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、検定の問題を通して今まで習ってきたドイツ語の文法、表現を再確認し、覚えることができる。	
		事前学修	教科書を復習しておく。検定対策の参考書を2度熟読してみる。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /14	接続法	接続法の定義を述べる。ここまで習ってきた文章は、事実をありのまま述べる「直接（説）法」という話法で、この回では接続法という形を説明する。ここでは、特に露骨な言い方を避け、遠慮深い、慎重な、控えめな表現である外交話法や人の意見を引用者の立場で取り次ぐ、間接話法について取り上げ、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、外交話法を使って自分の希望を伝えることができる。また、ドイツ語の報道文の中で、動詞の形を目印に誰が発言したかをはっきりと判別して、訳すことができる。	
		事前学修	接続法Ⅰ式、Ⅱ式の定型を現在人称変化過去人称変化と比較し、共通する部分と異なる部分を教科書に書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	10分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。実際に簡単なメールニュースを探して、報道文を訳してみる。試験に備えて、後期文法の総復習をする。	150分
14	12 /21	授業内試験／解説	60分の筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法の問題に解答できるとともに、平易なドイツ文を話し、訳すことができるようになる。	
		事前学修	後期で習った文法事項を確認し、音読し、ノートに書き、基本例文を暗唱する。	150分
		事後学修	試験を振り返り、分からなかったところ、間違えたところ、あやふやなところを書き留め、正しい解答を調べておく。	10分
15	1/18	解説／振り返り	授業内試験の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、中級へ進むことができる。	
		事前学修	自分の答案を振り返り、試験で間違ったところ、あやふやなところ、わからなかったところを自分で調べておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、誤りを確認し、ドイツ語の基本文法を頭の中で整理し、自ら体系づけてみる。	90分

科目名	ドイツ語基礎文法B(月曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Bを同時履修すること

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「気分はドイツ」	本郷建治・佐藤彰	三修社	2017	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜2限、授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	前期文法の総復習 3・4格支配の前置詞	前期文法の総復習をしながら、後期文法では前期文法が少し装い替えて繰り返し出てくるにすぎないことを説明し、少し先取りして後期文法の解説を簡単に行う。その後、3・4格支配の前置詞の用法の説明を行う。	
		この回の到達目標	英語のにはない3・4格支配の前置詞9個を覚えただけで、3格支配か4格支配かの使い分けができる。	
		事前学修	冠詞類の格変化(3格形、4格形)を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
2	9/21	前置詞を伴う熟語 前置詞の融合形	前置詞と冠詞とが融合して、縮合形をつくることを取り上げ、どういう場合に融合し、どういふばあい融合しないかを解説する。また、前置詞を伴う熟語を学ぶ。あわせて、熟語の辞書の表記も説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツ語の熟語を知ること、少し詳しい文献の解釈、やや複雑なドイツ文の作成の下地を作ることができる。	
		事前学修	参考書を調べて、どのような動詞がどのような前置詞と結びついて熟語になるか拾い出して、教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
3	9/28	話法の助動詞	話法とは何か説明し、人称変化は単数で特殊な変化をすることを述べ、話法の助動詞構文を観察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、この助動詞の持つ意味のニュアンスを十分に把握したうえで、表現や理解の幅を広げることができる。	
		事前学修	wissen型の人称変化を復習し、英語との文構造を比較する。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
4	10/5	動詞の三基本形 過去人称変化	動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。また、過去の人称変化についても述べる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、過去形を使うことができる。	
		事前学修	現在人称変化と過去人称変化とを比較し、共通する部分と異なる部分を教科書、もしくはノートに書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
5	10/12	完了形	完了の助動詞は、多くはhabenを使うが、どういう場合にseinを使うかを解説を行う。そして、文構造を観察する。過去形が「物語」「報告」の文体であるのに対し、現在完了形は、日常の口語表現であることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、現在完了形と過去形を使うことができる。	
		事前学修	habenと seinの人称変化、過去分詞の作り方を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
6	10/19	分離動詞	前つづりと基礎動詞から成り立っている動詞を複合動詞というが、ここでは分離動詞を取り上げて、英語の配列と比べながら解説を行う。また、分離動詞の文構造は、ドイツ語の特徴を成す枠構造を知るうえで重要であることにも言及する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞には、分離動詞と非分離動詞があるが、混同しないで見分けることができる。到達目標①に関連して、複合動詞を発音する際、正しくアクセントを置くことができる ドイツ語の構文の特徴である枠構造と結びつけて考えることができる。	
		事前学修	分離動詞の文章を見て、辞書を調べて、その意味を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。話法の助動詞の構文と完了形の構文と類似するところを確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10 /26	形容詞の用法 付加語的用法	ドイツ語の名詞には、常に性、数、格を明示しようとする言語的本能があり、形容詞が変化する のはそのためであることを説明し、ここでは主に付加語用法を取り上げ、解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、文の中での名詞の役目を意識し、語尾を間違わないでつけることができる。	
		事前学修	強変化の語尾、弱変化の語尾、混合変化の語尾は何に由来するか考えてみる。辞書を引く練習をしておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
8	11 /9	esの用法	非人称のesの用法を英語と比較して、説明する。天候・自然現象、人間の感情、感覚、生理現象を表す非人称動詞について解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、天候の用法、es gibtの表現を使って、会話の幅を広げることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
9	11 /16	再帰動詞 再帰代名詞	主語の動作が、主語以外のものに加えられる場合ではなく、主語の動作が、自分自身に加わえら れる場合に使われる再帰動詞について解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、例えば、setzen「～を座らせる」という他動詞を、再帰代名詞を使って、「座る」とい う自動詞的な意味にすることができる。	
		事前学修	人称代名詞の3格と4格を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。辞書を引いて、再帰動詞の意味を調べておく。	30分
10	11 /23	受動態	今までの文章は主語が他のものに動作を加えることを述べたものであるが、ここでは主語が動作 を受ける関係の文章を取り上げ、解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、受動態は「何が行われる」という出来事に重点を置いて表現する言い方で、能動態の性質 と区別して表現することができる。	
		事前学修	werdenの変化と過去分詞の作り方を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
11	11 /30	分詞 zu不定詞	分詞の定義と種類を説明し、その後、zu不定詞句を英語および日本語の配列と比較して述べる。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、現在分詞、過去分詞の用法、zu不定詞の名詞的用法、付加語的用法、副詞的用法を区別し て訳すことができる。	
		事前学修	現在分詞、過去分詞の作り方、付加語の語尾変化を復習し、zu不定詞の構文を観察しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。zu不定詞の構文が日本語の配列と似ていることを確認 する。	30分
12	12/7	副文 関係文	まず副文の定義と種類を述べ、その後、関係文の文構造を解説する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、関係文中の格の役割を理解し、関係代名詞を入れることができる。	
		事前学修	関係代名詞の格変化と定冠詞の格変化を比較し、異なるところをチェックしておく。練習	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。ドイツ語の定形の位置が3種類あることを改めて確認 しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /14	接続法	接続法の定義を述べる。ここまで習ってきた文章は、事実をありのまま述べる「直接（説）法」という話法で、この回では接続法という形を説明する。ここでは、特に露骨な言い方を避け、遠慮深い、慎重な、控えめな表現である外交話法や人の意見を引用者の立場で取り次ぐ、間接話法について取り上げ、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、外交話法を使って自分の希望を伝えることができる。また、ドイツ語の報道文の中で、動詞の形を目印に誰が発言したかをはっきりと判別して、訳すことができる。	
		事前学修	接続法Ⅰ式、Ⅱ式の定型を現在人称変化過去人称変化と比較し、共通する部分と異なる部分を教科書に書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	10分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。実際に簡単なメールニュースを探して、報道文を訳してみる。試験に備えて、後期文法の総復習をする。	110分
14	12 /21	授業内試験／解説	60分の筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法の問題に解答できるとともに、平易なドイツ文を話し、訳すことができるようになる。	
		事前学修	後期で習った文法事項を確認し、音読し、ノートに書き、基本例文を暗唱する。	110分
		事後学修	試験を振り返り、分からなかったところ、間違えたところ、あやふやなところを書き留め、正しい解答を調べておく。	10分
15	1/18	解説／振り返り	授業内試験の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、中級へ進むことができる。	
		事前学修	自分の答案を振り返り、試験で間違ったところ、あやふやなところ、わからなかったところを自分で調べておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、誤りを確認し、ドイツ語の基本文法を頭の中で整理し、自ら体系づけてみる。	90分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。やむをえぬ事由で欠席が複数回におぶときは、事前か事後に申し出て、指導をうけてください。

【授業方法】
前期教材、ドイツ語基礎表現Aの後半を使用して指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に処理。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ』	ヘルマン・トロール 他	第三書房	2016		
備考	現代のドイツの環境意識をテーマに、やさしくドイツ語を学べます。				

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/11	前期復習	前期の復習授業。	
		この回の到達目標	前期に学習したドイツ語文法と表現の内容を復習する。教材のドイツ語は平易ですが、学習の進度にあわせて、プリントでのリーダーも追加する予定です。	
		事前学修	前期の復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
2	9/18	テキストLektion7	ドイツのお城に泊まる 話法の助動詞	
		この回の到達目標	ドイツ語の助動詞の運用法を学ぶ。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
3	9/25	テキストLektion7	ドイツのお城に泊まる 名詞の複数形	
		この回の到達目標	名詞の単数・複数のあつかいかた。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
4	10/2	テキストLektion8	待ち合わせはどうやって？ 時刻表現・再帰動詞	
		この回の到達目標	日常生活表現の基礎知識。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
5	10/9	テキストLektion8	待ち合わせはどうやって？ 地図の読み方。地理的な知識。鉄道など。	
		この回の到達目標	旅行に関する表現一般を学びます。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
6	10/16	テキストLektion9	旅行案内所にて(1) 分離／非分離動詞の使い方基本編	
		この回の到達目標	すこし変わった動詞の扱い方です。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23	テキストLektion9	旅行案内所にて(2) 分離／非分離動詞の使い方応用編	
		この回の到達目標	分離・非分離動詞の運用法を学びます。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
8	10/30	テキストLektion10	誰と会ったのですか？ 完了表現	
		この回の到達目標	英語とはちょっとちがった完了表現の基本を学びます。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
9	11/6	テキストLektion10	誰と会ったのですか？ 完了表現	
		この回の到達目標	日常よく使う官僚表現の文例をあげてテキストを補完します。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
10	11/13	テキストLektion11	過去と完了表現のちがい(1) 過去形の基本 記録表現としての過去形について説明します。	
		この回の到達目標	会話は現在完了。文書は過去形。そのちがい。(1)	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
11	11/20	テキストLektion11	過去と完了表現のちがい(2) 過去形の応用	
		この回の到達目標	プリントにて、ややむずかしい和訳練習をします。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
12	11/27	テキストLektion12	冬時間と夏時間 形容詞の比較 付加語的用法	
		この回の到達目標	形容詞の運用法を丁寧に教えます。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4	接続法	接続法というもうひとつの動詞の変化（１）	
		この回の到達目標	いっけん難そうですが、なれてしまえばそんなでもありません。いろいろな場面で、接続法はつかわれるのです。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
14	12/11	接続法の読解	接続法というもうひとつの動詞の変化（２） 非現実な表現(仮定法)	
		この回の到達目標	形がへんなら接続法かも。これさえ知っておけばなんのことはないのです。	
		事前学修	前回までのまとめ学習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
15	12/18	学年末試験 まとめ	学期末の教場筆記試験 読解中心	
		この回の到達目標	総合的読解力を判定します。簡単な文から、やや難しい初見のドイツ文まで。	
		事前学修	試験準備（60分）	60分
		事後学修	試験の反省。（30分）	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(第二部火曜1時限)	担当者	佐藤 英	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること。・この授業は原則としてドイツ語基礎文法Aと通年で履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業中に実施する試験については、授業内で講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	例文の音読、グループでの問題練習。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法(改訂版)	荻野耕平ほか	白水社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	9/22	第9課 話法の助動詞	話法の助動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、話法の助動詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第9課の学習事項について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	助動詞の変化表とそれぞれの機能について、十分に復習すること。	30分
3	9/29	第10課 動詞の3基本形	動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の過去形と完了形の作り方を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第10課の動詞の3基本形について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動詞の3基本形について、十分に復習すること。	30分
4	10/6	第10課 過去形	前回の復習として、あらためて動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明する。過去の人称変化についても述べる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の過去形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を復習しておくこと。第10課の過去形について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第10課の学習内容について、十分に復習すること。	30分
5	10/13	第11課 現在完了形	過去分詞の作り方を改めて説明した後、現在完了形によるセンテンスの作り方を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第10課の動詞の3基本形について復習しておくこと。第11課の現在完了形について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	現在完了形について、十分に復習すること。	30分
6	10/20	第11課 現在完了形、受動文	前回到引き続き、現在完了形の説明を行う。あわせて、受動文について、センテンスの作り方を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動文の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第10課の現在完了形について復習しておくこと。第11課の受動文について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第11課の学習内容について、十分に復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/27	第12課 形容詞、比較表現	形容詞の格変化や比較表現について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、形容詞の格変化や比較表現について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。
		事前学修	前期で学習した第3課と第4課の復習をしておくこと。第12課の形容詞について、少し目を通しておくこと。
		事後学修	形容詞の格変化について、一覧表の使い方がわかるようにしておくこと。
8	11/10	独検4級 模試の実施(筆記試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。
		事前学修	第9課までの学習内容を復習しておくこと。
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。
9	11/17	独検4級 模試の解説(リスニング試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。
		事前学修	第9課までの学習内容を復習しておくこと。CDを聞いて、ドイツ人の発音にも慣れておくこと。
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。
10	11/24	第13課 再帰代名詞、zu不定詞	再帰代名詞、zu不定詞について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、再帰代名詞やzu不定詞について概要を説明することができる。
		事前学修	第13課の学習内容について、少し目を通しておくこと。
		事後学修	第13課の学習内容について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第8課から第12課の学習内容についても、復習すること。
11	12/1	第14課 関係代名詞	関係代名詞について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、関係代名詞について概要を説明することができる。
		事前学修	第14課の関係代名詞について、少し目を通しておくこと。
		事後学修	関係代名詞について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第8課から第13課の学習内容についても、復習すること。
12	12/8	第14課 接続法	接続法について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、接続法について概要を説明することができる。
		事前学修	第14課の接続詞について、少し目を通しておくこと。
		事後学修	テストに備えて、後期の学習内容を復習すること。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	これまでの復習	後期の学習事項について、あらためて要点を説明する。	
		この回の到達目標	後期の学習事項について、理解が十分ではない個所を認識し、その解決法を見つけることができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
14	12/22	理解度の確認と後期学習内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	1/12	後期の復習と今後のドイツ語学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習計画についてよく考えること。	30分

科目名	人文系ドイツ語演習A	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を習得していること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】
ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。授業内の試験については、授業中に講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読や訳読の発表と講評。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べるができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グリム童話で学ぶドイツ語	シュテファン・ヴント、本橋右京	郁文堂	2002年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義。 必ず参加すること。	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。講読に際して必要になる基本的な文法事項について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語文法の基礎を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。「ドイツ語初級文法」で使用したテキストを一通り読んでおくこと。	30分
		事後学修	第2回の授業までに、テキストを準備し、第1課の予習をしておくこと。	30分
2	4/14	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft①	6ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキストを準備し、第1課の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
3	4/21	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft②	6ページ後半から8ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
4	4/28	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft③	8ページの残り全部を、文の構造を把握しながら精読する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
5	5/5	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft④	10ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
6	5/12	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft⑤	10ページ後半から12ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft⑥	12ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
8	5/26	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft⑦	14ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
9	6/2	テキスト読解・Der gestiefelte Kater①	18ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
10	6/9	テキスト読解・Der gestiefelte Kater②	18ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
11	6/16	テキスト読解・Der gestiefelte Kater③	20ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
12	6/23	テキスト読解・Der gestiefelte Kater④	20ページ後半と22ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑤	22ページ後半から24ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。	30分
14	7/7	理解度の確認と前期の学習の振り返り	筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に読んだ作品についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	テキスト全体を通読し、前期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。	30分
		事後学修	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。	30分
15	7/14	前期の復習	前期に読んだ部分を改めて読み直し、理解が十分ではないところを改めて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学習した内容をあらためて振り返り、どのような知見を得たか説明できる。	
		事前学修	理解が十分ではない部分を改めてテキストで学習すること。	30分
		事後学修	前期の学習内容に目を通すこと。	30分

科目名	人文系ドイツ語演習A(第一部月曜4時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法が習得済みであること

【授業方法】
「文学/思想」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
RASHOMON（芥川龍之介「羅生門」）	Ryunosuke Akutagawa	白水社	1983	教科書	必携
独和辞典　〔電子辞書は不可〕				その他	必携
必携　ドイツ文法総まとめ	中島・平尾・朝倉	白水社	2003	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜4限、授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前にメールで連絡すること。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	文学系演習の学修	本科目の趣旨、授業法について説明する。外国語を学びながら、同時に名作と言われる自国の文学作品を学ぶことの意味ついて述べる。また、文学作品の訳読による言葉の訓練が、想像力、思索力の鍛錬の基礎となることについても述べる。	
		この回の到達目標	冒頭の部分を正しく解釈することができる。（到達目標①）	
		事前学修	上記の文法事項を復習、予習しておく。冒頭部分の音読。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
2	4/13	時代背景を作品解釈に生かす	平安京の略図を見ながら、羅生門の位置、時代背景についても述べ、筋の展開との関連についても少し解説を行う。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、物語の時代と場所を正しく解釈に入れることができる。（到達目標①）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。平安京の地図を見て、羅生門の位置を確認しておく。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。そこから時代（平安時代の末期）であることを把握する。	30分
3	4/20	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。季節。	季節を感じさせる単語や文章を指摘する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。物語の時代、季節について自分の推理を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
4	4/27	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。主人公の状況	使われている単語、文意から物語の主人公の置かれた状況を検討してみる。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の身分と境遇に関する自分の推測を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
5	5/4	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。主人公の年齢。	使われている単語、文意から主人公の年齢の推測を行う。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。登場人物が、老年か青年か少年かについての自分の推測を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
6	5/11	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。主人公の心象風景。	使われている単語、文意から主人公の心象風景の推測を行う。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。登場人物の心理状態について自分の推測を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。主人公の心理の推移	使われている単語、文意から主人公の心理の推移の推測を行う。	
		この回の到達目標	使われている単語、文意から主人公の心の移り変わりについての自分の推測を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
8	5/25	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。舞台装置の象徴的意味。	使われている単語、文意から舞台装置の象徴的な意味を推測する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。視点が一階から上階へ移動することで、そこが筋の転換点になっていることを認識できる。（到達目標①）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
9	6/1	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。舞台装置の描写。	使われている単語、文意から舞台装置が描き分けられていることに注意する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。舞台装置の描写と主人公の心理状況とを関連付けることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
10	6/8	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。主人公の心理状態	使われている単語、文意から登場人物の心理状態を推測する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の恐怖心と好奇心を推測し、自分の推理を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
11	6/15	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。上階の状況。	使われている単語、文意から舞台の上階の状況を説明する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。舞台の上階の状況を正確に描写することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
12	6/22	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。老婆の登場。	使われている単語、文意から老婆の行動を説明する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。老婆の行動を描写できる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 グループワーク	使われている単語、文意から老婆の行動と主人公の心理状態との関係をグループで類推する。	
		この回の到達目標	グループワークを通じて、各人が意見を述べ、よりの確な解釈をまとめ、決定訳をすることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。グループでまとめた訳を持ち帰り、その内容を吟味し、試験に備える。	150分
14	7/6	授業内試験／解説	筆記試験60分。問題の形式は、独文和訳で、応用問題。終了後、試験の意図と訳し方の要点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、独文和訳の問題に厳密な訳を付けることができる。	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	150分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。自分の解答を振り返り、間違ったと思われるところを確認しておく。	30分
15	7/13	解説／フィードバック	採点後に、解説を行う。また、レポートを回収する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、課題に適切に答えるレポートを書くことができる。	
		事前学修	答案を振り返ってみて、間違ったところ、分からなかったところ、あやふやなところをノートに書き留めておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の授業に備えて、教科書もしくはノートに反省点を書き留めておく。	30分

科目名	人文系ドイツ語演習A(第二部水曜3時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
基本文法の知識を前提としている。

【授業方法】
短編なので、1ページ1ページ丁寧に読んでいく。その際、教科書の文法表を参照する。必ず辞書を持参すること。3回おきに課題、レポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フォン・ブラウン物語』	飯吉光夫編	朝日出版社	1996年		
『気分はドイツ』	本郷・佐藤著	三修社	2016年		
備考					

【オフィスアワー】
①水曜 3 限、授業終了後の教室 ②9号館1階共有スペース（事前に電子メールで申し込むこと）のいずれか

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス 授業の進め方 テキストの読み方	初級文法が終わった時点で内容のあるものを一冊読み上げることの意義について述べる。ロ ケットの父、ヴェルンヘル・フォン・ブラウンの功績について簡単に説明する。第1章 の第1段落だけ取り上げる。	
		この回の 到達目標	史上初めて人類が月に立つことに貢献したフォン・ブラウンの業績を簡単に紹介できる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
2	4/15	アポロ11号の月面着陸	第1章 アポロ11号 この テキストの文体である「歴史的現在」の訳し方について説明する。	
		この回の 到達目標	アポロ11号の月面着陸とフォン・ブラウンとの関係を類推できる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。2格の用法について調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
3	4/22	人類月に立つ	第1章 アポロ11号 この テキストの文体である「歴史的現在」の効果について説明する。	
		この回の 到達目標	月世界の情景と世界中の人たちの感激を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
4	4/29	少年の月と星への夢	第2章 1960年代のアメリカから1920年代のドイツへ。 この 伝記小説の構成について説明する。	
		この回の 到達目標	主人公の少年の月への情熱を読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
5	5/6	ロケット花火の実験	第2章を読んでいく。	
		この回の 到達目標	主人公の少年が、ロケット花火の実験をなぜ行ったのか、その理由を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
6	5/13	宇宙空間とロケット工学	第2章を読んでいく。 宇 宙空間へ行くのためには、なぜ飛行機ではなく、ロケットなのかを説明する。	
		この回の 到達目標	主人公の少年が、ロケット工学の専門書に取り組もうとする意欲を読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	寄宿舍での生活	第2章を読んでいく。 チス台頭前のドイツの時代背景に触れる。ナ	
		この回の到達目標	主人公の少年の、望遠鏡を与えられたときの感激を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
8	5/27	映画『月世界の女性』	第2章 映画『月世界の女性』（1920年）の解説を行う。あわせて当時の宇宙への知識についても触れる。 映画(DVD)を鑑賞しながら、テキストをともに読んでいく。	
		この回の到達目標	映画のあらすじとと主人公の行動とを結びつけ、その関係を発表することができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
9	6/3	世界のロケット研究事情	第3章を読んでいく。	
		この回の到達目標	各国の宇宙工学の状況を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
10	6/10	世界恐慌とロケット開発	第3章を読んでいく。 第1次世界大戦後の世界恐慌について簡単に説明する。	
		この回の到達目標	世界恐慌とロケット開発との関係を読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	世界恐慌とロケット開発との関係を読み取ることができる。（到達目標①②）	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
11	6/17	自動車王フォードとナチス	第3章を読んでいく。	
		この回の到達目標	アメリカの自動車王フォードとナチスがどのようにロケット開発にかかわってくるかについて推測しながらテキストを読み込み、意見を述べることができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
12	6/24	宇宙旅行協会とオーベルト教授	第3章を読んでいく。ベルリンの宇宙旅行協会について触れる。	
		この回の到達目標	宇宙旅行協会でのロケット研究とオーベルト教授との共同開発の内容を理解したうえで、テキストを読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	宇宙への情熱	第3章を読んでいく。第4章の文法解説。	
		この回の到達目標	主人公の少年の、変わらぬ月への情熱を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。関係文とzu不定詞についての文法事項を調べておく	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	150分
14	7/8	試験／解説	独文和訳形式。辞書参照可。文法解説。	
		この回の到達目標	第3章までの内容を踏まえて、第4章の文章を正確に理解し、翻訳することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	第3章までの内容を踏まえて、第4章の文章を正確に理解し、翻訳することができる。（到達目標①②）	150分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
15	7/19	解説／振り返り	誤訳のところがあれば、文法的に正しく訳しなおす。その後、テキスト内容を振り返ってみる。	
		この回の到達目標	正しい文法知識に基づいて、テキストを正しく翻訳することができる。テキストを通して、主人公のロケットへの情熱について接してみて、どう感じたか意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	自分の訳した部分を振り返り、誤ったところを辞書と教科書を参照して、修正する。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返る。第5章を先取りして、調べておく。	30分

科目名	人文系ドイツ語演習B	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を習得していること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】
ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読や訳文の発表と講評。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グリム童話で学ぶドイツ語	シュテファン・ヴント、本橋右京	郁文堂	2002年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater ⑥	後期の授業方針を説明する。24ページの後半部分を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	前期で読んだ部分をあらためて通読し、夏休み後の授業に備える。24ページの後半を読んできること。後期からの参加者は、後期の初回の授業に必ず参加すること。	30分
		事後学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
2	9/22	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater ⑦	26ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
3	9/29	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater ⑧	26ページ後半と28ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
4	10/6	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater ⑨	28ページ後半と30ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
5	10/13	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater ⑩	30ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
6	10/20	テキスト読解・Haensel und Gretel⑪	34ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	テキスト読解・Haensel und Gretel②	34ページ後半と35ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
8	11/10	テキスト読解・Haensel und Gretel③	36ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
9	11/17	テキスト読解・Haensel und Gretel④	36ページ後半と38ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
10	11/24	テキスト読解・Haensel und Gretel⑤	38ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
11	12/1	テキスト読解・Haensel und Gretel⑥	40～41ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
12	12/8	テキスト読解・Haensel und Gretel⑦	42ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	テキスト読解・Haensel und Gretel⑧	42ページ後半と44ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
14	12/22	理解度の確認と後期の学習内容の振り返り	筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、後期に読んだ作品についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	テキスト全体を通読し、後期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。	30分
		事後学修	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。	30分
15	1/12	後期の復習と今後のドイツ語学習について	後期に学習したテキストの内容について復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期に学習した内容をあらためて振り返り、どのような知見を得たか説明できる。	
		事前学修	後期の学習内容を復習してくること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習についてよく考えること。	30分

科目名	人文系ドイツ語演習B(第一部月曜4時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
①テキストの文章は独検2級レベルで、きわめて難解であるため、最低限基本文法の知識を備えていなければならない。②必ず予習をしてくること。④必ず独和辞典を持ってくること。

【授業方法】
文法・構文分析をまず行い、そのあと辞書を丹念に引き、一語一語丁寧に文を解釈する。前期は、ゆっくり進むが、後期にはテンポよく読み進めていく予定でいる。また何度か独⇄日を往復して、テキストを比較することも考えている。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。				2					2		2
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。				2					2		2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
RASHOMON （芥川龍之介「羅生門」）	Ryunosuke Akutagawa	同学社	1983年	教科書	必携
独和辞典 〔電子辞書は不可〕				その他	必携
必携 ドイツ文法総まとめ	中島・朝倉・平尾	白水社	2003年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
①月曜 4 限、授業後の教室 ②9号館共有スペース（事前に電子メールで連絡をとること）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	文学系演習の学修	本科目の趣旨、授業法について説明する。外国語を学びながら、同時に名作と言われる自国の文学作品を学ぶことの意味ついて述べる。また、文学作品の訳読による言葉の訓練が、想像力、思索力の鍛錬の基礎となることについても述べる。	
		この回の到達目標	後期の1回目の部分を正しく解釈することができる。（到達目標①）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
2	9/21	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。舞台の情景描写。	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。舞台の情景と筋の展開とを関連付けることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
3	9/28	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。老婆の外見の描写。	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。老婆の役割を正確にとらえることができる。（到達目標①）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
4	10/5	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。二人の格闘	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。老婆との格闘を通して主人公の逡巡を把握することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
5	10/12	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。下人と老婆との格闘	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公と老婆との力関係を筋の展開と関連付けて、説明することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
6	10/19	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。老婆の行動の動機	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。老婆の動機を読み取り、筋の展開と関連付けて説明することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10 /26	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 老婆の独白。	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。老婆の台詞が果たす役割に関して自分の意見を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
8	11/9	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 老婆の独白。	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の心理状況を老婆の独白と関連付けて、説明することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
9	11 /16	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 老婆の独白の主人公へ及ぼす影響。	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の行動を老婆の独白と関連付けて、説明することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
10	11 /23	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 主人公の決心	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の行動の動機は何かを説明できる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
11	11 /30	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 主人公の心理	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の心理を的確に把握し、各自、それについて意見を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
12	12 /7	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 主人公の性格描写。	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公がどのような性格か、各自自分の考えを述べ、意見を交わすことができる。。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	60分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /14	テキストの主題を考える。	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの解釈を通して、この小説のテーマについて考えてみる。グループワークを通じて、各人が意見を述べ、主題が何かをまとめる。	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	60分
		事後学修	グループで得た意見を持ち帰り、その内容を吟味し、このテキストのテーマについて自分の見解をノートにまとめ、試験に備える。	150分
14	12 /21	授業内試験／解説	筆記試験60分。問題の形式は、独文和訳で、応用問題。独和辞典参照可。終了後、試験の意図と訳し方の要点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、独文和訳の問題に厳密な訳を付けることができる。	
		事前学修	構文分析、文法分析をしながら、辞書を引くこと。	150分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。自分の解答を振り返り、間違ったと思われるところを確認しておく。	30分
15	1/18	解説／フィードバック	採点後に、解説を行う。また、レポートを回収する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、課題に適切に答えるレポートを書くことができる。	
		事前学修	答案を振り返ってみて、間違ったところ、分からなかったところ、あやふやなところをノートに書き留めておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、その後、芥川龍之介の原文を読み、翻訳と原文との差を見て、印象をまとめる。	60分

科目名	人文系ドイツ語演習B(第二部水曜3時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
基本文法の知識を前提としている。

【授業方法】
短編なので、1ページ1ページ丁寧に読んでいく。その際、教科書の文法表を参照する。必ず辞書を持参すること。3回おきに課題、レポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。				2					2		2
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。				2					2		2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フォン・ブラウン物語』	飯吉光夫編	朝日出版社	1996年		
『気分はドイツ』	本郷・佐藤著	三修社	2016年		
備考					

【オフィスアワー】
①水曜 3 限授業終了後の教室 ②9号館1階共有スペース（事前に電子メールで申し込むこと）のいずれか

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス 後期授業の進め方 第4章の復習	第4章までの内容を振り返る。第5章を読んでいく。	
		この回の到達目標	ナチスから資金援助を受けることになった経緯を文章から読み取ることができる。この時の主人公の心の葛藤についてテキストから解釈し、意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。 アポロ11号について調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
2	9/23	ドルンベルガーとベルリンのロケット研究所	第5章を読んでいく。クンメルスドルフの地理的位置について説明する。	
		この回の到達目標	この時の主人公の心境についてテキストから解釈し、意見を交わすことができる（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
3	9/30	ロケットの宇宙旅行から兵器への転用	第5章を読んでいく。クンメルスドルフのロケット研究所での実験	
		この回の到達目標	テキストを読んで、クンメルスドルフのロケット研究所での実験の失敗から主人公の心境を読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
4	10/7	ヒトラーの独裁政治の始まりとロケット開発	第6章を読んでいく。	
		この回の到達目標	陸軍兵器局とロケット開発との関係をテキストから読み取ることができる。その理由について意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。ヒトラーの独裁政権がいつ始まったか調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
5	10/14	ロケット基地の建設	第6章を読んでいく。パーネミュンデの地理的な位置について説明する。	
		この回の到達目標	ロケット基地をなぜパーネミュンデに移したかその理由をテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
6	10/21	大陸弾道ロケットの設計	第6章を読んでいく。当時のドイツの戦況について説明する。	
		この回の到達目標	ヒトラーから命令を受けた時の主人公の心境をテキストとの行間から解釈することができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10 /28	イギリス情報部の活動	第7章を読んでいく。	
		この回の到達目標	多くの失敗を経て、A4ロケットの成功に至る経緯を理解したうえで、主人公の相反する心境を行間から解釈することができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
8	11 /11	オスロレポート	第7章を読んでいく。	
		この回の到達目標	バルト海沿岸のロケット基地のドキュメンタリー映像を見ながら、テキストを読み、この基地の地理的な特徴を挙げることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
9	11 /18	バルト海沿岸の空中写真解説	第7章を読んでいく。バルト海沿岸の地理的な位置を示す。	
		この回の到達目標	バルト海沿岸のロケット基地のドキュメンタリー映像を見ながら、テキストを読み、この基地の地理的な特徴を挙げることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
10	11 /25	ペーネミュンデへの爆撃と終戦	第7章を読んでいく	
		この回の到達目標	終戦直後の主人公と技術者の行動についてテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
11	12/2	自由の天地へ	第8章を読んでいく。	
		この回の到達目標	主人公がなぜアメリカへ行く決心をしたか文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
12	12/9	再び宇宙計画に向う	第8章を読んでいく。米ソの宇宙開発競争について解説する。	
		この回の到達目標	主人公のアメリカでの生活とソ連との宇宙開発競争について文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /16	少年のころの夢の実現へ	第8章を読んでいく。読んだ後に、このテキストの構造が円環形式になっていることを説明する。	
		この回の到達目標	主人公が人類初の月への着陸という夢を達成した経緯をテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	試験に備えて、後期の授業で学んだところを復習し、文法的に解釈し、ノートに記した訳を読んでおく。	150分
14	12 /23	試験/解説	独文和訳形式。辞書参照可。文法解説。	
		この回の到達目標	第8章までの内容を踏まえ、テキスト全体の内容を正確に理解したうえで、翻訳することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	試験に備えて、後期の授業で学んだところを復習し、文法的に解釈し、ノートに記した訳を読んでおく。	150分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
15	1/12	解説/振り返り	誤訳のところがあれば、文法的に正しく訳しなおす。その後、テキスト内容を振り返ってみる。	
		この回の到達目標	正しい文法知識に基づいて、テキストを正しく翻訳することができる。このテキストを通して、主人公の生涯をかけた研究、強い意志、たゆみない努力に接してみて、何を感じたか意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	自分の訳した部分を振り返り、誤ったところを辞書と教科書を参照して、修正する。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返る。宇宙への挑戦者の伝記を読んで、どう感じたかを考えてみる。	30分

科目名	社会系ドイツ語演習A	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜3・4・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス、導入授業	年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	ドイツと言え何を連想するか考えておくこと。	30分
		事後学修	授業で触れた事柄をまとめ、よく理解ができなかった箇所があれば次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
2	4/17	発音	ドイツ語のアルファベットと母音と子音の発音の仕方	
		この回の到達目標	アルファベットと単語の発音の仕方を理解する。	
		事前学修	テキストvi頁からx頁に目を通し、xi頁の発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。	30分
3	4/24	規則動詞	規則動詞の現在人称変化の構造	
		この回の到達目標	動詞の構造と人称変化を理解する。	
		事前学修	テキストxii頁から6頁に目を通し、よく理解ができなかった箇所があれば次回の授業で質問できるようにし、発音を録音教材で確認しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	5/1	名詞・冠詞	ドイツへの旅 名詞・冠詞の構造	
		この回の到達目標	名詞と冠詞の構造と用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト7頁の設問に回答し、8頁を訳出しておくこと。またテキスト9頁から13頁に目を通しておくこと。発音を録音教材で確認しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	5/8	不規則動詞と命令形	フランクフルト到着 不規則動詞と命令形の構造	
		この回の到達目標	不規則動詞と命令形の構造について理解し、その理解に基づいて文を理し、簡単な文章を口に出して言えるようにする。	
		事前学修	テキスト14頁の設問に回答し、15頁を訳出しておくこと。またテキスト16頁から19頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	5/15	冠詞類	ゲーテの家 定冠詞類と不定冠詞類の用法	
		この回の到達目標	定冠詞類の用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト20頁の設問に回答し、21頁を訳出しておくこと。またテキスト22頁から25頁に目を通しておくこと。(30分)	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	前置詞	フランクフルトでの買い物 前置詞の用法と格支配	
		この回の到達目標	前置詞の用法と格支配を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト26頁の設問に回答し、27頁を訳出しておくこと。またテキスト28頁から32頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	5/29	副文	博物館へ行きますか 接続詞と副文の構造と用法	
		この回の到達目標	副文と接続詞の構造と用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。副文を使って簡単な文章を口に出して言えるようにする。	
		事前学修	テキスト32頁から34頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	6/5	話法の助動詞	話法の助動詞の形態と用法	
		この回の到達目標	話法の助動詞の形態と用法をを理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト35頁の設問に回答し、36頁を訳出しておくこと。またテキスト37頁から39頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	6/12	複合動詞	日本とドイツの学校について 複合動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	複合動詞の構造と用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト40頁の設問に回答し、41頁を訳出しておくこと。またテキスト41頁から44頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	6/19	再帰動詞と非人称動詞	再帰動詞と非人称動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	再帰動詞と非人称動詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト44頁から46頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	6/26	形容詞	形容詞の構造と用法	
		この回の到達目標	形容詞の構造と用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト47頁の設問に回答し、48頁を訳出しておくこと。またテキスト49頁から53頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	動詞の 3 基本形	動詞の 3 基本形の構造	
		この回の到達目標	動詞の 3 基本形の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト57頁から60頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
14	7/10	映像教材によるドイツの文化	ドイツの文化を扱った映像教材の視聴	
		この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想を書くためのメモをとる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	7/17	振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。	
		事前学修	もう一度全体を見直して、不確実なところがあればしっかりと記憶すること。	30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点や誤った点を再確認すること。	30分

科目名	社会系ドイツ語演習A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得してあること

【授業方法】
「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	購読はペアワークを行い、相互に文法説明ができるようにします。またプレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。						2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。 【成績評価の方	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使用します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		政治経済関連の翻訳通訳経験をもとに、テキストへのアプローチの方法を実践的に扱います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 授業で扱うテーマの概要についての説明	
		この回の到達目標	授業の到達目標を明確に説明することができる。	
		事前学修	シラバスで授業の内容を確認・文法及び語彙復習 ヨーロッパを中心とした時事問題を確認しておく	30分
		事後学修	教材の準備・文法復習	30分
2	4/14	時事問題テキスト1 「メディア1」	テキスト1 前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト1 前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト1 「メディア」 前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト1 「メディア」 訳語及び文法事項まとめ テキストの背景について調べる	30分
3	4/21	時事問題テキスト1 「メディア2」	テキスト1 後半の翻訳、文法解釈及び背景の解説	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト1 後半部部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト1 「メディア」 後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト1 「メディア」 訳語及び文法事項まとめ	30分
4	4/28	時事問題テキスト1 プレゼンテーション	テキスト1 の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
5	5/5	時事問題テキスト2 「政治・EU」1	テキスト2前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト2前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト2 「政治・EU」 前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト2「政治-EU」 前半の訳語及び文法事項まとめ	30分
6	5/12	時事問題テキスト2 「政治・EU」2	テキスト2後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト2前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト2 「政治・EU」 後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト2「政治・EU」 訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	時事問題テキスト2 プレゼンテーション	テキスト2の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の 到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
8	5/26	時事問題テキスト3「環境問題」1	テキスト3前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト3前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト3 「環境問題」前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト3「環境問題」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
9	6/2	時事問題テキスト3「環境問題」2	テキスト3後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト3後半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト3 「環境問題」後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト3「環境問題」後半訳語及び文法事項まとめ	30分
10	6/9	時事問題テキスト3 プレゼンテーション	テキスト3の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の 到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
11	6/16	時事問題テキスト4「大学・キャリア」1	テキスト4前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト4前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト4「大学・キャリア」前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト4 「キャリア」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
12	6/23	時事問題テキスト4「大学・キャリア」2	テキスト4後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト4前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト4「大学・キャリア」後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト4「大学・キャリア」後半訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	時事問題テキスト4 プレゼンテーション	テキスト4の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
14	7/7	期末試験	今学期に学修した内容全般から出題する期末試験	
		この回の到達目標	自律的にドイツ語の時事問題テキストを文法解説して翻訳することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	試験でわからなかったところの振り返り	30分
15	7/14	試験解説・振り返り	試験の解説及び今学期の振り返り	
		この回の到達目標	今学期の到達度を確認して、今後のドイツ語学修の目標をたてる	
		事前学修	今後のドイツ語学修について計画を立てる	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	社会系ドイツ語演習B	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜3・4・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス、導入授業	講義計画、成績評価の方法などの説明と前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。	30分
		事後学修	小テストであやふやだったり覚えていなかった点があれば、再確認して記憶しておくこと。	30分
2	9/25	比較級と最上級	形容詞の比較用法の構造と用法	
		この回の到達目標	比較級・最上級の構造について理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト55頁の設問に回答し、56頁を訳出しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
3	10/2	過去形	過去形の構造と用法	
		この回の到達目標	過去形の構造と用法について理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト57頁から60頁に再び目を通し、61頁にも目を通してておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	10/9	複合時制	日本人とドイツの歴史について 未来形と完了形の構造と用法	
		この回の到達目標	複合時制の構造と用法を理解し、その理解に基づいて簡単な文章を口に出して言えるようにする。	
		事前学修	テキスト62頁の設問に回答し、63頁を訳出しておくこと。またテキスト64頁から66頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	10/16	関係代名詞	関係代名詞の構造と用法	
		この回の到達目標	関係代名詞の構造と用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト67頁の設問に回答し、68頁を訳出しておくこと。またテキスト69頁から71頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	10/23	受動態	受動態の構造と用法	
		この回の到達目標	受動態の構造と用法について理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト71頁から73頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	接続法第1式	ドイツの環境問題 接続法第1式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続法第1式の構造と用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト74頁の設問に回答し、75頁を訳出しておくこと。またテキスト76頁から77頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	11/6	接続法第2式	接続法第2式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続法第2式の構造と用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト77頁から79頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	11/13	ドイツの平和と国連憲章	国連憲章とドイツの平和について	
		この回の到達目標	ドイツの平和について書かれた長文(1)を、これまでに獲得した知識にもとづいて読解する。	
		事前学修	テキスト80頁の設問に回答し、81頁の13行目までを訳出しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	11/20	ドイツの平和と墨子	中国の思想家墨子とドイツの平和について	
		この回の到達目標	ドイツの平和について書かれた長文(2)を読解し、内容について自分の意見を発表できるようにまとめる。	
		事前学修	テキスト81頁の最後までを訳出しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	11/27	文法の再確認	テキスト全体について重要な事項の再確認	
		この回の到達目標	これまで獲得した文法の知識によりテキストの内容が理解できていることを確認する。	
		事前学修	テキスト全体を振り返り、よく理解できていない箇所があれば、質問できるように準備する。	30分
		事後学修	授業前に分からなかったりあいまいだった箇所が、分かるようになったか確認する	30分
12	12/4	国際連合とハーグ平和会議	国際連合とハーグ平和会議について	
		この回の到達目標	国際連合について書かれた長文(1)を読解する。	
		事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文21行目まで訳出しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	国際連合とクーデンホーフ・カレルギー	国際連合とクーデンホーフ・カレルギーについて	
		この回の到達目標	国際連合について書かれた長文(2)を読解し、内容について自分の意見を発表できるようにまとめる。	
		事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文21行目から最後まで訳出しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。	30分
14	12/18	映像教材によるドイツの社会	ドイツの社会を扱った映像教材の視聴	
		この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想を書くためのメモをとる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	12/25	振り返り	授業内試験及び後期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだったりした点を再確認すること。	30分

科目名	社会系ドイツ語演習B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得してあること

【授業方法】
「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	購読はペアワークを行い、相互に文法説明ができるようにします。またプレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。						2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使用します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		政治経済関連の翻訳通訳経験をもとに、テキストへのアプローチの方法を実践的に扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 授業で扱うテーマの概要についての説明	
		この回の到達目標	授業の到達目標を明確に説明することができる。	
		事前学修	シラバスで授業の内容を確認・文法及び語彙復習 ヨーロッパを中心とした時事問題を確認しておく	30分
		事後学修	教材の準備・文法復習	30分
2	9/22	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」	テキスト5前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト5前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」 前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」 訳語及び文法事項まとめ テキストの背景について調べる	30分
3	9/29	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」2	テキスト5後半の翻訳、文法解釈及び背景の解説	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト5後半部部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト5「文化・スポーツ」 後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト5「文化・スポーツ」 訳語及び文法事項まとめ	30分
4	10/6	時事問題テキスト5 プレゼンテーション	テキスト5 の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
5	10/13	時事問題テキスト6 「歴史・観光」1	テキスト6 前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト6 前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト6 「歴史・観光」 前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト6 「歴史・観光」 前半の訳語及び文法事項まとめ	30分
6	10/20	時事問題テキスト6 「歴史・観光」2	テキスト6 後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト6 前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト6 「歴史・観光」 後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト6 「歴史・観光」 訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	時事問題テキスト6 プレゼンテーション	テキスト6の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の 到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
8	11/10	時事問題テキスト7「ダイ バーシティ」1	テキスト7前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト7前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト7「ダイバーシティ」前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト7「ダイバーシティ」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
9	11/17	時事問題テキスト7「ダイ バーシティ」2	テキスト7後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト7後半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト7「ダイバーシティ」後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト7「ダイバーシティ」後半訳語及び文法事項まとめ	30分
10	11/24	時事問題テキスト7 プレ ゼンテーション	テキスト7の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の 到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
11	12/1	時事問題テキスト8「宗 教・祝祭」1	テキスト8前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト8前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
12	12/8	時事問題テキスト8「宗 教・祝祭」2	テキスト8後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト8前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」後半訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	時事問題テキスト8 プレゼンテーション	テキスト8の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
14	12/22	期末試験	今学期に学修した内容全般から出題する期末試験	
		この回の到達目標	自律的にドイツ語の時事問題テキストを文法解説して翻訳することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	試験でわからなかったところの振り返り	30分
15	1/12	試験解説・振り返り	試験の解説及び今学期の振り返り	
		この回の到達目標	今学期の到達度を確認して、今後のドイツ語学修の目標をたてる	
		事前学修	今後のドイツ語学修について計画を立てる	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	ライティング(独)ⅠA	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDで面接の様子を見せる。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる										3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる										3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける										3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業でライティングを添削して、講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Wirtschaftsdeutsch für Anfänger	Dominique Macaire, Gerd Nicolas	Klett Verlag	1995	参考書	任意
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	ドイツ語の読み書き	簡単な履歴書を書く（何歳ですか？ 何の資格をいつとりましたか？）	
		この回の到達目標	簡単な履歴書を書けるようになる	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	4月11日	ドイツ語の読み書き	自己紹介とビジネスパートナーの紹介	
		この回の到達目標	紹介ができるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	4月18日	ドイツ語の読み書き	スケジュール（時間）の書き方	
		この回の到達目標	スケジュールをめぐる定型句を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	4月25日	ドイツ語の読み書き	スケジュールの（日にち）の報告	
		この回の到達目標	スケジュールをめぐる定型句を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	5月2日	ドイツ語の読み書き	電話のかけ方I	
		この回の到達目標	電話の定型句を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	5月9日	ドイツ語の読み書き	電話のかけ方II（断りの電話）	
		この回の到達目標	断りの電話をかけられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月16日	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習	
		この回の到達目標	電話の会話からメモを取れるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	5月23日	ドイツ語の読み書き	Eメールを書くI（基本） 動詞の現在完了と過去形の使い分け	
		この回の到達目標	過去形を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	5月30日	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
		この回の到達目標	過去形を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	6月6日	ドイツ語の読み書き	Eメールを書くII（具体的なビジネスメール） 分離動詞と非分離動詞	
		この回の到達目標	分離動詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	6月13日	ドイツ語の読み書き	Eメールを書くIII 代名詞の使い方	
		この回の到達目標	代名詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	6月20日	ドイツ語の読み書き	Eメールの書き方IV 再帰動詞の使い方	
		この回の到達目標	再帰動詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習I	
		この回の到達目標	自由な文章作成	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	7月4日	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習II	
		この回の到達目標	自由な文章作成	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	7月11日	ドイツ語の読み書き	まとめ・テスト	
		この回の到達目標	自由な文章作成	
		事前学修	ここまで学んだことの復習（20分）	20分
		事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	ライティング(独)ⅠA	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
ドイツ語に興味がある学生

【授業方法】		
Grammatical exercises, repetition and easy conversation 文法の復習、簡単な会話 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる									3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる									3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
in class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
さあ、ドイツ語で！ISBN978-4-8086-1194-1	Troll/Maeda	第三書房	第三書房	教科書	必携
文法から学べるドイツ語ISBN978-4-8163-3820-5	小笠原・トロール	ナツメ社	ナツメ社	参考書	推奨
備考	Repetition of what you know				

【オフィスアワー】
授業の後（土曜14：30～）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス	and first expressions	
		この回の到達目標	Good pronunciation	
		事前学修	シラバスを読み予習30分	30分
		事後学修	復習30分	30分
2	4/13	Pronunciation	発音練習 など	
		この回の到達目標	Verbs	
		事前学修	Must be fully understood 予習60分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
3	4/20	Sich vorstellen	挨拶の言葉、自己紹介と練習	
		この回の到達目標	Verb and Sentence	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
4	4/27	First sentences	第1課 G r ü ß e 1 挨拶	
		この回の到達目標	Ask questions	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
5	5/4	Wiederholung der Lektion 1	第1課 G r ü ß e 2 挨拶	
		この回の到達目標	How to answer	
		事前学修	予習60分Practical exercises	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
6	5/11	Festivals in Germany	第2課 W i e h e i ß t d a s F e s t ? (1) その祭りの名前は何ですか？	
		この回の到達目標	Festivals in Germany	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Nomen und Artikel	第2課 Wie heißt das Fest? (2) その祭りの名前は何ですか?	
		この回の到達目標	Familie und Wortschatz	
		事前学修	予習60分Verb and sentence	60分
		事後学修	復習60分	60分
8	5/25	Familie (1)	第3課 Kai besucht die Familie Müller カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる	
		この回の到達目標	My and your family	
		事前学修	予習60分 Talk about family	60分
		事後学修	復習60分	60分
9	6/1	Familie (2)	第3課 Kai besucht die Familie Müller カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる	
		この回の到達目標	Du and Sie: How to use	
		事前学修	予習60分Question and answer	60分
		事後学修	復習60分	60分
10	6/8	Test und Landeskunde	小テスト, ドイツの生活 (ビデオ)	
		この回の到達目標	Grammatical exercises: The 4 cases	
		事前学修	予習90分	90分
		事後学修	復習30分	30分
11	6/15	All cases	第4課 Die Mitglieder der Familie ミュラー家の人々	
		この回の到達目標	Nouns and Adjectives	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
12	6/22	Exercise the cases	第4課 Die Mitglieder der Familie ミュラー家の人々	
		この回の到達目標	All cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/29	Thema Universitaet (1)		第5課 An der Universität 大学で
		この回の到達目標	Prepositions (1)	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
14	7/6	Universitaet (2)		第5課 An der Universität 大学で
		この回の到達目標	(Prepositions (2)	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
15	7/13	Test und Zusammenfassung		小テスト、ドイツの生活（ビデオ） まとめ
		この回の到達目標	Prepositions: Usage and differences	
		事前学修	予習90分	90分
		事後学修	復習30分	30分

科目名	ライティング(独)ⅠB	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において必要となる基本的事柄に対処できるために、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、文書による意思疎通の能力を養成します

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDで面接の様子を見せる。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の中で読み書きの練習をしてもらう	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Wirtschaftsdeutsch für Anfänger Grundstufe	Dominique Macaire Gerd Nicolas	Klett Edition Deutsch	1995	参考書	推奨
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月19日	ドイツ語の読み書き	ビジネスニュースを読む	
		この回の到達目標	ビジネス用語を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	9月26日	ドイツ語の読み書き	パーセントや何分の一などの言い方	
		この回の到達目標	パーセントや何分の一などの言い方	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	10月3日	ドイツ語の読み書き	ミーティングで丁寧表現を使う 話法の助動詞	
		この回の到達目標	丁寧表現・話法の助動詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	10月10日	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
		この回の到達目標	丁寧表現・話法の助動詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	10月17日	ドイツ語の読み書き	ホテルバーで お客様との会話、注文の仕方	
		この回の到達目標	ビジネス会話を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	10月24日	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
		この回の到達目標	ビジネス会話を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月31日	ドイツ語の読み書き	ピクトグラムと話法の助動詞	
		この回の到達目標	ピクトグラムと話法の助動詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	11月7日	ドイツ語の読み書き	世界の国の名前 国民を意味する言葉の単数と複数	
		この回の到達目標	世界の国の名前・国民を意味する言葉の単数と複数を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	11月14日	ドイツ語の読み書き	ドイツの簡単な地理 州と州都など 前置詞の3格と4格の使い分け	
		この回の到達目標	前置詞の3格と4格の使い分けを理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	11月21日	ドイツ語の読み書き	前置詞の3格と4格の使い分けの復習	
		この回の到達目標	前置詞の3格と4格の使い分けを理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	11月28日	ドイツ語の読み書き	道案内の仕方	
		この回の到達目標	道案内の仕方	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	12月5日	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
		この回の到達目標	道案内の仕方	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習	
		この回の到達目標	自由なライティングができるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	12月19日	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習	
		この回の到達目標	自由なライティングができるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	12月26日	ドイツ語の読み書き	まとめ・テストと反省会	
		この回の到達目標	自由なライティングができるようになる	
		事前学修	16回からの内容の復習（20分）	20分
		事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	ライティング(独) I B	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において必要となる基本的事柄に対処できるように、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、文書による意思疎通の能力を養成します

【履修条件】
積極的な授業参加。

【授業方法】
教科書とビデオ教材を用いて重要表現の練習を繰り返します。 フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
In class

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
さあ、ドイツ語でISBN978-4-8086-1194-1	Hermann Troll/Satoshi Maeda	第三書房	第三書 房	教科書	必携
文法から学べるドイツ語ISBN978-4-8163-3820-5	小笠原・トロール	ナツメ社	ナツメ 社	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の後（月曜17：50～）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	Wiederholung	Repetition of first semester 復習	
		この回の到達目標	Nochmals alles	
		事前学修	復習予習30分	30分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
2	9/26	Fussball (1)	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦	
		この回の到達目標	Modalverben	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
3	10/ 3	Fussball (2)	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦	
		この回の到達目標	Uhrzeiten	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
4	10/ 10	Ostdeutschland	Lesson 7 W i e w a r d a s d a m a l s ? 当時の状況は？	
		この回の到達目標	Vergangenheit (1)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
5	10/ 17	Vergangenheit (2)	Lesson 7 W i e w a r d a s d a m a l s ? 当時の状況は？	
		この回の到達目標	Gebrauch	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
6	10/ 24	Test、振り返り	Short test 1 and video	
		この回の到達目標	Ost und West	
		事前学修	予習 9 0 分	90分
		事後学修	復習 3 0 分	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10/ 31	Komparativformen		Lesson 8 Z u m S c h w i m m e n a n e i n e n S e e ？湖へ泳ぎに行く？
		この回の到達目標	Adjektive	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
8	11/7	Superlativ		Lesson 8 Z u m S c h w i m m e n a n e i n e n S e e ？湖へ泳ぎに行く？
		この回の到達目標	Superlativ und Komparativ	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
9	11/ 14	Konversation		Lesson 9 D u b i s t l a n g e n i c h t d a g e w e s e n 久しぶりだね
		この回の到達目標	Perfekt (1)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
10	11/ 21	Perfekt in allen Formen		Lesson 9 D u b i s t l a n g e n i c h t d a g e w e s e n 久しぶりだね
		この回の到達目標	Anwendung	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
11	11/ 28	Umwelt		Lesson 10 U m w e l t b e w u s s t e B ü r g e r ？環境意識の強い国民？
		この回の到達目標	Passiv (1)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
12	12/ 5	Umwelt und Deutschland		Lesson 10 U m w e l t b e w u s s t e B ü r g e r ？環境意識の強い国民？
		この回の到達目標	Passiv (2)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/ 12	Test、振り返り		Short test and video
		この回の到達目標	Video Deutschland	
		事前学修	予習 9 0 分	60分
		事後学修	復習 3 0 分	60分
14	12/ 19	Bitten (1)		Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしてくださいませんか?
		この回の到達目標	Konjunktiv II	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
15	12/ 26	Bitten (2)		Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしてくださいませんか? まとめ
		この回の到達目標	Gebrauch	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠA	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定5級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定5級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス、導入授業	講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	ドイツと言えば何を連想するか考えておくこと。	30分
		事後学修	授業で触れた事柄をまとめておくこと。	30分
2	4/17	発音	ドイツ語のアルファベットと母音と子音の発音	
		この回の到達目標	アルファベットを覚え発音の仕方を理解する。	
		事前学修	テキストの7頁から8頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音を録音教材によって確認し、発音練習をすること。	30分
3	4/24	単語の発音	単語の発音の仕方	
		この回の到達目標	単語の発音の仕方を理解する。	
		事前学修	テキストの8頁から9頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	5/1	規則動詞	規則動詞の現在人称変化の構造	
		この回の到達目標	規則動詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキストの10頁から12頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	5/8	冠詞と名詞	名詞と冠詞の構造	
		この回の到達目標	名詞と冠詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキストの13頁の設問に回答し、14頁から16頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	5/15	名詞の複数形	名詞の複数形の構造	
		この回の到達目標	名詞の複数形の構造を理解する。	
		事前学修	テキストの16頁から17頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	不規則動詞	不規則動詞の構造	
		この回の到達目標	不規則動詞の構造を理解する。	
		事前学修	テキスト18頁の設問に回答し、19頁から21頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	5/29	命令形	命令形の作り方	
		この回の到達目標	命令形の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト21頁から22頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	6/5	冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の用法	
		この回の到達目標	定冠詞類と不定冠詞類の用法を理解する。	
		事前学修	テキスト23頁の設問に回答し、24頁から26頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	6/12	前置詞	前置詞の用法と格支配	
		この回の到達目標	前置詞の用法と格支配を理解する。	
		事前学修	テキスト27頁の設問に回答し、28頁から30頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	6/19	副文	接続詞と副文の作り方	
		この回の到達目標	接続詞と副文の形態と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト30頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	6/26	話法の助動詞	話法の助動詞の用法	
		この回の到達目標	話法の助動詞の用法を理解する。	
		事前学修	テキスト31頁の設問に回答し、32頁から34頁までに目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	7/3	分離動詞	分離動詞の用法
		この回の到達目標	分離動詞の構造と用法を理解する。
		事前学修	テキスト35頁の設問に回答し、テキストの36頁から37頁までに目を通しておくこと。30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。30分
14	7/10	映像教材によるドイツの文化	ドイツの文化を扱った映像教材の視聴
		この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想を書くためのメモをとる。
		事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。30分
15	7/17	振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。
		事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだったりした点を再確認すること。30分

科目名	ドイツ語資格試験対策 I A	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定5級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定5級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
気分はドイツ	本郷、佐藤他	三修社	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜10:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	[ガイダンス] [検定試験に合格する勉強法について]	授業の進め方、ドイツ語検定試験の概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語検定の内容を理解し、合格に向けての学習方法を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認しておくこと。	80分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認し、次回からの授業に必要なものを用意すること。	80分
2	第一部 土4/11	[ドイツ語の発音について]	発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の発音がどのようなものかについて理解し、実際に発音ができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	第一部 土4/18	[ドイツ語の動詞について]	動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の動詞がどのように変化するかについて理解し、さまざまな動詞を変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	第一部 土4/25	[不規則変化動詞について]	不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の不規則な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	第一部 土5/2	[seinとhabenについて]	seinとhabenについて学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語のseinとhabenについて理解し、人称変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	第一部 土5/9	[名詞と冠詞について]	名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の名詞と冠詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	[名詞の複数形について]	ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の名詞の複数形について理解し、3格の変化について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	第一部 土5/23	[特殊な動詞の変化について]	特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の特殊な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	第一部 土5/30	[冠詞類について]	ドイツ語の冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の冠詞類の変化について理解し、定冠詞類と不定冠詞類の違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	第一部 土6/6	[人称代名詞について]	ドイツ語の人称代名詞の特徴を学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の人称代名詞について理解し、名詞を代名詞に置き換えることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	第一部 土6/13	[前置詞について]	ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の前置詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	第一部 土6/20	[3・4格支配の前置詞について]	3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3・4格支配の前置詞について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。(30分)	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	[接続詞について]	ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、接続詞について理解し、違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	第一部 土7/4	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	第一部 土7/11	[授業内試験、振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことを復習する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、後期に備えること。	80分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠB	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定4級対策、3級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定4級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス、導入授業	前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	前期の成果の確認が十分に行われたか確認する。	
		事前学修	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。	30分
		事後学修	授業によってあぶりだされたドイツ語の文法・語彙に対するあやふやな点を再確認してしっかり記憶すること。	30分
2	9/25	非分離動詞	非分離動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	非分離動詞の構造を理解する。	
		事前学修	テキスト37頁から38頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
3	10/2	再帰動詞と非人称動詞	再帰動詞と非人称動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	再帰動詞と非人称動詞の用法を理解する。	
		事前学修	テキスト38頁から39頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	10/9	形容詞	形容詞の構造と用法	
		この回の到達目標	形容詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト40頁の設問に回答し、41頁から43頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	10/16	比較級・最上級	形容詞の比較用法の構造と用法	
		この回の到達目標	比較級・最上級の構造について理解する。	
		事前学修	テキスト43頁から45頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	10/23	過去形	過去形の形態と用法	
		この回の到達目標	過去形の構造と用法について理解する。	
		事前学修	テキスト46頁の設問に回答し、テキスト47頁から49頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	複合時制	未来形と完了形の構造と用法	
		この回の到達目標	未来形、完了形の構造について理解する。	
		事前学修	テキスト50頁の設問に回答し、51頁から53頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	11/6	定関係代名詞	定関係代名詞の形態と用法	
		この回の到達目標	定関係代名詞と関係文の形態と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト54頁の設問に回答し、テキスト55頁から56頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	11/13	不定関係代名詞	不定関係代名詞の形態と用法	
		この回の到達目標	不定関係代名詞の形態と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト56頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	11/20	受動態	受動態の構造と用法	
		この回の到達目標	受動態の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト57頁の設問に回答し、テキスト58頁から60頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	11/27	zu不定詞と分詞	zu不定詞と分詞の構造と用法	
		この回の到達目標	zu不定詞と分詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト60頁から61頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	12/4	接続法第1式	接続法第1式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続法第1式の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト62頁の設問に回答し、テキスト63頁から64頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	接続法第2式	接続法第2式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続法第2式の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト64頁から66頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
14	12/18	映像教材によるドイツの社会	ドイツの社会を扱った映像教材の視聴	
		この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想を書くためのメモをとる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	12/25	振り返り	授業内試験及び後期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を確認すること	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策 I B	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定4級対策、3級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定4級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
気分はドイツ	本郷、佐藤ほか	三修社	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜10:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	[話法の助動詞について]	話法の助動詞について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、助動詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前期の内容を確認しておくこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
2	第一部 土9/26	[話法の助動詞の用法について]	話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、副文における助動詞の位置を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	第一部 土10/3	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	第一部 土10/10	[形容詞について]	ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の変化表の見方を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	第一部 土10/17	[形容詞の比較・副詞的用法について]	比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の比較・副詞的用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	第一部 土10/24	[分離動詞について]	分離動詞について学ぶ、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分離動詞について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	[動詞の3基本形について]	動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3基本形について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	第一部 土11/7	[過去形の変化について]	過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、規則・不規則変化動詞の3基本形を作ることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	第一部 土11/14	[完了形について]	ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、完了形の作り方について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	第一部 土11/21	[完了形の用法について]	完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の完了形について、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	第一部 土11/28	[関係代名詞について]	関係代名詞について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、関係代名詞について理解し、用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	第一部 土12/5	[受動態について]	受動態について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受動態について理解し、構成を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	[zu不定詞について]	不定詞について学び、和訳することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不定詞について理解し、用法を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	第一部 土12/19	[接続法について]	接続法について学び、用法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、接続法について理解し、用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	第一部 土12/26	[授業内試験，振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期・後期で学んだことを復習する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	心静かに、一年の学習を振り返ること。	80分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡA	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法	在間進ほか	三修社	2014	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15-13:00 研究室（本館7階1706研究室） sato.suguru@nihon-u.ac.jp 事前に必ずメールで連絡すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンスと基本単語の確認	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。基本単語を確認する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、3級合格のために何を学習すべきか、最終的な到達目標を説明することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書の目次をよく読み、いた年会に学習することが何か、イメージを得ておくこと。	30分
		事後学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
2	4/14	独検4級 模擬試験(筆記とリスニング)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の問題を解くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。	
		事前学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。	30分
3	4/21	前回の模擬試験の解説	前回、解いた問題を詳細に検討し、今後の学習のための指針とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の解説を聞くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。	
		事前学修	長文問題のわからない単語を調べておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。	30分
4	4/28	第1章 発音、第2章 動詞と文	発音法則と動詞の現在人称変化、動詞の位置について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、発音法則と動詞の現在人称変化、動詞の位置について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ教科書をよく読んでくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
5	5/5	第3章 格変化(単数形)、第4章 複数形	格変化と複数形のルールについて、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
6	5/12	対策学習編1(3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞)	3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	第5章 冠詞類	冠詞類について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、冠詞類について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
8	5/26	対策学習編2(不規則変化動詞、複合的な疑問詞)	不規則変化動詞、複合的な疑問詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞、複合的な疑問詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
9	6/2	第6章 前置詞	前置詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、前置詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
10	6/9	第7章 人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、人称代名詞と再帰代名詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
11	6/16	第8章 話法の助動詞、未来形	話法の助動詞と未来形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞と未来形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
12	6/23	対策学習編3(分離動詞、命令形)	分離動詞と命令形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、分離動詞と命令形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	準備編(三基本形)、第9章 過去形、第10章 現在完了形	動詞の三基本形、過去形、現在完了形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形、過去形、現在完了形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
14	7/7	理解度の確認と前期内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	7/14	前期の復習	あらためて前期の学習事項を振り返り、夏休みに勉強することを確認する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点とその対策を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡA	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる。								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける。								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)		10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検対策4級・3級問題集 4訂版	恒吉良隆	白水社	2017	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進	第三書房	2010	参考書	推奨
「アクセス独和辞典」等（電子辞書不可）		三修社 他		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の教室 もしくは 9号館1階共有スペースにて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンスと基本単語の確認	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。基本単語を確認する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、3級合格のために何を学習すべきか、最終的な到達目標を説明することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。事前にシラバスを確認しておくこと。教科書の目次をよく読み、一年間に学習することが何か、イメージを得ておくこと。	30分
		事後学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
2	4/14	独検4級 模擬試験	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、3級合格に向けて今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の問題を解くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。	
		事前学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。	30分
3	4/21	前回の模擬試験の解説	前回、解いた問題を詳細に検討し、今後の学習のための指針とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の解説を聞くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。	
		事前学修	長文問題のわからない単語を調べておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。	30分
4	4/28	発音、動詞と文	発音法則と動詞の現在人称変化、動詞の位置について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ教科書をよく読んでくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
5	5/5	格変化(単数形)、複数形	格変化と複数形のルールについて、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
6	5/12	3人称の人称代名詞 疑問代名詞、疑問副詞	3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	冠詞類	冠詞類について、法則を解説し、関連する練習問題を解く	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、冠詞類について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
8	5/26	不規則変化動詞 複合的な疑問詞	不規則変化動詞、複合的な疑問詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞、複合的な疑問詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
9	6/2	前置詞	前置詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、前置詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
10	6/9	人称代名詞と再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、人称代名詞と再帰代名詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
11	6/16	話法の助動詞 未来形	話法の助動詞と未来形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞と未来形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
12	6/23	分離動詞 命令形	分離動詞と命令形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、分離動詞と命令形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	動詞の三基本形 過去形 現在完了形	動詞の三基本形、過去形、現在完了形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形、過去形、現在完了形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	120分
14	7/7	理解度の確認 前期内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	120分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	7/14	前期の復習	あらためて前期の学習事項を振り返り、夏休みに勉強することを確認する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点とその対策を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡB	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策、2級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法	在間進ほか	三修社	2014	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15-12:55 研究室（本館7階1706研究室） sato.suguru@nihon-u.ac.jp 事前に必ずメールで連絡すること

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス、前期の復習	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、3級合格のために何を学習すべきか、最終的な到達目標を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習事項を復習しておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を教科書で確認しておくこと。独検3級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
2	9/22	第10章 現在完了形、第11章 受動文	あらためて現在完了形について解説する。また、受動文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在完了形と受動文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
3	9/29	第12章 接続詞、副文、第16章 zu不定詞	接続詞、副文、zu不定詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、接続詞、副文、zu不定詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
4	10/6	第13章 接続法	接続法について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、接続法について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
5	10/13	第14章 比較変化、第17章 形容詞の格変化	比較表現と形容詞の格変化について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①④に関連して、比較表現と形容詞の格変化について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
6	10/20	第15章 関係文	関係文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①④に関連して、関係文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/27	独検3級対策 文法問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に文法問題について解説する。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。
8	11/10	独検3級対策 読解問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に読解問題について解説する。
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。
9	11/17	独検3級対策 リスニング問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主にリスニング問題について解説する。
		この回の到達目標	達成目標④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。
10	11/24	独検3級 模擬試験(筆記)	過去に出題された独検の問題を解くことで弱点の把握し、今後の対策を講じる。
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。
11	12/1	独検3級 模擬試験(リスニング)	過去に出題された独検の問題を解くことで弱点の把握し、今後の対策を講じる。
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。
12	12/8	後期の復習	受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。2級対策のための導入とする。
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくる。また、各自で答え合わせをしておくこと。
		事後学修	できなかったところを中心に、よく復習すること。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	発展学習・ドイツ語圏の文化についての見識を深める	これまでに学んだドイツ語の文法知識を生かし、ドイツ語の文章を読み、ドイツ語圏の文化について理解を深める。2級対策のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語圏の文化について理解を深め、興味関心のある部分について説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
14	12/22	理解度の確認と後期内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握して今後何をすべきか説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	1/12	後期の復習と今後のドイツ語学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、今後の学習について展望を得て説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡB	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる。								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける。								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)		10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検対策4級・3級問題集 4訂版	恒吉良隆	白水社	2017	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進	第三書房	2010	参考書	推奨
「アクセス独和辞典」等（電子辞書不可）		三修社 他		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の教室 もしくは 9号館1階共有スペースにて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス、前期の復習	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。	
		事前学修	前期の学習事項を復習しておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を教科書で確認しておくこと。独検3級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
2	9/21	現在完了形 受動文	あらためて現在完了形について解説する。また、受動文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在完了形と受動文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
3	9/28	接続詞 副文 zu不定詞	接続詞、副文、zu不定詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、接続詞、副文、zu不定詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
4	10/6	接続法	接続法について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、接続法について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
5	10/13	形容詞の格変化 比較表現	形容詞の格変化と比較表現について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①④に関連して、形容詞の格変化と比較表現について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
6	10/20	関係文	関係文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①④に関連して、関係文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	10 /27	独検3級対策 文法問題を中心に		過去に出題された独検の問題を使用し、主に文法問題について解説する。	
		この回の 到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。		
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		
8	11 /10	独検3級対策 読解問題を中心に		過去に出題された独検の問題を使用し、主に読解問題について解説する。	
		この回の 到達目標	達成目標①に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。		
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		
9	11 /17	独検3級対策 リスニング問題を中心に		過去に出題された独検の問題を使用し、主にリスニング問題について解説する。	
		この回の 到達目標	達成目標④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。		
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		
10	11 /24	独検3級 模擬試験 筆記とリスニング		過去に出題された独検の問題を解くことで弱点の把握し、今後の対策を講じる。	
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。		
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		
11	12/1	独検 解説		受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。2級対策のための導入とする。	
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる		
		事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくる。また、各自で答え合わせをしておくこと。		
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		
12	12/8	後期の復習		後期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検2級受験のための導入とする。	
		この回の 到達目標	達成目標①④に関連して、文法問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点の把握し、その克服のための指針を説明することができる。		
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。		
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /15	発展学習・ドイツ語圏の文化についての見識を深める	これまでに学んだドイツ語の文法知識を生かし、ドイツ語の文章を読み、ドイツ語圏の文化について理解を深める。2級対策のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語圏の文化について理解を深め、興味関心のある部分について説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	150分
14	12 /22	理解度の確認 後期内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	150分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	1/18	後期の振り返り	あらためて後期の学習事項を振り返り、来年度に勉強することを確認する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、今後の学習について展望を得て説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢA	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定 2 級準 1 級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定 2 級、準 1 級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特にありません。初習者も歓迎します。

【授業方法】
練習問題を解きながら、文法事項を確認します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業時に答え合わせし、解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法へのやさしい離陸	石井寿子	朝日出版社	2001年		
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	導入	第1課 発音 / 第2課 数詞	
		この回の到達目標	発音規則の習得	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
2	4/17	動詞の人称変化	第3課 動詞の現在人称変化 / 第4課 強変化動詞	
		この回の到達目標	動詞と主語の関係を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
3	4/24	名詞の性・数・格	第5課 名詞の格変化 / 第6課 冠詞類	
		この回の到達目標	名詞の性・数・格のシステムを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
4	5/1	格変化・人称変化の応用1	第7課 人称代名詞 / 第8課 話法の助動詞	
		この回の到達目標	代名詞の格変化、助動詞のシステムを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
5	5/8	格変化・人称変化の応用2	第9課 前置詞 / 第10課 複合動詞・命令形	
		この回の到達目標	前置詞の格支配、動詞の発展形を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
6	5/15	格変化の発展	第11課 形容詞の格変化	
		この回の到達目標	形容詞の付加語的用法を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	過去時制	第 1 2 課 動詞の過去人称変化	
		この回の到達目標	動詞の 3 要形の作り方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
8	5/29	現在完了時制	第 1 3 課 現在完了	
		この回の到達目標	haben/sein 支配の動詞を習得する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
9	6/5	副文	第 1 4 課 接続詞	
		この回の到達目標	定形後置の構造を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
10	6/12	関係文	第 1 5 課 関係代名詞	
		この回の到達目標	関係代名詞の性・数・格の規定方法を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
11	6/19	構文の発展	第 1 6 課 zu 不定詞 ・ 第 1 7 課 再帰代名詞	
		この回の到達目標	熟語表現を習得する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
12	6/26	受動表現	第 1 8 課 受動	
		この回の到達目標	受動形の作り方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	形容詞の発展	第19課 形容詞の比較表現	
		この回の到達目標	比較級・最上級の作り方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
14	7/10	丁寧な表現	第20課 接続法	
		この回の到達目標	接続法の時制を把握する	
		事前学修	授業で習ったことを復習する	30分
		事後学修	出題された箇所を確認する	30分
15	7/17	総合力	前期の力だめし	
		この回の到達目標	ドイツ語の基本文法を把握する	
		事前学修	自己採点し、不明箇所をピックアップする	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢA	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定 2 級準 1 級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定 2 級、準 1 級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
イツ語検定 3 級、CEFRA2以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内のアクティブラーニングにおいて随時フィードバックを行う。試験後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材はガイダンスで説明します。				

【オフィスアワー】
授業後及び火曜日昼休み（４号館４２４研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官(A1-C2)
実務経験に基づく実践的教育の内容		CEFR対応の試験官としての実務経験を試験対策に生かした授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	試験までのスケジュール及び授業の進め方についてのガイダンス	
		この回の到達目標	今学期の受験レベルを決定し、そこまでのスケジュールを把握し、現在の自分の到達度を測ることができる。（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	60分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
2	4/14	Einheit 1 Zeitpunkte 2	様々な時間感覚、時間の過ごし方について（不規則変化する過去形、従属接続詞während、zum＋動詞の名詞化の用法）文章の読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
3	4/21	Einheit 1 Zeitpunkte 2	様々な時間感覚、時間の過ごし方について（不規則変化する過去形、従属接続詞während、zum＋動詞の名詞化の用法）作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
4	4/28	Einheit 2 Alltag 1	様々な日常の場面（話法の助動詞の接続法2式、副詞的接続詞を用いた因果関係の表現、程度を示す副詞の用法）長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
5	5/5	Einheit 2 Alltag 2	様々な日常の場面（話法の助動詞の接続法2式、副詞的接続詞を用いた因果関係の表現、程度を示す副詞の用法）作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
6	5/12	Einheit 3 Männer - Frauen - Paare 1	ジェンダーとパートナー（zu不定詞句の用法、接頭辞や接尾辞のつく形容詞、従属接続詞の復習）長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Einheit 3 Männer - Frauen - Paare 2	ジェンダーとパートナー（zu不定詞句の用法、接頭辞や接尾辞のつく形容詞、従属接続しの復習） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
8	5/26	Einheit 4 Deutschlands größte Stadt 1	ルール工業地帯（形容詞の付加的用法、縮小語尾の用法、無冠詞の形容詞変化の復習） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
9	6/2	Einheit 4 Deutschlands größte Stadt 2	ルール工業地帯（形容詞の付加的用法、縮小語尾の用法、無冠詞の形容詞変化の復習） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
10	6/9	Einheit 5 Schule und lernen 1	ドイツ語圏の学校制度（接続法2式現在形非現実話法の用法、副文の復習） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
11	6/16	Einheit 5 Schule und lernen 2	ドイツ語圏の学校制度（接続法2式現在形非現実話法の用法、副文の復習） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
12	6/23	Einheit 6 Klima und Umwelt 1	気候と環境（未来形の用法、相関接続詞の用法、前置詞wegenを用いた理由の表現） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Einheit 6 Klima und Umwelt 2	気候と環境 （未来形の用法、相関接続詞の用法、前置詞wegenを用いた理由の表現） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
14	7/7	まとめと期末試験 1	まとめと授業内試験 （読解・聴解・作文）	
		この回の到達目標	今までの読解・聴解・作文で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s②③④）	
		事前学修	試験準備	180分
		事後学修	試験の見直し	30分
15	7/14	期末試験 1 と講評	授業内試験 （口述） 試験講評	
		この回の到達目標	今までの会話で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s①）	
		事前学修	試験準備	90分
		事後学修	試験の見直し	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢB	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定 2 級準 1 級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定 2 級、準 1 級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特にありませんが、初級文法を既習済みであることを前提に授業を進めます。

【授業方法】
2018年・2019年の春・秋季の過去問題を解きながら、傾向と対策を確認していきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回授業で答え合わせをし、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業の時に教材プリントを配布します。必ず出席して下さい。				

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場の知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	発音・イントネーション	過去問題 1	
		この回の到達目標	発音の規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分
2	9/25	語彙と語順	過去問題 2	
		この回の到達目標	語順の規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分
3	10/2	書き換え	過去問題 3	
		この回の到達目標	同義になる文法規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分
4	10/9	接続詞	過去問題 4 前半	
		この回の到達目標	接続詞の規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分
5	10/16	副文	過去問題 4 後半	
		この回の到達目標	副文の規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分
6	10/23	短文読解 1	過去問題 5 前半	
		この回の到達目標	短文の速読に慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	短文読解 2	過去問題 5 後半	
		この回の到達目標	短文理解のスキルを磨く	
		事前学修	教科書を事前に一読する (30分)	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる (30分)	30分
8	11/6	長文読解 1	過去問題 6 前半	
		この回の到達目標	長文の速読に慣れる	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分
9	11/13	長文読解 2	過去問題 6 後半	
		この回の到達目標	長文理解のスキルを磨く	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分
10	11/20	会話文の完成 1	過去問題 7 前半	
		この回の到達目標	会話文完成の仕方に慣れる	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分
11	11/27	会話文の完成 2	過去問題 7 後半	
		この回の到達目標	会話文完成の仕方のスキルを磨く	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分
12	12/4	聞き取り問題 1	過去問題聞き取り前半	
		この回の到達目標	聞き取り問題に慣れる	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	聞き取り問題 2	過去問題聞き取り後半	
		この回の到達目標	聞き取り問題の解き方のスキルを磨く	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分
14	12/18	過去問題の総括 1	後期の力だめし、まとめ	
		この回の到達目標	過去問題全体を復習する	
		事前学修	授業で勉強したことを復習する (30分)	30分
		事後学修	出題箇所を確認する (30分)	30分
15	12/25	過去問題の総括 2	答え合わせ・解説	
		この回の到達目標	過去問題全体を見直す	
		事前学修	不明だった箇所をピックアップする (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢB	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定 2 級準 1 級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定 2 級、準 1 級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
イツ語検定 3 級、CEFRA2以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内のアクティブラーニングにおいて随時フィードバックを行う。試験後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
studio d B1	Funk	Cornelsen	2015年	教科書	必携
備考	その他参考書は授業中に随時紹介します。				

【オフィスアワー】
授業後及び火曜日昼休み（4号館424研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官(A1-C2)
実務経験に基づく実践的教育の内容		CEFR対応の試験官としての実務経験を試験対策に生かした授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Einheit 7 Peinlich? Peinlich! 1	マナーと日常起こるハプニング（現在分詞の用法、相関接続詞の用法、従属接続詞obwohlの用法） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	60分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
2	9/22	Einheit 7 Peinlich? Peinlich! 2	マナーと日常起こるハプニング（現在分詞の用法、相関接続詞の用法、従属接続詞obwohlの用法） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
3	9/29	Einheit 8 Generationen 1	ジェネレーション（könnteを用いた推測の用法、過去完了形、seitを用いた従属接続文、所有冠詞の2格の用法） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
4	10/6	Einheit 8 Generationen 2	ジェネレーション（könnteを用いた推測の用法、過去完了形、seitを用いた従属接続文、所有冠詞の2格の用法） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
5	10/13	Einheit 9 Migration 1	移民（使役の助動詞lassen、manを用いた受動文の代用、2格の関係代名詞） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
6	10/20	Einheit 9 Migration 2	移民（使役の助動詞lassen、manを用いた受動文の代用、2格の関係代名詞） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Einheit 10 Europa: Politik und mehr 1	ヨーロッパの政治とその他 (wo+前置詞の疑問詞、brauchen+zu不定詞、-keit, -heitのつく名詞) 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を開き取った内容をドイツ語で伝えることができる。(関連SB0s②④)	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
8	11/10	Einheit 10 Europa: Politik und mehr 2	ヨーロッパの政治とその他 (wo+前置詞の疑問詞、brauchen+zu不定詞、-keit, -heitのつく名詞) 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。(関連SB0s①③)	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
9	11/17	Zertifikat Training 1	Zertifikat Deutschの模擬試験 (読解)と解説	
		この回の到達目標	Zertifikat Deutsch Lesen に合格できる。(関連SB0s②)	
		事前学修	模擬試験準備	90分
		事後学修	模擬試験復習	60分
10	11/24	Zertifikat Training 2	Zertifikat Deutschの模擬試験 (聴解)と解説	
		この回の到達目標	Zertifikat Deutsch Hören に合格できる。(関連SB0s④)	
		事前学修	模擬試験準備	90分
		事後学修	模擬試験復習	60分
11	12/1	Zertifikat Training 3	Zertifikat Deutschの模擬試験 (作文)と解説	
		この回の到達目標	Zertifikat Deutsch Hören に合格できる。(関連SB0s③)	
		事前学修	模擬試験準備	90分
		事後学修	模擬試験復習	60分
12	12/8	Zertifikat Training 3	Zertifikat Deutschの模擬試験 (口述)と解説	
		この回の到達目標	Zertifikat Deutsch Sprechen に合格できる。(関連SB0s①)	
		事前学修	模擬試験準備	90分
		事後学修	模擬試験復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	総復習	今まで学修内容の総復習	
		この回の到達目標	今まで学修したことをアウトプットできる。（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	総復習	90分
		事後学修	取りこぼしていたところを復習	60分
14	12/22	まとめと期末試験 1	まとめと授業内試験 （読解・聴解・作文）	
		この回の到達目標	今までの読解・聴解・作文で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s②③④）	
		事前学修	試験準備	180分
		事後学修	試験の見直し	30分
15	1/12	期末試験 1 と講評	授業内試験 （口述） 試験講評	
		この回の到達目標	今までの会話で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s①）	
		事前学修	試験準備	90分
		事後学修	試験の見直し	30分

科目名	国際研修(独) I A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できるドイツ語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力と国際的に通用するコミュニケーション力を身につけるために、それを達成し得るドイツ語の運用能力と見識を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法AB及びドイツ語基礎表現ABが履修済みであることが望ましい。ウィーン夏期語学研修を受講する学生さんはできるだけこの授業を履修すること。

【授業方法】
自己発信型のコミュニケーションができるために、会話のドリル練習に加えペア・ワーク、グループ・ワークを通じて、自由な会話をたくさん取り入れます。積極的に参加してください。小テストを定期的に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、自己発信型のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてドイツ語の文章が書ける								1	1		1
③	ドイツ語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する。	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題ごとに授業内にフィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Szenen 1 integriert 場面で学ぶドイツ語	佐藤 修子	三修社	2006	教科書	必携
場面で学ぶドイツ語基本単語	真道 杉	三修社	2013	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 留学指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の留学に必要な言語文化を実践的に教えます。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	短期・長期留学に向けた基本的な心得 語学レベルの到達目標を明らかにする	
		この回の到達目標	留学までに何ができるようになっていなければならないか、留学先で何を学んでくるのか目標を明らかにして説明することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、これまで学んだ文法・語彙を復習しておく。	60分
		事後学修	次週に向けて教材の予習をして単語を覚える。	30分
2	4/17	Kontakte 1	挨拶・自己紹介をする中で、シチュエーションに応じた敬語の使い方、場に応じた質問の仕方を学ぶ。	
		この回の到達目標	相手に合わせて挨拶をして、自己紹介ができる。相手のプロフィールを臨機応変に聞き出すことができる。	
		事前学修	挨拶・自己紹介ができるようにしておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
3	4/24	Kontakte 2	他己紹介、相手の連絡先を聞き出せるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。 ドイツ語圏のメディア事情について解説	
		この回の到達目標	他己紹介ができるようになる。相手の連絡先を聞き出し、自分の連絡先を伝えることができる	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
4	5/1	Studium und Sprachen	専攻分野、履修科目、言語について情報交換ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	自分の専攻分野や履修している科目について話すことができ、相手から同じテーマについて聞き出すことができる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
5	5/8	Hobbys	好きなこと嫌いなことについて意見交換ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	好きなこと嫌いなことについて意見交換ができるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
6	5/15	Essen und Trinken	好物や外国料理、1日の食事、料理について意見交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	好物や外国料理、1日の食事、料理について意見交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	Familie und Berufe	家族や友人の職業、性格、容姿、年齢などについて情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	家族や友人の職業、性格、容姿、年齢などについて情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
8	5/29	Gegenstände	所持品・品物について意見交換し、買い物ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	所持品・品物について意見交換し、買い物ができるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
9	6/5	Wohnen	住宅、部屋、家具の位置、家賃と広さについて意見交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	住宅、部屋、家具の位置、家賃と広さについて意見交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
10	6/12	Uhrzeit und Datum	時刻、時間、1日の生活、日付、予定について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	時刻、時間、1日の生活、日付、予定について情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
11	6/19	Nach dem Wochenende	週末あった出来事、過去に起こった出来事について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	週末あった出来事、過去に起こった出来事について情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
12	6/26	Stadt und Universität	街と大学の建物、道案内、交通手段、大学生活について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	街と大学の建物、道案内、交通手段、大学生活について情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	Vor den Ferien	休暇の計画（活動、場所、期間、同伴者）について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	休暇の計画（活動、場所、期間、同伴者）について情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。 プレゼンテーションの準備	30分
14	7/10	Was kann man in Wien machen?	ウィーンへ行って何をしたいのか、何ができるのか、情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	ウィーンへ行って何をしたいのか、何ができるのか、情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。ウィーンの街について調べてくる。	60分
		事後学修	プレゼンテーションの準備	60分
15	7/17	プレゼンテーション	留学へ行った先で何をしたいのか、ドイツ語と日本語でプレゼンテーションをする。	
		この回の到達目標	留学先の情報と自分の計画をプレゼンテーションできる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備	60分
		事後学修	授業中に新たに学んだことをまとめる。	30分

科目名	国際研修(独) I B	担当者	真道 杉	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できるドイツ語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力と円滑なコミュニケーション力を身につけるために、それを達成しうるドイツ語の運用能力と見識を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得していることが望ましい

【授業方法】
海外語学研修の授業と日常生活を想定し、ドイツ語会話と作文、及び現地の地誌・文化・社会情勢を踏まえてコミュニケーションができるよう、実践的なトレーニングをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含むアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語圏の生活及び語学研修に聞き取り・会話において十分に対応ができる								1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてドイツ語の文章が書ける								1	1		1
③	ドイツ語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回の授業で指示します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	留学指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の留学に必要な言語文化を実践的に教えます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス及び導入講義	検定試験や留学試験の目標を明確にして、必要とされるスキルについて解説	
		この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、今後の目標のために必要とされるスキルについて説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。	30分
		事後学修	12月の独検、年明けのÖSD受験に向けて、単語と熟語の勉強を始めること。	30分
2	9/25	テキスト1 読解	ドイツ語のテキスト1を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。	
		この回の到達目標	達成目標③に関連して、ドイツ語のテキスト1を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットを翻訳・要約することができる。	
		事前学修	テキスト1を翻訳してくる。	60分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
3	10/2	テキスト1 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
		事前学修	テキスト1について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
4	10/9	テキスト1 論説文	テキスト1に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
		この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト1に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
		事前学修	テキスト1に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
		事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
5	10/16	テキスト1 プレゼンテーション	テキスト1についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト1についてプレゼンテーションができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
		事後学修	新出表現をまとめておく。	30分
6	10/23	テキスト2 読解	ドイツ語のテキスト2を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。	
		この回の到達目標	達成目標③に関連して、ドイツ語のテキスト2を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットを翻訳・要約することができる。	
		事前学修	テキスト2を翻訳してくる。	30分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	テキスト2 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
		事前学修	テキスト2について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
8	11/6	テキスト2 論説文	テキスト2に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
		この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト2に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
		事前学修	テキスト2に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
		事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
9	11/13	テキスト2 プレゼンテーション	テキスト2についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト2についてプレゼンテーションができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
		事後学修	新出表現をまとめておく。	30分
10	11/20	テキスト3 読解	ドイツ語のテキスト3を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。	
		この回の到達目標	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
		事前学修	テキスト3を翻訳してくる。	30分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
11	11/27	テキスト3 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
		事前学修	テキスト3について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
12	12/4	独検の解説	受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。	
		この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を指摘することができる。	
		事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくる。また、各自で答え合わせをしておくこと。	30分
		事後学修	できなかったところを中心に、よく復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	テキスト3 論説文	テキスト3に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
		この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト3に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
		事前学修	テキスト3に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
		事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
14	12/18	テキスト3 プレゼンテーション	テキスト3についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト3についてプレゼンテーションができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
		事後学修	出来なかったところをよく復習すること。	30分
15	12/25	試験	授業内で学んだこと全般を対象に試験を実施する	
		この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を示すことができる。	
		事前学修	後期の学習事項について、時間をかけて復習すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習について、よく考えること。	30分

科目名	コミュニケーション(独)ⅠA	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語の初学者であること。

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声を出して復習する。必要に応じてDVDを見たり、CDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ドイツ語会話	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
その場で直接行う	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo München neu	Sekiguchi Ichiro	白水社	2008	教科書	必携
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後の15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業の後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	会話	何時ですか？ いくつですか？	
		この回の到達目標	所有代名詞を理解する	
		事前学修	教科書を買う，事前にシラバスを確認しておくこと。（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
2	4月16日	会話	誰ですか？ 何ですか？（所有代名詞）	
		この回の到達目標	所有代名詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
3	4月23日	会話	どういうふうですか？	
		この回の到達目標	形容詞の使い方	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
4	4月30日	会話	何が好きですか？	
		この回の到達目標	自分の趣味について話す	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
5	5月7日	会話	これは・あなたは 何とといいますか？ これを持っていますか？	
		この回の到達目標	紹介ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
6	5月14日	会話	ごきげんいかがですか？ 何を持っていますか？ （三格と四格の練習）	
		この回の到達目標	三格と四格を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月21日	会話		どこの出身ですか？ これはどこから来ましたか？ どうしてわかるんですか？
		この回の到達目標	自分の由来を語ることができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
8	5月28日	会話		誰のものですか？ 誰のためですか？ どこにありますか？ （二格、三格、四格をとる前置詞）
		この回の到達目標	二格、三格、四格をとる前置詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
9	6月4日	会話		何をしますか？ これは何をやるものですか？ どこへ行きますか？
		この回の到達目標	これからの予定を伝える	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
10	6月11日	会話		なぜそこにいますか？ なぜそこへ行きますか？
		この回の到達目標	理由を伝えられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
11	6月18日	会話		復習
		この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
12	6月25日	会話		復習
		この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7月2日	会話		復習
		この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
14	7月9日	会話		復習
		この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
15	7月16日	会話		復習・まとめ
		この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分

科目名	コミュニケーション(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Guten Tag	1. Introducing yourself and others (picture story)	
		この回の到達目標	learn to introduce	
		事前学修	Read page 9-11 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	4/13	Greetings	2. greetings	
		この回の到達目標	learn to yourself 2	
		事前学修	Read page 12, 13 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
3	4/21	I am...	3. self introduction, "Where do you come from?"	
		この回の到達目標	learn about countries and related languages	
		事前学修	Read page 14, 15 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section C (30分)	30分
4	4/28	Countries	4. countries and languages	
		この回の到達目標	learn to give personal information	
		事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section C (30分)	30分
5	5/11	alphabet, data	5. the alphabet, telephone call, business cards	
		この回の到達目標	talk about family relations	
		事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section D, E, review alphabet and verb conjugation , test workbook p. 18 (30分)	30分
6	5/18	Family	6. family and friends (picture story)	
		この回の到達目標	talk about your condition	
		事前学修	Read p. 22, 23 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/25	introducing people	7. "How are you?"	
		この回の到達目標	learn to introduce others	
		事前学修	Read p. 24, 25 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	6/1	relatives	8. introducing family members	
		この回の到達目標	learn to talk about your friends	
		事前学修	Read page 25 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary, workbook section B (30分)	30分
9	6/8	friends	9. introducing friends	
		この回の到達目標	learn counting	
		事前学修	URead page 26 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section C , verb conjugation (30分)	30分
10	6/15	numbers, about yourself	10. numbers 1-20, personal data	
		この回の到達目標	learn to introduce yourself in detail	
		事前学修	Read page 27 (30分)	30分
		事後学修	Learn numbers 1-20, vocabulary , workbook D (30分)	30分
11	6/22	Shopping	11. talk about yourself	
		この回の到達目標	learn words for shopping at the supermarket	
		事前学修	Read page 29 , 32 (30分)	30分
		事後学修	Review grammar on page 30, phrases p. 31 (30分)	30分
12	6/29	Food	12. Food and drink (picture story)	
		この回の到達目標	conversation for shopping and restaurants	
		事前学修	Read page 34, 35 (30分)	30分
		事後学修	Food vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/6	Food	13. food vocabulary, "the" and "a", plural	
		この回の到達目標	learn to hear and say prices, order food	
		事前学修	Read p. 36, 37 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
14	7/13	Shops and restaurants	14. grocery shopping, numbers 20-100, lunch and dinner	
		この回の到達目標	check your level	
		事前学修	Review food vocabulary , see page 44 (30分)	30分
		事後学修	Learn numbers 20-100 (30分)	30分
15	7/20	test、振り返り	test (written), review, 解説	
		この回の到達目標	learn about rooms	
		事前学修	Prepare test , check grammar summaries , vocabulary section , read sample phrases (30分)	30分
		事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	コミュニケーション(独)ⅠA	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
積極的な授業で参加。

【授業方法】
教科書とビデオ教材を用いて重要表現の練習を繰り返します。 フィードバックは授業内において行います

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる											1			
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる												1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる												1		
④															
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
さあ、ドイツ語で！ISBN978-4-8086-1194-1	Troll/Ogushi	第三書房	第三書房	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後（土曜14：30～）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	Introduction	ガイダンス and first expressions	
		この回の到達目標	German today	
		事前学修	シラバスを読み予習30分	30分
		事後学修	復習30分	30分
2	4/11	Writing and reading	発音練習 など	
		この回の到達目標	German and Germany	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
3	4/18	Spelling and reading	挨拶の言葉、自己紹介と練習	
		この回の到達目標	Understand the system	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
4	4/25	First meetings	第1課 G r ü ß e 挨拶	
		この回の到達目標	Du and Sie	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
5	5/2	Variations	第1課 G r ü ß e 挨拶	
		この回の到達目標	Friend and colleagues	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
6	5/9	Festivals in Germany (1)	第2課 W i e h e i ß t d a s F e s t ? その祭りの名前は何ですか？	
		この回の到達目標	Nouns and articles	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	Festivals (2)	第2課 Wie heißt das Fest? その祭りの名前は何ですか?	
		この回の到達目標	Usage of Nouns	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
8	5/23	Talking about family (1)	第3課 Kai besucht die Familie Müller カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる	
		この回の到達目標	Stammbaum	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
9	5/30	Talking about family (2)	第3課 Kai besucht die Familie Müller カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる	
		この回の到達目標	Noun and cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
10	6/6	Kleiner Test	小テスト, ドイツの生活 (ビデオ)	
		この回の到達目標	Internet and Germany	
		事前学修	予習90分	60分
		事後学修	復習30分	60分
11	6/13	All cases	第4課 Die Mitglieder der Familie ミュラー家の人々	
		この回の到達目標	Usage of cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
12	6/20	Cases continued	第4課 Die Mitglieder der Familie ミュラー家の人々	
		この回の到達目標	Usage of cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/27	Prepositions (1)		第5課 An der Universität 大学で
		この回の到達目標	Fixed cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
14	7/4	Prepositions (2)		第5課 An der Universität 大学で
		この回の到達目標	Non-fixed cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
15	7/11	Test und Zusammenfassung		小テスト、ドイツの生活（ビデオ）まとめ
		この回の到達目標	Freie Wiederholung	
		事前学修	予習90分	90分
		事後学修	復習30分	30分

科目名	コミュニケーション(独)ⅠA	担当者	R. ペトリック	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
小グループで、与えられた課題を練習する。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	能動的な学習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評・解説・返却・添削 等

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ハロー・ミュンヒェン・ノイ	関口一郎	白水社	2014		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：火曜3・4時限）話し合いの必要がある場合は電話してください（電話番号：042-666-8960）。その時、場所と時間等について決めます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火4/7	オリエンテーション、導入授業	授業についての説明	
		この回の到達目標	簡単な自己紹介	
		事前学修	シラバスに目を通す	30分
		事後学修	教科書に目を通す	30分
2	火4/14	ドイツ語	Lektion 1 Guten Tag, in München	
		この回の到達目標	挨拶、ミュンヘンの紹介、ホテルのチェックイン	
		事前学修	教科書に目を通す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
3	火4/21	ドイツ語	Lektion 1 Guten Tag, in München（続き）	
		この回の到達目標	疑問点を探す	
		事前学修	教科書に目を通す	30分
		事後学修	CDを聞く（30分）	30分
4	火4/28	ドイツ語	Lektion 2 Klaudia geht in die Stadt	
		この回の到達目標	市内見物、道の尋ね方	
		事前学修	Lektion 2 予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
5	火5/5	ドイツ語	Lektion 2 Klaudia geht in die Stadt（続き）	
		この回の到達目標	訪問、挨拶	
		事前学修	Lektion 2 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
6	火5/12	ドイツ語	Lektion 3 Eine Wohngemeinschaft	
		この回の到達目標	買い物	
		事前学修	Lektion 3 予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	火5/19	ドイツ語		Lektion 3 Eine Wohngemeinschaft (続き)
		この回の到達目標	食事の用意 食事	
		事前学修	Lektion 3 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
8	火5/26	ドイツ語		Lektion 3 Eine Wohngemeinschaft (続き)
		この回の到達目標	文法と練習： 不規則動詞	
		事前学修	Lektion 3 予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
9	火6/2	ドイツ語		Lektion 4 Eine Reise nach Salzburg
		この回の到達目標	駅での案内	
		事前学修	Lektion 4 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
10	火6/9	ドイツ語		Lektion 4 Eine Reise nach Salzburg (続き)
		この回の到達目標	切符の購入	
		事前学修	Lektion 1-4 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
11	火6/16	ドイツ語		Lektion 4 Eine Reise nach Salzburg (続き)
		この回の到達目標	時間の言い方を学ぶ 数字 (0-100)	
		事前学修	Lektion 1-4 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
12	火6/23	ドイツ語		Lektion 5 Ein Tag von Michael
		この回の到達目標	時間の言い方を学ぶ	
		事前学修	Lektion 5 予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火6/30	ドイツ語	Lektion 5 Ein Tag von Michael (続き)	
		この回の到達目標	大学生の一日	
		事前学修	Lektion 5 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
14	火7/7	ドイツ語	復習	
		この回の到達目標	これまでの授業を進めてきた中で特に目についた間違いを指摘する。教科書の練習問題だけでなく、応用問題を解く	
		事前学修	Lektion 1-5 復習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
15	火7/14	ドイツ語	特別なドイツ語の発音の練習	
		この回の到達目標	できるだけいい発音でドイツの早口言葉をいう	
		事前学修	Lektion 1-5 復習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

科目名	コミュニケーション(独)ⅠA	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】		
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Spitze! 1	新倉真矢子	朝日	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	ガイダンス、導入授業	Lektion 1 挨拶とアルファベット	
		この回の到達目標	挨拶ができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	テキスト1~3頁	30分
2	第一部 土4/11	自己紹介	Lektion 1 出身地、居住地	
		この回の到達目標	正しい発音で会話ができる。	
		事前学修	テキスト1~4頁	30分
		事後学修	テキスト4~5頁	30分
3	第一部 土4/18	自己紹介	Lektion 1 専攻	
		この回の到達目標	動詞の現在人称変化について理解する。	
		事前学修	テキスト1~5頁	30分
		事後学修	テキスト6~8頁	30分
4	第一部 土4/25	自己紹介	Lektion 2 職業、国籍	
		この回の到達目標	仕事について会話ができる。	
		事前学修	テキスト5~8頁	30分
		事後学修	テキスト9~11頁	30分
5	第一部 土5/2	自己紹介	Lektion 2 疑問文 接続詞	
		この回の到達目標	語順について理解する。	
		事前学修	テキスト9~11頁	30分
		事後学修	テキスト12~16頁	30分
6	第一部 土5/9	自己紹介	Lektion 3 国、言語、3人称、be動詞	
		この回の到達目標	人を紹介することができる。 動詞の現在人称変化について理解する。	
		事前学修	テキスト9~16頁	30分
		事後学修	テキスト17~19頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 5/16	自己紹介	Lektion 3 数字、家族関係	
		この回の到達目標	連絡先と家族関係について話せる。	
		事前学修	テキスト17~19頁	30分
		事後学修	テキスト20~24頁	30分
8	第一部土 5/23	日用品、色	Lektion 4 名詞の性と冠詞	
		この回の到達目標	単語を知る、定冠詞と不定冠詞を正しく使う。	
		事前学修	テキスト17~24頁	30分
		事後学修	テキスト25~28頁	30分
9	第一部土 5/30	食事	Lektion 4 メニュー、食生活	
		この回の到達目標	レストランで注文ができる。 食事について話せる。	
		事前学修	テキスト29~30頁	30分
		事後学修	テキスト31~32頁	30分
10	第一部土 6/6	住まい	Lektion 5 部屋、家具	
		この回の到達目標	部屋と家具について話すことができる。 複数形を知る。	
		事前学修	テキスト25~32頁	30分
		事後学修	テキスト33~36頁 復習	30分
11	第一部土 6/13	住まい	Lektion 5 家具、値段、買い物	
		この回の到達目標	欲しいものを買うことができる。 代名詞を使うことができる。	
		事前学修	テキスト33~36頁	30分
		事後学修	テキスト37~40頁	30分
12	第一部土 6/20	家族	Lektion 6 家族の紹介	
		この回の到達目標	単語と所有冠詞を知る。	
		事前学修	テキスト33~40頁	30分
		事後学修	テキスト41~44頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部土 6/27	自宅		Lektion 6 持ちもの
		この回の 到達目標	持ち物について話す。 4格目的語を正しく使う。	
		事前学修	テキスト41～44頁	30分
		事後学修	テキスト44～48頁	30分
14	第一部土 7/4	テスト予備、振り返り		振り返り
		この回の 到達目標	まとめ	
		事前学修	テスト予備	120分
		事後学修	テスト勉強	120分
15	第一部土 7/11	テスト、まとめ		まとめ
		この回の 到達目標	理解度の確認	
		事前学修	テスト勉強	120分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	60分

科目名	コミュニケーション(独)ⅠB	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語の初学者であること。

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声を出して復習する。必要に応じてDVDを見たり、CDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業の中でドイツ語会話を行う

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	教科書	必携
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後の15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業の後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	ドイツ語会話	何をしたいんですか？ 何をしなくちゃいけませんか？	
		この回の到達目標	自分の希望を伝えられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	9月24日	ドイツ語会話	…してもいいですか？ それはできますか？	
		この回の到達目標	許可を得る表現を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	10月1日	ドイツ語会話	…してはいけません …するように言われています	
		この回の到達目標	禁止形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	10月8日	ドイツ語会話	どうして…してはいけませんか？	
		この回の到達目標	理由を説明できる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	10月15日	ドイツ語会話	手を貸してくれますか？ …してもいいですか？ どうしたらいいですか？	
		この回の到達目標	助動詞を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	10月22日	ドイツ語会話	どれが好きですか？	
		この回の到達目標	比較級を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	ドイツ語会話	…が一番好きです。	
		この回の到達目標	最上級を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	11月5日	ドイツ語会話	いつ来ますか？	
		この回の到達目標	未来形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	11月12日	ドイツ語会話	命令形の練習	
		この回の到達目標	丁寧な命令形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	11月19日	ドイツ語会話	何をするつもりですか？	
		この回の到達目標	話法の助動詞で計画を伝えられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	12月3日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	12月10日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	12月24日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	1月14日	ドイツ語会話	復習・まとめ	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

科目名	コミュニケーション(独) I B	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Housing	16. My apartment (picture story)	
		この回の到達目標	learn to describe homes	
		事前学修	Read p 46, 47 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	9/29	Apartment	17. rooms, houses, adjectives	
		この回の到達目標	learn to buy furniture	
		事前学修	Read p 48, 49 (30分)	30分
		事後学修	Learn adjectives and pronouns (30分)	30分
3	10/5	furniture	18. furniture, household gadgets	
		この回の到達目標	learn to read ads, rent an apartment, learn three digit numbers	
		事前学修	Read p 50, 51 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
4	10/12	Rent an apartment	19. numbers to 100- 1 million, real estate market	
		この回の到達目標	learn to describe your home	
		事前学修	Read page 52, 53 (30分)	30分
		事後学修	Learn numbers, workbook D, E (30分)	30分
5	10/19	your apartment	20. describe your apartment	
		この回の到達目標	learn to describe your day	
		事前学修	Read p 56 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary review, review numbers, pronouns, articles (30分)	30分
6	10/26	Talk about your day	21. My day (picture story)	
		この回の到達目標	learn to say times in German	
		事前学修	Read page 58, 59 (30分)	30分
		事後学修	Learn new verbs (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	11/2	Time	22. the clock	
		この回の到達目標	learn to talk about times of the day an activities	
		事前学修	Read page 60, 61, review numbers 1-24 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	11/9	Spending time	23. daily activities, times of day	
		この回の到達目標	learn to describe free time activities	
		事前学修	Review the clock , verbs, read p 65 (30分)	30分
		事後学修	Grammar: sentence structure, word order , prepositions , p 66, 67 (30分)	30分
9	11/16	Free time	24. leisure (picture story)	
		この回の到達目標	learn about weather reports	
		事前学修	Read p 70, 71 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
10	11/23	Weather	25. the weather	
		この回の到達目標	learn to talk about your hobbies 2	
		事前学修	Read p. 72, 73 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary , workbook A, B (30分)	30分
11	11/30	hobbies	26. hobbies, activities	
		この回の到達目標	learn about how to study	
		事前学修	Read p 75 (30分)	30分
		事後学修	Workbook D (30分)	30分
12	12/7	Study	28. Learning, study (picture story	
		この回の到達目標	learn to read course programs	
		事前学修	Read p 82, 83 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	culture courses	28. culture school courses, hobbies	
		この回の到達目標	learn to talk about the past	
		事前学修	Read p 84, 85, check verb tables (30分)	30分
		事後学修	Grammar verbs, sentence structure (30分)	30分
14	12/21	What did you do?	29. talk about what you did (perfect tense) 復習	
		この回の到達目標	check your level	
		事前学修	Read page 86 (30分)	30分
		事後学修	Grammar perfect tense (30分)	30分
15	1/18	Test、振り返り	テスト(written), review, 解説	
		この回の到達目標	review what you learned	
		事前学修	Review grammar, phrases , vocabulary (30分)	30分
		事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	コミュニケーション(独) I B	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語に興味がある学生

【授業方法】		
Grammatical exercises, repetition and easy conversation 文法の復習、簡単な会話 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
さあ、ドイツ語で！ISBN978-4-8086-1194-1	Troll/Maeda	第三書房	第三書房	教科書	必携
文法から学べるドイツ語ISBN978-4-8163-3820-5	小笠原・トロール	ナツメ社	ナツメ社	参考書	推奨
備考	Repetition of what you know				

【オフィスアワー】
授業の後（土曜14：30～）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	Wiederholung	Repetition of first semester 復習	
		この回の到達目標	前期に学習した内容について説明できる	
		事前学修	復習 予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
2	9/26	Fussball	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦	
		この回の到達目標	Modalverben	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
3	10/3	Uhrzeit	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦	
		この回の到達目標	Offizielle und inoffizielle Zeit	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
4	10/10	Deutschland Ost	Lesson 7 W i e w a r d a s d a m a l s ? 当時の状況は？	
		この回の到達目標	Praeteritum (1)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
5	10/17	Ost und West	Lesson 7 W i e w a r d a s d a m a l s ? 当時の状況は？	
		この回の到達目標	Praeteritum (2)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
6	10/24	Test、振り返り	Short test 1 and video	
		この回の到達目標	Ostdeutschland heute	
		事前学修	予習 9 0 分	60分
		事後学修	復習 3 0 分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 31	Komparativ und Superlativ	Lesson 8 Z u m S c h w i m m e n a n e i n e n S e e ? 湖へ泳ぎに行く？	
		この回の到達目標	Uebungen zum Komparativ	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
8	11/ 7	Indefinite Pronomen	Lesson 8 Z u m S c h w i m m e n a n e i n e n S e e ? 湖へ泳ぎに行く？	
		この回の到達目標	All pronouns	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
9	11/ 14	Perfekt (1)	Lesson 9 D u b i s t l a n g e n i c h t d a g e w e s e n 久しぶりだね	
		この回の到達目標	Perfekt und Kommunikation	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
10	11/ 21	Perfekt (2)	Lesson 9 D u b i s t l a n g e n i c h t d a g e w e s e n 久しぶりだね	
		この回の到達目標	Konversation und Bericht	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
11	11/ 28	Umweltstudien (1)	Lesson 10 U m w e l t b e w u s s t e B ü r g e r ? 環境意識の強い国民？	
		この回の到達目標	Passiv (1)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
12	12/5	Umweltstudien (2)	Lesson 10 U m w e l t b e w u s s t e B ü r g e r ? 環境意識の強い国民？	
		この回の到達目標	Passiv Zusammenfassung	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/ 12	Test		Short test 2 and video
		この回の 到達目標	Deutschland und die Umwelt	
		事前学修	予習 9 0 分	60分
		事後学修	復習 3 0 分	60分
14	12/ 19	Bitten (1)		Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしていただけますか？
		この回の 到達目標	Konjunktiv II	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
15	12/ 26	Bitten (2)		Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしていただけますか？ まとめ
		この回の 到達目標	Anwendung	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分

科目名	コミュニケーション(独) I B	担当者	R. ペトリック	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
小グループで、与えられた課題を練習する。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	能動的な学習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評・解説・返却・添削 等

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ハロー・ミュンヒェン・ノイ	関口一郎	白水社	2014		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：火曜3・4時限）話し合いの必要がある場合は電話してください（電話番号：042-666-8960）。その時、場所と時間等について決めます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	火9/15	オリエンテーション、導入授業		授業についての説明 文法の練習
		この回の到達目標	文法：3・4格支配の前置詞	
		事前学修	別にはない	0分
		事後学修	教科書に目を通す	30分
2	火9/22	ドイツ語		Lektion 6 Im Olympiapark
		この回の到達目標	電話で短い会話をする	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
3	火9/29	ドイツ語		Lektion 6 Im Olympiapark（続き）
		この回の到達目標	文法：話法の助動詞	
		事前学修	Lektion 6 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
4	火10/6	ドイツ語		Lektion 7 Einkäufe
		この回の到達目標	洋服選び	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
5	火10/13	ドイツ語		Lektion 7 Einkäufe（続き）
		この回の到達目標	文法：形容詞の格変化	
		事前学修	Lektion 7 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
6	火10/20	ドイツ語		Lektion 8 Am Wochenende
		この回の到達目標	相手に最近の休み/週末の行動を伝える	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	火10/27	ドイツ語	Lektion 8 Am Wochenende（続き）	
		この回の到達目標	特別な現在完了形練習	
		事前学修	現在完了形の予習（30分）	30分
		事後学修	現在完了形の復習（30分）	30分
8	火11/10	ドイツ語	Lektion 9 Ein Gespräch über Berlin	
		この回の到達目標	ベルリン紹介	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
9	火11/17	ドイツ語	Lektion 9 Ein Gespräch über Berlin（続き）	
		この回の到達目標	特別な過去形練習	
		事前学修	過去形の予習	30分
		事後学修	過去形の復習	30分
10	火11/24	ドイツ語	Lektion 10 Deutsches Museum	
		この回の到達目標	ミュンヘン紹介、レストラン	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
11	火12/1	ドイツ語	Lektion 10 Deutsches Museum（続き）	
		この回の到達目標	文法：再帰代名詞と再帰動詞	
		事前学修	Lektion 10 疑問点を探す（30分）	30分
		事後学修	CDを聞く（30分）	30分
12	火12/8	ドイツ語	Lektion 11 König Ludwig II	
		この回の到達目標	相手に友達を紹介する	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火12/15	ドイツ語	Lektion 11 König Ludwig II（続き）	
		この回の到達目標	文法：関係代名詞	
		事前学修	関係代名詞の予習	30分
		事後学修	関係代名詞の復習	30分
14	火12/22	ドイツ語	Lektion 12 Auf Wiedersehen	
		この回の到達目標	接続法を用いたていねいな表現	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
15	火1/12	ドイツ語	復習	
		この回の到達目標	プリントを配布し、今まで教科書で扱った問題を、異なる角度、または複合した角度から解いてみる	
		事前学修	Lektion 6-12 復習（30分）	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

科目名	コミュニケーション(独) I B	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】		
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Spitze! 1	新倉真矢子	朝日	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第一部土 9/19	趣味		Lektion 7 暇の時間
		この回の 到達目標	好きなことについて話せる。	
		事前学修	前期の内容	60分
		事後学修	テキスト49～52頁	30分
2	第一部土 9/26	予定		Lektion 7 スケジュール、用事
		この回の 到達目標	予定について話せる。	
		事前学修	テキスト49～52頁	30分
		事後学修	テキスト53～56 頁	30分
3	第一部土 10/3	服装		Lektion 8 気に入るなもの、似合うもの
		この回の 到達目標	人称代名詞の3格を知る。	
		事前学修	テキスト49～56 頁	30分
		事後学修	テキスト57～59 頁	30分
4	第一部土 10/10	プレゼント		Lektion 8 誕生日やクリスマスのプレゼント
		この回の 到達目標	3格と4格の目的語を使う。	
		事前学修	テキスト57～60 頁	30分
		事後学修	テキスト60～64 頁	30分
5	第一部土 10/17	休暇		Lektion 9 休暇の予定
		この回の 到達目標	したいこと、できること、しなければならないことなどについて話せる。 助動詞を使う。	
		事前学修	テキスト57～64 頁	30分
		事後学修	テキスト65～68 頁	30分
6	第一部土 10/24	宿泊		Lektion 9 ホテルの予約
		この回の 到達目標	ホテルの予約ができる。	
		事前学修	テキスト65～68 頁	30分
		事後学修	テキスト68～72 頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 10/31	町にて	Lektion 10 店、施設、案内	
		この回の 到達目標	地図を使って、道を尋ねることができる。	
		事前学修	テキスト65～72 頁	30分
		事後学修	テキスト73～75 頁	30分
8	第一部土 11/7	交通	Lektion 10 乗り物、場所と方向を表す前置詞	
		この回の 到達目標	行きたいところについて話せる。	
		事前学修	テキスト73～75 頁	30分
		事後学修	テキスト76～80 頁	30分
9	第一部土 11/14	日程	Lektion 11 時刻	
		この回の 到達目標	一日について話せる。	
		事前学修	テキスト73～80 頁	30分
		事後学修	テキスト81～83 頁	30分
10	第一部 土11/21	時刻	Lektion 11 電車、営業時間	
		この回の 到達目標	時刻表現を理解する。	
		事前学修	テキスト81～83 頁	30分
		事後学修	テキスト84～87 頁	30分
11	第一部土 11/28	気候	Lektion 12 季節と天気	
		この回の 到達目標	天気予報を理解し、天気表現を知る。	
		事前学修	テキスト81～89 頁	30分
		事後学修	テキスト89～90 頁	30分
12	第一部土 12/5	過去	Lektion 12 現在完了形	
		この回の 到達目標	過去のことについて話せる。	
		事前学修	テキスト89～90 頁	30分
		事後学修	テキスト91～93 頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部土 12/12	過去		Lektion 12 観光、旅行
		この回の 到達目標	旅行について話せる。	
		事前学修	テキスト91～93 頁	30分
		事後学修	テキスト94～95 頁	30分
14	第一部土 12/19	テスト予備、振り返り		振り返り
		この回の 到達目標	まとめ	
		事前学修	テスト予備	120分
		事後学修	テスト勉強	120分
15	第一部土 12/26	テスト、まとめ		まとめ
		この回の 到達目標	理解度の確認	
		事前学修	テスト勉強	120分
		事後学修	振り返り	30分

科目名	コミュニケーション(独)ⅡA	担当者	V. カレンバルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDを見たりCDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でドイツ語会話を行う

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	参考書	任意
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	ドイツ語会話	何時でしたか？ 何をしましたか？	
		この回の到達目標	時間を伝えることができるようになる	
		事前学修	教科書を買う，事前にシラバスを確認しておくこと。（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	4月11日	ドイツ語会話	誰でしたか？ 何でしたか？（所有代名詞）	
		この回の到達目標	所有代名詞を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	4月18日	ドイツ語会話	どういうふうでしたか？	
		この回の到達目標	形容詞を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	4月25日	ドイツ語会話	話法助動詞の過去形	
		この回の到達目標	話法助動詞の過去形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	5月2日	ドイツ語会話	話法助動詞の過去形II	
		この回の到達目標	話法助動詞の過去形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	5月9日	ドイツ語会話	どこへ行きましたか？ どこにいましたか？ （三格と四格の練習）	
		この回の到達目標	方向と場所を伝えることができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月16日	ドイツ語会話	どうしてそれがわかりましたか？	
		この回の到達目標	理由を説明できる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	5月23日	ドイツ語会話	何に興味がありましたか？（再帰動詞をつかう）	
		この回の到達目標	再帰動詞を使える	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	5月30日	ドイツ語会話	なぜそうしましたか？	
		この回の到達目標	理由を説明できる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	6月6日	ドイツ語会話	ここまでの復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	6月13日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	6月20日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	7月4日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	7月11日	ドイツ語会話	まとめ・テスト	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	ここまで学んだことの復習（30分）	20分
		事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	コミュニケーション(独)ⅡA	担当者	A. リーパート	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】		
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Netzwerk neu A1.1	Stefanie Dengler	Klett	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	ガイダンス、導入授業	Lektion 1 挨拶とアルファベット	
		この回の到達目標	挨拶ができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	テキスト6～9頁	30分
2	第一部 土4/11	自己紹介	Lektion 1 出身地、居住地、数字、連絡先	
		この回の到達目標	正しい発音で会話ができる。	
		事前学修	テキスト6～9頁	30分
		事後学修	テキスト10～11頁	30分
3	第一部 土4/18	自己紹介	Lektion 1 国、言語、3人称	
		この回の到達目標	動詞の現在人称変化について理解する。	
		事前学修	テキスト6～11頁	30分
		事後学修	テキスト12～13頁	30分
4	第一部 土4/25	自己紹介	Lektion 1 DVD	
		この回の到達目標	DVDの会話を理解して、インターアクティブで話すことができる。	
		事前学修	テキスト6～13頁	30分
		事後学修	テキスト14頁	30分
5	第一部 土5/2	自己紹介	Lektion 2 趣味、待ち合わせ	
		この回の到達目標	不規則動詞の現在人称変化について理解する。	
		事前学修	テキスト6～15頁	30分
		事後学修	テキスト16～19頁	30分
6	第一部 土5/9	自己紹介	Lektion 2 職業、名詞の性と冠詞、複数形 be動詞	
		この回の到達目標	仕事について話せる。	
		事前学修	テキスト9～16頁	30分
		事後学修	テキスト17～19頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 5/16	自己紹介	Lektion 2 DVD	
		この回の 到達目標	DVDの会話を理解して、インターアクティブで話すことができる。	
		事前学修	テキスト16～19頁	30分
		事後学修	テキスト20～24頁	30分
8	第一部 土5/23	町にて	Lektion 3 町にある場所、建物、名詞の性と冠詞	
		この回の 到達目標	単語を知る、定冠詞と不定冠詞を正しく使う。	
		事前学修	テキスト24～25頁	30分
		事後学修	テキスト26～29頁	30分
9	第一部土 5/30	町にて	Lektion 3 交通、案内	
		この回の 到達目標	道を尋ねることができる。	
		事前学修	テキスト26～29頁	30分
		事後学修	テキスト30～31頁	30分
10	第一部 土6/6	ハンブルクにて	Lektion 3 イベント、季節	
		この回の 到達目標	ドイツの文化を知る。	
		事前学修	テキスト26～32頁	30分
		事後学修	テキスト32～33頁 復習	30分
11	第一部土 6/13	ミュンヘンにて	Lektion 3 DVD 観光	
		この回の 到達目標	会話を理解することができる。	
		事前学修	テキスト34頁	30分
		事後学修	テキスト24～35頁	30分
12	第一部土 6/20	食事	Lektion 4 買い物	
		この回の 到達目標	買い物で使う単語を知る。 4格目的語を正しく使う。	
		事前学修	テキスト26～35頁	30分
		事後学修	テキスト42～45頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部土 6/27	食事		Lektion 4 BBQ、招待
		この回の 到達目標	食事について話せる。	
		事前学修	テキスト42～45頁	30分
		事後学修	テキスト42～46頁	30分
14	第一部土 7/4	テスト予備、振り返り		振り返り
		この回の 到達目標	まとめ	
		事前学修	テスト予備	120分
		事後学修	テスト勉強	120分
15	第一部土 7/11	テスト、まとめ		まとめ
		この回の 到達目標	理解度の確認	
		事前学修	テスト勉強	120分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	60分

科目名	コミュニケーション(独)ⅡB	担当者	V. カレンバルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。A1レベルの口述試が合格できるレベル。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDを見たりCDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でドイツ語会話を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	参考書	任意
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月19日	ドイツ語会話	動詞の受け身 彼に何をされましたか？ (I)	
		この回の到達目標	受身形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
2	9月26日	ドイツ語会話	動詞の受け身 (II)	
		この回の到達目標	受身形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
3	10月3日	ドイツ語会話	彼は何をしましたか？ 彼女は元気でしたか？ (I)	
		この回の到達目標	第三者について伝えられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
4	10月10日	ドイツ語会話	彼は何をしましたか？ 彼女は元気でしたか？ (II)	
		この回の到達目標	第三者について伝えられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
5	10月17日	ドイツ語会話	状態の受け身 (I)	
		この回の到達目標	受け身形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
6	10月24日	ドイツ語会話	状態の受け身 (II)	
		この回の到達目標	受け身形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月31日	ドイツ語会話	動詞の未来形（I）	
		この回の到達目標	動詞の未来形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	11月7日	ドイツ語会話	動詞の未来形（II）	
		この回の到達目標	動詞の未来形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	11月14日	ドイツ語会話	自分の過去と未来を語る（I）	
		この回の到達目標	自分の過去と未来を語るができるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	11月21日	ドイツ語会話	自分の過去と未来を語る（II）	
		この回の到達目標	自分の過去と未来を語るができるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	11月28日	ドイツ語会話	ここまでの復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	12月5日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	12月19日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	12月26日	ドイツ語会話	まとめ・テスト	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	16回からの内容の復習	20分
		事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	コミュニケーション(独)ⅡB	担当者	A. リーパート	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。A1レベルの口述試が合格できるレベル。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】		
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Netzwerk neu A1.1	Stefanie Dengler	Klett	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部土 9/19	ガイダンス、導入授業	Lektion 1-4 復習	
		この回の 到達目標	前期の内容を思い出す。	
		事前学修	前期範囲の復習を行っておくこと	30分
		事後学修	テキスト42～44頁	30分
2	第一部土 9/26	食事	Lektion 4 食生活、好きなもの	
		この回の 到達目標	食事について話せる。 4格目的語を正しく使う。	
		事前学修	テキスト42～46頁	30分
		事後学修	テキスト47～49頁	30分
3	第一部土 10/3	食事	Lektion 4 DVD	
		この回の 到達目標	会話が分かる。	
		事前学修	テキスト40～49頁	30分
		事後学修	テキスト50頁	30分
4	第一部土 10/10	日常生活	Lektion 5 時刻、予定	
		この回の 到達目標	予定について話せる。	
		事前学修	テキスト40～51頁	30分
		事後学修	テキスト52～54頁	30分
5	第一部土 10/17	日常生活	Lektion 5 家族	
		この回の 到達目標	日常生活について話せる。 所有冠詞を正しく使う。	
		事前学修	テキスト52～54頁	30分
		事後学修	テキスト55～56頁	30分
6	第一部土 10/24	日常生活	Lektion 5 待ち合わせ、予約、助動詞	
		この回の 到達目標	メールを書くことができる。 電話で連絡することができる。	
		事前学修	テキスト52～56頁	30分
		事後学修	テキスト57～59頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 10/31	日常生活	Lektion 5 DVD	
		この回の 到達目標	会話が理解できる。	
		事前学修	テキスト52～59頁	30分
		事後学修	テキスト60頁	30分
8	第一部土 11/7	暇	Lektion 6 祝い事、日付け	
		この回の 到達目標	友達を招待することができる。	
		事前学修	テキスト52～61頁	30分
		事後学修	テキスト62～65頁	30分
9	第一部土 11/14	暇	Lektion 6 レストラン、メニュー	
		この回の 到達目標	レストランで注文することができる。 人称代名詞を正しく使う。	
		事前学修	テキスト62～65頁	30分
		事後学修	テキスト66～67頁	30分
10	第一部土 11/21	暇	Lektion 6 外出、遊び	
		この回の 到達目標	ドイツ語圏の文化を知る。	
		事前学修	テキスト66～67頁	30分
		事後学修	テキスト68～69頁	30分
11	第一部土 11/28	暇	Lektion 6 DVD	
		この回の 到達目標	会話が理解できる。	
		事前学修	テキスト62～69頁	30分
		事後学修	テキスト70頁	30分
12	第一部土 12/5	仕事場	Lektion 7 インタナシプ	
		この回の 到達目標	仕事の内容について話せる。 接続詞を使うことができる。	
		事前学修	プリント	30分
		事後学修	プリント	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部土 12/12	仕事場	Lektion 7 オフィス、用事	
		この回の 到達目標	用事について話せる。 前置詞を正しく使うことができる。	
		事前学修	プリント	30分
		事後学修	プリント	30分
14	第一部土 12/19	テスト予備、振り返り	振り返り	
		この回の 到達目標	まとめ	
		事前学修	テスト予備	120分
		事後学修	テスト勉強	120分
15	第一部土 12/26	テスト、まとめ	まとめ	
		この回の 到達目標	理解度の確認	
		事前学修	テスト勉強	120分
		事後学修	振り返り	30分

科目名	コミュニケーション(独)ⅢA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A2-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面においてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる。									3	3		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる。									3	3		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
studio d A2, ISBN 978-3-464-20712-3	Funk, Kuhn, Demme	Cornelsen	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Deutsch lernen	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	4月13日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Mehrsprachigkeit	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	4月20日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Rekorde	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	4月27日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Familienalbum	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	5月4日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Geburtstag	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	5月11日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Einladungen	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Eine Reise	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	5月25日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Reisepläne	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	6月1日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Hobbys	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	6月8日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Im Verein	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	6月15日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Medien	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	6月22日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Einkaufen im Internet	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。						
回数	日程	テーマ		内 容		
13	6月29日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Ausgehen			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
14	7月6日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Test及びまとめ、振り返り			
		事前学修	Üben (30 Minuten)			30分
		事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)			30分
15	7月13日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Video			
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)			30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)			30分

科目名	コミュニケーション(独)ⅢB	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常的・社会的場面における平易であるがスムーズなドイツ語コミュニケーションの習得 (A2-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面においてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自立的に使用できる能力を習得する。CEFRA2の口述試験に合格できるレベル。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる。								4	4		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる。								4	4		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
studio d A2, ISBN 978-3-464-20712-3	Funk, Kuhn, Demme	Cornelsen	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Rund ums Essen	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	9月21日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Ausgehen	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	9月28日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Stadtleben	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	10月5日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Wohnungssuche	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	10月12日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Was machen Sie, wennn...?	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	10月19日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Europa	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	日程	テーマ		内 容		
7	10月26日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Weimar			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
8	11月9日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Damals			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
9	11月16日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Arbeit			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
10	11月23日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Berufswunsch			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
11	11月30日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Feste			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
12	12月7日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Geschenke			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2月14日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	wiederholung復習	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	1 2月21日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
		事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
		事後学修	Test nacharbeiten (30 Minuten)	30分
15	1月18日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Party	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	ライティング(独)ⅡA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Aussprachetraining, Leseübungen in der Klasse und mit dem Partner, Grammatik anhand von Beispielen erlernen oder zu vertiefen und dann selber Sätze schreiben

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写を書いたり、文書で伝えることができる								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Lernplatz Deutsch, ISBN978-4-8102-0746-0	Tomoaki Seino	Dogakusha	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion1 挨拶とABC	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	4/13	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion2 動詞の現在人称	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	4/20	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion3 動詞の現在人称2とhaben, sein	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	4/27	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion3 動詞の現在人称とhaben, sein	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	5/4	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion4 名詞1と4かく、複数形	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	5/11	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion4 名詞1と4かく、複数形	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion5 特別な動詞、3かく	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	5/25	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion5 特別な動詞、3かく	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	6/1	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion6 前置詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	6/8	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion6 前置詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	6/15	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion7 人称代名詞、再起動詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	6/22	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion7 人称代名詞、再起動詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Wiederholung	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	7/6	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
		事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
		事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)	30分
15	7/13	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Deutsche Spiele	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	ライティング(独)ⅡB	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄に対処できるように、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、A2レベルの試験に合格する文書による意思疎通の能力を習得します。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Aussprachetraining, Leseübungen in der Klasse und mit dem Partner, Grammatik anhand von Beispielen erlernen oder zu vertiefen und dann selber Sätze schreiben

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写をスムーズに書いたり、文書で伝えることができる								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において到達目標①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Lernplatz Deutsch, ISBN978-4-8102-0746-0	Tomoaki Seino	Dogakusha	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	7/20	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion8 分離動詞、副文	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	9/14	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion8 分離動詞、副文	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	9/21	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion9 助動詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	9/28	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion9 助動詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	10/5	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion10 形容詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	10/12	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion10形容詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/19	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion11現在完了形	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	10/26	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion11 現在完了形	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	11/9	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion12 weil... wenn...	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	11/16	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion12 weil... wenn	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	11/23	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Wiederholung	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	11/30	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Video	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	12/14	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	A la carte	
		事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
		事後学修	Test nacharbeiten (30 Minuten)	30分
15	12/21	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	A la carte	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	飯島 幸夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
なし

【授業方法】
1. 発音を練習し 2. 文法の基礎を説明し 3. 例文を練習し 4. 問題練習を行います。 4. 小テストを実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施し、返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プチポワゾン	金子美都子、他	白水社	最新版	教科書	必携
備考	教科書に練習帳がついています。毎週使うので、必ず持ってきてください。				

【オフィスアワー】
土曜日、12時10分～ 授業終了後、授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方を説明する。	
		この回の到達目標	授業の進め方を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の進め方を理解する。	30分
		事後学修	教科書と辞書を用意し、シラバスを読み、授業の進め方を理解する。	30分
2	4月11日	発音	発音を説明し、練習する。	
		この回の到達目標	発音を理解し、できるようにする。	
		事前学修	音声（CD）を聞いて発音を練習する。	30分
		事後学修	音声（CD）を聞いて発音を練習する。	30分
3	4月18日	L. 1 不規則動詞・名詞・形容詞	L. 1 不規則動詞・名詞・形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	L. 1 不規則動詞・名詞・形容詞を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・名詞・形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・名詞・形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
4	4月25日	L. 1 練習問題	L. 1 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 1 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
5	5月2日	L. 2 不規則動詞・冠詞・否定文	L. 2 不規則動詞・冠詞・否定文を説明する。	
		この回の到達目標	L. 2 不規則動詞・冠詞・否定文を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・冠詞・否定文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・冠詞・否定文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
6	5月9日	L. 2 練習問題	L. 2 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 2 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5月16日	L. 3 規則動詞・疑問文	L. 3 規則動詞・疑問文を説明する。
		この回の到達目標	L. 3 規則動詞・疑問文を理解する。
		事前学修	規則動詞・疑問文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	規則動詞・疑問文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
8	5月23日	L. 3 練習問題	L. 3 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 3 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分
9	5月30日	L. 4 規則動詞・名詞・形容詞	L. 4 規則動詞・名詞・形容詞を説明する。
		この回の到達目標	L. 4 規則動詞・名詞・形容詞を理解する。
		事前学修	規則動詞・名詞・形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	規則動詞・名詞・形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
10	6月6日	L. 4 練習問題	L. 4 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 4 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分
11	6月13日	L. 5 不規則動詞・近接未来・近接過去	L. 5 不規則動詞・近接未来・近接過去を説明する。
		この回の到達目標	L. 5 不規則動詞・近接未来・近接過去を理解する。
		事前学修	不規則動詞・近接未来・近接過去について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	不規則動詞・近接未来・近接過去について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
12	6月20日	L. 5 練習問題	L. 5 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 5 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	L. 6 不規則動詞・指示形容詞・所有形容詞	L. 6 不規則動詞・指示形容詞・所有形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	L. 6 不規則動詞・指示形容詞・所有形容詞を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・指示形容詞・所有形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・指示形容詞・所有形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
14	7月4日	L. 6 練習問題	L. 6 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 6 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
15	7月11日	前期のまとめと授業内試験	授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	L. 1～L. 6 までを理解する。	
		事前学修	L. 1～L. 6 までについて 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L. 1～L. 6 までについて 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語基礎文法Aを同時履修すること

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
口が覚えるフランス語	山下利枝 他	三修社	2018	教科書	必携
ケータイ万能フランス語文法	久松健一	駿河台出版社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6 4/7	ガイダンス・導入講義	授業の目的・内容、進め方、教科書、参考書の紹介、テストの実施方法、成績評価方法について説明。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の指針を理解し、それに基づいて今後の学習計画を立てられる。	
		事前学修	教科書に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
2	4/13 4/14	形容詞	主語＋動詞＋形容詞の構文。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、形容詞を含む簡単な例文を開き取り、暗唱できる。	
		事前学修	1課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
3	4/20 4/21	形容詞の位置	名詞＋形容詞、形容詞＋名詞の構文。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、フランス語特有の形容詞の位置について理解し、それを用いた例文を開き取り暗唱できる。	
		事前学修	2課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
4	4/27 4/28	形容詞と副詞	主語＋動詞＋形容詞、主語＋動詞＋副詞の構文。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、形容詞、副詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	3課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
5	5/4 5/5	時の副詞	～mentを使った副詞、時の副詞の意味・用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、～mentを使った副詞、時の副詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	4課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
6	5/11 5/12	定冠詞と不定冠詞	le, la, les, un, uneなどの定冠詞、不定冠詞の意味・用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、le, la, les, un, uneなどの定冠詞、不定冠詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	5課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 5/19	部分冠詞	du, de laの意味・用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、部分冠詞du, de laを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	6課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	5/25 5/26	小テスト、ここまでまとめ	中間小テスト、これまでのまとめ。	
		この回の到達目標	7回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
		事前学修	7回目までの音で覚えたフレーズを書けるようにする。	30分
		事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分
9	6/1 6/2	指示形容詞と指示代名詞	ce, cette, celui-ci, celle-ciなどの指示形容詞、指示代名詞意味・用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞、指示代名詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	7課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	6/8 6/9	所有形容詞と所有代名詞	son, sa, ses, le sien, la sienneなどの所有形容詞、所有代名詞の意味・用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、son, sa, ses, le sien, la sienneなどの所有形容詞、所有代名詞の意味・用法を理解して暗唱できる。	
		事前学修	8課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	6/15 6/16	場所を表す前置詞	à, au, enなどの場所を表す前置詞の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、à, au, enなどの場所を表す前置詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	9課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	6/22 6/23	場所、時の前置詞	de, à, versなどの時・場所の前置詞の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、de, à, versなどの時・場所の前置詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。を理解し例文を暗唱できる。	
		事前学修	10課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 6/30	直接補語代名詞	直接補語代名詞le, la, lesの用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、直接補語代名詞le, la, lesを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	11課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	7/6 7/7	間接補語代名詞	間接補語代名詞lui, leurの用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、間接補語代名詞lui, leurを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	12課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
15	7/13 7/14	期末テスト、まとめ。	これまで音で覚えたフレーズをフランス語で書けるか、動詞の活用ができるかの確認。	
		この回の到達目標	14回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
		事前学修	14回目までに音で覚えたフレーズのフランス語の綴りの確認。	30分
		事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験については、ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ショコラティエヌ！	サガズ・ミシエル他	第三書房	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15：00～16：00 場所：研究室 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他メールによる問い合わせ・相談も受け付けます (eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6 4/7	オリエンテーション・導入 講義	1. 授業の説明 2. Initiation(p.9)
		この回の 到達目標	到達目標④に関連して、自己紹介の基本を修得して、自己紹介ができる
		事前学修	p. 6, 7の登場人物たちの紹介のページを見て、登場人物たちの名前や国籍を把握する。それらの国や都市がどこになるのか、地図上で調べる。 30分
		事後学修	学修した内容をダウンロードした音声によって確認し、小テストの準備をする 30分
2	4/13 4/14	私は日本人です（1）	1. 動詞 êtreの活用 2. フランス語のアルファベ(1) 3. 国籍名
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、居住地、出身、身分を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、自分のことを言う練習をしておく。宿題を行う 30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする 30分
3	4/20 4/21	私は日本人です（2）	1. 形容詞 2. フランス語のアルファベ（2） 3. 専門を答える
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、居住地、出身、身分、専攻を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、自分のことを言う練習をしておく。宿題を行う 30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする 30分
4	4/27 4/8	私の母はパリに住んでいます（1）	1. -er動詞の活用 2. 名詞 3. 前置詞（1）
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の家族に関して、名前、居住地、身分、話せる言語を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、家族のことを言う練習をしておく。宿題を行う 30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする 30分
5	5/4 5/5	私の母はパリに住んでいます（2）	1. 前置詞（2） 2. 所有形容詞（1） 3. 否定文
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の家族に関して、名前、居住地、身分、話せる言語を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、家族のことを言う練習をしておく。宿題を行う 30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする 30分
6	5/11 5/12	私はスマートフォンを持っています（1）	1. 不定冠詞 2. 動詞 avoirの活用
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、場所の表現を覚え、場所に関するやり取りを聞き取って答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、場所に関する語彙の発音を確認する。宿題を行う 30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする 30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18 5/19	私はスマートフォンを持っています（2）	1. 定冠詞 2. 所有形容詞（2） 3. 指示形容詞
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、場所の表現を覚え、場所に関するやり取りを聞き取って答えることができる。
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、場所に関する語彙の発音を確認する。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
8	5/25 5/26	私はスマートフォンを持っています（3）	前期中間試験 1. 動詞 avoirを使った表現 2. Il y a
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中間試験に解答できる。所有に関するやり取りを聞き取って答えることができる。
		事前学修	前期中間試験の準備をする
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
9	6/1 6/2	私はポップスが好きです（1）	中間試験の解説 1. 動詞 faire の活用 2. 疑問形容詞
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中間試験の解説を聞いて、自分の間違ったところが理解できる。日常的な自分の活動について、質問を聞き取って答えることができる。
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、曜日と日常的な活動の表現に関して発音の確認を行う。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
10	6/8 6/9	私はポップスが好きです（2）	1. 疑問文の作り方 2. 前置詞de, à + 定冠詞の縮約形
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、数字（1～99）を覚え、金額を言うことができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、数字（1～99）の発音の確認を行う。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
11	6/15 6/16	私はそこに行きたいです（1）	1. 複合過去の活用 2. 動詞 allerの活用
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去に行ったことに関して聞き取り、答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、ショッピングと服に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
12	6/22 6/23	私はそこに行きたいです（2）	1. 中性代名詞 y 2. 動詞 venirの活用 3. 不規則な形容詞
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、avoirを使った様々な表現を覚えて、関連する質問に答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、からだと飲み物に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 6/30	私は映画を見に行きました (1)	1. être を用いる複合過去 2. 部分冠詞	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合過去を用いた質問をし、さらに答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、様々な活動に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
14	7/6 7/7	私は映画を見に行きました (2)	1. 中性代名詞 en 2. 量の表現 3. 動詞 prendre の活用	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、食べ物に関するやりとりで質問し、さらに答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、時の表現と頻度に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
15	7/13 7/14	前期の総括	前期末試験とまとめ	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、期末試験に解答できる	
		事前学修	前期末試験の準備をする	180分
		事後学修	ポータルで公表された解答を確認して、前期の復習を行う	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基礎的な文法をまとめながら、音読や和訳、書き取り、会話の練習をします。DVD教材でフランスの文化について学ぶ機会も作ります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
パスカル・オ・ジャポン（CD付）	藤田祐二	白水社	2006年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合は授業内や授業前後に声を掛けてください。木曜日12:50～13:00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	フランス語と英語の違いについて	オリエンテーション フランス語に親しむ（１）：アルファベ・フランス語表現	
		この回の到達目標	フランス語と英語の違いを知り、発音に慣れる。	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	アルファベを覚えましょう。	30分
2	第一部 木4/16	フランス語特有の綴り字の読み方について	フランス語に親しむ（２）：綴り字の読み方	
		この回の到達目標	フランス語の綴り字の読み方を覚える。	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	綴り字の発音の規則を覚えましょう。	30分
3	第一部 木4/23	主語人称代名詞と動詞の活用	国籍を言う：主語人称代名詞・動詞	
		この回の到達目標	自分の国籍をフランス語で言い、動詞の活用に慣れる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	基本的な動詞の活用を覚えましょう。	30分
4	第一部 木4/30	自己紹介と形容詞の変化	名前・職業を言う：形容詞の性・数の一致	
		この回の到達目標	フランス語で自己紹介をする。また形容詞の変化を覚えて会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	形容詞の変化の原則を覚えましょう。	30分
5	第一部 木5/7	不定冠詞と指示代名詞	持ち物を尋ねる（１）：不定冠詞・指示代名詞	
		この回の到達目標	不定冠詞の変化を覚え、指示代名詞を使って簡単な応答が出来るようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	不定冠詞を覚えましょう。	30分
6	第一部 木5/14	形容詞の位置について	持ち物を尋ねる（２）：形容詞の位置	
		この回の到達目標	形容詞の位置に慣れ、持ち物についての簡単な応答が出来るようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	形容詞を使った表現を自分で考えてみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	定冠詞の変化と疑問文の作り方	趣味を語る（１）：定冠詞・疑問文	
		この回の到達目標	定冠詞の使い方と変化を覚え、疑問文を使って簡単な会話を出来るようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	定冠詞を覚えましょう。また自分でも疑問文を作ってみましょう。	30分
8	第一部 木5/28	疑問形容詞について	趣味を語る（２）：疑問形容詞	
		この回の到達目標	疑問形容詞の変化を覚え、簡単な会話が出来るようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	疑問形容詞を使った文を考えてみましょう。	30分
9	第一部 木6/4	1 課から 4 課までの復習	まとめの練習問題	
		この回の到達目標	ここまでで学んだ事項をしっかり身に身に付け、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	1 課から 4 課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
		事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
10	第一部 木6/11	否定文	誰か尋ねる（１）：否定文	
		この回の到達目標	否定文の作り方を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	否定文を自分で作ってみましょう。	30分
11	第一部 木6/18	人についての疑問代名詞	誰か尋ねる（２）：疑問代名詞	
		この回の到達目標	疑問代名詞を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	疑問代名詞を使った文を作ってみましょう。	30分
12	第一部 木6/25	前置詞と定冠詞の縮約	したいことを尋ねる：前置詞と定冠詞の縮約・疑問代名詞	
		この回の到達目標	前置詞と定冠詞の縮約法を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	縮約形を覚えましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	強勢形と所有形容詞	住んでいる所を言う：人称代名詞の強勢形・所有形容詞	
		この回の到達目標	強勢形と所有形容詞の使い方を学び、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	強勢形と所有形容詞の変化をしっかりと覚えましょう。	30分
14	第一部 木7/9	物についての疑問代名詞	何をしているか尋ねる：疑問代名詞・場所を表す前置詞	
		この回の到達目標	疑問代名詞の使い方を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	疑問代名詞を使った文を作ってみましょう。	30分
15	第一部 木7/16	まとめとテスト	前期のまとめ・期末テスト	
		この回の到達目標	前期に学んだことを身に付け、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	今までに学んだ文法事項や表現をまとめておきましょう。	30分
		事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと授業内試験は、授業時に、少なくともポータルで解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『やさしいサリュ（改訂版）』	田辺保子等	駿河台出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水 4／8 金 4／10	オリエンテーション，導入講義	授業の説明、アルファベ、綴り字の読み方、フランス語の挨拶	
		この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。アルファベ、綴り字の読み方を正確に発音できる。フランス語の挨拶ができる(達成目標①②③④に関連する)	
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	水 4／15 金 4／17	第一課：国籍、職業、名前を言う。名詞の性と数。	第一課：国籍、職業、名前を言う。名詞の性と数。	
		この回の到達目標	国籍、職業、名前をフランス語で聞いて理解し、自ら言うことができる。名詞の性と数について、理解し、説明することができる。また、この文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	水 4／22 金 4／24	第一課：国籍、職業、名前を言う。être、リエゾン・アンシェヌマン	第一課：国籍、職業、名前を言う。être、リエゾン・アンシェヌマン	
		この回の到達目標	国籍、職業、名前をフランス語で聞いて理解し、自ら言うことができる。être、リエゾン・アンシェヌマンについて、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	水 4／29 金 5／1	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier。	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier。	
		この回の到達目標	フランス語表現「住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	水 5／6 金 5／8	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。定冠詞、数（1～10）。都市、言語、学科。	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。定冠詞、数（1～10）。都市、言語、学科。	
		この回の到達目標	フランス語表現「住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞、数（1～10）、都市、言語、学科」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	水 5／13 金 5／15	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。不定冠詞。avoir, aimer	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。不定冠詞。avoir, aimer。	
		この回の到達目標	フランス語表現「家族・年齢を言う、好みを言う」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「不定冠詞。avoir, aimer」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水 5／20 金 5／22	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。否定文中のde、数（11～20）。家族、趣味。	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。否定文中のde、数（11～20）。家族、趣味。	
		この回の到達目標	フランス語表現「家族・年齢を言う、好みを言う」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「否定文中のde、数（11～20）、家族、趣味」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期中間試験の準備をする。	120分
8	水 5／27 金 5／29	前期中間試験 第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。部分冠詞、il y a。	前期中間試験の実施 第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。部分冠詞、il y a。	
		この回の到達目標	フランス語表現「食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「部分冠詞、il y a」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	前期中間試験の準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	水 6／3 金 6／5	中間試験解説 第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物。	前期中間試験の返却と解説 第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物。	
		この回の到達目標	フランス語表現「食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	水 6／10 金 6／12	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞。	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞。	
		この回の到達目標	フランス語表現「人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	水 6／17 金 6／19	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。数（20～60）。qui, comment。形状、性質、性格。	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。数（20～60）。qui, comment。形状、性質、性格。	
		この回の到達目標	フランス語表現「人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「数（20～60）、qui, comment。形状、性質、性格」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	水 6／24 金 6／26	第六課：行く、来る。定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形。	第六課：行く、来る。定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形。	
		この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水 7 / 1 金 7 / 3	第六課：行く、来る。数（60～100）、aller, venir	第六課：行く、来る。数（60～100）、aller, venir。	
		この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「数（60～100）、aller, venir」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期期末試験の準備をする。	120分
14	水 7 / 8 金 7 / 10	前期期末試験 第六課：行く、来る。国名、行き先。	前期期末試験の実施 第六課：行く、来る。国名、行き先。	
		この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「国名、行き先」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	前期期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	水 7 / 15 金 7 / 17	前期期末試験解説 前期の振り返り	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
		この回の到達目標	前期に学修した文法事項を理解し、説明することができる。また同様に、前期学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	試験の間違いをよく見直して、今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ぜんぶ話して！	レナ・ジュンタ清岡 智比古	白水社	2015年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	フランス語の学習の仕方を中心に話す。	
		この回の到達目標	到達目標①の準備を行う。	
		事前学修	アルファベットの音声を聞く。	30分
		事後学修	アルファベットの音を覚える。	30分
2	4/14	日常生活で用いる基礎表現	国籍や職業をたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。。	
		事前学修	1 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 課前半の単語を覚える。	30分
3	4/21	日常生活で用いる基礎表現	出身や学部をたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 課後半の単語を覚える。	30分
4	4/28	日常生活で用いる基礎表現	規則動詞を肯定・否定で使う。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	2 課前半の予習。	30分
		事後学修	2 課前半の単語を覚える。	30分
5	5/5	日常生活で用いる基礎表現	否定疑問形でたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	2 課後半の予習。	30分
		事後学修	2 課後半の単語を覚える。	30分
6	5/12	日常生活で用いる基礎表現	「～が好き？」とたずね、それにニュアンスをつけて答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	3 課前半の予習。	30分
		事後学修	3 課前半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	日常生活で用いる基礎表現	形容詞を使ってコメントする。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	3 課後半の予習。	30分
		事後学修	3 課後半の単語を覚える。	30分
8	5/26	日常生活で用いる基礎表現	「どこで」「だれと」をたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	4 課前半の予習。	30分
		事後学修	4 課前半の単語を覚える。	30分
9	6/2	日常生活で用いる基礎表現	質問の答えを展開させる。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	4 課後半の予習。	30分
		事後学修	4 課後半の単語を覚える。	30分
10	6/9	日常生活で用いる基礎表現	「～を持っている/持っていない」を表現する。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	5 課前半の予習。	30分
		事後学修	5 課前半の単語を覚える。	30分
11	6/16	日常生活で用いる基礎表現	年齢や学年をたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	5 課後半の予習。	30分
		事後学修	5 課後半の単語を覚える。	30分
12	6/23	日常生活で用いる基礎表現	家族の名前や身分・職業をたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	6 課前半の予習。	30分
		事後学修	6 課前半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	日常生活で用いる基礎表現	人について好き/きらいを言い、その人がどんな風か言う。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	6 課後半の予習。	30分
		事後学修	6 課後半の単語を覚える。	30分
14	7/7	日常生活で用いる基礎表現	さまざまな活動について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	7 課の予習。	30分
		事後学修	7 課の単語を覚える。	30分
15	7/14	前期のまとめ	試験および課題の解説。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	藤井 陽子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎表現Bと続けて履修することが望ましい。

【授業方法】
発音・会話練習を中心に、教科書の内容にしたがってCD・DVD等を利用しながら授業を進める。 毎回小テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音・会話練習をグループワークで行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『きみと話したい！フランス語』	大久保政憲	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14：40～18：00 授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部水 4/8	ガイダンス アルファベ	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業準備をスムーズに行うことができる。 アルファベの発音を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、アルファベに含まれるフランス語の基本的な音を聞き取り、発音できるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。 ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を整理する。 フランス語のアルファベの読みを暗記する。	30分
2	第二部水 4/15	フランス語の文字と発音	フランス語の発音の規則を学ぶ。それによって受講生は基本的な母音と子音の発音が理解できるようになる。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、フランス語のつづり字と発音の関係が理解できるようになる。	
		事前学修	教科書5～6ページの発音の規則に目を通しておく。	30分
		事後学修	発音規則を確認しながら単語の読みを復習する。	30分
3	第二部水 4/22	1課 あいさつ	日常会話で用いられる挨拶の表現を学ぶ。それによって受講生は周囲の人にフランス語で挨拶できるようになる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、フランスの挨拶を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	1課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
4	第二部水 4/29	1課 自己紹介	être動詞を用いた国籍や職業を示す表現を学ぶ。それによって受講生は自分や周囲の人の国籍や職業を説明できるようになる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、国籍や職業を示す表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
5	第二部水 5/6	2課 名詞と冠詞	名詞と冠詞の用法を学ぶ。それによって受講生は様々な単語をフランス語で言えるようになる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、簡単な単語を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	2課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
6	第二部水 5/13	2課 提示表現	さまざまな提示表現を学ぶ。それによって受講生は周囲のものを指し示すことができるようになる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、提示表現を含む文を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部水 5/20	3課 動詞avoir	動詞avoirの活用と用法を学ぶ。それによって受講生はavoirを用いた表現を習得することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、avoirを含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	3課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
8	第二部水 5/27	3課 疑問文と否定文	疑問文・否定文の作り方を学ぶ。それによって受講生は質問をしたり答えたりできるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、質問を聞き取って理解し、答えたり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
9	第二部水 6/3	4課 第1群規則動詞の活用	第1群規則動詞（er動詞）の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は様々な動作を表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、er動詞を含む表現を正しく聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	4課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
10	第二部水 6/10	4課 形容詞	形容詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は、色や性質などを説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
11	第二部水 6/17	5課 部分冠詞	部分冠詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は冠詞の使い分けを正しく理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、部分冠詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	5課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
12	第二部水 6/24	5課 中性代名詞 en	中性代名詞 en の用法を学ぶ。それによって受講生は中性代名詞を含む日常表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中性代名詞 en を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部水 7/1	6課 動詞 aller, venir	動詞 aller, venir について学ぶ。それによって受講生は自分が行きたいところや出身地などを表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、aller, venir を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	6課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
14	第二部水 7/8	6課 疑問副詞	疑問副詞の意味と用法を学ぶ。それによって受講生は場所や時などを尋ねられるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問副詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	前期の授業内容を整理し、全体を復習する。	30分
15	第二部水 7/15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	30分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	飯島 幸夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
なし

【授業方法】
1. 発音を練習し 2. 文法の基礎を説明し 3. 例文を練習し 4. 問題練習を行います。 5. 小テストを実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
小テストを実施し、返却します。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プチポワゾン	金子美都子、他	白水社	最新版	教科書	必携
備考	教科書に練習帳がついています。授業で毎週使うので、必ず持ってきてください。				

【オフィスアワー】	
土曜日 12：10～ 授業終了後、授業講堂にて	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月19日	L. 7 不規則動詞・疑問形容詞・疑問代名詞	L. 7 不規則動詞・疑問形容詞・疑問代名詞を説明する。	
		この回の到達目標	L. 7 不規則動詞・疑問形容詞・疑問代名詞を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・疑問形容詞・疑問代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・疑問形容詞・疑問代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
2	9月26日	L. 7 練習問題	L. 7 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 7 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
3	10月3日	L. 8 非人称構文	L. 8 非人称構文を説明する。	
		この回の到達目標	L. 8 非人称構文を理解する。	
		事前学修	非人称構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	非人称構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
4	10月10日	L. 8 練習問題	L. 8 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 8 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
5	10月17日	L. 9 不規則動詞・部分冠詞・数量表現	L. 9 不規則動詞・部分冠詞・数量表現を説明する。	
		この回の到達目標	L. 9 不規則動詞・部分冠詞・数量表現を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・部分冠詞・数量表現について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・部分冠詞・数量表現について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
6	10月24日	L. 9 練習問題	L. 9 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 9 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10月31日	L. 10 不規則動詞・命令形	L. 10 不規則動詞・命令形を説明する。
		この回の到達目標	L. 10 不規則動詞・命令形を理解する。
		事前学修	不規則動詞・命令形について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	不規則動詞・命令形について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
8	11月7日	L. 10 練習問題	L. 10 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 10 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分
9	11月14日	L. 11 不規則動詞・目的語人称代名詞	L. 11 不規則動詞・目的語人称代名詞を説明する。
		この回の到達目標	L. 11 不規則動詞・目的語人称代名詞を理解する。
		事前学修	不規則動詞・目的語人称代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	不規則動詞・目的語人称代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
10	11月21日	L. 11 練習問題	L. 11 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 11 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分
11	11月28日	L. 12 不規則動詞・中性代名詞	L. 12 不規則動詞・中性代名詞を説明する。
		この回の到達目標	L. 12 不規則動詞・中性代名詞を理解する。
		事前学修	不規則動詞・中性代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	不規則動詞・中性代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
12	12月5日	L. 12 練習問題	L. 12 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 12 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	L. 13 不規則動詞・比較級・最上級	L. 13 不規則動詞・比較級・最上級を説明する。	
		この回の到達目標	L. 13 不規則動詞・比較級・最上級を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・比較級・最上級について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・比較級・最上級について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
14	12月19日	L. 13 練習問題	L. 13 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 13 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
15	12月26日	後期のまとめと授業内試験	授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	L. 7～L. 13 まで理解する。	
		事前学修	L. 7～L. 13 について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L. 7～L. 13 について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
簡単なフレーズを繰り返し聞いて発音しながら、文法的解説を適宜加えていく。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
口が覚えるフランス語	山下利枝 他	三修社出版	2018	教科書	必携
ケータイ万能フランス語文法	久松健一	駿河台出版社	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 9/15	ガイダンス・導入講義	後期ガイダンス、簡単なフランス語の音声に触れる。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、簡単なフランス語の文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	教科書の13課以降に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
2	9/21 9/22	強勢形代名詞	moi, toiなどの強勢形代名詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、moi, toiなどの強勢形代名詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	13課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
3	9/28 9/29	中性代名詞 en	中性代名詞の種類、enの文法的用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、中性代名詞の種類、文法的用法を理解し、その中のenを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	14課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
4	10/5 10/6	中性代名詞 y	中性代名詞 yの文法的用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、中性代名詞の種類、文法的用法を理解し、その中のyを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	15課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
5	10/12 10/13	代名詞の位置	le, la, les, en, y, leur, luiなどの直接代名詞、間接代名詞、中性代名詞の語順・位置。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、le, la, les, en, y, leur, luiなどの直接代名詞、間接代名詞、中性代名詞のを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	16課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
6	10/19 10/20	単純関係代名詞	単純関係代名詞qui, que, dont, oùの用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、単純関係代名詞qui, que, dont, oùを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	17課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/27	複合関係代名詞	複合関係代名詞lequel, laquelle, auquel, duquelとその複数形。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、複合関係代名詞lequel, laquelle, auquel, duquelとその複数形を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	18課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	11/9 11/10	小テスト、ここまでのまとめ	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	7回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分
9	11/16 11/17	疑問形と否定形	簡単な構文の疑問形est-ce queなどと否定形ne pas, non plusなどの表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、疑問形と否定形を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	19課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	11/23 11/24	様々な疑問表現	où, quand, comment, combien, pourquoiなどの様々な疑問表現を用いた疑問文。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、様々な疑問表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	20課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	11/30 12/1	様々な否定表現	ne pas, ne plus, ne que, ne ni, ne plusなどの様々な否定表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、ne pas, ne plus, ne que, ne ni, ne plusなどの様々な否定表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	21課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	12/7 12/8	時間の表現	il y a, depuis, pour, pendantなどの時間・時間継続を表す表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、il y a, depuis, pour, pendantなどの時間・時間継続の表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	22課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/15	比較表現	moins, plusなどの比較表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、moins, plusなどの比較表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	23課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	12/21 12/22	間接話法	Il dit que, il dit de, il m'explique queなどの間接話法の構文を学ぶ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il dit que, il dit de, il m'explique queなどの間接話法の構文を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	24課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
15	1/12 1/18	期末テスト、まとめ	期末テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	14回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
		事前学修	9回目からの授業の復習。	30分
		事後学修	答案の間違った箇所を見直し・復習。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験については、ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ショコラティエヌ！	サガズ・ミシエル他	第三書房	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15：00～16：00 場所：研究室 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他メールによる問い合わせ・相談も受け付けます (eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 9/15	たくさんの子供がいました (1)	1. 半過去 (1) 2. 動詞 attendre の活用	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去の状況について質問し、答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、量に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
2	9/21 9/2	たくさんの子供がいました (2)	1. 半過去 (2) 2. 時の表現 3. 動詞 connaître の活用	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去の状況について質問し、答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、食品に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
3	9/28 9/29	テニスをするでしょう (1)	1. 助動詞 vouloir の活用 (第6課) 2. 近接過去	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、今までに学んだ時制を組み合わせる質問し、答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、食事とニュアンスに関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
4	10/5 10/6	テニスをするでしょう (2)	1. 近接未来 2. 単純未来 (1) 3. 時の表現	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、未来の計画について質問し、答えることができる (1)	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、食事とニュアンスに関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
5	10/12 10/13	テニスをするでしょう (3)	1. 単純未来 (2) 2. 時の表現 (2)	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、未来の計画について質問し、答えることができる (2)	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、評価に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
6	10/19 10/20	どのくらい時間がかかりま すか (1)	1. 比較級 2. 条件法 (丁寧な言い方) 3. Il faut	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、交通機関について質問し、答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、交通機関に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/26 10/27	どのくらい時間がかかり ますか（2）	1. 最上級 2. 空間に関する表現
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、空間に関するやり取りで質問し、答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、位置に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。中間試験の準備をする
8	11/9 11/10	何時ですか（1）	後期中間試験 1. 時間に関する表現 2. 代名動詞
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、中間試験に回答することができる。友人を誘うやり取りで質問し、答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、時間に関する語彙の発音の確認を行う（1）。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。中間試験の準備をする
9	11/16 11/17	何時ですか（2）	前期中間テストの解説 1. 命令法
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、日常生活の行動を時間を入れて質問し、答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、時間に関する語彙の発音の確認を行う（2）。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
10	11/23 11/24	おごってくれるの？（1）	1. 人称代名詞（1）
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、活動を提案し、誘いを受ける（断る）ことができる（1）
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、提案に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
11	11/30 12/1	おごってくれるの？（2）	1. 人称代名詞（2） 2. 天候表現
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、活動を提案し、誘いを受ける（断る）ことができる（1）
		事前学修	天候表現に関して、発音を確認しておく。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
12	12/7 12/8	面白そう（1）	1. 疑問代名詞（11課）（1） 2. 関係代名詞 qui と que
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、人物を描写することができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、サプライズに関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/15	面白そう（2）	1. 疑問代名詞（11課）（2） 2. その他の関係代名詞	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、印章や気持ちを言うことができる（1）	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、様子に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
14	12/21 12/22	面白そう（3）	1. 強調構文 2. ジェロンディフ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、印章や気持ちを言うことができる（2）	
		事前学修	宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。期末試験の準備をする	30分
15	1/18 1/12	後期の総括	後期末試験とまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後期末試験に解答することができる	
		事前学修	後期末試験の準備をする	180分
		事後学修	ポータルで公表された正解を確認し、後期の復習を行う	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基礎的な文法をまとめながら、音読や和訳、書き取り、会話の練習をします。DVD教材でフランスの文化について学ぶ機会も作ります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
パスカル・オ・ジャポン（CD付）	藤田祐二	白水社	2006年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合は授業内や授業前後に声を掛けてください。木曜日12:50～13:00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	前期の復習	ガイダンス まとめの練習問題	
		この回の到達目標	前期に学んだことを復習し、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	5課から8課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
		事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
2	第一部 木9/24	冠詞の変形と女性形容詞	家族を語る：否定文における冠詞の変形・女性形容詞の特殊な形	
		この回の到達目標	否定文で変化する冠詞や特殊な女性形容詞を使って会話出来るようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	形容詞の女性形をまとめてみましょう。	30分
3	第一部 木10/1	数字と疑問副詞	年齢を言う：数字（1～30）・疑問副詞	
		この回の到達目標	数字や疑問副詞を覚えて、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください	30分
		事後学修	数字を30まで暗記しましょう。	30分
4	第一部 木10/8	時刻の表現	時刻を言う：時刻の言い方・時の前置詞	
		この回の到達目標	時刻の表現を覚えて、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	様々な時刻をフランス語で言う練習をしてみましょう。	30分
5	第一部 木10/15	9課から11課までの復習	まとめの練習問題	
		この回の到達目標	9課から11課までで学んだ事項を使って、会話出来るようになる①②③④	
		事前学修	9課から11課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
		事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
6	第一部 木10/22	人称代名詞と指示代名詞	紹介する：補語人称代名詞・指示代名詞	
		この回の到達目標	人称代名詞と指示代名詞を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	補語人称代名詞の変化を覚えましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	代名動詞と近接未来・過去	日常生活の表現：代名動詞・近接未来と近接過去	
		この回の到達目標	代名動詞や近接未来・過去を使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	近接未来と近接過去の文を作ってみましょう。	30分
8	第一部 木11/5	部分冠詞と中性代名詞en	量を表す：部分冠詞・中性代名詞 en	
		この回の到達目標	部分冠詞を使う名詞や、中性代名詞enを使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	部分冠詞を覚えましょう。	30分
9	第一部 木11/12	命令形、中性代名詞y	天候を言う：命令形・中性代名詞 y・天候の表現	
		この回の到達目標	命令形や中性代名詞yを使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	命令形の文を作ってみましょう。	30分
10	第一部 木11/19	1 2 課から 1 5 課までの復習	まとめの練習問題	
		この回の到達目標	1 2 課から 1 5 課までで学んだ事項を使って、簡単な会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	1 2 課から 1 5 課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
		事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
11	第一部 木12/3	比較級と指示代名詞	比較する：比較級・指示代名詞	
		この回の到達目標	比較表現や指示代名詞を使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	比較級の文を作ってみましょう。	30分
12	第一部 木12/10	複合過去形	過去のことを語る：複合過去形	
		この回の到達目標	過去形を使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	複合過去形の文を作ってみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	単純未来形	未来のことを語る：単純未来形	
		この回の到達目標	未来形を使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	単純未来形の文を作ってみましょう。	30分
14	第一部 木12/24	1 6 課から 1 8 課までの復習	まとめの練習問題	
		この回の到達目標	1 6 課から 1 8 課までで学んだ事項を使って、会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	1 6 課から 1 8 課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
		事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	第一部 木1/14	後期のまとめとテスト	後期のまとめ・期末テスト	
		この回の到達目標	後期で学んだ事項を使って、会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	今までに学んだ文法事項や表現をまとめておきましょう。	30分
		事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと授業内試験は、授業時に、返却・解説する。少なくともポータルで解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『やさしいサリュ（改訂版）』	田辺保子等	駿河台出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
1	水 9／16 金 9／18	オリエンテーション 第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。		授業の説明、第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。	
		この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。		
2	水 9／23 金 9／25	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。		第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。	
		この回の到達目標	フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		
3	水 9／30 金 10／2	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。faireの慣用表現、家事。		第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。faireの慣用表現、家事。	
		この回の到達目標	フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「faireの慣用表現、家事」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		
4	水 10／7 金 10／9	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。近接未来、近接過去		第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。近接未来、近接過去	
		この回の到達目標	フランス語表現「近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「近接未来、近接過去」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		
5	水 10／14 金 10／16	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分		第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分	
		この回の到達目標	フランス語表現「近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		
6	水 10／21 金 10／23	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。代名動詞、指示形容詞。		第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。代名動詞、指示形容詞。	
		この回の到達目標	フランス語表現「日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「代名動詞、指示形容詞」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水 1 0 / 2 8 金 1 0 / 3 0	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。非人称 (il fait)、se lever、時の表現。	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。非人称 (il fait)、se lever、時の表現。	
		この回の到達目標	フランス語表現「日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「非人称 (il fait)、se lever、時の表現」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、後期中間試験の準備をする。	120分
8	水 1 1 / 1 1 金 1 1 / 6	後期中間試験 第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。定冠詞の縮約(de)。	後期中間試験 第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。定冠詞の縮約(de)。	
		この回の到達目標	フランス語表現「場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞の縮約(de)」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	後期中間試験の準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	水 1 1 / 1 8 金 1 1 / 1 3	後期中間試験解説 第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。命令形、前置詞（場所）、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所。	後期中間試験解説 第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。命令形、前置詞（場所）、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所。	
		この回の到達目標	フランス語表現「場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「命令形、前置詞（場所）、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	水 1 1 / 2 5 金 1 1 / 2 0	第十一課：過去のことを語る（１）、否定表現（１）。複合過去（avoir）、様々な否定表現（１）。	第十一課：過去のことを語る（１）、否定表現（１）。複合過去（avoir）、様々な否定表現（１）。	
		この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る（１）、否定表現（１）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「複合過去（avoir）、様々な否定表現（１）」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	水 1 2 / 2 金 1 1 / 7	第十一課：過去のことを語る（１）、否定表現（１）。中性代名詞（en）、趣味、通信。	第十一課：過去のことを語る（１）、否定表現（１）。中性代名詞（en）、趣味、通信。	
		この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る（１）、否定表現（１）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「中性代名詞（en）、趣味、通信」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	水 1 2 / 9 金 1 2 / 4	第十二課：過去のことを語る（２）、否定表現（２）。複合過去（être）、様々な否定表現（２）。	第十二課：過去のことを語る（２）、否定表現（２）。複合過去（être）、様々な否定表現（２）。	
		この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る（２）、否定表現（２）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「複合過去（être）、様々な否定表現（２）」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水 1 2 / 1 6 金 1 2 / 1 1	第十二課：過去のことを語る（２）、否定表現（２）。中性代名詞（y）。	第十二課：過去のことを語る（２）、否定表現（２）。中性代名詞（y）。	
		この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る（２）、否定表現（２）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「中性代名詞（y）」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、後期期末試験の準備をする。	120分
14	水 1 2 / 2 3 金 1 2 / 1 8	後期期末試験 第七課から第九課の振り返り。	後期期末試験の実施 第七課から第九課の振り返り。	
		この回の到達目標	第七課から第九課に学修した事項を理解し、説明することができる。またこの範囲で学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	後期期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	水 1 / 1 3 金 1 2 / 2 5	後期期末試験解説 第十課から第十二課の振り返り。	後期期末試験の返却と解説 第十課から第十二課の振り返り。	
		この回の到達目標	第十課から第十二課に学修した事項を理解し、説明することができる。また同様にこの範囲で学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	試験の間違いをよく見直して、後期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ぜんぶ話して！	レナ・ジュンタ清岡智比古	白水社	2015年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	日常生活で用いる基礎表現	食事について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	8 課前半の予習。	30分
		事後学修	8 課前半の単語を覚える。	30分
2	9/22	日常生活で用いる基礎表現	頻度を表現する。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	8 課後半の予習。	30分
		事後学修	8 課後半の単語を覚える。	30分
3	9/29	日常生活で用いる基礎表現	よく行く場所について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	9 課前半の予習。	30分
		事後学修	9 課前半の単語を覚える。	30分
4	10/ 6	日常生活で用いる基礎表現	移動手段について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	9 課後半の予習。	30分
		事後学修	9 課後半の単語を覚える。	30分
5	10/ 13	日常生活で用いる基礎表現	習慣についてたずね、代名詞を使って答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 0 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 0 課前半の単語を覚える。	30分
6	10/ 20	日常生活で用いる基礎表現	代名動詞を使って習慣について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 0 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 0 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 27	日常生活で用いる基礎表現	生活時間についてたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 1 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 1 課前半の単語を覚える。	30分
8	11/ 10	日常生活で用いる基礎表現	計画についてたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 1 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 1 課後半の単語を覚える。	30分
9	11/ 17	日常生活で用いる基礎表現	行きたい場所についてたずね、その土地の天候について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 2 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 2 課前半の単語を覚える。	30分
10	11/ 24	日常生活で用いる基礎表現	アドバイスを求める/与える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 2 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 2 課後半の単語を覚える。	30分
11	12/1	日常生活で用いる基礎表現	過去の出来事について質問し、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 3 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 3 課前半の単語を覚える。	30分
12	12/8	日常生活で用いる基礎表現	過去の表現を使って、一日の出来事・週末・ヴァカンスについて話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。達成する。	
		事前学修	1 3 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 3 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/ 15	日常生活で用いる基礎表現	代名詞を使って、過去の事柄を話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 4 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 4 課前半の単語を覚える。	30分
14	12/ 22	日常生活で用いる基礎表現	話を組み立てて、一日の行動を話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 4 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 4 課後半の単語を覚える。	30分
15	1/12	後期のまとめ	試験および課題の解説。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	藤井 陽子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎表現Aより引き続き履修することが望ましい。

【授業方法】
発音・会話練習を中心に、教科書の内容にしたがってCD・DVD等を利用しながら授業を進める。 毎回小テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発音・会話練習をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『きみと話したい！フランス語』	大久保政憲	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14：40～18：00 授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部水 9/16	6課までの復習 7課 時刻表現	1～6課の復習をする。7課の時刻表現を学ぶ。それによって受講生は時刻表現の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時刻を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	7課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
2	第二部水 9/23	7課 非人称構文	さまざまな非人称構文を学ぶ。それによって受講生は時刻や天候を表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、非人称構文を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
3	第二部水 9/30	8課 近接未来・近接過去	近接未来や近接過去の表現を学ぶ。それによって受講生は未来の予定や、最近したことについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、近接未来・近接過去を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	8課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
4	第二部水 10/7	8課 中性代名詞 y	中性代名詞 y の用法を学ぶ。それによって受講生は中性代名詞を正しく理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中性代名詞 y を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
5	第二部水 10/14	9課 比較級・最上級	比較級・最上級表現を学ぶ。それによって受講生は2つ以上のものを比べる表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、比較級・最上級を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	9課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
6	第二部水 10/21	9課 指示代名詞	指示代名詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は指示代名詞を用いた比較表現などを理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、指示代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部水 10/28	10課 目的語人称代名詞	目的語人称代名詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は目的語人称代名詞を含む表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、目的語人称代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	10課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
8	第二部水 11/11	10課 疑問代名詞	疑問代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は人を尋ねる表現を習得することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
9	第二部水 11/18	10課 フランス映画	フランス映画を見て単語や表現を聞き取る練習をする。それによって受講生は映画中に使用されている表現を理解し、確認することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、映画中に含まれる表現を聞き取って理解できるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	フランス映画について授業内容を参考にまとめる。	30分
10	第二部水 11/25	11課 代名動詞	代名動詞の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は日常生活について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代名動詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	11課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
11	第二部水 12/2	11課 命令形	命令形の形と用法を学ぶ。それによって受講生は他人に命令したりお願いをしたりできるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、命令形を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
12	第二部水 12/9	12課 複合過去（1）	助動詞 avoir を用いた複合過去の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は過去の出来事を表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合過去を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	12課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部水 12/16	12課 複合過去（2）	助動詞 être を用いた複合過去の用法を学ぶ。それによって受講生は適切な過去表現ができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合過去を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
14	第二部水 12/23	13課 単純未来	単純未来の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は将来のことが説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、単純未来を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	13課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	これまでの授業内容を整理し、全体を復習する。	30分
15	第二部水 1/13	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	30分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	飯島 幸夫	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
1. 発音を練習し 2. 文法の基礎を説明し 3. 問題練習を行います。 4. 小テストを実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施し、返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ル・フランセ	斎藤昌三	白水社	最新版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日、10時30分～ 授業終了後、授業講堂において

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方を説明する。	
		この回の到達目標	授業の進め方を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の進め方を理解する。	30分
		事後学修	教科書と辞書を用意し、シラバスを読み、授業の進め方を理解する。	30分
2	4月11日	発音	発音を説明し、練習する。	
		この回の到達目標	発音を理解し、できるようにする。	
		事前学修	音声をダウンロードし、発音を練習する。	30分
		事後学修	音声を聞きながら、発音を練習する。	30分
3	4月18日	L1 名詞・不定冠詞・部分冠詞	名詞・不定冠詞・部分冠詞を説明する。	
		この回の到達目標	名詞・不定冠詞・部分冠詞を理解する。	
		事前学修	L1 名詞・不定冠詞・部分冠詞について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L1 名詞・不定冠詞・部分冠詞について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
4	4月25日	L1 練習問題	練習問題を行う。	
		この回の到達目標	練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
5	5月2日	L2 定冠詞・慣用句	定冠詞・慣用句を説明する。	
		この回の到達目標	定冠詞・慣用句を理解する。	
		事前学修	L2 定冠詞・慣用句について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L2 定冠詞・慣用句について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
6	5月9日	L2 練習問題	練習問題を行う。	
		この回の到達目標	練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月16日	L3 主語人称代名詞・規則動詞	主語人称代名詞・規則動詞を説明する。	
		この回の到達目標	主語人称代名詞・規則動詞を理解する。	
		事前学修	L3 主語人称代名詞・規則動詞について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L3 主語人称代名詞・規則動詞について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
8	5月23日	L3 練習問題	練習問題を行う。	
		この回の到達目標	練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
9	5月30日	L4 不規則動詞・指示形容詞	不規則動詞・指示形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	不規則動詞・指示形容詞を理解する。	
		事前学修	L4 不規則動詞・指示形容詞について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L4 不規則動詞・指示形容詞について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
10	6月6日	L4 練習問題	練習問題を行う。	
		この回の到達目標	練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
11	6月13日	L5 形容詞	形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	形容詞を理解する。	
		事前学修	L5 形容詞について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L5 形容詞について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
12	6月20日	L5 練習問題	練習問題を行う。	
		この回の到達目標	練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	L6 不規則動詞・疑問形容詞	不規則動詞・疑問形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	不規則動詞・疑問形容詞を理解する。	
		事前学修	L6 不規則動詞・疑問形容詞について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L6 不規則動詞・疑問形容詞について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
14	7月4日	L6 練習問題	練習問題を行う。	
		この回の到達目標	練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
15	7月11日	前期のまとめと授業内試験	前期のまとめと授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	前期の授業内容を理解する。	
		事前学修	L1～L6について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L1～L6について、1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味をもっていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、フランス語のフレーズを反復して聞いて、発話します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話・反復してもらいます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験答案返却時に解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語ブルー 1 トリコロール 文法編	高橋信良 他	朝日出版	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/7 4/8	ガイダンス・導入講義	。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 フランス語の特徴を理解し、音とつづりを一致させることができる。
		事前学修	指定教材とポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。
		事後学修	指定教材フランス語ブルー1に目を通しておいってください。
2	4/14 4/15	Leçon0: フランス語の綴り・発音	フランス語の音声・綴りに馴染む。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 発音、綴りを理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	0課に目を通し、知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
3	4/21 4/22	Leçon1: 主語人称代名詞	Leçon1: 主語人称代名詞と動詞être、性・数一致、リエゾン、アンシェヌマン。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、主語人称代名詞と動詞être、性・数一致、リエゾン、アンシェヌマンを理解し練習問題を解ける。
		事前学修	1課に目を通し、知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
4	4/28 4/29	Leçon2: 動詞avoir	動詞avoir, 不定冠詞、エリズィオン。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞avoir, 不定冠詞、エリズィオンを理解し練習問題を解ける。
		事前学修	2課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
5	5/5 5/6	Leçon3: 形容詞	C'est/Ce sont, Il y aとVoici/Voilà, 形容詞。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、C'est/Ce sont, Il y aとVoici/Voilà, 形容詞を理解し練習問題を解ける。
		事前学修	3課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
6	5/12 5/13	Leçon4: 第一群規則動詞	第一群規則動詞aimer, 定冠詞と部分冠詞、否定文、疑問文。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、第一群規則動詞aimer, 定冠詞と部分冠詞、否定文、疑問文を理解し練習問題を解ける。
		事前学修	4課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19 5/20	Leçon 5: 動詞aller, venir	動詞aller, venir, 前置詞と定冠詞の縮約。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞aller, venir, 前置詞と定冠詞の縮約を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	5課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
8	5/26 5/27	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの文法事項を理解し、練習問題を解ける。	
		事前学修	0, 1, 2, 3, 4, 5課の復習。	30分
		事後学修	答案で間違えた事項の復習。	30分
9	6/2 6/3	Leçon 6: 動詞faire	動詞faire、疑問形容詞、所有形容詞を理解し練習問題を解ける。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞faire、疑問形容詞、所有形容詞を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	6課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
10	6/9 6/10	Leçon 7: 第二群規則動詞	第二群規則動詞とpartir, 代名動詞、受動態。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、第二群規則動詞とpartir, 代名動詞、受動態を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	7課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
11	6/16 6/17	Leçon 8: 直接法複合過去	直接法複合過去、補語人称代名詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直接法複合過去、補語人称代名詞を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	8課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
12	6/23 6/24	Leçon9: 語幹の特殊変化 préférer	語幹の特殊変化 préférer、指示形容詞、指示代名詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、語幹の特殊変化 préférer、指示形容詞、指示代名詞を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	9課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30 7/1	Leçon 10: 動詞pouvoir, vouloir	動詞pouvoir, vouloir、疑問代名詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞pouvoir, vouloir、疑問代名詞を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	10課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
14	7/7 7/8	Leçon11: 比較級、最上級	形容詞の比較級、最上級の作り方。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、比較級、最上級を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	11課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
15	7/14 7/15	期末テスト、採点、解説、まとめ。	期末テスト、採点、解説、まとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの文法事項を理解し、練習問題を解ける。	
		事前学修	後半6, 7, 8, 9, 10, 11課の復習。	30分
		事後学修	採点で間違えた事項の復習。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	第三書房	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15:00~16:00 場所：研究室 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 （メールによる問い合わせ・相談も受け付けます：eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/10	オリエンテーション・導入講義	授業の説明およびフランス語の挨拶と綴り字の読み方（1）
		この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. フランス語の挨拶(1)の部分の挨拶ができる 3. 発音と綴り字の読み方(1)の部分を正確に発音できる(達成目標①③に関連する)
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。30分
		事後学修	授業で学んだ事項（フランス語の挨拶と綴り字の読み方）を復習し、小テストの準備をする。30分
2	4/17	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(2) 2. 発音と綴り字の読み方(2) 2. フランス語の名詞/不定冠詞（第1課）（達成目標①②③に関連する）
		この回の到達目標	フランス語の名詞の特徴を理解し、不定冠詞・定冠詞を運用できる（達成目標①②③に関連する）
		事前学修	フランス語の名詞の特徴を理解し、不定冠詞・定冠詞を運用できる（達成目標①②③に関連する）30分
		事後学修	フランス語の挨拶および綴り字の読み方と名詞の性数および不定冠詞を整理して、小テストの準備をする30分
3	4/24	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(3) 2. 発音と綴り字の読み方(3) 3. 形容詞(第1課)
		この回の到達目標	1. フランス語の挨拶(3) 2. 発音と綴り字の読み方(3) 3. 形容詞(第1課)
		事前学修	1. フランス語の挨拶(3)の部分の挨拶ができる 2. 発音と綴り字の読み方(3)の部分を正確に発音できる 3. 形容詞(第1課)を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）30分
		事後学修	フランス語の挨拶および綴り字の読み方と形容詞の変化、être動詞を整理して、小テストの準備をする30分
4	5/1	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(4) 2. 発音と綴り字の読み方(4) 3. 主語となる代名詞と動詞 être/提示の表現
		この回の到達目標	1. フランス語の挨拶(4)の部分の挨拶ができる 2. 発音と綴り字の読み方(4)の部分を正確に発音できる 3. 主語の特徴を理解し、être 動詞を正確に活用できる④提示の表現を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）
		事前学修	フランス語の主語を英語の主語と比較して考察する。さらに英語のbe動詞と être動詞の活用を比較する30分
		事後学修	フランス語の主語とêtre動詞の活用および提示の表現を復習して、小テストに備える30分
5	5/8	文法、訳、文化	1. 発音と綴り字の読み方(5) 2. 第1課の本文/文化面 3. 定冠詞/動詞 avoir（第2課）
		この回の到達目標	1. 発音と綴り字の読み方(5)の部分を正確に発音できる 2. 第1課の本文を訳すことができる 3. 文化面の内容を理解し、説明できる 4. 定冠詞を理解し、運用できる 5. 動詞 avoir（第2課）を活用できる（達成目標①②③に関連する）
		事前学修	第1課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる。英語とフランス語の定冠詞の違いについて確認する。英語のhave動詞とavoir動詞の活用の差について確認する。30分
		事後学修	第1課本文のフランス語とその意味を対照させて確認する。定冠詞とavoirの活用を復習して、小テストの準備をする。30分
6	5/15	文法、訳、文化	1. voici・voilà/形容詞の位置（第2課） 2. 数詞 3. 第2課の本文/文化面
		この回の到達目標	1. voici・voilàを運用できる 2. 形容詞の位置（第2課）を覚え、運用できる 3. 数詞を30までいうことができる 4. 第2課の本文を訳すことができる 5. 文化面の内容を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）
		事前学修	教科書を見て、英語とフランス語における形容詞の位置の違いを確認する。第2課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる30分
		事後学修	第2課本文のフランス語とその意味を対照させて確認する。今回の授業で学んだ文法事項を覚え、小テストの準備をする30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	文法、訳、文化	1. 第一群規則動詞/疑問文の作り方（第3課） 2. 曜日と月(1)（第3課） 3. 第3課の文化面	
		この回の到達目標	1. 第一群規則動詞を運用できる2. 疑問文（第3課）を作ることができる 2. 曜日と月(1)（第3課）を聞き取りできる 3. 第3課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	教科書を見て、フランス語の第一群規則動詞とは何か確認する。3種の疑問文について、それぞれどのように異なるのか確認する。第3課の文化面の質問を調べてくる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
8	5/29	文法、訳、文化	1. 疑問形容詞（第3課） 2. 第3課の本文 3. 曜日と月(2)（第3課）	
		この回の到達目標	1. 疑問形容詞（第3課）を理解し、運用できる 2. 第3課の本文を訳すことができる 3. 曜日と月(2)（第3課）の聞き取りができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	第3課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。フランス語疑問形容詞を英語whatと比較して、その特徴を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する	30分
9	6/5	文法、訳、文化	前期中間試験（第1回～7回までの内容） 1. 動詞 faireの活用（第4課） 2. 所有形容詞	
		この回の到達目標	1. 疑問形容詞（第3課）を理解し、運用できる 2. 第3課の本文を訳すことができる 3. 曜日と月(2)（第3課）の聞き取りができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	今までの文法等の事項を復習して、前期中間試験の準備をする	180分
		事後学修	授業で学んだ文法項目等を復習して、小テストの準備をする。	30分
10	6/12	文法、訳、文化	中間試験テストの解説 1. 所有形容詞(2)と時間表現（第4課） 2. 第4課の文化面	
		この回の到達目標	1. 中間試験テストの解説を聞いて、間違った部分を理解できる 2. 時間表現（第4課）を正しく運用できる 3. 第4課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前回到学んだ所有形容詞の復習をする。文化面の質問について調べる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
11	6/19	文法、訳、文化	1. 第4課の本文 2. Il y a...（第5課） 3. 中性代名詞 y	
		この回の到達目標	1. 第4課の本文を訳すことができる 2. Il y a...（第5課）を理解し、運用できる 3. 中性代名詞yを理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	第4課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする	30分
12	6/26	文法、訳、文化	1. 指示形容詞（第5課） 2. 位置を示す表現（第5課） 3. 第5課の文化面	
		この回の到達目標	1. 指示形容詞（第5課）を理解し、運用できる 2. 位置を示す表現（第5課）を理解し、運用できる 3. 第5課の文化面（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	フランス語の指示形容詞は、英語では何に相当するか調べる。位置を示す表現の綴り字の読み方を確認する。第5課の文化面の質問について調べてくる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	文法、訳、文化	1. 疑問詞quiとque（1）（第5課） 2. 中性代名詞 y 3. 第5課の本文	
		この回の到達目標	1. 疑問詞quiとque（1）（第5課）を理解し、運用できる 2. 中性代名詞 y を理解し、運用できる 3. 第5課の本文を訳することができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	第5課の本文の意味を調べてくる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする	30分
14	7/10	文法、訳、文化	1. 疑問詞quiとque（2）（第5課） 2. 前期文法項目の再確認	
		この回の到達目標	1. 疑問詞quiとque（2）（第5課）を理解し、運用できる 2. 前期文法項目を再確認する中で、それを改めて理解し、運用できるようにする（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前期後半に学んだ文法事項の内容を再確認しておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、期末試験の準備をする	30分
15	7/17	文法、訳、文化	前期期末試験（第9回～第14回までの内容）とまとめ	
		この回の到達目標	前期後半に学んだ文法、訳について理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前期末試験の準備をする。	180分
		事後学修	ポータルで公表された前期末試験の前期末試験解答を確認して、前期の振り返りをする	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	岡本 健	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。 授業内試験については、添削して返却することで対応する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ル・フランセ・クレール	清岡智比古	白水社	2016年		
				その他	
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	フランス語の学習の仕方を中心に話す。	
		この回の到達目標	到達目標③の準備を行う。	
		事前学修	アルファベットの音声をCDで聞く。	30分
		事後学修	アルファベットの音を覚える。	30分
2	4/14	名詞に関する基礎文法	名詞と冠詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①③を達成する。	
		事前学修	1課の予習。	30分
		事後学修	1課の単語を覚える。	30分
3	4/21	動詞に関する基礎文法	主語代名詞と動詞「～である」の活用の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	2課前半の予習。	30分
		事後学修	2課前半の単語を覚える。	30分
4	4/28	動詞に関する基礎文法	動詞「～をもつ」の活用の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	2課後半の予習。	30分
		事後学修	2課後半の単語を覚える。	30分
5	5/5	否定文などに関する基礎文法	否定文の作り方と形容詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	3課の予習。	30分
		事後学修	3課の単語を覚える。	30分
6	5/12	動詞に関する基礎文法	規則動詞の活用の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	4課前半の予習。	30分
		事後学修	4課前半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	疑問文に関する基礎文法	疑問文の作り方	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	4 課後半の予習。	30分
		事後学修	4 課後半の単語を覚える。	30分
8	5/26	形容詞に関する基礎文法	指示形容詞と所有形容詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	5 課の予習。	30分
		事後学修	5 課の単語を覚える。	30分
9	6/2	未来と過去の表現に関する基礎文法	近い未来と近い過去の言い方の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	6 課の予習。	30分
		事後学修	6 課の単語を覚える。	30分
10	6/9	疑問詞に関する基礎文法	疑問代名詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	7 課前半の予習。	30分
		事後学修	7 課前半の単語を覚える。	30分
11	6/16	疑問詞に関する基礎文法	疑問副詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	7 課後半の予習。	30分
		事後学修	7 課後半の単語を覚える。	30分
12	6/23	比較級などに関する基礎文法	比較級と最上級の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	8 課の予習。	30分
		事後学修	8 課の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	命令文などに関する基礎文法	命令文と非人称構文の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	9 課の予習。	30分
		事後学修	9 課の単語を覚える。	30分
14	7/7	目的語に関する基礎文法	直接目的と間接目的の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 0 課の予習。	30分
		事後学修	1 0 課の単語を覚える。	30分
15	7/14	前期のまとめ	試験および課題の解説	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回小テストを行います。必ず予習してくること。読解、聞き取り、文法など毎回繰り返し練習します。履修人数によってアクティヴ・ラーニングを採用する。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	ロールプレイ、クイズ形式の質疑応答	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・プレゼンの講評、解説、採点、質問事項への返答

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・フランス語文法の〈基礎〉	太田浩一、前田保、 渡辺仁	駿河台出版	2018	教科書	必携
備考	毎回、それぞれの課に合わせたプリントを配布				

【オフィスアワー】
授業終了後に質問を受け付ける授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	ガイダンスとフランス語を勉強することの意義	ガイダンス、授業の方法、参考書、成績評価の方法などの説明。日本でフランス語を学ぶことの意義と目的について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、授業に必要な辞書や心構え、そして日本の大学でフランス語を勉強することの意義と目的を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、日本でフランス語を勉強する意義と目的、および日本で使われているフランス語を考えてリストアップしておく。	60分
		事後学修	小テストの準備、文法該当箇所の復習	60分
2	第一部木 4/16	発音、アルファベ、基礎知識	発音、アルファベ、基礎知識を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、発音、アルファベ、基礎知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	辞書で発音、アルファベ、基礎知識にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	発音、アルファベ、基礎知識の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
3	第一部木 4/23	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
4	第一部木 4/30	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
5	第一部木 5/7	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
6	第一部木 5/14	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
8	第一部木 5/28	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
9	第一部木 6/4	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
10	第一部木 6/11	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
11	第一部木 6/18	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
12	第一部木 6/25	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
14	第一部木 7/9	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
15	第一部木 7/16	春学期総復習試験	春学期・期末テスト60分、解説30分	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、今まで学習してきた文法事項を理解し、説明することができる。	
		事前学修	過去のノートを整理し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	春学期総復習試験の理解できた点、不明な点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎文法Bと続けて履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書の内容に従って文法事項を説明し、CD等で発音を確認しながら授業を進める。 毎回小テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音練習や確認問題をグループワークで行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 ル・フランセ・クレール	清岡智比古	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14：40～18：00 授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	ガイダンス アルファベ	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 アルファベの発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、アルファベに含まれるフランス語の基本的な発音ができるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。 ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を整理する。 アルファベの読みを暗記する。	30分
2	第一部水 4/15	フランス語の文字と発音	フランス語の発音規則を学ぶ。それによって受講生は基礎的な母音と子音の発音が理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的な母音と子音の発音ができるようになる。	
		事前学修	教科書7～8ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	CD等を活用し、発音練習をする。	30分
3	第一部水 4/22	フランス語の読み方の規則	フランス語の発音の規則や特徴的な語群の読み方を学ぶ。それによって受講生は基本的な語群の読みができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、フランス語に特有のつづり字と発音の関係を理解し、発音できるようになる。	
		事前学修	教科書8～9ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	CD等を活用し、教科書の単語の読みを練習する。	30分
4	第一部水 4/29	1課 名詞と冠詞	男性名詞と女性名詞、名詞につく冠詞の用法を学ぶ。それによって受講生は名詞および冠詞の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、名詞と冠詞についての文法規則を理解し、説明できるようになる。単語の発音ができるようになる。	
		事前学修	教科書10～11ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、1課の練習問題を解く。	30分
5	第一部水 5/6	1課の復習 2課 être動詞	1課の内容を復習し、名詞と冠詞の用法を確認する。また、être動詞の活用と用法を学ぶ。それによって受講生はêtre動詞を用いた文を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、être動詞を使った文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書14ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	être動詞の活用を暗記し、CDを利用して発音練習する。	30分
6	第一部水 5/13	2課 avoir、提示表現	動詞avoirの活用と用法、さまざまな提示表現を学ぶ。それによって受講生は自分の持ち物や周囲のものについてフランス語で表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、avoirや提示表現を含む文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書15～17ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	avoirの活用を暗記し、CDを利用して発音練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	3課 否定文 形容詞	否定文の作り方と、形容詞の用法について学ぶ。それによって受講生は否定文と形容詞を用いた表現を理解することができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、否定文や形容詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書18～19ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、CD等を活用して発音練習する。	30分
8	第一部水 5/27	3課の復習 4課 er動詞	3課の練習問題で文法の確認をする。第1群規則動詞の活用を学ぶ。それによって受講生はさまざまな動作を表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、いろいろな動詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書20～21ページの練習問題を解く。22ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	第1群規則動詞の活用を暗記し、CD等を活用して発音練習する。	30分
9	第一部水 6/3	4課 疑問文	疑問文の作り方を学ぶ。それによって受講生は他者に質問をすることができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書23ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、24ページの練習問題を解く。	30分
10	第一部水 6/10	5課 指示形容詞・疑問形容詞	指示形容詞と疑問形容詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生はこれらの形容詞を用いた表現が理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示形容詞や疑問形容詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書26ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、指示形容詞・疑問形容詞の形と用法を発音とともに暗記する。	30分
11	第一部水 6/17	5課 所有形容詞 6課 aller, venir	所有形容詞の形と用法、aller, venirの活用と用法を学ぶ。それによって受講生は所有物について説明したり、近い未来や過去の表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所有形容詞を用いた文や、近接未来・近接過去を表現する文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書27～30ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、教科書28～29ページの練習問題を解く。	30分
12	第一部水 6/24	6課 前置詞と定冠詞の縮約	前置詞と定冠詞の縮約を学ぶ。それによって受講生は男性名詞・複数名詞の前につく前置詞と定冠詞の縮約について理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞と定冠詞の縮約が含まれる文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書31ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、32ページの練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	7課 finir, partirの活用	第2群規則動詞や不規則活用動詞の活用を学ぶ。それによって受講生はこれらの動詞を用いた文が理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第2群規則動詞や不規則活用動詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書34～35ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、36～37ページの練習問題を解く。finirの活用を暗記する。	30分
14	第一部 水7/8	7課 疑問代名詞・疑問副詞	疑問代名詞や疑問副詞を学ぶ。それによって受講生は疑問詞を用いた表現を正しく理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書36～37ページの練習問題を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、疑問点を確認する。	30分
15	第一部 水7/15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	30分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	吉澤 保	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと授業内試験は、授業時に、返却、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヴァズィ！（改訂版）』	田辺保子、西部由里子	駿河台出版社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月 4／6 第二部 木 4／9	オリエンテーション、及び 導入講義	授業の説明、アルファベ、綴り字の読み方（１）、フランス語の挨拶	
		この回の 到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. アルファベ、綴り字の読み方（１）を正確に発音できる、3、フランス語の挨拶ができる(達成目標①③に関連する)	
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	第一部 月 4／13 第二部 木 4／16	第一課：名詞の性、名詞の数、主語の代名詞。	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞	
		この回の 到達目標	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	第一部 月 4／20 第二部 木 4／23	第一課：動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	
		この回の 到達目標	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	第一部 月 4／27 第二部 木 4／30	第二課：er動詞の直説法現在形、冠詞	er動詞の直説法現在形、冠詞	
		この回の 到達目標	er動詞の直説法現在形、冠詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	第一部 月 5／4 第二部 木 5／7	第二課：形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	
		この回の 到達目標	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	第一部 月 5／11 第二部 木 5／14	第三課：avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	
		この回の 到達目標	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5月18日 第二部木 5月21日	第三課：代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現	代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現	
		この回の到達目標	代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期中間試験の準備をする。	120分
8	第一部 5月25日 第二部木 5月28日	前期中間試験 第四課：所有形容詞	前期中間試験の実施 第四課：所有形容詞	
		この回の到達目標	所有形容詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	前期中間試験の準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	第一部 6月1日 第二部木 6月4日	中間試験解説 第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現	前期中間試験の返却と解説 第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現	
		この回の到達目標	不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	第一部 6月8日 第二部木 6月11日	第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用	第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用	
		この回の到達目標	部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	第一部 6月15日 第二部木 6月18日	第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、on	第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞on	
		この回の到達目標	指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞onについて、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	第一部 6月22日 第二部木 6月25日	第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用	第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用	
		この回の到達目標	疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月 6／29 第二部 木 7／2	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	
		この回の到達目標	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期期末試験の準備をする。	120分
14	第一部 月 7／6 第二部 木 7／9	前期期末試験 第七課：形容詞（2）	前期期末試験の実施 第七課：形容詞（2）	
		この回の到達目標	形容詞（2）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	前期期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	第一部 月 7／13 第二部 木 7／16	前期期末試験解説 第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞	前期期末試験の返却と解説 第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞	
		この回の到達目標	savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験の間違いをよく見直して、今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	飯島 幸夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
1. 発音を練習し 2. 文法の基礎を説明し 3. 問題練習を行います。 4. 小テストを実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施し、返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ル・フランセ	斎藤昌三	白水社	最新版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日 10時30分～ 授業終了後、授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月19日	L. 7 不規則動詞・所有形容詞	L. 7 不規則動詞・所有形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	L. 7 不規則動詞・所有形容詞を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・所有形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・所有形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
2	9月26日	L. 7 練習問題	L. 7 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 7 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
3	10月3日	L. 8 不規則動詞・比較級・最上級	L. 8 不規則動詞・比較級・最上級を説明する。	
		この回の到達目標	L. 8 不規則動詞・比較級・最上級を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・比較級・最上級について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・比較級・最上級について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
4	10月10日	L. 8 練習問題	L. 8 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 8 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
5	10月17日	L. 9 直説法複合過去	L. 9 直説法複合過去を説明する。	
		この回の到達目標	L. 9 直説法複合過去を理解する。	
		事前学修	直説法複合過去について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	直説法複合過去について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
6	10月24日	L. 9 練習問題	L. 9 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 9 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月31日	L. 10 関係代名詞・疑問代名詞	L. 10 関係代名詞・疑問代名詞を説明する。	
		この回の到達目標	L. 10 関係代名詞・疑問代名詞を理解する。	
		事前学修	関係代名詞・疑問代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	関係代名詞・疑問代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
8	11月7日	L. 10 練習問題	L. 10 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 10 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
9	11月14日	L. 11 人称代名詞	L. 11 人称代名詞を説明する。	
		この回の到達目標	L. 11 人称代名詞を理解する。	
		事前学修	人称代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	人称代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
10	11月21日	L. 11 練習問題	L. 11 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 11 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
11	11月28日	L. 12 受動態・協調構文	L. 12 受動態・協調構文を説明する。	
		この回の到達目標	L. 12 受動態・協調構文を理解する。	
		事前学修	受動態・協調構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	受動態・協調構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
12	12月5日	L. 12 練習問題	L. 12 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 12 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	L. 13 代名動詞・非人称構文	L. 13 代名動詞・非人称構文を説明する。	
		この回の到達目標	L. 13 代名動詞・非人称構文を理解する。	
		事前学修	代名動詞・非人称構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	代名動詞・非人称構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
14	12月19日	L. 13 練習問題	L. 13 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 13 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
15	12月26日	後期のまとめと授業内試験	後期のまとめと授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	L. 7～L. 13 を理解する。	
		事前学修	L. 7～L. 13 について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L. 7～L. 13 について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味をもっていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、フランス語のフレーズを反復して聞いて、発話します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、繰り返し発話してもらいます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点答案返却の後で解説・質問受付をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語ブルー 2 トリコロール 文法編	高橋信良 他	朝日出版	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15 9/16	ガイダンス・導入講義	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、授業の方針・進め方を理解することができる。	
		事前学修	前期教科書のフランス語ブルー1の復習をして、指定教材フランス語ブルー2とポケット版ではない学習辞書を用意してください。(30分)	30分
		事後学修	指定教材フランス語ブルー2に目を通しておいってください。(30分)	30分
2	9/22 9/23	Leçon1:動詞 connaître, savoir、	動詞connaître, savoir、関係代名詞qui, que, dont, où、中性代名詞 en, y, leの用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞connaître, savoir、関係代名詞qui, que, dont, où、中性代名詞 en, y, leを理解し練習問題を解けることができる。	
		事前学修	1課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
3	9/29 9/30	Leçon2:動詞mettreと prendre	動詞mettreとprendre、補語人称代名詞の語順、命令法の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞mettreとprendre、補語人称代名詞の語順、命令法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	2課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
4	10/6 10/7	Leçon3:動詞devoirと rendre	動詞devoirとrendre、非人称代名詞の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞devoirとrendre、非人称代名詞を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	3課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
5	10/13 10/14	Leçon4:動詞direと écrire	動詞direとécrire、現在分詞、ジェロンディフの用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞direとécrire、現在分詞、ジェロンディフを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	4課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
6	10/20 10/21	Leçon5:動詞croireと voir	動詞croireとvoir、知覚動詞、使役動詞の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞croireとvoir、知覚動詞、使役動詞を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	5課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27 10/28	Leçon 6:直説法大過去	直説法大過去、補語人称代名詞の語順。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直説法大過去、補語人称代名詞の語順を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	6課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
8	11/10 11/11	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの範囲の文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	1, 2, 3, 4, 5, 6課の復習。	30分
		事後学修	答案で間違えた事項の復習。	30分
9	11/17 11/18	Leçon 7:直説法単純未来	直説法単純未来、直説法前未来の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直説法単純未来、直説法前未来を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	7課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
10	11/25 11/26	Leçon 8:関係代名詞lequel	関係代名詞lequel、接続詞の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、関係代名詞lequel、接続詞を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	8課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
11	12/1 12/2	Leçon 9:条件法	条件法現在、条件法過去の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、条件法現在、条件法過去を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	9課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
12	12/8 12/9	Leçon10:間接話法	間接話法、感嘆文の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、間接話法、感嘆文を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	10課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15 12/16	Leçon 11:接続法現在	接続法現在の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 接続法現在を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	11課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
14	12/22 12/23	Leçon12:接続法過去	接続法過去の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 接続法過去を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	12課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
15	1/12 1/13	期末テスト、採点、解説、まとめ。	期末テスト、採点、解説、まとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 発音、綴りを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	後半7, 8, 9, 10, 11, 12課の復習。	30分
		事後学修	採点で間違えた事項の復習。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	第三書房	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15:00～16:00 場所：研究室 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 （メールによる問い合わせ・相談も受け付けます：eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	文法、訳、文化	1. 動詞 aller/近接未来（第6課） 2. Bilan1-1(4, 5, 6)/Bilan1-2(5, 6)の答え合わせ（pp. 34-37）	
		この回の到達目標	1. 動詞 aller/近接未来（第6課）を理解し、運用できる 2. Bilan1-1(4, 5, 6)/Bilan1-2(5, 6)に解答できる（pp. 34-37）（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	15回目に課した課題に解答する。後期から受講する場合は、今週に渡した課題に解答して2週間後に持参すること	120分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
2	9/25	文法、訳、文化	1. 動詞 venir/近接過去（第6課） 2. 疑問副詞（第6課） 3. 第6課の文化面	
		この回の到達目標	1. 動詞 venir/近接過去（第6課）を理解し、運用できる 2. 疑問副詞（第6課）の意味を把握し、聞き取りできる 3. 第6課の文化面の内容を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	動詞venirの活用表を見て、活用の特徴と読み方を確認する。フランス語の疑問副詞の綴り字の読み方を確認する。第6課の文化面の質問について調べてくる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
3	10/2	文法、訳、文化	1. 前置詞 à, deと定冠詞の縮約 2. 第6課の本文	
		この回の到達目標	1. 前置詞 à, deと定冠詞の縮約 を理解し、運用できる 2. 第6課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前置詞 à, deの意味を辞書で調べておく。定冠詞の復習をしておく。第6課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
4	10/9	文法、訳、文化	1. 部分冠詞/動詞 pouvoir（第7課） 2. 数詞(1)（第7課） 3. 第7課の文化面	
		この回の到達目標	1. 部分冠詞とは何か理解し、運用できる 2. 動詞 pouvoir（第7課）を理解し、運用できる 3. 数詞(1)（第7課）の聞き取りができる 4. 第7課の文化面の内容を理解し、言語運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	フランス語の部分冠詞とは何か、確認しておく。動詞pouvoirの活用の読み方を確認する。第7課の文化面の質問について調べておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
5	10/16	文法、訳、文化	1. 比較級・最上級/動詞 vouloir（第7課） 2. 数詞(2)（第7課） 3. 第7課の本文	
		この回の到達目標	1. 比較級・最上級を理解し、運用できる 2. 動詞 vouloir（第7課）を理解し、運用できる 3. 数詞(2)（第7課）を聞き取ることができる 4. 第7課の本文を訳することができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	動詞vouloirの活用の読み方を確認する。前回は学んだ数詞の復習をする。第7課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
6	10/23	文法、訳、文化	1. 目的補語人称代名詞（水）（1）（第8課） 2. 天気に関する表現（第8課） 3. 第8課の文化面	
		この回の到達目標	1. 目的補語人称代名詞（1）（第8課）を理解し、運用できる 2. 天気に関する表現（第8課）を聞き取ることができる 3. 第8課の文化面を理解し、言語運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	目的補語人称代名詞とは何か、英語の知識を利用して調べておく。動詞faireの復習をしておく。第8課の文化面の質問について調べておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習すして、小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	文法、訳、文化	1. 目的補語主語人称代名詞（2）（第8課） 2. 複合過去（1）（第8課） 3. 第8課の本文	
		この回の到達目標	1. 目的補語主語人称代名詞（2）（第8課）を理解し、運用できる 2. 複合過去（1）（第8課）を理解し、運用できる 3. 第8課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前回学んだ目的補語人称代名詞の復習をする。第8課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する	30分
8	11/6	文法、訳、文化	後期中間試験（第16回～22回までの内容） 1. 複合過去（2）（第8課） 2. 否定文の表現	
		この回の到達目標	1. 後期中間試験（第15回～22回までの内容）を理解し、正解できる 2. 複合過去（2）（第8課）を理解し、運用できる 3. 否定文の表現を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	後期中間試験の準備をする	180分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする	30分
9	11/13	文法、訳、文化	後記中間テストの解説 1. 代名動詞（直説法現在）（1）（第9課） 2. 関係代名詞 quiとque（第10課）	
		この回の到達目標	1. 後記中間テストの解説 を聞き、自分の不正解の部分を理解できる 2. 代名動詞（直説法現在（第9課））を理解し、運用できる 2. 関係代名詞 quiとque（第10課）の用法を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
10	11/20	文法、訳、文化	1. 代名動詞（2）/命令法（第9課） 2. 第10課の文化面	
		この回の到達目標	1. 代名動詞（2）を理解し、運用できる 2. 命令法（第9課）を理解し、運用できる 3. 第10課の文化面を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前回学んだ代名動詞の代名詞部分と複合過去（直説法）の êtreを助動詞にとるかたちを復習しておく。第10課の文化面の質問を調べておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
11	11/27	文法、訳、文化	1. ジェロンディフ（第9課） 2. 半過去（直説法）（第10課） 3. 第10課の本文	
		この回の到達目標	1. ジェロンディフ（第9課）を理解し、運用できる 2. 半過去（直説法）（第10課）を理解し、運用できる 3. 第10課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	avoir, faire, aller, venir, finir, vouloir, pouvoirの直説法現在形（主語がnous）の場合の活用を確認しておく。第10課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
12	12/4	文法、訳、文化	1. 単純未来（直説法）（第11課） 2. 第11課の文化面	
		この回の到達目標	1. 単純未来（直説法）（第11課）を理解し、運用することができる 2. 第11課の文化面を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	単純未来（直説法）が表す意味について確認しておく。avoirの直説法現在形の活用を確認しておく。第11課の文化面の質問について調べる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	文法、訳、文化	1. 条件法現在（第11課） 2. 非人称表現 I l y a(第12課) 3. 第11課の本文	
		この回の到達目標	1. 条件法現在（第11課）を理解し、運用できる2. 非人称表現 I l y a(第12課）を理解し、運用できる 3. 第11課の本文を訳すことができる （達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	半過去形（直説法）と単純未来形（直説法）の語幹と語尾を確認して覚えておく。第11課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認しておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
14	12/18	文法、訳、文化	1. 接続法現在（第12課） 2. 第12課の文化面	
		この回の到達目標	1. 接続法現在（第12課）を理解し、運用できる 2. 第12課の文化面を理解し、言語運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	第一群規則動詞の直説法現在の活用を確認する。第12課の文化面の質問について調べておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する	30分
15	12/25	文法、訳、文化	後期期末試験（第24回～29回までの内容）とまとめ。	
		この回の到達目標	後期期末試験（第24回～29回までの内容）に正解することができる （達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	後期末試験の準備をする	180分
		事後学修	ポータルで公表された後期末試験の前期末試験解答を確認して、後期の振り返りをする	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	岡本 健	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験に対しては、添削して返却することで対応する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ル・フランセ・クレール	清岡智比古	白水社	2016年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	過去形の文章に関する基礎文法	複合過去の作り方	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 1 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 1 課前半の単語を覚える。	30分
2	9/21	過去形の文章に関する基礎文法	複合過去の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 1 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 1 課後半の単語を覚える。	30分
3	9/28	関係代名詞に関する基礎文法	関係代名詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 2 課の予習。	30分
		事後学修	1 2 課の単語を覚える。	30分
4	10/6	代名動詞に関する基礎文法	代名動詞の作り方	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 3 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 3 課前半の単語を覚える。	30分
5	10/13	代名動詞に関する基礎文法	代名動詞の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 3 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 3 課後半の単語を覚える。	30分
6	10/20	未来形の文章に関する基礎文法	単純未来の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 4 課の予習。	30分
		事後学修	1 4 課の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 27	中性代名詞に関する基礎文法	中性代名詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 5 課の予習。	30分
		事後学修	1 5 課の単語を覚える。	30分
8	11/ 10	過去形の文章に関する基礎文法	半過去の作り方	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 6 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 6 課前半の単語を覚える。	30分
9	11/ 17	過去形の文章に関する基礎文法	半過去の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 6 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 6 課後半の単語を覚える。	30分
10	11/ 24	ジェロンディフなどに関する基礎文法	現在分詞とジェロンディフの説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 7 課の予習。	30分
		事後学修	1 7 課の単語を覚える。	30分
11	12/ 1	直説法時制のまとめ	動詞活用 の 復 習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分
12	12/ 8	条件法に関する基礎文法	条件法の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する	
		事前学修	1 8 課の予習。	30分
		事後学修	1 8 課の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/ 15	接続法に関する基礎文法	接続法の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 9 課の予習。	30分
		事後学修	1 9 課の単語を覚える。	30分
14	12/ 22	条件法と接続法に関する基礎文法	条件法と接続法の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分
15	1/12	後期のまとめ	試験および課題の解説	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回小テストを行います。必ず予習してくること。読解、聞き取り、文法など毎回繰り返し練習します。履修人数によってアクティヴ・ラーニングを採用する。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	ロールプレイ、クイズ形式の質疑応答	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・プレゼンの講評、解説、採点、質問事項への返答

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・フランス語文法の〈基礎〉	太田浩一、前田保、 渡辺仁	駿河台出版	2018	教科書	必携
備考	毎回、それぞれの課に合わせたプリントを配布				

【オフィスアワー】
授業終了後に質問を受け付ける授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
2	第一部木 9/24	Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
3	第一部木 10/1	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
4	第一部木 10/8	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
5	第一部木 10/15	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
6	第一部木 10/22	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	Leçon 10・複合過去	Leçon 10・複合過去を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 10・複合過去を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 10・複合過去にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 10・複合過去の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
8	第一部木 11/5	Leçon 10・複合過去	Leçon 10・複合過去を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 10・複合過去を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 10・複合過去にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 10・複合過去の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
9	第一部木 11/12	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞で理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分
10	第一部木 11/19	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞で理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分
11	第一部木 12/3	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、会話練習「理由をのべる」、不定詞や節を従える動詞、関係代名詞と強調構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
12	第一部木 12/10	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフ	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフを理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフにある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフの理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
14	第一部木 1/14	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフ	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフを理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフにある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフの理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
15	第一部木 1/21	秋学期総復習試験	秋学期・期末テスト60分、解説30分	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、今まで学習してきた定型表現、文法事項を理解し、説明することができる。	
		事前学修	過去のノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	秋学期総復習試験の理解できた点、不明な点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎文法Aから引き続き履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書の内容に従って文法事項を説明し、CD等で発音を確認しながら授業を進める。 毎回小テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音練習や確認問題をグループワークで行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 ル・フランセ・クレール	清岡智比古	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14：40～18：00 授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	1～7課のまとめ 8課 voir, entendreの活用	1～7課で学んだ文法事項を復習する。また、voirなどの不規則活用動詞を学ぶ。それによって受講生はこれまでの学修内容を復習し、新出動詞を用いた文が理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、7課までの学修内容を復習する。また、voirなどの動詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	1～7課の内容を見直し、不明な点について質問を準備する。 教科書38ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	CD等を利用し、教科書38ページの例文の発音を練習する。動詞の活用を暗記する。	30分
2	第一部水 9/23	8課 比較級・最上級	形容詞・副詞の比較級と最上級の作り方を学ぶ。それによって受講生は2つ以上のものを比べる表現や最上級表現を理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較級・最上級を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書38～39ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書40～41ページの練習問題を解く。	30分
3	第一部水 9/30	9課 命令文 非人称構文	命令形および非人称構文を学ぶ。それによって受講生は他者に指示をしたり、天候や時間などを示す表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形や非人称構文を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書42～43ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書44～45ページの練習問題を解く。	30分
4	第一部水 10/7	10課 目的語人称代名詞 強勢形	目的語になる人称代名詞および強勢形を学ぶ。それによって受講生は目的語人称代名詞と強勢形を使った表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、目的語人称代名詞や強勢形を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書46～47ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書48～49ページの練習問題を解く。	30分
5	第一部水 10/14	11課 複合過去	過去の行為や出来事を表現する複合過去について学ぶ。それによって受講生は過去の出来事を表現することができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合過去を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書50～51ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書52～53ページの練習問題を解く。	30分
6	第一部水 10/21	12課 関係代名詞	基本的な4種類の関係代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は関係代名詞を用いた文を理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係代名詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書54～55ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書56～57ページの練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	13課 代名動詞	代名動詞の用法を学ぶ。それによって受講生は代名動詞を用いて日常生活を描写することができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代名動詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書58～59ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書60～61ページの練習問題を解く。	30分
8	第一部水 11/11	14課 単純未来	単純未来の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は将来のことや未来の予定を表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、単純未来を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書62～63ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書64～65ページの練習問題を解く。	30分
9	第一部水 11/18	15課 中性代名詞	3種類の中性代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は正しい中性代名詞を選択し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中性代名詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書66～67ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書68～69ページの練習問題を解く。	30分
10	第一部水 11/25	16課 半過去	半過去の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は半過去と複合過去の違いを理解し、使い分けられるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半過去を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書70～71ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書72～73ページの練習問題を解く。	30分
11	第一部水 12/2	17課 現在分詞・ジェロ ンディフ	現在分詞やジェロンディフの用法を学ぶ。それによって受講生は同時性を示す表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在分詞やジェロンディフを用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書74～75ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書76～77ページの練習問題を解く。	30分
12	第一部水 12/9	動詞の活用のまとめ	1～17課までに学んだ動詞の活用を復習する。それによって受講生は動詞の活用を体系的に理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、動詞の活用と発音を正しく理解できるようになる。	
		事前学修	教科書78～79ページの活用表を完成させる。	30分
		事後学修	教科書78～79ページの活用表をを正しく暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	18課 条件法現在	条件法現在の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は事実に反する仮定を用いた表現や、語調緩和表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、条件法現在を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書80～81ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書82～83ページの練習問題を解く。	30分
14	第一部水 12/23	19課 接続法現在	接続法現在の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は願望や推測などを示す表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法現在を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書84～85ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書86～87ページの練習問題を解く。	30分
15	第一部水 1/13	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	30分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	吉澤 保	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと授業内試験は、授業時に、返却、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヴァズィ！（改訂版）』	田辺保子、西部由里子	駿河台出版社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9月14日 第二部 9月17日	後期オリエンテーション 第八課：目的補語人称代名詞	授業の説明、目的補語人称代名詞	
		この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。目的補語人称代名詞について、理解し、説明することができる。また、この文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	第一部 9月21日 第二部 9月24日	第八課：非人称構文、 connaître, faire, écrire の活用。	第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。	
		この回の到達目標	非人称構文、connaître, faire, écrireの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	第一部 9月28日 第二部 10月1日	第九課：代名動詞	第九課：代名動詞	
		この回の到達目標	代名動詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	第一部 10月5日 第二部 10月8日	第九課：よく使う代名動詞、日常の活動の表現	よく使う代名動詞、日常の活動の表現	
		この回の到達目標	よく使う代名動詞、日常の活動の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	第一部 10月12日 第二部 10月15日	第十課：直説法単純未来、 形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	
		この回の到達目標	直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	第一部 10月19日 第二部 10月22日	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	
		この回の到達目標	特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月 10/26 第二部 木 10/29	第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去	第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去	
		この回の到達目標	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期中間試験の準備をする。	120分
8	第一部 月 11/9 第二部 木 11/5	後期中間試験 第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞	後期中間試験の実施 第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞	
		この回の到達目標	代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	後期中間試験の準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	第一部 月 11/16 第二部 木 11/12	後期中間試験解説 第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、	後期中間試験の返却と解説 第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、	
		この回の到達目標	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	第一部 月 11/23 第二部 木 11/19	第十二課：直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現	第十二課：直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現	
		この回の到達目標	直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	第一部 月 11/30 第二部 木 12/3	第十三課：関係代名詞	第十三課：関係代名詞	
		この回の到達目標	関係代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	第一部 月 12/7 第二部 木 12/10	第十三課：強調構文、時の表現	第十三課：強調構文、時の表現	
		この回の到達目標	強調構文、時の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月 12/14 第二部 木 12/17	第十四課：条件法現在形、条件法過去形	第十四課：条件法現在形、条件法過去形	
		この回の到達目標	条件法現在形、条件法過去形について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期期末試験の準備をする。	120分
14	第一部 月 12/21 第二部 木 12/24	後期期末試験 第十四課：条件法の用法、時の表現（前置詞など）	後期期末試験の実施 第十四課：条件法の用法、時の表現（前置詞など）	
		この回の到達目標	条件法の用法、時の表現（前置詞など）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	前期期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	第一部 月 1/18 第二部 木 1/14	後期期末試験解説 第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	後期期末試験の返却と解説 第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	
		この回の到達目標	現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験の間違いをよく見直して、今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	人文系フランス語演習A	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法ABを履修済み、または同等程度のフランス語力を有すること。

【授業方法】
テキスト読解を中心に進める。文法事項を確認し内容を解説した後、学生が本文を読み訳を発表する。その後解説を加え、発音練習をする。小テスト・レポートは適宜実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	訳や疑問点に関する議論をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばの色ー中級からのフランス文学読本ー	杉本圭子・福田桃子・岡部杏子	朝日出版	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜13:00～14：30　授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付　(fujii.yokoll@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	ガイダンス 1. ロジェ・グルニエ『レオノール』	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 1課のロジェ・グルニエについて簡単に説明し、発音の練習をする。それによって受講生は効率的に次回以降の予習をすることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明することができるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。 ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を整理する。 フランス語の読みを復習する。	30分
2	第一部水 4/15	1. ロジェ・グルニエ『レオノール』	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
3	第一部水 4/22	2. ナタリー・サロート『つまらぬことで』（前半）	テキストの前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
4	第一部水 4/29	2. ナタリー・サロート『つまらぬことで』（後半）	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
5	第一部水 5/6	3. アントワヌ・レリス『ぼくは君たちを憎まない』	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
6	第一部水 5/13	4. エリック＝エマニュエル・シュミット『ノアの子』（前半）	テキスト前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	4. エリック＝エマニュエル・シュミット『ノアの子』（後半）	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
8	第一部水 5/27	5. ジャック・プレヴェール「家族のうた」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
9	第一部水 6/3	6. ジュール・シュペルヴィエル『人さらい』（前半）	テキストの前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
10	第一部水 6/10	6. ジュール・シュペルヴィエル『人さらい』（後半）	テキスト後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
11	第一部水 6/17	7. パトリック・モディアノ『血統書』	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
12	第一部水 6/24	8. ラ・ロシュフコー『箴言集』	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	9・ジュール・シュペルヴィエル「すなおさ」（前半）	テキストの前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
14	第一部水 7/8	9・ジュール・シュペルヴィエル「すなおさ」（後半）	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
15	第一部水 7/15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	180分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	40分

科目名	人文系フランス語演習B	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法ABを履修済み、または同等程度のフランス語力を有すること。

【授業方法】
テキスト読解を中心に進める。文法事項を確認し内容を解説した後、学生が本文を読み訳を発表する。その後解説を加え、発音練習をする。小テスト・レポートは適宜実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	訳や疑問点に関する議論をグループワークで行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばの色ー中級からのフランス文学読本ー	杉本圭子・福田桃子・岡部杏子	朝日出版	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜13:00～14：30　授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付　(fujii.yokoll@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	ガイドダンス 10. ユベール・マンガレリ 『終わりの雪』(前半)	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 テキスト前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。 テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
2	第一部水 9/23	10. ユベール・マンガレリ 『終わりの雪』(後半)	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
3	第一部水 9/30	11. アルチュール・ランボー「夜明け」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
4	第一部水 10/7	12. ギョーム・アポリネール「オレンジード」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
5	第一部水 10/14	13. アラン＝フルニエ『グラン・モーヌ』(前半)	テキスト前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
6	第一部水 10/21	13. アラン＝フルニエ『グラン・モーヌ』(後半)	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	14. オノレ・ド・バルザック『砂漠の情熱』（前半）	テキスト前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
8	第一部水 11/11	14. オノレ・ド・バルザック『砂漠の情熱』（後半）	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
9	第一部水 11/18	15. イレーヌ・ネミロフスキー『舞踏会』	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
10	第一部水 11/25	16. ジョルジュ・サンド「花たちのおしゃべり」（前半）	テキストの前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
11	第一部水 12/2	16. ジョルジュ・サンド「花たちのおしゃべり」（後半）	テキスト後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
12	第一部水 12/9	17. シャルル・ボードレー「窓」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	17. シャルル・ボードレー ル「スープと雲」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
14	第一部水 12/23	18. フランシス・ポンジュ 「水について」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
15	第一部水 1/13	授業内試験およびフィード バック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を総復習する。	180分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	40分

科目名	社会系フランス語演習A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・試験は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使います。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館 9 階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス、及び導入講義	近代は人間主義によって特徴づけられる。人間はみな平等であるという思想は、差別主義に反対するための有力な武器となってきた。その一方で、近代は、人間以外のものを自然として搾取することで、歴史上稀有な経済発展を遂げた。近代はいろいろな点で問題を含む。この授業では、動物に焦点をあてて、この観点から、人間主義の危機、近代の危機を考察する。授業の進め方等についてガイダンスを行い、テキスト、背景の説明を行う。音読を行う。	
		この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	4/17	動物論テキスト「ピーター・シンガー」	動物論テキスト「ピーター・シンガー」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
3	4/24	動物論テキスト「アニマル・ライツ」	動物論テキスト「アニマル・ライツ」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
4	5/1	動物論テキスト「アニマル・ウエルフェア」	動物論テキスト「アニマル・ウエルフェア」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
5	5/8	動物論テキスト「種差別」	動物論テキスト「種差別」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
6	5/15	動物論テキスト「工場畜産」	動物論テキスト「工場畜産」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	動物論テキスト「ヴィーガニズム」	動物論テキスト「ヴィーガニズム」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。中間試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
8	5/29	中間試験、振り返り	中間試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	中間試験に備える。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	6/5	中間試験解説	中間試験を返却し解説する。また、時事問題テキスト「文化」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
10	6/12	動物論テキスト「動物実験」	動物論テキスト「動物実験」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
11	6/19	動物論テキスト「闘牛」	動物論テキスト「闘牛」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、ここまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
12	6/26	動物論テキスト「ゾーフィリア」	動物論テキスト「ゾーフィリア」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	動物論テキスト「人間の支配：キリスト教」	動物論テキスト「人間の支配：キリスト教」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
14	7/10	期末試験、振り返り	期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験に備える。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
15	7/17	期末試験解説	期末試験を返却し、解説する。最後に、前期既読箇所の振り返りを行い、それについて議論してもらう。	
		この回の到達目標	この前期既読箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
		事後学修	前期に講読した箇所をこれまでの学習を踏まえて再読する。	30分

科目名	社会系フランス語演習A	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・試験は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使います。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館 9 階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス，導入講義	仏語歴二年目（以上）の学生向けの時事問題の仏語テキストを講読する。授業の進め方等についてガイダンスを行い、テキスト、背景の説明を行う。音読を行う。	
		この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	4/16	時事問題テキスト「政治」	時事問題テキスト「政治」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
3	4/23	時事問題テキスト「経済」	時事問題テキスト「経済」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
4	4/30	時事問題テキスト「歴史」	時事問題テキスト「歴史」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
5	5/7	時事問題テキスト「社会」	時事問題テキスト「社会」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
6	5/14	時事問題テキスト「産業」	時事問題テキスト「産業」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	時事問題テキスト「法律」	時事問題テキスト「法律」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。中間試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
8	5/28	中間試験、振り返り	中間試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	中間試験に備える。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	6/4	中間試験解説 時事問題テキスト「文化」 （1）	中間試験を返却し解説する。また、時事問題テキスト「文化」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
10	6/11	時事問題テキスト「文化」 （2）	時事問題テキスト「文化」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
11	6/18	時事問題テキスト「教育」	時事問題テキスト「教育」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、ここまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
12	6/25	時事問題テキスト「芸術」	時事問題テキスト「芸術」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	時事問題テキスト「スポーツ」	時事問題テキスト「スポーツ」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
14	7/9	期末試験、振り返り	期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験に備える。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
15	7/16	期末試験解説	期末試験を返却し、解説する。最後に、前期既読箇所の振り返りを行い、それについて議論してもらう。	
		この回の到達目標	この前期既読箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
		事後学修	前期に講読した箇所をこれまでの学習を踏まえて再読する。	30分

科目名	社会系フランス語演習B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・試験は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使います。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館 9 階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス，導入講義	近代は人間主義によって特徴づけられる。人間はみな平等であるという思想は、差別主義に反対するための有力な武器となってきた。その一方で、近代は、人間以外のものを自然として搾取することで、歴史上稀有な経済発展を遂げた。近代はいろいろな点で問題を含む。この授業では、動物に焦点をあてて、この観点から、人間主義の危機、近代の危機を考察する。授業の進め方等についてガイダンスを行い、テキスト、背景の説明を行う。音読を行う。	
		この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	9/25	動物論テキスト「人間の支配：デカルト」	動物論テキスト「人間の支配：デカルト」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
3	10/2	動物論テキスト「人間の支配：生氣論、アニミズム」	動物論テキスト「人間の支配：生氣論、アニミズム」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
4	10/9	動物論テキスト「ルソーとロマン派」	動物論テキスト「ルソーとロマン派」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
5	10/16	動物論テキスト「カントとベンサム」	動物論テキスト「カントとベンサム」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
6	10/23	動物論テキスト「ダーウイン、進化論」	動物論テキスト「ダーウイン、進化論」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	動物論テキスト「人間の魂、動物の魂」	動物論テキスト「人間の魂、動物の魂」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。中間試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
8	11/6	中間試験、振り返り	中間試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	中間試験に備える。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	11/13	中間試験解説 授業振り返り	中間試験を返却し解説する。また、後期既読箇所の振り返りを行い、それについて議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
10	11/20	動物論テキスト「動物の解放」	動物論テキスト「動物の解放」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
11	11/27	動物論テキスト「ポストモダン：デリダ」	動物論テキスト「ポストモダン：デリダ」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、ここまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
12	12/4	動物論テキスト「ポストモダン：ドゥルーズ」	動物論テキスト「ポストモダン：ドゥルーズ」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	動物論テキスト「エコロジー、地球温暖化」	動物論テキスト「エコロジー、地球温暖化」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
14	12/18	期末試験、振り返り	期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験に備える。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
15	12/25	期末試験解説	期末試験を返却し、解説する。最後に、後期既読箇所の振り返りを行い、それについて議論してもらう。	
		この回の到達目標	この後期既読箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
		事後学修	後期に講読した箇所をこれまでの学習を踏まえて再読する。	30分

科目名	社会系フランス語演習B	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・試験は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使います。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンス，導入講義	仏語歴二年目（以上）の学生向けの時事問題の仏語テキストを講読する。授業の進め方等についてガイダンスを行い、テキスト、背景の説明を行う。音読を行う。	
		この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	9/24	時事問題テキスト「メディア」	時事問題テキスト「メディア」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
3	10/1	時事問題テキスト「文学」	時事問題テキスト「文学」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
4	10/8	時事問題テキスト「思想」	時事問題テキスト「思想」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
5	10/15	時事問題テキスト「戦争」	時事問題テキスト「戦争」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
6	10/22	時事問題テキスト「17世紀」	時事問題テキスト「17世紀」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	時事問題テキスト「18世紀」	時事問題テキスト「18世紀」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。中間試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
8	11/5	中間試験、振り返り	中間試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	中間試験に備える。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	11/12	中間試験解説 時事問題テキスト「19世紀」（1）	中間試験を返却し解説する。また、時事問題テキスト「19世紀」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
10	11/19	時事問題テキスト「19世紀」（2）	時事問題テキスト「19世紀」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
11	12/3	時事問題テキスト「20世紀」	時事問題テキスト「20世紀」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、ここまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
12	12/10	時事問題テキスト「フランス語圏」	時事問題テキスト「フランス語圏」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	時事問題テキスト「哲学」	時事問題テキスト「哲学」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
14	12/24	期末試験、振り返り	期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験に備える。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
15	1/14	期末試験解説	期末試験を返却し、解説する。最後に、後期既読箇所の振り返りを行い、それについて議論してもらう。	
		この回の到達目標	この後期既読箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
		事後学修	後期に講読した箇所をこれまでの学習を踏まえて再読する。	30分

科目名	ライティング(仏) I A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるフランス語の書き言葉（フランス語検定4級、3級レベル）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、基礎文法、基礎表現等で修得した基礎的なフランス語力を向上させるために、日常生活において直接必要となる事柄をフランス語で書きとり、また文書で伝える能力を中心としたフランス語力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。実践的な書き言葉のトレーニングを通して、日常生活において直接必要となる事柄に対処できる文書による意思疎通の能力を養成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書き、文書で伝えることができる。								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる。								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内で返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フランス語で書こう！』	佐藤久美子、佐藤領時	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:20-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス、「第1課、êtreを使う（1）」その1	この授業の進め方、成績評価の付け方等のガイダンスを実施した後、「第1課、êtreを使う（1）」その1について語彙、文法等の重要なポイントを解説して、CD等を用いて発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「êtreを使う（1）」その1の問題に解答できる。	
		事前学修	初級フランス語の教科書を復習し、シラバスを読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
2	4/15	「第1課、êtreを使う（1）」その2	「第1課、êtreを使う（1）」その2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「êtreを使う（1）」その2の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
3	4/22	「第2課、êtreを使う（2）」	「第2課、êtreを使う（2）」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「êtreを使う（2）」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
4	4/29	「第3課、avoirを使う（1）」	「第3課、avoirを使う（1）」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「avoirを使う（1）」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
5	5/6	「第4課、avoirを使う（2）」	「第4課、avoirを使う（2）」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「avoirを使う（2）」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をすること。	30分
6	5/13	「第5課、名詞と冠詞」	「第5課、名詞と冠詞」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「名詞と冠詞」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	「第6課、形容詞」	「第6課、形容詞」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「形容詞」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	前期中間試験にそなえる。	120分
8	5/27	前期中間試験、「第7課、疑問表現（1）」その1	前期中間試験を実施した後、「第7課、疑問表現（1）」その1について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「疑問表現（1）」の問題に解答できる。	
		事前学修	前期中間試験にそなえる。	120分
		事後学修	中間試験を解き直して、不明な箇所を辞書、文法教科書等で調べて、小テストの準備をする。	30分
9	6/3	前期中間試験解説、「第7課、疑問表現（1）」その2	前期中間試験を解説した後、「第7課、疑問表現（1）」のその2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、前期中間試験解説で取り上げた箇所を説明でき、「疑問表現（1）」の2の問題に解答できる。	
		事前学修	中間試験を解き直して、不明な箇所を辞書、文法教科書等で調べる。前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をする。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
10	6/10	「第8課、疑問表現（2）」	「第8課、疑問表現（2）」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「疑問表現（2）」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
11	6/17	「第9課、否定表現」	「第9課、否定表現」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「否定表現の問題」に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
12	6/24	「第10課、命令表現」	「第10課、命令表現」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「命令表現の問題」に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	「第11課、faire、prendreを使う」	「第11課、faire、prendreを使う」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「faire、prendreを使う」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	期末試験にそなえる。	120分
14	7/8	前期期末試験、「第12課、目的語の人称代名詞」その1	前期期末試験を実施した後、「第12課、目的語の人称代名詞」その1について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「目的語の人称代名詞」その1の問題に解答できる。	
		事前学修	期末試験にそなえる。	120分
		事後学修	期末試験を解き直して、問題箇所を辞書、文法教科書等で調べて、小テストの準備をする。	30分
15	7/15	前期期末試験解説、「第12課、目的語の人称代名詞」その2	前期期末試験を解説した後、「第12課、目的語の人称代名詞」その2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、前期期末試験解説で取り上げた箇所を説明でき、「目的語の人称代名詞」その2の問題に解答できる。	
		事前学修	期末試験を解き直して、問題箇所を辞書、文法教科書等で調べる。前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をする。	30分
		事後学修	期末試験で間違った箇所をノートにまとめ、問題を解き直す。	30分

科目名	ライティング(仏) I B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるフランス語の書き言葉（フランス語検定４級、３級レベル）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、基礎文法、基礎表現等で修得した基礎的なフランス語力を向上させるために、日常生活において直接必要となる事柄をフランス語で書きとり、また文書で伝える能力を中心としたフランス語力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。実践的な書き言葉のトレーニングを通して、日常生活において直接必要となる事柄に対処できる文書による意思疎通の能力を養成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて、日常的な事柄について自律的に書き、文書で伝えることができる。								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる。								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内で返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フランス語で書こう！』	佐藤久美子、佐藤領時	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス、「第13課、中性代名詞」その1	授業の方針、成績評価の方法等のガイダンスを行った後、「第13課、中性代名詞」その1について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第13課、中性代名詞」その1の問題に解答できる。	
		事前学修	シラバスを読み、当該文法箇所を初年度教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	学習した箇所を整理してまとめて、問題を解き直す。	30分
2	9/23	「第13課、中性代名詞」その2	「第13課、中性代名詞」その2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第13課、中性代名詞」その2の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をする。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
3	9/30	「第14課、自動詞としても他動詞としても使う動詞」	「第14課、自動詞としても他動詞としても使う動詞」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第14課、自動詞としても他動詞としても使う動詞」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
4	10/7	「第15課、代名動詞」	「第15課、代名動詞」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第15課、代名動詞の問題」に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
5	10/14	「第16課、関係代名詞」	「第16課、関係代名詞」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第16課、関係代名詞」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をすること。	30分
6	10/21	「第17課、非人称構文」	「第17課、非人称構文」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第17課、非人称構文の問題」に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	「第18課、比較級・最上級」	「第18課、比較級・最上級」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第18課、比較級・最上級の問題」に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	後期中間試験にそなえる。	120分
8	11/11	後期中間試験 「第19課、過去分詞の性数の一致」その1	後期中間試験を実施した後、「第19課、過去分詞の性数の一致」その1について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第19課、過去分の性数の一致」その1の問題に解答できる。	
		事前学修	後期中間試験にそなえる。	120分
		事後学修	中間試験を解き直して、問題箇所を整理してノートにまとめ、辞書等で調べる。小テストの準備をする。	30分
9	11/18	後期中間試験解説 「第19課、過去分詞の性数の一致」その2	後期中間試験を解説した後、「第19課、過去分詞の性数の一致」その2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、後期中間試験解説で取り上げた箇所を説明でき、「第19課、過去分詞の性数の一致」その2の問題に解答できる。	
		事前学修	中間試験を解き直して、問題箇所を整理してノートにまとめ、辞書等で調べる。前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	試験で間違った問題を解き直して、ノートにまとめる。授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
10	11/25	「第20課、論理関係を示す」	「第20課、論理関係を示す」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第20課、論理関係を示す」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
11	12/2	復習その1：「第1課～第4課の復習」	復習その1：「第1課～第4課の復習」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第1課～第4課の復習」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
12	12/9	復習その2：「第5課～第8課の復習」	復習その2：「第5課～第8課の復習」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第5課～第8課の復習」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	復習その3：「第9課～第12課の復習」	復習その3：「第9課～第12課の復習」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第9課～第12課の復習」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	期末試験にそなえる。	120分
14	12/23	後期期末試験「第13課～第16課の復習」その1	後期期末試験を実施した後、「第13課～第16課の復習」その1について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第13課～第16課の復習」その1の問題に解答できる。	
		事前学修	期末試験にそなえる。	120分
		事後学修	期末試験を解き直して、問題箇所をノートにまとめ、辞書等で調べる。小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
15	1/13	後期期末試験解説、「第13課～第16課の復習」その2	後期期末試験を解説した後、「第13課～第16課の復習」その2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、後期期末試験解説で取り上げた箇所を説明でき、「第13～第16課の復習」その2の問題に解答できる。	
		事前学修	期末試験を解き直して、問題箇所をノートにまとめ、辞書等で調べる。前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所を改めて解いてみる。授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直す。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定5級、4級に合格するための、基礎的フランス語の4技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定5級、4級合格に向けた基礎的なフランス語の4技能を身につける。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験5級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話を繰り返してもらいます。練習問題などで質問がある時も積極的な発言を期待します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案返却時に解説と質問時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/7	ガイダンス・導入講義	ガイダンス:授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の進め方を理解し、事前・事後学修を継続することができる。
		事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。30分
		事後学修	授業で聞いたフランス語音声の綴りを書けるようにしてください。30分
2	4/14	自己紹介	La présentation, la description. 自己紹介・自分の描写に必要なフランス語の動詞。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、自己紹介に必要なフランス語を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布プリントのわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
3	4/21	être動詞	La description 2, le verbe "être".
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、動詞êtreの用法を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布プリントのわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
4	4/28	疑問文	L'interrogation simple, les verbes en "er"
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、疑問文の作り方を理解し、練習問題を解くことができる。
		事前学修	5, 6課のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
5	5/5	第一群規則動詞	Les verbes en "er"
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、第一群規則動詞の活用を様々な動詞で応用でき、練習問題を解くことができる。
		事前学修	7, 8課のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
6	5/12	代名動詞	Les verbes pronominaux en "er", le nom et l'article.
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、代名動詞を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	9, 10課のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	単数形・複数形	Singulier et pluriel des noms, l'article défini/indéfini。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、名詞と冠詞の単数・複数を一致させ、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	11, 12課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
8	5/26	中間テスト、採点、解説・まとめ。	中間小テスト、採点、解説・まとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの範囲の文法事項についての練習問題を解くことができる。	
		事前学修	1課から12課までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	6/2	定冠詞の縮約形	前置詞と定冠詞の縮約、les possessifs. 所有形容詞と名詞の一致。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、定冠詞の縮約、所有形容詞と名詞の一致の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	13, 14課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
10	6/9	指示形容詞	les démonstratifs, la possession。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞と名詞の一致を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	15, 16課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
11	6/16	身体的特徴、否定表現	les caractéristiques physiques, les sensations négatives.	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、身体描写の語彙、否定表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	17, 18課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
12	6/23	avoir	le verbe "avoir", la négation. avoir。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、動詞avoirとその否定形の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	19, 20課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	国と場所の前置詞	前置詞en, à, dans の違い。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、場所の前置詞en, à, dans の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	21, 22課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
14	7/7	非人称構文	前置詞 “dans”, “sur”, “sous”, 非人称構文“il y a”. 様々な前置詞の用法を理解し文を作れる。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、非人称構文、場所の前置詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	23, 24課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
15	7/14	期末テスト、採点、解説とまとめ。	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまで学んできた文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	8回目以降の復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定5級、4級に合格するための、基礎的フランス語の4技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定5級、4級合格に向けた基礎的なフランス語の4技能を身につける。

【履修条件】
今年度中に仏検を受験すること。

【授業方法】
過去の問題や予想問題を解きながら、解説を加えます。 定期的に小テストも実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版 完全予想 仏検4級 改訂 CD付	富田正二	駿河台出版社	2008年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合は授業内や授業後に声を掛けてください。木曜日16:10～16:20 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	オリエンテーション 導入講義	オリエンテーション 導入講義	
		この回の 到達目標	今までに学んだ事項を復習し、確認する。	
		事前学修	今までに習った文法事項の範囲や使用したテキスト名を確認するので、あらかじめ調べてメモしておいてください	30分
		事後学修	基礎的な文法事項を確認しておきましょう	30分
2	第一部 木4/16	-er型規則動詞の活用	直説法現在形（1）-er型規則動詞の活用 小テスト	
		この回の 到達目標	-er型規則動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
3	第一部 木4/23	-ir型規則動詞の活用	直説法現在形（2）-ir型規則動詞の活用 小テスト	
		この回の 到達目標	-ir型規則動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
4	第一部 木4/30	不規則動詞の直説法現在形	直説法現在形（3）不規則動詞の活用 小テスト	
		この回の 到達目標	不規則動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
5	第一部 木5/7	代名動詞の直説法現在形	代名動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④ 小テスト	
		この回の 到達目標	代名動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
6	第一部 木5/14	命令法	命令法 小テスト	
		この回の 到達目標	命令形の変化を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	非人称動詞	非人称動詞 小テスト	
		この回の到達目標	非人称動詞の活用を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
8	第一部 木5/28	直説法複合過去形	直説法複合過去形 小テスト	
		この回の到達目標	直説法複合過去形の活用を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
9	第一部 木6/4	代名動詞の複合過去形	代名動詞の複合過去形 小テスト	
		この回の到達目標	代名動詞の複合過去形の活用を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
10	第一部 木6/11	直説法単純未来形	直説法単純未来形 小テスト	
		この回の到達目標	直説法単純未来形の活用を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
11	第一部 木6/18	直説法半過去形	直説法半過去形 小テスト	
		この回の到達目標	直説法半過去形の活用を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
12	第一部 木6/25	ジェロンディフ	ジェロンディフ 小テスト	
		この回の到達目標	ジェロンディフの変化を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 木7/2	仏検過去問題（５級）		仏検過去問題（５級） 小テスト
		この回の到達目標	仏検過去問題（５級）を通して、試験に慣れる①③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
14	第一部 木7/9	仏検過去問題（４級）		仏検過去問題（４級） 小テスト
		この回の到達目標	仏検過去問題（４級）を通して、試験に慣れる①③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
15	第一部 木7/16	まとめとテスト		前期のまとめ・期末テスト
		この回の到達目標	前期に学んだことを確認し、身に付ける①②③④	
		事前学修	動詞の活用をしっかりと覚えましょう	30分
		事後学修	わからなかった事項があれば、教科書で確認しておきましょう	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内で返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ニヴォー・サンク ― 教室で学ぶ仏検5級 ― 』	富田正二	駿河台出版社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス、綴り字の読み方（１）、名詞・不定冠詞・定冠詞	授業の進め方等のガイダンスを行った後、１）「フランス語の綴り字の読み方（１）」、２）「フランス語の名詞と不定冠詞と定冠詞（第１課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「フランス語の綴り字の読み方（１）」で学習した綴り字を読み発音することができ、また、「フランス語の名詞と不定冠詞と定冠詞（第１課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
2	4/13	発音（２）、部分冠詞、主語となる代名詞と第一群規則動詞	１）「フランス語の発音（２）」、２）「部分冠詞（第６課）」、３）「主語となる代名詞と第一群規則動詞（第３課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「フランス語の発音（２）」で学習した発音をすることができ、「部分冠詞（第６課）」の問題を解くことができ、「主語となる代名詞と第一群規則動詞（第３課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
3	4/20	発音（３）、否定文の作り方、動詞être	１）「フランス語の発音（３）」、２）「否定文の作り方（第２課）」、３）「動詞 être（第２課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「フランス語の発音（３）」で学習した発音をすることができ、「否定文の作り方（第２課）」の問題に解答でき、また、「動詞 être（第２課）」を活用させることができる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
4	4/27	フランス語の発音（４）、動詞 avoir、不定冠詞・部分冠詞の変形	１）「フランス語の発音（４）」、２）「動詞 avoir（第３課）」、３）「不定冠詞・部分冠詞の変形（第６課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「フランス語の発音（４）」で学習した発音をすることができ、「動詞 avoir（第３課）」を活用させることができ、「不定冠詞・部分冠詞の変形（第６課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
5	5/4	数詞（１～２０まで）、動詞 sortir、所有形容詞・指示形容詞	１）「数詞（１～２０まで）」、２）「動詞 sortir（第８課）」、３）「所有形容詞・指示形容詞（第４課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「数詞（１～２０まで）」を発音し聞き取り書き取ることができ、「動詞 sortir（第８課）」を活用させることができ、「所有形容詞・指示形容詞（第４課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
6	5/11	いろいろな疑問文（１）、時空間の前置詞、形容詞の変化と位置	１）「いろいろな疑問文（１）（第８課）」、２）「時空間の前置詞（第５課、第１２課）」、３）「形容詞の変化と位置（第２課、第３課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「いろいろな疑問文（１）（第８課）」の問題に解答でき、「時空間の前置詞（第５課、第１２課）」の問題に解答することができ、また、「形容詞の変化と位置（第２課、第３課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	いろいろな疑問文(2)、前置詞de, à と定冠詞の縮約、動詞aller/近接未来	1) 「いろいろな疑問文(2)(第8課)」、2) 「前置詞de, à と定冠詞の縮約(第4課)」、3) 「動詞aller/近接未来(第5課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「いろいろな疑問文(2)(第8課)」の問題に解答でき、「前置詞de, à と定冠詞の縮約(第4課)」の問題に解答でき、「動詞aller/近接未来(第5課)」を活用できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、中間試験の準備をすること。	120分
8	5/25	中間試験 命令法、動詞venir/近接過去	中間試験を実施する。1) 「命令法(第5課)」、2) 「動詞venir/近接過去(第5課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「命令法(第5課)」の問題に解答でき、また、「動詞venir/近接過去(第5課)」を活用できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。中間試験の準備をすること。	120分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
9	6/1	中間試験の解説 疑問文の作り方、疑問形容詞	中間試験の返却と解説とを行う。1) 「疑問文の作り方(第5課)」、2) 「疑問形容詞(第9課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「疑問文の作り方(第5課)」の問題に解答でき、また、「疑問形容詞(第9課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
10	6/8	動詞 faire 、天候表現	1) 「動詞 faire(第9課)」、2) 「天候表現(第7課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、4級解説で扱った箇所を説明でき、「動詞 faire(第9課)」を直説法現在に活用でき、「天候表現(第7課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
11	6/15	動詞 pouvoir、比較級・最上級、数詞(21～69まで)	1) 「動詞 pouvoir(第7課)」、2) 「比較級・最上級(第9課)」、3) 「数詞(21～69まで)(第8課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞 pouvoir(第7課)」を直説法現在に活用でき、「比較級・最上級(第9課)」の問題に解答でき、また、「数詞(21～69まで)(第8課)」を発音し聞き取ることができる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
12	6/22	動詞 vouloir、いろいろな疑問文(2)、数詞(70～99まで)	1) 「動詞 vouloir(第11課)」、2) 「いろいろな疑問文(2)(第10課)」、3) 「数詞(70～99まで)(第8課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞 vouloir(第11課)」を直説法現在に活用でき、「いろいろな疑問文(2)(第10課)」の問題に解答でき、また、「数詞(70～99まで)(第8課)」を発音し聞き取ることができる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	代名動詞の1、いろいろな疑問文(3)、所有形容詞	1)「代名動詞の1(第9課)」、2)「いろいろな疑問文(3)(第10課)」、3)「所有形容詞(第4課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「代名動詞の1(第9課)」を直説法現在に活用でき、「いろいろな疑問文(3)(第10課)」の問題に解答でき、また、「所有形容詞(第4課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んてくること。	30分
		事後学修	前期末試験にそなえること。	120分
14	7/6	期末試験 代名動詞の2、	前期末試験を実施する。 1)「代名動詞の2(第9課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「代名動詞の2(第9課)」を直説法現在に活用でき、その問題に解答できる。	
		事前学修	前期末試験の準備をすること。	120分
		事後学修	4級の内容を把握し、11月の試験に向けてどのように勉強するか計画をたてること。	30分
15	7/13	期末試験解説、いろいろな疑問文(4)	前期末試験の解説を終えた後、1)「いろいろな疑問文(4)(第10課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、前期末試験の解説を説明でき、、「いろいろな疑問文(4)(第10課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んてくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめること(あるいは再度問題を解いてみること)。単語練習ノートを行って、後期第1回目に提出すること。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。 受業内試験については、添削して返却することに対応する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヴワラ！	伊勢晃、谷口千賀子	早美出版社		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	フランス語の学習の仕方を中心に話す。	
		この回の到達目標	到達目標①に関する準備を行う。	
		事前学修	アルファベットの音声をCDで聞く。	30分
		事後学修	アルファベットの音を覚える。	30分
2	4/14	動詞に関する基礎項目	もっとも一般的な動詞活用の説明	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 課前半の単語を覚える。	30分
3	4/21	動詞に関する基礎項目	動詞活用の練習と作文	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 課後半の単語を覚える。	30分
4	4/28	疑問文に関する基礎項目	疑問文の3つの形を学ぶ	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する	
		事前学修	2 課の予習。	30分
		事後学修	2 課の単語を覚える。	30分
5	5/5	名詞に関する基礎項目	名詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	3 課前半の予習。	30分
		事後学修	3 課前半の単語を覚える。	30分
6	5/12	名詞に関する基礎項目	名詞の性と数にしたがって変化する3つの冠詞を学ぶ	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	3課後半の予習。	30分
		事後学修	3課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	avoirに関する基礎項目	avoir(have)の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	4 課前半の予習。	30分
		事後学修	4 課前半の単語を覚える。	30分
8	5/26	êtreに関する基礎項目	êtreの説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	4 課後半の予習。	30分
		事後学修	4 課後半の単語を覚える。	30分
9	6/2	形容詞に関する基礎項目	形容詞のの説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	5 課の予習。	30分
		事後学修	5 課の単語を覚える。	30分
10	6/9	比較級・最上級に関する基礎項目	比較級と最上級の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	6 課の予習。	30分
		事後学修	6 課の単語を覚える。	30分
11	6/16	allerに関する基礎項目	aller(go)の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	7 課前半の予習。	30分
		事後学修	7 課前半の単語を覚える。	30分
12	6/23	venirに関する基礎項目	venir(come)の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	7 課後半の予習。	30分
		事後学修	7 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	未来と過去の表現に関する基礎項目	近接未来と近接過去の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関し到達目標で①②③④を達成する。	
		事前学修	8 課前半の予習。	30分
		事後学修	8 課前半の単語を覚える。	30分
14	7/7	命令形に関する基礎項目	命令形の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	8 課後半の予習。	30分
		事後学修	8 課後半の単語を覚える。	30分
15	7/14	前期のまとめ	試験および課題の解説	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験5級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場でを行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を繰り返し聞いてから、発話を反復してもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案返却の際に解説・質問の時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
1	9/15	ガイダンス・導入講義		授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業方針を理解し、積極的にフランス語に取り組むことができる。		
		事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください		
		事後学修	授業で聞いたフランス語の音声の綴りを書けるようにしてください。		
2	9/22	疑問文		"Qui est-ce" et "Qu'est-ce que c'est?", "C'est" et "Il est"の用法の違い。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、"Qui est-ce" et "Qu'est-ce que c'est?", "C'est" et "Il est"の用法の違いについて理解し練習問題を解くことができる。		
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。		
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。		
3	9/29	これは～です。		"C'est" + adjectif, les nombres. 数字の数え方を理解し、綴りをかける。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、"C'est" + adjectif, les nombres. 数字の数えを理解し練習問題を解くことができる。		
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。		
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。		
4	10/6	非人称構文・時間		"Il est" + heures, le tempsの時間表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、"Il est" + heures, le tempsの時間表現・用法を理解し練習問題を解くことができる。		
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。		
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。		
5	10/13	部分冠詞		部分冠詞du, de laと数の概念。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、部分冠詞と数の概念を理解し練習問題を解くことができる。		
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。		
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。		
6	10/20	比較級、最上級		La comparaison et le superlatif。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、比較級・最上級の用法を理解し練習問題を解くことができる。		
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。		
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	第二群規則動詞	第二群規則動詞-ir。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、第二群規則動詞-irの用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	11/10	中間テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	11/17	-re動詞、不規則動詞	Les verbes en “-re”, les cas particuliers de verbes.	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、-re動詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	11/24	指示語、所有詞	Les démonstratifs, la possession.	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示詞、所有詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	12/1	基本的な不規則動詞	Le verbes “faire”, “aller”。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、不規則動詞faire, allerの用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	12/8	近接未来、複合過去	Le futur proche, le passé composé avec “avoir”。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、近接未来、複合過去の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	複合過去の助動詞	Le passé composé avec "avoir" et "être".	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、複合過去の助動詞être, avoirの区分について理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	12/22	半過去、単純未来	L'imparfait, le future simple.	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、半過去、単純未来の時制を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
15	1/12	期末テスト、採点、解説とまとめ。	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
今年度中に仏検を受験すること。

【授業方法】
過去の問題や予想問題を解きながら、解説を加えます。 定期的に小テストも実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。										1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。										1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。										1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。										1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版 完全予想 仏検4級 改訂 CD付	富田正二	駿河台出版社	2008年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合は授業内や授業後に声を掛けてください。木曜日16:10～16:20 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	ガイダンス、強勢形人称代名詞	ガイダンス 強勢形人称代名詞 小テスト	
		この回の到達目標	強勢形人称代名詞の変化と使い方を覚える③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
2	第一部 木9/24	目的語人称代名詞	目的語人称代名詞 小テスト	
		この回の到達目標	目的語人称代名詞の変化と使い方を覚える③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
3	第一部 木10/1	再帰代名詞	再帰代名詞 小テスト	
		この回の到達目標	再帰代名詞の変化と使い方を覚える③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
4	第一部 木10/8	中性代名詞	中性代名詞 小テスト	
		この回の到達目標	中性代名詞の変化と使い方を覚える③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
5	第一部 木10/15	指示代名詞	指示代名詞 小テスト	
		この回の到達目標	指示代名詞の変化と使い方を覚える③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
6	第一部 木10/22	否定文	否定文 小テスト	
		この回の到達目標	否定文の作り方を覚え、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	不定詞や節を従える動詞	不定詞や節を従える動詞 小テスト	
		この回の到達目標	不定詞や節を従える動詞を覚え、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
8	第一部 木11/5	目的語人称代名詞と中性代名詞の語順	目的語人称代名詞と中性代名詞の語順 小テスト	
		この回の到達目標	目的語人称代名詞と中性代名詞の語順を覚え、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
9	第一部 木11/12	複合時制と受動態	複合時制と受動態 小テスト	
		この回の到達目標	複合時制と受動態の語順を確認し、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
10	第一部 木11/19	関係代名詞と強調構文	関係代名詞と強調構文 小テスト	
		この回の到達目標	関係代名詞と強調構文の語順を確認し、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
11	第一部 木12/3	形容詞と副詞の語順	形容詞と副詞の語順 小テスト	
		この回の到達目標	形容詞と副詞の語順を確認し、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
12	第一部 木12/10	比較の表現	比較の表現 小テスト	
		この回の到達目標	比較の表現を確認し、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 木12/17	仏検過去問題（５級）		仏検過去問題（５級） 小テスト
		この回の 到達目標	仏検過去問題（５級）を通して、試験に慣れる①②③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
14	第一部 木12/24	仏検過去問題（４級）		仏検過去問題（４級） 小テスト
		この回の 到達目標	仏検過去問題（４級）を通して、試験に慣れる①②③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
15	第一部 木1/14	まとめとテスト		後期のまとめ・期末テスト
		この回の 到達目標	後期に学んだことを復習し、自分で使えるようになる①②③④	
		事前学修	今までに勉強したことを、しっかり復習しておきましょう	30分
		事後学修	わからなかった事項があれば、教科書で確認しておきましょう	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	吉澤 保	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内に返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ニヴォー・サンク ― 教室で学ぶ仏検 5 級 ― 』	富田正二	駿河台出版社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9／14	ガイダンス、中性代名詞(1)、複合過去(1)	授業の進め方等のガイダンスを行った後、1)「中性代名詞(1)(第7課)」、2)「複合過去(1)(第8課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「中性代名詞(1)(第7課)」の問題に解答でき、また、「複合過去(1)(第8課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
2	9／21	中性代名詞(2)、複合過去(2)(第8課)	1)「中性代名詞(2)(第7課)」、2)「複合過去(2)(第8課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、1)「中性代名詞(2)(第7課)」の問題に解答でき、また、「複合過去(2)(第8課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
3	9／28	ne...pas以外の否定表現、単純未来(直説法)	1)「ne...pas以外の否定表現」、2)「単純未来(直説法)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「ne...pas以外の否定表現」の問題に解答でき、また、「単純未来(直説法)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
4	10／5	指示代名詞、半過去(直説法)	4級問題解説を行った後、1)「指示代名詞(第4課)」、2)「半過去(直説法)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「指示代名詞(第4課)」の問題に解答でき、また、「半過去(直説法)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
5	10／12	前置詞(1)、目的補語人称代名詞(1)	1)「前置詞(1)」、2)「目的補語人称代名詞(1)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「前置詞(1)」の問題に解答でき、また、「目的補語人称代名詞(1)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
6	10／19	前置詞(2)、目的補語人称代名詞(2)	1)「前置詞(2)」、2)「目的補語人称代名詞(2)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「前置詞(2)」の問題に解答でき、また、「目的補語人称代名詞(2)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10／26	動詞prendre（第6課）、会話表現(1)	「動詞prendre（第6課）」、「会話表現(1)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞prendre（第6課）」を直説法現在に活用でき、また、「会話表現(1)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。	30分
8	11／9	動詞savoir（第11課）、会話表現(2)	「動詞savoir（第11課）」、「会話表現(2)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞savoir（第11課）」を直説法現在に活用でき、また、「会話表現(2)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
9	11／16	所有代名詞・指示代名詞	「所有代名詞・指示代名詞（第4課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「所有代名詞・指示代名詞（第4課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
10	11／23	条件法現在	「条件法現在（第11課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「条件法現在（第11課）」を活用させることができ、その問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
11	11／30	関係代名詞(1)（第10課）、接続法現在(1)（第12課）	1)「関係代名詞(1)（第10課）」、2)「接続法現在(1)（第12課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「関係代名詞(1)（第10課）」の問題に解答でき、「接続法現在(1)（第12課）」を活用させることができ、またその問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
12	12／7	関係代名詞(2)（第10課）、接続法現在(2)（第12課）	1)「関係代名詞(2)（第10課）」、2)「接続法現在(2)（第12課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「関係代名詞(2)（第10課）」の問題に解答でき、「接続法現在(2)（第12課）」を活用させることができ、またその問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12／14	関係代名詞（３）（第１０課）、接続法過去（第13課）	1）「関係代名詞（３）（第１０課）」、2）「接続法過去（第１３課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「関係代名詞（３）（第１０課）」の問題に解答でき、「接続法過去（第１３課）」を活用させることができる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んてくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、後期期末試験に備えること。	120分
14	12／21	後期期末試験、後期振り返り	後期期末試験を実施し、その後、後期授業の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、後期授業の振り返りで取り上げた箇所を説明でき、その問題に解答することができる。	
		事前学修	後期末試験の準備をすること。	120分
		事後学修	試験で間違った部分をノートに整理すること。	30分
15	1／18	後期期末試験の返却、その解説	後期期末試験を返却し、またその解説を行う。また、次年度以降のフランス語の一層の学修に備えてもらうために、仏検３級、４級の傾向、対策等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、後期期末試験解説で取り上げた箇所を説明でき、３級、４級の問題の解説において取り上げた傾向、対策等について説明でき、またそこで取り上げた問題に解答できる。	
		事前学修	後期に学んだ事項について、質問を準備すること。	30分
		事後学修	試験解説をノートに整理すること。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験に対しては、添削して返却することで対応する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヴワラ！	伊勢晃、谷口千賀子	早美出版社		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	過去の表現に関する基礎項目	avoirを用いた複合過去の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	9 課の予習。	30分
		事後学修	9 課の単語を覚える。	30分
2	9/22	過去の表現に関する基礎項目	êtreを用いた複合過去の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 0 課の予習。	30分
		事後学修	1 0 課の単語を覚える。	30分
3	9/29	目的語に関する基礎項目	直接目的と間接目的の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 1 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 1 課前半の単語を覚える。	30分
4	10/6	強勢形に関する基礎項目	強勢形の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 2 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 2 課後半の単語を覚える。	30分
5	10/13	代名動詞に関する基礎項目	代名動詞（現在）の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 2 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 2 課前半の単語を覚える。	30分
6	10/20	代名動詞に関する基礎項目	代名動詞（過去）の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 2 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 2 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 27	過去の表現に関する基礎項目	半過去の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 3 課の予習。	30分
		事後学修	1 3 課の単語を覚える。	30分
8	11/ 10	疑問詞に関する基礎項目	疑問詞を用いた文章を作り、それに応える	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 4 課の予習。	30分
		事後学修	1 4 課の単語を覚える。	30分
9	11/ 17	関係代名詞に関する基礎項目	関係代名詞の説明との練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 5 課の予習。	30分
		事後学修	1 5 課の単語を覚える。	30分
10	11/ 24	中性代名詞に関する基礎項目	中性代名詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 6 課の予習。	30分
		事後学修	1 6 課の単語を覚える。	30分
11	12/ 1	未来形に関する基礎項目	単純未来の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 7 課の予習。	30分
		事後学修	1 7 課の単語を覚える。	30分
12	12/ 8	ジェロンディフに関する基礎項目	ジェロンディフの作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 8 課の予習。	30分
		事後学修	1 8 課の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/ 15	条件法に関する基礎項目	条件法の作り方の説明	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	19課の予習。	30分
		事後学修	19課の単語を覚える。	30分
14	12/ 22	接続法に関する基礎項目	接続法の作り方の説明	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	20課の予習。	30分
		事後学修	20課の単語を覚える。	30分
15	1/12	後期のまとめ	試験および課題の解説	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅡA	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
「実用フランス語技能検定試験」4級・3級受験希望者を対象にした授業です。 年度内の仏検合格者には、成績評価で点数を加算します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
仏検に合格するためには文法の知識だけでなく、単語や動詞の活用、聞き取りの力も必要です。 そのためこの授業では、フランス語の総合的な力を育成するために、仏検4級・3級に合格するフランス語力を修得します。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験3級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話を繰り返してもらいます。練習問題などで質問がある時も積極的な発言を期待します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いフランス語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(仏語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案返却時に解説と質問時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6	ガイダンス・導入講義	ガイダンス:授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の進め方を理解し、事前・事後学修を継続することができる。
		事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。30分
		事後学修	授業で聞いたフランス語音声の綴りを書けるようにしてください。30分
2	4/13	a＋定冠詞、de＋定冠詞	a la, au, aux, dela, du, desなどの前置詞＋定冠詞の形。。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、a＋定冠詞、de＋定冠詞の様々な形を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
3	4/20	所有形容詞	Mon, ton, sonなどの所有形容詞の単・複・男女のパターン。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、所有形容詞の単・複・男女の用法を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
4	4/27	指示形容詞	ce, cette, cesの指示形容詞
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞の用法を理解し、練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
5	5/4	avoir＋名詞	J'ai une voitureなど、所有を表すavoir＋名詞。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、J'ai une voitureなど、所有を表すavoir＋名詞を理解し、練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
6	5/11	身体的特徴、年齢	Ma fille a les yeux noirs, Mon fils a trois ansなど年齢・身体的特徴の表現。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、年齢・身体的特徴の表現を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	快・不快の表現	Il a mal à la tête, Ils sont faimなどの快・不快表現	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il a mal à la tête, Ils sont faimなどの快・不快表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
8	5/25	中間テスト	中間小テスト、採点、解説・まとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの範囲の文法事項についての練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	6/1	avoirの否定形	J'ai→Je n'ai pas, Nous avons→Nous n'avons pasなど、avoirの否定形における音・綴りの変化。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、J'ai→Je n'ai pas, Nous avons→Nous n'avons pasなど、avoirの否定形における音・綴りの変化を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
10	6/8	avoirの否定形における定冠詞、不定冠詞	Je n'ai pas la télévision, Je n'ai pas de chatなど、所有のavoirの否定形における	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞と名詞の一致を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
11	6/15	位置を表す前置詞	Il est de Paris, Il est à Paris, Il est près de Parisなどの前置詞による位置の表現の違い。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、前置詞による位置の表現の違いを理解し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
12	6/22	国別の前置詞	En France, à Paris, Au Japon, à Tokyoなど、国による前置詞の違い。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、国による前置詞の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	空間配置の前置詞	Dans la voiture, sur la voiture, sous la voitureなどの空間における位置の前置詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、空間における位置の前置詞の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
14	7/6	非人称構文il y a	非人称構文“il y a”の肯定形、否定形、疑問形の作り方。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、非人称構文“il y a”の肯定形、否定形、疑問形の作り方を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
15	7/13	期末テスト及び解説とまとめ	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまで学んできた文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅡB	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
「実用フランス語技能検定試験」4級・3級受験希望者を対象にした授業です。 年度内の仏検合格者には、成績評価で点数を加算します

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
仏検に合格するためには文法の知識だけでなく、単語や動詞の活用、聞き取りの力も必要です。 そのためこの授業では、フランス語の総合的な力を育成するために、仏検4級・3級に合格するフランス語力を修得します。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験3級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話を繰り返してもらいます。練習問題などで質問がある時も積極的な発言を期待します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								2	2		
②	基本的なフランス語を理解し、ほとんどのほとんどの身近な場面で対応できる								2	2		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								2	2		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(仏語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案返却時に解説と質問時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/14	ガイダンス・導入講義	ガイダンス:授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の進め方を理解し、事前・事後学修を継続することができる。
		事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。30分
		事後学修	授業で聞いたフランス語音声の綴りを書けるようにしてください。30分
2	9/21	識別の疑問文	Qui est-ce? Qu'est-ce que c'estなどの疑問文とその答え方。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Qui est-ce? Qu'est-ce que c'estなどの疑問文とその答え方を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
3	9/28	c'estとil estの違い	C'est un homme. Il est grand. C'est un sac. Il est grandなどに見られるc'estとil estの違い。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、c'estとil estの違いを理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
4	10/5	c'est＋形容詞による感想	C'est beau, c'est cherなどのc'est＋形容詞による感想表現。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、c'est＋形容詞による感想表現の用法を理解し、練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
5	10/12	数字を用いた表現	数、助数詞、日付などの表現。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、数、助数詞、日付などの表現を理解し、練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
6	10/19	Il est＋時間の表現	Il est cinq heuresなどのIl est＋時間の表現。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il est＋時間の表現を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	非人称構文を用いた気候表現	Il fait froid en hiver, il fait beau en juilletなどの非人称構文を用いた気候表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il fait froid en hiver, il fait beau en juilletなどの非人称構文を用いた気候表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
8	11/9	中間テスト	中間小テスト、採点、解説・まとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの範囲の文法事項についての練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	11/16	部分冠詞	Je mange de la salade, du poisson et des fruitsなどの部分冠詞の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、部分冠詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
10	11/23	不可算名詞の数え方	Un kilo de, beaucoup de, pas deなどの不可算名詞に用いる数量表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、不可算名詞に用いる数量表現を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
11	11/30	比較表現	plus grand que, moins grand que, aussi grand queなどの比較表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、plus grand que, moins grand que, aussi grand queなどの比較表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
12	12/7	最上級、量の比較	plus de, moins de, autant deなどの量の比較表現と最上級の作り方。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、量の比較表現と最上級の作り方を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	ir動詞	Je grandis, vous grandissezなど、-ir動詞の単数・複数二つの語尾。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、-ir動詞の活用語尾の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
14	12/21	様々な主要不規則動詞	partir, écrire, savoir, connaître, boireなどの頻出不規則動詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、partir, écrire, savoir, connaître, boireなどの頻出不規則動詞の共通パターンを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
15	1/18	期末テスト及び解説とまとめ	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまで学んできた文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅢA	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 3 級、準 2 級（DEL F ・ A1、A2）に合格するための、フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えつつ、資格試験対策II等で修得したフランス語力を更に向上させるために、フランス語検定 3 級、準 2 級（DEL F ・ A1、A2）合格に向けたフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
仏検3級以上を受験し、取得することを目標とする人。

【授業方法】
毎回単語テストを行います。必ず予習してくること。読解、聞き取り、文法など毎回繰り返し練習します。一年次で使用していた教科書を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロールプレイ、クイズ形式の質疑応答	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法・語彙の十分な知識を元に、フランス語圏における社会生活に対応することができる。								3	3		
②	長い文章の主旨を聞き、内容についての質問に答えることができる。								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のフランス語が書ける。								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・プレゼンの講評、解説、採点、質問事項への返答

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プリント配布	なし	なし	なし	その他	必携
備考	毎回、それぞれの課に合わせたプリントを配布				

【オフィスアワー】
授業終了後に質問を受け付ける授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	仏検3級合格への目標設定	ガイダンス、授業の方法、参考書、成績評価の方法などの説明。模擬試験による実力測定、仏検3級合格へ向けたスケジュール作成	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、自分のフランス語力を理解し、仏検合格に向けたスケジュールを作成し、何が必要か説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランス語の教科書文法項目を復習して、仏検3級の過去問を問いておく。	60分
		事後学修	小テストの準備、文法該当箇所の復習	60分
2	第一部木 4/16	定型表現「あいさつ」 直接法現在（1）-er型規則動詞	定型表現「あいさつ」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法現在（1）-er型規則動詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「あいさつ」、直接法現在（1）-er型規則動詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	辞書で定型表現「あいさつ」、直接法現在（1）-er型規則動詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「あいさつ」、直接法現在（1）-er型規則動詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
3	第一部木 4/23	定型表現「おれをいう、謝る」 直接法現在（2）-ir型規則動詞、不規則動詞（1）	定型表現「おれをいう、謝る」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法現在（2）-ir型規則動詞、不規則動詞（1）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「おれをいう、謝る」、直接法現在（2）-ir型規則動詞、不規則動詞（1）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「おれをいう、謝る」、直接法現在（2）-ir型規則動詞、不規則動詞（1）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「おれをいう、謝る」、直接法現在（2）-ir型規則動詞、不規則動詞（1）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
4	第一部木 4/30	定型表現「賛成する、反対する」 直接法現在（3）不規則動詞（2）	定型表現「賛成する、反対する」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法現在（3）不規則動詞（2）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「賛成する、反対する」、直接法現在（3）不規則動詞（2）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「賛成する、反対する」、直接法現在（3）不規則動詞（2）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「賛成する、反対する」、直接法現在（3）不規則動詞（2）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
5	第一部木 5/7	定型表現「依頼する、誘う」 直接法現在（4）不規則動詞（3）	定型表現「依頼する、誘う」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法現在（4）不規則動詞（3）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「依頼する、誘う」、直接法現在（4）不規則動詞（3）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「依頼する、誘う」、直接法現在（4）不規則動詞（3）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「依頼する、誘う」、直接法現在（4）不規則動詞（3）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
6	第一部木 5/14	定型表現「判断や評価を表す」 直接法現在（5）不規則動詞（4）	定型表現「判断や評価を表す」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法現在（5）不規則動詞（4）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「判断や評価を表す」、直接法現在（5）不規則動詞（4）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「判断や評価を表す」、直接法現在（5）不規則動詞（4）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「判断や評価を表す」、直接法現在（5）不規則動詞（4）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	定型表現「体調について話す」 代名動詞の直接法現在形	定型表現「体調について話す」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 代名動詞の直接法現在形を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「体調について話す」、代名動詞の直接法現在形を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「体調について話す」、代名動詞の直接法現在形にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「体調について話す」、代名動詞の直接法現在形の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
8	第一部木 5/28	定型表現「買物をする」 命令形、過去分詞	定型表現「買物をする」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 命令形、過去分詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「買物をする」、命令形、過去分詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「買物をする」、命令形、過去分詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「買物をする」、命令形、過去分詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
9	第一部木 6/4	定型表現「食事をする」 直接法複合過去形、過去分詞の性・数一致	定型表現「食事をする」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法複合過去形、過去分詞の性・数一致を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「食事をする」、直接法複合過去形、過去分詞の性・数一致を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「食事をする」、直接法複合過去形、過去分詞の性・数一致にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「食事をする」、直接法複合過去形、過去分詞の性・数一致の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
10	第一部木 6/11	定型表現「道案内、交通機関を利用する」 直接法半過去・大過去	定型表現「道案内、交通機関を利用する」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法半過去・大過去を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「道案内、交通機関を利用する」、直接法半過去・大過去を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「道案内、交通機関を利用する」、直接法半過去・大過去にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「道案内、交通機関を利用する」、直接法半過去・大過去の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
11	第一部木 6/18	定型表現「個人や生活にかかわる表現」 直接法単純未来形	定型表現「個人や生活にかかわる表現」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法単純未来形を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「個人や生活にかかわる表現」、直接法単純未来形を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「個人や生活にかかわる表現」、直接法単純未来形にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「個人や生活にかかわる表現」、直接法単純未来形の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
12	第一部木 6/25	定型表現「電話する」 条件法現在形とジェロンディフ	定型表現「電話する」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 条件法現在形とジェロンディフを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「電話する」、条件法現在形とジェロンディフを理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「電話する」、条件法現在形とジェロンディフにある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「電話する」、条件法現在形とジェロンディフの理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	定型表現「確認する・否定表現」 接続法現在形	定型表現「確認する・否定表現」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 接続法現在形を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「確認する・否定表現」、接続法現在形を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「確認する・否定表現」、接続法現在形にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「確認する・否定表現」、接続法現在形の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
14	第一部木 7/9	定型表現「日常的な話題」 強勢形人称代名詞、指示代名詞	定型表現「日常的な話題」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 強勢形人称代名詞、指示代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「日常的な話題」、強勢形人称代名詞、指示代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「日常的な話題」、強勢形人称代名詞、指示代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「日常的な話題」、強勢形人称代名詞、指示代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
15	第一部木 7/16	春学期総復習試験	春学期・期末テスト60分、解説30分	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、今まで学習してきた定型表現、文法事項を理解し、説明することができる。	
		事前学修	過去のノートを整理し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	春学期総復習試験の理解できた点、不明な点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分

科目名	フランス語資格試験対策ⅢB	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 3 級、準 2 級（DEL F ・ A 1、A 2）に合格するための、フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えつつ、資格試験対策Ⅱ等で修得したフランス語力を更に向上させるために、フランス語検定 3 級、準 2 級（DEL F ・ A 1、A 2）合格に向けたフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
仏検3級以上を受験し、取得することを目標とする人。

【授業方法】
毎回単語テストを行います。必ず予習してくること。読解、聞き取り、文法など毎回繰り返し練習します。一年次で使用していた教科書を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロールプレイ、クイズ形式の質疑応答	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法・語彙の十分な知識を元に、フランス語圏における社会生活に対応することができる。									3	3		
②	長い文章の主旨を聞き、内容についての質問に答えることができる。									3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のフランス語が書ける。									3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・プレゼンの講評、解説、採点、質問事項への返答

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プリント配布	なし	なし	なし	その他	必携
備考	毎回、それぞれの課に合わせたプリントを配布				

【オフィスアワー】
授業終了後に質問を受け付ける授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	秋学期初回総復習テスト	秋学期初回総復習テスト60分、解説30分	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、今まで学習してきた定型表現、文法事項を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読んで、過去の仏検問題をとき、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	秋学期総復習試験の理解できた点、不明な点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分
2	第一部木 9/24	定型表現「あいさつ」「お礼を言う、謝る」 目的語人称代名詞、再帰代名詞	定型表現「あいさつ」「お礼を言う、謝る」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 目的語人称代名詞、再帰代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「あいさつ」「お礼を言う、謝る」、目的語人称代名詞、再帰代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「あいさつ」「お礼を言う、謝る」、目的語人称代名詞、再帰代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「あいさつ」「お礼を言う、謝る」、目的語人称代名詞、再帰代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
3	第一部木 10/1	定型表現「賛成・反対する」「依頼する、誘う」 所有代名詞、中性代名詞	定型表現「賛成・反対する」「依頼する、誘う」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 所有代名詞、中性代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「賛成・反対する」「依頼する、誘う」、所有代名詞、中性代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「賛成・反対する」「依頼する、誘う」、所有代名詞、中性代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「賛成・反対する」「依頼する、誘う」、所有代名詞、中性代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
4	第一部木 10/8	定型表現「判断や評価を表す」「体調について話す」 関係代名詞、疑問代名詞	定型表現「判断や評価を表す」「体調について話す」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 関係代名詞、疑問代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「判断や評価を表す」「体調について話す」、関係代名詞、疑問代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「判断や評価を表す」「体調について話す」、関係代名詞、疑問代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「判断や評価を表す」「体調について話す」、関係代名詞、疑問代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
5	第一部木 10/15	定型表現「買物をする」「道案内、交通機関を利用する」 不定代名詞、前置詞、場所・位置	定型表現「買物をする」「道案内、交通機関を利用する」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 不定代名詞、前置詞、場所・位置を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「買物をする」「道案内、交通機関を利用する」、不定代名詞、前置詞、場所・位置を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「買物をする」「道案内、交通機関を利用する」、不定代名詞、前置詞、場所・位置にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「買物をする」「道案内、交通機関を利用する」、不定代名詞、前置詞、場所・位置の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
6	第一部木 10/22	定型表現「個人や生活にかかわる表現」「電話する」 時の前置詞	定型表現「個人や生活にかかわる表現」「電話する」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 時の前置詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「個人や生活にかかわる表現」「電話する」、時の前置詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「個人や生活にかかわる表現」「電話する」、時の前置詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「個人や生活にかかわる表現」「電話する」、時の前置詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	定型表現「確認する、否定表現」「日常的な話題」その他の前置詞	定型表現「確認する、否定表現」「日常的な話題」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 その他の前置詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「確認する、否定表現」「日常的な話題」、その他の前置詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「確認する、否定表現」「日常的な話題」、その他の前置詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「確認する、否定表現」「日常的な話題」、その他の前置詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
8	第一部木 11/5	定型表現総復習 形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞	過去に学んだ全ての定型表現の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現、形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現、形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
9	第一部木 11/12	定型表現総復習 模擬試験	過去に学んだ定型表現の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 模擬試験を行い、検定試験への最終確認をする。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現、模擬試験の形式・内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現、形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	模擬試験で理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分
10	第一部木 11/19	会話練習「数字について尋ねる」 否定文、目的語人称代名詞と中性代名詞の語順	会話練習「数字について尋ねる」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 否定文、目的語人称代名詞と中性代名詞の語順を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、会話練習「数字について尋ねる」、否定文、目的語人称代名詞と中性代名詞の語順を理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話練習「数字について尋ねる」、否定文、目的語人称代名詞と中性代名詞の語順にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	会話練習「数字について尋ねる」、否定文、目的語人称代名詞と中性代名詞の語順の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
11	第一部木 12/3	会話練習「理由をのべる」 不定詞や節を従える動詞 関係代名詞と強調構文	会話練習「理由をのべる」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 不定詞や節を従える動詞、関係代名詞と強調構文を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、会話練習「理由をのべる」、不定詞や節を従える動詞、関係代名詞と強調構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話練習「理由をのべる」、不定詞や節を従える動詞、関係代名詞と強調構文にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	会話練習「理由をのべる」、不定詞や節を従える動詞、関係代名詞と強調構文の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
12	第一部木 12/10	会話練習「金額について尋ねる」 比較の構文	会話練習「金額について尋ねる」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 比較の構文を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、会話練習「金額について尋ねる」、比較の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話練習「金額について尋ねる」、比較の構文にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	会話練習「金額について尋ねる」、比較の構文の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	会話練習「希望をのべる」 直接話法と間接話法	会話練習「希望をのべる」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接話法と間接話法を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、会話練習「希望をのべる」、直接話法と間接話法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話練習「希望をのべる」、直接話法と間接話法にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	会話練習「希望をのべる」、直接話法と間接話法の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
14	第一部木 1/14	会話練習「特徴についての べる」 慣用句	会話練習「特徴についてのべる」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 慣用句を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、会話練習「特徴についてのべる」、慣用句を理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話練習「特徴についてのべる」、慣用句にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	会話練習「特徴についてのべる」、慣用句の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
15	第一部木 1/21	秋学期総復習試験	春学期・期末テスト60分、解説30分	
		この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、今まで学習してきた定型表現、文法事項を理解し、説明することができる。	
		事前学修	過去のノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	秋学期総復習試験の理解できた点、不明な点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分

科目名	国際研修(仏) I A	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できるフランス語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力を身につけるために、国際的に通用するコミュニケーション力を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】		
このクラスはビデオ付きのフランスの教材を使用する。ナントに住む2家族の物語を見ながら学習を進めていく。各課はビデオを見て理解してみ、次にフランス語で書かれた資料を読み解きながらフランス語を勉強して、そして書いたり、話したり内容を深め、最後に文化的側面をビデオを使って学習する。初級文法の基本項目を復習しながら、読む、聞く、話す、書くという総合的な力をつけていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる										1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてフランス語の文章が書ける										1	1		1
③	フランス語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる										1	1		1
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	TOTEM 1のプリント配布				

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	04/09	授業のオリエンテーション、及び導入講義	本講義の目的と概要について説明する。	
		この回の到達目標	授業計画を知ること。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	10分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること。	20分
2	04/16	名前を言う、挨拶、イントネーション	Leçon 1 Bienvenue !	
		この回の到達目標	名前を言う、挨拶、イントネーション	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
3	04/23	フランス語を読む	Leçon 2 Les mots à lire アルファベット、スペリング	
		この回の到達目標	資料の理解力を深める。	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
4	04/30	買い物する時の挨拶	Leçon 3 Les mots à écouter	
		この回の到達目標	買い物する時の挨拶	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
5	05/07	フランス文化	Leçon 4 Cultures Saluer, la France フランス人のジェスチャー、フランスのシンボル	
		この回の到達目標	フランス文化	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
6	05/14	自己紹介	Leçon 5 Moi, je suis... 年齢・職業を言う、家族について話す	
		この回の到達目標	年齢・職業を言う、家族について話す	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	05/21	自己紹介	Leçon 6 Mes amis et moi 日付を言う、話す言語・出身地・住んでいる場所を言う	
		この回の到達目標	日付を言う、話す言語・出身地・住んでいる場所を言う	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分
8	05/28	連絡先を聞く	Leçon 7 Toi 電話番号、メールアドレスを聞く	
		この回の到達目標	連絡先を聞く	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分
9	06/04	フランス文化	Leçon 8 Cultures Faire connaissance, habiter à Nantes 住まいについて話す	
		この回の到達目標	住まいについて話す	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分
10	06/11	テスト、振り返り	Préparation au DELF 試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
		この回の到達目標	Leçons 1-8が身につけているかを確認する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分
11	06/18	レストランの注文	Leçon 9 Et pour vous ? レストランで注文する	
		この回の到達目標	レストランで注文する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分
12	06/25	自分の住んでいる町について説明する	Leçon 10 À Paris 自分の住んでいる町について説明する	
		この回の到達目標	自分の住んでいる町について説明する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	07/02	時刻を言う、誘う	Leçon 11 Métro Odéon 時刻を言う、誘う	
		この回の到達目標	時刻を言う、誘う	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
14	07/09	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
		事前学修	試験のための復習	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	07/16	フィードバック	まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	まとめ、振り返り	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	国際研修(仏) I B	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できるフランス語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力を身につけるために、国際的に通用するコミュニケーション力を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】
このクラスはビデオ付きのフランスの教材を使用する。ナントに住む2家族の物語を見ながら学習を進めていく。各課はビデオを見て理解してみて、次にフランス語で書かれた資料を読み解きながらフランス語を勉強して、そして書いたり、話したり内容を深め、最後に文化的側面をビデオを使って学習する。初級文法の基本項目を復習しながら、読む、聞く、話す、書くという総合的な力をつけていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語圏の生活及び語学研修に聞き取り・会話において十分に対応ができる										1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてフランス語の文章が書ける										1	1		1
③	フランス語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる										1	1		1
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業で行われるかポータルサイト	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	TOTEM 1のプリント配布				

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	09/07	Leçons 1-11の復習	前期のレッスンの練習問題	
		この回の到達目標	前期のレッスンの復習	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること。	60分
2	09/14	フランス文化	Leçon 12 Cultures Au restaurant, Bienvenue à Paris レストランでの習慣、パリの紹介	
		この回の到達目標	フランス文化	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
3	10/01	洋服屋さんで買い物する	Leçon 13 Ça vous plaît ? 洋服屋さんで買い物する	
		この回の到達目標	洋服屋さんで買い物する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
4	10/08	食べ物の量を言う、レシピを読む	Leçon 14 Qu'est-ce qu'on mange ? 食べ物の量を言う、レシピを読む	
		この回の到達目標	食べ物の量を言う、レシピを読む	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
5	10/15	市場で買い物する	Leçon 15 Au marché 市場で買い物する	
		この回の到達目標	市場で買い物する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
6	10/22	フランス文化	Leçon 16 Cultures La bonne attitude, le bien manger 買い物と食べ物の習慣	
		この回の到達目標	フランス文化	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	テスト、振り返り	Préparation au DELF 試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
		この回の到達目標	Leçons 12-16が身につけているかを確認する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
8	11/05	自分の趣味について話す	Leçon 17 Et une comédie ? 自分の趣味について話す	
		この回の到達目標	自分の趣味について話す	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
9	11/12	人の見た目と性格を説明する	Leçon 18 Personnalités 人の見た目と性格を説明する	
		この回の到達目標	人の見た目と性格を説明する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
10	11/19	過去の話しをする	Leçon 19 Le jour du livre 過去の話しをする	
		この回の到達目標	過去の話しをする	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
11	12/03	フランス文化	Leçon 20 Culture Faire connaissance Intouchables 対人距離間、映画について話す	
		この回の到達目標	フランス文化	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
12	12/10	過去の出来事について話す	Leçon 21 Le lycée, c'est fini ! 過去の出来事について話す	
		この回の到達目標	過去の出来事について話す	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	思い出話をする	Leçon 22 Les vacances 思い出話をする	
		この回の到達目標	思い出話をする	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
14	12/24	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
		事前学修	試験のための復習	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	01/14	フィードバック	まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	まとめ、振り返り	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	コミュニケーション(仏) I A	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
授業への参加を重視します。毎週宿題を出します。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進めます。 ペアの会話が多いです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire	朝日出版社	2013		
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜４・５限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	フランス語の基礎	Initiation	
		この回の到達目標	フランス語の基礎を理解する	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	4/17	挨拶	Leçon 1	
		この回の到達目標	簡単な挨拶する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	4/24	挨拶	Leçon 1	
		この回の到達目標	名前を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	5/1	数字	Leçon 1/2	
		この回の到達目標	10まで数える	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	5/8	自己紹介	Leçon 2	
		この回の到達目標	名前を言う、30まで数える	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	5/15	自己紹介	Leçon 2	
		この回の到達目標	職業、国籍を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	家族	Leçon 3	
		この回の到達目標	人を描写する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
8	5/29	家族	Leçon 3	
		この回の到達目標	家族を紹介する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
9	6/5	大学	Leçon 3/4	
		この回の到達目標	自分の大学を紹介する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
10	6/12	大学	Leçon 4	
		この回の到達目標	キャンパスをの構成を説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
11	6/19	大学	Leçon 4	
		この回の到達目標	大学の付近を説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
12	6/26	自己紹介	Leçon 5	
		この回の到達目標	話せる言語、専攻を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	自己紹介	Leçon 5	
		この回の到達目標	趣味を紹介する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	7/13	前期のクラスの内容	まとめ	
		この回の到達目標	前期に習ったことを復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	7/17	前期のクラスの内容	期末試験及び解説　まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	前期に習ったことを復習する	
		事前学修	試験のための復習する。（30分）	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと（30分）	30分

科目名	コミュニケーション(仏) I A	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
フランス語の初心者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス、及び導入講義	授業の進め方、概要を説明する。	
		この回の到達目標	一年間の授業内容を把握する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第一部 水4/15	レッスン0-1	フランス語の基礎	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、フランス語の基礎を理解する。	
		事前学修	レッスン0の予習	30分
		事後学修	レッスン0の復習	30分
3	第一部 水4/22	レッスン0-2	フランス語の基礎	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、フランス語の基礎を理解する。	
		事前学修	レッスン0の予習	30分
		事後学修	レッスン0の復習	30分
4	第一部 水4/29	レッスン1-1	自己紹介をする	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、自己紹介をすることができる。	
		事前学修	レッスン1の予習	30分
		事後学修	レッスン1の復習	30分
5	第一部 水5/6	レッスン1-2	自己紹介をする	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、自己紹介をすることができる。	
		事前学修	レッスン1の予習	30分
		事後学修	レッスン1の復習	30分
6	第一部 水5/13	まとめ	レッスン0と1の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン0と1で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン0と1の見直し	30分
		事後学修	レッスン0と1の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	レッスン2-1	今住んでいるところや出身地について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、今住んでいるところや出身地について話すことができる。	
		事前学修	レッスン2の予習	30分
		事後学修	レッスン2の復習	30分
8	第一部 水5/27	レッスン2-2	今住んでいるところや出身地について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、今住んでいるところや出身地について話すことができる。	
		事前学修	レッスン2の予習	30分
		事後学修	レッスン2の復習	30分
9	第一部 水6/3	レッスン3-1	交通手段について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、交通手段について話すことができる。	
		事前学修	レッスン3の予習	30分
		事後学修	レッスン3の復習	30分
10	第一部 水6/10	レッスン3-2	交通手段について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、交通手段について話すことができる。	
		事前学修	レッスン3の予習	30分
		事後学修	レッスン3の復習	30分
11	第一部 水6/17	まとめ	レッスン2と3の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン2と3で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン2と3の見直し	30分
		事後学修	レッスン2と3の復習	30分
12	第一部 水6/24	レッスン4-1	アルバイトについて話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、アルバイトについて話すことができる。	
		事前学修	レッスン4の予習	30分
		事後学修	レッスン4の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	レッスン4-2	アルバイトについて話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、アルバイトについて話すことができる。	
		事前学修	レッスン4の予習	30分
		事後学修	レッスン4の復習	30分
14	第一部 水7/8	まとめ	レッスン4の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン4で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン4の予習	30分
		事後学修	レッスン4の復習	30分
15	第一部 水7/15	前期のまとめ	前期学習内容の総復習	
		この回の到達目標	前期学習内容を総復習する。	
		事前学修	前期終了したテキストの総復習	30分
		事後学修	前期終了した学習内容を確認する。	30分

科目名	コミュニケーション(仏) I A	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】
授業での活動的な参加は求められている (出席だけでは参加になりません) 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン) ISBN 978-4-560-06083-4		白水社	2018		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木曜日 4/9	テーマ別の基礎表現	授業のオリエンテーション。フランス語での基本な挨拶など（前半）。	
		この回の到達目標	授業イメージの理解	
		事前学修	早めに教科書の用意をすること。シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。不足していた場合はコピーなどを用意する。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	木曜日 4/16	テーマ別の基礎表現	数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。	
		この回の到達目標	数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	木曜日 4/23	テーマ別の基礎表現	国籍を言う（代名詞と名詞）	
		この回の到達目標	国籍を言う（代名詞と名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	木曜日 4/30	テーマ別の基礎表現	名前、職業を言う（名詞、形容詞）	
		この回の到達目標	名前、職業を言う（名詞、形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	木曜日 5/7	テーマ別の基礎表現	発音と綴り字記号の読み方	
		この回の到達目標	発音と綴り字記号の読み方	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	木曜日 5/14	テーマ別の基礎表現	持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）	
		この回の到達目標	持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木曜日 5/21	テーマ別の基礎表現	趣味を語る（疑問文）	
		この回の到達目標	趣味を語る（疑問文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
8	木曜日 5/28	テーマ別の基礎表現	好き嫌いを語る（疑問文）	
		この回の到達目標	好き嫌いを語る（疑問文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
9	木曜日 6/4	テーマ別の基礎表現	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
		この回の到達目標	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
10	木曜日 6/11	テーマ別の基礎表現	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）	
		この回の到達目標	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
11	木曜日 6/18	テーマ別の基礎表現	住んでいるところを言う（所有形容詞）	
		この回の到達目標	住んでいるところを言う（所有形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
12	木曜日 6/25	テーマ別の基礎表現	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
		この回の到達目標	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木曜日 7/2	テーマ別の基礎表現	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
		この回の到達目標	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	木曜日 7/9	テーマ別の基礎表現	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
		この回の到達目標	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	木曜日 7/16	テーマ別の基礎表現	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
		この回の到達目標	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	コミュニケーション(仏) I A	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】
コミュニケーションパターンと文法事項を学習、基本事項の反復トレーニング、会話を聞いて、会話の内容確認と会話のロールプレイ、応用練習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FLASH ! Troisième édition revue et augmentée	Emmanuel ANTIER, Junko MIKAMI, Michel SAGAZ	SURUGADAI Shuppansha	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	04/07	フランス紹介、フランス語・フランスについてのクイズ	授業のオリエンテーション	
		この回の到達目標	フランス語に触れること。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	10分
		事後学修	教科書を手に入れて、教科書をめくって観察すること。	20分
2	04/16	自己紹介	Leçon 0 挨拶する、名前を尋ねる・言う、名前の綴りを言う	
		この回の到達目標	挨拶する、名前を尋ねる・言う、名前の綴りを言う	
		事前学修	テキストの8．9ページを読んでおく。	10分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
3	04/23	自己紹介	Leçon 1 職業・身分を言う・国籍を言う	
		この回の到達目標	職業・身分を言う・国籍を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
4	04/30	自己紹介	Leçon 1 職業・身分を言う・国籍を言う	
		この回の到達目標	職業・身分を言う・国籍を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
5	05/07	自己紹介	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
6	05/14	自分の生活について話す	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	05/21	自分の生活について話す	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
8	05/28	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
9	06/04	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
10	06/11	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
11	06/18	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
12	06/25	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	07/02	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
14	07/09	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		事前学修	試験のための復習	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	07/16	フィードバック	まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	まとめ、振り返り	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	コミュニケーション(仏) I B	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
授業への参加を重視します。毎週宿題を出します。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進めます。 ペアーの会話が多いです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire	朝日出版社	2013		
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜４・５限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	前期に習ったこと	前学期の復習	
		この回の到達目標	前期に習ったことを復習する	
		事前学修	前期に学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	9/25	日常生活	Leçon 6	
		この回の到達目標	一日のスケジュールを説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	10/2	日常生活	Leçon 6	
		この回の到達目標	平日、週末のスケジュールを説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	10/9	観光、休み	Leçon 6/7	
		この回の到達目標	休みの予定を説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	10/16	観光、休み	Leçon 7	
		この回の到達目標	時刻を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	10/23	観光、休み	Leçon 7	
		この回の到達目標	日日や季節を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	天気	Leçon 8	
		この回の到達目標	天気を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
8	11/6	家	Leçon 8	
		この回の到達目標	自分が住んでいる家を説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
9	11/13	食べ物	Leçon 8/9	
		この回の到達目標	食べ物の容量を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
10	11/20	食べ物	Leçon 9	
		この回の到達目標	レシピを言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
11	11/27	レストランやカフェ	Leçon 9	
		この回の到達目標	禁じる、許可をあげる	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
12	12/4	服	Leçon 10	
		この回の到達目標	服を描写する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	服	Leçon 10	
		この回の到達目標	お店で服を買う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	12/18	後期のクラスの内容	まとめ	
		この回の到達目標	後期のクラスの内容を復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	12/25	後期のクラスの内容	期末試験及び解説　まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	後期のクラスの内容を復習する	
		事前学修	試験のための復習する。（30分）	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと（30分）	30分

科目名	コミュニケーション(仏) I B	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
フランス語の初心者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	レッスン5-1	ペットなどについて話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ペットなどについて話すことができる。	
		事前学修	前期の総復習とレッスン5の予習	30分
		事後学修	前期終了した学習内容の確認とレッスン5の復習	30分
2	第一部 水9/23	レッスン5-2	ペットなどについて話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ペットなどについて話すことができる。	
		事前学修	レッスン5の予習	30分
		事後学修	レッスン5の復習	30分
3	第一部 水9/30	レッスン6-1	科目・先生について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、科目・先生について話すことができる。	
		事前学修	レッスン6の予習	30分
		事後学修	レッスン6の復習	30分
4	第一部 水10/7	レッスン6-2	科目・先生について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、科目・先生について話すことができる。	
		事前学修	レッスン6の予習	30分
		事後学修	レッスン6の復習	30分
5	第一部 水10/14	まとめ	レッスン5と6の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン5と6で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン5と6の予習	30分
		事後学修	レッスン5と6の復習	30分
6	第一部 水10/21	レッスン7-1	食べ物について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、食べ物について話すことができる。	
		事前学修	レッスン7の予習	30分
		事後学修	レッスン7の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	レッスン7-2	食べ物について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、食べ物について話すことができる。	
		事前学修	レッスン7の予習	30分
		事後学修	レッスン7の復習	30分
8	第一部 水11/11	レッスン8-1	家事について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家事について話すことができる。	
		事前学修	レッスン8の予習	30分
		事後学修	レッスン8の復習	30分
9	第一部 水11/18	レッスン8-2	家事について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家事について話すことができる。	
		事前学修	レッスン8の予習	30分
		事後学修	レッスン8の復習	30分
10	第一部 水11/25	まとめ	レッスン7と8の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン7と8で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン7と8の予習	30分
		事後学修	レッスン7と8の復習	30分
11	第一部 水12/2	レッスン9-1	家族について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家族について話すことができる。	
		事前学修	レッスン9の予習	30分
		事後学修	レッスン9の復習	30分
12	第一部 水12/9	レッスン9-2	家族について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家族について話すことができる。	
		事前学修	レッスン9の予習	30分
		事後学修	レッスン9の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	レッスン10-1	クラブ活動について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、クラブ活動について話すことができる。	
		事前学修	レッスン10の予習	30分
		事後学修	レッスン10の復習	30分
14	第一部 水12/23	レッスン10-2	クラブ活動について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、クラブ活動について話すことができる。	
		事前学修	レッスン10の予習	30分
		事後学修	レッスン10の復習	30分
15	第一部 水1/13	まとめ	レッスン9と10の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン9と10で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン9と10の見直し	30分
		事後学修	後期終了した学習内容を確認する。	30分

科目名	コミュニケーション(仏) I B	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1			
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる										1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる										1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン) ISBN 978-4-560-06083-4		白水社	2018		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木曜日 9/17	テーマ別の基礎表現	後期の授業のオリオンテーション。簡単な復習。	
		この回の到達目標	簡単な復習	
		事前学修	一学期全体の範囲で今まで習得した会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	木曜日 9/24	テーマ別の基礎表現	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）	
		この回の到達目標	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	木曜日 10/1	テーマ別の基礎表現	年齢を言う（数字、疑問副詞）	
		この回の到達目標	年齢を言う（数字、疑問副詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	木曜日 10/8	テーマ別の基礎表現	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）	
		この回の到達目標	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	木曜日 10/15	テーマ別の基礎表現	人を紹介する1（補語人称代名詞）	
		この回の到達目標	人を紹介する1（補語人称代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	木曜日 10/22	テーマ別の基礎表現	人を紹介する2（補語人称代名詞）	
		この回の到達目標	人を紹介する2（補語人称代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木曜日 10/29	テーマ別の基礎表現	日常生活の表現1（代名動詞）	
		この回の到達目標	日常生活の表現1（代名動詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
8	木曜日 11/5	テーマ別の基礎表現	日常生活の表現2（近接未来）	
		この回の到達目標	日常生活の表現2（近接未来）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
9	木曜日 11/12	テーマ別の基礎表現	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）	
		この回の到達目標	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
10	木曜日 11/19	テーマ別の基礎表現	天候を言う（中世代名詞2、命令形）	
		この回の到達目標	天候を言う（中世代名詞2、命令形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
11	木曜日 12/3	テーマ別の基礎表現	比較する（比較級、最上級）	
		この回の到達目標	比較する（比較級、最上級）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
12	木曜日 12/10	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る1（複合過去形）	
		この回の到達目標	過去のことを語る1（複合過去形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木曜日 12/17	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る2（複合過去形）	
		この回の到達目標	過去のことを語る2（複合過去形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	木曜日 12/24	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る1（単純未来形）	
		この回の到達目標	未来のことを語る1（単純未来形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	木曜日 1/14	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る2（単純未来形）	
		この回の到達目標	未来のことを語る2（単純未来形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	コミュニケーション(仏) I B	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】
コミュニケーションパターンと文法事項を学習、基本事項の反復トレーニング、会話を聞いて、会話の内容確認と会話のロールプレイ、応用練習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FLASH ! Troisième édition revue et augmentée	Emmanuel ANTIER, Junko MIKAMI, Michel SAGAZ	SURUGADAI Shuppansha	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	09/07	Leçon 0-4の復習	前期のレッスンの練習問題	
		この回の到達目標	前期のレッスンの復習	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
2	09/14	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べておく	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
3	10/01	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
4	10/08	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
5	10/15	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
6	10/22	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
8	11/05	移動について説明する、交通手段を言う	Leçon 7 移動について説明する、交通手段を言う	
		この回の到達目標	移動について説明する、交通手段を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
9	11/12	移動について説明する、交通手段を言う	Leçon 7 移動について説明する、交通手段を言う	
		この回の到達目標	移動について説明する、交通手段を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
10	11/19	移動について説明する、交通手段を言う	Leçon 7 移動について説明する、交通手段を言う	
		この回の到達目標	移動について説明する、交通手段を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
11	12/03	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	Leçon 8 天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
12	12/10	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	Leçon 8 天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	Leçon 8 天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
14	12/24	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		事前学修	試験のための復習	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	01/14	フィードバック	まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	まとめ、振り返り	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	コミュニケーション(仏)ⅡA	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
授業への参加を重視します。

【授業方法】
ゆっくりした進度の教科書を用い、これに沿って授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて自立的に文章を作って話すことができる										2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる										2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Totem 1 (livre de l'élève)	Marie-José Lopes	Hachette	2014		
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	その年の授業	授業方法の説明	
		この回の到達目標	授業方法の説明の理解	
		事前学修	シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	4/17	フランスのレストラン	Leçon 9 : Et pour vous ?	
		この回の到達目標	レストランで注文する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	4/24	フランスのレストラン	Leçon 9 : Et pour vous ?	
		この回の到達目標	レストランで注文する（続き）	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	5/1	パリの観光	Leçon 10 : À Paris	
		この回の到達目標	道を案内出来る	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	5/8	天気の説明	Leçon 10 : À Paris	
		この回の到達目標	天気予報を理解する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	5/15	美術館、映画、レストランに行く	Leçon 11 Métro Odéon	
		この回の到達目標	約束をとれる	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	美術館、映画、レストランに行く	Leçon 11 Métro Odéon	
		この回の到達目標	約束をとれる(続き)	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
8	5/29	洋服	Leçon 13 : Ça vous plait ?	
		この回の到達目標	服を描写する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
9	6/5	洋服	Leçon 13 : Ça vous plait ?	
		この回の到達目標	買い物出来る	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
10	6/12	料理	Leçon 14 : Qu'est-ce qu'on mange ?	
		この回の到達目標	レシピの材料の容量を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
11	6/19	料理	Leçon 14 : Qu'est-ce qu'on mange ?	
		この回の到達目標	レシピを説明できる	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
12	6/26	食べ物	Leçon 15 : Au marché	
		この回の到達目標	市場で買い物出来る	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	食べ物	Leçon 15 : Au marché	
		この回の到達目標	市場で買い物出来る（続き）	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	7/10	前期の授業	まとめ	
		この回の到達目標	前期の授業の内容を復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	7/17	前期の授業	まとめ	
		この回の到達目標	前期の授業の内容を復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

科目名	コミュニケーション(仏)ⅡA	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
フランス語学習2年目以降の学生または既習者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	フランス語で身近なテーマについて自立的に文章を作って話すことができる										2			
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる											2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる											2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス、及び導入講義	授業の進め方、概要を説明する。	
		この回の到達目標	一年間の授業内容を把握する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第一部 水4/15	レッスン0-10	レッスン0-10のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストのレッスン0-10で学んだ内容を確認する。	
		事前学修	レッスン0-10を読んでおく	30分
		事後学修	レッスン0-10を復習しておく	30分
3	第一部 水4/22	レッスン11-1	習慣について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、習慣について話すことができる。	
		事前学修	レッスン11の予習	30分
		事後学修	レッスン11の復習	30分
4	第一部 水4/29	レッスン11-2	習慣について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、習慣について話すことができる。	
		事前学修	レッスン11の予習	30分
		事後学修	レッスン11の復習	30分
5	第一部 水5/6	レッスン12-1	週末の過ごし方について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、週末の過ごし方について話すことができる。	
		事前学修	レッスン12の予習	30分
		事後学修	レッスン12の予習	30分
6	第一部 水5/13	レッスン12-2	週末の過ごし方について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、週末の過ごし方について話すことができる。	
		事前学修	レッスン12の予習	30分
		事後学修	レッスン12の予習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	まとめ	レッスン11と12の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン11と12で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン11と12の見直し	30分
		事後学修	レッスン11と12の復習	30分
8	第一部 水5/27	レッスン13-1	時間について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、時間について話すことができる。	
		事前学修	レッスン13の予習	30分
		事後学修	レッスン13の復習	30分
9	第一部 水6/3	レッスン13-2	時間について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、時間について話すことができる。	
		事前学修	レッスン13の予習	30分
		事後学修	レッスン13の復習	30分
10	第一部 水6/10	レッスン14-1	休暇中の活動について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、休暇中の活動について話すことができる。	
		事前学修	レッスン14の予習	30分
		事後学修	レッスン14の復習	30分
11	第一部 水6/17	レッスン14-2	休暇中の活動について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、休暇中の活動について話すことができる。	
		事前学修	レッスン14の予習	30分
		事後学修	レッスン14の復習	30分
12	第一部 水6/24	まとめ	レッスン13と14の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン13と14で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン13と14の見直し	30分
		事後学修	レッスン13と14の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	レッスン15-1	経験について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、経験について話すことができる。	
		事前学修	レッスン15の予習	30分
		事後学修	レッスン15の復習	30分
14	第一部 水7/8	レッスン15-2	経験について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、経験について話すことができる。	
		事前学修	レッスン15の予習	30分
		事後学修	レッスン15の復習	30分
15	第一部 水7/15	まとめ	レッスン15の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン15で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン15の見直し	30分
		事後学修	レッスン15の復習	30分

科目名	コミュニケーション(仏)ⅡA	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン) ISBN 978-4-560-06083-4		白水社	2018		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木曜日 4/9	テーマ別の基礎表現	授業のオリエンテーション。フランス語での基本な挨拶など（前半）。	
		この回の到達目標	授業イメージの理解	
		事前学修	早めに教科書の用意をすること。シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。不足していた場合はコピーなどを用意する。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	木曜日 4/16	テーマ別の基礎表現	数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。	
		この回の到達目標	数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	木曜日 4/23	テーマ別の基礎表現	国籍を言う（代名詞と名詞）	
		この回の到達目標	国籍を言う（代名詞と名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	木曜日 4/30	テーマ別の基礎表現	名前、職業を言う（名詞、形容詞）	
		この回の到達目標	名前、職業を言う（名詞、形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	木曜日 5/7	テーマ別の基礎表現	発音と綴り字記号の読み方	
		この回の到達目標	発音と綴り字記号の読み方	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	木曜日 5/14	テーマ別の基礎表現	持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）	
		この回の到達目標	持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木曜日 5/21	テーマ別の基礎表現	趣味を語る（疑問文）	
		この回の到達目標	趣味を語る（疑問文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
8	木曜日 5/28	テーマ別の基礎表現	好き嫌いを語る（疑問文）	
		この回の到達目標	好き嫌いを語る（疑問文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
9	木曜日 6/4	テーマ別の基礎表現	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
		この回の到達目標	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
10	木曜日 6/11	テーマ別の基礎表現	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）	
		この回の到達目標	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
11	木曜日 6/18	テーマ別の基礎表現	住んでいるところを言う（所有形容詞）	
		この回の到達目標	住んでいるところを言う（所有形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
12	木曜日 6/25	テーマ別の基礎表現	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
		この回の到達目標	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木曜日 7/2	テーマ別の基礎表現	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
		この回の到達目標	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	木曜日 7/9	テーマ別の基礎表現	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
		この回の到達目標	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	木曜日 7/16	テーマ別の基礎表現	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
		この回の到達目標	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	コミュニケーション(仏)ⅡB	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
授業への参加を重視します。

【授業方法】
ゆっくりした進度の教科書を用い、これに沿って授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる										2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる										2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Totem 1 (livre de l'élève)	Marie-José Lopes	Hachette	2014		
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	前学期の授業の内容	前学期の復習	
		この回の到達目標	前学期の復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	9/26	映画	Leçon 17 : Et une comédie ?	
		この回の到達目標	自分の好みを表現する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	10/2	映画	Leçon 17 : Et une comédie ?	
		この回の到達目標	未来の話をする	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	10/9	有名人	Leçon 18 : Personnalités	
		この回の到達目標	人を描写する（見かけ/正確）	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	10/16	有名人	Leçon 18 : Personnalités	
		この回の到達目標	人を描写する（見かけ/正確）（続き）	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	10/23	文学	Leçon 19 : Le livre du jour	
		この回の到達目標	過去の話をする	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	文学	Leçon 19 : Le livre du jour	
		この回の到達目標	過去の話をする（続き）	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
8	11/6	フランスの大学	Leçon 21 : Le lycée, c'est fini !	
		この回の到達目標	専攻を説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
9	11/13	フランスの大学	Leçon 21 : Le lycée, c'est fini !	
		この回の到達目標	驚きを表現する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
10	11/20	観光	Leçon 22 : les vacances	
		この回の到達目標	思い出を語る	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
11	11/27	観光	Leçon 22 : les vacances	
		この回の到達目標	頻度を表現する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
12	12/4	留学	Leçon 23 : Erasmus	
		この回の到達目標	相談する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	留学	Leçon 23 : Erasmus	
		この回の到達目標	必要さを表現する	
		事前学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
		事後学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
14	12/18	後期の授業	まとめ	
		この回の到達目標	後期の授業を復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	12/25	後期の授業	まとめ	
		この回の到達目標	後期の授業を復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

科目名	コミュニケーション(仏)ⅡB	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる。CEFRA1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
フランス語学習2年目以降の学生または既習者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	前期のまとめ	前期学習内容の総復習	
		この回の到達目標	前期学習内容を総復習する。	
		事前学修	前期終了したテキストの総復習	30分
		事後学修	前期終了した学習内容を確認する。	30分
2	第一部 水9/23	レッスン16-1	地理について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、地理について話すことができる。	
		事前学修	レッスン16の予習	30分
		事後学修	レッスン16の復習	30分
3	第一部 水9/30	レッスン16-2	地理について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、地理について話すことができる。	
		事前学修	レッスン16の予習	30分
		事後学修	レッスン16の復習	30分
4	第一部 水10/7	レッスン17-1	天候について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、天候について話すことができる。	
		事前学修	レッスン17の予習	30分
		事後学修	レッスン17の復習	30分
5	第一部 水10/14	レッスン17-2	天候について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、天候について話すことができる。	
		事前学修	レッスン17の予習	30分
		事後学修	レッスン17の復習	30分
6	第一部 水10/21	レッスン18-1	過去について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、過去について話すことができる。	
		事前学修	レッスン18の予習	30分
		事後学修	レッスン18の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	レッスン18-2	過去について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、過去について話すことができる。	
		事前学修	レッスン18の予習	30分
		事後学修	レッスン18の復習	30分
8	第一部 水11/11	まとめ	レッスン16-18の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン16-18で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン16-18の予習	30分
		事後学修	レッスン16-18の復習	30分
9	第一部 水11/18	アクティビテ1-1	道を尋ねる	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、道を尋ねることができる。	
		事前学修	アクティビテ1の予習	30分
		事後学修	アクティビテ1の復習	30分
10	第一部 水11/25	アクティビテ1-2	道を尋ねる	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、道を尋ねることができる。	
		事前学修	アクティビテ1の予習	30分
		事後学修	アクティビテ1の復習	30分
11	第一部 水12/2	アクティビテ2-1	レストランで注文する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レストランで注文することができる。	
		事前学修	アクティビテ2の予習	30分
		事後学修	アクティビテ2の復習	30分
12	第一部 水12/9	アクティビテ2-2	レストランで注文する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レストランで注文することができる。	
		事前学修	アクティビテ2の予習	30分
		事後学修	アクティビテ2の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	アクティビテ3-1	買い物をする	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、買い物をするができる。	
		事前学修	アクティビテ3の予習	30分
		事後学修	アクティビテ3の復習	30分
14	第一部 水12/23	アクティビテ3-2	買い物をする	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、買い物をするができる。	
		事前学修	アクティビテ3の予習	30分
		事後学修	アクティビテ3の復習	30分
15	第一部 水1/13	まとめ	後期学習内容の総復習	
		この回の到達目標	後期学習内容を総復習する。	
		事前学修	後期終了したテキストの総復習	30分
		事後学修	前期および後期終了した学習内容を確認する。	30分

科目名	コミュニケーション(仏)ⅡB	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる。CEFRA1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン) ISBN 978-4-560-06083-4		白水社	2018		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木曜日 9/17	テーマ別の基礎表現	後期の授業のオリオンテーション。簡単な復習。	
		この回の到達目標	簡単な復習	
		事前学修	一学期全体の範囲で今まで習得した会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	木曜日 9/24	テーマ別の基礎表現	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）	
		この回の到達目標	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	木曜日 10/1	テーマ別の基礎表現	年齢を言う（数字、疑問副詞）	
		この回の到達目標	年齢を言う（数字、疑問副詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	木曜日 10/8	テーマ別の基礎表現	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）	
		この回の到達目標	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	木曜日 10/15	テーマ別の基礎表現	人を紹介する1（補語人称代名詞）	
		この回の到達目標	人を紹介する1（補語人称代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	木曜日 10/22	テーマ別の基礎表現	人を紹介する2（補語人称代名詞）	
		この回の到達目標	人を紹介する2（補語人称代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木曜日 10/29	テーマ別の基礎表現	日常生活の表現1（代名動詞）	
		この回の到達目標	日常生活の表現1（代名動詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
8	木曜日 11/5	テーマ別の基礎表現	日常生活の表現2（近接未来）	
		この回の到達目標	日常生活の表現2（近接未来）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
9	木曜日 11/12	テーマ別の基礎表現	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）	
		この回の到達目標	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
10	木曜日 11/19	テーマ別の基礎表現	天候を言う（中世代名詞2、命令形）	
		この回の到達目標	天候を言う（中世代名詞2、命令形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
11	木曜日 12/3	テーマ別の基礎表現	比較する（比較級、最上級）	
		この回の到達目標	比較する（比較級、最上級）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
12	木曜日 12/10	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る1（複合過去形）	
		この回の到達目標	過去のことを語る1（複合過去形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木曜日 12/17	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る2（複合過去形）	
		この回の到達目標	過去のことを語る2（複合過去形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	木曜日 12/24	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る1（単純未来形）	
		この回の到達目標	未来のことを語る1（単純未来形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	木曜日 1/14	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る2（単純未来形）	
		この回の到達目標	未来のことを語る2（単純未来形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っている事。授業に関する決まり(欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど)を守る事。初回の授業には開始時より必ず出席している事。

【授業方法】
先に文法の説明を行いその後、学生を指名して音読、本文訳をさせ、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト終了後の解説及び採点後の返却、教科書本文音読テストの批評及び授業内試験の試験終了後の解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子・鄭幸枝	白水社	2019	教科書	必携
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業開始前又は授業終了後（教室）にて。授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/9	【ガイダンス】【中国語とは】	①ガイダンス(授業の進め方等授業概要説明) ②中国語について(発音・文字・方言など)の概略を説明する。	
		この回の到達目標	中国語とはどのようなものかその概要を説明することができる。	
		事前学修	シラバスと教科書を読んで、講義の全体をつかんでおく。中国語とはどのようなものなのかを調べておく。	30分
		事後学修	ガイダンス(授業の進め方等)の確認、発音、文字(簡体字)の理解確認。	30分
2	第一部 4/16	【中国語の発音習得①】声調と単母音	発音習得 声調・単母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	声調、単母音を正確に発音することができる。	
		事前学修	中国語の発音・文字(簡体字)を再度確認する。	60分
		事後学修	声調、単母音の習得確認。	60分
3	第一部 4/23	【中国語の発音取得②】子音、有気音、無気音。	発音習得 ①子音、有気音・無気音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	①子音、有気音・無気音を正確に発音することができる。	
		事前学修	声調、単母音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	①子音、有気音・無気音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
4	第一部 4/30	【中国語の発音習得③】子音、有気音、無気音、複合母音。	発音習得 ②子音、有気音・無気音・複合母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	②子音、有気音・無気音・複合母音を正確に発音することができる。	
		事前学修	①子音、有気音・無気音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	②子音、有気音・無気音・複合母音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
5	第一部 5/7	【中国語の発音習得④】鼻母音、声調の変化、er化、軽声。	発音習得 鼻母音・声調の変化・er化・軽声等について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	鼻母音・声調の変化・er化・軽声等を正確に発音することができる。	
		事前学修	②子音、有気音・無気音・複合母音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	鼻母音・声調の変化・er化・軽声等の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
6	第一部 5/14	【中国語基礎表現習得①】人称代名詞、「～だ」、「～ですか」の表現。	第1課① 校門で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第1回ピンイン書き取りテスト(母音部)	
		この回の到達目標	第1課の文法事項を理解し、その本文を音読して、基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	鼻母音・声調の変化・er化・軽声等について、教科書で再度確認、第1回ピンイン書き取りテスト準備、第1課① 校門で 予習(文法事項通読、新出単語及び本文発音確認)	120分
		事後学修	第1課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第1回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/21	【中国語基礎表現習得②】 動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文の表現。	第1課② 校門で、第2課① 廊下で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第2回ピンイン書き取りテスト（子音 b、p、m、f 部）	
		この回の到達目標	第1課の練習問題を正しく解答できる。第2課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第2回ピンイン書き取りテスト準備、第1課文法事項等について、教科書で再度確認、第1課② 校門で、第2課① 廊下で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第1課全事項の習得確認、第2課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第2回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
8	第一部 5/28	【中国語基礎表現習得③】 動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文の表現。	第2課② 廊下で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第3回ピンイン書き取りテスト（子音 d、t、n、l 部）	
		この回の到達目標	第2課の練習問題を正しく解答することができる。第2課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第3回ピンイン書き取りテスト準備、第2課文法事項等について、教科書で再度確認、第2課② 廊下で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第2課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第3回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
9	第一部 6/4	【中国語基礎表現習得④】 指示代名詞、形容詞述語文、所有格、語気助詞の表現。	第3課① キャンパスで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第4回ピンイン書き取りテスト（子音 g、k、h 部）	
		この回の到達目標	第3課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第4回ピンイン書き取りテスト準備、第3課① キャンパスで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第3課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第4回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
10	第一部 6/11	【中国語基礎表現習得⑤】 所有、反復疑問文、数詞の表現。	第3課② キャンパスで、第4課① 携帯を見ながら について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。第5回ピンイン書き取りテスト（子音 j、q、x 部）	
		この回の到達目標	第3課の練習問題を正しく解答することができる。第3課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第5回ピンイン書き取りテスト準備、第3課文法事項等について、教科書で再度確認、第3課② キャンパスで、第4課① 携帯を見ながら 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第3課全事項の習得確認、第4課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第5回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
11	第一部 6/18	【中国語基礎表現習得⑥】 所有、反復疑問文、数詞の表現。	第4課② 携帯を見ながら について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第6回ピンイン書き取りテスト（子音 z h、c h、s h、r 部）	
		この回の到達目標	第4課の練習問題を正しく解答することができる。第4課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第6回ピンイン書き取りテスト準備、第4課文法事項等について、教科書で再度確認、第4課② 携帯を見ながら 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第4課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第6回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
12	第一部 6/25	【中国語基礎表現習得⑦】 場所詞、存在、副詞、二重目的語文の表現。	第5課① 学生食堂で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第7回ピンイン書き取りテスト（子音 z、c、s 部）	
		この回の到達目標	第5課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第7回ピンイン書き取りテスト準備、第5課① 学生食堂で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第5課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第7回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 7/2	【中国語基礎表現習得⑧】 場所詞、存在、副詞、二重 目的語文の表現。	第5課② 学生食堂で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 前期授業総復習、教科書本文音読テスト練習	
		この回の 到達目標	第5課の練習問題を正しく解答することができる。第5課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第5課文法事項等について、教科書で再度確認、第5課② 学生食堂で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第5課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、前期授業における習得の総確認、第1～7回ビンイン書き取りテスト見直し。	90分
14	第一部 7/9	【本文音読テスト、まとめ】	教科書本文音読テスト及び前期学習内容の振り返り。	
		この回の 到達目標	教科書本文をしっかりと正確に発音できる。	
		事前学修	教科書本文音読テスト準備。	120分
		事後学修	教科書本文音読テストの問題点改善。	90分
15	第一部 7/16	【授業内試験、まとめ】	授業内試験及びその解説。前期学習内容の振り返り。	
		この回の 到達目標	授業で習得したことをしっかりと試験で反映することができる。	
		事前学修	教科書の総復習、前期試験準備。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認、前期試験の問題点改善、夏休み課題。	90分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	白石 裕一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って進めていく。毎回単語テストを行う。 フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点をして、授業中に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ実践中国語	王学群・高麗貞	白帝社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：金曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	発音練習	発音練習（1）単母音、声調	
		この回の到達目標	中国語の発音のあらましを理解する。声調をマスターする。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと	30分
		事後学修	発音の復習をすること。	30分
2	第一部 金4/17	発音練習	発音練習（2）単母音、複母音、子音、有気音、無気音	
		この回の到達目標	単母音をマスターする。複母音、子音、有気音、無気音の練習をする。	
		事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音の復習をすること。	30分
3	第一部 金4/24	発音練習	発音練習（3）そり舌音、鼻母音	
		この回の到達目標	複母音、子音、有気音、無気音をマスターする。そり舌音、鼻母音の練習をする。	
		事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音の復習をすること。	30分
4	第一部 金5/1	基本的な語順	第1課：本文の翻訳、①人称代詞、②動詞述語文。発音練習（4）注意すべき発音	
		この回の到達目標	そり舌音、鼻母音をマスターする。中国語の基本的な語順を理解する。	
		事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音の復習をすること。	30分
5	第一部 金5/8	疑問と否定	第1課：③疑問を表す“ma”、④否定を表す“不”、練習問題。発音練習（5）声調の確認	
		この回の到達目標	疑問表現と否定表現を理解する。	
		事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音の復習をすること。	30分
6	第一部 金5/15	発音の確認	これまで練習してきた発音の確認	
		この回の到達目標	20くらいの単語をすらすら発音できるようにする。	
		事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音の復習をすること	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	代詞と“是”構文	第2課：本文の翻訳、①指示代詞（1）、②判断を表す“是”	
		この回の到達目標	代詞のあらましと“是”構文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
8	第一部 金5/29	構造助詞“的”と疑問詞疑問文	第2課：③連体修飾の“的”、④疑問詞疑問文、練習問題	
		この回の到達目標	構造助詞“的”と疑問詞疑問文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
9	第一部 金6/5	数詞と助数詞	第3課：本文の翻訳、①数詞・曜日・年月日、②時刻	
		この回の到達目標	数詞と助数詞を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
10	第一部 金6/12	名詞述語文と省略疑問文	第3課：③名詞述語文、④省略疑問文の“ne”、練習問題	
		この回の到達目標	名詞述語文と省略疑問文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
11	第一部 金6/19	指示代詞と存在文	第4課：本文の翻訳、①指示代詞（2）、②存在文	
		この回の到達目標	指示代詞と存在文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
12	第一部 金6/26	形容詞述語文と前置詞	第4課：③形容詞述語文、④前置詞の“離”、練習問題	
		この回の到達目標	形容詞述語文と前置詞を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	動詞“有”と反復疑問文	第5課：本文の翻訳、①所有を表す“有”、②反復疑問文	
		この回の到達目標	動詞“有”と反復疑問文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
14	第一部 金7/10	構造助詞“的”の省略と家族を表す名詞	第5課：③“的”の省略、家族の言い方、練習問題	
		この回の到達目標	構造助詞“的”の省略を理解し、家族を表す名詞を覚える。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
15	第一部 金7/17	まとめ	これまで学習してきた内容のまとめ	
		この回の到達目標	中国語の発音と基本的な表現のための文法を確認する。	
		事前学修	これまで学習してきた内容をすべて復習しておくこと。	30分
		事後学修	きちんと理解していないところは再度復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
なし

【授業方法】
文法を解説し、本文を朗読、翻訳する。発音の訓練を行い、会話を練習する。テキスト内容を暗記し、書きとりを行う。フィードバックは授業中に行う。テストなどについては採点して解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に二人一組で会話練習する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストなどを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(最新2訂版) 中国語はじめの一步	竹島全吾 伊景春 竹島毅	白水社	2012年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第一部火 4月7日	中国語について		1、ガイダンス 「授業の概要や到達目標について説明」 2、中国の概況 3、中国語の発音：短母音、声調
		この回の到達目標	シラバスの概要を確認し、理解する。 中国語の発音：短母音、声調	
		事前学修	シラバスを確認し、授業計画を立てる。	90分
		事後学修	短母音、声調の復習	90分
2	第一部火 4月14日	中国語の発音		発音：子音、複合母音
		この回の到達目標	発音：子音、複合母音の発音ができる。	
		事前学修	子音、複合母音の予習	90分
		事後学修	子音、複合母音の復習	90分
3	第一部火 4月21日	中国語の発音		発音：鼻母音、発音のトレーニング
		この回の到達目標	鼻母音の発音ができる。	
		事前学修	鼻母音の予習	90分
		事後学修	発音の総復習	90分
4	第一部火 4月28日	第1課		第1課 「あなたは中国人ですか。」本文訳 ポイント 1. 人称代名詞 2. “是” の文
		この回の到達目標	第1課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
5	第一部火 5月5日	第1課		第1課 「あなたは中国人ですか。」 本文、トレーニング
		この回の到達目標	第1課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておくこと	90分
		事後学修	第1課の総復習	90分
6	第一部火 5月12日	第2課		第2課 「これはなんですか。」本文訳 ポイント 1. 指示代名詞 (1) 2. 疑問詞疑問文 3. “的” の用法 4. 副詞
		この回の到達目標	第2課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5月19日	第2課	第2課 「これはなんですか。」 本文、トレーニング、	
		この回の 到達目標	第2課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第2課の総復習	90分
8	第一部火 5月26日	第3課	第3課 「あなたはどこに行きますか。」本文訳 ポイント 1. 動詞の文 2. 「所有」を表わす“有” 3. 省略疑問の“呢”	
		この回の 到達目標	第3課の文法や発音の習得ができる	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
9	第一部火 6月2日	第3課	第3課 「あなたはどこに行きますか。」 本文、トレーニング	
		この回の 到達目標	第3課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第3課の総復習	90分
10	第一部火 6月9日	第4課	第4課 「このバックはいくらですか」本文訳 ポイント 1. 量詞 2. 指示代名詞 (2) 3. 形容詞の文 4. “几” と“多少”	
		この回の 到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
11	第一部火 6月16日	第4課	第4課 「このバックはいくらですか。」 本文、トレーニング	
		この回の 到達目標	第4課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第4課の総復習	90分
12	第一部火 6月23日	第5課	第5課 「あなたは夜用事がありますか。」本文訳 ポイント 1. 数字 2. 日付・時刻を表す語 3. 「動作の時点」を言う表現	
		この回の 到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部火 6月30日	第5課		第5課 「あなたは夜用事がありますか。」 本文、トレーニング
		この回の 到達目標	第5課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第5課の総復習	90分
14	第一部火 7月7日	中間のまとめ		第1課～5課のまとめ。（前期末授業内筆記試験）
		この回の 到達目標	これまでの学習内の復習で、問題点を解説し、正しく理解できる。	
		事前学修	第1課～5課の復習、問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し、理解する。	90分
15	第一部火 7月14日	フィードバック、質疑応答		①フィードバック、質疑応答及び前期のまとめ ②会話テストを行う。または書き取りをやる。
		この回の 到達目標	フィードバック、質疑応答によって理解を深める。	
		事前学修	会話テストや書き取りに備え、内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語圏の言語・文化に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。初回の授業で担当者の受講許可を得ること。

【授業方法】		
中国語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。特に一部月曜5限（事前抽選除外クラス）は中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後のフィードバックは後日ポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 1 CD・DVD付	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2004年	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	学修サポートとしてインターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を発信します。講読の課と練習問題は授業では学修しません。				

【オフィスアワー】
競技部員は月 6 と土 4、1033講堂（予定）。競技部以外は火 5、532講堂（予定）。要事前申し込み。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/6 第二部 4/10	ガイダンス・中国語の四声	授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／教科書・参考書の紹介／「Quizlet」について／参考プリント「C1A競技部～」について／成績評価方法について／中国語入門知識と四声を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、これから学ぶ中国語の性質、簡体字、ピンインの概略について説明でき、四声を正しく発音できる	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、できれば教科書を購入し、第1課に目を通すとともにCD・DVDも視聴しておく	60分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期01）およびC1A競技部_01-04課（発音篇）などをもちいて四声・挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
2	第一部 4/13 第二部 4/17	母音・3声の変調・軽声	母音・3声の変調・軽声の発音とそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、母音・3声の変調・軽声といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期01）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、四声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期02）およびC1A競技部_01-04課（発音篇）などをもちいて、今回学んだ母音・3声の変調・軽声、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
3	第一部 4/20 第二部 4/24	-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）など	-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）などの発音とそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期02）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、母音・3声の変調・軽声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期03）およびC1A競技部_01-04課（発音篇）などをもちいて、今回学んだ-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
4	第一部 4/27 二部5/1	舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/w	主にプリントを使用し舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wとそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期03）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて-n/-ng・-ian・erの発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期04）およびC1A競技部_01-04課（発音篇）などをもちいて、今回学んだ舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/w、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
5	第一部 5/4 第二部 5/8	発音と綴りのまとめ	主にプリントを使用し、発音と綴りをまとめ、短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、中国語の発音と綴りについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期04）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wを身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期05）およびC1A競技部_01-04課（発音篇）などをもちいて、今回学んだ発音の全般、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
6	第一部 5/11 第二部 5/15	“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文	教科書ユニット2-第5課にて“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期05）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて中国語の発音と綴りを身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期06）およびC1A競技部_05課などをもちいて、今回学んだ“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/18 第二部 5/22	反復疑問文・形容詞述語文	ユニット2-第6課にて反復疑問文・形容詞述語文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と反復疑問文・形容詞述語文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期06）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期07）およびCIA競技部_06課などをもちいて、今回学んだ反復疑問文・形容詞述語文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
8	第一部 5/25 第二部 5/29	“呢”疑問文・“的”の用法	ユニット2-第7課にて“呢”疑問文・“的”の用法を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“呢”疑問文・“的”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期07）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、反復疑問文・形容詞述語文を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期08）およびCIA競技部_07課などをもちいて、今回学んだ“呢”疑問文・“的”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
9	第一部 6/1 第二部 6/5	選択疑問文・数を問う疑問詞	ユニット2-第8課にて選択疑問文・数を問う疑問詞などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と選択疑問文・数を問う疑問詞などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期08）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“呢”疑問文・“的”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期09）およびCIA競技部_08課などをもちいて、今回学んだ選択疑問文・数を問う疑問詞、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
10	第一部 6/8 第二部 6/12	文末付加型疑問文・“吧”の用法	ユニット2-第9課にて文末付加型疑問文・“吧”の用法を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、文末付加型疑問文・“吧”の用法といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期09）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“呢”疑問文・“的”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期10）およびCIA競技部_09課などをもちいて、今回学んだ文末付加型疑問文・“吧”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする（次回は第11課）	30分
11	第一部 6/15 第二部 6/19	所有の“有”の用法	ユニット3-第11課にて所有の“有”の用法などを学修する（第10課は「講読文の課」につき授業では学修しない）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、所有の“有”の用法といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期10）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、文末付加型疑問文・“吧”の用法を身につけ授業にのぞむ（次回は第11課）	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期11）およびCIA競技部_11課などをもちいて、今回学んだ所有の“有”、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
12	第一部 6/22 第二部 6/26	ユニット2のまとめと復習	ユニット2-第5課〜第9課と第11課の復習を通して身に付けるべき文法・単語・短文を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、文法・単語・短文を復習し、学修済みの文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期11）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、所有の“有”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期12）などをもちいて、文法・単語・短文を復習し短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/29 第二部 7/3	試験対策	前期総復習として、テキスト・プリンなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策を通して前期の内容を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学んだ発音・語彙・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、前期の学修内容を復習しつつ、前期学修範囲の疑問点を明らかにして授業にのぞむ	60分
		事後学修	前期口頭試験課題文をテキストやプリント、Quizlet（前期口頭試験課題）などを持ち復習し短文音読の反復練習をする	120分
14	第一部 7/6 第二部 7/10	筆記試験とまとめ	前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修した発音、語彙、文法などを応用することができる	
		事前学修	Quizlet（前期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	試験で問題とされた個所について、教科書やプリントを確認し、復習と短文音読の反復練習をする	120分
15	第一部 7/13 第二部 7/17	口頭試験とまとめ	前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる	
		事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	吉田 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
初修のもの

【授業方法】
教科書を使い、発音の学習から始める。簡単な語彙を使って、文章を組み立てる能力を養い、合わせてそれを発音できるようにする。必要に応じて小テストを行う。また、発音のテストは期末の試験の一部とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストは当日答えを合わせて解説する。課題については翌週に答え合わせを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学漢語	衛榕群・中本愛	白帝社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の1限と2限の間の休み時間、授業を行う教室で。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	中国語とは	授業予定、中国語の作り、母音と複母音	
		この回の到達目標	母音と複母音の発音ができる	
		事前学修	テキストの初めを読んでおく	30分
		事後学修	母音の表記と音を確認し、区別をしておく	30分
2	4月13日	発音	子音	
		この回の到達目標	子音の発音ができる	
		事前学修	表を見て、説明を読んでおく	30分
		事後学修	子音の区別ができるように、練習する	30分
3	4月20日	発音	声調	
		この回の到達目標	声調を理解し、発音できるようにする	
		事前学修	声調の練習をする	30分
		事後学修	組み合わせを覚えて、練習する	30分
4	4月27日	第一課	第1課「こんにちは」	
		この回の到達目標	是を用いる文を理解し、運用する	
		事前学修	pointを読んでおく	30分
		事後学修	「である」の言い方を復習する	30分
5	5月4日	第二課	第2課「名字は何ですか」	
		この回の到達目標	動詞の述語文の文型を覚える	
		事前学修	動詞の述語文の形を見ておく	30分
		事後学修	動詞を使った分を復習する	30分
6	5月11日	第三課	第3課「今日は天気が良い」	
		この回の到達目標	形容詞の文を理解する	
		事前学修	形容詞述語文の形を見ておく	30分
		事後学修	疑問詞疑問文を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	第四課	第4課「彼は今年何歳」	
		この回の到達目標	疑問文に疑問詞を使った文を覚える	
		事前学修	数の表し方を見ておく	30分
		事後学修	この～、その～の言い方を復習する	30分
8	5月25日	第五課	第5課「食堂に行ってご飯を食べよう」	
		この回の到達目標	完了態の表現を覚える	
		事前学修	本文の音源を聞いておく	30分
		事後学修	いつ、何をするという表現を復習する	30分
9	6月1日	復習	第1課から5課までの復習	
		この回の到達目標	動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文の区別ができる	
		事前学修	ならった文型を整理する	30分
		事後学修	p 45の会話文を音読する	30分
10	6月8日	第六課	第6課「食堂の料理はどうですか」	
		この回の到達目標	～にいる、～にある、の文を理解する	
		事前学修	テキストの本文を読む	30分
		事後学修	キャンパスマップを使って会話文を作る	30分
11	6月15日	第七課	第7課「中華街に行ったことがあるか」	
		この回の到達目標	「～したことがある」「～したい」の文を理解する	
		事前学修	テキストの本文を読んでおく	30分
		事後学修	～ことがある、～ことがない、の文を作ってみる	30分
12	6月22日	第八課	第8課「どのくらい時間がかかりますか」	
		この回の到達目標	～から、～までの表現を覚える	
		事前学修	時刻や時間の表現を調べる	30分
		事後学修	時間量を使った文章を作る	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	第八課	第8課「自己紹介文」	
		この回の到達目標	自己紹介文を自分でつくり、読む	
		事前学修	テキストの自己紹介文を読んでおく	30分
		事後学修	自分の情報を入れて自己紹介文を作る	30分
14	7月6日	第八課	復習1	
		この回の到達目標	復習1の問題を理解する	
		事前学修	復習1の問題をやってみる	30分
		事後学修	答えを合わせて、間違いを正す	30分
15	7月13日	期末テストとまとめ	期末テストとFD、短文を暗唱する	
		この回の到達目標	春学期の学習内容をまとめて、理解する	
		事前学修	一課から八課までの学習内容を復習する	30分
		事後学修	答えと違うところの確認をする	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者 3 0 名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】							
書名			著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎 重版 2020年3月2刷発行			汪鴻祥 主編	白帝社	2020年度	教科書	必携

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火4/7	イントロダクション及び導入講義	授業計画の説明等	
		この回の到達目標	この授業の計画と内容を理解する	
		事前学修	テキスト6－7ページ（中国の基本データと中国の基本知識）と発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
2	火4/14	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
3	火4/21	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
4	火4/28	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
5	火5/5	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
6	火5/12	会話編	第1課：「初次面」 会話と練習	
		この回の到達目標	第1課：「初次面」を習得する	
		事前学修	第1課：「初次面」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	火 5/19	会話編		第2課：「迎新生」 会話と練習
		この回の到達目標	第2課：「迎新生」を習得する	
		事前学修	第2課：「迎新生」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
8	火 5/26	会話編		第3課：「我的一家」 会話と練習
		この回の到達目標	第3課：「我的一家」を習得する	
		事前学修	第3課：「我的一家」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
9	火 6/2	会話編		第4課：「生日快」 会話と練習
		この回の到達目標	第4課：「生日快」	
		事前学修	第4課：「生日快」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
10	火 6/9	会話編		第5課：「漫学」 会話と練習
		この回の到達目標	第5課：「漫学」を習得する	
		事前学修	第5課：「漫学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
11	火 6/16	会話編		第6課：「参校园」 会話と練習
		この回の到達目標	第6課：「参校园」を習得する	
		事前学修	第6課：「参校园」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
12	火 6/23	会話編		第7課：「趣好」 会話と練習
		この回の到達目標	第7課：「趣好」を習得する	
		事前学修	第7課：「趣好」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	火 6/30	会話編		第8課：「学」 会話と練習
		この回の 到達目標	第8課：「学」を習得する	
		事前学修	第8課：「学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
14	火 7/7	復習		期末総合復習
		この回の 到達目標	前期で学んだ中国語を復習し理解する	
		事前学修	総合復習の準備	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
15	火 7/14	期末総括と授業内試験		期末総括試験及びまとめ、振り返り
		この回の 到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う	
		事前学修	試験の準備	120分
		事後学修	前期授業内容の復習	120分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日講評

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2017 2・1 発行		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付けます。授業時間：土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	ガイダンス 中国語とは	年間講義計画、成績評価の方法、授業方法紹介など	
		この回の到達目標	中国語の概略を理解することと発音記号を理解する	
		事前学修	教科書とシラバスに目を通してください	10分
		事後学修	授業の内容を復習する	20分
2	第一部 土4/11	中国語の発音	発音について学ぶ 音節と声調 および 単母音韻母	
		この回の到達目標	とくに、声調を理解し覚えること	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単母音を発音練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
3	第一部 土4/18	中国語の発音	複合母音 韻尾 nとng	
		この回の到達目標	韻母を読める、書ける	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	母音の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
4	第一部 土4/25	中国語の発音	声母 有気音と無気音 そり舌音	
		この回の到達目標	声母を覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	声母の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
5	第一部 土5/2	ピンイン表記法	軽声、儿化韻 変調	
		この回の到達目標	発音をはっきりと聞き分けられ また正しく発音できるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	発音まとめの復習	20分
6	第一部 土5/9	発音到達度テスト まとめ	発音リスニングテスト	
		この回の到達目標	発音上達するように	
		事前学修	声母、韻母の復習	10分
		事後学修	テスト問題の見直し	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	第一課 自己紹介	人称代詞、 姓名の尋ね方、こたえ方 よく使われるあいさつ言葉	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を理解する	
		事前学修	会話文を読む	10分
		事後学修	単語と本文を覚えましょう	20分
8	第一部 土5/23	第二課 お誕生日	月日の言い方、聞き方 年齢の言い方、聞き方 数の数え方	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語と本文を覚えましょう	20分
9	第一部 土5/30	第三課 電話をかける	電話番号の聞き方、言い方 「有」と「没有」	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
10	第一部 土6/6	第四課 お住まい	形容詞述語文のたずね方、こたえ方 動詞の「在」と介詞の「在」	
		この回の 到達目標	形容詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
11	第一部 土6/13	第五課 買い物	他動詞 「想」の使い方 「的」の名詞化用法	
		この回の 到達目標	買い物の会話を話せるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	30分
12	第一部 土6/20	第六課 食事をする	省略疑問文と疑問代詞 助動詞の「会」	
		この回の 到達目標	食事について会話をできるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	第一課から第六課 単語テスト まとめ	学んだ単語を漢字を書ける、読める	
		この回の 到達目標	単語を暗記	
		事前学修	単語の復習	30分
		事後学修	テストの見直し	10分
14	第一部 土7/4	本文と文法の復習	リスニングを作文の練習	
		この回の 到達目標	六課までの	
		事前学修	毎回の練習問題を復習	20分
		事後学修	本文を暗唱	10分
15	第一部 土7/11	前期テスト まとめ	試験	
		この回の 到達目標	試験	
		事前学修	教科書の内容を復習	30分
		事後学修	なし	0分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	劉 秋佳	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
3 分の 2 以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること、出席状況、授業での態度が悪いと成績の評価ができなくなる。

【授業方法】		
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。 フィードバックは授業内において行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10文間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	2000. 3. 31	教科書	必携
備考	使用教科書は授業の時に指示します。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ、或は木曜18時以降～講師控え室へ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 飛鳥文化交流－国際関係と国際文化交流／気功波動の健康法－生命力の高次元への修業
実務経験に基づく実践的教育の内容	LINEとWechatの交流コラム出を通じて関連情報を共有して紹介する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	第1回導 入	中国と中国語について紹介する 中国語の特徴と勉強方法、中国の歴史文化と現代社会	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	本授業のシラバスを事前に読んでください	30分
		事後学修	中国について、基本状況と中国語の特徴をまとめて、レポートを提出します	30分
2	4/16	第2回（発音一）	韻母と声母：単母音、声母(子音)、四声、(授業用語)	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習しましょう	30分
		事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
3	4/23	第3回 （発音二）	複母音と鼻母音(声調符号の付け方)、	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習しましょう	30分
		事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
4	4/30	第4回 （発音三）	特殊発音、声調の変化 （授業用語）	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	発音練習予定部分を学習してください	30分
		事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
5	5/7	第5回 発音部分の小テスト	発音の総合練習とテスト	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	教科書の練習と配った練習問題を復習してください	30分
		事後学修	練習とテストのできないところを確認して、できるまでに練習してください	30分
6	5/14	第6回 第1課北京的天气？	北京の天？（挨拶と授業養護） 天気会話表現と挨拶授業用語を習得する 述語分類、形容詞述語文、疑問詞文、肯定否定疑問詞文を理解する	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	第7回 第2課你是香港人？	貴方は香港の方ですか？ 指示代名詞、人称代名詞、選択疑問文などを学習する	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
8	5/28	第8回 第3課你吃早了？	君は朝ごはんを食べましたか？（君は朝食しましたか？） 動詞述語文と時態助詞などを勉強します。	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
9	6/4	第9回 応用練習と文化事情	会話の応用練習：グループで会話練習を確認させて評価します 宿題： 文化事情：配ったプリントの記事を読んで、感想と見解を書いて提出下さい	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
10	6/11	第10回 第4課 你身体好？	君は元気ですか？ 主述述語文、近接未来の表現、疑問詞’多’＋形容詞の表現などを習う	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
11	6/18	第11回 第5課你家有几口人？	貴方は何人家族ですか？ 家族の聞き方、動詞’有’、疑問詞’幾’などを勉強する	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
12	6/25	第12回 会話の応用練習	会話の応用練習： グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	第13回 第6課有人滑雪？	第6課スキーをする人がいますか？ 存現文、感嘆文、A或B等を学習する	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
14	7/9	第14回 総復習 前期総復習	前期の学習要点を復習問題にまとめて、総合練習して確認します	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分
15	7/16	第15回 授業内テスト	テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を確認する	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	教科書の指定範囲の復習練習問題を完成して復習しなさい	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分を確認して、今度間違いないように注意します。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	篠田 幸夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習・小テスト。小テスト返却時にポイントを解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習・暗唱対話練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト返却時にポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめよう楽々中国語』	小林和代・韓軍	白水社	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取る）shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	中国語の標準語はどのような言語か	中国語について 四声・単母音の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	中国語の標準語はどのような言語か大まかに説明できる。四声のイメージを説明できる。単母音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。テキスト6・7ページを一読しておく。	20分
		事後学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。	40分
2	4月11日	中国語の発音	子音の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	子音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。テキスト8～10ページを一読しておく。	15分
		事後学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。	45分
3	4月18日	中国語の発音	複合母音・鼻母音の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	複合母音・鼻母音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。テキスト11～14ページを一読しておく。	15分
		事後学修	CDを使い子音・複合母音・鼻母音の発音練習をする。	45分
4	4月25日	数字	第3課前半 数字・月日・曜日の言い方と尋ね方を練習する。	
		この回の到達目標	1から10までの数字を言える。月日・曜日を尋ねることができる。またその質問に答えられる。	
		事前学修	CDを使い子音・複合母音・鼻母音の発音練習をする。17・18ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き17・18ページの発音練習をする。	15分
		事後学修	18ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。数字・月日・曜日の言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分
5	5月2日	時刻・時間	第3課前半小テスト 第3課後半 時刻・時間の長さの言い方と尋ね方を練習する。	
		この回の到達目標	時刻・時間の長さを尋ねることができる。またその質問に答えられる。	
		事前学修	19ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き19ページの発音練習をする。18ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	19ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。時刻・時間の長さの言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分
6	5月9日	人称代名詞・姓名	第3課後半小テスト 第4課前半 人称代名詞・姓名の言い方と尋ね方を練習する。	
		この回の到達目標	人称代名詞を言える。姓名を尋ねられる。自分の姓名を中国語で言える。	
		事前学修	21・22ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き21・22ページの発音練習をする。19ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	22ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。人称代名詞・姓名の言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月16日	動詞〈是〉・構造助詞〈的〉	第4課前半小テスト 第4課後半 動詞〈是〉、構造助詞〈的〉のはたらきとその前後の語順を学習する。	
		この回の到達目標	動詞〈是〉の文の基本語順と訳し方を説明できる。構造助詞〈的〉のはたらきが必要となる場合を説明できる。	
		事前学修	23ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き23ページの発音練習をする。22ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	〈是〉のはたらきと語順、〈的〉のはたらきと語順を説明できるようにする。23ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
8	5月23日	動詞述語文の基本語順・疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置	第4課後半小テスト 第5課前半 動詞述語文の基本語順、疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置と意味。	
		この回の到達目標	動詞述語文の基本語順を説明できる。疑問詞〈誰〉〈什么〉の意味と位置を説明できる。	
		事前学修	27・28ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き27・28ページの発音練習をする。23ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	28ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。動詞述語文の基本語順を何も見ないで説明できるようにする。疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置を何も見ないで説明できるようにする。	45分
9	5月30日	指示代詞〈這〉〈那〉、疑問の〈嗎〉	第5課前半・第3課前半小テスト 第5課後半 〈這〉〈那〉の使い方、〈嗎〉はどのような疑問文で使えるか。	
		この回の到達目標	〈這〉〈那〉の意味と位置を説明できる。〈嗎〉がどのような疑問文で使えるか説明できる。	
		事前学修	29ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き29ページの発音練習をする。18・28ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	29ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	30分
10	6月6日	量詞と動詞〈有〉	第5課後半・第3課後半小テスト 第6課前半 六種の量詞と名詞の関係を覚える。動詞〈有〉の使い方を練習する。	
		この回の到達目標	六種の量詞と名詞の関係を説明できる。動詞〈有〉の文の基本語順と訳し方を説明できる。	
		事前学修	31・32ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き31・32ページの発音練習をする。19・29ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	32ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。六種の量詞と名詞の関係を何も見ないで説明できるように練習する。	30分
11	6月13日	省略疑問文と反復疑問文	第6課前半・第4課前半小テスト 第6課後半 省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か。	
		この回の到達目標	省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か説明できる。	
		事前学修	33ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き33ページの発音練習をする。22・32ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	33ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。	30分
12	6月20日	場所を表す指示代名と動詞〈在〉	第6課後半・第4課後半小テスト 第7課前半 場所を表す指示代名と動詞〈在〉の使い方。	
		この回の到達目標	場所を表す指示代名と動詞〈在〉の使い方を説明できる。	
		事前学修	37・38ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き37・38ページの発音練習をする。23・33ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	38ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。場所を表す指示代名詞を何も見ないで言えるように練習する。動詞〈在〉の語順を説明できるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	選択疑問文とモノ・コトを表す指示代名詞	第7課前半・第5課前半小テスト 第7課後半 選択疑問文とはどのような疑問文か。モノ・コトを表す指示代名詞。	
		この回の到達目標	選択疑問文とはどのような疑問文か説明できる。モノ・コトを表す指示代名詞を言える。	
		事前学修	39ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き39ページの発音練習をする。28・38ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	39ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。モノ・コトを表す指示代名詞を何も見ないで言えるように練習する。選択疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。	30分
14	7月4日	総復習	20・24・26・30・34・36・40ページの練習問題の解答合わせと誤答の分析をする。 7課までの単語を復習する。	
		この回の到達目標	3課から7課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。3課から7課の単語が聞き取れる。	
		事前学修	20・24・26・30・34・36・40ページの練習問題を解いておく。3課から7課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	15分
15	7月11日	期末試験及び前期学習内容の振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	第1課から第7課までの単語が聞き取れる。 第1課から第7課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	第1課から第7課までの単語が聞き取れるように復習する。 第1課から第7課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
		事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っていること。授業に関する一般的な決まり（規定数以上の欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど）を守ることが出来ること。

【授業方法】
先に文法の説明を行いその後、学生を指名して本文訳、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	15	15	15	15							60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	35	35							140

【課題に対するフィードバックの方法】
教科書本文音読テストの批評及び授業内試験終了後の解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子、鄭幸枝	白水社	2019	教科書	必携
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業開始前又は授業終了後（教室）にて。授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/17	【前期授業復習】【中国語準中級へ向けての心構え】	前期授業の復習。	
		この回の到達目標	前期授業における習得分の定着度の確認。	
		事前学修	教科書発音部及び第1～5課全事項について、再度確認。	60分
		事後学修	前期文法事項の再度確認。授業の進め方の確認。	60分
2	第一部 9/24	【中国語基礎表現習得⑨】「～がいる、ある」、動詞の重ね型、時を表す語の表現。	第6課① 王先生の研究室で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第6課の文法事項を理解し、その本文を音読して、基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第6課① 王先生の研究室で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第6課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
3	第一部 10/1	【中国語基礎表現習得⑩】量詞、実現・完了、助動詞「～したい」の表現。	第6課② 王先生の研究室で、第7課① コンビニで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第6課の練習問題を正しく解答することができる。第7課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第6課文法事項等について、教科書で再度確認、第6課② 王先生の研究室で、第7課① コンビニで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第6課全事項の習得確認、第7課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
4	第一部 10/8	【中国語基礎表現習得⑪】量詞、実現・完了、助動詞「～したい」の表現。	第7課② コンビニで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第7課の練習問題を正しく解答することができる。第7課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第7課文法事項等について、教科書で再度確認、第7課② コンビニで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第7課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
5	第一部 10/15	【中国語基礎表現習得⑫】連動文、前置詞「～で」、時刻、「～である」の省略の表現。	第8課① バス停で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第8課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第8課① バス停で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第8課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
6	第一部 10/22	【中国語基礎表現習得⑬】助動詞「できる」、前置詞「～と」・「～に」、主述述語文の表現。	第8課② バス停で、第9課① 放課後に について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第8課の練習問題を正しく解答することができる。第9課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第8課文法事項等について、教科書で再度確認、第8課② バス停で、第9課① 放課後に 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第8課全事項の習得確認、第9課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/29	【中国語基礎表現習得⑭】 助動詞「できる」、前置詞 「～と」・「～に」、主述 述語文の表現。	第9課② 放課後に について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第9課の練習問題を正しく解答することができる。第9課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第9課文法事項等について、教科書で再度確認、第9課② 放課後に 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第9課全事項の習得の確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
8	第一部 11/5	【中国語基礎表現習得⑮】 様態補語、経験、比較、 「好き」の表現。	第10課① 卓球の中継を見ながら について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第6課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第10課① 卓球の中継を見ながら 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第10課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
9	第一部 11/12	【中国語基礎表現習得⑯】 進行、方向補語、選択疑問 文の表現。	第10課② 卓球の中継を見ながら、第11課① ディズニーランドで待ち合わせ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第10課の練習問題を正しく解答することができる。第11課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第10課文法事項等について、教科書で再度確認、第10課② 卓球の中継を見ながら 、第11課① ディズニーランドで待ち合わせ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第10課全事項の習得の確認、第11課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
10	第一部 11/19	【中国語基礎表現習得⑰】 進行、方向補語、選択疑問 文の表現。	第11課② ディズニーランドで待ち合わせ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第11課の練習問題を正しく解答することができる。第11課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第11課文法事項等について、教科書で再度確認、第11課② ディズニーランドで待ち合わせ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第11課全事項の習得の確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
11	第一部 12/3	【中国語基礎表現習得⑱】 過去の強調構文、結果補 語、動量詞の表現。	第12課① カフェテラスで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第12課の文法事項を理解し、その本文を音読して、基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第12課① カフェテラスで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第12課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
12	第一部 12/10	【中国語基礎表現習得⑲】 過去の強調構文、結果補 語、動量詞の表現。	第12課② カフェテラスで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第12課の練習問題を正しく解答することができる。第12課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第12課文法事項等について、教科書で再度確認、第12課② カフェテラスで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第12課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/17	【後期授業復習】	後期授業の総復習。	
		この回の到達目標	後期授業分の内容を体系的に習得する。	
		事前学修	第6～12課の習得確認。	120分
		事後学修	後期授業における習得の総確認。	120分
14	第一部 12/24	【本文音読テスト、まとめ】	教科書本文音読テスト及び後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	教科書本文をしっかりと正確に発音できる。	
		事前学修	教科書本文音読テスト準備。	120分
		事後学修	教科書本文音読テストの問題点改善。	90分
15	第一部 1/14	【授業内試験、まとめ】	授業内試験及びその解説。後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	授業で習得したことをしっかりと試験で反映することができる。	
		事前学修	教科書の総復習、後期試験準備。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認、後期試験の問題点改善、中級に向けた春休みにおける学習。	90分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	白石 裕一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って進めていく。毎回単語テストを行う。 フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点をして、授業中に返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ実践中国語	王学群・高麗貞	白帝社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：金曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	連動文と進行表現	第6課：本文の翻訳、①連動文、②進行を表す“正在、在、ne”	
		この回の到達目標	連動文と進行表現を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
2	第一部 金9/25	前置詞“在”と助動詞“想”	第6課：③前置詞の“在”、④助動詞の“想”、練習問題	
		この回の到達目標	前置詞“在”と助動詞“想”を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
3	第一部 金10/2	アスペクト助詞“了”と動詞の重ね型	第7課：本文の翻訳、① “了”の用法（1）、②動詞の重ね型	
		この回の到達目標	アスペクト助詞“了”と動詞の重ね型を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
4	第一部 金10/9	選択疑問文と起点・着点を表す前置詞	第7課：③選択疑問文、④前置詞“cong／dao”、練習問題	
		この回の到達目標	選択疑問文と起点・着点を表す前置詞を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
5	第一部 金10/16	語気詞“了”と可能を表す助動詞	第8課：本文の翻訳、① “了”の用法（2）、②可能を表す“能”と“会”	
		この回の到達目標	語気詞“了”と可能を表す助動詞を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
6	第一部 金10/23	アスペクト助詞“過”と前詞“gen/he”	第8課：③経験を表す“過”、④gen／he…yiqi／yikuair、練習問題	
		この回の到達目標	アスペクト助詞“過”と前詞“gen/he”を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	比較文と様態補語	第9課：本文の翻訳、① “比”の比較文、② “V得＋補語”の構文	
		この回の到達目標	比較文と様態補語を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
8	第一部 金11/6	主述述語文と少量表現	第9課：③主述述語文、④ “有点兒”と“一点兒”、練習問題	
		この回の到達目標	主述述語文と少量表現を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
9	第一部 金11/13	強調構文と二重目的語文	第10課：本文の翻訳、① “是…的”構文、②二重目的語を持つ動詞	
		この回の到達目標	強調構文と二重目的語文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
10	第一部 金11/20	連体修飾語と前置詞“給”	第10課：③限定語となる動詞と形容詞、④前置詞の“給”、練習問題	
		この回の到達目標	連体修飾語と前置詞“給”を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
11	第一部 金11/27	方位詞と持続を表す“着”	第11課：本文の翻訳、①方位詞、②継続を表す“着”	
		この回の到達目標	方位詞と持続を表す“着”を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
12	第一部 金12/4	概数表現と可能を表す助動詞	第11課：③概数表現、④可能を表す“可以”、練習問題	
		この回の到達目標	概数表現と可能を表す助動詞を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	方向補語とアスペクト助詞“着”	第12課：本文の翻訳、①趨向補語、②付帯状況と方式を表す“着”	
		この回の到達目標	方向補語とアスペクト助詞“着”を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
14	第一部 金12/18	禁止表現と“疑問詞＋都／也…”の表現	第12課：③禁止を表す“別／不要…（了）”、④“疑問詞＋都／也…”、練習問題	
		この回の到達目標	禁止表現と“疑問詞＋都／也…”の表現を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
15	第一部 金12/25	まとめ	これまで学習してきたことのまとめ	
		この回の到達目標	基本的な表現のための、中国語文法の全体像を確認する。	
		事前学修	これまで学んできたことを復習しておくこと。	30分
		事後学修	よく理解していないところを再度復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
なし

【授業方法】
文法を解説し、本文を朗読、翻訳する。はつおんの訓練を行い、会話を練習する。本文の内容を暗記し、書きとりを行う。フィードバックは授業内において行う。テストなどについては採点して解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に二人一組で会話練習を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(最新2訂版) 中国語はじめの一步	竹島全吾 伊景春 竹島毅	白水社	2012年		
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部9月18日	授業の概要と到達目標 第6課	ガイダンス 「授業の概要や到達目標について説明」 第6課 「あなたは食事をしましたか。」本文訳 ポイント 1. 「完了」を表わす“了” 2. 「所在」を表わす“在” 3. 助動詞“想”	
		この回の到達目標	第6課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
2	第1部9月22日	第6課	第6課 「あなたは食事をしましたか。」 本文、トレーニング 練習問題	
		この回の到達目標	第6課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第6課の総復習	90分
3	第1部9月29日	第7課	第7課 「あなたの家族は何人ですか。」本文訳 ポイント 1. 介詞“在”，” 离” 2. 「存在」を表わす“有” 3. 反復疑問文	
		この回の到達目標	第7課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
4	第1部10月6日	第7課	第7課 「あなたの家族は何人ですか。」 本文、トレーニング 練習問題	
		この回の到達目標	第7課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第7課の総復習	90分
5	第1部10月13日	第8課	第8課 あなたは何時からアルバイトを始めますか。本文訳 ポイント 1. 「時間量」を表わす語 2. 助動詞“得” 3. 介詞（2）“从”	
		この回の到達目標	第8課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
6	第1部10月20日	第8課	第8課 「あなたは何時からアルバイトを始めますか。」 本文、トレーニング 練習問題	
		この回の到達目標	第8課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第8課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部10月27日	第9課	第9課 「あなたはアメリカに行ったことがありますか。」本文訳 ポイント 1.「過去の経験」を表わす“過” 2.“是～的”の文 3.介詞 (3) “跟”, “給”	
		この回の到達目標	第9課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
8	第1部11月10日	第9課	第9課 「あなたはアメリカに行ったことがありますか。」 本文、トレーニング 練習問題 第6課～9課のまとめ（授業内筆記試験）	
		この回の到達目標	第9課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第9課の総復習	90分
9	第1部11月17日	第10課	第10課 「あなたは歌を歌えますか。」本文訳 ポイント 1.助動詞“能”, “会” 2.「動作の様態」を言う表現 3.動詞の重ね型	
		この回の到達目標	第10課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
10	第1部11月24日	第10課	第10課 「あなたは歌を歌えますか。」 本文、トレーニング 練習問題	
		この回の到達目標	第10課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第10課の総復習	90分
11	第1部12月1日	第11課	第11課 「あなたは何をしているのですか。」本文訳 ポイント 1.「動詞の進行」を表わす“在～呢” 2.「～しに来る・～しに行く」の表 し方3.“是” 4.目的語を文頭に出す表現	
		この回の到達目標	第11課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
12	第1部12月8日	第11課	第11課 あなたは何をしているのですか。 本文、トレーニング 練習問題	
		この回の到達目標	第11課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第11課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部12月15日	第12課	第12課 「楽しい旅行を！」本文訳 ポイント 1.「比較」の表現 2.“的”の用法 (2) 3.2つの目的語をとる動詞 4.目的語が主述句の時 練習問題	
		この回の到達目標	第12課の文法や発音の習得ができる。練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。	
		事前学修	文法の予習と練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
14	第1部12月22日	後期のまとめ	第7課～12課のまとめ（後期末授業内筆記試験）	
		この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点を確認し、正しく理解できる。	
		事前学修	第6課～12課の復習 問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し、理解する。	90分
15	第1部1月12日	フィードバック、質疑応答	フィードバック、質疑応答及び後期のまとめ 試験問題についての解説 会話テストか書き取りを行う。	
		この回の到達目標	フィードバック、質疑応答によって理解を深める。	
		事前学修	後期学習した内容を確認し、問題点をノートにまとめておく。 会話プリントの内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語基礎表現Aの内容が身に付いており、担当者の指示に従って積極的に学修できること。初回の授業で担当者の受講許可を得る事。

【授業方法】		
中国語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。特に一部月曜5限（事前抽選除外クラス）は中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後、後日ポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 1 CD・DVD付	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2004	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016	その他	任意
備考	学修サポートとしてインターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。講読の課と練習問題は授業では学修しません。				

【オフィスアワー】
競技部員は月 6 と土 4、1033講堂（予定）。競技部以外は火 5、532講堂（予定）。要事前申し込み。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部9/14 二部9/18	ガイダンス・前期の確認	授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／教科書・参考書の紹介／「Quizlet」について／成績評価方法について／前期学修内容の確認と復習を中心に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、前期学修済みの内容について、説明でき、また正しく発音したり日本語訳したりできる	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、前期の内容を確認するとともに、教科書の第1課から第11課までを復習しておく	60分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期01）などをもちいて前期学修内容の復習と音読の反復練習をする	30分
2	一部9/21 二部9/25	存在の“有”・順と量の概念	ユニット3-第12課にて存在の“有”・順と量の概念などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、存在の“有”・順と量の概念といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期01）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、前期学修部分の苦手を克服し授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期02）およびC1A競技部_12課などなどをもちいて、今回学んだ存在の“有”・順と量の概念、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
3	一部9/28 二部10/2	“在”の用法	ユニット3-第13課にて“在”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“在”の用法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期02）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、存在の“有”・順と量の概念を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期03）およびC1A競技部_13課などなどをもちいて、今回学んだ“在”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
4	一部10/5 二部10/9	“是”を省略できる文	ユニット3-第14課にて“是”を省略できる文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“是”を省略できる文について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期03）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“在”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期04）およびC1A競技部_14課などなどをもちいて、今回学んだ“是”を省略できる文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
5	一部10/12 二部10/16	“会”“能”“想”の用法	ユニット3-第15課にて“会”“能”“想”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、助動詞“会”“能”“想”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期04）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“是”を省略できる文を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期05）およびC1A競技部_15課などなどをもちいて、今回学んだ助動詞の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする（次回は17課）	30分
6	一部10/19 二部10/23	曜日・時刻の言い方	ユニット4-第17課にて曜日・時刻の言い方などを学修する（第16課は「講読文の課」につき授業では学修しない）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と曜日・時刻の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期05）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“会”“能”“想”の用法を身につけ授業にのぞむ（第16課は学修せず第17課に進む）	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期06）およびC1A競技部_17課などなどをもちいて、今回学んだ曜日・時刻の言い方の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部 10/26 二部 10/30	介詞・“要”の用法	ユニット4-第18課にて介詞・“要”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と介詞・“要”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期06）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、曜日・時刻の言い方を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期07）およびCIA競技部_18課などなどをもちいて、今回学んだ介詞・“要”の用法の復習と音読の反復練習をする	30分
8	一部11/9 二部11/6	比較表現	ユニット4-第19課にて比較表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と比較表現などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期07）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、介詞・“要”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期08）およびCIA競技部_19課などなどをもちいて、今回学んだ比較表現、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
9	一部 11/16 二部 11/13	金額・月日の言い方	ユニット4-第20課にて金額・月日の言い方などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と金額・月日の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期08）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、曜日・時刻の言い方を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期09）およびCIA競技部_20課などなどをもちいて、今回学んだ金額・月日の言い方、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
10	一部 11/23 二部 11/20	介詞“給”の用法・連動文	ユニット4-第21課にて介詞“”の用法・連動文などを学修する（第22課は「講読文の課につき授業では学修しない）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と介詞“給”の用法・連動文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期09）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、金額・月日の言い方を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期10）およびCIA競技部_21課などなどをもちいて、今回学んだ介詞“給”の用法・連動文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする（第22課は学修しない）	30分
11	一部 11/30 二部 11/27	ユニット3のまとめと復習	ユニット3-第12課～第15課のまとめと復習を中心に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、ユニット3で学修したいくつかの挨拶語慣用表現と単語や文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期10）課題などをもちいて、介詞“給”の用法・連動文を身につけ授業にのぞむ（第22課は学修しない）	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期11）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、今回確認したいくつかの挨拶語慣用表現・単語や文法の復習と短文音読の反復練習をする	30分
12	一部12/7 二部12/4	ユニット4のまとめと復習	ユニット4-第17課～第21課のまとめと復習を中心に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、ユニット4で学修したいくつかの挨拶語慣用表現と単語や文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期11）課題などをもちいて、ユニット3の内容を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期12）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、今回確認したいくつかの挨拶語慣用表現・単語や文法の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	一部 12/14 二部 12/11	課題文の練習	後期総復習として、テキスト・プリントなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策を通して後期の内容を全般的に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期に学んだ発音・単語・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、ユニット4の内容を身につけ授業にのぞむ	60分
		事後学修	後期口頭試験課題文をテキストやプリント、Quizlet（後期口頭試験課題）などを持ち復習する	120分
14	一部 12/21 二部 12/18	筆記試験とまとめ	後期筆記試験を実施し、試験後後期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期に学修した発音、語彙、文法などを応用することができる	
		事前学修	Quizlet（後期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、後期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習する	120分
15	一部1/18 二部 12/25	口頭試験とまとめ	後期筆記試験の講評を行った後、後期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる	
		事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	吉田 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
初修のもの

【授業方法】
基本的にはテキストに沿って進める。音読と暗誦を練習に組み入れる。必要に応じて聞き取りの小テストを行う。テストは筆記テストと暗誦テストの両方を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては当日に答えを合わせる。課題については翌週に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学漢語	衛榕群・中本愛	白帝社	2019	教科書	必携
				参考書	
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の1限と2限の間に教室で質問や相談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	前期末テストの返却 第九課	第9課「どこで買ったのですか」	
		この回の到達目標	量詞を理解して使う	
		事前学修	量詞をよく読んでおく	30分
		事後学修	二重目的語の文を復習する	30分
2	9月21日	第十課	第10課「北京の夏は京都よりも暑いでしょう」	
		この回の到達目標	比較表現の文を理解する、選択疑問文を理解する	
		事前学修	テキストの本文をよく読んでおく	30分
		事後学修	比較文の否定形を整理し、文を作る	30分
3	9月28日	第十一課	第11課「日本語が話せますか」	
		この回の到達目標	可能文を理解する	
		事前学修	できるを表す文を整理する	30分
		事後学修	～の時間、～をしたの文を復習する	30分
4	10月5日	復習	9課、10課、11課の復習	
		この回の到達目標	可能文、比較文を整理して、理解する	
		事前学修	9課、10課、11課の文章を復習する	30分
		事後学修	テキストの文章を暗記してみる	30分
5	10月12日	第十二課	第12課「今週末何をするつもりですか」	
		この回の到達目標	可能表現、義務表現を覚える	
		事前学修	～できるという表現を復習する	30分
		事後学修	離合詞の言い方と表現を復習する、合わせて文を作る	30分
6	10月19日	第十三課	第13課「何をしていますか」	
		この回の到達目標	持続表現を理解する。結果補語の言い方を理解する。	
		事前学修	在＋動詞文を調べる	30分
		事後学修	結果補語の文章を整理し、肯定文と否定文に分けて作文をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月26日	復習		12課、13課の復習
		この回の到達目標	可能表現と義務表現の違いを理解する	
		事前学修	～できるの文章を復習する	30分
		事後学修	義務表現の文章を復習する	30分
8	11月9日	第十四課		第14課「あなたは歌がうまい」
		この回の到達目標	状態を表す表現を理解する	
		事前学修	可能表現と状態を表す文を復習する	30分
		事後学修	状態を表す文を作って、その差を理解する	30分
9	11月16日	第十五課		第15課「スピーチコンテストに参加する」
		この回の到達目標	使役文を理解する、会＋動詞文を理解する	
		事前学修	スピーチの文を読んでおく	30分
		事後学修	スピーチの文を音読する	30分
10	11月23日	復習		14課、15課の復習
		この回の到達目標	使役文と可能文を区別して理解する	
		事前学修	テキストの文を読んでおく	30分
		事後学修	14課、15課の本文を音読する	30分
11	11月30日	第十六課		第16課「どうしてですか」
		この回の到達目標	理由を尋ねる文を理解する	
		事前学修	なぜ、どうしてを区別する	30分
		事後学修	理由を説明する文章を作って作文する	30分
12	12月7日	第十七課		第17課「少し判らないところがある」
		この回の到達目標	把構文の表現を覚える	
		事前学修	方向補語、可能補語の作り方を見ておく	30分
		事後学修	可能補語の文と助動詞の文の区別をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12月14日	復習		16課、17課の復習
		この回の到達目標	複文を理解する	
		事前学修	16課、17課の文章を読んでおく	30分
		事後学修	可能表現と状態をあらわす文を区別して、復習する	30分
14	12月21日	後期の復習		後期学習内容の復習
		この回の到達目標	可能、状態、願望表現の文を区別して理解する	
		事前学修	できる、したい、したことがある、などの文型を整理する	30分
		事後学修	各表現文の否定形を整理してまとめる	30分
15	1月18日	期末テストとまとめ		後期の学習内容をまとめる
		この回の到達目標	期末テストに解答する、短文を暗唱する	
		事前学修	テストの内容を復習しておく	30分
		事後学修	間違いを確認し、音源を再度聞く	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者40名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎	汪鴻祥 主編	白帝社	2020年 度3月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火 9/15	復習と説明	前期で学ばれた基本語句と基本文法の復習 後期授業計画の説明 夏休みの報告	
		この回の到達目標	前期授業の復習と後期授業の説明を行う 夏休みの報告を行う	
		事前学修	夏休み報告発表の準備	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
2	火 9/22	会話編	第8課：「学」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第8課：「学」を習得する	
		事前学修	第8課：「学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
3	火 9/29	会話編	第9課：「广交朋友」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第9課：「广交朋友」	
		事前学修	第9課：「广交朋友」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
4	火 10/6	会話編	第10課：「周末活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第10課：「周末活」を習得する	
		事前学修	第10課：「周末活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
5	火 10/13	会話編	第11課：「超市物」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第11課：「超市物」を習得する	
		事前学修	第11課：「超市物」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
6	火 10/20	会話編	第12課：「季化」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第12課：「季化」	
		事前学修	第12課：「季化」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	火 10/27	会話編	第13課：「上学交通」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第13課：「上学交通」を習得する	
		事前学修	第13課：「上学交通」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
8	火 11/10	会話編	第14課：「外活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第14課：「外活」	
		事前学修	第14課：「外活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
9	火 11/17	会話編	第15課：「暑假旅游」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第15課：「暑假旅游」	
		事前学修	第15課：「暑假旅游」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
10	火 11/24	会話編	第16課：「校活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第16課：「校活」を習得する	
		事前学修	第16課：「校活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
11	火 12/1	会話編	第17課：「出国留学」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第17課：「出国留学」を習得する	
		事前学修	第17課：「出国留学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
12	火12/8	会話編	第18課：「健康食」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第18課：「健康食」を習得する	
		事前学修	第18課：「健康食」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火12/15	発表	期末発表会	
		この回の到達目標	レポートを提出し、発表を行う	
		事前学修	期末発表会の準備	120分
		事後学修	発表会内容の復習（30分）	120分
14	火12/22	復習	期末総合復習 第8課～18課	
		この回の到達目標	期末総合復習を行う	
		事前学修	期末総合復習	120分
		事後学修	授業内容の復習	120分
15	火1/12	総括と試験	期末試験及び振り返り、まとめ	
		この回の到達目標	後期の総括と授業内期末試験を行う	
		事前学修	期末試験の準備	120分
		事後学修	後期授業内容の復習（30分）	60分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	15	15	15	15							60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	35	35							140

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日講評

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2017 2・1 改訂版		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付けます。授業時間：土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	第七課 アルバイト	動詞の重ね型 二重目的語をとる動詞	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	本文を暗唱	20分
2	第一部 土9/26	第八課 外国語を学ぶ	経験態 経験態のたずね方、こたえ方 数量補語	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	本文を暗唱	20分
3	第一部 土10/3	第九課 病院に行く	助動詞「能」および「能」と「会」の違い 程度副詞「有点儿」および「有点儿」と「一点儿」の違い	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
4	第一部 土10/10	第十課 図書館で	進行態「在」「正在」	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
5	第一部 土10/17	第十一課 手紙を書く	比較表現「比」「AはBより～だ」	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
6	第一部 土10/24	第十二課 旅行に行く	完了態 完了態のたずね方、こたえ方	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	テキストの終わりに	中国語の勉強について話そう	
		この回の到達目標	中国語に対して興味を持続できるように	
		事前学修	感想文を書く	20分
		事後学修	感想文を中国語に訳す	30分
8	第一部 土11/7	中国語検定試験の勉強	準四級リスニング	
		この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
		事前学修	準四級の挨拶文を読む	20分
		事後学修	準四級単語を覚える	20分
9	第一部 土11/14	中国語検定試験の勉強	準四級リスニング	
		この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
		事前学修	準四級の挨拶文を読む	20分
		事後学修	準四級単語を覚える	20分
10	第一部 土11/21	中国語検定試験の勉強	準四級筆記問題ドリル	
		この回の到達目標	文法事項の確認	
		事前学修	文法の復習	20分
		事後学修	ドリル問題の復習	20分
11	第一部 土11/28	中国語検定試験の仮試験 まとめ	模擬試験問題で合格力を確認する	
		この回の到達目標	単語や文法などを復習	
		事前学修	単語、文法の復習	20分
		事後学修	ドリル問題の復習	20分
12	第一部 土12/5	中国語会話の練習	初対面で、生活について、学習について、家族についてなど	
		この回の到達目標	中国語でいろいろなことを話そう、興味深く学べるように	
		事前学修	会話のテーマに関連単語、表現を復習	20分
		事後学修	会話文を繰り返す暗唱	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	総復習 1	リスニング	
		この回の到達目標	リスニングの聴く力をつける	
		事前学修	あいさつ語の復習	10分
		事後学修	問題を繰り返し復習	20分
14	第一部 土12/19	総復習 2	文法のまとめ	
		この回の到達目標	試験のための総復習	
		事前学修	文法項目を復習	20分
		事後学修	文章を書きながら覚えましょう	20分
15	第一部 土12/26	試験 まとめ	後期試験	
		この回の到達目標	試験	
		事前学修	テスト勉強	60分
		事後学修	なし	0分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	劉 秋佳	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
積極的に授業での練習に参加すること、授業参加度、授業での態度や答えおよび筆記試験により評価。3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10文間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681／Wechat::koku811	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	平成30年度	教科書	必携
備考	使用教科書は授業の時に指示します。				

【オフィスアワー】	
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ、或は木曜18時以降～講師控え室へ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681	

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 飛鳥文化出版一国際関係と国際文化交流
実務経験に基づく実践的教育の内容	LINEとWechat国際交流コラムを通じて学生に関連記事を共有して、国際時事と中国の最新事情を紹介する。 LIINE:08032718681／Wechat::koku811	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	中国の文化事情	中国伝統文化、最新時事、裏事情の紹介 関連記事のプリント資料を配る 写真と動画をみる 感想文を書いて提出す	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
		事後学修	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
2	9/24	第7課 你老家在那儿？	実家はどこにありますか？ 疑問詞場所を聞き方と方向補語を学習す 場所を聞く、どこですか・どこにありますか	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
3	10/1	第8課 你几点起床？	何時に起きますか？ 時刻の言い方を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
4	10/8	応用練習	グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
5	10/15	第9課 中国正在流行什么？	中国いま流行っていますのが何ですか？ ～しているの進行形を学習する	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
6	10/22	第10課 你会包子？	君は餃子を作ることが出来ますか？ 助動詞～出来るなどの使い方を理解する ～が出来る 餃子を作る	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	応用練習	会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
8	11/5	第11課 中国比日本大多少？	中国は日本よりどのぐらい大きいですか？ 比較表現を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話ができるように復習しなさい	30分
9	11/12	第12課 北京烤多少？	北京ダックはおいくらですか？ 買い物の表現を習得する	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話ができるように復習しなさい	30分
10	11/19	応用練習	会話応答練習と作文練習	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい 作文： 例文を参考して、中国語文の語順を理解する上に作文を書きます	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい 作文： 先生から訂正されたところを確認して理解しなさい	30分
11	12/3	第13課 中国人喜什么运？	中国人はどんなスポーツが好きですか？ どんな、好きなどの動詞、接続詞の使い方を学習する 宿題：文化事情のレポートを書く 配ったプリントの記事を読んで、感想と見解をレポート書いて提出下さい	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話ができるように復習しなさい	30分
12	12/10	第14課 怎做才会不失礼？	どうやって失礼なことをならないですか。 使役補表現を習う 中国の習慣とマナを知る	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話ができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/17	第15課 真会被款？		本当に罰金されますか 受身表現を習う
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
14	12/24	総復習		復習と総合練習
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習問題を復習してください	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分を理解して、できるようにきちんと練習してください	30分
15	1/14	授業内テスト		テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	篠田 幸夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	15	15	15	15							60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	35	35							140

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト返却時にポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめよう楽々中国語』	小林和代・韓軍	白水社	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取る） shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月19日	総復習	四声・単母音・鼻母音・子音・声調の変化、5課までの発音とポイントの確認をする。	
		この回の到達目標	四声のイメージを説明できる。単母音・鼻母音・子音を正確に発音できる。5課までのポイントの基本語順を説明できる。5課までの単語が聞き取れる。	
		事前学修	CDを聞き四声・単母音・子音及び第3課から第5課までの本文とポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第3課から第5課までのポイントの内容を説明できるように復習しておく。	30分
		事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントの説明できるようにする。	30分
2	9月26日	総復習	第6・7課の発音とポイントの確認をする。第6・7課の単語が聞き取れるように復習する。	
		この回の到達目標	第6・7課のポイントの基本語順を説明できる。第6・7課の単語を正確に発音できまた聞き取れる。	
		事前学修	CDを聞き第6・7課の本文とポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第6・7課のポイントの内容を説明できるように復習しておく。	30分
		事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントの説明できるようにする。	30分
3	10月3日	形容詞述語文、前置詞	第8課前半 形容詞述語文の基本語順と前置詞〈离〉〈从～到〉を練習する。	
		この回の到達目標	形容詞述語文の基本語順を説明できる。前置詞〈离〉と〈从～到〉の位置と意味を説明できる。41・42ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	41・42ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き41・42ページの発音練習をする。	15分
		事後学修	42ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。形容詞述語文の基本語順、前置詞〈离〉〈从～到〉について何も見ないで説明できるように練習する。	45分
4	10月10日	動詞〈喜歡〉、連動文	第8課前半小テスト 第8課後半 動詞〈喜歡〉とその目的語の性質を習う。連動文の語順と訳し方。	
		この回の到達目標	動詞〈喜歡〉とその目的語の特徴説明できる。連動文の語順と訳し方について説明できる。43ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	43ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き43ページの発音練習をする。42ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	43ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。動詞〈喜歡〉とその目的語の性質と連動文について何も見ないで説明できるように練習する。	45分
5	10月17日	手段・方法、値段の尋ね方	第8課後半小テスト 第9課前半 手段・方法の尋ね方、値段の尋ね方を練習する。	
		この回の到達目標	手段・方法を尋ねられまた答えられる。値段を尋ねられまた答えられる。47・48ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	47・48ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き47・48ページの発音練習をする。43ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	47・48ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
6	10月24日	比較文	第9課前半・第8課前半小テスト 第9課後半 比較文の二種類の語順を練習する。	
		この回の到達目標	比較文の二種類の語順と訳し方を説明できる。49ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	49ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き49ページの発音練習をする。42・48ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	49ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。比較文の語順について何も見ないで説明できるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月31日	完了態、助動詞	第9課後半・第8課後半小テスト 第10課前半 完了の〈了〉と助動詞〈想〉を練習する。	
		この回の到達目標	完了の〈了〉の位置と訳し方を説明できる。助動詞〈想〉の位置と訳し方を説明できる。51・52ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	51・52ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き51・52ページの発音練習をする。43・49ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	52ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。完了の〈了〉と助動詞〈想〉の位置について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
8	11月7日	変化態、前置詞	第10課前半・第9課前半小テスト 第10課後半 変化の〈了〉と前置詞〈在〉を練習する。	
		この回の到達目標	変化の〈了〉と限定できるのはどのような場合かを説明できる。前置詞〈在〉の訳し方と動詞の〈在〉との違いを説明できる。53ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	53ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き53ページの発音練習をする。48・52ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	53ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。変化の〈了〉と前置詞〈在〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
9	11月14日	助動詞〈会〉と〈能〉	第10課後半・第9課後半小テスト 第11課前半 助動詞〈会〉と〈能〉を練習する。	
		この回の到達目標	助動詞〈会〉と〈能〉の使い分けを説明できる。57・58ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	57・58ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き57・58ページの発音練習をする。49・53ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	57・58ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。助動詞〈会〉と〈能〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
10	11月21日	助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉	第11課前半・第10課前半小テスト 第11課後半 助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉を練習する。	
		この回の到達目標	助動詞〈可以〉の位置と意味を説明できる。前置詞〈給〉の位置と意味を説明できる。58ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	59ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き59ページの発音練習をする。52・58ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	59ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
11	11月27日	進行形と禁止	第11課後半・第10課後半小テスト 第12課前半 進行形と禁止の言い方を練習する。	
		この回の到達目標	進行形と禁止に用いる単語とそれぞれの位置を説明できる。61・62ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	61・62ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き61・62ページの発音練習をする。53・59ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	61・62ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。進行形と禁止の言い方について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
12	12月5日	経験と〈是～的〉構文	第12課前半・第11課前半小テスト 第12課後半 経験の〈過〉と〈是～的〉構文を練習する。	
		この回の到達目標	経験に用いる単語とその位置を説明できる。〈是～的〉構文とはどのような文かを説明できる。63ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	63ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き63ページの発音練習をする。58・62ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	63ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。経験の〈過〉と〈是～的〉構文について何も見ないで説明できるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	復習	第12課後半・第11課後半小テスト 第8課から第10課の復習 44・46・50・54・56ページの解答合わせと誤答の分析をする。	
		この回の到達目標	第8課から第10課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。第8課から第10課までの単語が聞き取れる。	
		事前学修	63ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。59・63ページの聞き取りができるように復習しておく。44・46・50・54・56ページの練習問題を解いておく。	45分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。41ページから56ページの単語を聞き取れるように復習する。	15分
14	12月19日	復習	第11課・12課の復習 60・64・66ページの練習問題の解答合わせと誤答の分析をする。	
		この回の到達目標	第11課・12課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。第11課・12課の単語が聞き取れる。	
		事前学修	60・64・66ページの練習問題を解いておく。	45分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。57ページから66ページの単語を聞き取れるように復習する。	15分
15	12月26日	期末試験と後期学習内容の振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	第8課から第12課までの単語が聞き取れる。 第8課から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	第8課から第12課までの単語が聞き取れるように復習する。 第8課から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
		事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
中国語文法の説明を行った上で、練習問題を解きながら授業を進め、発音練習、作文練習、翻訳作業を行う。また文法学習を通じて中国語および中国語圏への理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
出発中国語	本間直人、栗原千里、王熙萍	白帝社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6(月曜開講分、以下同断) 4/8(水曜開講分、以下同断) 4/10(金曜開講分、以下同断)	授業説明及び初歩的発音練習	授業展開方法に関して詳しく紹介し、中国語発音の初歩的練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に中国語の初歩的発音を習得することができる。	
		事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った初歩的発音を復習すること。	30分
2	4/13 4/15 4/17	基礎発音練習(中国語母音)	中国語母音(韻母)の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語母音(韻母)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
		事前学修	中国語母音(韻母)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	習った中国語母音(韻母)の発音を自身で発音練習すること。	30分
3	4/20 4/22 4/24	基礎発音練習(中国語子音)	中国語子音(声母)の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語子音(声母)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
		事前学修	中国語子音(声母)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	習った中国語子音(声母)の発音を自身で発音練習すること。	30分
4	4/27 4/29 5/1	基礎発音練習(中国語声調)	中国語声調(四声)の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語声調(四声)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
		事前学修	中国語声調(四声)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	習った中国語声調(四声)を自身で発音練習すること。	30分
5	5/4 5/6 5/8	教科書第一課(人称代名詞等)	人称代名詞、名前の聞き方と答え方について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、人称代名詞、名前の聞き方と答え方について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第一課人称代名詞、名前の聞き方と答え方の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	人称代名詞、名前の聞き方と答え方の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	5/11 5/13 5/15	教科書第二課(動詞述語文等)	動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第二課動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 5/20 5/22	教科書第三課(形容詞述語文等)	形容詞述語文、疑問詞「誰」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、形容詞述語文、疑問詞「誰」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第三課形容詞述語文、疑問詞「誰」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	形容詞述語文、疑問詞「誰」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	5/25 5/27 5/29	教科書第四課(的)	所有等を表す「的」の用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、所有等を表す「的」の用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第四課所有等を表す「的」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	所有等を表す「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	6/1 6/3 6/5	教科書第五課(数字、量詞)	数字、量詞について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、数字、量詞について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第五課数字、量詞の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	数字、量詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	6/8 6/10 6/12	教科書第五課(量詞、序数)	量詞、序数について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、量詞、序数について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第五課量詞、序数の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	量詞、序数の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	6/15 6/17 6/19	教科書第六課(了、想)	完了の「了」、助動詞「想」について学ぶ。	
		この回の到達目標	事前に第六課完了の「了」、助動詞「想」の部分に目を通しておくこと。	
		事前学修	到達目標①②到達達成の為、完了の「了」、助動詞「想」について学ぶことが出来る。	30分
		事後学修	完了の「了」、助動詞「想」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	6/22 6/24 6/26	教科書第六課(多少、幾等)	疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第六課疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 7/1 7/3	教科書第七課(時を表す語)	時を表す語(年月日曜日時刻)について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、時を表す語(年月日曜日時刻)について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第七課時を表す語(年月日曜日時刻)の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	時を表す語(年月日曜日時刻)の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	7/6 7/8 7/10	教科書第七課(時を表す語が述語となる文)	時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第七課時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	7/13 7/15 7/17	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っている事。授業に関する決まり(欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど)を守る事。初回の授業には、開始時より必ず出席する事。

【授業方法】
先に文法の説明を行いその後、学生を指名して本文訳、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト終了後の解説及び採点後の返却、教科書本文発音テストの批評及び授業内試験終了後の解説。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語 1 年め	緒方昭、小林光考、 胡慶華著	白水社	2019	教科書	必携
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業開始前又は授業終了後（教室）にて。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/9	【ガイダンス】【中国語とは】	①ガイダンス(授業の進め方等授業概要説明) ②中国語について(発音・文字・方言など)の概略を説明する。	
		この回の到達目標	中国語とはどのようなものかをその概要を説明することができる。	
		事前学修	シラバスと教科書を読んで、講義の全体をつかんでおく。中国語とはどのようなものなのかを調べておく。	30分
		事後学修	ガイダンス(授業の進め方等)の確認、発音、文字(簡体字)の理解確認。	30分
2	第一部 4/16	【中国語の発音習得①】声調、単母音	発音習得 声調・単母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	声調、単母音を正確に発音することができる。	
		事前学修	発音、文字(簡体字)について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	声調・単母音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
3	第一部 4/23	【中国語の発音習得②】複合母音、子音。	発音習得 複合母音・①子音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	複合母音、①子音を正確に発音することができる。	
		事前学修	声調・単母音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	複合母音、①子音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
4	第一部 4/30	【中国語の発音習得③】子音、鼻母音。	発音習得 ②子音・鼻母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	②子音、鼻母音を正確に発音することができる。	
		事前学修	複合母音、①子音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	②子音・鼻母音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
5	第一部 5/7	【中国語の発音習得④】鼻母音、er化、声調の組み合わせ、轻声、声調の変化。	発音習得 鼻母音・er化・声調の組合せ・轻声・声調の変化について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	鼻母音、er化、声調の組み合わせ、轻声、声調の変化を正確に発音することができる。	
		事前学修	②子音・鼻母音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	鼻母音・er化・声調の組合せ・轻声・声調の変化の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
6	第一部 5/14	【中国語基礎文法習得①】人称代名詞、「～である」、「～か」の文法。	第1課① 中国人留学生と知り合う について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第1回ピンイン書き取りテスト(母音部)	
		この回の到達目標	第1課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	鼻母音・er化・声調の組合せ・轻声・声調の変化について、教科書で再度確認、第1回ピンイン書き取りテスト準備、第1課① 中国人留学生と知り合う 予習(文法事項通読、新出単語及び本文発音確認)	120分
		事後学修	第1課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第1回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/21	【中国語基礎文法習得②】 一般動詞、指示代名詞、疑問詞疑問文、所有格の文法。	第1課② 中国人留学生と知り合う、第2課① 携帯の写真を見て について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第2回ピンイン書き取りテスト（子音 b、p、m、f 部）	
		この回の到達目標	第1課の練習問題を正しく解答することができる。第2課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第2回ピンイン書き取りテスト準備、第1課文法事項等について、教科書で再度確認、第1課② 中国人留学生と知り合う、第2課① 携帯の写真を見て 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第1課全事項の習得確認、第2課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第2回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
8	第一部 5/28	【中国語基礎文法習得③】 一般動詞、指示代名詞、疑問詞疑問文、所有格の文法。	第2課② 携帯の写真を見て について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第3回ピンイン書き取りテスト（子音 d、t、n、l 部）	
		この回の到達目標	第2課の練習問題を正しく解答することができる。第2課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第3回ピンイン書き取り準備、第2課文法事項等について、教科書で再度確認、第2課② 携帯の写真を見て 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第2課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第3回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
9	第一部 6/4	【中国語基礎文法習得④】 形容詞、副詞、所有、時制語の文法。	第3課① ファストフード店で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第4回ピンイン書き取りテスト（子音 g、k、h 部）	
		この回の到達目標	第3課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第4回ピンイン書き取りテスト準備、第3課① ファストフード店で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第3課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第4回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
10	第一部 6/11	【中国語基礎文法習得⑤】 場所詞、存在、省略疑問文、反復疑問文の文法。	第3課② いっしょに勉強しよう！、第4課① ファストフード店で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第5回ピンイン書き取りテスト（子音 j、q、x 部）	
		この回の到達目標	第3課の練習問題を正しく解答することができる。第4課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第5回ピンイン書き取りテスト準備、第3課文法事項等について、教科書で再度確認、第3課② いっしょに勉強しよう！、第4課① ファストフード店で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第3課全事項の習得確認、第4課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第5回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
11	第一部 6/18	【中国語基礎文法習得⑥】 場所詞、存在、省略疑問文、反復疑問文の文法。	第4課② ファストフード店で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第6回ピンイン書き取りテスト（子音 zh、ch、sh、r 部）	
		この回の到達目標	第4課の練習問題を正しく解答することができる。第4課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第6回ピンイン書き取りテスト準備、第4課② ファストフード店で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第4課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第6回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
12	第一部 6/25	【中国語基礎文法習得⑦】 数詞、量詞、数量疑問文、所在の文法。	第5課① Tシャツを買う について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第7回ピンイン書き取りテスト（子音 z、c、s 部）	
		この回の到達目標	第5課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第7回ピンイン書き取りテスト準備、第5課Tシャツを買う 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第5課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第7回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 7/2	【中国語基礎文法習得⑧】 数詞、量詞、数量疑問文、 所在の文法。	第5課② Tシャツを買う について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 前期授業総復習。	
		この回の 到達目標	第5課の練習問題を正しく解答することができる。第5課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第5課② Tシャツを買う 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第5課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、前期授業における習得の総確認、第1～7回ビンイン書き取りテスト見直し。	90分
14	第一部 7/9	本文音読テスト、まとめ。	教科書本文音読テスト及び前期学習内容の振り返り。	
		この回の 到達目標	教科書本文をしっかりと正確に発音することができる。	
		事前学修	教科書本文音読テスト準備。	120分
		事後学修	教科書本文音読テストの問題点改善。	90分
15	第一部 7/16[	授業内試験、まとめ。	授業内試験及びその解説。前期学習内容の振り返り。	
		この回の 到達目標	授業で習得したことをしっかりと試験で反映することができる。	
		事前学修	教科書の総復習、前期試験準備。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する、前期試験の問題点改善、夏休み課題。	90分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。毎週ドリルに取り組める。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習・ドリルの解答合わせ・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。							1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。							1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。									1	1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ドリルの解答合わせおよび小テスト返却時にポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『好きです♥中国語 文法編』	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取る） shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	中国語とはどのような言語か。中国語の発音	中国語について 四声・単母音の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	中国語の標準語とはどのような言語かを大まかに説明できる。 四声のそれぞれのイメージを説明できる。 単母音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。テキストのはじめに・7ページを一読しておく。	20分
		事後学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。	40分
2	4月11日	中国語の発音	子音の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	子音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	テキスト8ページ子音を一読し、CDを聞いておく。	15分
		事後学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。	45分
3	4月18日	中国語の発音	複母音・鼻母音と声調の組み合わせを練習する。	
		この回の到達目標	複母音・鼻母音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	テキスト8ページ複母音・鼻母音を一読し、CDを聞いておく。	15分
		事後学修	CDを使い子音・複母音・鼻母音と声調の組み合わせを練習する。	45分
4	4月25日	人称代名詞、動詞、副詞	第1課 人称代名詞、動詞〈是〉、副詞〈也〉〈都〉を練習する。	
		この回の到達目標	人称代名詞が言える。動詞〈是〉を含む文の語順を説明できる。副詞〈也〉〈都〉の意味と文中の位置を説明できる。	
		事前学修	12～14ページを一読しCDを聞いておく。	15分
		事後学修	12～14ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
5	5月2日	指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語、疑問詞疑問文	15～17ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第2課 指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語を作る〈的〉、疑問詞疑問文、数字の練習をする。	
		この回の到達目標	指示代名詞の使い方を説明できる。動詞述語文の基本語順を説明できる。連体修飾語と〈的〉の位置を説明できる。疑問詞の文中の位置を説明できる。10までの数字を言える。	
		事前学修	15～17ページのドリルを解いておく。18～20ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	18～20ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
6	5月9日	形容詞述語文、年月日・曜日、時刻	第1課小テスト 21～23ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第3課 形容詞述語文、年月日・曜日、時刻の言い方の練習をする。	
		この回の到達目標	形容詞述語文の基本語順を説明できる。年月日・曜日、時刻を言える。	
		事前学修	12～17ページの単語と語順について復習しておく。21～23ページのドリルを解いておく。24～26ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	24～26ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月16日	指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文	第2課小テスト 27～29ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第4課 指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文の練習をする。	
		この回の到達目標	場所を表す指示代名詞が言える。所有の〈有〉と存在の〈有〉の文のそれぞれの基本語順を説明できる。副詞〈有点儿〉の位置を説明できる。短縮疑問文について説明できる。	
		事前学修	18～23ページの単語と語順について復習しておく。27～29ページのドリルを解いておく。30～32ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	30～32ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
8	5月23日	選択疑問文、完了の〈了〉、反復疑問文、動詞〈喜歡〉	第3課小テスト 33～34ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第5課 選択疑問文、完了の〈了〉、反復疑問文、動詞〈喜歡〉の練習をする。	
		この回の到達目標	選択疑問文について説明できる。完了の〈了〉の位置と否定文について説明できる。反復疑問文について説明できる。動詞〈喜歡〉の特徴を説明できる。	
		事前学修	24～29ページの単語と語順について復習しておく。33～35ページのドリルを解いておく。36～38ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	36～38ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
9	5月30日	所在の〈在〉、介詞、変化の〈了〉、年齢・金額の言い方	第4課小テスト 39～41ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第6課 所在の〈在〉、介詞〈在〉〈給〉、変化の〈了〉、年齢の言い方、金額の言い方の練習をする。	
		この回の到達目標	所在の〈在〉の基本語順を説明できる。介詞の基本語順を説明できる。変化の〈了〉と限定できる場合を説明できる。年齢を質問できまた答えられる。金額を質問できまた答えられる。	
		事前学修	30～35ページの単語と語順について復習しておく。39～41ページのドリルを解いておく。42～44ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	42～44ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
10	6月6日	疑問詞、助動詞、連動文	第5課小テスト 45～47ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第7課 疑問詞〈几〉〈多少〉〈怎么〉、助動詞〈想〉、連動文の練習をする。	
		この回の到達目標	疑問詞〈几〉〈多少〉〈怎么〉を聞き取れる。助動詞〈想〉の位置を説明できる。連動文の基本語順を説明できる。	
		事前学修	36～41ページの単語と語順について復習しておく。45～47ページのドリルを解いておく。48～50ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	48～50ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
11	6月13日	助動詞、主述述語文、進行形	第6課小テスト 51～53ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第8課 助動詞〈会〉〈能〉、主述述語文、進行形の練習をする。	
		この回の到達目標	助動詞〈会〉〈能〉の使い分けを説明できる。主述述語文の基本語順を説明できる。進行形を作る要素と語順を説明できる。	
		事前学修	51～53ページのドリルを解いておく。54～56ページを一読しCDを聞いておく。42～47ページの単語と語順について復習しておく。	20分
		事後学修	54～56ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
12	6月20日	助動詞〈会〉、依頼、〈是～的〉構文、動詞+〈一下〉	第7課小テスト 57～59ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第9課 可能性を表す助動詞〈会〉、依頼の〈請〉、〈是～的〉構文、動詞+〈一下〉の練習をする。	
		この回の到達目標	可能性を表す助動詞〈会〉の後に表れる動詞の特徴を説明できる。依頼の文の語順を説明できる。〈是～的〉構文について説明できる。〈一下〉の位置を説明できる。	
		事前学修	57～59ページのドリルを解いておく。60～62ページを一読しCDを聞いておく。48～53ページの単語と語順について復習しておく。	20分
		事後学修	60～62ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	総復習	63～65ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第1課から第4課までの単語を復習し、ポイントとそれに関連する語順。	
		この回の到達目標	第1課から第4課までの単語を聞き取れる。第1課から第4課までの文法ポイントとそれに関連する語順を説明できる。	
		事前学修	63～65ページのドリルを解いておく。66～68ページを一読しCDを聞いておく。第1課～第4課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。	40分
		事後学修	忘れていた単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	20分
14	7月4日	総復習	第5課から第9課までの単語、文法ポイントとそれに関連する語順を復習する。	
		この回の到達目標	第5課から第9課までの単語が聞き取れる。 第5課から第9課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	第5課～第9課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。	20分
		事後学修	忘れていた単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	40分
15	7月11日	期末試験と前期学習内容の振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	第1課から第9課までの単語が聞き取れる。 第1課から第9課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	第1課から第9課までの単語が聞き取れるように復習する。 第1課から第9課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
		事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音練習と基本的な文法の修得に力を入れる。また、中国語に対する興味と関心を深めるために、日本の楽曲の中国語カバー曲を授業に取り入れる。さらに、最新の中国事情についても紹介する。1課終了ごとに小テストを実施し、次の授業で返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施後に、授業内で試験問題に関する解説をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『出発 中国語』	栗原千里・王熙萍・本間直人	白帝社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容	中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 4/9	【ガイダンス】【発音練習】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 発音練習	
		この回の到達目標	授業の進め方について理解する。また、到達目標①②③に関連して、中国語の正確な発音を身につける。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
2	第一部 木 4/16	【発音練習】【人称代名詞などについて】	発音練習、第1課 人称代名詞、“是”の文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語の正確な発音を身につける。また、人称代名詞などについて理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
3	第一部 木 4/23	【名前の聞き方と答え方、場所を表す指示代名詞などについて】	第1課 名前の聞き方と答え方について、第2課 場所を表す指示代名詞などについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名前の聞き方と答え方について、また、場所を表す指示代名詞などについて理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
4	第一部 木 4/30	【疑問詞、について】	省略疑問文など	第2課 疑問詞“哪儿”“什么”“什么……”、省略疑問文“……呢”について学習する。 小テスト
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞“哪儿”“什么”“什么……”、省略疑問文“……呢”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
5	第一部 木 5/7	【副詞“都……”について】	第3課 副詞“都……”について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副詞“都……”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	第一部 木 5/14	【形容詞述語文について】	第3課 形容詞述語文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞述語文について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 5/21	【指示代名詞、“的”の用法について】	第4課 指示代名詞、“的”の用法について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞、“的”の用法について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）	30分
8	第一部 木 5/28	【所有などを表す“有”、副詞“也”について】	第4課 所有などを表す“有”、副詞“也”について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所有などを表す“有”、副詞“也”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）	30分
9	第一部 木 6/4	【数字、量詞について】	第5課 数字、量詞について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、数字、量詞について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	第一部 木 6/11	【序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について】	第5課 序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
11	第一部 木 6/18	【完了の“了”、助動詞“想”について】	第6課 完了の“了”、助動詞“想”について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了の“了”、助動詞“想”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	第一部 木 6/25	【存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて】	第6課 存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 7/2	【時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について】	第7課 時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	第一部 木 7/9	【時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について】	第7課 時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	第一部 木 7/16	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期に学習した内容について理解する。	
		事前学修	テキストの本文と練習問題を中心に、よく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	吉富 透	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び現代中国語の発音・意味・書体が日本語と全く違う外国語であると認識している者が望ましい。

【授業方法】
学生参加形式で行う。テキストに従い、毎時間指名し中国語で答えていただく。また随時小テストも行う。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本文型を用いた応用作文練習を適宜行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてう

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
楽しく学ぼうやさしい中国語「基礎編」	張慧絹・王武雲・朱芸 共著	郁文堂	2017	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了後教室内・講師控室で受け付けます。授業時間：月曜4限・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス 中国語とは	現代中国語と漢文・日本漢字との意味や字形・発音の違いを説明する。これにより受講生が 日本語漢字で簡単に習得できるという安易な発想をさせない。また授業計画・成績評価等の 説明により、中国語学習に対する意識を高めることができる。	
		この回の到達目標	現代中国語と日本漢字の字形と意味に違いがあることを理解する。 日本語漢字音と現代中国語の発音との大きな違いがあることも理解する。	
		事前学修	まえがきと発音篇の説明を読み、声調とはどういうものであるのかCDを聞いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて声調練習をしてみる。	30分
2	4/13	発音練習1 中国語の声調・単母音・複合 母音	4つある声調と単母音・複合母音の発音を説明し、実際に発音練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して4つの声調と単母音・複合母音が正しく発音できる。	
		事前学修	CDを聞いて単母音・複合母音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。	30分
		事後学修	CDを聞いて復習し、さらにピンイン表記を書いて覚える。	30分
3	4/20	発音練習2 中国語の鼻母音・子音とその 組み合わせ	日本語でも使い分けている鼻母音と子音の発音の仕方を説明し、実際に発音練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、鼻母音と子音の発音ができる。	
		事前学修	CDを聞いて鼻母音・子音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。	30分
		事後学修	CDを聞いて発音の復習をし、実際の発音とピンイン表記e, iの違いを確認し覚える。 ピンインを書いて覚える。	30分
4	4/27	発音練習3 ピンイン表記の音声変化・声 調の変化	見た目のローマ字（ピンイン）通り読めない綴りと“一” “不” の声調変化パターンを説明 し、実際に発音練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、間違えやすいローマ字（ピンイン）の組み合わせを正しく発音できる。	
		事前学修	CDを聞いて鼻母音・子音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。	30分
		事後学修	ある母音で始まるピンイン表記が変化することを書いて確認し発音してみる。 声調の変化がある第三声と“不” “一” の変化を確認し、書いて覚える。	30分
5	5/4	発音の総復習	数字を用いた年月日曜日、時刻の尋ね方と答え方を説明し、中国語で実際に受け答えができる ように発音練習と併せて練習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、年月日曜日・時刻について答えることができる。	
		事前学修	日本語と漢字表記が違うものをピックアップし、先に単語を覚える。 CDを聞いてピンインを見ながら発音練習してみる。	30分
		事後学修	日本語表記と違う単語を再確認する。 ピンイン表記を再確認し、CDを聞いて発音してみる。	30分
6	5/11	第1課 名前の聞き方と答え方・動詞 述語文（1）・ドリル問題	中国語で名前の言い方、尋ね方を説明し、実際に答えられるよう練習する。 基本文型「AはBです」の肯定・否定・疑問の形を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の名前や「AはBです」の基本文型を用いて中国語で正しく答えることができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 自分の名前の簡体字・ピンインを中国語辞書で調べておく。	30分
		事後学修	自分の名前の簡体字とピンイン表記を再確認する。 「AはBです」の肯定文・否定文・疑問文を再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	第2課 疑問詞疑問文・名詞の修飾の仕方・副詞「も」の用法・ドリル問題	指示代名詞と疑問詞「なに」「だれ」を用いた「Aは（も）Bです」の文型に、名詞を修飾する助詞の用法を説明し、第1課の基本文型を応用発展させた表現ができるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞を用いた「AはだれのBです」を中国語で正しく答えることができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
		事後学修	人称代名詞・指示代名詞を確認する。 第1課と第2課の疑問文の違いを確認する。 名詞を修飾する場合の「の」に相当する“的”が不要なケースを再確認する。	30分
8	5/25	第3課 場所代名詞・形容詞述語文・疑問詞「どうですか」・ドリル問題	述語が形容詞の基本文型の肯定文・否定文・疑問文を説明し、表現ができるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞述語文を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 形容詞述語文に“是”が用いられてないことを確認しておく。	30分
		事後学修	場所代名詞をしっかりと覚える。 形容詞述語文の肯定文・否定文・疑問文の特徴を再確認する。特に副詞との組み合わせに注意。	30分
9	6/1	第4課 動詞述語文（2）・時点を表す語句の位置・省略疑問文・ドリル問題	述語が動詞の基本文型の肯定文・否定文・疑問文を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、SVO文を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 時点の語句は16－17頁参照。	30分
		事後学修	動詞述語文と時点を組み合わせた文に慣れるよう書いて覚える。	30分
10	6/8	第5課 所在の表現・方位詞の用法・前置詞“離”を用いた表現・ドリル問題	「AはBにある/いる」の肯定文・否定文・疑問文の文型と前置詞「から」の文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所在と前置詞構文を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
		事後学修	英語の前置詞句と違うことを再確認する。 日本人の言語習慣上忘れやすい「中」を再確認し、日中言語の相違を再考する。	30分
11	6/15	第6課 所有の表現・量詞＋名詞の組み合わせ・二種類の数の尋ね方・ドリル問題	日本語の助数詞に当たる量詞と名詞の組み合わせと「AはBを持っている/がある」の肯定文・否定文・疑問文の文型を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語式モノの数え方と所有文を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 今までの否定文と違うことに着目しておく。	30分
		事後学修	量詞と名詞の組み合わせは一定なので、単語で覚えるよりもセットで確認する。 所有の否定文に用いられる“没”を再確認する。	30分
12	6/22	第7課 存在を表現する“有”の文・各種年齢の尋ね方・ドリル問題	「AにBがいる/ある」の肯定文・否定文・疑問文と年齢表現・親族の名称を説明し、簡単な家族紹介ができるよう練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課の存在表現文との違いを理解し家族紹介を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課“在”と第6課“有”の違いを確認しておく。	30分
		事後学修	短文を自分の家族構成に沿って表現できるようにする。 第5課から第7課までの“在”と“有”、場所を表す語句がどのように並び替えされるのか再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	第8課 前置詞“在”を用いた表現・連動文（1）・ドリル問題	前置詞“在”を用いた動詞文の構造を説明した後、これと同じ構造の連動文も併せて説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課の前置詞文との違いを理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 英語の前置詞句と違うことを確認しておく。	30分
		事後学修	4つの「で」に相当する前置詞を使い分けできるよう再確認する。 場所表現が置かれる位置を確認し、中国語の基本動詞述語文の構成を再確認する。	30分
14	7/6	第9課 動作の完了表現・前置詞“跟”を用いた表現・ドリル問題	動作の完了文型と前置詞“跟”を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課と第8課の前置詞文との同異を再理解し、かつある動作が終了したことを中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課の前置詞句を確認しておく。	30分
		事後学修	動作の完了を表現する“了”の位置と否定文・疑問文を再確認する。 述語が形容詞の場合の前置詞句を再確認する。	30分
15	7/13	前期の総合復習	授業内試験を実施し、後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語の漢字（簡体字）と発音表記ピンインで正しく表現することができる。	
		事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 特に各種否定文の違いを整理して覚えること。	30分
		事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと数と量詞を用いた肯定文を再確認する。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
主に1年次生(中国語の初心者)を対象とする。

【授業方法】
講義と添削により指導を行い、繰り返しのトレーニングを中心に、教科書の内容に沿って授業を進めていく。携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができる。毎回出欠を確認する。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に簡単な自己紹介を書き、授業内で発表してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
耳から学ぶ中国語	矢野光治 他	株式会社 天天	初版発	教科書	
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜2・3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	ガイダンス 中国語について	中国の文化や中国語について簡単に紹介する。また、本講義の授業計画・内容などについての説明する。	
		この回の到達目標	中国の文化や中国語についてある程度の理解ができる。	
		事前学修	講義に関する要望などを考えておく。	30分
		事後学修	中国語に関する基本知識を調べておく。	30分
2	第一部 木4/16	中国語の発音 1	単母音、四声（声調）の学習	
		この回の到達目標	単母音と四声の発音を覚える。	
		事前学修	テキストの用意。ひと通り目を通しておく。	30分
		事後学修	既習した単母音、四声を復習する。	30分
3	第一部 木4/23	中国語の発音 2	複合母音と子音の学習	
		この回の到達目標	複合母音と子音の発音を覚える。	
		事前学修	教科書の音声ファイルを聴きながら複合母音、子音を予習する。	30分
		事後学修	既習した複合母音、子音を復習する。（30分）	30分
4	第一部 木4/30	中国語の発音 3	鼻母音の学習 総合復習	
		この回の到達目標	鼻母音の発音を覚える。	
		事前学修	教科書の音声ファイルを聴きながら鼻母音を予習する。	30分
		事後学修	既習した発音と声調を復習してまとめる。	30分
5	第一部 木5/7	第1課	人称代名詞 動詞“是”の使い方 疑問詞疑問文	
		この回の到達目標	人称代名詞、動詞“是”、疑問詞疑問文の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第1課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第1課の内容を練習して覚える。	30分
6	第一部 木5/14	第1課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第1課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	第2課	場所代名詞 形容詞文 反復疑問文	
		この回の到達目標	場所代名詞、形容詞文、反復疑問文の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第2課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第2課の内容を練習して覚える。	30分
8	第一部 木5/28	第2課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第2課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。（30分）	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）	30分
9	第一部 木6/4	第3課	指示代名詞 動詞“有”の文	
		この回の到達目標	指示代名詞、動詞“有”の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第3課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第3課の内容を練習して覚える。（30分）	30分
10	第一部 木6/11	第3課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第3課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
11	第一部 木6/18	第4課	動詞“在”の文 因果関係の表現	
		この回の到達目標	動詞“在”及び因果関係の表現の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第4課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第4課の内容を練習して覚える。	30分
12	第一部 木6/25	第4課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第4課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	第5課	動詞文 時刻・日・曜日	
		この回の到達目標	動詞文、時刻・日・曜日の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第5課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第5課の内容を練習して覚える。	30分
14	第一部 木7/9	第5課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第5課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
15	第一部 木7/16	到達度のチェック 振り返り	期末テスト、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、到達度のチェックをする。	
		事前学修	前期に既習した内容を復習して覚える。	30分
		事後学修	前期の学習について総括する。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	鄭 暁青	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする。 フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中説明する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
歩歩高	康音など	隆美出版	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	中国語の勉強について	年間講義計画・成績評価の方法・数の読み方	
		この回の到達目標	中国と中国語の知識がわかる。	
		事前学修	教科書の目次を読む（30分）	30分
		事後学修	学習の計画を考える（30分）	30分
2	4月14日	数字と発音	発音Ⅰ 発音Ⅱ	
		この回の到達目標	単母音と複合母音を読む。	
		事前学修	数を暗記（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
3	4月21日	発音	発音Ⅲ	
		この回の到達目標	子音を読む。	
		事前学修	予習 録音を聞く（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
4	4月28日	発音	発音Ⅳ	
		この回の到達目標	発音記号と四声を覚える。	
		事前学修	予習 録音を聞く（30分）	30分
		事後学修	発音のまとめ（30分）	30分
5	5月12日	你叫什么名字？	第1課 お名前は	
		この回の到達目標	自分の名前を言う。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
6	5月19日	我学法律。	トレーニング 文法と練習問題	
		この回の到達目標	大学名と専攻を言う。	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月26日	你家有几口人？	第2課 何人家族ですか	
		この回の到達目標	質問文を言う。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
8	6月2日	我有两个妹妹。	トレーニング 文法と練習問題	
		この回の到達目標	家族の紹介を言う。	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
9	6月9日	你去麦当？	第3課 マクドナルドに行きますか	
		この回の到達目標	どこと何を使う。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
10	6月17日	我吃堡包。	トレーニング 文法と練習問題	
		この回の到達目標	行くところと食べたいものを言う。	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
11	6月23日	今天星期几？	第4課 今日は何曜日ですか	
		この回の到達目標	曜日と日にちを言う。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
12	6月30日	祝你生日快！	トレーニング 文法と練習問題	
		この回の到達目標	誕生日と祝いことばを言う。	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月7日	个多少？	第5課　いくらですか	
		この回の到達目標	値段を聞く。	
		事前学修	予習　本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習　録音を聞く（30分）	30分
14	7月14日	很漂亮。	トレーニング　文法と練習問題	
		この回の到達目標	形容詞を言う。	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
15	7月21日	テスト	期末試験及びまとめ、振返り	
		この回の到達目標	発音記号と会話の習得	
		事前学修	復習　録音を聞く（30分）	30分
		事後学修	まとめ（30分）	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	福木 滋久	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語圏の言語・文化に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。初回の授業で担当者の受講許可を得ること。

【授業方法】		
中国語文法の基礎を学び、それを用いた会話を身に付けるための練習を行います。本クラスは事前抽選除外クラスで、中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動（日大競技部）の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後のフィードバックは後日ポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。学修サポートとしてインターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を発信します。				

【オフィスアワー】
競技部員は月 6 と土 4、1033講堂（予定）。競技部以外は火 5、532講堂（予定）。要事前申し込み。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス・中国語の四声	授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／「Quizlet」について／成績評価方法について／中国語入門知識と四声を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、これから学ぶ中国語の性質、簡体字、ピンインの概略について説明でき、四声を正しく発音できる	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、中国語という言葉につて調べておく	60分
		事後学修	Quizlet（前期01）などを持ちいて四声・挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
2	4/17	母音・3声の変調・軽声	母音・3声の変調・軽声の発音とそれらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、母音・3声の変調・軽声といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期01）などを持ちいて、四声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期02）などを持ちいて、今回学んだ母音・3声の変調・軽声、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
3	4/24	-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）	-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）の発音とそれらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期02）などを持ちいて、母音・3声の変調・軽声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期03）などを持ちいて、今回学んだ-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
4	5/1	-iou/-uei/-uen	-iou/-uei/-uen・舌歯音の発音とそれらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-iou/-uei/-uen・舌歯音について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期03）などを持ちいて-n/-ng・-ian・erの発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期04）などを持ちいて、今回学んだ単母音・有気/無気音・挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
5	5/8	y-/w-・-üの綴り	y-/w-・-üの綴りとそれらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、y-/w-・-üの綴りなどについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期04）などを持ちいて四声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期05）などを持ちいて、今回学んだy-/w-・-üの綴り、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
6	5/15	“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文	“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期05）などを持ちいて四声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期06）などを持ちいて、今回学んだソリ舌音・兒化、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	反復疑問文・形容詞述語文	反復疑問文・形容詞述語文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と反復疑問文・形容詞述語文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期06）などをもちいて、ソリ舌音・児化の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期07）などをもちいて、今回学んだ“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
8	5/29	“呢”疑問文・“的”の用法	“呢”疑問文・“的”の用法を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“呢”疑問文・“的”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期07）などをもちいて、“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期08）などをもちいて、今回学んだ反復疑問文・形容詞述語文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
9	6/5	選択疑問文・数を問う疑問詞	選択疑問文・数を問う疑問詞などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と選択疑問文・数を問う疑問詞などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期08）などをもちいて、反復疑問文・形容詞述語文を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期09）などをもちいて、今回学んだ“呢”疑問文・“的”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
10	6/12	文末付加型疑問文・“吧”の用法	文末付加型疑問文・“吧”の用法を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、文末付加型疑問文・“吧”の用法といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期09）やなどをもちいて、“呢”疑問文・“的”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期10）などをもちいて、今回学んだ選択疑問文・数を問う疑問詞、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
11	6/19	所有の“有”の用法	所有の“有”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、所有の“有”の用法といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期10）などをもちいて、選択疑問文・数を問う疑問詞等の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期11）などをもちいて、今回学んだ文末付加型疑問文・“吧”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
12	第一部 6/22 第二部 6/26	前期文法の復習	前期に学修した文法事項について復習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、学修済みの文法を正しく理解できる	
		事前学修	Quizlet（前期11）などをもちいて、所有の“有”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期口頭試験課題）などをもちいて、前期文法の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	前期総復習と試験対策	前期総復習として、テキスト・プリンなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、発音・語彙・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期口頭試験課題）などを持ち、前回学修内容を身につけ、前期のこれまでの学修事項を復習しつつ、前期学修範囲の疑問点を明らかにして授業にのぞむ	60分
		事後学修	Quizlet（前期口頭試験課題）などを持ち復習する	120分
14	7/10	筆記試験とまとめ	前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修した発音、語彙、文法などを応用することができる	
		事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	試験で問題とされた個所について、教科書やプリントを確認し、復習する	120分
15	7/17	口頭試験とまとめ	前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる	
		事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
中国語文法の説明を行った上で、練習問題を解きながら授業を進め、発音練習、作文練習、翻訳作業を行う。また文法学習を通じて中国語および中国語圏への理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
出発中国語	本間直人、栗原千里、王熙萍	白帝社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14(月曜開講分、以下同断) 9/16(水曜開講分、以下同断) 9/18(金曜開講分、以下同断)	教科書第八課(動作回数、継続時間等)	動作回数と継続時間、時間の長さの表現について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動作回数と継続時間、時間の長さの表現について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第八課動作回数と継続時間、時間の長さの表現の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動作回数と継続時間、時間の長さの表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	9/21 9/23 9/25	教科書第八課(離合詞、従、在)	離合詞、介詞「従」「在」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、離合詞、介詞「従」「在」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第八課離合詞、介詞「従」「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	離合詞、介詞「従」「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	9/28 9/30 10/2	教科書第九課(過、会、能、可以)	経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に教科書第九課経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	10/5 10/7 10/9	教科書第九課(反復疑問文、選択疑問文)	反復疑問文、選択疑問文「還是」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、反復疑問文、選択疑問文「還是」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第九課反復疑問文、選択疑問文「還是」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	反復疑問文、選択疑問文「還是」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	10/12 10/14 10/16	教科書第十課(方位詞、有、在)	方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十課方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	10/19 10/21 10/23	教科書第十課(給、喜歡)	介詞「給」、動詞「喜歡」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、介詞「給」、動詞「喜歡」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十課介詞「給」、動詞「喜歡」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	介詞「給」、動詞「喜歡」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/28 10/30	教科書第十一課(様態補語、動詞重ね型)	様態補語(程度補語)、動詞の重ね型について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、様態補語(程度補語)、動詞の重ね型について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十一課様態補語(程度補語)、動詞の重ね型の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	様態補語(程度補語)、動詞の重ね型の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	11/9 11/11 11/6	教科書第十二課(離、連動文)	介詞「離」、連動文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、介詞「離」、連動文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課介詞「離」、連動文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	介詞「離」、連動文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	11/16 11/18 11/13	教科書第十二課(在)	動作進行の「在」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、動作進行の「在」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課動作進行の「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動作進行の「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	11/23 11/25 11/20	教科書第十二課(別、的)	禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	11/30 12/2 11/27	教科書第十三課(是～的)	「是～的」構文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「是～的」構文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十三課「是～的」構文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「是～的」構文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	12/7 12/9 12/4	教科書第十三課(比較表現)	比較表現について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、比較表現について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十三課比較表現の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	比較表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/16 12/11	教科書第十四課(二重目的語)	二重目的語を取る動詞について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、二重目的語を取る動詞について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十四課二重目的語を取る動詞の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	二重目的語を取る動詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	12/21 12/23 12/18	第十四課(譲)	使役の「譲」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、使役の「譲」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十四課使役の「譲」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	使役の「譲」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	1/18 1/13 12/25	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っていること。授業に関する一般的な決まり（規定数以上の欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど）を守ることが出来ること。

【授業方法】
先に文法の説明を行いその後、学生を指名して本文訳、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教科書本文音読テスト終了後の批評及び授業内試験終了後の解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語 1 年め	緒方昭・小林光考・ 胡慶華	白水社	2 0 1 9	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業開始前又は授業終了後（教室）にて。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/17	【前期授業復習】【中国語 準中級へ向けての心構え】	前期授業復習。	
		この回の 到達目標	前期授業における習得分の定着度の確認。	
		事前学修	教科書発音部及び第1～5課全事項について、再度確認。	60分
		事後学修	前期試験の問題点改善、授業の進め方の確認。	60分
2	第一部 9/24	【中国語基礎文法習得⑨】 時制語、助動詞「したい」、語気助詞の文法。	第6課① いっしょに遊びに出かける について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第6課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第6課① いっしょに遊びに出かける 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第6課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
3	第一部 10/1	【中国語基礎文法習得⑩】 前置詞「～で」「～から」、完了、動詞の重ね型の文法。	第6課② いっしょに遊びに出かける、第7課① 花火は何時から？ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第6課の練習問題を正しく解答することができる。第7課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第6課文法事項等について、教科書で再度確認、第6課② いっしょに遊びに出かける 、第7課① 花火は何時から？ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第6課全事項の習得確認、第7課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）	90分
4	第一部 10/8	【中国語基礎文法習得⑪】 前置詞「～で」「～から」、完了、動詞の重ね型の文法。	第7課② 花火は何時から？ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第7課の練習問題を正しく解答することができる。第7課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第7課② 花火は何時から？ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第7課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
5	第一部 10/15	【中国語基礎文法習得⑫】 助動詞「できる」、経験、動量詞の文法。	第8課① 学園祭 について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第8課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第8課① 学園祭 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第8課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
6	第一部 10/22	【中国語基礎文法習得⑬】 様態補語、前置詞「～に」「～と」、連動文の文法。	第8課② 学園祭、第9課① カラオケに行く について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第8課の練習問題を正しく解答することができる。第9課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第8課文法事項について、教科書で再度確認、第8課② 学園祭、第9課① カラオケに行く 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第8課全事項の習得確認、第9課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/29	【中国語基礎文法習得⑭】 様態補語、前置詞「～に」 「～と」、連動文の文法。	第9課② カラオケに行く について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第9課の練習問題を正しく解答することができる。第9課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第9課文法事項等について、教科書で再度確認、第9課② カラオケに行く 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第9課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
8	第一部 11/5	【中国語基礎文法習得⑮】 結果補語、進行、主述述語 文の文法。	第10課① 中国の映画を見る について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第10課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第10課① 中国の映画を見る 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第10課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
9	第一部 11/12	【中国語基礎文法習得⑯】 方向補語、比較、選択疑問 文の文法。	第10課② 中国の映画を見る、第11課① 帰国を前にして について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第10課の練習問題を正しく解答することができる。第11課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第10課文法事項等について、教科書で再度確認、第10課② 中国の映画を見る、第11課① 帰国を前にして 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第10課全事項の習得確認、第11課文法事項等の取得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
10	第一部 11/19	【中国語基礎文法習得⑰】 方向補語、比較、選択疑問 文の文法。	第11課② 帰国を前にして について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第11課の練習問題を正しく解答することができる。第11課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第11課文法事項等について、教科書で再度確認、第11課② 帰国を前にして 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第11課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
11	第一部 12/3	【中国語基礎文法習得⑱】 可能補語、過去の強調構 文、二重目的語文の文法。	第12課① 空港で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第12課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第12課① 空港で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第12課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
12	第一部 12/10	【中国語基礎文法習得⑲】 可能補語、過去の強調構 文、二重目的語文の文法。	第12課② 空港で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第12課の練習問題を正しく解答することができる。第12課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第12課文法事項等について、教科書にて再度確認、第12課② 空港で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第12課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/17	【後期授業復習】	後期授業の総復習。	
		この回の到達目標	後期授業分の内容を体系的に習得する。	
		事前学修	第6～12課の習得確認。	120分
		事後学修	後期授業における習得の総確認。	120分
14	第一部 12/24	【本文音読テスト、まとめ】	教科書本文音読テスト後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	教科書本文をしっかり正確に発音することができる。	
		事前学修	教科書本文音読テスト準備。	120分
		事後学修	教科書本文音読テストの問題点改善。	90分
15	第一部 1/14	【授業内試験、まとめ】	授業内試験及びその解説。後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	授業で習得したことをしっかり試験で反映することができる。	
		事前学修	教科書の総復習、後期試験準備。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認、後期試験の問題点改善、中級に向けた春休みにおける学習。	90分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。毎週ドリルに取り組める。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習・ドリルの解答合わせ・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ドリルの解答合わせ・小テスト返却時にポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『好きです♥中国語 文法編』	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取る） shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9月19日	基本の復習		総復習 四声・単母音・子音・声調の変化、第1課から第9課までのポイントの例文の発音とポイントの内容確認をする。
		この回の到達目標	四声のイメージを説明できる。単母音・子音の発音の仕方を説明できる。第三声の声調変化の原則について説明できる。動詞述語文・形容詞述語文の基本語順を説明できる。修飾語の位置を説明できる。第1課から第9課までの文法ポイントの内容を説明できる。	
		事前学修	CDを聞き四声・単母音・子音および第1課から第9課までのポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第1課から第9課までのポイントの内容を説明できるように復習しておく。	45分
		事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントの説明できるようにする。	15分
2	9月26日	禁止、介詞、経験、原因・理由を訪ねる〈怎么〉		第10課 禁止表現、介詞〈从〉、経験の〈过〉、原因・理由を訪ねる〈怎么〉の練習をする。
		この回の到達目標	禁止の表現が中国語で言える。〈从〉の正確な発音ができその語順を説明できる。〈过〉の位置と意味を説明できる。〈怎么〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	66～68ページを一読しCDを聞いておく。	15分
		事後学修	66～68ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
3	10月3日	介詞、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞		69～77ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第11課 介詞〈对〉〈离〉、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞の練習をする。
		この回の到達目標	介詞〈对〉〈离〉の位置と意味を説明できる。動詞の重ね型の基本的意味と訳し方を説明できる。目的語を二つとる動詞の基本語順を説明できる。	
		事前学修	69～70ページのドリルを解いておく。72～74ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	72・73ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
4	10月10日	比較文、助動詞、程度・数量の尋ね方、助動詞		第10課小テスト 75～76ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第12課 比較文、助動詞〈可以〉、程度・数量の尋ね方、助動詞〈要〉の練習をする。
		この回の到達目標	二種類の比較文の基本語順を説明できる。助動詞〈可以〉の用法を説明できる。程度・数量の尋ね方を中国語で言える。助動詞〈要〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	75～76ページのドリルを解いておく。78～80ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	78～80ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
5	10月17日	使役文、接続詞、「もうすぐ～する」の言い方、介詞		81～82ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第13課 使役文、接続詞〈因为〉〈所以〉、「もうすぐ～する」の言い方、介詞〈往〉の練習をする。
		この回の到達目標	使役文の基本語順を説明できる。接続詞〈因为〉と〈所以〉の使い方を説明できる。「もうすぐ～する」を中国語で言える。介詞〈往〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	81～82ページのドリルを解いておく。84～86ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	84～86ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
6	10月24日	結果補語、接続詞、様態補語、〈是不是〉		87～88ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第14課 結果補語、接続詞〈虽然～但是〉、様態補語、〈是不是〉を使った疑問文の練習をする。
		この回の到達目標	結果補語四つ以上言える。接続詞〈虽然～但是〉の意味を説明できる。様態補語とは何かを説明できる。様態補語の基本語順を二種類説明できる。〈是不是〉を使った疑問文を訳せる。	
		事前学修	87～88ページのドリルを解いておく。90～92ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	90～92ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。(30分)	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	10月31日	持続、可能性、否定疑問、副詞		93～94ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第15課 持続の〈着〉、可能性の〈可能〉、否定疑問の〈不是～嗎？〉、副詞〈就〉の練習をする。	
		この回の到達目標	持続の〈着〉の用法を説明できる。〈可能〉の意味を説明できる。〈不是～嗎？〉の文を訳せる。副詞〈就〉の位置と意味を説明できる。		
		事前学修	93～94ページのドリルを解いておく。96～98ページを一読しCDを聞いておく。		
		事後学修	96～98ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		
8	11月7日	方向補語、存現文、仮定、介詞		99～100ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第16課 方向補語、存現文、仮定の〈如果～就〉、介詞〈為〉〈為了〉の練習をする。	
		この回の到達目標	方向補語の種類と意味用法について説明できる。存現文の目的語の性質と語順を性質を説明できる。仮定の〈如果～就〉、介詞〈為〉〈為了〉の訳し方を説明できる。		
		事前学修	99～100ページのドリルを解いておく。102～104ページを一読しCDを聞いておく。		
		事後学修	102～104ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		
9	11月14日	処置文、〈越～越〉、副詞、除外・補充の表現		105～106ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第17課 処置文〈把〉、〈越～越〉、副詞〈才〉除外・補充の〈除了～以外〉の練習をする。	
		この回の到達目標	処置文とはどのような文か説明できる。処置文の基本語順を説明できる。〈越～越〉を訳せる。副詞〈才〉の位置と意味を説明できる。除外・補充の〈除了～以外〉の位置と意味を説明できる。		
		事前学修	105～106ページのドリルを解いておく。108～110ページを一読しCDを聞いておく。		
		事後学修	108～109ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		
10	11月21日	〈又～又～〉、可能補語、仮定、動詞〈祝〉		111～112ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第18課 〈又～又～〉、可能補語、仮定の〈即使～也〉、動詞〈祝〉の練習をする。	
		この回の到達目標	〈又～又～〉の使い方を説明できる。可能補語について説明できる。仮定の〈即使～也〉の位置と意味を説明できる。動詞〈祝〉の位置と意味を説明できる。		
		事前学修	111～112ページのドリルを解いておく。114～116ページを一読しCDを聞いておく。		
		事後学修	114～116ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		
11	11月28日	受身文、〈一边～一边〉〈先～然后/再〉、〈像/跟～一樣〉		117～118ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第19課 受身文、〈一边～一边〉〈先～然后/再〉、〈像/跟～一樣〉の練習をする。	
		この回の到達目標	受身文の基本語順を説明できる。〈一边～一边〉の位置と意味を説明できる。〈先～然后/再〉の位置と意味を説明できる。〈像/跟～一樣〉の位置と意味を説明できる。		
		事前学修	117～118ページのドリルを解いておく。120～121ページを一読しCDを聞いておく。		
		事後学修	120～121ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		
12	12月5日	〈不但～而且～〉、動詞〈帮〉、評価を導く〈着〉、動詞〈打算〉		123～124ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第20課 〈不但～而且～〉、動詞〈帮〉、評価を導く〈着〉、動詞〈打算〉の練習をする。	
		この回の到達目標	〈不但～而且～〉の位置と意味を説明できる。動詞〈帮〉の位置と意味を説明できる。評価を導く〈着〉の位置と意味を説明できる。動詞〈打算〉の位置と意味を説明できる。		
		事前学修	123～124ページのドリルを解いておく。126～128ページを一読しCDを聞いておく。		
		事後学修	126～128ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	総復習	128～129ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第10課から第14課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を復習する。	
		この回の到達目標	第10課から第14課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	128～129ページのドリルを解いておく。120～124ページの単語と語順について復習しておく。	20分
		事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	40分
14	12月19日	総復習	第15課から第20課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を復習する。	
		この回の到達目標	第15課から第20課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる	
		事前学修	第15課～第20課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。	40分
		事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	20分
15	12月26日	期末試験及び後期学習内容の振り返り	授業内試験及び後期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	第10課から第20課までの単語が聞き取れる。 第10課から第20課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	第10課から第20課までの単語が聞き取れるように復習する。 第10課から第20課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
		事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音練習と基本的な文法の修得に力を入れる。また、中国語に対する興味と関心を深めるために、日本の楽曲の中国語カバー曲を授業に取り入れる。さらに、最新の中国事情についても紹介する。1課終了ごとに小テストを実施し、次の授業で返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施後に、授業内で試験問題に関する解説をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『出発 中国語』	栗原千里・王熙萍・本間直人	白帝社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容	中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 9/17	【ガイダンス】【時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 第8課 時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について学習する。	
		この回の到達目標	授業の進め方について理解する。また、到達目標①②③に関連して、時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
2	第一部 木 9/24	【離合詞、介詞“从”“在”について】	第8課 離合詞、介詞“从”“在”について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離合詞、介詞“从”“在”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
3	第一部 木 10/1	【助動詞“会、能、可以”について】	第9課 助動詞“会、能、可以”について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞“会、能、可以”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
4	第一部 木 10/8	【反復疑問文、選択疑問文について】	第9課 反復疑問文、選択疑問文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、反復疑問文、選択疑問文について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
5	第一部 木 10/15	【方位を表す言い方、存在を表す言い方について】	第10課 方位を表す言い方、存在を表す言い方について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、方位を表す言い方、存在を表す言い方について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	第一部 木 10/22	【動作の対象や受益者を導く表現について】	第10課 動作の対象や受益者を導く表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作の対象や受益者を導く表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 10/29	【程度補語、動詞の重ね型について】	第11課 程度補語、動詞の重ね型について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、程度補語、動詞の重ね型について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
8	第一部 木 11/5	【介詞“离”、連動文について】	第11課 介詞“离”、連動文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、介詞“离”、連動文について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
9	第一部 木 11/12	【動作進行の“在”、“的”の用法について】	第12課 動作進行の“在”、“的”の用法について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作進行の“在”、“的”の用法について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	第一部 木 11/19	【禁止表現について】	第12課 禁止表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、禁止表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
11	第一部 木 12/3	【過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について】	第13課 過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	第一部 木 12/10	【“没有”の比較表現、類似を表す表現について】	第13課 “没有”の比較表現、類似を表す表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、“没有”の比較表現、類似を表す表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 12/17	【二重目的語をとる動詞、使役表現について】	第14課 二重目的語をとる動詞、使役表現について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二重目的語をとる動詞、使役表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	第一部 木 12/24	【“跟……一起”を用いた表現について】	第14課 “跟……一起”を用いた表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、“跟……一起”を用いた表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	第一部 木 1/14	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期に学習した内容について理解する。	
		事前学修	テキストの本文と練習問題を中心に、よく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	吉富 透	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び現代中国語が日本語で通じるなどと安易に考えていない積極的な者が望ましい。

【授業方法】
学生参加形式で行う。テキストに従い、毎時間指名し中国語で答えていただく。また随時小テストも行う。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本文を応用した作文練習。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
楽しく学ぼうやさしい中国語「基礎編」	張慧絹・王武雲・主芸 共著	郁文堂	2017	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了後教室内・講師控室で受け付けます。授業時間：月曜4限・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	第10課 願望表現・選択疑問文・提案文・ドリル問題確認	願望を表す助動詞文と提案文・選択疑問文の文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、願望表現と提案文を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
		事後学修	助動詞文の肯定文・否定文・二種類の疑問文を確認する。 選択疑問文と提案文の構文を確認する。	30分
2	9/21	第11課 比較表現・「～するのが好きだ」の表現・副詞“越”の用法・ドリル確認	前置詞“比”を用いた比較表現と間違えやすい「～が好きだ」の表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞を述語にとる比較表現と「AすればするほどBだ」・「～をするのが好きだ」の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課・第8課の形容詞が述語になる時の前置詞句との違いに着目しておく。	30分
		事後学修	第5課・第8課・第11課の前置詞句の違いを再確認する。特に比較文の否定文に気を付ける。 日本人が間違えやすい“好”の意味を再確認し、中国語の「好き」「嫌い」を正しく覚える。	30分
3	9/28	第12課 過去の経験表現・助動詞“打算”・状況の変化表現・ドリル確認	過去における経験の有無（したことがある/ない）と予定を表す助動詞文・状況の変化表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去の経験表現と強調助動詞文・ある状況の変化表現の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9課の“了”を用いた文と比較してみる。	30分
		事後学修	第9課“了”を用いた文との違いを再確認する。 第10課の助動詞と合わせて否定文の表現を再確認する。	30分
4	10/5	第13課 動作の進行表現・連動文（2）・推量と確認の表現・ドリル確認	動作の進行表現と「～しに行く/来る」の連動文と推量・確認表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作の進行表現と「～しに行く/来る」の連動文・推量確認表現の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9課・第12課の時制文と文構成を比較してみる。 第8課の連動文を再確認しておく。	30分
		事後学修	3つの時制文を整理し再確認する。 第8課の連動文との違いを整理し再確認する。	30分
5	10/12	第14課 3つの「できる」の表現・動詞の重ね型・依頼の表現（1）・ドリル確認	3つの「できる」の表現の使い分けと動詞の重ね型を用いた依頼表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、三種類の助動詞の使い分けと動詞の重ね型の文構造を理解し、「できる」と依頼文中中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 助動詞使用法の違いを読んでおく。	30分
		事後学修	三種類の助動詞の使用法と否定文のニュアンスの違いを再確認する。 命令形と依頼文の違いを再確認する。	30分
6	10/19	第15課 強調表現（1）・お金の言い方・ドリル確認	過去の強調表現（1）と中国式お金の言い方を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去における時間・場所・方法手段を強調した文とお金の言い方を理解し、過去の強調文と買い物に関して中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5（時点）・8（場所・前置詞）・9（了）課の内容を再確認しておく。	30分
		事後学修	第5課と第9課の語順を再確認し、強調文の構成文字の位置を再確認する。 数に慣れるようCDを聞いて発音し再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	既習事項の確認	動作の完了・過去における経験の有無・動作の進行の時制表現と前置詞文・助動詞文を再確認する。これにより中国語検定試験準4級・4級受験者への事前確認にも当てる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種時制表現・各種助動詞・各種前置詞の文構造を再確認し中国語で正しく表現することができる	
		事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 時制文を覚える。特に助動詞文も含めて各種否定文の違いを整理して覚えること。	30分
		事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと時点・場所・数量表現を再確認する。	30分
8	11/9	第16課 依頼表現の表現・前置詞“用”を用いた文・ドリル確認	新たな依頼表現文と結果補語構造とその表現・前置詞“用”を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、依頼表現と結果補語の文構造と既習文法との違いを理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9・15課の前置詞文を確認しておく。	30分
		事後学修	結果補語の有無による肯定文と否定文の違いを整理し再確認する。 前置詞文の否定文が第5・9課と違うことを再確認する。	30分
9	11/16	第17課 方向補語の表現・前置詞“給”“従”を用いた表現・ドリル確認	「行く/来る」を用いた方向補語・前置詞“給”“従”を用いた文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、方向補語と前置詞文の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 方向補語の説明文を読んでおく。動詞が述語になる前置詞文を確認しておく。	30分
		事後学修	各種前置詞の用法を整理し再確認する。 方向補語のニュアンスを再確認する。	30分
10	11/23	第18課 可能補語の表現・「それから」の表現・ドリル問題	第16課結果補語と第18課方向補語を応用発展させた可能補語と接続詞「それから」を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、可能補語と接続詞を用いた文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第12課の助動詞を確認しておく。	30分
		事後学修	第16課の結果補語からの応用形であることを整理し再確認する。 第12課「できる」表現との違いを整理し再確認する。	30分
11	11/30	第19課 様態補語の表現・時間量の表現と“了”・ドリル確認	ある動作の様子や状態の表現と動作の時間量と“了”の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、様態補語と動作の時間量と動作の完了表現の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第3課形容詞文と第9課の“了”を用いた文を再確認しておく。	30分
		事後学修	様態補語の肯定文は日本語表現の語順と同じであり、否定文疑問文は第3課と同じ表現であることを再確認する。 時間量の表現がある場合の“了”の位置を再確認する。	30分
12	12/7	第20課 二重目的語を要する動詞・助動詞「しなければならない」の表現・ドリル確認	二重目的語を要する動詞と助動詞を用いた「しなければならない」の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二重目的語を必要とする動詞と助動詞を用いた「しなければならない」の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 英語と同じ文構造であることと、助動詞の説明文を読んでおく。	30分
		事後学修	助動詞の否定文を再確認し、併せて各種助動詞を整理して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	第21課 使役表現・副詞を用いた各種強調表現（2）・ドリル確認	使役文と副詞を用いた各種強調表現の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、使役文と強調表現の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第16課の依頼文の構成を確認しておく。	30分
		事後学修	使役文の文構成を整理し、日本語の翻訳の仕方を再確認する。 各種程度副詞と併せて整理し再確認する。	30分
14	12/21	第22課 受身表現・近接未来表現・伝聞表現・ドリル確認	受身文と近い将来に起こり得ることの表現及び伝聞表現の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受身文と未来・伝聞の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第21課の使役文の文構成を確認しておく。	30分
		事後学修	使役文と受身文の違いを整理し再確認する。 近接未来表現にも“了”が用いられるが、第9・12課の“了”と区分できるよう整理し再確認する。	30分
15	1/18	授業内試験 一年間の基礎中国語文法総復習	一年間の基礎中国語文法習得度を確認するために試験を行う。終了後解説をし再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文法構造とピンインを総合的に再確認し理解する。	
		事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 特に各種補語表現と否定文の違いを整理して覚えること。	30分
		事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと時間量を用いた肯定文・各種補語表現を再確認する。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語基礎文法Aを修了した学生を対象とする。

【授業方法】
講義と添削により指導を行い、繰り返しのトレーニングを中心に、教科書の内容に沿って授業を進めていく。携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができる。毎回出欠を確認する。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
耳から学ぶ中国語	矢野光治 他	株式会社 天天	初版発	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜２・３・４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	第6課	動詞の時態① 選択疑問文	
		この回の到達目標	動詞の時態、選択疑問文の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第6課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第6課の内容を練習して覚える。	30分
2	第一部 木9/24	第6課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第6課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
3	第一部 木10/1	第7課	助動詞 “想” “打算” 動詞の時態②	
		この回の到達目標	助動詞 “想” “打算” の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第7課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第7課の内容を練習して覚える。	30分
4	第一部 木10/8	第7課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第7課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
5	第一部 木10/15	第8課	“是～的” の文 “又～又～” の文	
		この回の到達目標	“是～的”、“又～又～” の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第8課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第8課の内容を練習して覚える。	30分
6	第一部 木10/22	第8課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第8課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	第9課	第9課 時量補語 助動詞 “要”	
		この回の到達目標	時量補語、助動詞 “要” の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第9課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第9課の内容を練習して覚える。	30分
8	第一部 木11/5	第9課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第9課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
9	第一部 木11/12	第10課	助動詞 “会” “能” “喜” 接続詞 “不但～而且～”、“除了～以外，～”	
		この回の到達目標	助動詞 “会” “能” “喜” の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第10課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第10課の内容を練習して覚える。	30分
10	第一部 木11/19	第10課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第10課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
11	第一部 木12/3	第11課	様態補語・動量補語 受け身 “把” の文	
		この回の到達目標	様態補語・動量補語、受け身の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第11課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第11課の内容を練習して覚える。	30分
12	第一部 木12/10	第11課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第11課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	第12課	二重目的語 名量詞	
		この回の 到達目標	二重目的語、名量詞の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第12課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第12課の内容を練習して覚える。	30分
14	第一部 木12/24	第12課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の 到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第12課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
15	第一部 木1/14	到達度のチェック 振り返り	期末テスト、振り返り	
		この回の 到達目標	到達目標①、②、③に関連して、到達度のチェックをする。	
		事前学修	後期に既習した内容を復習して覚える。	30分
		事後学修	後期の学習について総括する。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	鄭 暁青	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中説明

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
歩歩高	康音など	隆美出版	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	我会做中国菜。	第6課 料理ができますか	
		この回の到達目標	可能表現	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
2	9月22日	你喜吃生片？	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	会話を聞いて書く。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
3	9月29日	你每天几点起床？	第7課 何時に起きますか	
		この回の到達目標	いつと時間の長さを表現する位置の違い	
		事前学修	予習 練習問題 (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
4	9月15日	什么？几点？	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	時刻を言う。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
5	10月6日	多？	第8課 何時間寝ましたか	
		この回の到達目標	時間の長さを言う。	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
6	10月13日	每天学几个小？	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて日本語に訳す。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	簡体字の確認 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月20日	北京比京冷多了。	第9課 今日は昨日より良くなりました	
		この回の到達目標	比較の表現を熟する。	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
8	10月27日	他比你高一点。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	比較文を作る。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
9	11月10日	你去中国？	第10課 中国のネットを見たことがありますか	
		この回の到達目標	したことがある表現を言う。	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
10	11月17日	想去旅行。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聴いて書く。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
11	11月24日	我在看地。	第11課 なにをしていますか	
		この回の到達目標	進行する表現を言う	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
12	12月1日	他正在打。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を上手に朗読する。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月8日	寒假打算干什么？	第1 2課 もうすぐ冬休みになります	
		この回の到達目標	冬休みの計画を言う。	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
14	12月15日	自我介	トレーニング 自己紹介を書く	
		この回の到達目標	自己紹介を書く。	
		事前学修	復習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	自己紹介を書く (30分)	30分
15	1月12日	自我介	まとめと期末テスト・振返り	
		この回の到達目標	自己紹介を言う。	
		事前学修	自己紹介を読む (30分)	30分
		事後学修	まとめ (30分)	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	福木 滋久	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語基礎文法Aの内容が身に付いており、担当者の指示に従って積極的に学修できること。初回の授業で担当者の受講許可を得る事。

【授業方法】
中国語文法の基礎を学び、それを用いた会話を身に付けるための練習を行います。本クラスは事前抽選除外クラスで、中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動（日大競技部）の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行います。。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後、後日ポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。学修サポートとしてインターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。				

【オフィスアワー】
競技部員は月 6 と土 4、1033講堂（予定）。競技部以外は火 5、532講堂（予定）。要事前申し込み。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス・前期の確認	授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／「Quizlet」について／成績評価方法について／前期学修内容の確認と復習を中心に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、前期学修済みの内容について、説明でき、また正しく発音したり日本語訳したりできる	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、前期の内容を復習しておく	60分
		事後学修	Quizlet（後期01）などを持ちいて前期学修内容の復習と音読の反復練習をする	30分
2	9/25	存在の“有”・順と量の概念	存在の“有”・順と量の概念などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、存在の“有”・順と量の概念といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期01）課題などを持ちいて前期学修部分の苦手を克服し授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（後期02）などを持ちいて、今回学んだ存在の“有”・順と量の概念、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
3	10/2	“在”の用法	“在”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“在”の用法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期02）課題などを持ちいて存在の“有”・順と量の概念を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（後期03）などを持ちいて、今回学んだ“在”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
4	10/9	“是”を省略できる文	“是”を省略できる文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“是”を省略できる文について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期03）課題などを持ちいて、“在”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（後期04）などを持ちいて、今回学んだ“是”を省略できる文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
5	10/16	助動詞の用法	助動詞“会”“能”“想”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、助動詞“会”“能”“想”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期04）課題などを持ちいて、“是”を省略できる文を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（後期05）などを持ちいて、今回学んだ助動詞“会”“能”“想”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
6	10/23	曜日・時刻の言い方	曜日・時刻の言い方などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と曜日・時刻の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期05）課題などを持ちいて、助動詞“会”“能”“想”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（後期06）などを持ちいて、今回学んだ曜日・時刻の言い方の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/30	介詞・“要”の用法	介詞・“要”の用法などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、介詞・“要”の用法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期06）課題などをもちいて、曜日・時刻の言い方を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期07）などをもちいて、今回学んだ介詞・“要”の用法の復習と音読の反復練習をする
8	11/6	比較表現	比較表現などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と比較表現などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期07）課題などをもちいて、介詞・“要”の用法を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期08）などをもちいて、今回学んだ比較表現、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
9	11/13	金額・月日の言い方	金額・月日の言い方などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と金額・月日の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期08）課題などをもちいて、比較表現を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期09）などをもちいて、今回学んだ金額・月日の言い方、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
10	11/20	介詞“給”の用法・連動文	介詞“給”の用法・連動文などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と介詞“給”の用法・連動文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期09）課題などをもちいて、金額・月日の言い方を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期10）などをもちいて、今回学んだ介詞“給”の用法・連動文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
11	11/27	後期前半の復習	後期後半の文法事項の定着にむけて反復練習を中心に学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と後期前半の文法事項について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期10）課題などをもちいて、介詞“給”の用法・連動文を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期11）などをもちいて、今回確認した後期前半の文法事項、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
12	12/4	後期後半の復習	後期後半の文法事項の定着にむけて反復練習を中心に学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と後期後半の文法事項について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期11）課題などをもちいて、後期後半の文法事項を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期口頭試験課題）などをもちいて、今回確認した後期後半の文法事項、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	後期総復習と試験対策	後期総復習として、口頭試験の対策を通して学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期に学んだ発音・語彙・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期口頭試験課題）などを持ちいて、前回学修内容を身につけ、前期のこれまでの小テストを復習しつつ、前期学修範囲の疑問点を明らかにして授業にのぞむ	60分
		事後学修	後期口頭試験課題文、Quizlet（後期口頭試験課題）などを持ち復習する	120分
14	12/18	口頭試験課題文の練習	口頭試験課題文の反復練習を中心に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期に学修した発音、語彙、文法などを応用することができる	
		事前学修	後期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	苦手部分を確認し、克服にむけ練習を重ねる	120分
15	12/25	口頭試験とまとめ	後期筆記試験の講評を行った後、後期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる	
		事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	人文系中国語演習A	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を1年以上学習した学生。

【授業方法】		
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。						2					2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文発表や会話を聞き、訂正やアドバイスをする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲举、于曉飛、劉 渴冰	同学社	2020年3 月		
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜17：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・導入講義	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
		この回の到達目標	授業の進み方と学習方法を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
		事後学修	CDを聞き、中国語の発音を耳にする。	60分
2	4/14	発音の復習と基本単語	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。	
		この回の到達目標	発音を復習し、基本単語を整理する。	
		事前学修	CDを聞く、発音を練習すること。	60分
		事後学修	勉強した発音を、CDを聞きながら覚えること。	60分
3	4/21	声調変化と挨拶練習	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
		この回の到達目標	声調変化を理解し、簡単な挨拶をできるようにする。	
		事前学修	CDを聞く、勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習。	60分
		事後学修	発音を練習する：CDを聞く。聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	4/28	自己紹介	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 クラスメイトの名前を中国語で覚える。 第一課の挨拶言葉を覚えさせる。	
		この回の到達目標	自己紹介をし、クラスメイトの名前を中国語で覚える。	
		事前学修	自分の名前を中国語で発音できる準備することと簡単な挨拶言葉を暗記する。	60分
		事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習。	60分
5	5/5	氏名表現と「是」の用法	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：氏名についての表現；是を用いる。	
		この回の到達目標	氏名表現と「是」の用法を理解する。	
		事前学修	第2課の単語を暗記する；CDをについて本文の会話を練習する。	60分
		事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	5/12	疑問文の作り方	会話小テスト 第3課会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習	
		この回の到達目標	疑問文の作り方を理解し、それに対する回答をできるようにする。	
		事前学修	第2課の会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	年月日曜日の表現	これまでの復習 筆記小テスト ポイント：日期の言い方：年、月、日、曜日	
		この回の到達目標	年月日曜日の表現ができるようにする。	
		事前学修	第4課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	5/26	時刻の表現	会話小テスト 第5課の会話文を解釈 ポイント：時刻の表現；会話練習と発音矯正する。	
		この回の到達目標	時刻を言えるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第5課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	第1課～第5課の内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。	60分
9	6/2	家族親族の紹介	筆記小テスト 第6課の会話文を解釈 ポイント：家族についての紹介と親族の呼称	
		この回の到達目標	各自の家族親族を紹介できるようにする。	
		事前学修	第6課の単語と会話文をCDを聞き、発音練習を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；自分の家族について紹介する。	60分
10	6/9	年齢の表現	会話小テスト 第7課会話文について解釈 ポイント：年齢の聞き方と答え方の表現。	
		この回の到達目標	年齢を言えるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第7課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	6/16	場所方位の表現	筆記小テスト 第8課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現	
		この回の到達目標	方位、位置、場所を示し単純方位詞の用法を理解する。	
		事前学修	CDを聞き、第8課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	6/23	希望願望の表現	会話小テスト 第9課会話文を解釈 ポイント：願望や希望を表す表現	
		この回の到達目標	願望や希望の表現を理解し、簡単な文を表現できるようにする。	
		事前学修	第9課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備；自家の回りについて中国語で説明。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	職業の表現	会話小テスト 第10課の会話文を解釈 ポイント：職業についての表現	
		この回の到達目標	職業の表現を理解し、簡単な応用をできるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	7/7	学習の応用	発表テスト 口頭発表 講評	
		この回の到達目標	学習したことを用いて作文できるか確かめる。	
		事前学修	第2課～第10課までの内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
		事後学修	全般復習。	60分
15	7/14	中国語ヒヤリング	中国の映画を鑑賞	
		この回の到達目標	映画鑑賞を通じて、中国語表現の理解力を把握する。	
		事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く。	60分

科目名	人文系中国語演習B	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を1年以上学習した学生。

【授業方法】		
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文発表や会話を聞き、訂正やアドバイスをする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲举、于曉飛、劉 渴冰	同学社	2020年3 月		
備考	授業中に指示します。				

【オフィスパワー】
水曜17：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	7/14	中国語ヒヤリング	中国の映画を鑑賞	
		この回の到達目標	映画鑑賞を通じて、中国語表現の理解力を把握する。	
		事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く。	60分
2	9/15	自己紹介と授業説明	自己紹介をする 授業の進み方と注意事項を説明	
		この回の到達目標	各自の自己紹介をし、授業の進み方と注意事項をする。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。 自己紹介の準備	60分
		事後学修	CDを聞き、中国語の発音を復習	60分
3	9/22	全般復習（第1課～第10課	第1課～第10課までの会話について全般復習、練習	
		この回の到達目標	第1課～第10課までの会話を復習し、会話できることを確認する。	
		事前学修	教科書の第1課～第10課まで単語、会話文を復習、練習すること。	60分
		事後学修	CDを聞き、会話文を暗記し、簡単な会話ができるように練習すること。	60分
4	9/29	評価の表現	第11課の会話文を解釈する ポイント：評価についての表現	
		この回の到達目標	評価の表現ができるようにする。	
		事前学修	CDを聞く、第11課の単語を暗記する；本文の会話を練習する。	60分
		事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
5	10/6	買い物表現	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 会話小テスト 第12課会話文を解釈 ポイント：買い物するときの表現	
		この回の到達目標	挨拶言葉と自己紹介を通して発音が正しくできるようにする。買物の表現をできるようにする。	
		事前学修	第12課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分
6	10/13	動態助詞	筆記小テスト 第13課会話文の解釈 ポイント：動態助詞；行われた動作の時間、場所、方式、行為者等を言うときの表現：是・・・的	
		この回の到達目標	動作の時間、場所、方式、行為者等の表現（是・・・的）を理解し、使用できるようにする。	
		事前学修	第13課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。	60分
		事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/20	好みについての表現	会話小テスト 第14課会話文の解釈 好みについての表現：～をするのが好きである；～することを好む	
		この回の到達目標	「～をするのが好きである；～することを好む」の表現をできるようにする。	
		事前学修	第14課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分
8	10/27	「～したことがある」表現と時間補語	会話小テスト 第15課会話文の解釈 ポイント：～したことがある表現と時間補語	
		この回の到達目標	「～したことがある」表現と時間補語の用法を理解し、会話できるようにする。	
		事前学修	第15課の単語を暗記すると会話文を練習すること；14課の内容について会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
9	11/10	比較表現	筆記テスト 第16課の会話文を解釈 ポイント：比較表現	
		この回の到達目標	比較表現をできるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第16課の単語を暗記する；会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テスト準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
10	11/17	動作の進行中と持続表現	会話小テスト 第17課の会話文を解釈 ポイント：動作の進行中と持続表現	
		この回の到達目標	動作の進行中と持続表現をできるようにする。	
		事前学修	第17課の単語を暗記すると会話文を練習すること；16課の内容について会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	11/24	可能の表現	会話小テスト 第18課会話文について解釈 ポイント：可能を表す表現	
		この回の到達目標	可能を表す表現をできるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第18課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	12/1	単純方位詞とその関連表現	筆記小テスト 第19課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現	
		この回の到達目標	方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現を理解し、会話文の理解と表現ができるようになる。	
		事前学修	CDを聞き、第19課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テストの準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/8	能力の表現		会話小テスト 第20課会話文を解釈 ポイント：能力についての表現
		この回の到達目標	能力についての表現ができるようにする。	
		事前学修	第20課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	12/15	口頭発表、会話小テスト、 期末テスト、講評		会話小テスト 期末テスト 口頭発表 講評
		この回の到達目標	口頭発表、会話小テスト、期末テストにおいて、勉強した表現を使うことができる。	
		事前学修	勉強した表現を使って、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
		事後学修	第11課～20課までの重要表現を暗記し、暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。	60分
15	12/22	復習と筆記テスト		これまでの復習 筆記テスト
		この回の到達目標	勉強したことを理解し、上手く解答できる	
		事前学修	テスト範囲で復習	60分
		事後学修	全般復習	60分

科目名	社会系中国語演習A	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
1年以上の中国語学習歴があること。

【授業方法】
本文の精読とプリントを用いた演習。また、テキストの内容についての意見交換等をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの内容について、現代中国が克服すべき問題を中心に意見交換等をおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施後に、授業内で試験問題に関する解説をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『時事中国語の教科書 ―2020年度版―』	三瀧正道・陳祖蓓・古屋順子	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 4/9	【ガイダンス】【基本単語と基本文型の復習①（文法問題中心）】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 基本単語と基本文型の復習①（文法問題中心）	
		この回の到達目標	授業の進め方などについて理解する。また、到達目標①②に関連して、中国語の基本単語と基本文型について理解する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
2	第一部 木 4/16	【基本単語と基本文型の復習②（聞き取り問題中心）】	基本単語と基本文型の復習②（聞き取り問題中心）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、聞き取り問題を中心に、中国語の基本単語と基本文型について理解する。	
		事前学修	前回の授業で配布されたプリントの問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
3	第一部 木 4/23	【前駐日大使、程永華氏の言葉を読み解く】	講読 第1課 程永華大使より日本の若者へ贈る言葉 問題演習（結果補語、方向補語など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前駐日大使の程永華氏が日本の若者に語りかけた言葉を理解する。また、結果補語、方向補語などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
4	第一部 木 4/30	【前駐日大使、程永華氏の言葉と日中関係】	講読 第1課 程永華大使より日本の若者へ贈る言葉 問題演習（可能性の用法など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回に引き続き、前駐日大使の程永華氏が日本の若者に語りかけた言葉を理解する。さらに、2017年以来、中国が日中関係改善に取り組んだ理由について理解する。また、可能性の用法などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
5	第一部 木 5/7	【中国の食文化（北京ダック）】	講読 第2課 二大「国民的料理」は今 問題演習（可能補語など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の食文化について理解する。特に、全聚徳の北京ダックが売れなくなった理由について理解する。また、可能補語などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	第一部 木 5/14	【中国の食文化（家庭料理）】	講読 第2課 二大「国民的料理」は今 問題演習（状態補語など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の食文化について理解する。特に、その家庭料理について理解する。また、状態補語などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 5/21	【中国の学校におけるAI事情（スマート制服）】	講読 第3課 AIが学校にやってきた 問題演習（並列表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の学校におけるAI事情について理解する。特にチップが入っている「スマート制服」について理解する。また、並列表現などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
8	第一部 木 5/28	【中国の学校におけるAI事情（電子宿題）】	講読 第3課 AIが学校にやってきた 問題演習（複文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の学校におけるAI事情について理解する。特に「電子宿題」について理解する。また、複文について理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
9	第一部 木 6/4	【中国の労働環境は今】	講読 第4課 仕事に生きるか、人として生きるか 問題演習（兼語文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代中国の労働環境について理解する。また、兼語文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	第一部 木 6/11	【中国の労働環境の変化とその背景にあるもの】	講読 第4課 仕事に生きるか、人として生きるか 問題演習（主述述語文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の労働環境の変化とその背景にあるものについて理解する。また、主述述語文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
11	第一部 木 6/18	【中国の宅配事情は今】	講読 第5課 宅配便で中国人の暮らしが一変 問題演習（処置式文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在の中国の宅配事情について理解する。また、処置式文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	第一部 木 6/25	【中国の宅配事情、その課題】	講読 第5課 宅配便で中国人の暮らしが一変 問題演習（アスペクトなど）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の宅配事情、その現状と課題について理解する。また、アスペクトなどについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 7/2	【現代中国の家庭問題】	講読 第6課 仮面家族がなぜ人気？ 問題演習（状況語など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代中国の家庭問題について理解する。また、状況語などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	第一部 木 7/9	【現代中国の家庭問題、その背景にあるもの】	講読 第6課 仮面家族がなぜ人気？ 問題演習（使役文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代中国の家庭問題と、その背景にあるものについて理解する。また、使役文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	第一部 木 7/16	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	前到達目標①②に関連して、期に学習した内容について理解する。	
		事前学修	テキストの本文を中心によく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	社会系中国語演習A	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語の基礎を修めた2年次生を対象とする。

【授業方法】
テキストに沿って、文型を中心に語彙や表現を増やししながら、読解と作文の力を養成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から学ぶ中国語	劉力	株式会社 天天	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付け、授業内で答える。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	ガイダンス及び導入講義	本講義の授業計画や内容についての説明	
		この回の到達目標	本講義の授業計画や内容について理解してもらう。	
		事前学修	講義に対する要望などを考えておく。	30分
		事後学修	1年目に習った単語や表現を復習する。	30分
2	第一部木 4/16	既習した内容の復習	1年目に習った初級文法や表現を復習する。	
		この回の到達目標	これまでに助動詞、前置詞、動詞、形容詞などを復習して覚える。	
		事前学修	教科書の用意	30分
		事後学修	これらの言葉や表現を用いて作文してみる。	30分
3	第一部木 4/23	第1課	「了」の文型（1）の使い方	
		この回の到達目標	「了」の文型（1）の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第1課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第1課の単語と文型を復習して覚える。	30分
4	第一部木 4/30	第2課	「了」の文型（2）の使い方	
		この回の到達目標	「了」の文型（2）の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第2課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第2課の単語と文型を復習して覚える。	30分
5	第一部木 5/7	第3課	「了」の文型（3）の使い方	
		この回の到達目標	「了」の文型（3）の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第3課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第3課の単語と文型を復習して覚える。	30分
6	第一部木 5/14	総合復習 第1課～第3課	単語小テスト（第1課～第3課） 第1課～第3課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。	
		この回の到達目標	第1課～第3課で習った文型を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第1課～第3課で習った文型を復習する。	30分
		事後学修	第1課～第3課で習った文型の使い方をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	第4課	「是～的」の構文	
		この回の到達目標	「是～的」の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第4課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第4課の単語と文型を復習して覚える。	30分
8	第一部木 5/28	第5課	方向補語の構文	
		この回の到達目標	方向補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第5課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第5課の単語と文型を復習して覚える。	30分
9	第一部木 6/4	第6課	数量補語の構文	
		この回の到達目標	数量補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第6課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第6課の単語と文型を復習して覚える。	30分
10	第一部木 6/11	総合復習	第4課～第6課	単語小テスト（第4課～第6課） 第4課～第6課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
		この回の到達目標	第4課～第6課で習った文型を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第4課～第6課で習った文型を復習する。	30分
		事後学修	第4課～第6課で習った文型の使い方をまとめてみる。	30分
11	第一部木 6/18	第7課	結果補語の構文	
		この回の到達目標	結果補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第7課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第7課の単語と文型を復習して覚える。	30分
12	第一部木 6/25	第8課	様態補語の構文	
		この回の到達目標	様態補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第8課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第8課の単語と文型を復習して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部木 7/2	第9課		助動詞「会」「能」「可以」の使い方
		この回の到達目標	助動詞「会」「能」「可以」の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第9課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第9課の単語と文型を復習して覚える。	30分
14	第一部木 7/9	総合復習	第7課～第9課	単語小テスト（第7課～第9課） 第7課～第9課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
		この回の到達目標	第7課～第9課で習った文型を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第7課～第9課で習った文型を復習する。	30分
		事後学修	第7課～第9課で習った文型の使い方をまとめてみる。	30分
15	第一部木 7/16	到達度のチェック		期末テスト、振り返り
		この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
		事前学修	前期に習った言葉や文型をじっくり復習して覚える。	30分
		事後学修	中国語の勉強について総括する。	30分

科目名	社会系中国語演習B	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
1年以上の中国語学習歴があること。

【授業方法】
本文の精読とプリントを用いた演習。また、テキストの内容についての意見交換等をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの内容について、現代中国が克服すべき問題を中心に意見交換等をおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施後に、授業内で試験問題に関する解説をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『時事中国語の教科書 ―2020年度版―』	三瀧正道・陳祖蓀・ 古屋順子	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 9/17	【ガイダンス】【呼び名に見る人間関係と社会の変化（若い女性の呼び方）】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 講読 第7課 呼び名に見る人間関係と社会の変化 問題演習（複文など）、意見交換	
		この回の到達目標	授業の進め方などについて理解する。到達目標①②に関連して、呼び名に見る人間関係と中国社会の変化を若い女性の呼び方を通して理解する。また、複文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
2	第一部 木 9/24	【呼び名に見る人間関係と社会の変化（夫婦間の呼び方の変化）】	講読 第7課 呼び名に見る人間関係と社会の変化 問題演習（逆接の接続詞など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、呼び名に見る人間関係と中国社会の変化を夫婦間の呼び方の変化を通して理解する。また、逆接の接続詞などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
3	第一部 木 10/1	【プーアル茶からコーヒー豆へ、新しい特産品づくり】	講読 第8課 茶馬古道の里——プーアル茶からコーヒー豆へ 問題演習（説明口調の表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プーアル茶の故郷で知られる中国雲南省普洱市思茅区の農民が新たな発展の道としてコーヒーへの転作を開始したことを理解する。また、説明口調の表現などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
4	第一部 木 10/8	【新しい特産品づくり、その経緯について】	講読 第8課 茶馬古道の里——プーアル茶からコーヒー豆へ 問題演習（動作の持続や進行を表す表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国雲南省普洱市思茅区の農民が新たな発展の道としてコーヒーへの転作を開始した、その経緯について理解する。また、動作の持続や進行を表す表現などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
5	第一部 木 10/15	【中国のATMが総撤退へ】	講読 第9課 都市こぼれ話 問題演習（進行形など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スマホ決済が急速に普及し、ATMが総撤退しつつある中国の現状について理解する。また、進行形などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	第一部 木 10/22	【ネットでのオープンキッチンへ】	講読 第9課 都市こぼれ話 問題演習（過去の経験を表す表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、出前店の衛生状況がオンラインで見られる中国の現状について理解する。また、過去の経験を表す表現について理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 10/29	【中国企業による日本の中小企業の買収例について】	講読 第10課 中国マネーが日本の中小企業を救う 問題演習（受身文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国企業による日本の中小企業の買収例について理解する。また、受身文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
8	第一部 木 11/5	【中国企業による日本の中小企業の買収例、その背景について】	講読 第10課 中国マネーが日本の中小企業を救う 問題演習（存現文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国企業による日本の中小企業の買収例、その背景について理解する。また、存現文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
9	第一部 木 11/12	【北京を悩ませるヤナギの綿毛、その歴史的経緯について】	講読 第11課 北京を悩ませるヤナギの綿毛 問題演習（状態補語など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北京を悩ませるヤナギの綿毛について、その歴史的背景について理解する。また、状態補語などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	第一部 木 11/19	【北京を悩ませるヤナギの綿毛、その現状と課題について】	講読 第11課 北京を悩ませるヤナギの綿毛 問題演習（複文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北京を悩ませるヤナギの綿毛、その現状と課題について理解する。また、複文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
11	第一部 木 12/3	【健康志向と体型、中国の事情】	講読 第12課 中国、総フィットネス時代へ 問題演習（仮定表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、健康志向と体型について、中国人の意識の変化について理解する。また、仮定表現などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	第一部 木 12/10	【中国のフィットネス事情、過去・現在・未来】	講読 第12課 中国、総フィットネス時代へ 問題演習（将然相など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国のフィットネス事情について、その現状と課題について理解する。また、将然相などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 12/17	【ネットを通した近代化―内モンゴルの例】	講読 第13課 内モンゴルのネットアイドル 問題演習（二者択一の表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ネットを通した近代化について、内モンゴルの例を理解する。また、二者択一の表現などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	第一部 木 12/24	【内モンゴルのネットアイドルの活動について】	講読 第13課 内モンゴルのネットアイドル 問題演習（2つの動詞をつなぐ“来”の働きなど）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内モンゴルのネットアイドルの活動の具体例と、少数民族の今後の課題などについて理解する。また、2つの動詞をつなぐ“来”の働きなどについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	第一部 木 1/14	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学習した内容について理解する。	
		事前学修	テキストの本文を中心によく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	社会系中国語演習B	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語の基礎を修めた2年次生を対象とする。

【授業方法】
テキストに沿って、文型を中心に語彙や表現を増やししながら、読解と作文の力を養成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から学ぶ中国語	劉力	株式会社 天天	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付け、授業内で答える。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第一部木 9/17	第10課		可能補語の構文
		この回の到達目標	可能補語の構文を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第10課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第10課の単語と文型を復習して覚える。	30分
2	第一部木 9/24	第11課		「把」の使い方
		この回の到達目標	「把」の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第11課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第11課の単語と文型を復習して覚える。	30分
3	第一部木 10/1	総合復習	第10課と第11課	第10課と第11課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
		この回の到達目標	第10課と第11課で習った文型や表現を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第10課と第11課で習った文型や表現を復習する。	30分
		事後学修	第10課と第11課で習った文型をまとめてみる。	30分
4	第一部木 10/8	第12課		受け身の構文
		この回の到達目標	受け身の構文を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第12課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第12課の単語と文型を復習して覚える。	30分
5	第一部木 10/15	第13課		使役の表現
		この回の到達目標	使役の表現の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第13課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第13課の単語と文型を復習して覚える。	30分
6	第一部木 10/22	総合復習	第12課と第13課	単語テスト（第10課～第13課） 第12課と第13課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
		この回の到達目標	第12課と第13課で習った文型や表現を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第12課と第13課で習った文型や表現を復習する。	30分
		事後学修	第12課と第13課で習った文型をまとめてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部木 10/29	第14課		「是」を使う文のいろいろ
		この回の到達目標	「是」の文に関する使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第14課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第14課の単語と文型を復習して覚える。	30分
8	第一部木 11/5	第15課		比較の文型（1）
		この回の到達目標	比較の文型（1）の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第15課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第15課の単語と文型を復習して覚える。	30分
9	第一部木 11/12	総合復習	第14課と第15課	第14課と第15課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
		この回の到達目標	第14課と第15課で習った文型や表現を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第14課と第15課で習った文型や表現を復習する。	30分
		事後学修	第14課と第15課で習った文型をまとめてみる。	30分
10	第一部木 11/19	第16課		比較の文型（2）
		この回の到達目標	比較の文型（2）の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第16課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第16課の単語と文型を復習して覚える。	30分
11	第一部木 12/3	第17課		比較の文型（3）
		この回の到達目標	比較の文型（3）の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第17課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第17課の単語と文型を復習して覚える。	30分
12	第一部木 12/10	第18課		推測の文型
		この回の到達目標	推測の文型の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第18課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第18課の単語と文型を復習して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	総合復習 第16課～第18課	単語テスト（第14課～第18課） 第16課～第18課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。	
		この回の到達目標	第16課～第18課で習った文型や表現を用いて、文を作ることができる。	
		事前学修	第16課～第18課で習った文型や表現を復習する。	30分
		事後学修	第16課と第18課で習った文型をまとめてみる。	30分
14	第一部木 12/24	期末復習	後期に習った言葉や文型の復習をする。	
		この回の到達目標	後期に習った言葉や文型を覚える。	
		事前学修	既習した文型を用いて文を作る練習をする。	30分
		事後学修	ここまでに習った言葉と文型をまとめてみる。	30分
15	第一部木 1/14	到達度のチェック	期末テスト、振り返り	
		この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
		事前学修	後期に習った言葉や文型をじっくり復習して覚える。	30分
		事後学修	中国語の勉強について総括する。	30分

科目名	ライティング(中)ⅠA	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、中国語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
なし

【授業方法】
本文を朗読し、翻訳する。発音や会話を練習する。また書き取り，文を作るという方式で授業を進めていく。 フィードバックは授業において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に二人一組で会話練習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストなど、採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子劉 幸枝	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜２～４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第1部4月7日	シラバスの概要 中国語の発音		1. ガイダンス 2、中国の概況 3、中国語の発音：単母音、声調
		この回の到達目標	シラバスの概要が確認できる。 中国語の発音：単母音、声調が発音できる。	
		事前学修	シラバスの確認	90分
		事後学修	単母音、声調の復習	90分
2	第1部4月14日	中国語の発音		1、発音：複母音 2、日常会話
		この回の到達目標	複母音の発音ができる。 日常会話が練習できる。	
		事前学修	複母音の予習	90分
		事後学修	複母音の復習	90分
3	第1部4月21日	中国語の発音		1、発音：子音 2、声調の変化 3、挨拶言葉
		この回の到達目標	発音：子音の発音ができる。	
		事前学修	子音の予習	90分
		事後学修	発音の総復習	90分
4	第1部4月28日	第1課		第1課 「校門で」 本文訳 ポイント 1. 人称代名詞 2. 動詞“是”を使った文 3. “”を使った疑問文
		この回の到達目標	第1課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
5	第1部5月5日	第1課		第1課 「校門で」 本文、トレーニング
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第1課の総復習	90分
6	第1部5月12日	第2課		第2課 「廊下で」 本文訳 ポイント 1. 動詞述語文 2. 疑問詞疑問文“什么”，“誰” 3. 省略疑問文“呢”
		この回の到達目標	第2課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第1部5月 19日	第2課		第2課 「廊下で」 本文、トレーニング
		この回の 到達目標	トレーニングで文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題の予習	90分
		事後学修	本文の復習	90分
8	第1部5月 26日	第3課		第3課 「キャンパスで」本文訳 ポイント 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文 3. “～的” 4. 語気助詞“吧”
		この回の 到達目標	第3課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
9	第1部6月 2日	第3課		第3課 「キャンパスで」 本文、トレーニング
		この回の 到達目標	トレーニングで文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題の予習	90分
		事後学修	本文の復習と単語の暗記	90分
10	第1部6月 9日	第4課		第4課 「携帯を見ながら」本文訳 ポイント 1. 所有を表わす“有” 2. 反復疑問文 3. 数詞
		この回の 到達目標	第4課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
11	第1部6月 16日	第4課 中間のまとめ		第4課 「携帯を見ながら」 本文、トレーニング 第1課～4課のまとめ（授業内筆記試験）採点して次週説明する。
		この回の 到達目標	トレーニングで文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題の予習	90分
		事後学修	本文の復習と単語の暗記	90分
12	第1部6月 23日	第5課		第5課 「学生食堂で」本文訳 ポイント 1. 場所を表わす代名詞 2. 存在を表わす“有” 3. 副詞“也”と“都” 4. 二 重目的語文
		この回の 到達目標	第5課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部6月 30日	第5課		第5課 「学生食堂で」 本文、トレーニング
		この回の 到達目標	トレーニングで文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題の予習	90分
		事後学修	本文の復習と単語の暗記	90分
14	第1部7月 7日	前期のまとめ		第1課～5課のまとめ（前期末授業内筆記試験）
		この回の 到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
		事前学修	第1課～5課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し、理解する。	90分
15	第1部7月 14日	フィードバック・質疑応答		フィードバック・質疑応答及び授業のまとめ 試験問題を採点して解説する。 会話テストか書き取りを行う。
		この回の 到達目標	フィードバック・質疑応答によって理解を深める。	
		事前学修	前期学習内容を確認し問題点をノートにまとめておく。 会話プリントの内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	ライティング(中) I B	担当者	長田 徳子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、中国語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
なし

【授業方法】
本文を朗読、翻訳する。発音や会話の練習をする。書き取り、文を作るという方式で授業を進めていく。 フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内に二人一組で会話練習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストを採点して、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子鄭 幸枝	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜２～４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部9月15日	ガイダンスの概要 第6課の勉強	ガイダンス「授業の概要や到達目標について説明」 第6課「王先生の研究室で」本文訳 ポイント 1. 動詞“在” 2. 動詞の重ね型 3. 時を表わす語の位置	
		この回の到達目標	第6課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
2	第1部9月22日	第6課	第6課 「王先生の研究室で」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第6課の総復習	90分
3	第1部9月29日	第7課	第7課 「コンビニで」本文訳 ポイント 1. 量詞 2. 実現・完了を表わす“了” 3. 助動詞“想”	
		この回の到達目標	第7課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
4	第1部10月6日	第7課	第7課 「コンビニで」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第7課の総復習	90分
5	第1部10月13日	第8課	第8課 「バス停で」本文訳 ポイント 1. 連動文 2. 前置詞“在” 3. 時刻の言い方 4. “是”の省略	
		この回の到達目標	第8課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
6	第1部10月20日	第8課	第8課 「バス停で」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第8課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部10月27日	第9課	第9課 「放課後に」 本文訳 ポイント 1. 助動詞“会”，“能”，“可以” 2. 前置詞“跟”と“給” 3. 主述述語文	
		この回の到達目標	第9課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
8	第1部11月10日	第9課	第9課 「放課後に」 本文、トレーニング 第6課～9課のまとめ（中間筆記試験）採点して次週解説する。	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第9課の総復習	90分
9	第1部11月17日	第10課	第10課 「卓球の中継を見ながら」 本文訳 ポイント 1. 様態補語 2. 経験を表わす“過” 3. 比較を表わす“比” 4. 動詞“喜歡”	
		この回の到達目標	第10課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
10	第1部11月24日	第10課	第10課 「卓球の中継を見ながら」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第10課の復習	90分
11	第1部12月1日	第11課	第11課 「ディズニランドで待ち合わせ」 本文訳 ポイント 1. 進行を表わす“在” 2. 方向補語 3. 選択疑問詞	
		この回の到達目標	第11課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
12	第1部12月8日	第11課	第11課 「ディズニランドで待ち合わせ」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第11課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部12月15日	第12課		第12課 「カフェテラスで」 本文訳 ポイント 1.“是～的”の文 2. 結果補語 3. 時間の長さ・動作の回数を表わす語の位置
		この回の到達目標	第12課の文法や発音ができる。 トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	文法とトレーニングの予習	90分
		事後学修	第12課の総復習	90分
14	第1部12月22日	後期のまとめ		第6課～12課のまとめ（後期授業内筆記試験） 本文、トレーニング
		この回の到達目標	これまでの学習で問題点が確認できる。	
		事前学修	第6課～12課の復習を史、問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し理解する。	90分
15	第1部1月12日	フィードバック・質疑応答		フィードバック・質疑応答及び後期授業のまとめ 試験問題を採点して解説する。 会話テストか書き取りを行う。
		この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって理解を深める。	
		事前学修	後期学習内容を確認し、問題点をノートにまとめておく。 会話プリントの内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	中国語資格試験対策ⅠA	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
はじめて中国語を学修する者を対象とした中国語検定準4級対策と4級へのステップアップに向けた語学授業。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
“0(ゼロ)”から中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
中国語圏の言語と検定試験に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語検定の筆記及び聞き取り試験の問題を解きながら、検定試験対策を通じて中国語の初級知識を学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現が理解できる								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介ができる								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点したものを翌授業時に返却、期末試験の解説・講評は後期末にポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	プリントを使用し、インターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。「中国語検定過去問WEB(有料)」への加入が必須です。				

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・中国語の四声・目的語の位置	授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。プリントにて中国語入門知識と四声などを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、これから学ぶ中国語の性質、簡体字、ピンインの概略について説明でき、動詞述語文における目的語の位置を理解して四声を正しく発音できる。	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、ネットなどにて中国語という言葉について簡単に調べておく。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期01）などをもちいて四声・目的語の位置、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする。	30分
2	4/14	有気/無気音・正否疑問文	プリントを使用し、有気/無気音の発音と正否疑問文と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前01)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、有気/無気音・正否疑問文といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前01)課題などをもちいて四声の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期02）などをもちいて、今回学んだ有気/無気音・正否疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
3	4/21	-n/-ng・轻声・“請”の用法	プリントを使用し、-n/-ng・轻声の発音・“請”と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前02)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-n/-ng・轻声・正否疑問文について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前02)課題などをもちいて単母音・有気/無気音の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期03）などをもちいて、今回学んだ-n/-ng・轻声・“請”、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
4	4/28	基本母音の発音・反復疑問文	プリントを使用し、基本母音の発音・反復疑問文と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前03)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と基本母音の発音・反復疑問文について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前03)課題などをもちいて-n/-ng・轻声の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期04）などをもちいて、今回学んだ基本母音の発音・反復疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
5	5/5	“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置	プリントを使用し、“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前04)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前04)課題などをもちいて基本母音の発音・反復疑問文を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期05）などをもちいて、今回学んだ“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
6	5/12	ソリ舌音と“是”の用法	プリントを使用し、ソリ舌音の発音と“是”の用法と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前05)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現とソリ舌音と“是”の用法などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前05)課題などをもちいて“-ian”の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期06）などをもちいて、今回学んだソリ舌音と“是”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	選択疑問文・舌歯音	プリントを使用し、選択疑問文・舌歯音と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前06)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と選択疑問文・舌歯音などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前06)課題などを持ちいて、ソリ舌音の発音と“是”の用法を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期07）などを持ちいて、今回学んだ選択疑問文・舌歯音、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
8	5/26	“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5	プリントを使用し、“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5の数と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前07)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5の数などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前07)課題などを持ちいて、選択疑問文・舌歯音を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期08）などを持ちいて、今回学んだ“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5の数、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
9	6/2	“y-” “w-” を用いた複母音の綴りと発音	プリントを使用し、“y-” “w-” を冠す複母音の綴りと発音、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前08)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“y-” “w-” を冠す複母音の綴りと発音などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前08)課題などを持ちいて、“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型、1～5の数を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期09）などを持ちいて、今回学んだ“y-” “w-” を冠す複母音の綴りと発音、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
10	6/9	“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10	プリントを使用し、“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前09)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数の発音などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前09)課題などを持ちいて、“y-” “w-” を冠す複母音・月日の言い方を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期10）などを持ちいて、今回学んだ“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
11	6/16	“児化”	プリントを使用し、“児化”とそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前10)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“児化”の用法について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前10)課題などを持ちいて、“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数について身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期11）などを持ちいて、今回学んだ“児化”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
12	6/23	年月日・曜日の言い方	プリントを使用し、年月日・曜日の言い方と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前11)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と年月日・曜日の言い方について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前11)課題などを持ちいて、“児化”の用法を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期12）などを持ちいて、今回学んだ年月日・曜日の言い方の復習と短文音読の反復練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	前期総復習と試験対策	前期総復習として、プリンなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(前12)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、発音・語彙・文法について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前12)課題などを持ち、年月日・曜日の言い方を身につけ、これまでの前期の小テストを復習し、前期学修範囲の疑問点を明らかにして授業にのぞむ。	60分
		事後学修	前期筆記試験の範囲や口頭試験課題文をプリント、Quizlet（前期口頭試験課題）などを持ち復習する。	60分
14	7/7	筆記試験とまとめ	前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学んだ発音、語彙、文法などを応用することができる。	
		事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。	120分
		事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習する。	20分
15	7/14	口頭試験とまとめ	前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる。	
		事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。	10分

科目名	中国語資格試験対策ⅠB	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語学修初心者が中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語学修初心者が中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
中国語の発音や基本事項を身につけた上で検定試験に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語検定の筆記及び聞き取り試験の問題を解きながら、検定試験対策を通じて中国語の初級知識を学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現が理解できる								1	1		
②	身近な場面における会話ができる								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読んで理解できる								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書きとることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点したものを翌授業時に返却、期末試験の解説・講評は後期末にポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版					
備考	プリントを使用し、インターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。「中国語検定過去問WEB(有料)」への加入が必須です。				

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス・前期の確認	授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。前期学修内容の確認と復習を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、前期学修済みの内容について、説明でき、また正しく発音したり日本語訳したりできる。	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、後期の内容を確認するとともに復習しておく。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet(後期01) などをもちいて前期学修内容の復習と音読の反復練習をする。	30分
2	9/22	順と量の応用・連動文A	プリントを使用し、順と量の応用・連動文、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後01)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、順・量の応用、連動文と、いくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(後01)課題などをもちいて順と量の概念について理解を深め授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期02）などをもちいて、今回学んだ順と量の応用、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
3	9/29	時刻と時間の言い方・動作量	プリントを使用し、時刻と時間の言い方・動作量の位置、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後02)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と時刻・時間の言い方、動作量の位置について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(後02)課題などをもちいて、順と量の概念・連動文を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期03）などをもちいて、今回学んだ時刻と時間の言い方、動作量の位置、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
4	10/6	時刻と時間の応用・連動文B	プリントを使用し、時刻と時間の応用と連動文B、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後03)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と時刻と時間の応用、連動文Bについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(後03)課題などをもちいて、時刻と時間の言い方、動作量の位置について身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期04）などをもちいて、今回学んだ時刻と時間の応用、連動文B、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
5	10/13	100以上の数え方・“想”	プリントを使用し、100以上の数え方・“想”の用法と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後04)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、100以上の数え方・“想”の用法などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(後04)課題などをもちいて時刻と時間の応用、連動文Bについて身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期05）などをもちいて、今回学んだ100以上の数え方、“想”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
6	10/20	100以上の数の応用・“在”の用法・方位詞	プリントを使用し、100以上の数の応用・“在”の用法・方位詞と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後05)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と100以上の数の応用・“在”の用法・方位詞などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(後05)課題などをもちいて100以上の数え方、“想”の用法を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期06）などをもちいて、今回学んだ100以上の数の応用、“在”の用法、方位詞、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	金額の言い方・介詞・助動詞	プリントを使用し、金額の言い方・介詞・助動詞と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後06) ※検定試験前々週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と金額の言い方、介詞、助動詞などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(後06)課題などをもちい、100以上の数の応用・“在”・方位詞について身につけ、過去問WEBでまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み、採点までして授業にのぞむ。	90分
		事後学修	配付プリントとQuizlet(後期07)などで、金額の言い方の復習と音読の反復練習をする。過去問WEBにてまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み、採点までして授業にのぞむ。	90分
8	11/10	量詞の種類と用法・動態助詞	プリントを使用し、量詞の種類と用法・動態助詞、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後07) ※検定試験前週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と量詞の種類と用法・動態助詞などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(後07)課題などをもちいて、金額の言い方・介詞・助動詞を身につけ、過去問WEBにてまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み、採点までして授業にのぞむ。	90分
		事後学修	学習した量詞の種類と用法・動態助詞、挨拶語慣用表現の復習及び短文音読の反復練習をする。過去問WEBでまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み採点までしておく。	90分
9	11/17	検定準4級受験を振り返る	受験した検定試験の準4級問題について解答と解説を行います。 ●小テスト(後08)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、自ら受験した検定試験の結果を分析し、正しい解答について理解することができる。	
		事前学修	小テスト(後08)は特に準備の必要はないが、受験した検定試験試験問題において、自分が選んだ回答が全問書きこまれているか確認しておく。	30分
		事後学修	検定試験の解答と解説について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分
10	11/24	4級筆記問題	4級レベルの筆記問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後09)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、4級レベルの筆記問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。	
		事前学修	小テスト(後09)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の4級筆記問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。	30分
		事後学修	学修した4級レベルの筆記問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分
11	12/1	4級聴解問題	4級レベルの聴解問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後10)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環とし、4級レベルの聴解問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。	
		事前学修	小テスト(後10)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の4級聴解問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。	60分
		事後学修	学修した4級レベルの聴解問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分
12	12/8	後期の復習	後期の学修を全体的に復習し疑問点を解決できるよう学修します。 ●小テスト(後11)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を復習し、疑問点を解決することができる。	
		事前学修	小テスト(後11)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分
		事後学修	後期口頭試験課題文やこれまでの小テストなどをもちいて、後期学修内容の復習と短文音読の反復練習をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	映像教材	前後期総復習として、中国語による映像教材を鑑賞します。 ●小テスト(後12)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、中国語圏で作成された映像教材を視聴し内容を理解できる。	
		事前学修	小テスト(後12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の4級問題を「本番モード」で取り組んで採点まで行い授業にのぞむ。	120分
		事後学修	後期口頭試験課題文について、プリント、Quizlet（後期口頭試験課題）などをもちい復習する。	60分
14	12/22	口頭試験対策と練習	後期総復習として、プリントなどをもちい口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(後13)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文を正しい発音で暗唱できる。	
		事前学修	小テスト(後13)は特に準備の必要はないが、後期の学修内容を確認し、後期口頭試験課題文暗唱にむけての練習を重ねつつ、語彙・文法・訳・発音などの疑問点を明らかにして授業にのぞむ。	60分
		事後学修	授業でアドバイスのあった個所について復習、後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などをもちいて、念入りに練習し正しい発音で暗唱、翻訳できるよう正確に覚える。	120分
15	1/12	口頭試験とまとめ	後期口頭試験を実施し、まとめの講評と解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し、提示された日本語をその場で正しい発音で中国語に翻訳することができる。	
		事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などをもちい、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。	10分

科目名	中国語資格試験対策ⅡA	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定4級対策を通じて、初級～中級レベルの中国語運用能力を身につける語学授業

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定4級受験可能レベル～4級合格レベルの中国語運用能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
中国語検定「準4級合格レベル」であること。中国語検定4級の難易度を理解し、担当者の指示に従って積極的に学習できること。

【授業方法】
中国語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら、検定試験対策を通じて中国語初級～中級の語学力を涵養します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								2	2		
②	基本的な中国語を理解し、ほとんどのほとんどの身近な場面で対応できる								2	2		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								2	2		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点したものを翌授業時に返却、期末試験の解説・講評は前期末にポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	プリントを使用し、インターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。「中国語検定過去問WEB(有料)」への加入が必須です。				

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・準4級レベルの確認・復習a（動/形容詞述語文・疑問/否定文等）	授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。準4級レベルの基礎の確認と復習を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、準4級レベル（復習a）の言葉や文章について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、過年度の配付資料を確認するとともに授業内容やレベル、小テストの分量などを理解しておく。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期01）などをもちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習a）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
2	4/14	復習b（疑問詞・量詞・副詞・“的”・時を表わす語・“有意思”など）	復習aの文法事項の定着度を確認し、疑問詞・量詞・副詞・“的”・時を表わす語・“有意思”など、準4級レベルの文法事項（復習b）について復習します。 ●小テスト（前01）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、準4級レベルの文法事項をもちいた言葉や文章（復習b）について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（前01）課題などをもちい、準4級レベル（復習a）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期02）などをもちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習b）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
3	4/21	復習c（連動文A B・“要”・方位詞・動作量・二重目的語・部分否定など）	復習bの文法事項の定着度を確認し、連動文A B・“要”・方位詞・動作量・二重目的語・部分否定など、準4級レベルの文法事項（復習c）について復習します。 ●小テスト（前02）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、準4級レベルの文法事項をもちいた言葉や文章（復習c）について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（前02）課題などをもちい、準4級レベル（復習b）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期03）などをもちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習c）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
4	4/28	介詞の用法（初級編）	プリントを使用して、介詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前03）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、介詞の用法（初級編）について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（前03）課題などをもちいて、復習cの短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期04）などをもちいて、今回学修した介詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
5	5/5	副詞の用法（初級編）	プリントを使用して、副詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前04）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、副詞の用法（初級編）について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（前04）課題などをもちいて、介詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期05）などをもちいて、今回学修した副詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
6	5/12	疑問詞の用法（初級編）	プリントを使用して、疑問詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前05）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、疑問詞の用法（初級編）について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（前05）課題などをもちいて、副詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期06）などをもちいて、今回学修した疑問詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	能願動詞の用法（初級編）	プリントを使用して、能願動詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前06) ※検定試験前々週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、能願動詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前06)課題などを持ちい、疑問詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期07）などで、今回学修した能願動詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
8	5/26	動態助詞の用法（初級編）	プリントを使用して、動態助詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前07) ※検定試験前週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、動態助詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前07)課題などを持ちいて、能願動詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期08）などで、今回学修した動態助詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
9	6/2	離合詞・数量補語の用法	プリントを使用して、離合詞・数量補語の用法と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前08)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、離合詞・数量補語の用法について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前08)課題などを持ちいて、動態助詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期09）などを持ちいて、今回学修した離合詞・数量補語の用法について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
10	6/9	結果補語の用法	プリントを使用して、結果補語の用法と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前09)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、結果補語の用法について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前09)課題などを持ちいて、離合詞・数量補語の用法の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期10）などを持ちいて、今回学修した結果補語の用法について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
11	6/16	動態助詞の用法（中級編）	プリントを使用して、動態助詞の用法（中級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前10)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、動態助詞の用法（中級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前10)課題などを持ちいて、結果補語の用法の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期11）などを持ちいて、今回学修した動態助詞の用法（中級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
12	6/23	前期の復習	前期の小テストで覚えた単語・短文を復習し、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前11)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期の学修内容を復習し、既習短文や長文について日中相互翻訳ができる。	
		事前学修	小テスト(前11)課題などを持ちいて、動態助詞の用法（中級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	過去問WEBにて最新回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	前期試験対策	前期総復習の一環として、プリントなどをもちい、筆記試験・口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(前12)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修した語彙・文法について理解し、学修済みの語彙・文法事項を用いた文の日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分
		事後学修	前期筆記試験の範囲や口頭試験課題文を、プリント、Quizlet（前期口頭試験課題）などをもちい復習する。	120分
14	7/7	筆記試験とまとめ	前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修済みの語彙・文法事項を用いた文の日中相互翻訳、および応用ができる。	
		事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。	180分
		事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習する。	20分
15	7/14	口頭試験とまとめ	前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる。	
		事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などをもちい、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。	180分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。	10分

科目名	中国語資格試験対策ⅡB	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定4級対策を通じて、初級～中級レベルの中国語運用能力を身につける語学授業

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定4級受験可能レベル～4級合格レベルの中国語運用能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
中国語検定「準4級合格レベル」であること。中国語検定4級の難易度を理解し、担当者の指示に従って積極的に学習できること。

【授業方法】
中国語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら、検定試験対策を通じて中国語初級～中級の語学力を涵養します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短い中国語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点したものを翌授業時に返却、期末試験の解説・講評は後期末にポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	プリントを使用し、インターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。「中国語検定過去問WEB(有料)」への加入が必須です。				

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス・前期学修内容の確認・様態補語・程度補語	授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。様態補語・程度補語の用法を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、様態補語・程度補語について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、前期の内容を確認するとともに授業レベルを理解しておく。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期01）などを持ちいて、今回学修した様態補語・程度補語について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
2	9/22	存現文・方向補語（初級編）	プリントを使用して、存現文・方向補語（初級編）と、それらを持ちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後01）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、存現文・方向補語（初級編）について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（後01）課題などを持ちいて、様態補語・程度補語の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期02）などを持ちいて、今回学修した存現文・方向補語（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
3	9/29	方向補語（中級編）・比較表現	プリントを使用して、方向補語（中級編）・比較表現と、それらを持ちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後02）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、方向補語（中級編）・比較表現について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（後02）課題などを持ちいて、存現文・方向補語（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期03）などを持ちいて、今回学修した方向補語（中級編）・比較表現について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
4	10/6	処置式・“是～的”の構文	プリントを使用して、処置式・“是～的”の構文と、それらを持ちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後03）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、処置式・“是～的”の構文について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（後03）課題などを持ちいて、方向補語（中級編）・比較表現の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期04）などを持ちいて、今回学修した処置式・“是～的”の構文について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
5	10/13	可能補語	プリントを使用して、可能補語と、それらを持ちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後04）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、可能補語について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（後04）課題などを持ちいて、処置式・“是～的”の構文の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期05）などを持ちいて、今回学修した可能補語について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
6	10/20	使役表現・受身表現	プリントを使用して、使役表現・受身表現と、それらを持ちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後05）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、使役表現・受身表現について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（後05）課題などを持ちいて、可能補語の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期06）などを持ちいて、今回学修した使役表現・受身表現について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	副詞（中級編）・疑問詞（中級編1）	プリントを使用して、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後06) ※検定試験前々週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(後06)課題などをもちい、使役表現・受身表現の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期07）などで、今回学修した副詞（中級編）・疑問詞（中級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
8	11/10	能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）	プリントを使用して、能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後07) ※検定試験前週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(後07)課題などをもちいて、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期08）などで、今回学修した能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
9	11/17	検定4級受験を振り返る	受験した検定試験の4級問題について解答と解説を行います。 ●小テスト(後08)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、自ら受験した検定試験の結果を分析し、正しい解答について理解することができる。	
		事前学修	小テスト(後08)は特に準備の必要はないが、受験した検定試験試験問題において、自分が選んだ回答が全問書きこまれているか確認しておく。	60分
		事後学修	検定試験の解答と解説について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	60分
10	11/24	3級筆記問題	3級レベルの筆記問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後09)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、3級レベルの筆記問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。	
		事前学修	小テスト(後09)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級筆記問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。	30分
		事後学修	学修した3級レベルの筆記問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分
11	12/1	3級聴解問題	3級レベルの聴解問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後10)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環とし、3級レベルの聴解問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。	
		事前学修	小テスト(後10)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級聴解問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。	60分
		事後学修	学修した3級レベルの聴解問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分
12	12/8	後期の復習	後期の学修を全体的に復習し疑問点を解決できるよう学修します。 ●小テスト(後11)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を復習し、疑問点を解決することができる。	
		事前学修	小テスト(後11)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分
		事後学修	後期口頭試験課題文やこれまでの小テストなどをもちいて、後期学修内容の復習と短文音読の反復練習をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	映像教材	前後期総復習として、中国語による映像教材を鑑賞します。 ●小テスト(後12)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、中国語圏で作成された映像教材を視聴し内容を理解できる。	
		事前学修	小テスト(後12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の3級問題を「本番モード」で取り組んで採点まで行い授業にのぞむ。	120分
		事後学修	後期口頭試験課題文について、プリント、Quizlet（後期口頭試験課題）などをもちい復習する。	60分
14	12/22	口頭試験対策と練習	後期総復習として、プリントなどをもちい口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(後13)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文を正しい発音で暗唱できる。	
		事前学修	小テスト(後13)は特に準備の必要はないが、後期の学修内容を確認し、後期口頭試験課題文暗唱にむけての練習を重ねつつ、語彙・文法・訳・発音などの疑問点を明らかにして授業にのぞむ。	60分
		事後学修	授業でアドバイスのあった個所について復習、後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などをもちいて、念入りに練習し正しい発音で暗唱、翻訳できるよう正確に覚える。	120分
15	1/12	口頭試験とまとめ	後期口頭試験を実施し、まとめの講評と解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し、提示された日本語をその場で正しい発音で中国語に翻訳することができる。	
		事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などをもちい、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。	10分

科目名	中国語資格試験対策ⅢA	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級受験を目指すため、必要な文法知識、語彙数、聞取能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。

【授業方法】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級の筆記試験および聞取試験の問題を解きながら検定試験対策を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニング。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語文法と語彙の十分な知識を元に中国語圏における社会生活に対応することができる。								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容の中国語が書くことができる。								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日中・中日辞書(電子辞書可)	不問	不問	不問	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業説明及び文法説明	授業展開方法に関して詳しく説明し、中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級過去問に対する初歩的練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④到達達成の為の授業展開方法を理解し、更に中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級試験問題の出題状況に対して初歩的に理解することが出来る。	
		事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法内容をしっかりと復習すること。	30分
2	4/17	第八十一回中国語検定試験過去問	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
3	4/24	第八十一回中国語検定試験過去問	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
4	5/1	第八十二回中国語検定試験過去問	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
5	5/8	第八十二回中国語検定試験過去問	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
6	5/15	第八十三回中国語検定試験過去問	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	第八十三回中国語検定試験過去問	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
8	5/29	第八十四回中国語検定試験過去問	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
9	6/5	第八十四回中国語検定試験過去問	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
10	6/12	第八十五回中国語検定試験過去問	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
11	6/19	第八十五回中国語検定試験過去問	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
12	6/26	第八十六回中国語検定試験過去問	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	八十六回中国語検定試験過去問	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
14	7/10	八十七回中国語検定試験過去問	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
15	7/13	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④が到達達成出来たか否か、総復習、授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語資格試験対策ⅢB	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級合格を目指すため、必要な文法知識、語彙数、聞取能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。辞書(電子辞書課)必携。中国語検定試験(日本中国語検定協会)受験必須。

【授業方法】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級の筆記試験および聞取試験の問題を解きながら検定試験対策を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニング。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語文法と語彙の十分な知識を元に中国語圏における社会生活に対応することができる。										3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。										3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容の中国語が書くことができる。										3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。										3	3		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日中・中日辞書(電子辞書可)	不問	不問	不問	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	第八十八回中国語検定試験過去問	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
2	9/25	第八十八回中国語検定試験過去問	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
3	10/2	第八十九回中国語検定試験過去問	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
4	10/9	第八十九回中国語検定試験過去問	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
5	10/16	第九十回中国語検定試験過去問	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
6	10/23	第九十回中国語検定試験過去問	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	第九十一回中国語検定試験過去問	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
8	11/6	第九十一回中国語検定試験過去問	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
9	11/13	第九十二回中国語検定試験過去問	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
10	11/20	第九十二回中国語検定試験過去問	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
11	11/27	第百二回中国語検定試験(令和二年十一月二十二日実施)過去問	第百二回中国語検定試験(令和二年十一月二十二日実施)過去問に対する解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④到達達成の為、聞取能力、作文能力、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第百二回中国語検定試験(令和二年十一月二十二日実施)過去問を再度見直し、その解説に備える。	30分
		事後学修	第百二回中国語検定試験(令和二年十一月二十二日実施)過去問で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
12	12/4	第九十三回中国語検定試験過去問	第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	第九十四回中国語検定試験過去問	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
14	12/18	第九十四回中国語検定試験過去問	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
15	12/25	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	国際研修(中) I A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できる中国語コミュニケーション力の養成。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修参加を目指すため、必要な語学力と国際的に通用するコミュニケーション力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。語学研修(台湾)参加を想定した内容の授業ではあるが、実際に語学研修(台湾)参加にするか否かについては自由。

【授業方法】
海外語学研修現地授業と現地日常生活を想定し、中国語会話と作文、および現地地誌・文化・社会情勢を踏まえてのコミュニケーションができるよう実践的トレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含むアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語圏の生活および語学研修に対応した聞取・会話ができる。								1	1	1	
②	語学研修内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて中国語の文章を書くことができる。								1	1		1
③	中国語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる。								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2冊めの中国語《講読クラス》	劉穎、柴森、小澤直人	白水社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業説明及び中国諸事情紹介	授業展開方法に関して詳しく紹介し、又中国諸事情に関して色々紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に中国諸事情を初歩的に理解することが出来る。	
		事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った中国諸事情の知識を自分なりに整理しておくこと。	30分
2	4/17	教科書第一課(対、的)	前置詞「対」、名詞の前の「的」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、前置詞「対」、名詞の前の「的」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第一課前置詞「対」、名詞の前の「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	前置詞「対」、名詞の前の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	4/24	教科書第一課(有的～有的～等)	「有的～有的～」、「既～又～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「有的～有的～」、「既～又～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第一課「有的～有的～」、「既～又～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「有的～有的～」、「既～又～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	5/1	教科書第二課(毎～都～等)	「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第二課「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	5/8	教科書第二課(比較用法等)	比較用法、「連～也～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、比較用法、「連～也～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第二課比較用法、「連～也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	事前に第二課比較用法、「連～也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
6	5/15	教科書第三課(疑問詞呼応表現等)	教科書第三課(疑問詞呼応表現等)	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞呼応表現、「除了～以外～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第三課疑問詞呼応表現、「除了～以外～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	疑問詞呼応表現、「除了～以外～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	教科書第三課(即使～也～等)	「即使～也～」、「一点兒也～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「即使～也～」、「一点兒也～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第三課「即使～也～」、「一点兒也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「即使～也～」、「一点兒也～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	5/29	教科書第四課(着)	持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第四課持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	6/5	教科書第四課(複合方向補語等)	複合方向補語、動詞の重ね型の完了形について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、複合方向補語、動詞の重ね型の完了形について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第四課複合方向補語、動詞の重ね型の完了形の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	複合方向補語、動詞の重ね型の完了形の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	6/12	第五課(結果補語、存現文)	結果補語、存現文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、結果補語、存現文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第五課結果補語、存現文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	結果補語、存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	6/19	教科書第五課(因為～所以～等)	「因為～所以～」、「什麼的」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「因為～所以～」、「一辺兒～一辺兒～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第五課「因為～所以～」、「一辺兒～一辺兒～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「因為～所以～」、「一辺兒～一辺兒～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	6/26	教科書第六課(可能補語等)	可能補語、「什麼的」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、可能補語、「什麼的」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第六課可能補語、「什麼的」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	可能補語、「什麼的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	第六課(只要～就～)	「只要～就～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「只要～就～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第六課「只要～就～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「只要～就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	7/10	第六課(一～就～)	「一～就～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「一～就～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第六課「一～就～」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「一～就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	7/17	前期復習及び授業内試験	前期復習及び授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	国際研修(中) I B	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できる中国語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に参加するため、必要な語学力と円滑なコミュニケーション力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。語学研修(台湾)参加を想定した内容の授業ではあるが、実際に語学研修(台湾)参加にするか否かについては自由。

【授業方法】
海外語学研修現地授業と現地日常生活を想定し、中国語会話と作文、および現地地誌・文化・社会情勢を踏まえてのコミュニケーションができるよう実践的トレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含むアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語圏の生活及語学研修に対応した聞取・会話が十分できる。								1	1	1	
②	語学研修内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて中国語の文章が書くことができる。								1	1		1
③	中国語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる。								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2冊めの中国語《講読クラス》	劉穎、柴森、小澤直人	白水社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	教科書第七課(是～的、様態補語)	「是～的」、様態補語について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「是～的」、様態補語について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第七課「是～的」、様態補語の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「是～的」、様態補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	9/25	教科書第七課(不知道～才好等)	「不知道～才好」、「好像～一樣」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「不知道～才好」、「好像～一樣」について	
		事前学修	事前に第七課「不知道～才好」、「好像～一樣」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「不知道～才好」、「好像～一樣」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	10/2	教科書第八課(疑問詞不定用法、可能補語)	疑問詞不定用法、可能補語について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞不定用法、可能補語について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第八課疑問詞不定用法、可能補語の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	疑問詞不定用法、可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	10/9	教科書第八課(無論～都～等)	「無論～都～」、「要是～的話，就～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「無論～都～」、「要是～的話，就～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第八課「無論～都～」、「要是～的話，就～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「無論～都～」、「要是～的話，就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	10/16	教科書第九課(給等)	動詞の後の「給」、受身文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動詞の後の「給」、受身文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	到達目標①②到達達成の為、動詞の後の「給」、受身文について学ぶことが出来る。	30分
		事後学修	動詞の後の「給」、受身文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	10/23	教科書第九課(不是～就是～等)	「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	到達目標①②到達達成の為、「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶことが出来る。	30分
		事後学修	「不是～就是～」「再也沒～過」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	教科書第十課(動量補語、離合詞)	動量補語、離合詞について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動量補語、離合詞について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十課動量補語、離合詞の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動量補語、離合詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	11/6	教科書第十課(雖然～但是～等)	「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	30分
		事後学修	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	30分
9	11/13	教科書第十一課(有)	後置修飾語を伴う「有」の文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、後置修飾語を伴う「有」の文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十一課後置修飾語を伴う「有」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	後置修飾語を伴う「有」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	11/20	教科書第十一課(讓)	使役の「讓」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、使役の「讓」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十一課使役の「讓」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	使役の「讓」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	11/27	教科書第十一課(就、都)	教科書第十一課(就、都)	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、副詞「就」、副詞「都」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十一課副詞「就」、副詞「都」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	副詞「就」、副詞「都」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	12/4	教科書第十二課(把)	「把」の文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「把」の文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課「把」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「把」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	教科書第十二課(対～來說)	「対～來說」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「対～來說」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課「対～來說」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「対～來說」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	12/18	第十二課(只有～才～)	「只有～才～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「只有～才～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課「只有～才～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「只有～才～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	12/25	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	コミュニケーション(中)ⅠA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
勉強したことがある或いは相当レベルをもっている学生。

【授業方法】
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国を知ろう	斎藤道彦、陳栄生等	神保出版	2011年5月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜16：10～ 授業終了後の講堂にてメールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/9 第二部 4/8	ガイダンス・導入講義	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
		この回の到達目標	授業の進み方について理解できる	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
		事後学修	音声聞き、中国語の発音を耳にする	60分
2	第一部 4/16 第二部 4/15	発音	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。	
		この回の到達目標	中国語の発音を覚える	
		事前学修	発音を練習すること。（30分）	60分
		事後学修	勉強した発音を、自己発音でき、書けるように練習)	60分
3	第一部 4/23 第二部 4/22	発音と挨拶表現	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
		この回の到達目標	挨拶言葉と自己紹介できる	
		事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習	60分
		事後学修	発音を練習する：聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	第一部 4/30 第二部 4/29	北京的夏天？	形容詞述語文と四つの疑問文の作り方について説明	
		この回の到達目標	形容詞述語文と四つの疑問文の作り方について理解し、話せることができる	
		事前学修	新しい語彙を覚え、読める書ける練習	60分
		事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習	60分
5	第一部 5/7 第二部 5/6	実験演習	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：形容詞述語文についての表現と是を用いた文。	
		この回の到達目標	形容詞述語文の応用会話でき、“是”の構文について理解できる	
		事前学修	第2課の単語を暗記する；本文の会話を練習問題を回答する。	60分
		事後学修	会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	第一部 5/14 第二部 5/13	你是香港人	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習	
		この回の到達目標	疑問文の作り方：四つの疑問文を作ることができる	
		事前学修	会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/21 第二部 5/20	実験演習	これまでの復習 筆記小テスト ポイントの表現について応用する	
		この回の到達目標	“是”を用いた文の表現について理解でき、応用することができる	
		事前学修	第3課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	第一部 5/28 第二部 5/27	你吃早了	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：動詞述語文表現と助数詞；会話練習と発音矯正する。	
		この回の到達目標	動詞述語文表現と助数詞について理解し、応用することができる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。	60分
9	第一部 6/4 第二部 6/3	実験演習	筆記小テスト ポイントの構文を使って、応用会話する	
		この回の到達目標	勉強したことを使って、自分のことに基づいて説明することができる	
		事前学修	単語と会話文をを繰り返して発音練習を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること	60分
10	第一部 6/11 第二部 6/10	你身体好	会話小テスト 会話文について解釈 ポイント：主述述語文と状態補語。	
		この回の到達目標	ポイントについての説明理解し、また応用することができる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	第一部 6/18 第二部 6/17	実験演習	筆記小テスト 会話文を解釈 ポイント：主述述語文と状態補語の表現について練習する	
		この回の到達目標	主述述語文と状態補語の表現について理解できる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	第一部 6/25 第二部 6/24	你家有几口人	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：所有を表す動詞と因果関係を表す表現	
		この回の到達目標	複文の接続詞の言い方について理解し、家族についての説明することができる。	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：家族について中国語で説明することの準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 7/2 第二部 7/1	実験演習	会話小テスト 会話文を解釈 ポイントについての表現	
		この回の到達目標	家族について中国語で上手に説明することができる	
		事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）	60分
14	第一部 7/9 第二部 7/8	有人滑雪	発表テスト ポイントについて説明 存現文の表現	
		この回の到達目標	様々な現象について存現、焼失の表現を理解し、自然現象について説明することができる	
		事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
		事後学修	全般復習（30分）	60分
15	第一部 7/16 第二部 7/15	復習と期末筆記テスト	全般復習とテスト範囲を指示する	
		この回の到達目標	試験問題に上手く回答できる	
		事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く	60分

科目名	コミュニケーション(中) I A	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
なし

【授業方法】
本文を朗読、翻訳する。会話の訓練を行い、書き取りとリスニングを行う。 フィードバックは授業内において行い、テストは採点して、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に二人一組で会話練習を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストなどを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
I 冊目の中国語一会話クラス	劉喜多山幸子 松田かの子	白水社	2011年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第1部4月7日	中国語について		1、ガイダンス「授業の概要や到達目標について説明」 2、中国の概況 3、中国語の発音：単母音と声調
		この回の到達目標	シラバスの概要を確認し、理解する。 中国語の発音：単母音と声調	
		事前学修	シラバスをを確認し、授業計画を立てる。	90分
		事後学修	単母音と声調の復習	90分
2	第1部4月14日	中国語の発音		発音：子音と複母音
		この回の到達目標	子音と複母音の発音ができる。	
		事前学修	子音と複母音の予習	90分
		事後学修	子音と複母音の復習	90分
3	第1部4月21日	中国語の発音		発音：鼻母音と発音のトレーニング
		この回の到達目標	鼻母音と発音ができる。	
		事前学修	鼻母音の予習	90分
		事後学修	発音の総復習	90分
4	第1部4月28日	第1課		第1課 「楊麗さんですか。」本文訳 ポイント 1. 人称代名詞 2. 動詞“是” 3. 否定を表す“不” 4. 疑問を表す“嗎”
		この回の到達目標	第1課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
5	第1部5月5日	第1課		第1課 「楊麗さんですか。」 トレーニング、リスニング
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第1課の総復習	90分
6	第1部5月12日	第2課		第2課 「荷物は多いですか。」本文訳 ポイント 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文 3. 疑問詞“怎么样” 4. “的”
		この回の到達目標	第2課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部5月 19日	第2課	第2課 「荷物は多いですか。」 トレーニング、リスニング	
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第2課の総復習	90分
8	第1部5月 26日	第3課	第3課 「明日はどこへ行きますか。」本文訳 ポイント 1. 場所代名詞 2. 動詞述語文 3. 疑問詞疑問文 4. 省略疑問文“呢” 5. 時を 表すことばの位置	
		この回の 到達目標	第3課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
9	第1部6月 2日	第3課	第3課 「明日はどこへ行きますか。」 トレーニング、リスニング	
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第3課の総復習	90分
10	第1部6月 9日	第4課	第4課 「ケーキを食べたいですか。」本文訳 ポイント 1. 助動詞“想” 2. 選択疑問文 3. 副詞“也” 4. 動詞の重ね型 5. 語気助 詞“吧”	
		この回の 到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
11	第1部6月 16日	第4課	第4課 ケーキを食べたいですか。 トレーニング、リスニング	
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第4課の総復習	90分
12	第1部6月 23日	第5課	第5課 「これはいくらですか。」本文訳 ポイント 1. 数詞 2. 量詞の使い方 3. 反復疑問文	
		この回の 到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部6月 30日	第5課		第5課 「これはいくらですか。」 トレーニング、リスニング
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第5課の総復習	90分
14	第1部7月 7日	授業のまとめ		第1課～5課のまとめ（後期授業内筆記試験）
		この回の 到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
		事前学修	第1課～5課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し、理解する。	90分
15	第1部7月 14日	フィードバック・質疑応答		フィードバック・質疑応答及び授業のまとめ 試験問題についての解説 会話テストか書き取りを行う。
		この回の 到達目標	フィードバック・質疑応答によって、理解を深める。試験問題を採点して解説する。	
		事前学修	後期学習内容を確認し問題点をノートにまとめておく。 会話プリントの内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	コミュニケーション(中)ⅠA	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者30名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】								
書 名				著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎 重版 2020年3月2刷発行				汪鴻祥 主編	白帝社	2020年度	教科書	必携
						</		

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火4/7	イントロダクション及び導入講義	授業計画の説明等	
		この回の到達目標	この授業の計画と内容を理解する	
		事前学修	テキスト6－7ページ（中国の基本データと中国の基本知識）と発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
2	火4/14	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
3	火4/21	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
4	火4/28	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
5	火5/5	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
6	火5/12	会話編	第1課：「初次面」 会話と練習	
		この回の到達目標	第1課：「初次面」を習得する	
		事前学修	第1課：「初次面」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	火 5/19	会話編	第2課：「迎新生」 会話と練習	
		この回の到達目標	第2課：「迎新生」を習得する	
		事前学修	第2課：「迎新生」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
8	火 5/26	会話編	第3課：「我的一家」 会話と練習	
		この回の到達目標	第3課：「我的一家」を習得する	
		事前学修	第3課：「我的一家」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
9	火 6/2	会話編	第4課：「生日快」 会話と練習	
		この回の到達目標	第4課：「生日快」	
		事前学修	第4課：「生日快」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
10	火 6/9	会話編	第5課：「漫学」 会話と練習	
		この回の到達目標	第5課：「漫学」を習得する	
		事前学修	第5課：「漫学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
11	火 6/16	会話編	第6課：「参校园」 会話と練習	
		この回の到達目標	第6課：「参校园」を習得する	
		事前学修	第6課：「参校园」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
12	火 6/23	会話編	第7課：「趣好」 会話と練習	
		この回の到達目標	第7課：「趣好」を習得する	
		事前学修	第7課：「趣好」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	火 6/30	会話編		第8課：「学」 会話と練習
		この回の 到達目標	第8課：「学」を習得する	
		事前学修	第8課：「学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
14	火 7/7	復習		期末総合復習
		この回の 到達目標	前期で学んだ中国語を復習し理解する	
		事前学修	総合復習の準備	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
15	火 7/14	期末総括と授業内試験		期末総括試験及びまとめ、振り返り
		この回の 到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う	
		事前学修	試験の準備	120分
		事後学修	前期授業内容の復習	120分

科目名	コミュニケーション(中)ⅠA	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日講評

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2017 2・1 改訂版		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付けます。授業時間：土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	ガイダンス 中国語とは	年間講義計画、成績評価の方法、授業方法紹介など	
		この回の到達目標	中国語の概略を理解することと発音記号を理解する	
		事前学修	教科書とシラバスに目を通してください	10分
		事後学修	授業の内容を復習する	20分
2	第一部 土4/11	中国語の発音	発音について学ぶ 音節と声調 および 単母音韻母	
		この回の到達目標	とくに、声調を理解し覚えること	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単母音を発音練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
3	第一部 土4/18	中国語の発音	複合母音 韻尾 nとng	
		この回の到達目標	韻母を読む、書ける	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	母音の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
4	第一部 土4/25	中国語の発音	声母 有気音と無気音 そり舌音	
		この回の到達目標	声母を覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	声母の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
5	第一部 土5/2	ピンイン表記法	軽声、儿化韻 変調	
		この回の到達目標	発音をはっきりと聞き分けられ また正しく発音できるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	発音まとめの復習	20分
6	第一部 土5/9	発音到達度テスト まとめ	発音リスニングテスト	
		この回の到達目標	発音上達するように	
		事前学修	声母、韻母の復習	10分
		事後学修	テスト問題の見直し	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	第一課 自己紹介	人称代詞、 姓名の尋ね方、こたえ方 よく使われるあいさつ言葉	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を理解する	
		事前学修	会話文を読む	10分
		事後学修	単語と本文を覚えましょう	20分
8	第一部 土5/23	第二課 お誕生日	月日の言い方、聞き方 年齢の言い方、聞き方 数の数え方	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語と本文を覚えましょう	20分
9	第一部 土5/30	第三課 電話をかける	電話番号の聞き方、言い方 「有」と「没有」	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
10	第一部 土6/6	第四課 お住まい	形容詞述語文のたずね方、こたえ方 動詞の「在」と介詞の「在」	
		この回の 到達目標	形容詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
11	第一部 土6/13	第五課 買い物	他動詞 「想」の使い方 「的」の名詞化用法	
		この回の 到達目標	買い物の会話を話せるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	30分
12	第一部 土6/20	第六課 食事をする	省略疑問文と疑問代詞 助動詞の「会」	
		この回の 到達目標	食事について会話をできるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	第一課から第六課 単語テスト まとめ	学んだ単語を漢字を書ける、読める	
		この回の 到達目標	単語を暗記	
		事前学修	単語の復習	30分
		事後学修	テストの見直し	10分
14	第一部 土7/4	本文と文法の復習	リスニングを作文の練習	
		この回の 到達目標	六課までの	
		事前学修	毎回の練習問題を復習	20分
		事後学修	本文を暗唱	10分
15	第一部 土7/11	前期テスト まとめ	試験	
		この回の 到達目標	試験	
		事前学修	教科書の内容を復習	30分
		事後学修	なし	0分

科目名	コミュニケーション(中) I A	担当者	鄭 暁青	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中説明

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子等著	白水社	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	中国と中国語	年間講義計画・成績評価の方法 中国語の特色と勉強について	
		この回の到達目標	中国と中国語についての知識	
		事前学修	教科書の目次を読む (30分)	30分
		事後学修	学習の計画を立てる (30分)	30分
2	4月14日	韻母	発音 単母音	
		この回の到達目標	七つの単母音を暗記	
		事前学修	予習 教科書を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 単母音の練習 (30分)	30分
3	4月21日	双韻母	発音 複合母音	
		この回の到達目標	3 2 の母音を読む	
		事前学修	発音の確認 (30分)	30分
		事後学修	復習 母音の練習 (30分)	30分
4	4月28日	四声, 声母	発音 声調と子音	
		この回の到達目標	2 1 の子音と四声を読む	
		事前学修	発音の確認 (30分)	30分
		事後学修	復習 声調と子音の練習 (30分)	30分
5	5月12日	在校口	第1課 校門で	
		この回の到達目標	会話を読む。	
		事前学修	単語の予習 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 是の使い方 (30分)	30分
6	5月19日	疑問和疑 (1)	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて漢字を書く	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	簡体字の確認 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月26日	在走廊	第2課 廊下で	
		この回の到達目標	会話を読む。	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	文型の確認 在の使い方（30分）	30分
8	6月2日	疑句和疑（2）	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて漢字を書く	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認 否定の使い方（30分）	30分
9	6月9日	我的校园	第3課 キャンパスで	
		この回の到達目標	会話を読む。	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
10	6月16日	和形容	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて漢字を書く	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認 有の使い方（30分）	30分
11	6月23日	看手机	第4課 携帯を見ながら	
		この回の到達目標	会話を読む。	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
12	6月30日	数字	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて漢字を書く	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認 副詞（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月7日	在学生食堂	第5課 学生食堂で	
		この回の到達目標	会話を読む。	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
14	7月14日	中国菜，料	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて漢字を書く	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認 疑問文の練習（30分）	30分
15	7月21日	拼音和学的字	期末試験及びまとめ、振返り	
		この回の到達目標	発音記号を読む、習った漢字の発音記号を書く	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	まとめ（30分）	30分

科目名	コミュニケーション(中)ⅠA	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる										1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる										1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる										1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加算点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文化教師、1984年北京語言大学对外中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	水4/8	第一課①回目。授業概要。第一課概要。本文練習。挨拶・会話練習。会話入門。簡単な挨拶語を使って会話する。標準的な中国語の基本発音1。	授業概要。第一課「問候」。①第一課概要。②挨拶・会話練習。③会話入門。中国語の語順、語調。文章の切り取り(句切)、ピークストレス(標峰重音)。標準的な中国語の発音法。④単語表、本文を読む。本文を訳す。本文と日本語訳を書く。簡単な挨拶語を使って会話する。⑤標準的な中国語の基本発音1。音節・四声・軽声・単韻母。
		この回の到達目標	中国語及び中国言語文化、異文化を理解する。簡単な挨拶語を使って会話する。
		事前学修	筆記と書き取り練習用ノート(1)を用意する。シラバスに目を通しておく。
		事後学修	復習。第一課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。
2	水4/15	第一課②回目。復習。疑問文(1)と答えかた。人称代名詞。二つの語気助詞と比較。文の種類。会話練習。標準的な中国語の基本発音1-2。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-2。声母、複韻母。音節・変調発音訓練。③人称代名詞。二つの語気助詞と比較。疑問文(1)と答えかた。文の種類。④会話1。(1)-(3)。⑤標準的な中国語の基本発音1-2テスト。本文と会話1.の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	人称代名詞、二つの語気助詞を把握する。標準的な中国語の基本発音1-2要領を把握する。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。
		事前学修	第一課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。
		事後学修	復習。会話1.(1)-(3)を声出して読む。第一課会話1.(1)-(3)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要領をチェック。
3	水4/22	第一課③回目。復習。四声と軽声の比較、音の識別、音節・変調発音訓練、標準的な中国語の基本発音1-3。常用単語と発音練習。会話練習。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-3。鼻韻母。四声と軽声の比較練習。音の識別、音節・変調発音訓練。③親族。常用単語と発音練習。④会話2。(4)-(6)。⑤標準的な中国語の基本発音1-3テスト。会話2.の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	四声と軽声、音節の識別、変調、標準的な中国語の基本発音1-3を把握する。疑問文(1)を使って簡単会話する。
		事前学修	第一課会話1.(1)-(3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要領をチェック。
		事後学修	復習。会話2.(4)-(6)を声出して読む。第一課会話2.(4)-(6)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要領をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』。
4	水4/29	第一課④回目。復習。第一課①-④回標準的な中国語の基本発音1-4。朗読練習。会話練習。第一課①-④回授業要点をチェック。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-4。アル化韻。ローマ字綴り規則。音節表。音の識別、軽音と重音、軽重音の変化、標峰重音、句切と文単位。③朗読練習。会話練習・語調。④第一課①-④回授業要点をチェック。⑤標準的な中国語の基本発音1-4テスト。単語と会話の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	第一課①-④回標準的な中国語の基本発音1-4要領を把握する。第一課①-④回授業要点を把握する。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。
		事前学修	第一課会話2.(4)-(6)を声出して読む。会話文の要点と発音の要領をチェック。
		事後学修	復習。第一課常用単語と会話を声出して読む。常用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』。
5	水5/6	第二課①回目。復習。第二課概要。名詞述語文。「是」構文(1)。「的」。「指示代名詞」。序数と数量。疑問文(1)-(3)。二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞。本文練習。本文について会話練習。中国語で自己紹介。	第一課復習問題。第二課「我是学生」。①第二課概要。②名詞述語文。「是」構文(1)。「的」。「指示代名詞」。「副詞」。序数と数量。③単語表、本文を読む。本文を訳す。④疑問文(1)-(3)。二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞。⑤本文について会話練習。中国語で自己紹介。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』成績表を提出。
		この回の到達目標	中国語で自己紹介する。名詞述語文の構文を把握する。指示代名詞、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞を把握する。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。
		事前学修	第一課会話1.(1)-(3)、会話2.(4)-(6)を声出して読む。第一課の要点をチェック。第二課の単語表を声出して読む。第二課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』完成し、成績表のコピーを用意する。
		事後学修	復習。第二課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。中国語で自己紹介を練習する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	水5/13	第二課②回目。復習。数の数え方(1) - (3)。疑問文(1) - (3)の語調。会話練習(1) - (4)。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	第二課 ①復習問題。②強勢と弱勢。強勢と弱勢の変化。四声練習。音の識別。③数の数え方(1) - (3)。④疑問文(1) - (3)の語調。会話練習(1) - (4)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	数の数え方(1) - (3)を把握する。疑問文(1) - (3)の語調を把握する。六つの疑問詞を使って簡単会話する。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第二課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。疑問文(1) - (3)、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞をチェック。	30分
		事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。数の数え方(1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』。	30分
7	水5/20	第二課③回目。復習。品詞一覧。名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文。置換え会話(1) - (3)。会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。②品詞一覧。③名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文。④置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。⑤会話1. の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文を把握する。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第二課疑問文(1) - (3)、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞をチェック。数の数え方(1) - (3)を声出して読む。会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』。	30分
8	水5/27	第二課④回目。復習。置換え会話(4) - (6)。会話練習。第二課①-④回授業要点をチェック。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。③第二課①-④回授業要点をチェック。④会話2. 聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	第二課①-④回授業要点をチェック。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第二課数の数え方(1) - (3)、会話1. (1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』。	30分
9	水6/3	第三課①回目。復習。第三課概要。形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文。副詞の種類。介詞。接続詞。助詞。補語の種類。疑問文(4)。本文練習。本文について会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課復習問題。第三課「我的父母」。①第三課概要。②形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文。副詞の種類。介詞。接続詞。助詞。補語の種類。疑問文(4)。③単語表、本文を読む。本文を訳す。④本文について会話練習。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』成績表を提出する。	
		この回の到達目標	名詞述語文・形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文の構文を把握する。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。	
		事前学修	第二課会話2. (4) - (6)を声出して読む。第三課の単語表を声出して読む。第三課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』完成し、成績表のコピーを用意する。	30分
		事後学修	復習。第三課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
10	水6/10	第三課②回目。復習。3つの“de”助詞「的」「地」「得」。「得」つくる補語と他の補語。量詞の分類と常用名量詞と動量詞。会話練習。疑問文(1) - (4)を使って会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第三課 ①復習問題。②三つの“de”助詞「的」「地」「得」。「得」つくる補語と他の補語。③量詞の分類と常用名量詞と動量詞。④会話練習(1) - (4)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	3つの“de”助詞「的」「地」「得」の使い方を把握する。「得」つくる補語と他の補語を把握する。量詞の分類と常用名量詞と動量詞を把握する。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。	
		事前学修	第三課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
		事後学修	復習。常用名量詞と動量詞。疑問文(4)。三つの「de」。程度補語・可能補語と結果補語・方向補語・数量補語。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	水6/17	第三課③回目。復習。数量練習。四声練習。音の識別。形容詞述語と形容詞修飾語。程度副詞表す程度。置換え会話(1) - (3)。会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第三課 ①復習問題。②数量練習。③四声練習。音の識別。形容詞述語と形容詞修飾語。程度副詞表す程度。④置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。⑤会話1. の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	常用名量詞・動量詞の使い方を把握する。形容詞述語と形容詞修飾語を把握する。程度副詞表す程度を把握する。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第三課会話練習(1) - (4)を声出して読む。数量詞、三つの「de」、程度補語と可能補語、疑問文(1) - (4)をチェック。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』。	30分
12	水6/24	第三課④回目。年齢段別の聞き方。置換え会話(4) - (6)。会話練習。第三課①-④回授業要点をチェック。	第三課 ①復習問題。②年齢段別の聞き方。③置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。④第三課①-④回授業要点をチェック。⑤会話2. の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
		この回の到達目標	年齢段別の聞き方。第三課①-④回授業要点を把握する。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第三課会話1. (1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』。	30分
13	水7/1	第一課～第三課復習。中国語作文を完成する。	第三課①復習問題。②第一課～第三課復習。③中国語作文を書く（簡体字、ピンイン、日本語訳）。④宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』成績表を提出する。	
		この回の到達目標	第一課～第三課要点を把握する。中国語作文を完成する。	
		事前学修	第三課会話2. (4) - (6)を声出して読む。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』完成し、成績表のコピーを用意する。	30分
		事後学修	第一課～第三課復習。要点をチェック。	30分
14	水7/8	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。	
		この回の到達目標	(授業内)テスト（リスニング、筆記）及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	第一課～第三課復習。	30分
		事後学修	中国語作文を声出して読む。	30分
15	水7/15	中国語作文口頭発表会（口頭試験）。	中国語作文口頭発表会（口頭試験）。中国語作文（簡体字、ピンイン、日本語訳）を提出。	
		この回の到達目標	中国語作文口頭発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	中国語作文を声出して読む。	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	コミュニケーション(中)ⅠA	担当者	劉 秋佳	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
積極的に授業での練習に参加すること、授業参加度、授業での態度や答えおよび筆記試験により評価。3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10文間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	平成30年度	教科書	必携
備考	使用教科書は授業の時に指示します。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ、或は木曜18時以降～講師控え室へ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 飛鳥文化出版一国際関係と国際文化交流
実務経験に基づく実践的教育の内容		LINEとWechat国際交流コラムを通じて学生に関連記事を共有して、国際時事と中国の最新事情を紹介する。 LIINE:08032718681／Wechat::koku811

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	中国の文化事情	中国伝統文化、最新時事、裏事情の紹介 関連記事のプリント資料を配る 写真と動画をみる 感想文を書いて提出す	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
		事後学修	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
2	9/24	第7課 你老家在那儿？	実家はどこにありますか？ 疑問詞場所を聞き方と方向補語を学習す 場所を聞く、どこですか・どこにありますか	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
3	10/1	第8課 你几点起床？	何時に起きますか？ 時刻の言い方を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
4	10/8	応用練習	グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
5	10/15	第9課 中国正在流行什么？	中国いま流行っていますのが何ですか？ ～しているの進行形を学習する	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
6	10/22	第10課 你会包子？	君は餃子を作ることが出来ますか？ 助動詞～出来るなどの使い方を理解する ～が出来る 餃子を作る	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	応用練習	会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
8	11/5	第11課 中国比日本大多少？	中国は日本よりどのぐらい大きいですか？ 比較表現を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
9	11/12	第12課 北京烤多少？	北京ダックはおいくらですか？ 買い物の表現を習得する	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
10	11/19	応用練習	会話応答練習と作文練習	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 例文を参考して、中国語文の語順を理解する上に作文を書きます	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 先生から訂正されたところを確認して理解しなさい	30分
11	12/3	第13課 中国人喜什么运？	中国人はどんなスポーツが好きですか？ どんな、好きなどの動詞、接続詞の使い方を学習する 宿題：文化事情のレポートを書く 配ったプリントの記事を読んで、感想と見解をレポート書いて提出下さい	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
12	12/10	第14課 怎做才会不失礼？	どうやって失礼なことをならないですか。 使役補表現を習う 中国の習慣とマナを知る	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	第15課 真会被款？	本当に罰金されますか 受身表現を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
14	12/24	総復習	復習と総合練習	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習問題を復習してください	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分を理解して、できるようにきちんと練習してください	30分
15	1/14	授業内テスト	テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分

科目名	コミュニケーション(中) I A	担当者	劉 力	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
教科書必携で、ちゃんと予習してくること

【授業方法】
指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	各課の文法のポイントの例文と本文を日本語に正確に訳しているかどうかを授業内で確認します。各課の練習問題の答え合わせを授業内でします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験問題の回答はポータルシステムで公開する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本から学ぶ中国語	劉力	株式会社天々	2020年		
				教科書	
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：月曜３・４・５限 qqky376n@tuba.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス及び導入講義	
		この回の到達目標	授業内容を理解する	
		事前学修	シラバスを読むこと	30分
		事後学修	教科書を用意すること	30分
2	4/13	教科書P2～P9の内容	発音:音節のしく・声調・声調の変化・母音・子音・アル化音み	
		この回の到達目標	中国語の表音文字のローマ字を正確に発音できる	
		事前学修	発音の予習	30分
		事後学修	発音の復習	30分
3	4/20	教科書P10～P13の内容	第1課 親友 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第1課親友 語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第1課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第1課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
4	4/27	教科書P14～P15の内容	第1課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第1課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第1課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第1課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
5	5/11	教科書P16～P19の内容	第2課 桜・桃の花・黄梅 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第2課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第2課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第2課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること	30分
6	5/17	教科書P20～P21の内容	第2課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第2課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第2課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第2課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/24	教科書P22～P25の内容	第3課 彼女は一人で日本にいる 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第3課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第3課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第3課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
8	5/31	教科書P26～P27の内容	第3課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第3課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第3課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第3課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
9	6/1	教科書P28～P31の内容	第4課 私は教室で昼ごはんを食べる 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第4課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第4課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第4課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
10	6/8	教科書P32～P33の内容	第4課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第4課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第4課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第4課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
11	6/15	教科書P34～P35の内容	第5課 彼女は北京の観光案内を見ている 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第5課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第5課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第5課 彼女は北京の観光案内を見ている 語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
12	6/22	教科書P36～P39の内容	第5課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第5課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第5課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第5課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	教科書P40～P43の内容	第6課私は一度北海道へ行った 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第6課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第6課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第6課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
14	7/6	教科書P44～P47の内容	第6課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第6課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第6課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第6課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
15	7/13	教科書P10～P47の内容	試験 第1課～第6課の指定範囲	
		この回の到達目標	第1課～第6課の内容を把握する	
		事前学修	第1課～第6課の指定範囲	30分
		事後学修	第1課～第6課の復習	30分

科目名	コミュニケーション(中) I B	担当者	于 晓飛	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
勉強したことがある或いは相当レベルをもっている学生。

【授業方法】
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国を知ろう	斎藤道彦、陳栄生等	神保出版	2011年5月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜16：10～ 授業終了後の講堂にてメールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/17 第二部 9/16	ガイダンスと導入講義、自己紹介	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
		この回の到達目標	授業の進み方について理解できる	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
		事後学修	前期勉強したことを復習と自己紹介の準備	60分
2	第一部 9/24 第二部 9/23	你老家在哪儿(1)	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：動詞“在”と“有”の使い方；介詞の区別状況語が強調される構造。	
		この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、介詞の使い方応用できる	
		事前学修	自己紹介できるよう発音を練習すること。	60分
		事後学修	新しい語彙を覚え自己発音でき、書けるように練習)	60分
3	第一部 10/1 第二部 9/30	你老家在哪儿(2)	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：状況語が強調される構造。	
		この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、特に“是・・・的”の表現を身に付けることができる。	
		事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習	60分
		事後学修	発音を練習する：聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	第一部 10/8 第二部 10/7	几点起床	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：時点を表す言葉と時間の長さを表す言葉の語順	
		この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、応用練習もできる。	
		事前学修	新しい語彙を覚え、読める書ける練習	60分
		事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習	60分
5	第一部 10/15 第二部 10/14	中国正流行什么	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：動作の進行、持続を表す	
		この回の到達目標	ポイントの説明を理解し、応用会話でき、応用練習もできる。	
		事前学修	第2課の単語を暗記する；本文の会話を練習問題を回答する。	60分
		事後学修	会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	第一部 10/22 第二部 10/21	你会包子	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：可能を表す助動詞“会”、“能”、“可以”	
		この回の到達目標	ポイントの説明を理解し、応用練習もできる	
		事前学修	会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/29 第二部 10/28	中国比日本大多少	これまでの復習 筆記小テスト ポイントの表現について応用する	
		この回の到達目標	“是”を用いた文の表現について理解でき、応用することができる	
		事前学修	第3課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	第一部 11/5 第二部 11/11	総合演習	会話小テスト 今まで勉強したことを使って、自分のことに基づいて発表 会話練習と発音矯正する。	
		この回の到達目標	今まで勉強したことを使って、自分のことに基づいて話せることにする。	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみることに。	60分
9	第一部 11/12 第二部 11/18	中国比日本大多少	筆記小テスト ポイント：比較表現の構文を使って、会話練習する	
		この回の到達目標	比較表現を身に付け、自分のことに基づいて説明することができる	
		事前学修	単語と会話文をを繰り返して発音練習を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること	60分
10	第一部 11/19 第二部 11/25	北京烤多少	会話小テスト 会話文について解釈 ポイント：把を用いた文と可能補語	
		この回の到達目標	ポイントについての説明理解し、応用練習もできる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	第一部 12/3 第二部 12/2	中国人喜什么运	筆記小テスト 会話文を解釈 ポイント：複文の接続詞と行為、状態の関連する対象を表す表現	
		この回の到達目標	ポイントの説明について理解し、応用練習できるようにする	
		事前学修	単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	第一部 12/10 第二部 12/9	怎做才不失礼	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：使役表現について	
		この回の到達目標	使役文の表現について理解し、応用でき、説明することができる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：家族について中国語で説明することの準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/17 第二部 12/16	真会被款	発表テスト ポイントについて説明 受け身文と可能補語	
		この回の到達目標	使役文の表現について理解し、応用でき、説明することができる	
		事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	第一部 12/24 第二部 12/23	総合復習	今まで勉強したことを全般復習する	
		この回の到達目標	勉強したことを理解し、回答できるようにする	
		事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
		事後学修	全般復習	60分
15	第一部 1/14 第二部 1/13	これまでの復習 期末筆記テスト	これまでの復習 筆記テスト	
		この回の到達目標	試験問題に上手く回答できる	
		事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く	60分

科目名	コミュニケーション(中) I B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
なし

【授業方法】
朗読、翻訳、会話、リスニングという方式で授業を進めていく。 フィードバックは授業内において行い、テストなどを採点して解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に二人一組で会話練習する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストなどを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
I 冊目の中国語一会話クラス	劉 喜多山幸子松田 かの子	白水社	2011年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜２～４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部9月 15日	シラバスの概要 第6課	シラバスの概要を説明する。 第6課「電子辞書を持っていますか。」本文訳 ポイント 1. 動詞“有” 2. 動詞“在” 3. 前置詞“离”	
		この回の 到達目標	シラバスの概要が確認できる。 第6課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
2	第1部9月 22日	第6課	第6課 「電子辞書を持っていますか。」 トレーニング、リスニング	
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第6課の総復習	90分
3	第1部9月 29日	第7課	第7課 「京劇のチケットを買いました。」本文訳 ポイント 1. 連動文 2. “什么” +名詞 3. 完了の“了” 4. 疑問詞“怎么”	
		この回の 到達目標	第7課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
4	第1部10 月6日	第7課	第7課 「京劇のチケットを買いました。」 トレーニング、リスニング	
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第7課の総復習	90分
5	第1部10 月13日	第8課	第8課 「ファーストフード店がありますか。」本文訳 ポイント 1. 変化を表わす“了” 2. 動詞“有” 3. 前置詞“在”	
		この回の 到達目標	第8課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
6	第1部10 月20日	第8課	第8課 ファーストフード店がありますか。 トレーニング、リスニング	
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第8課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部10月27日	第9課	第9課 「中国の歌が歌えますか。」 本文訳 ポイント 1. 助動詞“可以” “会” “能” 2. 動詞“喜歡” 3. 前置詞“給”	
		この回の到達目標	第9課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
8	第1部11月10日	第9課 中間のまとめ	第9課 「中国の歌が歌えますか。」 本文訳 トレーニング、リスニング 第6課～9課のまとめ（授業内中間筆記試験）	
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第9課の総復習	90分
9	第1部11月17日	第10課	第10課 「長城に行ったことがありますか。」 本文訳 ポイント 1. 時刻の言い方 2. 経験を表わす“過” 3. 動作の回数を表わす言い方 4. 方向補語	
		この回の到達目標	第10課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
10	第1部11月24日	第10課	第10課 「長城に行ったことがありますか。」 トレーニング、リスニング	
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第10課の総復習	90分
11	第1部12月1日	第11課	第11課 「お腹をこわしました。」 本文訳 ポイント 1. 主述述語文 2. “有点儿” 3. “是～的” 4. 比較の表現	
		この回の到達目標	第11課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
12	第1部12月8日	第11課	第11課 「お腹をこわしました。」 本文訳 トレーニング、リスニング	
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第11課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部12月15日	第12課		第12課 「どのくらいの時間がかかりますか。」本文訳 ポイント 1. 結果補語 2. “从～到…” 3. 二つの目的語をもつ動詞 トレーニング・リスニング
		この回の到達目標	第12課の文法や発音の習得ができる。 会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	文法とトレーニングリスニングの予習	90分
		事後学修	第12課の総復習	90分
14	第1部12月22日	後期のまとめ		第6課～12課のまとめ（授業内期末筆記試験）
		この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
		事前学修	第6課～12課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し、理解する。	90分
15	第1部1月12日	フィードバック・質疑応答		フィードバック・質疑応答及び授業のまとめ 試験問題についての解説 会話テストか書き取りを行う。
		この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって、理解を深める。試験問題を採点し、解説する。	
		事前学修	後期学習の内容を確認し、問題点をノートにまとめておく。 会話プリントの内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	コミュニケーション(中) I B	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者40名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎	汪鴻祥 主編	白帝社	2020年度3月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火 9/15	復習と説明	前期で学ばれた基本語句と基本文法の復習 後期授業計画の説明 夏休みの報告	
		この回の到達目標	前期授業の復習と後期授業の説明を行う 夏休みの報告を行う	
		事前学修	夏休み報告発表の準備	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
2	火 9/22	会話編	第8課：「学」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第8課：「学」を習得する	
		事前学修	第8課：「学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
3	火 9/29	会話編	第9課：「广交朋友」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第9課：「广交朋友」	
		事前学修	第9課：「广交朋友」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
4	火 10/6	会話編	第10課：「周末活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第10課：「周末活」を習得する	
		事前学修	第10課：「周末活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
5	火 10/13	会話編	第11課：「超市物」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第11課：「超市物」を習得する	
		事前学修	第11課：「超市物」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
6	火 10/20	会話編	第12課：「季化」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第12課：「季化」	
		事前学修	第12課：「季化」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	火 10/27	会話編	第13課：「上学交通」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第13課：「上学交通」を習得する	
		事前学修	第13課：「上学交通」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
8	火 11/10	会話編	第14課：「外活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第14課：「外活」	
		事前学修	第14課：「外活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
9	火 11/17	会話編	第15課：「暑假旅游」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第15課：「暑假旅游」	
		事前学修	第15課：「暑假旅游」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
10	火 11/24	会話編	第16課：「校活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第16課：「校活」を習得する	
		事前学修	第16課：「校活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
11	火 12/1	会話編	第17課：「出国留学」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第17課：「出国留学」を習得する	
		事前学修	第17課：「出国留学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
12	火12/8	会話編	第18課：「健康食」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第18課：「健康食」を習得する	
		事前学修	第18課：「健康食」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火12/15	発表	期末発表会	
		この回の到達目標	レポートを提出し、発表を行う	
		事前学修	期末発表会の準備	120分
		事後学修	発表会内容の復習（30分）	120分
14	火12/22	復習	期末総合復習 第8課～18課	
		この回の到達目標	期末総合復習を行う	
		事前学修	期末総合復習	120分
		事後学修	授業内容の復習	120分
15	火1/12	総括と試験	期末試験及び振り返り、まとめ	
		この回の到達目標	後期の総括と授業内期末試験を行う	
		事前学修	期末試験の準備	120分
		事後学修	後期授業内容の復習（30分）	60分

科目名	コミュニケーション(中) I B	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日講評

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2017 2・1 改訂版		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付けます。授業時間：土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	第七課 アルバイト	動詞の重ね型 二重目的語をとる動詞	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	本文を暗唱	20分
2	第一部 土9/26	第八課 外国語を学ぶ	経験態 経験態のたずね方、こたえ方 数量補語	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	本文を暗唱	20分
3	第一部 土10/3	第九課 病院に行く	助動詞「能」および「能」と「会」の違い 程度副詞「有点儿」および「有点儿」と「一点儿」の違い	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
4	第一部 土10/10	第十課 図書館で	進行態「在」「正在」	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
5	第一部 土10/17	第十一課 手紙を書く	比較表現「比」「AはBより～だ」	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
6	第一部 土10/24	第十二課 旅行に行く	完了態 完了態のたずね方、こたえ方	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	テキストの終わりに	中国語の勉強について話そう	
		この回の到達目標	中国語に対して興味を持続できるように	
		事前学修	感想文を書く	20分
		事後学修	感想文を中国語に訳す	30分
8	第一部 土11/7	中国語検定試験の勉強	準四級リスニング	
		この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
		事前学修	準四級の挨拶文を読む	20分
		事後学修	準四級単語を覚える	20分
9	第一部 土11/14	中国語検定試験の勉強	準四級リスニング	
		この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
		事前学修	準四級の挨拶文を読む	20分
		事後学修	準四級単語を覚える	20分
10	第一部 土11/21	中国語検定試験の勉強	準四級筆記問題ドリル	
		この回の到達目標	文法事項の確認	
		事前学修	文法の復習	20分
		事後学修	ドリル問題の復習	20分
11	第一部 土11/28	中国語検定試験の仮試験 まとめ	模擬試験問題で合格力を確認する	
		この回の到達目標	単語や文法などを復習	
		事前学修	単語、文法の復習	20分
		事後学修	ドリル問題の復習	20分
12	第一部 土12/5	中国語会話の練習	初対面で、生活について、学習について、家族についてなど	
		この回の到達目標	中国語でいろいろなことを話そう、興味深く学べるように	
		事前学修	会話のテーマに関連単語、表現を復習	20分
		事後学修	会話文を繰り返す暗唱	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	総復習 1	リスニング	
		この回の到達目標	リスニングの聴く力をつける	
		事前学修	あいさつ語の復習	10分
		事後学修	問題を繰り返し復習	20分
14	第一部 土12/19	総復習 2	文法のまとめ	
		この回の到達目標	試験のための総復習	
		事前学修	文法項目を復習	20分
		事後学修	文章を書きながら覚えましょう	20分
15	第一部 土12/26	試験 まとめ	後期試験	
		この回の到達目標	試験	
		事前学修	テスト勉強	60分
		事後学修	なし	0分

科目名	コミュニケーション(中) I B	担当者	鄭 暁青	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時説明

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子等著	白水社	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	王老的研究室	第6課 王先生の研究室で	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	予習 教科書を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
2	9月22日	和形容	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	予習 練習問題 (30分)	30分
		事後学修	復習 単語と文型 (30分)	30分
3	9月29日	便利店	第7課 コンビニで	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	発音の確認 (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
4	10月6日	去	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	発音の確認 (30分)	30分
		事後学修	復習 単語と文型 (30分)	30分
5	10月13日	等公交	第8課 バス停で	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	単語の予習 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 疑問詞と疑問文 (30分)	30分
6	10月20日	行的用法	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	簡体字の確認 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	下后	第9課 放課後	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
8	11月10日	法小（1）	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
9	11月17日	看球播	第10課 卓球の中継を見ながら	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
10	11月24日	法小（2）	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
11	12月1日	迪斯尼	第11課 デイズニーランドで待ち合わせ	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
12	12月8日	法小（3）	トレーニング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	咖啡吧	第1 2 課 カフェテラスで	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
14	1月14日	法小（4）	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
15	1月21日	学了一年	期末試験及びまとめ、振返り	
		この回の到達目標	発音記号読めること	
		事前学修	復習 文法のまとめ（30分）	30分
		事後学修	まとめ（30分）	30分

科目名	コミュニケーション(中) I B	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5		挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6		コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7		リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8		省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる							1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる							1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる							1		
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文化教師、1984年北京語言大学对外中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	第四課①回目。前期復習問題。第四課概要。本文練習。「有」構文。存現文(1)。不定数の使い方比較。方位詞。本文について会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	前期復習問題。第四課「我家有五口人」。①第四課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③「有」構文。存現文(1)。不定数の使い方比較。方位詞。④本文について会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
		この回の到達目標	「有」構文、存現文(1)、不定数の使い方を把握する。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
		事前学修	前期第一課～第三課復習。第四課の単語表を声出して読む。第四課の単語表と日本語訳を書く。	30分
		事後学修	復習。第四課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
2	水9/23	第四課②回目。復習。中国の通貨－人民币元。番号と金額。疑問文(5) - (6)。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第四課 ①復習問題。②中国の通貨－人民币元。番号と金額。③四声練習。音の識別。疑問文(5) - (6)。④会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	番号と金額、疑問文(5) - (6)を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第四課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
		事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
3	水9/30	第四課③回目。復習。第四課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第四課 ①復習問題。第四課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	第四課①-③回授業要点を把握する。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第四課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く（簡体字、ピンイン、日本語訳）。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
4	水10/7	第五課①回目。復習。本文練習。自動詞と他動詞。目的語・二重目的語。二つの「了」。連動文・兼語文。使役・受身文。六種類の疑問文をチェック。本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第四課復習問題。第五課「今天休息」。①第五課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③自動詞と他動詞。目的語・二重目的語。二つの「了」。連動文・兼語文。使役・受身文。六種類の疑問文をチェック。④本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』成績表コピーを提出する。	
		この回の到達目標	自動詞と他動詞、目的語・二重目的語、二つの「了」、連動文・兼語文、使役・受身文を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第四課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。第五課の単語表を声出して読む。第五課の単語表と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』を完成し、成績表コピーを用意する。	30分
		事後学修	復習。第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。	30分
5	水10/14	第五課②回目。復習。方向補語・数量補語。曜日・週と年・月・日。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第五課 ①復習問題。②曜日・週と年・月・日。③方向補語・数量補語。④四声練習。音の識別。会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	
		この回の到達目標	方向補語・数量補語、曜日・週と年・月・日を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第五課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
		事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
6	水10/21	第五課③回目。復習。第五課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第五課 ①復習問題。第五課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。
		この回の到達目標	第五課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第五課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第五課』。30分
7	水10/28	第六課①回目。復習。本文練習。「在」構文。存現文(2)。二つの「在」。結果補語。四種類の文をチェック。本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第五課復習問題。第六課「我家在横濱」。①第六課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③「在」構文。存現文(2)。二つの「在」。結果補語。四種類の文をチェック。④本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第五課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	「在」構文、存現文(2)、二つの「在」、結果補語、四種類の文を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第五課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。第六課の単語表を声出して読む。第六課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第五課』を完成し、成績表コピーを用意する。30分
		事後学修	復習。第六課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第六課』。30分
8	水11/11	第六課②回目。復習。時間点・時間段。時刻・時間・時。二つの「着」。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第六課 ①復習問題。②時間点・時間段。時刻・時間・時。③二つの「着」。④四声練習。音の識別。会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		この回の到達目標	時間点・時間段、時刻・時間・時、二つの「着」を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第六課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。30分
		事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第六課』。30分
9	水11/18	第六課③回目。復習。第六課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第六課 ①復習問題。第六課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		この回の到達目標	第六課①-③回授業要点を把握する。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第六課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第六課』。30分
10	水11/25	第七課①回目。復習。本文練習。祝いと祈り常用語。五種類の補語をチェック。本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第六課復習問題。第七課「祝賀」。①第七課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③祝いと祈り常用語。五種類の補語をチェック。④本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第六課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	祝いと祈り常用語を把握する。五種類の補語を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第六課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。第七課の単語表を声出して読む。第七課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第六課』を完成し、成績表コピーを用意する。30分
		事後学修	復習。第七課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第七課』。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
11	水12/2	第七課②回目。復習。方位詞の分類。「～左右」・「～上下」・「～前后」。二つの「」。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第七課 ①復習問題。②方位詞の分類。「～左右」・「～上下」・「～前后」。二つの「」。③四声練習。音の識別。④会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		この回の到達目標	方位詞の分類、「～左右」・「～上下」・「～前后」、二つの「」を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第七課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。
		事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』。
12	水12/9	第七課③回目。復習。第七課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第七課 ①復習問題。第七課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	第七課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第七課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く（簡体字、ピンイン、日本語訳）。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』。
13	水12/16	第四課～第七課復習。要点をチェック。第四課～第七課朗読短文復習。（口頭試験の朗読短文を選択）。	第七課①復習問題。②第四課～第七課復習。③第四課～第七課朗読短文復習。（口頭試験の朗読短文を選択）。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	第四課～第七課復習。第四課～第七課朗読短文復習。
		事前学修	第七課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』を完成し、成績表コピーを用意する。
		事後学修	第四課～第七課復習。第四課～第七課朗読短文復習。要点をチェック。
14	水12/23	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。
		この回の到達目標	(授業内)テスト（リスニング、筆記）及びまとめ、振り返り。
		事前学修	第四課～第七課復習。要点をチェック。
		事後学修	朗読短文を書いて（簡体字、ピンイン、日本語訳）、声出して読む。
15	水1/13	中国語朗読短文発表会（口頭試験）。	中国語朗読短文発表会（口頭試験）。朗読短文（簡体字、ピンイン、日本語訳）を提出。
		この回の到達目標	中国語朗読短文発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。
		事前学修	朗読短文を声出して読む。
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。

科目名	コミュニケーション(中) I B	担当者	劉 秋佳	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
積極的に授業での練習に参加すること、授業参加度、授業での態度や答えおよび筆記試験により評価。3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10文間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	平成30年度	教科書	必携
備考	使用教科書は授業の時に指示します。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ、或は木曜18時以降～講師控え室へ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 飛鳥文化出版一国際関係と国際文化交流
実務経験に基づく実践的教育の内容	LINEとWechat国際交流コラムを通じて学生に関連記事を共有して、国際時事と中国の最新事情を紹介する。 LIINE:08032718681／Wechat::koku811	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	中国の文化事情	中国伝統文化、最新時事、裏事情の紹介 関連記事のプリント資料を配る 写真と動画をみる 感想文を書いて提出す	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
		事後学修	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
2	9/24	第7課 你老家在那儿？	実家はどこにありますか？ 疑問詞場所を聞き方と方向補語を学習す 場所を聞く、どこですか・どこにありますか	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
3	10/1	第8課 你几点起床？	何時に起きますか？ 時刻の言い方を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
4	10/8	応用練習	グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
5	10/15	第9課 中国正在流行什么？	中国いま流行っていますのが何ですか？ ～しているの進行形を学習する	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
6	10/22	第10課 你会包子？	君は餃子を作ることが出来ますか？ 助動詞～出来るなどの使い方を理解する ～が出来る 餃子を作る	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	応用練習	会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
8	11/5	第11課 中国比日本大多少？	中国は日本よりどのぐらい大きいですか？ 比較表現を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
9	11/12	第12課 北京烤多少？	北京ダックはおいくらですか？ 買い物の表現を習得する	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
10	11/19	応用練習	会話応答練習と作文練習	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 例文を参考して、中国語文の語順を理解する上に作文を書きます	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 先生から訂正されたところを確認して理解しなさい	30分
11	12/3	第13課 中国人喜什么运？	中国人はどんなスポーツが好きですか？ どんな、好きなどの動詞、接続詞の使い方を学習する 宿題：文化事情のレポートを書く 配ったプリントの記事を読んで、感想と見解をレポート書いて提出下さい	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
12	12/10	第14課 怎做才会不失礼？	どうやって失礼なことをならないですか。 使役補表現を習う 中国の習慣とマナを知る	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	第15課 真会被款？	本当に罰金されますか 受身表現を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
14	12/24	総復習	復習と総合練習	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習問題を復習してください	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分を理解して、できるようにきちんと練習してください	30分
15	1/14	授業内テスト	テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分

科目名	コミュニケーション(中) I B	担当者	劉 力	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
教科書必携で、ちゃんと予習してくること

【授業方法】
指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	各課の文法のポイントの例文と本文を日本語に正確に訳しているかどうかを授業内で確認します。 各課の練習問題の答え合わせを授業内でします。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験問題の回答はポータルシステムで公開する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本から学ぶ中国語	劉力	株式会社天々	2020年		任意
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：月曜３・４・５限 qqky376n@tuba.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	第7課P47～50	第7課 私たちはもう20になった 語句、ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第7課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第7課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	20分
		事後学修	第7課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習する。	20分
2	9/21	第7課P50～P52の内容	第7課の本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第7課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第7課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第7課本文・ポイントの例文の意味・漢字・ポイントを覚える。	30分
3	9/28	第8課P53～P56の内容	第8課 私は今中国語の勉強が非常に好きです。 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第8課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第8課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第8課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習する。	30分
4	10/5	第8課P56～P15の内容	第8課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第8課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第1課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第8課本文・ポイントの例文の意味・漢字・ポイントを覚える。	30分
5	10/12	第9課P59～P62の内容	第9課 桃は母が実家から送ってきたものです 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第9課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第2課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第9課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習する。	30分
6	10/19	第9課P63～P64の内容	第9課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第9課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第9課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第9課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	第10課P65～P68の内容	第3課 彼女は一人で日本にいる 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第10課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第10課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第10課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
8	11/9	第10課P68～P70の内容	第10課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第10課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第10課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第10課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
9	11/16	第11課P71～P73の内容	第11課 小石川後樂園 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第11課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第11課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第11課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
10	11/23	第11課P74～P76の内容	第11課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第11課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第11課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第11課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
11	11/30	第12課P77～P79の内容	第12課 外は雪が降っている 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第12課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第12課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第12課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
12	12/7	第12課P80～P81の内容	第12課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第12課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第12課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第12課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	第7課～第9課の試験	第7課～第9課の試験	
		この回の到達目標	第7課～第9課の内容を覚える。	
		事前学修	繰り返して第7課～第9課語句、例文、本文の漢字と意味を覚える。	30分
		事後学修	第7課～第9課語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
14	12/21	第10課～第12課の試験	第10課～第12課の試験	
		この回の到達目標	第10課～第12課の内容を覚える。	
		事前学修	繰り返して第10課～第12課語句、例文、本文の漢字と意味を覚える	30分
		事後学修	第7課～第9課語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
15	1/18	ビデオの鑑賞	ビデオの鑑賞後、教員に中国語に関する質問をする。	
		この回の到達目標	習った内容を理解し、覚える。	
		事前学修	習った中国語はきちんと理解できているかどうかを確認する。	30分
		事後学修	習った中国語はきちんと復習する。	30分

科目名	コミュニケーション(中)ⅡA	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力の習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語の基礎を修めた2年次生を対象とする。

【授業方法】
テキストに沿って、ヒアリングと会話に慣れるトレーニングを中心にして授業を進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 中国語さらなる一歩	尹景春他	白水社	12月第13刷	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜2・3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	ガイダンス及び導入講義	本講義の授業計画・内容についての説明	
		この回の到達目標	本講義の授業計画・内容について理解してもらう。	
		事前学修	講義に関する要望などを考えておく。	30分
		事後学修	1年目に習った中国語の単語を復習する。	30分
2	第一部木 4/16	既習した内容の復習	中国語の発音を復習する。	
		この回の到達目標	正しい発音を身につける。	
		事前学修	テキストの用意。ひと通り目を通しておく。	30分
		事後学修	大きな声で発音の練習をする。	30分
3	第一部木 4/23	既習した基礎文法の復習	中国語の基本的表現や構文を復習する。	
		この回の到達目標	これまでに習った文法や表現を復習して覚える。	
		事前学修	1年目に習った内容を復習する。	30分
		事後学修	既習した前置詞、疑問詞、助動詞などを復習する。	30分
4	第一部木 4/30	第1課 中国に行こう	主述述語文 助動詞「可以」「要」	
		この回の到達目標	主述述語文、助動詞「可以」「要」の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第1課の単語を予習する。	30分
		事後学修	形容詞文の構文を復習して覚える。	30分
5	第一部木 5/7	第1課のトレーニング	第1課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第1課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第1課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
6	第一部木 5/14	第2課 ウーロン茶を飲もう	「原因・理由」を表わす「因」	
		この回の到達目標	「原因・理由」を表わす「因」の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第2課の単語を予習する。	30分
		事後学修	本文を復習して、因果関係の表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	第2課のトレーニング	第2課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第2課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第2課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
8	第一部木 5/28	第3課 友だちをつくろう	連動文の構文	
		この回の到達目標	連動文の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第3課の単語を予習する。	30分
		事後学修	本文を復習して、連動文の構文を覚える。	30分
9	第一部木 6/4	第3課のトレーニング	第3課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第3課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第3課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
10	第一部木 6/11	第4課 長城に登ろう	完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の使い方	
		この回の到達目標	完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第4課の単語を予習する。(30分)	30分
		事後学修	完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の違いをまとめてみる。	30分
11	第一部木 6/18	第4課のトレーニング	第4課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第4課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第4課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
12	第一部木 6/25	第5課 漢字を覚えよう	結果補語	
		この回の到達目標	結果補語の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第5課の単語を予習する。	30分
		事後学修	結果補語の構文を復習して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	第5課のトレーニング	トレーニング5の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第5課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
		事後学修	第5課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
14	第一部木 7/9	総合復習	前期に習った言葉や表現を復習する。	
		この回の到達目標	既習した言葉や表現を復習して覚える。	
		事前学修	これまでに習ったことを復習する。	30分
		事後学修	これまでに習った語彙と表現を覚える。	30分
15	第一部木 7/16	到達度のチェック	期末テスト、振り返り	
		この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
		事前学修	前期に習った言葉や表現をじっくり復習して覚える。	30分
		事後学修	中国語の勉強について総括する。	30分

科目名	コミュニケーション(中)ⅡA	担当者	鄭 暁青	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
発音記号、基礎文法を履修した者。

【授業方法】
初級で習った表現を繰り返し復習しながら、語彙と表現を少しずつ増やしていく。二人で組んで会話の練習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内説明する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション中国語	斎藤敏康等	朝日出版	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	学習計画を立てる	年間講義計画・成績評価の方法	
		この回の到達目標	日々の努力は上達につながる。	
		事前学修	教科書の目次に目を通しておく（30分）	30分
		事後学修	学習計画を立てる（30分）	30分
2	4月16日	発音記号の全体像	発音の復習 1	
		この回の到達目標	各自の発音の弱点を見つける。	
		事前学修	予習 教科書を読む（30分）	30分
		事後学修	発音の確認 母音と四声（30分）	30分
3	4月23日	発音記号の再点検	復習 2 子音	
		この回の到達目標	全部読める喜び	
		事前学修	予習 教科書を読む（30分）	30分
		事後学修	発音の確認 録音を聞く（30分）	30分
4	4月30日	你我答（1）	第1課 私は大学生です	
		この回の到達目標	質問を聞いて答える。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
5	5月7日	，哪儿，什么	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
6	5月14日	你我答（2）	第2課 私は山本恵子と言います	
		この回の到達目標	質問を聞いて答える。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日	什么是	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
8	5月28日	你我答（3）	第3課 桜がきれいです	
		この回の到達目標	質問を聞いて答える。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
9	6月4日	什么是形容	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
10	6月11日	你我答（4）	第4課 王さんが寮にいます	
		この回の到達目標	質問を聞いて答える。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
11	6月18日	介和方位	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
12	6月25日	你我答（5）	第5課 四川料理を食べたことがありますか	
		この回の到達目標	質問を聞いて答える。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	了，，着	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
14	7月9日	我会一点了。 我的音怎么？	まとめ・総合練習	
		この回の到達目標	文型の復習	
		事前学修	予習 練習問題（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
15	7月16日	考考你	期末試験及びまとめ、反省。	
		この回の到達目標	前期学習内容のまとめ	
		事前学修	文型の確認（30分）	30分
		事後学修	まとめ（30分）	30分

科目名	コミュニケーション(中)ⅡA	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力の習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級、2級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加算点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 11971年より中国言語文化教師、1984年北京語言大学对外中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	水4/8	第一課①回目。授業概要。簡単会話～日常会話を目標とすること。今までの復習。第一課「紹介」。①第一課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文(一)を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③助動詞。ちょっとの表現。④自分の名前を本文に入り替え、お互いに自己紹介。会話練習。	授業概要。簡単会話～日常会話を目標とすること。今までの復習。第一課「紹介」。①第一課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文(一)を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③助動詞。ちょっとの表現。④自分の名前を本文に入り替え、お互いに自己紹介。会話練習。
		この回の到達目標	授業概要。簡単会話～日常会話を目標とすること。今までの復習。第一課概要。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。助動詞、ちょっとの表現を把握する。お互いに自己紹介。会話練習。
		事前学修	筆記と書き取り練習用ノート（1）を用意する。シラバスに目を通しておく。
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第一課本文（一）と自己紹介を声出して読む。本文の要点をチェック。
2	水4/15	第一課②回目。復習。本文練習。要点をチェック。「是……的」構文。能願動詞。動詞・形容詞の重ね型。ちょっとの表現を比較。副詞用法比較。三つの「de」復習。六種類の疑問詞復習。六種類の疑問文復習。	第一課 ①復習問題。②句切・標峰重音を注意しながら本文（二）を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③「是……的」構文。能願動詞。動詞・形容詞の重ね型。ちょっとの表現を比較。副詞用法比較。文の種類復習。三つの「de」復習。六種類の疑問詞復習。六種類の疑問文復習。本文について会話練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	「是……的」構文、形容詞の重ね型、動詞の重ね型、ちょっとの表現、六種類の疑問詞などを把握する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第一課本文（一）と自己紹介を声出して読む。本文の要点をチェック。
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら本文（二）を声出して読む。本文（二）と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』。
3	水4/22	第一課③回目。復習。能願動詞の分類。置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第一課 ①復習問題。能願動詞の分類。補語復習。②置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。③練習問題1、2。語順と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	能願動詞の分類とそれぞれの使い方を把握する。語順と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第一課本文（二）を声出して読む。要点をチェック。練習問題1、2を完成。
		事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音要領をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』。
4	水4/29	第一課④回目。復習。第一課①-④回授業要点をチェック。置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。練習問題3、4。聴力と作文練習。	第一課 ①復習問題。第一課①-④回授業要点をチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。③練習問題3、4。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	第一課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第一課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題3、4を完成。
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音要領をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3、4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』。
5	水5/6	第二課①回目。復習。第二課概要。本文練習。要点をチェック。語気助詞用法比較。単文と複文。接続詞。連動文復習。本文について会話練習。	第一課復習問題。第二課「吃飯」。①第二課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③語気助詞用法比較。単文と複文。接続詞。連動文復習。補語復習。④本文について会話練習。『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	接続詞、語気助詞用法を把握する。単文と複文を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。
		事前学修	第一課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第二課の単語表を声出して読む。第二課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』完成し、成績表コピーを用意する。
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第二課』。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
6	水5/13	第二課②回目。復習。本文練習。動詞のアスペクト。補語復習。助詞復習。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第二課 ①復習問題。②動詞のアスペクト。補語復習。助詞復習。③句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を朗読。要点をチェック。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	動詞のアスペクトを把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第二課』。30分
7	水5/20	第二課③回目。復習。動詞のアスペクトをチェック。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。動詞のアスペクトをチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。
		この回の到達目標	動詞のアスペクトを把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第二課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第二課』。30分
8	水5/27	第二課④回目。復習。第二課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。第二課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。
		この回の到達目標	第二課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第二課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第二課』。30分
9	水6/3	第三課①回目。復習。第三課概要。本文練習。要点をチェック。比較文の分類。本文について会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課復習問題。第三課「朋友」。①第三課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③比較文の分類。④本文について会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	比較文を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。
		事前学修	第二課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第三課の単語表を声出して読む。第三課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』完成し、成績表コピーを用意する。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第三課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第三課』。30分
10	水6/10	第三課②回目。復習。本文練習。四種類比較方式用法をチェック。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第三課 ①復習問題。②本文を読む。四種類比較方式用法をチェック。本文について会話練習。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。
		この回の到達目標	四種類比較方式用法を把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第三課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第三課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第三課』。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	水6/17	第三課③回目。復習。四種類比較方式用法をチェック。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第三課 ①復習問題。四種類比較方式用法をチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	
		この回の到達目標	四種類比較方式用法を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第三課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』。	30分
12	水6/24	第三課④回目。復習。第三課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。	第三課①復習問題。第三課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	第三課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第三課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』。	30分
13	水7/1	復習。第一課～第三課復習、要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文朗読。	第三課①復習問題。②第一課～第三課復習、要点をチェック。③句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』成績表コピーを提出する。	
		この回の到達目標	第一課～第三課要点を把握する。句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を朗読する。	
		事前学修	第三課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第三課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
		事後学修	第一課～第三課復習、要点をチェック。第一課～第三課本文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を声出して読む。	30分
14	水7/8	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	
		この回の到達目標	(授業内)テスト(リスニング、筆記)及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	第一課～第三課復習、要点をチェック。	30分
		事後学修	句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を声出して読む。	30分
15	水7/15	中国語朗読発表会(口頭試験)。	中国語朗読発表会(口頭試験)。第一課～第三課本文(簡体字、ピンイン、日本語訳)を提出。	
		この回の到達目標	中国語朗読発表会(口頭試験)。及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を声出して読む。	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	コミュニケーション(中)ⅡB	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
中国語の基礎を修めた2年次生を対象とする

【授業方法】
テキストに沿って、ヒアリングと会話に慣れるトレーニングを中心にして授業を進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 中国語さらなる一歩	尹景春他	白水社	12月第13刷	教科書	必携
					必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜2・3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	第6課 街を歩こう	存現文の使い方	
		この回の到達目標	存現文の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第6課の単語を予習する。	30分
		事後学修	存現文の構文を復習して覚える。	30分
2	第一部木 9/24	第6課のトレーニング	第6課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第6課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第6課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
3	第一部木 10/1	第7課 中国映画を見よう	状態持続の表現	
		この回の到達目標	状態持続の表現を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第7課の単語を予習する。	30分
		事後学修	持続状態の表現を用いて作文する。	30分
4	第一部木 10/8	第7課のトレーニング	第7課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第7課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第7課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
5	第一部木 10/15	第8課 シルクを買おう	方向補語の構文	
		この回の到達目標	方向補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第8課の単語を予習する。	30分
		事後学修	方向補語の構文を復習して覚える。	30分
6	第一部木 10/22	第8課のトレーニング	第8課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第8課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第8課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	第9課 中華を食べよう	可能補語の構文	
		この回の到達目標	可能補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第9課の単語を予習する。	30分
		事後学修	可能補語の構文を復習して覚える。	30分
8	第一部木 11/5	第9課のトレーニング	第9課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第9課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第9課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
9	第一部木 11/12	第10課 太極拳を習おう	「了」などの表現	
		この回の到達目標	「了」などの表現を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第10課の単語を予習する。	30分
		事後学修	「了」を用いて作文する。	30分
10	第一部木 11/19	第10課のトレーニング	第10課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第10課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第10課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
11	第一部木 12/3	第11課 「水」を楽しむ	結果補語（2）の構文	
		この回の到達目標	結果補語（2）の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第11課の単語を予習する。	30分
		事後学修	結果補語の構文を復習して覚える。	30分
12	第一部木 12/10	第11課のトレーニング	第11課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第11課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第11課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	第12課 春節を過ごそう	前置詞「把」の使い方	
		この回の到達目標	前置詞「把」の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第12課の単語を予習する。	30分
		事後学修	中国の春節について調べる。	30分
14	第一部木 12/24	第12課のトレーニング	第12課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第12課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第12課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
15	第一部木 1/14	到達度のチェック	期末テスト、振り返り	
		この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
		事前学修	既習した言葉や表現をじっくり復習して覚える。	30分
		事後学修	中国語の勉強についての感想をまとめる。	30分

科目名	コミュニケーション(中)ⅡB	担当者	鄭 暁青	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
発音記号、基礎文法を履修した者。

【授業方法】
初級で習った表現を繰り返し復習しながら、語彙と表現を少しずつ増やしていく。 二人で組んで会話の練習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内説明

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション中国語	斎藤敏康	朝日出版	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月10日	你得很好。	第6課 中国語を勉強したい	
		この回の到達目標	想，要，得	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
2	9月17日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
3	9月24日	他不会游泳	第7課 私は水泳ができます	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
4	10月1日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
5	10月8日	我在听音	第8課 宿題をやっています	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
6	10月15日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月22日	把关上	第9課 辞書を持ってきましたか	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 録音を聞く (30分)	30分
8	10月29日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
9	11月5日	自行被走了	第10課 自転車が妹に乗って行かれた	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 録音を聞く (30分)	30分
10	11月12日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
11	11月19日	今天比昨天冷多了	第11課 あなたは私より三つ年下	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 録音を聞く (30分)	30分
12	11月26日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月3日	不妹妹学开	第12課 家で勉強するように言われた	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 練習問題解く (30分)	30分
14	12月10日	中文法	まとめ・総合練習	
		この回の到達目標	翻短文	
		事前学修	予習 短文の翻訳 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
15	12月17日	テスト	学年末試験及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	まとめと反省	
		事前学修	復習 練習問題解く (30分)	30分
		事後学修	まとめ (30分)	30分

科目名	コミュニケーション(中)ⅡB	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級、2級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる							2	
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる							2	
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる							2	
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加算点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文化教師、1984年北京語言大学对外中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	第四課①回目。復習。第四課概要。本文練習。要点をチェック。常用介詞の分類。本文について会話練習。	前期復習問題。第四課「聊天」。①第四課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③常用介詞の分類。④本文について会話練習。	
		この回の到達目標	常用介詞の分類と用法をチェック。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。	
		事前学修	前期第一課～第三課復習。第四課の単語表を声出して読む。第四課の単語表と日本語訳を書く。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
2	水9/23	第四課②回目。復習。本文練習。常用副詞の分類。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第四課 ①復習問題。②本文を読む。常用介詞の分類をチェック。常用副詞の分類。本文について会話練習。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	常用介詞・副詞の分類と用法をチェック。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
3	水9/30	第四課③回目。復習。常用介詞・副詞の分類とチェック。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	第四課 ①復習問題。常用介詞・副詞の分類とチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	常用介詞・副詞の分類と用法を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
4	水10/7	第四課④回目。復習。第四課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	第四課①復習問題。第四課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	第四課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第四課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
5	水10/14	第五課①回目。復習。第五課概要。本文練習。要点をチェック。特殊動詞述語文。「是……的」構文(1)、(2)。存現文の分類。本文について会話練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第四課復習問題。第五課「客人」。①第五課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③特殊動詞述語文。「是……的」構文(1)、(2)。存現文の分類。④本文について会話練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』成績表コピーを提出する。	
		この回の到達目標	「是……的」構文(1)、(2)と存現文の分類を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。	
		事前学修	第四課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第五課の単語表を声出して読む。第五課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
6	水10/21	第五課②回目。復習。本文練習。特殊動詞述語文。「把」構文。使役文と兼語文。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第五課 ①復習問題。②本文を読む。特殊動詞述語文。「把」構文。使役文と兼語文。本文について会話練習。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。
		この回の到達目標	「把」構文、使役文と兼語文を把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。
7	水10/28	第五課③回目。復習。特殊動詞述語文。「被」構文と受身文。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。	第五課 ①復習問題。「被」構文と受身文。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	「被」構文と受身文を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第五課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。
8	水11/11	第五課④回目。復習。第五課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。	第五課 ①復習問題。第五課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	第五課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第五課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。
9	水11/18	第六課①回目。復習。第六課概要。本文練習。要点をチェック。常用複文の分類。常用複文1-6。本文について会話練習。	第五課復習問題。第六課「旅行」。①第六課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③常用複文の分類。常用複文1-6。④本文について会話練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	常用複文1-6を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。
		事前学修	第五課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第六課の単語表を声出して読む。第六課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』完成し、成績表コピーを用意する。
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第六課』。
10	水11/25	第六課②回目。復習。本文練習。常用複文7 - 13。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第六課 ①復習問題。②本文を読む。常用複文7 - 13。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	常用複文7 - 13を把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第六課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第六課』。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	水12/2	第六課③回目。復習。句読点と文章記号。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。	第六課 ①復習問題。句読点と文章記号。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	句読点と文章記号を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第六課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』。	30分
12	水12/9	第六課④回目。復習。第六課①-④回授業要点をチェック。中国の行政区。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。	第六課 ①復習問題。第六課①-④回授業要点をチェック。中国の行政区。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	第六課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第六課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』。	30分
13	水12/16	第一課～第六課復習、要点をチェック。第一課～第六課復習問題を完成する。中国語作文を完成する。	復習問題。①第一課～第六課復習、要点をチェック。②第一課～第六課復習問題を完成する。③中国語作文(簡体字、ピンイン、日本語訳)を完成する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』成績表コピーを提出する。	
		この回の到達目標	第一課～第六課復習、要点を把握する。第一課～第六課復習問題を完成する。中国語作文を完成する。	
		事前学修	第六課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
		事後学修	第一課～第六課復習、要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら中国語作文を声出して読む。	30分
14	水12/23	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	
		この回の到達目標	(授業内)テスト(リスニング、筆記)及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	第一課～第六課復習、要点をチェック。	30分
		事後学修	句切・標峰重音を注意しながら中国語作文を声出して読む。	30分
15	水1/13	中国語作文発表会(口頭試験)。	中国語作文発表会(口頭試験)。中国語作文(簡体字、ピンイン、日本語訳)を提出。	
		この回の到達目標	中国語作文発表会(口頭試験)及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら中国語作文を声出して読む。	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。(30分)	30分

科目名	コミュニケーション(中)ⅢA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面において中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる								3	3		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる								3	3		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
会話発表を聞き、訂正やアドバイスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙両得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	ガイダンス 講義の進め方と教材の説明；発音チェック；自己紹介と挨拶	
		この回の到達目標	講義の進め方と教材を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を把握する；簡単な中国語で自己紹介の準備。	60分
		事後学修	ガイダンスのおさらい。この授業は、目的と目標を達するため、週三時間以上かけて、復習と練習をすることが必要。	60分
2	4/15	「動詞+在」	ポイントについて説明：動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・ 本文を解釈と朗読練習 文型/朗読/質疑応答/リスニングなど。	
		この回の到達目標	動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・を理解し、使用できるようにする。	
		事前学修	第1課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	ドリルと小テストも問題解いてくる；本文の粗筋をまとめ暗唱し、暗記した文章を紙に書きとる；ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
3	4/22	日中文化の相違点	①日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること ②本文2の質問について応答 ③ドリルの問題を解明する ④ 会話練習	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、中国語で表現できるようにする。	
		事前学修	第1課内容の粗筋を暗唱できること。；本文1を参考に本文2について回答できる；ドリルの問題を解答。	60分
		事後学修	本文の粗筋をまとめ暗唱する。暗記した文章を紙に書きとる。ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
4	4/29	比較表見	第2課のポイントの説明：比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了” 本文の解釈と朗読練習	
		この回の到達目標	比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了”を使用できるようにする。	
		事前学修	第2課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文の朗読と粗筋を暗唱すること； 本文2の質問について応答；ドリルの問題を解明する。	60分
5	5/6	復習と練習	事前学習の内容について、練習と解明	
		この回の到達目標	ここまでの復習と練習をする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	文章を音読し暗唱する；暗記した文章を紙に書きとる；暗唱した内容を中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
6	5/13	累加関係を表す複文	ポイント：累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現。	
		この回の到達目標	累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第3課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	第3課の全般的応用練習	第3課の内容について、全般的応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、本文の朗読し、作文できるようにする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	文章を音読し暗唱する、暗記した文章を紙に書きとる。本文の内容について中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
8	5/27	前置詞の用法	ポイント：同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べること；前置詞。	
		この回の到達目標	同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べることができるようにする。	
		事前学修	第4課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
9	6/3	第4課の全般的応用練習	第4課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	前置詞の使用法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	ポイントの表現に基づき、文を作り暗記する。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
10	6/10	接続詞と時間推移表現	ポイント：～を主とする；接続詞：意味を更に一つ付加加える表現；程度が時間の推移とともに高まることを表す表現。	
		この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第5課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
11	6/17	第5課の全般的応用練習	第5課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、応用作文できるようにする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。日中文化について作文：テーマ自由（200字）	60分
12	6/24	強調する表現	ポイントの説明：～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現；アスペクス 着る；本文の解釈；作文を提出	
		この回の到達目標	～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第6課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	強調構文と比較表現	ポイントについて説明：前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・する；本文の解釈と朗読訓練	
		この回の到達目標	前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・するの表現方法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第7課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
14	7/8	復習と期末テスト	これまでの復習 期末テスト（筆記）	
		この回の到達目標	全般の復習、期末の筆記テストを実施する。	
		事前学修	全面復習： テスト範囲：1課～7課までのポイントの例文 2小テストの問題3，4	60分
		事後学修	今まで勉強したことを復習練習すること。	60分
15	7/15	中国語ヒアリング	中国人の生活に反映されている映画を鑑賞	
		この回の到達目標	中国人の生活の会話をどのくらい聞き取ることができるかの能力を判定する。	
		事前学修	中国社会と中国人の生活について、ネットで調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く。夏休み宿題：暑假里的一件事（	60分

科目名	コミュニケーション(中)ⅢB	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常的・社会的場面における平易であるがスムーズな中国語コミュニケーションの習得（A2

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的・社会的場面において基礎的な語彙を用いて中国語で意思疎通をすることができる。CEFRA2の口述試験に合格できるレベル。

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的、社会的な場面において平易な語彙を用いてスムーズに話すことができる								4	4		
②	日常的、社会的な場面において遭遇する平易な言葉を用いた会話を理解することができる								4	4		
③	日常的、社会的な場面において平易な表現を用いて、適切な対応をしながら普通のテンポでインターアクティブな会話ができる								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文や、口頭発表の際に直接指示する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙両得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受けメールによる質問受け研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	夏休み宿題	夏休み宿題の口頭発表 講評	
		この回の到達目標	夏休みの宿題を口頭発表できる	
		事前学修	夏休みの作文を完成、発表の準備する。	60分
		事後学修	修正した作文を暗記し、中国語出来る友人に話してみる。	60分
2	9/23	断定の口調を強める表現	第8課のポイントについて説明と実際に応用： 断定の口調を強める表現：是・・・的　；～もとで：在・・・下　；ただ～にすぎない：只不 本文の解釈と朗読練習。	
		この回の到達目標	本文の解釈とうまく朗読できる	
		事前学修	第8課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日 本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	第8課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答； 日中文化の相違点について友人たちと会話してみること。	60分
3	9/30	ドリルのチェック	第8課の内容について話す；ドリルのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答　③ド リルと小テストの問題を解明する。	
		この回の到達目標	本文2の質問についての応答とドリルと小テストの問題を解明できる。	
		事前学修	第8課内容の粗筋を暗記して、授業での発表の準備を行う；本文2の質問について応答。 本文に関連した題材で中国語作文を行う。自作した作文を提出する準備。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
4	10/7	ポイントを説明	ポイントを説明： ～であり、～でもある：是～也是・・・；受け身文：被　；可能性を推測、判断することを表 す：会	
		この回の到達目標	本文の翻訳とうまく読むことができる	
		事前学修	第9課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日 本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	第9課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答； 修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。	60分
5	10/14	会話練習と朗読の訓練	第9課の本文の熟読；粗筋について話しすること；本文2の質問について応答；ドリル小テスト のチェック； 会話練習と朗読の訓練。	
		この回の到達目標	粗筋について話しすることができる	
		事前学修	第9課内容の粗筋を暗記して、授業で発表するの準備を行う；本文2の質問について応答；小テストを完 成。	60分
		事後学修	全般的に復習、勉強した知識をすべて自分のものになることは重要である。 作文：テーマ自由（200字）	60分
6	10/21	ポイントについて解説	ポイントについて解説： ①～ほど・・・ではない：不像～那・・・；条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補 語；本文の解釈と朗読	
		この回の到達目標	本文の解釈と正しく発音で読める	
		事前学修	第10課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日 本語に翻訳してみる。作文を提出準備	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問 について応答。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	ドリルと小テストチェック	第10課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答；作文の問題点について説明。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱できる	
		事前学修	第10課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。	60分
8	11/11	ポイントについて説明	①ポイントについて説明： まるで～ようだ；好像～似的；ある条件が満たされさえすれば、結果は容易に実現すること；只要～就・・・； 逆接関係を表す。②本文の解説。	
		この回の到達目標	文の解説と関連接続語の応用ができる	
		事前学修	第11課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分
9	11/18	ドリルと小テストチェック	第11課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	本文2の質問について応答でき、日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱することができる	
		事前学修	第11課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	第11課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
10	11/25	ポイントについて説明	ポイントについて説明： まず～して、それから・・・する；動詞+回数；～ごとに・・・、～たびに・・・ 本文の解釈と朗読練習	
		この回の到達目標	本文の解釈と正しく朗読できる	
		事前学修	第12課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分
11	12/2	ドリルと小テストチェック	第12課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	本文の朗読；粗筋を暗唱することができ、本文2の質問について応答できる。	
		事前学修	第12課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	第12課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
12	12/9	ポイントについて説明	ポイントについて説明： 聞くところによると、～そうだ；～するとすぐに・・・する、～するや否や・・・する；条件関係を表す。 本文を解釈と朗読	
		この回の到達目標	本文を解釈と粗筋をはなせる	
		事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	ドリルと小テストチェック	第13課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱することができる	
		事前学修	第13課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。）	60分
		事後学修	第12課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。 (30分)	60分
14	12/23	ポイントについて説明	ポイントについて説明： 連動文 ～するのがある/いる；～にとっては；程度が高まることを表す；更 本文の解釈と朗読練習；	
		この回の到達目標	口頭で本文の内容について話せる。	
		事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	期末テスト範囲の復習をする：ポイントの例文と小テスト3、4の問題	60分
15	1/13	これまでの復習 期末筆記テスト	これまでの復習 期末テスト（筆記）	
		この回の到達目標	試験問題の回答ができる	
		事前学修	テスト範囲の復習をする	60分
		事後学修	全ての知識を身に付け、読める、書ける、話せること！	60分

科目名	ライティング(中)ⅡA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の修得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について中国語で書き取り、また文書で伝えることができるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。 提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写を書いたり、文書で伝えることができる。										4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる。										4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける。										4	4		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
会話発表を聞き、訂正やアドバイスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙兩得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	ガイダンス 講義の進め方と教材の説明；発音チェック；自己紹介と挨拶	
		この回の到達目標	講義の進め方と教材を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を把握する；簡単な中国語で自己紹介の準備。	60分
		事後学修	ガイダンスのおさらい。この授業は、目的と目標を達するため、週三時間以上かけて、復習と練習をすることが必要。	60分
2	4/15	「動詞+在」	ポイントについて説明：動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・ 本文を解釈と朗読練習 文型/朗読/質疑応答/リスニングなど。	
		この回の到達目標	動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・を理解し、使用できるようにする。	
		事前学修	第1課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	ドリルと小テストも問題解いてくる；本文の粗筋をまとめ暗唱し、暗記した文章を紙に書きとる；ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
3	4/22	日中文化の相違点	①日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること ②本文2の質問について応答 ③ドリルの問題を解明する ④ 会話練習	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、中国語で表現できるようにする。	
		事前学修	第1課内容の粗筋を暗唱できること。；本文1を参考に本文2について回答できる；ドリルの問題を解答。	60分
		事後学修	本文の粗筋をまとめ暗唱する。暗記した文章を紙に書きとる。ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
4	4/29	比較表見	第2課のポイントの説明：比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了” 本文の解釈と朗読練習	
		この回の到達目標	比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了”を使用できるようにする。	
		事前学修	第2課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文の朗読と粗筋を暗唱すること； 本文2の質問について応答；ドリルの問題を解明する。	60分
5	5/6	復習と練習	事前学習の内容について、練習と解明	
		この回の到達目標	ここまでの復習と練習をする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	文章を音読し暗唱する；暗記した文章を紙に書きとる；暗唱した内容を中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
6	5/13	累加関係を表す複文	ポイント：累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現。	
		この回の到達目標	累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第3課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	第3課の全般的応用練習	第3課の内容について、全般的応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、本文の朗読し、作文できるようにする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	文章を音読し暗唱する、暗記した文章を紙に書きとる。本文の内容について中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
8	5/27	前置詞の用法	ポイント：同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べること；前置詞。	
		この回の到達目標	同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べることができるようにする。	
		事前学修	第4課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
9	6/3	第4課の全般的応用練習	第4課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	前置詞の使用法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	ポイントの表現に基づき、文を作り暗記する。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
10	6/10	接続詞と時間推移表現	ポイント：～を主とする；接続詞：意味を更に一つ付加加える表現；程度が時間の推移とともに高まることを表す表現。	
		この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第5課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
11	6/17	第5課の全般的応用練習	第5課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、応用作文できるようにする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。日中文化について作文：テーマ自由（200字）	60分
12	6/24	強調する表現	ポイントの説明：～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現；アスペクス 着る；本文の解釈；作文を提出	
		この回の到達目標	～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第6課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	強調構文と比較表現	ポイントについて説明：前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・する；本文の解釈と朗読訓練	
		この回の到達目標	前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・するの表現方法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第7課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
14	7/8	復習と期末テスト	これまでの復習 期末テスト（筆記）	
		この回の到達目標	全般の復習、期末の筆記テストを実施する。	
		事前学修	全面復習： テスト範囲：1課～7課までのポイントの例文 2小テストの問題3，4	60分
		事後学修	今まで勉強したことを復習練習すること。	60分
15	7/15	中国語ヒアリング	中国人の生活に反映されている映画を鑑賞	
		この回の到達目標	中国人の生活の会話をどのくらい聞き取ることができるかの能力を判定する。	
		事前学修	中国社会と中国人の生活について、ネットで調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く。夏休み宿題：暑假里的一件事（	60分

科目名	ライティング(中)ⅡB	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の修得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について中国語で書き取り、また文書で伝えることができるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。 提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写をスムーズに書いたり、文書で伝えることができる。								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる。								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20								60

【課題に対するフィードバックの方法】
会話発表を聞き、訂正やアドバイスをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙兩得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	前期と同じ、参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	夏休み宿題を発表	夏休み宿題の口頭発表 講評	
		この回の到達目標	作文を口頭発表できること。	
		事前学修	夏休みの作文を完成、発表の準備する。	60分
		事後学修	修正した作文を暗記し、中国語出来る友人に話してみる。	60分
2	9/23	断定の口調を強める表現	第8課のポイントについて説明と実際に応用： 断定の口調を強める表現：是・・・的　；～もとで：在・・・下　；ただ～にすぎない：只不 本文の解釈と朗読練習。	
		この回の到達目標	「是・・・的　；～もとで：在・・・下　；ただ～にすぎない：只不　」について理解し、本文の解釈できる。	
		事前学修	第8課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	第8課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；日中文化の相違点について友人たちと会話してみること。	60分
3	9/30	応用練習	第8課の内容について話す；ドリルのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答　③ドリルと小テストの問題を解明する。	
		この回の到達目標	本文の粗筋を暗唱することができ、本文2の質問について応答とドリルの問題を解明することができる。	
		事前学修	第8課内容の粗筋を暗記して、授業での発表の準備を行う；本文2の質問について応答。 本文に関連した題材で中国語作文を行う。自作した作文を提出する準備。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
4	10/7	ポイントを説明	ポイントを説明： ～であり、～でもある：是～也是・・・；受け身文：被　；可能性を推測、判断することを表す：会	
		この回の到達目標	本文の翻訳とうまく読むことができる	
		事前学修	第9課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	第9課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。	60分
5	10/14	会話練習と朗読の訓練	第9課の本文の熟読；粗筋について話しすること；本文2の質問について応答；ドリル小テストのチェック； 会話練習と朗読の訓練。	
		この回の到達目標	本文の熟読、粗筋について話しすることがうまくできる	
		事前学修	第9課内容の粗筋を暗記して、授業で発表するの準備を行う；本文2の質問について応答；小テストを完成。	60分
		事後学修	全般的に復習、勉強した知識をすべて自分のものになることは重要である。 作文：テーマ自由（200字）	60分
6	10/21	条件関係を表す複文	ポイントについて解説： ①～ほど・・・ではない：不像～那・・・；条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補語；本文の解釈と朗読	
		この回の到達目標	条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補語；本文の解釈でき、朗読も正しく表現できるようにする。	
		事前学修	第10課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。作文を提出準備	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	ドリルと小テストチェック	第10課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答；作文の問題点について説明。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱できる	
		事前学修	第10課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。	60分
8	11/11	逆接関係を表す	①ポイントについて説明： まるで～ようだ；好像～似的；ある条件が満たされさえすれば、結果は容易に実現すること；只要～就・・・； 逆接関係を表す。②本文の解説。	
		この回の到達目標	文の解説と関連接続語の応用ができる	
		事前学修	第11課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分
9	11/18	応用練習	第11課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	文2の質問について応答でき、日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱することができる	
		事前学修	第11課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	第11課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
10	11/25	本文の解釈と朗読練習	ポイントについて説明： まず～して、それから・・・する；動詞+回数；～ごとに・・・、～たびに・・・ 本文の解釈と朗読練習	
		この回の到達目標	本文の解釈と正しく朗読できる	
		事前学修	第12課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分
11	12/2	応用練習	第12課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	日本文の朗読；粗筋を暗唱することができ、本文2の質問について応答できる。	
		事前学修	第12課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	第12課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
12	12/9	条件関係を表す。	ポイントについて説明： 聞くところによると、～そうだ；～するとすぐに・・・する、～するや否や・・・する；条件関係を表す。 本文を解釈と朗読	
		この回の到達目標	本文を解釈と粗筋をはなせる	
		事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	応用練習	第13課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の粗筋を暗唱することができる。	
		事前学修	第13課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	第12課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
14	12/23	ポイントについて説明	ポイントについて説明； 連動文 ～するのがある/いる；～にとっては；程度が高まることを表す；更 本文の解釈と朗読練習；	
		この回の到達目標	本文の粗筋を暗唱することができる。	
		事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	期末テスト範囲の復習をする：ポイントの例文と小テスト3、4の問題	60分
15	1/13	これまでの復習 期末筆記テスト	これまでの復習 期末テスト（筆記）	
		この回の到達目標	ポイントの練習問題を理解し、試験問題を回答できる。	
		事前学修	テスト範囲の復習をする	60分
		事後学修	全ての知識を身に付け、読める、書ける、話せること！	60分

科目名	日本語ⅠA	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○	○		

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回、課題となる設問を予習として解いてくること。授業では、文章の内容を理解する確認を行い、設問を解くことによって内容の理解度を確認する。漢字はテキストの内容に沿って、毎回漢字テストを行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、「小テスト」「問題演習」「フィードバック」のサイクルを繰り返す。間違えた箇所の理解を深めるため、内容についてのディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを、自ら明確に伝えることができる。								1	1		
③	レポートでよく用いられる漢字を修得することができる。				1							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で答案に対する添削講評、およびディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語学習のためのよく使う順 漢字2200	徳弘康代	三省堂	2014	教科書	必携
備考	その他、問題演習に必要な教材はコピーを配布する。				

【オフィスアワー】
木曜16:15～17:00 各自、事前にアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	オリエンテーション・導入 講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する。	
		この回の 到達目標	授業の形式を理解し、日本語学習の方法について学ぶ	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
		事後学修	読解の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	第一部 木4/16	論説文の読解1	漢字テスト No. 1～No. 50 論説文読解（問題演習）	
		この回の 到達目標	段落の構成と内容把握の概略を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 1～No. 50） 論説文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	論説文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	20分
3	第一部 木4/23	小説の読解1	漢字テスト No. 51～No. 100 小説読解（問題演習）	
		この回の 到達目標	心情描写の表現と小説独特の書体を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 51～No. 100） 小説1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 1～No. 50）の間違った箇所を確認する 小説1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
4	第一部 木4/30	論説文の読解2	漢字テスト No. 101～No. 150 論説文読解（問題演習）	
		この回の 到達目標	抽象的な文章の読解と、具体例から内容を把握する方法を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 101～No. 150） 論説文2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 51～No. 100）の間違った箇所を確認する 論説文2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
5	第一部 木5/7	小説の読解2	漢字テスト No. 151～No. 200 小説読解（問題演習）	
		この回の 到達目標	具体的な記述によって心情を描く文章の読解方法を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 151～No. 200） 小説2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 101～No. 150）の間違った箇所を確認する 小説2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
6	第一部 木5/14	論説文の読解3	漢字テスト No. 201～No. 250 論説文読解（問題演習）	
		この回の 到達目標	内容把握と記述による表現方法の関連を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 201～No. 250） 論説文3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 151～No. 200）の間違った箇所を確認する 論説文3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	小説の読解3	漢字テスト No. 251～No. 300 小説読解（問題演習）	
		この回の到達目標	擬音語、擬態語、副詞による場面描写の読み解き方を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 251～No. 300） 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 201～No. 250）の間違った箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
8	第一部 木5/28	論説文の読解4	漢字テスト No. 301～No. 350 論説文読解（問題演習）	
		この回の到達目標	一般論と具体例、抽象概念と具体例が入り乱れる文章を読み解く	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 251～No. 300） 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 201～No. 250）の間違った箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
9	第一部 木6/4	随想の読解1	漢字テスト No. 351～No. 400 随想読解（問題演習）	
		この回の到達目標	「事実」と「意見」の区別を、記述の特徴から理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 351～No. 400） 随想1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 301～No. 350）の間違った箇所を確認する 随想1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
10	第一部 木6/11	論説文の読解5	漢字テスト No. 401～No. 450 論説文読解（問題演習）	
		この回の到達目標	比喩の種類、および比喩による説明の特徴を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 401～No. 450） 論説文5の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 351～No. 400）の間違った箇所を確認する 論説文5を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
11	第一部 木6/18	随想の読解2	漢字テスト No. 451～No. 500 随想読解（問題演習）	
		この回の到達目標	導入ー背景ー本論ー結論の流れと段落構成を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 451～No. 500） 随想2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 401～No. 450）の間違った箇所を確認する 随想2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
12	第一部 木6/25	論説文の読解6	漢字テスト No. 501～No. 550 論説文読解（問題演習）	
		この回の到達目標	論理接続詞による内容のつながりと文章構造のしくみを理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 501～No. 550） 論説文6の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 451～No. 500）の間違った箇所を確認する 論説文6を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	小説の読解4	漢字テスト No. 551～No. 600 小説読解（問題演習）	
		この回の到達目標	時間の流れと登場人物の心情のうつりかわりを把握する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 551～No. 600） 小説4の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 501～No. 550）の間違った箇所を確認する 小説4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
14	第一部 木7/9	随想の読解3	漢字テスト No. 601～No. 650	
		この回の到達目標	暗喩による表現、および比喩を具体論に落とし込むための読解方法を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 601～No. 650） 随想3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 551～No. 600）の間違った箇所を確認する 随想3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
15	第一部 木7/16	期末試験、および解答と解説	期末試験、および解答と解説	
		この回の到達目標	14回の授業を通して理解した読解能力を確認する	
		事前学修	今までの漢字テスト、読解問題の設問解答をすべて復習し、期末試験に備える	120分
		事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	30分

科目名	日本語ⅠA	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○	○		

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
説明と実践を繰り返す。また、毎時間漢字のテストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを、自ら明確に伝えることができる。								1	1		
③	レポートでよく用いられる漢字を修得することができる。				1							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	説明用・練習用のプリントを配布する。参考書は講義中に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	4年間の学修計画を立てておくこと。	50分
2	4/14	講義の受け方	講義はどのような姿勢で受けるのか、また講義メモはどのように取るのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、講義の受け方や講義メモの取り方を理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	40分
3	4/21	教科書の読み方	講義で指定された教科書をどのように読み取るのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、教科書の情報を正確に読み取ることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	40分
4	4/28	レポートの言葉遣いについて	話し言葉と書き言葉の違いを理解し、レポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、レポートは適切な漢字と書き言葉を使って書くことを理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
5	5/5	分かりやすい文章について	読みやすい文章を書く上で必要な注意点を考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読みやすい文書とはどのようなものか気づくことができる。レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
6	5/12	分かりやすい文章の書き方	文章の構成とはどのようなものかを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文章の構成がいかに重要であるか理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	引用の方法	自分の考えと他人の考えをどのように区別するのかを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、引用の方法を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	30分
8	5/26	筋の通った文章について	パラグラフとは何かを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、筋の通った文章はいかに読みやすいかを理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
9	6/2	インターネットを使った情報収集について	インターネットを使った情報収集の注意点を考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットを使った情報収集の注意点を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
10	6/9	図解から情報を読み取る方法	グラフや図表から、どのように情報を読み取るのかを考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グラフや図表から適切に情報を読み取ることができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
11	6/16	文章の種類について	文章の種類とその違いを理解する。また、レポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文章の種類とその違いに気づくことで、レポートとの違いを理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
12	6/23	記録文と説明文の違いについて	記録文と説明文の違いを理解する。またレポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、記録文と説明文との違いに気づくことで、レポートとの違いを更に理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	自分の考えの伝え方	自分の考えはどのように伝えるべきか、その注意点を考える。また、レポートで使用する漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の考えを適切に伝えるための注意点を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。またこれまでの漢字のテスト不正解を確認しておく。	50分
14	7/7	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
		事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	7/14	振り返り	講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要かを理解することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語 I B	担当者	田中 拓郎	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		○

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
前期「日本語IA」からの継続授業

【授業方法】
毎回、課題となる設問を予習として解いてくること。授業では、文章の内容を理解する確認を行い、設問を解くことによって内容の理解度を確認する。漢字はテキストの内容に沿って、毎回漢字テストを行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	前期授業（日本語1）と同様。毎回、「小テスト」「問題演習」「フィードバック」のサイクルを繰り返す。間違えた箇所の理解を深めるため、内容についてのディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1				
②	自分の考えを明確に伝えることができる。また自分の日本語能力を確認することができる。									1	1
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標②について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で、答案に対する添削講評、およびディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語学習のためのよく使う順 漢字2200	徳弘康代	三省堂	2014	教科書	必携
備考	その他、問題演習に必要な教材はコピーを配布する				

【オフィスアワー】
木曜16:15～17:00 各自、事前にアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	オリエンテーション・導入 講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する。	
		この回の 到達目標	日本語学習の方法、授業の進め方を理解する	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
		事後学修	読解の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	第一部 木9/24	論説文の読解1	漢字テスト No. 651～No. 700 論説文(1)の読解演習	
		この回の 到達目標	イメージ的な抽象表現から主張の具体例を導く	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 651～No. 700) 論説文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	論説文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	20分
3	第一部 木10/1	小説の読解1	漢字テスト No. 701～No. 750 小説(1)の読解演習	
		この回の 到達目標	小説の場面展開と段落構成の関係を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 701～No. 750) 小説1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト(No. 651～No. 700)の間違った箇所を確認する 小説1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
4	第一部 木10/8	論説文の読解2	漢字テスト No. 751～No. 800 論説文(2)の読解演習	
		この回の 到達目標	論説文に頻出する用語の確認と使用例を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 751～No. 800) 論説文2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 701～No. 750) の間違えた箇所を確認する 論説文2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
5	第一部 木10/15	小説の読解2	漢字テスト No. 801～No. 850 小説(2)の読解演習	
		この回の 到達目標	文語文、擬古文の読解方法を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 801～No. 850) 小説2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 751～No. 800) の間違えた箇所を確認する 小説2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
6	第一部 木10/22	随想の読解1	漢字テスト No. 851～No. 900 随想(1)の読解演習	
		この回の 到達目標	記述者の視点の違いによる描写の差異を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 851～No. 900) 随想1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 801～No. 850) の間違えた箇所を確認する 随想1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	小説の読解3	漢字テスト No. 901～No. 950 小説(3)の読解演習	
		この回の到達目標	主語・目的語が明示されていない行為文から場面の展開を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 901～No. 950) 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 851～No. 900) の間違えた箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
8	第一部 木11/5	論説文の読解3	漢字テスト No. 951～No. 1000 論説文(3)の読解演習	
		この回の到達目標	哲学的文章の読解練習を行い、抽象的概念や一般論の読み解き方を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 951～No. 1000) 論説文3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 901～No. 950) の間違えた箇所を確認する 論説文3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
9	第一部 木11/12	随想の読解2	漢字テストNo. 1001～No. 1050 随想(2)の読解演習	
		この回の到達目標	通常とは異なる意味で使われている語句の意味を、文脈から理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 1001～No. 1050) 随想2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 951～No. 1000) の間違えた箇所を確認する 随想2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
10	第一部 木11/19	論説文の読解4	漢字テスト No. 1051～No. 1100 論説文(4)の読解演習	
		この回の到達目標	異なる時代、異なる文化的背景に基づく論説を読み解く	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 1051～No. 1100) 論説文4の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 1001～No. 1050) の間違えた箇所を確認する 論説文4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
11	第一部 木12/3	随想の読解3	漢字テストNo. 1101～No. 1150 随想(3)の読解演習	
		この回の到達目標	外国人から見た日本文化論を読み解く	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 1101～No. 1150) 随想3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 1051～No. 1100) の間違えた箇所を確認する 随想3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
12	第一部 木12/10	評論文の読解1	漢字テストNo. 1151～No. 1200 評論文(1)の読解演習	
		この回の到達目標	事実と意見のつながりと根拠の揃え方を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 1151～No. 1200) 評論文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 1101～No. 1150) の間違えた箇所を確認する 評論文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/10	随想の読解4	漢字テストNo. 1201～No. 1250 随想(4)の読解演習	
		この回の到達目標	「個別事象の描写」と「一般論の展開」の区別を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 1201～No. 1250) 随想4の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 1151～No. 1200) の間違えた箇所を確認する 随想4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
14	第一部 木12/24	随想の読解5	漢字テスト No. 1251～No. 1300 随想(5)の読解演習	
		この回の到達目標	複数のトピックが入り乱れる文章の主張文を整理する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 1251～No. 1300) 随想5の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 1201～No. 1250) の間違えた箇所を確認する 随想5を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
15	第一部 木1/14	期末試験、および解答と解説	期末試験、および解答と解説	
		この回の到達目標	14回の授業を通して理解した読解能力を確認する	
		事前学修	今までの漢字テスト、読解問題の設問解答をすべて復習し、期末試験に備える	120分
		事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	60分

科目名	日本語 I B	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		○

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
説明と実践を繰り返す。また、毎時間漢字のテストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを明確に伝えることができる。また自分の日本語能力を確認することができる。									1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標②について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	説明用・練習用のプリントを配布する。参考書は講義中に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	50分
2	9/22	課題図書を読む	短い文章を読んで、内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達科目①に関連して、短い課題図書の内容を理解し、まとめることができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
3	9/29	インタビュー調査	インタビューを開き取る。	
		この回の到達目標	到達科目①に関連して、インタビューを正確に聞き取ることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
4	10/6	プレゼンテーションの準備	課題図書の本文とインタビューの内容をもとに、レジメを作成する方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、短時間のプレゼンをするためのレジメを作成することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
5	10/13	テキストを読む	専門分野のテキストを読んで、内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、テキストの内容を適切にまとめることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
6	10/20	プレゼンテーションの準備	レジメを作成するために、プレゼンテーションの仕方や手順を考える。	
		この回の到達目標	到達科目②に関連して、プレゼンテーションの仕方や手順を理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	プレゼンテーションの読み原稿を書く	レジュメに合わせた読み原稿を作成する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、レジュメに合わせた読み原稿を作成することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
8	11/10	スピーチを聞く	スピーチのチラシから、キーワードを知る。	
		この回の到達目標	到達科目①に関連して、スピーチのキーワードを知ることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
9	11/17	スピーチを聞く	スピーチを聞いてメモを取り、内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチを聞いてメモを取ったり、内容を理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
10	11/24	スピーチを聞く	スピーチの内容を聞いて、質問を考える。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチの内容に基づいて質問内容を考えることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
11	12/1	質疑応答	スピーカーとして質問に答えたり、質問者として質問する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーカーとして質問に答えたり、質問者として質問することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
12	12/8	スピーチを書く	スピーチのアウトラインを作成する	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチのアウトラインを作成することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	スピーチを書く	スピーチを作成する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチを作成することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
14	12/22	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
		事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	1/12	振り返り	講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要なかを理解することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語ⅡA	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○		○	○	

【授業の概要】
大学での学修成果を上げるのに必要な日本語能力の向上を目指し、大学での学修を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学での学修成果を上げるために、これまで以上の読む・書く・聞くといった日本語能力の向上と、教科書を読みながら大学での学び方を理解する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書を音読し、毎時間漢字のテストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	講義の説明や教科書や参考文献の内容を正確に理解した上で、何が議論になっているのかを把握することができる。				1	1		1				
②	テーマに応じて自分の意見を明確に伝えたり、簡潔に書いたりすることができる。									1	1	
③	教科書で使用されているレベルの語彙力を身につけることができる。				1							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上して いるかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン	北尾謙治他	ひつじ書房	2005年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、 noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	4年間の学修計画を立てておくこと。	40分
2	4/13	(教科書)「大学の魅力」	大学はどのような場所なのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学は学問をする場所であり、学問は創造的な問いかけをすることだと理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
3	4/20	(教科書)「大学の魅力」	大学の魅力を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学の最終目標が知的可能性の探求であることを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
4	4/27	(教科書)「有意義な大学生活と学習・研究」	高校との違いを踏まえ、自分の目標に合わせて、何をどのように学修するのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の目標に合わせて、何をどのように学修するのかを決めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
5	5/4	(教科書)「有意義な大学生活と学習・研究」	学修・研究をいかにするのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、学修・研究を成功させるためのスタディースキルを修得することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
6	5/11	(教科書)「大学の学習・研究の実際」	自分の目標に合わせた履修計画を立て、学修計画の重要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の目標に合わせた学修計画の重要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	(教科書)「大学の学習・研究の実際」	自主学習の必要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自主学習の必要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
8	5/25	(教科書)「ノートを取り方」	大学ではなぜノートを取るのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学ではノートを取り、まとめて、保管し、上手に利用することが学生の責任であることを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
9	6/1	(教科書)「ノートを取り方」	よい講義ノートとはどのようなノートなのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義ノートは講義後、それを基に内容を復元できるものだと理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
10	6/8	(教科書)の読解」	関連知識の必要性と整理の重要性を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、読解力を向上させるために日頃から様々な知識を蓄えてくことを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
11	6/15	(教科書)の読解」	読む習慣を身につける必要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、目的によって読解の方法が異なることと、読む習慣がいかに重要かを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
12	6/22	(教科書)「情報収集」	どのような目的でどのような情報を探しているのかはつきりさせる必要があることを理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、情報を収集する際には目的を明確にすれば効率がよいことを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	(教科書)「情報収集」	収取した情報は、規格化、再利用、情報源の明記を心掛けて整理しておくことを理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、収集した情報を整理する重要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
14	7/6	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
		事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	7/13	振り返り	講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要なかを理解することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語ⅡB	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○		○	○	

【授業の概要】
大学での学修成果を上げるのに必要な日本語能力の向上を目指し、大学での学修を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学での学修成果を上げるために、これまで以上の読む・書く・聞くといった日本語能力の向上と、教科書を読みながら大学での学び方を理解する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書を音読し、毎時間漢字のテストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	講義の説明や教科書や参考文献の内容を正確に理解した上で、何が議論になっているのか明確に把握することができる。				2	2		2			
②	テーマに応じて自分の意見を明確に伝えたり、簡潔に書いたりすることができる。									2	2
③	教科書で使用されているレベルの語彙力を身につけることができる。				2						
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上して いるかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン	北尾謙治他	ひつじ書房	2005年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、 noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	40分
2	9/21	(教科書)「インターネット」	大学生活をサポートするインターネット利用で心得るべきことを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、インターネットの利用規定の内容を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
3	9/28	(教科書)「インターネット」	コミュニケーションツールとしての電子メールのマナーを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ネチケットについて調査をし、深く理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
4	10/5	(教科書)「テーマの選び方」	レポートのテーマを考える時、重要なことは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、レポートのテーマを考える時、重要なことは何かを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	20分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
5	10/12	(教科書)「テーマの選び方」	トピックを決める作業手順や、プロポーザルの内容をどのように作成するのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、トピックを決める作業手順や、プロポーザルの内容をどのように作成するのかを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	20分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
6	10/19	(教科書)「情報の整理」	一次資料と二次資料の違いを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、二次資料は理解を深めるのに必要な資料だが、それをまとめたり発表に使えないことを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	(教科書)「情報の整理」	『あしながおじさん』を例に、質的な情報をどのように整理するかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、一次資料を使用して、どのようなことでも新しい知見を引き出すことができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
8	11/9	(教科書)「書くことの重要性」	「読む」とことと「書く」とことの関連性を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、研究における「書く」とことの重要性を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
9	11/16	(教科書)「書くことの重要性」	「書く」とことの意味を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、上手な文章の書き方の基本について考えることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
10	11/23	(教科書)「レポートや論文を書く」	レポートとは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、レポートを書く際の重要なポイントを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
11	11/30	(教科書)「レポートや論文を書く」	良いレポートの書き方を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、引用と剽窃の区別ができたり、説得力のあるレポートとはどのようなものを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
12	12/7	(教科書)「プレゼンテーション」	効果的なプレゼンテーションとは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、準備を始める前から問題意識を持つ必要性を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	(教科書)「テストの準備と受け方」	大学のテストがいかに重要か、またその種類や内容を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学のテストの重要性やその種類と内容を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
14	12/21	(教科書)「テストの準備と受け方」	テストの準備と受験について、どのような点に注意すべきかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、テスト時間割の確認と学修計画の作成ができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
15	1/18	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
		事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分

科目名	スペイン語ⅠA	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級スペイン語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なスペイン語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en imágenes	Eugenio del Prado他	朝日出版	2019年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	挨拶 名前を言う	オリエンテーション・参考文献の紹介 Unidad 1 挨拶表現、アルファベット	
		この回の 到達目標	授業で学んだ表現、アルファベットを覚える。	
		事前学修	スペイン語を学習したい動機、スペイン語圏で興味のある事柄について文章にできるよう、考えておく。	10分
		事後学修	復習。授業で学んだ表現、アルファベットを覚える。	60分
2	第一部 水4/15	発音	Unidad 1 スペイン語の発音	
		この回の 到達目標	スペイン語を正しい発音で読むことができる。	
		事前学修	第一回目の授業で配られた用紙にスペイン語を学習したい動機、スペイン語圏で興味のある事柄などについて記入する。	20分
		事後学修	スペイン語の単語を正しい発音で読めるように練習する。	30分
3	第一部 水4/22	数字、スペインの街・食べ物	Unidad 1	
		この回の 到達目標	0-10までの数字を覚える。スペインの街や食べ物について練習問題を通じて学ぶ。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	スペイン語の単語を正しい発音で読めるように練習する。 Unidad 1の会話の復習	30分
4	第一部 水4/29	動詞の使い方	Unidad 2 名詞 冠詞	
		この回の 到達目標	名詞と冠詞の使い方を学ぶ。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p.9 1-3	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
5	第一部 水5/6	国籍・職業を述べる	Unidad 2 人称代名詞 動詞ser	
			Unidad 2 人称代名詞 動詞ser	
		この回の到達目標	人称代名詞とserの活用を覚える。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 9 5	30分
6	第一部 水5/13	カフェで注文する スペインの街	Unidad 2	
		カフェテリアでの会話		
		この回の到達目標	軽食や飲み物の注文ができるようになる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	Unidad 2の会話の復習	30分
7	第一部 水5/20	復習 人の描写	中間試験 Unidad 3 形容詞	
		この回の到達目標	人を描写する形容詞を覚える。	
		事前学修	Unidad 1-2復習	120分
		事後学修	p. 15-1-2	30分
8	第一部 水5/27	家族について話す	中間試験 FB Unidad 3 疑問文・否定文 動詞 tener	
		この回の到達目標	家族の容姿や性格について述べることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 18-3	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
9	第一部 水6/3	年齢を述べる スペインの街 スペインの祭り	Unidad 3 数字1-100	
		この回の 到達目標	人の容姿、性格、年齢を述べることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 18 4, 5	60分
10	第一部 水6/10	言語・科目	Unidad 4 規則動詞	
		この回の 到達目標	自分が話せる言語、自分が勉強している科目を述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	規則動詞の活用を覚える	30分
11	第一部 水6/17	日常生活 1	Unidad 4 前置詞 疑問詞1	
		この回の 到達目標	住んでいる場所、仕事をしている場所などについて質疑応答できる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 21 5	30分
12	第一部 水6/24	日常生活 2	Unidad 4 曜日	
		この回の 到達目標	自分や友人の日常生活について質疑応答できる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 24 8, 9	60分
13	第一部 水7/1	日常生活 3	Unidad 4 総復習	
		この回の 到達目標	自己紹介文を書くことができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	総復習	120分
14	第一部 水7/8	まとめ	期末試験 振り返り	
		この回の 到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
15	第一部 水7/15	まとめと復習	期末テストフィードバック	
		この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分
		事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える	30分

科目名	スペイン語 I B	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級スペイン語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なスペイン語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en imágenes	Eugenio del Prado他	朝日出版	2019年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	スペイン語圏の国の首都	Unidad 5 指示形容詞 動詞 estar①所在	
		この回の到達目標	estar動詞の活用を覚え、人やものの所在を言うことができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	前学期に学習した動詞とestarの活用を覚える	30分
2	第一部 水9/23	身の回りのものの所在 体調や気分を述べる	Unidad 5 hay estar②状態	
		この回の到達目標	身の回りのものの所在、体調や気分を述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 27 5	20分
3	第一部 水9/30	自分が住んでいる町	Unidad 5 ser, estar, hay, tenerの使い分け	
		この回の到達目標	自分が住んでいる町について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 30-4, 5	60分
4	第一部 水10/7	日常生活 4	Unidad 6 ir, ver, hacer, poner, salir	
		この回の到達目標	普段、どのくらいの頻度でテレビを見たり、出かけたりするか述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える	30分
5	第一部 水10/14	時刻・日付	Unidad 6 時間表現 疑問詞2	
		この回の到達目標	時間を言うことができる。 予定を述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 33 5	30分
6	第一部 水10/21	日常生活 5 サンティアゴへの巡礼	Unidad 6 既習の動詞や表現の復習と定着	
		この回の到達目標	自分の日常生活について時間や曜日の表現を使って述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 35 4	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	日常生活 6 したいことを伝える 依頼する	中間テスト Unidad 7 語幹母音変化動詞	
		この回の 到達目標	Unidad 6までの学習内容の定着	
		事前学修	Unidad 6までの復習	120分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える	30分
8	第一部 水11/11	天気 日付	Unidad 7 天候表現	
		この回の 到達目標	様々な場所の天候を述べることができる。 自分の誕生日を言ったり、友達の誕生日を聞くことができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 38 ちょこ練 p. 39 5	30分
9	第一部 水11/18	パーティでの会話	Unidad 7 直接目的人称代名詞	
		この回の 到達目標	直接目的人称代名詞を使うことができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 42 6, 9	60分
10	第一部 水11/25	買い物 1	Unidad 8 oir, venir, saber, conocer 衣類、色の表現	
		この回の 到達目標	衣類についての語彙を習得する	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える。	30分
11	第一部 水12/2	買い物 2	Unidad 8 関節目的人称代名詞	
		この回の 到達目標	スペイン語を使って買い物ができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 45 5	30分
12	第一部 水12/9	服装	Unidad 8 dar, decir, traer ガラパゴス諸島の動物	
		この回の 到達目標	自分や人が身につけている服装について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 48 7	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	まとめ	総復習	
		この回の到達目標	既習事項を復習し、分からないことがあれば、確認し、定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	総復習	120分
14	第一部 水12/23	まとめ	期末試験 振り返り	
		この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
15	第一部 水1/17	まとめと復習	試験のフィードバック	
		この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
		事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える。（30分）	30分

科目名	スペイン語ⅡA	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのスペイン語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったスペイン語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en imágenes	Eugenio del Prado他	朝日出版	2019年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	毎日の生活時間について話す	オリエンテーション・参考文献の紹介 スペイン語I レベルの復習 Unidad 9 再帰動詞	
		この回の到達目標	再帰動詞と再帰ではない動詞の区別ができるようになる。	
		事前学修	スペイン語Iの復習またはそれに相当するレベルのスペイン語の学習	60分
		事後学修	再起動詞の活用を覚える	30分
2	第一部 水4/15	誘う・断る	Unidad 9 再帰動詞のその他の用法 義務表現	
		この回の到達目標	友達を誘ったり、誘いを断ったりできる。	
		事前学修	新出単語調べ	20分
		事後学修	p. 51 5	30分
3	第一部 水4/22	毎日の生活時間について書く	Unidad 9	
		この回の到達目標	再帰動詞を使って質疑応答ができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 54 4, 5	30分
4	第一部 水4/29	好きなことについて話す	Unidad 10 前置詞格人称代名詞 gustar	
		この回の到達目標	gustarの使い方がわかる	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 55 ちょこ練 2	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
5	第一部 水5/6	興味があることを話す 体の痛いところを言う	Unidad 10 gustar 型の動詞 interesar, parecer, doler	
			Unidad 2 人称代名詞 動詞ser	
		この回の到達目標	gustar型の動詞を使って、興味や体の痛い場所について話せる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 57 5	30分
6	第一部 水5/13	友達と体調について話す	Unidad 10	
		この回の到達目標	体調が悪い友達にアドバイスができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	Unidad 9, 10の復習	60分
7	第一部 水5/20	試着する	中間試験 Unidad 11 比較、最上級	
		この回の到達目標	比較級、最上級を使い、意見が言える。	
		事前学修	Unidad 9-10 復習	120分
		事後学修	p. 63 1	30分
8	第一部 水5/27	友達について知る メキシコの都市 メキシコの行事	中間試験 FB Unidad 11 不定語 否定語	
		この回の到達目標	友達とスペインやラテンアメリカのことについて話す	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 63 6	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
9	第一部 水6/3	メキシコの都市	Unidad 11 感嘆文	
		この回の到達目標	感動を伝えることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 66 6	30分
10	第一部 水6/10	点過去	Unidad 12 点過去 規則動詞	
		この回の到達目標	規則動詞の点過去の活用を覚える。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	規則動詞の点過去の活用を覚える	30分
11	第一部 水6/17	昨日の出来事	Unidad 12 点過去 不規則動詞	
		この回の到達目標	昨日したことが話せる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 69 5	30分
12	第一部 水6/24	歴史	Unidad 12 数字 100-2000	
		この回の到達目標	歴史的出来事について簡単に述べることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 72 5	60分
13	第一部 水7/1	旅行	Unidad 12 総復習	
		この回の到達目標	今まで行った旅行について述べることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	総復習	120分
14	第一部 水7/8	まとめ	期末試験 振り返り	
		この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
15	第一部 水7/15	まとめと復習	期末テストフィードバック	
		この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分
		事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える	30分

科目名	スペイン語ⅡB	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのスペイン語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったスペイン語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en imágenes	Eugenio del Prado他	朝日出版	2019年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	過去の習慣	点過去の復習 Unidad 13 線過去	
		この回の到達目標	子供の頃のことについて述べるができる	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	線過去の活用を覚える	30分
2	第一部 水9/23	過去の出来事について述べる	Unidad 13 点過去と線過去	
		この回の到達目標	点過去と線過去を使い分けができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 75 2	30分
3	第一部 水9/30	ペルー、ボリビアの街	Unidad 13 直接話法・間接話法 数字10. 000 助数	
		この回の到達目標	直接話法の文（現在形、過去形）を間接話法に書き換えることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 75 5	30分
4	第一部 水10/7	経験	Unidad 14 過去分詞 現在完了	
		この回の到達目標	自分の経験について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える	30分
5	第一部 水10/14	過去の経験	Unidad 14 過去完了	
		この回の到達目標	過去のある時点よりも前に完了したこと、過去のある時点までの経験を述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 81 5	30分
6	第一部 水10/21	レストラン	Unidad 14 完了形のまとめ	
		この回の到達目標	レストランで注文、会計ができる	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	Unidad 13-14 復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	チリ、アルゼンチンの町	中間テスト Unidad 15 現在分詞 現在進行形	
		この回の到達目標	今していることについて述べることができる。	
		事前学修	Unidad 14までの復習	120分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える	30分
8	第一部 水11/11	家族の写真	Unidad 15 現在分詞のその他の用法	
		この回の到達目標	写真を見せながら家族について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 87 5	30分
9	第一部 水11/18	スペイン語圏のクリスマス	Unidad 15 関係代名詞 関係副詞	
		この回の到達目標	スペイン語でクリスマスの歌を歌うことができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 90 4, 5, 6	60分
10	第一部 水11/25	将来	Unidad 16 未来形	
		この回の到達目標	将来について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える。	30分
11	第一部 水12/2	占い	Unidad 16 過去未来	
		この回の到達目標	過去未来形を使った様々な表現が使える。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 93 5	30分
12	第一部 水12/9	50年後の世界	Unidad 16 未来形、過去未来形のまとめ	
		この回の到達目標	未来の世の中について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 96 3, 4	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	まとめ	総復習	
		この回の到達目標	既習事項を復習し、分からないことがあれば、確認し、定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	総復習	120分
14	第一部 水12/23	まとめ	期末試験 振り返り	
		この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
15	第一部 水1/17	まとめと復習	試験のフィードバック	
		この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
		事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える。（30分）	30分

科目名	韓国語ⅠA	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級韓国語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易な韓国語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 初級	李昌圭	朝日出版社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜14：30～、金曜14：30～ 授業終了後の講堂にて cuch1113@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6 第一部 金 4/10	韓国語と「ハングル」文字	韓国語の特徴と「ハングル」文字の仕組みを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、韓国語全般について理解する。	
		事前学修	1課の韓国語と文字を読む。	30分
		事後学修	復習。	30分
2	第一部 月4/13 第一部 金 4/17	基本母音	基本母音字と発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、基本母音字を覚える	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
3	第一部 月4/20 第一部 金 4/24	基本子音	基本子音字と発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、基本子音字と発音を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
4	第一部 月4/27 第一部 金 5/1	合成子音と合成母音	合成子音字と合成母音字の発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、合成子音字と合成母音字の発音を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
5	第一部 月5/4 第一部 金 5/8	終声子音	終声に使われる子音の発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、終声に使われる子音の発音を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
6	第一部 月5/11 第一部 金 5/15	連音化	連音化を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、連音化を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18 第一部 金 5/22	人称代名詞と自己紹介	第10課 私は学生です。 ・人称代名詞と自己紹介の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞と自己紹介の表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。（30分）	30分
8	第一部 月5/25 第一部 金 5/29	指示代名詞と体言の否定表現	第11課 これは何ですか。 ・指示代名詞と体言の否定表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞と体言の否定表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	第一部 月6/1 第一部 金 6/5	家族名称	第12課 この人は誰ですか。 ・家族名称を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、家族名称を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	第一部 月6/8 第一部 金 6/12	ここまでの振り返り	第13課 復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、10課から12課までの内容を復習する。	
		事前学修	読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
11	第一部 月6/15 第一部 金 6/19	位置関係の語と存在の表現	第14課 教室に何がありますか。 ・位置関係の語と存在の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、位置関係の語と存在の表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	第一部 月6/22 第一部 金 6/26	丁寧形表現	第15課 何をしますか。 ・丁寧形表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、丁寧形表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29 第一部 金 7/3	時間関係の語と尊敬形表現	第16課どこへ行かれますか。 ・時間関係の語と尊敬形表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時間関係の語と尊敬形表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	第一部 月7/6 第一部 金 7/10	ここまでの振り返り	第17課復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、14課から16課までの内容を復習する。	
		事前学修	読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
15	第一部 月7/13 第一部 金 7/17	期末試験	期末試験及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
		事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
		事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語 I B	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。ハングル検定5級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級韓国語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
韓国語の文字が読めること。

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易な韓国語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 初級	李昌圭	朝日出版社	2012		
備考					

【オフィスアワー】
月曜14：30～、金曜14：30～ 授業終了後の講堂にて cuch1113@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14 第一部 金9/18	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
2	第一部 月9/21 第一部 金9/25	5級検定対策	ハングル検定対策出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を開き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
3	第一部 月9/28 第一部 金10/2	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を開き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
4	第一部 月10/5 第一部 金10/9	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を開き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
5	第一部 月10/12 第一部 金10/16	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を開き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
6	第一部 月10/19 第一部 金10/23	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を開き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26 第一部 金10/30	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
8	第一部 月11/9 第一部 金11/6	過去形	第18課 昨日何をしましたか。 ・過去形表現と連結語尾を練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形表現と連結語尾を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	第一部 月11/16 第一部 金11/13	漢数字	第19課 試験はいつですか。 ・漢数字と年月日の言い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、漢数字と年月日の言い方を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	第一部 月11/23 第一部 金11/20	固有数字	第20課 いま何時ですか。 ・固有数字と時刻の言い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、固有数字と時刻の言い方を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	第一部 月11/30 第一部 金11/27	ここまでの振り返り	21課 復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、18課から20課までの内容を復習する。	
		事前学修	読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
12	第一部 月12/7 第一部 金12/4	打ち解けた丁寧形	第22課 いくらですか。 ・丁寧、尊敬形と数量表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、打ち解けた丁寧・尊敬形と数量表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14 第一部 金12/11	提案と希望表現	第23課 何を食べましょうか。 ・提案、勧誘の表現と希望、願望の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、提案、勧誘の表現と希望、願望の表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	第一部 月12/21 第一部 金12/18	ここまでの振り返り	第24課 復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、22課と23課の内容を復習する。	
		事前学修	読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
15	第一部 月1/18 第一部 金12/25	期末試験	期末試験及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
		事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
		事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語ⅡA	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルの韓国語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
20時間以上の学習を終えた人

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまった韓国語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 中級	李昌圭	朝日出版社	2013		
備考					

【オフィスアワー】
月曜16：10～ 授業終了後の講堂にて cuch1113@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	理由・原因の表現	1課 理由、原因の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、理由、原因の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
2	第一部 月4/13	否定の表現	1課 否定の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、否定の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
3	第一部 月4/20	決定・約束の表現	1課 決定、約束の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、決定、約束の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
4	第一部 月4/27	仮定・条件の表現	2課 仮定、条件の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定、条件の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
5	第一部 月5/4	連体形	2課 連体形の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連体形の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
6	第一部 月5/11	確認・状況説明の表現	3課 確認、状況説明の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、確認、状況説明の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	根拠・約束の表現	3課 根拠、約束の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、根拠、約束の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
8	第一部 月5/25	前提・前置きの表現	5課 前提、前置きの表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前提、前置きの表現を覚える	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	第一部 月6/1	禁止の表現	5課 禁止の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、禁止の表現を覚える	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	第一部 月6/8	意図・同時進行の表現	6課 意図、同時進行の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、意図、同時進行の表現を覚える	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	第一部 月6/15	可能形	6課 可能の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、可能の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	第一部 月6/22	推測の表現	7課 推測の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推測の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	感嘆形	7課 感嘆の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、感嘆の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	第一部 月7/6	伝聞・間接表現	7課 伝聞の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、伝聞の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
15	第一部 月7/13	期末試験	期末試験及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
		事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
		事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語ⅡB	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。ハングル検定4級レベル対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルの韓国語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
30時間以上の学習を終えた人

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまった韓国語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 中級	李昌圭	朝日出版社	2013		
備考					

【オフィスアワー】
月曜16：10～ 授業終了後の講堂にて cuchl1113@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
2	第一部 月9/21	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
3	第一部 月9/28	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
4	第一部 月10/5	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
5	第一部 月10/12	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
6	第一部 月10/19	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
8	第一部 月11/9	能力・経験の表現	9課 能力の有無と経験の有無の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、能力の有無と経験の有無の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	第一部 月11/16	中断・転換の表現	9課 中断、転換の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中断、転換の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	第一部 月11/23	当然・制限の表現	10課 当然、必要と禁止、制限の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当然、必要と禁止、制限の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	第一部 月11/30	許容の表現	10課 許容、許可の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、許容、許可の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	第一部 月12/7	資格の表現	11課 資格の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、資格の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	例示の表現	11課 例示の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、例示の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	第一部 月12/21	待遇表現	11課 待遇表現の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、待遇表現の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
15	第一部 月1/18	期末試験	期末試験及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
		事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
		事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	ロシア語ⅠA	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級ロシア語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
外国語、外国の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもてること。

【授業方法】
教科書に沿ってロシア語の文字からゆっくりと覚えていきます。基本となる文法の構造を知りながら、初級ロシア語の基礎を着実に身につけるためのトレーニングをします。また、ロシアを知るための映像を見たり、レクチャーも行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロシア文化について関心のあるテーマを選び、短い発表を行いましょう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なロシア語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日の文法のポイントを小レポートとしてまとめてもらい、次回に添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
備考	辞書については教場で紹介・説明予定。				

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス： ロシア語とはどんな言語か	ロシア語の歴史や特徴、現在ロシア語が使える国々について解説する。	
		この回の 到達目標	ロシア語に使われているキリル文字の由来について知る。	
		事前学修	教科書を購入し、シラバスを確認しておく。	30分
		事後学修	教科書pp. 8-10（ロシアについての基礎知識）を読む。	30分
2	第一部 水4/15	アルファベットについて知る	アルファベットの名称と書き方	
		この回の 到達目標	ロシア語のアルファベットの名称を覚え、書けるようになる。	
		事前学修	教科書p. 11を見ながら音源2を3回聞く。	30分
		事後学修	アルファベットをすべて覚える。	30分
3	第一部 水4/22	文字と発音（母音）	10の母音の発音をマスターする	
		この回の 到達目標	10の母音をすべてマスターし、正しく発音できるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 12-13に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	母音の発音が正確にできるか確認しつつ宿題のプリントで練習する。	30分
4	第一部 水4/29	文字と子音の発音	22の子音の発音をマスターする。	
		この回の 到達目標	子音の音価を覚え、常に正確な発音ができるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 14-17に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	母音・子音すべての音を正確に発音できるか確認しつつ宿題のプリントを解きながら練習する。	60分
5	第一部 水5/6	A=Bの構文とイントネーション	「これは〇〇です」「これは〇〇ですか？」の構文とイントネーション。	
		この回の 到達目標	A=Bです、A=Bですか？というもっとも基本的な構文の文法を学び、平叙文と疑問文の正確なイントネーションを身につける。	
		事前学修	教科書pp. 18-19に目を通し、音源を聞きながら本文の発音を反復してみる。	30分
		事後学修	宿題のプリントにある作文に取り組む。	30分
6	第一部 水5/13	人称代名詞	人称代名詞6つ、「〇〇は～ではない」の構文、基本的な挨拶（こんにちは、はじめまして、おはようございます、こんばんは）の言い方。	
		この回の 到達目標	人称代名詞6つの区別と正しい発音を覚える。基本の否定文の構造とイントネーションを学ぶ。日常的に使う挨拶の表現を覚える。	
		事前学修	教科書pp. 22-23に目を通し、音源を聴きながら本文の発音と繰り返し、1課で学んだ肯定文との違いを考えてみる。	30分
		事後学修	教科書pp. 26-27の練習問題を解き、新しく出てきた単語を覚える（宿題）。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	所有代名詞	所有代名詞、指示代名詞の種類と使い方	
		この回の到達目標	所有代名詞（私の、あなたの）と指示代名詞（この）の種類を覚え、名詞とともに正しい形で使えるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 28-29に目を通し、音源を少なくとも3回聞いておく。	40分
		事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	60分
8	第一部 水5/27	形容詞	名詞の性、形容詞の使い方	
		この回の到達目標	名詞の性の見分け方を覚え、名詞に形容詞をつける場合に、性に応じて3種類の語尾変化を正確に行うことができるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 32-35に目を通しておく。	40分
		事後学修	教科書pp. 36-37の練習問題を解き（宿題）、pp. 38-39の単語を書いて覚える。	60分
9	第一部 水6/3	動詞の変化	動詞の現在形、第1変化のかたち	
		この回の到達目標	動詞の現在人称変化のうち、もっとも多い第1変化のかたちを習得する。	
		事前学修	教科書pp. 40-41に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	宿題のプリントにある動詞をすべて正確に現在人称変化させる。	40分
10	第一部 水6/10	動詞の第2変化、名詞の複数形	動詞の現在形、第2変化のかたち。名詞の複数形の作り方。	
		この回の到達目標	動詞の現在人称変化の第2変化のかたちをマスターし、第1変化と正確に区別できるようにする。さらに、名詞の複数形の作り方の規則を覚える。	
		事前学修	教科書pp. 44-45に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	教科書pp. 48-49の練習問題を解く（宿題）。	40分
11	第一部 水6/17	名詞の格変化：前置格	名詞の格変化と前置詞в, на, о. – с я動詞の現在人称変化の仕方。	
		この回の到達目標	名詞の格の概念について知り、前置格の用法と格変化の仕方を覚える。また、よく使われる– с я動詞の現在形の変化形もマスターする。	
		事前学修	教科書pp. 50-51に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	宿題のプリントにある練習問題を正確に解き、前置格の格変化をしっかりと復習する。	40分
12	第一部 水6/24	所有の表現、命令形	「私は○○をもっています」の構文。動詞の命令形の作り方。	
		この回の到達目標	「私は○○をもっています」の特殊な文法を理解し、さまざまな表現が言えるようになる。さらに、依頼の際によく用いる動詞の丁寧な命令形の作り方を身につける。	
		事前学修	教科書pp. 54-55に目を通すとともに、動詞の第1変化、第2変化を復習しておく。	40分
		事後学修	教科書pp. 58-59の練習問題を正確に解く（宿題）。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 水7/1	名詞の対格		名詞の格変化、対格とは何か。
		この回の到達目標	動詞の直接目的語となる対格の用法と変化の仕方についてマスターする。	
		事前学修	教科書pp. 60-61に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	動詞пи с а т ьの現在人称変化を暗記する。	20分
14	第一部 水7/8	これまでのまとめと復習		これまでに学習した文法事項の総復習と応用。
		この回の到達目標	既習の文法を整理し、忘れているところ、理解不足の点を補強して基礎文法の土台を確実なものにする。	
		事前学修	教科書1-9課までを復習してくること。	60分
		事後学修	授業中に配布したプリントの練習問題をすべて確実に解けるよう復習する。	60分
15	第一部 水7/15	理解度の確認と解説		試験とその後の解説、間違った箇所の復習。
		この回の到達目標	基本の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
		事前学修	既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	120分
		事後学修	試験の解答の見返し、教科書と照らし合わせての復習。	60分

科目名	ロシア語ⅠB	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級ロシア語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
外国語、外国の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもてること。

【授業方法】
教科書に沿ってロシア語の文字からゆっくりと覚えていきます。基本となる文法の構造を知りながら、初級ロシア語の基礎を着実に身につけるためのトレーニングをします。また、ロシアを知るための映像を見たり、レクチャーも行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロシア文化について関心のあるテーマを選び、短い発表を行いましょう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なロシア語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日の文法のポイントを小レポートとしてまとめてもらい、次回に添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
備考	辞書については教場で紹介・説明予定。				

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 水9/16	運動の動詞	動詞идтиを用いた「○○へ行く」の構文と行き先の表現。
		この回の到達目標	運動の動詞идтиを用いた「○○へ行く」という構文の作り方と、前置詞в、наとともに行き先を示す対格の用法を習得する。また、動詞хотетьを用いた「～したい」という表現も身につける。
		事前学修	教科書pp. 64-65に目を通し、動詞идтиとхотетьの現在人称変化を暗記する。40分
		事後学修	教科書pp. 68-69の練習問題を解き、pp. 70-71の「単語力アップ」の単語を暗記する。80分
2	第一部 水9/23	動詞の時制：過去形	動詞の過去形の作り方。「勉強する」を意味する動詞。
		この回の到達目標	動詞の過去時制の作り方を覚える。また「勉強する」を意味する3つの動詞、учиться, заниматься, изучатьの使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選べるようになる。
		事前学修	教科書pp. 80-81に目を通し、音源を聞いておく。30分
		事後学修	教科書pp. 84-85の練習問題を解く（宿題）。40分
3	第一部 水9/30	動詞の時制：未来形	動詞の未来形の作り方。動詞болеть「痛い」の用法。
		この回の到達目標	動詞の未来形の作り方を覚える。「○○が痛い」という構文を理解し、体のいろいろな部位を示す語とともに表現できるようになる。よく使う不規則動詞の変化も学ぶ。
		事前学修	教科書pp. 86-87に目を通し、動詞пить（飲む）、есть（食べる）、петь（歌う）、танцевать（踊る）の現在変化を暗記する。40分
		事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。40分
4	第一部 水10/7	名詞の格変化：生格	生格の用法：所有、否定生格。交通手段の表現。
		この回の到達目標	名詞の生格の用法：1)所有や所属、2)否定生格を理解し、格変化の仕方を覚える。また、交通手段を示す「на＋前置格」を使った作文ができるようになる。
		事前学修	教科書pp. 90-91に目を通し、音源を聞いておく。30分
		事後学修	教科書pp. 94-95の練習問題を解く（宿題）。40分
5	第一部 水10/14	単語力・表現力アップ	時を表すさまざまな表現。
		この回の到達目標	一週間の曜日、12カ月、朝・昼・晩・夜、四季、今年・去年・来年など、時を表す表現を覚える。
		事前学修	教科書pp. 96-97にじっくりと目を通し、音源を少なくとも2回は聞いてくる。60分
		事後学修	宿題のプリントにある練習問題を正確に解いてくる。40分
6	第一部 水10/21	名詞の格変化：与格	名詞の与格の用法と作り方。代名詞の与格。
		この回の到達目標	名詞の与格の用法と格変化の仕方を学ぶ。また、人称代名詞の与格も覚え、можноとともに「～でもいい」という許可の表現ができるようになる。
		事前学修	教科書pp. 98-99に目を通し、音源を聞いておく。30分
		事後学修	すでに出てきた前置格・対格・生格・与格を整理する。40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	名詞の格変化：造格	名詞の造格の用法と作り方。必要の表現。	
		この回の到達目標	名詞の造格の用法（手段、～と共に、～なしで）と格変化の仕方を学ぶ。無人称述語 нужно を用いた「～しなければならない」という必要を示す構文も覚える。	
		事前学修	教科書pp. 102-105に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書pp. 106-107の練習問題を解く（宿題）。	40分
8	第一部 水11/11	形容詞の格変化 活動名詞の対格	形容詞の格変化のルールと変化の仕方。活動名詞（人間と動物を表す語）の対格の変化。	
		この回の到達目標	形容詞の格変化のルールを理解し、変化の仕方を覚え、名詞とともに正確なフレーズを作ることができるようになる。また、人間と動物を表す活動名詞の対格の変化形を覚え、作文できるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 108-109に目を通し、さらにp. 110の格変化表を暗記する。	40分
		事後学修	宿題のプリントにある練習問題を正確に解く。	40分
9	第一部 水11/18	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体と不完了体の意味と用法。「似ている」の構文。	
		この回の到達目標	動詞の完了体と不完了体の区別の仕方と使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選択できるようになる。「似ている」を示す形容詞 похожий の使い方を覚える。	
		事前学修	教科書pp. 112-113に目を通し、p. 114にある新しい動詞7つの不定形と意味を暗記する。	40分
		事後学修	教科書pp. 116-117の練習問題を解く（宿題）。	30分
10	第一部 水11/25	単語力・表現力アップ	数詞の発音。さまざまな前置詞の用法。	
		この回の到達目標	数詞（0～2000）の正しい発音と合成数詞の作り方を習得する。さまざまな前置詞の格支配を知り、さらに豊かな表現ができる力をつける。	
		事前学修	教科書pp. 118-119に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	数詞1～100までを暗記する。	40分
11	第一部 水12/2	完了体動詞の未来時制	完了体動詞の未来形の作り方と意味。無人称述語 нельзя の構文。	
		この回の到達目標	完了体動詞の現在形は未来時制となることを理解する。無人称文の述語 нельзя を用いて「～してはいけない」という禁止の表現ができるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 120-121に目を通した上で、p. 122の動詞 помочь の変化を覚えておく。	30分
		事後学修	教科書p. 123にある例文をすべて暗記する。	30分
12	第一部 水12/9	仮定法	仮定法の作り方。「気に入る」の表現。	
		この回の到達目標	仮定法の助詞 бы の用法と、仮定法の構文の作り方を覚える。「気に入る」を意味する動詞 нравиться の用法を理解する。	
		事前学修	教科書pp. 124-125に目を通し、p. 126の「述語の造格」の解説をしっかりと読んでおく。	30分
		事後学修	教科書pp. 128-129の練習問題を解く（宿題）。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 12/16	アクティブ・ラーニング	ロシア文化について関心のあるテーマを選び短い発表を行う。	
		この回の到達目標	ロシアについて関心のあるテーマを選び、メディアや出版物などから興味のある情報を得てまとめ、プレゼンするスキルを養う。また、他の人の発表を聞き、疑問点や思ったことを発言する経験をもつ。	
		事前学修	情報収集、レジュメや原稿の準備を各自行う。	120分
		事後学修	他の人たちからの質問やコメントを糧に、さらに思考を深めていく。	30分
14	第一部 水 12/23	これまでのまとめと復習	後期で学習したことの総復習。	
		この回の到達目標	既習の文法を整理し、忘れているところ、理解不足の点を補強して基礎文法の土台を確実なものにする。	
		事前学修	教科書10-20課を中心に総復習をしてくる。	120分
		事後学修	授業中に配布したプリントの練習問題をすべて確実に解けるよう復習する。	120分
15	第一部 水1/13	理解度の確認と解説	試験とその後の解説、間違った箇所の復習。	
		この回の到達目標	基本の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
		事前学修	既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	120分
		事後学修	試験の解答の見返し、教科書と照らし合わせての復習。	60分

科目名	ロシア語ⅡA	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのロシア語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
ロシア語、ロシア語圏の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもっていること。

【授業方法】		
まず初めに発音の規則から初級文法の復習をひと通り行い、同時に辞書の引き方を身につける。その後、簡単な読み物の講読を通して、習得した文法の基礎を使いこなすスキルを磨く。さらに、中級の文法を学び、最終的にはネットや新聞などの記事を読む技術とコツを身につけていく。また、より深い文化や歴史を理解するために、映像や音楽、絵画、文学、料理など履修者の関心に合わせて文化的なことも毎回紹介していく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったロシア語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日に使用したプリントを提出してもらい、添削して次回の授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
プログレッシブロシア語辞典	中澤英彦	小学館	2014年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンスと発音復習	授業の進め方についてガイダンス、各履修者の希望とレベルをチェック。	
		この回の到達目標	ロシア語のアルファベットの発音を復習し再確認する。	
		事前学修	初級の教科書のCDを聞きながら、アルファベットの発音を復習しておく。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントでさらに発音の復習。	30分
2	第一部 水4/15	基本の構文	「A=Bです」「A=Bではありません」、挨拶の表現。	
		この回の到達目標	基本の肯定文と否定文の構文をおさらいし作文できるようになる。また、基本の挨拶：「こんにちは」「おはようございます」「こんばんは」「さようなら」なども覚える。	
		事前学修	初級の教科書1課2課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
3	第一部 水4/22	動詞の現在変化	動詞の第1変化、第2変化。人称代名詞。	
		この回の到達目標	動詞の現在人称変化を第1変化、第2変化ともに確実にできるようになる。6つの人称代名詞を主語にして現在形の簡単な文章が言えるようになる。	
		事前学修	初級の教科書5課6課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
4	第一部 水4/29	名詞の性、複数形	名詞の性の区別と複数形の作り方。	
		この回の到達目標	名詞の性の見分け方を覚える。複数形の作り方、不規則な複数形をもつ名詞で使用頻度が高いものを覚える。	
		事前学修	初級の教科書4課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
5	第一部 水5/6	所有代名詞、指示代名詞	所有代名詞の種類と指示代名詞の使用法。	
		この回の到達目標	人称代名詞ごとの所有代名詞を覚え、名詞の性・数に合わせて適切な所有代名詞を選べるようになる。指示代名詞も同様に、名詞の性・数に合わせて4つの中から適切なものを正確に選べるようにする。	
		事前学修	初級の教科書3課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
6	第一部 水5/13	形容詞	形容詞主格の語尾変化。	
		この回の到達目標	名詞の性・数に合わせて形容詞の語尾が4種類に変化することを理解し、常に適切な変化ができるようにする。	
		事前学修	初級の教科書4課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	名詞の格変化：前置格	名詞の前置格の用法と変化の仕方。場所の表現。	
		この回の到達目標	名詞の前置格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。前置格を用いた場所の表現ができるようになる。	
		事前学修	初級の教科書7課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
8	第一部 水5/27	名詞の格変化：対格	名詞の対格の用法と変化の仕方。	
		この回の到達目標	名詞の対格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。対格を目的語とする主語＋動詞・目的語の構文を言えるようになる。	
		事前学修	初級の教科書9課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
9	第一部 水6/3	名詞の格変化：生格	名詞の生格の用法と変化の仕方。所有・所属の表現。	
		この回の到達目標	名詞の生格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。また、否定生格の意味を理解し、非存在の意味をもつ文章を言えるようになる。	
		事前学修	初級の教科書14課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
10	第一部 水6/10	名詞の格変化：与格	名詞の与格の用法と変化の仕方。無人称文。	
		この回の到達目標	名詞の与格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。また、人称代名詞の格変化を学ぶとともに、無人称文の意味と用法を理解する。	
		事前学修	初級の教科書15課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
11	第一部 水6/17	名詞の格変化：造格	名詞の造格の用法と変化の仕方。	
		この回の到達目標	名詞の造格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。	
		事前学修	初級の教科書16課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
12	第一部 水6/24	動詞の時制・過去形	動詞の過去時制を用いた作文。	
		この回の到達目標	主語の性・数に応じて動詞を正確に過去時制にし、名詞の格変化と合わせて作文できるようになる。	
		事前学修	初級の教科書11課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	動詞の時制・未来形	動詞の未来時制を用いた作文。	
		この回の到達目標	主語の人称に応じて動詞を正確に未来時制にし、名詞の格変化と合わせて作文できるようになる。	
		事前学修	初級の教科書13課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
14	第一部 水7/8	所有の表現	ゞ＋生格を用いた所有の表現。	
		この回の到達目標	前置詞ゞを用いた所有の表現における主語と、生格で示される所有者の機能を正しく把握し、作文できるようになる。また、「もっていない」を示す否定生格も正確に表現できるようにする。	
		事前学修	初級の教科書8課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
15	第一部 水7/15	理解度の確認と解説	試験とその後の解説、間違った箇所の復習。	
		この回の到達目標	既習の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
		事前学修	授業中に使用したプリントと初級の教科書を使って、既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	60分
		事後学修	試験の解答の見返しと復習。	30分

科目名	ロシア語ⅡB	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのロシア語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
ロシア語、ロシア語圏の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもっていること。

【授業方法】		
まず初めに発音の規則から初級文法の復習をひと通り行い、同時に辞書の引き方を身につける。その後、簡単な読み物の講読を通して、習得した文法の基礎を使いこなすスキルを磨く。さらに、中級の文法を学び、最終的にはネットや新聞などの記事を読む技術とコツを身につけていく。また、より深い文化や歴史を理解するために、映像や音楽、絵画、文学、料理など履修者の関心に合わせて文化的なことも毎回紹介していく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったロシア語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日に使用したプリントを提出してもらい、添削して次回の授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
プログレッシブロシア語辞典	中澤英彦	小学館	2014年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	運動の動詞	動詞идтиを用いた「〇〇へ行く」の構文と行き先の表現。	
		この回の到達目標	運動の動詞идтиを用いた「〇〇へ行く」という構文の作り方と、前置詞в、наとともに行き先を示す対格の用法を習得する。また、動詞хотетьを用いた「～したい」という表現も身につける。	
		事前学修	初級の教科書10課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
2	第一部 水9/23	主語のない構文：不定人称文	不定人称文、受身の表現。	
		この回の到達目標	名前を名乗ったり、「～されている」という表現を作る不定人称文という構文を知り、言えるようになる。	
		事前学修	指示した動詞の現在変化を言えるようにしておく。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
3	第一部 水9/30	主語のない文章：無人称文	無人称文。気候、許可、禁止、義務、可能の表現。	
		この回の到達目標	主語をとらない無人称文はどんなときに、どのように使うのかを正しく把握し、正確に言えるようになる。	
		事前学修	人称代名詞の格変化を復習してくる。	20分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
4	第一部 水10/7	講読：簡単な読み物	読み物「私の家族」「日本について」の講読。	
		この回の到達目標	基本の文法事項を使って、教科書の読み物を正確に読みとき、美しい日本語に訳すことができるようになる。	
		事前学修	初級の教科書p. 140、p. 142の読み物を辞書を丁寧に読み日本語に訳す。その際、名詞の格や動詞の時制と体に留意することを常に意識する。	40分
		事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
5	第一部 水10/14	動詞の完了体・完了体	動詞の完了体と完了体の意味と用法。	
		この回の到達目標	動詞の完了体と完了体の区別の仕方と使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選択できるようになる。体の機能を理解した上で正確な作文ができる。	
		事前学修	初級の教科書18課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
6	第一部 水10/21	数詞の決まり	個数詞と順序数詞の用法。	
		この回の到達目標	数詞をめぐる文法を学び、数詞と名詞の結合を正確にできるようにする。文の中に数詞を用いた表現を入れ、より豊かな表現ができるようになる。	
		事前学修	初級の教科書p. 118を復習し、1～1000までの数詞の発音をチェックする。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	関係代名詞	関係代名詞 к о т о р ы й の用法。	
		この回の到達目標	関係代名詞 к о т о р ы й の機能と変化の仕方を覚える。二つの文章を関係代名詞を用いてひとつにすることができるようになる。関係代名詞を用いた文を正確に和訳できるようにする。	
		事前学修	事前に配布したプリントを辞書を引きながら露文和訳してくる。	40分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
8	第一部 水11/11	講読：短編	短い物語の講読と露文和訳。	
		この回の到達目標	数詞や関係代名詞が含まれた文章を、基本の文法事項の知識と辞書を使って美しい日本語に訳すことができるようになる。	
		事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら和訳してくる。	40分
		事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
9	第一部 水11/18	仮定法	仮定法の意味と作り方。	
		この回の到達目標	仮定法の助詞 б ы の用法と、仮定法の構文の作り方を覚える。仮定法の文章を正しく和訳できるスキルを身につける。	
		事前学修	初級の教科書20課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
10	第一部 水11/25	形動詞：能動形動詞	能動形動詞現在・過去の機能と用法。	
		この回の到達目標	能動形動詞現在・過去の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
		事前学修	関係代名詞について復習をしてくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題のテキストを訳す。	60分
11	第一部 水12/2	形動詞：受動形動詞	受動形動詞現在・過去の機能と用法。	
		この回の到達目標	受動形動詞現在・過去の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
		事前学修	配布したテキストを辞書を引きながら訳してくる。	60分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題のテキストを訳す。	30分
12	第一部 水12/9	講読：インターネットの記事	インターネット上のニュース記事を読む。	
		この回の到達目標	形動詞が用いられたジャーナリズムの文章を、辞書を引きながら読み解く。実際のテキストで用いられている生きたロシア語に触れ、これまでの文法がどのように使用されているかを把握する。	
		事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら訳す。	60分
		事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 12/16	講読：社会批評	社会批評の記事を読む。	
		この回の到達目標	比喻や風刺などが含まれた実際の社会批評を辞書を引きながら読み解く。	
		事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら訳す。	60分
		事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
14	第一部 水 12/23	副動詞	副動詞：完了体・不完了体の機能と用法	
		この回の到達目標	完了体副動詞・不完了体副動詞の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
		事前学修	配布したテキストを辞書を引きながら訳してくる。	60分
		事後学修	授業で使用了プリントの復習と課題のテキストを訳す。	30分
15	第一部 水1/13	理解度の確認と解説	初見のテキストの訳出、解説と復習。	
		この回の到達目標	辞書を引きながら初見のテキストを正確、迅速に和訳することのできる集中力と基本文法の応用力を磨く。	
		事前学修	既習の文法事項の総復習をしてくる。	60分
		事後学修	自身の読解力の評価を行い、苦手な文法事項を知ってさらなる強化を。	40分

IV群

体育实技科目

IV群

体育实技科目

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	岩本 良裕	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
実技の授業であるので、トレーニングウェアとトレーニングシューズが必要です。運動終了後シャワーが利用できます。

【授業方法】
毎回トレーニングメニューに従い、自分のペースでトレーニングを進めます。エアロバイクやランニングマシンでトレーニングを行う際には、ワークマン等を使用しても構いません。水分摂取も適宜行ってください。内容によっては多目的コートを使用することもあります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎授業ごとに記録されるトレーニングカードについてチェックし、講評・助言を行い、サポートしていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
毎週金曜日4時限 2号館地下

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 金4/10	ガイダンス トレーニングとは	[ガイダンス] 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明	
		この回の 到達目標	トレーニングの目的・方法・評価方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	健康と運動の意義について調べる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第一部 第二部 金4/17	体力測定	体力測定、体脂肪測定	
		この回の 到達目標	体力測定の意義や方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	体力の構成要素について調べる。	30分
		事後学修	授業を振り返り、ダイアグラムに基づき自分の体力の特性について確認する。	30分
3	第一部 第二部 金4/24	トレーニング方法 ストレッチング	シェープアップのためのトレーニング方法とストレッチングの方法	
		この回の 到達目標	トレーニングの方法とストレッチングの方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	自分の体力特性に基づき、トレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
4	第一部 第二部 金5/1	エアロビクトレーニング	シェープアップトレーニング 1 エアロビクトレーニング(1)	
		この回の 到達目標	エアロビクトレーニングの意義と方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
5	第一部 第二部 金5/8	エアロバイク	シェープアップトレーニング 2 エアロビクトレーニング(2) エアロバイク	
		この回の 到達目標	エアロビクトレーニング（エアロバイク）の使用方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
6	第一部 第二部 金5/15	ランニングマシン	シェープアップトレーニング 3 エアロビクトレーニング(3) ランニングマシン	
		この回の 到達目標	エアロビクトレーニング（ランニングマシン）の使用方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 金5/22	体幹トレーニングの意義	シェーブアップトレーニング 4 体幹部強化メニュー(1) 意義と方法	
		この回の到達目標	体幹部強化トレーニングの意義と方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
8	第一部 第二部 金5/29	体幹トレーニングの方法	シェーブアップトレーニング 5 体幹部強化メニュー(2) 体幹トレーニングの方法	
		この回の到達目標	体幹トレーニングの方法を理解し、実践することにより、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
9	第一部 第二部 金6/5	体幹トレーニング負荷の上げ方	シェーブアップトレーニング 6 体幹部強化メニュー(3) 負荷の上げ方	
		この回の到達目標	体幹トレーニングにおいて、負荷を上げる方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。い。	30分
10	第一部 第二部 金6/12	下肢筋力強化トレーニングの意義	シェーブアップトレーニング 7 下肢筋力強化トレーニング(1) 意義と方法	
		この回の到達目標	下肢筋力強化トレーニングの意義と方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
11	第一部 第二部 金6/19	下肢筋力強化トレーニングの方法	シェーブアップトレーニング 8 下肢筋力強化メニュー(2) トレーニング方法	
		この回の到達目標	下肢筋力トレーニングを実践し、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
12	第一部 第二部 金6/26	上肢筋力強化トレーニングの意義	シェーブアップトレーニング 9 上肢筋力強化メニュー(1) 意義と方法	
		この回の到達目標	上肢筋力強化トレーニングの意義と方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 金7/3	上肢筋力強化トレーニングの方法	シェープアップトレーニング 1 0 上肢筋力強化メニュー(2) トレーニング方法	
		この回の到達目標	上肢筋力トレーニングを実践し、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
14	第一部 第二部 金7/10	体力測定	シェープアップトレーニング 1 1 体力測定、体脂肪測定	
		この回の到達目標	体力測定を行い、自己の体力の現状を理解する。。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
15	第一部 第二部 金7/17	まとめ	[まとめ] 授業を振り返り、講評し、今後の課題等について解説する。	
		この回の到達目標	体力トレーニングの意義について、再確認する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、トレーニングカードに基づきグラフを作成して、トレーニング効果を確認する。	30分
		事後学修	半期の授業を振り返り、来期の授業に向けて課題を確認する。	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動やスポーツが不得意な人を優先する。受講時は必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。自他の怪我や自己防止のため、アクセサリ類は全て外し、健康管理に留意した上で、遅刻をしないように出席すること。条件に満たない者の履修は許可しない。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況や出席者数・天候により授業内容の変更もある。授業は2号館体育場およびトレーニングルームを使用するが、内容によっては多目的コートを使用することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でレポートの講評および解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考	使用せず、必要に応じて資料を配布する。				

【オフィスアワー】
土曜授業（1・2限）前後の時間帯にて対応する。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部土 4/4	【ガイダンス】【授業内容 および履修条件の確認】	年間の授業展開、履修上の留意点及び評価方法などのガイダンス、履修カードの作成	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、本授業において取り組むべき運動内容の把握、および授業に臨む姿勢や求められる服装・態度を理解する。	
		事前学修	事前にシラバスの内容を理解し、遅刻をしないよう出席すること（30分）	30分
		事後学修	次週の授業のための運動着や提出物の準備・睡眠を取り、体調を整えること（30分）	30分
2	第一部土 4/11	【アイスブレイクと身体ほぐし】	体力カード、プリントの配布、身体ほぐし、各種トレーニング器具使用方法の説明と実践	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、仲間とコミュニケーションをとりながら、自身の身体をほぐし、自身の心と身体の現状について感覚的に確かめる。	
		事前学修	提出物の作成と、健康についての情報を得ること（30分）	30分
		事後学修	ストレッチ方法を自分なりに調べ、理解し実践に移すこと（30分）	30分
3	第一部土 4/18	【身体組成の測定および把握】	ストレッチ、健医チェック	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、体組成データを測定し、現状を把握すると共に、課題および改善点を踏まえて目標を設定する。	
		事前学修	日常生活の中でストレッチを15～30分行い習慣とすること（30分）	30分
		事後学修	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること（30分）	30分
4	第一部土 4/25	【体力チェック】	ストレッチ、簡単な体力チェック	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、自身の体力の確認と、必要なトレーニングについて考え、計画することができる。	
		事前学修	簡単な体幹トレーニングを心掛けて実践すること（30分）	30分
		事後学修	現在の体力レベルをチェックして向上のためのトレーニング方法を計画すること（30分）	30分
5	第一部土 5/2	【最大筋力の算出】【卓球】	最大筋力測定、卓球の基礎技術	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの体力および健康の保持増進のために必要なトレーニングとウエイトの設定、自身の最大筋力の正確な算出ができる。また、卓球の基本的な技術やルールについて理解し、説明できる。	
		事前学修	筋力測定のための準備と食生活を日々チェックすること（30分）	30分
		事後学修	測定結果を認知しトレーニングを構築すること（30分）	30分
6	第一部土 5/9	【最大筋力の算出】【有酸素運動の実践】【卓球（シングルスゲーム）】	前回到続き最大筋力測定、エアロバイク・エアロクライムの使用方法と実践、卓球（シングルスゲームとルール）	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、有酸素運動の意義と必要性を理解し、説明できるだけでなく、有酸素運動を実施する際に使用する機器がわかり、正しく使用できる。また、仲間と卓球のルールを確認・説明しながら、円滑にゲーム運営ができる。	
		事前学修	有酸素運動の知識を得て、適切な方法を考える。平常時の心拍数をチェックすること。また、卓球のゲーム方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイク・エアロクライムにおける、トレーニングを理解し、トレーニング方法を組み立てること。また、卓球のゲーム結果より次回の勝利に向けてゲーム展開を整理すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 5/16	【筋力トレーニング】【卓球（シングルスゲーム）】	筋力トレーニングの説明と実践、卓球（シングルスゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身に必要な筋力トレーニングについて考え、メニュー作成と実践ができる。トレーニングに関しても卓球に関しても、これまでの反省を踏まえ、目標を設定し、取り組むことができる。	
		事前学修	筋力トレーニング種目を測定結果より5~6種目選択し、メニューを作成すること。また、シングルスゲームの戦術を工夫すること（30分）	30分
		事後学修	実施した結果より再度メニューを検討すること。また、シングルスゲームで対戦した相手とコミュニケーションを取り健闘を讃えること（30分）	30分
8	第一部土 5/23	【筋力トレーニングプログラムの作成】【卓球（ダブルスゲーム）】	個々の体力に合わせたトレーニングのプログラム作成と実践、卓球（ダブルスゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回設定したトレーニングメニューの見直しと修正ができる。卓球では、新たにダブルスゲームに挑戦し、これまでの授業で培った技術や、シングルスゲームの経験を応用できる。	
		事前学修	確実なトレーニングのための方法と内容を理解すること。また、ダブルスゲームの方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	適切なプログラム構成か確認し、修正すること。また、ダブルスゲームのペアに感謝し次回の種目に活かすこと（30分）	30分
9	第一部土 5/30	【筋力トレーニングの継続】【ポートボールに関する基本事項の確認と実践】	筋力トレーニング、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまで設定したトレーニングプログラムを継続して正確に実施し、自身の健康増進に繋がると共に、仲間とコミュニケーションをとりながらポートボールに取り組み、全身運動により、気持ちよく汗を流すことができる。	
		事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。また、ポートボールのルール・技術を調べること（30分）	30分
		事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。また、バスケットボールの技術をポートボールのゲームに活かすためのイメージトレーニングを行うこと（30分）	30分
10	第一部土 6/6	【筋力トレーニングメニューの変更】【ポートボールの実践】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、必要に応じてトレーニング種目を増やし、より多くの筋肉を使って自身の健康増進を図ることができる。仲間と怪我なくポートボールに取り組み、スムーズなゲーム運営ができる。	
		事前学修	トレーニングの負荷量や運動量について更にチェックし、メニューを増やし次に活かすこと。また、バスケットボールとポートボールのゲームのルールの違いを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイクやエアロクライムにおけるカロリー消費量を記録し、効果をチェックすること。また、ポートボールのゲーム展開を認識し、次のゲームに活かすこと（30分）	30分
11	第一部土 6/13	【食生活と筋力トレーニングの振り返り】【ポートボール】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまで・日頃のトレーニングだけでなく、食生活についても振り返り、改善に繋げることができる。また、これまでのポートボールの技術練習やミニゲームの経験を通して、トーナメント戦に取り組むことができる。	
		事前学修	筋力量を増やすための食生活をチェックし、バランスの良い食事を取り、体幹トレーニングを怠らないこと。また、ポートボールのトーナメント戦に備えて作戦を練ること（30分）	30分
		事後学修	体力カードをチェックし正確な記録ができたか確認すること。また、ポートボールにおいてチーム間のコミュニケーションとリーダーシップを取り、満足のいくゲーム展開ができたか確認すること（30分）	30分
12	第一部土 6/20	【筋力トレーニングのチェック】【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまでの筋力トレーニングの経験を踏まえ、前期の最後に行う体組成測定に結果が反映されるためにどのようなことが必要か、自分なりに再度トレーニング内容のチェックを行うことができる。ドッジビーでは、コントロールが不慣れな中で、自分がどこにどのようにドッジビーを投げれば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	筋力トレーニングのポイントや意識すべき点について再度確認しておくこと。また、ドッジビーの投げ方やコントロールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	刺激を感じられるトレーニングであったか考え、残りのトレーニングに活かすこと。また、ドッジビーの操作が満足にできたか確認すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部土 6/27	【筋力トレーニングの継続】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、前期最後の体組成測定の結果から、自身の健康増進が確認できることを目指し、トレーニングを継続する。ドッジビーでは、仲間との協働を通して、自分がどこにどのように動けば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	狙った筋肉に適切に刺激を加えられているか、前回のトレーニングによる筋肉痛の程度はどの程度だったか等を振り返り、次のトレーニングに活かすこと。また、ゴールドッジのルールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	トレーニングの内容が充実してきた中、怪我等が無いよう、栄養・休養・ストレッチ などのコンディショニングを再度見直し、十分に実施すること。また、ドッジビーのゲームでの動きや投げ方が適切であったか振り返り、改善点について考えること（30分）	30分
14	第一部土 7/4	【筋力トレーニングの継続と今後の計画】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、筋力トレーニングの継続だけでなく、後期に向けて、夏休み中も自分で取り組むことができるトレーニングについて考え、目標を立てて休み中の実施をも試みることで、自身の健康管理に繋げることができる。	
		事前学修	前期最後の筋力トレーニングに向けて、コンディショニングしておくこと。また、ドッジビーでは、前回のゲーム内容を振り返り、より良い動きや投げ方ができるよう、シミュレーションしてみること（30分）	30分
		事後学修	後期に再度筋力トレーニングを行う際に筋力低下やトレーニング方法の忘却がないよう、自身の健康状態について現状を把握し、トレーニング方法を自分なりに整理してまとめておくこと。また、ドッジビーという協働行為を通して経験した、仲間とのコミュニケーションの重要性について、スポーツ場面以外において、どのような場面で活かされるか考えてみること（30分）	30分
15	第一部土 7/11	【身体組成の測定】 【前期のまとめ】 【振り返り】	前期のまとめ、レポート、健医チェック、質疑応答、講評	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の授業を通して学んだ、体力および健康の保持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明することができるだけでなく、自身のトレーニングやスポーツ・運動への目標や取り組みについて振り返り、その達成度について振り返ることができる。	
		事前学修	前期のトレーニング結果を確認し、後期に継続されるよう取り組むこと（30分）	30分
		事後学修	積極的に参加し健康や体力の重要性を理解するとともに、後期に向けて更に進歩したトレーニングを目指すこと（30分）	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。自他の怪我や自己防止のため、アクセサリ類は全て外し、健康管理に留意した上で、遅刻をしないように出席すること。条件に満たない者の履修は許可しない。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況や出席者数・天候により授業内容の変更もある。授業は2号館体育場およびトレーニングルームを使用するが、内容によっては多目的コートを使用することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でレポートの講評および解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考	使用せず、必要に応じて資料を配布する。				

【オフィスアワー】
火曜1限前後の時間帯にて対応する。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	【ガイダンス】【授業内容 および履修条件の確認】	年間の授業展開、履修上の留意点及び評価方法などのガイダンス、履修カードの作成	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、本授業において取り組むべき運動内容の把握、および授業に臨む姿勢や求められる服装・態度を理解する。	
		事前学修	事前にシラバスの内容を理解し、遅刻をしないよう出席すること（30分）	30分
		事後学修	次週の授業のための運動着や提出物の準備・睡眠を取り、体調を整えること（30分）	30分
2	第一部火 4/14	【アイスブレイクと身体ほぐし】	体力カード、プリントの配布、身体ほぐし、各種トレーニング器具使用方法の説明と実践	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、仲間とコミュニケーションをとりながら、自身の身体をほぐし、自身の心と身体の現状について感覚的に確かめる。	
		事前学修	提出物の作成と、健康についての情報を得ること（30分）	30分
		事後学修	ストレッチ方法を自分なりに調べ、理解し実践に移すこと（30分）	30分
3	第一部火 4/21	【身体組成の測定および把握】	ストレッチ、健医チェック	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、体組成データを測定し、現状を把握すると共に、課題および改善点を踏まえて目標を設定する。	
		事前学修	日常生活の中でストレッチを15～30分行い習慣とすること（30分）	30分
		事後学修	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること（30分）	30分
4	第一部火 4/28	【体力チェック】	ストレッチ、簡単な体力チェック	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、自身の体力の確認と、必要なトレーニングについて考え、計画することができる。	
		事前学修	簡単な体幹トレーニングを心掛けて実践すること（30分）	30分
		事後学修	現在の体力レベルをチェックして向上のためのトレーニング方法を計画すること（30分）	30分
5	第一部火 5/5	【最大筋力の算出】【卓球】	最大筋力測定、卓球の基礎技術	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの体力および健康の保持増進のために必要なトレーニングとウエイトの設定、自身の最大筋力の正確な算出ができる。また、卓球の基本的な技術やルールについて理解し、説明できる。	
		事前学修	筋力測定のための準備と食生活を日々チェックすること（30分）	30分
		事後学修	測定結果を認知しトレーニングを構築すること（30分）	30分
6	第一部火 5/12	【最大筋力の算出】【有酸素運動の実践】【卓球（シングルスゲーム）】	前回到続き最大筋力測定、エアロバイク・エアロクライムの使用方法と実践、卓球（シングルスゲームとルール）	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、有酸素運動の意義と必要性を理解し、説明できるだけでなく、有酸素運動を実施する際に使用する機器がわかり、正しく使用できる。また、仲間と卓球のルールを確認・説明しながら、円滑にゲーム運営ができる。	
		事前学修	有酸素運動の知識を得て、適切な方法を考える。平常時の心拍数をチェックすること。また、卓球のゲーム方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイク・エアロクライムにおける、トレーニングを理解し、トレーニング方法を組み立てること。また、卓球のゲーム結果より次回の勝利に向けてゲーム展開を整理すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	【筋力トレーニング】【卓球（シングルスゲーム）】	筋力トレーニングの説明と実践、卓球（シングルスゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身に必要な筋力トレーニングについて考え、メニュー作成と実践ができる。トレーニングに関しても卓球に関しても、これまでの反省を踏まえ、目標を設定し、取り組むことができる。	
		事前学修	筋力トレーニング種目を測定結果より5~6種目選択し、メニューを作成すること。また、シングルスゲームの戦術を工夫すること（30分）	30分
		事後学修	実施した結果より再度メニューを検討すること。また、シングルスゲームで対戦した相手とコミュニケーションを取り健闘を讃えること（30分）	30分
8	第一部火 5/26	【筋力トレーニングプログラムの作成】【卓球（ダブルスゲーム）】	個々の体力に合わせたトレーニングのプログラム作成と実践、卓球（ダブルスゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回設定したトレーニングメニューの見直しと修正ができる。卓球では、新たにダブルスゲームに挑戦し、これまでの授業で培った技術や、シングルスゲームの経験を応用できる。	
		事前学修	確実なトレーニングのための方法と内容を理解すること。また、ダブルスゲームの方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	適切なプログラム構成か確認し、修正すること。また、ダブルスゲームのペアに感謝し次回の種目に活かすこと（30分）	30分
9	第一部火 6/2	【筋力トレーニングの継続】【ポートボールに関する基本事項の確認と実践】	筋力トレーニング、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまで設定したトレーニングプログラムを継続して正確に実施し、自身の健康増進に繋げると共に、仲間とコミュニケーションをとりながらポートボールに取り組み、全身運動により、気持ちよく汗を流すことができる。	
		事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。また、ポートボールのルール・技術を調べること（30分）	30分
		事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。また、バスケットボールの技術をポートボールのゲームに活かすためのイメージトレーニングを行うこと（30分）	30分
10	第一部火 6/9	【筋力トレーニングメニューの変更】【ポートボールの実践】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、必要に応じてトレーニング種目を増やし、より多くの筋肉を使って自身の健康増進を図ることができる。仲間と怪我なくポートボールに取り組み、スムーズなゲーム運営ができる。	
		事前学修	トレーニングの負荷量や運動量について更にチェックし、メニューを増やし次に活かすこと。また、バスケットボールとポートボールのゲームのルールの違いを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイクやエアロクライムにおけるカロリー消費量を記録し、効果をチェックすること。また、ポートボールのゲーム展開を認識し、次のゲームに活かすこと（30分）	30分
11	第一部火 6/16	【食生活と筋力トレーニングの振り返り】【ポートボール】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまで・日頃のトレーニングだけでなく、食生活についても振り返り、改善に繋げることができる。また、これまでのポートボールの技術練習やミニゲームの経験を通して、トーナメント戦に取り組むことができる。	
		事前学修	筋力量を増やすための食生活をチェックし、バランスの良い食事を取り、体幹トレーニングを怠らないこと。また、ポートボールのトーナメント戦に備えて作戦を練ること（30分）	30分
		事後学修	体力カードをチェックし正確な記録ができたか確認すること。また、ポートボールにおいてチーム間のコミュニケーションとリーダーシップを取り、満足のいくゲーム展開ができたか確認すること（30分）	30分
12	第一部火 6/23	【筋力トレーニングのチェック】【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまでの筋力トレーニングの経験を踏まえ、前期の最後に行う体組成測定に結果が反映されるためにどのようなことが必要か、自分なりに再度トレーニング内容のチェックを行うことができる。ドッジビーでは、コントロールが不慣れな中で、自分がどこにどのようにドッジビーを投げれば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	筋力トレーニングのポイントや意識すべき点について再度確認しておくこと。また、ドッジビーの投げ方やコントロールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	刺激を感じられるトレーニングであったか考え、残りのトレーニングに活かすこと。また、ドッジビーの操作が満足にできたか確認すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	【筋力トレーニングの継続】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、前期最後の体組成測定の結果から、自身の健康増進が確認できることを目指し、トレーニングを継続する。ドッジビーでは、仲間との協働を通して、自分がどこにどのように動けば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	狙った筋肉に適切に刺激を加えられているか、前回のトレーニングによる筋肉痛の程度はどの程度だったか等を振り返り、次のトレーニングに活かすこと。また、ゴールドッジのルールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	トレーニングの内容が充実してきた中、怪我等が無いよう、栄養・休養・ストレッチなどのコンディショニングを再度見直し、十分に実施すること。また、ドッジビーのゲームでの動きや投げ方が適切であったか振り返り、改善点について考えること（30分）	30分
14	第一部火 7/7	【筋力トレーニングの継続と今後の計画】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、筋力トレーニングの継続だけでなく、後期に向けて、夏休み中も自分で取り組むことができるトレーニングについて考え、目標を立てて休み中の実施をも試みることで、自身の健康管理に繋げることができる。	
		事前学修	前期最後の筋力トレーニングに向けて、コンディショニングしておくこと。また、ドッジビーでは、前回のゲーム内容を振り返り、より良い動きや投げ方ができるよう、シミュレーションしてみること（30分）	30分
		事後学修	後期に再度筋力トレーニングを行う際に筋力低下やトレーニング方法の忘却がないよう、自身の健康状態について現状を把握し、トレーニング方法を自分なりに整理してまとめておくこと。また、ドッジビーという協働行為を通して経験した、仲間とのコミュニケーションの重要性について、スポーツ場面以外において、どのような場面で活かされるか考えてみること（30分）	30分
15	第一部火 7/14	【身体組成の測定】 【前期のまとめ】 【振り返り】	前期のまとめ、レポート、健医チェック、質疑応答、講評	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の授業を通して学んだ、体力および健康の保持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明することができるだけでなく、自身のトレーニングやスポーツ・運動への目標や取り組みについて振り返り、その達成度について振り返ることができる。	
		事前学修	前期のトレーニング結果を確認し、後期に継続されるよう取り組むこと（30分）	30分
		事後学修	積極的に参加し健康や体力の重要性を理解するとともに、後期に向けて更に進歩したトレーニングを目指すこと（30分）	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力の維持増進のため、30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施すること。

【授業方法】
各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。 授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク（コーチング実践、発表）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート、振り返りシート、レポート課題について講評

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
月、火曜日 12：10～13：00 研究室 連絡方法 satou.hideaki@nihon-u.ac.jp※事前に連絡（用件内容）をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6 4/7 ※上段：月曜日 下段：火曜日	体育・スポーツの意義／健康とは何か	・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画についての説明 ・事前学習及び事後学習についての説明 ・体育・スポーツの意義、健康とは何かについての説明 ※第1回目は運動準備不要（履修カードに貼り付ける写真を準備）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、体育・スポーツの意義および健康とは何かについて説明できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。 体育・スポーツの意義、健康について自身の考えを準備する	30分
		事後学修	ガイダンス内容を振り返り、受講計画の確認を行う。	30分
2	4/13 4/14	体力及び身体運動の理解	・健医・フィットネスチェック ・軽運動、体操、ストレッチ等	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、体力を把握する方法について説明できる。	
		事前学修	運動の身体的・精神的効果について調べてくる。フィットネスチェックの測定種目（※測定種目：握力・反復横跳び・長座体前屈・立ち幅跳び・上体起こし・閉眼片足立ち）について事前に確認してくること。	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。	30分
3	4/20 4/21	柔軟性を高めるエクササイズ	・身体ほぐし運動（セルフおよびペアストレッチ） ・用具を使ったストレッチ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、柔軟性を高める方法について説明することができる。	
		事前学修	体力要素の一つである「柔軟性」とは何かを調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。 組んだ相手と意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
4	4/27 4/28	自重トレーニングを知る	・クイック&スロー、スタビラゼーショントレーニング ・正確な動作、適切な運動量についての説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、自重トレーニングの方法について説明することができる。	
		事前学修	自重トレーニングのメリット・デメリットについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。 組んだ相手と意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
5	5/4 5/5	敏捷性（アジリティ）を高めるエクササイズ	・トレーニング用具（ラダー等）を用いた運動 ・正確な動作、適切な運動量についての説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、敏捷性を高める方法について説明することができる。	
		事前学修	体力要素の一つである「敏捷性」とは何かを調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。 グループで意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
6	5/11 5/12	平衡性（バランス）を高めるエクササイズ	・平衡性を必要とする用具を用いた運動 ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践 ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、平衡性について説明することができ、また他者に自身の考えを伝える方法について説明することができる。	
		事前学修	体力要素の一つである「平衡性」とは何かを調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法等を振り返り、振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 5/19	サーキットトレーニングを知る	・サーキットトレーニングの目的・方法、プログラム作成の考え方などについての説明 ・簡単なプログラムの実施	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、サーキットトレーニングの方法について説明することができる。	
		事前学修	サーキットトレーニングのメリット・デメリットについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。	30分
8	5/25 5/26	身体感覚の再考	・マット運動（回転運動） ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、身体感覚について言語化し、他者に伝える方法を説明することができる。	
		事前学修	既習の回転運動について、動作のコツを調べる。自宅で可能な範囲で行う。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法（伝え方等）について考え、振り返りシートを作成する。	30分
9	6/1 6/2	ロープスポーツ①	・ダブルダッチ ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践 ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ダブルダッチの運動方法および指導方法について説明することができる。	
		事前学修	ダブルダッチの動作を動画視聴や関連資料を用いて事前に調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法（伝え方等）について考え、振り返りシートを作成する。	30分
10	6/8 6/9	ロープスポーツ②	・前回の内容を踏まえたグループ発表 ・技能試験 ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、ダブルダッチの運動方法および指導方法について説明することができる。	
		事前学修	動作の復習及びコミュニケーション方法について準備する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法（伝え方等）について考え、振り返りシートを作成する。	30分
11	6/15 6/16	ボールスポーツ①（ネット系）	・ネット系のボールスポーツ ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
		事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
12	6/22 6/23	ボールスポーツ②（ゴール系）	・ゴール系のボールスポーツ ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
		事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 6/30	トレーニングマシンを使った運動①	・最大筋力の測定、適切な負荷の設定を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、各種トレーニングマシンの使用方法および安全を確保した実施方法について説明することができる。	
		事前学修	ウェイトトレーニングのRM法、トレーニングの原理・原則について関連資料を調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。振り返りシートを作成する。	30分
14	7/6 7/7	トレーニングマシンを使った運動②	・トレーニングプログラムの作成と実施	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、目的に応じた適切なトレーニングプログラムの作成ができる。	
		事前学修	前回の設定負荷値をまとめ、授業時間で実施するトレーニング種目の選定を行う。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。作成したプログラムの良い点・課題点をまとめる。振り返りシートを作成する。	30分
15	7/13 7/14	体育・スポーツの恩恵とは何か	・フィットネスチェック ・振り返りシートの作成 ・講評	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
		事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	30分
		事後学修	運動・スポーツ実施の有効性について理解を深める。課題レポートを作成する。	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	塩嶋 理恵	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動に適した服装（ジャージ等）、室内用シューズを必ず準備すること。

【授業方法】
施設・人数等に応じて、各種運動と器具トレーニングを並行して展開していく。多目的コートを使用する場合がある。出席状況で授業内容を変更する場合もある。【フィードバック方法】提出されたレポート課題をもとに講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内で実技試験結果の講評・解説を行う	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜日 8：50～9：00、12：10～12：20 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 木4/9	【ガイダンス】【体育実技 実施方法】	年間授業計画、評価の方法に関するガイダンス	
		この回の 到達目標	体育実技授業実施の意義を知る	
		事前学修	授業内容等の把握、シラバス参照	30分
		事後学修	ガイダンス内容を確認する	30分
2	第1部 木4/16	体力テストの実施	各施設使用方法説明 体力チェックテスト（1）	
		この回の 到達目標	体力チェックの結果より、現在の体力を知る	
		事前学修	体力チェックテスト測定種目について確認する	30分
		事後学修	体力チェックテスト（2）に対応できるよう復習をする	30分
3	第1部 木4/23	体操	ゆがみ修正体操 二人組になり、お互いにゆがみをチェックし修正方法を参考に実施する	
		この回の 到達目標	からだのゆがみが及ぼす健康被害などについて知る	
		事前学修	身体のゆがみはなぜ起こるのかを調べる	30分
		事後学修	ゆがみ修正体操 ストレッチングを実施する	30分
4	第1部 木4/30	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、フォア・バック） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の 到達目標	卓球のフォア・バックの習得	
		事前学修	卓球のフォア・バックの予習を行う	30分
		事後学修	卓球のフォア・バックの復習を行う	30分
5	第1部 木5/7	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、カット） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の 到達目標	卓球のカットの習得	
		事前学修	卓球のカットの予習を行う	30分
		事後学修	卓球のカットの復習を行う	30分
6	第1部 木5/14	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブ） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の 到達目標	卓球のサーブの習得	
		事前学修	卓球のサーブの予習を行う	30分
		事後学修	卓球のサーブの復習を行う	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 木5/21	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブとレシーブ） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球のサーブ・レシーブの習得	
		事前学修	卓球のサーブとレシーブの予習を行う	30分
		事後学修	卓球のサーブとレシーブの復習を行う	30分
8	第1部 木5/28	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦に向けてゲームとルールの説明、練習試合を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球シングルスのルール理解とゲームの実施	
		事前学修	卓球シングルスのゲームとルールの予習を行う	30分
		事後学修	卓球シングルスのゲームとルールの復習を行う	30分
9	第1部 木6/4	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球シングルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	卓球シングルスのルールとマナーの予習を行う	30分
		事後学修	卓球シングルスのルールとマナーの復習を行う	30分
10	第1部 木6/11	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球シングルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	卓球シングルスのルールとマナー、戦略を予習する	30分
		事後学修	卓球シングルスのルールとマナー、戦略の復習を行う	30分
11	第1部 木6/18	実技【卓球】ダブルス	卓球 ダブルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球ダブルスのルールとマナーの習得	
		事前学修	卓球ダブルスのルールとマナーの予習を行う	30分
		事後学修	卓球ダブルスのルールとマナーの復習を行う	30分
12	第1部 木6/25	実技【卓球】ダブルス	卓球 ダブルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球ダブルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	卓球ダブルスのルールとマナー、戦略を予習する	30分
		事後学修	卓球ダブルスのルールとマナー、戦略の復習を行う	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。						
回数	日程	テーマ		内 容		
13	第1部 木7/2	実技【卓球】ダブルス		卓球 基本スキル（サーブ・ラリー）の授業内試験およびまとめ 器具トレーニングを並行して行う		
		この回の 到達目標	卓球 基本スキルの習得			
		事前学修	卓球ダブルスのルールとマナー、基本スキルの再確認			30分
		事後学修	卓球ダブルスのルールとマナー、基本スキルの復習を行う			30分
14	第1部 木7/9	軽スポーツ実施		器具トレーニング ダーツなど軽スポーツ各種実施する		
		この回の 到達目標	軽スポーツ各種のルール理解			
		事前学修	ダーツなど軽スポーツ 各種ルールの予習を行う			30分
		事後学修	ダーツなど軽スポーツ 各種ルールの復習を行う			30分
15	第1部 木7/16	【まとめ】【振り返り】		【まとめ】授業の振り返り、講評		
		この回の 到達目標	スポーツ実施の有効性について理解すること			
		事前学修	半期の振り返りを行う			30分
		事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ実施の有効性について理解を深める。 また今後の健康増進に向けた目標を立てる。			30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	柴田 篤志	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動に適した服装（ジャージなど）と屋内用シューズを必ず準備すること。

【授業方法】
授業の開始時と終了時にウォーミングアップ、クールダウンのためにストレッチなどを行う。 授業は主に2号館体育場およびトレーニングルームを使用して行うが、種目によって多目的コートを使用することがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で実施するスポーツ活動について、必要に応じて小グループを作成しグループ内でのディスカッション等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の振り返りレポートおよび課題レポート

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて資料などを配布する。				

【オフィスアワー】
基本的には水曜日12：45～13：00および16：10～16：30の授業前後の時間に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス/体力および健康について	①授業の目的や方法、評価についての説明 ②スポーツや身体活動と体力および健康について	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解し、体力および健康の維持増進とスポーツ・身体運動について説明することができる。(SB0s①)	
		事前学修	シラバスを確認し、授業の概要などについて確認をする。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容について振り返り、受講に必要な準備物について確認、準備をする。	30分
2	第一部 水4/15	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動を通して自身の身体や体力について理解する。	
		この回の到達目標	体ほぐしの運動の意義について説明することができる。(SB0s①②)	
		事前学修	ウォーミングアップ・クールダウンの必要性について調べる。	30分
		事後学修	体ほぐしの運動のポイントを理解し、実施する。	30分
3	第一部 水4/22	フィットネスチェック(体力測定)	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)を実施する。	
		この回の到達目標	フィットネスチェックを行い自己の体力レベルを把握し、体力を向上させる方法を確立する。(SB0s②③)	
		事前学修	フィットネスチェックの項目について確認する。	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を振り返り、自己の体力および健康の増進に向けた計画を立てる。	30分
4	第一部 水4/29	柔軟性を高めるトレーニング	柔軟性を高めるトレーニングの内容と効果について学習する。	
		この回の到達目標	身体の柔軟性を高めるトレーニングとその効果について説明することができる。(SB0s①②)	
		事前学修	柔軟性を高めるトレーニングについて調べる。	30分
		事後学修	柔軟性を高めるトレーニングの効果について振り返り、実施することで理解を深める。	30分
5	第一部 水5/6	体力向上のためのトレーニング	筋力や持久力を高めるトレーニングの内容と効果について学習する。	
		この回の到達目標	筋力や持久力を高めるトレーニングの内容とその効果について説明することができる。(SB0s①②)	
		事前学修	筋力や持久力を高めるトレーニングについて調べる。	30分
		事後学修	筋力や持久力を高めるトレーニングの効果について振り返り、実施することで理解を深める。	30分
6	第一部 水5/13	マシンを使ったトレーニング	トレーニングマシンの使い方やトレーニングの効果について学習する。	
		この回の到達目標	トレーニングマシンの使い方とマシンに応じたトレーニング効果について説明することができる。(SB0s①②)	
		事前学修	トレーニングマシンを使ったトレーニングの特徴について調べる。	30分
		事後学修	トレーニングマシンを使ったトレーニングの効果についてまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	トレーニング計画の立案と実践	自己の体力レベルを向上させるためのトレーニング計画の立案し実践する。	
		この回の到達目標	自己の体力レベルや課題に応じたトレーニング計画について説明することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	トレーニングの原理や原則について調べる。	30分
		事後学修	立案したトレーニング計画を振り返り、理解を深める。	30分
8	第一部 水5/27	フットサル①	フットサルに必要な基本動作について学習し、技術を習得する。	
		この回の到達目標	フットサルに必要な基本動作について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フットサルのルールについて調べる。	30分
		事後学修	学習した基本動作について振り返り、理解を深める。	30分
9	第一部 水6/3	フットサル②	フットサルのゲーム内で必要な戦術について理解し、技術を習得する。	
		この回の到達目標	フットサルのゲーム内で用いられる個人やチームでの戦術について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フットサルのゲーム内で用いられる個人戦術、チーム戦術について調べる。	30分
		事後学修	フットサルのゲームにおける個人戦術とチーム戦術について振り返り、理解を深める。	30分
10	第一部 水6/10	フットサル③	実戦形式のゲームを通してチーム内でのコミュニケーションを深める。	
		この回の到達目標	実戦形式のゲームを通してチーム内でのコミュニケーションを行い、自らの取り組みについて説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フットサルのゲームにおけるチーム内でのコミュニケーションについて調べる。	30分
		事後学修	ゲームの内容を振り返り、個人戦術やチーム戦術について理解を深める。	30分
11	第一部 水6/17	ミニバドミン① マシントレーニング	バドミントンの基本動作について学習し、技術を習得する。 マシンを使ったトレーニングを行う。	
		この回の到達目標	バドミントンに必要な基本動作について説明することができる。（SB0s③） 自己の体力レベルに応じたトレーニング内容を選択し、その効果について説明することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	バドミントンの基本的な技術について調べる。	30分
		事後学修	学習した基本動作について振り返り、理解を深める。	30分
12	第一部 水6/24	ミニバドミン② マシントレーニング	バドミントンの戦術について理解し、技術を習得する。 マシンを使ったトレーニングを行う。	
		この回の到達目標	バドミントンのゲームで用いられる戦術について説明することができる。（SB0s③） 自己の体力レベルに応じたトレーニング負荷について説明することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	バドミントンのゲームで用いられる戦術について調べる。	30分
		事後学修	バドミントンのゲームにおける戦術について振り返り、理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	ミニバドミン③	実戦形式のバドミントンのゲームを行う。	
		この回の到達目標	実戦形式のバドミントンを通して、自らの取り組みを説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	バドミントンのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ゲームを振り返り、理解を深める。	30分
14	第一部 水7/8	ドッジビー	ドッジビーを通してチームでのコミュニケーションを深める。	
		この回の到達目標	ドッジビーのゲームにおけるチーム内でのコミュニケーションのとり方について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	ドッジビーのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ドッジビーを通じたチーム内でのコミュニケーションのとり方について振り返る。	30分
15	第一部 水7/15	フィットネスチェック/まとめ	①フィットネスチェック ②授業の振り返りとまとめ	
		この回の到達目標	フィットネスチェックおよび授業の振り返りを行い、自己の達成について評価する。（SB0s①②③）	
		事前学修	半期の授業内容と目標の達成度について振り返りを行う。	30分
		事後学修	スポーツ・身体運動の実践を通じた体力および健康の維持増進について理解を深め、課題レポートを作成する。	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	白土 男女幸	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動をするうえで健康上の問題がないこと（不安のある学生は第1回目のオリエンテーション時に相談してください）。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオルを準備すること。多目的コートを使用する場合があります。

【授業方法】
主に全体指導、必要に応じてグループワークも実施します。また事後学習として、トレーニング記録や自己省察を目的とした授業省察ノートの作成をしてもらいます。【フィードバック方法】授業省察ノート講評およびレポート提出とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中は毎時間の課題に応じたグループ学習、授業後は省察ノートを作成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業時にレポートや毎授業の省察ノートの評価について総評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
基本的には授業前後の時間のみ。授業講堂にて。どうしても時間が作れない場合は授業実施期間の水曜日19：30以降に対応（要事前相談）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部・第二部 水4/8	授業概要の説明	オリエンテーション（授業概要等の説明、アイスブレーキングの実施、＊着替えは不要）	
		この回の到達目標	本授業の概要について理解し、説明できる。	
		事前学修	本授業のシラバスを事前に一読しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
2	第一部・第二部 水4/15	体力測定の実施	体力測定①（握力・背筋力、立ち幅跳び・垂直飛び、反復横跳び、上体起こし、体前屈・上体そらし、閉眼片足立ち）	
		この回の到達目標	体力の概念について理解し、自らの体力要素について正確に測定できる。	
		事前学修	体力要素や体力測定方法について予習しておくこと（文部科学省HP_新体力テスト実施要項を参照）。また、ストレッチや軽いジョギングや筋力トレーニングなどで身体を慣らしておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
3	第一部・第二部 水4/22	体力測定の実施と評価	体力測定②（踏み台昇降、各体力要素の評価）	
		この回の到達目標	自らの体力要素を客観的に評価できる。	
		事前学修	全身持久力測定のため、軽いジョギングなどで心肺機能に軽い負荷を与えておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
4	第一部・第二部 水4/29	筋力トレーニング	トレーニングマシンによる筋力トレーニングの実践①（筋力トレーニングの方法と健康効果の解説、各種マシンの使用方法とフォームの解説、至適強度の設定）	
		この回の到達目標	基本的な筋力トレーニングの効果や器具の使用方法を理解し、説明できる。	
		事前学修	筋力トレーニングについて基本的な方法や健康効果について調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
5	第一部・第二部 水5/6	筋力トレーニング	トレーニングマシンによる筋力トレーニングの実践②（至適強度による筋力トレーニングの実践）	
		この回の到達目標	筋力トレーニングの至適強度を把握できる。	
		事前学修	第4回目の配布資料を再読しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
6	第一部・第二部 水5/13	自重負荷による筋力トレーニング	自重負荷による筋力トレーニングの実践（自らの体重を負荷にして様々な筋力トレーニングを実践する（スロートレーニングを中心に））	
		この回の到達目標	自重負荷による様々な筋力トレーニングを安全かつ効果的に実践できる。	
		事前学修	スロートレーニング（スロトレ）について調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部・第二部 水5/20	持久力トレーニング	持久力トレーニングの解説と実践（心拍数による運動強度の確認方法とその健康効果の解説、運動と心拍数の関係を軽い運動を実践しながら体感してみる）	
		この回の到達目標	持久力トレーニングの効果と強度設定について理解し、説明できる。	
		事前学修	持久力トレーニングの健康効果について調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
8	第一部・第二部 水5/27	持久力トレーニング	持久力トレーニングの実践（心拍数を確認しながらインターバル速歩およびTABATAメソッドの実践）	
		この回の到達目標	様々な持久力トレーニングについて至適強度（心拍数）を維持しながら実践できる。	
		事前学修	インターバル速歩およびTABATAメソッドについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
9	第一部・第二部 水6/3	持久力トレーニング	エアロビクスの解説と実践（歴史と効果の解説、基本的なリズムとステップの実践）	
		この回の到達目標	基本的なエアロビクスのステップを理解し、ゆっくりとしたリズムに合わせてステップを踏むことができる。	
		事前学修	エアロビクスの健康効果やステップについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
10	第一部・第二部 水6/10	持久力トレーニング	エアロビクスの実践（基本ステップで構成したベーシックエアロビクスの実践 ～心拍数を確認しながら実践する～）	
		この回の到達目標	心拍数による至適強度を把握しながら、リズムに乗って様々なエアロビクスのステップを組み合わせることができる。	
		事前学修	第9回で紹介したステップを練習しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
11	第一部・第二部 水6/17	ストレッチング	ストレッチングの解説と実践（種類と効果の解説、個人およびペアでストレッチングの実践～静的および動的ストレッチから簡易PNFまで～）	
		この回の到達目標	ストレッチングの種類と効果を理解し、実践することができる。	
		事前学修	ストレッチングについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
12	第一部・第二部 水6/24	ヨガ	ヨガの解説と実践①（ヨガの歴史や効果の解説、太陽礼拝の実践）	
		この回の到達目標	ヨガについて理解し、太陽礼拝のルーティンを実践することができる。	
		事前学修	ヨガの歴史や健康効果について調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部・第二部 水7/1	ヨガ		ヨガの実践②（呼吸と自分の身体に意識を向けて太陽礼拝、各種ポーズの実践）
		この回の到達目標	太陽礼拝および各種ポーズを実践することができる。	
		事前学修	太陽礼拝のルーティンを実践しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
14	第一部・第二部 水7/8	ヨガ		ヨガの実践③（太陽礼拝、各種ポーズの実践）
		この回の到達目標	太陽礼拝および各種ポーズの完成度を上げ、より自身の内面への洞察を深めることができる。	
		事前学修	太陽礼拝のルーティンを実践しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
15	第一部・第二部 水7/15	まとめ		レポートおよび授業省察ノートの提出、全体のまとめ
		この回の到達目標	これまでの授業を振り返り、今後のトレーニングについて具体的に計画し、生涯に渡って実践することができる。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り、授業省察ノートの「全体の感想」について記述しておくこと。	30分
		事後学修	今後の健康保持増進のためのトレーニング計画を再考すること。	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	鈴木 由美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動に適した服装(トレーニングウェア、屋外・屋内シューズ) タオル、水分補給用の飲み物を準備すること。※第1回目は更衣不要(履修カードに貼る写真を準備)

【授業方法】
実技。 授業開始時にその日の実施内容、学習の目的を説明・確認。 資料配布による理論学習を行い、それらを実践するための様々なエクササイズやスポーツを実践する。 【フィードバック方法】授業記録シート、トレーニングカードや課題レポートの提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第10回、11回、12回のユニバーサルホッケーの実践では、種目に適したウォームアップ構成を考えるグループワーク、スキルアップとゲーム中の戦術についてのグループディスカッションの時間を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業記録、及び課題シート（トレーニングカードや体組成記録表など）への講評や質問への回答コメント・採点後の添削と返却

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（学習テーマに合わせて資料配布）				

【オフィスアワー】
金曜日 8：20～16:30 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公共施設・スポーツ施設でのエアロビックダンス及び運動指導（有資格） 国公立中学校にて保健体育指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		多様なニーズの一般市民対象の指導経験を生かして、心身を健康に保つための知識やエクササイズを指導	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	【ガイダンス】 【健康維持増進のための運動・生涯スポーツを学ぶ意味】	授業内容、授業方法、スケジュール、評価方法、及び受講に際しての注意等を説明する。 実技と理論の融合を目指した授業展開であること、また取り扱う種目と学習内容についての概略とそれを取り扱う意味を理解することにより、見通しをもって学習の準備をすることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期学習する内容全般についての見通しを持って、健康・身体づくりの意味と、自ら主体的に目的に応じた具体的な方法を学ぶ手順を理解できる	
		事前学修	授業の目的・内容、準備等をシラバスを読んで確認しておく	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。各自の身体づくりの目的を明確にし、授業記録シートにまとめておく	30分
2	第一部 金4/17	【体力測定と仲間づくりゲーム】	体力測定&仲間づくりのゲーム ○健康の概念と3要素 ※ストレッチング（以降、毎回実施）	
		この回の到達目標	①に関連して、形態測定・体力測定の実施によって各自の課題や目的を明確にし、「運動」という側面だけでなく「食」や「休養」といったライフスタイル全般からアプローチする必要性を理解する	
		事前学修	「健康の概念」と「3要素」について調べておく	30分
		事後学修	体力測定の測定結果入力と、その結果を踏まえ、健康増進のために必要な目標を立てる 配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習しておく	30分
3	第一部 金4/24	【筋コンディショニングとは】	マシントレーニング Max測定（間接法）の理解と測定 ○筋コンディショニングの種類と方法	
		この回の到達目標	②に関連して、健康維持・増進のための筋コンディショニングの種類と方法を理解し、特にマシントレーニングを実施するための各自の目的に応じた負荷の設定について説明することができる	
		事前学修	①筋力トレーニングの種類、②マシントレーニングのメリット・デメリットについて調べておくこと	30分
		事後学修	配布資料をもとに様々な筋コンディショニングの方法について復習する	30分
4	第一部 金5/1	【マシントレーニング】	マシントレーニング Max測定（間接法）の測定 & ストレッチング ○トレーニング理論（マシントレーニングの目的と5つの要素との関係）	
		この回の到達目標	①②に関連して、各自の目的に応じたマシントレーニング実施のための負荷の設定について説明することができる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく	30分
		事後学修	配布資料をもとに各自の目的に応じたトレーニング方法について復習しておくこと	30分
5	第一部 金5/8	【有酸素運動だけじゃない！エアロビックダンスの効果】	エアロビックダンス（導入）& ストレッチング ○エアロビックダンスの特徴と各自の運動強度ターゲットゾーンを達成するための工夫	
		この回の到達目標	①②に関連して、「エアロビックダンス」の特徴や効果について説明することができる	
		事前学修	エアロビックダンスとはどのようなエクササイズなのか調べておく	30分
		事後学修	授業で実施したストレッチングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと	30分
6	第一部 金5/15	【健康を維持増進するための3種類の運動は同時進行で！】	エアロビックダンス①（リニア形式でローインパクト） 筋コンディショニング（自重①腕）・ストレッチング ○有酸素運動とは？	
		この回の到達目標	①②に関連して、健康維持・増進のための3種類の運動について、また「有酸素運動」について強度別にその効果を説明できる。	
		事前学修	「有酸素運動」について調べておく	30分
		事後学修	授業で実施した自重トレーニングを実践し、正しいフォームやポイントを復習する。エアロビックダンスの特徴を説明できるようにしておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	【自分の目的に応じて運動強度や難易度を調節するエアロビックダンス】	エアロビックダンス②（リニア形式＋コンビネーションでローインパクト） 筋コンディショニング（自重②スクワット）・ストレッチング ○有酸素運動の強度と効果	
		この回の到達目標	①②に関連して、エアロビックダンスを、難易度や移動距離、重心の移動といった要素変化で各自の目的に応じた運動強度を選択し実施することができる また、使った部位を意図的にストレッチングできる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で実施した自重トレーニングとストレッチングを実践し、正しいフォームやポイントを復習する。配布資料をもとに有酸素運動を行う際のポイントについて復習する	30分
8	第一部 金5/29	【低衝撃なのに高強度。ステップエアロビクスでマルチタスクエクササイズ】	ステップエアロビクス①（ベーシック） （踏み台を使用し音楽に乗って行う有酸素運動） 筋コンディショニング（自重③腹筋）・ストレッチング	
		この回の到達目標	①に関連して、ステップエアロビクスの特徴と効果を説明できる ②に関連して、筋コンディショニング（アイソレートした腹筋3種）のポイントを踏まえ実践することができる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で実施した自重トレーニングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。ステップエアロビクスの特徴（メリット）について復習する	30分
9	第一部 金6/5	【ステップエアロビクスで脳トレ効果を体感】	ステップエアロビクス②（回転と方向転換） （踏み台を使用し音楽に乗って行う有酸素運動） 筋コンディショニング（自重④背筋）・ストレッチング	
		この回の到達目標	①に関連して、ステップエアロビクスの実践を通して、動きに関連した使用部位の名称を説明できる ②に関連して、筋コンディショニング（背筋）が正しく実践でき、ポイントを説明できる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で実施した自重トレーニングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。ステップエアロビクスの特徴（メリット）について復習する	30分
10	第一部 金6/12	【生涯スポーツとは？ユニバーサルスポーツとは？】	ユニバーサルホッケー①（ニュースポーツの概念と種目理解） 筋コンディショニング（第4回目の1RMから算出した各自の目的に応じた負荷でのマシントレーニング）	
		この回の到達目標	①に関連して、生涯スポーツの意義と現状について理解し、ユニバーサルホッケーのゲームと基本的なスティック操作ができる ②に関連して、マシントレーニングにおいて各自の目的に応じた負荷でのトレーニング選択ができる	
		事前学修	ユニバーサルホッケー関連の動画を見てルールを理解し、競技のイメージを掴む	30分
		事後学修	授業で実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。前回の授業記録に記載したゲームに関する各自の疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
11	第一部 金6/19	【ユニバーサルホッケーのゲーム実践】 【マシントレーニング】	ユニバーサルホッケー②（チームでの種目に応じたウォームアップの実践や、ゲーム構造の理解と戦術ディスカッションによるアクティブラーニング） 筋コンディショニング（フォームと呼吸のチェックを意識した各自の目的に応じた負荷でのマシントレーニング）	
		この回の到達目標	①に関連して、ユニバーサルホッケーのゲームの特徴を踏まえ、チーム全員が参加できる攻撃・守備方法などの戦術を考案でき、チーム全体で共通理解するためのコミュニケーションが取れる ②に関連して、マシントレーニングにおいて各自の目的に応じた負荷でのトレーニング選択ができる	
		事前学修	ユニバーサルホッケーのストロークの基本技術について調べ、ゲームの動画を観てイメージを掴む	30分
		事後学修	授業で実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。前回の授業記録に記載したゲームに関する各自の疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
12	第一部 金6/26	【ユニバーサルホッケーのゲーム実践】 【マシントレーニング】	ユニバーサルホッケー③（リーグ戦の実施と前回の戦術の評価と課題をチームでディスカッションし、新たな展開を試みるアクティブラーニング） 筋コンディショニング（フォームと呼吸の意識、また負荷の評価をしながらのマシントレーニング）	
		この回の到達目標	①②に関連して、個人的技能の評価と課題を設定できる 前回のゲームについての集団的技能（戦術）評価し、新たな課題をチームごとに設定し、ゲームで試すことができる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した技術・戦術に関する疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。前回の授業記録に記載したゲームに関する各自の疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	【ヨガとは】 【マインドフルネスとは】	ヨガ①（ヨガとは？呼吸とポーズ） マインドフルネス	
		この回の到達目標	①②に関連して、「ヨガ」の発祥と特徴やメリットを理解し、実践を通して体感する 「マインドフルネス」の概要を理解し、実践を通して身体と心の変化を感じることができる	
		事前学修	各種ヨガに関する動画を視聴し、イメージを掴む ヨガの発祥について調べる	30分
		事後学修	授業で扱ったヨガのポーズと呼吸法を復習し、様々な生活の場面でマインドフルネスの実践を試みる	30分
14	第一部 金7/10	【パワーヨガとは】 【マインドフルネスの多様な形】	ヨガ②（パワーヨガ） 座位でのマインドフルネス・ 生活の中で多様なマインドフルネス実践法があることを学ぶ	
		この回の到達目標	①②に関連して、パワーヨガの特徴と効果を理解し、各自のパフォーマンスに応じたアーサナーを選択し、実践できる マインドフルネスの実践により身体と心の変化を感じることができる	
		事前学修	前回の各自の授業記録に記載したヨガのポーズや呼吸法の疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で扱ったヨガのポーズや呼吸法のポイントを復習し、様々な生活の場面でのマインドフルネスの実践を試みる	30分
15	第一部 金7/17	【身体づくりのための基礎知識と実践を振り返る】	前期取り扱った各エクササイズの振り返りと、講評	
		この回の到達目標	③に関連して、前期で取り扱った各フィットネスエクササイズの特徴を実践するためのポイントを説明できる マシントレーニングの記録について、目的に応じた負荷設定であったか評価できる	
		事前学修	これまで取り扱った各種エクササイズについて、目的に応じて効果的に行うポイントを整理する	30分
		事後学修	前期扱った資料をもとに健康を維持・増進するための要素や方法について復習する	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	高田 佑輔	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内用運動靴、動きやすいジャージ等の運動着やタオルを用意すること。飲み物は蓋付きのものにすること。自他の怪我や事故を防ぐためにもアクセサリー類はすべて外し、爪の手入れをしておくこと。

【授業方法】
実技形式。授業開始時に出欠確認とその日に実施する内容の説明をする。出席者数やそれまでの実施状況、または天候によって授業内容を変更する場合もある。円滑な授業を進めるため、ルールや基本的な動きを事前学習として課すこともある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実技形式のため、学生自身の考えを求めることもある。チーム内でディスカッションを行い、発表する時間も設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習や事後学習，さらに課題レポートを中心に総合的な講評をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません				

【オフィスアワー】
授業の前後に対応します。事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましいです。E-mail：takata.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本バスケットボール協会公認C級コーチ，日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，スポーツの指導を行う。 運動やスポーツが心身に与える影響を伝え，生涯スポーツの一助になる授業を展開する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	ガイダンスおよび体育とスポーツの意義	授業の目的、内容、評価方法やルールなどを説明する。 体育やスポーツの意義について理解する。 ※集合は2号館地下202教場、更衣は不要	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、体育やスポーツの意義について説明できる。 ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	シラバスをよく読み、質問をまとめておく。 体育やスポーツの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を理解し、授業に必要なものを準備する	30分
2	4/11	体力測定	体重、体組成、握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、長座体前屈などの体力測定を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自身の体力レベルの確認をする。 年間の目標を設定する。	
		事前学修	今回実施する体力測定の方法を調べておく。	30分
		事後学修	体力測定の結果を踏まえて、今後の目標を立てる。	30分
3	4/18	スポーツ鬼ごっこ	スポーツ鬼ごっこを通じてコミュニケーションを図る。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
		事前学修	スポーツ鬼ごっこの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分
4	4/25	柔軟性のトレーニング①	全身9か所の柔軟性をチェックする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、柔軟性の意義を説明できる。	
		事前学修	これまでの生活や運動の経験を振り返って、自分の身体が何で硬いのか（または軟らかいのか）を説明できるようにしておく。	30分
		事後学修	柔軟性チェックの結果を踏まえて、今後の目標を立てる。	30分
5	5/2	柔軟性のトレーニング②	柔軟性のトレーニングを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、柔軟性のトレーニングを説明できる。	
		事前学修	ウォーミングアップ、ウォームダウン（クーリングダウン）の中で取り入れられるストレッチについて調べておく。	30分
		事後学修	柔軟性のトレーニングを継続的に実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。	30分
6	5/9	アルティメット	ディスクの投げ方を習得し、チームプレーを学ぶ。 攻守の切り替えが多いため、自身の持久力や敏捷性を現状を把握する。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
		事前学修	ディスクの投げ方、およびアルティメットの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	持久力のトレーニング	持久力のトレーニングとして、自転車エルゴメータ、トレッドミル、クライムミルの使い方を説明する。 自分の体力レベルや目的に合った負荷設定を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、持久力およびその能力が必要とされる競技を説明できる。	
		事前学修	これまでの体育の授業や部活動などの運動、スポーツ活動で行ってきたトレーニングのうち、持久力向上に当てはまるものを考え、その意義を説明できるようにしておく。	30分
		事後学修	自転車エルゴメータ、トレッドミル、クライムミルを使用した際の自分の目的に合った負荷をまとめておく。 今後の目標を立てる。	30分
8	5/23	敏捷性のトレーニング	ラダーなどを用いて、敏捷性のトレーニングを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敏捷性のトレーニングを説明できる。	
		事前学修	敏捷性のトレーニングとして挙げられるSAQトレーニングとは何かを説明できるようにしておく。	30分
		事後学修	柔軟性のトレーニングを実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。	30分
9	5/30	フットサル	フットサルを行う。 特に、フットサルやサッカー経験者は自分のプレーを見せるだけではなく、未経験者へのサポートもすること。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
		事前学修	フットサルの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分
10	6/6	体幹のトレーニング	体幹のトレーニングとしてスタビライゼーショントレーニングを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スタビライゼーショントレーニングを説明できる。	
		事前学修	スタビライゼーショントレーニングについて調べておく。	30分
		事後学修	スタビライゼーショントレーニングを継続的に実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。	30分
11	6/13	レジスタンストレーニング	マシンやダンベルなどのフリーウエイトを使用して、レジスタンストレーニングを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、レジスタンストレーニングを説明できる。	
		事前学修	1RMとは何かを調べておく。 さらに、トレーニングの原理と原則を調べておく。	30分
		事後学修	各トレーニング種目における自分の目的に合った負荷をまとめ、今後のトレーニングメニューを考える資料を作る。	30分
12	6/20	トレーニングのまとめ	今まで実施したトレーニングのうち、理解度が足りない種目を実施する。 適切な負荷の設定やトレーニング方法を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実施したトレーニングを説明できる。	
		事前学修	今まで実施したトレーニングについて、疑問や質問をまとめておく。	30分
		事後学修	実施した様々なトレーニングを整理し、自分の目的に合ったトレーニングメニューを考える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	卓球	卓球（ダブルス）を行う。 卓球の基本動作を練習するとともに、ダブルスのルールや動き方を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、卓球のダブルスのルールを説明できる。	
		事前学修	卓球のダブルスのルールや動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびペアの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
14	7/4	ドッジボール	ドッジボールを行う。 オーソドックスなルールだけではなく様々なルールを適用するので、ルールを理解することが求められる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
		事前学修	当該クラスで行うドッジボールのルールを1つ考えておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分
15	7/11	前期のまとめと振り返り	前期の振り返りを実施し、総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自身の達成度合いを評価する。	
		事前学修	前期の振り返り、反省や改善点などを発表できるようにしておく。	30分
		事後学修	発表して浮き彫りになった課題を後期に解決できるようにする。 夏季休業中も運動やスポーツを継続するように努める。	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	田中 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
医師に運動を止められていない者。

【授業方法】
実技と演習を行います。アニメソングなどを用いた振り付けのあるエアロビックダンス（フィットネスダンス）を行います。なじみのある楽曲で無理なく運動を行うことができます。多目的コートを使用する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生自身が短いコンビネーションを作成し指導を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
エアロビックダンスを教員の前で実演し、動きや姿勢などを矯正するためのアドバイスを受ける。 姿勢の矯正のための指導を個別に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フィットネスダンス指導教本	編者 池田美知子	公益社団 日本 フィットネス協会	2010年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問、相談は毎授業後（水曜 1、2 限）に受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		フィットネスクラブ、行政、企業などでエアロビックダンス指導 企業セミナー、 特定保健指導、エアロビックダンス指導者養成

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション・導入講義	オリエンテーション・導入講義	
		この回の到達目標	授業を受講するにあたり、準備するもの、注意点などを理解する。	
		事前学修	テキスト第1章を読む。	30分
		事後学修	テキスト第1章を読む。	30分
2	4/15	ステップシート	ステップシート プログラムの表記方法の読み方を学習し、プログラムを視覚的に理解する。 体力測定	
		この回の到達目標	エアロビックダンスを体験する。実施したエアロビックダンスを、ステップシートにてプログラムを視覚的に確認し理解する。	
		事前学修	テキスト第1章を読む。	30分
		事後学修	テキスト第2章のステップシート、コンビネーションの種類について確認する。	30分
3	4/22	コンビネーション	コンビネーション（1） 動きの塊の規則性を理解して動く。	
		この回の到達目標	エアロビックダンスプログラムの最小単位であるステップと、ステップを組み合わせたコンビネーションの構成を理解して動けるようにする。	
		事前学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。	30分
		事後学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。 生活習慣チェック表を記入し、自らの生活習慣を意識する。	30分
4	4/29	コンビネーション	コンビネーション（2）	
		この回の到達目標	エアロビックダンスプログラムの最小単位であるステップと、ステップを組み合わせたコンビネーションの構成を理解して動けるようにする。	
		事前学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。	30分
		事後学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。	30分
5	5/6	コンビネーション	コンビネーション（3）	
		この回の到達目標	エアロビックダンスプログラムの最小単位であるステップと、ステップを組み合わせたコンビネーションの構成を理解して動けるようにする。	
		事前学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。	30分
		事後学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。	30分
6	5/13	フィットネスダンス	フィットネスダンス（1） 振り付けのあるエアロビックダンス	
		この回の到達目標	複雑な組み合わせのコンビネーションを理解して動けるようにする。	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	フィットネスダンス	フィットネスダンス（2）	
		この回の到達目標	複雑な組み合わせのコンビネーションを理解して動けるようにする	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。 生活習慣チェック表を記入、前回到チェックと比べ、良い習慣が身についたかを確認する。（30分）	30分
8	5/27	フィットネスダンス	フィットネスダンス（3）	
		この回の到達目標	複雑な組み合わせのコンビネーションを理解して動けるようにする	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
9	6/3	フィットネスダンス	フィットネスダンス（4）	
		この回の到達目標	複雑な組み合わせのコンビネーションを理解して動けるようにする	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
10	6/10	コンビネーションの作成	コンビネーション作成	
		この回の到達目標	様々なパターンのコンビネーションを作成し、動くことができるようにする。	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
11	6/17	コンビネーションとプログラム	コンビネーションとプログラム（1） 学生が作成したコンビネーションをプログラムに発展させ運動を行う。	
		この回の到達目標	様々なパターンのコンビネーションを作成し、動くことができるようにする。	
		事前学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
		事後学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
12	6/24	コンビネーションとプログラム	コンビネーションとプログラム（2）	
		この回の到達目標	様々なパターンのコンビネーションを作成し、動くことができるようにする。	
		事前学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
		事後学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	実技試験準備	実技試験準備 コンビネーションの指導の練習	
		この回の到達目標	様々なパターンのコンビネーションを作成し、動くことができるようにする。	
		事前学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
		事後学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
14	7/8	実技試験	実技試験 各自の動き、姿勢の矯正（教員から個別にアドバイス）	
		この回の到達目標	様々なパターンのコンビネーションを作成し、動くことができるようにする。	
		事前学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
		事後学修	課題曲、全曲のステップシート確認	30分
15	7/15	まとめ	まとめ 課題曲を全曲続けて行う。	
		この回の到達目標	今まで学んだ課題曲（フィットネスダンス）で有酸素運動になるように動けるようにする。	
		事前学修	課題曲、全曲のステップシート確認	30分
		事後学修	生活習慣チェック表を確認し、自らの生活習慣をもう一度見直す。そして、良い習慣が身につかなかった部分への原因と改善方法について考察しレポートを作成する。	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動着と屋外及び屋内用運動靴(トレーニングウェア・シューズ等を準備)を準備すること。2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的施設を使用する。第1回目は準備不要(履修カードに貼る顔写真を準備)

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題リポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9310研究室） tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について理解し、説明できる。	
		事前学修	スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
		事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	4/13	ストレッチ体操	適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
		事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	4/20	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を理解し、説明できる。	
		事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち。	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	4/27	敏捷性：アジリティトレーニングを知る	ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について理解し、説明できる。	
		事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
		事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	5/4	オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る	筋力と持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム作成を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力と持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム作成について理解し、説明できる。	
		事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
		事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
6	5/11	平衡性：バランスを高める	平衡性を必要とする用具を用いて行い運動効果を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平衡性：バランスを高める運動を理解し、説明できる。	
		事前学修	「竹馬」の乗り方について調べる。	30分
		事後学修	平衡性：バランスを高めるために必要なトレーニングを実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング	難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて理解し、説明できる。	
		事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。	30分
8	5/25	ロープスポーツ：個人技術	大縄跳び・ダブルダッチを行う。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、個人技術について、グループにおける仲間とお互いの良い点や課題などを共有し理解し、説明できる。	
		事前学修	ダブルダッチについて調べ、必要な体力要素や動作について考える。	30分
		事後学修	ダブルダッチの動作について振り返り、理解を深める。	30分
9	6/1	ロープスポーツ：チーム技術	大縄跳び・ダブルダッチを行う。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、チーム技術について、グループにおける仲間とお互いの良い点や課題などを共有し理解し、説明できる。	
		事前学修	前回授業における課題について、改善策を考えておく。	30分
		事後学修	ダブルダッチの動作について振り返り、理解を深める。グループにおける仲間とお互いの良い点や課題、前回からの改善出来た点などを共有する。	30分
10	6/8	球技：フットサル（基本動作）	足の使い方、基本動作について実践形式でおこない技術を習得する。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、足の使い方、基本動作について理解し、説明できる。	
		事前学修	フットサルのルールについて調べる。	30分
		事後学修	足の使い方、基本動作について反復練習を実施し理解を深める。	30分
11	6/15	球技：フットサル(戦術)	個人戦術、チーム戦術について実践形式でおこない技術を習得する。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、個人戦術、チーム戦術について理解し、説明できる。	
		事前学修	試合における個人戦術、チーム戦術について調べる。	30分
		事後学修	個人戦術、チーム戦術について分析を行う。	30分
12	6/22	球技：フットサル(実践形式)	実践形式においてのチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実践形式においてのチームにおけるコミュニケーションの取り方について理解し、説明できる。	
		事前学修	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	戦略・戦術に関してのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	器具を使ったトレーニング (上半身)	正しいフォームを学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、力が発揮できるフォームについて理解し、説明できる。	
		事前学修	レジスタンストレーニングの最高反復回数と% 1RMについて調べる。	30分
		事後学修	再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
14	7/6	器具を使ったトレーニング (下半身)	適切な負荷の設定を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、適切な負荷の設定について理解し、説明できる。	
		事前学修	超回復理論について調べる。	30分
		事後学修	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。	30分
15	7/13	まとめ/ 振り返り	フィットネスチェック、授業の振り返り	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、フィットネスチェック、授業の振り返りを行い、理解し、説明できる。	
		事前学修	半期の振り返りを行う。	30分
		事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	藤井 洋武	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
①毎回の授業への出席はもちろん、積極的に参加し、取り組むこと②運動にふさわしい服装(ジャージ等)、靴(室内用)を必ず用意すること

【授業方法】
施設、人数などに応じて各種運動を行います。また当日の出席状況によっては、シラバスの内容と違う種目を行うことがあります。時期によっては多目的コートを使用し、屋外で授業を行う場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業の終了前に、その日の内容や取り組みについてのフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
質問・相談については授業時間内（一部火曜 5 限、二部火曜 2、3 限）にしてください個別に質問・相談がある学生は授業講堂に来てください。火曜日のみ16:00～ 授業間の時間等に対応します

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 火4/7	【ガイダンス】 【体育実技の授業方法について】	年間授業計画、授業の進め方などにに関するガイダンス	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、体育実技の方法や目的を理解し、運動と健康の維持増進との関連について説明することができる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や到達目標、年間のスケジュールなどをよく理解しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスの説明を振り返って授業内容や授業の進め方を理解する。また次週以降の授業に備えて体調管理に留意する。	30分
2	第一部 第二部 火4/14	【体力チェックの実践と評価】	体力チェックテスト	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、体力チェックを踏まえて現在の体力を把握・理解する。また今後の授業に向けて個人で目標を立てることができる。	
		事前学修	体力チェックの項目にはどのようなものがあるか、種目と実施方法を調べておく。	30分
		事後学修	自身の体力チェックの結果をふりかえり、体力および健康の維持増進に向けた目標を立てる。	30分
3	第一部 第二部 火4/21	【体への理解とメンテナンス方法の実践】	体ほぐし・ストレッチング	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、体の柔軟性や疲労度について把握するとともに、メンテナンスを実践し、その方法や効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	ストレッチの種類や方法にはどのようなものがあるか、またその効果について事前に調べておく。	30分
		事後学修	授業で実施した内容を振り返り、自宅などでも積極的に実践してみる。	30分
4	第一部 第二部 火4/28	【トレーニング方法の学習と実践】	サーキットトレーニング トレーニング機器の安全な使用方法の理解と実践する	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自分の体力や筋力を把握するとともに、トレーニング機器の種類や安全で正しい使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	サーキットトレーニングとは何か、またどのような効果があるか事前に調べておく。	30分
		事後学修	機器の重量の替え方やポジションの調整など、次週以降繰り返し説明が必要ないように復習しておく。	30分
5	第一部 第二部 火5/5	【トレーニング方法の学習と実践】	サーキットトレーニング 機器の使用法の確認と個人のトレーニングメニューの作成	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自分の体力や筋力を把握するとともに、トレーニングを実践しその方法や効果を理解し、説明することができる。	
		事前学修	前週の内容を振り返り、機材の使い方や重量の設定の仕方などを復習しておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、自分自身に合ったトレーニングメニューについて考える。	30分
6	第一部 第二部 火5/12	【トレーニング方法の学習と実践】	サーキットトレーニング 個人のトレーニングメニューの実践および長期目標の設定	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自分の体力や筋力に合ったメニューを作成するとともに、トレーニングを実践しそのメニュー対して評価をし、説明することができる。	
		事前学修	自分自身でトレーニングメニューを作り、実践する準備をしておく。	30分
		事後学修	自分の作ったトレーニングメニュー・および実践した内容を振り返り、よりよいメニューを考える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 火5/19	【卓球のルール理解と実践】 【シングルスとは】	卓球 シングルスのルールの理解と基本練習・ミニゲーム	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	卓球のシングルスのゲームについて、ルールやゲーム進行の仕方について調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。理解が不十分な場合には、次週に向け調べなおしておく。	30分
8	第一部 第二部 火5/26	【卓球のルール理解と実践】 【シングルのゲーム】	卓球 シングルスのルールの復習とリーグ戦	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ルールについて確認するとともに、ラケットの種類やボールの打ち方についても調べておく。	30分
		事後学修	卓球シングルの楽しさとはなにか、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
9	第一部 第二部 火6/2	【ウォーキングの効果の理解と実践】	ウォーキング	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ウォーキングの効果やメリットについて、一日どれくらい歩くことが推奨されているか事前に調べておく。	30分
		事後学修	自分自身の普段の歩数を意識的に調べ、足りないようであれば隙間時間などにウォーキングを実践する。	30分
10	第一部 第二部 火6/9	【フットサルのルール理解と実践】	フットサル フットサルのルールの理解と基本練習・ミニゲーム	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	フットサルとサッカーの違いは何か、また使用するボールやルールについて調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。理解が不十分な場合には、次週に向け調べなおしておく。	30分
11	第一部 第二部 火6/16	【フットサルのルール理解と実践】	フットサル フットサルのルールの復習とリーグ戦	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ルールについて確認するとともに、蹴り方の種類などについても調べておく。	30分
		事後学修	フットサルの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方についての意見をまとめる。	30分
12	第一部 第二部 火6/23	【自宅でも気軽にできる運動とは】	DVD鑑賞（トレーニングやエアロビクスなど）	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	近年刊行された運動やスポーツについての書籍の中で、興味のあるものをピックアップしておく。	30分
		事後学修	自分自身に合う運動のスタイルとは何か、自分なりの意見をまとめておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 火6/30	【ダーツのルール理解と実践】	ダーツ ダーツのルールの理解および基本練習	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ダーツのルールや歴史について、あらかじめ調べておく。	30分
		事後学修	ダーツがもつスポーツ性とは何か、自分なりの意見をまとめる。	30分
14	第一部 第二部 火7/7	【ダーツのルール理解と実践】	ダーツ ダーツのルールの復習とゲームの実践	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ルールやゲームの方法を振り返り、ダーツの投げ方や握り方についても調べておく。	30分
		事後学修	ダーツの楽しさとは何か、自分なりの楽しみ方について意見をまとめる	30分
15	第一部 第二部 火7/14	【前期の授業の振り返りおよび解説】	前期のまとめと振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の授業をとおして自己の体力や筋力の変化を理解するとともに、スポーツ・運動と健康の維持増進について振り返り・説明することができる。	
		事前学修	体育実技ⅠAの授業について、実施したスポーツ・身体運動の種類や目的、またそれらの運動効果について振り返っておく。	30分
		事後学修	後期に向けて、健康の維持・増進のため具体的にどのような運動に取り組むかの目標を立てる。	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動に適した服装、室内シューズ、タオル、筆記用具の用意

【授業方法】
講義、身体チェック、トレーニングを基盤として施設や人数に合わせた用具・ルールで運動を実践する。活動内容は個人カードに記録する。ボールゲームやニュースポーツは「多目的コート」を使用することがあるので前の週の授業時に連絡をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	自身の体力・筋力測定の結果を受けて客観的に運動メニューを作成し、実践、調整をする。グループワークの中でリーダーシップ、コミュニケーションを取り、レクリエーションスポーツを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で解説し、確認をしていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず、必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
木曜日13:00から18:00 2号館地下（体育教員室，体育場）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 AHA TC IEMA Faculty, 国際救命救急協会理事、イグザミナー
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動時に起きてしまう体調不良や怪我の対応、救急処置も合わせて学生に伝えていく。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 木 4/9	ガイダンス 健康・体力について	健康・体力について、授業での到達目標を決める。年間の授業内容や履修上の注意点、評価方法などのガイダンス 履修カード作成	
		この回の到達目標	心身共に健康で行動的な大学生活を送るための体力はどのくらいか理解する	
		事前学修	筆記用具、写真の準備をする、事前にシラバスを確認しておくこと	30分
		事後学修	ガイダンス内容に従い、トレーニングウェア、シューズ、タオルなどの準備、購入をする。	30分
2	第1部 木 4/16	体をほぐしてチェックをしよう	各種ストレッチ 体のチェック 手具を使わないからだほぐし運動	
		この回の到達目標	正しいストレッチの方法を習得する。	
		事前学修	体調管理 前回欠席の学生は写真の準備	30分
		事後学修	202教室とトレーニング機器の使い方とトレーニングルームでのルールのと体調管理の方法の再確認	30分
3	第1部 木 4/23	体力測定	体力カード作成 身体チェック（体力測定）	
		この回の到達目標	現状の自身の体力を客観的に捉える。	
		事前学修	体調管理、体力測定内容の確認 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく	60分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする 自分の体力測定の結果を客観的に捉え、高める体力をチェックする	60分
4	第1部 木 4/30	筋力測定と体ほぐし運動	トレーニングカード作成 筋力測定（1RMをはかろう） バランスボールを使ったからだほぐし運動	
		この回の到達目標	現状の自身の筋力を客観的に捉える からだの使い方を覚える ペアで協力して行う	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 筋力測定内容、マシンの使い方の確認	60分
		事後学修	初めて行うからだの使い方を復習してみる マシンと筋肉の使い方の確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする。	60分
5	第1部 木 5/7	筋力測定と体ほぐし運動	トレーニングカード 筋力測定（1RMをはかろう） ボールを使ったからだほぐし運動	
		この回の到達目標	現状の自身の筋力を客観的に捉える ボール扱い方を覚える ペアで協力して行う	
		事前学修	体調管理 ボールを使ったからだほぐし運動を調べてくる ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく	60分
		事後学修	初めて行うからだの使い方を復習してみる マシンと筋肉の使い方の確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする。	60分
6	第1部 木 5/14	筋力測定と体ほぐし運動	トレーニングカード作成 筋力測定（1RMをはかろう） 縄跳びを使ったからだほぐし運動	
		この回の到達目標	現状の自身の筋力を客観的に捉える ボール扱い方を覚える ペアで協力して行う	
		事前学修	体調管理 縄跳びの様々な跳び方の情報を得る ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく	60分
		事後学修	初めて行うからだの使い方を復習してみる マシンと筋肉の使い方、自分の筋力測定の結果を確認し、高める体力をチェックする ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 木 5/21	運動メニュー作成とトレーニング	体力・筋力測定の結果を受け止め、自分に合ったトレーニングメニューを作成し、実践、調整する	
		この回の到達目標	自身の体力・筋力測定の結果をもとに自分に合った運動メニューを作成する	
		事前学修	体調管理 自分の筋力測定の結果を確認し、高める体力をチェックする	60分
		事後学修	調整が必要なトレーニングメニューのチェックをする ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
8	第1部 木 5/28	トレーニングとレクリエーションスポーツ	トレーニング 卓球野球（多目的コートor体育場）	
		この回の到達目標	他者とのコミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮しチームとして卓球野球を成立させる 手具の扱いを楽しみ、苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく グループで自分の役割を考える	45分
		事後学修	チームの貢献できたこと、足りなかったことなどを記録しておく ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分
9	第1部 木 6/4	トレーニングとレクリエーションスポーツ	トレーニング ドッジボール、ドッジビー（多目的コートor体育場）	
		この回の到達目標	他者とのコミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮しチームとしてドッジボールやドッジビーを成立させる フリスビーの扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。	
		事前学修	体調管理 手具の扱いの弱点など高めるために何をすればよいか考える グループで自分の役割を考える	45分
		事後学修	手具の扱いの弱点など高めるために何をすればよいか考える グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
10	第1部 木 6/11	トレーニングとレクリエーションスポーツ	トレーニング インディアカ（多目的コートor体育場）	
		この回の到達目標	他者とのコミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮しチームとしてインディアカを成立させる インディアカの扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。	
		事前学修	体調管理 インディアカという羽をコントロールするためにはどうしたらよいか調べてくる グループで自分の役割を考える	45分
		事後学修	手具の扱いの弱点など高めるために何をすればよいか考える グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
11	第1部 木 6/18	トレーニングとレクリエーションスポーツ	トレーニング インディアカ（多目的コートor体育場）	
		この回の到達目標	チームメイトと協力して前回よりもインディアカらしくゲームができるように、チーム運営をする インディアカの扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。	
		事前学修	体調管理 羽の扱いを前回より上手にするためには、何を意識するのか考えてくる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	羽はコントロールできたか再確認 トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
12	第1部 木 6/25	トレーニングと卓球	トレーニング 卓球（シングルス） トレーニング一時チェック	
		この回の到達目標	トレーニングの負荷は適当であるか実践、調整、修正 ラケットでボールコントロールや回転をかける（ドライブ、カット）	
		事前学修	体調管理 トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 自分に合うラケットはどっちなのか、卓球のストロークを調べる。	60分
		事後学修	ラケットは自分に合っているものを使用して、コントロールや回転をかけることできたか再確認 トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部 木 7/2	トレーニングと卓球		トレーニング 卓球（シングルス）ルールを把握をしてゲームをする
		この回の 到達目標	同じ台のメンバーと協力する ルールを理解してゲームを成立させる	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 苦手なストロークができるようになる修正方法を調べる	60分
		事後学修	苦手なストロークの進化チェック ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする。	60分
14	第1部 木 7/9	トレーニングと卓球		トレーニング 卓球（ダブルス）ルールを把握をしてゲームをする
		この回の 到達目標	ペアと協力する ルールを理解してゲームを成立させる	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 苦手なストロークができるようになる修正方法を調べる	60分
		事後学修	トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 授業ではトレーニングが最後なので、休み中にできる内容を考える ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
15	第1部 木 7/16	卓球大会		卓球大会 まとめ
		この回の 到達目標	履修者全員が協力して団体戦運営を成立させる	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく ルールの確認 休み中に行うトレーニングメニューを作成し、提出準備する	90分
		事後学修	トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 授業ではトレーニングが最後なので、休み中にできる内容を再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	朴 鍾熾	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講者は室内用運動靴(紐靴)、トレーニングウェア(自由に運動ができる服装)、タオル等を各自で準備すること。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける証明写真1枚を準備)

【授業方法】
授業開始時に出席確認および実施内容の説明をする。※授業内容は変更する場合がある。多目的コートを使用する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
教員連絡にて	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】	
授業の前後（木曜2、3限）に質問を受け付ける。授業講堂にて	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	【ガイダンス】【導入講義】	授業の目的・方法，評価方法，受講時の注意，シラバスについて説明	
		この回の到達目標	体育実技1Aに関する総合的な説明	
		事前学修	体育実技1Aに関する総合的な説明をするので，筆記用具等を持参すること	30分
		事後学修	次回の種目に関するルールを調べておく	30分
2	4/16	【体力測定】	握力，反復横跳び，上体起こし，長座体前屈，立ち幅跳び，閉眼片足たち	
		この回の到達目標	体力測定	
		事前学修	体力測定種目についてチェックする	30分
		事後学修	3体力測定の結果を踏まえて，1年間の体力管理の目標をたてる	30分
3	4/23	【卓球①】	基礎練習，サーブ，ラリー，シングルスゲーム	
		この回の到達目標	卓球の基礎練習	
		事前学修	卓球のルールについて調べる	30分
		事後学修	試合中の感覚を覚え，シングルスの相手とコミュニケーションをとる	30分
4	4/30	【ダーツ①】	基礎練習，501ゲーム，01ゲーム	
		この回の到達目標	ダーツのルールの理解	
		事前学修	ダーツゲームの種類およびルールについて確認する	30分
		事後学修	ルールを正しく理解できたか省みる	30分
5	5/7	【フローーカーリング①】	ルールの説明，ストーン投げ練習，ゲーム（5人組）	
		この回の到達目標	フローーカーリングの理解	
		事前学修	フローーカーリングのルールについて調べる	30分
		事後学修	チームワークに貢献できたか振り返り，次回のゲームに活かす	30分
6	5/14	【ハンドボール①】	パス，シュート，ゲーム（5人組）	
		この回の到達目標	ハンドボールのルールの理解	
		事前学修	ハンドボールについて調べ，試合中のプレーをイメージトレーニングする	30分
		事後学修	自分のプレーに満足できたか考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	【フットサル①】	パス、ドリブル、ミニゲーム（4人組）※可能ならば屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	フットサルの理解	
		事前学修	サッカーとフットサルの違いについて調べる	30分
		事後学修	個人プレーとチームプレーが両方できたか振り返る	30分
8	5/28	【ピックルボール①】	ルールの説明、ラリー、ゲーム（2人組）	
		この回の到達目標	ピックルボールの試合	
		事前学修	ピックルボールのゲーム方法とルールについて調べる（30分）	30分
		事後学修	他のラケット競技と異なる点について考える（30分）	30分
9	6/4	【ドッチボール①】	ボールの投げ方、ゲーム（6人組）	
		この回の到達目標	ドッチボールのルールの理解	
		事前学修	ドッチボールに必要な体力要素について調べる（30分）	30分
		事後学修	チームメートとコミュニケーションをとり、次回の種目に活かす（30分）	30分
10	6/11	【ミニバドミントン①】	基礎練習、ゲーム（ダブルス）	
		この回の到達目標	ミニバドミントンの試合	
		事前学修	ミニバドミントンを楽しめる方法を考える（30分）	30分
		事後学修	試合を振り返り、バドミントン競技の理解を深める（30分）	30分
11	6/18	【ウェイトトレーニング①】	レジスタンストレーニング、体組成測定	
		この回の到達目標	マシンの種類の把握	
		事前学修	ウェイトトレーニング時の注意点について調べる（30分）	30分
		事後学修	十分にクールダウンを実施し、疲労回復および傷害予防に努める（30分）	30分
12	6/25	【ユニホッケー①】	パス、ドリブル、ミニゲーム（4人組）	
		この回の到達目標	ユニホッケーの試合	
		事前学修	ユニホッケーのルールおよび技術を調べる（30分）	30分
		事後学修	ユニホッケーのスティック操作が上手にできたか確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	【フローカーリング②】	ルールの説明，ストーン投げ練習，ゲーム（5人組）	
		この回の到達目標	フローカーリングの試合	
		事前学修	フローカーリング①と違うチームを組み，戦術を考える（30分）	30分
		事後学修	フローカーリング①に比較し，上達できたか確認する（30分）	30分
14	7/9	【ピックルボール②】	ルールの説明，基本練習，ゲーム（3人組）	
		この回の到達目標	3人組試合	
		事前学修	フローカーリング①と違うチームを組み，戦術を考える	30分
		事後学修	試合の結果を見直し，次回の種目に活かす	30分
15	7/16	【まとめ】	レクリエーション，講評，質疑応答	
		この回の到達目標	まとめ	
		事前学修	前期のまとめをする	30分
		事後学修	総合評価	30分

科目名	体育スポーツ実習A	担当者	深田 喜八郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。授業は主に2号館体育場及びトレーニングルームを使用するが、多目的コートを使用する場合もある。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける写真を準備)

【授業方法】
授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。 【フィードバック方法】作成した運動プログラムや課題レポートに対する講評、添削を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等により実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
作成した運動プログラムや課題レポートに対する講評、添削を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日 17時30分～18時00分 2号館地下1F※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 月4/6	【ガイダンス及び用具の説明】	授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明するとともに、用具及び施設の使用方法、注意点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、運動と健康の関連について説明できる。	
		事前学修	運動の意義についてまとめる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第二部 月4/13	【体ほぐしの運動】	パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニケーションを図る。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、ストレッチの重要性を説明できる。	
		事前学修	ストレッチの効果について調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。	30分
3	第二部 月4/20	【体力テスト】	身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力測定の結果を踏まえ自らの目標を説明でき。	
		事前学修	測定種目について確認する。	30分
		事後学修	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。	30分
4	第二部 月4/27	【自重トレーニング】	自身の体重を利用した筋力トレーニングの方法を紹介し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。	
		事前学修	自重トレーニングについて調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、自重トレーニングを実施する。	30分
5	第二部 月5/4	【マシントレーニング】	器具を使用した筋力トレーニングの方法や注意点を解説し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。	
		事前学修	マシントレーニングの種類を調べる。	30分
		事後学修	筋力増強のメカニズムについてまとめる。	30分
6	第二部 月5/11	【筋力トレーニングの実施】	各自の目的に沿った筋力トレーニングを考案し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。	
		事前学修	筋力トレーニングプログラムの作成。	30分
		事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 月5/18	【卓球(練習)】	卓球台の準備や道具の取り扱いについて解説し、様々なペアで練習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、卓球の基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	卓球の基礎技術についてまとめる。	30分
		事後学修	練習した経験を踏まえ、卓球のコツについてまとめる。	30分
8	第二部 月5/25	【卓球(シングルス)】	シングルスゲームの方法を解説し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、卓球の基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	シングルのルールについて調べる。	30分
		事後学修	シングルの結果を踏まえ、反省点をまとめる。	30分
9	第二部 月6/1	【卓球(ダブルス)】	ダブルスゲームの方法を解説し、様々な人とペアを組み対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、卓球の基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ダブルスのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ダブルスのコミュニケーションについてまとめる。	30分
10	第二部 月6/8	【有酸素運動①】	エアロバイクによる有酸素運動の方法を解説し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素運動と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素運動の達成目標について説明できる。	
		事前学修	有酸素運動について調べる。	30分
		事後学修	エアロバイクの回転数や強度についてまとめる。	30分
11	第二部 月6/15	【有酸素運動②】	心拍数をもとにエアロバイクの強度を設定し、有酸素運動を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素運動と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素運動の達成目標について説明できる。	
		事前学修	安静時心拍数を確認しておく。	30分
		事後学修	目標とする運動中の心拍数を確認する。	30分
12	第二部 月6/22	【有酸素運動③】	作成した有酸素運動プログラムをもとに、トレーニングを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素運動と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素運動の達成目標について説明できる。	
		事前学修	自分自身に適した有酸素運動を考案する。	30分
		事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 月6/29	【トレーニング実践①】	筋力トレーニングと有酸素運動を組み合わせたトレーニングプログラムを考案し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	総合的なトレーニングプログラムを作成する。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、プログラムを修正する。	30分
14	第二部 月7/6	【トレーニング実践②】	筋力トレーニングと有酸素運動を組み合わせたトレーニングプログラムを再度考案し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	総合的なトレーニングプログラムを再度作成する。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、まとめる。	30分
15	第二部 月7/13	【まとめ】	これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	これまでの内容についてまとめる。	30分
		事後学修	施設を探し、トレーニングを実践する。	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	岩本 良裕	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
実技の授業であるので、トレーニングウェアとトレーニングシューズが必要です。運動終了後シャワーが利用できます。

【授業方法】
毎回トレーニングメニューに従い、自分のペースでトレーニングを進めます。エアロバイクやランニングマシンでトレーニングを行う際には、ワークマン等を使用しても構いません。水分摂取も適宜行ってください。内容によっては多目的コートを使用することもあります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎授業ごとに記録されるトレーニングカードについてチェックし、講評・助言を行い、サポートしていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
毎週金曜日4時限 2号館地下

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 金9/18	体力測定 筋力アップトレーニング	体力測定、体脂肪測定 筋力アップトレーニングの方法	
		この回の到達目標	筋力アップトレーニングの方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前期の授業で確認した課題を再確認する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、筋力アップトレーニングの意義や方法を確認する。	30分
2	第一部 第二部 金9/25	体幹筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 1 体幹筋力アップトレーニング(1) フロントブリッジ、サイドブリッジ	
		この回の到達目標	体幹筋力アップトレーニング フロントブリッジ、サイドブリッジの方法を理解し、実践することにより、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
3	第一部 第二部 金10/2	体幹筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 2 体幹筋力アップトレーニング(2) ヒップリフト、ダイアゴナル	
		この回の到達目標	筋力アップトレーニング ヒップリフト、ダイアゴナルの方法を理解し、実践することにより、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
4	第一部 第二部 金10/9	体幹筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 3 体幹筋力アップトレーニング(3) 負荷を上げる方法	
		この回の到達目標	体幹筋力アップトレーニングの負荷を上げる方法を理解し、実践することにより、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
5	第一部 第二部 金10/16	体幹筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 4 体幹筋力アップトレーニング(4) 器具を利用する方法	
		この回の到達目標	体幹筋力アップトレーニング 器具を利用して行う方法を理解し、実践することにより、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
6	第一部 第二部 金10/23	下肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 5 下肢筋力アップトレーニング(1) マシーントレーニングの方法	
		この回の到達目標	下肢筋力アップトレーニング マシーントレーニングの方法とその効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 金10/30	下肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 6 下肢筋力アップトレーニング(2) 適切な負荷のかけ方	
		この回の到達目標	下肢筋力アップトレーニングにおいて適切な負荷のかけ方について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
8	第一部 第二部 金11/6	下肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 7 下肢筋力アップトレーニング(3) マシーントレーニング	
		この回の到達目標	下肢筋力アップトレーニング マシーントレーニングを実践し、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
9	第一部 第二部 金11/13	下肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 8 下肢筋力アップトレーニング(4) 器具を使用しない方法	
		この回の到達目標	下肢筋力アップトレーニング 器具を使用しない方法について理解し、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
10	第一部 第二部 金11/20	上肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 9 上肢筋力アップトレーニング(1) マシーントレーニング	
		この回の到達目標	上肢筋力アップトレーニング マシーントレーニングの方法とその効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
11	第一部 第二部 金11/27	上肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 10 上肢筋力アップトレーニング(2) 適切な負荷のかけ方	
		この回の到達目標	上肢筋力アップトレーニングにおいて負荷のかけ方について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
12	第一部 第二部 金12/4	上肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 11 上肢筋力アップトレーニング(3) ダンベルトレーニング	
		この回の到達目標	上肢筋力アップトレーニング ダンベルを使用したトレーニング方法の習得。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 金12/11	上肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 1 2 上肢筋力アップトレーニング(4) 器具を使用しない方法	
		この回の到達目標	上肢筋力アップトレーニング 器具を使用しないトレーニング方法の習得。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。)	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
14	第一部 第二部4 金12/18	体力測定	筋力アップトレーニング 1 3 体力測定、体脂肪測定	
		この回の到達目標	体力測定を行い、自己の体力の現状を理解する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
15	第一部 第二部 金12/25	まとめ	[まとめ] 年間通してのトレーニング効果について確認し、運動の必要性についての意義を深める。	
		この回の到達目標	筋力アップトレーニングの意義について再確認する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、トレーニングカードに基づきグラフを作成してトレーニング効果を確認する。	30分
		事後学修	日常生活の中に、運動を取り入れ、習慣化していくことの重要性について理解を深める。	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は、必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。自他の怪我や事故の防止のため、アクセサリ類は全て外し、健康管理に留意した上で、遅刻をしないように出席すること。条件に満たない者の履修は認めない。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い授業を展開する。進捗状況や出席者数・天候により授業内容の変更もある。授業は2号館体育場およびトレーニングルームを使用するが、内容によっては多目的コートを使用することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でレポートの講評および解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考	使用せず、必要に応じて資料を配布する				

【オフィスアワー】
授業（火曜1限）前後の時間帯にて対応する。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	【体組成測定】 【トレーニングプログラムの作成】	履修カードの作成、健医チェック、トレーニングプログラムの作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期と後期の体組成データの結果についての比較・分析を行うことができる。また、前期の反省および自身の健康状態を踏まえて、適切なトレーニングプログラムを作成することができる。	
		事前学修	前期のトレーニングプログラムおよびを体組成データを振り返ること（30分）	30分
		事後学修	体組成結果より生活習慣をチェックし、前期に作成したトレーニングメニューの内容について再検討すること（30分）	30分
2	第一部火 9/22	【トレーニングの実施】 【フットサル】	トレーニング（筋力・有酸素）、フットサル	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回作成したトレーニングプログラムについて必要に応じて適宜修正することができる。また、フットサルの基本的なルールおよび基本的な技術を理解できる。	
		事前学修	後期初回のトレーニング後の身体の状態を確認し、プログラム修正の必要があるか検討すること。また、フットサルの基本的なルールや技術について調べておくこと（30分）	30分
		事後学修	後期の体力・健康維持増進に関して自分なりの目標を設定すること。また、フットサルのルールや技術において、サッカーとの違いが曖昧な部分や理解が不十分な箇所について、十分に復習し理解しておくこと（30分）	30分
3	第一部火 9/29	【トレーニングの実施と、自宅でもできるトレーニングの検討】 【フットサル】	トレーニング（筋力・有酸素）、フットサル	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内のマシントレーニング以外で、自宅でもできるトレーニング内容について考え、計画することができる。また、フットサルのゲームを円滑に進めることができる。	
		事前学修	自重トレーニングについて調べ、自身ができそうなものをいくつかピックアップしておくこと。また、フットサルのゲームにおいて自身がどのように動くべきか考えて、シミュレーションしてみること（30分）	30分
		事後学修	この後、トレーニングを実施しない回が複数続いたため、自宅でのトレーニングプログラムを計画し、授業外でも自重負荷を用いたトレーニング等を実施すること。また、屋外多目的コートの場合や、ゴールの大きさ等、室内の体育場とは異なる特徴について確認しておくこと（30分）	30分
4	第一部火 10/6	【フットサル（屋外・ゲーム）】	フットサル	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、屋外コートでの練習・ゲームを通して、屋内コートとの違いについて自分なりに理解し、必要な工夫をすることができる。	
		事前学修	筋肉疲労を軽減するためストレッチを必ず実施すること（30分）	30分
		事後学修	前回同様、自宅でもトレーニングを実施すること。必要に応じてセット数・回数を修正する。また、フットサルに関して、屋内コートと屋外コートの違いや、それぞれのコートでの動き方や力の入れ具合の違いなど、必要な工夫について考えること（30分）	30分
5	第一部火 10/13	【フットサル（屋外・ゲーム）】	フットサル	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、前回の屋外コートでのゲーム経験を活かし、仲間と協力して思いっきりプレーすることができる。	
		事前学修	前回の反省を踏まえ、屋外コートで得点に繋げるためには、自分はどのように動く必要があるのか考えておくこと（30分）	30分
		事後学修	授業外でのトレーニングについて、十分な刺激・効果が得られているか振り返ること。また、本日のフットサルのゲームについて、自身のコート内での動きやボールコントロールの出来栄と、仲間と協力してうまくチームプレーができたかについて省みること（30分）	30分
6	第一部火 10/20	【バランストレーニング】 【ダーツ（カウントアップ）】	トレーニング（バランスボール）、ダーツ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ペアでのバランストレーニングを通して、問題発見・課題解決ができる。また、繊細なバランス感覚のトレーニングおよびダーツの基本的な投げ方の練習を通して、自身の身体感覚を敏感に捉え、どこをどのように調整すればよいか試行し、「気づく」ことができる。	
		事前学修	バランス（平衡性）について調べること。また、ダーツ（カウントアップ）の基本的なルールや投げ方について調べること（30分）	30分
		事後学修	実施した運動内容やパートナーとのコミュニケーション、身体感覚について振り返ることで、自分自身の特徴に気づき、改善に繋げること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	【他者のトレーニングに対する確認と修正】 【ダーツ（ゼロワン）】	トレーニング（筋力・有酸素）、ダーツ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまで各自が行ってきたトレーニングに基づいて、他者のトレーニング方法やフォームについても修正、改善ができる。また、前回気づいた感覚に基づいてダーツの投げ方を修正し、命中率をあげる。	
		事前学修	各トレーニングマシンの主動筋や正しいフォームについて再度確認、もしくは調べること。また、ダーツ（ゼロワン）の基本的なルールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	各トレーニングの使用部位やフォームを正しく理解し、修正できるように復習すること。また、今回のダーツの結果を踏まえて、次の目標を設定すること（30分）	30分
8	第一部火 11/10	【ペアでのトレーニングチェック】 【ダーツ（ゼロワン）】	トレーニング（筋力・有酸素）、ダーツ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ペアでのトレーニングを通して、適切なアドバイスや修正のスキルを磨くことで、問題発見・課題解決やコミュニケーションのトレーニングを行うことができる。また、前回よりも難易度の高いダーツのゲームを通して、所定の時間内に課題を終わらせるための、身体感覚と集中力を養うことができる。	
		事前学修	他者に対するアドバイスをを行う上で配慮すべきことや留意すべきことについて考え、必要に応じて調べること。また、ゼロワンのルール上、限られた時間の中で、できるだけ早く上がるために必要な要素について調べること（30分）	30分
		事後学修	トレーニングに関する他者へのアドバイスをを行う際に必要なことについて考え、振り返り、次回に展開すること。また、ダーツは前回よりも技術レベルを高めることができたか検証すること（30分）	30分
9	第一部火 11/17	【技能チェック】 【エアロバイク体力テスト】	トレーニング（筋力・有酸素）、エアロバイク体力テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、トレーニングのアドバイスに関する技能チェックを通して、体力および健康の保持増進に関する、自身の学びの確認とコミュニケーショントレーニングが可能となる。	
		事前学修	他者に対するトレーニングのアドバイスを実施するにあたり、伝えるべきこと、必要な知識を再度確認し、イメージトレーニングしておくこと（30分）	30分
		事後学修	ペアでうまくコミュニケーションが取れたか、適切な修正や知識の提供ができたかについて検証すること（30分）	30分
10	第一部火 11/24	【トレーニングプログラムの実施と見直し】 【スキップingロープ】	トレーニング（筋力・有酸素）、スキップingロープ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までのパートナーからのアドバイスを参考に、トレーニングプログラムを見直すことにより、自身のトレーニングや身体についての客観視ができる。また、スキップingロープを用いて、自身のフィジカルトレーニングが可能となるだけでなく、仲間とのチームワーク力を養うことができる。	
		事前学修	前回のパートナーからのアドバイスを活かし、トレーニングのプログラム内容を見直し、工夫すること。また、スキップingロープの様々な跳び方について調べること（30分）	30分
		事後学修	トレーニングプログラムを見直し、負荷が増した場合は、これまで以上に十分にストレッチ などのコンディショニングを行うこと。また、トレーニングとしてのスキップingロープの活用について検討すること（30分）	30分
11	第一部火 12/1	【トレーニングとコンディショニングの実践】 【ユニホック】	トレーニング（コンディショニング）、ユニホック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ストレッチポールを利用したコンディショニング方法を理解し実践できる。また、ユニホックの基本的なルールや技能を理解し、仲間に説明することができる。	
		事前学修	ストレッチポールの利用方法について調べること。また、ユニホックの基本的なルールや道具、技能について調べること（30分）	30分
		事後学修	コンディショニングでは、コンディショニングの重要性・必要性および自分の身体の変化に気づくことができたかを省みること。また、ユニホックの練習・ゲームを通して、自分の得意な動きや苦手な動き、課題について省みること（30分）	30分
12	第一部火 12/8	【トレーニングの実践】 【ユニホック】	トレーニング（筋力・有酸素・コンディショニング）、ユニホック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コンディショニングを取り入れたトレーニングの重要性について説明できるだけでなく実践でき、日常生活に取り入れられるようになる。また、ユニホックの基本ルールや技能を把握した上で、ゲームをスムーズに行うことができるようになる。	
		事前学修	コンディショニングの方法について復習しておくこと。また、ユニホックのゲームについて、自身がすべき動きや必要なコミュニケーションについて、動画視聴を取り入れるなどして、自分なりにシミュレーションしておくこと（30分）	30分
		事後学修	トレーニングの記録用紙に漏れがないか確認すること。また、ユニホックのスティック操作がスムーズにでき、満足のいくパスワークができたか振り返ること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	【ユニホック】	ユニホック	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、仲間と協力して試合に臨み、お互いに声を掛け合ってコミュニケーションをとることで、円滑なパスワーク、パフォーマンスに繋げることができる。	
		事前学修	スムーズな試合運びや、トーナメントを勝ち上がるために必要な技能・コミュニケーションについて、チームメイトと話し合ってみること（30分）	30分
		事後学修	ユニホックのルールを正しく運用し、前回よりもチームに貢献できたか省みること（30分）	30分
14	第一部火 12/22	【体力チェック】	簡単な体力チェック	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、体力チェックの実施により、自身の体力・健康の現状が把握でき、前期の結果との比較を通して、一年間の自身の取り組みについての評価ができる。	
		事前学修	前期の体力チェックのデータについて確認しておくこと（30分）	30分
		事後学修	正確に測定した上で、得られた結果について前期と後期の変化を比較・分析し、今後に活かすこと（30分）	30分
15	第一部火 1/12	【体組成測定】【振り返り】	後期のまとめ、健医チェック、講評	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期と後期の体組成データの結果についての比較・分析を行い、一年間の自身の取り組みについての評価ができる（30分）	
		事前学修	これまでの体組成データについて確認しておくこと（30分）	30分
		事後学修	到達目標を再認識し、将来に向けて健康や体力の向上を目指した運動習慣を獲得すること（30分）	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動やスポーツが不得意な人を優先する。受講時は必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。自他の怪我や自己防止のため、アクセサリ類は全て外し、健康管理に留意した上で、遅刻をしないように出席すること。条件に満たない者の履修は許可しない。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況や出席者数・天候により授業内容の変更もある。授業は2号館体育場およびトレーニングルームを使用するが、内容によっては多目的コートを使用することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でレポートの講評および解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考	使用せず、必要に応じて資料を配布する。				

【オフィスアワー】
土曜授業（1・2限）前後の時間帯にて対応する。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部土 4/4	【ガイダンス】【授業内容 および履修条件の確認】	年間の授業展開、履修上の留意点及び評価方法などのガイダンス、履修カードの作成	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、本授業において取り組むべき運動内容の把握、および授業に臨む姿勢や求められる服装・態度を理解する。	
		事前学修	事前にシラバスの内容を理解し、遅刻をしないよう出席すること（30分）	30分
		事後学修	次週の授業のための運動着や提出物の準備・睡眠を取り、体調を整えること（30分）	30分
2	第一部土 4/11	【アイスブレイクと身体ほぐし】	体力カード、プリントの配布、身体ほぐし、各種トレーニング器具使用方法の説明と実践	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、仲間とコミュニケーションをとりながら、自身の身体をほぐし、自身の心と身体の実状について感覚的に確かめる。	
		事前学修	提出物の作成と、健康についての情報を得ること（30分）	30分
		事後学修	ストレッチ方法を自分なりに調べ、理解し実践に移すこと（30分）	30分
3	第一部土 4/18	【身体組成の測定および把握】	ストレッチ、健医チェック	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、体組成データを測定し、現状を把握すると共に、課題および改善点を踏まえて目標を設定する。	
		事前学修	日常生活の中でストレッチを15～30分行い習慣とすること（30分）	30分
		事後学修	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること（30分）	30分
4	第一部土 4/25	【体力チェック】	ストレッチ、簡単な体力チェック	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、自身の体力の確認と、必要なトレーニングについて考え、計画することができる。	
		事前学修	簡単な体幹トレーニングを心掛けて実践すること（30分）	30分
		事後学修	現在の体力レベルをチェックして向上のためのトレーニング方法を計画すること（30分）	30分
5	第一部土 5/2	【最大筋力の算出】【卓球】	最大筋力測定、卓球の基礎技術	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの体力および健康の保持増進のために必要なトレーニングとウエイトの設定、自身の最大筋力の正確な算出ができる。また、卓球の基本的な技術やルールについて理解し、説明できる。	
		事前学修	筋力測定のための準備と食生活を日々チェックすること（30分）	30分
		事後学修	測定結果を認知しトレーニングを構築すること（30分）	30分
6	第一部土 5/9	【最大筋力の算出】【有酸素運動の実践】【卓球（シングルスゲーム）】	前回到続き最大筋力測定、エアロバイク・エアロクライムの使用方法と実践、卓球（シングルスゲームとルール）	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、有酸素運動の意義と必要性を理解し、説明できるだけでなく、有酸素運動を実施する際に使用する機器がわかり、正しく使用できる。また、仲間と卓球のルールを確認・説明しながら、円滑にゲーム運営ができる。	
		事前学修	有酸素運動の知識を得て、適切な方法を考える。平常時の心拍数をチェックすること。また、卓球のゲーム方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイク・エアロクライムにおける、トレーニングを理解し、トレーニング方法を組み立てること。また、卓球のゲーム結果より次回の勝利に向けてゲーム展開を整理すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 5/16	【トレーニング】【卓球 (シングルスゲーム)】	筋力トレーニングの説明と実践、卓球（シングルスゲーム）	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、自身に必要な筋力トレーニングについて考え、メニュー作成と実践ができる。トレーニングに関しても卓球に関しても、これまでの反省を踏まえ、目標を設定し、取り組むことができる。	
		事前学修	筋力トレーニング種目を測定結果より5~6種目選択し、メニューを作成すること。また、シングルスゲームの戦術を工夫すること（30分）	30分
		事後学修	実施した結果より再度メニューを検討すること。また、シングルスゲームで対戦した相手とコミュニケーションを取り健闘を讃えること（30分）	30分
8	第一部土 5/23	【トレーニングプログラムの作成】【卓球（ダブルスゲーム）】	個々の体力に合わせたトレーニングのプログラム作成と実践、卓球（ダブルスゲーム）	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、前回設定したトレーニングメニューの見直しと修正ができる。卓球では、新たにダブルスゲームに挑戦し、これまでの授業で培った技術や、シングルスゲームの経験を応用できる。	
		事前学修	確実なトレーニングのための方法と内容を理解すること。また、ダブルスゲームの方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	適切なプログラム構成か確認し、修正すること。また、ダブルスゲームのペアに感謝し次回の種目に活かすこと（30分）	30分
9	第一部土 5/30	【トレーニングの継続】 【ポートボールに関する基本事項の確認と実践】	筋力トレーニング、ポートボール	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、これまで設定したトレーニングプログラムを継続して正確に実施し、自身の健康増進に繋がると共に、仲間とコミュニケーションをとりながらポートボールに取り組み、全身運動により、気持ちよく汗を流すことができる。	
		事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。また、ポートボールのルール・技術を調べること（30分）	30分
		事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。また、バスケットボールの技術をポートボールのゲームに活かすためのイメージトレーニングを行うこと（30分）	30分
10	第一部土 6/6	【トレーニングメニューの 改変】【ポートボールの実 践】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、必要に応じてトレーニング種目を増やし、より多くの筋肉を使って自身の健康増進を図ることができる。仲間と怪我なくポートボールに取り組み、スムーズなゲーム運営ができる。	
		事前学修	トレーニングの負荷量や運動量について更にチェックし、メニューを増やし次に活かすこと。また、バスケットボールとポートボールのゲームのルールの違いを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイクやエアロクライムにおけるカロリー消費量を記録し、効果をチェックすること。また、ポートボールのゲーム展開を認識し、次のゲームに活かすこと（30分）	30分
11	第一部土 6/13	【食生活と筋力トレーニングの 振り返り】【ポート ボール】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、これまで・日頃のトレーニングだけでなく、食生活についても振り返り、改善に繋げることができる。また、これまでのポートボールの技術練習やミニゲームの経験を通して、トーナメント戦に取り組むことができる。	
		事前学修	筋力量を増やすための食生活をチェックし、バランスの良い食事を取り、体幹トレーニングを怠らないこと。また、ポートボールのトーナメント戦に備えて作戦を練ること（30分）	30分
		事後学修	体力カードをチェックし正確な記録ができたか確認すること。また、ポートボールにおいてチーム間のコミュニケーションとリーダーシップを取り、満足のいくゲーム展開ができたか確認すること（30分）	30分
12	第一部土 6/20	【トレーニングのチェッ ク】【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、これまでの筋力トレーニングの経験を踏まえ、前期の最後に行う体組成測定に結果が反映されるためにどのようなことが必要か、自分なりに再度トレーニング内容のチェックを行うことができる。ドッジビーでは、コントロールが不慣れな中で、自分がどこにどのようにドッジビーを投げれば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	筋力トレーニングのポイントや意識すべき点について再度確認しておくこと。また、ドッジビーの投げ方やコントロールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	刺激を感じられるトレーニングであったか考え、残りのトレーニングに活かすこと。また、ドッジビーの操作が満足にできたか確認すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部土 6/27	【トレーニングの継続】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、前期最後の体組成測定の結果から、自身の健康増進が確認できることを目指し、トレーニングを継続する。ドッジビーでは、仲間との協働を通して、自分がどこにどのように動けば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	狙った筋肉に適切に刺激を加えられているか、前回のトレーニングによる筋肉痛の程度はどの程度だったか等を振り返り、次のトレーニングに活かすこと。また、ゴールドッジのルールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	トレーニングの内容が充実してきた中、怪我等が無いよう、栄養・休養・ストレッチ などのコンディショニングを再度見直し、十分に実施すること。また、ドッジビーのゲームでの動きや投げ方が適切であったか振り返り、改善点について考えること（30分）	30分
14	第一部土 7/4	【トレーニングの継続と今後の計画】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、筋力トレーニングの継続だけでなく、後期に向けて、夏休み中も自分で取り組むことができるトレーニングについて考え、目標を立てて休み中の実施をも試みることで、自身の健康管理に繋げることができる。	
		事前学修	前期最後の筋力トレーニングに向けて、コンディショニングしておくこと。また、ドッジビーでは、前回のゲーム内容を振り返り、より良い動きや投げ方ができるよう、シミュレーションしてみること（30分）	30分
		事後学修	後期に再度筋力トレーニングを行う際に筋力低下やトレーニング方法の忘却がないよう、自身の健康状態について現状を把握し、トレーニング方法を自分なりに整理してまとめておくこと。また、ドッジビーという協働行為を通して経験した、仲間とのコミュニケーションの重要性について、スポーツ場面以外において、どのような場面で活かされるか考えてみること（30分）	30分
15	第一部土 7/11	【身体組成の測定】 【前期のまとめ】 【振り返り】	前期のまとめ、レポート、健医チェック、質疑応答、講評	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の授業を通して学んだ、体力および健康の保持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明することができるだけでなく、自身のトレーニングやスポーツ・運動への目標や取り組みについて振り返り、その達成度について振り返ることができる。	
		事前学修	前期のトレーニング結果を確認し、後期に継続されるよう取り組むこと（30分）	30分
		事後学修	積極的に参加し健康や体力の重要性を理解するとともに、後期に向けて更に進歩したトレーニングを目指すこと（30分）	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力の維持増進のため、30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施すること。

【授業方法】
各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート、振り返りシート、レポート課題について講評

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
月、火曜日 12：10～13：00 連絡方法 satou.hideaki@nihon-u.ac.jp※事前に連絡（用件内容）をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 9/15 ※上段：月曜日 下段：火曜日	運動・スポーツ実施と健康について	ガイダンス ・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等 ・運動・スポーツ実施と健康への影響について 身体ほぐし運動	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、運動・スポーツが健康にもたらす影響について説明することができる。	
		事前学修	シラバスの確認 フィットネス測定種目の確認 ・握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳、閉眼片足立ち	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。	30分
2	9/21 9/22	体幹のエクササイズ（スタビライゼーショントレーニング）	スタビライゼーショントレーニング ・静的スタビライゼーショントレーニング ・動的スタビライゼーショントレーニング	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、スタビライゼーショントレーニングの方法及び考え方について説明することができる。	
		事前学修	体幹をトレーニングする重要性について調べてくる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。 他者と意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
3	9/28 9/29	全身持久力向上の運動（サーキットトレーニング）	サーキットトレーニング ・サーキットトレーニング（高強度エクササイズ）の実践 ・自分の体力に合わせた運動	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、サーキットトレーニングの方法及び考え方について説明することができる。	
		事前学修	全身持久力（心肺機能）を高めるサーキットトレーニングについて関連資料を用いて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。	30分
4	10/5 10/6	ディスクスポーツ①	ディスクスポーツ ・フライングディスクのスローとキャッチ ・ゴールゲームの実施 ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの基礎技術について説明することができる。	
		事前学修	フライングディスクのスロー及びキャッチについて確認する。動画を視聴し各動作を確認する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。 意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
5	10/12 10/13	ディスクスポーツ②	ディスクスポーツ ・フライングディスクのスローとキャッチ ・柔らかい素材のディスクを用いたゲーム ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの実践方法について説明することができる。	
		事前学修	フライングディスクのスロー及びキャッチについて再度確認する。動画等を視聴し各動作を確認する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。 意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
6	10/19 10/20	ミニバドミントン	ミニバドミントン ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ミニバドミントンのゲーム ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。 意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/27	卓球①	卓球（シングルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
8	11/9 11/10	卓球②	卓球（ダブルス①） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
9	11/16 11/17	卓球③	卓球（ダブルス②） ・種目の特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
10	11/23 11/24	卓球④	卓球（チーム戦） ・チーム戦における役割やコミュニケーション、リーダーシップや協働の実践	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの競技方法の理解、戦術の習得、チームでの楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	卓球（チーム戦）のルールについて調べる。動画を視聴し基本的な動作や戦術を確認する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてチーム戦における役割やコミュニケーション、リーダーシップや協働への理解を深める。	30分
11	11/30 12/1	ターゲットスポーツ①	ダーツ（カウントアップ） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて当該スポーツの楽しみ方を考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	ダーツ（カウントアップ）のルールを確認する。動画を視聴し投動作を確認する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
12	12/7 12/8	ターゲットスポーツ②	ダーツ（ゼロワン） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて当該スポーツの楽しみ方を考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	ダーツ（ゼロワン）のルールを確認する。動画を視聴し投動作を確認する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/15	器具を利用したトレーニング①	ストレングス&コンディショニングトレーニング① ・目的に応じた種目及び負荷の設定を学ぶ ・トレーニングプログラムの作成と実施	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ストレングス&コンディショニングトレーニングについて説明することができる。	
		事前学修	トレーニングの原理・原則について確認する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	各種トレーニングの負荷設定に方法について再確認し、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
14	12/21 12/22	器具を利用したトレーニング②	ストレングス&コンディショニングトレーニング② ・目的に応じた種目及び負荷の設定を学ぶ ・トレーニングプログラムの作成と実施	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ストレングス&コンディショニングトレーニングについて目的に合ったプログラムを作成することができる。	
		事前学修	強度、時間、頻度など考慮したプログラムを作成する。「超回復理論」と「フィットネス・疲労理論」について調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	作成したプログラムの良い点・課題点をまとめる。学びを生かし様々なプログラムの作成をしてみる。振り返りシートを作成する。	30分
15	1/18 1/12	運動・スポーツ実施によって得られる恩恵について	まとめ ・フィットネスチェック ・振り返りシートの作成 ・講評	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、運動・スポーツ実施による恩恵及びその功罪について自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	授業内容及び目標達成度についてまとめる。	30分
		事後学修	運動・スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。また、各自の様々な目標達成に必要な不可欠な体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。課題レポートを作成する。	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	塩嶋 理恵	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動に適した服装（ジャージ等）、室内用シューズを必ず準備すること。

【授業方法】
施設・人数等に応じて、各種運動と器具トレーニングを並行して展開していく。多目的コートを使用する場合がある。出席状況で授業内容を変更する場合もある。【フィードバック方法】提出されたレポート課題をもとに講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
レポートの講評・解説	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜日 8：50～9：00、12：10～12：20 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 木9/17	ストレッチング（1）	準備体操などストレッチングを行う	
		この回の到達目標	体育実技に向けてストレッチングにより可動域を広げる	
		事前学修	授業内容等の確認 体育実技にふさわしい服装の準備をすること	30分
		事後学修	ガイダンス内容を確認する	30分
2	第1部 木9/24	体力テストの実施（2）	各施設使用方法説明 体力チェックテスト（2）を行う	
		この回の到達目標	体力テスト（1）と比較し、健康維持に努める	
		事前学修	体力チェックテスト測定種目について確認する	30分
		事後学修	体力チェックテスト（1）との比較ができるように記入用紙を作成する	30分
3	第1部 木10/1	ストレッチング（2）	リラックスを重点に置いたストレッチングを実施する	
		この回の到達目標	身体をゆるめることを目標にストレッチングを行う	
		事前学修	ストレッチングの必要性について調べる	30分
		事後学修	ストレッチング体操実施後の振り返りを実施する	30分
4	第1部 木10/8	実技【バドミントン】シングルス	バドミントンのシングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、フォア・バック） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンのフォア・バックの習得	
		事前学修	バドミントンのフォア・バックの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントンのフォア・バックの復習を行う	30分
5	第1部 木10/15	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、ヘアピン） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンのヘアピンの習得	
		事前学修	バドミントンのヘアピンの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントンのヘアピンの復習を行う	30分
6	第1部 木10/22	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブ） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンのサーブの習得	
		事前学修	バドミントンのサーブの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントンのサーブの復習を行う	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 木10/29	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブとドライブ） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンのサーブとドライブの習得	
		事前学修	バドミントンのサーブとドライブの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントンのサーブとドライブの復習を行う	30分
8	第1部 木11/5	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦に向けてゲームとルールの説明、練習試合を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスのルール理解とゲームの実施	
		事前学修	バドミントン シングルのゲームとルールの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントン シングルのゲームとルールの復習を行う	30分
9	第1部 木11/12	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	バドミントン シングルのルールとマナーの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントン シングルのルールとマナーの復習を行う	30分
10	第1部 木11/19	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	バドミントン シングルのルールとマナー、戦略を予習する	30分
		事後学修	バドミントン シングルのルールとマナー、戦略の復習を行う	30分
11	第1部 木12/3	実技【バドミントン】ダブルス	バドミントン ダブルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントン ダブルスのルールとマナーの習得	
		事前学修	バドミントン ダブルスのルールとマナーの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントン ダブルスのルールとマナーの復習を行う	30分
12	第1部 木12/10	実技【バドミントン】ダブルス	バドミントン ダブルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントン ダブルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、戦略を予習する	30分
		事後学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、戦略の復習を行う	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 木12/17	実技【バドミントン】ダブルス	バドミントン 基本スキル（サーブ・ラリー）の確認、およびまとめ 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントン 基本スキルの習得	
		事前学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、基本スキルの再確認	30分
		事後学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、基本スキルの復習を行う	30分
14	第1部 木12/24	軽スポーツ実施	器具トレーニング ピックルボールなど軽スポーツ各種実施する	
		この回の到達目標	軽スポーツ各種のルール理解	
		事前学修	ピックルボールなど軽スポーツ 各種ルールの予習を行う	30分
		事後学修	ピックルボールなど軽スポーツ 各種ルールの復習を行う	30分
15	第1部 木1/14	【まとめ】【振り返り】	【まとめ】授業の振り返り、講評	
		この回の到達目標	スポーツ実施の有効性について理解すること	
		事前学修	半期の振り返りを行う	30分
		事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ実施の有効性について理解を深める。 また今後の健康増進に向けた目標を立てる。	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	柴田 篤志	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動に適した服装（ジャージなど）と屋内用シューズを必ず準備すること。

【授業方法】
授業の開始時と終了時にウォーミングアップ、クールダウンのためにストレッチなどを行う。 授業は主に2号館体育場およびトレーニングルームを使用して行うが、種目によって多目的コートを使用することがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で実施するスポーツ活動について、必要に応じて小グループを作成しグループ内でのディスカッション等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の振り返りレポートおよび課題レポート

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて資料などを配布する。				

【オフィスアワー】
基本的には水曜日12：45～13：00および16：10～16：30の授業前後の時間に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス / フィットネス チェック	①授業の目的や方法、評価についての説明 ②フィットネスチェックを実施する。	
		この回の 到達目標	ガイダンスの内容を理解する。フィットネスチェックを実施し自己の体力レベルの変化について説明することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	前期のフィットネスチェックの結果を確認する。	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を振り返り、自己の体力の変化について理解する。	30分
2	第一部 水9/23	体力を高めるトレーニング	筋力や持久力、柔軟性を高めるトレーニングについて学習する。	
		この回の 到達目標	筋力や持久力、柔軟性を高めるトレーニングを理解し、自己の体力を高めるためのトレーニングについて説明することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	フィットネスチェックの結果から自己の体力の特徴について確認する。	30分
		事後学修	自己の体力を高めるためのトレーニングについて振り返り、理解を深める。	30分
3	第一部 水9/30	ディスクスポーツ①	フライングディスクの基本動作について学修し、技術を習得する。	
		この回の 到達目標	フライングディスクを用いるゲームにおける基本動作について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フライングディスク基本動作（スローやキャッチ）について確認する。	30分
		事後学修	学習した基本動作について振り返り、技術についての理解を深める。	30分
4	第一部 水10/7	ディスクスポーツ②	フライングディスクを用いたミニゲームを通して戦術について学習する。	
		この回の 到達目標	フライングディスクを用いたゲームの中で必要な戦術についてミニゲームを通して理解し、説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フライングディスクを用いるゲーム（アルティメット）の戦術について調べる。	30分
		事後学修	ミニゲームを通して学習した戦術について振り返り、理解を深める。	30分
5	第一部 水10/14	ディスクスポーツ③	実戦形式のゲームを通してフライングディスクを用いるゲームについての理解を深める。	
		この回の 到達目標	実戦形式のフライングディスクを用いるゲームを通してチームでのコミュニケーションを深め、自らの取り組みについて説明することができる。（SB0s①③）	
		事前学修	フライングディスクを用いるゲーム（アルティメット）のルールについて調べる。	30分
		事後学修	ゲームの内容を振り返り、チームの戦術や技術についての理解を深める。	30分
6	第一部 水10/21	卓球①	シングルスゲームを通してラケットの使い方など基本動作について学習する。	
		この回の 到達目標	卓球の基本動作について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	卓球の基本的な技術とルールについて調べる。	30分
		事後学修	ゲームを振り返り、卓球の基本動作について理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部 水10/28	卓球②		ダブルスのゲームを通して基本動作についての理解を深める。
		この回の到達目標	卓球の基本動作について、ペアでの意見交換などを通して理解を深める。(SB0s①③)	
		事前学修	卓球のダブルスのルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球の基本動作について理解を深める。	30分
8	第一部 水11/11	卓球③		ダブルスのゲームを通して卓球の戦術について学習する。
		この回の到達目標	ダブルスのゲームを通して卓球の戦術について意見交換を行い、ペアでの取り組みについて説明することができる。(SB0s①③)	
		事前学修	卓球のダブルスで用いられる戦術について調べる。	30分
		事後学修	卓球のゲームにおける戦術について振り返り、戦術についての理解を深める。	30分
9	第一部 水11/18	卓球④		チームでの試合（シングルスおよびダブルス）を行う。
		この回の到達目標	チームでのゲームを通してチーム内でのコミュニケーション積極的に行い、自己およびチームでの取り組みについて説明することができる。(SB0s①③)	
		事前学修	卓球のチーム戦のルールについて調べる。	30分
		事後学修	チーム戦におけるゲームの内容を振り返り、技術や戦術についての理解を深める。	30分
10	第一部 水11/25	ポートボール①		ポートボールの基本動作について学習する。
		この回の到達目標	ポートボール基本動作についてゲームを通して学習し、その内容について説明することができる。(SB0s③)	
		事前学修	ポートボールのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ゲームを通して学習したポートボールの基本動作について振り返り、理解を深める。	30分
11	第一部 水12/2	ポートボール②		ポートボールの戦術についてゲームを通して学習する。
		この回の到達目標	実戦形式のゲームを通してポートボールの戦術を理解し、自己およびチームの取り組みについて説明することができる。(SB0s①③)	
		事前学修	ポートボールの戦術について調べる。	30分
		事後学修	実戦形式のゲームとチーム内でのコミュニケーションを通して学習したポートボールの戦術について振り返り、理解を深める。	30分
12	第一部 水12/9	ターゲットスポーツ①		チームでのミニゲームを通してターゲットスポーツの基本技術について学習する。
		この回の到達目標	ターゲットスポーツ（フロアカーリング）の基本動作について説明することができる。(SB0s③)	
		事前学修	フロアカーリングのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ミニゲームを通して学習した基本動作について振り返り、理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	ターゲットスポーツ②	実戦形式のゲームを通してターゲットスポーツの戦術について学習する。	
		この回の到達目標	ターゲットスポーツ（フロアカーリング）の戦術について説明することができる。（SB0s①③）	
		事前学修	フロアカーリングの戦術について調べる。	30分
		事後学修	ゲームを通して学習した戦術について振り返り、理解を深める。	30分
14	第一部 水12/23	マシントレーニング	トレーニングの原理・原則を再確認し、自己の目的に応じたトレーニングプログラムを学習する。	
		この回の到達目標	トレーニングの原理・原則を再確認し、自己の体力レベルに応じたトレーニングの強度や時間を理解し、トレーニングプログラムを作成することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	トレーニングの原理・原則などトレーニングを実施するための基礎知識について再確認する。	30分
		事後学修	自己の課題に応じたトレーニングプログラムについて振り返り、理解を深める。	30分
15	第一部 水1/13	フィットネスチェック / まとめ	①フィットネスチェック ②授業の振り返りとまとめ	
		この回の到達目標	フィットネスチェックおよび授業の振り返りを行い、自己の達成について評価する。（SB0s①②③）	
		事前学修	授業内容と自己の目標達成度について整理する。	30分
		事後学修	スポーツ・身体運動の実践が自己の健康増進や体力向上に与えた影響についてまとめる。課題レポートを作成する。	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	白土 男女幸	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動をするうえで健康上の問題がないこと（不安のある学生は第1回目のオリエンテーション時に相談してください）。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオルを準備すること。多目的コートを使用する場合もあります。

【授業方法】
主に全体指導、必要に応じてグループワークも実施します。また事後学習として、トレーニング記録や自己省察を目的とした授業省察ノートの作成をしてもらいます。【フィードバック方法】授業省察ノート講評およびレポート提出とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中は毎時間の課題に応じたグループ学習、授業後は省察ノートを作成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業時にレポートや毎授業の省察ノートの評価について総評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
基本的には授業前後の時間のみ。授業講堂にて。どうしても時間が作れない場合は授業実施期間の水曜日19：30以降に対応（要事前相談）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部・第二部 水9/16	授業ガイダンス、導入授業	オリエンテーション（授業概要等の説明、授業省察ノートの説明、アイスブレーキングの実施、 ＊着替えは不要）	
		この回の到達目標	授業概要について理解することができる。。	
		事前学修	本授業のシラバスを一読しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
2	第一部・第二部 水9/23	スポーツの実践	卓球①（用具やルールの解説、グリップやスウィングの基本、簡単なラリーの実践）	
		この回の到達目標	卓球の基本的なルールや用具について理解し、簡単なラリーを実践できる。	
		事前学修	スポーツ実践のために、ストレッチやジョギングなどで軽く身体を動かしておくこと。 卓球というスポーツについてインターネット等で歴史やルールについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
3	第一部・第二部 水9/30	スポーツの実践	卓球②（サーブやショットでのボールの回転を理解する、簡易ダブルスゲームの実践）	
		この回の到達目標	ボールの回転の掛けかたと軌道を理解し、サーブやラリーの中で実践することができる。	
		事前学修	配布資料を再読し用具やルールの理解をしておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
4	第一部・第二部 水10/7	スポーツの実践	卓球③（より正確でスピードのあるラリーの実践、ダブルスゲームの実践）	
		この回の到達目標	基本技術が高めるとともに、基本的なダブルスゲームを展開できる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールの理解をしておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
5	第一部・第二部 水10/14	スポーツの実践	卓球④（ダブルスゲーム団体戦の実践）	
		この回の到達目標	ボールの回転やコースを狙うなど、ペアと戦略を考えながらダブルスゲームを展開できる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールの理解をしておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
6	第一部・第二部 水10/21	チームスポーツの実践	ユニバーサルホッケー①（用具とルールの解説、トラップやパスワークの実践）	
		この回の到達目標	ユニバーサルホッケーのルールや用具について理解し、説明できる。	
		事前学修	ユニバーサルホッケーというニュースポーツについて、歴史や用具およびルールについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部・第二部 水10/28	チームスポーツの実践	ユニバーサルホッケー②（ディフェンスを入れた実践的なパスワークの実践、簡易ゲーム）	
		この回の到達目標	基本的な技術を理解し、練習およびゲームの中で実践することができる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
8	第一部・第二部 水11/11	チームスポーツの実践	ユニバーサルホッケー③（フロアバランスを考えたオフェンスとディフェンスの理解、ゲームの実践）	
		この回の到達目標	基本技術が高めるとともに、パスワークによるチームプレイを意識しながらゲームを展開することができる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
9	第一部・第二部 水11/18	チームスポーツの実践	ユニバーサルホッケー④（リーグ戦の実践）	
		この回の到達目標	チームでのパスワークを理解し、役割分担やスペースも考慮したプレイを展開することができる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
10	第一部・第二部 水11/25	チームスポーツの実践	フットサル①（用具やコートおよびルールの解説、トラップやパスワークの実践）	
		この回の到達目標	フットサルのルールや基本的な技術について理解し、説明することができる。	
		事前学修	フットサルというスポーツについて、歴史やルールについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
11	第一部・第二部 水12/2	チームスポーツの実践	フットサル②（対人でのボールコントロールとパスワークの実践、簡易ゲーム）	
		この回の到達目標	基本的なボールコントロールができる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
12	第一部・第二部 水12/9	チームスポーツの実践	フットサル③（ゲームの実践）	
		この回の到達目標	基本的なボールコントロールおよびチーム同士でのパスワークを理解し、ゲームの中で実践することができる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部・第二部 水12/16	体力測定	体力測定①（握力・背筋力、立ち幅跳び・垂直飛び、反復横跳び、上体起こし、体前屈・上体そらし、閉眼片足立ち）	
		この回の到達目標	体力要素について理解し、正確に測定することができる。	
		事前学修	体力要素や測定方法について事前に予習しておくこと（文部科学省HP_新体力テスト実施要項を参照）。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
14	第一部・第二部 水12/23	体力測定と評価	体力測定②（踏み台昇降、各体力要素の評価および前期との比較）	
		この回の到達目標	自らの体力要素を客観的に評価し、前期の結果と比較しながら課題を見つけることができる。	
		事前学修	全身持久力測定のため、軽いジョギングなどで心肺機能に軽い負荷を与えておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
15	第一部・第二部 水1/13	まとめ	レポートおよび授業省察ノートの提出、全体のまとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業を振り返り、自らの健康を考え、将来的な運動実践の課題をみつけ、具体的なトレーニング計画を作成することができる。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り、授業省察ノートの「全体の感想」について記述しておくこと。	60分
		事後学修	今後の生涯スポーツの実践に向けて、興味のある社会人スポーツサークルについて調べ、実際に参加してみる。	180分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	鈴木 由美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動に適した服装（トレーニングウェア、屋外・屋内シューズ）タオル、水分補給用の飲み物を準備すること。※第1回目は更衣不要（履修カードに貼る写真を準備）

【授業方法】
実技。 授業開始時にその日の実施内容、学習の目的を説明・確認。 資料配布による理論学習を行い、それらを実践するための様々なエクササイズやスポーツを実施する。 【フィードバック方法】授業記録シート、トレーニングカードや課題レポートの提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第3回のバランスボールトレーニングではペアワークによって課題を進める。 第5回以降のアルティメット、ゴールドッジ、シットینگバレーボール、ポートボールの実践では、グループワークによりその種目に適したウォームアップ構成を考え実践したり、スキルアップや戦術についてのグループディスカッションの時間を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業記録、及び課題シート（トレーニングカードや体組成記録表など）への講評や質問への回答コメント・採点後の添削と返却

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（学習テーマに合わせて資料を配布）				

【オフィスアワー】
金曜日 8：20～16：30 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公共施設・スポーツ施設でのエアロビックダンス及び運動指導（有資格） 国公立中学校での保健体育指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		多様なニーズの一般市民対象の指導経験を生かして、心身を健康に保つための知識やエクササイズ・生涯スポーツを指導	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	【ガイダンス】 【健康維持・増進のための基礎知識（食行動）】	授業内容・授業方法、スケジュール、評価方法、及び受講に際しての注意等を説明する。人生を豊かにする「食行動」について、「栄養」「摂取エネルギー」以外の幅広い視点で身体づくりと食が関連していることを理解する	
		この回の到達目標	①②に関連して、健康維持・増進のためにはライフスタイル全般から身体づくりを進める必要があることを理解できる 健康を維持するための「食」の視点は多岐に渡ることを説明できる	
		事前学修	前期配布の「記録表」に三日分の食事記録をつける	30分
		事後学修	4群点数法、食行動、食の安全性ついて配布資料をもとに復習する。身の回りにある食品のラベル表示を確認する	30分
2	第一部 金9/25	【バランスボール①矯正】	バランスボール①身体の歪みチェックを行い、矯正したい部位のエクササイズを知り、実践する。 マシントレーニング（各自の目的に応じた負荷でのトレーニング）	
		この回の到達目標	①に関連して、バランスボールエクササイズの特徴と効果を説明できる ②に関連して、歪みチェックを行い、各自の課題に対応したボールエクササイズを実践できる	
		事前学修	「バランスボールエクササイズ」の特徴や効果、エクササイズの種類について調べる	30分
		事後学修	歪みチェックで明確になった各自の身体の課題を矯正するための方法について調べる 配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習する	30分
3	第一部 金10/2	【バランスボール②強化】	バランスボール②資料に基づきペアワークで体幹強化トレーニング 目的に応じたトレーニング（マシン、エアロバイク、自重など）	
		この回の到達目標	①②に関連して、バランスボールを使った体幹強化のためのトレーニングを理解し、実施できる	
		事前学修	前回の授業記録に記載したバランスボールエクササイズに関する疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で行なった体幹トレーニングのポイントの確認と実践 配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習する	30分
4	第一部 金10/9	【ストレッチボール エクササイズ】 【バランスボードトレーニング】	ストレッチボール（ベーシックセブン） バランスボードを使った体感トレーニング	
		この回の到達目標	①②に関連して、ストレッチボールエクササイズの特徴と効果を説明できる ベーシックセブンの動作と呼吸のポイントを押さえ、一人で実践することができる	
		事前学修	ストレッチボール とは何か、その効果について調べる	30分
		事後学修	ベーシックセブンが一人でできるように、バスタオルなどを代用して実践する（正確な動作と呼吸） 配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習しておく	30分
5	第一部 金10/16	【アルティメット】	アルティメット①キャッチ&スロー、パス&パスカットのドリル、ミニゲーム グループごとに競技特性を踏まえたウォームアップを実施、ルールを理解	
		この回の到達目標	③に関連してニュースポーツや生涯スポーツの概念を理解し、アルティメットのゲームルールを説明できる チーム全員が機能するゲーム展開を考えるために、チーム内で有効なコミュニケーションをとることができる	
		事前学修	アルティメット関連の動画を見てルールを理解し、ゲームのイメージを掴む	30分
		事後学修	スローイングの種類、キャッチングの基本技術のポイントを復習する	30分
6	第一部 金10/23	【アルティメット】	アルティメット②キャッチ&スロー、パス&パスカットのドリル、ゲーム チームごとの競技特性に応じたウォームアップの実施 全員参加の攻防が可能な戦術ディスカッション	
		この回の到達目標	③に関連して、基本的なキャッチ&スローかできる ゲームの中で、全体を見渡して自分の動くべき位置取りを理解できる	
		事前学修	前回の授業記録に記載したスローイングの技術に関する疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく	30分
		事後学修	ゲームの戦術について（効率的な守備の配置など）調べておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	【アルティメット】	アルティメット③キャッチ&スロー、ゲーム チームごとの競技特性に応じたウォームアップの実施 前回のゲーム評価と課題の明確化。相手の動きに対応した戦術ディスカッション	
		この回の到達目標	③に関連して、基本的なキャッチ&スローができる ゲームの中で、全体を見渡して自分の動くべき位置取りを理解できる	
		事前学修	前回の授業記録に記載したチームの戦術に関する疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	アルティメットの特徴と生涯スポーツとして楽しむための要素を明確化する	30分
8	第一部 金11/6	【ゴールドッジ】	ゴールドッジ①キャッチ&スロー、チームでパス&パスカットドリル、ゲーム（男女混合）	
		この回の到達目標	③に関連して、基本的なキャッチ&スローができる ゲームの中で、コート全体を見渡して自分の動くべき位置取りを理解できる	
		事前学修	ゴールドッジに関する動画を視聴し、ルールやゲームのイメージを掴んでおく	30分
		事後学修	ゴールドッジの特徴とその日の実践を踏まえ、次回の個人的な課題を明確化しておく	30分
9	第一部 金11/13	【ゴールドッジ】	ゴールドッジ②キャッチ&スロー、パスからのシュート練習、ゲーム（男女混合）	
		この回の到達目標	③に関連して、基本的なキャッチ&スローができる シュートにつながる動きやタイミングを理解できる ゲームの中で、全体を見渡して自分の動くべき位置取りを理解できる	
		事前学修	ゴールドッジに関する動画を視聴し、「守備」に着目したゲームのイメージを掴む	30分
		事後学修	個人的な課題とチームとしての課題とその解決方法を明確化する	30分
10	第一部 金11/20	【ゴールドッジ】	ゴールドッジ③キャッチ&スロー、ゲーム（男女別）	
		この回の到達目標	③に関連して、基本的なキャッチ&スローができる 男女別で行うメリットを生かしたゲーム展開ができる ゲームの中で、全体を見渡して自分の動くべき位置取りを理解できる	
		事前学修	ゴールドッジに関する動画を視聴し、「攻撃」に着目したゲームのイメージを掴む 個人的な課題とチームとしての課題とその解決方法を明確化する	30分
		事後学修	ゴールドッジの特徴と自分がより楽しむためのルールの改善点や工夫を考えて授業記録に記述する 男女混合と男女別ゲーム、それぞれのメリットデメリットを明確化する	30分
11	第一部 金11/27	【シッティングバレーボール】 【パラスポーツの体験】	シッティングバレーボール①パラスポーツ体験することによって、その特有の技術や戦術を理解する 体幹・インナーマッスルを鍛えるトレーニング①バランスボード	
		この回の到達目標	②③に関連して、アダプテッドスポーツやパラスポーツを体験することによって、その特有の技術が理解できる また、スムーズにゲームを展開するために、バレーボールの要素を失わずにルールの改善や工夫を考案し実践できる	
		事前学修	シッティングバレーボール関連の動画を視聴してルールを理解し、ゲームのイメージを掴む	30分
		事後学修	さらにラリーを継続し楽しむために、どのような工夫やルールの変更ができるのか授業記録にピックアップする 授業で行った体感トレーニングを動作のポイントを踏まえて実践する	30分
12	第一部 金12/4	【シッティングバレーボール】 【パラスポーツの体験】	シッティングバレーボール② 体幹・インナーマッスルを鍛えるトレーニング②プランク、腕立て伏せ	
		この回の到達目標	②③に関連して、アダプテッドスポーツやパラスポーツを体験することによって、その特有の技術が理解できる また、スムーズにゲームを展開するために、バレーボールの要素を失わずにルールの改善や工夫を考案し実践できる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した個人・チームの技術的、戦術的な疑問点や改善点の解決方法やルールの変更や工夫を明確化する	30分
		事後学修	シッティングバレーボールの特徴と、ゲームを楽しむための要素を明確化し、他にどのようなパラスポーツがあるか調べる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	【ポートボール】	ボールゲーム①（ポートボール）男女混合 目的に応じたトレーニング（エアロバイク、マシントレーニング、自重、ストレッチポール、バランスボールなど）	
		この回の到達目標	②③に関連して、ポートボールの特徴と基本的な技術、戦術に関して理解し、攻撃・守備ともにゲームに参加できる 目的に応じた負荷設定でマシントレーニングを実施することができる	
		事前学修	ポートボールのルールを調べ、動画を視聴してゲームのイメージを掴む	30分
		事後学修	授業で実施したストレッチのポイントを踏まえた上で実践する（どの筋肉を使っているか認識しながら行う）	30分
14	第一部 金12/18	【ポートボール】	ボールゲーム②（ポートボール）男女別 目的に応じたトレーニング（エアロバイク、マシントレーニング、自重、ストレッチポール、バランスボールなど）	
		この回の到達目標	②③に関連して、ポートボールの特徴と基本的な技術、戦術に関して理解し、攻撃・守備ともにゲームに参加できる 目的に応じた負荷設定でマシントレーニングを実施することができる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	半期にわたるマシントレーニングやエクササイズが自分の目的に応じた負荷設定であったか評価し、課題を明確化する 男女別のゲームと男女混合のゲームのメリットデメリットを書き出す	30分
15	第一部 金12/25	【フィットネスエクササイズ・生涯スポーツ・ユニバーサルスポーツに関する振り返り】	ライフスタイルのチェックとプランニング まとめ及び振り返り・授業記録の講評と返却	
		この回の到達目標	①②に関連して、身体づくりのための基礎知識（運動実践のためのポイント）を説明できる ③に関連して、運動・休養・食の各側面からライフプランニングができる	
		事前学修	ライフスタイルチェックの実施と今後の運動プランを作成する	30分
		事後学修	1年を通して配布した資料をもとに目的に応じた運動の方法を復習する	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	高田 佑輔	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内用運動靴、動きやすいジャージ等の運動着やタオルを用意すること。飲み物は蓋付きのものにすること。自他の怪我や事故を防ぐためにもアクセサリ類はすべて外し、爪の手入れをしておくこと。

【授業方法】
実技形式。授業開始時に出欠確認とその日に実施する内容の説明をする。出席者数やそれまでの実施状況、または天候によって授業内容を変更する場合もある。円滑な授業を進めるため、ルールや基本的な動きを事前学習として課すこともある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実技形式のため、学生自身の考えを求めることもある。チーム内でディスカッションを行い、発表する時間も設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習や事後学習，さらに課題レポートを中心に総合的な講評をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません				

【オフィスアワー】
授業の前後に対応します。事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましいです。E-mail：takata.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本バスケットボール協会公認C級コーチ，日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，スポーツの指導を行う。 運動やスポーツが心身に与える影響を伝え，生涯スポーツの一助になる授業を展開する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	ガイダンスおよびスポーツの習慣化	授業の目的、内容、評価方法やルールなどを説明する。 体育やスポーツの意義について理解する。 体重と体組成を測定する。 ※2号館地下202教場に更衣をして集合	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、スポーツの習慣化について説明できる。 ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	シラバスをよく読み、質問をまとめておく。 スポーツの習慣化について、発表できるようにする。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を理解し、授業に必要なものを準備する	30分
2	9/26	ドッジボール	ドッジボールを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 ドッジボールという競技の長所と短所を整理し、説明できる。	
		事前学修	全員が積極的に参加できるようなルールを発表できるようにしておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
3	10/3	スポーツ鬼ごっこ	スポーツ鬼ごっこを通じてコミュニケーションを図る。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 スポーツ鬼ごっこを初めて行う人にも競技の特性やルールを説明できる。	
		事前学修	前期の復習を兼ねて、スポーツ鬼ごっこの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
4	10/10	ソフトバレーボール①	ソフトバレーボールを行う。 ボールを使った基本動作を学び、後半は試合を通じてチームメイトとコミュニケーションを図る。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 ソフトバレーボールの競技特性を説明できる。	
		事前学修	ソフトバレーボールのルールを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
5	10/17	ソフトバレーボール②	ソフトバレーボールを行う。 試合ごとにチームの改善点を話し合い、より良いパフォーマンスが出せるようにする。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 ソフトバレーボールの競技特性を説明できる。	
		事前学修	ソフトバレーボールの技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
6	10/24	アルティメット①	アルティメットを行う。 ディスクの投げ方を習得し、チームプレーを学ぶ。 攻守の切り替えが多いため、自身の持久力や敏捷性を現状を把握する。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 アルティメットの競技特性を説明できる。	
		事前学修	前期の復習を兼ねて、ディスクの投げ方、およびアルティメットの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	アルティメット②	アルティメットを行う。 チームプレーを通じて積極的なコミュニケーションを図る。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 アルティメットの競技特性を説明できる。	
		事前学修	アルティメットの技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
8	11/7	フットサル①	フットサルを行う。 特に、フットサルやサッカー経験者は自分のプレーを見せるだけではなく、未経験者へのサポートもすること。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 フットサルの競技特性を説明できる。	
		事前学修	前期の復習を兼ねて、フットサルの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
9	11/14	フットサル②	フットサルを行う。 チームプレーを通じて積極的なコミュニケーションを図る。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 フットサルの競技特性を説明できる。	
		事前学修	フットサルの技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
10	11/21	フロアカーリング①	フロアカーリングを行う。 個人技術を高めるため、基本動作の練習をする。 試合形式で行う際、チームメイトと積極的に戦略を話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 フロアカーリングの戦略を話し合い、チームの意見をまとめられる。 フロアカーリングの競技特性を説明できる。	
		事前学修	フロアカーリングのルールを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
11	11/24	フロアカーリング②	フロアカーリングを行う。 試合形式で行う際、チームメイトと積極的に戦略を話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 フロアカーリングの戦略を話し合い、チームの意見をまとめられる。 フロアカーリングの競技特性を説明できる。	
		事前学修	フロアカーリングの技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
12	12/5	卓球①	卓球（ダブルス）を行う。 卓球の基本動作を練習するとともに、ダブルスのルールや動き方を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、卓球のダブルスのルールを説明できる。 卓球の競技特性を説明できる。	
		事前学修	前期の復習を兼ねて、卓球のダブルスのルールや動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびペアの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	卓球②	卓球（ダブルス）を行う。 卓球の基本動作を練習するとともに、ダブルスのルールや動き方を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、卓球のダブルスのルールを説明できる。 卓球の競技特性を説明できる。	
		事前学修	卓球の技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびペアの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
14	12/19	体力測定	体重、体組成、握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、長座体前屈などの体力測定を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自身の体力レベルの確認をする。	
		事前学修	前期の復習を兼ねて、今回実施する体力測定の方法を調べておく。	30分
		事後学修	体力測定の結果を踏まえて、今後の目標を立てる。	30分
15	12/26	1年間のまとめと振り返り	1年間の振り返りを実施し、総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自身の達成度合いを評価する。	
		事前学修	1年間の振り返り、反省や改善点などを発表できるようにしておく。	30分
		事後学修	発表して浮き彫りになった課題を今後の学生生活で解決できるようにする。 授業終了も運動やスポーツを継続するように努める。	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	田中 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
医師に運動を止められていない者。

【授業方法】
実技と演習を行います。アニメソングなどを用いた振り付けのあるエアロビックダンス（フィットネスダンス）を行います。なじみのある楽曲で無理なく運動を行うことができます。多目的コートを使用する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生自身がエアロビックダンスを作成し指導を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
エアロビックダンスを教員の前で実演し、動きや姿勢などを矯正するためのアドバイスを受ける。 姿勢の矯正のための指導を個別に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フィットネスダンス指導教本	編者 池田美知子	公益社団 日本 フィットネス協会	2010年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問、相談は毎授業後（水曜 1、2 限）に受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		フィットネスクラブ、行政、企業などでエアロビックダンス指導 企業セミナー、 特定保健指導、エアロビックダンス指導者養成

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	フィットネスダンスの復習	フィットネスダンスの復習 前期で行ったフィットネスダンスの実施	
		この回の到達目標	前期で行ったフィットネスダンスを有酸素運動になるように動けるようにする。	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
2	9/23	コンビネーションの復習と指導方法	コンビネーションの復習と指導（1） 16カウント、32カウントのコンビネーションを学生が作成し指導を行う。	
		この回の到達目標	学生自身がコンビネーションを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。	30分
3	9/30	コンビネーションの復習と指導方法	コンビネーションの復習と指導（2） 64カウントコンビネーションを学生が作成し指導を行う。	
		この回の到達目標	学生自身がコンビネーションを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。	30分
4	10/7	スムーズに動くためのキューイング	指導方法 キューイング	
		この回の到達目標	指導方法を取得する。 フィットネスダンスを作成できるようにする。	
		事前学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
		事後学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
5	10/14	フォーメーション	フォーメーションの効果	
		この回の到達目標	作成したコンビネーションで有酸素運動になるように動くことができるようにする。	
		事前学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
		事後学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
6	10/21	グループワーク	グループワーク（1） 楽曲の決定とステップシートを用いて、楽曲の分析を行う。	
		この回の到達目標	作成したコンビネーションで有酸素運動になるように動くことができるようにする。	
		事前学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
		事後学修	楽曲の構成をステップシートにて確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	グループワーク	グループワーク（2） 楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成	
		この回の到達目標	作成したコンビネーションで有酸素運動になるように動くことができるようにする。	
		事前学修	楽曲の構成をステップシートにて確認。	30分
		事後学修	作成中のダンスの練習。	30分
8	11/11	グループワーク	グループワーク（3） 楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする 作成したコンビネーションで有酸素運動になるように動くことができるようにする。	
		事前学修	作成中のダンスの練習。	30分
		事後学修	作成中のダンスの練習。	30分
9	11/18	グループワーク	グループワーク（4） 楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。 作成したコンビネーションで有酸素運動になるように動くことができるようにする。	
		事前学修	作成中のダンスの練習。	30分
		事後学修	作成中のダンスの練習。	30分
10	11/25	グループワーク	グループワーク（5） イメージに合ったアームスの振り付け	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	作成中のダンスの練習。	30分
		事後学修	作成中のダンスの練習。	30分
11	12/2	グループワーク	グループワーク（6） フォーメーションの作成	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	作成中ダンスの練習。 「フォーメーションの効果について」テキストを読んでくる。	30分
		事後学修	完成したダンスの練習。	30分
12	12/9	グループワーク	グループワーク（7） グループのメンバー全員が動けるように練習する。	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	完成したダンスの練習。	30分
		事後学修	完成したダンスの練習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	発表 実技テスト	発表 実技テスト	
		この回の 到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	完成したダンスの練習。	30分
		事後学修	完成したダンスの練習	30分
14	12/23	学生の作成したプログラムの実施	学生の作成したプログラムの実施	
		この回の 到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	完成したダンスの練習	30分
		事後学修	ダンス作成の手順を演習ノートにまとめる。	30分
15	1/13	まとめ	まとめ、講評 今まで学習したフィットネスダンス全曲と学生が作成したダンスで運動を行う。	
		この回の 到達目標	作成したフィットネスダンスで、運動を生活に取り入れられるようにする。	
		事前学修	ダンス作成の手順を演習ノートにまとめる。	30分
		事後学修	健康づくりのために自分たちが作成したダンスを学士同士で実施し運動習慣を身につける。	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動着と屋外及び屋内用運動靴（トレーニングウェア・シューズ等を準備）を準備すること。2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的施設を使用する。第1回目は準備不要(履修カードに張り付ける顔写真を準備)

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題リポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み：12:10～13:00 研究室 メールにて事前に予約をすることtanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について理解し、説明できる。	
		事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
		事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	9/21	柔軟性を高める：ストレッチ体操	身体ほぐし運動セルフ・ペアストレッチについて学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、身体ほぐし運動セルフ・ペアストレッチについて理解し、説明できる。	
		事前学修	柔軟性を高めるトレーニングについて調べる。	30分
		事後学修	身体ほぐし運動セルフ・ペアストレッチのポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	9/28	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を理解し、説明できる。	
		事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	10/5	自重トレーニングを知る	スタビラゼーショントレーニングを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スタビラゼーショントレーニングの効果について理解し、説明できる。	
		事前学修	等張性筋収縮について調べる。	30分
		事後学修	体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	10/12	球技:卓球 (基本動作)	ラケットの使い方、基本動作について実践形式における技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラケットの使い方、基本動作について理解し、説明できる。	
		事前学修	卓球のルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球における体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
6	10/19	球技:卓球 (シングルス)	シングルス形式における戦略戦術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、シングルス形式における戦略戦術について理解し、説明できる。	
		事前学修	シングルスにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	シングルス形式の戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	球技:卓球（ダブルス）	ダブルス形式における戦略戦術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ダブルス形式における戦略戦術について理解し、説明できる。	
		事前学修	ダブルスにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	ダブルス形式の戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
8	11/9	球技:ハンドボール（基本動作）	パス技術の実践形式における動作を習得する。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、パス技術の基本動作について理解し、説明できる。	
		事前学修	ハンドボールのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ハンドボールにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
9	11/16	球技:ハンドボール（個人技術）	個人技術の課題に取り組み実践形式で行い技術を習得する。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、個人技術の課題について理解し、説明できる。	
		事前学修	個人技術の強み弱みの課題について考える。	30分
		事後学修	個人技術の課題を振り返り理解を深める。	30分
10	11/23	球技:ハンドボール(実践形式)	実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションについて理解し、説明できる。	
		事前学修	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	戦略戦術に関してのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
11	11/30	球技:ユニバーサルホッケー（基本動作）	スティックの使い方、基本動作について実践形式でおこない技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、スティックの使い方、基本動作について理解し、説明できる。	
		事前学修	ユニバーサルホッケーのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ユニバーサルホッケーにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	12/7	球技:ユニバーサルホッケー（個人技術）	個人技術の課題に取り組み実践形式でおこない技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、個人技術の課題について理解し、説明できる。	
		事前学修	個人技術の強み弱みの課題について考える。	30分
		事後学修	個人技術の課題を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	球技:ユニバーサルホッケー (実践形式)	実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションについて理解し、説明できる。	
		事前学修	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	戦略戦術に関してのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
14	12/21	器具を使ったトレーニング (全身運動)	適切な負荷の設定を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、適切な負荷の設定について理解し、説明できる。	
		事前学修	筋力・筋パワー・筋持久力を高める方法について調べる。	30分
		事後学修	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。	30分
15	1/18	まとめ/ 振り返り	フィットネスチェック、授業の振り返り	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、フィットネスチェック、授業の振り返りを行い、理解し、説明することができる。	
		事前学修	半期の振り返りを行う。	30分
		事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	藤井 洋武	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
①毎回の授業への出席はもちろん、積極的に参加し、取り組むこと②運動にふさわしい服装（ジャージ等）、靴（室内用）を必ず用意すること

【授業方法】
施設、人数などに応じて各種運動を行います。また当日の出席状況によっては、シラバスの内容と違う種目を行うことがあります。時期によっては多目的コートを使用し、屋外で授業を行う場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業の終了前に、その日の内容や取り組みについてのフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
質問・相談については授業時間内（一部火曜5限、二部火曜2、3限）にしてください個別に質問・相談がある学生は授業講堂に来てください。火曜日のみ16:00～ 授業間の時間等に対応します

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 火9/15	【ガイダンス】 【体への理解とメンテナ ンス方法の実践】	体育実技ⅠBについてのガイダンスおよび授業方法についての解説 体ほぐし、ストレッチング	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、体育実技の方法や目的を理解し、運動と健康の維持増進との関連について説明することが できる。 体の柔軟性や疲労度について把握するとともに、メンテナンスを実践し、その方法や効果について理解し、説明する ことができる。	
		事前学修	ストレッチの種類や方法にはどのようなものがあるか、またその効果について事前に調べておく。	30分
		事後学修	授業で実施した内容を振り返り、自宅などでも積極的に実践してみる。	30分
2	第一部 第二部 火9/22	【卓球のルール理解と実 践】 【ダブルスとは】	卓球 ダブルスのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニ ケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	卓球のダブルスのゲームについて、ルールやゲーム進行の仕方について調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。理解が不十分な場合には、次週に向け調べなお しておく。	30分
3	第一部 第二部 火9/29	【卓球のルール理解と実 践】 【ダブルスのゲーム】	卓球 ダブルスのルールの復習とリーグ戦	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニ ケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ルールについて確認し、とくにダブルスにおけるローテーションの仕方を復習しておく。	30分
		事後学修	卓球ダブルスの楽しさとはなにか、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
4	第一部 第二部 火10/6	【ポートボールのルール理 解と実践】	ポートボール ポートボールのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニ ケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ポートボールのゲームについて、ルールやゲーム進行の仕方について調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。	30分
5	第一部 第二部 火10/13	【ポートボールのルール理 解と実践】	ポートボール ポートボールのルールの復習とリーグ戦	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニ ケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ポートボールについて、ルールやゲーム進行の仕方について復習しておく。 また小さなコートで行う際に、ルールをどのように工夫すると楽しめるか考えておく。	30分
		事後学修	ポートボールの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
6	第一部 第二部 火10/20	【ミニテニスのルール理解 と実践】	ミニテニス ミニテニスのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニ ケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	テニスについて、ゲームの種類やルールなどについて調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 火10/27	【ミニテニスのルール理解と実践】	ミニテニス ミニテニスのルールの復習とリーグ戦	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ミニテニスについて、ルールやゲーム進行の仕方について復習しておく。 また小さなコートで行う際に、ルールをどのように工夫すると楽しめるか考えておく。	30分
		事後学修	テニス型ゲームの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
8	第一部 第二部 火11/10	【さまざまな運動理論の学習と実践】	流行りのトレーニングを体験 DVDなどを用いたエアロビクスや筋力とレーニングなどの実践	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	流行のトレーニングについて、書籍や関連動画について調べておく。	30分
		事後学修	トレーニングを振り返り、自宅などでできることがあれば積極的に実践する。 また、自分自身に合う運動やトレーニングについて考える。	30分
9	第一部 第二部 火11/17	【さまざまな運動理論の学習と実践】	流行りのトレーニングを体験 DVDなどを用いたエアロビクスや筋力とレーニングなどの実践	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	流行のトレーニングについて、書籍や関連動画について調べておく。	30分
		事後学修	トレーニングを振り返り、自宅などでできることがあれば積極的に実践する。 また、自分自身に合う運動やトレーニングについて考える。	30分
10	第一部 第二部 火11/24	【ドッジボールのルール理解と実践】	ドッジボール ドッジボールのルールの理解と基本練習・ミニゲーム	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ドッジボールについて、ルールや歴史、ゲームの進め方などを調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。	30分
11	第一部 第二部 火12/1	【ドッジボールのルール理解と実践】	ドッジボール ドッジボールのルールの復習とリーグ戦	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ドッジボールについて、ルールや歴史、ゲームの進め方などを復習しておく。 また投げ方や捕球のコツなどについても調べておく。	30分
		事後学修	ドッジボールの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
12	第一部 第二部 火12/8	【フリスビーのルール理解と実践】	フリスビー フリスビーのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	フリスビー（アルティメット）について、ルールや歴史、ゲームの進め方などを調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 火12/15	【フリスビーのルール理解と実践】	フリスビー フリスビーのルールの復習とリーグ戦	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	フリスビー（アルティメット）について、ルールや歴史、ゲームの進め方などを復習しておく。 また投げ方やキャッチのコツなどについても調べておく。	30分
		事後学修	フリスビーの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
14	第一部 第二部 火12/22	【体力チェックの実践と評価】	体力チェックテスト	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、体力チェックを踏まえて現在の体力を把握・理解する。 また今後の授業に向けて個人で目標を立てることができる。	
		事前学修	前期に行った体力チェックテストの結果を見直しておく。 またこれまでの授業の取り組みで、向上が望める種目を予想しておく。	30分
		事後学修	体力チェックテストの結果を振り返り、自分自身の体力について考えるとともに、 後期の授業（運動）への取り組みを評価する。	30分
15	第一部 第二部 火1/12	【後期の授業の振り返りと解説】	まとめ及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業をとおして自己の体力や筋力の変化を理解するとともに、スポーツ・運動と健康の維持増進について振り返り・説明することができる。	
		事前学修	体育実技ⅠBの授業について、実施したスポーツ・身体運動の種類や目的、またそれらの運動効果について振り返っておく。	30分
		事後学修	授業を振り返り、自分自身のからだにとってどのような学びがあったのかをまとめる。今後も継続して運動やスポーツを続けるためにはどのような運動が適しているか、自己分析をおこなう。	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動に適した服装、室内シューズ、タオル、筆記用具の用意

【授業方法】
講義、身体チェック、トレーニングを基盤として施設や人数に合わせた用具・ルールで運動を実践する。活動内容は個人カードに記録する。ボールゲームやニュースポーツは「多目的コート」を使用することがあるので前の週の授業時に連絡をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	自身の体力・筋力測定の結果を受けて客観的に運動メニューを作成し、実践、調整をする。グループワークの中でリーダーシップ、コミュニケーションを取り、レクリエーションスポーツを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で解説し、確認をしていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず、必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
木曜日13:00から18:00 2号館地下（体育教員室，体育場）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 AHA TC IEMA Faculty, 国際救命救急協会理事、イグザミナー
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動時に起きてしまう体調不良や怪我の対応、救急処置も合わせて学生に伝えていく。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第1部 木 9/17	ガイダンス及び導入講義		ガイダンス（体育場） 履修カード作成 夏休みの成果を発表 トレーニング負荷チェック
		この回の到達目標	夏休みに行った運動メニュー実践と管理の発表 筋力・体力の増減を考慮に入れて、トレーニングメニュー再編	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく トレーニングを再確認し、休み中の運動メニュー実践と管理の発表ができるようにまとめる	60分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認	30分
2	第1部 木 9/24	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング ブレルボール（多目的コート）
		この回の到達目標	チームメイトと協力してブレルボールができるように、チーム運営をする ボールが持てないという特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 思ったところにボールが叩ける	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく ブレルボールとバレーボールの違い、ボールの扱いを調べる グループで自分の役割を考える トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認	60分
		事後学修	ボールの扱いの修正方法を考える グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
3	第1部 木 10/1	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング バレーボール（多目的コート）
		この回の到達目標	チームメイトと協力してバレーボールができるように、チーム運営をする ボールが持てないという特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 思ったところにボールを出せる	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく バレーボールのルールを調べる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	つなぎはプレーと指示の声で行えたのか再確認 グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分
4	第1部 木 10/8	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング ハンドボール（多目的コート）
		この回の到達目標	チームメイトと協力してハンドボールができるように、チーム運営をする ボールが持てないという特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 思ったところにボールをパスし、空間スペースを使ってゴールする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく ハンドボールのルールを調べる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	思ったところにボールをパスし、空間スペースを使えたのか確認 グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分
5	第1部 木 10/15	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング アルティメット（多目的コート）
		この回の到達目標	チームメイトと協力してアルティメットができるように、チーム運営をする フリスビーという手具の特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 思ったところにフリスビーをパスし、空間スペースを使ってゴールする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく ハンドボールのルールを調べる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	思ったところにフリスビーをパスし、空間スペースを使えたのか確認 グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
6	第1部 木 10/22	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング サッカー（多目的コート）
		この回の到達目標	チームメイトと協力してサッカーができるように、チーム運営をする 手で扱えないという特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 思ったところにボールをパスし、空間スペースを使ってゴールする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく サッカーのルールを調べる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	思ったところにボールをパスし、空間スペースを使えたのか確認 グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分
7	第1部 木 10/29	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング負荷チェック 竹馬（体育室）
		この回の到達目標	現状の自身の筋力を客観的に捉える からだの使い方を覚える ペアで協力して行う	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 竹馬の様々な乗り方や扱い方を調べる	60分
		事後学修	初めて行うからだの使い方を復習してみる マシンと筋肉の使い方の確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分
8	第1部 木 11/5	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング フロアカーリング（体育室）
		この回の到達目標	チームメイトと話し合い、協力してフロアカーリングができるように、チーム運営をする 2種類のストーンの特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする 思ったところにストーンを投げたり、仲間に指示をしたり、指示をもらいながら試合を進める	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく フロアカーリングのルールを調べる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	試合の進め方など、戦術について修正方法を調べる ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする グループでの役割は果たせたのか再確認	45分
9	第1部 木 11/12	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング フロアカーリング（体育室）
		この回の到達目標	チームメイトと話し合い、協力してフロアカーリングができるように、チーム運営をする 2種類のストーンの特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 前回より思ったところにストーンを投げれるようになったか	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 試合の進め方など、戦術について修正方法を調べる グループで自分の役割を考える	45分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする グループでの役割は果たせたのか再確認	30分
10	第1部 木 11/19	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング ダーツ（体育室）
		この回の到達目標	同じボードのメンバーと協力してゼロワンができるように、ゲーム運営をする ダーツの扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする 矢という危ない道具を危険のないよう扱い、ゼロで上がれるように思ったところに矢を投げたり、試合を進める	
		事前学修	危なくないようにするルールを考える ダーツボードの点数の見方とゼロワンのルールを調べる 体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく	60分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第1部 木 12/3	筋力測定とレクリエーションスポーツ	筋力測定（1RMをはかろう） 卓球（シングルス）（体育場）	
		この回の到達目標	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 現状の自身の体力を客観的に捉える。 コミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮し同じコートメンバーと協力してバウンドテニスを成立させる 空間スペースにボールを出し、ラリーをする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく スポンジボールとバウンドの特性に合ったストロークを調べる ラケットの扱いが苦手なメンバーに教えたり、フォローをする	45分
		事後学修	コントロールや回転をかけることできたか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	30分
12	第1部 木 12/10	筋力測定とレクリエーションスポーツ	筋力測定（1RMをはかろう） 卓球（シングルス）（体育場）	
		この回の到達目標	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 現状の自身の体力を客観的に捉える。 コミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮し同じコートメンバーと協力してバウンドテニスを成立させる 空間スペースにボールを出し、ラリーをする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく スポンジボールとバウンドの特性に合ったストロークを調べる ラケットの扱いが苦手なメンバーに教えたり、フォローをする	45分
		事後学修	前回よりコントロールできたか確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	30分
13	第1部 木 12/17	筋力測定とレクリエーションスポーツ	筋力測定（1RMをはかろう） 卓球（ダブルス）（体育場）	
		この回の到達目標	ペアと協力する ルールを理解してゲームを成立させる 現状の自身の体力を客観的に捉える。	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 苦手なストロークができるようになる修正方法を調べる ダブルスならではの戦術を考えてくる	45分
		事後学修	ペアとの連携はうまくいったのか、前回よりコントロールできたか確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	30分
14	第1部 木 12/24	体力測定	体力カード作成 身体チェック（体力測定）（体育場） 球技大会の内容決め	
		この回の到達目標	ポストテストとして現状の自身の体力を客観的に捉える 履修者で協力をして球技大会の種目、ルール、試合の運営を決める	
		事前学修	体調管理、体力測定内容の確認 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 球技大会の種目などを考えてくる	30分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする 自分の体力・筋力測定の結果を同年代のデータと比較して客観的に捉えて考察し、授業終了してからの運動メニューを作成し、提出できるようにする 球技大会の役割を認識	90分
15	第1部 木 1/14	球技大会	履修者で種目、ルールを決めた内容の球技大会	
		この回の到達目標	履修者全員が協力して球技大会を運営し成立させる	
		事前学修	自分の体力・筋力測定の結果を同年代のデータと比較して客観的に捉えて考察し、授業終了してからの運動メニューを作成し、提出できるように準備する ルールと役割の確認	90分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする 今後の運動習慣に備える	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	朴 鍾嫻	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講者は室内用運動靴（紐靴），トレーニングウェア（自由に運動ができる服装），タオル等を各自で準備すること．※ 第1回目は準備不要

【授業方法】
授業開始時に出席確認及び実施内容の説明をする．※授業内容は変更する場合がある． 多目的コートを使用する場合がある．

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員連絡にて

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
授業の前後（木曜2、3限）に質問を受け付ける。授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	【ガイダンス】【導入講義】	授業の目的・方法，評価方法，受講時の注意，シラバスについて説明	
		この回の到達目標	ガイダンス	
		事前学修	体育実技1Bに関する総合的な説明をするので，筆記用具等を持参すること	30分
		事後学修	次回の種目に関するルールを調べておく	30分
2	9/24	【体組成の測定】	体組成測定，身体バランスチェック	
		この回の到達目標	自分の体組成の記録	
		事前学修	体組成の測定の仕方について説明する	30分
		事後学修	体組成のデータをとっておき，半年後のデータと比較する	30分
3	10/1	【フットサル②】	パス，ドリブル，ゲーム ※可能ならば屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	フットサルの試合	
		事前学修	フットサルに必要な要素を考える	30分
		事後学修	運動量を検討し，試合中に十分活躍できたか検証する	30分
4	10/8	【フットサル③】	パス，ドリブル，ゲーム ※可能ならば屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	フットサルの試合	
		事前学修	サッカーの基礎練習を行う（30分）	30分
		事後学修	試合中に十分活躍できたか検証する（30分）	30分
5	10/15	【卓球②】	基礎練習，サーブ，ラリー，ダブルスゲーム	
		この回の到達目標	ダブルスでローテーション試合	
		事前学修	卓球のダブルスのルールについて調べる	30分
		事後学修	チームメートとの連結は満足できたか考える	30分
6	10/22	【ミニバドミントン②】	基礎練習，ゲーム（ダブルス）	
		この回の到達目標	ダブルスでローテーション試合	
		事前学修	ミニバドミントンにおける戦術を工夫する	30分
		事後学修	試合を振り返り，バドミントン競技の理解を深める	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	【ピックルボール③】	ラリー練習，ゲーム（2人組）	
		この回の到達目標	ダブルスでローテーション試合	
		事前学修	ピックルボールの方法を確認する	30分
		事後学修	試合の結果を見直し，次回の種目に活かす	30分
8	11/5	【ハンドボール②】	パス，シュート，ゲーム（5人組）	
		この回の到達目標	ミニ大会（リーグ戦）	
		事前学修	試合戦術を工夫する	30分
		事後学修	自分のプレーに満足できたか考える	30分
9	11/12	【フロアカーリング③】	ストーン投げ練習，ゲーム（5人組）	
		この回の到達目標	ミニ大会（リーグ戦）	
		事前学修	フロアカーリング戦術について調べる	30分
		事後学修	チームワークに貢献できたか振り返り，次回のゲームに活かす	30分
10	11/19	【ミニバドミントン③】	基礎練習，ゲーム（ダブルス）	
		この回の到達目標	ダブルスでローテーション試合	
		事前学修	ミニバドミントンを楽しめる方法を考える	30分
		事後学修	試合を振り返り，バドミントン競技の理解を深める	30分
11	12/3	【ミニバドミントン④】	基礎練習，ゲーム（ダブルス）	
		この回の到達目標	ダブルスでローテーション試合	
		事前学修	前週の結果を確認し，試合内容を工夫する	30分
		事後学修	コンビネーションが良かったか確認する	30分
12	12/10	【ユニホッケー②】	パス，ドリブル，ミニゲーム（4人組）	
		この回の到達目標	ミニ大会（リーグ戦）	
		事前学修	ユニホッケーに必要な要素を調べる	30分
		事後学修	ユニホッケーのスティック操作が上手にできたか確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	【ビックルボール④】	ゲーム（2人組）	
		この回の到達目標	ミニ大会（リーグ戦）	
		事前学修	サーブから得点できる方法を考える	30分
		事後学修	運動量を確認する	30分
14	12/24	【体組成の測定】	体組成測定，身体バランスチェック	
		この回の到達目標	後期の2回目に測定した自分の体組成データと比較	
		事前学修	体組成の測定の準備をする	30分
		事後学修	データを比較し、ディスカッションする	30分
15	1/14	【まとめ】	レクリエーション，講評，質疑応答	
		この回の到達目標	まとめ	
		事前学修	後期のまとめをする	30分
		事後学修	総合評価	30分

科目名	体育スポーツ実習B	担当者	深田 喜八郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。授業は主に2号館体育場及びトレーニングルームを使用するが、多目的コートを使用する場合もある。※第1回目は準備不要

【授業方法】
授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等により実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
実施した運動種目に対する講評や、課題レポートに対する添削を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日 17時30分～18時00分 2号館地下1F※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 月9/14	【ガイダンス及び用具の解説】	授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明するとともに、用具や施設の使用方法、注意点について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、運動と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	運動の意義についてまとめる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第二部 月9/21	【卓球(リーグ戦)】	卓球の試合をリーグ戦形式で実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、卓球の基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	前期に実施した内容について振り返る。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
3	第二部 月9/28	【卓球(団体戦)】	卓球の試合を団体戦形式で実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、卓球の基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	団体戦の特徴について調べる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
4	第二部 月10/5	【ユニバーサルホッケー(練習)】	基本的な技術や戦術について解説し、練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ユニバーサルホッケーの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ユニバーサルホッケーの基本技術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
5	第二部 月10/12	【ユニバーサルホッケー(試合)】	ルールや注意点などを解説し、試合を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ユニバーサルホッケーの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ユニバーサルホッケーのルールをまとめる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
6	第二部 月10/19	【パットゴルフ(練習)】	設定されたコースを使用し、練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、パットゴルフの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	パットゴルフの基本技術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 月10/26	【パットゴルフ(試合)】	各自で設定したコースを使用し、試合形式でゲームをする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、パットゴルフの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	パットゴルフのルールについて調べる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
8	第二部 月11/9	【ダーツ(練習)】	基本的な投げ方や点数のカウント方法を解説し、練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ダーツの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ダーツの基本技術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
9	第二部 月11/16	【ダーツ(試合)】	ルールや注意点などを解説し、試合形式でゲームを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ダーツの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ダーツのルールについて調べる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
10	第二部 月11/23	【ドッジビー①】	ドッジボールゲーム形式のルールを解説し、ゲームを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ドッジビーの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ドッジビーの基本技術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
11	第二部 月11/30	【ドッジビー②】	ポートボール形式のルールを解説し、ゲームを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ドッジビーの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ポートボールのルールについて調べる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
12	第二部 月12/7	【ポートボール(練習)】	ドリブルやパスなどの基本技術について解説し、練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ポートボールの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	バスケットボールの基本技術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 月12/14	【ポートボール(試合)】	ルールや注意点を解説し、試合形式でゲームを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ポートボールの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	バスケットボールのルールについて調べる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
14	第二部 月12/21	【スポーツの企画・運営】	学生主体となって、実施するスポーツを決定し、実践をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	実施したいスポーツ種目について調べる。	30分
		事後学修	実施内容を振り返り、まとめる。	30分
15	第二部 月1/18	【まとめ】	これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	これまでの内容についてまとめる。	30分
		事後学修	施設を探し、スポーツを実践する。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(サッカー)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
初級者から上級者まで誰でも可。

【授業方法】		
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して後期２時限連続で実施する授業である。 サッカーに適した服装とフットサル用のシューズを用意すること。 服装に関してはガイダンス時に指示をする。 日本サッカー協会公認指導者ライセンスを保有し、各年代で指導者経験のある教員が、その経験を活かして、サッカーの基本的な基礎技術の習得と実践的なサッカーの戦術についての考え方を講義する。実践の中でサッカーの楽しさを追求する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各グループにおいて、フットサルにおけるポジション、フォーメーション、戦術等についての課題を与え、それに基づいたグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日12:35-13:00（長期休暇を除く。事前にアポイントメントを取ること）大宮体育館教員控え室 sakamoto.shuji0904@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 日本サッカー協会公認指導者ライセンス保有、日本サッカー協会公認サッカー審判員ライセンス保有
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本体育協会公認である日本サッカー協会公認指導者ライセンスを保有し、各年代で指導者経験のある教員が、その経験を活かして、サッカーの基本的な基礎技術の習得と実践的なサッカーの戦術についての考え方を講義する。実践の中でサッカーの楽しさを追求する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月4/6 金4/10	ガイダンス【サッカーとは】	【サッカー】の講義が学生に及ぼす影響を理解し、運動することの重要性について学修する。また、授業の到達目標、テーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法等の説明を行う。それにより学生は授業の計画を立て、翌週からの準備をスムーズに行うようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④を理解し、【サッカー】の講義がどのような形態で授業が行われるか、講義の到達目標がどのようなものであるかを説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。翌週からの実技に備え用具の準備を行う。	30分
2	月4/6 金4/10	体力測定【自分を知る】	【サッカー】の講義を進めていく上で必要となる体力について学修する。自分の体力について知ることによって今後の運動への意識を高める。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立することを理解し、体力について学修し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、サッカーで必要とされる体力について調べ整理し、自分の体力を比較・検討できるように準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り整理する。自分の体力の現状を把握し、翌週からの実技に備え運動に取り組む。	30分
3	月4/13 金4/17	コミュニケーション（声・アイコンタクト）	様々なアイスブレイクを用い、サッカーに必要とされる声、アイコンタクトを使ったコミュニケーションについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるコミュニケーション（声・アイコンタクト）について理解し、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、サッカーの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。	30分
4	月4/13 金4/17	コミュニケーション（ボディランゲージ・協力） コミュニケーションを用いたゲーム形式	様々なアイスブレイクを用い、サッカーに必要とされるボディランゲージ、グループワークを通してコミュニケーションについて学修する。コミュニケーションを用いてサッカーのミニゲーム（35m×20m）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるコミュニケーション（ボディランゲージ）について理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。コミュニケーションを用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、サッカーの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。	30分
5	月4/20 金4/24	基礎技術（ボールフィーリング：個人）	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、個人でのボールを使った身体活動（リフティング）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、【サッカー】で必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、個人でのボールフィーリングを実践し楽しむことができる。また、ボールフィーリングのプレススキル向上の関連性について説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、サッカー専門用語について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。	30分
6	月4/20 金4/24	基礎技術（ボールフィーリング：グループ） 基礎技術（ボールフィーリング）を用いたゲーム形式	様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、グループでのボールを使った身体活動（サッカーテニス）を通しボールタッチを学修する。基礎技術を用いてサッカーのミニゲーム（35m×20m）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとボールフィーリングの関連性について説明することができる。基礎技術（ボールフィーリング）を用い仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、フットサル専門用語について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月4/27 金5/1	基礎技術（ドリブル）	様々なストレッチやアイズブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。サッカーで必要とされるドリブルのボールタッチ（インサイド・アウトサイド・足のラウ）の相違点を理解し、様々な課題から学修する。ドリブルのフェイントとターンについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるドリブルでのボールタッチとサッカーのボールタッチの相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。	30分
8	月4/27 金5/1	基礎技術（ドリブル）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	基礎技術（ドリブル）を発展させ、スモールサイド（ラインゴール）を用いてサッカーのミニゲーム（35m×20m）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされる基礎技術（ドリブル）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。ゲームの特徴から用いられる技術の違いを説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。	30分
9	月5/4 金5/8	基礎技術（パス&コントロール）	様々なストレッチやアイズブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。サッカーで必要とされるパスを学修し、キックの相違点を理解し、様々な課題から学修する。ロンド（3対1）を用いて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるパスの強弱の使い分け、パスの分類、キックの相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。	30分
10	月5/4 金5/8	基礎技術（パス&コントロール）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	基礎技術（パス&コントロール）を発展させ、スモールサイド（コーンゴールゲーム）を用いてフットサルのミニゲーム（40m×35m）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（パス）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。ゲームの特徴から用いられる技術の違いを説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。	30分
11	月5/11 金5/15	応用技術（パス）	様々なストレッチやアイズブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。基礎技術（パス）の発展として、ボールキープ、突破といった応用技術（パス）についてロンド（4対2）、2対1の突破を用いて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされる基礎技術（パス）とボールキープ、突破で用いられる応用技術（パス）の相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、応用技術（パス）の相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。	30分
12	月5/11 金5/15	応用技術（パス）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	応用技術（パス）を用い、スモールサイド（4ゴールゲーム）を用いてミニゲーム（40m×35m）を行い、基礎技術と応用技術との相違点を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる応用技術（パス）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。ゲームの特徴から用いられる技術の違いを説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、応用技術（パス）の相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。到達目標②に関連してサッカーのルールについてA4で分類・整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月5/18 金5/22	応用技術（シュート/ドロップキック・パントキック）・GK	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。サッカーで必要とされるシュートを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（シュート）を学修し、様々な場面におけるシュートの相違点（ドロップキック・パントキック）について説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、応用技術（シュート）の方法を分類し相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。	30分
14	月5/18 金5/22	応用技術（シュート）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	応用技術（ドリブル・パス・シュート）を用い、ハーフコートサイズ（68m×52.5m）でゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。先週のスモールサイドゲームと比較し、用いられる応用技術の相違点について説明することができる。サッカーで必要とされる応用技術（シュート）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、ゲーム中に想定されるファウルについて整理する。また、相互的にファウルを回避する方法を検討しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。ゲームで想定されるファウルについて分類・整理する。	30分
15	月5/25 金5/29	リーグ戦形式のゲーム運営に向けたチームビルディング 仮チーム編成による練習	リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてチームビルディングの方法を学修する。仮チーム編成による練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーにおいてチームビルディングがプレーに及ぼす影響を理解し、チームメイトと協働して検討することができる。サッカーで行われる基本的なリーグ戦の方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、チームビルディングとは何かを調べて整理し、講義中に他の学生とディスカッションできるようにしておく。サッカーのウォーミングアップ・練習メニューを調べ、オリジナルメニューを考案する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、チームビルディングについてのディスカッションの内容を整理しておく。	30分
16	月5/25 金5/29	リーグ戦形式のゲーム運営に向けた審判法 仮チーム編成による練習試合	リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてサッカーの審判法を学修する。リーグ戦形式で仮チーム編成による練習試合を行う。仲間と協働してフルコートサイズ（105m×68m）のゲームを楽しむことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーにおけるルールの重要性を理解するとともに審判法を理解し正しく説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、ゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について調べ、行えるように準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、サッカーのルールに関する専門用語やゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について整理する。	30分
17	月6/1 金6/5	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達する練習メニューをチームごとに考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、チームの目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を設定し、課題解決に向けた解決方策を議論し、仲間と協働して楽しむことができる。	
		事前学修	サッカーで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。サッカーで用いられるウォーミングアップについて調べ、オリジナルメニューを考案し発表できる準備をする。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
18	月6/1 金6/5	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達する練習メニューをチームごとに考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、主体的にリーグ戦を運営するために、チームビルディングを通じ実行力を向上させる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	サッカーで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。サッカーで用いられるウォーミングアップについて調べ、発表できる準備をする。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	月6/8 金6/12	第1回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。	30分
		事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。	30分
20	月6/8 金6/12	第1回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（ルールを理解や特徴の把握）を通じ、思考力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。	30分
		事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。	30分
21	月6/15 金6/19	第2回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめる目標をディスカッションし考案する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方策を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。授業内におけるディスカッションの役割を理解し、積極的な発言、討論を行うことができる。	
		事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールを設定をディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
22	月6/15 金6/19	第2回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめる目標をディスカッションし考案する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（攻撃方法）を通じ、創造力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールについてディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分
23	月6/22 金6/26	第2回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。ビデオ分析等を行い、チーム、個人の課題の抽出を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を再設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、映像と自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
24	月6/22 金6/26	第2回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。ビデオ分析等を行い、チーム、個人の課題の抽出を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（守備方法）を通じ、発見力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	月6/29 金7/3	第3回リーグ戦形式による ゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、再構築することができる。自身の目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間とポジションに関する意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
26	月6/29 金7/3	第3回リーグ戦形式による ゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析を通じて、フットサルの試合展開に応じ、状況把握能力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。	30分
27	月7/6 金7/10	第3回リーグ戦形式による ゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、傾聴力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間とフォーメーションによる戦術の相違点に関する意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
28	月7/6 金7/10	第3回リーグ戦形式による ゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、発信力や規律性を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。	30分
29	月7/13 金7/17	トーナメント戦形式による ゲーム	前週までの結果より、トーナメント戦形式によるゲームを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、トーナメント戦の実施やゲーム分析を通じ、柔軟性を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	サッカーで行われる基本的なトーナメント戦形式の方法を確認しておく。	30分
		事後学修	リーグ戦形式とトーナメント戦形式のゲームの特徴の相違点についてまとめる。	30分
30	月7/13 金7/17	サッカーのルールに関する 理解度の確認及び解説 まとめ・講評	サッカーのルールに関する理解度を確認し解説を行う。また、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標②④に関連して、授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。 到達目標③に関連して、スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。	
		事前学修	スポーツが自身に与える影響や行うことの意義についてまとめ、各自の意見を準備する。	30分
		事後学修	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(ゴルフ初級)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
通常の筋力があれば問題ないとする。誰でも受講可とする。

【授業方法】
大宮キャンパスにて行う。 クラブ等は学部で準備してあるものを貸与する。スポーツシューズ、運動着、ゴルフ手袋は各自で準備する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	動画の撮影を用い、スイングの課題点、修正点を抽出し、課題解決に向けたディスカッションを行う。コースを工夫して設営し、主体的にゴルフのラウンドが行えるようにグループワークやディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。配布資料「ゴルフ指導者教本」を初回授業時に配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:35-13:00（長期休暇を除く。事前にアポイントメントを取る）大宮体育館教員控え室 sakamoto.shuji0904@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/14	ガイダンス【ゴルフ】とは	ゴルフの運動特性と安全管理について概説する。運動が学生に及ぼす影響を理解し、その重要性について学修する。 また、授業の到達目標、テーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法等の説明を行う。 それにより学生は授業の計画を立て、翌週からの準備をスムーズに行うようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④を理解し、ゴルフの運動特性と安全管理について説明することができる。また、講義がどのような形態で授業が行われるか、講義の到達目標がどのようなものであるかを説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。翌週からの実技に備え用具の準備を行う。	30分
2	月9/14	体力測定【自分を知る】	ゴルフの講義を進めていく上で必要となる体力について学修する。自分の体力について知ること で今後の運動への意識を高める。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、体力測定の結果より健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立することを理解し、体力について学修し、説明することができる。また、ゴルフで必要とされる体力について自らの達成課題を抽出することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ゴルフで必要とされる体力について調べ整理し、自分の体力を比較・検討できるように準備する。	30分
		事後学修	自分の体力の現状を把握し、結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。	30分
3	月9/21	コミュニケーション【声・アイコンタクト・ボディランゲージ・協力】	様々なアイスブレイクを用い、身体活動、仲間との協働の楽しさを知るとともに、今後のグループワークへつながるコミュニケーション能力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、スポーツで必要とされるコミュニケーションについて理解し、グループワークを通し実践することができる。また、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができ、マナーやルールについての理解を深めることができる。	
		事前学修	ゴルフに必要な用具の準備をしておく。 配布資料p2-p4を読んでゴルフとはどのようなスポーツか調べておく。また、p63-68を読んでゴルフの用具について整理しておく。	30分
		事後学修	ゴルフの運動特性と健康スポーツとしてのゴルフの位置づけについて理解を深める。	30分
4	月9/21	ゴルフの【安全管理】について ゴルフの基礎理論と実践【グリップ・アドレス・スイング】	ゴルフの授業への準備と安全管理のための方策を学習する。ゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を学修し、ショートアイアン（ピッチング）、バードボールを使用して打撃練習を実践する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの安全管理の重要性について理解し、その動作特性やルール、マナーを説明することができる。また、ゴルフに必要なスキル（クローズドスキル）とその他スポーツのスキル（オープンスキル）の違いを説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	ゴルフに必要な用具の準備と安全管理のための方策を確認しておく。 配布資料p2-p4を読んでゴルフとはどのようなスポーツか調べておく。また、p63-68を読んでゴルフの用具について整理しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。配布資料を読み、安全管理の方策を分類し、マナーやルールを整理する。	30分
5	月9/28	ゴルフの基礎理論と実践【スクエアスタンスを意識したスイング】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いてスクエアスタンスを意識したアプローチショットを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。スクエアのスイングとはどのようなものかを理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
6	月9/28	ゴルフの基礎理論と実践【重心移動を意識したスイング】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いて重心移動を意識したアプローチショットを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。スイング中の重心移動がどのように行われているかを理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/5	ゴルフの基礎理論と実践 【グリップを意識したスイング】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いてグリップ（スクエア・ストロング・ウィーク）を意識したアプローチショットを学修する。動画によるスイングチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。グリップの違いによってボール軌道がどのように変化するかを理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。動画の映像から客観的視点で自身のスイングを改善することができる。また他者との相違点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
8	月10/5	ゴルフの基礎理論と実践 【スタンスとボール位置を意識したスイング・ハーフスイングとフルスイングの違い】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いてスタンスとボール位置を意識したフルスイングによるアプローチショットを学修する。動画によるスイングチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。スタンスとボール位置の変化によるボール軌道の関係性を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。動画の映像からハーフスイングとフルスイングの違いを理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
9	月10/12	ゴルフの基礎理論と実践 【テイクバックを意識したスイング・スイングクロックによるアプローチ】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いたアプローチショットを学修する。スイングクロック（①5:00-7:00②3:00-9:00③1:00-11:00）を用いたアプローチを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。テイクバックの大きさと飛距離の関係性を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
10	月10/12	ゴルフの基礎理論と実践 【的入れゲームによるミニテスト①】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いたアプローチショットを学修する。様々な距離の的を狙ったアプローチショットを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。これまでのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を用い、スイングによるボール軌道の距離の変化を理解し、説明することができる。飛距離の異なるアプローチショットを打ち分けることができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
11	月10/19	ゴルフの【ルール・エチケット・マナー】について	ラウンドする際のゴルフのルール・エチケット・マナーについて学修する。プレー当日の手順・コースでの心得を確認しラウンドに向けた準備を行う。ウォーミングアップで、ゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボール・ピッチングを使用してスイングクロックによるアプローチ練習を実践する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフのルール・マナー・エチケットを理解し、正しいラウンド方法を説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p60-p62, p69-p71を読んでゴルフの基本的なルールやマナーをスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。ラウンド中のルール・マナー・エチケットをまとめ整理する。	30分
12	月10/19	体育館にてミニコースを設営してのラウンド	体育館にてミニコース（6ホール）を設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いてラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ラウンド設営の方法を理解し、積極的に設営に携わることができる。ゴルフのルール・マナー・エチケットを理解し、正しいラウンド方法を説明することができる。注意深く観察しコースの特徴を捉え、スイングを変化させ使い分けることができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p60-p62, p69-p71を読んでゴルフの基本的なルールやマナーを整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。ラウンド中のルール・マナー・エチケットをまとめ整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月10/26	ゴルフの基礎理論と実践 【穴あきボールを使用したスイング】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球のスイングへの導入として穴あきボールを使用して打撃練習を实践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いたアプローチショットを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。バードボールと穴あきボールの打感や軌道の変化について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
14	月10/26	ゴルフの基礎理論と実践 【穴あきボールを使用したスイング・7番アイアン導入】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、穴あきボールを使用して打撃練習を实践する。7番アイアンを用いてアプローチショットを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。ピッチングと7番アイアンのアドレスの違い（グリップ・スタンス・ボール位置）について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
15	月11/9	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・グリーン回りを意識したアプローチ】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ショートアイアン（ピッチング）を用い、グリーン回りを意識したアプローチショットを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。バードボール及び穴あきボールと本球の打感や軌道の変化について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p51-p54を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 再度ゴルフの安全管理のための方策を確認しておく。	30分
16	月11/9	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・スイングクロック・ゴルフゲージを使用した7番アイアンの打撃練習】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ショートアイアン（ピッチング）を用い、スイングクロックによるアプローチを学修する。本球・ゴルフゲージを使用して7番アイアンのスイングを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。本球を使用し、スイングクロックを用い、短距離（10y-30y）から中距離（40y-60y）の打ち分けを理解し、実践することができる。ピッチングと7番の違いが明確に説明できる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 再度ゴルフの安全管理のための方策を確認しておく。	30分
17	月11/16	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・ハーフスイングとフルスイングの違い】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ショートアイアン（ピッチング）を用い、ハーフスイングとフルスイングの打ち分けを学修する。動画によるスイングチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。本球を使用し、スイングクロックを用い、中距離（40y-60y）から長距離（80y-100y）の打ち分けを理解し、実践することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 動画でチェックした修正ポイントを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
18	月11/16	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・7番アイアン・ドライバ―導入】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・7番アイアンを用い、ハーフスイングとフルスイングの打ち分けを学修する。ゴルフゲージを使用してドライバーのスイングを学修する。動画によるスイングチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。本球を使用し、スイングクロックを用い、短距離（10y-30y）から中距離（40y-60y）の打ち分けを理解し、実践することができる。7番アイアンを用い、ストレートに飛ばすスイング動作を理解し、説明することができる。ドライバーとショートアイアンの相違点を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 動画でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
19	月11/23	ゴルフの基礎理論と実践 【的入れゲームによるミニテスト②】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認する。本球・7ショートアイアン（ピッチング）・7番アイアンを用い、様々な距離の的を狙ったアプローチショットを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、適切な距離でのクラブ選択を理論的に説明し、実践することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 前回動画でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
20	月11/23	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・ヘッドスピードを意識したドライバー】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ゴルフゲージを使用してドライバーのスイングを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、ドライバーとショートアイアンの相違点を理解し、理論的に説明することができる。ヘッドスピードを上げるためにどのようなスイングが必要となるか理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	配布資料p27を読んでヘッドスピードについて整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
21	月11/30	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・インパクトを意識したドライバー】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ゴルフゲージを使用してドライバーのスイングを学修する。インパクト時のフェース面、両肘、手首の意識について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、インパクト時の正しいフェース面、姿勢（両肘・手首）について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
22	月11/30	ゴルフの基礎理論と実践 【ケイマンボールを使用したスイング・ドライバー】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、ケイマンボールを使用してドライバーのスイングを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、ドライバーの正しいスイングについて説明することができる。ドライバーを用い、ストレートに飛ばすスイング動作を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ドライバーの基本技術を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
23	月12/7	グラウンドにてコースを設営しての練習ラウンド	グラウンドにてコース（9ホール）を設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いてストロークプレーにてラウンドを行う。ゴルフラウンドにおける基本的なルール、スコアの付け方を学修する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフラウンドにおける基本的なルール、マナー、スコアの付け方を理解し、正しいラウンド方法を説明することができる。	
		事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。	30分
		事後学修	配布資料p9-p10を読んで競技の種類とプレー方法を整理しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
24	月12/7	グラウンドにてコースを設営しての公式戦ラウンド	グラウンドにてコース（9ホール）を設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いてラウンドを行う。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略について学修する。次回のゴルフコース設営に向けたコースを考案しながらラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ラウンドする仲間とともに協働して、マナーやエチケットの向上を心がけ、ラウンドを楽しむことができる。ストロークプレーとマッチプレーの相違点を理解し、説明することができる。練習ラウンドにて分析したコース概要をもとに、戦略を立てることができる。	
		事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。	30分
		事後学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。グループごとに9ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。	30分
25	月12/14	グラウンドにて主体的にコースを設営しての練習ラウンド（9ホール）	グラウンドにてコース（9ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。グループごとにディスカッションを行い、ゴルフコース設営について学修する。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略、安全管理の方策について学修する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフコース設営に関するディスカッションに積極的に参加し、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。レポートにて9ホール構成のゴルフコースを考案する。	30分
		事後学修	ラウンドを振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
26	月12/14	グラウンドにて主体的にコースを設営しての公式戦ラウンド（9ホール）	グラウンドにてコース（9ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。グループごとにディスカッションを行い、ゴルフコース設営について学修する。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略、安全管理の方策について学修する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフに必要とされるマナー・エチケットに配慮しながら、他者と協働してスムーズなラウンドの進行に取り組み、ラウンドを楽しむことができることができる。	
		事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。	30分
		事後学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。グループごとに18ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。	30分
27	月12/21	グラウンドにて主体的にコースを設営しての練習ラウンド（18ホール）	グラウンドにてコース（18ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。他グループとゴルフコース設営のディスカッションを行い協働してコースを設営する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、18ホールの種別を理解し、バランスの取れたゴルフコースの設営について説明することができる。他者と協働して積極的にゴルフコース設営に参加することができる。	
		事前学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。グループごとに18ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。	30分
		事後学修	ラウンドを振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
28	月12/21	グラウンドにて主体的にコースを設営しての公式戦ラウンド（18ホール）	グラウンドにてコース（18ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。グループごとにゴルフコース設営のディスカッションを行う。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略、安全管理の方策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフに必要とされるマナー・エチケットに配慮しながら、他者と協働してスムーズなラウンドの進行に取り組み、ラウンドを楽しむことができることができる。	
		事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。	30分
		事後学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について再度整理しておく。18ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。	30分
29	月1/18	グラウンドにてコースを設営しての公式戦ラウンド（18ホール）ハンディキャップ方式	前回の結果をもとにハンディキャップ方式でストロークプレーにてラウンドを行う。グラウンドにてコース（18ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ハンディキャップ方式のストロークプレーについて理解し、説明することができる。ゴルフに必要とされるマナー・エチケットに配慮しながら、他者と協働してスムーズなラウンドの進行に取り組み、ラウンドを楽しむことができることができる。	
		事前学修	配布資料p10-p11を読んでハンディキャップについて整理しておく。	30分
		事後学修	ラウンドを振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
30	月1/18	ゴルフのルールに関する理解度の確認及び解説 まとめ・講評	ゴルフのルールに関する理解度を確認し、解説を行う。また、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。 到達目標③に関連して、スポーツが及ぼす様々な影響について考え、理解を深める。	
		事前学修	スポーツが自身に与える影響や行うことの意義についてまとめ、各自の意見を準備する。	30分
		事後学修	スポーツ実技が自らに与えた影響についてまとめる。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(フットサル)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
初級者から上級者まで誰でも可。

【授業方法】		
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して後期２時限連続で実施する授業である。 フットサルに適した服装とフットサル用のシューズを用意すること。 服装に関してはガイダンス時に指示をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各グループにおいて、フットサルにおけるポジション、フォーメーション、戦術等についての課題を与え、それに基づいたグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日12:35-13:00（長期休暇を除く。事前にアポイントメントを取る）大宮体育館教員控え室 sakamoto.shuji0904@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 日本サッカー協会公認指導者ライセンス保有、日本サッカー協会公認サッカー審判員ライセンス保有
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本体育協会公認である日本サッカー協会公認指導者ライセンスを保有し、各年代で指導者経験のある教員が、その経験を活かして、サッカーの基本的な基礎技術の習得と実践的なサッカーの戦術についての考え方を講義する。実践の中でサッカーの楽しさを追求する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/18	ガイダンス【フットサルとは】	【フットサル】の講義が学生に及ぼす影響を理解し、運動することの重要性について学修する。また、授業の到達目標、テーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法等の説明を行う。それにより学生は授業の計画を立て、翌週からの準備をスムーズに行うようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④を理解し、【フットサル】の講義がどのような形態で授業が行われるか、講義の到達目標がどのようなものであるかを説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。翌週からの実技に備え用具の準備を行う。	30分
2	月9/18	体力測定【自分を知る】	【フットサル】の講義を進めていく上で必要となる体力について学修する。自分の体力について知ることによって今後の運動への意識を高める。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立することを理解し、体力について学修し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フットサルで必要とされる体力について調べ整理し、自分の体力を比較・検討できるように準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り整理する。自分の体力の現状を把握し、翌週からの実技に備え運動に取り組む。	30分
3	月9/25	コミュニケーション（声・アイコンタクト）	様々なアイスブレイクを用い、フットサルに必要とされる声、アイコンタクトを使ったコミュニケーションについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるコミュニケーション（声・アイコンタクト）について理解し、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、フットサルの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。	30分
4	月9/25	コミュニケーション（ボディランゲージ・協力） コミュニケーションを用いたゲーム形式	様々なアイスブレイクを用い、フットサルに必要とされるボディランゲージ、グループワークを通してコミュニケーションについて学修する。コミュニケーションを用いてフットサルのミニゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるコミュニケーション（ボディランゲージ）について理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。コミュニケーションを用い仲間と協働してフットサルゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、フットサルの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。	30分
5	月10/2	基礎技術（ボールフィーリング：個人）	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、個人でのボールを使った身体活動（リフティング）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、個人でのボールフィーリングを実践し楽しむことができる。また、ボールフィーリングのプレースキル向上の関連性について説明することができる。用具の特性からフットサルとサッカーの相違点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、フットサル専門用語について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。	30分
6	月10/2	基礎技術（ボールフィーリング：グループ） 基礎技術（ボールフィーリング）を用いたゲーム形式	様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、グループでのボールを使った身体活動（サッカーデニス）を通しボールタッチを学修する。基礎技術を用いてフットサルのゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとボールフィーリングの関連性について説明することができる。基礎技術（ボールフィーリング）を用い仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、フットサル専門用語について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/9	基礎技術（ドリブル）	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。フットサルで必要とされるドリブルのボールタッチ（インサイド・アウトサイド・足のラウ）の相違点を理解し、様々な課題から学修する。ドリブルのフェイントとターンについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるドリブルでのボールタッチとサッカーのボールタッチの相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。	30分
8	月10/9	基礎技術（ドリブル）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	基礎技術（ドリブル）を発展させ、スモールサイド（ラインゴール）を用いてフットサルのミニゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（ドリブル）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。	30分
9	月10/16	基礎技術（パス&コントロール）	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。フットサルで必要とされるパスを学修し、キックの相違点を理解し、様々な課題から学修する。ロンド（3対1）を用いて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるパスの強弱の使い分け、パスの分類、キックの相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。	30分
10	月10/16	基礎技術（パス）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	基礎技術（パス）を発展させ、スモールサイド（コーンゴールゲーム）を用いてフットサルのミニゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（パス）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。	30分
11	月10/23	応用技術（パス）	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。基礎技術（パス）の発展として、ボールキープ、突破といった応用技術（パス）についてロンド（4対2）、2対1の突破を用いて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（パス）とボールキープ、突破で用いられる応用技術（パス）の相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術と応用技術の相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。	30分
12	月10/23	応用技術（パス）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	応用技術（パス）を用い、スモールサイドゲーム（4ゴールゲーム）を行い、基礎技術と応用技術との相違点を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる応用技術（パス）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、応用技術（パス）の相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。到達目標②に関連してフットサルのルールについてA4で分類・整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月10/30	応用技術（シュート/ドロップキック・パントキック）・GK	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。フットサルで必要とされるシュートを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（シュート）を学修し、様々な場面におけるシュートの相違点（ドロップキック・パントキック）について説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、応用技術（シュート）の方法を分類し相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。	30分
14	月10/30	応用技術（シュート）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	応用技術（ドリブル・パス・シュート）を用い、スモールサイドゲーム（背中合わせゴール）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、先週のスモールサイドゲームと比較し、用いられる応用技術の相違点について説明することができる。フットサルで必要とされる応用技術（シュート）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、ゲーム中に想定されるファウルについて整理する。また、相互的にファウルを回避する方法を検討しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。ゲームで想定されるファウルについて分類・整理する。	30分
15	月11/6	リーグ戦形式のゲーム運営に向けたチームビルディング 仮チーム編成による練習	リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてチームビルディングの方法を学修する。仮チーム編成による練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルにおいてチームビルディングがプレーに及ぼす影響を理解し、チームメイトと協働して検討することができる。フットサルのルールを理解し、サッカーとの相違点を説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、チームビルディングとは何かを調べて整理し、講義中に他の学生とディスカッションできるようにしておく。フットサルの練習メニューを調べ、オリジナルメニューを考案する。フットサルのルールを調べ、サッカーとの相違点を比較し、発表できる準備をしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、チームビルディングについてのディスカッションの内容を整理しておく。	30分
16	月11/6	リーグ戦形式のゲーム運営に向けた審判法 仮チーム編成による練習試合	リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてフットサルの審判法を学修する。リーグ戦形式で仮チーム編成による練習試合を行う。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルにおけるルールの重要性を理解するとともに審判法を理解し正しく説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、ゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について調べ、行えるように準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、フットサルのルールに関する専門用語やゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について整理する。	30分
17	月11/13	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達をする練習メニューを考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、チームの目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を設定し、課題解決に向けた解決方策を議論し、仲間と協働して楽しむことができる。	
		事前学修	フットサルで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。フットサルで用いられるウォーミングアップについて調べ、オリジナルメニューを考案し発表できる準備をする。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
18	月11/13	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達をする練習メニューを考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、主体的にリーグ戦を運営するために、チームビルディングを通じ実行力を向上させる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	フットサルで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。フットサルで用いられるウォーミングアップについて調べ、発表できる準備をする。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	月11/20	第1回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。	30分
		事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。	30分
20	月11/20	第1回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（ルールの理解や特徴の把握）を通じ、思考力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。	30分
		事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。	30分
21	月11/27	第2回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめるルール（時間・人数・制限・得点等）をディスカッションし考案する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方策を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。授業内におけるディスカッションの役割を理解し、積極的な発言、討論を行うことができる。	
		事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールの設定をディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
22	月11/27	第2回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめるルールを用いリーグ戦を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（攻撃方法）を通じ、創造力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールについてディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分
23	月12/4	第2回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。ビデオ分析等を行い、チーム、個人の課題の抽出を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を再設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。	
		事前学修	ビデオ等の映像と自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
24	月12/4	第2回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（守備方法）を通じ、発見力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	月12/11	第3回リーグ戦形式によるゲーム 1週目 ソサイチによるゲームの導入	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、再構築することができる。自身の目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間とポジションに関する意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
26	月12/11	第3回リーグ戦形式によるゲーム 1週目 ソサイチによるゲームの導入	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析を通じて、フットサルの試合展開に応じ、状況把握能力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。	30分
27	月12/18	第3回リーグ戦形式によるゲーム 2週目 ソサイチによるゲームの導入	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、傾聴力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間とフォーメーションによる戦術の相違点に関する意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
28	月12/18	第3回リーグ戦形式によるゲーム 2週目 ソサイチによるゲームの導入	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、発信力や規律性を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。	30分
29	月12/25	トーナメント戦形式によるゲーム ソサイチによるゲームの導入	前週までの結果より、トーナメント戦形式によるゲームを行う。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、トーナメント戦の実施やゲーム分析を通じ、柔軟性を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	フットサルで行われる基本的なトーナメント戦形式の方法を確認しておく。	30分
		事後学修	リーグ戦形式とトーナメント戦形式のゲームの特徴の相違点についてまとめる。	30分
30	月12/25	フットサルのルールに関する理解度の確認及び解説 まとめ・講評	フットサルのルールに関する理解度を確認し解説を行う。また、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。 到達目標③に関連して、スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。	
		事前学修	スポーツが自身に与える影響や行うことの意義についてまとめ、各自の意見を準備する。	30分
		事後学修	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(コンバインドスポーツ)	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
当該運動・スポーツの経験の有無にかかわらず、興味関心をもっていること。GIOを理解し、目的達成のためにの行動ができること。

【授業方法】		
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設で、2時限連続の実技形式により行う。当該運動・スポーツ種目の知識（ルール、マナー等）・技術・戦術の習得・実践（ゲーム等）・運営が中心となる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	当該運動・スポーツ種目に関する知識（ルール、マナー等）や実践（練習、ゲーム）について、グループワークや発表等を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験、技術試験、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	当該運動・スポーツに関する書籍（ルールブック、技術書等）				

【オフィスアワー】
授業実施日 8：30～13：00、13：00～17：00 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、スポーツ指導の講習（実技及び講義）
実務経験に基づく実践的教育の内容		適切な運動・スポーツ活動 運動・スポーツ活動によって得られる様々な経験、期待される恩恵について教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	体育・スポーツの意義と価値	1. ガイダンス内容（授業目的、到達目標、評価方法、授業計画）について理解する 2. 体育・スポーツの意義と価値について理解する	
		この回の到達目標	1. 到達目標④に関連して、ガイダンス内容を理解し、以後の取り組みについて準備できる 2. 到達目標③に関連して、体育・スポーツの意義と価値について説明できる	
		事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する 2. 体育・スポーツについての考えをまとめる	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以後の計画を確認する。	30分
2	/	体力及び身体運動への理解	1. ウォーミングアップとクーリングダウンの意義と方法を理解する 2. フィットネス測定の方法と評価について理解する	
		この回の到達目標	1. 到達目標④に関連して、運動前後のウォーミングアップとクーリングダウンの意義とその方法を説明できる 2. 到達目標④に関連して、フィットネス測定の方法と評価について説明できる	
		事前学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義について調べてくる。 フィットネス測定の種目について調べてくる	30分
		事後学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義についてまとめ、理解を深める。また、フィットネス測定の結果を踏まえて、自己の体力を向上させる課題を抽出する。	30分
3	/	卓球の特性と安全管理（講義）	1. 卓球の特性（歴史、技術、ルール、倫理、用具等）を理解する 2. 卓球を安全に実施する上での安全管理について理解する	
		この回の到達目標	1. 到達目標②に関連して、卓球の特性（歴史、技術、倫理、用具等）を説明できる 2. 到達目標②に関連して、卓球を安全に実施する上での安全管理について説明できる	
		事前学修	卓球の特性について関連する資料を調べてくる 卓球で発生した事故等について調べてくる	30分
		事後学修	講義の内容をまとめ、卓球の特性と実施する際の安全面の確保について理解を深める	30分
4	/	基本的な動作と技術の習得〔1〕 フォアハンド、バックハンド	1. フォアハンド、バックハンド基本的な動作と技術の習得 2. 練習の効果について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、フォアハンド及びバックハンドの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標①に関連して、動作と技術習得の練習方法を工夫できる。	
		事前学修	フォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
5	/	基本的な動作と技術の習得〔2〕 フォアハンド、バックハンドのラリー	フォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	フォアハンド、バックハンドの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分
6	/	基本的な動作と技術の習得〔3〕 カットのフォアハンド、バックハンド	1. カットのフォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術の習得 2. 動作と記憶過程（認知構造）について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標④に関連して、動作と技術を習得する際の認知構造について説明することができる。	
		事前学修	カットの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	基本的な動作と技術の習得〔4〕 カットのラリー	カットのフォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	カットの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分
8	/	基本的な動作と技術の習得〔5〕 サーブ、レシーブ、スマッシュ	1. サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術の練習 2. 練習曲線を用いて、動作と技術の習得について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標④に関連して、練習曲線を用いて、動作と技術を習得する際の特徴について示し、自分に当てはめて説明することができる。	
		事前学修	サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
9	/	基本的な動作と技術の確認 技能試験	1. 簡易ゲームにより、習得した動作や技術の確認 2. 振り返りと課題の抽出	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
		事前学修	基本動作と技術を振り返り、技能試験に向けた練習を行う。	30分
		事後学修	技能試験の結果を踏まえ、技術習得状況を確認し課題を抽出する。また課題解決に向けた方法をまとめる。	30分
10	/	審判技術を学ぶ	1. ルールと審判法の説明 簡易ゲームにより、審判技術とルールを理解する 2. 練習効果を高める方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ルールと審判法について説明できる。	
		事前学修	ルールブックを熟読し、使用する用語をまとめる。	30分
		事後学修	審判法、特にジェスチャーと審判用語をまとめ、理解を深める。	30分
11	/	状況に応じた技術の選択〔1〕 サーブコースの選択	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択に説明する。 2. スポーツコーチングについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	シングルのサーブについて配布資料を読み	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
12	/	状況に応じた技術の選択〔2〕 回転サーブ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	ナックル、下回転について配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	状況に応じた技術の選択 〔3〕 ショート	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス 1 1 点 1 セット）	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分
14	/	状況に応じた技術の選択 〔4〕 ツッツキ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス 1 1 点 1 セット）	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分
15	/	状況に応じた技術の選択 〔5〕 スマッシュ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス 1 1 点 1 セット）	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分
16	/	ゲームの実践と審判〔1〕 シングルス総当たり（前半戦）	1. シングルス総当たり（前半戦） 2. スポーツマンシップとは何かを説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。	
		事前学修	スポーツマンシップについて調べる。スポーツ活動現場においてどのように適応されるべきなのか自分の考えをまとめ、授業時の発表準備をする。	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決策をまとめる。	30分
17	/	ゲームの実践と審判〔2〕 シングルス総当たり（後半戦）	シングルス総当たり（後半戦）	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決策を示すことができる。	
		事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	総当たりの結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。またトーナメントに備え課題を抽出する。	30分
18	/	ゲームの実践と審判〔3〕 シングルストーナメント （前半戦）	1. シングルストーナメント（前半戦） 2. フェアプレイとは何かを理解する	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決策を示すことができる。	
		事前学修	フェアプレイについて調べる。その際、他のスポーツ種目の事例について確認し、授業時の発表準備をする。	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決策をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	ゲームの実践と審判〔4〕 シングルストーナメント （後半戦）	シングルストーナメント（後半戦）	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
20	/	ダブルスの基本的な動作と 技術の習得〔1〕 サーブとレシーブ	ダブルスの基本動作と技術の習得	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
		事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
21	/	ダブルスの基本的な動作と 技術の習得〔2〕 打球コースの選択	ダブルスの基本動作と技術の習得	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
		事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
22	/	ゲームの実践と審判〔5〕 ダブルス総当たり	ダブルス総当たり	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	試合方法、ルールを確認する	30分
		事後学修	ペアの学生と振り返りを行い、お互いの課題を抽出する、また、課題解決に方策をまとめる	30分
23	/	ゲームの実践と審判〔6〕 ダブルストーナメント	ダブルストーナメント	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	総当たりの課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、総当たりで課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
24	/	試合運営〔1〕 シングルスリーグ戦（技能 レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	試合運営〔2〕 シングルストーナメント (技能レベル別)	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
26	/	試合運営〔3〕 ダブルスリーグ戦（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分
27	/	試合運営〔3〕 ダブルストーナメント（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
28	/	試合運営〔5〕 チーム戦	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	チーム戦の試合方法、チーム内での試合順番等について確認する。	30分
		事後学修	チームメンバーと振り返りを行う。	30分
29	/	レクリエーションとしての 当該スポーツを学ぶ	ゲーム方法を工夫し、性別・年齢・体力・技能を考慮したルールの提案と実施	
		この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、既存のルールを工夫しレクリエーションとしての卓球の価値を示すことができる。	
		事前学修	レクリエーションとしての卓球について調べる。また、卓球を普及させる方策を考えまとめる。	30分
		事後学修	卓球を普及させる方策について課題レポートを作成する。	30分
30	/	スポーツの意義と価値について考える	1. スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 2. 授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツ活動がもたらす様々な恩恵について具体例を挙げ説明することができる。	
		事前学修	スポーツの文化としての役割について自分の考えをまとめる	30分
		事後学修	全体を通した振り返りを行い、生涯スポーツとしての当該スポーツの位置付けを確認する。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(卓球)	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
卓球経験の有無不問。運動靴、運動着、タオル、その他運動・スポーツに必要な準備をすること。用具の貸し出しはあるが、個人で準備しても構わない。体力の維持増進のために、各自で30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施する。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設で、2時限連続の実技形式により行う。卓球の知識（ルール、マナー等）・技術・戦術の習得・実践（ゲーム等）・運営が中心となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	卓球に関する知識（ルール、マナー等）や実践（練習、ゲーム）について、グループワークや発表等を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験、技術試験、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
授業実施日 9：00～13：00 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、スポーツ指導の講習（実技及び講義）
実務経験に基づく実践的教育の内容		適切な運動・スポーツ活動 運動・スポーツ活動によって得られる様々な経験、期待される恩恵について教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	体育・スポーツの意義と価値	1. ガイダンス内容（授業目的、到達目標、評価方法、授業計画）について理解する 2. 体育・スポーツの意義と価値について理解する	
		この回の到達目標	1. 到達目標④に関連して、ガイダンス内容を理解し、以後の取り組みについて準備できる 2. 到達目標③に関連して、体育・スポーツの意義と価値について説明できる	
		事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する 2. 体育・スポーツについての考えをまとめてくる	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の計画を確認する。	30分
2	9/16	体力及び身体運動への理解	1. ウォーミングアップとクーリングダウンの意義と方法を理解する 2. フィットネス測定の方法と評価について理解する	
		この回の到達目標	1. 到達目標④に関連して、運動前後のウォーミングアップとクーリングダウンの意義とその方法を説明できる 2. 到達目標④に関連して、フィットネス測定の方法と評価について説明できる	
		事前学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義について調べてくる。 フィットネス測定の種目について調べてくる	30分
		事後学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義についてまとめ、理解を深める。また、フィットネス測定の結果を踏まえて、自己の体力を向上させる課題を抽出する。	30分
3	9/23	卓球の特性と安全管理（講義）	1. 卓球の特性（歴史、技術、ルール、倫理、用具等）を理解する 2. 卓球を安全に実施する上での安全管理について理解する	
		この回の到達目標	1. 到達目標②に関連して、卓球の特性（歴史、技術、倫理、用具等）を説明できる 2. 到達目標②に関連して、卓球を安全に実施する上での安全管理について説明できる	
		事前学修	卓球の特性について関連する資料を調べてくる 卓球で発生した事故等について調べてくる	30分
		事後学修	講義の内容をまとめ、卓球の特性と実施する際の安全面の確保について理解を深める	30分
4	9/23	基本的な動作と技術の習得〔1〕 フォアハンド、バックハンド	1. フォアハンド、バックハンド基本的な動作と技術の習得 2. 練習の効果について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、フォアハンド及びバックハンドの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標①に関連して、動作と技術習得の練習方法を工夫できる。	
		事前学修	フォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
5	9/30	基本的な動作と技術の習得〔2〕 フォアハンド、バックハンドのラリー	フォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	フォアハンド、バックハンドの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分
6	9/30	基本的な動作と技術の習得〔3〕 カットのフォアハンド、バックハンド	1. カットのフォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術の習得 2. 動作と記憶過程（認知構造）について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標④に関連して、動作と技術を習得する際の認知構造について説明することができる。	
		事前学修	カットの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/7	基本的な動作と技術の習得〔4〕 カットのラリー	カットのフォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	カットの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分
8	10/7	基本的な動作と技術の習得〔5〕 サーブ、レシーブ、スマッシュ	1. サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術の練習 2. 練習曲線を用いて、動作と技術の習得について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標④に関連して、練習曲線を用いて、動作と技術を習得する際の特徴について示し、自分に当てはめて説明することができる。	
		事前学修	サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
9	10/14	基本的な動作と技術の確認 技能試験	1. 簡易ゲームにより、習得した動作や技術の確認 2. 振り返りと課題の抽出	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
		事前学修	基本動作と技術を振り返り、技能試験に向けた練習を行う。	30分
		事後学修	技能試験の結果を踏まえ、技術習得状況を確認し課題を抽出する。また課題解決に向けた方法をまとめる。	30分
10	10/14	審判技術を学ぶ	1. ルールと審判法の説明 簡易ゲームにより、審判技術とルールを理解する 2. 練習効果を高める方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ルールと審判法について説明できる。	
		事前学修	ルールブックを熟読し、使用する用語をまとめる。	30分
		事後学修	審判法、特にジェスチャーと審判用語をまとめ、理解を深める。	30分
11	10/21	状況に応じた技術の選択〔1〕 サーブコースの選択	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択に説明する。 2. スポーツコーチングについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	シングルのサーブについて配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
12	10/21	状況に応じた技術の選択〔2〕 回転サーブ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	ナックル、下回転について配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/28	状況に応じた技術の選択〔3〕 ショート	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス 1 1 点 1 セット）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
14	10/28	状況に応じた技術の選択〔4〕 ツッツキ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス 1 1 点 1 セット）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
15	11/11	状況に応じた技術の選択〔5〕 スマッシュ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス 1 1 点 1 セット）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
16	11/11	ゲームの実践と審判〔1〕 シングルス総当たり（前半戦）	1. シングルス総当たり（前半戦） 2. スポーツマンシップとは何かを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。	
		事前学修	スポーツマンシップについて調べる。スポーツ活動現場においてどのように適応されるべきなのか自分の考えをまとめ、授業時の発表準備をする。	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決策をまとめる。	30分
17	11/18	ゲームの実践と審判〔2〕 シングルス総当たり（後半戦）	シングルス総当たり（後半戦）	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決策を示すことができる。	
		事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	総当たりの結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。またトーナメントに備え課題を抽出する。	30分
18	11/18	ゲームの実践と審判〔3〕 シングルストーナメント（前半戦）	1. シングルストーナメント（前半戦） 2. フェアプレイとは何かを理解する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決策を示すことができる。	
		事前学修	フェアプレイについて調べる。その際、他のスポーツ種目の事例について確認し、授業時の発表準備をする。	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決策をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/25	ゲームの実践と審判〔4〕 シングルストーナメント （後半戦）	シングルストーナメント（後半戦）	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
20	11/25	ダブルスの基本的な動作と技術の習得〔1〕 サーブとレシーブ	ダブルスの基本動作と技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
		事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
21	12/2	ダブルスの基本的な動作と技術の習得〔2〕 打球コースの選択	ダブルスの基本動作と技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
		事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
22	12/2	ゲームの実践と審判〔5〕 ダブルス総当たり	ダブルス総当たり	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	試合方法、ルールを確認する。	30分
		事後学修	ペアの学生と振り返りを行い、お互いの課題を抽出する、また、課題解決に方策をまとめる。	30分
23	12/9	ゲームの実践と審判〔6〕 ダブルストーナメント	ダブルストーナメント	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	総当たりの課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、総当たりで課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
24	12/9	試合運営〔1〕 シングルスリーグ戦（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する。	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/16	試合運営〔2〕 シングルストーナメント (技能レベル別)	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
26	12/16	試合運営〔3〕 ダブルスリーグ戦（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する。	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分
27	12/23	試合運営〔4〕 ダブルストーナメント（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
28	12/23	試合運営〔5〕 チーム戦	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	チーム戦の試合方法、チーム内での試合順番等について確認する。	30分
		事後学修	チームメンバーと振り返りを行う。	30分
29	1/13	レクリエーションとしての卓球を学ぶ	ゲーム方法を工夫し、性別・年齢・体力・技能を考慮したルールの提案と実施	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、既存のルールを工夫しレクリエーションとしての卓球の価値を示すことができる。	
		事前学修	レクリエーションとしての卓球について調べる。また、卓球を普及させる方策を考えまとめる。	30分
		事後学修	卓球を普及させる方策について課題レポートを作成する。	60分
30	1/13	スポーツの意義と価値について考える	1. スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 2. 授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツ活動がもたらす様々な恩恵について具体例を挙げ説明することができる。	
		事前学修	スポーツの文化としての役割について自分の考えをまとめる	30分
		事後学修	全体を通した振り返りを行い、生涯スポーツとしての当該スポーツの位置付けを確認する。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(バドミントン)	担当者	鈴木 功士	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。 ※第1回目は準備不要

【授業方法】
大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。 必要に応じ、バドミントンの技能別を実施することがある。※授業内容は変更する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業で課題を与え、ペアもしくはグループ・ワークで進行する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にレポートの講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない(資料集を配布する)				

【オフィスアワー】
授業（火曜3限）の前後とする授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立スポーツ科学センターにてスポーツ選手への科学的サポートの実施
実務経験に基づく実践的教育の内容		ICTを用いた技能習得	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス、導入授業	ガイダンス(半期授業の組み立て, 授業方法, 履修条件などについて説明) 三崎町キャンパスにて行う。	
		この回の到達目標	シラバスの内容を理解する	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。	10分
		事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	10分
2	4/7	エクササイズ	エクササイズ	
		この回の到達目標	自身の体力と生活習慣の関係を理解する	
		事前学修	自身の生活習慣について省みる。	10分
		事後学修	学習内容から、自身の生活習慣を改善する。	10分
3	4/14	ミニゲーム	基本的な動作の習得① ミニゲーム	
		この回の到達目標	バドミントンのルール, 特性, 安全性を理解する	
		事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理について確認する。	10分
		事後学修	大宮キャンパスの施設利用方法等の理解を再確認する。	10分
4	4/14	ミニゲーム	基本的な動作の習得② ミニゲーム	
		この回の到達目標	バドミントンのルール, 特性, 安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンで使用する道具について特性を調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの道具の理解を深める。	10分
5	4/21	ミニゲーム	実践的な動作の習得① ミニゲーム	
		この回の到達目標	ミニゲームを通し, 自ら課題を発見し, 改善方法を計画し, 実行する	
		事前学修	バドミントンの基本動作について調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの基本動作について理解を深める。	10分
6	4/21	ミニゲーム	実践的な動作の習得② ミニゲーム	
		この回の到達目標	ミニゲームを通し, 自ら課題を発見し, 改善方法を計画し, 実行する	
		事前学修	バドミントンの運動特性について調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの運動特性について理解を深める。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/28	シングルのルール	ルールを学ぶ①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンシングルのルールを調べる.	10分
		事後学修	バドミントンシングルのルールについて理解を深める.	10分
8	4/28	シングルのルール	ルールを学ぶ②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンシングルの審判法について調べる.	10分
		事後学修	バドミントンシングルの審判法について理解を深める.	10分
9	5/5	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のルール，特性，安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	リーグ戦の実施方法について調べる.	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する.	10分
10	5/5	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のルール，特性，安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	シングルの戦略について調べる.	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する.	10分
11	5/12	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦③	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	シングルの戦略について調べる.	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する.	10分
12	5/12	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦④	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	シングルの戦略について調べる.	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する.	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/19	シングルストーナメント	シングルストーナメント①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルストーナメントのルール，特性，安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	トーナメントの実施方法について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる．	10分
14	5/19	シングルストーナメント	シングルストーナメント②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム前に必要なウォーミングアップについて調べる．	10分
		事後学修	シングルストーナメント結果から、自身のスキルについて分析し、自己理解を深める．	10分
15	5/26	ダブルスのルール	ダブルス ルールを学ぶ	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンダブルスのルールを調べる．	10分
		事後学修	バドミントンダブルスのルールについて理解を深める．	10分
16	5/26	ダブルスのルール	ダブルス 実践練習	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンダブルスの審判法を調べる．	10分
		事後学修	バドミントンダブルスの審判法について理解を深める．	10分
17	6/2	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦①	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦を通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する．	10分
18	6/2	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦②	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦を通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する．	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/9	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦③	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦のゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
20	6/9	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦④	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦のゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
21	6/16	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント①	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントを通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
22	6/16	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント②	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントを通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
23	6/23	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント③	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
24	6/23	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント④	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6/30	自主運営	自主運営①	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
26	6/30	自主運営	自主運営②	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
27	7/7	自主運営	自主運営③	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
28	7/7	自主運営	自主運営④	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
29	7/14	レクリエーション	レクリエーションとバドミントン	
		この回の到達目標	バドミントンを通じて、レクリエーションと人間関係構築の関係性を理解する	
		事前学修	レクリエーションとしてのバドミントンについて調べる。	10分
		事後学修	様々なバドミントンの楽しみ方について理解を深める。	10分
30	7/14	まとめ、講評	まとめ、講評	
		この回の到達目標	バドミントンを通じて、スポーツの特性を理解し、生涯にわたり自主的に実践するスキルを得る	
		事前学修	授業全体を振り返り、学んだことを整理する。	10分
		事後学修	バドミントンを通じて学んだ、体力的・心理的・社会的スキルから、より良い生活を送るための方策を検討する。	10分

科目名	体育スポーツ実習C(バドミントン)	担当者	鈴木 功士	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。 ※第1回目は準備不要

【授業方法】
大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。 必要に応じ、バドミントンの技能別を実施することがある。※授業内容は変更する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業で課題を与え、ペアもしくはグループ・ワークで進行する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にレポートの講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない(資料集を配布する)				

【オフィスアワー】
授業（火曜3限）の前後とする授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立スポーツ科学センターにてスポーツ選手への科学的サポートの実施
実務経験に基づく実践的教育の内容		ICTを用いた技能習得	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス、導入授業	ガイダンス(半期授業の組み立て, 授業方法, 履修条件などについて説明) 三崎町キャンパスにて行う。	
		この回の到達目標	シラバスの内容を理解する	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。	10分
		事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	10分
2	9/15	エクササイズ	エクササイズ	
		この回の到達目標	自身の体力と生活習慣の関係を理解する	
		事前学修	自身の生活習慣について省みる。	10分
		事後学修	学習内容から、自身の生活習慣を改善する。	10分
3	9/22	ミニゲーム	基本的な動作の習得① ミニゲーム	
		この回の到達目標	バドミントンのルール, 特性, 安全性を理解する	
		事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理について確認する。	10分
		事後学修	大宮キャンパスの施設利用方法等の理解を再確認する。	10分
4	9/22	ミニゲーム	基本的な動作の習得② ミニゲーム	
		この回の到達目標	バドミントンのルール, 特性, 安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンで使用する道具について特性を調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの道具の理解を深める。	10分
5	9/29	ミニゲーム	実践的な動作の習得① ミニゲーム	
		この回の到達目標	ミニゲームを通し, 自ら課題を発見し, 改善方法を計画し, 実行する	
		事前学修	バドミントンの基本動作について調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの基本動作について理解を深める。	10分
6	9/29	ミニゲーム	実践的な動作の習得② ミニゲーム	
		この回の到達目標	ミニゲームを通し, 自ら課題を発見し, 改善方法を計画し, 実行する	
		事前学修	バドミントンの運動特性について調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの運動特性について理解を深める。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6	シングルのルール	ルールを学ぶ①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンシングルのルールを調べる.	10分
		事後学修	バドミントンシングルのルールについて理解を深める.	10分
8	10/6	シングルのルール	ルールを学ぶ②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンシングルの審判法について調べる.	10分
		事後学修	バドミントンシングルの審判法について理解を深める.	10分
9	10/13	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のルール，特性，安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	リーグ戦の実施方法について調べる.	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する.	10分
10	10/13	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のルール，特性，安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	シングルの戦略について調べる.	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する.	10分
11	10/20	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦③	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	シングルの戦略について調べる.	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する.	10分
12	10/20	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦④	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	シングルの戦略について調べる.	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する.	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27	シングルストーナメント	シングルストーナメント①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルストーナメントのルール，特性，安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	トーナメントの実施方法について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる．	10分
14	10/27	シングルストーナメント	シングルストーナメント②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム前に必要なウォーミングアップについて調べる．	10分
		事後学修	シングルストーナメント結果から、自身のスキルについて分析し、自己理解を深める．	10分
15	11/10	ダブルスのルール	ダブルス ルールを学ぶ	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンダブルスのルールを調べる．	10分
		事後学修	バドミントンダブルスのルールについて理解を深める．	10分
16	11/10	ダブルスのルール	ダブルス 実践練習	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンダブルスの審判法を調べる．	10分
		事後学修	バドミントンダブルスの審判法について理解を深める．	10分
17	11/17	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦①	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦を通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する．	10分
18	11/17	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦②	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦を通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する．	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/24	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦③	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦のゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
20	11/24	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦④	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦のゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
21	12/1	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント①	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントを通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
22	12/1	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント②	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントを通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
23	12/8	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント③	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
24	12/8	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント④	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/15	自主運営	自主運営①	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
26	12/15	自主運営	自主運営②	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
27	12/22	自主運営	自主運営③	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
28	12/22	自主運営	自主運営④	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
29	1/12	レクリエーション	レクリエーションとバドミントン	
		この回の到達目標	バドミントンを通じて、レクリエーションと人間関係構築の関係性を理解する	
		事前学修	レクリエーションとしてのバドミントンについて調べる。	10分
		事後学修	様々なバドミントンの楽しみ方について理解を深める。	10分
30	1/12	まとめ、講評	まとめ、講評	
		この回の到達目標	バドミントンを通じて、スポーツの特性を理解し、生涯にわたり自主的に実践するスキルを得る	
		事前学修	授業全体を振り返り、学んだことを整理する。	10分
		事後学修	バドミントンを通じて学んだ、体力的・心理的・社会的スキルから、より良い生活を送るための方策を検討する。	10分

科目名	体育スポーツ実習C(ソフトボール)	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
この科目は、大宮キャンパス（グラウンド）の施設を使用して2時限連続で実施する授業である。受講時には授業に適した運動着と運動靴を着用する。履修カードに張り付ける顔写真を準備する。

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題リポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室 メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について説明できる。	
		事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
		事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	4/7	ストレッチ体操	適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について説明できる。	
		事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
		事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	4/14	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。	
		事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	4/14	敏捷性：アジリティトレーニングを知る	ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について説明できる。	
		事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
		事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	4/21	キャッチボールの基礎練習	キャッチボールの基礎技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キャッチボールの基礎技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	キャッチボールの基礎トレーニングを調べる。	30分
		事後学修	キャッチボール練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
6	4/21	キャッチボール応用練習	実践形式においてキャッチボール応用技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キャッチボール応用技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	キャッチボール応用技術の練習を調べる。	30分
		事後学修	キャッチボール応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/28	バッティング基礎練習	バッティング基礎技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バッティング基礎技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	バッティング練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
		事後学修	バッティング練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
8	4/28	バッティング応用練習	実践形式においてバッティング応用技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、バッティング応用技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	バッティング応用練習を調べる。	30分
		事後学修	バッティング応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
9	5/5	走塁の基礎練習	走塁基礎技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、走塁基礎技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	走塁練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
		事後学修	走塁練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
10	5/5	走塁の応用練習	実践形式において走塁の応用技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、走塁の応用技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	走塁の応用練習を調べる。	30分
		事後学修	走塁の応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
11	5/12	オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る	筋力と筋持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラムを作成を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
		事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	5/12	実践におけるオールラウンドな体力の向上	実践において体力向上を体得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践におけるオールラウンドな体力の向上について、理解し説明することができる。	
		事前学修	実践に必要な体力を調べる。	30分
		事後学修	実践におけるオールラウンドな体力の向上に関して理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/19	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング	難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。	30分
14	5/19	実践における筋力とパワーの向上	実践において筋力とパワーの向上を体得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践において筋力とパワーの向上について、理解し説明することができる。	
		事前学修	技術に必要な筋力とパワーについて調べる。	30分
		事後学修	実践における筋力とパワーの向上に関して理解を深める。	30分
15	5/26	実践形式：リーグ戦A	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術、理解し説明することができる。	
		事前学修	ゲームにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
16	5/26	実践形式：リーグ戦A	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術、理解し説明することができる。	
		事前学修	ゲームにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
17	6/2	実践形式：リーグ戦B	対戦チームの強み弱みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みを理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分
18	6/2	実践形式：リーグ戦B	対戦チームの強み弱みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みを理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/9	実践形式：リーグ戦C	守備について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、守備について実践形式を理解し、説明することができる。	
		事前学修	守備練習について調べる。	30分
		事後学修	守備を振り返り理解を深める。	30分
20	6/9	実践形式：リーグ戦C	守備について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、守備について実践形式を理解し、説明することができる。	
		事前学修	守備練習について調べる。	30分
		事後学修	守備を振り返り理解を深める。	30分
21	6/16	実践形式：リーグ戦D	対戦チームの守備について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの守備について、理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームの守備を分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの守備を振り返り次回のリーグ戦に役立てる。	30分
22	6/16	実践形式：リーグ戦D	対戦チームの守備について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの守備について、理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームの守備を分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの守備を振り返り次回のリーグ戦に役立てる。	30分
23	6/23	実践形式：リーグ戦E	ポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
		事前学修	ポジションの適正能力について調べる。	30分
		事後学修	ポジションの適正能力を振り返り理解を深める。	30分
24	6/23	実践形式：リーグ戦E	ポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
		事前学修	ポジションの適正能力について調べる。	30分
		事後学修	ポジションの適正能力を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6/30	実践形式：リーグ戦F	対戦チームのポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、対戦チームのポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームのポジションの適正能力について分析を行うこと。	30分
		事後学修	対戦チームのポジションの適正能力について調べた回の戦略に役立てる。	30分
26	6/30	実践形式：リーグ戦F	対戦チームのポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、対戦チームのポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームのポジションの適正能力について分析を行うこと。	30分
		事後学修	対戦チームのポジションの適正能力について調べた回の戦略に役立てる。	30分
27	7/7	実践形式：リーグ戦G	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、チームのコミュニケーションの取り方について、理解し説明することができる。	
		事前学修	ボールゲームにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
28	7/7	実践形式：リーグ戦G	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、チームのコミュニケーションの取り方について、理解し説明することができる。	
		事前学修	ボールゲームにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
29	7/14	実践形式：リーグ戦H ゲームの運営法	ゲームの運営法を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゲームの運営法について、理解し説明することができる。	
		事前学修	ゲームの運営法について調べる。	30分
		事後学修	ゲームの運営法を振り返り理解を深める。	30分
30	7/14	まとめ/ 振り返り	フィtnessチェック、授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、フィtnessチェック、授業の振り返りを行い、理解し説明することができる。	
		事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
		事後学修	授業の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(多種目スポーツ)	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
この科目は、大宮キャンパスの施設を使用して２時限連続で実施する授業である。受講時には授業に適した運動着と運動靴を着用する。履修カードに張り付ける顔写真を準備する。

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題リポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室 メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、スポーツ習慣化と体力及び健康について、理解し説明できる。	
		事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
		事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	9/15	ストレッチ体操	適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について説明できる。	
		事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
		事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	9/22	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法について説明できる。	
		事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	9/22	敏捷性：アジリティトレーニングを知る	ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について説明できる。	
		事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
		事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	9/29	平衡性：バランスを高める	平衡性を必要とする用具を用いて行い運動効果を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、バランスを高めるために必要なトレーニング方法について説明できる。	
		事前学修	竹馬の乗り方について調べる。	30分
		事後学修	平衡性：バランスを高めるために必要なトレーニングを実施し理解を深める。	30分
6	9/29	キャッチボール練習：ティーボール①	実践形式においてキャッチボール技術を体得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてキャッチボール技術について説明できる。	
		事前学修	キャッチボール技術の練習を調べる。	30分
		事後学修	キャッチボール技術の練習を実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6	バッティング基礎練習： ティーボール②	実践形式においてバッティング基礎技術を体得する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてバッティング基礎技術について説明できる。	
		事前学修	バッティング練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
		事後学修	バッティング練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
8	10/6	バッティング応用練習： ティーボール③	実践形式においてティーボール技術を体得する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてティーボール技術について説明できる。	
		事前学修	ティーボールのルールを調べる。	30分
		事後学修	ティーボール技術の練習を実施し理解を深める。	30分
9	10/13	走塁の基礎練習：ティー ボール④	走塁基礎技術を体得する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、走塁基礎技術について説明できる。	
		事前学修	走塁練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
		事後学修	走塁練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
10	10/13	走塁の応用練習：ティー ボール⑤	実践形式において走塁の応用技術を体得する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式において走塁の応用技術について説明できる。	
		事前学修	走塁の応用練習を調べる。	30分
		事後学修	走塁の応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
11	10/20	オールラウンドな体力の向 上：サーキットトレーニン グを知る	筋力と筋持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム を作成を学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングについて説明できる。	
		事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
		事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	10/20	オールラウンドな体力の向 上	オールラウンドな体力向上を体得する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、オールラウンドな体力の向上について説明できる。	
		事前学修	オールラウンドな体力の向上について調べる。	30分
		事後学修	オールラウンドな体力の向上に関して理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング	難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて説明できる。	
		事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。	30分
14	10/27	実践における筋力とパワーの向上	実践において筋力とパワーの向上を体得する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実践における筋力とパワーの向上について説明できる。	
		事前学修	技術に必要な筋力とパワーについて調べる。	30分
		事後学修	実践における筋力とパワーの向上に関して理解を深める。	30分
15	11/10	実践形式：バスケットボール①	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術について説明できる。	
		事前学修	バスケットボールにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
16	11/10	実践形式：バスケットボール①	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術について説明できる。	
		事前学修	バスケットボールにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
17	11/17	実践形式：バスケットボール②	対戦チームの強み弱みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みについて説明できる。	
		事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分
18	11/17	実践形式：バスケットボール②	対戦チームの強み弱みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みについて説明できる。	
		事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/24	実践形式：卓球 シングルス	卓球：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	卓球（シングルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
20	11/24	実践形式：卓球 シングルス	卓球：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	卓球（シングルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
21	12/1	実践形式：卓球 ダブルス	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	卓球（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
22	12/1	実践形式：卓球 ダブルス	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	卓球（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
23	12/8	実践形式：バドミントン シングルス	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	バドミントン（シングルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
24	12/8	実践形式：バドミントン シングルス	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	バドミントン（シングルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/15	実践形式：バドミントン ダブルス	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	バドミントン（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
26	12/15	実践形式：バドミントン ダブルス	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	バドミントン（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
27	12/22	実践形式における課題練習：フットサル	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式におけるチームでのコミュニケーションについて、理解し説明できる。	
		事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
28	12/22	実践形式における課題練習：フットサル	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式におけるチームでのコミュニケーションについて、理解し説明できる。	
		事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
29	1/12	ゲームにおける運営：フットサル	ゲームにおける運営を積極的に行う。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゲームにおける運営について、理解し説明できる。	
		事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
30	1/12	まとめ/ 振り返り	フィtnessチェック、授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、フィtnessチェック、授業の振り返り、理解し説明できる。	
		事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
		事後学修	授業の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(テニス初級)	担当者	朴 美香	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)

【履修条件】

【授業方法】

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①													
②													
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)												

【課題に対するフィードバックの方法】

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無		実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
2				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
3				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
4				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
5				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
6				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
8				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
9				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
10				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
11				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
12				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
14				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
15				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
16				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
17				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
18				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
20				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
21				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
22				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
23				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
24				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
26				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
27				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
28				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
29				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
30				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

科目名	体育スポーツ実習C(テニス中級)	担当者	朴 美香	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数			必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)

【履修条件】

【授業方法】

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①													
②													
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		到達目標別の比率(%)										

【課題に対するフィードバックの方法】

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無		実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

科目名	体育スポーツ実習C(バドミントン)	担当者	深田 喜八郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける写真を準備)

【授業方法】		
授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等により実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
バドミントンの練習、試合に対する講評や、課題レポートに対する添削を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日 13時10分～13時40分 大宮キャンパス体育館※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	【ガイダンス及び用具の解説】	授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明するとともに、用具や施設の利用方法・注意点について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、運動の恩恵を説明できる。	
		事前学修	運動の意義についてまとめる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第一部 金4/10	【体ほぐしの運動】	パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニケーションを図る。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、運動に必要なストレッチを選択できる。	
		事前学修	ストレッチの効果について調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。	30分
3	第一部 金4/17	【体力測定】	身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、体力と健康の関連について説明できる。	
		事前学修	測定種目について確認する。	30分
		事後学修	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。	30分
4	第一部 金4/17	【基本的なショットの修得①】	シャトルに慣れるとともに、サーブやドライブの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	サーブ・ドライブについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
5	第一部 金4/24	【基本的なショットの修得②】	サーブやドライブに加え、クリアー、プッシュ、ドロップの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	クリアー・プッシュ・ドロップについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
6	第一部 金4/24	【基本的なショットの修得③】	これまで紹介したショットを復習するとともに、スマッシュの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	スマッシュについて調べる。	30分
		事後学修	これまで実施した基本技術をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/1	【半面シングルス①】	コートの手面を利用し、ゲーム形式でラリーすることで、基本技術の向上をはかる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	半面シングルスについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
8	第一部 金5/1	【半面シングルス②】	リーグ戦形式で試合を実施することで、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	半面シングルス目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
9	第一部 金5/8	【ダブルスの練習①】	簡易ゲームによって、ダブルスのゲームを経験する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	インターネット等でダブルスのゲームを視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
10	第一部 金5/8	【ダブルスの練習②】	サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	ダブルスのルールについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
11	第一部 金5/15	【ダブルスの練習③】	ラリー継続の練習をしながら、ダブルスの戦術を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	ダブルスの戦術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
12	第一部 金5/15	【ダブルスの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金5/22	【ダブルスの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分
14	第一部 金5/22	【ダブルスの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
15	第一部 金5/29	【ダブルスの試合④】	団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦において重要と考える点をまとめる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分
16	第一部 金5/29	【シングルの練習①】	フットワークの練習をし、コート全体を動きながらラリーを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、シングルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	インターネット等でシングルの動画を視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
17	第一部 金6/5	【シングルの練習②】	審判の方法やラインの確認をし、ゲーム形式で練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、シングルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	シングルのルールについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
18	第一部 金6/5	【シングルの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 金6/12	【シングルの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
20	第一部 金6/12	【シングルの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
21	第一部 金6/19	【トリプルの練習】	サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、トリプルスに必要な技術・ルール・マナーを習得する。	
		事前学修	インターネット等でトリプルの試合を視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
22	第一部 金6/19	【トリプルの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
23	第一部 金6/26	【トリプルの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
24	第一部 金6/26	【トリプルの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 金7/3	【団体戦①】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	これまでの内容を振り返り、バドミントンに必要な基本技術、コミュニケーションについてまとめる。	30分
		事後学修	試合結果振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
26	第一部 金7/3	【団体戦②】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	チームのメンバーと目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
27	第一部 金7/10	【団体戦③】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	チームのメンバーと目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
28	第一部 金7/10	【学生企画によるゲーム運営①】	リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンに必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	どのような形式でゲームを実施すべきか、個人の意見をまとめる。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
29	第一部 金7/17	【学生企画によるゲーム運営②】	リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンに必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	改善点を踏まえ、個人の意見をまとめる。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、まとめる。	30分
30	第一部 金7/17	【まとめ】	これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、バドミントンの実習で期待される恩恵と健康行動について説明できる。	
		事前学修	これまでの内容についてまとめる。	30分
		事後学修	施設を探し、バドミントンを実践する。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(バドミントン)	担当者	深田 喜八郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける写真を準備)

【授業方法】
授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等により実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
バドミントンの練習、試合に対する講評や、課題レポートに対する添削を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日 13時10分～13時40分 大宮キャンパス体育館※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	【ガイダンス及び用具の解説】	授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明するとともに、用具や施設の利用方法・注意点について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、運動の恩恵を説明できる。	
		事前学修	運動の意義についてまとめる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第一部 金9/18	【体ほぐしの運動】	パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニケーションを図る。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、運動に必要なストレッチを選択できる。	
		事前学修	ストレッチの効果について調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。	30分
3	第一部 金9/25	【体力測定】	身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、体力と健康の関連について説明できる。	
		事前学修	測定種目について確認する。	30分
		事後学修	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。	30分
4	第一部 金9/25	【基本的なショットの修得①】	シャトルに慣れるとともに、サーブやドライブの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	サーブ・ドライブについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
5	第一部 金10/2	【基本的なショットの修得②】	サーブやドライブに加え、クリアー、プッシュ、ドロップの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	クリアー・プッシュ・ドロップについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
6	第一部 金10/2	【基本的なショットの修得③】	これまで紹介したショットを復習するとともに、スマッシュの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	スマッシュについて調べる。	30分
		事後学修	これまで実施した基本技術をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/9	【半面シングルス①】	コートの手面を利用し、ゲーム形式でラリーすることで、基本技術の向上をはかる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	半面シングルスについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
8	第一部 金10/9	【半面シングルス②】	リーグ戦形式で試合を実施することで、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	半面シングルスの目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
9	第一部 金10/16	【ダブルスの練習①】	簡易ゲームによって、ダブルスのゲームを経験する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	インターネット等でダブルスのゲームを視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
10	第一部 金10/16	【ダブルスの練習②】	サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	ダブルスのルールについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
11	第一部 金10/23	【ダブルスの練習③】	ラリー継続の練習をしながら、ダブルスの戦術を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	ダブルスの戦術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
12	第一部 金10/23	【ダブルスの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金10/30	【ダブルスの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分
14	第一部 金10/30	【ダブルスの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
15	第一部 金11/6	【ダブルスの試合④】	団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦において重要と考える点をまとめる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分
16	第一部 金11/6	【シングルの練習①】	フットワークの練習をし、コート全体を動きながらラリーを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、シングルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	インターネット等でシングルの動画を視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
17	第一部 金11/13	【シングルの練習②】	審判の方法やラインの確認をし、ゲーム形式で練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、シングルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	シングルのルールについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
18	第一部 金11/13	【シングルの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 金11/20	【シングルの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
20	第一部 金11/20	【シングルの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
21	第一部 金11/27	【トリプルの練習】	サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、トリプルスに必要な技術・ルール・マナーを習得する。	
		事前学修	インターネット等でトリプルの試合を視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
22	第一部 金11/27	【トリプルの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
23	第一部 金12/4	【トリプルの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
24	第一部 金12/4	【トリプルの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 金12/11	【団体戦①】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	これまでの内容を振り返り、バドミントンに必要な基本技術、コミュニケーションについてまとめる。	30分
		事後学修	試合結果振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
26	第一部 金12/11	【団体戦②】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	チームのメンバーと目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
27	第一部 金12/18	【団体戦③】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	チームのメンバーと目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
28	第一部 金12/18	【学生企画によるゲーム運営①】	リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンに必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	どのような形式でゲームを実施すべきか、個人の意見をまとめる。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
29	第一部 金12/25	【学生企画によるゲーム運営②】	リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンに必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	改善点を踏まえ、個人の意見をまとめる。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、まとめる。	30分
30	第一部 金12/25	【まとめ】	これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、バドミントンの実習で期待される恩恵と健康行動について説明できる。	
		事前学修	これまでの内容についてまとめる。	30分
		事後学修	施設を探し、バドミントンを実践する。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(バレーボール)	担当者	松田 有司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
基本的筋力が必要である。バレーボールに興味がありバレーボールを楽しむことができること

【授業方法】		
大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続で実施する 男女混合の6人制バレーボールを半年間実施する		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて説明を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
大宮体育館事務室1時より受付

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部4/6	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション授業 三崎町校舎3時限目	
		この回の到達目標	授業の内容・目的について理解をする	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	第1部4/6	身体・体力測定	身体能力および技術測定 1	
		この回の到達目標	自身の体力の現状について理解をする	
		事前学修	バレーボールの技術や動作方法について調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
3	第1部4/13	身体・体力測定	身体能力および技術測定 2	
		この回の到達目標	自身の体力の現状について理解をする	
		事前学修	バレーボールの技術や動作方法について調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
4	第1部4/13	個人基礎技術の習得	パス技術の習得	
		この回の到達目標	狙った場所にパスを実施することが出来る	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	パス技術改善点についてまとめる	30分
5	第1部4/20	チーム基礎技術の習得	仮チーム編成での練習	
		この回の到達目標	バレーボールの練習方法を理解し、チームで練習を実施することが出来るようになる	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	パス技術改善点についてまとめる	30分
6	第1部4/20	個人基礎技術の習得	アタック・サーブ技術の取得	
		この回の到達目標	アタック・サーブを実施することが出来る	
		事前学修	バレーボールのルールを調べる	30分
		事後学修	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 4/27	チーム基礎技術の習得	仮チーム編成での練習・練習試合	
		この回の到達目標	バレーボールの練習方法を理解し、チームで練習を実施することが出来るようになる	
		事前学修	バレーボールのルールを調べる	30分
		事後学修	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる	30分
8	第1部 4/27	チーム技術の習得	チーム練習(フォーメーション・ラリー)	
		この回の到達目標	バレーボールのフォーメーションを理解し、フォーメーションに応じた動きができるようになる	
		事前学修	フォーメーションについて調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
9	第1部5/4	チーム技術の習得	チーム練習および練習試合	
		この回の到達目標	練習試合において、ラリーを続けることができるようになる	
		事前学修	フォーメーションについて調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
10	第1部5/4	試合	第1次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	リーグ戦の仕組みを理解する	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
11	第1部 5/11	試合	第1次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
12	第1部 5/11	試合	第1次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 5/18	試合	第1次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
14	第1部 5/18	試合	第2次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
15	第1部 5/25	試合	第2次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
16	第1部 5/25	試合	第2次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
17	第1部6/1	試合	第2次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
18	第1部6/1	応用的な個人技術の習得	チーム変えでのチーム練習	
		この回の到達目標	個人技術の向上。新たなチームメイトと協同してチームビルディングを行う	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第1部6/8	応用的なチーム技術の習得	チーム練習・練習試合	
		この回の到達目標	チームメイトと統一した目標を持って、練習・試合を実施することが出来る	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える	30分
20	第1部6/8	試合	第3次公式戦リーグ 1 週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
21	第1部6/15	試合	第3次公式戦リーグ 2 週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
22	第1部6/15	試合	第3次公式戦リーグ 2 週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
23	第1部6/22	試合	第3次公式戦リーグ 3 週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
24	第1部6/22	応用的なチーム技術の習得	チーム攻撃&守備のバリエーション練習	
		この回の到達目標	チーム攻撃&守備の技術力を向上させることができる	
		事前学修	コンビネーション攻撃や守備ができるようになる	30分
		事後学修	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第1部 6/29	応用的なチーム技術の習得	攻撃・守備のフォーメーション練習	
		この回の到達目標	コンビネーション攻撃や守備ができるようになる	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える	30分
26	第1部 6/29	試合	第4次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
27	第1部7/6	試合	第4次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
28	第1部7/6	試合	第4次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
29	第1部 7/13	試合	第4次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	コンビネーション攻撃や守備の技術力向上	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
30	第1部 7/13	授業回顧	ルール&バレーボール理論の確認	
		この回の到達目標	授業を振り返り、自身の能力(技術・コミュニケーション能力・協働力)の向上について認識できるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(バレーボール)	担当者	松田 有司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
基本的筋力が必要である。バレーボールに興味がありバレーボールを楽しむことができること

【授業方法】
大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続で実施する 男女混合の6人制バレーボールを半年間実施する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて説明を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
大宮体育館事務室1時より受付

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 9/14	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション授業 三崎町校舎3時限目	
		この回の到達目標	授業の内容・目的について理解をする	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	第1部 9/14	身体・体力測定	身体能力および技術測定 1	
		この回の到達目標	自身の体力の現状について理解をする	
		事前学修	バレーボールの技術や動作方法について調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
3	第1部 9/21	身体・体力測定	身体能力および技術測定 2	
		この回の到達目標	自身の体力の現状について理解をする	
		事前学修	バレーボールの技術や動作方法について調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
4	第1部 9/21	個人基礎技術の習得	パス技術の習得	
		この回の到達目標	狙った場所にパスを実施することが出来る	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	パス技術改善点についてまとめる	30分
5	第1部 9/28	チーム基礎技術の習得	仮チーム編成での練習	
		この回の到達目標	バレーボールの練習方法を理解し、チームで練習を実施することが出来るようになる	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	パス技術改善点についてまとめる	30分
6	第1部 9/28	個人基礎技術の習得	アタック・サーブ技術の取得	
		この回の到達目標	アタック・サーブを実施することが出来る	
		事前学修	バレーボールのルールを調べる	30分
		事後学修	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 10/5	チーム基礎技術の習得	仮チーム編成での練習・練習試合	
		この回の到達目標	バレーボールの練習方法を理解し、チームで練習を実施することが出来るようになる	
		事前学修	バレーボールのルールを調べる	30分
		事後学修	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる	30分
8	第1部 10/5	チーム技術の習得	チーム練習(フォーメーション・ラリー)	
		この回の到達目標	バレーボールのフォーメーションを理解し、フォーメーションに応じた動きができるようになる	
		事前学修	フォーメーションについて調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
9	第1部 10/12	チーム技術の習得	チーム練習および練習試合	
		この回の到達目標	練習試合において、ラリーを続けることができるようになる	
		事前学修	フォーメーションについて調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
10	第1部 10/12	試合	第1次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	リーグ戦の仕組みを理解する	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
11	第1部 10/19	試合	第1次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
12	第1部 10/19	試合	第1次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 10/26	試合	第1次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
14	第1部 10/26	試合	第2次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
15	第1部 11/9	試合	第2次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
16	第1部 11/9	試合	第2次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
17	第1部 11/16	試合	第2次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
18	第1部 11/16	応用的な個人技術の習得	チーム変えでのチーム練習	
		この回の到達目標	個人技術の向上。新たなチームメイトと協同してチームビルディングを行う	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第1部 11/23	応用的なチーム技術の習得	チーム練習・練習試合	
		この回の到達目標	チームメイトと統一した目標を持って、練習・試合を実施することが出来る	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える	30分
20	第1部 11/23	試合	第3次公式戦リーグ 1 週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
21	第1部 11/30	試合	第3次公式戦リーグ 2 週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
22	第1部 11/30	試合	第3次公式戦リーグ 2 週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
23	第1部 12/7	試合	第3次公式戦リーグ 3 週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
24	第1部 12/7	応用的なチーム技術の習得	チーム攻撃&守備のバリエーション練習	
		この回の到達目標	チーム攻撃&守備の技術力を向上させることができる	
		事前学修	コンビネーション攻撃や守備ができるようになる	30分
		事後学修	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第1部 12/14	応用的なチーム技術の習得	攻撃・守備のフォーメーション練習	
		この回の到達目標	コンビネーション攻撃や守備ができるようになる	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える	30分
26	第1部 12/14	試合	第4次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
27	第1部 12/21	試合	第4次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
28	第1部 12/21	試合	第4次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
29	第1部 1/18	試合	第4次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	コンビネーション攻撃や守備の技術力向上	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
30	第1部 1/18	授業回顧	ルール&バレーボール理論の確認	
		この回の到達目標	授業を振り返り、自身の能力(技術・コミュニケーション能力・協働力)の向上について認識できるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(バスケットボール)	担当者	松本 真	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
バスケットボールが好きである。また、パスゲームでバスケットボールを理解したいと考える者。

【授業方法】
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続または後期2時限連続で実施する授業である。基本ドリル（個人技、チーム戦術）を行う。その後に、ゲームをして、特に戦術的な実践を試みる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業（木曜1限）終了後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ガイダンス バasketボールとは。	履修受付・オリエンテーション授業。	
		この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認 1	
		事前学修	オリエンテーションで示された授業内容の確認。（30分）	30分
		事後学修	高校までに習得したゴール型球技に対する知識を確認する。（30分）	30分
2	/	Basketボールの試しのゲーム	班分けと試しのゲーム。	
		この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認2	
		事前学修	高校までに習得したBasketボールに対する知識を確認する。（30分）	30分
		事後学修	班員の確認。自分の身体の状態を確認する。（30分）	30分
3	/	Basketボールの基本戦術	全体戦術である「側線のボール運び」を行い、試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認3	
		事前学修	Basketボールのルールを確認する。（30分）	30分
		事後学修	「側線のボール運び」について復習確認する。（30分）	30分
4	/	Basketボールの基本戦術1	「側線のボール運び」とパス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得1	
		事前学修	「側線のボール運び」について動き方を確認する。（30分）	30分
		事後学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションの復習確認をする。（30分）	30分
5	/	Basketボールの基本戦術2	「側線のボール運び」をゲームで行うための対応を学ぶ。パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得2	
		事前学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを確認をする。（30分）	30分
		事後学修	戦術学習にとって、対応することの重要性を確認する。（30分）	30分
6	/	Basketボールの基本戦術3	「スクエアカットからの五人のボール運び」を習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得3	
		事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の予習する。（30分）	30分
		事後学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の復習確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	バスケットボールの応用戦術1	「スクエアカットからの五人のボール運び」のバリエーションを習得する。戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得1	
		事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の確認する。（30分）	30分
		事後学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを復習する。（30分）	30分
8	/	バスケットボールの応用戦術2	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にドリブルについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得2	
		事前学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを確認する。（30分）	30分
		事後学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）	30分
9	/	バスケットボールの個人技1	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にレイアップ・シュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認1	
		事前学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）	30分
		事後学修	レイアップ・シュートについて復習確認する。（30分）	30分
10	/	バスケットボールの個人技2	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドセットシュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認2	
		事前学修	レイアップ・シュートについて復習確認する（30分）	30分
		事後学修	ワンハンドセットシュートについて復習確認する。（30分）	30分
11	/	バスケットボールの個人技3	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドの3ポイントシュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認3	
		事前学修	ワンハンドセットシュートについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて復習確認する。（30分）	30分
12	/	バスケットボールの個人技4	部分戦術を習得する。特に、2対2のパス&ランの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認4	
		事前学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	2対2のパス&ランについて復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	バスケットボールの部分戦術1	部分戦術を習得する。特に、ピック&ロールの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得1	
		事前学修	2対2のパス&ランの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	ピック&ロールの復習確認をする。(30分)	30分
14	/	バスケットボールの部分戦術2	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得2	
		事前学修	ピック&ロールの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	3対3のポストパターンの復習確認する。(30分)	30分
15	/	バスケットボールの部分戦術3	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得3	
		事前学修	3対3のポストパターンの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングについて復習確認する。(30分)	30分
16	/	バスケットボールの部分戦術4	部分戦術を習得する。特に、ヘルプサイドからの飛び込み(ボールサイドカット)についての基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得4	
		事前学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	ヘルプサイドからの飛び込み(ボールサイドカット)について復習確認する。(30分)	30分
17	/	バスケットボールの部分戦術5	ハーフコートオフenseにとってのエントリーの大切さについて学ぶ。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得5	
		事前学修	ヘルプサイドからの飛び込み(ボールサイドカット)の確認をする。(30分)	30分
		事後学修	ヘルプサイドの飛び込みのタイミングを復習確認する。	30分
18	/	バスケットボールの部分戦術6	バスケットボールのマンツーマンディフェンスの基本を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	攻撃を円滑にするためのエントリーについての理解	
		事前学修	ハーフコートオフenseにとってのエントリーの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	エントリーの重要性の復習確認をする。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	バスケットボールのディフェンス1	バスケットボールのゾーンディフェンスの形式を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	バスケットボールの基本的なディフェンスの習得	
		事前学修	マンツーマンディフェンスの確認をする。（30分）	30分
		事後学修	ゾーンディフェンスの形式について復習確認する。（30分）	30分
20	/	バスケットボールのディフェンス2	バスケットボールのゾーンディフェンスの考え方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得1	
		事前学修	ゾーンディフェンスの形式について確認する。（30分）	30分
		事後学修	ゾーンディフェンスの考え方の復習確認をする。（30分）	30分
21	/	バスケットボールのディフェンス3	バスケットボールのゾーンディフェンスを特徴づけるために、マンツーマンディフェンスの違いを明確にすることを習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得2	
		事前学修	ゾーンディフェンスの考え方の確認をする。（30分）	30分
		事後学修	マンツーマンディフェンスとの違いについて復習確認する。（30分）	30分
22	/	バスケットボールのディフェンス4	ファーストブレイクの守り方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	速攻のディフェンスについての知識を理解する	
		事前学修	ゲーム全体の流れの知識を確認（30分）	30分
		事後学修	ファーストブレイクの守り方の復習確認をする。（30分）	30分
23	/	バスケットボールのディフェンス5	オールコートディフェンスの狙いと考え方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	オールコートで、効率的にディフェンスをするための知識の理解	
		事前学修	オールコートディフェンスのについての知識の確認	30分
		事後学修	オールコートのディフェンスについて復習確認する。（30分）	30分
24	/	バスケットボールのゲームコントロール1	バスケットボールのゲームについての考え方、特に攻撃回数についての考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る1	
		事前学修	オールコートのディフェンスについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	攻撃回数についての考え方を復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	バスケットボールのゲームコントロール2	バスケットボールのゲームについての考え方、特に接戦でのゲームの終わり方について（勝ち逃げ）の考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る2	
		事前学修	攻撃回数についての考え方を確認する。（30分）	30分
		事後学修	ゲームの終わり方について復習確認する。（30分）	30分
26	/	ゲームの中で復讐1	これまで学習してきた知識と習得してきた技能・戦術を確認し、各班ごとに目標を定め、リーグ戦1を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する1	
		事前学修	リーグ戦を行うための班の方針を考える。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
27	/	ゲームの中で復讐2	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦2を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する2	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
28	/	ゲームの中で復讐3	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦3を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する3	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
29	/	ゲームの中で復讐4	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦4を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する4	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
30	/	ゲームの中で復讐5	まとめ・講評	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する5	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	生涯学習として、バスケットボールに取り組むための指針を考える。（30分）	30分

科目名	体育スポーツ実習C(バスケットボール)	担当者	松本 真	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
バスケットボールが好きである。また、パスゲームでバスケットボールを理解したいと考える者。

【授業方法】
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続または後期2時限連続で実施する授業である。基本ドリル（個人技、チーム戦術）を行う。その後に、ゲームをして、特に戦術的な実践を試みる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業（木曜1限）終了後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ガイダンス バasketボールとは。	履修受付・オリエンテーション授業。	
		この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認 1	
		事前学修	オリエンテーションで示された授業内容の確認。 (30分)	30分
		事後学修	高校までに習得したゴール型球技に対する知識を確認する。 (30分)	30分
2	/	Basketボールの試しのゲーム	班分けと試しのゲーム。	
		この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認2	
		事前学修	高校までに習得したBasketボールに対する知識を確認する。 (30分)	30分
		事後学修	班員の確認。自分の身体の状態を確認する。 (30分)	30分
3	/	Basketボールの基本戦術	全体戦術である「側線のボール運び」を行い、試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認3	
		事前学修	Basketボールのルールを確認する。 (30分)	30分
		事後学修	「側線のボール運び」について復習確認する。 (30分)	30分
4	/	Basketボールの基本戦術1	「側線のボール運び」とパス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得1	
		事前学修	「側線のボール運び」について動き方を確認する。 (30分)	30分
		事後学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションの復習確認をする。 (30分)	30分
5	/	Basketボールの基本戦術2	「側線のボール運び」をゲームで行うための対応を学ぶ。パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得2	
		事前学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを確認をする。 (30分)	30分
		事後学修	戦術学習にとって、対応することの重要性を確認する。 (30分)	30分
6	/	Basketボールの基本戦術3	「スクエアカットからの五人のボール運び」を習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得3	
		事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の予習する。 (30分)	30分
		事後学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の復習確認する (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	バスケットボールの応用戦術1	「スクエアカットからの五人のボール運び」のバリエーションを習得する。戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得1	
		事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の確認する。（30分）	30分
		事後学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを復習する。（30分）	30分
8	/	バスケットボールの応用戦術2	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にドリブルについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得2	
		事前学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを確認する。（30分）	30分
		事後学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）	30分
9	/	バスケットボールの個人技1	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にレイアップ・シュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認1	
		事前学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）	30分
		事後学修	レイアップ・シュートについて復習確認する。（30分）	30分
10	/	バスケットボールの個人技2	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドセットシュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認2	
		事前学修	レイアップ・シュートについて復習確認する（30分）	30分
		事後学修	ワンハンドセットシュートについて復習確認する。（30分）	30分
11	/	バスケットボールの個人技3	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドの3ポイントシュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認3	
		事前学修	ワンハンドセットシュートについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて復習確認する。（30分）	30分
12	/	バスケットボールの個人技4	部分戦術を習得する。特に、2対2のパス&ランの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認4	
		事前学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	2対2のパス&ランについて復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	バスケットボールの部分戦術1	部分戦術を習得する。特に、ピック&ロールの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得1	
		事前学修	2対2のパス&ランの確認をする。（30分）	30分
		事後学修	ピック&ロールの復習確認をする。（30分）	30分
14	/	バスケットボールの部分戦術2	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得2	
		事前学修	ピック&ロールの確認をする。（30分）	30分
		事後学修	3対3のポストパターンの復習確認する。（30分）	30分
15	/	バスケットボールの部分戦術3	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得3	
		事前学修	3対3のポストパターンの確認をする。（30分）	30分
		事後学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングについて復習確認する。（30分）	30分
16	/	バスケットボールの部分戦術4	部分戦術を習得する。特に、ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）についての基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得4	
		事前学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの確認をする。（30分）	30分
		事後学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）について復習確認する。（30分）	30分
17	/	バスケットボールの部分戦術5	ハーフコートオフenseにとってのエントリーの大切さについて学ぶ。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得5	
		事前学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）の確認をする。（30分）	30分
		事後学修	ヘルプサイドの飛び込みのタイミングを復習確認する。	30分
18	/	バスケットボールの部分戦術6	バスケットボールのマンツーマンディフェンスの基本を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	攻撃を円滑にするためのエントリーについての理解	
		事前学修	ハーフコートオフenseにとってのエントリーの確認をする。（30分）	30分
		事後学修	エントリーの重要性の復習確認をする。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	バスケットボールのディフェンス1	バスケットボールのゾーンディフェンスの形式を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	バスケットボールの基本的なディフェンスの習得	
		事前学修	マンツーマンディフェンスの確認をする。（30分）	30分
		事後学修	ゾーンディフェンスの形式について復習確認する。（30分）	30分
20	/	バスケットボールのディフェンス2	バスケットボールのゾーンディフェンスの考え方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得1	
		事前学修	ゾーンディフェンスの形式について確認する。（30分）	30分
		事後学修	ゾーンディフェンスの考え方の復習確認をする。（30分）	30分
21	/	バスケットボールのディフェンス3	バスケットボールのゾーンディフェンスを特徴づけるために、マンツーマンディフェンスの違いを明確にすることを習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得2	
		事前学修	ゾーンディフェンスの考え方の確認をする。（30分）	30分
		事後学修	マンツーマンディフェンスとの違いについて復習確認する。（30分）	30分
22	/	バスケットボールのディフェンス4	ファーストブレイクの守り方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	速攻のディフェンスについての知識を理解する	
		事前学修	ゲーム全体の流れの知識を確認（30分）	30分
		事後学修	ファーストブレイクの守り方の復習確認をする。（30分）	30分
23	/	バスケットボールのディフェンス5	オールコートディフェンスの狙いと考え方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	オールコートで、効率的にディフェンスをするための知識の理解	
		事前学修	オールコートディフェンスのについての知識の確認	30分
		事後学修	オールコートのディフェンスについて復習確認する。（30分）	30分
24	/	バスケットボールのゲームコントロール1	バスケットボールのゲームについての考え方、特に攻撃回数についての考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る1	
		事前学修	オールコートのディフェンスについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	攻撃回数についての考え方を復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	バスケットボールのゲームコントロール2	バスケットボールのゲームについての考え方、特に接戦でのゲームの終わり方について（勝ち逃げ）の考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る2	
		事前学修	攻撃回数についての考え方を確認する。（30分）	30分
		事後学修	ゲームの終わり方について復習確認する。（30分）	30分
26	/	ゲームの中で復讐1	これまで学習してきた知識と習得してきた技能・戦術を確認し、各班ごとに目標を定め、リーグ戦1を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する1	
		事前学修	リーグ戦を行うための班の方針を考える。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
27	/	ゲームの中で復讐2	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦2を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する2	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
28	/	ゲームの中で復讐3	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦3を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する3	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
29	/	ゲームの中で復讐4	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦4を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する4	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
30	/	ゲームの中で復讐5	まとめ・講評	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する5	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	生涯学習として、バスケットボールに取り組むための指針を考える。（30分）	30分

科目名	体育スポーツ実習C(ゴルフ)	担当者	水落 文夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
ゴルフ初心者・初級者を対象とする。ゴルフ（運動）に相応しい服装，およびゴルフ手袋と屋外シューズを準備する。適宜に補給用の水分，汗拭き用のタオルを準備する。

【授業方法】		
大宮キャンパスのスポーツ施設で2時限連続の実技形式により行う。授業では、ゴルフボールやバードゴルフを用いた基本的な技術を習得するための反復練習とラウンドが中心である。雨天時も体育館のネットで同様の内容を行う。ゴルフの歴史、クラブ各部分とコース各所の名称、ルールとマナー、スタンス、グリップ、スイングなどに関する基本技術、安全管理などについて解説した資料集を配布し、その理解度を評価するために授業内で数回の小テスト（筆記試験）を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4回以降のゴルフスキル向上のための実技練習に関連して、アドレスやスイングにみられる自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理するという課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたグループディスカッションを行って、達成すべき個々の目標を明確にする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題達成に関するフィードバックは、授業内で行う筆記試験とその評価・解説，および実技試験によるパフォーマンス評価により実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（資料集を配布する）				

【オフィスアワー】
水曜日17：00～17：30，授業施設にて メールアドレス：mizuochi.fumio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	授業ガイダンス及び導入講義	半期授業の組み立て、授業方法、履修条件などについて理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、授業のテーマやスケジュール、評価される要素、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業から適正な準備と受講ができる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。	30分
		事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	30分
2	第一部水 4/8	ゴルフの運動特性と危険性	ゴルフの運動特性と期待される恩恵および授業における安全管理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ゴルフを継続的に行うことで得られる恩恵とゴルフによる健康行動の利点について理解する。また、ゴルフ実施に伴う危険性について熟知して障害発生を予防できる。	
		事前学修	ゴルフおよびパードゴルフにおける基本的な技術の名称を確認する。	30分
		事後学修	ゴルフの運動特性と健康スポーツとしてのゴルフの位置づけについて理解を深める。	30分
3	第一部水 4/15	ゴルフ授業の要点と授業運営	ゴルフおよびパードゴルフの実技授業を安全に行うための約束と授業運営への協力を理解する。クラブとゴルフボールを使ったゲーム、クラブの種類と名称、グリップとスイングに関する基本的な名称について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゴルフの歴史、ゴルフを行うときの基本的な名称とゴルフ種目の多様性を理解し、授業運営への協力を自覚できる。	
		事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。	30分
		事後学修	ゴルフで使うクラブの種類と名称、およびボールの特性について認識する。	30分
4	第一部水 4/15	ショートアイアンの打撃練習(1)	ゴルフクラブの特性、基本的なスタンスとボールの位置、グリップのつくり方、素振りによるハーフスイングについて調整する。軽いボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、アイアンクラブの特性を知り、基本的なスタンスとグリップを調整できる。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て、ゴルフクラブの特性とスイングの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
5	第一部水 4/22	ショートアイアンの打撃練習(2)	基本的なスタンスとボールの位置、グリップのつくり方に注目して、軽いボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。また、注視点と頭の位置、テイクバック中の両腕の形状とクラブの角度、スイング中の重心移動について調整する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、スタンスとグリップの調整を行い、続く注視点や頭の位置、両腕の形状、重心移動などのスイングに関係する主要な調整ポイントを意識できる。	
		事前学修	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
6	第一部水 4/22	ショートアイアンの打撃練習(3)	軽いボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。テイクバックの大きさと飛距離の関係、スイング中の重心移動と上半身の回転運動、クラブスイングの軌道について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テイクバックの大きさとボール飛距離の関係性を理解するとともに、それに関係する重心移動や回転運動という大きな運動の調整の必要性を理解する。	
		事前学修	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 4/29	ショートアイアンの打撃練習(4)	バードゴルフボールを使ったハーフスイングとフルスイングによる打撃（体育館で行う）練習を行う。動画によるスイングのワンポイントフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、バードゴルフを利用して、振り幅の大きいフルスイングの動作調整を体験する。その際に、動画によるフィードバック情報が運動学習を促進することを学修する。	
		事前学修	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
8	第一部水 4/29	ショートアイアンの打撃練習(5)	バードゴルフボールを使ったアプローチショット（体育館で行う）を練習する。テイクバックの大きさによる飛距離の調整を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、バードゴルフを利用して、テイクバック（振り幅）の大きさと飛距離の関係を身体知として理解する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
9	第一部水 5/6	ショートアイアンの打撃練習(6)	バードゴルフボールを使ったアプローチショット（体育館で行う）を練習する。的入れゲームによるテストを行う。受講者同士のピアサポートによりスタンス、グリップ、スイングのチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、バードゴルフを利用したゲームとピアサポートにより、テイクバック（振り幅）の大きさによるボールの飛距離調整を精緻化する。また、動作調整の改善点を自ら説明することができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
10	第一部水 5/6	ショートアイアンの打撃練習(7)	バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショット（体育館で行う）を練習する。スタンス、グリップ、スイングの調整ポイントとクラブの名称に関する小テストを行う。自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、それぞれの改善点に対応させて独自のイメージによる練習を行う。また、その際に正しい名称と調整ポイントで説明ができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。クラブ各部分の名称と動作調整のポイントについて理解する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。省察・整理した内容に基づき達成すべき個々の目標を選択する。	30分
11	第一部水 5/13	様々なアイアンによる打撃練習(1)	ミドルアイアンを加えて、バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショット（グラウンドで行う）を練習する。先週の省察に基づいたグループディスカッションを行い、達成すべき個々の目標を明確にする。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、運動学習が進み、固定化してきたショートアイアンのスイングスキルをミドルアイアンを加えることで、スイング調整の幅を広げることができる。すなわち、クラブスイングスキルのスキーマを形成する。スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にする。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。	30分
12	第一部水 5/13	様々なアイアンによる打撃練習(2) ゴルフのルールとマナー	バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショット（グラウンドで行う）を練習する。ゴルフの基本的なルールとマナーについて学び、ゴルフの発生・成立の経緯との関係について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スイングクロックによる振り幅調整を身につ行ける。また、ゴルフの主要なマナーとルールを理解する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。配布資料をもとに、ゴルフの歴史、基本的なルールとマナー、安全管理を確認する。	30分
		事後学修	ゴルフの発生・成立の経緯とルールの関係、およびゴルフ競技の普及について調査する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 5/20	様々なアイアンによる打撃練習(3) ゴルフのルールとマナー	ゴルフボールを使ったアプローチショット（グラウンドで行う）を練習する。 ゴルフの歴史，ルールとマナー，安全管理に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して，実際のゴルフボールを使って，屋外でのアプローチショットを行い，ボール軌道を上げて距離調整を行うことができる。また，ゴルフの本コースデビューを見据えて，クラブハウスとプレーにおけるルールとマナーを身につける。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
14	第一部水 5/20	様々なアイアンによる打撃練習(4)	ゴルフボールを使ったアプローチショット（グラウンドで行う）を練習する。動画によるスイングのワンポイントフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して，実践的なアプローチショットを身につける。そのために動画によるフィードバックを活用する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
15	第一部水 5/27	バードゴルフラウンド練習(1)	ゴルフラウンドにおける基本的なルール，マナー，スコアを実践する。グラウンドにバードゴルフ4ホールを設定してラウンド練習をする。ゴルフスキルの向上とプレーの楽しさを実感する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して，実際のゴルフラウンドをスムーズに安全に行うために協力することができる。そして，スコアを記録しながら，多様な人にとって適正なゴルフプレーは楽しいこと，心理的な恩恵があることを理解する。	
		事前学修	配布資料を見て，コースラウンドの方法と安全管理を確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
16	第一部水 5/27	バードゴルフラウンド練習(2)	バードゴルフ4ホールのラウンド練習をする。ホールのまわり方とコース戦略を設定する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，コースをまわる際の安全管理とルール・マナーを体現する。簡単なコース戦略を考えてみる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。指摘されたマナーを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
17	第一部水 6/3	パッティング バードゴルフラウンド練習(3)	体育館の人工芝上でパッティングのスタンスとスイングを練習する。さらにバードゴルフ4ホールのラウンド練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，パッティングのスタンスとスイングの基礎を習得する。3名あるいは4名でラウンドする際の協力と支援の重要性を理解する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックしたスイング，マナーの修正ポイントを確認する。	30分
18	第一部水 6/3	パッティング バードゴルフラウンド練習(4)	体育館の人工芝上でパッティングのスタンスとスイングを練習し，パッティングゲーム（3名同時パッティング，5名連続パッティングなど）を試みる。さらにバードゴルフ4ホールのラウンド練習を行い，スコアの記録と確認の方法を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，パッティングによるボールの軌道と距離調整を精緻化する。また，ラウンドにおけるマナーとスコア記録の方法を身につける。	
		事前学修	ゴルフ競技会の方法と運営について，配布資料をもとに理解する。	30分
		事後学修	スコアから読み取れる技術獲得度と修正ポイントを認識する。 アプローチショットの問題点を把握する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部水 6/10	スイング動作のチェック 第1回ゴルフトーナメント (前半)	ショートアイアンのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでバードゴルフ4ホール+実際のゴルフボールを使用した5ホール（パッティングあり）、合計9ホールのうちの前半4ホールを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スイングの動作調整を高める。さらにラウンドによりゴルフゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
20	第一部水 6/10	第1回ゴルフトーナメント (後半)	グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、ストロークプレーによるスコアを記録する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。	30分
21	第一部水 6/17	スイング動作のチェック 第2回ゴルフトーナメント (前半)	ミドルアイアンのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでの前半4ホールを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スイングの動作調整を高める。さらにラウンドによりゴルフゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
22	第一部水 6/17	第2回ゴルフトーナメント (後半)	グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、ストロークプレーによるスコアを記録する。自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。省察・整理に基づいた達成すべき個々の目標をあげておく。	30分
23	第一部水 6/24	スイング動作のチェック 第3回ゴルフトーナメント (前半)	ドライバースイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでの前半4ホールを行う。前回の省察に基づいたグループディスカッションを行い、達成すべき個々の目標をピックアップする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スイングの動作調整を高める。特にスタンスにおけるボールの距離調整、スイングプレーンの角度調整を理解する。さらにラウンドによりゴルフゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を修正して絞り込む。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
24	第一部水 6/24	第3回ゴルフトーナメント (後半)	グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、ストロークプレーによるスコアを記録する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。スポーツにおけるハンディキャップの意義を理解する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部水 7/1	スイング動作のチェック 第4回ゴルフトーナメント (前半)	ドライバーのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでの前半4ホールを行う。なお、前回授業のスコアを参考にハンディキャップを設定して、ハンディキャップ方式による9ホールストロークプレーとなる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、長いウッドのスイングをスキルアップさせる。さらにラウンドにより様々なゴルフゲームの仕方を学び、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
26	第一部水 7/1	第4回ゴルフトーナメント (後半)	グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、様々なゴルフゲームを楽しむ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを楽しみ、ゴルフの継続的な実施によって期待される心身への恩恵と健康行動に対する価値を実感する。	
		事前学修	配布資料を確認し、前回の授業でチェックされたポイントについて自分の課題を推測する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
27	第一部水 7/8	パッティング動作のチェック 第5回ゴルフトーナメント (前半)	パッティングのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでの前半4ホールを行う。なお、設定されたハンディキャップにしたがい、団体戦による9ホールマッチプレーを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、パッティングのスイングをスキルアップさせる。さらにラウンドにより様々なゴルフゲームの仕方を学び、自らのゴルフスキルの向上を実感する。	
		事前学修	ゴルフ競技には様々な形態があることを確認する。	30分
		事後学修	アプローチショットのチェックポイントのうち苦手な部分を確認して修正ポイントをイメージする。公式戦を通じて使った戦略的な技術を確認する。	30分
28	第一部水 7/8	第5回ゴルフトーナメント (後半)	グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、様々なゴルフゲームを楽しむ。また、スイング動作に関する自らのチェックポイントを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを再考し、自らの学びと取り組みを振り返り、それにより達成したものを整理する。	
		事前学修	ゴルフゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	30分
		事後学修	ゴルフゲームの様々な楽しみ方を再考する。	30分
29	第一部水 7/15	技術面の振り返り	ショートアイアンによるアプローチショットの的入れと高いボール軌道を課題とするパフォーマンス測定、ロングアイアンあるいはドライバーによる真っすぐで低い弾道を課題とするパフォーマンス測定を行う。自らのチェック項目を中心とした改善の達成度と残った改善点を記述する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、様々なクラブの機能に対応した正確なボール軌道を可能とするスキル向上の達成度を自ら評価できる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。自らの技術的なスキルアップを主観的に評価する。	30分
		事後学修	ゴルフゲームの様々な楽しみ方を確認する。	30分
30	第一部水 7/15	社会心理的側面の振り返り	授業の第3回～第29回を振り返り、ゴルフのルールとマナーに関する理解度を確認する。さらに継続的にゴルフを行うことによる心身への恩恵、健康行動への影響、社会的スキルへの影響を推測する。またゴルフを行うことによる悪影響を示唆する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、ゴルフ運動の身体面への影響に限らず、ゴルフを行うことによる社会的側面、心理的側面に関する影響を推測することができる。	
		事前学修	ゴルフの試合におけるルールとマナーについて、配布した資料をもとに確認する。	30分
		事後学修	ゴルフの健康スポーツとしての可能性とスポーツ活動によって得られる恩恵を再考する。	30分

科目名	体育スポーツ実習C(テニス初級)	担当者	水落 文夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
テニス初心者・初級者を対象とする。テニス（運動）に相応しい服装とテニスシューズで受講する。適宜に補給用の水分、汗拭き用のタオルを準備する。

【授業方法】		
大宮キャンパスのスポーツ施設で2時限連続の実技形式により行う。授業ではテニスの基本的な技術・戦術を習得するための反復練習とゲーム実践・運営が中心である。雨天時も体育館のコートで同様の内容を行う。テニスの歴史、ラケット各部分とコート各所の名称、ルールとマナー、グリップ、構え、ショットなどに関する基本技術、安全管理などについて解説した資料集を配布し、その理解度を評価するために授業内で数回の小テスト（筆記試験）を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4回以降のテニススキル向上のための実技練習に関連して、構えやショットにみられる自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理するという課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたグループディスカッションを行って、達成すべき個々の目標を明確にする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題達成に関するフィードバックは、授業内で行う筆記試験とその評価・解説，および実技試験によるパフォーマンス評価により実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（資料集を配布する）				

【オフィスアワー】
水曜日17:00～17:30 授業施設にて メールアドレス：mizuochi.fumio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	授業ガイダンス及び導入講義	半期授業の組み立て、授業方法、履修条件などについて理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、授業のテーマやスケジュール、評価される要素、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業から適正な準備と受講ができるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。大宮校舎までの交通手段と時間、および準備することについて準備する。シラバスの内容を確認する。	30分
		事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	30分
2	第一部 水9/16	テニスの運動特性と危険性	テニスの運動特性と期待される恩恵および授業における安全管理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、テニスを継続的に行うことで得られる恩恵とテニスによる健康行動の利点について理解する。また、テニス実施に伴う危険性について熟知して障害発生を予防できる。	
		事前学修	テニスにおける基本的な技術の名称を確認する。	30分
		事後学修	テニスの運動特性と健康スポーツとしてのテニスの位置づけについて理解を深める。	30分
3	第一部 水9/23	テニス授業の要点と授業運営	テニスの歴史および実技授業を安全に行うための約束と授業運営への協力を理解する。ラケット各部分とコート各所の名称を知り、ラケットとボールを使った遊び、キャッチボールなどを通じてグリップとラケット操作に慣れる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、テニスの歴史（成立）、テニスラケットとコートにおける主要な各部の名称とテニス種目の多様性を理解し、授業運営への協力を自覚できる。	
		事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。	30分
		事後学修	テニスで使うラケットやボールの特性について認識する。	30分
4	第一部 水9/23	フォアハンドストロークの習得(1)	ラケットとボールの特性を理解し、ボールを使った遊びからキャッチボール、ワンバウンドのラリー、およびフォアハンドのグリップによるスイングを練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ラケットとボールの特性を知り、基本的な構えとグリップをフォアハンドストロークに合わせて調整できる。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て、フォアハンドのスイングの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
5	第一部 水9/30	フォアハンドストロークの習得(2)	ワンバウンドのボールのキャッチ。飛来してワンバウンドするボールの見え方とフォアハンドストロークの構えおよび打点の調整について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、構えとグリップの調整を行い、続く注視点や上半身の回転、テイクバックでの腕の位置、重心移動など、フォアハンドストロークに関係する主要な調整ポイントを意識できる。	
		事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
6	第一部 水9/30	フォアハンドストロークの習得(3)	ストロークの準備（ステップ：左右・前後の動き、構え、バウンドとボール軌跡と打点の予測）、基本的なストロークフォームを意識し、ボール軌道の知覚と予測の重要性、および初心者課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、早いテイクバックとそれに対応したステップ、ボール軌道の予測と前後の移動による打点の調整について試行錯誤し、それに関係する重心移動や回転運動という大きな運動の調整の必要性を理解する。	
		事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/7	フォアハンドストロークの習得(4)	サービスコートのストロークラリーを行う。その際に、動画によるストロークのワンポイントフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、狭いサービスコートを利用して、コンパクトなフォアハンドストロークの動作調整を体験する。その際に、動画によるフィードバック情報が運動学習を促進することを理解する。	
		事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
8	第一部 水10/7	フォアハンドストロークの習得(5)	サービスコートのストロークによるシングルスゲームを行う。フォアハンドストロークの修正ポイントを自己チェックして、チェックシートに整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、ショートラリーを利用することで、早いテイクバックや予測的な前後移動と正確なストロークの関係性を身体知として認識する。	
		事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
9	第一部 水10/14	フォアハンドストロークの習得(6) ダブルスゲームの実践	サービスコートのストロークラリー20回以上をパフォーマンス目標とする。 ダブルスゲームのルールとゲームの審判法を学び、サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。 受講者同士のピアサポートによりフォアハンドストロークのチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、ゲームとピアサポートにより、早いテイクバックと上半身の回転を意識するストロークと安定したショットの関係を精緻化する。動作調整の改善点を自ら説明することができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 配布資料をもとに、テニスのダブルスゲームのルールを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
10	第一部 水10/14	バックハンドストロークの習得(1)	バックハンドストロークのダブルハンドグリップ、構え、打点を理解し、基本的なスイングの準備（ステップ：左右の動き、スタンス、構え、打点の予測）を実践する。基本的なスイングフォームについて、フォアハンドとの違いを認識する。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。 自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、それぞれの改善点に対応させて独自のイメージによる練習を行う。また、その際に正しい名称を用いて調整ポイントを説明ができる。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て、バックハンドのスイングの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームのマナーと審判法を確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 省察・整理した内容に基づき達成すべき個々の目標を選択する。	30分
11	第一部 水10/21	バックハンドストロークの習得(2)	サービスコートのストロークラリーにおいて動画によるストローク動作のワンポイントフィードバックを行う。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。 先週の省察に基づいたグループディスカッションを行い、達成すべき個々の目標を明確にする。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、運動学習が進み、固定化してきたフォアハンドにバックハンドを加えることで、ストローク動作の各調整の幅を広げることができる。すなわち、グランドストロークスキルのスキーマを形成する。 ストローク動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にする。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 テニスのダブルスゲームのコートカバーについて確認する。	30分
		事後学修	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。	30分
12	第一部 水10/21	バックハンドストロークの習得(3) テニスのルールとマナー	サービスコートのストロークラリーを行いながら、バックハンドストロークの修正ポイントをチェックする。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。 資料冊子に基づきテニスの基本的なルールとマナーを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バックハンドストロークのステップ、テイクバック、上半身の回転、打点などの準備動作の調整を身につける。また、テニスの主要なルールとマナーを理解する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水10/28	バックハンドストロークの習得(4) テニスのルールとマナー	サービスコートのショートラリーから始める。ベースラインからのフォアとバックのストロークラリー10回以上をパフォーマンス目標とする。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。 テニスの歴史、ルールとマナー、安全管理に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ストロークのショートラリーでボール軌道を安定させる調整を行うことができる。また、テニスのゲーム運営を見据えてルールとマナーを身につける。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
14	第一部 水10/28 ページ	ストロークの習熟度	フォアハンドおよびバックハンドストロークのテニスレイティングテスト（ハンディキャップHCの設定基準となる）を行う。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、フォアハンドとバックハンドのストロークで、ボールを正確に相手コートの深い位置に打ち返せる。それを可能にした運動学習による調整動作の変容を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	レイティングテストで評価された技術獲得度から、自らの修正ポイントを確認する。	30分
15	第一部 水11/11	サーブの習得(1) ダブルスゲームの運営と実践	オーバーヘッドサーブの準備（グリップの握り方、構え、スイング軌道、打点）を身につける。 ラケットを担いだ小さなスイングによる打点と打球方向のコントロールを理解する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。そして、ゴルフスキルの向上とプレーの楽しさを実感する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、実際のテニスゲームをスムーズに安全に行うために協力することができる。そして、カウント、ゲーム、セットを指示しながら、ゲームをコントロールすることができ、他者に助言することができる。そして、多様な人にとって適正なテニスプレーは楽しいこと、心理的な恩恵があることを理解する。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て、サーブの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームの戦略と意図を確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
16	第一部 水11/11	サーブの習得(2)	オーバーヘッドサーブの準備（グリップ、構えとスタンス、スイング軌道）に続く大きなスイングによるフラットなボールコンタクトを実現する。クローズドスキルであるサーブの繰り返し練習による学習効果を理解する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サーブの正確性を高めるために求められる基本的な動作調整ポイントを理解する。ゲームを行う際の安全管理とルール・マナーを体現することができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
17	第一部 水11/18	サーブの習得(3)	オーバーヘッドサーブの様々なグリップと球種の違いを知る。サーブの正確性を高めるポイントについて、動画によるワンポイントフィードバックを行う。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、スムーズなサーブ動作を実現して、正確性を高めるための動作調整を自ら行うことができる。ゲームを行う際のペアによる協力と支援の重要性を理解する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
18	第一部 水11/18	サーブの習熟度	テニスレイティングテストでサーブの正確性を評価する。この評価に基づきハンディキャップ（HP）を決定する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サーブによるボール軌道の正確性をつくるスキルの精緻化を進める。また、ゲームにおけるマナー、ジャッジ、カウントの指示と助言の方法を身につける。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	レイティングテストで評価された技術獲得度から、自らの修正ポイントを確認する。 審判における基本的なコールを振り返る。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 水11/25	ボレーの習得(1)	構えとボールへの反応動作（ステップと上半身の回転），ボレーを打つ位置，フォアボレーのグリップ，打点の高さによるラケットの角度調整を理解し，基本的なグランドストロークとの違いを認識する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，ボレーの基本的な動き方と動作調整のポイントを理解する．さらにゲームを楽しみながら，仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て，ボレーの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームにおけるボレーの意義を確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
20	第一部 水11/25	ボレーの習得(2)	バックボレーのグリップ，打点の高さによるラケットの角度調整を身につける．ボレーの基本的なステップとラケット操作を実践する．練習ではボレーで相手コートの深い位置を目標とする． ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，相手コートの深い位置にボレーによりボールを打ち返すことができる．そのときに，素早い上半身の回転によるテイクバックと大きなラケットスイングを行わないことを実践できる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
21	第一部 水12/2	ボレーの習得(3)	ボレーはラリー20回以上がパフォーマンス目標となる．動画によるボレー動作のチェックを行う。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，連続してボレーを行うことで動作調整を固定化する．ボレーを行うことで攻撃の幅が広がること，陣形とポジショニングに関してペアとの協力が重要となることを理解する．そのコミュニケーションと協力を楽しむことができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認しておくこと。	30分
22	第一部 水12/2	ボレーの習熟度	テニスレイティングテストによりボレーの習熟度を評価する．これをHC決定の基準とする．グランドストロークからボレー，サーブからボレーへとつなぐ。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。 自己と他者の動作の問題点について，時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して，ゲームによりテニスを楽しみ，仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する．動作調整に，時間的，空間的，力の3要素が関係していることを理解し，自らのチェックポイントの修正法を考える。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	レイティングテストで評価された技術獲得度から，自らの修正ポイントを確認しておくこと。 省察・整理に基づいた達成すべき個々の目標をあげておく。	30分
23	第一部 水12/9	ロブとスマッシュの習得 ダブルスゲームのトーナメント	スマッシュのステップ，構え，さらに打点位置，スイングを調整する．ロブのボール軌道と狙う地点を認識する。 ダブルスゲームのトーナメント大会を運営する。 前回の省察に基づいたグループディスカッションを行い，達成すべき個々の目標をピックアップする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，ロブとスマッシュの戦略的な意味を理解し，時間的・空間的な調整を試みる．特にラケットのスイング開始時点と打点の位置の調整を試みる．ゲームを楽しみながら，仲間との協力とともにスキル向上を促進させる．動作改善のために達成すべき個々の目標を修正して絞り込む。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て，ロブとスマッシュの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームにおける戦略としてのボレーの意図を確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
24	第一部 水12/9	ドリル練習(1)	左右のグランドストローク，左右のボレーを連続して正確に行う．ダブルスゲームの基本的陣形とポジションとフォーメーションを理解する。 ダブルスゲームのトーナメント大会を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して，一つひとつの技術を連続して目標を達成することの楽しさを実感する。	
		事前学修	前回の授業で紹介されたゲームにおける代表的な技術の流れを確認する。	30分
		事後学修	ドリル練習で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 水12/16	ドリル練習(2)	左右のグランドストローク、ローボレー、ハイボレー、スマッシュと連続的に行う。ダブルスゲームのポジションと打球に対する動き、コートカバーの意義を理解する。 ダブルスゲームのトーナメント大会を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、コートカバーの仕方を実践して、テニスの戦略的な側面をスキルアップをする。さらにドリルにより困難性が様々な課題をクリアする。	
		事前学修	前回の授業で紹介されたドリル練習で用いる技術の流れをイメージする。	30分
		事後学修	ドリル練習で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
26	第一部 水12/16	ドリル練習(3)	コートカバーを中心とした打球によるポジションの変化に対応する。 ダブルスゲームのトーナメント大会を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、習得した様々な技術を、相手選手や打球の違いに合わせて選択して打ち返し、さらにポジションをペアと協調して変えることができる。自らのスキルアップを実感する。	
		事前学修	前回の授業で紹介されたドリル練習におけるポジションの変化を確認する。	30分
		事後学修	ポジショニングとコートカバーの必要性と方法を確認し、ゲームのどの場面で発揮するか考える。	30分
27	第一部 水12/23	HCによるダブルスゲームリーグ戦	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦）を運営する。様々なテニススキルレベルの人とテニスを楽しむ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、スポーツの競い方に活用されるハンディキャップ方式の意義を理解する。これにより適正な競い合いと高い動機づけを実現する。	
		事前学修	テニスゲームで行われる基本的なリーグ戦の方法を確認する。 審判におけるコールの仕方を確認する。	30分
		事後学修	ゲームで使う得意な技術と苦手な技術を確認して、苦手な技術の修正ポイントをイメージする。 ゲームで使った戦略的な技術を確認する。	30分
28	第一部 水12/23	リーグ戦による大会運営	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦）を運営する。様々なテニススキルレベルの人とテニスを楽しむ。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを再考し、自らの学びと取り組みを振り返り、それにより達成したものを整理する。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	30分
		事後学修	テニスゲームの様々な楽しみ方を自ら再考する。	30分
29	第一部 水1/13	技術面の振り返り	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦）を運営する。 フォアとバックのグランドストローク、フォアとバックのボレー、サーブを中心の一つひとつの技術の獲得を確認する。そして、自らのチェック項目を中心とした改善の達成度と残った改善点を記述する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、様々な技術に対応して正確なボールショットを可能とするスキル向上のプロセスと達成度を自ら評価できる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	30分
		事後学修	テニスゲームの様々な楽しみ方を確認する。	30分
30	第一部 水1/13	社会心理的側面の振り返り	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦）を運営する。 授業の第3回～第29回を振り返り、テニスのルールとマナーに関する理解度を確認する。さらに継続的にテニスを行うことによる心身への恩恵、健康行動への影響、社会的スキルへの影響を推測する。またテニスを行うことによる悪影響を示唆する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、テニス運動の身体面への影響に限らず、テニスを行うことによる社会的側面、心理的側面に関する影響を推測することができる。	
		事前学修	テニスの試合におけるルールとマナーについて、配布した資料をもとに確認する。	30分
		事後学修	テニスの健康スポーツとしての可能性とスポーツ活動によって得られる恩恵を再考する。	30分

V ~ VII群

専門科目

専門基幹・専門展開・専門演習関連

V
VII群
専門科目

科目名	基礎経営法学	担当者	齋藤 崇	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
本講義では、法学と経営学の基礎的な考え方について、ビジネス法コース、国際法務コース、知的財産コースの3つ分野から概説する。また、経営法学科における主要な科目に関してそれぞれの担当教員が講義することにより、学修者の興味・関心を高めることを狙いとしている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営法学科における主要な科目をビジネス法コース、国際法務コース、知的財産コースごとに学習することにより法学と経営学の基礎を理解する。また、学修者が自身の関心のある分野を選定し、2年次以降のコース選択を主体的に行うことができるようになることを目的としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オムニバス方式を用いて、毎週異なる教員が経営法学科における主要な科目について講義を行う。また、本学の卒業生を招聘し、大学生活における経験についての講話を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義中のQ&Aやリアクションペーパーを用いた教員と学修者との双方向コミュニケーションを中心に講義を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ビジネスと法に関しての基礎的な概念、考え方を理解し、説明することができる。				1	1						
②	国際法務に関しての基礎的な概念、考え方を理解し、説明することができる。				1	1						
③	知的財産に関しての基礎的な概念、考え方を理解し、説明することができる。				1	1						
④	法学と経営学との関係を理解し、社会における様々な課題について自身の考えを述べることができる。				1	1						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関連して、経営法学に関する基礎的な知識を身につけ、社会における様々な課題について、自身の考えを述べることをできるかをレポートにより評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における到達目標①②③④の理解度を、リアクションペーパーによって総合的に確認する。	15	15	15	15							60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の際に適宜担当教員によりフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない。					
備考					

【オフィスアワー】
授業内で担当教員より指示する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員により異なるため、講義の際に説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ビジネス法コース、国際法務コース、知的財産コースそれぞれの特徴を理解すること。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、それぞれのコースの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
2	4/14	卒業生による講話	経営法学科の卒業生を招聘し、学生生活における様々な経験についての講話を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、卒業生の講話を聞き、学修者が大学生活における目標を設定できるようにする。	
		事前学修	卒業生に対する質問を考え、準備しておく。	120分
		事後学修	卒業生の講話の内容をまとめ、自身の大学生活における目標を設定する。	120分
3	4/21	ビジネス法Ⅰ：ビジネスと法の関係(友岡史仁)	ビジネスと法の関係の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、ビジネスと法の関係について理解する。	
		事前学修	ビジネスに関連する法律について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ビジネスと法の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	4/28	ビジネス法Ⅱ：経営学の体系(鈴木貴大)	経営学とはどのようなものか、その体系について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、経営学の体系について理解する。	
		事前学修	経営学に関する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営学の体系について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	5/5	ビジネス法Ⅲ：マーケティング(臼井哲也)	企業と顧客の関係から、マーケティングとはどのようなものかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、マーケティングの重要性について理解する。	
		事前学修	マーケティングに関する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、マーケティングはどのようにして計画されるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	5/12	ビジネス法Ⅳ：会計学・ファイナンス(小阪敏志)	会計学・ファイナンスの概要とその重要性について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、会計学・ファイナンスの仕組みについて理解する。	
		事前学修	会計学・ファイナンスに関する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、会計学・ファイナンスの概要とその仕組みについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	国際法務Ⅰ：外国法(中村進・坂本力也)	外国法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、外国法の内容について理解する。	
		事前学修	外国法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、外国法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	5/26	国際法務Ⅱ：国際取引法・国際経済法、国際税法(中村進・坂本力也)	国際取引法・国際経済法・国際税法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、国際取引法・国際経済法・国際税法の内容について理解する。	
		事前学修	国際取引法・国際経済法・国際税法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、国際取引法・国際経済法・国際税法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	6/2	国際法務Ⅲ：国際関係法[私法系]・国際民事紛争処理法・国際仲裁(中村進・坂本力也)	国際関係法[私法系]・国際民事紛争処理法・国際仲裁の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、国際関係法[私法系]・国際民事紛争処理法・国際仲裁の内容について理解する。	
		事前学修	国際関係法[私法系]・国際民事紛争処理法・国際仲裁に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、国際関係法[私法系]・国際民事紛争処理法・国際仲裁の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	6/9	知的財産Ⅰ：特許法・実用新案法(竹内敏夫)	特許法・実用新案法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、特許法・実用新案法の内容とその成立について理解する。	
		事前学修	特許法・実用新案法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、特許法・実用新案法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	6/16	知的財産Ⅱ：意匠法(三村淳一)	意匠法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、意匠法の内容とその成立について理解する。	
		事前学修	意匠法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、意匠法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	6/23	知的財産Ⅲ：商標法・不正競争防止法(加藤暁子)	商標法・不正競争防止法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、商標法・不正競争防止法の標識保護に関する内容を中心に理解する。	
		事前学修	商標法・不正競争防止法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、商標法・不正競争防止法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	知的財産Ⅳ：著作権法(藤田晶子)	著作権法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、著作権法の内容と法制度の概要について理解する。	
		事前学修	著作権法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、著作権法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	7/7	知的財産Ⅴ：知的財産条約(加藤浩)	知的財産条約の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、知的財産条約の概要とその特徴について理解する。	
		事前学修	知的財産条約に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、知的財産条約の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	7/14	本講義のまとめ	授業内で説明した概念、考え方を振り返り、法学と経営学との関係について概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法学と経営学の関係及びその重要性について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り、自身が特に興味・関心をもった授業の内容に関してまとめておく。	180分
		事後学修	各コースごとの主要科目を自身で整理し、2年次以降のコース選択について考える。	60分

科目名	基礎経営法学	担当者	齋藤 崇	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
本講義では、法学と経営学の基礎的な考え方について、ビジネス法コース、国際法務コース、知的財産コースの3つ分野から概説する。また、経営法学科における主要な科目に関してそれぞれの担当教員が講義することにより、学修者の興味・関心を高めることを狙いとしている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営法学科における主要な科目をビジネス法コース、国際法務コース、知的財産コースごとに学習することにより法学と経営学の基礎を理解する。また、学修者が自身の関心のある分野を選定し、2年次以降のコース選択を主体的に行うことができるようになることを目的としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オムニバス方式を用いて、毎週異なる教員が経営法学科における主要な科目について講義を行う。また、本学の卒業生を招聘し、大学生活における経験についての講話を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義中のQ&Aやリアクションペーパーを用いた教員と学修者との双方向コミュニケーションを中心に講義を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ビジネスと法に関しての基礎的な概念、考え方を理解し、説明することができる。				1	1						
②	国際法務に関しての基礎的な概念、考え方を理解し、説明することができる。				1	1						
③	知的財産に関しての基礎的な概念、考え方を理解し、説明することができる。				1	1						
④	法学と経営学との関係を理解し、社会における様々な課題について自身の考えを述べることができる。				1	1						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関連して、経営法学に関する基礎的な知識を身につけ、社会における様々な課題について、自身の考えを述べることをできるかをレポートにより評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における到達目標①②③④の理解度を、リアクションペーパーによって総合的に確認する。	15	15	15	15							60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の際に適宜担当教員によりフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない。					
備考					

【オフィスアワー】
授業内で担当教員より指示する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員により異なるため、講義の際に説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ビジネス法コース、国際法務コース、知的財産コースそれぞれの特徴を理解すること。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、それぞれのコースの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
2	9/22	卒業生による講話	経営法学科の卒業生を招聘し、学生生活における様々な経験についての講話を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、卒業生の講話を聞き、学修者が大学生活における目標を設定できるようにする。	
		事前学修	卒業生に対する質問を考え、準備しておく。	120分
		事後学修	卒業生の講話の内容をまとめ、自身の大学生活における目標を設定する。	120分
3	9/29	ビジネス法Ⅰ：ビジネスと法の関係(友岡史仁)	ビジネスと法の関係の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、ビジネスと法の関係について理解する。	
		事前学修	ビジネスに関連する法律について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ビジネスと法の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	10/6	ビジネス法Ⅱ：経営学の体系(若林広二)	経営学とはどのようなものか、その体系について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、経営学の体系について理解する。	
		事前学修	経営学に関する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営学の体系について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	10/13	ビジネス法Ⅲ：マーケティング(臼井哲也)	企業と顧客の関係から、マーケティングとはどのようなものかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、マーケティングの重要性について理解する。	
		事前学修	マーケティングに関する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、マーケティングはどのようにして計画されるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	10/20	ビジネス法Ⅳ：会計学・ファイナンス(池田直史)	会計学・ファイナンスの概要とその重要性について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、会計学・ファイナンスの仕組みについて理解する。	
		事前学修	会計学・ファイナンスに関する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、会計学・ファイナンスの概要とその仕組みについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	国際法務Ⅰ：外国法(中村進・坂本力也)	外国法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、外国法の内容について理解する。	
		事前学修	外国法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、外国法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	11/10	国際法務Ⅱ：国際取引法・国際経済法、国際税法(中村進・坂本力也)	国際取引法・国際経済法・国際税法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、国際取引法・国際経済法・国際税法の内容について理解する。	
		事前学修	国際取引法・国際経済法・国際税法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、国際取引法・国際経済法・国際税法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	11/17	国際法務Ⅲ：国際関係法[私法系]・国際民事紛争処理法・国際仲裁(中村進・坂本力也)	国際関係法[私法系]・国際民事紛争処理法・国際仲裁の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、国際関係法[私法系]・国際民事紛争処理法・国際仲裁の内容について理解する。	
		事前学修	国際関係法[私法系]・国際民事紛争処理法・国際仲裁に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、国際関係法[私法系]・国際民事紛争処理法・国際仲裁の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11/24	知的財産Ⅰ：特許法・実用新案法(竹内敏夫)	特許法・実用新案法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、特許法・実用新案法の内容とその成立について理解する。	
		事前学修	特許法・実用新案法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、特許法・実用新案法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	12/1	知的財産Ⅱ：意匠法(三村淳一)	意匠法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、意匠法の内容とその成立について理解する。	
		事前学修	意匠法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、意匠法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	12/8	知的財産Ⅲ：商標法・不正競争防止法(加藤暁子)	商標法・不正競争防止法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、商標法・不正競争防止法の標識保護に関する内容を中心に理解する。	
		事前学修	商標法・不正競争防止法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、商標法・不正競争防止法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	知的財産Ⅳ：著作権法(藤田晶子)	著作権法の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、著作権法の内容と法制度の概要について理解する。	
		事前学修	著作権法に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、著作権法の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12/22	知的財産Ⅴ：知的財産条約(加藤浩)	知的財産条約の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、知的財産条約の概要とその特徴について理解する。	
		事前学修	知的財産条約に関連する用語について、自身で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、知的財産条約の目的について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1/12	本講義のまとめ	授業内で説明した概念、考え方を振り返り、法学と経営学との関係について概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法学と経営学の関係及びその重要性について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り、自身が特に興味・関心をもった授業の内容に関してまとめておく。	180分
		事後学修	各コースごとの主要科目を自身で整理し、2年次以降のコース選択について考える。	60分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。					2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。					2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。							2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 行政学第2版	外山 公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
行政学	西尾 勝	有斐閣	2001	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政学を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス、国民生活と行政	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、国民生活と行政の密接な関係について、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するするとともに、教科書の目次を見て、市民生活と行政活動について調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政活動について理解を深めること。	120分
2	4/15	行政サービスの範囲拡大	歴史的側面から行政活動を検討し、行政サービスの範囲拡大要因を考察する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の歴史的変遷について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、歴史的側面から、行政活動の範囲を検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、特に社会背景と行政の役割について理解を深めること。	180分
3	4/22	福祉国家の成立と課題	行政活動の拡大と共に変化した国家の役割、特に福祉国家の成立と課題を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の拡大要因について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公行政の特質について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、国家の役割変化と行政活動の変化について理解を深めること。	180分
4	4/29	行政と国民	行政国家の特質を見つつ、行政と国民の関係、ならびに行政の役割と課題について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政国家の特質について、立法国家と対比して説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代行政が国民のために存在する意義を検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、立法国家と行政国家の違いの理解を深めること。	180分
5	5/6	アメリカ行政学の歴史的展開	現代行政学の基礎となる、アメリカ行政学の発展について歴史的に学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、アメリカ行政学の歴史的展開について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代国家に必要な不可欠な体制を整えるために発展した、アメリカ行政学について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、アメリカ行政学の発達以前と比較して理解を深めること。	180分
6	5/13	アメリカ行政学と行政理論	社会背景変化の中で、求められてきた行政活動と行政理論の変化を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政理論の変化要因と、行政理論について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、社会背景の違いを見つけ出し、行政活動の違いと現代行政学の基礎を検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政理論の変化と社会背景を照らし合わせて理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	行政学の構成	日本の行政学の成り立ちと、研究動向をみつつ行政学の構成を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本における行政学の発展と、そのパラダイム等について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、日本の行政学の歴史的発展とその構成について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政学の変遷の理解を深めること。	180分
8	5/27	現代国家の政府体系	中央政府・地方政府関係から概観し、現代国家の政府体系と行政について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の中央政府・地方政府関係に照らし合わせて、政府体系を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政活動を枠づける、政府体系と政府形態について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政府間関係と行政について理解を深めること。	180分
9	6/3	現代国家の政府体系の課題	行政サービスの拡大を題材に、その量的・質的变化をみつつ現代国家の政府体系の課題を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、公共の担い手の変化について、その必要性と課題について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、セクショナリズムなどの用語とともに、官民の関係について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政サービスの变化と担い手変化の理解を深めること。	120分
10	6/10	行政管理と行政改革	行政組織に求められた役割と、財政などの問題を関連させつつ、行政管理と行政改革を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織のマネジメントの必要性と、公共性について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政が導入した、重要な概念である管理について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。	180分
11	6/17	行政活動の能率	行政管理で用いられる、能率性・効率性・経済性の用語を中心に、現代で求められる公共性について検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政の能率の考え方を比較し、現在求められる行政の能率について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政の能率・効率について調べておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、現代に求められる行政の能率について理解を深めること。	180分
12	6/24	行政組織	組織論の変遷を見つつ、特に人間関係論の発展から行政組織について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、組織論の変遷と、マネジメントの関係を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政組織の機能について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政管理論・行政組織論を比較しつつ理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	官僚制と民主制	官僚制の特質と、行政組織における権限などを用語中心に学習し、民主主義における国民と行政を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、官僚制の特色とその病理について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、官僚制の特色について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、官僚制の特質と問題点の理解を深めること。	120分
14	7/8	現代公務員制度の構成原理	公務員制度の諸原理について、戦前・戦後を比較しつつ学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、戦前・戦後の行政原理を比較しつつ、現代公務員制度の課題を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公務員制度について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、民主主義における官僚制について理解を深めること。	180分
15	7/15	講義のまとめと行政環境の変化	行政をとりまく環境を検討しつつ、新しい公共を検討し、その後全体のまとめを行う。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、社会変化を理解しつつ、現代に求められる行政活動と公共性について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分とノート必ず読み、行政活動やそれを担う公務員の規律なども含めて検討して、さらに初回からのノートなどを見直し、行政学の流れを検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中折をみてリアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。				2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。				2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『行政学案内[第2版]』	真淵 勝	慈学社	2014	参考書	任意
『行政学』	真淵 勝	有斐閣	2009	参考書	任意
『よくわかる行政学（第2版）』	村上 弘・佐藤 満 編	ミネルヴァ書房	2016	その他	任意
備考	教科書は使用しないが、上記真淵著の2冊に準拠して授業を構成しているので、この2冊はとても有用である。				

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。 研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	ガイダンス：授業内容の説明	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた授業の内容であること、また講義計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を確認し理解できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書の目次や各章に目を通し、講義の全体像をイメージできるようにする。	120分
		事後学修	第1回目に行った授業内容や参考書をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	第一部 月4/13	1. 国家行政機構(1) 中央省庁のしくみ	「霞が関」とも呼ばれる中央官庁の各省及び庁の構成、仕組み、役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	「霞が関」とも呼ばれる中央官庁の各省及び庁の構成、仕組み、役割を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
3	第一部 月4/20	1. 国家行政機構(2) 中央省庁の出先機関等	中央省庁の出先機関の構成、配置、役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	中央省庁の出先機関の構成、配置、役割を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
4	第一部 月4/27	1. 国家行政機構(3) 中央省庁再編の意味合い	中央省庁の再編の意味合いと再編後の省庁の特徴、課題、展望について学ぶ。	
		この回の到達目標	中央省庁の再編の意味合いと再編後の省庁の特徴、課題、展望を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
5	第一部 月5/4	1. 国家行政機構(4) 内閣制度のしくみと機能	内閣制度の仕組みと機能、また内閣総理大臣のリーダーシップについて学ぶ。	
		この回の到達目標	内閣制度 その仕組みと機能、また内閣総理大臣のリーダーシップを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
6	第一部 月5/11	2. 国家公務員制度(1) 公務員制度のしくみ	国及び地方公務員の任用-主として採用と昇進を対象とした-に関する諸制度について学ぶ。	
		この回の到達目標	国及び地方公務員の任用-主として採用と昇進を対象とした-に関する諸制度を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	2. 国家公務員制度(2) 官僚のライフステージ：天下りの機能と逆機能	官僚の天下りに関して、その功罪を学ぶ。	
		この回の到達目標	官僚の天下りに関して、その功罪を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
8	第一部 月5/25	2. 国家公務員制度(3) 人事院の制度と機能	公務員は労働基本権を制約されているが、その代償としての人事院勧告を中心に学ぶ。	
		この回の到達目標	人事院の制度と機能を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
9	第一部 月6/1	2. 国家公務員制度(4) 行政資源としての出向官僚	行政資源として見た中央官僚の地方出向について学ぶ。	
		この回の到達目標	行政資源として見た中央官僚の地方出向について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
10	第一部 月6/8	3. 日本的行政システムの特徴(1)「官僚像」の時代的変容①「国土型官僚」、「調整型官僚」	「政官関係論」的視座に基づいて、時代により「官僚」像がどのように変わってきたかについて学ぶ。「国土型官僚」モデルから「調整型官僚」モデルまで	
		この回の到達目標	時代により「官僚」像がどのように変わってきたかを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
11	第一部 月6/15	3. 日本的行政システムの特徴(2)「官僚像」の時代的変容②「吏員型官僚」	「政官関係論」的視座に基づいて、時代により「官僚」像がどのように変わってきたかについて学ぶ。「吏員型官僚」モデルを中心に扱い、このような変容をどのように理解するのかを主権者である国民の視点から探る。	
		この回の到達目標	時代により「官僚」像がどのように変わってきたかを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
12	第一部 月6/22	3. 日本的行政システムの特徴(3) 大部屋主義とセクショナリズム	日本的官僚制の特質の一つと言われる「大部屋主義」と「セクショナリズム」について学ぶ。	
		この回の到達目標	日本的官僚制の特質の一つと言われる「大部屋主義」と「セクショナリズム」について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	3. 日本的行政システムの特徴(4) 稟議制神話と実際①通説としての「稟議制」	長年わが国特有の行政組織の意思決定方式と言われてきた「稟議制」について学ぶ。	
		この回の到達目標	「稟議制」について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
14	第一部 月7/6	3. 日本的行政システムの特徴(4) 稟議制神話と実際②多様な意思決定方式のあり様	実際の行政組織においては「稟議制」はごく一部に採用されているにすぎず、実際には多様な意思決定方式が採用されていることを、井上誠一の所論に学ぶ。	
		この回の到達目標	行政組織における多様な意思決定方式を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
15	第一部 月7/13	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通した理解度は測るために、理解到達度試験を行う。また期間のまとめとして、この間行った主要な事柄について質問に答える。	
		この回の到達目標	半期で学んだ行政学の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	半期で授業で学んだ事柄について、ノートや参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
		事後学修	これまでに授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は教員に質問し、疑問を解消する。	120分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	福島 康仁	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。		2		2				
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。		2		2				
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2	2			
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。					2	2		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政学第2版	外山公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
行政学	西尾勝	有斐閣	2001	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館1603） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス、国民生活と行政	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、国民生活と行政の密接な関係について、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するするとともに、教科書の目次を見て、市民生活と行政活動について調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政活動について理解を深めること。	120分
2	4/17	行政サービスの役割と責任 範囲の拡大	歴史的側面から行政活動を検討し、行政サービスの範囲拡大要因を考察する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の歴史的変遷について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、歴史的側面から、行政活動の範囲を検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で扱った教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、社会背景と行政の役割について理解を深めること。	120分
3	4/24	現代と福祉国家の成立、その課題	行政活動の拡大と共に変化した国家の役割、特に福祉国家の成立と課題を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の拡大要因について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公行政の特質について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で扱った教科書の部分と、講義内容のノートを照らし合わせて、国家の役割変化と行政活動の変化について理解を深めること。	120分
4	5/1	行政と国民	行政国家の特質を見つつ、行政と国民の関係、ならびに行政の役割と課題について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政国家の特質について、立法国家と対比して説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代行政が国民のために存在する意義を検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で扱った教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、立法国家と行政国家の違いの理解を深めること。	120分
5	5/8	アメリカ行政学の歴史的展開	現代行政学の基礎となる、アメリカ行政学の発展について歴史的に学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、アメリカ行政学の歴史的展開について説明できる。	
		事前学修	現代国家に必要な不可欠な体制を整えるために発展した、アメリカ行政学について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、アメリカ行政学の発達以前と比較して理解を深めること。	120分
6	5/15	アメリカ行政学と行政理論	社会背景変化の中で、求められてきた行政活動と行政理論の変化を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政理論の変化要因と、行政理論について説明できる。	
		事前学修	社会背景の違いを見つけ出し、行政活動の違いと現代行政学の基礎を検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政理論の変化と社会背景を照らし合わせて理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	行政学の構成	日本の行政学の成り立ちと、研究動向をみつつ行政学の構成を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本における行政学の発展と、そのパラダイム等について説明できる。	
		事前学修	日本の行政学の歴史的発展とその構成について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政学の変遷の理解を深めること。	120分
8	5/29	現代国家の政府体系	中央政府・地方政府関係から概観し、現代国家の政府体系と行政について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の中央政府・地方政府関係に照らし合わせて、政府体系を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政活動を梓づける、政府体系と政府形態について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、政府間関係と行政について理解を深めること。	120分
9	6/5	現代国家の政府体系の課題	行政サービスの拡大を題材に、その量的・質的变化をみつつ現代国家の政府体系の課題を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、公共の担い手の変化について、その必要性と課題について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、セクショナリズムなどの用語とともに、官民の関係について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政サービスの変化と担い手変化の理解を深めること。	120分
10	6/12	行政管理と行政改革	行政組織に求められた役割と、財政などの問題を関連させつつ、行政管理と行政改革を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織のマネジメントの必要性と、公共性について説明できる。	
		事前学修	①～④に関連して、行政組織のマネジメントの必要性と、公共性について説明できる。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。	120分
11	6/19	行政活動における能率	講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政の能率の考え方を比較し、現在求められる行政の能率について説明できる。	
		事前学修	行政の能率・効率について調べておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、現代に求められる行政の能率について理解を深めること。	120分
12	6/26	行政組織	組織論の変遷を見つつ、特に人間関係論の発展から行政組織について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、組織論の変遷と、マネジメントの関係を説明できる。	
		事前学修	行政組織の機能について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政管理論・行政組織論を比較しつつ理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	官僚制	官僚制の特質と、行政組織における権限などを用語中心に学習し、民主主義における国民と行政を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、官僚制の特色とその病理について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、官僚制の特色について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、官僚制の特質と問題点の理解を深めること。	120分
14	7/10	現代公務員制度の構成原理	公務員制度の諸原理について、戦前・戦後を比較しつつ学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、戦前・戦後の行政原理を比較しつつ、現代公務員制度の課題を説明できる。	
		事前学修	公務員制度について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、民主主義における官僚制について理解を深めること。	120分
15	7/17	前期講義の総括と行政環境の変化	行政をとりまく環境を検討しつつ、新しい公共を検討し、その後全体のまとめを行う。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、社会変化を理解しつつ、現代に求められる行政活動と公共性について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分とノート必ず読み、行政活動やそれを担う公務員の規律なども含めて検討して、さらに初回からのノートなどを見直し、行政学の流れを検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政学Ⅱ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。				2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。				2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 行政学第2版	外山 公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
行政学	西尾 勝	有斐閣	2001	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政学を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	中央政府の組織編制	中央政府の組織を見つつ、その内部構成を検討していく。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、中央省庁の特色等について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、さらに中央省庁のホームページ等を見て行政組織図について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政組織の理解を深めること。	120分
2	9/23	行政の内部過程	行政の内部メカニズムについて検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織における、統合と調整等、そのメカニズムを説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、管理運営技術などを検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織におけるメカニズムの理解を深めること。	120分
3	9/30	政策過程	政策過程を概説し、政策展開を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策形成・立案における、行政と国民の関係を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策とは何かについて理解しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策形成と立案の理解を深めること。	180分
4	10/7	環境変化と政策	環境変化による政策の変化を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、多様な政策展開について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策ごとの違いと関連について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策の時間軸的变化の理解を深めること。	120分
5	10/14	政策過程分析	政策ごとに進め方や参加者が違うこと等に着目し、政策過程分析をみていく。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策過程の理論や分析等について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策の違いと参加の関連について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、多様な政策実施について理解を深めること。	120分
6	10/21	行政裁量・許認可・行政指導	行政裁量について、許認可・行政指導との関連をみていく。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政行為について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政裁量について、許認可・行政指導との関連を理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政裁量の必要性和課題の理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	政策評価	政策評価の対象と基準について検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策評価の意義と限界について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政の効果について検討しておくように。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策評価実施後の行政活動の在り方についての検討を深めること。	120分
8	11/11	政策決定過程	政策過程における諸段階のうち、政策決定過程を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策決定過程ならびに、その過程における調整等について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策決定過程について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、課題設定などその過程についての理解を深めること。	120分
9	11/18	政策実施過程	政策過程における諸段階のうち、行政の実施を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、実施主体の課題等について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策実施過程について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策過程を全体として理解する。	120分
10	11/25	予算と会計	財政制度と予算・決算について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の財政制度とその課題について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、財政制度について理解しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、財政制度の理解を深めつつ、財政制度の問題点を検討しておくこと。	180分
11	12/2	議院内閣制と省庁制	行政組織を歴史的に概観し、内閣制度につて検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、中央省庁改革の目的などを説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、三権分立における行政について、検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、中央省庁改革などの理解を深めること。	180分
12	12/9	地方自治	戦後日本の中央地方関係を概観し、地方自治の役割と自治体行政について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、一番身近な行政である地方自治を理解し、住民意識の重要性について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、地方自治について理解しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、身近な行政サービスと住民意識についての理解を深めること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	行政責任	行政責任の概念を見つつ、現代に求められる行政責任を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、現代で求められる行政責任について、自分なりの意見を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政責任について理解をしておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政責任のバランスを考えること。	180分
14	12/23	行政統制	行政統制の類型を概観しつつ、行政の在り方を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政統制の必要性、なかでも国民の責任について理解する。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政統制の類型を理解しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政内・外の実在の理解を深めること。	180分
15	1/13	講義のまとめと新たな行政モデル	行政をとりまく環境変化を検討しつつ、新たな行政モデルの必要性検討し、その後全体のまとめを行う。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、現状の行政について理解しつつ、その問題点を説明でき、新たな行政モデル必要性について自分の意見を持つ。	
		事前学修	初回からの教科書と講義ノートを見直し、行政内・外の役割について考察する。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政学Ⅱ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。					2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。					2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。							2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『行政学案内[第2版]』	真淵 勝	慈学社	2014	参考書	任意
『行政学』	真淵 勝	有斐閣	2009	参考書	任意
『よくわかる行政学（第2版）』	村上 弘・佐藤 満編	ミネルヴァ書房	2016	その他	任意
備考	教科書は使用しないが、上記真淵著の2冊に準拠して授業を構成しているので、この2冊はとても有用である。				

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。 研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14	4. 官僚制論(1)近代官僚制とは何か？	マックス・ウェーバーらの近代官僚制論について、家産官僚制などと比較しながらその所論を学ぶ。	
		この回の到達目標	マックス・ウェーバーらを中心とする近代官僚制論を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
2	第一部月 9/21	4. 官僚制論(2)官僚制の逆機能	近代官僚制の逆機能と言われる諸現象について、アメリカで起こったマートン、セルズニックらの逆機能学派の所論に学ぶ。	
		この回の到達目標	近代官僚制の逆機能について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
3	第一部月 9/28	4. 官僚制論(3)他の側面から見た官僚制	ストリートレベルの官僚制、プロフェッショナル組織、開放的昇任制と閉鎖的昇任制など、もう一つの側面から現代の官僚制について焦点を当て、その機能について学ぶ。	
		この回の到達目標	官僚制のもう一つの側面について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
4	第一部月 10/5	5. 行政責任(1)行政責任とは何か？	主にギルバートの行政責任（行政統制）の4類型をモデルとして、行政責任とはどのようなものかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	現代行政国家における行政責任の意味合いを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
5	第一部月 10/12	5. 行政責任(2)受動的責任・能動的責任・自律的責任	古典的な行政責任の考え方である受動的責任に止まらず、能動的責任さらには自律的責任までが求められるその意味合いについて学ぶ。	
		この回の到達目標	受動的責任・能動的責任・自律的責任を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
6	第一部月 10/19	5. 行政責任(3)フリードリッヒとファイナーの論争	行政責任をめぐる有名なフリードリッヒとファイナーの論争を理解し、行政責任の考え方について学ぶ。	
		この回の到達目標	フリードリッヒとファイナーの論争から現代行政国家における行政責任のあり方を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/26	6. 行政ネットワーク (1) 公的 グリーゾーン組織とは何 か？	独立行政法人組織らを中心とする公的グリーゾーン組織と呼ばれる一群について、その制度や機能・役割を学ぶ。	
		この回の 到達目標	現代行政国家に果たす公的グリーゾーン組織について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心 を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
8	第一部月 11/9	6. 行政ネットワーク (2) 私的 グリーゾーン組織とは何 か？	業界団体を始めとする私的グリーゾーン組織と呼ばれる一群について、その制度や機能・役割を学ぶ。	
		この回の 到達目標	現代行政国家に果たす私的グリーゾーン組織について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心 を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
9	第一部月 11/16	6. 行政ネットワーク (3) 諮問 機関について	行政ネットワークから見た審議会等を始めとする諮問機関について、その制度、機能、役割等について学ぶ。	
		この回の 到達目標	諮問機関について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心 を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
10	第一部月 11/23	7. 利益団体と行政について	利益団体が行政に果たす影響力を中心に、利益団体と行政、広く政治過程におけるその役割、機能について学ぶ。	
		この回の 到達目標	政治行政過程において利益団体が果たす役割や機能を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心 を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
11	第一部月 11/30	8. 官民関係について	特に民間委託の功罪を取り上げ、「官」と「民」のあり方について学ぶ。	
		この回の 到達目標	「官民関係」を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心 を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
12	第一部月 12/7	9. 政策過程 (1) 政策過程に関 する諸理論	政策過程に関する諸理論について学ぶ。	
		この回の 到達目標	政策改訂に関する諸理論について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心 を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 12/14	9. 政策過程(2)各過程の分析	政策過程の5段階について概説し、そこで行政が果たす役割、機能について学ぶ。	
		この回の到達目標	各政策過程を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心 を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消す る。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
14	第一部月 12/21	10. 国民と行政	国民はどのように行政過程に参加し、政策に関わることができるのかという点について学ぶ。	
		この回の到達目標	国民の行政参加について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心 を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消す る。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
15	第一部月 1/18	授業のまとめ～理解の到達 度を測る	授業全体を通した理解度は測るために、理解到達度試験を行う。また期間のまとめとして、試験 の解説の他、後期の授業で扱った主要な事柄について質問に答える。	
		この回の到達目標	半期で行った行政学の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③④を自分のものとする ことができる。	
		事前学修	半期の授業で学んだ事柄について、ノートや参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
		事後学修	これまでに授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問 を解消する。それでも残った疑問点は教員に質問し、疑問を解消する。	120分

科目名	行政学Ⅱ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。
--

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】 特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。
--

【授業方法】		
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。					2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。					2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。							2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 行政学第2版	外山公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日、昼休み。 研究室（本館１６０３） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行実務経験に基づく実践的教育の内容 政学を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	中央政府の組織編制	中央政府の組織を見つつ、その内部構成を検討していく。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、中央省庁の特色等について説明できる。	
		事前学修	中央省庁のホームページ等を見て行政組織図について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政組織の理解を深めること。	120分
2	9/25	行政の内部過程	行政の内部メカニズムについて検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織における、統合と調整等、そのメカニズムを説明できる。	
		事前学修	管理運営技術などを検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織におけるメカニズムの理解を深めること。	120分
3	10/2	政策過程	政策過程を概説し、政策展開を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策形成・立案における、行政と国民の関係を説明できる。	
		事前学修	政策とは何かについて理解しておくこと。	120分
		事後学修	た講義内容のノートを照らし合わせて、政策形成と立案の理解を深めること。	120分
4	10/9	環境変化と政策	環境変化による政策の変化を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、多様な政策展開について説明できる。	
		事前学修	政策ごとの違いと関連について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、政策の時間軸的变化の理解を深めること。	120分
5	10/16	政策過程分析	政策ごとに進め方や参加者が違うこと等に着目し、政策過程分析をみていく。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、多様な政策展開について説明できる。	
		事前学修	政策の違いと参加の関連について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、多様な政策実施について理解を深めること。	120分
6	10/23	行政裁量・許認可・行政指導	行政裁量について、許認可・行政指導との関連をみていく。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政行為について説明できる。	
		事前学修	行政裁量について、許認可・行政指導との関連を理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、行政裁量の必要性と課題の理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	政策評価	政策評価の対象とそのしくみについて検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策評価の意義と限界について説明できる。	
		事前学修	行政サービスの質の確保と、民間サービスの質の確保について比較しておくこと。	120分
		事後学修	政策評価実施後の行政活動の在り方についての検討を深めること。	120分
8	11/6	政策決定過程	政策過程における諸段階のうち、政策決定過程を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策決定過程ならびに、その過程における調整等について説明できる。	
		事前学修	政策決定過程について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、課題設定などその過程についての理解を深めること。	120分
9	11/13	政策実施過程	政策過程における諸段階のうち、行政の実施を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、実施主体の課題等について説明できる。	
		事前学修	政策実施過程について理解しておくこと。	120分
		事後学修	政策過程を全体として理解する。	120分
10	11/20	予算と会計	財政制度と予算・決算について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の財政制度とその課題について説明できる。	
		事前学修	財政制度について理解しておくこと。	120分
		事後学修	財政制度の理解を深めつつ、財政制度の問題点を検討しておくこと。	120分
11	11/27	議院内閣制と省庁制	行政組織を歴史的に概観し、内閣制度につて検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、中央省庁改革の目的などを説明できる。	
		事前学修	三権分立における行政について、検討しておくこと。	120分
		事後学修	行政改革会議の提言について考察しておくこと。	120分
12	12/4	地方自治	戦後日本の中央地方関係を概観し、地方自治の役割と自治体行政について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、一番身近な行政である地方自治を理解し、住民意識の重要性について説明できる。	
		事前学修	地方自治について理解しておくこと。	120分
		事後学修	身近な行政サービスと住民意識についての理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	行政責任論	行政責任の概念を見つつ、現代に求められる行政責任を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、現代で求められる行政責任について、自分なりの意見を説明できる。	
		事前学修	行政責任について理解をしておくこと。	120分
		事後学修	行政責任論争について理解しておくこと。	120分
14	12/18	行政統制	行政統制の類型を概観しつつ、行政の在り方を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政統制の必要性、なかでも国民の責任について理解する。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政統制の類型を理解しておくこと。	120分
		事後学修	行政の内・外のアクターの存在の理解を深めること。	120分
15	1/15	講義のまとめと新たな行政モデル	行政をとりまく環境変化を検討しつつ、新たな行政モデルの必要性検討し、その後全体のまとめを行う。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、現状の行政について理解しつつ、その問題点を説明でき、新たな行政モデル必要性について自分の意見を持つ。	
		事前学修	行政内・外の役割について考察する。	120分
		事後学修	講義内容のノートを照らし合わせて、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義とグループワークによって進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・グループワークを2回行う。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、グループワークとリアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついていないかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『経営戦略をつかむ』	浅羽茂/牛島辰男	有斐閣	2010	教科書	必携
『戦略の経済学』	デイビット・ベサン コ/マーク・リャン リー/デイビッド・ド ラノブ	ダイヤモンド社	2002	参考書	任意
『戦略経営論』	ガース・サローナー/ アンドレア・シェ パード/ジョエル・ポ ドルニー	東洋経済新報社	2002	参考書	任意
『組織の経済学』	ポール・ミルグロム/ ジョン・ロバーツ	NTT出版	1997	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	イントロダクション及び導入講義	経営学とはどのような学問かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：経営学とはどのような学問かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、経営学の対象を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、経営学とはどのような学問かを復習し、説明できるようにする。	120分
2	第一部 金4/17	経営戦略とは何か	経営戦略とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：経営戦略とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、経営戦略の定義を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、経営戦略とは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
3	第一部 金4/24	競争と利益	競争と利益の関係を学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：競争と利益の関係を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、完全競争市場と独占市場について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、競争と利益の関係を復習し、説明できるようにする。	120分
4	第一部 金5/1	経営戦略の成り立ち	経営戦略はどのようなもので成り立っているかを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：経営戦略はどのようなもので成り立っているかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、経営戦略に必要な要素は何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、経営戦略はどのようなもので成り立っているかを復習し、説明できるようにする。	120分
5	第一部 金5/8	事業戦略の考え方	事業戦略の基本的な考え方を学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：事業戦略の基本的な考え方を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、事業戦略の基本的な考え方を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、事業戦略の基本的な考え方を復習し、説明できるようにする。	120分
6	第一部 金5/15	外部要因の分析	企業を取り巻く外部要因を分析するための視点について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：企業を取り巻く外部要因を分析するための視点を理解し、応用できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、業界構造分析とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、企業を取り巻く外部要因を分析するための視点について復習し、応用できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	内部要因の分析	企業の内部要因を分析するための視点について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：企業の内部要因を分析するための視点を理解し、応用できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、バリューチェーン分析とリソース・ベースト・ビューについて確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、企業の内部要因を分析するための視点について復習し、応用できるようにする。	120分
8	第一部 金5/29	グループワーク 1（外部要因分析）	グループで、指定された業界について業界構造分析を行い、その内容を発表する。	
		この回の到達目標	達成目標②④と関連：業界構造分析に関するグループ内の議論に積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	指定された業界について業界構造分析を行う。	120分
		事後学修	他のグループが発表した内容を取り入れて、業界構造分析を精緻化する。	120分
9	第一部 金6/5	競争優位と基本戦略	競争優位の基本的な型について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：競争優位の基本的な型を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、競争優位の基本的な型であるコスト優位と差別化優位が何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、競争優位の基本的な型について復習し、説明できるようにする。	120分
10	第一部 金6/12	コスト優位	コストに影響を与える要因は何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：コストに影響を与える要因は何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、コストに影響を与える要因は何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コストに影響を与える要因は何かを復習し、説明できるようにする。	120分
11	第一部 金6/19	差別化優位	差別化に影響を与える要因は何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：差別化に影響を与える要因は何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、影響を与える要因は何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、差別化に影響を与える要因は何かを復習し、説明できるようにする。	120分
12	第一部 金6/26	イノベーション	イノベーションとは何か、また、イノベーションを阻害する要因について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：イノベーションとは何か、また、イノベーションを阻害する要因について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、イノベーションとは何か、また、イノベーションを阻害する要因を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、イノベーションとは何か、また、イノベーションを阻害する要因について復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	競争優位の持続可能性	競争優位が持続可能となる要因について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：競争優位が持続可能となる要因について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、競争優位が持続可能となる要因を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、競争優位が持続可能となる要因について復習し、説明できるようにする。	120分
14	第一部 金7/10	グループワーク 2（イノベーション）	グループで何がイノベーションの阻害要因となるのかを議論し、その内容を発表する。	
		この回の到達目標	達成目標②④と関連：イノベーションの阻害要因に関するグループ内の議論に積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	何がイノベーションの阻害要因となるのかを検討する。	120分
		事後学修	他のグループが発表した内容を取り入れて、イノベーションの阻害要因に関する理解を深める。	120分
15	第一部 金7/17	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連：到達目標①②③の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
		事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、企業の仕組みや社会における課題について、経営学の視点から考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついていないかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験またはレポート課題等提出の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『実践に学ぶ経営学』	風間、松田編	文真堂	2018	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学の概要について理解する。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/14	現代社会と経営学：経営学とは何か	経営学とはいかなる学問なのか、現代社会においてこれを学ぶことの意義を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学とはどのような学問なのかを理解すること。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営学とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	4/21	企業と社会	社会における企業の位置づけ・役割について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の役割や存在意義について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業と社会との関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	4/28	企業の種類	企業の種類についての分類方法とそれぞれの特質について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の種類や分類方法について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業の種類について、それぞれの特質を説明できるようにまとめる。	120分
5	5/5	企業理念と企業文化	企業理念と企業文化とはどのようなものなのか、その意義を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業理念と企業文化の意義について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	自分の興味ある企業のホームページなどをみて、その企業がどのような企業理念・企業文化をもっているのかをまとめる。	120分
6	5/12	企業文化の浸透とその逆機能	企業文化が組織内に浸透することでどのような有効性を発揮するのか、またどのような危険性があるのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業文化の意義と危険性について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業文化の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	企業の社会的責任Ⅰ：環境問題と社会的課題	企業を取り巻く環境問題や社会的課題にはどのようなものがあるか、それに企業はどのように対応していくことが求められているのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の社会的責任の概念について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業の社会的課題とはいかなるものなのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
8	5/26	企業の社会的責任Ⅱ：事業活動と社会貢献活動	企業が事業活動と社会貢献活動を両立していくためには、どのような課題があるのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業の社会的責任の意義と課題について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業はなぜ事業活動と社会貢献活動を両立しなければならないのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
9	6/2	グループワークⅠ：企業の社会的責任	企業はどのようにして社会的責任を果たしているのか調べ、それが社会にどのような影響を与えているのかをグループで議論し、発表する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、企業の社会的責任に関するグループワークにおいて、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	自分の興味ある企業のホームページなどをみて、どのような社会貢献活動を行っているのか調べておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループが発表した内容を基に、企業の社会的責任の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分
10	6/9	企業戦略論Ⅰ：戦略の必要性	企業の活動において戦略はどのような意義があるのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の活動における戦略の必要性を理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業はなぜ、どのようにして戦略を企てるのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
11	6/16	企業戦略論Ⅱ：経済性と社会性の調和	企業が戦略を企てる上で、利益(経済性)と社会貢献(社会性)のバランスをどのようにしてとっているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業戦略における経済性と社会性の調和を図ることの必要性を理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業戦略における経済性と社会性の調和を図ることの必要性について、自分なりの考えをまとめる。	120分
12	6/23	グループワークⅡ：企業分析	授業内で説明した企業分析の手法を用いて、グループで興味ある企業の分析を行い発表する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、企業分析に関するグループワークにおいて、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	配布資料をよく読み、企業分析の手法について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループが発表した内容を基に、企業戦略の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	人的資源管理論Ⅰ：リーダーシップ論	企業の経営者はどのようにして人的資源(人材)を有効活用しているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、人的資源の有効な活用方法について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営者の役割と責任について、自分なりの考えをまとめる。	120分
14	7/7	人的資源管理論Ⅱ：グローバル化とダイバーシティ	グローバル化の進展が、企業を構成するメンバー(従業員)にどのような変化をもたらしているのか、そのことによってどのような課題が生じているのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、人的資源を活用する上での課題を理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ダイバーシティとはなにか、なぜそれが重要なのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
15	7/14	授業内試験及び解説	授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経営学に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	180分
		事後学修	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。	60分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド（PPT）に基づく講義、クラス討議、プレゼンテーション、グループワークで構成。提出課題・中間レポートは授業時間内に講評。期末レポートはメールで評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、企業の仕組みや社会における課題について、経営学の視点から考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題等提出の後に解説を実施。個人別評価結果をメールやポータルで通知。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版社	2013年	教科書	必携
ケースブック 経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之西野和美	日本経済新聞出版社	2012年	教科書	必携
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18：00～20：00、木曜 15：00～16：10、18:00～19:00、金曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡）研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング） 経営コンサルティング業務や企業での経営管理業務に基づき、経営理論の説明に終わらず、理論の経営現場への適用面にも留意した学修を目指す。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	オリエンテーション、及び 導入講義	シラバスに基づく前期授業全体の内容について説明。前年度当科目授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。	
		この回の 到達目標	授業全体の内容について、説明できるようになること。また、経営学と経営の違いについて、理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	教科書「経営学入門（上）」の全体に目を通し、「経営」と「経営学」の違いについて考察する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を確認し、プレゼンテーション課題のテーマ選定とプレゼンテーション日程について検討。	60分
2	第一部 金4/17	マイクロ組織論	マイクロ組織論。組織行動論（個人～20名以下のグループの行動）に関しての理論について学修し、その成り立ちと適用範囲について考察する。グループワークにより、マイクロ組織論の背景について考察する。	
		この回の 到達目標	組織行動に関する主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	『経営学入門（上）』13～48頁、49～96頁に目を通すとともに、グループ（同じ業界に興味のある4名以内）メンバー候補を検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容について復習し、マイクロ組織論の主要理論の提唱者とその概要を理解し説明できるようになる。	60分
3	第一部 金4/24	マクロ組織論	20名以上の構成員からなる組織に関する理論（「組織論」）について学修し、その成り立ちと適用範囲について考察する。	
		この回の 到達目標	組織論の主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	『経営学入門（上）』97～140頁に目を通すとともに、グループメンバーを決定する。	180分
		事後学修	配布資料の内容について復習し、マクロ組織論の主要理論の提唱者とその概要を理解し説明できるようになる。	60分
4	第一部 金5/1	社会的ネットワーク論と柔 構造組織	SNSの普及とともに社会において重要性が増している社会的ネットワーク論の主要理論について学修する。また、社会的ネットワーク論にも関連して組織の「柔構造」についても環境との関係より学修する。	
		この回の 到達目標	社会的ネットワーク論のうち組織に関する理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	入山章栄『世界の経営学者はいま何を考えているのか』英治出版2012年149～185頁（コピー事前配布）を熟読し、社会的ネットワーク論の主要理論について理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容について復習し、社会的ネットワーク論の主要理論の提唱者とその概要、柔構造組織の概要について理解し説明できるようになる。	60分
5	第一部 金5/8	業務プロセスと人事制度	企業内で従業員が日々実施している業務を分類し、各業務の内容について学修する。また、マイクロ組織論の適用としての人事制度の実際について学修する。	
		この回の 到達目標	主要業務プロセスと人事制度を理解し、説明できるようになること（関連目標④）。	
		事前学修	ポーター, M. E.（土岐岬他訳）『競争優位の戦略』ダイヤモンド社1985年45～77頁（コピー事前配布）を熟読し、業務プロセス（バリューチェーン）の概念について理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容について復習し、業務プロセスと人事制度の不要な構成要素について説明できるようになること。	60分
6	第一部 金5/15	事業定義 1（概念）	経営戦略の中核をなす事業定義（事業ドメイン）の背景、概念、重要性について、分析的アプローチとの対比等も踏まえて学修。	
		この回の 到達目標	事業ドメインを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	『経営学入門（上）』141～152ページ、188～213ページに目を通し、経営戦略の定義と事業ドメインについて理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、事業定義に概念について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	事業定義2（方法）	事業定義から事業展開シナリオへの落とし込み方、組織構造への展開方法等について学修。	
		この回の到達目標	事業ドメインの再構築方法を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年101～115ページ（コピー事前配布）に目を通す。教科書『ケースブック 経営戦略の論理』16～36ページ（AKB48）に目を通して、①AKB48の定義をCFTで表現する、②AKB48の成功要因（KFS）を従来のアイドルグループと比較して検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、事業定義の方法について説明できるようになる。	60分
8	第一部 金5/29	SWOT	自社の強み、弱み、環境の中の機会、脅威を分析・統合し、企業戦略や事業戦略を導き出すという戦略構築上最も基礎的な方法について学修する。	
		この回の到達目標	SWOTのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理』282～301ページ（アップル）に目を通して、①2012年時点のアップルをSWOTで整理する、②SWOTの結果より2012年以降アップルのとるべき戦略について検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、SWOTの概念について説明できるようになる。	60分
9	第一部 金6/5	製品・市場戦略とマーケティング	製品・市場分析より特定事業の事業戦略を導き出すツールであり、マーケティングとの関連について学修。新規事業戦略についても触れる	
		この回の到達目標	製品・市場戦略の概念と適用手順を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年47～57ページ（コピー事前配布）に目を通し、企業のケース（コピー事前配布）より、企業の主要事業のKFS（成功要因）を抽出する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、製品・市場戦略の概念について説明できるようになる。	60分
10	第一部 金6/12	5フォースと競争戦略	ポーターの競争要因分析ツール：5フォースによる業界構造分析の方法について学修する。	
		この回の到達目標	5フォースの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	教科書『経営学入門（上）』169～180ページに目を通し、教科書『ケースブック 経営戦略の論理』102～46ページ（サムスン電子）に関して、サムスン電子の液晶テレビの事業戦略は、ポーターの3つの基本戦略のどれかについて検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、5フォースを特定業界に適用できるようになる。	60分
11	第一部 金6/19	PPM	企業戦略の観点より各事業の位置付け（重点投資、収益源、撤退等）を明確にするツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。	
		この回の到達目標	PPMのフレームワークを理解し、説明できるようになる（関連目標③）。	
		事前学修	教科書『経営学入門（上）』152～169ページに目を通す。企業のケース（コピー事前配布）に目を通して、成功事業（善い方向へ変化した製品群）と失敗事業（悪い方向に変化した製品群）を抽出する。前期中間レポート（特定事業のKFS）の作成。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、PPMの概念について説明できるようになる。	60分
12	第一部 金6/26	コア・コンピタンス	企業戦略、事業戦略の前提となるコア・コンピタンスの理論的背景、概念、使い方等について学修。	
		この回の到達目標	コア・コンピタンスの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	プラハラード, C.K. & ハメル, G. 「コア・コンピタンス経営」（コピー事前配布）に目を通し、以下の項目について検討する。①コア・コンピタンスとは何か、②コア・コンピタンスとしての要件は何か（経営資源、技術との違い）、③各社のコア・コンピタンス。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、コア・コンピタンスの概念について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	バランス・スコアカード	経営戦略の構築・実施の両面で今後重要とされるバランス・スコアカードの背景、概念について学修。	
		この回の到達目標	バランス・スコアカードのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181ページ（コピー事前配布）に目を通し、景気の先行指標と遅行指標、バランス・スコアカードの導入効果について考察する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの概念について説明できるようになる。	60分
14	第一部 金7/10	戦略プロファイリング	特定企業に関する情報の分析に基づいて企業の戦略の全体像について推論を行う戦略プロファイリングの概念について学修する。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標④）。	
		事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年（コピー事前配布）に目を通す。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、戦略プロファイリングについて説明できるようになる。	60分
15	第一部 金7/17	まとめ	組織と戦略に関する主要理論とその適用範囲、今後の生かし方等について学修。	
		この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③④）。	
		事前学修	期末レポート（特定業界に関する①業界構造の分析、②主要各社の経営戦略の比較分析）の作成。	200分
		事後学修	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードし、全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	池田 直史	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
経営学Ⅰの履修を前提とする。

【授業方法】
講義とグループワークによって進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・グループワークを2回行う。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、グループワークとリアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついていないかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『経営戦略をつかむ』	浅羽茂/牛島辰男	有斐閣	2010	教科書	必携
『戦略の経済学』	デイビット・ベサン コ/マーク・リャン リー/デイビッド・ド ラノブ	ダイヤモンド社	2002	参考書	任意
『戦略経営論』	ガース・サローナー/ アンドレア・シェ パード/ジョエル・ポ ドルニー	東洋経済新報社	2002	参考書	任意
『組織の経済学』	ポール・ミルグロム/ ジョン・ロバーツ	NTT出版	1997	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	イントロダクション及び導入講義	前期の復習と後期に扱う内容の関連付けを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連：前期の内容と後期に扱う内容を関係づける。	
		事前学修	シラバスを改めて確認するとともに、教科書や参考書を読んで、前期に扱った内容とこれから学ぶ内容について整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、前期の内容と後期に扱う内容について復習し、関係づけられるようにする。	120分
2	第一部 金9/25	企業戦略の考え方	企業戦略の基本的な考え方を学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：企業戦略の基本的な考え方を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、企業戦略の基本的な考え方を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、企業戦略の基本的な考え方を復習し、説明できるようにする。	120分
3	第一部 金10/2	垂直統合とは	垂直統合とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：垂直統合とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、垂直統合とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合とは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
4	第一部 金10/9	垂直統合と企業の範囲	垂直統合と取引費用の関係について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：垂直統合と取引費用の関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、取引費用とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合と取引費用の関係について復習し、説明できる。	120分
5	第一部 金10/16	多角化とは	多角化とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：多角化とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、多角化とは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
6	第一部 金10/23	多角化とコングロマリット・ディスカウント	多角化のメリットとデメリットを学修する。また、コングロマリット・ディスカウントとは何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：多角化のメリットとデメリットを理解した上で、コングロマリット・ディスカウントとは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化のメリットとデメリットを整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、多角化のメリットとデメリットを押さえた上で、コングロマリット・ディスカウントとは何かを復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	多角化のマネジメント	多角化のマネジメントについて学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：多角化のマネジメントについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化のマネジメント手法を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、多角化のマネジメントについて復習し、説明できるようにする。	120分
8	第一部 金11/6	国際化	国際化の戦略について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：国際化の戦略について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、国際化の戦略を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際化の戦略について復習し、説明できるようにする。	120分
9	第一部 金11/13	グループワーク 1（多角化）	コングロマリット・ディスカウントの存在が指摘されているにもかかわらず、なぜ企業は多角化を維持しているのかをグループで議論し、その内容を発表する。	
		この回の到達目標	達成目標②④と関連：多角化維持に関するグループ内の議論に積極的に参加し、自分の意見を述べるができる。	
		事前学修	なぜ企業は多角化を維持しているのかを検討する。	120分
		事後学修	他のグループが発表した内容を取り入れて、コングロマリット・ディスカウントに関する理解を深める。	120分
10	第一部 金11/20	M&A	M&A（企業の合併・買収）とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：M&A（企業の合併・買収）とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、M&A（企業の合併・買収）とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、M&A（企業の合併・買収）とは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
11	第一部 金11/27	組織における問題	組織において生じる問題を学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：組織において生じる問題を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、組織において生じる問題にはどのようなものがあるかを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、組織において生じる問題について復習し、説明できるようにする。	120分
12	第一部 金12/4	インセンティブの問題	インセンティブの問題とその緩和手段について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：インセンティブの問題とその緩和手段について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、インセンティブの問題とその緩和手段を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、インセンティブの問題とその緩和手段について復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	コーディネーションの問題	コーディネーションの問題とその緩和手段について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：コーディネーションの問題とその緩和手段について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、コーディネーションの問題とその緩和手段を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コーディネーションの問題とその緩和手段について復習し、説明できるようにする。	120分
14	第一部 金12/18	グループワーク 2（インセンティブの問題）	グループで組織において利害対立が生じる状況とその緩和手段について議論し、その内容を発表する。	
		この回の到達目標	達成目標②④と関連：インセンティブに関するグループ内の議論に積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	組織において利害対立が生じる状況とその緩和手段について検討する。	120分
		事後学修	他のグループが発表した内容を取り入れて、インセンティブの問題に関する理解を深める。	120分
15	第一部 金12/25	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連：到達目標①②③の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
		事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
経営学Ⅰの履修。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、企業の仕組みや社会における課題について、経営学の視点から考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついていないかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験またはレポート課題等提出の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『実践に学ぶ経営学』	風間、松田編	文真堂	2018	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学の概要について理解する。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/22	企業の組織構造	企業はどのような組織構造によって構成されているのか、また組織構造にはどのような種類があるのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の組織構造について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営学とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	9/29	雇用と人事	企業には、ワーク・ライフ・バランスを推進する上でなにが求められているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、働くことの意味について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、仕事と生活を両立するためにはなにが重要なのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	10/6	合併・買収(M&A)の効果と目的	企業はなぜ合併・買収(M&A)を推し進めるのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、合併・買収(M&A)について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、買収・合併(M&A)の効果と課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	10/13	企業とイノベーション	企業はなぜイノベーションを必要とするのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、イノベーションの効果と課題について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、イノベーションとはなにかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	10/20	マーケティング論Ⅰ：市場と顧客	市場と顧客の関係から、企業がどのようにして顧客を見つけ出すのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、マーケティングの必要性を理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、マーケティングはどのようにして計画されるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	マーケティング論Ⅱ：製品戦略と製品ライフサイクル	企業は顧客にどのように価値を形成し、それを伝達するのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、製品戦略と製品ライフサイクルについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、これからのマーケティングに求められるものについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	11/10	グループワークⅠ：マーケティング論	マーケティングに関する様々なテーマに関して、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、マーケティングに関するグループワークにおいて、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、様々なマーケティング手法について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、マーケティングの意義と課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	11/17	生産管理論Ⅰ：モノづくりの基本	企業はどのようにしてモノづくりを行っているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、モノづくりの基礎について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、モノづくりの基礎とこれまでどのように発展してきたのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11/24	生産管理論Ⅱ：モノづくりの高度化	グローバル化や技術革新の進展が、モノづくりにどのような影響を与えているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、グローバル化や技術革新がモノづくりに与える影響について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、モノづくりの高度化によって私たちの生活がどのように変化しているのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	12/1	グループワークⅡ：イノベーションと生産管理論	技術革新、とりわけAI技術の進展によって、私たちの生活はどのように変化するのか、その効果と課題についてグループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、技術革新が私たちの生活に与える影響に関するグループワークにおいて、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	私たちが日々の生活で使用している製品が、技術革新によってこれまでどのように変化してきたのかを調べる。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、イノベーションとモノづくりの関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	12/8	国際経営Ⅰ：国際経営の組織モデル	企業は海外でどのように経営しているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業が海外進出をする意義について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、国際経営独自の課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	国際経営Ⅱ：グローバル化と経営の現地化	国際経営において、経営の現地化がなぜ必要なのか、その課題とはなにかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、国際経営の課題について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営の現地化の必要性和課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12/22	SDGs(持続可能な開発目標)と企業価値の向上	社会の健全な発展と企業価値の向上を目指して、求められる企業像とはなにかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、SDGs(持続可能な開発目標)を達成するために求められる企業の役割について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、現代社会における企業の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1/12	授業内試験及び解説	授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経営学に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	180分
		事後学修	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。	60分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
「経営学Ⅰ」の履修。

【授業方法】
スライド (PPT) に基づく講義、クラス討議、プレゼンテーション、グループワークで構成。提出課題・中間レポートは授業時間内に講評。期末レポートはメールで評価をフィードバック。スライド (PDF) は共有フォルダーで公開。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、現代企業を取り巻く課題について、経営学の視点から考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題等提出の後に解説を実施。個人別評価結果をメールやポータルで通知。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンサルティングの基本	神川貴実彦	日本実業出版社	2008	参考書	推奨
コンサルティングの基本 ベストプラクティス集	神川貴実彦	日本実業出版社	2013	参考書	推奨
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡）木曜 15：00～16：10、18:00～19:00（同上）金曜 18：00～20：00（同上）研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング）
実務経験に基づく実践的教育の内容		経営コンサルティング業務の知見に基づき、経営理論の経営現場への適用方法、適用手順を学修。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	オリエンテーション、及び 導入講義	シラバスに基づく後期授業全体の内容について説明。前期授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。	
		この回の 到達目標	授業全体の内容と主旨について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	経営学Ⅰで学修した理論について、コンサルタントとして経営現場に適用することを想定しながら復習する。	120分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング対象企業候補について検討する。	120分
2	第一部 金9/25	コンサルティング業界と組織	世界と日本のコンサルティング市場（規模、分野別構成比と各分野の成長性、主要企業別収益ランキング）とコンサルティング企業の組織構造や人事評価制度について学修する。	
		この回の 到達目標	コンサルティング業界とコンサルティング企業の組織体制・人事制度について理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年、39～58ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）に目を通し、コンサルティング業界の全体像を理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング対象企業候補について検討する。	60分
3	第一部 金10/2	コンサルティング業務	コンサルティング業務を業務内容により分類し、手順について学修する。また、各業務分野で代表的なコンサルティング企業をあげる。	
		この回の 到達目標	コンサルティング業務を業務内容により分類し、手順について学修する。また、各業務分野で代表的なコンサルティング企業をあげる。	
		事前学修	太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年、13～36ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）に目を通し、コンサルティング業務の手順と内容を理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング業務の手順について説明できるようになる。	60分
4	第一部 金10/9	事業ドメインコンサルティング1（概要）	企業において実際に事業定義（ドメイン）を設定する手順を各種分析ツールを用いながら学修する。	
		この回の 到達目標	事業ドメイン再構築の手順を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	経営学Ⅰ資料より、（6）事業ドメインの概念、（7）事業定義の方法を復習する。太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年3～12ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の復習し、事業ドメインコンサルティングの手順について説明できるようになる。	60分
5	第一部 金10/16	事業ドメインコンサルティング2（演習1）	各人作成のCFT分析表（課題①）に基づいて、既存事業の機能について議論する。	
		この回の 到達目標	CFT分析の記入方法について理解し、自身で作成できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	良品計画のホームページ（www.muji.com/jp）より、現在の主要製品群（事業）を10～20抽出し、それぞれについてCFT分析をする（課題①、指定様式使用）。	180分
		事後学修	各人作成のCFT分析表を見ながら自身のCFT分析表を修正する。	60分
6	第一部 金10/23	事業ドメインコンサルティング3（演習2）	各人が作成したドメインマップと事業定義・事業ドメイン対応表（課題②）に基づいて、将来事業を定義する。	
		この回の 到達目標	将来事業ドメインの再構築方法について、理解し、自身である程度構築できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	良品計画について（ひきつづき）、CFT分析の結果に基づいて、現在から将来の事業をドメインマップと事業定義・事業ドメイン対応表に基づいて定義する（課題②、指定様式使用）。	180分
		事後学修	各人作成のドメインマップと事業定義・事業ドメイン対応表を全体の意見を反映させながら修正する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	収益コンサルティング	損得学の主要理論について、演習課題により修得する。	
		この回の到達目標	損得学の主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	森田正雄「経営者のための損得学入門」海難タイムズVol. 379・382・385・388・391・395、2012年（コピー事前配布）を熟読し、意思決定の論理を理解する。	120分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、損得学の同様の問題に対して正答できるようになる。	120分
8	第一部 金11/6	事業戦略コンサルティング	状況に応じて、製品・紫綬戦略、新規事業戦略、ブルー・オーシャン戦略の3つがあるが、各ツールの手順について学修する。	
		この回の到達目標	事業戦略策定方法を複数修得し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理（全面改訂版）』日本経済新聞出版社2012年257～77ページ（アサヒビール）について、1987年（スーパードライ発売）前後のビール業界の5フォースを作成する（課題3、指定様式使用）。	180分
		事後学修	配布資料の復習により、各種事業コンサルティング手法を状況によって使い分けができるようになる。	60分
9	第一部 金11/13	人事・組織コンサルティング	企業に人事制度を導入する際の手順、また組織構造を変える際の考え方について学修する。	
		この回の到達目標	人事・組織のコンサルティング手順を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	経営学Ⅰ資料より、（3）マクロ組織論、（5）業務プロセスと人事制度 について復習する。太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年81～95ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、人事制度の改定・組織改編の手順を説明できるようになる。	60分
10	第一部 金11/20	ファイナンスと将来設計	大学での学修を将来への自己投資ととらえ、投資を中心としたファイナンスの基礎理論について学修する。	
		この回の到達目標	ファイナンスの重要性を理解し、キャリアプランとの関係で説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	グループによる中間レポート（コンサルティングプロジェクトの企画提案書）の作成。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、ファイナンス理論の基礎を説明できるようになる。	60分
11	第一部 金11/27	中間レポートプレゼンテーション	各グループ作成・提出のプレゼンテーション資料（PPT）に基づいて、想定クライアントへの企画提案を行い、それについて講評する。	
		この回の到達目標	中間レポートを完成させるとともに、期末レポートに向けての課題を確認する（関連目標④）。	
		事前学修	前回作成した中間レポートに基づいたプレゼンテーションの準備。	120分
		事後学修	各グループへの講評を振り返り、期末レポートに結び付ける。	120分
12	第一部 金12/4	バランス・スコアカードコンサルティング1（概要）	前期扱ったバランス・スコアカードを実際に企業に導入する際の手順について学修。	
		この回の到達目標	バランス・スコアカードの導入手順を理解し、説明できるようになること（関連目標①④）。	
		事前学修	経営学Ⅰのバランス・スコアカード関連の資料（第13、14回）を復習する。あるいは、若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの導入手順を説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	バランス・スコアカード コンサルティング2（演習 1）	各人作成の戦略マップについて講評し、最適な戦略マップの構築に結び付ける。	
		この回の 到達目標	戦略マップの作成手順を修得する（関連目標①④）。	
		事前学修	(株)ファーストリテイリングのホームページ（ http://www.fastretailing.com/jp ）に基づいて、ファーストリテイリングの戦略マップを作成する（課題⑤、指定様式使用）。	180分
		事後学修	各人作成の前略マップを全体の意見を反映させながら修正する。	60分
14	第一部 金12/18	バランス・スコアカード コンサルティング3（演習 2）	各人作成のバランス・スコアカードについて講評し、最適なバランス・スコアカードの構築に結び付ける。	
		この回の 到達目標	バランス・スコアカードの作成手順を修得する（関連目標①④）。	
		事前学修	ファーストリテイリングの戦略マップに基づいてバランス・スコアカードを作成する（課題⑤、指定様式使用）。	180分
		事後学修	各人作成のバランス・スコアカードを全体の意見を反映させながら修正する。	60分
15	第一部 金12/25	まとめ	各回の内容、扱ったコンサルティングツールとそのポイント、キャリアとしての経営コンサルタント等について学修。	
		この回の 到達目標	科目全体を通して、経営コンサルティング業務とそのポイントを理解し、説明できるようになること（関連目標①②③④）。	
		事前学修	期末レポート（中間レポートの企画提案書に対応した答申書）作成。	200分
		事後学修	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードし、全体を復習する。	40分

科目名	経営戦略論Ⅰ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○	○	

【授業の概要】
企業経営にとって、最も大切なことの一つとして将来に向かって進んでいく方向、つまり、経営戦略に従業員に示し、会社が一丸となって進んでいくことがあげられる。本講座では、経営戦略の主要理論とその適用方法についてケース（事例）を用いながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営戦略論Ⅰでは、経営戦略論Ⅱと合わせて経営戦略の主要理論を理解し、その実施を推進してゆくための実践的スキルを身につけることを目的とする。本講座では、経営戦略に関する主要理論を理解し、説明できるようになることを目標とする。また、一部の理論については、ある程度現実の問題に適用する能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)や動画を用いた講義とそれに基づく討議、課題に回答する形でのプレゼンテーションにより進める。理論面の理解を助ける教材（著書、論文等）と、企業で実際にあったことを記した事例（ケース）を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義とそれに基づく教員・履修者、履修者間の討議、課題とそれに基づく履修者によるプレゼンテーション。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業活動における戦略的発想の重要性を理解し、それを説明することができる。						3	3				
②	企業のおかれた状況の中で、最適な戦略を選ぶ能力を高める。					3	3	3		2	3	
③	企業の戦略的目標を認識し、目標間の関係性を明確化する方法を修得する。						3	3		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題2では、到達目標③について、履修者各人が選んだ企業のステークホルダー別に戦略目標を分類整理し、それらの間の関係性をみつける。当課題では、戦略目標間の関係性の適切さを評価する。			30								30
討論・発表等	課題1では、到達目標③について、指定した企業のステークホルダー別に戦略目標を分類整理し、それらの間の関係性をみつける。当課題では、特に分類作業の適切さを評価する。			30								30
授業への参画度	到達目標①②について、戦略論の基礎知識が身についているかを、予習課題の実施状況や授業中の討議により評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題1は授業時間中に講評を実施。課題2は希望者にメールにより評価をフィードバック。スライド(PDF)は共有フォルダーで公開。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版	2013	教科書	必携
ケースブック 経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之・西野和美	日本経済新聞出版	2012	教科書	必携
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18：00～20：00、木曜 15：00～16：10、18:00～19:00、金曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡）研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング）
実務経験に基づく実践的教育の内容		経営コンサルティング業務の知見に基づき、戦略論の経営現場への適用方法、適用手順を学修。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	オリエンテーション及び導入講義	シラバスに基づく前期授業全体の内容について説明。前年度当科目授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。	
		この回の到達目標	授業全体の内容について、説明できるようになること。また、経営戦略の定義と企業経営にとって経営戦略の果たす役割について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	経営戦略の定義について、経営理念、戦術（施策）との違いより考えておく。	120分
		事後学修	配布資料の内容の復習と、経営戦略面で興味を持てる企業（戦略プロファイリング対象企業候補）を検討。	120分
2	第一部 水4/15	事業定義 1（理論）	企業の事業定義とその経営成果間の関係性に基づき、事業定義の重要性を再確認する。	
		この回の到達目標	事業ドメインを理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	『経営学入門（上）』141～152ページ、188～213ページに目を通し、事業ドメインについて理解する。	120分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、事業定義の概念について説明できるようになる。	120分
3	第一部 水4/22	事業定義2（実証研究）	企業の事業定義とその経営成果間の関係性に基づき、事業定義の重要性を再確認する。	
		この回の到達目標	事業定義と経営成果の関係について理解し、説明できるようになること（関連目標①③）。	
		事前学修	レビット、T. 「マーケティング近視眼」『ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス』1993年2月-3月号（コピー事前配布）を熟読し、若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年1～33頁（コピー事前配布）に目を通す。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習に基づき、事業定義と企業成長の関係について説明できるようになる。	60分
4	第一部 水4/29	SWOT	自社の強み、弱み、環境の中の機会、脅威を分析・統合し、企業戦略や事業戦略を導き出すという戦略構築上最も基礎的な方法について学修する。	
		この回の到達目標	SWOTのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理』282～301ページ（アップル）に目を通して、①2012年時点のアップルをSWOTで整理する、②SWOTの結果より2012年以降アップルのとるべき戦略について検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、SWOTの概念について説明できるようになる。	60分
5	第一部 水5/6	5フォース	ポーターの競争要因分析ツール5フォースによる業界構造分析の方法について学修する。	
		この回の到達目標	5フォースの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	教科書『経営学入門（上）』169～180ページに目を通し、5フォースの考え方について理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、5フォースを特定業界に適用できるようになる。	60分
6	第一部 水5/13	製品・市場戦略（理論）	製品・市場分析より特定事業の事業戦略を導き出すツールであり、マーケティングとの関連について学修。新規事業戦略についても触れる。	
		この回の到達目標	製品・市場戦略の概念と適用手順を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年47～57ページ（コピー事前配布）に目を通す。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、製品・市場戦略の概念について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	P P M（理論）	企業戦略の観点より各事業の位置付け（重点投資、収益源、撤退等）を明確にするツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。	
		この回の到達目標	PPMのフレームワークを理解し、説明できるようになる（関連目標②）。	
		事前学修	教科書『経営学入門（上）』152～169ページに目を通す。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、P P Mの概念について説明できるようになる。	60分
8	第一部 水5/27	コア・コンピタンス（理論）	企業戦略、事業戦略の前提となるコア・コンピタンスの理論的背景、概念、使い方等について学修。	
		この回の到達目標	コア・コンピタンスの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	プラハラード, C. K. & ハメル, G. 「コア・コンピタンス経営」（コピー事前配布）に目を通し、以下の項目について検討する。①コア・コンピタンスとは何か、②コア・コンピタンスとしての要件は何か（経営資源、技術との違い）、③各社のコア・コンピタンス。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、コア・コンピタンスの概念について説明できるようになる。	60分
9	第一部 水6/3	バランス・スコアカード1（理論）	経営戦略の構築・実施の両面で今後重要とされるバランス・スコアカードの背景、概念について学修。	
		この回の到達目標	コア・コンピタンスの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～168ページ（コピー事前配布）に目を通し、景気の先行指標と遅行指標、バランス・スコアカードの導入効果について考察する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの概念について説明できるようになる。	60分
10	第一部 水6/10	バランス・スコアカード2（導入方法）	バランス・スコアカードを実際に企業や組織に導入する際の手順、活用方法について学修。	
		この回の到達目標	バランス・スコアカードの導入の手順、活用方法を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年168～187ページ（コピー事前配布）に目を通し、バランス・スコアカードの導入方法を把握する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、戦略プロファイリングについて説明できるようになる。	60分
11	第一部 水6/17	戦略プロファイリング1（理論）	特定企業に関する情報の分析に基づいて企業の戦略の全体像について推論を行う戦略プロファイリングの概念について学修する。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年、15～25頁（コピー事前配布）に目を通す。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、戦略プロファイリングについて説明できるようになる。	60分
12	第一部 水6/24	戦略プロファイリング2（課題1）	各人作成の戦略プロファイリング結果（戦略マップ）について講評。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順・方法を理解し、実在の企業に適用できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	事前配布資料（特定企業のケース）に基づく課題1（特定企業の戦略プロファイリング）の実施。	180分
		事後学修	各人作成の戦略プロファイリング結果に対する講評を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	競争戦略とブルー・オーシャン戦略1（理論）	経営戦略の中核理論とされるポーターの競争戦略と、それに対峙する新しい事業戦略の概念ブルー・オーシャン戦略の理論について、両者を比較しながら理解する。	
		この回の到達目標	競争戦略との比較からブルー・オーシャン戦略の概念について理解し、説明できるようになる（関連目標②）。	
		事前学修	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文』ダイヤモンド社2014年、33～58頁（「ブルー・オーシャン戦略」）に目を通し、ワークシートにブルー／レッドの領域を記入する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、ブルー・オーシャン戦略の概念について理解し、説明できるようになる。	60分
14	第一部 水7/8	事業戦略とブルー・オーシャン戦略2（ケース）	ブルー・オーシャン戦略導入企業のケースより、その効果について学修。	
		この回の到達目標	ブルー・オーシャン戦略の効果について、理解し説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理』102～46ページ（サムスン電子）に関して、サムスン電子の液晶テレビの事業戦略は、ポーターの3つの基本戦略のどれかについて検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、ブルー・オーシャン戦略の使い方について理解し、説明できるようになる。	60分
15	第一部 水7/15	まとめ	経営戦略に関する主要理論の概要を理解し、各理論の特徴（長所・短所）について検討する。	
		この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③）。	
		事前学修	課題2（個別企業の戦略プロファイリング）の実施。	200分
		事後学修	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードし、全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営戦略論Ⅱ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○	○	

【授業の概要】
企業経営にとって、最も大切なことの一つとして将来に向かって進んでいく方向、つまり、経営戦略に従業員に示し、会社が一丸となって進んでいくことがあげられる。本講座では、経営戦略の主要理論とその適用方法についてケース（事例）を用いながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営戦略論Ⅱでは、経営戦略論Ⅰと合わせて経営戦略の主要理論を理解し、その実施を推進してゆくための実践的スキルを身につけることを目的とする。本講座では、経営戦略に関する主要理論の理解を前提に、所与の状況に適した戦略理論を提示し、それを適用する能力の修得を目指す。

【履修条件】
「経営戦略論Ⅰ」を履修し、単位を取得していること。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)や動画を用いた講義とそれに基づく討議、課題に回答する形でのプレゼンテーションにより進める。理論面の理解を助ける教材（著書、論文等）と、企業で実際にあったことを記した事例（ケース）を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義とそれに基づく教員・履修者、履修者間の討議、課題とそれに基づく履修者によるプレゼンテーション。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業活動における戦略的発想の重要性を理解し、それを説明することができる。						3	3				
②	企業のおかれた状況の中で、最適な戦略を選ぶ能力を高める。						3	3		3	3	
③	企業の戦略的目標を認識し、目標間の関係性を明確化する方法を修得する。							3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題2では、到達目標③について、履修者各人が選んだ企業（課題1とは異なる企業）のステークホルダー別に戦略目標を分類整理し、それらの間の関係性をみつける。			30								30
討論・発表等	課題1では、到達目標③について、履修者各人が選んだ企業のステークホルダー別に戦略目標を分類整理し、それらの間の関係性をみつける。当課題では、分類作業の適切さを評価する。			30								30
授業への参画度	到達目標①②について、戦略論の基礎知識が身についているかを、予習課題の実施状況や授業中の討議により評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題1は授業時間中に講評を実施。課題2は希望者にメールにより評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版	2013	教科書	必携
ケースブック 経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之・西野和美	日本経済新聞出版	2012	教科書	必携
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18：00～20：00、木曜 15：00～16：10、18:00～19:00、金曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡）研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング）
実務経験に基づく実践的教育の内容		経営コンサルティング業務の知見に基づき、戦略論の経営現場への適用方法、適用手順を学修。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	オリエンテーション及び導入講義	シラバスに基づく前期授業全体の内容について説明。前年度当科目授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。	
		この回の到達目標	授業全体の内容について、説明できるようになること。また、経営戦略の現実的問題として、策定後の戦略が必ずしも実施されないことや、分析的なアプローチが企業に根付いていない現状を理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	経営学Ⅰの授業コンテンツの復習。	120分
		事後学修	配布資料の内容の復習と、戦略プロファイリング対象企業候補を検討。	120分
2	第一部 水9/23	事業定義 1（方法）	事業定義から事業展開シナリオへの落とし込み方、組織構造への展開方法等について学修。	
		この回の到達目標	事業ドメインの再構築方法を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年101～115ページ（コピー事前配布）に目を通す。教科書『ケースブック 経営戦略の論理』16～36ページ（AKB48）に目を通して、①AKB48の定義をCFTで表現する、②AKB48の成功要因（KFS）を従来のアイドルグループと比較して検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習し、事業定義の方法について説明できるようになる。	60分
3	第一部 水9/30	事業定義 2（ケース）	セコムのケースの詳細な分析に基づく事業定義（ドメイン）の変化についての学修。	
		この回の到達目標	セコムの事業定義の優れている点について理解し、説明すること（関連目標②）。	
		事前学修	セコムのケース（コピー事前配布）に基づく、機能の変遷と事業定義（ドメイン）のもたらす効果についてワークシートを用いた検討。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習と事前に作成したワークシートの修正。	60分
4	第一部 水10/1	戦略プロファイリング 1（方法）	戦略プロファイリングの手順や実施上のポイントについて学修。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順・方法を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年、25～35頁（コピー事前配布）を熟読し、戦略プロファイリングの手順を理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により「戦略プロファイリング」の実施手順を説明できるようになる。	60分
5	第一部 水10/14	製品・市場戦略 1（方法）	製品・市場戦略の概念、策定方法、適用対象について学修。	
		この回の到達目標	製品・市場戦略の手順・適用方法を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	大前研一『マッキンゼー現代の経営戦略』プレジデント社1979年35～74ページ（コピー事前配布）を読む。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により「製品・市場戦略」の適用手順を説明できるようになる。	60分
6	第一部 水10/21	製品・市場戦略 2（ケース）	各人作成のワークシートに基づく現実の製品・市場戦略についての学修。	
		この回の到達目標	製品・市場戦略の手順・適用方法を理解し、適用できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	アスクルのケース（コピー事前配布）を読み、それに基づく製品・市場分析、KFS（成功要因）等についてワークシートを用いて検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習による製品・市場分析の方法と製品・市場戦略への結び付け方について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/29	コア・コンピタンス（ケース）	コア・コンピタンスの概念について復習した上で、ケースによりそれを実在企業に適用する。	
		この回の到達目標	ケースを通してコア・コンピタンスの適用方法を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	ブラハラード, C.K. & ハメル, G. 「コア・コンピタンス経営」（コピー事前配布）より、コア・コンピタンスの定義、コア・コンピタンスの要件についてワークシートに基づいて考察した上で、セイコーエプソンのケース（コピー事前配布）を分析。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、コア・コンピタンスを説明できるようになる。	60分
8	第一部 水11/1	外部環境と経営資源分析 1（方法）	外部環境と経営資源の分析に用いられる 5 フォースと SWOT の適用に重点を置いた学修。	
		この回の到達目標	SWOT と 5 フォースの使い方を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	ポーター, M. E. （土岐他訳）『競争の戦略』ダイヤモンド社1982年17～54頁（コピー事前配布）を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習による 5 フォースの正しい適用方法を説明できるようになる。	60分
9	第一部 水11/18	外部環境と経営資源分析 2（ケース 1）	マッキントッシュ時代のアップルを通して、SWOT と 5 フォースの適用方法を学修。	
		この回の到達目標	SWOT と 5 フォースの使い方を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	アップルのケース 1（PC メーカー時代、コピー事前配布）に基づいた、ワークシートを用いたアップルの SWOT と 5 フォースによるパソコン業界の業界構造の分析。	180分
		事後学修	各人作成のワークシートの修正。	60分
10	第一部 水11/25	外部環境と経営資源分析 3（ケース 2）	iPod・iPhone 等プラットフォームへの成長過程のアップルについて、ケース 1 から SWOT で導かれる戦略仮説がケース 2 で実際に実施されたか検証する。	
		この回の到達目標	アップルの戦略を通して、クロスSWOT 分析に基づく戦略と実際の戦略の関係について理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	アップルのケース 2（iPod・iPhone 時代、コピー事前配布）に基づいた、ワークシートを用いたアップルの SWOT と 5 フォースによるパソコン業界の業界構造の分析。	180分
		事後学修	各人作成のワークシートの修正。	60分
11	第一部 水12/2	戦略プロファイリング 2（課題 1－1）	各人作成の戦略プロファイリング結果（戦略マップ）について講評。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順・方法を理解し、実在の企業に適用できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	課題 1（個別企業の戦略プロファイリング）の実施。	180分
		事後学修	各人作成の戦略プロファイリング結果に対する講評を整理。	60分
12	第一部 水12/9	戦略プロファイリング 3（課題 1－2）	修正後の戦略プロファイリング結果について講評。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングの結果を評価できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	講評に基づいて戦略マップを修正。	120分
		事後学修	修正した戦略プロファイリングへの講評内容を復習し、戦略プロファイリングのスキルを修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	PPM（ケース）	PPMのケースによる経営現場への適用方法について理解する。	
		この回の到達目標	PPMの使い方を修得し、それに基づいて事業戦略の巧拙についての評価能力をつける（関連目標②）。	
		事前学修	GE（コピー事前配布）のケースより、花形・金のなる木・問題児・負け犬事業を選定、シャープのケース（コピー事前配布）より、成功事業・失敗事業を選定する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、PPMの結果の適用方法を修得する。	60分
14	第一部 水12/23	BOP戦略（ケース）	BOP（ベース・オブ・ピラミッド：新興国市場）における戦略とその展開プロセスについて学修する。	
		この回の到達目標	リバースイノベーションの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標①②）。	
		事前学修	ゴビンドラジャン，V（渡部典子訳）『リバース・イノベーション』ダイヤモンド社2012年247～76頁（コピー事前配布）を読み、GEのリバース・イノベーションの成功要因について検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習することにより、リバース・イノベーションの概念を説明できるようになる。	60分
15	第一部 水1/13	まとめ（AI時代の経営戦略）	経営戦略の主要理論とその適用方法についてまとめる。今後急速な普及が予想されるAIの経営戦略プロセスへの影響についても触れる。	
		この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③）。	
		事前学修	課題2：課題1と異なる企業について戦略プロファイリングの実施。	200分
		事後学修	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードして全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経済学Ⅰ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	経済学Ⅰを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 4/15	経済学の基本問題と経済学の課題(1)	経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章1節、2節、3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の主要テーマを整理する。	120分
3	第一部水 4/22	経済学の基本問題と経済学の課題(2)	市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、需要曲線、供給曲線を自分で描く。	120分
4	第一部水 4/29	経済学の基本問題と経済学の課題(3)	経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章5節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の歴史を整理する。	120分
5	第一部水 5/6	消費者行動の理論(1)	消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。	
		事前学修	教科書(第2章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、効用関数と無差別曲線を自分で描く。	120分
6	第一部水 5/13	消費者行動の理論(2)	予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を理解する。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を説明できる。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線の導出を説明できる。	
		事前学修	教科書(第2章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、予算制約戦を自分で描く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部水 5/20	生産者行動の理論(1)		生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的關係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的關係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産者行動の目的を整理する。	120分
8	第一部水 5/27	生産者行動の理論(2)		企業が生産要素を購入する費用に限りがある。その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を学習する。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を学習する。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産要素を購入する費用に限りがあり、その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を説明できる。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を説明できる。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産関数を自分で描く。	120分
9	第一部水 6/3	生産者行動の理論(3)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線の導出を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、供給曲線を自分で描く。	120分
10	第一部水 6/10	競争市場均衡(1)		市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の分類を整理する。	120分
11	第一部水 6/17	競争市場均衡(2)		経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、余剰概念を整理する。	120分
12	第一部水 6/24	不完全競争市場(1)		独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占市場とはどのような市場かを説明できる。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、独占市場の概念を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	不完全競争市場(2)	価格差別の概念を学習する。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格差別の概念を説明できる。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、価格差別の概念を整理する。	120分
14	第一部水 7/8	不完全競争市場(3)	不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか学習する。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度を学習する。さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか説明できる。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度、さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、不完全競争理論を整理する。	120分
15	第一部水 7/15	講義のまとめ	講義のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
		事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
		事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	経済学 I	担当者	楠谷 清	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。定期試験の解説を後日ポータルシステムを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版』	楠谷。川又編著	弘文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	【ガイダンス、導入授業】	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会科学の中の経済学の分析対象と分析手法、及び経済学の体系について理解し説明することが出来る。	
		事前学修	シラバスをよく読む。 教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4月14日	【経済学の基本問題と経済学の課題1】	経済と経済学の関係、経済学の主要テーマが何であることを説明できる。経済学の分類を学習し説明できる。経済循環の構造を学習し、消費者（家計）、企業、政府との財や金の流れから経済主体のつながりを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の主要テーマ、経済学の分類、市場を介した経済循環の構造、さらに、市場経済・計画経済・混合経済の相違点、を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「1. 経済と経済学」「2. 経済循環の構造」「3. 市場経済・計画経済・混合経済」の部分再度読み、経済と経済学の関係、経済用語の概念を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、第1章末の問題（1）と（2）を自分なりの説明をまとめる。	120分
3	4月21日	【経済学の基本問題と経済学の課題2】	市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の概念、市場の価格決定メカニズム、市場による資源配分機能を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「4. 市場機構の仕組み」を読み、市場機構の大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、需要曲線や供給曲線が移動すると価格と生産量はどのように変化するか、作図してみよう。	120分
4	4月28日	【経済学の歴史】	経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の発展過程、及び歴史上の著名な経済学者の学説の特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「5. 経済学の歴史」を読み、歴史に残る著名な経済学者の時代的背景や学説を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートや配付資料を確認して、スミス、マルクス、ケインズの経済学の特質について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	5月5日	【消費者行動の理論1】	消費者行動とは何か、また、消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動の分析の基本となる効用関数、無差別曲線の基礎的概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章の「1. 消費者行動」「2. 効用関数と無差別曲線」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（1）と（2）を解いてみる。	120分
6	5月12日	【消費者行動の理論2】	予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足最大化できるか最適消費の決定を説明できる。さらに、消費者の所得が変化や財の価格が変化が、消費者の財購入にどう影響するか説明できる。また、財の価格変化と消費者の購入量変化から消費者の需要曲線の導出を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、予算制約線と無差別曲線の基礎的概念を用いて、市場の需要曲線の導き方を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章の「3. 最適消費の決定」「4. 所得変化と価格変化の効果」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートや配付資料を確認して、章末にある問題（3）と（4）を解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	【小テスト、まとめ】	リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②④に係わる理解が身についているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、経済の基本的課題、市場の機能と資源配分、経済学の実証分析対象と分析方法、経済学の歴史、消費者行動に関する理論について基礎的理解が身についているか確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト（リアクション・ペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
8	5月26日	【生産者行動の理論1】	生産者の行動とは何を意味するのか学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者行動分析の基礎となる生産関数、等量曲線、技術的限界代替率、生産可能性フロンティアの基礎的知識を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章の「1. 生産者の行動」、「2. 生産関数と等量曲線」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布資料を確認して、章末の問題（1）を解いてみる。	120分
9	6月2日	【生産者行動の理論2】	企業が財を生産する際の費用にどのような分類が経済学で用いられているのか、固定費用、可変費用、総費用、平均費用、平均可変費用、限界費用といったさまざまな費用の基礎的知識を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が財を生産する際の費用にどのような分類が経済学で用いられているのか、さまざまな費用の基礎的知識を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章の「3. 費用関数」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布資料を確認して、章末の問題（2）について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	6月9日	【生産者行動の理論3】	最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習し、さらに、財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財の市場価格と生産における限界費用が等しくなるところで利潤が最大化すること。財の価格が変化すると限界費用との一致が変化し、企業は生産量を変化させることになること。価格変化と限界費用が一致する軌跡から企業の供給曲線の導出を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章の「4. 最適生産の決定」、「5. 供給曲線」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布資料を確認して、章末の問題（3）を自分なりの説明でまとめる。	120分
11	6月16日	【競争市場均衡1】	完全競争市場の概念を学習、また、市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習によって、市場均衡の概念、市場均衡の安定性、について説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完全競争市場の概念、各個人の需要曲線を集計した市場の需要曲線の導出、また各企業の供給曲線を集計した市場の供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、市場均衡の安定性について、それぞれ理解し説明出来る。	
		事前学修	教科書 第4章の「1. 競争市場」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布資料を確認して、章末の問題（1）と（2）を自分なりの説明でまとめる。	120分
12	6月23日	【競争市場均衡2】	経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習し、その概念を説明できる。さらに、市場の需要曲線、供給曲線のシフト（移動）の原因を学修して、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済を研究するうえで重要な概念である効率の意味を余剰の概念を用いて理解し説明できる。さらに市場における需要曲線および供給曲線のシフトの概念を理解し、市場価格の変化を説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章「2. 余剰分析」、「3. 比較静学」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布資料を確認し、章末の問題（3）を自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	【独占市場】	独占市場とはどのような市場をいうのか、また、独占企業の生産量決定にどのような特徴があるのか完全競争市場下の企業と比較して学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完全独占市場とはどのような市場をいうのか、なぜ独占が生じるのか、完全競争市場と比較して理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章「1. 不完全競争市場とは」、「2. 完全独占市場とは」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、完全競争市場に在る企業の個別需要曲線と独占企業の個別需要曲線の相違について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	7月7日	【独占市場と社会的損失】	独占による社会的損失はどうして発生するのか、完全競争市場と比較して説明できる。さらに、独占企業は、同一の財について顧客ごとに異なる価格を付けることによって、利潤を最大かしようとすることがある。このことを価格差別という。価格差別戦略の実態を身近な経済取引から説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占による社会的損失はどうして発生するのか、完全競争市場と比較して理解し説明できる。また、われわれの身近な経済取引から企業の価格差別戦略（学生割引、シルバー割引等）を体験していること、なぜ企業はその様な行動を取るのか理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章の2の「C 独占による社会的損失」「D 価格差別戦略」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、企業による身近な価格差別戦略の事例を検索してみる。また、章末の問題（1）と（2）について自分なりの説明でまとめる。	120分
15	7月14日	【独占的競争と寡占市場】	独占的競争、製品の差別化、広告・ブランド戦略、寡占市場での競争の各概念を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占的競争、製品の差別化、広告・ブランド戦略、寡占市場での競争の各概念を学修し独占寡占企業のさまざまな行動概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章の「3. 独占的競争・寡占市場とは」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	章末の問題（3）について自分なりの説明でまとめる。 初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し、期末テストの準備をする。	200分

科目名	経済学Ⅰ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特に条件は無し。経済学の基本から学ぶため、高校生の時やこれまでに政治経済を学んだことがなくても問題は無い。経済学Ⅱも継続して履修すると、より楽しく学べるだろう。

【授業方法】
【授業区分】にしたがって講義形式で進める。授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えている。定期試験の解説は試験終了後、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する.

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない。授業で使用する教材については、毎回ポータル等を通じて配布する。				

【オフィスアワー】
木曜授業後（12:10～）に講堂で受け付けるが、事前に下記のアドレスにメールを送ること。hideaki_saito318@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	【ガイダンス】経済学とは、	ガイダンス ・履修上の注意点、成績評価の方法等の説明 ・授業でどのようなことを学ぶのか	
		この回の到達目標	シラバスを熟読し、授業を受ける心構えをする。	
		事前学修	新聞やニュース等で経済について触れる。	60分
		事後学修	シラバスを読み返し、履修すべきか否かを考える。また、授業を受ける心構えをする。	180分
2	第一部 木4/16	【理論】経済学の見方・考え方について。	経済学の見方・考え方を身に付けよう（1） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の見方を理解し、授業で学んだ内容を使って例文を作れるようにする。	
		事前学修	新聞やニュース等で経済について触れる。	60分
		事後学修	経済の見方・考え方を確認して、実生活での具体例を考える。	180分
3	第一部 木4/23	【理論】経済学の見方・考え方について。	経済学の見方・考え方を身に付けよう（2） ・見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の見方を理解し、授業で学んだ内容を使って例文を作れるようにする。	
		事前学修	新聞やニュース等で経済について触れる。	60分
		事後学修	経済の見方・考え方を確認して、実生活での具体例を考える。	180分
4	第一部 木4/30	【理論】経済の三主体について。	経済の主役は誰だろうか（1） ・家計の目的と役割	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済の中での家計の目的と役割を理解する。	
		事前学修	私たちはどのように行動をするか考える。	60分
		事後学修	家計の目的と役割を確認する。	180分
5	第一部 木5/7	【理論】経済の三主体について。	経済の主役は誰だろうか（2） ・企業の目的と役割	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済の中での企業の目的と役割を理解する。	
		事前学修	企業の行動基準を考える。	60分
		事後学修	企業の目的と役割を確認する。	180分
6	第一部 木5/14	【理論】経済の三主体について。	経済の主役は誰だろうか（3） ・政府の目的と役割、三主体の関係	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済の中での政府の目的と役割を理解する。	
		事前学修	政府はどのようなことを私たちにしてくれているのか考える。	60分
		事後学修	政府の目的と役割を確認する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	【理論】消費者の行動について.	消費者の行動を考えてみよう（１） ・無差別曲線と予算制約線	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無差別曲線と予算制約線について理解する.	
		事前学修	自分がお小遣いやアルバイト代をどのように使っているか考えてみる.	60分
		事後学修	予算制約線と無差別曲線のグラフを自分で描き、理解を深める.	180分
8	第一部 木5/28	【理論】消費者の行動について.	消費者の行動を考えてみよう（２） ・最適消費の決定	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、効用最大となる消費者行動を理解する.	
		事前学修	最も幸せを感じられるお金の使い方を考えてみる.	60分
		事後学修	最適消費点をグラフで説明できるようにする.	180分
9	第一部 木6/4	【理論】消費者の行動について.	消費者の行動を考えてみよう（３） ・所得効果と代替効果	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、所得効果と代替効果を理解する.	
		事前学修	お小遣いやアルバイト代が増えた場合のお金の使い方の変化を考えてみる.	60分
		事後学修	所得効果と代替効果をグラフを使って説明できるようにする.	180分
10	第一部 木6/11	【理論】企業の行動について.	生産者の行動を考えてみよう ・生産要素が1つの場合	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業の生産行動について理解する.	
		事前学修	企業の行動基準を思い出す.	60分
		事後学修	生産は何によって行われているか確認しておく.	180分
11	第一部 木6/18	【理論】市場分析について.	価格と取引量の決まり方を知ろう（１） ・市場とは何か ・需要と供給①	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完全競争市場での取引を理解する.	
		事前学修	どのような時に取引が行われるか考えてみる.	60分
		事後学修	市場、需要、供給の言葉の意味を整理する.	180分
12	第一部 木6/25	【現象】政策の影響について.	価格と取引量の決まり方を知ろう（２） ・需要と供給② ・政府の政策の影響	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、需要曲線と供給曲線がシフトしたときの影響を理解する. 到達目標③④に関連して、政府の政策が市場に与える影響を理解する.	
		事前学修	何を基準にして財・サービスを購入するか考えてみる.	60分
		事後学修	政府が市場に介入した場合の影響をグラフを使って説明できるようにする.	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	【理論】外部性と公共財について.	市場が上手く機能しないと何が起こるか（１） ・外部性、公共財	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外部性と公共財の意味と市場への影響を理解する.	
		事前学修	自分の住んでいる市区町村が提供しているサービスを探してみる.	60分
		事後学修	政府の存在理由を整理する.	180分
14	第一部 木7/9	【理論】不完全競争市場について.	市場が上手く機能しないと何が起こるか（２） ・不完全競争市場	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占市場での価格決定過程を理解する. 到達目標③④に関連して、完全競争市場に近づける方法を考える.	
		事前学修	価格が一方向的に決められている財・サービスを探してみる.	60分
		事後学修	不完全市場の弊害を復習する.	180分
15	第一部 木7/16	【総括】前期授業の復習.	授業のまとめと復習 ・授業の復習 ・準備のポイント説明	
		この回の到達目標	前学期末試験に向けて授業の復習をし、理解を深める.	
		事前学修	第2回～第14回の内容を振り返る.	60分
		事後学修	これまでの内容を復習して、試験に備える.	180分

科目名	経済学 I	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。なお、授業中に小テストを数回実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 経済学入門 [第2版]	楠谷清・川又祐	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	経済学の基本問題と経済学の課題(1)	1 経済と経済学 2 経済循環の構造 3 市場経済・計画経済・混合経済	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済学とはどのような学問であるか説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「経済学とは何か」と「ミクロ経済学とマクロ経済学の違い」について理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
2	第一部 水4/15	経済学の基本問題と経済学の課題(2)	4 市場機構の仕組み 5 経済学の歴史	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、市場と合理的行動、経済学の大きな流れについて説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「市場」と「合理的行動」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
3	第一部 水4/22	消費者行動の理論(1)	1 消費者行動 2 効用関数と無差別曲線	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、効用と無差別曲線について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「効用関数」と「無差別曲線」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
4	第一部 水4/29	消費者行動の理論(2)	3 最適消費の決定	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、最適消費の決定について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「予算制約線」の概念と「最適消費の決定」の理論を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
5	第一部 水5/6	消費者行動の理論(3)	4 所得変化と価格変化の効果	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、所得と価格の変化に対する需要の変化について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、価格と所得が変化した場合に、それぞれ需要関数がどのように変化するかを理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
6	第一部 水5/13	生産者行動の理論(1)	1 生産者の行動 2 生産関数	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、生産関数と技術的限界代替率について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「生産関数」と「等量曲線」、「生産可能性フロンティア」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 水5/20	生産者行動の理論(2)	3 費用関数
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、最適消費の決定について説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「効用関数」と「無差別曲線」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分
8	第一部 水5/27	生産者行動の理論(3)	4 最適生産の決定
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、企業の生産量決定のメカニズムについて説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「利潤最大化条件」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分
9	第一部 水6/3	生産者行動の理論(4)	5 供給曲線
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、供給曲線の導出について説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「損益分岐点」と「操業停止点」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分
10	第一部 水6/10	競争市場均衡(1)	1 競争市場
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、市場均衡と均衡の安定性について説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「市場需要曲線」と「市場供給曲線」、「市場均衡」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分
11	第一部 水6/17	競争市場均衡(2)	2 余剰分析
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、社会的余剰について説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「消費者余剰」と「生産者余剰」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分
12	第一部 水6/24	競争市場均衡(3)	3 比較静学
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、需要曲線と供給曲線のシフトについて説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「需要曲線のシフト」と「供給曲線のシフト」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	不完全競争市場(1)	1 不完全競争市場とは 2 完全独占市場	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、独占市場の社会的余剰について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「独占企業の行動」と「価格差別戦略」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
14	第一部 水7/8	不完全競争市場(2)	3 独占的競争・寡占市場とは	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、独占的競争と寡占市場について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「独占的競争」と「寡占市場」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
15	第一部 水7/15	まとめ	ここまでの内容の確認と復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者行動の理論と企業行動の理論、市場均衡について総合的に説明できる。	
		事前学修	教科書の1章から5章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
		事後学修	これまでの内容を整理して、定期試験の準備を行う。	120分

科目名	経済学Ⅰ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み(12:20～12:50)研究室にて、 事前にアポイントメントを取ること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	経済学Ⅰを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4月13日	経済学の基本問題と経済学の課題(1)	経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章1節、2節、3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
3	4月20日	経済学の基本問題と経済学の課題(2)	市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
4	4月27日	経済学の基本問題と経済学の課題(3)	経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章5節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
5	5月4日	消費者行動の理論(1)	消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。	
		事前学修	教科書(第2章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
6	5月11日	消費者行動の理論(2)	予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を理解する。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を説明できる。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線の導出を説明できる。	
		事前学修	教科書(第2章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月18日	生産者行動の理論(1)		生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的關係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的關係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
8	5月25日	生産者行動の理論(2)		企業が生産要素を購入する費用に限りがある。その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を学習する。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を学習する。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産要素を購入する費用に限りがあり、その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を説明できる。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を説明できる。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
9	6月1日	生産者行動の理論(3)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線の導出を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
10	6月8日	競争市場均衡(1)		市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
11	6月15日	競争市場均衡(2)		経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
12	6月22日	不完全競争市場(1)		独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占市場とはどのような市場かを説明できる。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	不完全競争市場(2)	価格差別の概念を学習する。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格差別の概念を説明できる。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
14	7月6日	不完全競争市場(3)	不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか学習する。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度を学習する。さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか説明できる。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度、さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
15	7月13日	講義のまとめ	講義のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
		事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
		事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	川又 祐	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 9/23	国民所得のさまざまな概念	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。	
		事前学修	教科書(第6章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得の概念を整理する。	120分
3	第一部水 9/30	均衡国民所得の決定(1)	総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを説明できる。	
		事前学修	教科書(第7章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得決定理論を整理する。	120分
4	第一部水 10/7	均衡国民所得の決定(2)	国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって説明できる。	
		事前学修	教科書(第7章3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、45度線を描く。	120分
5	第一部水 10/14	貨幣と金融(1)	貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲から学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲を説明できる。	
		事前学修	教科書(第8章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、貨幣の役割を整理する。	120分
6	第一部水 10/21	貨幣と金融(2)	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類について説明できる。	
		事前学修	教科書(第8章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、金融の概念を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	IS-LM分析と財政・金融政策 (1)	財市場と金融市場の相互作用を同時に捉えることによって、国民所得の決定を分析するIS-LM分析について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財市場と金融市場の相互作用を同時に捉えることによって、国民所得の決定を分析するIS-LM分析を説明できる。	
		事前学修	教科書(第9章1節、2節、3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得決定理論を整理する。	120分
8	第一部水 11/11	IS-LM分析と財政・金融政策 (2)	財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を学習し、IS-LM分析によって、財政政策と金融政策の効果の違いを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を説明できる。また、IS-LM分析によって、財政政策と金融政策の効果の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第9章4節、5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政政策と金融政策を整理する。	120分
9	第一部水 11/18	財政学の基礎	財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について説明できる。	
		事前学修	教科書(第10章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政の役割を整理する。	120分
10	第一部水 11/25	公共経済学の基礎(1)	市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。	
		事前学修	教科書(第11章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の失敗を整理する。	120分
11	第一部水 12/2	公共経済学の基礎(2)	どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのかを学習し、どのような調整策があるかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのか、さらに、どのような調整策があるかを説明できる。	
		事前学修	教科書(第11章3節、4節、5節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の失敗への対策を整理する。	120分
12	第一部水 12/9	日本経済論	日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。	
		事前学修	教科書(第12章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、日本の戦後経済史を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	国際経済学入門(1)	国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を説明できる。	
		事前学修	教科書(第13章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産フロンティアの概念を整理する。	120分
14	第一部水 12/23	国際経済学入門(2)	オープンマクロ経済政策として、マンデル=フレミングモデルを学習し、財政政策の効果と金融政策の効果の違いを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オープンマクロ経済政策として、マンデル=フレミングモデルを通じて、財政政策の効果と金融政策の効果の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第13章3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政政策と金融政策の効果を整理する。	120分
15	第一部水 1/13	講義のまとめ	講義のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
		事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。	120分
		事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	楠谷 清	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していること。

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内で解説、または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。定期試験の解説を後日ポータルシステムを通じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版』	楠谷・川又編著	弘文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月 15日	【ガイダンス，導入授業】	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マクロ経済学の分析対象と分析方法、金融論の基礎的体系、財政学の基礎的体系、公共経済学の基礎的体系国際経済学の基礎的体系について理解し説明することが出来る。	
		事前学修	シラバスをよく読む。 教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9月 22日	【国民所得のさまざまな概念1】	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、さらに、国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎的概念である国民所得、三面等価の原則、国内総生産（GDP）、名目GDPと実質GDPについて学習し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マクロ経済学の基礎的概念である国民所得、三面等価の原則、国内総生産（GDP）、名目GDPと実質GDPについて理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 「第6章 国民所得のさまざまな概念」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	9月 29日	【均衡国民所得の決定1】	総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを学習し、説明できる。また、所得と消費支出の関係を表す消費関数を学習し、さらに投資が増えると国民所得が増えること、投資が増えると投資額の数倍の国民所得が増えるという乗数効果の理論を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国民所得の大きさは総需要と総供給が等しくなるときに決まることを理解し説明できる。消費関数とは何か、乗数効果の概念は何かについて理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第7章の「1. 総需要と総供給」、「2. 消費、投資と乗数効果の関係」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末にある問題を解いてみる。	120分
4	10月6日	【均衡国民所得の決定2】	国民所得の規模決定に関する重要な恒等式と作図によって学習し説明できる。また、政府支出が拡大すると経済波及効果によって政府支出の乗数倍国民所得が増えることを説明できる。さらに、租税が国民所得に与える影響を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国民所得の大きさはどのように決まるのかを理解し説明できる。乗数効果の概念を理解し説明できる。減税は、国民所得の大きさにどの程度影響を与えるのか租税乗数の概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第7章の「3. 政府支出拡大と減税の効果」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、以下の問題を解きなさい。 $C=40+0.6Y$ （消費関数）、 $I=100$ （投資額）、 $G=50$ （政府支出額）のとき、 （問） Y （ $GDP=$ 国民所得）の金額を求めよ。	120分
5	10月13日	【金融論の基礎－金融とは何か、貨幣とは何か】	金融とは何かを理解するために金融の役割、金融機関、直接金融・間接金融をそれぞれ学習し説明できる。さらに、貨幣とは何かを理解するために貨幣の機能、貨幣の範囲について学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金融の役割、金融機関、直接金融・間接金融の概念をそれぞれ理解し説明できる。さらに、貨幣の機能、貨幣の範囲について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「1. 金融とは」、「2. 貨幣とは」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（1）と（2）について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	10月20日	【金融論の基礎－金利とは】	金利と利回りの概念を学習し、概念の違いを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金利及び利回りの概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「3. 金利とは」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（3）と（4）について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	【小テスト、まとめ】	リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標②③に係わる理解が身についているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国民所得決定、金融論の基礎的理解が身についているか確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト（リアクション・ペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
8	11月10日	【財政学の基礎1】	経済循環の図によって、政府と民間部門（家計、企業）のつながりを学習する。さらに、財政の役割、財政経費、租税について学習して説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政府と民間部門との間の財サービスと貨幣の流れ、財政の役割、財政経費、租税の意義を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第9章 「1. 政府の経済活動」、「2. 財政 A財政の役割、B経費、C租税」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（1）（2）について、回答する。	120分
9	11月17日	【財政学の基礎2】	公債発行と日本の発行残高の現状、公的年金制度の仕組み、財政政策の概念、日本財政の抱える財政赤字と世代間の負担の不公平について学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、公債発行と日本の発行残高の現状、公的年金制度の仕組み、財政政策の概念、日本の財政が抱える問題を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第9章 「2. 財政 A財政の役割、B経費、C租税」、「3. 日本の財政問題」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（3）について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11月24日	【公共経済学と市場の失敗】	市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴点であることを学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、市場の失敗するケースの意味を理解し、公共経済学の研究目的が市場の失敗を調整する方法を示すことにあることを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第10章の「1. 公共経済学とは何か」、「2. 市場の機能と失敗」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	市場の機能とメリットは何か、教科書、講義ノートと配付資料を確認して、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	12月1日	【公共財、外部性と市場の失敗】	どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適（効率的）資源配分を実現することが出来ないのか学習し、どのような調整策があるか説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、公共財の概念、外部性の概念を学修し、なぜ市場は公共財の最適供給に失敗し、また、外部性の問題を処理できないのか理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第10章の「3. 公共財の供給」、「4. 外部性」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題を解いてみる。	120分
12	12月8日	【国際経済学の基礎－貿易と余剰、比較優位】	貿易と余剰、比較優位を学習し、なぜ貿易が行われ、どのような財が国際間で貿易の対象となるのか国際経済学の基礎を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、貿易と余剰、比較優位の概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第11章の「1. 国際貿易の基礎理論」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 月 1 5 日	【国際経済学の基礎－外国為替相場、国際通貨制度、国際収支統計】	外国為替相場、国際通貨制度、国際収支統計、国民経済計算と国際収支との関連について学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、外国為替相場の決定、国際通貨制度（固定相場制、変動相場制）、国際収支統計の各概念、及び国民経済計算と国際収支との関連について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第11章の「2. 外国為替相場と国際収支」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	章末の問題（1）と（2）について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	1 2 月 2 2 日	【日本経済論①－高度経済成長とその終焉】	日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習して説明できる。さらに、高度経済成長の終焉を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、戦後からの復興、占領下の三大構造改革、朝鮮戦争特需の意義を理解し説明できる。高度経済成長を可能とした要因及び高度経済成長の終焉を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第12章の「1. 占領政策と戦後復興、2. 高度経済成長とその終焉」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	章末の問題（1）について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1 月 1 2 日	【日本経済論②－バブル経済の発生とその崩壊】	バブル経済の発生とその崩壊、小泉構造改革とアベノミクスを学習し、バブル経済発生の背景と崩壊原因、小泉構造改革の特徴と時代背景、アベノミクスの概要を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、バブル経済発生の背景と崩壊原因、小泉構造改革の特徴と時代背景、アベノミクスの概要を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第12章の「3. バブル経済とその崩壊、4. 小泉構造改革とアベノミクス」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	章末の問題（2）（3）について、自分なりの説明をまとめる。 初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し、期末テストの準備をする。	180分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
特に条件は無し。経済学の基本から学ぶため、高校生の時やこれまでに政治経済を学んだことがなくても問題は無い。経済学Ⅰも併せて履修すると、より楽しく学べるだろう。

【授業方法】
【授業区分】にしたがって講義形式で進める。授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えている。定期試験の解説は試験終了後、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない。授業で使用する教材については、毎回ポータル等を通じて配布する。				

【オフィスアワー】	
木曜授業後（12:10～）に講堂で受け付けるが、事前に下記のアドレスにメールを送ること。hideaki_saito318@yahoo.co.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	【ガイダンス】経済学とは、	ガイダンス ・履修上の注意点、成績評価の方法等の説明 ・授業でどのようなことを学ぶのか	
		この回の到達目標	シラバスを熟読し、授業を受ける心構えを持つ。	
		事前学修	新聞やニュース等で経済について触れる。	60分
		事後学修	シラバスを読み返し、履修すべきか否かを考える。また、単位取得のための心構えをする。	180分
2	第一部 木9/24	【理論】産業連関表について、	国の経済規模を計ってみよう ・国民経済計算 ・産業連関表	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、産業連関表が読み取れるようにする。	
		事前学修	財が生産される過程を考える。	60分
		事後学修	産業連関表の見方を復習しておく。	180分
3	第一部 木10/1	【理論】国内総生産について、	「景気が良い」とはどういう状況だろう（1） ・GDPとは何か ・名目GDPと実質GDPの違い	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国内総生産の定義を説明できるようにする。	
		事前学修	国内総生産の意味を調べておく。	60分
		事後学修	名目と実質の違いを説明できるようにする。	180分
4	第一部 木10/8	【理論】景気循環について、	「景気が良い」とはどういう状況だろう（2） ・国民所得が変化する理由 ・景気の移り変わり	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、景気の局面を説明できるようにする。	
		事前学修	どんな時に景気が良いと感じるか考えてみる。	60分
		事後学修	景気循環を整理する。	180分
5	第一部 木10/15	【理論】国民所得の決定について、	国民所得をコントロールすることは可能か ・45度線分析を使った国民所得の決定	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民所得決定過程を理解する。	
		事前学修	三面等価の原則を思い出しておく。	60分
		事後学修	国民所得決定過程ををグラフを使って説明できるようにする。	180分
6	第一部 木10/22	【理論】IS-LM分析、	国民所得を増やす方法を考えてみよう（1） ・財市場とIS曲線	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、IS曲線の表すものを理解する。	
		事前学修	GDPの構成要素を確認しておく。	60分
		事後学修	IS曲線の求め方を復習し、自分で導出できるようにする。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	【理論】IS-LM分析.	国民所得を増やす方法を考えてみよう（2） ・財政の仕組みと財政政策	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政政策を理解する.	
		事前学修	政府の目的と役割を思い出しておく.	60分
		事後学修	財政政策の効果と弊害を確認する.	180分
8	第一部 木11/5	【理論】貨幣の役割について.	お金の持っている機能と役割を知ろう ・貨幣がもたらす影響	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣の特徴と機能を理解する.	
		事前学修	貨幣の種類を調べておく.	60分
		事後学修	貨幣の機能を復習しておく.	180分
9	第一部 木11/12	【理論】IS-LM分析.	別の方法で国民所得を増やしてみよう（1） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、LM曲線の表すものを理解する.	
		事前学修	貨幣需要と貨幣供給の意味を調べておく.	60分
		事後学修	LM曲線の導出方法を復習する.	180分
10	第一部 木11/19	【理論】IS-LM分析.	別の方法で国民所得を増やしてみよう（2） ・IS曲線とLM曲線の統合	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グラフを利用して均衡国民所得と均衡利子率を図示できるようにする。 到達目標③④に関連して、国民所得を増加させる方法を説明できるようにする.	
		事前学修	IS曲線とLM曲線の求め方を確認しておく.	60分
		事後学修	均衡利子率と均衡国民所得を求められるようにする.	180分
11	第一部 木12/3	【現象】公債について.	日本が抱えている問題を知ろう ・公債とは何か ・公債発行の弊害	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の財政状況を理解する.	
		事前学修	公債の種類を調べておく.	60分
		事後学修	公債は誰の負担になるか説明できるようにする.	180分
12	第一部 木12/10	【理論】租税について.	稼いだお金はすべて自分のものか（1） ・租税とは何か ・租税原則	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政府が租税を徴収する根拠を理解する.	
		事前学修	日本にある租税を調べておく.	60分
		事後学修	租税原則を確認し、問題点は無いか考える.	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	【理論】身近な租税について.	稼いだお金はすべて自分のものか（2） ・所得税と住民税の仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，所得税と住民税の構造を理解する.	
		事前学修	所得，課税対象所得とは何か調べておく.	60分
		事後学修	所得税の問題点を整理しておく.	180分
14	第一部 木12/24	【理論】身近な租税について.	稼いだお金はすべて自分のものか（3） ・消費税の仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，消費税の構造を理解する.	
		事前学修	身近にある消費税がかかる財・サービスを考える.	60分
		事後学修	消費税の納税先を確認する.	180分
15	第一部 木1/14	【総括】後期授業の復習.	授業のまとめと復習 ・授業の復習 ・試験準備のポイント説明	
		この回の到達目標	後学期末試験に向けてこれまでの授業を復習し，理解を深める.	
		事前学修	第2回～第14回の内容を振り返る.	60分
		事後学修	これまでの内容を復習して，試験に備える.	180分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。なお、授業中に小テストを数回実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 経済学入門 [第2版]	楠谷清・川又祐	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	国民所得のさまざまな概念 (1)	1 国民所得 3 国内総生産	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、付加価値の概念を使って国内総生産について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「付加価値」と「国内総生産（GDP）」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
2	第一部 水9/23	国民所得のさまざまな概念 (2)	2 三面等価の原則 4 名目と実質	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、三面等価の原則および名目GDPと実質GDPの違いについて説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「三面等価の原則」と「名目GDP」、「実質GDP」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
3	第一部 水9/30	均衡国民所得の決定(1)	1 有効需要の原理 2 消費、投資と乗数効果の関係(1) 総需要とケインズ型消費関数	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、ケインズ型消費関数と可処分所得の関係について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「ケインズ型消費関数」と「限界消費性向」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
4	第一部 水10/7	均衡国民所得の決定(2)	2 消費、投資と乗数効果の関係(2) 乗数効果	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、乗数効果（メカニズム）について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「乗数」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
5	第一部 水10/14	均衡国民所得の決定(3)	3 政府支出拡大と減税の効果	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、政府支出拡大および減税が均衡国民所得に与える効果について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「均衡国民所得」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
6	第一部 水10/21	金融論の基礎(1)	1 金融とは	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、金融システムと金融の役割について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「金融の役割」と「直接金融と間接金融の違い」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	金融論の基礎(2)	2 貨幣とは 3 金利とは	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、貨幣の機能および金利と債券価格について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「貨幣の機能」および金利と債券価格の関係を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
8	第一部 水11/11	財政学の基礎(1)	1 政府の経済活動 2 財政	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政府の経済活動と財政の3機能について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「資源配分」と「所得再分配」、「経済安定化」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
9	第一部 水11/18	財政学の基礎(2)	3 日本の財政問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の財政状況と今後の課題について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
10	第一部 水11/25	公共経済学の基礎(1)	1 公共経済学とは何か 2 市場の機能と失敗	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、市場の機能と市場が失敗する4つのケースについて説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「市場の失敗」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
11	第一部 水12/2	公共経済学の基礎(2)	3 公共財の供給 4 外部性 5 自然独占 6 公共経済学が扱うその他のテーマ	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、公共財と外部性、自然独占について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「公共財」と「外部性」、「自然独占」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
12	第一部 水12/9	国際経済学の基礎(1)	1 国際貿易の基礎理論	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自由貿易均衡や比較優位を通して貿易の経済効果について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「自由貿易均衡」と「比較優位」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	国際経済学の基礎(2)	2 外国為替制度と国際収支	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、為替レートと貿易や金融取引、国際収支の関係について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、為替レートと輸出入の関係を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
14	第一部 水12/23	日本経済論	1 占領政策と戦後復興 2 高度経済成長とその終焉（石油危機） 3 バブル経済とその崩壊 4 小泉構造改革とアベノミクス	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、戦後からアベノミクスまでの日本経済の流れについて説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
15	第一部 水1/13	まとめ	ここまでの内容の確認と復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学と財政学、公共経済学、国際経済学、日本経済論がどのようなものか説明できる。	
		事前学修	教科書の6章から12章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
		事後学修	これまでの内容を整理して、定期試験の準備を行う。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していること。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み(12:20～12:50)研究室にて、事前にアポイントメントを取ること

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9月21日	国民所得のさまざまな概念	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。	
		事前学修	教科書(第6章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
3	9月28日	均衡国民所得の決定(1)	総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを説明できる。	
		事前学修	教科書(第7章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
4	10月5日	均衡国民所得の決定(2)	国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって説明できる。	
		事前学修	教科書(第7章3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
5	10月12日	貨幣と金融(1)	貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲から学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲を説明できる。	
		事前学修	教科書(第8章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
6	10月19日	貨幣と金融(2)	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類について説明できる。	
		事前学修	教科書(第8章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	IS-LM分析と財政・金融政策(1)	財市場と金融市場の相互作用を同時に捉えることによって、国民所得の決定を分析するIS-LM分析について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財市場と金融市場の相互作用を同時に捉えることによって、国民所得の決定を分析するIS-LM分析を説明できる。	
		事前学修	教科書(第9章1節、2節、3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
8	11月9日	IS-LM分析と財政・金融政策(2)	財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を学習し、IS-LM分析によって、財政政策と金融政策の効果の違いを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を説明できる。また、IS-LM分析によって、財政政策と金融政策の効果の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第9章4節、5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
9	11月16日	財政学の基礎	財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について説明できる。	
		事前学修	教科書(第10章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
10	11月23日	公共経済学の基礎(1)	市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。	
		事前学修	教科書(第11章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
11	11月30日	公共経済学の基礎(2)	どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのかを学習し、どのような調整策があるかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのか、さらに、どのような調整策があるかを説明できる。	
		事前学修	教科書(第11章3節、4節、5節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
12	12月7日	日本経済論	日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。	
		事前学修	教科書(第12章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	国際経済学入門(1)	国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を説明できる。	
		事前学修	教科書(第13章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
14	12月21日	国際経済学入門(2)	オープンマクロ経済政策として、マンデル=フレミングモデルを学習し、財政政策の効果と金融政策の効果の違いを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オープンマクロ経済政策として、マンデル=フレミングモデルを通じて、財政政策の効果と金融政策の効果の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第13章3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
15	1月18日	講義のまとめ	講義のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
		事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。	120分
		事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
講義の方法を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。						1						
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。							1					
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。								1				
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法解釈論	設楽裕文	八千代出版	2020年	教科書	必携
刑法の目的と解釈	設楽裕文	八千代出版	2019年	教科書	必携
N e x t 教科書シリーズ刑法総論	設楽裕文＝南部篤編	弘文堂	2018年	教科書	必携
現代の判例と刑法理論の展開	板倉宏監修・著	八千代出版	2014年	教科書	必携
法学刑法 5 判例インデックス1000 〈コンメンタール〉	設楽裕文編	信山社	2012年	その他	推奨
備考	『刑法解釈論』は、2020年5月中旬刊行予定である。				

【オフィスアワー】
水曜日及び金曜日（１６：１０）授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	序論	刑法の学びの必要性 刑法の基礎 刑法の目的と解釈	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	『N e x t 教科書シリーズ刑法総論』の序論及び第1章～第2章、『刑法の目的と解釈』の第1章、『刑法解釈論』の第1編を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
2	9/18	刑法の基礎と基本原則	罪刑法定主義と責任主義 罪刑法定主義と刑法の解釈 児童ポルノ変換URL掲載事件（本シラバス記載の事件・事故は『現代の判例と刑法理論の展開』に掲載されている）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
3	9/23	刑法の基本原則と明確性の原則	罪刑法定主義と明確性の原則 世田谷区清掃・リサイクル条例事件	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
4	9/25	犯罪論の概要	犯罪論概説 構成要件該当性（実行行為・因果関係・結果） 違法性 責任	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
5	9/30	構成要件該当性(1)	構成要件該当性と構成要件 実行行為の意義 行為論 実行行為と危険性	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
6	10/2	構成要件該当性(2)	複数の行為と実行行為 実行行為の開始と終了 実行行為の終了と所為の終了 早すぎた構成要件実現 クロロホルム事件 遅すぎた結果の発生	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/7	構成要件該当性(3)	他人の行為を利用する実行と間接正犯 薬事法違反広告事件 不作為による実行と不真正不作為犯	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
8	10/9	構成要件該当性(4)	因果関係の意義 条件関係の諸問題	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
9	10/14	構成要件該当性(5)	相当因果関係と危険の現実化説 航空管制官の誤指示事件 被害者の同意と構成要件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
10	10/16	違法性(1)	違法性及び違法性阻却事由の本質 可罰的違法性	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
11	10/21	違法性(2)	正当行為（35条） 法令行為 正当業務行為 その他の正当行為 取材活動と正当行為 鑑定人秘密漏示事件 被害者の同意 治療行為の中止 協同病院事件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
12	10/23	違法性(3)	正当防衛（36条1項） 正当防衛の要件 過剰防衛 第三者の法益の侵害と正当防衛	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10 /28	違法性(4)	複数の反撃と正当防衛・過剰防衛 灰皿投げつけ事件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
14	10 /30	違法性(5)	緊急避難（37条1項本文） 違法性阻却事由に関する錯誤 誤想防衛 誤想過剰防衛	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
15	11/6	責任(1)	責任論総説 故意の意義 意味の認識と故意 違法性の意識と故意	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
16	11 /11	責任(2)	事実の錯誤の意義 事実の錯誤と違法性の錯誤 具体的事実の錯誤 抽象的事実の錯誤 法定的符合説	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
17	11 /13	責任(3)	過失の意義 予見可能性と注意義務 企業活動と過失犯 尼崎 J R 脱線事件 ハブ破損事故	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
18	11 /18	責任(4)	責任能力 刑事未成年 原因において自由な行為 期待可能性	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11 /20	未遂犯	未遂犯 実行の着手 中止未遂	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
20	11 /25	共犯(1)	共犯の意義・種類 共犯の処罰根拠	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
21	11 /27	共犯(2)	共同正犯の意義・要件 共謀共同正犯 スワット事件 過失犯の共同正犯	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
22	12/2	共犯(3)	承継的共同正犯 傷害重篤化事件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
23	12/4	共犯(4)	教唆犯 未遂の教唆 従犯 幫助の因果性	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
24	12/9	共犯(5)	中立的行為の幫助 ウイニー事件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12 /11	共犯(6)	離脱による共犯関係の解消 強盗着手前立去り事件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
26	12 /16	共犯(7)	不作為と共犯 予備罪と共犯	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
27	12 /18	共犯(8)	共犯と身分 65条と真正身分犯・不真正身分犯 非占有者の業務上横領への関与	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
28	12 /23	罪数	罪数 単純一罪 法条競合 包括一罪 科刑上一罪（54条1項） 併合罪	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
29	12 /25	刑罰論	刑罰の本質 刑の適用・執行・消滅	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
30	1/13	刑法の適用範囲 授業のまとめ	刑法の場所的・時間的適用範囲 外国判決の効力 刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用するために必要なこと 解釈・適用の思考過程を的確に文章に表現する方法	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。 教科書を読み返して知識を整理し、試験に備える。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	南部 篤	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について、その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し、その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために、犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し、刑法固有の理念を修得し、今日的課題について考察する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
テキストに沿って進める。但し、テーマの重要度、難易度に応じて割愛、要約、補足説明を行うことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者に対し、授業における議論への積極的参加を促し発言を求めるほか、課題を示して能動的な取り組みを行うよう導いて行く。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。						1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。							1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。								1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての刑法総論への理解および知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	40	30	20	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説・講評は，実施後の翌授業期日に行い，それが困難な場合および定期試験のそれはポータルシステム等を用いて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ネクスト教科書シリーズ・刑法総論	設楽裕文＝南部篤編	弘文堂	発行予定		
備考	教科書の版，刷が改められた場合は，開講時現在で最新のものを準備すること。				

【オフィスアワー】
金曜日，12時10分から13時まで，事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
1	9/17	刑法の基礎・刑法の意義と役割		刑罰制度と「刑法」の意義、刑法はどのような役割をはたしているのか、他の法分野とのちがいはどうかについて検討を行う。	
		この回の到達目標	刑法は何のためにあり、実際にいかなる仕組みを通じてどのような働きをしているのかを、自分の言葉で説明し、これについての意見を述べることができる。		
		事前学修	もし、窃盗や殺人、放火などが罰せられず放任されるとしたら世界はどうか、また、どんな行為が罰せられるか、まったく分からない世界で生きていかなければならないとらどうか、想像してみること。		
		事後学修	法は権利や利益を保護するためにあるが、民法やその他の法分野と比べ、刑法はいかなる意味で権利・利益を保護しているのか、その特徴は何かを整理し確認する。		
2	9/18	刑法の基礎・刑法学修の出发点		刑事法の中の刑法の位置について、刑事訴訟法や少年法、刑事収容施設法、更生保護法などとの関係を検討し、また刑法各論と対比し刑法「総論」の意味を確認する。	
		この回の到達目標	刑法とはどんな法で、どのような特徴をもつものなのか、実体法として他の刑事法と有機的に関係することにより刑事司法制度を形づくっていることの意味を説明することができる。		
		事前学修	六法を開き、刑事法分野に属する法令をながめ、どのように分類され、体系的に整理されているか考えうえで授業に臨むこと。		
		事後学修	刑事実体、刑事手続法、矯正保護法の三分類に属する各種法律を確認し、刑法総則と各則の関係、刑法総則の地位について確認する。		
3	9/24	刑罰の意義と内容		刑罰の種類・内容など刑罰制度の概要と、行政処分や損害賠償等の他の法的統制手段との関係を検討する。	
		この回の到達目標	刑罰の種類・軽重と個々の刑の内容を説明し、法的統制手段としての刑罰固有の性格を説明することができる。		
		事前学修	刑罰の種類と定義に関する条文に目を通し、疑問に思った点を挙げておくこと。		
		事後学修	行政処分等と比べ、刑罰の最も大きな特徴は何か、また各種刑罰の性格について文章にまとめ確認する。		
4	9/25	刑罰制度の正当化根拠		害悪の賦課を内容とする刑罰制度について、国家はなぜ刑罰の名の下に犯罪者の生命や自由、財産を剥奪することができるのかを検討する。	
		この回の到達目標	刑罰を純粹に自己目的的な正義の実現ととらえる絶対的応報の観念から説明づける見解から、その対局にある教育刑論、そして本質は応報でありながら犯罪抑止の効果を有する限度で正当化を考える相対的応報刑論、こうした議論を整理し説明することができる。		
		事前学修	国家の手による刑罰も、犯人の生命・自由・財産という利益を奪う点で「法益の侵害」と共通の性格を有する。これをどう説明するか、自分なりの見解をまとめたうえで授業に臨むこと。		
		事後学修	絶対的応報刑と相対的応報刑、一般予防と特別予防、との関係を整理しておく。		
5	10/1	死刑制度論		死刑制度について、死刑の存廃をめぐる古くて新しい議論を概観し、今日、真に問題とすべき課題がどこにあるか、冷静な検討を試みる。	
		この回の到達目標	死刑制度について、死刑は人道に反する、誤判の可能性を絶無になしえない以上直ちに廃止すべきである、といった検証不能な主張や水掛け論に陥る議論ではなく、		
		事前学修	わが国で死刑が言い渡される件数、執行される件数を調べてみること。		
		事後学修	直観的・情緒的な議論を除き、死刑存廃に関するさまざまな意見を整理し、授業で取り上げた内容をふまえ、両論を対比し自分なりの一覧表を作成してみる。		
6	10/2	刑法の基本原則		刑法を支配する基本原則である罪刑法定主義に関し、その沿革、自由主義的側面と民主主義的側面、多様な派生原則について検討する。	
		この回の到達目標	罪刑法定主義の趣旨と内容、罪刑法定主義が問題となった判例の態度について、批判的に検討を加え、自己の見解を述べることができる。		
		事前学修	罪刑法定主義の否定は何をもたらすか、考察した上で授業に臨むこと。		
		事後学修	罪刑法定主義の背景にある自由主義的要求と民主主義的要求、マグナカルタ以来の歴史的沿革、各種の派生原則などにつき整理・確認を行う。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/8	刑法の政策的基礎	刑法の政策的基礎（刑罰制度の基盤をなすもの）として、法益保護の原則（「法益なければ処罰なし」）と、責任主義の原則（何人も自己の非難に値する行為によらなければ刑罰を科せられない）を明らかにし、詳細な検討を加える。	
		この回の到達目標	刑法の主たる任務が法益の保護にあること、および、非難可能性の認められないところに処罰を行うことはゆるされない、とされることの意味をただしく説明することができる。	
		事前学修	利益と法益と権利、これら三つの概念の異同を辞典、参考書等で調べ、考えてみること。	120分
		事後学修	結果責任主義と団体責任主義に基づく刑事責任の追及が行われた前近代と比べ、非難可能性を刑罰の不可欠の要件とし、個人責任主義の徹底を図る今日の考え方を対比し、確認しておく。	120分
8	10/9	刑法学説の発展と学説	刑法学説史の変遷と近代刑法学の発展について、新派と古典派、現代社会と刑法理論の課題を検討する。	
		この回の到達目標	刑法学の歴史の中で、近代派の主張がどのようなものであったのか、そして近代派の批判による激しい対立状況から生み出されたものが何であったのかを説明することができる。	
		事前学修	犯罪は行為者の悪い性格の一つの表れに過ぎず、未遂と既遂も本質的違いはなく、暴行、器物損壊、公務執行妨害も細かく区別して論じる必要はないとの考えをどう思うか、考察を試みること。	120分
		事後学修	新派刑法学は、それまでの古典派の考え方に対する批判に端を発した学説であるが、どのような点で古典派は批判されたのか、まとめてみる。	120分
9	10/15	刑法理論の今日的課題	自然犯と法定犯とは、非犯罪化論の是非、法人の犯罪と法人の処罰をめぐる争いなど、刑法理論が直面する今日的課題について検討する。	
		この回の到達目標	自然犯法定犯区別説に対する批判的考察、また非犯罪化論の実体は何であったかを説明し、法人の犯罪主体性を否定し法人に対する刑法的統制に消極的なわが国の刑法に関して、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	さまざまな犯罪の中には、今日、あえて刑罰の対象とする必要性が乏しくなったものもあるとの指摘が行われたことがある。刑法典のなかにあるどの犯罪がそれにあたるかを考えてみる。	140分
		事後学修	各種犯罪を自然犯と法定犯とに分けて論じる見解に合理性はあるか、また、自然人のみを刑罰の名宛人とする現行刑法典のあり方は妥当か、自身の見解をまとめてみる。	100分
10	10/16	犯罪の成立要件	犯罪成立要件の全体をながめ、刑法学はなぜ煩雑な法解釈問題に拘り、難解な理論構築を志向するのかをふまえた上で、三分体系を採るわが国刑法学の特徴的な思考方法を検討する。	
		この回の到達目標	ある行為について犯罪が成立するか否かは、直感的な判断を排し、一回的な判断でもなく、構成要件該当性・違法性・有責性の三点の具備、すなわち違法な構成要件該当行為をしたことにつき行為者が有責であることの確認による、ということの意味を説明することができる。	
		事前学修	いかなる場合に犯罪は成立し、成立が妨げられるのか、刑法がきわめて慎重な判断をすることとしている理由は何か、考察したうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	三分体系のメリットとデメリットについて整理し確認する。	120分
11	10/22	構成要件とは何か	犯罪成立要件の構造と特徴、構成要件の客観的要素と主観的要素、構成要件の機能、構成要件と違法性、有責性との関係等につき検討する。	
		この回の到達目標	構成要件はどのような要素からなるか、客観的要素と主観的要素との関係はどうか、構成要件はいかなる機能を有するか、構成要件は違法行為類型であり有責行為類型でもあるとはいかなる意味かを説明することができる。	
		事前学修	犯罪成立要件と構成要件との関係はどうか、考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	客観的構成要件要素および主観的構成要件要素をなすものをすべて挙げ、一覧表にするなどして整理確認する。	120分
12	10/23	構成要件該当性	不作為犯をめぐる諸問題、とくに作為と不作為、行為とは何か、真正不作為犯と不真正不作為犯、不真正不作為犯の成立要件について検討する。	
		この回の到達目標	不真正不作為犯の成立を認めた判例をあげ、その問題点を説明し、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	作為とは何か、不作為とは何か、行為とは何か、考察してみること。	110分
		事後学修	不作為犯、とりわけ不真正不作為犯の成立要件について整理・確認し、放火罪に関する判例を検討しておく。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	10/29	正犯と共犯の基礎		構成要件該当性の観点から、正犯構成要件に該当する正犯の実行行為、そして正犯以外の方法で関与する共犯の行為を検討し、正犯と共犯・直接正犯と間接正犯・正犯のメルクマールについての考察を行う。
		この回の到達目標	正犯とは自ら犯罪を実行する者をいい、共犯とは正犯以外の方法で正犯行為に関与する者をいうが、直接正犯・間接正犯の区別、正犯と教唆犯・幫助犯の区別、正犯の基準をどう考えるべきか、について整理し説明することができる。	
		事前学修	自ら手を汚して犯罪を実行する場合と、他人の犯罪に間接的に関わる場合とではその罪悪性にどのような違いがあるか考えてみること。	120分
		事後学修	正犯の概念をめぐる理論刑法学上の議論を整理しておく。	120分
14	10/30	刑法における因果関係		刑法における因果関係論の意義、条件説の提唱した条件関係の意義、条件説への批判と相当因果関係説の登場、相当因果関係説内部の対立、相当因果関係説の危機から因果関係の処理に関する新しいアプローチ、について検討する。
		この回の到達目標	従来の因果関係に関する理論状況を整理した上で、当該行為のもつ危険が結果に現実化したものとみられるか否かという判断方法を採用する判例の思考方法を説明することができる。	
		事前学修	ある行為と発生した被害との間に原因・結果の関係が認められなければ、その結果は行為者のしわざとはいえない、とされるのはなぜか、考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	因果関係の有無が問題とされた最高裁判例を検討し、判例がどのような基準に立って判断しているかを整理し確認する。	120分
15	11/5	違法性論の基礎		違法性とは何か、違法性の本質、主観的違法性論と客観的違法性論、結果無価値論と行為無価値論などの違法性論の基礎を検討する。
		この回の到達目標	犯罪は違法な行為であるが、その違法性という評価が、構成要件該当性と、また有責性とどのような関係を有するかを整理したうえで、違法性の本質を説明することができる。	
		事前学修	法に違反する性質を意味する「違法性」とは実質的には何を意味するのか、考察した上で授業に臨むこと。	140分
		事後学修	形式的違法・実質的違法、主観的違法正論・客観的違法正論、行為無価値論・結果無価値論、これらの違法性の本質をめぐる議論を整理しておく。	100分
16	11/6	違法性の阻却		違法性阻却事由と違法性阻却の原理を検討する。
		この回の到達目標	正当防衛、緊急避難、ならびに法令行為、正当業務行為および超法規的違法阻却事由について、個々の違法性阻却事由の要件を検討し、違法性阻却の意義と原理とを説明することができる。	
		事前学修	正当防衛が認められやすい社会状況と、認められにくい状況とを対比して、どのような点があるかその違いをもたらしすかを検討してみる。	120分
		事後学修	刑法35条を拠り所とする違法阻却の場合にはどのようなものがあるか、整理し確認しておく。	120分
17	11/12	緊急正当行為		正当防衛と緊急避難とを対比しつつ検討を加える。
		この回の到達目標	正当防衛と緊急避難とを比較し、両者がいかなる共通点を有し、相違点はどのようなものかについて、また正当防衛に関する近時の判例の動向を説明することができる。	
		事前学修	正当防衛と緊急避難の意義と要件とを整理し、両者の共通点と相違点について考えた上で授業に臨むこと。	110分
		事後学修	違法性阻却事由に関する刑法35条・36条・37条の規定の意義と内容を整理し確認する。	130分
18	11/13	責任論の基礎		刑法における違法評価と責任評価との関係をふまえたうえで、期待可能性の概念と規範的責任論の発展について検討する。
		この回の到達目標	犯罪成立の不可欠の要素としての責任が非難可能性を意味するものであり、非難は他行為可能性が認められて初めて可能になる（それに基づき刑罰を科しうる）という近代刑法の基盤にある考え方を具体例を挙げ説明することができる。	
		事前学修	自分の行為が原因で他人に被害が生じたとき、それが不可抗力であって自分に何の落ち度もないのに、厳しい非難にさらされた場合、どうこたえるか、熟慮してみたうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	責任、非難可能性、他行為可能性、期待可能性のそれぞれの意味と関係、位置づけ、また心理的責任論から規範的責任論への近代的責任概念の発展、これらについて整理・検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/19	責任領域の諸問題	故意と過失、責任能力、心神喪失と心神耗弱、刑事未成年という責任領域の諸問題について検討する。	
		この回の到達目標	刑法が故意犯処罰を原則とし、過失犯処罰を例外としていることの理由、また、犯罪が成立するためには責任能力が不可欠であることの理由について説明することができる。	
		事前学修	どんなに凶悪残忍な態様で多数の人命を奪う等しても、心神喪失にあたる場合は絶対に処罰できない。なぜか。自分なりの答えを見出すまで考えてみること。	140分
		事後学修	心神喪失・心神耗弱の意義、刑事未成年の意義、原因において自由な行為、これらの意義と問題点について整理し、まとめる。	100分
20	11/20	故意論	故意の体系的地位、故意の内容、確定的故意と不確定的故意、故意と過失との限界について検討を加える。	
		この回の到達目標	故意は構成要件・違法・有責のいずれに属する要素か、また、不確定的故意とは何か、未必の故意と認識のある過失との区別の基準をどのように考えるべきかについて説明することができる。	
		事前学修	わざとやった場合＝故意の結果惹起と、うっかりやってしまった場合＝過失の結果惹起とでは、その重大性がきわめて大きく異なる、と考えるのはなぜか、考察した上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	確定的故意と不確定的故意、概括的・択一的・未必的故意の異同、認識説と意思説、認容説と蓋然性説をめぐる議論、故意と過失との分水嶺、こうした諸点を分析整理しまとめる。	120分
21	11/27	事実の錯誤	事実の錯誤を具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤に大別し、具体的事実の錯誤をさらに客体の錯誤・方法の錯誤・因果関係の錯誤とに分類し、抽象的事実の錯誤について構成要件的符合の観点から判断する等、事実の錯誤の処理について総合的に検討する。	
		この回の到達目標	法律の錯誤（違法性の錯誤）と対比して事実の錯誤の性格を論じ、錯誤が具体的事実の点にとどまる場合と、抽象化した事実におよぶ場合との違いをふまえ、とくに方法の錯誤の処理に関し具体的符合説と法定的符合説の対立について説明することができる。	
		事前学修	犯人が①殺そうとした人を誤って別人と取り違え撃ち殺してしまったとき、②撃った弾が逸れ物陰の別人にあたって死亡させてしまったとき、罪責に違いが生じるか、考えてみること。	100分
		事後学修	具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤のちがい、客体・方法・因果関係の錯誤のちがいとその罪責への影響、具体的符合説と法定的符合説、故意の個数の問題、これらを整理しておく。	140分
22	12/3	法律の錯誤	事実の錯誤と対比して法律の錯誤（違法性の錯誤）の区別を論じ、厳格故意説と制限故意説の対立の性格、故意説と責任説との対立、故意と違法性の意識、違法性の意識の可能性について検討する。	
		この回の到達目標	事実自体の錯誤と事実についての評価に関する錯誤の違い、法の不知や、あてはめの錯誤の類型が故意の成立を妨げないのに対して、事実の評価の誤りに相当な理由が認められる場合は故意を阻却する余地のあることを、判例の事案を挙げて説明することができる。	
		事前学修	飼い犬を野犬だと思って撲殺してしまった場合と、飼い犬だが首輪もせず放し飼いなので処分しても罪に問われることはないと確信して撲殺した場合とで罪責は異なるか、考えてみること。	120分
		事後学修	法律の錯誤により違法性の意識を欠いた場合のうち、錯誤に無理もない（相当な）事情があり処罰が妨げられる場合とは具体的にどんなときか、判例を挙げて論じてみる。	120分
23	12/4	過失犯	故意犯と過失犯との比較をふまえ、過失犯の構造に関する刑事過失理論の変遷（旧過失論・新過失論・危惧感説）をながめ、予見可能性の内容と程度、信頼の原則、管理・監督過失の問題について検討する。	
		この回の到達目標	過失犯の実体を、法益侵害結果を予見できたのに行為に出て結果を惹起したことに求める旧過失論から、法益侵害結果を予見し、それに従って結果の発生を回避する適切な行動にでなかったことに求める新過失論への進化を説明し、そのような刑事過失理論の変遷の背景に何があったかを明らかにすることができる。	
		事前学修	わざとやったわけではなくとも、過失による人の死傷等の惹起は処罰される。なぜか。考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	旧過失論から新過失論、危惧感説へと発展する刑事過失理論と判例の動向を検討してみる。	120分
24	12/10	犯罪遂行の過程と刑法	犯行の決意から、共謀・準備、実行の着手、結果の発生へと至る、陰謀・予備罪、未遂犯、既遂犯という犯罪遂行のプロセスと刑法の干渉時期について検討する。	
		この回の到達目標	近代刑法は犯行の決意の段階で干渉することはありえず、陰謀の段階で処罰するのも稀有の例外、予備はごく限られた重大犯罪に限定され、多くの犯罪は未遂以降を処罰時期とし、既遂になってはじめて罰する類型もあるが、こうした処罰時期の差異は何に由来するかを説明することができる。	
		事前学修	犯罪が未遂に終わって被害が発生していないのに、多くの犯罪についてなぜ未遂犯として処罰する必要があるのか、考えてみること。	140分
		事後学修	刑法は、さまざまな犯罪類型において既遂のみを罰するものから、未遂をも罰する、あるいは少数ではあるが予備をも罰する、さらに早期の段階、陰謀を捕捉するものもある。その理由を考察する。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	12/11	未遂犯		未遂犯の要件、実行の着手の意義、障害未遂と中止未遂、中止未遂の意義と要件、および不能犯について検討を加える。
		この回の到達目標	未遂犯の意義と要件をふまえ、実行の着手時期について、また中止未遂の成立要件についての判例の見解を説明し、また、不能犯の判断基準に関する判例と学説の考え方を示して自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	殺人の用途でピストルを準備した段階（予備）と、それを被害者に向け引き金を引こうとした時点（未遂）とを比べると刑罰の重さに著しい違いがある。なぜかを考えてみること。	100分
		事後学修	中止未遂が寛大に扱われる理由は何か、中止が認められる要件はどうか、整理しておく。	140分
26	12/17	共犯の基礎		必要的共犯と任意的共犯、共同正犯と狭義の共犯（教唆犯・従犯）との区別をふまえ、正犯と対比して共犯の性格を論じ、共犯の処罰根拠、個々の共犯の要件、一部実行・全部責任の法理について検討する。
		この回の到達目標	総則の共犯について、正犯との違い、その処罰根拠をなにに求めるか、一部実行・全部責任の法理とは何か、教唆犯と従犯それぞれの成立要件、共同正犯の特徴、共謀共同正犯の成立要件について説明することができる。	
		事前学修	共犯者としての犯罪への関りにはどのような形態が考えられるか、検討したうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	共犯における「一部実行・全部責任の法理」とは何か、自分で事例を挙げて説明を試みる文章を書いてみる。	120分
27	12/18	共犯の諸問題		正犯（直接正犯・間接正犯）と共犯、共犯の従属性（実行従属性・要素従属性・罪名従属性）、承継的共犯、片面的共犯等共犯をめぐる諸問題について検討する。
		この回の到達目標	共犯の正犯との対比、共犯独立性説と従属性説、従属性の内容（実行、要素、罪名の従属性）について、また承継的共犯、片面的共犯、過失犯の共犯について説明することができる。	
		事前学修	盗みをするよう唆したが、唆された者が応じなかった場合、いったん窃盗を決意したが思い返し実行に出なかった場合、実行に出たが発見されて盗めなかった場合、これらの罪責はどうか、考えてみること。	120分
		事後学修	共犯の従属性につき、実行・罪名・要素の各従属性を説明し、それぞれ判例がどう考えているかを確認しておく。	120分
28	12/24	罪数論		犯罪の個数はどのような基準により決するべきかに関し、行為、故意、法益等の罪数決定標準を用いること、また、単純一罪、法条競合、包括一罪等の概念にしたがって判断することを検討する。
		この回の到達目標	一罪の成立を導く法条競合と包括一罪の概念について説明し、加えて、判例がどのような判断を示しているかを説明することができる。	
		事前学修	泥棒がA宅に侵入、書斎にあったAの財布を盗り、次いで子供Bの部屋から貯金箱を、さらに居間のダンスから妻Cのヘソクリ5万円を盗んだとき、窃盗罪は何個成立するか、考えてみること。	100分
		事後学修	単純一罪、法条競合、包括一罪、科刑上一罪、併合罪、単純数罪、これらの分類・整理を確認し、体系的理解を確かなものにしておく。	140分
29	12/25	科刑処理論		複数の犯罪が成立する場合の科刑処理に関し、科刑上一罪、併合罪について検討を加える。
		この回の到達目標	複数の犯罪が成立するとき、行為者に科すべき刑をどのように導き出すかに関し、科刑上一罪、併合罪による科刑処理について説明することができる。	
		事前学修	窃盗罪の懲役刑の上限は10年であるが、空き巣を繰り返し計10件の窃盗について起訴された犯人に科せられる懲役刑は最長何年になるか、10年か、100年か、それとも？この点を考えてみた上で授業に臨むこと。	130分
		事後学修	法定刑⇒処断刑⇒宣告刑⇒執行刑という量刑と刑の宣告手続はどのように行われるか、とりわけ処断刑を導き出す処理はどうか、整理し確認しておく。	110分
30	1/14	刑罰の適用		執行猶予、仮釈放、刑の加重減免、刑の時効など刑罰執行上の諸問題について検討する。
		この回の到達目標	執行猶予制度の趣旨と内容、また仮釈放制度はどのような役割を果たしているかについて、刑事政策的意義をふまえた説明をすることができる。	
		事前学修	執行猶予とはどのような制度で、何のためにあるのかを考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	微罪処分、起訴猶予、宣告猶予（立法論）、執行猶予（一部執行猶予を含む）、仮釈放のそれぞれの意義と関係、制度の趣旨の理解を確かなものにしておく。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について、その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し、その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために、犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し、刑法固有の理念を修得し、今日的課題について考察する。

【履修条件】
刑法を学問することに関心のある人は、ぜひ履修していただきたい。ただし、毎回六法をもってくるのがおっくうな人、継続的に講義に参加する姿勢のない人は、履修を遠慮いただきたい。小事に忠実なことが大成につながると思う。

【授業方法】
テキストの内容を踏まえたレジュメを用意し講義する。なお、今回のシラバスから事前学習と事後学習の欄が設けられた。その理由は開講時に説明する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。					1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。						1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。							1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。					1	1	1		1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての刑法総論への理解および知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	40	30	20	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験についてはメールにて講評を試験終了後に送付する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『講義刑法学総論（第2版）』	井田良	有斐閣	2018		
備考					

【オフィスアワー】
平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）におりますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ（授業時間は除く）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4月6日	刑法の存在理由と機能	刑法は、刑罰という峻厳な制裁を用いる以上、その存在理由について説得的な説明ができなければ人々の支持されないことであろう。刑法の存在理由について学ぶ。	
		この回の到達目標	刑法の存在理由が犯罪の予防にあること、特にそれが法益保護に向けられるべきことを学ぶ。	
		事前学修	はじがき、第1編1章を読み、理解できないところメモ書きする。	120分
		事後学修	行為規範を用いた法益保護の仕組みを500字程度にまとめる。	120分
2	第一部金 4月10日	刑法の基本原則	刑罰という厳しい制裁手段を用いるところに刑法の特色がある。これが出鱈目に用いられては、刑法は国民弾圧の手段と化する。刑法によって立つべき基本原則について概観する。	
		この回の到達目標	行為責任主義の意義、罪刑法定主義の自由主義的側面と民主主義的側面について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	第1編2章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	罪刑法定主義の歴史的背景について500字程度で説明してみる。	120分
3	第一部月 4月13日	刑法、刑法典、刑罰法規	刑法を解釈することだけでなく、それがどう制定されるべきかについて考察する。	
		この回の到達目標	日本刑法の歴史とその特徴を学ぶとともに、それを解釈適用する際に注意すべきことについて説明することができるようになる。	
		事前学修	第1編3章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	刑法の構造について500字程度で説明できるようにする。	120分
4	第一部金 4月17日	犯罪論の基礎理論	犯罪の本質とは何か、犯罪が成立するためにはいかなる要件をクリアする必要があるのかを考察するところに、犯罪論の意義があり、これが研究の対象となる。犯罪論の全体像について学ぶ。	
		この回の到達目標	構成要件該当性、違法性、有責性の意義について理解するとともに、違法性をめぐる結果無価値論と行為無価値論の対立はいったい何をめぐる対立なのかを考察する。	
		事前学修	第2編4章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	結果無価値論と行為無価値論とはそれぞれどのような見解か、500字程度でまとめる。	120分
5	第一部月 4月20日	構成要件	構成要件該当性は犯罪論の第一関門であり、行為がいかなる刑罰法規に該当するのかを判断する役目を負っている。このことの意義について考える。	
		この回の到達目標	犯罪論体系における構成要件該当性の判断は罪刑法定主義と密接に関連していることを学ぶとともに、構成要件の種類について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編5章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	犯罪の成立要件について500字程度で説明せよ。	120分
6	第一部金 4月24日	結果と因果関係	行為によって結果が発生したならば、その結果について責任を負うべきだとすることは、結果責任主義に陥る恐れがある。行為責任主義をふまえた因果関係論について考える。	
		この回の到達目標	刑法的因果関係について理解するとともに、最近の裁判例について考察することができるようになる。	
		事前学修	第2編6章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	刑法における因果関係を論ずるに際して、最も大切なことは何か、500字程度でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部月 4月27日	不作為犯		作為犯の規定を介して不作為犯を処罰することは罪刑法定主義に抵触する恐れがある。この批判をクリアするためにはどうしたらよいかを考察する。
		この回の到達目標	作為犯と不作為犯の意義について理解するとともに、不真正不作為犯の処罰根拠について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編7章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	不作為犯の処罰範囲が拡散することの問題は何か、500字程度でまとめる。	120分
8	第一部金 5月1日	故意		故意犯処罰の原則の意義について探究する。
		この回の到達目標	なぜ故意犯処罰の原則がおかれているのかを刑法の存在理由と関係づけて説明することができるようにするとともに、故意における事実認識はどの程度のものである必要があるのかを説明することができるようにする。	
		事前学修	第2編8章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	故意行為を重く処罰する理由は何か、500字程度で説明する。	120分
9	第一部月 5月4日	具体的事実の錯誤		行為者の故意と行為者が実現した事実とがずれる場合がある。ここでは、一つの刑罰法規が適用可能な範囲内におけるずれについて考察する。
		この回の到達目標	故意犯処罰の原則と事実の錯誤の意味について理解するとともに、具体的事実の錯誤の諸類型について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編9章1～3節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	故意犯処罰の原則と錯誤論はどのような関係にたつか、500字以内で説明する。	120分
10	第一部金 5月8日	抽象的事実の錯誤		行為者の故意と行為者によって実現した犯罪事実とが、それぞれ別の構成要件にまたがるズレの処理について考察する。
		この回の到達目標	刑法38条2項の意義について理解し、この規定をめぐる見解の対立点を理解するとともに、解決策について私見をもてるようにする。	
		事前学修	第2編9章4節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	刑法38条2項の存在理由について500字程度で説明せよ。	120分
11	第一部月 5月11日	過失犯		過失犯は刑法典においては例外的に処罰する構えが採られているが、現実には、故意犯よりも件数をはるかに多く、だれもが犯しやすい犯罪である。その構造について考察する。
		この回の到達目標	過失の本質をめぐる見解の対立を理解し、過失犯の態様について理解するとともに、過失の構造論について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2編10章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	旧過失論、新過失論、危惧感説の違いについて500字程度で説明せよ。	120分
12	第一部金 5月15日	結果的加重犯		結果責任主義は刑法が採ってはいらない考え方の一つであるが、結果的加重犯に対しては結果責任主義的であるとの批判がある。こうした批判をクリアして、行為責任主義にのっとった結果的加重犯像について学ぶ。
		この回の到達目標	結果的加重犯の存在理由について理解するとともに、結果的加重犯のあるべき構造について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編11章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	結果責任の問題について500字程度で説明せよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 5月18日	違法性と違法性阻却事由	ある行為が構成要件に該当するとき、その行為に対しては刑法的違法性が推定されることになる。これを阻却する事由について学ぶ。	
		この回の到達目標	改めて犯罪論体系を思い出し、違法性を阻却するための基礎理論について理解する。	
		事前学修	第2編12章および13章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	違法性阻却事由を論ずる意義は何か、500字程度で説明せよ。	120分
14	第一部金 5月22日	正当防衛	不正な侵害行為に対し刑法が許容している対抗手段が、正当防衛である。対抗手段とはいえ、不正な侵害行為者を侵害するものであるから、その許容範囲が問題となる。このことを学ぶ。	
		この回の到達目標	正当防衛の各要件の意義について説明することができるとともに、最近の裁判例について考察することができるようになる。	
		事前学修	第2編14章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	公的機関による助けを求めることが可能なときに、正当防衛権は行使できるか。	120分
15	第一部月 5月25日	緊急避難	直面した危険から免れる際に他者を侵害したときに、一定限度においてこれを許容するのが緊急避難である。いわれのない他者を傷つけて自分の利益を守るとは基本的に許されないことを前提に、どこまで緊急避難が許されるべきかを考察する。	
		この回の到達目標	正当防衛との違いや緊急避難の法的性格をめぐる議論を正確に理解するとともに、緊急避難の諸問題について自分なりに見解をまとめることができるようにする。	
		事前学修	第2編15章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	二分説について500字程度で説明せよ。	120分
16	第一部金 5月29日	自己決定に基づく違法性阻却事由	被害者の同意があれば、その法益侵害行為の違法性は阻却されるといわれる。しかし、その議論の状況をみると、一筋縄ではいかないことに気づく。違法性が阻却される場合と阻却されない場合の線をどこにひくべきかを考察する。	
		この回の到達目標	被害者の同意の議論状況を理解するとともに、関連する諸問題について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2編16章及び17章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	被害者の同意を論ずる意義は何か、500字程度で説明せよ。	120分
17	第一部月 6月1日	違法性阻却事由の錯誤	構成要件をめぐり錯誤が生じるように、違法性阻却事由をめぐっても錯誤が生じうる。その解決策について考察する。	
		この回の到達目標	違法性阻却事由の錯誤は事実の錯誤か違法性の錯誤かを考察をめぐらし、誤想防衛の諸類型を理解するとともに、その解決策について私見を展開することができるようにする。	
		事前学修	第2編18章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	誤想過剰防衛はどう処理するべきか、500字程度で説明せよ。	120分
18	第一部金 6月5日	責任論の基礎	ある行為が構成要件に該当し、違法性があることが確認されたとしても、責任がなければ、その行為者を罰することはできない。責任論の役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	刑事責任能力がなぜ必要なのかを理解するとともに、刑事責任能力が問えない場合の対応や原因において自由な行為について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編19章および20章1節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	刑事責任能力制度の存在理由について、500字程度にまとめよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	第一部月 6月8日	違法性の錯誤		刑法38条3項は違法性の錯誤について規定するが、事実の錯誤に比べて寛容ではない。その理由について考えるとともに、罪刑法定主義とこの問題が密接に関係していることについても考察する。
		この回の到達目標	事実の錯誤と違法性の錯誤との違いを説明することができるようになるとともに、違法性の錯誤をめぐるいくつかの事例について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2編20章2節から4節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	刑法を用いた取締りの在り方について考えよ。	120分
20	第一部金 6月12日	未遂犯と実行の着手		刑法は犯罪の遂行段階に対応して、規制を用意している。とりわけ実行の着手が重要であるのはなぜか、実行の着手時期をどこに定めるべきかについて考察する。
		この回の到達目標	犯罪の遂行段階とこれに対する刑法の規制について理解するとともに、実行の着手時期をめぐる諸問題のは意義に違法性の本質をめぐる対立が控えていることを理解する。	
		事前学修	第2編21章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	実行の着手時期と違法性の本質論との関係について500字程度にまとめよ。	120分
21	第一部月 6月15日	不能犯		実行の着手に当たるようにみえても、法益侵害の危険性がないと評価できる場合が不能犯である。その判断をいかに行うべきかを検討する。
		この回の到達目標	法益侵害の危険性を判断する枠組み、および危険判断の基礎事情について理解するとともに、それをめぐる諸見解について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編22章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	不能犯を論ずる意義について500字程度で説明せよ。	120分
22	第一部金 6月19日	中止犯		犯罪の実行に着手しても自己の意思によりその行為を中止したとき、刑法はその者に対して恩典を与えるのが中止犯である。その要件について考察する。
		この回の到達目標	中止犯規定の存在理由および中止犯の要件について理解するとともに、中止行為の任意性について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編23章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	中止犯の規定が存在する理由を考えよ。	120分
23	第一部月 6月22日	正犯と共犯		実行に着手した者を正犯、これに背後で関与した者を共犯と区別され、前者に対して最も重い刑事責任が科される。その区別をする意義について考察するとともに、間接正犯の扱いについて考える。
		この回の到達目標	正犯概念および共犯概念を理解するとともに、間接正犯について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編24章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	間接正犯をめぐる議論について500字程度で説明せよ。	120分
24	第一部金 6月26日	共同正犯		刑法60条は共同正犯について規定する。共同正犯の本質について考察するとともに、共同正犯に関する判例についても検討を加える。
		この回の到達目標	何を共同するのか、共謀共同正犯とは何かを理解するとともに、共同正犯の成否が問題となった諸判例について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2編25章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	共謀共同正犯について500字以内で説明せよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部月 6月29日	教唆犯と幫助犯	教唆犯と幫助犯の要件について考察する。	
		この回の到達目標	共犯の処罰根拠について理解するとともに、それぞれの要件について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編26章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	共犯の処罰根拠論と違法性の本質論との関係について考えよ。	120分
26	第一部金 7月3日	共犯をめぐる諸問題	共犯と錯誤、および共犯の中止と共犯関係からの離脱について考察する。	
		この回の到達目標	共犯の本質論に基づいて、錯誤論や中止犯論を応用して問題を解決することを理解する。	
		事前学修	第2編27章1～2節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	共犯と錯誤の問題を解決する道筋を500字程度で説明せよ。	120分
27	第一部月 7月6日	共犯と身分	身分犯（正犯）に共犯が関与したときの解決策について考察する。	
		この回の到達目標	刑法65条の存在理由、同条1項と2項の関係について理解するとともに、同条の適用範囲について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編27章3節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	事後強盗罪は身分犯か否か検討せよ。	120分
28	第一部金 7月10日	犯罪の個数および競合	ある行為が構成要件に該当し、違法性及び有責性も肯定できるときに犯罪は成立する。しかし、行為者について最終的に成立するのは一つの犯罪か、それとも複数の犯罪かが問題となる。	
		この回の到達目標	犯罪の個数および競合を検討する際に構成要件が重要であること、一罪判断の基準や併合罪、観念的競合、牽連犯について理解する。	
		事前学修	第2編28章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	犯罪の個数を論ずる意義は何か、500字程度で説明せよ。	120分
29	第一部月 7月13日	刑罰とその種類	刑罰という制裁は刑法を最も特徴づけるものである。その理論について検討する。	
		この回の到達目標	日本刑法が用意している刑罰の種類について説明することができるようにするとともに、刑罰制度はいかなる理論に基づくべきか私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第3編29章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	死刑存廃論について500字程度で説明せよ。	120分
30	第一部金 7月17日	刑罰の適用および刑罰の執行	刑の量定は以下に行われるべきかを考察する。裁判員制度において刑の量定についてまで裁判員は判断しなければならない。そのプロセスについて学ぶ。	
		この回の到達目標	法定刑から処断刑、宣告刑のプロセスを理解するとともに、量刑は以下に判断されるべきか私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第3編30章を読む。	120分
		事後学修	執行猶予制度の存在理由について500字程度で説明せよ。	120分

科目名	刑法Ⅰ【法曹コース】	担当者	南 由介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
予習をし、意欲的に取り組む意思がある学生に履修してもらいたい。

【授業方法】
予習をしてくることを前提に、適宜質問を交えながら判例および学説の理解の深化を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生への質問とそれに対する教員の応答。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。						1	1	1		1			
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1	1	1		1			
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1	1	1		1			
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講義刑法学・総論〔第2版〕	井田良	有斐閣	2018	教科書	必携
よくわかる刑法〔第3版〕	井田良・佐藤拓磨編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
刑法総論判例インデックス〔第2版〕	井田良・城下裕二編	商事法務	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日10：40～12：10

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/14	刑法の存在理由と機能	刑法の意義、応報、犯罪予防、応報について。	
		この回の到達目標	刑法の意義、応報、犯罪予防、応報について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
2	金9/18	刑法の基本原則－罪刑法定主義	罪刑法定主義（法律主義、遡及処罰の禁止および派生原則等）を中心に、行為主義、責任主義について。	
		この回の到達目標	罪刑法定主義を中心に、行為主義、責任主義について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
3	月9/21	刑罰法規の解釈・適用	刑罰法規の解釈（文理解釈、目的論的解釈など）および刑罰法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について。	
		この回の到達目標	刑罰法規の解釈および刑罰法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
4	金9/25	犯罪論の基礎理論、結果無価値・行為無価値、構成要件	犯罪論の目的、機能、体系および結果価値論と行為無価値論の対立、構成要件の位置づけ、構成要件要素について。	
		この回の到達目標	犯罪論の目的、機能、体系および結果価値論と行為無価値論の対立、構成要件の位置づけ、構成要件要素について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
5	月9/28	因果関係論（1）	結果の意義および条件関係（仮定的消去法など）について。	
		この回の到達目標	結果の意義および条件関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
6	金10/2	因果関係論（2）	法的因果関係（相当因果関係説、行為の危険性の結果への現実化など）について。	
		この回の到達目標	法的因果関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/5	不作為犯論	作為と不作為の区別、不真正不作為犯における作為義務の発生根拠（保証人説など）、不作為の因果関係について。	
		この回の到達目標	作為と不作為の区別、不真正不作為犯における作為義務の発生根拠、不作為の因果関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
8	金10/9	故意論（1）	故意における事実認識の対象およびその程度（意味の認識）について。	
		この回の到達目標	故意における事実認識の対象およびその程度について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
9	月10/12	故意論（2）	確定的故意、不確定的故意、未必の故意と認識ある過失の区別（認識説、蓋然性説、認容説、動機説など）について。	
		この回の到達目標	確定的故意、不確定的故意、未必の故意と認識ある過失の区別について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
10	金10/16	錯誤論（1）	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、具体的事実の錯誤（法定的符合説と具体的符合説）について。	
		この回の到達目標	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、具体的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
11	月10/20	錯誤論（2）	抽象的事実の錯誤（法定的符合説と抽象的符合説、実質的重なり合い）について。	
		この回の到達目標	抽象的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
12	金10/23	過失犯論（1）	旧過失論と新過失論、危惧感説（新・新過失論）について。	
		この回の到達目標	旧過失論と新過失論、危惧感説について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月10/27	過失犯論（2）	結果の予見可能性および結果回避義務違反と、結果的加重犯について。	
		この回の到達目標	結果の予見可能性および結果回避義務違反と、結果的加重犯について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
14	金10/30	違法性、違法性阻却事由、正当行為	違法とは何か、および、違法性阻却事由、正当行為（法令行為、正当業務行為）について。	
		この回の到達目標	違法とは何か、および、違法性阻却事由、正当行為について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
15	金11/6	正当防衛	正当防衛の要件（急迫性、防衛行為、「やむを得ずにした行為」など）および過剰防衛について。	
		この回の到達目標	正当防衛の要件および過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
16	月11/10	緊急避難	緊急避難の要件（「現在の危険」、避難行為、法益の均衡など）および過剰避難、その他の緊急行為について。	
		この回の到達目標	緊急避難の要件および過剰避難、その他の緊急行為について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
17	金11/13	被害者の同意、安楽死・尊厳死	被害者の同意の体系的位置づけ、同意傷害の違法性、安楽死（特に積極的安楽死）・尊厳死（特に治療中止の根拠）の違法性阻却について。	
		この回の到達目標	被害者の同意の体系的位置づけ、同意傷害の違法性、安楽死・尊厳死の違法性阻却について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
18	月11/16	違法性阻却事由の錯誤	事実の錯誤か、違法性の錯誤か、またその学説（責任故意を否定する見解、消極的構成要件要素の理論、厳格責任説）について。	
		この回の到達目標	事実の錯誤か、違法性の錯誤か、またその学説について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	金11/20	責任論の基礎、責任要素		責任の本質、責任の要素、責任要素（責任能力のほか、違法性の意識の可能性、適法行為の期待可能性）、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について。
		この回の到達目標	責任の本質、責任の要素、責任要素（特に責任能力）、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
20	月11/23	未遂犯論		未遂処罰の根拠、実行の着手時期、間接正犯の実行の着手について。
		この回の到達目標	未遂処罰の根拠、実行の着手時期、間接正犯の実行の着手について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
21	金11/27	不能犯論		危険判断および抽象的危険説、具体的危険説、客観的危険説について。
		この回の到達目標	危険判断および抽象的危険説、具体的危険説、客観的危険説について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
22	月11/30	中止犯論		中止犯の法的根拠、中止行為、任意性について。
		この回の到達目標	中止犯の法的根拠、中止行為、任意性について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
23	金12/4	正犯と共犯		正犯の概念、共犯の概念（実行従属性、罪名従属性など）について。
		この回の到達目標	正犯の概念、共犯の概念について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
24	月12/7	間接正犯、由な行為	原因において自	間接正犯とは何か、いかなる場合に肯定され得るか（間接正犯の正犯性、間接正犯の諸類型など）、また、原因において自由な行為における構成要件モデルと例外モデル（責任モデル）について。
		この回の到達目標	間接正犯とは何か、いかなる場合に肯定され得るか、また、原因において自由な行為における構成要件モデルと例外モデルについて理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	金12/11	共同正犯	共謀共同正犯、犯罪共同説と行為共同説、承継的共同正犯および様々な形態の共同正犯（過失、結果的加重犯、不作為など）について。	
		この回の到達目標	共謀共同正犯、犯罪共同説と行為共同説、承継的共同正犯および様々な形態の共同正犯について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
26	月12/14	教唆犯と幫助犯	共犯の処罰根拠およびその帰結、幫助犯の様々な形態（片面的、不作為など）、共犯の因果関係について。	
		この回の到達目標	共犯の処罰根拠およびその帰結、幫助犯の様々な形態、共犯の因果関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
27	金12/18	共犯をめぐる諸問題（1）	共犯と錯誤、共犯の中止・共犯関係の解消について。	
		この回の到達目標	共犯と錯誤、共犯の中止・共犯関係の解消について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
28	月12/21	共犯をめぐる諸問題（2）	共犯と身分について。	
		この回の到達目標	共犯と身分について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
29	金12/25	犯罪の個数・競合	本来の一罪、併合罪、科刑上一罪について。	
		この回の到達目標	本来の一罪、併合罪、科刑上一罪について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
30	月1/18	刑罰論	学派の争い、刑罰の種類、刑罰の適用、刑の執行について。	
		この回の到達目標	学派の争い、刑罰の種類、刑罰の適用、刑の執行について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

科目名	刑法 I	担当者	岡西 賢治	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について、その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し、その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために、犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し、刑法固有の理念を修得し、今日的課題について考察する。

【履修条件】
無

【授業方法】
講義形式による。なお、判例などの検討にあたっては意見を求めることもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。						1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。							1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。								1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての刑法総論への理解および知識 が身についているかを，筆記試験により評価する。	40	30	20	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後にポイントを説明し、評価の基準等を示す。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法総論講義（第7版）	前田雅英	東京大学出版会	2019年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜 17:00-18:00 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	刑法とは	刑法の意義と役割、刑罰論と犯罪論	
		この回の到達目標	刑法の持つ機能などについて説明できる。	
		事前学修	刑法と他の法律とに違いを理解しておく。	120分
		事後学修	刑法をめぐる理論について整理する。	120分
2	4/9	犯罪の実態と刑法	近年の犯罪の実態を統計によって概観する	
		この回の到達目標	統計で示された犯罪の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	犯罪白書を見て、近年の状況を把握する。	120分
		事後学修	刑法理論と実際の犯罪の関係について考えておく。	120分
3	4/15	刑罰の本質	人を処罰する理由について考える。	
		この回の到達目標	刑罰の本質をめぐる理論について説明できる。	
		事前学修	刑罰に関する諸問題について議論を整理する。	120分
		事後学修	刑罰の目的について自説が述べられるようにしておく。	120分
4	4/16	刑罰の種類	死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留、科料、没収	
		この回の到達目標	刑罰とその他の法的制裁との違いについて説明できる。	
		事前学修	それぞれの刑罰の違いについて整理する。	120分
		事後学修	刑罰をめぐる課題について論じられるようにする。	120分
5	4/22	罪刑法定主義（１）	法律主義、遡及処罰の禁止、絶対的不定期刑の禁止、類推解釈の禁止	
		この回の到達目標	罪刑法定主義に関する諸原理について説明できる。	
		事前学修	罪刑法定主義が確立する過程について理解する。	120分
		事後学修	判例との関係を整理する。	120分
6	4/23	罪刑法定主義（２）	明確性の原理、刑罰の適正	
		この回の到達目標	明確性の原則に関する判例について整理し、説明できる。	
		事前学修	明確性の原則をめぐる判例を調べておく。	120分
		事後学修	明確性の原則が問題となるような状況について整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/29	刑法の適用	場所的・時間的・人的適用	
		この回の到達目標	刑法の効力の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	刑法の適用に関する判例を調べておく。	120分
		事後学修	判例の争点について議論を整理する。	120分
8	4/30	犯罪論	犯罪とは何か、犯罪の要件と犯罪論体系、構成要件とは何か	
		この回の到達目標	犯罪論をめぐる理論について説明できる。	
		事前学修	犯罪をめぐる諸理論について整理しておく。	120分
		事後学修	それぞれの犯罪理論について特徴を整理する。	120分
9	5/6	構成要件の要素	客観的要素と主観的要素、構成要件と違法性・責任との関係	
		この回の到達目標	構成要件の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	構成要件という概念について理解する。	120分
		事後学修	違法性・責任との関係をどのようにとらえるべきなのかを説明できるようにする。	120分
10	5/7	構成要件と行為	行為論、実行行為、不作為	
		この回の到達目標	行為論と構成要件との関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	行為論に関する学説の状況を整理しておく。	120分
		事後学修	行為論を論じることの意義について考える。	120分
11	5/13	因果関係	因果関係をめぐる諸理論	
		この回の到達目標	因果関係についての理論および判例の状況を理解し、説明できる。	
		事前学修	因果関係に関する判例を調べておく。	120分
		事後学修	因果関係に関する学説の違いを把握する。	120分
12	5/14	法人の犯罪能力	法人処罰のあり方	
		この回の到達目標	犯罪が犯罪の主体となりうる根拠について説明できる。	
		事前学修	広義の刑法における法人処罰の規定を調べておく。	120分
		事後学修	法人処罰の今後にあり方について検討しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/20	違法性の本質	実質的違法論、可罰的違法性、結果無価値と行為無価値	
		この回の到達目標	刑法における違法性の判断をめぐってどのような議論があるのか整理し、説明できる。	
		事前学修	違法性に関する判例を調べておく。	120分
		事後学修	違法性の本質に関する諸理論を整理しておく。	120分
14	5/21	正当行為	法令行為、正当業務行為、治療行為	
		この回の到達目標	正当化する根拠について説明できる。	
		事前学修	刑法35条に関する法令と判例を整理しておく。	120分
		事後学修	違法の本質との関係を理解する。	120分
15	5/27	緊急行為	正当防衛、緊急避難	
		この回の到達目標	正当防衛、緊急避難の要件を理解し、説明できる。	
		事前学修	正当防衛に関する判例を類型化し、ポイントを整理する。	120分
		事後学修	正当防衛と緊急避難の違いについて整理する。	120分
16	5/28	超法規的違法性阻却事由	被害者の同意、推定的同意、安楽死	
		この回の到達目標	構成要件と被害者の同意についての関係が説明できる。	
		事前学修	被害者の同意に関する事例について検討しておく。	120分
		事後学修	安楽死に関する議論について整理する。	120分
17	6/3	責任の本質	非難可能性、期待可能性	
		この回の到達目標	責任に関する刑法の規定について整理し、説明できる。	
		事前学修	責任に関する諸理論について整理しておく。	120分
		事後学修	期待可能性に関する判例を検討しておく。	120分
18	6/4	責任能力	心神喪失、心神耗弱、刑事未成年	
		この回の到達目標	責任能力の判断基準について説明できる。	
		事前学修	責任能力の判断についての議論のポイントを整理する。	120分
		事後学修	法的な判断と医学的な判断との差について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	6/10	故意		故意犯処罰の原則、故意の種類
		この回の到達目標	故意をめぐる学説の状況を整理し、説明できる。	
		事前学修	故意と過失との違いについて考えておく。	120分
		事後学修	故意の種類に関する学説を整理する。	120分
20	6/11	錯誤		具体的事実の錯誤、抽象的事実の錯誤、違法性の錯誤
		この回の到達目標	具体的な事例ごとに錯誤の内容を整理し、説明できる。	
		事前学修	錯誤に関する学説を整理しておく。	120分
		事後学修	事実の錯誤と違法性の錯誤との違いについて整理する。	120分
21	6/17	過失犯の構造		新旧過失犯論争、旧過失論、新過失論、危惧感説
		この回の到達目標	過失を処罰する根拠について説明できる。	
		事前学修	新過失論が提唱されるに至った背景を考えておく。	120分
		事後学修	責任の本質との関係が説明できるようにする。	120分
22	6/18	予見可能性と回避義務		具体的結果予見可能性、結果回避義務、信頼の原則、監督過失
		この回の到達目標	判例による過失の捉え方について説明できる。	
		事前学修	過失に関する判例を整理しておく。	120分
		事後学修	判例と学説との関係について議論を整理する。	120分
23	6/24	未遂と実行行為		犯罪遂行の段階とそれぞれの処罰の可否
		この回の到達目標	未遂が処罰される根拠について説明できる。	
		事前学修	実行の着手が争われた判例について検討しておく。	120分
		事後学修	犯罪類型ごとに実行の着手時期を整理する。	120分
24	6/25	不能犯と中止犯		客体の不能と方法の不能、中止犯の意義、任意性の判断
		この回の到達目標	中止犯の要件について整理し、説明できる。	
		事前学修	不能犯と中止犯に関する判例を調べておく。	120分
		事後学修	不能犯に関する学生つの状況を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7/1	共犯と正犯	共犯の処罰根拠、犯罪共同説と行為共同説、共犯の従属性	
		この回の到達目標	共犯に関する諸概念について整理し、説明できる。	
		事前学修	共犯の正犯の区別について学説の状況を把握しておく。	120分
		事後学修	共犯論をめぐる議論のポイントについて整理しておく。	120分
26	7/2	共同正犯	共同実行の意思と事実、共謀共同正犯、承継的共同正犯、共犯関係からの離脱	
		この回の到達目標	共同正犯の本質について説明できる。	
		事前学修	共同正犯が成立しうるパターンを整理しておく。	120分
		事後学修	共同正犯をめぐる学説と判例の関係を把握する。	120分
27	7/8	教唆犯と幫助犯 共犯をめぐる諸問題	教唆の意義、幫助犯と共同正犯、不作為と共犯、身分と共犯、過失と共犯	
		この回の到達目標	共犯の成否が問題となりうる事例について説明できる。	
		事前学修	不作為や過失などが関連する共犯の事例について検討しておく。	120分
		事後学修	狭義の共犯の成立範囲に関して争点を整理しておく。	120分
28	7/9	罪数論	単純一罪・科刑上一罪と併合罪	
		この回の到達目標	犯罪の個数が問われる意義について説明できる。	
		事前学修	罪数をめぐる諸概念について整理しておく。	120分
		事後学修	罪数論の実務上の重要性について考えておく。	120分
29	7/15	刑の適用	法定刑・処断刑・宣告刑、刑の量定、執行猶予	
		この回の到達目標	実務上の課題について説明できる。	
		事前学修	今日的な問題につて検討しておく。	120分
		事後学修	刑事裁判の実態に則して考えることができるようにする。	120分
30	7/16	授業内試験 まとめ	試験終了後にポイントを解説し、評価の基準を説明する。	
		この回の到達目標	これまでの講義内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義において重要と思う点を整理しておく。	120分
		事後学修	できなかった点について理由を分析する。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	南 由介	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法を学習することについて、意欲的に取り組む意思がある学生に履修してもらいたい。

【授業方法】
学生に対し適宜質問を交えながら判例および学説の理解の深化を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生への質問とそれに対する教員の応答。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。						1	1	1		1			
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1	1	1		1			
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1	1	1		1			
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行つて問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ケーススタディ刑法〔第5版〕	井田良・丸山雅夫	日本評論社	2019	教科書	必携
よくわかる刑法〔第3版〕	井田良・佐藤拓磨編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
刑法総論判例インデックス〔第2版〕	井田良・城下裕二編	商事法務	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日10：40～12：10 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木9/17	刑法と道徳	刑法は何のためにあるか、刑法と道徳の関係について。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑法は何のためにあるか、刑法と道徳の関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
2	金9/18	罪刑法定主義	罪刑法定主義の古典的内容と現代的内容について。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、罪刑法定主義の古典的内容と現代的内容について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
3	木9/24	責任主義、刑法の解釈	責任主義の意義および刑法の解釈（文理解釈、目的論的解釈など）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、責任主義の意義および刑法の解釈について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
4	金9/25	結果無価値論と行為無価値論	「結果」が悪いのか、「行為」が悪いのか、および、これらの見解からの帰結について	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、「結果」が悪いのか、「行為」が悪いのか、および、これらの見解からの帰結について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
5	木10/1	刑法の適用	刑罰の法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、刑罰の法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
6	金10/2	構成要件	犯罪論の体系と構成要件要素について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、犯罪論の体系と構成要件要素について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木10/8	不真正不作為犯	不真正不作為犯の問題性および作為義務の発生根拠について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、不真正不作為犯の問題性および作為義務の発生根拠について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
8	金10/9	因果関係（1）	条件関係について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、条件関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
9	木10/15	因果関係（2）	法的因果関係（相当因果関係説、危険現実化説）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法的因果関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
10	金10/16	故意	事実認識の程度（意味の認識）および未必の故意について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事実認識の程度および未必の故意について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
11	木10/22	事実の錯誤（1）	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、および、具体的事実の錯誤（法定的符合説、具体的符合説）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、および、具体的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
12	金10/23	事実の錯誤（2）	抽象的事実の錯誤（法定的符合説、抽象的符合説）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、抽象的事実の錯誤理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木10/29	過失犯、結果的加重犯	旧過失論、新過失論、危惧感説（新・新過失論）、管理・監督過失、および、結果的加重犯の諸問題について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、旧過失論、新過失論、危惧感説、管理・監督過失、および、結果的加重犯の諸問題について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
14	金10/30	違法の実質	違法性、違法性阻却、実質的違法性論について。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違法性、違法性阻却、実質的違法性論について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
15	木11/5	正当防衛	正当防衛の成立要件（急迫性、防衛の意思、「やむを得ずにした行為」など）、過剰防衛について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、正当防衛の成立要件、過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
16	金11/6	緊急避難	緊急避難の法的性格、緊急避難の成立要件（「現在の危難」、避難行為、法益の均衡など）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、緊急避難の法的性格、緊急避難の成立要件について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
17	木11/12	安楽死、尊厳死、終末期医療	安楽死（特に積極的安楽死）、尊厳死（治療行為の中止）の違法性阻却について。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、安楽死、尊厳死の違法性阻却について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
18	金11/13	責任能力、原因において自由な行為	責任能力、責任無能力、限定責任能力、および、行為の責任の同時存在の原則について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、責任能力、責任無能力、限定責任能力、および、行為の責任の同時存在の原則について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	木11/19	違法性の錯誤	違法性の錯誤における「違法性」、違法性の錯誤の回避可能性、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、違法性の錯誤における「違法性」、違法性の錯誤の回避可能性、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
20	金11/20	違法性阻却事由の錯誤	事実の錯誤か違法性の錯誤か、それに関する学説（責任故意を否定する見解、消極的構成要件要素の理論、厳格責任説）、誤想過剰防衛について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、事実の錯誤か違法性の錯誤か、それに関する学説、誤想過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
21	金11/27	実行の着手	処罰の拡張としての未遂犯、および、形式的客観説および実質的客観説について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、処罰の拡張としての未遂犯、および、形式的客観説および実質的客観説について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
22	木12/3	不能犯	未遂処罰の根拠、未遂犯と不能犯の区別、危険判断の標準について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、未遂処罰の根拠、未遂犯と不能犯の区別、危険判断の標準について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
23	金12/4	中止犯	中止犯の法的性格、任意性、中止行為について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、中止犯の法的性格、任意性、中止行為について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
24	木12/10	正犯と共犯	実行行為と正犯行為、正犯と共犯の区別、間接正犯について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実行行為と正犯行為、正犯と共犯の区別、間接正犯について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	金12/11	共同正犯		犯罪共同説と行為共同説、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯について。
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪共同説と行為共同説、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
26	木12/17	共犯の従属性		共犯の従属性（実行従属性、要素従属性など）、共犯の処罰根拠、未遂の教唆について。
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、共犯の従属性、共犯の処罰根拠、未遂の教唆について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
27	金12/18	幫助犯		幫助犯における促進関係、様々な形態の幫助（片面的、不作為、間接、中立的行為など）について。
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、幫助犯における促進関係、様々な形態の幫助について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
28	木12/24	共犯の関連問題		不作為の共犯、共犯関係の解消、違法性阻却事由と共犯について。
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、不作為の共犯、共犯関係の解消、違法性阻却事由と共犯について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
29	金12/25	共犯と身分		構成的身分と加減的身分、違法身分と責任身分、65条1項・2項の解釈について。
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、構成的身分と加減的身分、違法身分と責任身分、65条1項・2項の解釈について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
30	木1/14	犯罪の数、刑罰制度		本来の一罪と科刑上一罪、刑罰の意義と機能、刑罰の種類について。
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、本来の一罪と科刑上一罪、刑罰の意義と機能、刑罰の種類について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

科目名	刑法基礎演習	担当者	南部 篤	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する法である刑法の基礎を学修する。刑罰を扱うという他の法分野にみられない著しい特徴をふまえ，犯罪統制を行い法益の保護と秩序の維持を任務としながら，自由・人権の保障機能を営むという近代刑法の性格を理解する。その上で、犯罪の成否はどのような方法で判断されるか，犯罪遂行のどの段階で刑罰干渉が行われるか，どの範囲の者の関与がどう処罰されるか等に関する基本的思考の初歩を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高度に抽象的・論理的で詳細・緻密な内容を持つ刑法総論と各論に取り組み，さらに発展的な学修へと進むための必要な能力を獲得する。刑法の専門的発展的な学修に必要な基本的約束事とテクニカルタームの正確な把握，法令集・判例集等を使いこなすスキル，あわせて刑法の学修を自ら進める態度と技能を身に着け，刑法学修に必要なとなる堅牢な基盤を修得する。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
あらかじめ指定し，若しくは配布する教材または授業時の板書もしくはスクリーン表示等により示す検討資料を用いて進める。これらテーマとその展開，参照資料等を記載したレジュメ，要点を整理した参考資料，基本裁判例，法令，その他の資料を使用した教員による講義に続いて，質疑・討論・意見表明のサイクルを作り，受講者が積極的に参加する授業形態となるよう導いていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学修項目で示した内容につき，授業時に意見表明を受講者自身に行わせ，次いで教員が評価を示し，さらに受講者からの意見を求めていく。これにより，いわゆる討論技術獲得のみを目指すディベートとは一線を画した，刑法の実質的内容とリアルな社会の現実 に即した意味ある議論が可能となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑罰制度を規律する刑法の役割, つまり, 強力な犯罪統制手段であり, かつ人権保障制度でもあることの意義を説明することができる。				1						1	
②	刑法における法益の保護が, 他の法分野での権利・利益の保護と比較し, どのような点で異なるかを正確に説明することができる。				1						1	
③	犯罪成否の結論を導く刑法特有の思考枠組みを理解し, その筋道に沿って論理的に判断を進めて結論に至る過程を説明することができる。				1						1	
④	不作為犯, 因果関係の意味, 犯罪成立阻却, 未遂犯, 正犯と関与者の罪責処理など犯罪論の基本につき説明し意見を述べることができる。				1						1	
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、論述式筆記試験によって、完璧に、十分に、概ね、最低限、不達成の各段階評価基準に照らして確認し、成績評価を行う。	15	15	25	25							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④について、授業時間内に設定する能動的学修機会における教員および他の受講者からの質問に対する応答・主体的質問・意見表明・議論など、発言回数・内容を確認し、評価を行う。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問等参加度に関する評価については授業時間内に講評を行う。筆記試験については、その出題意図・解説・具体的評価基準を同様に授業時間内に示す。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
どこでも刑法	和田俊憲	有斐閣	2019	教科書	必携
備考	法令集（いわゆる六法）は必携。参考書籍については授業時に紹介する。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	刑法の意義、役割および性格	刑法を学ぶにあたり、まず「刑法」という言葉が指し示す意味内容から検討を始める。そして、もっとも峻厳な制裁である刑罰を用いて犯罪統制を行うこの法がいかなる役割を担っているか、とくに他の法分野とのちがいは何かに目を向け、また刑法固有の性格とはどのようなものかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関し、刑法、刑法典、刑罰法令、罰則等の用語を正確に把握し、刑法が法益の保護をもっとも重要な任務としつつ、同時に国家刑罰権にさらされる人権の保障原則として役割をはたすものであることを適切に説明できる。	
		事前学修	殺人や放火、窃盗などの犯罪が行われても、公的機関が何の対処もせず放置される事態となったら、私たちの住む世界はどうなるかを想定し、自分が為政者の立場にいたらどのような対策をとるかを考えてみること。	120分
		事後学修	法は、権利や利益を保護するために存在する制度であるが、民法と刑法とで権利・利益の保護の仕方にどのような違いがあるのかを対比させ、刑法がいかなる意味で保護を行っているのか、その特徴は何かを確認し、整理する。	120分
2	4/17	犯罪の種類と処罰規定	犯罪は、個人や社会、国家に害悪をもたらすものである。換言すれば個人や社会等の利益を一定の方法で侵害するものである。そこで、刑法が、実際にどのような行為を処罰することとしているのかを眺め、犯罪にはどのような種類があるのか、刑法典の規定に即して検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関し、刑法解釈のもっとも重要な指標となる「保護法益」を正確に把握し、法益の帰属主体を基準に三つに分類される各種犯罪の概要を説明しうる。	
		事前学修	法令集を開き、刑法の目次から法典の構成を概観し、その中のさまざまな種類の犯罪がいかなる基準に従って配列されているかを考え、自分なりの答えを準備して授業に臨むこと。	120分
		事後学修	授業で扱った代表的犯罪類型の保護法益・特徴・問題点等について整理し、加えて扱わなかった犯罪類型を一つ取り上げ、その保護法益・特徴・問題点等についてノートを作成してみること。	120分
3	4/24	刑事手続の概要と刑法	犯罪の処理はどのようなプロセスで行われるか、犯罪処理を行う刑事司法手続に関わる機関はどのようなものか、そうした手続を規律する法の全体を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関し、刑事司法過程と警察・検察・裁判所・矯正保護関係機関による手続の流れと内容を正確に把握することと、刑法が、刑事訴訟法、矯正保護法とどのような関係に立つのかを正確に説明できる。	
		事前学修	刑事司法に関係する諸機関の活動を紹介する、それらのウェブページ、書籍等を調べ、できるだけ自分なりに犯罪処理プロセスの概観を掴んだ上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	「刑法は、刑罰制度の中心にあって、その運用を規律する刑事実体法である」とはいかなる意味か、簡潔な説明を作成してみる。	120分
4	5/1	責任主義と刑法	責任主義は刑法の制度的基盤をなす理念、あるいは政策的基礎として働く原理としてもっとも基本的な原則であるが、結果責任主義および団体責任主義という前近代的追及原理と対比しつつその内容、基本的な考え方、問題点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関し、責任とは非難が可能であるから、非難できないところに刑事責任はなく刑罰を科すことはできないとする原理を把握し、そのような刑罰行使によって犯罪統制を行うのが近代刑法の拠って立つ基盤となっていることを説明しうる。	
		事前学修	過去の歴史にみられた結果責任主義的処罰や、団体責任主義的刑罰（連座・縁座制）について調べ、なぜ現代ではとり得ないかを考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	今日、刑法の解釈適用の上で、責任主義は貫徹されているといえるか、疑問があるとそればどのような点にあるか、とくに判例を中心に検討を加え、まとめてみる。	120分
5	5/8	罪刑法定主義と刑法	刑法を支配するもっとも重要な基本原則としての罪刑法定主義の主な内容を学び、それが自由主義的側面と民主主義的側面とを有し、多様な派生原則を含むものであることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関し、罪刑法定主義がどのような歴史的沿革を持つ原則であるかを理解し、今日どのように問題となるかを主要な判例に即して問題点を指摘し説明することができる。	
		事前学修	「罪刑専断主義」とは何か、「マグナカルタ」とはどのような歴史上の出来事であったかを調べ、理解した上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	罪刑法定主義の内容をなす多様な派生原則を、「自由主義に由来するもの」「民主主義的要請に基づくもの」「両者に関わるもの」に分類整理し、ノートを作成してみる。	120分
6	5/15	犯罪成立要件の概観	刑法学はなぜ煩雑な法解釈問題にこだわり、難解な理論構築を志向するのか、を十分理解した上で、刑罰という法的効果の前提となる犯罪の成立要件がどのような姿をしているのかを検討し、他の法分野と比較し、とくに著しい特徴をみせるこの点を徹底的に検討していく。	
		この回の到達目標	到達目標③、④に関して、刑法独自の犯罪成立要件の構成が何に由来するのかをふまえ、刑法総論の骨格をなすこのテーマを十分に咀嚼し、自分の言葉で語り説明することができる。	
		事前学修	刑法が、なぜ犯罪成否の判断をきわめて慎重に行う思考の枠組みを追求しようとするのかを考え抜いた上で授業に参加すること。	120分
		事後学修	構成要件、違法、有責という三分体系を用いて犯罪成否を判断することのメリットと、それぞれの判断要素がどのようなものであるのかを整理しまとめてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	構成要件とは何か	犯罪成立要件の最初の外枠を画する構成要件の内容をなすもの、すなわち、主体・客体・行為・結果・因果関係等の構成要件の要素を検討し、刑法が検討対象とする行為を判別し、犯罪を個別化し、故意の範囲を示すなど構成要件のもつ機能を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③、④に関して、刑法学に特徴的なテクニカルタームである構成要件概念を正確に把握し、その意味するところと、犯罪成否判断にあたりもっとも重要となる構成要件とその要素が何かについて説明することができる。	
		事前学修	犯罪が成立するための要件とは別に、その一部をなすものとして「構成要件」という概念がなぜ用いられるかについて考えてみること。	120分
		事後学修	客観的構成要件要素および主観的構成要件要素をなすものをすべて挙げ、一覧表にするなどして整理し、確認しておくこと。	120分
8	5/29	構成要件該当性	構成要件該当性について検討を要する場合について、まず実行行為の概念を解明した上で、作為と不作為、行為とは何か、不作為犯の成立要件、因果関係論とは何かについて検討を加える。	
		この回の到達目標	到達目標③、④に関して、刑法における実行行為の概念を理解し、不作為の構成要件該当性について、とくに不真正不作為犯の要件について論じ、刑法における因果関係論の意味を明らかにした上でその判断基準につき説明することができる。	
		事前学修	「作為」と「不作為」という言葉が通常意味するところを調べ、また、「因果関係」についても同様に調べた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	不作為犯と因果関係に関する主な判例を、それぞれ一つずつ選び、その判例の意義を指摘した上で問題点を確認しておく。	120分
9	6/5	違法性の判断 I	違法性阻却事由と違法性阻却の原理について検討した上で、緊急正当行為に属する正当防衛と緊急避難について、それぞれの成立要件につき検討を加える。	
		この回の到達目標	到達目標③、④に関して、正当防衛と緊急避難のそれぞれの要件を明確にし、両者に共通する点、そして両者の相違点について正確に説明することができる。	
		事前学修	正当防衛が認められやすい社会状況と、認められにくい社会状況とを対比して、どのような点がその違いをもたらすかを検討してみる。	120分
		事後学修	二つの緊急正当行為を比較し、両者に共通する点、両者の相違点を一覧表に示すなどして確認・整理しておく。	120分
10	6/12	違法性の判断 II	刑法35条が規定する常態的正当行為としての①法令行為、②正当業務行為、③その他の正当行為について、それぞれの意味するところを解明し、とくに③の超法規的に違法性が阻却される場合を明らかにし、検討を進める。	
		この回の到達目標	到達目標③、④に関して、刑法が、緊急時以外に構成要件該当行為の違法性をいかなる場合に、いかなる趣旨で除去し、処罰から解放するのかについて、説明することができる。	
		事前学修	格闘技など人の身体に物理的な力をふるい、攻撃を加え、ときに傷害を負わせるようなスポーツが、罪に問われない理由は何かについて自分の考えをまとめてみる。	120分
		事後学修	刑法35条を拠り所とする違法性阻却の場合にはどのようなものがあるか、一覧表に整理する等工夫をしてノートを作成しておく。	120分
11	6/19	有責性の判断	刑法は、心神喪失、刑事未成年にあたる場合、処罰しないことを定めているが、これらにあたらないときでも、期待可能性がなかったことを理由に犯罪の成立が否定される場合がある。このように他行為可能性により責任が基礎づけられることを考察していく。	
		この回の到達目標	到達目標③、④に関して、責任の存在が犯罪成立に不可欠の要件となることをふまえて、なぜ責任無能力者や刑事未成年者の行為が犯罪とならないのかを説明することができる。	
		事前学修	いかに凶悪な重大犯罪をして多数の人命を奪った場合でも、心神喪失にあたる場合は処罰できないが、その理由はなぜかについて自分なりの答えを見出すまで考えてみること。	120分
		事後学修	期待可能性の不存在を理由に犯罪の成立を否定しうる場合があるか、あるとすればどのような場合かについて検討し、まとめておく。	120分
12	6/26	故意と過失	刑法が故意犯処罰を原則とし、過失犯は例外的にしか処罰せず、しかも処罰する場合も著しく軽い刑にとどめていることを確認した上で、故意の態様種別、過失の種類につき検討し、故意と過失との限界、区別基準を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③、④に関して、故意と過失が、犯罪の主観的（内心的）要素として重要な要素をなすものであることをふまえ、故意の成立についての認容説と蓋然性説との対立、未必的故意と認識ある過失との区別について説明できる。	
		事前学修	故意の結果惹起（わざとやったとき）と、過失の結果惹起（うっかりしてしまった）とでは、その重大性・悪質性に大きな違いがある、と誰しも考えるのはなぜかについて自分なりの答えを見出すまで考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	確定的故意と不確定的故意、概括的・択一的故意・未必的故意の違い、認識説と意思説、認容説と蓋然性説をめぐる議論、故意と過失との分水嶺、こうした論点を分析し、整理してまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7/3	未遂犯		犯行の決意に始まり、陰謀・予備、実行の着手、未遂へと進み、既遂に至る犯罪遂行のプロセスのどこで刑法が介入するのか、また、予備罪、未遂犯、既遂犯をめぐる基本的論点、とくに実行の着手時期、障碍未遂と中止未遂について検討を加える。
		この回の到達目標	到達目標③、④に関して、刑法が、法益侵害結果の発生を既遂とする場合は、その発生の危険の高まりの度合いを基準に未遂犯として罰し、それより前に処罰の必要を認めるときに限り予備罪として処罰していることを説明することができる。	
		事前学修	被害が発生していなくとも、多くの犯罪が未遂犯として罰するのはなぜか。凶器の準備など予備の段階と、現に被害者への攻撃に出た未遂段階とで罪の重さが大きく違うのはなぜか。これらを考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	犯罪には、既遂に達した場合のみ罰するものから、未遂をも罰するもの、あるいは予備をも罰するごく少数のものまでさまざまである。その理由を考察し、まとめておく。	120分
14	7/10	正犯と共犯		正犯とは自ら犯罪を実行した者をいうが、共犯という言葉は多義的である。そこでまず、共犯の分類整理を行った上、必要的共犯と任意的共犯の区別、正犯・間接正犯・共同正犯・教唆犯・従犯の概念を検討し、それらの意味するところを正確に把握すべく検討を加える。
		この回の到達目標	到達目標③、④に関して、刑法は、ある犯罪に関わった者をすべて等しく扱うのではなく、その関与の形態に応じて、正犯として、あるいは共犯として罪責を処理することとしていることを適切に説明することができる。	
		事前学修	共犯者としての犯罪への関わりにはどのような形態が考えられるか、また、どのような関わり方がより重い罪と評価されるか、自分なりに考察を試みた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	共犯における「一部実行、全部責任の法理」とは何かについて、自分で簡単な設例を挙げて説明を試みる内容の文章を作成してみる。	120分
15	7/17	共犯論の基礎		共犯独立性説と従属性説との対比をふまえ、共犯の従属性について、実行従属性・罪名従属性・要素従属性の諸要素の検討を加える。共同正犯と教唆犯、従犯に関する基礎的理解、また、共謀共同正犯論や承継的共犯に関する理解をめざした検討を試みる。
		この回の到達目標	到達目標③、④に関して、共犯論の基本的枠組みをふまえ、さまざまに入り組んだ論点を分析・整理し、共同正犯と狭義の共犯に関わる基本的諸問題について説明することができる。	
		事前学修	殺人を唆したが、唆された者が拒否した場合、また一旦は決意したが後に犯行を放棄した場合、さらに唆された者が殺そうとして襲いかかったが失敗した場合、処罰はどうか。検討を試みた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	共犯の従属性について、実行・罪名・要素の各従属性について説明し、それぞれについて自分の見解を述べ、また判例や学説の多勢がどのような立場にあるかを調べ、ノートに整理してみる。	120分

科目名	刑法基礎演習【法曹コース】	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する法である刑法の基礎を学修する。刑罰を扱うという他の法分野にみられない著しい特徴をふまえ、犯罪統制を行い法益の保護と秩序の維持を任務としながら、自由・人権の保障機能を営むという近代刑法の性格を理解する。その上で、犯罪の成否はどのような方法で判断されるか、犯罪遂行のどの段階で刑罰干渉が行われるか、どの範囲の者の関与がどう処罰されるか等に関する基本的思考の初歩を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高度に抽象的・論理的で詳細・緻密な内容を持つ刑法総論と各論に取り組み、さらに発展的な学修へと進むための必要な能力を獲得する。刑法の専門的発展的な学修に必要な基本的約束事とテクニカルタームの正確な把握、法令集・判例集等を使いこなすスキル、あわせて刑法の学修を自ら進める態度と技能を身に着け、刑法学修に必要なとなる堅牢な基盤を修得する。

【履修条件】
法曹コース以外の学生は履修できません。

【授業方法】
授業担当者と学生との対話、学生同士の対話を中心に、授業を進める。事後学習は毎回執筆してもらい、提出を義務付ける（添削の上返却する）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業担当者からの質問に対する応答、学生同士の議論を、授業方法として用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑罰制度を規律する刑法の役割、つまり、強力な犯罪統制手段であり、かつ人権保障制度でもあることの意義を説明することができる。						1						2	
②	刑法における法益の保護が、他の法分野での権利・利益の保護と比較し、どのような点で異なるかを正確に説明することができる。						1						2	
③	犯罪成否の結論を導く刑法特有の思考枠組みを理解し、その筋道に沿って論理的に判断を進めて結論に至る過程を説明することができる。						2						1	
④	不作為犯、因果関係の意味、犯罪成立阻却、未遂犯、正犯と関与者の罪責処理など犯罪論の基本につき説明し意見を述べることができる。						2						1	
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、論述式筆記試験によって、完璧に、十分に、概ね、最低限、不達成の各段階評価基準に照らして確認し、成績評価を行う。	15	15	25	25							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④について、授業時間内に設定する能動的学修機会における教員および他の受講者からの質問に対する応答・主体的質問・意見表明・議論など、発言回数・内容を確認し、評価を行う。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験についてはメールにて、毎回の課題については授業内で講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ刑事法（第六版）	井田良	有斐閣	2017	教科書	必携
法を学ぶ人のための文章作法（第二版）	井田・佐渡島・山野目	有斐閣	2019	教科書	必携
備考	各自の六法を必ず持参すること。				

【オフィスアワー】
月、水一金の午前１０：３０－１６：３０（本館７階研究室）。授業時間は除く。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4月8日	なぜさまざまな犯罪がこの世の中でおきるのか	殺人や振り込め詐欺、児童虐待、薬物乱用、けんか、SNS上のトラブルなど、社会的に許されない行為が横行している。こういった行為に対しどのような対応をするべきなのだろうか。	
		この回の到達目標	刑事法という仕組みがなければどうなるのかを考察し、刑事法が役割を担うべきことを浮き彫りにする。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）1章から3章まで読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	刑事法がなければ、事件はどう解決される見込みになるか、またその際どのような問題が起きるか。1000字以内でまとめよ。	120分
2	第一部水 4月15日	犯罪に対してどのような対策を採るべきか	刑法は何のために存在するのか、刑罰は何のために存在するのかを考える。こうした制度はいつたい何のためにあるのか、何のために役立てるべきなのかを考える。	
		この回の到達目標	刑法および刑罰について学び、さらに捜査や刑事裁判に関わる刑事訴訟法、犯罪者処遇に関わる刑事政策について知り、刑事司法制度の全体像を学ぶ。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）4章から6章まで読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	刑法の存在理由について、1000字以内でまとめよ。	120分
3	第一部水 4月22日	殺人罪の意味について考える	「人を殺した者は、死刑又は無期若しくは五年以上の懲役に処する。」という殺人罪の意味について考える。	
		この回の到達目標	刑法を解釈し、事件に適用して、問題解決を図ることの意義を学ぶ。いろんな事件を想定しながら、この規定がどこまでの行為を処罰範囲に収めるべきなのかを議論する。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）7章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	刑法を解釈し、事件に適用することによって事件の解決を図ることの意味を、1000字以内で説明せよ。	120分
4	第一部水 4月29日	刑法各論のあらまし（1）	刑法典に搭載されている罪の全体像について学ぶ。この回では、個人的法益に対する罪の体系を学ぶ。	
		この回の到達目標	刑罰法規がどのような考え方に基づいて作られているかを学ぶとともに、すべての利益侵害を刑法が射程に収めているのではないこと、およびその理由について考える。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）8章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。あわせて、この回で学ぶ犯罪がどのように規定されているのか、六法を引きながら確認する。	120分
		事後学修	個人的法益に対する罪の特徴について、1000字以内でまとめよ。	120分
5	第一部水 5月6日	刑法各論のあらまし（2）	この回では、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の全体像を学ぶ。	
		この回の到達目標	社会的法益に対する罪、および、国家的法益に対する罪の特徴を学ぶとともに、個人的法益に対する罪との違いについて説明できるようにする。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）9章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。あわせて、この回で学ぶ犯罪がどのように規定されているのかを、六法を引きながら確認する。	120分
		事後学修	社会的法益に対する罪、および、国家的法益に対する罪の役割について、1000字以内で説明せよ。	120分
6	第一部水 5月13日	犯罪の成否は筋道を立てて考えなければならない	ある事件を起こした者の行為について犯罪が成立するか否かを、デタラメに決めてしまつては、国家刑罰権が濫用されるだけでなく、そうした事件解決に人々は賛同しないはずである。こうした事態を避けるために、犯罪論が構築されている。このことの意味を学ぶ。	
		この回の到達目標	犯罪論が、構成要件該当性、違法性、有責性からなることを学び、それぞれがどのような役割を担っているかを説明できるようにする。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）10章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	犯罪論について、1000字以内で説明せよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5月20日	構成要件該当性（１）	犯罪論の第一段階である構成要件該当性では、ある行為が刑罰法規の構成要件に該当するかを論じる。このことの意味を理解するとともに、この回では、不作為犯、因果関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	犯罪論における構成要件該当性は罪刑法定主義に基づいていることを理解するとともに、不作為犯や因果関係といった課題を説明することができるようにする。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）１１章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	因果関係を議論する意義について、１０００字以内で説明せよ。	120分
8	第一部水 5月27日	構成要件該当性（２）	この回では、故意犯と過失犯、結果的加重犯について学ぶ。犯罪の行為面についても構成要件該当性で検討しなければならない。このことの意義を理解する。	
		この回の到達目標	故意犯とその裏面に当たる錯誤論、過失犯をめぐる議論、結果的加重犯の捉え方について理解する。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）１４章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	故意犯処罰の原則について１０００字以内で説明せよ。	120分
9	第一部水 6月3日	違法性	構成要件に該当する行為は違法性があることが推定される。これを阻却する事由として、正当防衛と緊急避難、被害者の承諾がある。これらを議論する意味を理解する。	
		この回の到達目標	正当防衛の性格とその要件を理解するとともに、緊急避難との違いを説明することができるようにする。被害者の承諾を議論する意義を理解する。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）１２章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。あわせて、正当防衛と緊急避難がどう規定されているかを、六法を用いて事前に確認する。	120分
		事後学修	正当防衛とはどのような規定かを１０００字以内で説明せよ。	120分
10	第一部水 6月10日	有責性	ある行為が構成要件に該当し、かつ、違法性があることが確認できたとしても、有責性がなければ犯罪は成立しない。刑事責任能力や違法性の錯誤のついて学ぶ。	
		この回の到達目標	刑事責任能力の意義、刑事責任能力が問えない場合の対応について学ぶとともに、違法な行為を適法な行為であると信じていた場合の対応について考える。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）１３章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。あわせて、刑法３９条、刑法３８条３項の規定を、六法を用いて確認する。	120分
		事後学修	刑事責任能力の意義について１０００字以内で説明せよ。	120分
11	第一部水 6月17日	未遂犯と共犯	犯罪の遂行段階や犯罪の遂行形態の違いに応じて、刑法がどのような対応をとろうとしているのかを学ぶ。	
		この回の到達目標	陰謀・予備・未遂・既遂といった犯罪の遂行段階、正犯・共犯といった犯罪の遂行形態について正しく理解するとともに、これらをめぐりどのようなことが問題となっているのかを理解する。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）１５章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	刑法が、なぜ犯罪の遂行段階や遂行形態の違いに応じて、刑罰の重さに違いをつけているのかを、１０００字以内で説明せよ。	120分
12	第一部水 6月24日	刑の量定	裁判員制度の時代、刑の量定にまで裁判員は関与する。ここでは、死刑と無期懲役の適用基準について特に焦点を当てたい。	
		この回の到達目標	犯罪の個数、法定刑・処断刑・宣告刑の概要について大まかに理解するとともに、宣告刑をめぐる議論（死刑か無期懲役か）について自分の考えを述べるができるようにする。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）１６章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	刑を量定する際に、してはならないことは何かを、１０００字以内で説明せよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7月1日	捜査および刑事裁判制度 (1)	刑法を用いて事件を解決するために、捜査機関と裁判所が用意されている。こうした刑事手続の流れのうち、捜査の段階について学ぶ。	
		この回の 到達目標	被疑者・弁護人と捜査機関との対立構造を学ぶとともに、その際にどのような問題が生じるのかを理解する。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）17章および18章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	捜査の全体像について、1000字以内で説明せよ。	120分
14	第一部水 7月8日	捜査および刑事裁判制度 (2)	この回では、刑事裁判制度に関する事柄について学ぶ。刑事裁判における当事者構造や証拠に対する規制が何のためにあるのかを理解するとともに、裁判員制度の概要についても学ぶ。さらに、日本の刑事司法の特徴についても学ぶ。	
		この回の 到達目標	当事者構造や証拠の規制について、説明することができるようにする。さらに裁判員制度について説明することができるようにする。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）19章および20章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	当事者構造や証拠の規制の意義について、1000字以内で説明せよ。	120分
15	第一部水 7月15日	犯罪者の処遇	刑事手続を経て有罪とされた者は、その後、刑事制裁を受けることになるが、それはどのような精神に基づいていかに行われているのかを学ぶ。	
		この回の 到達目標	刑事政策とよばれる分野について理解を深めるとともに、犯罪者処遇の類型や犯罪者処遇の課題について学ぶ。	
		事前学修	教科書（基礎から学ぶ）21章および22章を読み、本テーマを考える手がかりとなりそうなキーワードをチェックする。	120分
		事後学修	犯罪者処遇の概要について1000字以内で説明せよ。	120分

科目名	刑法基礎演習	担当者	岡西 賢治	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する法である刑法の基礎を学修する。刑罰を扱うという他の法分野にみられない著しい特徴をふまえ、犯罪統制を行い法益の保護と秩序の維持を任務としながら、自由・人権の保障機能を営むという近代刑法の性格を理解する。その上で、犯罪の成否はどのような方法で判断されるか、犯罪遂行のどの段階で刑罰干渉が行われるか、どの範囲の者の関与がどう処罰されるか等に関する基本的思考の初歩を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高度に抽象的・論理的で詳細・緻密な内容を持つ刑法総論と各論に取り組み、さらに発展的な学修へと進むための必要な能力を獲得する。刑法の専門的発展的な学修に必要な基本的約束事とテクニカルタームの正確な把握，法令集・判例集等を使いこなすスキル，あわせて刑法の学修を自ら進める態度と技能を身に着け，刑法学修に必要なとなる堅牢な基盤を修得する。

【履修条件】
特にない

【授業方法】
講義形式による。理解度を確認するために必要に応じて質疑時間を設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑罰制度を規律する刑法の役割, つまり, 強力な犯罪統制手段であり, かつ人権保障制度でもあることの意義を説明することができる。				1						1	
②	刑法における法益の保護が, 他の法分野での権利・利益の保護と比較し, どのような点で異なるかを正確に説明することができる。				1						1	
③	犯罪成否の結論を導く刑法特有の思考枠組みを理解し, その筋道に沿って論理的に判断を進めて結論に至る過程を説明することができる。				1						1	
④	不作為犯, 因果関係の意味, 犯罪成立阻却, 未遂犯, 正犯と関与者の罪責処理など犯罪論の基本につき説明し意見を述べることができる。				1						1	
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、論述式筆記試験によって、完璧に、十分に、概ね、最低限、不達成の各段階評価基準に照らして確認し、成績評価を行う。	15	15	25	25							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④について、授業時間内に設定する能動的学修機会における教員および他の受講者からの質問に対する応答・主体的質問・意見表明・議論など、発言回数・内容を確認し、評価を行う。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験については、終了後にポイントを解説し、理解を深めさせる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
六法				その他	必携
備考	教科書は講義において指定する。				

【オフィスアワー】
あらかじめメールで連絡したのちに期間を決定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	刑法の意義と役割	刑法を含む法体系全体を理解したうえで、それぞれの目的や機能について学修する。刑罰の本質について考えながら、各自が刑法の意義を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	刑法と他の主な法との違いを説明できるようにする。刑法に関する基礎的な概念を習得する。	
		事前学修	なぜ人が処罰されるのかについて考えておく。	120分
		事後学修	現実の社会で刑法が持つ意義について説明できるようにする。	120分
2	4/15	刑事手続の概要と刑法	犯罪が発生したときにどのような手続きで処理され、またどのような法律が適用されるのかについて学修する。	
		この回の到達目標	刑事手続の流れについて全体像を理解し、それぞれの法律の目的が説明できるようにする。	
		事前学修	具体的な事件をイメージしながら刑事手続の流れについて考えておく。	120分
		事後学修	刑事法と刑事手続の意義と目的について説明できるようにする。	120分
3	4/22	刑法の基礎	法益という概念によって、犯罪の本質と刑法の機能を学修する。	
		この回の到達目標	刑法の歴史を概観しながら、犯罪や刑罰に関するこれまでの議論を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	刑法に関するさまざまな理論を整理し、理解しておく。	120分
		事後学修	学派の争いなどについて今日的な意義を考えておく。	120分
4	4/29	犯罪の種類と刑法典	個々の犯罪類型を概観し、いかなる行為が犯罪となり、また犯罪とすべきかについて学修する。	
		この回の到達目標	個々の犯罪の意義を理解しながら、処罰の必要性について説明できるようにする。	
		事前学修	実際にどのような犯罪が存在し、どのような刑罰が科せられているのかについて調べておく。	120分
		事後学修	個別の犯罪を見ながら、刑法の総論と各論の関係について理解できるようにしておく。	120分
5	5/6	刑法の基本原則	罪刑法定主義と責任主義について学修する。	
		この回の到達目標	刑法の基本原則が成り立つまでの背景と今日的な意義について理解し、重要性を説明できるようにする。	
		事前学修	罪刑法定主義に関する判例を調べ、ポイントについて整理しておく。	120分
		事後学修	罪刑法定主義をめぐる判例と学説の関係について説明できるようにする。	120分
6	5/13	犯罪の成立要件	犯罪を3つの要素に分ける理論体系の意義について学修する。	
		この回の到達目標	犯罪の成立要件に関する諸概念について、その必要性を理解し、相互の関係について説明できるようにする。	
		事前学修	犯罪要件を論ずる必要性について考えておく。	120分
		事後学修	犯罪の成立要件をめぐる理論の状況を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	構成要件とは何か	構成要件とは何かを論じ、内容となる要素について学修する。	
		この回の到達目標	構成要件の法的性格および各要素について説明できるようにする。	
		事前学修	構成要件の内容となる要素について理解しておく。	120分
		事後学修	構成要件に関する諸概念について理解し、説明できるようにする。	120分
8	5/27	構成要件該当性	校正容認に該当するということの意味について学修する。	
		この回の到達目標	構成要件に関する諸概念を理解し、判例をあげながら構成要件に該当する意味について論じることができるようにする。	
		事前学修	構成要件該当性が問われた判例を調べておく。	120分
		事後学修	因果関係に関する判例を整理し、説明できるようにする。	120分
9	6/3	違法性の本質	違法とは何か、違法の判断はどのようにしてなされるのかについて学修する。	
		この回の到達目標	違法論をめぐる学説の状況と違法の判断基準について整理し、説明できるようにする。	
		事前学修	違法性に関する諸概念について整理しておく。	120分
		事後学修	違法論に関して、判例と学説の関係について整理しておく。	120分
10	6/10	違法性阻却事由	正当行為と緊急行為をわけて、それぞれの要件を学修する。	
		この回の到達目標	刑法が規定する違法性阻却事由と、超法規的違法性阻却事由とについて説明できるようにする。	
		事前学修	具体的な事案から違法性について論じられるようにする。	120分
		事後学修	違法性をめぐる判例について整理し、説明できるようにする。	120分
11	6/17	責任の本質	犯罪について問われるべき責任とは何か、非難可能性とは何を意味するか等を考える。	
		この回の到達目標	刑法における責任について、これまでの議論をふまえた上で、自分の考えを整理し、説明できるようにする。	
		事前学修	責任能力とは何かについて考えておく。	120分
		事後学修	責任の本質についての議論を整理し、説明できるようにする。	120分
12	6/24	故意と過失	故意犯処罰の原則と過失犯の処罰、故意の種類、錯誤等について学修する。	
		この回の到達目標	故意論をめぐる学説や過失犯の構造に関する理論などについて理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	錯誤や過失に関する判例を調べ、争点を整理しておく。	120分
		事後学修	学説と判例の関係について整理し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	未遂犯	犯罪の遂行段階および未遂が処罰される根拠について学修する。	
		この回の到達目標	未遂をめぐる諸概念について整理し、説明できるようにする。	
		事前学修	既遂と未遂の違いについて理解しておく。	120分
		事後学修	不能犯と未遂犯、中止犯の要件について説明できるようにする。	120分
14	7/8	正犯と共犯	共犯に関する諸概念および学説の状況について学修する。	
		この回の到達目標	共犯に関する諸概念を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	正犯と共犯の違いについて理解しておく。	120分
		事後学修	共犯をめぐる諸問題について自分で考えられるようにする。	120分
15	7/15	授業内試験及び解説	試験を実施し、終了後にポイントについて解説する。	
		この回の到達目標	これまでに学修したことを振り返り、説明できるようにする。	
		事前学修	これまでの重要な点について整理し、論述できるようにする。	120分
		事後学修	解答について問題点を整理し、補習する。	120分

科目名	現代行政論Ⅰ	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近年、行政と民間セクターの間にあって、公共的課題解決のために不可欠となっている住民参加、官民協働、NPO、ソーシャルビジネス等の諸要素を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、近年、民間セクターを巻き込んで、ネットワーク化が急速に進展する現代行政の特質や運営実態等を当面の諸課題との関連の中で学び、諸アクターの中で調整・交渉を経て課題解決に結びつけるための基礎的能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会人として、公共政策課題の解決に当たって官のみに頼らず自助・共助を基本とする行動ができる。				2							
②	官民連携、NPO法人との協力の必要性を専門的観点から理解し、説明できる。					2						
③	一見複雑な社会事象を公共政策学のツールを活用して論理的・科学的・合理的に考察することができる。						2					
④	地域社会の抱える諸課題を自ら積極的にコミットすることで具体的に考察することができる。							2				
⑤	より良い地域社会の構築のために官民連携の在り方はどうすべきか説明できる。								2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②～⑤について自分の言葉で説明できているかを筆記試験により評価する。		20	20	20	20						80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標①④⑤にかかわる能力が身についているかを評価する。	5			10	5						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	20	20	30	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特定非営利活動法人制度	特定非営利活動法人 制度研究会 雨森 孝悦 編 日本政策金融公庫総	商事法務	2015	参考書	推奨
テキストブックNP0第2版	雨森 孝悦 編	東洋経済新社	2017	参考書	任意
日本のソーシャルビジネス	日本政策金融公庫総 合研究所	同友館	2015	参考書	任意
公民連携白書	東洋大学PPP研究セン ター	時事通信社	各年	参考書	任意
非営利組織の経営	P. ドラッカー	ダイヤモンド社	1991	教科書	推奨
備考	特に指定しない。				

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	ガイダンス及び官民連携（PPP）総論	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②PPPとは何かを概略的に学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、現代社会において、公共課題解決の担い手が行政のみにとどまらず、民間企業、各種法人、住民等にまで広がりを見 せている理由はなにか、官民はどのように連携すべきか、その政策的意義は何か等について説明することができる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②参考文献の目次・序文等に一通り目を通し、授業テーマの概略を把握しておく。③（各回共通）日頃より新聞・ニュースの政治・行政関連記事は常にフォローしておく。	180分
		事後学修	講義で紹介された文献・資料等を収集する。	180分
2	4月15日	官民連携の諸相①（PFIの基礎概念）】	PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）による公共施設整備等の考え方・制度等を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、公共的な事業に民間資金を導入するPFIの意義とは何か、なぜそれが必要なのか、民間企業等なぜ資金を投じて公的分野に参入するのかを理解して説明できる。	
		事前学修	指定された文献等によりPFIの仕組み・運営実態等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	4月22日	官民連携の諸相②（PFIの事例1：刑務所等）	公権力行使の典型である矯正事業に民間企業が参入する意義は何か。運営の実態はどうなっているのか具体的事例に基づき学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、刑務所の民営化はなぜ可能か、民間企業はどのように刑務所の運営に参画できるのかの学修を通じて、官民の役割分担の在り方、PFIの本質とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	指定された文献、公式ウェブサイト等により矯正施設におけるPFIの仕組み・運営実態等の概略を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておくこと。	120分
4	4月29日	官民連携の諸相③（PFIの事例2：空港・道路等）	PFIの一手法として近年注目を集めているコンセッション方式など巨大インフラに対するPFI手法を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、なぜ多額の赤字を計上してきた空港事業等に民間企業が参入するのか、その意義・制度の仕組み・実態等を理解し、説明することができる。	
		事前学修	指定された文献・公式ウェブサイト等により関西国際空港や仙台空港の「経営主体」はどこか、その経緯はどうであったかなどの概略を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	5月6日	官民連携の諸相④（PFIの事例3：上下水道・公園等）	最近のPFI等では、住民の健康・生活に直結するライフライン関連事業等もその範囲に含まれつつある。本講ではこうした事業の実例を取り上げ、その実情を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、ライフライン関連事業の民営化の意義と、事業運営の安定性・サービス品質等の懸念への対応等について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された文献・最近の新聞報道等により水道の民営化をめぐる議論等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	5月13日	官民連携の諸相⑤（第三セクター、指定管理者制度、市場化テスト）	第三セクター等すでに定着した官民連携の各種仕組とその実態・問題点を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、自治体の施設運営等は現在その多くが 公務員以外の民間主体により実施されている実態を理解し、その改善点等 を考察、説明することができる。	
		事前学修	受講者が日常的に行政の現場で接する職員は、いわゆる「公務員」なのか、それとも「民間」の職員なのか、可能な 限り事例を収集し、授業内で説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	官民連携の諸相⑥（住民意見の把握と社会的合意形成）	政策決定への住民参加の仕組みとして活用されているワークショップ、住民協定、パブリックコメントなどについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、近年の政策決定過程において説明責任（アカウンタビリティ）が問われるのみならず、住民等の具体的な参画の程度が重要になってきていることを理解し、その具体的な活用方策を考察し説明することができる。	
		事前学修	受講者の居住自治体の公式ウェブサイト等を調べ、住民の意見を行政に反映させる手段としてどのようなものが用意されているか 調べ、授業内で説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	5月27日	官民連携の諸相⑦（住民参加・外国事例）	住民が実際に公共政策実施の現場に参加する事例として 住民による税金の使途決定制度、小規模工事等への直接参加などを学ぶ。併せて諸外国の官民連携事例として ドイツのシュタットベルケなどの仕組みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、政策決定への参加にとどまらず、住民が執行過程等にも加わることの意義・重要性等について理解し、説明することができる。	
		事前学修	住民が政策決定・実施に直接参画する制度・手段としてどのようなものがあるか、行政学・地方自治論のテキスト等で学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	6月3日	NPO論①（総論・現状）	NPO法人（特定非営利活動法人）をはじめとする非営利組織とは何か、その概念・制度・機能等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、NPOと営利組織との違いは何か、NPO等が近年、新たな公共的アクターとしてクローズアップされてきた理由は何かを説明することができる。	
		事前学修	受講者の身近な地域社会にあるNPO法人等の概容を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	6月10日	NPO論②（各分野でのNPOの活動1）	高齢者福祉、障害者支援、不登校など教育問題、子育て支援などの領域におけるNPOの活動実態と課題等について学習する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、いわゆるヒューマンサービスの特性を理解した上で、なぜこの分野でNPO等が重要な役割を果たすのか、またこれら組織が機能を最大限に発揮するために克服すべき課題は何かを理解し、説明することができる。	
		事前学修	受講者の居住自治体における社会福祉施設等の運営主体にはどのようなものがあるか、複数事例に当たり、その類型を把握し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	6月17日	NPO論③（各分野でのNPOの活動2）	災害対応・コミュニティ再生、住民主体のまちづくり支援などの分野におけるNPOの活動実態と課題等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、NPOの様々な活動実態を把握し、地域社会における自助・共助の観点からその意義を考察した上で、説明することができる。	
		事前学修	報道状況・各種文献等から災害時等におけるNPOの役割・重要性について考えをまとめておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	6月24日	NPO論④（ソーシャルビジネス・世界のNPO）	ソーシャルビジネスとは何か、NPOとは何が違うのか等について学習する。併せて米英仏の非営利組織の制度・現状等を日本と比較することによって、我が国NPOの問題点等を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、「新しい公共」分野で発展が期待されているソーシャルビジネスとは何か、NPOとは何が違うのか等について説明できる。また、欧米の制度と比較して我が国NPO等の制度・実態等を分析し説明できる。	
		事前学修	「非営利」組織において事業収益の追求は許されるか？その意義とはなにか？あなたの考えをまとめ、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。また、国際的に著名なNPO・NGOの事例を調べておき、発表できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	NPO論⑥（NPO等のマネジメント1）	NPOのマネジメントに関し、特に重要案なミッション（使命）論、リーダー論、意思決定手法、イノベーション手段などについて学習する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、NPOにはなぜ一般の営利企業と異なる特有のマネジメント手段が要求されるのか、NPOの特性に即して理解し、説明できる。	
		事前学修	到達目標②③④に関して、NPOにはなぜ一般の営利企業と異なる特有のマネジメント手段が要求されるのか、NPOの特性に即して理解し、説明できる。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	7月8日	NPO論⑦（NPO等のマネジメント2）	前講に引き続き、NPOに特有のマネジメント方策として、各種ステークホルダー（利害関係者）との対外関係管理、職員・ボランティア等に係るチーム作り、財務管理等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、特にNPO等の対外・対内関係の重要性につき、具体的事例に即して論理的に説明できる。	
		事前学修	人材マネジメント論・リーダーシップ論などの文献に目を通した上で、「自分がNPO職員だったら」という当事者意識をもって授業に参加できるようにする。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	7月15日	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	60分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認しておく。	60分

科目名	現代行政論Ⅱ	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
講義前半では、公共政策を実際に担当する公務員の勤務状況の実態・問題点・改善方向などを学ぶ。講義後半では具体的に公務員が働く現場で政治サイドと公務員がどのように関係し、影響し合うのかを歴史的変遷・立法過程における実例などを通して学び、我が国政治行政システムの特性を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、公共分野におけるアクターがどのような実態にあり、いかなる原理で機能しているのか理解した上で、具体的な課題解決場面で能動的に行動できる能力を修得する。併せて将来の職業生活においてあるべき働き方とは、どのようなものなのか自ら判断でき実生活を構築できる能力を修得するとともに、将来の職場勤務環境等に係る構想力・提案力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディベート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	公務員制度の理解の上で、公務員に求められる倫理とは何か説明できる。						2						
②	公務員法制・働き方の仕組みなどを専門的観点から理解し説明できる。							2					
③	政官関係の現状などを論理的・科学的・合理的に説明できる。								2				
④	現代行政に求められる改善点を自らの分析に基づき考案し、説明できる。									2			
⑤	現場・実地調査の必要性を理解し、調査計画を立てることができる。										2		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉でき説明できているかを筆記試験により評価する。		20	30	30							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①④⑤にかかわる説明能力が身についているかを評価する。	5			10	5						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	20	30	40	5						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公務員人事改革	村松 岐夫 編著	学陽書房	2018	参考書	推奨
現代日本の公務員人事	河合 晃一 他	第一法規	2019	参考書	推奨
官僚たちの冬	田中 秀明	小学館新書	2019	その他	推奨
政治主導－官僚制を問い直す	新藤 宗幸	ちくま新書	2012	その他	任意
首相支配－日本政治の変貌	竹中 治堅	中公新書	2006	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		勤務管理責任者、複数法律の実務責任者としての経験や、国家・与党との対応を行ってきた経緯などを踏まえて適宜講義素材を提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	ガイダンス及び公務員をめぐる議論の概況	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②公務員をめぐるさまざまな展開されている議論の概要を把握する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、現在、公務員をめぐるどのような議論が行われているのか、公務員への批判等はどのような文脈で展開されているのか、公務員制度の改善に向けてどのような改善策が提案されているか説明できる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自でメディア論調等を確認して、公務員の現況に関する考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。	180分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	9月23日	国家公務員制度	国家公務員法、一般職員給与法を中心に公務員法制の概要を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、国家公務員に係る採用・任免・服務・給与・倫理・研修などの諸制度を理解し、説明できる。	
		事前学修	指定された文献等により国家公務員制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	9月30日	国家公務員の働き方改革 1	我が国において「働き方改革」や「ワーク・ライフ・バランス」が重要課題となった理由・背景事情を学ぶ。さらに公務員特有の事情が長時間労働・非効率な働き方に拍車をかけている状況を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、国家公務員の勤務実態及びこれに対する改革への取り組み状況を説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	10月7日	国家公務員の働き方改革 2	国家公務員の働き方改革のため取り組まれている具体的方策を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フレックス・タイム制、テレワーク、IT化等による業務効率化、管理職の意識改革・マネジメント能力向上等の諸方策について説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	10月14日	女性公務員をめぐる現状	我が国の働き方改革の中でも特に課題となっている「女性活躍」及び「女性公務員」をめぐる諸論点について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、「女性活躍」について、その意義・重要性、女性登用が遅れてきた理由、現在取り組まれている対策等について説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	10月21日	地方公務員をめぐる議論の概況	地方公務員をめぐるさまざまな展開されている議論の概要を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、現在、地方公務員をめぐるどのような議論が行われているのか、地方公務員への批判等はどのような文脈で展開されているのか、地方公務員制度の改善に向けてどのような改善策が提案されているか説明できる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	地方公務員制度	地方公務員法を中心とする法制度の概要について学習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、地方公務員に係る採用・任免・服務・給与・倫理・研修などの諸制度を理解し、説明できる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	11月11日	地方公務員の働き方改革 1	地方公務員の勤務実態、働き方改革のための取組を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、地方公務員の勤務実態及びその改革方策について説明できる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	11月18日	地方公務員の働き方改革 2	地方公務員の「やり甲斐喪失」、「士気低下」等の背景事情として地方公務員独自の要因があることを学習する。さらに最近、特に深刻化が指摘される教員の長時間労働等の勤務実態について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、地方公務員特有の構造的問題とこれを解決するための方策について説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	11月25日	政官関係をめぐる諸議論	最近の「官邸主導論」に代表される政官の在り方論に関し、どのような議論が行われているのか学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、政官関係に係る最近の議論の特徴を説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	12月2日	政官関係の基礎理論	政治行政分離論・融合論などの様々な見解や、本人・代理人理論等の分析ツールを学ぶとともに過去の「政治主導」への試みを概観し、その功罪を探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、様々な分析ツールを活用することにより、我が国の政治行政関係をめぐる諸論点を多角的に考察し、説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	12月9日	政治任用論	「政治任用」とは何か、その機能・問題点は何か、我が国における政治任用の態様はどうかを学習する。、	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、昨今取り沙汰される公務員の「政治化」の問題点とは何か等を具体的事例に即して論理的に説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	諸外国の政官関係	米英独仏の公務員制度を概観し、それぞれの政官関係・政治任用の在り方の違いについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、各国間の政官関係・政治任用形態の差異が、それぞれの国の政体・政治文化、歴史的経緯、国民意識を反映したものであるとの理解の上に、我が国の現行システムの成立理由・特質等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	12月23日	我が国政官関係の歴史的展開	戦前期我が国の政治任用制や戦後期のGHQによる公務員制度改革の概要等を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、なぜ我が国官僚制が今日みるような世界的にみても特異な姿 となったか、戦前との比較・GHQ改革の意義などを援用して説明できる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	1月13日	グループワーク等	立法過程における官僚の役割について、担当教員の法律実務・国会与党対応等の体験を素材に、これまでの講義内容も踏まえて学修者相互間で意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
		事前学修	事前配布するレジュメを読み込むとともに、これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）による振り返り、グループ・ディスカッション等を実施します。なお、講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）、グループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果（成績分布等）・講評を、後日、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	授業案内・導入：憲法の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	9/16	憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開	憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	9/22	憲法総論（2）：日本憲法史／日本国憲法総論	明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	9/23	人権総論：人権の類型／人権の私人間効力	基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明し，履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，人権の享有主体や私人間効力に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明している教科書pp. 13-18を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，人権の類型，人権の享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
5	9/29	精神的自由権（1）：思想・良心の自由／信教の自由	思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明し，履修者が内心の自由の意義を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，信教の自由の限界に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明している教科書pp. 136-145 を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
6	9/30	精神的自由権（2）：政教分離	制度的保障としての政教分離の意義，政教分離原則の内容，政教分離原則違反の違憲審査基準（目的・効果基準）を説明し，履修者が政教分離原則の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，政教分離の意義・内容，目的・効果基準を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準を説明している教科書pp. 145-150を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6	精神的自由権（3）：政教分離をめぐる判例	政教分離をめぐる判例（津地鎮祭訴訟，殉職自衛官合祀訴訟，箕面忠魂碑訴訟，愛媛玉串料訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，政教分離をめぐる主要判例に表れた法理を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，政教分離原則違反の違憲審査基準に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離をめぐる判例を説明している教科書pp. 150-161を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，政教分離をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
8	10/7	精神的自由権（4）：学問の自由／内心の自由の総復習	学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を説明し，履修者が学問の自由の特質を理解できるようにする。また，これまでに学修した内心の自由全般に関する総復習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を説明している教科書pp. 161-165を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，学問の自由の意義・判例をノートにまとめ，これまでの学修を振り返って，内心の自由の特質を説明できるようにする。	120分
9	10/13	精神的自由権（5）：表現の自由	表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明し，履修者が表現の自由の意義を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明している教科書pp. 165-170を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
10	10/14	精神的自由権（6）：表現の自由をめぐる判例／知る権利	表現の自由をめぐる判例（チャタレイ事件，夕刊和歌山時事事件，月刊ペン事件，沖縄返還阻止闘争事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また，表現の自由との関連で，知る権利・アクセス権の意義を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，表現の自由をめぐる主要判例に表れた法理，知る権利・アクセス権の意義を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，表現の自由に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由をめぐる主要判例，知る権利・アクセス権の意義を説明している教科書pp. 170-177を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，表現の自由をめぐる主要判例に表れた法理，知る権利・アクセス権の意義をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
11	10/20	精神的自由権（7）：取材・報道の自由／検閲の禁止	取材・報道の自由の意義及びそれをめぐる判例（博多駅テレビフィルム提出命令事件，外務省秘密漏洩事件など），検閲の禁止の意義及びそれをめぐる判例（税関検査事件，家永訴訟，北方ジャーナル事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，取材・報道の自由の意義及びそれをめぐる判例，検閲の禁止の意義及びそれをめぐる判例を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，取材・報道の自由，検閲の禁止を説明している教科書pp. 177-186を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，取材・報道の自由の意義・判例，検閲の禁止の意義・判例をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
12	10/21	精神的自由権（8）：集会・結社の自由／通信の秘密	集会・結社の自由，通信の秘密の意義及びそれをめぐる判例（皇居前広場事件，泉佐野市民会館事件，東京都公安条例事件，エンタープライズ寄港阻止闘争事件，宗教団体アレフ観察処分取消し請求事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，集会・結社の自由の意義・判例，通信の秘密の意義・判例を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，集会・結社の自由を説明している教科書pp. 187-200を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，集会・結社の自由，通信の秘密の意義・判例をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27	経済的自由権（１）：職業選択の自由	近代初期及び現代における経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（小売市場距離制限事件、薬局距離制限事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、職業選択（営業）の自由及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 201-211を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
14	10/28	経済的自由権（２）：財産権	財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（森林法共有林事件など）、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例（奈良県ため池条例事件など）、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例（予防接種ワクチン禍事件、農地改革事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、経済的自由権に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財産権をめぐる問題を説明している教科書pp. 211-220を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	講義を振り返り、財産権の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
15	11/10	経済的自由権（３）：その他の経済的自由権／経済的自由権の復習	居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を説明したのち、経済的自由権の総復習を行い、履修者が経済的自由権の全容を包括的に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を説明している教科書pp. 220-224を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、経済的自由権をめぐる論点をノートにまとめ、その意義や重要判例の概要・争点・判旨、関連する法制度の趣旨をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
16	11/11	身体的自由権（１）：適正手続の保障	奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例（成田新法事件など）を説明し、履修者が憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、身体的自由権（人身の自由）の基本原則を説明している教科書pp. 225-233を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義・判例をノートにまとめ、憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分
17	11/17	身体的自由権（２）：被疑者の権利／刑事被告人の権利	被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利）の意義を説明し、履修者が関連する法制度の趣旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、被疑者の権利及び刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 233-241を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分
18	11/18	身体的自由権（３）：刑事被告人の権利	刑事被告人の権利（証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義を説明し、履修者が関連する法制度の趣旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 241-250を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/24	参政権：参政権と選挙制度	参政権の意義及びそれをめぐる判例（外国人地方参政権訴訟，在外選挙権制限違憲訴訟など），選挙の基本原則，選挙制度の概要，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向を説明し，履修者が参政権の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，参政権の意義及びそれをめぐる判例，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，参政権の意義並びにそれをめぐる問題及び判例を説明している教科書pp. 320-326，124-135を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，「法の下の平等」原則との関連において，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向をノートにまとめ，参政権の特質を説明できるようにする。	120分
20	11/25	受益権	受益権（裁判を受ける権利，国家賠償請求権，刑事補償請求権，請願権）の意義を説明し，履修者が受益権を具体化する制度の概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，受益権の意義及びそれを具体化する制度の概要を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，受益権を説明している教科書pp. 251-263を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，受益権の意義をノートにまとめ，受益権を具体化する制度の概要を説明できるようにする。	120分
21	12/1	社会権（1）：生存権の法的性格	社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明し，履修者が生存権の法的性格を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明している教科書pp. 264-272を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，社会権の意義，生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ，生存権の法的性格を説明できるようにする。	120分
22	12/2	社会権（2）：生存権をめぐる判例／教育を受ける権利	生存権をめぐる判例（朝日訴訟，堀木訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また，教育を受ける権利の内容を説明し，履修者がその特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して，生存権をめぐる判例（朝日訴訟，堀木訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解し，説明することができる。また，到達目標①②③に関連して，教育を受ける権利の内容及び特質を理解し，説明することができる。	
		事前学修	生存権をめぐる判例，教育を受ける権利を説明している教科書pp. 272-280を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，生存権をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また，教育を受ける権利の意義をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
23	12/8	社会権（3）：労働者の権利	勤労の権利・義務の意義，労働基本権の内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例を説明し，履修者が労働者の権利の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，勤労の権利・義務の意義，労働基本権の内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，勤労の権利，労働基本権を説明している教科書pp. 280-290を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，勤労の権利・義務の意義，労働基本権の意義・内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例をノートにまとめ，労働者の権利の特質を説明できるようにする。	120分
24	12/9	包括的人権（1）：法の下での平等	「平等」思想の歴史，「平等」のさまざまな意味，憲法14条の意義を説明し，履修者が「法の下での平等」原則の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，憲法14条の「法の下での平等」原則の特質を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，「法の下での平等」の意義及び特質を説明している教科書pp. 107-114を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，「法の下での平等」原則の意義，憲法14条の差別禁止自由列举の意義をノートにまとめ，「法の下での平等」原則の特質を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/15	包括的人権（2）：平等原則違反の違憲審査基準／判	平等原則違反の違憲審査基準を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、「法の下 の平等」をめぐる判例（性別による差別に関する判例、尊属殺・尊属傷害致死重罰規定に関する 判例、非嫡出子法定相続分規定に関する判例）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理 解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下 の平等」をめぐる判例に表れた法理を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、「法の下 の平等」に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、平等原則違反の違憲審査基準及び「法の下 の平等」をめぐる判例を説明している教科書pp. 115-124を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノート にメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、平等原則違反の違憲審査基準をノートにまとめ、平等原則違反の違憲審査基準を説明でき るようにする。また、「法の下 の平等」をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明で きるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
26	12/16	包括的人権（3）：人権総論と「法の下 の平等」の総復習／個人の尊重と幸福追求 権	人権総論で扱った内容と「法の下 の平等」に関するグループ・ディスカッション等のワークを行 う。また、個人の尊重と幸福追求権の意義を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、「法の下 の平等」に関するグループ・ディスカッション等を行い、意見を述べることで きる。また、到達目標①②に関連して、個人の尊重と幸福追求権の意義を理解し、説明することができる。★2	
		事前学修	前回授業の後に課せられた小テストの解答として提出した自分の答案を印刷またはメモして授業に持参す る。また、個人の尊重と幸福追求権を説明している教科書pp. 77-82を通読し、講義内容を概観したうえで、 疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
27	12/22	包括的人権（4）：プライバ シー権・肖像権	「新しい人権」の類型を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、一般的人格権 （プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者が事件の概要・争 点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「新しい人権」の類型、一般的人格権（プライバ シー権、肖像権）の意義及びそれに 関連する判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、プライバシー権、肖像権を説明している教科書 pp. 83-93を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、「新しい人権」の類型をノートにまとめ、これを説明できるようにする。また、一般的人 格権（プライバシー権、肖像権）の意義・判例をノートにまとめ、一般的人格権の特質を説明できるように する。	120分
28	12/23	包括的人権（5）：名誉権・ 環境（人格）権／自己決定 権	名誉権・環境（人格）権の意義・判例を説明し、履修者がその趣旨を理解できるようにする。また、 自己決定権の意義・類型及びそれに関連する判例を説明し、履修者が自己決定権の特質を理 解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名誉権・環境（人格）権の意義・判例、自己決定権の意義・類型及びそれ に関連する判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、名誉権・環境（人格）権、自己決定権を説明し ている教科書pp. 93-106を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、名誉権・環境（人格）権の意義・判例をノートにまとめ、その趣旨を説明できるようにす る。また、自己決定権の意義・判例をノートにまとめ、その特質を説明できるようにする。	120分
29	1/12	補遺：「憲法をまもる」こ との意味	政治的立場のいかんを問わず、すべての国民が知っておくべき「憲法の特質」のことを、「憲法 をまもる」というキーワードを手がかりに説明し、履修者が憲法論議の前提を理解できるように する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、「憲法の特質」をはじめ、憲法論議の前提についての理解をもとに、憲法問題について自 分の意見を述べるることができる。	
		事前学修	事前配布する資料を一読し、講義内容を概観しておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、憲法論議の前提を共有したうえで、ポータル・システムにて配信する小テストに解答す る。★2	150分
30	1/13	総括：「憲法Ⅰ（人権）」 の総復習	本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項につき説明を補い、履修者がこれを十分に理解で きるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項についての知識と思考力を深めるこ とができる。	
		事前学修	この科目で学修したすべての内容を総復習し、疑問点・不明点をメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、ノートを補完しつつ、定期試験を視野に入れた総復習を行い、基本的人権の意義や重要判 例を理解し、説明できるようにする。	150分

科目名	憲法Ⅰ（人権）【法曹コース】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
ありません。

【授業方法】
指定の教科書にそって講義形式で行う。講義で使用する資料をCOLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法 7版	芦部信喜	岩波書店	2019	教科書	必携
憲法判例 8版	戸松秀典・初宿正典	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深める。	
		この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解しておくこと	120分
		事後学修	オリエンテーションを振り返ること	120分
2	9月15日	国家とは・立憲主義	憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書3-17ページを読んでくこと。立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人間社会における国家の存在意義、憲法・政府・国民の関係、立憲主義の内容とその効果をまとめること。	120分
3	9月21日	人権総論（1）	人権保障の歴史と意義・分類を学習する。歴史の進展における人権意識の形成と現代的展開、人権に共通する理念、そして異なる性質をもつ人権の内容についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史の進展における人権意識の形成と現代的展開、人権に共通する理念、そして異なる性質をもつ人権の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書75-87ページを読んでくこと。「人権保障の意義と歴史」を考察し、現代に人権保障がなかった場合を考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人権の性質と政府との関係をまとめること。	120分
4	9月22日	人権総論（2）	人権の享有主体について学習する。憲法上の権利を行使することのできる者について考察する。特に外国人の国内での処遇と人権保障の問題を深く考えていく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の享有主体についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書87-97ページを読んでくこと。人権保障の対象となる人は誰なのかについて考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「人権の享有主体」「平等（人種・外国人）」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
5	9月28日	人権総論（3）	憲法規定の私人間効力について学習する。統治権を行使する政府を生み出す法としての憲法の性質を再確認したうえで、政府の権限行使に制約を課す規定である人権規定の役割を理解し、その間隙に生じる問題への具体的解決方法を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法規定の私人間効力についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書110-118ページを読んでくこと。憲法というものの性質と、人権保障が及ぶ場面はどのようなものであるのかを考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「私人間効力」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
6	9月29日	人権総論（4）	人権の制約原理と特別な法律関係にある者の人権問題について学習する。無制約な人権は保障されないという常識的な感覚について、それを根拠づける考えを考察する。さらには一般国民とは別に、政府と特別な法律関係を結ぶ人々に対する特異な取り扱いについての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の制約原理と特別な法律関係にある者の人権問題についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書98-102, 106-110, 281-283ページを読んでくこと。「自由」と「勝手気まま」とは同じなのかを考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「福祉国家主義」という憲法原則の内容と「内在的制約」の内容をまとめること。また、参考書で「公務員の政治活動」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月5日	人権総論 (5)	人権を制約する法令の憲法適合性を判断する手法を学習する。公共の福祉による人権制約の原理を前提に、制約的な法令の合憲性を裁判所が判定する際に用いられる判断手法（「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共の福祉による人権制約の原理を前提に、制約的な法令の合憲性を裁判所が判定する際に用いられる判断手法（「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」）についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	ある法律が憲法に違反するというのを、どのように決定するのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」の内容をまとめること。	120分
8	10月6日	法の下の平等	平等原則の意義と内容について学習する。「等しい」とは何を意味するのか、どのような平等ならば憲法上許されるのかなどについての理解を深める。さらに、「合理的区別」による人の異なる取り扱いなぜ認められるのか、どのような事例に認められているのかなどを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、平等原則の意義と内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書127-148ページを読んでくること。何を基準にして等しいものと等しくないものを区別することができののかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「平等（家族関係）」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
9	10月12日	幸福追求権	「新しい人権」としての幸福追求権を学習する。主に人格権、プライバシー権の内容と保障範囲についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「新しい人権」としての人格権、プライバシー権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書119-126ページを読んでくること。電子機器の発展とプライバシー保護との関係を考えること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「幸福追求権の意味」「プライバシーの権利」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
10	10月13日	環境権・自己決定権	「新しい人権」である環境権・自己決定権について学習する。環境権の意義と内容について、さらに自己決定権の保障範囲について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「新しい人権」である環境権・自己決定権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書126-127, 271-273ページを読んでくること。自然環境を保護するために憲法は有効なのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「環境権・人格権」「自己決定権・人格権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
11	10月19日	思想・良心の自由	内心の自由の内容と保障範囲について学習する。内面の精神活動に対する制約を検討することを通して、内心の自由が保障する中核的内容の理解に努める。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、内心の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書149-153ページを読んでくること。国旗国歌に起立斉唱しなければならないのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「思想・良心の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
12	10月20日	信教の自由・政教分離	宗教に関わる自由と、政府と宗教との関係について学習する。内心の自由の内容と保障範囲、宗教への配慮の問題、宗教的色彩を帯びる政府活動の許容性などについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、宗教に関わる自由と、政府と宗教との関係についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書153-167ページを読んでくること。風変わりな信仰をもつ人たちは気持ちが悪いので追い出してしまうことは許されるのか、東日本大震災で犠牲になった人々を政府が追悼するのは許されるのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「信教の自由」「政教分離原則」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10月26日	学問の自由・大学の自治	学問研究の自由の内容と保障範囲について学習する。人間の欲望と倫理的制約の関係を念頭に置きつつ、学問研究の自由の限界について考察する。加えて、研究の場である大学の独自性について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、学問研究の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書168-174ページを読んでくること。人間の複製に関する研究は許されるのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「学問の自由と大学の自治」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
14	10月27日	表現の自由 (1)	表現の自由の意義について学習する。表現の自由に認められる「優越的地位」について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現の自由の意義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書175-180ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、表現の自由は一般に他の人権よりも「優越的地位」にあるといわれるが、その理由を考えてくること。	120分
15	11月9日	表現の自由 (2)	表現内容規制について学習する。名誉毀損表現、性表現、ヘイトスピーチなどを扱う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現内容規制についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書180-196ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「扇動的言論」「わいせつ表現」「名誉毀損」「営利的言論」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
16	11月10日	表現の自由 (3)	表現内容中立規制について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現内容中立規制についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書196-198, 205-213ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「ビラ貼り・ビラ配布」「選挙運動」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
17	11月16日	表現の自由 (4)	検閲・知る権利について学習する。表現活動に不可欠な情報の入手はいかに確保できるのかについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、検閲・知る権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書198-204ページを読んでくること。(2時間)	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「情報公開・知る権利」「事前抑制・検閲の禁止」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)	120分
18	11月17日	表現の自由 (5)	報道の自由、通信の秘密について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、報道の自由、通信の秘密についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書181-188, 221-223ページを読んでくること。(2時間)	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「報道の自由・取材源秘匿権」「通信の秘密」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11月23日	集会・結社の自由	集会・結社の自由について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、集会・結社の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書213-221ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「集会・結社の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
20	11月24日	人身の自由	人身の自由について学習する。日本国憲法下における徴兵制の可否についても考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、人身の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書242-243ページを読んでくること。（2時間）	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「意に反する苦役」と「強制役務」の違いをまとめること。（2時間）	120分
21	11月30日	法定（適正）手続の保障	法定（適正）手続の保障について学習する。行政手続にも求められる適正さについても考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定（適正）手続の保障についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書243-246ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「適正手続の原則」「行政手続」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
22	12月1日	刑事手続の保障（1）	被疑者の権利について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、被疑者の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書246-249ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「令状主義」「住居の不可侵」「弁護士依頼権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
23	12月7日	刑事手続の保障（2）	被告人の権利について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、被告人の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書249-255ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「残虐な刑罰の禁止」「遡及処罰・事後立法の禁止」「一事不再理・二重の危険」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
24	12月8日	職業選択の自由	居住移転の自由および職業・営業の自由について学習する。営利活動に対する憲法の姿勢について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、居住移転の自由および職業・営業の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書234-232ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「職業活動の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12月14日	財産権	財産権について学習する。憲法が「財産権の不可侵」を規定する意義を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書233-241ページを読んてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「財産権」「正当な補償」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
26	12月15日	社会権全般・生存権	福祉国家主義の意義と生存権の内容について学習する。私的自治の内容を確認したうえで、政府による弱者保護の実態を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、福祉国家主義の意義と生存権の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書267-271ページを読んてくること。社会的格差は正のためにどのような政策がとられているのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「生存権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
27	12月21日	教育を受ける権利・労働権	教育を受ける権利と労働者の権利を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、教育を受ける権利と労働者の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書273-281ページを読んてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「教育を受ける権利」「団結権・団体交渉権」「争議権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
28	12月22日	国務請求権	請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書256-259ページを読んてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「裁判を受ける権利」「国家賠償請求権」「刑事補償請求権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
29	1月12日	参政権	投票権、立候補の自由について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、投票権、立候補の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書260-262ページを読んてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「選挙権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
30	1月18日	まとめ	この講義で修得した内容を振り返る。	
		この回の到達目標	この講義で修得した憲法の人権保障の内容についての理解を説明できる。	
		事前学修	今までの授業内容をまとめておくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、今までの授業内容を振り返っておくこと。	120分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法と明治憲法の条文が掲載されているが、できるだけ六法も持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。						1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。							1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。								1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。										1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東裕ほか4名	嵯峨野書院	2015	教科書	必携
START UP 憲法判例50！	上田・尾形・片桐	有斐閣	2016	その他	任意
備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。定期試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。				

【オフィスアワー】
月曜日・3時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。研究室（本館6階 1616号室）メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日 (火)	近代立憲主義と人権概念の成立	近代立憲主義の意義、人権概念、イギリス権利章典、アメリカ独立宣言、フランス人権宣言、夜警国家等。 ※教科書第5講(pp. 75-85)	
		この回の到達目標	近代立憲主義の成立と内容、および当時の人権概念について説明できること。	
		事前学修	教科書第5講(pp. 75-85)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
2	9月16日 (水)	現代立憲主義と人権概念の変容	現代立憲主義の意義、社会権、社会国家(福祉国家)、行政国家、人権保障の国際化。 ※教科書第5講(pp. 85-88)	
		この回の到達目標	現代立憲主義の内容と人権の変容をもたらした背景について説明できる。	
		事前学修	教科書第5講(pp. 85-88)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
3	9月22日 (火)	人権の享有主体(1)	人権の享有主体一(1)日本国民 ※教科書第6講(pp. 90-120)	
		この回の到達目標	日本国民のみに保障される憲法上の人権について説明できる。	
		事前学修	教科書第6講(pp. 90-120)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
4	9月23日 (水)	人権の享有主体(2)	人権の享有主体一(2)外国人 ※教科書第6講(pp. 90-120)	
		この回の到達目標	外国人にも保障される人権について説明できる。	
		事前学修	教科書第6講(pp. 90-120)を読むこと。特に、判例に注意すること。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
5	9月29日 (火)	人権の享有主体(3)	人権の享有主体一(3)法人 ※教科書第6講(pp. 90-120)	
		この回の到達目標	法人にも保障される人権について説明できる。	
		事前学修	教科書第6講(pp. 90-120)を読むこと。特に、判例に注意すること。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
6	9月30日 (水)	人権と「公共の福祉」	「公共の福祉」に関する学説、「公共の福祉」に関する通説の再検討	
		この回の到達目標	「公共の福祉」とは何かを学説を整理して説明できる。	
		事前学修	教科書の索引を利用して「公共の福祉」について書かれているページに目を通すこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月6日 (火)	幸福追求権と新しい人権 (1)	幸福追求権と新しい人権― (1) 名誉権・プライバシー権 *教科書第6講(pp. 97-104)	
		この回の 到達目標	「新しい人権」とは何かを説明できる。	
		事前学修	教科書第6講(pp. 97-104)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
8	10月7日 (水)	幸福追求権と新しい人権 (2)	幸福追求権と新しい人権― (2) 自己決定権・環境権 *教科書第6講(pp. 102-104)	
		この回の 到達目標	自己決定権にはどのような権利・自由があるかを説明できる。	
		事前学修	教科書第6講(pp. 102-104)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
9	10月13日 (火)	法の下の平等(1)	法の下の平等― (1) 憲法14条1項の解釈 *教科書第7講(pp. 105-110)	
		この回の 到達目標	憲法14条1項の解釈を説明できる。	
		事前学修	教科書第7講(pp. 105-110)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
10	10月14日 (水)	法の下の平等(2)	法の下の平等― (2) 尊属殺重罰規定違憲判決 *教科書第7講(pp. 110-112)	
		この回の 到達目標	尊属殺重罰規定違憲判決(最大判昭48・4・4)の違憲理由を説明できる。	
		事前学修	教科書第7講(pp. 110-112)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
11	10月20日 (火)	法の下の平等(3)	法の下の平等― (3) 議員定数不均衡訴訟、投票価値の平等、事情判決、違憲状態等。 *教科書第7講(pp. 113-119)	
		この回の 到達目標	最近の議員定数不均衡訴訟について簡潔に説明できる。	
		事前学修	教科書第7講(pp. 113-119)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
12	10月21日 (水)	精神的自由権(1)	精神的自由権― (1) 思想・良心の自由 *教科書第8講(pp. 122-124)	
		この回の 到達目標	思想・良心の自由が問題となった判例について説明できる。	
		事前学修	教科書第8講(pp. 122-124)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10月27日 (火)	精神的自由権 (2)	精神的自由権― (2) 信教の自由の意義・内容・限界、政教分離の原則 ＊教科書第8講 (pp. 124-131)	
		この回の到達目標	「目的効果基準」について説明できる。	
		事前学修	教科書第8講 (pp. 124-131)を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分
14	10月28日 (水)	精神的自由権 (3)	精神的自由権― (3) 表現の自由、報道の自由、取材活動の自由、二重の基準論、事前抑制、検閲、表現内容規制・表現内容中立規制。 ＊教科書第8講 (pp. 132-137)	
		この回の到達目標	表現の自由の優越的地位について説明できる。	
		事前学修	教科書第8講 (pp. 132-137)を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分
15	11月10日 (火)	精神的自由権 (4)	精神的自由権― (4) 集会・結社の自由、パブリック・フォーラム	
		この回の到達目標	「集会の自由」の限界について説明できる。	
		事前学修	教科書第8講を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分
16	11月11日 (水)	精神的自由 (5)	精神的自由権― (5) 学問の自由	
		この回の到達目標	「学問の自由」が問題となった事件について説明できる。	
		事前学修	教科書第8講を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分
17	11月17日 (火)	経済的自由権 (1)	経済的自由権― (1) 居住・移転の自由	
		この回の到達目標	「居住・移転の自由」の経済的自由の側面・精神的自由の側面について説明できる。	
		事前学修	教科書第9講を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分
18	11月18日 (水)	経済的自由権 (2)	経済的自由権― (2) 職業選択の自由	
		この回の到達目標	消極的・警察的規制と積極的・政策的規制について説明できる。	
		事前学修	教科書第9講を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11月24日 (火)	人身の自由(1)	人身の自由―（１）適正手続きの保障。罪刑法定主義。	
		この回の到達目標	「罪刑法定主義」について説明できる。	
		事前学修	教科書第１０講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
20	11月25日 (水)	人身の自由(2)	人身の自由―（２）被疑者・被告人の権利	
		この回の到達目標	被疑者・被告人にはどのような権利が保障されているか説明できる。	
		事前学修	教科書第１０講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
21	12月1日 (火)	参政権(1)	参政権―（１）選挙権、被選挙権、選挙の基本原則、選挙制度。	
		この回の到達目標	選挙権・被選挙権の法的性格について説明できる。	
		事前学修	教科書第１１講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
22	12月2日 (水)	参政権(2)	参政権―（２）直接民主制の種類、最高裁判所裁判官の国民審査、住民投票、憲法改正の国民投票。、	
		この回の到達目標	日本国憲法が定める直接民主制の諸制度について説明できる。	
		事前学修	教科書第１１講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
23	12月8日 (火)	国務請求権(1)	国務請求権―（１）国務請求権の意義、請願権、請願の手続。	
		この回の到達目標	請願権の意義と請願の手続について説明できる。	
		事前学修	教科書第１２講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
24	12月9日 (水)	国務請求権(2)	国務請求権―（２）裁判を受ける権利、裁判を受ける権利の法的性格、裁判を受ける権利の範囲。	
		この回の到達目標	裁判を受ける権利の法的性格について説明できる。	
		事前学修	教科書第１２講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12月15日 (火)	国務請求権(3)	国務請求権― (3) 国家賠償請求権、刑事補償請求権。	
		この回の到達目標	国家賠償請求権と刑事補償請求権の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書第12講を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
26	12月16日 (水)	社会権(1)	社会権― (1) 生存権、プログラム規定説、抽象的権利説、具体的権利説。	
		この回の到達目標	生存権の法的性格について説明できる。	
		事前学修	教科書第13講を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
27	12月22日 (火)	社会権(2)	社会権― (2) 教育を受ける権利、教育の機会均等、義務教育の無償、学習権、教育権。	
		この回の到達目標	「教育を受ける権利」の内容について説明できる。	
		事前学修	教科書第13講を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
28	12月23日 (水)	社会権(3)	社会権― (3) 労働基本権、団結権、団体交渉権、団体行動権、公務員の労働基本権。	
		この回の到達目標	公務員の労働基本権について説明できる。	
		事前学修	教科書第13講を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
29	1月12日 (火)	国民の義務	国民の義務の意義、教育の義務、勤労の義務、納税の義務、憲法尊重擁護の義務。	
		この回の到達目標	国民の義務の内容について説明できる。	
		事前学修	教科書第14講を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
30	1月13日 (水)	授業の総まとめ	全講義の中の特に重要な点について、要点を示しながら説明する。	
		この回の到達目標	全講義の中で疑問点を明確に把握できる。	
		事前学修	前回までの授業範囲を確認しておくこと。(1時間)	60分
		事後学修	全授業で扱った部分をすべて確認すること。(3時間)	180分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	玉蟲 由樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2017年	教科書	必携
憲法判例集（第11版）	野中俊彦・江橋崇編	有斐閣	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	憲法とは何か	憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章「憲法の内容」1を読んでおくこと。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念について整理したノートを作成する。	150分
2	9月16日	基本的人権の歴史	基本的人権の歴史的展開について、人権思想、権利内容の変遷を中心に論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、とりわけロックの社会契約に関する議論、憲法における人権の保障、人権概念の歴史的変遷を説明することができる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の歴史的展開について整理したノートを作成する。	150分
3	9月21日	基本的人権の主体	基本的人権の主体ないし人的保護領域に関する議論を、国民、外国人、法人を例としながら論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法の基本的人権の享有主体に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の人的保護領域について、判例も含めて整理したノートを作成する。	150分
4	9月23日	基本的人権の制限と正当化	基本的人権の制限とその正当化にかかわる議論を、公共の福祉論、比較衡量論、二重の基準論、比例原則審査論などを紹介しながら論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本的人権の制限と正当化に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」3・4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、公共の福祉論および違憲審査基準論に関する議論を整理したノートを作成する。	150分
5	9月28日	私人間効力論	私人間の法律関係に対する基本的人権規定の適用に関する議論を、三菱樹脂事件などの主要判例の展開を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人権規定の私人間効力という問題とそれに対する日本の裁判所の対応について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、私人間における基本的人権の効力について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
6	9月30日	個人の尊重・幸福追求権 (1) 幸福追求権の保護領域	日本国憲法13条が定める個人の尊重と幸福追求権について、その意義および保護領域に関する議論を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、とりわけ幸福追求権に関する人格的利益説と一般的自由説との対立、さらにはより現代的な解釈としての「違憲の強制を受けない権利」という理解を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「包括的基本権」1～2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、幸福追求権の保護領域について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月5日	個人の尊重・幸福追求権 (2) 新しい人権	日本国憲法には明文で保障されていない権利をどのように承認するかについての議論を、前回講義で説明した幸福追求権の保護領域との関係で論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不文の権利の保障根拠、具体的な保障内容について、判例の展開を含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「包括的基本権」3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、不文の権利の保障について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
8	10月7日	法の下での平等 (1) 平等概念	絶対的/相対的平等，形式的/実質的平等といった平等概念と，日本国憲法14条後段列举事由の解釈について論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，平等概念がもつ意義と問題点，14条後段列举事由の意味が説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7章「平等権」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，憲法上の平等概念および14条後段列举事由について整理したノートを作成する。	150分
9	10月12日	法の下での平等 (2) 平等原則と違憲審査	前回講義で説明した14条後段列举事由の解釈を踏まえて，平等原則違反が問題となった具体的事例を挙げながら，平等原則違反に関する違憲審査のあり方を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，尊属殺重罰規定違憲判決，国籍法違憲判決，非嫡出子相続分差別違憲決定，再婚禁止期間違憲判決について違憲審査の内容を含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7章「平等権」2～3を読んでおく。	90分
		事後学修	平等原則違反が問題となった裁判例およびそこでの判示内容を整理したノートを作成する。	150分
10	10月14日	思想・良心の自由 (1) 思想・良心の自由の保護領域	日本国憲法19条が保障する思想・良心の自由の意義および保護領域に関する議論を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，従来の思想・良心の自由に関する解釈論を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，思想・良心の自由に関する従来の議論を判例の態度も含めて整理したノートを作成する。	150分
11	10月19日	思想・良心の自由 (2) 思想・良心の自由と行為強制	一連の君が代・日の丸裁判で新たに議論されるようになった「望まぬ行為の強制」と思想・良心の自由への間接的制約の問題を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向を踏まえて，様々な「思想－行為」問題について自己の見解を示すことができる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向について，判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
12	10月21日	信教の自由と政教分離原則 (1) 信教の自由	日本国憲法20条が保障する信教の自由の意義や保護領域，制約事例について，主要判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，信教の自由の保護領域や制約事例を，エホバの証人剣道実技拒否事件，オウム真理教解散命令事件などを含めて，具体的に説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，信教の自由の意義と内容について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10月26日	信教の自由と政教分離原則 (2) 政教分離原則	日本国憲法20条および89条が定める政教分離原則について、意義および内容を論じるとともに政教分離原則違反が問題とされた事例を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政教分離原則の内容とこれに対する違反が問題となった事例およびそこでの判示内容が説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、政教分離原則が問題となった裁判例を整理したノートを作成する。	150分
14	10月28日	学問の自由	日本国憲法23条が定める学問の自由および大学の自治について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学問の自由の意義および大学の自治の内容について、主要判例を含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、学問の自由および大学の自治について、判例を含めて整理したノートを作成する。	150分
15	11月9日	表現の自由 の保護領域	(1) 表現の自由 日本国憲法21条が定める表現の自由の意義と保護領域について、古典的表現の自由から知る権利を含めた現代的な表現の自由への展開を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由の現代的な保護領域について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由の現代的な保護領域について整理したノートを作成する。	150分
16	11月11日	表現の自由 の制約と正当化	(2) 表現の自由 表現の自由に対する多様な制約類型を整理し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由に対する制約の態様と正当化論証のバリエーションを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由が問題となった裁判例とそこでの判示内容について整理したノートを作成する。	150分
17	11月16日	集会・結社の自由	日本国憲法21条が保障する集会・結社の自由について、保護領域、制約の正当化を中心に、主要判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、集会・結社の自由の意義とともに、泉佐野市民会館事件、広島市暴走族条例事件などの事案を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」5・6を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、集会・結社の自由の意義と内容および制約事例について整理したノートを作成する。	150分
18	11月18日	職業の自由 の保護領域	(1) 職業の自由 日本国憲法22条が保障する職業の自由について、その意義と保護領域を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業の自由の具体的な保護領域について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」1・3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業の自由の保護領域について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11月23日	職業の自由（2）職業の自由の制約と正当化	制約態様や規制目的による正当化論証の切り分け論も踏まえて、職業の自由に対する制約事例を、主要判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、薬事法違憲判決、小売市場判決、酒税法事件などの主要判例について、そこでの判示内容も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業の自由が問題となった裁判例について整理したノートを作成する。	150分
20	11月25日	財産権（1）財産権の保護領域と立法者による内容形成	日本国憲法29条が保障する財産権について、保護領域と立法者による内容形成との関係性を中心に論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権の特殊性やそれが顕著にあらわれた判例である森林法違憲判決について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」2・5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ森林法違憲判決での最高裁の判断を整理したノートを作成する。	150分
21	11月30日	財産権（2）財産権制約と正当化	財産権に対する制約類型（公用収用を含む）を踏まえて、それぞれの類型における違憲審査のあり方を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権保障に対する制約とその正当化論証を、判例の立場も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」2・5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、財産権が問題となった裁判例について、制約類型を意識して整理したノートを作成する。	150分
22	12月2日	身体の自由（1）適正手続保障	日本国憲法31条が定める刑事手続に関する原則規定の解釈のあり方を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、適正手続保障が何を意味するのか、それはどこまでの射程をもつのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第10章「身体的自由権」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、適正手続保障の意義と内容について整理したノートを作成する。	150分
23	12月7日	身体の自由（2）身体の自由各論	日本国憲法33条以下で定められた具体的な刑事手続に関する権利保障を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、具体的な刑事手続に関する権利保障の内容と限界を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第10章「身体的自由権」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、刑事手続に関する権利保障を整理したノートを作成する。	150分
24	12月9日	参政権（1）選挙権の意義と射程	日本国憲法15条が保障する選挙権を中心に、政治参加のための権利保障について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙権の意義・内容について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「参政権」1・2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、選挙権の意義と内容について、在外国民選挙権判決などの判例も含めて整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12月14日	参政権（2）議員定数不均衡	選挙の正当性・有効性を阻害する原因となる議員定数の不均衡という問題について、判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議員定数不均衡問題の所在とこれに対する裁判所判断の展開を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「参政権」3・4および第7章「平等権」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、議員定数不均衡訴訟について整理したノートを作成する。	150分
26	12月16日	受益権・国務請求権	請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権について、その制度依存的な特徴を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受益権・国務請求権の意義や内容を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第12章「受益権」1～4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけそれぞれの権利の具体化を担う法令との関係性を整理したノートを作成する。	150分
27	12月21日	生存権（1）格	日本国憲法25条が定める生存権について、その法的性格をめぐる議論を紹介し、生存権保障の特殊性を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生存権の法的性格をめぐる議論を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」1・2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、生存権の法的性格を整理したノートを作成する。	150分
28	12月23日	生存権（2）生存権訴訟の行方	堀木・朝日の両訴訟をはじめとして、近年の老齢加算廃止違憲訴訟などの展開を踏まえて、生存権訴訟の可能性について論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、立法・行政裁量論と裁量統制手法について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、裁量統制手法としての判断過程統制について整理したノートを作成する。	150分
29	1月13日	教育を受ける権利・労働三権	教育を受ける権利と労働三権について、具体的な事例を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育を受ける権利と労働基本権の保障内容を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」3～5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、教育を受ける権利、労働基本権について整理したノートを作成する。	150分
30	1月18日	まとめ	基本的人権論に関するまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基本的人権論の全体像と今後の展望を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	野口 健格	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
・講義形式で実施する。 ・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 ・六法（出版社は問わない）を持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法1 人権(第7版)	渋谷 秀樹・赤坂 正浩 著	有斐閣アルマ	2019年	教科書	必携
憲法判例集(第11版)	野中俊彦・江橋崇／ 編著、渋谷秀樹／補訂	有斐閣新書	2016年	参考書	任意
備考	授業内容によってはプリントを配布することがある。その他の文献に関しては授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
土曜3限の講義終了後に適宜実施します。メールでの相談は（noguchi@cc.cgu.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 土10/19	イントロダクション（憲法とは何か？日本国憲法の三大原理と憲法の基本原理）	本講義における受講のルールや成績の評価方法等の基本事項を確認する。また、日本国憲法の三大原理やその他の基本原理について説明するとともに、憲法という法規範自体の理解と人権保障の重要性について説明する。	
		この回の到達目標	・自発的な学習ができるように講義受講の際に心掛けること、自分流のメモやノートをとる訓練の必要性を理解すること。 ・憲法の規範としての特殊性を理解するとともに、立憲主義の重要性についても意識できるようにすること。 ・日本国憲法の特徴について自身の言葉で説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
2	第二部 土10/19	人権論の歴史	人権という概念が誕生した歴史的な背景を説明し、その中で人権がどのように発展してきたのかを学んでもらう。	
		この回の到達目標	・人権が重要性に気づけるようにすること。 ・人権が尊重されなければならなくなった背景を知ること。 ・自分の言葉で人権について説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
3	第二部 土9/26	人権享受の主体適格性の限界	天皇・皇族、外国人、法人、公務員、在監者など通常の「人」とは異なる法的存在である者の存在を認識することを通して、実際に生じた事案について説明する。	
		この回の到達目標	・人権が保障される法的主体を知ること。 ・人権の保障が及ばない主体を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
4	第二部 土9/26	人権と公共の福祉	憲法典内にも度々登場する文言である「公共の福祉」について正しく理解するとともに、この概念を広く捉えてしまうことによって生じる人権への影響について学んでもらう。	
		この回の到達目標	・人権を制限できる場面を把握すること。 ・「公」の利益とは何かイメージできるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
5	第二部 土10/3/	私人間における憲法の適用	本来的には国家（権力）と個人との関係を規律した規範である憲法が私人間にも適用されるに至った背景を意識しつつ、判例を参照しながら説明する。	
		この回の到達目標	・私人間に憲法が適用されるに至った理由を語れるようにすること。 ・私人間へ憲法を適用する際の手法について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
6	第二部 土10/3	部分社会の法理	具体的な事例（大学の単位認定や地方議会における処分、政党内部の処分）について司法審査の対象になるのかどうか説明する。	
		この回の到達目標	・具体的な部分社会についてイメージできるようにすること。 ・部分社会内での問題に対し司法審査が及ぶ射程について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 土10/10	法の下の平等①（不合理な差別の禁止）	差別はあからさまに生じるとは限らず、気がつけば誰もが差別の当事者（被害者または加害者）になり得る。そのため、差別が生じた事例に関しては背景も含めて説明し、平等の意義についても深く学んでもらう。	
		この回の到達目標	・差別が起こる理由について考えることができるようになること。 ・憲法14条1項の意義について自身の言葉で説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
8	第二部 土10/10	法の下の平等②（積極的差別是正措置）	差別の是正には長い時間がかかるのが常であるが、国家がそれを認識することによって差別的状況を改善するための政策を立案する場合がある。法の下の平等を実現するための方策の一つについて学ぶ。	
		この回の到達目標	・特定の差別を是正する手法について理解すること。 ・社会の中に存在するマイノリティーについて関心を持てるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
9	第二部 土10/17	法の下の平等③（家族と平等）	家族のあり方について判示した最高裁判例を学ぶことで、家族の形について深く考えてもらう。	
		この回の到達目標	・最小単位の社会と言われている家庭内の問題と平等について考えることができるようにすること。 ・憲法判例を参照しつつ、現時点で家庭に対する国民の認識について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
10	第二部 土10/17	精神的自由①（思想・良心の自由）	個人の人格にかかわる内面的な精神作用について「強い個人」という理想を掲げることもあるが、実際には難しく周りに流される生き方になってしまいがちである。そこで、憲法が保障する精神的自由の総則的規定の意義について学習する。	
		この回の到達目標	・目に見えない心の自由の重要性和脆弱性について理解すること。 ・心の自由を侵害されたことによって生じる損害についてイメージできるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
11	第二部 土10/24	精神的自由②（信教の自由と政教分離）	宗教でいうところの「神」的（絶対的）な存在を肯定しようとする精神作用について理解し、なぜ政治と宗教が癒着しやすいのか、癒着すると（宗教を信仰していない）個人にとってどのような不都合が生じるのか説明する。	
		この回の到達目標	・宗教について理解し、保障される自由の範囲を理解すること。 ・政教分離原則の具体的な事例について知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
12	第二部 土10/24	精神的自由③（集会・結社の自由）	不特定多数の人が何か特定の目的のために集まる集会は誰もがその存在を認識しているし、誰もが一度は何らかの結社に所属したことがあるはずである。なぜこれらに参加したりしなかったりすることが自由なのかを説明する。	
		この回の到達目標	・集会やデモ行進の目的を把握すること。 ・団体を結成するとはどのようなことなのか理解すること	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 土10/31	精神的自由④（表現の自由 (1)一表現への規制)	表現の自由の保障は現代憲法学でも非常に重要なウエイトを占めている。なぜそれほどまでに重要視されるのかを具体的な事例や法理論を通して説明する。	
		この回の到達目標	・表現の自由の重要性について実感することができるようにすること。 ・実社会の中で規制される得る場面をイメージできるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
14	第二部 土10/31	精神的自由⑤（表現の自由 (2)一検閲の禁止および事前抑制の禁止)	表現の自由の保障は現代憲法学でも非常に重要なウエイトを占めている。なぜそれほどまでに重要視されるのかを具体的な事例や法理論を通して説明する。	
		この回の到達目標	・表現の自由の事前抑制が何故ダメなのかを理解すること。 ・表現の自由が行使できなくなってしまった際に生じる影響について実感できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
15	第二部 土11/7	精神的自由⑥（学問の自由)	大学の研究機関としての側面と教育機関としての側面を理解するため、いくつかの事案や判例を紹介しつつ説明する。	
		この回の到達目標	・学問の自由と大学の自治について理解すること。 ・学問の自由の歴史的背景を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
16	第二部 土11/7	人身の自由①（奴隷的拘束からの自由と適正手続)	権力者から身体の自由を奪われることはある意味で非常にわかりやすい権力行使である。そのため、国家から身体の自由を奪われないよう設定された人権規定について理解し、それら人権規定の意義について学んでもらう。	
		この回の到達目標	・権力によって身体が拘束される具体的な場面を知ること。 ・憲法が人身の自由を保障してくれることの意義を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
17	第二部 土11/14	人身の自由②（被疑者の権利と被告人の権利)	権力者から身体の自由を奪われることはある意味で非常にわかりやすい権力行使である。そのため、国家から身体の自由を奪われないよう設定された人権規定について理解し、それら人権規定の意義について学んでもらう。	
		この回の到達目標	・権力によって身体が拘束される具体的な場面を知ること。 ・憲法が人身の自由を保障してくれることの意義を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
18	第二部 土11/14	経済的自由①（職業選択の自由)	人が自己の生計を維持するためにする継続的活動である職業は、憲法上どのように位置付けられ、また規制されているのが学んでもらう。	
		この回の到達目標	・経済活動の前提としての職業について、歴史的な背景を理解すること。 ・実際に職業選択の自由が規制される場面を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第二部 土11/21	経済的自由②（財産権）	財産権の具体的な姿を認識しながら財産権の意義と法的制約の根拠について説明する。	
		この回の到達目標	・私有財産制の意義と現代社会における財産権概念について考えることができるようにすること。 ・実際に財産権が制約される場面を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
20	第二部 土11/21	受益権	請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権について説明する中で、国家に対して作為を求めることの意義を学習してもらう。	
		この回の到達目標	・18～19世紀の「自由国家」観と20世紀の「社会国家」観について正しく認識すること。 ・国民が国家に対し行為や給付を要求することの意義を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
21	第二部 土11/28	社会権①（生存権）	憲法上の健康で文化的な最低限度の生活がどのようなものなのかを考えてもらいつつ、時代時代に合った豊かさをどのように実現するか、またセーフティネットはどの程度準備すれば良いのかについて学んでもらう。	
		この回の到達目標	・憲法25条が保障する生存権の内容を理解すること。 ・朝日訴訟や堀木訴訟などの判例を通して生存権の限界を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
22	第二部 土11/28	社会権②（教育を受ける権利）	大人と比較して本来的に未熟である子供に教育を施さなければならないことは確かだが、憲法上の教育を受ける権利の考え方は様々である。ここでは過去の判例を素材にわが国の教育権の内容を説明する。	
		この回の到達目標	・教育を受ける機会が等しく与えられていなかった時代を知ること。 ・義務教育の意義について考察できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
23	第二部 土12/5	社会権③（労働基本権）	長期の景気低迷によって労働運動が下火になって久しいが、ここでは労働基本権とその周辺の法制度について学びつつ、過去や現在の状況を踏まえてその重要性和課題について説明する。	
		この回の到達目標	・労働者と使用者の権力関係について意識できるようにすること ・憲法の規定を具体化している制度について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
24	第二部 土12/5	幸福追求権の意義	幸福追求権に関する様々な学説について説明する中で、そもそも幸福追求権は何を保障しているのか考え学んでもらう。	
		この回の到達目標	・憲法13条の性質について理解すること。 ・個人主義の重要性について改めて認識すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第二部 土12/12	新しい人権①（環境権）	新しい人権の法的特徴と幸福追求権から権利性を導く方法について説明する。	
		この回の到達目標	・新しい人権が生まれた背景について理解すること。 ・新しい人権についての判例の内容を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
26	第二部 土12/12	新しい人権②（プライバシー権と行政情報開示請求権）	新しい人権の法的特徴と幸福追求権から権利性を導く方法について説明する。	
		この回の到達目標	・新しい人権が生まれた背景について理解すること。 ・新しい人権についての判例の内容を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
27	第二部 土12/19	新しい人権③（自己決定権）	新しい人権の法的特徴と幸福追求権から権利性を導く方法について説明する。	
		この回の到達目標	・新しい人権が生まれた背景について理解すること。 ・新しい人権についての判例の内容を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
28	第二部 土12/19	参政権・義務	選挙権と被選挙権について国政と地方自治に分けて説明すると同時に公務就任権についても言及する。また、勤労の義務・納税の義務・子女教育の義務について説明する。	
		この回の到達目標	・政治に参加するいくつかの具体的な場面を知ること。 ・日本国憲法の三大義務について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
29	第二部 土12/26	憲法と国際法	憲法にも「日本国が締結した条約及び確立された国際法規は、これを誠実に遵守することを必要とする。」などと規定されているが、それぞれの法規範の関係性までは言及していない。本講義では、学説はどのように解釈されているのか学んでもらう。	
		この回の到達目標	・国内法と国際法の違いについて理解すること。 ・憲法優位説と国際法優位説についてそれぞれ説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
30	第二部 土12/26	人権の国際的保障	世界人権宣言や国際人権規約、その他の条約について学び、これまで日本が国際人権についてどの程度積極的にコミットしてきたのかを説明する。	
		この回の到達目標	・国際人権という概念について理解すること。 ・ユニバーサルな人権保障の可能性と困難さについて考えることができるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）による振り返りを実施する。なお、講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。							1	1				
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。							1	1				
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。								1	1			
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果（成績分布等）・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業案内・導入：憲法（人権）の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	4/17	憲法総論：人権論へのイントロダクション	憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	4/24	人権総論：人権の類型／人権の私人間効力	基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明し，履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，人権の享有主体や私人間効力に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明している教科書pp. 13-18を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，人権の類型，人権の享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分
4	5/1	精神的自由権（1）：思想・良心の自由／信教の自由	思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明し，履修者が内心の自由の意義を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，信教の自由の限界に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明している教科書pp. 136-145を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分
5	5/8	精神的自由権（2）：政教分離	制度的保障としての政教分離の意義，政教分離原則の内容，目的・効果基準を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して，政教分離の意義・内容，目的・効果基準を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離原則を説明している教科書pp. 145-161を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	5/15	精神的自由権（3）：表現の自由	表現の自由の意義，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準，表現の自由をめぐる判例を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して，表現の自由の意義，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準，表現の自由をめぐる判例を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由を説明している教科書pp. 165-177を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，政教分離をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	経済的自由権（１）：職業選択の自由	近代初期及び現代における経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（小売市場距離制限事件、薬局距離制限事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、職業選択（営業）の自由及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 201-211を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
8	5/29	経済的自由権（２）：財産権	財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（森林法共有林事件など）、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例（奈良県ため池条例事件など）、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例（予防接種ワクチン禍事件、農地改革事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、経済的自由権に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財産権をめぐる問題を説明している教科書pp. 211-220を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	講義を振り返り、財産権の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、ポータル・システムにてレポートを提出する。★6	150分
9	6/5	身体的自由権（１）：適正手続の保障	奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例（成田新法事件など）を説明し、履修者が憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、身体的自由権（人身の自由）の基本原則を説明している教科書pp. 225-233を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義・判例をノートにまとめ、憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分
10	6/12	身体的自由権（２）：被疑者の権利／刑事被告人の権利	被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利、証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利益な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、被疑者の権利及び刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 233-250を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分
11	6/19	受益権	受益権（裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権、請願権）の意義を説明し、履修者が受益権を具体化する制度の概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受益権の意義及びそれを具体化する制度の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、受益権を説明している教科書pp. 251-263を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、受益権の意義をノートにまとめ、受益権を具体化する制度の概要を説明できるようにする。	120分
12	6/26	社会権（１）：生存権の法的性格	社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明し、履修者が生存権の法的性格を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明している教科書pp. 264-272を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、社会権の意義、生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ、生存権の法的性格を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	社会権（2）：生存権をめぐる判例／その他の社会権	生存権をめぐる重要判例（朝日訴訟、堀木訴訟）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また、その他の社会権（教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、生存権をめぐる重要判例（朝日訴訟、堀木訴訟）に表れた法理を理解し、説明することができる。また、教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、生存権をめぐる重要判例、教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権を説明している教科書pp. 272-290を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、生存権をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権の概要をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
14	7/1	包括的人権（1）：法の下での平等	「平等」思想の歴史、「平等」のさまざまな意味、憲法14条の意義、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下での平等」をめぐる判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、憲法14条の「法の下での平等」原則の特質、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下での平等」をめぐる判例の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、「法の下での平等」の意義及び特質並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 107-124を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、「平等」のさまざまな意味、「法の下での平等」をめぐる判例をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。	120分
15	7/17	包括的人権（2）：幸福追求権と「新しい人権」	個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例に表れた法理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、を説明している教科書pp. 77-97を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型、一般的人格権の意義及びそれに関連する判例に表れた法理をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
ありません。

【授業方法】
指定の教科書に即して講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。						1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。						1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。							1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。					1			1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高校から大学への憲法 第2版	君塚正臣	法律文化社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深める。	
		この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解すること。	120分
		事後学修	オリエンテーションを振り返ること。	120分
2	4月13日	人権保障の一般原則(1)	人権を憲法で保障することの意義を考察する。西欧の歴史において中世から近代へと以降する時期に、どのように自由や権利の意識が芽生え定着していったのか、。産業革命の進展とともに権利の内容はどのように拡大していったのかを考察し、人権保障に通底する理念を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書121-123ページを読み、人権保障の意義について考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の中で示された「人権保障の意義と歴史」を考察し、現代に人権保障がなかった場合を想定してみること。	120分
3	4月20日	人権保障の一般原則(2)	人権の主体・私人間効力について考察する。憲法上の権利を主張することのできる人は誰かについて、国民、外国人、法人などを区分して考察する。さらに、人権の主張はどのような場面で可能なのかについては、統治権の意義と内容を確認したうえで、国民に及ぼす影響と人権との関係を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の享有主体と憲法の私人間効力についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書124-126ページを読み、憲法上の権利を主張することのできる人は誰か、人権の主張はどのような場面で可能なのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、憲法と国民との関係を考えつつ自分が外国に行った時のことを想定してみる。また社会の中の格差や差別をどうやって解決すべきかを考えてみること。	120分
4	4月27日	人権の一般原則(3)	人権制約の原理について考察する。憲法上の権利は無制約に国民に認められるのか、それとも制約は必要か。どの程度までの制約ならば許されるのか。その制約はいかなる理由で正当化できるのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の制約原理についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書126-128ページを読み、誰もが無制限に人権を主張した場合に、どのようなことは発生するのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、「みなが平和に暮らす」とことと「みな同じように行動しなければダメ」は同じか、違うのかを考えてみること。	120分
5	5月4日	精神的自由(1)	良心の自由・信教の自由について学習する。良心の自由を保障する意義とその範囲、そして近年の最高裁判例が示した良心の自由に対する制約の原理を学ぶ。そして信教の自由を保障し、政教分離原則掲げる理由を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、思想良心の自由および信教の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書135-142ページを読み、信念を持って生きること、信仰に基づいて生活することの意義を考え、それが否定された時の感情を想像してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国旗国歌に起立斉唱しなければならないのか、風変わりな信仰をもつ人たちは気持ちが悪いで追い出してしまうことは許されるのか、東日本大震災で犠牲になった人たちを政府が追悼するのは許されるかを考えてみること。	120分
6	5月11日	精神的自由(2)	学問の自由・表現の自由の意義について学習する。学問研究を保障する意義を考察するとともに、表現の自由が人間の発展にどのような影響を及ぼし、さらには民主社会にいかなる意義を持つのかを学ぶ。また表現することに必要な様々な人間の活動についても触れる。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、学問の自由・表現の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書142-144ページを読み、科学研究や表現活動がいかに人間社会を進展させたのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、クローン技術やiPS細胞、AI技術のような人間の生活に大きな影響を与える研究はなぜ推進されるのか、表現の自由は「優越的地位」にあるというのが本当にそうなのかを考えてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	精神的自由(3)	表現の自由に対する制限・事前抑制と検閲を学習する。表現して情報を発信するにおいて、実際にどのような制約が存在しているのか、その制約はいかなる理由により正当化されているのか、その制約に対して裁判所はどのように憲法適合性を判断すべきなのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現の自由に対する制限・事前抑制と検閲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書144-149ページを読み、表現の自由になぜ制約が必要なのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、表現の自由を制約する理由はすべてにおいて同じか、それとも異なる理由づけによるのかを考えてみること。	120分
8	5月25日	精神的自由(4)	知る権利と報道機関の自由について考察する。知る権利の憲法上の地位を確認するとともに、関連する最高裁判例を学び、情報流通の確保の重要性を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、知る権利と報道機関の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書149-152ページを読み、知る権利とはどのようなものであるのか、知る権利を具体化する報道機関の自由は何かを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、新型ウィルス流行に際して政府が正しい情報を提供しない場合どうなるのかを考えてみること。	120分
9	6月1日	精神的自由(5)	集会・結社の自由について考察する。集会の自由については、公の施設を利用した場合と集団的示威行為とに分けて、最高裁判例を中心にその規制の実態を学ぶ。また結社の自由については、グループを結成して活動を継続することに政府はどのように関与することができるのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、集会・結社の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書152-154ページを読み、集会がどのように人々の政治的意見の形成にかかわるのかを考えてみること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、サークルやバンドを結成し参加して活動することによってどのような問題があるのかを考えてみること。	120分
10	6月8日	経済的自由(1)	職業選択の自由について考察する。近代市民社会の基本理念である「私的自治」を確認し、契約の自由の意味を理解したうえで、就職し起業して営利を得ることの意義を考えるとともに、営業活動における公平さはいかに確保できるのか、現状の制約は公平といえるのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職業選択の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書155-161ページを読み、就職したり起業して営利を稼ぐことは無制限に許されるのか、あるいは何らかの制約は必要なのか、必要ならどのような制約が望ましいのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、人はだれでも生活のために働くが、それを選び継続する自由はどこまで認められるのかを考えてみること。	120分
11	6月15日	経済的自由(2)	財産権保障について学習する。「私的自治」における所有権絶対の原則を確認したうえで、その他の財産的権利の内容とその保障の在り方を学ぶ。そして秩序や安全確保のための財産権制約と、弱者保護のための制約の理由を考察して、損失補償の実態を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書161-163ページを読み、各自の持つ服や靴、時計を「所有する」とはどういうことなのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、財産をもつ権利にはどのような制限が及ぶのかを考えてみること。	120分
12	6月22日	社会権(1)	福祉国家主義・生存権について学習する。憲法が福祉国家主義を採用した理由を考察するとともに、政府による経済的社会的弱者の救済を社会権の内容を確認したうえで理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、福祉国家主義・生存権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書168-170ページを読み、経済活動を放任した結果貧富の格差が著しい社会はどのようなものかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会的格差是正のためにどのような政策がとられているのかを考えてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	社会権(2)	教育権・労働基本権について学習する。教育を受ける権利の意義を考察するとともに、公教育に対する政府の関与と補助の現状を学ぶ。また労働者の権利を理解して、特に労働三権の意義を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、教育権・労働基本権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書164-168ページを読み、小学校・中学校に通わなかった場合に今の日本で仕事を探すことができるのかを考え、さらに「ブラック企業」と何か調べてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国家が国民に教育を提供することの意味を考え、また労働者が集団で使用者と交渉する権利が認められるのはなぜかを考えてみること。	120分
14	7月6日	幸福追求権	憲法13条で保障されていると理解される人格権・自己決定権について学習する。「新しい人権」を保障する原理としての「幸福追求権」を理解するとともに、その内容である人格権・自己決定権の内実を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、幸福追求権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書171-185ページを読み、憲法13条の保障する幸福を追求する権利とはどのようなものか、また憲法に明記されていない権利はどのように保障されるべきかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、自然環境を保護するために憲法は有効なのかを考えてみよう、また電子機器とプライバシー保護との関係を考えてみること。	120分
15	7月13日	平等	形式的平等と実質的平等の差異を考えつつ、平等原則の意義を学習する。社会に存在する様々な区別と差別とをいかに見分けるのかについて、最高裁判例を参照しつつ考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、平等の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書128-133ページを読み、「等しいものは等しく扱い、等しくないものは別々に扱う」ということはどういう意味なのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、何を基準にして等しいものと等しくないものを区別することができるのかを考えてみること。	120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。						1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。						1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。							1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。					1			1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか，そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか，筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として，授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて，到達目標④の観点から，それに関わる能力が身についているか，評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2017年	教科書	必携
憲法判例集（第11版）	野中俊彦・江橋崇編	有斐閣	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	憲法とは何か	憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章「憲法の内容」1～4を読んでおくこと。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念について整理したノートを作成する。	150分
2	4月16日	基本的人権の歴史	基本的人権の歴史的展開について、人権思想、権利内容の変遷を中心に論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、とりわけロックの社会契約に関する議論、憲法における人権の保障、人権概念の歴史的変遷を説明することができる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の歴史的展開について整理したノートを作成する。	150分
3	4月23日	基本的人権の保障と制限	基本的人権の人的保護領域・事項的保護領域に関する議論を紹介するとともに、その制限と正当化についても論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法上の人権保障と制限に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」2～4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の人的保護領域・事項的保護領域およびその制限について、判例も含めて整理したノートを作成する。	150分
4	4月30日	私人間効力論	私人間の法律関係に対する基本的人権規定の適用に関する議論を、三菱樹脂事件などの主要判例の展開を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人権規定の私人間効力という問題とそれに対する日本の裁判所の対応について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、私人間における基本的人権の効力について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
5	5月7日	個人の尊重・幸福追求権	日本国憲法13条が定める個人の尊重と幸福追求権について、その意義および保護領域に関する議論を、新しい人権に関する判例も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、とりわけ幸福追求権の保護領域に関する議論および、それを踏まえた新しい人権の保障問題について論じる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「包括的基本権」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、幸福追求権の保護領域、新しい人権の保障について、范蠡の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
6	5月14日	法の下での平等	絶対的/相対的平等、形式的/実質的平等といった平等概念と、日本国憲法14条後段列举事由の解釈を、主要な判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平等原則の意義およびこれに関する判例である尊属殺重罰規定違憲判決、国籍法違憲判決、非嫡出子相続分差別違憲決定、再婚禁止期間違憲判決について違憲審査の内容を含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7章「平等権」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、平等原則違反が問題となった裁判例およびそこでの判示内容を整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日	思想・良心の自由	思想・良心の自由の保護領域およびその制約に関する近年の判例の展開について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向を踏まえて、様々な「思想－行為」問題について自己の見解を示すことができる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
8	5月28日	信教の自由と政教分離原則	日本国憲法20条が保障する信教の自由および政教分離原則の意義や内容、制約・違反事例について、エホバの証人剣道実技拒否事件や津地鎮祭事件など主要判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、信教の自由、政教分離原則の内容とこれに対する制約・違反が問題となった事例およびそこでの判示内容が説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、信教の自由、政教分離原則が問題となった裁判例を整理したノートを作成する。	150分
9	6月4日	表現の自由	日本国憲法21条が定める表現の自由の意義と保護領域、さらには多様な制約類型を整理し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由の現代的な保護領域、制約の態様と正当化論証のバリエーションを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由が問題となった裁判例とそこでの判示内容について整理したノートを作成する。	150分
10	6月11日	職業の自由	日本国憲法22条が保障する職業の自由について、その意義と保護領域を論じるとともに、薬事法違憲判決、小売市場判決などの制約事例を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業の自由の具体的な保護領域、制約事例に対する裁判所の判断について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」1・3・5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業の自由が問題となった裁判例について整理したノートを作成する。	150分
11	6月18日	財産権	日本国憲法29条が保障する財産権について、保護領域と立法者による内容形成との関係性、制約類型（公用収用を含む）を踏まえた違憲審査のあり方を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権保障に対する制約とその正当化論証を判例の立場も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」2・5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、財産権が問題となった裁判例について、制約類型を意識して整理したノートを作成する。	150分
12	6月25日	身体の自由	日本国憲法31条以下が定める刑事手続に関する規律に関する解釈のあり方を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、具体的な刑事手続に関する権利保障の内容と限界を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第10章「身体的自由権」1～4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、刑事手続に関する権利保障を整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	参政権	日本国憲法15条が保障する選挙権を中心に、政治参加のための権利保障、選挙制度について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙権の意義・内容について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「参政権」1～4を読んでおく。	90分
		事後学修	選挙権の意義と内容について、在外国民選挙権判決などの判例も含めて整理したノートを作成する。	150分
14	7月9日	社会権	日本国憲法25条が保障する生存権を中心に、社会権保障のあり方、これが問題となった判例などを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会権の特徴とその実現に関する議論を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」1・2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、生存権を中心に、社会権保障とそれに伴う問題を整理したノートを作成する。	150分
15	7月16日	まとめ	基本的人権論に関するまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基本的人権論の全体像と今後の展望を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料およびこれまで作成したノートをよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法A(人権)	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
指定教科書に沿って講義形式で行う。必要に応じてレジュメ・資料等を配付するなど、教科書の記述で不十分なところを補完する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義での理解度を確認するため、指定用紙による授業内レポートを課し、それに対する講評を受講生全員に示すことによって問題意識を全体で共有し、意見を求め議論することで、講義内容の理解を深化させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。						1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果と講評とポータスシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東 裕ほか	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
START UP 憲法判例 50！	上田・尾形・片桐	有斐閣	2016年	その他	任意
Next 教科書シリーズ 比較憲法	東 裕・玉蟲由樹ほか	弘文堂	2019年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日3限 研究室（本館6階1616研究室） higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月 7日(火)	近代立憲主義の成立と展開	近代憲法の成立と基本的人権の保障，イギリス名誉革命と権利章典，アメリカの独立革命と憲法的文書，フランス革命と人権宣言。（教科書73-85頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	近代憲法の成立過程とその基本原理を理解し，簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
2	4月14日 (火)	人権の観念と内容	人権の性格，人間の尊厳，人権の分類（教科書73-85頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	人権の基礎づけと各種の人権の性格を理解し，人権の分類について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
3	4月21日 (火)	現代立憲主義と人権概念の変容	近代立憲主義から現代立憲主義への変化，現代憲法における人権保障，人権の国際化（教科書85-88頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	近代立憲主義から現代立憲主義への変化をもたらした時代背景と現代憲法の特徴を理解し，簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
4	4月28日 (火)	人権の享有主体	人権享有主体（国民・外国人・法人・未成年），各種人権の性質，享有主体ごとに保障される人権の種類（教科書90-96頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	日本国憲法の保障する基本的人権が，その性質に応じて保障されることを理解し，人権享有主体のそれぞれが享有できる人権について簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
5	5月 5日(火)	人権と公共の福祉	「公共の福祉」とは何か，公共の福祉による人権制約，違憲審査基準（教科書98-99頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	「公共の福祉」について学説・判例の見解が簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
6	5月12日 (火)	包括的人権（幸福追求権）	幸福追求権の意義と範囲，幸福追求権から導き出される人権（名誉権・プライバシー権・自己決定権・環境権）。（教科書97-104頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	「新しい人権」について，判例に則して簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日 (火)	平等原則・平等権	平等観念の展開（市民革命期の人権宣言）、日本国憲法における平等原則（14条1項の解釈・14条1項違反とされた判例）、選挙権の平等、家族生活及び職場における男女平等。（教科書105-120頁、授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	平等原則と合理的な差別について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
8	5月26日 (火)	精神的自由権（1）	精神的自由権の意義、思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則、学問の自由。（教科書122-131、141-142頁、授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	内心の自由について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
9	6月2日 (火)	精神的自由権（2）	表現の自由の意義と内容、集会の自由、結社の自由。（教科書132-140頁、授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	民主政における表現の自由の重要性について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
10	6月9日 (火)	経済的自由権	経済的自由権の意義、居住・移転の自由、外国移住・国籍離脱の自由、職業選択の自由、財産権の保障。（教科書144-158頁、授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	経済的自由権に対する規制について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
11	6月16日 (火)	人身の自由	人身の自由の意義、奴隷的拘束および苦役からの自由、適正手続の保障、被疑者の権利と被告人の権利。（教科書159-178頁、授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	人身の自由の保障の重要性について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
12	6月23日 (火)	参政権	参政権の意義、選挙権の法的性質、選挙の基本原則、選挙の方法と選挙運動の規制、直接民主制方式としての参政権。（教科書180-195頁、授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	代表民主制にとっての参政権の重要性について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日 (火)	国務請求権	国務請求権の意義，請願権，裁判を受ける権利，国家賠償請求権，刑事補償請求権。（教科書196-210頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	国務請求権は自由権や社会権とどう違うか，簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
14	7月7日 (火)	社会権（1）	社会権の歴史的背景，日本国憲法における社会権保障，生存権の法的性格，教育を受ける権利，教育権の所在と教育を受ける自由。（教科書211-223頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	生存権に関する主要な判例について，簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
15	7月14日 (火)	社会権（2）	勤労権，労働基本権の性格と内容，労働基本権の制限（教科書223-232頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	公務員の労働基本権に関する判例の傾向について，簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）による振り返りを実施する。なお、講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。							1	1				
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。							1	1				
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。								1	1			
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果（成績分布等）・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	授業案内：憲法（統治機構）の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	9/25	憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開	憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	10/2	憲法総論（2）：日本憲法史／日本国憲法の基本原理	明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程・基本原理を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	10/9	国会（1）：国会の地位	代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を説明し，履修者が国会の地位を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の地位を説明している教科書pp. 291-299を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
5	10/16	国会（2）：国会の活動	会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を説明し，履修者が会期制の趣旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を理解し，会期制の趣旨を説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の活動を説明している教科書pp. 300-306を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	10/23	国会（3）：国会の権能／議院の権能	国会の権能（法律の議決，予算の議決，条約の承認，内閣総理大臣の指名など）及びそこに表れる衆議院の優越を説明し，履修者がかかる制度の趣旨を理解できるようにする。また，議院の権能（議院の自律権，国政調査権）を説明し，これを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，国会の権能及び衆議院の優越，議院の権能を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院の優越に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の権能及び衆議院の優越，議院の権能を説明している教科書pp. 306-320を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，国会の権能及び衆議院の優越をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	国会（4）：参政権と選挙制度	参政権の意義（国民固有の権利」とされている点）と各種選挙制度（小選挙区制，大選挙区制，比例代表制）の特徴を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。また，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明し，その概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，参政権の意義と各種選挙制度の特徴，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，参政権と選挙制度を説明している教科書pp. 320-326，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明している教科書pp. 124-135を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，参政権の意義と各種選挙制度の特徴，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
8	11/6	内閣（1）：行政権と内閣制度／議院内閣制	行政権の意義，議院内閣制のしくみを説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，行政権の意義，内閣制度の変遷，権力分立制の態様と議院内閣制の本質・しくみを理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院解散総選挙に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，行政権の意義，内閣制度の変遷，議院内閣制を説明している教科書pp. 327-337を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，行政権の意義，内閣制度の変遷，権力分立制の態様と議院内閣制の本質・しくみをノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分
9	11/13	内閣（2）：内閣の組織・権能	内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を説明している教科書pp. 337-348を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
10	11/20	天皇：象徴天皇制／国事行為／皇室経済	日本国憲法の成立過程との関連で象徴天皇制の特質を説明したうえで，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，象徴天皇制を説明している教科書pp. 23-43を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。	120分
11	11/27	裁判所（1）：司法権	司法権（の独立）の意義，裁判官の身分保障を説明し，履修者が他の二権とは異なる司法権の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，司法権（の独立）の意義，裁判官の身分保障を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，司法権の特質を説明している教科書pp. 349-360を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例，司法権の限界に関する理論をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
12	12/4	裁判所（2）：裁判所の組織・権能	裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を説明している教科書pp. 360-374を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	戦争の放棄：平和主義／憲法9条／安全保障	憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，戦争の放棄に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を説明している教科書pp. 44-76を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★6	150分
14	12/18	財政：予算・決算／公金支出等の禁止	予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を説明している教科書pp. 375-389を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。	120分
15	12/25	地方自治：地方自治の本旨／地方公共団体の組織・運営	地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を説明している教科書pp. 390-410を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営をノートにまとめ，その概要説明できるようにする。	120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点を基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
ありません。

【授業方法】
指定の教科書に即して講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。							1	1				
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。							1	1				
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。								1	1			
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか，そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか，筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として，授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて，到達目標④の観点から，それに関わる能力が身についているか，評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高校から大学への憲法 第2版	君塚正臣	法律文化社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	国民主権	国民主権の意義・民主主義について学習する。まずは「主権」の含む3つの意味を確認したうえで、国民が主権を持つことの意義を考察する。そして、このことと不可分の関係にある民主主義の在り方について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書37-43ページと世界史の教科書を読み、人々が政治に参加する権利を獲得してきた歴史を確認してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてみること。	120分
2	9月21日	選挙(1)	国民の政治参加を具体化する制度、すなわち選挙の原則について学習する。普通選挙、直接選挙、自由投票、秘密投票および平等選挙の意義と内容を考察する。その際に「一票の格差」の問題に触れ、近年の最高裁判例の発展について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、選挙の原則についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書43-47ページを読み、選挙の原則の概要を理解してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、選挙の原則の内容を確認するとともに、なぜ「一票の格差」が問題となるのかを考えてみること。	120分
3	9月28日	選挙(2)	現在の選挙制度について学ぶ。衆議院および参議院の選挙制度の概要を理解したうえで、小選挙区制と比例代表制の内容と問題点を考察する。さらに日本の政党に対する規制についての理解も深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現在の選挙制度についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書43-54ページを読み、日本の選挙制度の概要を理解してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、現行の選挙制度にはどのような問題点があるのかを考えてみること。	120分
4	10月5日	国会(1)	二院制・国会の審議方法について学習する。二院制、とくに参議院の存在意義について理解を深めたうえで、国会が法律を制定する際の審査過程を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、二院制・国会の審議方法についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書59-63ページを読み、国会の組織と手続の概要を理解してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、参議院の存在意義と衆議院の優越が認められる理由を考えてみること。	120分
5	10月12日	国会(2)	立法権・議員特権について学習する。国会が制定すべき法律とはどのようなものであるべきか、また法律を制定する国会議員の任務と特権はどのようなものかを理解する。そしてなぜ国会議員が国民には認められない特権を手にするのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、立法権・議員特権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書63-68ページを読み、国会議員に認められている特権の内容を確認してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国民よりも厚く保護されている国会議員に求められる役割とはどのようなものかを考えてみること。	120分
6	10月19日	内閣	議院内閣制・内閣の構造と権能について学習する。議会と行政府との関係につき、議院内閣制の特徴を理解する。さらには、内閣の構造と権能を学んだうえで、今日の内閣主導の政治決定のあり様について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、議院内閣制・内閣の構造と権能についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書69-87ページを読み、内閣の組織と国会との関係の概要を理解してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、議院内閣制と大統領制にはどのような違いがあるのかを考えてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	裁判所(1)	司法権の内容・日本の裁判所の特徴について理解する。最高裁と下級裁判所の関係を学んだうえで、裁判所が裁判する際に不可欠な条件を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、司法権の内容・日本の裁判所の特徴についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書103-107、109-114ページを読み、裁判所の構成と裁判所の任務について理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、「法律上の争訟」の内容とその機能はどのようなものかを考えてみる。	120分
8	11月9日	裁判所(2)	司法権の限界・司法の独立について学習する。裁判所が裁判できるにもかかわらず、その権限行使を回避する範囲と理由を考察し、その必要性の理解に努める。また司法の独立の意義を考察し、裁判と民意との関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、司法権の限界・司法の独立についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書106-109、111ページを読み、司法権が政治部門から独立していることの重要性を理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、民主政と公平な裁判の関係はどうあるべきかを考えてみる。	120分
9	11月16日	違憲立法審査権	法律を無効にする裁判所の権能について考察する。国民の信託を受けている国会が制定した法律を、最高裁判所が憲法に照らし無効と判決することの意義と問題点を考察し、その判断に際して求められる「慎重さ」の原理の内容を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、違憲立法審査権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書115-120ページを読み、憲法上最高裁判所に付与された違憲立法審査権の意義について理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、最高裁判所は「憲法の番人」と呼ばれるが、それは正しい理解なのかを考えてみる。	120分
10	11月23日	地方自治(1)	地方自治制度・地方公共団体の構造について学習する。憲法の規定する「地方自治の本旨」の理解とともに、現行の地方自治制度の概要および地方公共団体の構造を学ぶ。さらには国と地方公共団体との関係を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方自治制度・地方公共団体の構造についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書89-95ページを読み、日本の国家制度としての地方自治の概要を理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国と地方の関係はどのようなものであるのかを考えてみる。	120分
11	11月30日	地方自治(2)	住民の権利・条例制定権について学習する。条例制定改廃請求やリコール権のみならず、近年広く認められた住民投票などについての理解を深める。さらに地方公共団体の権限として条例制定権ほかを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、住民の権利・条例制定権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書95-102ページを読み、地方自治制度の下での住民の権利について理解を深めてくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、住民は地方政府に対してどのような権利をもっているのかを考えてみる。	120分
12	12月7日	天皇	象徴としての地位・国事行為についての理解を深める。国民主権の下での天皇の存在、国事行為以外の天皇の行為の法的性質、象徴として天皇に認められる特権と制約、皇族などについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、天皇についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書15-18ページや日本史の教科書を読み、日本の歴史における天皇について考えてくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会的格差是正のためにどのような政策がとられているのかを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	平和主義	戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制について学習する。国際社会における戦争の位置と自衛権、自衛権と憲法9条との関係、9条の理解、国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書187-200ページを読み、憲法が平和主義を採用するようになった経緯を理解してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、現在の国際社会での自衛権の行使について考えてみる。	120分
14	12月21日	国家について・憲法とは何か、立憲主義	憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家について・憲法とは何か、立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書1-22ページを読み、さらにこれまで学んだことを振り返り、国家の存在意義、国家と憲法との関係について考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてみる。	120分
15	1月18日	憲法史	明治憲法と現行憲法の歴史を学ぶ。明治政府が憲法を制定した理由を理解したうえで、明治憲法と敗戦までの日本社会の進展を考察し、そこから得られる教訓をいかに現行憲法の理解に反映させるのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明治憲法と現行憲法の歴史についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書22-35ページを読み、と日本史の教科書を読み、幕末から明治維新、条約改正から5・15事件や満州事変を経て敗戦に至る歴史と、GHQの占領、新憲法制定、高度経済成長期にかけての歴史を理解してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、明治維新後の日本は憲法と共にどのように発展してきたのかを考えてみる。	120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。					1	1					
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。						1	1				
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2017年	教科書	必携
憲法判例集（第11版）	野中俊彦・江橋崇編	有斐閣	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	日本憲法史	大日本帝国憲法から日本国憲法へと至る歴史的な展開を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1に関連して、日本国憲法がどのような経緯で成立し、いかなる特色をもつ憲法であるかを、大日本帝国憲法と対比しながら説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「日本憲法史概説」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法の成立過程およびそこでの重要な憲法上の論点についてまとめたノートを作成する。	150分
2	9月24日	国民主権原理	国民主権という原理が憲法上どのように位置づけられ、どのような歴史的展開を経たのかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権論の原型およびその後の展開を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と象徴天皇」1および第14章「国会」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国民主権原理とその具体的な表れである民主制との関係性を整理したノートを作成する。	150分
3	10月1日	権力分立原理	権力分立論がどのような理由から憲法上の組織原理として採用されるようになったのか、そして現在どのような変化を生じているのかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、権力分立に関する理論的背景、消極的および積極的な見方の意味、現代的变化などを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、現代の権力分立が抱える諸問題について整理したノートを作成する。	150分
4	10月8日	国会と立法権	国会が行使する権力としての「立法権」について、とりわけ「立法」とはいかなる概念であるのかを論じるとともに、国会の組織・権能などを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実質的な立法概念とは何かを説明でき、また国会の組織や権能がどのように憲法上設定されているのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章「国会」1～8を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ実質的立法概念について整理したノートを作成する。	150分
5	10月15日	内閣と行政権	とりわけ行政権の概念、議院内閣制、衆議院の解散を中心に、現代的な行政権理解を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の概念、議院内閣制の本質論、衆議院解散権の所在・限界について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第15章「内閣」1～4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、執政権論、内閣の衆議院解散権についてノートを作成する。	150分
6	10月22日	裁判所と司法権	司法権がどのような意義・目的をもった権力であるのかを、司法の独立の要請を踏まえて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の概念、内在的・外在的限界、司法の独立について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、警察予備隊違憲訴訟、板まんだら事件などの重要判例を含めて、司法権の概念について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	違憲審査制 意義と類型	(1) 違憲審査の	違憲審査の意義・歴史、類型論などについて概説する。
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査がどのような理由から制度化されてきたのか、どのような類型があるのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、付随的違憲審査と抽象的違憲審査の類型について整理したノートを作成する。	150分
8	11月5日	違憲審査制 審査制の特徴と審査技法	(2) 付随的違憲	日本国憲法81条の下で採用されている付随的違憲審査制を中心に、最高裁判例を参照しながら特徴・具体的審査技法について論じる。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、付随的違憲審査制の特徴・審査技法を具体例を挙げながら説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、最高裁判例と関連づけながら、付随的違憲審査の手法について整理したノートを作成する。	150分
9	11月12日	国家と財政		国家の財政ルールの一つである租税法律主義を中心に、その意義と射程を判例も参照しながら概観する。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税法律主義についての具体的な表れを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「財政」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、租税法律主義について、判例もあわせて整理したノートを作成する。	150分
10	11月19日	地方自治制度		地方自治制度の意義と特徴を論じるとともに、地方自治の本旨(団体自治・住民自治)の意味するところ、条例制定権の射程を具体例を挙げながら論じる。
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法が採用する地方自治制度の特徴を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「地方自治」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、地方自治制度の特徴を整理したノートを作成する。	150分
11	11月26日	憲法改正		日本国憲法上の憲法改正手続について、改正限界に関する議論も踏まえて論じる。
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法改正の手続的要件や内容的限界について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第19章「憲法改正」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、憲法改正の手続と限界について整理したノートを作成する。	150分
12	12月3日	平和主義 解釈論	(1) 前文・9条の	日本国憲法前文・9条で定められた平和主義の意味を、政府解釈の変遷や学説の対応を踏まえて概観する。
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、平和主義が置かれた状況を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」1・2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、前文・9条の平和主義の解釈について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月10日	平和主義(2)9条裁判	とりわけ自衛隊の合憲性が争われた裁判について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、9条裁判がどのように展開してきたのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」2・3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、9条をめぐる判例とそこでの判決内容について整理したノートを作成する。	150分
14	12月17日	天皇制	日本国憲法が採用する「象徴天皇制」について、その内容的特質、国事行為の解釈を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「象徴天皇制」というユニークな制度の意義および現代的問題を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と天皇制」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法における天皇制の位置づけおよび国事行為に関する実質的決定権の所在について整理したノートを作成する。	150分
15	12月24日	まとめ	統治・国家組織論についてのまとめをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治・国家組織論の特徴や全体的な構造を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料とこれまで作成したノートをよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点を基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
指定教科書に沿って，講義形式で行う。必要に応じてレジュメ・資料等を配付するなど，教科書の記述で不十分なところを補完する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義での理解度を確認するため，指定用紙による授業内レポートを課し，それに対する講評を受講生全員に示すことによって問題意識を全体で共有し，意見を求め議論することで，講義内容の理解を深化させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。					1	1					
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。						1	1				
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果と講評とポータスシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東裕ほか	嵯峨野書院	2016	教科書	必携
N e x t 教科書シリーズ 比較憲法	東裕・玉蟲由樹ほか	弘文堂	2019	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日3限 研究室（本館6階1616研究室） higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日 (火)	国家と憲法	憲法と国家，憲法の分類，憲法の特質，近代憲法の基本原理，近代国家から現代国家への変容と現在憲法の展開。（教科書1-15頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	憲法と国家の関係を理解し，近代から現代にかけて憲法と国家の関係の変容を簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
2	9月22日 (火)	日本国憲法の成立	ポツダム宣言の意味，占領下における憲法の成立，八月革命説。（教科書17-24頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	日本国憲法の成立過程を理解し，その問題点を簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
3	9月29日 (火)	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本原理（国民主権・平和主義・基本的人権の尊重）とその相互関係。（教科書25-31頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	各基本原理の内容を理解し憲法の目的という観点から，基本原理相互間の関係を簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
4	10月6日 (火)	天皇の地位と権能	国民主権と天皇制，天皇の地位，天皇の権能と行為，皇室経済。（教科書33-46頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	主権の意味の多義性を理解し，国民主権と調和する天皇制について簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
5	10月13日 (火)	戦争の放棄	日本国憲法の平和主義の特徴・9条解釈のあり方，政府・裁判所の9条解釈，9条解釈についての学説，憲法と安全保障。（教科書47-70頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	多様な9条解釈の存在を知り，憲法と国家の安全保障のあり方について各自が一定の見解をもてる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
6	10月20日 (火)	権力分立原理	権力分立の意義，権力分立の目的，権力分立の現代的変容。（教科書11－12，242，261，275頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	近代憲法の基本原理である権力分立が日本国憲法にどのように現れているか，条文を示して説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月27日 (火)	議院内閣制		議院内閣制の意義と本質，議院内閣制と大統領制，首相公選論。（教科書264-271頁，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	議院内閣制がどのような制度であるか，大統領制との比較において説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
8	11月10日 (火)	国会の地位		国民の代表機関，国権の最高機関，国の唯一の立法機関。（教科書241-244，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	国民代表，国会中心立法の原則，国会単独立法の原則について簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
9	11月17日 (火)	国会の組織と権能		二院制，会期，国会の権能と議院の権能，衆議院の優越，国会議員の地位と特権，議会制民主主義と政党。（教科書241-259頁，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	日本国憲法における二院制の特徴について理解し，現代議会政治における議員と政党の関係についての憲法上の問題について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
10	11月24日 (火)	内閣の組織と権能		行政権の意義，独立行政委員会，内閣の構成，内閣の責任，内閣の権能，内閣総理大臣の地位と権能。（教科書261-273頁，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	内閣がどのように組織され，どのような権能があるか理解し，内閣と国会（衆議院）の関係について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
11	12月1日 (火)	裁判所の組織と権能		司法権の意義，司法権の独立，裁判所の構成・運営・管轄，裁判員制度，最高裁判所の組織と権能。（教科書275-286頁，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	司法権の独立の意義を理解し，それを支える制度について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
12	12月8日 (火)	違憲審査制		違憲審査制の類型，違憲審査の主体と対象，違憲審査制の運用，司法権の限界（党利行為論・立法裁量・行政裁量），違憲審査の方法と効力。（教科書286-302頁，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	違憲審査制の運用実態について理解し，司法権の限界について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日 (火)	財政	財政の基本原則，予算の意義・性質・内容，予算の作成手続，決算の意義・効果，公金の支出制限。（教科書303-315頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	財政民主主義・租税法律主義について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
14	12月22日 (火)	地方自治	地方自治の概念，わが国の地方自治制度，地方自治の本旨（住民自治・団体自治），地方公共団体の組織，条例制定権とその限界，住民投票，直接請求。（教科書316-331頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	国と地方の関係について，憲法と地方自治法をもとに簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
15	1月12日 (日)	憲法保障と憲法改正	憲法保障の意義，国家緊急権，抵抗権，憲法改正の意義と限界，憲法の変遷の意義。（教科書333-346頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	憲法改正規定と国家緊急権が，なぜ憲法保障とされるのか説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

科目名	憲法基礎演習【法曹コース】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
判例の研究や事例問題の検討を通じて、憲法問題のなかでも特に人権に関する基礎的知識を確実なものとして定着させるとともに、法律家に求められる事案処理能力に結びつく基礎的能力を修得するために、憲法の教科書や憲法判例の読み方を重点的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法律専門的観点から具体的な事案を処理することができるようになるために、憲法の「人権」分野に関する判例及び学説の意義を適切に理解するための前提となる基礎的能力を修得する。

【履修条件】
法曹（裁判官・検察官・弁護士）を志す者であること。

【授業方法】
演習形式で行う。課題について報告を担当するグループは、事前に報告内容を在宅その他の場所で作成し指定の期日までに提出した上で、その内容を授業で発表する。この発表に含まれる論点・問題点について各グループごとに議論し、課題の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	反転授業、発表、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各種人権の意義に関する基礎的な事項を説明することができる。				1							
②	事例問題に関する起案等を作成し、発表することができる。				1							
③	発表に基づいて、その問題点等を議論することができる。				1						1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	事例問題に対する起案を自ら作成し、発表することができたか、また、発表に基づいて、事例問題に含まれる論点・問題点について議論することができたかを基準に、到達目標①②③にかかわる基礎的能力が身についているかを評価する。	30	30	10								70
授業への参画度	ディスカッションにおいて積極的に発言し、他の履修者と協働して、より良い解答を導き出すことに貢献したかを基準に、到達目標③にかかわる能力が身についているかを評価する。			30								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題報告に対して、授業中に講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第7版〕	芦部信喜	岩波書店	2019	教科書	推奨
Start Up 憲法判例50！	上田健介ほか	有斐閣	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	事例問題と最高裁判例	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、事例問題とは何か、その解き方、最高裁判例の読み方を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、事例問題とは何か、その解き方、最高裁判例の読み方を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	120分
2	4月17日	人権総論（1）	人権総論に関する最高裁判例（マクリーン事件・八幡製鉄事件）を検討する。主に人権の主体に関する問題を扱い、特に外国人および法人の人権享有主体性の判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、人権の享有主体の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書87～99ページを読んでくる。人権の享有主体に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、人権の享有主体に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
3	4月24日	人権総論（2）と平等（1）	人権総論および平等に関する最高裁判例（三菱樹脂事件・尊属殺重罰規定事件）を検討する。主に憲法の私人間効力および平等に関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法の私人間効力および平等の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書111～120ページ、129～144ページを読んでくる。憲法の私人間効力および平等に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、憲法の私人間効力および平等に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
4	5月1日	平等（2）	平等に関する最高裁判例（婚外子相続事件・国籍法3条事件）を検討して、判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、平等の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書129～144ページを読んでくる。平等に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、平等に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
5	5月8日	平等（3）	人権総論および平等に関する最高裁判例（再婚禁止期間事件・夫婦同氏事件）を検討して、判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、平等の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書129～144ページを読んでくる。平等に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、平等に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
6	5月15日	幸福追求権	幸福追求権に関する最高裁判例（京都府学連事件・住基ネット事件）を検討する。主にプライバシーに関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、プライバシーの問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書120～129ページを読んでくる。プライバシーに関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、プライバシーに関して得られた知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	精神的自由 (1)	精神的自由 に関する最高裁判例（国旗国歌起立斉唱事件・ポロ事件）を検討する。主に思想良心の自由および学問の自由に関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、思想良心の自由および学問の自由の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書154～158ページ、173～180ページを読んでき。思想良心の自由および学問の自由に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、思想良心の自由および学問の自由に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
8	5月29日	精神的自由 (2)	精神的自由に関する最高裁判例（神戸高専事件・津地鎮祭事件）を検討する。主に信教の自由および政教分離に関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、信教の自由および政教分離の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書158～173ページを読んでき。信教の自由および政教分離に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、信教の自由および政教分離に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
9	6月5日	精神的自由 (3)	精神的自由に関する最高裁判例（泉佐野市民会館事件・広島市暴走族追放条例事件）を検討する。主に集会の自由に関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、集会の自由の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書222～228ページを読んでき。集会の自由に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、集会の自由に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
10	6月12日	精神的自由 (4)	精神的自由に関する最高裁判例（「チャタレー夫人の恋人」事件・札幌税関事件）を検討する。主に表現の自由に関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、表現の自由の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書180～222ページを読んでき。表現の自由、特に性表現規制と検閲に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、性表現規制と検閲に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
11	6月19日	精神的自由 (5)	精神的自由に関する最高裁判例（博多駅事件・よど号ハイジャック記事事件）を検討する。主に表現の自由に関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、表現の自由の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書180～222ページを読んでき。表現の自由、特に報道の自由と知る権利に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、報道の自由と知る権利に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
12	6月26日	精神的自由 (6)	精神的自由に関する最高裁判例（猿払事件・堀越事件）を検討する。主に表現の自由に関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、表現の自由の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解できるとともに、教科書291～297ページを読んでき。表現の自由、特に公務員の政治活動に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、公務員の政治活動に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7月3日	経済的自由		経済的自由に関する最高裁判例（薬局距離制限事件・森林法事件）を検討する。主に職業選択の自由と財産権に関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、職業選択の自由と財産権の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解してくるとともに、教科書233～239ページ、242～249ページを読んでき。職業選択の自由と財産権に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、職業選択の自由と財産権に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
14	7月10日	社会権		社会権に関する最高裁判例（朝日訴訟・堀木訴訟）を検討する。主に生存権に関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、生存権の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解してくるとともに、教科書277～281ページを読んでき。生存権に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、生存権に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分
15	7月17日	参政権		参政権に関する最高裁判例（在外日本人選挙権事件・議員定数不均衡事件）を検討する。主に選挙権と投票価値の平等に関する問題を扱い、判例の内容を分析的に理解する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、選挙権と投票価値の平等の問題を説明できるとともに、到達目標②③に関連して、事例問題に対する答案を起案、発表し、これに含まれる論点・問題点を議論することができる。	
		事前学修	事前に課題判例を理解してくるとともに、教科書270～277ページ、144～154ページを読んでき。選挙権と投票価値の平等に関するディスカッションで発言できるよう、論点・問題点・意見等を整理しておく。また、発表を割り当てられている者は報告の準備をしておく。	120分
		事後学修	授業で配布された教材に基づいて授業内容を復習し、選挙権と投票価値の平等に関して得られた知見をノートにまとめる。	120分

科目名	憲法基礎演習	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】 判例の研究や事例問題の検討を通じて、憲法問題のなかでも特に人権に関する基礎的知識を確実なものとして定着させるとともに、法律家に求められる事案処理能力に結びつく基礎的能力を修得するために、憲法の教科書や憲法判例の読み方を重点的に学修する。
--

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 法律専門的観点から具体的な事案を処理することができるようになるために、憲法の「人権」分野に関する判例及び学説の意義を適切に理解するための前提となる基礎的能力を修得する。

【履修条件】 事例問題に対する起案とその発表を義務づけるので、そのつもりで履修すること。
--

【授業方法】 原則として教科書及びレジュメをもとに講義形式で行うが、適宜、受講者による議論、事例問題について起案と発表の機会を設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題についてグループ討論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各種人権の意義に関する基礎的な事項を説明することができる。				1							
②	事例問題に関する起案等を作成し、発表することができる。				1							
③	発表に基づいて、その問題点等を議論することができる。				1						1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	事例問題に対する起案を自ら作成し、発表することができたか、また、発表に基づいて、事例問題に含まれる論点・問題点について議論することができたかを基準に、到達目標①②③にかかわる基礎的能力が身についているかを評価する。	30	30	10								70
授業への参画度	ディスカッションにおいて積極的に発言し、他の履修者と協働して、より良い解答を導き出すことに貢献したかを基準に、到達目標③にかかわる能力が身についているかを評価する。			30								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の起案について講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本憲法 I ー基本的人権	木下智史、伊藤建	日本評論社	2017	教科書	必携
START UP 憲法判例50！	上田・尾形・片桐	有斐閣	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜3時限。研究室本館6階（1616）。事前予約が望ましい（higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日 (月)	憲法判例の読み方	具体的な判例をもとに、憲法判例の読み方を解説する。	
		この回の到達目標	憲法判例の読み方がわかる。	
		事前学修	教科書「序章」を読むこと	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
2	4月13日 (月)	基本的人権総論(1) ―基本的人権の守備範囲	基本的人権の概念・分類、憲法上の権利の享有主体・妥当範囲。	
		この回の到達目標	基本的人権の概念を理解し、憲法上の権利の享有主体について説明できる。	
		事前学修	教科書「第1講」を読むこと。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
3	4月20日 (月)	基本的人権総論(2) ―憲法上の権利の限界	公共の福祉、特別の公法上の関係、国民の義務、憲法上の権利に対する制約の合憲性判断手法。	
		この回の到達目標	憲法上の権利の制約事由とその合憲性判断の手法を理解し起案に活用できる。	
		事前学修	教科書「第2講」を読むこと。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
4	4月27日 (月)	幸福追求権	幸福追求権の意義・内容、プライバシーの権利等。	
		この回の到達目標	幸福追求権の具体的内容について説明できる。	
		事前学修	教科書「第3講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
5	5月4日 (月)	法の下の平等	法の下の意義・内容、法の下の平等の判断枠組み、法の下の平等をめぐる4具体的問題	
		この回の到達目標	法の下の平等をめぐる具体的問題について判例を挙げて説明できる。	
		事前学修	教科書「第4講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
6	5月11日 (月)	精神的自由権(1) ―思想および良心の自由	精神的自由の優越的地位、思想および良心の自由の意義・内容・判断枠組み・具体的問題。	
		この回の到達目標	思想および良心の自由が問題となった判例とその判旨を説明できる。	
		事前学修	教科書「第5講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日 (月)	精神的自由権(2) — 信教の自由・政教分離	信教の自由の意義・内容・判断枠組み・具体的問題、政教分離原則の意義・内容・判断枠組み・具体的問題。	
		この回の到達目標	信教の自由・政教分離が問題となった判例とその判旨を説明できる。	
		事前学修	教科書「第6講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
8	5月25日 (月)	精神的自由権(3) — 学問の自由	学問の自由の意義・内容・判断枠組み・具体的問題、大学の自治の意義・内容・具体的問題。	
		この回の到達目標	学問の自由が問題となった判例とその判旨を説明できる。	
		事前学修	教科書「第7講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
9	6月1日 (月)	精神的自由権(4) — 表現の自由	表現の自由の意義・内容・判断枠組み・具体的問題、取材・報道の自由、集会の自由、結社の自由、通信の秘密。	
		この回の到達目標	表現の自由に対する規制の合憲性判断枠組みを説明できる。	
		事前学修	教科書「第8講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
10	6月8日 (月)	経済的自由権(1) — 職業の自由	経済的自由権の意義・内容・判断枠組み、職業の自由の意義・内容・判断枠組み・具体的問題。	
		この回の到達目標	経済活動の自由に対する規制の合憲性判断枠組みを説明できる。	
		事前学修	教科書「第9講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
11	6月15日 (月)	経済的自由権(2) — 財産権	財産権の保障の意義・内容・判断枠組み・具体的問題、損失補償の意義・内容・判断枠組み・具体的問題。	
		この回の到達目標	財産権が問題となった判例とその判旨を説明できる。	
		事前学修	教科書「第10講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
12	6月22日 (月)	人身の自由	人身の自由の意義・内容、適正手続の保障等。	
		この回の到達目標	人身の自由が問題となった判例とその判旨を説明できる。	
		事前学修	教科書「第11講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6月29日 (月)	社会権		社会権の意義・内容、生存権の保障の意義・内容・判断枠組み・具体的問題、教育を受ける権利の意義・内容・判断枠組み・具体的問題、労働基本権の意義・内容・判断枠組み・具体的問題。
		この回の到達目標	社会権が問題となった判例とその判旨を説明できる。	
		事前学修	教科書「第12講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
14	7月6日 (月)	参政権		参政権の内容、選挙権の意義・内容、投票価値の平等の意義・内容・判断枠組み・具体的問題、被選挙権の意義・内容・判断枠組み・具体的問題。
		この回の到達目標	参政権が問題となった判例とその判旨を説明できる。	
		事前学修	教科書「第13講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分
15	7月13日 (月)	国務請求権		国務請求権の意義・内容、請願権の意義・内容・判断枠組み、国家賠償請求権の意義・内容・判断枠組み・具体的問題、刑事補償請求権の意義・内容・判断枠組み・具体的問題、裁判を受ける権利の意義・内容・判断枠組み・具体的問題。
		この回の到達目標	国務請求権が問題となった判例とその判旨を説明できる。	
		事前学修	教科書「第14講」を読む。	120分
		事後学修	教科書とレジュメを読み返し、要点を整理すること。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
公共政策学科で行政職課程の在籍が許可された学生のみで、他のコースの学生、他学科の学生は履修できない。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に出席することが必要です。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
グループ学習を行いつつ、（グループごとの）プレゼンテーションやディバートを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、ディバート、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。								2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。						2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。										2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。										2	2	2	2
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに公務員の実際を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/16	ガイダンス、公務員とは	授業の概要、目的等について説明する。公務員制度について説明する。
		この回の到達目標	①～④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解し、公務員とはなにか。その制度や概要について説明できる。
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。公務員とはなにかイメージを整理してくる。
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること
2	9/23	公務員の種類(国家)	日本の国家公務員制度のしくみや試験制度について学修する。
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の国家公務員制度の機能を理解し説明できる。
		事前学修	国家公務員の種類について調べてくる。
		事後学修	授業で扱った国家公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。
3	9/30	公務員の種類（地方）	日本の地方公務員制度について学修する。
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の地方公務員制度について理解する。また、国家公務員との相違について説明できる。
		事前学修	日本の地方公務員の種類と採用試験方法について調べてくる。
		事後学修	授業で扱った地方公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。
4	10/7	公務員という職業	日本の公務員の仕事の特質について民間との比較を学修する。
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の公務員の仕事の内容の特質を説明できる。
		事前学修	可能な限り公務員の仕事の内容を調べてまとめてくる。
		事後学修	民間の仕事との比較をして、その特質をまとめておくこと。
5	10/14	公務員に必要な要素と自分たちに欠けているもの（集団討論）	公務員の社会における使命感とそれに必要な要素について集団討論により学修する。
		この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の持つ使命感とはなにかを自分なりに説明できる。
		事前学修	公務員による社会貢献や行政の仕事について調べてくる。
		事後学修	公務員の使命感と必要な要素について集団討論の結果をうけて、自分なりの課題を整理してみる。
6	10/21	公務員の特殊性と社会的責任	公務員の仕事の特殊性と社会的責任について学修する。
		この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の仕事の特殊性について、他のアクターの違いや他のアクターとの連携、政策形成に果たす役割を説明できる。
		事前学修	公務員と他のアクターとの協働について事例を調べてくる。
		事後学修	公務員の時代ごとの役割変化についてまとめておくこと。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/28	公務員という仕事の課題 (集団討論)	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、公務員の仕事の課題や困難な状況について説明できる。
		事前学修	公務員の仕事で困難な業務について討論できるように調べてくる。 120分
		事後学修	公務員の仕事の課題について集団討論の結果をうけて整理してみる。 120分
8	11/11	社会における公務員	公務員と社会の関係について学修する。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、公務員が社会の中で果たす役割と機能的変化について説明できる。
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと 120分
		事後学修	授業で扱ったグループ・ワークなどの結果をうけて整理してみる。 120分
9	11/18	官民の感覚（ゲストスピー カー）	公務員の仕事にも民間感覚が必要であることを学修する。民間感覚とはになかということを学修 する。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、現代の公務員に求められる民間感覚について議論できる。
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。 120分
		事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。 120分
10	11/25	行政手法と公務員	行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について学修する。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について説明できる。
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。 120分
		事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことをふまえ、務員について自分なりに整理する。 120分
11	12/2	公務員の業務の実際と特質	公務員の実際の業務と特質について学修する。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、公務員の実際と特質について他者と議論ができる。
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。 120分
		事後学修	公務員の実際について、就職指導課で調べる。 120分
12	12/9	志望先公務員試験（多岐選 択問題）	学習者がが志望する公務員試験の選択問題について学修する。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、学習者が志望する公務員試験の選択問題の傾向とその仕組みについて、情報収集と説明がで きる。
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。 120分
		事後学修	公務員試験の選択問題を実際に解いてみる。 120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	志望先公務員試験（論述問題）	学習者がが志望する公務員試験の論述試験について学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、学習者がが志望する公務員試験の論述試験の傾向とその仕組みについて説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
		事後学修	公務員試験の論術問題を実際に解いてみる。	120分
14	12/23	面接試験	公務員試験で行われる面接試験について学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、公務員試験の面接試験の方法や内容について説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
		事後学修	自分が希望する公務員試験の面接について調べてみる。	120分
15	1/13	まとめ	これまでの授業で扱った公務員制度について説明し、その試験内容について学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人に説明できる。	
		事前学修	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
		事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義、グループワーク、個人ワークを混合して実施する。履修人数に応じて、講義とグループワークの比重を変更する可能性がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、個人ワーク、ディスカッションにより、主体的に公共政策の諸問題に対する考えを深める機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。									2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									2	2	2	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修人数によるが、毎回の授業内あるいは翌週の授業時に適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共政策学の基礎	秋吉貴雄，伊藤修一郎，北山俊哉	有斐閣	2015	参考書	任意
公共政策の歴史と理論	笠原英彦，桑原英明，大山耕輔	ミネルヴァ書房	2013	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
金曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	公共政策とは何か	授業の概要を説明するとともに、公共政策とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	公共政策という概念にどのような活動が含まれるのかを理解し説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく確認し、興味・関心を抱く内容があるか確認しておく。	120分
		事後学修	自宅や大学の付近で、公共政策によって供給された財・サービスがあるかどうか考えてみる。	120分
2	9/22	公共的問題とは何か(1)アジェンダ・セッティング	グループワーク、ディスカッションを通じて、社会の中に存在する様々な問題が、公共的問題として認識されるプロセスについて学修する。	
		この回の到達目標	社会の中に存在する様々な問題が、公共的問題として認識されるプロセスを理解し説明できるようになる。	
		事前学修	普段の社会生活の中で、自分にとっては問題であるが、社会的には問題視されていない事象を探してみる。	120分
		事後学修	事前学修で見つけた事象が、なぜ公共的問題として社会の中で問題視されていないのかを考察してみる。	120分
3	9/29	公共的問題とは何か(2)価値観・争点の多様性	グループワーク、ディスカッションを通じて、社会には多様な争点、問題が存在することを学修する。	
		この回の到達目標	どのような問題を公共的問題として認識するか、それぞれの問題間の優先順位には、個々人の多様性があることを、グループワーク、ディスカッションを通じて体感し理解する。	
		事前学修	ニュースや新聞を見て、解決すべきだと考える公共的問題を10個考え、優先順位を付けてリストアップしておく。	120分
		事後学修	ディスカッションの際に、自分とは異なる意見を述べた人々の立場に立って、相手の考えを理解してみようとする。	120分
4	10/6	誰が公共政策を決めるのか(1)公共政策にまつわる利害関係	グループワーク、ディスカッションを通じて、具体的な公共政策に関わるステークホルダーについて理解を深める。	
		この回の到達目標	利益集団、ステークホルダーなどの概念を、具体的な公共政策の実例から理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	自宅の周りで選挙のポスターを貼っている会社を探し、どのような会社がどの政党のポスターを貼っているかまとめてみる。	120分
		事後学修	授業で学修した知識を活用し、自宅の周りで見つけた会社と支持政党の利害関係を考察してみる。	120分
5	10/13	誰が公共政策を決めるのか(2)理念・アイデア	グループワーク、ディスカッションを通じて、環境政策を題材に、利益集団が背後に存在しない政策がなぜ実現するのかを学修する。	
		この回の到達目標	環境省の活動の実例から、利益集団とは異なる形で政策を実現するプロセスが存在することを理解し、政策過程における理念・アイデアの影響を説明できるようになる。	
		事前学修	SDGsなどの環境政策について事前に学修し理解を深めておく。	120分
		事後学修	個別の利害関係を超えて環境保全を推進するにはどのような要因が必要か自分なりに考察する。	120分
6	10/20	誰が公共政策を決めるのか(3)合理的意思決定とその限界	合理的意思決定、アメリカにおけるPPBSの試みについて学修する。	
		この回の到達目標	合理的意思決定の仕組みとその限界について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	どうすれば最善の公共政策を選ぶことができるか考察する。	120分
		事後学修	EBPMの概念について調査し、合理的意思決定の観点からその妥当性を検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	政策の評価	グループワーク、ディスカッションを通じて、公共政策の評価をどのように行えばよいかを学修する。	
		この回の到達目標	実際にグループワークで公共政策の評価を体験し、公共政策の評価が難しいものであることを理解する。	
		事前学修	自分の住んでいる自治体の図書館を訪問し、どのような基準で評価を行えば、図書館という行政サービスの良し悪しを測定できるか考察する。	120分
		事後学修	授業で学修した内容を踏まえた上で、図書館サービスの評価をどのように行うのがよいか再度考察する。	120分
8	11/10	政策事例 1 在	働き方改革を題材に、現在の日本の労働問題とそれに対応する公共政策を学修する。	
		この回の到達目標	日本の労働政策の現状を理解する。	
		事前学修	働き方改革とはどのようなものか、日本の雇用問題にはどのようなものがあるか、事前に調査する。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
9	11/17	政策事例 1 察	どのような公共政策を実施すれば働き方改革が進展するか、グループワークを通じて主体的に学修する。	
		この回の到達目標	各グループで報告のための準備を進め、働き方改革を推進するための施策を考察する。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
10	11/24	政策事例 1 する報告資料の準備	どのような公共政策を実施すれば働き方改革が進展するか、グループワークを通じて主体的に学修する。	
		この回の到達目標	各グループで報告のための準備を進め、政策提言の報告資料を作成する。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
11	12/1	政策事例 1 する報告	各グループでこれまでの成果を報告する。	
		この回の到達目標	グループで調査した政策提言の内容を、聴衆に対してうまく伝えることができるようになる。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の反省、他グループの報告の良かった部分を確認し、次の報告に活かせるようにする。	120分
12	12/8	政策事例 2 在	生物多様性国家戦略・地域戦略を題材に、現在の日本における自然環境保全政策について学修する。	
		この回の到達目標	生物多様性国家戦略・地域戦略など、日本における自然環境保全政策について理解する。	
		事前学修	生物多様性という概念について事前に調査・学修しておく。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	政策事例2 環境政策の考察	どのような公共政策を実施すれば自然環境の保全が進展するか、グループワークを通じて主体的に学修する。	
		この回の到達目標	各グループで報告のための準備を進め、自然環境の保全を進展させるための施策を考察する。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
14	12/22	政策事例2 環境政策に関する報告資料の準備	どのような公共政策を実施すれば自然環境の保全が進展するか、グループワークを通じて主体的に学修する。	
		この回の到達目標	各グループで報告のための準備を進め、政策提言の報告資料を作成する。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
15	1/12	政策事例2 環境政策に関する報告	各グループでこれまでの成果を報告する。	
		この回の到達目標	グループで調査した政策提言の内容を、聴衆に対してうまく伝えることができるようになる。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の反省、他グループの報告の良かった部分を確認し、次の報告に活かせるようにする。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期の公共政策論を履修していること（他学科の学生は履修できない）。必ず毎回授業に出席すること。※グループ分け、輪読分担決定等を行うので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
講義形式に加え、個人研究発表、ディスカッション等を行う（それぞれの時間配分は受講者数に応じて変わり得る）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人研究発表、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講者の発表・発言内容、ディスカッション、レポート等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 公共政策学	秋吉貴雄	中央公論社	2017	教科書	必携
自治体の公共政策	岩崎忠	学陽書房	2013	教科書	必携
公共政策学	石橋章市朗他	ミネルヴァ書房	2018	参考書	推奨
対立軸でみる公共政策入門	松田 憲忠他	法律文化社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	ガイダンス及び公共政策学の概容	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②公共政策学とはなにかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関し、授業全般の構成について把握するとともに、公共政策学の全体的イメージを理解し、その概要及び他の隣接学問分野との異同について説明することができる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②指定教科書の導入部分を読み進めておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
2	9月25日	講義1（公共政策課題の発見）	公共政策課題とは何か、その本質とは何か等につき学習する。具体的事例として福祉政策を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、身近にある様々な問題のうち、社会的解決を必要とするものは何か、そしてそれはなぜ個人や企業の努力で解決することが出来ないのかなどを説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	10月2日	講義2（公共政策の設計・決定）	公共政策はどのようなプロセスを経て決定されるのかなどについて学習する。具体的事例として教育政策を取り上げる。具体的事例として経済政策を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、社会的問題の解決のために考えられる手段としてどのようなものがあるか、政策決定過程に参画する多くのアクター（政治・民間・学界・市民・官僚）はどのような相互作用を行って政策が作られるのかを説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により等を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	10月9日	講義3（公共政策の実施）	決定された公共政策は実施フェーズにおいて、どのような手段・プロセスを用いて具体化されるのかについて学習する。具体的事例として農業政策を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、公共政策の現場においてどのように政策が展開されるのか生活保護の事例等を基に具体的に説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	10月16日	講義4（公共政策の評価・改善）	公共政策のPDCAサイクル及びその中で基幹的な位置を占める政策評価について学習する。具体的事例として公共事業・公共交通政策を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、実施された政策の「善し悪し」は何をもって測るのか、また政策が社会に与える「効果」とは何なのか、公共政策を改善するために市民・専門家等は政策決定過程等にどう参画すべきかなどについて説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策評価論のテキストの該当部分にも目を通して、自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	10月23日	個人研究発表①（自治体の政策課題）	参加者輪番により、自治体における政策課題の発見、アジェンダ化の過程などに係る教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほかエネルギー政策について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	個人研究発表②（条例制定過程・予算編成過程）	参加者輪番により、自治体における政策決定過程の最重要プロセスである条例・予算の作成フェーズに関する教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほかICT政策について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
8	11月6日	個人研究発表③（自治体議会・国との関係）	参加者輪番により、自治体が政策決定・執行するに当たって議会・国とはどのような影響を与え合っているのか、各アクターの動きを扱った教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほか、外交・安全保障政策について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
9	11月13日	個人研究発表④（政策の実施プロセス、社会資本整備など）	参加者輪番により、自治体における施策執行の様々な具体的ケースに関する教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほか移民政策について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
10	11月20日	個人研究発表⑤（政策の概念と公共政策の歴史）	参加者輪番により、学問としての公共政策学の位置付け、政策の定義・理念型、歴史的発展モデル、現代的な政策課題の諸相などについて教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほか、中央一地方関係について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
11	11月27日	個人研究発表⑥（政策過程論）	参加者輪番により、アジェンダ設定、政策立案過程、政策決定の各種モデル、政策実施過程、政策評価等についての教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほか予算・財政政策について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12月4日	個人研究発表⑦（政策デザイン）	参加者輪番により、政策デザインの概念、デザイン手段、政策デザインを取り巻く文脈（コンテ クスト）への配慮、デザインに求められる規範などについての教科書該当部分の概要紹介・関連 事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。	
		この回の 到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある 選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と 異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め 向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発 表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしてお く。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
13	12月11日	発表担当者は、その準備を 行う（当該準備時間は最低6 時間）。それ以外の者は、 あらかじめ告知された発表 テーマに基づいて、これま での学修内容を振り返り、 積極的に質問・発言・討議 等ができるようにしてお く。	受講生が自ら選んだテーマについて、これまで学んだ理論・政策技法等の知識をいかしたレポー トを作成し、その内容を発表する。これに基づき受講者相互間で意見交換を行い、知識・技法の 展開能力を更に確かなものとする。	
		この回の 到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある 選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と 異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め 向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発 表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしてお く。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
14	12月18日	個人研究発表⑨（自由課題 2）	受講生が自ら選んだテーマについて、これまで学んだ理論・政策技法等の知識をいかしたレポー トを作成し、その内容を発表する。これに基づき受講者相互間で意見交換を行い、知識・技法の 展開能力を更に確かなものとする。	
		この回の 到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある 選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と 異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め 向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発 表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしてお く。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
15	12月25日	個人研究発表⑩（自由課題 3）	受講生が自ら選んだテーマについて、これまで学んだ理論・政策技法等の知識をいかしたレポー トを作成し、その内容を発表する。これに基づき受講者相互間で意見交換を行い、知識・技法の 展開能力を更に確かなものとする。	
		この回の 到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある 選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と 異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め 向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発 表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしてお く。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
他学科の学生は履修できない。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に出席することが必要である。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。

【授業方法】
グループ学習を行いつつ、（グループごとの）プレゼンテーションやディベートを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題やグループディスカッションに対する講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
		事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	9/22	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICT政策の現状について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	9/29	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICT成長戦略について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	10/6	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（災害対策）について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	10/13	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（教育分野）について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	10/20	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（医療分野）について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（データ利活用）について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	11/10	グループディスカッション①	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
		この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	11/17	グループディスカッション②	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
		この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	11/24	グループディスカッション③	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
		この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	12/1	わが国の現状と解決すべき課題に関する学習①	わが国における社会的課題を取り上げ、その解決策について検討する。	
		この回の到達目標	わが国における社会的課題の概要や、その解決のための政策について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	12/8	わが国の現状と解決すべき課題に関する学習②	わが国における社会的課題を取り上げ、その解決策について検討する。	
		この回の到達目標	わが国における社会的課題の概要や、その解決のための政策について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	プレゼンテーション①	前回のディスカッションの結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	わが国における社会的課題と解決策について、グループごとに、他者に分かりやすく説明する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	12/22	プレゼンテーション②	前回のディスカッションの結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	わが国における社会的課題と解決策について、グループごとに、他者に分かりやすく説明する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	1/12	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	ICT政策に関する主要な論点を修得する。	
		事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
公共政策学科で行政職課程の在籍が許可された学生のみで、他のコースの学生、他学科の学生は履修できない。

【授業方法】
講義および演習 レポート試験や課題レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。									2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									2	2	2	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいつていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館 6 階の研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会などで議論を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/16	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について説明する。公務員制度について説明する。	
		この回の到達目標	授業の狙いや内容、方法について理解し、公務員とはなにか。その制度や概要について説明できる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。公務員とはなにかイメージを整理してくる。	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	4/23	日本の国家公務員制度	日本の国家公務員制度のしくみや試験制度について学修する。	
		この回の到達目標	日本の国家公務員制度の機能を理解する。	
		事前学修	国家公務員の種類について調べてくる。	120分
		事後学修	授業で扱った国家公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
3	4/30	日本の地方公務員制度	日本の地方公務員制度について学修する。	
		この回の到達目標	日本の地方公務員制度について理解する。また、国家公務員との相違について説明できる。	
		事前学修	日本の地方公務員の種類と採用試験方法について調べてくる。	120分
		事後学修	授業で扱った地方公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
4	5/7	公務員の仕事の実態と特質について	日本の公務員の仕事の実態について民間との比較を学修する。	
		この回の到達目標	日本の公務員の仕事の内容の特質を説明できる。	
		事前学修	可能な限り公務員の仕事の内容を調べてまとめてくる。	120分
		事後学修	民間の仕事との比較をして、その特質をまとめておくこと。	120分
5	5/14	公務員の仕事の特殊性	公務員の仕事の特殊性について学修する。	
		この回の到達目標	公務員の仕事の特殊性について、他のアクターの違いや他のアクターとの連携、政策形成に果たす役割を説明できる。	
		事前学修	公務員と他のアクターとの協働について事例を調べてくる。	120分
		事後学修	公務員の時代ごとの役割変化についてまとめておくこと。	120分
6	5/21	公務員の使命感（集団討論）	公務員の社会における使命感について集団討論により学修する。	
		この回の到達目標	公務員の持つ使命感とはなにかを自分なりに説明できる。	
		事前学修	公務員による社会貢献について事例を調べてくる。	120分
		事後学修	公務員の使命感について集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/28	公務員の仕事の課題（集団討論）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	公務員の仕事の課題や困難な状況について説明できる。	
		事前学修	公務員の仕事で困難な業務について討論できるように調べてくる。	120分
		事後学修	公務員の仕事の課題について集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分
8	6/4	公務員と社会の関係について	公務員と社会の関係について学修する。	
		この回の到達目標	公務員が社会の中で果たす役割と機能的変化について説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分
9	6/11	公務員と民間感覚（ゲストスピーカー）	公務員の仕事にも民間感覚が必要であることを学修する。民間感覚とはになかということを学修する。	
		この回の到達目標	現代の公務員に求められる民間感覚について議論できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。	120分
10	6/18	行政手法の担い手としての公務員（ゲストスピーカー）	行政手法としての公務員の役割について学修する。	
		この回の到達目標	行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について学修する。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。	120分
11	6/25	公務員の実際と特質	公務員の実際と特質について学修する。	
		この回の到達目標	公務員の実際と特質について他者と議論ができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	公務員の実際について、就職指導課で調べる。	120分
12	7/2	公務員試験について（多岐選択問題）	公務員試験の選択問題について学修する。	
		この回の到達目標	公務員試験の選択問題の傾向とその仕組みについて説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	公務員試験の選択問題を実際に解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/9	公務員試験について（論述問題）	公務員試験の論述試験について学修する。	
		この回の到達目標	公務員試験の論述試験の傾向とその仕組みについて説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	公務員試験の論術問題を実際に解いてみる。	120分
14	7/16	公務員試験の面接試験	公務員試験で行われる面接試験について学修する。	
		この回の到達目標	公務員試験の面接試験の方法や内容について説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	自分が希望する公務員試験の面接について調べてみる。	120分
15	7/23	総括	これまでの授業で扱った公務員制度について説明し、その試験内容について学修する。	
		この回の到達目標	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人に説明できる。	
		事前学修	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
		事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期の公共政策論を履修していることが求められます（他学科の学生は履修できません）。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に出席することが必要です。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。

【授業方法】
グループ学習を行いつつ、（グループごとの）プレゼンテーションやディバートを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションやプレゼンテーションを中心に授業を進めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）	120分
2	9/22	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	政策過程に関する基礎的な理論モデルを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政策過程の代表的な理論モデルの意味を理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
3	9/29	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	主として欧米における政策過程の代表的なモデルについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、欧米における代表的な政策過程の理論モデルを理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
4	10/6	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	主として日本における政策過程の代表的なモデルについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本における代表的な政策過程の理論モデルを理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
5	10/13	グループごとの予備的討議（政策過程）	政策過程の代表的なモデルを踏まえ、現代の政治をそれらがどう説明できるかをグループごとに学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでに構築されてきた理論モデルが、現実の政治・社会をどう説明できるのかを理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
6	10/20	グループごとの予備的討議（政策過程）	政策過程の代表的なモデルを踏まえ、現代の政治をそれらがどう説明できるかをグループごとに学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでに構築されてきた理論モデルでも現実の政治・社会を説明できない部分があることを理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	プレゼンテーション（政策過程）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行い、主要な政策上の論点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政策過程モデルの論点について、グループごとに、他者に分かりやすく説明することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
8	11/10	ディベート（政策過程）	前回のプレゼンテーションの内容に留意しつつ、政策過程の問題と課題についてディベートを行い、主要な政策上の論点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、政策過程に関する説得力のある議論を展開することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
9	11/17	公共政策の現状と課題に関する学修	欧米社会における政策を一つ取り上げ、その問題と課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、欧米社会で生じている問題の概要や、その解決のための政策について理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
10	11/24	公共政策の現状と課題に関する学修	日本社会における政策を一つ取り上げ、その問題と課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本社会で生じている問題の概要や、その解決のための政策について理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
11	12/1	グループごとの予備的討議（現代日本の公共政策）	グループごとに、現代日本の政策を一つ取り上げ、その概要について検討し、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調しながら、現代日本における主要政策の概要について、グループ内で議論を深めることができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
12	12/8	グループごとの予備的討議（現代日本の公共政策）	前回取り上げた政策について、グループごとにその問題や課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループ内の議論に積極的に参加し、現代日本における主要政策の問題についてメンバー全員で理解を共有することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	プレゼンテーション（現代日本の公共政策）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行い、主要な政策上の論点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代日本における公共政策の論点について、グループごとに、他者に分かりやすく説明することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
14	12/22	ディベート（現代日本の公共政策）	前回のプレゼンテーションの内容に留意しつつ、現代日本における政策の問題と課題についてディベートを行い、主要な政策上の論点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、日本の公共政策の論点に関する説得力のある議論を展開することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
15	1/12	まとめ	これまでの授業で扱った政策過程及び諸政策の課題について検討し、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
授業の構成および進行は、公共政策学科の学生を念頭において行われるが、他学科・他学部の学生の受講も大いに歓迎します。

【授業方法】
演習形式を取り、学生の積極的な質問や意見表明を期待する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の最終回に発表の結果についての公表と、希望者には各自の評価を伝達する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 公共政策学	秋吉貴雄	中央公論社	2017		
備考	購入は必須ではありません				

【オフィスアワー】
火曜3限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	オリエンテーション・ウォーミングアップ 導入講義	ウォーミングアップ：課題と評価について 公共政策とは？福祉政策との関係は？	
		この回の到達目標	授業の意図と課題を理解し、自分の演習課題を決定するか、もしくは課題達成までの計画を立てる。	
		事前学修	「入門 公共政策学」を読み、公共政策論の復習をする。	120分
		事後学修	この授業で自分が何をするのかを考え、計画を紙面に起こす。	120分
2	9/22	公共政策の基本知識と原理	理念・目的・税との関係および新しい公共を含む公共政策におけるステークホルダーについて説明を行う。	
		この回の到達目標	公共政策が取り組む課題を、自らの生活に引き付けて説明できるようになる。	
		事前学修	社会問題と公共政策の関係について考える。	120分
		事後学修	各ステークホルダーの公共政策における役割・位置づけを調べる。	120分
3	9/29	さまざまな公共政策	政策の次元とステークホルダーの関係およびそれぞれの役割について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が担当する役割について、他との違いを説明できるようになる。	
		事前学修	指定されたステークホルダーが実際に行っている事業や活動を調べる。	120分
		事後学修	授業での学びを自分の選択したテーマに引き付けて考察する。	120分
4	10/6	政策の対象とアクセス	問題解決のための2つの方向性と、それぞれの公共政策における意味を説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が取り上げるテーマについて、2つの方法をそれぞれ具体的に挙げるができるようになる。	
		事前学修	自分（達）が取り上げるテーマについて、解決策を自分なりに考える。	120分
		事後学修	自分（達）が取り上げるテーマについて挙げた2つの方法の、それぞれの利点と欠点を調べる。	120分
5	10/13	中間発表	ここまでの授業を受けて、最終的な課題発表に向けて各自（グループ）の進捗状況を確認する。	
		この回の到達目標	他の人（グループ）との比較を通じて、自分（達）の取り組みの課題を挙げるができるようになる。	
		事前学修	中間発表に向けた準備をする。	120分
		事後学修	自分（達）の取り組みの課題について、対策を考える。	120分
6	10/20	政策の起点	さまざまな社会的課題が政策の対象となっていくプロセスと、政策策定の初期段階における情報収集について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が取り上げるテーマについて、どのような方法で情報を集めることが適切なのか、理由も含めて説明できるようになる。	
		事前学修	さまざまなステークホルダーによる、政策策定のための情報収集の方法について調べる。	120分
		事後学修	授業での学びを自分の選択したテーマに引き付けて考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	必要な財源とモノの確保	政策に不可欠な財源と資源確保の方法について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が取り上げるテーマについて、活用可能な財源と資源を挙げることができるようになる。	
		事前学修	政策の財源について調べてくる。	120分
		事後学修	自分（達）が予定している計画と、確認された財源・資源に無理がないか確認する。	120分
8	11/10	政策における人材	政策策定における人材とその確保の方法、課題について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が想定する計画において妥当な人材の要件を挙げることができるようになる。	
		事前学修	自分（達）が取り上げるテーマと課題解決について、これまでの内容を踏まえて必要な修正などを確認し、それに必要な点について調べる。	120分
		事後学修	自分（達）が取り上げるテーマと課題解決について、これまでの内容を踏まえて必要な修正などを確認し、リストアップする。	120分
9	11/17	評価とフィードバック	政策の評価とそのフィードバックについて、対象および方法について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が取り上げるテーマについて、適切なフィードバックの方法を、理由も含めて説明できるようになる。	
		事前学修	修正が必要な個所のリストを踏まえて、授業で修正を進めるために必要な情報を集める。	120分
		事後学修	自分（達）が取り上げるテーマと課題解決について、最終的な計画をまとめる。	120分
10	11/24	発表のための基礎知識	プレゼンテーションの方法と技術、および政策策定における役割について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が発表する課題解決方法のアピールポイントを挙げ、それをプレゼンテーションに生かす方法を選択することができる。	
		事前学修	さまざまなプレゼンテーションの方法を調べる。	120分
		事後学修	自分（達）の発表のプレゼンテーション資料作りのための計画を立てる。	120分
11	12/1	プレゼンテーション(PPT)の作成	これまでの授業を通じて、課題の完成とプレゼンテーションの作成を行う。	
		この回の到達目標	発表に必要なプレゼンテーションの技術を身に着け、自らのプレゼンテーションに生かすことができるようになる。	
		事前学修	最終的なプレゼンテーション作成に必要な資料・情報を集める。	120分
		事後学修	プレゼンテーションの準備を行う。	120分
12	12/8	発表1回目	3～4組程度の発表を行う。	
		この回の到達目標	公共政策の策定および施行における各ステークホルダーの役割を、他との比較を通じて説明できるようになる。	
		事前学修	自分の発表の改善に必要な情報について調べ、発表の準備を行う。	120分
		事後学修	他の発表を踏まえて、各自（グループ）の発表の改善を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	発表2回目	3～4組程度の発表を行う。	
		この回の到達目標	公共政策の策定および施行における各ステークホルダーの役割を、他との比較を通じて説明できるようになる。	
		事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
		事後学修	他の発表を踏まえて、各自（グループ）の発表の改善を行う。	120分
14	12/22	発表3回目	3～4組程度の発表を行う。	
		この回の到達目標	公共政策の策定および施行における各ステークホルダーの役割を、他との比較を通じて説明できるようになる。	
		事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
		事後学修	全体の発表を受けて、それぞれの計画の違いとその理由について考察する。	120分
15	1/12	授業のまとめと振り返り	授業全体を通じた振り返りと、各自（グループ）の発表の講評を行う。希望者には採点結果を伝達する。	
		この回の到達目標	授業を通じて完成した計画および策定過程の課題をあげ、具体的な解決策を提案できるようになる。	
		事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
		事後学修	授業を通じて、今後に向けての自己評価と課題の確認を行う。	120分

科目名	公共政策論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				○

【授業の概要】
本講義では、政治の表舞台・裏舞台において活動する政治的アクターの組織と機能について触れつつ、実際の公共政策を事例として取り上げ、その形成過程、及びわが国における公共政策の現状と課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会を深く観察し、その問題・課題を理解しながら「政策人」としての素養を身に着けることを目的とします。 同時に、社会問題の解決策を究明し、そのための政策オプションについて理解します。

【履修条件】
※公共政策学科の必修科目です。他学科の学生は履修できません。

【授業方法】
原則として講義形式で進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、対話形式で授業を進めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の諸問題や政策形成過程に興味を持ち、新聞を読むようになる。				2		2	2				2
②	学生が、現代社会の諸問題や課題を的確に把握し、他者に説明できるようになる。						2	2				2
③	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。						2	2				2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	現代社会における政策及び政策形成過程の特質やその問題について、主に到達目標①②③の観点から十分に理解できているかを評価します。	10	30	40								80
小テスト等	授業中に実施される小テストにおいて、主に到達目標②③にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価します。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に積極的に参加することが求められます。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回の小テスト等に対する講評を行い、政策や政策過程に対する理解の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	「公共政策」とは何かについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、公共政策の意義やその特殊性について理解することができる。	
		事前学修	履修条件を説明するので、初回ガイダンスには必ず出席すること	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認するとともに、教科書を用意しておくこと	120分
2	4/14	国家の役割と公共政策	国家の中で果たす公共政策の役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、戦前と戦後とで公共政策の果たす役割が大きく変化したことを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
3	4/21	公共政策と議会	日本の国会の会期制や委員会制度のついて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本の国会の会期制や委員会制度が特殊であることを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
4	4/28	公共政策と議会	先進各国の二院制について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本の国会の二院制が特殊であることを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
5	5/5	公共政策と政党	政策形成過程において政党が果たす役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政党の性格や役割、その意義や問題について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
6	5/12	政府と官僚制	行政国家の意味や官僚の役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、行政国家における官僚制度の特質について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	利益集団の圧力活動	利益集団の定義及び政策過程において利益集団が果たす役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、利益集団の圧力活動のメリットとデメリットについて把握することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
8	5/26	政策過程のモデル	主に欧米において用いられてきた政策過程を説明する理論モデルを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、政策過程を説明するモデルの意味やその限界について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
9	6/2	政策類型論	政策の内容が政策過程を決定するという理論モデルを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、代表的な政策類型モデルを理解するとともに、その問題点を把握することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
10	6/9	戦後の日本における公共政策の展開	戦後の日本において、重点政策がどのように変化していくのかを選挙と絡めて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、選挙と政策の関係性を把握しながら、戦後日本政治の流れを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
11	6/16	戦後の日本における公共政策の諸問題	戦後の日本において実施されてきた重要政策の意義や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、戦後政治史における公共政策の変遷やその問題・課題について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
12	6/23	現代日本における公共政策の現状	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の概要を把握し、それを他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	現代日本における公共政策の諸問題	現代日本における公共政策の問題について、具体例を挙げながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の問題点を把握し、それを他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
14	7/7	現代日本における公共政策の課題	現代日本における公共政策の今後の課題について、具体例を挙げながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の課題を把握し、それを他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
15	7/14	まとめ	これまでの授業で扱った諸政策、及び政策過程の問題や課題について整理しながら学修する。	
		この回の到達目標	公到達目標①②③に関連し、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を説明することができる。	
		事前学修	公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得する。	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日、様々な企業のトップ・マネジメントのあり方(コーポレート・ガバナンス)を問う企業不祥事が多く発生している。こうした経営学において重要な概念のひとつであるコーポレート・ガバナンスがどのような背景のもとで誕生し、これまでどのように議論が展開されてきたのか理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「良い企業とはなにか」、「良い経営者とはなにか」という問いに対する答えは決してひとつではなく、個々人によってその答えは異なる。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力を修得できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、株式会社の仕組みやコーポレート・ガバナンスに関する課題について考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	株式会社の仕組みを理解し、その特徴を説明することができる。					2	2						
②	企業とステイクホルダーとの関係を理解し、説明することができる。					2	2		2				
③	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。					2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。						2	2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験またはレポート課題等提出の後に解説を配布する（ポータルシステムでも配信を行う）。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかるコーポレート・ガバナンス』	風間編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室（本館7階1705研究室） suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業の分類について理解する。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/16	コーポレート・ガバナンスとはなにか	コーポレート・ガバナンスの定義となぜこれが重要なのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、コーポレート・ガバナンスとは何かを理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスとはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	4/23	株式会社とはなにか	コーポレート・ガバナンスと関連の深い株式会社の発展とその背景について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式会社の仕組みについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社の特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	4/30	株式会社と会社機関	株式会社はどのような機関構造を有しているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式会社の構造について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社における様々な会社機関について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	5/7	株式会社と経営者支配	コーポレート・ガバナンスにおける経営者支配論がどのように展開されてきたのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営者支配とは何かについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと経営者支配の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	5/14	経済の金融化と新制度派経済学	コーポレート・ガバナンスの新制度派経済学アプローチの内容と限界について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、新制度派経済学とは何かについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、新制度派経済学アプローチとは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	コーポレート・ガバナンスとステイクホルダー論	ステークホルダーとは何か、コーポレート・ガバナンスにおいてなぜこれが重要なのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ステイクホルダーの定義とその重要性について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスとステークホルダー論の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	5/28	グループワークⅠ：企業とステイクホルダー	企業のステークホルダーにはどのようなものが存在し、それらに対して企業はいかなる責任を有しているのかについて、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、企業とステイクホルダーとの関係について、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、現代企業に求められる責任について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	6/4	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅰ：戦後の経済発展	戦後の経済発展と日本的経営について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、日本的経営の特徴について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、日本的経営とは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	6/11	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅱ：企業不祥事との関係	これまでの企業不祥事の歴史を基に、「企業はだれのものか」という問いについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業不祥事とコーポレート・ガバナンスの関係について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと企業不祥事の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	6/18	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅲ：外部監視と内部統制	外部監視と内部統制に関する制度的展開について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、外部監視と内部統制の内容について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、外部監視と内部統制とは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	6/25	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅳ：経営者報酬	経営者報酬の仕組みと種類について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、経営者報酬の仕組みと種類について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、世界と日本の経営者報酬の相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅴ：同族企業	同族企業の特徴とこれがもたらす問題について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、同族企業のを理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、同族企業の事例を調べ、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	7/9	グループワークⅡ：イノベーションとコーポレート・ガバナンス	IT企業におけるコーポレート・ガバナンスの問題について、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、イノベーションがもたらす問題について、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、イノベーションとコーポレート・ガバナンスの関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	7/16	授業内試験及び解説	授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	180分
		事後学修	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。	60分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日、様々な企業のトップ・マネジメントのあり方(コーポレート・ガバナンス)を問う企業不祥事が多く発生している。こうした経営学において重要な概念のひとつであるコーポレート・ガバナンスがどのような背景のもとで誕生し、これまでどのように議論が展開されてきたのか理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「良い企業とはなにか」、「良い経営者とはなにか」という問いに対する答えは決してひとつではなく、個々人によってその答えは異なる。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力を修得できるようになることを目標としている。

【履修条件】
1年生から4年生を対象とする。

【授業方法】		
講義、レジュメ配布 授業内レポートの解説を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	株式会社の仕組みを理解し、その特徴を説明することができる。					2	2						
②	企業とステイクホルダーとの関係を理解し、説明することができる。					2	2		2				
③	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。					2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。						2	2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『企業不祥事はなぜ起きるのか ソーシャル・キャピタルから読み解く組織風土』	稲葉陽二	中央公論新書	2017		
備考	参考書。授業内で適宜指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関するコーポレート・ガバナンス法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	【ガイダンス】【導入講義】	コーポレート・ガバナンス制度概論－コーポレート・ガバナンスの新たな意義と展望－ 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に出来るようにする。	
		この回の到達目標	①②③について、コーポレート・ガバナンス制度概論に関する理解を深める。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 4/15	【成長戦略とコーポレート・ガバナンス改革】	アベノミクスの第3の矢・成長戦略と新しいコーポレート・ガバナンス改革の重要性－企業価値向上に向けて－ 企業のガバナンス改革が政府の成長戦略の基本となっていることを理解し、その重要性について学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、アベノミクスの中でガバナンス改革が成長戦略の中核となっていることを理解する。	
		事前学修	コーポレート・ガバナンス改革の重要性について、概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、政府の成長戦略の一環であることを復習する。	120分
3	第一部水 4/22	【日本再興戦略におけるコーポレート・ガバナンス改革】	日本再興戦略におけるコーポレート・ガバナンス改革の位置付け－成長戦略の中核としてのガバナンス－ 政府のガバナンス改革に対する取り組みを概観し、会社法改正、スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの三位一体で制度構築を図っていることを学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、日本再興戦略におけるコーポレート・ガバナンス改革の位置付けを理解する。	
		事前学修	コーポレート・ガバナンス改革の位置づけについて、具体的に考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、会社法改正、スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの関連について復習する。	120分
4	第一部水 4/29	【会社法改正とコーポレート・ガバナンス改革】	2014年会社法改正、2020年会社法改正（予定）とコーポレート・ガバナンス改革 ガバナンス改革は2019年会社法改正の大きな論点であり、関連する改正点と企業実務を学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、会社法改正とコーポレート・ガバナンス改革についての理解を深める。	
		事前学修	法制度面からガバナンス改革に関する改正内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、会社法改正と実務の対応について復習する。	120分
5	第一部水 5/6	【3つのガバナンス形態】	指名委員会等設置会社（米国型）、監査役会設置会社、および新設の監査等委員会設置会社のスキームの比較考察 法制度、企業実務の両面から、3つのガバナンス形態について具体的に学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、3つのガバナンス形態について具体的に理解を深める。	
		事前学修	会社法における3つのガバナンスの形態について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、3つのガバナンス形態、実務の対応について復習する。	120分
6	第一部水 5/13	【日本版スチュワードシップ・コード】	日本版スチュワードシップ・コードの策定と課題－機関投資家と経営陣の対話・エンゲージメント作り－ 日本版スチュワードシップ・コードについて、英国のコードと比較しつつ、機関投資家の対応、対話・エンゲージメントについて学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、日本版スチュワードシップ・コードについて具体的に理解を深める。	
		事前学修	スチュワードシップ・コードについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、スチュワードシップ・コードについて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	【日本版コーポレート・ガバナンス・コード】【対話・エンゲージメント】	日本版コーポレート・ガバナンス・コードの策定と課題 日本版コーポレート・ガバナンス・コードについて、英国のコードと比較しつつ、機関投資家の対応、対話・エンゲージメントについて学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、日本版コーポレート・ガバナンス・コード、対話・エンゲージメントについて具体的に理解を深める。	
		事前学修	コーポレート・ガバナンス・コードについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンス・コードについて復習する。	120分
8	第一部水 5/27	【2つの日本版コードの改定と上場企業の取り組み】	最近の会社法改正、2つの日本版コードの改定と上場企業の取り組み 2017年、2018年のコードの改定に対する対応が上場企業の大きな課題であり、最新の内容を学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、ダブルコードと上場企業の取り組みについて具体的に理解を深める。	
		事前学修	2つのコードの改定など、新しい動きについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、2つのコードの改定、企業実務の対応について復習する。	120分
9	第一部水 6/3	【ソフトローにおけるプリンシプル・ベース】	プリンシプル・ベース（原則主義）とComply or Explainルール（遵守せよ、さもなければ説明せよ） コードのソフトローにおけるプリンシプル・ベース（原則主義）と企業の対応について、学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、ソフトローにおけるプリンシプル・ベースについて具体的に理解を深める。	
		事前学修	プリンシプル・ベース（原則主義）、ソフトローについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、プリンシプル・ベース（原則主義）と企業の対応について復習する。	120分
10	第一部水 6/10	【コーポレート・ガバナンス報告書】	有価証券報告書とコーポレート・ガバナンス報告書、東京証券取引所上場規程 コードの内容が上場規則に入っており、企業法務としての具体的な対応を学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、コーポレート・ガバナンス報告書などガバナンスの開示について理解を深める。	
		事前学修	東京証券取引所上場規程について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、上場規則と企業の対応について復習する。	120分
11	第一部水 6/17	【中長期的企業価値向上とガバナンス改革】	新たなコーポレート・ガバナンス検討に当たっての視点－旧来のガバナンス理論から日本独自の転換へ、欧米との相違、中長期的企業価値向上とROE重視かROIC重視か、経営陣とステイクホルダー・株主－ ROE（株主資本利益率）重視の考え方とステイクホルダーなど、最近の新しい論点を学習する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、中長期的企業価値向上とガバナンス改革の理解を深め、議論できるようになる。	
		事前学修	旧来のガバナンス理論と日本独自の転換について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ステイクホルダーなど、最近の新しい論点について復習する。	120分
12	第一部水 6/24	【独立社外取締役】	独立社外取締役、取締役会の監督機能強化、監査役の監査機能の強化、リスクマネジメント、コンプライアンス、内部統制など 法制度面と企業実務の観点から、プラクティスについて学習する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、独立社外取締役の役割、機能など理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	独立社外取締役、取締役会の機能などについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、独立社外取締役、取締役会などについて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	【ガバナンスのケーススタディ】	米国型・指名委員会設置会社、日本型・監査役会設置会社、監査等委員会設置会社のケーススタディー三菱UFJ銀行、ソニー、東芝、日産自動車、キャノン、パナソニック、三菱重工など実効性あるガバナンス改革の考察ーグローバル上場企業、巨大金融機関を取り上げ、ガバナンスの課題について実例を学習する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、ガバナンスのケーススタディの理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	米国型、日本型のガバナンスの課題について考察する。	120分
		事後学修	米国型、日本型のガバナンスの課題について企業実務の面から復習する。	120分
14	第一部水 7/8	【日本版コード改訂によるコードの実質化】	会社法改正と日本版コード改訂によるコードの実質化に向けての最新のフォローアップ状況政府、規制当局のガバナンスの実効性確保に向けた最新のフォローアップ状況について学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、ガバナンスの実効性確保に向けた規制当局の動向を概観し、理解を深める。	
		事前学修	規制当局の最新のフォローアップ状況について考察する。	120分
		事後学修	ガバナンスの実効性確保に向けたフォローアップについて復習する。	120分
15	第一部水 7/15	【前期総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。ガバナンス改革について総まとめを行う。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、前期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、ガバナンス改革に関する法制、実務の対応など全体の体系を考察する。	120分
		事後学修	前期の授業内レポートの提出。解説を行うので、参考にして、企業のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
コーポレート・ガバナンスの扱う問題領域は当初、経営者と株主であったが、今日ではその範囲が拡大され、株主のみならずその他の主体(消費者や従業員など)を含む複雑な概念となっている。このことを踏まえ、本講義では経営学におけるその他の概念(CSRや企業倫理など)との関係を整理することで、コーポレート・ガバナンスについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国・地域によってコーポレート・ガバナンスに関する取り組みが異なるように、社会に存在する様々な問いや課題に対する答えもひとつではない。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視し、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力の修得を目標としている。

【履修条件】
コーポレート・ガバナンス論Ⅰの履修。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、株式会社の仕組みやコーポレート・ガバナンスに関する課題について考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。						2		2					
②	日本と他の国におけるコーポレート・ガバナンスの相違について理解し、説明することができる。							2	2					
③	経営学領域においてコーポレート・ガバナンスと隣接・類似する諸概念の内容を理解し、説明することができる。						2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。							2	2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験またはレポート課題等提出の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかるコーポレート・ガバナンス』	風間編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、コーポレート・ガバナンスとは何かについて理解する。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自分の学習計画の見直しと前期の授業内容の復習。	120分
2	9/24	コーポレート・ガバナンスと資本コスト	資本コストとは何か、株主や機関投資家が重視する財務諸表とは何かについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、コーポレート・ガバナンスと資本コストの関係について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、資本コスト削減のための施策について、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	10/1	コーポレート・ガバナンスと事業投資	事業投資とは何か、事業投資の評価方法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、事業投資の評価方法について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、事業投資と企業価値の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	10/8	コーポレート・ガバナンスと資本政策	資本政策と株式発行、新たな種類株について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式の種類について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株主総会の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	10/15	コーポレート・ガバナンスと合併・買収(M&A)	コーポレート・ガバナンスと企業の合併・買収(M&A)の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、合併・買収(M&A)の目的について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、合併・買収(M&A)の目的と類型について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	10/22	機関投資家とコーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンス原則と機関投資家の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、機関投資家の定義とその役割について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、様々な投資視点について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	グループワークⅠ：グローバル化による影響と課題	海外子会社の企業不祥事を基に、コーポレート・ガバナンスのグローバル化に関する様々なテーマについて、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、グローバル化の影響と課題について、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、コーポレート・ガバナンスのグローバル化がもたらす問題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	11/5	アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	11/12	ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11/19	イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	12/3	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任との関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の社会的責任とは何かについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任の相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	12/10	コーポレート・ガバナンスと社会的企業	社会的企業や非営利組織におけるコーポレート・ガバナンスについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、社会的企業や非営利組織にコーポレート・ガバナンスが求められる要因について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社と非営利組織の比較を通じて、求められるコーポレート・ガバナンスの相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	コーポレート・ガバナンスと企業倫理	企業不祥事を防止するために、コーポレート・ガバナンスはどのような役割を担うのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業不祥事を防止するためのコーポレート・ガバナンスの役割について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事を防止するための経営者や会社機関の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12/24	グループワークⅡ：事業の繁栄と社会の繁栄	これまでの授業内容を踏まえて、従来のコーポレート・ガバナンスの課題について、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、今日におけるコーポレート・ガバナンスの意義と課題について、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、現代のコーポレート・ガバナンスのあり方について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1/14	授業内試験及び解説	授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	180分
		事後学修	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。	60分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
コーポレート・ガバナンスの扱う問題領域は当初、経営者と株主であったが、今日ではその範囲が拡大され、株主のみならずその他の主体(消費者や従業員など)を含む複雑な概念となっている。このことを踏まえ、本講義では経営学におけるその他の概念(CSRや企業倫理など)との関係を整理することで、コーポレート・ガバナンスについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国・地域によってコーポレート・ガバナンスに関する取り組みが異なるように、社会に存在する様々な問いや課題に対する答えもひとつではない。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視し、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力の修得を目標としている。

【履修条件】
1年生から4年生を対象とする。

【授業方法】
講義、レジメ配布 授業内レポートの解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。				2		2					
②	日本と他の国におけるコーポレート・ガバナンスの相違について理解し、説明することができる。					2	2					
③	経営学領域においてコーポレート・ガバナンスと隣接・類似する諸概念の内容を理解し、説明することができる。				2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『企業不祥事はなぜ起きるのか ソーシャル・キャピタルから読み解く組織風土』	稲葉陽二	中央公論新書	2017		
備考	参考書。授業内で適宜指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関するコーポレート・ガバナンス法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	【後期授業ガイダンス】 【導入講義】	後期授業ガイダンス 前期に学習した基本事項の確認と後期の授業計画・目標の説明	
		この回の到達目標	①②③について、前期に学習した基本事項の確認、後期の授業計画・目標の説明により、ガバナンスの学習の理解を深める。	
		事前学修	前期に学習した基本事項の確認を行う。	120分
		事後学修	後期の授業計画・目標の説明と合わせて、ガバナンスの基本的事項を確認する。	120分
2	第一部水 9/23	【企業風土】	企業風土について	
		この回の到達目標	①②③に関し、ガバナンスと企業風土の関連について、理解を深める。	
		事前学修	ガバナンスと企業風土の関連について、事前に調べる。	120分
		事後学修	授業で学んだ企業風土の内容をガバナンスとの関連から整理し、復習する。	120分
3	第一部水 9/30	【日本における企業統治の制度】	日本における企業統治の制度の再確認：改革で何が変わったのか会社とはなにか、企業不祥事はなぜ起こるのか	
		この回の到達目標	①②③に関し、日本における企業統治の制度について、理解を深める。	
		事前学修	日本における企業統治の制度について、事前によく調べる。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
4	第一部水 10/7	【米国のガバナンス】	米国における企業統治制度の展開	
		この回の到達目標	①②③に関し、米国における企業統治の法制度について、理解を深める。	
		事前学修	米国における企業統治の法制度について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
5	第一部水 10/14	【米国のガバナンス】【コンプライアンスとリスクマネジメント経営】	米国における企業統治制度の展開：市場の評価とM&A、コンプライアンスと内部統制・企業のリスクマネジメント経営	
		この回の到達目標	①②③に関し、米国における企業統治の法制度について、理解を深める。特にコンプライアンスとリスクマネジメント経営を理解する。	
		事前学修	米国におけるコンプライアンスとリスクマネジメント経営について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
6	第一部水 10/21	【ドイツ、イギリスとの比較】	米国における企業統治制度の展開：ドイツ、イギリスとの比較	
		この回の到達目標	①②③⑤⑥に関し、米国における企業統治の法制度とドイツ、イギリスとの比較について、理解を深める。	
		事前学修	米国における企業統治の法制度とドイツ、イギリスとの比較について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	【経済学・経営学からの企業統治】	経済学・経営学からの企業統治 エージェンシー問題への対応	
		この回の到達目標	①②③に関し、経済学・経営学からの企業統治について、理解を深める。	
		事前学修	経済学・経営学からの企業統治について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
8	第一部水 11/11	【経済学・経営学からみた企業統治】 【株主構成／債権者／市場規律】	経済学・経営学からみた企業統治：株主構成の影響／債権者からの見方/市場からの規律	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、経済学・経営学からみた企業統治、株主構成／債権者／市場規律について、理解を深める。	
		事前学修	株主構成／債権者／市場規律とガバナンスについて、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
9	第一部水 11/18	【企業不祥事】	それでも無くならない企業不祥事（１）企業不祥事の定義と分類	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、企業不祥事について、理解を深める。	
		事前学修	企業不祥事について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
10	第一部水 11/25	【企業不祥事】 【企業不祥事が生じる背景】	企業不祥事が生じる背景	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、企業不祥事が生じる背景について、理解を深める。	
		事前学修	企業不祥事が生じる背景について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
11	第一部水 12/2	【企業不祥事】 【企業内社会関係資本と不祥事】	企業統治のどこに問題があるのか 社会関係資本の観点の欠如 企業内社会関係資本と不祥事は密接にかかわっている。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、企業内社会関係資本と不祥事について、理解を深める。	
		事前学修	企業内社会関係資本と不祥事について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
12	第一部水 12/9	【コードの改訂と新たな課題】	スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの改訂 資本コスト、報酬シナリオ、政策投資株式、議決権行使助言会社などの新たな課題への対応	
		この回の到達目標	①②③に関し、2つのコードの改訂について、資本コスト、報酬シナリオ、政策投資株式、議決権行使助言会社などの新たな課題に関する理解を深める。	
		事前学修	2つのコードの改訂について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	【グループガバナンスのガイドライン】	グループガバナンスのガイドライン、公正なM&Aのガイドライン	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、経済産業省のグループガバナンスのガイドライン、公正なM&Aのガイドラインについて、理解を深める。	
		事前学修	グループガバナンスのガイドライン、公正なM&Aのガイドラインについて、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
14	第一部水 12/23	【ESGとガバナンス】	E S G投資と S D G s、株主エンゲージメント	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、E S G（環境、社会、ガバナンス）に関する理解を深める。	
		事前学修	E S G（環境、社会、ガバナンス）に関する予習を十分に行ってください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
15	第一部水 1/13	【後期総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。ガバナンス改革について、全体の授業の総まとめを行う。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、後期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、ガバナンス改革に関する法制、実務の対応など全体の体系を再度、考察する。	120分
		事後学修	後期の授業内レポートの提出。解説を行うので、参考にして、企業のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	国際経済法Ⅰ	担当者	中村 良	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
現在のグローバル経済を支える大きな仕組みの一つである「WTO体制」を講義の対象とし、GATTの前身である「ITO」、「GATT体制」、「WTO体制」の仕組みを理解し、それぞれの時代背景、交渉経緯、特色等を学修する。さらに、ITOの頓挫、GATTの制定経緯、そして現在のWTO体制の成立から、「WTO体制」基本原則や紛争処理手続きを学修し、具体的事例に紛争処理手続きについて自分の言葉で説明できるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自由貿易体制」の意義を理解するための必要な国際経済法の基礎理論および「WTO体制」の基礎知識の修得を目的とする。 国際貿易紛争を「WTO体制」の枠組みにおいてどのように紛争解決を図っているのかを受講生が自らの言葉で説明できることを目標とする。

【履修条件】
特にないが、経済法、国際経済法Ⅱを履修済みか、並行履修が好ましい。

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。受講生間において討議することがある。 小テスト、振り返りシートについては、講義中の解説・コメントで「フィードバック」する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際経済法の基本理論を正確に理解できる。								2					
②	経済紛争における国際経済法上の問題点を正確に抽出できる。						2	2	2					
③	必要な資料を検索・入手できる。								2					
④	他者の意見を正確に理解できる。							2				2		
⑤	自分の意見を相手に分かりやすく正確に伝えることができる。						2	2	2			2		
⑥	個々の現象を関連づけ国際経済法の考え方をを用いて今後の展開を予測できる。						2	2	2			2		
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は行わない。											
小テスト等	授業中に小テストを2回（20点×2回＝40点）行う。	40										40
レポート等	レポートを1回かす(30点)。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	授業中のディスカッションへの積極的な参加（30点）。	10			10	10						30
授業への参画度	評価しない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		55	5	5	15	15	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『2019年版不公正貿易報告書』	経済産業省通商政策局編	経済産業業HP	令和元年		
備考	上記報告書は、 http://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/wto_compliance_report/index.html にUPされている。				

【オフィスアワー】
水曜日12時10分から13時00分（事前に口頭かメールでご連絡ください。メールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	授業の目的、授業方法、教科書、参考図書・資料、成績評価等、そして資料検索の方法について学修する。 国際経済法Ⅰを学修する意義を理解する。	
		この回の到達目標	受講に必要な資料の収集方法、予習の仕方等を理解し実施できる。 国際経済法Ⅰを学修する意義を自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、テキストをダウンロードし、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	授業計画について確認するとともに、授業で行った資料の検索方法を用いて指定された資料を検索する。	120分
2	4/15	WTOの概要と関税制度	WTO協定の概要 「WTO協定の基本的目的」、「WTOの基本原則」、「WTO協定の全体像」、「WTOの機構」、そして「GATTおよびWTOにおける自由化交渉の流れ」を考察し、「WTO体制」の概要を学修する。 関税制度の概要について簡単に学修する。	
		この回の到達目標	WTO制定の経緯とその背景を自分の言葉で説明できる。 関税制度の概要について簡単に説明できる。	
		事前学修	指定されたテキストを印刷し、125-131頁を読み、「WTO体制」の全体像を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「WTO体制」の全体像を自分の言葉で説明できるように知識を整理する。	120分
3	4/22	最恵国待遇原則	最恵国待遇原則 「ルールの概観」講義し、「主要ケース」における問題点を学修する。	
		この回の到達目標	WTOにおける最恵国待遇規定について具体例をあげて説明できる。	
		事前学修	指定されたテキスト133-140頁を読んで、「最恵国待遇」原則について制度趣旨等確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「最恵国待遇」原則の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
4	4/29	内国民待遇原則	内国民待遇原則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を学修する	
		この回の到達目標	内国民待遇原則につて具体的な事例をあげて説明できる。	
		事前学修	指定されたテキスト141-148頁を読んで、「内国民待遇」原則について制度趣旨等確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「内国民待遇原則」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
5	5/6	数量制限禁止原則	数量制限への規制・輸出規制 「ルールの概観」、「主要ケース」について講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	何故数量制限が禁止されているのか自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	指定されたテキスト149-155頁、156-166頁を読んで、「数量制限」に対する規制、「輸出規制」について制度趣旨等を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「数量制限」に対する規制、「輸出規制」の問題点等と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
6	5/13	正当化事由	正当化事由 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	紛争事例において正当化事由がどのように主張され、どのような場合に認められるか主要な事例をあげて説明できる。	
		事前学修	指定テキスト167-189頁を読んで、紛争当事国の主張する「正当化事由」についてその趣旨について確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「正当化事由」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	関税制度	関税制度 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	譲許表を用いて関税の計算ができる。	
		事前学修	指定されたテキスト191-201頁と配布資料を読んで、「関税制度」の概要、基礎知識を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、関税制度の概要、基礎知識を自分の言葉で説明できるように確認する。	120分
8	5/27	アンチダンピング	ダンピング規制・アンチダンピング措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	ダンピング規制及びアンチダンピング措置の問題点について主要ケースを用いて説明できる。	
		事前学修	指定テキスト203-218頁を読んで、アンチダンピング措置について概要、基礎知識を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、アンチダンピング措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
9	6/3	補助金	補助金・相殺措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	補助金のWTO上の問題点について主要ケースを用いて説明できる。	
		事前学修	指定テキスト219-236頁を読んで、補助金・相殺措置の制度趣旨を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、補助金・相殺措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
10	6/10	セーフガード	セーフガード 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	セーフガードが認められたケースを用いてどのような場合に認められるか説明できる。	
		事前学修	指定テキスト237-252頁を読んで、セーフガードの制度趣旨を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
11	6/17	貿易投資関連措置	貿易関連投資措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点について考察する。	
		この回の到達目標	貿易関連投資措置の概要について自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	指定テキスト253-256頁を読んで、貿易関連措置の基礎知識を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、貿易関連投資措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
12	6/24	原産地規則	原産地規則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	原産地規則についてその問題点を自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	指定テキスト257-261頁を読んで、原産地規制の概要を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、原産地規制の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	基準・認証制度	基準・認証制度「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	基準・認証制度が国際貿易に及ぼす影響について具体的事例をあげながら自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	指定テキスト263-283頁を読んで、基準・認証の制度趣旨を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
14	7/8	サービス貿易	サービス貿易「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	サービス貿易をWTOで取り扱う意義について自分の言葉で説明できる	
		事前学修	指定テキスト285-305頁を読んで、WTO体制におけるサービス貿易の取扱いについて確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、サービス貿易のWTO体制での取扱いについて自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
15	7/15	WTO体制の展望	これまでの講義を復習するとともに、残されているWTO体制の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	ここまでの講義を通じて学修した知識をふまえWTO体制の意義について自分の見解を整理し発表できる。	
		事前学修	これまでも講義ノート、テキストを確認して、自由貿易体制における「WTO体制」の役割を自分の言葉で説明できるように確認する。	120分
		事後学修	これまでの、資料・ノートを読み、残された課題について、自分なりの見解を示せるよう考えを整理する。	120分

科目名	国際経済法Ⅱ	担当者	中村 良	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
国際経済法Ⅱでは、「自由貿易体制」維持の観点から、世界の主要な競争法について制度趣旨・基礎概念・特徴を理解し、特に世界の競争方法をリードするアメリカ競争法（以下、アメリカ反トラスト法という）を中心にEU、アジア（日本、韓国、中国）における競争の法の基礎理論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ、EU、アジア（日本、韓国、中国）における競争法の基礎理論の修得を目的とし、競争法の背後にある経済理論の展開についても留意しながら、各国競争法について学修する。そして、今後の世界の競争法の展開について自分の見解をもち、自分の言葉で説明できることを目標とする。

【履修条件】
経済法、国際経済法Ⅰを履修済みか、並行履修が望ましい。

【授業方法】
授業資料を配布する。当該配布資料に沿って講義を進める。受講生間で討議することがある。 小テスト・振り返りシートについては、講義中の解説・コメントで「フィードバック」する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際経済法の基本理論を正確に理解できる。								2				
②	経済紛争における国際経済法の問題点を正確に抽出できる。						2	2	2				
③	必要な資料を検索・入手できる。								2				
④	他者の意見を正確に理解することができる。							2				2	
⑤	自分の意見を相手に分かりやすく正確に伝えることができる						2	2	2			2	
⑥	個々の現象を関連づけ国際経済法の考え方をを用いて今後の展開を予測できる。						2	2	2			2	
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は行わない。											
小テスト等	授業中に小テストを2回(20点×2回=40点) 行う	40										40
レポート等	レポートを1回かす (30点) 。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	授業中のディスカッションへの積極的な参加(30点)	10			10	10						30
授業への参画度	加味しない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		55	5	5	15	15	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12：10～13：00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ってくださいメールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9/23	ガイダンス・導入講義		1 授業の目的、方法、教科書、参考図書、成績評価等について 2 「競争法」の定義 3 国際経済法Ⅰとの関係 4 資料収集方法
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を正確に理解できる。 「競争法」の定義、勉強の意義、国際経済法Ⅰとの関係を自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	経済法を履修済の受講生は、教科書・ノートを読み直しておくこと。未履修の受講生は、公正取引委員会のHPを参照し我が国における独占禁止法について確認する。	120分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認し整理する。質問があれば、オフィスアワーのアポをとる。 授業内で紹介された情報検索を実施し内容を確認する。	120分
2	9/30	世界の競争法概説		世界主要国の競争法の歴史を概観し、その関係を学修する。
		この回の到達目標	世界の「競争法」の歴史を概観し、その関係と制定経緯について、自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)	120分
		事後学修	今回の授業の概要を配布資料・ノートで確認し、競争法の制定経緯について復習し、自分の言葉で説明できるように整理する。	60分
3	10/7	米国競争法（米国の法の特徴・反トラスト法制定以前の競争法・反トラスト法の制定）		米国法の特徴について学修する。 反トラスト法の起源・変遷について具体的事例を用いて学修する。 必要な資料の収集方法についても学修する。
		この回の到達目標	米国法の特徴と反トラスト法制定以前の競争制限行為規制についてその特色を正確に理解し自分の言葉で説明できる。 反トラスト法制定当時の米国の政治状況を踏まえ何故成立できたのかについて理解し、自分の言葉で説明できる。 制定資料等を自分で検索収集できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	今回の授業の概要を配布資料・授業ノートで確認して、①米国法の特色について整理し、②米国判例の検索方法を確認しておく。	120分
4	10/14	米国競争法（反トラスト法の法源・実体規定・手続規定・執行機関）		反トラスト法の法源・実体規定・手続規定・執行機関について、必要な資料の収集方法を学修するとともに、日本法と比較しての反トラスト法の特色を理解する。
		この回の到達目標	反トラスト法の法源・実体規定・手続規定・執行機関について、日本法と比較してのその特色を正確に説明できる。 必要な資料を検索・収集できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	今回の授業の概要を配布資料・授業ノートで確認し、アメリカ反トラスト法の概要について、自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
5	10/21	米国競争法（反トラスト法による共同行為規制）		反トラスト法による主に共同行為（カルテル等）規制について、要件・立証責任・捜査方法等その特色を主要な判例等を参照しながら学修する。
		この回の到達目標	反トラスト法による主にカルテル規制について、要件・立証責任・捜査方法等その特色を主要な判例等を参照しながら学修し、その特色を整理し自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、アメリカ反トラスト法における「カルテル規制」について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
6	10/28	米国競争法（反トラスト法単独行為・私的独占規制）		反トラスト法における単独行為規制（私的独占等）について主要な判例をあげながら学修し、その特色について整理する。
		この回の到達目標	反トラスト法における単独行為規制（私的独占等）について、その要件と法の執行について事例をあげながら自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、アメリカ反トラスト法における「独占規制」について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	11/04	米国競争法（合併規制・FTC法5条等）		反トラスト法の企業結合規制について主要判例、ガイドライン等を参照しながら、どのような場合に企業結合が制限されるか学修する。 FTC法5条についてその概要を理解する。
		この回の到達目標	米国競争法における企業結合規制についてガイドラインと主要判例を用いて、どのような場合に規制されるか説明できる。 FTC法5条について日本法と比較しながら説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理反トラスト法における企業結合規制・FTC法の運用について整理し、自分の言葉で説明できるようにする。	120分
8	11/11	EU競争法（歴史・概要）		EUの歴史・基本原理、EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の基礎理論を講義し、その特色を考察する。
		この回の到達目標	EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の基礎理論を学修し、自分の言葉で説明できる。 必要な資料を収集できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
9	11/18	EC競争法（共同行為規制）		EU競争法における「共同行為規制」（カルテル規制）の要件・主要な事例を学修し、米国・日本との違いを整理する。
		この回の到達目標	EU競争法における「共同行為規制」（カルテル規制）について米国・日本との違いを自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、EU競争法における「共同行為規制」の特色と米国・日本との違いについて、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
10	11/25	EU競争法（単独行為規制）		EC競争法における単独規制（市場支配的地位の濫用行為規制）の要件・主要な事例を学修し、米国・日本との違いを整理する。
		この回の到達目標	EC競争法における単独規制（市場支配的地位の濫用行為規制）の要件・主要な事例について米国・日本との違いを自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、韓国独占禁止法における「市場支配的地位の濫用禁止」および「企業結合規制」の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
11	12/08	EU競争法（合併・買収規制）		EC競争法における合併規制の要件・審査手続を学修し、米国・日本との違いを整理する。
		この回の到達目標	EC競争法における合併規制の要件・審査手続を学修し、米国・日本との違いを自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、EC競争法における企業結合規制の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
12	12/09	アジアの競争法（韓国－執行機関・支配的地位の濫用等）		韓国競争法の執行機関、市場支配的地位の濫用禁止および企業結合規制について講義し、その特色を考察する。
		この回の到達目標	韓国競争法の執行機関、市場支配的地位の濫用禁止および企業結合規制について、その特色を自分の言葉で説明する。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、中国独占禁止法の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	アジアの競争法（韓国－カルテル規制）	アジア 韓国独占禁止法における「不当な共同行為」規制について講義し、その特色を考察する。	
		この回の到達目標	韓国の競争法について制定経緯・概要・執行機関・最近の運用について自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、韓国競争法の特徴と主要な規定の運用について自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
14	12/23	アジアの競争法(中国他)	中国競争法について制定経緯・概要について学修する。	
		この回の到達目標	中国競争法について制定経緯、概要、主要な規定の運用状況を自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、中国競争法の特徴と主要な規定の運用について自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
15	01/13	国際経済法Ⅱのまとめと展望	アメリカ反トラスト法、EU競争法、日本独占禁止法、韓国独占禁止法、中国独占禁止法の特色を比較するとともに国際協力について比較し、今後の競争法の展開について考察する。	
		この回の到達目標	「課題」について、これまでの学修した複数の知識を用いて論点と予測される結論について自分の言葉で説明できる。これから主要競争法の今後の展望について自分の意見を言える。	
		事前学修	これまでの配布資料・授業ノートを読み直し、各国の競争法の特色を整理する。必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、世界の主要な競争法の特色を確認し、これからの競争法の展開を自分の言葉で説明できるように自分の考えを整理する。	120分

科目名	国際政治学 I	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。					1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。					1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。					1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				1		1	1				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆 司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	教科書	必携
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』(仮 題	多賀秀敏	勁草書房	2020 (予定)	参考書	推奨
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室（4号館3階433研究室） （事前にアポイントメントを取ること） kojimoto.hideo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		該当しない	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・国際政治学を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際政治学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	4/15	国際政治学はどのような学問なのか	国際政治学の目指すところや研究領域について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際社会の形成や歴史、今日の課題などを大局的に説明することができる。	
		事前学修	テキスト第1章を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際政治学の特徴をノートにまとめる。ウォルツ, K. N. /河野勝・岡垣知子訳『国際政治の理論』勁草書房, 2010年。	120分
		事後学修	国際政治学とはどのような学問なのかについての知見をノートにまとめる。	120分
3	4/22	国際関係の理論について	国際社会を学ぶための基本的な見方を提示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会には自然科学のような厳格な理論は存在しないが、国際社会を理解するための見方が存在することを説明できる。	
		事前学修	テキスト第8章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際政治学の理論をノートにまとめる。ウォルツ, K. /河野勝・岡垣知子訳『国際政治の理論』勁草書房, 2010年。	120分
		事後学修	国際政治に関する「理論」と自然科学における理論の違いについての知見をノートにまとめる。	120分
4	4/29	国際関係の様々な理論について	第二次世界大戦前のユートピアニズムに対する批判としてリアリズム、戦後生まれた古典的リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コントラクティヴィズムといった多様な理論について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ユートピアニズム、リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コントラクティヴィズムとは何かを説明することができる。	
		事前学修	テキスト第8章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、リアリズムとリベラリズムの特徴をノートにまとめる。大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣, 2013年。	120分
		事後学修	ユートピアニズム、リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コントラクティヴィズムなど、それぞれの見方によって、国家やアナーキーがどのように捉えられているかについての知見をノートに整理する。	120分
5	5/6	国際レジーム論	レジームとは何か、機能や設立について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際レジームとは何かについて説明することができる。	
		事前学修	テキスト第9章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際レジームの特徴をノートにまとめる。ポーター, G.・ブラウン, J. W. /信夫隆司訳『地球環境政治—地球環境問題の国際政治学』国際書院, 1993年。	120分
		事後学修	国際レジームが国際社会で果たす役割と必要性についての知見をノートにまとめる。	120分
6	5/13	グローバル・ガバナンス論	グローバル・ガバナンスについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グローバル・ガバナンスとは何かについて説明することができる。	
		事前学修	テキスト第9章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、グローバル・ガバナンスの特徴をノートにまとめる。渡辺昭夫・土山實男編『グローバル・ガヴァナンス—政府なき秩序の模索』東京大学出版会, 2001年。	120分
		事後学修	グローバル・ガバナンスと国際レジームの違いについての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	20世紀の国際関係	第一次世界大戦、第二次世界大戦から冷戦期までの国際関係を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、第一次世界大戦から冷戦までの国際社会の歴史的流れを説明することができる。	
		事前学修	テキスト第2章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、第2次大戦と冷戦の特徴をノートにまとめる。山本吉宣『「帝国」の国際政治学—冷戦後の国際システムとアメリカ』東信堂，2006年。	120分
		事後学修	2度の大戦から冷戦までの歴史を振り返り、それぞれの原因についての知見をノートにまとめる。	120分
8	5/27	ポスト冷戦時代の国際関係 中間テスト	ポスト冷戦時代の国際関係について解説する。また、中間テストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、冷戦後の国際社会の特徴について説明することができる。	
		事前学修	テキスト第2章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、冷戦後のアメリカ基準化についてノートにまとめる。石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂高文社，2000年。 第1回から第7回の復習をしておく。	120分
		事後学修	冷戦終結は世界に何をもたらしたのかについての知見をノートにまとめる。	120分
9	6/3	今日の国際関係	ポスト冷戦期以降に国際社会で起こったことを追いながら、今日の国際政治について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、21世紀を象徴するような9.11が起こった背景と、国際政治の対応について説明することができる。	
		事前学修	テキスト第3章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、9.11とはどのような出来事であったのかをノートにまとめる。ウッドワード，B. / 伏見威蕃訳『ブッシュの戦争』日本経済新聞社，2003年。	120分
		事後学修	9.11後、アメリカの政治がどのように転換したのかについての知見をノートにまとめる。	120分
10	6/10	今日の国際関係における課題	911以降、自国第一の考え方が広まったことについて、国際政治の視点から解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、アメリカやヨーロッパ各国の経済、雇用、移民、難民の現状を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第3章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、難民問題の特徴をノートにまとめる。遠藤乾『欧州複合危機—苦悶するEU，揺れる世界』中央公論新社，2016年。	120分
		事後学修	なぜ今、自国第一主義の時代なのかについての知見をノートにまとめる。	120分
11	6/17	グローバリゼーション	グローバリゼーションの光と陰について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、われわれの生活が、世界各国と相互依存関係にあることを説明することができる。	
		事前学修	テキスト第4章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、相互依存論の理解をノートにまとめる。フリードマン，T. / 伏見威蕃訳『フラット化する世界—経済の大転換と人間の未来（上・下）』日本経済新聞社，2006年。	120分
		事後学修	グローバリゼーションの功罪についての知見をノートにまとめる。	120分
12	6/24	今日のグローバリゼーション	グローバリゼーションに対する推進派と反対派の対立など、様々な経済界や市民社会の対応について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、グローバリゼーションを当たり前のように受け止めるのではなく、その本質を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第4章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、グローバル市民社会の特徴をノートにまとめる。重田康博『激動するグローバル市民社会—「慈善」から「公正」への発展と展開』明石書店，2017年。	120分
		事後学修	講義で扱ったグローバリゼーションに対する様々な主張についての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	南北問題	南北問題とは何か、新興国の登場によって南北問題はどのように変化しているのか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、南北問題とは何かについて説明することができる。	
		事前学修	テキスト第11章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、発展途上国が抱える問題についてノートにまとめる。サックス, J. D. / 鈴木主税・野中邦子訳『貧困の終焉—2025年までに世界を変える』早川書房, 2007年。	120分
		事後学修	新興国の台頭によって世界の開発の問題がどのように変化したのかについての知見をノートにまとめる。	120分
14	7/8	南北問題をどう解決するのか	国連ミレニアム開発目標について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、国際社会は国連ミレニアム開発目標などを通じて、途上国問題についてどのように対応しようとしているかについて説明することができる。	
		事前学修	テキスト第11章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国連ミレニアム開発目標の特徴をノートにまとめる。田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編『SDGs と開発教育—持続可能な開発目標のための学び』学文社, 2016年。	120分
		事後学修	日本におけるSDGsに対する取り組みについての知見をノートにまとめる。	120分
15	7/15	まとめ	第1回から第14回までのまとめを通じて、グローバル化する国際政治をどのように理解するのかについて、レビューする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、前期で学んだことを体系的に説明することができる。	
		事前学修	第1回から第14回までで学んだ事柄をノートを見ながら振り返る。	120分
		事後学修	世界で起きている現在の問題を、前期で学んだ国際関係理論を使って考えノートにまとめてみる。	120分

科目名	国際政治学Ⅰ	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式を基本とする。また、随時、最新の国際事情に関する新聞記事を紹介する。必要に応じ、映像資料を用いることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。					1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。					1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。					1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				1		1	1				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価 する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢 が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極 的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して試験の講評をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論〔第3版〕	佐渡友哲・信夫隆 司・柑本英雄	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50。本館8階1806号。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	国際政治学の学修	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。国際化する世界の中で、国際政治学を学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学を学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
		事後学修	シラバスを基に説明された内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	120分
2	第一部 火4/14	学問としての国際政治学	国際政治学とはどのような学問なのか、その研究領域と特徴を中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学とはどのような学問なのかを説明できる。	
		事前学修	第1章 国際関係論とはどのような学問なのかのうち、国際関係論の学び方および国際関係論の研究領域とその特徴を読み、国際政治学とはどのような学問なのかをノートにまとめる。	90分
		事後学修	国際関係論と国際政治学の区別についてノートにまとめる。	150分
3	第一部 火4/21	国際政治学の基本的枠組み	国際政治学研究の基本的枠組み、歴史分析における3つの仮説について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学の基本的枠組みを説明できる。	
		事前学修	第1章 国際関係論とはどのような学問なのかの後半を読み、国際政治学の基本的枠組みを整理し、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	歴史分析における3つの仮説について、知見をノートにまとめる。	120分
4	第一部 火4/28	大戦から冷戦へ	20世紀の国際関係とはいかなるものであったのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、20世紀の国際関係のうち、第一次世界大戦から第二次世界大戦、米ソ冷戦時代の国際関係を説明できる。	
		事前学修	第2章 20世紀の国際関係をどう理解するかを読み、世界大戦、その後の冷戦についてノートにまとめる。	90分
		事後学修	世界大戦はなぜ起こったのか、冷戦はなぜ起こったのかを考え、知見をノートにまとめる。	150分
5	第一部 火5/5	ポスト冷戦の国際関係	ポスト冷戦時代の国際関係の特徴、および、20世紀の国際関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、ポスト冷戦時代の国際関係の特徴、および、20世紀の国際関係について説明できる。	
		事前学修	第2章 20世紀の国際関係をどう理解するかのうち、ポスト冷戦時代の国際関係の特徴、および、20世紀における主要な出来事をノートにまとめる。	120分
		事後学修	ポスト冷戦時代の国際関係の特徴をまとめるとともに、20世紀の国際関係といかなるものであったかを考え、ノートに知見をまとめる。	120分
6	第一部 火5/12	9.11同時多発テロの意味	21世紀の国際関係のうち、9.11同時多発テロおよびその後の国際関係の状況について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、2001年9月11日、米国で起きた同時多発テロ、および、その後の国際関係を説明できる。	
		事前学修	第3章 今日の国際関係をどう読むかの前半を読み、2001年9月11日に米国で起きた同時多発テロについて調べ、その経緯および原因をノートにまとめる。	90分
		事後学修	9.11同時多発テロが、国際政治に与えた影響について考え、ノートに知見をまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	オバマ政権の誕生	オバマ政権の誕生後のアメリカの国際関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オバマ政権はなぜ誕生したのか、オバマ政権の特徴は何かを説明できる。	
		事前学修	第3章 今日の国際関係をどう読むかのうち、3 オバマ政権成立後のアメリカ外交と国際関係を読み、オバマ政権の特徴についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	オバマ政権の核軍縮、および、オバマ政権が目指した太平洋重視の外交政策をノートにまとめる。	120分
8	第一部 火5/26	トランプ政権と自国第一主義	自国第一主義の時代とはいかなるものかを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、トランプ政権の誕生、および、トランプ政権の政策がなぜ自国第一主義といわれるのかを説明できる。	
		事前学修	第3章 今日の国際関係をどう読むかのうち、4 自国第一主義の時代を読み、自国第一主義とはいかなるものがあるかをノートにまとめる。	90分
		事後学修	自国第一主義の問題点を整理し、この問題に対する知見をノートにまとめる。	150分
9	第一部 火6/2	イギリスのEUからの離脱	自国第一主義のうち、イギリスのEUからの離脱について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、なぜイギリスは国民投票でEUから離脱することを選択したのかを説明できる。	
		事前学修	2016年6月におこなわれたイギリスの国民投票は、いかなる意味をもっていたのかをノートにまとめる。	120分
		事後学修	イギリスがEUから離脱すると、EUおよび国際政治全般についてどのような影響が及ぶのかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
10	第一部 火6/9	グローバリゼーションの影響	グローバリゼーションとは何か、その影響、および、光と影について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グローバリゼーションとはいかなる現象なのか、その光と陰について説明できる。	
		事前学修	第4章 グローバリゼーションの時代をどう読むかの前半を読み、とくに、グローバリゼーションの光と影についてノートにまとめる。	90分
		事後学修	グローバリゼーションの功罪について考え、知見をノートにまとめる。	150分
11	第一部 火6/16	新自由主義とグローバリゼーション	新自由主義とグローバリゼーションの関係、さらには、グローバリゼーションの理論について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、新自由主義とグローバリゼーションについて説明できる。	
		事前学修	第4章 グローバリゼーションの時代をどう読むかの後半を読み、グローバリゼーションの理論的な面についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	グローバリゼーションと私たちの暮らしについて考え、知見をノートにまとめる。	120分
12	第一部 火6/23	現代の安全保障	国際社会における安全保障とは何か、国家の安全保障と地域の安全保障について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会における安全保障とは何か、国家および地域の安全保障について説明できる。	
		事前学修	第5章 現代の安全保障をどう読むかの前半を読み、安全保障とはいかなる意味があるのかをノートに整理する。	90分
		事後学修	現代の安全保障の特徴とは何かを考え、知見をノートにまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	非伝統的安全保障	伝統的安全保障から非伝統的安全保障へ、安全保障の概念はどのように変容してきたのかを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標②④⑤に関連して、伝統的安全保障と非伝統的安全保障の違いを説明できる。	
		事前学修	第5章 現代の安全保障をどう読むのかの後半を読み、現代の安全保障における問題点を調べ、ノートに整理する。	120分
		事後学修	現代の安全保障とはいかなるものかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
14	第一部 火7/7	北東アジアの政治と国際関係	北東アジアの政治と国際関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、北東アジアの政治と国際関係について説明できる。	
		事前学修	第6章 北東アジアの政治と国際関係をどう読むのかを読み、北朝鮮、中国を中心とする北東アジアの国際関係を調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	北東アジアにおける国際関係を整理し、ノートにまとめる。	120分
15	第一部 火7/14	国際政治の理論と現実	前期の講義全体を俯瞰し、国際政治の理論と現実について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国際政治の理論と現実を説明できる。	
		事前学修	国際政治の理論と現実の乖離について調べ、ノートにまとめる。	90分
		事後学修	国際政治の理論と現実の問題点について考え、知見をノートにまとめる。	150分

科目名	国際政治学Ⅰ	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料を印刷して配布したり、映像を紹介し、国際政治の展開などについて適宜説明する場合もある。また、外部講師を招いて、国際社会の出来事の理解を深める機会を提供する場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価 する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢 が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極 的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 (編)	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	イントロダクション、及び導入講義	ノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を説明する。	
		この回の到達目標	授業の進め方と学び方を把握できる。ノートに書き留めたことを発表できる。	
		事前学修	教科書の第1章から第7章まで（3ページ～118ページ）を一読したうえで、印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。初回に教科書を持参する。	180分
		事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分
2	/	学問としての国際政治学	国際政治学と国際関係論がどのような学問なのかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学と国際関係論がどのような学問であるのかを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第1章「国際関係論はどのような学問なのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	/	国際システムの形成	国際システムがどのように形成されたのかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際システムがどのように形成されたのかを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第1章「国際関係論はどのような学問なのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	/	20世紀前半の国際政治	20世紀前半の国際政治をどう理解するのかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、20世紀前半の国際政治を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第2章「20世紀の国際関係をどう理解するのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	/	20世紀後半の国際政治	20世紀後半の国際政治をどう理解するのかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、20世紀後半の国際政治を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第2章「20世紀の国際関係をどう理解するのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	/	核兵器と国際政治	今日の国際政治をどう読むのか、とくに核軍縮を主題にしてともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、とくに核軍縮を主題とする今日の国際関係について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第3章「今日の国際関係をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	テロとの戦い	今日の国際政治をどう読むのか、とくにテロとの戦いを主題にしてともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、とくにテロとの戦いを主題とする今日の国際関係について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第3章「今日の国際関係をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	/	現象としてのグローバリゼーション	グローバリゼーションの時代をどう読むのか、現象としてのグローバリゼーションに留意してともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現象としてのグローバリゼーションに留意しつつ、現代のグローバリゼーションを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第4章「グローバリゼーションの時代をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	/	課題としてのグローバリゼーション	グローバリゼーションの時代をどう読むのか、課題としてのグローバリゼーションに留意してともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、課題としてのグローバリゼーションに留意しつつ、現代のグローバリゼーションを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第4章「グローバリゼーションの時代をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	/	伝統的安全保障	現代の安全保障をどう読むのか、伝統的安全保障の面からともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現代の安全保障を伝統的安全保障の面から理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第5章「現代の安全保障をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	/	非伝統的安全保障	現代の安全保障をどう読むのか、非伝統的安全保障の面からともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現代の安全保障を非伝統的安全保障の面から理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第5章「現代の安全保障をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	/	北東アジアの国際政治	北東アジアの国際政治をどう読むのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、北東アジアの国際政治を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第6章「北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	冷戦期の国際社会と日本	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか、冷戦期の国際社会を念頭においてともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、冷戦期の国際社会における日本の位置づけを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第7章「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	/	冷戦終結後の国際社会と日本	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか、冷戦終結後の国際社会を念頭においてともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、冷戦終結後の国際社会における日本の位置づけを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第7章「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	/	学修成果の確認	学修成果を確認するための筆記試験を実施する。答案回収後に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、試験問題に解答できる。	
		事前学修	これまでの授業の内容をふりかえり筆記試験に備える。	180分
		事後学修	授業と筆記試験の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係論 Ⅲ第3版』(Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆 司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	教科書	必携
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』(仮 題)	多賀秀敏	勁草書房	2020 (予定)	参考書	推奨
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室（4号館3階433研究室） （事前にアポイントメントを取るこ）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	後期授業の進め方・前期の復習	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。前期に学習したことを用いて、今日の国際政治を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。前期の配布資料に目を通すほか、今週の世界ニュースを新聞やウェブサイトを確認する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。理解が足りない事項については、ノートにまとめる。	120分
2	9/23	現代の安全保障	国際社会における安全保障とは何かについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、安全保障という問題領域がどのように定義され、その概念がどのように変化していったのかを理解する。	
		事前学修	テキスト第5章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 防衛大学校安全保障学研究会編著『安全保障学入門（新訂第4版）』亜紀書房，2009年。	120分
		事後学修	国際連盟や国際連合と、新しい安全保障の考え方の違いを考え、ノートにまとめる。	120分
3	9/30	集団安全保障	自国の安全を確保するためにどのような地域協力を構築しているのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際安全保障のためにこれまでに各国で取り組んできた仕組みとその限界を理解する。	
		事前学修	テキスト第5章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 神保謙・東京財団「アジアの安全保障」プロジェクト編『アジア太平洋地域の安全保障アーキテクチャー―地域安全保障の三層構造』日本評論社，2011年。	120分
		事後学修	国防のために日本や米国が行っている具体策とその実態を調べ、それらの問題点や課題を考え、ノートに書きだす。	120分
4	10/7	国際紛争・国内紛争	現代における国際紛争・国内紛争の特徴について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会が紛争解決のためにどのような試みを行ってきたか理解する。	
		事前学修	テキスト第15章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 藤原帰一・大芝亮・山田哲也編『平和構築・入門』有斐閣，2011年。	120分
		事後学修	ポスト冷戦期の紛争を取り上げ、その紛争に対する国際社会の対応についてノートにまとめる。	120分
5	10/14	人間の安全保障	人間の安全保障が紛争解決にどのような役割を果たすのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人間の安全保障の内容について理解し、国際社会の取り組みを知る。	
		事前学修	テキスト第15章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 武者小路公秀編著『人間の安全保障―国家中心主義をこえて』ミネルヴァ書房，2009年。	120分
		事後学修	人間の安全保障と従来の安全保障との違いをノートにまとめる。	120分
6	10/21	北東アジアの政治と国際関係―韓国・北朝鮮	朝鮮半島の状況と韓国と北朝鮮の政治について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、朝鮮半島の歴史と政治について理解する。	
		事前学修	テキスト第6章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 小倉紀蔵・小針進編『日韓関係の争点』藤原書店，2014年。	120分
		事後学修	韓国・北朝鮮の外交の特徴をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	北東アジアの政治と国際関係―中国 中間テスト	中国の外交と日中関係について解説する。また、中間テストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日中関係の流れを理解する。	
		事前学修	テキスト第6章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。増田弘・波多野澄雄編『アジアの中の日本と中国―友好と摩擦の現代史』山川出版社、1995年。 第1回から第6回の復習をしておく。	120分
		事後学修	日韓、日中関係の流れを確認し、ノートにまとめる。	120分
8	11/4	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか	国際社会の中で日本が置かれている状況について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の安全保障、経済外交、国際社会への貢献について説明できる。また、到達目標④に関連して、国際社会での位置づけを理解する。	
		事前学修	テキスト第7章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 五百旗頭真編『戦後日本外交史（第3版）』有斐閣、2010年。 進藤栄一・水戸考道編『戦後日本政治と平和外交―21世紀アジア共生時代の視座』法律文化社、2007年。	120分
		事後学修	日本の国際貢献にはどのようなものがあるか調べ、ノートに書きだす。	120分
9	11/11	地球環境問題と国際社会	地球環境問題に向けた国際社会の取り組みについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地球環境問題の実態を理解し、さまざまなアクターがどのように対応しているのかについて理解する。	
		事前学修	テキスト第12章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 日本国際政治学会編「特集環境とグローバル・ポリティクス」『国際政治』166号、2011年。	120分
		事後学修	環境問題を、大気汚染、温暖化、生態系破壊、生物多様性、などに分類して原因と現状についてノートにまとめる。	120分
10	11/18	地球環境問題への対応	国際社会は地球環境問題を解決できるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、地球温暖化の問題を中心に、各国の態度と国際社会が抱える課題について理解する。	
		事前学修	テキスト第12章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 クライン、N.／幾島幸子・荒井雅子訳『これがすべてを変える―資本主義vs. 気候変動（上・下）』岩波書店、2017年。	120分
		事後学修	地球環境問題に関して、どのような利害関係があるのか調べ、ノートに書きだす。	120分
11	11/25	リージョナリズム	リージョナリズムとは何か、EUを例として開設する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、欧州統合の歴史とEUの仕組みについて理解する。	
		事前学修	テキスト第10章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 中村民雄『EU とは何か―国家ではない未来の形』信山社、2016年。	120分
		事後学修	EU統合がなぜ必要だったのかを考えながら、統合までの道のりをノートにまとめる。	120分
12	12/2	欧州統合の現状	EUの現状と課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、EUが現在抱える問題を説明できる。また、到達目標⑤に関連して、EU加盟国の現状と課題に関連して考えることができる。	
		事前学修	テキスト第10章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 遠藤乾『欧州複合危機―苦悶するEU、揺れる世界』中公新書、2016年。	120分
		事後学修	なぜ今EUからの離脱や欧州統合の進展に反対する声が提起されているのか考え、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/9	非国家アクターの台頭	非国家アクターとは何か、国際社会においてどのような役割を担っているのか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非国家アクターの定義とその活動について理解する。	
		事前学修	テキスト第13章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 西川潤・佐藤幸男編『NPO/NGO と国際協力』ミネルヴァ書房，2002年。	120分
		事後学修	非国家アクターが登場した理由について考え、自分の言葉でノートにまとめる。	120分
14	12/16	公の役割	非国家アクターを通して、「公」について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、非国家アクターの公的役割について、その現状と必要性を理解する。	
		事前学修	テキスト第13章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 柑本英雄『国際的行為体とアイデンティティの変容―欧州沿岸辺境地域会議と共通漁業政策をめぐって』成文堂，2000年。	120分
		事後学修	国家アクターの限界と非国家アクターの可能性について考え、ノートにまとめる。	120分
15	12/23	まとめ	第1回から第14回までのまとめと講評	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際社会の現状を理解し、課題解決への自分なりの方法を思考することができる。	
		事前学修	教科書やノートに目を通し、第14回までに学んだ事柄を振り返る。	120分
		事後学修	これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認する。	120分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式を基本とする。また、随時、最新の国際事情に関する新聞記事を紹介する。必要に応じ、映像資料を用いることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。					1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。					1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。					1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				1		1	1				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して試験の講評をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論〔第3版〕	佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12：20～12：50。本館8階1806号。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	国際政治学の学修	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。国際政治学を学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学を学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
		事後学修	今後の授業内容を理解し、その要点をノートに整理する。	120分
2	第一部 火9/22	国際政治理論とは何か	国際政治理論とは何かを考察するとともに、主要な理論であるリアリズムについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際政治理論とは何か、および、国際政治学におけるリアリズムとは何かを説明できる。	
		事前学修	第8章 国際関係理論とは何かのうち、第1節、第2節を読み、国際政治理論とは何かを調べ、とくに、リアリズムおよびネオリアリズムとは何かをノートにまとめる。	150分
		事後学修	モーゲンソーのリアリズム、ウォルツの防御的リアリズム、ミアシャイマーの攻撃的リアリズムを整理し、ノートにまとめる。	90分
3	第一部 火9/29	ネオリベラリズム	国際政治理論の中で、ネオリベラリズムについて考察し、リアリズムとの違いを明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ネオリベラリズムとはいかなる国際政治の理論かを説明できる。	
		事前学修	第8章 国際関係理論とは何かのうち、第3節を読み、ネオリベラリズムとはいかなる理論かを調べ、とくに、リアリズムおよびネオリアリズムとの違いをノートにまとめる。	120分
		事後学修	ネオリベラリズムは国際政治のいかなる現象に適用できるのかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
4	第一部 火10/6	コンストラクティヴィズム	国際政治理論におけるコンストラクティヴィズムとは何かを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際政治理論におけるコンストラクティヴィズムとは何か、リアリズムおよびネオリベラリズムとの違いを説明できる。	
		事前学修	ウェントのコンストラクティヴィズムについて調べ、この理論の概要を整理する。	90分
		事後学修	観念的な国際政治理論と物質的な国際政治理論について考え、知見をまとめる。	150分
5	第一部 火10/13	リージョナリズムと欧州統合	リージョナリズムと欧州統合について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、欧州統合の歴史を説明できる。	
		事前学修	第10章 リージョナリズムと欧州統合の第1節、第2節を読み、欧州統合の歴史をノートに整理する。	90分
		事後学修	なぜ欧州統合は可能であったのかを考え、知見をまとめる。	150分
6	第一部 火10/20	EUの拡大とEUからの離脱	EUの拡大の歴史を学ぶとともに、イギリスのEUからの離脱について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤との関連で、なぜイギリスがEUから離脱しようとしたのかを説明できる。	
		事前学修	昨今の欧州統合の問題点を調べ、ノートに整理する。	120分
		事後学修	イギリスのEUからの離脱を考え、知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	南北問題とは何か	南北問題とは何か、その背景、および、今日の課題について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関連で、南北問題とはいかなるものなのか、問題の根源は何かを説明できる。	
		事前学修	第11章 南北問題をどう解決するか第1節、第2節を読み、南北問題とはどのようなものなのか、この問題の由来をノートに整理する。	90分
		事後学修	南北問題の解決策を考え、知見をノートにまとめる。	150分
8	第一部 火11/10	南北問題の理論的枠組み	南北問題の理論的枠組みを分析し、公正な国際社会のあり方について分析する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、南北問題の理論的枠組みを説明できる。	
		事前学修	第11章 南北問題をどう解決するか第3節、第4節を読み、南北問題の理論的枠組みを整理し、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	南北問題の理論的枠組みとしていかなるものがあるかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
9	第一部 火11/17	地球環境問題とは何か	地球環境問題にはどのようなものがあるか、ならびに、国際社会の取り組みを中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、主要な地球環境問題、および、国際社会における取り組みを説明できる。	
		事前学修	第12章 地球環境問題をどう解決するか第1節を読み、地球環境問題にはどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	地球環境問題の解決策を考え、知見をノートに整理する。	120分
10	第一部 火11/24	地球温暖化	地球温暖化の科学的メカニズムを理解し、温暖化に対する国際社会の取り組みを中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、地球温暖化とは何か、国際社会の取り組みを説明できる。	
		事前学修	第12章 地球環境問題をどう解決するか第3節を読み、気候変動枠組み条約、京都議定書、パリ協定を比較し、ノートに整理する。	90分
		事後学修	地球温暖化を防止するためのパリ協定の実効性を考え、知見をノートにまとめる。	150分
11	第一部 火12/1	地球環境ガバナンス	生物多様性、環境安全保障、グリーン経済を中心として、地球環境ガバナンスを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、地球環境ガバナンスとは何かを説明できる。	
		事前学修	第12章 地球環境問題をどう解決するか第4節を読み、とくに、生物多様性について調べ、その概要をノートにまとめる。	120分
		事後学修	ワシントン条約、生物多様性条約、名古屋議定書についてノートに整理する。	120分
12	第一部 火12/8	非国家アクターと市民社会	国際政治において、非国家アクターと市民社会がどのような役割を果たしているのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①③との関連で、非国家アクターと市民社会の国際政治における役割、および、問題点を説明できる。	
		事前学修	第13章および第14章を読み、国際政治における非国家アクターとしてどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめる。	90分
		事後学修	非国家アクターおよび市民社会の役割を整理し、ノートにまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	国際紛争・国内紛争とは何か	現代の主要な国際紛争・国内紛争の実態について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、現代の主要な国際紛争・国内紛争の実態を説明できる。	
		事前学修	第15章 国際紛争・国内紛争をどう解決するか第1節、第2節を読み、現代の国際紛争・国内紛争にはどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	国際紛争・国内紛争の解決策を考え、知見をノートにまとめる。	120分
14	第一部 火12/22	国際紛争・国内紛争の解決策	現代の主要な国際紛争・国内紛争の解決策について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、現代の主要な国際紛争・国内紛争の解決策を説明できる。	
		事前学修	第15章 国際紛争・国内紛争をどう解決するか第3節、第4節を読み、現代の国際紛争・国内紛争の解決策としてどのようなものがあるかをノートにまとめる。	90分
		事後学修	国際紛争・国内紛争の解決策を考え、知見をノートにまとめる。	150分
15	第一部 火1/12	国際政治学を理解するとは	後期の講義を振り返り、国際政治学を理解するとはいかなる意味かを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国際政治学を理解するとはいかなる意味かを説明できる。	
		事前学修	後期の講義における問題点を振り返り、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	問題点についての解決策を自ら考え、ノートにまとめる。	120分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料を印刷して配布したり、映像を紹介し、国際政治の展開などについて適宜説明する場合もある。また、外部講師を招いて、国際社会の出来事の理解を深める機会を提供する場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価 する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢 が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極 的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 (編)	弘文堂	2018	教科書	必携
					必携
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	イントロダクション、及び導入講義	ノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を確認する。	
		この回の到達目標	授業の進め方と学び方を把握できる。ノートに書き留めたことを発表できる。	
		事前学修	教科書の第8章から第15章まで（121ページ～256ページ）を一読したうえで、印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。初回に教科書を持参する。	180分
		事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分
2	/	国際政治の現実主義理論	国際政治の現実主義理論とは何かをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治の現実主義理論について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第8章「国際関係理論とは何か」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	/	国際政治の自由主義理論とコンストラクティヴィズム	国際政治の自由主義理論とは何かをともに考える。国際政治におけるコンストラクティヴィズム・アプローチがどのような意味をもつかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治の自由主義理論について、ならびに国際政治においてコンストラクティヴィズム・アプローチがもつ意味について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第8章「国際関係理論とは何か」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	/	国際レジーム論	国際政治において国際レジーム論がどのような意味をもつかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際政治において国際レジーム論がもつ意味を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第9章「国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	/	グローバル・ガバナンス	国際政治においてグローバル・ガバナンスの視点がどのような意味をもつかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、到達目標①②に関連して、国際政治においてグローバル・ガバナンスの視点がもつ意味を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第9章「国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	/	リージョナリズムと欧州統合	リージョナリズムとは何か、なぜ欧州で統合が進むのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、リージョナリズムと欧州統合の過程について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第10章「リージョナリズムと欧州統合」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	EUの成果と課題	EUの成果と課題は何かともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、EUの成果と課題について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第10章「リージョナリズムと欧州統合」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	/	南北問題と国際政治	南北問題をどう解決するのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、南北問題の現状と解決に向けた取り組みの内容を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第11章「南北問題をどう解決するのか」について準備する	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	/	国際課題をめぐる講演会	国際政治に携わる外部講師を招いて講演会を開催する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、講演会の内容を理解したうえで自らの私見を説明できる。	
		事前学修	特別授業として外部講師の講演会を行う。課題は事前に告知する。	120分
		事後学修	講演会の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	/	地球環境問題	地球環境問題をどう解決するのかともに考える	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地球環境問題の現状と解決に向けた取り組みの内容を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第12章「地球環境問題をどう解決するのか」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	/	非国家アクター	非国家アクターの台頭をどう見るのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、非国家アクターの台頭を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第13章「非国家アクターの台頭をどう見るのか」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	/	市民社会と世界	市民社会は世界を動かすことができるのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、市民社会が世界を動かす現状と可能性を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第14章「市民社会は世界を動かすことができるのか」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	国際紛争と国内紛争	国際紛争・国内紛争をどう解決するのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際紛争・国内紛争の事象を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第15章「国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	/	紛争の解決と日本	国際紛争・国内紛争の解決に向けて日本がどのように関われるかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際紛争・国内紛争の解決に向けて日本が関わる現状と可能性を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第15章「国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	/	学修成果の確認	学修成果を確認するための筆記試験を実施する。答案回収後に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	これまでの授業の内容をふりかえり筆記試験に備える。	120分
		事後学修	授業と筆記試験の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

科目名	国際取引法AⅠ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
この講座では、国際取引に関する法制度を基礎から理解し、さらに国際売買契約、国際運送・保険契約、国際販売代理店契約、国際的M&A（企業買収）契約、準拠法や裁判管轄、国際紛争処理・国際仲裁などについて幅広く学習する。国際取引に関する新しい動向や法制度、企業法務の対応など理論とプラクティスの双方から実践的に学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引全般に関する基礎的な法制度の修得を目的とする。企業のグローバル化が進展し、国際取引法の修得の重要性は増加しており、国際売買契約など国際契約、国際的製造物責任、国際的M&A（企業買収）、国際投融資、国際企業結合、紛争処理、国際金融など、総論として幅広く学習し、修得することを目的とする。全くの初心者にも理解しやすいよう講義する。法律関係でない学科の学生や1年生にもできるだけ多く受講してほしい。国際取引に関する基本的な法制度を全般的に学び、理解して説明できるようになることを目標とする。さらなる専門科目の履修に向け、各自の将来展望を見据えて学習することが目標となる。

【履修条件】
学科を問わず1年生から4年生まで広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。関連科目として民法（契約法）・商法のほか、英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講するとさらによくなる。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)				
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力

達成されるべき具体的行動		関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業の国際取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】	2	2				2		
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】	2	2				2		
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】	2	2				2		
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】	2	2				2		
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるることができる。【態度・習慣】	2	2				2		
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べるることができる。【態度・習慣】	2	2				2		
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べるることができる。【態度・習慣】	2	2				2		
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】	2	2				2		
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】	2	2				2		
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】	2	2				2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10					20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。							5	5	5	5	20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著 者 名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定					
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。				

【オフィスアワー】	
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。	

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関する法制度に関して、実務経験に基づき、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	【ガイダンス】【国際取引法とは】	国際取引法概説（１）－国際取引法の枠組み－ 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、国際取引法の学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法の概要に関して学習し、国際私法などとの関連性も理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、国際取引について講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 4/15	【国際取引法と関連法分野】	国際取引法概説（２）－国際取引法と関連法分野－ 国際取引法概説として、国際取引法と関連法分野について、企業法務の視点も含め学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と関連法分野について、概要を理解する。	
		事前学修	国際取引法と関連法分野について、概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引法概説について内容を復習する。	120分
3	第一部水 4/22	【国際取引法と企業の海外進出形態】	国際取引法と企業の海外進出形態（１）－輸出、海外生産・国際合併と為替、貿易摩擦－ 国際取引法と企業の海外進出について、輸出、海外生産・国際合併と為替、貿易摩擦などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と企業の海外進出形態について、概要を理解する。	
		事前学修	国際取引法と企業の海外進出について、概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引法と企業の海外進出について内容を復習する。	120分
4	第一部水 4/29	【国際取引法と多国籍企業】	国際取引法と企業の海外進出形態（２）－グローバル展開・グローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦－ 国際取引法と企業の海外進出について、グローバル展開・グローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法とグローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦などについて、概要を理解する。	
		事前学修	国際取引法と企業の海外進出のさらなる展開について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引法と企業の海外進出のさらなる展開について内容を復習する。	120分
5	第一部水 5/6	【国際統一規則等と国際取引法】	国際統一規則等と国際取引法 国際統一規則等の概要について、学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際統一規則等について、概要を理解する。	
		事前学修	国際統一規則等の概要について、学習する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際統一規則等の概要について内容を復習する。	120分
6	第一部水 5/13	【国際通商法関係と国際取引法】	国際通商法関係と国際取引法（１）－WTO、米国通商法・関税法ダンピング規制、相殺関税、セーフガード措置、原産地国問題－ 国際通商法関係と国際取引法について、WTO、米国通商法・関税法ダンピング規制、相殺関税、セーフガード措置などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際通商法関係等について、概要を理解する。	
		事前学修	国際通商法関係と国際取引法について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法について内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	【国際取引法と地域統合条約】	国際通商法関係と国際取引法（2）－E U、NA F T A、A S E A Nなど地域統合条約ほか－ 国際通商法関係と国際取引法について、E U、NA F T A、A S E A Nなど地域統合条約などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と地域統合条約について、概要を理解する。	
		事前学修	国際通商法関係と国際取引法に関し、地域統合条約について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法、地域統合条約などについて内容を復習する。	120分
8	第一部水 5/27	【国際取引法とT P P問題】	国際通商法関係と国際取引法（3）－T P P問題－ 国際通商法関係と国際取引法について、T P P11などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法とT P P11などの概要を理解する。	
		事前学修	国際通商法関係と国際取引法に関し、T P P問題について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法、T P P問題などについて内容を復習する。	120分
9	第一部水 6/3	【国際取引と知的財産権訴訟】	国際取引と知的財産権訴訟－米国のプロパテント政策、パリ条約、W T Oと中国の模倣品対策など－ 国際取引と知的財産権訴訟に関し、米国のプロパテント政策などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と知的財産権訴訟の概要を理解する。	
		事前学修	国際取引と知的財産権訴訟に関し、概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と知的財産権訴訟について内容を復習する。	120分
10	第一部水 6/10	【国際取引と製造物責任訴訟】	国際取引と到達目標①②に関連して、国際取引法と知的財産権訴訟の概要を理解する。 （1）－P L責任と契約責任－ 国際取引と製造物責任訴訟に関して、P L責任と契約責任などの概要を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と製造物責任訴訟の概要を理解する。	
		事前学修	国際取引と製造物責任訴訟に関し、概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と製造物責任訴訟の概要について内容を復習する。	120分
11	第一部水 6/17	【国際取引と製造物責任訴訟】	国際取引と製造物責任訴訟（2）－米国の厳格責任主義ほか－ 国際取引と製造物責任訴訟に関し、米国の厳格責任主義についての判例などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と製造物責任訴訟の概要を理解する。特に、米国の厳格責任主義について理解を深める。	
		事前学修	国際取引と製造物責任訴訟に関し、米国の判例などを考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と製造物責任訴訟について米国の判例などを復習する。	120分
12	第一部水 6/24	【国際取引法と準拠法と国際裁判管轄、域外適用】	域外適用（1）－近年の域外適用問題の概要、管轄・裁判籍など－ 準拠法と国際裁判管轄に関し、域外適用問題も含めて理論と判例動向などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、準拠法と国際裁判管轄に関し、国際取引法と域外適用を理解する。	
		事前学修	準拠法と国際裁判管轄などについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄について判例などを復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	【国際取引法と準拠法と国際裁判管轄、域外適用】	域外適用（2）－米国汚職行為防止法（FCPA）、英国腐敗防止法（Bribery Act 2010）－ 準拠法と国際裁判管轄に関し、米国や英国の域外適用問題の判例、今後の展望を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、準拠法と国際裁判管轄に関し、国際取引法と域外適用を理解する。米国汚職行為防止法（FCPA）、英国腐敗防止法（Bribery Act 2010）の具体的事例を理解する。	
		事前学修	準拠法と国際裁判管轄に関し、域外適用問題も含めて考察を深める。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄、域外適用について復習する。	120分
14	第一部水 7/8	【国際取引と企業法務】	国際取引と企業法務－企業の業種と国際取引の形態、国際契約、法的リスク、グローバル内部統制とコンプライアンス・プログラム、日本企業の対応－ 国際取引と企業法務に関して、最近の動向を中心に組織形態、プラクティスを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、準拠法と国際裁判管轄に関し、国際取引と企業法務を理解する。	
		事前学修	国際取引と企業法務などについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と企業法務について具体例などを復習する。	120分
15	第一部水 7/15	【前期総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。国際取引法の総論について、前期の総まとめを行い、体系的な学習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、前期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、国際取引法全体の体系を考察する。	120分
		事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、国際取引法の総論について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	国際取引法AⅡ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
この講座では、国際取引に関する法制度を基礎から理解し、さらに国際売買契約、国際運送・保険契約、国際販売代理店契約、国際的M&A（企業買収）契約、準拠法や裁判管轄、国際紛争処理・国際仲裁などについて幅広く学習する。国際取引に関する新しい動向や法制度、企業法務の対応など理論とプラクティスの双方から実践的に学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引全般に関する基礎的な法制度の修得を目的とする。企業のグローバル化が進展し、国際取引法の修得の重要性は増加しており、国際売買契約など国際契約、国際的製造物責任、国際的M&A（企業買収）、国際投融資、国際企業結合、紛争処理、国際金融など、総論として幅広く学習し、修得することを目的とする。全くの初心者にも理解しやすいよう講義する。法律関係でない学科の学生や1年生にもできるだけ多く受講してほしい。国際取引に関する基本的な法制度を全般的に学び、理解して説明できるようになることを目標とする。さらなる専門科目の履修に向け、各自の将来展望を見据えて学習することが目標となる。

【履修条件】
学科を問わず1年生から4年生まで広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。関連科目として民法（契約法）・商法のほか、英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講するとさらによくなる。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																	
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	グローバルな展開をはかる企業の国際取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】						2	2				2					
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】						2	2				2					
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】						2	2				2					
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】						2	2				2					
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】						2	2				2					
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】						2	2				2					
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】						2	2				2					
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】						2	2				2					
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】						2	2				2					
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】						2	2				2					
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標						評価方法別の比率(%)				
成績評価方法		評価基準					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)																	
小テスト等																	
レポート等		提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。					15	15	15	15							60
討論・発表等		授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。									10	10					20
授業への参画度		授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。											5	5	5	5	20
その他()																	
その他()																	
その他()																	
到達目標別の比率(%)							15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100
【課題に対するフィードバックの方法】																	
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。																	

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定						
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。					
【オフィスアワー】						
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。						
【実務経験を活かした実践的教育について】						
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。			
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関する法制度に関して、実務経験に基づき、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。				

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9月/16	【国際売買契約の概要】	国際売買契約の概要 (1) ーインコタームズ2010、FOB、CIFなど引渡条件ー 国際売買契約の概要、インコタームズ2010、具体的条項例、引渡条件を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際売買契約の概要を理解する。	
		事前学修	国際売買契約の概要などについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約の概要について復習する。	120分
2	第一部水 9/23	【国際売買契約の概要】 【具体的条項例、品質保証、瑕疵担保責任】	国際売買契約の概要 (2) ー品質保証、瑕疵 (かし) 担保責任、不可抗力条項、契約解除などー 国際売買契約の概要として、具体的条項例、品質保証、瑕疵 (かし) 担保責任などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際売買契約の概要、具体的条項例、品質保証、瑕疵担保責任を理解する。	
		事前学修	国際売買契約の概要、具体的条項例について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約の概要、具体的条項例について復習する。	120分
3	第一部水 9/30	【国際的資金決済】	国際売買契約の概要 (3) ー国際的資金決済、荷為替信用状 (L/C) ほかー 国際売買契約の概要として、国際的資金決済、荷為替信用状 (L/C) などを中心に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約の概要として、国際的資金決済、荷為替信用状を理解する。	
		事前学修	国際売買契約の概要、国際的資金決済について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際的資金決済について復習する。	120分
4	第一部水 10/7	【国際運送・保険契約】	国際運送・保険契約、国際秘密保持契約などの概要 国際運送・保険契約、国際秘密保持契約などの概要について、企業法務の視点も含めて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際運送・保険契約、国際秘密保持契約を理解する。	
		事前学修	国際運送・保険などの概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際運送・保険などについて復習する。	120分
5	第一部水 10/14	【国際的企業買収 (M&A)】	国際的企業買収 (M&A) (1) ー意義と概要ー 国際的企業買収 (M&A) の概要、意義について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収 (M&A) を理解する。	
		事前学修	国際的企業買収 (M&A) の概要などを考察する。	120分
		事後学修	国際的企業買収 (M&A) の概要などについて復習する。	120分
6	第一部水 10/21	【友好的企業買収と敵対的企業買収】	国際的企業買収 (M&A) (2) ー友好的企業買収と敵対的企業買収ー 国際的企業買収 (M&A) について、友好的企業買収契約と敵対的企業買収 (TOB、二段階買収) などを判例、実務などの面から学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収のうち、友好的企業買収と敵対的企業買収を理解する。	
		事前学修	国際的企業買収 (M&A) について、友好的企業買収と敵対的企業買収を考察する。	120分
		事後学修	国際的企業買収 (M&A) の友好的企業買収と敵対的企業買収について、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	【国際的M&A契約、買収方式】	国際的企業買収（M&A）（3）－M&A契約、買収方式、資金調達、企業評価方法、ケーススタディー 国際的企業買収（M&A）の具体的な法制度、手法などについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収のうち、M&A契約、買収方式を理解する。	
		事前学修	国際的企業買収（M&A）について、M&A契約、買収方式、企業評価方法などを考察する。	120分
		事後学修	国際的企業買収（M&A）の具体的な法制度、手法を復習する。	120分
8	第一部水 11/11	【国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンス】	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンス（詳細調査）、買収後の企業運営（PAM）など企業のプラクティスを学習する。 国際的企業買収（M&A）（4）－デューディリジェンス（詳細調査）、買収後の企業運営－	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収のうち、デューディリジェンス（詳細調査）などの実務を理解する。	
		事前学修	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンスなどを考察する。	120分
		事後学修	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンスなどを復習する。	120分
9	第一部水 11/18	【国際投融資と国際合弁契約】	国際投融資と国際契約（1）－国際合弁契約・ジョイント・ベンチャー・ゼネラル・パートナーシップ、国際共同開発－ 国際投融資と国際契約、国際合弁契約、国際共同開発などの企業法務を含めて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際投融資と国際合弁契約・ジョイント・ベンチャーなどを理解する。	
		事前学修	国際投融資、国際合弁契約などを考察する。	120分
		事後学修	国際投融資、国際合弁契約などの復習を行う。	120分
10	第一部水 11/25	【国際投融資とリース、プロジェクト・ファイナンス】	国際投融資と国際契約（2）－リース、プロジェクト・ファイナンスほか新しい融資・担保契約－ 国際投融資と国際契約、プロジェクト・ファイナンス（PF）などについて、具体的に事例を用いて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際投融資とリース、プロジェクト・ファイナンスなどの実務を理解する。	
		事前学修	国際投融資と国際契約、新しい融資・担保契約について考察する。	120分
		事後学修	国際投融資と国際契約、プロジェクト・ファイナンスなどの復習を行う。	120分
11	第一部水 12/2	【国際代理店・販売店契約】	国際企業組織－代理店・販売店、支店、現地法人、子会社管理など－ 国際企業組織、国際代理店・販売店契約、支店、現地法人、子会社管理など企業法務を含めて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際代理店・販売店契約の実務を理解する。	
		事前学修	国際企業組織、国際代理店・販売店について考察する。	120分
		事後学修	国際企業組織、国際代理店・販売店契約などの復習を行う。	120分
12	第一部水 12/9	【国際取引と紛争処理】	国際取引と紛争処理（1）－国際民事訴訟と準拠法、裁判管轄ほか－ 国際取引と紛争処理、国際民事訴訟と準拠法、裁判管轄の問題を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引と紛争処理などを理解する。	
		事前学修	国際取引と紛争処理について考察する。	120分
		事後学修	国際取引と紛争処理について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	【国際取引と紛争処理】 【国際仲裁・調停】	国際取引と紛争処理（2）－国際仲裁・調停、ADR（裁判外紛争処理制度）、国際倒産ほか－ 国際取引と紛争処理に関し、国際仲裁・調停などを主に企業法務の視点も含め、学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、国際仲裁・調停、ADR（裁判外紛争処理制度）などを理解するとともに、説明や議論ができるようになる。	
		事前学修	国際取引と紛争処理、国際仲裁・調停などを考察する。	120分
		事後学修	国際取引と紛争処理、国際仲裁・調停などを復習する。	120分
14	第一部水 102/23	【ウィーン売買条約】	国際取引法分野の新展開（1）－ウィーン売買条約の概要－ 国際取引法分野の新展開としてウィーン売買条約の内容、インコタームス2010との比較などを具体的に学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ウィーン売買条約の概要を理解する。	
		事前学修	国際取引法分野の新展開として、ウィーン売買条約と企業実務の対応などを考察する。	120分
		事後学修	ウィーン売買条約と企業実務の対応などについて復習する。	120分
15	第一部水 1/13	【後期総まとめ】	国際取引法分野の新展開（2）－ウィーン売買条約に関する実務の対応など－ ウィーン売買条約と企業実務の対応の学習を深める。授業内レポートについて、解説等を行う。国際取引法の総論について、総まとめを行い、体系的な学習を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、後期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
		事前学修	ウィーン売買条約について考察を深めるとともに、最初からの講義ノートを見直し、国際取引法全体の体系を考察する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、国際取引法の総論について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）	120分

科目名	コミュニケーションとインターネット	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションとインターネットについて、現代社会における若年層のコミュニケーションという観点からアプローチし、インターネットが普及した社会におけるコミュニケーションの問題について理解を図っていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者自身の日常生活の経験に即しながらコミュニケーションとインターネットの問題を考え、そうした問題を授業内容をふまえながら、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【履修条件】
新聞学科必修科目（各自で条件を確認したうえで履修してください）私語等の周りに迷惑をかける行為は絶対に控えてください。

【授業方法】
指定した文献をもとに講義形式で授業を進めます。必要に応じて新聞・雑誌記事やプレゼンテーション資料を用います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションとインターネットの特徴を理解し、説明することができる				2							
②	現代社会における若年層とコミュニケーションの問題を説明できる					2						
③	コミュニケーションとインターネットの問題を自らの経験に引き付けて考察・論述できる						2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身についているかを評価する。なお、レポートは2回実施する予定である。	15	15	20								50
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席することは成績評価の前提であるため、出欠状況自体は加点・減点の対象とはならない。ただし、欠席が著しい場合は成績評価の対象としない。	15	15	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、レポートの解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
キャラ化する／される子どもたち―排除型社会における新たな人間像	土井隆義	岩波ブックレット	2009	教科書	必携
つながりを煽られる子どもたち―ネット依存といじめ問題を考える	土井隆義	岩波ブックレット	2014	教科書	必携
「宿命」を生きる若者たち―格差と幸福をつなぐもの	土井隆義	岩波ブックレット	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00-14:00 研究室（9号館6階9601研究室）アポイントは不要ですが事前に調整いただけると助かります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	講義の概要	コミュニケーションとインターネットを学ぶ意味について	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーションとインターネットの現状と問題を理解することができる	
		事前学修	シラバス等を確認し授業に備える	120分
		事後学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
2	9/23	コミュニケーションをめぐる問題	現代社会におけるコミュニケーションの偏重とその問題	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる問題について説明することができる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	9/30	アイデンティティからキャラへ	対人技法としてのキャラ	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、他者との「キャラ」を通じた関わり方を具体的な例を挙げながら説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	10/7	関係のフラット化	コミュニケーションにおけるフラット化の進展	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、受講者に日常生活の経験に引き付けてコミュニケーションのフラット化を説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	10/14	コミュニケーションの閉塞化	閉塞化するコミュニケーションと解決の道筋	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる諸問題の解決の方向性を説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
6	10/21	若者の友人関係とメディア	若者の友人関係とメディアに関する学説・実証研究	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、友人とメディアの関係を自らの経験に即して説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	産業構造の変容	「フォーディズム」から「ポストフォーディズム」へ	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、現代社会の事象をポスト・フォーディズムの観点から説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
8	11/11	新自由主義	新自由主義の浸透とコミュニケーション	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、新自由主義の特徴を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	11/18	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力に焦点を当てた研究の展開	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーション能力の問題を学術的な観点で把握できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	11/25	多様化する価値観とつながり	つながり依存と関係不安	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、インターネットが普及した社会における人間関係の問題を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	12/2	つながりの格差化	コミュニケーションにおける格差の進展	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションの格差が生じる背景を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	12/9	承認願望	他者から得られる／他者に求める承認	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、承認願望の強まりの背景を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	常時接続を超えて	若年層のコミュニケーションに関する問題とその解決に向けた方向性	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる諸問題の解決の方向性を検討できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
14	12/23	社会関係資本	コミュニケーションを社会関係資本という概念によって把握する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、具体例を挙げながら社会関係資本を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
15	1/13	授業のまとめ	コミュニケーションとインターネットに関する問題を総括する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、本講義の個別具体目標を振り替り、一般目標を達成する	
		事前学修	これまでの授業内容を振り返る	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

科目名	コミュニケーションとインターネット	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションとインターネットについて、現代社会における若年層のコミュニケーションという観点からアプローチし、インターネットが普及した社会におけるコミュニケーションの問題について理解を図っていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者自身の日常生活の経験に即しながらコミュニケーションとインターネットの問題を考え、そうした問題を授業内容をふまえながら、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【履修条件】
新聞学科必修科目（各自で条件を確認したうえで履修してください）私語等の周りに迷惑をかける行為は絶対に控えてください。

【授業方法】
指定した文献をもとに講義形式で授業を進めます。必要に応じて新聞・雑誌記事やプレゼンテーション資料を用います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションとインターネットの特徴を理解し、説明することができる				2							
②	現代社会における若年層とコミュニケーションの問題を説明できる					2						
③	コミュニケーションとインターネットの問題を自らの経験に引き付けて考察・論述できる						2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身についているかを評価する。なお、レポートは2回実施する予定である。	15	15	20								50
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席することは成績評価の前提であるため、出欠状況自体は加点・減点の対象とはならない。ただし、欠席が著しい場合は成績評価の対象としない。	15	15	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、レポートの解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
キャラ化する／される子どもたち―排除型社会における新たな人間像	土井隆義	岩波ブックレット	2009	教科書	必携
つながりを煽られる子どもたち―ネット依存といじめ問題を考える	土井隆義	岩波ブックレット	2014	教科書	必携
「宿命」を生きる若者たち―格差と幸福をつなぐもの	土井隆義	岩波ブックレット	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00-14:00 研究室（9号館6階9601研究室）アポイントは不要ですが事前に調整いただけると助かります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	講義の概要	コミュニケーションとインターネットを学ぶ意味について	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーションとインターネットの現状と問題を理解することができる	
		事前学修	シラバス等を確認し授業に備える	120分
		事後学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
2	4/15	コミュニケーションをめぐる問題	現代社会におけるコミュニケーションの偏重とその問題	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる問題について説明することができる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	4/22	アイデンティティからキャラへ	対人技法としてのキャラ	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、他者との「キャラ」を通じた関わり方を具体的な例を挙げながら説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	4/29	関係のフラット化	コミュニケーションにおけるフラット化の進展	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、受講者に日常生活の経験に引き付けてコミュニケーションのフラット化を説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	5/6	コミュニケーションの閉塞化	閉塞化するコミュニケーションと解決の道筋	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる諸問題の解決の方向性を説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
6	5/13	若者の友人関係とメディア	若者の友人関係とメディアに関する学説・実証研究	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、友人とメディアの関係を自らの経験に即して説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	産業構造の変容	「フォーディズム」から「ポストフォーディズム」へ	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、現代社会の事象をポスト・フォーディズムの観点から説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
8	5/27	新自由主義	新自由主義の浸透とコミュニケーション	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、新自由主義の特徴を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	6/3	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力に焦点を当てた研究の展開	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーション能力の問題を学術的な観点で把握できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	6/10	多様化する価値観とつながり	つながり依存と関係不安	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、インターネットが普及した社会における人間関係の問題を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	6/17	つながりの格差化	コミュニケーションにおける格差の進展	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションの格差が生じる背景を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	6/24	承認願望	他者から得られる／他者に求める承認	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、承認願望の強まりの背景を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	常時接続を超えて	若年層のコミュニケーションに関する問題とその解決に向けた方向性	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる諸問題の解決の方向性を検討できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
14	7/8	社会関係資本	コミュニケーションを社会関係資本という概念によって把握する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、具体例を挙げながら社会関係資本を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
15	7/15	授業のまとめ	コミュニケーションとインターネットに関する問題を総括する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、本講義の個別具体目標を振り替り、一般目標を達成する	
		事前学修	これまでの授業内容を振り返る	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

科目名	コミュニケーション論	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションの仕組みを学問的な視点からとらえ、日常的な場面で直面するコミュニケーションに関する現象や問題を分析するための基礎を学ぶ

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講する学生が、コミュニケーションについての基礎的な学説やモデルを+修得したうえで、現代社会のコミュニケーションの現象を理解し、そこに学問的問題や課題を発見する力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
基本的には講義形式で行うが、適宜、視聴覚資料や文献資料を活用する。講義で用いる資料は、ネットワーク・ドライブにアップするので、予習する際に事前に各自ダウンロードしておくこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	予習課題に対する講義での解説・分析（反転授業）や、学生自らが行った資料分析をセレクトし、それに対して解説・コメントを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションの仕組みを学説的に理解し、説明することができる				1		1					
②	現代社会のコミュニケーションに関係する現象を事例として挙げることができる					1	1					
③	コミュニケーションに関係する現象に内在する問題や課題を発見することができる					1	1					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているか、筆記試験によって評価する。	20	20	30								70
小テスト等	小テストにより、到達目標①、②、③が身についているか評価する	5	5									10
レポート等	到達目標③の問題発見する力が身についているか、レポートで評価する			10								10
討論・発表等												
授業への参画度	予習として示した課題の提出度合いによって評価する		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
予習課題、レポート、小テストについては講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション論をつかむ	辻大介・是永論・関谷	有斐閣	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	コミュニケーション論の学問的位置づけをメディアやジャーナリズムとの関係から確認し、講義の進め方や到達目標、評価方法・基準を説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーション論の学問的位置づけを説明することができる	
		事前学修	シラバスに目を通してくること。教科書の1章・Unit 1 を読んでくること。	90分
		事後学修	ノートの整理し、教科書第1章を再読すること。	90分
2	4/14	コミュニケーションを分類する	日常的なコミュニケーションを観察し、分類することでそこから見えてくるコミュニケーションの形態を把握する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連しコミュニケーションを多角的に把握し、説明することができる	
		事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
3	4/21	動物のコミュニケーション／人間のコミュニケーション	動物のコミュニケーションと人間のコミュニケーションとの違いを把握したうえで、文字・記号・ノンバーバルといった概念からコミュニケーションの特徴を把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる)	
		事前学修	教科書・第1章・Unit 3～4 を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
4	4/28	コミュニケーションが成立するとはどういうことは？	コミュニケーションの成立する仕組みを、シンボルや他者、相互関係から把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章・Unit 7～9 を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
5	5/5	コミュニケーション現象の分析－ケーススタディ 1－	実際のコミュニケーション現象を扱った資料を読み、その内容の読解と小論文形式のレポートを執筆する（60分）。後半では、その資料についての解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、現時点での理解と発見の力を試す	
		事前学修	第1 講～第4講までを復習する	120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
6	5/12	社会関係を調整するコミュニケーション	コミュニケーションは人間関係や社会関係を形成する。親密性、役割といった概念とともにその仕組みを把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションと人間関係、社会関係との関連を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章Unit10～11を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	都市空間とコミュニケーション	都市の中の匿名な空間で行われるコミュニケーションからみえてくる、距離、儀礼性を、ゴフマンの議論を通して把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションー都市ー儀礼との関連を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章・Unit11～12を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
8	5/26	説得のコミュニケーション	説得のコミュニケーションは社会の至る所に存在する。例えば広告、通販、詐欺等々。そうした現象に、説得のメカニズムをとらえる。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションー説得の関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit 1 3を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
9	6/2	うわさと流言飛語	うわさや流言飛語研究の歴史は古い。その学説的な流れをおさえつつ、現代のうわさ現象を観察する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションーうわさの関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit14を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
10	6/9	小テスト 振り返り	第6講～9講までの内容に対する小テストを行う	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションの具体的現象を説明することができる	
		事前学修	第6講～9講を復習すること	180分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
11	6/16	流行とコミュニケーション	流行現象のメカニズムや大衆消費社会のコミュニケーションと社会関係を、リースマンの議論などを介しながら把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、流行の関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3・Unit15を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
12	6/23	コミュニケーションと公共性	公共性について、ハーバーマスのコミュニケーションの議論を手掛かりに検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、公共空間の構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit16を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	広告とコミュニケーション	広告をコミュニケーションの視点からとらえ、P Rの多義性やマーケティングとがI C Tとともに連動している。この現在の状況を検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、広告とコミュニケーションの関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第4章・Unit19～20を読んでくこと	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
14	7/7	ネットワーク空間とコミュニケーション	現在のI C Tのネットワークが編成されるなかでコミュニケーションはどのような姿を見せるのか? 「わたし」のありかとともに検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、ネットワーク社会におけるコミュニケーションに問題を発見する	
		事前学修	教科書・第4章・Unit23～24を読んでくこと	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
15	7/14	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、コミュニケーションの現在の課題をを考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、現代社会にコミュニケーションの課題を発見することができる	
		事前学修	第1講～第14講までのノートや資料を振り返る	120分
		事後学修	講義全体を教科書、ノートを通じて復習る	90分

科目名	コミュニケーション論	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションの仕組みを学問的な視点からとらえ、日常的な場面で直面するコミュニケーションに関する現象や問題を分析するための基礎を学ぶ

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講する学生が、コミュニケーションについての基礎的な学説やモデルを+修得したうえで、現代社会のコミュニケーションの現象を理解し、そこに学問的問題や課題を発見する力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
基本的には講義形式で行うが、適宜、視聴覚資料や文献資料を活用する。講義で用いる資料は、ネットワーク・ドライブにアップするので、予習する際に事前に各自ダウンロードしておくこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	予習課題に対する講義での解説・分析（反転授業）や、学生自らが行った資料分析をセレクトし、それに対して解説・コメントを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	コミュニケーションの仕組みを学説的に理解し、説明することができる						1		1				
②	現代社会のコミュニケーションに関係する現象を事例として挙げることができる							1	1				
③	コミュニケーションに関係する現象に内在する問題や課題を発見することができる							1	1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているか、筆記試験によって評価する。	20	20	30								70
小テスト等	小テストにより、到達目標①、②、③が身についているか評価する	5	5									10
レポート等	到達目標③の問題発見する力が身についているか、レポートで評価する			10								10
討論・発表等												
授業への参画度	予習として示した課題の提出度合いによって評価する		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
予習課題、レポート、小テストについては講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション論をつかむ	辻大介・是永論・関谷	有斐閣	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	コミュニケーション論の学問的位置づけをメディアやジャーナリズムとの関係から確認し、講義の進め方や到達目標、評価方法・基準を説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーション論の学問的位置づけを説明することができる	
		事前学修	シラバスに目を通してくること。教科書の1章・Unit 1 を読んでくること。	90分
		事後学修	ノートの整理し、教科書第1章を再読すること。	90分
2	9/23	コミュニケーションを分類する	日常的なコミュニケーションを観察し、分類することでそこから見えてくるコミュニケーションの形態を把握する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連しコミュニケーションを多角的に把握し、説明することができる	
		事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
3	9/30	動物のコミュニケーション／人間のコミュニケーション	動物のコミュニケーションと人間のコミュニケーションとの違いを把握したうえで、文字・記号・ノンバーバルといった概念からコミュニケーションの特徴を把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる)	
		事前学修	教科書・第1章・Unit 3～4 を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
4	10/7	コミュニケーションが成立するとはどういうことは？	コミュニケーションの成立する仕組みを、シンボルや他者、相互関係から把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章・Unit 7～9 を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
5	10/14	コミュニケーション現象の分析－ケーススタディ 1－	実際のコミュニケーション現象を扱った資料を読み、その内容の読解と小論文形式のレポートを執筆する（60分）。後半では、その資料についての解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、現時点での理解と発見の力を試す	
		事前学修	第1 講～第4講までを復習する	120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
6	10/21	社会関係を調整するコミュニケーション	コミュニケーションは人間関係や社会関係を形成する。親密性、役割といった概念とともにその仕組みを把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションと人間関係、社会関係との関連を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章Unit10～11を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	都市空間とコミュニケーション	都市の中の匿名な空間で行われるコミュニケーションからみえてくる、距離、儀礼性を、ゴフマンの議論を通して把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションー都市ー儀礼との関連を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章・Unit11～12を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
8	11/11	説得のコミュニケーション	説得のコミュニケーションは社会の至る所に存在する。例えば広告、通販、詐欺等々。そうした現象に、説得のメカニズムをとらえる。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションー説得の関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit 1 3を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
9	11/18	うわさと流言飛語	うわさや流言飛語研究の歴史は古い。その学説的な流れをおさえつつ、現代のうわさ現象を観察する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションーうわさの関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit14を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
10	11/25	小テスト 振り返り	第6講～9講までの内容に対する小テストを行う	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションの具体的現象を説明することができる	
		事前学修	第6講～9講を復習すること	180分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
11	12/2	流行とコミュニケーション	流行現象のメカニズムや大衆消費社会のコミュニケーションと社会関係を、リースマンの議論などを介しながら把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、流行の関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3・Unit15を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
12	12/9	コミュニケーションと公共性	公共性について、ハーバーマスのコミュニケーションの議論を手掛かりに検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、公共空間の構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit16を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	広告とコミュニケーション	広告をコミュニケーションの視点からとらえ、P Rの多義性やマーケティングとがI C Tとともに連動している。この現在の状況を検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、広告とコミュニケーションの関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第4章・Unit19～20を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
14	12/23	ネットワーク空間とコミュニケーション	現在のI C Tのネットワークが編成されるなかでコミュニケーションはどのような姿を見せるのか? 「わたし」のありかとともに検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、ネットワーク社会におけるコミュニケーションに問題を発見する	
		事前学修	教科書・第4章・Unit23～24を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
15	1/13	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、コミュニケーションの現在の課題をを考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、現代社会にコミュニケーションの課題を発見することができる	
		事前学修	第1講～第14講までのノートや資料を振り返る	120分
		事後学修	講義全体を教科書、ノートを通じて復習る	90分

科目名	社会情報システム研究	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
現代社会において、情報武装としてのコンピュータの知識・技術は不可欠なものといえる。特に、企業や公的機関においても資料やデータを収集・加工・分析する能力は必須である。そのため、本講義において、学生はデータの集計や視覚化、加工などの処理を身に付けるためにデータベースソフトを用いる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各種データの収集・加工・分析に必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、基礎的スキルとしてのAccessの基本的操作方法を学習する。Accessを用いたデータの集計や加工、分析を行うための基本的な操作を習得すると同時に、データベースを設計し、必要なデータを抽出できる。さらに、グラフや表を作成し、視覚化した資料を作成できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
Accessは比較的難解なため、Excel等の経験者、できれば、前期の「社会情報システム論」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】		
PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	Accessの基本的操作方法を理解し、操作できる。						4				4				
②	リレーショナルデータベースを適切に設計できる。						4			4	4				
③	テーブル、クエリ、フォーム、レポートなど適切に利用できる。									4	4	4			
④	データベースを使い、統計処理や分析ができる。									4	4	4			
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	Accessを用いたデータの集計や加工、分析を行うための基本的な操作や、データベースの設計、必要なデータを抽出できるかについて、到達目標①③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料をファイル形式で事前に配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインし、授業用フォルダを作成する。	
		事前学修	ID, パスワードを事前に確認しておく。	120分
		事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。	120分
2	4/13	データベースの概略	データベースの概略について説明する。	
		この回の到達目標	データベースの概略について理解できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	4/20	Microsoft Access 1	リレーショナルデータベースについて説明する。	
		この回の到達目標	リレーショナルデータベースについて理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	4/27	Microsoft Access 2	Microsoft Access におけるデータベースの設計について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるデータベースの設計について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	5/4	Microsoft Access 3	Microsoft Access におけるテーブル（主キー、データ型、フィールドプロパティ）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（主キー、データ型、フィールドプロパティ）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	5/11	Microsoft Access 4	Microsoft Access におけるテーブル（インポート、CSVファイル）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（インポート、CSVファイル）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18	Microsoft Access 5	Microsoft Access におけるテーブル（リレーションシップ、参照整合性）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（リレーションシップ、参照整合性）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
8	5/25	Microsoft Access 6	Microsoft Access におけるクエリ（選択クエリ、並べ替え、抽出条件）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（選択クエリ、並べ替え、抽出条件）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
9	6/1	Microsoft Access 7	Microsoft Access におけるクエリ（演算フィールド、集計）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（演算フィールド、集計）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
10	6/8	Microsoft Access 8	Microsoft Access におけるクエリ（パラメータクエリ、Where条件）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（パラメータクエリ、Where条件）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
11	6/15	Microsoft Access 9	Microsoft Access におけるフォーム（ツール、プロパティシート）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるフォーム（ツール、プロパティシート）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
12	6/22	Microsoft Access 10	Microsoft Access におけるフォーム（プロパティの設定）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるフォーム（プロパティの設定）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Microsoft Access 11	Microsoft Access におけるレポート（レポートウィザード、宛名ラベル）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるレポート（レポートウィザード、宛名ラベル）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	7/6	Microsoft Access 12	Microsoft Access におけるグラフの作成（ピボットテーブル、ピボットグラフ）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるグラフの作成（ピボットテーブル、ピボットグラフ）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	7/13	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
		事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	社会情報システム論	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
現代社会において、情報武装としてのコンピュータの知識・技術は不可欠なものといえる。特に、企業や公的機関においても資料やデータを収集・加工・分析する能力は必須である。そのため、本講義において、学生はデータの集計や視覚化、加工などの処理を身に付けるために表計算ソフトを用い、統計処理や分析方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各種データの収集・加工・分析に必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Excelの基本的操作方法を学習する。Excelを用いた表の作成および集計を行うための基本的な計算式や関数を習得すると同時に、ビジネスグラフを作成し視覚的なデータに加工できる。さらに、データから必要な情報を取り出し 統計処理や分析ができるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし。後期の「社会情報システム研究」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				2							
②	Excelの基本的操作方法を理解する。						2	2				
③	データの集計や視覚化、加工、グラフ化などの処理ができる。						2	2				
④	データを用い、統計処理や分析ができる。				2		2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Excelを用いた表の作成および集計を行うための基本的な計算式や関数の利用等、及び視覚的なデータに加工できるかについて、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料をファイル形式で事前に配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法について説明する。
		この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインし、授業用フォルダを作成する。
		事前学修	ID、パスワードを事前に確認しておく、事前にシラバスを確認しておくこと。120分
		事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。120分
2	4/13	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付等について説明する。
		この回の到達目標	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付等の操作について理解できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
3	4/20	Microsoft Excel 1	Microsoft Excel を使った表の作成と計算方法について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った表の作成と計算方法について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
4	4/27	Microsoft Excel 2	Microsoft Excel を使った計算式の利用方法やセル属性とコピー方法について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った計算式の利用、セル属性とコピーについて理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
5	5/4	Microsoft Excel 3	Microsoft Excel を使った基本的な関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った基本的な関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
6	5/11	Microsoft Excel 4	Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5/18	Microsoft Excel 5		Microsoft Excel を使った（棒グラフ作成、2軸グラフ）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（棒グラフ作成、2軸グラフ）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	5/25	Microsoft Excel 6		Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	6/1	Microsoft Excel 7		Microsoft Excel を使った（簡易データベース機能、並べ替え、フィルタ、小計）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（簡易データベース機能、並べ替え、フィルタ、小計）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	6/8	Microsoft Excel 8		Microsoft Excel を使った（データ参照、VLOOKUP）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（データ参照、VLOOKUP）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	6/15	Microsoft Excel 9		Microsoft Excel を使った（グラフの種類と特徴）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（グラフの種類と特徴）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	6/22	Microsoft Excel 10		Microsoft Excel を使った（クロス集計）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（クロス集計）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Microsoft Excel 11	Microsoft Excel を使った（基本統計量、相関分析、ヒストグラム）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（基本統計量、相関分析、ヒストグラム）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	7/6	Microsoft Excel 12	Microsoft Excel を使った（回帰分析）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（回帰分析）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	7/13	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
		事前学修	これまでの授業内容について確認しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	社会政策論Ⅰ	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会政策は、公共政策の中でもとりわけ人々が日常生活で遭遇する問題の解決や福祉の向上を図る目的で、日本や世界全体の政策動向と政策決定について学ぶための学問である。今日労働政策、労務管理、社会保障政策、保健医療政策、福祉政策、教育政策、住宅政策などを含む概念として理解されているが、これを人間の権利と尊厳を重視する視点から概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会政策の政策目標は、産業社会の諸問題の緩和である。大きくは生活の向上と基本的人権の尊重である。これに従って学校教材の基礎、公務員試験対策、福祉行政の知識やNPO活動のための知識のほか、広く人々にとって幸福、権利、尊厳とは何か、について深く理解できるように講義を行うことを目的とする。学問としてのアプローチと分析方法を知ることによって、政府の政策に対する科学的・客観的な評価を行う力を身に着けることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1，3，4 公共政策学科1，3，4

【履修条件】
社会政策に関心がある諸君すべて受講可能である。学科、年次は問わない。（行政職課程は2年次から）

【授業方法】
講義形式で行う。授業はパワーポイントとプリントを中心に行う。アンケートの結果も踏まえ、適切な受講者数であれば、ある程度討論を含む演習方式も採用したい。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	社会政策の概念について理解できるようになる。		2		2	2	2		
②	他の社会科学、公共政策と社会政策の位置づけができるようになる。		2		2	2	2		
③	政治・経済の変容と社会政策との関連について理解できる。		2		2	2	2		
④	社会政策と福祉国家との関連について理解できる。		2		2	2	2		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験を実施する（成績の80％）。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	出席率の少ない学生（4年生、体育会系学生等）に対してレポート提出を要求することがある。	5	5	5	5							20
討論・発表等	毎回の授業で質疑応答を受け付ける。まとめの授業で意見を求めることがある。	5	5	5	5							20
授業への参画度	毎回出席をとる（成績の20％）。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の動向に注視し、課題の評論やマスメディアの反応等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容	授業遂行の上で公務員経験からの政策アプローチのほかに、民間部門による政策アプローチからも論じることができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水曜3限	はじめに 社会政策とは何か	社会政策の概念、内容とその意味について述べる。	
		この回の到達目標	学問としての社会政策の今日における概念の定義について理解する。	
		事前学修	図書館等で社会政策に関する基本的文献にあたる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
2	水曜3限	社会政策学の歴史	社会政策の範囲、対象、および代表的な学説（ドイツ、イギリス）	
		この回の到達目標	学問としての社会政策の誕生及び発展の経緯について理解する。	
		事前学修	社会政策の概念を把握するため、ヨーロッパ社会で発生したこの学問の源流について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
3	水曜3限	社会政策の位置づけ	秩序維持政策、経済財政政策、および社会政策	
		この回の到達目標	社会科学の中の公共政策のうち、社会政策の位置づけ及び機能について理解する。	
		事前学修	公共政策のうち、社会政策の特徴について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
4	水曜3限	社会政策の特徴	立法過程論と社会政策との違い	
		この回の到達目標	公共政策における最終目標としての立法化の過程と、社顔政策の固有の位置づけについて理解する。	
		事前学修	法律、制度形成に至る社会政策の特徴について理解する。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
5	水曜3限	社会政策の現代的意義	社会政策の根拠及び到達点、人間の尊厳、人権思想と社会政策	
		この回の到達目標	学問としての社会政策に固有な部分と、他の政策科学との違いについて近代法思想から分析する。	
		事前学修	福祉国家とは何か、社会政策とのかかわりについて調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
6	水曜3限	イギリス社会政策1	ブレトンウッズ体制、マーシャルプランによるベヴァリッジ計画の変容	
		この回の到達目標	ヨーロッパにおける第二次世界大戦後の国際政治・経済体制の変化をイギリスを事例に分析する。	
		事前学修	第二次世界大戦後の国際政治体制の変化と社会政策について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水曜3限	イギリス社会政策2	植民地独立とコモンウェルズ離脱による大英帝国の衰退、ストップ・ゴー経済政策の矛盾、英国病、債務国への凋落	
		この回の到達目標	社会政策を重視した福祉国家イギリスが、経済の衰退に直面してどのような体制変容を遂げたかについて理解する。	
		事前学修	福祉国家イギリスの衰退と社会政策の変容過程について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
8	水曜3限	イギリス社会政策3	サッチャーの登場と福祉国家、社会政策の見直し	
		この回の到達目標	サッチャー政権による新自由主義的政策が福祉国家イギリスをどのように変容させたかについて理解する。	
		事前学修	新自由主義の登場の原因と推移について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
9	水曜3限	イギリス社会政策4	イギリス社会政策の理念と現実のギャップ。ブレア、キャメロンからメイ、ジョンソンへ	
		この回の到達目標	サッチャー後の福祉国家における社会政策の動向について理解する。	
		事前学修	現代のイギリス社会政策について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
10	水曜3限	日本社会政策1	江戸期から明治・大正期の社会政策	
		この回の到達目標	日本における社会政策学の誕生の背景と酢の過程について理解する。	
		事前学修	日本の社会政策の源流について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
11	水曜3限	日本社会政策2	労働運動、米騒動等により、政府が行った戦前、戦時期の社会政策	
		この回の到達目標	実際に行われた大正および昭和初期からの社会政策の実例について理解する。	
		事前学修	日本の産業化の黎明期と社会政策の対応について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
12	水曜3限	日本社会政策3	戦後から現代の社会政策	
		この回の到達目標	第二次世界大戦の終結と戦後の社会政策の国家としての位置づけについて理解する。	
		事前学修	日本国憲法の成立と福祉国家の歩みについて調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水曜3限	現代日本の社会政策の特徴	与党及び野党の見解と推移、官僚群による政策遂行主体とその変容。	
		この回の到達目標	現代の社会政策の遂行主体とその変容について分析する。	
		事前学修	現代の社会政策の対応について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
14	水曜3限	安倍政権による社会政策と当面する課題	安倍政権による社会政策と当面する課題と今日的問題について取り上げる。	
		この回の到達目標	安倍政権による社会政策と当面する課題について分析する。	
		事前学修	現在、社会政策上で政策課題として挙げられる社会問題について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
15	水曜3限	今学期のまとめ	社会政策の学問的全体を包括する。	
		この回の到達目標	今学期を通じて社会政策に特有の対象、領域、解決が必要な課題等について明らかにする。	
		事前学修	今学期授業を総括し、社会政策が有する特徴についてまとめる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントと作成したノートを基に、今学期授業の概要をまとめる。（2時間）	120分

科目名	社会政策論Ⅱ	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会政策は、公共政策の中でもとりわけ人々が日常生活で遭遇する問題の解決や福祉の向上を図る目的で、日本や世界全体の政策動向と政策決定について学ぶための学問である。今日労働政策、労務管理、社会保障政策、保健医療政策、福祉政策、教育政策、住宅政策などを含む概念として理解されているが、これを人間の権利と尊厳を重視する視点から概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会政策の政策目標は、産業社会の諸問題の緩和である。大きくは生活の向上と基本的人権の尊重である。これにしたがって公務員試験対策、福祉行政やNPO活動のほか、人々にとって幸福、権利、尊厳とは何か、について深く理解できるように講義を行うことを目的とする。学問としてのアプローチと分析方法を知ることによって、政府の政策に対する科学的・客観的な評価を行う力を身に着けることができるようになることを目標とする。また社会政策が人々の権利や尊厳をもとに制度設計がなされる傾向にある点にも注目して講義を行う。関連DP及びCP：経営法学科1, 3, 4 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
社会政策に関心がある諸君はすべて受講可能である。学科、年次は問わない。（行政職課程は2年次から）

【授業方法】
講義形式で行う。授業はパワーポイントとプリントを中心に行う。アンケートの結果も踏まえ、適切な受講者数であれば、ある程度討論を含む演習方式も採用したい。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会政策と人権思想について理解する。					2		2	2	2			
②	労働市場、労使関係、労働政策と賃金について理解する。					2		2	2	2			
③	失業、フリーター、ニート、および子供の貧困を含む現代の貧困問題について理解する。					2		2	2	2			
④	世界の貧困と移民労働の受け入れについて理解する。					2		2	2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験を実施する（成績の80％）。	10		10	10	10						40
小テスト等												
レポート等	出席の少ない学生（4年生、体育会系学生等）に対してレポート提出を要求することがある。	5		5	5	5						20
討論・発表等	毎回の授業で質疑応答を受け付ける。まとめの授業で意見を求めることがある。	5		5	5	5						20
授業への参画度	毎回出席をとる（成績の20％）。	5		5	5	5						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25		25	25	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の動向に注視し、課題の評論やマスメディアの反応等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		公務員の政策アプローチ及び民間による政策アプローチのいずれも論じることができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水曜3限	人権思想と社会政策	人権思想とは何か。社会政策はそれとどのように関連しているのか。	
		この回の到達目標	人間の権利（人権思想）と社会政策の関連について理解する。	
		事前学修	人間の権利の獲得について、その歴史的過程（1948年国連世界人権宣言等）を調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
2	水曜3限	人間の権利とは何か	人間の権利に反する思想「優生思想」の発生根拠とその理論、世界的普及の過程	
		この回の到達目標	20世紀の中葉以降確立した人権思想を誘発する根拠となった「郵政思想」について理解する。	
		事前学修	人権問題の原点ともいえる「優生思想」について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
3	水曜3限	人権確立の系譜	「血友病エイズ問題」と「らい予防法」「優生保護法」	
		この回の到達目標	日本で問題になった血友病エイズ、らい予防法、優生保護法について分析する。	
		事前学修	かつてわが国で行われた人権問題について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
4	水曜3限	正義論について	ジョン・ロールズ、マイケル・サンデルの正義論と人権思想	
		この回の到達目標	社会政策の源流となる社会契約論の学問的発展について理解する。	
		事前学修	人権思想をどう発展させるか、について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
5	水曜3限	優生思想と人権迫害	ヨーロッパ・ナチスドイツで行われた障がい者根絶計画、日本の知的障害者施設殺人事件と現代社会政策	
		この回の到達目標	ジョン・ロールズの正義論を社会政策の側から理解する。	
		事前学修	生産中心主義の社会思想と人権思想をどのように融合するか、について考察する。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
6	水曜3限	現代社会政策	政府による経済財政政策の中の社会政策について。	
		この回の到達目標	政府による労働政策、雇用政策について理解する。	
		事前学修	現代政治と社会政策について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水曜3限	雇用と労働	労働政策、雇用政策、最低賃金、失業問題	
		この回の到達目標	これまで行われてきた労働・雇用政策（労働慣行）と新たに行われようとしているものの違いについて理解する。	
		事前学修	現代の労働慣行、賃金、失業率について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
8	水曜3限	労働市場と労働環境	日本の労使関係と労働政策	
		この回の到達目標	連合と経団連による雇用・労働政策の違いについて理解する。	
		事前学修	現代日本の労働政策とその特徴について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
9	水曜3限	貧困問題	貧困問題とは何か。その原因と解決の方向性について。	
		この回の到達目標	貧困とは何かについて多角的に理解する。	
		事前学修	現代の貧困問題について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
10	水曜3限	雇用問題1	フリーター、ニートについて	
		この回の到達目標	日本におけるフリーター、ニートの存在について理解する。	
		事前学修	フリーター、ニートの定義とその実態について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
11	水曜3限	雇用問題2	非正規雇用のメリット、デメリット	
		この回の到達目標	非正規雇用の問題を取り上げ、多角的に分析する。	
		事前学修	いわゆる非正規雇用問題についてその定義と実態、メリットとデメリットについて調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
12	水曜3限	雇用問題3	女性労働の役割、子供の貧困問題と社会政策	
		この回の到達目標	貧困問題の核心をなす「子供の貧困」について理解する。	
		事前学修	女性雇用、障害者雇用の現状から子供の貧困問題について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水曜3限	世界の貧困問題	世界の貧困問題とその現状についてワールドバンクによる統計の解説を行う。	
		この回の到達目標	世界の貧困について理解する。	
		事前学修	ワールドバンク等の統計資料から世界の貧困状態の動向を調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
14	水曜3限	社会政策の課題と将来	社会保障、社会政策の問題解決のための優先順位 外国人労働の導入について	
		この回の到達目標	外国人労働者の導入と社会政策の課題等について分析する。	
		事前学修	日本の労働市場における外国人労働の実態と課題について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
15	水曜3限	今学期のまとめ	新たな社会政策の制度設計 生産至上主義に代わるもの	
		この回の到達目標	経済政策と社会政策の新たな均衡はいかにあるべきか、について論じる。	
		事前学修	今まで配布されたプリントと作成したノートを整理する。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントと作成したノートを基に、今学期授業の概要をまとめる。（2時間）	120分

科目名	社会調査	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
社会調査は、社会のさまざまな領域で活用されている。社会の実態を知る上で、社会調査は必要不可欠のツールである。以上のような前提のもと、本科目では①社会調査の概念、②社会調査の歴史、③社会調査の方法を学習することを通じて、社会調査に関する基本的な知識および方法論を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、社会調査に対する理解を深めるために、社会調査についての基本的な知識とと方法論を修得する。また、実際に社会調査を企画することで、社会調査を実施する基本的な能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
前半は、教科書をベースとして、スライドを用いて講義を実施する。後半は、スライドを用いて講義を進めつつ、受講生は各々が社会調査を企画し、実際に調査票の作成に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出された課題のチェックを通じて受講生の講義の理解度を測る。また、課題及び筆記試験の解説を通じて受講生は理解を深める（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会調査に関する基本的な知識および方法論を理解し、適切に用いることができる。				2	2	2	2				
②	社会調査の概念および歴史を理解し、具体的に説明できる。				2	2						
③	社会調査のデータに対するリテラシーを身につけ、それらをクリティカルに解釈できる。				2	2	2	2				
④	授業で修得した知識と方法論に基づいて、社会調査を企画することができる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているかを基準として、到達目標①④に関わる能力が修得できているかを評価する。	15			15							30
討論・発表等												
授業への参画度	講義ノートの要点をまとめた課題を提出させることによって、講義を適切に理解しているか、理解を深めるような工夫をしているのかを基準として、到達目標に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	15	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第10回の授業で、第9回の授業で実施した筆記試験に対して解説する。また、第15回の授業で実施した筆記試験に対してはする解説は、COLnetを通じて実施する。なお、課題に対する解説は第15回の授業で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
系譜から学ぶ社会調査	小林多寿子	嵯峨野書院	2018	教科書	必携
社会調査の実際	島崎哲彦・大竹延幸	学文社	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス・導入講義	授業概要、授業目的、到達目標、成績評価の方法等を説明し、受講生が授業準備を具体的に実施できるようにする。	
		この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書を通して読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/22	社会調査とは何か	社会調査の定義、考え方、そして類型について学習する。ついで、社会調査の意義について考察する。	
		この回の到達目標	社会調査に関する基本的な知識を学習することで、社会調査に対するリテラシーを修得する。	
		事前学修	教科書第1章「リサーチ力を培うための社会調査論」の内容を読み、社会調査について自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
3	9/29	社会調査のルーツ	社会調査のルーツについて学習する。現在の社会調査につながる調査がどのようにして始まったのか、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	社会調査のルーツについて学習することで、社会調査の意義に対する理解を深める。	
		事前学修	教科書第2章「社会調査のルーツとヨーロッパにおける先駆者たち」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
4	10/6	古典的社会調査	家計調査および貧困調査について学習する。社会調査の原点ともいえるそれらの調査について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	家計調査および貧困調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
		事前学修	教科書第3章「貧困調査からの出発」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
5	10/13	シカゴ学派	シカゴ学派による社会調査について学習する。シカゴ学派が形成された背景、そしてそこで発展した質的調査について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	シカゴ学派が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
		事前学修	教科書第4章「シカゴ・スタイルーシカゴ学派とアメリカにおける質的調査の出発」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
6	10/20	地域調査	ミドルタウン調査に代表される地域調査について学習する。地域調査がもたらした影響について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	地域調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
		事前学修	教科書第5章「『ミドルタウン』と『ピープルズ・ CHOICES』」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	メディア効果調査	メディア効果調査について学習する。メディアの影響力に対する認識がどのように変化していったのかについて、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	メディア効果調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
		事前学修	教科書第5章「『ミドルタウン』と『ピーブルズ・チョイス』」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
8	11/10	世論調査	世論調査について学習する。世論調査の誕生からその発展の過程について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	世論調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
		事前学修	教科書第11章「世論調査の発展」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
9	11/17	総括（1）	第2回から第8回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
		事前学修	第2回から第8回までの講義ノートを見直し、社会調査への総合的な理解を深める。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
10	11/24	社会調査の前提	社会調査を企画するために必要な基礎的知識を学習する。社会調査の種類、データの意味、実施する上での倫理等について考察する。	
		この回の到達目標	社会調査を企画するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	身近にある社会調査の事例について調べ、自分なりに理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
11	12/1	社会調査の設計	社会調査の設計するために必要な基礎的な知識について学習する。社会調査の目的、方法、概念の操作的定義、仮説の構成等について考察する。	
		この回の到達目標	社会調査を設計するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	社会調査の主体として、どのようなテーマを選択するのか、そのテーマを選んだ理由は何なのかについて考えておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
12	12/8	調査票の作成	社会調査の設計するために必要な基礎的な知識について学習する。社会調査の目的、方法、概念の操作的定義、仮説の構成等について考察する。	
		この回の到達目標	社会調査を設計するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	社会調査の主体として、調査テーマの概念の操作的定義や仮説について考えておく。	120分
		事後学修	授業で提示した課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	調査の実施	調査票調査の実施と回収、データの整理の方法について学習する。	
		この回の到達目標	調査票調査実施のための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	社会調査の主体として、調査を実施する際の注意事項について考えておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
14	12/22	集計と分析	データのエディティング、コーディング、クリーニングの方法、集計の種類、そして分析の考え方を学習する。収集したデータを集計、分析する方法について考察する。	
		この回の到達目標	データの集計および分析のための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	社会調査の主体として、データの適切な集計と分析のために必要なことは何なのかについて理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
15	1/12	総括（2）	第10回から第14回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
		事前学修	第10回から第14回までの講義ノートを見直し、社会調査への総合的な理解を深める。	120分
		事後学修	第10回から第14回までの講義ノートを見直し、筆記試験の内容を省察する。	120分

科目名	社会保障論Ⅰ	担当者	矢野 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生諸君が、講義が終了するころにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
学科の別を選ばない。履修を望む者に対しては、それが実現できるようにする。ただ、授業内容の難易度は低くないが、就活や資格試験として一般社会に必要な知識が要求されるので、できる限り早いうちの履修が望ましい。

【授業方法】
シラバスに沿って講義形式で行う。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。				2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。				2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。				2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	社会保障政策についての正しい知識が身についているかを、定期試験で評価する。	40			40							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に対するコメントや質問によって評価する。	10		5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50		5	45							100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の動向に注視し、課題の評論やマスメディアの反応等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容	授業遂行の上で公務員経験からの政策アプローチのほかに民間部門からのアプローチも論じることができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金曜3	イントロダクション、社会保障とは何か	社会保障とは何かについての概要を理解する。	
		この回の到達目標	社会保障の概念を理解すると同時に現代社会における社会保障の重要性を述べる。	
		事前学修	図書館等で社会保障の概要について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
2	金曜3	社会保障の理念 目的	現代社会に社会保障が果たす役割についてその理念・目的を理解する。	
		この回の到達目標	社会保障の理念目的について政治・経済・雇用・労働の側面から理解する。	
		事前学修	法学部における社会保障の理念、目的とは何かについて理解する。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
3	金曜3	社会保障の歴史（1）	イギリス救貧法と公的扶助	
		この回の到達目標	公的扶助の制度的源流としてイギリス救貧法について理解する。	
		事前学修	社会保障の源流であるイギリスの歴史について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
4	金曜3	社会保障の歴史（2）	ドイツ社会政策と社会保険制度	
		この回の到達目標	日本の社会保障制度の根幹をなす社会保険制度の源流としてドイツ・ビスマルク 積込保険制度について理解する。	
		事前学修	ドイツの宰相ビスマルクが創始した社会保険制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
5	金曜3	社会保障の歴史（3）	世界大恐慌とアメリカ社会保障法	
		この回の到達目標	世界で最初に立法化された社会保障法の源流として1930年代のアメリカの状況について理解する。	
		事前学修	ルーズベルト大統領のニューデール政策と、世界最初の社会保障法について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
6	金曜3	日本の社会保障の歴史（1）	明治大正期の労働保険	
		この回の到達目標	近代的労働屋の発生と、東京帝国大学の労働保険講座の発生前後の事情を理解する。	
		事前学修	日本の近代化とヨーロッパの社会保険制度の導入過程について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金曜3	日本の社会保障の歴史（2）	健康保険法の成立と展開	
		この回の到達目標	日本で最初の社会保険制度である健康保険法成立前後の事情を理解する。	
		事前学修	健康保険制度成立の経緯について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
8	金曜3	日本の社会保障の歴史（3）	年金制度の成立と展開	
		この回の到達目標	公的年金制度の最初である労働者年金保険法成立前後の事情を理解する。	
		事前学修	労働者年金制度の成立の経緯について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
9	金曜3	日本の社会保障の歴史（4）	戦後の体制変革と、いち早く行われた社会保障制度による福祉国家成立の事情について理解する。	
		この回の到達目標	社会保障制度審議会の成立と「社会保障制度に関する勧告」の発表について理解する。	
		事前学修	敗戦後の国家目標としての社会保障の確立の経緯について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
10	金曜3	日本の社会保障の歴史（5）	社会保障の拡大について理解する。	
		この回の到達目標	日本の高度経済成長と国民皆保険、皆年金から社会保障制度の完成までの時期について理解する。	
		事前学修	高度経済成長と国民皆保険、皆年金児童手当、老人医療費無料化につて調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
11	金曜3	社会保障の給付と負担	社会保障費、社会保障関連費、社会保障給付費、国民医療費に就て理解する。	
		この回の到達目標	財政、経済の側面から社会保障関連統計について理解する。	
		事前学修	政府予算に占める社会保障の比率、社会保障給付費、国民医療費等について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
12	金曜3	効率と公平、新自由主義と社会保障	福祉国家の基盤としての社会保障の充実からの観点と、安定した経済財政基盤としての社会保障の観点についてそれぞれ理解する。	
		この回の到達目標	ILOによる社会保障の見方と、OECDによる社会保障の見方について理解する。	
		事前学修	2000年以降の社会保障構造改革の動きについて調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金曜3	政治と社会保障	日本における歴代政権の社会保障政策を分析し、国家財政政策、政権交代が及ぼす影響について理解する。	
		この回の到達目標	日本の国内政治がどのように社会保障政策に影響を及ぼしたかについて理解する。	
		事前学修	社会保障と政治動向について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
14	金曜3	最近の社会保障政策の動き	社会保障国民会議答申と、最近の全世代型社会保障について理解する。	
		この回の到達目標	社会保障が当面する課題についての的確にとらえる。	
		事前学修	社会保障国民会議による社会保障の指針と政府の実行状況について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
15	金曜3	今学期のまとめ	社会保障とは何か、どこからきてどこに行くのかについてまとめる。	
		この回の到達目標	ば厘と～今学期における社会保障の全体像について理解する。	
		事前学修	今学期の講義概要をまとめる。（2時間）	120分
		事後学修	今学期に配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分

科目名	社会保障論Ⅱ	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生諸君が、講義が終了するころにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
学科の別を選ばない。履修を望む者に対しては、それが実現できるようにする。ただ、授業内容の難易度は低くないが、就活や資格試験として一般社会に必要な知識が要求されるので、できる限り早いうちの履修が望ましい。

【授業方法】
シラバスに沿って講義形式で行う。教科書は毎週持参のこと。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。				2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。				2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。				2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	社会保障政策についての正しい知識が身についているかを、定期試験で評価する。	30			30	20						80
小テスト等	授業に対するコメントや質問によって評価する。	10		5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40		5	35	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の動向に注視し、課題の評論やマスメディアの反応等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		授業遂行の上で公務員経験からの政策アプローチのほかに民間部門からのアプローチも論じることができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金曜3	公的年金制度1	国民年金制度の仕組み。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	国民年金制度全般について理解する。	
		事前学修	国民年金制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
2	金曜3	公的年金制度2	厚生年金制度の仕組み、保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	厚生年金保険法、厚生年金制度について理解する。	
		事前学修	厚生年金制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
3	金曜3	公的年金制度3	国民年金基金、企業年金、厚生年金基金制度の内容について。	
		この回の到達目標	国民年金基金、企業年金、厚生年金基金制度等の内容について理解する。	
		事前学修	(国民年金基金、企業年金、厚生年金基金制度について調べる。2時間)	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
4	金曜3	健康保険制度（協会けんぽ、健保組合）、共済組合制度	健康保険制度（協会けんぽ、健保組合、公務員共済組合）について。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	いわゆる被用者保険制度としての医療保険について理解する。	
		事前学修	健康保険制度、共済組合制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
5	金曜3	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度について。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度について理解する。	
		事前学修	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度について調べる（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
6	金曜3	労働者災害補償保険制度	労働者災害補償保険制度の特徴について。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	労働者災害補償保険法（労災保険法）、労働者災害補償保険制度について理解する。	
		事前学修	労働者災害補償保険(労災保険)制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金曜3	雇用保険制度・基本手当	雇用保険制度の失業給付（基本手当）の仕組み。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	雇用保険法、雇用保険制度の内容について理解する。	
		事前学修	雇用保険の基本手当について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
8	金曜3	雇用保険制度・基本手当以外	雇用保険の基本手当以外の各手当制度の給付内容、給付額その他について。	
		この回の到達目標	雇用保険の基本手当以外の給付の種類とその内容について理解する。	
		事前学修	雇用保険の基本手当以外の各手当制度の給付内容を調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
9	金曜3	介護保険制度	介護保険法及び介護保険制度について。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	介護保険法及び介護保険制度全般について理解する。	
		事前学修	介護保険制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
10	金曜3	生活保護制度について	生活保護の給付財源、給付内容、給付の申請、認定、保護の種類、給付内容等について。	
		この回の到達目標	生活保護法及び生活保護制度全般について理解する。	
		事前学修	公的扶助（生活保護）について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
11	金曜3	児童に関する社会的給付	児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当について。保険料、財源、給付額その他について各制度の保険料、社会支出、財源、給付内容等について。	
		この回の到達目標	子供の貧困に関連する児童手当制度、児童扶養手当制度、特別児童扶養手当制度について理解する。	
		事前学修	児童手当制度、児童の社会的給付制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
12	金曜3	社会保障の国際比較	社会保障の国際比較と国際比較から見たわが国の特徴。	
		この回の到達目標	日本の社会保障制度の特徴を国際統計から理解する。	
		事前学修	欧米先進国と比較した日本の社会保障の特徴について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金曜3	社会保障の適正な在り方についての考察	マスメディアの論調にみる社会保障費の取り上げ方とその見方	
		この回の到達目標	マスメディアの論調にみる社会保障費の取り上げ方とその見方を分析し、社会保障の論点を理解する。	
		事前学修	新聞その他のメディアによる日本の社会保障の取り上げ方の特徴について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
14	金曜3	労働・雇用と社会保障	労働・雇用と社会保障との関係と望ましい在り方に関する提言。	
		この回の到達目標	社会保障制度は日本の労働・雇用とどのように関連しているかについて理解する。	
		事前学修	労働・雇用と社会保障との関係について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
15	金曜3	まとめ	日本の社会保障の今日的要件と将来予測	
		この回の到達目標	社会保障Ⅱで学んだ社会保障制度から、将来にわたりどのような方向を目指すべきかについて議論する。	
		事前学修	今学期のまとめ。（2時間）	120分
		事後学修	今学期の授業で配布されたプリント、作成したノートをもとに全体をまとめる。（2時間）	120分

科目名	社会保障論Ⅱ	担当者	山村 りつ	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生諸君が、講義が終了するころにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
学科の別を選ばない。履修を望む者に対しては、それが実現できるようにする。ただ、授業内容の難易度は低くないが、就活や資格試験として一般社会に必要な知識が要求されるので、できる限り早いうちの履修が望ましい。

【授業方法】
シラバスに沿って講義形式で行う。教科書は毎週持参のこと。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。				2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。				2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。				2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	社会保障政策についての正しい知識が身についているかを、定期試験で評価する。	30			30	20						80
小テスト等	授業に対するコメントや質問によって評価する。	10		5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40		5	35	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説をポータルシステムを通じて配布する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会保障法便覧2019年度版	編集委員長 矢野聡	労働調査会	2019	教科書	必携
社会福祉士基礎講座『社会保障論』		中央法規出版	2020	参考書	任意
日本公的年金政策史研究	矢野聡	ミネルヴァ書房	2012	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
木・金曜日11:30-13:00前まで 研究室（本館9階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	オリエンテーション・イントロダクション 導入講義	オリエンテーション：授業の進め方についての説明 イントロダクション：社会保障政策を理解するために必要な基本知識を説明する。	
		この回の到達目標	社会保障制度の枠組みを図示できるようになる。	
		事前学修	社会保障各制度の予習をする。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
2	9/22	社会保障と経済	社会保障政策と密接なかかわりのある経済理論と、その関係性について説明する。	
		この回の到達目標	社会保障の各種制度・政策に資本主義経済が与える影響を説明できるようになる。	
		事前学修	社会保障と財源、景気動向の関係について予習をする。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
3	9/29	医療保障①	医療保障制度の中でも、我が国の公的保険制度による保証システムについて説明する。	
		この回の到達目標	自分が加入する健康保険制度の保険者と加入要件について説明できるようになる。	
		事前学修	自分が加入している医療保険制度について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
4	10/6	医療保障②	公的保険制度以外の方法による医療保障制度について説明する。	
		この回の到達目標	公的保険制度以外の方法をとる国を一つあげ、日本との違いを説明できるようになる。	
		事前学修	アメリカおよびイギリスの医療保障体制について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
5	10/13	所得保障①	日本の公的年金制度による所得保障制度について説明する。	
		この回の到達目標	所得保障に係る公的年金制度をあげ、受給要件を説明できるようになる。	
		事前学修	自分および自分の家族が加入している所得保障機能のある公的年金制度を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
6	10/20	所得保障②	日本の公的扶助制度による所得保障制度について説明する。	
		この回の到達目標	公的扶助と公的保険のそれぞれによる所得保障の違いと特徴について説明できるようになる。	
		事前学修	生活保護制度と社会手当制度について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	所得保障③	社会手当とその役割について説明する。	
		この回の到達目標	社会手当の機能を生活保護・年金制度との関係を踏まえて説明できるようになる。	
		事前学修	日本にある社会手当制度について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
8	11/10	労働保障①	労働災害と積極的労働市場政策について説明する。	
		この回の到達目標	雇用保険と労災保険の違いおよびそれぞれの役割について説明できるようになる。	
		事前学修	労働者が加入する保険制度について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
9	11/17	労働保障②	労働者の権利保障に関する政策を制つめいする。	
		この回の到達目標	労働者の権利を守るための仕組みを図示し、説明できるようになる。	
		事前学修	労働三法とそれぞれの役割について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
10	11/24	日本の貧困問題	生活困窮者対策及び子どもの貧困などの、貧困問題に関する取り組みについて説明する。	
		この回の到達目標	日本の貧困問題を格差との関係を踏まえて説明できるようになる。	
		事前学修	貧困の連鎖について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
11	12/1	社会保障財政	国家予算に占める社会保障の割合、社会保障給付費、国民医療費等の統計の読み方と年次推移について説明する。	
		この回の到達目標	日本の社会保障給付費の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	国家予算に占める社会保障の割合、社会保障給付費等について調べる	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
12	12/8	福祉国家論	エスピン・アンデルセンによる社会保障の分類及びOECD、EU加盟諸国等との国際比較から見たわが国の特徴について説明する。	
		この回の到達目標	福祉国家レジーム論における日本の位置づけについて、自らの意見を述べられるようになる。	
		事前学修	欧米先進国と比較した日本の社会保障の特徴について調べる	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	労働と社会保障の関係	社会保障政策における労働を、その機能および方法論の観点から説明する。	
		この回の到達目標	労働と社会保障制度の関係について自らの意見を述べられるようになる。	
		事前学修	労働と社会保障制度の相互関係について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
14	12/22	社会保障と地方分権	地方分権が社会保障制度に与える影響について説明する。	
		この回の到達目標	地方分権が社会保障制度にもたらすメリットとデメリットを比較しつつ説明できるようになる。	
		事前学修	社会保障制度における地方分権化について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
15	1/12	まとめと総括	まとめ 日本の社会保障制度・政策の特徴を整理し、これまでの授業で出た疑問などについてフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	これまでの授業を踏まえ、日本の社会保障制度のとるべき方向性について自らの意見を述べられるようになる。	
		事前学修	今学期の講義概要をまとめる。	120分
		事後学修	今学期に配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る	120分

科目名	新聞学基礎	担当者	山口 仁	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
新聞学とは新聞社に関する学問のことではなく、ニュースにまつわる様々な社会的現象・制度を研究する学問である。そしてニュースはレビュー（評論）とともにジャーナリズムを構成している。そしてジャーナリズムはコミュニケーションの一機能である。この授業では、社会的行為、およびその行為主体としての「ジャーナリズム」を政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論的観点から説明する。基本的にはジャーナリズムの担い手としてマス・メディアを想定して、理論と事例を織り交ぜながら解説していきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジャーナリズムを政治・社会学の観点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にジャーナリズムに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	新聞学の学問の射程と、基礎的な概念について説明することができる。						2						
②	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションについて概要を理解することができる。							2					
③	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関する問題点について、学生同士で議論することができる。											2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	論述問題を出題し、①②に関する到達度を評価する。	46	46									92
小テスト等	なし											
レポート等	なし											
討論・発表等	14回目の授業でディスカッションを行う。			4								4
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。			4								4
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		46	46	8								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版	大井真二編ほか	世界思想社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	イントロダクション及び導入講義	「新聞学（メディア・ジャーナリズム）」に関する議論の射程について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読してくること。	90分
		事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	90分
2	9/23	メディア化時代のジャーナリズム	「メディア化」した現代におけるジャーナリズムの問題と課題について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、「メディア化」の概念について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
3	9/30	ジャーナリズムの歴史・教育・制度①	ジャーナリズム史について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム史の基礎を理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
4	10/7	ジャーナリズムの歴史・教育・制度②	ジャーナリズム教育—ジャーナリズム・リテラシーについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム教育に関する基礎を理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
5	10/14	ジャーナリズムの歴史・教育・制度③	ジャーナリズムの法と倫理について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムの法・倫理について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
6	10/21	ジャーナリズムの生産過程①	事件・現実に関する情報の取捨選択（取材と報道）について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	ジャーナリズムの生産過程②	ニュース価値と選択性と「ニュースのコントロール」について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ニュース・価値論に関する基礎について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
8	11/11	ジャーナリズムの生産過程③	プロフェッショナリズムと客観性について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、客観報道主義について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
9	11/18	ジャーナリズムの生産過程④	ジェンダーとメディアについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、メディア研究におけるジェンダー問題について基礎的に理解できる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
10	11/25	ニュースのフレーム、ニュースにおける物語	ジャーナリズム研究における「フレーム」「物語」概念について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、「フレーム」「物語」といった概念に関する基礎的理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
11	12/2	オルタナティブ・ジャーナリズム	マス・メディア以外のオルタナティブ・メディアによるジャーナリズムについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、オルタナティブ・ジャーナリズムに関する基礎的な理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
12	12/9	グローバル化とジャーナリズム	グローバル化時代におけるジャーナリズムについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、グローバル時代におけるジャーナリズムについて基礎的な理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	戦争と平和のジャーナリズム	戦争と平和についてジャーナリズムがどう関係してきたのか解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムが戦闘と平和について果たして来た役割について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
14	12/23	ジャーナリズム研究の批判的相対化	今までの授業を振り返り、ジャーナリズム研究が持つ問題性について解説する。	
		この回の到達目標	目標③に関連し、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。	
		事前学修	今までの教科書の該当範囲を振りかえり、ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
15	1/13	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
		事前学修	授業内試験の準備	160分
		事後学修	授業内の解説にもとづいて自己採点。	20分

科目名	新聞学基礎	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
新聞学とは新聞社に関する学問のことではなく、ニュースにまつわる様々な社会的現象・制度を研究する学問である。そしてニュースはレビュー（評論）とともにジャーナリズムを構成している。そしてジャーナリズムはコミュニケーションの一機能である。この授業では、社会的行為、およびその行為主体としての「ジャーナリズム」を政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論的観点から説明する。基本的にはジャーナリズムの担い手としてマス・メディアを想定して、理論と事例を織り交ぜながら解説していきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジャーナリズムを政治・社会学の観点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にジャーナリズムに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	新聞学の学問の射程と、基礎的な概念について説明することができる。					2							
②	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションについて概要を理解することができる。						2						
③	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関する問題点について、学生同士で議論することができる。											2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	論述問題を出題し、①②に関する到達度を評価する。	46	46									92
小テスト等	なし											
レポート等	なし											
討論・発表等	14回目の授業でディスカッションを行う。			4								4
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。			4								4
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		46	46	8								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版	大井真二編ほか	世界思想社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション及び導入講義	「新聞学（メディア・ジャーナリズム）」に関する議論の射程について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読してくること。	90分
		事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	90分
2	4/15	メディア化時代のジャーナリズム	「メディア化」した現代におけるジャーナリズムの問題と課題について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、「メディア化」の概念について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
3	4/22	ジャーナリズムの歴史・教育・制度①	ジャーナリズム史について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム史の基礎を理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
4	4/29	ジャーナリズムの歴史・教育・制度②	ジャーナリズム教育—ジャーナリズム・リテラシーについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム教育に関する基礎を理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
5	5/6	ジャーナリズムの歴史・教育・制度③	ジャーナリズムの法と倫理について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムの法・倫理について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
6	5/13	ジャーナリズムの生産過程①	事件・現実に関する情報の取捨選択（取材と報道）について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	ジャーナリズムの生産過程②	ニュース価値と選択性と「ニュースのコントロール」について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ニュース・価値論に関する基礎について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
8	5/27	ジャーナリズムの生産過程③	プロフェッショナリズムと客観性について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、客観報道主義について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
9	6/3	ジャーナリズムの生産過程④	ジェンダーとメディアについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、メディア研究におけるジェンダー問題について基礎的に理解できる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
10	6/10	ニュースのフレーム、ニュースにおける物語	ジャーナリズム研究における「フレーム」「物語」概念について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、「フレーム」「物語」といった概念に関する基礎的理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
11	6/17	オルタナティブ・ジャーナリズム	マス・メディア以外のオルタナティブ・メディアによるジャーナリズムについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、オルタナティブ・ジャーナリズムに関する基礎的な理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
12	6/24	グローバル化とジャーナリズム	グローバル化時代におけるジャーナリズムについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、グローバル時代におけるジャーナリズムについて基礎的な理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	戦争と平和のジャーナリズム	戦争と平和についてジャーナリズムがどう関係してきたのか解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムが戦闘と平和について果たして来た役割について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
14	7/8	ジャーナリズム研究の批判的相対化	今までの授業を振り返り、ジャーナリズム研究が持つ問題性について解説する。	
		この回の到達目標	目標③に関連し、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。	
		事前学修	今までの教科書の該当範囲を振りかえり、ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
15	7/15	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
		事前学修	授業内試験の準備	160分
		事後学修	授業内の解説にもとづいて自己採点。	20分

科目名	新聞学入門	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
メディア環境が変化し、かつて受け手や情報の消費者だった立場が、SNSによって容易に送り手・発信者となる現状がある。その為、送り手や作る側からの視点を織り交ぜながらWeb業界や具体的な既存メディアを業界別に研究し、メディアの現状と課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Webや既存メディアの現状と課題を理解し、日本及び世界の法、政治、行政、経済、とジャーナリズム、メディアの仕組みを複合的にとらえ、社会人として必要な社会科学の知識を修得する。

【履修条件】
新聞学科に在籍する者、またはメディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
教科書を概略学習に使用、映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	映像資料（映画/テレビ番組等）を見せ、その分析と考察をレポートさせる（第6回）。また、グループワークで映像表現について討論させる（第11回）。リアクションペーパーは、毎回書かせる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マスメディアのメディア別の組織形態や成立、それぞれのメディアの特徴、役割を理解し、説明できる。【知識】				1							
②	それぞれのメディア発達の歴史過程を理解し、その特徴を理解、説明できる。【知識】					1						
③	メディアの成立と現在を比較対照し、現在の問題点を探る為、書物・Web等で調べることができる。【技能】					1						
④	統計資料に基づいて、グラフ、表等を正に解釈でき、説明できる。【知識】				1							
⑤	映像資料を見聞きし、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】										1	
⑥	文字資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】										1	
⑦	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】										1	
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	中間で1回、まとめに1回提出させるレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる、各メディア成立と特徴の理解が身についているかを評価する。	15	8	8	8	8	8	15				70
討論・発表等	到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを、映像表現についてのグループワークにおいて、自分の意見を述べることができたか等の評定尺度により受講生同士が互いに評価する。(ピア評価)					10	5	5				20
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	2	3				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	9	9	9	19	15	23				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	教科書	必携
メディアと日本人		橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	任意
メディア社会		佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	任意
備考						

【オフィスアワー】
月曜～木曜日の13：00～18：00授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける（研究室）。対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特に授業に関連したものに解説を加え授業冒頭で触れる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8 水	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。	
		この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①②に関連し、メディアとは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	本講座シラバスでのメディアの諸問題について、新聞、出版、放送、広告、エンタテインメントの各業界別の問題点を列記しまとめておく。	150分
		事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。授業の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
2	4/15 水	現代社会とメディアの関係	現代社会とメディアの関係 人々とメディアの関わり。現代の特徴。教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」に沿って解説。	
		この回の到達目標	日本のメディアの盛衰について、到達目標①②③に関して、歴史的背景を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」を、特に戦後の日本メディアのメディア別盛衰について注意して読み、その特徴を列記しておく。	180分
		事後学修	Webの台頭が著しいが、それに対して既存メディアはどう対処しているか。また、既存メディアの必要性はどうか考察する。	60分
3	4/22 水	現代メディアの利用と環境	ケータイからスマホへ教科書第6章 ケータイからスマホへ P. 247～273に沿ってその変遷を解説する。	
		この回の到達目標	現代のメディア利用が、携帯電話成立とインターネットの普及、更にスマートフォン中心となっていった経緯を、到達目標②に関連し理解できる。	
		事前学修	教科書P. 247～273を事前に読み、何故メディアからの情報が、WEB や携帯電話からの情報に偏り始め、普及とともにスマートフォンに変って行ったかを考えながら読む。	180分
		事後学修	スマートフォンの功罪について、具体的に列記し考察する。	60分
4	4/29 水	各業界 新聞①	第1章 新聞① 教科書新版P. 27～に沿って日本の新聞の成立時期や、限段までの変遷を学ぶ	
		この回の到達目標	新聞の成立、変遷について、ニュースメディアの祖である新聞の生まれた理由を、到達目標①に関連し理解できる	
		事前学修	教科書新版P. 27～ 第1章について、新聞の盛衰についてメディアの祖であることに留意し、現在の状況も考慮しながら、事前に読んでおく。	180分
		事後学修	コンビニや、図書館で新聞に触れ同日の紙面を複数紙読んで、同一の出来事の表現の違いをみる。	60分
5	5/6 水	各業界 新聞②	第1章 新聞② 教科書新版P. 27～P. 74教科書に沿って新聞業界のはじめから盛衰を解説する。	
		この回の到達目標	新聞は読まない人が増えたという割に、メディアとしての信頼度が高いのは何故か、到達目標①②③に関連し理解できる。	
		事前学修	当日の新聞を複数紙読んで、同一の出来事について記した記事の表現の違いを列記しておく。	90分
		事後学修	インターネットのプラットフォームニュースサイトで、ニュース項目をチェックしてみる。既存メディア発のニュースがどのくらいあるか件数を数え、Webメディアと比べる。	150分
6	5/13 水	メディアの大衆化以前	映画「薔薇の名前」抜粋 上映 印刷機発明以前の中世ヨーロッパの時代、本は写本であったが、本を所蔵できるのはキリスト教会であった。知の独占状況と大衆化以前のメディアについて学びレポートを提出する。	
		この回の到達目標	メディアの大衆化以前は、本は写本として流通していた。また本が所蔵されているのは中世ヨーロッパではキリスト教会、日本では貴族階級の独占であった。大衆化以前のメディアについて、到達目標①②③に関連し理解できる。	
		事前学修	映画「薔薇の名前」について、本編等映画雑誌、Web等で、印刷術の発明の前は本はどこに保存され、どう扱われていたかを中心にストーリーを確認する。	90分
		事後学修	知の独占であった中世の教会には、知識の大衆化、メディアの大衆化にどんな影響があったか振り返り、その後の印刷術の発明によるメディアの大衆化への流れを推論する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20 水	マスコミュニケーションの成立と近代	前回のメディア大衆化以前の状況から活版印刷」の発明、写真、映画と発展してくるメディアとそれが大量に伝達されていく過程を学ぶ	
		この回の到達目標	活版印刷機の発明後、宗教改革や政党政治等、社会状況とメディア・コミュニケーションは密接に関係しながら発達して来たことを、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	マスコミュニケーションが成立するためには、どういう社会状況や条件が必要か特に文字、口伝、印刷物、交通、平和かどうか等を考慮に入れ、調べる。	150分
		事後学修	前回提出のリポート課題について、調べたことと自らの考察は、分けて書く事や、薔薇の名前の内容と比較、考察する。	90分
8	5/27 水	各業界 放送① 制度・構造・歴史	テレビの放送組織、機械構造を学ぶ。教科書第2章放送 P. 75～130のうちテレビの歴史から現在まで。	
		この回の到達目標	テレビの発明、成立、テレビ普及のエポックを学ぶ。今は普及しているPCと同じように放送開始当時は大変高価だったものが普及していく経緯を社会、時代背景と共に、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	テレビと映画との映像表示システムの違い、普及の仕方を調べ、対抗関係にあった2つのメディアが、依然として残っている理由を考察する。	150分
		事後学修	テレビ普及と社会事象、現代史との対比が、事件をはじめ社会的出来事と共に認識できているか、〇〇のテレビ化、映像化といった社会現象と共に考察する。	90分
9	6/3 水	各業界 放送② WEB、動画配信と放送	テレビ、ラジオの今とインターネット、スマートフォンとの対立、融合について。また動画配信サービス、youtube等との関係について問題点を探る。教科書第2章 放送 P. 75～130	
		この回の到達目標	1970年代からメディアの王者であったテレビが2000年前後から視聴者を減らし、Web、スマホ、定額動画配信といった新たなメディアが発展してきた。今後、テレビなど放送はどうなっていくのか、現状と問題点を到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	テレビを視聴する。ニュース、ドラマ、バラエティー、ドキュメンタリー、スポーツ中継、教育・文化・科学番組は、それぞれ何の為に存在するか、また、コマーシャルのある商業放送と受信料を取る公共放送の違いを理解する。	140分
		事後学修	動画配信、オンデマンド配信はどういうものか体験してみる（Tver、GYAOといった無料のアプリを使う）	100分
10	6/10 水	各業界 放送③ テレビ放送と報道	映画『グッドナイト&グッドラック』を鑑賞、テレビ報道の機能を商業放送の根本理念との対立や、社会現象とメディアの関係を読み取る。権力監視・表現の自由とニュース関係を知る。	
		この回の到達目標	映画『グッドナイト&グッドラック』を見、ジャーナリズムの権力監視、表現の自由と圧力、商業放送の利益追求の対立をどう切り抜けて、事実の放送に到達するか、それぞれの立場を見て、どうあるべきかを到達目標①②③④⑤に関連し考察できる。	
		事前学修	映画『グッドナイト&グッドラック』について内容を調べ、「赤狩り」・レッドパージ（red purge）とは何か日米の社会的背景を調べて理解しておく。	120分
		事後学修	番組放送に対すると圧力、あるいは名誉棄損訴訟といった放送にまつわる問題と権力監視、表現の自由、の例について具体的にWeb、書籍などで調べ代表例を列記しておく。	120分
11	6/17 水	前週見た映画について グループワーク	前回の映画「グッドナイト&グッドラック」を見て、○権力の監視機能、○商業放送、○弱者の声を聞く等のTVメディアの機能と社会の関係での問題点をグループ討議しお互いに評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦に関連し、前週に見た映画について、テレビメディアの機能と社会との関係を念頭に討論に参加し、意見を述べるができる。	
		事前学修	社会とTVメディアの関係について（権力監視・弱者の救済・企業との関係・経営問題等）過去の問題を調べ自らはどう考えるか、発言をする素地をノートなどに列記しておく。	180分
		事後学修	自らの発言だけではなく、他の学生の発言も取り入れて検討し、より適切な意見とするためにノートに記し、合わせて考察する。	60分
12	6/24 水	各業界 出版と広告 業界の概要	教科書P. 131～出版、P. 169～広告業の各界もWebの波に押され、広告業界は、伝統的な看板からスマートフォン利用の広告まで幅広い。出版は電子書籍の台頭と、特に雑誌に特化して述べる。	
		この回の到達目標	Webの台頭が著しいが、その流れが加速する原因と現状の出版・広告業界について状況を、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	教科書P. 131～出版、P. 169～広告について、それぞれの業界の盛衰に注意しながら、現在の課題に注目し列記しておく。	150分
		事後学修	業界の変化が速さを増していることを知ることと、Web広告がテレビ広告を抜く可能性があり、それは何を意味するかを考察する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1 水	各業界エンタテインメント	映画、アニメ、音楽業界を中心とするエンタテインメントは、映画・音楽は2千億円産業、アニメは国内だけで2兆円産業といわれる。それぞれの産業の成立と今、現在の問題点を探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、映画、アニメ、音楽産業、それぞれの業界の特徴に注意しながら各業界の盛衰と今後の課題について理解できる。（教科書P.209～245）	
		事前学修	映画、アニメ、音楽業界、教科書P.209～245をそれぞれの業界の特徴に注意しながら盛衰と今後の課題についてあらかじめ読んでまとめておく。	150分
		事後学修	アニメ業界が産業として大きく飛躍した理由や経過について具体的に調べて確かめてみる。	90分
14	7/8 水	フェイク・ニュースとファクトチェック、SNS。	2016年のアメリカ大統領選は「フェイクニュース」という言葉を流布させ、「オルタナティブ・ファクト」を流行らせた。こうした言葉はSNSによって広がり、一方でそれを調べる「ファクトチェック」も立ち上がった。「フェイクニュース」と「ファクトチェック」それを結ぶ「SNS」との関係をあきらかにする。	
		この回の到達目標	フェイクニュースとは何か、ファクト・チェックとは何を明らかにすることか、到達目標①②③④⑤⑥関連し理解できる。	
		事前学修	フェイクニュースとは何か、具体的にどういったことがあったか、フェイクニュースの特徴は何か列記して、代表的なフェイクニュースの具体的な文を含めて、調べる。	140分
		事後学修	フェイクニュースに騙されないための方策や、得た情報の拡散の方法に注意を払うにはどうしたら良いか授業内容を受けて更に考察する。	100分
15	7/15 水	授業内レポート及び解説	これまでの講座でやってきた単元の選択問題を出し、レポート形式で答える。制限60分。終了後授業内レポートについて、模範例をはじめ、書き方のポイント、分かりやすく書く方法、必要な記述などを示すことで受講生にフィードバックをする。	
		この回の到達目標	これまでの講座でやってきた範囲の中での理解度をレポート提出で評価する。成績評価の方法・基準・割合の通り。それぞれの課題を到達目標①②③④⑤⑥に関連し理解でき、説明できる。	
		事前学修	レポート課題についてその範囲を復習し、レポートを時間内に書ききれるようにする。	180分
		事後学修	授業内レポートで書いた内容を検討し、書けなかった部分、足りなかった部分を補強する。	60分

科目名	新聞学入門	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
メディア環境が変化し、かつて受け手や情報の消費者だった立場が、SNSによって容易に送り手・発信者となる現状がある。その為、送り手や作る側からの視点を織り交ぜながらWeb業界や具体的な既存メディアを業界別に研究し、メディアの現状と課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Webや既存メディアの現状と課題を理解し、日本及び世界の法、政治、行政、経済、とジャーナリズム、メディアの仕組みを複合的にとらえ、社会人として必要な社会科学の知識を修得する。

【履修条件】
新聞学科に在籍する者、またはメディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
教科書を概略学習に使用、映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	映像資料（映画/テレビ番組等）を見せ、その分析と考察をレポートさせる（第6回）。また、グループワークで映像表現について討論させる（第11回）。リアクションペーパーは、毎回書かせる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マスメディアのメディア別の組織形態や成立、それぞれのメディアの特徴、役割を理解し、説明できる。【知識】				1							
②	それぞれのメディア発達の歴史過程を理解し、その特徴を理解、説明できる。【知識】					1						
③	メディアの成立と現在を比較対照し、現在の問題点を探る為、書物・Web等で調べることができる。【技能】					1						
④	統計資料に基づいて、グラフ、表等を正に解釈でき、説明できる。【知識】				1							
⑤	映像資料を見聞きし、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】										1	
⑥	文字資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】										1	
⑦	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】										1	
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	中間で1回、まとめに1回提出させるレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる、各メディア成立と特徴の理解が身についているかを評価する。	15	8	8	8	8	8	15				70
討論・発表等	到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを、映像表現についてのグループワークにおいて、自分の意見を述べることができたか等の評定尺度により受講生同士が互いに評価する。(ピア評価)					10	5	5				20
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	2	3				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	9	9	9	19	15	23				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	教科書	必携
メディアと日本人		橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	任意
メディア社会		佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	任意
備考						

【オフィスアワー】
月曜～木曜日の13：00～18：00授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける（研究室）。対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特に授業に関連したものに解説を加え授業冒頭で触れる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 水	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。	
		この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①②に関連し、メディアとは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	本講座シラバスでのメディアの諸問題について、新聞、出版、放送、広告、エンタテインメントの各業界別の問題点を列記しまとめておく。	150分
		事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。授業の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
2	9/23 水	現代社会とメディアの関係	現代社会とメディアの関係 人々とメディアの関わり。現代の特徴。教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」に沿って解説。	
		この回の到達目標	日本のメディアの盛衰について、到達目標①②③に関して、歴史的背景を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」を、特に戦後の日本メディアのメディア別盛衰について注意して読み、その特徴を列記しておく。	180分
		事後学修	Webの台頭が著しいが、それに対して既存メディアはどう対処しているか。また、既存メディアの必要性はどうか考察する。	60分
3	9/30 水	現代メディアの利用と環境	ケータイからスマホへ教科書第6章 ケータイからスマホへ P. 247～273に沿ってその変遷を解説する。	
		この回の到達目標	現代のメディア利用が、携帯電話成立とインターネットの普及、更にスマートフォン中心となっていった経緯を、到達目標②に関連し理解できる。	
		事前学修	教科書P. 247～273を事前に読み、何故メディアからの情報が、WEB や携帯電話からの情報に偏り始め、普及とともにスマートフォンに変って行ったかを考えながら読む。	180分
		事後学修	スマートフォンの功罪について、具体的に列記し考察する。	60分
4	10/7 水	各業界 新聞①	第1章 新聞① 教科書新版P. 27～に沿って日本の新聞の成立時期や、限段までの変遷を学ぶ	
		この回の到達目標	新聞の成立、変遷について、ニュースメディアの祖である新聞の生まれた理由を、到達目標①に関連し理解できる	
		事前学修	教科書新版P. 27～ 第1章について、新聞の盛衰についてメディアの祖であることに留意し、現在の状況も考慮しながら、事前に読んでおく。	180分
		事後学修	コンビニや、図書館で新聞に触れ同日の紙面を複数紙読んで、同一の出来事の表現の違いをみる。	60分
5	10/14 水	各業界 新聞②	第1章 新聞② 教科書新版P. 27～P. 74教科書に沿って新聞業界のはじめから盛衰を解説する。	
		この回の到達目標	新聞は読まない人が増えたという割に、メディアとしての信頼度が高いのは何故か、到達目標①②③に関連し理解できる。	
		事前学修	当日の新聞を複数紙読んで、同一の出来事について記した記事の表現の違いを列記しておく。	90分
		事後学修	インターネットのプラットフォームニュースサイトで、ニュース項目をチェックしてみる。既存メディア発のニュースがどのくらいあるか件数を数え、Webメディアと比べる。	150分
6	10/21 水	メディアの大衆化以前	映画「薔薇の名前」抜粋 上映 印刷機発明以前の中世ヨーロッパの時代、本は写本であったが、本を所蔵できるのはキリスト教会であった。知の独占状況と大衆化以前のメディアについて学びレポートを提出する。	
		この回の到達目標	メディアの大衆化以前は、本は写本として流通していた。また本が所蔵されているのは中世ヨーロッパではキリスト教会、日本では貴族階級の独占であった。大衆化以前のメディアについて、到達目標①②③に関連し理解できる。	
		事前学修	映画「薔薇の名前」について、本編等映画雑誌、Web等で、印刷術の発明の前は本はどこに保存され、どう扱われていたかを中心にストーリーを確認する。	90分
		事後学修	知の独占であった中世の教会には、知識の大衆化、メディアの大衆化にどんな影響があったか振り返り、その後の印刷術の発明によるメディアの大衆化への流れを推論する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28 水	マスコミュニケーションの成立と近代	前回のメディア大衆化以前の状況から活版印刷」の発明、写真、映画と発展してくるメディアとそれが大量に伝達されていく過程を学ぶ	
		この回の到達目標	活版印刷機の発明後、宗教改革や政党政治等、社会状況とメディア・コミュニケーションは密接に関係しながら発達して来たことを、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	マスコミュニケーションが成立するためには、どのような社会状況や条件が必要か特に文字、口伝、印刷物、交通、平和かどうか等を考慮に入れ、調べる。	150分
		事後学修	前回提出のリポート課題について、調べたことと自らの考察は、分けて書く事や、薔薇の名前の内容と比較、考察する。	90分
8	11/11 水	各業界 放送① 制度・構造・歴史	テレビの放送組織、機械構造を学ぶ。教科書第2章放送 P. 75～130のうちテレビの歴史から現在まで。	
		この回の到達目標	テレビの発明、成立、テレビ普及のエポックを学ぶ。今は普及しているPCと同じように放送開始当時は大変高価だったものが普及していく経緯を社会、時代背景と共に、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	テレビと映画との映像表示システムの違い、普及の仕方を調べ、対抗関係にあった2つのメディアが、依然として残っている理由を考察する。	150分
		事後学修	テレビ普及と社会事象、現代史との対比が、事件をはじめ社会的出来事と共に認識できているか、〇〇のテレビ化、映像化といった社会現象と共に考察する。	90分
9	11/18 水	各業界 放送② WEB、動画配信と放送	テレビ、ラジオの今とインターネット、スマートフォンとの対立、融合について。また動画配信サービス、youtube等との関係について問題点を探る。教科書第2章 放送 P. 75～130	
		この回の到達目標	1970年代からメディアの王者であったテレビが2000年前後から視聴者を減らし、Web、スマホ、定額動画配信といった新たなメディアが発展してきた。今後、テレビなど放送はどうなっていくのか、現状と問題点を到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	テレビを視聴する。ニュース、ドラマ、バラエティー、ドキュメンタリー、スポーツ中継、教育・文化・科学番組は、それぞれ何の為に存在するか、また、コマーシャルのある商業放送と受信料を取る公共放送の違いを理解する。	140分
		事後学修	動画配信、オンデマンド配信はどういうものか体験してみる（Tver、GYAOといった無料のアプリを使う）	100分
10	11/25 水	各業界 放送③ テレビ放送と報道	映画『グッドナイト&グッドラック』を鑑賞、テレビ報道の機能を商業放送の根本理念との対立や、社会現象とメディアの関係を読み取る。権力監視・表現の自由とニュース関係を知る。	
		この回の到達目標	映画『グッドナイト&グッドラック』を見、ジャーナリズムの権力監視、表現の自由と圧力、商業放送の利益追求の対立をどう切り抜けて、事実の放送に到達するか、それぞれの立場を見て、どうあるべきかを到達目標①②③④⑤に関連し考察できる。	
		事前学修	映画『グッドナイト&グッドラック』について内容を調べ、「赤狩り」・レッドパージ（red purge）とは何か日米の社会的背景を調べて理解しておく。	120分
		事後学修	番組放送に対すると圧力、あるいは名誉棄損訴訟といった放送にまつわる問題と権力監視、表現の自由、の例について具体的にWeb、書籍などで調べ代表例を列記しておく。	120分
11	12/2 水	前週見た映画について グループワーク	前回の映画「グッドナイト&グッドラック」を見て、○権力の監視機能、○商業放送、○弱者の声を聞く等のTVメディアの機能と社会の関係での問題点をグループ討議しお互いに評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦に関連し、前週に見た映画について、テレビメディアの機能と社会との関係を念頭に討論に参加し、意見を述べるができる。	
		事前学修	社会とTVメディアの関係について（権力監視・弱者の救済・企業との関係・経営問題等）過去の問題を調べ自らはどう考えるか、発言をする素地をノートなどに列記しておく。	180分
		事後学修	自らの発言だけではなく、他の学生の発言も取り入れて検討し、より適切な意見とするためにノートに記し、合わせて考察する。	60分
12	12/9 水	各業界 出版と広告 業界の概要	教科書P. 131～出版、P. 169～広告業の各界もWebの波に押され、広告業界は、伝統的な看板からスマートフォン利用の広告まで幅広い。出版は電子書籍の台頭と、特に雑誌に特化して述べる。	
		この回の到達目標	Webの台頭が著しいが、その流れが加速する原因と現状の出版・広告業界について状況を、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	教科書P. 131～出版、P. 169～広告について、それぞれの業界の盛衰に注意しながら、現在の課題に注目し列記しておく。	150分
		事後学修	業界の変化が速さを増していることを知ることと、Web広告がテレビ広告を抜く可能性があり、それは何を意味するかを考察する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16 水	各業界エンタテインメント	映画、アニメ、音楽業界を中心とするエンタテインメントは、映画・音楽は2千億円産業、アニメは国内だけで2兆円産業といわれる。それぞれの産業の成立と今、現在の問題点を探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、映画、アニメ、音楽産業、それぞれの業界の特徴に注意しながら各業界の盛衰と今後の課題について理解できる。（教科書P.209～245）	
		事前学修	映画、アニメ、音楽業界、教科書P.209～245をそれぞれの業界の特徴に注意しながら盛衰と今後の課題についてあらかじめ読んでまとめておく。	150分
		事後学修	アニメ業界が産業として大きく飛躍した理由や経過について具体的に調べて確かめてみる。	90分
14	12/23 水	フェイク・ニュースとファクトチェック、SNS。	2016年のアメリカ大統領選は「フェイクニュース」という言葉を流布させ、「オルタナティブ・ファクト」を流行らせた。こうした言葉はSNSによって広がり、一方でそれを調べる「ファクトチェック」も立ち上がった。「フェイクニュース」と「ファクトチェック」それを結ぶ「SNS」との関係をあきらかにする。	
		この回の到達目標	フェイクニュースとは何か、ファクト・チェックとは何を明らかにすることか、到達目標①②③④⑤⑥関連し理解できる。	
		事前学修	フェイクニュースとは何か、具体的にどういったことがあったか、フェイクニュースの特徴は何か列記して、代表的なフェイクニュースの具体的な文を含めて、調べる。	140分
		事後学修	フェイクニュースに騙されないための方策や、得た情報の拡散の方法に注意を払うにはどうしたら良いか授業内容を受けて更に考察する。	100分
15	1/13 水	授業内レポート及び解説	これまでの講座でやってきた単元の選択問題を出し、レポート形式で答える。制限60分。終了後授業内レポートについて、模範例をはじめ、書き方のポイント、分かりやすく書く方法、必要な記述などを示すことで受講生にフィードバックをする。	
		この回の到達目標	これまでの講座でやってきた範囲の中での理解度をレポート提出で評価する。成績評価の方法・基準・割合の通り。それぞれの課題を到達目標①②③④⑤⑥に関連し理解でき、説明できる。	
		事前学修	レポート課題についてその範囲を復習し、レポートを時間内に書ききれるようにする。	180分
		事後学修	授業内レポートで書いた内容を検討し、書けなかった部分、足りなかった部分を補強する。	60分

科目名	政治学 I	担当者	荒井 祐介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめて出会う政治学〔第3版〕』	北山俊哉・真淵勝・久米郁男	有斐閣	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（4号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/13	「組織された集団（1）：鉄の三角同盟」	理容所と美容所の事例を参考に、業界団体、官僚、政治家の三者間で業界の利益を擁護する同盟関係が構築されている点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、業界団体、官僚、政治家の三者がなぜ同盟関係を結ぶのか、という点を説明できる。	
		事前学修	教科書の「第1章 組織された集団」の「1 鉄の三角同盟」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、改めて、業界団体、官僚、政治家の三者間の同盟関係について説明できるようにまとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	4/20	「組織された集団（2）：少数者たちが支配する？」	業界団体、官僚、政治家の三者間による同盟関係（鉄の三角同盟）に関して、集団理論および多元的民主主義理論の視点から見た場合にどのように理解できるのか、また、フリー・ライダーの可能性が少数者の優位をもたらすのはなぜか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、業界団体、官僚、政治家の鉄の三角同盟を集団理論および多元的民主主義理論の視点からどのように把握できるのか、またフリー・ライダーの可能性が少数者優位をもたらすのはなぜかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第1章 組織された集団」の「2 少数者たちが支配する？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、鉄の三角同盟に関する集団理論および多元的民主主義理論の理解、およびフリー・ライダーの可能性と少数者優位の関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	4/27	「官と民の関係（1）：規制緩和で何が変わったか？」	電話事業の事例を見ながら、「自然独占」による市場の失敗がなぜ起きるのか、それに対して政府がどのような介入を行うのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「自然独占」による市場の失敗がなぜ起きるのか、それに対して政府がどのような介入を行うのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第2章 組織された集団」の「1 規制緩和で何が変わったか？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「自然独占」が生じる事業にはどのような特徴があり、それに対して政府の介入がどのように行われるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	5/4	「官と民の関係（2）：市場の失敗・政府の失敗」	市場の失敗をもたらす「公共財」および「情報の非対称性」とはどのような特徴をもつのか、それに対して政府はどのような介入を行うのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、市場の失敗をもたらす「公共財」および「情報の非対称性」とはどのような特徴をもつのか、それに対して政府はどのような介入を行うのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第2章 組織された集団」の「2 市場の失敗・政府の失敗」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「公共財」および「情報の非対称性」が生じる事業にはどのような特徴があり、それに対して政府の介入がどのように行われるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	5/11	「大企業と政治（1）：大企業が政治を支配している？」	財界が政治に対してどのような影響力を及ぼしているのか、その反対に政治は財界をどのようにコントロールしているのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、財界に政治に対する影響力、および政治による財界の支配がどのように行われているのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第3章 大企業と政治」の「1 大企業が政治を支配している？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、財界と政治の相互の一般的な影響力関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	「大企業と政治（2）：大企業の構造的な影響力と政治的紛争」	財界と政治の相互の影響力関係について、「製造物責任法」の制定過程や影響力の分布調査から浮かび上がるより実際的な関係性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財界と政治の相互の影響力関係が経験的な事例から見てどのようなものであるのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第3章 大企業と政治」の「2 大企業の構造的な影響力と政治的紛争」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、財界と政治の相互のより具体的な影響力関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
8	5/25	「選挙と政治（1）：政策で選挙は戦えるか」	政策投票とはどのような投票行動であり、実際に政策投票を行うことの困難さについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、政策投票とはどのような投票行動であるのか、また政策投票を行うことに伴う困難さについて説明できる。	
		事前学修	教科書の「第4章 選挙と政治」の「1 政策で選挙は戦えるか」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政策投票の特徴や実際に行うことの困難さについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
9	6/1	「選挙と政治（2）：政策に代わる手がかりは」	有権者の投票行動に関して、政策以外の決定因として候補者の個人的資質や政党がどれだけ効いているのか、および戦後の日本の政党対立がどのような軸に沿って展開されてきたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、有権者の投票行動において候補者の個人的資質や政党がどれだけの影響力を持つのか、また戦後の日本政治の対立軸がどのようなものであったのか説明できる。	
		事前学修	教科書の「第4章 選挙と政治」の「2 政策に代わる手がかりは」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、候補者や政党支持に基づく投票行動モデルにはどの程度の説明能力があるのか、また戦後の日本の政党対立はどのような軸に沿って展開されてきたのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
10	6/8	「地方分権（1）：自治体には2つの役割がある」	パスポートの発券や沖縄米軍基地用地の代理署名などの事例を踏まえて、日本における中央と地方の間での行政事務の委任関係について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本における中央と地方の間での行政事務の委任関係について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第5章 地方分権」の「1 自治体には2つの役割がある」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における機関委任事務が抱えていた長所と短所について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
11	6/15	「地方分権（2）：国と地方の相互依存」	地方自治体の権限の決め方として挙げられる「制限列举方式」と「包括授權方式」がどのような特徴を持つのか、また戦後の日本の中央地方関係ではどちらの方式が採用されどのような特徴を示していたのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方自治体の権限に関する2つの方式の長所と短所、および戦後の日本における地方自治体の権限の特徴について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第5章 地方分権」の「2 国と地方の相互依存」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、地方自治体の権限に関する「制限列举方式」と「包括授權方式」の特徴、および戦後日本の地方自治体の特徴について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
12	6/22	「マスメディアと政治（1）：マスメディアは政治を動かす？」	実際の事例においてマスメディアが政治に対してどれだけの影響力を発揮したのか、また政治的中立性に関してテレビと新聞では違いがあるのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、政治に対するマスメディアの影響力がどのようなものであり、マスメディアにおける政治的中立性の扱いの違いについて説明できる。	
		事前学修	教科書の「第6章 マスメディアと政治」の「1 マスメディアは政治を動かす？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マスメディアの政治に対する影響力がどのように発揮されたのか、また政治的中立性に関してテレビと新聞ではどのように対応しているのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	「マスメディアと政治 (2) : マスメディアは誰の 味方か？」	マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、およびその連携関係がもたらす正負の影響力について検討する。	
		この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、およびその連携関係がもたらす正負の影響力について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第6章 マスメディアと政治」の「2 マスメディアは誰の味方か？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、その連携関係がもたらす影響について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	7/6	「講義のまとめ」	教科書の第1章から第6章までをふりかえり、各章での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各章で提示された理論やモデルについて検討する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、各章で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
		事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	60分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各章で提示された理論やモデルでどのように現実の政治的問題を説明できるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	180分
15	7/13	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
		事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
		事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学 I	担当者	杉本 竜也	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治をはじめとする社会現象に対して日常的に関心を持ち、それらについて理論的に考える姿勢を意識してもらいたい。

【授業方法】
基本的に、PowerPointを用いたプレゼンテーションによる講義形式で行う。講義資料は配布する（配布方法は受講者数によって決める）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	数回程度、リアクション・ペーパーを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準 に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身につい ているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通した定期試験の解説によって、講義のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政治学 補訂版	久米郁男・川出良枝 ほか	有斐閣	2011		
備考	よりよく講義を理解するためには入手することが望ましいが、購入は義務づけない。また、他の政治学の教科書で代替できるのであれば、それを利用しても構わない。				

【オフィスアワー】
月曜日16:20-17:00。本館8階1808研究室。必ず、事前にメールでアポイントメントを取る（メールアドレス：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。なお、簡単な質疑応答であれば、授業の前後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを確認して、講義内容全体を概観する。	100分
		事後学修	ガイダンス内容を確認して、現代において政治学を学ぶ意味について考える。	140分
2	4/13	政治と経済	現代経済の中核である市場のプラス面とマイナス面を理解したうえで、それらに対する政治や政府の対応を学び、政治と経済の関係について考える。特に、「市場の失敗」が社会に与える影響やそれに対する政府の取り組みに注目して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、「市場の失敗」をキーワードとして、政治と経済の関係性について、説明することができる。	
		事前学修	教科書第2章「政治と経済」を読み、政治と経済の関係性について考える。	120分
		事後学修	講義内容や教科書（第2章）を参考として、「なぜ市場は失敗するのか」「失敗するにもかかわらず、なぜ市場は重視されるのか」「市場の失敗に対して、政治や政府は何を行うべきなのか」という問いについて考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
3	4/20	自由とは何か	ジョン・ロックからジョン・スチュアート・ミル、そしてジョン・ロールズにいたる自由主義思想について、「自由」の意味の変化に注意を払いながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自由主義の諸理論を識別することができる。	
		事前学修	教科書第3章「自由と自由主義」を読み、「自由」に関してさまざまな考えがあることを理解する。	120分
		事後学修	政治・経済・社会的背景の変化を考慮しながら、「自由」の意味が変化してきた理由について考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
4	4/27	福祉国家の役割とその意味	福祉政策が求められるようになった背景やその基礎となっている理念、福祉国家の形式、そして福祉政策・福祉国家が直面している問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、福祉国家に関する諸理論と現在直面している問題について説明することができる。	
		事前学修	第2回講義の内容を振り返りながら、教科書第4章「福祉国家」を読む。	120分
		事後学修	福祉政策が求められる理由を考えることを通して、現代の国家や政治の果たすべき役割や責任について考察し、自分なりの見解をまとめる。	120分
5	5/4	国家とは何か	前近代の国家との違いを意識しながら近代国家の特徴について理解し、それを支えるさまざまな理念について学修する。また、国家の活動に必然的に付随する権力に関する諸理論について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前近代の国家と比較しながら、近代以降の国家の特質について説明することができる。	
		事前学修	教科書第5章「国家と権力」を読み、国家の役割について考えてみる。	120分
		事後学修	教科書第5章を参考にしながら、近代国家のプラスの側面とマイナスの側面について考察し、自分なりの見解をまとめる。また、国家の「正統性」についても考える。	120分
6	5/11	公と私	政治や社会における「公」と「私」の意味について考えたうえで、市民社会のあり方やナショナリズム・民族の問題について学ぶ。また、その中で、フェミニズム研究が果たした役割についても学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治における「公（公共性）」の重要性について、「官」との違いを区別しながら、説明することができる。	
		事前学修	前回講義の内容を振り返りながら、教科書第6章「市民社会と国民国家」を読む。	120分
		事後学修	教科書第6章や講義内容を参考にしながら、現代の国家における「公（公共性）」について考えてみる。その際、「公」と民族、国家と民族の関係性についても考察を行い、自分なりの見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	国際関係を考える	主権の意味と、主権国家概念形成の過程について学ぶ。そのうえで、現代の国際関係を考える際の基本的概念について学習する。	
		この回の到達目標	主権の意味と、主権国家概念形成の過程について学ぶ。そのうえで、現代の国際関係を考える際の基本的概念について学修する。	
		事前学修	教科書第7章「国内社会と国際関係」を読み、前回講義の内容も参考にしながら、国際関係と民族の問題について考える。	120分
		事後学修	前回の講義内容もあわせて参考にしながら、近代国家が形成される過程で民族という概念が果たした役割と弊害の両方について考える。	120分
8	5/25	安全保障に、守るのか？	何を、どのように？「四人のジレンマ」や勢力均衡、民主的平和論といった安全保障に関する主な理論や概念について学んだうえで、冷戦後の国際秩序や日本の安全保障について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際政治に関する諸理論を識別することができる。	
		事前学修	教科書第8章「国際関係における安全保障」を読むとともに、近代から今日にいたる歴史の中で発生したさまざまな戦争や国際紛争を振り返る。（2時間）	120分
		事後学修	「現代の国家が取り組むべき安全保障において、守られるべきものは何なのか」という問いを意識しながら、教科書第8章を読み返し、講義内容を再確認する。（2時間）	120分
9	6/1	グローバリゼーションがもたらしたもの	グローバリゼーションのプラスとマイナスについて、特にそれによってもたらされた格差問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グローバリゼーションの功罪双方について説明することができる。	
		事前学修	教科書第9章「国際関係における富の配分」を読んだうえで、インターネットなどを使って「グローバリゼーション」について調べる。	120分
		事後学修	教科書第9章や講義内容を参考として、経済学的視点ではなく、政治学的視点で、「格差は仕方ないことなのか、それとも解消されなければいけないことなのか」について考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
10	6/8	立法部（議会）の役割と機能	アメリカとイギリスの議会制度の比較を通して、議会の制度と特徴について学ぶ。さらに、日本の議会（国会）の特徴と問題点、そして議会に不可欠な政党の意味と役割について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界国家の議会政治と日本の議会政治を対照させて、それぞれの特質について説明することができる。	
		事前学修	教科書第10章「議会」を読み、世界各国の議会制度の違いについて概観する。	120分
		事後学修	日本の議会政治（国会）に対する一般の評価は決して高くないが、それは議会政治の本質的特徴を原因としたものだろうか、それとも日本の国会特有の問題なのだろうか。教科書第10章の内容や講義内容を参考にし、考察する。	120分
11	6/15	日本の内閣制度	戦前の内閣制度を理解したうえで、それと比較しながら現在の内閣制度の特徴について学ぶ。また、日本やイギリスのような議院内閣制とアメリカのような大統領制における執政部の性格の違いを学習し、それぞれの長所と短所について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史的変遷や国際比較等も意識しながら、日本の内閣制度の特徴について説明することができる。	
		事前学修	教科書第11章「執政部」を読むとともに、インターネットなどを利用して日本の内閣と国会の関係をうかがえる記事を探してみる。	120分
		事後学修	日本の内閣制度の変遷、とりわけ小選挙区制導入以降の変化に注目しながら、首相や内閣のリーダーシップのあり方について、自分なりの見解をまとめる。	120分
12	6/22	官僚制	マックス・ウェーバーによる伝統的な官僚制定義を学んだうえで、官僚制が本質的に有している問題点を把握し、それへの対策としての新たな官僚制のあり方（NPMなど）について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代官僚制の有する優位点と問題点の双方について、比較考察しながら、説明することができる。	
		事前学修	教科書第12章「官僚制」を読み、官僚制の利点と欠点について把握する。	120分
		事後学修	教科書第12章や講義内容を再確認して、現在の日本においてしばしば官僚制が批判されている理由について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	日本の地方自治	「中央と地方」をキーワードとして、日本の地方分権について学修する。その際、とりわけ2000年頃より進められてきた地方分権改革の内容とその現在について取り上げ、中央と地方の不均衡や格差の問題について詳しく学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治が直面している問題点と地方分権改革の現実について、説明することができる。	
		事前学修	教科書第13章「中央地方関係」を読むとともに、報道などを検索して、現在地方が抱えている諸問題を洗い出す。	120分
		事後学修	教科書第13章や講義内容を参考として、中央と地方の間に生じた不均衡の理由について考察する。	120分
14	7/6	グローバル・ガバナンス	ネオ・リアリズムや覇権安定論といったグローバル・ガバナンスに関する基本的な理論を学び、さらに環境問題に代表される世界規模の諸問題に世界や各国がどのように対処していくべきなのか考えていく。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、グローバル・ガバナンスに関する諸理論について理解し、世界的問題に対する自分なりの考えを説明することができる。	
		事前学修	教科書第14章「国際制度」を読み、国内におけるガバナンスと世界規模でのガバナンスの違いについて考える。	120分
		事後学修	第9回講義の内容もあわせて参考として、国際社会の安定に必要な制度的枠組や各国の取り組みについて考える。	120分
15	7/13	期末総括	これまでの講義内容を総括的に再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義内容を有機的に総括し、政治学を学ぶ意義について論述することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認する。また、疑問点があれば、それを明らかにしておく。	120分
		事後学修	初回からの講義内容を復習し、期末試験に向けて準備する。	120分

科目名	政治学 I	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。また、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわかまえることを求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。						1						
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。						1	1					
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。						1	1	1				
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。						1	1	1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デモクラシーの政治学[増補版]	杉本 稔	北樹出版	2011	教科書	
政治学〔第2版〕	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、授業内で適宜紹介する。（例：吉野孝ほか編（2015）『論点日本の政治』東京法令出版など。）				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00 研究室（9号館5階）（事前にメールでアポイントメントをとること）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	政治とは何か	政治学について理解するために、政治、政治学とは何かについて学修する。また、政治学について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講義で取り上げる政治について説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書の34～36頁を読み、政治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
2	4/17	政治学とは何か	今後学んでいく政治学についてよりよく理解するために、社会科学における位置づけや特質等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政治学の社会科学における位置づけや特質等について概説できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、政治学について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治学について自分の考えを述べられるようになる。	120分
3	4/24	伝統的政治学と現代政治学の確立	現代政治学を学ぶための基礎的な知識を養うために、伝統的政治学や現代政治学の確立について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、伝統的政治学や現代政治学の確立について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、伝統的政治学や現代政治学の確立について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、伝統的政治学や現代政治学の確立について自分の考えを述べられるようになる。	120分
4	5/1	現代政治学の展開	現代政治学を学ぶために、基礎的な知識として現代政治学の展開について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、現代政治学の展開について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、現代政治学の展開について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、現代政治学の展開について自分の考えを述べられるようになる。	120分
5	5/8	政治権力	政治学に関してよりよく理解するために、基礎的な概念の一つである政治権力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、政治権力について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、政治権力について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治権力について自分の考えを述べられるようになる。	120分
6	5/15	政治権力	政治学に関してよりよく理解するために、基礎的な概念の一つである政治権力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、政治権力について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、政治権力について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治権力について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	支配、権力構造	政治学に関してよりよく理解するために、政治権力の行使に関係する支配や権力構造について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、支配や権力構造について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、支配や権力構造について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、支配や権力構造について自分の考えを述べられるようになる。	120分
8	5/29	リーダーシップ	政治学に関してよりよく理解するために、政治学における基礎的な概念の一つであるリーダーシップについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーダーシップについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、リーダーシップについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、リーダーシップについて自分の考えを述べられるようになる。	120分
9	6/5	市民社会の誕生	政治における国家の役割や政治の発展と社会状況等の変化について理解するために、市民社会の誕生について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、市民社会の誕生について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、市民社会の誕生について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、市民社会の誕生について自分の考えを述べられるようになる。	120分
10	6/12	市民社会の政治	現代の政治状況について理解するために、市民社会の政治とその終焉について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、市民社会の政治とその終焉について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、市民社会の政治とその終焉について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、市民社会の政治とその終焉について自分の考えを述べられるようになる。	120分
11	6/19	大衆社会の成立	現代の政治状況について理解するために、その基礎となる大衆社会の成立とその制度的特徴について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大衆社会の成立とその制度的特徴について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、大衆社会の成立とその制度的特徴について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、大衆社会の成立とその制度的特徴について自分の考えを述べられるようになる。	120分
12	6/26	大衆社会の構造や心理	現代の政治状況について理解するために、現代政治社会の基礎となる大衆社会の構造や心理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、大衆社会の構造や心理について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、大衆社会の構造や心理について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、大衆社会の構造や心理について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	議院内閣制	政治制度について理解するために、権力分立や議院内閣制の生成と展開について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、権力分立や議院内閣制の生成と展開について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、権力分立や議院内閣制の生成と展開について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、権力分立や議院内閣制の生成と展開について自分の考えを述べられるようになる。	120分
14	7/10	イギリスの議院内閣制	わが国の政治制度について理解するために、議院内閣制の代表であるイギリスの制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、議院内閣制の代表であるイギリスの制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、イギリスの議院内閣制の特徴について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、イギリスの議院内閣制について自分の考えを述べられるようになる。	120分
15	7/17	これまでの講義の総括	現代政治の制度や状況等についてよりよく理解するために、これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代の政治の基礎となる概念や政治状況、政治制度を考慮し、政治のあり方について自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、政治学の基礎的知識について考察する。	120分
		事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	政治学 I	担当者	松元 雅和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部木 4/16	政治とは何か	政治を「集合的意思決定」として理解しつつ、その特徴を権力と公共性の立場から概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	第一部木 4/23	公共の利益	政治において用いられる公共の利益概念を類型化し、それぞれの特徴を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	アリストテレスの政体論について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	第一部木 4/30	自由主義	自由主義の思想的特徴を概観したうえで、社会契約・市場経済の論理を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	個人主義について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	第一部木 5/7	民主主義	民主主義の思想的特徴を概観したうえで、有権者の合理性やポピュリズム現象について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	コンドルセの陪審定理について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	第一部木 5/14	権力分立	権力機構の分割という考え方を、権力論および三権分立論の再検討とともに概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	絶対王政について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	議会	近代民主主義が採用する代議制の特徴を代表観の複数の類型とともに説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	古代ギリシアの政治体制について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	第一部木 5/28	執政部	議院内閣制と大統領制の制度的違い、および行政国家化のもとでの執政権について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	議院内閣制について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	第一部木 6/4	官僚	行政府の主要アクターである官僚（制）の機能を、歴史的経緯も交えつつ概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	日本の省庁について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	第一部木 6/11	選挙	様々な選挙制度がもつメリット・デメリットを確認し、有権者の投票行動の分析モデルを提示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	日本の選挙制度について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	第一部木 6/18	政党	現在の議会政治において主要な役割を果たす政党を組織化の論理の観点から論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	最近の総選挙結果について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	第一部木 6/25	団体	団体政治の性質とその是非を、多元主義およびコーポラティズムの区別とともに検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	オイルショックについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	中央地方関係	権限配分および資源配分の観点から、現代日本の中央地方関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	地方財政について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	第一部木 7/9	国際関係	主権国家体制の成立を歴史的に跡づけながら、グローバル化時代の国際政治現象を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	主権国家体制について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	第一部木 7/16	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
		事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
		事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政治学 I	担当者	三澤 真明	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『デモクラシーの政治学（増補版）』	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、火曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/14	政治と政治「学」	政治とは何かについて、特にD. イーストンの定義をを説明するとともに、社会科学の一分野としてのな政治「学」とは何かを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治とは何か、学問とは何かを説明することができる。	
		事前学修	新聞、テレビ、インターネットなど様々な媒体を用いて、どのような問題が政治として取り上げられているかを確認しておく。	120分
		事後学修	新聞、テレビ、インターネットなど様々な媒体を用いて、自身が関心をもった政治問題について、どのような意見対立があり、どのような決定が下されようとしているのかを調べる。	120分
3	4/21	政治学の展開	アリストテレスやマキャベリの研究を通じて、政治学の分析対象の変遷や彼らの研究の方法論がどのようなものであったのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治学の分析対象の変遷を説明することができる。	
		事前学修	アリストテレスやマキャベリが生きてきた時代背景を知るために、古代ギリシアや中世ヨーロッパの歴史を確認しておく。	60分
		事後学修	アリストテレスやマキャベリが執筆した『政治学』や『君主論』のうち、いずれかを実際に手に取って読んでみる。	180分
4	4/28	科学としての政治学	第二次世界大戦以降、伝統的政治学の研究対象や方法論が大きく変化してきたことを取り上げ、行動論革命や脱行動論革命が政治学に対してどのようなインパクトを与えたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行動論革命と脱行動論革命とは何かを説明することができる。	
		事前学修	第2回の授業内容を基にして、学問とは何かを確認し、他分野と政治学の違いを考えてみる。	90分
		事後学修	授業内容を確認した上で、政治学が社会に対して貢献できることは何かを考えてみる。	150分
5	5/5	政治システム論	D. イーストンの政治システム論とは何かを検討することで、政治学上、政治システム論がどのようなインプリケーションが持っていたのかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の構成要素や意義を説明することができる。	
		事前学修	第4回の授業内容を基にして、行動論革命の特徴を整理しておく。	90分
		事後学修	D. イーストンの政治システム論が行動論革命の中で、どのように位置づけられるのかをまとめる。	150分
6	5/12	政治権力	実体的権力概念や関係的権力概念を検討することで、権力行使には様々な様態があり、支配の正統性と密接な関係にあることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2つの権力概念、支配の三類型を説明することができる	
		事前学修	いわゆる「権力者」と呼ばれる人物を一人取り上げて、なぜそう呼ばれるのかを調べておく。	120分
		事後学修	各国の指導者と国民の関係について、支配の三類型に照らして分析し違いをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	リーダーシップ論	指導者が支持を調達を手段として、どのようなリーダーシップを発揮しているのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーダーシップの諸類型を説明することができる。	
		事前学修	歴史上の著名なリーダーがなぜ評価されているのかをまとめておく。	120分
		事後学修	歴史上の著名なリーダーをリーダーシップの諸類型に基づいて分類してみる。	120分
8	5/26	市民革命と市民社会	市民革命を経て絶対王政から政治体制が変動したことによって、一部の特権階級から市民層が政治の担い手となっていったことを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治学における「市民」概念を説明することができる。	
		事前学修	イギリスにおけるピューリタン革命と名誉革命、フランスにおけるフランス革命の流れを概観しておく。	120分
		事後学修	イギリス、フランスにおける市民革命とドイツ三月革命の違いを調べる。	120分
9	6/2	市民社会と大衆社会	市民社会の成立によって、政治体制が大きく変動したものの民主主義を実現する上で課題が残されていたことを説明する。その背景に、市民社会から大衆社会への移行があったことを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市民社会に残された課題と大衆の特質を説明することができる。	
		事前学修	各国の参政権について、普通選挙の実現がいつなされたのかをまとめておく。	120分
		事後学修	大衆社会の問題点を検討してみる。	120分
10	6/9	民主主義論①	多義的な意味をもつ言葉として使われる「民主主義」の定義を説明するとともに、シュンペーターやダールの理論を基にして、民主主義と非民主主義の違いを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代の各国の政治体制が民主主義であるか否かを説明することができる。	
		事前学修	日本の政治や報道などの中で、「民主主義」がどのような使われ方をしているのかをまとめておく。	120分
		事後学修	Freedom HouseやPolity IVなどを使用し、世界各国の民主主義について考えてみる。	120分
11	6/16	民主主義論②	民主主義がバリエーションに富んだものであることを理解するために、A. レイプハルトの議論を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、多極共存型民主主義と多数代表型民主主義とは何かを説明できる。	
		事前学修	イギリスとスイスの政治システムを調べ、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	レイプハルトの理論に基づく日本の民主主義は、どのように位置付けられるのかを検討する。	120分
12	6/23	執政制度①	議院内閣制、大統領制、半大統領制の制度的違いを説明するとともに、各執政制度が政治的安定性に与える影響を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議院内閣制と大統領制を区別する解任と選出のルールを説明することができる。	
		事前学修	首相がいる国、大統領がいる国、両者が併存する国を調べ、整理しておく。	120分
		事後学修	日本において、望ましい執政制度は何かを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	執政制度②	議院内閣制や大統領制は、政権形態や政党の凝集性、大統領に与えられた権限によって、様々なバリエーションを有していることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大統領制化の理論を説明することができる。	
		事前学修	日本とイギリスの政党について調べ、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	日本において自民党と民主党が政権を担当した時期を、政党の凝集性の観点から比較してみる。	120分
14	7/7	官僚制	主権国家の成立以降、整備されてきた官僚制のメリットとデメリットについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、官僚制のメリットとデメリットを説明することができる。	
		事前学修	プリンシパル・エージェント理論を調べ、その特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	日本において、国民が官僚を統制できているのかを検討してみる。	120分
15	7/14	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を検討する際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
		事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
		事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめて出会う政治学〔第3版〕』	北山俊哉・真淵勝・久米郁男	有斐閣	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（4号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/21	「国会（1）：ねじれ国会」	議院内閣制と大統領制の制度的相違を踏まえて、日本の国会で与党に対して野党がどのような抵抗を取ってきたのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、議院内閣制と大統領制の制度的相違、および日本の国会において野党が与党に対してどのような抵抗を取ってきたのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第7章 国会」の「1 ねじれ国会」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制と大統領制の制度的相違、および日本の国会における野党の抵抗手段について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	9/28	「国会（2）：国会の影響力」	自民党一党支配体制の時代の内閣提出法案の成立率を参照しながら、国会における野党の抵抗がなぜ可能になってきたのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日本の国会において野党の抵抗がなぜ可能であるのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第7章 国会」の「2 国会の影響力」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国会における野党の抵抗がなぜ可能なのか、そして与党の対抗手段である強行採決にはどのような制約があるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかに	120分
4	10/5	「内閣と総理大臣（1）：総理大臣と大統領」	議院内閣制下の首相と大統領制下の大統領は選ばれ方にどのような違いがあり、それぞれの政治的役割はどのようなものであるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、議院内閣制と大統領制における執政部の長の選出方法および政治的役割の相違を説明できる。	
		事前学修	教科書の「第8章 内閣と総理大臣」の「1 総理大臣と大統領」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制下の首相と大統領制下の大統領の選ばれ方、および政治的役割の相違について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかに	120分
5	10/12	「内閣と総理大臣（2）：総理大臣の影響力」	議院内閣制下の首相にはどのような影響力資源があるのか、そしてその影響力資源をいかに活用できるのか、あるいはできないのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、議院内閣制下の首相の影響力資源にはどのようなものがあり、それらの資源をどのような場合に活用できるのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第8章 内閣と総理大臣」の「2 総理大臣の影響力」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制下の首相がどのような影響力資源を持ち、それらの影響力資源をいかに活用できるのか、あるいは活用できないとればなぜかという点について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかに	120分
6	10/19	「官僚（1）：大臣と官僚のバトル」	日本における大臣と官僚の間にはどのような関係性が見られるのか、その関係性を規定する要因には何があるのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本における大臣と官僚の関係性がどのようなものであり、その関係性を規定する要因について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第9章 官僚」の「1 大臣と官僚のバトル」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における大臣と官僚の関係性を規定する要因にはどのようなものがあるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかに	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	「官僚（2）：キャリア官僚のキャリア」	キャリア官僚と呼ばれる官僚たちはどのようなキャリアパスを経ているのか、キャリア官僚の長所と短所にはどのようなものがあるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、キャリア官僚のキャリアパスがどのようなものであるのか、またキャリア官僚の長所と短所にはどのようなものがあるのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第9章 官僚」の「2 キャリア官僚のキャリア」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、キャリア官僚のキャリアパスにはどのような特徴があるのか、またその弊害にはどのようなものがあるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
8	11/9	「冷戦の終わってからテロとの戦いへ（1）：戦後の国際環境」	第二次世界大戦後の国際社会がどのような基本構造をもつものであったのか、そしてその基本構造はそれぞれどのような特徴をもつものであったのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、第二次世界大戦後の国際社会の基本構造について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第10章 冷戦の終わってからテロとの戦いへ」の「1 戦後の国際環境」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、第二次世界大戦後の国際社会における基本構造である「冷戦構造」と「自由貿易体制」がどのように構築され、どのような特徴をもっていたのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
9	11/16	「冷戦の終わってからテロとの戦いへ（2）：日本の対外政策」	第二次世界大戦後の日本の対外政策がどのように形成され定着していったのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、第二次世界大戦後の日本の対外政策の形成と定着の過程について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第10章 冷戦の終わってからテロとの戦いへ」の「2 日本の対外政策」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、第二次世界大戦後の日本の対外政策がどのように形成・定着していったのか、またその特徴はどのようなものであったのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
10	11/23	「経済交渉（1）：貿易は世界を幸せにするか？」	国際貿易の基礎にある「比較優位」の考え方、および対外政策と国内政治の連関について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「比較優位」の考え方、および対外政策と国内政治の連関について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第11章 経済交渉」の「1 貿易は世界を幸せにするか？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「比較優位」とはどのような考え方なのか、そして対外政策に国内政治がどのような影響を及ぼしているのかという点について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
11	11/30	「経済交渉（2）：経済交渉の行われ方」	日本とアメリカの経済交渉において、アメリカが日本に圧力をかけるアプローチにはどのようなものがあり、どのような特徴をもつのか、実際にそれらのアプローチがとられた経済交渉にはどのような事例があるのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、アメリカが日本との経済交渉において圧力をかけるために用いるアプローチにはどのようなものがあるのか実例を踏まえて説明できる。	
		事前学修	教科書の「第11章 経済交渉」の「2 経済交渉の行われ方」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「構造協議アプローチ」と「管理貿易アプローチ」の特徴について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12/7	「国境を越える政治（1）：ビリヤード・ゲームのような国際政治」	市場の失敗の一つである「外部不経済」の特徴がどのようなものであるのか、およびその典型的事例である地球環境問題をめぐって主権国家がどのような立場に立っているのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「外部不経済」とはどのようなものであるのか、およびその典型的事例である地球環境問題をめぐる主権国家の立場について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第12章 国境を越える政治」の「1 ビリヤード・ゲームのような国際政治」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「外部不経済」の特徴、および地球環境問題をめぐる国家の対応について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
13	12/14	「国境を越える政治（2）：裸になる国家」	国際社会の相互依存関係がどれだけ深化しているのか、またトランスナショナルな国際交流が国際政治にどのような影響をもたらしているのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際社会の相互依存の深化、およびトランスナショナルな国際交流が国際政治に及ぼす影響について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第12章 国境を越える政治」の「2 裸になる国家」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国際的な相互依存関係の深化、およびトランスナショナルな国際交流の国政政治に対する影響について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
14	12/21	「講義のまとめ」	教科書の第7章から第12章までをふりかえり、各章での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各章で提示された理論やモデルについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各章で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
		事前学修	教科書の第7章から第12章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	60分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各章で提示された理論やモデルでどのように現実の政治的問題を説明できるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	180分
15	1/18	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
		事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
		事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	杉本 竜也	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
同一講師による「政治学I」を履修していることを求める。政治をはじめとする社会現象に対して日常的に関心を持ち、それらについて理論的に考える姿勢を意識してもらいたい。

【授業方法】
基本的に、PowerPointを用いたプレゼンテーションによる講義形式で行う。講義資料は配布する（配布方法は受講者数によって決める）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通した定期試験の解説によって、講義のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政治学 補訂版	久米郁男・川出良枝 ほか	有斐閣	2011		
備考	よりよく講義を理解するためには入手することが望ましいが、購入は義務づけない。他の政治学の教科書で代替できるのであれば、それを利用しても構わない。				

【オフィスアワー】
月曜日16:20-17:00。本館8階1808研究室。必ず、事前にメールでアポイントメントを取る（メールアドレス：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。なお、簡単な質疑応答であれば、授業の前後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	前期の「政治学I」の講義内容および本講義の内容全体を概観する。	100分
		事後学修	ガイダンス内容を確認して、現代において政治学を学ぶ意味を再確認する。	140分
2	9/21	国内政治における政策過程	政策過程を学ぶうえで必要な基本的なモデルや分析的な枠組について学ぶ。具体的には、政治における意志決定プロセスのほか、政策課題の設定やそれへのメディアの影響、そしてこれらに関する諸研究について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治過程論の基本的な理論について説明することができる。	
		事前学修	教科書第15章「政策過程」を読んで、特定の政策が具体化していくプロセスをイメージしておく。（2時間）	120分
		事後学修	講義内容や教科書（第15章）などを参考として、講義で取り上げた諸モデル・諸理論について整理する。（2時間）	120分
3	9/28	対外政策における政策過程	対外政策や国際間の意志決定に関する基本的なモデルや分析的な枠組について学ぶ。また、国内の社会や利害関係が対外政策に与える影響についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国内政治における政策過程と比較しながら、対外政策における政策決定過程について説明することができる。	
		事前学修	教科書第16章「対外政策の形成」を読む。そして、前回講義で取り上げた国内政治における政策過程と対外政策における政策過程の違いを考える。	120分
		事後学修	前回講義の内容を再確認して、あらためて国内的な政策と対外的な政策の決定過程の違いについて考察する。	120分
4	10/5	国家と制度	国家において制度が持つ意味について、歴史的制度論と合理的選択制度論という2つの制度論から考える。また、合理的選択制度論の学習を通して、実証的で論理的に政治現象を分析する方法を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史的制度論と合理的選択制度論について、正確に説明することができる。	
		事前学修	教科書第17章「制度と政策」を読み、国家という存在が政治において果たしている役割や政治における制度の意味について考える。	120分
		事後学修	講義内容や教科書第17章を参考として、今回の講義で取り上げた諸理論、特に合理的選択制度論について十分に理解する。	120分
5	10/12	デモクラシー	古代ギリシアのポリスから近代の代表制デモクラシー、そしてポリアーキーのような現代デモクラシーへといたるデモクラシーの理論的変遷を学ぶ。その他、丸山眞男に代表される日本のデモクラシー論についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、デモクラシーに対する評価の変遷と、市民の主体性の重要性について説明することができる。	
		事前学修	教科書第18章「デモクラシー」を読み、デモクラシーの歴史的変遷や地域的な違いについて簡単に把握しておく。	120分
		事後学修	講義内容や教科書第18章を参考として、デモクラシーに対する評価が時代によって変化してきた理由について考え、デモクラシーに対する自分なりの考えをまとめる。	120分
6	10/19	社会契約説とは何か	西洋近代に理論化され、今日のリベラル・デモクラシーの理論的支柱にもなっている社会契約説に関して、代表的な理論家（ホッブズ、ロック、ルソー）の思想を中心に、その本質と意義、後世の政治への影響に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会契約説の特質を理解し、個々の論者の政治思想について説明することができる。	
		事前学修	前回講義の内容を振り返り、デモクラシーの歴史と主要な理論について復習する。	120分
		事後学修	講義内容を参考として、政治における「個人」および「作為（人為）」の意味について考え、自分なりの見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	フェミニズム	近代政治思想に関してフェミニズムの提起や告発について学び、それらの問題に対してフェミニズムがどのような批判や対案を提示してきたのか、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フェミニズムの諸理論を理解し、近代以降の政治思想に内在している問題点について指摘することができる。	
		事前学修	第5回および第6回講義の内容を再確認し、西洋の政治学において最も重視されてきた概念やそこでの大前提について考えてみる。	120分
		事後学修	講義内容を参考として、フェミニズムによる諸批判を理解したうえで、近代政治思想が本質的に抱えている問題点を考えてまとめる。	120分
8	11/9	投票行動	大衆デモクラシーの成立に伴う市民像の変化が政治学に与えた影響について学修したうえで、いわゆる無党派層の投票行動を中心に近年の選挙で見られる投票行動について考える。また、その中で、行動科学的政治学が成立した背景と意味についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、投票行動が選挙結果に及ぼす影響について、理論的に説明することができる。	
		事前学修	教科書第19章「投票行動」を読んだうえで、インターネットなどを利用して、近年行われた日本の国政選挙のひとつを取り上げて、投票率などに現れた人々の政治行動について調べる。	120分
		事後学修	なぜ特性の政党を継続的に支持しない無党派層と呼ばれる人々が現れることになったのか、講義の内容を元にして自分なりの考えをまとめる。	120分
9	11/16	政治における心理	人々の政治に対する意識といった非制度的要素（政治文化）が政治に与える影響について学修する。また、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）が政治の活性化に与える影響について考える。	
		この回の到達目標	人々の政治に対する意識といった非制度的要素（政治文化）が政治に与える影響について学修する。また、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）が政治の活性化に与える影響について考える。	
		事前学修	前回講義の内容を踏まえながら、教科書第20章「政治の心理」を概観する。	120分
		事後学修	自分が投票などの政治行動をとる場合、何に基づいて、もしくは何に影響されているのか、自らの実態に沿って考えをまとめる。	120分
10	11/23	ポピュリズム	近年、問題視されているポピュリズムと呼ばれる現象の意味と原因、その影響について学ぶ。特に、日本において発生したポピュリズムと呼ばれている政治現象を考察するほか、「民意」の重視とポピュリズムの違いについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ポピュリズムという概念について説明することができる。	
		事前学修	近年、欧米で見られている政治現象のうち、「ポピュリズム」と呼ばれているものがあれば抽出し、インターネットなどを利用してその概要を調べる。	120分
		事後学修	講義内容を参考にして、ポピュリズムとデモクラシーの違いは何なのか、自分なりの見解をまとめる。	120分
11	11/30	世論とメディア	世論という言葉の本来の意味を理解したうえで、世論に対するメディアの影響や効果（フレーミング効果など）、そして市民とメディアの関係について考察する。また、世論に対するSNSや各種ネットメディアの効果についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メディアが政治的事象に与える影響について、自分なりの考えを説明することができる。	
		事前学修	教科書第21章「世論とメディア」を読み、自分が日常的に接しているメディアについて考える。	120分
		事後学修	現在、主に接しているメディア（テレビ・新聞・SNS・ニュースアプリなど）からどのような影響を受けているのか、特に政治や経済、社会に関する事柄に対する自分の意見の形成にそのメディアがどのように影響しているのか考え、まとめる。	120分
12	12/7	選挙と政治参加	デモクラシーにおける選挙の役割を考え、そのうえで小選挙区制・中選挙区制・比例代表制といった選挙制度の仕組みについて学修する。それ以外に、住民投票やデモといった選挙以外での政治参加について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、長所と短所の双方を認識した上で、各選挙制度の特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書第22章「選挙と政治参加」を読み、各種選挙制度の概要を把握する。	120分
		事後学修	各種選挙制度を比較し、それぞれののプラスの要素とマイナスの要素についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	政治における利益団体	政治的意志決定に対する利益団体・圧力団体の影響、特に日本におけるこれらの団体の影響について学修する。また、多元主義やコーポラティズムといった利益政治の各種パターンについても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治過程において利益団体が果たす役割とその問題点について、説明することができる。	
		事前学修	教科書第23章「利益団体と政治」を読んだうえで、政治（政治家・政府）と利益団体をはじめとする特定の個人・団体との関係でその不適切性が問題視された、近年の事例をピックアップする。（2時間）	120分
		事後学修	講義内容や教科書（教科書第23章）を参考にして、デモクラシーにおける利益団体の利益表出機能がもたらす功罪についてまとめる。（2時間）	120分
14	12/21	政党	現代政治・デモクラシーにおいて政党が担っている機能のほか、政党システムやそれに関する各国の状況、デュヴェルジェの法則といった政党に関する諸理論について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党に関する諸理論について説明することができる。	
		事前学修	教科書第24章「政党」を読み、政党に関する諸概念やさまざまな政党システムについて概観する。	120分
		事後学修	選挙制度が政党や政党システムに与える影響（デュヴェルジェの法則）について確認したうえで、日本の政党システムについてまとめる。（2時間）	120分
15	1/18	期末総括	これまでの講義内容を総括的に再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義内容を有機的に総括し、政治学を学ぶ意義について論述することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認する。また、疑問点があれば、それを明らかにしておく。	120分
		事後学修	初回からの講義内容を復習し、期末試験に向けて準備する。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。また、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわかまえることを求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デモクラシーの政治学[増補版]	杉本 稔	北樹出版	2011	教科書	
政治学〔第2版〕	吉野 篤編	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、授業内で適宜紹介する。（例：吉野孝ほか編（2015）『論点日本の政治』東京法令出版など。）				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00 研究室（9号館5階）（事前にメールでアポイントメントをとること）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	政治過程	政治学について理解するために、政治過程について学修する。また、政治学について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実際的かつ動態的に政治について考えるために、政治過程について理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書の147～148頁を読み、政治過程について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治過程について自分の考えを述べられるようになる。	120分
2	9/25	選挙	政治過程について理解するために、選挙制度や選挙とデモクラシーの関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選挙制度や選挙とデモクラシーの関係について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、選挙とデモクラシーの関係や選挙制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、選挙とデモクラシーの関係や選挙制度について自分の考えを述べられるようになる。	120分
3	10/2	投票行動	政治現象を理解するために、投票行動について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、投票行動について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、投票行動について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、投票行動について自分の考えを述べられるようになる。	120分
4	10/9	政党	政治現象を理解するために、政党の成立や定義、機能について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党の成立や定義、機能について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、政党の成立や定義、機能について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政党の成立や定義、機能について自分の考えを述べられるようになる。	120分
5	10/16	政党と議会	政治過程を動態的に理解するために、政党システムに関する研究や野党について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政党システムに関する研究や野党について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、政党システムに関する研究や野党について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政党システムに関する研究や野党について自分の考えを述べられるようになる。	120分
6	10/23	官僚制	政治過程を理解するために、官僚制について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、官僚制について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、官僚制について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、官僚制について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	圧力団体	政治過程を理解するために、圧力団体について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、圧力団体について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、圧力団体について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、圧力団体について自分の考えを述べられるようになる。	120分
8	11/6	マスメディア	政治過程を理解するために、マスメディアについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マスメディアについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、マスメディアについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、マスメディアについて自分の考えを述べられるようになる。	120分
9	11/13	政策過程	実際の政治過程を理解するために、政策過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政策過程について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に提示する文献を読み、政策過程について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、政策過程について自分の考えを述べられるようになる。	120分
10	11/20	国際政治	政治過程についてより理解するために、一国の政治過程にも影響を与える国際政治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際政治について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に提示する文献を読み、国際政治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、国際政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
11	11/27	地方自治	実際に起こる政治現象を理解するために、地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に提示する文献を読み、地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
12	12/4	日本の政治	政治上の諸問題を理解するために、日本の政治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の政治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、日本の政治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本の政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	日本の行政	政治上の諸問題を理解するために、日本の行政について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の行政について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に提示する文献を読み、日本の行政について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、日本の行政について自分の考えを述べられるようになる。	120分
14	12/18	日本の地方自治	政治上の諸問題を理解するために、日本の地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、日本の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本の地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
15	12/25	これまでの講義の総括	これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治過程におけるアクター等について、より広範囲な視野から、そして詳細な分析の視点から理解し、政治のあり方について自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	初回から学修してきた教科書等の該当ページや授業ノート等を見直し、政治学の基礎的知識について考察する。	120分
		事後学修	これまで配布したレジュメや教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準 に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身につい ているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部木 9/24	近代政治原理	自由主義・立憲主義・民主主義がどのように戦後憲法に反映されているかを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	第一部木 10/1	近代政治原理前史	近代市民革命の背景として、中世から近世のヨーロッパ政治社会を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	中世・近世について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	第一部木 10/8	自由主義Ⅰ：個人の発見と政府の権威	ホッブズの社会契約説を17世紀前半のイギリスの歴史状況とともに紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	清教徒革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	第一部木 10/15	自由主義Ⅱ：市民的自由と経済的自由	ロックの社会契約説を17世紀後半のイギリスの歴史状況とともに紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	名誉革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	第一部木 10/22	立憲主義Ⅰ：自然法の観念	アメリカ独立革命の政治思想的特徴を自然法の観念から概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	アメリカ独立革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	立憲主義Ⅱ：権力分立の思想	アメリカ合衆国の建国と憲法制定の理念として、権力分立の概念を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	三権分立について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	第一部木 11/5	民主主義Ⅰ：身分制議会から国民議会へ	フランス革命において目指された人民主権の実際を、直接／間接民主主義の区別から分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	フランス革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	第一部木 11/12	民主主義Ⅱ：ファシズムの経験	参政権・社会権の拡大に伴う民主主義の拡大と、それがもたらした正負の結果を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	第一部木 11/19	戦前日本Ⅰ：明治維新から明治憲法まで	日本の近代化の特徴と、ヨーロッパの近代化との異同を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	自由民権運動について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	第一部木 12/3	戦前日本Ⅱ：議会主義の展開と挫折	大正デモクラシーを経て軍国主義に向かう戦前日本の経緯を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	大正デモクラシーについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	第一部木 12/10	戦後日本Ⅰ：近代主義と戦後憲法	戦後憲法の政治思想的特徴と、丸山眞男ら「近代主義」者の思想活動を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	日本国憲法について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	戦後日本Ⅱ：市民運動の時代	反基地闘争、安保闘争、学生運動に至る直接政治行動の時代とその趨勢を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	高度経済成長期について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	第一部木 12/24	「政治」についてどのように「学」ぶか	政治現象について分析するツールとしての政治学の多様な手法を、事例とともに概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	2016年米国大統領選挙について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	第一部木 1/14	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
		事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
		事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『デモクラシーの政治学（増補版）』	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、火曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/22	政党	「民主主義の生命線」といわれている政党の定義や機能を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党の定義や機能を説明することができる。	
		事前学修	現在の日本には、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
		事後学修	授業で学んだ政党の機能について、現実の政党がその機能を果たしているかを検討してみる。	150分
3	9/29	政党組織と政党システム	政党内部を分析対象とする政党組織と政党間の関係を分析対象とする政党システムの類型について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党組織と政党システムの類型を説明することができる。	
		事前学修	第二次世界大戦から現在に至るまでの日本の政党数や各政党の支持基盤をまとめておく。	120分
		事後学修	現在の日本の政党システムや各政党組織は、理論的にどのように位置づけられるかを検討してみる。	120分
4	10/6	政党システム形成の要因	政党システムを規定する要因として、選挙制度、社会構造、有権者の選好それぞれについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党システム形成の要因を説明することができる。	
		事前学修	日本がどのような選挙制度を採用しているかをまとめておく。	90分
		事後学修	現在の日本の政党システムが上記の要因によって説明することができるかを検討してみる。	150分
5	10/13	イギリスの政党政治	典型的な二大政党制の国と言われていたイギリスの政党システムの実態と保守党、労働党の政党組織の変化を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、イギリスは二大政党制の国ではないことを説明することができる。	
		事前学修	イギリスにおいて、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
		事後学修	1950年代以降の二大政党の得票率、議席率を調べてみる。	150分
6	10/20	ドイツの政党政治	穏健な多党制の国と言われてきたドイツの政党システムを、キリスト教民主・社会同盟、社民党、ドイツのための選択、左派党に着目して検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツの政党システムの変化について説明することができる。	
		事前学修	ドイツにおいて、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
		事後学修	1990年代以降、ドイツの政権に参画する政党のバリエーションが増加していることを確認してみる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	日本の政党政治	1955年から1993年にかけて続いた「55年体制」の下で政党システムと自民党長期政権の要因を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、55年体制とは何かを説明することができる。	
		事前学修	第二次世界大戦前後の日本における政党の存在を確認してまとめておく。	90分
		事後学修	自民党政権や1993年の非自民連立内閣、2009年の民主党政権を比較検討してみる。	150分
8	11/10	選挙制度論	民主主義を支える重要な制度としての選挙制度を、議席決定方式や選挙制度が与える影響という観点から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議席決定方式や選挙制度が与える影響を説明することができる。	
		事前学修	直近の国政選挙の選挙制度と結果をまとめておく。	120分
		事後学修	自身の国で望ましい選挙制度は何かを考えてみる。	120分
9	11/17	投票行動論	投票行動研究における基礎的理論であるコロンビアモデルおよびミシガンモデルを中心に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、コロンビアモデルおよびミシガンモデルを説明することができる。	
		事前学修	もし、自身が選挙権を行使するならば、どのような基準で投票先を選択するか基準をまとめておく。	60分
		事後学修	政党のHP、SNS等を利用して各政党が掲げる主張や現職議員のイメージを確認してみる。	180分
10	11/24	世論とメディア	第四の権力と言われるマスメディアについて、世論や政治に対してどのような影響力を与えているのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メスメディアの影響力について説明することができる。	
		事前学修	同一のニュースについて、各メディアによって伝え方に違いがあるかをまとめておく。	120分
		事後学修	SNSが大きな影響を果たしたとされる事例を検討してみる。	120分
11	12/1	利益団体と政治	政党を補完する存在としての利益団体の行動様式や多元社会に与える影響を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、利益団体の行動様式を説明することができる。	
		事前学修	農協や医師会等、自身が興味を持った利益団体の特徴をまとめておく。	120分
		事後学修	日本における利益団体が政治に与える影響をどのように評価するか検討してみる。	120分
12	12/8	国家とは何か	政治学において、最も基本的な分析単位であった国家について、その定義や主権国家体系の成立について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家や主権の定義を説明することができる。	
		事前学修	各国家を比較検討して、それぞれの国の類似点を整理しておく。	90分
		事後学修	20世紀以降に発生した主要な戦争とその原因が何かを検討してみる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	主権国家と超国家的共同体	EUに代表される地域統合が深化した結果、国家の役割は低下したのかということについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の特異性を説明することができる。	
		事前学修	国連等の国際組織の役割や権限をまとめておく。	120分
		事後学修	EUが果たした貢献と問題点は何かを検討してみる。	120分
14	12/22	国家は衰退するのか	EUに代表される地域統合が深化した結果、国家の役割は低下したのかということについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家が直面する問題点を説明することができる。	
		事前学修	各地域の分離独立問題やポピュリズム勢力の台頭を整理しておく。	90分
		事後学修	日本と近隣諸国との関係について、どのような解決策が考えられるのかをも模索してみる。	150分
15	1/12	後期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を検討する際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
		事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
		事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分

科目名	西洋政治史Ⅰ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「市民的政治体制の形成と展開」をテーマとして、近代欧米政治史を当時の国際関係も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。なお、理解度の確認を目的として、毎回授業の最初に小テスト(簡単な論述試験)を受験し、学修の度合いを深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するために、それらに関する知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの出発点が近代欧米政治にあること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようにすることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
基本的にパワーポイントを用いた講義形式で授業を行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、小テストについては、採点した後、次回授業の最初に返却指導（フィードバック）する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全15回中、少なくとも1回はテーマに応じた「調査学習ならびにミニ・レポート提出」を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。							1					
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。								1	1			
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。								1				
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。									1			
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。										1		1
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを、筆記試験にて評価する。	15	15	15	15	15						75
小テスト等	授業の初めに実施する小テストにより、到達目標①②③④⑤に関する基礎知識が身についているかを確認する。	3	3	3	3	3						15
レポート等	提出されたミニ・レポートが書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③⑤に関する能力が身についているかを評価する。			5		5						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	23	18	23						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答用紙は、毎回授業の初めに説明する。定期試験の解説はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代ヨーロッパ政治史（増補版）』	杉本稔編	北樹出版	2012	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、西洋政治史を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、西洋政治史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/13	民主主義理論	R. ダールのポリアーキーという議論を参照することで、西ヨーロッパ諸国の市民革命を理論的に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ポリアーキーを説明することができる。	
		事前学修	高校世界史の教科書等を用いて、イギリス革命やフランス革命の概略を整理しておく。	120分
		事後学修	ポリアーキーを基に、近代日本の歴史を考えてみる。	120分
3	4/20	イギリス革命の特質	ピューリタン革命と名誉革命の類似点と相違点を明らかにしていくとともに、なぜ両革命が起こったのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ピューリタン革命と名誉革命の類似点と相違点を説明することができる。	
		事前学修	イギリス絶対王政の特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	現在のイギリスにおける、女王と議会の関係性について検討してみる。	120分
4	4/27	名誉革命体制の意義と課題	絶対王政が打倒されたことによって確立された名誉革命体制とは、どのような体制であったのか、民主主義理論の中で、どのように位置づけられるのかを検討していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名誉革命体制の意義と課題を説明することができる。	
		事前学修	日本やイギリスを例にして議院内閣制とは、どのような制度かをまとめておく。	120分
		事後学修	イギリス革命を特殊な出来事として捉えるのではなく、ポリアーキーと結びつけることによって一般化を図ってみる。	120分
5	5/4	フランス革命の展開	フランス革命が勃発した原因を明らかにしていくとともに、それぞれの時期に制定された憲法を比較していくことで、どのような階層が革命の担い手であったのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、91年、93年、95年憲法の特質を説明することができる。	
		事前学修	フランス絶対王政の特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	93年憲法と現代日本の憲法を比較をし、それぞれの特徴を整理してしてみる。	120分
6	5/11	フランス革命後の政治体制	ナポレオンが権力を獲得してからナポレオン3世が皇帝になるまで、幾度となく変化してきた政治体制に着目することで、フランス政治の特徴を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ナポレオン以降の政治体制の変遷について説明することができる。	
		事前学修	帝政、王政、共和制の違いについて、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	フランス革命を特殊な出来事として捉えるのではなく、ポリアーキーと結びつけることによって一般化を図ってみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	ドイツ帝国の成立	19世紀中ごろまで、ドイツは国民国家としてのまとまりを欠いていた。ビスマルクに焦点を当てることで、ドイツ帝国が成立した過程を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ帝国成立の過程を説明することができる。	
		事前学修	神聖ローマ帝国の歴史を概観し、その流れをまとめておく。	180分
		事後学修	ビスマルク外交がドイツ帝国の成立および安定化に対して、どのような影響を及ぼしたのかを検討してみる。	60分
8	5/25	第一次世界大戦とヨーロッパ政治	第一次世界大戦を契機に、ヨーロッパが相対的に没落をしていった一方で、アメリカやロシアの台頭によって、世界のパワーバランスに変化が見られるようになったことを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、世界政治のパワーバランスの変化について説明することができる。	
		事前学修	第一次世界大戦の直接的引きがねとなったサラエボ事件の概略をまとめておく。	60分
		事後学修	アメリカの台頭、ロシアでの共産党政権樹立がヨーロッパ統合の萌芽となる「ヨーロッパ合衆国」構想へと繋がっていったことを調べてみる。	180分
9	6/1	イギリスにおける政党政治の構造的変化① 自由党の没落	名誉革命体制以降、イギリス政治の中核を担っていた保守党と自由党のうち、選挙権の拡大や自由主義の変容、第一次世界大戦といった要因によって、自由党が没落していったことを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自由党没落の要因を説明することができる。	
		事前学修	イギリスにおける選挙権拡大の歴史をまとめておく。	120分
		事後学修	女性参政権運動の激化について調べ、日本と比較をしてみる。	120分
10	6/8	イギリスにおける政党政治の構造的変化② 労働党の台頭	自由党が没落していく中で、有意な存在となった労働党が、いかにして二大政党の一翼を担うようになっていったのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、労働党台頭の要因を説明することができる。	
		事前学修	労働者と自由党の結びつきについてまとめておく。	150分
		事後学修	現在のイギリスの政党システムと当時の二大政党制との違いを検討してみる。	90分
11	6/15	第三共和制の成立と人民戦線内閣	権力の集中を図った帝政ドイツ以後、当時、最も民主的な憲法を備えたワイマール共和国がどのように誕生し、どのような政党政治が展開されたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人民戦線内閣の意義を説明することができる。	
		事前学修	スペインにおいて成立した人民戦線内閣の特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	現在のフランスの政治は、フランス政治史上どのように位置づけられるかを検討してみる。	120分
12	6/22	ワイマール共和国の誕生	第一次世界大戦によって、崩壊した帝政ドイツ以後、当時、最も民主的な憲法を備えたワイマール共和国がどのように誕生し、どのような政党政治が展開されたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ワイマール共和国誕生の経緯を説明することができる。	
		事前学修	第一次世界大戦によって、なぜ4つの帝国が崩壊したのかを整理しておく。	150分
		事後学修	ワイマール憲法が先進的であり、強大な大統領権限を有していたことを、実際にワイマール憲法を見て確認してみる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ヒトラーの台頭とワイマール共和国の崩壊	世界恐慌をきっかけに不安定化したワイマール共和国が、なぜヒトラーの台頭を招いたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ワイマール共和国崩壊の過程を説明することができる。	
		事前学修	ヴェルサイユ条約によって、ドイツに課された懲罰的な内容をまとめる。	120分
		事後学修	全権委任法の成立がワイマール憲法に与えた影響を考えてみる。	120分
14	7/6	第二次世界大戦への道	全権委任法を成立させたヒトラーは、第一次世界大戦後のヨーロッパ政治を規定したヴェルサイユ体制に挑戦することで、戦後国際秩序に挑戦していったことを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第二次世界大戦へと至る過程を説明することができる。	
		事前学修	ヨーロッパ列強による植民地獲得競争がどのように展開されていたかをまとめる。	120分
		事後学修	ドイツにおける民主主義において、ワイマール共和国の成立と崩壊をどのように位置づけられるかを検討してみる。	120分
15	7/13	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を検討する際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
		事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
		事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分

科目名	西洋政治史Ⅰ	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「市民的政治体制の形成と展開」をテーマとして、近代欧米政治史を当時の国際関係も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。なお、理解度の確認を目的として、毎回授業の最初に小テスト(簡単な論述試験)を受験し、学修の度合いを深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するために、それらに関する知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの出発点が近代欧米政治にあること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようにすることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
基本的に板書を中心とした伝統的な講義形式で授業を行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、小テストについては、採点した後、次回授業の最初に返却指導(フィードバック)する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全15回中、少なくとも1回はテーマに応じた「調査学習ならびにミニ・レポート提出」を義務づける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。					1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。						1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。							1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。									1		1
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを、筆記試験にて評価する。	15	15	15	15	15						75
小テスト等	授業の初めに実施する小テストにより、到達目標①②③④⑤に関する基礎知識が身についているかを確認する。	3	3	3	3	3						15
レポート等	提出されたミニ・レポートが書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③⑤に関する能力が身についているかを評価する。			5		5						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	23	18	23						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答用紙は、毎回授業の初めに返却する。定期試験の解説はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 西洋政治史	杉本稔編	弘文堂	2014	教科書	必携
Next 教科書シリーズ 政治学 [第2版]	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日13:00-14:30 研究室（9号館2階9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7 4/9	市民的政治体制と絶対王政	シラバスに基づいて授業計画の全体を説明した後、市民的政治体制の形成と絶対王政との関連を解説し、それらの特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業計画の全体像を把握するとともに、絶対王政の特質と意義に加え、市民的政治体制の基本的性格を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを用意すると同時に、教科書の序「西洋政治史を学ぶために」、第1章「市民的政治体制の形成」の「1 市民革命の位置づけと市民的政治体制」を読んで、西洋政治史を学ぶ意味を考えるとともに、自由民主主義体制とは何かイメージしておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
2	4/14 4/16	市民革命と近代市民社会・市民的政治体制	市民革命と近代市民社会の関係を解説し、それらの特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、市民革命と近代市民社会の関係ならびに市民的政治体制の特質と意義を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章の「1 市民革命の位置づけと市民的政治体制」を読んで、市民革命の意味を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
3	4/21 4/23	イギリス革命とクロムウェル共和制の成立	イギリス革命の前半部分を解説するとともに、クロムウェル共和制の問題点について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、イギリスで共和制が成功しなかった理由を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章の「2 イギリス革命と議会主権の確立」を読んで、ピューリタン革命の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
4	4/28 4/30	イギリス革命と名誉革命体制の確立	イギリス革命の後半部分を解説するとともに、王政復古や名誉革命体制の特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、王政復古の重要性を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章の「2 イギリス革命と議会主権の確立」を読んで、名誉革命の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
5	5/5 5/7	アメリカ独立革命と合衆国の建国	アメリカ独立革命の全体を解説するとともに、アメリカ独立革命の特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ独立革命の特殊性を複数の観点から説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章の「3 アメリカ独立革命と合衆国の建国」を読んで、アメリカ独立革命の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
6	5/12 5/14	フランス革命の背景と展開	フランス革命の前半部分を解説するとともに、その背景と特質について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フランス革命の勃発理由を政治と経済の関係から説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章の「4 フランス革命の展開」を読んで、旧体制の意味を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/19 5/21	フランス革命の展開と影響	フランス革命の後半部分を解説するとともに、その特質と影響について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ独立革命との違いに加え、フランス革命の影響を政治思想の観点から説明することができる。
		事前学修	教科書第1章の「4 フランス革命の展開」を読んで、恐怖政治の意味を把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分
8	5/26 5/28	ドイツ三月革命とドイツ帝国の成立	ドイツ三月革命とドイツ統一プロセスを解説するとともに、ドイツ三月革命の問題点とドイツ的特殊性との関連について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、市民革命の重要性とドイツ的特殊性の意義を説明することができる。
		事前学修	教科書第1章の「5 ドイツ三月革命とドイツ帝国の成立」を読んで、ドイツと日本の類似性を把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分
9	6/2 6/4	ホイッグ寡頭制の展開とトーリー党の進化	イギリス革命後の二大政党の状況を解説し、二大政党の発展要因について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、政党ならびに政党政治の発展に不可欠な要素を説明することができる。
		事前学修	教科書第2章「市民的政治体制の展開」の「1 ホイッグ寡頭制の展開とトーリー党の進化」を読んで、ホイッグとトーリーの違いを把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分
10	6/9 6/11	イギリス議院内閣制の成立と展開	イギリス議院内閣制の成立過程を解説し、日本との違いについて考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、議院内閣制の基本的性格を説明することができる。
		事前学修	教科書第2章の「2 イギリス議院内閣制の生成と展開」を読んで、議院内閣制の意味を把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分
11	6/16 6/18	市民的政治体制の展開への試練としてのウィーン体制	ウィーン体制の成立と基本的性格を解説し、その意義と問題点について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国際秩序の役割と国内政治への影響を説明することができる。
		事前学修	教科書第2章の「3 市民的政治体制への試練としての『ウィーン体制』」を読んで、ウィーン会議前後の流れを把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分
12	6/23 6/25	1848年の革命運動	フランスの七月革命と二月革命、イギリスのチャーティスト運動を解説し、西洋政治史における1848年という年の意義について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ウィーン体制崩壊後の変化と意義を説明することができる。
		事前学修	教科書第2章の「4 1848年の革命運動」を読んで、この時期のヨーロッパ主要国の動きを把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30 7/2	イギリス議会政治の近代化と政党の組織化	イギリスにおける選挙法改正と政党組織化プロセスを解説し、両者の関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、選挙権の拡大と政党の組織化との関連を説明することができる。	
		事前学修	教科書第2章の「5 イギリス議会政治の近代化と古典的展開」を読んで、選挙法改正の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
14	7/7 7/9	イギリス議会政治の古典的展開と変容	イギリスにおける大衆デモクラシーの実現過程とその後の展開を解説し、その特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、大衆デモクラシーの特徴と問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書第2章の「5 イギリス議会政治の近代化と古典的展開」を読んで、大衆と大衆社会の意味を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
15	7/14 7/16	アメリカ二大政党の成立とジャクソニアン・デモクラシー、「課題：ビスマルクのリーダーシップ」	アメリカ二大政党の成立過程とジャクソニアン・デモクラシーの意義を解説するとともに、アクティブ・ラーニングの課題「ビスマルクのリーダーシップ」について考え、ミニ・レポートを作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ二大政党の起源や相違点、ジャクソニアン・デモクラシーの影響、そしてビスマルク政治の特質を説明することができる。	
		事前学修	アクティブ・ラーニングの課題に適切に答えるため、ビスマルクとボナパルティズムに関する文献を渉猟しておく。	180分
		事後学修	試験範囲に指定された部分を復習し、期末試験に向けて準備をしておく。	60分

科目名	西洋政治史Ⅱ	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「現代型政治経済システムの形成と変容」をテーマとして、現代欧米政治史を現在の世界情勢も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。なお、理解度の確認を目的として、毎回授業の最初に小テスト(簡単な論述試験)を受験し、学修の度合いを深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するために、それらに関する知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの変容が今日の政治課題をもたらしていること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
基本的に板書を中心とした伝統的な講義形式で授業を行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、小テストについては、採点した後、次回授業の最初に返却指導(フィードバック)する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全15回中、少なくとも1回はテーマに応じた「調査学習ならびにミニ・レポート提出」を義務づける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。					1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。						1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。							1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。									1		1
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを、筆記試験にて評価する。	15	15	15	15	15						75
小テスト等	授業の初めに実施する小テストにより、到達目標①②③④⑤に関する基礎知識が身についているかを確認する。	3	3	3	3	3						15
レポート等	提出されたミニ・レポートが書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③⑤に関する能力が身についているかを評価する。			5		5						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	23	18	23						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答用紙は、毎回授業の初めに返却する。定期試験の解説はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 西洋政治史	杉本稔編	弘文堂	2014	教科書	必携
Next 教科書シリーズ 政治学 [第2版]	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日13:00-14:30 研究室（9号館2階9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15 9/17	第一次世界大戦の勃発	シラバスに基づいて授業計画の全体を説明した後、第一次世界大戦の背景や経緯を解説し、第一次世界大戦の特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業計画の全体像を把握するとともに、第一次世界大戦の特質と意義に加え、現代型政治経済システムの基本的性格を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを用意すると同時に、教科書の序「西洋政治史を学ぶために」、第3章「現代政治の幕開け」の「1 第一次世界大戦の勃発」を読んで、西洋政治史を学ぶ意味を考えるとともに、現代型政治経済システムとは何かイメージしておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
2	9/22 9/24	総力戦体制とロシア革命	第一次世界大戦の影響とロシア革命を解説し、それらの問題点について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第一次世界大戦とロシア革命が現代型政治経済システムにおよぼした影響と問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章の「2 総力戦体制とロシア革命」を読んで、ロシア革命の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
3	9/2910/1	第一次世界大戦の終結とヴェルサイユ条約	ドイツ11月革命とヴェルサイユ体制の基本的性格を解説し、それらの特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ドイツ11月革命とロシア革命の違い、ヴェルサイユ体制下での内政面の変化を説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章の「3 第一次世界大戦の終結とヴェルサイユ条約」を読んで、第一次世界大戦後の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
4	10/6 10/8	ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ(ドイツ、イギリス)	1920年代のドイツとイギリスの内政面での変化を比較しながら解説し、両者の違いについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主化に不可欠な要素を説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章の「4 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ」を読んで、当時のドイツとイギリスの状況を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
5	10/13 10/15	ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ(フランス、世界恐慌)	1920年代のフランスの内政面での変化と世界恐慌の基本的性格を解説し、フランス第3共和制の持続要因ならびに世界恐慌に対するアメリカの反応について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主化に不可欠な要素ならびに世界経済の動向が国内政治におよぼす影響を説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章の「4 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ」を読んで、当時のフランスとアメリカの状況を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
6	10/20 10/22	世界恐慌とナチスの台頭	世界恐慌に対するドイツ・イギリス・フランスの反応を比較しながら解説し、とりわけドイツの問題点について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、デモクラシー崩壊とファシズム台頭の要因を説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章の「5 世界恐慌とナチスの台頭」を読んで、1930年代のドイツ・イギリス・フランスの状況を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27 10/29	第二次世界大戦	第二次世界大戦とナチズムの関係を解説し、今日教訓とすべき事柄について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、政治史と政治思想との関連を説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章「第二次世界大戦と冷戦」の「1 第二次世界大戦」を読んで、第二次世界大戦の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
8	11/5 11/10	冷戦の始まりとヨーロッパの分断(ドイツとフランスの変容)	第二次世界大戦後のドイツとフランスの変容プロセスを解説し、民主化と変革の要因について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第二次世界大戦による変化と影響を説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「2 冷戦の始まりとヨーロッパの分断」を読んで、冷戦の意味を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
9	11/12 11/17	冷戦の始まりとヨーロッパの分断(福祉国家の発展とヨーロッパ統合の起源)	イギリスにおける福祉国家形成過程とヨーロッパ統合の起源を解説し、現代型政治経済システムの基本的性格について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、福祉国家の特質と意義、ヨーロッパ統合のきっかけを説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「2 冷戦の始まりとヨーロッパの分断」を読んで、福祉国家の意味とヨーロッパ統合初期の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
10	11/19 11/24	模索する西ヨーロッパ諸国(1960年代のドイツとフランス)	1960年代のドイツとフランスを比較しながら解説し、政治と経済の関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、1960年代のドイツとフランスの状況から現代型政治経済システムの問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「3 模索する西ヨーロッパ諸国」を読んで、当時のドイツとフランスの状況を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
11	12/1 12/3	模索する西ヨーロッパ諸国(1960年代のイギリスとヨーロッパ統合)	1960年代のイギリスならびにヨーロッパ統合を解説し、政治と経済の関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、1960年代のイギリスとヨーロッパ統合の状況から現代型政治経済システムの問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「3 模索する西ヨーロッパ諸国」を読んで、当時のイギリスとヨーロッパ統合の状況を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
12	12/8 12/10	冷戦の緊張緩和とオイルショック	1970年代における西欧・南欧・ヨーロッパ統合を解説し、オイルショックの影響と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、世界経済の動向が国内政治におよぼす影響を説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「4 冷戦の緊張緩和とオイルショック」を読んで、当時の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15 12/17	新冷戦から冷戦の終結へ	1980年代におけるドイツ・フランス・イギリス・欧州統合を解説し、冷戦終結ならびに福祉国家と欧州統合の変容について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、冷戦終結・福祉国家再編・ヨーロッパ統合進展の要因を経済面から説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「5 新冷戦から冷戦の終結へ」を読んで、冷戦終結に至る流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
14	12/22 12/24	ポスト冷戦期のヨーロッパ政治	1990年代におけるヨーロッパの様々な変容を解説し、現代型政治経済システムのあり方やヨーロッパ統合深化の意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、現代型政治経済システムの課題とその処方箋を説明することができる。	
		事前学修	教科書第5章「冷戦の終焉とグローバリゼーションの時代」を読んで、東欧革命・ドイツ統一・ソ連崩壊の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
15	1/12 1/14	経済のグローバル化と政治のポピュリズム化、課題：「現在における国民国家のあり方」	グローバリゼーションに伴って生じた様々な政治問題を解説し、ポピュリズムをめぐる諸問題とその処方箋について政治史的見地から考え、ミニ・レポートを作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国民国家のあり方やポピュリズム台頭の要因を複数の観点から説明することができる。	
		事前学修	アクティブ・ラーニングの課題に適切に答えるため、スコットランド分離独立やBrexitに関する文献を渉猟しておく。	180分
		事後学修	試験範囲に指定された部分を復習し、期末試験に向けて準備をしておく。	60分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅰ	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】		
講義を基本とするが、出願書類を作成するといった実践的な内容も取り入れた講義とする。尚、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に試験解説を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	特許庁のデータベースへのアクセスによる調査学習を行い、その結果をレポートにて報告。教員からはレポートに対するフィードバックを行う。また、講義内容に基づいて明細書等を作成しレポートとする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				3		3					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				3		3	3				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						3	3				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				3		3	3				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての特許法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(調査学習成果)	到達目標①③④⑥について、「実際に特許出願されたアイデアが、法上の発明要件を備えているか否か」をテーマとした調査学習により（１）特許庁のデータベースを適切に使用できているかをチェックリストを基準に評価。また、（２）提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に評価する。	5		5	5		5					20
その他(体験学習成果)	特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるかを各自が考えたうえで、仮想特許出願書類作成書類を作成する体験学習において、提出されたレポートが、講義で示した書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑤にかかわる手続書類が実践できるかを評価する。		15			5						20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12時10分～13時 研究室（本館8階1812研究室） takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁理士、企業知的財産部
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許明細書の書き方、特許調査など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	総論	知的財産権法の概要について	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
		事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考える。	120分
		事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理する。	120分
2	第一部 金4/17	特許法の目的	特許法の歴史と制度の目的について	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法の目的について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許法の歴史とその制度の目的（特許法1条）について考えてくる。	120分
		事後学修	特許法の目的について復習し、発明の保護と利用の関係について整理する。	120分
3	第一部 金4/24	特許の保護対象	特許上の発明（保護対象）について	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許法上の発明について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許の発明（特許法2条1項）について考えてくる。	120分
		事後学修	特許の発明（保護対象）について復習し、特許法2条1項の解釈を整理する。	120分
4	第一部 金5/1	特許要件（1）	産業上の利用可能性について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、産業上の利用可能性について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、産業上の利用可能性（特許法29条1項柱書）について考えてくる。	120分
		事後学修	産業上の利用可能性について復習し、その内容を整理する。	120分
5	第一部 金5/8	特許要件（2）	新規性の要件について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、新規性の要件について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、新規性の要件（特許法29条1項各号）について考えてくる。	120分
		事後学修	新規性の要件について復習し、その内容を整理する。	120分
6	第一部 金5/15	特許要件（3）	進歩性の要件について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、進歩性の要件について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、進歩性の要件（特許法29条2項）について考えてくる。	120分
		事後学修	進歩性の要件について復習し、進歩性に関する事例を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	特許要件（４）	先願主義（特許法３９条）、拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明細書等の記載要件について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、先願主義（特許法３９条）、拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について考えてくる。	120分
		事後学修	先願主義（特許法３９条）、拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について復習し、内容を整理する。	120分
8	第一部 金5/29	授業内試験（１）	授業内試験(小テスト)とこれまでのまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をすること。	120分
		事後学修	試験でできなかったところをフィードバックするので、しっかりと復習すること。	120分
9	第一部 金6/5	権利の主体（１）	発明者・出願人について	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、発明者・出願人について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、発明者と出願人について考えてくること。	120分
		事後学修	発明者・出願人について復習し、発明者、出願人、特許を受ける権利について整理する。	120分
10	第一部 金6/12	権利の主体（２）	職務発明制度について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職務発明制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、職務発明制度（特許法３５条）について考えてくる。	120分
		事後学修	職務発明制度について復習し、その要件や制度の内容を整理する。	120分
11	第一部 金6/19	特許出願手続き（１）	特許出願書類、明細書等の記載要件（特許法３６条、３７条）について	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許出願書類を準備することができること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許出願書類（特許法３６条、第３７条）について考えてくる。	120分
		事後学修	特許出願書類について復習し、特許出願書類（特許法３６条、第３７条）について整理する。	120分
12	第一部 金6/26	特許出願手続き（２）	出願公開制度について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願公開制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、出願公開制度（特許法６４条、６５条）について考えてくる。	120分
		事後学修	出願公開制度について復習し、制度の内容（制度趣旨時期や公開内容）について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	特許出願手続き（3）	審査請求制度、特許審査手続きについて	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、審査請求制度、特許審査手続きについて理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、審査請求制度、特許審査の手続きについて理解すること。	120分
		事後学修	審査請求制度の内容、審査手続きについて復習し、内容を整理する。	120分
14	第一部 金7/10	出願・審査手続（4）	出願分割・出願変更制度について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願分割・出願変更制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、出願分割・出願変更について考えてくる。	120分
		事後学修	出願分割・出願変更について復習し、制度の趣旨、要件などを整理する。	120分
15	第一部 金7/17	出願・審査手続（5）	国内優先権制度、外国語出願制度について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国内優先権制度、外国語出願制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、国内優先権制度・外国語出願制度について考えてくる。	120分
		事後学修	国内優先権制度・外国語出願制度について復習し、制度の趣旨、要件などを整理する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案) I	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】		
講義を基本とするが、出願書類を作成するといった実践的な内容も取り入れた講義とする。尚、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	特許庁のデータベースへのアクセスによる調査学習を行い、その結果をレポートにて報告。教員からはレポートに対するコメントを講義。また、講義内容に従った仮想出願書類作成の体験学習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				1		1					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				2		2	2				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						2	2				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				2		2	2				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての特許法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(調査学習成果)	到達目標①③④⑥について、「実際に特許出願されたアイデアが、法上の発明要件を備えているか否か」をテーマとした調査学習により（１）特許庁のデータベースを適切に使用できているかをチェックリストを基準に評価。また、（２）提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に評価する。	5		5	5		5					20
その他(体験学習成果)	特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるかを各自が考えたうえで、仮想特許出願書類作成書類を作成する体験学習において、提出されたレポートが、講義で示した書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②⑤にかかわる手続書類が実践できるかを評価する。		15			5						20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版		高林龍	有斐閣	2017	教科書	必携
産業財産権法 逐条解説		特許庁編	発明協会	2017	参考書	推奨
特許判例百選 第5版		小泉・田村編	有斐閣	2019	参考書	任意

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（９号館４階9４０8研究室） mimura.junichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許出願実務経験を通じ、例えば、学生個々に実際に特許庁のデータベースにアクセスさせ、特定の発明特許法上の発明要件の充足性について考える等を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	/	総説（１）	知的財産権法の概要及び現状 知的財産権を構成する法律（特許法・実用新案法・意匠法・種苗法・半導体チップ保護法・著作権法・商標法・不競法）の保護対象及び法の制定趣旨を説明し、それぞれの関連を解説する。また、世界で起きている知的財産権に関するトラブル（侵害・模倣・海賊版）の現状を解説する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産権にほどの様な法律があるのか説明できる。
		事前学修	以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、知的財産権を構成する法律について、どの様な法律があるのかを教科書で調べノートに列記する。授業時には、それぞれの関連性について説明を行う。 https://www.jpo.go.jp/system/patent/gaiyo/seidogaiyo/chizai02.html
		事後学修	今まで自己が考えてきた無体財産はどの様な法律で守られているのか認識する。また、知財の現状を理解し、今後、日本はどの様な方向に進むべきか考え、ノートに書き出しておく。知的財産権について、問題意識を持って欲しい。尚、以下、特に重要な部分については特記しているが、基本的には、参考書にて対応する講義主題を確認する。
2	/	総説（２）	特許法の目的及び特許権成立までの概略 特許法の目的を規定する第1条を解説する。この1条では、特許法の究極目的を「産業の発達」としており、この目的を理解することで、今後講義を行う各制度の意義を理解できるようにする。また、特許権は、発明の着想に始まり特許査定により成立するため、一連の過程を解説する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法が制定された理由及び発明から特許成立までの流れを説明できる。
		事前学修	教科書P1-22を事前に読んでおき、なぜ特許法が制定されたのか理解し、ノートに書きだしておく。以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、特許成立までの流れを調べ、ノートに列記する。 https://faq.inpit.go.jp/industrial/faq/search/result/10409.html?event=FE0006
		事後学修	特許法1条の各用語の意味を再確認し、ノートに列記する。特許成立までの流れにおいて、各段階での手続きの内容をノートに書きだすとともに、参考書で確認する。
3	/	特許要件（１）	客体要件（発明、産業上の利用性） 「発明」及び「産業上利用可能性」を規定する特許法2条・29条を正確に理解する。「発明」要件を正確に理解しているか確認するため、受講者は、特許庁のデータベースであるJ-platpatを使用し、実際に出願された発明が法上の「発明要件」を満足するか、調査学習を行う。調査学習の成果をレポートにて提出する。
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、どのようなアイデアが法の保護対象となっているか説明でき、また、到達目標②③④に関連して、特許法の目的とからめて、特許要件である産業上の利用可能性について説明できる。
		事前学修	教科書P23-48を事前に読んでおき、一般的に使用されている「発明」と特許法で規定する「発明」の意味の相違を理解し、ノートに書きだしておく。また、特許成立に必要な「産業上の利用性」を理解、ノートに書きだしておく次回授業で発明、産業上の利用性について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。
		事後学修	講義で説明した発明要件を再確認し、ノートに列挙する。授業内で説明した特許庁データベース（Jplatpat）を各自が利用し、その調査手法を身につける。その上で、各自が調査し、抽出した特許庁に実際に出願されているアイデアが、自己が作成したノートに照らし、法上の発明にあたるか否かをレポートする宿題を実施する。
4	/	特許要件（２）	客体要件（新規性、進歩性） 特許を取得するための要件である「新規性」の場所・時間・内容の基準を講義する。また、発明が当業者から見て、従来の技術から容易に発明できる場合（進歩性がない場合）は特許にはならない。この進歩性の判断基準について講義する。また、前回講義の発明性に関する調査学習に関する講評をおこなう。
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、特許法の要件である新規性・進歩性の要件を説明できる。
		事前学修	教科書P48-52、56-61を事前に読んでおき、新規であるとはどういう状況をいうのか理解し、また、新しい発明をしても、従来のものから容易に発明できるものは特許とはならないという進歩性の判断基準を理解し、ノートに書きだしておく。次回授業で新規・進歩性について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。
		事後学修	講義で説明した新しさの時間的・地域的基準や公然の意味など、ノートに列挙し、参考書で確認する。
5	/	特許要件（３）	新規性喪失の例外 発明者の意に反して自己の発明が公開されてしまったり、自己の発意に基づいて自己の発明が公開した場合に、新規性を失い、特許を取得できないとすることは発明者保護の欠けるので、このような場合の一定の例外規定を講義し、その法的効果についても言及する。
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、新規でない場合であっても新規であると擬制して取り扱う理由について説明でき、その場合の法的な取り扱いについても説明できる。
		事前学修	教科書P53-56を事前に読んでおき、新規ではない状態となっても一定条件のもと、新規性を失わない場合はどの様な場合であるか、理解をし、ノートに列挙する。次回授業で新規性喪失の例外規定について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。
		事後学修	通常、新規性を喪失した発明は特許化が不可能であることは、研究者は知っているはずであるが、どの様な場合に、この規定の適用を受けることになるのか、考察し、その考えをノートに列挙し、参考書で確認する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	/	特許要件（４）	客体要件（不特許事由） 新規性・進歩性を有していても、産業政策上・公益上の理由から特許すべきではない場合がある。それら不特許事由について講義するとともに、最近の裁判例についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、公益を目的として特許の対象から外されている発明にはどのようなものがあるか、なぜそのように取り扱われているかを説明できる。	
		事前学修	教科書P67-70を事前に読んでおき、上記の要件を満足しても、特許化すべきではない発明（例えば犯罪目的の発明など）を具体的にノートに列挙する。そして、その列挙した発明をグループ化し、その理由をノートに書きだしておく。次回授業で 不特許事由について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	事前に考えた特許すべきではない発明が、授業で取り上げなかった場合、講義で説明する不特許事由の趣旨に照らし、自己の考えの正当性についてノートに書きだすとともに、他の受講者と意見交換を行う。	140分
7	/	特許要件（５）	先願主義 同一の発明が2以上競合した場合、二重特許を排斥する手段として先に出願した人に権利を付与するとした先願主義を講義する。この場合、同日出願と異日出願では手続きが異なるので、その理由や制度自体を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、二重特許を排斥する手段として日本がなぜ先願主義を採用したのか、また、その制度の内容について説明できる。	
		事前学修	教科書P61-63を事前に読んでおき、先願主義とは何かを理解し、ノートに書き出しておく。同一の発明が同日に時間を異にして出願された場合の取り扱いが、異日出願の場合と異なる点を十分に理解し、ノートに列記する。次回授業で先願主義について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	先願主義と先発明主義に比べ、日本が採用する先願主義には、どのような利点があるかを考察し、ノートに列記する。また、先発明主義を採用していた国の制度の詳細をノートに書きだすとともに、参考書で確認する。	140分
8	/	特許要件（６）	拡大された先願範囲の地位 本規定の定義及び制度趣旨（準公知・審査請求制度導入・防衛出願排除）を講義し、規定の内容としては、先願主義との比較を中心に、同日出願の場合、実用新案法下での出願との関係発明者同一／出願人同一による例外規定の講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、29条の２の規定を3つの制度趣旨を説明できる。	
		事前学修	教科書P64-67及び参考書①P83-92（本規定は特に理解が難しため）を事前に読んでおき、規定の内容をノートに書き出しておく。次回授業で「拡大先願」について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	本規定の条文である29条の2について、授業後、再度読み返し、規定の内容と条文の文言を確認し、ノートに書き出しておく。	140分
9	/	出願・審査手続（１）	出願書類・明細書及び請求項の記載要件／発明の単一性 特許出願で提出する書類（願書・明細書。必要な図面。要約書）及びその内容（実施可能要件・発明明確要件）を講義する。その後、体験学習として、特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるか各自が考えたうえ、前述の要件にあった出願書類を作成し、次週提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、特許出願書類を準備することができ、また、到達目標②③④に関連して、1つの出願で特許出願が行える発明の範囲に関し説明できる。	
		事前学修	以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、出願書類にはどのような記載をすべきであると法が規定しているか理解し、ノートに列記する。また、1つの出願で権利の請求が行える発明の範囲についてもノートに列記する。 https://www.inpit.go.jp/blob/archives/pdf/patent.pdf	100分
		事後学修	物の発明と方法の発明では、その記載方法や記載すべき内容も異なる点を参考書で確認し、ノートに列記する。さらに、この回の講義では、体験学習として仮想特許出願書類作成の課題を行うので、自己が作成したノートを参照しつつ、書類を作成し、次週に提出する。	140分
10	/	出願・審査手続（２）	優先権（パリ条約による優先権・パリ条約の例による優先権、国内優先権） 発明者の権利保護を目的として、第1国の出願にもとづいて優先権を主張して第2国へ出願をする と、後の出願について、一定事項（特許要件等）については、最初の出願の時を基準として判断される優先権制度での設立趣旨、規定の内容を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、パリ条約の同盟国民及びWTOに加盟する国民が日本に特許出願するに際して、不利な取り扱いを受けない制度である優先権制度を説明できる。	
		事前学修	教科書P326-327、238-240を事前に読んでおき、外国において特許を取得する理由や取得するための手続きについて理解し、ノートに書き出しておく。次回授業で優先権一般について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	優先権の種類や利用場面を考え、ノートに列挙する。この講義はパリ条約４条に基づき規定された国内法であるため、パリ条約４条を読み理解を深めるとともに、参考書①143-162も読み、ノートに書き出しておく。	140分
11	/	出願・審査手続（３）	補正 特許庁への手続（特許出願・請求その他特許に関する手続：３条２項）について、その内容の補充又は訂正を行うことを意味する補正について、講義する。特に明細書や特許請求の範囲の補正ができる内容的制限や時制的制限に関し、その理由及び規定の内容を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、補正をする目的や補正の制約を説明できる。	
		事前学修	第2回講義の特許取得までのフローを思い出しながら、P232-235を事前に読み、手続きの補正とは何か、何故、その様な補正を行うのかについて十分理解し、ノートに書きだす。また、そのような補正が何時、どのような範囲で行うことができるのかをノートに列挙する。	100分
		事後学修	補正は、その補正時期により、制限事項が異なることを参考書で確認し、ノートに書きだす。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	/	出願・審査手続（４）	出願分割及び出願変更 一の出願に二以上の発明が含まれている場合、その出願の一部を抜き出して別出願とする分割出願制度や意匠や実用新案登録出願から特許出願に変更を認める出願変更制度の制度趣旨や規定の内容を講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、出願分割及び出願変更に関し、制度内容や目的、法上の取り扱いを説明できる。	
		事前学修	教科書P235-237を事前に読んでおき、出願分割や変更は、どのような制度であるか、なぜ認められているのか、どのような状況での利用となるのか、理解し、ノートに書きだす。次回授業で出願分割及び出願変更について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	出願分割は、パリ条約でも同盟国民に認められている権利であることから、パリ条約４条Fについても、参考書を読んで、日本の分割・変更制度と内容の同一性に関して確認し、相違点があればノートに列挙する。	140分
13	/	出願・審査手続（５）	外国語書面出願 外国語により作成された書類での特許出願を認めるに至った制度趣旨や規定の内容を講義する。最終的には日本語の翻訳文を提出するが、誤訳訂正や補正の範囲についても講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、外国語書面で特許出願した場合のその後の手続きについて説明できる。	
		事前学修	参考書内の36条の2及びその解説を事前に読んでおき、日本語に加え一部の言語にて、日本では特許出願が可能であることを理解した上で、外国語出願した出願人がその後取るべき手続やその内容を理解し、ノートに書き出す。	100分
		事後学修	外国語書面出願の場合、翻訳ミスがあった場合の訂正は、通常の手続補正書では行わないため、どのような手法で誤訳を訂正するのか、講義での内容を確認し、ノートに書き出す。また、補正の範囲は翻訳の範囲など、通常の日本語出願とは大きく異なる点があるので、相違点を理解し、箇条書きにしてノートに書き出す。	140分
14	/	出願・審査手続（６）	特許庁の行為１（出願公開及び補償金請求権） 出願後、一定期間経過したこと又は出願公開の請求があったことを条件に、審査の段階の如何にかかわらず、特許出願の内容を公衆に知らせる公開制度の意義、公開による仮保護となる補償金請求権の規定（権利行使の時期や手法）について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、早期に発明内容を公開する意義、公開による出願人の保護を行う補償金請求権の内容について説明できる。	
		事前学修	教科書P227-229を事前に読んでおき、出願公開の要件及び出願公開に伴い発生する補償金請求権の要件及び内容を理解し、ノートに書き出す。次回授業で出願公開及び補償金請求権について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	参考書の第三章の二（64条-65条）にある出願公開制度、補償金制度、早期公開制度の解説を読み、講義内容、規定の内容、条文の文言を確認し、ノートに書き出しておく。	140分
15	/	出願・審査手続（７）	特許庁の行為２（拒絶理由通知、査定と登録） 特許要件を具備する・具備しない発明に対する特許庁のアクションについて講義する。 尚、上記講義終了後、学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、特許要件を満たしていない出願に対し、どのような行為をなされるかを説明でき、その対応により、審査部での最終判断としての処分がどのようなものになるか説明できる。	
		事前学修	教科書P231、241-242を事前に読んでおき、拒絶理由通知を受けた出願人の対応手法を理解し、ノートに書き出す。特に最終回の講義では、今まで講義した内容全般から知識を問う形で出題するため、今までまとめてきたノートを繰り返し読み返す	100分
		事後学修	参考書の49条（拒絶査定）、50条（拒絶理由通知）、51条（特許査定）にて講義内容を確認し、ノートに追記する。また、試験で回答できない部分は、講評を聞き、さらに教科書で確認し、全体としてのまとめを書き出す。	140分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案) I	担当者	加藤 浩	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義プリントを配布して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、提供する。 授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				3		3					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				3		3	3				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						3	3				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				3		3	3				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての特許法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(調査学習 成果)	到達目標①③④⑥について、「実際に特許出願されたアイデアが、法上の発明要件を備えているか否か」をテーマとした調査学習により（１）特許庁のデータベースを適切に使用できているかをチェックリストを基準に評価。また、（２）提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に評価する。	5		5	5		5					20
その他(体験学習 成果)	特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるかを各自が考えたうえで、仮想特許出願書類作成書類を作成する体験学習において、提出されたレポートが、講義で示した書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑤にかかわる手続書類が実践できるかを評価する。		15			5						20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別 必要度
標準 特許法 第6版		高林龍	有斐閣	2017	参考書 推奨
産業財産権法 逐条解説		特許庁編	発明協会	2017	参考書 任意
備考	使用しない。（毎回、レジュメを配布する。）				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許明細書の書き方、特許クレームの作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	総論	知的財産法の概要	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
		事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
		事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	4/13	特許法の目的	特許法の目的について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法の目的について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許法の目的（特許法1条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許法の目的について復習し、特許法1条の解釈について整理しておいてください。	120分
3	4/20	保護対象	特許の保護対象について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許の保護対象について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許の保護対象（特許法2条1項）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許の保護対象について復習し、特許法2条1項の解釈について整理しておいてください。	120分
4	4/27	特許要件（産業上の利用可能性）	産業上の利用可能性について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、産業上の利用可能性について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、産業上の利用可能性（特許法29条1項柱書）について考えてきてください。	120分
		事後学修	産業上の利用可能性について復習し、特許法29条1項柱書の解釈について整理しておいてください。	120分
5	5/4	特許要件（新規性）	新規性の要件について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、新規性の要件について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、新規性の要件（特許法29条1項各号）について考えてきてください。	120分
		事後学修	新規性の要件について復習し、特許法29条1項各号の解釈について整理しておいてください。	120分
6	5/11	特許要件（進歩性）	進歩性の要件について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、進歩性の要件について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、進歩性の要件（特許法29条2項）について考えてきてください。	120分
		事後学修	進歩性の要件について復習し、特許法29条2項の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	特許要件（記載要件）	明細書等の記載要件について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明細書等の記載要件について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、明細書等の記載要件（特許法３６条、３７条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	明細書等の記載要件について復習し、特許法３６条、３７条の解釈について整理しておいてください。	120分
8	5/25	まとめと授業内試験（１）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	6/1	権利の主体（１）	発明者・出願人について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、発明者・出願人について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、発明者と出願人について考えてきてください。	120分
		事後学修	発明者・出願人について復習し、発明者適格、出願人適格について整理しておいてください。	120分
10	6/8	権利の主体（２）	職務発明制度について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職務発明制度について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、職務発明制度（特許法３５条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	職務発明制度について復習し、特許法３５条の解釈について整理しておいてください。	120分
11	6/15	特許出願手続き（１）	特許出願書類について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許出願書類を準備することができること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許出願書類（特許法３６条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許出願書類について復習し、特許法３６条の解釈について整理しておいてください。	120分
12	6/22	特許出願手続き（２）	出願公開制度について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願公開制度について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、出願公開制度（特許法６４条、６５条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	出願公開制度について復習し、特許法６４条、６５条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	特許出願手続き（３）	特許審査について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許審査について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許審査（特許法４９条、５０条、５１条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許審査について復習し、特許法４９条、５０条、５１条の解釈について整理しておいてください。	120分
14	7/6	特許出願手続き（４）	審判制度について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、審判制度について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、審判制度（特許法１２１条、１２３条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	審判制度について復習し、特許法１２１条、１２３条の解釈について整理しておいてください。	120分
15	7/13	まとめと授業内試験（２）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を習得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】
パワーポイントを使用した講義を基本とする。尚、一方通行ではなく、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。授業内試験を実施し、フィードバックは、授業時間内に実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドを用い、講義中に制度や司法判断の問題点などをQ&Aを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。				3		3					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。				3		3	3				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。						3	3				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について、適宜授業では、質問を行い、質問に対する自己の考えを発表させ、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施し、フィードバックは、授業時間内に実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12時10分～13時 研究室（本館8階1812研究室） takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁理士、企業知的財産部
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業・特許事務所での特許権等に関する訴訟・ライセンスの経験を通じ、これらに関する実践的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 金9/18	特許権の効力と制限（１）	特許権の存続期間について
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の存続期間について理解すること。
		事前学修	事前に参考書などを読んで、特許権の存続期間について考えてくる。
		事後学修	特許権の存続期間について復習し、内容を整理する。
2	第一部 金9/25	特許権の効力と制限（２）	特許権の効力と制限について
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。
		事前学修	参考書を読んで、特許権の効力と制限（特許法６８条、６９条）について考えてくる。
		事後学修	特許権の効力と制限について復習し、特許法６８条、６９条の解釈について整理する。
3	第一部 金10/2	特許権の効力と制限（３）	特許発明の技術的範囲について
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。
		事前学修	参考書を読んで、特許発明の技術的範囲（特許法７０条）について考えてくること。
		事後学修	特許発明の技術的範囲について復習し、特許法７０条の解釈について整理する。
4	第一部 金10/9	特許権の効力と制限（４）	権利の共有について
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、権利の共有について理解すること。
		事前学修	参考書を読んで、権利の共有（特許法７３条）について考える。
		事後学修	参考書を読んで、権利の共有（特許法７３条）について考えてくる。
5	第一部 金10/16	特許権の活用（１）	実施権（専用実施権・通常実施権）について
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、実施権について理解すること。
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実施権（特許法７７条、７８条）について考えてくる。
		事後学修	実施権の内容を復習し、各実施権の内容整理する。
6	第一部 金10/23	特許権の活用（２）	法定実施権、裁定実施権について
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定実施権、裁定実施権について理解すること。
		事前学修	参考書を読んで、法定実施権（７９条）、裁定実施権（８３条）について考えてくる。
		事後学修	法定実施権、裁定実施権について復習し、権利の趣旨・内容を整理する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	授業内試験（小テスト）まとめ	授業内試験を行い、これまでのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をする。	120分
		事後学修	試験でできなかったところをフィードバックしますので、しっかりと復習すること。	120分
8	第一部 金11/6	特許権の侵害と救済（１）	特許権侵害の成立要件について	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権侵害の成立要件について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許権侵害の成立要件について考えてくる。	120分
		事後学修	特許権侵害の成立要件について復習し、関連する条文の解釈について整理する。	120分
9	第一部 金11/13	特許権の侵害と救済（２）	特許権の間接侵害について	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権の間接侵害について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許権の間接侵害（１０１条）について考えてくる。	120分
		事後学修	特許権の間接侵害について復習し、その趣旨と内容を整理する。	120分
10	第一部 金11/20	特許権の侵害と救済（３）	特許権侵害に対する救済について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権侵害に対する救済（差止請求、損害賠償請求等）について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害に対する救済（１００条、その他）について考えてくる。	120分
		事後学修	特許権侵害に対する救済について復習し、特許法１００条、その他関連する条文の解釈について整理する。	120分
11	第一部 金11/27	審判制度（１）	拒絶査定不服審判・審査前置について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、拒絶査定不服審判・審査前置制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、拒絶査定不服審判・審査前置制度について考えてくる。	120分
		事後学修	拒絶査定不服審判・審査前置制度について復習し、制度趣旨及び手続について整理する。	120分
12	第一部 金12/4	審判制度（２）	特許無効審判制度・特許異議申立制度について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許無効審判制度・特許異議申立制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許無効審判制度・特許異議申立制度について考えてくる。	120分
		事後学修	特許無効審判制度・特許異議申立制度について復習し、制度趣旨及び手続について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	特許訴訟	審決取消訴訟を中心にた特許に関する訴訟について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について考えてくる。	120分
		事後学修	審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について復習し、関連する条文の解釈について整理する。	120分
14	第一部 金12/18	実用新案法	実用新案制度について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、実用新案制度について考えてくる。	120分
		事後学修	実用新案制度について、特許制度の違いを中心に復習し整理する。	120分
15	第一部 金12/25	特許権とライセンス契約	特許権とライセンス契約について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権とライセンス契約について考えてくる。	
		事前学修	参考書を読んで特許権とライセンス契約について考えてくる。	120分
		事後学修	特許権とライセンス契約について復習し、内容を整理する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を習得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】
パワーポイントを使用した講義を基本とする。尚、一方通行ではなく、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドを用い、講義中に制度や司法判断の問題点などをQ&Aを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。						1		1					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。						2		2	2				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。								2	2				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						3		3	3				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について、適宜授業では、質問を行い、質問に対する自己の考えを発表させ、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	教科書	必携
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	推奨
特許判例百選 第5版	小泉・田村編	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館4階9408研究室） mimura.junichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許ライセンス実務経験を通じ、例えば、特許ライセンス手法について考える等を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	特許を受ける権利	権利対象、権利侵害に対する救済、権利の利用	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許を受ける権利の発生・消滅・主体変動を説明できる。	
		事前学修	教科書P73-79、参考書②33-34条及びそれらの解説を事前に読んでおく。	120分
		事後学修	共有に係る場合の特則や訴訟提起の場合の単独性について教科書を利用し理解する。	120分
2	/	職務発明制度	職務発明の従業員の権利及び使用者の権利	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、青色LED事件を用いて法改正がなされた理由や改正により権利の原始的帰属がどのように変わったのかを説明できる。	
		事前学修	教科書P80-97を事前に読んでおく。現行法下での権利の原始的帰属や使用者の権利を理解する。	120分
		事後学修	旧法との比較を行い、改正点を整理するとともに、改正法の課題を考える。	120分
3	/	特許権の効力（１）	効力範囲	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権者の権利（即ち侵害者の行為）を説明できる。	
		事前学修	教科書P98-118を事前に読んでおく。特に特許権者はどのようなことを独占排他的に行えるのか理解する。	120分
		事後学修	特に、消尽説を教科書102-114を利用し理解する。	120分
4	/	特許権の効力（２）	効力の制限、拡張的効力	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許権の積極的・消極的効力の制限がなされる具体的な状況を説明できる。	
		事前学修	教科書189-191（効力制限）、教科書174-186（間接侵害）を事前に読んでおく。	120分
		事後学修	「グアニジノ安息香酸誘導体III上告審」 平成10（受）153を読み、69条1項の理解を深める。	120分
5	/	特許権の存続期間	特許権及び延長特許権の期間の算出方法や延長の手続	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許権の始期及び周期を説明でき、さらに後発医薬品にかかる問題で69条1項との関係を説明できる。	
		事前学修	教科書118-122を事前に読んでおく。特許が延長される場合について理解する。	120分
		事後学修	「パシーフカプセル事件」（最高裁判所第1小法廷平成21年（行ヒ）第326号 平成23年4月28日）を読み、講義の理解を深める。	120分
6	/	特許権侵害（１）	成立要件（技術的範囲の判断、均等論）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、68条及び70条の規定を説明しつつ、特許侵害の判断手法を説明し、さらに拡張的な例外（均等論）の内容及び要件を説明できる。	
		事前学修	教科書127-173を事前に読んでおく。特許侵害はどのように判断されるのか理解する。	120分
		事後学修	「ボールスプライン軸受」 平成6(オ)1083 を読み、均等の5要件の意味を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	特許権侵害（２）	民事的救済（差止請求権、損害賠償請求権）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許侵害の場合に差し止め請求はどこまで認められるのか、損害賠償は、特許法上の規定を利用する場合、どの様に算出されるのか説明できる。	
		事前学修	教科書279-316を事前に読んでおく。損害賠償にかかる特別規程の内容を理解する。	120分
		事後学修	講義にて簡単な事例問題を提示するので、各自賠償額を計算する。	120分
8	/	権利の変動（１）	専用実施権／許諾による通常実施権	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、専用実施権／許諾による通常実施権の内容及び独禁法との境界線や問題点を説明できる。	
		事前学修	教科書193-207を事前に読んでおく。専用と通常の相違点を理解する。	120分
		事後学修	企業間の実施契約を非独占的なものであるため、この契約をする上で必要となる要素を考える。	120分
9	/	権利の変動（２）	法定通常実施権及び裁定通常実施権常実施権	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、すべての法定実施権、裁定による通常実施権を説明でき、また、強制実施権である裁定に関し、その制度存在の是非について説明できる。	
		事前学修	教科書207-218を事前に読んでおく。各実施権の内容を理解する。特に裁定の場合、実施権種類により判断主体が異なる点、その理由を含めて理解する。	120分
		事後学修	国家間で問題となっている国家による強制実施権について考える。	120分
10	/	権利の変動（３）	権利の移転／仮専用実施権及び仮通常実施権	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許を受ける権利に基づくライセンスについて、また、特許権取得後にはそれらがどのように法上で取り扱われるかについて説明できる。	
		事前学修	教科書P218（移転）、参考書②34条の2及び34条の3及びそれらの解説（仮実施権）を事前に読んでおく。	120分
		事後学修	仮実施権と実施権の相違、特許権成立後の仮実施権の取り扱いについて理解する。	120分
11	/	審判（１）	審判手続	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、審判の種類及び共通する審判手続きの流れを説明できる。	
		事前学修	教科書P245-247を事前に読んでおく。審判手続きは、各種審判に共通する部分が多い。まず、本講義でおこなわれる一般的な審判の流れや共通する手続き、特定の審判にのみ用いられる手続きなどを理解する。	120分
		事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf	120分
12	/	審判（２）	拒絶査定不服審判／前置審査	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、拒絶査定不服審判の手続き及び意義について説明でき、さらに審判請求時の補正による前置審査制度について説明できる。	
		事前学修	教科書P245-247を事前に読んでおく。拒絶査定不服審判請求時に補正を行う場合と行わない場合で、審判手続きに差異が生じる点を理解する	120分
		事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	審判（3）	特許無効審判・訂正審判・延長登録無効の審判	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許無効審判・訂正審判・延長登録無効の審判の手続き及び意義について説明できる。	
		事前学修	教科書P247-257を事前に読んでおく。類似手続きである訂正審判と訂正請求の相違を理解する。	120分
		事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf	120分
14	/	訴訟	異議申立制度及び審決取消訴訟・その他の訴訟	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許事件に関し、司法で争う場合の手続きや主体要件など、当事者系と査定系に分けて説明できる。また、繰り返し改正される異議申し立て制度の内容及び改正理由（改正ごとに異なる趣旨）を説明できる。	
		事前学修	教科書P257-259（異議）及びP260-278（訴訟）を事前に読んでおく。異議制度と無効審判の相違を理解する。	120分
		事後学修	審決取消訴訟は、査定系と当事者系があるが、請求主体が異なると考えられているため、その点を参考書①を利用して理解を深める。	120分
15	/	実用新案登録制度	実用新案制度及び実用新案技術評価書 学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案制度の存在意義、特許法との相違、その相違から規定されることになった特殊な評価制度の意義を説明できる。	
		事前学修	教科書P317-324を事前に読んでおく。特に、権利行使に必要である技術評価書はどのようなものであるか理解する	120分
		事後学修	特許制度との相違を理解する。また、試験で回答できない部分は、講評を聞き、さらに教科書で確認する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	加藤 浩	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を習得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメを配布して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、提供する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。				3		3					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。				3		3	3				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。						3	3				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について、適宜授業では、質問を行い、質問に対する自己の考えを発表させ、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	任意
備考	使用しない。（毎回、レジュメを配布する。）				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許明細書の書き方、特許クレームの作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	総論	知的財産権法の概要について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
		事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
		事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	9/21	特許権の効力・制限（１）	特許権の存続期間について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の存続期間について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権の存続期間（特許法６６条、６７条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権の存続期間について復習し、特許法６６条、６７条の解釈について整理しておいてください。	120分
3	9/28	特許権の効力・制限（２）	特許権の効力と制限について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権の効力と制限（特許法６８条、６９条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権の効力と制限について復習し、特許法６８条、６９条の解釈について整理しておいてください。	120分
4	10/5	特許権の効力・制限（３）	特許発明の技術的範囲について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許発明の技術的範囲について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許発明の技術的範囲（特許法７０条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許発明の技術的範囲について復習し、特許法７０条の解釈について整理しておいてください。	120分
5	10/12	特許権の効力・制限（４）	権利の共有について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、権利の共有について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、権利の共有（特許法７３条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	権利の共有について復習し、特許法７３条の解釈について整理しておいてください。	120分
6	10/19	特許権の活用（１）	実施権（ライセンス）について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、実施権（ライセンス）について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実施権（特許法７７条、７８条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	実施権について復習し、特許法７７条、７８条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	特許権の活用（２）	法定実施権、裁定実施権について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定実施権、裁定実施権について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、法定実施権（特許法７９条）、裁定実施権（特許法８３条、９２条、９３条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	法定実施権、裁定実施権について復習し、特許法７９条、８３条、及び関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
8	11/9	まとめと授業内試験（１）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	11/16	特許権の侵害と救済（１）	特許権侵害の成立要件について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権侵害の成立要件について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害の成立要件について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権侵害の成立要件について復習し、関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
10	11/23	特許権の侵害と救済（２）	特許権の間接侵害について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権の間接侵害について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権の間接侵害（特許法１０１条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権の間接侵害について復習し、特許法１０１条の解釈について整理しておいてください。	120分
11	11/30	特許権の侵害と救済（３）	特許権侵害に対する救済について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権侵害に対する救済（差止請求、損害賠償請求等）について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害に対する救済（特許法１００条、その他）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権侵害に対する救済について復習し、特許法１００条、その他関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
12	12/7	特許権の侵害と救済（４）	特許権侵害に対する刑事罰について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権侵害に対する刑事罰について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害に対する刑事罰（１９６条、１９６条の２）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権侵害に対する刑事罰について復習し、特許法１９６条、１９６条の２、その他関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	実用新案法（１）	実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について考えてきてください。	120分
		事後学修	実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について復習し、関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
14	12/21	実用新案法（２）	実用新案権の侵害と救済について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案権の侵害と救済について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実用新案権の侵害と救済について考えてきてください。	120分
		事後学修	実用新案権の侵害と救済について復習し、関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
15	1/18	まとめと授業内試験（２）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるように必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中折をみてリアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『地方自治を学ぶー要点と資料ー〔第2版〕』	賀来 健輔	三恵社	2019	教科書	必携
『Next教科書シリーズ地方自治論〔第2版〕』	福島 康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。 研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	ガイダンス：授業内容の説明	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた授業の内容であること、また講義計画、成績評価の方法、そして紹介された教科書、参考文献等を確認し、理解できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	第1回目に行った授業内容や参考文献をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	第一部金 4/17	1. 地方公共団体の種類(1)普通地方公共団体について①都道府県と市町村	普通地方公共団体のうち県・市町村について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	県、市町村の制度的概要やその問題点などを理解し、到達目標①②③を自分のものとしてすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
3	第一部金 4/24	1. 地方公共団体の種類(2)普通地方公共団体について②指定都市と中核市ほか	普通地方公共団体のうち指定都市・中核市・施行時特例市について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	指定都市・中核市・施行時特例市の制度的概要やその問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとしてすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
4	第一部金 5/1	1. 地方公共団体の種類(3)特別地方公共団体について①特別区と組合	特別地方公共団体のうち特別区・一部事務組合・広域連合について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	特別地方公共団体のうち特別区・一部事務組合・広域連合について、その制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとしてすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
5	第一部金 5/8	1. 地方公共団体の種類(4)特別地方公共団体について②財産区とその他の外郭団体	特別地方公共団体の財産区と、また地方公共団体と関係性の深い外郭団体等について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	特別地方公共団体の財産区と、また地方公共団体と関係性の深い外郭団体等について、その制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとしてすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
6	第一部金 5/15	2. 地方公共団体の区域(1)区域の変更について	市町村の区域の変更について、その制度的概要、問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	市町村の区域の変更について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとしてすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	2. 地方公共団体の区域(2)市町村合併について	市町村合併の制度的概要、その問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	市町村合併の制度的概要、その問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
8	第一部金 5/29	2. 地方公共団体の区域(3)平成の大合併とは何だったのか？	平成の大合併を検証し、その内容、意味合い、功罪等について学ぶ。	
		この回の到達目標	平成の大合併の内容、意味合い、功罪等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
9	第一部金 6/5	2. 地方公共団体の区域(4)都道府県レベルの区域の問題－道州制と連邦制－	都道府県の区域の問題、具体的には道州制や連邦制について、その概要と問題点を学ぶ。	
		この回の到達目標	都道府県の区域の問題の意味するところについて理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
10	第一部金 6/12	3. 地方公共団体の組織(1)首長、首長の補助機関	地方公共団体の組織のうち首長とその補助機関について、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体の組織のうち首長とその補助機関について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
11	第一部金 6/19	3. 地方公共団体の組織(2)出先機関、執行機関の付属機関	地方公共団体の組織うち出先機関、執行機関の付属機関について、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体の組織のうち、出先機関、執行機関の付属機関について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
12	第一部金 6/26	3. 地方公共団体の組織(3)行政委員会①行政委員会とは何か？	地方公共団体の組織うち行政委員会について、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体の組織のうち行政委員会について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	3. 地方公共団体の組織(4)行政委員会②行政委員会の有する課題	地方公共団体の組織うち行政委員会の個々の委員会について焦点を当て、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	個々の行政委員会について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
14	第一部金 7/10	4. 地方公共団体の事務について	地方公共団体の事務について、その制度的概要、問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体の事務に関して、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
15	第一部金 7/17	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通した理解度を測るために、理解到達度試験を行う。また後半の時間を使って、試験の解説、また学期中のまとめとして、この間に行った主要な事柄に関する質問に答える。	
		この回の到達目標	半期で行った地方自治論の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	これまでの授業で学んだ事柄について、ノートや教科書、参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
		事後学修	これまでに授業でとった教科書、参考書、講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。それでも残った疑問点は教員に質問する。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	鈴木 隆志	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるように必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわきまえることを求める。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。							1					
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。							1					
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。									1			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身についているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身についているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 〔第2版〕	福島 康仁（編）	弘文堂	2018	教科書	
政治学 〔第2版〕	吉野 篤（編）	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。（例：寄本勝美・小原隆治編（2011）『新しい公共と自治の現場』コモンズなど。）				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階） （事前にメールでアポイントメントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	川崎市市民オンブズマン専門調査員
実務経験に基づく実践的教育の内容		川崎市役所において市民オンブズマン専門調査員として勤務した経験から、公的オンブズマン制度をはじめ、オンブズマンの管轄である市の事務についての知識等を反映した教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	地方自治とは	地方自治論について理解するために、地方自治、地方自治論とは何かについて学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治、地方自治論とは何かについて概説できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	60分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	4/15	地方政府と自治権	地方自治のあり方について理解するために、地方政府と自治権について学修し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方政府と自治権について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方政府と自治権について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方政府と自治権について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	4/22	明治時代の地方制度	現代の地方自治制度をよりよく理解するために、明治時代の地方制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代の地方制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、明治時代の地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、明治時代の地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	4/29	第二次世界大戦期までの地方制度	現代の地方自治制度をよりよく理解するために、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	5/6	日本国憲法と地方自治	現在の地方自治制度を理解するために、日本国憲法と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本国憲法と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、日本国憲法と地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本国憲法と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	5/13	地方公共団体の種類等	地方自治制度を理解するために、地方公共団体の種類等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の種類等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体の種類等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の種類等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	地方公共団体内の諸機関	動態的に地方自治を理解する基礎として、地方公共団体内の諸機関について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体内の諸機関について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体内の諸機関について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体内の諸機関について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	5/27	地方分権改革と地方自治	現在の地方自治をよりよく理解するために、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について学修する。	
		この回の到達目標	現在の地方自治をよりよく理解するために、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について学修する。	
		事前学修	教科書を読み、地方分権改革について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	6/3	第一次地方分権改革以降の地方分権改革	現在の地方自治をよりよく理解するために、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	6/10	地方財政制度	地方自治制度の基礎的な知識を養うために、地方財政制度、歳入と歳出について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政制度、歳入と歳出について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方財政制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	6/17	地方財政制度の改革等	地方自治の課題等を捉えるために、地方財政制度の改革等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方財政制度の改革等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方財政制度の改革等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度の改革等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	6/24	地方公共団体の再編と開発行政・広域行政	わが国の地方自治の現状等について理解するために、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	諸外国の中央 - 地方関係	わが国の地方自治制度の課題等を考えるために、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	7/8	諸外国の地方自治	わが国の地方自治の課題等を考えるために、イギリスやフランス、アメリカ等の地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、諸外国の地方自治制度と比較を行い、わが国の地方自治制度の特徴について考察し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、諸外国の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	7/15	これまでの講義の総括	地方自治の制度的な課題等について理解するために、これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の地方自治の歴史や制度等を考慮し、今後の地方自治のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるようになる。	
		事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、地方自治の基礎的知識を確認し、今後の地方自治のあり方について考察する。	120分
		事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるように必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。							1					
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。							1					
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。									1			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 第2版	福島康仁編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休みの時間 研究室（本館１６０３） 他の学生との時間を調整するのでアポをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員として自治体の政策形成に関与している点を生かして実際に教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	地方自治とは	地方自治論について理解するために、地方自治、地方自治論とは何かについて学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治、地方自治論とは何かについて概説できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	4/14	地方政府と自治権	地方自治のあり方について理解するために、地方政府と自治権について学修し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方政府と自治権について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方政府と自治権について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方政府と自治権について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	4/21	明治時代の地方制度	地方自治制度の成り立ちを理解するために、明治時代の地方制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代の地方制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、明治時代の地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、明治時代の地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	4/28	第二次世界大戦期までの地方制度	地方自治制度の成り立ちをよりよく理解するために、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	5/5	日本国憲法と地方自治	現在の地方自治制度の制度保障を理解するために、日本国憲法と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本国憲法と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、日本国憲法と地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本国憲法と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	5/12	地方公共団体の種類等	地方自治制度の基本的枠組みを理解するために、地方公共団体の種類等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の種類等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体の種類等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の種類等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	地方公共団体内の諸機関	地方自治の枠組みを理解する基礎として、地方公共団体内の諸機関について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体内の諸機関について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体内の諸機関について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体内の諸機関について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	5/26	地方分権改革と地方自治	地方自治の改革をよりよく理解するために、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方分権改革について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	6/2	第一次地方分権改革以降の地方分権改革	現在の地方自治の制度改革をよりよく理解するために、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	6/9	地方財政制度	地方自治制度の財政的な基礎的な知識を養うために、地方財政制度、歳入と歳出について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政制度、歳入と歳出について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方財政制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	6/16	地方財政制度の改革等	地方自治の課題等を捉えるために、地方財政制度の改革等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方財政制度の改革等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方財政制度の改革等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度の改革等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	6/23	地方公共団体の再編と開発行政・広域行政	わが国の地方自治の現状等について理解するために、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	諸外国の中央 - 地方関係	わが国の地方自治制度の課題等を考えるために、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	7/7	諸外国の地方自治	わが国の地方自治の課題等を考えるために、イギリスやフランス、アメリカ等の地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、諸外国の地方自治制度と比較を行い、わが国の地方自治制度の特徴について考察し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、諸外国の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	7/14	前期の講義の総括	地方自治の制度的な課題等について理解するために、これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の地方自治の歴史や制度等を考慮し、今後の地方自治のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるようになる。	
		事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、地方自治の基礎的知識を確認し、今後の地方自治のあり方について考察する。	120分
		事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『地方自治を学ぶ－要点と資料－〔第2版〕』	賀来 健輔	三恵社	2019	教科書	必携
『Next教科書シリーズ地方自治論〔第2版〕』	福島 康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。 研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 9/18	5. 地方議会の組織と機能 (1) 議会の基本的性格	議会の基本的性格、議会の組織と運営について、その制度的概要と問題点を学ぶ。	
		この回の到達目標	議会の基本的性格、議会の組織と運営について、その制度的概要と問題点などを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
2	第一部金 9/25	5. 地方議会の組織と機能 (2) 議会の権限ほか	議会の権限、議会と住民との関係、地方議会の諸問題等について学ぶ。	
		この回の到達目標	議会の権限、議会と住民との関係、地方議会の諸問題等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
3	第一部金 10/2	6. 地方公共団体への住民参加 (1) 住民参加とは何か？	地方公共団体への住民参加について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体への住民参加について、その制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
4	第一部金 10/9	6. 地方公共団体への住民参加 (2) 「統制」の観点から住民参加を理解する	地方公共団体への住民参加について、政治や行政への「統制」という観点から焦点を当て、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体への住民参加について、政治や行政への「統制」という観点からを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
5	第一部金 10/16	6. 地方公共団体への住民参加 (3) 直接請求制度とは何か？	地方公共団体への住民参加のうち、直接請求制度の制度的概要やその問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体への住民参加のうち、直接請求制度の制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
6	第一部金 10/23	6. 地方公共団体への住民参加 (4) 住民投票制度について	地方公共団体への住民参加のうち、条例に基づく住民投票の制度的概要やその問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体への住民参加のうち、条例に基づく住民投票の制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 10/30	7. 地方公共団体に対する統制(1)情報公開制度について①制度的概要	情報公開制度の概要、変遷、制度の仕組みについて学ぶ。	
		この回の到達目標	情報公開制度の概要、変遷、制度の仕組みを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
8	第一部金 11/6	7. 地方公共団体に対する統制(2)情報公開制度について②制度に有する論点と課題	情報公開の「範囲」をめぐる論点、その課題等について学ぶ。	
		この回の到達目標	情報公開の「範囲」をめぐる論点、その課題等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
9	第一部金 11/13	7. 地方公共団体に対する統制(3)オンブズマン制度について①制度的概要	オンブズマン制度の概要、変遷、制度の仕組みについて学ぶ。	
		この回の到達目標	オンブズマン制度の概要、変遷、制度の仕組みを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
10	第一部金 11/20	7. 地方公共団体に対する統制(4)オンブズマン制度について②事例研究	川崎市のオンブズマン制度を事例として、その制度と実態、課題等について学ぶ。	
		この回の到達目標	川崎市のオンブズマン制度を事例として、その制度と実態、課題等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
11	第一部金 11/27	8. 地方公共団体の基本原理(1)憲法から見た地方自治	日本国憲法から地方自治について、その概要と問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	日本国憲法から地方自治について、その概要と問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
12	第一部金 12/4	8. 地方公共団体の基本原理(2)地方自治に関する所論について	地方自治に関する所論を取り上げ、その概要を紹介すると共に課題、問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	地方自治に関する所論を取り上げ、その概要を紹介すると共に課題、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12/11	9. 地方公共団体の歴史的変遷(1) 戦前の地方制度	戦前の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性について学ぶ。	
		この回の到達目標	戦前の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性を理解し、到達目標①②③を自分のものとする事ができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
14	第一部金 12/18	9. 地方公共団体の歴史的変遷(2) 戦後の地方制度	戦後の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性について学ぶ。	
		この回の到達目標	戦後の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性を理解し、到達目標①②③を自分のものとする事ができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
15	第一部金 12/25	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通した理解度は測るために、理解到達度試験を行う。後半の時間を使って、試験の解説、また期間のまとめとして、この間行った主要な事柄について質問に答える。	
		この回の到達目標	半期で行った地方自治論の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③を自分のものとする事ができる。	
		事前学修	これまでの授業で学んだ事柄について、教科書、ノートや参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
		事後学修	これまでに授業でとった教科書、参考書、講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。それでも残った疑問点は教員に質問し、期末試験の準備を行う。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわきまえることを求める

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 〔第2版〕	福島 康仁（編）	弘文堂	2018	教科書	
政治学 〔第2版〕	吉野 篤（編）	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。（例： 寄本勝美・小原隆治編（2011）『新しい公共と自治の現場』コモンズなど。）				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階） （事前にメールでアポイントメントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	川崎市市民オンブズマン専門調査員
実務経験に基づく実践的教育の内容		川崎市役所において市民オンブズマン専門調査員として勤務した経験から、公的オンブズマン制度をはじめ、オンブズマンの管轄である市の事務についての知識等を反映した教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	地方自治制度と自治体	地方自治論についてよりよく理解するために、地方自治制度について確認し、自治体のあり方等について学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治制度における自治体のあり方について概説できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治制度における自治体のあり方について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	9/23	新たな自治体経営の手法	自治体経営の手法等について理解するために、PFIや指定管理者制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PFIや指定管理者制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、新たな自治体経営の手法等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、新たな自治体経営の手法等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	9/30	自治体経営の具体例	自治体経営の手法等について理解するために、行政評価等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政評価等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、行政評価等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政評価等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	10/7	自治体の行政統制（監査制度）	地方自治を動的に理解するために、自治体の監査制度等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の監査制度等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、監査制度等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、監査制度等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	10/14	自治体の行政統制（公的オンブズマン制度）	地方自治を動的に理解するために、公的オンブズマン制度等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公的オンブズマン制度等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、公的オンブズマン制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、公的オンブズマン制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	10/21	自治体の広報・公聴活動	地方自治の現状について理解するために、自治体の広報・公聴活動について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の広報・公聴活動について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の広報・公聴活動について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の広報・公聴活動について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	自治体の情報化	地方自治の現状について理解するために、自治体情報化と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体情報化と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の情報化について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の情報化について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	11/11	住民の役割や協働	地方自治を動的に理解するために、住民の役割や協働について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の役割や協働について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、住民の役割や協働について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民の役割や協働について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	11/18	住民参加の制度やコミュニティ	地方自治を動的に理解するために、住民参加の制度やコミュニティについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民参加の制度やコミュニティについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、住民参加の制度やコミュニティについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民参加の制度やコミュニティについて自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	11/25	住民運動や自治基本条例	地方自治を動的に理解するために、住民運動や自治基本条例等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民運動や自治基本条例等について説明できる	
		事前学修	教科書を読み、住民運動や自治基本条例等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民運動や自治基本条例等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	12/2	自治体の行政組織及び特徴	地方自治の行政、執行について理解するために、自治体の行政組織及び特徴等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の行政組織及び特徴等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の行政組織及び特徴等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の行政組織及び特徴等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	12/9	持続可能な発展と地方自治	地方自治における課題について理解するために、持続可能な発展と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、持続可能な発展と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方自治における持続可能な発展等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治における持続可能な発展等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	自治体における政策	地方自治を動的に理解するために、自治体における政策過程や体系について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体における政策過程や体系について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体における政策過程や体系について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体における政策過程や体系について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	12/23	自治体の政策の事例	地方自治の現状や課題について理解するために、環境政策等を事例として取り上げ、自治体における政策過程や国や住民との関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、環境政策等について、自治体における政策過程や国や住民との関係について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の政策について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の政策について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	1/13	これまでの講義の総括	わが国の自治体内の組織や運営、政策の特徴や課題等について説明できるようになるために、これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の自治体の現状や課題を理解し、今後の自治体のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	わが国の自治体内の組織や運営、政策について、初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	福島 康仁	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身についているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身についているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 〔第2版〕	福島 康仁 編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（本号館１６０３） （事前にメールでアポイントメントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員として自治体の政策形成に関与している。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	地方自治制度と自治体	地方自治論についてよりよく理解するために、地方自治制度について確認し、自治体のあり方等について学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治制度における自治体のあり方について概説できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治制度における自治体のあり方について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	9/22	新たな自治体経営の手法	ニューパブリックマネジメントにもとづくあたらしい自治体経営の手法等について理解するために、PFIや指定管理者制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PFIや指定管理者制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、新たな自治体経営の手法等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、新たな自治体経営の手法等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	9/29	自治体経営の具体例	市場原理が機能しないため、行政に導入された自治体経営の手法等について理解するために、行政評価等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政評価等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、行政評価等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政評価等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	10/6	自治体の行政統制（監査制度）	アカウンタビリティと地方自治を動的に理解するために、自治体の監査制度等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の監査制度等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、監査制度等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、監査制度等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	10/13	自治体の行政統制（公的オンブズマン制度）	行政責任と行政統制を理解するために、公的オンブズマン制度等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公的オンブズマン制度等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、公的オンブズマン制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、公的オンブズマン制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	10/19	自治体の広報・公聴活動	行政の外への発信と住民との信頼確保の方策について理解するために、自治体の広報・公聴活動について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の広報・公聴活動について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の広報・公聴活動について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の広報・公聴活動について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	自治体の情報化	地方自治の内部管理と外部との情報管理について理解するために、自治体情報化と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体情報化と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の情報化について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の情報化について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	11/10	住民の役割や協働	地域におけるアクターの役割分担とちいきづくりに理解するために、住民の役割や協働について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の役割や協働について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、住民の役割や協働について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民の役割や協働について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	11/17	住民参加の制度やコミュニティ	住民参加に理解するために、住民参加の制度やコミュニティについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民参加の制度やコミュニティについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、住民参加の制度やコミュニティについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民参加の制度やコミュニティについて自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	11/24	住民運動や自治基本条例	地域の自立的運営について理解するために、住民運動や自治基本条例等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民運動や自治基本条例等について説明できる	
		事前学修	教科書を読み、住民運動や自治基本条例等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民運動や自治基本条例等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	12/1	自治体の行政組織及び特徴	自治の運営主体である自治体について理解するために、自治体の行政組織及び特徴等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の行政組織及び特徴等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の行政組織及び特徴等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の行政組織及び特徴等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	12/8	持続可能な発展と地方自治	持続可能な地域課題について理解するために、持続可能な発展と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、持続可能な発展と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方自治における持続可能な発展等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治における持続可能な発展等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	自治体における政策	自治体の政策過程について理解するために、自治体における政策過程や体系について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体における政策過程や体系について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体における政策過程や体系について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体における政策過程や体系について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	12/22	自治体の政策の事例	地域課題について理解するために、環境政策等を事例として取り上げ、自治体における政策過程や国や住民との関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、環境政策等について、自治体における政策過程や国や住民との関係について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の政策について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の政策について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	1/12	後学期の講義の総括	わが国の自治体内の組織や運営、政策の特徴や課題等について説明できるようになるために、これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の自治体の現状や課題を理解し、今後の自治体のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	わが国の自治体内の組織や運営、政策について、初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	180分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅰ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」では幕末期から大正前期、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
「メディアと歴史」の単位を先に修得していることが望ましい。本講義は新聞学科の必修科目だが、学ぶ熱意があれば他学科の学生も歓迎する。なお、「Ⅰ」の単位を修得していない者は「Ⅱ」を履修することはできないので注意すること。

【授業方法】
主に講義形式で実施するが、授業前に課す課題には必ず取り組んでくること。授業に臨む際は必ずノートを持参すること。周りの受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合、翌週回の冒頭に解説と質問に対する回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める形式（反転授業）を一部で取り入れる。また、形成評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	史料実証主義に基づいた叙述に配慮することができる					2							
②	新聞の「中立性」といった概念がいかなる歴史的過程のなかで形成されたのかを説明することができる					2							
③	主要な新聞や関連法規などの特徴を述べるることができる						2						
④	新聞の近代化の要件を具体例をあげて説明することができる						2						
⑤	歴史的出来事のなかで、新聞が果たした役割（ないしは果たし得なかったこと）について説明することができる						2						
⑥	復刻版やデータベースを使用して、過去の出来事に関する新聞記事の収集を実践することができる							2					
⑦	過去の新聞記事などのメディア史料を読み解き、解釈することができる							2					
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①の技能および態度と、②③④⑤⑦についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	5	15	15	15	15		15				80
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、②③④⑤の知識がどの程度身についているかを、主として形成的評価として判断する。		1	2	1	1						5
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①⑥⑦にかかわる史料の扱い方が身についているかを評価する。	5					5	5				15
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は学修の大前提であるため、授業に参加することに対する加点は存在しない。なお、授業総数の3分の1を超える欠席があった場合には成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	16	17	16	16	5	20				100

【課題に対するフィードバックの方法】
形成評価のための小テストに関しては授業内に解説を行い、成績評価のための課題に関してはポータルシステム等を使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	ガイダンス・導入講義	メディア史およびジャーナリズム史の射程	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる	
		事前学修	シラバスに目を通してくること。中等教育（中学・高校）までに習った日本史（近代）の知識を整理しておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
2	第一部 火4/14	西洋新聞略史	人類の歴史における新聞の誕生から現在までを概観し、近代新聞の成立の要件について考える	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、近代新聞の成立要件について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
3	第一部 火4/21	揺籃期の新聞①	江戸時代の情報伝達 外字新聞の発行とその影響	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、「日本で最初の新聞」について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
4	第一部 火4/28	揺籃期の新聞②	戊辰戦争と新聞 幕末期のジャーナリスト 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、幕末の日本における新聞の特徴について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
5	第一部 火5/5	黎明期の新聞①	明治政府の新聞規制政策 明治政府の新聞保護育成政策	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治新政府（為政者）が新聞をどのように利用したかを、述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
6	第一部 火5/12	黎明期の新聞②	民権運動と新聞 新聞恐怖時代 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治期の言論関連法規について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	成長期の新聞①	報道機関としての新聞 明治14年の政変と新聞	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、新聞が有する「報道」と「言論」、それぞれの機能と特性について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
8	第一部 火5/26	成長期の新聞②	新聞の政党機関紙化 「小新聞」の発生とその発展 明治初期のジャーナリスト 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、大新聞と小新聞について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
9	第一部 火6/2	商業新聞への転換①	編集と経営の改革 言論第一主義の復活	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、条約改正論争における新聞の役割について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
10	第一部 火6/9	商業新聞への転換②	「政論新聞」の没落と新興新聞の台頭 三面記事新聞の台頭 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、平民主義と日本主義による新聞雑誌について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
11	第一部 火6/16	戦争と新聞①	日清戦争と新聞 新聞の近代化	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日本において近代新聞が成立する過渡期の出来事について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
12	第一部 火6/23	戦争と新聞②	日露戦争と新聞 日露講和条約と新聞 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日露開戦過程における新聞の役割について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	憲政擁護運動と新聞①	大正の政変と新聞 シーメンス事件と新聞	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、倒閣運動と新聞の関わりについて述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
14	第一部 火7/7	憲政擁護運動と新聞②	第1次世界大戦と新聞 白虹事件と新聞の商業化	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、白虹事件がもたらした影響について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
15	第一部 火7/14	総括	日本の近代化と新聞 営利企業としての新聞と「中立性」	
		この回の到達目標	到達目標①⑥⑦に関連し、メディア史料を調べて読み解くことができる。 本講義の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	授業を受けてきた中で疑問点があれば整理しておくこと。	120分
		事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。	120分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅰ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」では幕末期から大正前期、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
「メディアと歴史」の単位を先に修得していることが望ましい。本講義は新聞学科の必修科目だが、学ぶ熱意があれば他学科の学生も歓迎する。なお、「Ⅰ」の単位を修得していない者は「Ⅱ」を履修することはできないので注意すること。

【授業方法】
主に講義形式で実施するが、授業前に課す課題には必ず取り組んでくること。授業に臨む際は必ずノートを持参すること。周りの受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合、翌週回の冒頭に解説と質問に対する回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める形式（反転授業）を一部で取り入れる。また、形成評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	史料実証主義に基づいた叙述に配慮することができる					2							
②	新聞の「中立性」といった概念がいかなる歴史的過程のなかで形成されたのかを説明することができる					2							
③	主要な新聞や関連法規などの特徴を述べることができる						2						
④	新聞の近代化の要件を具体例をあげて説明することができる						2						
⑤	歴史的出来事のなかで、新聞が果たした役割（ないしは果たし得なかったこと）について説明することができる						2						
⑥	復刻版やデータベースを使用して、過去の出来事に関する新聞記事の収集を実践することができる							2					
⑦	過去の新聞記事などのメディア史料を読み解き、解釈することができる							2					
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①の技能および態度と、②③④⑤⑦についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	5	15	15	15	15		15				80
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、②③④⑤の知識がどの程度身についているかを、主として形成的評価として判断する。		1	2	1	1						5
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①⑥⑦にかかわる史料の扱い方が身についているかを評価する。	5					5	5				15
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は学修の大前提であるため、授業に参加することに対する加点は存在しない。なお、授業総数の3分の1を超える欠席があった場合には成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	16	17	16	16	5	20				100

【課題に対するフィードバックの方法】
形成評価のための小テストに関しては授業内に解説を行い、成績評価のための課題に関してはポータルシステム等を使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 月9/14	ガイダンス・導入講義	メディア史およびジャーナリズム史の射程
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる
		事前学修	シラバスに目を通してくること。中等教育（中学・高校）までに習った日本史（近代）の知識を整理しておく。
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。
2	第一部 月9/21	西洋新聞略史	人類の歴史における新聞の誕生から現在までを概観し、近代新聞の成立の要件について考える
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、近代新聞の成立要件について述べることができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。
3	第一部 月9/28	揺籃期の新聞①	江戸時代の情報伝達 外字新聞の発行とその影響
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、「日本で最初の新聞」について述べることができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。
4	第一部 月10/5	揺籃期の新聞②	戊辰戦争と新聞 幕末期のジャーナリスト 小テスト
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、幕末の日本における新聞の特徴について述べることができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。
5	第一部 月10/12	黎明期の新聞①	明治政府の新聞規制政策 明治政府の新聞保護育成政策
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治新政府（為政者）が新聞をどのように利用したかを、述べることができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。
6	第一部 月10/19	黎明期の新聞②	民権運動と新聞 新聞恐怖時代 小テスト
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治期の言論関連法規について述べることができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	成長期の新聞①	報道機関としての新聞 明治14年の政変と新聞	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、新聞が有する「報道」と「言論」、それぞれの機能と特性について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
8	第一部 月11/9	成長期の新聞②	新聞の政党機関紙化 「小新聞」の発生とその発展 明治初期のジャーナリスト 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、大新聞と小新聞について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
9	第一部 月11/16	商業新聞への転換①	編集と経営の改革 言論第一主義の復活	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、条約改正論争における新聞の役割について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
10	第一部 月11/23	商業新聞への転換②	「政論新聞」の没落と新興新聞の台頭 三面記事新聞の台頭 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、平民主義と日本主義による新聞雑誌について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
11	第一部 月11/30	戦争と新聞①	日清戦争と新聞 新聞の近代化	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日本において近代新聞が成立する過渡期の出来事について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
12	第一部 月12/7	戦争と新聞②	日露戦争と新聞 日露講和条約と新聞 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日露開戦過程における新聞の役割について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	憲政擁護運動と新聞①	大正の政変と新聞 シーメンス事件と新聞	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、倒閣運動と新聞の関わりについて述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
14	第一部 月12/21	憲政擁護運動と新聞②	第1次世界大戦と新聞 白虹事件と新聞の商業化	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、白虹事件がもたらした影響について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
15	第一部 月1/18	総括	日本の近代化と新聞 営利企業としての新聞と「中立性」	
		この回の到達目標	到達目標①⑥⑦に関連し、メディア史料を調べて読み解くことができる。 本講義の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	授業を受けてきた中で疑問点があれば整理しておくこと。	120分
		事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。	120分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅱ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」で扱った幕末期から大正前期の内容を踏まえて、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
「日本ジャーナリズム史Ⅰ」の単位を修得していること。

【授業方法】
主に講義形式で実施するが、授業前に課す課題には必ず取り組んでくること。授業に臨む際は必ずノートを持参すること。周りの受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合、翌週回の冒頭に解説と質問に対する回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める形式（反転授業）を一部で取り入れる。また、形成評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ジャーナリズムの発達と歴史的出来事の関わりを解釈することができる。						3						
②	ジャーナリズムが近代社会の形成過程において、いかなる役割を果たしてきたのかを説明することができる。							3					
③	歴史的出来事の原因と結果を考え、論理的に説明することができる。								3				
④	歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について議論することができる。								3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関わる知識および技能が身についているかを、ペーパーテストによって評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内のディスカッションやリアクションペーパーによって、到達目標④に関する知識および態度を評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内およびポータルサイトを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 月4/6	ガイダンス・導入講義	ジャーナリズムの歴史を学ぶ意義
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる
		事前学修	日本ジャーナリズム史Ⅰの内容の振り返り。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分
2	第一部 月4/13	国際会議と新聞①	補論1：日本のジャーナリズムと国際通信の歴史 パリ講和会議と新聞
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分
3	第一部 月4/20	国際会議と新聞②	軍縮条約交渉と新聞 新聞争議と流言飛語
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分
4	第一部 月4/27	国際会議と新聞③	大正期における編集と経営の変化
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分
5	第一部 月5/4	『朝毎』全盛時代①	政党政治の腐敗墮落と新聞 大阪系新聞の東京制覇
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分
6	第一部 月5/11	『朝毎』全盛時代②	東京各紙の没落 新聞の軍部批判
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	『朝毎』全盛時代③	軍部による言論統制と二・二六 補論2：日本における通信社の歴史	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
8	第一部 月5/25	大日本帝国の崩壊と新聞①	日中戦争と新聞 第2次世界大戦の開幕と新聞	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
9	第一部 月6/1	大日本帝国の崩壊と新聞②	新聞の統廃合	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
10	第一部 月6/8	大日本帝国の崩壊と新聞③ 占領期の新聞①	敗戦と新聞 GHQの新聞政策	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期・占領期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
11	第一部 月6/15	占領期の新聞②	新聞の民主化運動 取材源証言拒否事件と捏造報道	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、占領期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
12	第一部 月6/22	飛躍する新聞①	対日講和条約と新聞 激化する販売競争	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和後期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	飛躍する新聞②	新聞界の技術革新と報道協定 安保問題と新聞	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和後期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
14	第一部 月7/6	授業内試験と解説	大正後期から昭和期までのジャーナリズムの歴史のまとめ 理解度テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期から昭和期までの日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	自筆のノートの内容の振り返り。	120分
		事後学修	テスト内容の見返し。	120分
15	第一部 月7/13	総括	質疑応答とディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について議論することができる。	
		事前学修	自筆のノートの内容の振り返り。（2時間）	120分
		事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。（2時間）	120分

科目名	日本政治史Ⅰ	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
原則として、教職を目指す者を受講の対象とする。

【授業方法】
授業は、明治維新を起点として、時系列に沿って、講義を中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる				1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる					1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる				1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる				1		1					1
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④の能力が得られたか、論述形式の筆記試験により評価する。答案作成時に留意すべき点は、問い(問題文)に対する応答にすること、論理的な記述、日本語表現の正しさ。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する(到達目標では特に①②③に関わる)	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、答案の講評・設問の解説を行う(ポータル＋希望者には個別に)

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
近代日本の官僚	清水唯一郎	中央公論新社	2012年	参考書	推奨
増補版 1940年体制	野口悠紀雄	東洋経済新報社	2014年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日昼休みまたは金曜日昼休み

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9／14	日本型官僚主導とはなにか	日本の政治経済体制の特徴は「官僚主導」であるといわれ、「政治主導」の確立が政治の課題とされてきたが、その意味するところは何かについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④にもとづき、現代日本の政治経済体制としての「官僚主導」とはいかなるものかについて説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や授業を通しての到達目標について、理解しておくこと。	120分
		事後学修	現代政治における「官僚主導」と「政治主導」について、指示された文献などを通じて、確認することを求める。	120分
2	9／21	明治維新と近代国家の形成	明治維新より、日本が目指した近代国家形成に向けて「中央集権」体制をいかに確立していったかを論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①③④にもとづき、明治維新の政治的意味と明治政府が目指した近代国家とは何かについて、欧米との比較において説明できる。	
		事前学修	明治維新や近代国家について、基礎的な知識を学習しておくことを求める。	120分
		事後学修	徳川幕藩体制と明治政府の体制の違いについて、「分権」と「集権」の違いを確認しておくこと。	120分
3	9／28	初期近代官僚制の形成	日本の近代官僚制の形成について、明治初年の政体書から明治21年の高等文官試験制度の確立までを論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にもとづき、明治初期における近代国家の形成と官僚制の成立過程について説明できる。	
		事前学修	明治初期に起きた、さまざまな政治的な事件などについて、日本史での学習を振り返り、基礎的な知識を得ておくことを求める。	120分
		事後学修	初期官僚制形成の中で、大久保利通が果たした役割について、再確認しておくこと。	120分
4	10／5	明治憲法体制の確立と官僚制	大日本帝国憲法の発布に伴う帝国議会の成立が明治政府と官僚制に与えた影響について、明治政府が目指した独自の憲法体制について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③にもとづき、明治憲法体制の特徴を現代の日本国憲法体制との比較の中で説明できる。	
		事前学修	今日の日本国憲法の下で、立法、行政、司法はそれぞれどのように位置づけられているかについて、基礎的な知識を確認しておくこと。	120分
		事後学修	帝国憲法において、内閣や議会そして官僚制はどう位置づけられたかについて、各種文献などを通じて、再確認しておくことを求める。	120分
5	10／12	初の政党内閣の誕生と官僚制への影響	明治維新以来、初の政党内閣である隈板内閣の成立と官僚人事への介入が薩長藩閥政治に与えた衝撃と、その後の山県内閣による官僚制度の改革について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②にもとづき、明治官僚制の最終的な確立について、政党政治と藩閥政治との関係を前提に説明できる。	
		事前学修	明治時代における政党の発達の歴史について、自由党などを中心に概観的に学んでおくことが求められる。	120分
		事後学修	1899年の文官任用令の改正と軍部大臣現役武官制の導入が、その後の日本政治に与えた影響について、再確認しておくこと。	120分
6	10／19	大正デモクラシーと政党政治の発展	明治後期から大正にかけての政党政治の発展と桂園時代における政党政治と官僚制との関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③にもとづき、明治憲法体制下における政党政治の発展とその限界について説明することができる。	
		事前学修	すでに授業で学んだ大日本帝国憲法体制とは、どのような体制であったのかを確認しておくことを求める。	120分
		事後学修	大正デモクラシーの下での政党政治が政権争奪戦となっていく中で、軍部の影響力が拡大していった過程について、授業内容を前提に文献などで確認しておくことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	昭和恐慌と新官僚の登場	昭和初期における経済危機における政党政治の機能不全と5.15事件を契機に台頭する「新官僚」と呼ばれる官僚群の役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③④にもとづき、昭和恐慌、世界恐慌などの経済危機と5.15事件が政党政治に与えた影響について説明できる。	
		事前学修	第一次世界大戦後とその後の世界恐慌について、基礎的な知識を学んでおくことを求める。	120分
		事後学修	5.15事件後に台頭した新官僚が、その施策の拠り所としたロシア革命以後のソビエトの政治経済体制について、各種の文献などを通じて、確認しておくことを求める。	120分
8	11/9	戦時総動員体制と革新官僚	満州事変以降の戦時体制の確立と、「革新官僚」呼ばれた新しい官僚とその政策について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③にもとづき、第二次世界大戦に向かう日本政治と台頭した「革新官僚」について説明できる。	
		事前学修	世界恐慌以後の世界政治の動向と当時の日本政治の状況について、あらかじめ文献などで基礎的な知識を学んでおくことが求められる。	120分
		事後学修	「革新官僚」が拠り所とした、当時のドイツのナチスの国家社会主義とは何かについて文献や資料などを通じて、確認すること。	120分
9	11/16	1940年体制	戦時総動員体制の下、1940年前後に登場した「1940年体制」と呼ばれた政治経済体制について、体系的に学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②④にもとづき、1940年体制とは何か、それが現代日本にまで及んだ影響について説明することができる。	
		事前学修	革新官僚が目指した国家社会主義とは何かについて、ナチス・ドイツを例に取り、文献などで学んでおくことを求める。	120分
		事後学修	1940年体制下で作られた各種立法とその後について、文献や資料などで自ら調べておくこと。	120分
10	11/23	日本の敗戦と占領政策	第二次世界大戦における日本の敗戦と占領体制の下、GHQが行った戦後改革が戦後の政治体制に与えた影響について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③にもとづき、占領軍による占領政策と戦後改革について説明することができる。	
		事前学修	第二次世界大戦後の占領政策について、ドイツやイタリアの事例を自ら調べておくことが求められる。	120分
		事後学修	この授業では触れきれなかった占領軍による5大改革について、文献や資料を用いて自ら調べておくことを求める。	120分
11	11/30	吉田茂と官僚出身政治家	第二次世界大戦後の日本政治を担った吉田茂の人物像と考え方、その施策について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②にもとづき、吉田茂の人物像とその施策について説明することができる。	
		事前学修	1945年から1950年頃までの日本政治の変遷について、政党、政治家などの観点から事前に調べておくことを求める。	120分
		事後学修	吉田茂の政治の特質について授業で触れきれなかったものについて、確認しておくことを求める。	120分
12	12/7	朝鮮戦争と占領体制の終焉	朝鮮戦争を契機とする日本の独立と占領体制の終焉が、日本の政治や官僚制にいかなる影響を与えたかについて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標③④にもとづき、朝鮮戦争が戦後日本の政治に与えた影響について説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦後の米ソ対立の歴史的背景について、基礎的な学習を行っておくことが望ましい。	120分
		事後学修	朝鮮戦争が日本の経済復興に与えた影響について確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12／14	五五年体制の登場と自民党一党優位体制	保守合同による自民党の誕生と社会党の再統一の背景とその影響について論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①④にもとづき、五五年体制や自民党一党優位体制について説明することができる。	
		事前学修	再度、戦後の政党の変遷について、基礎的な知識を学んでおくことが望ましい。	120分
		事後学修	二大政党制確立に対する国民世論の反応について、確認しておくこと。	120分
14	12／21	官僚政治と高度経済成長	自民党による「一党優位体制」の確立と「高度経済成長」の中で、官僚制が果たした役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①④にもとづき、1955年以降の高度経済成長の特質と政治的背景について説明できる。	
		事前学修	「高度経済成長」とは何かについて、基礎的な学習を行っておくことが望ましい。	120分
		事後学修	自民党という政党はいかなる政党かについて、確認しておくこと。	120分
15	1／18	日本型官僚主導体制	明治から現代に至るまで、官僚制が果たした役割と政官関係の変遷について、これまでの授業内容を再度、振り返り、まとめの学習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④にもとづき、日本型官僚主導体制とは何かを説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習を振り返り、「官僚主導」とは何かについて、基礎的な学習を行っておくことが求められる。	120分
		事後学修	再度、「1940年体制」とは何かについて、確認しておくこと。	120分

科目名	日本政治史Ⅰ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
特になし ※1年生はできるだけ木曜1限で受講してください

【授業方法】
授業時に配布するレジュメ（各回の概要と構成を記したプリント）に基づいて、講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる				1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる					1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる				1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる				1		1					1
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④の能力が得られたか、論述形式の筆記試験により評価する。答案作成時に留意すべき点は、問い(問題文)に対する応答にすること、論理的な記述、日本語表現の正しさ。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する(到達目標では特に①②③に関わる)	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、答案の講評と解説を行う(ポータルで公表＋希望者には個別にも)

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の近代』第2・3・4巻	坂本多加雄ほか	中公文庫	2012-13	参考書	推奨
『シリーズ日本近現代史』②③④	牧原憲夫ほか	岩波新書	2006-07	参考書	推奨
レジュメに各回ごとの参考文献を記載する				参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み(12:10-12:50, 事前にメール等で予約して下さい) 研究室(9号館4階9405号) nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	科目と講義の案内 序論(1) 歴史の見方 (2) ①時代区分とは	「日本政治史」という科目の学問上の位置、講義の概要と方針 序論： 歴史的な「事実」の捉え方、時代区分の意味	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、「事実」に対する認識の仕方と、それに基づく歴史の捉え方を理解し説明できる（これは本講義の聴き方、講義内容の理解の仕方でもあると認識すること）	
		事前学修	受講全体の準備：中高で学んだ日本史の近代・現代（明治維新から太平洋戦争終結あたりまで）を復習してください。その際、教科書や参考書の「部」「章」等の区分（目次で一覧できます）がどのように立てられているかも確認してください。	180分
		事後学修	学問上の「事実」の捉え方が解りましたか。また中高の教科書や本講の参考書等で、時代区分がどのようになされているかを確認してみてください。	60分
2	第一部 火4/14	序論(2) ②「近代」と「現代」 1. 明治国家の形成 (1) 明治維新と新政府(1853-1882)	序論：日本に関する「近代」と「現代」の時期区分、「近代国家」と「現代国家」の区分 1-(1) 明治維新の政治的な意味、明治新政府の構成、国家形成の初期政策	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、明治維新の政治的な意味と、新政府の構成、統一国家形成に必要な政策を理解し説明できる	
		事前学修	「近代国家」とは何か。考えて定義してみてください。さらに一般的にどう説明されているかを確認し（世界史や現代社会等で教わったはずです）、改めてその意味内容を考えてみてください。	90分
		事後学修	明治維新は要するに何だったのか。どんな人々が新政府を構成したか。近代的な統一国家を作るには何が必要だったか。このように、講義を論題（レジュメの見出し部分）ごとに捉え、その中に細部の説明事項を位置づけると理解しやすくなるはずです。	150分
3	第一部 火4/21	1. 明治国家の形成 (1) 続き (2) 統治体制の構築 (1883-1889)	1-(1) 2つの政変を通じた政府構成の変化と政策路線の確定 1-(2) 憲法制定に備えて構築された統治機構（権力中枢部と行政機構）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、政変を機に新政府内の政治勢力が変化し政策路線が定まる経緯と、政府が構築した統治機構が政治（国家運営）において持つ意味を理解し説明できる	
		事前学修	「政府」、「統治」、「三権分立の」「三権」。以上の語義を、国語辞典と政治学事典の両方で調べてください。その上で、国をつくる（国家形成）という行為を具体的に考えてみてください。	90分
		事後学修	到達目標に記した内容を「理解する」ような復習をし、憲法制定・国会開設「の前に」統治体制を整えたことが持つ意味を認識してください。	150分
4	第一部 火4/28	1. 明治国家の形成 (3) 大日本帝国憲法下の政治構造 ①「天皇主権」の規定と運用	明治国家の政治構造は、帝国憲法と関係法令が規定した政治機構とその運用によって定まる。この回は、憲法に規定された天皇の地位・権限および天皇権限の運用方法（権限行使の要件）について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、天皇の権限（大権）を天皇の一存では発動できないようにした仕組み（他の国家機構が持つ権限との関係）を理解し、明治国家の政治体制が「親政」ではない理由を説明できる	
		事前学修	「大日本帝国憲法」に目を通してください（法律の授業で使う六法に載っています）。特に、条文の前の「告文」「憲法発布勅語」と、第一章（天皇）・第四章（国务大臣及枢密顧問）の各条文は念入りに読んでください。	90分
		事後学修	大権の種類ごとに設定された権限行使の要件が重要です（それが「親政ではない」状態を作るからです）。それは天皇の権限と他の国家機関（内閣、元老、軍、議会）が持つ権限との対抗関係と捉えることができます。その仕組みと論理を理解してください。	150分
5	第一部 火5/5	1. 明治国家の形成 (3) 大日本帝国憲法下の政治構造 ②「政治」の力量と限界（議会と内閣）	明治国家の政治構造のうち、帝国議会[立法府]の構成・権限と、内閣制度[行政府]の特質について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、帝国議会に付与された権限とその力量を、内閣・天皇が持つ権限との関係で理解する（＝立法府と行政府の制度上の力関係）。また、当時の内閣制度の特質と、それが政治運営にもたらす影響（弱点）を理解し、説明できる	
		事前学修	立法府（立法権）と行政府（行政権）の役割と違いを理解していますか。それは近代以降現在に至るまで、政治の基本的な概念であり仕組みですから、理解は必須です（高校までの社会科で教わったはず）。わからなければ勉強すること。	90分
		事後学修	貴族院は身分制議会、衆議院の選挙権は資産制限あり（どちらも当時世界的に存在した仕組み）。議会の権限は天皇や内閣の権限と対抗関係にある。現在の議会制度（国会）との違いは解りますか。内閣も現在の制度とは違います。枢密院は天皇主権国家ならではの機関。各々理解してください。	150分
6	第一部 火5/12	2. 明治国家の確立過程 (1) 初期議会期～日清戦後期の内閣と議会（1890-1903）	議会政治開始後の政治の動きについて、内閣（藩閥政府）と衆議院（民党勢力）の関係に焦点を絞って概説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、内閣と衆議院勢力の関係とその変化を通じて、日本における議会政治の運営手法の形成過程を理解し、説明できる	
		事前学修	議会政治の運営手法は第5講で学んだ議会制度（帝国議会の構成と権限）を前提として成り立つので、理解を確認しておいてください。	60分
		事後学修	内閣と衆議院の関係が政治課題をめぐる試行錯誤のうちに「変化していく過程」を理解してください。各動向が生じた理由を知ると共に、時期毎の変化を大きく捉える視点も持つこと。「政界縦断的」「政界横断的」という語は、両者の関係を把握するための政治史学の概念用語です。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	2. 明治国家の確立過程 (2) 日清戦争・戦後外交・日露戦争 (1894-1905)	明治期最重要の外交課題（朝鮮半島をめぐる利害関係）をめぐって、清国ついでロシアとの戦争に至った経緯と帰結を概説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、当時の日本にとって朝鮮半島がどのような意味を持っていたか（それが戦争の原因=目的であること）を理解し説明できる	
		事前学修	日本近代史を細分する時代区分の一つに「日清・日露戦争期」があります。10年を隔てて遂行された2つの戦争が時代を画する変化をもたらしたからです。戦争が政治や経済・社会にどんな影響を与え得るか、考えてみてください。	60分
		事後学修	この時代、戦争は外交の一つの手段でした（第一次大戦以降、戦争は違法とされるようになりますが）。戦争目的（日本にとっての利害）と帰結（講和条約に反映する）を結びつけて、戦争を行なった理由を理解してください。	180分
8	第一部 火5/26	2. 明治国家の確立過程 明治国家の確立（日清・日露戦争期の帰結と新たな課題）	日清・日露戦争を経て、明治維新以来の国家目標が達成されたことと、その間の変動（経済・社会の変化、戦争の影響・成果等）を通じて生じた新たな政治課題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、明治維新～日露戦争終結までの近代日本政治を大きく捉え直す。また、戦争が国家・社会にもたらした影響について理解し説明できる	
		事前学修	日清・日露戦争を経て、明治政府は維新の目的を達成します。明治維新の最大の目的（必要性）は何だったかを思い出しておいてください（第2講 1-(1) で説明しました）。	60分
		事後学修	維新以来の日本の国家目標の達成と、その過程から生じた新たな課題をまとめました。初回以来の講義内容をふまえて理解してください。それは近代日本が置かれた状況と政治の展開を大きく捉えるものになるはずですよ。	180分
9	第一部 火6/2	3. 明治国家体制の動揺 (1) 日露戦後の政局と外交 (1905-1912) ① 桂園時代の政局	日露戦後期に現れた政治運営体制（桂園体制）について、それが形成された経緯とともに説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、桂園時代は単なる首相の交代ではなく、桂と西園寺が各々率いる「2つの政治勢力の拮抗状態」が根幹にあること、その2勢力の妥協の手段が政権委譲という手法であったことを理解し、説明できる	
		事前学修	ここからは、維新の想定を超えた新たな政治課題に対処する過程で政権の構造が変化していく局面に入ります。新たな政治課題は前回説明した「帝国化」「大衆化」と概括できますが、その意味内容を思い出しておいてください。	60分
		事後学修	桂園時代を生んだ2勢力の対抗と妥協の関係は、2-(1) で説明した内閣と衆議院の関係が発展したものです。そのつながりを含めて理解してください。	180分
10	第一部 火6/9	3. 明治国家体制の動揺 (1) 日露戦後の政局と外交 (1905-1912) ② 桂園時代の外交	日露戦後期の主要な外交問題として、日本政府の韓国に対する対応・措置と、南満州権益に関する対処を説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、維新以来外交の焦点だった朝鮮半島問題が植民地化に帰結したこと、それが外交を通じて為されたこと、また満州権益はこの時点で必要性の乏しい戦果にすぎなかったこと（対処も当面の措置に留まる）を理解し、説明できる	
		事前学修	朝鮮半島には現在2つの国家が存在しますが、それはいつからか。また「満州」という地域（現在は「中国東北部」と呼ばれる）はどこにあるか。調べて知っておいてください。	60分
		事後学修	植民地や権益（租借地等）を持つことの得失を長期的・世界的な視野で考えてみてください。日本でも他国でも、この時代（帝国主義時代）に為したことの影響は現在も様々な形で存在しますから、これは現代の問題でもあります。日本におけるその影響は何かを調べ考えてみてください。	180分
11	第一部 火6/16	3. 明治国家体制の動揺 (2) 「民衆的示威運動」の時代：憲政擁護運動と二つの政変 (1912-1914)	憲政擁護運動が起きた経緯、それが惹起した2つの政変の経過と、その政治史上の意味を説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、民衆を巻き込んだ運動の高揚によって政変（倒閣）が生じた経緯とその政治史的な意味を理解し、説明できる	
		事前学修	「大正デモクラシー」という語が何を指すものか、日本史辞典等で調べてみてください。結構多面的です（講義ではそれが政治の動向として現われた局面を話します）。	60分
		事後学修	世論が政治に反映し具体化する過程は見えにくいのですが、大正政変はそれがよくわかる事例です。経過だけでなく、それが日本政治の「民主化」という点で画期的な出来事だという歴史的評価の意味を理解してください。	180分
12	第一部 火6/23	3. 明治国家体制の動揺 (3) 第一次大戦期の政治：政党内閣への抵抗 (1914-1918)	政党内閣を求める世論に対する元老ら政界中枢の対処が第二次大隈・寺内2代の内閣を成立させた経緯と、第一次大戦期の日本外交の推移について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第一次大戦期の政治・外交の事実経過と、世論が直ちに政治に反映するわけではない政治の性質を理解し、説明できる	
		事前学修	大隈重信がどういう立場で何をした人だったかを思い出しておいてください（本講では1-(1)と2-(1)で登場）。また第一次世界大戦は欧州諸国と日本とではずいぶん様相が違います。大戦全体の概要を調べてみてください。	60分
		事後学修	護憲運動は倒閣を引き起こしましたが、その要求がそのまま政治には反映されない事実（政治が各勢力の力関係に左右される側面）とともに、それでも世論動向は政治に影響し変化をもたらす側面があること、その両面を理解してください。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	4. 第一次大戦後の政治 (1) 政党内閣の成立と施政 (1918-1922)	本格的な政党内閣（原政友会内閣）の成立状況と、原敬が主導した諸政策をその政治的意図（党利）と関係づけて、説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、原内閣の施政を通じて、政策（社会の諸問題への対処）と権力追求（政治的利益の獲得、権力争奪）が表裏の関係にあることを理解し、説明することができる	
		事前学修	日本の「大戦景気」がどんな様相だったか、それが日本社会にどのような変化をもたらしたかを、調べてみてください。	60分
		事後学修	原敬は、公益にも適う政策手段を駆使して自らの政治目的を実現していく有能な政治家でした。その政治手腕の理解とともに、彼がめざしたものと世論が期待した「デモクラシー」は必ずしも一致しなかったことを理解してください。	180分
14	第一部 火7/7	4. 第一次大戦後の政治 (2) 政友会内閣の崩壊と「中間内閣」の継続(1922-1924)	高橋内閣期に定まったワシントン体制（大戦後の東アジアの国際秩序）を概説した後、原敬死後の政友会の状況とそれによる内閣の崩壊、その後「中間内閣」が3代続いた経緯を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、高橋内閣の崩壊と中間内閣継続の経緯から、政党を基盤とする内閣の特質と政党内閣が続かなかった状況を、理解し説明することができる	
		事前学修	第一次大戦の経験は世界各国に多大な影響を残し、世界秩序（国家間ルール）の組み替えをもたらしました。パリ講和会議や、引き続き開かれたワシントン会議の概要を調べ、大戦後の日本が向き合った世界の状況を知ってください。	90分
		事後学修	高橋内閣の総辞職は、政党を基盤とする政権が党の内紛によって倒れた例。これはようやく実現した政党内閣が続かなかった理由にもつながる。そのように捉えて復習してください。	150分
15	第一部 火7/14	試験実施予定 講義のまとめ	講義内容の理解を測り、重要点を確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に即して講義内容を理解し、その説明を論理的な文章で記述することができる	
		事前学修	本講では明治～大正期の日本政治の推移を概説しました。レジュメのタイトル（時期区分と主題を示す）や各部分の見出しを手掛りにして、時期ごとの政治の特質と変化を大きく捉え、その枠組ごとに個別説明の要点を押さえるようにすると、理解しやすくなるはずです。	240分
		事後学修	興味を引かれた時期や事柄を扱った本を探して読んでみてください（参考書欄やレジュメに記した書籍でもよいです）。講義は概説に留まりますが、歴史の本当の面白さは細部にあり、具体的な事実を知るほど面白くなるものです。	120分

科目名	日本政治史Ⅱ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する（Ⅱでは、Ⅰで扱った明治・大正期に続く昭和戦前期を扱う）。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
原則として、中静担当の「日本政治史Ⅰ」を履修していること。

【授業方法】
授業時に配布するレジュメ（各回の概要と構成を記したプリント）に基づいて、講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる						1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる							1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる						1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる						1		1					1
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④の理解と能力が得られたか、論述形式の筆記試験により評価する。答案作成時に留意すべき点は、問い（問題文）に対する応答にすること、論理的な記述、日本語表現の正しさ。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する（到達目標では特に①②③に関わる）	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、答案の講評・設問の解説を行う（ポータルで公表＋希望者には個別にも）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の近代』第4・5巻	有馬学、北岡伸一	中公文庫	2013	参考書	推奨
『シリーズ日本近現代史』④⑤⑥	成田龍一ほか	岩波新書	2007	参考書	推奨
レジュメに各回ごとの参考文献を記載する				参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室（9号館4階9405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	前史の概観	日本政治史Ⅰで扱った時代・題材を、大きな時期区分ごとに概括する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講の前提となる明治・大正期の日本政治に関する理解を再確認し、昭和戦前期の政治の理解につなげることができる	
		事前学修	日本政治史Ⅰの講義内容を思い出しておいてください。	120分
		事後学修	Ⅱで扱う時期（昭和戦前期）も国家機構や政治運営の仕組みは基本的に同じですから、その理解がⅡの講義を理解する土台になります。Ⅰの試験結果もふまえ理解の足りない点は十分に復習してください。	120分
2	第一部 火9/22	1. 政党内閣の時代 序：政党内閣期と元老西園寺 (1) 憲政会内閣の内政と政党の動向(1924-1927)	政党内閣期（政治史上の時期区分）と、その時期を“演出”した唯一の元老・西園寺公望について説明した後、加藤高明（護憲三派～憲政会単独）内閣の施政と同時期の政党の動向を概説する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政権を事実上選定する元老という存在と、政党内閣期が元老の下に存立したこと、また政友会以外の政党の伸張と政党間の対抗関係を理解し、説明することができる	
		事前学修	時代は政党内閣の最盛期に入ります。明治期以来の主要政党の結党時とその後の系統関係を確認しておいてください（Ⅰでその都度説明しましたし、日本史辞典類には政党系統図などの資料も載っています）。	90分
		事後学修	政党内閣期は各政党の動向が政治を左右する主因になるので、政界状況の説明が増えます。権力獲得をめざす政党の行動は政治が持つ重要な特質の一つですから、理解に努めてください。	150分
3	第一部 火9/29	1. 政党内閣の時代 (2) 田中(政友会)内閣の内政と政党の動向(1927-1929)	田中義一の政友会総裁就任、田中内閣の施政を左右した政友会政治家の特質と施策の概要、立憲民政党結成による二大政党体制の成立と政党間の対抗動向を説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、昭和期の政友会の性格の形成要因、政友本党の分裂的消滅により二大政党制が成立した経緯、また拮抗関係にある政党間の権力争奪のあり方と各政党の差異を理解し、説明することができる	
		事前学修	田中義一は政友会に総裁として迎え入れられ、まもなく首相になります。田中義一の経歴を調べてみてください（日本史辞典にも人名辞典にも載っているはずです）。	90分
		事後学修	田中内閣は歴史上あまり評判がよくないが、一因は内相の鈴木喜三郎にある。田中も鈴木も新参党员ながらすぐ党幹部となり昭和期の政友会を形作った人物です。復習に際しては、憲政会-民政党と政友会の違いという対比の視点も持って理解するようにしてください（次回の外交も同様）。	150分
4	第一部 火10/6	1. 政党内閣の時代 (3) 両党内閣の外交：「幣原外交」と「田中外交」(1924-1929)	加藤-若槻内閣の外相・幣原喜重郎の外交と、田中内閣（兼任外相田中+外務政務次官森恪）の外交を、対中外交・大陸政策を中心として対比的に説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、一般に「幣原協調外交」「田中積極外交」と称される各外交の特徴と差異を理解し、対比的に説明することができる	
		事前学修	辛亥革命(1912-1913年)と以後の中国の国内情勢について調べ、概要を知っておいてください。	90分
		事後学修	「幣原協調外交」「田中積極外交」の語で済むほど現実には単純ではないと理解してください。違いの焦点は満州権益をめぐる対応ですが、それも当該期に関しては程度の違いと見なし得るものです。そのように捉えて復習してください。	150分
5	第一部 火10/13	1. 政党内閣の時代 (4) 浜口（民政党）内閣の内政(1929-1930)	田中義一の辞任に続く浜口民政党内閣の成立と、その主要政策として推進された金解禁政策、同時期の政界動向について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金解禁（金本位制復帰）政策の意図と概要を、実施のための準備施策を含めて理解し、説明することができる	
		事前学修	「金本位制」とはどのような仕組みかを調べ、知っておいてください。	80分
		事後学修	時代が進むにつれ経済政策の重要性が高まる。浜口内閣は井上準之助を蔵相に据えて金解禁にふみきりますが、後に判断の誤りとされる結果をもたらすことになります。経済政策は難しいかも知れませんが理解に努めてください。	160分
6	第一部 火10/20	1. 政党内閣の時代 (5) 浜口内閣の外交と外交問題(1929-1931)	浜口内閣の外交（第2次幣原外交）の概要と、ロンドン海軍軍縮条約をめぐる政治問題の発生と展開について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第2次幣原外交は第1次期と異なる中国情勢の難度をふまえて理解する。軍縮条約問題は政友会が内閣批判に利用したために拡大したことを、その批判の論理（「統帥権干犯」と称した根拠）とともに理解し、説明することができる	
		事前学修	再任の幣原外相が直面した中国情勢は以前とは違う。国民政府成立(1927年)以降の中国国内情勢を調べてください。軍縮条約問題はⅠで説明した軍令・軍政の区別の論理(憲法第11・12条)が関係するので復習しておくこと。	90分
		事後学修	ロンドン軍縮条約問題は、条約自体（外交問題）ではなく国内の政治問題として説明していることに注意。問題の経過とともに、条約支持派と反対派の争点となった「論理」を理解してください。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	2. 「非常時」の政治 (1) 恐慌・事変・テロリズム (1930-1932)	複合的な要因で発生した昭和恐慌と、「非常時」の引き金を引いた満州事変の発生と経過について、説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、満州事変の事実経過とともに、1930年代の政治的困難は軍部によるものだけではないという多角的な理解をし、説明することができる	
		事前学修	世界恐慌（大恐慌）について概要を調べて知っておいてください。	60分
		事後学修	恐慌の実態、特に農村部の惨状は想像しにくいと思う。レジュメの参考文献『労働者と農民』は、近現代日本に生きた「普通の人々」の状態を知りうる好著です。「窮乏の農村」の章だけでも読んでみるように。	180分
8	第一部 火11/10	2. 「非常時」の政治 (1) 恐慌・事変・テロリズム (1930-1932)の続き	「非常時」を受けた政界の動向、事変の拡大と「満州国」の出現、テロリズムの発生（血盟団事件、五・一五事件）について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、恐慌・事変とテロリズムが連動して発生したこと、政治の側の対処の努力と困難な状況を理解し、説明することができる	
		事前学修	満州事変の首謀者・石原莞爾は昭和日本のダークヒーロー。関心が高いので関係書も多い。どんな人物だったか調べてください。	60分
		事後学修	この時期の政治（特に軍との関係）を理解するには、テロリズムの恐怖が政治家の身に迫るものとして存在したことを考えに含める必要がある。恐慌と軍の暴走に直面した内閣の動揺と苦難の実態を具体的に理解してください。	180分
9	第一部 火11/17	2. 「非常時」の政治 (2) 挙国一致内閣の成立と満州国承認(1932-1933)	五・一五事件(犬養首相暗殺)後の後継首班選定、斎藤内閣下の恐慌対策（高橋財政）と外交（満州国承認と国際連盟脱退）について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「政党内閣の途絶」が迷った末の選択であり政党内閣が以後途絶するとは考えられていなかったこと、高橋財政の意味と意義、「満州国」の成立と承認が意味することを理解し、説明することができる	
		事前学修	斎藤内閣の蔵相・高橋是清はこの時期の財政指揮でその名を残したが、自らの命を賭すことにもなった。国際連盟脱退時の連盟総会代表・松岡洋右は、後に外相として日本国の運命を導く一人となる。二人の人物について調べてみてください。	60分
		事後学修	満州事変の推移、後継首班選定経過など、やや細部にわたる事実経過の説明が続きますが、詳細な事実を知らなければ理解できない事があります。十分に復習して理解に努めてください。	180分
10	第一部 火11/24	2. 「非常時」の政治 (3) 挙国一致内閣の継続と政党の動向(1933-1936)	斎藤・岡田両内閣期の政党の動向と、天皇機関説問題、二・二六事件の経過の概略を説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、政権奪取や党の維持存続のための手段が国家・社会に重大な影響をもたらすに至った事実を、政治が持つ性質の一面として理解する。二・二六事件の経緯と背後にあった状況要因を理解する。以上を説明することができる	
		事前学修	美濃部達吉の憲法学説「天皇機関説」（国家法人説）の概要を調べ、知っておいてください。	80分
		事後学修	二・二六事件は関心の高い歴史的事件の一つ。講義は政治への影響に限定した説明ですが、陸軍や首謀者達に焦点を当てた関係書も多数あります。事件について調べたり、関連文献を読んでみてください。	160分
11	第一部 火12/1	3. 「革新」の政治：陸軍の政治介入と政界の動向(1936-1937)	二・二六事件後の首班選定・組閣の状況、広田内閣の諸政、「革新」をめぐる政界内の思惑について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、「軍部の台頭」「軍の政治介入」と言われる事態を二・二六事件後の事実経過をふまえて理解すること、政界内でもその影響が「革新派」の台頭という形で表われることを理解し、説明することができる	
		事前学修	政治が軍の存在抜きに語れなくなる時期に入ってきています。政治機構上の軍の位置づけ、軍の組織（「省」と「部」の2組織とその役割分担）について、改めて理解を確認しておいてください。	80分
		事後学修	広田内閣が陸軍の強い圧力の下に成立し政策にもそれが反映していること、「革新」色が薄れた林内閣をはさんで、政界の「革新派」で構成された近衛内閣が成立する、という事態の推移を大きく捉えて理解してください。	160分
12	第一部 火12/8	4. 戦時下の政治 (1) 日中戦争：意思なき開戦と拡大(1937-1938)	近衛「革新」内閣の下で、偶発的に起きた盧溝橋事件から日中戦争への拡大の経緯と、「国家総動員法」に象徴される国内戦時体制の構築について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日中戦争の発生・拡大の事実経過から「するつもりのない戦争も起こりうる」ことを知る。それを具体的な事実の積み重ねとして理解し説明できること。	
		事前学修	近衛文麿について人物や経歴を調べてみてください。1945年の敗戦後までカリスマ性を持ち続けた人物ですが、そのことと政治家として現実にしたこととのギャップが謎でもあります。	60分
		事後学修	全面戦争への拡大を導いた重大な要因は、当時の日本に（政界・軍にも国民にも）広く存在した中国に対する侮蔑意識です。満州事変以降の対中関係は現在に至る日中関係の根底にある問題ですから、事実を正しく学んでください。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	4. 戦時下の政治 (2) 対外関係の混迷 (1938-1939)	日中戦争期（近衛-平沼-阿部内閣期）の対外関係のうち、日独伊防共協定の強化問題、対米関係の悪化、ノモンハン事件、独ソ不可侵条約締結について、それぞれ概略を説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日中戦争が解決できないまま、国際情勢の変化や出先の駐留軍・外交官が起した諸問題にに振り回される外交と軍の様相を理解し、説明することができる	
		事前学修	この時期の日本の針路に大きな影響を与えた国は、アメリカとともにドイツです。1930年代のドイツ（特に外交）について調べてみてください。	60分
		事後学修	「出先の暴走」は外交官にもあったことを知ってください。また日中戦争が米国との関係悪化をもたらす淵源は第一次大戦後の国際ルール(九ヵ国条約、不戦条約)にあるので、内容を確認して理解してください。	180分
14	第一部 火12/22	4. 戦時下の政治 (3) 欧州戦争の下で (1939-1940)	欧州戦争勃発・ドイツ軍の快進撃を受けて生じた外交・軍事方針の変化（対独接近論・南進論の浮上）、それに連動して動き出した「近衛新体制」のなりゆきについて説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際情勢（欧州戦争のなりゆき）に乗じた外交・軍事方針の決定、それに連動して再活性化した「革新」政治（権力強化をめざした「近衛新体制」）など、戦時期の政治家達の判断と選択を、具体的な事実に基づいて理解し説明することができる	
		事前学修	「フランス領インドシナ（仏印）」「オランダ領東インド（蘭印）」が現在のどこに位置するかを調べ、地図上で確認しておいてください。この時期に本格化する「南進」の行き先です。	60分
		事後学修	平沼・阿部・米内と短命内閣が続いた後、近衛がまたも輿望を担って登場する。「大政翼賛会」の名はよく知られるが、それが何をめざした末の帰結だったかを理解してください。また欧州戦争の推移と南進論や国内政治の連動について理解してください。	180分
15	第一部 火1/12	4. 戦時下の政治 (4) 太平洋戦争（対米英開戦）に至る経緯（1940-1941）	松岡外交（日独伊三国同盟、日ソ中立条約の締結）・南進の実行と米国の対応、対米交渉と開戦に向う方針決定の推移について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、米英との戦争決定を、政治選択を積み重ねた具体的な事実として理解し説明することができる	
		事前学修	日本を幻惑したドイツ軍の快進撃。1939年以降ドイツ軍が侵攻し占領した国々と範囲を地図上で確認してください。	30分
		事後学修	本講では、政党内閣期、その崩壊と「革新」政治（軍を含む）の台頭、止められない対中戦争とそれが要因となった対米英開戦まで、昭和戦前期の政治の推移を説明しました。現実の事象は様々な要因が作用して発生し進展します。「なぜそうなったのか」という視点を持って復習して下さい。	240分

科目名	日本政治論Ⅰ	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現代の日本政治を正しく理解するためには、日本政治に関する冷静で客観的かつ体系的な学習が必要である。本講義では、現代日本政治を歴史、制度、実態など多角的かつ体系的に学ぶことを通じて、日本政治の特徴と問題点を明らかにしていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちが暮らしている日本の政治を知り、政治を冷静かつ客観的に「見る眼」を養い、「良き主権者」になるために、現代日本政治を歴史、制度、実態などについて、体系的に学ぶことを目的とする。日本政治論Ⅰでは、現代日本政治を歴史的に学んでいく。

【履修条件】
「日本政治論Ⅱ」とあわせて受講することがのぞましい。なお、この授業の対象者は政治経済学科生のみである。くわえて、定期試験の答案作成にあたっては、黒のボールペンを使用すること。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とする。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業であつかうトピックについて、時間の許すかぎり、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象が発生したときには、その問題についても議論するため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代日本政治の実態を知ることにより、政治を客観的に見る眼を養うことができる。					1	1						
②	現代日本政治の成り立ちを知り、今日の日本政治の背景を知ることができる。						1						
③	現代日本における政治と経済の関連性について、説明することができる。					1							
④	現代日本政治の今後について、考え、予測することができる。					1	1						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④について、定期試験における論述問題に回答することを通じて、その理解度や説明力などを評価する。	15	20	20	15							70
小テスト等	授業の区切りにおいて行う小テストにより、到達目標②③について授業内容をどの程度理解しているかについての確認を行う。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内容に関する疑問などについて、積極的に質問し、現代日本政治を理解しようとする努力を行っているかどうかを到達目標①④を中心に評価する。	5			5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ラジオで語った政治学3』	浅野一弘	同文館出版	2019	教科書	必携
『現代政治の争点－日米関係・政治指導者・選挙－』	浅野一弘	同文館出版	2013	参考書	推奨
『現代政治論－解釈改憲・TPP・オリンピック－』	浅野一弘	同文館出版	2015	参考書	推奨
『増補 「解散」の政治学－戦後日本政治史－』	藤本一美	第三文明社	2009	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	アルファベットで読む日本政治	日本政治の特質を理解するためには、日々、新聞に目をおすことが緊要である。そこで、日本政治（内政・外交）に関連する新聞記事を読むうえで、必要最低限知っておくべきアルファベットの略語のいくつか（GDP、TAGなど）を修得し、日本政治をみる目をやしなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、必要最低限のアルファベットの略語の意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。くわえて、新聞を読むための意欲をたかめる。	
		事前学修	教科書1頁～19頁の下から5行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、GDP、MOF	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献について	150分
2	第一部水 4/15	カタカナで読む日本政治	日本政治の特質を理解するためには、日々、新聞に目をおすことが緊要である。そこで、日本政治（内政・外交）に関連する新聞記事を読むうえで、必要最低限知っておくべきカタカナのいくつか（レームダック、アナウンスメント効果など）を修得し、日本政治をみる目をやしなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、必要最低限のカタカナの意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。くわえて、新聞を読むための意欲をたかめる。	
		事前学修	教科書48頁～55頁および143頁～150頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、コンプライアンス、ナショナル・インタレストといったことばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献について	150分
3	第一部水 4/22	「亥年現象」ということば	12年ごとにみられるとされる、いわゆる「亥年現象」ということばを手がかりに、日本の選挙の特質（投票率、無党派層など）について考える。可能であれば、外国の選挙の事例との比較をこころみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な「亥年現象」ということばの意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書72頁～79頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、「亥年現象」ということばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献について	150分
4	第一部水 4/29	「衆参ダブル選挙」ということば	「衆参ダブル選挙」（＝「衆参同日選挙」）ということばを手がかりに、内閣総理大臣の解散権などについて考える。可能であれば、英国の首相の解散権との比較もおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、ひんぱんに登場する「衆参ダブル選挙」ということばの意味と過去の事例について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書80頁～87頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、「衆参ダブル選挙」ということばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献について	150分
5	第一部水 5/6	吉田茂と鳩山一郎との「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、占領期にかわされた、吉田と鳩山との「密約」に着目することで、吉田政治から鳩山政治への路線転換の意味について探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な吉田と鳩山との「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書88頁～91頁の上から9行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、吉田と鳩山の関係を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献について	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 5/13	岸信介と大野伴睦・河野一郎との「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、岸と大野、岸と河野とのあいだでかわされた「密約」に着目することで、岸の権力への執着と安保改定にける意気ごみの一端について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な岸と大野・河野との「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書91頁の上から10行目～97頁の下から9行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、岸と大野・河野との関係を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
7	第一部水 5/20	福田赳夫と大平正芳との「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、福田と大平とのあいだでかわされた、「密約」に着目することで、自由民主党内の40日抗争への萌芽について検証する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な福田と大平との「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書97頁の下から8行目～103頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、福田と大平との関係を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
8	第一部水 5/27	沖縄返還をめぐる「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、「核ぬき・本土なみ」ということばの意味を意識しつつ、沖縄返還をめぐる、日米間でかわされた、「密約」に着目する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な沖縄返還をめぐる「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書135頁～142頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、沖縄返還をめぐる政治過程を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
9	第一部水 6/3	ヤルタ協定という「密約」	国際政治史上においても、さまざまな「密約」がかわされてきた。ここでは、現在の北方領土問題の根源ともいべき、ヤルタ協定という「密約」に着目する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要なヤルタ協定という「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の北方領土交渉にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書104頁～110頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「世界史」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、ヤルタ協定の内容を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
10	第一部水 6/10	北方領土問題	日本外交にとっての懸案の一つである北方領土問題の経緯について検証するとともに、現在の交渉状況にも配慮する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な北方領土問題の内容を理解し、課題解決の方策を意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書24頁～39頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、北方領土問題の基本を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 6/17	国際連合と日本	国際連合の組織にくわえ、日本の国連分担金や旧敵国条項などについて検証したうえで、湾岸危機・戦争によってわきおこった日本と国連との関連についての議論にも着目する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な国際連合の役割を理解し、国連と日本とのかかわりを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書19頁の下から4行目～23頁および56頁～63頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、国際連合と日本のかかわりに関する基本的知識を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
12	第一部水 6/24	米国と日本	日米経済摩擦の実態について検証したうえで、ドナルド・トランプ政権下でよりいっそう求められている在日米軍駐留経費の負担増の問題の現状などにも着目する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な米国との関係を理解し、日米関係という側面から、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書42頁の上から7行目～47頁および115頁の上から13行目～118頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、米国と日本とのかかわりに関する基本的知識を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
13	第一部水 7/1	「施政方針演説」ということば	施政方針演説のことばの意味を探り、その重要性を認識すると同時に、所信表明演説とのちがいについても考える。可能であれば、米国大統領による一般教書演説との比較などもこころみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な「施政方針演説」ということばの意味とその内容を概観し、そこでの理解をもとに、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書119頁～127頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、施政方針演説の有する基本的意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
14	第一部水 7/8	地方政治の現状	国政選挙と同様に、統一地方選挙の投票率も低下の一途をたどっている。そこで、こうした現状について、代議制デモクラシーという観点から考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な地方政治の現状を理解し、今後の方向性を意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書151頁～158頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、地方政治をとりまく実状を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
15	第一部水 7/15	地方議会の課題	地方議会をめぐるのは、議員のなり手不足という問題が深刻化しているにもかかわらず、有効な解決策がみいだされていないのが現状である。そこで、議員のなり手不足解消のための方策について考えてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて深刻な地方議会の課題を理解し、その解決方法を意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書159頁～166頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、地方議会がかかえる問題の一端を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

科目名	日本政治論Ⅰ	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現代の日本政治を正しく理解するためには、日本政治に関する冷静で客観的かつ体系的な学習が必要である。本講義では、現代日本政治を歴史、制度、実態などを多角的かつ体系的に学ぶことを通じて、日本政治の特徴と問題点を明らかにしていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちが暮らしている日本の政治を知り、政治を冷静かつ客観的に「見る眼」を養い、「良き主権者」になるために、現代日本政治を歴史、制度、実態などについて、体系的に学ぶことを目的とする。日本政治論Ⅰでは、現代日本政治を歴史的に学んでいく。

【履修条件】
政治経済学科以外の学生のみ

【授業方法】
授業は、基本的に講義を形式で行う。必要に応じて、スライドやムービーを用いることもある。また、シラバスに示された授業の合間に、適宜、時事的な問題について受講生の求めに応じて、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代日本政治の実態を知ることにより、政治を客観的に見る眼を養うことができる。				1	1						
②	現代日本政治の成り立ちを知り、今日の日本政治の背景を知ることができる。					1						
③	現代日本における政治と経済の関連性について、説明することができる。				1							
④	現代日本政治の今後について、考え、予測することができる。				1	1						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、定期試験における論述問題に回答することを通じて、その理解度や説明力などを評価する。	15	20	20	15							70
小テスト等	授業の区切りにおいて行う小テストにより、到達目標②③について授業内容をどの程度理解しているかについての確認を行う。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内容に関する疑問などについて、積極的に質問し、現代日本政治を理解しようとする努力を行っているかどうかを到達目標①④を中心に評価する。	5			5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、答案の講評・設問の解説を行う（ポータル＋希望者には個別に）

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
戦後政治史	石川真澄ほか	岩波新書	2012	参考書	推奨
現代日本政治史	薬師寺克行	有斐閣	2014	参考書	推奨
現代日本政治講義	藪野祐三	北海道大学出版会	2019	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:00-13:00 研究室 （9号館2階9208研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	現代日本政治を学ぶ意義	選挙権が18歳に下げられる一方で、若者の政治離れや政治的無関心の増大が問題となる中、何故、日本の政治について学ばなければならないのか、それを学ぶことによって、何をすることができるのかについて、考えます。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、現代日本政治を学ぶことの意味を理解することを通して、政治に対する関心と問題意識を持つことができる。	
		事前学修	テレビや新聞、ネットのニュースなどを通じて、今日の日本政治に対する各自の問題意識を持つことを求める。	120分
		事後学修	日本政治を学ぶことによって、自分の社会生活の中で、何をすることができるのかを考えること。	120分
2	4/13	日本政治の現状	日本の政治は今、どのような状況にあるのかについて「一強多弱」「政界再編」「憲法改正」「グローバル化」などをキーワードとして、最新のデータなども取り上げて学んでいく。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、今日の日本政治の現状について、具体的に説明できる。	
		事前学修	テレビや新聞、ネットのニュースなどを通じて、日本の政治がどのような状況にあるのかについて、概観しておくことを求める。	120分
		事後学修	講義で取り上げたキーワードの中で、関心を持った事象について、ネットなどを検索して、どのような課題があるかについて調べ、各自の問題意識を高めることを求める。	120分
3	4/20	日本政治の特質	諸外国の政治と比較して、日本の政治の特徴とは何かについて「自民党一党優位」「政治家中心主義」「官僚主導」などをキーワードとして解説すると同時に、1990年代以前と比べて、その特徴がどのように変化したかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国と比べた時の日本政治の特徴は何か、また、それはどのように変化してきたのかを説明できる。	
		事前学修	日本政治を考える上で不可欠なキーワードは何かについて、前回学んだ、日本政治の現状を踏まえて、各自が考え、析出することを求める。	120分
		事後学修	日本政治の特徴の変化の背景に何があるのかについて、歴史的事象を調べ、その要因について考えてみること。	120分
4	4/27	戦後復興と日本政治	現代の日本政治を知る上で、そのスタートラインとなる第二次世界大戦以前と以後を比較し、政治体制や政治制度がどのように変わったのかを学び、その一方で、政治の実態を踏まえた時、何が変わらなかったのかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、第二次世界大戦の戦前と戦後で、日本政治はどのように変わったのか、また、変わらなかったものは何かについて、具体的に説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦前の政治システムはどのようなものであったのかについて、大日本帝国憲法を軸に高校の日本史や政治経済の教科書などで学んでおくこと。	120分
		事後学修	講義の中で扱う戦後の公職追放に伴う官僚出身政治家の誕生が、その後の日本政治に与えた影響について、歴代の総理大臣の出自などを調べてみること。	120分
5	5/4	五五年体制の成立	1955年の保守合同と左右社会党の再統合で自民党、社会党という二大政党が誕生したが、いわゆる「五五年体制」が成立したが、その背景を知ると同時に自民党、社会党の違いについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、「五五年体制」とは何か、また、その主役である自民党と社会党の違いはどこにあるのかについて、両者を比較して説明できる。	
		事前学修	戦後の日本の政党の変遷について、ネットなどを検索し、変遷を示す図表を手に入れ、そこでの政界再編がどのように進んでいったのかについて、調べておくこと。	120分
		事後学修	「五五年体制」とは何か、また、いつ終演したのかについては、さまざまな意見があるが、それについて調べ、「五五年体制」に対する認識を深めること。	120分
6	5/11	自民党一党優位体制と高度経済成長	1955年の保守合同で誕生した自民党は、その後、今日に至るまで日本政治の「主役」の座を維持しているが、この自民党「一党優位体制」とは何かについて知った上で、それが日本の高度経済成長を生み出した原動力になった実情について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自民党政権の安定と経済の高度成長との相互関係について説明できる。	
		事前学修	政治と経済の相互関係について、一般的な考え方について、基礎的な知識を得ておくこと。	120分
		事後学修	1955年～1970年までの高度経済成長とはどのようなものであったのか、関係の事象やデータを調べ、今日の日本経済と比べた時の凄さを確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	多党化時代の到来	1960年代から日本の政界には民社党や公明党など新たな政党が登場し、自民・社会の二大政党から多党化の時代を迎えることになるが、多党化は何故、起きるのか、それは政治にどのような影響を与えるのかについて、理論的、実証的に学んでいく。	
		この回の到達目標	1960年代の日本における多党化はどのように生じたのか、また、その背景には何があるのかを説明できる。	
		事前学修	1960年代のアメリカとソビエトの対立の変化を中心に国際関係がどのように変わっていったのかについて、「デタント」や「緊張緩和」などをキーワードに調べておくこと。	120分
		事後学修	1960年代の多党化と今日の多党化の違いについて、調べてみること。	120分
8	5/25	高度経済成長の終焉と保革伯仲	1960年代以降、自民党の「長期低落」傾向が顕著になり、自民党の一党優位にも「ゆらぎ」が見られるようになる中、1973年の第四次中東戦争に端を発する石油危機が日本の高度経済成長を終焉に向かわせ、遂には、「保革伯仲」が生じるが、その理由と影響について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自民党の長期低落の原因について、経済との関係において、説明することができる。	
		事前学修	自民党の長期低落について、1955年以降の自民党の選挙結果につて調べ、その実情について理解しておくこと。	120分
		事後学修	石油危機は1973年と78年にも起きているが、両者の日本経済への影響の違いについて調べてみること。	120分
9	6/1	バブル経済と政治腐敗	1980年以降、日本の経済が復調する一方で、アメリカ経済が衰退し、その対応のため、1985年にプラザ合意が行われるが、その副作用として、日本はバブル経済に突入したが、その裏で、自民党の衰退が金権腐敗政治を生み出すことになった。そのメカニズムと背景について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本政治における政治と金との構造的関係について説明することができる。	
		事前学修	バブル経済とはどのようなものであったのか、社会現象や実証データを調べておくこと。	120分
		事後学修	日本独自の中選挙区制とはどのようなものであるか、その問題点も含めて、再確認しておくこと。	120分
10	6/8	政治改革と政界再編	1980年代に深化した政治腐敗に対し、抜本的な政治改革を求める声が高まったが、その背景を探ると同時に、政治と金の問題が、いかにして選挙制度改革に進んでいったのかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、1994年に実現した政治改革の内容と背景について、具体的に説明することができる。	
		事前学修	1980年代に起きたリクルート事件をはじめとする金権スキャンダルには、どのようなものがあったのかについて、調べておくこと。	120分
		事後学修	政治改革実現によって、導入された小選挙区比例代表並立制とは、どのような選挙制度で、その狙いはどこにあったのかについて、再確認しておくこと。	120分
11	6/15	混迷する日本政治	政治改革をめぐり自民党が分裂し、1993年に初の政権交代が実現するが、その後の日本政治は、政界再編などをめぐり、混迷を深めることになるが、その混迷の原因と影響について学んでいく。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小選挙区比例代表並立制の導入が日本の政党政治に与えた影響について説明できる。	
		事前学修	1990年代における政党の離合集散について、政党の変遷に関する図表を調べ、その状況について、理解を深めておくこと。	120分
		事後学修	1994年に誕生した自民・社民・さきがけの連立による村山富市政権の特異性について、調べ、それがその後の社民党の凋落に与えた影響について確認しておくこと。	120分
12	6/22	小泉政権の誕生と劇場政治	2001年に誕生した小泉純一郎内閣は、熱狂的ブームを巻き起こしたが、「劇場政治」と呼ばれた政治手法は、その後の政治のスタイルを一変させることになったが、小泉劇場政治とは、どのようなものであったのか、そしてその功罪について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、小泉内閣の特徴と当時の「小泉ブーム」について説明することができる。	
		事前学修	2000年前後の日本の政治と経済の状況について、調べておくこと。	120分
		事後学修	小泉内閣のメディア戦略について、具体的にどのような事が行われたのかについて、調べてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	民主党政権の登場と崩壊	2009年の総選挙で民主党が圧勝し、初の本格的な政権交代が実現したが、民主党政権は発足当初からつまみ食い、党内の混乱もあり、信任を失って崩壊したが、民主党政権とは、どのような政権であったのか、また、崩壊の理由は何かについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、民主党政権の特徴と問題点について、具体的に説明できる。	
		事前学修	1996年の結党以降、民主党がいかに勢力を伸ばしてきたか、選挙データを調べて確認してみること。	120分
		事後学修	民主党政権が実現できたこと、実現できなかったことを、当時のマニフェストなどを参考に調べてみること。	120分
14	7/6	安倍一強多弱体制	2012年、自民党が総選挙で圧勝し、第二次安倍内閣が誕生するが、その一方で、大敗北を喫した野党は混乱し、「一強多弱」と呼ばれる政治状況が生まれ、安倍内閣は、日本憲政史上最長の内閣となったが、その強さの理由は何かについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第二次安倍内閣の強さについて、その理由を説明することができる。	
		事前学修	第一次安倍内閣が崩壊してから第二次安倍内閣が誕生するまでの安倍氏の動向について、調べてみること。	120分
		事後学修	安倍内閣の政策的主張とその成果について調べてみること。	120分
15	7/13	日本政治の課題	ここまでの授業を振り返り、日本政治が将来に向けて抱えている課題について、健全な議会制民主主義という観点から探ることを通じて、今後の日本政治のゆくえについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、現代日本政治の変遷を総括し、今後の日本政治の課題を明らかにすることができる。	
		事前学修	ここまでの講義を振り返り、日本の政治がどう変わってきたのかについて、まとめてみること。	120分
		事後学修	各自が考える日本政治の課題を析出し、問題を解決するためには、何が必要かを提示してみること。	120分

科目名	日本政治論Ⅱ	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現代の日本政治を正しく理解するためには、日本政治に関する冷静で、客観的、かつ体系的な学習が必要である。本講義では、現代日本政治を歴史、制度、実態など多角的かつ体系的に学ぶことを通じて、日本政治の特徴と問題点を明らかにしていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちが暮らしている日本の政治を知り、政治を冷静かつ客観的に「見る眼」を養い、「良き主権者」になるために、現代日本政治を歴史、制度、実態などについて、体系的に学ぶことを目的とする。日本政治論Ⅰでは、現代日本政治を歴史的に学んでいく。

【履修条件】
「日本政治論Ⅰ」とあわせて受講することがのぞましい。なお、この授業の対象者は政治経済学科生のみである。くわえて、定期試験の答案作成にあたっては、黒のボールペンを使用すること。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とする。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業であつかうトピックについて、時間の許すかぎり、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象が発生したときには、その問題についても議論するため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代日本政治の実態を知ることにより、政治を客観的に見る眼を養うことができる。				1	1						
②	現代日本政治の制度が現実の政治に与える影響について知ることができる。					1						
③	日本政治の制度と諸外国の政治制度を比較分析することを通じて、政治に対する視野を広げることができる。				1	1						
④	現代日本政治の課題について、考え、今後の日本政治の行方を予測、問題解決に寄与することができる。				1							
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、定期試験における論述問題に回答することを通じて、その理解度や説明力などを評価する。	15	20	20	15							70
小テスト等	授業の区切りにおいて行う小テストにより、到達目標②③について授業内容をどの程度理解しているかについての確認を行う。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内容に関する疑問などについて、積極的に質問し、現代日本政治を理解しようとする努力を行っているかどうかを到達目標①⑤に関して評価を行う。	5			5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ラジオで語った政治学2』	浅野一弘	同文館出版	2019	教科書	必携
『現代日本政治の現状と課題』	浅野一弘	同文館出版	2007	参考書	推奨
『日米首脳会談の政治学』	浅野一弘	同文館出版	2005	参考書	推奨
『日米首脳会談と政治過程－1951年～83年－』	藤本一美・浅野一弘	龍溪書舎	1994	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	地名で読む日本政治	日本政治と密接な関係にある地名がある。そこで、「永田町」「霞が関」といったことばを手がかりに、日本の権力構造の基盤について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、知っておくべき地名の意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。くわえて、新聞を読むための意欲をたかめる。	
		事前学修	教科書1頁～10頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、「永田町」「霞が関」といったことばのもつ意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
2	第一部水 9/23	世襲議員	報道でもよく耳にする「世襲議員」（＝「二世議員」）ということばがある。では、この世襲議員は、どのような点で、優位な立場にあるのかについて、“三パン”という視点から、考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な世襲議員ということばの意味について理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書23頁～32頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、世襲議員ということばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
3	第一部水 9/30	自由民主党総裁選挙のしくみ	最新の自由民主党総裁選挙を例にとり、同党の総裁選挙のしくみがどのようになっているのかを検討する。時間が許せば、ほかの政党の代表選出選挙についても言及する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な自由民主党総裁選挙のしくみについて理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書85頁～95頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、自由民主党総裁選挙の基本的なしくみをおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
4	第一部水 10/7	自由民主党総裁選挙の歴史	自由民主党の総裁選挙の歴史は、金権選挙の歴史であるともいわれる。その起源がどこにあるのか、そして、総裁選挙と派閥との関連などについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な自由民主党総裁選挙の歴史について理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書97頁～106頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、自由民主党総裁選挙の歴史的な流れをおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
5	第一部水 10/14	内閣改造・自由民主党役員人事	内閣改造と自由民主党の役員人事をめぐるのは、派閥間で活発な駆け引きがみられた。そうした歴史をふりかえるとともに、最新の内閣改造と党役員人事の特徴についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な内閣改造・自由民主党役員人事の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書107頁～117頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、内閣改造・自由民主党役員人事についての基本事項をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 10/21	閣議の実態	「内閣総理大臣がこれを主宰する」（内閣法・第4条2項）とされる閣議のしくみについて考えるだけでなく、その特質についても検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な閣議の実態を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書119頁～129頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、閣議についての知識の基本事項をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
7	第一部水 10/28	冷戦と日本政治	冷戦のはじまりと終わりの時期について検討するとともに、冷戦が日本の政治にあたえた影響について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治に大きな影響をあたえた冷戦の実態を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書11頁～21頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「世界史」「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、冷戦の意味と冷戦が日本政治におよぼした影響の一端を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
8	第一部水 11/11	旧日米安全保障条約と吉田茂	日本国内では、旧日米安全保障条約の締結に批判的な声があったものの、なぜ、吉田は、同条約を結ぶことを決断したのか、その政治過程について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な旧日米安全保障条約をめぐる政治過程を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書33頁～38頁の上から6行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、旧日米安全保障条約締結までの政治過程を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
9	第一部水 11/18	旧日米安全保障条約の問題点	旧日米安全保障条約には、さまざまな問題点があったとされている。そこで、同条約がかかえていた問題点を整理し、なぜ、そのような問題点をのこしたまま、条約が締結されたのかについても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な旧日米安全保障条約のもつ問題点を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書38頁の上から7行目～42頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、旧日米安全保障条約の問題点を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
10	第一部水 11/25	池田・ロバートソン会談	日米関係史上、きわめて重要とされる池田・ロバートソン会談をめぐる政治過程をおさえ、MSA（日米相互防衛援助）協定締結の意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な池田・ロバートソン会談の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書43頁～45頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、日本政治史上における池田・ロバートソン会談の意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 12/2	重光・ダレス会談	旧日米安全保障条約の改定をめざした重光葵は、ジョン・ダレスとのあいだで会談をおこない、要望を伝えたものの、ダレスはまったくとりあわなかったとされる。そこで、同会談でなにが話しあわれたのかに着目すると同時に、この会談と55年体制成立の関連についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な重光・ダレス会談の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書46頁～53頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、重光・ダレス会談の意味と同会談と保守合同とのかかわりについての基本的知識を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
12	第一部水 12/9	安保改定の実像	“片務性”のあった旧日米安全保障条約が、“双務性”をもつ新日米安全保障条約へと改定される政治プロセスを詳細に検証する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な安保改定の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書55頁～60頁の下から5行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、安保改定に関する基本的知識を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
13	第一部水 12/16	安保闘争	岸信介による安保改定への批判がたかまり、岸内閣は崩壊する。安保闘争とよばれる、その反対運動の特質と意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な安保闘争の意味を理解し、そこで得た知識をもとに、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書60頁の下から4行目～64頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、日本政治上、安保闘争の有する基本的意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
14	第一部水 12/23	日本国憲法のなかの地方自治	日本国憲法のなかで規定されている地方自治の内容と現実との乖離について、「地方自治の本旨」ということばをキーワードに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な地方自治のしくみに関して、日本国憲法との関連で理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書79頁の上から10行目～84頁および151頁～161頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、地方自治をとりまく実状を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
15	第一部水 1/13	危機管理	1995年の阪神・淡路大震災以来、「危機管理」ということばがさかんにさげられるようになった。ここでは、2018年におこった北海道胆振東部地震を例にとり、危機管理の意味について考えてみたい。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な危機管理の実状を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書65頁～74頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、日本における危機管理の現状と課題の一端を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

科目名	日本政治論Ⅱ	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現代の日本政治を正しく理解するためには、日本政治に関する冷静で、客観的、かつ体系的な学習が必要である。本講義では、現代日本政治を歴史、制度、実態など多角的かつ体系的に学ぶことを通じて、日本政治の特徴と問題点を明らかにしていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちが暮らしている日本の政治を知り、政治を冷静かつ客観的に「見る眼」を養い、「良き主権者」になるために、現代日本政治を歴史、制度、実態などについて、体系的に学ぶことを目的とする。日本政治論Ⅰでは、現代日本政治を歴史的に学んでいく。

【履修条件】
政治経済学科以外の学生のみ

【授業方法】
授業は、基本的に講義を形式で行う。必要に応じて、スライドやムービーを用いることもある。また、シラバスに示された授業の合間に、適宜、時事的な問題について受講生の求めに応じて、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代日本政治の実態を知ることにより、政治を客観的に見る眼を養うことができる。					1	1						
②	現代日本政治の制度が現実の政治に与える影響について知ることができる。						1						
③	日本政治の制度と諸外国の政治制度を比較分析することを通じて、政治に対する視野を広げることができる。					1	1						
④	現代日本政治の課題について、考え、今後の日本政治の行方を予測、問題解決に寄与することができる。					1							
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、定期試験における論述問題に回答することを通じて、その理解度や説明力などを評価する。	15	20	20	15							70
小テスト等	授業の区切りにおいて行う小テストにより、到達目標②③について授業内容をどの程度理解しているかについての確認を行う。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内容に関する疑問などについて、積極的に質問し、現代日本政治を理解しようとする努力を行っているかどうかを到達目標①⑤に関して評価を行う。	5			5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、答案の講評・設問の解説を行う（ポータル＋希望者には個別に）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アクセス日本政治論	平野浩ほか	日本経済評論社	2003	参考書	推奨
日本の選挙	加藤秀治郎	中公新書	2003	参考書	推奨
現代日本政治講義	藪野祐三	北海道大学出版会	2019	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:00-13:00 研究室（9号館2階9208研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	政治制度と現実政治	さまざまな現実の政治現象の背景には、政治の仕組みである政治制度が色濃く関係していることを説明し、日本政治の実態を理解する上で、政治制度を学ぶことが重要であることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治制度が現実の政治をいかに規定するかについて、具体的に説明することができる。	
		事前学修	現代の日本政治を見ながら、各自が疑問に思うことを明らかにしておくことを求める。	120分
		事後学修	政治制度が実際の政治のあり方を左右する事例をアメリカやイギリスなどとの比較を含めて健闘してみることに。	120分
2	9/21	小選挙区制と比例代表制	外題の議会制民主主義の基本である代表選出の仕組みである選挙制度について、小選挙区制と比例代表制というふたつの代表的選挙制度について、基礎的な知識を確認した上で、両者の長所と短所について、比較して説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、選挙制度の基本である小選挙区制と比例代表制の違いや、その長所や短所について、説明することができる。	
		事前学修	世界各国の選挙制度について、調べてみることに。	120分
		事後学修	小選挙区制と比例代表制を比較し、日本の政治の現状を考えた時、どの選挙制度が望ましいかを理由を含めて考えてみることに。	120分
3	9/28	衆議院の選挙制度	現在、日本の衆議院で使われている選挙制度である小選挙区比例代表並立制について、その特徴や投票方法、当選者の決定方法などを具体的かつ詳細に学んでいく。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、衆議院の選挙制度である小選挙区比例代表並立制について、具体的に説明することができる。	
		事前学修	1889年以来の日本の衆議院の選挙制度の変遷について、歴史的に振り返ってみることに。	120分
		事後学修	1994年の政治改革に際し、小選挙区比例代表並立制が導入された経緯について調べてみることに。	120分
4	10/5	参議院の選挙制度	参議院の現行の選挙制度について、その特徴や投票方法、当選者の決定方法などを具体的、かつ詳細に説明すると同時に、参議院の選挙制度ならではの問題についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に力関連して、参議院の選挙制度について説明できると同時に衆参の選挙制度の違いについて説明できる。	
		事前学修	参議院の選挙制度の変遷や比例代表制が導入されるに至った経緯について調べておくことに。	120分
		事後学修	参議院の一票の格差をめぐる訴訟に対する最高裁判決の変遷について調べてみることに。	120分
5	10/12	中選挙区制	1925年から1994年まで使われていた衆議院の中選挙区制は、日本独自の選挙制度であったが、何故、中選挙区制が導入されたのか、小選挙区制や比例代表制と比べた場合、中選挙区制の特質はいかなるものかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、日本独自の中選挙区制の導入理由と、他の選挙制度と比べた時の特質について説明できる。	
		事前学修	中選挙区制が導入されるきっかけとなった第二次護憲運動について調べておくことに。	120分
		事後学修	中選挙区制が70年間も日本で利用されてきた理由について、考えてみることに。	120分
6	10/19	中選挙区制と金権政治	理論的には問題の少ない中選挙区制には、政治家中心の政治を促すことを通して、金のかかる政治を生み出す構造的欠陥があったが、中選挙区制がもたらす問題点を明らかにすると同時に政治改革に際し、中選挙区制を廃止することが叫ばれた背景について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、中選挙区制の構造的な問題点について、具体的に説明することができる。	
		事前学修	1980年代後半に続発した政治と金をめぐるスキャンダルについて、それがどのようなものであったのかを調べておくことに。	120分
		事後学修	今日でも中選挙区制を擁護する議論があるが、その理由は何かについて調べてみることに。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	1994年政治改革	1980年代後半に相次いだ政治と金をめぐるスキャンダルを契機に、政治改革の必要性が叫ばれ、政治改革運動が高まったが、政治と金をめぐる問題が選挙制度改革に発展した経緯と、当時の改革派が選挙制度改革を通じて目指したものについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、1994年の政治改革について、その目的や理念について、説明することができる。	
		事前学修	戦後の政治改革に関する議論では、何が課題とされてきたかについて調べてみること。	120分
		事後学修	小選挙区制や比例代表制と政党政治との関係について、西欧諸国を事例として調べてみること。	120分
8	11/9	日本型議院内閣制	日本の政府はイギリスにならって、議院内閣制を基本としているが、そもそも議院内閣制とは何か、大統領制との違いは何かを学んだ上で、日本の議院内閣制の特徴をイギリスと比較して明らかにしていく。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の議院内閣制について、イギリスやドイツと比較した場合の違いや特質について、説明することができる。	
		事前学修	イギリスの議院内閣制とアメリカの大統領制の違いについて、その考え方の違いに重点をおいて、調べるべくこと。	120分
		事後学修	政府のあり方には、様々なものがあるが、世界各国の政府に関する政治制度がどうなっているかについて、調べてみること。	120分
9	11/16	日本の国会	議会制民主主義の政治における中心は議会であり、議会制度は選挙制度と並んで、最も重要な政治制度であるが、その実態は余り知られていない。そこで世界の議会制度の中で、日本の国会の制度独自の特徴は何かについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アメリカやイギリスと比較した場合の日本の国会制度の違いや特質を説明することができる。	
		事前学修	世界のさまざまな国の議会制度について、調べてみること。	120分
		事後学修	日本の国会とアメリカの連邦議会、イギリスの議会を比較して、それぞれについて、類似の部分と異なっている部分について調べてみること。	120分
10	11/23	二院制と強すぎる参議院	日本は衆議院と参議院からなる二院制を採用し、衆議院の優越が憲法で規定されている。しかし、制度の欠陥から両院が対立した場合、「決められない国会」に陥る可能性もある。そこで日本における両院関係を明らかにし、「強すぎる参議院」といわれる現象はどのようなものかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、日本の国会の二院制の特質と問題点について、具体的に説明することができる。	
		事前学修	世界のさまざまな国の議会制度について、一院制か二院制かに着目して調べてみること。	120分
		事後学修	講義で扱った「ねじれ国会」について、そこで起きた混乱について調べてみること。	120分
11	11/30	自民党一党優位体制	日本政治を語る上で、欠くことができないアクターは自民党であり、自民党は、現代史の中でほとんどの期間、政権政党であり続けた。このような自民党一党優位体制とは何か、また、その功罪は何かについて、具体的な事例を含みながら学んでいく。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、自民党一党優位体制とは何かと、その功罪について、説明することができる。	
		事前学修	自民党という政党がどのように誕生したのか、1955年の保守合同について調べてくること。	120分
		事後学修	自民党の理念や基本政策は何か、また、選挙での公約はどう変化してきたかについて、調べてみること。	120分
12	12/7	自民党の特徴	日本政治の「主役」ともいえるべき自民党の特徴について、組織面、政策面をはじめとして、さまざまな角度から明らかにし、その独自性について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、自民党の組織的特徴について、独特の議員政党という観点から説明することができる。	
		事前学修	自民党とはどのような政党かについてのさまざまな議論を比較の観点から調べ、各自の「自民党観」を持つようにすること。	120分
		事後学修	自民党における派閥が果たしてきた役割と、その問題点について調べること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	自民党は何故強いのか	自民党は日本政治の中で、何故、ここまで強い存在であるのか、組織だけでなく、政策や支持者や選挙など、さまざまなその強さの理由について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、自民党が一党優位体制を築き上げた理由と背景について、説明することができる。	
		事前学修	自民党の過去の選挙結果を集め、その動向について考察してみること。	120分
		事後学修	「自民党は大きい故に強い」という、一見、トートロジーとも見える見方について、その理由を考察してみること。	120分
14	12/21	変わる政治と変わらぬ政治	自民党一党優位体制と言われる中で、日本政治はどう変わってきたのか、また、何が変わらなかったのかについて、「変革の時代」といわれた1990年代を軸に学んでいく。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、1990年代以降の日本政治の変化について、説明することができる。	
		事前学修	各自がここまで学んできて、日本政治が変わった点と変わらない点は何かについて、考えておくこと。	120分
		事後学修	自民党一党優位体制に対し、野党はどうあるべきか、その対抗策について考えてみること。	120分
15	1/18	日本政治の課題	激変する政治環境の下で、日本政治が当面、抱える問題は何か、その問題にどう対処していくべきかについて、これまで学んできたことを基礎に総括する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、現代日本政治が抱える課題について、各自が新たな問題意識を持つことができる。	
		事前学修	各自がここまで学んできて、日本政治が変わった点と変わらない点は何かについて、考えておくこと。	120分
		事後学修	各自が最も重要と考える日本政治の課題を挙げ、その何が問題か、それを解決するためには何をすべきかを、具体的に考え、明らかにしてみること。	120分

科目名	ファイナンス論Ⅰ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
お金が余っている主体（一般に、個人）から足りない主体（一般に、企業）へのお金の融通を「ファイナンス（金融）」という。ファイナンスⅠでは、まず、ファイナンスがどのような機能を果たすのか、また、ファイナンスが阻害される要因とそれを解決する社会的なメカニズム（金融システム）について学修する。次に、ファイナンス論の中で最も重要な理論の一つである資本資産評価モデル（Capital Asset Pricing Model：CAPM）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective：GIO 一般目標)
ファイナンスが阻害される要因とそれを解決する社会的なメカニズム（金融システム）を理解する。また、資本資産評価モデル（Capital Asset Pricing Model：CAPM）を理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 （ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ファイナンスとその阻害要因について理解し、説明できる。				2	2	2	2				
②	金融システムについて理解し、説明できる。				2	2	2	2				
③	ポートフォリオ理論を理解し、説明できる。				2	2	2	2				
④	資本資産評価モデルを理解し、説明できる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験によって、達成目標①②③④に関する内容を理解しているかを確認する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等	リアクションペーパーによって、達成目標①②③④に関する疑問点と内容の理解を確認する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベーシックプラス ファイナンス』	井上光太郎/高橋大志/池田直史	中央経済社	2020	教科書	必携
『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』	手嶋宣之	ダイヤモンド社	2011	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	イントロダクション及び導入講義	ファイナンス論の学問上の位置づけやその対象について学修する。また、授業計画や評価方法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連：ファイナンス論とはどのような学問かを理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書や参考書を読んで、ファイナンス論の学問上の位置づけやその対象について整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ファイナンス論の学問上の位置づけやその対象について復習し、説明できるようにする。また、ファイナンス論を学修することで、自分にとってどのようなメリットがあるのかを考える。	120分
2	第一部 火4/14	ファイナンスとその機能	ファイナンスとは何か、またその機能とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：ファイナンスとは何か、またその機能とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、ファイナンスとその機能を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ファイナンスとは何か、またその機能とは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
3	第一部 火4/21	ファイナンスの阻害要因	ファイナンスを阻害する要因について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：ファイナンスを阻害する要因とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、ファイナンスを阻害する要因を検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ファイナンスを阻害する要因とは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
4	第一部 火4/28	金融システム：銀行型金融システム	銀行型金融システムとはどのようなものを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：銀行型金融システムがどのようにファイナンスの阻害要因を緩和するのかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、銀行型金融システムがどのようにファイナンスの阻害要因を緩和するのかを検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、どのようにファイナンスの阻害要因を緩和するのかを復習し、説明できるようにする。	120分
5	第一部 火5/5	金融システム：市場型金融システム	市場型金融システムとはどのようなものを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：市場型金融システムとそれを補完する仕組みがどのようにファイナンスの阻害要因を緩和するのかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、市場型金融システムがどのようにファイナンスの阻害要因を緩和するのかを検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、市場型金融システムとそれを補完する仕組みがどのようにファイナンスの阻害要因を緩和するのかを復習し、説明できるようにする。	120分
6	第一部 火5/12	期待収益率と要求収益率	期待収益率と要求収益率の概念を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連：期待収益率と要求収益率の概念を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、期待収益率と要求収益率の概念の違いを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、期待収益率と要求収益率の概念を復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 火5/19	リスクの指標と分散投資のリスク低減効果	リスクの指標として収益率の標準偏差を学修する。また、分散投資のリスク低減効果について学修する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連：分散投資にはリスク低減効果があることを理解し、説明できる。
		事前学修	教科書や参考書を読んで、収益率の標準偏差とは何か、また、分散投資のリスク低減効果とは何かを確認する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、分散投資にはリスク低減効果があることを復習し、説明できるようにする。120分
8	第一部 火5/26	2つの収益率の関係：共分散と相関係数	2つの収益率の共変動性を測る指標である共分散と相関係数を学修する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連：共分散と相関係数とは何かを理解し、説明できるようにする。
		事前学修	教科書や参考書を読んで、共分散と相関係数とは何かを確認する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、共分散と相関係数とは何かを復習し、説明できるようにする。120分
9	第一部 火6/2	ポートフォリオのリスクとリターン	ポートフォリオの収益率の標準偏差と期待収益率がどのように表現できるのかを学修する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連：ポートフォリオの収益率の標準偏差と期待収益率がどのように表現できるのかを理解し、説明できる。
		事前学修	教科書や参考書を読んで、ポートフォリオの収益率の標準偏差と期待収益率がどのように表現できるのかを確認する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ポートフォリオの収益率の標準偏差と期待収益率がどのように表現できるのかを復習し、説明できるようにする。120分
10	第一部 火6/9	投資家の投資機会集合	収益率の標準偏差・期待収益率（リスク・リターン）平面上で、投資家の投資機会集合がどのように表現できるのかを学修する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連：収益率の標準偏差・期待収益率（リスク・リターン）平面上で、投資家の投資機会集合がどのように表現できるのかを理解し、説明できる。
		事前学修	教科書や参考書を読んで、収益率の標準偏差・期待収益率（リスク・リターン）平面とは何かを確認する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、収益率の標準偏差・期待収益率（リスク・リターン）平面上で、投資家の投資機会集合がどのように表現できるのかを復習し、説明できるようにする。120分
11	第一部 火6/16	リスク回避的な投資家と効用最大化	収益率の標準偏差・期待収益率（リスク・リターン）平面上で、リスク回避的な投資家がどのように表現できるのかを学修する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連：収益率の標準偏差・期待収益率（リスク・リターン）平面上で、リスク回避的な投資家がどのように表現できるのかを理解し、説明できる。
		事前学修	教科書や参考書を読んで、リスク回避的な投資家とは何かを確認する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、収益率の標準偏差・期待収益率（リスク・リターン）平面上で、リスク回避的な投資家がどのように表現できるのかを復習し、説明できるようにする。120分
12	第一部 火6/23	投資家のポートフォリオの選択問題と分離定理	リスク回避的な投資家がどのポートフォリオを選択するのかを学修する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連：リスク回避的な投資家がどのポートフォリオを選択するのかを理解し、説明できる。
		事前学修	教科書や参考書を読んで、接点ポートフォリオとは何かを確認する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、リスク回避的な投資家がどのポートフォリオを選択するのかを復習し、説明できるようにする。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	資本資産評価モデル(CAPM)	資本資産評価モデルを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連：資本資産評価モデルとは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、資本資産評価モデルの式とベータの意味について確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、資本資産評価モデルとは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
14	第一部 火7/7	効率的市場仮説と運用戦略	効率的市場とは何か、また、効率的市場と運用戦略との関連について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連：効率的市場とは何か、また、効率的市場と運用戦略との関連について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、効率的市場仮説とはどのような仮説なのかを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、効率的市場とは何か、また、効率的市場と運用戦略との関連について復習し、説明できるようにする。	120分
15	第一部 火7/14	いままでの復習	試験に備えて、いままでの内容を改めて一通り学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連：いままでの内容を一通り理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書と講義ノートを確認して、いままでの内容を確認する。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、いままでの内容を一通り復習し、説明できるようにする。	120分

科目名	ファイナンス論Ⅱ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
お金が余っている主体（一般に、個人）から足りない主体（一般に、企業）へのお金の融通を「ファイナンス（金融）」という。ファイナンスⅡでは、資産評価の基本原理を習得した後、この原理を応用して個別の金融資産の評価について学修する。また、コーポレートファイナンス論の入門的な内容について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
資産評価の基本原理を理解し、この原理を応用できるようになる。また、コーポレートファイナンス論の対象と入門的な内容について理解する。

【履修条件】
ファイナンス論Ⅰの履修を前提とする。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	評価の基本原理を理解し、応用できる。				2	2	2	2				
②	債券がどのように評価されるのかを理解し、説明できる。				2	2	2	2				
③	株式がどのように評価されるのかを理解し、説明できる。				2	2	2	2				
④	金融派生商品がどのように評価されるのかを理解し、説明できる。				2	2	2	2				
⑤	コーポレートファイナンス論の入門的な内容を理解し、説明できる。				2	2	2	2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験によって、達成目標①②③④⑤に関する内容を理解しているかを確認する。	16	16	16	16	16						80
小テスト等												
レポート等	リアクションペーパーによって、達成目標①②③④⑤に関する疑問点と内容の理解を確認する。	4	4	4	4	4						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベーシックプラス ファイナンス』	井上光太郎/高橋大志/池田直史	中央経済社	2020	教科書	必携
『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』	手嶋宣之	ダイヤモンド社	2011	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	イントロダクション及び導入講義	前期の復習と後期に扱う内容の関連付けを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連：前期の内容と後期に扱う内容を関係づける。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書や参考書を読んで、前期に扱った内容とこれから学ぶ内容について整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、前期の内容と後期に扱う内容について復習し、関係づけられるようにする。	120分
2	第一部 火9/22	キャッシュフローの現在価値	将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連：将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を理解し、自分で計算できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、現在価値とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を復習し、自分で計算できるようにする。	120分
3	第一部 火9/29	評価の基本原則	資産評価の基本原則を学修する。	
		この回の到達目標	教科書や参考書を読んで、資本市場の均衡と資産評価の基本原則の関係を確認する。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、資本市場の均衡と資産評価の基本原則の関係を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、資産評価の基本原則を復習し、応用できるようにする。	120分
4	第一部 火10/6	債券の種類と性質	債券の種類と性質について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連：債券の種類と性質を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、債券の種類と性質を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、債券の種類と性質を復習し、説明できるようにする。	120分
5	第一部 火10/13	利子率の期間構造	利子率の期間構造について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連：利子率の期間構造を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、利子率の期間構造における純粋期待仮説とはどのようなものかを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、利子率の期間構造について復習し、説明できるようにする。	120分
6	第一部 火10/20	債券の評価	債券を評価する方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連：債券を評価する方法を理解し、実際に自分で計算できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、利子率の期間構造（イールドカーブ）と債券評価に使う割引率の関係を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、債券を評価する方法を復習し、実際に自分で計算できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	債券のリスク	債券のリスクにはどのようなものがあるのかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連：債券のリスクについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、金利リスクと債務不履行リスクについて確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、債券のリスクについて復習し、説明できるようにする。	120分
8	第一部 火11/10	株式の予備知識	株式に関する予備的な知識を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連：株式に関する予備的な知識を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、株式はどのような性質を持つのかを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、株式に関する予備的な知識を復習し、説明できるようにする。	120分
9	第一部 火11/17	株価の決定メカニズム	割引配当モデルによる株価の決定メカニズムを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連：割引配当モデルによる株価の決定メカニズムについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、割引配当モデルとは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、割引配当モデルによる株価の決定メカニズムについて復習し、説明できるようにする。	120分
10	第一部 火11/24	金融派生商品の種類と性質	金融派生商品の種類と性質について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連：金融派生商品の種類と性質について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、金融派生商品とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、金融派生商品の種類と性質について復習し、説明できるようにする。	120分
11	第一部 火12/1	先物の理論価格	先物の理論価格について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連：先物の理論価格について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、先物取引とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、先物の理論価格について復習し、説明できるようにする。	120分
12	第一部 火12/8	オプションの理論価格	オプションの理論価格について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連：オプションの理論価格について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、オプションとは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、オプションの理論価格について復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	企業活動の基本形と企業の目標	企業活動の基本形とコーポレートファイナンスにおける企業の目標ついて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連：企業活動の基本形とコーポレートファイナンスにおける企業の目標について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、コーポレートファイナンスが対象とする企業活動は何か、また、その活動をするときの企業の目標は何かを検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、企業活動の基本形とコーポレートファイナンスにおける企業の目標について復習し、説明できるようにする。	120分
14	第一部 火12/22	企業の投資政策入門	NPV法による投資の意思決定について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連：NPV法による投資の意思決定について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、NPVの計算方法を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、NPV法による投資の意思決定について復習し、説明できるようにする。	120分
15	第一部 火1/12	いままでの復習	試験に備えて、いままでの内容を改めて一通り学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連：いままでの内容を一通り理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書と講義ノートを確認して、いままでの内容を確認する。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、いままでの内容を一通り復習し、説明できるようにする。	120分

科目名	法医学Ⅰ	担当者	大野 曜吉	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法医学は「法律に関係のある医学的問題を研究し応用する学問」であり、医学領域では社会医学に属し、具体的問題を対象として社会活動をしなければならない立場にある。法医学では実務として司法解剖が重要であり、法学領域では刑法・刑事訴訟法などと関連する。また、民事関係でも生命保険・損害保険・損害賠償などが関連している。そこで刑事・民事・社会医学的事例を多く提示し、学生諸君に理解しやすいようにと計画する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的：法医学という学問分野が医学に属し自然科学を基礎としていることを理解し、社会における様々な事件事故に法医学が果たしている役割を理解することを目的とする。 到達目標：法医学の基本的事項を修得し、回答できる。ただし医学生レベルまでは求めない。法医学の各事例について、それぞれ問題点を指摘できる。 関連DP及びCP：法律学科1， 2 公共政策学科1， 3， 4

【履修条件】
各事例については守秘を厳守願いたい。また、パワーポイントで紹介する写真などについて電子機器などでの撮影は厳禁する。学生諸君との信頼関係がないと講義が成立しないことを理解して受講されたい。

【授業方法】
パワーポイントを使って講義する。毎回プリントを1週間前までにポータルサイトにアップロードする予定。 定期試験の解説を後日ポータルサイトにアップロードする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の検死制度・解剖制度について説明できる。				1	1						
②	死の定義、判定方法、脳死の定義について、また臓器移植法について理解している。				1	1						
③	アルコールの功罪について説明できる。				1	1						
④	死体現象、死後経過時間推定について、その困難さや法医学上の問題点をある程度説明できる。				1	1						
⑤	創傷の定義と種類、成傷器の推定について説明できる。また、頭部損傷の特殊性を理解する。交通事故の現状を理解する。				1	1						
⑥	窒息や溺水について定義と分類を説明できる。				1	1						
⑦	薬害や医療事故についてある程度説明できる。				1	1						
⑧	民事事件における法医学の役割について具体例を提示し解説できる。				1	1						
⑨	大規模災害における法医学の役割を理解し、説明できる。				1	1						
⑩	刑事事件や再審請求事件における法医学の役割と現状・問題点に関して具体例を提示して論説できる。				1	1						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	受講者数にもよるが、基本的には定期試験の成績で評価する。	5	5	5	10	10	10	5	10	10	30	100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	10	10	10	5	10	10	30	100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日、ポータルシステムで配信する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
臨床法医学テキスト	佐藤喜宣	中外医学社	2012	参考書	任意
備考	教科書としては指定しない。				

【オフィスアワー】
水曜日 講義終了後10分程度。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	法医解剖・法医学鑑定
実務経験に基づく実践的教育の内容		各講義の内容により実際の経験例などについて例示・紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 水4/8	法医学概論	法医学とその関連領域、法医学による鑑定、解剖の種類（司法・行政・承諾・死因調査法）。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）	160分
2	第1部 水4/15	検索と異状死体	死体検索と異状死体について。医療事故と異状死体届け出義務：医師法21条の届け出義務について、臨床医と法医の考え方が異なることなど。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
3	第1部 水4/22	注射と薬害	注射による大腿四頭筋拘縮症についてVTRを交えて紹介し、薬害について考える。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
4	第1部 水4/29	死の判定、脳死、アルコール	死の判定、脳死、アルコール事故：死の定義、脳死の定義と実際の脳死状態を経過した脳。アルコールによる事故についてはVTRでの紹介も加える予定。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
5	第1部 水5/6	保険と死亡の種類	死亡の種類と保険：病死・外因死（災害死・自殺・他殺・その他及び不詳）・不詳の死の区別が保険や損害賠償に重要な影響を与えること。生命保険と損害保険との相違。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
6	第1部 水5/13	死体現象	死体現象と死亡時刻の推定：死亡時刻を推定することの法医学上の重要性、早期死体現象、時間があれば晩期死体現象。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第 1 部 水5/20	直腸温からの死後経過時間 推定	直腸温降下曲線法と民事鑑定例：直腸温からの死後経過時間推定と事例の紹介。	
		この回の 到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
8	第 1 部 水5/27	窒息と民事鑑定	窒息の定義と種類、自殺か事故かが民事事件として問題となったある縊死例の紹介。	
		この回の 到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
9	第 1 部 水6/3	溺水と浴槽内死亡	溺水の診断、解剖所見と、入浴中の死亡の統計、民事事例紹介。	
		この回の 到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
10	第 1 部 水6/10	創傷と頭部損傷、交通事故	創傷の定義、頭部損傷、交通事故の現状、	
		この回の 到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
11	第 1 部 水6/17	創傷鑑定と松橋事件	刺創の成傷器の推定と、再審無罪となった松橋事件について行った創傷鑑定の詳細。	
		この回の 到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	130分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	190分
12	第 1 部 水6/24	大量死亡事故	大規模災害や航空機事故などに際しての法医学の役割とPTSDなどの精神的傷害について。	
		この回の 到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 水7/1	食中毒と製造物責任	中毒についてと法医中毒学について。シガテラ食中毒の裁判例の紹介と製造物責任について。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
14	第1部 水7/8	ロザール事件	ロザール事件（殺人否認事件）のVTRを交えた紹介と再鑑定の問題点。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	130分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	190分
15	第1部 水7/15	トリカブト事件	トリカブト殺人事件のVTRを用いた紹介と、その詳細をナトリウムチャンネルに作用する毒物とともに講義する。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	130分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の試験の後に質問する。	190分

科目名	法学Ⅰ	担当者	上野 幸彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
基本的に教科書によりながら講義の形式で行う。しかし、多様な意見に接することも、法学の学修においては大切であり、大勢の受講者がいるクラスの授業では制約も大きいですが、できるだけ受講者の意見を共有しながら議論できるチャンスを設けたい。なお、法律について学ぶ授業なので、学習の道具として「六法」は欠かせない。毎時間、必ず六法を持参のこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】					1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】					1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】					1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】					1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】					1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					1				1			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記によるテスト実施後、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国家と社会の基本法（第4版）	上野幸彦・古屋等	成文堂	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、教室にて10分程度応接する。これ以外に、メールによる質問等を随時受け付ける。メルアド：ueno.yukihiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	【法律の条文】	法律の学習を始める出発点として、まず法律にはどのようなことが記述されているのかを、実際に具体的な条文（規定）に触れながら理解し、条文の基本的な読み方、法律の分野における表現上の決まり、法律用語の使い方などについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法律の条文を実際読み、「六法」に収録されている法律の分け方について理解し、その理由を説明することができる。	
		事前学修	六法（ポケット六法）を手に取って、「日本国憲法」、「民法」、「刑法」というタイトルの法律の条文を読んで、どんなことが書かれているのか確認する。	120分
		事後学修	六法の引き方・使い方を再確認し、一般の用法とは異なる法令上の用語法について復習する。（1時間）	120分
2	第一部 火4/14	【法律の規定の意味について】	法律の条文の記述を通じて、その規定の意味について考える。条文の構造を分析しながら、その条文から導きだされる具体的な意味・内容を明確に理解し、法規定と規範的特質との関係について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、実定法の規定構造を理解することにより、法の規範的な性質とその機能について説明することができる。	
		事前学修	法律の条文には、さまざまな指図が含まれている。そこで、刑法199条、177条、179条1項、民法709条、415条1項、4条、憲法13条、21条1・2項、25条1・2項、41条、66条1項、76条1項の各規定について、指図（ないしルール）の内容を確認するとともに、その指図が、誰による、誰に対するものなのかを考える。	120分
		事後学修	法律用語等につき、ポータル上の「演習問題1」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次の授業時に行う。	120分
3	第一部 火4/21	【法の分類】	法は、さまざまな観点から分類・整理することができる。ここでは、存在形式、法律関係の対象、規定の内容などを基準として整理し、法のさまざまな種類について知ることにより、法の多様性について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法をどのような仕方で認識でき、またどのような基準で分類されているのかを知り、法の存在形式および主要な分類について説明することができる。	
		事前学修	教科書214-216頁を読み、（1）国内法と国際法の特徴的な違いと国際法の法源、（2）公法と私法とを区別する一般的な基準とそれぞれに属する代表的な法律、（3）社会法に分類される典型的な法律をチェックしてくる。	120分
		事後学修	規範的構造、法の分類につき、ポータル上の「演習問題2」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次の授業時に行う。	120分
4	第一部 火4/28	【国家法の体系的構造】	主権者自身が制定した「憲法」を頂点とする国家法の段階的構造を中心に、憲法と条約との関係、国家法と自治体の自主法との関係、さらに制定法と慣習法との関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法の形式的効力による分類を理解し、一国の法体系が階層構造に基づき成立していることを説明することができる。	
		事前学修	「日本国憲法」、「法律」、「命令」の制定主体は誰か、そしてこれらの形式的効力の優劣関係、さらに制定法である法律と不文法である慣習法との関係について、教科書221-225頁を参照して予習しておく。	120分
		事後学修	制定主体による法の分類について再確認するとともに、国家主権との関連における憲法と条約をめぐる優劣の問題や国の法令とは別個独立した条例を制定する場合の限界などの問題について復習する。	120分
5	第一部 火5/5	【法と道徳】	法と道徳との関係や異同に関する伝統的な見解について説明するとともに、道徳に反する法の有効性や道徳に違反しているという理由だけに基づいて法によって強制することの正当性の問題について議論し、考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、社会規範として法と同様の性質を有する道徳との比較を通じ、法と道徳それぞれの妥当領域を理解し、法と道徳との違いと関連について説明することができる。	
		事前学修	法と道徳との関係や違いについて、教科書206-211頁を参照して整理するとともに、現在、欧米では同性婚を認める国が増えているが、婚姻の成立を異性婚に限っている日本の法制度について、その根拠を調べるとともに、問題点を指摘する。	120分
		事後学修	制定法の種類や相互関係、法と道徳に関する問題について、ポータル上の「演習問題3」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次の授業時に行う。	120分
6	第一部 火5/12	【法と裁判】	法と裁判との相互関係について歴史的に分析したうえ、日本の司法システムについて、日本国憲法及び裁判所法に基づいて説明するとともに、民事及び刑事事件に関する手続の概要について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、法と裁判との歴史的・機能的な結びつきと裁判の手続きを理解し、両者の関係と裁判手続の概要を説明することができる。	
		事前学修	日本の司法システムについて、（1）裁判所の組織・権限（教科書89-91頁参照）、（2）民事及び刑事手続の概要（教科書231-236頁、240-244頁参照）を予習しておく。	120分
		事後学修	公正な裁判を支える一般的な原則を確認し、日本の裁判システムにおいて、具体的にどのような形で表れているのかをチェックする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	【実際の裁判例と法の解釈・適用（１）】	夫婦が生殖補助医療により代理母に出産させた場合における親子関係が問題となった裁判例を取り上げて、新たな問題に対する現行法上の解釈の限界や立法的措置の必要性等について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。	
		事前学修	最高裁判所平成19年3月23日決定を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。	120分
		事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、さらにその判断の是非を検討する。	120分
8	第一部 火5/26	【実際の裁判例と法の解釈・適用（２）】	従来の判例の傾向とは異なる判断を下した裁判例として注目される事件を取り上げて、変更に至った背景や実質的な考慮を探り、「解釈する」という営みの中にどのような価値判断が控えているのかを明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。	
		事前学修	最高裁判所平成27年4月9日判決を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。	120分
		事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、裁判官がこのような結論を採用するにあたってどのような事情を考慮したと推測できるかを分析し、このような結論が社会に及ぼす影響やその判断の是非を検討する。	120分
9	第一部 火6/2	【実際の裁判例と法の解釈・適用（３）】	刑罰法規における解釈の特徴について理解するとともに、法廷意見と反対意見とを比較しながら、理論的な問題点について分析する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。	
		事前学修	最高裁判所昭和60年10月23日判決を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。	120分
		事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、さらにその判断の是非を検討する。	120分
10	第一部 火6/9	【解釈の技法と法の適用】	法律の規定を適用する際の解釈の方法について、これまで授業で取り上げた裁判例を含め、具体的な事例を素材にしながら、解釈を通じた適用の在り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、法の適用における法解釈の方法を理解し、解釈の技法と法解釈の特徴について説明することができる。	
		事前学修	教科書225-228頁を読み、法解釈の一般的な方法について予習しておく。	120分
		事後学修	司法システム、裁判手続、法の解釈・適用につき、ポータル上の「演習問題4」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次回の授業時に行う。	120分
11	第一部 火6/16	【法の紛争解決機能】	社会的な紛争解決の諸方式と裁判とを対比させながら、法と裁判の特徴を理解するとともに、司法及び裁判システムについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、裁判の紛争解決機能の特徴について理解し、法機能の一部である紛争解決機能について説明することができる。	
		事前学修	教科書218-219頁、229-230頁を参照しながら、紛争を解決する方式について、裁判による場合とそれ以外の方式（ADR）とを比較し、それぞれの方式のメリットとデメリットを指摘し、裁判の特徴について説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	日本の司法システムにつき、日本国憲法及び裁判所法の規定を参照しながら、裁判所の組織・権限を整理し、また民事・刑事に関する裁判手続の概要についてまとめる。	120分
12	第一部 火6/23	【社会システムとしての法】	社会の秩序化を図る法という観点から、法の社会統合・秩序化機能と関連させながら、法と国家との関係や法と強制との結合について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会における法の機能について理解し、法の社会的機能を説明することができる。	
		事前学修	法が存在しない社会を仮定したうえで、その状態と法の必要性ないし存在根拠について考える。	120分
		事後学修	社会的機能や社会システムという観点から、法の特徴を分析し、法の構造的な特質について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	【法の理念】	法の価値に関する側面に焦点を当て、とくに正義と法的安定性という価値について、実定法と関連させながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法に内在する価値的側面に注目し、法理念としての正義や法が果たしている規範的正当化機能について説明することができる。	
		事前学修	教科書211-214頁を読み、法の理念に関するこれまでの考え方について予習し、実定法の中に正義あるいは法的安定性の理念が具体的にどのような形で表れているのか、確認する。	120分
		事後学修	法の構造及び理念に関して、ポータル上の「演習問題5」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次の授業時に行う。	120分
14	第一部 火7/7	【授業内試験及び解説】	これまで行ってきた授業につき、学修の定着度をチェックするためテスト（45分間）を実施し、併せて解説を行うことにより、知識の正確性及び理解の的確性の向上を図る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、これまでの授業を振り返り、学修の成果をチェックするために試験を行い、その後解説する。	
		事前学修	これまでの授業内容を振り返り、学習した内容をチェックするとともに、自己の知識や理解を確認する。	120分
		事後学修	テストの問題について、各自見直しを行い、条文・裁判例等をチェックしながら確認の作業を行う。	120分
15	第一部 火7/14	【法とは何か】	これまでの授業と学修の積み重ねに基づき、「法とは何か」というテーマで、議論する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、各自の意見を法的に表現し、法的思考によりながら自分の主張を述べることができる。	
		事前学修	「法とは何か」、あらためて各自考えてくる。	120分
		事後学修	他の受講者の意見や議論を振り返り、自分の意見と比較しながら再検討し、もう一度各自の見解を見直す。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
講義形式によって行うことになります。 授業内試験の解説を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】					1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】					1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】					1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】					1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】					1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					1				1			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回目に行う他、教員学生フォルダにもアップをいたします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）	高橋雅夫編	弘文堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、授業後（金曜17：50）などに教室にて申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4／10	法律学の勉強の仕方①	法律学の勉強の仕方や議論の仕方などの大枠について学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標①②に関連して、法律学のイメージを形成し、法律学がどのような学問なのかを説明することができるようになる。
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。
2	4／17	法律学の勉強の仕方②	条文の読み方について学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標①③に関連して、条文を自分で調べ、参照することができるようになる。
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、「ポケット六法」に付いている「有斐閣六法の使い方・読み方」(小冊子)を再確認するようにしてください。
3	4／24	法律学の勉強の仕方③	判例の読み方および検索の仕方などの大枠について学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標①④に関連して、判例を自分で調べ、参照することができるようになる。
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、学内又は学外の判例検索ツールで、判例検索を行ってみるようにしてください。
4	5／1	法曹養成	法律学を勉強することによって、どのような特殊な職業に関連していくのかを学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標①に関連して、法律学と関連の強い職業について他者に紹介することができるようになる。
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法学部で学んだことを、ご自身の将来の職業にどう活かしていきたいかを考えてみてください。
5	5／8	法とは何か①	法と社会生活、および、法と道徳について、それぞれの違いについて学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標③⑤⑥に関連して、法とは何かということを、他の社会規範と照らして説明をすることができるようになる。
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法と道徳の違いについてはご自身でも考えてみてください。
6	5／15	法とは何か②	法を担保する上で重要な手段の1つである強制について学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標③⑤⑥に関連して、法の強制との関係について説明をすることができるようになる。
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	法とは何か③	法の目的として、法的安定性や正義などについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標③⑤⑥に関連して、法の目的である法的安定性や正義について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法的安定性と正義についてはご自身でも考えてみてください。	120分
8	5/29	法とは何か④	権利と義務とは何か、そしてこれらの関係について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標③⑤⑥に関連して、権利と義務について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、ご自身のこれまでを振り返ってみて、権利のみを主張して義務を果たしていなかったかを検証してみてください。	120分
9	6/5	法の適用	法を実際に適用する場面である裁判制度の概要とそこでの訴訟手続の諸原則について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標④⑤⑥に関連して、裁判手続の概要について理解ができ、そしてこれらを説明をすることができるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、裁判所の種類や、訴訟手続上の原則については覚えるようにしてください。	120分
10	6/12	法源①	法源として、実際に文書化されている制定法と呼ばれるものについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標①③に関連して、制定法とは何かを説明することができるようになり、そしてその種類を挙げることができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、制定法にどのようなものがあるのかについては覚えるようにしてください。	120分
11	6/19	法源②（慣習法、判例、学説、条理）	法源として、いわゆる不文法（慣習法、判例、学説、条理）について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標①③に関連して、不文法とは何かを説明することができるようになり、そしてその種類を挙げるができるようになる。	
		事前学修	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、不文法源にはどのようなものがあるのかについては覚えるようにしてください。	120分
12	6/26	法の分類	法の分類方法として、公法と私法の違いについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標①③に関連して、公法とは何か・私法とは何かを説明することができるようになり、そして、それぞれどのような法律があるのかを挙げるができるようになる。	
		事前学修	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、公法と私法にそれぞれ、どのようなものがあるのかについては覚えるようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	法の解釈	法の解釈の種類について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標④⑤⑥に関連して、法解釈の種類について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法の解釈の種類については覚えるようにしてください。	120分
14	7/10	まとめと授業内試験	これまでに授業で学んだことを再確認することになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、これまでに学んだ知識・思考を他者に伝達できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から3および教科書の該当ページについては、再度復習するようにしてください。	120分
		事後学修	間違えたところなどを再確認するようにしてください。	120分
15	7/17	フィードバック	授業内試験において間違えた箇所および、その他理解が十分でなかった箇所について再確認することになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、理解が不十分な箇所をフォローアップし、より発展的な思考へと結びつけることができるようになる。	
		事前学修	参考資料や教科書、そしてフィードバックを確認するようにしてください。	120分
		事後学修	法学Ⅱだけではなく、他の法律関係科目にも、法学Ⅰで学んだことは活かしていく必要があるため、理解が不十分な箇所については確認するようにしてください。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
シラバスに従って教科書の該当箇所を読んできていることを前提に解説し、随時グループディスカッションやディベートを行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションやディベートによる	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】					1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】					1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】					1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】					1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】					1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					1				1			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートに添削し、返却する。また、ディベート等のあと、講評を行う。 提出されたレポートに添削し、返却する。また、ディベート等のあと、講評を行う

【教科書・参考書等】						
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度	
ホーンブック法学原理 ンブック法学原理	ホー 沢木・荒木・南部 沢木・荒木・南部 沢木・荒木・荒木・南部	北樹出版 北樹出版 北樹出版 北樹出版	北 2017 北	教科書	必携	
備考						

【オフィスアワー】
木曜16時20分から17時の間、本館9階1904号室で実施する。なおメールで予約して下さい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本BBS連盟副会長・顧問、警視庁委員会委員、東京家裁ボランティア等 日本BBS連盟副会長・顧問、警視庁委員会委員、東京家裁ボランティア等
実務経験に基づく実践的教育の内容		司法機関や施設の見学を実施する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス・導入講義	法の技術性と価値判断について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、法文化と一般常識の差異について説明できる	
		事前学修	教科書の序章を読んでおく	120分
		事後学修	法文化と一般常識の差異について理解する	120分
2	4/16	法とは何か（1）	規範としての法とその目的について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、法の目的について説明することができる	
		事前学修	教科書の19～32ページを読んでおく	120分
		事後学修	規範の種類についてまとめておく	120分
3	4/23	法とは何か（2）	行為規範の種類と相互の関係について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、法と道德の関係を説明することができる	
		事前学修	教科書の32～39ページを読んでおく	120分
		事後学修	法と道德の関係を整理しておく	120分
4	4/30	法とは何か（3）	権利義務の内容と権利の乱用について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、権利義務の内容と権利の乱用について説明することができる	
		事前学修	教科書の40～59ページを読んでおく	120分
		事後学修	権利義務の内容とその分類、及び権利の乱用についてまとめる	120分
5	5/7	法と実力	法的制裁の内容と種類について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、法的制裁の役割について説明することができる	
		事前学修	教科書の59～71ページを読んでおく	120分
		事後学修	法的制裁の役割についてまとめておく	120分
6	5/14	法と言語	法的な言語の意味と解釈の種類について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、解釈の種類と内容について説明することができる	
		事前学修	教科書の72～90ページを読んでおく	120分
		事後学修	解釈の種類と方法について、その差異をまとめておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	法の目的と理念	具体的妥当性と秩序維持について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、法の目的である具体的妥当性と秩序維持について説明することができる	
		事前学修	教科書90～103ページを読んでおく	120分
		事後学修	法の目的としての具体的妥当性と秩序維持の関係についてまとめる	120分
8	5/28	法系と法の継受	日本の法の成り立ちと形式について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、日本法の特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書104～114ページを読んでおく	120分
		事後学修	大陸法と英米法のミックスされた法体系である日本法を理解する	120分
9	6/4	法源（1）	制定法から附合契約についてまでを学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、制定法の役割について説明することができる	
		事前学修	教科書114～129ページを読んでおく	120分
		事後学修	成文法と不文法、とりわけ制定法に関する事項についてまとめる	120分
10	6/11	法源（2）	慣習法、判例法、学説、通説、条理について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、制定法以外の法源について説明することができる	
		事前学修	教科書129～150ページを読んでおく	120分
		事後学修	制定法以外の法源の効力や社会生活における適用事例について整理しておく	120分
11	6/18	裁判制度の基礎	裁判制度の歴史と一般原則について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、裁判制度の歴史と一般原則について説明することができる	
		事前学修	教科書151～158ページを読んでおく	120分
		事後学修	現行裁判制度に至る歴史的な発展についてまとめる	120分
12	6/25	民事紛争の解決	紛争解決制度の種類とその効力について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、紛争解決制度の種類について説明できる	
		事前学修	教科書159～169ページを読んでおく	120分
		事後学修	民事に関する紛争解決の制度の違いについてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	裁判制度とその理念	裁判制度と公正かつ公平な裁判を担保する理念について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、紛争解決制度の種類について説明できる	
		事前学修	教科書159～169ページを読んでおく	120分
		事後学修	民事に関する紛争解決の制度の違いについてまとめる	120分
14	7/9	裁判の基本原則	当事者主義に基づく裁判とは何かについて学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、当事者主義の裁判構造について説明ができる	
		事前学修	教科書181～205ページを読んでおく	120分
		事後学修	当事者主義、自由心証主義、挙証責任について整理し、まとめておく	120分
15	7/16	まとめと試験	用語に関する書き取りと説明 ＋ 論述試験 を実施する	
		この回の到達目標	1 4回の講義を踏まえ、歌津目標の①～⑤に関する基本的な知識を有しているかについて評価する	
		事前学修	1～1 4回までの講義中に、書き取り試験にする項目と論述試験にする項目について触れるので、復習しておく。	120分
		事後学修	論点整理をして、課題について適切な回答ができたか、自己採点してみる	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
六法（令和2年[2020年]版であれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。また、授業の妨げとなる行為（私語、スマートフォン等の電子機器の使用）を禁ずる。

【授業方法】
指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、積極的な発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代法学入門[第4版]	伊藤正己・加藤一郎 編	有斐閣	2005年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として、訴訟・調停対応、各種申立て、交渉業務、顧問先へのアドバイス等を経験してきた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記経験を活かして、豊富な具体例、法解釈・法適用の実際等を授業に盛り込んでいきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	【イントロダクション】 【導入講義】	法学の全体像、法と常識、法と社会生活を学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。これによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、法学の理解を深めるための必要事項、法と常識、法と社会生活を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の1頁から11頁までを読み、社会生活において法の果たす役割を説明できるように準備する。	120分
		事後学修	ガイダンスを踏まえ、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、法と社会生活との関係を整理する。	120分
2	第一部月 4/13	【法とは何か】	法と道徳、法と強制、法の目的等を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法と道徳との違い、法と強制（国家的サンクションを含む）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の7頁から32頁までを読み、法と道徳（法と強制を含む）との関係を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法と道徳（法と強制を含む）との関係を整理する。	120分
3	第一部月 4/20	【裁判の基準となるものー法源】	紛争解決ルールという観点から、法源（法の実在形式）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法源の種類（制定法、慣習法、判例等）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の49頁から65頁までを読み、法源の種類を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、裁判の基準という観点から、制定法・慣習法・判例の違いを整理する。	120分
4	第一部月 4/27	【法の分類】	制定法である公法と私法との関係、実定法の体系を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、公法と私法の分類のほか、実定法の体系を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の83頁から93頁までを読み、公法と私法の関係を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、裁判の基準という観点から、公法と私法の関係（公法と私法の融合を含む）を整理する。	120分
5	第一部月 5/4	【国家と法ー憲法】	公法に属し、国の基本法である憲法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、日本国憲法の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の94頁から109頁までを読み、近代憲法の特徴、日本国憲法の基本原理を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、日本国憲法の基本原理を整理する。	120分
6	第一部月 5/11	【犯罪と法ー刑法】	犯罪と刑罰に関する刑法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、犯罪と刑法、刑法の機能、犯罪の成立要件を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の111頁から127頁までを読み、刑法の機能、犯罪の成立要件を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、犯罪の成立要件を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	【財産関係と法Ⅰ－民法 (総則・物権法・債権 法)】	財産法の全体像、取引の主体・客体、取引の手段たる契約を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、法と権利義務、財産法の基本原則、権利能力・行為能力、物の分類のほか、契約（契約の諸類型、売買契約、賃貸借契約等）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の26頁から31頁、141頁から155頁までを読み、財産法の基本原則、権利能力・行為能力、物の分類のほか、契約の諸類型・締結を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、権利能力と行為能力との違い、物権と債権との関係を整理する。	120分
8	第一部月 5/25	【財産関係と法Ⅱ－民法 (債権法)】	契約と不法行為との違い、債務不履行・不法行為による損害賠償を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、債務不履行による損害賠償と不法行為による損害賠償、過失責任の原則とその適用範囲を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の146頁から155頁までを読み、契約と債務不履行との関係、債務不履行・不法行為による損害賠償の要件の比較、債務不履行と不法行為との関係を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、契約と債務不履行との関係、債務不履行・不法行為による損害賠償の要件の比較、債務不履行と不法行為との関係を整理する。	120分
9	第一部月 6/1	【家族生活と法Ⅰ－民法 (親族法)】	家族法の意味（財産法との対比）、婚姻・離婚、親子関係を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、家族法の全体像、婚姻・離婚、親子（嫡出子・非嫡出子、親権と後見）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の128頁から136頁までを読み、婚姻・離婚の要件、嫡出子・非嫡出子との違いを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、婚姻・離婚の要件、嫡出子・非嫡出子との違いを整理する。	120分
10	第一部月 6/8	【家族生活と法Ⅱ－民法 (相続法)】	相続制度の概要のほか、扶養を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、相続制度の概要（遺言、遺留分、相続人、遺産分割）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の128頁から139頁までを読み、遺言、遺留分、相続人、遺産分割を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、遺言、遺留分、相続人、遺産分割相互の関係を整理する。	120分
11	第一部月 6/15	【法の適用Ⅰ】	具体的事件への法の適用、裁判制度を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標④に関連して、民事事件・刑事事件の各裁判制度を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の33頁から42頁までを読み、民事事件・刑事事件の各裁判制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、具体的事件への法適用の理解を踏まえて、民事事件・刑事事件の各裁判制度の違いを整理する。	120分
12	第一部月 6/22	【法の適用Ⅱ】	裁判制度、訴訟手続の諸原則、強制執行を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標④に関連して、裁判制度の概要を踏まえて、訴訟手続（民事・刑事）の諸原則を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の36頁から47頁までを読み、訴訟手続（民事・刑事）の諸原則を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、訴訟手続（民事・刑事）の諸原則を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	【法の解釈Ⅰ】	事実認定と法の解釈を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、法的三段論法、事実認定、適用法規の解釈を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の66頁から76頁までを読み、法的三段論法（事実、法規、結論）、を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法的三段論法（事実、法規、結論）を踏まえて、事実認定、適用法規の解釈を整理する。	120分
14	第一部月 7/6	【法の解釈Ⅱ】	法の解釈の性質・方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、法の解釈の性質・方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の66頁から80頁までを読み、法の解釈の性質・方法を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法の解釈の性質・方法を整理する。	120分
15	第一部月 7/13	【総合】	これまでの授業における学修項目の理解、項目相互間の関連性を踏まえ、発展的・応用的な観点からの検討内容を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べ、説明することができる。	
		事前学修	これまでの授業で配布したレジュメを参考に、教科書の1頁から155頁までを読み、各学修項目のポイントを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、これまでの授業における学修項目の理解を踏まえて、項目相互間の関連性を整理する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
なるべく出席し、あらかじめ図書館等で下調べをして講義に参加することを望む。また、六法は必ず持参のこと。

【授業方法】
板書を中心とした講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】					1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】					1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】					1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】					1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】					1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					1				1			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ法学 [第3版]	高橋雅夫編	弘文堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 水4/8	講義の方針についての説明	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法律学の学習方法や研究方法について説明し、受講者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		事前学修	テキスト第1章「法の学び方」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	法の学び方について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
2	第一部 第二部 水4/15	法の目的について	法の目的である正義・合目的性・法的安定性とは、それぞれどういうことであるかを具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が法の目的の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	正義、合目的性、法的安定性について自分なりに説明できるようにて、ノートを整理しておく。	120分
3	第一部 第二部 水4/22	法の社会的機能について	法の伝統的な三つの機能に加え、法の機能の拡大化によって注目されるようになった機能について具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が法の社会的機能の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	法の伝統的機能に加え、新しく注目される機能について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
4	第一部 第二部 水4/29	法とその隣接領域について	法と緊密に隣接する領域である道徳・政治・経済との関係について具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が法と隣接する領域の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	法と道徳、政治、経済との関係について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
5	第一部 第二部 水5/6	法源（成文法）について	成文法に分類されるものにはどのようなものがあるのか、それぞれの関係はどのようなになっているのかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が成文法の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第4章「法の存在形式（法源論）」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	成文法に分類されるものとその特徴について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
6	第一部 第二部 水5/13	法源（不文法）について	不文法に分類されるものにはどのようなものがあるのか、成文法との関係はどのようなになっているのかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が不文法の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第4章「法の存在形式（法源論）」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	不文法に分類されるものとその特徴について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 水5/20	法の分類（公法・私法・社会法、実体法と手続法）について	公法・私法・社会法および実体法・手続法とはそれぞれどのような法をいうのか、具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の分類の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第5章「法の分類」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	公法・私法・社会法の内容と実体法と手続法の関係について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
8	第一部 第二部 水5/27	法の分類（強行法と任意法、一般法と特別法、固有法と継受法）について	強行法と任意法・一般法と特別法・固有法と継受法とはそれぞれどのような法をいうのか、具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の分類の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第5章「法の分類」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	強行法と任意法の内容、一般法と特別法の関係、固有法と継受法の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
9	第一部 第二部 水6/3	法の効力範囲について	法の時間的・場所的・人的効力範囲とはどのようなことを言うのか、具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の効力範囲の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第2章「法の内容」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	法の時間的、場所的、人的効力について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
10	第一部 第二部 水6/10	法と裁判について	日本の裁判制度はどのようなシステムになっているのかについて具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が日本の裁判制度の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第14章「裁判と法」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	日本の裁判制度の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
11	第一部 第二部 水6/17	裁判の特質について	裁判には様々な制約原理がある。また、裁判という紛争解決システムには制約からくる限界がある。これらはどのようなことなのか、そして限界を避けるために色々なシステムが構築されている。これらについて具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が日本の裁判制度の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第14章「裁判と法」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	裁判をめぐる制約原理とシステムの限界について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
12	第一部 第二部 水6/24	法的事実の認定方法について	裁判における事実認定の方法＝証拠をめぐる問題とさまざまな事情で事実認定が不可能になった場合どのような方法をとるのかについて具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、学修者が事実認定の方法を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	事実認定の方法と事実認定が不可能な場合の方法について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 水7/1	法解釈の意義について	認定された事実について法を適用するために、解釈という作業を行う。この法解釈はなぜ必要なのか、また法解釈は誰が行うのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、学修者が法解釈の意義を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	法解釈の必要性、法解釈の機関について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
14	第一部 第二部 水7/8	法解釈の技法について	法解釈にはさまざまなテクニックがある。これらについて具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、学修者が法解釈の意義を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	各種の法解釈の技法の内容と具体例について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
15	第一部 第二部 水7/15	半年間の総括	半年間をふりかえり、補充説明等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、学修者が授業の総括を具体的に行えるようにする。	
		事前学修	テキストなどを参照して、ノート等を整理する。	120分
		事後学修	テキストなどを参照して、ノート等の不備な箇所を補充する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特に指定しないが、六法を持参すること。

【授業方法】
実務や学界の動向，最新判例，債権関係法改正の動向なども視野に入れつつ講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し，どのように考えるかを口頭で表現してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後、最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学入門	早川吉尚	有斐閣	2016	教科書	推奨
リーガル・リサーチ&レポート 第2版	田高寛貴	有斐閣	2019	教科書	推奨
実定法学入門 第3版	田中英夫	東京大学出版会	1974	教科書	任意
備考	基本的にレジュメを配布して授業を行うが、各自自分に合った教科書を準備することが好ましい。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、法学で学ぶ規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス及び導入講義	授業内容、授業の進行方法、授業スケジュール、成績評価の方法、教科書の紹介を行い、これから学習する法学の導入部分や学習方法について説明し、今後の学習準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法学が実社会においてどのような地位を占めているかが説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、六法の条文を読むなどして、法律の文に慣れておく。	120分
		事後学修	授業で扱った法学についての説明を確認し、法の必要性や社会的意義を踏まえ、法学がどういった事柄を対象としたものかを理解し、自分なりに説明できるようにする。	120分
2	第一部 水4/15	法とは何か1	形式的な「法律」以外にも様々な社会的規範としての「法」が存在する。それぞれの性質が異なっているが、どのような社会規範としての「法」が存在するのか、各社会規範の役割等について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「法律」及びその他の社会規範について説明できる。	
		事前学修	各自の教科書を読み、社会規範としての法にはどのような形式のものが存在するか確認する。	120分
		事後学修	「法律」以外にもどのような社会規範が存在するのか、また、なぜそのような社会的規範が存在し、その社会規範は法にどのような影響を与えるものかについて、自分なりに説明できるようにし、疑問点を質問できるようにする。	120分
3	第一部 水4/22	法とは何か2	形式的には同じ「法律」として扱われるものにも「私法」や「公法」といった分類がなされることがあるが、どのような目的によるものか、またその性質がどのように異なるものであるかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公法と私法の分類及び解釈の仕方について説明できる。	
		事前学修	各自の教科書を読み、法の構造について、公法・私法・国際法とは何かを確認し、それぞれがどのような定義であるかを確認する。	120分
		事後学修	各法がどのような分野を規律しているものか整理し、それぞれの役割の違いを理解し、それぞれの特徴について説明ができるようにしておく。	120分
4	第一部 水4/29	法学の学習について	実際に条文を読み、法律の適用の仕方を学ぶ。前回までに学んだ法律の分類(公法、私法、刑法等)がどのように反映されているかについて実感できることを目的とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑤⑥に関連して、法律の分類と適用の仕方の関係について説明できる。	
		事前学修	前回までの授業で扱った法の社会における役割を確認し、法学が学ぶ対象としている法律がどいったものかについて確認する。	120分
		事後学修	実際に授業で扱った条文の読み方や適用の仕組みについて、法律の分類に気を付けながらなぜそのような適用がなされるのか自分の言葉で説明できるようにする。	120分
5	第一部 水5/6	法源1	法源とは何かについて、具体的な例を交えながら解説を行う。また、そのような法源がどのような機能を有しているか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法源の機能について説明できる。	
		事前学修	各自の教科書で、法源という概念がどのようなものか確認し、どのような機能を有しているかを確認する。	120分
		事後学修	法源としての法の機能がどのようなものか、授業中に扱った分類の仕方とその性質について自分なりに説明できるようにする。	120分
6	第一部 水5/13	法源2	制定法の法源と判例法の法源について、どのように役割が異なっているかを考え、具体的な事例をもとにその機能を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、制定法と判例法の機能の違いについて説明できる。	
		事前学修	各自の教科書で、制定法と判例法がどのように異なり、どのような機能を営むのか確認する。	120分
		事後学修	制定法と判例法の機能の違いを理解し、具体的な事例において、どのような適用関係となるか検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	法の分類1	強行法規や任意法規について、法律を分類する意義ないし必要性を理解し、どのような立法趣旨が存在するのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、強行法規と任意法規の機能の違いについて説明できる。	
		事前学修	各自の教科書で、強行法規、任意法規の概念を調べ、どのような機能を有しているかを確認する。	120分
		事後学修	各法の分類を行う意義及び各法の性質の違いを理解し、どのような制度趣旨が存在するのかを説明できるようにする。	120分
8	第一部 水5/27	法の分類2	実体法と手続法という概念の区別があるが、初学者にとっては非常にわかりにくい概念であり、それぞれの定義と実際に営んでいる機能について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連して、実体法と手続法の違いについて説明できる。	
		事前学修	前回の授業の復習をするとともに、各自の教科書で、実体法と手続法についてそれぞれの定義を確認する。	120分
		事後学修	具体的な実体法と手続法にはどのような法律が分類されるのかを確認し、それぞれの特色について説明ができるようにする。	120分
9	第一部 水6/3	私人間における法適用1	私人間に適用される法は、どのような解釈ないし適用がなされており、そのような法解釈ないし法適用はどのような目的の下に行われているのか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、私人間の法適用について説明できる。	
		事前学修	各自の教科書で、私人間に適用される法律としてどのような法律が存在するのかを確認しておく。	120分
		事後学修	私人間における法適用の特徴がどのようなものであり、当事者の利害関係についてどのような配慮をしているか説明できるようにする。	120分
10	第一部 水6/10	私人間における法適用2	私人間における法適用と公法の適用では、どのような点が異なっており、考え方がどのように異なるのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、私人間の法適用に関して公法の適用との相違について説明できる。	
		事前学修	各自の教科書で、私人間における法の適用と公法の適用ではどのような差異があるか確認しておく。	120分
		事後学修	私人間における法の適用では、どのような特徴があるか、公法の場合と比較して理解できるようにし、その特色を説明できるようにする。	120分
11	第一部 水6/17	解釈論と立法論1	法学では解釈論を学ぶことが多いが、立法的な対応がなされることもあり、従来どのような内容が立法的に解決されてきたのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、解釈論と立法論の概要について説明できる。	
		事前学修	不明確な条文があった場合にはどのような問題が生じるか、また、新たに立法が必要になるのはどのような場合か考えてみる。	120分
		事後学修	解釈論の限界と立法論の必要性について、具体的な例を踏まえて説明できるようにする。	120分
12	第一部 水6/24	解釈論と立法論2	実際に裁判になった事案であり、解釈論の限界を超え、実質的に立法に近いと批判されることのある事案を紹介し、解釈論について考えてもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑤⑥に関連して、解釈論の限界について説明できる。	
		事前学修	前回の授業を復習し、解釈論と立法論がどのように異なるか理解できているか確認する。	120分
		事後学修	授業内で扱った事案について、裁判所が行った判断がどのようにして正当化できるのか、あるいは、正当化できないのかそれぞれ検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	法の実現	実体法上認められた権利は、実際に実現されなければ意味がないが、法律はどのような手段を用意しているのか、及び法の実現のために実際の裁判所がどのような対応をしており、どのような制度が用意されているのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、法の実現と裁判手続について説明できる。	
		事前学修	実際に裁判所のホームページなどを確認し、裁判所の手続を確認してみる。	120分
		事後学修	裁判所における手続を具体的に理解し、各段階でどのような意義があるのか考え、実体法上の権利をどのようにすれば実現できるか説明できるようにする。	120分
14	第一部 水7/8	まとめ及び授業内試験	前期の授業内容のまとめをするとともに、前期の授業内容を俯瞰し、大きなシステムとしての法がどのような機能を営んでいるかを解説し、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法学の機能について説明できる。	
		事前学修	前期の授業をまとめ、それぞれの制度を自分の言葉で説明ができるか確認し、不明点を確認しておく。	120分
		事後学修	今後の学ぶ具体的な法律の予習の際に、法的思考能力が身につき、論理的に考えられているかを実践する。	120分
15	第一部 水7/15	試験講評	前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、試験の講評を踏まえて、今後の法律の学習に必要な法学の機能について説明できる。	
		事前学修	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。	120分
		事後学修	全15回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	西山 智之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式を中心とするが、発言する機会を多く設ける予定であるため、積極的に発言して欲しい。毎授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎授業終了時にリアク ションペーパーを提出してもらい、その次の回にリアクションペーパーに記載されていた意見や質問に対応する。また学期末試験については、web上で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ〔第3版〕	高橋雅夫 編	弘文堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室で、水曜日16：20～17：50に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	授業の進め方、勉強の仕方についての説明	授業の目的、到達目標、授業の方法、評価方法等について受講生に説明した上で、法を学ぶとはどのようなことなのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が次回以降の授業の準備を円滑に行うことができる。	
		事前学修	法に関するものならば何でも良いので、自らの関心のある法に関係したテーマを見つけて学習意欲を高め、ノートに記述してくる。	120分
		事後学修	授業で配布したレジュメを見直し、社会において生じうる問題現象に関心を持てるよう、法学の社会での役割について確認し、ノートに300文字程度で記述する。	120分
2	4月15日	法に関する情報の探し方	インターネット上の判例検索システムや雑誌記事索引データベース等を中心に、法に関する学術論文や判例はどのように探せばいいのかについて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が今後大学での学習を進めるうえで、自ら必要な情報を集めることができる。	
		事前学修	インターネットや図書館等で法に関する情報源にはどのようなものがあるのかを調べ、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	実際に自分が関心のある法に関するテーマの文献等を、インターネット上のデータベースで検索し、その論文や判例を読み、ノートに500文字程度で要約してみる。	180分
3	4月22日	社会と秩序と法	社会において、法がなぜ必要なのかについて身近な事例を用いて解説し、法の存在理由について理解を深めてもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が法の存在理由について人に説明することができる。	
		事前学修	教科書12頁、23～26頁を読み、なぜ社会には法が必要なのかについて考え、自分なりの考えをノートに列記してくる。	120分
		事後学修	社会における法の存在理由について、他学部の人や家族に説明できるように、ノートに500文字程度で整理し、実際に他学部の人や家族に説明してみる。	180分
4	4月29日	法の存在形式	法と呼ばれるものには、「法律」の他、「条約」「命令」「条例」「慣習法」「判例法」等様々なものが存在する。そうした法の存在形式について、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が「法」と「法律」の違いや、「命令」「条例」「慣習法」「判例法」等の社会に多く存在する法について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書35～43頁を読み、自分たちの周りにはどのような法が存在するのかを確認してノートに列記してくる。	120分
		事後学修	授業で取り扱った「憲法」「法律」「命令」「条例」「条約」について、どのような関係性にあるのかを図式化してみる。	180分
5	5月6日	法の分類	自然法と実定法、公法と私法、実体法と手続法、国内法と国際法等、法の分類方法とその具体例について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が法の分類方法と具体例について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書45～53頁を読み、第4回で取り扱った法はどれに分類されるかを考え、ノートに列記してくる。	100分
		事後学修	配付したレジュメを確認し、法の分類について具体例を含めてまとめを行い、改めて自分でノートに図式化してみる。	140分
6	5月13日	法と道徳	法と道徳の関係性について、具体例を挙げながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生が法と道徳の関係性について正しく理解し、法と道徳の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書12～17頁を読み、法と道徳の関係性について、図にまとめノートに300文字程度で記述してくる。	100分
		事後学修	授業で解説した内容について、具体例も含め、法と道徳について自分はどう考えるのかをノートに500文字程度にまとめる。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	正義とは何か	正義とは何かについて、法哲学における正義を取り上げ解説し、受講生に事例を基に正義についての意見を求める。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生がこれまで人類で議論されてきた正義の考え方についてある程度理解したうえで、自らの意見を言うことができる。	
		事前学修	教科書26～29頁を読み、正義とは何かについて考え、自分の考えをノートに列記してくる。	100分
		事後学修	アリストテレスの正義論について、どのような分類がなされているのか、各300文字程度で解説をノートに記述する。	140分
8	5月27日	条文の読み方、判例の読み方	具体的な条文を使用し、条文の基本的な読み方、「並びに」と「及び」、「又は」と「若しくは」等の表現の使い方について解説を行う。また判例の探し方、読み方についても解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が法学部生として問題のない程度に条文のつくりを理解し条文を読むことができる。同到達目標に関連して、受講生が法学部生として問題のない程度に判例のつくりを理解し判例を読むことができる。	
		事前学修	教科書の5～9頁を読み、配付されている六法を開き、関心のある法律の条文を声に出して読んでみる。	60分
		事後学修	授業で解説した条文の読み方を踏まえて、事前学習で読んだ条文を再び声に出して読んでみる。関心のある事件の判例を探し、500文字程度でノートにまとめてみる。	180分
9	6月3日	法の解釈と適用	拡大解釈・縮小解釈・反対解釈・類推解釈等の解釈方法について、具体例を用いながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が様々な法解釈の方法について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書55～66頁を読み、66頁のコラム「「車馬」の解釈について」はどのようなことを言っているのか、ノートに300文字程度で記述してくる。	80分
		事後学修	拡大解釈・縮小解釈・反対解釈・類推解釈の各解釈方法について、ノートに自分の言葉で例を挙げながら解説を書く。	160分
10	6月10日	裁判と法	我が国の裁判の種類や裁判所の構成、裁判の原則、法曹三者、裁判員制度等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、受講生が日本の裁判システムについて正確に理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書213～232頁を読み、法曹三者とは誰の事をいうのか、その三者はどのような仕事をするのかをそれぞれ300文字程度でノートに記述してくる。	100分
		事後学修	ノートに、裁判所の種類とその構成について図式化し、裁判の種類とその概要をそれぞれ300文字程度にまとめ記述しておく。	140分
11	6月17日	日本国憲法	日本国憲法の構成や基本的人権・統治機構等について、基本事項を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が日本国憲法について、構造や基本事項をおおまかに理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書67～106頁を読み、日本国憲法の前文+1条～99条までを声に出して読んでくる。	60分
		事後学修	日本国憲法とはどのようなものか、小学生にも分かるようにノートに解説を記述しておく。	180分
12	6月24日	財産と法、家族と法	私法の基本原則や婚姻・親子関係・相続に関する事項を、具体例を用いながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が、私法の基本原則や家族関係の法について、正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書107～149頁を読み、その後、民法の条文に目を通してくる。	80分
		事後学修	授業で配付したレジュメを見直したうえで、教科書107～149頁を再び読み直し、私法の基本原則についてノートに300文字程度で記述しておく。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	企業と法、雇用と法	法人・会社の種類や機能について、また労働関係の法について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が、法人や会社の仕組み、労働関係の法について、正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書171～211頁を読み、その後、会社法・労働基準法の条文に目を通してくる。	80分
		事後学修	法人の種類、会社の種類についてノートに図式化し記述しておく。労働法と民法の関係について具体例を挙げながら、ノートに自分の言葉で300文字程度でまとめ記述しておく。	160分
14	7月8日	犯罪と刑罰	刑法の基本原理や犯罪の成立要件、刑罰の意義、刑罰の種類等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が刑法の機能や刑罰の役割について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書151～170頁を読み、その後、刑法の条文に目を通してくる。	80分
		事後学修	罪刑法定主義から導かれる原則を4つ挙げ、それぞれ400文字程度でノートに解説を列記しておく。	160分
15	7月15日	情報と法、行政と法	行政の概念や法律による行政の原理等の行政法に関する事項、また個人情報保護法や特定秘密保護法などの情報に関する法について、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が、行政に関する法の基本や情報に関する法の基本について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書233～272頁を読み、「行政法」とは何を指しているのかについてノートに200文字程度で記述してくる。また個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）に目を通してくる。	80分
		事後学修	法律による行政の原理に関する原則を3つ挙げ、それぞれ自分の言葉で200～500文字程度でノートに記述しておく。特定秘密保護法の問題点について、ノートに300文字程度で記述しておく。	160分

科目名	法学Ⅰ【法曹コース】	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
法曹養成コースの野中クラスの学生であること。毎回必ず六法を持参すること。

【授業方法】		
本講義では、教員からの一方的な説明を聴くだけでなく、積極的にグループワークを行ったり、法律答案やレポートの作成するなど能動的な学習をする。リーガルリサーチでは、実際に各自で判例を探すなどの作業を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	法律答案やレポートの作成、法学部図書館における判例および文献の調査、グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で作成した法律答案およびレポートについてのフィードバックを第15回に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日13:00ー17:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・六法の使い方	この講義のガイダンスを行った上で、実際に、六法を使用して、六法の使い方や検索の方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関し、今問題となっている条文を六法の中から探し、条文の構造を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、六法や法学についての入門書等に目を通しておく。	120分
		事後学修	大学の講義科目となっている各法律名を六法等で確認して、どのような条文があるのかについて調べておく。	120分
2	4/14	法律要件と法律効果	民法に関するごく初歩的な具体的事例（民法７０９条）を用いて、法律における要件と効果という枠組みを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤に関し、条文から要件と効果を抽出し、説明することができる。	
		事前学修	民法とはどのような法律なのか、実際に六法で民法という法律の目次を見て、把握しておく。	120分
		事後学修	講義で学修した内容をもとに、民法５６２条および刑法１９７条１項について、その要件と効果に分析を加える。	120分
3	4/21	法律答案の書き方	法的三段論法をはじめとした法律答案の書き方を学んだうえで、ごく簡単な事例問題について実際に法律答案を作成してみる。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関し、法律問題について、問題提起・規範定立・あてはめ・結論という枠組みを説明し、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	第２回の講義内容を復習し、民法７０９条の要件と効果について確認しておく。	120分
		事後学修	配付された「不適当な答案」についてどの点が不適当なのかを検討する。	120分
4	4/28	要件と効果の解釈	第三回目に配付された「不適当な答案」についてのディスカッションをし、適切な答案とはどのようなものであるのかを把握する。また、後半では、要件と効果の解釈が問題となる事例（民法９６条３項）をとりあげる。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関し、世の中の紛争は条文をそのまま適用して解決できるものばかりではなく、当該条文の「解釈」が必要になってくること、およびそうした解釈の際の技法を説明することができる。	
		事前学修	配付された「不適当な答案」についてどの点が不適当なのかについて自身の意見を言えるようにする。	120分
		事後学修	ごく簡単な事例問題についての理想答案のイメージを持っておく。なぜ条文のままでは解決できず、解釈が必要となるのかを説明できるようにしておく。	120分
5	5/5	法律答案の書き方の実践	民法９６条３項に関する事例問題を用いて、解釈が必要となる事例についての答案の書き方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関し、解釈が必要となっても、問題提起・規範定立・あてはめ・結論という枠組みを維持しながら、論理的な答案を作成することができる。	
		事前学修	民法９６条３項の解釈についての判例・多数説について、民法の教科書等を読んで理解しておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえて、民法９６条３項に関する事例問題について自分なりに改めて答案を作成してみる。	120分
6	5/12	民事紛争の主張反論の構造	民法９５条の錯誤を題材に、表意者および相手方の主張と反論がどのようなになっているのかについてグループワークをしがら学習する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関し、民事紛争処理の構造について理解し、事例問題を用いて法的な主張と反論の方法を説明することができる。	
		事前学修	事前に配付された事例問題において何が問題となりそうかを検討しておく。	120分
		事後学修	民法９５条に関する表意者および相手方の主張と反論を図に整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	民事訴訟手続の概要	民事裁判手続の概要について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標④に関し、日本の民事裁判のシステムについて説明することができる。	
		事前学修	「訴訟」「原告・被告」「調停」「控訴」「上告」「上告受理申立て」「棄却判決・却下判決」などの言葉について、インターネットなどを用いて調べておく。	120分
		事後学修	講義で学んだ民事裁判のシステムについての知識を復習しておく。	120分
8	5/26	最高裁判決を読む	最判昭和44年2月13日民集23巻2号291頁を実際に読む。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、判例集から事実関係を抽出し、図や時系列に整理をすることができる。	
		事前学修	上記判決を読んで、不明な用語等をチェックしておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえ、事実関係を図や時系列に整理しておく。	120分
9	6/2	最高裁判決の分析	前回講義で扱った最高裁判決について、規範とあてはめの構造を確認し、判例研究の意義（当該の説得力の検討やそれを補強するための学説の検討など）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤⑥に関し、最高裁判決の構造を説明し、当該判決について自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	前回講義で扱った事件において、一審判決・控訴審判決・最高裁判決はそれぞれどういった点が問題となり、どのような理由付けからどういった結論が導かれたのかを整理する。	120分
		事後学修	講義で扱った判決についての解説を読み、判例と学説の関係について考える。	120分
10	6/9	レポートの書き方	ワードの使い方、文献の引用方法を学修したうえで、レポートの書き方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②⑥に関し、法学学習に必要な他の知識を駆使して、法学のレポートが書けるようになる。	
		事前学修	定期試験等における試験答案とレポートとの違いについて考えてくる。	120分
		事後学修	法学のレポートにおけるルールを整理して理解する。	120分
11	6/16	判例および法律文献の調査	法学学習に必要な判例の検索方法・データベースの利用方法等、リーガルリサーチの基本を会得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関し、判例の検索方法・データベースの利用方法等、リーガルリサーチの基本を会得する	
		事前学修	法学部図書館の利用方法を確認し、図書館のサイトからどのようなデータベースが利用できるのかを確認し、法情報の源として何があるのかを把握しておく。	120分
		事後学修	判例および文献の検索方法に関する知識を整理しておく。	120分
12	6/23	文献調査の実践	前回の講義を踏まえて、レポート課題を提示したうえで、その作成（提出は7月2日午後5時）に必要な判例および文献を実際に法学部図書館において渉猟する（法学部図書館7階ラーニング・コモンズにて行う）。	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関し、法律学のレポートにおいて適切かつ説得的に論証するために必要な判例および文献を調査することができる。	
		事前学修	提示されたレポート課題を読み、どのような判例や文献が必要なのかをあらかじめ確認しておく。	120分
		事後学修	渉猟した判例および文献を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	レポート作成の実践	前回までの講義で渉猟した判例および文献を用いて実際にレポートを作成する（法学部図書館7階ラーニング・コモンズにて行う）。	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関し、説得的な法律学のレポートを作成し、ある法的課題について自己の見解を述べるができる。	
		事前学修	渉猟した文献をもとにレポートをどのような構成にするか考えてくる。	120分
		事後学修	レポートを作成し、7月2日午後5時までに提出する（学生教員共有フォルダの「野中貴弘」の「課題提出」→「法学Ⅰ」にアップすること）。	120分
14	7/7	作成レポートの分析	作成した各自のレポートについて、グループワークで検討し、その良い点や改善点について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関し、良いレポートと不十分なレポートの違いを把握し、より優れたレポートを作成し、自己の見解を披歴できる。	
		事前学修	レポートを読み返し、課題内容および自身のレポート内容を思い出しておく。	120分
		事後学修	自身が書いたレポートとグループワークで出た意見を踏まえて、改めてレポートを書き直してみる。	120分
15	7/14	フィードバック	各自作成した法律答案およびレポートについてフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関し、総合的に法学学習に必要な知識や技術を実践することができる。	
		事前学修	自身が書いた法律答案とレポートを読み返し、疑問や質問等を確認しておく。	120分
		事後学修	講義中にした質疑応答を踏まえて、自身が書いた答案やレポートをブラッシュアップする。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。授業の最後に、授業に対する意見・質問等に関する簡単なアンケートを行い、次の授業でフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の最初に、そのフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルを通して、課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）	高橋雅夫編著	弘文堂	2017年 度		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること）（メールアドレスは、ポータルにて連絡） 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月8日	ガイダンス及び導入講義	法の社会における機能について学ぶ。
		この回の到達目標	法の社会における機能について説明することができる。
		事前学修	六法や法学の教科書等をざっと目を通してみること。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
2	4月15日	法の学び方	六法の使い方や法律データベースの使い方について学ぶ。
		この回の到達目標	法律の検索や判例の検索をすることができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
3	4月22日	法の概念①	法と社会秩序、法と道徳について学ぶ。
		この回の到達目標	法と社会秩序、法と道徳について説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
4	4月29日	法の概念②	法と強制、権利と義務について学ぶ。
		この回の到達目標	法と強制、権利と義務について説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
5	5月6日	法の目的・機能①	法の意義、目的・正義、法的安定性について学ぶ。
		この回の到達目標	法の意義、目的・正義、法的安定性について説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
6	5月13日	法の目的・機能②	行為規範、裁判規範について学ぶ。
		この回の到達目標	行為規範、裁判規範について説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月20日	法の存在形式		成文法と不文法、成文法の法源、不文法の法源について学ぶ。
		この回の到達目標	成文法と不文法、成文法の法源、不文法の法源について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
8	5月27日	法の分類		自然法と実定法、公法と私法について学ぶ。
		この回の到達目標	自然法と実定法、公法と私法について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
9	6月3日	法の分類		実体法と手続法、国内法と国際法について学ぶ。
		この回の到達目標	実体法と手続法、国内法と国際法について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
10	6月10日	法にかかわる職業		弁護士、検察官、裁判官などの法にかかわる職業について学ぶ（ゲスト講師）。なお、ゲスト講師については、予定調整により変更となる場合がある。
		この回の到達目標	法にかかわる職業について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。法にかかわる職業について、調べておく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
11	6月17日	裁判制度		裁判制度について学ぶ。
		この回の到達目標	裁判制度について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
12	6月24日	法の解釈の意義		法の解釈の意義について学ぶ。
		この回の到達目標	法の解釈の意義について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでお。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	事実認定と法の解釈	具体的な事例や判例を素材に、事実認定と法の解釈について学ぶ。	
		この回の到達目標	事実認定と法の解釈について説明し、法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	7月8日	法の解釈の方法	具体的な事例や判例を素材に、法の解釈の方法について学ぶ。	
		この回の到達目標	法の解釈の方法について説明し、法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	7月15日	前学期のまとめ試験及び振り返り	1～14回の内容を確認し、フィードバックを行う。	
		この回の到達目標	法学の基礎知識を習得できているか確認し、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	前学期講義内容を確認する。	120分
		事後学修	前学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	長谷川 福造	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
指定教科書と2020年版の小型六法（ポケット六法〔有斐閣〕又はデイリー六法〔三省堂〕）を必ず毎回持参すること。

【授業方法】		
指定教科書の順序に沿って講義形式で行うことを基本とする。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。説明の展開に対応して教室のプロジェクターと板書を使用するので、黒板とスライドが見やすい席に座ること。受講者数に基づいて座席指定制とする。受講者数と講義の進展状況に応じて、適宜質疑応答やリアクションペーパーでの理解度の点検を実施する。指定教科書と2020年版の小型六法を毎回持参すること。2019年版より前の六法を使用してはならない。教科書又は六法を持参し忘れて質疑に回答できない場合やリアクションペーパーに回答できない場合、評価を減点するので注意すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者の人数、理解の進捗状況及び希望に基づいて、講義内で指名して質疑応答や口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での解説及び前期終了後のポータルシステムでの配信によってフィードバックを実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第3版）Next教科書シリーズ	高橋雅夫 編	弘文堂	2020	教科書	必携
ポケット六法（2020年版）	佐伯仁志・大村敦志	有斐閣	2019	教科書	必携
デイリー六法（2020年版）	大石眞ほか編修	三省堂	2019	教科書	必携
ブレップ法学を学ぶ前に（第2版）	道垣内弘人	弘文堂	2018	参考書	推奨
法律の条文解釈入門（新版）	小室百合	信山社	2018	参考書	推奨
超約 ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト著	東京書籍	2019	その他	任意
備考	ポケット六法2020年版とデイリー六法2020年版は、どちらか1冊を必ず毎回持参すること。法学（第3版）Next教科書シリーズと六法を必ず毎回持参すること。六法、教科書及び参考書を購入する際は、何版かに注意すること。なお、法学（第3版）Next教科書シリーズは2020年3月刊行予定である。また『超約ヨーロッパの歴史』は、法学の系譜・経緯を理解する手助けとなる書籍の一つである。				

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については、必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士として実際に経験・見聞した事例に基づいて、法学の教材に関連する事柄を守秘義務に抵触しない範囲で具体的に説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水曜 4月8日 第二部 月曜 4月6日	イントロダクション・大学で法を学ぶこととは	高等学校までの12年間に設定されている各科目（社会科や国語だけでなく、英語・数学・理科なども含む）の学修事項と、法学の理解・体得は密接に関連している。また、法学部の4年間で修得する法学・法律・法の仕組みは、今後の就職活動・各種資格試験準備や卒業後の職務執行にダイレクトに繋がっている。初回のイントロダクションにおいて、大学で法を学ぶ意義を体得し、今後の大学生活と社会人としての人生の歩み方の重要性を理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①及び②に関連して、高等学校までの学修と法学の連続性を理解し説明できるようになるとともに、法学部卒業後の社会生活と法学の密接不可分性を理解し説明することができる。到達目標③に関連して、前期15回の講義の展開を理解し、具体的に正しく説明することができる。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法学部での4年間の学修における法学の位置づけと重要性を体得し、正しく明確に説明することができる。	
		事前学修	必ず指定教科書と六法を講義前日（4月7日）までに購入し、当日（4月8日）の講義に持参すること。シラバスに書かれている事項を全て読んだ上で、7月下旬までの15週間で自分が何をしなければならないか、執り行わなければならない各種の義務を具体的に正確に理解しておくこと。高等学校までに自己が学んできた事柄について、社会科や国語だけでなく、英語・数学・理科での学修事項を思い出して、これらの学修事項と法学部での学修がどのように関連しているかを具体的に考え、述べるようにしておくこと。	120分
		事後学修	第1回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせて、7月下旬までの15週間の学修計画を具体的に策定すること。到達目標を必ず正確に達成すること。1年生を対象とした前期の講義科目であることに配慮して、受講する学生の利便性向上・サポートのため、各回の事前・事後学修事項を丁寧に工夫して叙述しました。また、紙幅の関係でこのシラバスに記載していない受講生の義務も沢山あります。自分自身が実行すべき事柄を正しく確知して着実に実行し、大学生活最初の学期15週間を爽りあるものにしましょう。	120分
2	第一部 水曜 4月15日 第二部 月曜 4月13日	法の学び方	指定教科書第1章「法の学び方」を題材とする。法と論理的思考、法律や判例の読み方・探し方を体得し、実行することができる。なお、シラバス作成時点で、教科書第3版が刊行前であるため、このシラバスは第2版に準拠して章立てと講義回を組み合わせている。第3版の構成が第2版と異なる場合は、適宜第3版に対応して内容を補訂する。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、法と論理的思考を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法律や判例の読み方を正しく体得し、実行できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第1章「法の学び方」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。5月以降の講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、この4月の段階から毎回この両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
		事後学修	第2回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせて、法をどのように学ぶことが適切かを理解し実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
3	第一部 水曜 4月22日 第二部 月曜 4月20日	法の目的・機能	指定教科書第3章「法の目的・機能」を題材とする。講義回数に対応させて章立てを配分したことから第2章を配当していないが、第2章で説明のある事項については、第3回～第15回までの間に適切に工夫して解説する。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、法が存在することの意味を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、行為規範・裁判規範としての法を正しく理解し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第3章「法の目的・機能」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。5月以降の講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、この4月の段階から毎回この両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
		事後学修	第3回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の目的・機能を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。今後2か月間の当期の学修計画を再点検し、必要に応じて修正して、再構成した計画に基づいて学修と鍛錬を実行する。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
4	第一部 水曜 4月29日 第二部 月曜 4月27日	法の存在形式（法源論）	指定教科書第4章「法の存在形式（法源論）」を題材として、講義・説明を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、法が存在形式を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、成文法源と不文法源を正しく理解し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第4章「法の存在形式（法源論）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。次週以降の講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、この4月の段階から毎回この両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
		事後学修	第4回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の存在形式（法源論）を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
5	第一部 水曜 5月6日 第二部 月曜 5月4日	法の分類	指定教科書第5章「法の分類」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、自然法と実定法の関係を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、公法・私法の識別、実体法・手続法の識別、及び国内法・国際法の識別を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第5章「法の分類」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。今回以降、講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第5回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の分類を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。今期が始まって1か月が経過したことから、この1か月間で法学及び法律専門科目で修得してきた事項が何かを詳細に点検するとともに、1か月間で到達すべき水準に達していない事柄を特定した上で、今後2か月間でどのように充足・向上させていくかの計画を正しく策定する。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
6	第一部 水曜 5月13日 第二部 月曜 5月11日	法の解釈と適用	指定教科書第6章「法の解釈と適用」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、事実認定と法の解釈の関係を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法の解釈の性質と方法を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第6章「法の解釈と適用」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第6回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の解釈と適用を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
7	第一部 水曜 5月20日 第二部 月曜 5月18日	日本国憲法（人権）	指定教科書第7章「日本国憲法（人権）」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、人権の特質、享有主体、及び基本的人権の限界を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、包括的基本権、法の下での平等、自由権、社会権、及び国務請求権・参政権を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第7章「日本国憲法（人権）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。高等学校まで学修してきた憲法に関連する事項を網羅的・具体的に思い出して、自分の記憶においてどのような事柄がアウトプットできるかを書き出しておくこと。	120分
		事後学修	第7回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。日本国憲法（人権）を理解し、既に始まっている憲法の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
8	第一部 水曜 5月27日 第二部 月曜 5月25日	日本国憲法（統治）	指定教科書第8章「日本国憲法（統治）」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、統治の基本構造を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、国会、内閣、裁判所、及び財政・地方自治を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第8章「日本国憲法（統治）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。高等学校まで学修してきた憲法に関連する事項を網羅的・具体的に思い出して、自分の記憶においてどのような事柄がアウトプットできるかを書き出しておくこと。	120分
		事後学修	第8回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。日本国憲法（統治）を理解し、既に始まっている憲法の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
9	第一部 水曜 6月3日 第二部 月曜 6月1日	家族と法	指定教科書第9章「家族と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、家族法の理念を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、婚姻と離婚、親子、扶養、及び相続を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第9章「家族と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。高等学校まで学修してきた家族に関連する事項を網羅的・具体的に思い出して、自分の記憶においてどのような事柄がアウトプットできるかを書き出しておくこと。	120分
		事後学修	第9回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。家族と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。今期の期末まで約1か月になっていることから、これから先の1か月間で、各講座における法律の学修の到達目標の実現度合いを必ず点検すること。この点検に基づいて、7月下旬までどのように学修を進捗させていくべきか、取り組むべき事項、優先順位、及び具体的なスケジュールを詳しく計画化すること。策定した計画を必ず実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
10	第一部 水曜 6月10日 第二部 月曜 6月8日	財産と法	指定教科書第10章「財産と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、私法の構造を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、民法総則、物権、及び債権を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第10章「財産と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第10回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。財産と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。第9回の事後学修において策定した計画について、この1週間どの程度実行できたか、実行できなかった事項が何かを各自で具体的に必ず点検すること。この点検に基づいて、今期末までの1か月間、どのように学修を実施するかを明確に計画化すること。策定した計画を必ず実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
11	第一部 水曜 6月17日 第二部 月曜 6月15日	犯罪と刑罰	指定教科書第11章「犯罪と刑罰」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、犯罪と刑法、及び刑罰の内容と本質を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、刑法の基本原則、及び犯罪の成立要件を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第11章「犯罪と刑罰」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第11回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。犯罪と刑罰を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。必要に応じて、学修計画自体を点検し、自己の状況に沿って改訂すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
12	第一部 水曜 6月24日 第二部 月曜 6月22日	企業と法	指定教科書第12章「企業と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、企業の意義を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法人企業、非法人企業、及び企業の活動（商取引）を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第12章「企業と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第12回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。企業と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。必要に応じて、学修計画自体を点検し、自己の状況に沿って改訂すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水曜 7月1日 第二部 月曜 6月29日	雇用と法	指定教科書第13章「雇用と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。また、7月に入った後13回目から15回目においては、場面に応じて今期の「法学」の講座に関する総括的な解説・説明を、受講者の理解状況に照応して実施する予定である。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、労働法の原理を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、個別的労働関係法、集団的労働関係法、及び労働市場法を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第13章「雇用と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第13回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。雇用と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。必要に応じて、学修計画自体を点検し、自己の状況に沿って改訂すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
14	第一部 水曜 7月8日 第二部 月曜 7月6日	裁判と法	指定教科書第14章「裁判と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、裁判の意義・種類を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、裁判所の構成、三審制度、裁判公開の原則、法曹三者、及び裁判員制度を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第14章「裁判と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第14回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。裁判と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
15	第一部 水曜 7月15日 第二部 月曜 7月13日	行政と法	指定教科書第15章「行政と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。指定教科書第16章については、講義回数に対応してテーマとして配当していないが、必要に応じて各回で工夫して解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、行政の意義、及び法律による行政の原理を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、行政救済、行政手続、及び市民参加と行政を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第15章「行政と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第15回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。行政と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分

科目名	法学Ⅰ	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心とする。資料はプリントないしデジタルデータで配布する。 六法は、持参するか、スマホ等で「e-GOV法令データ提供」を利用してもよい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最終回に、出題した全ての設問に関して解説する。また試験問題を含め、法学に関する質問に答える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学(教材コード 000515)		通信教育部教材			
備考	テキストは、通信教育部教材の「法学」とする。このテキストは、丸沼書店にて購入することになります。ガイダンスの際に説明します。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスを中心に進める。法学Ⅰの全体としての講義内容について説明し、テキスト、参考文献、成績評価方法などについて説明する。また、「e-Gov法令検索」、「判例検索」、法律関係データベースの使用方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法の定義を大まかに理解し、その定義を簡単に説明する。	
		事前学修	法学を学ぶことの意味を考えてみる。テキスト「法学1第1章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	論理的思考と論理的説明の重要性をよく理解すること。	120分
2	4月16日	法とは何か	法とはどのようなものであり、なぜ必要なのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法の必要性を理解し、その必要性を説明する。	
		事前学修	法という言葉から何を連想するか確かめる。テキスト「法学1第8章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法は社会的生活を営む人が作り出すものであることを理解すること。テキスト第1章と第8章を合わせて理解する。	120分
3	4月23日	日本の法制度 継受法 固有法	法がどのように形成されてきたか、おもに日本における法制度について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における法制度が明治期に大きく変わることを理解し、現代につながる法制度を説明する。	
		事前学修	日本の法制度を日本史から考えてみる。テキスト「法学1第3章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	他国との関係から日本の法制度がどのように変化し現代に至っているかをまとめておくこと。	120分
4	4月30日	法と他の社会規範1 法と道徳の違い	社会規範である法と道徳とは全く別のものとして分類されるのかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法と道徳の違いについて理解し、説明する。	
		事前学修	我々の生活を律するものは法以外に存在するのか考えてみる。テキスト「法学1第2章、法学1第6章(刑法の基本原則)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法と道徳の区別ができるようにまとめておくこと。	120分
5	5月7日	法と他の社会規範2 法と宗教、法と慣習(習俗)との違い	社会規範である法と宗教、慣習(習俗)とは全く別のものとして分類されるのか考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法と宗教、慣習(習俗)との違いについて理解し、説明する。	
		事前学修	法と他の社会規範との違い。テキスト「法学1第2章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法と宗教、慣習(習俗)との区別ができるようにまとめておくこと。	120分
6	5月14日	法の目的 法と正義	法の目的としての正義とはどのようなものであるか、法は人を平等に扱うが、例えば、大人と子供を対等に扱うことが平等な扱いなのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤⑥に関連して、法のいう正義、平等を正しく理解し、その理解に基づいて系統立てて説明する。	
		事前学修	法は何を実現しようとするのか。テキスト「法学1第11章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法のいうところの正義とはどのようなものかを理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月21日	法源1 法源とは何か 成文法と不文法の特徴	現代社会における法を発見する手掛かりになるものとして、「成文法」と「不文法」との特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、成文法と不文法の特徴、各分類の相互関係を理解し、それらについての確に説明できる。	
		事前学修	法を知る手がかりとなるものは何であるか。テキスト「法学1第8章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	現代は成文法が中心的役割を担っていること。成文法の種類と特徴、不文法の種類と特徴を理解すること。	120分
8	5月28日	法源2 法源としての成文法	現代社会における法を発見する手掛かりになるものとしての「成文法」と種類と特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、各成文法の特徴、各分類の相互関係を理解し、それらについての確に説明できる。	
		事前学修	成文法について、テキスト「法学1第8章」、「法学2(日本国憲法)第21章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法の解釈・適用において重要であるから、各成分法の関係を理解すること。	120分
9	6月4日	法源3 法源としての不文法	現代社会における法を発見する手掛かりになるものとしての「不文法」と種類と特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、各不文法の特徴、各分類の相互関係を理解し、それらについての確に説明できる。	
		事前学修	不文法について、テキスト「法学1第8章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	裁判所の判決が、不文法とされる理由を説明できるようにすること。	120分
10	6月11日	法の分類と特別法、法、公法、私法、社会経済法 など	普通法(一般法) 強行法と任意私法、社会経済法 など	各法の相互の関係について説明する。例えば、一般法(普通法)と特別法、任意法と強硬法、公法と私法と社会経済法、など
		この回の到達目標	到達目標②⑤に関連して、各法の関係を理解し、法の適用においてその関係に従った説明をする。	
		事前学修	法の適用には順番があることを確認する。テキスト「法学1第4章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法の適用には順番があること、どの法(条文)が優先するのか正しく理解すること。	120分
11	6月18日	法の効力範囲 時間的効力範囲、地理的効力範囲、人的効力範囲	法(日本の国内法)の効力範囲(時間的効力範囲、地理的効力範囲、人的効力範囲)について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、現代法の大原則と各効力範囲に関して理解し、法の適用範囲を説明する。	
		事前学修	日本の法律はどのような範囲に効力が及ぶのか確かめる。テキスト「法学1第6章(刑法の基本原則)」部分を読んでおくこと。日本の法律はどのような範囲に効力が及ぶのか確かめる。	120分
		事後学修	国境のないインターネットの世界では、どこの国の法律が適用されるのかを考えまとめておくこと。	120分
12	6月25日	法の解釈と適用 1 事実認定 推定、擬制	法の解釈と適用について、法を適用する事実をどのように発見するのかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、事実認定、推定、擬制について理解し、それらに基づき法を適用し結論を導くことを説明する。	
		事前学修	脳死と判定されたドナーの心臓にナイフを刺して心停止にすると何罪になるか考える。テキスト「法学1第9章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	どの条文が推定の規定か、犠牲の規定か確認しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	法の解釈と適用2 有権解釈 学理解釈 論理解釈 拡張解釈と類推解釈など	法の解釈と適用について、具体的な事実に対し抽象的な法律を適用する為の法の解釈方法について考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、現代法の大原則と各解釈方法に基づく結論の導き方を理解し、具体的事実に対し解釈に基づく法の適用により結論を導くことを説明する。	
		事前学修	テキスト「法学1 第9章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	解釈のそれぞれの分類の意味を正しく理解しまとめておくこと。	120分
14	7月9日	試験(授業内評価) 授業の振り返り	これまでの講義内容に関する質問に答えたいうえで、講義の範囲内からの出題で論述式試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、出題された選択肢から一問を選び、問題に関して十分に理解し、的確に十分に説明(解答)する。	
		事前学修	今期の講義内容を復習しておく。	120分
		事後学修	解答が十分であったか否かについて復習しておくこと。	120分
15	7月16日	試験に関する解説	出題した全ての設問に関して解説する。また試験問題を含め、法学に関する質問に答える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、出題された全選択肢について十分に理解し、的確に十分に説明(解答)する。	
		事前学修	試験の解答が十分であったか否かについて、他の選択肢の解答について復習しておくこと。	120分
		事後学修	十分に解答できなかったところは、復習すること。	120分

科目名	法学Ⅰ【法曹コース】	担当者	南 健悟	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
法曹養成コースの南クラスの学生であること。毎回必ず六法を持参すること。

【授業方法】		
本講義では、教員からの一方的な説明を聴くだけでなく、積極的にグループワークを行ったり、法律答案やレポートの作成するなど、能動的な学修をする。リーガルリサーチでは、実際に各自で判例や文献を探すなどの作業を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	法律答案やレポートの作成、法学部図書館における判例および文献の調査、グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で作成した法律答案およびレポートについてのフィードバックを第15回に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月7日	ガイダンス・六法の使い方	この講義のガイダンスを行った上で、実際に、六法を使用して、六法の使い方や検索の方法について説明する。
		この回の到達目標	到達目標③に関し、今問題となっている条文を六法の中から探し、条文の構造を説明することができる。
		事前学修	シラバスを確認し、六法や法学についての入門書等に目を通しておく。
		事後学修	大学の講義科目となっている各法律名を六法等で確認して、どのような条文があるのかについて調べておく。
2	4月14日	法律要件・法律効果	民法に関するごく初歩的な具体的事例（民法709条）を用いて、法律における要件と効果という枠組みを学修する。
		この回の到達目標	到達目標③⑤に関し、条文から要件と効果を抽出し、説明することができる。
		事前学修	民法とはどのような法律なのか、実際に六法で民法という法律の目次を見て、把握しておく。
		事後学修	講義で学修した内容をもとに、民法562条及び刑法197条1項について、その要件と効果に分析を加える。
3	4月21日	法律答案の書き方	法的三段論法をはじめとした法律答案の書き方を学んだ上で、ごく簡単な事例問題について実際に法律答案を作成してみる。
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関し、法律問題について、問題提起・規範定立・あてはめ・結論という枠組みを説明し、自己の見解を述べることができる。
		事前学修	第2回の講義内容を復習し、民法709条の要件と効果について確認しておく。
		事後学修	配布された「不適当な答案」について、どの点が不適当なのかを検討する。
4	4月28日	要件と効果の解釈	第3回に配布された「不適当な答案」についてのディスカッションをし、適切な答案とはどのようなものであるのかを把握する。また、後半では要件と効果の解釈が問題となる事例（民法96条3項）を取り上げる。
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関し、世の中の紛争は条文をそのまま適用して解決できるものばかりではなく、当該条文の「解釈」が必要になってくること、およびそうした解釈の際の技法を説明することができる。
		事前学修	配布された「不適当な答案」について、どの点が不適当なのかについて自身の意見を言えるようにする。
		事後学修	ごく簡単な事例問題についての理想答案のイメージを持っておく。なぜ条文のままでは解決できず、解釈が必要となるのかを説明できるようにしておく。
5	5月5日	法律答案の書き方の実践	民法96条3項に関する事例問題を用いて、解釈が必要となる事例についての答案の書き方を学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関し、解釈が必要となっても問題提起・規範定立・あてはめ・結論という枠組みを維持しながら、論理的な答案を作成することができる。
		事前学修	民法96条3項の解釈についての判例・多数説について民法の教科書等を読み、理解しておく。
		事後学修	講義内容を踏まえて、民法96条3項に関する事例問題について自分なりに改めて答案を作成してみる。
6	5月12日	主張反論の構造	民法95条の錯誤を題材に、表意者および相手方の主張と反論がどのようにになっているのかについてグループワークをしながら学修する。
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関し、民事紛争処理の構造について理解し、事例問題を用いて法的な主張と反論の方法を説明することができる。
		事前学修	事前に配布された事例問題において何が問題となりそうかを検討しておく。
		事後学修	民法95条に関する表意者および相手方の主張と反論を図に整理する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5月19日	民事訴訟手続の概要	民事裁判手続の概要について学修する。
		この回の到達目標	到達目標④に関し、日本の民事裁判のシステムについて説明することができる。
		事前学修	「訴訟」「原告・被告」「調停」「控訴」「上告」「上告受理申立て」「棄却判決」「却下判決」等の言葉について、インターネットなどを用いて調べておく。120分
		事後学修	講義で学んだ民事裁判のシステムについての知識を復習しておく。120分
8	5月26日	最高裁判決を読む	最判昭和44年2月13日民集23巻2号291頁を実際に読む。
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、判例集から事実関係を抽出し、図や時系列に整理をすることができる。
		事前学修	上記判決を読んで、不明な用語等をチェックしておく。120分
		事後学修	講義内容を踏まえ、事実関係を図や時系列に整理しておく。120分
9	6月2日	最高裁判決の分析	前回の講義で扱った最高裁判決について、規範とあてはめの構造を確認し、判例研究の意義（当該判例の説得力の検討やそれを補強するための学説の検討など）を学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①④⑤⑥に関し、最高裁判決の構造を説明し、当該判決について自己の見解を述べることができる。
		事前学修	前回講義で扱った事件において、一審判決・控訴審判決・最高裁判決はそれぞれどういった点が問題となり、どのような理由付けからどういった結論が導かれたのかを整理する。120分
		事後学修	講義で扱った判決についての解説を読み、判例と学説の関係を考える。120分
10	6月9日	レポートの書き方	ワードの使い方、文献の引用方法を学修した上で、レポートの書き方を学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標②⑥に関し、法学学習に必要な他の知識を駆使して、法学のレポートが書けるようになる。
		事前学修	定期試験等における試験答案とレポートとの違いについて考えてくる。120分
		事後学修	法学のレポートにおけるルールを整理して理解する。120分
11	6月16日	判例および法律文献の調査	法学学習に必要な判例の検索方法・データベースの利用方法等、リーガルリサーチの基本を会得する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関し、判例の検索方法・データベースの利用方法等、リーガルリサーチの基本を会得する。
		事前学修	法学部図書館の利用方法を確認し、図書館のサイトからどのようなデータベースが利用できるのかを確認し、法情報の源として何があるのかを把握しておく。120分
		事後学修	判例および文献の検索方法に関する知識を整理しておく。120分
12	6月23日	文献調査の実践	前回の講義を踏まえて、レポート課題を提示した上で、その作成（提出は7月2日午後5時）に必要な判例および文献を実際に法学部図書館において渉猟する（法学図書館7階ラーニング・コモンズにて行う）。
		この回の到達目標	到達目標⑥に関し、法律学のレポートにおいて、適切に、かつ説得的に論証するために必要な判例および文献を調査することができる。
		事前学修	提示されたレポート課題を読み、どのような判例や文献が必要なのかをあらかじめ確認しておく。120分
		事後学修	渉猟した判例および文献を読む。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	レポート作成の実践	前回までの講義で渉猟した判例および文献を用いて実際にレポートを作成する（法学部図書館7階ラーニング・コモンズにて行う）。	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関し、説得的な法律学のレポートを作成して、ある法的課題について自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	渉猟した文献をもとに、レポートをどのような構成にするかを考えてくる。	120分
		事後学修	レポートを作成し、7月2日午後5時までに提出する（学生教員フォルダの「南健悟」の「課題提出」→「法学Ⅰ」にアップすること）。	120分
14	7月7日	作成レポートの分析	作成した各自のレポートについてグループワークにより検討し、その良い点や改善点について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関し、良いレポートと不十分なレポートの違いを把握し、より優れたレポートを作成し、自己の見解を披瀝できる。	
		事前学修	レポート内容を読み返し、課題の内容および自身のレポート内容を思い出しておく。	120分
		事後学修	自身が書いたレポートとグループワークで出た意見を踏まえて、改めてレポートを書き直してみる。	120分
15	7月14日	フィードバック	各自作成した法律答案およびレポートについてフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関し、総合的に法学学修に必要な知識や技術を実践することができる。	
		事前学修	自身が書いた法律答案とレポートを読み返し、疑問や質問等を確認しておく。	120分
		事後学修	講義中にした質疑応答を踏まえて、自身が書いた法律答案とレポートをブラッシュアップする。	120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
法学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式にて授業を行います。その他の参照物や持参するものについては、別途初回の授業において、各担当教員から行われます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1						
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考査するため、記述式や 論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験後に、教員学生共有フォルダなどを用いてフィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）	高橋雅夫編	弘文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、授業後（金曜17：50）などに教室にて申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス・導入講義	今後、法学Ⅱで学ぶことおよび授業方針などを確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な授業の準備ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	教科書ではどのような内容を取り上げているかを確認してみてください。	120分
2	9/25	憲法①；近代国家と憲法	近代国家とは何か、そして近代憲法とは何かを学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、近代国家や近代憲法について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、近代憲法とはどのような条件が必要かといったことを再確認するようにしてください。	120分
3	10/2	憲法②；わが国における憲法	明治憲法や日本国憲法の特徴や成立過程について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、わが国の憲法の成立過程などについて説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、明治憲法や日本国憲法でそれぞれどのような特徴があったのかといったことを再確認するようにしてください。	120分
4	10/9	憲法③；基本的人権①	日本国憲法で規定されている基本的人権の議論のうち、人権の享有主体性について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、人権享有主体性について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、人権享有主体性について、各主体（外国人や法人など）ごとにどのような議論がなされているか再確認するようにしてください。	120分
5	10/16	憲法④；基本的人権②	日本国憲法で規定されている基本的人権の議論のうち、法の下の平等について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、法の下の平等について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、平等といった場合、どのような平等があるのかについて再確認するようにしてください。	120分
6	10/23	憲法⑤；基本的人権③	日本国憲法で規定されている基本的人権の議論のうち、精神的自由権について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、精神的自由の種類や議論について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、表現の自由については再確認するようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	憲法⑥；基本的人権④	日本国憲法で規定されている基本的人権の議論のうち、社会権について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会権について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、生存権の規定を根拠に裁判請求をできるかどうかについて、各学説の違いを再確認するようにしてください。	120分
8	11/6	憲法⑦；基本的人権⑤	日本国憲法で規定されている基本的人権の議論のうち、経済的自由権について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経済的自由権について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、目的二分論について再確認するようにしてください。	120分
9	11/13	憲法⑧；権力分立	日本国憲法で規定されている権力分立のうち、その概要および立法権、行政権、そして司法権について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、三権分立についての各議論について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
10	11/20	刑事法①：犯罪	罪刑法定主義や犯罪の成立要件などについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、罪刑法定主義や犯罪の成立要件について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、犯罪の成立要件については再確認するようにしてください。	120分
11	11/27	刑事法②：刑事手続	刑事事件における捜査手続や公判手続について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、捜査手続や公判手続における概要および原則について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、捜査手続や公判手続においてどのような原則が採用されているのかについては再確認するようにしてください。	120分
12	12/4	民事法①；基本原則	民事法における基本原則やわが国民法体系の概要について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、わが国民法体系の概要について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、わが国の民法ではどのような領域を持っており、そしてどのような基本原理・原則を採用しているのかについて再確認するようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	民法法②；物権と債権	物権と債権について、そこでの種類や原理について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、物権と債権の概要について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、物権と債権でどのような点で異なるのかに注意しつつ、再確認するようにしてください。	120分
14	12/18	まとめと授業内試験	これまでに各回で学んだ知識を確認できるようになると共に、理解が十分でなかった部分を明確にすることになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な解答ができるようになる。	
		事前学修	参考資料1から3および教科書の該当部分を、再確認するようにしてください。	120分
		事後学修	十分に解答できなかったところ、理解不足であったところを復習するようにしてください。	120分
15	1/15	試験のフィードバック	これまでの授業および授業内試験で、理解が十分でなかった部分を明確にすることになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、検討することができるようになる。	
		事前学修	参考資料1から3および教科書の該当部分、そして授業内試験のフィードバックを、確認するようにしてください。	120分
		事後学修	十分に解答できなかったところ、理解不足であったところを復習するようにしてください。	120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
法学Ⅰを履修していること 法学Ⅰを履修していること

【授業方法】
シラバスに従って教科書の該当箇所を読んでおくこと、またHPページ等の該当箇所を読み、事前配付された資料を読んでいることを前提に解説し、テーマによっては、具体的な事例に従ってグループに分かれて模擬裁判も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	刑事司法機関等の見学を行う。また、実務家の授業参加の機会を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。				1							
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。								1			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考查するため、記述式や論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートに添削し、返却する。また、ディベート等のあと、講評を行う。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ホーンブック 法学原理 ホーンブック 法学原理		沢木・荒木・南部 沢木・荒木・南部 沢木・荒木・南部	北樹出版 北樹出版	2017	教科書	必携
備考	5回目以降は、一週前の講義の際に、講義資料の事前配布を行う。また、調べておく内容について指示する。 5回目以降は、一週前の講義の際に、講義資料の事前配布を行う。また、調べておく内容について指示する。					

【オフィスアワー】
木曜16時20分から17時の間、本館9階1904号室で実施する。なおメールで予約して下さい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本BBS連盟副会長・顧問、警視庁委員会委員、東京家裁ボランティア等 日本BBS連盟副会長・顧問、警視庁委員会委員、東京家裁ボランティア等 司法機関や施設の見学を実施する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンス・導入講義	授業の進め方について説明する	
		この回の到達目標	到達①に関連し、法学で学んだ基本的事項について説明できる	
		事前学修	法学Ⅰで学んだ基本的事項について、復習しておく	120分
		事後学修	基本的事項について十分理解していたか確認し、後期授業で取り扱う項目との関連についてまとめる	120分
2	9/24	法と行政	行政機関の立法機能、司法機能、固有の行政機能について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、行政の3つの機能について説明できる	
		事前学修	教科書の207～215ページを読んでおく	120分
		事後学修	立法機能、司法機能、固有の機能について整理しておく	120分
3	10/1	近代市民法の基礎原理	現代の市民法原理を理解する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、近代市民法原理の各項目が説明できる	
		事前学修	教科書の217～231ページを読んでおく	120分
		事後学修	人格権の尊重、所有権の是体制、契約自由の原則、過失責任の原則についてまとめる	120分
4	10/8	公法と私法の関係	公法私法の関係について、法益、主体、法的性質などによる区別と相対性などについて学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、公法と私法の関係について説明できる	
		事前学修	教科書の231～238ページを読んでおく	120分
		事後学修	公法私法の関係について、各項目に従ってその違いをまとめる	120分
5	10/15	基本的人権（1）	基本的人権の総論規定（11～14条）と18～30条が規定する権利や自由について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、総論規定の内容と18～30条に関する基本的事項の説明ができる	
		事前学修	憲法の教科書の該当化し、事前配付資料を読んでおく	120分
		事後学修	13条の機能と18～30条の相互の関連についてまとめる	120分
6	10/22	基本的人権（2）	18条、31～40条に関する基本的事項について学ぶ、	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、18条、31～40条に関する基本的事項の説明ができる	
		事前学修	憲法の教科書の該当化し、事前配付資料を読んでおく	120分
		事後学修	18条、31～40条の具体的内容についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	統治権と司法権	憲法第4章以降の基本項目について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、憲法第4章以降の基本項目が説明できる	
		事前学修	憲法の教科書の該当化し、事前配付資料を読んでおく	120分
		事後学修	国会、内閣、司法に関する基本的事項、及びその関係性についてまとめる	120分
8	11/5	刑事司法（1）	犯罪の発生から、警察・検察における捜査段階の基本事項について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、捜査段階の各機関の役割について説明できる	
		事前学修	捜査の構造について、配布資料等で調べておく	120分
		事後学修	警察・検察の機能と役割についてまとめる	120分
9	11/12	刑事司法（2）	起訴後の裁判過程、その後の処遇から社会復帰までの基本事項懷いて学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、起訴後の裁判過程、処遇、社会復帰に関する基本事項が説明できる	
		事前学修	裁判過程の概要を裁判所のHPで、また、処遇内容については、法務省のHPに掲載されている犯罪白書の該当箇所を調べておく	120分
		事後学修	制度設計の現状を踏まえ、課題を抽出して、解決策を考え手見よう	120分
10	11/19	裁判員裁判	裁判員裁判の基本構造と課題について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、裁判員裁判の基本的な事項と課題について説明できる	
		事前学修	法務省のHPで再班員裁判に関する事項を調べておく	120分
		事後学修	裁判員裁判の判決に対する検察官控訴の是非について自分の意見をまとめる	120分
11	12/3	少年司法	少年事件に関する司法手続全般に関する基本事項を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、少年司法手続に関する基本的な事項が説明できる	
		事前学修	裁判所のHPから、少年事件の処理手続について調べておく	120分
		事後学修	刑事司法手続と少年司法手続の際についてまとめる	120分
12	12/10	民事司法（1）	和解・調停・仲裁・裁判の制度的な差異と効力等について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、4つの裁判制度の差異が説明できる	
		事前学修	裁判所のHPから、各制度の概要について調べておく	12分
		事後学修	4つの裁判類型の差異についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	民事司法（2）	損害賠償請求訴訟に関して、事例を通して、原告・被告・裁判官に分かれて模擬訴訟を体験する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、原告、被告の主張を踏まえ裁判官がどの様に判決を下すのか節度できる	
		事前学修	事前配付された資料を踏まえ、原告及び被告になることを想定し、どの様な主張を行い、または反論するのか考えておく	120分
		事後学修	効果的な主張と反論とは、どの様な構成が望ましいのかまとめる	120分
14	12/24	法学とキャリア形成	法学の専門教育を各自の将来設計にどの様に活かせるのか（活かしていけるのか）について、学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、専門法領域の学習とキャリア形成がどの様な関連性を有するのか説明できる	
		事前学修	自らのキャリアデザインを考えておく	120分
		事後学修	2年次以降履修すべき、講座は何か、各年次での受講計画案を作ってみる	120分
15	1/14	まとめと試験	用語に関する書き取りと説明　＋　論述試験　を実施する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、具体的な課題解決に至る	
		事前学修	1～14回までの講義中に、書き取り試験にする項目と論述試験にする項目について触れるので、復習しておく。	120分
		事後学修	配付された解説を踏まえ、自己採点してみる	120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の最後に、授業に対する意見・質問等に関するリアクションペーパーを書いてもらい、次の授業でフィードバックする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。					1						
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考査するため、記述式や 論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルを通じて、課題のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）	高橋雅夫編著	弘文堂	2017年 度		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること）（メールアドレスは、ポータルにて連絡） 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	ガイダンス及び導入講義	本授業で取り扱う法の各分野（公法・私法・社会法）の全体像について学ぶ。	
		この回の到達目標	法の各分野について説明することができる。	
		事前学修	法学の教科書等をざっと目を通してみること。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
2	9月23日	憲法（基本原理）	憲法の基本原理について学ぶ。	
		この回の到達目標	憲法の基本原理について説明することができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
3	9月30日	人権（精神的自由）	精神的自由について、判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	精神的自由について説明し、判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
4	10月7日	人権（経済的自由）	経済的自由について、具体的な判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	経済的自由について説明し、判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
5	10月14日	憲法（統治機構）	統治機構について学ぶ。	
		この回の到達目標	統治機構について説明することができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
6	10月21日	行政法の基礎	行政法の役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	行政法の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	行政法（行政行為）	行政行為について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	行政行為について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
8	11月11日	行政法（行政救済法）	行政救済制度について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	行政救済制度について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
9	11月18日	民法の基礎	民法の役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	民法の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
10	11月25日	契約法	契約法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	契約法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
11	12月2日	家族法	家族法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	家族法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
12	12月9日	社会法の基礎	社会法の役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	社会法の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書等を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	労働法	労働法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	労働法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	12月23日	社会保障法	社会保障法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	社会保障法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	1月13日	後学期のまとめ試験及び振り返り	1～14回の内容を確認し、フィードバックを行う。	
		この回の到達目標	法学の基礎知識を習得できているか確認し、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	後学期講義内容を確認する。	120分
		事後学修	後学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
法学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義が中心となる。参考資料を必要に応じプリント又はデジタルデータで配布する。 六法は、持参するか、「e-GOV法令データ提供」を利用しても構わない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1			
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考査するため、記述式や論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回の講義の際、試験問題の全選択肢について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学 通信教育部教材	通信教育部	通信教育部教材		参考書	推奨
インターネット法	松井茂紀	有斐閣	2015年	参考書	推奨
備考	テキストは、通信教育部教材の「法学」を使用する。法学Ⅰを履修する際に用意したものでよい。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail：mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	ガイダンス及び導入講義	授業方針の説明を行う。インターネットやコンピュータの領域への現行法の適用を考えてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な授業の準備ができるようになる。	
		事前学修	テキスト第9章を読んで法の適用と解釈についてもう一度復習しておくこと。	120分
		事後学修	現に行われている法の解釈の範囲で法が執行されることの理由を理解し、法の適用の限界をまとめる。	120分
2	9月24日	権利の主体	権利の主体になることができるのは、誰なのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、権利について説明できるようになる。	
		事前学修	権利の主体とは何であるか、テキスト「法学1第5章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	誰が権利の主体となり得るのか、理解すること。	120分
3	10月1日	日本国憲法の成立過程	日本国憲法の成立過程について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法の成立の過程について説明できるようになる。	
		事前学修	日本国憲法の成立過程を調べてみる。テキスト「法学2(日本国憲法)第2章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	日本国憲法の成立過程を、法的、論理的に説明できるようにすること。	120分
4	10月8日	日本国憲法と条約	日本国憲法と条約との関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法と条約との関係について説明できるようになる。	
		事前学修	日本国憲法と条約の関係について、テキスト「法学2(日本国憲法)第21章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	前期に学んだ法の適用と解釈により解釈を实践して、論理的に説明できるようにすること。	120分
5	10月15日	通信の秘密	他人のスマホに保存されているメールを見るのは刑法133条違反または通信の秘密の侵害に当たるかどうかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、通信の秘密の意義について説明できるようになる。	
		事前学修	他人のスマホに保存されているメールを見るのは刑法133条違反または通信の秘密の侵害に当たるか考え、テキスト「法学2(日本国憲法)第7章(7)」、刑法各論のテキスト刑法133条(信書開封罪)部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	手紙や有線電話の時代と異なり、盗み見ができる時代の通信の秘密を正しく理解できるよう復習すること。	120分
6	10月22日	インターネットからの忘れられる権利	インターネット検索エンジンと個人情報の削除について考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、個人情報の取り扱い方について説明できるようになる。	
		事前学修	インターネット検索エンジンと個人情報の削除。「個人情報保護の為の検索結果に対する削除権」日本法学82巻1号(https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law82_1.pdf)を読んでおくこと。	120分
		事後学修	インターネット上で自己のプライバシーを侵害されないための方法を理解し実践できるよう、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	特定商取引ー通信販売	現実社会で取引に適用される法律以外に、インターネット上の契約に適用される法律にはどのようなものがあるか考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、インターネット上の契約について説明できるようになる。	
		事前学修	参考書「インターネット法 第7章3(電子契約をめぐる私法的な問題)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	インターネット上の契約に適用される法律を理解し、違法サイトを見抜くことができるよう復習する。	120分
8	11月5日	電子マネーとサービスポイント	電子マネー(例えば、Suica)とサービスポイント(例えば、航空会社のマイル)の違いについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、電子マネーとサービスポイントの違いについて説明できるようになる。	
		事前学修	電子マネー(例えば、Suica)とサービスポイント(例えば、航空会社のマイル)は同じものなのか確認する。参考書「インターネット法第8章3(電子マネーをめぐる法的問題)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	電子マネーとサービスポイントの保護の違いを理解すること。	120分
9	11月12日	インターネットと著作権(ホームページの著作権、いわゆる自炊)	図書館から借りた本をデジタルデータにすることは許されるか考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、インターネットと著作権について説明できるようになる。	
		事前学修	図書館から借りた本をデジタルデータにすることは許されるか考える。(法学部学内LAN 学生教員共有→ま→水野正→法学→「いわゆる自炊行為」)を読んでおくこと。	120分
		事後学修	HPを公開することは頒布にあたる。どこまでデジタル化が可能か正しく理解し、安易なコピー行為により著作権を侵害しないよう復習し実践する。	120分
10	11月19日	フィルタリングとブロッキング	未成年者が携帯電話(スマホを含む)を利用する場合のフィルタリングとすべての者の利用に適用されるブロッキングとはどういうことなのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、フィルタリングとブロッキングについて説明できるようになる。	
		事前学修	スマホで接続できないサイトがあるか確認する。新聞などでブロッキングについて確認する。参考書「インターネット法第5章」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	青少年の保護と政治的な目的によるブロッキングや知る権利との境界線を正しく理解できるよう復習する。	120分
11	12月3日	インターネット上の名誉毀損	インターネット上の名誉毀損とは、どのような行為が該当するかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、インターネット上の名誉毀損行為について説明できるようになる。	
		事前学修	名誉毀損罪(刑法230条、230条の2)を確認しておく。 参考書「インターネット法第3章」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	自分が加害者、被害者とならないようネチケットとして捉え、理解し、実践できるようまとめる。	120分
12	12月10日	デジタル万引き	本屋で雑誌のあるページを写真に撮り雑誌を買わずに帰った場合、犯罪になるのかどうか考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、デジタル万引きがどういうことかについて説明できるようになる。	
		事前学修	本屋で雑誌のあるページを写真に撮り雑誌を買わずに帰った。万引き?「いわゆるデジタル万引きと犯罪の成否」国士館法学45号(法学部学内LAN 学生教員共有→ま→水野正→法学→「デジタル万引き」)を読んでおく。	120分
		事後学修	法学Ⅰ「法の適用と解釈」を復習し具体的な法の適用と解釈としてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	不正アクセス行為とウイルスの作成と供用	不正アクセス行為とウイルスの作成と供用は、法律上どのようなようになるかを考える。	
		この回の到達目標	不正アクセス行為とウイルスの作成と供用は、法律上どのようなようになるかを説明する。	
		事前学修	大学のパソコンのIDやPWを友達に教え使わせるのは？「イマドコサーチ」アプリはコンピュータウイルス？参考書「インターネット法第9章4 ネットワークセキュリティの保護」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	ネット社会を保護するための法律について、その解釈と適用の難しさを理解する。	120分
14	12月24日	試験(授業内評価)授業の振り返り	今学期の講義内容に関して試験直前の質問に答えたいので、今学期「法学Ⅱ」の講義内容の範囲で論述方式の試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な解答ができるようになる。	
		事前学修	今学期の法学Ⅱでの講義内容を復習する。	120分
		事後学修	解答した内容が正しく十分であったか、他の選択肢についてみも十分に解答できるよう復習する。	120分
15	1月14日	試験問題の解説。	試験問題中の全ての選択肢について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、全ての選択肢に関して十分な解答ができるようになる。	
		事前学修	解答した内容が正しく十分であったか、他の選択肢についてみも十分に解答できるか復習し、疑問点を質問できるように準備をする。(2時間)	120分
		事後学修	十分に解答できなかったところ、理解不足であったところを復習すること。(2時間)	120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	山田 孝紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
なし

【授業方法】
配布したレジュメに沿って講義形式で行います。新聞記事を配布したり、話題になっているニュースをとりあげたりすることもあります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的には講義形式で行うが、時々授業内で意見を聴くことがあります。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1			
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考査するため、記述式や 論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
時間があれば、授業内でコメントシートを配布することもある。また授業内試験の解説を最終回またはポータルサイトにて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学〔第2版〕	高橋雅夫編	弘文堂	2017	教科書	推奨
日本の法	緒方ほか編	日本評論社	2017	教科書	推奨
入門法学 現代社会の羅針盤〔第5版〕	竹下ほか編	晃洋書房	2018	教科書	推奨
法学入門	稲ほか編	北樹出版	2019	教科書	任意
六法〔最新版のもの〕		出版社は問わない		その他	必携
備考	前期法学Ⅰの教科書（例：高橋雅夫編『法学』）を持っていない場合は、緒方他編『日本の法』などの購入を薦めます。詳しくは、第1回の授業で説明します。また授業の内容を理解するためには、竹下ほか『入門法学』が参考になります。				

【オフィスアワー】
水曜3限。授業前後にアポイントメントをとってもらえるとありがたいです。その他の時間でも適宜対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	ガイダンス及び導入講義	授業の目的や内容、授業の進行方法、教科書の使い方、成績評価の方法などについて話す。履修予定の学生は必ず参加すること！	
		この回の到達目標	この授業の目的、内容を理解すること。	
		事前学修	なぜこの授業を履修するのか、学修目的を考えること。また法学Ⅱの授業を効果的に学習するために他にどのような授業を履修すればよいのかを考えて、時間割を立てること。	120分
		事後学修	自身の学修目的に応じた教科書を購入すること。教科書のはしがき、目次を読んでみること。	120分
2	9月25日	民法①（契約法）——なぜ契約を守らないといけないのか？契約を破る自由	私たちの生活には様々な契約があります。まず契約はどのようにして成立するのか、なぜ契約を守らなければならないのか、ということを確認します。そのうえで、契約が有効に成立しないと考えられる事例をあげ、その理由について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、契約制度の成立要件、契約の拘束力の趣旨、契約の拘束力が及ばない場面とその理由について具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分
3	10月2日	民法②（不法行為法）——なぜ責任を負うのか？誰が責任を負うのか？	不法行為法の基本事例を出発点として制度の概要を学んだのち、日本の不法行為法は何を目的にしているのかを英米法の事例（マクドナルド事件）と比較しつつ考えます。また最高裁の事例を題材に、英米法と比較しつつ誰が不法行為行為を負うのかを学び、日本法への理解を深めるために、なぜ日本法と英米法で違った解決がとられているのかを考えます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、日本における不法行為制度の趣旨・目的について具体例をふまえて説明できるようになること。また未成年者（例えば小学校低学年の児童）が不法行為責任を生じさせた場合に、当該未成年者が責任を負うのか、その監督者が責任を負うのかについて、日本法の条文の構造、判例の考え方を理解できるようになること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べてみること。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分
4	10月9日	消費者トラブルと法	若い人や高齢者を中心に、消費者被害に遭うケースが多く存在します。この授業では、いくつかの事例を題材に消費者契約法や特定商取引法を学び、デパート商法やマルチ商法などに遭わないように、またもし遭った場合にどうするのかを学びます。また時間があれば、日常の買い物でよく使うクレジット契約のしくみについてもみておきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、消費者トラブル（例えばデパート商法、マルチ商法）に遭った場合に対処するため、そもそも被害に遭わないようにするために必要な法知識を身に着け、消費者トラブルに対して自身で解決策を考えることができるようになること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べてみること。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分
5	10月16日	労働法——ブラックバイト・企業、過労死被害の被害者・加害者にならないために（ゲストスピーカー）	ブラックバイトやブラック企業、過労死問題など近年労働をめぐるニュースが残念ながら多く発生しています。こうした問題が生じないように、また生じた際にどのように対処すればよいのか、また自身が加害者にならないために、労働法の基礎についてゲストスピーカー（予定）の話聞き、考えます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、どのような行為が労働基準法などに違反しているのかなど労働法の基本知識を身につけ、自分が労働トラブルの被害者に、そして加害者にならないようにすること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べてみること。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分
6	10月23日	会社法——民法との異同をふまえて	皆さんの多くは卒業後、会社で働いたり、会社を立ち上げたりします。それではそもそも会社とは何でしょうか、取締役はどのような人で、いかなる責任を負うのでしょうか。株主は会社との関係でどのような法的地位にあるのでしょうか。この回では、民法とも対比しつつ、会社法の基本事項について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、会社・取締役・株主とは何か、取締役は誰に対してどのような責任を負うのか（取締役と会社はどのような関係にあるのか、取締役の負う善管注意義務とは何か）、株主は法的にどのような地位にあるのか、取締役に対してどのような権利を有するか（株主総会、株主代表訴訟）について説明できるようになること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べてみること。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	刑事法の基礎——刑罰の目的、刑法の基本原理、犯罪とは何か	人を殺してはならない、何の物を盗ってはならないなど多くの刑罰法規がありますが、そもそも刑罰とはどのような目的のために定められているのでしょうか。次に、刑法の基本原理（罪刑法定主義、自由保障機能）について学びます。また犯罪とは「構成要件に該当する」「違法」で「有責」な行為と定義されますが、その意味についてのごく基本事項のみを学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、刑罰とはなぜ存在するのか、刑法の目的とは何か（具体的には、罪刑法定主義とは何か、刑法の自由保障機能とは何か）について具体例をふまえて説明できるようになること。また犯罪の定義をふまえて、具体的な事例（簡単な事例）における犯罪の成否を検討できるようになること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べる。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分
8	11月6日	憲法の基本原則——立憲主義と人権規定をめぐる改憲問題	憲法の最も重要な原則として「立憲主義」があります。近時、「〇〇は立憲主義に反する」とか「反立憲主義的憲法草案」などの言葉をニュースで聞くことがありますが、そもそも立憲主義とは何でしょうか。この回では、立憲主義の意義をつかんだ上で、憲法の人権規定の意義・重要性・解釈について、各政党の憲法草案・憲法に関する解釈も題材にじっくり考えます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、立憲主義の意義・成立過程を理解すること。そのうえで、なぜ憲法尊重義務の対象に国民は入っていないのか、国民に憲法尊重義務を課すことが憲法の本質とどのように矛盾を生じさせるのかについて説明できるようになること。また「公共の福祉」と「公益」の違いもふまえ、表現の自由が公益によって制約されることの問題点を説明できるようになること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べる。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分
9	11月13日	憲法の基本原則——平和主義と改憲問題	憲法9条の改憲をめぐる護憲派・改憲派から様々な議論が近時なされています。憲法9条の改憲問題に対して自分の意見を述べられるようには、まず「知憲」が重要です。この回では、憲法9条の解釈に関する基本事項を学ぶとともに、集団的自衛権とはそもそも何か、集団的自衛権の行使を認める安保法案にはいかなる問題点が指摘されているのかについて学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、憲法9条の成立過程、憲法9条の解釈をめぐる主要な考え方を説明できるようになること。また集団的自衛権とは何か（関連事項としていわゆる周辺事態法案についても）、集団的自衛権の行使を認める安保法案に対してどのような問題点が指摘されているのかについて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べる。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分
10	11月20日	行政法——行政の基本原則、行政法の対象	ゴミ屋敷、保育所落ちた…、津波被害に対する国家の責任、原発再稼働、辺野古訴訟、公文書管理など（時間の制約があるため、そのうちいくつかの事例に限定）を題材として、私たちの生活と密接にかかわっている行政法という法分野の基本原則、行政法の対象にはどのようなものがあるのかについて学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、法律による行政の原則の意義について説明できるようになること。具体例を通して行政法の目的・対象について説明できるようになること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べる。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分
11	11月27日	社会保障法——各種の保険、年金、生活保護	就職したけど色々な保険制度があって、めっちゃややこしい。何が何やら全然わからへん…どないしょ（いや、別に担当者の経験を言っているのでは…）。会社をリストラされた、就業中にケガを負った…年金にはどのような種類があるのかなど、就職後に知っておくと役立つのが社会保障法です。この授業では、社会保障法の基礎を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、具体例を通して社会保障法とはどのような分野か、日本にはどのような社会保障制度があるのか（介護保険、雇用保険など）を説明できるようになること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べる。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分
12	12月4日	発展学修①現代の家族の在り方について考える	夫婦同姓、同性婚、事実婚など現代の家族の法の在り方はどうあるべきでしょうか。この回では、近時の最高裁の判例（特に憲法判例）やその問題点、諸外国の情勢をふまえて、現代の家族の在り方について学び、考えます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、夫婦同姓、同性婚、事実婚など日本社会で家族の在り方をめぐりどのような法的問題が生じているのかについて裁判例を題材に知ること。そして、諸外国の情勢をふまえて、各自で考え、自分の見解を説明できるようになること。	
		事前学修	教科書の該当ページを読むこと。指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べる。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	発展学修②情報化社会における法の在り方を考える	インターネット、個人データの利活用と保護、AIなど情報化社会の進展は目まぐるしいものがあります。この回では、情報化社会の進展に伴い生じている問題として、AIと自動運転、忘れられない権利、データの所有権などを学び（時間の関係上そのうち2つくらい）、法の在り方を考えます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、AIと自動運転、忘れられない権利など情報化社会の進展に伴って、今後私たちが考えなければならない問題点は何か、また当該問題点に関する法状況の概観について考えます（なお、担当者はAIなどに専門的な知見があるわけではないので受講生の皆さんと一緒に考えていければと思っています）。	
		事前学修	指定テーマに関する新聞記事・ニュースを調べてみることを。	60分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	180分
14	12月18日	授業内試験！	到達目標①・②に照らしてこれまでの授業内容が理解できているかどうか記述式試験を行います。なお、休講や授業の進行によっては、第15回目に授業内試験を行うこともあります。	
		この回の到達目標	到達目標①・②が達成できているかどうかの確認。	
		事前学修	体調管理！そして猛勉強！！（というか、試験前に慌てて学修するのではなくて毎回の授業ごとに復習しておいてください）	360分
		事後学修	振り返りを行う。	30分
15	12月25日 (クリスマスは関係ない…)	試験の解説 (授業内試験の予備日)	試験の解説を行います。	
		この回の到達目標	前回の試験について理解できたこと、特に理解できていなかったことがどこかを確認し、今後の学修課題（どの法分野に興味があったのか、もっと知りたい法的問題点は何か）を見つけること。またこの授業を通して何が得られたのかを確認すること。	
		事前学修	前回の授業内試験を復習すること。	60分
		事後学修	試験の講評を受けて、再度授業内試験を復習すること。また今後の学修課題を見つけること。	180分

科目名	法学Ⅱ	担当者	西山 智之	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式を中心とするが、発言する機会を多く設ける予定であるため、積極的に発言して欲しい。毎授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1						
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考査するため、記述式や 論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎授業終了時にリアク ションペーパーを提出してもらい、その次の回にリアクションペーパーに記載されていた意見や質問に対応する。また 学期末試験については、試験終了後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学〔第3版〕	高橋雅夫 編	弘文堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室で、水曜日16：20～17：50に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも 対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	授業の進め方、勉強の仕方についての説明	授業の目的・到達目標、授業の方法、評価方法等について受講生に説明した上で、法学Ⅱではどのようなことを学ぶのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が次回以降の授業の準備を円滑に行うことができる。	
		事前学修	法に関するものならば何でも良いので、自らの関心のある法に関係したテーマを見つけて学習意欲を高め、ノートに記述してくる。	120分
		事後学修	授業で配布したレジュメを見直し、社会において生じうる問題現象に関心を持てるよう、法学の社会での役割について確認し、ノートに300文字程度で記述する。	120分
2	9月23日	日本国憲法Ⅰ（基本原理）	我が国において最も重要な法である日本国憲法の基本原理について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が日本国憲法の基本原理を理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書67～73頁を読み、日本国憲法の前文+第1条～第99条を声に出して読んでくる。	120分
		事後学修	授業で配付したレジュメを見直し、憲法の基本原理についてノートに2頁程度でまとめ記述しておく。	120分
3	9月30日	日本国憲法Ⅱ（人権）	日本国憲法の人権規定について解説を行う。思想・良心の自由や表現の自由については、近年社会問題となった事項を取り上げ解説を行う。その際に授業中に受講生の意見を聴く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が日本国憲法の人権規定を理解したうえで、関連した社会問題について家族や友人に説明することができる。	
		事前学修	教科書73～86頁を読み、日本国憲法の前文+第1条～第99条を声に出して読んでくる。ニュース・新聞を検索し、憲法の人権に関連した記事を探して印刷してくる。	100分
		事後学修	授業中に取り上げた憲法の人権に関連した社会問題について、授業中の議論をふまえ、自らの意見をノートにまとめ記述しておく。	200分
4	10月7日	日本国憲法Ⅲ（統治）	国会・内閣・裁判所を中心として、日本国憲法の第41条以降の統治に関する規定について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が日本国憲法の定める統治機構の仕組みを理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書87～106頁を読み、日本国憲法の前文+第1条～第99条を声に出して読んでくる。三権分立について、ノートになぜそのような構造となっているのかを図を用いて500文字程度で記述してくる。	120分
		事後学修	日本国憲法における統治機構に関する規定はどのようなになっているのか、他学部の友人や家族に5分程度で説明できるように、ノートに1000文字程度で記述しておく。	160分
5	10月14日	民法Ⅰ（大学生と契約）	大学生は、アルバイトをはじめたりアパートを借りたりと他者と契約を結ぶことが多い。そうした際にトラブルとならないように、契約の基本や消費社会の現状について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が大学生として他者との契約を結ぶ際に困らないように契約の原則等を理解し適切に行動できる知識を手に入れる。	
		事前学修	教科書127～149頁を読み、契約とはどういった種類があるのか調べ、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	大学生・18歳の法的な位置づけについてノートに2頁程度にまとめ記述しておく。	120分
6	10月21日	民法Ⅱ（大学生と消費者トラブル）	インターネットオークショントラブルやマルチ商法等の大学生が巻き込まれやすい消費者トラブルについて、どのような揉め事が起こっているのか事例を交えながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、大学生が巻き込まれやすい消費者トラブルについて理解し事例を用いながら説明することができる。	
		事前学修	「ネズミ講」と「マルチ商法」の違いを調査し、ノートに800文字程度で記述してくる。	120分
		事後学修	大学生が巻き込まれやすい消費者トラブルの事例をノートにわかりやすくまとめ列記しておく。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	民法Ⅲ（消費者トラブルから身を守る）	消費者トラブルから身を守る方法を解説する。自分がトラブルに巻き込まれてしまった場合どこに相談に行けばよいのかや、クーリング・オフ制度等の消費者を守ってくれる制度について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、大学生が巻き込まれやすい消費者トラブルについて、身の守り方を理解し人に説明することができる。	
		事前学修	クーリング・オフとはどのような制度か、調査し800文字程度でノートに記述してくる。	120分
		事後学修	消費者トラブルから身を守る方法について、友人に説明できるようにわかりやすくまとめノート3頁程度に記述しておく。	140分
8	11月11日	刑法Ⅰ（刑法の基礎）	刑法の基本原則や犯罪の成立要件等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、刑法の基本原則や犯罪の成立要件について正確に理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書151～154頁、160～170頁を読み、刑法の第1条～第264条まで声に出して読んでくる。	120分
		事後学修	構成要件該当性・違法性・有責性について、それぞれ500文字程度でまとめ、ノートに記述しておく。	140分
9	11月18日	刑法Ⅱ（刑罰の本質）	刑罰の種類や内容について説明した後、刑罰は何のために科すのかについて、新旧両派の考え方を基に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、刑罰の種類・内容、刑罰を科す意義について正確に理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書154～160頁を読み、国家はなぜ刑罰を科すことができるのか、刑罰を課す目的は何なのかについて自分の考えを800文字程度で記述してくる。	130分
		事後学修	新旧両派の刑罰に対する考え方を「応報刑」「目的刑」という用語を用いて、それぞれ500文字程度でノートに記述しておく。	130分
10	11月25日	刑法Ⅲ（刑事司法手続）	刑事司法手続はどのように進んでいくのか図を用いながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、刑事司法手続きの流れについて正確に理解し説明することができる。	
		事前学修	刑事事件はどのように手続が進行するのかを報道等を見ながら考え、ノートに図式化してみる。	120分
		事後学修	刑事司法手続きの流れについて、スライドのものをそのまま写すのではなく、ノートに自ら考えた図を用いて記述し、解説を書いておく。	140分
11	12月2日	刑事司法制度論Ⅰ（刑事司法手続きと猶予制度）	微罪処分、起訴猶予、執行猶予等のダイバージョンシステムについて説明し、それが犯罪者の社会復帰にどのように役に立っているのかについて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、刑事司法手続きの中の社会復帰のためのシステムについて正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	微罪処分、起訴猶予、執行猶予は、警察・検察・裁判所のうちどの段階で行われるものなのかについて簡単な概要も含め調べ、刑事司法手続きの図に付け足しておく。	80分
		事後学修	微罪処分、起訴猶予、執行猶予について、それぞれ概要・要件・問題点を500文字程度でまとめノートに記述しておく。	180分
12	12月9日	刑事司法制度論Ⅱ（犯罪被害者の保護と権利）	現在の刑事司法手続きにおける犯罪被害者に対する様々な政策について説明し、どのような変遷を経てきたか、これからどのような制度の構築が必要かについて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、刑事司法手続きにおける犯罪被害者政策について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	犯罪被害者は、加害者に対しどのようなことを望むのか、自分が犯罪被害者になったつもりで考え、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	刑事司法手続きの流れを図式化したノートに、授業で紹介した犯罪被害者政策を全て解説付きで書き加えておく。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	刑事司法制度論Ⅲ（犯罪者の更生）	刑事施設における施設内処遇、保護観察所における社会処遇を中心として、犯罪者をどのように更生させていくのかについて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、犯罪者の更生過程について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	保護観察官とはどのような業務を行っているのか、法務省のホームページや刑事政策・犯罪学の教科書で調査し、800文字程度でノートに記述してくる。	120分
		事後学修	刑事施設の一日、保護観察中の一日をノートにまとめ、それがどのような効果を生むのかについて、説明を記述しておく。	120分
14	12月23日	大学生が巻き込まれやすい犯罪とその対処方法・予防方法	ストーカー、性犯罪、ネットワーク利用詐欺、振り込め詐欺、SNSへの不適切投稿等の大学生が巻き込まれやすい犯罪について事例を用いて解説を行い、その対処方法・予防方法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、大学生が巻き込まれやすい犯罪とその予防方法・対処方法について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	SNS関連のトラブルについて、どのようなものがあるのか調査し、ノートに列記してくる。犯罪の被害相談窓口はどのようなものがあるのか調査しノートに列記してくる。	120分
		事後学修	授業で紹介した事例を、友人に説明できるようにノートに2頁程度で記述しておく。授業で解説した犯罪予防策をまとめノートに2頁程度で記述し、それを実行する。	120分
15	1月13日	試験及び試験の解説	授業内試験を実施し、試験終了後に試験問題の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことについて、試験を通じて定着を図る。	
		事前学修	これまでにノートに列記した事項を整理し、再度見直しを行い総復習を実施する。	200分
		事後学修	試験の解説に基づいて、自らの書いた答案の再検証を行う。	80分

科目名	法学演習AⅠ	担当者	岡田 俊幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
この授業の目的は、法学一般の基礎的事項を理解することにあるが、演習の素材としては、憲法の「基本的人権」の分野の判例を取り上げ、教科書の読み方や判例の読み方を重点的に学修する（「憲法」を通した法学入門）。この授業は、演習形式（事例問題について報告者を指定し、報告者は、在宅にて起案等を作成して指定日までに提出した上で、起案の内容を授業で発表する。この発表に基づいて、事例問題に含まれる問題点について議論する。）も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3回以降、質問事項と事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた議論を行う。また、学生が自宅で起案した課題を授業で発表し、この発表に基づいて、他の学生も含めて受講生の間で議論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。						1			
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の講評を授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法第7版	芦部信喜	岩波書店	2019	参考書	推奨
憲法判例百選Ⅰ第7版	長谷部恭男ほか	有斐閣	2019	参考書	任意
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
(前期) 月曜日18：00～18：30、20：00～20：30 (後期) 月曜日18：00～17：00 13号館（法科大学院）5階 研究室1352

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月4/6	ガイダンス：憲法とは何か。	この授業は、「憲法」を素材とした法学入門である。まず、憲法と立憲主義について解説するとともに、公法と私法の区別などの法学の基礎事項についても説明する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「立憲の意味の憲法」（近代的意味の憲法）の意義について、説明することができる。また、権利と義務の関係、公法と私法の違い、法的三段論法について説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認を確認するとともに、憲法の講義（後期）で使用する予定の教科書その他のテキストを読み、憲法がどのような内容をもつ法律であるかを調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
2	月4/13	事例問題の解き方及び判例の読み方	事例問題の解き方及び判例の読み方について解説する。事例問題を解くためには事案処理の模範を示している判例を読んで事案処理の方法を理解することが必要不可欠だからである。	
		この回の到達目標	事例問題の解き方及び判例の読み方について理解する。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	月4/20	表現の自由（１）：憲法21条2項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制	憲法21条2項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制が禁止される根拠について判例を踏まえて、検討する。どのような場合に憲法が禁止する検閲又は表現の事前抑制に該当するか否かについて、裁判所による名誉及びプライバシーを侵害する表現の差止め及び教科書検定などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法21条2項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制が禁止される根拠について判例を踏まえて、説明できる。どのような場合に憲法が禁止する検閲又は表現の事前抑制に該当するか否かについて、裁判所による名誉及びプライバシーを侵害する表現の差止め及び教科書検定などの具体的事例を挙げ、説明できる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	月4/27	表現の自由（２）：明確性の理論	明確性の理論について、判例を踏まえて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明確性の理論について、判例を踏まえて説明できる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	月4/27	表現の自由（３）：違憲審査基準	違憲審査基準について検討する。「表現の自由を規制する立法の合憲性は、経済的自由を規制する立法よりも厳しい基準によって審査されなければならない」という見解や、表現の内容に着目した規制と表現内容に中立的な規制を区別する見解について、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、二重の基準及び内容規制・内容中立規制二分論について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	月5/4	表現の自由（４）：報道の自由、取材の自由	報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について理解した上で、報道機関に取材源の開示や取材資料の提出が求められた場合や、記者に国家公務員法上の秘密漏えい罪の責任が問われた場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について理解した上で、報道機関に取材源の開示や取材資料の提出が求められた場合や、記者に国家公務員法上の秘密漏えい罪の責任が問われた場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月5/11	表現の自由（５）：ビラ配布、パブリックフォーラム	ビラ配布等の表現行為の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ビラ配布等の表現行為の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	月5/18	表現の自由（６）：受刑者及び未決拘禁者の人権	受刑者及び未決拘禁者の人権について、閲読の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受刑者及び未決拘禁者の人権について、閲読の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	月5/25	幸福追求権（１）	憲法13条後段の定める「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」の権利としての性格について、判例を踏まえて、検討する。「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」を母体とし、そこに根拠付けられる特定の具体的な権利について、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法13条後段の定める「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」の権利としての性格について、判例を踏まえて、検討する。「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」を母体とし、そこに根拠付けられる特定の具体的な権利について、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	月6/1	幸福追求権（２）	プライバシーに対する権利の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プライバシーに対する権利の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	月6/8	人権の私人間効力	私人間の紛争において人権侵害の主張がなされた場合に、法的解決のためにどのような論理構成をとるべきかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、私人間の紛争において人権侵害の主張がなされた場合に、法的解決のためにどのような論理構成をとるべきかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	月6/15	政教分離（１）	どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、国などが宗教的行事を行う場合、国などが宗教団体若しくは宗教的活動に公金の支出などを行う場合、公務員が宗教的行事に参加する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、目的効果基準に照らして考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、国などが宗教的行事を行う場合、国などが宗教団体若しくは宗教的活動に公金の支出などを行う場合、公務員が宗教的行事に参加する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月6/22	政教分離（2）	どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、砂川・空知太神社訴訟等の新しい判例を踏まえて、検討する。また、政教分離規定違反の判断枠組みについての学説を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、砂川・空知太神社訴訟等の新しい判例を踏まえて、説明することができる。また、政教分離規定違反の判断枠組みについての学説を説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	月7/6	信教の自由	信教の自由の制約について、宗教上の行為により他者加害をもたらす場合及び信仰に基づく体育実技の履修の免除など、法が一般的に課す義務の免除を宗教上の理由に基づいて求める場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、信教の自由の制約について、宗教上の行為により他者加害をもたらす場合及び信仰に基づく体育実技の履修の免除など、法が一般的に課す義務の免除を宗教上の理由に基づいて求める場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	月7/13	総復習	前期の授業の総復習として、事案解決能力は何かを確認し、今後の勉強のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事案解決能力は何かについて説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習AⅠ	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特に指定しない。毎回必ず指定教科書と小型六法（デイリー六法〔三省堂〕又はポケット六法〔有斐閣〕）を持参すること。

【授業方法】
前期は講義形式と演習形式を併用する。受講者数や進度に応じて講義中に小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、課題の解決に向けたレポートを課す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。				1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1	
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
質疑応答及び報告発表の際に、受講者に対して評価と解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第3版）Next教科書シリーズ	高橋雅夫 編	弘文堂	2020	教科書	必携
デイリー六法（2020年版）	大石眞ほか編修	三省堂	2019	教科書	必携
ポケット六法（2020年版）	佐伯仁志・大村敦志	有斐閣	2019	教科書	必携
プレップ法学を学ぶ前に（第2版）	道垣内弘人	弘文堂	2018	参考書	推奨
法律の条文解釈入門（新版）	小室百合	信山社	2018	参考書	推奨
備考	デイリー六法とポケット六法は、どちらか1冊を必ず毎回持参すること。法学（第3版）Next教科書シリーズと六法を必ず毎回持参すること。六法、教科書及び参考書を購入する際は、何版かに注意すること。なお、法学（第3版）Next教科書シリーズは2020年3月刊行予定である。				

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで（研究室）。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については、必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		民事、刑事及び行政領域の実務経験に基づいて、具体的な事例における法の運用を説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水曜 4月8日	ガイダンスと概論	法を学ぶ上で必要となる指針と高等学校までの学修の架橋を行う。法学の概説を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法学の基礎事項を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み学修計画を立てること。これまで高等学校や大学の教養科目等で学修した法に関連する事柄を思い出し、手控えを作成しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスでの説明と法学概説を踏まえて、各自で今期の計画を策定すること。	120分
2	第一部 水曜 4月15日	法の学び方、法の概念	法と社会秩序、法と道德、法と強制、権利と義務といった一連の重要事項を概説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法を学ぶ際に必要な各種用語の意味と機能を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 22までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。なお、本シラバス作成時点で指定教科書の第3版は刊行前であるから、第2版に沿ってページ数を記載している。各回の配当項目に基づいて、第3版のページ数に適宜符合させて学修範囲を識別すること。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
3	第一部 水曜 4月22日	法の目的・機能	法と正義、法的安定性、行為規範、裁判規範といった一連の重要事項を概説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法を学ぶ際に必要な各種用語の意味と機能を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 34までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
4	第一部 水曜 4月29日	法の存在形式（法源論）	成文法、不文法について、実例に則して解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法を学ぶ際に必要な各種用語の意味と機能を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 43までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
5	第一部 水曜 5月6日	法の分類	自然法と実定法、公法と私法、実体法と手続法、国内法と国際法などの枠組みを解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法の分類を理解し、到達目標②との関係で、第4回までの講義に基づく理解を踏まえて質疑応答ができるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 53までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
6	第一部 水曜 5月13日	法の解釈と適用	法の解釈と適用を、指定教材と実例に基づいて解説する。第6回目から課題レポートの発表を含めることがある。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法の解釈と適用を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 66までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水曜 5月20日	日本国憲法（人権）	人権の特質、自由権、社会権、国務請求権などの重要事項を解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。課題レポートの発表を含めることがある。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、人権の重要事項を理解する。	
		事前学修	指定教材P.86までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
8	第一部 水曜 5月27日	日本国憲法（統治）	国会、内閣及び裁判所の役割と財政・地方自治の仕組みを解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。課題レポートの発表を含めることがある。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、統治機構の重要事項を理解する。また、到達目標②との関係で、憲法の役割を説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P.106までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
9	第一部 水曜 6月3日	家族と法	家族法の理念、婚姻・離婚、親子、扶養、相続について解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。課題レポートの発表を含めることがある。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、家族と法について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P.126までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
10	第一部 水曜 6月10日	財産と法	私法の構造、民法の財産編について解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。課題レポートの発表を含めることがある。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、財産と法について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P.147までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
11	第一部 水曜 6月17日	刑罰と犯罪	刑法の構成・社会的機能、刑罰の本質、刑法の基本原則、犯罪の成立要件を解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。課題レポートの発表を含めることがある。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、犯罪と刑罰について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P.168までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
12	第一部 水曜 6月24日	企業と法	法人企業、企業活動について解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。課題レポートの発表を含めることがある。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、企業と法について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P.188までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水曜 7月1日	雇用と法	労働法の原理、労働関係法、労働市場法について解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。課題レポートの発表を含めることがある。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、雇用と法について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 209までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
14	第一部 水曜 7月8日	裁判と法	裁判の種類、裁判所の構成、裁判員制度などの裁判と法に関する重要事項を解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。課題レポートの発表を含めることがある。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、裁判と法について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 230までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
15	第一部 水曜 7月15日	今期の総まとめ	これまでの講義と各自の発表・レポートを踏まえて、質疑と解説を行う。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。課題レポートの発表を含めることがある。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法学の基礎事項を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	これまでに自己の作成した手控え・ノートを熟読し、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分

科目名	法学演習A I	担当者	帷子 翔太	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レポート課題の講評・解説等を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。				1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1	
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での講評その他

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
土曜日10:30～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を踏まえて実際の訴訟、紛争等で民法及び民事訴訟法等がどのように活用されているかについて言及する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	ガイダンス及び導入講義	学習する内容や授業の進行予定等	
		この回の到達目標	今後の学習内容、学習計画等の確認	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	今後の学習予定を考えること。	120分
2	4/11	実体法と手続法	実体法と手続法の関係、これらの各種民事手続における役割等について概観する。	
		この回の到達目標	実体法と手続法の関係、これらの各種民事手続における役割等の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	4/18	民法の全体像	民法の全体像を概観する。	
		この回の到達目標	民法の全体像、条文の構造等について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	4/25	民事訴訟法の全体像	民事訴訟法の全体像を概観する。	
		この回の到達目標	民事訴訟法の全体像、条文の構造等について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	5/2	契約法の全体像、贈与契約	契約法(1)：契約法の全体像及び贈与契約	
		この回の到達目標	契約法の全体像、贈与契約の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	5/9	売買契約	契約法(2)：売買契約	
		この回の到達目標	売買契約の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	消費貸借契約	契約法(3)：消費貸借契約	
		この回の到達目標	消費貸借契約の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	5/23	使用貸借契約	契約法(4)：使用貸借契約	
		この回の到達目標	使用貸借契約の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	5/30	賃貸借契約	契約法(5)：賃貸借契約	
		この回の到達目標	賃貸借契約の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	6/6	請負契約	契約法(6)：請負契約	
		この回の到達目標	請負契約の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	6/13	委任契約	契約法(7)：委任契約	
		この回の到達目標	委任契約の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	6/20	雇用契約	契約法(8)：雇用契約	
		この回の到達目標	雇用契約の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	全体の復習(1)	総復習(1)：前期授業の総復習を行う	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	7/4	全体の復習(2)	総復習(2)：前期授業の総復習及びレポートの提出	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	7/11	全体の復習(3)	総復習(3)：前期授業の総復習、レポートの講評及び今後の勉強のあり方等	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	岡田 俊幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
この授業の目的は、法学一般の基礎的事項を理解することにあるが、演習の素材としては、憲法の「基本的人権」の分野の判例を取り上げ、教科書の読み方や判例の読み方を重点的に学修する（「憲法」を通した法学入門）。この授業は、演習形式（事例問題について報告者を指定し、報告者は、在宅にて起案等を作成して指定日までに提出した上で、起案の内容を授業で発表する。この発表に基づいて、事例問題に含まれる問題点について議論する。）も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3回以降、質問事項と事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた議論を行う。また、学生が自宅で起案した課題を授業で発表し、この発表に基づいて、他の学生も含めて受講生の間で議論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。						1			
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の講評を授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法第7版	芦部信喜	岩波書店	2019	参考書	推奨
憲法判例百選Ⅰ第7版	長谷部恭男ほか	有斐閣	2019	参考書	任意
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
(前期) 月曜日18：00～18：30、20：00～20：30 (後期) 月曜日18：00～17：00 13号館（法科大学院）5階 研究室1352

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/14	ガイダンス：導入講義	この授業は、「憲法」を素材とした法学入門である。まず、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準について、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認を確認するとともに、憲法の講義（後期）で使用する予定の教科書その他のテキストを読み、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
2	月9/21	事例問題の解き方及び判例の読み方	事例問題の解き方及び判例の読み方について解説する。事例問題を解くためには事案処理の模範を示している判例を読んで事案処理の方法を理解することが必要不可欠だからである。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事例問題の解き方及び判例の読み方について理解する。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	月9/28	職業の自由（１）	職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、消極目的（警察目的）及び積極目的（社会・経済政策目的）などの区別に留意して、説明する。職業選択の自由の制約について、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、消極目的（警察目的）及び積極目的（社会・経済政策目的）などの区別に留意して、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	月10/5	職業の自由（２）	職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合、租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合及び規制一定の品目の輸入を専ら特定の団体に行わせ、その売渡方法及び価格などの規制を行う場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合、租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合及び規制一定の品目の輸入を専ら特定の団体に行わせ、その売渡方法及び価格などの規制を行う場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	月10/12	集会の自由（１）	集会の自由の保障の制約について、公共施設の管理の必要がある場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。また、これに関連して、届出制や許可制などの規制態様に関する問題及び「敵意ある聴衆の法理」について、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、集会の自由の保障の制約について、公共施設の管理の必要がある場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。また、届出制や許可制などの規制態様に関する問題及び「敵意ある聴衆の法理」について、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	月10/19	集会の自由（２）	集会の自由の保障の制約について、道路交通の安全を確保する場合及び公共の秩序を維持する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、集会の自由の保障の制約について、道路交通の安全を確保する場合及び公共の秩序を維持する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/26	良心の自由（１）	思想及び良心の自由の制約について、裁判所が謝罪広告の掲載を命令する場合及び学校が内申書に政治活動歴を記載する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、思想及び良心の自由の制約について、裁判所が謝罪広告の掲載を命令する場合及び学校が内申書に政治活動歴を記載する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	月11/9	良心の自由（２）	思想及び良心の自由の制約について、公立学校の校長が国歌斉唱の際に音楽教師にピアノ伴奏を命令する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、思想及び良心の自由の制約について、公立学校の校長が国歌斉唱の際に音楽教師にピアノ伴奏を命令する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	月11/16	財産権（１）	財産権に対する制約について、共有物の分割請求権を制限する場合及び金融商取引におけるインサイダー情報の不当な利用の防止に係る規制を課す場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財産権に対する制約について、共有物の分割請求権を制限する場合及び金融商取引におけるインサイダー情報の不当な利用の防止に係る規制を課す場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	月11/23	財産権（２）	憲法29条3項の定める「公共のために用ひる」の意味について検討する。財産権に対する制約のうち、どのような場合に補償を行う必要があるかについて、判例を踏まえて、検討する。憲法29条3項の定める「正当な補償」の意味について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法29条3項の定める「公共のために用ひる」の意味及び憲法29条3項の定める「正当な補償」の意味を説明することができる。財産権に対する制約のうち、どのような場合に補償を行う必要があるかについて、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	月11/30	平等（１）	どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、尊属に対する犯罪を特に重く処罰する規定及び日本国民の父と外国籍の母との間に出生し、その後、父から認知された子に対して、帰化と準正の場合を除き日本国籍の取得を認めない規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、日本国民の父と外国籍の母との間に出生し、その後、父から認知された子に対して、帰化と準正の場合を除き日本国籍の取得を認めない規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	月12/7	平等（２）	どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、非嫡出子の法定相続分を嫡出子の2分の1とする規定及び女性の再婚禁止期間を定める規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、非嫡出子の法定相続分を嫡出子の2分の1とする規定及び女性の再婚禁止期間を定める規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月12/14	平等（3）	どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、夫婦同氏制の合憲性などの新しい判例を素材として、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、夫婦同氏制の合憲性などの新しい判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	月12/21	外国人の人権	外国人に選挙権や被選挙権が保障されるか否か、国政選挙と地方選挙の場合について、検討する。外国人に公務就任権が保障されるか、既に公務員となっている定住外国人に管理職への昇進の機会を与えないことが平等原則に違反するかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国人に選挙権や被選挙権が保障されるか否か、外国人に公務就任権が保障されるか否かなどについて、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	月1/18	総復習	後期の授業の総復習として、事案解決能力は何かを確認し、今後の勉強のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事案解決能力は何かについて説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特に指定しない。前期の法学演習AⅠから継続して履修することが望ましい。毎回必ず指定教科書と小型六法（デイリー六法〔三省堂〕又はポケット六法〔有斐閣〕）を持参すること。

【授業方法】
演習形式を主体とする。報告発表や質疑応答が主体となる。演習の具体的方式は履修人数や理解の進度に応じて調整する。報告発表の講評及び解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、課題の解決に向けたレポートを課す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。						1			
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
質疑応答及び報告発表の際に、受講者に対して評価と解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第3版）Next教科書シリーズ	高橋雅夫 編	弘文堂	2020	教科書	必携
デイリー六法（2021年版）	大石眞ほか編修	三省堂	2020	教科書	必携
ポケット六法（2021年版）	佐伯仁志・大村敦志	有斐閣	2020	参考書	必携
ブレップ法学を学ぶ前に（第2版）	道垣内弘人	弘文堂	2018	参考書	推奨
法律の条文解釈入門（新版）	小室百合	信山社	2018	参考書	推奨
備考	デイリー六法とポケット六法は、どちらか1冊を必ず毎回持参すること。法学（第3版）Next教科書シリーズと六法を必ず毎回持参すること。例年9月に翌年版の六法が刊行される。2021年版が出版されたら速やかに購入し講義に持参すること。教科書等を購入する際は何版かに注意すること。				

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで（研究室）。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については、必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		民事、刑事及び行政領域の実務経験に基づいて、具体的な事例における法の運用を説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水曜 9月16日	ガイダンスと概論	今期の講座の進め方について説明するとともに、法学に関する一定の知見を持っていることを踏まえて、それぞれの枠組みがどのように連動・連携しているかを概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法学の理解を展開する際に必要な重要事項を理解する。	
		事前学修	シラバスを点検するとともに、これまで各自が学修してきた法学の重要事項の理解度合いを確かめておくこと。	120分
		事後学修	講義における説明を踏まえて、各自の到達度合いを点検し、今期の学修計画を策定すること。	120分
2	第一部 水曜 9月23日	情報と法	情報化社会の実状、知る権利とプライバシー、情報公開と個人情報保護について解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、情報と法に関する重要事項を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 255から270までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。なお、本シラバス作成時点で指定教科書の第3版は刊行前であるから、第2版に沿ってページ数を記載している。各回の配当事項に基づいて、第3版のページ数に適宜符合させて学修範囲を識別すること。	120分
		事後学修	講義における説明を踏まえて、情報と法の重要事項の理解を進めておく。	120分
3	第一部 水曜 9月30日	行政と法	法律による行政の原理、行政救済、行政手続、市民参加について解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政と法に関する重要事項を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 231から254までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明を踏まえて、行政と法の重要事項の理解を進めておく。	120分
4	第一部 水曜 10月7日	法と社会秩序、法と道徳	規範の当為性、近代以降の法と道徳の分離論について説明する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法と社会秩序、法と道徳について理解する。到達目標②との関係で、8回目以降の報告発表の準備を進めておく。	
		事前学修	指定教材P. 11から17までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明を踏まえて、社会秩序や道徳と法規範との関係性を理解するとともに、報告発表の準備を具体的に進捗させていく。	120分
5	第一部 水曜 10月14日	法と強制、権利と義務	法的強制の意義、権利の種類と本質論を解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、権利義務の意味や強制について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 18から22までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明を踏まえて、これまで自分が学修してきた法に関する重要事項と、強制・権利義務の位置づけや役割を点検しておく。	120分
6	第一部 水曜 10月21日	法の目的・機能	法の理念、目的、法規範の枠組みを解説する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法の目的や機能を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 23から34を読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義での説明を踏まえて、これまで学んだ各法が、それぞれどのような機能と目的を持っているかを考察しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水曜 10月28日	法の存在形式（法源論）	成文法源の分けと不文法源の機能を説明する。演習及び解説の進捗に応じて、各回で取り扱う項目を前後工夫する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法の存在形式を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 35から43までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて、法の存在形式の実例と理論を考察し、理解を進めておく。次回以降の報告発表に備える。	120分
8	第一部 水曜 11月11日	報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。構築した指針に基づいて、学修義務を実行する。	120分
9	第一部 水曜 11月18日	報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。構築した指針に基づいて、学修義務を実行する。	120分
10	第一部 水曜 11月25日	報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。構築した指針に基づいて、学修義務を実行する。	120分
11	第一部 水曜 12月2日	報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。構築した指針に基づいて、学修義務を実行する。	120分
12	第一部 水曜 12月9日	報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。構築した指針に基づいて、学修義務を実行する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水曜 12月16日	報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。構築した指針に基づいて、学修義務を実行する。	120分
14	第一部 水曜 12月23日	報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。構築した指針に基づいて、学修義務を実行する。	120分
15	第一部 水曜 1月13日	報告発表・今期の総まとめ	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。構築した指針に基づいて、学修義務を実行する。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	帷子 翔太	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レポート課題の講評・解説等を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。						1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。											1	
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内での講評その他	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
土曜日10:30～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を踏まえて実際の訴訟、紛争等で民法及び民事訴訟法等がどのように活用されているかについて言及する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス:学習する内容や授業の進行予定等	
		この回の到達目標	今後の学習内容、学習計画等の確認	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	今後の学習予定を考えること。	120分
2	9/26	前期で扱った内容の確認	前期授業の総復習	
		この回の到達目標	前期で扱った内容の概要を理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	10/3	主要な民事手続の概要	民事手続(1)：保全、訴訟、執行手続の概観	
		この回の到達目標	主要な民事手続の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	10/10	民事訴訟：訴えの提起、処分権主義	民事手続(2)：訴えの提起、処分権主義等	
		この回の到達目標	民事訴訟における訴えの提起等に関する手続の概要を理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	10/17	民事訴訟：審理の進行(口頭弁論、争点及び証拠の整理)	民事手続(3)：審理の進行(口頭弁論、争点及び証拠の整理)	
		この回の到達目標	民事訴訟における審理等に関する手続の概要を理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	10/24	民事訴訟：審理の進行(弁論主義)	民事手続(4)：審理の進行(弁論主義)	
		この回の到達目標	民事訴訟における弁論主義等に関する概要を理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/31	民事訴訟：証拠調手続	民事手続(5)：証拠調手続
		この回の到達目標	民事訴訟における証拠調べ等に関する手続きの概要を理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
8	11/7	民事訴訟：訴訟の終了	民事手続(6)：訴訟の終了
		この回の到達目標	民事訴訟における訴訟の終了等に関する手続きの概要を理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
9	11/14	民事訴訟：訴状作成	具体的な事例を通じた学習(1)：訴状の作成
		この回の到達目標	民事訴訟における訴状の体裁及び記載事項等について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
10	11/21	民事訴訟：答弁書作成	具体的な事例を通じた学習(2)：答弁書の作成
		この回の到達目標	民事訴訟における答弁書の体裁及び記載事項等について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
11	11/28	民事訴訟：給付訴訟	具体的な事例を通じた学習(3)：給付訴訟
		この回の到達目標	具体的な裁判例等を通じて、民事訴訟の手続き等について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
12	12/5	民事訴訟：確認訴訟	具体的な事例を通じた学習(4)：確認訴訟
		この回の到達目標	具体的な裁判例等を通じて、民事訴訟の手続き等について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	全体の復習(1)	総復習(1)：後期授業の総復習を行う	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	12/19	全体の復習(2)	総復習(2)：後記授業の総復習及びレポートの提出	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	12/26	全体の復習(3)	総復習(3)：後記授業の総復習、レポートの講評及び今後の勉強のあり方等。	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法律外国語AⅠ【法律学科】	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際的な物品売買契約に適用されるウィーン売買条約（英文略称：CISG、英文正式名称：UNITED NATIONS CONVENTION ON CONTRACTS FOR THE INTERNATIONAL SALES OF GOODS、日本語名：「国際物品売買契約に関する国際連合条約」）における主要な条文の英語正文と公定訳の対訳を教材として、学校教育で学ぶ英語とは違う、基礎的かつ重要な英語による法律用語および言い回しを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来、英米法系の契約法を学修し、または、英文の契約書を取り扱うこととなった場合に、そこで用いられている基礎的かつ重要な英語による法律用語および言い回しを日本語で理解し、応用することができるようにする。

【履修条件】
授業内で実施する理解度確認テストおよび期末試験の合計が 60点以上であること。

【授業方法】		
講義は、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学修した内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話形式により進行するので、その質疑応答への積極的な参加が必要である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的に毎回、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学習した内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話形式により進行するので、予習が不可欠である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル				
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
①	英語の法律用語を理解し、それを日本語の法律用語で適切に説明することができる。【知識】	1					1		
②	英語の法的な言い回しを理解し、それを日本語の法律用語で適切に説明することができる。【知識】	1					1		
③	英語の法律用語を用いて、日本語の法律用語を適切に英訳することができる。【技能】	1					1		
④	英語の法的な言い回しを用いて、日本語の法的言い回しを適切に英訳することができる。【技能】	1					1		
⑤	英語の法律用語について、自分の意見を積極的に述べることができる。【態度・習慣】	1					1		
⑥	英語の法的な言い回しについて、自分の意見を積極的に述べることができる。【態度・習慣】	1					1		
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	前期の最終講義日に、到達目標①～④に関する記述式の 授業内前期末試験を実施する。	40										40
小テスト等	事前通告方式にて、前期の授業内に3回の理解度確認テ ストを実施する。 このテストは、前回までの講義内容で最低限理解して欲し い、到達目標①～④に関することについて、語群選択およ び正誤問題の方式で各5問を出題する。	20	20	20								60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義は、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学習し た内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話 形式により進行するので、その質疑応答への積極的な参加 が必要であり、上記の筆記試験やテストの得点とは別枠の 授業への参画度として加点要因とする。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
理解度確認テストについては、試験実施日の翌週の講義日に答案を返却して解説する。期末試験については、ポータルシステムにて解説を 配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代国際商取引』 一よくわかる理論と実務―	亀田尚己編著	文真堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義時間内または講義終了後に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4/7火	【ガイダンス】 【ウィーン売買条約とは】 ウィーン売買条約【前文】		「万民法型統一私法」であるウィーン売買条約の概要について学修する。 授業のテーマ、内容およびスケジュール、成績評価の方法を説明し、併せて使用するテキストと参考文献を紹介する。また、ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳を配布し、それにより受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。
		この回の到達目標	ウィーン売買条約の前文を参照し、この条約が必要とされた背景について、国際物品売買契約における準拠法決定の問題をクリアし、当事者の双方にとって共通の理解が可能な「万民法型統一私法」条約の便利性を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書やその他の参考文献を読み、ウィーン売買条約がどのような役割を果たしているかを調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。また、ウィーン売買条約が必要とされた背景について、国際私法における準拠法決定の問題および当事者の双方にとって共通の理解が可能な「万民法型統一私法」条約の便利性との関係をノートに整理する。	80分
2	4/14火	第1条 第2条		第1条【適用基準】および第2条【適用除外】を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
3	4/21火	第3条～第6条		ウィーン売買条約の第3条【製作物供給契約・役務提供契約】、第4条【条約の規律する事項】、第5条【人身損害についての適用除外】、第6条【条約の適用排除、任意規定性】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
4	4/28火	第7条～第8条		ウィーン売買条約の第7条【条約の解釈及び補充】、第8条【当事者の行為の解釈】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
5	5/5火	第9条～第13条		ウィーン売買条約の第9条【慣習および慣行】、第10条【営業所】、第11条【方式の自由】、第12条【第96条に基づく留保宣言の効果】および第13条【書面の定義】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
6	5/12火	第14条		ウィーン売買条約の第14条【申込み】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19火	第15条～第17条	ウィーン売買条約の第15条【申込みの効力発生時期、申込みの取りやめ】、第16条【申込みの撤回】および第17条【拒絶による申込みの失効】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
8	5/26火	第18条	ウィーン売買条約の第18条【承諾の方法、承諾の効力発生時期、承諾期間】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
9	6/2火	第19条	ウィーン売買条約の第19条【変更を加えた承諾】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
10	6/9火	第20条	ウィーン売買条約の第20条【承諾期間の計算】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
11	6/16火	第21条～第22条	ウィーン売買条約の第21条【遅延した承諾、通信の遅延】および第22条【承諾の取り扱い】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
12	6/30火	第23条～第24条	ウィーン売買条約の第23条【契約の成立時期】および第24条【到達の定義】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/7火	前文および第1条～第24条	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、学修する。 併せて、前期末試験の出題範囲を発表する。	
		この回の到達目標	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、理解し、説明できる。	
		事前学修	前期の講義ノートレビューし、その内容を総復習し、重点ポイントを整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
14	7/14火	学生と教員との質疑応答	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、前期末試験の出題範囲を中心に学生と教員との間で質疑応答の形式により学修する。	
		この回の到達目標	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、前期末試験の出題範囲を中心に行われた学生と教員との質疑応答の内容を理解し、説明できる。	
		事前学修	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、前期末試験の出題範囲を中心に、疑問点があれば抽出し、準備する。	80分
		事後学修	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、前期末試験の出題範囲を中心に行われた学生と教員との質疑応答の内容をノートに整理する。	80分
15	7/21火	前期末授業内試験の実施 まとめ	前期の講義内容の重点ポイントについて、前期末授業内試験の実施する。	
		この回の到達目標	前期の講義内容の重点ポイントについて、理解し説明できる。	
		事前学修	前期の講義内容の重点ポイントについて、ノートを整理する。	80分
		事後学修	前期の講義内容の重点ポイントについて、前期末授業内試験の内容を自分のノートを中心に確認する。	80分

科目名	法律外国語A I【経営法学科】	担当者	マイケル・アベ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
法律実務は言語に基づいており、かかる言語をどのように解釈又は理解するかに基づいている。国境を越えて繋がっている世界では、その法律実務に関わる専門用語に加え、国際ビジネスのリーダーが身に付けるべき重要なスキルとして、英語を追加的言語として使用する能力が求められる。本講義では、国際ビジネスで使用される法律の専門用語について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、以下の5点を目的とする。(1)主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(2)国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(3)特定の1つの国とその国の1つの会社を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。(4)想定された仮のビジネスについて行われる模擬国際交渉をとおして、上述の(3)で培った理解を尊重し、国際ビジネスの相手方との模擬交渉において生産的なコミュニケーションを取ることができる。(5)国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。

【履修条件】
特に履修条件は設けないが、国際契約・国際ビジネスに興味のある学生であればなお良い。

【授業方法】
事前学修の内容を前提に、配布資料をもとに、英語と日本語（主に英語）で講義を行う。Students will form teams to conduct team mock negotiations. Students may also form teams to give country presentations.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書と配布する資料に基づいたグループディスカッションや模擬交渉のロールプレイを行う。想定された仮のビジネスについて実施される模擬交渉をとおして、国際交渉の方法を学修する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。				1					1		
②	国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。				1					1		
③	特定の1つの国とその国の1つの会社を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。				1					1		
④	上述の③で培った理解を尊重し、国際ビジネスの相手方との模擬交渉において生産的なコミュニケーションを取ることができる。				1					1		
⑤	国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。				1					1		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内に行う３回の小テストにより、到達目標①、②、及び⑤についてそれぞれ理解し、自らの言葉で簡潔な説明と正確な記述ができているかを評価する。	10	10			10						30
レポート等												
討論・発表等	到達目標③についてグループでのプレゼンテーションの準備とプレゼンテーションを実施し、各国のビジネスの特徴を日本との比較において位置づけ、効果的な資料を作成・使用し、自らの言葉で簡潔に説明し、客観的な意見を示す能力が身についているかを評価する。			20								20
授業への参画度	授業中に事前学修に基づく質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準として、到達目標①から⑤について、積極的に学修する能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
その他()	到達目標③の模擬国際交渉において授業で学んだ法律専門用語を使用し相手方の国やビジネス文化を理解して適切なコミュニケーションをとることができるようになっているかを評価する。				25							25
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	25	30	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、実施した回の次の授業において講評する。模擬国際交渉は、その実施日に授業内において講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際交渉の法律英語ーそのまま文書化できる戦略的表現』	中村秀雄 ・野ロジュ ディー	日本評論社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
予約制とし、授業を行った教室で授業後に相談を受ける。予約のための連絡先（メールアドレス）は授業中に提示する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカと日本で25年間以上のあいだ法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		アメリカの複数の企業の企業弁護士として活動してきた実務経験に基づき、契約の交渉から実際の契約文書の作成、契約締結までのプロセスにおいて、アメリカのビジネス事情も合わせた授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6	Class Overview. Introduction to U.S. Legal System (General). 【授業の概要】 【アメリカの法制度とは(概要)】	各回の授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、及び参考文献について理解する。その理解に基づき、授業の準備を効率的に行うことができるようになる。アメリカの法制度について基本的な知識を学修する。また、教科書のsection <1> “assert” から <5> “submit” までの専門用語の法的意味について学修し、それらの専門用語を使用しコミュニケーションする。模擬交渉のためのチーム分けを行う。
		この回の到達目標	Gain knowledge of the U.S. legal system (overview) and explain fundamental concepts. Increase legal vocabulary by studying the assigned text. アメリカの法制度の概要について基本的知識を獲得し、同制度の基本的な概念について説明できるようになる。教科書の指定部分を事前学修することにより、法律専門用語の語彙を増やす。
		事前学修	Review and organize the class assignment, text, handouts and class notes. Practice using legal vocabulary. Research and summarize in your class notes a country you would like to study. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。法律専門用語の使用になれるために練習する。ビジネスの文化的、人材的、及び特徴的な側面について考察したい国について調べ授業ノートに要約する。
		事後学修	Review and organize the class assignment, text, handouts and class notes. Practice using legal vocabulary. Research and summarize in your class notes a country you would like to study. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。法律専門用語の使用になれるために練習する。ビジネスの文化的、人材的、及び特徴的な側面について考察したい国について調べ授業ノートに要約する。
2	4/13	Introduction to the American Legal System (Stare Decisis and Court System). 【アメリカの法制度とは(司法制度(判例、先例拘束性の原理と裁判制度)】	Jurisprudence. Introducing Stare Decisis and the U.S. court system. 判例、先例拘束性の原理、及び裁判制度について基本的な知識を学修する。教科書のsection <6> “intend, mean” から <10> “disapprove, demur” の専門用語の法的意味について学修する。クラスディスカッションと模擬交渉をととしてそれらの使用を練習し身に付ける。
		この回の到達目標	Gain an understanding of the American legal system. Explain the fundamentals of the U.S. court system and its hierarchy. Build your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. アメリカの法制度について理解を深める。アメリカの裁判所の構成に関する基本的事項を説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を練習し身に付ける。
		事前学修	Read section <6> “intend” to section <10> “disapprove, demur” and practice using these terms. Continue to work on your hypothetical company and the goods you will sell. Choose a country that you would like to study. 教科書のsection <6> “intend, mean” から <10> “disapprove, demur” を読み、これらの専門用語の使用を練習し身に付ける。ビジネスの文化的、人材的、及び特徴的な側面について考察したい国を選択する。
		事後学修	Review and organize the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your expanding legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。今回の授業で学修した新たな法律専門用語を次回の授業において積極的に使用するための準備を行う。
3	4/20	Jurisdiction, Dual Court System. 【管轄権、連邦裁判所と州裁判所の二重構造】	Gain an understanding of and explain Mandatory/Binding versus Persuasive Authority, Dual Court System and State Law and Federal Law. アメリカ法のリサーチの際に必要な強制的/拘束力を有する法源 (Mandatory/Binding Authority) と説得的法源、連邦裁判所と州裁判所の二重構造 (Dual Court System) 及び州法と連邦法 (State Law and Federal Law) の関係について学修する。
		この回の到達目標	Study section <11> “exclude, restrict…” to section <15> “deem, consider.” Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms with mock negotiations and class discussion. 教科書のsection <11> “exclude, restrict…” から section <15> “deem, consider” の法的意味について理解し、説明できるようになる。模擬交渉とクラスディスカッションをととしてそれらの使用を練習し身に付ける。
		事前学修	Read section 11 “exclude, restrict” to section 15 “deem, consider.” Practice using these terms. Read and study any handouts provided earlier. 教科書のsection <11> “exclude, restrict…” から section <15> “deem, consider” を読む。これらの専門用語の使用を練習し身に付ける。これまでに配布した資料を読み学修する。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。これまでの授業で使用できるようになった法律専門用語を次回の授業において積極的に使用するための準備を行う。
4	4/27	Legal Systems. Common Law vs. Civil Law. 【法制度】 【コモンロー（英米法 対 シヴィルロー（大陸法）】	コモンローとシヴィルローの特徴を比較してその相違点を学修する。契約交渉スキル（アメリカ型交渉に共通の誤り）について学修する。Discuss section <16> “distinguish” to section 20 “contribute.” Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms with mock negotiations and class discussion. 教科書のsection <16> “distinguish” からsection <20> “contribute” の法的意味について学修する。模擬交渉とクラスディスカッションをととしてそれらの使用を練習し身に付ける。
		この回の到達目標	教科書のsection <16> “distinguish” からsection <20> “contribute” の専門用語の法的意味について理解、説明できるようになる。アメリカ型交渉と日本型交渉の問題点を理解し、例を挙げて説明できるようになる。
		事前学修	教科書の section <16> “distinguish” から section <20> “contribute” を読み、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。これらの法律専門用語の使用を練習し身に付ける。これまでに配布した資料を読み復習する。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
5	5/4	Negotiations. Culture. Quiz #1 【交渉とは】 【交渉に影響を及ぼす文化とは】 【小テスト(1回目)】	コモンローとシヴィルローについて交渉と交渉に影響を及ぼす文化における相違点を比較し学修する。契約交渉スキル（日本型交渉に共通の誤り）について学修する。 授業の終わりに、第1回目から第4回目までの授業内容について的小テスト(1回目)を実施する。	
		この回の到達目標	アメリカ型交渉と日本型交渉の問題点を理解し、説明できるようになる。Study the vocabulary in section <21> “fail” to section <25> “suffer, damage.” Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms with mock negotiations and class discussion. 教科書の section <21> “fail” から section <25> “suffer, damage” の法的意味を理解し、説明できるようになる。模擬交渉とクラスディスカッションをとおしてそれらの使用を練習し身に付ける。	
		事前学修	Read text section <21>-<25>. Continue working on your company details and country. Prepare for the Quiz #1. Section <21>から<25>を読む。自分が選択した会社の詳細事項と国について調べ、情報を整理し、発表の準備をする。小テスト（1回目）の準備をする。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare for country presentations. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。選択した国についての発表の準備を進める。	60分
6	5/11	Contracts. Offer, Acceptance and Consideration. 【契約】 【契約の成立要件：申込、承諾と約因】	契約の成立要件である申込、承諾、及び約因に関する基本的な法理と専門用語の意味と使用する場面を理解し説明できるようになる。 契約の成立要件である申込、承諾、及び約因に関する基本的な法理と専門用語の意味と使用する場面を学修する。 契約の交渉シミュレーションと契約の成立要件についてグループを作りディスカッションを行う。 Feedback on the Quiz #1. 前回の授業で行った小テスト(1回目)についてフィードバック（講評）を行う。	
		この回の到達目標	契約の成立要件である「申込(Offer)」、「承諾(Acceptance)」及び「約因(Consideration)」の基礎的知識を身に付け、説明できるようになる。グループディスカッションと模擬交渉をとおしてそれらの概念を理解し、説明・使用できるようになる。教科書のsection <26> “derogate from” からsection <30> “confer” の法的意味を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み契約の成立のための各要件が果たしている役割について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。Read text section <26>-<30>. Continue to work on your company and country assignment. 教科書のsection <26> “derogate from” からsection <30> “confer” ままで読む。発表する会社と国についての発表の準備を続ける。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	60分
7	5/18	Contracts. General Terms. 【契約】 【一般条項】	Contracts. Learn and explain basic contract terminology and basic forms of the contract. 契約の基本的な条項と契約書の構造について学修する。 交渉シミュレーションをとおして、契約書の構造がどのように国際契約の交渉の流れに反映されているかを学修する。	
		この回の到達目標	Understand and explain section <31> “hire” to section <35> “conclude.” Continue working on your company and country project. Prepare for group presentations. 教科書のsection <31> “hire” からsection <35> “conclude” の法的意味を理解し、説明できるようになる。発表する会社と国についての発表の準備を続ける。グループ発表の準備を行う。契約の基本的な条項と契約書の構造について理解し、説明できるようになる。契約書の構造がどのように国際契約の交渉の流れに反映されているかを理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み国際契約の交渉の流れについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。Read text section <31>-<35>. Continue working on your company and country presentation. 教科書のsection <31>から<35>を読む。発表する会社と国についての発表の準備を続ける。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	60分
8	5/25	Contracts. Basics of Nondisclosure Agreements (NDA). 【契約】 【秘密保持契約の基本的知識】	秘密保持契約に関する基本的知識（Basics of Nondisclosure Agreements(NDA)）と、NDAの理解に必要な法律専門用語を学修する。 交渉シミュレーションをとおして、NDAの交渉の流れを学修する。 Group discussion of country and company project. 調べている会社と国についてグループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のsection <36> “despite” からsection <40> “putative” の法的意味を理解し、説明できるようになる。模擬交渉とクラスディスカッションをとおしてそれらの使用を練習し身に付ける。各グループの国についてのプレゼンテーションをとおしてコモンローとシヴィルローと文化の相違点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み秘密保持契約（NDA）の役割を調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。Read text section <36>-<40>. Continue working on your company details. 教科書のsection <36>から<40>を読む。会社の詳細について発表の準備を続ける。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your expanding legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。次回の授業でこれまで学修してきた専門用語を積極的に使用できるように準備をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
9	6/1	Contracts. Nondisclosure Agreements (continued). 【契約】 【秘密保持契約の交渉の流れ（続き）】	Nondisclosure Agreements (continued) 前回に続き、様々なNDAの交渉の流れを交渉シミュレーションをとおして学修する。
		この回の到達目標	Gain an understanding of the basic clauses found in a typical NDA agreement and be able to explain them. Read, understand and discuss section <41> “presumably” to section <45> “admittedly.” 典型的な秘密保持契約に見られる基本的条項を理解しそれらの内容を説明することができる。教科書のsection <41> “presumably” からsection <45> “admittedly” までを読み、理解し、自らの意見を示すことができる。
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み様々な産業セクターで国際秘密保持契約がどのような役割を果たしているのかについて調べ、その結果をノートに整理し、講義内容と比較・検討できるように準備する。 Read text section <41>-<45>. Continue working on your company details. 教科書のsection <41> “presumably” からsection <45> “admittedly” を読む。会社の詳細について発表の準備を続ける。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。
10	6/8	Contracts. Basics of Sales Agreements. Quiz #2 【契約】 【売買契約の基本的知識】 【小テスト(2回目)】	Overview of Sales Agreements. 売買契約に関する基本的知識を学修する。 交渉シミュレーションをとおして、国際売買契約の交渉の流れを学修する。 授業の終わりに、第6回目から第10回目までの授業内容について小テスト(2回目)を実施する。
		この回の到達目標	売買契約の基本的な知識を理解し、説明できるようになる。交渉シミュレーションをとおして、国際売買契約の交渉の流れを理解し、説明できるようになる。教科書のsection <46> “in fact, in actual fact, in reality” から section <50> “affirmatively” の法的意味について理解し、説明できるようになる。模擬交渉とクラスディスカッションをとおしてそれらの使用を練習し身に付ける。
		事前学修	Review your notes, the text and handouts. Read text section <46>-<50>. Prepare for the Quiz #2. 授業ノート、教科書、及び配布資料を見直す。教科書の section <46>から<50>を読む。小テスト（2回目）の準備をする。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。
11	6/15	Contracts. Sales Agreements(continued). 【契約】 【売買契約(続き)】	前回の授業に続き、交渉シミュレーションをとおして、基本的な国際売買契約の交渉の流れを学修する。 Feedback on Quiz #2. 前回の授業で行った小テスト(2回目)についてフィードバック（講評）を行う。
		この回の到達目標	Understand and explain the basics of a sales agreement. Gain an understanding of a basic sales agreements and discuss them in class. 交渉シミュレーションをとおして、国際売買契約の交渉の流れを理解し、より具体的に説明できるようになる。基本的な売買契約への理解を深め、クラスディスカッションで自らの意見を示すことができるようになる。
		事前学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Read text section <51>-<55>. Continue working on your company details. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。会社の詳細について発表の準備を続ける。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms on behalf of your company. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。会社の詳細について発表の準備を続け、その会社のために法律専門用語を使用して交渉する準備を行う。
12	6/22	Contracts. Mock Negotiations of Contracts. 【契約】 【模擬契約交渉】	Sales Agreements (continued)。売買契約について継続して学修する。 教科書のsection <56>から<60>の法的意味を学修し、模擬交渉と授業でのディスカッションでそれらの使用を身に付ける。
		この回の到達目標	Understand and explain section <56> to section <60> of the text. Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms with mock negotiations and class discussion. 教科書のsection <56> から<60>の法的意味を理解し、説明できるようになる。模擬交渉とクラスディスカッションでの練習をとおしてそれらの使用を身に付ける。
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み国際売買契約がどのような役割を果たしているのかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。 Read text section <56>-<60>. Continue working on your company details. 教科書のsection <56>から<60>までを読む。会社の詳細について発表の準備を続ける。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your expanding legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。次回の授業でこれまで学修してきた専門用語を積極的に使用できるように準備をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Contracts. Case Study. 【契約】 【判例研究】	Contracts. Case Study 1. (handout) 国際契約に関するアメリカの判例について配布資料を使用して学修する。	
		この回の到達目標	Be able to explain the salient points of the case and holding. Explain your thoughts on the holding. 配布資料にある判例について目立った特徴を説明することができるようになる。判決について自らの考えを示すことができるようになる。	
		事前学修	Read text section <61>~<63>. Continue working on your company details. 教科書のsection <61>から<63>を読む。会社の詳細について発表の準備を続ける。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができていないかを確認する。	60分
14	7/6	Contracts. Case Study (continued). Quiz #3. 【契約】 【判例研究(続き)】 【小テスト(3回目)】	Contracts. Case Study 2. (handout) 前回の授業に続き、国際契約について、新たなアメリカの判例に関する配布資料を使用し判例研究をする。 授業の終わりに、第11回目から第14回目までの授業内容について小テスト(3回目)を実施する。	
		この回の到達目標	Gain an understanding and be able to discuss the salient points of the case and holding. Explain your thoughts on the holding. 配布資料にある判例について目立った特徴を説明することができる。判決について自らの考えを示すことができる。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、これまで学んだ各国の国際契約へのアプローチの特徴をノートに整理し、各グループの発表内容と比較・検討できるように準備する。Continue working on your company and contract negotiation results for class presentation. クラスでの発表に向けて会社の詳細及び契約交渉の結果について発表の準備を続ける。小テスト(3回目)の準備をする。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare for your group presentation. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができていないかを確認する。	120分
15	7/13	Group Presentations. 【グループ発表】	Feedback on Quiz 3. 前回の授業で行った小テスト(3回目)についてフィードバック(講評)を行う。 Group Presentation and feedback. グループ発表を実施し、各グループに対するフィードバック(講評)を行う。	
		この回の到達目標	Each team will present their company, country and contract negotiation results. 各チームとも、会社、国及び契約交渉の結果について発表を行う。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、これまで学んだ各国の国際契約へのアプローチの特徴をノートに整理し、各グループの発表内容と比較・検討できるように準備する。Continue working on your company and contract negotiation results for class presentation. クラスでの発表に向けて会社の詳細及び契約交渉の結果について発表の準備を続ける。	120分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができていないかを確認する。	60分

科目名	法律外国語AⅡ【法律学科】	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際的な物品売買契約に適用されるウィーン売買条約（英文略称：CISG、英文正式名称：UNITED NATIONS CONVENTION ON CONTRACTS FOR THE INTERNATIONAL SALES OF GOODS、日本語名：「国際物品売買契約に関する国際連合条約」）における主要な条文の英語正文と公定訳の対訳を教材として、学校教育で学ぶ英語とは違う、基礎的かつ重要な英語による法律用語および言い回しを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来、英米法系の契約法を学修し、または、英文の契約書を取り扱うこととなった場合に、そこで用いられている基礎的かつ重要な英語による法律用語および言い回しを日本語で理解し、応用することができるようにする。

【履修条件】
授業内で実施する理解度確認テストおよび期末試験の合計が 60点以上であること。

【授業方法】		
講義は、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学修した内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話形式により進行するので、その質疑応答への積極的な参加が必要である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的に毎回、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学習した内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話形式により進行するので、予習が不可欠である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル				
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
①	英語の法律用語を理解し、それを日本語の法律用語で適切に説明することができる。【知識】	1					1		
②	英語の法的な言い回しを理解し、それを日本語の法律用語で適切に説明することができる。【知識】	1					1		
③	英語の法律用語を用いて、日本語の法律用語を適切に英訳することができる。【技能】	1					1		
④	英語の法的な言い回しを用いて、日本語の法的言い回しを適切に英訳することができる。【技能】	1					1		
⑤	英語の法律用語について、自分の意見を積極的に述べるすることができる。【態度・習慣】	1					1		
⑥	英語の法的な言い回しについて、自分の意見を積極的に述べるすることができる。【態度・習慣】	1					1		
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	後期の最終講義日に、到達目標①～④に関する記述式の 授業内後期末試験を実施する。	40										40
小テスト等	事前通告方式にて、後期の授業内に3回の理解度確認テ ストを実施する。 このテストは、前回までの講義内容で最低限理解して欲し い、到達目標①～④に関することについて、語群選択およ び正誤問題の方式で各5問を出題する。	20	20	20								60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義は、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学習し た内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話 形式により進行するので、その質疑応答への積極的な参加 が必要であり、上記の筆記試験やテストの得点とは別枠の 授業への参画度として加点要因とする。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
理解度確認テストについては、試験実施日の翌週の講義日に答案を返却して解説する。期末試験については、ポータルシステムにて解説を 配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代国際商取引』 一よくわかる理論と実務―	亀田尚己編著	文真堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義時間内または講義終了後に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9/15火	【ガイダンス】 導入講義		ウィーン売買条約における売主の義務および買主の義務、ならびに、危険の移転、履行の停止、損害賠償および当事者の免責などについて、その概要を学修する。 併せて、成績評価の方法を説明し、使用するテキストと参考文献を紹介する。 また、ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳を配布し、今後の学習教材とする。
		この回の到達目標	ウィーン売買条約の物品の売買における、売主の義務、売主の契約違反に対する買主の救済、および、買主の義務、買主の契約違反に対する売主の救済、ならびに、危険の移転、履行の停止、損害賠償、および、当事者の免責の概要について、条約の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書やその他の参考文献を読み、ウィーン売買条約における売主および買主の義務を調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、ウィーン売買条約における売主および買主の義務について、その概要をノートに整理する。	80分
2	9/22火	第25条～第27条		第25条【重大な契約違反】、第26条【解除の方法】および第27条【通信の遅延又は不到達】を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
3	9/29火	第28条～第29条		ウィーン売買条約の第28条【現実の履行を命ずる裁判】および第29条【契約の変更または終了】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
4	10/6火	第30条～第31条		ウィーン売買条約の第30条【売主の義務】および第31条【引渡し場所及び引渡義務の内容】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
5	10/13火	第35条		ウィーン売買条約の第35条【物品の適合性】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
6	10/20火	第45条		ウィーン売買条約の第45条【買主の救済方法】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27火	第53条～第54条 第60条～第61条	ウィーン売買条約の第53条【買主の義務】、第54条【代金支払義務】、第60条【引渡受領義務】および第61条【売主の救済方法】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
8	11/10火	第66条～第68条	ウィーン売買条約の第66条【危険移転の効果】、第67条【運送を伴う売買契約における危険の移転】および第68条【運送中の物品の売買契約における危険の移転】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
9	11/17火	第71条	ウィーン売買条約の第71条【履行の停止】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
10	11/24火	第74条	ウィーン売買条約の第74条【損害賠償の範囲】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
11	12/1火	第77条	ウィーン売買条約の第77条【損害の軽減】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
12	12/8火	第79条	ウィーン売買条約の第79条【債務者の支配を超えた障害による不履行】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/7火	後期において学修したすべての条文	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、学修する。併せて、後期末試験の出題範囲を発表する。	
		この回の到達目標	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、理解し、説明できる。	
		事前学修	後期の講義ノートレビューし、その内容を総復習し、重点ポイントを整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
14	7/14火	学生と教員との質疑応答	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、後期末試験の出題範囲を中心に学生と教員との間で質疑応答の形式により学修する。	
		この回の到達目標	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、後期末試験の出題範囲を中心に行われた学生と教員との質疑応答の内容を理解し、説明できる。	
		事前学修	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、後期末試験の出題範囲を中心に、疑問点があれば抽出し、準備する。	80分
		事後学修	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、後期末試験の出題範囲を中心に行われた学生と教員との質疑応答の内容をノートに整理する。	80分
15	7/21火	後期末授業内試験の実施 まとめ	後期の講義内容の重点ポイントについて、後期末授業内試験の実施する。	
		この回の到達目標	後期の講義内容の重点ポイントについて、理解し説明できる。	
		事前学修	後期の講義内容の重点ポイントについて、ノートを整理する。	80分
		事後学修	後期の講義内容の重点ポイントについて、後期末授業内試験の内容を自分のノートを中心に確認する。	80分

科目名	法律外国語AⅡ【経営法学科】	担当者	マイケル・アベ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
法律実務は言語に基づいており、かかる言語をどのように解釈又は理解するかに基づいている。国境を越えて繋がっている世界では、その法律実務に関わる専門用語に加え、国際ビジネスのリーダーが身に付けるべき重要なスキルとして、英語を追加的言語として使用する能力が求められる。本講義では、国際ビジネスで使用される法律の専門用語について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、以下の5点を目的とする。(1)主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(2)国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(3)特定の1つの国とその国の1つの会社を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。(4)想定された仮のビジネスについて行われる模擬国際交渉をとおして、上述の(3)で培った理解を尊重し、国際ビジネスの相手方との模擬交渉において生産的なコミュニケーションを取ることができる。(5)国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。

【履修条件】
特に履修条件は設けないが、国際契約・国際ビジネスに興味のある学生であればなお良い。

【授業方法】
事前学修の内容を前提に、配布資料をもとに、英語と日本語（主に英語）で講義を行う。Students will form teams to conduct team mock negotiations. Students may also form teams to give country presentations.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書と配布する資料に基づいたグループディスカッションや模擬交渉のロールプレイを行う。想定された仮のビジネスについて実施される模擬交渉をとおして、国際交渉の方法を学修する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。				1					1		
②	国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。				1					1		
③	特定の1つの国とその国の1つの会社を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。				1					1		
④	上述の③で培った理解を尊重し、国際ビジネスの相手方との模擬交渉において生産的なコミュニケーションを取ることができる。				1					1		
⑤	国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。				1					1		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内に行う前後期それぞれ3回の小テストにより、到達目標①、②、及び⑤についてそれぞれ理解し、自らの言葉で簡潔な説明と正確な記述ができているかを評価する。	10	10			10						30
レポート等												
討論・発表等	到達目標③についてグループでのプレゼンテーションの準備とプレゼンテーションを実施し、各国のビジネスの特徴を日本との比較において位置づけ、効果的な資料を作成・使用し、自らの言葉で簡潔に説明し、客観的な意見を示す能力が身についているかを評価する。			20								20
授業への参画度	授業中に事前学修に基づく質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準として、到達目標①から⑤について、積極的に学修する能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
その他()	到達目標③の模擬国際交渉において授業で学んだ法律専門用語を使用し相手方の国やビジネス文化を理解して適切なコミュニケーションをとることができるようになっているかを評価する。				25							25
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	25	30	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、実施した回の次の授業において講評する。模擬国際交渉は、その実施日に授業内において講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際交渉の法律英語ーそのまま文書化できる戦略的表現』	中村秀雄 ・野ロジュ ディー	日本評論社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
予約制とし、授業を行った教室で授業後に相談を受ける。予約のための連絡先（メールアドレス）は授業中に提示する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカと日本で25年間以上のあいだ法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		アメリカの複数の企業の企業弁護士として活動してきた実務経験に基づき、契約の交渉から実際の契約文書の作成、契約締結までのプロセスにおいて、アメリカのビジネス事情も合わせた授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/14	Class Overview American Jurisprudence 【授業の概観】 【アメリカ法学】	Class Overview. アメリカの法学と国際ビジネスの関係について学修する。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。
		この回の到達目標	Gain an understanding of the American legal system. Build legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. アメリカの法学と国際ビジネスとの関係を理解し、説明することができる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <1>-<5> and write 3 samples sentences to discuss in class. Think about a company you would like to represent for mock negotiations. 教科書の<1>から<5>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社について考えて授業ノートに要約する。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Practice using legal vocabulary. Think of a country you would like to study. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。法律専門用語の使用になれるために練習する。考察したい国について調べ授業ノートに要約する。60分
2	9/21	Contracts. Distributor Agreements(continued). Grant of Distribution Rights, Non-exclusivity, Territory. 【契約】 【販売店契約】 【販売権の付与、非独占性、販売地域】	販売店契約についてGrant of Distribution Rights, Non-exclusivity, Territory（販売権の付与、非独占性、販売地域）に関する合意に関して学修する。
		この回の到達目標	Understand and explain the basics of a distribution agreement. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 販売店契約の基本的知識を理解し、説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Read section <6>-<10> and write 3 sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and the goods you will sell. 教科書の<1>から<5>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社と販売する商品について考えて要約する。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。発表する会社の詳細と交渉の対象となる法的内容について準備を行う。60分
3	9/28	Contracts. Distributor Agreements (continued). Sub-distributors. Agents. 【契約】 【販売店契約の概要（続き）】 【副販売、代理店】	Overview of Distributor Agreements (2) Sub-distributors. Agents. 販売店契約について副販売と代理店販売に関して引き続き学修する。
		この回の到達目標	Gain an understanding of the sub-distribution right and use of agents in a distributor contract. Be able to explain these terms. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 販売店契約における副販売と代理店販売について理解し、これらの法律専門用語について説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <11>-<15> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<11>から<15>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社とその製品の販売の内容を創造し交渉の準備を行う。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。発表する会社の詳細と交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備を行う。60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
4	10/5	Contracts. Distributor Agreements (continued). Minimum Purchase Requirements, Incentives, Inventory. 【契約】 【販売店契約の概要（続き）】 【最低注文数量要件、販売手数料、在庫（のリスク）】	Overview of Distributor Agreements (3) Minimum Purchase Requirements, Incentives, Inventory. 販売店契約について最低注文数量要件、販売手数料、在庫（のリスク）に関する交渉も含め引き続き学修する。	
		この回の到達目標	Negotiate a distributor agreement for your company. Discuss any purchase requirements and incentives. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 会社のために販売店契約を交渉する能力を身に付ける。購入要件と販売手数料について交渉するための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。	
		事前学修	Please study textbook section <16>-<20> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<16>から<20>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社とその製品の販売の内容を創造し交渉の準備を続けて行う。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	60分
5	10/12	Contracts. Distributor Agreements (continued). International Negotiations. Quiz #1. 【契約】 【販売店契約の概要（続き）】 【国際交渉】 【小テスト（1回目）】	Distributor Agreements. Sales Promotions, Competing Products. Quiz #1. 販売店契約について販促活動、競合製品に関する交渉も含め引き続き学修する。 授業の終わりに、第1回目から第4回目（前回）までの授業内容について小テスト（1回目）を実施する。	
		この回の到達目標	Negotiate a distributor agreement for your company and discuss any sales promotions and competing products clauses. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 会社のために販売店契約を交渉し、販促活動と競合製品に関する条項について交渉するための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。	
		事前学修	Please study textbook section <21>-<25> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. Prepare for the Quiz #1. 教科書の<21>から<25>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で代理を希望する仮想の会社とその製品の販売の内容を創造し交渉の準備を行う。小テスト（1回目）の準備をする。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate the legal terms and conditions of the agreement. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、その会社のために法律専門用語を使用して交渉する準備を行う。	60分
6	10/19	Contracts. 【契約】 Distributor Arrangements. 【販売店契約の概要（続き）】	Distributor Agreements. Intellectual Property, Audit, Compliance with Laws. Feedback on the Quiz #1. 販売店契約について知的財産権、監査、法の順守に関する交渉も含め引き続き学修する。前回の授業で行った小テスト(1回目)についてフィードバック（講評）を行う。	
		この回の到達目標	Understand and explain intellectual property rights, audits and compliance with laws as they pertain to a distribution agreement. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 販売店契約に関する知的財産権、監査、及び法の遵守を理解し、説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。	
		事前学修	Please study textbook section <26>-<30> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<26>から<30>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で代理を希望する仮想の会社とその製品の販売について引き続き詳細を詰め交渉の準備を行う。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/26	Contracts. 【契約】 Distributor Arrangements (continued). 【販売店契約の概要（続き）】 Compliance with Laws, Foreign Corrupt Practices Act. 【法の順守、海外不正行為 防止法、契約の終了】	Distributor Agreements. Compliance with Laws, FCPA, Termination. 販売店契約について法の順守、海外不正行為防止法、契約の終了に関する交渉も含め引き続き学修する。
		この回の 到達目標	Finalize your negotiations and discuss the Foreign Corrupt Practices Act and termination clauses. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 交渉を完結し、海外不正行為防止法及び契約の終了に関する条項を交渉する知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <31>-<35> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<31>から<35>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理をしたい仮想の会社とその製品の販売について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。
8	11/2	Contracts. OEM. Manufacturing Agreements. Specification and Processes. 【契約】 【OEM】 【製造契約】 【仕様と工程】	OEM、製造、仕様と工程についての契約について学修する。
		この回の 到達目標	We will study OEM and manufacturer agreements. Become familiar with these types of agreements and be able to explain their use. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. OEM契約と製造契約について理解し、説明できるようになる。3つの種類の契約について理解し、説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <36>-<40> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<36>から<40>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社とその製品の販売について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。
9	11/9	Contracts. Manufacturers. Manufacturing Agreements. Subcontractors. Intellectual Property. 【契約】 【製造者】 【製造契約】 【下請人】 【知的財産権】	製造契約における下請人と知的財産権に関する合意の交渉について学修する。
		この回の 到達目標	Negotiate an OEM agreement for your company. Discuss use of subcontractors and intellectual property rights. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 会社のためにOEM契約を交渉するための知識と能力を身に付ける。下請人と知的財産権の利用について交渉するための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <41>-<45> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<41>から<45>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社とその製品の販売について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
10	11/16	International Negotiations. Manufacturing Agreements. Competing Products, Payment, Quality. Quiz #2. 【国際交渉】 【製造契約】 【競合製品、支払、質】 【小テスト（2回目）】	製造契約に関する国際交渉における競合製品、支払、及び質に関する合意の交渉について学修する。 授業の終わりに、第5回目から第9回目（前回）までの授業内容について小テスト（2回目）を実施する。
		この回の到達目標	Continue negotiating your OEM agreement and be able to defend whether you will allow competing products and quality standards. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. OEM契約の交渉を継続し、競合製品と品質標準について自社の利益を守るための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の仕様を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <46>-<50> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and a potential OEM arrangement. distribution of products. Prepare for the Quiz #2. 教科書の<46 >から<50>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社とOEM契約の可能性のある製品について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。小テスト（2回目）の準備をする。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。60分
11	11/23	International Negotiations. General Provisions. Governing Law, Venue, Language. 【国際交渉】 【一般条項】 【準拠法、法廷地、言語】	国際交渉における一般条項について学修し、一般条項として定められる準拠法、法廷地、準拠言語に関する合意の内容を学修する。Feedback on the Quiz #2. 前回の授業で行った小テスト(2回目)についてフィードバック（講評）を行う。
		この回の到達目標	Understand and explain why governing law, venue and governing language are important in negotiating contracts. Explain the benefits of choosing a venue and governing law. 契約交渉で、一般条項として、準拠法、法廷地、準拠言語についてあらかじめ合意する理由を理解し、説明できるようになる。法廷地と準拠法を選択する際の便益を理解し、説明できるようになる。
		事前学修	Please study textbook section <51>-<55> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<51 >から<55>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する会社とその製品の販売について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。60分
12	11/30	International Negotiations. Force Majeure, Assignment, Indemnity. 【国際交渉】 【不可抗力、譲渡、補償】	国際交渉における一般条項について、不可抗力、譲渡、補償に関する合意の内容を学修する。
		この回の到達目標	国際契約に定める不可抗力条項、譲渡条項、及び補償条項について基本的な知識を理解し、説明できるようになる。かかる条項を交渉をするための能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。チームのメンバーとこれらの条項の重要性について議論し、自らの意見を述べることができる。
		事前学修	Please study textbook section <56>-<60> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<56>から<60>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理をしたい会社とその製品の販売について引き続き交渉の準備を行う。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	12/7	Case Study. Litigation. Settlement of Disputes, Arbitration, Jurisdiction. 【判例研究】 【訴訟】 【和解、仲裁、管轄権】	訴訟における和解、仲裁、管轄権に関する判例を学修する。
		この回の到達目標	Digest and explain the salient points presented in the case study. Be able to argue your opinion even if it differs from the holding. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 研究した判例に示された目立った特徴を要約し説明することができるようになる。たとえ判決の見解と異なっていたとしても自らの立場を論じることができるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の仕様を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <61>-<63> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and the group presentation. 教科書の<61>から<63>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社について詳細を詰め模擬交渉に向けて引き続き準備を行う。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。60分
14	12/14	Case Study. Litigation (continued). Settlement of Disputes, Arbitration, Jurisdiction, Choice of Law. Quiz #3. 【判例研究】 【訴訟（続き）】 【和解、仲裁、管轄権、準拠法】 【小テスト（3回目）】	引き続き判例の研究をとおして和解、仲裁、管轄権、準拠法に関して学修する。 授業の終わりに、第10回目から第13回目（前回）までの授業内容について小テスト（3回目）を実施する。
		この回の到達目標	Discuss and explain how disputes are settled and the importance of choice of law and jurisdiction. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. Quiz #3. 紛争の解決方法と準拠法条項と管轄条項の重要性についてより深く理解し、説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語を身に付け、それらに対する理解を深化させる。
		事前学修	Please read the remainder of the text and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and prepare for the group presentation. Prepare for the Quiz #3. 教科書の残りの部分を読み、授業で議論する3つの例文を書く。仮想の会社の詳細についてグループ発表の準備を続ける。小テスト（3回目）の準備をする。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。120分
15	12/21	Case Study. Litigation (continued). Group Presentation. 【判例研究】 【訴訟（続き）】 【グループ発表】	前回に続き判例の研究をとおして和解、仲裁、管轄権、準拠法に関して学修する。 Feedback on the Quiz #3. 前回の授業で行った小テスト(3回目)についてフィードバック（講評）を行う。 Group Presentation and feedback. グループ発表を実施し、各グループに対するフィードバック（講評）を行う。
		この回の到達目標	Present your company and the results of mock negotiations. 会社、国及び契約交渉の結果について発表を行う。
		事前学修	Prepare for your class presentation. Review the class assignment, text, handouts and class notes. クラスでの発表の準備をする。授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直す。120分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直す。60分

科目名	簿記論Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記論Ⅱとあわせて履修することが望ましい。

【授業方法】		
授業内容の理解を深めるため、適宜問題演習を織り交ぜながら、講義を行う。なお、簿記の問題演習には電卓が必要となるので、授業には電卓を持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。					1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。						1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。					1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についている かを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は、授業内試験の場合は試験終了後に、定期試験の場合はポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記	大野智弘 編著	創成社	2020	教科書	必携
検定簿記ワークブック 3級	渡部裕亘、片山覚、 北村敬子（編著）	中央経済社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第一部 4/7	ガイダンスおよび簿記一巡の手続き		全体の授業計画の説明と、教科書Chapter1より簿記の全体像を学ぶ
		この回の到達目標	半期の授業計画を把握し、簿記手続きの全体像を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読するとともに、教科書Chapter1を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、簿記の全体像を説明できるようにする。	150分
2	第一部 4/14	勘定科目と分類		教科書Chapter2より勘定科目と分類を学ぶ
		この回の到達目標	簿記で用いる勘定科目とはどのようなものであり、具体的にどのような科目・分類があるかを把握する。	
		事前学修	教科書Chapter2を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、勘定科目と分類の全体像を説明できるようにする。	150分
3	第一部 4/21	取引と仕訳		教科書Chapter3より取引と仕訳を学ぶ
		この回の到達目標	簿記上の取引にはどのような経済事象が該当するかを理解し、それが仕訳という手続きによって表現される過程を理解する。	
		事前学修	教科書Chapter3を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、仕訳の基本的な形式を理解し、取引を仕訳できるようにする。	150分
4	第一部 4/28	転記		教科書Chapter4より転記を学ぶ
		この回の到達目標	簿記上の取引は、仕訳されたのちに仕訳で使用された各勘定科目へと、転記される。この基本的な手続きの流れを把握する。	
		事前学修	教科書Chapter4を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、仕訳から転記に至るまでの基本的な手続きの流れを身につける。	150分
5	第一部 5/5	試算表の原理		教科書Chapter5より試算表の原理を学ぶ
		この回の到達目標	仕訳と転記の正確性を検証するために作成される試算表について、その基本的な構造を理解する。	
		事前学修	教科書Chapter5を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、試算表作成のための基本的な手続きを身につける。	150分
6	第一部 5/12	精算表の仕組み		教科書Chapter6より精算表の仕組みを学ぶ
		この回の到達目標	精算表は、試算表から財務諸表作成までの一連の流れをシミュレートするために作成する表である。この精算表の基本的な構造を理解する。	
		事前学修	教科書Chapter6を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、試算表作成のための基本的な手続きを身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/19	損益計算書と貸借対照表の様式	教科書Chapter7より財務諸表の様式と基本的な作成の仕組みを学ぶ	
		この回の到達目標	損益計算書と貸借対照表という、主要な財務諸表の様式を把握し、それらの作成方法を身につける。	
		事前学修	教科書Chapter7を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、損益計算書および貸借対照表の作成手続きを身につける。	150分
8	第一部 5/26	現金預金	教科書Chapter8より現金預金取引の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	現金取引、普通預金取引および当座預金取引の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter8を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、現金預金取引の簿記処理を身につける。	150分
9	第一部 6/2	現金過不足と小口現金	教科書Chapter9より現金過不足と小口現金の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	現金過不足勘定を用いた処理と、インプレストシステムにおける小口現金取引の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter9を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、現金過不足および小口現金の簿記処理を身につける。	150分
10	第一部 6/9	商品売買：記帳方法	教科書Chapter10より商品売買の記帳方法を学ぶ	
		この回の到達目標	分記法と三分法の記帳方法を理解し、両者の違いを把握する。	
		事前学修	教科書Chapter10を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、分記法および三分法による簿記処理を身につける。	150分
11	第一部 6/16	手付、商品券、クレジット販売	教科書Chapter11より手付、商品券、クレジットによる商品販売の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	手付の授受による商品売買や、商品券・クレジットカードによる商品販売の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter11を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、手付、商品券・クレジット販売の簿記処理を身につける。	150分
12	第一部 6/23	約束手形と電子記録債権	教科書Chapter12より約束手形取引および電子記録債権取引の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	約束手形の振出や決済、電子記録債権の発生や決済の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter12を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、約束手形取引・電子記録債権取引の簿記処理を身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/30	貸倒れと貸倒引当金	教科書Chapter13より貸倒れと貸倒引当金の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	債権の貸倒れや貸倒引当金設定時の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter13を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、貸倒れおよび貸倒引当金の簿記処理を身につける。	150分
14	第一部 7/7	有形固定資産	教科書Chapter14より有形固定資産の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	有形固定資産の取得や売却、減価償却時の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter14を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、有形固定資産の取得・売却や減価償却の簿記処理を身につける。	150分
15	第一部 7/14	前期総括	複式簿記の基本から有形固定資産までの学修内容の確認とポイントの解説	
		この回の到達目標	簿記の基本的事項から、各論における具体的な簿記処理の内容を把握する。	
		事前学修	前期の学修内容を概観する。	120分
		事後学修	期末試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	簿記論Ⅰ	担当者	船越 洋之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記や会計に興味のある者。教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。電卓を用意できる者。

【授業方法】
教科書を使用する講義形式だが、問題演習も行うので、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。教科書にある問題は予習・復習に使うことができるようになっている。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。					1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。						1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。					1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト実施後に講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記（第2版）	大野智弘編著	創成社	2020年	教科書	必携
備考	4月に第2版が刊行されるので、それを購入のこと。昨年まで使用していたものは使用しない。				

【オフィスアワー】
非常勤講師ゆえ、金曜日 5・6 限授業終了後に授業講堂にて受け付ける（事前にメールでアポイントが必要）。なお、スポーツ系クラブ所属学生と就職活動に忙しい4年生については相談に乗るが、原則メールでの対応になる（すぐには返事できない場合あり）。メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部・第二部とも4/10金曜日	ガイダンス（簿記と会計の世界）、簿記検定、電卓	簿記と会計の世界を説明することによってこの科目を学ぶ意義を理解することができる。今後取得できる各種簿記検定について理解することができる。簿記実務電卓カシオ・AZ-26Sを紹介することによって、電卓の重要性を理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④と関連して、学問としての簿記や会計について理解することができる。	
		事前学修	シラバスをよく読むこと。教科書のはしがきを読むことで、簿記の学習で大切なことを把握できるよう準備すること。	90分
		事後学修	履修を決定したら、電卓を用意すること。簿記実務電卓カシオ・AZ-26S購入希望者は購入方法にしたがって購入すること。教科書の目次を見て自分なりの学習計画を検討すること。	150分
2	第一部・第二部とも4/17金曜日	簿記一巡の手続き	複式簿記の基本前提と一連の手続きの流れについて学ぶ。この授業で扱う日商簿記初級についてその内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、複式簿記の基本前提と簿記一巡の流れについて理解することができる。日商簿記初級について、その位置づけと設定目標について理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter1の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
3	第一部・第二部とも4/24金曜日	勘定の分類	勘定（資産・負債・資本・収益・費用）について、その役割を学ぶ。さらに日商簿記初級で出てくる勘定についてもその内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、勘定の意味と役割について理解することができる。日商簿記初級で出てくる勘定について説明することができる。	
		事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
4	第一部・第二部とも5/1金曜日	取引と仕訳の基礎	簿記上の取引と仕訳について、基本的な問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、簿記上の取引について説明することができる。さらに、仕訳の基本的な考え方を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
5	第一部・第二部とも5/8金曜日	取引と仕訳の応用	日商簿記初級レベルの仕訳について、応用的な問題を解くことで理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記初級レベルの仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
6	第一部・第二部とも5/15金曜日	転記のしくみ	総勘定元帳への転記についてそのしくみを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、転記のやり方を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter4の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部・第二部とも5/22金曜日	試算表の原理	試算表の意義と役割について学ぶとともに、実際に問題を解くことで知識の定着を図る。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、試算表の意義と役割を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter5の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
8	第一部・第二部とも5/29金曜日	損益計算書と貸借対照表の様式	財務諸表である損益計算書と貸借対照表の構造について学ぶ。当期純利益の2つの計算方法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、損益計算書と貸借対照表の構造を理解することができる。当期純利益の計算方法について理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter7の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
9	第一部・第二部とも6/5金曜日	普通預金、定期預金、小切手	普通預金、定期預金、小切手に関して、その概念と仕訳を中心に基本的処理のみ学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、普通預金、定期預金、小切手に関する基本的な仕訳について理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter8の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
10	第一部・第二部とも6/12金曜日	商品売買（三分法と返品）	商品売買の基本的処理方法である三分法に関して、その概念を学ぶ。さらに、返品処理も含めた仕訳について基本的処理のみ学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、三分法のしくみを理解することができる。さらに、返品処理を含めて仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter10の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
11	第一部・第二部とも6/19金曜日	商品売買（諸掛、内金・手付金、クレジット決済）	仕入や売上に付随して発生する諸掛、内金・手付金、クレジットカードによる決済ついて、その概念を学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、仕入諸掛、売上諸掛、前払金・前受金、クレジット売掛金についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter10と11の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
12	第一部・第二部とも6/26金曜日	約束手形と電子記録債権債務	約束手形と電子記録債権債務について、そのしくみを学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、受取手形・支払手形及び電子記録債権・電子記録債務についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter12の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	第一部・第二部とも7/3金曜日	有形固定資産と税金	有形固定資産と税金について、そのしくみを学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、未収入金・未払金、有形固定資産の取得、有形固定資産の売却、減価償却、租税公課、消費税についての仕訳を理解することができる。
		事前学修	教科書Chapter14と17の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。120分
14	第一部・第二部とも7/10金曜日	月次合計残高試算表	日商簿記初級で出てくる月次合計残高試算表について、そのしくみと構造を学ぶ。この回のみ補助プリントを配付し、そこにある問題を解くことで理解を深める。授業内試験について伝達する。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記初級レベルの月次合計残高試算表を解くことができる。
		事前学修	教科書Chapter18の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。120分
		事後学修	配付したプリントを解くことで復習しておくこと。（2時間）120分
15	第一部・第二部とも7/17金曜日	授業内試験実施とその解説	日商簿記初級レベルの授業内試験の実施（45分）及び試験の解説実施（30分）さらに成績評価と簿記原理Ⅱの説明（15分）。授業内試験は電卓のみ持込可とする。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、前期授業内容の総合的理解を確認することができる。
		事前学修	授業内試験に向けた復習を行うこと。180分
		事後学修	授業内試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。60分

科目名	簿記論Ⅰ	担当者	古市 雄一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
座学による講義および問題演習

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。					1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。					1	1					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についている かを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で解説

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
検定簿記ワークブック／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・ 北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	必携
検定簿記講義／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・ 北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後および電子メールにより対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	簿記の意義 講義の進め方	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財務諸表論の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	簿記を学ぶ意義と講義の狙いについて理解する。	
		事前学修	シラバスに目を通すとともに、教科書の各章の冒頭にある導入説明を読み、前期の講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/16	簿記の意義としくみ（1）	(1) 簿記の意義、(2) 簿記の基礎、(3) 貸借対照表について説明し、簿記の基礎について学習する。	
		この回の到達目標	簿記学習の基礎的前提を理解する。	
		事前学修	教科書・第1章の「簿記の意義」、「簿記の基礎」、「貸借対照表」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
3	4/23	簿記の意義としくみ（2）	(1) 損益計算書、(2) 貸借対照表と損益計算書の関係について説明し、簿記の基礎について学習する。	
		この回の到達目標	主要財務諸表の意義と相互の関連性について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
4	4/30	仕訳と転記（1）	(1) 勘定、(2) 取引の意義と種類、（3）取引の8要素と結合関係について説明し、複式簿記の基礎について学習する。	
		この回の到達目標	仕訳と元帳への転記の仕組みを理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
5	5/7	仕訳と転記（2）	(1) 仕訳と転記について説明し、複式簿記の基礎である仕訳および勘定への転記について学習する。	
		この回の到達目標	仕訳と元帳への転記が実際に行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
6	5/14	仕訳帳と総勘定元帳	(1) 帳簿の種類、（2）仕訳帳への記入、（3）仕訳帳から総勘定元帳への転記について説明し、前回は引き続き、複式簿記の基礎となる仕訳と転記について学習する。	
		この回の到達目標	主要簿と補助簿の関係について簿記の構造及び複式記入の優位性について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5/21	決算（１）		(1)試算表の作成について説明するとともに、複式簿記の基礎である仕訳および勘定への転記について学習する。
		この回の到達目標	継続記録と決算の関係について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
8	5/28	決算（２）		(1)決算の概要、（２）決算の手続、（３）帳簿決算の手順について説明し、帳簿上での決算について学習する。
		この回の到達目標	簿記について決算が果たす役割について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
9	6/4	決算（３）		(1)財務諸表の作成について説明し、帳簿決算から財務諸表の作成への手順について学習する。
		この回の到達目標	簿記一巡の流れを理解し、実際に決算の手続きを行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
10	6/11	現金と預金（１）		「現金」、「現金過不足」について説明し、現金勘定に関わる会計処理について学習する。
		この回の到達目標	簿記における現金と預金の意義について理解する	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
11	6/18	現金と預金（２）		「当座預金と当座借越」、「小口現金」について説明し、当座預金勘定および小口現金勘定に関わる会計処理について学習する。
		この回の到達目標	現金と預金に関する記録が行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
12	6/25	商品売買（１）		商品売買取引に係る会計処理について説明し、特に３分法について学習する。
		この回の到達目標	3分法の意義を理解し、記録が行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	商品売買（2）	商品売買取引に係る補助簿について説明し、補助簿について学習する。	
		この回の到達目標	主要簿と補助簿の関係について理解し、実際に記録が行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
14	7/9	決算（4）	決算手続における精算表の位置づけについて説明し、精算表の作成について学習する。	
		この回の到達目標	精算表の作成が行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
15	7/16	講義のまとめ	講義全体の内容を復習し簿記一連の手続きについて確認する。	
		この回の到達目標	簿記一連の手続きを理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う 定期試験に向けて講義全体を振り返り、十分に準備する。	120分

科目名	簿記論Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記論Ⅰとあわせて履修することが望ましい。

【授業方法】
授業内容の理解を深めるため、適宜問題演習を織り交ぜながら、講義を行う。なお、簿記の問題演習には電卓が必要となるので、授業には電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。						1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は、授業内試験の場合は試験終了後に、定期試験の場合はポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記	大野智弘 編著	創成社	2020	教科書	必携
検定簿記ワークブック 3級	渡部裕亘、片山覚、北村敬子（編著）	中央経済社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/15	簿記論Ⅰの学修内容の確認 および簿記論Ⅱの全体像の 確認	簿記論Ⅰにて学修した内容を復習しつつ、簿記論Ⅱで扱う論点の全体像を概観する	
		この回の 到達目標	簿記論Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
		事前学修	シラバスを熟読するとともに、教科書Chapter1～14を通読して、前期の学修内容を確認する。	90分
		事後学修	教科書Chapter1～14までの内容を、説明できるようにする。	150分
2	第一部 9/22	その他の債権と債務	教科書Chapter15より様々な債権債務に関する諸取引の簿記処理を学ぶ	
		この回の 到達目標	簿記で用いる勘定科目とはどのようなものであり、具体的にどのような科目・分類があるかを把握する。	
		事前学修	教科書Chapter15を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、各種債権債務取引の簿記処理を身につける。	150分
3	第一部 9/29	株式会社の資本金と繰越利益剰余金	教科書Chapter16より資本金や繰越利益剰余金の増減に関する取引の簿記処理を学ぶ	
		この回の 到達目標	株式会社の資本金や繰越利益剰余金の増減に関する取引の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter16を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、設立時や増資時、配当時の簿記処理を身につける。	150分
4	第一部 10/6	税金の処理および訂正仕訳	教科書Chapter17より株式会社における諸税金の処理と誤処理の修正仕訳を学ぶ	
		この回の 到達目標	費用として処理される諸税金や、法人税等の利益を課税標準とする税金に関する取引の仕訳と転記ができるようになる。また、誤って行われた仕訳の修正仕訳ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter17を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、各種税金の納付に関する簿記処理と、訂正仕訳の方法を身につける。	150分
5	第一部 10/13	試算表と掛明細表	教科書Chapter18より試算表と掛明細表の作成方法を学ぶ	
		この回の 到達目標	期中の取引内容を反映した試算表の作成ができるようになる。また、掛明細表による取引先別の掛代金残高が把握できるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter18を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、実践的な試算表の作成方法と掛明細表の作成方法を身につける。	150分
6	第一部 10/20	試算表の演習	教科書Chapter19より演習を通じて試算表の作成方法を修得する	
		この回の 到達目標	問題演習を通じて、検定試験レベルの試算表の作成ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter19を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、検定試験レベル試算表の作成能力を身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/27	売上原価と売上総利益の計算	教科書Chapter20より売上原価および売上総利益の計算構造を学ぶ	
		この回の到達目標	三分法による決算整理仕訳と、それによって売上原価が導出される過程を理解するとともに、売上総利益の計算構造を把握する。	
		事前学修	教科書Chapter20を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、三分法の決算整理と売上総利益を計算する仕組みを身につける。	150分
8	第一部 11/10	費用・収益の前払・前受・未払・未収	教科書Chapter21より費用・収益の繰延や見越の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	費用や収益の各項目について、前もって受払された部分を取り消す処理や、まだ受払されていない部分を追加計上する処理ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter21を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、費用・収益の前払・前受、未収・未払の簿記処理を身につける。	150分
9	第一部 11/17	決算整理事項と決算整理仕訳	教科書Chapter22より決算整理手続きの全体を概観する	
		この回の到達目標	これまで扱ったChapterに登場した決算整理手続きをひとまとめにして整理し、一連の決算整理仕訳ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter22を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、一連の決算整理事項の簿記処理を身につける。	150分
10	第一部 11/24	決算整理事項と八桁精算表	教科書Chapter23より八桁精算表における決算整理手続きを学ぶ	
		この回の到達目標	一連の決算整理仕訳を、八桁精算表の上で表現する方法を学び、精算表の基本構造が理解できるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter23を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、八桁精算表における決算整理仕訳の表現方法を身につける。	150分
11	第一部 12/1	八桁精算表の作成	教科書Chapter24より実践的な八桁精算表の作成方法を学ぶ	
		この回の到達目標	問題演習を通じて、検定試験レベルの精算表が作成できるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter24を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、検定試験レベルの精算表の作成能力を身につける。	150分
12	第一部 12/8	財務諸表の作成	教科書Chapter25より財務諸表の作成方法を学ぶ	
		この回の到達目標	問題演習を通じて、決算整理を踏まえて財務諸表が作成できるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter25を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、検定試験レベルの財務諸表の作成能力を身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/15	帳簿決算（英米式決算法による締切）	教科書Chapter26より帳簿決算の方法（締切まで）を学ぶ	
		この回の到達目標	年間の帳簿記入の締めくくりとして、帳簿の締切手続きと次期における開始記入ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter26を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、帳簿の締切手続きを身につける。	150分
14	第一部 12/22	決算整理手続きの総復習	演習問題を通じて精算表における決算整理手続きを修得する	
		この回の到達目標	問題演習を通じて、精算表による決算整理手続きの実施を完全に修得する。	
		事前学修	第10回および第11回の内容を復習して、理解が不十分な点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、有形固定資産の取得・売却や減価償却の簿記処理を身につける。	150分
15	第一部 1/12	後期総括	その他の債権と債務から帳簿決算までの学修内容の確認とポイントの解説	
		この回の到達目標	簿記の全体的な手続きの流れを把握する。	
		事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
		事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	簿記論Ⅱ	担当者	船越 洋之	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記や会計に興味のある者。教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。簿記原理Ⅰを学習済みであること。

【授業方法】		
教科書を使用する講義形式だが、問題練習も行うので、毎回、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。科目の性格上、続けて休むと理解することが困難になります。そのような場合には、早めに各自で授業内容のフォローをしておいてください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。						1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。						1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。								1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。								1	1				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト実施後に講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記 （第2版）	大野智弘編著	創成社	2020月	教科書	必携
備考	前期の簿記論Ⅰで使用した教科書を引き続き使用する。				

【オフィスアワー】
非常勤講師ゆえ、金曜日 5．6 限授業終了後に授業講堂にて受け付ける（事前にメールでアポイントが必要）。なお、スポーツ系クラブ所属学生と就職活動に忙しい4年生については相談に乗るが、原則メールでの対応になる（すぐには返事できない場合あり）。メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部・第二部とも9/18金曜日	前期の復習と帳簿決算	夏休みをはさんだので、簿記の知識を思い出してもらう目的で前期の復習を確認する。帳簿上で行われる決算手続きに関して学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、前期に学習した内容の振り返りを行うことができる。帳簿決算において行われる振替仕訳について理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter26の学習のポイントを読んでおくこと。さらに、前期学習した箇所を再度読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
2	第一部・第二部とも9/25金曜日	当座預金、現金過不足、小口現金	当座預金の銀行別管理、当座借越への振替え、現金過不足、小口現金に関して、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、当座預金〇〇銀行、当座借越、現金過不足、小口現金についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter8と9の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
3	第一部・第二部とも10/2金曜日	発送費の立替え、他者発行商品券、人名勘定	売上時の発送費の立替え、他者発行商品券、人名勘定に関して、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、発送費の立替え、受取商品券、〇〇商店勘定についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter10と11の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
4	第一部・第二部とも10/9金曜日	電子記録債権債務、貸倒引当金	債務者請求方式による電子記録債権債務と貸倒引当金に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、債務者請求方式、貸し倒れ、貸倒引当金についての概念と仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter12と13の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
5	第一部・第二部とも10/16金曜日	有形固定資産に関する応用処理	定額法による減価償却、月割計算、有形固定資産の売却、改良と修繕に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、定額法の計算、有形固定資産の売却、改良と修繕についての概念と仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter14の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
6	第一部・第二部とも10/23金曜日	その他の債権と債務	仮払い・仮受け、立替え・預かり、金融手形、法定福利費、差入保証金に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、仮払金・仮受金、立替金・預り金、手形貸付金・手形借入金、法定福利費、差入保証金についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter15の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部・第二部とも10/30金曜日	株式会社純資産、法人税等、訂正仕訳	株式会社の純資産構成、法人税等、訂正のための仕訳に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、資本金、繰越利益剰余金、利益準備金、法人税等、訂正仕訳についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter16と17の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
8	第一部・第二部とも11/6金曜日	日商簿記3級レベルの試算表	日商簿記3級でよく出題される合計残高試算表に関して、その作成方法を学習する。実際に問題を解くことでさらなる理解を深めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの合計残高試算表の作成方法を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter18と19の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
9	第一部・第二部とも11/13金曜日	売上原価と売上総利益の計算	三分法特有の売上原価に関する決算処理についての考え方を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、売上原価算定のための振替処理と売上総利益の計算について理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter20の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
10	第一部・第二部とも11/20金曜日	費用収益の繰延と見越	期間損益計算に従って生じる費用と収益の期間帰属に関してその考え方を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、費用収益の前払・前受・未払・未収についての概念と仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter21の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
11	第一部・第二部とも11/27金曜日	決算整理事項のまとめ	今まで学習した決算整理に関する事項の総復習を行うとともに、決算整理後残高試算表作成問題を解いていくことでさらなる理解を深めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、決算整理事項の確認と決算整理後残高試算表の作成を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter22の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
12	第一部・第二部とも12/4金曜日	日商簿記3級レベルの財務諸表の基本	日商簿記3級レベルの財務諸表の作成に関して、基本問題を基にその解き方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの財務諸表の作成方法の基本を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter25の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部・第二部とも12/11金曜日	日商簿記3級レベルの財務諸表の応用	日商簿記3級レベルの財務諸表の作成に関して、応用問題を基にその解き方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの財務諸表の作成方法の応用を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter25の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
14	第一部・第二部とも12/18金曜日	伝票式会計	伝票式会計に関してその概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。授業内試験について伝達する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、伝票を用いた会計システムのしくみと簿記上の処理を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter27の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
15	第一部・第二部とも12/25金曜日	授業内試験の実施とその解説	授業内試験実施（60分、教科書・ノート・電卓持込可）、試験の解説（30分）	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、後期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
		事前学修	授業内試験に向けた復習を行うこと。	180分
		事後学修	授業内試験について自己採点し、今後の学習（将来の日商簿記3級受験も含めて）に役立てること。	60分

科目名	簿記論Ⅱ	担当者	古市 雄一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
特にないが、最低限の簿記会計の専門用語に触れたことがあることが望ましい。

【授業方法】
座学による講義および問題演習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。						1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説授業を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
検定簿記講義／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	推奨
検定簿記ワークブック／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日授業終了後および電子メールにより対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	前期科目の振返りと講義の概要説明。	前期末の定期試験の講評を行う。また、前期に学習した内容について概観し、講義の進行方法や成績評価等について説明を行う。	
		この回の到達目標	講義の意義を理解する。	
		事前学修	学習予定の教科書の範囲について読み、後期の講義全体を俯瞰する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、理解できていない部分について教科書、講義ノートを読み返す。	120分
2	9/24	債権と債務（１）	売掛金と買掛金、前払金と前受金について説明し、商品売買取引における債権と債務の会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	簿記・会計における売掛金と買掛金の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
3	10/1	債権と債務（２）	受取手形と支払手形について説明し、商品売買取引における債権と債務の会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	簿記・会計における手形の処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
4	10/8	債権と債務（３）	その他の債権と債務について説明し、各々の債権と債務の会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	売掛金、買掛金、手形以外の簿記処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
5	10/15	債権と債務（４）	債権の譲渡（クレジット売掛金）、電子記録債権・債務について説明し、各々の会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	簿記・会計における電子債権等の処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
6	10/22	債権と債務（５）	債権の回収に係る貸倒れと貸倒損失、貸倒の見積もりと貸倒引当金の設定について説明し、会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	貸倒引当金の意義を理解し、実際の記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	固定資産（１）	有形固定資産の取得、売却および減価償却について説明し、有形固定資産の会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	簿記・会計における固定資産の処理の意義について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
8	11/5	固定資産（２）	前回の基本的な会計処理を踏まえて、有形固定資産の減価償却後の売却などについて学習する。	
		この回の到達目標	固定資産の処理に伴う各種記録を行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
9	11/12	株式会社会計	株式会社会計の基礎となる資本金、利益剰余金、剰余金の配当について説明し、会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	資本金の基本的な意義を理解し実際の記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
10	11/19	収益と費用	収益と費用、収益および費用の見越し・繰延べ、消耗品費の処理について説明し、会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	収益及び費用の意義を知り、実際の記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
11	12/3	税金	固定資産税など、法人税・住民税・事業税、消費税について説明し、会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	簿記・会計における税金の意義を知り、実際の記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
12	12/10	伝票	伝票会計について説明し、伝票を用いた会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	伝票を用いた記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	決算（５）	決算と決算手続について説明し、決算整理事項について学習する。	
		この回の到達目標	決算の意義について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
14	12/24	決算（６）	決算と決算手続にかかる試算表の作成、財務諸表の作成、精算表の作成の総合問題について説明し、答案練習を行う。	
		この回の到達目標	決算手続が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
15	1/14	講義のまとめ	講義全体を振り返り、情報記録システムとしての簿記が果たす役割について説明する。	
		この回の到達目標	簿記一巡の手続き及び決算の手続きを理解し、実際にそれを記録する事が出来る。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	講義全体の内容を確認し、定期試験の準備を行う。	180分

科目名	マーケティング論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
市場の形成、マーケティングの発生、企業によるマーケティング活動の内容につき体系的に講じる。とくにSTPと4Pを用いたマーケティング計画の具体的手順と実践につき理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、市場の形成、企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし。2年次以降に履修が可能となる「マーケティング戦略論」の履修には本単位の取得が条件となるため、本単位を1年次で履修することを推奨する。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	4～5名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	市場の形成の歴史的経緯について説明できる					2	2	1					
②	マーケティングの発生原理について説明できる					2	2	1					
③	製品・サービス戦略について説明できる					2	2	1					
④	価格デザインについて説明できる					2	2	1					
⑤	マーケティング・チャネル戦略について説明できる					2	2	1					
⑥	プロモーション戦略について説明ができる					2	2	1					
⑦	理論やフレームワークに基づき、マーケティング計画を立案できる							2					
⑧	他者へマーケティング計画を説明できる							2					
⑨	他者のマーケティング計画を批判的に検討できる							2					
⑩	成功した企業のマーケティング実践について説明できる					2	2						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施する。講義内で学習した内容の理解度を筆記試験を用いて測定する。	5	5	5	5	5	5	15	5	5	5	60
小テスト等	特に予定していない。											
レポート等												
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション），ケーススタディ，ゲスト講義などが含まれる。							10	10	10	10	40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	5	5	5	25	15	15	15	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に併せてフィードバックも行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナールマーケティング入門	石井・嶋口・栗木・余田著	日本経済新聞社	2013	参考書	推奨
備考	本書は参考書であり，講義内で毎回の使用はしない。				

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容	理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	マーケティングを大学で学ぶことの意義と本講義の目標	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
		この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
		事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
		事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	4月15日	マーケティングの発生、定義、原理	なぜそもそも企業においてマーケティング活動が必要なのだろうか。市場の形成とマーケティングの発生原理について理解する	
		この回の到達目標	①と②の関連において、市場の形成とマーケティングの発生原理について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。現実のマーケティング問題について新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	4月22日	マーケティング・マネジメント	企業内部におけるマーケティング活動の基本である4Pについて、その概要を理解する	
		この回の到達目標	②と⑧の関連において、マーケティング・マネジメントの必要性と内容について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。現実のマーケティング問題について新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	4月29日	コンセプトと製品・サービス (Product)	製品とサービスの開発手順に関して理解する。また顧客に提供する価値の中心を表現する「コンセプト」について理解する	
		この回の到達目標	③の関連において、とサービスの開発手順と「コンセプト」を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。自身の考えるヒット製品、サービスについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	5月6日	アクティブ・ラーニング① (グループ演習1)	実在する製品・サービスのコンセプトを立案する	
		この回の到達目標	③，⑦，⑧，⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたコンセプトを立案する	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
6	5月13日	価格のデザイン (Price)	価格のデザインの論理と手順について理解する	
		この回の到達目標	④の関連において、価格デザインの論理と手順を説明できる	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	マーケティング・チャネル (Place)	チャネル開発と管理の論理と実際について理解する。	
		この回の 到達目標	⑤の関連において、価格デザインの論理と手順を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。コンビニの棚割りを確認しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
8	5月27日	プロモーション(Promotion) ①	プロモーション（広告等を使った販売促進方法）の論理と手順について理解する。とくにデジタル・マーケティングについて解説する	
		この回の 到達目標	⑥の関連において、プロモーションの論理と手順を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。優れたプロモーションの事例を確認しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
9	6月3日	プロモーション(Promotion) ②	プロモーション（広告等を使った販売促進方法）の論理と手順について理解する。とくにデジタル・マーケティングについて解説する	
		この回の 到達目標	⑥の関連において、プロモーションの論理と手順を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。優れたプロモーションの事例を確認しておく	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
10	6月10日	消費者行動の理解①	消費者行動のメカニズムにつき、既存の複数のフレームワークを理解する	
		この回の 到達目標	⑦と⑩に関連し、消費者行動のメカニズムを説明できる	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
11	6月17日	消費者行動の理解②	消費者行動のメカニズムにつき、既存の複数のフレームワークを理解する。	
		この回の 到達目標	⑦と⑩に関連し、消費者行動のメカニズムを説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
12	6月24日	アクティブ・ラーニング② (グループ演習②)	消費者行動に基づきプロモーションを立案する	
		この回の 到達目標	⑥、⑦、⑧、⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたプロモーションを立案する	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備（2.0時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	アクティブ・ラーニング③ (ケーススタディ演習)	ケーススタディ：実在の企業ケースを用いた演習を行う。	
		この回の到達目標	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング企業の取り組みを説明できる	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	7月8日	アクティブ・ラーニング④ (ゲスト講義)	ケーススタディ：ゲストスピーカーによる講義（予定）	
		この回の到達目標	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング企業の取り組みを説明できる	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	7月15日	授業内試験とフィードバック	授業内試験を実施し、フィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標を授業内試験を通じて確認する	
		事前学修	試験の準備	240分
		事後学修	振り返り	60分

科目名	マーケティング論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
市場の形成、マーケティングの発生、企業によるマーケティング行動、流通のしくみなどにつき体系的に講じる。とくにブランド論と小売業の業態と戦略について講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、市場の形成、企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし。2年次以降に履修が可能となる「マーケティング戦略論」の履修には本単位の取得が条件となるため、本単位を1年次で履修することを推奨する。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	4～5名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また各自が独自に考案するマーケティング計画をレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員が質疑応答に参加する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	セグメント，ターゲティング，ポジショニング（STP）について説明できる					2	2	1					
②	STPと4Pの関係について説明できる					2	2	1					
③	市場調査の方法について説明できる					2	2	1					
④	ブランドについて説明できる					2	2	1					
⑤	流通のしくみについて説明できる					2	2	1					
⑥	多様な小売業態の特徴について説明ができる					2	2	1					
⑦	理論やフレームワークに基づき、マーケティング計画を立案できる							2					
⑧	他者へマーケティング計画を説明できる							2					
⑨	他者のマーケティング計画を批判的に検討できる							2					
⑩	成功した企業のマーケティング実践について説明できる					2	2						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	約5,000文字のレポート課題（個人演習）がある。自身でマーケティング計画を立案する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。	10	10					10	10	10	10	60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを5回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション），ケーススタディ，ゲスト講義，個人演習（プレゼンでの討論への参画）などが含まれる。							10	10	10	10	40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10					20	20	20	20	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に併せてフィードバックも行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナールマーケティング入門	石井・嶋口・栗木・余田著	日本経済新聞社	2013	参考書	推奨
備考	本書は参考書であり，講義内で毎回の使用はしない。				

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	マーケティングを大学で学ぶことの意義と本講義の目標	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
		この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる。	
		事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する。	120分
		事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する。	120分
2	9月23日	STP①	セグメント、ターゲティング、ポジショニング（STP）について説明できる。	
		この回の到達目標	①と②の関連において、STPについて説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備。有名な製品・サービスのSTPについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	9月30日	STP②	企業内部におけるマーケティング活動の基本である4PとSTPの関係ならびに市場調査の方法について理解する。	
		この回の到達目標	①、②、③の関連において、STPと4Pの関係ならびに市場調査の方法について説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備。有名な製品・サービスのSTPについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	10月7日	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）	STPを立案する。	
		この回の到達目標	①、②、⑦、⑧、⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたSTPを立案する。	
		事前学修	講義ノートの準備。有名な製品・サービスのSTPについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	10月14日	ブランド・マネジメント①	ブランドの機能と管理方法のついて理解する。	
		この回の到達目標	④の関連において、ブランドの機能と管理方法のついて説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備ならびに好きなブランドに関する情報収集。レポート準備	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備。レポート準備	120分
6	10月21日	ブランド・マネジメント②	ブランドの機能と管理方法のついて理解する。	
		この回の到達目標	講義ノートの準備ならびに好きなブランドに関する情報収集	
		事前学修	講義ノートの準備ならびに好きなブランドに関する情報収集。レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集。レポート準備	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	アクティブ・ラーニング② (グループ演習2)	実在のブランドに関してその強みを分析する。	
		この回の到達目標	④，⑦，⑧，⑨の関連において，グループのメンバーと協力して、時間内に当該ブランドを分析する。	
		事前学修	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集。レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備	120分
8	11月11日	流通のしくみ①	社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について理解する。	
		この回の到達目標	⑤の関連において，社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備。レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備	120分
9	11月18日	流通のしくみ②	社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について理解する。	
		この回の到達目標	⑤の関連において，社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備。レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備	120分
10	11月25日	小売業態の発展と競争①	様々な小売業態の特徴とその歴史的な発展につき理解する。	
		この回の到達目標	⑥に関連し、様々な小売業態の特徴とその歴史的な発展につき説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備。レポート準備（レポート提出日）	180分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	60分
11	12月2日	小売業態の発展と競争②	様々な小売業態の特徴とその歴史的な発展につき理解する。	
		この回の到達目標	⑦と⑩に関連し、消費者行動のメカニズムを説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
12	12月9日	アクティブ・ラーニング③ (ゲスト講義)	ケーススタディ：ゲストスピーカーによる講義（予定）。	
		この回の到達目標	⑥，⑦，⑧，⑨の関連において，グループのメンバーと協力して、時間内に優れたプロモーションを立案する。	
		事前学修	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング企業の取り組みを説明できる。	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	アクティブ・ラーニング④ (個人演習)	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論。	
		この回の到達目標	⑦, ⑧, ⑨, ⑩の関連において、優れたマーケティング計画を理解し説明できる。	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	12月23日	アクティブ・ラーニング⑤ (個人演習)	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論。	
		この回の到達目標	⑦, ⑧, ⑨, ⑩の関連において、優れたマーケティング計画を理解し説明できる。	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	1月13日	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する。	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する。	
		事前学修	自身の理解度に関する振り返り	120分
		事後学修	振り返り	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って講義を行う。必要に応じて講義資料を配信する（ポータルサイト）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び開設を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合には、定期試験の解説・講評を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『新ハイブリッド民法Ⅰ 民法総則』	小野秀誠、良永和隆 他3名	法律文化社	2018年	教科書	必携
『民法判例百選Ⅰ 総則・物権[第8版]』	潮見佳男・道垣内弘 人編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日 12：10～13：00 研究室(4号館3階431研究室)

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	ガイダンス、民法の体系と概要	民法の体系を概観し、私法の一般法・民法の体系・民法の各編の概要と関係について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の体系について簡単に説明することができる。	
		事前学修	教科書序「民法を学ぶあたって 民法の体系の概観」を読んで、民法の体系について内容を確認しておく。	120分
		事後学修	民法の各編の概要についてまとめ、各編の関係についてノートにまとめておく。	120分
2	第一部火 9/15	民法の法源	民法の法源：民法典、民法の特別法、民法の口語化、慣習法・判例法・条理、民法の解釈：解釈基準、民法の効力について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の解釈基準の基礎的な考え方について説明し、簡単な文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第1章民法の意義と一般的内容「民法の法源、民法の解釈、民法の効力」を読んで、慣習法・判例法・条理の違いについてまとめておく。	120分
		事後学修	講義中に示された判例の事案と判旨をまとめ、民法の解釈基準についての考え方をノートにまとめておく。	120分
3	第一部火 9/22	民法上の権利	民法上の権利：権利の体系、私権の種類、私権の行使・信義則・権利の濫用の禁止、民法の指導原理と効力：民法の基本原則・指導原理、民法1条について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法における権利の種類について説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章民法の意義と一般的内容「民法上の権利、民法の指導原理と効力」を読んで、民法の基本原則と指導原理についてまとめておく。	120分
		事後学修	私権の種類についてノートにまとめ、民法1条の基本的な考え方について整理しておく。	120分
4	第一部火 9/22	民法における能力	権利能力：権利能力の意義、権利能力の始期、胎児、権利能力の終期、意思能力と行為能力(制限行為能力者制度)：意思能力、制限行為能力者制度、未成年者について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法における能力の種類につき説明し、文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第2章人「権利能力、意思能力と行為能力(意思能力、制限行為能力者制度の意義と行為能力、未成年者)」を読んで、権利能力・意思能力・行為能力の違いについてまとめておく。	120分
		事後学修	未成年者の消費者被害の状況についてインターネットで調査して自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
5	第一部火 9/29	意思能力と行為能力	意思能力と行為能力(制限行為能力者制度の創設、成年被後見人、被保佐人、被補助人、審判相互の関係、任意後見制度、制限行為能力者の相手方の保護)を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思能力と行為能力の違いについて文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第2章人「意思能力と行為能力(制限行為能力者制度の創設、成年被後見人、被保佐人、被補助人、審判相互の関係、任意後見制度、制限行為能力者の相手方の保護)」を読んで、成年後見制度についてまとめておく。	120分
		事後学修	高齢者の消費者被害の状況についてインターネットで調査して自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
6	第一部火 9/29	失踪宣告	住所：住所、居所・仮住所、不在者の財産管理、失踪宣告：失踪宣告の意義・失踪宣告の要件・失踪宣告の効果・失踪宣告の取消しと遡及効について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、住所、居所・仮住所、失踪宣告などについて説明することができる。	
		事前学修	教科書第2章人「住所、不在者の財産管理、失踪宣告」を読んで、失踪宣告の手続きについてまとめておく。	120分
		事後学修	失踪宣告が必要とされる場面について整理をし、簡単な説明ができるようにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/6	法律行為	法律行為の意義：法律行為の意味、法律行為の分類、法律行為の成立、準法律行為、法律行為の解釈：当事者の真意の探求と信義則、事実たる慣習、任意法規について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為の法的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第5章法律行為「法律行為の意義、法律行為の解釈」を読んで、法律行為とは何かについて考えてみる。	120分
		事後学修	法律行為の意味、法律行為の分類についてノートにまとめ、具体的な事例にどのようなものがあるかについて考える。	120分
8	第一部火 10/6	公序良俗	法律行為の限界－強行規定および公序良俗：法律行為の限界、公序良俗、公序良俗の分類、強行規定、取締規定、脱法行為について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公序良俗の考え方について説明し、事例をあげることができる	
		事前学修	教科書第5章法律行為「法律行為の限界－強行規定および公序良俗」を読んで、強行規定と任意法規の違いについて考えてみる。	120分
		事後学修	公序良俗が適用される具体的な場面について、教科書を復習しつつノートにまとめる。	120分
9	第一部火 10/13	意思表示	意思表示の意義と構造：意思表示とは何か、意思の不存在と瑕疵ある意思表示を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思の不存在と瑕疵ある意思表示の違いについて具体的な事例を挙げながら説明することができる、	
		事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の意義と構造、意思表示の意義」を読んで、意思表示の構造について内容を確認する。	120分
		事後学修	意思表示の基本的な考え方について整理するとともに、具体的な事例をあげて基礎的な説明ができるようにしておく。	120分
10	第一部火 10/13	心裡留保、虚偽表示	意思表示の有効性：心裡留保、虚偽表示について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、心裡留保と虚偽表示について具体的な事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の有効性：心裡留保、虚偽表示」を読んで、心裡留保と虚偽表示の違いについて考えてみる。	120分
		事後学修	心裡留保と虚偽表示の違いについて、具体的な事例をあげてその解決方法の違いについて基本的な説明ができるように整理しておく。	120分
11	第一部火 10/20	錯誤・脅迫	意思表示の有効性：錯誤、詐欺、強迫について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤・詐欺・脅迫について具体的な事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第6章「意思表示の有効性：錯誤、詐欺、強迫」を読んで、詐欺と強迫の違いについて整理する。	120分
		事後学修	詐欺と強迫の違いについて、具体的な事例をあげてその解決方法の違いについて基本的な説明ができるように整理しておく。	120分
12	第一部火 10/20	意思表示の効力	意思表示の効力発生時期：問題点、問題へのアプローチ、民法が採用する考え方、表意者の死亡・意思能力の喪失・行為能力の制限、意思表示の受領能力について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示の効力発生時期について具体的に文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の効力発生時期」を読んで、何が問題となっているのかについて整理する。	120分
		事後学修	意思表示の効力発生時期について、具体的な場面を想定して、その解決方法を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 10/27	前半講義まとめ	第1回講義から第12回講義までのまとめをするとともに、前期振り返りのための確認テストを実施し、あわせて解説を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を理解することができる。	
		事前学修	これまでの授業で分からなかったところを書き出しておく。	120分
		事後学修	振り返り確認テストにつき講義で解説されたことをノートにまとめる。	120分
14	第一部火 10/27	代理の意義	序説：代理の意義、代理の種類、代理に類似する制度、代理に親しまない行為(代理既定の適用範囲)について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理の基本的考え方について説明することができる。	
		事前学修	教科書第7章代理「序説：代理の意義、代理の種類、代理に類似する制度、代理に親しまない行為」を読んで、代理の法律関係を図式化してみる。	120分
		事後学修	代理の意義、代理の種類について整理し、具体的な契約の場面で想定される代理についてインターネットで検索する。	120分
15	第一部火 11/10	代理の法律関係	代理の法律関係：代理権(本人・代理人間)、代理行為(代理人・相手方間)、代理行為の効果(本人・相手方間)について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理権・代理行為・代理行為の効果について具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第7章代理「代理の法律関係：代理権、代理行為、代理行為の効果」を読んで、代理の法律関係を図式化してみる。	120分
		事後学修	代理の法律関係について整理し、具体的な契約関係を想定して、当事者間の法的関係を図式化して整理する。	120分
16	第一部火 11/10	復代理	復代理：復代理の意義、復任権、復代理人の過誤に対する代理人の責任、復代理の法律関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理と復代理の違いについて具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第7章代理「復代理：復代理の意義、復任権、復代理人の過誤に対する代理人の責任、復代理の法律関係」を読んで、復代理の法律関係について図式化してみる。	120分
		事後学修	復代理の法律関係について整理し、具体的な契約関係を想定して、当事者間の法的関係を図式化して整理する。	120分
17	第一部火 11/17	無権代理の意義	無権代理：無権代理の意義、本人の追認・追認拒絶、相手方の催告権・取消権について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第7章無権代理「無権代理：無権代理の意義、本人の追認・追認拒絶、相手方の催告権・取消権」を読んで無権代理の仕組みについて整理しておく。	120分
		事後学修	無権代理の法律関係について整理したうえで、具体的な場面を想定し、無権代理の法律関係が説明できるようにまとめておく。	120分
18	第一部火 11/17	無権代理と相続	無権代理：無権代理人の責任、無権代理と相続、単独行為の無権代理について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の発展的事例について具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第7章無権代理「無権代理：無権代理人の責任、無権代理と相続、単独行為の無権代理」を読んで無権代理人の責任について整理しておく。	120分
		事後学修	無権代理人と相続について、講義で紹介された判例について事案と判旨をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部火 11/24	表見代理の意義	表見代理：表見代理の意義、代理権授与の表示による表見代理、権限外の表見代理について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第7章表見代理「表見代理：表見代理の意義、代理権授与の表示による表見代理、権限外の表見代理」を読んで表見代理の仕組みについて整理しておく。	120分
		事後学修	表見代理の法律関係について整理したうえで、具体的な場面を想定し、表見代理の法律関係が説明できるようまとめる。	120分
20	第一部火 11/24	表見代理の類型	表見代理：代理権消滅後の表見代理、重畳適用、無権代理と表見代理の関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の類型について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第7章表見代理「表見代理：代理権消滅後の表見代理、重畳適用、無権代理と表見代理の関係」を読んで代理権消滅後の表見代理について法律関係を整理しておく。	120分
		事後学修	表見代理の法律関係について整理したうえで、無権代理と表見代理の関係について説明できるようにまとめる。	120分
21	第一部火 12/1	無効と取消し	無効と取消し：無効取消しの概念(2つの効果の相違、無効と取消しの二重効、無効または取消しの効果)、無効、取消しについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無効と取消しの違いについて具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第8章「無効と取消し：無効取消しの概念、無効、取消し」を読んで、無効と取消しの違いについて整理しておく。	120分
		事後学修	具体的な契約事例ごとに、無効と取消しの法的効果がいずれが該当するかについて整理する。	120分
22	第一部火 12/1	条件と期間	付款の意義、条件(条件の意義、停止条件と解除条件、条件に親しまない行為、条件付き法律行為の効力、特殊な条件)、期限(期限の意義、条件と不確定期限、期限に親しまない行為、期限付き法律行為の効力、期限の利益)、期間(期間の意義、期間の計算方法)について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件と期間の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第9章条件と期限、期間「付款の意義、条件、期限、期間」を読んで、契約に条件が付けられる場合について具体的な事例をあげてみる。	120分
		事後学修	条件付き契約の類型について整理するとともに、具体的な契約の場面について書き出してみる。	120分
23	第一部火 12/8	時効制度の意義	時効制度の意義、時効の援用と時効利益の放棄(時効の援用と援用権者、時効利益の放棄)、時効の完成猶予と時効の更新(時効障害事由の再構成、時効の完成猶予と完成猶予事由、時効の更新、時効の完成猶予または時効の更新の及ぶ者の範囲)について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第10章時効「時効制度の意義、時効の援用と時効利益の放棄、時効の完成猶予と時効の更新」を読んで、時効の存在理由についてまとめる。	120分
		事後学修	時効の援用と利益の放棄、完成猶予と更新について、具体的な事例をあげて考え方を整理する。	120分
24	第一部火 12/8	取得時効	取得時効：取得時効の意義、所有権の取得時効、所有権以外の権利の取得時効について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第10章時効「取得時効：取得時効の意義、所有権の取得時効、所有権以外の権利の取得時効」を読んで、取得時効の類型について整理する。	120分
		事後学修	取得時効について考え方を整理したうえで、具体的事例をあげて考え方を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部火 12/15	消滅時効	消滅時効：消滅時効の意義、消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件、消滅時効の効果、消滅時効に関連、類似する制度について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第10章時効「消滅時効：消滅時効の意義、消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件、消滅時効の効果、消滅時効に関連、類似する制度」を読んで、消滅時効を類型別に整理する。	120分
		事後学修	消滅時効について、具体的事例をあげて要件・効果をノートに整理する。	120分
26	第一部火 12/15	法人の種類	序説：法人の種類、法人の設立について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法人の種類について具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章法人「序説：法人の種類、法人の設立」を読んで、法人の種類を整理しておく。	120分
		事後学修	興味のある法人を選んで、当該法人の種類を調べるとともに、法人の設立について整理しておく。	120分
27	第一部火 12/22	法人の能力	法人の能力、一般法人法、公益法人法、外国法人について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法人の能力について具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章法人「法人の能力、一般法人法、公益法人法、外国法人」を読んで、法人の能力であげられる具体的事例を整理する。	120分
		事後学修	一般法人と公益法人の違いについて整理するとともに、法人の能力について類型別に整理する。	120分
28	第一部火 12/22	権利の客体	権利の客体、動産・不動産、主物・従物、元物・果実について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、権利の客体について具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章物「権利の客体、動産・不動産、主物・従物、元物・果実」を読んで、それぞれの類型別に整理する。	120分
		事後学修	権利の客体である「物」を具体的事例をあげて再度整理をし直す。	120分
29	第一部火 1/12	判例解説	講義のまとめと、民法改正、最近の判例についての解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義で解説された判例について文章にまとめることができる。	
		事前学修	これまでの講義についてよくわからなかったところを書き出しておく。具体的事例に対する条文の適用で不明確な点を整理しておく。	120分
		事後学修	講義で解説された内容をノートにまとめ、判例については事案、法的問題点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う。	120分
30	第一部火 1/12	民法総則のまとめ	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。 定期試験を実施する場合：前期学習内容の振り返り。解説については定期試験終了後ポータルサイトに配信する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでわからなかったことが理解でき、ノートに文章をまとめることができる。	
		事前学修	前回の疑問点が解決されているかを確認し、第29回の講義での解説で残された疑問点を整理し、事後学習の成果をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）【法曹コース】	担当者	加藤 雅之	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。 もっとも、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。 私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および 債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
教科書および講義資料（ポータルシステムを通じて配布予定）を用いて講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。										1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験について、採点後の答案を返却した上で解説講義を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則〔補訂版〕	原田昌和、寺川永、 吉永一行]	日本評論社[	2018	教科書	必携
民法の基礎 1 総則〔第4版〕	佐久間毅	有斐閣	2018	参考書	任意
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館2階423研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15火	ガイダンス，民法総説	授業の進め方および成績評価方法について説明する。 民法とはどのような法律かについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法典の中で民法総則がどのような位置を占めているかが説明できる。	
		事前学修	授業の対象となる領域を確認しておくこと。	120分
		事後学修	民法とはどのような法律か，および，そのうち民法総則はどのような問題を扱うか，について答えられるようにする	120分
2	9/16水	法体系における民法の位置，民法の全体像	民法総則の基本事項の確認，民法の全体像	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，民法総則の基本事項や民法の全体像について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
3	9/22火	意思表示・法律行為総説，心裡留保および虚偽表示	意思表示・法律行為総説，心裡留保，虚偽表示について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，意思表示・法律行為の意義や心裡留保，虚偽表示について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
4	9/23水	意思表示に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，意思表示・法律行為概念の意義および解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，意思表示・法律行為という概念に関する解釈上の問題とそれに対する見解を具体的に説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
5	9/29火	錯誤，詐欺・強迫	錯誤，詐欺・強迫に関する規定の内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，錯誤，詐欺，強迫に基づく意思表示について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
6	9/30水	錯誤と詐欺に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，錯誤および詐欺に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，錯誤または詐欺による意思表示の効力に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6火	法律行為の有効要件	法律行為の内容の確定と有効要件について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律行為の内容の確定と有効要件について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
8	10/7水	法律行為の有効要件に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、法律行為の有効要件に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為の有効要件に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
9	10/13火	条件・期限、無効・取消し	条件・期限の付された法律行為の効力および無効・取消しの相違について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条件・期限の意義、無効と取消しの相違について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
10	10/14水	条件・期限に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、条件・期限に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件・期限に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
11	10/20火	権利の主体としての人	権利主体としての人に関する権利能力、意思能力および行為能力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利能力、意思能力および行為能力について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
12	10/21水	意思能力・行為能力に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、意思能力および行為能力に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思能力および行為能力に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27火	小括－基本事項の確認	これまでの内容に関する理解度を確認するために、基本的事項に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの内容に関する基本的事項を説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を振り返り、民法の規定を中心に基本的事項の理解を確認する。	120分
		事後学修	小テストの解説を参考にして、自らの解答を振り返り、理解が足りない部分を補っておく。	120分
14	10/28水	小括－解釈上の問題の検討	これまでの内容に関する発展的な事例を題材として、質疑応答やグループワークにより各自の理解度を高める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する解釈上の問題とそれに対する見解を説明できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を振り返り、解釈上の問題を確認する。	120分
		事後学修	授業で得た知見を基に、解釈上の問題について自分なりの考えをまとめる。	120分
15	11/10火	代理総説、有権代理	代理制度の基本構造について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理の内部関係・外部関係について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
16	11/11水	代理に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、代理に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
17	11/17火	無権代理・表見代理	無権代理の法律関係および表見代理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無権代理行為が行われた場合の法律関係について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
18	11/18水	無権代理に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、無権代理に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/24火	時効	時効制度の基本構造，時効の完成を妨げる事由について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，時効制度の仕組みについて説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
20	11/25水	時効に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，時効に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，時効に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
21	12/1火	法人	法人の意義・種類，法人の行為の効力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，法人制度の概略について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
22	12/2水	法人に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，法人に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，法人に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
23	12/8火	第三者保護の問題	法律行為の無効・取消しと第三者の保護について学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，法律行為の無効・取消しと第三者の保護をめぐる論点について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
24	12/9水	第三者保護に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，第三者保護の問題に関する判例法理とその問題点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して，法律行為の無効・取消しと第三者の保護をめぐる論点について考察し，課題を探求できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
25	12/15火	私権の行使に対する制限	私権の行使を制限する規定の内容について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、信義則および権利濫用の禁止をめぐる論点について考察し、課題を探求できる。
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。120分
26	12/16水	一般原則に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、一般条項の適用と解釈上の問題について学修する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、一般条項の適用および関係する論点について考察し、課題を探求できる。
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。120分
27	12/22火	まとめと授業内試験	民法総則に関する理解度を確認するために筆記試験を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する総合的問題について考察し、課題を探求できる。
		事前学修	対象範囲全体について、教科書、講義資料およびノートを参考にして、重要と思われる点を確認しておく。120分
		事後学修	試験問題をノートや教科書等を参考に再検討する。120分
28	12/23水	授業内試験の解説	授業内試験の解説をするとともに、質疑応答等により理解度を深める。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する総合的問題について考察し、課題を探求できる。
		事前学修	授業内試験について、自分なりの模範解答を準備する。120分
		事後学修	解説講義を受けて、自らの理解度を確認し、足りない部分を補う。120分
29	1/12火	民法総則の意義と物権法・債権法への	民法総則の内容を復習することにより、物権法および債権法を理解する上で必要となる事項を学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の構造、物権法および債権法の基本的な考え方について説明できる。
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。120分
30	1/13水	民法の現代的課題	現代的問題を題材に、民法が直面する課題について検討する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の現代的課題を説明し、それに対する解決策を探求することができる。
		事前学修	これまでの授業内容を復習し、不明な点があれば、あらかじめまとめておくこと。120分
		事後学修	授業全体を通じて得られたものを再確認しておくこと。120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	清水 恵介	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
教科書およびポータルシステムにて配信する講義資料を用いて講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則〔第2版〕	中舎寛樹	日本評論社	2018	教科書	必携
民法入門・総則〔第5版〕	永田眞三郎ほか	有斐閣	2018	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/21	ガイダンス，民法総則の構造と民法の歴史	履修条件を満たし得ることを確認した上で，シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標，授業方法，成績評価の基準，教科書・参考書について説明し，次回以降，受講生が授業に参加できるよう，その準備や心構えを促すとともに，民法総則の構造と民法の歴史について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法総則の構造と民法の歴史について説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し，授業概要を踏まえつつ，各回の授業内容を読み込む。	120分
		事後学修	授業での説明内容を確認し，教科書・参考書・六法・ノートの購入等，受講に向けた具体的準備を行うとともに，教科書第1章・第2章（1～26頁）を読み，授業のテーマについて再検討する。	120分
2	4/24	基礎①：民法の基本原則，権利の主体・客体	民法の基本原則，民法における権利の主体と客体について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法の基本原則，権利の主体・客体について説明できる。	
		事前学修	教科書第3章・第4章（27～59頁）を読み，民法の基本原則について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
3	4/28	基礎②：法律行為総論	権利変動の原因と法律行為，法律行為の種類，準法律行為，法律行為の成立要件・有効要件について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，法律行為の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第5章（60～73頁）を読み，法律行為の基本的仕組みについて考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
4	5/1	基礎③：契約の成立，条件・期限	法律行為・意思表示の効力発生時期，契約の成立時期，条件，期限について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，契約の成立，条件・期限について説明できる。	
		事前学修	教科書第7章（88～111頁）を読み，契約の成立，条件・期限について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
5	5/5	基礎④：契約の無効原因	法律行為遵守の原則を説明した上で，法律行為の実現不可能性，法律行為の不完全性について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，契約の無効原因について説明できる。	
		事前学修	教科書第8章（112～126頁）を読み，契約の無効原因について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
6	5/8	基礎⑤：意思能力，行為能力	意思無能力，制限行為能力者制度，成年後見制度，任意後見制度について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，意思能力，行為能力について説明できる。	
		事前学修	教科書第9章（127～152頁）を読み，意思能力，行為能力について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/12	基礎⑥：虚偽表示	意思表示の意義・構造・基本原理について説明した上で、心裡留保、虚偽表示について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、虚偽表示について説明できる。	
		事前学修	教科書第10章～第12章（153～191頁）を読み、虚偽表示について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
8	5/15	基礎⑦：錯誤	錯誤の意義・要件・効果、基礎事情錯誤について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、錯誤について説明できる。	
		事前学修	教科書第13章（203～222頁）を読み、錯誤について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
9	5/19	基礎⑧：詐欺・強迫	詐欺、強迫、第三者の保護について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、詐欺・強迫について説明できる。	
		事前学修	教科書第14章（223～231頁）を読み、詐欺・強迫について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
10	5/22	基礎⑨：強行法規、公序良俗	強行法規違反、公序良俗違反の意義・効果について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、強行法規、公序良俗について説明できる。	
		事前学修	教科書第16章（246～270頁）を読み、強行法規、公序良俗について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
11	5/26	基礎⑩：無効・取消し	無効の多様化、無効行為の転換、取消後の法律関係、二重効について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無効・取消しについて説明できる。	
		事前学修	教科書第17章（271～297頁）を読み、無効・取消しについて考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
12	5/29	基礎⑪：代理総論	他人による法律行為の諸態様、代理の意義・要件、代理権の授与、代理権濫用、代理行為について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代理の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第18章のうち298～333頁を読み、代理の基本的仕組みについて考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/2	基礎⑫：無権代理	無権代理，表見代理の意義・効果，代理権授与表示による表見代理，権限外行為の表見代理，代理権消滅後の表見代理について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，無権代理について説明できる。	
		事前学修	教科書第18章のうち333～379頁を読み，無権代理について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
14	6/5	基礎⑬：時効総論	時効制度の存在理由を，時効の法律構成，時効の完成，時効援用，時効利益の放棄について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，時効の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第19章のうち380～400頁を読み，時効の基本的仕組みについて考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
15	6/9	基礎⑭：取得時効，消滅時効	所有権の取得時効，所有権以外の財産権の取得時効，消滅時効の対象となる権利，消滅時効の期間・起算点，消滅時効に類似する制度について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，取得時効と消滅時効の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第19章のうち400～429頁を読み，取得時効，消滅時効について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
16	6/12	基礎⑮：団体の法理	法人の意義・必要性・種類，法人制度の改革，法人の設立・組織，法人の能力・代表，法人制度と実体との調整について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，法人制度の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第20章（430～470頁）を読み，団体の法理について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
17	6/16	基礎⑯：一般条項，まとめ(1)	私権行使の基本原則，信義誠実の原則，権利濫用の禁止について説明し，理解させるとともに，残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，一般条項について説明できる。	
		事前学修	教科書第21章（471～491頁）を読み，一般条項について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
18	6/19	中間テスト及びまとめ(2)	中間テストを実施するとともに，残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，これまでの学修内容をまとめ，その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	教科書の各章のうち，欠席等により理解が不十分であった箇所を読み直し，中間テストに向けて学習事項をまとめる。	120分
		事後学修	中間テストやその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について，教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/23	中間テストの講評	中間テストの採点結果を踏まえ、特に誤りがちであった点を中心に講評し、随時質問を受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中間テストの問題について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	中間テストで扱われたテーマについて、再度教科書等にあたって考察する。	120分
		事後学修	テストの講評内容やその後の質疑応答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等にあたって確認し、再検討する。	120分
20	6/26	発展①：民法の解釈と契約の解釈	民法の解釈、法律行為の解釈、法律行為の補充・修正について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の解釈と契約の解釈について説明できる。	
		事前学修	教科書第6章（74～87頁）を読み、民法の解釈と契約の解釈の違いについて考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
21	6/30	発展②：民法94条2項の類推適用	不動産取引と登記の公信力、判例による民法94条2項類推適用の発展過程、類推適用の要件・射程範囲、権利概観法理について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法94条2項の類推適用法理について説明できる。	
		事前学修	教科書第12章のうち191～202頁を読み、民法94条2項の類推適用法理について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
22	7/3	発展③：消費者契約法	消費者契約法の目的・対象を説明した上で、誤認取消し、困惑・過量取引取消し、不当条項規制について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者契約法について概括的に説明できる。	
		事前学修	教科書第15章（232～245頁）と第16章のうち255～258頁を読み、消費者契約法について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
23	7/7	発展④：無権代理と相続	無権代理人相続型、本人相続型、共同相続型、二重相続型、追認拒絶後相続型、後見人兼任型について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理と相続の問題について説明できる。	
		事前学修	教科書第18章のうち344～349頁を読み、無権代理と相続の問題について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
24	7/10	発展⑤：表見代理の諸問題	白紙委任状と民法109条、名称の使用許可、民法110条の基本権限、法定代理における表見代理について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、について説明できる。	
		事前学修	教科書第18章のうち349～379頁をもう一度読み、表見代理の諸問題について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7/14	発展⑥：取得時効の諸問題	取得時効と登記，不動産賃借権の時効取得，抵当権の時効消滅について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，表見代理の諸問題について説明できる。	
		事前学修	教科書第19章のうち400～411頁をもう一度読み，取得時効の諸問題について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
26	7/17	発展⑦：消滅時効の諸問題	保証と消滅時効の援用，形成権と消滅時効，除斥期間について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，消滅時効の諸問題について説明できる。	
		事前学修	教科書第19章のうち411～429頁をもう一度読み，消滅時効の諸問題について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
27	7/21	発展⑧：成年後見制度の諸問題	障害者権利条約と意思決定支援，法定後見制度の問題点，任意後見制度の問題点について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，成年後見制度の諸問題について説明できる。	
		事前学修	教科書第9章のうち135～152頁をもう一度読み，成年後見制度の諸問題について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
28	7/28	授業内試験及びまとめ(3)	授業内試験を実施するとともに，残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，これまでの学修内容をまとめ，その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	教科書の各章のうち，欠席等により理解が不十分であった箇所を読み直し，授業内試験に向けて学習事項をまとめる。	120分
		事後学修	授業内試験やその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について，教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分
29	7/30	授業内試験（予備日）及びまとめ(4)	これまでの授業内容に対する質問を受け付けるとともに，やむを得ない事由により前回の授業内試験を受験できなかった者のための追試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，これまでの学修内容をまとめ，その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	前回の授業まででなお理解が不十分であった箇所について考察し，授業内での質問事項をまとめる。	120分
		事後学修	自分や他の学生が行った質問やそれに対する教員の回答について，その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し，再検討する。	120分
30	8/3	授業内試験の講評	授業内試験の採点結果を踏まえ，特に誤りがちであった点を中心に講評し，随時質問を受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，授業内試験の問題について考察し，課題を探究できる。	
		事前学修	授業内試験で扱われたテーマについて，再度教科書等に当たって考察する。	120分
		事後学修	試験の講評内容やその後の質疑応答について，その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し，再検討する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
1年次および2年次以降の学生を対象とする。学習効果を上げるために、憲法・刑法を学んでいることが望ましい。

【授業方法】
教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。試験終了後、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。最終授業回試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅰ——総則〔第4版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	山田卓生ほか	有斐閣	2018	教科書	必携
民法（債権関係）改正法新旧対照条文	商事法務（編）	商事法務	2017	参考書	推奨
備考	六法は必携である。				

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14	【ガイダンス】民法総則を学ぶ意義／民法とは？	私法の一般法である民法はについて、また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、教科書・参考文献などの紹介を行う。これにより、受講性は授業計画を知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法とはどのような法律か、また、民法典がどのような理念に基づいて編纂されたを理 解し、説明することができる。	
		事前学修	六法を手に取り、ポイントとなる民法典の規定を人の一生という観点から概観する。併せて、教科書の全体 を2・3回ほど通読する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
2	第一部水 9/16	民法の基本原理、民法典の 編別とパンデクテン体系	民法典の基本原理、理念と基本原理、民法典の編別などについて、民法が理念として掲げる自由 と平等という観点から、学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が権利の主体である人の権利・義務を、その誕生から死亡に至るまでを5つの編 に分けながら、パンデクテン方式をもって体系化していることについて、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、近代私法の諸原則——法律行為自由・所有権絶対・過失責任の各原則、 および法的人格の平等——を把握しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
3	第一部月 9/21	権利能力・意思能力・制限 能力	権利能力・意思能力・制限能力と相互の関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利の主体である人の能力について、権利能力・意思能力・制限能力のそれぞれの意義 と相互の関係について、ポイントとなる民法典の規定を挙げて、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、権利の主体である人（自然人）とは何か。人は出生から死亡に至るまで どのような法的地位を有するかを、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
4	第一部水 9/23	住所と失踪宣告、同時死亡 の推定	権利の主体に関して、住所、失踪宣告、同時死亡の推定	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生活の本拠である住所の意義と、最後の住所地を去って行方が知れない者の法律関係に ついて、不在者の財産管理、失踪宣告による身分・財産関係の整理という観点から、説明することができる。ま た、併せて、所有者不明の不動産について、不在者の財産管理の観点から、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、人が活動する生活の本拠「住所」とは何か、人が行方不明になった場合 の取扱いなどについて把握しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）	120分
5	第一部月 9/28	制限行為能力者・成年後見 制度——未成年者・事理弁 識能力が欠如する者	到達目標①②に関連して、未成年者と事理弁識能力が欠如する者について、権利の主体の観点か ら、制限行為能力者制度および成年後見制度を学修する。	
		この回の到達目標	制限行為能力者制度について、未成年者とそれ以外の事理弁識能力が欠如する者（3類型）を区別したうえで、民 法典の規定を挙げながら、その概要を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、未成年者や事理弁識能力が欠如する者について、民法上、どのような処 遇がなされるのかを、民法典の規定に即して把握しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
6	第一部水 9/30	法人制度概説	法人制度の意義と概略、その基本的な仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自然人と並ぶ権利の主体である法人について、その意義を明らかにししたうえで、社団 と財団、営利と非営利などに分類しながら、法人格を取得する手続を説明することができる。また、民法上の法人 として、公益法人の設立、法律関係などを説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、自然人以外で権利能力の帰属主体となりうる法人について、公益・営利の観点から分類す るとともに、法人制度の意義・内容について、その概要を理解しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/5	権利の客体	権利の客体に関して、物の分類・種類、不動産と動産、土地の定着物と従物・付合物・付加物の区別について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有体物を不動産と動産に区別する意義、不動産の定着物と従物・付合物・付加物との関係、地上建物（マンションを含む）などについて、民法典の規定を挙げながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、権利の客体である「物」について、不動産・動産の観点から把握する。民法典には、不動産・動産と並んで、定着物・従物・付合物・付加物や果実などの分類もあるので、相互の関係に注意が必要である。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
8	第一部水 10/7	権利の客体と無体物、知的財産	無体物と知的財産について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、無体物は民法上どのように扱われるのか、民法と特許・発明などの知的財産とはどのような関係にあるのか、民法その他の法律の規定を挙げながら、説明することができる。また、有体物主義の問題点を挙げて、無体物に関する権利のあり方について、議論することができる。、	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、物理的に触知しえない物（無体物）について、民法典はどのような取扱いをしているかを把握しておく。あわせて、無体物に対する権利にはどのようなものがあるか、これについても調べておこう。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
9	第一部月 10/12	法律行為制度——概説	意思表示における意思主義と表示主義、任意法規と強行法規について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思の自律と私的自治の原則の観点から、法律行為の意義を明らかにし、法律行為の種類・内容について、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思に基づく権利・義務の変動原因である「法律行為」の概念を調べておく。法律行為が無効とされる場合とは、どのような場合か。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
10	第一部水 10/14	公序良俗、強行法規	公序良俗違反の法律行為とその解釈などについて、法律行為の有効・無効という観点から学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、公序良俗違反の法律行為が無効とされる場合とはどのようなことをいうのか、法律行為の自由に対する制限について、わが国の裁判例を整理したうえで、具体的に説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思に基づく権利・義務の変動原因である「法律行為」の概念を調べておく。法律行為が無効とされる場合とは、どのような場合か。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
11	第一部月 10/19	意思表示と法律行為——民法典における意思主義と表示主義	意思表示の意義、契約と法律行為との関係、意思表示における意思主義と表示主義について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思表示の意味を明らかにしたうえで、契約と法律行為との関係について、意思主義と表示主義という観点から、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
12	第一部水 10/21	心裡留保と通謀虚偽表示	法律行為を構成する意思が欠如する場合に、民法典にはどのような規定が設けられているかを理解し、意思表示論の観点から、心裡留保と通謀虚偽表示について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法が規定する心裡留保・通謀虚偽表示とはどのようなことをいうのか、典型例を挙げながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 10/26	錯誤	法律行為に関する錯誤の意義と種類、動機の錯誤について、意思表示論の観点から、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為のの錯誤を内面的効果意思を中心に分類したうえで、動機などの前提条件に関する錯誤がどのように扱われるか、民法典の規定に即して、説明することができる。／また、近時の債権法改正に伴って改正された錯誤規定について、その概要を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
14	第一部水 028	詐欺・強迫と消費者契約法	民法上の詐欺・強迫、および、沈黙による詐欺、不退去などを規定する消費者契約法について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法上の詐欺・強迫の意義、要件・効果を明らかにしたうえで、裁判例を検討し、また、その不備ないし限界を補うために消費者契約法に設けられた誤認・困惑などを理由とする取消しについて、その制度趣旨を理解し、民法上の詐欺・強迫との関係を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。併せて、消費者関連基本三法の1つである消費者契約法についても調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
15	第一部月 11/9	法律行為の無効・取消と第三者の保護	法律行為の無効・取消に関して、第三者の保護が問題となる場面を取り上げて、善意者保護制度の観点から学修する。、	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為が錯誤や詐欺・強迫などを理由に取り消された場合に、その事情を知らないで取引関係に入った第三者を保護するために民法典にはどのような規定が設けられているか、争われた裁判例の事案を紹介しながら、具体的に説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。併せて、法律行為が無効・取消となった場合の効果と第三者との関係を検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
16	第一部水 11/11	代理制度——総論	代理制度の意義、代理の種類と類似する他の制度（委任、間接代理、信託など）について、私的自治の補充・拡張という観点から、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理制度の意義、代理の種類と構造について、民法典が定める代理は直接代理であることを理解し、他の類似する制度と比較・対比しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理制度の意義について理解を深める。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
17	第一部月 11/16	代理権の濫用、利益相反行為と自己契約・双方代理	代理制度に関して、代理権の濫用、利益相反行為と自己契約・双方代理の問題を取り上げ、これについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、代理権の濫用とはどのようなことをいうのか、また、代理権が濫用された場合の効果について、基本となる裁判例を挙げて、問題点を整理したうえで、具体的に説明し、または議論することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理権が濫用された場合の本人保護と相手方の関係について検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
18	第一部水 11/18	表見代理	代理における無見代理に関して、表見代が成立する場面を、表見代理の3類型の即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法典が定める表見代の意義、要件・効果について、過去の裁判例に現れた事案を整理し、説明するとともに、問題点について議論することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、適法かつ有効な有権代理と無権代理、および表見代理との関係について検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部月 11/23	代理をめぐる解釈上の諸問題	代理をめぐる解釈上の問題のうち、代理と相続の問題を取り上げ、判例・学説の議論を踏まえながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、相続と代理をめぐる問題の3類型を整理しながら、その問題点を明らかにし、解決法理について説明し、議論することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理をめぐる解釈上の諸問題について検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
20	第一部水 11/25	法律行為の無効・取消し	法律行為の無効・取消しに関し、その意義と効果、取消しの遡及効、出費節約の法理、原状回復などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為が無効となり、あるいは、取消権の行使により遡及的に無効とされる場合に、当事者間の法律関係と第三者との関係を、民法典の規定に即しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、法律行為が無効・取消しとなった場合の効果と第三者との関係を検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
21	第一部月 11/30	無効行為の転換	法律行為の無効に関し、無効の意味と無効行為の転換について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為の効力が全部または一部否定される場合に、無効な法律行為が他の目的のために存続する例を、教科書に挙げられた基本的裁判例を紹介しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、無効行為の転換とはどのようなことをいうのか、無効行為の転換によって無効な法律行為が一定の要件のもとに有効とされる場合があるかを、検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
22	第一部水 12/2	条件・期限、期間	民法典が定める条件・期限、および期間の意義と民法上の原則について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法典が定める条件・期限、および期間について、法律行為の効力発生要件という観点から、売買や金銭消費貸借などの基本となる契約を例に挙げながら、具体的に説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、法律行為の効力発生要件である条件・期限、および期間について検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
23	第一部月 12/7	時効一総論	時効の意義、時効制度が設けられた意義（存在理由）などについて、民法典の規定に即して、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時効の意義、時効制度の存在理由について、時効の援用の意義を明らかにしながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効制度について調べてみよう。なぜこのような制度が必要とされるのか、時効制度の存在理由はどこにあるのか。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
24	第一部水 12/9	時効と類似するその他の制度	時効と類似するその他の制度、時効と除斥期間との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時効と類似するその他の制度として、どのような制度があるか、また、時効期間と除斥期間はどのように区別して扱われるかについて、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効と類似する除斥期間などの制度を調べ、違いを検討してみよう。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部月 12/14	取得時効	時効制度のうち、取得時効の意義、要件・効果について、学修する。、	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、取得時効の意義、要件と効果について、自主占有の意義、起算点と遡及効、所有権の原始取得などの点に留意しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、取得時効について理解を深める。（2時間）	120分
		事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
26	第一部水 12/16	取得時効と即時取得	取得時効と即時取得との関係について、動産取引を例に挙げながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、取得時効の目的物が動産である場合に、即時取得を定めた民法192条との関係について、判例・学説を整理し、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、取得時効と関連する即時取得について、理解を深める。（2時間）	120分
		事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）	120分
27	第一部月 12/21	消滅時効	時効制度のうち、消滅時効の意義、要件・効果について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消滅時効の意義、要件と効果について、各種の債権を整理・分類しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、消滅時効について理解を深める。（2時間）	120分
		事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
28	第一部水 12/23	時効制度と民法改正	債権法改正に関連して、時効制度の改正点と問題点、課題について整理し、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、時効制度が債権法改正に際してどのように改正されたのか、主要な改正点を理解し、その概要と問題点について、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効制度の問題点などを検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
29	第一部水 1/13	一般条項と民法典	民法典が定める一般条項につき、公共の福祉、信義則、権利の濫用を取り上げ、学修する。併せて、民法典を取り巻く私法の現状と課題について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、公共の福祉、信義則、権利の濫用の意義・概念を理解し、これらをめぐる代表的な裁判例を挙げて、具体的に説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、公共の福祉、信義則、権利の濫用のそれぞれの意義・概念について、基礎知識を得ておく。併せて、教科書に掲載の基本判例を調べてみる。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
30	第一部月 1/18	総括と質疑応答	これまで学んできた授業を振り返り、民法総則の意義・内容を整理し、総括する。 (受講者数によっては、最終授業回において、定期試験に代えて授業内試験を行う)	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、民法に関する基礎知識を総則の規定を中心に整理し、民法が理念として掲げる自由と平等という観点から私法の基本原理について、説明することができる。	
		事前学修	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて3段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（2時間）	120分
		事後学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。 「課題と質問」を整理する。（2時間）	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関連しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義中心となるが、適宜、質疑も交え、受講生の理解度を確認しながら講義を進める。 試験の講評、解説はポータルサイトで行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記授業方法の中で学生の主体的な意見の表明を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムによる

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則	藤村和夫	信山社	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
木曜日16時30分～17時30分（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室：本館7階、1714室メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で経験した事件を素材として講義に盛り込む。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	民法の意義	授業の進め方の説明、基本的事項（１）	
		この回の到達目標	民法の意義を説明できる。	
		事前学修	教科書～18頁を読んでおく（以下、同様）。	120分
		事後学修	民法とは、およそどういうものであるかに思いを致してみる。	120分
2	9月18日	民法の基本原則	基本的事項（２）	
		この回の到達目標	民法の基本原則を説明できる。	
		事前学修	18頁～23頁。	120分
		事後学修	近代私法の三大原則および民法上の基本原則とはどういうものを理解する。	120分
3	9月23日	権利主体	権利主体としての自然人	
		この回の到達目標	民法上の権利主体について説明できる。	
		事前学修	25頁～30頁。	120分
		事後学修	権利能力についての理解を確かなものにする。	120分
4	9月25日	権利能力	権利能力、制限行為能力者（１）	
		この回の到達目標	制限行為能力者について説明できる。	
		事前学修	30頁～39頁。	120分
		事後学修	制限行為能力者の意義について理解する。	120分
5	9月30日	制限行為能力者	制限行為能力者（２）	
		この回の到達目標	複数の制限行為能力者に関する関係を説明できる。	
		事前学修	39頁～45頁。	120分
		事後学修	制限行為能力者の種類とその違いを理解する。	120分
6	10月2日	任意後見制度	制限行為能力者（３）	
		この回の到達目標	任意後見制度について説明できる。	
		事前学修	45頁～54頁。	120分
		事後学修	任意後見制度等についての理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月7日	制限行為能力者	制限行為能力者の相手方の保護	
		この回の到達目標	制限行為能力者の相手方の保護について説明できる。	
		事前学修	54頁～61頁。	120分
		事後学修	制限行為能力者の相手方がどのように保護されるかについて理解する。	120分
8	10月9日	不在者	失踪宣告、住所	
		この回の到達目標	失踪宣告について説明できる。	
		事前学修	61頁～70頁。	120分
		事後学修	失踪宣告の意義について理解する。	120分
9	10月14日	権利の客体	権利の客体としての物	
		この回の到達目標	権利の客体について説明できる。	
		事前学修	71頁～75頁。	120分
		事後学修	権利の客体にはどのようなものがあるかを確認する。	120分
10	10月16日	法律行為	法律行為一般	
		この回の到達目標	法律行為の意義を説明できる。	
		事前学修	77頁～85頁。	120分
		事後学修	法律行為の意義を確認する。	120分
11	10月21日	意思表示	意思表示（1）	
		この回の到達目標	意思表示の意義を説明できる。	
		事前学修	86頁～92頁。	120分
		事後学修	意思表示の意義を理解する。	120分
12	10月23日	意思表示	意思表示（2）	
		この回の到達目標	無効な意思表示のうち、虚偽表示について説明できる。	
		事前学修	92頁～110頁。	120分
		事後学修	虚偽表示とは何かを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	10月28日	意思表示		意思表示（3）
		この回の到達目標	錯誤について説明できる。	
		事前学修	110頁～120頁。	120分
		事後学修	錯誤についての理解を確実なものにする。	120分
14	10月30日	意思表示		意思表示（4）
		この回の到達目標	瑕疵ある意思表示について説明できる。	
		事前学修	121頁～132頁。	120分
		事後学修	瑕疵ある意思表示とは何かを理解する。	120分
15	11月6日	意思表示		意思表示（5）
		この回の到達目標	消費者契約法による取消について説明できる。	
		事前学修	132頁～139頁。	120分
		事後学修	消費者契約法ではどのような規制があるのかを理解する。	120分
16	11月11日	代理		代理総説
		この回の到達目標	代理の意義について説明できる。	
		事前学修	139頁～143頁。	120分
		事後学修	代理の意義と法的構成について理解する。	120分
17	11月13日	代理		代理権
		この回の到達目標	代理権について説明できる。	
		事前学修	143頁～154頁。	120分
		事後学修	代理権を巡る基礎的な理解を確実にする	120分
18	11月18日	代理		代理行為（1）
		この回の到達目標	代理権の濫用について説明できる。	
		事前学修	154頁～158頁。	120分
		事後学修	代理権の濫用と消滅について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	11月20日	代理		代理行為（2）
		この回の到達目標	代理行為について説明できる。	
		事前学修	158頁～164頁。	120分
		事後学修	代理行為についての理解を深める。	120分
20	11月25日	無権代理		無権代理と表見代理
		この回の到達目標	無権代理とは何かを説明できる。	
		事前学修	164頁～174頁。	120分
		事後学修	無権代理と表見代理の意義を理解する。	120分
21	11月27日	無権代理		狭義の無権代理
		この回の到達目標	協議の無権代理について説明できる。	
		事前学修	175頁～192頁。	120分
		事後学修	無権代理人の責任等について理解する。	120分
22	12月2日	無効と取消		無効および取消
		この回の到達目標	無効と取消の意義を説明できる。	
		事前学修	192頁～206頁。	120分
		事後学修	無効と取消の意義と効果について理解する。	120分
23	12月4日	条件と期限		条件および期限
		この回の到達目標	条件と期限の意義を説明できる。	
		事前学修	206頁～216頁。	120分
		事後学修	条件と期限の意義と効力について理解する。	120分
24	12月9日	期間		期間、時効総説
		この回の到達目標	期間計算ができる。	
		事前学修	217頁～222頁。	120分
		事後学修	期間の意義と時効制度の存在理由について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12月11日	時効	時効（１）	
		この回の到達目標	時効制度の存在理由を説明できる。	
		事前学修	223頁～242頁。	120分
		事後学修	取得時効の意義と効果を理解する。	120分
26	12月16日	時効	時効（２）	
		この回の到達目標	債権の消滅時効について説明できる。	
		事前学修	242頁～260頁。	120分
		事後学修	債権および債権以外の消滅時効について理解する。	120分
27	12月18日	時効	時効（３）	
		この回の到達目標	消滅時効類似の制度について説明できる。	
		事前学修	260頁～279頁。	120分
		事後学修	消滅時効類似の制度と時効中断について理解する。	120分
28	12月23日	時効	時効（４）	
		この回の到達目標	時効の援用と放棄について説明できる。	
		事前学修	279頁～302頁。	120分
		事後学修	時効の援用と時効利益の放棄について理解する。	120分
29	12月25日	法人	権利主体としての法人（１）	
		この回の到達目標	法人とは何かを説明できる。	
		事前学修	303頁～338頁。	120分
		事後学修	法人の意義と種類、法人の設立について理解する。	120分
30	1月13日	法人	権利主体としての法人（２）	
		この回の到達目標	法人の権利主体について説明できる。	
		事前学修	338頁～356頁。	120分
		事後学修	法人の能力等について理解する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	山田 孝紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
義形式により配布レジュメに沿って授業を進める。民法総則では抽象的な概念が多いため、具体的な設例（簡単な教科書事例や判例の事案を簡略化した設例）に即して説明する。レジュメには空欄があるが、これは皆さんが主体的に授業に参加することを目的に設けたものである。つまり、空欄だけが重要なのではない。皆さんには、空欄を補充するだけでなく、事例の関係図を書いたり、私の説明もしっかりと聞き、メモを取ったりして授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修人数によっては、適宜、質問をしたり、問題演習をすることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での小テストの解説、ポータルサイトを通じての試験の採点講評

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新ブリメール民法1 民法入門・総則〔第2版〕	中田＝後藤＝鹿野	法律文化社	2020	教科書	必携
民法総則（日評ベーシックシリーズ）〔補訂版〕	原田＝寺川＝吉永	日本評論社	2018	教科書	推奨
ユーリカ民法1 民法入門・総則	田井監修、大中編	法律文化社	2019	教科書	推奨
民法判例百選 総則・物権〔第8版〕	潮見＝道垣内編	有斐閣	2018	参考書	任意
START UP！民法1 総則 判例30！	原田＝秋山＝山口	有斐閣	2017	参考書	任意
最新版の六法		各自の好みでどうぞ			
備考	上記はあくまでも参考です。自身の学修目的に応じた教科書を1冊購入してください。教科書の使用方 法、内容については第1回目の授業で説明します。				

【オフィスアワー】
水曜3時限（授業前後にアポイントメントをとってもらえると助かります。その他の時間でも適宜対応します）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	ガイダンス、民法とは何か、民法総則の位置づけ	まずガイダンスとして、受講上の注意、授業の進行方法、教科書・参考書の使用法、成績評価方法について説明します。そのため、第1回目から出席してください！その後、民法総則とは何か、民法における民法総則の位置づけについて学びます。	
		この回の到達目標	この授業の到達目標を確認し、単位を修得するためにはどのような学修が必要であるのかを理解する。	
		事前学修	なぜ民法Ⅰを履修するのか、ほかにどのような科目を履修すれば効果的に学習することができるのか授業計画を立てること。	120分
		事後学修	各自の学修目的に応じた教科書を購入すること。以下の教科書数は、プリメール民法〔シラバス作成時点では初版〕のページ数を記載している。教科書2～43頁を読み、民法の全体像、基礎知識を復習しておくこと。	120分
2	9月16日	民法とは何か、権利能力	第1回に引き続き、民法とはどのような法であるのかを概観します。その後、権利能力について学びます。権利能力とは、私法上の権利を有したり、義務を負ったりする資格のことです。民法3条1項では、「私権の享有は、出生に始まる」とされます。それでは、まだ出生していないが、お腹の中では生きている胎児には権利能力が認められるのでしょうか。認められるとすれば、それはどのような場合でしょうか。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、権利能力の意義、権利能力制度が設けられた趣旨を理解し、説明できるようになること。	
		事前学修	教科書22～25頁、45～49頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
3	9月22日	権利能力・失踪宣告、意思能力	前回に続いて、権利能力制度をみたのち、失踪宣告制度の概要について学びます。その後、重度の認知症を患った高齢者が持っていた指輪を売却してしまった場合を例にあげて「意思能力」について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、権利能力制度や失踪宣告制度の趣旨、意思能力の意義について具体例を用いて説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書45～51頁、68～71頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
4	9月23日	意思能力、行為能力①	まず、意思能力制度の問題点をみます。そのうえで、「制限行為能力」制度の必要性やその概要について学びます。例えば、未成年者が親の同意を得ずにバイクを購入してしまった場合に契約の効力はどうなるのか、という問題を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、意思能力制度にはどのような問題点があるのか、制限行為能力制度がなぜ必要なのか、制限行為能力制度にはどのような類型があるのかについて具体例を用いて説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書51～68頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
5	9月29日	行為能力②、問題演習	前回の授業でみたように、未成年者は原則として自分で有効に契約を締結することができず、保護者の同意を得ずに契約を締結した場合、契約を取り消すことができます。それでは、未成年者が契約をする際に契約の相手方に対して「自分が成人である」と偽っていた場合には契約を取消しできるのでしょうか。この回では、制限行為能力制度の相手方の保護について学ぶとともに、制限行為能力制度を題材に論述演習をする予定です。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、未成年者が保護者の同意を得ずに契約をした場合やその場合の相手方の保護の規律について具体例を用いて説明できるようにすること。また到達目標①・②・③・④に関連して、事例問題の検討方法（論述問題の作成方法）について理解できるようにすること。	
		事前学修	教科書51～68頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。事例問題の検討方法を復習する。	120分
6	9月30日	権利の客体としての「物」、意思表示・法律行為、	まず次回以降の授業で必要となる権利の客体としての「物」、動産と不動産について学びます。その後、これも次回以降の授業で必要となる「意思表示」「法律行為」とは何か、ということをみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、「物」「意思表示」「法律行為」について具体例を用いて説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書72～76頁、112～117頁、144～147頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10月6日	心裡留保、通謀虚偽表示	この回では、法律行為の具体例として、まず心裡留保を学びます。例えば、Aが自身が所有するパソコンをBに売るつもりがないのに、「5万円で売ってあげる」とBに冗談で言った場合に契約の効力はどうなるのか、またBがこのパソコンをCに転売する契約を締結していた場合はどうなるのか、ということを見ていきます。次に虚偽表示について学びます。例えば、AはGから1000万円を借りていますが、返済の目途が立たません。このままでは、自分が所有する甲土地がGに差し押さえられてしまう…。そう考えたAは、Bに相談して、甲土地をBに売ったことにしました。その後、Bは、甲土地をCに売ってしまいました。このとき、Aは、甲土地をCから取り戻せるのかという問題を考えます。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、心裡留保・通謀虚偽表示の具体例、その場合に民法は「なぜ」「どのような」規律を設けているのか（制度趣旨）を説明できるようになること。また到達目標③・④に関連して、民法94条2項の第三者の保護要件として「登記」や「無過失」まで必要かどうかについて検討できるようになること。
		事前学修	教科書144～155頁を読むこと。
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。
8	10月7日	94条2項類推適用	Aから甲土地を買い受けたBが、実際には所有権をCに移転する意思がないのに、Aから直接Cへの移転登記を行いました。その後、Cは甲土地をDに売却しました。このような場合は、94条2項を適用できません。そこで、94条2項を「類推適用」することでDを保護することができるか、ということが問題となります。この回では、上記例を題材に、「類推適用」とは何か、民法94条2項の制度趣旨を踏まえて、どのような場合に94条2項の類推適用が認められているかということ学びます。また民法94条2項の第三者からの転得者は保護されるのか、という問題も学びます。
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、類推適用とは何か、なぜ民法94条2項を直接適用できないのか、民法94条2項の制度趣旨（権利外観法理）をふまえて類推適用ができるのか、「登記に公信力がない」こととの関係でどこまでの範囲で類推適用が認められるのかについて、具体的な事例を題材に自分の意見を述べられるようになること。
		事前学修	教科書155～158頁を読むこと。
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。
9	10月13日	錯誤	「100,000円」で売却するはずのパソコンを「10,000円」で売却してしまった…とある有名な画家の本物の絵画であると信じて絵画甲を高値で買ったが甲は実際には偽物だった…。このような事例を対象として、「錯誤」について学びます。改正民法によると、前者のパソコンの事例は「意思欠缺錯誤」、後者の絵画の事例は「基礎事情錯誤」と呼ばれるところ、その要件が異なっていますので、各要件の内容を詳しく学びます。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、錯誤が認められるためにはどのような要件が必要か、なぜ各要件が必要となるのか、なぜ効果は取消しなのか、を説明できるようになること。また到達目標③・④に関連して、判例を参照しつつ錯誤の各要件をどのように解釈するのかを踏まえ、錯誤の事例問題に対して、法的根拠に基づき自己の意見（錯誤取消しの成否）を示すことができるようになること。
		事前学修	教科書158～175頁、125頁を読むこと。
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。
10	10月14日	詐欺・強迫、意思表示の取消しと第三者	人式の着物の着付けについて「万全のサポート」とチラシに書いていたのに式の当日に着物の着付けをしてくれなかった…。この回では、このような例をあげて、詐欺や強迫による契約の取消しについてみていきます。また、AがBに騙されて甲土地を売却したが、契約を取消す前に、甲がBからCに売却されてしまった場合、Aは甲をCから取り戻せるのか、という問題も検討します。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、詐欺や強迫が認められるためにはどのような要件が必要か、なぜ各要件が必要となるのかを説明できるようになること。到達目標③・④に関連して、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺の第三者が条文上異なっている理由を説明できるようになること。
		事前学修	教科書176～183頁を読むこと。
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。
11	10月20日	消費者契約法	消費者の被害の救済を図る方法として、民法の特別法である消費者契約法があります。この回では、まず消費者契約法の目的やその対象をみます。その上で、甲マンションの売買契約の際に、販売業者が甲の隣に乙マンションが建設されることを知りながら「日当たり抜群!」とお客さんに説明をした場合や、スポーツクラブが「このクラブの利用に際して一切の損害賠償責任を負わない」という条項を定めていた場合などを例にあげて、消費者契約法による契約締結過程や不当条項の内容規制を学びます。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、消費者契約法がなぜ制定され、どのような範囲を対象にしているのか、具体例を題材に消費者契約法の規律を説明できるようになること。
		事前学修	教科書187～200頁を読むこと。
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	10月21日	法律行為の内容確定と有効要件	民法では、当事者間で自由に契約内容を決めることができます。しかし、殺人契約や麻薬の売買契約、金銭を得て不倫関係をやめる契約は、認められません。公序良俗（民法90条）に反するからです。それでは、どのような行為が公序良俗にあたり、無効となるのでしょうか。例えば、愛人の生活を保全するためになされた遺贈は無効か、食品衛生法に違反するアラレを販売したことは民法上どのように評価されるのでしょうか。この回では、こうした例をあげて、公序良俗について学びます。また契約解釈の基準についてもみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、公序良俗にはどのような具体例があるのか、取締規定に違反した場合の効力はどうなるのか、について具体例を用いて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書117～142頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
13	10月27日	条件・期限、取消し・無効	「3年以内に結婚したらご祝儀で10万円あげるわ」と友達に約束した、「留年したらもう送りを送らない」と親に言われてしまった、20歳の誕生日が来たら御祝いをもらおう。こうした例を参考に、法律用語としての「条件」「期限」について学びます。また授業の後半では、これまでの授業で登場してきた「無効」「取消し」に関する規律をもう少し詳しく学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、条件・期限の意義について具体例を用いて説明できるようになること、取消しと無効の違いについて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書243～275頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
14	10月28日	第2回目～第13回目までの復習①	第2回目～第13回目までの内容を択一型の小テストを用いて確認します（なお、授業の進行速度により予定を変更する可能性は大いにありますので、あくまでも目安の予定です）。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できていないのかを確認する。	
		事前学修	今までの範囲をレジュメや教科書を用いて復習する。	360分
		事後学修	小テストの内容を復習する。	120分
15	11月10日	第2回目～第13回目までの復習②	前回の小テストの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できていないのかを確認する。	
		事前学修	小テストの問題をもう一度解いてみる。	120分
		事後学修	小テストの解説をふまえ、権利能力、法律行為の授業内容を復習する。	120分
16	11月11日	代理制度の意義、有権代理	未成年者は、原則として自分で有効に契約を締結することができません。そのため、未成年者の代わりに契約をしてくれる人が必要です。また、自分で有効に契約を締結することができる人であっても、専門的知識がある他人に契約をしてもらった方が良いことがあります。このような場合に、「代理制度」が使われます。この回では、代理制度の必要性和その社会的役割、代理制度の種類をみた後、代理が有効に成立するための要件と代理が成立した場合の効果について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、代理制度とは何か、なぜ代理制度が必要なのか、代理が有効に成立するためにはどのような要件が必要なのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書207～216頁、219～225頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
17	11月17日	無権代理の基礎、利益相反行為、代理権の濫用	第16回目で学習したように、代理の効果が本人に有効に帰属するためには、本人が代理人に代理権を授与することが必要です（任意代理の場合）。それでは、代理権を有していない人が、本人の代理人と称して相手方と契約をした場合、その効果はどうなるのでしょうか。この回では、このような「無権代理」が行われた場合の効果や無権代理人が負う責任の内容、利益相反行為、代理権の濫用について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、無権代理行為が行われた場合の効果、相手方を保護するためにいかなる規律があるのかを説明できるようになること。また到達目標①・②・③・④に関連して、利益相反行為や代理権の濫用とは何か、両者の違い、改正民法で規定された効果の意味について、改正前の判例法理をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書217～219頁、226～227頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
18	1 1 月 1 8 日	無権代理と相続	例えば、Aの子どもであるBがAの代理人と勝手に称して、Aの有する甲土地をCに売却したとします。このとき、本人Aは、Cに対して「Bが勝手に甲土地を売っただけであり、そんな契約は認められない」と主張できます。これを追認拒絶といいます（前回の授業で学びます）。それでは、上記事例においてBの無権代理行為の後に、Aが死亡して、その地位をBが相続した場合、Bは追認を拒絶できるでしょうか。逆に、Bの無権代理行為の後に、Bが死亡し本人Aがその地位を相続した場合、Aは追認を拒絶できるでしょうか。この回では、こうした無権代理と相続の問題を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、無権代理と相続の各種事例について、まずは判例及び学説の立場を理解できるようになること、その上で判例の問題点をふまえつつ、判例と学説のいずれの考え方が良いのかを検討し、自分の意見を述べられるようになること。	
		事前学修	教科書 2 3 7～2 4 2 頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
19	1 1 月 2 4 日	表見代理の意義と具体例（109条1項・110条・112条1項・重畳適用）	第1 6～1 7回で学んだように、無権代理人が代理行為をした場合であっても本人に効果が帰属することがあります。これを表見代理といいます。なぜ民法では表見代理制度があるのか、どのような表見代理の種類があるのかについて具体例を題材に学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、なぜ表見代理制度が認められているのか、なぜ各条文はそのような要件を規定しているのかについて、表見代理制度の制度趣旨をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書 2 2 7～2 2 9 頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
20	1 1 月 2 5 日	白紙委任状と表見代理	AがC銀行からお金を借りる際に、自己が所有する甲土地に抵当権を設定しようと考えました（抵当権を設定することでC銀行はAからお金を回収できます）。その際、Aは、Bに抵当権設定の代理権を与え、必要な書類や「白紙委任状」をBに渡しました。しかし、Bは委任状をDに交付しました。その後、Dが空欄の委任事項欄に「甲土地の処分に関する一切の権限」と書き入れ、甲土地をEに売却しました。では、Eは甲土地を取得できるでしょうか。こうした例を題材に、「白紙委任状と表見代理」の問題を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、白紙委任状を用いて代理人や他人が代理権の範囲外の行為をした場合に、なぜ民法109条1項や110条が問題となるのか、表見代理はどの範囲まで認められるのか（認められないのか）について判例や学説に基づき考察し、自己の意見（表見代理の成否）を述べられるようになること。	
		事前学修	教科書 2 2 9～2 3 1 頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
21	1 2 月 1 日	権限外の行為の表見代理の応用事例	夫Aが妻Bから代理権を与えられていないのに、代理人としてBが持っている土地を勝手にCに売却してしまいました。この場合、無権代理となるのが原則ですが、表見代理は成立する可能性はないでしょうか。また民法94条2項と110条の重畳適用の事例について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、日常家事債務と表見代理について判例や学説に基づき、どのような場合に表見代理が認められうるのかについて説明できるようになること、また94条2項と110条の類推適用について、なぜ重畳適用が問題となるのか、第三者の保護要件はどうあるべきかについて判例や学説に基づき考察し、自分の意見を述べられるようになること。	
		事前学修	教科書 2 3 1～2 3 4 頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
22	1 2 月 2 日	試験の概要説明と論述演習	そろそろ試験の時期が近づいてきました…！！この回では、論述試験においてどのような答案を作成する必要があるのか、論述試験の勉強をどのように行えばよいのか、を説明した後、法律行為や代理を題材に論述演習を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、どのような点に気をつけて論述問題を作成すればよいのかを修得すること、また試験準備のスケジュールを組んで余裕をもって試験対策をすること。	
		事前学修	前回までの講義を復習しておく。	120分
		事後学修	試験に向けて計画を立てること。論述問題の対策をコツコツとはじめること。実際に答案を書いてみること。	120分
23	1 2 月 8 日	時効制度の意義、時効の存在理由、取得時効（1）	時効とは何でしょうか。例えば、時効制度によると、Aが甲土地を一定期間占有すると、たとえ甲が本当はBが有する土地であっても、Aは甲土地を取得できる可能性があります。またCがDに対して貸金債権乙を有していたが、乙の返還請求権を長年の間行使しないでいると、Cは乙の返還を求めることができない可能性があります。それでは、なぜこのような制度が認められているのでしょうか。この回では、時効制度の存在理由、時効制度の全体像を概観したのち、AがBの甲土地を取得できるような場合（取得時効）について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、なぜ時効という制度があるのか、時効にはどのような種類があるのか、取得時効制度の要件・効果はどのような規律であるのかについて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書 2 7 7～2 8 6 頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
24	1 2 月 9 日	取得時効（２）・消滅時効（１）	まず前回からの続きとして、取得時効について学びます。その後、授業の後半では、消滅時効の起算点や時効期間について学びます。債権は①債権者が権利を行使できることを知った時から５年間、②権利を行使することができる時から１０年間で消滅するところ、「権利を行使することができる時」とはどのような意味なのかを具体的にみていきます。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、取得時効制度の要件と効果、消滅時効制度の意義と要件と効果について説明できるようになること。
		事前学修	教科書２８２～２９４頁を読むこと。120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。120分
25	1 2 月 1 5 日	消滅時効（２）	前回に続いて、消滅時効を学びます。例えば、判例を題材に、保険金請求権の起算点や、じん肺にり患した場合の起算点はどうなるのかという問題を学びます。その他、改正民法による除斥期間説の不採用、人の生命や身体に関する損害賠償の時効期間の改正についてもみていきます。
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、判例では消滅時効の起算点はどのように判断されているのかについて説明できるようになること。また到達目標①・②に関連して、改正前民法724条後段の除斥期間説にはどのような問題があり、改正民法においてどのような規律へと変更したのか、人の生命や身体に関する損害賠償の消滅時効がなぜ、どのように改正されたのかについて説明できるようになること。
		事前学修	教科書２８９～２９６頁を読むこと。120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。120分
26	1 2 月 1 6 日	時効の完成猶予・更新	まず、時効の完成猶予・更新について学びます。例えば、AがBに対して100万円を弁済期（お金を返す日）を１年後として貸した。だが、１年後にBはお金をAに返さない。そこで、①Aは、Bに裁判外で100万円を返すように求めた、②この求めに対してBは「１か月以内に返すからもう少し待って」と言った。しかし、Bがお金をまったく返さないので、③Aは100万円とその利息の返還請求訴訟を提起した。これら①～③のような事象は、時効の完成にどのような影響を及ぼすのか、という問題を学びます。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、時効の完成猶予・更新の意義、具体例を用いてなぜこの場面では完成猶予や更新が問題となるのか、について時効制度の趣旨を踏まえつつ、説明できるようになること。
		事前学修	教科書２９６～３０５頁を読むこと。120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。120分
27	1 2 月 2 2 日	時効の援用、時効利益の放棄、債務承認後の援用	時効が完成するためには、当事者が時効により利益を受ける旨の意思表示をすることが必要です。これを時効の援用といいます。例えば、100万円を借りている借主が貸主に対して「時効が成立しているから100万円は払わない！」という意思表示をしなければなりません。またこの回では、債務者がいったん債務を承認しながら、「やっぱり時効期間が完成してるから債務を払わない」といえるのか、という問題についても学びます。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、時効の援用とは何か、時効利益の放棄、債務承認後に時効の援用が認められるのかについて具体例を用いて説明できるようになること。
		事前学修	教科書３０５～３１４頁を読むこと。120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。120分
28	1 2 月 2 3 日	法人	受講生の皆さんは、学校法人、財団法人、NPO法人、株式会社といった言葉を聞いたことがあると思います。この回では、人の集合や財産の集まりである「法人」について、法人とは何か、なぜ法人制度が必要なのか、法人はどのように成立し、どのような種類があるのか、権利能力なき社団とは何か、ということを学びます。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、法人制度がなぜ必要なのか、法人制度にはどのような種類があるのか、権利能力なき社団とは何かについて説明できるようになること。
		事前学修	教科書７７～１０９頁を読むこと。120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。120分
29	1 月 1 2 日	第１６回目以降の復習①	代理、時効制度について択一型の小テストを用いて確認します（なお、授業の進行速度により予定を変更する可能性は大いにありますので、あくまでも目安の予定です）。
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できていないのかを確認する。
		事前学修	今までの範囲についてレジュメや教科書を用いて復習すること。360分
		事後学修	小テストの内容を復習する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
30	1月13日	第16回目以降の復習②	前回の小テストの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できていないのかを確認する。	
		事前学修	小テストの内容を復習する。	120分
		事後学修	小テストの解説をふまえて、代理・時効・法人制度の授業内容を復習する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	田中 夏樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関連しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
六法を持参すること。なお、法改正を踏まえ、最新のものを用意すること。

【授業方法】
講義形式によって行う。あらかじめ、パワーポイントによって資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後、最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リーガルベイス民法入門 第3版	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2019	教科書	推奨
備考	教科書はあくまで参考であり、授業内（ガイダンス）にて具体的に指示するため、第1回授業開始前に準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 火9/15	ガイダンス及び導入講義	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典の中で民法総則がどのような位置を占めているかが説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。	120分
		事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。	120分
2	第二部 木9/17	民法の体系と位置づけ	民法は、一般に民法総則・物権・債権・親族・相続に分けられるが、それぞれの意義や機能が異なっている。これらの民法の体系について解説するとともに、特別法との関係など民法以外の法分野との関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の体系について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法には総則以外にどのような内容の条文が存在し、どのような意味を有するのか確認しておく。	120分
		事後学修	民法が営む機能について、公法や刑事法の分野とはどのように異なるのかを確認し、民法の位置づけについての理解を深め、自分なりに説明できるようにする。	120分
3	第二部 火9/22	民法の基本原則	民法総則には、民法全体に及ぶ基本原則である信義則や権利濫用の禁止といった概念が規定されている。しかし、このような概念は抽象的であるため、判例などを通じて具体的にはどのように認められるのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の基本原則について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法総則の中でも信義則や権利濫用の禁止といった概念がどのようなものなのかを調べておく。	120分
		事後学修	授業内で言及した判例以外の関連判例を調べ、信義則・権利濫用の禁止等の基本原則が判例上どのように扱われているのかを調べる。	120分
4	第二部 木9/24	自然人の権利主体性	民法を学ぶ上では、権利能力・行為能力・意思能力といった各概念を理解する必要がある。これらの能力について具体例や判例を交えながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権利能力・行為能力・意思能力の関係性について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、権利義務の主体という概念がどのようなものであるか調べ、権利能力という用語の意味を調べておく。	120分
		事後学修	授業内で学習した内容を踏まえ、権利能力・行為能力・意思能力の意味内容のみならず、それぞれの関係性について自分なりに説明できるようにする。	120分
5	第二部 火9/29	行為能力の制限	一定の場合に行為能力が制限され、成年被後見人・被保佐人・被補助人といった制度が民法上規定されている。各概念の目的や内容について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行為能力が制限されることの趣旨や機能について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、行為能力が制限される必要性としてどのような場合か調べておく。	120分
		事後学修	行為能力の制限について、意思能力との関係がどのようなものであるか、例えば、行為能力の制限を受けていながら意思能力を有している場合があるかなどを検討する。	120分
6	第二部 木10/1	不在者の財産管理	不在者が財産を有している際には、これを管理する必要がある。しかし、特に数年に及ぶ行方不明である場合には不在者の権利関係がそのまま残り、不都合が生じる場合がある。この場合に利用される失踪宣告について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不在者の財産を管理する必要性や制度について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、不在者の財産を管理する必要性が生じるのはいかなる場合であり、その場合にどのような問題が生じるのかを確認する。	120分
		事後学修	失踪宣告がなされ、不在者が死亡したものと扱われたのちに、不在者の生存が確認された場合にはどのように扱われるのか、調べ、検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 火10/6	法人の権利能力	法人は現在の社会では欠くことのできない存在であるが、その性質上自然人とは異なった法理が適用される。法人に関する民法の規定を踏まえ、法人の権利能力に関して解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法人の行為能力について、自然人の場合と比較しながら説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、法人と自然人の概念の違いを確認し、法人を制度の趣旨を調べておく。	120分
		事後学修	法人にも類型が存在するが、民法上にはどのような種類の法人が存在するのかを確認したうえで、それぞれの制度趣旨の相違について検討する。	120分
8	第二部 木10/8	権利の客体	権利の客体としての「物」に関し、動産・不動産の区別や主物・従物の区別を解説し、民法上の扱いを説明する。また、債権の客体についてもこの授業内で取り上げたい。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利の対象としての客体やその性質について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、権利の客体としてはどのような具体例が存在するのか調べ、該当する条文を確認しておく。	120分
		事後学修	財産権には物権と債権が存在するが、物権の客体と債権の客体とではその性質がどのように異なるか、授業内容を踏まえて、自分なりに説明できるようにする。	120分
9	第二部 火10/13	法律行為概説	法律行為に共通することとして、法律行為の有効性や法律行為の概念がどのように扱われているかについて解説を行い、次週以降に解説する予定の意思表示との関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律行為の概念と体系について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、法律行為がどのような概念であるかを調べ、法律行為の類型を調べておく。	120分
		事後学修	法律行為と事実行為との関係について、それぞれの概念がどう異なっているか、法律上はどのように扱われるかを検討する。	120分
10	第二部 木10/16	意思表示の意義・構造	意思表示は、動機・内心的効果意思・表示意思といった構造を有しており、その構造を解説するとともに、そのような構造を観念することの意義について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思表示の仕組みと位置づけについて説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、意思表示が法律行為との関係においてどのような位置づけにあるのかを確認し、その意義を調べておく。	120分
		事後学修	意思表示の構造について、実際に自分が法律行為を行う場面を想定し、自分の行為がどの段階にあたるのかを確認し、法的な意味を考える。	120分
11	第二部 火10/20	法律行為の無効と取消し	法律行為は無効あるいは取消される場合が存在するが、それぞれの法的な効果は異なっている。無効と取消しの意義を説明するとともに、法的な効果の違いを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消しと無効の相違について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、無効と取消しの概念がどのような意義を有し、法的な効果がどのようなものであるかを確認する。	120分
		事後学修	法律行為の無効と取消しは、法律行為の構造と関係しており、無効原因と取消し原因が法律行為の構造との間ではどのような関係にあるかをまとめ、説明ができるようにする。	120分
12	第二部 木10/22	意思の欠缺 ¹	心裡留保及び虚偽表示に関して、法律行為の構造との関係を踏まえながら解説を行う。また、関連する判例が多く存在するため、判例の事実関係を踏まえながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、意思の欠缺に関連して、心裡留保や虚偽表示の趣旨や制度について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、意思の欠缺が法律行為の構造との関係でどのような問題であるかを整理しておく。	120分
		事後学修	心裡留保及び虚偽表示に関しては、意思の欠缺の問題ではあるが、各規定の趣旨が異なっている。法律行為の構造との関係を踏まえながらも、それぞれの規定が当事者の利害関係をどのように調停しているのかを検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 火10/27	意思の欠缺2	錯誤及び錯誤に起因する各種の問題点について、昨今の議論を踏まえて解説する。特に、錯誤は第三者の保護との関係で重要な議論があり、第三者の保護の在り方を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤の趣旨や制度について説明ができるとともに、改正前後の違いを説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、前回の授業の復習をするとともに、錯誤が法律行為の構造との関係でどのような問題であるかを整理しておく。	120分
		事後学修	錯誤の効果については、無効と取消しの相違に関連して重要な議論があり、各自の教科書等においてそれぞれの立場からの考え方を説明ができるようにする。	120分
14	第二部 木10/29	瑕疵ある意思表示1	瑕疵ある意思表示として、詐欺及び強迫の条文解説から始め、瑕疵ある意思表示が意思の欠缺とはどのように異なるのか、及び、その違いが要件や効果にどのような影響を与えるものであるかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思の欠缺と瑕疵ある意思表示の相違を説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、詐欺及び強迫の条文を調べ、法律行為の構造との関係では、どの段階の問題であるかを確認する。	120分
		事後学修	詐欺及び強迫に関し、瑕疵ある意思表示はその効果が取消しとされているが、これはどのような考慮によるものか。例えば、詐欺は刑法でも処罰対象となっているが、民法上の契約は当事者の意思に委ねられている理由は何か、検討する。	120分
15	第二部 木11/5	瑕疵ある意思表示2	詐欺及び強迫は、同一の条文に規定されていながら、第三者の保護に関しては異なる取り扱いをしている。法が第三者を含めた各当事者の利害関係をどのように調整しているのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐欺及び強迫について、錯誤等の他の制度と比較しながら説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、詐欺及び強迫の条文を調べ、第三者の保護に関してはどのような取り扱いがなされ、そこから読みとれる法の趣旨を考えておく。	120分
		事後学修	意思の欠缺及び瑕疵ある意思表示において、それぞれ各当事者の利害関係が異なっているが、法律効果にどのような影響を及ぼしているのか、整理し、自分なりに説明できるようにする。	120分
16	第二部 火11/10	代理制度概説	代理制度は、私的自治を拡充する目的であるが、通常の契約に比べて代理人が介在することにより、考慮すべき事由が増えており、代理の要件・効果を解説するとともに、代理人を含めた利害関係を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理制度一般に関して説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、代理制度がどのような構造であるか、登場する当事者を確認し、条文を調べる。	120分
		事後学修	代理の要件について、一般的に3つの要件が必要であるが、これらの要件についてそれぞれが必要とされる趣旨及び欠けた場合の法律関係に関して検討する。	120分
17	第二部 木11/12	無権代理	代理には3要件が存在するが、それぞれの要件が欠けた場合の法律関係は異なっている。無権代理となるのはどの要件が欠けた場合、また、そのような場合に相手方及び本人をいかに保護するのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無権代理の制度及び無権代理がどのような位置づけであるかについて説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、代理の要件のうち、いずれが欠けると無権代理となるのか、また、それはなぜか確認しておく。	120分
		事後学修	無権代理となるのは、代理人が勝手に代理人を名乗った場合だけでなく、代理人が過失なく代理権を証明できない場合も含むが、この場合に代理人を保護する方法はないか、検討する。	120分
18	第二部 火11/17	表見代理1	前提となる、表見代理一般の法理論や制度趣旨について解説する。表見代理が相手方保護の法理であることや本人の利益をどの範囲で保護しようとしているかを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表見代理一般について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、表見代理がどのような概念か、無権代理との関係を調べておく。	120分
		事後学修	表見代理の成否によって、無権代理の地位はどのような影響を受けるか検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第二部 木11/19	表見代理2	表見代理の一類型である、代理権授与表示の表見代理について解説する。どのような場合に本人の犠牲のもと相手方の保護が認められるのかを意識して学習してほしい。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法109条の表見代理に関して、どのような制度であるか説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法109条を調べ、表見代理の一類型を知るとともに、要件を確認しておく。	120分
		事後学修	代理権授与表示というものは、実際の判例ではどのようにして認められているのか、授業中に言及した判例の事実関係を意調べ、理解する。	120分
20	第二部 火11/24	表見代理3	表見代理の一類型である、権限外行為の表見代理について解説する。また、民法110条は拡張されて適用される傾向にあり、民法110条が適用される特殊な場面として日常家事代理についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法110条の表見代理に関して、どのような制度であるか説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法110条を調べ、基本権限の概念を踏まえて、要件を確認しておく。	120分
		事後学修	民法110条の基本権限としてどのようなものが含まれるのか、授業中に言及した判例をもとに、検討する。特に、事実行為に関する権限が基本権限に含まれるかについて、関連判例を調べる。	120分
21	第二部 火12/1	表見代理4	表見代理の一類型である、代理権消滅後の表見代理について解説する。また、民法109条と民法110条、民法110条と民法112条の重畳適用についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法112条の表見代理に関して、どのような制度であるか、民法109条及び民法110条との関係性について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法112条を調べ、代理権消滅後の表見代理の事実関係を把握し、要件を確認しておく。	120分
		事後学修	重畳適用について、授業中に言及した判例の事実関係を調べ、どのような事実が認められる場合に適用ができるかを検討する。	120分
22	第二部 木12/3	条件・期限	停止条件、解除条件・停止期限、解除期限の概念について解説し、それぞれの機能や期限の利益喪失等といった関連する法律関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各条件・期限について制度の仕組みを説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、条件・期限の概念を調べ、契約においてどの段階で問題となる概念かを考えておく。	120分
		事後学修	条件・期限がそれぞれ契約に付与された場合にどのような意義を有するのか、検討し、説明できるようにする。	120分
23	第二部 火12/8	時効制度1	事実状態に即した権利関係を確定させる時効制度について解説する。そのうち、特に時効制度一般に共通する制度趣旨や機能について解説を行う予定である。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時効制度一般の趣旨について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、時効制度について、条文を調べ、その意義及び制度趣旨を確認する。	120分
		事後学修	時効制度の趣旨を復習し、時効によって不利益を受ける当事者が存在する場合に、それが正当化されるのかを検討する。	120分
24	第二部 木12/10	時効制度2	時効制度のうち、取得時効について要件及び効果を中心に解説する。また、所有権以外の取得時効についても、制度趣旨の相違を踏まえて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取得時効の要件及び効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、取得時効について、条文を調べ、要件及び効果について確認する。	120分
		事後学修	時効制度の趣旨を踏まえ、債権の時効取得がなぜ可能か検討し、関連する判例を調べておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第二部 火12/15	時効制度3	時効制度のうち、消滅時効について要件及び効果を中心に解説する。消滅時効が、取得時効とはどのように異なり、制度趣旨や機能の相違を踏まえながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、消滅時効の要件及び効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、消滅時効について、条文を調べ、要件及び効果について確認する。	120分
		事後学修	時効の更新や完成猶予について、時効制度全体の趣旨との関連を踏まえて、どのような機能を有しているのか、説明できるようにする。	120分
26	第二部 木12/17	時効制度4	時効と登記の問題や除斥期間について解説する。特に除斥期間は、時効とは異なった制度趣旨を有している類似した制度であり、注意する必要があるため、制度趣旨及びそこから導かれる機能を中心に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効から派生する問題について、その問題点と適用条文等について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、除斥期間の概念を調べ、時効とはどのように異なる概念かを確認しておく。	120分
		事後学修	改正前の民法724条を調べ、時効と除斥期間のいずれであるかを検討し、説明できるようにする。	120分
27	第二部 12/22	複合的問題について	これまでに解説してきた総則の内容は、それぞれが完全に独立しているものではなく、複合的な問題となって生じる場合がある。簡単な事例問題を題材にし、今までに学習してきた知識を用いて法律関係を理解できるように講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、民法総則の各制度がどのように関係しているかについて説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、これまでに学習してきた内容が相互に関係することを理解し、今までに扱った判例等が複合的な問題を有していることを理解する。	120分
		事後学修	授業内で扱った事例や判例について、どのような条文が適用されているのか適用関係を検討し、実際に条文を引く条文操作を行う。	120分
28	第二部 木12/24	債権法改正	債権法改正の作業が行われ、今後施行される予定であるが、民法総則の分野でも法律行為や時効の範囲において改正が行われている。それぞれの改正がどのような趣旨で行われ、運用に影響を及ぼすものかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権法改正によって民法総則の規定がどのように影響を受けたのか説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権法改正によって、民法総則のうちどの分野が改正されるのかを確認する。また、新旧の条文を確認することが望ましい。	120分
		事後学修	新旧の条文を比較し、どのように改正がなされたのかを確認し、授業で扱った判例の結論や論理構成に影響を与えるものであるか検討する。	120分
29	第二部 火1/12	授業内試験及びまとめ	授業内にて民法総則の試験を行い、併せてまとめとなる授業を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、これまでに扱った内容を復習し、疑問点が残らないようにする。	120分
		事後学修	授業内試験やこれまでの授業で扱った内容のうち、解消できなかった疑問点を整理し、最終授業にて質問ができるようにする。	120分
30	第二部 木1/14	授業内試験の解説	前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、試験の講評を踏まえて課題を発見し、その解決方法を探求できる。	
		事前学修	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。	120分
		事後学修	全30回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	野中 貴弘	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
授業は、下記授業区分のとおり、講義回と演習回とに分かれる。講義回は、レジュメを使用して進める（教科書の購入は任意となる）。演習回においては、学生を適宜指名のうえ発言を求めたり、リアクションペーパーの提出を求める		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	下記授業区分にあるとおり定期的に演習を行う。演習問題のうちでも事例問題については、（受講者数にもよるが）グループディスカッションのうえ、その成果を発表したり、リアクションペーパーにまとめることを求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第２８回に行う授業内試験について、解説を残り時間および第２９回の冒頭に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法入門・総則〔第５版〕エッセンシャル民法１	永田眞三郎ほか	有斐閣	2018年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日１３：００－１７：００（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館６階１６０８） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	講義案内、民法の特徴と魅力、民法の構造と民法における民法総則の位置づけ	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、民法総則の学修方法について説明し、そのうえで学生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法がどのような法律かを説明することができる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる	120分
2	9/17	民法の全体像①（民法とは何か、民法の全体像）	民法がどのような場面において適用される法律であることを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法がどのような場面に適用される法律かを理解したうえで、民法典の構造、契約においてどのような形で債権債務が発生し、物権が移転するのかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを読み返し、挙げられている条文について実際に六法を開いて素読してみる	120分
3	9/22	民法の全体像②（民法の基本概念）	民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の3大原則を説明できるようになるとともに、所有権の移転方法における民法の原則と例外の考え方を理解する。	
		事前学修	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと 第3回講義は、第2回の講義内容の続きになるので、第2回レジュメを読み返してから講義に臨むこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の取得方法として、原始取得と承継取得の意味を自分の言葉で具体例を挙げて説明できるようにしておくこと。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
4	9/24	権利の主体（人）①	権利能力、意思能力、行為能力といった3つの能力概念を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取引をするうえで十分な能力を有さない者に対し、民法はどのような保護の方法をとっているのか説明をすることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 3つの能力概念には、それぞれどのような差があり、それぞれの能力を欠いてした法律行為の効力をおさえる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
5	9/29	権利の主体（人）②	前回の続きとして、行為能力が十分でない者を保護する制度としての「制限行為能力者制度」について、相手方保護の在り方も含めて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取引をするうえで十分な能力を有さない者に対し、民法はどのような保護の方法をとっているのか説明をすることができるようになる。また、そうして保護をする一方で、相手方にも配慮して一定の制度があることも理解する。	
		事前学修	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 制限行為能力者制度につき、民法が用意している4つの類型をおさえるとともに、こうした制限行為能力者と取引をした相手方保護の必要性とその手段について一連の流れでおさえる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	10/1	権利の主体（人）③、権利の客体（物）	権利主体の問題として、最後に、失踪宣告制度を学んだ後、権利の客体となる物概念について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、失踪宣告制度に関し、判例多数説と有力説との違いを理解し、それぞれの見解を論理的に説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の「第3章 人」と「第5章 物」を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 失踪宣告の取消しに関し、民法32条1項後段の「善意」の意味について、講義内容を踏まえ自らの考えをまとめる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
7	10/6	演習（第1回）	民法の全体像、権利の主体（人）、権利の客体（物）として学んだ内容について、復習を兼ねた演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる	
		事前学修	あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討してくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
8	10/8	法律行為と意思表示①（法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈）	隔地者間における意思表示はいったいいつ効力が生じるのか、契約をしたものの両当事者が表示に込めた意味にずれ違いがあった場合にはどのような内容で効力が生じるのか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示や契約の成立時期を理解するとともに、成立した契約の内容について両当事者の認識が異なっていた場合にはすぐに錯誤を検討するのではなく、まずは契約内容の確定という契約解釈が必要であることを理解し、その方法を説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈の箇所を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 意思表示や契約の解釈に関し、講義中で紹介した客観的解釈説と規範的解釈説の相違を整理する。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
9	10/13	法律行為と意思表示②（心裡留保）	一方当事者が冗談で契約の申込みをし、相手方がその冗談を信じ切っている場合にその契約の効力は生じるのか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、心裡留保があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、心裡留保の箇所を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと そもそも心裡留保とはどのような場合か、その具体例を複数挙げられるようにしておく。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
10	10/15	法律行為と意思表示③（通謀虚偽表示）	契約当事者が、真に譲渡する意思がないにもかかわらず、示し合わせて形だけの契約がなされたとき、この契約にはどのような効力があるか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、通謀虚偽表示があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、通謀虚偽表示の箇所を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 講義で出てきた94条2項の類推適用とは、94条2項が直接適用される場面とどこが異なるか考えてみる。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
11	10/20	法律行為と意思表示④（錯誤）	契約締結にあたり一方当事者に勘違いがあったとき、当該契約の効力はどうなるか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、錯誤の箇所を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 講義内容を踏まえ、2017年改正後の民法95条を精読し、レジュメで出てきた知識と条文とを結びつけて理解できるようにしておくこと。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
12	10/22	法律行為と意思表示⑤（詐欺、強迫）	契約締結にあたり契約の相手方が詐欺または強迫をしていたとき、詐欺や強迫の被害者はどのような主張が可能か。第三者が詐欺していたときと比べると何か違いがあるか。詐欺と強迫で差があるか。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐欺や強迫があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、詐欺と強迫の箇所を読んでくること 120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 96条2項と96条3項を読んだだけで、当事者関係図が書けるように整理する。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること 120分
13	10/27	演習（第2回）	法律行為と意思表示①～⑤の復習を兼ねて演習を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる
		事前学修	あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくること 120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する 120分
14	10/29	法律行為の自由と制約	契約は原則として自由であるものの、公序良俗や強行法規に反する場合には当該契約は効力を有しない。それでは、取締規定に反した場合はどうか。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約自由の原則がどういった理由からどのような形で修正されているのかを簡単に説明することができる。
		事前学修	教科書の「第7章 法律行為の自由と制約」を読んでくること 120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと これまで学んできた民法の条文がそれぞれ強行規定なのか任意規定なのか考えてみること。 第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること 120分
15	11/5	無効と取消し	無効と取消しは、どのような違いがあるのか。取消しの主体や期間はどのように定められているか。取消しができなくなる場合として追認や法定追認も学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無効と取消しとはどのような差異があるのかを整理して説明できるようになる。
		事前学修	教科書の「第8章 無効と取消し」を読んでくること 120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 無効・取消しの違いを整理する。 第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること 120分
16	11/10	条件と期限	そもそも条件と期限とはどのような差があるか。条件成就を妨害した場合にはどのような法的効果が生じるか。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件と期限とはどのような観点から区別されるのかを説明できるようになる。
		事前学修	教科書の「第9章 条件・期限」を読んでくること 120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 「期限の利益」とは何か、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること 120分
17	11/12	演習（第3回）	法律行為の自由と制約、無効と取消し、条件と期限について、復習を兼ねた演習を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる
		事前学修	あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討してくること 120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する 120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
18	11/17	代理①（代理の基本的仕組みと機能）	第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その構造と機能を学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理とはそもそもどのような場合に利用されるのかを説明できるようになる
		事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでもくること（2時間）120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 代理と使用者の違いを整理する。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）120分
19	11/19	代理②（代理権、顕名、代理行為）	第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その効果が生じる要件を整理して学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理とはどういった要件を満たすと、有権代理として認められるのかを説明できるようになる。
		事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでもくること120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと なぜ署名代理も顕名として許されているのかにつき、顕名が求められている趣旨に遡って考えてみること。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること120分
20	11/24	代理③（無権代理）	代理行為の効果は本人に帰属するのが原則であるが、代理の要件を満たしていなかった場合には、例外となる。そうした例外的局面における相手方保護の在り方として、無権代理人の責任を学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、有権代理の要件を満たさない場合には無権代理となるが、無権代理の場合に民法は相手方の保護としてどのような救済を図っているかを整地して説明することができる。
		事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第4節を読んでもくること120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 117条は、2017年改正によりどこが変わったのか、条文を比較して整理してみる。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること120分
21	12/1	代理④（表見代理）	前回に引き続き、有権代理の要件を満たさないために効果が本人に帰属しない局面における相手方保護の在り方として、表見代理制度を学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の場合にもかかわらず、なお例外的に本人に効果帰属する表見代理について、そのパターンを具体例とともに説明することができる。
		事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第5節を読んでもくること120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 109条の表見代理は、どのような場面で相手方を保護するものか。条文を見て具体例が挙げられるようにしておくこと。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること120分
22	12/3	演習（第4回）	代理①～④を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる
		事前学修	あらかじめ演習（第4回）の問題を全問検討してくること120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する120分
23	12/8	時効①（取得時効）	永続した事実状態を尊重する制度としての取得時効について、その法的仕組みを学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効制度について、世の中での実際の登場場面も含めイメージができるようになる。
		事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第1節を読んでもくること120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 自分の身の回りにある物で、実は取得時効が完成している物がないか考えてみる 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
24	12/10	時効②（消滅時効）	「権利の上に眠る者は保護に値しない」制度としての消滅時効について、2017年の民法改正での影響も含め学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効制度について、世の中での実際の登場場面も含めイメージができるようになる。
		事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第2節を読んでくること
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 2017年改正で消滅時効における時効期間が整理されたが、その趣旨を調査したうえで、その是非を考えること。 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること
25	12/15	時効③（時効の共通原則、時効制度の意義と類似の制度）	取得時効及び消滅時効に共通する原則や、時効制度と似た除斥期間制度について学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効制度における諸論点についての判例の理解をめぐる多様性を理解し、事例が少し変わっただけで結論が変わり得ることを理解する。
		事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第3節・第4節を読んでくること
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 日本民法では、時効の効果を享受するには時効の援用が必要だが、この援用はなぜ必要なのか、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること
26	12/17	演習（第5回）	時効①～③を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。
		事前学修	あらかじめ演習（第5回）の問題を全問検討してくる
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する
27	12/22	総合演習（第6回）	民法総則全体を終えて、その重要部分について総復習をする演習を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる
		事前学修	これまでの授業レジュメ全てと教科書を参照しながら、あらかじめ演習（第6回）の問題を全問検討してくる
		事後学修	演習問題の回答を整理する
28	12/24	授業内試験と解説	授業内試験をした後、試験問題についての簡単な解説を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになったかを確認する。
		事前学修	これまでのレジュメを全て整理し、授業内試験に備える。 分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する
		事後学修	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする
29	1/12	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）①	民法総則の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、未知の複雑な事例問題に対しても、これまでに修得した知識をもとに問題点を発見し、基礎知識を応用して論理的に民法の解決策を導き出すことができる。
		事前学修	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索してみる
		事後学修	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
30	1/14	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）②	民法総則の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。この最終回は、学生が物権法や債権法にスムーズに入っていけるよう、物権法や債権法をも意識した事例問題を提示する予定である。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、未知の複雑な事例問題に対しても、これまでに修得した知識をもとに問題点を発見し、基礎知識を応用して論理的に民法の解決策を導き出すことができる。	
		事前学修	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索してみる	120分
		事後学修	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる 来年度における民法やその延長線上の科目の履修計画を立てる	120分

科目名	民法基礎演習	担当者	加藤 雅之	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
法学の基本的事項の説明を交えつつ，民法全体（財産法）の基本的事項を説明する。なお，本授業は，改正債権法（民法の一部を改正する法律（平成29年法律第44号））を前提として行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体（財産法）に関する基本的事項を理解し，これを説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
事前に配布する問題について，質疑応答および解説講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的に毎回，問題について質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1						1	
②	民法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。				1						1	
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。										1	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての説明力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	15	15	15								45
小テスト等	授業中に実施する小テストにより、到達目標①②にかかわ る基本概念や立法趣旨が身についているかを確認する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適 切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にか かわる問題の考察力が身についているかを評価する。			30								30
討論・発表等	授業中の質疑応答において自分の意見を述べることができ たかを基準に、到達目標③にかかわる事例問題の解答能力 が身についているかを評価する。			5								5
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説講義を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オリエンテーション民法	松久三四彦，遠山純弘，林誠司	有斐閣	2018年	教科書	必携
18歳からはじめる民法〔第4版〕	潮見佳男，中田邦博，松岡久和	法律文化社	2019年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館2階423研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8 (水)	ガイダンス，民法入門	授業の進め方，成績評価方法についての説明を行う。 演習に参加する上で必要となる民法の基礎知識について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して，民法がどのような法律であるかを理解する。	
		事前学修	教科書第1章を読んで，民法について大まかなイメージをつかんでおく。 教科書の目次を参考にして，民法はどのようなことを規定しているについて知る。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
2	4/15 (水)	事例問題研究 事故による損害賠償	未成年者による事故に関する事例の検討を通じて，不法行為に基づく損害賠償請求に関する基本的事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して，不法行為法に関する民法の規定および判例を理解し，これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第8章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，問題に関する理解を深める。	120分
3	4/22 (水)	事例問題研究 ネット上での不法行為	インターネット上での権利侵害に関する事例の検討を通じて，不法行為法に関する現代的問題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して，不法行為法に関する民法の規定および判例を理解し，これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第8章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，問題に関する理解を深める。	120分
4	4/29 (水)	事例問題研究 契約違反に対する救済	売買契約における契約不適合に関する事例の検討を通じて，契約法（債務不履行）に関する基本的事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して，売買契約および契約違反に関する民法の規定および判例を理解し，これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第5章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，問題に関する理解を深める。	120分
5	5/6 (水)	事例問題研究 契約の成立	契約の成否に関する事例の検討を通じて，契約法に関する基本的事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して，契約の成立に関する民法の規定および判例を理解し，これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第3章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，問題に関する理解を深める。	120分
6	5/13 (水)	事例問題研究 望まない契約の効力	契約の有効性に関する事例の検討を通じて，契約法および法律行為（意思表示）に関する基本的事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して，契約の有効性に関する民法の規定および判例を理解し，これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第3章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，問題に関する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20 (水)	事例問題研究 所有権の保護	不動産所有権の対抗に関する事例の検討を通じて、物権法に関する基本的事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、所有権の移転および対抗に関する民法の規定および判例を理解し、これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第7章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、問題に関する理解を深める。	120分
8	5/27 (水)	事例問題研究 不動産賃貸借	不動産賃貸借契約の効力に関する事例の検討を通じて、契約法（契約各論）に関する基本的事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、賃貸借契約に関する民法の規定および判例を理解し、これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第3章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、問題に関する理解を深める。	120分
9	6/3 (水)	事例問題研究 役務提供契約	役務提供型契約の効力に関する事例の検討を通じて、契約法（契約各論）に関する基本的事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、役務提供型契約に関する民法の規定および判例を理解し、これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第3章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、問題に関する理解を深める。	120分
10	6/10 (水)	事例問題研究 債権回収と担保	債権回収に関する事例の検討を通じて、債権総論および担保物権法に関する基本的事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、債権の効力および担保に関する民法の規定および判例を理解し、これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第6章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、問題に関する理解を深める。	120分
11	6/17 (水)	事例問題研究 親族法	婚姻および離婚に関する事例の検討を通じて、親族法に関する基本的事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、婚姻および離婚に関する民法の規定および判例を理解し、これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第9章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、問題に関する理解を深める。	120分
12	6/24 (水)	事例問題研究 相続法	相続に関する事例の検討を通じて、相続法に関する基本的事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、相続に関する民法の規定および判例を理解し、これらをもとに事例に対する解答を適切に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する問題に対する解答を準備する（教科書第10章参照）。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、問題に関する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1 (水)	総括 事例問題に対する解答	これまでに学んだ基本的知識を前提として、事例問題に対する解答の作成方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、事例問題について、民法の規定に基づいて、論理的な解答を作成する方法を説明できる。	
		事前学修	教科書を参考にして、基本的用語および民法の規定といった基本的知識を整理する。	120分
		事後学修	講義で取り上げた事例および解答例を参考に、事例問題の解答を作成するにあたって注意すべき点を整理する。	120分
14	7/8 (水)	まとめと筆記試験	理解度を図るために筆記試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、事例問題のポイントを整理し、民法の規定に基づいて、論理的な解答を作成できる。	
		事前学修	これまでの学修内容を振り返り、理解が不十分な点があれば教科書等を参考に補う。	120分
		事後学修	「筆記試験の出題のポイント」をよく読んで、改めて解答を作成する。	120分
15	7/15 (水)	筆記試験の解説講義	筆記試験の解説講義を通じて、民法の基本的知識を復習し、事例問題の解答方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、事例問題のポイントを整理し、民法の規定に基づいて、論理的な解答を作成できる。	
		事前学修	筆記試験の問題を見直し、民法上問題となる点などを整理し、解答を準備する。	120分
		事後学修	解説講義の内容を参考に、自分の答案について見直しを行う。	120分

科目名	民法基礎演習【法曹コース】	担当者	山田 孝紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
法学の基本的事項の説明を交えつつ、民法全体（財産法）の基本的事項を説明する。なお、本授業は、改正債権法（民法の一部を改正する法律（平成29年法律第44号））を前提として行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体（財産法）に関する基本的事項を理解し、これを説明できる能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
1. レジюмеや教科書を用いて、具体的な事例を題材に講義形式で行う。レジюмеには空欄があるが、空欄以外にも重要箇所は適宜メモをとること。 2. 演習科目であることから受講生との対話形式もとりたい。教員が皆さんに質問をすることがあるので、その際には積極的に意見を述べてほしい。事例問題に対する解答を作成する時間もとりたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の質問に対して考え、自分の意見を述べられるようにすること。 学生同士で意見を交換し、疑問点を見つけ、解消できるようになること。 時間に余裕がある範囲で、事例問題演習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						1						1	
②	民法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。						1						1	
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。												1	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての説明力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	15	15	15								45
小テスト等	授業中に実施する小テストにより、到達目標①②にかかわ る基本概念や立法趣旨が身についているかを確認する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適 切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にか かわる問題の考察力が身についているかを評価する。			30								30
討論・発表等	授業中の質疑応答において自分の意見を述べることができ たかを基準に、到達目標③にかかわる事例問題の解答能力 が身についているかを評価する。			5								5
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのコメントシートの配布、小テストの解説、レポートの添削、授業内試験の解説

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法入門ノート	渡邊力編	法律文化社	2019	教科書	必携
最新版の六法		各自の好みでどうぞ	2019	その他	必携
ナビゲート民法：契約社会を賢く生きるための14章	増成＝笹川編	北大路書房	2019	参考書	任意
リーガルベシス民法入門〔第3版〕	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2019	参考書	任意
民法がわかった〔改訂第5版〕	田中嗣＝田中義＝大島	法学書院	2019	参考書	任意
最強の法律学修ノート術	木山泰嗣	弘文堂	2017	参考書	任意
法学ライティング	木山泰嗣	弘文堂	2015	参考書	任意
カフェパウゼで法学を	横田明美	弘文堂	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 3 限。事前にアポイントをとってもらえると大変ありがたいです。授業後など質問には柔軟に対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ガイダンス・民法とは何か	この授業の目的、進行方法、成績評価方法、教科書的使用方法について説明する。その後、民法とはどのような法であるのかについて概要をつかむ。	
		この回の到達目標	民法基礎演習がこれから民法を学修するにあたってどのような意味を持つのか、授業の目的を理解する。また民法とはどのような法分野であるのかについて理解する。	
		事前学修	教科書を購入する。トピック1～3を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
2	4月14日	契約の主体、物、契約自由の原則、契約の拘束力とその例外	まず初めに、契約の主体となるために必要な能力（権利能力）や物（不動産・動産）の概要をみます。その後、契約制度の必要性、契約自由の原則と例外、そもそもなぜ契約を守らなければならないのか（守らなくてもよいのはどのような場合か）ということについて具体例を通して学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、権利義務の帰属主体となることができる能力（権利能力）を具体例を通して説明できるようになること。また契約制度がなぜあるのか、契約自由の原則と例外、契約の拘束力の理由について具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	トピック4～5、9を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
3	4月21日	契約の有効性	意思表示、法律行為という概念を学びます。その後、契約の有効性が問題となる場合として、心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫、公序良俗の概要を学びます（詳細は民法Ⅰの授業にて）。なお、行為能力制度については第11回で学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、意思表示・法律行為の意義について具体例を通して説明できるようになること。また心裡留保・通謀虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫・公序良俗の意義・要件・効果の概要について具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	トピック8、10～14を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
4	4月28日	様々な契約の種類	民法典が用意している契約類型にはどのようなものがあるのかについて学びます。その中でも代表的な売買契約、貸借型契約（賃貸借・消費貸借・使用貸借）、役務提供型契約（請負・委任）を中心に各契約類型の違い、権利義務の内容について具体例を通して学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、民法典にはどのような契約類型があるのか、売買契約、賃貸借契約、役務提供型契約における当事者の権利義務の内容について具体例をあげて説明できるようになること。	
		事前学修	トピック6、32、34、36、38～39を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
5	5月5日 (GWでも関係ない！)	契約の履行・不履行と効果の全体像、契約の不履行①－履行の強制、損害賠償	契約はどのように実現されるのか、契約を守らない場合（契約不履行）にはどのような種類があるのか、契約を守らなかった場合にどのような効果が生じるのか（履行の強制、損害賠償）について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、契約はどのように実現（履行）されるのか、債務不履行の種類、債務不履行の場合にいかなる効果が生じるのかについて（この回では履行の強制と損害賠償について）具体例をあげて説明できるようになること。	
		事前学修	トピック8－1、20－1、23～27を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
6	5月12日	契約の不履行②－契約の解除、契約の双務性	前回に続いて、契約を守らなかった場合の効果として解除について学びます。その後、双務契約において、一方の債務が履行されない場合に他方の債務はどうなるのかという問題（契約の双務性）や同時履行の抗弁権や危険負担について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、解除制度の意義・要件・効果について説明できるようになること。また契約の双務性、同時履行の抗弁権、危険負担制度について具体例をあげて説明できるようになること。	
		事前学修	トピック28～29、33、16、18を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	不法行為以外の法定債権の概要、論述練習とレポート課題の説明	事務管理、不当利得制度の基礎について学ぶ。そのうえで、契約法のまとめを兼ねて、論述問題においてどのような答案を書けばよいのか、またレポート課題ではどのような答案が求められるのかを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、事務管理、不当利得制度について具体例をふまえて説明できるようになること。また到達目標①・②・③に関連して、論述答案の解答方法を理解すること。レポート課題について準備すること。なお、レポート課題は提出しただけで合格ではない。到達目標③が達成できているかどうかを評価し、著しく評価が低いレポートには再提出を命じることもある。	
		事前学修	第1回目から第6回目までの復習。	360分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
8	5月26日	一般的不法行為の要件と効果	自動車事故にあい、けがを負った場合などに不法行為責任が問題となります。この回では、不法行為制度の目的、過失責任主義、一般的な要件と効果について学びます（時間があれば使用者責任についても）。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、不法行為制度の意義、目的、過失責任主義、一般的な要件と効果について具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	トピック57～59（時間があれば60～61）を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
9	6月2日	物権の種類・意義・性質、物権的請求権	人は「物」を自由に使ったり、他人に貸して収益をあげたり、処分したりすることができます。この権利のことを所有権といいます。この回では、所有権を中心とする物権の意義・効力、所有権絶対の原則、物権が侵害された場合（例えば他人に物をとられた場合）の効力について具体例を通して学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、物権の意義と種類、所有権絶対の原則、所有権の意義と制限、所有権が侵害された場合の効力（物権的請求権）について具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	トピック42～44を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
10	6月9日	物権変動	この回では、不動産の物権変動、動産の物権変動の概要を学びます。具体的には、ある人Aが一つの不動産をBやCに売却してしまった場合の法律関係、Aの物を借りていた人Bがその物を自己の物だと言ってさらにCに売ってしまった場合の法律関係について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、登記の意味、民法177条の制度趣旨、同条の第三者の範囲、動産物権変動とは何か、即時取得制度（民法192条）の意義・要件・効果について具体例をふまえて説明できるようになること	
		事前学修	トピック45～49を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
11	6月16日	人的担保と物的担保、物的担保の種類	AがBにお金を貸したとします。このとき、Bがお金を返してくれないこともあります。そうした場合に備えてお金を貸した人（債権者）は、「担保」をとることがあります。担保が人である場合を人的担保といい、物である場合を物的担保といいます。前者について保証制度、後者について抵当権を中心にその概要を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、人的担保制度（保証）と物的担保の違いについて説明できるようになること。また物的担保の種類（抵当権、質権、留置権、先取特権）、抵当権の意義・重要性について具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	トピック51～53、56を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
12	6月23日	子どもと高齢者にまつわる法	未成年者が親の同意を得ずに高価な物を買ってしまった、取引をするための知的能力が著しく十分でない高齢者が望まない契約をしてしまった場合、契約の効力はどうなるのか、という問題を学びます。その後、時間があれば、精神上的障害により自己の行為の責任を弁識する能力に欠く者や小学校低学年くらいの子どもの不法行為を起こした場合の監督義務者の責任（第8回の応用）についてみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、行為能力の意義、制限行為能力制度の必要性、制限行為能力者の種類について具体例をあげて説明できるようになること。また責任無能力者の監督義務者等の責任について具体例をふまえて民法の条文構造について説明できるようになること（時間があれば）。	
		事前学修	トピック10、72（時間があれば61）を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	相続のしくみ (*授業内容の変更の可能性もあります。その場合は事前にお伝えします)	人が亡くなると、相続人にその人の権利義務の一切が承継されます。この回では、相続の意義、相続人と相続割合、遺産分割など相続制度の中でも特に財産法領域と関連のある部分の基礎を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、相続制度の意義、相続人と相続割合、遺産分割の意義、配偶者居住権などについて具体例をあげて説明できるようになること。	
		事前学修	トピック73～75を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
14	7月7日	授業内試験！	到達目標①・②・③が達成できているかどうかを確認するために、記述式（配点45点）を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③が達成できているかどうかを確認する。	
		事前学修	試験前の猛勉強。レジュメを繰り返し復習すること。また教科書の穴埋め問題、巻末の論述問題を参考に、重要語句・民法の様々な制度の趣旨の理解を深めておくこと。	600分
		事後学修	振り返りを行う。	30分
15	7月14日	試験の解説（授業内試験の予備日）	前回の授業内試験について解説を行います。 なお、授業の進度、休講等の状況によっては最終回に授業内試験を行うこともあります。その場合、解説はポータルサイトを通じて行います。	
		この回の到達目標	試験の解説をふまえて、授業内容の中で理解できたところ、特に理解できなかったところはどこなのかを把握し、今後の学修課題を見つけること。	
		事前学修	前回の授業内試験について復習する。	120分
		事後学修	試験の解説をふまえてもう一度試験の答案を見直し、今後の学修課題を見つけること。	120分

科目名	民法基礎演習	担当者	大杉 麻美	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
法学の基本的事項の説明を交えつつ、民法全体（財産法）の基本的事項を説明する。なお、本授業は、改正債権法（民法の一部を改正する法律（平成29年法律第44号））を前提として行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体（財産法）に関する基本的事項を理解し、これを説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
テキストに沿って講義を行う。状況に応じてパソコンを利用し対象判例をプリントアウトしたり、あるいは図書館で対象判例のコピーをしてもらい、当該判例を講義中にて検討する。判例の検討にあたっては学生との質疑応答により進行する。事案を理解し、分析し、判例の考え方を学び、これを説明できる能力を修得する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						1						1	
②	民法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。						1						1	
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。												1	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての説明力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	15	15	15								45
小テスト等	授業中に実施する小テストにより、到達目標①②にかかわ る基本概念や立法趣旨が身についているかを確認する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適 切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にか かわる問題の考察力が身についているかを評価する。			30								30
討論・発表等	授業中の質疑応答において自分の意見を述べることができ たかを基準に、到達目標③にかかわる事例問題の解答能力 が身についているかを評価する。			5								5
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び開設を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合には、定期試験の解説・講評を、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ひとりで学ぶ民法[第2版]』	山野目章夫・横山美夏・山下純司著	有斐閣	2012年	教科書	必携
『民法判例百選Ⅰ 総則・物権[第8版]』	潮見佳男・道垣内弘人編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
『民法判例百選Ⅱ 債権[第8版]』	窪田充見・森田宏樹編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
『民法判例百選Ⅲ 親族・相続[第8版]』	水野紀子・大村敦志編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部金 4/10	ガイダンス、民法総則(権利能力)に関する問題	授業の進め方や内容、授業のスケジュール、授業計画につき確認をする。また成績評価の方法や学修方法についてもあわせて解説する。教科書「No1権利能力・行為能力・意思能力」の事例を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権利能力・行為能力・意思能力に関する事例を分析し、解決策を説明することができる。	
		事前学修	教科書「No1権利能力・行為能力・意思能力」の事例を読み、事実関係の分析をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書「No1権利能力・行為能力・意思能力」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分
2	第二部金 4/17	民法総則(意思表示等)に関する問題	教科書「No2意思表示(1) No3意思表示(2) No4代理 No4No5時効」の各事例について、事案と判旨を学び、各事例に対する裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、意思表示・代理・時効に関する事例を分析し、解決策を説明することができる。	
		事前学修	教科書「No2意思表示(1) No3意思表示(2) No4代理 No4No5時効」の事例を読み、事実関係の分析をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書「No2意思表示(1) No3意思表示(2) No4代理 No4No5時効」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分
3	第二部金 4/18	物権法(物権変動等)に関する問題	教科書「No6不動産物権変動 No7動産物権変動 No8物権的請求権 No9共有」の各事例について、事案と判旨を学び、各事例に対する裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書「No6不動産物権変動 No7動産物権変動 No8物権的請求権 No9共有」に関する事例を分析し、解決策を説明することができる。	
		事前学修	教科書「No6不動産物権変動 No7動産物権変動 No8物権的請求権 No9共有」の事例を読み、事実関係の分析をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書「No6不動産物権変動 No7動産物権変動 No8物権的請求権 No9共有」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分
4	第二部金 4/25	物権法(担保物権等)に関する問題	教科書「No10担保物権全般 No11抵当権(1) No12抵当権(2) No13非典型担保」の各事例について、事案と判旨を学び、各事例に対する裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書「No10担保物権全般 No11抵当権(1) No12抵当権(2) No13非典型担保」に関する事例を分析し、解決策を説明することができる。	
		事前学修	教科書「No10担保物権全般 No11抵当権(1) No12抵当権(2) No13非典型担保」の事例を読み、事実関係の分析をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書「No10担保物権全般 No11抵当権(1) No12抵当権(2) No13非典型担保」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分
5	第二部金 5/2	債権総論(債権者代位権等)に関する問題	教科書「No14債権者代位権 No15詐害行為取消権 No16保証債務 No17弁済」の各事例について、事案と判旨を学び、各事例に対する裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書「No14債権者代位権 No15詐害行為取消権 No16保証債務 No17弁済」に関する事例を分析し、解決策を説明することができる。	
		事前学修	教科書「No14債権者代位権 No15詐害行為取消権 No16保証債務 No17弁済」の事例を読み、事実関係の分析をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書「No14債権者代位権 No15詐害行為取消権 No16保証債務 No17弁済」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分
6	第二部金 5/9	債権各論(売買等)に関する問題	教科書「No18相殺 No19売買 No20賃貸借」の各事例について、事案と判旨を学び、各事例に対する裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書「No18相殺 No19売買 No20賃貸借」に関する事例を分析し、解決策を説明することができる。	
		事前学修	教科書「No18相殺 No19売買 No20賃貸借」の事例を読み、事実関係の分析をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書「No18相殺 No19売買 No20賃貸借」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部金 5/16	債権各論(請負等)に関する問題	教科書「No21請負 No22役務提供契約 No23危険負担」の各事例について、事案と判旨を学び、各事例に対する裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書「No21請負 No22役務提供契約 No23危険負担」に関する事例を分析し、解決策を説明することができる。	
		事前学修	教科書「No21請負 No22役務提供契約 No23危険負担」の事例を読み、事実関係の分析をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書「No21請負 No22役務提供契約 No23危険負担」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分
8	第二部金 5/23	債権各論(不法行為)に関する問題	教科書「No24不法行為(1) No25不法行為(2)」の各事例について、事案と判旨を学び、各事例に対する裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書「No24不法行為(1) No25不法行為(2)」に関する事例を分析し、解決策を説明することができる。	
		事前学修	教科書「No24不法行為(1) No25不法行為(2)」の事例を読み、事実関係の分析をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書「No24不法行為(1) No25不法行為(2)」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分
9	第二部金 5/30	債権各論(不当利得)に関する問題	教科書「No26不当利得(1) No27不当利得(2)」の各事例について、事案と判旨を学び、各事例に対する裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書「No26不当利得(1) No27不当利得(2)」に関する事例を分析し、解決策を説明することができる。	
		事前学修	教科書「No26不当利得(1) No27不当利得(2)」の事例を読み、事実関係の分析をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書「No26不当利得(1) No27不当利得(2)」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分
10	第二部金 6/6	家族法に関する問題	教科書「No28親子関係 No29相続(1) No30相続(2)」の各事例について、事案と判旨を学び、各事例に対する裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教科書「No28親子関係 No29相続(1) No30相続(2)」に関する事例を分析し、解決策を説明することができる。	
		事前学修	教科書「No28親子関係 No29相続(1) No30相続(2)」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分
		事後学修	教科書「No28親子関係 No29相続(1) No30相続(2)」の事例を読み返し、解決策をも含めた論理の流れを文章にしてノートにまとめておく。	120分
11	第二部金 6/13	民法総則に関する発展問題	講義中に事前に指定された判例をTKC等により取得し、事案及び判旨、裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義中に指定された事案につき、事案及び判旨、裁判所の考え方を説明することができる。	
		事前学修	講義中に事前に指定された判例をTKC等により取得し、事案及び判旨に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義で解説された判例につき、事案及び判旨を読み返し、判例の理論の流れをノートにまとめておく。	120分
12	第二部金 6/20	物権法に関する発展問題	講義中に事前に指定された判例をTKC等により取得し、事案及び判旨、裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義中に指定された事案につき、事案及び判旨、裁判所の考え方を説明することができる。	
		事前学修	講義中に事前に指定された判例をTKC等により取得し、事案及び判旨に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義で解説された判例につき、事案及び判旨を読み返し、判例の理論の流れをノートにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部金 6/27	契約法に関する発展問題	講義中に事前に指定された判例をTKC等により取得し、事案及び判旨、裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義中に指定された事案につき、事案及び判旨、裁判所の考え方を説明することができる。	
		事前学修	講義中に事前に指定された判例をTKC等により取得し、事案及び判旨に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義で解説された判例につき、事案及び判旨を読み返し、判例の理論の流れをノートにまとめておく。	120分
14	第二部金 7/4	家族法に関する問題	講義中に事前に指定された判例をTKC等により取得し、事案及び判旨、裁判所の考え方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義中に指定された事案につき、事案及び判旨、裁判所の考え方を説明することができる。	
		事前学修	講義中に事前に指定された判例をTKC等により取得し、事案及び判旨に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義で解説された判例につき、事案及び判旨を読み返し、判例の理論の流れをノートにまとめておく。	120分
15	第二部金 7/11	判例のまとめと授業内試験	講義中に事前に指定された判例をTKC等により取得し、事案及び判旨、裁判所の考え方を学ぶ。また講義中に提示された事案につき、事案及び判旨、裁判所の考え方につき理解しているかに関する試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義中に指定された事案につき、事案及び判旨、裁判所の考え方を説明することができる。	
		事前学修	これまで講義で扱った判例の事案及び判旨、裁判所の考え方をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	これまで講義で解説された判例につき、事案及び判旨を読み返し、判例の理論の流れをノートにまとめておく。また講義中に実施された試験につき、ノートにまとめて復習をしておく。	120分

科目名	メディア・テキストの基礎	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて、授業内で指示をする				

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し、講義形式で行う。また、授業内での小テスト、試験の講評も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「情報法概説」 第2版	曾我部真裕ほか	弘文堂	2019	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館 9 階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp)にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 9/17	ガイダンス、情報法とは何か	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。情報の生産・流通・消費に関する法。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関連し、大きな変革期にある情報社会における政策・法を考察する意義を理解し、能動的に今後の学修をすすめることができるようにする。	
		事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
		事後学修	情報法Ⅰの授業ノートを改めて読む。	120分
2	第一部 木 9/24	表現の自由Ⅰ	検閲の歴史。	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、検閲の歴史から表現の自由を獲得した経緯を説明することができる。	
		事前学修	憲法第21条の内容を確認するとともに、大日本帝国憲法第29条との違いを調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
3	第一部 木 10/1	表現の自由Ⅱ	思想の自由市場論、優越的地位、二重の基準論。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、表現の自由の優越的地位について説明することができる。	
		事前学修	博多駅テレビフィルム提出命令事件について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
4	第一部 木 10/8	放送制度Ⅰ	戦前の放送法制。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、戦前の放送制度の特徴を説明することができる。	
		事前学修	放送メディアと印刷メディアの違いについて整理する。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
5	第一部 木 10/15	放送制度Ⅱ	敗戦から電波3法制定まで。民放の誕生。	
		この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、日本の放送制度の概要が説明することができる。	
		事前学修	GHQが行った日本の民主化政策にはどのようなものがあったか調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
6	第一部 木 10/22	放送制度Ⅲ	放送法の構造。	
		この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、放送の規制根拠を説明することができる。	
		事前学修	放送法第1章を読んで、どのようなことが記述されているかをまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 10/29	電気通信政策の変遷Ⅰ	電話から携帯、そしてインターネットへ。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連し、電気通信技術の発達と政策の変遷について説明することができる。	
		事前学修	1985年の通信の自由化について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
8	第一部 木 11/5	電気通信事業の変遷Ⅱ	ブローバンドとスマートフォンの時代へ。	
		この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、高度情報通信ネットワーク社会形成に向けた政策を説明することができる。	
		事前学修	Society 5.0について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
9	第一部 木 11/12	通信の秘密	通信の秘密の保障根拠。通信の秘密への制約。	
		この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、通信の秘密について説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
10	第一部 木 11/19	情報通信法構想Ⅰ	「通信・放送の在り方に関する懇談会」での議論のポイント。	
		この回の到達目標	達成目標②④に関連し、政府が提案したコンテンツ規制に関する根拠を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
11	第一部 木 12/3	情報通信法構想Ⅰ	コンテンツ規制に対する反対意見。2010年放送法改正。	
		この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、放送のハード・ソフト分離についてメリットとデメリットを説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
12	第一部 木 12/10	インターネットとは何か	インターネットが、これまでのメディアと異なる独自の特徴。	
		この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、インターネットの光と陰を説明することができる	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 12/17	インターネットにおける表現の自由	インターネット上の表現の功罪	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、インターネットにおける表現の自由に関する新たな課題を説明することができる。	
		事前学修	表現の自由Ⅰ、Ⅱの授業ノート、事後学習のまとめを改めて読む。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
14	第一部 木 12/24	インターネット法はどうあるべきか	印刷メディアの法。放送メディアの法。コモンキャリアッジの法。	
		この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、インターネットを包括する法律が必要か必要ではないか意見をのべることができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
15	第一部 木 1/14	授業内試験、解説	60分の試験の後に解説を行う。	
		この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア・テキストの基礎	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション・導入講義	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
					必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション、及び 導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼン テーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の 到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼン テーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼン テーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディアと歴史	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本授業は、メディアと社会の諸関係に構造化された問題群について、次の二つのアプローチから考えようとする。第一に、「比較」であり、ここでは、日本、東アジア諸国、アメリカの事例を扱いながらグローバルな視野で問題群を捉える。第二に、「歴史」の観点である。そこには、過去と現在との分かちがたい結びつきのなかで、問題群を理解し、乗り越えていくべき方向性を見通しうる、一つの思考枠組みを示すねらいがある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業は、メディアの可能性と限界を把握し、現代社会に構造化されたメディアの諸問題を克服するために、グローバルな視野と歴史的視点を獲得する。それは、異なる地域における歴史的展開を比較し、歴史の重層性、複数性（histories）を感知しながら、現在の問題を立体的に考えることのできる思考枠組を培おうとするものである。

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情などに関心をもつ学生を、特に歓迎する。課題文献は、初回の授業時に提示するので、かならず出席すること。

【授業方法】
海外のメディアやジャーナリズム、国際政治、国際関係に関する授業もあわせて受講することが望ましい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業では学生の理解を助けるために、レジュメを配付し、随時、視聴覚教材を活用する。また、学生との対話を重視した インタラクティブな授業を実施する。授業内での課題やレポートに対して、次回の授業でフィードバックを行うことで理解を深める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアの歴史的展開について、社会との関係性を踏まえながら、説明することができる。						1							
②	日本を含む東アジア諸国やアメリカにおけるメディアと社会の関係性について、歴史的な観点から、その特徴と構造、メカニズムを説明することができる。							1						
③	現代社会におけるメディアの諸問題について、歴史的な観点から、把握し、その克服の方案を示すことができる。								1					
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する知識が身につき、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③の知識が、どの程度身についているのかを、評価する。	5	5	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身につき、独創的な思考を展開できているのかを評価する。	5	5	10								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評するほか、成績評価のための課題についてはポータルシステムなどを活用し、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし、関連文献は授業内で紹介する					
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（本館9階小林（聡））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	イントロダクション・導入講義	授業の目的や進め方などについて説明する。グローバルに、かつ、歴史的に、物事を捉えることとは、どのようなことなのか。こうした授業を貫く「軸」について概要を述べ、受講生が次回以降の授業に入っていくやすくなるための心構えを伝える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史から現在を問い、未来を考えるための思考的枠組みを獲得し、能動的に学修をすすめていくうえでの方法を習得できる。	
		事前学修	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
2	2	歴史とは何か	ここでは、歴史とは何かという普遍的なテーマを扱いながら、最近の新たな研究潮流であるグローバル・ヒストリーの観点からメディアの歴史を捉えることの可能性と意義、限界について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーというアプローチの意義について説明できる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
3	3	近代日本の新聞成立	日本という空間のなかで、新聞はどのように誕生したのかを説明する。そのうえで、近代日本の新聞成立という歴史的事象を東アジアの空間に再配置して捉えた場合、そこから、いかなる意味が浮かび上がってくるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、近代日本における新聞の成立過程について説明し、そこで特徴的にあらわれる社会の様相について述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
4	4	19世紀末東アジアと日中メディア関係(1)	19世紀末の中国におけるメディア、ジャーナリズム状況について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、中国における新聞の成立について説明し、それが、東アジア世界と、どのような関係を取り結びながら展開していたのか、特に日本との関係に注目して、述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
5	5	19世紀末東アジアと日中メディア関係(2)	琉球をめぐる論争が、日中のメディアで、どのような沸き起こっていたのか、その状況を説明し、ジャーナリズムが、空間を超えて機能する様相について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、琉球をめぐる歴史的状況と、そこに、日中のメディアが、いかに関与していたのかについて、説明できる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
6	6	19世紀末東アジアと日中メディア関係(3)	19世紀末の日中関係から、現代社会に与える教訓を読み取り、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、日本と中国の近代史について説明し、そこから得られる、現代社会における課題を述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	メディアの戦争責任	戦争を賛美し続けたメディアが、いかに戦争反対のメディアへと展開していったのか。その過程で忘れ去られた問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代日本メディアが、自らの戦争責任について、どのように向きあってきたのか、あるいはこなかったのかについて述べるができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
8	8	メディアと記憶（日本編）	メディアが、どのように私たちの記憶をつくりだしているのかについて、日本のケースを取り上げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、メディアと記憶の関係について、具体的な事例を挙げながら、述べるができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
9	9	メディアと記憶（アメリカ・ソ連・中国編）	メディアによる記憶形成メカニズムについて、米ソ中を事例として説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、記憶形成におけるメディアの役割と、そのメカニズム、問題点を述べるができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
10	10	メディアと記憶（韓国・北朝鮮編）	メディアによる記憶形成メカニズムについて、韓国・北朝鮮を事例として説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、韓国や北朝鮮の歴史と社会について、メディアによる記憶形成の観点から述べるができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
11	11	GHQ占領期のメディア検閲	日本への民主主義の導入・促進を目指したGHQが、民主主義とは正反対の性格を持つ検閲を実施したことの「矛盾」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、言論の自由と民主主義について、歴史的なアプローチから述べるができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
12	12	戦後日本のジャーナリズム教育とアメリカ	アメリカによるジャーナリズム教育の導入と、そこに含意されているものについて説明し、ジャーナリズム研究や教育に内包され、構造化されている「アメリカ」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、メディアの民主化と、ジャーナリズム教育の導入にまつ政治性について述べるができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	朝鮮戦争とNHK	朝鮮戦争期、NHKが、国連軍による心理戦に「参戦」した事実を取り上げ、公共性とは何か、権力とメディアの関係について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、メディアによる戦争協力について、ポスト戦後期という文脈から述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	14	時事問題の解説	授業期間中に起きた外交・国際政治に関するイシューをとりあげ、これまでに学んできた知見のいくつかを用いて解説する。それは、授業で得た知識や思考枠組みが、現実の問題に対して、どのような独創的な観点から切り込んでいけるのかを、具体的に受講者に示す試みとなる。	
		この回の到達目標	国際情勢に関する問題を発見し、自らの独自の視点で分析し、その解決方を提示できる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	15	まとめ	グローバルに、そして、歴史的に考えることの意義について、あらためて説明し、得られた知識の確認と定着、そして、それを応用するための思考枠組みの再提示を試みる。	
		この回の到達目標	授業の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	メディアの世界	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
学部1年生を対象にした少人数制の科目で、メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各領域についての学問的基礎、認識、方法論について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、新聞学科での4年間の学びの基礎を身につけるため、メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各領域についての学問的基礎、認識、方法論を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内の解説、関連動画の視聴などを行い、それをめぐる質疑によって理解を深める	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野についての基礎的な概念や方法論について説明することができる					1							
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関連する社会の各分野、業界等の特徴や問題点などについて述べることができる						1						
③	メディア史研究や地域研究などの基礎知識や方法論について説明することができる。							1					
④	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野で学んでいくために基礎的な資料や文献を収集し、解釈することができる								1				
⑤	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野で学んでいくために、今後の研究の目標を立てることができる									1			
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤に関わる能力がみについているかを確認する	20	20	18	18	18						94
討論・発表等	基礎的知識や方法に関する質疑応答において自分の意見を的確に述べることができるかどうかを基準に、到達目標③④に関わる能力や態度が身についているかを評価する			2	2	2						6
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題発表時に授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア（新版）	藤竹暁 竹下俊郎	NHK出版	2018	教科書	推奨
よく分かるメディア・スタディーズ	伊藤守編著	ミネルヴァ書房	2015	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
オムニバス講義のため、各回の担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	イントロダクション、及び導入講義	新聞学科での学びの概要と方法について	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新聞学科での学びの概要や特徴などについて説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
2	/	メディア・コミュニケーション①	メディア研究の基礎概念、方法論	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、メディア研究に関する基礎概念や方法論について述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
3	/	メディア・コミュニケーション②	コミュニケーション研究の基礎概念、方法論	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、コミュニケーション研究に関する基礎概念や方法論について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
4	/	メディア・コミュニケーション③	メディア研究、コミュニケーション研究の射程	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、コミュニケーション研究にどのような意義や可能性があるかについて述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
5	/	ジャーナリズム①	ジャーナリズム研究の基礎概念、方法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ジャーナリズム研究に関する基礎概念や方法論について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
6	/	ジャーナリズム②	ジャーナリズムとは何か、その役割と意義	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ジャーナリズムの存在意義や社会的役割について述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	ジャーナリズム③	ジャーナリズムと現代社会	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代社会におけるジャーナリズムの諸相、問題点について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
8	/	ジャーナリズム④	ジャーナリズムと政治	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治とジャーナリズムの関わりについて述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
9	/	放送①	放送メディアの基本的特徴	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、放送メディアの基本的なメディア特性について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
10	/	放送②	放送産業の構造と特徴	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、放送産業の基本的な特徴や現状、問題点などについて述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
11	/	放送③	放送③	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、放送ジャーナリズムの特徴、社会的役割について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
12	/	メディア史①	日本におけるメディアの歴史	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本におけるメディア、ジャーナリズムの歴史的展開について述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	メディア史②	メディア史研究の射程と可能性	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、ディア史研究の意義や可能性について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
14	/	地域研究	東アジア地域におけるメディア研究	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、東アジア地域におけるメディアを取り巻く現状や課題について述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
15	/	総括とレポート	15回の講義を総括し、授業内レポートを作成、提出する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、新聞学科で扱われる学問・研究領域の特徴について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分

VIII群

教職課程科目

VIII群

教職課程科目

科目名	教育課程論	担当者	奥田 智	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学習指導要領においては、生徒や地域等の実態を踏まえて特色ある学校づくりを進める事が求められており、学校教育における教育課程編成の重要性を理解させる。その際、全国学力・学習状況調査結果等から生徒の学習課題を明らかにするとともに、カリキュラム・マネジメントをはじめとする教育課程編成に関わる全国の事例研究を行う。また、過去の学習指導要領の改訂の歴史的な変遷にも触れながら、教育課程編成の意義についても理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】学習指導要領においては、生徒や地域等の実態を踏まえて特色ある学校づくりを進める事が求められており、学校教育における教育課程編成の重要性を理解させる。 【到達目標】 1. 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、説明できるようになること。 2. 教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、説明できるようになること。 3. 学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解し、説明できるようになること。 4. 学習指導要領改訂にある背景及び要点を理解し、説明できるようになること。

【履修条件】
教員免許の取得を目指す者

【授業方法】
学習指導要領等に関わる解説及び先進的な教育課程編成の事例研究などについては原則は講義形式で行うが、必要に応じて演習形式も随時取り入れ、対話的・協働的な学びの場とする。レポートの講評を授業内にて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第5回以降、事例研究に関する課題に関わる演習及びディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	教育課程の基本概念について説明できる。【知識】								
②	新学習指導要領のねらいについて説明できる。【知識】								
③	カリキュラム・マネジメントについて説明できる。【知識】								
④	学校における教育課程編成の手続きと内容について調査及び説明することができる。【知識】【技能】								
⑤	教育課程の意義について積極的に意見を述べることができる。【態度・習慣】【技能】								
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第3回の授業内において到達目標①②③に関わる内容が理解できているか、レポート等の作成を通して確認する。	20	20	20								60
討論・発表等	第7回及び15回の授業内において到達目標④⑤に関わる事例を踏まえてディスカッション等を行い理解度を確認する。	20	20									40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート等及びディスカッション後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高等学校学習指導要領解説総則編		文部科学省	平成30年度		
中学校学習指導要領解説総則編		文部科学省	平成29年度		
備考					

【オフィスアワー】
授業開始前後15分間に教室で対する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高校教員 教育委員会指導主事
実務経験に基づく実践的教育の内容		高校教員・教育委員会指導主事の経験を生かして学習指導案作成及び模擬授業指導においてより学校現場にそくした指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9／16	教育課程	教育課程の基本概念について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して教育課程の基本概念について理解し説明することができる。	
		事前学修	教育課程の基本概念について事前に調べる。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
2	第一部水 9／23	学習指導要領	学習指導要領の変遷と時代背景について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して学習指導要領の変遷と時代背景について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
3	第一部水 9／30	学習指導要領	新学習指導要領のねらいについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して新学習指導要領のねらいについて理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
4	第一部水 10／7	教育課題	国際学力調査及び全国学力学習状況調査結果からわかる教育課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して教育課題について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
5	第一部水 10／14	教育課程編成	教育課程編成の事例研究を行う。1	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
6	第一部水 10／21	教育課程編成	教育課程編成の事例研究を行う。2	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10 ／ 28	教育課程編成	教育課程編成の事例研究を行う。3	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
8	第一部水 11 ／ 11	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの重要性について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
9	第一部水 11 ／ 18	カリキュラム・マネジメント	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(調査等による課題把握)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
10	第一部水 11 ／ 25	カリキュラム・マネジメント	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(課題の対応策検討)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
11	第一部水 12 ／ 2	カリキュラム・マネジメント	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(評価及び更なる改善)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
12	第一部水 12 ／ 9	教育課程編成の手続きと内容	学校における教育課程編成の手続きと内容について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して学校における教育課程編成の手続きと内容について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12 ／16	教育課程の意義	教育課程の意義について解説する。(授業改善の重要性)	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
14	第一部水 12 ／23	教育課程の意義	教育課程の意義について解説する。(学校改善の重要性)	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
15	第一部水 1 ／13	総括	教育課程の意義について総括する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分

科目名	教育原論	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教育を人類の歴史の中に位置づけ、教育を人類の営みと考えるて教育の原理を考察する。多くの教育論の中から、教育学の成立と発展に大きな影響を与えた人々の教育観に注目して教育について考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間と教育の関係、学校の成立とそれを支える教育思想、を歴史的な視点から理解することを目的とし、これからの教育の在り方を自ら考察することができるようになることを目標とする。

【履修条件】
教員採用試験の受験を考えている学生。

【授業方法】
講義だけでなく、教員採用試験対策問題等を行いながら、解説を加えていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	BYODを用いた資料検索を通して、自ら考え、自らの意見をまとめられる学生の育成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育政策の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の教育政策が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	「子どもの貧困」はどこに原因があるのか、問題点を明らかに、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現在の教育政策の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。											
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。					20						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30		20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポートの模範例を示すとともに、ABCの3段階で評価し、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教育政策・行政	安藤忠・壽福隆人監修	弘文堂	平成25年3月		
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2限 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当 学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	人類と教育	人類のいとなみと教育の関係について	
		この回の到達目標	人類史の中で教育をとらえられるようになる。	
		事前学修	各自の教育歴を自ら振り返り、今の自分という人格がはどのようにして形成されたのかを考える。それをもとに人がどのよう成長していくか、人の人格はどのように形成されていくのかについて考える。	120分
		事後学修	文献やインターネットを利用して、人の営みと教育が深くどのように深く関連しているのかを説明する事例を収集する。その中から、各自が各自の言葉で教育について表現できるようにする。	120分
2	4月13日	教育現象の分類	教育現象の分類について（海後宗臣の教育論紹介を例として）	
		この回の到達目標	教育現象は単純な現象ではなく、分類して検討できることを理解する。	
		事前学修	あらゆる生活現場で起きている教育現象の中から、人格の形成において、人類に共通する問題に注目して、その事例を収集整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「陶冶」「教化」「形成」という教育現象の分類を通して教育を考え整理する。この三つの教育現象のそれぞれの特徴をまとめる。	120分
3	4月20日	「子ども」文化とはなにか	「子ども」文化の成立と教育の発達について（久木幸男の教育論紹介を例として）	
		この回の到達目標	子どもが子どもの自身の文化を持ち始めたことについて理解する。	
		事前学修	「子どもの遊び」について考える。子どもが子ども時代しか使わない玩具、子どもの時代しか遊ばない遊びの収集を通して、子どもの文化が成立する時代を考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、文明の発達が「子ども」を生み出したという理論を理解する。同時に「青年期」も文明の発達の所産であることを確認し、子どもや青年期について、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
4	4月27日	学校の定義	学校の定義について考える	
		この回の到達目標	学校とは何か、なぜ人類は学校を発展させたかについて理解する。	
		事前学修	学校とは何か、学校の発生はいつかという問題に答えることができる文献や記事を収集する。同時に、庶民が学校に通うようになったのはいつ頃かについても考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、学校が持つ教育機能について知見を広める。同時に庶民のための学校が存在しない時代でも、庶民は教育を受けていた事実を理解する。	120分
5	5月4日	古代ギリシャの教育	近代教育学成立以前の教育・学校（古代ギリシャの教育の紹介）	
		この回の到達目標	アテネとスパルタの古代ギリシャの教育を比較して、教育の本質を考える。	
		事前学修	高等学校や大学の総合科目で学んだことを手掛かりに、古代ギリシャの歴史を調べ、アテネとスパルタの国家体制の違いに注目する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、社会体制の違いが教育のありかたに強く影響することを古代ギリシャの諸ポリスの例から確認することができることを、自らの表現で説明できるようにする。	120分
6	5月11日	ルソーの教育思想	ルソーの教育思想 ― 子どもの発見とは何か ―	
		この回の到達目標	教育学成立の源流としてルソーの教育思想について理解する。	
		事前学修	第3回目の講義を手掛かりに、子どもの発見者と呼ばれるルソーについての知見を広める。高等学校や大学講義を手掛かりにして、18世紀のヨーロッパの歴史を調べる。	120分
		事後学修	教育学の成立・発展にルソーが果たした役割についてまとめる。『エミール』を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	新教育運動	新教育運動の展開	
		この回の到達目標	近代中部ヨーロッパで展開した教育活動を理解する。	
		事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、16世紀以降のヨーロッパの歴史を調べる。とくに、宗教改革について注目し、スイス、チェコ、ドイツなど中部ヨーロッパの歴史を理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コメニウスの生涯と彼の著作『大教授学』及び「世界図絵」が今日の学校教育に及ぼした影響についてまとめる。	120分
8	5月25日	ペスタロッチの教育思想	近代教育学の成立（1）ペスタロッチの教育思想	
		この回の到達目標	ペスタロッチの教育思想を学び、近代教育学成立の源流を理解する。	
		事前学修	ナポレオン戦争などを通して多くの孤児が生まれた18世紀前後のヨーロッパの歴史を調べる。当時の社会福祉政策がどのようなものであったかなど混乱したヨーロッパの状況を調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ペスタロッチの生き方と後に「直観教授」と呼ばれる教授法の開発についてまとめ、各自が自らの言葉でペスタロッチの業績を説明できるようにする。	120分
9	6月1日	ヘルバルトの教育思想	近代教育学の成立（2）ヘルバルトの教育思想	
		この回の到達目標	ヘルバルトの生涯を理解し、教育学成立の意義について理解する。	
		事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、18世紀以降のヨーロッパの歴史を調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ヘルバルトとペスタロッチの出会いや教育学成立に果たした役割についてまとめ、自らの言葉でその意義を説明できるようにする。	120分
10	6月8日	デューイの教育思想	進歩主義教育運動の展開	
		この回の到達目標	プラグマティズムとデューイの教育思想を理解し、アメリカでの教育学発達の意味を理解する。	
		事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、19世紀以降のアメリカの歴史を調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、新教育運動がアメリカに伝わって、進歩主義教育といわれるようになった経緯を明らかにし、デューイ主義が世界に及ぼした影響についてまとめる。	120分
11	6月15日	コアカリキュラム	デューイ主義とコアカリキュラム	
		この回の到達目標	コアカリキュラムとは何かを理解する。	
		事前学修	教育学用語としての「コアカリキュラム」、近年文科省が指摘している「コアカリキュラム」の意味について、教育学辞典や書籍を検索してまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コアカリキュラムの意味を理解し、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
12	6月22日	日本近代教育史	わが国近代公教育の成立と発展	
		この回の到達目標	わが国の学校教育発展の過程から教育の意義や意味を理解する。	
		事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、近代日本の教育政策について調べる。とくに、富国強兵政策と教育政策の関係についてまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、戦前の学校教育が国家主義教育と呼ばれる理由についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	戦後教育改革	戦後教育改革と学習指導要領の変遷	
		この回の到達目標	戦後教育改革の理念を理解して、現代教育の原点を知る。	
		事前学修	戦後教育改革とはどのようなものであったかを理解するために、高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、終戦と戦後史について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、戦後教育改革が目指したものについてまとめる。とくに、GHQが示した日本の教育改革への指令が意味していたものとは何かまとめる。	120分
14	7月6日	現代教育の原点	1970年代「学校の教育荒廃現象」と新学力観による教育	
		この回の到達目標	ゆとり教育成立の背景を理解し、現代の教育の原点を知る。	
		事前学修	1970年代後半から日本の学校教育が直面した「いじめ」、「非行」、「校内暴力」という言葉について、文献や記事さらにインターネットで調べる。	120分
		事後学修	1970年代後半から1980年代にかけて日本の教育界が目指したものとは何であったか。そこから試行されてきた「ゆとり教育」の導入がもたらしたものとは何だったか、講義ノートを確認して、まとめる。	120分
15	7月13日	現代の教育	1970年代「学校の教育荒廃現象」と新学力観による教育	
		この回の到達目標	新学力観による学校教育の意味を理解し、これからの教育を展望できるようになる。	
		事前学修	「ゆとり教育」の時代から新しい価値観の教育へと変遷した経過について、文献や記事さらにインターネットで調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、これからの学校が求められるものとは何か、どのような改革が必要か、各自が自らの言葉で表現できるようにする。	120分

科目名	教育制度論	担当者	李 吉魯	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学校教育においては、その目的とそれに関わる者の範囲（児童、生徒、教師など）が教育制度によって規定されており、目的達成のための方法・手段（学校制度、学校経営、学校組織、教育内容、教材など）にも共通性が認められる。この授業では、教育に関する社会的、制度的および経営的事項についての知識を習得し、今日に抱えている様々な教育問題や最近の教育改革などに関する理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
- 授業目的 教育に関する基礎的知識、概念、また法規や制度について学び、学校教育のあり方や国民の教育を受ける権利などを理解する力を養成することを目的とする。 - 到達目標 教育に関する社会的、制度的および経営的事項について学び、それに基づき今日の教育改革や学校運営の取り組みなど、直面している様々な教育問題を理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
学生諸君は気持ちを引き締めて、教職への強い志をもって受講されたい。

【授業方法】
授業方法は講義形式であるが、必要に応じてグループ・ディスカッション、ディバート、グループワークなどのアクティビティを用いる。また授業時に使用する資料等は適宜配布しながら、授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第8回以降、現代の教育問題に関する課題を与え、次回の授業で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学校と教育の歴史・思想について基礎知識を知り、幅広く理解を深めることができる。（知識）											
②	専門知識を系統的に習得し、得られた知識を理解し、説明することができる。（知識）											
③	自ら教職への適性について考え、自己を高めることができる。（技能）											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	15回目の授業内試験により、到達目標①②に関する知識(基礎及び応用)が身についているか、及び到達目標②③に関する専門知識や今日に抱えている教育問題などを幅広く理解しているかについて確認する。	30	30									60
小テスト等	授業内(2回)に実施する小テストにより、1回目は到達目標①にかかわる基礎知識が身についているか、2回目は到達目標②にかかわる基礎知識が身についているかを確認する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポート課題が、適切に求められている内容になっているか、到達目標③にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。			10								10
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたか、到達目標③にかかわる能力が身についているかを評価する。			10								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に作成したリアクションペーパーを含め、試験（授業内試験・小テスト）やレポート課題などについてはフィードバックを行う。（例えば、テストの解説・レポートの講評・採点後の返却など）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新訂版『わかりやすく学ぶ教育制度―課題と討論による授業の展開―』	北野秋男編	啓明出版	2012年	参考書	推奨
現代教育概論	佐藤晴雄	学陽書房	2017年	参考書	任意
教育動向	武田明典編	北樹出版	2017年	参考書	任意
大学教育と読書―大学生協からの問題提起―	玉真之介編	大学教育出版	2017年	参考書	推奨
格差・秩序不安と教育	広田照幸	世織書房	2009年	参考書	任意
備考	教職は厳しい側面もあるが、何よりも人も育て、人間同士の関係を育てていく仕事である。それは未来を育てる仕事でもある。この授業を通して、学校と教育制度との関連について興味を持ってもらえればいいと思う。				

【オフィスアワー】
金曜日12:20～13:00 授業講堂にて（事前にメールでアポイントメントを取ること）。メールアドレス：onkochishin6@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 金	【学校と教育制度】	授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法などを説明し、参考資料の紹介を行う。また、学校や社会と教育との関係について学修する。それによって受講生は授業計画を知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度が何を意味するのか、またその学校と教育の関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教育及び教育制度の定義などについて調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、自分の学習計画と他の教職科目との相互関連性についてノートに分類・整理する。	120分
2	第二部 金	【なぜ学校が普及したのか】	学校のはじまり、近代学校の制度化過程、学校教育制度発展の道筋などについて学修する。それによって受講生は教育を目的として設立された学校、あるいは学校教育制度を理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学校教育制度が先行して実施された欧米における学校教育の歴史を概観してその制度を理解し、明治維新以降、欧米の教育制度に学びながら急速に近代化を果たした日本の学校教育制度について説明することができる。	
		事前学修	近代化と学校との関係について整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認するとともに、欧米と日本の近代学校制度の流れについてノートに分類・整理する。	120分
3	第二部 金	【公教育の仕組み】	公教育の原理（義務制、無償性、中立性）、及び公教育の理念「教育を受ける権利」と「教育の機会均等」などについて学修する。それによって受講生は公教育の仕組みを知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公教育の原理及び理念について幅広く理解し、説明することができる。	
		事前学修	公教育制度をめぐる課題についてノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、公教育の基本原則及び公教育制度をめぐる課題などについて整理する。	120分
4	第二部 金	【教育法規】	教育法規の種類や内容を説明し、教育法規が教育の機会均等と教育水準の維持向上に果たしている役割について学修する。また、教育基本法の改正と教育行政の責任の明確化などについて検討する。それによって受講生は教育法規の特徴を知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公教育の原理及び理念について幅広く理解し、説明することができる。	
		事前学修	教育法規の中心となる教育基本法及び学校教育法の内容やその特徴について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、教育法規の種類や内容について検討する。また、教育基本法と改正教育基本法の違いについてノートに分類・整理する。	120分
5	第二部 金	【教育政策と教育行政】	中央（国）及び地方の教育政策形成過程の特徴や教育行政の役割について学修する。また、中央と地方の教育行政制度相互の関係について検討するとともに、教育行政制度の今日的課題についても言及する。それによって受講生は教育政策と教育行政制度の仕組みを理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、教育政策と教育行政制度の仕組みを幅広く理解し、教育改革の今日的課題について説明することができる。	
		事前学修	教育政策の形成過程及び教育行政制度の特徴について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、教育政策の形成過程及び教育行政制度の特徴や、中央と地方の教育行政制度相互の関係についてノートに分類・整理する。	120分
6	第二部 金	【教育行政機関の役割】	教育の目標に重要な役割を果たす文部科学省及び教育委員会の組織と役割について学修する。また、その教育目標を実現させるための教育行政全体構造を検討する。それによって受講生は教育行政の仕組みを理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中央及び地方の教育行政機関の組織と役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	文部科学省と教育委員会の役割について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、文部科学省の役割と権限、及び都道府県と市町村の教育委員会の組織と権限などについてノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 金	【教育制度と学校経営】	教育活動における学校経営、学校改善に資する学校評価システム、学校と家庭、地域との連携・協働を促す動向などについて学修する。また、学級と教育内容・方法に関する制度の今日的課題について検討する。それによって受講生は学校経営と学級経営の概念及び内容を理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学校経営と学級経営の概念及び内容を理解し、また、学級と教育内容・方法に関する制度の今日的課題について説明することができる。	
		事前学修	学校経営と学級経営の概念及び内容について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、新しい学校づくりを推進する学校経営の在り方についてノートに分類・整理する。	120分
8	第二部 金	【学校と家庭・地域の連携】	家庭教育とその支援、地域のなかの多様な学びの機会、学校と家庭・地域の連携と協働などについて学修する。また、近年の学校・家庭・地域・地域の連携に関わる法制度の改正について検討する。それによって受講生は学校教育において家庭と地域との連携の重要性を知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、学校・家庭・地域の連携に関わる具体的な内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	近年の学校・家庭・地域の連携に関わる法改正について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、学校と家庭・地域社会との連携の重要性についてノートに分類・整理する。	120分
9	第二部 金	【学校評価】	教育活動における学校評価の在り方について学修する。具体的には、児童生徒の管理および指導、学校評価の導入の経緯とその目的と意義、学校評価の内容と実施方法など、幅広く検討する。それによって受講生は学校評価の目的及び実施方法を理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、学校評価の考え方と進め方などについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	第三者評価の内容を策定し、「2010（平成22）年3月に改訂された「学校評価ガイドライン」について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、学校評価の基本的な考え方についてノートに分類・整理する。	120分
10	第二部 金	【教員養成制度】	教員養成の仕組み、教職課程の具体像、教員免許状の種類、教員免許制度改革の動向について学修する。また、教師教育における研修の形態や研修施策の展望などについて検討する。それによって受講生は教職員の研修システムが理解でき、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、教職員の法定研修としての初任者・10年経験者研修の目的や実施状況などを知り、説明することができる。	
		事前学修	教育公務員には研修を行う義務があり、研修の機会が保障されている。教職員の研修にかかわる条文（例えば、教育基本法、教育公務員特例法、地方公務員法など）を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、初任者研修と10年経験者研修の具体的な実施状況を理解し、「学び続ける教員」を支える仕組みについてノートに整理する。	120分
11	第二部 金	【学校保健及び学校安全】	学校保健及び学校安全の中心となる児童・生徒及び職員の健康診断と食品の安全性の確保、事件・事故や災害時の安全対策などについて学修する。それによって受講生は保健管理及び安全管理の在り方を理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学校保健では健康診断の時期や実施者、感染症予防の措置など、また、安全管理に関して安全計画や対策を理解し、説明することができる。	
		事前学修	学校保健及び学校安全にかかわる条文を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、災害に対する備えと発生時及び発生後の対応策について整理する。	120分
12	第二部 金	【生涯学習と社会教育】	生涯学習の理念と社会教育、社会教育行政と生涯学習推進、社会教育の施設と職員、社会教育の団体と指導者などについて学修する。それによって受講生は生涯学習と社会教育の概念及びその基本的な考え方を理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生涯学習と社会教育との関連性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	生涯学習と社会教育にかかわる条文を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、「生涯教育・生涯学習に関する略年表」の作成するとともに、生涯教育の考え方は社会教育の分野で次第に根付いていったことを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 金	【諸外国の学校制度と教育状況】	諸外国に行われる学校制度は、それぞれの国の歴史的事情、社会的条件などを背景として成立したものであり、国によって異なっている。ここでは、アメリカ・イギリス・ドイツ・フランスなどの学校教育制度などについて学修する。それによって受講生は諸外国の教育制度と日本のそれとの違いを理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、諸外国の学校体系や教育制度の仕組みなどを理解し、説明することができる。	
		事前学修	学校体系（複線型、単線型、分岐型）のそれぞれの特徴を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、諸外国の教育制度と日本の教育制度の共通点と相違点についてノートに分類・整理する。	120分
14	第二部 金	【現代日本の教育制度改革】	子どもの貧困や教育格差、大学入試制度の改革など、現在抱えている教育問題について学修する。また、「格差」と公教育の役割について検討する。それによって受講生は現代の教育改革の動きを理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、家庭の経済力や教育力の格差が子どもの学力の格差に結びつき、それらがさらに進学や雇用の機会に影響することを理解し、説明することができる。	
		事前学修	公教育の役割について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、「格差」と公教育の役割についてノートに整理する。	120分
15	第二部 金	【授業内試験】 まとめ	授業のまとめとして、これまでの授業内容を振り返り、到達目標①②③に示される知識（基礎及び応用）が身についているか、及び今日に抱えている教育問題などをも含めて理解しているかについて確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎及び専門知識が身についているか、またその現代の教育問題との関連性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの授業内容を見直し、授業内試験を準備する。	120分
		事後学修	これまでの授業内容を見直し、授業内試験の解説についてノートに整理する。	120分

科目名	教育の方法・技術論	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教育方法学は教育学の基礎を形成していて、簡単に言うと、学び方、教え方を探求する学問である。本講義では教育方法学の研究領域と研究方法の基礎を学ぶとともに、具体的な教育技術にも言及して、教育実践力を身につけた教員の養成を目指す。私の実務経験を紹介しながら、教育実践力を身に付けられるような講義を展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
これからの子どもに求められる資質・能力を育成するために、情報機器を活用した授業展開ができるようになることを目的とし、教育方法学、教育技術論の基礎を理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
教職に強い関心がある学生、プレゼンテーション技術を学びたい学生。

【授業方法】		
講義を中心に展開するが、適宜レポートを提示して、学生自らが情報機器を利用して教材・資料制作を行う機会を設ける。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育方法学・教育技術論の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	教育方法学・教育技術論が現代の学校教育や社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代学校の問題点はどこに原因があるのか、教育方法学の立場から明らかにして、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現在の学校教育の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。											
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。					20						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30		20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポートの模範例を示すとともに、ABCの3段階で評価し、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
歴史教育の課題と教育の方法・技術	壽福隆人	DTP出版	平成27年4月		
中学校学習指導要領（最新版）					
高等学校学習指導要領（最新版）					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当 学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	教育方法学とは何か	教育学における教育方法学の位置について	
		この回の到達目標	教育学における教育方法学の位置や意義を理解して、教育方法学的重要性を理解する。	
		事前学修	各自の教育歴・学校歴の中から、わかりやすい授業とはどのような授業であったか、興味関心が高まる授業とはどんな授業であったかを思いおこしてまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、教育方法学研究が教育学の成立を促したことをまとめる。教育学研究のなかで、教育方法学の意味について自らの言葉で表現できるようにする。	120分
2	9月21日	教育方法学の歴史	教育方法学に寄与した教育家の理論と実践	
		この回の到達目標	近代教育学成立に寄与した教育方法学研究を理解する。	
		事前学修	教育原論で学習した「教育学の成立」についてふりかえる。講義ノートを確認して、ペスタロッチやヘルバルトの教育論、教育方法論をまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「直観教授」の理論、「訓育的教授」の理論をまとめて、各自が自らの言葉で表現できるようにする。	120分
3	9月28日	わが国の教育方法学研究	わが国近代公教育の成立と教授法の紹介（古典的教授理論の紹介）	
		この回の到達目標	わが国の公教育発展の歴史から教育方法学研究導入の過程を理解し、教育方法学とはどのような研究か理解する。	
		事前学修	日本の近世末期の手習塾の教授方法を調べる。近代公教育で一般的に用いられている「一斉教授」との違いを明確にするために、教育学事典や文献を調査する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、近代公教育の教授法についてまとめる。教育機器やメディアを用いた最新の教育方法の基礎を形成する古典的な教授法の理解に努める。	120分
4	10月5日	一斉教授法	一斉教授法の成立と問題点	
		この回の到達目標	学校教育で最もポピュラーな教授法「一斉教授」の発展を理解し、そこにどのような問題点があるのか理解する。	
		事前学修	高等学校での学習や大学での学習を基礎として、イギリス産業革命期の歴史について学ぶ。とくに、年少労働者が過酷な環境のなかで、資本主義の発達を支えた問題に注目して文献検索をおこなう。	120分
		事後学修	産業革命期の庶民教育の方法として、安価で合理的な教授法として「一斉教授」が普及した事実を、講義ノートから確認する。また、この教授法が基本的に無理な教授法であったことに理解を深める。	120分
5	10月12日	学習集団	学習集団の編成と学習集団に適した指導法の紹介	
		この回の到達目標	学習集団は重層的な構造をもつてることを理解し、学習集団の編成が学習指導において重要な問題であることを理解する。	
		事前学修	学校教育において、学習は集団を編成して行われる。この集団の種類や編成方法について、各自の教育歴・学校歴の中から経験をまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、学習集団編成の理論と方法についてまとめる。学習集団の編成とは深い関係があることを理解し、自らの言葉で表現できるようにする。	120分
6	10月19日	教具・教育機器（1）	教具・教育機器を用いたバズ学習の実践方法	
		この回の到達目標	学習活動を豊かにする物的手段についてその種類と利用方法について理解する。	
		事前学修	小集団学習、いわゆるグループ学習の経験を各自の教育歴・学校歴の中から抽出してまとめる。各自の経験の中で、どのような学習集団が望ましかったか考え、その理由についてまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、バズセッションの理想的な編成方法と意義についてまとめる。また、バズ学習はどのような教科・科目の指導に適しているかについて考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	教具・教育機器（2）	教具・教育機器を用いた完全習得学習の実践方法	
		この回の到達目標	学習活動を豊かにする物的手段についてその種類と利用方法について理解する。	
		事前学修	各自お教育歴・学校歴の中から、形成テスト（ドリル・小テストなど）の経験についてまとめる。	120分
		事後学修	完全習得学習の実践方法についてまとめる。また、完全習得学習はどのような教科・科目の指導に適しているかについて考える。	120分
8	11月9日	ティームティーチング	ティームティーチングでの教具・教育機器の利用	
		この回の到達目標	ティームティーチングの進め方を理解して、ティームティーチングに必要な教材開発、それにとまなう教具・教育機器について理解する。	
		事前学修	フィンランドなど北欧諸国の教育を紹介したサイトをインターネットで検索し、それらの国の授業風景との日本の教室での授業風景との違いについて感じることをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ティームティーチングの方法について自らの言葉でその意義を表現できるようにする。	120分
9	11月16日	学習指導案	学習指導案とは何か（種類と目的）	
		この回の到達目標	学習指導案の種類や目的について理解し、学習指導案作成の重要性を理解する。	
		事前学修	インターネットで文部科学省のホームページを検索して、学習指導案や各種解説の入手方法について学ぶ。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、学習指導案の意義と目的について理解する。また、各都道府県が示している学習指導案のモデルの入手方法についてまとめる。	120分
10	11月23日	教材研究	学習指導案作成のための教材研究の方法	
		この回の到達目標	学習指導案作成には十分な教材研究が必要であることを理解する。	
		事前学修	インターネットで紹介されているさまざまな学習指導案を検索し、それらの特徴や注目点について考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、学習指導案作成には十分な教材研究が必要であることを理解する。また、教材研究の方法について考える。	120分
11	11月30日	古典的教具	教具・教育機器の発達（1）古典的教具	
		この回の到達目標	学校教育成立時から用いられ、今日でも重要な教具・教育機器=古典的教具にはどのようなものがあるかを理解したうえで、その利用方法について理解する。	
		事前学修	各自の教育歴・学校歴の中から、経験したことがある教具、教育機器についてまとめ、それらがそのような教育効果を上げたか、各自の考えをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、掛け図や紙媒体の資料を実際にPC上で作成してみる。その過程で、教材作成の難しさや煩雑さを体験する。	120分
12	12月7日	映像メディア	教具・教育機器の発達（2）映像メディア	
		この回の到達目標	映像を用いた教育の効果を理解したうえで、その使い方、教材作成の方法を理解する。	
		事前学修	各自の教育歴や学校歴の中から経験したことがある映像提示機器についてまとめる。また、映像教材が学習課題の理解にどのように役立ったかを説明できるようにする。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、各自のテーマにしたがって、映像教材を作成してみる。また、映像教材の背景にある制作者の意図と学習課題との関係適切であったどうかを考える必要性についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 月 1 4 日	ICT	教具・教育機器の発達 (3) ICTを用いた教育	
		この回の到達目標	ICTを用いた教育の現状を調査し、その教育効果を理解する。	
		事前学修	インターネットを検索して、明らかにフェイクニュース・情報であると思われるものを探し、講義の中で紹介できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、インターネットを用いて教材を作るときの問題点を明らかにし、ICT教育の実践において留意しなければならないことを明らかにする。	120分
14	1 2 月 2 1 日	評価法	評価法の種類と歴史及び意義	
		この回の到達目標	教育評価の重要性とその方法について理解する。	
		事前学修	通知表や調査書など教育評価の方法を考える。各自の教育歴・学校歴の中から、教育評価を示す資料にはどのようなものがあるか、どういう方法が用いられているかまとめる。	120分
		事後学修	課題として示すあるクラスの成績をもとに5段階評価と各生徒に伝えるコメントを実際に作成してみる。一覧表をレポートとして提出する。	120分
15	1 月 1 1 日	移動要録	通知表・指導要録作成の意義と方法	
		この回の到達目標	通知表・指導要録の違いを理解して、教育評価の記録と通知方法について理解する。	
		事前学修	各自の教育歴・学校歴の中で、各自が通知表や調査書を受け取った経験をまとめる。通知表は子どもや青年にどのような心理的影響を与えるか考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認するとともに、テキストに紹介されている指導要録を見て、教師にとって成績評価の重要性について考え、各自が各自の言葉でこのことを表現できるようにする。	120分

科目名	現代教職論	担当者	香川 七海	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
(1) 日本における学校教育や教職の社会的意義を学習します。(2) 教育界の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を学習します。(3) 教員の職務内容の全体像や教員の服務上・身分上の義務を学習します。(4) 学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について学習します。(以上、文部科学省「コアカリキュラム」から引用)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本における学校教育や教職の社会的意義を学習し、教育界の動向を踏まえ、今日の教職員に求められる役割や資質能力を養成することを目的とします。また、学校教育現場の実情や教育実践を理解できることを目標とします。

【履修条件】
教育学分野、教育社会学分野に関心のある学生が対象になります。なお、予習と復習の時間は、あくまでも目安になっています。

【授業方法】		
講義形式。毎回、受講生からコメントペーパーを回収しますが、次週の授業にて、そのつど応答をします。また、学校教育現場に勤務する教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～14回のいずれかを予定）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本教育史と戦後史のなかの教職の位置づけを理解し、自己の見解を叙述できる。												
②	教職教育学の知見から教育実践の意義を理解し、自己の見解を叙述できる。												
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート (60%)。	30	30									60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペー パー)	コメントペーパー (40%)。	20	20									40
その他()												
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に応答いたします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定いたしません。				

【オフィスアワー】
授業後に受けつけます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4. 6（月曜日・5限）	被教育体験と教育体験	被教育経験を相対化する試み	
		この回の到達目標	被教育体験と教育体験の差異について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	教職課程ガイダンス内容について振り返る。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
2	4. 13（月曜日・5限）	公教育システムと教職	教職についての概論：公教育システムの構造と教職の役割とは？	
		この回の到達目標	公教育システムと教職について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
3	4. 20（月曜日・5限）	戦前の教師像	教師観の歴史的変遷：戦前の公教育システムと教師像「ビンボーの時代と曙の時代？」	
		この回の到達目標	戦前の教師像について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
4	4. 20（月曜日・5限）	戦後初期の教師像	教師観の歴史的変遷：戦後の公教育システムと教師像 管理教育と民間教育研究運動「押さえつけと、たたかいの時代？」	
		この回の到達目標	戦後初期の教師像について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
5	5. 4（月曜日・5限）	教師の身分と服務	教師の身分と服務（1）：教師の身分保障「どうしたらクビになる？」	
		この回の到達目標	教師の身分と服務について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
6	5. 11（月曜日・5限）	教師の身分と服務	教師の身分と服務（2）：体罰と懲戒の区別「殴られたら、やりかえす？」	
		この回の到達目標	体罰の位置づけについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5.18（月曜日・5限）	学校教育における教育実践	教師の役割と仕事（1）：学習指導（授業実践）、生活・生徒指導（教育実践）「頭髪検査に意味はあるか？」	
		この回の到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
8	5.25（月曜日・5限）	学校教育と保護者	教師の役割と仕事（2）：校務分掌、学校経営、保護者と地域社会「PTAは、なんのため？」	
		この回の到達目標	学校教育と保護者の関係の意義について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
9	6.1（月曜日・5限）	教師の専門性	教師の資質・能力：教職の専門性の輪郭「プロか、職人か、公務員か？」	
		この回の到達目標	教師の専門性について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
10	6.8（月曜日・5限）	教員研修	教師の研修：教員研修の種別と内実	
		この回の到達目標	教員研修について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
11	6.15（月曜日・5限）	テレビドラマのなかの教師像	多様な教師像 テレビドラマ「金八先生」から「鈴木先生」へ	
		この回の到達目標	テレビドラマのなかの教師像について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
12	6.22（月曜日・5限）	教職と多忙化	教師の多忙化と教育労働「教職はブラックか？」	
		この回の到達目標	教職と多忙化について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6.29（月曜日・5限）	学校教育と地域	チームとしての学校：「開かれた学校」と「コミュニティ・スクール」	
		この回の到達目標	学校教育と地域について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
14	7.6（月曜日・5限）	教師像の多様さ	教師の理想と現実「教師の価値＝バレンタインのチョコの数か？ 卒業式の色紙の数か？」	
		この回の到達目標	教職像の多様さについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
15	7.13（月曜日・5限）	近代教育と教職	近代教育のなかの教師意義と限界	
		この回の到達目標	近代教育と教職の関係について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

科目名	道徳教育の理論と方法	担当者	香川 七海	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
道徳教育の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育実践の目標や内容、指導計画等を理解します。また、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけることを目的とします。（以上、文部科学省「コアカリキュラム」より引用：一部改）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を養成することを目的とします。道徳教育実践を構想し、計画、立案、実践できることを到達目標とします。

【履修条件】
おもに、教職を志望する学生を対象とします。なお、教職を志望していない学生は、基本的には模擬授業の実施の必要はありません。また、予習と復習の時間は、あくまで目安であり、個々人で学習計画を立案してください。

【授業方法】
講義、学生による模擬授業を中心に進めます。模擬授業に対する講評は、そのつど実施します。また、学校教育現場に勤務する現役の教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～15回のいずれかを予定）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	道徳教育の歴史的変遷について理解し、自己の見解を叙述できる。										
②	天皇制公教育の歴史的変遷について理解し、自己の見解を叙述できる。										
③	戦前における「教育勅語」の位置づけについて理解し、自己の見解を叙述できる。										
④	道徳教育の諸実践の意義と課題について理解し、自己の見解を叙述できる。										
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート (30%)	10	10	5	5							30
討論・発表等	模擬授業 (60%)。	20	20	10	10							60
授業への参画度	コメントペーパー (10%)。	3	3	2	2							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		33	33	17	17							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に講評いたします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
いのちに触れる	鳥山敏子	太郎次郎社エディタ ス	2011	教科書	必携
からだといのちと食べものと	鳥山敏子	自然食通信社	2003	参考書	任意
ブタまるごと一頭食べる	鳥山敏子	フレーベル館	1987	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後に受けつけます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9.18（金曜日・5限）	被教育体験と道德教育	被教育体験のなかの道德教育	
		この回の到達目標	被教育体験と道德教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	教科書や参考文献に目を通しておく。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
2	9.25（金曜日・5限）	人間の育ちと道德性	「道德」の輪郭 哲学における道德性の発達と概念の定義をめぐって	
		この回の到達目標	人間の育ちと道德性について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
3	10.2（金曜日・5限）	日本道德教育史①	日本における戦前の道德教育史 江戸時代の通俗道德から修身教育まで	
		この回の到達目標	日本道德教育史について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。（2時間）	120分
4	10.9（金曜日・5限）	日本道德教育史②	日本における戦後の道德教育史 敗戦後から「教科化」まで	
		この回の到達目標	日本道德教育史について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
5	10.16（金曜日・5限）	教育実践史と学校教育①	具体的な戦後の道德教育実践（1）「いのち」の授業：黒田恭史を事例として	
		この回の到達目標	教育実践史と学校教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
6	10.23（金曜日・5限）	教育実践史と学校教育②	具体的な戦後の道德教育実践（2）「いのち」の授業：鳥山敏子を事例として	
		この回の到達目標	教育実践史と学校教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10.30（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践①	道徳教育の学習指導案 作成と方法	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
8	11.6（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践②	模擬授業の検討（1） 教材研究	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
9	11.13（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践③	模擬授業の実際（1） 各グループによる小授業	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
10	11.20（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践④	模擬授業の検討（2） 各グループへの意見交流	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
11	11.27（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践⑤	模擬授業の実際（2） 各グループによる授業実践（小学校）	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
12	12.4（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践⑥	模擬授業の実際（3） 各グループによる授業実践（中学校）	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12. 11（金曜 日・5 限）	道徳教育の授業実践⑦	模擬授業の実際（3） 各グループによる授業実践（高等学校）	
		この回の 到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
14	12. 18（金曜 日・5 限）	道徳教育と教育評価	各グループの教育評価のあり方をめぐって	
		この回の 到達目標	道徳教育と教育評価の関係について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
15	12. 25（金曜 日・5 限）	道徳教育と公教育システム	総合討議。	
		この回の 到達目標	道徳教育と公教育システムについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分